ENCYCLOPAEDIA JUPITER



世界文化大百科事典

ENCYCLOPAEDIA JUPITER

5

コクリ—シャヒ



世界文化社



世界文化大百科事典
《ジュピター》

5

セット商品につき分冊販売不可

発行所　株式会社世界文化社
東京都千代田区九段北4-2-29
Tel(262)5111(代表)　〒102

発行者　鈴　木　勤
編　集　株式会社 世界文化社
株式会社
日本アートセンター

印　刷　株式会社東京印書館
製　本　中央精版印刷株式会社
製　函　文京紙器株式会社
用　紙　神崎製紙株式会社
王子製紙株式会社
駿河製紙株式会社

表　紙　ダイニック株式会社

Printed in Japan　8211

凡　　例

この《世界文化大百科事典　ジュピター》は，現代生活のあらゆる分野にわたって必要な項目約70,000を収録した。そして，項目の解説は，その記述内容が的確・敏速に把握できるよう，つとめて簡明・平易なものとしたが，各分野の基本的事項や現代社会における重要問題については特に約300の〈特別大項目〉を設け，一般項目との関連を保ちながら歴史的・体系的に解説し，総括的な理解が得られるようにしてある。また，カラー版による写真・図版約16,000点を全ページにわたって掲載し，内容の端的な理解に役だつようにした。

項目の見出し

1　各ページに収録されている項目を，そのページの上方欄外に示してある。偶数ページには最初の項目，奇数ページには最後の項目の，それぞれ第4音節めまでをかたかなで示した。ただし，促音〈っ〉・拗音〈ゃ〉〈ゅ〉〈ょ〉などの小字および濁音・半濁音は正音で示し，長音〈ー〉は除いた。

東　　京──→**トウキヨ**
ヨーロッパ──→**ヨロツハ**

2　項目の見出しは，〈かな見出し〉と〈本見出し〉とを示した。

かな見出し　　本見出し
げんじものがたり　【源氏物語】
エヌエイチケー　［NHK］
インキ　［ink］

1）国語読みおよびそれに準ずるものは，現代かなづかいによってひらがなの太字で示した。ただし，現代かなづかいの理解のうえで困難が予想される一部のものについては，〈見よ項目〉を立てて検索の便を図った。

ぬまず　【沼津】　⇨ぬまづ

2）外国語・外来語はかたかなの太字で示した。長音は〈ー〉で示し，〈ヴァ〉〈ヴィ〉〈ヴ〉〈ヴェ〉〈ヴォ〉〈ヂ〉〈ヅ〉は用いない。

ベートーベン　（ベートーヴェンとはしない）
ベネチア　（ヴェネチアとはしない）

ただし，外来語の意識が薄れて国語化されたものはひらがなで示した。

らしゃ　【羅紗】
らっぱ　【喇叭】

3）地名で，日本の行政区画および外国の国名・地域名，山・川・湖・砂漠などの名称のかな見出しは，検索の便を図って関連する項目を近くに集めるために固有名詞部分のみを示した。

おおさか　【大阪(府)】
おおさか　【大阪(市)】
ミシシッピ(州)
ミシシッピ(川)

4）中国・朝鮮の地名・人名は，原則として日本で慣用されている国語読みで示し，現地読みを本見出しのあとに併記した。

かほくしょう　【河北省】　ホーペイ省
ふざん　【釜山】　プサン
もうたくとう　【毛沢東】　マオツォートン

ただし，国内で現地読みが慣用されているものおよび国際慣用読みのものはそれに従った。

シャンハイ　【上海】
ペキン　【北京】
メイランファン　【梅蘭芳】

5）本見出しでは，かな見出しのひらがなの部分を代表的な漢字または漢字かな混じりで示し，外国語・外来語は原語のつづりを示した。

いれずみ　【入れ墨】　刺青・文身とも書く。
ウイスキー　［whisky］

ただし，原語のつづりでイタリック体は，植物を属名として取り上げた場合を示す。

アロエ　［*Aloe*］

項目の配列

1　かな見出しの五十音順に配列し，清音➔濁音➔半濁音の順とした。

しんくう　【真空】
しんぐう　【新宮(市)】
じんぐう　【神宮】

はい　【肺】
ばい　【蛽】
パイ　［pie］

2　促音・拗音などの小字は直音より前に配列した。

じゅう　【銃】
じゆう　【自由】

3　長音の〈ー〉は音順から除外したが，同格の場合は長音のあるほうをあとにした。

あへん　【阿片】
アーヘン　［Aachen］

4　同音のものは次の順とした。

a）見よ項目➔解説のある項目

あか　【赤】　⇨色
あか　【垢】

b）普通名詞➔固有名詞

じゅんし　【殉死】
じゅんし　【荀子】

c）固有名詞では地名➔人名

d）町名などで同音の場合は北から南への順

e）人名などで同音の場合は生年の早い順

特別大項目

〈特別大項目〉はページを改め，各ページの上下にけい線を入れて一般項目と区別した。したがって，五十音順による項目配列の当該の位置には，その特別大項目のあるページ数を示した。

大項目の例

うちゅう

宇　宙

すべての天体とそれを含む全空間，いいかえれば物質・エネルギーが存在する……

用字用語

1　かなづかいは，歴史的かなづかいで示す必要のある場合を除き，すべて現代かなづかいを用いた。

2　送りがなは，原則として《送りがなのつけ方》(1959年内閣告示)によった。

3　漢字は，原則として《当用漢字音訓表》の範囲で用いた。ただし，固有名詞・歴史的用語・術語などは当用漢字以外のものも用い，(　)の中にその読み方をひらがなで示した。

4　生物の科名・種名および岩石・鉱物・元素・化合物などのうち，教科書・専門書でかたかなの表記が慣用になっているものは，それにならった。ただし，生活語として成語化されている語はかたかなの表記を用いない。

5　年代は，原則として西暦で示した。ただし，国内に関する記述の場合は，その項目の初出の箇所に年号を併記した。

6　外国地名の表記は，原則として文部省編《地名の呼び方と書き方》によった。人名も地名に準じた。

7　外国語・外来語の表記については，〈項目の見出し〉に準じた。

人口統計の数値

1　日本の都道府県市町村の人口は，自治省行政局編《昭和55年版住民基本台帳に基づく全国人口世帯数表》によった。ただし，10,000以上の場合は100の位で，10,000以下の場合は10の位で四捨五入した。

2　都道府県市の産業三大別人口比(農林水産業などの第1次産業，鉱業・建設業・製造業などの第2次産業，商業・金融業・運輸業・サービス業などの第3次産業の人口の割合)は，総理府統計局編《昭和50年国勢調査報告》によった。

3　外国およびその地域・主要都市の人口は，主として国際連合編《人口統計年鑑1976年版》によったが，他の資料によって補ったところも多い。

地　図

1　日本の都道府県と8地方，世界の独立国と6大州には多色刷り地図を設け，また日本の大都市や国立公園などには観光の便などを図って考案した地図が設けてある。

2　地図の記号は一般の地図記号に準じているが，都市記号の人口による段階は各図に凡例がつけてある。

3　都道府県と独立国の地図の地貌表現は，等高線段彩で示した。しかし，全貌をとらえやすくするために等高線示度を図によって変えてあり，その数値は各図中の等高線上に記入してある。

4　地図中の地名の表記は，本文の地名表記の基準に従っ

た。

符号・記号

解説文中に用いた，おもな符号・記号は次のとおりである。

⇨　指示した項目にこの項目の解説があることを示す。

かんさいべん　【関西弁】 ⇨方言
しょせき　【書籍】 ⇨図書
サイン　⇨正弦
ジンフイズ　⇨カクテル

→ ➔ 解説文中または末尾につけて，参照・関連項目を示す。

抽象主義(→アブストラクト-アート)は，
従来の漢方(→東洋医学)を背景としたもの
あいいろ　【藍色】 ……(解説)……。➔色

* 解説文中の用語の右肩につけて，その語が項目として別に立てられていることを示す。

あんざんがん　【安山岩】 中性の火山岩*。
いほうじん　【異邦人】 カミュ*の小説。

〔 〕〈 〉解説文中に中見出し・小見出しを施し，解説内容の整理を図ったことを示す。

アイヌの場合
〔名称・歴史〕
〔生活〕
〔衣食〕
〔住居〕
〔風俗習慣〕
〔音楽〕
貨幣の場合
〔種類〕
〔制度〕
〔歴史〕〈西洋〉〈中国〉〈日本〉

〈 〉 引用文または強調する語であることを示す。

日本国憲法第9条に〈日本国民は，正義と ……
戦没者の塔や〈ひめゆりの塔〉などがあり， ……

《 》 書名・曲名・題名を示す。

《日本書紀》
《カルメン》

( ) 語句の言い替え・補足説明や，年号の併記などを示す。

病変米(黄変米)
燃料ガス(都市ガス)
慶長年間(1596～1614)
1872年(明治5)

( ) 読みがなであることを示す。

石川啄木(たくぼく)
伊豆(いず)半島
香港(ホンコン)

科学記号・略符号

本事典では，次の範囲で単位記号・略符号を用いた。ただし，必要に応じてこれら以外のものも用いた。

mμ	ミリミクロン	cal	カロリー
μ	ミクロン	Cal	大カロリー(栄養学で)
mm	ミリメートル	℃	セ氏温度
cm	センチメートル	°K	絶対温度
m	メートル	A	アンペア
km	キロメートル	V	ボルト
cm^2	平方センチメートル	W	ワット
m^2	平方メートル	kW	キロワット
km^2	平方キロメートル	kWh	キロワット時
cm^3	立方センチメートル	km/秒(分，時)	速さ
m^3	立方メートル	%	パーセント
cc	1/1000リットル	‰	パーミル
ml	ミリリットル	ppm	ピーピーエム
l	リットル	mmHg	水銀柱ミリメートル
g	グラム	pH	ピーエイチ
kg	キログラム	° ′ ″	度・分・秒(角度・緯度・経度)
t	トン		

装丁　田中一光

特別大項目目次　第5巻

こ くり

こくりついでんがくけんきゅうじょ【国立遺伝学研究所】 静岡県三島市にある文部省直轄の研究所。1949年(昭和24)に設立され，現在，形質・細胞・生理・応用・生化学・変異・人類・微生物・集団・分子の10遺伝部門に分かれている。47名の研究員を擁し，近代的な設備を整え，遺伝学の研究では世界的水準にある。

こくりつえいせいしけんじょ【国立衛生試験所】 ⇨衛生試験所

こくりつかがくはくぶつかん【国立科学博物館】 自然科学・理工学に関するわが国唯一の国立の科学博物館で，東京都台東区上野公園内にある。動物・植物・地学・人類・理化学・工学に関する資料をテーマ別，系統分類別に展示して一般の観覧に供している。研究部があって資料の収集整理，日本列島の自然史科学的総合調査等をすすめており，わが国の自然史研究センターの役割も果している。1975年(昭和50)現在定員は館長以下 162 名で，約半数が研究者である。土地13,223m²，建物４むね延15,995m²，年間約80万人の入場者がある。なお，新宿区百人町に自然史の研究を主にする分館，港区白金台に自然保護研究・教育普及を行っている付属自然教育園がある。あらたに筑波研究学園都市に，実験植物園，理工館を主体とする研究施設を建設中である。

この博物館は，1872年(明治５)湯島聖堂において文部省博物館の名称で，わが国で初めて公開された施設が前身で，1877年上野公園旧四軒寺跡に教育博物館改称，学校教育を援助するための博物館として発足した。1889年高等師範学校付属の博物館として湯島聖堂内に移され，1914(大正3)年東京教育博物館とかわり文部省の管理となる。1921年東京博物館と改められ，この頃純粋な科学博物館としての機能をもった。関東大震災で全焼したので，1931年現在地に東京科学博物館として復興され，1949年国立科学博物館と改称された。〔椎名仙卓〕

こくりつがんセンター【国立がんセンター】 東京都中央区築地(つきじ)に所在。1962年(昭和37)癌*(がん)の基礎的研究，診断と治療の開発および専門医療技術者の養成，診断・治療技術の普及など，癌制圧を目的として開設された。運営部・病院・研究所の３部門からなる。1969年度における病院の診療の実態は，１日平均入院患者数406.1人，１日平均外来患者数480.2人，年間臨床検査件数625,014件，年間Ｘ線透視および撮影件数211,033件，年間放射線治療照射件数34,610件，年間手術件数2,321件となっている。これらの数字は開院当初の２倍に達し，特にベータトロン・リニアアクセラレーターの設置により，臨床検査件数と放射線治療の照射件数が急増した。研究面では臨床および基礎研究の両面で成果をあげ，現在日本における癌の診療・研究に重要さを加えている。〔石田尚志〕

こくりつきょうぎじょう【国立競技場】 東京にあるわが国最大の競技場で，国立競技場法に基づいて設置され，財団法人国立競技場によって管理される。施設には明治神宮外苑(がいえん)にある陸上競技場のほか，代々木の屋内総合体育館や戸田漕艇(そうてい)場などがある。中心となる陸上競技場は，1956年(昭和31)に14億5,000万円を投じて明治神宮外苑陸上競技場を改築したもので，1958年の第３回アジア競技大会*の主競技場となった。その後，1964年のオリンピック東京大会の開催にあたってさらに10億円をかけて増築され，75,000人を収容するスタンドが設けられ，主競技場として開閉会式と陸上・サッカー・馬術などの競技が行なわれたが，そのすぐれた施設と運営は各国から絶賛された。オリンピック大会を機会に建設された屋内総合体育館は12,000人の観客収容力をもつ大プールと付属施設である球技場とからなり，つり屋根構造の特異な外観で知られるが，設計者丹下健三*(けんぞう)は国際オリンピック委員会(IOC)からオリンピック功労章を授与された。プールは，冬季にはスケートリンクとして活用されている。なお，これらの諸施設はオリンピック大会以後一般に開放され，トレーニングーセンターが設けられたほか，水泳・バスケットその他の教室や少年スポーツ学校などが開かれ，スポーツの普及に活用されている。現在，年間の利用者は見学者を含めて500万人以上に及んでいる。〔伊東春雄〕



国立競技場 オリンピック東京大会の開(閉)会式場であった，神宮外苑の陸上競技場。上方に聖徳記念絵画館が見える



国立劇場 校倉造りを模した外装で，大小２劇場が並列している

こくりつぎんこう【国立銀行】 1872年(明治５)制定の国立銀行条例に基づき設立された銀行。アメリカの国法銀行(national bank)の制度にのっとったもので，国有ではない。国立銀行は銀行券*の発行を許可されていたが，中央銀行による発券制度の整備が必要になったため，1879年第百五十三国立銀行を最後に免許を停止した。その後，1882年には日本銀行が設立され，国立銀行の多くは1890年代末には普通銀行に転身した。〔速水 保〕

こくりつげきじょう【国立劇場】 国家がその国の演劇の保存と振興を目的として，財政的な援助を与えて設立する劇場。単に演劇を公開するだけでなく，付属機関として芸能関係の博物館，俳優の養成所，研究調査の機関を有し，理論と実践の両面にわたる文化活動を行なう。フランスのコメディ-フランセーズ*，ソ連のモスクワ芸術座*，イタリアのスカラ座などは著名である。日本の国立劇場は1966年(昭和41)開場された。特殊法人国立劇場が毎年度経常費の補助を得て経営にあたり，雅楽・能楽・歌舞伎(かぶき)・文楽・邦楽・邦舞・民俗芸能などをおもな対象として，その公開，伝承者養成，調査研究，資料の収集・保存・展示などを行なっている。〔服部幸雄〕

こくりつこうえん【国立公園】 ⇨公園

こくりつこうしゅうえいせいいん【国立公衆衛生院】 厚生省の付属機関。1938年(昭和13)３月29日の公衆衛生院官制によって設立されたもので，①公衆衛生*技術者の養成訓練，②公衆衛生に関する講習，③公衆衛生に関する学理応用の調査研究を業務としている。公衆衛生全般にまたがる学部と付属図書館をもち，学生は全国の行政部門，私企業の衛生担当の医師，保健婦などをはじめとする公衆衛生従事者である。少数ながらアジア諸国からの学生も受講している。〔金子義徳〕

こくりつこうじょう【国立工場】 ⇨国立仕事場

こくりつこくごけんきゅうじょ【国立国語研究所】 国語および国民の言語生活に関する科学的調査・研究を行ない，あわせて国語の合理化の確実な基礎を築くために，1948年(昭和23)に設立された研究機関。研究部は，①現代の言語生活および言語文化に関する調査・研究，②国語教育と新聞に

における言語，放送における言語など，同時に多人数が対象となる言語に関する調査・研究，③国語の歴史的発達に関する調査・研究，④言語問題，国語関係の資料および情報などに関する調査・研究の四つの部を設け，研究題目により他の研究所・団体との共同研究・委託研究を行ない，地方言語や国語教育に関する研究・調査のため，地方研究員や実験学校・協力学校の制度を設け，数々の研究報告・研究資料集のほか，毎年，年報の刊行，《国語年鑑》の編集，月刊雑誌《言語生活》(1951年4月創刊)を監修している。〔石黒 修〕

こくりつこっかいとしょかん【国立国会図書館】 国立国会図書館法により設立された，わが国を代表する国立中央図書館。1948年(昭和23)旧赤坂離宮を使用して発足したが，1961年東京都千代田区永田(ながた)町に新館が完成，さらに1968年に増築を行ない，地上6階，地下1階，総建築面積69,837m²，職員845名，蔵書数286万冊を越えるわが国最大の図書館となった。同館は遠く1872年(明治5)4月，文部省が設立した書籍館(しょじゃくかん)およびその後身である帝国図書館の資料を受け継ぎ，明治以前の古書のほか，明治以後の国内出版物の大部分が所蔵されている。同館は購入・寄贈のほか，納本制度による国内出版物の網羅(もうら)的収集，国内・国外諸機関との交換などにより世界的規模で資料を収集し，①国会，②行政・司法各部門，③国民(満20歳以上，ただし館長が特に認めた者には年齢制限をしない)に対する奉仕，④国際的な図書館協力を行なっている。なお，行政・司法各省庁図書館は，ここの支部図書館として，資料の相互貸借その他により，相互に有機的連携を保っている。〔北島武彦〕

こくりつしごとば【国立仕事場】 1848年の二月革命*後，フランスの臨時政府が社会主義者・労働者の要求に応じて設置した施設。国家ないしは労働者が管理する工場として構想が立てられたが，実際には工場ではなく，土木事業などによる失業救済事業にすぎなかった。そのため失業者の数と仕事の量に不均等が生じて混乱し，また税金として賃金を負担する市民や農民の不満も高まった。6月にはブルジョア共和派の支配する第二共和政*政府が廃止に踏み切ったため，六月事件*の原因となった。〔大野慎一郎〕

こくりつせいようびじゅつかん【国立西洋美術館】 東京都上野公園内にあり，1959年(昭和34)6月の開館。サンフランシスコ平和条約会議に際して行なわれた吉田(よしだ)茂首相とフランスのシューマン外相との会談が契機となり，1915年(大正4)から昭和初年にかけて松方幸次郎によって収集され，第2次世界大戦下に敵国財産としてフランス政府の管理下にあった旧松方コレクションが日本政府に返還されたことによる。建物の設計はル-コルビュジエ，1958年起工。以後，収蔵品の展観のほか，特別展を開催して，西洋近代美術(絵画・彫刻)の積極的な紹介などによる活発な活動を行なっている。〔陰里鉄郎〕

こくりつよぼうえいせいけんきゅうじょ【国立予防衛生研究所】 1947年に発足した厚生省の付属機関。国民の健康に関連する各種伝染病の調査，ワクチン・血清・抗生剤などの生物学的製剤の国家検定，消毒薬の検定，寄生虫やネズミ・こん虫の対策の研究，およびこれらに関連する医学分野の研究を行なっている。長崎と広島に支所をもち，原爆障害の調査を行なっている。

こくりゅうかい【黒龍会】 1901年(明治34)玄洋社*の流れをくむ右翼運動家内田良平(1874～1937)が主宰して創立した国家主義*結社。会名を黒龍江(アムール川)にとり，大アジア主義*を掲げて大陸進出を強硬に主張した。大陸浪人を主力に日露戦争時の密偵(みってい)活動，日韓(にっかん)併合*の裏面工作など，大陸侵略の尖兵(せんぺい)的役割を果たした。第2次世界大戦後解散。

こくりゅうこうしょう【黒龍江省】ヘイロンチャン省 中国東北部の省。面積71万km²，人口2,139万(1972年推)。省都はハルビン。3省轄市(ハルビン・チチハル・伊春(いしゅん))・6専区に分かれ，11市・64県・1自治県を統括する。北部に標高1,000mほどの小興安嶺(しょうこうあんれい)が連なり，その北麓(ほくろく)にはアムール川が流れてソ連と境を接する。平地はおもに東・西部に開ける。冬季の寒さはきびしく，夏は短い。降雨は夏季に集中する。全人口の80%が少数民族で，満州族・朝鮮族・回族などが住む。農業はおもに中部のアムール川の支流松花江とその支流嫩江(のんこう)流域でトウモロコシ・小麦・ダイズなどがつくられ，東部のアムール川・松花江・ウスリー川(アムール川支流)の合流点付近の湿地帯を呈する平野でダイズ・コウリャン・アワなどが栽培されている。また，森林資源は特に著名で，小興安嶺と東部の完達山一帯から産出される木材は，中国全体の3分の1を占める生産量を有している。鉱山資源としては，鶴岡(かっこう)の石炭，アムール川沿岸の砂金が有名である。近代工業はハルビンを中心に行なわれ，食品・紡織を主とする軽工業のほか，金属・機械・化学などの重化学工業も行なわれる。チチハルには大規模な鉄道車両工場がある。伊春の製材，牡丹江(ぼたんこう)の製材・製紙・金属・化学工業も著名である。アムール川・松花江は河川交通が盛んであり，ハルビン・牡丹江は鉄道交通の要衝で多くの線を集め，省内外を連絡している。

1931年の満州事変後に成立した満州国の一部であり，本省は当時の黒河・浜江・三浜・龍江・松江の5省の領域を含む。中華人民共和国成立後は，多くの未開発地の大々的な開拓が進められている。〔木村辰男〕

こくりょうでん【穀梁伝】 ⇨春秋左氏伝

こぐれりたろう【木暮理太郎】(1873～1944) 登山家。群馬県に生まれ，東京大学中退後，長く東京市史編纂(へんさん)に従い，1913年(大正2)日本山岳会にはいってその機関誌《山岳》を編集した。少年時代から登山に親しみ，日本の主要な山岳をことごとく登り，1935年(昭和10)第3代日本山岳会長になった。

こくれん【国連】 ⇨国際連合

こくれんぐん【国連軍】 国際連合*の軍事的強制措置に参加する軍隊のこと。国連軍と通称されるものとしては，本来国連憲章7章に規定された兵力と，国連の実践面で組織された軍隊とがある。基本的には，国連の平和維持方式の中核となる集団安全保障のための強制行動の任務をおびた軍隊と，国連の平和維持活動の任務で現地に派遣される新しい型の軍隊がある。国連憲章7章によれば，平和に対する脅威，平和の破壊または侵略行為のあった場合に，平和と安全の維持または回復のための軍事的強制措置に使用する軍隊について，43条から47条までに，陸・海・空の兵力の編成，指揮を規定している。これが憲章上の国連軍とよばれるものである。これは常備軍ではなく，そのつど各加盟国の軍隊によって構成される。ただし，国連軍の迅速で能率的な編成と使用が可能なように待機体制を予定し，兵力の提供などについて加盟国と安全保障理事会*との間で特別協定を締結するものとしていたが，東西対立のため実現せず，憲章上の国連軍についての規定は死文化している。これに代わって，1950年11月の第5回国連総会で〈平和のための統合決議〉が採択され，安全保障理事会または総会の勧告に応じて加盟国が自国家軍隊内に国連部隊として提供できる部隊を準備しておくことが勧告された。国連の実践面で現実には，1950年の朝鮮戦争*の際に安全保障理事会の勧告決議で派遣されたものがある。性格は，国連の強制行動のためのものではあったが，アメリカ軍中心の軍隊であり，本来の集団安全保障*体制の発動形態からかなりかけ離れたものであった。それ以外の，スエズに派遣された国連緊急軍(UNEF，1956)，コンゴ派遣軍(ONUC，1960)，キプロス平和維持軍(UNFICYP，1964)は平和維持活動のためのもので，戦闘や衝突の防止，警戒を目的または任務として五大国を除いて編成され，指揮権が直接かつ実質的に国連に掌握される，などの点に特徴がある。➔国際警察軍〔広部和也〕

こくれんじどうきんきゅうききん【国連児童緊急基金】 ⇨ユニセフ

こくれんじどうけんりせんげん【国連児童権利宣言】 1959年11月20日，国際連合*総会において全会一致で採択された児童の権利に関する宣言。一般的な権利・自由な

どに関しては世界人権宣言*が存するが，特に児童に対する宣言をしたものである。児童は身体的にも精神的にも未成熟であるので特別の保護を与える必要があることを明記し，両親・個人・諸組織・地方自治体・政府はすべてこの宣言に示されている権利・自由を認識して，立法的措置を含むあらゆる手段によって，これらを守るように要請されている。〔広部和也〕

こくれんしょくりょうのうぎょうきかん【国連食糧農業機関】United Nations Food and Agriculture Organization 略称FAO。1945年10月16日に成立した国際連合食糧農業機関憲章により設立された国連専門機関の一。各国民の栄養と生活水準の向上，食糧と農産物の生産および分配の能率改善，農民の生活条件の改善により世界経済の発展に寄与することを目的として，栄養・食糧・農業に関する情報の収集・分析，加盟国に対してこれらの問題について勧告・技術援助などの活動を行なっている。総会・理事会・事務局からなり，本部はローマにある。加盟国144 (1978)。日本は1951年(昭和26)加盟。〔広部和也〕

こくれんちいきけいざいいいんかい【国連地域経済委員会】United Nations Regional Economic Commissions 国際連合経済社会理事会の下部機構の一つで，地域的な経済問題について調査・研究を行ない，情報を収集し，その解決を図り，その地域の経済・社会水準の向上を目的としている。現在，アジア太平洋経済社会委員会(ESCAP，1947年3月設置)，ヨーロッパ経済委員会(ECE*，1947年3月設置)，ラテンアメリカ経済委員会*(ECLA，1948年2月設置)，アフリカ経済委員会*(ECA，1958年4月設置)，西アジア経済委員会(ECWA，1974年1月設置)の五つの委員会があり，その地域の加盟国と地域外でも特別の利害をもつ国々とによって構成されている。➔国際連合〔深海博明〕

こくれんぼうえきかいはつかいぎ【国連貿易開発会議】United Nations Conference on Trade and Development 略称UNCTAD(アンクタード)。南北問題*解決のため設置された国際連合総会の常設機関の一。1962年の第17回国連総会の決議により，1964年3～6月ジュネーブにおいて121か国が参加して第1回会議が開かれ，その後1964年12月，第19回国連総会の決議で総会の常設機関の一つとして発足，少なくとも3年に1回会議を開催することになっている。国連は1960年代を〈開発の10年〉と決議し，先進国・低開発国が協力して南北問題，南北の発展格差解消の問題に取り組もうとし，このため低開発国の経済発展を促進し，これを妨げないような国際経済環境(特に貿易と援助面を重視)をつくりだし，国際協力を組織化しようとした。第2回会議は1968年2～3月にインドのニューデリーで132か国2,000名が参加して開催された。機構としては，貿易開発理事会*(TDB)があり，同理事会の下に一次産品*・製品・貿易外融資・海運の4委員会が設けられ，スイスのジュネーブに事務局がある。初代事務局長はプレビッシュ(アルゼンチン)。第1回会議では，いわゆる〈プレビッシュ報告 新しい貿易政策を求めて〉を中心に，貿易原則，一次産品，製品・半製品，援助などをめぐって論議が行なわれ，低開発国側は一つのグループを形成して先進国に対抗し，合計59の勧告を採択したものの，その具体化と実施は進まず，低開発国側の不満が高まった。第2回会議では，低開発国側内部で発展段階差に基づく利害意見の対立がみられ，第1回会議で採択された勧告の実施を迫り，一般特恵制度の早期実施，一次産品に関する商品協定・研究の促進，援助を国民総生産(GNP)の1％とし，政府援助の比率の増大(80％)と援助条件の緩和を求める決議などが採択された。国連は1970年代を〈第2次国連開発の10年〉として，積極的に南北問題に取り組んでいくこととなり，この会議の役割もますます増大するであろうが，その後これらの決議の具体化・実施は，南北の主張の対立によって，あまり進展していないのが実情である。〔深海博明〕


虎溪三笑　狩野山楽　東京国立博物館蔵

こくれんぼうえきかいはつりじかい【国連貿易開発理事会】United Nations Trade and Development Board 略称TDB。1964年に開催された第1回国連貿易開発会議*(UNCTAD)で設置が決定された常設機関で，会議の中核的機関である国連貿易開発会議が開かれていない期間はそれに代わるべき役割を果たす。年2回開催され，国連経済社会理事会(ECOSOC)と協力し，国連貿易開発会議の準備と処理にあたり，会議の勧告・決定などの実施状況を検討し，必要な措置をとる。現在55か国からなり，グループ1(AA)から22か国，グループ2(先進国)から18か国(日本を含む)，グループ3(ラテンアメリカ)から9か国，グループ4(共産圏)から6か国となっており，この理事会のもとに，一次産品*・製品・貿易外融資・海運の4委員会があり，さらに小委員会・グループなどが置かれている。本部はジュネーブにあり，事務局長はガマニ・コリア(スリランカ)。〔深海博明〕

こくろう【国労】⇨日本国有鉄道労働組合

ごぐん【語群】⇨語族

こけ【苔】⇨コケ類

こけいさんしょう【虎溪三笑】東洋画の画題。恵遠(えおん)法師・陶淵明*(とうえんめい)・陸修静の3人が虎溪の石橋のかたわらで大笑している図。中国東晋(とうしん)時代に，恵遠法師は廬山(ろざん)にこもって念仏修行を積み，客を送っても虎溪の石橋より外に出ることがなかった。ところが，あるとき陶淵明と陸修静が訪れて〈道〉を語ったが，話に身がはいってしまい，見送りながらふと気づくと石橋を過ぎていたので，3人は手を打って笑った，という故事を描く。室町期以降に漢画家が好んで画題とした。周文*・雪舟*・文清・祥啓*・狩野元信*(かのうもとのぶ)・狩野山楽*らの作品が知られている。〔中島純司〕

こけいひりょう【固形肥料】硫安・過リン酸石灰・塩化カリなどの無機質肥料に泥炭(でいたん)を加えて，3mm以上の粒径に成形した肥料。大形の粒のものを団子肥料ともいい水稲用に，中粒以下のものを主としてクワ用に用いている。肥料の流失が少ないため，肥効に持続性があり，追肥を行なわなくてもすむ。

ごけいへんか【語形変化】語がその形の一部を変えること。次の三つの場合が考えられる。①活用による語尾変化(読ム→読マない)。②複合語(フネ→フナノリ，ヒト→コビト)や音便形(散リて→散ッて)などのように，発音上，語の形を変える場合。③奈良時代には〈サブシ〉といったのが，平安時代には〈サビシ〉と変わったように，歴史的に語の形が変わる場合。①・②を共時的(あるいは体系的)語形変化，③を通時的(あるいは歴史的)語形変化とよぶこともできる。

こけし 球形の頭をもち，円筒形の胴に手足のない木人形で，日本の郷土玩具(がんぐ)の一つに数えられる。以前は東北地方6県に在住する木地師がろくろを使用して製作していたが，戦後は各地のひき物細工師によって観光みやげにつくられるようになり，全国の観光地・温泉地のみやげ品として売り出され大流行となった。現在は，古くから東北6県でつくられていたものは伝統こけしとよばれ，新しくつくりだされたものと区別されている。伝統こけしの材料には

〈みずき〉〈いたや〉などを使用，頭や顔の表情は製作地・作者によってそれぞれ違い，胴模様には，キクやウメなどの花模様，ろくろ模様などがあり，10系統に区別されて，古い形式を伝えている。〔牧野玩太郎〕

ごけしちしゅう【五家七宗】⇨禅宗

こけしのぶ【苔忍】シダ植物・コケシノブ科。山地帯ないし高山帯の，日陰で湿った岩や樹上にはえる，高さ2～5cmの常緑のシダで，細い根茎を伸ばして群生する。葉は暗緑色，2回羽状深裂する。胞子嚢(ほうしのう)は小裂片の先に着き，2枚の包膜に包まれる。

こげちゃ【焦茶】色名。物の焦げたときの色のような茶色。黒みをおびた茶色。この色名の範囲は非常に広く，標準の色相を決めるのはむずかしい。焦茶ほど黒くない茶色に，栗色(くりいろ)とココア色*がある。栗色は栗皮色ともいわれ，《源氏物語》には落ち栗色とされている。また，焦茶のさらに赤みの色はチョコレート色*とよばれる。なお，焦茶のいっそう暗い色が黒茶である。しかし，一般にはこれらの区別は明確ではなく，焦茶という名称で総称されている。日本工業規格(JIS)では，色相5.0YR，明度3.2，彩度2.0の色と規定されている。

こけつぼうし【固結防止】化学肥料の中には，高温多湿の条件下では吸湿して固結したり潮解*するものがあり，ケイソウ土やタルクをまぶしたり界面活性剤を用いてこれを防止する。これを固結防止という。用いる資材を固結防止剤といい，少量で効果が大きい。

こけでら【苔寺】⇨西芳寺

ごけにん【御家人】鎌倉時代，将軍と主従関係を結んだ武士の自称。将軍の家人を尊称して御家人といった。法的には，根本私領を有し，その領有を将軍家下文*(くだしぶみ)によって安堵(あんど)され，御家人役を勤仕(きんし)する者をいう。したがって侍*の身分でも御家人役勤仕の地をもたない者は非御家人といわれ，厳重に区別された。御家人は将軍から所領安堵・新恩地給与などの御恩*を受けたのに対し，御家人役などは奉公*の義務を負った。このような御家人を組織した御家人制度は，幕府の支配体制の根幹をなした。

江戸時代には，知行高一万石以下の将軍直属の家臣のうち，御目見*(おめみえ)以上を旗本(はたもと)，以下を御家人といった。封禄(ほうろく)二百六十石が最高で最低は四両一人扶持(ふち)である。微禄のうえ江戸の都市生活を送っているので窮乏する者が多かった。〔鹿野賀代子〕

こけむし【苔虫】触手動物の一綱。シロヒゲコケムシ・チゴケムシなどが含まれ，現生種約6,000。微小な個虫が多数集まって群体をつくる。群体の形状は扁平(へんぺい)・樹枝状・角状など多数で，いずれも水生であり，岩石・海藻(かいそう)や他動物上などに



コケムシ　ミカドコケムシ。群体は岩・貝殻・海藻などに着生し，虫室は中央部ほど高い





コケモモ
(上)花
(下)果実

着生して生活する。各個虫はみずから分泌した石灰質・ゼリー状・角質の虫室に収まり，虫室前端の開口から口・総担(触手冠)などを出す。虫室の開口は前端に1個あるだけなので，消化管はV字形に曲がり，肛門(こうもん)が口とほとんど同じ高さにある。ただし口は触手冠の中央に位置するのに対し，肛門は触手冠の外側にある。口を背上方から不完全におおう口上突起という構造をもつ被喉(ひこう)亜綱と，それをもたぬ裸喉亜綱に二分される。有性生殖の場合に，前者は直達型の発生をするが，後者はトロコフォア型の自由遊泳幼生を経て成体になる。無性生殖は出芽によるほか，被喉類では環境が悪化すると休芽(スタトブラスト)を生じ，親群体の死後も残って環境の好転あるいは水流によって他所に運ばれてのち出芽する。呼吸は体表で行なわれ，特別の循環系・内分泌系はない。裸喉類の場合は，自由遊泳型の幼生が岩石などに定着すると，順次各方向に出芽して群体を形成するが，個虫一匹の生命は非常に短く，群体の中心に向かうほど個虫が死滅して空室となった虫室が目だつようになる。

被喉類は淡水産で，地球上のほとんどあらゆる淡水に生活し，裸喉類は一部を除き海産で，水平分布は全海洋に及び，垂直分布は潮間帯から5,850mの深海に及んでいる。水中に触手を伸ばし，触手にはえている繊毛で水流を起こして，触手冠の中央にある口へ微小生物を送り込む。食道にも繊毛があって，食物を腸に送り込む。周囲に少しでも異常を感ずると，すぐに触手を虫室に引っ込めてしまう。大多数の個虫は自活能力のあるものであるが，一部の個虫は特殊な形態と機能を有しており，異形個虫とよばれる。異形個虫は，普通の個虫の虫室の外壁に付着しており，鳥の頭のような形をした鳥頭体と，むち状の振鞭体(しんべんたい)とがある。前者は，群体の外壁にとりつこうとする他の付着生物を1対のあごではさみつけ，その生物が死んで分解するまで離さない。振鞭体はむち状のもの(口蓋(こうがい)の変化したもの)を振って，付着生物の付着を防いでいる。両者の働きで，苔虫の群体・外壁は他生物の付着を免れる。苔虫類はオルドビス紀末にはすでに現われており，ジュラ紀・白亜紀に大いに栄えた。〔菅野　徹〕

こけもも【苔桃】双子葉植物・ツツジ科。北半球の寒帯に広く分布し，日本でも北海道から九州の高山帯に自生する常緑小低木。茎は細く，横ばい分枝し，地上茎は10～20cmで直立する。葉は互生して密につき，長さ2cmほどの長楕円(ちょうだえん)形で厚い。初夏，枝端に総状花序に紅色をおびた白花をつける。花冠は鐘状で，先が4裂する。果実は球形で，晩秋紅熟し，甘酸味があり食用となる。果実は塩づけ・砂糖づけ・シロップ・ジャム・菓子の原料となる。〔横井朝子〕

こげら【小啄木鳥】鳥類・キツツキ科。日本産キツツキ類中で最も小形で，およそスズメ大。全体にかっ色と白色のまだら状のじみな羽色で，雄の後頭部の左右に数本の赤色羽があるが，まったく目だたない。極東にのみ分布し，日本各地のおもに平地から低山帯の森林で繁殖する。木がきしむような〈ギィー〉というものと，セミ類の声のような〈ギィー，キィキィキィキィ〉という独特な鳴き声をする。➔キツツキ

こけらいた【杮板】屋根をふくために用いる薄い木の板。スギ・ヒバ・ヒノキなどからつくる。厚さは1.2mm以上，幅10cm内外，長さ24cm内外の寸法で，素姓のよい木材から手はぎ・機械はぎして加工する。厚手のものは耐久性においてマツ材よりもすぐれる。屋根ふき材料として，これがそのまま仕上げとなる場合(こけら板ぶき)や，野地板の上にふいて粘土がわらなどの屋根下地とする場合がある。こばくぎを用いて留めつけ，俗称とんとんともいう。厚手のもの(5～7mm)はこば板ともいう。〔難波蓮太郎〕

こけりんどう【苔龍胆】双子葉植物・リンドウ科。日あたりのよい野原にはえる越年草。茎は根ぎわより多数出て，高さ2～8cm。葉は対生し，小さな卵形で基部で

癒合(ゆごう)し，短いさや状になる。春，枝の先に長さ1cmほどの鐘状で先が五裂した淡青色の花をつける。

こけるい【苔類】植物分類学上の一門で，蘚苔(せんたい)植物ともいう。緑色植物の一群で，系統上緑藻(りょくそう)類または車軸藻類とシダ植物の中間に位置する。植物本体はほとんど完全に陸上生活に適応しているが，有性生殖の際に精子が水中を泳いで卵に達し，このことは水中生活者である祖先の藻類の性質のなごりと考えられ，現生の緑藻類中ケートフォラ類がコケ類の祖先形に近いものとされている。この群は分枝糸状体であるが，平伏部と直立部の分化があり，また半陸生ないし陸生(スミレモ)のものがある。中でもサヤゲモは，受精直後ではあるが卵を中性の細胞群が包むこと，受精卵は有性世代上で直ちに減数分裂*して8細胞の無性世代を生ずるなど，緑藻では特異な性質を示し，コケ植物の起源をこの群に推定する根拠となっている。しかし，造卵器，精子の形，原糸体を生ずるなどの共通点から，車軸藻類との類縁も強いことは確かであろう。一方，シダ植物への関連は造卵器の完成，未完成ではあるが茎葉体への進化，らせん形の精子などにみられる。コケ植物の胞子は発芽すると原糸体という平伏する分枝糸状体を生ずる。この一部から直立する芽が出て，コケの本体(配偶体)が成長する。受精卵は配偶体で発育し，胞子嚢(ほうしのう)をつくる。つまり複相の胞子体は胞子嚢と胞子嚢柄であり，配偶体上に寄生している。胞子は減数分裂を経てつくられる。有性世代が植物本体(大形のもの)であることはシダ植物の世代交代と逆の関係にある。体制は完全な柔組織による葉状体から茎と葉の分化にまで進むが，根は分化せず，仮根があるのみである。通道組織には初歩的分化があり，道束とよばれる。生態的には完全に陸生で，地上・岩上・樹皮上または生葉上に生じ，さらに二次的に水生化して水面に浮き，あるいは水中に沈生する。海産種はなく，熱帯から極地まで広く分布する。経済的価値のあるものはほとんどない。

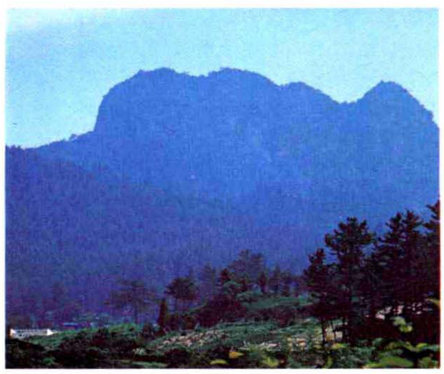
【分類】①苔類：葉状体から茎葉体まであり，より原始的な群。②蘚類：すべて茎葉体。なお新しい分類ではツノゴケ類・真正ゼニゴケ類・ウロコゴケ類(以上苔類より)，ミズゴケ類・クロゴケ類・スギゴケ類に六大別される。なお，通俗的にコケとよぶときには，陸上で各種の基物の表面に生ずる緑色ないし帯緑色の小形の植物を総称しており，コケ植物のほか，地衣類の全部と藍藻(らんそう)類・緑藻類の一部も含まれている。


コケ類 ①ミズゼニゴケ ②コスギゴケ ③ナミガタタチゴケ ④ゼニゴケ ⑤オオスギゴケ ⑥ヒメジャゴケ

こけん【沽券】土地その他の売り渡し証文のこと。売券・沽却状・避状(さりじょう)などともいう。律令(りつりょう)時代，園地・宅地など私売する場合，坊令(平城京・平安京の4坊ごとにおかれた官人)・郷長(地方行政官)が現地役人として作製した提出書類に，官が許可の文言を記入して，買い主に交付したものをいった。平安中期以降は私券として売り主が作製し，買い主に渡す売り渡し証文となった。江戸時代には町・村役人および五人組*の加判が必要となった。沽券が売価の意味に用いられ，さらに人の信用度を表わす語になって，〈沽券にかかわる〉という文句ができた。〔高崎徳次〕

ごげん【語源】単語が，そのように成立した，もともとの由来。比較的新しくできた語や外来語は，語源のわかることが多いが，古来の語には不明なものが多い。語源に対する興味は古今東西を通じ普遍的であって，まちがった語源解釈(民間語源・語源俗解とよぶ)から新しい語形を生むこともある(例：一所懸命→一生懸命)。科学的な語源研究のためには，同系統の諸言語との比較研究が不可欠であるが，日本語では確実に同じ系統として参考になる言語がないなど，西欧語の場合に比べると著しく不利な条件がある。〔西尾寅弥〕

ごけんうんどう【護憲運動】⇨憲政擁護運動


五剣山 山頂に奇峰を連ねる五剣山。南側の牟礼町付近からの眺望で，この左手は壇ノ浦の入り江をはさんで屋島へ続く

ごけんざん【五剣山】香川県高松市屋島の東方に，壇ノ浦を隔ててそびえる山で標高370m。山頂に比高約50mの五つの奇峰が突出するのでこの名がつけられたが，江戸時代に1峰が侵食によって崩壊し，現在は4峰が残る。中腹に四国巡礼の札所八栗(やくり)寺があるので八栗山ともいわれる。瀬戸内海国立公園の一部になっている。

ごけんてい【五賢帝】古代ローマ最盛期の5人の皇帝。ネルバ*・トラヤヌス*・ハドリアヌス*・アントニヌス-ピウス*・マルクス-アウレリウス*をさす。貴族中の有能者を養子とし，帝位を継がせたので名君が続き，治安の確保，文化興隆・版図拡大など〈ローマの平和*〉が謳歌(おうか)された時代である。トラヤヌス帝の治世下に版図は最大となった。哲人皇帝としてその著《自省録》で知られるマルクス-アウレリウスの時代は，表面ははなやかであったが，他民族の侵入が強まり，国内混乱のきざしが明らかとなってきた。〔高山高雄〕

ごけんゆう【呉健雄】ウーチエンシュン(1915～) アメリカの女性物理学者。中国生まれ。現在コロンビア大学教授。中国で大学を終え，科学院で研究後，1936年渡米。カリフォルニア大学でローレンスの指導下に原子核実験の研究に従事したが，1956年，李政道(りせいどう)と楊振寧(ようしんねい)がパリティ非保存の可能性を論じてその検証の可能性を指摘したおり，その実験を遂行し，実証に成功した(1957)。科学アカデミー会員。

ここ【古語】過去の時代(ふつう，江戸時代以前)に用いられたが，現代の中央語・共通語には，普通には用いられなくなった単語。古語は多くの場合，文献に残存し，それによって古語としての資格が明らかになる。ほかに，〈こぞ〉〈かはづ〉などのように雅語・歌語として残存したり，〈おどろく(目をさます)〉〈うたてい〉のように方言に残ったりしている。また，〈なまめかし(上品

だ)〉のように意味・用法が変化して現代語に残っていることもある。〔西尾寅弥〕

ココア [cocoa] カカオの種子を原料とする嗜好(しこう)飲料。カカオの主要な品種にはクリオロ種とフォラステロ種があるが，前者のほうが風味が高い。製造法は，まずカカオ豆を焙烙(ほうろく)し，殻(から)を除き，果肉を加熱する。これをカカオペーストといい，さらに圧搾して脂肪(カカオバター)を除いたものを粉砕すれば粉末のココアができる。成分は脂肪20%，タンパク質20%，炭水化物35%を含み，栄養価も高く消化もよい。また茶やコーヒーと同じアルカロイド系刺激成分であるテオブロミンを約1.4%内外含む。飲むときはただ熱湯を注ぐだけでなく，3～4分間煮沸するほうがかおりがよく出ておいしく飲める。なお，ココアにカカオバターその他を加えたものがチョコレートである。〔斎藤 進〕

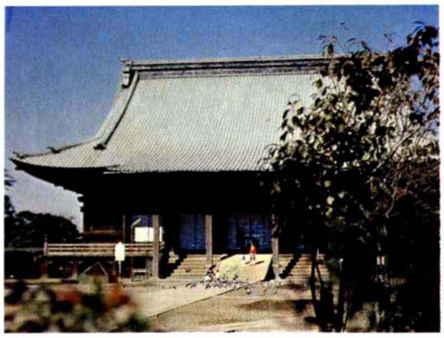
ココアいろ [ココア色] 色名。ココアのような色。赤みのある暗い茶色。チョコレート色よりもやや黄みが多く，明るくあざやかな色である。日本工業規格(JIS)慣用色名〈ココア色〉は色相2.0YR，明度3.5，彩度4.0の色と規定されている。➜栗色(くりいろ) ➜色

こごう [小督] 邦楽曲名。《平家物語巻6》の〈小督〉に基づく。高倉天皇の寵愛(ちょうあい)を受けた小督局(こごうのつぼね)が，平清盛の迫害を恐れて身を潜めたのを，勅使が捜しに行き，箏(そう)の音によって秋の夜の嵯峨野(さがの)で見つけだす。能では，4番目物で五流で行なわれている。山田流箏曲では《小督の曲》の名で知られ，19世紀初め山田検校(けんぎょう)の作曲になる。雅楽の楽箏のパターンを使ったり，その様式を模した〈楽〉を歌と合わせたりしている。〔徳丸吉彦〕

ごこう [御光] 太陽や月を背にして山頂や峰などに立つと，前面の霧や雲などに自分の影が映り，霧粒や雲粒による光の回折のために，自分の影を中心として色づいた光輪が現われる。これが御光とよばれる現象であり，ブロッケンともいう。霧粒や雲粒の大きさによって，光輪の大きさが異なる。また自分の影を中心にして美しい光輪ができるので，その神秘さが登山者の宗教心をかきたてる。

ごこう [呉興] ウーシン 中国，浙江(せっこう)省北部の都市。太湖南岸に臨む。呉興県の県政府所在地で，旧名湖州。商業・養蚕業が盛んで，生糸・米・絹織物・筆・紙・扇子・油などを産する。特に筆は湖筆の名で知られ，良質なことで有名である。明(みん)・清(しん)代には湖州府であったが，1912年に呉興県となり，中華人民共和国時代，一時湖州市となった。その後再び呉興となった。

ごこうごみん [五公五民] 江戸時代，主として後期の年貢(ねんぐ)徴収率。公は領主，



護 国 寺 本堂

民は農民で，収穫米のうち5割を年貢米として貢納させ，5割を農民の保有米として残すことである。年貢徴収率は幕府・諸藩とも必ずしも一定でなかったが，ふつう四公六民であった。8代将軍徳川吉宗(よしむね)は，享保(きょうほう)年間(1716～1735)の幕政改革で，幕府財政の窮迫を救うため五公五民とした。この増租政策は新田開発の奨励や定免法の採用など一連の政策と見合って行なわれたが，農民の負担を過重にしたことに変わりはなく，他の原因も加わって，百姓一揆(いっき)の件数が増加した。しかし幕府・諸藩は封建財政の矛盾が深刻化するのに応じ，領主のとりうる最も基本的な対策として年貢増徴を勧めたので，農民の反封建闘争も激化した。〔高崎徳次〕

ごこうごんてんのう [後光厳天皇] (1338～1374) 名は弥仁(いやひと)。北朝第4代の天皇。光厳天皇の皇子で，母は三条秀子(ひでこ)。1352年(正平7・文和1)南朝と足利尊氏(あしかがたかうじ)との間の和議が破れたので尊氏方に擁立され，和議中に一時廃絶していた北朝を再興して即位した。その後，南朝軍の京都奪還が行なわれるたびに，諸方に遷幸した。1371年(建徳2・応安4)皇子の後円融天皇に譲位。学問・和歌に造詣(ぞうけい)が深かった。陵墓は京都市伏見区深草坊町の深草北陵。〔高崎徳次〕

ごこうしょはじめ [御講書始め] 毎年1月皇居において行なわれる宮中行事の一つで，天皇・皇后が学者の進講を聞く儀。明治天皇が文教の大本を尊重し，年頭の行事として創始した。1951年(昭和26)までは和書・漢書・洋書についての進講が行なわれていたが，現在では皇太子以下の皇族・文部大臣・日本学士院会員・日本学術会議会員らも陪聴し，人文科学・社会科学・自然科学の3分野における学問権威者によって講義が行なわれている。〔小林亥助〕

ごこうみょうてんのう [後光明天皇] (1633～1654) 在位1643～1654年。名は紹仁(つぐひと)。後水尾天皇の第3皇子。母は壬生院(みぶいん)藤原光子。儒学を好み，侍講に進講させた。典礼格式を重んじ，衣服の制の復古を主張した。詩歌集《鳳啼集(ほうていしゅう)》がある。陵墓は京都市の月輪(つきのわ)陵。

こごえ [凍え] 体温が奪われて起こる全身的障害。このために死亡するのが凍死である。体温の低下によって体の機能が全般的に衰えるが，特に神経系統の機能低下と血液の酸素供給能力の減少が著しい。ヒトでは直腸内温度が24℃以下になると回復しにくいといわれ，気温が0℃以上でも凍死することがある。局所に起こるときは凍傷といい，外科的に火傷の場合と同様その重症度に応じて第1度凍傷(紅斑(こうはん)性)，第2度凍傷(水泡(すいほう)性)，第3度凍傷(壊死(えし)性)と分類している。〔平野修助〕

ごこくきょう [護国卿] 1653～1659年，イギリスのピューリタン革命の終結後に現われた，最高権力をもつ統治者の称号。議会の急進的改革に不安を感じた所有者階級は議会を解散させ，統治章典を定めて，O.クロムウェルを護国卿に任命した。彼は革命政権の保守化を進め，軍事独裁制を敷いた。彼の死後，子のリチャードが就任したが，政治的能力がなかったため，1659年軍幹部により廃位され，やがて王政復古を迎えた。〔松下京子〕

ごこくじ [護国寺] 東京都文京区大塚坂下町にある新義真言宗豊山(ぶざん)派の大本山。1681年(天和1)5代将軍徳川綱吉(つなよし)が，母桂昌院(けいしょういん)の請で僧亮賢(りょうけん)を招き，高田薬園の地に建立(こんりゅう)させたのに始まる。1697年(元禄10)観音堂を建立。1717年(享保2)神田の護持院が焼失してこれを護国寺に合併，本坊が護持院，観音堂が護国寺とされたが，明治初年になって護持院の号は廃され，護国寺に統一された。〔藤本昌子〕

ごこくじんじゃ [護国神社] 国家のために生命をささげた人々の霊を祭った神社。はじめ招魂社と称した。1868年(明治1)，京都の東山に祠宇(しう)を設けて，嘉永(かえい)・安政(1848～1859)以来明治維新前後にかけての事変や戦役で殉難した人々の霊を祭ったのが起こりで，のちに東京招魂社(➜靖国(やすくに)神社)などができた。護国神社の名称は1939年(昭和14)の制によるもので，1府県に1社を原則とし，その府県の英霊を合祀(ごうし)する。別に，小さな崇敬区域で祭った護国神社もある。〔小野和輝〕

ごこくどうめい [五国同盟] ⇨四国同盟

ごごしま [興居島] 愛媛県松山市に属し，同市高浜港の前面に高浜瀬戸を隔てて南北に延びる山がちの島で，最高点は南端の小富士(282m)。面積9.3km²，人口約6,000。門田・由良(ゆら)・泊・船越(ふなごし)・本浦・鷲ケ巣(わしがす)・北浦などの集落があり，ウンシュウミカン・イヨカン・ビワ・モモなどの栽培を主とし，水田もある。漁業も行ない，島外に船員を多く出している。由良・泊から定期船で，高浜港まで15分で達し，松山への通勤者も多い。小瀬戸を隔てて西方に属島の釣(つる)島があり，果樹を栽培している。興居島の名は，山が凝り固まった



ココシュカ
《ザルツブルグ》
ミュンヘン国立新美術館

ようすに由来するといわれ，《万葉集》の〈島山のよろしき国と，こごしき伊予(いよ)の高嶺(たかね)の，いさにはの岡(おか)にたたして〉(山部赤人(やまべのあかひと))は，石鎚(いしづち)山をさすという説と，小富士をさすという説がある。〔浅井得一〕

こごしゅうい【古語拾遺】 平安前期の歴史書。斎部(いんべ)広成*が807年(大同2)に撰述(せんじゅつ)した。上古以来中臣(なかとみ)氏とともに神事・祭祀(さいし)をつかさどってきた斎部氏が，中臣氏の後身藤原氏の興隆につれ，自家の衰微してきた現状を不満とし，自家の古伝承に基づき，その地位回復を意図して筆録，平城天皇に奏上した。多少の誇張もあるが，記紀に遺漏した記事もあり，古代史研究に貴重な文献とされる。

ごこじゅうろっこく【五胡十六国】 中国の西晋(せいしん)の末から南朝の宋(そう)に至る130余年間(304～439)に侵入した5異民族と，これら異民族および漢民族によって華北に建てられた16の国をいい，この大混乱期を五胡十六国時代という。五胡とは匈奴(きょうど)・羯(けつ)・鮮卑(せんぴ)・氐(てい)・羌(きょう)の5種族をいい，十六国とは匈奴族の建てた前趙(ぜんちょう)(はじめ漢という，304～329)，北涼(397～439)，夏(407～431)，羯族の建てた後趙(319～352)，鮮卑族の建てた前燕(ぜんえん)(337～370)，後燕(384～409)，南燕(398～410)，西秦(せいしん)(385～431)，南涼(397～414)，氐族の建てた成(のちに漢と改める，303～347)，前秦(351～394)，後涼(386～403)，羌族の建てた後秦(384～417)と，これに漢民族の建てた前涼(317～376)，西涼(400～421)，北燕(409～436)を加えた合計16の国をさす。4世紀の初めに，西晋王朝(265～316)が王族どうしの内乱によって大混乱に陥ると，すでに華北内地に移住していた遊牧民族が上記の各種族ごとに独立をはじめ，さらに次々に北方民族の南下をひき起こして，それぞれの国が併合・分裂・興亡をくり返し，最後に439年に鮮卑族の北魏(ほくぎ)王朝(386～534)によって華北はようやく統一された。〔川勝義雄〕

ココシュカ［Oskar Kokoschka］(1886～1980) **オーストリアの画家・版画家。表現主義の指導者のひとり。1904年から1907年にかけてウィーン美術工芸学校に学び，**1910年ベルリンの嵐(あらし)派に参加した。第1次世界大戦後一時はドレスデン美術学校の教授をつとめた。その絵は対象の精神化において他にぬきんで，輝く色彩の多様な変化，大胆なタッチ，折線のように激動する描線が劇的な効果を与える。肖像・風景画のほか幻想的な内容の絵もあるが，スペイン内乱以後は政治的性格をおび，ファシズムへの弾劾(だんがい)を示した。思想的な内容の木版画シリーズもある。〔岸野悦子〕

こごしょかいぎ【小御所会議】 1867年(慶応3)12月9日，王政復古*の大号令の出た夜，徳川氏*の処分を決するために京都御所*内の小御所で開かれた御前会議。同年10月薩摩(さつま)・長州2藩への討幕の密勅と同時に，徳川慶喜*(よしのぶ)がみずから政権を返上したため，武力討幕の名目を失った2藩は，徳川氏を刺激して武力衝突の触発を意図して開催された。会議は論議沸騰し，この日の政変を薩長の陰謀とする土佐前藩主山内豊信*(とよしげ)と，あくまで徳川氏の強硬処分を決議しようとする岩倉具視*(ともみ)とが対立したが，慶喜に辞官納地を命ずることに決定した。このため幕府側はこの処分に憤激，こうして2藩のおもわくどおり戊辰(ぼしん)戦争*を激発した。〔千野境子〕

ココス(諸島)［Cocos］ インド洋東部にあるオーストラリア領の群島。キーリング諸島・ココス-キーリング諸島ともよばれる。約27の小サンゴ礁島からなり，1609年W.キーリングによって発見された。総面積13km²，人口675(1965)。1826年からイギリス人・マライ人らによって開拓されはじめたが，1955年以来オーストラリア領となった。コプラ採取を主産業としている。

こごた【小牛田(町)】 宮城県遠田郡にある町で，人口20,000。1954年(昭和29)不動堂町・北浦村・中埣(なかぞね)村と志田郡敷玉村の一部を合併。小牛田駅は東北本線と陸羽東線および石巻(いしのまき)線の交差点である。中心集落は小牛田駅から2kmほど北にあり，江戸時代には宿駅として，また米の集散地として発達し，米は北上川の支流の江合川を利用して古川・石巻などへ輸送された。米蔵の設けられたところは，いまも御蔵場の地名でよばれている。付近の農村地域の一中心をなし，土管・かわら・れんがの生産も行なわれている。

こごとこうべえ【小言幸兵衛】 落語の題名。大阪では《借家借り》という。小言好きの家主幸兵衛が，家を借りに来た男にいちいち文句を言って返してしまう。最初の男は礼儀を知らないと言って追い返す。2番めに来た仕立て屋は礼儀正しい男で，幸兵衛も感心する。ところが，この男に20歳になる美男のひとりむすこがいると聞いて，同じ店子(たなこ)の古着屋のひとり娘との関係を心配しだし，ひとりむすこにひとり娘では双方とも跡取りで家を出せないから結婚させられず，それがもとで心中になるというので，心中の一場面を芝居口調で演じたりして，結局追い返してしまう。このあとに乱暴な口調の男が来てむりに家を借りてしまうが，商売を聞くと鉄砲づくり。〈どうりでポンポンいう〉がサゲ。ほかに怪談仕立ての搗(つ)き米屋を登場させる場合もある。〔長尾一雄〕

ココナツ ⇨ココヤシ

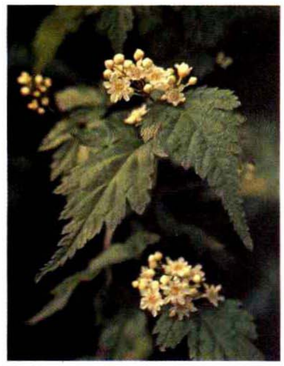
ここのえ【九重】 仙台(せんだい)市の銘菓で掛け物菓子の一。もちをアワ粒大に刻み，いりながらユズを入れた糖蜜(とうみつ)をまぶしたもの。熱湯を注いで飲む。ユズのほか，ブドウ・抹茶(まっちゃ)を入れたものもある。もと福島県耶麻(やま)郡塩川町の郷土菓子。

ごこまつてんのう【後小松天皇】 (1377～1433) 名は幹仁(もとひと)。北朝の後円融天皇の皇子。母は通陽門院厳子。1382年(弘和2・永徳2)父帝より皇位を譲られて即位した。1392年(元中9・明徳3)南朝*の後亀山(ごかめやま)天皇*から神器を継承し，ここに南朝を合わせて南北朝合体が実現した。1412年(応永19)譲位後は院政*を行なった。晩年は仏門にはいり，法名は素行智(そぎょうち)。和歌を好み，御製は《新続古今和歌集*》に収められている。陵墓は京都市伏見区深草坊町の深草北陵。〔高崎徳次〕

ココム［COCOM］ Co-ordinating Committee(for Export Control) 対共産圏輸出調整(統制)委員会。1949年11月，アメリカの提唱により，北大西洋条約機構*加盟国12か国が，対共産諸国軍需物資禁輸に協力するために設立，1950年1月から活動を開始した。日本は1952年に加盟。本部がパリにあるため，パリ委員会ともよばれ，輸出統制品目リスト(ココム-リストないしパリ-リスト)を作成し，軍事技術あるいはそれに関連する技術・製品を共産圏に輸出することを防いでいる。当初統制品目は400近くあったが，1957年以降大幅に統制が緩和され，毎年加盟国間の協議によって修正されている。1949年に設置された対中共輸出統制委員会(チンコム〔CHINCOM〕，China Committee)は，現在ココムに併合さ

れ一つになっている。最近の東西貿易の伸展に伴い，ココム-リストの緩和を主張する諸国と統制を強めようとするアメリカとの対立が生じ，また，アメリカはココム申し合わせ違反に対する制裁措置として，バトル法により援助停止などを定めているが，その効力も現在は消滅しつつある。
〔深海博明〕

こごめうつぎ　【小米空木】　双子葉植物・バラ科。日本・朝鮮の山地に自生する落葉低木。高さ２ｍほどになり，多く分枝し，枝は細く折れやすい。葉は互生し，卵形，膜質で切れ込みがあり，両面に柔らかい毛がある。５～６月ごろ短い総状花序を頂生または腋生(えきせい)して，５㎜ほどの白花をつける。果実は球形で宿存がくをもつ。


コゴメウツギ

こごめぐさ　【小米草】　双子葉植物・ゴマノハグサ科。イブキコゴメグサともいう。伊吹(いぶき)山の山頂近くの草原にはえる一年草。茎は直立し，高さ10～20cm，よく枝分かれし，白い細毛がある。葉は多数つき，卵形で鋸歯(きょし)がある。夏，葉のつけ根に小さな白色の唇形花(しんけいか)をつける。

こごめばな　【小米花】　双子葉植物・バラ科の落葉低木。シジミバナの別名。➔シジミバナ

ここやし　【古々椰子】　単子葉植物・ヤシ科の常緑高木。東洋の熱帯原産といわれ，広く熱帯地方に分布し栽培される。幹は20～30ｍ，直径30cmくらいになり，分枝せず，基部は膨大する。葉は羽状複葉で長さ４～５ｍ，茎の頂端から20～30枚が叢生(そうせい)する。葉腋(ようえき)から穂状に１～２ｍの花序が出，先の方に小さい雄花を，基部に大形球形の雌花をつける。果実は開花後１年で成熟し，先端に３稜(りょう)があり長径30cm内外の楕円(だえん)形でかっ色。中果皮はあらい繊維質(ココナツファイバー)で，その内方の内果皮(核)はかたく球形。中に胚乳(はいにゅう)と胚がある。胚乳は多量の脂肪を含み，乾燥したものをコプラ*といい，これをフレーク状にしたものが菓子などに用いられるココナツである。コプラからしぼったコプラ油は，マーガリン・せっけん・ろうそくなどの原料となる。しぼりかすは飼料とする。果実の未熟のころの花序は切ると甘味のある液が出て，これから糖を取り，また発酵させてやし酒をつくる。若い果実の胚乳液は甘味と香気があって飲料となる。中果皮の繊維はブラシ・敷き物・ロープなどに使われ水に強い。核の殻(から)は細工物にする。葉は屋根をふいたり，かご・敷き物にする。幹は建築材料や橋材とする。経済的には北緯20°から南緯20°の海抜300m以下の所が最適地で，成熟した果実を半ば地中に埋めておくと，数か月で発芽する。核には三つの発芽孔がある。〔横井朝子〕


ココヤシ

ゴーゴリ　［Nikolai Vasil'evich Gogol'］（1809～1852）　ロシアの小説家・劇作家。ウクライナのコサックの家に生まれ，ペテルブルグに出て俳優を志したが失敗，叙事詩の発表も不評で一時絶望した。しかし，散文で再出発し，短編集《ディカーニカ近郷夜話》で文名を確立，プーシキン*の知遇を得た。その後，ウクライナ物といわれる小説集《ミルゴロド》(《昔気質の地主夫妻》《タラス-ブーリバ*》《イワン-イワーヌイチとイワン-ニキーフォロビチが喧嘩(けんか)をした話》などを含む)とペテルブルグ物の小説集《アラベスク》(《ネフスキイ大通り》《肖像画》などを含む)や《鼻》《外套(がいとう)》を発表。それらは，ロシアにおける批判的リアリズムを確立するものとなり，ドストエフスキー*らに影響を与えた。その風刺精神は戯曲《検察官*》において専制政治への批判ともなり，大反響をよんだが，同時に批判・攻撃も加えられ，ゴーゴリはイタリアにのがれ，以後ときどき帰国しながら12年間ローマで暮らした。その間に苦心のすえ《死せる魂》第１部を完成したが，神経障害に悩み，不幸な最期を遂げた。
〔北垣信行〕


ゴーゴリ

こころ　【心】　一般には意識*・精神*とほぼ同じ意味で用いられるが，哲学では広義の心は〈精神〉と狭義の〈心〉に区別される。精神は心の働きを統制する力として身体に対する自主性を強調するときに用いられ，心は精神の作用が結果したものとして，身体の影響をこうむるものをさす。具体的には，たとえば悟性・意志などはむしろ精神に，情念・欲望などはむしろ心に分類される。心理学においても，哲学とほぼ同様の使い分けがみられる。人の心の中にある観念あるいは印象は〈意識現象〉の内容であるが，この内容を含む現象を意識として成立させる作用は〈精神機能〉とよばれる。前者を対象として意識心理学，後者を対象として作用心理学あるいは機能心理学に分けられる。なお，実在的に〈心〉と〈身体〉がはっきり相違する実体であるかどうかは，哲学史上〈心身関係〉の問題として有名である。
〔石井忠厚〕

こころ　【こゝろ】　夏目漱石*(そうせき)の後期を代表する長編小説で，1914年(大正３)《朝日新聞》に連載された。〈先生と私〉〈両親と私〉〈先生の遺言〉の３部よりなり，前２者は〈先生の遺言〉の序曲をなしている。〈先生〉は，幼少以来の体験から自己以外の人間に絶望していたが，自分が恋に陥ったとき，卑劣にも友人を裏切ってまで我執を貫いてしまう。友人は自殺し，〈先生〉は自己の我執の深さを見つめて，ついに自分も自殺することで〈我〉を否定するところに行きつく。漱石はここで自我の拡充は結局他の自我を傷つけ，自己をも傷つけるとし，近代人の特質である個人主義思想の限界を提示した。明治天皇に殉じた乃木希典*(のぎまれすけ)の死を機に書かれ，明治知識人の倫理のあり方をも示した。　〔西垣　勤〕

こころがわり　【心変わり】　ビュトール*の小説。1957年の作。パリ・ローマ間の列車内における20数時間の主人公の意識の推移をたどったもので，主人公は二人称でよばれ，〈ヌーヴォー-ロマン(新しい小説)〉の実験的手法が試みられている。

こころづけ　【心付】　文芸用語。連歌(れんが)・俳諧(はいかい)における付合*(つけあい)の一。《連理秘抄*》に〈言葉・寄合を捨てて心ばかりにて付くべし〉とあるように，特定の連想関係のあることばによったり，余情の共通性においてつけるのではなく，もっぱら前句との意味上の完結をねらってつける手法である。後世，蕉門(しょうもん)などでは広く余情による付けをもよんでいる場合がある。

こころのはな　【心の花】　短歌雑誌。1898年(明治31)から現在に至る。佐佐木信綱*(のぶつな)を中心とする〈竹柏会(ちくはくかい)〉の機関誌として創刊された。〈広く，深く己(おの)がじしに〉という信綱の精神を受けて，温雅な歌風を特徴とし，五島茂・五島美代子(みよこ)・前川佐美雄*・佐佐木治綱(はるつな)・佐佐木由幾(ゆき)・川田順*・木下利玄*・九条武子*(たけこ)・小宮良太郎・児山(こやま)敬一・柳原

白蓮*(びゃくれん)ら多くの歌人が出た。

こころみのしようきかん 【試みの使用期間】 正式に採用するまえに,適格性などを判断するため試験的に使用する期間をいう。企業によってさまざまであるが,その期間は,通常３～６か月である。試用期間中の労働者の待遇は,それぞれの企業の慣行や就業規則*などで定められているが,その身分は不安定である。試みの使用期間中で使用期間が14日以下の者には,使用者は,労働基準法20条の解雇手続きによらずに解雇することができる。また,法律に基づき最低賃金が定められた場合に,使用者が,試みの使用期間中の者について,都道府県労働基準局長の許可を受けたときは,最低賃金法*の適用からはずされている。以上のほかは,試みの使用期間中の者にも,労働法は適用される。 〔木元美代子〕

ごこん 【五根】 仏教用語で,感覚を起こさせる五つの器官。眼根(げんこん)・耳根(にこん)・鼻根・舌根・身根の五で,それぞれ視覚・聴覚・嗅覚(きゅうかく)・味覚・触覚の器官。見る心の働きは眼根をよりどころとして色形のあるものをとらえ,聞く心の働きは耳根をよりどころとして音をとらえることで認識作用が成立する。この認識作用をひき起こし,対象を感覚する働きをさして五根というときと,肉体の目・耳など,すなわち五官をさすときがある。 〔小沢憲珠〕

ここんちょもんじゅう 【古今著聞集】 鎌倉前期の説話集。橘成季(たちばなのなりすえ)の編。真名序・仮名序を備えて勅撰(ちょくせん)和歌集の形式にならい,人事・社会・自然にわたる700余の説話が,〈神祇(じんぎ)〉〈釈教〉などの30編目に分類され,収録の範囲を日本に限った各編の説話が,ほぼ年代順に配列されている。内容は王朝貴族の詩歌管弦に関する説話が中心で,懐古的な思想を強く表わしてもいるが,当時の世相のうかがえる街談巷説(こうせつ)からの採録もある。

ここんていしんしょう 【古今亭志ん生】 落語家。江戸の落語家で５世が現存する。

[1]初世(1809～1856) 初世三遊亭(さんゆうてい)円生*の門人。一時江戸を去って８年の放浪生活を送ったが,その後江戸に帰って新生と名のり,真生を経て初世志ん生となる。人情噺*(にんじょうばなし)を得意とし,《お富与三郎》《文七元結(もっとい)》などを演じた。

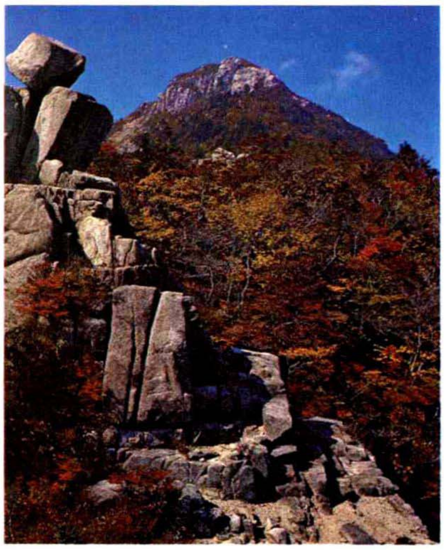
[2]２世(？～1889) 初世の門人。師の演目を継承し,高座のろうそくの明かりにくふうを凝らすなどの新趣向を研究。肥満体を利し,相撲(すもう)の話などをも得意とした。

[3]５世(1890～1973) はじめ明治末の名人橘家円喬(たちばなやえんきょう)の門人。一時講談*に転じたりしながら,16回の改名を経て５世志ん生となる。滑稽噺(こっけいばなし)・人情噺をともに得意とした。満州慰問巡業中に終戦,自在な芸風により第２次世界大戦後の落語界第１人者の一人となった。

ここんとしょしゅうせい 【古今図書集成】 中国,清(しん)代につくられた百科全書。すべて10,000巻。目録40巻,康熙帝(こうきてい)のとき編纂(へんさん)を始め,次の雍正帝(ようせいてい)のときに完成した。暦象・方輿(ほうよ)・明倫・博物・理学・経済の６編からなり,さらに項目別に32典,6,109部に分けて,各部ごとに中国古今の図書を集大成してある。



コ ザ 沖縄市内のバー街。基地産業に依存して発達した代表的な町。開拓時代のアメリカ西部の町のようなふんい気が漂う



御在所山 紅葉の美しい10月末の御在所山。山頂の左手にロープウエーが通じ,展望台がある

コザ 沖縄本島中部の旧市名。第２次世界大戦以前は越来(ごえく)村という一農村であったが,戦後は西隣の嘉手納(かでな)村からこの地にかけて東洋一といわれるアメリカの嘉手納空軍基地があるために急激に発展した。1956年(昭和31)市制,1974年(昭和49)４月,美里市と合体沖縄市となる。コザというのは,もと胡屋(ごや)という地名があったのを,アメリカ人が誤ってよんだことからきている。旧市域は北の読谷岳(よみたんだけ)を頂点として舌状に広がる。地域の経済はほとんど基地に依存している。

ごさ 【誤差】

[1] ➔近似値

[2]測定値から真の値を引いた差。誤差を真の値に対する比で表わしたものを誤差率といい,特に百分率で表わした値を誤差百分率といいパーセント(％)で表わす。誤差は,補正したり(温度変化による影響を受けるような場合),注意したり(ストップウオッチのような場合),あるいは測定器を校正したりして,誤差を小さくすることのできる系統的誤差と,同一条件で測定をくり返しても突き止めることのできない多数の原因で,測定値を＋または－に片寄せてしまう偶然誤差とがある。 〔土屋喜一〕

ござ 【茣蓙】 イ(藺)で編んだ敷き物の一種。古くは御座の字をあて,貴人に勧めるイで編んだ敷き物を称したが,現在では緯(よこ)にイを,経(たて)に綿糸を用いて織った敷き物をいい,板の間に敷いたり,畳の上敷きに用いる。花ござは織り出しあるいはプリントでさまざまな模様を出したもので,装飾用敷き物や夏用寝ござとしてシーツ代わりに用いられる。ござの主産地は岡山・広島・大分・福岡の諸県である。

こさい 【湖西(市)】 静岡県浜名湖西岸の市。人口37,000。1955年(昭和30),鷲津(わしづ)町を中心に周辺の２町３村が合併,1972年(昭和47)市制施行。東海道本線・二俣(ふたまた)線が通じ,国道１号線に沿っている。豊橋(とよはし)と浜松の間にあるため,繊維関連工場・自動車関連の機械・電気工場の進出が著しい。またミカンの栽培も隆盛。産業三大別人口比は15：55：30。

ございしょやま 【御在所山】 鈴鹿(すずか)山脈の中部,三重・滋賀県境にあり,標高1,210m。山体はカコウ岩からなり,東面の三重側は急斜し,内藤壁などの岩壁があるが,西側は比較的緩斜面をなしている。東麓(とうろく)に湯ノ山温泉があり,ここから山頂近くまでロープウエーが通じている。頂上からは遠く琵琶湖(びわこ)・伊勢(いせ)湾がながめられ,展望台や山荘・バンガロー村などがある。鈴鹿国定公園の中心となっている。 〔高野 繁〕

ごさいてんのう 【後西天皇】 (1637～1685) 在位1656～1663。名は良仁(よしひと)。後水尾天皇の第７皇子。母は逢春門院(おうしゅんもんいん)藤原隆子。1654年(承応３)践祚(せんそ)。２年後即位。和歌に長じ歌集《水白集》がある。日記は《後西院御記》。陵墓は京都市の月輪(つきのわ)陵。

こざいよしなお 【古在由直】 (1864～1934) 農芸化学者。東京大学農学部の前身である東京農学校を卒業ののち,ベルギー・ドイツに留学。1900年(明治33)帰朝後,日本における農芸化学の草分けとして指導的立場にあった。1920年(大正９)から1928年(昭和３)まで東大総長。

コサイン ⇨三角関数

ゴサインタン(山) [Gosainthan] ゴサインタンはサンスクリット語の名称で,

チベットではシーシャパンマ，中国では高僧賛峰とよんでいる。ネパール-ヒマラヤの高峰で標高8,013m。チベットとネパールの国境に近く，エベレスト山とマナスル山の中間，ランタン山群にある。中国のチベット自治区に位置するため，政治的に微妙な問題もあって長く未踏の山であったが，1964年5月に許競に率いられた中国隊が初登頂に成功した。〔大石堪山〕

こざかいふぼく【小酒井不木】(1890〜1929) 生理学者・小説家。本名光次。愛知県の生まれ。東京大学医学部卒。犯罪研究や外国の推理小説の翻訳から創作に転じ，《恋愛曲線》などでは異常心理を，《疑問の黒枠(くろわく)》などではなぞ解きを書き，推理小説普及に貢献した。

こさかこうざん【小坂鉱山】秋田県北東部，鹿角(かづの)郡小坂町にあり，銅・鉛・亜鉛などを産するわが国有数の金属鉱山。1861年(文久1)に発見され，南部藩の所有となったが，明治にはいり藤田組の経営になってから発展した。現在は同和鉱業が経営している。明治末期から大正時代までが最盛期で，黒鉱の露天掘りは全国的に有名であったが，その後衰微した。しかし1959年(昭和34)埋蔵量1,150万tの新鉱床が発見されてから活況を取りもどした。〔竹内淳彦〕

ごさがてんのう【後嵯峨天皇】(1220〜1272) 在位1242〜1246年。名は邦仁(くにひと)。土御門(つちみかど)天皇の第1皇子。母は源通子。四条天皇の死後，幕府の意で冊立(さくりつ)された。在位4年にして退き，のち後深草・亀山(かめやま)両天皇の間，20余年間院政*を行なった。皇子宗尊(むねたか)親王は初代親王将軍*として鎌倉へ東下。天皇は長子後深草よりも次子亀山を愛し，後深草系(持明院統*)を無視して亀山系(大覚寺統*)に皇位を継承させようとしたため，両統迭立*(てつりつ)が始まった。和歌をよくし《続古今和歌集》を撰(せん)させた。陵墓は京都市の嵯峨南陵。〔鹿野賀代子〕

こさぎ【小鷺】鳥類・サギ科。全身白色で，翼開長1m弱のシラサギの一種。九州・本州のマツ林・タケ林などで集団繁殖し，水田や湿地で甲殻(こうかく)類や魚類を捕えて食べる。冬季も本州中部以南に多数とどまり越冬している。➔シラサギ

ごさきょくせん【誤差曲線】⇨正規分布

こさくけん【小作権】小作料(小作人が地主に支払う借地料)を支払って他人(地主)の農地を耕作する権利をいい，これには永小作権*に基づくものと賃貸借*に基づくものとがある。しかし，永小作権に基づく小作権は，今日皆無といってよいほど存在せず，そのほとんどが賃貸借に基づくものである。小作関係は，1938年(昭和13)の農地調整法，第2次世界大戦後の農地改革*，1952年の農地法*等々を通じて小作人の保護が強化されてきた。農地法によると，農地は



コ サ ギ　繁殖期には頭部の長い飾り羽が目だつ

引き渡しによって対抗要件を生ずること(農地法18条)，賃貸借の解約をなすには都道府県知事の許可を要すること(農地法20条)，小作料の最高額が農業委員会によって定められねばならないこと(農地法21条)，小作料は定額金納制にし，小作料以外にはいかなる名義のものであるにせよその授受を禁止すること(農地法22条・23条)等々の規定を設けて小作人の保護を図っている。しかし，賃貸借に基づく小作権の譲渡・転貸については地主の承諾を要する(民法612条)。〔黒木三郎〕

こさくせいど【小作制度】他人の所有する農地または採草放牧地を借り受け，耕作または養畜を家族労働力で行なう営農形態をとる農民を小作農といい，小作農と地主の間の土地貸借を基礎とする社会的・経済的・法律的関係を一般に小作制度という。
【発生と展開】日本では小作関係はすでに江戸中期以降に発生していた。徳川封建制下では百姓は領主に全剰余生産物の貢納を強制されていたが，事実上年貢高(ねんぐだか)はほぼ固定しており，農業生産力の上昇とともに農民に余剰の余地が発生し，農民的商品生産を発展させていった。この過程はまた，農民的剰余に吸着する商人・高利貸し層，名主・庄屋(しょうや)の村役人的上層百姓による農地の事実上の取得を推し進める結果となり，地主と小作農を発生させた。しかし，江戸時代は田畑永代売買禁止令*により土地所有は強く制約され，小作関係も公然とは拡大しえなかった。明治維新によって土地売買禁止は解除され，土地私有は法によって認められた。さらに地租金納化は，商品貨幣経済に適応する条件になかった多数の自給的生産農民に貨幣経済を強制し，西南戦争後のインフレ，松方財政によるデフレを経過する中で農民の窮乏化が進行し，農民の土地は商人・高利貸しの手に急速に集中されていった。こうして1910年代までに全耕地の45%が小作地と化し，全農家の約70%が小作地を多少とも耕作するようになり，ここに寄生地主制の確立をみるようになった(➔地主制)。
【小作関係】明治維新とともに，領主制は解体したにもかかわらず，寄生地主制のもとで，小作料は全収穫量のほぼ半量に達するほど高率であり，しかもおもに現物納であったため，それは封建的貢租に匹敵する性格をもっていた。土地所有の大小は村落社会における身分や地位に至るまで規定し，小作契約も慣習的に定められ，土地所有の絶対的優位のもとに，小作農の耕作権は物権として確立しないままに置かれていた。資本主義の発達に伴う商品経済の進展は，小作農の生活の窮乏化をいっそう推し進め，小作農の地主に対する生活をかけた小作料減額要求，小作条件の改善をめぐる小作争議を第1次世界大戦後に激化させていった。➔次項
【変革】第2次世界大戦後の農地改革によって170万5,000ヘクタールの小作地が解放され，寄生地主制は解体し，小作地は耕地面積の10%(約50万ヘクタール)に低下した。小作料は低率・金納化し，耕作権も確立した。1960年(昭和35)には小作地はさらに減少し，35万ヘクタール，全耕地の5%強となり，1965年現在，小作農家は10万戸で全農家の1.8%となり，また，経営耕地の50〜90%が小作地である小自作農も15万7,000戸で全農家の2.8%となった。しかし，近年，兼業化の進行とともに，兼業農家*の土地を請け負って専業農家*が耕作するという形態の小作関係が拡大する傾向がみられるようになった。〔高山隆三〕

こさくそうぎ【小作争議】小作料・小作権*その他小作条件をめぐる地主と小作人間に生ずる紛争。日本では1890年代(明治23〜32)における地主制*の確立のころから西日本を中心として多数の小作争議が起こり，小作人組合もつくられるようになった。これは，耕地整理*を通じて小作料の引き上げが行なわれようとしたこと，あるいは1908年の〈米穀検査規則〉の施行にみられるように，米穀市場の拡大に伴う品質向上の要請を小作人の負担で果たそうとしたことをきっかけに，小作人の不満が爆発したものである。小作争議が全国的な規模で本格的に展開したのは第1次世界大戦後であった。戦後の不況を反映し，ロシア革命の衝撃を受けて急激に発展した労働運動・社会主義運動は，小作農の階級的自覚を促した。不況による農産物価格の暴落を契機に1921年(大正10)には争議件数は1920年の4倍強の1,680件となり，それに参加した小作人数は14万6,000人に上った。小作人組合も1921年には681であったものが，1922年には1,114に増加し，同年には日本農民組合*の結成をみた。争議は小作料の引き下げ，耕作権の確立を中心としたもので，代表的な争議としては，岡山県藤田村・新潟県木崎村のものがあげられる。争議の高まりに対し，地主側と一体となった国家権力は，激しく小作農を弾圧し，また，地主の利益を擁護する〈小作調定法〉を1927年(昭和2)に施行する

一方,小作農の土地要求に対処して〈自作農創設維持規則〉(1926)を施行するなどして争議の緩和に努めた。争議件数は昭和恐慌を経て，1936年には6,874件とその頂点に達するが，激しい弾圧のため，1920年代に比し小規模化し，1937年以降の戦時体制下では小作人組合運動そのものが困難となったが，小紛争は戦時下にも発生していた。第2次世界大戦後の農地改革は地主制を解体し，小作料も低率金納化し，耕作権も確立され，小作争議に終止符を打った。

〔高山隆三〕

こざくらいんこ　【小桜鸚哥】　鳥類・オウム科。アフリカ南西部原産で，外観はボタンインコに似ているが，眼の周囲の白輪がない。じょうぶで飼いやすく，繁殖も容易だが，気性が荒いので他鳥との混飼は避けたほうがよい。

ごさくらまちてんのう　【後桜町天皇】(1740～1813)　女帝。在位1763～1770年。名は智子(としこ)。桜町天皇の第2皇女。母は青綺門院(せいきもんいん)藤原舎子(いえこ)。桃園天皇の皇子英仁(ひでひと)親王が幼少のため明正天皇の故事にならって即位。和歌に長じ御製千数百首。ほかに《禁中年中行事》，日記41冊がある。陵墓は京都市の月輪(つきのわ)陵。

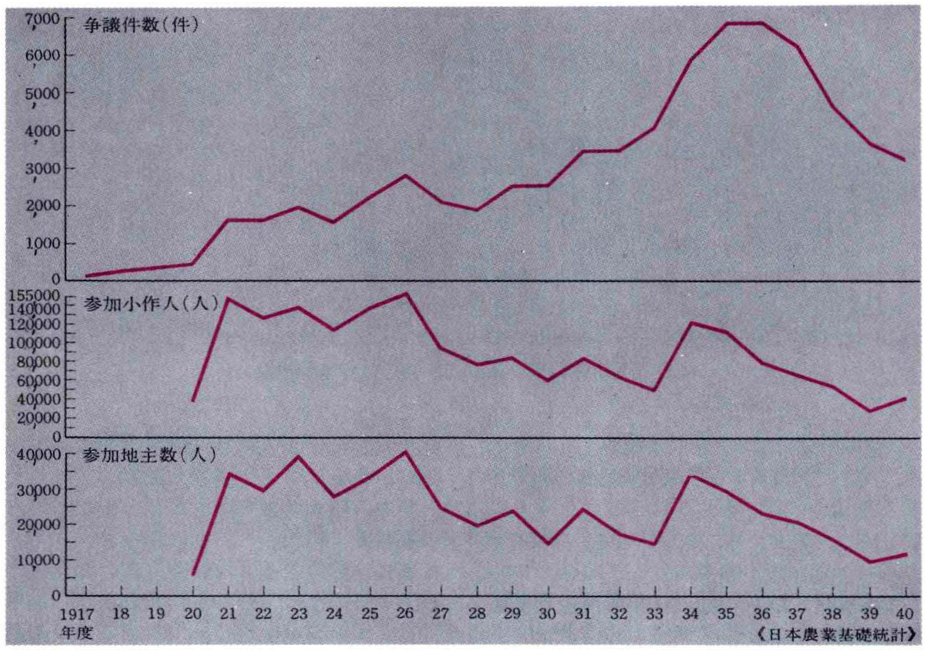
コサージュ　⇨コルサージュ

コサック　[kazak]　カザークともいい，トルコ語で〈束縛されない人〉を意味する。15～16世紀にロシア南辺のウクライナ・ドン川・ボルガ川，のちテレク川・ウラル川・シベリアに定着し，自治的共同体を形成した逃亡農民と都市貧民。はじめトルコ人やタタール人と戦っていたが，やがてツァーリ政府に従属し，給料・穀物・武器を供与される特権階層に転化した。部族長は選挙で選ばれ，アタマンとよばれた。早期に来住した者ほど社会的地位が高く，そのためプガチョフの反乱*のような上層部およびそれと結びついた中央政府に対する反乱が起こった。十月革命*に際して，コサックは上層部を中心に反革命の拠点となったが，国内戦の過程で大部分がソビエト政権側に移った。1920年以後ソビエトに組み込まれ，現在はコルホーズ農民となっている者が多い。

〔山県弘志〕

こさめびたき　【小鮫鶲】　鳥類・ヒタキ科。スズメよりもやや小さく，下面は汚白色，上面は灰紫かっ色のいたってじみな鳥。日本各地のおもに平地から低山帯の，わりあいに明るい林や庭木の横に伸びた枝上に，コケ・樹皮・地衣類などを用いて木のこぶのようにみえる巣をかけて繁殖する。夏鳥で，冬は東南アジアへ渡る。

コーサラ　[Kosala]　紀元前6～紀元前5世紀に，ヒマラヤ山麓(さんろく)からガンジス川に及ぶ平原を支配した王国。地方分権制の国家で，サーバッチー(舎衛城)に都した。コーサラの東北周辺に位置するサクヤ(釈迦(しゃか))・コーリヤ・マッラなどは，コーサラの支配権が弱まったときに半ば独立した共和制の国家であったが，ブッダ時代にはコーサラの宗主権下にあった。ビドゥーダバ王はこれらの共和国を併合したが，やがてマガダ王国に滅ぼされた。サーバッチーの祇園精舎*(ぎおんしょうじゃ)はコーサラにおける仏教伝道の拠点であった。　〔塚本啓祥〕



小作争議



コザクラインコ

こざるしちのすけ　【小猿七之助】　⇨網模様燈籠菊桐(あみもようとうろうのきくきり)

ごさん　【御傘】　貞徳*の俳諧(はいかい)式目書。俳諧によく用いられる語彙(ごい)1,420語余りをいろは順にあげ，俳諧一巻における句数，去嫌(さりきらい)(俳諧・連歌(れんが)で，同季・同字などを用いぬこと)・指合(さしあい)(去嫌にはずれること)などの規約を示し，季や本意の解説を加えている。連歌*の式目に比べて，おおむねその制限をゆるめている。貞門の代表者貞徳の制定とあって，世に広く行なわれた。

ござん　【五山】　禅宗・臨済宗における最高の寺格を表わす代表的寺院をいう。中国においては，インドの五精舎にならって，南宋(なんそう)の寧宗が五山の制度を確立した。①径山(きんざん)寺，②育王寺，③天童寺，④霊隠(りんにん)寺，⑤浄慈寺を支那(しな)五山といい，杭州(こうしゅう)・明州に置かれた。日本では，鎌倉五山が最初につくられ，1251年(建長3)，建長寺が五山第一とされた。鎌倉幕府の滅亡により，1334年(建武1)，京都中心の五山制度が制定された。その後，たびたび改められたが,1386年に京都五山・鎌倉五山の制度が確立した。京都五山は別格として南禅寺を建て，そのもとに①天龍(てんりゅう)寺，②相国(しょうこく)寺，③建仁寺，④東福寺，⑤万寿寺としたが，万寿寺は衰亡してなくなった。鎌倉五山は，①建長寺，②円覚寺，③寿福寺，④浄智(じょうち)寺，⑤浄妙寺である。後醍醐(ごだいご)天皇は南禅寺・大徳寺を五山の上におき,建仁寺・東福寺・万寿寺(以上京都)・建長寺・円覚寺(以上鎌倉)とを合して,関洛(かんらく)相通の五山とした。室町幕府は五山の制度をとって禅宗を保護したため，禅宗は権力と結びつき，民衆から完全に遊離したが，一方，禅僧の生活は保障されたため，彼らは学術・文芸に没頭することができ，五山文学を発達させ，五山版*の刊行など，文化的にも大きな役割を果たした。しかし，室町幕府の衰退とともに，その権威も衰えていった。

〔鎌田茂雄〕

ごさんかちっそ　【五酸化窒素】　⇨無水硝酸

ごさんかバナジウム　【五酸化バナジウム】　V_2O_5　酸化触媒として,硫酸・無水マレイン酸・無水フタル酸などの合成に用いられる。メタバナジン酸アンモニウムを400～500℃で熱分解するか,またはこの飽和溶液を沸騰させ濃硫酸を加えてつくる。ふつう，珪藻土(けいそうど)・シリカ・アルミナ・軽石などを担体にして使用する。

ごさんかリン　【五酸化リン】　P_2O_5　白



後三年合戦絵詞　(部分)　東京国立博物館蔵

色の粉末で，リンを空中で燃やすと得られる。360℃で昇華する吸湿性の大きい物質で，水と混ぜれば音を発して化合し，メタリン酸(HPO_3)を生ずる。乾燥剤やリン酸製造の原料などに用いられる。

ごさんけ　【御三家】　江戸幕府の親藩*中，徳川宗家と最も密接な関係にある尾張(愛知県)・紀伊(きい)(和歌山県)・水戸(みと)(茨城県)の三家。徳川家康(いえやす)の第9子義直(よしなお)が尾張家，第10子頼宣(よりのぶ)が紀伊家，第11子頼房(よりふさ)が水戸家の祖となった。いずれも徳川氏を称した。将軍家である宗家を助け，将軍家に後嗣がないときには三家のうちから後嗣を出すことになっていた。実際には15代にわたる将軍のうち，8代将軍吉宗(よしむね)と14代将軍家茂(いえもち)が紀伊徳川家から出た。尾張家は六十一万九千五百石，紀伊家は五十五万五千石，水戸家は三十五万石を領した。〔高崎徳次〕

ごさんけい　【呉三桂】　(1612～1678)　中国，明(みん)末・清(しん)初の武将。遼東(りょうとう)の人。はじめ明の総兵官として山海関を守り，清軍の侵入を防いだが，明が滅ぶと清に下り，その中国進出の先鋒(せんぽう)となって大功を立て平西王に封じられた。以後残明勢力を平定し，雲南に駐して権勢をふるった。やがて清がその勢力を削ろうとするや，1673年三藩の乱*を起こし，帝位についたがまもなく病死した。

ごさんじゅうじけん　【五・三〇事件】　1925年(大正14)5月30日，上海(シャンハイ)で起こった中国人民の反帝国主義運動。この事件で多数の中国民衆が殺傷された。この年2月上海の日本在華紡績工場で，日本人監督が中国の少女労働者を虐待したことに端を発して，中国労働者はストライキにはいった。紛争が続くうちに各大学の学生や一般中国民衆もこれに加わり，やがて青島(チンタオ)の日本紡績工場にも波及，日本軍艦が出動したことによっていっそう中国の労働戦線を激発させた。ストは日本人経営の上海各工場に広がり，ついに上海租界を警備中の工部局官憲の発砲で死傷者を出すに至った。5月30日，この日はかねて工部局に逮捕されていた学生の裁判が行なわれることになっており，数千の大学生が示威運動を展開した。さらに10,000名以上の中国民衆が，その日にアジ演説で逮捕連行された大学生の引き渡しを要求して，南京(ナンキン)路警察署に殺到した。この騒ぎで，イギリス警官の指揮する工部局警官隊の発砲のため，中国民衆のうちから死者13名，重傷者15名を出す惨事が起こった。従来の反帝運動が中国知識人層を中心に進められていたのに対し，この事件では多数の労働者・民衆が主体となったことは，中国革命*の運動史上画期的な意義をもつといえよう。事件後，反帝・抗日戦線は中国各地に形成され，この広範に根を張った民衆の勢力は，一時的には中国ブルジョア階級の弾圧でしずめられたが，革命の戦力として，翌1926年から，国民政府軍の北伐*を各地で迎え入れることとなった。〔高崎徳次〕

ごさんじょうてんのう　【後三条天皇】　(1034～1073)　在位1069～1072年。名は尊仁(たかひと)。後朱雀(ごすざく)天皇第2皇子。母は三条天皇皇女禎子(ていし)内親王。母が藤原氏の出身でなかったので，なかなか即位できなかったが，即位後は藤原氏にはばかることなく果断な政治を行ない，荘園*(しょうえん)整理，成功*(じょうごう)・重任(ちょうにん)禁止，宣旨枡*(せんじます)制定など数々の事績を残した。特に，1069年(延久1)断行した荘園整理令*は摂関貴族に打撃を与えた。1072年白河(しらかわ)天皇に譲位し，次いで院政*を始める意図があったというが，いくばくもなく病没した。陵墓は京都円宗寺陵。〔黛　弘道〕

ごさんねんかっせんえことば　【後三年合戦絵詞】　源義家(よしいえ)が平定した後三年の役*に取材した絵巻物。東京国立博物館蔵。前半を失い，現在は3巻と序文の1巻を有する。1347年(正平2・貞和3)飛騨守惟久(ひだのかみこれひさ)の筆。大形の画面に，戦場の激しく悽惨(せいさん)な光景を写実的に描き，人物・甲冑(かっちゅう)などの描写も細密であるが，画趣にやや乏しいきらいがある。

ごさんねんのえき　【後三年の役】　平安後期(11世紀後半*)に起こった前九年の役*後，奥羽の豪族清原氏*の内訌(ないこう)に端を発した戦乱。はじめは嫡流の清原真衡(さねひら)が異母兄弟の家衡，義弟の藤原清衡と争っていたが，1083年(永保3)陸奥守(むつのかみ)兼鎮守府将軍として入国した源義家*(よしいえ)は真衡を助け，まもなく真衡が病死し，清衡・家衡が義家に下ったため一応内訌は治まった。しかし，1086年(応徳3)今度は清衡と家衡とが争い，義家は清衡を助けて家衡らを出羽(でわ)(秋田県)の沼柵(ぬまのき)・金沢柵に攻め，苦戦を続けたが，1087年(寛治1)これを鎮定した。前九年・後三年の両役を通じて，源氏*は武士の棟梁(とうりょう)としての地位を確立し，東国にその地盤を築いた。清原氏の故領は清衡に継承され，平泉における奥州藤原氏3代の栄華が興った。〔飯田悠紀子〕

ござんばん　【五山版】　鎌倉時代末期から室町時代末期を通じ，京都の五山*および嵯峨(さが)の臨川寺などが中心となり，禅僧の手で開版された，国書および宋(そう)・元・明(みん)刊本の復刻版の総称。平安・鎌倉時代を通じ，寺院で開版されたものは，ほとんど仏書に限られていたが，五山版は仏書以外の文学その他の雑書に及んでいる。また，入宋僧によって将来された儒書・詩文集・医書の翻刻も行なわれ，五山文学*の隆盛をもたらした。五山版では装丁様式も大いに変化した。従来は巻子本・折本・粘葉本(でっちょうぼん)などに限られていたが，五山版に至って，新たに袋とじ本(今日の普通和装本の様式)が採用され，しかもその大部分を占めるようになった。〔庄司浅水〕

ござんぶんがく　【五山文学】　鎌倉末期から室町時代を通じて，京都・鎌倉の五山*の禅僧を中心に行なわれた漢詩文。

【鎌倉時代】初期に栄西*・道元*が宋(そう)から禅宗を伝えて以来，禅宗は幕府の保護を受けて武家信仰の中心となり，朝廷・公家(くげ)の支持も得て，しだいに社会の上層部とつながりをもつようになった。語録・漢詩文など禅僧の文筆活動も盛んになり，特に末期，元から来朝し帰化した一山一寧の感化・指導下に，南北朝時代にかけて活躍した虎関師錬*(こかんしれん)《済北集》や雪村友梅*《岷峨集(びんがしゅう)》などが輩出した。一山は五山文学の始祖とされている。

【南北朝時代—室町時代前期】入元僧，中巌円月*《東海一漚集(いちおうしゅう)》らに続いて，夢窓疎石*一門の活躍が目だつ。夢窓は，後醍醐(ごだいご)天皇・足利尊氏*(あしかがたかうじ)など政権担当者の信任が厚く，天龍寺を開山するなど禅宗の発展に大きな功績を残した。のち五山は室町幕府の官寺となり，学問・文学の中心として最盛期を迎えたが，この機運を反映して，夢窓の一門から五山文学の二大作家ともいうべき義堂周信*《空華集(くうげしゅう)》，絶海中津*(ちゅうしん)《蕉堅稿(しょうけんこう)》が出現した。

【室町時代中期—後期】五山が幕府の庇護(ひご)の下に，しだいに精神的に堕落していくようになって以来，五山文学も禅的境地を忘れ，知識・教養が重んじられて類型化し沈滞したが，幕府滅亡を機にまったく衰

退してしまった。わずかに詩文の注解，日記記録類《蔭涼軒(いんりょうけん)日録》《臥雲(がうん)日件録》《碧山(へきざん)日録》などにみるべきものが残っている。これらは能楽・連歌・俳諧(はいかい)などに影響を与えたとされる。〔信太　周〕

コーシー［Augustin Louis Cauchy］(1789～1857)　フランスの数学者。19世紀前半のフランスの誇る最大の数学者である。少年のころラプラス*に認められ，またパリではラグランジュ*に認められている。エコル-ポリテクニク・土木学校を卒業後，シェルブール軍港の要塞(ようさい)建設に従事し，このとき凸(とつ)多面体に関する研究を完成した。1813年にパリに帰ってからは数学に専念し，学士院会員，エコル-ポリテクニク教授となったが，政変のため国外に亡命したこともあった。彼の業績中特筆すべきは，解析学*において，極限の概念から関数の連続性を明らかにし，積分*の計算に関連して複素変数関数論の基礎を築いたことであるが，そのほかにも，代数学における行列式*や群*の理論，微分方程式，確率論など数学全般にわたる多大な仕事を残し，その業績は光学・弾性論など物理学の領域にも及んでいる。〔下平和夫〕

こじ　【居士】　梵語(ぼんご) gṛhapati(グリハパチ)の訳語。本来は〈家長〉を意味し，ベーダの供犠を行なうときの主人役であった。しかし，紀元前6～紀元前5世紀，ガンジス平原における経済的発展に伴い，商業・手工業・農業によって富を取得したものは，出身の階級に関係なく尊敬されるようになり，居士とよばれた。中でも都市における商工業を代表する資産家は，やがてこの地域に発生する仏教教団に経済的支援を与えるようになった。転じて，仏教に帰依する男子の信者または男子の法名の呼称となった。中国では，仕官しない高徳の士のことも居士という。〔塚本啓祥〕

ごし　【呉子】　《孫子*》と並称される中国古代の兵法書で，儒教思想の影響がみられる。6編。伝えによれば著者は呉起(BC440ごろ～BC381ごろ)で，衛の人。楚王(そおう)のために富国強兵政策を行なったが，保守的な貴族のために殺された。

コシウスコ(山)［Kosciusko］　オーストラリア南東部にある，同大陸の最高峰。標高2,234m。ニューサウスウェールズ州の東部を走るオーストラリアアルプス山脈の主峰で，1年じゅう雪が消えず，融雪水は西流するマーレー川の源となる。

ごしうんどう　【五・四運動】　1919年5月4日，中国の北京(ペキン)で起こった学生の愛国示威運動，およびそれに続く一連の民衆示威運動のこと。原因は，1915年(大正4)の日本の対華二十一か条要求*，および1918年に締結された日華共同防衛条約によって，中国民衆の中に亡国の危機感があったこと，1919年1月から始まったパリ講和会議で中国側の要請が無視され，日本の要求が通ったことである。国際的には，ウィルソン*の民族自決主義やロシア革命*の影響があげられる。運動は，帝国主義反対と封建主義打倒という二つの性格をもち，大衆啓蒙(けいもう)運動を伴って行なわれた。文学革命*などの新文化運動も，五・四運動の過程で民族的基盤に定着した。中国革命では，五・四運動に画期的意義を認め，これ以後の中国革命を新民主主義革命とよんでいる。〔今村与志雄〕

こしお　【小潮】　太陽・地球・月が直角に並ぶ状態では，引力は互いに妨げ合って起潮力は最も小さくなる。すなわち，1か月のうち上弦・下弦半月のころ干満の差が最も小さくなる。このときの潮汐を小潮という。➔大潮　➔潮汐

こしかべ　【腰壁】　壁の下方で腰部分をさすが，通常は窓敷居あるいは窓膳板(ぜんいた)より下の部分。開口部のない壁では窓下にあたる部分を腰回りという。この部分は，特に損傷しやすいので傷つきにくい材料を用いる必要がある。

こしがや　【越谷(市)】　埼玉県南東部の市。江戸時代には奥州街道の宿場町・市場町であった。1958年(昭和33)市制施行。人口**21万9,000**。市域は古利根(ふるとね)川と元荒川の沖積地(ちゅうせきち)で，東部を古利根川，中央部を元荒川が貫流する。産業三大別人口比は6：40：54。穀倉地帯の中心地で，米・麦のほか，東京へ出荷する野菜を多く産する。近年は近代工業の発展もめざましく，化学・機械・皮革・鉄鋼・電気機械器具・合成樹脂などの工場が進出し，またひな人形・玩具(がんぐ)の製造やキリ細工・わら加工などの家内工業も行なわれる。最近は住宅地としても発展しており，人口増加率はきわめて高い。東武鉄道日光線が通じ，国道4号線(奥州街道)・16号線が交差する。天然記念物シラコバトが生息しており，これは埼玉県の県鳥とされている。

こじき　【古事記】　わが国に現存する最古の古典。三巻。712年(和銅5)成立。太安万侶(おおのやすまろ)選。序文によれば，成立の事情は以下のとおりである。はじめ天武(てんむ)天皇が，諸家の伝承する《帝紀*》《旧辞*》の類に誤りが多く，虚偽を加えるところの多いことを憂え，それらを詳しく調べて偽りを削り，事実を定め，政治の基本を確立して後世に伝えようとした。天皇は，稗田阿礼*(ひえだのあれ)に命じてこれをよみ習わせしめたが，完成に至らぬまま崩御したため，元明天皇が遺志を継ぎ，711年9月18日太安万侶に詔して阿礼のよみ習ったものを選録させた。安万侶は，漢字の音訓を借りる表記に苦心し，つとめて古言・古意を保存させながら，712年1月28日に完成，献上した。

上巻は，神話といわれる部分で，天地生成からイザナギ・イザナミ2神の国生み，神生み，火神の出生によるイザナミノミコトの死，イザナギノミコトの黄泉国(よみのくに)訪問，アマテラスオオミカミとスサノオノミコトの国土経営，スサノオノミコトの乱暴からのアマテラスオオミカミの天の岩屋戸ごもり，その結果としてのスサノオノミコトの高天原(たかまがはら)追放と続き，ここで舞台は出雲(いずも)(島根県)に移り，スサノオノミコトの大蛇(おろち)退治，オオクニヌシノミコトと稲羽白兎(いなばのしろうさぎ)などの話が続き，オオクニヌシノミコトの国土経営からアマテラスオオミカミへの国譲り，天孫ニニギノミコトの日向(ひゅうが)(宮崎県)への降臨，海幸(うみさち)・山幸などの神話が続く。いわゆる天孫系神話・出雲系神話・筑紫(つくし)系神話が，多くの遊離説話をちりばめながら，一貫した体系のもとに整然と構成されている。

中巻には，神武から応神までの天皇の代ごとの帝紀と，神武天皇の東征，倭建命(やまとたけるのみこと)の物語，神功(じんぐう)皇后の新羅(しらぎ)征討，天之日矛(あめのひぼこ)の渡来などの旧辞，下巻には仁徳(にんとく)から推古までの天皇の代ごとの帝紀と，仁徳天皇をめぐる歌謡物語，軽太子(かるのひつぎのみこと)と衣通王(そとおしのみこ)との悲恋，直情勇猛な雄略天皇の物語などの旧辞が連ねられている。

全体は，天皇を中心とする国家統一の理念と意志にささえられ，みごとな統一・構成が施されているが，もとより史実そのままとはいえないし，神話・伝説・説話・歌謡なども原態からはよほど距離があり，多くの手が加えられていることが容易に考えられる。序文にいう天武天皇の志，〈邦家の経緯，王化之鴻基(おうかのこうき)〉として，国家統治の基本線確立の意志が貫いている点を十分に認識したうえで，受容されねばならない。

《古事記》の文学的価値は高く，多くの伝承・神話・伝説を巧みに連鎖・統一し，一貫した体系のもとに物語化した構想力・構成力はすぐれており，その神話・伝説・説話の多彩，人間的な葛藤(かっとう)の豊富など，人間の物語として感動に満ちた文学となっている。その内容にふさわしい素朴(そぼく)・高雅な辞句・文章の表現はまた，漢字による国語表記の苦心を伝えて，後世に大きい感銘を与えてもいる。〔鈴木一雄〕

ごしき　【五識】　⇨五根

ごしきえび　【五色蝦】　節足動物・甲殻(こうかく)類・イセエビ科。体長30cmに達する大形のエビで，体形はイセエビとほぼ同じであるが，体が紫かっ色，足は濃紫色で，足をはじめ全体にあざやかな白条がある。千葉県小湊(こみなと)以南，フィジー・ナタール・ペルシア湾などインド・太平洋水域に広く分布する。小湊付近では5～6cmの小形のものしかとれない。幼生のプエルルスの第2触角の先端は，イセエビ属の他のものと異なってうちわ状に扁平(へんぺい)になっており，きわめて特徴的である。

こじきオペラ 【乞食オペラ】 イギリスの劇作家ジョン-ゲイ(1685～1732)の軽歌劇。1728年初演。ニューゲイト監獄を舞台に大強盗マクヒースを中心として，故買屋ピーチャム，その娘でマクヒースに恋するポーリー，その恋がたきルーシーらが大騒ぎを演じるというもの。正統的イタリア歌劇と権力者への風刺がこめられている。のちにブレヒト*はこの作品をもとに《三文オペラ*》を書いた。

ごしきおんせん 【五色温泉】 山形県米沢(よねざわ)市にある温泉で泉温43℃。泉質は単純泉で，神経痛・リウマチによいといわれる。また，子宝に恵まれる湯として知られ，婦人客が多い。吾妻(あづま)山北側中腹の高原900mの地点にあり，日本スキー発祥地の一つとして知られ，スキー客でにぎわう。山を隔てて新五色温泉がある。交通は奥羽本線板谷駅下車。

ごしきおんせん 【五色温泉】 長野県上高井郡高山村にある温泉で泉温58～78℃。泉質はラジウム含有硫化水素泉で，神経痛・リウマチによいといわれる。千曲(ちくま)川の支流である松川の渓谷(けいこく)にある静かな山の温泉で，天候によって温泉の色が変化するので有名であり，付近に雷電滝(らいでんのたき)がある。交通は長野電鉄須坂(すざか)駅からバスの便がある。

ごしきがはら 【五色ヶ原】 富山県東部，立山連峰南部の鷲岳(わしだけ)(2,625m)の東側に広がる標高2,400～2,500mの平坦面(へいたんめん)で，立山から薬師岳・鹿島槍ケ岳への縦走路にあたり，山小屋や山荘などがあり，キャンプ地となっている。

こしきじま 【甑島】 ⇨甑列島

ごしきずみ 【五色墨】 江戸中期の俳諧撰集(はいかいせんしゅう)。長水・宗瑞(そうずい)・蓮之(れんし)・素丸(そまる)・咫尺(しせき)の5人が，当時主流を占めた江戸座*俳諧の比喩(ひゆ)を重んじる作風に反抗して編んだ。5人が相互に判者になり，他の4人の唱和した歌仙*(かせん)を判している。師系において不利な5人が，結束して俳壇的勢力争いを起こしたともいえるが，のちの蕉風(しょうふう)俳諧*復興の先駆的役割をになった意義は大きい。

こじきでん 【古事記伝】 本居宣長*(もとおりのりなが)の著。1764年(明和1)に起稿，1798年(寛政10)に完成。本書は単なる注釈書ではなく，《古事記*》は漢意・仏意の影響を受けない純粋な日本精神のやどる神典であり，これを研究することによって古道を体得しうるという信念に立っての文化的総合研究である。したがって，わが国の古代文化研究の基礎となり，内容的には文字論・文法論・文体論など多方面の性質をもったものである。のちの本居学派の人々は，これを研究の規範とした。〔寒河江実〕

ごしきぬま 【五色沼】 福島県北部，磐梯(ばんだい)山北麓(ほくろく)に開ける磐梯高原に点在する湖沼群。1888年(明治21)磐梯山爆発の際の噴出物の堆積(たいせき)地形のくぼ地に水をたたえたもの。最大の毘沙門(びしゃもん)沼でも面積0.1km²である。水は透明のものが多いが，湖盆をつくっている岩石や底部の植物，微生物により水の色が数々の複雑な色彩をもって目に映ずるので，この名がついた。すでに高層湿原化しているものもある。磐梯朝日国立公園に所属する。〔長津一郎〕

ごしきひわ 【五色鶸】 鳥類・アトリ科。キンレイチョウともいう。翼長8cmほどの鳥で，ヨーロッパからアジア西部にかけて分布し，わが国へは飼い鳥として大正時代に輸入された。雄の顔面部は紅色，頭頂部からほおにかけて黒色。背部はかっ色，腹部は白色で美しい。



五 色 沼　秋色深まる五色沼とそれに影を映す磐梯山。初夏から秋にかけてにぎわうが，紅葉のころがいちばん美しい

こしきれっとう 【甑列島】 単に〈甑島〉ともいう。鹿児島県薩摩(さつま)郡に属し，川内(せんだい)市とは甑海峡を隔てて22km西方の東シナ海上に位置する。上甑・中甑・下甑の3島のほか中島・近島・沖ノ島などの無人島があり，総面積119km²，最大の下甑島は62km²。北東から南西に38kmにわたって連なり，地質的には天草諸島の延長で，おもに中生層と古期第三紀層からなり，下甑島南部にはカコウ岩が分布する。全島が4村に分かれ，**総人口9,700は**，1950年(昭和25)の25,000に対して半数以下に減少している。村の構成は上甑島の北東部が里村，上甑島の大部分と中甑島が上甑村，下甑島の北東部が鹿島(かしま)村，下甑島の中部から南西部が下甑村となっており，総人口の40%以上が下甑村に集中している。山がちで，平地はほとんどなく，リアス式の海岸には100m内外の断崖(だんがい)が連なる。最高点は下甑島にある尾岳(604m)で，各島とも山頂までよく耕されてサツマイモと麦をつくり，切り干し芋が住民の80%近くを占める農家の重要な収入源である。このほか，ウシ・ブタを飼い，また，かつて山野に自生していたカノコユリを栽培してその球根をアメリカ合衆国へ輸出している。近年漁業はふるわず，漁民の多くは出かせぎに出ているが，上甑島ではイセエビの養殖が行なわれ，また浦内湾では真珠の養殖が行なわれている。温暖多雨で，アコウ・ガジュマルなどの亜熱帯植物がみられるが，台風の害が大きいので民家の屋根は一般に低く，海岸では防風用の石がきや防風林が目だつ。島内の道路はかつて兎道(うさぎみち)といわれたほど発達が遅れていたが，1963年に上甑島の里～中甑間にはじめて県道が開通し，その後中甑・下甑両島にも自動車が通れるようになった。上甑島南岸にある中甑は甑島4村の行政・司法・経済の中心地で，簡易裁判所や警察署・相互銀行支店などがある。

九州本土との連絡は，手打(下甑島)～串木野(くしきの)および手打～阿久根(あくね)間に1日1往復の定期船がある。教育施設は不備で，高等学校はなく，青壮年層はほとんど阪神(はんしん)地方へ出ている。島内には《絵姿女房》など民話が多い。〔浅井得一〕

こしけ 【腰気】 ⇨帯下

こしごえ 【腰越】 神奈川県鎌倉市南西部，相模(さがみ)湾に臨む住宅地区。もと腰越町であったが，1939年(昭和14)鎌倉町と合併して鎌倉市の一部となった。鎌倉時代には，鎌倉街道の西ノ道に沿う宿場町で，1185年(文治1)，源義経(よしつね)が，兄頼朝(よりとも)の誤解を解くために〈腰越状〉を大江広元に書き送った満福寺の所在地として知られる。海水浴場の七里ケ浜，高級住宅地帯の鎌倉山を地区内に含み，江の島鎌倉観光



甑 列 島
下甑島の北端上空から望んだ同島の全容。左手の集落は藺牟田(鹿島村)。山頂にまで切り開かれた段々畑がみごとである

電鉄・国道134号線・湘南(しょうなん)道路(有料)が通ずる。〔浅井得一〕

こしごえじょう【腰越状】平氏討滅に功のあった源義経(よしつね)が，兄頼朝(よりとも)の許可なく朝官に任ぜられたために頼朝の勘気を受け，1185年(文治1)5月，宗盛(むねもり)・清宗ら平氏の捕虜を護送して鎌倉におもむいたとき，頼朝から鎌倉入りを停止された。そこで義経は，相模(さがみ)(神奈川県)腰越駅から鎌倉幕府の公文書別当大江広元にあてて，取りなしの嘆願状を送った。これが腰越状である。しかし広元はこれを聞き入れず，義経は頼朝に反旗を翻すに至った。全文は《吾妻鏡(あづまかがみ)》に収録。文中義経の真情が述べられて読む人の心を打つが，その真偽については疑問がもたれている。近世では寺子屋の教科書の一つとされた。〔飯田悠紀子〕

コジコーデ［Kozhikode］インド共和国西南海岸，アラビア海に臨む港市。旧名カリカット。人口33万4,000(1971)。古くからマラバル海岸の貿易港として栄え，ココヤシ・香料・茶・コーヒーなどを輸出している。また綿布(キャラコ)の生産で知られ，その名称は旧称カリカットからつけられた。1498年，喜望峰を回航してきたバスコ-ダ-ガマの上陸地として知られ，近世にはポルトガル・イギリス・フランスなどの間でこの地の争奪が行なわれた。〔別技篤彦〕

こしだ【小羊歯】シダ植物・ウラジロ科。暖地のかわいた林の下や太陽のあたる斜面に群生する大形の常緑シダ。根茎を長く伸ばし，その上にまばらに葉をつける。葉は羽状に深く裂ける。表面はつやがあり，裏面は白色を呈してウラジロに似る。裂片の裏に6～10個の胞子嚢(ほうしのう)が集まった胞子嚢群が1列に並ぶ。

コシチェ［Košice］チェコスロバキア東部にある都市。人口16万6,000(1974)。鉄道の結節点で，羊毛工業，農産加工業が盛ん。14世紀に建造されたゴシック様式の聖エリザベス大寺院，フランシスコ修道院などの古い建物が残る美しい都市である。第1次世界大戦後ハンガリーからチェコスロバキアに割譲された。近郊に温泉保養地がある。

ごしちちょう【五七調】日本の詩歌に固有の調子。五音の句に七音の句が続くことで生ずる。この五七調は，記紀歌謡にすでに見いだせるが，《万葉集》では長歌・短歌を問わず，定型の最も優位を占める韻律として，五七のくり返しがある。平安朝から優勢になっていく〈七五調〉と比べ，重厚荘重な感覚をもつので，近代詩歌においてもしばしば採用される。

こしつ【鼓室】側頭骨錐体部(すいたいぶ)にある空洞(くうどう)で，中耳の一部。内面は粘膜におおわれ，前方に耳管を出し，咽頭(いんとう)と交通して鼓室内圧と外気圧を等しくして鼓膜の緊張を正常に保つようにしくまれている。後方は乳様突起内の乳突蜂窠(ほうか)と交通する。中耳炎が進行すると乳様突起炎を起こし，難治となる。内側壁には前庭窓・蝸牛窓(かぎゅうそう)があり，内耳と相対する。外側壁には鼓膜があり，鼓室上方にある三つの耳小骨が互いに連結して鼓膜からの音の振動を前庭窓に伝える。➔耳 〔幡井 勉〕

ゴシックおんがく【ゴシック音楽】音楽史上の様式概念の一。時代的にはだいたい13世紀から15世紀までで，時代区分でのアルス-アンティクア・アルス-ノバを包含し，一部はルネサンス音楽と並行する。時代的・民族的に種々の相違があるが，一般にいわれるゴシック音楽の特徴は，グレゴリオ聖歌を基礎とし，横の流れを重視する構築的な音のつくり，対照形や模倣が好まれる。たとえばイソリズムなど。また，定量音楽の理念にみられる数の象徴主義・神秘主義があげられる。ルネサンス様式と混じり合って，音楽史上複雑な問題を投げかけている。〔吉田泰輔〕

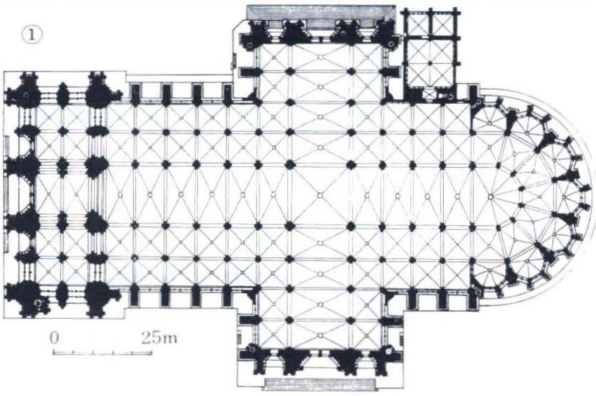
ゴシックけんちく【ゴシック建築】12世紀後半北フランスに誕生し，その後フランスはもとよりイギリス・ドイツ・イタリアなど西欧全域に広がり，13～14世紀に最盛期に達した建築様式。ゴシック建築はロマネスク建築の発展の延長上にあり，中世キリスト教建築の究極の完成した姿である。12世紀ごろから，商工業の発展に伴って市民階級が台頭し，都市が急速に発達したが，ゴシック建築はそうした都市の建築でもあった。建築の中心課題はもちろん宗教建築であるが，市民の日常生活に必要な庁舎・学校・病院などの建築の遺構もある。

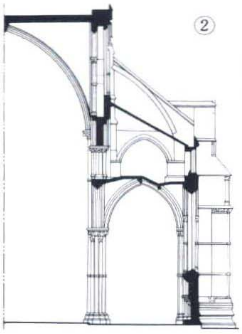
ゴシックの教会堂は，垂直上昇の空間，軽快でリズミカルな統一的空間を獲得したが，これを可能にしたのはリブ-ボールト，尖頭(せんとう)アーチ，フライング-バットレス(飛梁(とびはり))を基本要素とする構造的な特性であった。リブ-ボールトを補強する力骨であるリブは，垂直に延び上がる束ね柱や付け柱を連結して，リブの頂点から床までの力線の構成を明確化し，上方への視線を強調する。また，リブによって重い交差ボールトの天井が軽々とささえられているかのような錯覚も与えられる。尖頭アーチは，交差ボールトの各方向のリブの高さと張間を自由に調節することを可能にした。全開口部は，空間的な統一感を得るために，尖頭アーチにならって尖頭形となり，仰高感をいっそう高める。こうした仰高感をさらに効果的にするには，実際に天井の高さをできるかぎり高くする必要があり，ゴシックの教会堂の身廊(ネーブ)の高さは，その幅の3.5倍以上，40mにも達するものとなった。しかし，これほどボールトが高くなると，側壁を押し出そうとする横圧をささえるために強大な控壁を築かなければならない。フライング-バットレスは，この横圧を伝えるためにボールトと控壁を結ぶアーチのことである。フライング-バットレスの使用によって身廊の側壁は石の荷重から解放され，十分な開口部をそこに開くことを可能にした。初期ゴシックでは，身廊内部は大アーケード・トリビューン・トリフォリウム・高窓の4層構成で，高窓には円形や尖頭形の小開口部しかなかったが，フライング-バットレスの出現によってトリビューンは消滅して3層構成となり，さらにはトリフォリウムは高窓に吸収され，大アーケード・高窓の2層構成となって窓面は飛躍的に拡大した。この高窓は，ゴシック特有のトレーサリーで構成され，中にキリスト教に関する画像を表わすステンド-グラスがはめ込まれた。特に，西正面の車輪形のばら窓のトレーサリーとステンド-グラスは壮麗である。こうして，ゴシック建築は光と色と影による地上の楽園を思わす宗教的空間を創造した。ゴシック教会堂の平面は，身廊，側廊(アイル)，側廊の左右に張り出した袖廊(しゅうろう)(トランセプト)，身廊の東端に配された半円形のクワイアー，クワイアーから放射状に突出したアプスからなる。正面は全体が長方形にまとめられ，両側に鐘塔が配された。その後，鐘塔は尖頭形となって高さを増し，150mを越えるものも現われた。あらゆる外観は，内部空間に呼応して垂直上昇性を強めた。すなわち，尖頭形の細長い窓，鋭い三角形の破風(はふ)，バットレス(控え室)やその他いたるところに付け加えられた尖塔がそれである。後期(15～16世紀)に至ると，こうした傾向は頂点に達し，建築は石材の骨組みとレースのようなガラス窓だけで構成され，装飾は極度に精巧となり，素材の石材はあたかも金属細工であるかのような様相を呈する。トレーサリーはより複雑となり，フランスではフランボワイヤン様式とよぶ燃え上がる炎のような形をもったものも現われた。

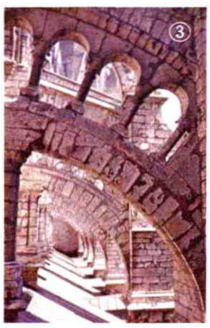
イギリスでは，ファン-ボールトのような不必要に装飾的なリブをもつボールトが用いられた。こうして統一と緊張をもったゴシックの空間はやや饒舌(じょうぜつ)に流れ，やがて解体してルネサンス建築を受け入れる素地をつくった。

フランス，中でもゴシック発生の地である北フランス地方では，12世紀半ばまでにリブ-ボールトを使用した教会堂の例は数多く，すでにゴシックを生み出す条件は熟していたが，1144年に内陣の献堂式をあげたサン-ドニ修道院教会堂でゴシック空間の最初の結実がみられた。1140年ごろのサンス大会堂はゴシック最古の大会堂である。12世紀後半には，サンリス，ラン，パリのノートルダムなどの大会堂の建設が続々と始まった。これらの教会堂は，6分ボールトを使用し，4層構成で水平線が多く重厚な印象を与える点などに，まだロマネスク建築のなごりがある。ノートル-ダム-ド-パリ

ゴシック建築



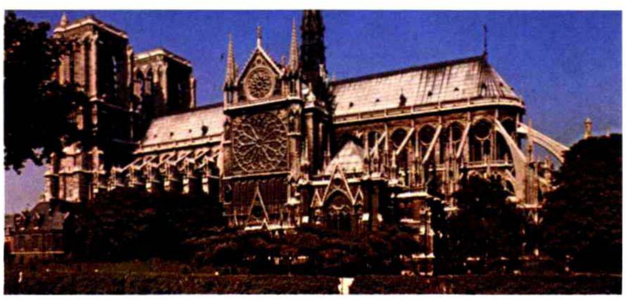




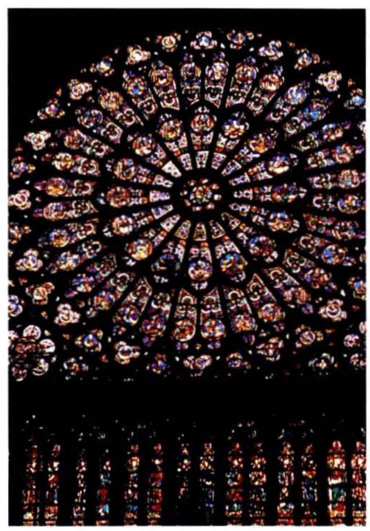
①ケルン大聖堂平面図 ドイツ ②リンカーン大聖堂部分側面図 フライングーバットレス，イギリス ③シャルトル大聖堂部分，フライングーバットレス，フランス



ミラノ大聖堂 イタリア



ノートルダム寺院 フランス



ノートルダム寺院ばら窓(ステンド-グラス)



アミアン大聖堂内部 フランス

は，単純ながらバランスのとれた平面と，古典的優雅な正面をもつ初期ゴシックの傑作である。13世紀にはいると，ゴシック教会堂の実例は非常に数多くなり，フランス各地に広がる。中でも，シャルトル大会堂*・ランス大聖堂*・アミアン大聖堂*によって古典的ゴシック様式が完成された。これらは4分ボールトを用いて3層構成をとり，垂直要素を強調している。13世紀後半にはレヨナンとよばれる石の骨組みとガラス窓のみで構成される形式が現われる。さらに14～15世紀にはいるとフランス-ゴシックはいっそう繊細華麗になり，フランボワイヤン式が生まれる。

イギリスは，リブ-ボールト，教会堂の内部構成などでゴシックの形成に大きく寄与した。13世紀半ばまでのイギリス-ゴシックを初期イギリス式とよび，リンカーン大聖堂*・ソールズベリー大聖堂*などの大会堂がその例である。フランスのゴシックと比較すると，身廊の幅が狭く奥行きが深い，袖廊も細長い，身廊と袖廊の交差部に巨大な塔を築く，天井高が低い，水平線が多く荘重な感じをもつ，回廊・僧会堂を伴うなどの諸点が異なる。13世紀半ばごろから，ボールトのリブは星形や網目などを描くようになり，ついにはファン-ボールトが出現する。14世紀半ばまでのこうした曲線装飾の多い様式を華麗式とよび，ヨーク・イリ・エクセター・ウェストミンスター寺院*などの諸会堂がその例である。さらに15世紀のものを垂直式，16世紀のものをチュードル式とよぶが，これらはトレーサリーの形式から名づけられた。僧会堂は中央に柱を立てた八角堂で，イギリス独自の建築物である。

ドイツのゴシックはフランスから移植されたもので，ケルン大聖堂*には徹底的なゴシックの造型が見られる。そのほかには，ウルム聖堂*などの大会堂がある。また，三廊等高のハルレンキルヘには，エリザベートキルヘ，ウィーンのサン-シュテファン大聖堂*がある。

イタリアも，フランスからゴシックを移入したが，古典を伝統にもつイタリア人には，際限のないゴシック建築はあまり好まれなかった。したがって，完全なゴシック建築はほとんどない。〔鈴木誠司〕

ゴシックしょうせつ【ゴシック小説】イギリスで18世紀中期から19世紀初頭にかけて流行した小説。恐怖小説ともいう。この時代はロマンチシズムの胎動期で，過去へのあこがれ，怪奇と神秘の嗜好(しこう)，異国趣味などがセンチメンタリズムと結合して，ゴシック小説が生まれた。ヨーロッパ中世のゴシックふうの古城を舞台に，奇怪な伝説や亡霊，超自然的な殺人事件などが描かれる。ウォルポールの《オトラント城》，ラドクリフの《ユードルフォの怪奇》，M.G.ルイスの《マンク(修道士)》などがおもな作品。また，ホフマン*やポー*などの人工美と幻想を先取りしているともいわれる。〔沢村 灌〕

ゴシックびじゅつ【ゴシック美術】中世のヨーロッパにおいて，ロマネスク美術*に次いで現われた美術の様式。元来は，ル

ネサンス人によって，この時代の建築がゴート人の様式とよばれたことが発端であるが，今日ではおよそ13世紀から（フランスでは12世紀中葉）15世紀末まで（イタリアでは14世紀末まで）の美術全般をさす。

〔彫刻〕ゴシック建築の構造と密接に結びついている装飾彫刻と，戸口その他の部分に配され，のち徐々に建築から独立していくモニュメンタルな彫刻の2種がある。装飾彫刻は，はじめロマネスクの装飾を継承したが，12世紀末ごろから現実の植物を模した装飾文様を発展させた。初期ゴシックでは，挙葉装飾であって木の芽をモチーフとするが，盛期には日常目に触れる植物が生長した姿で扱われ，後期には植物文に動物や空想的モチーフが組み合わせられる。モニュメンタルな彫刻は厳格なアルカイックな様式から出発し，理想主義的な様式によって最も高度な表現を完成し，次に写実主義的になって死にまつわる表現を好むようになる。フランスでは特に古代彫刻に基づき，美しい人間を形成する理想主義が顕著であったが，姿勢は一般に優雅なS字形の〈ゴシック的跳躍〉を示している。

〔絵画〕ゴシック建築が壁面を極度に排除した建築であるため，壁画はイタリアを除く各地では衰退したが，この時代に著しい発達を示したものはステンド-グラス*である。初期には色数は多くはないが，巧妙な色対比によって深い色彩効果を発揮し，後期には半透明の微妙な色調のガラスに七宝(しっぽう)を併用することによって，ニュアンスに富んだものへと変化する。ミニアチュール*も特に13世紀後半フランスにおいてみごとな発展を示し，世俗的な華麗さ，優美な洗練された趣味を競う作品を多く生んだ。➔ゴシック建築　〔末吉雄二〕

こしばい【小芝居】規模の小さい，二流，三流の芝居のこと。江戸時代では官許の大劇場以外の芝居小屋をいい，多くは寺社の境内にあったので〈宮地芝居〉または〈宮芝居〉とよび，引き幕*の使用が許されず，緞帳*(どんちょう)を用いたので〈緞帳芝居〉ともよんだ。1900年（明治33）の改正でこの差別は撤廃されたが，その伝統は残り，特に歌舞伎(かぶき)では，大興行会社の経営する一流劇場・公演に対抗して，多くの小芝居が興廃して今日に至っている。　〔松井俊諭〕

ごじはっきょう【五時八教】中国天台宗の僧智顗*(ちぎ)が，ブッダの説法を順序・順式・方法・教えの内容などによって分類し，体系づけ，価値を定めて，説法の真意を明確にしたもの。すなわちブッダの説法を五時に分け，華厳時(けごんじ)（《華厳経*》），鹿苑時(ろくおんじ)（《阿含経*(あごんきょう)》），方等時(ほうどうじ)（《維摩経*(ゆいまぎょう)》《勝鬘経*(しょうまんぎょう)》），般若時(はんにゃじ)（《般若経*》），法華涅槃時(ほっけねはんじ)（《法華経*(ほけきょう)》《涅槃経》）の順序で説かれたとする。さらに人々を教え導く形式・方法から〈化儀(けぎ)の四教（頓教(とんぎょう)・漸教・秘密教・不定教）〉という4種に分け，また人々の性質・能力に応じて教え導いた教えの内容から〈化法の四教（蔵教・通教・別教・円教）〉という4種を立て，合わせて八教とした。➔五教　〔京戸慈光〕



腰　巻　紀州侯の命により製作された，江戸後期の腰巻姿の紙人形　昭和女子大学蔵

こしひも【腰紐】女性が長着を着るときに，おはしょりを引き上げて止めるために締めるひも。ナイロン・ポリエステル・レーヨン・絹などでつくった平ぐけひもで，幅4～5cm，たけ220cmくらい。かかえ帯*ともいう。江戸中期ごろまでしごき*が用いられていたのが，くけひもに代わったものである。

こしぶダム【小渋ダム】長野県下伊那(しもいな)郡松川町にあるアーチ式ダムで，天龍(てんりゅう)川水系の小渋川にかかり，1969年（昭和44）に完成した。高さ110m，総貯水量5,800万m³。水力発電・灌漑(かんがい)・洪水(こうずい)調節を目的として建設省がつくったもので，小渋第1発電所の最大出力は3,000kW，第2発電所は6,500kW，灌漑面積は7,858ヘクタールである。

こしま【幸島】⇨こうじま

こじま【児島】岡山県南部，瀬戸内海に突き出す児島半島*の南端地区。もと児島市として1948年（昭和23）市制施行，1967年倉敷・玉島の両市と合体して，倉敷市に編入された。市街地は半島の南部，海岸線に沿って伸びる狭小な低地にある。もとは海中の小島で，古代から開け，縄文式(じょうもんしき)・弥生式(やよいしき)時代の遺跡・遺物が多い。室町末期から下津井(しもつい)が陣屋町・港町として繁栄した。江戸中期ごろから真田(さなだ)ひも製造などの機業が興り，明治以後も紡績工業が盛んである。学生服・作業服の生産は全国に知られる。製塩業も江戸時代から発達し，1954年全国最初の流下式塩田が開発され，塩の生産量は急増したが，現在は他の地域と同様，塩田は全くない。岡山からバスの便もある。下津井港からは丸亀(まるがめ)（香川県）へフェリーボートが就航する。美しい瀬戸の多島海に臨み，瀬戸内海国立公園特別指定区の鷲羽(わしう)山・六口島などの観光資源にも富む。〔浅井得一〕

こじまいけん【児島惟謙】（1837～1908）司法官。宇和島藩出身。1871年（明治4）司法省にはいり，大審院長・貴族院議員を歴任。1891年大審院長在任中，ロシア皇太子（のちのニコラス2世）が襲われた大津事件*で，犯人津田三蔵巡査を死刑に処し，ロシアにわびようとした政府の圧力を退け，これを刑法に従って裁いて無期徒刑にした。司法権の独立を守った人として著名。

こじまうすい【小島烏水】（1875～1948）登山家・随筆紀行作家・評論家。高松市の生まれ。本名久太。早く明治30年代に日本アルプス・富士山に登頂し，日本山岳会の創立発起人として知られる。その手になる登攀記(とうはんき)・紀行などは単なる写生文にとどまらず，山岳文学の先駆とみなされるまでに結実した。《日本山水論》《日本アルプス》などのほか，浮世絵研究の著作《江戸末期の浮世絵》などがある。

こじまかずお【古島一雄】（1865～1952）明治・大正・昭和3代を生きた政治家。兵庫県の生まれ。21歳のとき雑誌《日本及(および)日本人》の記者となり，のち新聞《日本》《九州日報》《万朝報(よろずちょうほう)》に勤めた。1911年（明治44）立憲国民党の代議士となり，以後政界で犬養毅(いぬかいつよし)と行動をともにした。一時政界を退いたが，1932年（昭和7）貴族院の勅選議員となり，第2次世界大戦後は幣原(しではら)内閣への入閣，自由党総裁などに推されたが，いずれも辞退し，在野の政客として終始した。〔名生尚志〕

こしまき【腰巻】

1女性のはだ着の一種で，腰に巻く布をいう。さらしもめんの並み幅を長さ150cm内外に2枚とり，幅を縫い合わせて上部のかどに小ひもをつけ，腰に巻いて結ぶ。江戸時代から行なわれ，脚布(きゃふ)・二布(ふたの)ともよんだ。また女房ことばで湯もじというのは，江戸時代これを締めて入浴したことに由来する。晴れ着の場合やぜいたくな人は，大幅の緋縮緬(ひぢりめん)や白縮緬でつくってはだに締めることもあったが，明治以後，それらははだ着用の腰巻の上に重ねて巻くようになった。はだ着用でないものはすそよけ*とも蹴出(けだ)しともいう。〔堀越すみ〕

2江戸時代の武家の婦女子が着用した夏の礼服。腰巻は室町後期ごろから宮中の女官が夏の祝儀服として着用していたが，江戸時代になると将軍・御三家・大名などの貴婦人が夏の装いに用い，これが武家の婦女子の間で形式化した。はじめは小袖*(こそで)の上に打掛*を着て帯で結び，肩を脱いで腰から下方に下げたが，後世になると表衣の帷子*(かたびら)の上に細い帯（付け帯）を後面で結び，結んだ余りを固く上方につっぱらして，これに腰巻の小袖を掛け，胸襟(きょうきん)の端に付いている〈たんぽ〉を帯にはさんで腰巻を留めた。〔河鰭実英〕

こじまきくお【児島喜久雄】（1887～19



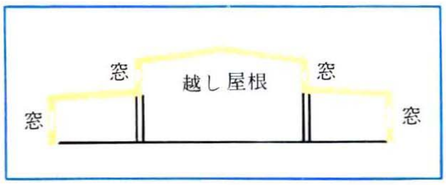
児島湾
児島湾と児島湖とを分ける潮止め堰堤。左手の川は笹ケ瀬川，中央からはいる川は倉敷川で，広い低平な干拓地が遠くまで広がる

50）西洋美術史家。東京の生まれ。東京帝国大学文科大学卒業。1935年(昭和10)東京帝大助教授兼東北帝大助教授から，1941年同教授に進み，西洋美術史講座を担当。1948年の停年退職後，国立博物館評議員・早稲田(わせだ)大学講師・長尾美術館館長をつとめた。《レオナルド-ダ-ビンチ》《希臘(ギリシア)の鋏(はさみ)》をはじめ西洋美術史に関する著作が多く，辛辣(しんらつ)な美術批評でも有名であった。〔匠　秀夫〕

こじまたかのり【児島高徳】生没年不詳。南北朝時代の武将。備前(岡山県)の人。元弘(げんこう)の乱に際して後醍醐(ごだいご)天皇の挙兵に一族を率いて応じようとしたが，天皇が隠岐(おき)(島根県)に配流されるのを救出するためこれを追い，美作(みまさか)(岡山県)杉坂(すぎさか)の行在所に潜入して，〈天，勾践(こうせん)を空(むな)しゅうすることなかれ，時に范蠡(はんれい)無きにしもあらず〉の詩を庭前の桜樹に書きしるした話は有名。のち終始天皇のために各地に転戦した事績が《太平記》にみえるが，晩年については伝えられていない。他書に彼の事績が記されていないところから，非実在説，または《太平記》の著者小島法師とする説などがある。〔高崎徳次〕

こじまとらじろう【児島虎次郎】(1881～1929）洋画家。倉敷市の生まれ。1904年(明治37)東京美術学校西洋画科を卒業，大原孫三郎の援助でベルギー・フランスに学び，印象派ふうの作風となる。その後もたびたび渡欧し，その間に大原の依頼によって今日の大原美術館収蔵の名作収集にあたった。帰国後は倉敷市郊外のアトリエで制作に専念，その作品のほとんどは大原美術館に収められている。

こじまのぶお【小島信夫】(1915～　）小説家。岐阜県の生まれ。東京大学英文科卒。在学中から同人誌に習作を発表した。1942年(昭和17)入営して北支各地を転戦し，1946年に復員。《小銃》(1952)で注目を浴び，《アメリカン-スクール》で第32回芥川(あくたがわ)賞を受ける。〈第3の新人〉群のひとりとされ，堅実な作品活動を続けている。《墓碑銘》《抱擁家族》などがある。



越し屋根

こじまはんとう【児島半島】岡山県南部の半島で，行政上は倉敷・玉野両市および児島郡に属する。半島東部の金甲山(402m)を最高点として，一般に200～400mの丘陵性の山地で，かつては児島という島であったが，海面の低下と高梁(たかはし)川・旭(あさひ)川・笹ケ瀬(ささがせ)川などの堆積(たいせき)作用により，室町時代に陸続きとなった。東部には児島湾があり，1962年(昭和37)湾頭に堤防が完成して児島湖ができている。山地は，カコウ岩・セキエイハン岩をはじめ古生層からなり，北側は急崖(きゅうがい)をなし，南側はゆるやかに傾斜する。半島南東部のはげ山はカコウ岩の崩土の激しい悪地地形として知られ，治山事業が進められている。半島の北側は沖積(ちゅうせき)平野が続き，農業地域になっているが，南の海岸山地が海に迫り，最南端の久須美鼻(くすみのはな)には海食崖が形成されている。海岸には玉野市の玉に造船所，日比に銅精錬所，倉敷市児島に縫製などの産業が発達し，西部の海岸は埋め立てられて水島工業地帯になっている。半島を北西から南東に宇野線が横切り，終点の宇野(玉野市)から高松市へ宇高連絡航路が通じ，四国への最も重要な連絡ルートとなっている。倉敷市の下津井，玉野市の日比は江戸時代に栄えた港町で，現在も下津井は四国の坂出(さかいで)市への連絡航路の港となっている。〔味沢成吉〕

こじままさじろう【小島政二郎】(1894～　）小説家。東京下谷(したや)の生まれ。慶応義塾(ぎじゅく)大学卒業。永井(ながい)荷風に傾倒し，《三田文学》などで活躍したが，1927年(昭和2)《緑の騎士》以降大衆文学に転じた。代表作に《人妻椿(つばき)》《眼中の人》《円朝》《久保田万太郎》などがあり，市井(しせい)の人々の姿を巧みに描いている。国文学の造詣(ぞうけい)も深く，他に随筆や童話の作もある。

こじまわん【児島湾】岡山県南部，児島半島に抱かれた湾で，古く児島半島が島であったころは〈吉備(きび)ノ穴海〉と称されたが，現在は児島湖の造成によって湾の部分は著しく縮小した。児島が高梁(たかはし)川の河道の変遷により陸繋(りくけい)して半島となったのは室町時代と考えられている。それ以後，近世から今日に至るまで湾の干拓陸化が進められている。宇喜多秀家(ひでいえ)が早島付近を手がけたのをはじめ，江戸時代には岡山藩の積極的な推進による新田造成が活発に行なわれた。明治初年には近世初頭の湾域の半ば近くが干拓され，さらに藤田組に受け継がれて資本主義的機械化水田農業の興除・藤田両村ができた。さらに国営事業として干拓を続行，最近は1954年(昭和29)・1963年に干拓地がつくられている。干拓地の前面には，農林省児島湾農業水利事業として，旭(あさひ)川河口の西に児島半島へかけて湾の締切堤防(長さ1,770m)がつくられ(1962年完成)，内側を児島湾淡水湖(略称児島湖)とし，灌漑(かんがい)用水源としている。〔山口恵一郎〕

コシモ-ディ-メディチ ⇨メディチ家

こしやね【越し屋根】普通の屋根のむねの上に，さらに小屋根を設けた屋根。小屋根は採光・通風・換気を目的として，天井を張らない農家・工場などに設けられるが，面積が広く窓からの採光では足りない建物に利用される。換気のための場合には側面によろい戸がつけられる。

こじゃのめ【小蛇目蝶】こん虫類・鱗翅(りんし)目・ジャノメチョウ科。翅(はね)を広げた長さ50mm内外。翅は黒かっ色，前翅の第2および第5室に眼状紋がある。翅の裏面は，前・後翅とも中央に淡い紫灰色の1帯があり，その外側には前翅に2個，後翅に大小7個の眼状紋がある。雄は雌よりもやや小形で，前翅後縁の中央部および後翅前縁の基部に近く長い総毛がある。本州・四国・九州・朝鮮・台湾・中国・ヒマラヤ地方・インドなどに広く分布する。暖地では年3回，寒地では2回発生する。幼虫はタケ・イネなどイネ科植物の葉を食べる。幼虫態で越冬する。成虫は山地樹林の暗い陰地に多い。本種に近縁のヒメジャノメは，本種よりも全体的に淡色で，後翅表面の第2室に眼状紋のないことで本種と容易に区別できる。〔鈴木邦雄〕

こしゅ【戸主】旧民法下において，一家を代表し，家の支配統制権をもち，戸籍の筆頭者でもある者。戸主制度は家督相続制度とあいまって，封建的な家族制度をささえる中心的な役割を果たした。戸主には戸主権が与えられ，そのおもなものとして，家族の居所指定権および離籍権(旧民法749条)，婚姻や縁組みの同意権および取

り消し権(旧民法750条),家内財産の所有指定(旧民法748条),親族会に関する権利などがあり，また義務として家族の扶養が課せられていた(旧民法747条)。新憲法24条によって個人の尊厳と男女平等に基づく新家族法原理が掲げられたため，これと矛盾する封建的な家族制度が廃止されるとともに，戸主も廃止された。〔黒木三郎〕

ゴーシュ［Aurobindo Ghosh］(1872～1950) ビベーカーナンダ*の衣鉢(いはつ)を継ぐインドの神秘哲学者。唯物主義と苦行主義を否定し，科学と宗教，自然と霊的生活を調和させる第3の道を求めた。1904年カーゾン総督のベンガル分割案に反対し，以後，ティラクやゴーカレらとともに1910年ころまでベンガルで民族主義的な政治活動を展開した。しかし，その後はポンジシェリーに隠棲(いんせい)して独創的な宗教団体を設立し，哲学的な仕事の上では近代的な概念や方法とインドの伝統との統一を図った。オーロビンド-ゴーシュの団体は個々人の自由意志による組織で，彼の助手のフランス婦人が後継者となり，彼女を神の化身〈母〉とみなして結束した。〔山折哲雄〕

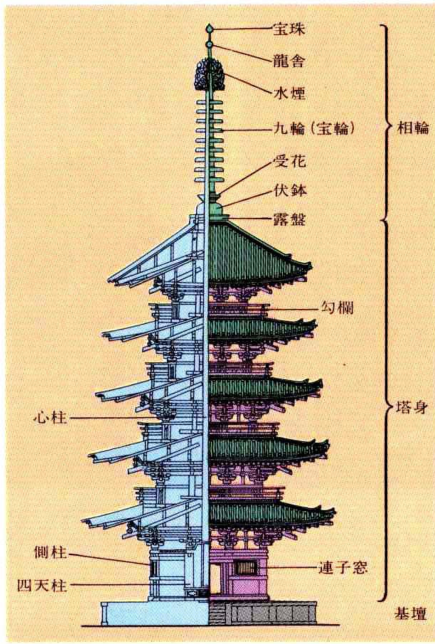
こしゅう【湖州】⇨呉興

ごしゅう【後周】⇨こうしゅう

ごしゅう【梧州】ウーチョウ 中国南部，広西チワン族自治区の東境近くの都市。西江と桂江(けいこう)の合流点に位置する。1897年イギリスとの条約によって開放され，広州および香港(ホンコン)との交易がひんぱんに行なわれた。家畜・牛肉・樹脂・砂糖・藍(あい)・木材・米・油などが積み出される。また，たばこ・マッチ・硫酸などの工業も盛んである。

ごしゅういわかしゅう【後拾遺和歌集】第4の勅撰集(ちょくせんしゅう)。1086年(応徳3)9月の成立。20巻。白河(しらかわ)天皇の勅命によって藤原通俊(みちとし)が撰進。《古今和歌集》《後撰和歌集》の作者を除き，《拾遺和歌集》にはいらない歌を集めたもので，部立(ぶたて)では雑の部が多く，巻20に神祇(じんぎ)・釈教の項が新しく立てられた点が注目される。和泉式部(いずみしきぶ)・相模(さがみ)・赤染衛門(あかぞめえもん)ら女流歌人の作品が多く，歌風にも〈三代集*〉的性格とは違った新しさが見受けられる。

ごじゅうおんず【五十音図】いろは歌*によって配列される〈いろは〉とはまったく異なる音韻論的原則によって配列されたかなの文字表。かなの字種47字を10行5段に配列している。〈イ〉〈ウ〉〈エ〉は2か所に重出する。音韻論的にみて,行で頭子音を(ゼロ，k，s，t，n，h，m，y，r，wの順に)，段(列)で母音を(a，i，u，e，oの順に)そろえてある。撥音(はつおん)〈ン〉のほかに，濁音・半濁音の5行，拗音(ようおん)の3段を加えても五十音図の名でよんでいるが，五十音順・アイウエオ順(まれにアカサタナ順)は,10行5段から重出字(あるいは同音字の一方を残してほか)を省き,最後に〈ン〉を加えて，事項の配列や索引に用いる。長音や促音・連音などの配列は考慮しないので，音節表としては不備である。〈五韻次第〉とも〈かながえし〉ともいい，平安時代に僧侶(そうりょ)の間で始まったが，その配列は古くから一定していたのではなく，鎌倉中期になって現在のようになった。それは，梵字(ぼんじ)の体系すなわち悉曇章(しったんしょう)に合わせられ，行と段はそれぞれ体文(子音字)と摩多(また)(母音字)の順位のままである。ただし，体文のチャとパにあたるサ行とハ行の位置は，(サがチャまたはツァで，ハがパだった)古代音に由来するという。はじめ悉曇章の解釈や漢字音を注する反切*の解読のためにつくられ，かな字面で子音と母音の分離されない欠を補ったので,国語の音韻変化や語源を解く音韻相通説や文法における用言の活用形の説明に役だってきた。〔日下部文夫〕



五　重　塔　醍醐寺五重塔の構造

ごじゅうかた【五十肩】50歳前後に起こる原因不明の肩の疼痛(とうつう)。すなわち肩関節の外旋・外転・挙上などの運動制限を主訴とする症候群。肩甲関節周囲炎・変形性肩関節症・肩関節拘縮などの症患がこれにあたる。肩甲部の疼痛をもって始まり，女性では結髪が不自由となり，帯を結ぶことができず，高い所のものを取ったり，洋服を着ることが不自由となる。さらに進むと関節はまったく動かなくなる。治療は温熱療法・湿布・マッサージなどの物理療法，関節周囲組織へのノボカイン注射などがある。〔玉城　巌〕

ごじゅうから【五十雀】鳥類・ゴジュウカラ科の総称またはその一種をいう。世界に30種が知られ，北アメリカに4種，マダガスカル島・アフリカ大陸・オーストラリア・ニューギニア・フィリピンなどに特産種が分布するほか，大部分のものはユーラシア大陸に分布する。ほとんどのものがスズメ前後の大きさで，森林性留鳥性であるが，岩壁にすむものもある。樹上や岩上を歩きまわり，こん虫やクモ類を細くとがったくちばしで捜して食う。冬季にはかたい種子を割って食うものもある。樹洞(じゅどう)や岩の割れ目に営巣する。

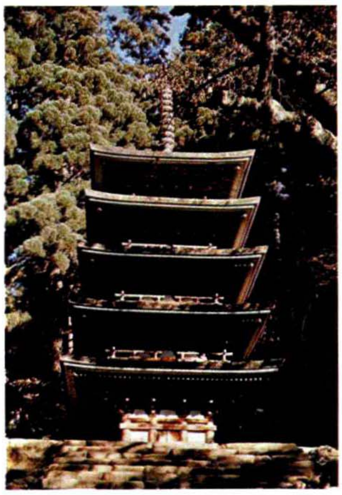
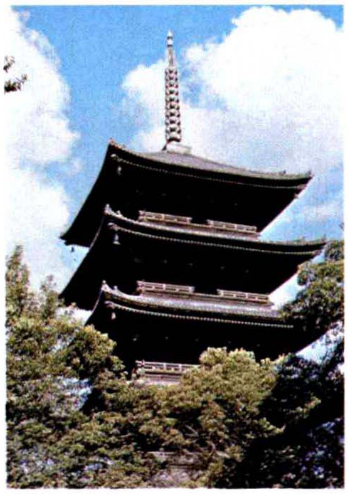
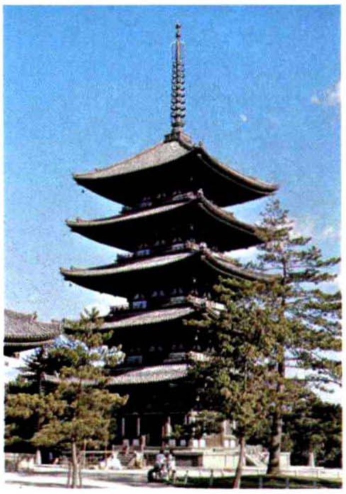
そのうちの一種であるゴジュウカラは全長13～14cmで，ユーラシア大陸に広く分布し，日本では全国の天然広葉樹林で繁殖する。頭を下方に向け，樹幹を歩きまわって探食する習性がある。〈フィフィフィ〉また，〈ピピ……〉とよく通る声で鳴く。上面は灰青色で黒い過眼線があり，下面は白色で腹部以下は赤かっ色。

〔浦本昌紀・安部直哉〕

ごしゅうぎもの【御祝儀物】日本舞踊・音曲のうち，めでたい祝言の意味をこめた作品,またその系統。三番叟物*(さんばそうもの)のほか,長唄(ながうた)《七福神》《鶴亀(つるかめ)》《松の緑》,常磐津*節(ときわずぶし)《常磐の老松》，清元節《長生》《北州》《青海波》などがある。

ごじゅうそう【五重奏】西洋の室内楽の形態の一。5人で演奏されるものの総称で，クインテットともいう。弦楽五重奏では，弦楽四重奏*にビオラまたはチェロを加えるものが普通で，ボッケリーニ・モーツァルト・シューベルト・ブラームスらの作品がある。木管五重奏は，フルート・オーボエ・クラリネット・ファゴット(バスーン)にホルンを加えたもので，弦楽四重奏のような典型の一つである。ピアノのはいった五重奏は，弦楽四重奏と組み合わせるものが多いが，管楽器も含めてさまざまなものが試みられている。〔徳丸吉彦〕

ごじゅうのとう【五重塔】5層からなる仏塔。塔身は側柱(がわばしら)と四天柱でささえられている。中心には，相輪*をささえるための巨大な心柱があるが，これは浮いているのが普通で，上代では初層にまで達していたが，平安以後には2層で止まっているものも現われた。この場合は鎖で側面の柱からつられており，いずれも塔が動揺するときにバランスをとる役目をもつ。初層の四天柱の内側を内陣といい，外側を外陣という。内陣には,南面に釈迦(しゃか)如来,北面に弥勒菩薩(みろくぼさつ)，東面に薬師如来,西面に阿弥陀仏(あみだぶつ)を安置する。記録上の最古のものは，推古天皇の初年(593)に建てられた飛鳥(あすか)寺の五重塔である。現存のものでは法隆寺の五重塔がいちばん古く，飛鳥時代の様式を伝え，国宝に指定されている。奈良時代にはいると海龍王(かいりゅうおう)寺金堂と元興寺極楽坊に安置された五重小塔が，平安時代には室生(むろう)寺・醍醐(だいご)寺，鎌倉時代には海住山(かいじゅうせん)寺，室町時代には興福寺・明王院(福山市)・瑠璃光(るりこう)寺(山口市)や羽黒山にも

法隆寺五重塔　国宝
飛鳥時代

室生寺五重塔　国宝
天平時代あるいは平安初期

東寺五重塔　国宝
江戸初期

興福寺五重塔　国宝
室町初期

五重塔

建てられ，江戸時代のものでは教王護国寺(東寺)の五重塔が名高く，それぞれ国宝として現存する。➔ストゥーパ　➔塔
〔玉山成元〕

ごじゅうのとう　【五重塔】　幸田露伴*の中編小説。のっそり十兵衛(じゅうべえ)という偏屈で名人かたぎの大工が，谷中(やなか)感応寺の五重塔建立(こんりゅう)を自分の一代の仕事にしようと決意し，奮励努力してみごと完成させる。できあがったばかりの塔が，暴風雨に耐えぬく姿を描いた部分は名文として名高い。露伴の資質が最もよく表われている名作。

こじゅけい　【小綬鶏】　鳥類・キジ科。顔と頸部(けいぶ)は栗色(くりいろ)，胸は灰色，腹部は黄かっ色，上面はかっ色・黄色・灰色の斑条(はんじょう)。ウズラよりかなり大きく，尾は短い。特徴のある〈ポッポロピー〉(チョットコイとかワン-ツー-スリーとか聞こえる)という鳴き声をくり返し，また枝上で〈カッカッ，ピョーピョー〉などと鳴く。本来は中国の南部に分布していたものを1900年代の初めに移入して放鳥したものであるが，現在では北海道を除く全国各地のおもに低山帯から平地の林で普通に繁殖しており，狩猟鳥として重要。　〔安部直哉〕

コシューシコ　[Tadeusz Andrzej Bonawentura Kościuszko]　(1746～1817)　ポーランドの愛国者。リトアニアの貴族の家がらの生まれ。1777年アメリカに渡ってアメリカ独立戦争*に参加した。帰国後，帝政ロシアの圧迫に対してポーランド独立運動を起こしたが，1794年マチェヨビチェの戦いに敗れて捕えられ，2年後釈放された。その後イギリス・アメリカ・フランスを経てスイスで没した。

ごしゅでん　【御守殿】　江戸時代，三位以上の大名に嫁した将軍の娘の称。御守殿は御主殿で，主殿造でつくられた将軍の娘の居所をさしたが，のちその娘の称となり，



コジュケイ



コジュリン

御守殿と書かれるようになった。それゆえ御守殿の門は御主殿門と称せられて，特別の様式でつくられ，総体を朱塗りにした。現在東京大学の赤門*は，旧前田家の御守殿の門である。なお四位以下に嫁した場合は御住居様と称した。

こじゅりん　【小寿林】　鳥類・ホオジロ科。全長14～15cm，ホオジロよりひとまわり小形。雄の繁殖羽は頭・顔・頸部(けいぶ)がすっぽりずきんをかぶったように黒色，上面はかっ色，下面は黄かっ色。雄の冬羽と雌は全体にかっ色に富み，ホオジロに似ている。極東に分布するが，日本での分布域はまだよく調査されておらず，茨城・長野県のほか数県の草原・アシ原で繁殖しているのが発見されている。

こしょ　【古書】　古書または古本(secondhand book)は新本に対していわれることばで，一度人手に渡った本のこと。しかし，同じ古書でも古写本・古版本・古活字本・肉筆本・絶版本などの稀覯本(きこうぼん)は特に古典籍(antiquarian book)といい，業者の中でも区別する場合が多い。

ごしょ　【御所】　天皇の御座所。転じて主上，上皇，三后(皇后・太皇太后・皇太后)，親王の住居をいう。また，これらの人々をさす敬称としても用いられた。のち，大臣家・幕府将軍およびその一族の住居ならびにこれらの敬称としても用いられた。現在は，天皇・皇后の住居を吹上御所，皇太子の住居を東宮御所と称している。

こしょう　【胡椒】　双子葉植物・コショウ科。香辛料をとるつる性木本で，長さ6mほどになる。茎の節は太く，下方は気根を出す。葉は革質で互生し，卵形で先がとがる。夏，葉に向かい合って細長い花穂を下垂し，花弁のない小花を密につける。果実は球形で小さく，熟すと赤色になる。雌雄異株で，雌株のみが有用であるため，もっぱら雌株が栽培される。ときに雌雄同株のものもあり，雌雄異株のものは長年の人工淘汰(とうた)の結果と思われる。インド南部原産で，インド・インドネシアなどで栽培される。成熟前の果実をかわかしたものが〈黒こしょう〉で，成熟果を水に浸してからかわかして果皮を除いたものが〈白こしょう〉である。黒こしょうは香気が強く，粒子があらいうえに色が薄黒いので煮込みなどの濃色の料理に用いられる。白こしょうは辛味が強く，料理の色をそこなわないのでテーブルで振りかけて用いることが多い。
〔横井朝子・佐藤友太郎〕

こしょう　【湖沼】　周囲を陸地に囲まれたくぼ地にあって海とは直接に連絡しな

い静水をいい，湖・沼・沼沢・池などを含むが，それぞれの間にはっきりした区別はない。しかし，便宜的に分けると，湖は沿岸植物の侵入を許さない程度の深さの中央部をもち，水温成層をなすもので，だいたい数メートル以上の水深のあるもの，沼は湖より浅く，深さ1m程度で沈水植物が繁茂するもの，沼沢は沼よりさらに浅く，挺水(ていすい)植物の繁茂するもの，池は普通湖や沼の小さいもので，特に人工的に掘ったものや，谷をせき止めたダムなどをいう。湖沼は太陽熱を受けて温度の変化を生じ，風の力で湖流を生じ，周辺地域の気候に影響を及ぼすこともある。湖面に生ずる波は湖岸を侵食し，堆積(たいせき)して湖岸段丘をつくったり，湖盆の形を変えたりする。湖盆では多くの生物が生まれ，生長し，そして死滅する。その遺体の一部は湖底に沈み，堆積物となる。このため〈湖沼は小宇宙である〉ということばさえある。湖盆地成因には次の8通りがある。

①氷食作用による湖：氷河に削られたくぼ地や，氷堆石丘にせき止められてできた湖で，スカンジナビア半島にみられる多くの湖や，北アメリカの五大湖などがそれで，カール*湖もこれに含まれる。②河食作用による湖：旧河道に水のたまった三日月湖，洪水(こうずい)時に堤防を越流して生じた落堀(おっぽり)などがある。③風食作用による湖：主として砂丘によってせき止められて生じた湖で，乾燥地域にみられる。④地盤運動による湖：断層や褶曲(しゅうきょく)で生じたくぼ地に水がたまったもので，カスピ海・バイカル湖(水深1,742m)・タンガニーカ湖(水深1,435m)など大規模なものが多く，また水深も大きい。日本では，琵琶湖(びわこ)・諏訪湖(すわこ)などがこれである。⑤火山作用による湖：火口湖(蔵王(ざおう)の御釜(おかま))・カルデラ湖(十和田湖・摩周湖)・火山噴出物による堰(せき)止め湖(富士五湖・秋元湖・大正池)などがおもなもので，日本には，この種の湖が多い。⑥崩土・地すべりによる湖：小規模なものは数多くみられるが，1923年(大正12)の関東大地震の際の地すべりによってできた神奈川県秦野(はたの)市の震生湖が有名である。⑦海跡湖：入り江や溺(おぼ)れ谷が砂州や砂丘でふさがれて生じた湖で，日本の海岸各所にみられる。秋田県の八郎潟(はちろうがた)や鳥取・島根県境の中海などが有名である。⑧人工湖：ダムによる湖が代表的である。なお，このほかの分類には，海洋への排水河川をもっているかいないかで，外洋湖と内陸湖に分けることもあり，前者は，淡水湖になるが，後者では，塩湖になることが多い。大きい湖にはゆっくりした湖水の流れがあり，これは湖面の高度差が生じた場合とか，一定方向に吹く風で生じた場合とか，湖水の密度差が生じた場合とかによって起こる。湖水の透明度は湖によって差があり，北海道の摩周湖が1931年(昭和6)に41.6mであったのが世界最高であった。湖の水温は夏季には，地形・風・観測時間などで異なるが，表面の水を表層，おおよそ20mの深さで急に水温の低下がみられるところの水を躍層あるいは変水層，これ以上の一定の水温を保つ水を深水層とよぶ。しかし春・秋には表層と深水層の水温の差がなくなったり，あるいは表層の水温のほうが低くなると躍層がなくなり，両方の水が入れ代わる循環が生じたりする。湖水中には酸素・炭酸・窒素・リン・カルシウム・マグネシウム・硫酸塩などさまざまな成分がとけ込んでいて，諸成分の分布は，湖水中の動植物の繁殖・生活・分解に大きな影響を及ぼしている。湖沼の生産に寄与する各種の溶存化学物質の量が湖沼内でバランスがとれているものを調和型湖沼とよび，そのうち生産力の大きいものを富栄養湖，小さいものを貧栄養湖とよんでいる。一般に富栄養湖は透明度が小さく，プランクトンや各種の動植物に富

表-1　日本のおもな湖沼

湖沼	所在	水面の海抜高度	面積	最大深度
		m	km²	m
琵琶湖	滋賀	85	694.5	103.4
八郎潟*(干拓前)	秋田	0	219.2	4.7
霞ケ浦	茨城	0	177.8	7.3
サロマ湖*	北海道	0	151.7	19.5
猪苗代湖	福島	514	104.0	93.5
中海	鳥取・島根	0	101.7	17.1
宍道湖*	島根	0	81.8	5.5
屈斜路湖	北海道	121	79.7	120.0
支笏湖	北海道	248	77.3	363.0
洞爺湖	北海道	83	69.5	179.2
浜名湖	静岡	0	64.9	16.1
小川原湖*	青森	0	62.7	24.4
十和田湖	青森・秋田	400	59.8	326.8
能取湖*	北海道	0	58.4	21.2
風蓮湖	北海道	0	52.0	11.0
北浦	茨城	0	38.7	7.0
網走湖*	北海道	5	34.1	16.0
厚岸湖*	北海道	0	31.9	6.9
田沢湖	秋田	249	25.5	423.4
河北潟*	石川	1	23.0	2.0
十三湖*	青森	0	20.6	3.0
印旛沼	千葉	1	20.5	1.8
摩周湖	北海道	351	19.6	212.0
諏訪湖	長野	759	14.2	7.6
頓別湖	北海道	1	14.0	2.5
阿寒湖	北海道	419	12.7	36.6
中禅寺湖	栃木	1 271	11.5	161.5
池田湖	鹿児島	66	11.1	233.0
檜原湖	福島	822	10.4	30.5
手賀沼	千葉	3	10.3	2.9

注）＊印は塩湖　　《理科年表》(1974年版)

表-2　世界のおもな湖沼

湖沼	所在	水面の海抜高度	面積	最大深度
		m	km²	m
カスピ海*	アジア，ヨーロッパ	−28	371 000	995
スペリオル	北アメリカ	183.6	82 360	406
ビクトリア	アフリカ東部	1 134	69 480	82
アラル海*	中央アジア	53	66 460	68
ヒューロン(ジョージア湖を含む)	北アメリカ	177.3	59 570	229
ミシガン	〃	177.3	58 020	281
タンガニーカ	アフリカ東部	772	32 890	1 435
グレート-ベア	カナダ北部	156	31 790	137
バイカル	シベリア	455	31 500	1 742
ニアサ	アフリカ東部	472	30 040	706
グレート-スレーブ	カナダ北部	156	28 440	200
チャド*	アフリカ中部	281	25 760	12
エリー	北アメリカ	174.6	25 670	64
ウィニペグ	カナダ	217	24 520	62
オンタリオ	北アメリカ	75.1	19 680	245
バルハシュ*	中央アジア	342	18 430	26
ラドガ	ソ連西部	5	18 390	250
マラカイボ*	ベネズエラ	0	13 600	250
エーア	オーストラリア	−12	13 000	20
オネガ	ソ連西部	33	9 890	121
チチカカ	ペルー，ボリビア	3 812	8 140	370
アサバスカ	カナダ	213	8 080	124
ニカラグア	ニカラグア	32	8 000	70
ルドルフ*	アフリカ東部	375	7 100	73
イシククル*	中央アジア	1 609	6 205	702
ベンネルン	スウェーデン	44.1	5 550	98
ウィニペゴシス	カナダ	253	5 450	18
アルバート	アフリカ東部	619	5 300	55
ニピゴン	カナダ	260	4 840	152
マニトバ	カナダ	248	4 710	7

注）面積は湖中の島の面積をも含む　＊印は塩湖　　《理科年表》(1974年版)

み，琵琶湖や浜名湖はこれに含まれる。貧栄養湖はプランクトンをはじめ動植物が少なく，水が透明であることが多く，田沢湖や十和田湖などはこの例に含まれる。一方湖沼の正常な生産を妨げる特殊な化学成分が偏在するものを非調和型湖沼とよび，泥炭(でいたん)のため水がかっ色に濁っているものや，酸性の強い水をたたえた火口湖などがある。　〔小栗宏・桑原正見〕

こしょう【小姓】 小性とも書き，武家の職名。主君の身辺にあって雑務に従った。室町時代，将軍の近臣を小性衆といったが，のち小姓という役名となった。江戸幕府では制度化し，表小姓・奥小姓の別があって，数十人が任ぜられた。表小姓は中奥小姓とも称せられ，将軍の居所と政庁とを兼ねた中奥に出勤して雑務にあたった。奥小姓はつねに将軍の身辺にあって雑務に従い，大奥*へ将軍が出入する際その送迎をつとめた。ともに若年寄*(わかどしより)支配下にあった。　〔高崎徳次〕

ごじょう【五常】 儒教で説いた基本徳目。五倫*とともに儒教の倫理説の根本をなす。〈常〉は恒常不変の真理の意。はじめ孟子(もうし)は，仁(子の父に対する恭順)・義(目上の人に対する忠誠)・礼(仁義*の具体的規範)・智(ち)(仁義を心にわきまえること)の四徳をあげたが，漢の董仲舒*(とうちゅうじょ)は五行説*の影響で，これに信(言行一致・誠実)を加えて五常とした。なお，唐代には，父は義(公正)，母は慈，兄は友(弟に対して)，弟は恭(兄に対して)，子は孝という五常の説があった。いずれにせよ，上下秩序社会における徳目である。　〔西　順蔵〕

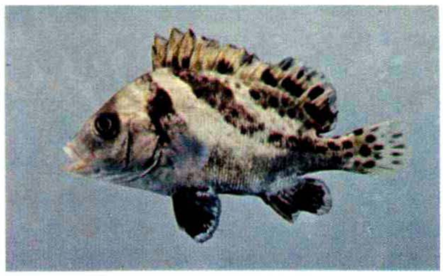
ごじょう【五條(市)】 奈良県中西部の市。江戸時代は吉野(よしの)川の河港，大和(やまと)から熊野(くまの)・和歌山へ至る交通の要地であった。1957年(昭和32)市制施行。人口35,000。市名は条里制*にちなむ。北に金剛山(1,125m)がそびえ，南に吉野山地が延び，中央は吉野川北岸の上下2段の段丘からなり，上段に五条駅や市役所などの官庁街，下段に商業町がある。周辺は農村地域で，南北の山麓(さんろく)には農山村が散在する。産業三大別人口比は20：28：52。木材の集散地，清酒の産地として知られ，カキ・白桃・ナシなどの果樹栽培が行なわれる。和歌山線が通じ，国道24号線・168号線に沿う。幕末，天誅組*(てんちゅうぐみ)の本陣となった桜井寺があり，武智麻呂(たけちまろ)創建と伝えられる栄山寺は父藤原仲麻呂建立(こんりゅう)の八角堂(国宝)で知られる。

ごしょうおん【呉承恩】 (1500？～1582) 中国，明(みん)代の文人。小説《西遊記*》の著者。官吏になる試験を何度受けても落第し，61歳になってやっと小役人になったという。だが，博学で才気に富み，ユーモアに満ちていたという。

こしょうかいがん【胡椒海岸】 アフリカ大陸西部，北緯5°付近から6°くらいまでの間の海岸のよび名。リベリアからシエラレオネの一部にまたがる。かつてコショウの取引が盛んに行なわれて積み出されていたので，古くヨーロッパの航海者からこの名でよばれた。また，マラゲッタ-コショウとよばれるこのコショウが〈楽園の穀物〉といわれたために，この沿岸は穀物海岸ともいわれる。



呉　昌　碩


コショウダイ

ごしょうかいぎ【五相会議】 1933年(昭和8)10月，斎藤実*(まこと)首相が国防・外交・財政調整のために開いた陸軍・海軍・外務・大蔵各大臣と首相との会議。官制によるものではなく特定事項の審議のために開催。10月21日五相会議の結果が臨時閣議で承認されたが，その内容は満州国*の発展のため，中国・ソ連・アメリカとの外交関係の改善を図り，国防と国力との調和に留意というものであった。1936年8月広田弘毅*(こうき)首相は五相会議で〈国策の基準〉を決定して南方進出を決め，〈第2次北支処理要綱〉によって華北侵攻を決定した。1938年6月近衛文麿*(このえふみまろ)首相は五相会議を従来と違った少数強力内閣の柱と考え随時開催した。これは〈今後の支那(しな)事変指導方針〉を決定し，戦争決着のための国力集中，和平交渉の道を求めるものであった。　〔安達淑子〕

こじょうかおく【湖上家屋】 ⇨杭上家屋

ごじょうげん【五丈原】 ウーチャンユワン　中国の三国時代の古戦場。陝西(せんせい)省の西安の西，盩厔(ちゅうしつ)県の西南にある渭水(いすい)南岸の台地。234年に蜀(しょく)・漢の諸葛(しょかつ)孔明が4度めの北伐に際して陣を敷き，魏(ぎ)の司馬懿(しばい)と相対した所。対陣100余日にして諸葛亮はついに陣中で病死した。台地には彼を祭る廟(びょう)がある。

ごしょうせき【呉昌碩】 (1844～1927) 中国の文人。名は俊卿(しゅんけい)，字(あざな)は倉石，のち昌碩と改め，晩年は昌碩の字をもって行なわれた。缶廬(ふろ)・苦鉄・破荷・大聾(だいろう)と号した。浙江(せっこう)安吉県の人。書画・篆刻*(てんこく)をよくし，それぞれ新風を開いて清(しん)末文人の第一人者と称されている。著書に《缶廬詩存》《缶廬詩別存》《削觚廬(さくころ)印存》《缶廬印存》などがある。

こしょうだい【胡椒鯛】 硬骨魚類・イサキ科の体長50cmほどになる海産魚。体は楕円(だえん)形で体高が高く，マダイの体形に似ている。うろこは中等大で，体は淡灰かっ色。体側に，体後方で腹側に傾く3条の紫灰色の斜走帯がある。また体背部・背びれ・尾びれなどに，黒かっ色の斑点(はんてん)がある。斜走帯と斑点とからなる模様は独特で，この魚の識別を誤ることはない。ただし，幼魚は全体チョコレート色，尾びれだけが透明で，内湾の岸べに漂うように浮かんでいて，ヒゲダイの幼魚と区別がつきにくい。本州中部以南，南朝鮮・中国南部・インドに分布し，近海の岩礁地帯にすみ，食用にされる。

ごじょうたまみ【五条珠実】 (1899～　) 日本舞踊家。花柳(はなやぎ)徳太郎に師事し，花柳舞踊研究会で新舞踊を発表して活躍，さらに珠実会を興して新舞踊に新境地を開いた。1941年(昭和16)独立して五条流を樹立，家元となった。➔惜しむ春(写真)

ごじょうのへん【五条の変】 ⇨天誅組(てんちゅうぐみ)の乱

ごじょうめ【五城目(町)】 秋田県南秋田郡にあり，人口17,000。中心集落は渓口(けいこう)集落として発達し，2・7の日の六斎市も開かれ，八郎潟(はちろうがた)東部地域の中心をなしている。奥羽本線から約4kmも離れており，八郎潟駅から秋田中央交通のバスで結ばれる。製材・家具・建具などの生産が盛んで，酒の醸造も行なわれている。

ごしょうらじま【御所浦島】 ⇨ごしょのうらじま

こじょうるり【古浄瑠璃】 義太夫節*(ぎだゆうぶし)が成立する17世紀後半以前の浄瑠璃の総称。江戸を中心に行なわれた外記節*(げきぶし)・大薩摩節*(おおざつまぶし)・肥前節，上方中心の文弥節(ぶんやぶし)・角太夫節・播磨節(はりまぶし)・加賀節などがある。これらはしばらく義太夫節と並存し，しだいに長唄(ながうた)などの他の三味線(しゃみせん)音楽に吸収されていった。仙台(せんだい)地方に残っている奥浄瑠璃*は貴重な資料的意味がある。

ごしょがわら【五所川原(市)】 青森県西部にある市。津軽氏の藩政時代に新田開発が行なわれた地方で，1954年(昭和29)に五所川原町が周辺6村を合併して市制を施行。人口53,000。市域は津軽平野のほぼ中央部，岩木川の氾濫原(はんらんげん)上を占める。産業三大別人口比は42：13：45。水田単作を主体とする津軽平野北部の穀倉地帯の中心

地で，リンゴ畑も局部的に散在する。農機具製造その他の工業も行なわれ，農業構造改善事業が進められている。五能線・津軽鉄道の分岐点で，国道101号線が通ずる。西隣の木造町には，縄文(じょうもん)時代の亀ケ岡(かめがおか)式土器で知られる亀ケ岡遺跡がある。

ごしょく　**【後蜀】**　⇨こうしょく

ごしょにんぎょう　**【御所人形】**　主として幼児の裸身を形どった胡粉(ごふん)仕上げの人形。ぽちゃりとした肉づき，真白なはだ，小さな手足に大きな頭，ちんまりとした目鼻だち，三頭身のフォルムなどを特徴としている。昔はそうした外観から白肉(しらじし)・白菊・頭大(ずだい)ともいわれ，また人形店の名をとって伊豆蔵(いずくら)とも，さらに西国の大名が参勤交代のおり，京都の御所や公卿(くぎょう)たちに贈り物をした返礼にこの人形が贈られ，それを江戸や故国へ持ち帰ったところからお土産(みやげ)人形とも，御所へ納める人形の意味で大内人形などともよばれてきた。上等なものや大きいものはキリ(桐)で下地を彫り，それへ何回も胡粉を塗り重ねてトクサ(木賊)でとぎ艶(つや)を出し，目鼻や髪を墨で描き，口に朱をさして仕上げるが，普通品は桐粉と正麩(しょうふ)を練り固めて下地をつくっている。大きさはさまざまで，身のたけ3cmぐらいから1m余りのものもある。文化年間(1804～1817)京都の人形師面吉の創案といわれ，安政年間(1854～1859)2世面卯(めんう)・面竹という上手(じょうず)が出て，世間を風靡(ふうび)したと伝えられている。わが国の鑑賞用人形の中でも最も代表的なものである。〔北村哲郎〕

ごしょのうらじま　**【御所浦島】**　熊本県の天草諸島中部にあり，面積13km²。西方の牧島，北西方の横浦島，南西方の竹島などとともに，天草郡御所浦町(人口5,900)を構成する。島は山がちで，中央部に最高点の烏ケ峠(からすがとうげ)(442m)があり，丘陵性の山地が海岸に迫っている。水田はわずかであるが，段々畑がよく開かれ，サツマイモ・麦・ミカンを栽培し，またイワシの巾着網(きんちゃくあみ)漁業がある。鹿児島県出水(いずみ)市米ノ津港との間に，1日1往復の定期船がある　〔浅井得一〕

ごしょのごろぞう　**【御所五郎蔵】**　⇨曾我綉俠御所染(そがもようたてしのごしょぞめ)

ごしょへいのすけ　**【五所平之助】**　(1902～　)　映画監督。東京の生まれ。慶応義塾(ぎじゅく)商工学校を卒業，松竹に入社。1931年(昭和6)日本最初のトーキー映画《マダムと女房》をつくり，その後《伊豆(いず)の踊子》《新雪》などの文芸作品によって，情感を盛ったいわゆる松竹調の源流をつくった。第2次世界大戦後は，社会的な作品も手がけ，ベルリン映画祭受賞作《煙突の見える場所》や《大阪の宿》《たけくらべ》などの作品がある。

ゴジラ　空想の大怪獣。1954年(昭和29)香山滋(しげる)原作，本多猪四郎(いのしろう)監督の映画《ゴジラ》に登場し，水爆実験の放射能を浴びた力によって大あばれする。その後の怪獣映画の先駆をなす。



御所人形《女夫立姿》　西沢童宝玩具研究所提供

ごしらかわてんのう　**【後白河天皇】**　(1127～1192)　在位1155～1158年。名は雅仁(まさひと)。法名行真。鳥羽(とば)天皇の第4皇子。母は待賢門院藤原璋子(しょうし)。1155年(久寿2)に即位したが，それが保元(ほうげん)の乱の契機となった。二条天皇に譲位してからのちは，二条・六条・高倉・安徳・後鳥羽と5代の間院政を行なった。その間平氏の全盛・源平合戦・鎌倉政権の出現と激しく流転する時流の中で，権謀術数を用い，あるときは平氏を，あるときは源義仲(よしなか)を，または源義経(よしつね)を，あるいは源頼朝(よりとも)を吸引することによって内乱期に身の安全を図った。一方では仏道に深く帰依し，寺社への行幸を盛んに行ない，蓮華王院(れんげおういん)(→三十三間堂)・長講堂などの造寺や造仏に尽力した。1169年(嘉応1)にはみずから出家して法皇となった。歌謡集《梁塵秘抄(りょうじんひしょう)》を撰(せん)した。陵墓は京都市の法住寺陵。〔飯田悠紀子〕

ごじる　**【呉汁】**　細かくすりつぶした生のダイズを入れたみそしる。ダイズを水につけて柔らかくしてから，すりばちですりつぶし，煮出しじるを加えて伸ばす。これに好みの野菜(ダイコン・ニンジン・ゴボウなど)を加えて火にかけ，材料が柔らかくなったらみそと青菜を加えて火を止める。途中で，浮き上がる皮をきれいにすくい取るか裏ごしして用いる。ダイズの代わりにエダマメを用いることもある。

こじるいえん　**【古事類苑】**　わが国唯一の官撰(かんせん)百科事典。本文1,000巻。洋装本60冊。1879年(明治12)文部省大書記官西村茂樹(しげき)の類書編集の建議に基づき，小中村清矩(きよのり)その他の人々で始められ，以来35年を費やし神宮司庁編として1914年(大正3)に刊行。歴代の制度・文物・社会百般の事項を天・歳時・神祇(じんぎ)・帝王などの30部門に分類し，1867年(慶応3)までの基本的文献から収載している。

こしろ　**【子代】**　名代とともに大化改新以前の皇室私有。古くは皇子のない天皇が名を残すために置かれたとされていたが，最近では天皇が皇子のために設置した部民と考えるようになった。5～6世紀にかけて天皇・皇族の経済的・軍事的基礎として，村またはそれ以上の団体を単位に国造(くにのみやつこ)の民の一部をさき，各地に設置された。壬生部(みぶべ)・舎人部(とねりべ)・膳部(かしわでべ)・靫負部(ゆげいべ)がそれにあたる。壬生部は乳部の意で，皇子・皇女の養育料にあてるため設けられた部民，舎人部・膳部・靫負部は国造の一族に率いられて上番し，天皇・皇子の警護や奉膳に奉仕した。多く天皇の名の一部や住居の宮の名がつけられている。大化改新後いずれも公民となった。〔高崎徳次〕

ごしん　**【後秦】**　⇨こうしん

ごしん　**【後晋】**　⇨こうしん

こじんきぎょう　**【個人企業】**　⇨企業形態

ゴージン-ジエム　［Ngo Dinh Diem］(1901～1963)　ベトナム共和国(南ベトナム)の大統領。ユエの貴族の生まれ。1933年安南王朝の内相となる。バオダイ帝と意見が合わず，日本を経てアメリカに亡命。1954年帰国し，アメリカの支援を得て組閣し，首相となる。1955年バオダイと争い，国民投票の結果共和国を宣して大統領に就任。1963年11月，クーデターによって弟ゴージン-ヌーとともに殺害された。

こじんしきべつ　**【個人識別】**　ある人を特定の個人であると識別することで，法医学的な広い範囲の観察法により，生体または死体の身元を確認して氏名をはっきりさせ，あるいは身体部分(頭部・上肢(じょうし)など)や，人体に由来する物件(血液・唾液(だえき)・精液・毛髪・尿・糞(ふん)・指紋・掌紋・足紋・足跡・筆跡など)の所属を明らかにすることをいう。ときには年齢・性別の決定が必要な場合もある。

身元の確認は，顔つき・体つき・着衣・所持品などから，家族や知人によって行なわれることが多い。しかし，万人不同・終生不変である指紋の検査結果が最も確実な根拠となるため，ハーシェルによって個人識別に指紋が導入された。現在わが国でもこれを改良して，警察指紋分類法として活用されている。血液型もABO・MN・P・Q・Rh式をはじめ多くの種類があるので，個人識別上有力な手がかりとなる。骨や歯のX線検査もよく利用される。歯は死後変化による影響を受けないので，白骨化した死体の個人識別に役立てることができ，特に歯芽(しが)内の充塡物(じゅうてんぶつ)は重要な手がかりとなる。そのほか，生存中の写真は，死体の身もと確認の場合に利用される。すなわち，ほくろ・手術痕(しゅじゅつこん)・瘢痕(は

んこん)・入れ墨・義歯などの身体的特徴は，身もとを識別するうえに役だつ。スーパーインポーズ法のように，頭蓋骨(ずがいこつ)に肉づけをしてその人の容貌(ようぼう)を再現し，生前の写真との異同識別をすることもある。また，生体の個人識別にベルチョン式生体測定法があるが，これは身体11か所(身長・座高・頭長・ほお幅・耳長・足長・前腕長など)の計測を行ない，また身体の特徴を記録する方法であるが，特別な器具や熟練を要するうえ，測定者によって生じる誤差が大きいので現在ではほとんど行なわれていない。最近では，声による個人識別法(声紋*)が研究されつつあり，個人識別の方法・対象も複雑化し精度もよくなってきている。〔朝倉　了〕

こじんしゅぎ【個人主義】 個人の自由や自発性をできるかぎり尊重しなければならないとする思想。個人を国家や社会の拘束・干渉から，最大限に解放し排除しようとする。個人主義は，封建的身分秩序から解放された個人が近代市民社会の成立とともに現われたもので，人間は身体的強弱を除いてほぼ平等であるとする人間平等観に立脚する。人は平等であるかぎり自分のことは自分で処置すべきであるとし，他人への干渉をも慎むところに成立する。個人主義による社会論は，レッセ-フェール*(自由放任主義)となり，また，極限が無政府主義*となる。➔功利主義〔西尾孝司〕

ごしんじゅつ【護身術】 不意の危難に際し，自分の身の安全を護(まも)る術。徒手による防御を主とする柔道・合気道・空手(からて)などが好適とされる。講道館護身術は次のように分類される。①徒手の部：組みつかれた場合(7本)，離れた場合(5本)，②武器の部：短刀の場合(3本)，つえの場合(3本)，拳銃(けんじゅう)の場合(3本)とされ，代表的なわざ21本が選ばれている。ほかに真剣勝負の形である極(きめ)の形があり，徒手・短刀・太刀(たち)による突然の攻撃に応ずる方法で座位・立位合計20本がある。

女子柔道護身法は第1教(体さばき：基本動作)，第2教(離脱法：相手の攻撃からの離脱)，第3教(制御法：相手の攻撃に対する制御)などがある。〔伊東春雄〕

ごす【呉須】 陶磁器の色づけ顔料。酸化コバルトを主成分に鉄・マンガン・銅・ニッケルなどわずかの夾雑物(きょうざつぶつ)を含む鉱物で，わが国では岩紺青(いわこんじょう)ともいう。おもに染め付け磁器の青色顔料に用いられ，白土を成形して素地をつくり，呉須を用いて文様を描き，さらに透明釉(とうめいゆう)をかけて焼くと，白磁に青の文様が鮮明に浮かび上がる。この染め付けは，中国元時代に始められ，明(みん)代にはいって磁器の主流となった技法であり，わが国においては朝鮮の帰化陶工の手で完成された。〔矢部良明〕

ゴーズ［gauze］ もじり織物の一種，



小杉放庵《金太郎》1941　出光美術館蔵



コスタリカの国旗　1848年制定。青・白・青の帯はかつて属していた中央アメリカ連邦の旗に由来する。1906年の国旗改定で，独立を表わす赤の帯が加わった



コスタリカ

絽(ろ)をさす。ガーゼ*というと綿織物のことになる。ゴーズは薄地軽量の目のあらい織物で，通気性がきわめて大きく夏の衣料として和服・洋服ともに用いられる。たて絽・よこ絽などの区分があり，紗(しゃ)織りはプレーンゴーズとよばれる。

コスイギン［Aleksei Nikolaevich Kosygin］(1904～1980) 現代ソ連の政治家。ペテルスブルク(現在のレニングラード)の生まれ。1919～1921年赤軍に勤務，1924～1929年にはイルクーツク地区協同組合などで活動。この間1927年に共産党に入党した。1938年にレニングラード市労働者代表ソビエト議長となり，1939年以降現在まで党中央委員。その後ロシア共和国人民委員会議長などを経て，1946年には副首相となった。1960年以降中央委員会幹部会員。1964年以降，フルシチョフ*のあとを受けてソ連首相の地位についた。〔山県弘志〕

ごすいしんき【後水心記】 ⇨小右記

コース-オブ-スタディ ⇨学習指導要領

こすぎてんがい【小杉天外】(1865～1952) 小説家。本名為蔵(ためぞう)。羽後(秋田県)の生まれ。ゾラ*の影響を受け，《はつ姿》《はやり唄(うた)》などを書いて，表面的・機械的だが自然主義文学の先駆となった。また明治の女学生風俗を描いた《魔風恋風》で人気を博し，その後実業界に取材した《長者星》や《伊豆(いず)の頼朝(よりとも)》など通俗小説を書いた。

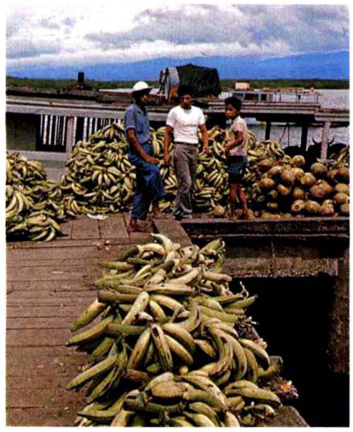
こすぎほうあん【小杉放庵】(1881～1964) 洋画家，のち日本画を多く描く。栃木県日光の生まれ。本名国太郎，はじめ未醒(みせい)と号した。五百城文哉(いおきぶんさい)に洋画の手ほどきを受け，上京して不同舎に学び，太平洋画会の創立に参加した。さし絵画家・漫画家としても知られる。文展の初期に活躍し，1913年(大正2)外遊後は二科会，院展再興に参加し，院展洋画部の中心となった。1921年同志と春陽会を創立，しだいに東洋的な画境となり，南画ふうの日本画へ移っていった。昭和初期から，放庵と号している。代表作に《水郷》《豆の秋》《アルハンブラの丘》《金太郎》などがある。〔陰里鉄郎〕

ごすこういん【後崇光院】 ⇨貞成(さだふさ)親王

ごすざくてんのう【後朱雀天皇】(1009～1045) 名は敦良(あつなが)。一条天皇の第3皇子。母は上東門院藤原彰子(しょうし)。兄後一条天皇のあとを受けて1036年(長元9)即位。関白藤原頼通*(よりみち)は養女を天皇に入れたが，皇子を生まず，藤原氏が外戚(がいせき)としての力を失う一因となった。1045年(寛徳2)子の後冷泉(ごれいぜい)天皇に譲位し，まもなくなくなった。京都市円乗寺陵に葬る。

こすずめ【小天蛾】 こん虫類・鱗翅(りんし)目・スズメガ科。体長35～37mm，翅(はね)を広げた長さ68～72mm。体は緑かっ色，頭部・胸部は灰白色に縁どられ，胸部はその内側にほぼ平行した2本の橙黄(とうおう)色の縦線がある。腹部の側面は橙黄色。前翅は黄かっ色で，翅頂から後縁に向かって6本の暗色の斜線が走る。後翅は黒かっ色で，後角の付近は広く灰橙色を呈する。成虫は5～8月に出現し，幼虫はブドウ・ツタ・ヤブカラシなどの葉を食べる。日本全土のほか台湾・中国に分布する。

コスタリカ(共和国)［Republic of Costa Rica, República de Costa Rica］ 中央アメリカにある共和国で，パナマ地峡に近い熱帯の高原の国。首都はサンホセ。面積50,700km²。人口224万(1978年推)。





コスタリカ
(左)太平洋岸の港プンタレナスへ送り出すバナナの積み荷。山積みのバナナのほかココヤシの実も見られる
(右)コーヒー園でのコーヒーの実の収穫風景

〔自然・住民〕コスタリカは，南北の低地にはさまれた，高度1,000～2,000mの高原を主とする国である。海岸地域は高温多湿の気候のために住みにくいが，高度1,000m前後の地域は温暖で，快適な居住地域となっており，特に火山性土壌(どじょう)の肥沃(ひよく)な中央高原(メセタセントラル)とよばれる地域に人口が集中している。年降水量は比較的多く，東部では5,000mmを越し，5月から11月に特に降雨が多い。

中央アメリカ諸国の中では白人の占める比率が最も高く，スペイン系白人が90％近くを占め，そのほかにメスチソ*や黒人がおり，インディアンは少ない。文化水準は高く，文盲率も低い。

〔産業・経済〕おもな産業は農業で，工業は食品加工や綿織物などの工場がわずかにある。国土の3分の2は森林におおわれた無住の土地で，生産地帯として最も開発の進んでいる中央高原は，品質のよいコスタリカ-コーヒーの産地である。このほか，トウモロコシ・サトウキビ・豆類・ジャガイモなどを産し，この農業生産の中心都市がサンホセとこの国最古の都市カルタゴである。これに対してカリブ海岸の低地は，プランテーション*による開発が行なわれ，サンホセとリモン港を結ぶ道路の周辺地域では，カカオとマニラ麻の農場が集中している。また太平洋岸にはバナナの大農場があり，エクアドルと並んで中央アメリカのバナナ王国となっている。プランテーションの大部分はアメリカ資本により，収穫物もほとんどアメリカに向けられる。輸出額の80％以上はコーヒーとバナナで，輸入は，工業がふるわないために各種の工業製品で占められ，耐久消費財から日常加工食品にまで及ぶ。輸出入とも，約80％はアメリカに依存している。1966年，日本と現地の共同資本による織布・染色工場が完成した。

〔歴史・政治〕1502年コロンブスにより発見され，その後スペインの植民が始まった。コスタリカという国名は，スペイン語の〈豊かな海岸〉という語からとったものである。1821年スペインから離れ，1823年から1838年までは中米連邦共和国の一員となり，1848年単独の独立共和国となった。1871年新憲法を制定し，議会は一院制をとり，元首の大統領は任期が4年である。1948年に軍隊を廃し，警察隊が治安維持にあたっている。ラテンアメリカ諸国のなかでは政情が最も安定している。　〔小栗　宏〕

コスチューム-プレイ　［costume play］演劇・映画用語。正式にはコスチューム-ピース，アメリカではピアリアド-プレイともよばれ，訳して衣装劇。俳優が昔ふうのきらびやかでおおげさな衣装を必要とする戯曲のこと。したがってルネサンス期から近代以前までの西洋王侯貴族たちを扱う歴史劇に多くみられる。



コスミレ

コステラネッツ　［Andre Kostelanetz］(1901～1980)　アメリカの指揮者。ロシア生まれで，ペテルスブルク音楽院を卒業後，同市の歌劇場指揮者となったが，1922年渡米。1930年代からラジオ放送の指揮者として人気を高め，のちに結成したコステラネッツ管弦楽団は，ムード音楽の草分けとして敬愛されている。クラシックからポピュラーまでを，流麗で重みのあるみごとな編曲・指揮で聞かせている。

コスト-インフレーション　［cost inflation］費用を構成する諸項目，特に労働賃金が，労働力の生産性の向上以上に上昇して，製品のコストが増大し，その結果，価格が上昇するインフレーションで，需要インフレーションに対するもの。コスト-インフレーションに対しては，平均して賃金の上昇を労働の生産性の増大の範囲内におさえるように政府が労使を説得する，いわゆる所得政策*あるいはガイド-ポストの政策が考えられている。➔インフレーション　〔富田重夫〕

コストラーニ　［Kosztolányi Dezső］(1885～1936)　ハンガリーの詩人・小説家。フランス象徴詩派の影響を受け，雑誌《西洋》のグループに属して活躍した。小説も多く，代表作に，第1次世界大戦直後のハンガリー社会を背景とした《エーデシュ-アンナ》がある。

コスパー　⇨国際宇宙空間研究委員会

ゴスプラン　［Gosplan］　ソ連邦国家計画委員会の略称。1921年2月の創設当時は労働国防会議の付属機関であったが，その後いくたびかの機構改革がなされて，現在では，ソ連邦閣僚会議に直属し，ソ連の中央経済計画化機関である。国民経済計画の作成，国民経済の均衡維持，生産効率の促進などが主要任務である。付属機関としていくつかの工業部門別委員会や会議，下部機関として共和国ゴスプラン・州計画委員会・地区計画委員会などを有する。　〔広部和也〕

ゴスペルソング　［gospel song］　1930年ごろから存在すると推定されるバプテスト教会を中心に発展したアメリカの黒人の宗教歌唱で，キリストの生涯(しょうがい)と教えを記録した〈福音書〉の伝道を目的とする歌。また，アメリカ南部地方の黒人が歌い，かつ祈り，あるときは踊り叫んでエキサイトする福音集会での音楽をもいう。アメリカ黒人の祖先にあたるアフリカ民族のもつ強烈なリズムと原始的な思想，それにキリスト教の福音を加え，黒人のもつ独自の宗教的感情(勝利・真理・信仰・卓越性など)を創造したものである。1963年レイ-チャールズのソウル-サウンドによって，黒人音楽がアメリカのポップス界でもてはやされ，フォーク-ミュージックの復興の波に乗って，ニュー-サウンド(ポップ-ゴスペル)として注目を浴びてきた。　〔和田誠司〕

コスマ　［Joseph Kosma］　(1905～1969)　作曲家。ブダペストの生まれ。ブダペスト音楽院を卒業し，クラシック音楽や映画音楽の作曲を手がけていたが，1933年，ナチスに追われてパリへのがれた。同年，たまたま撮影所で詩人ジャック-プレベールに会い，彼の詩に作曲するようになった。このふたりのコンビによる《枯葉》(1945年作曲，1947年出版)は，シャンソンの名作として名高い。ほかにパリ-コンミューン頌歌(しょうか)《5月の恋人たち》《バルバラ》などがある。また映画音楽の分野でも，《大いなる幻影》をはじめ《天井棧敷(さじき)の人々》など，多くの作品を残した。　〔永田文夫〕

こすみれ　双子葉植物・スミレ科。山野に普通に見られる多年草。ときに人家近くにもはえる。茎がなく，根もとより長い柄のある卵形の葉が数枚出る。早春に長い柄の先に直径2cmほどの淡紫色の花をつける。

コスミンスキー [Evgenii Alekseevich Kosminskii] (1886～1959) ソ連の歴史家。イギリス中世経済史研究の大家。モスクワ大学を卒業し，同大学教授となる。ソビエト歴史アカデミーなどでも活動し，1942年スターリン賞を受けた。著書《イギリス労働階級の状況》《13世紀における農業史の研究》《15世紀のイギリス農業史の総問題》《13～14世紀イギリス農村における階級闘争》など。マルクス主義の立場に基づき史料を綿密に研究し，イギリスの荘園に関する古典学説を批判した。〔兼岩正夫〕

コスモス [cosmos] 双子葉植物・キク科。メキシコ原産の一年草。茎は太く，高さ1.5～2mに達し,多数の枝を出す。葉は2回羽状に深裂し，各裂片は線形である。8～10月，枝先に直径6cmの頭状花をつける。中心の筒状花は黄色で結実するが，周囲の舌状花は白・淡紅・深紅色などがあり，結実しない。種々の園芸品種がある。明治の中ごろ日本に伝わり，全国に広がった。なお，キバナコスモスは舌状花が黄色の別種で，大正の初めに伝わった。

コスモスえいせい 【コスモス衛星】 ソ連の無人人工衛星。1962年から1969年までに約300個が打ち上げられた。名称は同じでも任務の違うものがたくさん含まれている。軌道の発表にとどめ，科学衛星のほかは目的を秘しているが，回収実験用のものもあったと思われる。1967年のコスモス186と188は自動ドッキングの実験に成功した。1968年に自動ドッキングした212と213は明らかにソユーズ宇宙船であったと思われる。

コスモポリタニズム [cosmopolitanism] 世界市民主義と訳されることが多い。一般には，人間はすべて世界の市民であり，個人が属する民族・国家などに特有な偏見を捨てるべきだという考え方である。歴史的には，紀元前4世紀ごろ古代ギリシアのキュニコス派のディオゲネス*らが，狭い都市国家的な風習・価値観を否定し，個人主義的・超国家的な思想を唱えたことにはじまる。その後ローマ帝国が成立して，世界国家という考え方に現実性が与えられ，ストア派のマルクス-アウレリウス*によって，世界は人間すべてがその市民である神の国であるという思想に発展した。また18世紀の啓蒙(けいもう)主義の時期に，カントらによって，人間は人種・血統などとは無関係にすべて理性をもっているという点では等しい世界市民である，と説かれた。〔米沢克夫〕

コスロー(1世) [Khusrō] (?～579) ササン朝ペルシア第21代の王。在位,531～579年。中興の英主。長年の対ローマ戦争を有利に導き，国内の諸制度，灌漑(かんがい)・交通網を整備して国力を充実させた。西突厥(とっくつ)と同盟してエフタル遊牧民を挾撃(きょうげき)したのもこの君主である。インドやビザンチンの文物を盛んに輸入して王朝の黄金時代を現出した。


コスモス 早咲きコスモス

コズロフ [Pyotr Kuzmich Kozlov] (1863～1935) ロシアの探検家。20歳のとき，プルジェバルスキーの中央アジア探検隊に随行したのを手はじめに,北チベット・東トルキスタン・ジュンガリア探検(1889～1891)，モンゴル・青海探検(1899～1901)などに従事した。特に1907～1909年のモンゴル・四川(しせん)の調査では，エチナ河畔で西夏の廃都カラ-ホトを発見し，歴史研究に大きな功績を残した。さらに1924年には，ノイン-ウラで匈奴(きょうど)族の王侯の墳墓を発掘した。〔野間三郎〕

ごせ 【御所(市)】 奈良県中西部の市。もと大和(やまと)から紀州に至る道筋にあたり，高野詣(こうやもうで)に利用された宿駅として開け，江戸時代には大和がすりの製造が盛んで，配置売薬で知られた製薬業の中心地であった。また，代表的な甘ガキの一つである御所ガキの原産地である。1958年(昭和33)市制施行。人口38,000。市域は奈良盆地の南西端，葛城(かつらぎ)川に沿う沖積地(ちゅうせきち)で,西南に金剛山地の金剛山(1,125m)・葛城山(960m)がそびえて大阪府とをくぎる。産業三大別人口比は14:41:45。メリヤス・くつした・スポンジはきもの・万年筆などの小規模な近代工業が行なわれ，はきものの生産は全国の80%を越え，輸出もされている。和歌山線・国道24号線が通る。近郊には御陵・古墳が多い。西部は金剛生駒(いこま)国定公園に含まれる。

ごぜ 【瞽女】 三味線(しゃみせん)をひいて歌を歌い，銭をもらって渡世する盲女。古くから遊芸や祈禱(きとう)に従う盲女には口寄せ*・いたこ*などがあるが，瞽女は室町期以降現われ，宗教と離れた盲の遊芸者である。春と秋に，多くは親方に引率され，3人，5人と連れだって村里にはいり，家々を回って門びきや瞽女歌・流行歌・口説節(くどきぶし)などを歌って銭をもらった。現在でも各地の農村を時を定めずに遊歴している。

こせい 【糊精】 ⇒デキストリン

こせい 【個性】 ある個体(個人)を独自なものとして他から区別する諸特性の総体。知能や各種の能力，感情表出の特色など，ある場合にはその個体の生得的なものから身体的条件まで広くその個体を特徴づけるものすべてをさしている。パーソナリティ*はこれに近い概念であるが，個性が個体の独自性に重点を置くのに対し，パーソナリティは個体の諸特性の全体的な構造をさすことばとして使われる。人間以外の個体(動物・植物など)にも個性はあるが，種に共通な生物学的要求に規制されているのに対し，人間だけがその生物学的要求を改変したり，無数の要求を付け加えたりする能力，すなわち，その個性を広げる能力をもっている。〔原野彰子〕

ごせい 【互生】 互生葉序ともいう。茎に対する葉の配列様式で，葉が茎の軸上に互い違いの位置につくこと。一つの節に一枚の葉がつく。葉と茎の着生点を結びつけると，茎をまわるらせんとなる，らせん葉序である。➔葉

ごせい 【五声】 五音(ごいん)ともいう。東アジア(中国・朝鮮・日本)の音楽理論用語で，相対的な音高関係(音程)による5音音階をさす。宮・商・角・徴(ち)・羽の5音からなり，西洋の移動ドによるド・レ・ミ・ソ・ラにほぼ相当する。また，それぞれ約半音下げた変徴・変宮を追加すれば七声となる。

ごせい 【悟性】 広く知性一般をいうが，哲学では理解し判断する能力をいう。カントでは認識の自発性，概念・規則の能力で，感性的直観の表象を悟性が思考する。その際の悟性の先天的な純粋な概念がカテゴリー*である。➔理性 ➔感性

ごせいげん 【呉清源】 (1914～) 囲碁棋士。九段。日本棋院客員。中国，福建省の生まれ。名は泉。1928年(昭和3)来日，瀬越憲作に入門，翌年木谷実とともに新布石を打ち出した。1939年以来の十番碁には強豪をすべて連破した。

こせいそう 【湖成層】 湖沼に堆積(たいせき)して生じた地層。ふつう岸から礫層(れきそう)・砂層・泥層(でいそう)の順に中心へ向かって同心円状に配列する。しかし，注ぐ川，水流によって部分的には異なる。堆積物には，湖水の中に沈殿したもの，湖岸のくずれたもの，湖水に注ぐ河川の運搬物，生物の遺骸(いがい)，化学的沈殿物などがあり，岩石として，礫・砂・粘土・泥炭・酸化鉄その他の化学的物質などの堆積があり，化石や日射による裂け目，雨滴の残した痕跡(こんせき)，動物の足痕などのみられることもある。〔平山 健〕

こせいだい 【古生代】 地質時代のうちで先カンブリア時代のあと，中生代のまえまでの時代。約5億7,000万年前から約2億3,000万年前までの約3億4,000万年間がこれにあたる。

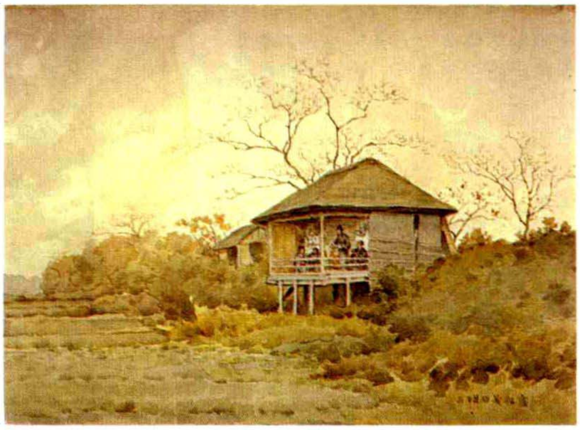
古いほうからカンブリア紀*・オルドビス紀*・シルリア紀*・デボン紀*・石炭紀*・二畳紀*に6分される。前3紀を一括して旧古生代，後3紀を一括して新古生代と総称する。先カンブリア時代に生物生存の記録はきわめ

てまれであるが，古生代には無脊椎(むせきつい)動物の諸門が出現した。旧古生代にサンヨウチュウ・フデイシが全盛をきわめ，石炭・二畳両紀にフズリナ類(ボウスイチュウ)が大発展したが，いずれも古生代末に絶滅した。サンゴ類も栄えたが，シシャサンゴ類は古生代末に滅亡した。腕足類・頭足類のオウムガイ類も優勢であった。デボン紀に魚類が繁栄し，石炭紀に両生類が発展し，陸生脊椎動物も出現するに至った。旧古生代は藻(そう)類時代(太古植代)である。旧古生代後期に陸生隠花植物が出現し，新古生代は大森林が形成されたシダ植物時代(古植代)である。二畳紀後期には植物界の大変革があり，裸子植物が急激に発展し裸子植物時代(中植代)にはいった。地殻(ちかく)変動として旧古生代後期にカレドニア変動，新古生代後期にバリスカン(ヘルシニアン)変動があった。➔地質時代　〔田中啓策〕

ごせいばいしきもく【御成敗式目】 鎌倉幕府の基本法典。1232年(貞永1)完成。関東御成敗式目・貞永(じょうえい)式目ともいう。執権北条泰時*(ほうじょうやすとき)を中心に評定衆*が編集に参画したと思われる。51か条。源頼朝(よりとも)以来の慣習法や武士社会の〈道理〉を成文化したもので，裁判の公平と統一を目的とした。制定の趣旨は泰時が六波羅(ろくはら)探題*北条重時(しげとき)に送った消息文に明らかにされている。その文章・内容は簡潔平易で，文盲の者にも理解できるようになっている。条文は所領に関する規定が最も多く，承久(じょうきゅう)の乱*後地頭と領家間，武士相互間での所領に関する訴訟が激増していたことを示している。特に女子相続・女子養子の許可など，律*・令*(りょう)に反する規定もある。式目*の効力範囲は関東御家人とその家人・郎従・御家人領内の一般庶民，鎌倉および関東御分国*内の人々で，原則的には公家(くげ)社会には適用されず律・令を否定するものではなかった。最初の武家法*として，のちの武家社会に大きな影響を与えた。　〔鹿野賀代子〕

こせいぶつ【古生物】 現在地球上に生息している生物に対して，地質時代*の地球上に生活していた生物。地質年代の上で現在とよぶのは，人類の文化によって組み立てられた歴史時代のことであるが，地質学上では第四紀の沖積世(ちゅうせきせい)以降，すなわちいまから10,000年前から現在までを一括して現世とよんでいる。

古生物を研究する学問を古生物学という。もともと古生物も，生物と同じ自然界の法則に従っているため，古生物の研究はつねに生物学の知識に基づいて進められる。しかし，古生物は必ずしもその遺骸(いがい)・遺体や生活の痕跡(こんせき)を堆積物(たいせきぶつ)中やその表面に残しているとは限らない。そのため，古生物の研究は生物学とは異なり，堆積物や地層についての研究と結合して進められることが多い。



五姓田義松
《隅田川茶亭》
東京国立博物館蔵

19世紀の中ごろまでは，古生物学の研究の多くが，地層の古さや年代を決める目的で行なわれていたが，その後生物学・物理学・化学などの周辺科学の新しい研究手法を取り入れて，古生物学を生物学の体系に対応させることが可能になってきている。すなわち，古生物学の中にも古生態学・古生化学・古病理学などの研究分野が確立されつつある。

生物は，この地球上にはじめて出現してからいままでに，30億年余りに及ぶ長大な発達史をもっている。その歴史の大部分は，古生物が占めているため，生物発達史の研究は古生物学の知識に負うところが大きい。古生物学がこの役割を果たすために，つねに地球全体の環境変化についての研究と結合しながら進められる。このような立場を強調して，古生物学を特に地球生物学とよぶことがある。

古生物の中には，地質時代の過去に絶滅してしまって，現在の地球上ではその姿をみられないものが多い。このような古生物を特に絶滅生物とよび現生生物と区別している。古生代のサンヨウチュウ，中生代のアンモナイト・恐龍(きょうりゅう)類などは，代表的な絶滅生物である。　〔大森昌衛〕

コセカント ⇨三角関数

こせき【戸籍】 人の出生から死亡に至るまでの間における身分関係を公簿に記録し，かつ証明するためにこれら身分関係の変動を記録する公文書のことをいう。わが国では1871年(明治4)にはじめて戸籍制度が採用されたが，それは明治絶対主義政府の経済的基礎を確立するための人民把握(はあく)と警察的専制支配のための人民把握をその主要目的としていた。しかし，その後数次の改正を経るにしたがって，戸籍は純然な身分登録の制度となってきた。ただし，旧民法下では，戸籍は民法上の家*を単位として編成され，民法の手続き的性質をもっている。民法の改正によって家が廃止されると，戸籍法も全面的に改正されて今日に至っている。新戸籍法によると，市町村の区域内に本籍*を定める一つの夫婦，およびこれと氏*を同じくする子ごとに編成され，配偶者をもたない者についても新たに戸籍を編成するときは，その者およびこれと氏を同じくする子ごとに編成される(戸籍法6条)。また，子が婚姻すると新しい戸籍が設けられる(戸籍法16条)。こうして1単位ごとに1個の戸籍がつくられると，これをつづって帳簿(戸籍簿)とし，市町村長が管掌する(戸籍法1条)。戸籍は，出生・死亡などのように，すでに法律効果の生じている事実を報告するだけのものと，婚姻・縁組み・認知などのように戸籍法に定める届け出によってはじめて法律効果の生ずるものとがある。なお，戸籍には一定の記載事項が規定されているが，その記載された戸籍の全部を写したものを戸籍謄本といい，指定された戸籍の一部分を写したものを戸籍抄本という。だれでも手数料を納めればこれらの交付を請求できるし，戸籍簿の閲覧もできる(戸籍法10条)。　〔黒木三郎〕

こせきとうほん【戸籍謄本】 ⇨戸籍

ごせだほうりゅう【五姓田芳柳】(1827～1892) 幕末・明治初期の画家。紀伊(きい)藩士の子として江戸に生まれた。本姓浅田氏，幼名は岩吉。幼くして歌川国芳*(くによし)に浮世絵を学び，さらに狩野(かのう)派*やオランダ画を学習して一家をなすが，横浜でワーグマン*から正式に西洋画法を授けられるや，水墨による写実的な陰影法をくふうして一躍画名を高めた。以後は横浜にあって輸出向けの絵を描き，門生を養って洋画の普及に貢献した。肖像画を得意とし，《明治天皇像》をはじめ新政府高官の肖像を数多く描いた。子に義松(よしまつ)，養子に2世芳柳がいる。　〔小林　忠〕

ごせだよしまつ【五姓田義松】(1855～1915) 明治初期の洋画家。初代五姓田芳柳*の次男。1866年(慶応2)横浜に転居し，ワーグマン*に師事して本格的に洋画を学び，1876年(明治9)工部美術学校でフォンタネージ*の指導を受けた。1880～1889年フランスに留学。1890年父芳柳とアメリカに旅行，帰国後は明治美術会に属し，照海の雅号で作品を発表したが，晩年は健康すぐれず不遇のうちに没した。

ごせちえ【五節会】 節会とは節日(せちに

ち)(季節の変わりめなどに行なわれる祝日)その他の儀式のとき行なわれる宴会のこと。正月の元日節会・白馬(あおうま)節会(7日)・踏歌節会(16日)に，端午節会(5月5日)と豊明(とよのあかり)節会(11月の辰(たつ)の日)を加えて五節会という。朝廷の行事として特に重んじられ，平安時代に最も盛んであった。

ごせちのまい　【五節舞】　宮中舞楽の一種。起源と名称については確説がないが，郷土舞踊が宮廷にはいって古典化したものとみられている。平安時代に新嘗祭(しんじょうさい)・大嘗祭のあとの豊明節会(とよのあかりのせちえ)に行なわれ，最も盛んであった。舞姫には公卿(くぎょう)・国司の少女4人(大嘗祭のときは5人)が選ばれ，丑(うし)の日に宮中に参り(舞姫参入)，この夜天皇が常寧殿で舞姫を御覧になる(帳台の試み)。寅(とら)の日に清涼殿で舞姫を御覧になり(御前の試み)，卯(う)の日に舞姫に介添えをする童女を御覧になる(童女御覧)儀があり，この夜祭りが行なわれる。翌辰(たつ)の日が豊明節会で，大歌所別当の大歌に合わせて舞が演じられる。　〔菊池礼子〕

ごせっく　【五節供】　日本の年中行事のうち，正月7日の人日，3月3日の上巳(じょうし)，5月5日の端午(たんご)，7月7日の七夕(たなばた)，9月9日の重陽(ちょうよう)の5節日をいう。年中行事の折り目にあたる日を節供・節日とよぶことは，7～8世紀の日本の記録に見えている。節を伴うことばは中国伝来のものであり，長く宮廷人の公用語であったが，しだいに民間に移行した。ことに月の数と日の数を一致させて，重日として祝うならわしは，中国において古く成立し，隋(ずい)・唐から伝えられ，奈良・平安時代の貴族社会に受け入れられた。しかし民間における五節供の行事内容には，わが国固有の習俗・信仰がうかがえる。　〔直江広治〕

ゴセック　［François Joseph Gossec］(1734～1829)　フランスの作曲家。ベルギーの農家に生まれ，幼時から音楽を愛好し，特にバイオリンを学んだ。1751年パリへ行き，指揮者として活躍する一方，作曲においても成功を収めた。1770年にはアマチュア管弦楽団を結成し，またパリ音楽院の前身である王立音楽学校を創設した。フランス革命の際には，憲兵隊軍楽隊の指揮者に就任し，多くの愛国的な歌を作曲した。1795年，パリ音楽院創立とともに監督官兼作曲科教授に任命され，《ソルフェージュ》を出版して音楽教育に努めた。作品は30曲以上の交響曲があり，特にフランスの交響曲の発展に尽くした功績は大きい。　〔寺田兼文〕

ごせっけ　【五摂家】　摂政・関白となるべき五つの家がらのこと。北家(藤原氏四家の一)道長の流れの忠通(ただみち)から出た近衛(このえ)・鷹司(たかつかさ)・九条・二条・一条の5家をさす。忠通の子基実(もとざね)が近衛家を，兼実(かねざね)が九条家を称した。近衛家は基実の曾孫(そうそん)兼経(かねつね)の弟兼平(かねひら)が鷹司家を興して2家に分立し，九条家は兼実の曾孫教実(のりざね)の弟良実(よしざね)・実経がそれぞれ二条・一条家を興して3家に分立し，五摂家が成立した。以後はこの5家が順次に摂関となって明治に至った。1884年(明治17)華族令によって5家とも公爵に列した。　〔飯田悠紀子〕



ゴゼンタチバナ

こせのかなおか　【巨勢金岡】　平安初期の絵師。巨勢派の祖。神泉苑(しんせんえん)の監という官職にあって画技にすぐれ，当時最高の画家と称された。880年(元慶4)大学寮の先聖先師(孔子と顔淵(がんえん))・九哲(顔淵を除く孔子の9人の弟子(でし))の像を描いたのをはじめ，障子や屏風絵(びょうぶえ)の制作を行なっていたと記録されている。確実な遺品はないが，文献から推しての作風は，従来の唐絵(からえ)の要素を強く残すかたわら，日本的画題を扱い，和様化の先駆をなしたと考えられる。　〔村重　寧〕

こせは　【巨勢派】　平安初期から室町期まで存続した日本画の画系。巨勢金岡を祖とし，わが国の絵画史上で最古・最長の家系を保った。平安期には宮廷絵師の中心として，鎌倉期には南都に下って興福寺大乗院の絵仏師として活躍した。《大乗院寺社雑事記》文明4年12月23日の条に載る〈巨勢系図〉がその家系を伝えている。

ごせん　【五泉(市)】　新潟県中部の市。江戸時代には五泉平とよばれるはかま地の産地として知られた。1954年(昭和29)市制施行。人口40,000。市域は阿賀野(あがの)川と早出(はやいで)川との合流点付近に広がり，北は新津(にいつ)市と接する。付近には〈白だし〉とよばれるフェーン現象(→フェーン)がみられ，最近数十年間に4度の大火に見舞われている。産業三大別人口比は21：45：34。セーター・シャツなどのメリヤス工場が多く，東京・大阪に次ぐ大産地で，羽二重・絽(ろ)などの伝統的絹織物もつくられる。農村部では米・野菜のほかチューリップ・ヒヤシンスなどの球根栽培が盛んである。また，養蚕兼業農家が多く，県立蚕業試験場がある。磐越(ばんえつ)西線に沿い，蒲原(かんばら)鉄道が加茂市と連絡する。咲花温泉がある。

ごぜんたちばな　【御前橘】　双子葉植物・ミズキ科。常緑多年草の高山植物。地下茎でふえ，高さは7～12cm。卵形の4枚または6枚の葉が茎の上部に輪生状につく。夏，4枚の白い花弁状の総包の中に4花弁の小さな花が数個つき，秋に赤色の果実となる。

ごせんふ　【五線譜】　主として西洋音楽の記述に用いる譜表のこと。横に引かれた5本の線によって音程を表示する。すでに中世の手写本にみられるが，一般に使用されるようになったのは，定量記譜法が普及する15世紀以降である。

ごせんわかしゅう　【後撰和歌集】　平安中期の第2番めの勅撰和歌集。序文を欠くこと，集中に重出歌があり，また，作者誤記もあることから編纂(へんさん)未完了説もある。贈答歌を多く集め，詞書(ことばがき)の長いもの，三人称の作者名表記などがあり，物語愛好の時代の好尚(こうしょう)を反映して，歌集の物語化の現象を呈していたり，情趣を重んじ，日常的なものを多く素材とした，いわゆる褻(け)の歌が多いことなど，特色もみられるが，歌風としては《古今和歌集》の影響下にある。　〔新藤協三〕

こそあど　⇨指示語

ごそう　【互層】　種類の違う岩石が交互に重なり合っている地層。たとえば，砂岩-ケツ岩互層など。

こそうきん　【枯草菌】　バチルス属の真正細菌の一種で，土壌(どじょう)・空中・枯れ草などの自然界に広範囲に分布する。雑菌として，発酵工業など各種菌類の培養などに混入して被害を与える。通常単独で桿状(かんじょう)であるが，長桿状となり連鎖する場合もある。培養液面に皮膜をつくる。べん毛をもち，グラム陽性菌で，卵形の内生胞子をつくり，内生胞子は耐熱性があって100℃で1時間熱しても死滅しない。発育はきわめて早く，寒天培地上では灰白色で平滑かわずかにしわ状のコロニーをつくる。発育適温は30～37℃。強力な酵素を生産し，納豆の製造やいろいろな酵素剤の生産に利用される。　〔曾根田正己〕

こそうねつ　【枯草熱】　季節的(特に春から夏)に起こるアレルギー性鼻炎。眼瞼(がんけん)結膜炎や他のアレルギー性疾患を有することが多い。原因は雑草(ブタクサなど)の花粉の吸入による，即時型のアレルギー反応である。➔アレルギー

ごそうぼうえい　【誤想防衛】　正当防衛にならないのに，なると誤信してなされた防衛行為。①急迫・不正の侵害がないのに，妄想(もうそう)などから侵害があると信じ，防衛のため他人の法益を侵害した場合，②法律上，将来起こるべき侵害に対しても防衛行為がとりうるものと錯覚したように法律の錯誤による場合とがある。違法性阻却とならないから有罪であるが，情状により量刑上考慮されることがある。

ごぞうろっぷ　【五臓六腑】　東洋医学で内臓をさしていう。臓は実質器官をさし，腑は中空器官を意味した。すなわち，五臓

は心・肝・腎(じん)・肺・脾(ひ)，六腑は胃・胆・膀胱(ぼうこう)・大腸・小腸・三焦をさしていう。しかし，心臓は実質器官でなく，三焦はなにをさしているものか正確にはわかっていない。

ごぞく　【語族】　世界の言語の中である時期には同一の言語であったものが，分裂し互いに違った方向に変形・変化したために，ついに異なる姿を取るにいたった二つあるいはそれ以上の言語を，近親関係にあるといい，またそれらの言語は同じ語族に属するという。近親関係の起源となった言語を祖語または共通原語という。現在，世界の言語にはおよそ10ばかりの語族が立てられている。一方，語族の内部にも下位分類的な言語のグループができることがあり，これを語派といい，語派の中のそのようなグループを語群という。つまりいくつかの語群の集まりが語派を，いくつかの語派の集まりが語族を形成していることになる。語族どうしがさらに一つの祖語に由来すれば，世界の言語の起源は一元であることになるが，そのような証明はまだできていない。語族は互いに他と独立してそれぞれの祖語をもっている。

このような祖語・語族・語派・語群の設定は比較言語学的な手続きと操作とによって行なわれる。たとえば，ロマンス諸語のうちフランス語・イタリア語・スペイン語・ポルトガル語の〈2〉を表わす語は，それぞれdeux，due，dos，doisであるが，このような相似は他の多くの語彙(ごい)に認められるのみならず，また形態にも及んでおり，単なる偶然の一致とするにはあまりにその例が多い。そして最も基本的な条件であるこれら言語間の〈音韻対応の法則〉の発見によって，これら〈2〉を表わす語はラテン語のduoを源としていることが判明する。この場合，ラテン語を含めてイタリック語派を形成するが，ラテン語はそれらの言語に対する祖語ともなる。さらに，ラテン語のduoは，ギリシア語dýo，梵語(ぼんご)dvāなどとの対応によってこれらの言語はより大きなインド-ヨーロッパ語族の名のもとにまとめられる。祖語としてラテン語のように文献をもつ言語は比較的まれであり，多くの場合，比較言語学的に再構成された祖語の形には，*をつけて示す。これを再構形といい，〈2〉に対するインド-ヨーロッパ語族の再構形は*duō（*dwō）となる。　〔崎山　理〕

ごそしちこくのらん　【呉楚七国の乱】　中国，前漢景帝の3年(BC154)に呉王劉濞(りゅうび)を中心に楚王(そおう)・趙王(ちょうおう)ら7国王が起こした反乱。漢王朝が王国の領土の削減を行なったのに反発して起こったのが，漢の将軍周亜夫(しゅうあふ)らの活躍で3か月で静まり，7王は殺されたり自殺したりした。漢王朝は乱後王国への統制を強め，人事権をはじめとして王国官僚の特権を奪ったので，王は単に租税をはむ存在にすぎず，漢初以来の郡国制度は事実上郡県制度に等しくなり，漢帝国は中央集権的な国に発展した。　〔大庭　脩〕



小　袖
(左)隠れ蓑宝文様
(右)蜃気楼文様
京都　田畑喜八蔵

こそで　【小袖】　公家(くげ)装束で，そでとそで口が大きい大袖・広袖に対し，そで口の小さい衣服の総称。古墳時代には，わが国でも筒袖形式の衣服が常態であった。その後奈良時代に中国の影響を受けて，公服は男女とも中国ふうにならい，男子の礼服(らいふく)では下に筒袖の，上に広袖の衣を着る構成となり，その衣を小袖・大袖と称した。こうした礼服の構成をもとにして平安時代に成立した男子の束帯や女子の袿(うちぎ)装束では，小袖は装束構成の具に含まれず，内衣として下着やはだ着に近いものとなり，筒袖はたもとのあるそでとなった。しかし，庶民の衣服はずっと筒袖形式のままであった。装束下の小袖は下着的な要素のものであったから白でよかったが，庶民の小袖は独立した衣服として，早くから簡単な文様や藍(あい)に染めるようなことが行なわれてきた。その後，鎌倉・室町時代には，公家社会においても，従来の下襲(したがさね)装束はしだいに簡略化の道をたどることとなった。その結果，内衣の小袖がしだいに表面に現われることとなり，小袖・袴(はかま)，小袖・湯巻の姿も公的に認められるに至った。一方，応仁(おうにん)の乱を境として顕著となった下克上の風潮は衣服の上にも現われ，社会の上下を通じて，小袖という一様式の新しい衣服を生み出したのである。小袖が社会の中心服飾となるに際して，公家や上層武家社会の小袖の文様やその表現技法が土台となったのはもちろんだが，庶民の小袖の文様や表現技術もこれに加わって，安土・桃山期には〈辻(つじ)が花染・刺繡(ししゅう)・摺箔(すりはく)（金銀の箔をすりつけること)・唐織(からおり)〉などの技術の発達，肩裾(かたすそ)・片身替・段替などの特色ある文様構成の展開，自由な文様表現の進歩などをみるに至った。さらに江戸時代には友禅染や小紋・中形などの各種の染技法，鹿(か)の子絞りをはじめとする種々の絞り技法などの発達をみた。また文様は著しい進歩を遂げ，世界に誇るべき独自の小袖文化を育てたのである。なお，小袖を基本形態として用途や材質・仕立てなどによって打掛(うちかけ)・間着(あいぎ)・振り袖・熨斗目(のしめ)・袷(あわせ)・単衣(ひとえ)・帷子(かたびら)・布子(ぬのこ)などと分化した。江戸時代では小袖というとほとんど絹地で薄綿を入れた袷をさすことになった。　〔北村哲郎〕

こそでそが　【小袖曾我】　能の曲名。作者不明。四番目物。《曾我物語》による。父のかたき工藤祐経(すけつね)を討とうとする曾我十郎・五郎の兄弟が，富士のすそ野で将軍源頼朝(よりとも)が狩りを催す機会に望みを遂げようと，母にそれとなくいとまごいに来るが，母は親子の縁を切った五郎を中に入れず，十郎だけをもてなす。十郎が涙ながらに五郎の許しを請うので母も心を和らげ，3人で酒宴となり，兄弟ふたりで男舞を舞って別れを告げる。原作で，五郎が母の怒りをかうのは武士を捨てて僧になれという母のことばにそむいたためで，またいとまごいのときに兄弟とも母に小袖(こそで)をもらうのだが，ともに能では脚色上省略されている。シテは十郎，主(おも)ヅレは五郎，母と兄弟の従者ふたりがツレ。ワキはない。　〔長尾一雄〕

こそでそがあざみのいろぬい　【小袖曾我薊色縫】　歌舞伎(かぶき)の脚本名。別名題《花街模様(さともよう)薊色縫》，通称《十六夜清心(いざよいせいしん)》。河竹黙阿弥(かわたけもくあみ)作。1859年(安政6)市村座初演。極楽寺の僧清心が遊女十六夜と心中未遂後，変心して盗賊になるが，悪事が肉親に不幸を招き，破滅するまで。江戸末期の退廃的な世相を描いた世話物で，ふたりが心中に出かける序幕〈大川端(おおかわばた)〉は特によく上演される。➔次ページ(写真)

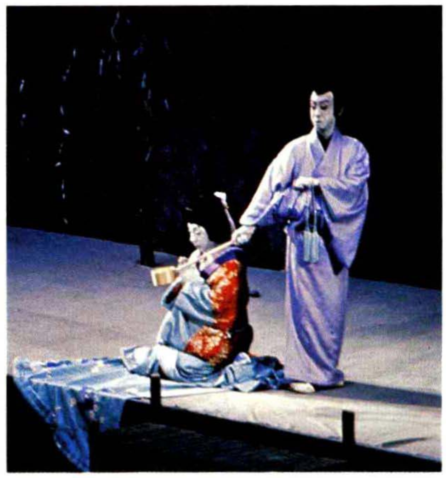
コーダ　［coda］　音楽作品で終止(カデンツ)の役割をもった部分のこと。多くの場合，単に終わりにあるというだけではなく，他の部分とは異なった構造をもつ。すでにルネサンスのネーデルラント楽派の多声音楽に現われ，以後の多声音楽に受け継がれ

た。交響曲の速い楽章では，しばしば緊張を盛り上げて，テンポも速くなるコーダが置かれている。日本音楽でも，比較的長い形式ではコーダの意識が明確で，たとえば長唄(ながうた)の散らし・段切(だんぎれ)とよばれる部分はそれにあたる。　〔徳丸吉彦〕

ゴータ　［Gota］　東ドイツ西南部，チューリンゲン地方の商工業都市。人口15万4,000(1966)。車両・機械工業が盛んであり，保険会社も多く集まっている。また，古くから地図出版で名高い。1875年にドイツの社会主義者がこの地で大会を開いてドイツ社会主義労働党を結成し，〈ゴータ綱領*〉を採択したことで知られる。この綱領はマルクスの激しい批判を受けたが，1891年にエルフルト綱領が採択されるまで，同党の主柱としての役割を果たした。〔野間三郎〕

こたい　【固体】　金属などのように，ある一定値より小さい外力の作用によって可逆的な変形を受け，ほとんど永久変形しない物体をいう。すなわち，外力による体積の変化の割合(圧縮率)が非常に小さいことが，物質の三状態(気体・液体・固体)のうちの固体の特質である。また，圧力のない状態でも，体積が有限の大きさをもつことも特質の一つである。固体には，ただ一種の化学物質より構成されている純固体と，二種以上の物質よりなる固溶体*や混晶*がある。また,固体はその物質を構成する分子・原子・イオンなどが,三次元的に規則正しく並んでいるかいないかによって，結晶*と無定形物質とに分けられる。結晶は一定の融点をもつが，無定形物質は固体と液体の間の相の転移がはっきりせず，ある定まった融点をもたない。このため，無定形物質は外見上固体をなしていても，物理的には液相に近いものとみなされている。結晶は三次元の格子(こうし)構造をもち，その構造中に一種または数種の原子などの規則正しい配列によって構成され，結晶中の原子などの結合型の違いによって次のように分類される。①分子格子：分子間に働くファン-デル-ワールス力によって結合しているもので，立体的構造が許すかぎり密に充塡(じゅうてん)しようとする。ベンゼンなど。②イオン格子：結晶格子を構成する原子が正負のイオンとして存在し，イオン間のクーロン力によって結合し，規則正しい三次構造をつくる。岩塩(Na^+イオンが6個のCl^-イオンに，Cl^-イオンが6個のNa^+イオンに囲まれている)。③原子価格子：構成する原子間の共有結合によるもの。この原子価格子よりなる結晶は，非常にかたく，融点が高い。ダイヤモンドなど。④金属格子：各原子は近接原子と電子を共有して共有結合をつくるが，③の場合と異なり格子中のある特定の位置を占めず自由に動き回れる自由電子がある。金属など。

無定形物質は雑多な分子からなるものが多く，ゴム状イオウ・木炭などがこれに属する。　〔三輪誠・海津洋行〕



小袖曾我薊色縫　〈大川端〉の場　十六夜(7世尾上梅幸)と清心(14世守田勘弥)は稲瀬川に身を投げる決心を固め，水杯をかわす



小太鼓

こたい　【個体】　空間的にまとまった単一体をなし，生活のために必要な構造と機能を備えて単独生活ができるもの。原生動物は単細胞であるが1個体である。植物や群体*をつくる動物などでは個体性が不明瞭(ふめいりょう)で，個体群*との関係が問題になることが多い。

こだい　【古代】　⇨時代区分

コダーイ　［Zoltan Kodály］　(1882～1968)　ハンガリーの作曲家・教育家。音楽愛好家の両親の下に生まれ，早くから音楽に親しみ，ナジソンバットのカトリック系の学校に入学，しろうとながら15歳でいくつかの作曲を試みた。1902年ブダペスト音楽院に入学して本格的な作曲の修業を始めた。ブダペスト音楽院ではバルトーク*の1級下であり，卒業後は，国民音楽の創造をめざして，バルトークとともにハンガリーの民謡の研究や採集を始めた。初期にはドビュッシーの影響を受け，オーケストラ曲《夏の日の夕べ》など印象主義的な作品を発表したが，1923年の合唱曲《ハンガリー詩編》では，それまでの民謡研究に基づいて，マジャールの精神に満ちた独自な作風を確立し，コダーイの名を一躍世界的なものにした。続いて劇作品に関心を示し，《ハーリ-ヤーノシュ》(1933)など，リズム面でも色彩面でも人目をひく，大衆性をもった作品を書いた。親友のバルトークはナチズムのあらしをのがれてアメリカに亡命したが，彼は故国にとどまり，第2次世界大戦後はハンガリー最高の作曲家として《ミサ-ブレビス》などを発表するかたわら，独特な音楽教育者として後輩の育成に従った。

〔船山　隆〕

こだいぎれ　【古代裂】　時代裂ともいう。主として室町時代，足利義政(あしかがよしまさ)のとき明(みん)から渡来した織物の裂地。金襴(きんらん)・金紗(きんしゃ)・緞子(どんす)・印金(金箔(きんぱく)の織地)などがあり，好事家(こうずか)は茶入れの袋などに用いた。

こたいぐん　【個体群】　生態学や集団遺伝学で使われる用語。ある限られた空間内にすみ，なんらかのまとまりを持っている1種類の生物の個体の集合をさす。

こたいぐんせいたいがく　【個体群生態学】　個体群*を研究対象とし，個体数を調べ，その変化するありさまや原因を明らかにする生態学*の一分野。害虫の発生量の推定や魚類の漁獲高を予想したり，野外生物の個体数を人間の望むレベルに保つためには，いかに管理したらよいかなどの方法を提供したりする。近年急速に発展しつつあり，農学・水産学・林学などにおける応用生物学の基礎理論を打ち出している。

こだいこ　【小太鼓】　主として吹奏楽で使われる打楽器。膜鳴楽器*。胴体は円筒形，皮膜は両面。楽器は演奏者に対して水平に位置し，両手の桴(ばち)で奏する。下の膜に接して腸あるいは金属でできた響線(スネア)が張ってあり，すれるような騒音的効果が得られるので，スネア-ドラムともいわれる。行進曲などで弱拍を受け持ったり，クレッシェンドの効果をあげるのに使われる。

ごだいこ　【五大湖】　北アメリカ中央部，アメリカ合衆国とカナダとの国境に，東西に連なる五つの湖の総称。西からスペリオル湖(82,360km²)・ミシガン湖(58,020km²)・ヒューロン湖(59,570km²)・エリー湖(25,670km²)・オンタリオ湖(19,680km²)と連なっている。世界最大の氷河湖で，五つの湖は西端のスペリオル湖から東端のオンタリオ湖に向かって湖面の標高は順次低くなり，エリー湖とオンタリオ湖の間は約100mの落差をもつケスタ*状地形の崖端(がいたん)にあたり，エリー湖からナイアガラ滝が落ちる。またオンタリオ湖からはセントローレンス川が大西洋に注いでいる。冬季には多少水位が低くなり，3か月程度結氷するが，交通路としての価値は高い。スペリオル・ヒューロン両湖を結ぶスーセントメリー運河，ミシガン湖とミシシッピ川を結ぶイリノイ-ミシシッピ運河，エリー・オンタリオ両湖を結ぶウェランド運河，エリー湖とハドソン川を結ぶエリー運河など，これらの運河・水路の開設は五

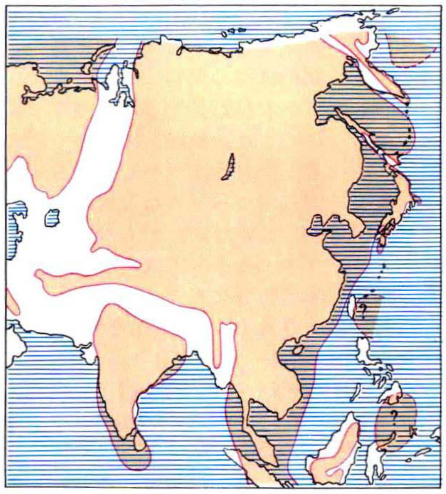
大湖沿岸の経済活動に大躍進をもたらした。中でも，水路が開かれる以前のセントローレンス川は，浅瀬が多く，外航船はモントリオールまでしかのぼれなかった。このため合衆国とカナダ両国は数年の歳月を費やし，1959年にモントリオールとオンタリオ湖間300kmの水路改修と運河開削を行ない，大西洋から五大湖まで外航船が達するようになった。〔長津一郎〕

こだいこうこく【誇大広告】 一般に，広告商品の品質・取引条件・競争商品および競争業者などについて，消費者を偽瞞(ぎまん)もしくは誤解に導くような表現内容の広告を総称して誇大広告とよんでいる。内容的には商品の品質・内容・数量・価格その他の取引条件に関するもの，競争的商品と自社商品とを混同されるようなもの，競争業者を中傷するものなどがある。これら不当表示の広告の発生は消費者の商品購入選択の基準を混乱させ，ひいては広告に対する社会的信用を害するものである以上，〈不当景品類及び不当表示防止法〉〈私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律〉，あるいは消費者利益を擁護する立場から，各新聞社の広告掲載基準，ラジオ・テレビ放送基準などの自主的規制基準を設定している。〔松沢 勝〕

ごだいごてんのう【後醍醐天皇】(1288～1339) 後宇多天皇の第２皇子。母は談天門院藤原忠子。名は尊治(たかはる)。1308年(延慶１)花園天皇の皇太子に立てられた。1318年(文保２)壮年にして即位したが，その前年〈文保(ぶんぽう)の和談〉で，大覚寺統・持明院統の両統迭立(てつりつ)が約定され，数代後の皇位継承順位まで定められていた。1321年(元亨１)後宇多上皇の逝去(せいきょ)を機に200余年続いた院政を廃止，吉田定房(よしださだふさ)・北畠親房(きたばたけちかふさ)らの人材を登用して記録所を設け，天皇親政を復活した。しかし新政の実をあげるためには幕府を除くことの必要を痛感し，1324年(正中１)日野資朝(すけとも)・俊基(としもと)ら近臣とはかって討幕計画を立てたが，正中の変となって失敗した。1331年(元弘１・元徳３)，反幕的な畿内(きない)の社寺勢力や武士を誘って再度討幕の運動を起こしたが，未然に事が現われて元弘(げんこう)の乱となった。この事変で幕府方に捕われて隠岐(おき)(島根県)に流されたが，やがて名和長年ら土豪たちに迎えられて，伯耆(ほうき)(鳥取県)にのがれた。1333年(元弘３・正慶２)足利尊氏(あしかがたかうじ)・新田義貞(にったよしさだ)の挙兵で時局は急転し，幕府が滅亡したので京都に還幸，幕府の立てた持明院統の光厳天皇を廃して，建武中興を開始した。しかし天皇の理想に基づいて展開された新政も，現実性を欠いた点が多かったために全国武士層の支持が得られず，そのうえ公武間の対立が著しく，政情は動揺をきたした。1335年(建武２)幕府再興を志して尊氏は離反し，一時は九州へ敗走し



後醍醐天皇　大徳寺蔵



古 第 三 紀

たが，翌年楠木正成(くすのきまさしげ)らの朝廷軍を破って京都を占領した。天皇は尊氏の強請により，神器を持明院統の光明天皇に授けたが，その直後京都を脱出して吉野(よしの)(奈良県)に南朝政権を樹立し，京都の足利政権を奉ずる北朝と対抗した。ここに南北朝時代が始められた。全国が内乱化する情勢の中に，天皇は諸皇子・諸将を各地に派遣して，武家政権の打倒，京都奪還に心血を注いだが，形勢は好転せず，1339年(延元４・暦応２)痛恨を抱いて，吉野の行宮に没した。天皇は深く宋学(そうがく)を修め，また《建武年中行事》《建武年中日時》を編集した。和歌は《新葉集》に収められている。陵墓は奈良県吉野郡の塔尾陵。〔高崎徳次〕

ごだいさん【五台山】 ウータイ山 中国，山西省北東部の山。太行山脈北部にある五台山脈の主峰で，標高2,893m。頂上は５峰よりなり，それぞれ台状をなすことから五台の名が生じた。中国仏教の霊場とされ，５世紀ごろから《華厳経(けごんきょう)》に文殊菩薩(ぼさつ)の住地とされる清涼山にあたると信じられ，峨眉(がび)山・普陀(ふだ)山とともに中国三大霊山の一つとしてインドや日本からも巡拝する聖地になった。北魏(ほくぎ)の文帝はここに大浮図霊鷲(だいふとりょうじゅ)寺(→華厳寺)を建立(こんりゅう)し，北斉(ほくせい)時代には100以上の堂塔伽藍(がらん)があったという。唐代には最盛期に達し，日本からは玄昉(げんぼう)・霊仙(れいせん)・円仁(えんにん)が訪れ，さらに宋(そう)代には奝然(ちょうねん)・成尋が訪れた。元代初め(13世紀)にラマ教がはいり，清朝(しんちょう)はラマ教を保護したので，モンゴル人との結びつきが強くなった。現在も山の入り口の台懐鎮を中心に，唐代建立の大華厳寺や大塔院寺などの仏教・ラマ教の寺院建造物が多く残る。〔船越昭生〕

ごだいさん【五台山】 オテー山 朝鮮中東部，江原道の江陵の西約40kmにある太白山脈中の山で，標高1,563m。北方の金剛山と並ぶ名山とされ，カコウ岩・粗面岩よりなる景勝の地。山頂の５峰にそれぞれ一庵(あん)が設けられ，山中一帯には多くの寺院が建立(こんりゅう)されている。山の入り口には朝鮮仏教三十一本山の一つ月精寺があり，唐の貞観(じょうがん)年間(627～649)に慈蔵祖師が唐から文殊菩薩(ぼさつ)を勧請(かんじょう)して建てたといわれる。月精寺の奥には上院寺があり，その梵鐘(ぼんしょう)は新羅(しらぎ)時代の名作として月精寺の庭園とともに知られている。〔船越昭生〕

こだいさんき【古第三紀】 地質時代のうちの新生代の第三紀を２分した前半の時代。中生代白亜紀のあと，新第三紀の前。約6,500万年前から約2,600万年前までの約3,900万年の期間を代表する。古第三紀palaeogene periodの名称は化石群が古い型のものであることを意味する。古いほうから暁新世・始新世・漸新世に３分される。古第三紀の地層の標準地域は，イギリス南東部・フランス北部・ベルギーである。中生代にまだ小形であった哺乳(ほにゅう)類は古第三紀になると徐々に大形化し，著しく進化し，陸上では爬虫(はちゅう)類に代わって栄えた。大形のユウコウチュウのヌンムリテス(カヘイセキ)はきわめて顕著な進化を遂げ，この時代を貨幣石時代nummulitic periodとよぶこともある。白亜紀までに繁栄したアンモナイト・イノセラムスや恐龍(きょうりゅう)類は古第三紀にまったく姿を消していた。動物界の変遷が中生代・新生代間に大きかったのに対して，植物では白亜紀後半に出現したものが多く，この時代には被子植物が優勢である。気候は全般的に温暖であった。古第三紀になるとアルプスやヒマラヤでは隆起・褶曲(しゅうきょく)が著しくなりはじめ，後期にヨーロッパで激しい地殻(ちかく)変動(ピレネー変動)が起こり，石炭紀についで重要な炭田が形成された。北アメリカ西部では白亜紀末から古第三紀初期にかけて激しい地殻変動(ララミード変動)があった。〔田中啓策〕

ごだいじっこく【五代十国】 中国，唐の滅亡(907)から宋(そう)の建国(960)に至る大分裂時代に興亡した五つの華北王朝と十の地方政権をいう。この半世紀は唐から宋への変革期にあたり，中国史上における意義は重要である。五代とは，河南・河北を支配した後梁(こうりょう)・後唐・後晋(こうしん)・後漢・後周の中原王朝をさし，十国とは呉

(江蘇(こうそ)・安徽(あんき))・前蜀(ぜんしょく)(四川)・後蜀(四川)・呉越(江蘇・浙江(せっこう))・南唐(江蘇・安徽・江西)・楚(そ)(湖南)・荊南(けいなん)(湖北)・南漢(広南)・閩(びん)(福建)・北漢(山西)をいう。中原では目まぐるしく王朝が交替し，異民族の干渉もあって戦乱が絶えなかったが，十国では富国強兵・産業開発が行なわれ，宋の統一への基盤がつくられた。この時代の主権者は唐までの貴族に代わり，武人・異民族・土豪などで，その下で次代の新しい支配階級が勢力をつちかっていた。〔梅原　郁〕

こだいしゃかい【古代社会】 社会をその発展段階について時代区分した名称。原始社会と中世社会の中間に位置する。単に古い時代の社会という意味ではなく，西洋・東洋を通じてあらゆる歴史社会に合致するような概念を求めようとした場合，原始社会が無階級社会・中世社会が農奴制社会・近世社会が市民社会であるのに対して，古代社会は奴隷*制社会とする概念がふつうあてられている。しかし西洋と東洋とでは，概念としての奴隷の性質に大きな相違があり，一般にローマ法*の観念でよばれる奴隷制をもってして，東洋の古代社会を奴隷制社会とすることはできない。ローマ法では，奴隷は〈生きた労働機械〉であり，その所有者から人格を本来的に否認され，生産物のいっさいを取り上げられ，家族の形成も認められない。このような労働奴隷を直接的生産者として社会的生産のおもなにない手としたのがギリシア・ローマの古典社会である。それに比べてオリエントを含め古い時代の東洋では，家父長的な家内奴隷は存在していたが，社会的生産のおもなにない手とみるべきは国家に直属する隷属農民か，大土地所有者に隷属する小作農民であった。マルクスの理論のように，これらの農民をことごとく〈総体的奴隷〉とみることで，東洋の古い時代の社会を奴隷制社会とすることはできるが，この見解は多分に思想的である。つまり古典古代の奴隷制社会を基礎にして世界史的に古代社会の普遍的概念を求めようとすることは，現代史学の水準では困難である。それで名称としての古代社会は，普遍的で明確な概念を将来における史学の発達にゆだねながら，便宜上の用語として一般的に使われている。日本史では，邪馬台(やまたい)国*の出現のころから，12世紀に武家政権が成立するまえまでの社会を普通古代社会としている。それも一般的な使用であって，古代社会に比べて明確な概念化が進んでいる原始社会の下限と，中世社会の上限を境界にして行なわれている時代設定といえよう。この古代社会とされている時期の社会的本質を洞察(どうさつ)し，解明しようとして多くの精細な学説が展開されている。〔高崎徳次〕

ごだいともあつ【五代友厚】(1835～1885) 政商。薩摩(さつま)藩出身。1857年(安政4)23歳のとき長崎でオランダ海軍士官から航海・砲術などを学び，のち上海(シャンハイ)でドイツ汽船を購入，これを藩船とした。1863年(文久3)薩英戦争で英艦に捕えられたが脱走，1865年(慶応1)藩命で14名の留学生を率いてイギリスに留学した。維新後は参与職外国事務掛となり，造幣寮を設置，為替(かわせ)・通商両会社を設立，1869年(明治2)退官して鉱山経営をはじめ，大阪株式取引所・東京馬車鉄道会社などを創立し，おもに大阪の商工業界の発展に尽くした。〔岸野淳子〕

こたいねんりょう【固体燃料】 常温で固体の燃料。気体燃料・液体燃料に対比される。固体燃料は他の燃料に比べて燃焼したときの燃えかす(灰分)が多く，パイプ輸送ができない。また，値段が高いので他の燃料に比べると重要性がやや減少する傾向にあるが，製鉄用コークスなどはまだその重要性は減少していない。おもなものは，石炭・コークス・まき・木炭，油脂から製造される固体脂肪酸などである。

こだいは・きんだいはろんそう【古代派・近代派論争】 ⇨新旧論争

こたいはっせい【個体発生】 生物個体の発生。生物は，受精卵または単為発生卵，無性生殖による胞子・芽などを出発点として発生する。この際，形態はもちろん，機能・構成物質などが互いに関連をもちつつ変化するので，組織や器官の発生をそれぞれ組織形成・器官形成という。発生の初期には運命の可能性が広い発生能をもっているが，発生が進むにつれてそれは限定されていく。なお，個体発生に対して，ある生物種族の歴史を系統発生*という。

こたいぶつりがく【固体物理学】 固体の性質を原子論の観点から解明していく物理学。固体論ともいい，物性論の主要な分野である。一定の形と大きさをもち，かなりの大きさの力を受けてもわずかしか変形せず，力を取り去ればもとの形にもどる物体が固体であるが，原子・分子が多数集まって規則的な周期構造をもつような結晶性の固体が固体論の主要な対象で，ゴム・プラスチックのような高分子物質やガラスなど非結晶性の物質(結晶性のものと違って明確な融解点をもたず，温度が上がるにつれて連続的に柔らかくなっていく)はふつう固体論の対象にはされない。固体論で問題となる物質の種類も現象の種類も多岐にわたり，いちいち数えあげることはできないが，固体には金属・半導体・イオン結晶・分子性結晶など各種の形態が存在し，それらの電気的・磁気的・熱学的・光学的・力学的性質などが問題となる。塑性や，電気・熱の伝導性などのように，結晶の周期性のごくわずかな乱れが主要な役割を演じている性質(構造敏感な性質)もある。固体論の理論的基礎となるのは量子力学・電磁気学・統計力学・熱力学などである。通信・コンピューターなどにみられるエレクトロニクスの分野にも，固体物理学の成果が盛んに取り入れられつつある。〔中野藤生〕

こだいぶんめい【古代文明】 ⇨38ページ

ごだいへいきしらいしばなし【碁太平記白石噺】 義太夫節(ぎだゆうぶし)の曲名。作者は紀上太郎(きのじょうたろう)・容楊黛(ようようたい)・烏亭焉馬(うていえんば)。初演は1780年(安永9)で，題材は由井正雪の乱と仙台(せんだい)であった姉妹のかたき討ちをまとめたもの。全11段のうち，よく上演されるのは7段目の切りの〈新吉原(しんよしわら)揚屋の段〉で，ここですでに吉原に売られて太夫になっていた姉と奥州から出てきた妹とが対面する。妹にいなかのことばでしゃべらせる効果がおもしろいほか，珍しく江戸でつくられ江戸を題材にしたものだけに，江戸ふうの音楽に色づけされている。〔徳丸吉彦〕

こたいへんい【個体変異】 個体間にみられる変異。遺伝的変異と環境変異(彷徨(ほうこう)変異)に大別される。遺伝的変異が進化の重要な素材であることは古くダーウィンの指摘したとおりである。親子間・兄弟姉妹間の遺伝的差異の蓄積が，品種や種の間にまで達すると考えられている。➔変異

こだいもうそう【誇大妄想】 ⇨妄想

こだいら【小平(市)】 東京都中西部，武蔵野(むさしの)台地中央部に位置する市。江戸時代中期以来，玉川上水からの分水によって新田集落が開け，第2次世界大戦以降，東京の衛星住宅都市の一つとなって発展した。1962年(昭和37)市制施行。人口14万8,000。1965～1970年の人口増加率は30.4%。産業三大別人口比は1：36：63。明治時代には養蚕地帯であったが，昭和以降近郊野菜の栽培が主産業となった。大正末期以降は学園都市として発展し，一橋大学分校・津田塾(じゅく)大学，その他の学校や研究施設などが増加した。一方，ブリヂストンタイヤ東京工場・日立製作所武蔵工場をはじめとする100余の工場が新設されて，近代工業都市化が進んでいる。西武鉄道の新宿線・国分寺線・多摩湖線に沿い，北西部には東村山市にかけて都営の小平霊園がある。農村部は，道路に沿ったたんざく形の地割りに屋敷・分水路・耕地・雑木林が規則的に並び，かつての武蔵野新田のおもかげを残している。

ごだいりきこいのふうじめ【五大力恋緘】 歌舞伎(かぶき)脚本。世話物。三幕。初世並木五瓶*(ごへい)の代表作。1794年(寛政6)京都西の芝居初演。薩摩(さつま)藩の早田八右衛門(やえもん)が大阪曾根崎(そねざき)桜風呂(さくらぶろ)の菊野らを切り殺したいわゆる北の新地5人ぎり事件を脚色した作。〈あいそづかし〉から〈殺し〉へと展開する〈縁切り物〉の典型的な構成による。勝間源五兵衛が三味線(しゃみせん)の裏に書いた〈五大力〉の誓言が，〈三

五大切〉と書き変えられているのを見て，恋がたき笹野三五兵衛（ささのさんごべえ）に菊野が心変わりをしたと信じこみ，菊野を殺害する趣向が題名となる。同じ作者の《略三五大切》(菊野が小万と名が変わる)や4世鶴屋（つるや）南北の《盟三五大切（かみかけてさんごたいせつ）》はこの作の書き換えである。〔服部幸雄〕

ごだいりきぼさつ【五大力菩薩】密教で信仰される忿怒（ふんぬ）形の五菩薩。五大力尊ともいう。菩薩名は経典により多少異なっているが，三宝を護持する国王を守り，その国と民衆とを守護して利益を授けるといわれる。民衆を教化する場合，妙法を説く〈正法輪身（しょうぼうりんじん）〉と邪悪を降伏（ごうぶく）する〈教令（きょうりょう）輪身〉とに変現する。

ごたいろう【五大老】豊臣秀吉（とよとみひでよし）の晩年に設置された職名。大年寄，または五奉行（ごぶぎょう）を入れて十人衆ともいわれた。設置年代は不明であるが，朝鮮出兵のため内外の政務が多事となったため，秀吉の晩年に，重要政務を合議・決定するために置かれ，庶政を担当していた五奉行の政治顧問となった。はじめ，徳川家康（いえやす）・前田利家（としいえ）・毛利輝元（てるもと）・小早川隆景（たかかげ）・宇喜多秀家が任ぜられたが，1597年(慶長2)隆景が没したため，上杉景勝（うえすぎかげかつ）が補充された。1598年，秀吉は死するにあたりその遺言として，朝鮮出兵の処理と遺子秀頼（ひでより）の後事を五大老に託した。その死後，家康は大阪城中にあって政務をとり，利家は秀頼の養育にあたり，重要政務は五大老の合議によることにした。しかし家康の勢力は特に優越していたため，専断の行為が多く，1599年利家が没すると五大老間の均衡が破れて，政情が安定を欠いた。その結果，1600年関ヶ原の役において家康と輝元・秀家・景勝が対決するに至った。〔高崎徳次〕

こたいロケット【固体ロケット】⇨ロケット

こたけやしろう【古武弥四郎】(1879～1968) 生化学者。岡山県に生まれ，大阪大学医学部の前身である大阪医学校を卒業。1907年以後母校の医化学教室にあって研究に従い，日本の生化学の指導者でもあった。特にキヌレニンの発見をはじめとするトリプトファン代謝の研究は有名である。

ゴータこうりょう【ゴータ綱領】1875年，ドイツの社会主義運動の2派であるアイゼナハ派とラッサール派がゴータ市で合同大会を開き，ドイツ社会主義労働党を結成した際，採択された綱領。自由な社会主義社会の実現をめざし，その第一歩として国家の保護を受けた生産協同組合の設立を要求し，さらに具体的に民主的改革と社会政策の実施を主張した。マルクスが《ゴータ綱領批判》でラッサール主義との妥協を非難しているように，この綱領は生産協同組合の設立など，ラッサールの影響を強く残しているが，これによって同党の勢力は急激に拡大された。なお，この綱領は1891年，エルフルト綱領に替えられるまで党の指針となった。〔松 俊夫〕

こだち【小裁ち】生後3歳くらいまでが着る和服の裁ち方。一つ身・三つ身をいう。一つ身は並み幅(35cm)一幅を左右の後ろ身ごろとする裁ち方で，背縫いがない。うぶ着から2歳まで着る大きさ。三つ身は並み幅の半幅を前幅とする点は一つ身と同じで，後ろ身幅は少し広いが，おくみ幅は狭い。片面物では裁ち方にむだが出，全体の幅が一つ身と大差なく，3歳児だけが着る大きさなのですたれ，四つ身に変わる傾向にある。

こたつ【炬燵】火燵とも書く。冬季，下半身を暖めるため和室に設備する家庭暖房用具の一。室町期の文献にはすでに火榻（かとう）の字で見られ，やがて火榻の〈榻〉が宋（そう）音に基づいて〈たつ〉となり，こたつの語が生まれ，室町期の禅家から広まった。当時はいろりに低いやぐらを設けたこたつであったが，江戸時代寛永(1624～1643)になって現在のやぐらの高さのものになり，高ごたつとよばれた。いろりにやぐらを置く掘りごたつ(腰掛けごたつ)が明治後期から昭和にかけて普及したが，やがて都市を中心に土製の火入れを用い，行火同様に自由に移動できる簡易な置きごたつが流行しはじめた。なお1957年(昭和32)以後は，電熱源を装置した電気ごたつが出現し，全国的に用いられている。〔合田 濤〕

コダック ⇨イーストマン-コダック

こたつだこ ⇨大理石様皮斑（ひはん）

ゴダバリ(川)［Godavari］インド，デカン高原中央部を横断する川で全長約1,450km。西ゴーツ山脈に発し，東南東に流れてベンガル湾にはいる。河口付近の三角州は灌漑網（かんがいもう）が発達し農業が盛んで，中・上流部はワタ栽培の中心地である。ヒンズー教の聖河の一つでもある。

こだま【谺】音が障害物にあたって，はねかえって再び聞こえてくる現象。山や谷で起こる反響現象として知られ，古くわが国では山の霊魂の発する音とされ，山の男という意味で山彦（やまびこ）とよばれる。このような反響現象は屋外で建物からの音の反射として現われることもあり，さらに大きな室の内部でも聞かれることがある。反射音は，直接聞かれる音と約0.05秒以上離れると分離して聞こえるので，音声の聴取のじゃまになる。なお，日光東照宮本地堂の鳴き龍（りゅう）は，天井と床の間の反響現象である。〔池谷和夫〕

こだまかがい【児玉花外】(1874～1943) 詩人。山口県の生まれ。本名伝八。同志社・札幌（さっぽろ）農学校・東京専門学校(早稲田（わせだ）大学の前身)を中退，詩作を始めた。1902年(明治35)《評論之評論》の記者となり，翌年に刊行した《社会主義詩集》は発禁処分を受けたが，次いで《花外詩集》を刊行。1905年には白柳秀湖らの社会主義文学誌《火鞭（かべん）》に発起人として加わった。訳詩集《バイロン詩集》がある。

こだまげんたろう【児玉源太郎】(1852～1906) 陸軍軍人。徳山藩出身。戊辰（ぼしん）戦争に出征，明治維新後陸軍にはいり，佐賀の乱・神風連の乱・西南戦争と歴戦。1885年(明治18)参謀本部第一局長として，陸軍の近代的改革の中心となった。日清（にっしん）戦争では大本営留守参謀長となり，1898年台湾総督，1900年から伊藤（いとう）・桂（かつら）内閣の陸相となり，内相・文相も兼任。日露戦争には大将に進み，満州軍総参謀長として戦地で作戦の総指揮をとった。1906年参謀総長となり，南満州鉄道株式会社創立委員長となったが，急逝（きゅうせい）。伯爵。〔岸野淳子〕

ゴダール［Jean-Luc Godard］(1930～) スイス系のフランスの映画監督。学生時代から映画にひかれ，批評家・短編作家を経て1959年に最初の長編《勝手にしやがれ》を発表。その興行的成功で一躍ヌーベル-バーグの旗手となる。以後《女と男のいる舗道》《気狂（きちがい）ピエロ》《ウイークエンド》など，一作ごとに映画の概念を一新している。1968年の五月革命以来，階級意識と第三世界への傾斜を明確にうちだし，急進的なディスカッション-ドラマづくりに専念している。〔蓮実重彦〕

コータン ⇨ホータン

ごだんぎぬた【五段砧】箏曲（そうきょく）の曲名。江戸末期の光崎検校（みつざきけんぎょう）の作曲。完成するまでに5年かかったといわれる。高音と低音の2面の箏のための曲で，二つのパートが対位法的な複雑さでからみ合う。砧の音にヒントを得てつくられた，いわゆる〈砧もの〉の一つである。日本音楽では珍しい純器楽的な要素が強いが，《三段獅子（じし）》からとった短い前唄（まえうた）がついている。各段の拍数は一致しない。〔山口 修〕

五大力菩薩

方位	五大力菩薩名	正法輪身	教令輪身
中央	金剛吼菩薩	転法輪菩薩	不動明王
東方	無畏十力吼菩薩	普賢菩薩	降三世明王
南方	龍王吼菩薩	虚空蔵菩薩	軍荼利明王
西方	無量力吼菩薩	文殊師利菩薩	大威徳明王
北方	雷電吼菩薩	摧伏一切魔怨菩薩	金剛夜叉明王

古代文明

〔文明発生の風土的条件〕世界史の上で文明の発生地は，ユーラシア大陸ではナイル川流域のエジプト，チグリス川・ユーフラテス川流域のメソポタミア，インダス川流域の北西インド，黄河流域の中国の四つ，アメリカ大陸ではペルーおよびメキシコ高原・ユカタン半島を中心とする二つを数える。このうちアメリカ大陸の文明は他の文明圏とほとんど孤立し，熱帯に近い乾燥高原地帯で，それぞれの地方色を保ちながらも，トウモロコシの栽培を基盤とするかなり共通な性格をもった農村文化の形成から発生した。ユーラシア大陸でも最古の村落遺跡はおよそBC5000年代の北エジプト・パレスチナ・シリア・北イラクからイランの一部に延びる三日月状の地帯から発見されている。この地帯は古代オリエント文明の基盤である〈肥沃(ひよく)な三日月地帯〉の外縁にあたり，大河の氾濫(はんらん)地帯から離れた高地や山腹の草原で，川の流れを控え，冬季には降雨をみる場所を選んだ場合が多く，原始的な植物の栽培や家畜の放牧にとって好適な環境であった。

しかし，上記の原始村落の立地条件は，一定の生産力と人口増加の均衡をいつまでも保持させない。農業と牧畜の発展によって生活資料が豊富に生産されると，人口はそれだけ増大し，増大した人々はやがて大河の流域地帯に進出して共同して灌漑(かんがい)用の水利工事を行ない，この共同労働の指導や調整にあたる支配者と支配層が生じ，まずチグリス川・ユーフラテス川，次いでナイル川とインダス川，さらに黄河の各流域に古代国家と古代文明の中心が成立した。これらの大河は，ただ存在することによってのみ人類に恩恵を与えたのではない。その定期的氾濫ののちの沃土の堆積(たいせき)と，適当な治水・灌漑が最低の条件として備えられねばならなかった。エジプトはギリシアの歴史家ヘロドトス*が訪れるまえから〈ナイルの賜物(たまもの)〉であり，古代エジプト人は砂漠(さばく)地帯を〈赤い土地〉として恐れ，彼らの居住地を〈黒い土地〉とよんで愛着を示した。しかし，アスワンに近代的なダムができるまでは，ときに過度な氾濫は破壊的な洪水(こうずい)となって運河・堤防を決壊して集落に侵入し，人畜に被害を与え，また増水の不足は旱魃(かんばつ)と飢饉(ききん)をもたらした。チグリス川・ユーフラテス川の氾濫が特に破壊的に作用したことは，数々の洪水伝説によって裏書きされ，黄河についても禹(う)の治水伝説によって推定される。さらにこれらの大河流域の農耕社会の周辺に，内陸乾燥地帯の遊牧商業社会が形成され，古代文明は両者の対応と緊張，すなわち交易と戦争によって展開される。

〔古代都市文明の成立〕BC3500年ごろから，従来の自給自足的な村落に代わって，交易経済の上に立った都市が建設され，私有財産と階級の発生に基づく権力支配機構としての都市国家が形成された。すなわち農業特に穀物生産は，単に共同体の成員の生活資料を供給するばかりでなく，蓄積された余剰生産物は王侯・祭司・官僚・軍人など，都市国家の権力機構を掌握し，直接生産に従事しないで豊かな生活を営む相当数の支配層を養うとともに，商業的・軍事的活動によって他の都市国家または遊牧社会との交渉をもたらし，平和的な物資の交流を起こさせた。また，戦争によって征服されて捕虜となった人々は殺されず，奴隷として都市国家社会の機構内に編入され，直接生産または支配層の奴婢(ぬひ)として使役されるようになる。こうして社会組織は，血縁的または血縁的擬制を存続しながらも，しだいに地縁的なものに移っていき，古代奴隷制に基づく階級構成が推進される。

このような社会の形成を促す生産力と軍事力の新しい技術的裏づけは，金属器，特に銅とスズの合金である青銅器の発明である。この貴重な利器は，はじめ日常生活上の農耕具としてよりは祭器や武器として用いられ，青銅製の兵器の威力はこれを所有しない民に対して絶大であり，脅威的であった。

〔王朝の成立とその社会・文化の特色〕このような都市国家では，支配者がその権力と財産に基づいて支配権の権威と世襲を主張し，ここに王朝が成立する。その権威はすぐれて神権的なものである。専制的な君主はしばしば最高の神官であり，現人神(あらひとがみ)でさえある。この段階において農業神と国家守護神との結合は顕著となり，その祭儀をつかさどる神官層の社会における優越的地位と指導的役割も確立する。神官は農業に関係のある学問，特に天文・暦法・数学などの知識の修得者であり，呪術(じゅじゅつ)と結合した医術もおおむね彼らのつかさどるところであった。さらに，古代文明の最も基本的な要素を占める文字の発明もおそらくは神官層に由来し，少なくとも文字の修得と使用は神官と書記(貴族官僚)に限られ，文盲の民衆とは大きな格差があった。民衆の貧しい生活水準をはるかにしのぐ君主・貴族・神官の豪奢(ごうしゃ)な生活は，宮殿・神殿を中心としてはなやかに繰り広げられ，それは彼らの来世の生活である墳墓にまで延長された。

この社会においては，もはや素朴(そぼく)な農工の生活必需品のみでなく，これらの支配層のための奢侈品(しゃしひん)(貴金属・宝石類)の需要を生じ，広域貿易と手工業，特に製陶・金工などの発達を促した。それはまた，ユーラシア内陸の草原地帯の遊牧商業民(騎馬民族)との新しい交渉をもたらし，交易と戦争により，彼らを通じて各地域の都市文明や，彼ら自身の騎馬文明(たとえば動物文様)が媒介され，伝播(でんぱ)された。また彼らのある者は都市文明に誘引されて，その地域に侵入して略奪したり，さらにその一部を征服して定着したりした。このような行動は単に破壊的であったのではなく，かえって都市文明の停滞を救い，新しい活力を注入した場合が少なくなかった。

以上にあげたような特徴は古代文明のすべてが保持したわけではないが，その大部分を共有しており，神権的・搾取的社会に共通な保守的・封鎖的・固定的性格を等しくしていた。しかし同時に，古代文明は各地域とも画一的なものではなく，それぞれが明確な個性と独特な地方色を示すようになった。

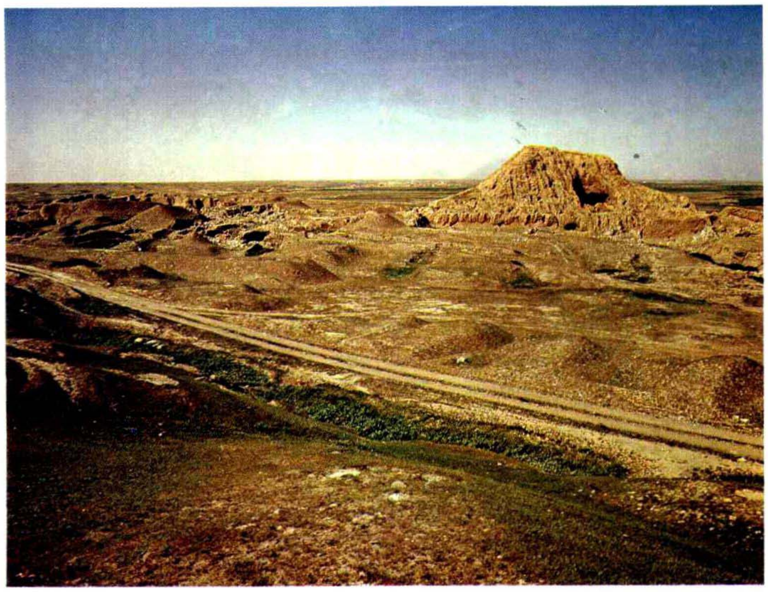
〔メソポタミア文明〕世界最古の都市国家と都市文明の状態を，最もよく遺跡・遺物によってたどることのできるのはメソポタミアである。チグリス・ユーフラテスの二つの川がペルシア湾に注ぐ河口に近いシュメール*の地に集まった幾層かの村落遺跡の上に，ウルク・エリドゥ・ラガシュ・ウルなどの都市の遺跡が，最初の村落遺跡より10数メートル上の層に現われる。このシュメールの地は元来，二つの川の運ぶ泥土(でいど)によって新たにできた沼沢地で，ここに移住した人々が運河や貯水池をつくり，人工の台地の上に日乾れんがの城壁を巡らして多くの都市国家を建設した。シュメール人の都市にはそれぞれ守護神があり，神殿と宮殿が壮麗さを競い，そのまわりには2階または3階建ての民家が密集していた。市外は農耕地で，その間には多くの運河が美しく流れ，大麦・小麦・ゴマ・豆類などの穀物と，この地方の特産物であるナツメヤシが豊かに生育していた。ナツメヤシの実は粉食ともなるが，それからとれる酒は美味で，幹は建築材料に用いられた。この農耕は，全市民の総力をあげての協力による大規模な治水・灌漑事業によって獲得されたもので，都市の住民は市の守護神の祭祀(さいし)を中心とする緊密な共同体の中に編成されていた。共同体の各成員に対する国家の規制力はきわめて強力であり，徴税や灌漑工事への労力の動員は厳重に行なわれた。こうして共同体の首長は，しだいに部族または部族連合の首長の地位を越えて専制君主に近づいた。彼らはパテシまたはルガルとよばれ，守護神の地上の代理者と考えられ，戦時には最高軍司令官となった。

君主権の支柱となったのは文武の職能に分かれた貴族官僚層であった。平時の軍隊は少数の近衛兵(このえへい)のみであったが，戦時には自由民を貧富の差に従って戦車兵・

重装兵・軽装兵として召集した。しかしこの自由民は，ギリシアのポリスの場合における市民とは異なり，土地・人民は原理的に神の所有と考えられ，その地上の代理者としての王がこれを支配し，原則的には私有地は存在せず，共同体の成員には神から貸し与えられた小作地が割り当てられた。社会存立の基礎である農耕は，氾濫や日照の程度，暴風の有無など，人力の及ばない自然(神)の力によって左右されたから，この神にささげ物をして豊作を祈ることが当時の社会の最も重要な行事であった。神官は天体の運行と人間界の事象との関連を占星術によって知り，この〈天に記された文字〉を読み取り，神の意志を人間に伝える代言者として社会を指導した。神殿は広大な神殿領を所有したほか，商工業や銀行業を営んで利殖に努めた。その豊かな経済力が統一国家の支配下にあっても衰えなかったことは，多くの収支計算書や記録などによって立証される。シュメールの神殿に特徴的なジッグラト(聖塔)は泥土と日乾れんがで築かれた高い人工の山で，頂上には神殿が設けられ，神が天から降りてくる階段が地上へとつけられた。このような大規模な建造物は，それらの工事にばくだいな労働力が一定の計画に基づいて動員・配分されたことを示している。シュメール人の文明に対する貢献は，さらに楔形(くさびがた)文字*の発明と時間や度量衡の単位としての12(または60)進法がある。これらはメソポタミアの基本的文化となり，さらに広くオリエント世界に伝播するに至った。

シュメール人に少し遅れてセム系のアッカド*人が来住し，**その王サルゴン1世はBC2400年ごろ，ペルシア湾から地中海に及ぶ統一国家を建設し，〈四界の王〉と称した。**しかしこの支配は永続せず，諸民族抗争ののちにBC1830年ごろ，セム系のアムルー人が侵入してバビロン第1王朝を創建した。ハンムラビはメソポタミアを統一してバビロン*を首都とし，中央集権の体制を確立した。各都市国家の独立は失われ，王の任命する総督が置かれ，多くの地方神もバビロンの守護神マルドゥクに従属した。しかしその宗教は流動的な社会の性格を反映して現世的であるとともに宿命的気分が強く，来世信仰を欠いていた。また，ひとしくシュメールに原型をもつ法典もこの時代に〈ハンムラビ法典*〉として整備されるとともに，身分制の応報刑罰規定などに特色を示した。

【エジプト文明】エジプトでは，村落から都市への発展を考古学上の住居跡からたどることはできないが，後代ギリシア人がノモスと名づけた都市国家がナイル河谷(上エジプト)に20，デルタ地帯(下エジプト)に22あったと伝えられる。ナイル川流域のパピルスの繁茂した沼沢地と定期的な氾濫

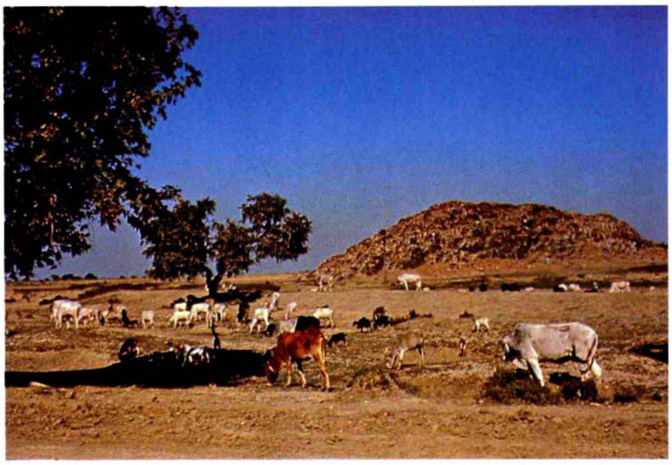


アッシュールのジッグラト チグリス川右岸にあるアッシュールはシュメール・アッシリアの都市国家として栄えた。ジッグラトはシャルマネセル3世の再建になり，国家神アッシュールを祭る

による沃土堆積の自然条件は，チグリス川・ユーフラテス川流域に近似しており，ここに治水・灌漑のために結合された住民が，それぞれのトーテム動物を共通の祖先とする信仰に基づいて，自主的な共同体を成立させた。さらに一つのナイル川が貫流するエジプトでは，メソポタミアの場合よりも政治的統一が順調に進み，ノモスはまず上エジプトと下エジプトの南北2王国にまとまったが，やがてBC2850年ごろ，上エジプトの王メネス(ナルメル)が統一王国を建設した。シュメール人の技術や知識の影響も王国統一以前から受けていた。しかし王国統一後のエジプトは，メソポタミアよりもいっそう強力な王権を築き上げた。ファラオ*(神王)は単に神の地上の代理ではなくて生ける神であり，その死後も不滅の生命を保って復活すると考えられたが，これはすべてエジプト人の連続的な来世観を前提としている。**古王国の第3～第4王朝(BC2650ごろ～BC2480ごろ)に首都メンフィ**ス近くのギゼーに建築された三大ピラミッド*は，王の墳墓としてエジプトの最大の象徴となっており，死体をミイラ*として保存する技術も進み，来世への手引きとしての《死者の書》も象形文字でしるされた。また第5王朝(BC2480ごろ～BC2350ごろ)以後，生命の神プタハの信仰とともに復活の神オシリス*の信仰が高まった。しかし第6王朝(BC2350ごろ～BC2170ごろ)の末期には王権は揺らぎ，政治の腐敗と弛緩(しかん)によって地方の高級官僚は中央の命を聞かず封建諸侯のようになり，古王国は解体し，第1中間期(BC2170ごろ～BC2052ごろ)には社会は混乱して下克上の風潮が著しくなった。

この分裂の中から再び統一の機運が起こり，中王国(BC2052ごろ～BC1778ごろ)が成立し，上エジプトのテーベ*に都を定め，その守護神である太陽神アモン*の礼拝が栄える。デルタ平野のピラミッドはすたれて，ナイル河谷の王家の谷*に岩窟(がんくつ)墳墓がつくられた。南方ヌビアはエジプト領となり，ナイル川と紅海を結ぶ運河が掘られ，シリアやエーゲ文化圏との交易も盛んになった。文学も栄え，《シヌヘの物語》《難破した水夫の物語》のような紀行冒険文学や《ケティの教訓》などの教訓の書も現われ，これまでの宗教文学に対して俗文学への関心が著しくなった。造形美術でも，古王国時代の厳格主義的・理想主義的な様式に対して，形式と自然を調和しようとする努力がなされたのは，この時代の新しい生活感情を反映するものであろう。しかし，中王国末期には第2中間期(BC1778ごろ～BC1570ごろ)の分裂と衰退に陥り，これに乗じてアジアからヒクソス*とよばれるセム系の諸民族よりなる遊牧民がウマと戦車をもって侵入し，エジプト北半部を約1世紀にわたって占領し，エジプトは最初の外人支配を受けることになる。しかしテーベに興った第17王朝(BC1610ごろ～BC1570ごろ)はBC1570年ごろヒクソスを国外に放逐しただけでなくパレスチナまで追撃し，いままでナイル流域にとどまっていたエジプトもアジアに利害と交渉をもつようになる。**すなわち新王国または帝国時代(BC1570ごろ～BC1085ごろ)の到来である。**➔エジプト

【インダス文明】メソポタミアやエジプトと並んで，インダス川の流域には，河口から上流の五つの支流を含むパンジャブ地方にわたって，BC2500年ごろから青銅器と文字とを用いる都市文明が生まれた。パンジャブのハラッパ*や中流域のモヘンジョ-ダロ*が代表的な遺跡である。インダス文明の都市はシュメールの諸都市とほぼ同じ広さであるが，整然とした建設計画のもとに建



ラージャグリハ(王舎城)跡　ビハール州南部ラージギル近郊にあり，ブッダ在世のころ，マガダ王国の首都であった

設されたという著しい特色をもっている。家屋はほとんどすべて窯(かま)焼きれんがでつくられ，住居と市街の下水設備が整っている。インダス都市の住民は，インダス川流域の沃土を耕して，小麦・大麦・ワタ，それにおそらくはイネをも植え，ウシや背中に大きなこぶのあるコブウシや家禽(かきん)などを飼った。彼らは羊毛やもめんの衣服を着，首輪や耳輪・腰帯・胸飾りなどで豊かに肢体(したい)を飾り，その装身具には金・銀・メノウ・水晶・トルコ石・瑠璃(るり)・碧玉(へきぎょく)などの貴金属や宝石類が用いられ，南インドやビルマ・イラン方面からの輸入品も少なくない。メソポタミアとの交渉もあり，インダス式の印章がアッカドのサルゴン時代以後に知られている。

しかしインダス諸都市の政治や社会についてはほとんどわからない。秩序だった都市計画，度量衡の統一などは，確かにある程度の政治組織の存在を予測させる。文字も一種の象形文字を用いていたが，今日残っているのはウシ・サイ・ゾウなどの姿を浮き彫りした２～３cm平方の滑石製の印章の片すみに彫った短いことばにすぎず，しかもまだ解読されていない。この印章も封印のためでなく，おそらく守り札のようなものらしい。その画面も，粘土製の地母神像などとともに，多産豊饒(ほうじょう)を祈る信仰を表わしており，モヘンジョ-ダロ出土の印章に刻まれた三面獣神など，のちのシバ神の祖型と思われる姿勢で表わされている。インダスの諸都市では，メソポタミアやエジプトにみられるような壮大な神殿・王宮・墳墓など，国王・神官その他の支配層への権力と富の集中を表明するものは見いだせず，ただハラッパで発掘された縦45.7ｍに横17ｍの大穀物倉，モヘンジョ-ダロの市街の１ブロックを占めた大浴場が注目されるにすぎない。しかし近年の発掘調査によって，モヘンジョ-ダロやハラッパの盛期に構築された城塞(じょうさい)がいずれも同じ形状で，一般市街地を見おろす位置を占めていることは，城塞を中心とする統治が存在し，その統治者はメソポタミアやエジプトほど強大でないにしても，神権的な祭司王ではなかったかと推定される。モヘンジョ-ダロの大浴場は一般市民の沐浴(もくよく)のため，小浴場は神官用との推定が正しければ，やはりインダス都市の宗教的性格を指摘することができよう。市街地の家屋においても大小の差は明白であるから，階級社会の成立も認められる。インダス文明を残したのは，アーリア人がインドに侵入する以前の非アーリア人と考えられるが，それがドラビダ人かムンダ人かは判明しない。この文明はBC1500年ごろ侵入者によって滅ぼされたが，彼らは住民を虐殺し，市街を焼くと，そこに住み着かず退去した。この侵入者をアーリア人と断定することもまだできない。➜インダス文明

【殷周文明】オリエント文明・インダス文明より10数世紀遅れて，東アジアの黄河流域に別個の古代都市文明が興った。この流域にはしばしば大風が起こって黄色の砂塵(さじん)を巻き起こし，堆積して黄土地帯を形成した。黄土(➜レス)は空気や水分をよく浸透させ，豊かな養分を含んでいるので，農耕に最も適している。黄河は黄土の堆積を削って深い河谷をつくり，河流は谷を出るとゆるやかになり，土砂を沈殿させて広大平坦(へいたん)な沖積(ちゅうせき)平野(華北平原)をつくりだした。そして，はじめ仰韶(ぎょうしょう)遺跡などによって知られるような黄土段丘の上に発見され，彩陶・灰陶・黒陶などの文化を生み出した原始村落遺跡に続いて，新石器時代末期には青銅の武器が使用されはじめ，華北平原(中原)の各地に部族連合に基づく城塞都市が建設され，祭政一致の神権政治を行なう都市国家が成立した。

殷(いん)はこのような祭祀・軍事共同体である都市国家として興り，諸都市国家の連盟の盟主となったが，やがて華北の全平原に君臨する王となった。殷民族の原住民がどのような経路をたどって殷墟(いんきょ)に定着するに至ったかはまだ定説はないが，殷墟に都したのは殷代の後半期で，湯王より盤庚(ばんこう)に至る前半期には５回も遷都したといわれ，BC1300年ごろ盤庚が臣僚の強い反対をおしきって殷墟への遷都を敢行することによって王権が強化された。殷墟で発見された多くの宮殿や墳墓からは，祭器としての銅器をはじめとして青銅の武器，白陶・象牙(ぞうげ)・大理石・甲骨などが出土した。殷の社会においては，王が甲骨によって祖霊の神意を占い，それによって専制的に国政を行ない，王のもとに王族・貴族(神官・世俗貴族・被征服異民族の首長)がいて支配層を構成し，豪奢な都市生活を営んでいたが，一般の自由民は定着して農業に従事し，さらにその下に多数の奴隷がいて生産や家内の労役に服した。殷の文化は異質的・複合的な性格をもっている。殷墟から多数発見される銅器の原料である銅・スズなどの鉱石は，中原地方から採掘されたものだけでなく，貿易によった部分も少なくなかったと推定される。ウマに引かせた戦車によって車戦を行なう殷民族の風習は，明らかに北方草原地帯の騎馬民族から受けた影響であり，スキタイ式銅小刀や中国より西方に産出する玉の愛用なども北方文化的な要素に数えられる。これに対して，南海に産出する子安貝の貝貨や装飾品，ゾウの飼育や象牙製品，真珠・べっこうなどの使用は南方文化的な要素と考えられ，交換経済がかなりな段階にまで進展していたと考えられる。➜殷

殷に代わって中原を支配した周民族の原住地は，陝西(せんせい)省の渭水(いすい)の上流地方と伝えられる。元来遊牧民族であったらしいが，早くから殷王朝に入朝して属国となり，定住農耕生活を営み，やがて岐山のふもとの周原に移って都市を建設し，ついに武王に至って殷を滅ぼした。武王は鎬京(こうけい)に都を置き，陝西地方を直轄支配したが，武王の死後若年の成王を補佐した叔父(おじ)の周公は洛邑(らくゆう)を経営し，彼の指導のもとに新しい政治組織や社会制度が制定されて文明が開花したといわれる。しかし，周公の創始という長子相続制やいわゆる封建制度も，その萌芽(ほうが)は殷代末期に見いだせるので，周公はこれを継承・発展させたものと考えられる。また，その封建制度も，実質的には殷代の都市連盟の基礎の上に立つ王国体制を継承している。しかし，甲骨によって予定された神意をうかがい，これに基づいて政治を行なった殷王朝に対して，周公は天命は必ずしも一定不変ではなく，人間の徳行によってある程度まで左右しうるとなし，人間の道徳的自由を進めて宗教的権威から倫理的規範を独立させ，社会的慣習である礼*と結合させて礼の文化を創始した。これは，中国古代思

想史への大きな貢献であった。もちろん，祭政一致の神政政治は周代を通じてなお強く残存したが，西周後半期から祭祀と政治とを分離する傾向がしだいに著しくなり，春秋戦国時代*へと移行する。生産力も引き続き発展し，祖先を祭る宗廟(そうびょう)の祭器や武器，農業の用具としての青銅器の生産が増大し，またのちに《詩経》に収められる古代歌謡も発生した。殷周時代にはすでにメソポタミアの都市国家成立以来千数百年の歳月が経過し，バビロニア・アッシリアなどの強力な国家も成立し，イラン高原・南ロシアからシベリアや中国の辺境にわたる内陸アジアには遊牧商業民の往来があったので，オリエント文明の刺激が中国にまで達したことは認めてよいであろう。➔周

〔中央アメリカの古代文明〕アメリカ大陸への人類の移住は50,000年ほどまえで，まだ陸続きであったベーリング海峡とアリューシャン列島を通ってアジア大陸からやってきたものと考えられている。移住してきた種族は，モンゴロイドのほかにコーカソイドも混じっていたらしい。彼らはBC7000年代まで，石やり・石鏃(せきぞく)などを使ってマンモス・トナカイ・原生馬・野牛・ラクダ・アリクイなどの草食動物を狩猟して生活していた。ところがBC6000年代になると，アメリカ大陸の気候に大きな変化が起こり，大動物の多くが死滅したので，住民の生活は小動物の狩猟と漁労へと転換せざるをえなくなった。この間にメキシコ高原でトウモロコシ農耕が，アマゾン盆地ではキャッサバ農耕，カリブ海北岸からエクアドル海岸で土器，北ペルーで織物，中央アンデスのワヤガ川上流で神殿建築といったように，種々の発明がなされ，BC2000年代にはこのような発明のいくつかの組み合わせが始まり，文明の形成期にはいった。中央アメリカにおける都市文明の中心は，メキシコ南部からグアテマラにわたる高原地帯と，その西北のテワンテペクの地峡北部のメキシコ湾岸一帯に早くからつくられ，前者は現在でもその系統の子孫を残すマヤ族の手になるもので，後者は伝説的なオルメカ族の名が伝えられているにすぎない。

マヤ族は早くから建築や美術に洗練された感覚を示しているばかりでなく，一種の象形文字を発明したり，1年を365日で数える太陽暦をつくりだし，ゼロという数字をすでに発見するなど，天文や数学にかけてきわめて高い知識をもっていた。このマヤ文明はまず300年から600年にかけて，旧帝国の繁栄期を迎え，パレンケ・ティカル・コパン・ワシャクトゥンなどの宗教都市が栄え，さまざまな神殿が建てられた。しかし700年ごろからなんらかの理由で，しだいにユカタン半島の北部に移動し，11世紀ごろから新帝国によるマヤ文明の復興が看取され，チチェン-イッツァ・ウシュマル・マヤパンなどの都市が栄えたが，統合された国家は成立せず，これらの都市国家が併立した。マヤ族の日常生活は宗教によって規制されることが多く，さまざまな神々の中には天空と大地，昼と夜，善と悪といった相反する性格をもつものが多かった。また宇宙は大洪水によって死滅をくり返してきたという観念をもったが，これは後述するメキシコ高原の信仰の影響を受けたものと思われる。しかし13世紀になると，これらの都市の間に戦争が絶えず，文明も衰退におもむいて，16世紀にスペイン人に征服された。➔マヤ文明

マヤ旧文明と並行して，テワンテペク地峡付近のメキシコ湾岸，メキシコ高原，その東南のオアハカ盆地などにいくつかの都市文明が知られ，サポテカ文明・トトナカ文明などが知られている。特にメキシコ高原には現在のメキシコシチーの北方50kmに位置するテオチワカン*には太陽と月の大ピラミッドを中心に種々の神殿が立ち並び，7世紀になるとその宗教・建築様式は中央アメリカ全域に大きな影響を与えた。テオチワカン族の創造にかかる〈太陽のピラミッド〉は正方形の基底の一辺が219mもあって，底面積はエジプト最大のピラミッドに近い。トルテカ族はメキシコシチーの西北にトゥラの遺跡を残し，メキシコ高原ではこの時代にはじめて象形文字と暦が用いられ，10世紀後半はその黄金時代であった。トルテカの勢力が衰えたのち，北方からメキシコ高原に侵入して今日のメキシコシチーにあたるテノチティトランを中心に強大な国家を建設したのはアステカ族である。アステカ王国は6人の長老最高会議で選ばれた王を頂点に，貴族・神官・庶民・奴隷からなる社会を構成し，税制・司法組織も整っていた。首都テノチティトランには神殿・宮殿・水道・運河，さらに公園や公衆便所もあり，すぐれた土木技術を示した。天文学・暦法・数学は発達したが，その反面，金属器を十分活用することは知らなかった。アステカ族は不思議な宇宙観をもった。すなわち，すでに宇宙では四つの太陽が生滅し，それに対応する四つの時代は栄えて滅んだ。アステカ族は5番めの太陽の時代で，この太陽が死滅するとき彼らも滅びいく運命にあるとした。そこで太陽が滅びないためには，人間の血と心臓を犠牲としてささげ，太陽に活力を与えねばならないと堅く信じた。彼らは人身御供(ごくう)を得るために絶え間なく戦いを行なったため，周辺の国国と対立し，16世紀にコルテスに率いられたスペイン人が来攻したとき，これらの国国がスペインに味方する結果を招き，ウマと鉄をもつスペイン人に征服された。➔アステカ

〔アンデスの古代文明〕一方，南アメリカのペルーを中心とするアンデス山脈の高地と，それに接した太平洋岸では，同じくトウモロコシ農業の基礎の上に，BC1000年ごろからチャビン文化など，いくつかの巨石文化の中心が生まれた。アンデスの斜面ではジャガイモと家畜としてのラマが重要な資源であったが，これらは中央アメリカにはないものであった。また，ペルー海岸地方の社会が高度な灌漑技術をつくりだしたのも，中央アメリカでは主として天水に依存してトウモロコシをつくったのと対比される。BC300年ごろには，ペルー北海岸には巨大な神殿と都市，写実的な芸術，高度な工業技術を伴ったモチーカ文化が栄えた。中央アメリカでは神殿や宮殿の建築の大部分は石造であったが，モチーカでは日乾れんがでつくられた。モチーカの南にもナスカ文化が興り，すぐれた土器・織物・金属工芸を発展させた。さらにアンデス高原地帯では，チチカカ湖南岸のティアワナコを中心とする文化が9世紀ごろからしだいにペルー全土に広がり，巨石を用いた神殿建築や特徴のある土器・金属器をつくりだしたが，やがて数多くの都市を中心とする王国の中から，1100年ごろクスコを首都とするインカ王国が台頭し，15世紀になると北は今日のエクアドルから南はチリに至る南北に長大な地域に，多くの王国を征服・統合したインカ帝国が成立した。皇帝は最高神である太陽の化身とされ，そのもとに神官・貴族・平民の3階級があり，別に本来の奴隷ではないが，特殊な隷民が存在した。皇帝による支配体制を強化するために，クスコを中心として帝国内の各都市を結ぶ大道路網を完成し，快速の飛脚によってリレーされる駅伝制度を備えた。土地は厳密な計画に基づいて皇帝と王族，太陽の神殿，平民の共同体に分けられたが，その土地からの収益を得るだけで土地の私有は認められない。インカ文明はプレ-インカ期より青銅の製法を知り，染め模様の美しい綿織りや毛織りをつくり，道路・運河・橋梁(きょうりょう)・灌漑など大規模な土木工事にすぐれた技能を発揮したが，天文・暦数の知識は中央アメリカに及ばず，文字も数字を表わす結縄(けつじょう)文字を用いたにすぎなかった。➔インカ

中央アメリカの文明とアンデス文明とは，それぞれ独立して形成されたとはいえ，共通した農耕文化が存しており，二つの地域の間の交渉が認められるが，ユーラシア大陸からの文化刺激説(大西洋経路のエジプト文明，太平洋経路の中国文明，インド系東南アジア文明)は確証がない。米・麦・ウシ・ウマ・車・すき・鉄などのユーラシア文明の基本的要素が16世紀のスペイン人の

来攻まで知られなかったことは，アメリカ古代文明の大きな制約を物語るものであろう。

〔オリエント諸文明の交流とインド・中国の古典文明の成立〕以上展望した諸地域の文明は，おおむね都市国家の段階からしだいに全民族を統合する統一国家へと進展し，さらに多くの異民族を包含する帝国を形成する。文明もそれぞれの文明圏の個性を発揮するとともに，相互間の交流もしだいに盛んになり，ついに後代までの規範となる古典文明が樹立された。

エジプトは新王国時代にはいってアジアに関心をもち，第18王朝（BC1570ごろ～BC1345ごろ）のトトメス3世はメソポタミア北部にまで進出してこの地域の国家ミタンニ*と交戦した。のちにこれと講和を結んだトトメス4世はその王女を後宮に迎えたが，これは王統の純血を重んじたエジプトでははじめてのことであり，宮廷には国際主義と進歩主義の風潮が著しくなった。アメンヘテプ4世（イクナートン）はこのような傾向をさらに推進して太陽神アモン-ラーの信仰を廃してアトン*神を立て，宗教改革を断行して都をテーベから北方のアケト-アテン（テル-エル-アマルナ）に新たにつくった。しかしこの王のアトン神信仰もその死後すたれ，次王ツタンカーメンのときにはアモン信仰が復活し，都も旧都に帰った。この時代，エジプトはもはや孤立的存在ではなく，オリエント世界の国家体系の一環をなし，一体としてのオリエント文明がつくりだされ，芸術上でも国際交流が行なわれ，従来のエジプト芸術の定型を破った自由な写実主義的手法が導入され，いわゆるアマルナ芸術（→アマルナ時代）を生み出した。次の第19王朝（BC1345ごろ～1172）にはセティ1世とラーメス2世が，エジプトのアジアにおける勢力回復に努めたが，ヒッタイト軍とのカデシュの戦いは引き分けに終わり，ヒッタイト*と講和を結びアジアの権益を放棄した。他方ヌビアのエジプト化は進み，ラーメス2世はアブシンベルにみずからの巨像を彫った神殿を建立（こんりゅう）した。しかしエジプトの繁栄は次の第20王朝のラーメス3世のときをもって終わり，第21王朝以後は末期王朝となり，アモン神官・リビア人・ヌビア人の諸王朝（第22～第25王朝）が続き，BC671年にはアッシリアに滅ぼされた。やがてデルタ地帯のサイスに興ったプサメティクが独立し（第26王朝），ギリシア人を好遇して経済的復興を図るとともに，神官や民衆を手なずけるために復古政策をとり，すべて古王国時代を模範とし，芸術も復古的様式を示した。しかしBC525年イラン高原に興ったペルシアに征服され，その支配は約200年後，アレクサンドロス大王がエジプトに来攻するまで続いた。

ひるがえってメソポタミアを中心とするオリエント世界もバビロン第1王朝の滅亡後，カッシート人の侵入によって民族大移動の波におおわれ，また小アジアにはオリエント世界に鉄器文明を導入し，ハットゥシャシュ（ボガズキョイ）などに豊富な遺跡・遺物を残したインド-ヨーロッパ語族のヒッタイト人の王国や北メソポタミアのミタンニ王国の活動が顕著となった。紀元前12世紀になると，再び新しい民族移動の波が起こり，ヒッタイト王国やホメロスの叙事詩にうたわれたイリオン（トロヤ）第7A市は滅亡し，海の民，すなわちエーゲ海域からの外民族はエジプトからシリアにわたる海岸地帯を荒らし，その一部フィリスティア（ペリシテ）人はシリア南部の海岸地方を占拠し，この地にパレスチナという名称を与えた。これと前後してアラビアまたはシリア砂漠方面から遊牧民が沃土帯に進出し，イスラエル人はパレスチナ内陸のカナンに，アラム人とフェニキア人はそれぞれシリアの内陸と海岸に侵入した。アラム人は隊商を組織して内陸交易に活躍し，その言語アラム語は国際語として流通した。フェニキア*は多くの都市国家を組織し，地中海沿岸各地に盛んに航海・貿易を行ない，特に西地中海に進出し，シチリア・イスパニア南岸・北アフリカ海岸に植民した。カルタゴ*はその最も重要な植民市である。フェニキア人が通商の必要からエジプト文字の系統を引く簡便な表音文字（アルファベット）を考案してギリシアに伝え，ローマ字の基をなしたことは文明伝播の上での大きな貢献であった。イスラエル人は〈出エジプト〉の民族的試練ののち，ヤーウェ*の神を礼拝する宗教連合を組織し，フィリスティア人との抗争の過程を通じて王国を形成した。王国はダビデ・ソロモンのとき拡大し，エルサレムにヤーウェ神殿が建立され，全盛期を迎えたが，ソロモンの死後イスラエル・ユダの2王国に分裂した。やがてエジプトやアッシリアの圧力も加わり，アモス・ホセア・イザヤらの予言者が輩出して亡国を警告し，当時流行していた異教の神々の礼拝よりヤーウェ信仰への復帰，道徳の粛清と社会悪の除去を説いたが，その警告はほとんど聞かれなかった。やがて北メソポタミアにミタンニに代わってアッシリア*が興り，紀元前8世紀初めには，エジプトを含むメソポタミア以西の全オリエント世界を併合して，空前の大帝国を建設し，イスラエル王国もBC721年滅亡した。アッシリアは被征服民を過酷に扱ったので反乱が絶えず，その盛時は長く続かず，BC612年新バビロニア*（カルデア）とメディア*に滅ぼされた。アッシリア滅亡後のオリエント世界は上記の2国のほか，エジプト・リディア*4国の対立の形勢となった。このうち新バビロニアは最も強大で，首都バビロンは再び繁栄を回復した。ユダ*王国もBC587年には新バビロニアによって首都エルサレムは陥落し，王と上層階級は〈バビロン捕囚*〉の非運にあった。やがてメディアに代わってイラン高原に興ったペルシア帝国*がキュロス2世に率いられて台頭し，新バビロニアを滅ぼし，バビロン捕囚の民に待望の帰国と，エルサレムに神殿を再建してユダヤ教団をつくることを許した。ペルシアはダレイオス1世のときまでにエジプトからインド境に至るオリエント世界の全域に加えて，エーゲ海北岸のトラキアまで領有し，アッシリアをしのぐ大帝国を建設した。その政治はよく整い，異民族に対して寛大であったのは，その宗教ゾロアスター教の感化によるところが少なくないといわれ，その終末観などの教理はユダヤ教やキリスト教に影響を与えた。首都の一つペルセポリス*の壮麗な宮殿はオリエント諸文明やギリシア文明の粋を集めた建築といわれ，彩釉（さいゆう）れんがの装飾絵画などにすぐれた特色が示された。しかしペルシアもオリエント的専制君主国であることに変わりはなく，紀元前5世紀，ギリシア征服の野望はペルシア戦争に敗れてならず，ついにBC330年アレクサンドロス大王の東征によって滅んだ。

アレクサンドロス大王の侵攻を招いたインドには，さかのぼってインダス文明崩壊ののち，アーリア人がBC2000年ごろから北西インドに侵入した。やがてBC2000年代末からBC1000年代初めにかけて，東方のガンジス川の流域に進出し，多くの都市国家を建設するとともに，その間に神々への賛歌が生まれ，のちに《リグ-ベーダ*》などの聖典にまとめられ，またバラモンを頂点とするカースト*社会が成立した。このような階層制度が成立すると社会は固定し，信仰は形式化したが，バラモンの中には宇宙や人生の本質を体系的にきわめようとする人々も現われ，紀元前7～紀元前6世紀ごろ，ウパニシャッド*哲学が出現した。紀元前6～紀元前5世紀になると，ガンジス川流域の多くの都市国家は整理・統合され，いわゆる〈16大国〉となり王権が伸張するとともに商工業が盛んになり，商人の力が伸びた。このようなとき，シャカ族の王子ゴータマ-シッダルタ（→ブッダ）が，王宮を出て，出家し，ブッダガヤーの菩提樹（ぼだいじゅ）のもとで悟りを開いて，ブッダすなわち覚者となり，仏教の開祖となった。同じころバルダマーナ（マハービーラ）も出て，悟りを得てジナ（修行完遂者）となり，ジャイナ（ジナ）教*を開いた。その教えは特に商人の間に広まり，今日もインド民族資本の主要なにない手となっている。ブッダが布教を続けていたころ，ガンジス川流域はマガダ王国によって統一され，仏教とジャイナ教

は，新興宗教を支持するこの国の王の保護を受けて，北インドに広まった。アレクサンドロス大王のインド侵攻のすぐあと，マガダ王国に政変が起こり，チャンドラグプタが自立してマウリア朝が成立した。その孫アショカ王のときにはほとんど全インドを統一し，法に基づく政治を行ない，仏教を国家統治の基本精神とし，一族をセイロンに送って布教を行なわせ，仏教を世界宗教へと高めた。しかし王の死後，マウリア朝は弱体となり，約50年ののち倒れた。仏教はその間に東西に伝わったが，紀元2世紀の前半，中央アジアを本拠としてクシャン朝のカニシカ王のとき，ガンダーラ地方(いまの西パキスタン北部)で新しい発展を遂げ，大乗仏教が成立した。従来の仏教(小乗仏教)が東南アジア諸国に伝わったのに対し，大乗仏教は西域を経て中国，次いで朝鮮・日本に広まった。また紀元1世紀後半からガンダーラ地方で，ヘレニズムの影響を受けてはじめて仏像がつくられ，仏教美術が発達した。これをガンダーラ美術*といい，その影響はアジア各地の仏教美術に看取され，わが国の飛鳥(あすか)・白鳳(はくほう)・天平(てんぴょう)の仏教美術にまで及んでいる。しかし他方，インドではバラモンの教えが盛んとなり，〈マヌ法典*〉もつくられ，4～5世紀のグプタ朝の時代にはバラモン教*とインドの民間信仰とが習合して，ヒンズー教*となり，今日に至るまでのインド人の基本的宗教となり，一方仏教はしだいにふるわなくなった。➔仏教

中国ではBC771年，周王朝は西北の遊牧民の攻撃を受けて東遷し，首都を洛邑に移した。東周になると，諸侯のうちいちばん実力のある者が王の権威をかりて覇者(はしゃ)として支配し，この間，南北の異民族の侵入や諸侯どうしの争いによって，弱い諸侯はしだいに倒れたが，地域的には中国はしだいに広まって，揚子江の流域まで含まれるようになった。この時代の後期に生まれた孔子は覇者時代の年代記《春秋》を書いたので，この時代は春秋時代(BC771ごろ～BC403ごろ)とよばれる。周の封建制に基づく政治的・社会的秩序はくずれ，戦国時代(BC403ごろ～BC221ごろ)となり，いわゆる戦国の七雄の支配者はそれぞれ王を名のり，周王はほとんど無力になった。七雄のうち，西方の陝西地方の秦(しん)が強大となり，次々に諸国を征服し，ついにBC211年全中国の統一を成し遂げた。春秋時代末から戦国時代にかけて周の封建制がくずれると，制度的・世襲的な権威は無力となり，実力のある者が重んじられるようになった。またこの時代は，国々の争いが激しかったから，各国とも優秀な政治家・思想家・技術者を求め，あるいはスキタイ文化・シベリア文化などの外国文化の摂取に努めた。



チチェン-イッツァの戦士の神殿 マヤ文明の代表的な遺跡で，チャクモルの像(中央)の左右背後ではケツァルコアトル(翼をもつヘビ)が口を開いている

こうして学問は盛んになり，産業が興り，技術も進歩し，鉄製農具や耕牛も使われはじめた。商業も活発となり，青銅の貨幣(銅銭)も流通し，臨淄(りんし)・邯鄲(かんたん)などの大都市が栄えた。社会状態の変化に伴って思想の動きも活発になった。孔子は仁の精神を思想の中心とし，仁の純粋な姿は親子間に存在する無条件の愛情と信頼に認められると考えた。しかし仁も礼にのっとり，子が父に従う孝，弟が兄に従う悌(てい)の徳を中心とし，近きより遠きに及ぼされる必要があり，こうして人々が身を修め(修身)，家をととのえ(斉家)，国を治め(治国)，天下を安らかにする(平天下)ことができると説いた。孔子以後，戦国時代には儒家・道家・法家・墨家・縦横家などとよばれる思想家たちが現われ，いわゆる諸子百家*の時代を現出した。この後長く中国を支配した自然・倫理・政治・社会などに関する思想は，ほとんどこの時代に発生し，古典としての規範となった。中国を統一した秦王の政はあらためて皇帝の位につき，始皇帝と名のり，咸陽(かんよう)に都した。彼は広大な領土を支配する必要から法家思想を取り入れ，中央集権的な郡県制を敷き，度量衡・貨幣・文字の統一を行ない，思想の統制や反対者の弾圧(➔焚書坑儒(ふんしょこうじゅ))を敢行した。始皇帝は中国内部の統一を進める一方，匈奴*(きょうど)を攻撃して北方に追い，中国と蒙古(もうこ)高原の間に万里の長城*を完成した。また広東・広西方面にも軍隊を送ってその地方を領土に加え，南海との交通も容易になった。しかし秦はわずか15年で滅び，漢代には国家の基礎が固まり，董仲舒(とうちゅうじょ)によって儒家思想は専制国家の政治思想にふさわしいものに整えられ，儒教とよばれて中国政治思想の中心的地位を占めるようになった。また史書の編纂(へんさん)も盛んで，前漢の武帝のときには司馬遷が《史記》を著わし，後漢の時代には班固が《漢書》を書いた。他方，民間では天体の運行や天然現象によって運勢を占う讖緯(しんい)思想や現世的な民間信仰が盛んで，これらは老荘思想や五行説とも結びつき，2世紀後半には道家的民間宗教となり，後代の道教の基が置かれた。2世紀の初め，蔡倫(さいりん)によって紙が発明され，美術・工芸も進み，精巧な漆器・陶器などがつくられ，画像石などに当時のすぐれた彫刻や絵画も残されている。➔中国哲学

【東西文明の交流】このようにしてオリエント・インド・中国を通じて古代文明が発展したが，オリエントにペルシア文化が栄えたころ，地中海世界ではギリシア文化が開花し，ペルシアとギリシアは政治的には対立しながら経済・文化の交流は盛んであり，またこの時代に西アジアの宝石やガラス，中央アジア・西アジア形式の青銅器が春秋・戦国時代の中国で使われているのをみると，東西アジアの経済的・文化的交渉もしだいに密接になっていたことがわかる。紀元前5～紀元前4世紀はギリシア文化，バラモン哲学と仏教文化，諸子百家の思想が東西世界にほぼ同時に開花し，まさに古典文明の成熟期であった。さらにこのような形勢はアレクサンドロスの大帝国の時代を経て，東西いずれの地域にも大帝国が生まれた1世紀前後の時代にまで引き継がれた。すなわち，地中海世界にローマ帝国，中国に漢帝国が栄え，その中間の西アジアにはパルチアが存在し，中央アジア・インドにはクシャン朝やアンドラ朝があった。この時代にますます盛んになった東西世界の交渉を象徴するのは，中国とローマの間に陸路シルクロード*を通じての絹貿易である。またローマ領内から紅海・アラビア海を過ぎてインドに通じる海路も開かれ，ローマ人の居留地が南インドにでき，2世紀後半には，ローマ皇帝マルクス-アウレリウスの使節と称する商人が海路で中国を訪れた。さらに前述したように，インドに興った仏教は中央アジア・西域を経て中国にはいり，その後の東アジアの世界に大きな影響を与えた。〔秀村欣二〕

コタンジェント ⇨三角関数

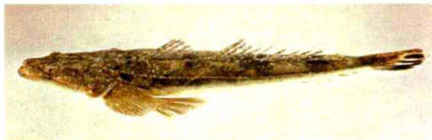
こち【鯒】 硬骨魚類・コチ科。体は縦扁(じゅうへん)し，細長い。頭は幅広く，背腹方向に押しつぶされたような形である。うろこはきわめて小さく，体表はなめらか。体背面は茶かっ色で，多数の暗色小円紋が散在する。腹面は白い。体長は50cm余り。本州中部以南の太平洋・インド洋域に広く分布し，沿岸の砂泥底(さでいてい)にすむ。美味で，特に夏には洗いにして珍重される。

コーチ ［coach］ ①大形の客室を備えた四輪馬車で，特に儀装した馬車。のちに馬車が衰退し，自動車・鉄道が発達すると，乗用自動車・寝台車にもコーチの名が使われるようになった。コーチの名は，中世にはじめてその車がつくられたハンガリーの町の名に由来するといわれる。②自動車では，左右各１枚ドアの箱形車体で，前部座席は２分割され，その一つすなわち客席のほうを折りたたみ式とし，後方客室への出入りを便利にした形式の乗用車。〔成田武男〕

ゴーチエ ［Théophile Gautier］ (1811～1872) フランスの詩人・小説家。はじめユゴー*のもとでロマン主義*運動の興隆に尽くしたが，やがてその誇大妄想(もうそう)や社会的傾向に反発，美の功利性を否定して〈芸術のための芸術〉を提唱し，対象の忠実な描写によって絵画的・彫刻的な造形美を追求した。詩集《スペイン》《螺鈿(らでん)七宝集》，小説《モーパン嬢*》《隊長フラカス》などがあり，その犀利(さいり)で皮肉な芸術家意識がボードレール*に影響を及ぼし，その形式美の追求の意図は高踏派*に受け継がれていく。〔山口佳巳〕

こちじき【古地磁気】 ⇨地磁気

コーチシナ ［Cochin-China］ ベトナム社会主義共和国南部地域の古くからの呼称。おもにメコン川およびドンナイ川のデルタからなる低湿地の多い沖積(ちゅうせき)平野で，世界の米倉といわれる米作地である。面積68,250km²，推定人口1,800万。コーチシナはベトナム南部の中心部を形成し，地形的・気候的にベトナム北部のトンキンデルタ(ソンコイ川下流地域)と対比される。メコン川・ソンコイ川はともに下流部に多くの分流をなし，大デルタを形成するが，デルタの成長はコーチシナのほうがより旺盛(おうせい)で，気候も北部よりは熱帯的で乾季(５～10月)・雨季(11～４月)の区別もよりはっきりしている。米のほか，プランテーション*によるゴムの産が知られる。この地方には，古代にはすでにカンボジア人が居住していたが，17世紀中ごろにベトナム人が南下してカンボジア人を追い，開拓を始めた。19世紀にはいるとフランスがこの地域に勢力を伸ばし，メコン川からインドシナ半島奥地へ侵入できる位置をねらって1862年東部をアンナン王国から奪った。次いで1867年には西部も支配され，1887年以降はフランス領インドシナ連邦の一部となった。それまで地方集落にすぎなかったサイゴンを新しい基地として開拓し，この結果，耕地面積は急速に増大してアジアの一大穀倉となり，サイゴンは米の大輸出港として栄えた。1946年フランス連合内の独立共和国となったが，1949年ベトナム共和国に併合された。土地所有関係は，地主と小作の階層分化が著しく，政府の行なった土地改革も徹底していない。そのうえ，ベトナム戦争の激化につれて米の産額も戦前に比べて激減した。住民は大部分がベトナム人であるが，華僑*(かきょう)も多い。中心都市はホーチミン(旧サイゴン)・ショロン・ミト・カントなど。〔別技篤彦〕



コ　チ



コチドリ

コーチゾン ［cortison］ コルチゾンともいう。副腎(ふくじん)皮質から分泌されるホルモンの一種。その生理的な働きは，糖原(グリコゲン)新生を高めて，タンパク質異化作用を促進し，あるいはタンパク新生を抑制する作用がある。コーチゾンの分泌が過剰になると，多毛になったり，肥満になったり，高血圧の症状を呈すクッシング症候群*という病気を起こしてくる。また，分泌がうまく行なわれなかったり，副腎から分泌される他のホルモンであるアルドステロン・男性ホルモンが，うまく適量に分泌されないと，筋肉の力が弱まってしまうアジソン病*などを起こしてくる。このホルモンは，脳下垂体前葉から分泌される副腎皮質刺激ホルモン*により，分泌量を適量にするように調節される。なお，コーチゾンや酢酸エステルである酢酸コーチゾン・プレドニン・デキサメサゾンなどが医薬品として，リウマチ・関節炎などに用いられる。〔平野修助〕

こちどり【小千鳥】 鳥類・チドリ科。全長16cmほどのチドリ。九州・本州・北海道の海岸の砂地や中下流形態の川原で繁殖し，ほとんど南方に渡って越冬するが，少数は本州中部以南で越冬する。本種よりやや大きいイカルチドリは四国・本州の上中流形態の川原で繁殖し，冬季もとどまっている。いずれも上背面は淡灰かっ色，下面は白色を呈する小形のチドリである。

コチャバンバ ［Cochabamba］ ボリビア共和国中央部にある同国第３の都市。人口19万4,000(1976)。海抜2,500mの高地にあり，熱帯下であるが年じゅう過ごしよい。1542年スペインの植民者たちによって建設され，東部地域の物資の集散地として発展した。市街には当時の建造物が多く残り，観光保養地として知られる。市の中央にあるサンセバスチアンの丘からの展望は美しい古都の風光を一望に収める。パンアメリカン-ハイウエーに沿う。〔小栗　宏〕

ごちょう【後趙】 ⇨こうちょう

こちょうしょう【鼓張症】 ウシ・ラクダ・キリンなどの反芻獣(はんすうじゅう)で第１胃に異状発酵を起こし，ガスが充満，腹囲が膨大する疾患。反芻を停止し，急速にガスが充満して横隔膜を圧迫するので呼吸困難をきたし，ついには窒息死を招く。反芻獣にとって恐るべき疾患である。原因のおもなものは，運動不足や発酵しやすい青草の過食で，ことに雨あがりのぬれたクローバー類，変質した粕(かす)類などの過食がよくない。また舎飼いのものを急に放牧すると飽食して発病しやすい。〔岡田十九郎〕

こちり【古地理】 地球上の現在の地理に対し，過去の時代(一般に地質時代を意味するが，歴史時代を含むこともある)の地球上の地理状況。古地理の状況を研究する学問を古地理学という。古地理の状況は，現在地表でみられる岩石や地層の分布・層厚，岩相・化石などから，それぞれの岩石・地層の生成された時期の海陸の分布や地形を推定することにより明らかにされる。各地質時代ごとの海陸の分布の復原が試みられており，その結果作成されるものが古地理図である。最近では地質学的な方法だけではなく，地球物理学的方法や試錐(しすい)が応用される場合が多い。〔神戸信和〕

コーチン ニワトリの品種。中国原産の肉用ニワトリで，その一内種であるバフコーチンは，かつて名古屋種の改良に用いられたので有名。脚毛があり，体重は雄5.0kg，雌3.8kg，晩熟で産卵数が少ないのが欠点である。

コーチン ［Cochin］ インド共和国西南部，ケララ州の港市。人口43万9,000 (1971)。マラバル海岸に面するこの国第３の貿易港で，ココヤシ・茶などを輸出している。インドにおける初期のヨーロッパ人基地として，16世紀はじめからポルトガル・オランダ・イギリスなどの間で争奪が行なわれた。セント-フランシスコ教会にはポルトガルの航海者アルブケルケ*の墓がある。南西モンスーン季の５～８月の港の条件はよくないが，近年改良計画が進められた。〔別技篤彦〕

ごちん【呉鎮】 (1280～1354) 中国，元末の画家。倪瓚*(げいさん)・王蒙*(おうもう)・黄公

望*と並ぶ元末四大家のひとり。字(あざな)は仲圭(ちゅうけい)，号は梅花道人。終生仕官せず，赤貧のうちに孤高な文人的生活を貫き，博学多芸で詩・書に堪能(たんのう)であった。山水を巨然*・董源*(とうげん)ら北宋(ほくそう)の画人に学び，馬遠*・夏珪*(かけい)ら勁健(けいけん)な筆力と墨気淋漓(りんり)とした作家たちの長所をも取り入れた。四大家のうちでも，疎密に差のある筆触，墨色の鮮明さにおいて最も特徴がある。墨竹は宋の文与可を師とした。作品に《水竹幽居図》などがある。
〔中島純司〕

コーチング-ステッチ ［couching stitch］ ステッチ*の中の基本的なもの。線縫い。下絵の線上に1本，またはそれ以上の太さの糸やコードなどを置き，細い糸で同一間隔に留めていく縫い方。主として線・輪郭に用いるが，らせんに縫い進めれば面にもなる。

ゴーツ(山脈) ［Ghats］ インド半島のデカン高原を中央にはさんで，東西の海岸を海岸線に沿って走る2本の山脈で，それぞれ東ゴーツ山脈，西ゴーツ山脈とよばれる。西ゴーツ山脈はタプチ川渓谷(けいこく)から半島南端のコモリン岬(みさき)まで1,500kmの長さで，高度1,000m程度だが，ドダベッダ山(2,820m)・カルスバイ山(1,647m)などの高峰がある。東斜面はしだいに高度を減じてデカン高原に連なり，東流してベンガル湾に注ぐゴダバリ・ビマ・キストナ・コーバリ・ノイルなどの諸河川の源をなす。山脈はまたアラビア海の沿岸地方と内陸地方との障壁となり，山脈を越えて内陸と鉄道で連絡しているのはボンベイ・ゴア・コジコーデのみである。雨量は西斜面で2,000～3,300mmで夏のモンスーン季節に多く，その間東斜面ではほとんど雨をみない。気温は比較的涼しく，プーナは夏暑くて湿潤な海岸地方の人々の避暑地になっている。斜面にはえているチークの森林は貴重な資源である。東ゴーツ山脈は延長800km，高度700m程度の低くなだらかな山地で，断続してパチャイマリ・シェバライ・ジャバデー・ナガリ・ナラマライなどの高い丘陵がある。北部のマハナジ川と南部のコーバリ川との間が最も高く，ここに最高峰マヘンドラギリ山(1,477m)がある。雨量は500～1,000mmで，西ゴーツ山脈に比べて少ない。
〔大崎　晃〕

こっか 【骨化】 ⇨化骨

こっか 【国家】 ⇨次ページ

こっか 【国家】 プラトンの中期対話編の中の主著。10巻。原題は《ポリテイア》。〈正義について〉の副題がついており，国家の正義を論じながら，理想的な国家の政治や構造について述べた，プラトンの政治論ともいうべきもの。まず，国家の構造は，人間の魂の構造と同様に，欲望的部分・気概的部分・理想的部分の三つからなっており，この3部分にそれぞれ生産者階級・防衛者階級・支配者階級が対応するとしている。そして，これらの階級の人々がおのおのの職分に応じて協和的な役割を果たすのが理想的な国家であり，ここに国家の正義が実現されると説く。さらに政治的指導者としての支配者階級のための教育プログラムが展開され，真の支配者たりうる者は〈善のイデア〉を認識した者，すなわち〈哲学者〉であるとして，有名な〈哲学者王〉による政治(哲人政治)の理想が述べられている。
〔本橋正義〕



呉　鎮《漁父図》1342　国立故宮博物院蔵

こっか 【国歌】 国家を象徴する歌として，それぞれの国が公式に認めているもの。国家的儀礼祭典や国際的な行事に際して国旗*などとともに必要とされている。歌詞内容には，国民の繁栄や安泰，王家や国家の永続，自由の祈り，神の賛美などが多い。音楽は力強いものや荘重な感じのものが一般的である。たとえば，オランダ《ウィルヘルムス-フォン-ナッソウェ》(ウァレリウス作曲，1626)，イギリス《ゴッド-セイブ-ザ-クィーン(キング)》(1744)，フランス《ラ-マルセイエーズ*》(リール作詞作曲，1792)，オーストリア《ゴット-エアハルテ-ウンゼルン-カイザー》(ハイドン作曲，1797)(ただし第2次世界大戦後はモーツァルトのカンタータの旋律を借用した《山の国，川の国》，アメリカ合衆国《星条旗》(1814)，ソビエト連邦《ソビエト連邦国歌》(アレクサンドロフ作曲，1943)，西ドイツ《統一と権利と自由》(1922年以降の国歌《世界に冠たるドイツ》の2節め)，日本《君が代*》など。大作曲家の手になるものもあれば，民衆的基盤から生まれたものもある。
〔山口　修〕

こづか 【小柄】 脇差*(わきざし)の鞘(さや)の外側に差した小刀。長さはおよそ3寸2分から3寸3分(約9cm)。幅は4分半(約1.5cm)。脇差の付属品である小柄・目くぎ・笄(こうがい)のそろったものを三所物(みところもの)といい，江戸時代の刀装には重視された。小柄の起源は不明だが，後藤祐乗*の銘がある作も伝えられ，室町時代とされている。

こっかあんぜんほしょうかいぎ 【国家安全保障会議】 アメリカ合衆国の政府最高首脳会議。安全保障に関係する国内・外交・軍事の政策の統合に関して大統領に勧告することを目的とし，1947年に設けられた。その実力は閣議以上である。大統領を議長とし，議員は副大統領・国務長官・国防長官・緊急計画局長官からなり，ほかに大統領の指名する者，統合参謀本部議長・中央情報局長官などの出席を求めている。

こっかい 【国会】 日本国憲法では国会という名称を採用しているが，一般に政治学・憲法学で用いられる制度としての議会となんら異なるところはない。大日本帝国憲法では帝国議会とされていた。

イギリスで最も早く発展し，各国の民主化につれて広く採用された国民代表機関であり，代表民主制の国家機関である。民主主義の発達につれて，従来の君主専制に対し，被治者の代表者が国政に参加して君主の支配を制限する立憲君主制*や，君主制*そのものを廃止する共和制*・大統領制*に至るのであるが，国会はその際に国民の代表機関として設けられたのである。そして立法権は国会が，司法権(裁判権)は独立の裁判所*が，行政権は内閣*(政府)が行使する三権分立*制が実現された。このような政治体制は，国民の権利を守り，民主的な国政を実現するのに最も適当なものと考えられ，広く近代国家に普遍的な体制となった。国民を直接に代表する国家機関としての国会は，近代国家で最も重要な役割を果たすもので，この点から近代民主制と，議会制とは同じ意味に用いられてきた。この国民代表をより確実にするために，国民の選挙権・被選挙権についても，当初の財産・収入・門地・性別などによる制限(制限選挙)から，しだいに平等な普通選挙*に進み，そして国会は，単なる立法だけの機関にとどまらず，財政，外交，条約締結，軍事その他のすべての国政について，政府の行なうところを批判し監視する役割をもつものとされてきた。少数派の主張も自由に発表され，単なる多数派の強行採決によらず，議事が広く国民の前に，その内容が明らかになるよう決定されねばならない。これを国民代表と並ぶ議会政治の原理の一つである〈審議の原則〉という。独裁政治のもとでは，権力の干渉や選挙制度の非民主性によって選挙がゆがめられて反政府的勢力の国会進出がおさえら

➔47ページ

国　家

軍隊・警察・刑務所などの物理的・肉体的強制力または権力*と国会・内閣・裁判所などの統治組織によって，一定の地域の上に生存する人間とその生活の統一を確保する政治団体。国家をなりたたせる要素として，領土・国民・権力(主権)の三つがあげられる。これを国家の3要素といい，そのいずれを欠いても国家はなりたたないとされている。この学説は国家の三要素説といわれ，これまで支配的な学説として一般に支持されてきた。けれども，国家の3要素のうち，決定的に重要なのは権力である。というのは，領土は単なる地理的・地域的範囲ではなくて権力の及ぶ地域をいい，国民も単なる人間ではなくて権力の及ぶ人間をいうからである。すなわち，権力による支配の及ぶ地域を領土といい，その領土への出入は権力の承認を必要とする。また，領土から一定の距離にある河川や海を領水または領海といい，さらに領土の上空を領空というが，その領海・領空への人間や艦船・航空機の出入は自由ではなく，権力の承認を必要とする。その点は国民についても同様で，その国の国籍*を有する人間をその国の国民といい，一定の権利が保障される反面，一定の義務を負う。また，領土の上に居住する外国人も，その国の法律によって一定の権利と義務をもち，それらに違反した場合には国外への退去が強制される。このような権力による領土への支配権を領土高権といい，国民に対する支配権を対人高権という。国家という政治団体の特殊性は以上のような権力性に認められ，政党*・地方公共団体*その他の社会団体と区別される。すなわち，地方公共団体は地域的・地縁的な政治団体であることにおいて国家と共通するが，支配権に関しては国家と相違し，また政党その他の社会関係は人的関係であることにおいて国家と共通し，権利・義務の内容において国家とは異なる。

〈国家〉を英語ではステート(state)，フランス語ではエタ(état)，ドイツ語ではシュタート(Staat)という。これらはいずれも16世紀にイタリアで用いられた国家を意味するスタト(stato)に由来するが，スタトはラテン語で〈組織〉を意味するステイタス(status)と同義語である。これは主として中世の都市国家の統治機構を意味する語として用いられ，イギリスで国家をポリティカル-ソサエティ(政治社会)とか，ボディー-ポリティック(政治体)というのと同じである。ヨーロッパの中世においては，国家は土地を意味するテレ・テラ・ラントということばで表現された。またギリシアの都市国家ではポリス*ということばがあったが，これは社会から区別されるところの権力機構・強制装置をもった国家という明確な観念をもつものではなかった。その点，日本の〈国〉が地域や土地を意味するのと同じだといってよい。さらに，日本語の国家という用語は，国と家が結合した観念であり，血縁共同体である家になぞらえた家族的国家観を示すものであり，権力性の契機が希薄なことが特徴である。いずれにしても国家は，領土・国民・統治組織を含む広義の概念と，領土と国民に対して支配を及ぼすという点を重視する強制装置・権力機構を意味する狭義の概念に大別することができるが，社会科学で用いられる国家の概念は，主として後者の狭い意味の国家概念である。そのことは，憲法学や国法学の重要問題の一つである国家と国民の関係とか，国家と国家の関係いかんによって，独立主権国家とか非独立・非主権国家とか，従属国家・被保護国家・自治領・信託統治地域などに分かれ，さらに国家の発生が問題にされるのはすべてこのような強制装置・権力機構としての国家が前提となっていることにも示されている。

強制装置・権力機構としての国家と国民の関係については，論者によって必ずしも同じではない。イエリネック*は国家と国民の関係を，①自由の地位(消極的地位)，②市民の地位(積極的地位)，③能動的市民状態の地位(能動的地位)，④従属の地位(受動的地位)の四つに分類する。①の自由の地位は国家が介入したり国家権力によって侵害されてはならない地位であり，思想・信条・信教・学問・言論・出版・集会・結社などの自由の領域であり，いわゆる自由権*を主張できる国民の地位である。②の市民の地位は，個々の国民が，自己の利益を実現するために国家の積極的な行為を要求し，その利益を利用できる積極的な請求権*をもつということで，裁判を求める訴権すなわち裁判請求権，公務の不法行為によって損害を受けた国民が国家に対して損害賠償を請求する権利，生活保護*を受ける権利などのいわゆる社会的生存権*などを有する地位である。③の能動的な市民の地位は，公務員の選定・罷免権や選挙権・被選挙権など，国家の機関となり，国家意思の形成に参加する権利(→参政権)をもつ国民の地位である。④の受動的地位は，国民であることによって国権に服従すべき地位であり，納税・兵役の義務など，国民の義務に服すべき地位である。イエリネックのこのような四つの分類に対し，ケルゼン*は国家について能動的関係・受動的関係・消極的関係という三つの関係を主張する。その理由は，積極的な請求権を内容とする積極的地位というのは，個別的な国家の行為に参加する地位ということであり，国法を定立し，国家行為に参加するという点で，能動的地位と同じだというのである。さらに日本の憲法学者宮沢俊義(としよし)は，それらの地位または関係のほかに，国家と国法に対して無関係の関係または地位をあげている。これは散歩の自由や読書の自由などで，また国法によって義務づけられない行動の自由であり，これを自由権と区別して単に〈自由〉と称する。たしかに，読書の自由や散歩の自由は，一見すると国家や国法とは無関係の自然的自由のように思えるが，第2次世界大戦前の日本においては社会主義や社会科学に関する書物が検閲*によって発売禁止された結果，これらの書物を所持したり読んだり研究会を行なっただけで治安維持法*違反として処罰された。また，散歩の自由にしても，要塞*(ようさい)などの軍事施設周辺では，それが立ち入り禁止区域外であっても散歩をすれば，軍機保護法や国防保安法違反として責任を追及された。また，1872年(明治5)には，条例によって婦人が日本髪を切って短くすることが禁じられ，それに違反した者は罰金に処せられた。またアメリカやフランスでは婦人がズボンをはくことを禁止され，それに違反した婦人が警官に捕えられたり水をかけられた。これらの事実をみると，今日では，国家や国法とは無関係と考えられる自由も，ある歴史的時代には無関係でなかったことを知るのである。要するに，重要なのは，国家と国民の関係は普遍妥当的に存在するのではなく，一定の歴史的時代における一定の国家において，個別的・具体的にそれぞれ相違して存在するものである以上，国家と国民の関係を一般抽象的に論じてもあまり意味がないということである。つまり，国家と国民の関係をみる場合，歴史的に変化したものとして考察することが重要である。それは，古代奴隷制国家において，たとえば漢字の〈民〉の語源が盲奴隷を意味し，古代ローマにおいては，物言わぬ道具またはおしの道具であるくわやすき，なき声を出す道具または半ばことばをしゃべる道具であるウシやウマに対して，奴隷はことばをしゃべる道具といわれ，人間とは考えられず，物でしかなかったことをみれば明らかである。すなわち，古代奴隷制国家における国家と奴隷の関係は，④の受動的地位が決定的であり，かつその関係しか存在せず，①②③の関係はなく，能動的・積極的地位は，ただ奴隷所有者だけが有していたことをみれば明らかである。また，近代資本主義国家において，国民は法の前にすべて平等であり，かつ国家権力と主権は国民から発すると定めながら，たとえばフランスにおいて，市民をもって税金を納める積極市民と税金を納めない消極市民とに分け，請願権や選挙権については積極市民にだけ認めたこと，さ

らに労働者の組合結成をもって使用者や資本家の結社よりも重く処罰した事実をみれば，国民であることにおいては同じでも，有産者か無産者かの相違によって四つの地位または関係はそれぞれに相違し，けっして同じでなかったことを知るからである。さらに同じ日本の国家でも，第2次世界大戦前の大日本帝国憲法*と，戦後の日本国憲法*の下での国家と国民の関係もけっして同じではない。そのことは，旧憲法では主権は天皇にあり，宣戦布告や講和の権限，貴族院議員や官吏の任免権は天皇が保有した反面，衆議院議員の選挙権については納税資格が撤廃されて，いわゆる普通選挙*が実施されたのちにおいても，現役の軍人や満25歳以下の男子さらには成年の女子にも選挙権が認められなかった事実と，日本国憲法下の現在とを比較すれば明らかである。要するに天皇主権国家においては，国民の地位は④の受動的地位が決定的に重要であるのに対して，国民主権国家の現憲法の下では，天皇が存在することについては旧憲法と同じだが，③の能動的地位が決定的に重要になっただけでなく，それに伴って①と②の地位や関係も変化したということである。このように，国家と国民の関係をみる場合にさらに重要なのは，社会主義国家においてである。土地・工場・鉱山などの生産手段の私的所有を認める資本主義国家とはまったく逆に，生産手段の私的所有を原則的に禁止し，その社会的所有や国有を定める社会主義国家において，すなわち階級関係が異なる国家において，国家と国民の関係は階級性が明らかだからである。

レーニン憲法の名でよばれている1818年のソビエト社会主義共和国連邦憲法には，労働者と農民だけが武装して国家権力を握り，国家機関を独占し，さらに選挙権・被選挙権をもつと定め，有産階級・寄生階級・搾取階級の武装解除を行なって国家機関から排除するだけでなく，選挙権・被選挙権をも否認すると定めたこと，さらに自由の保障についても，労働者の利益に適合し社会主義体制を強固にする目的を定めていることをみれば明白である。

なお，国家と国民の関係について，かつて最も神聖で名誉な義務とされた兵役義務や国防協力義務を解除する意味をもつものとして，良心的兵役拒否の権利が認められたり，国籍離脱や選択の自由や亡命権・避難権が認められるなど，国民の国家に対する従属的・受動的地位が弱くなる反面，積極的・能動的地位が強化されただけでなく，個人が国家を越えた存在である領域が広げられてきていることが注目される。それは，歴史の進歩の方向を示すだけでなく，国家と国民，国家と個人の関係の変化は，国家と国家の国際関係にも変化をもたらしているからである。そのことは，国家主権の対外的発動としての戦争権が自衛の戦争権に限定され，さらに国家主権独立を保障する最大の存在とされた軍隊・軍備についても，その縮小から全廃までが主張され，課題とされていることにも示されている。

国家の発生と消滅，本質と機能は，以上のことからもうかがえるが，国家についての理解や学説は，大別してブルジョア的立場と，それに対立するプロレタリア的立場，すなわちマルクス主義*の立場に分けられる。その点は，国家の発生と消滅，本質と機能についての学説にも示される。マルクス主義によれば，生産力の増大に伴って，原始共産制*社会は有産階級と無産階級に分裂し，その結果階級*対立を調整し，階級闘争*を抑圧するための強制装置・権力機構が必要となり，そこにおいて国家が発生したとする。これに対してブルジョア学説といわれるものには，神意説・契約説・合力説・征服説など数多くあるが，いずれも主観的・一面的であり，科学的学説とはいいがたい。このように国家の起源については，あまり問題はないが，問題なのは国家の本質と機能についての学説であり，現代資本主義国家をみるかぎり，それほど簡単ではない。というのは，国家をもって人間の理想像や理性の自己実現態だとするプラトン*やヘーゲル*の説はいずれにしても，現代資本主義国家は，全構成員の利害の対立を調整するだけでなく，共通の利益を実現するという意味で公共的機能をも多く果たしているからである。現在多くの資本主義国家では，選挙権は無産労働者階級や生活保護を受ける者や婦人にも認められ，労働基本権の保障だけでなく，人間の生産，種の生産をになう婦人が労働者・職業人としての社会的責任と妻および母としての責任を両立することができるように，産前産後の休暇や保育所・託児所の施設が設けられているだけでなく，社会主義政党が合法として認められている。また税制についても，相続税や富裕税，高額所得者に対する累進課税制度がとられる反面，義務教育の無償や育英・奨学資金制度，さらに医療・保健・住宅など無産労働者階級や低額所得者を対象とする社会保障政策が行なわれることを通じて，国家の機能が公共性を強め，階級性を弱める方向に動いていることが指摘されている。もちろんこれに対して，このような政策も資本が必要とする健康な労働者を確保するために資本家階級による資本家階級の利益を擁護するための政策であり，その本質において階級性が貫徹されているという指摘もあるが，現象的にみて国家の機能として公共性が重視されていることも事実である。さらに，階級抑圧の機関であり，革命鎮圧の暴力装置の中核とされてきた軍隊や警察の内部でも，団結権*や言論の自由*が保障される傾向にあり，また，生産力の増大に伴う教育の普及によって労働者階級の知的・精神的・文化的・教育的水準が向上し，それらを背景にして平和革命*が可能だと指摘されている。もちろん，現実には資本主義国家と社会主義国家の間，さらにアジア・アフリカ・ラテンアメリカにおける独立国家と新興諸国家との間には大きな利害の対立があり，これらの間に戦争・内乱・クーデターなど，血なまぐさい暴力と武力の行使はあいついでいる。しかし，国際問題や国内問題について，それを暴力的・武力的に解決するのではなく，民主的・平和的に解決することが人類の課題だとする意識と行動が増加している現在，国家の本質と機能についても，新たな角度から再認識することが必要と思われる。➔近代国家

〔星野安三郎〕

れたり，議員に対する圧迫や多数派の議事独占によって，審議が単に形式的なものとなり，議会制の形をとりながら政府の独裁が行なわれるという状態となったこともある。こうしたナチス*やファシスト下の状態に対して，正しい民主的な議会政治のあり方を議会制民主主義という。日本国憲法は，以上のような議会制民主主義を定めている。

国会は，国権の最高機関で，また唯一の立法機関である(憲法41条)。すなわち主権者である国民自身によって，代表者として国会議員*が選ばれる。今日の国政は，その基本的なあり方や軌道は憲法において定められているが，憲法のもとで，具体的に国家がなにをなすかは，国会が法律をもって定める。国の司法権はもちろん，根本的には行政も法律の定めに従って行なわれねばならない(➔法治主義)。国の財政を処理するにも，国会の議決に基づかなければならず(憲法83条)，条約の締結も国会の承認を経ねばならない(憲法73条)。また国会は，広く行政一般について政府を批判できるし，独自の立場から国政全般にわたって調査することもできる(憲法62条)。また裁判官については，その職務の遂行を監視するために，国会議員で組織される弾劾裁判所*がある(憲法64条)。

内閣は最高の行政機関であるが，内閣の首長である内閣総理大臣は，国会で指名され，その総理大臣が諸大臣を任命する。そして内閣は一体となって，国会に対して責任を負うのである(憲法66条)。すなわち，イギリス型の議院内閣制*である。ただ今日の議会政治は，政党*を中心に行なわれているため，国会で多数を占める政党がその多

数を乱用すれば，内閣をいつまでも持続させ，自党の方針を国会の名で一方的に強行しうるという欠点も生じる。このため議会制は，国民の自主的判断で，総選挙において政党に判決をくだす。選挙権・被選挙権については，明治憲法下の男性だけのそれを廃止し，男女ともに成年に達した者に認めることとなった。ただ，選挙区における定員が人口の増減に合うように是正されていないため，はなはだしく不平等になっているのは改められねばならない。また，権力の介入を排し，言論・集会・結社の自由の保障のもとにすべての党派が自由に活動し，候補者を立て，それについて国民の審判を求めるという民主的な選挙制度となった（憲法15・44条）。選挙についての秘密も保障され（憲法15条），いちおう民主的な制度が定められたが，選挙にあたって買収などが多いのも，日本の選挙制度の欠点である。

日本の国会は，衆議院および参議院の二院制であるが，大日本帝国憲法下の衆議院および貴族院の場合と違って，どちらも国民の選挙により，また衆議院に優越した権限を与えている。国会がよく国民各層の意見を反映し，政府に対する批判も行なわれることを保障するため，憲法は国会における議員の発言については徹底的な自由を保障し，院外で責任を問われない（憲法51条），また現行犯の場合を除いては，会期中逮捕されることがない（憲法50条）。

国会は，みずから自主的に議長や事務総長を選定し，会議のやり方，議事手続き，国会内の秩序の維持について定める。国会の自治権がこれである（憲法58条）。参議院については解散がなく，議員は3年ごとに半数交替である。衆議院は，内閣において解散されることがある。政府に対する衆議院の不信任案が可決されたとき，政府はこれに対抗して衆議院を解散して，広く国民の判断を求めることができる（憲法61条）。不信任案が可決されて10日以内に解散がなければ，内閣は総辞職しなければならない。このほか政府が必要と考えたとき解散しうると解されているが，政治的に自分たちのつごうのよい解散，反対党をおさえるための解散は避けるべきである。国民全体に，重要な政策について判断を求める必要があるとき，解散によって総選挙を行ない，政府与党が支持されるか，反対党が支持されるかを決めるのが，解散の民主的な役割である。国会の運営については，国会法および衆議院・参議院それぞれの議院規則が定められている。〔鈴木安蔵〕

こっかい【黒海】ヨーロッパとアジアの間にある内陸海で，バルカン半島と小アジアに囲まれる。面積46万km²。水深は1,000m以上が大半で，最深部は約2,200m。南西部のボスポラス海峡から，マルモラ海・ダーダネルス海峡・エーゲ海を経て地中海に通ずる。北部にクリミア半島が突き出してアゾフ海を分けている。海底沈殿物の影響で海水が黒く見えることからこの名がある。東部から南部にかけてはカフカス山脈などの山岳地帯が迫っているが，北部から西部にかけては低平な平野が展開し，ドン・ドニエプル・ドニエストル・ドナウなどの大河が流入している。海面は冬季も結氷せず，水上交通は活発で，ソ連・ルーマニア・ブルガリアの貿易における黒海への依存度は絶大である。北部沿岸ではチョウザメ・ニシンなどの漁業も盛んである。古代ギリシア時代から地中海諸地域との関係が深く，のちにはフランス・イギリスがこの海域を通商要路として活躍した。15世紀からはトルコが支配したが，17世紀のロシアの南下策以来しばしばトルコとの間に紛争が起き，ロシア-トルコ戦争・クリミア戦争にも発展した。トルコの衰退とともに，ソ連の位置はゆるぎないものとなり，ルーマニア・ブルガリアも海岸線を領有するに至った。沿岸には，オデッサ・セバストポリ・ケルチ・バツーミ（以上ソ連），イスタンブール・ゾングルダーク（以上トルコ），ブウルガス・バルナ（以上ブルガリア）などの港市が発達している。〔長津一郎〕



黒　海　黒海北東岸にあるソ連の代表的な保養地ソチの海岸。北および北東に山を背負っており，気候温暖で，多くのサナトリウムがある

こっかい【告解】カトリック教会のサクラメントの一。受洗後に犯した罪を神と司祭の前で告白し，司祭を通して神から許しが得られるとする。トマス-アクィナスは告解に必要なものとして，痛悔・告白・贖罪(しょくざい)（断食・祈りなど）をあげている。

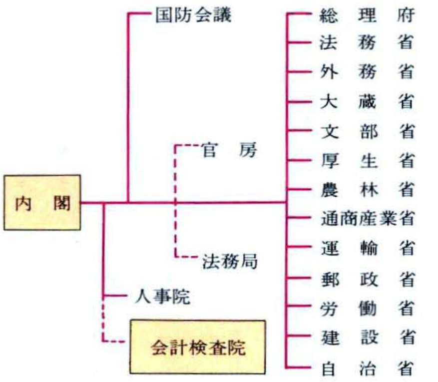
こっかいかいせつせいがんうんどう【国会開設請願運動】明治前期，明治絶対主義政府に対する自由民権運動の一環として，全国に展開された国会開設要求運動。1874年（明治7）板垣(いたがき)退助・副島種臣(そえじまたねおみ)・江藤新平らによる民選議院設立建白書提出以来，各地に愛国公党・立志社（以上同年）・愛国社（1875）などの政治結社が誕生，国会開設請願運動は，時期尚早(しょうそう)を唱える政府の意向に反して士族・豪農層の指導下に全国に広まった。1880年国会期成同盟が発足，国会開設請願運動の波は最高潮に達し，同盟は運動推進の目標を掲げ，組織拡大に向かった。政府は集会条例を発布して弾圧を加えたがその波は衰えず，1881年北海道開拓使官有物払い下げ事件によって，いわゆる明治14年の政変が起こり，政府は10年後に国会を開設する旨の詔勅を発布した。〔千野境子〕

こっかいぎいん【国会議員】衆議院議員と参議院議員とを含めた総称。①両院議員の地位の取得は両院議員ともに国民の中から選挙によって選出される（憲法43条）。その資格は公職選挙法に定められているが，被選挙権が衆議院25歳以上，参議院30歳以上とされているほかは，人種・性別・社会的身分・門地・教育・財産，または収入によって差別されない（憲法44条）。②議員がその身分を失うのは，法律上当然退任する場合と，特別の行為による場合とがある。前者は任期満了（衆議院4年，参議院6年）による場合，議員が被選挙権を失った場合，他の議院の議員になった場合であり，後者は辞職，除名，資格争訟の決定，選挙に関する訴訟判決によって資格が失われたときである。③議員には不逮捕特権，発言表決の免責特権，歳費その他を受ける特権の三つが与えられている。不逮捕特権とは政府権力によって議員の職務が妨げられるのを防ぐために議員に与えられた権利である。すなわち，議員は院外における現行犯の場合，およびその所属する議院の許諾がある場合を除いては，国会の会期中逮捕されず，会期前に逮捕された議員は，その議院の要求があれば会期中釈放しなければならない（憲法50条）としている。発言表決の免責特権とは国会における議員の自由な言論の保障である。すなわち，議員が議院で行なった職務行為としての演説・討論または表決については院外における民事・刑事および懲戒責任を負わない（憲法51条）としている。また歳費を受ける特権とは議員としての地位と職責の自由・独立を維持するための財産的保障として与えられるものであり，国会法では〈一般職の国家公務員の最高の給料額より少なくない歳費〉（国会法35条）を与えると規定している。④議員の権限には国会法の定めるところにより，発議権・質問権・質疑権・討論表決権などがあり，議員の義務には召集に応ずる義務（国会法124条）をはじめ，議事規則に従う義務などがある。➔選挙　➔国会〔吉田善明〕

こっかいぎじどう【国会議事堂】⇨議事堂

こっかいぎじろく【国会議事録】⇨議事録

こっかいきせいどうめい【国会期成同盟】1880年（明治13）大阪で開かれた愛国社第4回大会で結成された国会開設請願運動の全国的団体。片岡健吉・河野(こうの)広中・植木枝盛(えもり)らが代表となり，2府22県87,000人署名の国会開設請願書を政府に提



国家行政組織法　行政組織図

出，国民的運動の第一歩をしるした。政府はこれを拒否し，*集会条例を布告して政治活動を弾圧したが，運動は全国に波及，1881年国会を開設する旨の詔勅が出たため解散。自由党の結成へ発展した。

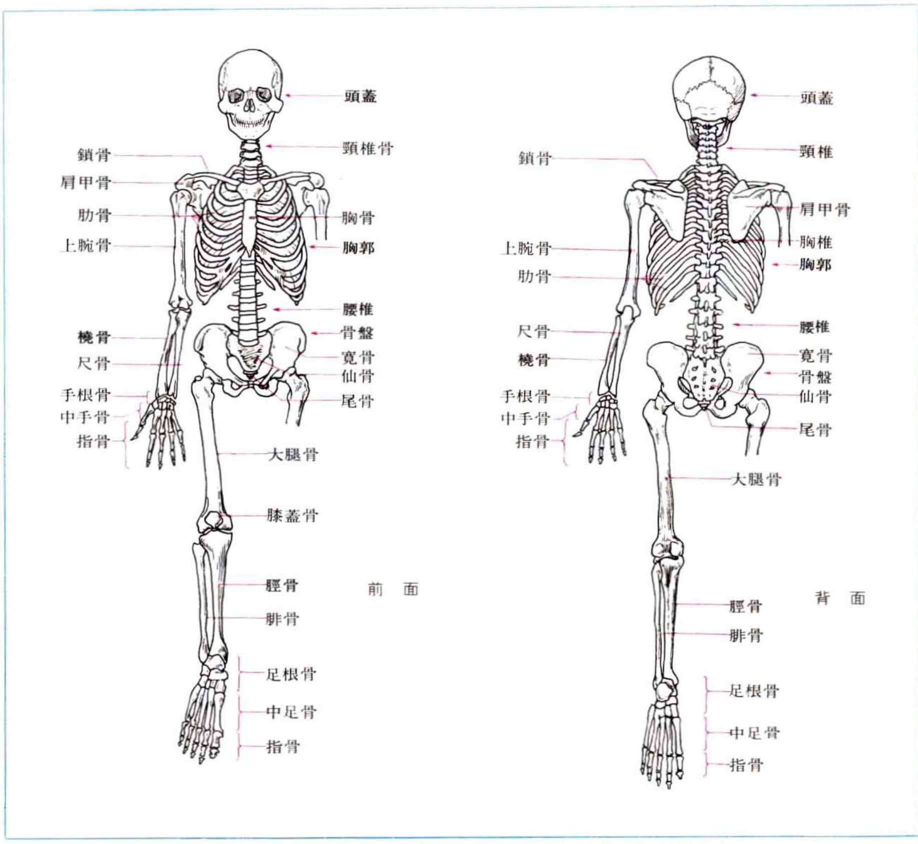
こっかいとしょかん　【国会図書館】 ⇨ 国立国会図書館

こっかぎょうせいそしきほう　【国家行政組織法】　形式的には*内閣管轄下における行政機関の組織の基準を定めた法律(昭和23年法律120号)をいい，実質的にはその他の国の行政機関を含めてその組織・権限を定めた法律を総称する。内閣法，会計検査院法，国家公務員法(人事院の規定を含む)，各省庁の設置法などである。なお，地方公共団体については*地方自治法がある。

【行政組織】いかなる原理に基づいて行政組織を構成するかについては，国により時代によって異なるが，およそ次のような基本的型がある。①中央集権型と地方分権型：前者は行政機関の権限を中央政府に集中させる型で，大日本帝国憲法下の日本およびフランスの行政組織がその例である。後者はその権限をできるかぎり地方に分散させる型で，日本国憲法はこれに基づいている。②議院内閣型と大統領型：前者は日本・イギリス，後者はフランス・アメリカにみられる。③独任型と合議型：前者は単独の公務員の責任によって，後者は複数の合議によって行政を処理する方式である。内閣および会計検査院は後者の例である。

【国の行政組織】今日では法律によって定められる。国家行政組織法，府・各省・庁の設置法がこれである。これによれば国の行政機関として，総理府・各省，その外局として委員会・庁が設けられている。府・省の長は内閣総理大臣および各省大臣とされ，庁・委員会のうち特に法律で定められている行政管理庁・北海道開発庁・国家公安委員会などの長は国務大臣をあてている。これらの行政機関は内部部局(官房・局・部など)，付属機関(各種の審議会・研究所・試験所・学校・医療施設)を置き，地方支分部局を出先機関としておくことができる。なお，内閣に対して独立の地位をもつ行政機関として，会計検査院と人事院がある。

〔寺尾方孝〕



骨　　格　ヒトの骨格

こっかく　【骨格】　体の支持・保護・運動の基本構造で，*筋肉の付着点となるもの。無脊椎(せきつい)動物でみられるカイの貝がら，エビやカニの殻(から)，こん虫のキチン質の外層，ウニやヒトデの甲板などは*外骨格といい，これに反して脊椎動物にみられる体内の支持・保護・運動機能を営む硬組織を*内骨格という。

骨格　ヒトの骨格(上肢骨と下肢骨)の構成

上肢帯
肩甲骨…1　鎖　骨…1 (いずれも1側)

自由上肢骨
上腕骨…1
橈　骨…1 ｝前腕
尺　骨…1 ｝前腕
手根骨…8：豆状骨，三角骨，月状骨，大菱骨，小菱形骨，有頭骨，有鉤骨 (いずれも1側のみ)
中手骨…5
指　骨…14 (母指のみ2個の節骨・中節骨・末節骨からなる)

下肢帯
寛　骨…1 (1側のみ)

自由下肢骨
大腿骨…1
脛　骨…1
腓　骨…1
膝蓋骨…1
足根骨…7：距骨，踵骨，舟状骨，立方骨，楔状骨 (Ⅰ～Ⅲ)
中足骨…5
指　骨…14
(いずれも1側のみ)

ヒトの骨格は200余りの*骨が一定の規則にしたがって組み立てられ，骨格を形成している。これらが可動的な連結をしたり，あるいは不動的連結をもったりする。前者に属するものは滑膜性の連結すなわち*関節で，股(こ)関節・肩関節・膝(ひざ)関節・肘(ひじ)関節などがこれである。不動的な連結には，骨と骨との間を結合*組織性の繊維からなる*靭帯(じんたい)結合，*軟骨で連結する軟骨結合がある。靭帯結合の例としては，*頭蓋骨(とうがいこつ)間にみられる縫合や歯と顎骨(がくこつ)との間の釘植(ていしょく)などがある。椎骨(*脊椎)間の椎間円板や*骨盤前壁にある恥骨結合は軟骨結合である。頭蓋を構成する骨格は15種23個の頭蓋骨(脳頭蓋)と顔面骨(顔面頭蓋)からなり，*脊柱は頸椎7個，胸椎12個，腰椎5個，仙骨(せんこつ)・尾骨各1個から構成される。ただし，小児では仙骨は5個の仙椎から，尾骨は3～5個の尾椎からなっている(成人では癒合(ゆごう)している)。頸椎は哺乳(ほにゅう)類全般にわたり7個で，キリンもクジラも同数である。胸椎は肋骨(ろっこつ)と関節をつくる。下方にいくほど椎骨は大きく腰椎は最も大きい。尾骨はヒトでは退化し痕跡(こんせき)的である。胸部には胸郭とよばれるかご状の骨格があり，心臓・肺などの胸部内臓を保護するとともに呼吸機能にも関与し，胸郭を構成する骨は12の胸椎と，12対の肋骨，前面にあ

る1個の胸骨からなっている。骨盤は仙骨・尾骨と1対の寛骨から構成され，直腸・膀胱(ぼうこう)・生殖器などの骨盤内臓を入れている。寛骨は腸骨・坐骨・恥骨からなり，寛骨と仙骨は仙腸関節で，両側の寛骨は前面の恥骨どうしが恥骨結合で連結されている。上肢骨(じょうしこつ)は上肢帯と自由上肢骨からなり，下肢骨も上肢と同様に下肢帯と自由下肢骨からなる。〔蟠井勉・橋本長〕

こっかくき【骨角器】 哺乳(ほにゅう)動物の骨・角・きばを材料とした道具・装飾品の総称。旧石器時代以来使用されていたと推定される。日本では，縄文(じょうもん)時代，特に関東以北で発達し，シカの角・掌骨をおもな材料として，つり針・もり・やす・はり・へら・矢じり・装身具などをつくっている。弥生(やよい)時代以降にも少量をみるが，特に北海道のオホーツク文化で発達し，これにはクジラの骨でつくった大形品も多い。

こっかくきん【骨格筋】 ⇨筋肉

こっかこうあんいいんかい【国家公安委員会】 ⇨公安委員会

こっかこうむいん【国家公務員】 ⇨公務員

こっかこうむいんきょうさいくみあいほう【国家公務員共済組合法】 国家公務員共済組合の目的・組織・運営について規定する法律。1958年(昭和33)制定。一般労働者に適用される健康保険法と厚生年金保険法とを合わせた性質をもつ法律で，経費は組合員の掛け金と国庫負担金とであて，公社・公庫などの政府関係諸機関にもこの法律の規定が準用される。地方公務員・私立学校職員に対しては市町村職員共済組合法，私立学校職員共済組合法とがこれと同様の規定を定めている。なお，国家公務員共済組合は国家公務員の退職・災厄・公務以外による疾病(しっぺい)・負傷・分娩(ぶんべん)・死亡，およびその被扶養者の疾病・負傷などに対して給付を行ない，その他の福利厚生事業(厚生保養施設の設置・運営，組合員の貯金，貸付など)を行なう相互扶助機関である。〔寺尾方孝〕

こっかこうむいんほう【国家公務員法】 国家公務員に適用すべき根本基準を確立し，公務の民主的かつ能率的運営を保障することを目的とする法律。1947年(昭和22)に制定されて以来，数回改正されている。一般労働者の場合に労働組合法や労働関係調整法で扱われる労働関係が，国家公務員では服務関係の中に包含され，国家公務員法という一般的な法規の中に組み入れられている。この法律の中で，国家公務員は，全体の奉仕者として，あるいは公共の福祉のために勤務する者であるとの理由から，次の労働基本権および政治活動の自由が制約されている。①争議行為の禁止：公務員法上の争議行為の禁止は，全面的・絶対的であり，刑罰を科しているところに特色がある。②政治活動の制限：国家公務員法102条は，公務員の政治活動を禁止制限して罰則を科し，さらに具体的な政治的行為を人事院規則に列挙して，これらの行為をする者についても同様に罰則を科している。➔公務員〔木元錦哉〕

こっかしけん【国家試験】 国家公務員の採用・昇任，あるいは特定の業務につく者に必要な資格を与えるため国が行なう試験。種類は多種多様に及ぶが，国家公務員の採用試験や司法試験などのほか，公認会計士・税理士，医師・歯科医師・薬剤師・看護婦・助産婦，高圧ガス作業主任者・ボイラー士，自動車整備士・船員・航空従事者，栄養士・一級建築士試験などがあり，ほかに都道府県知事に委任して行なう理容師・美容師，あんま・はり・きゅう師などの試験もある。いずれの業種も専門的知識と技術を要し，それなしには国民に害を及ぼすおそれがあるため，一定水準の者のみに資格を与える目的で行なわれる。〔寺尾方孝〕

こっかしゃかいしゅぎドイツろうどうしゃとう【国家社会主義ドイツ労働者党】 ⇨ナチス

こっかしゅぎ【国家主義】 国家を人類最高の組織と認め，国家権力が社会生活の全領域に及ぶことを是認し，あるいはこれをめざす政治原理をいう。その具体的な現われ方は多様である。思想史的にはプラトン・ヘーゲルらのように，正義・善・道徳などの究極価値の実現を国家のうちに見いだそうとする理想主義哲学の国家観を倫理的背景としており，自由で独立した私的領域の存在を許容して，国家権力の介入しうる範囲を限定化する自由主義的な国家観と対立する。個人を国家に従属させ，すべての社会的存在・価値を国家が全体的に握り，それらに国家が意味を与えていく点で，全体主義ともよばれる。

一般に，近代国家形成・国民的統合を上からの力によって行なおうとするところでは国家主義への傾斜が強い(ビスマルクのドイツ帝国)が，事実上の統合・支配を保証し，より強化するため，さらにさまざまな根拠づけとイデオロギーがこれに加わり，超国家主義(➔ナショナリズム)・ファシズム・コミュニズム(➔共産主義)などの諸形態がその目的・手段・民族的個性によって多様性をもちつつ現われる。これら国家主義のイデオロギー的正当化は，総じて全体主義とよばれるにふさわしい。ここでは社会は国家に一元化されるから，自由な社会では当然認められる地方自治は原則上排除される。たとえば，フランスで本来国家社会主義を意味するエタティスムにも旧体制(➔アンシャン-レジーム)以来の国家統制主義的伝統がみられる。なお，国家主義はナショナリズムとの結びつきがきわめて深く，日本では国民主義・民族主義とともにナショナリズムの訳語の一つとして語られることが多い。〔寺尾方孝〕

こっかしゅけんせつ【国家主権説】 ⇨主権

コッカースパニエル［cocker spaniel］ イヌの一品種で，イギリス産のヤマシギ猟用の小形犬。これを改良した愛玩(あいがん)用のアメリカン-コッカースパニエルはイギリス産よりやや小さく，体高は36～39cmくらい。➔イヌ

こっかせきにん【国家責任】 国際違法行為があった場合，国家が負う国際法上の責任。国際責任・国際不法行為責任ともいう。国家は，国際法の主たる権利義務主体として，義務を履行しない場合には責任を問われる。国家責任は，原則として，①国際法益の侵害があること，②その法益侵害が国家の行為の結果であること，③行為主体である国家に故意または過失があること，の3要件によって成立する。国際法益とは，国際法によって保護されている利益一般をいい，国家が国際法上の義務に違反する行為を行なって，他の国際法主体の法益を侵害した場合である。法益侵害は国家の行為によるものでなければならないが，国家の行為は具体的には国家機関の行為として成立するため，国家機関の地位にある自然人が，その権限内の行為としてなした作為・不作為が，ここでいう国家の行為にあたる。権限外の行為については原則として責任を負わない。また，私人・企業による国際法益侵害については，国家が責任を負うことはないが，国家は，管轄下にある外国人の身体や財産に対して私人が侵害することのないよう，〈相当な注意〉をもって防止する義務があり，そのような侵害があればこれに国内的救済を与える義務をもつ。それゆえこれらの点について不作為・怠慢による義務違反があった場合には，国家は責任を負うことになる。国家に故意または過失がなければならないが，自己の過失なくして国家は責任を負わないという伝統的な過失責任主義については学説が分かれている。しかし最近の原子力関係や宇宙開発の分野では，無過失責任主義を認める方向にある。国家責任は，被害者を救済することによって解除されるが，その方法には，原状回復・損害賠償・陳謝がある。〔広部和也〕

こっかそうどういんほう【国家総動員法】 日中戦争・太平洋戦争下の全面的統制法。1938年(昭和13)4月第1次近衛文麿(このえふみまろ)内閣のとき成立。同年5月5日施行。戦時体制確立のため，経済部門のみならず国民生活全般にわたって統制・運用の権限を政府に白紙委任した授権法である。以後，軍事を優先としてこの法の各条の規定による各種統制法令が成立した。特に主要勅令の公布は議会を形骸(けいがい)化し，ファッショ化を進展させた。1945年廃止。

こづかっぱら【小塚原】 江戸時代，鈴ケ森と並び称された幕府の刑場。現在の東

京都荒川区南千住(みなみせんじゅ)付近。もと古岩原・古塚原，転じて骨が原ともいう。おもに獄門・磔(はりつけ)・火あぶりなどの極刑が執行され，安政の大獄・桜田門外の変などの志士の多くがここで処刑された。1771年(明和8)前野良沢らが腑(ふ)分け(解剖)をした地として有名。明治初年に廃止。

こっかどくせんしほんしゅぎ 【国家独占資本主義】 国家の経済活動への介入が恒常的となり，私的独占体と国家が体制的に融合するようになった資本主義をいう。しかし，その融合のしかたおよびその性格についてはさまざまな見解がある。①国家独占資本主義は，資本主義体制の危機を国家権力によってバックアップしようとして成立したとして，国家が私的独占体の利害に従属させられている点を強調する見解，②国家財政，国家の通貨管理および国家企業などを通じて国家の経済活動に対する役割が増大し，資本主義の内部に社会主義の物的条件が最高度に取り入れられているとする見解，③国家独占資本主義は私的独占体の利潤追求の強力な手段となる一方，私企業に対する否定的側面が社会主義への移行の足がかりをも提供するとする見解。いずれにしろ，国家独占資本主義の本格的成立は，1929年の世界恐慌とその後の不況期，つまり1930年代における国家財政の役割の増大，管理通貨制度を中軸とする国家的経済管理の実現，基幹産業部門における国家企業の発展，といった事象を指標として達成されたとする点ではほぼ一致する。〔常盤政治〕

こっかばいしょうせいきゅうけん 【国家賠償請求権】 国民主権の憲法下，主権者である国民に〈国民の公僕(こうぼく)〉たる公務員が不法行為によって損害を与えた場合，その賠償責任は国または公共団体が負うべきことを定め，損害を受けた国民が損害を受けたままにされてしまうことがないようにしようとする憲法が保障した請求権である(憲法17条)。明治憲法下では，たとえ不法行為による損害を受けた場合であっても，公務員(官吏といった)の行為に対しては国民の損害賠償請求は認められなかった。具体的には，別に定めている国家賠償法(昭和22年法律第125号)に基づいて行使される。〔永井憲一〕

こっかばいしょうほう 【国家賠償法】 国また公共団体の公権力の行使における不法行為によって生じた損害の賠償について定めた法律。明治憲法下では，特定の場合を除き，このようなとき損害賠償の責任を負うことはなかったが，1947年(昭和22)日本国憲法(17条)の規定を受けて制定された。公権力の行使にあたる公務員の不法行為，公の営造物の設置・管理の瑕疵(かし)に基づく損害に対して，国または公共団体は賠償責任を負うことになっている。〔寺尾方孝〕

こっかはちろん 【国歌八論】 荷田在満(ありまろ)の歌論書。田安宗武(むねたけ)の諮問に応じて執筆。歌源論・翫歌論(がんかろん)など8章に分かち，和歌の原理・変遷・本質を整然と論じている。中世歌論を退け，藤原定家を尊奉し，旧を守るだけの堂上歌人を非難し，和歌は技巧を凝らし，ことばの花を飾って詠ずべきもの，新古今的詞花を理想とすべしとする。宗武・賀茂真淵(かものまぶち)が反論して論争となり，国学者・歌人の注目を浴び，歌壇革新の風潮を生むきっかけとなった。〔渡辺守邦〕

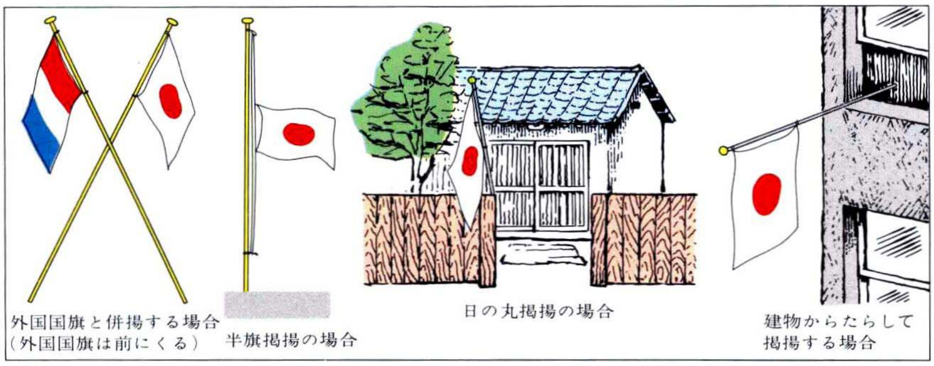
こっかひじょうじたいせんげん 【国家非常事態宣言】 国家に非常事態が起こったと認められたとき発せられる布告。治安維持のため特に必要があると考えられる場合のみ，国家公安委員会(→公安委員会)の勧告に基づいて総理大臣が特別措置を講ずる。全警察力を総理大臣の下に統制して事態に対処するが，あくまで一時的なものである。布告は20日以内に国会の承認を求めねばならず，この期間内に国会の承認が得られないとき，その布告は将来にわたって効力を失う。戒厳令などより弱い。〔溝口　潔〕

こっかほしょう 【国家補償】 国家が行なう損失の補償をいい，次のような使用例がある。①公法上の損失補償：適法な公権力の行使による国民の損失を補償するもので，たとえば国に収用された土地に対する補償など。狭義の国家補償といわれるものはこれをさす。②災害補償：不慮のできごとによる損害の補填(ほてん)で，社会保険制度の一種。③産業保護政策としての国家補償：たとえば第2次世界大戦前の輸出補償法。④刑事補償：無罪判決を受けた者に係争時の抑留・拘禁などで受けた損害を補償するもの。公法上損害賠償の一種と考えられる。〔寺尾方孝〕

こっかれんごう 【国家連合】 複数の国家が共同の目的を達成するために結合し，統一体を形成するもの。連邦国家と類似するが，両者はその結合の緊密度によって区別される。すなわち，連邦が国際法上一国家として扱われるのに対し，国家連合は，結合体の組織が国家的な性格をもつに至らず，連合を組成する各国がそれぞれ独立国の性格を保ちながら，外交権・交戦権などその権限の一部を結合体の組織に移譲しているにすぎない。この際，中央の組織と各組成国とは条約によって結ばれ，結合の基礎は国際法にある。国家連合の例には，1778～1787年のアメリカ合衆国，1958～1961年のアラブ連合(シリアとエジプトの連合体)などがある。しかし，国家連合も複雑多岐にわたる国家結合の一形態であり，性格面で判然としない部分も多い。〔吹浦忠正〕

こっき 【国旗】 国家を表徴し，同時に国家の尊厳の表徴でもある旗。各国の国旗は，それぞれその国の政治・経済・文化・地理・歴史・民俗・宗教などを表現しており，相互に連関をもちながらも独自のデザインを有している。憲法その他の法令で，国旗の図がらや使用法を定めている国も多い。【種類】広義の国旗には，政府旗，公式旗，商船旗，軍旗の一部，元首旗を含む。日本の場合は一般に，日の丸(別称日章旗)が国旗として唯一のデザインとみられているが，旭日の軍艦旗も，かつて国際的事例において日本の国旗とみなされていた。日本の皇室は菊の紋章をつけた皇室諸旗(天皇旗・皇后旗・皇太子旗など)を独自に保持しているが，外国でも大統領旗など元首または元首相当者の権威を表わす旗を定めている。政府旗は，政府だけが使用する国旗で，国によっては明確に区別している。たとえば，オーストリア・コスタリカ・エチオピア・ベネズエラなどでは，普通に用いる国旗の図がらに国章を加えたものを政府旗または外交旗として，政府機関や在外公館で使用している。オーストリアでは〈紋章・旗印・国璽および象徴に関する1945年5月1日付法律〉第2条に，〈オーストリア共和国の旗印は赤・白・赤とし，国家官庁・国営施設・国家造営物に掲げられる旗や幟(のぼり)は中央に共和国紋章を入れたものとする〉と定めており，同法第1条にその紋章を〈オーストリアの独立の回復と国家組織の再建を記念して断ち切られた鉄鎖が両足に巻きついているワシ〉と定めている。また，西ドイツ・フィンランド・ポーランド・コロンビアなどの諸国では，政府が公式に旗を用いる場合，中央に紋章のついたものを使うことが多い。これらはいずれも政府旗である。1949年5月8日制定のドイツ連邦共和国(西ドイツ)基本法第22条第2項では〈連邦旗は黒・赤・金とする〉と定め，翌年1月6日制定の法律はワシの印のついたものを政府旗(官庁用国旗)とすると規定している。さらに，イギリスのように，政府機関も国民もふつうユニオン-ジャックを使っているが，在外公館のみはその中央に紋章を入れている例もある。国際連合では一貫した原則はない。たとえば，オーストリアは国章を入れたもの，西ドイツなどは逆に紋章を除いたものをそれぞれ使用している。これは，国連に対する各国の姿勢，代表部の資格，国際法上の地位などの違いによるものと思われる。

国民旗を特に規定している例はないが，中南米諸国や一部のアフリカ諸国のようにデザインの複雑な紋章を伴う国旗は，日常使用する場合，簡便化を図って紋章を除いたものを使用するが，これらは国民旗といえる。同じような特殊なものにフランスの三色旗の例がある。この場合は，美的観点，特に実際に使用したとき3等分に見えるようにとの配慮から，正式のものとは別に，第三共和制(1875～1940)中期ごろから青・白・赤の3色の幅を30対33対37の比率にしたものが用いられた。これなども広い意味の国民旗といえよう。商船旗は，海運国では明確に規定しているものが多い。イギリスの商船旗はユニオン-ジャックをカントン(旗



国　旗

面左上部)につけた赤旗である。また,狭義の国旗との区別を憲法で明確に規定した例にはドイツのワイマール憲法第3条に,〈国旗は黒・赤・金とする。商船旗は黒・白・赤とし,カントンに国旗を記す〉とある。さらに,スカンジナビア諸国では,国旗の末尾をツバメの尾のように切った旗を商船旗にしている。

【歴史】古代エジプトや中国の周時代の遺跡から,明らかに旗の使用が認められる事象が発見されて,考古学者や歴史学者は国家の成立と国旗の誕生をほぼ同時期とみるようになった。古代において,旗は部族の所属や王の権威を表わし,また戦士の士気を鼓舞するために不可欠のものであった。十字軍*遠征の時代になると,帆や舷側(げんそく)に簡単な紋章を描き,楯(たて)や旗にも船や兵士の所属を示す印が用いられた。そのうち,デンマークの〈ダンネブログ旗〉,イングランドの〈セント-ジョージ旗〉などは現在も使用されている。十字軍の遠征は,国情や民族の異なる諸国民の大規模な武装集団の移動でもあったので,所属を区別するための印として,国旗や国章は重要であった。これらの国旗・国章は,キリスト教を背景として,十字架を種々に変化させたものが多い。また,遠くからも区別しやすいこと,犠牲と献身とを赤色に表現したこと,染料が得やすく染色が容易なことなどから,赤と白の旗が大部分であった。ハンザ同盟*が絶頂期にあったころは,同盟諸都市の勢威と結合を誇示するため,旗はしだいに複雑なものとなった。また,大航海時代*には,新航路を進む探検者は神の庇護(ひご)を祈念して,十字架を描いた旗を掲げた。たとえば,コロンブスは白地に十字架を描いて,後援者イサベルとフェルディナンドのイニシャルをこれに組み合わせている。イギリスのユニオン-ジャック,ブルボン家のブルボンの白旗,スウェーデンの金十字旗,帝政ロシアの白・緑・赤の横三色旗などは,いずれも絶対王制とともに成立し普及した国旗である。またこのころ国家間の交流が盛んになり,外交制度が整備されると,国旗の使用も増し,中世の紋章学の煩瑣(はんさ)な規則を脱して,王家の紋章の色だけをとって国旗に用いることが行なわれた。スウェーデン・ポーランドなどでは当時の国旗がいまに伝えられ,ほかにオランダ・ベルギー・ルクセンブルクなどそれに近い例がみられる。オランダの場合は,〈青地にオレンジ色の房紐(ふさひも)で飾られた白い狩りの角笛〉を形どったオレンジ公*家の紋章から色をとって,オレンジ・白・青の横三色旗とした。のちオレンジ公家が王家となり,オランダが王国への道をたどりはじめると,逆に王権の強大化を恐れてこれに反対する勢力も強くなり,同家の色の強いオレンジを避けて赤に代える習慣ができた。正式には1937年の勅令で赤と定められたが,いまでもオレンジやオレンジ系の赤を好んで用いることがある。これは王室に対する国民の思慕を示すものといえる。オランダの三色旗は市民革命*を経た各国の国旗に強い影響を与え,三色旗が近代市民国家の象徴のように思われた時代もあった。20世紀にはいると,赤旗*が社会主義国のシンボルとして登場した。これはロシア革命*後に制定されたソ連の国旗に端を発したものである。一方,各国の伝統や民族のシンボルを国旗のデザインとする傾向も強い。

【各国の国旗】オランダの三色旗は帝政ロシアを経てスラブ諸国へ,また,かつての同国の植民地南アフリカ共和国へと強い影響を与えた。17世紀の末,在任のままオランダに留学したピョートル大帝は,帰国後ロシアの近代化について種々の政策を打ち出した中で,オランダの三色旗から強く影響された白・緑・赤の横三色旗を国旗として制定した。ユーゴースラビア・ブルガリアの旗は,このロシアの旗からさらに影響を受けたものである。オランダに隣接するルクセンブルクの旗はオランダの旗とよく似ているが,これは〈青いすじのある銀の台に乗った赤いライオン〉という大公家の紋章に由来するもので,直接の関係はない。ベルギーの国旗は,同国の中核をなすブラバント公国の〈黒い大地に立ち赤い舌を出した金色のライオン〉という紋章から色をとったもので,これは永世中立国として独立した当時(1831),周辺の列強の色に類似しないようにと選ばれた。同様の例にキプロスの旗がある。同国は,ギリシア系住民とトルコ系住民との抗争が続く中で独立したため,両国の国旗の色である青(ギリシア)と赤(トルコ)の2色を排して,平和のシンボルであるオリーブの枝でキプロス島を囲んだ意匠とした。フランスの三色旗は,イタリア・ベルギーなど近隣の国から,19世紀に多く独立した中南米各国の旗にも影響している。イギリスのユニオン-ジャックはイングランド・スコットランド・アイルランドの三つの国旗が合併(ユニオン)してできた旗(ジャック)であり,その原型は三つの十字形旗であった。スイス国旗も13世紀末の独立戦争に由来する古いものであるが,キリスト教が絶対的な力をもっていた時代にあって,神の加護を求める気持ちを強く表わしている。国際赤十字(→赤十字社)の旗は,創立者アンリー-デュナンとその祖国であり,また赤十字社の設立に大きな援助を与えたスイスに敬意を表して,同国旗の色を逆にしたものである。キリスト教国の国旗には十字架をかたどったものが多い。特にスカンジナビア5か国は,いずれも形のよく似た十字形旗を制定して,その連帯を表わしている。デンマークの国旗は,13世紀末に未開のエストニア地方(バルチック海東岸,現在ソ連領内の自治共和国)と戦った際,神の啓示とともに,このダンネブログ旗(デンマークの赤旗)が空から舞い降りて,苦戦から救われたことに由来する世界最古の国旗(現存)である。

アメリカの星条旗*は中南米諸国の旗にも,キューバ・パナマ・チリなどにも影響を与え,美しい紋章と国標がこの地方の国旗の特徴としてあげられている。紋章は国内では省略されることが多いが,中米5か国のように,かつて同一国家を構成していた国国では,紋章を除くとまったく同じ旗になる例もある。神・祖国・自由のドミニカ,神・団結・自由のエルサルバドル,平和・正義のパラグアイ,秩序・発展のブラジルなどが国標を描いている例である。紋章にはしばしば〈自由の帽子〉が描かれている。これはフランス革命*のときに,パリ市内をベルサイユ宮殿に向け示威行進をした人々がかぶったと伝えられるもので,19世紀初頭にあいついで独立した中南米諸国民の精神的背景がフランス革命にあったことを示している。

東欧の社会主義国は,おおむね革命前の国旗を基調としている。チェコスロバキア・ポーランド・ハンガリーは,革命前とまったく同じ旗であるが,ハンガリーの場合はハンガリー動乱*まで国旗の中央に麦やハンマーを組み合わせた社会主義国らしい国章がついていた。現在も憲法上変わりないが,実際には国章のついた旗は使用されていない。ルーマニア・ブルガリア・東ドイツは,いずれもかつての国旗に新しく国章をつけたものである。ルーマニアの油井,ブルガ

リアの歯車，東ドイツのコンパスなど，特徴のある国章がみられる。ユーゴースラビアとアルバニアは，昔の旗に黄色で縁取った赤い星をつけている。アルバニアの〈双頭のワシ〉は，国際的位置を表わし，東洋と西洋の両方に向いているといわれる。モンゴリアの国旗には〈ソヨンボ〉という民族的なシンボルが描かれているが，その構成は陰陽五行説(→五行説)によっている。大韓民国(だいかんみんこく)の太極旗やネパールの国旗も陰陽五行説によっているが，中華民国の青天白日旗の12の光芒(こうぼう)は十二支を表わしている。1960年代アフリカ諸国があいついで独立したが，これら新興諸国はアフリカでただ1国長く独立を保ってきたエチオピアの三色旗に敬意を表し，フランスとの友好関係，アフリカ統一の理想，連帯感を表現して，赤・黄・緑の三色旗が圧倒的に多い。ガーナ・ギニア・カメルーン・マリ・ルワンダ・セネガルなどがそれである。チャドは，旧仏領の国としてフランス国旗の中央部分を黄色にした旗を用いている。中でも南アフリカ共和国はオランダ系の移民が支配階級の圧倒的多数を占めるので，オレンジ・白・青のオランダ三色旗を基調とし，ボーア戦争*を戦ったトランスバール・オレンジ両国の旗とユニオン-ジャックを中央に描いて国旗としている。また，リベリアは，アメリカ合衆国の解放奴隷が19世紀の中ごろ建国した国であり，当時のアメリカ大統領モンローが積極的にこれを支持したことを記念して首都をモンロビアと称するほどであるが，国旗にもアメリカの影響が強い。一つの星は当時アフリカ唯一の黒人国家であったことを，11本の条は独立宣言に署名した11人を表現している。

回教国の国旗は三日月と緑・赤・白・黒の4色を用いることが共通している。アラブ連合の旗は，1958年2月シリアとエジプトが合併したとき，それまでのエジプトの国旗(緑の地に白い三日月と星を描いたもの)に代わって成立したものである。両国民の団結を表わすと説明された二つの星はシリアの同連合離脱(1961年9月)後もそのままになっている。二つ星のアラブ連合の旗とよく似た国旗に，イエメン(一つ星)，シリア・イラク(ともに三つ星)の旗がある。イラクは1963年2月アレフ将軍らによる親ナセル路線のクーデターがあって現在の国旗となったが，同年5月シリアがこれに同調して，両国はまったく同じ国旗を使用することとなった。

赤旗はフランス革命当時は，戒厳令の施行を示すものであったが，1848年の二月革命のころから国際共産主義運動*のシンボルとなり，1864年の第1インターナショナル(→インターナショナル)の設立されたころは，その地位が国際的に認められ，一般に社会主義国の旗には赤色が使用されているが，これは必ずしも意図的に統一したわけではない。東欧諸国やキューバの国旗は革命前と変わっていないものが多い。むしろ，社会主義国に共通なシンボルとしては赤い星をあげるべきであろう。星は世界の労働者階級の団結を象徴するものといわれる。新しく人民共和国を標傍したコンゴ(ブラザビル，旧仏領)も赤地に黄色い星の国旗を採用した。ソ連の国旗は労働者をハンマーで，農民を鎌(かま)で表わし，五星紅旗とよばれる中華人民共和国の旗は，革命をささえる四つの階級とその団結を星で示している。北ベトナムの旗は金星紅旗といって，中央に大きな星一つの赤旗であり，南ベトナム解放民族戦線の旗は，その金星紅旗の下半分が青色になっている。

カンボジアはロン-ノル将軍らによる1970年の革命後の国旗変更に際しても，アンコール-ワット*の紋章を基調としたものを採用した。インドのチャクラ(仏典結集(けつじゅう)とガンジー*の糸車とに共通のシンボル)，レバノンのスギ，イスラエルのダビデの楯，ウガンダのカンムリヅル，レソトのレソト帽，ケニヤ・スワジランドの楯とやり，カナダのカエデ，グアテマラのケツァール，バルバドスの三つまたやり，メキシコのサボテン，マルタのガーター勲章，サウジアラビアのコーランなど，いずれも独特のシンボルである。国旗について憲法上なんらかの規定のある国は世界で約90か国に及ぶが，これも国によって差があり，フランス・ソ連・西ドイツなどでは図がらまで規定しているのに対し，アメリカ合衆国・大韓民国・インドなどは憲法ではまったく触れていない。一般に，政治制度や法制においてフランスやソ連の影響の強い国々では，憲法に必ず国旗に関する規定がある。また，政治制度の変革によって新国旗を明示する場合でも憲法や宣言で発表する。西ドイツ・アラブ連合・中南米諸国がその例である。

〔形態と色〕 国旗の形はネパールを除いてすべて長方形または正方形である。そのうち長方形のものの規格をみると，2対3のものが圧倒的に多く，次いで1対2，3対5などである。バチカンは憲法および付属文書で正方形と規定されているが，スイスの国旗などは，縦横比を規定する法令もなく，したがって同国内においては正方形のものも長方形のものもみられる。わが国の場合は，国旗の規格に関して現在唯一の有効な法令とされる太政官(だじょうかん)布告第57号に実尺図で表示しているのを換算すると，縦横の比は7対10となる。しかし，実際にはいろいろな比率のものが市販されており，官公庁では2対3の比率のものを多く使用しているのが現状である。このように，国旗の縦横の比率は，アメリカ合衆国の星条旗の1対1.9のように，正確に定められ，比較的よく遵守している例も少なくないが，なんら比率を規定していない国もあり，またルクセンブルクのように2種類の比率を定めている国もある。そのため，国連やオリンピック*競技大会などでは，各国旗の縦横の比を2対3などに統一して作製，掲揚している。国連旗についても，国連旗使用規則には〈2対3または3対5，あるいは併揚される各国旗に準拠して〉などと定められている。国旗の色の表わす意味は，国によって異なるが，赤はおおむね愛国心や革命・独立にささげた血を意味し，青は海・空・川・希望，緑は森林・農業・豊かさ，黄色は富，白は純潔をそれぞれ表わすことが多い。色の中では，よく見えること，製作が便利なことなどの理由もあって，赤色が最も多く用いられる。各国の規則では，血のような赤，まっかな夕日の色，ルビーの赤，深紅，などと感覚的に表現されているにすぎない。1960年代になって，ケニアなど旧英領アフリカ諸国では，国旗の色の明度・彩度・色相を表示して正確を期しており，また，アルジェリアでは国旗の緑と赤を光波の周波数で表示している。

〔取り扱い方法〕 国旗は国家の尊厳性にふさわしく，丁重に取り扱わねばならない。わが国では国旗の取り扱いについて法的な規制がなく，わずかに刑法第92条で〈外国国章の損壊等〉について罰則規定を設けているが，これも当該国政府の請求を待ってその罪を論ずるものとされているにすぎず，いまだ適用された例はない。しかし，アメリカ合衆国・リベリア・パキスタンのように，国旗の取り扱いについて詳細な規則を定めている国も多い。それらの規則から共通の原則を述べると次のようになる。

①汚損した旗は用いない。また，旗を地面につけたり，ぬらしたりしない。したがって雨天には使用しない。②掲揚は通常日の出から日没までとする。③旗ざおの冠頭に密着して掲揚する。冠頭から下げて掲揚するものは弔旗とする(正式にはいったん冠頭まで掲げたのち，約半分の高さまで降ろす)。④テーブル掛けに使ったり，文字を書き込んだりしてはならない。⑤掲揚時には起立・脱帽して国旗に正対する。⑥二つの国旗を掲揚するときは，向かって左側が上位である。したがって，歓迎を受けるほうの国旗は通常左がわに掲げられる，などである。〔吹浦忠正〕

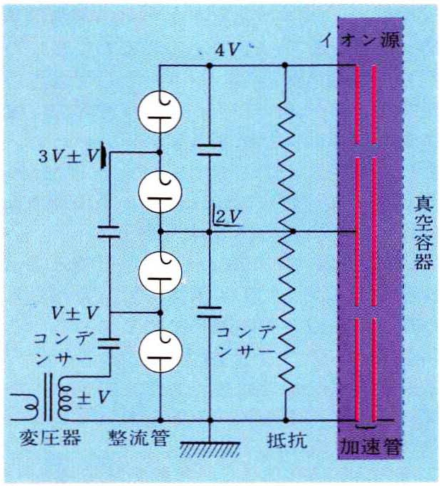
こっきぐん 【黒旗軍】 19世紀後半，ベトナムの東京(トンキン)でフランス軍に抵抗した中国人集団。指導者は広東(カントン)出身の劉永福(りゅうえいふく)。1873年以来フランスがトンキンに進出したので，紅(ソンコイ)河の航行権をめぐって衝突，翌年阮朝(げんちょう)は事態収拾のためフランスと第2次サイゴン条約を結んだが，黒旗軍を使ってその実施を阻止した。清仏(しんふつ)戦争後の1885年に解散。

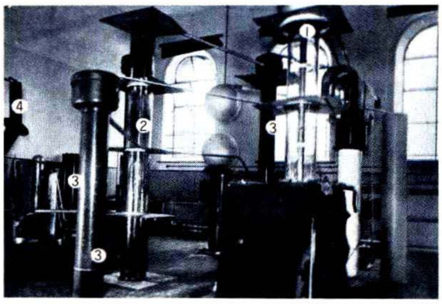
こっきょう 【国境】 一国の国家主権の及ぶ地域的限界，およびその国家の領土の地理上の限界を示すものを国境という。国

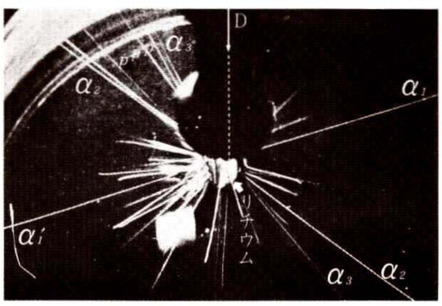
境には山脈・河川・湖水・公海・海峡など，自然の境界によって画定されるものと，緯線・経線，あるいは国際間の取り決めなどによって人為的に決定されるものとがある。ドナウ川の中央線で画定されているユーゴースラビア・ハンガリー間の国境，ピレネー山脈の分水嶺(ぶんすいれい)によるフランスとスペインとの国境などでは前者であり，北緯49°の線で画定されるカナダとアメリカ合衆国との国境，第2次世界大戦後，連合国の占領地域によって分割された東西ドイツの国境などは後者である。前者の場合，国境はそのまま民族・言語・宗教などの境界ともなり，地理的・軍事的・政治的に安定したものとなりやすいが，後者の場合は，しばしばこれらの条件を無視して画定されることがあり，ために国境が安定しないことも多い。特にアフリカ諸国のように，旧宗主国の勢力範囲によって民族の分布などを無視して国境が定められた所では，民族間の紛争が絶えない。前者の場合でも河川などによるものは，川の流域や中州の位置が変化するために紛争を招くことがある。ウスリー川・アムール川の国境線を巡る中ソの国境紛争(→中ソ論争)や，リオ-グランデ川をはさんでアメリカ合衆国とメキシコとの間で争われた領土問題などがその例である。　〔吹浦忠正〕

こっきょうがっさく　【国共合作】　中国国民党と中国共産党の2回にわたる合同をいう。①第1次国共合作：1924年，孫文の率いる中国国民党は，コミンテルンの働きかけによって連ソ・容共・労農援助の三大政策を打ち出し，中国国民党・中国共産党の統一戦線(合作)が成立した。1925年の五・三〇運動を経て革命運動は高揚し，1926年，軍閥政府の打倒と中国の統一をめざして，国民革命軍は広東(カントン)を出発，北伐を開始した。国民党は労農運動の発展に対する恐怖と帝国主義の恫喝(どうかつ)によって革命を裏切り，1927年4月，四・一二クーデターにより第1次国共合作は崩壊した。②第2次国共合作：国共分裂ののち，蔣介石(しょうかいせき)は軍事独裁を行ない，抗日運動の弾圧と労農紅軍の討伐に血道をあげたが，共産党の呼びかけと西安事件によって政策転換を迫られた。そして，1937年盧溝橋(ろこうきょう)事件ののち第2次国共合作，抗日民族統一戦線が成立，抗日戦争を遂行する大きな力になった。しかし1945年，抗日戦争勝利ののち，アメリカに援助された蔣介石の内戦政策によって抗日民族統一戦線は崩壊し，第3次国内革命戦争が始まった。　〔小野和子〕

コッククロフト　［Sir John Douglas Cockcroft］（1897～1967）　イギリスの物理学者。マンチェスター工業大学で数学・電気工学を修め，キャベンディッシュ研究所でラザフォードの指導を受けた。ウォルトンとともに陽子加速器を建設し，原子核の人工破壊に成功した。ケンブリッジ大学教授。1951年ウォルトンとともに，ノーベル物理学賞を受賞。







コッククロフト・ウォルトンの実験

(上)コッククロフト・ウォルトンの装置
(中)1931年，コッククロフトとウォルトンが，ケンブリッジ大学に建設した初期のころの装置。写真右寄りにある透明ガラス円筒内に加速管が組み込まれている。陽子を約800kVに加速できた。①加速管，②整流器，③コンデンサー，④変圧器
(下)1933年，ウォルトンとディが重水素Dを，400kVに加速し，リチウムLiにあて

$$Li^6 + D \rightarrow He^4 + He^4$$

の反応を霧箱で観測した一例。二つのヘリウムHe^4(α粒子)は組みとなり，互いに反対方向に飛び出す。写真では，このα粒子の組み以外に高速の陽子や短い飛程の粒子もつくられているのがわかる

コッククロフト・ウォルトンのじっけん　【コッククロフト・ウォルトンの実験】　1932年，コッククロフトとウォルトンが，人工的に加速した粒子により，はじめて原子核破壊に成功した実験。その方法は多数の整流器とコンデンサーを組み合わせて得た高い電圧で，陽子などの荷電粒子を加速し，他の原子核に衝突させ，これを破壊するというものである。原子核研究の初期に中性子線源としたり，一般の核反応の研究に多く用いられた方法である。彼らが用いた高電圧発生装置は，グライナッヘルが1920年に考案した電圧増幅器に基づいている。この回路は一段につきコンデンサーと整流管が各2個でできており，負荷がないときには変圧器の電圧尖頭(せんとう)値をVとすれば，一段につき$4V$(一般にN段ならば$2NV$)の電圧が生ずる。この装置では整流管のフィラメントを加熱する方法が問題であって，コッククロフトらは絶縁台の上にささえた蓄電池で加熱した。最近では整流管の代わりにセレン整流器を用いることが多いが，最高電圧が200万V程度であるので，原子核破壊装置そのものとしては現在ではあまり使われず，大きな粒子加速器のイオン源・初段加速器として利用されている。

このような加速装置でコッククロフトらは陽子を加速し，リチウム(^7_3Li)に衝突させて，

$$^7_3Li + ^1_1H \longrightarrow ^4_2He + ^4_2He$$

の反応で出てくる二つのα粒子をとらえ，そのエネルギーを測定した。測定方法は向き合って置いた二つのシンチレーション板で，同時に反対方向に出るα粒子をとらえた。ここで測定した運動エネルギーは，当時まだあまり正確に知られていなかった質量をもとにして計算した予想値とほぼ一致した。　〔福井崇時〕

コックス　［Richard Cocks］（？～1624）　イギリス人。1613年(慶長18)セーリスらとともに肥前(長崎県)平戸に来航。イギリス東インド会社の商館を平戸に設置し，館長兼商人頭(がしら)となる。館員を江戸・駿府(すんぷ)(静岡市)・大阪・対馬(つしま)に駐在させて貿易の拡張を図ったが，オランダ商館との競争に敗れ，社命により1623年(元和9)商館を閉鎖してバタビアに帰還，本国へ帰航の途次死去した。

こっくり　【狐狗狸】　指先の無意識運動を利用した占いの一種。30cm前後の3本の竹・棒を交差させて縛った上に盆や枝を載せ，まわりに3人すわって手を軽く盆や枝に触れながら〈コックリさん　コックリさん　占っておくれ〉といった唱え言を唱え，盆や枝が傾くその動きで目的のことを占う。これは3人が互いに指と指とをくっつけるのがルールである。地方によっては盆を載せず，かな文字盤上に割りばし3本を交差させ，それぞれが各1本の上端を持ち唱え言を唱えるとおのおのの足が文字上をたどり，そこから目的のことを占うところもある。明治初期にアメリカ人から伝わり流行したといわれているが，江戸中期伝来説もある。〈コックリ様・お傾き〉と敬称でよぶのは神秘観が漂っていたからで，巫女(みこ)や呪術者(じゅじゅつしゃ)が招かれて行なう場合には，地蔵

尊や稲荷(いなり)神などの神話による占いとして受け取られ，祈禱(きとう)や神降ろしの呪文が伴うことが多い。〔今野圓助〕

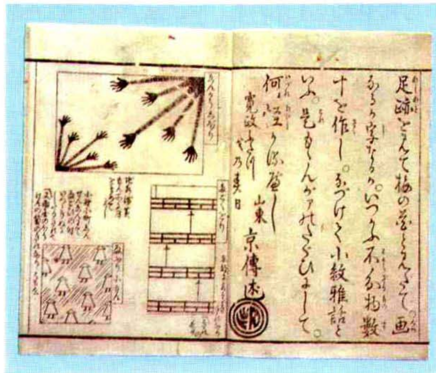
こつけいせいふぜんしょう【骨形成不全症】 先天的に外骨膜の造骨機能が低下し，骨の横径発育が侵される疾患。骨の長軸発育は障害されないが，長管状骨は細く，もろく，骨折を起こしやすい。出産時すでに症状が出現する場合と，生後数年してから現われる場合とがある。遺伝性疾患と考えられ，女性に多い。症状は骨折を起こしやすいこと，難聴があること，強膜が青色であることなど。治療は十分な栄養，ビタミンD・カルシウム剤の投与，骨折に対する副子固定などである。〔玉城 緻〕

こっけいせつ【国慶節】 中華人民共和国の建国記念日。1949年10月1日，中華人民共和国成立の式典が北京(ペキン)天安門前の広場で行なわれ，毛沢東が中華人民共和国の成立を宣言した。以来，毎年この日を国慶節として祝い，北京を中心に盛大な祭典が繰り広げられる。なお，中華民国の建国記念日も国慶節と称した。これは1911年10月10日の辛亥(しんがい)革命の際の武昌蜂起(ぶしょうほうき)を記念したもので，双十節ともいう。

こっけいぼん【滑稽本】 江戸後期の小説類の一種。明治以降の呼称で，当時は人情本をも含めて〈中本〉とよばれた。1751年(宝暦1)前後に静観房好阿(じょうかんぼうこうあ)の《当世下手談義(いまようへただんぎ)》や平賀源内の《風流志道軒伝》が出され，今日それらは初期滑稽本といわれる。一時この傾向は衰えたが，十返舎一九の《道中膝栗毛(どうちゅうひざくりげ)》が1802年(享和2)から1822年(文政5)まで続刊され，新しい笑い・滑稽の文学として評判になり，続いて式亭(しきてい)三馬の《浮世風呂(うきよぶろ)》《浮世床》が《道中膝栗毛》とは異なる写実的な手法で実生活における笑いを描いてみせた。さらに滝亭鯉丈(りゅうていりじょう)の《花暦八笑人》《滑稽和合人》が茶番狂言を滑稽本に取り入れておかしさを強調したが，その後は卑俗な笑いやくすぐりの強調のみの亜流的作品が出るばかりであった。〔小池正胤〕

こっけいわごうじん【滑稽和合人】 江戸後期の滑稽本。初・2・3編は滝亭鯉丈(りゅうていりじょう)，4編は為永(ためなが)春水作。鯉丈の《花暦八笑人》の続編ともいうべき作品で，和次郎ら6人が，さまざまのこっけいな失敗・愚行をくり返す生活を描く。江戸末期の町人の退廃的・無目的な日常が，かなり誇張して表現されている。

こつけっかく【骨結核】 骨の結核。主として若年者の長管状骨の骨端，あるいは短管状骨を侵す。骨自体から起こることはまれで，多くの場合肺結核・腺結核(せんけっかく)から血行性に，あるいは近接組織から連続的に侵される。一般に20歳以下に多い。早期には特有の症状はない。局所の症状としては，疼痛(とうつう)，圧痛，軽度の機能障害があり，その他骨の奇形・寒性膿瘍(のうよう)・瘻孔(ろうこう)などを生ずる。診断にはX線検査が重要である。治療には安静，栄養，日光浴，抗結核剤などの化学療法，局所の安静と負担除去のためギプス包帯・コルセット・歩行支持器などの使用が行なわれ，また外科療法も行なわれる。〔玉城 緻〕



滑稽本 山東京伝著《小紋雅話》

こっこ【国庫】 国の現金を管理する制度全体をさす。国庫に属する現金を国庫金という。国庫金の受け払いは日本銀行の窓口で行なわれ，国庫金の経理事務も日本銀行に委託されている。税金の納入や経費の支出があると，日本銀行にある政府預金勘定が増減することになる。国庫金の受け払いじりを，国庫収支または国庫対民間収支といっている。

こっこうだんぜつ【国交断絶】 国家間の平和的友好関係が断絶されることで，国際連盟規約第12条の〈国交断絶に至るおそれのある紛争の処理に関する規定〉においてはじめて用いられたことば。この場合の国交断絶とは，外交関係に限らず現実に国家間の平和的友好関係が破れることを意味する。一般に，国交断絶とは外交関係の断絶で，正確には外交断絶とよばれる。この場合，自国が当該国に派遣している常置の外交使節とその随員を召還し，自国に駐在するその国の常置の外交使節とその随員に退去を命ずることで公の関係を断つ。国交断絶は，戦争への前段階や利害関係をもつ他国の政策や行動に対する不満の意志表示として行なう場合が多い。〔原田政洸〕

こっこさいむふたんこうい【国庫債務負担行為】 年度内に契約締結の必要はあるが，実際の支出は翌年度以降になるという場合に，国会の議決を受ける予算の形式をいう。法律に基づく場合とか，その年度の歳出予算ないしは継続費とかいう形態によらないで，経費の支出を伴うような契約を結ぶ場合である。国庫債務負担行為には，特定の事項について，その必要の理由，債務負担の限度額，経費を支出する期限などを具体的に明らかにして，あらかじめ国会の議決を経るものと，災害その他の緊急の場合に，個々の具体的な目的を定めることなく，応急の用のために一定の金額について国会の議決を経るものとがある。〔西野義彦〕

こっこせいりうんどう【国故整理運動】 中国で，20世紀前半に行なわれた文化運動。五・四運動は，儒教の封建道徳を根底からくつがえし，新たにマルクス主義思想を導き入れたが，革命の急進化を恐れた胡適(こてき)らは中国の過去の文化・歴史(国故)のすべてを科学的に再検討・再評価する運動を提唱した。この運動の中で，先秦(せんしん)の思想史，元・明(みん)・清(しん)の文学，中国古代史などの実証的研究が進んだが，それは，五・四運動の提唱した科学を実証主義のわく内にとどめようとするものであった。〔小野和子〕

こつざい【骨材】 モルタルやコンクリートに使用する砂・じゃり・石粉・砕石などの原材料の総称。5㎜目の網ふるいに重量で90％以上通過する細かいものを細骨材といい，そうでないものを粗骨材という。骨材には天然骨材と人工骨材があり，前者は，砂・じゃりなど川や海でとれるもの，後者は岩石や鉱滓(こうさい)を砕いて適当な粒度とした砕石および膨張性ケツ岩やフライアッシュ(火力発電所などで燃焼ガスに混入する石炭灰)などを焼成した骨材をさす。重量別には川砂・川じゃりなどの普通骨材(比重2.60ぐらい)，火山砂・軽石・ヒル石・パーライトなどの軽量骨材，ジュウショウ石・鉄鉱石などの重量骨材(放射線遮蔽(しゃへい)用コンクリートに用いる)がある。〔難波蓮太郎〕

こつじき【乞食】 托鉢(たくはつ)，行乞(ぎょうこつ)ともいう。出家して仏教教団に所属する比丘(びく)・比丘尼は，いっさいの生業を離れ，在家信者に食を乞(こ)い，その供養によってみずからの肉体を維持すべきことが規定された。そこで，一定の作法に従って食を乞う行法を乞食といい，修行の一つとして行なわれた。乞食の場合には，身心を整え，威儀を正し，仏制に従い，身をささえるだけで満足して余分の食を受けないなどを規定した〈乞食四事〉が重視された。〔田中良昭〕

こつしゅ【骨腫】 ⇨骨腫瘍(こつしゅよう)

コッシュート［Kossuth Lajos］(1802～1894) ハンガリーの政治家。ブダペスト大学卒業後，弁護士となる。ウィーン政府の政策を批判したため，1837～1840年投獄され，釈放後国民党機関紙の編集を通じて社会改革と民族独立を主張した。1847年国会議員となり，急進派を指導した。フランスの二月革命を利用してさらに運動を進め，ハンガリー最初のバチャーニュ内閣の蔵相となった。やがて実権を握ったが，オーストリアからの独立戦争にロシア軍が干渉したため独立に失敗し，トルコに亡命し，イギリス・アメリカを経てイタリアで没した。〔山県弘志〕

こつしゅよう【骨腫瘍】骨から発生する腫瘍*の総称。骨性腫瘍と非骨性腫瘍とに分けられる。骨性腫瘍は骨形成能と関係のある組織から発生した腫瘍で，良性のものとして骨腫・骨軟骨腫・軟骨腫・良性巨大細胞腫など，悪性のものとして骨性肉腫・軟骨肉腫・繊維肉腫などがある。非骨性腫瘍は骨形成能に関与しない骨の細胞から発生した腫瘍で，多発性骨髄腫・ユーイング肉腫*などがある。良性腫瘍に対しては，摘出後骨移植および変形の矯正(きょうせい)(骨切術)を行ない，骨肉腫に対しては早期切断・制癌(せいがん)剤・放射線療法を行ない，ユーイング肉腫に対しては放射線療法・切断が行なわれるが，いずれも予後は悪い。〔玉城　厳〕

こつずい【骨髄】骨の緻密(ちみつ)質に囲まれた骨髄腔(こう)にある柔らかい組織。ここで造血作用が行なわれる。幼時には全身の骨髄が造血作用を営むが，長ずるにしたがって脂肪化し，一定の部位の骨髄のみが造血作用を営む。脂肪化した骨髄を黄色骨髄(脂肪骨髄)といい，造血作用を営む骨髄を赤色骨髄とよんでいる。脊椎(せきつい)動物中で両生類(有尾目)と魚類には骨髄がない。➔造血組織

こつずいいしょく【骨髄移植】正常な血球をつくることのできない骨髄*に，他の正常な骨髄細胞を移植すること。放射線障害・急性白血病・再生不良性貧血などの疾患では，骨髄で正常な血球をつくることができないので，正常人の骨髄細胞を注入し，患者の骨髄内でそれを増殖させようという目的で行なわれる。しかし，必ず成功するとは限らない。移植の種類には自家移植(患者自身の骨髄をあらかじめとっておいて移植する)，同種同系移植(一卵性双生児の一方の骨髄を他方に移植する)，同種異系移植(血液型を同じくする他人の骨髄を移植する)がある。注入方法には静脈注入法と骨髄直接注入法とがある。移植後の拒絶反応を除くために，移植前に患者に放射線照射や副腎(ふくじん)皮質ホルモン・6メルカプトプリンなどの投与をしておく必要がある。〔大橋辰哉〕

こつずいえん【骨髄炎】骨膜・骨皮質・骨端線・骨幹部の炎症。血行性，周囲組織の炎症からの波及，開放性骨折からの感染などで起こる。最も多くみられるのは急性化膿(かのう)性骨髄炎で，若年者(10〜20歳)に多く，ぶどう状球菌・連鎖状球菌などの化膿菌が病原菌となる。大腿骨(だいたいこつ)・脛骨(けいこつ)・上腕骨・橈骨(とうこつ)などの長管状骨の中間部に好発する。症状は発熱，白血球増多，局所の疼痛(とうつう)，圧痛，浮腫(ふしゅ)，リンパ節腫脹などで，治療は抗生剤などの化学療法，骨膜下の膿瘍(のうよう)，蜂巣織炎*(ほうそうしきえん)に対しては切開排膿を，腐骨のあるものに対しては腐骨摘出術を行なう。〔玉城　厳〕

こっせつ【骨折】骨組織が部分的にあるいは完全に離断された状態。外力の作用した部位に起こる直達骨折，外力が作用した部位から離れた部位に起こる分達骨折，骨萎縮(いしゅく)・骨疾患などの原因によって外力を加えられることなく，あるいは骨折を起こさない程度の外力で起こる特発骨折などがある。程度によって不完全骨折・完全骨折に分けられ，骨折線の経過によって横骨折・斜骨折・縦骨折・ラセン状骨折に，また骨折数によって単発・重複・多発骨折に分ける。さらに被覆軟部組織の状況によって単純骨折(皮下骨折)と複雑骨折(開放骨折)などに分けられる。一般の外傷の症状として，疼痛(とうつう)・血腫(けっしゅ)・機能障害が，固有症状として異常運動・軋音(あつおん)・変形・転位などがある。治療は徒手または手術的に整復し，固定包帯，牽引(けんいん)法などによる固定を行ない，マッサージ・温浴・自動運動などの後療法が行なわれる。〔玉城　厳〕

コッセル［Albrecht Kossel］(1853〜1927) ドイツの生化学者。ハイデルベルク大学教授。細胞および核酸の化学について先駆的研究を行なう。アデニン・チミンを発見し，H. D. デーキンとともにアルギナーゼを発見した。1910年生化学，特に細胞の研究にたいしてノーベル医学生理学賞を受けた。

ゴッセン［Hermann Heinrich Gossen］(1810〜1858) ドイツの経済学者。限界効用*理論の先駆者。1834〜1847年までプロシアの官吏をしていたが，そののち官職を辞して，国民経済学の研究に専念した。1854年，その成果として《人類の交易の法則の展開》を著わし，限界効用逓減の法則と限界効用均等の法則を展開したが，当時は認められず，25年後にジェボンズ*によってはじめてその価値が認められた。なお限界効用理論に関する先駆者としての意義を記念し，限界効用逓減の法則をゴッセンの第1法則，限界効用均等の法則をゴッセンの第2法則と名づけている。〔松浦　保〕

コッター［cotter］機械の軸を結合するのに用いられるくさび状の部品。断面は長方形で，長手方向に勾配(こうばい)がついている。普通は軸の一方を中空にしてこれに他の軸を差し込み，二つの軸を通してこれに直角方向にあけた長方形の穴に打ち込んで両軸を固定する。

こったん【骨炭】⇨炭素

こったんえん【骨端炎】長管状骨の骨端部に発生する慢性の疼痛(とうつう)性疾患の総称。ペルテス病(大腿骨(だいたいこつ)骨頭)・シュラッテル病(脛骨(けいこつ)隆起)・第1ケーラー病(足舟状骨)・第2ケーラー病(中足骨骨頭)・キーンベック病(手月状骨)などがこれで，いずれもX線写真で無腐性の骨壊死(えし)像を示す。原因に関しては諸説あるが，骨頭の循環障害説が有力である。治療はペルテス病に対しては免荷装置・骨移植を，シュラッテル病に対してはギプス固定・骨穿孔術(せんこうじゅつ)を，ケーラー病に対しては安静，足底挿板(そうばん)などが行なわれる。〔玉城　厳〕

ごったんふねい【兀庵普寧】(1197〜1276) 中国，南宋(なんそう)時代の臨済宗の僧。宗覚禅師。宋の西蜀(せいしょく)(四川省)の人。幼くして出家し，各地を遊歴し，育王山の無準師範によって大悟し，のち径山(きんざん)にとどまった。さらに霊隠寺，天童山に移り，象山霊巌寺(れいがんじ)に住したが，1260年(文応1)来朝し，北条時頼(ほうじょうときより)に重んじられ，鎌倉の建長寺2世となった。1263年(弘長3)帰国し，双林寺・江心寺に住した。著書に《兀庵語録》がある。〔田中良昭〕

ごつちみかどてんのう【後土御門天皇】(1442〜1500) 在位1464〜1500年。名は成仁(ふさひと)。後花園天皇の第1皇子。母は嘉楽門院(かがくもんいん)藤原信子(のぶこ)。治世中に応仁(おうにん)の乱*が起こった。歌集に《紅塵灰集(こうじんかいしゅう)》がある。当時は戦国の世のため皇室の衰微ははなはだしく，没後49日に御大葬の式をあげたといわれる。陵墓は京都市の深草北陵。

ゴッツィ［Carlo Gozzi］(1720〜1806) イタリアの劇作家。ベネチアの貴族の家に生まれた。伝統的な思想文化の信奉者として，特にゴルドーニ*劇の革新性を排撃し，幻想的な舞台による〈夢幻劇〉で当時の保守的な観客を魅了した。《三つのオレンジの恋》《からす》《鹿(しか)の王様》《トゥランドット》などの作品がある。

コッツェブー［August Kotzebue］(1761〜1819) ドイツの劇作家。再度のロシア旅行後に出版した《反ナポレオン記》によりロシア皇帝に重用され，年金を受けた。帰国後もドイツの経済・政治・軍事などをロシアに報告，このためスパイ，自由主義の迫害者とみなされ，一学生に暗殺された。多作な通俗作家で，辛辣(しんらつ)な茶番劇は長く上演され，当時はゲーテ*に比肩する人気があった。

ゴッツォリ［Benozzo Gozzoli］(1420？〜1497) イタリア-ルネサンスの画家。アンジェリコ*の弟子(でし)ではあったが，師に比しては世俗的で，華麗・装飾的な方向に向かった。その数多くのフレスコ壁画のうちでもことに著名な《三賢王礼拝》は，メディチ家一族に擬した主要人物の黄金趣味の絢爛(けんらん)たる衣装の美しさ，風景や動物の克明な描写で特に魅力に富む。

こつづみ【小鼓】おそくとも室町時代には成立した打楽器で，現在は能・狂言・長唄囃子(ながうたばやし)・下座音楽の重要な構成要素として使われている。大鼓*に比べて小さく，2枚のウマの皮をサクラ材の胴にあて，それを調べ緒とよばれる朱色の麻ひもで締めつけて張る。左手で調べ緒を握り，小鼓を右肩に置いて右手で打つ。調

べ緒の圧力によって，大きく四つの音が区別されるが，音色の微妙なニュアンスが要求されるので演奏はむずかしい。大鼓とは反対に，リズムでは裏間*をにない，演奏の細かな働きを規定する役割をもっている。〔徳丸吉彦〕

こづつみ　【小包】　⇨次項

こづつみゆうびん　【小包郵便】　郵便物のうち，通常郵便物と並ぶもの。わが国では，1892年(明治25)10月から取り扱われた。郵便禁制品・郵送禁止品，重量容積制限に抵触するもののように，郵便物として差し出すことができないもののほかは，原則としてあらゆる物品が小包郵便にできる。差し出す場合は，郵便物の見やすいところに〈小包〉と記載すればよいこととなっている。小包郵便物には信書の封入を禁止しているが，小包葉書をつけて用件を小包と同時に知らせることができる。通常郵便物が均一料金制をとっているのに対して，小包郵便物は，原則として地帯別料金制をとっており，第1地帯・第2地帯・第3地帯に区別され，それぞれ料金が定められている。第1地帯のうち，同一市町村内に発着するものは，〈市内小包〉と称して他のものより低料となっている。このほか書籍小包がある。小包は書留郵便*・速達郵便*など特殊取り扱いとすることができ，被災地あての小包郵便物は料金を免除されることがある。1969年(昭和44)2月からは航空小包のサービスが開始されている。このほか，外国小包の制度がある。〔高橋譲二〕

コッテ　[Charles Cottet]　(1863～1925)　フランスの画家。シャバンヌ*の弟子(でし)。エジプトなど近東各地を旅行したが，特に好んでブルターニュの風景を描いた。初期には印象派の画風もうかがえるが，のちには宗教性を思わせる作風に至っている。

こつでんどう　【骨伝導】　音の振動は，外耳道から鼓膜・中耳を経て内耳に伝えられる(空気伝導)ほかに，頭蓋骨(とうがいこつ)から直接内耳のリンパに伝えられ，聴神経を刺激して音の感覚を起こさせる。これを骨伝導という。頭蓋骨に直接接する物体の振動や自分の声などは，骨伝導によって伝わる。これを直接骨伝導といい，空気の振動が頭蓋骨を介して伝わるものを間接骨伝導という。骨伝導は空気伝導より弱い。〔幡井　勉〕

ゴットフリート-フォン-シュトラースブルク　[Gottfried von Strassburg]　(1170～？)　ドイツの宮廷叙事詩人。経歴不詳。未完の大作《トリスタン》(1210？)を残した。これは封建道徳と衝突して破滅する愛の甘美な苦悩をうたったもので，中世宮廷叙事詩の中で最も洗練された形式をもっている。ワグナー*のオペラ《トリスタンとイゾルデ》はこれをもとにしたものである。

ゴットヘルフ　[Jeremias Gotthelf]　(1797～1854)　スイスの小説家。本名はA.ビツィウス。神学を研究後，ベルン付近の農村の牧師となる。一方，教育的・宗教的動機から農民教化のために文筆をとる。農民と農村を舞台にしながら，上品なユーモアに満ち，写実的で芸術的な作品は，《農奴ウーリが幸福になった話》をはじめ，多くがドイツ文学史上〈村落小説〉の傑作とされる。

ゴットリーブ　[Adolph Gottlieb]　(1903～　)　アメリカの現代抽象画家。インディアン芸術にちなむ目・ヘビ・仮面などの象徴的な図形を配列して，絵文字とよぶ幻想的な画面を制作し，1950年ごろからは世界に内在する根源的な緊張関係を追求している。

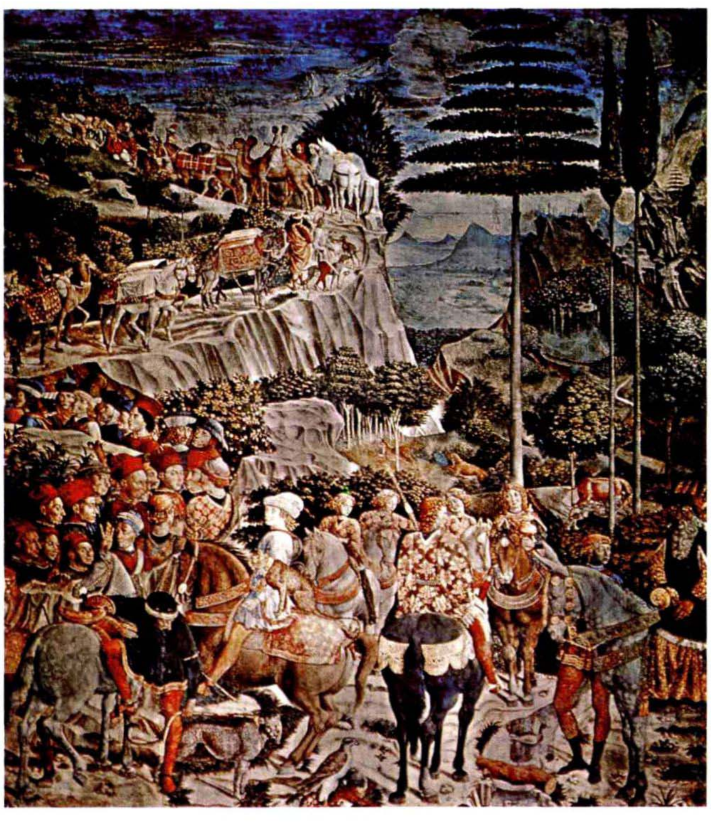
ゴットワルト　[Klement Gottwald]　(1896～1953)　チェコスロバキアの革命家・政治家。モラビアの小農の出身。早くから社会主義運動に投じ，1921年5月のチェコスロバキア共産党の創立に参加した。その後党機関紙主筆などを経て，1929年には書記長となった。また1928年よりコミンテルン執行委員として反ファシズム闘争に献身し，ナチス占領時代にはソ連に亡命した。解放後帰国して副首相，首相を経て1948年大統領となり，人民民主主義体制を強化して社会主義への移行を指導した。〔山県弘志〕

コットンベルト　[Cotton Belt]　アメリカ合衆国南部のワタ栽培の中心地域をいう。テキサス州のプレーリー・ミシシッピ川の三角州・アパラチア山麓(さんろく)からなり，アフリカから移された黒人奴隷を使って行なうプランテーション*経営として始められた。黒人たちは現在では，小作人や農業労働者として働いている。ワタの単作には価格の変動と地力の消耗の危険が伴うため，現在では栽培面積の調節や，穀物栽培と牧畜を兼ねる多角的経営の方法がとられている。〔相村大彬〕

こつなぎじけん　【小繋事件】　岩手県二戸(にのへ)郡一戸町の部落小繋にある喜藤太山の立ち木伐採について，同部落民の入会権*をめぐる父祖3代50年にわたる訴訟事件。1915年(大正4)の大火で部落民が復興のため同山で立ち木を伐採，所有者が立ち入りを禁止したのが発端となった。1925年大審院で入会権なしの判決が下され，その後数度にわたり審議がくり返されたが，1966年(昭和41)最高裁判所判決で農民8人の森林法違反が確定，入会権は否認された。〔千野境子〕

こつなんかしょう　【骨軟化症】　骨組織から石灰塩類が脱出して軟化する状態。妊婦に多く，原因は不明である。全身の疼痛(とうつう)，歩行障害，病的骨折，骨の変形などを起こす。治療にはビタミンD，タンパク同化ホルモンなどが用いられる。

こつにくしゅ　【骨肉腫】　骨形成肉腫ともいう。骨に原発する悪性の腫瘍*(しゅよう)。比較的若年(20歳前)の男性に多く発生し，外傷が誘因となる場合が多い。大腿骨(だいたいこつ)・上腕骨・骨盤骨・腓骨(ひこつ)に好発する。初発症状は疼痛(とうつう)と腫脹*で，腫瘍が骨殻(こっかく)を破ると軟部組織に広がり，病的骨折を起こす場合もある。初期には血



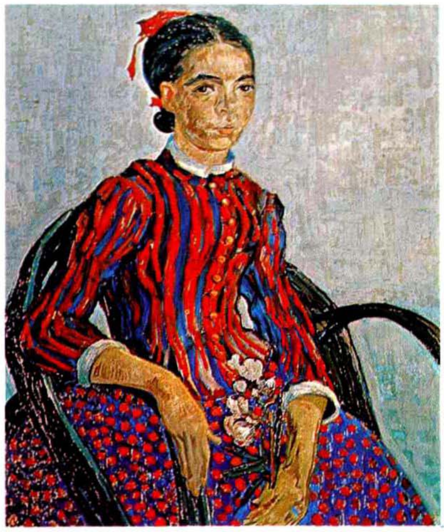
ゴッツオリ
《三賢王礼拝》
メディチ礼拝堂

行性に肺へ転移しやすく，晩期には疼痛が激しくなる。治療には外科療法・X線療法を行なうが，再発するものが多く，予後は非常に悪い。〔玉城　巌〕

こつばめ【小燕蝶】 こん虫類・鱗翅(りんし)目・シジミチョウ科。翅(はね)を広げた長さ25mm内外。翅表の大部分は光沢のある青藍(せいらん)色，前縁部および外縁部は広く暗かっ色を呈する。前後翅ともにまったく斑紋(はんもん)がない。年1回の発生で，暖地では3月下旬ごろから出現し，寒地では5月ごろまでみられる。日本全土のほか朝鮮に分布する。成虫は，山間の路傍の日あたりのよい場所を好んで活発に飛翔(ひしょう)し，ニワトコ・ヒサカキなどの花を訪れる。幼虫は，ガマズミ・キリシマツツジ・リンゴなどの花や果実を食し，晩春から初夏にかけて地上の落葉の下などでさなぎとなり，そのまま夏秋冬を越して翌春羽化する。

こつばん【骨盤】 腰部を形成するすりばち状の骨格。1個の仙骨(せんこつ)・尾骨と左右の寛骨(腸骨・恥骨・坐骨)からなり，仙骨と尾骨はその後壁を構成し，寛骨は側壁と前壁を構成する。骨盤は上部の大骨盤と下部の小骨盤に分けられ，小骨盤の内腔(ないこう)を骨盤腔といい，その中に直腸・膀胱(ぼうこう)，女性ではこのほかに子宮・膣(ちつ)などの骨盤内臓を入れて保護している。小骨盤は円筒形をなし，その上の骨盤上口が腹腔に続き，下の骨盤下口が肛門(こうもん)・尿道,女性ではこのほか膣などが開口している。女性では妊娠・分娩(ぶんべん)などの役割を果たすため，女性の骨盤は男性のそれと著しく異なっている。すなわち，①女性の骨盤腔は広くて低く，骨盤下口が大きい，②男性の骨盤腔はほぼ扁平(へんぺい)形をなすが，女性では円筒形である，③男性の骨盤上口は楕円(だえん)形であるが,女性ではハート形を呈する，④女性は仙骨の湾曲度が小さく，左右の恥骨のなす角度が大きいので，男性よりも骨盤下口が広くあいている。〔幡井　勉〕

こつばんい【骨盤位】 一般には逆子(さかご)とよばれ，胎児が子宮の中で，臀部(でんぶ)や足が下の方(骨盤側)，頭部が上の方にある位置でいる場合をいう。妊娠7か月ころまでは骨盤位であることが多いが，8か月・9か月になるにつれて，自然に胎児の位置に回転が起こり，頭が下方にある頭位に変わることが多く，分娩(ぶんべん)時には約95%が頭位である。分娩時に骨盤位であると，頭が出るまえに臍帯(さいたい)が圧迫され，胎児の血行が妨げられて酸素欠乏状態(仮死)になりやすい。また，先に娩出する部が臀部(児頭より小さい)なので，児頭が通過できるほどに子宮口が開いていないために，児頭の娩出が困難なことがある。これらの理由で，骨盤位分娩は頭位分娩に比して胎児の死亡率がやや高い。〔木川源則〕



ゴッホ《ムスメ》1888 ワシントン-ナショナル-ギャラリー

コップ ［KOPF］ 文化団体。1931年(昭和6)11月結成の日本プロレタリア文化連盟(Federacio de Proletaj Kultur-organizoj Japanaj)の略称。昭和初年以来，分散的に展開されていたプロレタリア文化運動の統一をめざした組織。ナップ*に属していた日本プロレタリア作家同盟など左翼系11団体で各級機関を設け，機関誌《プロレタリア文化》などを発行。弾圧のうちに1934年4月解体。

コップ ［Hermann Franz Moritz Kopp］ (1817～1892) ドイツの化学者。1843年リービッヒ*の後任としてギーセン大学教授，1863年以降ハイデルベルク大学教授。分子熱に関するノイマン-コップの法則を発見するなど，物理化学の建設者のひとりである。また，化学史家としても活躍し，4巻からなる《化学史》(1843～1847)を著わしている。

コッフェル ［Kocher］ 登山やキャンプなどの際，野外で炊事するため用いる調理器具の組み合わせセット。アルマイトやアルミニウム製で，ふつう，なべ2個，やかん1個，アルコールバーナ1個がセットになっており，大小各種ある。

こっぷん【骨粉】 江戸時代初期から用いられてきた肥料で，ウシやウマなどの獣骨を原料としたもの。その製法により，生骨粉・蒸製骨粉・脱膏(だっこう)骨粉に分けられる。生骨粉は生骨をそのまま乾燥して粉砕したもので，窒素3～5%，リン酸16～20%を含む。蒸製骨粉は骨を蒸して脂肪の大部分を取り除いたもので，リン酸の含まれる割合が少し高くなっている。脱膏骨粉はにかわ製造の際に得られ，加圧蒸製したものであり，蒸製骨粉よりもさらにリン酸の割合が高い。いずれも，果樹・チャ・園芸作物などによく用いられる。なお，南九州地方では生骨粉を水稲にも用いる。また，骨粉は飼料としても利用される。〔早瀬達郎〕

コッペリア ［Coppélia］ ドリーブ*の作曲した3幕4場のバレエ。ニュイッテルの台本にドリーブが作曲,サン-レオンが振り付けたもので，1870年にパリで初演された。人形が生命を与えられるというテーマで，その後のバレエの題材の一つの型をつくったといわれる。6年後に発表された《シルビア》とともにドリーブの代表作で,ともに演奏会用組曲としてオーケストラ-コンサートにも取り上げられている。

こっぺん【骨片】 海綿動物，腔腸(こうちょう)動物の花虫類，ナマコ類，原生動物の放散虫類などの体内にみられる微小な骨格片。針骨ともいい，顕微鏡で観察できるほどの大きさである。海綿動物では種類によって独自の形態をもち，幾何学的に規則正しい構造を示すが，花虫類ではそれほど規則正しくはない。ナマコでは種々の形態があるが，これは種々特有である。炭酸カルシウムや二酸化ケイ素が主成分で，体の支持・保護に役だっている。〔蒲原春一〕

コッホ ［Robert Koch］ (1843～1910) ドイツの細菌学者。ハルツ地方のクラウシュタールに生まれ，ゲッチンゲン大学で医学を修めた。卒業後ドイツ東部のウォールシュタインで開業のかたわら研究にいそしみ，細菌学の創始者のひとりとなる。炭疽病(たんそびょう)菌の生活史を明らかにし，その病原性を確定して名声を得たのち，ベルリン帝国衛生院正員に迎えられ，さらにベルリン大学教授，伝染病研究所所長を歴任。炭疽病菌確定後も，固形培養法の発明をはじめ，現代細菌学の達成に不可欠だった種種の技術を開発する一方，レフレル・ガフキー・ベーリング・北里柴三郎(しばさぶろう)などの俊秀を育成し，みずからも結核菌の発見(1882)，コレラ菌の発見(1883)など数多くの成果を収めた。1890年には，結核の治療剤としてツベルクリンを創製，現在ではこれが改良されて感染の検査に転用されている。1905年ノーベル医学生理学賞を受けた。〔中村禎里〕

ゴッホ ［Vincent van Gogh］(1853～1890) オランダの画家。ベルギーに近い小村に新教の牧師の子として生まれた。中学卒業後ハーグの美術商グーピル商会にはいり，のちロンドン・パリの支店に勤める。1876年職を辞して伝道を志し，翌々年ベルギーの貧しい炭坑地帯ボリナージュの巡回説教師に任命された。しかし翌年不適格とされて解職され，絶望と孤独のうちに画家としての天分を自覚，1880～1883年にかけてブリュッセル・ハーグで絵を学ぶ。その後のヌエネン時代(1883～1885年)はオランダにおける最も重要な時代である。暗い色調で農夫や風景・静物を描き,初期の傑作《馬鈴薯(ばれいしょ)を食べる人々》が生まれる。1886年パリに出，グーピル商会の支店を預っていた弟テオと同居。コルモンの画塾にはいってロートレック*を知り，テオを通じて印

象派の絵画を知る。彼の絵は急速に変化し，パレットは明るくなる。アルル時代(1888～1889年)は最も生産的な時期の一つである。輪郭線の強調，強い色彩による厚塗りと重い筆触が始まる。1888年10月にゴーギャンがアルルを訪れ，共同生活が始まったが，気質をことにするふたりの芸術家の間にはたえず衝突が起こり，緊張が積もってゴッホは自分の耳を切り落とす。1889年5月サンレミの病院にはいり，翌年5月パリ郊外のオーベル-シュル-オアーズに移る。同年7月ピストル自殺。彼は自己の心境を弟テオに書き送り(《ゴッホの手紙》として知られる)，文通は彼の死まで続いたが，弟からはたえず財政的・精神的な援助が与えられていた。晩年の多くの作品はもだえるような激しい筆致とまばゆい色彩のうちに，画家の魂の苦悩が投影されていて，のちの表現主義につながる要素が認められる。〔岸野悦子〕

こつまく 【骨膜】 骨の表面をおおう強靭(きょうじん)な結合組織。胎生期から青年期に至るまで骨質をつくり，骨の太さの成長，骨の保護をつかさどり，血管を骨質に導入することによって骨の栄養および骨の知覚をつかさどる。成人に達すると骨の造成を停止するが，成人に達しても骨折・手術などで骨に損傷をうけた場合には，再び骨の新生を行なう。なお骨の関節面には骨膜はない。

こつまくえん 【骨膜炎】 ⇨骨髄炎

こて 【籠手】 手を守る武具。家地・板所・鎖からなり，手の全体をおおう。家地は布でつくり，一部に皮を用いる。板所は手の甲・腕・二の腕にあたる箇所で，皮または鉄，まれには銅・真鍮(しんちゅう)を使った。鎖は鉄製で，板所をつなぐ。板所の形により，小田籠手・毘沙門(びしゃもん)籠手・篠(しの)籠手などがある。手の甲にはふつう家紋を入れる。騎射戦の場合，弓矢の扱い上，左だけをつけるものを片籠手，斬撃戦(ざんげきせん)で両手につけるものを諸(もろ)籠手といった。〔稲垣史生〕

こていかわせそうば 【固定為替相場】 外国為替相場の変動が為替平価を中心としてその上下1％程度の狭い範囲内に制限されている制度をいう。固定為替相場としては，かつての金本位制度下の為替相場やIMF(国際通貨基金)体制下における為替相場をあげることができる。金本位制度下では，金の自由な移動によって為替取引相場の変動は，金平価を中心として金輸出点と金輸入点によって制限された狭い範囲内(金平価の上下約1～1.5％程度の範囲内)においてのみ可能であった。現在では，IMF加盟国は為替取引相場の変動を為替平価の上下1％の範囲内に制限することを義務づけられている。したがって，各加盟国は，為替平価を中心としてその上下1％の範囲内に公定上限相場と公定下限相場を設定して，中央銀行の為替平衡操作によって為替取引相場の変動を二つの相場の間に制限するなどの処置をとっている。〔安井孝治〕

こていしさん 【固定資産】 企業が所有する資産のうち，1年以上の長期にわたって企業に滞留する資産をいう。これには，①土地・建物・機械・設備など具体的な形態を有する有形固定資産と，②営業権・特許権・鉱業権などの権利によって構成される無形固定資産，および，③1年以上の長期債権である関係会社に対する持ち株・出資金あるいは長期貸付金などの投資とが含まれる。土地を除き，有形固定資産・無形固定資産とも減価償却の対象となる。〔山桝忠恕〕

こていしさんぜい 【固定資産税】 土地・家屋・償却資産に対し，その所有者に課されるもので，課税権者は固定資産の所在する市町村。1950年(昭和25)のシャウプ勧告により，従来の地租・家屋税が廃止され，それに代えて償却資産をも含めた現在のような統合された形の固定資産税が市町村税として創設された。現在，市町村民税と並んで，市町村財政の有力な財源となっている。固定資産税の課税標準は，固定資産の賦課期日である1月1日現在の価格で，固定資産課税台帳に登録されたもの。この価格を決めるには，市町村が設ける固定資産評価員が少なくとも1回実調査をし，その結果に基づいて1月1日現在の時価によって評価を行ない，これを市町村長に提出する。市町村長はこの提出調書に基づいて価格を2月末日までに決定する。2月末日までに決定された価格は，市町村役場に備えつけられた固定資産課税台帳に登録され，その台帳を3月1日から20日までの間，関係者に縦覧させる。もし納税者がこれに不服の場合は，3月1日から30日までの間に固定資産評価審査委員会に文書で審査請求をすることができる。

固定資産税の税率は，標準税率が1.4％，制限税率が2.1％。固定資産税には，公共性の強いものに対し，非課税措置が広範に適用されている。また，大規模償却資産に関しては，当該市町村の課税権に限度があり，その課税限度額を越える部分については，当該市町村を包括する道府県が課税権をもつことになっている。〔西野義彦〕

こていしほん 【固定資本】 企業が生産過程に投入する資本のうち，長期にわたって使用される工場・建物・機械・設備などの耐久財に投下される資本をいう。流動資本の対。

こていしょうすうてんほうしき 【固定小数点方式】 ⇨コンピューター

こていしょうてん 【固定焦点】 ⇨カメラ

こていたんそ 【固定炭素】 石炭を工業分析する際の成分の一。固定炭素は炭素で，石炭から水分・揮発分・灰分を取り去ったもの。石炭化が進むにつれて増大し，無煙炭では80％前後であるが，炭化度の低い褐炭(かったん)では約40％である。なお，水分は110℃まで加熱することにより失われる水の量，揮発分は水分を除いた石炭を，空気を供給せずに強熱したとき揮発する量，灰分は石炭に空気を供給しながら完全に燃焼したあとの灰の量で，これらの4成分は割合によって表わされる。〔今井秀喜〕

こていふさい 【固定負債】 負債のうち，支払いまたは返還の期限が貸借対照表作成の日から1年を越えて到来するもの，および1年を越えなければ支出を伴わないものをいう。長期負債ともいい，流動負債と対比して用いられる用語である。流動負債との区別は，支払い・返還期限の到来までの時間の長さによる。固定負債に属する代表的なものには社債・長期借入金・退職給与引当金・特別修繕引当金などがある。社債は商法にのっとって発行されるが，これには担保付きのものと無担保のものとがある。長期借入金は，返済までの期限が1年以上の借入金であり，担保付きの借入金，関係会社からの借入金，役員からの借入金，株主からの借入金，従業員からの借入金などがある。固定負債に属するものでも，しだいに弁済・支出の日が近づき，その期限が1年以内に到来することになったものは流動負債と考える必要がある。〔山桝忠恕〕

コティリョン [cotillon] 舞踊の一。フランス語ではコティヨンであるが，日本では英語・ドイツ語なまりのコティリョンで知られている。18世紀に始まり，19世紀に舞踏会用の踊りとして流行した。リーダー格の1組みにしたがって男女に分かれた組全員が踊るものである。踊り方には種類が多く，音楽はポルカ・ワルツ・マズルカなどが使われた。第二帝政時代のフランスでは特に流行し，舞踏会の最後に置かれてクライマックスをつくった。〔徳丸吉彦〕

コデイン [codeine] あへんアルカロイドの一種で，あへん中に1.3～5.4％含まれている。化学構造はモルヒネに類似しているが，薬理作用はモルヒネより弱く，また副作用も著しく少ない。鎮痛作用はモルヒネの約1/6，睡眠作用は約1/4であるが，鎮咳(ちんがい)作用があるので，主としてリン酸コデインとして鎮咳の目的で使用されている。リン酸コデインは白色ないし淡黄色の結晶で，味は苦い。肺結核・気管支炎によく用いるが，長く連用すると便秘を起こす。麻薬。〔中館正弘〕

こてき 【胡適】 フーシー (1890～1962) 中国現代の学者。教育行政家。1917年，文学革命のとき，口語文学運動を提唱し，近代文学誕生の基礎を固めた。旧文学や史学の研究に，デューイから学んだプラグマチズムの方法論を導入して，その後の研究に影響を及ぼした。体制批判の学者として出発したが，のちは体制内の教育官僚と変

わった。新中国成立後，アメリカに亡命してそこで死去した。著書に《胡適文存》など。

こてきたい【鼓笛隊】笛と太鼓による合奏グループ。ヨーロッパでは中世以来，この二つの組み合わせが行進や軍隊に好んで用いられたため，官職として鼓手長や笛手長などの名称も使われた。日本には江戸末期にヨーロッパから伝えられ，昭和10年代になって学校教育にとり入れられた。戦後は横笛にとどまらず，鍵盤(けんばん)ハーモニカなど簡易楽器の類やレコーダーなども組み入れて，小・中学校で盛んに行なわれている。〔徳丸吉彦〕

ゴーデスベルクこうりょう【ゴーデスベルク綱領】正しくはバート-ゴーデスベルク綱領。ドイツ社会民主党(SPD)が1959年11月にバート-ゴーデスベルク大会で採択した綱領。SPDは1863年にフェルディナント-ラッサールが創設した全ドイツ労働者協会から発足し，エルフルト綱領(1891)によってマルクス主義的な社会民主主義政党となり，その後のゲルリッツ綱領(1921)・ハイデルベルク綱領(1925)においてもその基本的立場は変わらなかったが，ナチ党には完敗した。第2次世界大戦後，ナチ時代の体験に基づき，また，政権参加への道を開くためバート-ゴーデスベルク綱領を採択，マルクス主義的社会民主主義を捨ててイギリス労働党流の民主社会主義の立場をとることを明確にした。〔広部和也〕

コーデッタ［codetta］小さいコーダ*。一般には，楽曲や楽章の最後というより，提示部のように楽章の中の部分，また三部形式ならば，最初のAの部分に付されるものをさす。

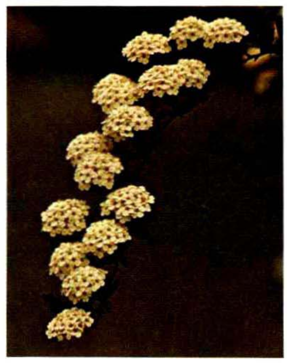
こでまり【小手毬】双子葉植物・バラ科。中国原産の落葉小低木。古くから日本に渡来し，観賞用として庭園に植えられる。高さ1～2mになり，枝は細い。葉は互生し，長楕円(ちょうだえん)形で先がとがり，上部の縁に不規則な鋸歯(きょし)がある。春に新葉とともに，枝端に散形花状に白色花を群生する。花後，結実して5個の袋果をつける。

コーデュロイ［corduroy］縦にうねの現われた添毛織物の一種。コール天ともいう。白地・無地染め・プリントなどで，スーツ・スラックス・乗馬服・作業服・帽子・スポーツウエアなどの衣料のほか，家具装飾用に使われる。

こてん【古典】長い時間の淘汰(とうた)を経た価値と，生活・精神の規範としての価値とをもつ書物をいう。古代中国では，〈昔の大切な書物〉あるいは転じて〈昔の制度〉〈昔の法式〉などの意に用いられた。日本では《太平記》にはじめてこの語が見え，やはり〈昔の書物〉の意に用いているが，単に古いだけにとどまらず，永遠性と普遍性とをあわせもつ書物が古典である。近代にはいって，ギリシア・ラテンの文学をさすクラシックの訳語としてあてられ，芸術上，



胡　適



コデマリ

文芸上の概念として定着するようになった。

こてんがくは【古典学派】イギリスを中心とした産業革命の開始から終了の時期において，近代社会の経済現象をはじめて体系的に記述した経済学派を一般に古典学派という。中世の封建社会から近世の資本主義社会が産業革命を契機として生まれてくる過程で，経済思想は他に従属するものから独立した科学として確立されたが，その中心的役割を果たしたのが古典学派である。経済学の歴史はまさに古典学派に始まる。なかでもA.スミス*は，1776年に《国富論》(諸国民の富の性質と諸原因に関する研究)を書いて,古典学派の始祖となった。この学派の哲学的背景は自然法思想にある。ホッブス・ロック・ヒュームらによって自然法思想は経験的自然法として確立され，近世の経済社会の行動の基準を示すものとなった。スミスは《国富論》において〈自然の摂理〉あるいは〈みえざる手〉が経済行動の自然的秩序をもたらすものと考えたが，これは経験的自然法思想にほかならない。

資本主義社会の経済現象を最初に包括的・科学的体系にまとめた古典学派は，スミスに継いでリカード*・マルサス*・J.S.ミル*らがその後の発展をもたらした代表的学者としてあげられる。古典学派の理論的基盤は，社会の富の本質とその源泉を労働価値においたことである。富の価値は,その生産に直接携わった生産者が投下した労働量によってはかられるというのがそれである。しかし，この労働価値説には多くの混乱があり,のちのマルクス*・ケインズ*に代表される論議をよぶことになった。〔藤枝省人〕

こてんげき【古典劇】近代劇*以前の演劇の総称としても用いられるが，演劇史的には，古代ギリシア-ローマ劇を規範とした，16～18世紀ヨーロッパにおける古典主義演劇をいう。ルイ王政下のフランスで頂点に達し，ラシーヌ*・コルネイユ*が三一致の法則*などの古典詩学を遵奉した名作を発表した。➔フランス演劇

こてんしゅぎ【古典主義】

【美術】①16～17世紀に北イタリアのアンドレア-パラディオ(1508～1580)に発してヨーロッパに広がった建築様式をさす場合と，②1770年から1830年ごろにかけて支配的であったヨーロッパの美術様式をさす場合とがある。いずれも，単純・優雅・厳格などの古代芸術に共通の特徴を志向し，ことに後者はバロック美術*・ロココ美術*への反動として登場，新古典主義の名でよばれる。この場合には，古典主義はロマン主義の対概念として解され，作風上，形式と内容の均衡，秩序の体現，輪郭の明晰(めいせき)を意味する。絵画では，17世紀にプサン*がバロックから古典主義への転換を遂げ，ダビッド*が《ホラティウス兄弟の誓い》で新古典主義を確立，アングル*がこれを受け継いでこの派の代表的画家となった。彫刻では，カノーバ*・トルバルセン*・ダンネッカー(1758～1841)が,建築ではシンケル*・スフロー*・スマーク*らがあげられる。〔松久勝利〕

【文学】文学思潮としての古典主義は17世紀フランスを中心に興り，その後ヨーロッパ各国に盛んとなった。フランス古典主義の主張は，デカルト*の合理主義にならって理性を重んじ，芸術は秩序整然とした永遠不変の真実でなければならないとしつつ，アリストテレスの《詩学》の説くように，芸術の目的は自然の模倣であるとした。ここから，幻想を排して人間の本性の普遍的性格を描くことに努めるようになるが，芸術が人を楽しませるものである以上，人に直接的な恐慌を与えるような対象物を生のまま模倣することは避けるべきであるとした。この点で，のちの自然主義とは異なる。古典主義者はこのような主張に基づいて，ホメロス*・ウェルギリウス*らギリシア・ローマの古代作家を模範とした。17世紀後半がフランス古典主義の隆盛期であり，モリエール*・ラシーヌ*・ボワロー*・パスカル*・ラ-フォンテーヌ*・ラ-ロシュフコー*らの文学者・思想家が輩出した。18世紀にはいると，理性尊重の思想のもとにモンテスキュー*・ボルテール*・ディドロ*ら思想家の活躍はあるが，文学においてはその古典模倣が形式化し，しだいにロマン主義*へと移っていった。しかし，19世紀初頭のロマン主義の隆盛を経て，フランス文学には再び古典主義が復活した。フローベール*・ゴンクール兄弟*らの小説，ゴーチエ*・ルコント-ド-リール*・ボードレール*らの詩が，近代的自我のもとに古典主義を形成したのである。イギリスでは，17世紀後半ドライデン*によるフランス古典主義への傾倒に始まり，18世紀

のポープ*による文学論でその古典主義を完成した。またドイツにおいても，18世紀後半にフランス古典主義の影響を受けたレッシング*・ウーラント*らの作品があり，ゲーテ*・シラー*によってドイツ古典主義は完成されるが，これらは単なるフランスからの移植ではなく，ギリシア古典への遡及(そきゅう)もあって，ロマン主義と古典主義の独自な結合がみられる。〔小松英輔・田島修〕

ごてんば【御殿場(市)】 静岡県北東部の市。もと伊勢(いせ)神領で，御厨(みくりや)とよばれたが，1914年(大正3)に御殿場町と改称，1955年(昭和30)市制施行。人口69,000。市名は徳川家康(いえやす)が江戸への途上に仮宿を建てたことにちなむ。市域の中心部は富士山の東ふもとの高さ約450mの高原上に位置し，南流する黄瀬川と北流する酒匂(さかわ)川の分水界にあたる。産業三大別人口比は10：28：62。周辺部には別荘地やゴルフ場が多いが，火山灰質の特殊土壌(どじょう)や用水不足などのために，一般に農業はふるわず，ニワトリ・ブタの飼育を行なっている。御殿場線*に沿い，駅の東に東名高速道路のインターチェンジがあり，国道246号線が南北に走って，箱根の長尾峠・乙女(おとめ)峠から北西に山梨県に向かう138号線と交差する。富士山のすそ野には国立中央青年の家や自衛隊富士演習場があり，箱根に接した東部は，近年東京の奥座敷化されて住宅地帯の開発が進んでいる。富士登山・富士五湖周遊の静岡県側の基地でもある。

こてんはおんがく【古典派音楽】 ここでいう古典とは，古代文明を範とする古典主義のそれとも，フランス文学史上の古典時代の古典とも異なり，形式と内容の平衡統一の上に成立する様式概念ないし類型概念としての色彩が強い。一般には，18世紀後半から19世紀初めにかけて，ドイツ・オーストリアに活躍した作曲家たちの作品をさす。ウィーンを中心としたため，ウィーン古典派，または広義のウィーン楽派*などとよばれることもある。マンハイム楽派の手法・形式・多感様式のナイーブな表現を背景として，古典派の様式を確立したのはハイドン*である。ハイドンは，器楽の分野でソナタ形式を確立し，交響曲・弦楽四重奏曲では，序奏をもつアレグロ，歌謡形式によるアンダンテ，メヌエットふうの第3楽章，アレグロによる終曲，という4楽章構成を定式化し，また声楽の分野でもオラトリオなどに大きな足跡を残した。これを受けたモーツァルト*の音楽は，形式的にはハイドンの伝統を守りつつも，内容においては，いっそう輝かしく多彩な音楽世界を展開していった。交響曲・ソナタなどの器楽もさることながら，忘れてならないのはオペラにおけるモーツァルトの業績である。彼はナポリ楽派のオペラ，グルックの改革オペラ，ジングシュピールを含むウィーンの伝統的様式を総合して，劇的興味と音楽の豊かさのまれな結合による作品を残している。さらに，ベートーベン*においては，その初期の作品で形式面での充実がその極に達するが，やがて中期の作品からは，人間的な感情の発露を主体とするロマン主義の傾向が現われる。この意味で，ベートーベンは，ロマン派の創始者の役割をもつといえるが，彼の場合，晩年には，こうしたロマン的傾向からも脱却し，奔放な形式と，自由な想念の飛翔(ひしょう)をもつ独自の世界を切り開いていった。

古典派音楽はベートーベンをもって一応終了したとされるが，彼らが残した遺産は，形式的にも，精神的な基盤としても，以後の時代に強い影響を与え，メンデルスゾーンやブラームスの作品となって現われ，また，19世紀末から20世紀にかけての新古典主義や擬古典主義の運動となって現われている。〔吉田泰輔〕

ごてんばせん【御殿場線】 東海道本線国府津(こうづ)から御殿場を経て沼津に至る国鉄路線で，営業キロ数60.2。1889年(明治22)東海道線の一部として建設されたが，急勾配(きゅうこうばい)区間が多かったため，1934年(昭和9)丹那(たんな)トンネルを経由する路線が開通するとローカル線になり，現在の線名となった。全線直流で電化されている。

こてんぶつりがく【古典物理学】 17世紀におけるニュートン力学の成立に始まり，19世紀における光学*・熱力学*・気体分子運動論*，マクスウェル*・ファラデー*の電磁気学の展開，今世紀における電磁気学と力学との統一としてのアインシュタインの相対性理論*の完成に至るまで，約3世紀にわたって形成され，天体の運動から物質構造にまで及ぶいっさいの自然現象の説明を意図する論理体系。プランク定数*を無視しうるいわゆる巨視的な対象についてはまったくの妥当性を有し，写真機・自動車・発電所・ロケットなどの設計の基礎となる。

古典物理学の論理を通じて一貫する仮定は，観測の対象に及ぼす影響はこれを原理的に無視しうるとすることである。たとえば，位置や速度のような物理量の測定に伴う誤差は本質的なものではなく，実験技術の改良によって終局的には解消されるものと仮定する。したがって，ある瞬間に物体の位置や速度を正確に測定すれば，それ以前および以後のいっさいの運動は運動方程式によって完全に決定されることになって厳密な因果律*が成立し，その予言にはいささかの偶然的要素の介入も許されない。これに対して，分子・原子・素粒子など，プランク定数が本質的な役割を演ずる極微の世界についての物理学として今世紀に誕生した量子論においては，観測という行為は必然的に対象の運動状態をみだし，位置や速度のような物理量は不確定性原理の許す一定の誤差の範囲内においてのみ測定することができ，その結果厳密な因果律はもはや成立せず，予言の統計的な性格が本質的なものとして現われることになる。➔量子論〔高林武彦〕

こと【琴】 ⇨チン ⇨箏(そう)

コート［coat］ すべての衣服の最も外側に重ねて着用され，主として防寒・防暑・防風雨・ちりよけ，または装飾として戸外で用いられる衣服。洋装・和装ともにある。

〔洋装〕 もともと原始時代に寒冷地の狩猟民族が，動物の毛皮をはいで身にまとったのがはじまりで，その後時代とともにマント一型・ケープ型・ガウン型と形態は変遷したが，服飾用語としてコートが使われはじめたのは18世紀からといわれる。はじめはいちばん外側に着る服すべてをコートといい，男子服の上着や男子服のように仕立てられた婦人用上着をよぶことがあったが，現在ではこれらをジャケットとよぶのが慣例となっている。18世紀の末ごろ，それまでのものに比べてたけがずっと長くなり，ジャケットとコートの区別がはっきり分けられるようになった。19世紀初期に今日着ているようなテーラード型のコートが現われ，一般に多く着用された。デザインは目的や流行によりいろいろ変化しているが，そでがつき，ほとんどが前あきで，たけはスカートたけの隠れるのが一般的である。しかし第2次世界大戦後には大きな変化があり，防寒用でも軽い材質が用いられ，たけも2分の1，4分の3(7分たけ)，9分たけなど，その形態は限りない。材質も目的により，毛皮・毛織物・絹・もめん・皮など広く用いられる。

種類は，材質・目的・形態などにより多種多様である。①目的上：オーバーコート(防寒用)・イブニングコート*(イブニングドレスの上に用いるドレッシーなもの)・レーンコート*(防雨用)・スプリングコート(合オーバー)・ダスターコート(ちりよけ用)・スリーシーズンコート(防寒・防雨兼用)・カーコート*(自動車用)・リバーシブルコートなど。②形態上：ボックスコート・プリンセスコート・ラグランコート・トレンチコート・チュニックコート・トッパーコート・ハーフコート・ベルテッドコート・スリムコート・ケープコートなど。〔小池千枝〕

〔和装〕 女子の和装コートは，明治の中ごろに，江戸時代から雨よけ・ちりよけ・防寒用のかっぱがあったのを，日本橋の白木屋(現在東急)呉服店が，東(あずま)コートの名で売り出し，大いに流行し，その後はコートとよんで，現在に続いている。雨ゴート*・防寒コート・おしゃれコート・ホームコートなど用途による種類がある。雨ゴートは長ゴートで，足首まである身たけであり，その他は八分コート・半コートなど身たけの短いものになっている。男子用和装コートはインバネス*が明治から取り入れられ，また，大正10年ごろ商人用として筒そで外

套(一名もじり)が，その後角そでの長着・羽織の上に似合う角そでコート(角そで外套ともいう)がつくられた。しかし，男子の和服での外出が少なくなるのに伴い，いずれも現在では見ることが少ない。〔堀越すみ〕

こど 【弧度】 ⇨ラジアン

コード ［cord］ 絶縁電線の一。屋内で使用されるコードの種類は非常に多い。キャブタイヤケーブルの類を含めて日本工業規格(JIS)に定められているものには，屋内コード・SBR絶縁屋内コード・器具用ビニルコード・キャブタイヤコード・電熱器用袋打ちコード・キャブタイヤケーブル・クロロプレンキャブタイヤケーブル・ビニルキャブタイヤケーブル・溶接用ケーブル・エレベーター用ケーブルなどがある。ほかにひげそり器やバリカンに付属して使う金糸コードや，舞台用コードなどがある。各種産業用機械に使う特殊設計のものもある。コードの機能は，①定格電圧，②電流容量，③機械的強度，④耐水性，⑤耐候性，⑥可撓性(かとうせい)(曲がりやすさ)，⑦耐熱性，などで位づけされる。大部分のケーブルは300V以下の回路で使われるが，キャブタイヤケーブルなどは被覆が厚く交流600Vまでの回路で使うことができる。電流容量は，導体の太さ，絶縁体の最高許容温度，使用箇所の周囲温度などによって決められる。キャブタイヤケーブルとは，心線を天然ゴム・ブチルゴム・ビニルなどの絶縁体でおおい，この心線上あるいは心線をより合わせたケーブル心の上に，ゴムキャブタイヤケーブルは天然ゴムまたはクロロプレンを，ビニルキャブタイヤケーブルはビニルを被覆したもので，非常に強靭(きょうじん)である。

〔田村康男〕

ごとう 【後唐】 ⇨こうとう

ことういし 【小藤石】 ホウ酸マグネシウムを成分とする鉱物。$Mg_3B_2O_6$ 斜方晶系。比重3.06～3.11，硬度6.5，劈開*(へきかい)は{110}に完全。無色の結晶。ドロマイトとカコウ岩質岩石の接触部に産する。わが国では，岩手県宮古市根市ドロマイト鉱山に産出する。

ゴドウィン-オースチン ⇨K_2峰

こどうぐ 【小道具】 演劇の舞台に使われる道具のうち，小形のもの全般をいう。演技者が手で動かさない大道具*に対するもの。大別して，家具・置き物・商品など装置の一部として舞台に置かれる〈出道具〉と，かぶりもの・はきもの・刀剣など俳優が身につけたり，手に持ったりする〈持ち道具〉に分けられる。歌舞伎(かぶき)から出た語だが，今日では一般演劇用語になっている。

ごとうけいた 【五島慶太】 (1882～1959) 東急コンツェルンの創始者。長野県生まれ。1911年(明治44)苦学して東京大学卒業後，農商務省にはいり，鉄道院を経て武蔵(むさし)電鉄(東横電鉄の前身)常務取締役に就任。1939年(昭和14)に東横・目蒲(めかま)線を，1942年には小田急・京浜線を統合，東京急行電鉄と改称するなど，鉄道事業の吸収・合併を推進する一方，土地・住宅・百貨店など，次々に事業を拡大していった。のちに，東条内閣の運輸相として入閣，敗戦後公職追放を受けたが，解除された。財閥解体によって残った東京急行電鉄を中心に，戦後，買い占め・乗っ取りを企てて精力的に事業を伸ばし，事業の鬼といわれた。西武電鉄の堤康次郎*との対立は有名。

〔片岡一郎〕



後藤象二郎



後藤新平

ごどうげん 【呉道玄】 中国，唐代の画家。幼名は道子，道玄は玄宗皇帝による改名。地方官をつとめていたが，画才を認められて宮廷画家となった。はじめ書家を志し，のち画家の張僧繇*(ちょうそうよう)に私淑(ししゅく)。六朝(りくちょう)ふうの流麗繊細な筆致を越え，速度と抑揚のある動性に満ちた筆致は，〈疎画の体〉といわれた。洛陽(らくよう)・長安の多くの寺院に壁画を描いたが，天宝年中大同殿に嘉陵江(かりょうこう)のけしきを1日で描いたという逸話のように，一気呵成(いっきかせい)の書画一致と評される白描的な画体だったらしい。また，西域伝来の立体表現を取り入れた写生的な描写技法もみせ，〈呉装〉とよぶ彩色法を用いた。山水・人物・花卉禽獣(かききんじゅう)・殿台・草木など，すべてにわたって六朝以来の描法を一変し，以後の中国・日本の絵画に絶大な影響を及ぼした。

〔中島純司〕

ごとうしょうじろう 【後藤象二郎】 (1838～1897) 政治家。土佐藩出身。上層藩士として早くから薩摩(さつま)・長崎・上海(シャンハイ)に藩用のため出張し，ヨーロッパの政治形態を知る機会を得た。1867年(慶応3)大政奉還*を前藩主山内豊信(とよしげ)に説き，15代将軍徳川慶喜(よしのぶ)に建議させた。新政府では参与・大阪府知事・工部大輔(たゆう)・参議などを歴任，1873年(明治6)征韓論(せいかんろん)に敗れて下野，翌年板垣(いたがき)退助らと愛国公党*を組織し，民選議院設立建白書*を提出した。のち高島炭鉱の経営にあたったが，1881年板垣と自由党*を結成，1882年外遊後は対外問題に関心をいだき，第1次伊藤(いとう)内閣の条約改正*交渉を軟弱外交と非難し，反政府陣営の大同団結を図ったが，1889年態度を変えて黒田内閣に入閣。その変節を非難されたが，以後3度藩閥政府に入閣した。伯爵。〔岸野淳子〕

ごとうしんぺい 【後藤新平】 (1857～1929) 政治家。仙台(せんだい)藩士の家に生まれる。医学を志し，福島県の須賀川(すかがわ)医学校を卒業。1881年(明治14)愛知病院長兼名古屋医学校長となり，翌年岐阜で遭難した自由党党主板垣(いたがき)退助の負傷を県官の反対を押し切って治療した。1883年内務省衛生局に転じ，ドイツに留学，帰国後衛生局長となった。相馬(そうま)子爵家の財産争いをめぐる相馬事件に連座して一時入獄。1898年児玉(こだま)源太郎*のもとで台湾総督府民政長官として植民地経営に業績をあげた。1906年初代南満州鉄道(株)総裁，第2次・第3次桂(かつら)内閣の逓相，寺内内閣の内相・外相を歴任し，アジア大陸への積極政策を主張。1920年(大正9)東京市長に就任，1923年山本内閣の内相兼帝都復興院総裁として関東大震災後の東京復興計画を立てた。晩年は日ソ親善に努力した。その立案する計画がつねに広大であったので〈大ぶろしき〉の異名があった。伯爵。〔岸野淳子〕

こどうたいい 【古道大意】 平田篤胤*(あつたね)の著書。2巻。1813年(文化10)。古学の由来・意義から，先人の業績，特に本居宣長*(もとおりのりなが)の説をふんだんに引用・補足して，自己の見解を展開。神代および皇統，日本の精神的風土などを論じている。古典の引用も豊富で説得的である。もと公開の場での講義で，当時の俗語を用いている。

ごとうちゅうがい 【後藤宙外】 (1866～1938) 小説家・評論家。秋田県の生まれ。本名寅之助(とらのすけ)。東京専門学校(早稲田(わせだ)大学の前身)文学科卒業後，《早稲田文学*》の記者となり，小説《ありのすさび》《闇(やみ)のうつつ》などで認められた。1900年(明治33)からは《新小説*》の編集にあたる。その作風は，初期の深刻小説の傾向からしだいに硯友社(けんゆうしゃ)ふうに移行，反自然主義に立った評論集《非自然主義》を刊行した。主著に《裾野(すその)》《明治文壇回顧録》などがある。〔金子　博〕

ごとうふみお 【後藤文夫】 (1884～1980) 政治家。大分県出身。東京大学卒業後内務省にはいり，警保局長・台湾総督府総務長官を経て1930年(昭和5)貴族院議員。1932年斎藤内閣の農相，二・二六事件*の臨時首相代理，東条内閣の国務相となった。第2次世界大戦後は公職追放，のち解除さ

れて1953年参議院議員となり，のち日本青年館理事長となった。

ことうぶんじろう 【小藤文次郎】(1856～1935) 地質学者。東京大学理学部地質学科第1回の卒業生で，ドイツに留学，帰国後東京大学教授となり，広く地質学・火山学・地震学の分野で先駆的・指導的立場にあった。濃尾地震(1891)・桜島噴火(1914)の研究は有名である。

ごとうまたべえ 【後藤又兵衛】 ⇨後藤基次(もとつぐ)

ごとうみつつぐ 【後藤光次】(1571～1625) 江戸初期の金座役人。通称庄三郎(しょうざぶろう)。京都の人。はじめ山崎氏。金工後藤徳乗の弟子(でし)で，後藤光乗の養子となり，後藤氏を称した。徳川氏に仕えて江戸に下り，慶長金銀の鋳造に携わり，また朱印船貿易に従事して外交・貿易にも活躍した。子孫は代々庄三郎を名のり，幕府の金銀改役として金座を支配した。

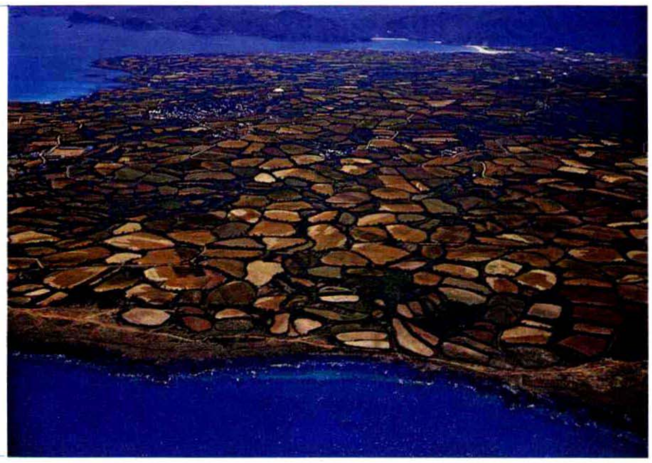
ごとうもとつぐ 【後藤基次】(1560～1615) 戦国末期の武将。通称又兵衛(またべえ)。黒田孝高(よしたか)に養育され，長政(ながまさ)に仕えた。1587年(天正15)の九州征伐に偉功を立て，文禄(ぶんろく)の役には長政に従って朝鮮に渡り，晋州(しんしゅう)城攻めに先陣して勇名をはせた。また，関ケ原の役では合渡川を敵前で一騎駆けして渡り，戦勝のきっかけをつくりながら，軍令違反として長政に憎まれた。関ケ原の役後，長政は筑前(ちくぜん)(福岡県)五十万石を受け，基次も一万六千石を与えられて大隈(おおくま)城主となったが，まもなく謀叛(むほん)の嫌疑(けんぎ)を受けて筑前を立ちのき，一時は池田輝政(てるまさ)のもとにいたが，1614年(慶長19)大阪の陣(冬の陣)が起こるまで浪人した。この年，秀頼(ひでより)に招かれて入城，善戦して東軍の上杉(うえすぎ)・佐竹勢を破った。翌年の夏の陣にも，家康(いえやす)の誘いを拒み，道明寺付近で伊達政宗(だてまさむね)勢と戦って死んだ。基次は志気壮大，清操の将器として，戦国武将中独特の地位を占める。

〔稲垣史生〕

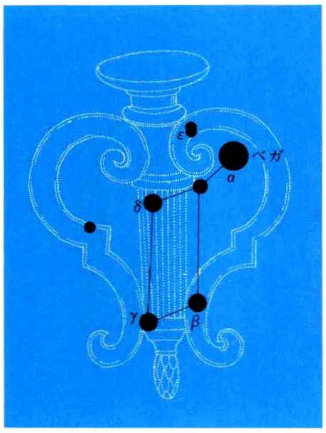
ごとうれっとう 【五島列島】 九州の北西方，東シナ海に北北東から南南西に連なる延長約90kmの列島で，長崎県に属する。もとは宇久島・中通島・若松島・久賀島・福江島の5島とその属島をさしたが，現在は宇久島の代わりに，奈留(なる)島を加えていう。しかし，自然地理的には宇久島も一体と考えてよく，歴史的にも宇久島を根拠とした宇久氏が近世に五島列島を統一し，16世紀末には五島氏と改称，福江を城下町として幕末まで一万二千石の大名として存続していた。いずれも山がちで，福江島に数本の小河流があるほかは川はなく，海岸は屈曲の多いリアス式海岸を形成している。最高点は福江島の父ケ岳(ててがだけ)(461m)で，列島を通じて火山活動のあとが見られ，福江島東部の鬼岳(おんだけ)(317m)は小さな臼状(きゅうじょう)の火山である。鬼岳付近をはじめ，各島に西海国立公園の指定地域があり，風光に恵まれている。気候は温暖多雨で，福江島の富江の年平均気温は16.2℃，年降水量は2,358mmで，また台風の通過は九州地方としては比較的少ない。おもな島のほか約200の属島があり，人口は福江市と南松浦郡の10町を合わせて9万7,000。段々畑でサツマイモ・タバコなどをつくり，おとなしくてねばり強い五島牛を耕作と運搬に利用している。また農用船にウシを積んで，対岸の耕地へ〈渡りづくり〉に出かける風習もある。

中通島の有川と奈良尾，若松島の若松の揚繰(あぐ)り網，福江島の玉之浦の定置網による漁獲は大きく，東シナ海特有の底引き網漁業の基地に中通島の奈摩がある。また中通島・若松島・福江島ではハマチを養殖している。零細なイカの一本づり漁業は広く普及していて，五島スルメとして出荷される。

〔浅井得一〕



五島列島
福江島北西端の三井楽台地上の自然形をなす特色ある畑地景観。台地は全体が楯状火山のゆるい斜面からなっている



こと座

コードおり 【コード織】 縦にうねの現われた織物。綿・化学繊維などでつくられ，夏の男子替えズボン・上着・ツーピースなどにする。手ざわりがあらく，さらっとした生地として喜ばれる。多くは糸染めで明るい色調を現わしている。

ごとく 【五徳】 鉄びん・茶がまなどを火に掛けるときに使用し，火ばちや炉の中に立てて置く器具。鉄製のものが多いが，真鍮(しんちゅう)・砲金・陶製などもある。古くは鉄輪(かなわ)とよばれていた。〈五徳〉は火所(くとこ)の転倒，あるいは禅家の火床(ことこ)のあて字の転化という。なお，現在のように輪を下にうずめて足を上にするしかたは，茶道に始まったものである。

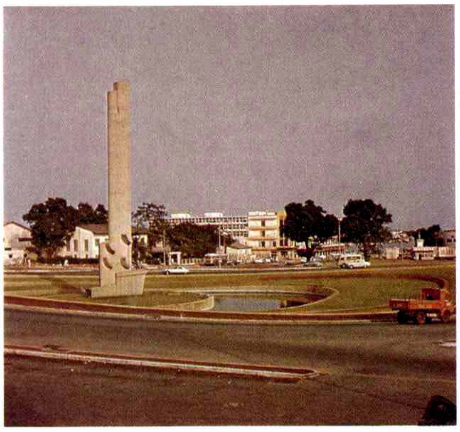
ことくらげ 【琴水母】 有櫛(ゆうしつ)動物・有触手類・コトクラゲ科。全長15cm内外で，竪琴(たてごと)状を呈し，両端に長い羽状の触手を備える。体色は変異が多く，黄・灰・淡紅色に濃紅色の粒状の突起が散在する。相模(さがみ)湾産で，ウミエラ類に外部寄生し，はって移動する。日本特産の珍奇動物として有名である。

ことざ 【琴座】 真夏，天頂付近にかかる小さな星座。α星ベガはたなばたの織女星として有名。β星は周期13日の食変光星で，明るさが3.4等から4.3等まで変化する。また，この近くにたばこの煙の輪のように見える環状星雲が存在し，ともに小望遠鏡の対象として好適。➔星座

コートし 【コート紙】 木材繊維を主体とする原紙の表面に鉱物性の顔料を塗被したものをコーテッドペーパーとよぶが，塗被量が少ない(片面約15g/m²以下)ものをコート紙と称して，アート紙と区別する。微小な顔料粒子を塗被すると紙表面の平滑性が向上し，印刷物の光沢あるいは図がらの再現性が良好となる。しかも，通常はコート紙程度の塗被量で満足できる場合が多いので，最近はコート紙の需要が急増している。なお，表面を強光沢に仕上げたものから，白紙ではあまり光沢のないものまで種種ある。

〔角祐一郎〕

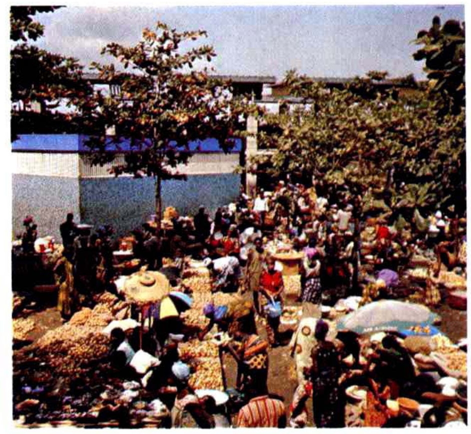
コートジボアール [Côte d'Ivoire] アフリカ大陸西部，ギニア湾岸の共和国。東をガーナ共和国，西をギニア人民革命共和国・リベリア共和国，北をオートボルタ共和国・マリ共和国と接している。面積32万2,463km²。人口797万(1978年推)。首都アビジャン。国名は象牙(ぞうげ)海岸の意で，古くヨーロッパ人が渡来して象牙の取引が行なわれたことに由来する。



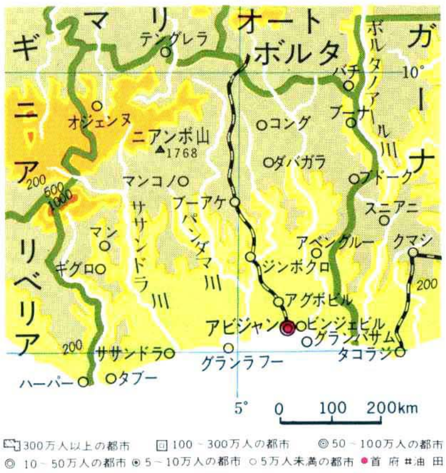
コートジボアール　首都アビジャンの共和国広場。市街はラグーン(潟湖)に臨んで入り江が多く，緑の広場の向こう(右手遠景)にも水面が見える



アビジャンの南郊はエブリエ湾に面し，ここに外港のポートボウエ港がある。写真は港の貯木場から船に積み込まれる木材

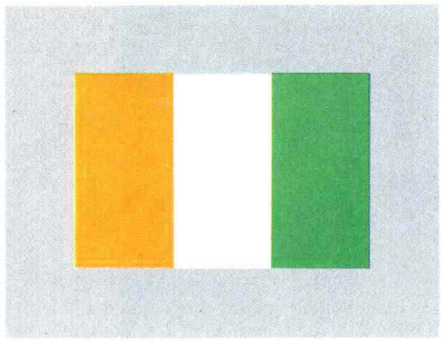


アビジャンのトレージビル地区のマーケット風景。いも類やタマネギ・トマト・くだものなどが並べられている



〔自然・住民〕 国土の北半分はサハラの高原に続く山地で，南半は丘陵地帯から海岸平野になっている。海岸は単調でよい港湾がなく，川も急流が多く下流のほかは航行に適さない。海岸地域は気温が高く年２回の雨季があり，北部の山地ではサバナ*が広がり，乾季が11月から翌年２月まで続く。住民は，中央部に約50万のバウレ族，海岸地域にクル族とアグニ族が居住し，いずれも原始宗教を信仰している。北部にはセルホ族とディウラ族が住み，回教を信仰している。

〔産業・経済〕 経済の中心は農業で，住民はトウモロコシ・米などを栽培しているが，商品作物としてコーヒー・カカオ・バナナがあり，ほかにパイナップル・ゴム・ワタ・カポックなどを栽培している。コーヒー・カカオは原住民により，バナナはほとんどが白人経営のプランテーション*によってつくられている。林産物にはマホガニーがある。これら産物の輸出先はおもにフランスで，アメリカがこれに次いでいる。輸入はフランス・アメリカ・イギリスから衣料品・機械・石油などを買い付ける。鉄道はアビジャンからオートボルタに通ずる路線が１本だけあり，同国およびオートボルタ



コートジボアールの国旗　1959年制定。オレンジ色は富，白は純潔，緑は農業の発展を表わしている。なお，左右の色を入れ替えるとアイルランドの国旗になる

の物資輸送に利用されている。自動車道路網は比較的発達している。労働力が不足しているため，オートボルタからの移民が多い。

〔歴史・政治〕 14世紀にポルトガル人によって発見されたが，18世紀はじめからフランス人の植民が始まり，1889年にはフランスの保護領になった。20世紀にはいって原住民の反乱が続き，1910年と1916年には激しい暴動が起こったので，紛争の多い北部



コートダジュール　南フランス，サントロペの海岸。ホテルやカジノやレストランが並び，砂浜はビーチパラソルで埋めつくされている

をオートボルタとして分離した。1958年独立し，フランス共同体内の一国となったが，1960年には共同体を離脱した。議会は一院制。公用語はフランス語。　〔小栗　宏〕

コトシュ　［Kotosh］ 南アメリカ，ペルーの先史文明の遺跡。1960～1966年に東京大学学術調査団によって発掘された。アンデス山脈の東斜面にあり，ＢＣ2000年ごろから2000余年にわたって，六つの文化が栄えた。まだ土器が使用されていなかったにもかかわらず，原始的農耕(BC1500年ごろからトウモロコシの耕作がはじまる)と神殿建築が行なわれていた点，考古学の常識を破るものとして注目された。旧大陸における古代文明の形成過程との比較において重要な遺跡である。　〔松下　洋〕

コートダジュール　［Côte d'Azur］ フランス南部，地中海に面するツーロンからニース一帯の海岸の呼称。〈紺碧(こんぺき)の海岸〉の意。地中海式気候による独特な景観と地中海の青との調和が美しく，ヨーロッパの代表的観光地である。古くは避寒地であったが，近年は季節を問わぬ観光保養娯楽地として栄えている。花卉(かき)栽培が盛んで果樹栽培とともに海岸の風景を特色づけ，その加工も行なわれる。特産の香水は世界に名を知られている。古くからの都で港市であるカンヌ・ニースがその中心。　〔長津一郎〕

ことだま　**〔言霊〕** ことばにこもっていると信じられた霊力。日本神話のヒトコトヌシノカミやコトシロヌシノカミはことばに宿る神霊として想定されたが，言霊信仰のなごりは現代の日常生活にも根強く，正月や祝いごとに述べる祝言，のろう相手に〈くたばれ〉〈畜生〉ということなどがそれである。節分*の唱え言の〈鬼は外，福は内〉は目に見えぬ邪悪を駆逐し，幸運を招来すると信じて唱えるので，その唱え言ぬきで豆をまくだけでは霊力が発現されない。結婚式に〈切る〉〈去る〉〈別れる〉などのことばが禁句になっているのも言霊信仰と関連し，

忌みことばも言霊の影響を避けるために発生した。〔今野圓助〕

ことどり【琴鳥】鳥類・コトドリ科。全長1m近いキジ型の地上性の鳥。オーストラリアの特産種で，東部の森林と低木帯に2種が生息する。体羽はじみな灰かっ色で，尾羽はスズメ目としては異例の16枚。雄の尾羽は75cmもあり，繁殖期にはこの尾羽を古代ギリシアの竪琴(たてごと)のような形に広げてディスプレーをする。

ことば【言葉】⇨言語

ことばがき【詞書】題詞ともいう。和歌の前にあって，その作歌事情・季節などを説明している散文。詩歌についての散文による説明は，表現の不完全性を示すともいえるが，短詩型にあってはやむをえない。和歌のあとにつく説明は〈左注〉とよばれ，《万葉集》では左注の長い例が多い。〈三代集〉にあっては長い詞書もあるが，時代が下るにつれて短く簡単になる。

コトパクシ(山)［Cotopaxi］エクアドル北部にあるアンデス山脈中の火山。首都キトの南50kmにある。標高5,978m。活火山としては世界一の高山で，山容は美しい円錐(えんすい)形をなしている。万年雪におおわれ，直径700mの大火口からはイオウを含む水蒸気を噴出しており，1768年には大爆発があった。1872年ドイツ人W.ライスが初登頂した。

ことはじめ【事始め】⇨事八日(ことようか)

ごとばてんのう【後鳥羽天皇】(1180～1239) 在位1183～1198年。名は尊成(たかひら)。高倉天皇の第4皇子。母は七条院藤原殖子。安徳天皇が都落ちしてのち，後白河(ごしらかわ)法皇の院旨により神器を伝えずに践祚(せんそ)するという異例の形で即位した。1192年(建久3)後白河法皇の死後親政を行ない，のち譲位して次の土御門(つちみかど)・順徳・仲恭各天皇の間，院政をとった。多芸多才，文武ともにすぐれたうえ，広大な皇室御領を自己のもとに集中(後鳥羽上皇御領)して財力をたくわえ，西面武士を設置し，みずから競馬(くらべうま)・狩猟などを行なって武をみがき，朝権の回復を図った。1221年(承久3)幕府の内訌(ないこう)に乗じて政権を奪回しようとし，義時(よしとき)追討の宣旨を諸国に下した(→承久の乱)。しかし上皇方は上洛(じょうらく)した幕府の大軍に敗北し，所領を没収されて隠岐(おき)に流された。和歌にすぐれ，歌論に《後鳥羽院御口伝》，家集《後鳥羽院御集》などがある。なお，《新古今和歌集》はその院宣によって選されたものである。陵墓は島根県の海士村陵，京都市の大原陵。〔鹿野賀代子〕

コードバン［cordovan］馬皮のしりの部分をタンニンでなめした皮。きめが細かく毛穴がなく，美しいつやがあり，じょうぶである。柔らかいところは子どもぐつ，厚いところはスポーツ用や男子ぐつの甲皮とされる。



コトドリ



コトヒキ



金刀比羅宮　本殿

ことひき【琴弾】硬骨魚類・シマイサキ科。ヤガタイサキともいう。体長30cmほどに達する近海魚で，淡水の混じる河口域を特に好んで群生する。体は紡錘形でやや側扁(そくへん)し，マダイ・スズキなどの体形に似ている。うろこはやや細かい。体はわずかにかっ色をおびた白色で，体側に腹側に曲がる弓形の3条の灰黒色縦線があり，体中部で最も曲がりが深い。このような縦線は，他種の魚にはあまり例がないので，識別はきわめて容易である。本州中部以南，南朝鮮・沖縄・西部太平洋に分布し，食用にされる。うきぶくろによって発音するといわれ，和名はそれによる。〔菅野　徹〕

ことひら【琴平(町)】香川県西部，仲多度郡にある町。人口14,000。金刀比羅宮(ことひらぐう)の鳥居前町であり，江戸中期から発達した。大門から国鉄琴平駅までの間が主体で，みやげ物屋・旅館・食堂が並ぶ。四国各地から金刀比羅街道が集まり，いまも県内陸上交通の中心地である。

ことひらぐう【金刀比羅宮】香川県仲多度郡琴平町の象頭山の中腹にある。祭神は大物主神(おおものぬしのかみ)。古くは琴平神社・事比羅宮などとも書かれた。俗に讃岐(さぬき)の金毘羅(こんぴら)大権現とよばれ，航海の守護神として広く信仰を集めてきた。中世以来，仏教の守護神金毘羅がこの地に垂迹(すいじゃく)したものと伝えられ，神仏習合の典型的な神の一つとなっている。現在でも信仰圏は全国に及び，年間300万の参拝客を集めている。社宝に絹本着色の《弁財天十五童子像》および《奈与竹(なよたけ)物語絵巻》，紙本墨書の《竹林七賢図》などがある。例祭は10月10日。〔佐野文哉〕

ゴドフロア-ド-ブイヨン［Godefroy de Bouillon］(1060ごろ～1100) フランスの騎士。ロレーヌ大公。第1回十字軍の指揮者のひとり。聖地エルサレム奪回後，エルサレム王国の国王となった。在位1099～1100年。王号をはばかって〈聖墓の保護者〉と称した。武勲詩の主人公として取り上げられている。

ごとべいどう【五斗米道】民衆道教の最初の形態の一。2世紀後半に張陵(ちょうりょう)が始め，子の衡，孫の魯(ろ)が整備した。教法は，祈禱(きとう)とまじないによる治病で，病人には罪を懺悔(ざんげ)させ，信者に《老子》を唱えさせる。信者から五斗の米を徴収し，また社会奉仕に参加させて，陝西(せんせい)省南部と四川(しせん)省一帯に一時宗教王国をつくった。215年，王国は滅んだが，その宗教は根強く残り，のちの正一教に続く。

こどもぎんこう【子ども銀行】小・中学校の児童・生徒が銀行・郵便局・農協などを預託先に，それを模して運営した預金組織。1948年(昭和23)〈昭和23年度貯蓄増強推進に関する件〉の閣議決定が行なわれて，文部省は都道府県知事に，貯蓄奨励・金銭教育の必要性を通達したのが全国的に普及した契機である。

こどもぐみ【子ども組】集落(部落・町)関係を基礎として結成される伝統的な児童集団。一般に7歳から15歳くらいまでの子どもたちが年序による自治集団を構成し，ほとんどが民間信仰に根ざした祭祀(さいし)行事を担当し，子どもが神の憑坐(よりまし)であった昔の祭祀形成のなごりを伝えている。地方によっては，若者組・娘組に接続し，子ども組の頭(かしら)をつとめることを若者入りの条件とすることもある。子ども組が担当する全国的な行事に，正月の火祭(左義長・松送り)，鳥追い，初午(はつうま)，10月の行事(十日夜(とおかんや)・亥(い)の子)，虫送り，盆行事などがある。→若者組　→娘組〔須藤健一〕

こどもじゅうじぐん【子ども十字軍】1212年，少年少女によって起こされた十字軍。第4回十字軍の失敗ののち，けがれのない子どもによる十字軍ならば成功するという考えが広まった。フランスでは，牧童の呼びかけで約30,000の少年少女がマルセイユに集結した。しかし商人にだまされてアフリカのサラセン人に奴隷として売られ

た。ドイツでも，牧童の呼びかけで約20,000が集まり，ジェノバに到達したが困苦に耐えかねて倒れたり帰国したりした。十字軍の歴史の中の悲話である。〔高山高雄〕

こどものしき【子供の四季】坪田譲治の長編小説。1938年(昭和13) 1～6月,《都新聞》に連載。小野甚七(じんしち)老人の経営する綿布工場をめぐる親族どうしの争いと，それをながめ，無邪気な中にも懸命に対処する孫の善太と三平を描いて，童心の美しさと子どもの社会的存在を訴えた，作者の代表作の一。

こどものひ【子どもの日】国民の祝日の一。5月5日。〈国民の祝日に関する法律〉第2条にこの祝日制定の趣旨として〈こどもの人格を重んじ，こどもの幸福をはかるとともに，母に感謝する〉と記している。5月5日は古来から,男児を寿(ことほ)ぐ端午の節句が行なわれ，古式ゆかしく，子どもの成長が祝われた。新しく祝日となった子どもの日が，特に，子どもの人格尊重と幸福とを志向している点に，日本国憲法・教育基本法に基づいた第2次世界大戦後の日本の教育理念が示されている。なお，この祝日制定の趣旨は，1951年公布された児童憲章となった。〔高崎徳次〕

ことようか【事八日】2月と12月の8日に行なわれる行事。12月8日を事納め，2月8日を事始めとよび，本来は神送り・神迎えの祭日であった。この日，東京近郊では〈みかり婆(ばあ)さん〉という怪物，伊豆(いず)では〈一つ目小僧〉,東北地方では〈大眼(だいまなこ)〉という一眼の鬼が来るとして，目かご(目が多いから一つ目の化け物をにらみ返す)を庭に掲げる風習がある。古くは,重要な物忌みの日であったのが，しだいに鬼とか妖怪(ようかい)を恐れる呪術(じゅじゅつ)的行事になった。なお，針供養といって針を使用するのを忌み，折れ針などを集めて供養するのも，この日(多くは2月8日)の習俗である。〔直江広治〕

ゴトランド(島)［Gotland］スウェーデン南東部，バルト海に浮かぶ島。面積3,140km²,人口53,000(1966)。フォール島・ゴトスカサンド島などとともにスウェーデンの1県を構成する。肥沃(ひよく)な土壌(どじょう)に恵まれ，テンサイ・大麦の産が多い。またヒツジ・ウシの牧畜や水産業も盛んである。主都ビスビはハンザ同盟にも加わっていた古い都市で，付近からはさらに古いローマ時代の貨幣などが発掘されている。地質時代のゴトランド紀の名はこの島に由来する。〔大崎　晃〕

ゴトランドき【ゴトランド紀】⇨シルリア紀

ことわざ【諺】古くから言いならわされたことばで，教訓・風刺・英知・経験などを結晶させた短句・秀句をいう。〈ことわざ〉という語はもともと〈口の技芸〉の意で，その始源的なものは巫女(みこ)や神人(じんにん)の口を通して発せられる神のことばの中にあった命令であったともいわれる。すなわち，神聖な唱えことばが固定して〈ことわざ〉となったというのである。一般に，〈ことわざ〉には，①他人の考えや行ないに対する批評・風刺をこめたもの：〈紺屋の白ばかま〉〈出るくぎは打たれる〉〈ねこに小判〉など，②人生の教訓を寓(ぐう)するもの:〈禍福は糾(あざな)える縄(なわ)のごとし〉〈亀(かめ)の甲より年の功〉〈善は急げ〉〈ころばぬ先の杖(つえ)〉など，③長年の経験から得られた知恵をたたえたもの:〈朝雨みのいらず〉〈乾(いぬい)土蔵に巽(たつみ)井戸〉〈卯(う)のとき雨は傘(かさ)見りゃ晴れる〉〈豊年柿(がき)にけかち栗(くり)〉などがあり，その効用や役割にも種々の考え方がある。〈ことわざ〉には比喩(ひゆ)が好まれ，即物的・具体的である。〈十人十色〉〈三人寄れば文珠の知恵〉などのように，はっきりと数を示して概数を用いることがないもの，具体的・即物的な性格を示している。〈えびで鯛(たい)を釣(つ)る〉〈鹿(しか)を逐(お)う者は山を見ず〉〈猿(さる)も木から落ちる〉などのように，比喩の中に寓意をこめるものが多いのも特徴的である。形式としては，七七，七五，五五など音数律をとるものが多く，頭韻や脚韻を踏んだり，掛詞(かけことば)や縁語を利用したものが多い。口調のよい秀句が好まれるあまり，自然に軽口や語呂(ごろ)合わせのような言語遊戯に移行するような一面も見受けられる。〈ことわざ〉は，《古事記》《日本書紀》《風土記(ふどき)》など上代の文献にも数多く見られ，時代とともにその数を増している。また，地方色豊かなものも少なくない。〈ことわざ〉を集録したものには，源為憲(ためのり)の《世俗諺文(せぞくげんもん)》(1007)などの古いものもあるが，近世にはいって数多く編集されている。〔鈴木一雄〕



コナクリ　市の中央にある人民会館の建物。ここで国会のほか国家的な重要な会議・集会が開かれる

ゴドーをまちながら【ゴドーを待ちながら】ベケットの戯曲。1952年の作。放浪者ウラジミールとエストラゴンが，いなかの路上でゴドーなる人物を待つが，来るのか来ないのか，ゴドーとは実在するのかしないのか，なにもわからないという筋書き。不安に迫るアンチ-テアトルの代表的作品である。

ゴードン［Charles George Gordon］(1833～1885) イギリスの軍人。クリミア戦争に参加したのち，1860年イギリス・フランス連合軍の部隊長として天津(てんしん)・北京(ペキン)の占領に参加した。1863年，李鴻章(りこうしょう)の要請に応じてアメリカの軍人F.T.ウォードの創設した西洋式部隊の長となり，常勝将軍とあだ名されて太平天国軍に決定的な打撃を与えた。1874年以後赤道地方知事・スーダン知事などを歴任し，1885年スーダンで土民反乱軍を討伐中に戦死した。〔松下京子〕

ごないしょ【御内書】武家文書の一様式。室町・江戸時代に将軍家が用いた文書で，様式は私的な書状であるが，内容上政治に関係した事がらを通達するものが多くなるにしたがい，公的な効力をもつようになった。足利義満(あしかがよしみつ)のころからこの名称が使われている。足利将軍は花押を用いたが，徳川将軍の中には印章を押したものもあった。

こなおんせん【古奈温泉】静岡県田方郡伊豆(いず)長岡町にある温泉。泉温48～69℃，泉質は食塩泉で，胃腸病によいといわれる。鎌倉時代からすでに知られ，源頼朝(よりとも)をはじめ多くの武将が入浴したといわれる。5月に催されるアヤメ祭が名高い。伊豆箱根鉄道の伊豆長岡駅からバスの便がある。

コナクリ［Conakry］アフリカ大陸西部，ギニア共和国の首都。人口17万(1977推)。本土と橋によって結ばれた小島トンボ島にある港市で，同国輸出入のほとんどを取り扱う，政治・経済の中心都市である。同国唯一の鉄道が内陸のカンカンまで通じ，国際空港もある。港からはバナナ・ボーキサイト・鉄など，同国の重要輸出品が積み出される。

こなじらみ【粉蝨】こん虫類・半翅(はんし)目・コナジラミ科の総称。体長1～3mmで，成虫は体と翅(はね)が白色のロウ物質でおおわれる。口器は吻(ふん)となっており，脚は細長い。翅は2対あり，体の背面で平らに，またはいくぶん屋根形にたたむ。卵は植物体上に長短の柄によって付着され，小形で黄色ないし黒色を呈し，しばしば母虫のロウ質の分泌物でおおわれる。孵化(ふか)直後の若虫は可動的であるが，第1回の脱皮後は触角と脚が消失し，軟弱な楕円(だえん)形の扁平(へんぺい)なものとなる。その後葉裏に固着すると，種々の色彩を呈し，種々の分泌物でおおわれる。年に2回以上発生をくり返し，冬は成虫以外の形態で越すのが普通。コナジラミ科は，同翅亜目に属する他の多くの科のものと同様に，幼虫・成虫ともに植物体から吸汁(きゅうじゅう)し，農業上の重要な害虫となる種類が多い。全世界から200種内外が知られている。日本では，ブドウにつくブドウノコナジラミ，ミカン類やクワなどにつくマーラットコナジラミ・ヒメコナジラミ・ミカンノトゲコナジラミ・

ミカンコナジラミなどが代表的な種類である。　〔鈴木邦雄〕

こなすび　【小茄子】　双子葉植物・サクラソウ科。野原や道ばたに多い多年草。茎は四方に広がり，横にはって，長さ７～20cm，毛が多い。葉は広卵形で対生する。夏，葉のつけ根に径５～７mmで黄色の花冠が深く裂けた花を一つずつつける。果実の形が小さいナスに似ているところからこの和名がある。

こなだに　【粉蜱】　クモ形類・コナダニ科の微小なダニの総称。成虫で0.7～1.0mmの大きさ。ケナガコナダニ・サトウダニ・ホシカダニなどがある。繁殖は梅雨期に最も著しい。砂糖・みそ・かつお節などの食料品や新しい畳に発生するが，直接ヒトを刺したりすることはない。最近では喘息(ぜんそく)のアレルギー源として注目されている。駆除には，乾燥・加熱などによって水分含量および湿度を下げる。また，畳には殺虫剤の散布も行なわれる。　〔鈴木　猛〕

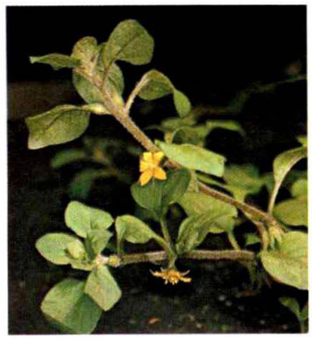
こなちゃたて　【粉茶柱虫】　こん虫類・チャタテムシ目・コナチャタテムシ科。体長２mmほどで，淡黄白色，頭部は多少桃色をおびる。全体軟弱で，長短の毛を密生する。動植物の乾燥標本や紙などの害虫で，全世界に分布する。コナチャタテムシ科のこん虫は翅(はね)が消失しているか，前翅(ぜんし)のみが鱗片(りんぺん)状になっている。近縁のカツブシチャタテは本種より小形で，体長１mm内外，腹部背面に赤かっ色の横帯がある点で容易に区別でき，乾燥食品類・書籍・標本などに普通に見いだされ，全世界に分布する。

こなミルク　【粉ミルク】　⇨スキムミルク

こなら　【小楢】　双子葉植物・ブナ科。日本・朝鮮・中国の山野に自生し，よく植林されている落葉高木。幹は直立して，高さ17m，径60cmに達する。新枝は粗毛がある。樹皮は灰かっ色で，古いものは浅い縦の裂け目がある。葉は互生し，倒卵形で先はとがり，縁に鋭い鋸歯(きょし)がある。若葉には両面に毛がある。秋に紅葉する。４～５月ごろ新枝の下方に４～５cmのひも状で黄かっ色の雄花穂をつけ，上部の葉腋(ようえき)に１～数個の黄緑色の雌花をつける。果実はどんぐりの仲間で，長楕円(ちょうだえん)形，小鱗片(りんぺん)の密生したさら形の殻斗(かくと)がある。材は建具・器具にし，まきや炭材としてもすぐれている。またシイタケ栽培の原木にする。　〔横井朝子〕

ごならてんのう　【後奈良天皇】　(1496～1557)　在位1526～1557年。名は知仁(ともひと)。後柏原(ごかしわばら)天皇の第２皇子。母は豊楽門院藤原藤子。争乱のうえ飢饉(ききん)と疫病流行にあたったので，これを憂えて宸筆(しんぴつ)の《般若心経(はんにゃしんぎょう)》を書写して諸国の一宮*(いちのみや)に奉納，祈願したことはよく知られる。日記に《天聴集》がある。陵墓は京都市の深草北陵。

コナスビ





コナラ



コニーアイランド　海岸に面して海水浴場が細長く延び，遊戯施設も整っている。背後に高層住宅が建ち並ぶ



コニシキソウ　枝を折ると白色のしるが出る

こなんじけん　【湖南事件】　⇨大津事件

こなんしょう　【湖南省】　フーナン省　中国，揚子江中流南岸の省。面積21万500km²。人口3,900万(1972年推)。省都は長沙(ちょうさ)。２直轄市(長沙・株州(しゅしゅう))・９専区・１自治州に分かれ，83県・４自治県を統括する。洞庭湖(どうていこ)周辺の広大な平野と洞庭湖に流入する湘江(しょうこう)・資水・沅江(げんこう)などの流域を中心地域とする。〈湖広熟すれば天下足る〉のことばが示すように，豊富な米産地であり，また小麦・コウリャン・ダイズなどの産のほか，チョマ・茶・タバコなど工芸作物も多く，スギ・マツ・タケや桐油(とうゆ)などの林産物も少なくない。鉱産物ではアンチモン・鉛・亜鉛・マンガンなどを豊富に産する。中華人民共和国になってからは，長沙・湘潭(しょうたん)・常徳・株州・衡陽などに紡織・機械・金属・化学などの近代工業も急速に発展した。交通は洞庭湖およびそこに流入する水系を利用した水上交通が発達しており，鉄道では京広鉄道(北京～広州)が縦貫するほか，同鉄道の株州から杭州(こうしゅう)に浙贛(せっかん)鉄道が，また衡陽からベトナム国境へ湘桂(しょうけい)鉄道が通じている。山間にはミャオ族・ヤオ族などの少数民族が居住する。〔船越昭生〕

コニーアイランド　［Coney Island］　アメリカ合衆国，ニューヨーク市の海岸にある島。ハドソン川河口左岸のロングアイランドの南にある。世界一の規模といわれる大遊園地があり，また外洋に面したマンハッタン海岸は海水浴場として有名。東西10kmにわたる砂浜が，週末には100万人の人出でにぎわうといわれ，国際的な観光地になっている。

こにしきそう　【小錦草】　双子葉植物・トウダイグサ科。畑地や道ばたに見られる一年草。原産地は北アメリカで，明治時代中ごろに日本にはいった帰化植物。ニシキソウに比べ小形である。

こにしゆきなが　【小西行長】　(？～1600)　安土桃山時代の武将。キリシタン大名*。堺(さかい)の豪商小西隆佐の子。通称弥九郎(やくろう)。摂津守(せっつのかみ)。受洗名ドーアグスチン。はじめ岡山の宇喜多氏，のち豊臣秀吉(とよとみひでよし)に仕えた。九州征伐・肥後(熊本県)一揆(いっき)平定に功があり，肥後南半二十四万石を領有し，宇土城主となる。文禄(ぶんろく)・慶長の役*に出陣し，先鋒(せんぽう)として奮戦。秀吉の死後，文治派の石田三成らと結び，徳川家康(いえやす)と結ぶ武断派大名と対立した。関ケ原の役*に大敗し，捕えられて処刑された。　〔松尾　涼〕

ごにじょうてんのう　【後二条天皇】　(1285～1308)　在位1301～1308年。名は邦治(くにはる)。後宇多天皇の第１皇子。母は西華門院源基子。伏見・後伏見と持明院統*の天皇が２代続いたため，大覚寺統*の後宇多上皇の要請によって，執権北条貞時(ほうじょうさだとき)の調停のもとに即位した。歌集に《後二条院御集》《後二条院御百首》などがある。陵墓は京都市の北白河(きたしらかわ)陵。

こにもつ　【小荷物】　一般に客車便と称されている荷物。１個20kg以下の荷物で，旅客列車に連結した荷物車や荷物専用列車・急行貨物列車で手荷物とともに運送される。小荷物は小量分散性の輸送にその特

性があり，新聞や雑誌も小荷物で運送されるものが多い。

コニャック ⇨ブランデー

ごにんぐみ【五人組】 江戸幕府によって編成された町・村の隣保的自治組織。五人与(ごにんぐみ)とも書き，五人組合などともよんだ。貢納・治安・防火やキリシタン*の取り締まりなどにつき，共同責任を課した。律*・令*(りょう)の五保の制にその源流をみることができるが，直接的なつながりはない。中世末，戦国大名が隊伍(たいご)編成の必要から五人組・十人組の編成を行なったが，制度化したのは，1597年(慶長2)豊臣秀吉(とよとみひでよし)が諸国の辻切(つじぎり)・盗賊などの取り締まりのため，侍五人組・下人十人組の組織を命じてからである。江戸幕府は1603年洛中(らくちゅう)の町人に十人組の制を施し，治安維持の共同責任をとらせたが，やがてキリシタン禁制や浪人取り締まりにもこの制度を活用した。制度上，五人組が整備したのは寛永年間(1624～1643)で，幕府直轄領だけではなく，私領にも強制的に施行し，年貢(ねんぐ)確保・法令下達の目的をも備えるようになった。諸藩でも藩政施行上，同様の目的でこの制度を採用した。五人組はふつう5戸で編成されたが，町方では地主・家主，村方では小作人をも含めた惣百姓(そうびゃくしょう)で五人組が編成された。組ごとに組頭(くみがしら)が置かれ，また五人組帳が作製された。五人組帳は組合員の守るべき法令書，組合員の誓書，および町・村役人の連名署名の3部からなっていた。五人組は領主の領民支配上重要な役割をになったが，また組合員間の福利増進や相互扶助のための組織ともなった。訴訟の際には，組合員一同が保証人や立会人となって出廷した。1888年(明治21)市制町村制が定められ，地方自治制度が確立されるに及んで廃止された。〔高崎徳次〕

ごにんぐみ【五人組】 1875年ごろロシアの5人の作曲家が形成したグループ。メンバーはキュイ*・ボロディン*・バラキレフ*・ムソルグスキー*・リムスキー-コルサコフ*で，このうちバラキレフを除く4人は軍人や自然科学者などのアマチュアであった。しかし，当時のロシアの職業的な音楽家が，ルービンシュタインに代表されるように，ドイツ流の音感覚をもっていたのに対して，五人組は方法に違いがあっても，ロシアの民族的なものと結びつくという点で，狭い意味での国民楽派*を形成するものであった。題材としての民族性にとどまらず，民謡の使用，あるいはロシア民俗音楽のもっていた変拍子などのリズム組織，音の動かし方の特性，非西欧的な和声法や管弦楽法を呈示した。ムソルグスキー・リムスキー-コルサコフは特にそうした特性のために，かえってフランスの印象主義音楽*を含めて新しい音楽に大きな影響を与えている。〔徳丸吉彦〕


近衛文麿

こねいてつどう【滬寧鉄道】 フーニン鉄道 中国中部の鉄道。上海(シャンハイ)～南京(ナンキン)間312kmを連絡する。1896年，呉淞(ウースン)～上海間が着工され，1908年に全線が開通した。官営によって始められたが，中途でイギリス資本の中英公司によって工事が進められ，実権はイギリス人が握っていた。中華民国時代に国営鉄道となり，複線化もなされた。現在では，南京で津浦(しんぽ)鉄道と連絡している。蘇州(そしゅう)・無錫(むしゃく)・常州・鎮江など，揚子江下流の経済の進んだ地方を連絡する重要な鉄道である。

コネクター [connector] 一般に，一度に多数の電気回路間を電気的に結合するための措置で，差し込み型接続器具の総称。接続後はねじまたはばねで固定し，離脱を防止できるようになっている。特に，電気コードと電子機器などを結合するものはコードコネクターとよばれる。

コネスキ [Vlaže Koneski] (1921～) ユーゴスラビアのマケドニアの文学者・言語学者・詩人・批評家・文芸史家。第2次世界大戦後マケドニヤ文語の成立に力を貸し，この言語の文法を書いた。雑誌《マケドニヤ語》の編集長。スコピエ大学教授。

コネチカット(州) [Connecticut] アメリカ合衆国北東部，大西洋岸の州。面積12,700km²。人口308万8,000(1974)。州都ハートフォード。1788年の独立宣言13州の一つ。州名は〈長い川の場所〉の意。面積は合衆国全州中48番めにあたる小さな州であるが，工業は13番めの生産高を示して専門化・多様化している。特にジェットエンジン・ヘリコプター・針類・銀器・時計・金物・タイプライターなどの生産量が多い。工場労働者は全労働者の43%を占めている。また多角的な農業が行なわれ，養鶏や酪農品の生産も盛んである。工業都市と美しいニューイングランド田園風景の対照が著しく，州外からの観光客が多い。主要都市，ハートフォード・ブリッジポート・ニューヘブン。〔相村大彬〕

このえあつまろ【近衛篤麿】(1863～1904) 政治家。左大臣忠房(ただふさ)の長子。号は霞山(かざん)。1884年(明治17)華族令によって公爵となった。1890年ライプチヒ大学を卒業し，帰国後貴族院議員となった。藩閥政府に批判的で，1893年条約励行建議案をめぐって政府と鋭く対立した。1895年学習院院長，1896年貴族院議長となり，学習院院長を兼任した。日清(にっしん)戦争前夜から大アジア主義*を唱え，1898年東亜同文会を組織，日露戦争開戦前には対露強硬論を主張し，1903年対露同志会を結成して開戦の国論を指導した。日露開戦直前に死亡。〔岸野淳子〕

このえけ【近衛家】 藤原氏北家の嫡流で，五摂家*の一。鎌倉初期に藤原忠通(ただみち)の兄基実(もとざね)は近衛殿に住して近衛家を称し，以後歴代摂政・関白・太政(だじょう)大臣に任ぜられた。江戸初期，後陽成天皇の皇子信尋(のぶひろ)が養嗣子となり，はじめ千八百石，幕末二千八百石を領し，公家(くげ)中最高であった。1884年(明治17)公爵となる。

このえてんのう【近衛天皇】(1139～1155) 在位1141～1155年。名は体仁(なりひと)。鳥羽(とば)天皇の第8(一説では第6)皇子。母は美福門院藤原得子。3歳で即位。在位の間，父鳥羽法皇が院*で政務をとった。和歌をよくしたと伝えられる。陵墓は京都市の安楽寿院南陵。

このえひでまろ【近衛秀麿】(1898～1973)指揮者。近衛文麿*(ふみまろ)の弟。作曲を山田耕筰*(こうさく)に学び，1923年(大正12)渡欧，パリでダンディ，ベルリンでシリングスやシューマンに作曲を学んだ。またクライバーに指揮法を学び，1925年に山田耕筰とともに日本交響楽協会をつくった。1926年に独立して新交響楽団(現在のNHK交響楽団)を組織，10年間その運営にあたった。欧米に12回の楽旅を行ない，第2次世界大戦後は東宝交響楽団(現在の東京交響楽団)・近衛管弦楽団・ABC交響楽団の主宰者としても活躍した。〔向坂正久〕

このえふ【近衛府】 令外官*(りょうげのかん)の一。765年(天平神護1)授刀衛(じゅとうえ)を改めて近衛府とし，807年(大同2)さらに近衛府を左近衛府，中衛府を右近衛府とした。職員には大将・中将以下を置き，禁中の警固，京内の警衛にあたったが，平安中期以後は儀仗兵(ぎじょうへい)と化し，武力としての意義を失った。

このえふみまろ【近衛文麿】(1891～1945) 政治家。近衛篤麿(あつまろ)の長男。京都大学卒業。1919年(大正8)パリ講和会議首席全権大使西園寺公望(さいおんじきんもち)の随員として諸外国を回り，1933年(昭和8)貴族院議長。1936年二・二六事件*後，組閣の大命を受けたが辞退，1937年6月首相となり，中国に対する全面戦争を開始した。1938年1月，〈爾後(じご)国民政府は相手にせず〉という近衛声明を発表，次いで大東亜新秩序の建設を声明して，大東亜共栄圏*民族独立の理想の旗を掲げて戦争を進めた。1940年・1941年と第2次・第3次にわたり内閣を組織し，日独伊三国同盟*を締結，大政翼賛会*・大日本産業報国会を創立してファシズムを進めたが，一方，日米交渉を続行中太平洋



コノシロ　背びれの最後の軟条が著しく長い



コノテガシワ

コノドント





コノハズク



コノハチョウ　翅裏の模様は木の葉を思わせる

戦争開始について陸軍と対立して総辞職した。敗戦後，東久邇宮(ひがしくにのみや)内閣の副総理となったが戦犯に指名され，出頭する日の朝，自殺した。〔岸野淳子〕

このえへい【近衛兵】天皇の直接警護，宮殿地域の守備，儀式の参加などに従った天皇の親兵のこと。1872年(明治5)御親兵を改称して近衛兵とした。当時の兵力は約10,000。これが明治政府の中央集権化への有力な背景となった。1896年には近衛師団が新たに編成された。のち兵力が拡大し，第2次世界大戦にも出動した。中国においても古来同様の部隊があり，禁衛兵と称して，特に信頼できる精兵をもって充足した。近世のフランス・プロシアでは，強力な近衛兵の兵団を編成し，全軍の中核，決戦兵力とする傾向があった。ドイツのヒットラー親衛隊も同様である。現在各国は，このような軍隊を設けないで警察力によっているが，後進諸国の中には特定部隊を親衛隊的に育てているところもある。〔森田　哲〕

このしろ【鰶】硬骨魚類・コノシロ科。体長25cmほどで，内湾にすむ。体は側扁(そくへん)し，平たい。腹縁に稜鱗(りょうりん)(角張ったうろこ)がある。口は小さく，うろこは円鱗で大形。背びれの最後の軟条が長く糸状に伸びる。体背部は青緑色，腹部は銀白色。えらぶたの後ろに明瞭(めいりょう)な黒斑(こくはん)がある。体側の中央部より背方のうろこには中央に一つの黒点があり，全体として数条の黒色縦帯をなす。プランクトン食。本州中部以南，朝鮮・中国・インド・ポリネシアなどに分布。小骨が多いが美味で，すし種・塩焼きなどにする。小形のものを，コハダといい，特にすし種として喜ばれる。また，酢で締めたコハダに，黄色く染めたアワ粒をまぶした粟(あわ)づけは東京付近の正月料理として欠かせないものになっている。〔菅野　徹〕

このてがしわ【側柏】裸子植物・ヒノキ科。中国原産の常緑高木で，庭木として植えられる。枝を多く出し，葉は小形鱗状(りんじょう)でヒノキによく似ているが，表裏の区別がない。雌雄同株で，3～4月，黄色の雄花，淡紅色の雌花を枝先につける。果実は卵円形で，鱗片の先がとがる。種子は柏子仁(はくしにん)といい，漢方で強壮薬に使われる。

コノドント［conodont］微細で大きいものでも2mmぐらいの歯状の所属不明の化石群。リン酸カルシウム$Ca_3(PO_4)_2$の成分からなり，セキエイ・ホウカイ石より重い。おもに石灰岩を酢酸で溶解し，比重の高い溶液で処理して得られる。古生代のカンブリア紀から中生代の白亜紀まで産出する。オルドビス紀・シルリア紀・デボン紀・石炭紀・三畳紀の石灰岩・ディシツ岩に特に多い。形態は角状・プラットフォーム状・花弁状などのものに分かれ，時代とともに変化するので示準化石*として尊重される。ロシアの古生物学者ペンダーが1856年発見し，魚の歯と考えたが，巻き貝歯舌説・環形動物説・石灰藻(せっかいそう)説などもあり，いまだに所属不明で分類的位置も明確でない。日本でも最近各地で発見されるに至った。〔神戸信和〕

このはえび【木葉蝦】節足動物・甲殻(こうかく)類・コノハエビ目・コノハエビ科。形はエビに似ているが，真正のエビ類ではない。帯紅色半透明で，長さ8mmほど。体は頭・胸・腹の3部に分かれ，頭・胸部は頭胸甲に収まる。体は，大いに側扁(そくへん)する。わが国の沿岸に生息し，広く太平・大西両洋に分布する。

このはずく【木葉木菟】鳥類・フクロウ科。小さな角羽をもつ20cmほどの小形のフクロウで，全体に黄かっ色。ユーラシア大陸の中・南部に広く分布し，日本ではおもに夏鳥として低山帯の森林で繁殖する。〈ブッポソー，ブッポソー〉と鳴くため，声のブッポウソウといわれるが，ブッポウソウ科の鳥(姿のブッポウソウ)とはまったく別の鳥である。

このはちょう【木葉蝶】こん虫類・鱗翅(りんし)目・タテハチョウ科。翅(はね)を広げた長さ70mm内外，黒色で，美しい濃青紫色の光沢があり，前翅のほぼ中央部に橙黄(とうおう)色の太い斜帯がある。翅の裏面はかっ色で，枯れ葉そっくりの模様がある。沖縄諸島以西，台湾・中国南部・インドシナ半島からインドに至る広い地域に分布するが，地方的な斑紋(はんもん)や色彩の変異が著しく，多くの地理的品種(亜種)に分けられる。翅裏の枯れ葉模様は古くから保護色の好例とされてきたが，成虫は林間の日あたりのよい場所を好み，しかも止まるときに翅を半開きにして美しい表面の色彩を見せることが多く，枝に止まることは少ない。幼虫は，沖縄諸島や八重山諸島などではリュウキュウアイやオオケタデなどを食べ，インドではイラクサ科のものを食べることが知られている。〔鈴木邦雄〕

このはなさくやひめ【木花咲耶姫】日本神話に出てくる女神。イザナギノミコトの子オオヤマヅミノカミの娘で，ニニギノミコトの妃。海幸(うみさち)・山幸*の神話で有名な諸皇子を産んだ。結婚するとき，姉妹の2神がニニギノミコトのもとに送られたが，ミコトは醜い姉を帰して，この女神だけを召したので，人間の生命はこの女神の名のとおり花のように短く終わるように

なった。また，女神はその一夜懐妊をニニギノミコトに疑われたので，海べに密閉した産室をつくって火を放ち，その中で誓約どおり安産したため，ミコトの疑いが晴れた。これらの神話は《古事記》《日本書紀》に記され，両書の神系譜によれば，この女神は皇室の祖神にあたる。後世，各地の浅間神社に祭神として祭られ，その麗姿から浅間信仰の対象である富士山の御神体となった。〔高崎徳次〕

このはむし　【木葉虫】　こん虫類・直翅(ちょくし)目・コノハムシ科の総称。ナナフシ類に近縁の群で，西はインドから東はニューギニア・ソロモン諸島・フィジー諸島などに至る熱帯地方にのみ分布する。いずれの種類も木の葉に似た形態と色彩をしており，古くから保護色の好例として有名。体は著しく扁平(へんぺい)で，全体緑色，腹部および脚は葉片状に拡大し，前翅は腹部背面にたたまれた場合は葉の葉脈によく似た翅脈をもっている。種々の広葉樹上に生活し，葉を食べる。

このまちょう　【木間蝶】　こん虫類・鱗翅(りんし)目・ジャノメチョウ科のウスイロコノマチョウおよびクロコノマチョウの別名，あるいは両者の総称。ウスイロコノマチョウは，翅(はね)を広げた長さ70mm内外，翅の表面は一様に暗かっ色，前翅の前縁角近くに黒色の斑紋(はんもん)があり，その中に2個の白点がある。後翅にも1～3個の中心に白点のある黒色の円形の斑紋がある。翅の裏面は，灰色の地に一面に細かい波状紋が密にあり，周囲が黄色で中心に白点のある黒色の眼状紋がある。南方産の種であるが，しだいに北上して日本本土に帰化しつつあり，アフリカからインド・インドネシア・フィリピン・台湾・沖縄諸島を経て九州・四国の南部や近畿(きんき)地方などに生息し，岩手県下を最北限とする各地で偶発的に発見されている。オーストラリア・北アメリカにも分布する。よく日のあたる場所を好み，樹液や腐果・樹幹，疎林の落ち葉の上などにもよくみられる。飛翔(ひしょう)は緩慢。幼虫はサトウキビ・ススキ・イネなどイネ科植物の葉を食べる。卵は食草の葉裏に産下される。

近縁のクロコノマチョウは，翅色がウスイロコノマチョウに比べて濃く，前翅端の眼状紋中の白点が中心より著しく外方にずれるなどの点で区別できる。習性もやや異なり，むしろ林間の薄暗い場所を好み，夕刻に活動する。東洋熱帯に広く分布し，いくつかの地方型に分けられている。日本では，四国・九州のほか，近畿地方・東海地方・関東地方東部などに分布する。幼虫の食草などは前種と同じ。両種とも成虫態で越冬する。〔鈴木邦雄〕

このわた　【海鼠腸】　ナマコの腸からつくった塩辛。一般にいりこを製造する際の副産物を利用して製する。ナマコ(主として



コノマチョウ　ウスイロコノマチョウ



コバイケイソウ



コパカバーナ　海岸通りに面して立ち並ぶ豪華なホテル群と，美しい弧を描いて延びる砂浜。左手遠景はアルポアドル岬

青ナマコ)の腹部を切り開いて腸を抜き出し，手でしごいて腸の内容物を除き，水洗する。これに塩を加えて塩づけとし，1週間たったときが食べごろとなる。塩辛の中では高級品で，酒のさかなや副食に供する。三重・愛知・岡山などの各県が産地として有名である。

ごは　【語派】　⇨語族

ごは　【五覇】　中国，春秋時代の5人の実力支配者。《荀子(じゅんし)》に，斉(せい)の桓公(かんこう)，晋(しん)の文公，楚(そ)の荘公，呉の闔閭(こうりょ)，越の勾践(こうせん)をあげる。一説に，闔閭・勾践を除き，秦(しん)の穆公(ぼくこう)，宋(そう)の襄公(じょうこう)を加える。周王朝の支配力が失われた春秋時代，国内で富国強兵の実をあげた諸侯が，その軍事力を背景にかわるがわる他の諸侯たちを集めて会盟を主宰し，名目上は諸侯を統率して周に仕える覇者という形をとり，実質的には中国を支配しようとした。これら実力をもった諸侯のうちで特に勢力のあった5人の覇者を五覇とよび，戦国時代の七雄と対にする。

ごは　【呉派】　中国，明(みん)代絵画の流派。北宗画的な浙派(せっぱ)に対して，元末の四大家(呉鎮・倪瓚(げいさん)・王蒙(おうもう)・黄公望)の流れをくむ南宗画風の画家たちをいう。16世紀初め沈周・文徴明(ぶんちょうめい)らがその基礎を築き，明末に董其昌(とうきしょう)らが出て盛んにした。呉郡の出身者が多かったために呉派と称するが，現今は画風上の呼称となっている。浙派が北宗画の可能性の中から強鋭さを取り上げ，画院の細巧派が技巧本位に傾いたのに対して，静寂・雅潤な筆を重視した。そのためか，詩・書・文などにひいでた文人士夫が多く，画論にも優位を占めた。〔中島純司〕

こばいけいそう　【小梅蕙草】　単子葉植物・ユリ科の多年草。本州中部以北の高山で日あたりがよく少し湿った草地にはえる高山植物。茎は高さ60～100cmで，上部はちぢれた毛が多く，下部は膜質の葉鞘(ようしょう)に包まれる。葉は互生し，広楕円(こうだえん)形で，縦のひだがあり，茎を包む。5～8月に大きな円錐(えんすい)花序をつけ，6花弁からなる径8mmほどの白色花を多数つける。近縁のウラゲコバイケイは葉の裏面脈上に小突起がある。

ごばいし　【五倍子】　ヌルデなどの葉にヌルデノミミフシの単性無翅(むし)雌成虫の寄生によって生ずる虫こぶ。50～60%ほどのタンニンと，小量の没食子酸・脂肪・樹脂などを含み，タンニン酸・没食子酸などの製造原料にされ，古くは鉄漿(かね・おはぐろ)に用いられた。

ごはいふ　【呉佩孚】　(1872～1939)　中国，北洋軍閥直隷派の軍人。山東省の人。字(あざな)は子玉。安直戦争・第1次奉直戦争に勝利し，最大の軍閥となって華北を制したが，1924年第2次奉直戦争に敗れて湖南に退き，北伐軍に敗れてその地盤をも失い，隠退した。のち，南京(ナンキン)傀儡(かいらい)政権に加わったが，すぐに病死した。

こはうちわかえで　【小羽団扇楓】　双子葉植物・カエデ科。イタヤメイゲツともいう。日本全国の山地に分布する落葉高木。葉は掌状に7～9裂し，各裂片には重鋸歯(きょし)があり，対生する。4月に淡黄色の花を葉腋(ようえき)につける。果実の羽は鈍角に開く。

コパカバーナ　［Copakabana］　ブラジルのリオデジャネイロの海岸。白砂の浜が弧を描いて延び，その外側をモザイク舗道と林立した近代的なホテルが取り囲んでいる。南アメリカ第1の海水浴場といわれている。

こはく　【琥珀】　太古の樹脂の化石。成分は$C_{40}H_{64}O_4$で，コハク酸の含量はふつう5～6%，ときに8%に達するが，全然含有しないものもある。非結晶で硬度2～

2.5，比重1.05～1.09，樹脂光沢をおび，貝殻(かいがら)状の断口を有し，半透明黄色，しばしば赤かっ色・灰色を呈する。150℃で柔らかくなりはじめ，287℃でとけ，固有の臭気を発して燃える。生物の遺骸(いがい)を含むものがある。バルト海沿岸地方，デンマーク・スウェーデン・ソ連などに産出し，装飾品に用いられる。〔神戸信和〕

こはくいろ【琥珀色】 色名。琥珀*のような色。アンバーともいい，透明感のある，やや赤みをおびた黄かっ色。日本工業規格(JIS)慣用色名〈コハク色(アンバー)〉は，色相8.5YR，明度5.5，彩度6.5の色と規定されている。→色

こはくおり【琥珀織】 絹織物の一。経(たて)糸を密に，緯(ぬき)糸をやや太くした，低い緯畝(うね)のある地合(じあい)の光沢に富んだ練(ねり)織物。外見は博多織*(はかたおり)・塩瀬*に似ているが，博多織より地が薄く，畝が小さい。なお，塩瀬は生織後練である。天和(てんな)年間(1681～1683)に京都西陣ではじめられたと伝えられ，江戸時代にはもっぱら女帯地に用いられてきた。やや厚手のものと薄手のものとがあるが，前者は帯・袴(はかま)・肩裏・洋がさ地，後者はおもに婦人服地とされている。通常タフタ*とよばれているのがこれである。明治30年代(1897～1906)から輸出向きタフタの生産が始まり，横浜から船積みされたので，それらは浜琥珀ともいわれた。京都・桐生(きりゅう)が主産地。〔北村哲郎〕

こはくさん【琥珀酸】 二塩基性酸で，はじめ琥珀の乾留によって得られたのでこの名がある。トリカルボン酸回路*の一員として，

$$\begin{array}{c} CH_2COOH \\ | \\ CH_2COOH \end{array}$$

生物の細胞呼吸に重要な役割を果たしている。アルコール発酵で生成し，清酒中に比較的多く含まれる。天然に植物界に広く分布し，貝類のうま味はこれによる。合成樹脂の原料や合成酒などの調味料に用いる。

こはだ ⇨コノシロ

こばたん【小巴旦】 鳥類・オウム科。インドネシアのセレベス島およびモルッカ諸島に産するハト大の鳥。全身白色で羽冠と耳羽が黄色。大形のオウムよりもやや弱いが，戸外で楽に越冬する。人によくなれ，物まねがうまい。禽舎(きんしゃ)では巣引もする。

こばち【小蜂】 こん虫類・膜翅(まくし)目・コバチ上科に属するハチの総称。約30の科に分類され，日本にはこのうち17科が知られている。きわめて大きな群で，種々の点で著しい多様性を示し，また年々多数の種が新しく発見されている。微小な種が多く，0.2～5.0mmの体長のものが多いが，まれに16mmに達する大形種もある。頭部は長さよりも幅が大きく，複眼は大形，3個の単眼がある。前胸背板・小楯板(しょうじゅんばん)はよく発達している。翅(はね)は膜質で，少数の翅脈がある。体の色彩は黒色またはかっ色の種類が多いが，全体が金・青・緑・赤などの金属光沢をもつものも多く，また種々の斑紋(はんもん)をもつものもある。大部分が種々のこん虫に寄生するため，農林業上の害虫の天敵となるものが多く，害虫の生物学的防除法の研究は，主としてコバチ類の研究であるといっても過言ではない。未知の種が非常に多数あると思われ，ある学者の推定によれば，2種の甲虫に寄生するコバチ類は3種，すなわち1.5倍いるという。日本からは約10,000種の甲虫が知られているので，甲虫に寄生するコバチ類だけで推定15,000種ほどいることになる。

コバチ上科のうち，日本に産するおもな科と，その寄生などについて以下にしるす。①ホソバネヤドリコバチ科：最小のハチで，体長わずか0.21mmのこん虫中最小の種類を含む。多くは黒色または黄かっ色，翅はきわめて細く，長い縁毛がはえ，翅脈は退化。世界から約300種が知られ，トンボ類・チャタテムシ類・バッタ類・ウンカ類・カメムシ類・甲虫類などの卵に寄生し，益虫が多い。②アシブトコバチ科：体長2～7mm，黒色またはかっ色で，白色や黄色などの斑紋をもつ種類が多い。胸部が非常に大きく，外観はせむし状で，後部の腿節(たいせつ)はきわめて太い。翅は幅広で，前・後翅とも前縁基部にのみ縮小した翅脈がある。大部分の種は甲虫類と鱗翅(りんし)類の幼虫やさなぎに寄生する。③マルハラコバチ科：体長3～4mmの種が多い。体は短く太く，胸部と腹部は強く丸みをおびる。鱗翅類・脈翅類・双翅類などに寄生する。また虫こぶを形成する食草性の種類もある。寄生バエの幼虫に重寄生するルリマルハラコバチが北海道・本州から知られている。④アリヤドリコバチ科：体長5mm内外，中胸が背上に著しく隆起し，多くの種は腹柄部をもち，細くくびれている。アリ類の巣虫の幼虫に寄生する。アリヤドリコバチ・エザキアリヤドリコバチなどが日本産の代表種。⑤オナガコバチ科：体長3～4mm，体は細長く，金属的色彩をもち，細長い産卵管をもつ。多くの種類は，虫こぶをつくる膜翅類や双翅類などの幼虫に寄生する。⑥イチジクコバチ科：体長2～3mm，雌は黒色で翅があるが，雄はきわめて微小で無翅。イチジク類の果実に寄生し，雌成虫は不熟果実を求めて木から木へと移動するが，雄は果実中で羽化し，そこで死ぬ。⑦カタビロコバチ科：体長1.5～6.0mm，多くは黒色で金属光沢がある。胸部は大形で，前胸背板は大きく四角形。比較的大きな群で，全世界から多くの種類が発見されている。直翅類や鱗翅類の卵，甲虫類の幼虫，タマバチ類の虫こぶ中に寄生するものがあるが，ラン科植物の茎・球根・根，イネ科植物の茎，アルファルファやクローバーの種子などに寄生する食草性の種類も知られる。⑧コガネコバチ科：微小な種が多く，多くの種類は金属のような青色・藍色(あいいろ)・黄色・銅色。胸部は大形で，背上に隆起し，翅は小さく，産卵管は一般に短い。非常に大きい群で，世界のあらゆる地方に分布し，ほとんどすべてのこん虫に寄生するので，害虫の自然的駆除に大いに役だっている。⑨トビコバチ科：体長1～2mmの微小種が多く，体は暗金属色を呈し，翅は一般によく発達しているが，翅脈はほとんど退化している。非常に大きな群で，世界のほとんどあらゆる地域に分布し，いずれも他のこん虫の卵・幼虫・さなぎに寄生するが，他の寄生こん虫に重寄生する種類も多く，害虫の天敵として重要なものがある。⑩ヒメコバチ科：微小で体長1～3mm，一般に金属色のものが多く，腹部は柄部を有する。潜葉性こん虫の幼虫に寄生する。天敵として有益なものが多い。⑪トゲヒメコバチ科：体長0.8～2mmの微小な種が多い。すべてが寄生性で，世界共通種である。他のこん虫類の卵・幼虫・成虫などに寄生する。⑫カイガラヤドリコバチ科：微小で0.5～1.5mm，多くの種は黄色か黒色またはかっ色で，黄色の斑紋があり，体は短く太い。世界に広く分布し，アブラムシ・カイガラムシ・コナジラミなどの体に寄生する益虫が多い。⑬タマゴヤドリコバチ科：微小で，体長0.3～1.0mm，黒色や黄かっ色の種が多い。翅は幅広で長い縁毛がはえ，産卵管は短い。全世界から約200種が知られている。⑭シリアゲコバチ科：コバチ上科の中では比較的大形の種を含む。多くは黒色に黄色の斑紋があり，前胸背板は強く発達し，後脚の腿節は著しく太く，下面は鋸歯(きょし)状を呈する。ドロバチ類の巣に寄生する。〔鈴木邦雄〕

こばなし【小咄】 小噺とも書く。落語の〈まくら〉などに使われる短い笑い話。江戸時代には落咄(おとしばなし)とよばれていたが，明治中期以後にこのよび名が生まれた。

ごはなぞのてんのう【後花園天皇】(1419～1470) 在位1428～1464年。名は彦仁(ひこひと)。伏見宮貞成(さだふさ)親王(後崇光院)の第1皇子。母は敷政門院源幸子。後小松天皇の養子。在位中に，正長の一揆(いっき)，永享の乱*，嘉吉(かきつ)の乱*などがある。世の混乱を憂い，遊楽・奢侈(しゃし)にふける8代将軍足利義政*(あしかがよしまさ)を自作の詩をもって戒めた話はよく知られる。陵墓は京都府北桑田郡後山国(のちのやまぐに)陵。

こばねが【小翅蛾】 こん虫類・鱗翅(りんし)目・コバネガ科の総称。広義にはコバネガ上科全体をさす。翅(はね)を広げた長さが8～12mmの種が多く，全体暗色の種類が多い。頭部は小さく，触角は翅より著しく短く，口器は原始的な特徴をもち，短い口吻(こうふん)と大きい大顎(おおあご)をもち，大顎によって食物である花粉や菌類などをつぶす。翅は暗色かまたは金属色，静止時には屋根形にたたまれる。幼虫は円筒形でおもに草上で生活し，楕円(だえん)形の強靭(きょう



小 林 清 親
《日本橋夜》
東京国立博物館蔵

じん)な繭をつくってさなぎになる。世界の各地から約50種ほどが知られ，日本からはムモンコバネ・マツムラコバネなど数種が発見されている。コバネガ上科は4科よりなり，日本にはコバネガ科とスイコバネガ科の2科が産する。スイコバネガ科は，成虫は口吻が短く大顎は縮小し，中脚の脛節(けいせつ)に1本の距棘(きょきょく)がある。幼虫は脚が著しく退化し，潜葉性。世界の各地から約30種が知られ，日本からはキンマダラスイコバネなど数種が発見されている。コバネガ上科はコウモリガ上科とともに鱗翅目の中で最も原始的と考えられる同脈亜目を形成する。同脈亜目は，前翅と後翅の翅脈が等しく，両者は前翅の翅垂または翅垂部によって結合する点で，鱗翅目のもう一方の異脈亜目(上記2群以外のすべてのガとチョウの類が含まれる)から区別される。
〔鈴木邦雄〕

コハノフスキ ［Jan Kochanowski］(1530～1583) 中世ポーランド最大の詩人。西欧ルネサンス精神の移植者で，この国の文学にはじめて黄金時代を現出させ，国民詩の伝統の基礎をつくりあげて，後代に大きな影響を与えた。代表作に《短詩集》《挽歌(ばんか)》などがある。

こばやかわたかかげ 【小早川隆景】(1533～1597) 安土桃山時代の武将。毛利元*就(もとなり)の三男。安芸(あき)(広島県)の名家小早川氏を継ぐ。大内義隆(よしたか)の圧迫を受けたが，大内氏滅亡後は兄吉川(きっかわ)元*春とともに毛利家を助けて，山陽・山陰の大半と九州の一部を経略した。1582年(天正10)豊臣秀吉(とよとみひでよし)との講和を進め，秀吉の四国攻略後伊予(いよ)(愛媛県)一国を与えられ，九州征伐後には筑前(ちくぜん)・筑後(ともに福岡県)・肥前(佐賀県)の一部に移封された。さらに小田原征伐に功があり，1592年(文禄1)文禄(ぶんろく)の役に出陣，碧蹄館(へきていかん)の戦い*では明(みん)の大軍を撃破し，敗走するわが軍を立ちなおらせた。五大*老に列し，豊臣家に重きをなした。
〔善積美恵子〕

こばやかわひであき 【小早川秀秋】(1582～1602) 安土桃山時代の武将。豊臣秀



小 林 古 径 《柳桜》

吉(とよとみひでよし)の正室高台院の兄木下家定の五男。金吾中納言と称する。はじめ秀吉の養子となって羽柴秀俊(はしばひでとし)と名のり，丹波(京都府)亀山(かめやま)十万石を領したが，秀頼(ひでより)誕生とともに小早川隆*景(たかかげ)の養子となる。関白秀次謀叛(むほん)の事件に連座して一時丹波(兵庫県)の所領を没収されたが，隆景隠居とともにその旧領を与えられた。慶長の役(→文禄・慶長の役)には総大将として渡鮮。関ケ原の*役では最初は西軍にあったが，決戦直前に黒田長政(ながまさ)を通じて東軍に内通し，その功により宇喜多氏の旧領備前・備中・美作(みまさか)(ともに岡山県)五十万石を与えられたが，死後断絶。
〔善積美恵子〕

こばやし 【小林(市)】 宮崎県南西部の市。古くから熊本と宮崎を結ぶ肥後街道の重要な宿駅として発展し，1950年(昭和25)市制施行。人口40,000。市域は小林盆*地とその周辺の山地・林野を含み，大淀(おおよど)川支流の岩瀬川が盆地内を北西から南東へ流れる。産業三大別人口比は39：18：43。盆地底に水田地区が形成されるが，サツマイモ・タバコなどの畑作が多く，乳牛の飼育も盛んで，メンヨウを放牧する国立種畜牧場がある。林野部は大部分が国有林で，木材・木炭・シイタケを産する。吉都(きっと)線に沿い，国道221号線・223号線・265号線・268号線が集まる。えびの高原を経て霧島山へ霧島有料道路が通じ，霧島屋久国立公園の観光基地となる。

こばやしいちぞう 【小林一三】(1873～1957) 実業家。わが国サービス業の確立者。山梨県出身。慶応義塾(ぎじゅく)大学卒業後，一時小説家を志したが，三井銀行に入社，1907年(明治40)銀行を辞し，箕面有馬(みのおありま)電気軌道を設立，専務取締役となる。その後これを基礎に阪神(はんしん)一帯に数々の鉄道を敷設し，1918年(大正7)にこれらを一括して阪神急行電鉄と名称し，社長に就任。沿線の住宅を開発する一方，阪急百貨店を設立するなど新しい私鉄経営をめざし，東京電燈の再建にも力を尽くした。また，宝塚(たからづか)少女歌劇団を創立し，日劇・帝劇の合併など興業界にも手を伸ばし，今日の東宝の基礎をつくった。1940年(昭和15)第2次近衛(このえ)内閣に商工大臣として入閣，政界入りしたが，これはあまり成功しなかった。
〔片岡一郎〕

こばやしいっさ 【小林一茶】 ⇨一茶

こばやしきよちか 【小林清親】(1847～1915) 明治期の版画家。徳川幕府の下級武士の家に生まれ，江戸に育つ。維新期に放浪生活をおくり，横浜で一時ワーグマ*ンに学ぶ。1876年(明治9)に，はじめて光の効果をもつ洋風表現の風景版画を発表，1879～1881年に情趣豊かな多くの風景版画をつくった。代表作として《瓦斯(ガス)館図》《大川岸一之橋(いちのはし)遠景》などがあげられる。

こばやしこけい 【小林古径】(1883～1957) 大正・昭和前期の代表的日本画家。本名茂。新潟市の生まれ。梶田(かじた)半古の塾(じゅく)に入門，大和絵(やまとえ)ふうの歴史画を研究し，文展に《闘草(くさあわせ)》などを出品，そのころ青年作家集団の紅児会に参加して，安田靫彦(ゆきひこ)・今村紫紅らと近代的日本画の創造に意を注ぎ，再興院展に《異端》《阿弥陀堂(あみだどう)》などを発表，同人となる。1917年(大正6)ごろを境として，現代風俗や風景・花鳥を題材に，明るくはなやかな色調と緻密(ちみつ)な写実に基づく新たな画風の展開をみせ，《いでゆ》《罌粟(けし)》などを発表，1922～1923年前田青邨(せいそん)とともに，美術院留学生としてヨーロッパを旅行し，ロンドンで顧愷之(こがいし)の《女史箴図巻(じょししんずかん)》を模写して帰国。以後，これまでの古画研究と写実のうえに格調の高い制作を重ねて，新古典主義とよばれる作風をつくりあげた。《鶴(つる)と七面鳥》《清姫》《髪》などの名作を発表し，1936年(昭和11)帝国美術院会員，1944～1952年東京美術学校教授，1950年文化勲章を受

けた。　〔陰里鉄郎〕

こばやしたきじ 【小林多喜二】(1903～1933)　小説家。秋田県の貧農に生まれ，幼時小樽(おたる)に移住，働きながら小樽高等商業学校を卒業，同地の銀行に勤めながら《人を殺す犬》《滝子其他(そのた)》など人道的傾向の強い習作を発表，また志賀直哉(なおや)に傾倒していたが，大正末期からしだいにプロレタリア運動の影響を受け，地方組織に加入。1928年(昭和3)《一九二八年三月十五日》を蔵原惟人(これと)の推挽(すいばん)により《戦旗》に連載，翌年蔵原のプロレタリアーリアリズム理論の影響下に《蟹工船(かにこうせん)》を発表して，作家的地位を確立。以後《不在地主》《工場細胞》《転形期の人々》などを次々に発表した。また，共産党に入党して，共産党弾圧下に文化運動の指導にあたったが，1933年築地署で特高により惨殺された。死後発表された作品に《党生活者》がある。　〔篠原拓雄〕

こばやしひでお 【小林秀雄】(1902～　)評論家。東京神田の生まれ。第一高等学校を経て東京大学仏文科に進み，富永(とみなが)太郎・中原中也(ちゅうや)らと交友を深め，ボードレール・ランボーに傾倒し，《人生斫断家(しゃくだんか)アルチュル-ランボオ》を書く。1929年(昭和4)《様々なる意匠》が《改造》の懸賞に当選し，評論家として出発。独創的な文芸時評を書き，プロレタリア文学の概念的な思想性に激しく対立して注目された。1933年，林房雄(ふさお)・武田麟太郎(たけだりんたろう)・川端康成(かわばたやすなり)らと《文学界》を創刊，昭和の論壇で指導的評論家の位置を占め，《私小説論》《ドストエフスキイの生活》などを書き，はなばなしい活躍を示した。なお，戦中には古典の世界への沈潜を示す《無常といふ事》などの作を発表した。また，第2次世界大戦後は，文学よりもむしろ音楽・絵画・哲学についての著作をなし，《モオツァルト》《ゴッホの手紙》《近代絵画》などにおいて，近代批評第一人者の円熟した境地を示した。　〔木村幸雄〕

こばやしぼんち 【小林盆地】　宮崎県の南西部にあり，北は九州山地，南は霧島火山群の山々に囲まれ，西は加久藤(かくとう)盆地，東は都城(みやこのじょう)盆地に接する。盆地の北部分を大淀(おおよど)川支流の岩瀬川が西から東へ貫流し，周囲の山地から続く台地は〈原〉とよばれる火山灰台地で，農業には不適であったが，最近は土地改良事業が進んでいる。盆地床の沖積地(ちゅうせきち)で行なわれる水田耕作では良質米を産する。畑作はサツマイモ・タバコを栽培，台地では酪農が盛んで，霧島山麓(さんろく)は高原牧場として知られる。盆地の中心は小林市で，吉都線が盆地の中央を走る。〔味沢成吉〕

こばやしまさき 【小林正樹】(1916～　)映画監督。小樽(おたる)市の生まれ，早稲田(わせだ)大学卒業後，松竹に入社。第2次世界大戦に応召，1946年(昭和21)帰国。第1作は

小林多喜二





小林秀雄

《息子(むすこ)の青春》。作風はきわめて重厚・ドラマチックで，題材は社会問題からしだいに時代劇へと移る。代表作に《壁あつき部屋(へや)》《あなた買います》，連作《人間の条件》《切腹》《上意討ち》など。

コーパル [copal]　高温地域に産する植物から得られる天然樹脂の一。淡黄色～かっ色または赤かっ色で，粒状または塊状。コンゴコーパル・西アフリカコーパル・東アフリカコーパル・南アメリカコーパル・東インドコーパル・マニラコーパルなどがあるが，それぞれ原植物も異なり，性状も異なる。ワニス・ラッカー・紙加工・印刷インキに用いられる。

こはるじへえ 【小春治兵衛】 ⇨心中天網島(しんじゅうてんのあみじま)

コバルト [cobalt]　周期律表第Ⅷ族に属する金属元素。記号Co，原子番号27，原子量58.9332。1735年スウェーデンのG.ブラントが，陶磁器にコバルト色を与える鉱物から金属を取り出した。おもにキコバルト鉱CoAsS・ヒコバルト鉱$CoAs_2$などとして産出する。白色光沢のある金属で鉄に似る。普通のコバルトは六方最密格子(こうし)のα型で，融点1492℃，沸点3185℃。鉄よりややかたく，強磁性がある。展性・延性をもち，濃硝酸には鉄と同様に不働態になり溶解しない。苛性(かせい)アルカリにも溶解しない。アンモニア水には錯塩をつくり，やや溶解しやすい。純コバルトは触媒や顔料の原料となり，また高速度鋼・不銹鋼(ふしゅうこう)・磁石鋼・耐熱鋼の成分として重要。コバルトの放射性元素には^{57}Co，^{58}Co，^{60}Coがある。^{60}Coはコバルトを原子炉中で中性子を照射して製造し，半減期5.2年で，β線とγ線を放射するので，医療用や工業計測用などの線源として広く利用される。〔古屋　弘〕

コバルトばくだん 【コバルト爆弾】　金属コバルトで水素爆弾の外側をおおったもの。爆発と同時に飛び出す中性子の作用により，このコバルトは長期にわたる放射線の害を生物に及ぼす〈死の灰〉となって飛散する。特に生物に対する深刻な被害と影響力が特性とされるが，製造はされていないといわれる。

コバルトブルー [cobalt blue]　やや紫みのある，さえた青色。顔料の名称から転じた色名で，顔料のコバルトブルーは，アルミン酸コバルトCoO・Al_2O_3を主成分とし，空気・日光・酸・アルカリに強く，陶磁器やガラスに青色を与える着色剤としても広く用いられている。発見者の名からテナール青ともよばれる。日本工業規格(JIS)慣用色名〈コバルトブルー〉は，色相7.0PB，明度3.0，彩度8.0の色と規定されている。➔色　〔武井邦彦〕

コバレーフスカヤ [Sofiya Vasilievna Kovalevskaya] (1850～1891)　ロシアの女流数学者。モスクワに生まれ，地質学者である夫とともにドイツに留学してハイデルベルク大学で数学を学び，ワイヤーシュトラウスの愛弟子(まなでし)となる。1874年，偏微分方程式論によりゲッチンゲン大学から学位を得，のちストックホルム大学講師となる。その後教授となり，〈一つの定点のまわりの剛体の回転〉に関する研究によって，パリ学士院からボルダン賞を授与された。　〔下平和夫〕

コバレフスキー [Maksim Maksimovich Kovalevskii] (1851～1916)　ロシアの社会学者。マルクス・レーニンと親交があり，モスクワ大学で教鞭(きょうべん)をとっていたが，進歩的思想のため追われて西ヨーロッパに亡命。1905年の革命後帰国して再び教壇に立ち，国会議員にもなった。主著に《中世イギリス社会制度》《共同体的土地所有》などがある。

こばん 【小判】　江戸時代の金貨幣の一。幕府の標準金貨で，一枚一両とした。1595年(文禄4)ごろ徳川家康(いえやす)が豊臣秀吉(とよとみひでよし)の許可を得て，京都の彫金家後藤光次(みつつぐ)を招いて武蔵判(むさしばん)・駿河判(するがばん)を鋳造させた。関ケ原の役で覇権(はけん)を確立した家康は，翌1601年(慶長6)金座を開設して慶長小判を大量に鋳造し，全国的通貨とした。江戸時代を通じて元禄(げんろく)・乾字(けんじ)・正徳・享保(きょうほう)・元文・文政・天保・安政・万延の各小判などがあり，数度，新・改鋳が行なわれた。慶長・正徳・享保を除いて量目・品位ともに劣悪になった。➔貨幣(図)　〔松尾　涼〕

こばんいただき ⇨コバンザメ

ごばんがい 【五番街】　アメリカ合衆国，ニューヨーク市マンハッタン区を南北に走る街路の名称。11のアベニューの東から5番めにあることから名づけられ，商店街と高層ビルの林立していることで有名。その中心は五番街と34丁目の交差点付近で，こ

こにエンパイアステート-ビルが建っている。

こばんざめ【小判鮫】 硬骨魚類・コバンザメ科。コバンイタダキともいう。体長80cmほどの海産魚。体は細長く，頭上に第1背びれの変形した小判形の吸盤があり，サメ類にやや形が似ているのでこの名がある。吸盤は20～28対の板状体が体軸に直角に並んでできあがっている。体は帯青かっ色で，体側の全長にわたって幅広い黒色縦帯が走る。うろこは大小2種からなる。全世界の温帯・熱帯の海に分布し，サメ類・マグロ類などの大形魚類やクジラ・ウミガメ・船底などに吸着して追随し，餌(えさ)の余りや寄生甲殻(こうかく)類を摂食する。近縁のものに，全長30cmに達し板状体は12～13対で灰色のシロコバン，全長20cmに達し板状体は14～17対で暗灰色のクロコバン，全長30cmに達し，板状体は17～18対で黄かっ色のヒシコバンがあり，全世界の温帯・熱帯の海に広く分布している。コバンザメ類は不味でほとんど利用価値はないが，南太平洋の一部では尾柄に綱をつけて海に放ち，ウミガメに吸着させて捕える漁法に使っている。〔菅野　徹〕

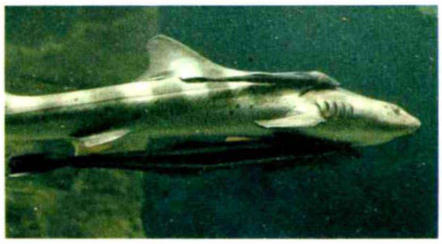
こはんしじん【湖畔詩人】 9世紀初頭のイギリス-ロマン派の詩人，ワーズワース*・コールリッジ*・サウジー*らをいう。彼らは，イギリス西北部のカンバランド湖水地方に居住して，美しく穏やかな自然と，素朴(そぼく)な人間生活をおもに歌い，湖畔派ともよばれる。

こばんそう【小判草】 単子葉植物・イネ科。ヨーロッパ原産の一年草で，明治時代に日本にはいり，観賞用に栽培される。茎は直立し，高さ30～50cm。葉は細長い。5～6月に細い小枝上に1～2cmの淡緑で黄色をおびた小穂が小判形につき，下垂する。

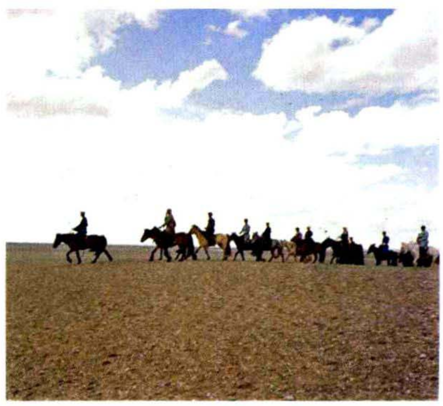
こばんむし【小判虫】 こん虫類・半翅(はんし)目・コバンムシ科。体は扁平(へんぺい)な小判形で，光沢が強く，長さ12mmほど。頭部・前胸背板・小楯板(しょうじゅんばん)および半翅鞘(はんししょう)の基半前縁部はあざやかな黄緑色，半翅鞘の他の部分は多少緑色をおびた淡黄かっ色で，不明瞭(ふめいりょう)な暗色の斑紋(はんもん)が散在する。ヒルムシロやヒシなどの浮葉植物の多い池沼に生活し，高温時は浮葉間の水面近くに静止していることが多い。本州・九州のほか中国東部に分布し，小魚や小こん虫などを捕食する。

ごはんもつ【御判物】 ⇨判物

コーヒー［coffee］ コーヒーノキ*の種子(豆)からつくられる嗜好(しこう)飲料。〈沿革〉原産地とされるエチオピアで，13世紀ごろヤギがコーヒーの実を食べて興奮しているのを見て飲用されるようになったとされる。なお，コーヒーの名はエチオピアのカッファ州に由来するといわれる。1551年トルコのコンスタンチノープルに世界最初のコーヒー店が開かれ，1641年にはイギリス，1644年にはフランスへ伝えられ，以後急速


コバンザメ　ドチザメの腹部に吸着している


コバンソウ


ゴビ砂漠　荒涼たる砂漠をウマで行く文工隊(文化工作隊)。天地の接するはるか地平線まで一木一草を見ない

にヨーロッパ諸国に広まった。〈栽培〉15～16世紀ごろアラビア半島のイエメンにおいてまず始められ，1658年セイロン島で，1727年ブラジルで，原産地であるアフリカでは19世紀になって始められた。イエメンでは世界独占をねらって生豆を輸出せず，焙煎(ばいせん)した豆の輸出港もモカだけに限っていたほどだったが，世界の需要は激しく，まもなく世界じゅうに広まり，いまではブラジルが世界最大の生産量を占めるようになった。〈実の処理〉豆を取る方法には乾式と湿式とがある。乾式は石床で実を天日乾燥し，脱穀機で果肉とパーチメント(薄皮)を取り去って豆とする方法，湿式は機械で果肉を取ったのち発酵・水洗・乾燥をしてパーチメントを取り除く方法で，近年開発されたものである。一般に，これらの処理をしたものを生豆といい，輸出は生豆で行なわれる。〈生産地・種類・特徴〉現在世界市場に出回っている主要な品種はほとんどアラビカ種である。ブラジルでは世界の全生産量の50%を占める産出があり，種類も多い。代表的なものとして，最高種といわれるブルボンサントスがあり，味は中性で柔らかい苦味と酸味がある。コロンビアはコヒア・アラビア種の主要生産国で，ほかにかおりが高く丸みのある酸味をもつ最優秀品といわれるメデリンがある。なお，ラテンアメリカにはほかにエクアドル・ペルー・メキシコ・グアテマラ・サルバドル・キューバ・ハイチ・ドミニカなどの生産国があり，西インド諸島のジャマイカ島の海抜900～1,000mの高地乾燥地域で栽培されるブルーマウンテンは，甘味・酸味・苦味の三つがよく調和してかおり高いコーヒーの王者の風格があると賞賛されている。アフリカでは，エチオピアの酸味が強く少し渋味のあるアラビカ種のハラリモカがあるほかに，ストレートで飲むのに適したケニアのキリマンジャロ，酸味が強くしかも風味のよいゲニやウガンダロブスタ，小粒ながら香気の高いブルボンなどがウガンダ・タンガニーカなどから産出される。中近東では，紅海に沿って南北に延びる山岳地帯イエメンが主産地で，アラビカが主である。アラビアコーヒーをモカとよんだのは輸出港モカの名をとったもので，酸味強くストレートの飲用に適し，粒が小さいが非常に優秀であり，しかも他のどの種類の豆とブレンド(配合)しても妙味を発揮する特長がある。ほかに，ハワイのハワイコナ，スマトラのマンデリン，インドネシアのロブスタ，インドのインドコーヒーなどがある。〈成分と効用〉コーヒーの苦味はカフェインで，カップ1杯のコーヒーに約0.7g含まれる。このため，適度に神経を刺激して，疲労の回復，頭脳の働きを旺盛(おうせい)にするのに役だつ。渋味はタンニンで，味を特徴づける。香気性分は豆を焙煎する段階で生じ，揮発性のカフェオール・酢酸・エステル類・フルブロールなどで，熱によって芳香となる。〈いれ方・飲み方・味〉いれ方には浸出法と濾過(ろか)法がある。浸出法では，生豆を焙煎して粉末としたもの1人分(約10g)を容器に入れ，それに普通は熱湯(約98℃)を注いで浸出させる。角砂糖・グラニュー糖とミルク・クリームなどを好みに応じて入れて飲用する。濾過法には，サイフォン式・パーコレーター式がある。コーヒーの味を濃くするときには，粉末量を多くするかボイル時間を長くすればよい。後者は芳香がなくなり風味に欠ける。なお，各地に産するコーヒー豆はそれぞれ特性があり，それらの特性を生かしていろいろにブレンドして，最もよい味をつくりあげる。〔斎藤　進〕

ごび【語尾】 ⇨語幹・語尾

ゴビ(砂漠)［Gobi］ シャモー砂漠(さばく)ともいう。モンゴル高原内部の大部分をおおう砂漠で，モンゴル人民共和国の南東部

から中国の北西部，内モンゴル自治区，甘粛省にまたがる。大きな盆地状の高原をなし，高度1,000～1,500m，東西約1,500km，南北約1,000km。面積は1,000万km²以上といわれているが，東限が大興安嶺(だいこうあんれい)山脈であるほかは西・南・北限ははっきりしない。〈ゴビ〉とはモンゴル語の草の生育の悪い荒地という意で，大部分が岩石砂漠である。いくつかの盆地群に分かれるが，東部の一部ではアムール川の水源地に近く，外洋流域になっている。雨量は少なく，甘粛省の酒泉では年降水量76mmであるが，周辺部では300～400mmに達し，ステップとなっている。大陸性気候で寒暑の差が激しい。地下水面は比較的浅く，盆地底にはウランノール湖・オロクノール湖などがある。モンゴル人はヒツジやヤギの遊牧生活を行なっているが，最近ではソ連・中華人民共和国ともに油田の開発を試みている。〔大石堪山〕

コピアポ ［Copiapo］ チリ共和国北部の鉱業都市。人口47,000(1966)。アタカマ砂漠(さばく)の南端に近く，コピアポ川に沿う。16世紀前半に建設され，19世紀に付近の銀山の開発とともに急速に発達した。現在ではアンデス山地の銅・鉄を採掘する鉱業都市として発展，アタカマ地方の中心都市となっている。外港カルデラと結ぶ鉄道は，1851年に南アメリカ最初の蒸気機関による鉄道として開かれた。チリを南北に貫く縦貫鉄道，幹線道路に沿う。〔小栗　宏〕

こびえのかみ 【小比叡神】 ⇨日吉(ひえ)大社

こびき 【木挽】 切り倒した木材を大鋸(おが)を用いて板・角材にひく職人。古くはソマ(伐材)・ひょう(運材)・こびきは一貫した山仕事であったが，近世初期に分業化したといわれている。山中で仕事をしていたこびきも，しだいに大川尻(じり)の木材集散地や都市の材木商に雇われて造材の仕事に従事するようになった，農民の需要に応じて村々を渡り歩く，わたり(渡り)のこびきもいた。こびきが一人まえになるのには〈山小屋三年，白木屋(材木屋)三年〉といわれ，長い修業が必要であった。木挽歌は大鋸の音調に合わせた労働歌で，山中の素朴(そぼく)な感動をよく表現した民謡である。

こひつ 【古筆】 古人のすぐれた筆跡。古筆の筆者は飛鳥(あすか)時代から室町時代にわたる著名人。筆者のわからないのも多い。古筆の断簡を切(きれ)という。切の名称は内容(自家集切・賀歌切・落葉切)，伝来(高野切・日野切・本阿弥切(ほんあみぎれ))，切ったとき(昭和切・戊辰切(ぼしんぎれ))，切った場所(江戸切・井ノ口切)，料紙の特徴(筋切・端白切・焼切)，料紙の形(継ぎ色紙・升底切(ますぞこぎれ)・豆色紙)，書の特徴(大聖武(おおじょうむ)・紙捻切(こよりぎれ)・針切)などによって名づけられた。古筆は掛け物に仕立てたり，手鑑に押したりして鑑賞する。藤原時代お





コーヒーノキ　(上)アラビカ種の花　(下)果実中の種子がコーヒー豆である



五百羅漢　東福寺蔵

よび鎌倉時代の初めの，かなで和歌を書いた古筆が最も愛好され，尊重されている。それらの古筆の筆者は小野道風(とうふう)・藤原佐理(すけまさ)・藤原行成の三跡のほかは，歌人として有名な人々である。江戸時代には筆者を尊重したので，藤原定家筆《小倉色紙》が最も尊重されたが，現在は書跡としてすぐれているものが尊重され，伝紀貫之(つらゆき)筆《寸松庵(すんしょうあん)色紙》や伝小野道風筆《継ぎ色紙》などが最も尊重されている。〔春名好重〕

こひつりょうさ 【古筆了佐】 (1572～1662) 江戸時代の初めの古筆見(古筆鑑定家)。姓は平沢，名は範佐，近江(おうみ)(滋賀県)の人。近衛前久(このえさきひさ)・烏丸光広(からすまるみつひろ)に古筆の鑑定法を学んだ。古筆を愛好した豊臣秀次(とよとみひでつぐ)は了佐に〈古筆〉の姓と〈琴山〉の金印を与えたといわれている。子孫は古筆の鑑定を家業とし，〈琴山〉の印を鑑定の証印として用いた。

こびと 【小人】 ⇨侏儒(しゅじゅ)

こびとかば 【小人河馬】 哺乳(ほにゅう)類・偶蹄(ぐうてい)目・カバ科。普通のカバより原始的で，目と鼻は突出せず，指の間に水かきがない。体長1.5m，肩高75cmほどで，体上面は紫色をおびたかっ色で，下面はそれより淡い。普通のカバのように群れをつくらず1～2頭ですみ，湿地を好むが，あまり水にはいらない。草や樹根などを食う。西アフリカのリベリア・ギニアなどの森林地帯にすむ。世界的珍獣で，国際保護動物に指定されている。

こびとせつわ 【小人説話】 異状に小さく出生した霊童に関する説話。日本では主人公の名は一寸法師・指太郎・豆太郎・すねこたんぼこ(親の脛(すね)から生まれる)・拇指(おやゆび)太郎・かぐや姫などとよばれ，広く各地に伝承されている。異状誕生の小さな子が偉業を達成するという英雄説話の系統に属する昔話である。グリム童話の《拇指小僧》《仕立屋の拇指太郎の旅歩き》も同じモチーフの説話に属する。この種の説話の分布はきわめて広く，ヨーロッパ・アジアの20数民族にわたって伝承されており，比較研究に価する説話である。

コーヒーノキ 双子葉植物・アカネ科・コーヒー属の常緑高木。ふつう栽培されているのは，アラビカ種・リベリカ種・ロブスタ種で，アラビカ種がその大半を占める。アラビカ種はエチオピア原産で，高さ10mになり，幹は灰白色，枝は水平に広がり先端はややたれ下がる。葉は対生し，暗緑色で革質，光沢がある。葉腋(ようえき)から短柄を出し，白色で芳香のある花を3～7個群生する。果実は長楕円(ちょうだえん)形で紅紫色，熟すると脱落し，内に2個の種子がある。種子はコーヒー豆とよばれ，長楕円体を長軸に沿って半切した形で，平面部に縦のみぞがある。ロブスタ種はコンゴ原産で，アラビカ種より品質は劣るが，収量が多く，病害に強く，結実まで2年しかかからない。リベリカ種はアンゴラ原産で，のちリベリアに移入された。大形で高さ10～15mに達し，果実も大きく，1年じゅうたえず結実するが，病害に弱い。焙煎(ほうせん)したコーヒー豆をひいて粉にし，コーヒーとして飲用する。➔コーヒー〔横井朝子〕

ごひゃくらかん 【五百羅漢】 羅漢は阿羅漢(あらかん)の略称で，小乗の聖者をいう。ブッダの滅後，マガダ国の首都ラージャグリハ(王舎城)に500人の阿羅漢が集会して，ブッダの遺法を集成した。これを第一結集(けつじゅう)といい，マハーカッサパ(迦葉(かしょう))が司会者となり，アーナンダ(阿難)が法(経)を，ウパーリ(優波離(うばり))が律を暗唱した。さらにクシャン朝のカニシカ

王の治世に，カシミールに500人の阿羅漢が集会して《阿毘達磨大毘婆沙論(あびだつまだいびばしゃろん)》を編纂(へんさん)した。これを第四結集といい，脇(きょう)尊者が司会した。
これらの伝説に基づいて，後世中国において五百羅漢の崇拝が流行し，福建省邵武(しょうぶ)府に五百羅漢院が現存している。明(みん)代の《乾明院五百羅漢名号碑》(1巻)は高道素の録したものであるが，ブッダ在世および滅後の人名を羅列して500の数を満たしている。五百羅漢の造立は日本においても広く行なわれ，大分県下毛郡本耶馬溪(ほんやばけい)町の羅漢寺，埼玉県川越市の喜多院などにその例がある。〔塚本啓祥〕

コピー-ライター［copy writer］広告文案家。広告の文案(キャッチ-フレーズ)や説明の文章などを書く人をさしていう。広告の発達に伴って生まれ，すでに独立した職業になっている。

こひるがお【小昼顔】双子葉植物・ヒルガオ科。道ばたに普通にみられる多年生のつる草。ヒルガオ*に似ているが，花がやや小さく，葉の基部が横に大きく張る。

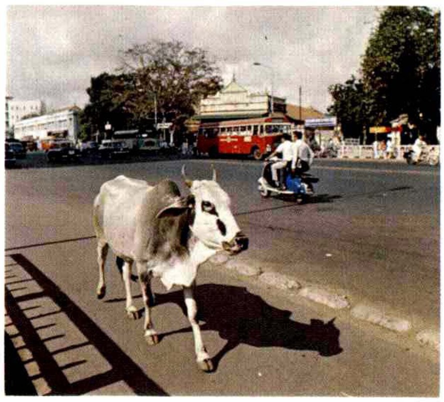
ごひんえどかいそうれい【五品江戸廻送令】五品江戸廻令(まわしれい)ともいう。江戸末期，横浜貿易に対する幕府の流通統制令。1860年(万延1)雑穀・水油・ロウ・呉服・生糸の5品に限り，江戸にいったん回送し，国内の需要を考慮したうえで横浜へ積み出させることとした。これは激増する輸出を抑制し，国内に物資を確保することで物価を低下させ，従来の流通機構の中心である江戸の問屋*商人を保護することが目的であった。これによって在方(農村部)商人は大打撃を受け，諸外国も強く反対したため，成果があがらなかった。〔松尾　涼〕

コープ［Edward Drinker Cope］(1840～1897)アメリカの動物学者・古生物学者。フィラデルフィアの金持ちの家に生まれ，幼時から旅行を好み，19歳のときにすでに貴重な動物学に関する研究論文を公表している。フィラデルフィアの学校を卒業後，1863年ヨーロッパに渡って各地の博物館を回った。1864年にハーバーフォルド専門学校の教授となり，1867年に辞職。1865年以降は，化石脊椎(せきつい)動物の研究を始め，探検隊に参加してカンサス・コロラド・ワイオミング・ニューメキシコ・テキサスの各地で化石を収集した。1889年ペンシルベニア大学の地質学・鉱物学の教授に任命された。新ラマルク主義者の代表といわれ，進化についての多くの見解を公表しているが，特に1868年〈進化の収斂(しゅうれん)〉，1870年〈進化の非特殊〉，1880年〈軀体(くたい)大化について〉を発表し，定向進化の考えに傾いていった。彼の膨大な採集品はニューヨークのアメリカ博物館に保管されている。〔大森昌衛〕

ごふ【護符】御札(おふだ)・御守などの総称。護身の符の略で御護符(おごふ)・御守りともいい，また〈ごふう〉ともいう。護符が災厄(さいやく)を防ぎ，わが身や家族・村人を守ると信じられるのは，信仰上の霊験や呪術(じゅじゅつ)的な効果の期待からである。護符の種類はきわめて多く，社寺から授与された物，人工・手製の物，自然物など雑多である。素はだに直接つける物，幼児の背守*やげた，財布の鈴などのように服飾品につけたり腰に下げたり懐中する物から，門口に揚げる門守や柱にはったり神だな*にあげる神札まで含まれる。門守の貝がら，ハチの巣，ウマの蹄鉄(ていてつ)，サルの手形あるいは呪言・呪文を記した紙片などは呪術性が濃く，柱にはったり神だなに納めるのは宮寺と直結したものが多い。毎年新しくする物，流す物，半永久的な物もあり，また効果があったあとは捨てる物や，必要のつど飲み込むような種類もある。〔今野圓助〕



コヒルガオ



コブウシ　マドラス(インド)の大通りを闊歩するコブウシ

こふう【胡風】フーフォン(1904～　)中国現代の文学者。日本留学生出身。1930年代の中国文壇でプロレタリア文学運動に参加し，鋭い批評活動で知られた。日中戦争前夜，文学者の統一戦線結成をめぐって文壇が2分したとき，少数派である魯迅*(ろじん)と行動をともにした。戦争中，抗戦精神高揚のため努め，新人を養成した。新中国成立後，1954～1955年，中国共産党の文芸政策を批判する意見書を提出，全面的批判を浴び，反革命分子としてすべての公職から追われ，失脚した。この事件は，毛沢東の文芸思想に本質的に対立する文学理論を突きつけたものとして，現代中国の文学思想史の上で，今後に大きな問題を投げかけている。著書は《混乱の中で》《文芸筆談》など。〔今村与志雄〕

こぶうし【瘤牛】哺乳(ほにゅう)類・偶蹄(ぐうてい)目・ウシ科。インドウシ・ゼブーともいう。インド原産で，東南アジアやアフリカに飼われる。大きさは品種によりさまざまで，雄はふつう肩高1.3～1.5m，体重390～500kg。肩に脂肪と筋肉からなる大きなこぶがあり，胸から腹にかけて巨大な肉たれがある。暑さに強く，性は温和で，農耕用・乗用・運搬用などに用いられる。ヨーロッパの家畜牛とは系統的に異なり，別の先祖から生じたと思われる。〔今泉吉典〕

コフカ［Kurt Koffka］(1886～1941)ドイツの心理学者。ウェルトハイマー*・ケーラー*とともにゲシュタルト心理学*説を展開し，機関誌《心理学研究》を創刊(1921)，知覚・記憶のみならず，発達の分野にもその理論を適用した。ギーセン大学に講師・教授として勤めたのち，ナチスの迫害を避けて渡米，スミス大学教授となり，その後もゲシュタルト心理学の発展に寄与した。主著に《精神の発達》《ゲシュタルト心理学の原理》などがある。

ごふかくさてんのう【後深草天皇】(1243～1304)在位1246～1259年。名は久仁(ひさひと)。後嵯峨(ごさが)天皇の第2皇子。母は大宮院藤原姞子(きっし)。在位中は父が院政*を行ない，譲位後は弟亀山(かめやま)天皇が親政を行なって皇位の継承からも除外された。のち北条時宗(ほうじょうときむね)の斡旋(あっせん)によって皇子(伏見天皇)の即位とともに院政を行ない，ここから両統迭立*(てつりつ)が始まった。日記《後深草院宸記(しんき)》がある。陵墓は京都市の深草北陵。〔鹿野賀代子〕

こふきこがね【粉吹金亀子】こん虫類・鞘翅(しょうし)目・コガネムシ科。体長25～31mm，体幅13～15mm。体は長卵形で黒かっ色。鞘翅は濃かっ色で黄色の短毛を密生し，全面黄かっ色に見える。背面は強く膨隆し，各鞘翅には2本の縦隆起線があるが，外側のそれは著しく細い。本州・四国・九州に分布し，幼虫は土中で種々の樹木の若い根を食べる。成虫はスギ・カキなど種々の樹木の葉を食べ，しばしば大発生してかなりの害を与えるので，カキコガネ・オオスギムシともいう。近縁種が多く，同じく本州・四国・九州に分布するオオコフキコガネは本種に似ているが，体が濃い暗かっ色で，背面の毛が灰白色であるなどの点で区別できる。また，九州・屋久島にはサツマコフキコガネが，沖縄諸島や石垣(いしがき)島にはオキナワコフキコガネが分布する。

こふきぞうむし【粉吹象鼻虫】こん虫類・鞘翅(しょうし)目・ゾウムシ科。体長は口吻(こうふん)を除いて4～6mm。体の地色は黒色だが，全体黄緑色ないし緑色の鱗毛(りんもう)で密におおわれ，ときに強く銅色をおびることがある。各鞘翅の中央前方に横形の

淡色斑紋(はんもん)があり，その周囲は多少黒色をおびる。小楯板(しょうじゅんばん)はきわめて小さく，鞘翅は前胸背板よりも幅広い。本州・四国・九州に分布し，成虫はクズの葉を食害する。

ごぶぎょう【五奉行】豊臣秀吉(とよとみひでよし)の晩年に置かれた職名。1585年(天正13)設置の説があったが疑わしい。実際は，豊臣政権成立のころから，直臣のうち政務に通ずる部将たちが庶政を分掌し，のち五大老と並んでこの職名となったものであろう。行政・司法・財務などを分担し，豊臣政権の中央政務機関となった。浅野長政(ながまさ)・増田(ました)長盛・石田三成・前田玄以・長束(なつか)正家が任ぜられた。前田玄以は京都所司代となり，京都市政および公家(くげ)・社寺に関する行政を，長束正家が財務を担当したほかは明確な職務分掌はなかったが，浅野・増田・石田らは太閤(たいこう)検地の直接奉行にあたった。なお，秀吉の死去前後，石田三成を中心に五奉行は文治派を形成して，加藤清正(きよまさ)らの武断派と対立し，秀吉の直臣系大名が分裂したことは，豊臣政権の衰亡を招く原因となった。〔高崎徳次〕

こぶし【辛夷】双子葉植物・モクレン科の落葉高木。日本各地・朝鮮南部の山野に自生する落葉高木で，観賞用に庭などにも植えられる。高さ15mに達し，幹は直立し，多く分枝する。小枝は緑色で折ると香気がある。葉は互生し，倒卵形で先が丸く凸(とつ)形にとがる。春，新葉の出るまえに，枝端に6～10cmのかおりのある白花を開く。花弁は6枚で基部は紅色をおびる。花後に花托(かたく)が5cmくらいに伸び，いびつな長楕円(ちょうだえん)形になる。10月ごろ袋果が裂開すると，赤色の種子が白糸により下垂する。若いつぼみをかわかしたものを辛夷(しんい)といい，漢方では頭痛・鼻炎などに用いられる。材は軽軟で緻密(ちみつ)，狂いが少ないので，床柱・製図板・細工物などに用いる。〔横井朝子〕

こぶし【小節】日本の声楽曲における非常に細かい装飾音型。基本的な旋律進行とは別に，第2次的に音楽様式を決定するもので，伝統的な歌曲(箏(そう)や三味線(しゃみせん)の伴奏によるものなど)や民謡・浪曲・歌謡曲などの大衆歌曲にひんぱんに聞かれ，しばしば歌い手の個性の発露となっている。

こぶしがたけ【甲武信岳】関東山地の中部，埼玉・山梨・長野の3県の境にそびえる山。甲州・武州・信州の境になるのでこの名があるといわれる。標高2,483mで東は荒川，西は千曲(ちくま)川，南は笛吹川(富士川)の源をなし，奥秩父(おくちちぶ)山地の主峰となっている。3方から尾根が集まって展望もよく，登山やハイキングでにぎわう。秩父多摩国立公園の一部になっている。

こぶしがに 節足動物・甲殻(こうかく)類・コブシガニ科。甲は球状でかたく，甲長・

コブシ





甲武信岳 10月下旬，秋色深い甲武信岳の山頂付近。南側の木賊山から縦走路を経て望む



コプト織
文化女子大学図書館蔵

甲幅とも3cmほど。全体に橙赤(とうせき)色で，甲表背面に3対の黄色円紋がある。東京湾以南セイロンまでの50～100mの砂泥底(さでいてい)にすむ。コブシガニ科のカニは，このほかテナガコブシ・ツノナガコブシ・マメコブシなどが日本沿岸に普通に産するが，いずれも形態がよく似ている。

ごふしみてんのう【後伏見天皇】(1288～1336) 在位1298～1301年。名は胤仁(たねひと)。伏見天皇の第1皇子。母は永福門院藤原鐘子(しょうし)。両統迭立(てつりつ)策のため在位4年で譲位。1333年(元弘3・正慶2)足利尊氏(あしかがたかうじ)が鎌倉幕府にそむき，後醍醐(ごだいご)天皇の勅を奉じて入京の際，花園・光厳(こうごん)両天皇とともに東国に逃げ，近江(おうみ)(滋賀県)の護国寺にとどまった。帰京後出家。歌集《後伏見院御集》，日記《後伏見院宸記(しんき)》がある。陵墓は京都市の深草北陵。

こぶしん【小普請】江戸幕府の直臣の中に設けられた組織。三千石以下の旗本(はたもと)・御家人で無職の者が属した。元来は幕府の小規模な普請(土木・建築)に際し，無職の直臣からその家人や使用人を徴発していたが，1689年(元禄2)以来夫役の代わりに百石につき2両の割合で小普請金を納めさせた。はじめは留守居(るすい)支配，1719年(享保4)からは老中支配となり，その下に小普請支配を設けて統率させ，小普請支配組頭(くみがしら)・世話取扱・世話役などを置いた。1866年(慶応2)陸・海軍奉行(ぶぎょう)の支配となった。一般に小普請とは，老後退職して閑居している者は別として，はじめから役職につけない者，処罰などにより御役御免(おやくごめん)になった者など，不遇の状態にいる幕臣を意味した。〔高崎徳次〕

ごぶしんかん【五部心観】金剛界曼荼羅(まんだら)の五部の諸尊について記した台密(天台宗で伝える密教)系の図像。園城寺(おんじょうじ)(三井寺)には，円珍が唐から持ち帰った1巻と，平安後期にこれを模写した1巻とが存し，ともに国宝に指定されているが，特に前者は晩唐の作風を伝えて貴重である。このほか写本では高野山西南院本などが知られている。

こぶだい ⇨カンダイ

こぶちざわ【小淵沢(町)】山梨県北巨摩(きたこま)郡に属し，県の北西端にある。人口4,900。八ケ岳南西麓(ろく)の海抜1,000mを越す高原を占め，ニンジン・ジャガイモなどの高冷地農業と酪農が盛んである。また，八ケ岳登山や高原各地にある休養地への入り口としても知られ，中央本線・小海線が通ずる。

コブデン［Richard Cobden］(1804～1865) イギリスの政治家。はじめマンチェスターでキャラコ染色業を営んだ。当時，穀物法により安価な穀物の自由な輸入がおさえられていたため，その廃止運動に参加。1839年，ブライトらとともに反穀物法同盟を結成し，1841年より下院議員として議会内で反対運動を進め，1846年に成功した。その後は，ヨーロッパの平和維持と軍縮に尽力した。

コプトおり【コプト織】1～9世紀ごろ，コプト人によってつくられた染め織物の総称。原料は麻・羊毛あるいは絹で，多くはつづれ織りで幾何文・動植物文・人物文を織り出し，赤紫色・かっ色・黄色・緑色・藍(あい)色などを美しく配色してある。源流は古代エジプト王朝にさかのぼるとされ，古代ローマ・ビザンチン・ササン朝ペルシアなどの影響を受けて変遷してきた。4～5世紀ごろがその最盛期で，多くの布片を残している。古代裂(こだいぎれ)として有名である。〔小川安朗〕

コプトきょうかい【コプト教会】キリスト教の異端的一派。コプトは古代ギリシ

ア語で〈エジプト人〉の意。中心地はアレキサンドリア。現在信徒数は80万ぐらいといわれる。451年カルケドン公会議で分離・独立した。教義的にはキリストの人性は神性に融合されているとするキリスト単性論を奉じ，きびしい断食の修行が行なわれるのが特色。なお，分派に1741年ローマ教会と合同した〈合同コプト教会〉があり，信徒数5,000弱である。

コプトじん 【コプト人】 古代エジプト人の子孫。キリスト単性論を信ずるキリスト教徒で(→コプト教会)，アラビア人の混血が少なく，古代エジプト人のようすを伝えている。5～6世紀にはヘレニズム美術の影響を受けたコプト美術を生み，中世初期のヨーロッパ美術に影響を与えた。7世紀以降，サラセン帝国*のもとでは，イスラム教徒の圧迫に苦しんだ。今日，上エジプト地方に住み，教育程度が高く，知的業務に従事する者が多い。〔高山高雄〕

こぶとりばなし 【こぶとり話】 全国的に分布している昔話。正直じいさんと悪いじいさんがほおに大きなこぶをもっていた。正直じいさんが雨宿りのためほら穴にはいると鬼がいて酒盛りをしている，じいさんが仲間になってじょうずに踊ると鬼が感心してこぶをもぎ取る。心の悪いじいさんがその話を聞いてほら穴に出かけ踊るが，へたなため逆に正直じいさんから取ったこぶをつけられてしまうという筋。古くから文献にもみえ，鎌倉初期の《宇治拾遺物語*》や江戸初期の《醒睡笑*(せいすいしょう)》に，その当時の昔話からの採録と思われる話が記録されている。〔山路勝彦〕

こぶなぐさ 【小鮒草】 単子葉植物・イネ科。原野の湿地・田のあぜに多い一年草。茎は倒伏した基部から立ち上がって枝分かれし，長さ30～40cm。葉は狭卵形で，基部は茎を抱く。9～11月に総状花序に花をつけ，淡緑色または紫をおびた小穂をつける。八丈島ではカリヤスとよばれ，全草を干して煮出したしるを黄八丈の染料とする。

こぶのめいが 【瘤野螟蛾】 こん虫類・鱗翅(りんし)目・メイガ科。翅(はね)を広げた長さ17～20mm。頭部はかっ色，胸部と腹部は黄かっ色で腹部の末節は白色。翅は黄かっ色，前翅の前縁は暗かっ色で，雄には暗かっ色の毛塊がある。前・後翅ともに外縁部は広く暗かっ色，その内方に同色の内横線と外横線がある。日本全土のほか，アジア東部・オーストラリア・ニュージーランドなどに広く分布し，幼虫はイネの葉を縦に巻いて食害するが，イネ科以外の種々の雑草も食べる。

こぶはくちょう 【瘤白鳥】 鳥類・ガンカモ科。上嘴(じょうし)基部にこぶ状突起のあるハクチョウ。自然の繁殖域はユーラシア大陸の高中緯度地帯で，わが国には渡来せず，ただ1回の採集記録があるだけである。渡りをする性質が少なく，飼育しやすいので，ふさわしくない場合も多いほど，各地の湖や公園に移殖されて繁殖している。



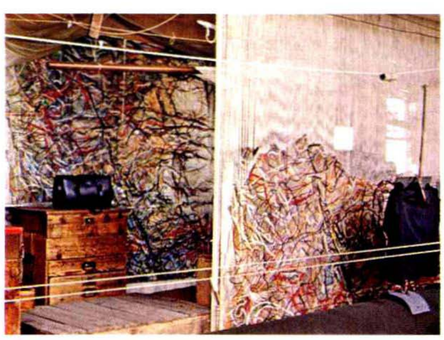
コブナグサ



コブハクチョウ



コブラ　インドコブラ。メガネヘビともいわれ，頸部背面の模様が目だつ



ゴブラン織　工場内部，織りかけの布と下絵

こぶまき 【昆布巻き】 正月料理や日常のそうざいに用いられるコンブの煮物。焼き干したハゼ・フナ・ワカサギ・ゴマメなどをざっと洗ったコンブで巻いてかんぴょうで結わえ，かぶる程度の水・酒・砂糖・しょうゆで小魚の骨が柔らかくなるまで煮込む。番茶じるを入れると魚臭が消え，酢を少し落とすと早く柔らかくなる。

コブラ ［cobra］ 爬虫(はちゅう)類・コブラ科の毒ヘビ。熱帯アジア・アフリカに分布するが，インドコブラは最も有名で，代表種である。頸部(けいぶ)背面の斑紋(はんもん)の形状からメガネヘビともいわれるが，斑紋には変異が多い。本種はインドを中心に東は南シナ海，西はカスピ海沿岸まで広く分布し，地方的亜種に分けられる。体長1.5m，興奮すると，頸部を扁平(へんぺい)にして体の前半部を立て，〈シュッ〉という音を出して相手を威嚇する。神経毒が強く，個体数も多いので危険。このほか，ドクハキコブラ(スピティングコブラ)はアフリカ産で，敵の目をねらって毒を飛ばす。〔松井孝爾〕

コプラ ［copra］ ココヤシ*の種子内の含脂部分を乾燥したもの。これを圧搾して得られるものをコプラ油(やし油)という。主成分はミリスチン酸とラウリン酸のグリセリド。濃いアルカリによって低温でもよく鹼化(けんか)する。これからつくったせっけんは食塩水中で沈殿しにくく，多量の食塩水を吸収してかたさを失わない性質をもっている。せっけんのほか，ろうそく・マーガリンなどの原料に用いられ，腐りにくく重要な油脂源である。絞りかすは家畜の飼料や肥料として使われる。〔岡部平八郎〕

ゴブランおり 【ゴブラン織】 もとフランスのパリ郊外にあるゴブラン工場から織り出されたタペストリー*であったが，その後この種の壁掛け模様織物を総称するようになった。16～18世紀には王室装飾用として盛んに製作された。経(たて)糸に麻を用い，染色した羊毛糸で風景画・群像画・歴史画などを写実的に織り出した大きい壁掛けで，多くは精巧な縁どりを織り，近世の王室・寺院などの装飾品として発達し，幾多の傑作が現存している。なお，ゴブランは工場をつくった人名である。〔小川安朗〕

コープランド ［Aaron Copland］ (1900～　) アメリカの作曲家。ユダヤ系ロシア人の家に生まれ，15歳のときから音楽家になる決心を固めた。1921年フランスに留学，ナーディア-ブーランジェに師事した。帰国後活発な作曲活動にはいり，1936年に発表した《エル-サロン-メヒコ》は彼の名を一躍有名にした。バレエ音楽に多くの傑作を書き，1944年の《アパラチアの春》は特に有名である。著書も多く，アメリカの音楽界に指導的な役割を果たしている。

〔向坂正久〕

コブレンツ ［Koblenz］ 西ドイツ西部，ライン川とモーゼル川の合流点にある都市。人口11万8,000(1975)。両河川の流域で産するぶどう酒の取引が盛んであり，機械・ピ

アノ・家具・くつなどを産する。紀元前9世紀にローマ帝国の要塞(ようさい)が建設されたのが起源で，13世紀にはライン都市同盟に参加して栄えた。当時の城や17世紀に建てられた公会堂などの古い建造物が多く残り，観光客も多い。第2次世界大戦中の空襲で，市街の大半が被害を受けた。

〔梶川勇作〕

こふん　【古墳】　土を高く盛り上げてつくった古代の墓。ただし，考古学で古墳という場合は，古墳時代*につくられた上層階級の葬られている墓をさし，弥生(やよい)時代の墓や奈良時代の火葬墓・土葬墓は古墳とはよばない。古墳は盛り土の外形によって前方後円墳*・円墳・方墳に三大別される。墳丘斜面部は葺(ふ)き石とよぶ自然石塊でおおわれ，その墳丘を巡って埴輪*(はにわ)を巡らしているのが典型的なものである。内部における埋葬は，棺*を石室*や粘土槨(かく)などの施設でおおうものと，棺を直接土中に埋めるものとがあり，棺は材質によって，木棺・石室・陶棺・夾紵棺(きょうちょかん)(麻布を漆ではり固めてつくった棺)などに分けられる。副葬品*は，鏡・装身具・武器・農工具・土器などがあり，日本の墓制史上最も多種類のものが豊富に副葬されている。これらの古墳は，その規模・形態・内容から民衆の墓とは考えられず，おおむね支配階級の墳墓であるといえよう。〔河原純之〕

こぶん　【古文】　①明治時代よりまえの文章の総称。ふつう，現代文に対していう。上古(奈良時代)の文章を，特に古文ということもある。②中国で，後世の四六駢儷(しろくべんれい)の文章に対して，秦(しん)・漢以前の，達意を旨とした古来の散文の称。

ごふん　【胡粉】　貝殻(かいがら)を日光や風雨に数か月さらして風化したものを粉砕した粉末で，主成分は炭酸カルシウム$CaCO_3$で顔料・水性塗料・パテなどに使用される。

東洋画の顔料としては微細なものが良質とされ，使用の際はにかわで練って水にといて用いる。白の彩色に使うほか，他の顔料に混ぜてその色を減じさせるために使用する場合もある。

こぶんがく　【古文学】　今文学*(きんぶんがく)に対する語で，中国秦(しん)以前の古い字体で書かれた経書を奉ずる儒教の一派。秦のとき経書は焼棄されたが，漢になって口頭で伝えられたものが隷書(今文)で書き写されるとともに，秦以前の字体で書いたものが発見され古文経といわれた。これを奉ずる学派は前漢末から後漢にかけて勢力を得，儒教界の主流を形づくった。

こふんじだい　【古墳時代】　古墳*という墓制を標識とする日本考古学上の時代区分で，弥生(やよい)時代*に続く時代。その期間については厳密な学説の一致をみていないが，ほぼ3世紀末から7世紀後半にわたるとされている。この時代は，弥生時代に始まる農耕生産が鉄器の普及と耕地の拡大によって生産量が増大し，ついに日本に国家的統一がもたらされた時代でもある。古墳時代は少なくとも400年間にわたるが，一般には前期と後期に大別される。

〔前期〕成立期の古墳は，規模・形態・内容からみて，弥生時代の文化形態から予想される一般民衆墓とはかけ離れたもので，その数は地域的にもきわめて限られているので，このような古墳は地域的政治集団の首長墓と考えられている。被葬者は，竪穴(たてあな)式石室とよばれる四壁を割石で積み，天井石で閉鎖した石室*に葬られ，副葬品*には実用的な武器・工具・装飾品のほか，鏡*や碧玉*(へきぎょく)製品などの宗教的・呪術(じ



コブレンツ　ライン川右岸のエーレンブライトシュタインの要塞下から対岸のコブレンツの城址を望む。ライン川とモーゼル川との合流点はもう少し右手下流になる

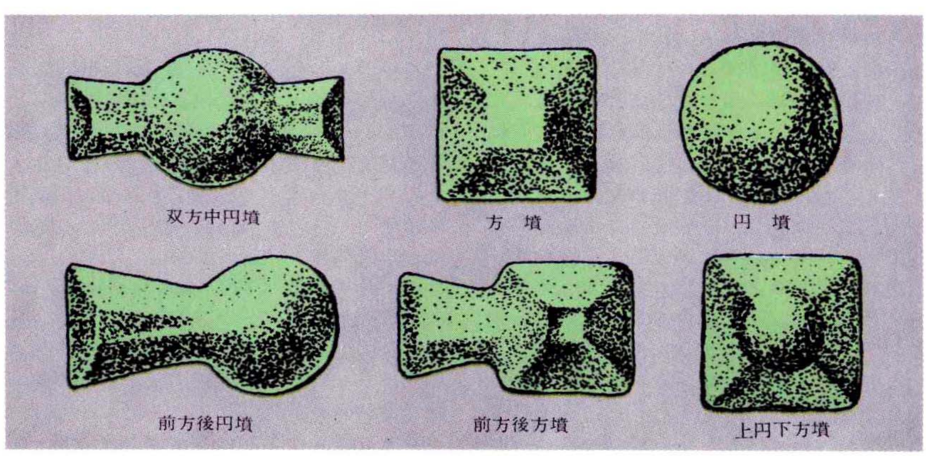
古　墳



ウワナベ・コナベ古墳
奈良県法華寺町



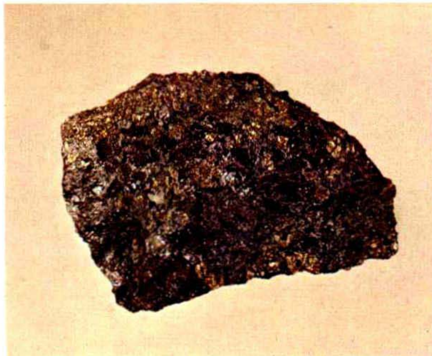
埼玉古墳群



古墳の形式

ゅじゅつ)的用途をもったものが多い。鏡の中には，後漢初期の中国鏡を伝世の宝器として葬ったものがある。一般に古代における共同体の首長は，神と共同体との媒介を果たす司祭者としての性格を強くもっているといわれ，神としての伝世鏡を保管することが首長の共同体に対する義務と責任であると考えられる。その伝世鏡を古墳に葬ることは，首長が神の権威によらず自己の政治的権威によって共同体を支配できる段階にまで成長したことを示すもので，彼らがなお司祭者としての性格を残しながらも，支配者へ転身したのがこの時期であると考えられる。また鏡の中には，魏(ぎ)の三角縁神獣鏡が各地の古墳で多量に発見されることから，これは中央政治勢力による各地の首長への賜与の結果とみて，そこに中央政権(大和(やまと)政権)による地方首長の承認(地方首長の服属)が考えられる。すなわち，各地の首長が司祭者から支配者へと成長し，大和国の最高支配者が各地の首長の地位に公認を与え，それが古墳を発生せしめた時期だとするのである。成立期における首長のこのような性格は，5世紀にはいると宗教的な権威を脱却して政治的な支配者としての性格を強く示すようになり，副葬品も中国鏡が少なくなり，これまでの宝器的な性質の碧玉製品に代わって形式的な滑石製模造品が増大する。また，人々を驚かす装飾的華麗な金製耳飾りや金銅製の冠・沓(くつ)・帯金具，外装に金銀を使用した刀剣・甲冑(かっちゅう)などが多くなる。古墳の墳丘自体も，応神陵や仁徳(にんとく)陵などの巨大な規模をもったものに仕上げられるようになり，それはまさに王者の墓とよぶにふさわしいものへと変化していった。この変化の一つの大きな要因は4世紀後半から始まる大陸との政治的・軍事的交渉があったことは見のがせない。この国際的活動が日本にもたらした影響は大きく，大陸系の文物や新しい技術をもった帰化系工人の手になるものと考えられる副葬品が多く，特にこの時期にみられる馬具の副葬は，日本に新しい乗馬の風習をもたらしたことを示している。また須恵器*(すえき)製法の渡来は，わが国の製陶技術に著しい変革を与えた。

【後期】6世紀初頭から始まる後期は，大陸系の墓室である横穴式石室が全国に普及した時期であり，前期の竪穴式石室が原則として1回の埋葬に用いられたのに対して，横穴式石室は数回の埋葬を行なうことが可能である。副葬品も前期と著しく異なり，須恵器や馬具が大量に葬られるようになる。特に須恵器を大量に副葬することは，被葬者の死後の生活に供するためと考えられ，死後の世界の観念を認めることができる。鏡を葬ることはまだみられるが，多くは小形になり，形式化したものになる。埋葬方式も前期と異なって，同一の墓室に2体以上の合葬がしばしば行なわれ，これは一つの墓室を家族の墓として使用するようになったことを示している。このように，前期における古墳は宗教的・政治的な権威の現われであったのが，この時期には死後の幸福を願う墳墓に変化した。この時代の特徴の一つは，小規模な古墳が一つの地域に密集してつくられることである。この群集墳は日本各地で盛行するが，これは古墳の被葬者が従来のような首長だけでなく，被支配階級の一部にまで広がったことを示すものである。そしてこれらの群集墳は，共同体の共同墓地として形成されたものと考えられる。7世紀後半にはいると，新しく渡来した仏教文化の影響が古墳にも認められるようになり，たとえば棺*や棺台の文様や，副葬品の一部に仏教用具があることなど，日本の墓制に仏教が少しずつ影響を与えたことが認められるが，その最大のものが火葬(→葬制)の思想であり，これが古墳を大きく変貌(へんぼう)させていったのである。〔河原純之〕



コベリン　アメリカ，ビュッテ鉱山産

こぶんしんぽう【古文真宝】中国の詩文集。現行本は前後2集20巻。編者不明。前集は漢から宋(そう)までの有名な詩を形式別に集めて，後集は戦国末から宋までの有名な文章を文体別に集める。中国では流行しなかったが，日本には室町初期に伝わり，五山*の僧侶(そうりょ)の間で使われて以来，漢文学をたしなむ人々の間で重用された。

こふんそう【糊粉層】⇨アリューロン層

コベリン［covelline］銅の原料鉱石の一種。CuS　六方晶系。比重4.6～4.8，硬度1.5～2。底面が発達していて，薄い六角板状で産することが多い。オウドウ鉱・ハンドウ鉱・キドウ鉱などとともに銅鉱床に産する。わが国では兵庫県生野(いくの)鉱山などに産する。

コペルニクス［Nicolaus Copernicus］(1473～1543)　ポーランドの天文学者。トルーニの大商人の子として生まれた。1491年クラクーフ大学に入学，数学やその他の科学を学んだ。1496年イタリアに遊学し，ボローニャ・パドバの各大学で法律学・医学・神学とともに天文学・ギリシア語などを学んだ。地動説*の芽ばえは遊学中に読んだギリシアの古典から得られたものであるといわれている。1509～1512年伯父(おじ)ワツェルローデの侍医としてハイルスベルクに住み，伯父の死後はフラウエンブルクの寺院の住職として生涯(しょうがい)を過ごした。彼は地動説の一部を1530年に発表したが，彼の新宇宙説の全貌(ぜんぼう)を記した《天体の回転について》が刊行されたのは死の直後にあたる1543年のことであった。ローマ教皇からの迫害を恐れて公刊を延ばしていたのである。コペルニクスが当時まで信じられていた地球中心説を打ち破って，太陽中心の地動説を立てたことはあざやかな思想の革命であり，一般思想界にも大きな影響を与えた。→次項〔根本順吉〕

コペルニクスのちどうせつ【コペルニクスの地動説】コペルニクス*が，その著《天体の回転について》の中で発表した，地球は自転しながら太陽のまわりを公転するという説。→地動説　→天動説

コーヘン　⇨コーエン

ごへん【互変】ある物質が転移点を境にして，一つの結晶相から他の結晶相に可逆的に構造変化を起こす現象。この転移を互変転移，両相を互変二形という。単斜晶系イオウ(高温)と斜方晶系イオウ(低温)は1気圧の下では，95.6℃に転移点があり，これを境にして互変する。

ごへんいせい【互変異性】アセト酢酸エチルには，下記のようなケト型(ケトン)とエノール型(アルコール)の二つの異性体*がある。このように，原子の相対的な位置が異なる異性体を互変異性体という。一般にケトンまたはアルデヒドと不飽和アルコールとの間に平衡があり，互いに変換できるため互変異性とよばれており，大部分は，それぞれの異性体に分離できない。

$$\underset{\text{ケト型}}{CH_3\overset{\overset{O}{\|}}{C}CH_2COOC_2H_5} \rightleftharpoons \underset{\text{エノール型}}{CH_3\underset{\underset{OH}{|}}{C}CHCOOC_2H_5}$$

コベントリー［Coventry］イギリス，イングランド中央部，バーミンガムの東30kmにある工業都市。人口33万5,000(1974)。中世には毛織物工業が盛んで，産業革命の際にはその先端にあったが，今世紀にはいってからはイギリスの自動車・航空機・時計工業などの中心となった。1043年に建てられたベネディクト僧院をはじめ，多くの古い建造物があったが，軍需産業が盛んであったため，第2次世界大戦中の1940年11月にドイツ空軍の攻撃を受け，大きな被害を受けた。戦後，都市計画により近代的な都市として再建された。〔梶川勇作〕

コペンハーゲン［Copenhagen］デンマークの首都で同国最大の商工業都市。人口74万(1974)。北海からバルト海への入り口にあたるシェラン島の東岸にあり，対岸スウェーデンのマルメへは鉄道連絡船が通う。バルト海に面する最大の港湾都市で，シェラン島とアマゲル島の間の水路が港になっている。市街はこの両島にまたがって

発達している。かつて一漁村にすぎなかったが，1167年に城が築かれて以来，水陸交通の要地として発展し，1443年以降はこの国の首都として，政治・文化面でも中心となった。13～16世紀にはハンザ同盟からしばしば攻撃され，また17～19世紀にはスウェーデン・オランダ・イギリスなど商権を競う諸国の艦隊の攻撃を受けることもしばしばであった。1894年自由港となってから中継貿易で栄えたが，キール運河の開通(1914)以後は，港としての重要性は減った。しかし，近年航空路の発達によって北ヨーロッパの玄関口として重要な地位を占めている。加工肉・酪農品の輸出のほか，造船・機械・化学工業が行なわれる。ヨーロッパでも最も美しい都市の一つで，旧市域の中心コンゲンスの方形広場，海岸に近いアマリエンボルク宮，その北方の星形の古城，アンデルセンの童話で知られる人魚の像などがあり，観光地としても名高い。1479年創立のコペンハーゲン大学をはじめ多くの教育・文化施設があり，北ヨーロッパの文化・芸術の中心地である。　〔野間三郎〕

コペンハーゲンけんきゅうじょ　【コペンハーゲン研究所】　正確にはコペンハーゲン大学理論物理学研究所。コペンハーゲン大学の理論物理学教授であったボーア*が付属の研究所設立を提議し，1921年コペンハーゲンの東北ブリーダムスビーに開所された。開設の当初からボーアの指導のもとに自由な研究交流の場となり，当時の実験面の進歩をになったキャベンディッシュ研究所*との交流はもちろん，ベルリン・ゲッチンゲンのドイツ学派とも緊密な交流をもち，量子論の建設推進の中心地として物理学史上不朽の役割を果たした。ここに育ちあるいは足をとどめた人々は，比較的初期のみをあげてみても，J.フランク*・マイトナー*・クラマース・ハイゼンベルク・ヘベシー・クライン・メラー・パウリ*・ディラック*・ヨルダン・スレーター*・ユーリー*・ガモフ*・ハイトラー・ノルドハイム・フント・ブロッホ・ハウトスミット・ワイゼッカー*等々，量子論建設に貢献した人々の大半を網羅(もうら)している。日本からも多くの人々が参加したが，仁科芳雄*(にしなよしお)らによって理化学研究所などに持ち込まれた自由で清新な学風は，いわゆる〈コペンハーゲン精神〉として日本の理論物理学の発展に大きな影響を与えた。　〔藤村　淳〕

コポー　［Jacques Copeau］(1876～1949)　フランスの俳優・演出家。はじめジイド*らと文芸誌《エヌエルエフ*》を創刊，劇評の筆をとった。1913年，小劇場《ビュー-コロンビエ座》を結成して演劇の革新に乗り出し，簡潔な舞台に美と真実と詩性をよみがえらせるべく努め，フランス現代劇の基礎を固めた。その意志はジューベ*・デュランらに引き継がれた。ブルゴーニュへ引退したのちは俳優学校をつくり，新人養成に



コペンハーゲン　近景の港湾地区には北欧ふうの古い建物が多い。遠景に見える青いドームはフレデリック教会(大理石教会)

尽くした。遺著に《民衆演劇》がある。

ごほう　【護法】　ダルマパーラの漢名。生没年不詳。6世紀中ごろのインドの仏教思想家。唯識十大論師のひとり。南インド，ドラビダ国の大臣の子に生まれた。王姫(おうき)との婚礼の夕べに出家し，インド有数の大寺院ナーランダ寺*に長く住し，数千人の門弟があった。29歳のとき大菩提(だいぼだい)寺に入り，《成唯識論*》《大乗広百論釈論》などを著わした。著書は唐の玄奘*(げんじょう)らによって漢訳され，中国・日本の法相宗(はっそうしゅう)に大きな影響を与えた。彼の学派は大乗の瑜伽(ゆが)唯識派に属する。〔小沢憲珠〕

ごぼう　【牛蒡】　双子葉植物・キク科の二年生草本。茎はきわめて短い。葉はいわゆる根葉で，長い葉柄と，大きな長心臓形で柔毛を密生した葉身からなり，見かけは粗剛である。2年めの初夏になるととう立ちして開花する。花は白～紫色の管状花からなる球形の頭状花で多数つき，花托(かたく)には剛毛がある。果実は黒灰色の幅3mm，長さ7mmほどの長楕円(ちょうだえん)形である。直根(側根が小さく主根が肥大した根)は土中深く伸びて150cmに及ぶこともあり，直径5～10cmくらいに肥大する。根の表皮は黒かっ色で細い側根を有す。ヨーロッパや中国には野生種があるが，わが国では自生していない。わが国での栽培の歴史は古く，特に火山灰土の土層の厚いところで発達した。関東を中心に栽培されている滝ノ川品種は古くから有名で，現在もこの改良種の栽培が多い。春まきして秋から冬にかけて掘り取る栽培と，秋まきして翌春掘り取る栽培が基本となっているが，近年はビニル被覆により早掘りをしたり，また若掘りをする〈葉ゴボウ〉の栽培も盛んである。根は繊維質であるから，煮食かいためものとして利用することが多い。果実は牛蒡子・悪実などといい，漢方では利尿・解毒・解熱・強壮薬とする。　〔松本正雄〕

ごぼう　【御坊(市)】　和歌山県西部の市。1954年(昭和29)市制施行。人口30,000。市名は西本願寺の別院日高御坊の門前町であったことにちなむ。紀伊(きい)水道に注ぐ日高川河口付近の御坊平野一帯を占め，中心市街は本流と支流の西川の会合点付近にある。産業三大別人口比は22：23：55。かつては木材集散地として多くの製材工場があったが，運送方法がいかだ流しからトラック輸送に代わるにつれて西の田辺(たなべ)市に繁栄を奪われ，いまは紀州航路の寄港地として穀倉地帯である農村からの物資を集散する。南部海岸地帯の段丘ではエンドウの栽培も盛んである。紀勢(きせい)本線が通じ，国道42号線が海岸沿いを走る。東隣の川辺(かわべ)町には安珍清姫で有名な道成寺があり，西隣の美浜(みはま)町にはアメリカ村*がある。

ごほうじょうし　【後北条氏】　もと伊勢(いせ)氏。戦国時代，新九郎長氏(ながうじ)が北条早雲*と号してから北条氏を名のり，相模(さがみ)(神奈川県)小田原にたてこもって戦国大名となる。鎌倉執権の北条氏と区別するため後北条氏と称する。早雲・氏綱・氏康(うじやす)・氏政(うじまさ)・氏直と5代約100年間関東の戦国大名として栄え，ことに1546年(天文15)氏康が河越(かわごえ)の戦いで両上杉(うえすぎ)氏を破ってからは関東の大部分を制した。歴代民政に努め，城下町の小田原はわが国の代表的な都市となった。1590年(天正18)氏直の代に豊臣秀吉(とよとみひでよし)によって滅ぼされ，氏政の弟氏規(うじのり)は秀吉に従い，河内(かわち)(大阪府)丹南二千石，次いで狭山(さやま)一万石を領した。維新後子爵。➔北条氏　〔村尾元忠〕

ごほうぞうむし　【牛蒡象鼻虫】　こん虫類・鞘翅(しょうし)目・ゾウムシ科。体は卵形で，口吻(こうふん)を除いた長さ8mmほどで，口吻は細長い。全体黒色で，背面に白色の毛斑(もうはん)がある。鞘翅には多数の縦条が走る。前胸背板は側部と背部両側に白色の縦毛帯がある。本州に分布し，夏季雑草間に普通にみられる。近縁のシラクモゴボウゾウムシはやや大形で，体長9.5～11mm，口吻はやや短く太く，鞘翅の点刻は弱く，本州・四国に分布する。またヒメゴボウゾウムシは小形で，体長6.5mm内外，白色の毛斑は不明瞭(ふめいりょう)で，鞘翅の先端部は丸みをおび，本州・四国・九州に分布する。

こほくしょう　【湖北省】　フーペイ省　中国，揚子江中流北岸の省。面積18万7,500 km^2。人口3,400万(1972年推)。省都は武漢。2省轄市(武漢・黄石(こうせき))・8専区に分かれ，3市・72県を統括する。揚子江が三峡*を出る所にあたり，西高東低の地形を示す。米・綿花・茶・ナタネ・チョマ・タバコなどの産が多く，生糸の産も少なくない。また，木材・桐油(とうゆ)・漆など林産物も著名である。鉄・石炭など地下資源も豊富で，武漢の重化学工業をささえる基礎となっている。中国縦貫鉄道の京広鉄道(北京(ペキン)～広州)が，長江大橋の完成によって揚子江を渡って南北を連絡し，東西を連絡する揚子江水運と合わせて交通・産業上の大動脈の結節点となっている。　〔船越昭生〕

こぼとけとうげ【小仏峠】 関東山地南部，多摩川の支流浅川をさかのぼって相模(さがみ)川の谷へ出る峠。標高590m。東京都と神奈川県の境をなし，かつての甲州街道はここを通っていたが，現在は南の大垂水(おおだるみ)峠を通っている。峠は高尾山から景信(かげのぶ)山へ至るハイキングコースになっており，峠を東へ下った駒木野(こまぎの)には小仏関跡がある。中央本線はトンネルで峠下を通過している。

こぼりえんしゅう【小堀遠州】(1579～1647) 江戸初期の茶人。遠州流茶道の開祖。名は政一・宗甫(そうほ)・孤篷庵(こほうあん)と号した。新介(しんすけ)正次の子。徳川氏に仕え，従五位下遠江守(とおとうみのかみ)。普請奉行(ぶぎょう)として，仙洞(せんとう)御所・大阪城・二条城・江戸城の作事にも関係した。茶道を古田織部に学び，歌道を冷泉為満(れいぜいためみつ)に修め，定家流の書をよくした。中興名物を撰定(せんてい)し，歌銘をつけ，また唐物写しの国焼をつくるなどした。好みを〈きれいさび〉という。代表的茶室は，大徳寺龍光院(りゅうこういん)の密庵(みったん)，孤篷庵の忘筌(ぼうせん)など。〔桑田忠親〕

ごほりかわてんのう【後堀河天皇】(1212～1234) 在位1221～1232年。名は茂仁(ゆきひと)。高倉天皇の孫，守貞(もりさだ)親王(後高倉院)の第3皇子。母は北白河院(きたしらかわいん)藤原陳子。承久(じょうきゅう)の*乱で幕府により廃された仲恭天皇に代わって迎えられ，10歳で即位。学を好み，藤原定家に《新勅撰(しんちょくせん)和歌集》を選させた。陵墓は京都市の観音寺陵。

こぼりともね【小堀鞆音】(1864～1931) 日本画家。栃木県の生まれ。川崎千虎(ちとら)に師事して有職故実(ゆうそくこじつ)に精通，大和絵(やまとえ)の手法を生かし歴史画に一家をなした。東京美術学校教授をつとめ，帝室技芸員・帝国美術院会員となった。

こぼりりゅう【小堀流】 日本泳法の一。享保(きょうほう)年間(1716～1735)熊本藩の村岡伊太夫(いだゆう)に始まり，その子小堀長順によって改良された。元来川に発達した泳ぎで，まき足を用いた立体泳法を特徴とし，たぐり足を用いる横泳ぎもある。明治以後学習院・幼年学校に伝えられた。



小堀鞆音《武者》1897 東京芸術大学芸術資料館蔵

コボル ⇨電子計算機

こほんせつわしゅう【古本説話集】 平安末期・鎌倉初期の説話集。王朝の優雅な香気に満ち，和歌説話(46話)を収めた上巻と，日本・インドの霊験説話(24話)を収めた下巻とからなる。人間の欲望に直接からまる説話や，わらしべ長者*譚(ちょうじゃたん)の民話など，当時の庶民群像をうかがわせるものも多い。《*今昔物語》《*宇治拾遺物語》と共通の説話も多く，これらの欠文や本文の誤りの訂正に役だつなど資料的意義も高い。

こま【独楽】 心棒または軸を中心に丸い胴が歳差*運動をする玩具(がんぐ)。唐代(7～9世紀)の中国から高麗(こま)(朝鮮)を経て日本に渡来したのでこの名があるといわれる。平安時代は貴族の遊びであったが，江戸時代になって庶民の遊び道具となり，従来の唐ごまのほかに博多(はかた)ごま・貝(ばい)ごま・お花ごま・鉄胴ごまなどもつくられるようになった。明治・大正にはいっては少年の正月の遊び道具となったがしだいにすたれ，現在は東北地方の挽(ひ)き物のこまや伊勢(いせ)の竹鳴ごま，鳥取の占いごま，佐世保のこまなどがわずかにみやげ物としてつくられている。〔牧野玩太郎〕

こま【駒】 弦楽器の一部で，胴の上で弦をささえ，その振動を胴に伝える働きをもつ。バイオリンの駒の形態はアマティやストラディバリ時代に定められたといわれる。駒の形態と重さは，楽器の音色と大きな関連がある。三味線(しゃみせん)でも，重みや大きさの違う駒を用いて，それぞれの特徴を出している。なお，駒の上部がバイオリンのように薄い場合は余韻がなく，インドのシタールのように丸みをもつと，余韻が生じる。〔徳丸吉彦〕

ごま【胡麻】 双子葉植物・ゴマ科の一年草。インドまたはエジプトが原産といわれ，古くから栽培されている。茎は直立して高さ1m内外，断面は四角，葉とともに軟毛が密生する。葉は長楕円(ちょうだえん)形で先がとがり，長さ10cmほど，下方の葉はときに3裂する。夏，茎の上部の葉のつけ根に，白色でわずかに紫色をおびた長さ2.5cmほどのらっぱ状で先が5裂した花をつける。果実は円柱状で中に多数の種子がある。春に種子をまき秋に収穫する。種子は扁平(へんぺい)で，黒色のものをクロゴマ，白色のものをシロゴマ，淡黄色のものをキンゴマという。オレイン酸・リノール酸などの油を含み，油をとったり，そのまま料理に用いたりする。栄養豊かな食品で，広く用いられている。

ゴマ科の植物は熱帯地方，特にアフリカに多いが，全体で約60種を数えるにすぎない。すべてが草本で，花は左右が対称のものが多く，種子には胚乳(はいにゅう)がない。日本に自生するのはヒシモドキただ1種のみである。〔小清水義隆〕

ごま【護摩】 梵語(ぼんご)homa(ホーマ)の音訳で，〈焼くこと・焚(た)くこと〉の意。仏教では，特に*密教がこの法を取り入れ，火炉をつくって乳木を焼き，知恵の火によって煩悩のまきを焼き尽くすと考え，招福・攘災(じょうさい)の功徳のあるものと考えるようになった。キリスト教の聖餐式(せいさんしき)にあたるが，火を用いるところが大きな違い



こ ま



ゴ マ

である。もともとインド教に興った儀式で，火を天の口と考え，清めたバターを火に投じて食物を焼けば，天がこれを食して人に福を与えると考えられた。〔金岡秀友〕

ごまあぶら【胡麻油】*ゴマの種子から冷圧法または圧搾法で得られる油。冷圧法は外国で行なわれ，油は淡黄色でほとんど香味がない。一方，種子をあらかじめいって蒸したのち圧搾してとった油は，黄かっ色を呈し，特有な香と味をもつ。この香味と，貯蔵中の変化が少ないことから，てんぷら油として賞用される。

こまい【氷下魚】硬骨魚類・タラ科。体長30cmほどの海産魚。体は細長いが，頭部と胴の前部はやや太い。吻(ふん)がかなり突出しており，口が大きい。うろこは非常に小さい。体上半部は灰かっ色で不規則な斑紋(はんもん)があり，下半部は銀白色。北海道以北，北太平洋に広く分布し，沿岸にすむ。北海道の根室・厚岸(あっけし)・尾岱沼(おだいとう)などの沿岸で，氷を割って穴をあけ，つりや建て*網で漁獲する。かまぼこなどの原料にされる。

こまい【木舞・小舞】①屋根の幹部分にあってたるきに渡す貫(ぬき)(細長い横木)。*野地板の端にあって幹先先端にくるものを広こまい，野地板の上にあってこけら*板などの野地下に並べられるものを敷きこまい，軒下に竹などを交えて用いられるものを化粧こまいという。②*真壁の壁下地を構成する竹。真壁は，太い肉厚の竹を四つ割りにした間渡し竹を柱および貫間で縦・横とも30cm間に割りつけ，これにこまい竹を90cm間に14本ぐらいの割で十字形に配し，かきなわで巻き固める。この操作をこまいかきといい，これに土を塗って荒壁をつくり，中塗りを施し，さらにしっくい・砂・土などで仕上げる。〔神山幸弘〕

こまい【小舞】*狂言の舞の一種。小舞謡を地とする短い舞。現在，小舞に指定されているのは大蔵流44番，和泉(いずみ)流71番。本狂言では酒宴の場などに使われるが，狂言の会で能の*仕舞のように紋付姿で舞われることもある。単独で鑑賞できる芸術性をもっているのが特色。

こまいぬ【狛犬】社寺の前庭，石段下などに置かれる守護・魔よけの獅子(しし)に似た左右1対の獣像。〈こま〉の語源については各説あるが，最も有力なのは高麗(こま)から伝わったことに由来するとする説である。もとは獅子とイヌの1対だったともいわれ，獅子をイヌと見違えて混同したものともいわれる。開口・閉口1対は梵語(ぼんご)の*阿吽(あうん)に擬したものといわれるが，必ずしも一定せず，頭上に角をもつ形もある。素材は石が多いが，奈良時代に伝来した木製・陶製の狛犬もある。〔今野圓助〕

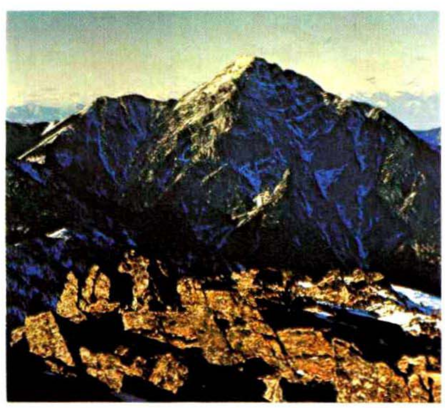
こまえ【狛江(市)】東京都中南部にあり，北および西は調布市，東は世田谷(せたがや)区，南は多摩川を隔てて神奈川県川崎市



駒ケ岳(北海道) 北東麓の砂原付近のウマの放牧場から望む。函館本線の貨物列車が黒煙をたなびかせて広い原野を通過する



駒ケ岳(秋田) 噴煙をあげる秋田駒。山頂のカルデラとその内部に女岳のドームが見える。遠く南西方には鳥海山が望まれる



駒ケ岳(山梨) 巨大なピラミッド形の岩峰をもつ甲斐駒。背景には白雪をいただく北アルプスの山々が並ぶ

に接する。武蔵野(むさしの)台地の末端にあたり，地形は低平である。もと北多摩郡に属する町であったが，1970年(昭和45)10月市制を施行。面積6.15km²，人口68,000。近年，住宅と工場の増加によって人口増が著しく，1965～1970年の人口増加率は50.8%である。市域の中央を小田急線が走り，狛江・和泉多摩川(いずみたまがわ)駅がある。北部に機械・電気器具などの工場があり，中でも東京航空計器などが大きい。中世には付近一帯を狛江郷といい，現在の調布市神代村，世田谷区千歳烏山(ちとせからすやま)村・砧(きぬた)村まで含んでいた。地名は，かつて朝鮮の高句*麗(こうくり)(わが国では高麗(こま)とよぶ)の遺民が帰化してこの地を開拓したことによる。多摩川の近くには亀塚(かめづか)古墳をはじめ縄文(じょうもん)式土器が多く出土している。産業三大別人口比は1：33：66。

こまがたけ【駒ケ岳】北海道渡島(おしま)半島南東部の活火山で，渡島富士ともよばれる。山麓部(さんろくぶ)は美しいスロープを描くが，山頂部に東に開けた直径約1kmに及ぶ火口をもつので，全体に頭部の欠けた特徴的な山容は山名の由来を示す。標高1,133mはこの火口壁の最高点である。1640年(寛永17)以来多くの噴火の記録をもち，1929年(昭和4)の大爆発では大量の軽石を噴出して東のふもと一帯に被害を与えた。南のふもとには駒ケ岳泥流(でいりゅう)のせき止め湖である大沼・小沼などがあり，風光がすぐれ，駒ケ岳を中心に大沼国定公園となっている。函館(はこだて)本線の上り・下り線が山麓を巡って走る。〔高野　繁〕

こまがたけ【駒ケ岳】秋田駒ケ岳あるいは秋田駒ともいう。秋田県東部の岩手県境近く，田沢湖の北東に位置する円錐(えんすい)形の二重式火山。標高1,637m。那須(なす)火山帯に属し，頂上には南西に開口する火口がある。高山植物コマクサの群落で知られ，北麓(ほくろく)には温泉が多い。十和田八幡平(はちまんたい)国立公園の一部になっている。なお1970年(昭和45)9月，38年ぶりで噴火を記録した。

こまがたけ【駒ケ岳】会津駒ケ岳ともいう。福島県南西部，南会津郡檜枝岐(ひのえまた)村にあり，燧ケ岳(ひうちがたけ)のほぼ北東に位置する。標高2,132m。頂上付近はなだらかな草地におおわれ，広い山頂をつくる。

こまがたけ【駒ケ岳】越後(えちご)駒ケ岳ともいう。新潟県中部，群馬・福島との県境近くにそびえる越後山脈中ノ岳山塊の一峰。標高2,003m。八海山・中ノ岳とともに魚沼三山を形成し，魚沼駒ケ岳ともいう。山容は雄大で，古来修験道(しゅげんどう)の山として知られてきた。

こまがたけ【駒ケ岳】甲斐(かい)駒ケ岳あるいは甲斐駒ともいう。山梨県北西部の長野県境にあり，赤石山脈北端の主峰。標高2,966m。東側は甲府盆地西縁に臨んでそびえ，甲府盆地からのながめがよい。主としてカコウ岩からなり，ピラミッド形の上部山体は露岩が屹立(きつりつ)し，南東面は摩利支天の巨大な岩壁となっている。

こまがたけ【駒ケ岳】木曽(きそ)駒ケ岳，あるいは木曽駒ともいう。木曽山脈の最高峰。標高2,956m。東側は伊那谷(いなだに)，西側は木曽谷に，ともに急傾斜をなして臨む。頂上付近に濃ケ池・千畳敷などの*カールをもつ。古い時代から信仰の山とし

て知られ，山頂には駒ケ岳神社がある。1967年(昭和42)から伊那側のしらび平から千畳敷カールまでロープウエーが引かれ，登山は容易になった。

こまがね【駒ケ根(市)】 長野県中南部の市。江戸時代は三州街道に沿う街村であった。1954年(昭和29)上伊那(かみいな)郡の赤穂町を中心に市制施行。人口31,000。市名は木曾(きそ)山脈の主峰駒ケ岳*の東のふもとにあることにちなむ。伊那盆地のほぼ中央部，天龍(てんりゅう)川の河岸段丘上に位置し，右岸にもと赤穂町，左岸にもと中沢・伊那の2村がある。産業三大別人口比は19：43：38。赤穂は伊那盆地の養蚕・製糸業の一中心で，養蚕農家の経営になる組合製糸会社があり，最近は金属・電気部品などの工場も設置された。飯田(いいだ)線・国道153号線(旧三州街道)に沿い，駒ケ岳山頂まで東洋一のロープウエーが通じて，中央アルプス登山口，駒ケ根高原菅ノ台(すがのだい)キャンプ場の玄関口となる。

こまき【小牧(市)】 愛知県北西部の市。もと木曾(きそ)街道の宿場町で，1955年(昭和30)市制施行。人口102,000。市域は濃尾平野の中央部，名古屋市北方15kmの地点にある。産業三大別人口比は7：48：45。窯業・ゴム・機械・繊維などの工場が多い。名古屋鉄道小牧線およびバスによって名古屋市の中心部と結ばれ，名古屋市のベッドタウンとして発展している。名古屋空港があり，東名・名神・中央の三大高速道路が集まる交通の要地で，ハイウエー時代の交通都市の花形となり，1965～1970年の人口増加率は30%を越え，愛知県の市の中では第1位である。近郊の小牧山*は小牧・長久手の戦い*で知られる古戦場である。

こまき・ながくてのたたかい【小牧・長久手の戦い】 1584年(天正12)尾張(愛知県)の小牧・長久手を中心として行なわれた，羽柴(はしば)(豊臣(とよとみ))秀吉(ひでよし)と，織田信雄(のぶかつ)・徳川家康(いえやす)連合軍との合戦(かっせん)。織田信長の没後，秀吉が家康と対抗する勢力となったため，家康は信長の次子信雄を誘って秀吉と対立し，3月伊勢(いせ)(三重県)で両軍は衝突した。秀吉軍は尾張に進撃して犬山城*を奪取したが，家康はいちはやく小牧山*を占拠し，3月末秀吉は大阪から犬山に到着，小牧山を攻撃したが失敗した。4月秀吉軍の森長可(ながよし)・池田信輝(のぶてる)らは家康の本拠岡崎を攻撃するために進撃中，長久手で家康軍の奇襲を受けて敗北，長可らは戦死した。のち大きな戦いのないまま小牧・犬山付近に対陣して，11月秀吉は信雄と和したため，家康は交戦理由である信雄援助の名目を失って岡崎に帰った。1585年秀吉は家康と和解し，妹朝日姫を家康にとつがせた。〔松尾　涼〕

こまきまさひで【小牧正英】(1914～　) 舞踊家。岩手県生まれ。1942年(昭和17)上海(シャンハイ)バレエ-リュス*の第1舞踊手，振



コ マ ク サ

り付け師となる。1946年帰国，同年貝谷八百子(やおこ)・島田広らと東京バレエ団を結成，《白鳥の湖》を上演して成功を収め，第2次世界大戦後のバレエブームに先鞭(せんべん)をつけた。1949年小牧バレエ団を組織，《受難》(芸術祭賞受賞)《牧神の午後》を上演。一方，1952年にはソニヤ-アロワ，その翌年にはノラ-ケイ*を招くなど，バレエ発展に果たした役割は大きい。〔高橋孝一〕

こまきやま【小牧山】 愛知県北西部，小牧市の西部にある標高86mの小丘で，濃尾平野の中に孤立する。中世に馬市が立ったので駒来(こまき)山・曳馬(ひきま)山の名があった。織田信長(のぶなが)が城を築き，小牧・長久手の戦い*の古戦場として知られる。

こまく【鼓膜】 外耳道と鼓道との境界にある音の伝導に関与する膜性器官。楕円(だえん)形で直径約1cm，厚さ0.1mm。外耳道側から順に皮膚層・固有層・粘膜層の三つの層からなり，血管・神経に富んでいる。鼓室*側の鼓膜の上部から中心部にかけて槌骨(つちこつ)の柄が密着していて，鼓膜の振動がこの槌骨から砧(きぬた)骨，さらに鐙(あぶみ)骨へと増幅伝導される。中耳炎*が鼓膜に波及して穿孔(せんこう)すると耳だれ*を起こす。

こまくきかん【鼓膜器官】 こん虫のもつ聴覚器官の一種。体表のキチン質が変形した薄膜状の鼓膜と，そのそばにある弦音器官とからなる。鼓膜の内面には空所があり，鼓膜の振動が直接弦音器官に伝わらず，第2の膜を通して弦音器官を刺激するものもある。刺激は弦音器官にある感覚細胞を興奮させ，中枢に伝わる。鼓膜器官の存在する場所は種類によって差異があり，バッタは第1腹節の両側，コオロギなどは前脚脛節(けいせつ)の基部で，特に高音に敏感である。〔蒲原春一〕

こまくさ【駒草】 双子葉植物・ケシ科。高山植物の代表で，本州中部以北の高山の砂礫地(されきち)にまれにはえる多年草。根はひげ状。葉は根もとからはえ，羽状に細く裂け，緑白色。夏，根もとから柄を出し，先がたれ下がって数個の紅紫色の花をつける。4枚の花弁のうち外側の2枚は基部がボート状で先端はそり返る。内側の2枚は下方が狭く，先は合着して先端に飛び出している。がく片は2枚。花はかれんで美しく，登山者に親しまれているが，ほとんどの地域で採集が禁じられている。全草にアルカロイドを含み，鎮痛薬として用いられたことがあり，また，長野県の御岳では〈おこまぐさ〉といい，かわかしたものを登山者が受けて持ち帰ったという。〔小清水義隆〕

ごまさば【胡麻鯖】 ⇨サバ

こまし【高麗氏】 高句麗*(こうくり)から渡来した古代の帰化*系氏族名。668年高句麗は滅亡したが，それ以前に帰化していた高句麗人は，主として技芸民で朝廷に仕え，いくつかの小氏を形成し，狛の字をあてて，すべて狛(こま)氏を称した。高句麗滅亡後，多数の亡命民が渡来し，東国に配置された。そのうち，本国で王族層であった者は高麗氏を称し，上層帰化人として栄えた。埼玉県入間郡には，高麗氏関係の遺跡が多く残っている。〔高崎徳次〕

ごましじみ【胡麻小灰蝶】 こん虫類・鱗翅(りんし)目・シジミチョウ科。シジミチョウ科の中では比較的大形で，翅(はね)を広げた長さ40mm内外。形態・色彩ともにきわめて変化が多い。雄の翅表は灰色をおびた青色で光沢がなく，黒かっ色の斑紋(はんもん)があり，翅縁は幅広く黒かっ色に縁どられる。翅の裏面は淡い灰かっ色，翅の外半部に2列の黒色の円紋があり，そのほか外縁に沿って不明瞭(ふめいりょう)な暗色の斑紋がある。雌の翅表は黒かっ色，翅底部には少量の青色鱗粉が散布し，明瞭な斑紋がない。裏面はかっ色が濃く，外半部に2列の黒かっ色の斑紋列がある。サハリン(樺太(からふと))・北海道・本州・九州・朝鮮に分布し，サハリンと北海道では平地に普通にみられるが，その他の地方ではおもに山地に生活し，成虫は7～9月に出現する。日あたりのよい草原を好み，ワレモコウ類の花穂に産卵する。幼虫は花穂の内部に食い入って成長し，3齢になると地上におり，クシケアリに運ばれてその巣中にはいり，以後はクシケアリの幼虫を食べて成育し，幼虫態のまま越冬する。アリは幼虫の蜜腺(みつせん)から分泌する蜜をなめる。近縁のオオゴマシジミは，翅表はゴマシジミに酷似するが，裏面は黒かっ色の斑紋が大きく，特に後翅が濃い灰緑青色をおびており，一見して区別できる。北海道・本州・朝鮮・アムール川流域地方などに分布し，成虫は7～8月に出現する。ゴマシジミとは対照的に，湿潤な森林帯の渓流(けいりゅう)などを好み，種種の花を訪れる。卵はシソ科のカメバヒキオコシ・クロバヒキオコシなどの花穂に産下され，若齢幼虫はこれを食べる。3齢以後の幼虫はゴマシジミと同様クシケアリの巣中に運び込まれ，その幼虫を食べて成長し，そのまま越冬する。〔鈴木邦雄〕

コマーシャルメッセージ［commercial message］ コマーシャルまたはCM(シーエム)ともいう。商業放送*で番組を提供するスポンサー*がその番組に挿入(そうにゅう)する自社の商品や事業の広告文句などをいう。日

本民間放送連盟の〈ラジオ放送基準およびテレビ放送基準〉によって，一つの番組で占める時間の割合が決められ，短時間番組では2割以内，30分以上の番組では1割以内に制限されている。コマーシャルにはCMソングのように歌ったり，有名人が説明したり，実演したりする種々の方法がある。なお，番組と番組との中間に単独ではいる15～30秒程度の広告はステーションブレークあるいはスポットアナウンスといってCMと区別される。　〔飯田良明〕

こましゅうさ　【こま収差】　広義の球面収差の一。非対称収差ともいう。対称軸をもつ光学系で，この軸の外にある1点から出た光線が1点に集まらず，近軸光線に対する像面で彗星(すいせい)のように尾を引いた像となる現象である。その頂角は60°である。この収差は正弦条件といわれる条件を満足させて取り除くことができる。

こませ　つりや敷き網*漁業で，魚を集める目的でまくえさ。こましともいう。魚の好物であるアミ類やシラスを塩づけにしたもの，魚肉を細かくひいたもの，さなぎの粉，小麦粉，米ぬかなどが用いられる。アジ・サバのてんびんづりでは，てんびんと称するしかけに取り付けられた小さな網袋にこませを入れ，海中で上下動させて振りまく。敷き網漁業では，網を張ったのちにまく。

ごまだらおとしぶみ　【胡麻斑落文】　こん虫類・鞘翅(しょうし)目・オトシブミ科。口吻(こうふん)を除く体長6.5～8.0mm。体は黄かっ色で，背面には黒色の斑紋(はんもん)が散在し，後胸と腹部はふつう大部分黒色。背面の黒色斑紋はしばしば融合して，全体が黒色を呈することもある。頭部と前胸背板にはしわが多く，鞘翅には各4条の縦隆起線が走る。日本全国に分布し，成虫は4月ごろから出現して，クリ・クヌギ・ナラ・ブナなどの葉を巻いて揺籃(ようらん)をつくり，その中に産卵する。近縁のヒメゴマダラオトシブミは，やや小形で，口吻を除く体長6mm内外，体色は黄赤かっ色で，背面に黒色斑紋をもち，鞘翅の後方両側に大きなこぶ状突起がある点で容易に区別できる。北海道・本州・九州に分布し，成虫はケヤキなどの葉を巻いて揺籃をつくる。

ごまだらかみきり　【胡麻斑天牛】　こん虫類・鞘翅(しょうし)目・カミキリムシ科。体長24～35mm。体は光沢の強い真黒色，腹面および脚には青白色の短毛が全面に密生する。鞘翅には多数の不規則な白色の斑紋(はんもん)が散在する。前胸背板の両側には先端がとがった突起がある。日本全土のほか，台湾・朝鮮・中国などに分布する。きわめて普通にみられる種類で，成虫は6～8月に出現し，燈火にもよく飛来する。幼虫は，クワ・ミカン類・イチジク・ヤナギその他多数の広葉樹の樹幹根部に穿孔(せんこう)してしばしば大害を与える。クワゴマダラカミキリ・ホシカミキリ・ゴマカミキリ・ヤナギカミキリ・ケキリムシなど，多くの別名・俗称がある。



ゴマダラチョウ

ごまだらちょう　【胡麻斑蝶】　こん虫類・鱗翅(りんし)目・タテハチョウ科。翅(はね)を広げた長さ70mm内外。翅の地色は黒色で，かすかに緑色の光沢をおび，白色の大小の斑紋(はんもん)が多数ある。翅の裏面は淡色で，斑紋は表面とほぼ同じ。日本全土のほか朝鮮・中国・台湾に分布する。年に2～3回発生し，春型は5～6月に出現して一般に大形，夏型は7～8月，日本の西南部の暖地では9～10月に第3化のものが発生する。樹上や樹間を旋回して飛翔(ひしょう)し，好んでクヌギ・タブノキなどの樹液に集まる。幼虫はエノキ・エゾエノキなどのニレ科植物の葉を食べる。幼虫はナメクジ状で，頭部に顕著な2本の角状突起があり，冬季は食樹の根ぎわの落葉の裏面やまれに樹幹上などで越す。なお，奄美(あまみ)大島には近縁のアカホシゴマダラが分布する。これは，翅表の斑紋が黄緑色をおび，後翅の外縁部に沿って赤色の眼状紋の列があるなどの点で区別できるが，幼虫やさなぎの形態および成虫の習性はゴマダラチョウに酷似する。台湾・朝鮮・中国などにも広く分布する。〔鈴木邦雄〕

こまちそうし　【小町草紙】　御伽草子*(おとぎそうし)の一。老いた小野小町が観音の来迎(らいこう)を念じているところに，在原業平(ありわらのなりひら)が訪れて歌物語をし，小町は過去のざんげをする。小町は漂泊の旅に出，奥州玉造の小町で没す。業平はその地を訪れて小町の亡霊に会う。当時盛んに行なわれた小町伝説*の一つで，仏教色の強いのは時代の風潮である。

こまちでんせつ　【小町伝説】　平安時代の歌人，小野小町*にまつわる伝説。全国に数えきれぬほど多くの生地・墓地と称する所があり，たとえば群馬県富岡市相野田小町山得成寺は小町が滞在し，仏と歌問答をしたと伝えられ，愛媛県松山市にも類似の伝説がある。小町伝説が歌問答を伴って日本各地に伝えられているのは，中世以来の歩き巫女(みこ)をはじめとする下級宗教者，遊行婦女群が説いて歩いたためとされる。

こまつ　【小松(市)】　石川県南部の市。江戸時代は北国街道の宿場町で，加賀藩第3代藩主前田利常(としつね)が隠居地である小松城にはいって産業を興してから，小松絹で知られる機業地として発展した。1940年(昭和15)市制施行。人口105,000。市域は金沢平野南部，梯(かけはし)川が蛇行(だこう)する低湿地に位置する。産業三大別人口比は8：45：47。在来工業に，絹・人絹織物があり，特に綸子(りんず)・縮緬(ちりめん)の産が多かったが，近年は小松製作所をはじめとする重工業が発達している。また，九谷焼や低湿地で栽培されるイグサを用いる畳表の生産も知られ，その販売網はかなり全国的である。北陸本線に沿い，東京および名古屋へ定期便の出ている小松空港があり，金沢市と結ぶ国道8号線は県下で最も交通量が多い。《勧進帳》などで知られる安宅(あたか)の関跡が梯川の河口近くにある。

こまつ　【小松(町)】　愛媛県の中央部，周桑郡にある町。人口10,000。もと一柳氏一万石の陣屋町であった。予讃(よさん)本線が通り，国道11号線と196号線の分岐点である。石鎚(いしづち)山の表登山口にあたり，夏季は登山客でにぎわう。また，四国八十八か所61番の香園(こうおん)寺は子安観音として有名である。この付近は愛宕(あたご)ガキの本場で，近年ミカンの栽培も盛んである。

こまつしま　【小松島(市)】　徳島県東部の市。小松島港は紀伊(きい)水道に臨む天然の良港で，中世には仁和(にんな)寺の荘園(しょうえん)で篠原(しのはら)郷とよばれ，以来徳島の外港として，四国東部の門戸をなしてきた。1951年(昭和26)市制施行。人口45,000。地名は仁和寺が京都の小松郷にあったことにちなむ。市域は小松島湾沿岸一帯にわたり，神代瀬(かんだせ)川をはさんで，南岸には古くからの商業地，北岸には大正初期の鉄道開通以来発展した新開地が開ける。産業三大別人口比は20：28：52。小松島湾は打瀬網(うたせあみ)漁を中心とする沿岸漁業が盛んで，干しえび・ちくわ・かまぼこなどの水産加工も行なわれる。最近は海岸部にセメント・木工・鉄鋼などの工場も誘致されて，那賀(なか)川総合開発の進行と港湾施設の整備に伴い，新興工業都市としての発展が期待されている。牟岐(むぎ)線に沿い，北隣の徳島市との間に小松島線が通じ，国道55号線が海岸沿いに走る。海上自衛隊のヘリコプター基地があり，対岸の和歌山市にフェリーボートが通ずる。

こまつせいさくしょ　【小松製作所(株)】　建設機械の総合メーカー。特にブルドーザー生産では，世界のトップメーカーであるアメリカのキャタピラー-トラクターカンパニー*に次ぎ，国内市場でも占有率60％を上回る。1921年(大正10)に設立され，第2次世界大戦後にいちはやく建設機械の製造に着手し，1964年(昭和39)には品質管理の最高栄誉〈デミング賞*実施賞〉を受賞した。1965年に中国向けの大量輸出に成功したの

をはじめ，アメリカ・ブラジルなどに現地法人による販売会社を設立するなど，海外市場に積極的に進出している。本社東京。資本金372億600万円，年間売上高4,568億円，従業員数16,842(1980年6月)。

こまつな【小松菜】双子葉植物・アブラナ科の一年生または二年生の草本。東京都江戸川区小松川町原産のつけ菜類の一種で，葉・茎を食用とし，東京を中心とした関東での栽培が多い。葉は長いが幅はあまり広くなく，切れ込みも少ない。一般に早生で大株にはならないが，地域的に類似した品種が分布しており，関東では冬季の重要なつけ菜になっている。

こまつなぎ【駒繋】双子葉植物・マメ科。日あたりのよい山野に多い草状の小形低木。幹は径1.5cmになり，高さ60～100cmでよく分枝する。枝は細く緑色。葉は互生し，短柄をもつ奇数羽状複葉。小葉は倒卵形。若枝や葉の両面に伏毛が多い。夏から秋に葉腋(ようえき)に花柄を出し，総状花序に紅紫色の蝶(ちょう)形の花をつける。果実は3cmほどの豆果で，さやの中に数個の種子がある。この種にはキアイ・タイワンコマツナギ・ナンバンコマツナギなど藍(あい)をとる植物が知られ，藍染料の合成ができるまで，熱帯地方では多く栽培された。

〔横井朝子〕

こまどり【駒鳥】鳥類・ツグミ科。ほぼスズメ大で，体に丸みがある。胸と上面は橙(とう)かっ色，腹部は灰白色。夏鳥として渡来し，亜高山帯の森林内部で繁殖する。ウマのいななくような〈ヒンカラカラカラ〉とよい声で鳴くのでこの名がある。なお，ロビン*をわが国では駒鳥と訳すが，これは別の鳥である。

ごまな【胡麻菜】双子葉植物・キク科。山地にはえる多年生草本。茎は高さ1～1.5m。葉は長楕円(ちょうだえん)形で両端がとがり，縁にあらい鋸歯(きょし)がある。夏の終わりから秋にかけて，茎の先に多数の枝を伸ばし，その先に直径約1.5cmくらいの頭花を多数つける。周囲の舌状花は白色，中央花は黄色。

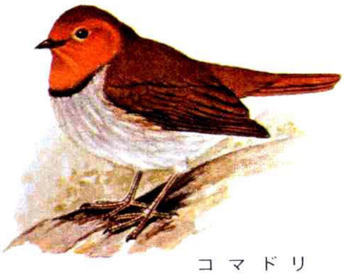
こまねずみ【独楽鼠】哺乳(ほにゅう)類・齧歯(げっし)目・ネズミ科のハツカネズミの畜用品種。マイネズミともいう。東アジア系のハツカネズミの突然変異を固定した品種で，形態は異ならないが，内耳の蝸牛殻管(かぎゅうかくかん)に異常があるため，こまのように回転する奇習をもつ。遺伝実験用として重要。➔ハツカネズミ

ごまのだんざん【護摩壇山】紀伊(きい)山脈西部の伯母子(おばこ)山脈中の高峰で，和歌山・奈良県境にそびえる。標高1,370mで，和歌山県の最高峰である。西は日高川の水源をなす深い谷で，龍神(りゅうじん)温泉がある。北の高野山から尾根づたいに龍神スカイラインが通じ，付近は高野龍神国定公園となっている。

ごまのはい【護摩の灰】江戸時代に街



コマツナギ



コマドリ

道に出没した小盗人。道中に道連れとなり，すきをみて旅人の財をかすめ取った。語源は元禄(げんろく)年間(1688～1703)に高野聖*(こうやひじり)と偽称して偽造した弘法(こうぼう)大師の護摩*の灰を売り歩いた偽装者に由来するといわれ，〈護摩化す〉という語の語源もここにあるといわれる。

ごまのはぐさ【胡麻葉草】双子葉植物・ゴマノハグサ科。やや湿った草原にはえる多年草。茎は枝分かれせず直立し，高さ約1m。葉は対生し，柄があって，長卵形で先がとがり，縁に鋸歯(きょし)がある。夏，茎の先につぼ状で先が5浅裂した小さな黄緑色の花を穂のようにつける。根を干したものは玄参(げんじん)といい，漢方では消炎薬としてのどの炎症や腫瘍(しゅよう)に用いられる。葉の形がゴマの葉に似るところからこの和名がある。ゴマノハグサ科の植物は，3,000種ほどあり，世界に広く分布し，特に温帯に多い。多くは草本または低木で，まれに小高木のものがある。花は合弁花で，形は多くはくちびる状，まれにつり鐘状である。日本にはゴマノハグサのほか，キクモ・クワガタソウ・イヌノフグリ・クガイソウ・ウルップソウ・コゴメグサ・シオガマギクなどが自生する。古くから栽培されるものにキリがあり，観賞用としてはキンギョソウ・キンチャクソウなどがある。

〔小清水義隆〕

ごまはがれびょう【胡麻葉枯れ病】イネ・トウモロコシ・アワなどの病害。おもに葉に小さなごま粒状のかっ色斑点(はんてん)を生じ，拡大すると楕円(だえん)形，黒かっ色，内部に輪紋をもつ病斑となる。下葉から発生し，病葉は黄色くなって枯れる。イネでは苗代(なわしろ)後期と出穂以後に発生が多い。秋落ち田*や肥料不足の場合に多発する。病原菌はかびの一種で，被害わら・もみに菌糸または胞子がついて越冬する。発生防止には被害わらを水田周辺に放置せず，秋落ち田では客土を行ない，堆肥(たいひ)を施す。

〔渡辺　実〕

こまぶえ【高麗笛】狛笛とも書く。雅楽の高麗楽で用いる横笛。三鼓(さんのつづみ)とともに唐楽とは異なる楽器編成の特徴をなすもので，龍笛(りゅうてき)より長2度高く，指孔は神楽笛(かぐらぶえ)と同じく六つある。合奏での役割は唐楽の龍笛と同じであるが，装飾的な働きは龍笛よりもはっきりしており，音色は哀切で龍笛よりも力強さに欠ける。

ごまふかみきり【胡麻斑天牛】こん虫類・鞘翅(しょうし)目・カミキリムシ科。体長10～17mm。体は黒色で，全面に橙黄(とうおう)色の毛塊からなる不規則な斑点(はんてん)を散在する。鞘翅は長方形で，基半部には粗大な顆粒(かりゅう)状点刻が密布し，翅端は丸い。脚は短く太い。日本全土のほか，サハリン(樺太(からふと))・朝鮮・中国北部などに分布する。成虫は4月ごろから出現して9月ごろまで普通にみられ，広葉樹の樹液に好んで集まる。幼虫は，クワをはじめとする種種の広葉樹の枝幹の枯死部内で生活する。同属のナガゴマフカミキリはやや大形で，体長15～21mm。黒色の地に，黄かっ色と灰白色の毛を密生し，全面に黒色の斑紋を散在する。鞘翅には前から約1/3と2/3の位置にそれぞれ数個の長形の黒色斑紋が波線状に配列する。日本全土のほか台湾に分布し，成虫は6～9月に出現してヤマザクラなどに集まり，燈火にも飛来する。幼虫はクヌギの朽ち木やミカン類の根幹部に穿孔(せんこう)する。このほか，同属の近縁種が日本だけでも10種近く知られ，いずれもよく似ていて同定もむずかしい。〔鈴木邦雄〕

ごまめ　田作り・小殿原(ことのばら)ともいう。カタクチイワシを水で洗い，日干しにしたもの。形が整って銀白色の光沢のよいものが良品。頭・骨と全部食べられ，栄養価が高い。〈ごまめ〉は健康を，〈田作り〉は豊年を，〈小殿原〉は子孫繁栄を願うことからつけられた名で，正月料理に欠かせない材料とされる。

こまゆばち【小繭蜂】こん虫類・膜翅(まくし)目・コマユバチ科。全世界から約5,000種が知られ，多くの亜科に分類されている。体長は2～6mmの小形の種が多いが，ウマノオバチの雌のように体長20mm内外で約150mmの産卵管をもつような種もある。形態・色彩はきわめて変化に富む。温帯および熱帯地方に種類が多く，寒帯地方には少ない。日本にも多数の種が産するが，微小な種が多く，また大半の種が寄生性であるために研究が不十分である。多くの種は，鱗翅(りんし)目・鞘翅目・双翅目などの幼虫の体内に寄生し，一般に寄主がさなぎになるまえに皮膚を破って体外に脱出し，小さい

繭をつくってさなぎになるが，寄主の体内でさなぎになる種類もある。寄生性であるために，農林業上の害虫の天敵として重要な益虫も少なくない。日本には，オナガコマユバチ亜科・コマユバチ亜科・オオモンコマユバチ亜科・コウラコマユバチ亜科・ヒゲナガコマユバチ亜科・フチナシカシラコマユバチ亜科・カモドキバチ亜科・ウマノオバチ亜科の８亜科に属する多数の種が知られている。そのうち，天敵として重要な種類には，ニカメイチュウに寄生するズイムシヤドリバチ・アオモリコマユバチ，モンシロチョウの幼虫に寄生するアオムシコマユバチ，ブランコケムシに寄生するブランコヤドリバチ，ワタノメイガの幼虫に寄生するワタノメイガコウラコマユバチ，ナシヒメシンクイムシに寄生するタテスジコマユバチ・シンクイコウラコマユバチ・ヒゲナガシンクイヤドリバチ，クワノメイガの幼虫に寄生するキマダラヒゲナガコマユバチ，オウトウミバエの幼虫に寄生するオウトウミバエコマユバチ，クワエダシャクの幼虫に寄生するカモドキバチ，カミキリムシ類の幼虫に寄生するウマノオバチなどがある。〔鈴木邦雄〕

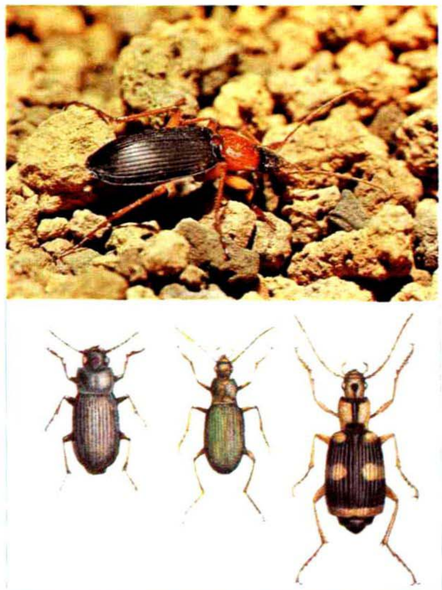
コマンドル(諸島)［Komandor］カムチャツカ半島の東176kmのベーリング海にある群島。コマンドルスキー・コマンダーともいわれる。ソ連領。二つの小島群からなり，ベーリング島やメドニー島を含む。総面積は2,200km²。住民はアリュート人で，漁業とアザラシなどの海獣猟を営んでいる。コマンドルの名は，1741年この島を発見したロシアの探検家ベーリングがコマンドル(隊長)位であったことにちなむ。

コミ(自治共和国)［Komi S.S.R.］ソビエト連邦を形成する，ロシア連邦共和国内の自治共和国。北ウラル丘陵の北方に位置し，ウラル山脈北部が東の境をなす。主都シクチフカル。面積41万6,000km²。人口102万3,000(1975)。ペチョラ川流域の低地帯と低い丘陵からなり，全土の90%が針葉樹林におおわれる。最北部はツンドラ地帯である。住民はおもにコミ人・ロシア人・ネネツ人で，ウラル系のコミ人とロシア人が南部に，ネネツ人が北部に住む。南部ではライムギ・エンバク・ジャガイモなどの栽培と酪農，北部ではトナカイ飼育などを行なっている。石炭・石油・天然ガス・鉄鉱・岩塩などの埋蔵が多く，これらの資源開発のため1941年から約10年をかけて中心部から同自治国北端に至る鉄道が敷設された。ペチョラの炭田，ウフタの油田などはなおも開発が進んでいる。また南部のビチェグダ川流域の木材加工業は重要である。1921年コミ自治州となり，1936年自治共和国となった。〔斎藤晨二〕

コミスコ［COMISCO］Committee of the International Socialist Conferenceの略称。国際社会主義者会議委員会。

後水尾天皇





ゴミムシ　(上)セアカゴミムシ　(下)左から，ゴミムシ，アオゴミムシ，ミイデラゴミムシ

1947年11月，コミンフォルム(→インターナショナル)に対抗するため，ベルギーのアントワープに設置された社会主義*に関する情報の交換・連絡機関。反資本主義であるが共産主義とも一線を画し，社会主義を民主的社会主義によって樹立することを目的とする。社会主義インターナショナル*の母体となった。〔広部和也〕

ごみずのおてんのう【後水尾天皇】(1596～1680)　在位1611～1629年。名は政仁(ことひと)。後陽成(ごようぜい)天皇の第３皇子。母は中和門院藤原前子(さきし)。法名円浄。1620年(元和６)２代将軍徳川秀忠(ひでただ)の娘和子(かずこ)を中宮とした。幕府が禁中並公家諸法度*(きんちゅうならびにくげしょはっと)を制定し，皇室に干渉・圧力を加えるのに反発した。1629年(寛永６)紫衣(しえ)事件*に激怒して和子を母とする興子(おきこ)内親王(明正天皇)に譲位し，以後明正・後光明・後西・霊元４代にわたって院政*を行なった。詩歌を好み，学問を奨励し，仏教に帰依した。また洛北(らくほく)に修学院離宮*を造営した。陵墓は京都市の月輪(つきのわ)陵。〔松尾　涼〕

コミッショナー［Commissioner］主としてプロスポーツで，機構の健全な発達を果たすために，組織の最高機関の代表として最高の権限を与えられた人。わが国ではプロ野球，プロボクシング・プロレスリングなどにコミッショナー制度を設け，事務局をおいている。日本のプロ野球では，1951年にこの制度が生まれ，セントラル・パシフィック両リーグの12球団の４分の３の賛成を得て任命されて，任期は３年(重任も可)，紛争や不祥事の裁定・制裁を決め，実行する。予算は各球団の納入金・日本選手権シリーズ・オールスター-ゲームの収入でまかなわれている。ボクシングでは日本ボクシング協会を代表し，タイトルマッチ，選手の認定，健康管理などを実行または決定する。〔伊東春雄〕

こみねかえで【小峰楓】双子葉植物・カエデ科。本州・四国・九州の山野に自生する落葉小高木。葉は対生し，赤色の葉柄があり，掌状に５深裂し，裂片は先がとがる。裏面の脈に紅かっ色の毛がある。夏，総状花序に帯紅黄色の花をつける。果実の翼は一直線に開き，長さ２cmくらい。➜カエデ

こみみずく【小耳木菟】鳥類・フクロウ科。全長40cm弱の短い角羽のある中形のフクロウで，全体に黄かっ色。北半球北部および南アメリカ南部に広く分布し，日本には冬鳥として渡来する。草原・川原・耕地などにおり，昼間も姿を現わして狩りをする。冬季はまったく鳴かない。

ごみむし【芥虫】こん虫類・鞘翅(しょうし)目・オサムシ科。体長12～14mm。ふつう黒色だが，鞘翅がかっ色のものや青銅色様の金属光沢をもつ個体もある。前胸背板には細い横しわと小さい点刻を散布し，中央に細い１本の縦溝(じゅうこう)がある。鞘翅には多数の縦溝がある。日本全土のほか，朝鮮・中国・シベリア・ヨーロッパまで広く分布する普通種である。石・ごみ・落ち葉などの下に潜み，夜間活動して他の小こん虫類の幼虫や成虫を捕食するが，イネ科植物の種子などを食べることもある。成虫態で越冬し，翌春の３月ごろから活動を始める。日本には近似種が多数あるが，いずれも胸部の形態が多少異なる。広義のゴミムシは，オサムシ科中のいわゆるオサムシ類を除く小形ないし中形の種の総称で，20,000種以上が知られ，温帯地方に最も種類が多く，日本からも約1,000種類が発見されている。微小な種や近似種の多い群についての研究はまだ不十分である。体の大きさ・色彩・形態，生活場所などはきわめて変化に富む。体の大きさは，ミズギワゴミムシ類のある種のように体長１mm内外の微小種から，体長50mmに達するような大形種まである。黒色やかっ色・黄色などの地色の種が多く，それに黄色・赤色・青色・銅色など種々の色彩の斑紋(はんもん)や金属的光沢のあるものが多い。鞘翅は完全か，ときに先端部が切断されたように短い。後翅はふつうよく発達しているが，洞穴生(どうけつせ

い)の種では複眼とともに退化している。多くは夜間活動性で，他のこん虫類の幼虫や成虫のほか，ミミズ・カタツムリなどの小動物を捕食する。また，多くの種は燈火によく飛来する。生活場所は，地中・地上・樹上・洞穴などほとんどあらゆる場所を占め，それぞれの環境に適応した種類がある。また，多くの種類の成虫には，外敵に捕えられると腹部末端から悪臭を放つ液を分泌したり，爆発音を伴うガスを発射したりする習性がある。卵は一般に地中に産下され，幼虫は土中に隠れて生活し，また草むらやごみなどの中，石の下，樹皮下などに潜み，夜間活動する。成虫の寿命は比較的長く，数か月に及ぶ。成虫か幼虫態で冬季を越す種類が多い。ミイデラゴミムシ・アオゴミムシ・ゴモクムシ・セアカゴミムシ・マルガタゴミムシ・オサムシモドキ・ヒョウタンゴミムシ・マルクビゴミムシなどが日本に産する代表的なものである。〔鈴木邦雄〕

ごみむしだまし【偽歩行虫】こん虫類・鞘翅(しょうし)目・ゴミムシダマシ科の総称あるいはそのうちの一種をいう。ゴミムシダマシは体長13～17mmで，体は黒かっ色，体の腹面と脚は暗かっ色。前胸背板は外縁が丸みをおびる。鞘翅には各9本の点刻による縦溝(じゅうこう)がある。北海道・本州・九州のほか，朝鮮・シベリア・ヨーロッパ・北アメリカなどに広く分布し，夏季朽ち木にみられる。ゴミムシダマシ科は，大きな群で，全世界から約15,000種が知られる。きわめて多様な群で，学者によってはいくつかの科に細分している。形態はきわめて変化に富んでおり，円筒形のものや扁平(へんぺい)のものが多いが，表面に種々の形状の突起をもつもの，鞘翅が膜状に拡大したもの，胸部が著しく伸長しているものなどもある。体の大きさは，体長3mm内外の微小種から30mmを越える大形種まである。体の色彩は黒色やかっ色の種類が多い。夜間活動性の種類が多く，刺激に対して擬死を装ったりする。活動はあまり活発ではなく，臭気を発する種類も多い。多くの種は，食植物質性で，枯死あるいは腐敗した植物質や，種子・貯穀類・きのこ類などを食べる。幼虫は円筒形で，成虫と同様な場所に生活する。貯穀類や貯穀粉類につくチャイロコメゴミムシダマシ・コメノゴミムシダマシ・コクヌストモドキなどの害虫は，世界に共通に見いだされる。そのほか，砂地に多いスナゴミムシダマシ・ホネゴミムシダマシ，きのこ類につくオニゴミムシダマシ・モンキゴミムシダマシ・コブスジゴミムシダマシ，朽ち木に多いキマワリ・ヒゲブトゴミムシダマシ・ニジゴミムシダマシ，テントウムシに似た形のテントウゴミムシダマシなどが日本に産する代表的な種類である。〔鈴木邦雄〕

ごみやすすけ【五味康祐】(1921～1980) 小説家。大阪市の生まれ。早稲田大学在学中に大陸へ応召。1953年(昭和28)剣豪小説《喪神》で芥川(あくたがわ)賞を受賞，つづいて忍者ものの長編《柳生武芸帳》を発表して，剣豪・忍者ブームの端緒となった。

こみやとよたか【小宮豊隆】(1884～1966) 評論家。福岡県の生まれ。東京大学独文科卒後，ドイツに留学，帰国後東北大学教授・東京音楽学校校長・学習院大学教授を歴任，その間評論の筆をとり，その活動は文学・演劇の方面に著しい。また，学生時代から夏目漱石(そうせき)のもとに出入りし，その高弟としても著名。著作に《芭蕉(ばしょう)の研究》《夏目漱石》《演劇評論》などがある。

コミュニケーション［communication］なんらかの記号や象徴によって一定の意味内容を他人に伝達し，一定の効果を発生させる過程をいう。その伝達方法には，身ぶり・表情など記号によるもの，絵・文字・言語などシンボルによるものがある。それらが一定の意味をもって送り手から受け手へと伝達される。伝達の過程で両者の人格的接触の有無によって対人コミュニケーションとマスコミュニケーションに区別される。マスコミュニケーションは，送り手が集団の形態をとり，受け手は不特定な大衆として匿名性の中に置かれ，巨大なメディアからの一方的伝達である点が，相互伝達を基本形とする対人コミュニケーションと異なる。伝達技術の驚異的な進歩のもとで，コミュニケーション効果もまた深刻な問題を示している。〔名生尚志〕

コミュニズム ⇨共産主義

コミュニティー［community］共同社会・基礎社会・地域社会などの訳語があるが，それぞれ意味を若干ことにしている。一般的には，血縁関係を含みながら，主として地縁によって成立した集団をさしている。その属性としてあげられるものは，自然発生的であり，一定の地域に居住し，包括的な欲求を充足し，強い共属意識にささえられ，共通の価値感・言語・行動規範・生活様式をもっていることなどである。この用語を特に社会学の基本概念として提出したのはマキーバーで，アソシエーション(人為的につくられた集団。企業体・国家・学校などがその例)との対比において考察し，人の社会的諸関係のすべてがその内部で見いだされ，地域性と共同体感情によって基礎づけられているようなものとした。しかし，これは実体概念というよりは社会分析のための理念型的社会類型として与えられたものである。〔国近浩一〕

コミュニティー-チェスト ⇨共同募金

ごみんかん【護民官】古代ローマ国家の重要な官職。その役割は，国家の正式の官職である政務官の行なう行政・立法・選挙や元老院議決に対して拒否権を行使し，プレブス(平民)の利益・身体を守るために干渉することであった。BC495年のプレブスとパトリキ(貴族)との抗争に際して両者の妥協として設置されたとも，BC471年にはじめて4人の護民官が設置されたともいう。その数はBC449年までに10人に固定した。護民官は相互に拒否権を行使して同僚の行なう干渉権・拒否権を妨げえたので，しばしば元老院に利用され，護民官の存在は骨抜きにされた。護民官は平民会を招集して会議の議長となったが，BC287年以後平民会の決議は元老院の同意を経なくてもそのまま国法と認められた。さらに紀元前2世紀からは護民官職の経歴が元老院入りの資格として認められ，元来反国家権力的機能をもっていた護民官は政務官経歴の一つとなった。こうして元老院の傀儡(かいらい)になり下がろうとした護民官職を本来の革命的性格に回復させたのはグラックス兄弟で，彼らはそのために生命を失った。なおアウグストゥスは，みずから護民官職につくことなく権限としてだけ付与された護民官職権と，護民官が職務遂行のために与えられていた神聖不可侵権とを獲得し，皇帝権限の重要な柱とした。〔弓削 達〕

コミンテルン ⇨インターナショナル

コミンフォルム ⇨インターナショナル

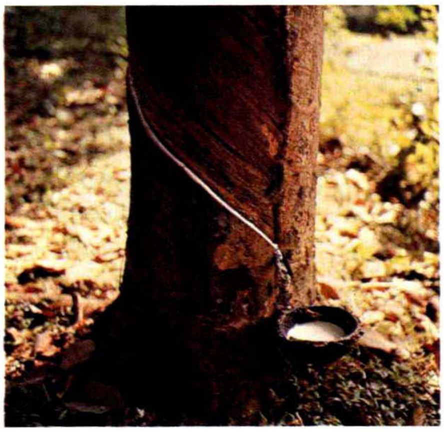
ゴム 英語のガムからきたことばで，本来は植物の樹皮から分泌する乳状の粘りのある液体または樹脂を意味するが，ふつうゴムといえば，小さい力で大きく伸びたり縮んだりする性質(ゴム状弾性)をもつ弾性ゴムをさし，これは英語のラバーに相当する。アラビアゴム・トラガントゴムなどは前者の意味では確かにゴムであるが，後者の意味のゴムではない。ここでは後者の意味でのゴムについてのみ解説する。**〈種類〉**天然のゴムノキの分泌液を原料とする天然ゴムと，主として石油化学製品である低分子化合物を重合させてつくる合成ゴムとがある。天然ゴム・合成ゴムともそのままではゴム状弾性は十分ではないので，実際には加硫を行なってはじめて弾性の大きないわゆるゴムとなる。加硫を行なうまえの原料ゴムを生ゴムという。天然ゴムはゴム植物の種類，生ゴムの製法によって組成は多少変わっても，本質的にはどれも大差なく，主として後処理の段階で種々の性質のゴムができあがるが，合成ゴムは原料低分子化合物の種類によってきわめて変化に富み，それぞれ特徴をもったゴムができる。

〔歴史〕ラテンアメリカの原地人の間で，12世紀ごろからゴムボールを宗教儀式などに使っていたことが遺跡から明らかである。野生のゴムノキはもともとアメリカ大陸にしかなく，ゴムが西欧人の目に触れたのも，コロンブスの第2次アメリカ航海(1493～1496)の際に，ハイチ島で土人からゴムボールを使った競技を習ったのが最初といわれる。フランスの探検旅行家ラ-コンダミーンは1735年から8年間にわたるアマゾン川流域の探検についてのパリ学士院への報告で，

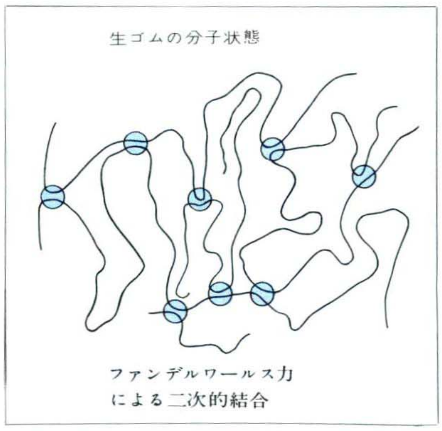
原地人がゴムを防水布などに利用しているようすを述べている。18世紀中ごろから，ゴムはまず消しゴムとしてヨーロッパの市場に登場，イギリスの科学者プリーストリーは〈西インド諸島でとれたこするもの〉の意味でインディア-ラバーと命名した。ゴムの利用が工業的に確立されたのは，1839年アメリカの発明家グッドイヤーによって加硫法が発見されてからである。以来，これによってゴム工業は確実なものとなり，今世紀にはいって自動車タイヤの需要とあいまって飛躍的な発展を遂げた。一方，ゴムの需要が増すにつれて，アメリカ大陸に限られていた天然のゴムノキも急速に不足してきたので，1861年ごろからイギリスはセイロンでゴムノキの栽培を始め，これが成功して以来マライ半島・ジャワ島・ボルネオ島と東南アジア一帯でゴムノキの栽培が大規模に行なわれるようになった。現在では，天然ゴムの全生産額の99％以上が栽培ゴムを原料としている。合成ゴムがはじめて工業化されたのは第１次世界大戦中であるが，本格的に実用化したのは第２次世界大戦中のアメリカが最初である。以後，ゴム需要の急上昇に伴って天然ゴムの原料供給が追いつかないこともあり，合成ゴムの工業化は急速に進められた。アメリカでは1965年のゴム総消費量約207万tのうち74％が合成ゴムになっている。西ドイツ・フランス・カナダでも合成ゴムの消費量は天然ゴムの消費量をしのいでいる。わが国では，栽培ゴムの産出地が地理的に近いこともあって合成ゴム工業の本格化はやや遅れたが，1959年(昭和34)を境にあいついで生産開始され，1966年にはゴム総消費量約39万tのうち48％が合成ゴムとなった。

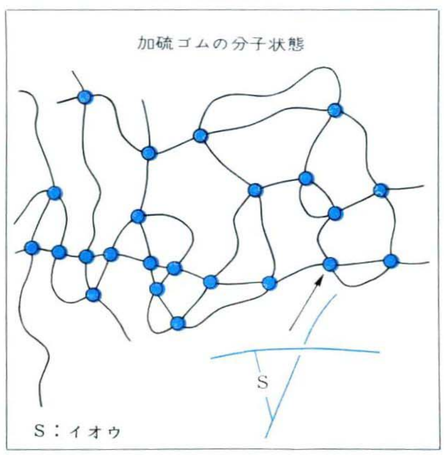
【製法】 ゴム工業には，原料ゴムをつくる工業とゴム製品をつくる工業の二つがある。前者には天然ゴムを原料とするものと合成ゴムを原料とするものの２種があり，工業形態も異なる。また，使い古したゴム製品を粉砕して化学的処理(脱硫)によって可塑化した再生ゴムもゴム工業においては重要な役割を果たしている。ゴム製品を製造する工業では，成形しやすくするために生ゴムをロールで練りあげて可塑性*をもたせる素練り操作，加硫剤・補強剤(充塡剤(じゅうてんざい))・老化防止剤その他の添加物を加えて練る配合操作，加熱または化学的処理で３次元構造化するための加硫操作が行なわれ，これらを経てゴム製品ができあがる。

【性質】 天然ゴム・各種合成ゴムにより，または充塡剤の配合のしかたなどによってその性質はさまざまであるが，ゴム状弾性をもっているという特徴は共通している。ゴムの弾性が，他の固体の弾性と異なるおもな点は，一定の伸びを与える力(弾性率)がきわめて小さく，弾性を示す変形が数～数百パーセントときわめて大きいことと，温度が高いほど弾性率が大きくなることな



ゴ　ム　天然ゴムの樹液の採取





ゴ　ム

どである。このような特異なゴム状弾性が生ずるのは，ゴムを構成する高分子鎖が，互いに相互作用を及ぼし合って全体として網目構造を形成していて，その網目間の鎖が部分的に活発に熱運動(ミクロブラウン運動)をしているためと考えられている。したがって，ゴムの温度を下げていくと，ある点で分子の熱運動がおさえられてしまって，ゴム弾性を示さなくなってしまう。この限界の温度をガラス転移温度とよぶ。反対に，ゴムの温度を上げていくと，しだいに熱運動は活発になって弾性も大きくなるが，生ゴムではある温度を越すと，鎖どうしの２次的な分子力(ファンデルワールス力)によって形成されていた網目構造がなくなり，高分子鎖がおのおのかってに動きだしてしまう(マクロブラウン運動)ので弾性は失われ，可塑性を示すようになる。加硫はこの網目構造を化学結合によって形成させるために行なわれる工程であり，酸化によるゴムの劣化を防ぐとともに，温度上昇による生ゴムの可塑化を抑制するのに重要な役割を果たしている。ひと口にゴムといっても，日常目に触れるものには，輪ゴムのようによく伸びるものや，自動車のタイヤのように黒くてかなりかたいもの，さらにはボーリングのボールのようにかちかちの外見をもつものなど種々さまざまである。同じ生ゴムを原料としているのにこれだけの違いが出るのは，配合剤の種類，中でも加硫剤の量や充塡剤の種類・量による。たとえば，黒色のタイヤには充塡剤として，ゴム100gに対し40～50gのカーボンブラックが配合されているのに対して，かっ色のゴムぐつ底には同じく120gもの上質粘土が配合されている。

【用途】 最近のゴム工業の急激な進展はそのまま自動車工業の発展に直結しているといっても過言ではない。自動車タイヤへの利用は，天然・合成を問わず圧倒的に多い。その他にはベルト・ホースなどの工業用品，はきもの用などに主として使われる。合成ゴムの中でも汎用(はんよう)ゴムとして知られるSBR*など，天然ゴムと大部分置き換えうる性質をもつものもつくられているが，抗張力・反発弾性の点では天然ゴムに一歩譲り，大型トラック・航空機のタイヤや防震ゴムなどには天然ゴムが用いられる。しかし，耐油性・耐熱性・耐老化性など，特殊目的にはそれぞれの性能を備えた各種合成ゴムのほうがすぐれているのはいうまでもない。➔網状高分子　〔伊藤　卓〕

こむぎ 【小麦】 単子葉植物・イネ科。オオムギとともに広く温帯地方に栽培されている一年草。茎は株立ちして群生し，高さ60～90cm，直立して表面はなめらか，節はふくらみ，その直下がくびれている。節部以外は中空である。葉は長さ16～28cm，幅１～1.5cmの線形で，４～６枚が２列に互生する。５月ごろ，茎頂に長さ６～10cmの花穂を直立させ，平らな中軸の両側に無柄の小穂を互生する。小穂は長さ１～1.5cmで４～５個の小花からなり，外花穎(えい)には芒(のげ)があることがある。小花中には１個の花があり，３本のおしべと１本のめしべがある。穎果はかっ色で長さ５～８mm，幅３～４mm，基部に胚(はい)があり，反対側に縦のみぞが１本あり，先端には白い毛がはえている。

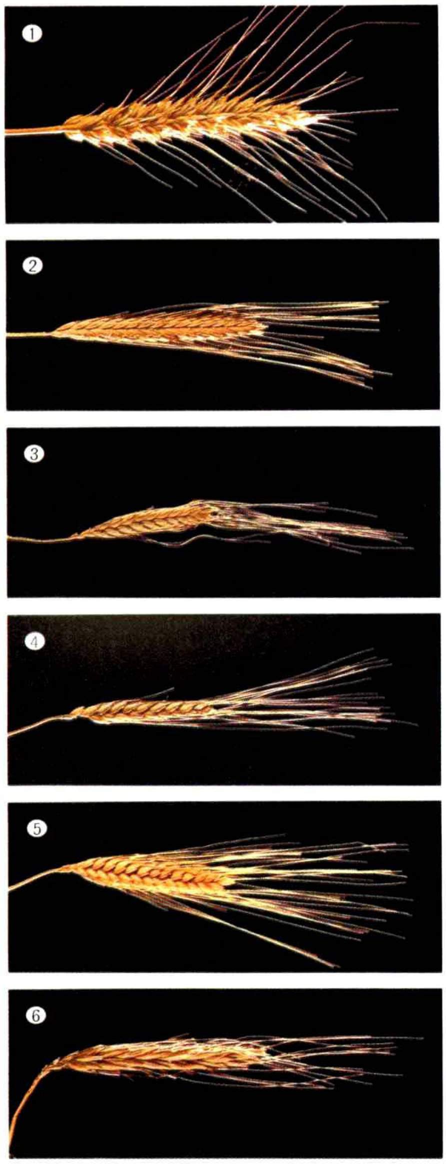
コムギ類の栽培の歴史は非常に古く，BC4500～BC4400年のメソポタミアにまでさかのぼることができる。コムギの種類には，現在最も広く栽培されているパンコムギ(n＝21)のほか，ヒトツブコムギ(n＝

7，スペイン)，エンマコムギ(n＝14，アジア南部～ヨーロッパ南部)，マカロニコムギ(n＝14，アジア南部～ヨーロッパ南部)，リベットコムギ(n＝14，ヨーロッパ)，ポーランドコムギ(n＝14，イタリア・エチオピア)，マルコムギ(n＝21，インド)，コンボウコムギ(n＝7，アジア西南部～ヨーロッパ東南部・北アメリカ)などがある。パンコムギの起源は遺伝学者木原均によって小アジアの野生種ノハラヒトツブコムギ(n＝7)とタルホコムギ(n＝14)の雑種であることが明らかにされている。わが国ではコムギはパン・麺類(めんるい)・しょうゆ麹(こうじ)・グルタミン酸などの原料に用いられるが，欧米では製粉して主食物であるパンの原料とする場合が多い。〔加藤信重〕

コムギの産額は，世界総計で3億300万t，作付面積は2億1,810万ヘクタール(1967)に及んでいる。1,000万ヘクタール以上作付けする国は，ソ連・アメリカ・カナダ・インドなどである。わが国における作付面積は，1941～1942年(昭和16～17)の86万ヘクタールを最高としてオオムギ同様年々減少しており，1967年には36万6,000ヘクタール，年産99万6,900t(10アールあたり272kg)にすぎない。

コムギはオオムギよりも不良環境に対する適応性が大きい。しかし，生育日数はオオムギより長く水田裏作にはあまり用いられない。わが国での栽培の北限はオオムギのほうが高いが，これは生育日数の短いことによるもので，耐寒性はコムギのほうが大である。コムギ栽培は，ノルウェーでは北緯64°，ロシアでは63°あたりが北限とされる。土壌(どじょう)条件は土壌組織の緊密なのをよいとし，粘質の壌土あるいは植壌土が適地とされる。

コムギの1穂の子実には大小のむらが多い。これは1小穂の粒数がオオムギより多く，稔実(ねんじつ)する粒数にむらが生ずるためである。したがって栽培用種子の選別にあたっては，比重1.22の塩水で選種し，重くて大きい種子を選ぶことが必要である。また，品種によって秋まき性の程度が異なるので，秋まき性の高い品種を春まきすれば出穂できないか，出穂しても登熟しない場合が多い。春まき性の高い品種を秋まきすれば，年内に出穂してしまうこともある。わが国では，北海道の一部を除いて秋まきである。適期にまくことがだいじで，寒地では早めに，暖地ではおそく播種(はしゅ)するが，播種期間は全国的にみて9月上旬から12月上旬にわたっている。播種量は品種の子実の大小によって差があり，ふつう10アールあたり2.5～5kgぐらいであるが，播種の遅れる場合，また機械まきなどの場合はもっと多い。条播が普通で，うね幅60～70cm，まき幅10cm内外，肥料はオオムギより多めに施すが，藁稈量(こうかんりょう)が子実量よりも多いので，収量はオオムギより低



小　麦　①パンコムギ　②ヒトツブコムギ　③エンマコムギ　④マカロニコムギ　⑤リベットコムギ　⑥ポーランドコムギ



コムクドリ

い。一般に，250kgを生産するとして，窒素8kg，リン酸3.5kg，カリ4kg余を施す。管理はオオムギとほぼ同様で，中耕・除草・土入れ・麦踏みが行なわれる。収穫はわが国では6月中～下旬である。

コムギは，利用面から硬質コムギ(タンパク質が多く，小粒で製パンに適する)と軟質コムギ(デンプン質が多く，大粒で製麺に適する)に分けることができるが，わが国で栽培されるものは軟質が多い。これは，硬質コムギが比較的雨量の少ない地帯に適するため，収穫期が梅雨にかかるわが国では粒質が悪化しやすいためである。〔金木良三〕

こむぎこ【小麦粉】 小麦の種実を粉砕して，麬(ふすま)を除いたもの。メリケン粉・うどん粉ともいう。従来わが国では内地産の小麦を石うすなどでひいて製粉していたが，明治・大正時代輸入された新式の製粉機で外国産の良質の小麦を用いて精製したものをメリケン粉とよび，これに対して旧式機械で製粉したものをうどん粉とよんだ。

小麦粉に水を加えて練ると，しだいに粘力と弾力を増し，グルテン*ができる。グルテンの多いものを強力粉*(きょうりきこ)(硬質小麦を原料とし，パンやラーメンに用いられる)，少ないものを薄力粉(軟質小麦からつくり，ケーキやてんぷらの衣用にする)，中間のものを中力粉(めん類用)という。〔佐藤友太郎〕

こむくどり【小椋鳥】 鳥類・ムクドリ科。全長19cmほどで，ムクドリ*よりも少し小形。頭上から下面にかけて灰白色で，背面は灰かっ色，翼と尾には藍黒(らんこく)色の光輝のある羽毛があり，雄の側頸(そくけい)には栗色斑(くりいろはん)がある。東アジアに分布し，日本には夏鳥として北海道の低地，本州中部以北の低山帯の森林に渡来し，樹洞(じゅどう)やキツツキのあけた穴，屋根がわらの下，巣箱などで繁殖する。

コムサット ⇨通信衛星公社

こむそう【虚無僧】 普化宗*の僧侶(そうりょ)の称。薦僧(こもそう)・普化僧ともいう。有髪の頭に深編み笠(がさ)をかぶり，胸に袈裟*(けさ)と方便袋*をかけ，尺八*を吹いて布施を請う。京都東福寺の覚心が建長年間(1249～1255)入宋(にっそう)して普化禅師の法流をくむ張尽に尺八の一曲を受け，4名の居士(こじ)を伴って帰朝したのに由来するといわれ，室町時代に朗庵(ろうあん)という者が普化禅師の風を慕い，つねにこもむしろに座して尺八を吹いたことから薦僧の名を生じたともいう。江戸時代になって普化宗として公認され，宗勢も拡張したが，浪人無頼の徒で身を隠す手段としてこの姿をとる者が多く，弊害が続出したため天保(てんぽう)年間(1830～1843)一時臨済宗に属させて制限したこともあったが，1871年(明治4)廃宗となり，以後虚無僧は多く宗教的意義をもたない物ごいとなった。〔菊池礼子〕

コムソモリスク［Komsomol'sk］ ソビエト連邦の極東部，沿海州，アムール川に臨む都市。正式にはコムソモリスク-ナ-アムーレ。人口24万6,000(1976)冶金(やきん)・機械・建設・資材・食品・木材などの工業が盛ん。もともと河港であったが，1932年に

ソ連全土から集まったコムソモール*によって建設された新興都市である。なお，イワノボ州にも同名市がある。

コムソモール ［komsomol］ 全ソ連邦レーニン共産主義青年同盟の略称。1918年10月創設。15歳から26歳の青少年で組織され，ソ連共産党の指導のもとに自主的な活動を行なう。ピオニール*に継続する組織の修得を統一的に実行することを基本の任務とし，ピオニールの指導をする。《コムソモールスカヤ-プラウダ》《若き共産主義者》などの機関紙を発行している。

コムニズム(峰) ［Komunizm］ ソビエト連邦南部，中央アジアのタジク共和国東北部にあるソ連最高の山。標高7,495m。カラコルム山脈と天山山脈の交点に位置している。極地以外では世界最長(77km)のフエドチェンコ氷河をはじめ，多くの氷河に囲まれている。はじめはガルモ峰とよばれていたが，1932年の測量によって標高が確定しスターリン峰と改め，さらに1962年現在の名に改めた。1933年9月に初登頂がなされた。〔大石堪山〕

コムーネ ［commune］ 12～13世紀，北部および中部イタリアに成立した自治都市。イタリアでは古代以来都市自治の伝統が強かったが，中世後期における商工業のめざましい発展を基盤に，都市の支配権を握る司教から自治権を獲得してコムーネが成立。12世紀後半，神聖ローマ帝国皇帝フリードリヒ1世*がイタリア支配に乗り出したとき，ロンバルジア同盟*を結成して自治権を守り，コムーネの全盛時をもたらした。コムーネでは，はじめ都市貴族が政権を握っていたが，やがて小市民が台頭し，さらに両者の抗争の中からメディチ家*のような独裁的僭主(せんしゅ)も出現した。コムーネとしてはミラノ・ベネチア・フィレンツェ・ピサなどが有名で，そこに芽ばえた文化がやがてルネサンス*として開花する。〔大野慎一郎〕

ゴムのき **［ゴムの樹］** 弾性ゴムの原料植物には熱帯に生育する植物約400種があるが，これらはおもにトウダイグサ科・クワ科・キョウチクトウ科・キク科に属する。特にタカトウダイ科のパラゴムノキ*が代表的である。パラゴムノキはアマゾン川流域が原産地であるが，マライ半島やジャワ島に移入され，主産地となっている。幹に傷をつけて流れ出る乳液(ラテックス)を取り，化学処理して凝固させたものを生ゴムといい，これにイオウを加えて弾性と強度をもたせたのが弾性ゴムである。このほか，タカトウダイ科のマニホットゴムノキ(中央アジア原産で，現在ではゴムの栽培は行なわれていない)，クワ科のカステロアゴム(アメリカゴムノキ)・インドゴムノキ*，キョウチクトウ科のラゴスゴムノキ，キク科のグアユールゴムなどのゴムを出す植物がある。日本で観賞用に植えられているのはインドゴムノキが多い。〔横井朝子〕



コムラサキ



コムラサキシキブ
果実は直径3mmほどで，紫色に熟す

こむらがえり **［腓返り］** 腓腹筋(ひふくきん)(ふくらはぎの筋肉)の強直性のけいれんで，強い疼痛(とうつう)を伴う。登山・水泳・競走などの際の腓腹筋の過労時や，下痢・コレラ・糖尿病で血液中の水分が欠乏したとき，アルコール中毒・座骨神経痛・下腿(かたい)静脈の鬱血(うっけつ)時などにみられる。治療には，安静，樟脳精(しょうのうせい)などの塗布を行なう。

ごむらかみてんのう **［後村上天皇］** (1328～1368) 南朝*第2代の天皇。後醍醐(ごだいご)天皇の皇子。母は新待賢門院廉子。名は義良(のりなが)。1333年(元弘3・正慶2)北畠顕家*(きたばたけあきいえ)とともに陸奥(むつ)(東北地方)に下り，多賀国府(宮城県)の陸奥鎮守府にあって建武中興*政府の東北鎮護に任じた。1335年(建武2)，足利尊氏*(あしかがたかうじ)が鎌倉で挙兵すると，顕家とともに陸奥の軍勢を率いて足利勢を背後から攻撃しながら上洛(じょうらく)。上洛後すぐ陸奥太守となって陸奥にもどり，霊山(りょうぜん)(福島県)に拠(よ)った。1337年(延元2・建武4)，尊氏を討つため再び西上し，各地で転戦後，父帝の遷幸している吉野(よしの)にはいった。1339年(延元4・暦応2)3度めの東下のため，北畠親房*(ちかふさ)とともに伊勢(いせ)湾から船団を組んで出航したが，途中暴風雨にあい，伊勢に帰着した。翌年吉野にはいって皇太子に立てられ，父帝の逝去(せいきょ)とともに即位した。即位後は父帝の遺業を継承し，京都回復に努めたが，南軍不振の戦局が続いた。

1348年(正平3・貞和4)幕府軍の攻撃を受け，吉野からさらに奥地の賀名生(あのう)に移った。1351年(正平6・観応2)尊氏が弟直義(ただよし)との内争により南朝に下ったため，翌年住吉(大阪市)を経て男山八幡(おとこやまはちまん)(京都府)まで進んだが，尊氏がそむいたため上洛を果たさず，賀名生にもどった。その後も幕府側の内争のたびに上洛を志し，1354年(正平9・文和3)には金剛寺(大阪府)，1359年には観心寺(大阪府)，1360年には住吉に移り，その間京都を一時的に回復したこともあったが，ついに天下統一の実現をみることなく住吉で没した。陵墓は大阪府河内長野(かわちながの)市寺元の檜尾陵(ひのおのみささぎ)で，観心寺の寺域に接している。〔高崎徳次〕

こむらさき **［小紫蝶］** こん虫類・鱗翅(りんし)目・タテハチョウ科。翅(はね)を広げた長さ70mm内外。雄は翅表が濃い紫色に輝く。翅の地色は黒かっ色で，黄かっ色の斑紋(はんもん)が多数ある。雌は雄よりも大形で，翅表の紫色の光沢を欠き，地色もやや淡い。クロコムラサキとよばれる黒色型は地色が黒色で，前後翅の中央を走る帯状の斑紋が白色を呈する。正常型と黒色型はメンデル式の遺伝をする遺伝的二型と考えられている。正常型は日本全土のほか，朝鮮・中国・東シベリアなどに広く分布し，黒色型は局地的な分布を示す。好んで樹液に集まり，地上に静止することも多い。幼虫はヤナギ類の葉を食害し，幼虫態で越冬する。〔鈴木邦雄〕

こむらさきしきぶ **［小紫式部］** 双子葉植物・クマツヅラ科。コムラサキ・コシキブともいう。山麓(さんろく)や原野の湿地にはえる落葉小低木。福島県以西の日本各地・朝鮮・中国に分布する。高さ1～1.5mくらい，枝は細く暗紫色で，ややしなだれる。葉は対生し，長楕円(ちょうだえん)形で，両端がとがる。初夏，葉腋(ようえき)に集散花序に紫色小花をつける。花冠は筒状で先が4裂し，おしべ・めしべが長く飛び出す。果実は球形で紫色に熟す。

こむらじゅたろう **［小村寿太郎］** (1855～1911) 外交官。宮崎県出身。大学南校を卒業，アメリカで法律を学ぶ。司法省を経て1884年(明治17)外務省にはいり，陸奥宗光(むつむねみつ)外相の知遇を受けた。日清(にっしん)戦争*の開戦当時は清国の代理公使，戦後は韓国(かんこく)の公使となり，義和団の乱*を収拾する国際会議では日本全権として活躍した。1901年桂(かつら)内閣の外相となり，日英同盟*を主張して翌年締結。日露戦争後，ポーツマス講和会議の日本全権となり，講和を達成した。帰国後外相として満州における日本の地位強化を策し，その後は枢密顧問官・駐英大使を経て第2次桂内閣の外相となり，日韓併合*を断行し，不平等条約の最終的改正を果たした。1911年には改正通商条約・改正関税率法を実施，明治政府の宿願であった条約改正*を完成した。〔岸野淳子〕

こむらせったい 【小村雪岱】（1887〜1940） 日本画家。埼玉県川越市の生まれ。東京美術学校在学中に下村観山*につき，のち松岡映丘*に師事。国華社に勤めて古画の模写に従う。風俗考証にすぐれ，舞台装置にも特異の才をふるった。また，さし絵画家としても一家をなし，泉鏡花の《日本橋》をはじめ秀作が多い。

ゴムルカ ［Wladislaw Gomulka］（1906〜 ） ポーランドの政治家。クロスノ市の小農の家に生まれ，14歳のときから印刷屋で働く。労働組合運動の弾圧で，1933，1936年投獄される。反ファシスト活動に貢献し，ワルシャワ防衛や地下活動に活躍した。労働者党ワルシャワ支部書記・書記長・副首相などを歴任したが，1949年には統一労働者党から追放され，1951年投獄された。1954年に釈放され，1956年10月ポーランド統一労働者中央委員会第1書記に返り咲いた。1959，1964年再選され，1970年退任。〔山県弘志〕

こむろすいうん 【小室翠雲】（1874〜1945） 日本画家。群馬県の生まれ。田崎草雲に学んで初期文展に活躍。審査員を経て帝国美術院会員・帝室技芸員となる。この間，矢野橋村らと日本南画院を興し，南画界の重鎮として知られた。

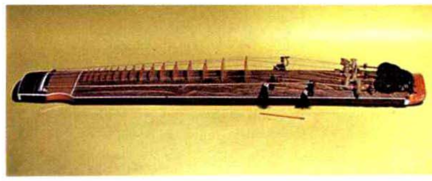
コムンゴ 玄琴ともいう。朝鮮の楽器で，中国の臥箜篌(がくご)が高句麗(こうくり)に伝わって変形されたもの。チター系の打弦の弦鳴楽器。弦は6本で，内側の3弦には16個のフレットが設けられ，外側の3弦には柱(じ)を立てる。細い棒を右手で持ち，弦を強く打って鳴らす。

こめ 【米】 ⇒94ページ

こめあぶら 【米油】 正しくは米ぬか油。新鮮な米ぬか*に含まれている15〜21％の脂肪を圧搾法や抽出法でとった油で，ほとんど食用とする。製造工程は複雑だが原料が安いため安価で，味もよい。

こめおり 【穀織】 搦(からみ)織物の一。ほとんど公家(くげ)装束にのみ用いられている特色ある織物。二本綟(もじれ)の紗(しゃ)の組織であるが，一組みが左綟であれば，その隣の組みは右綟というように，綟れた糸が互いに向き合ったり離れたりして，二組みがつねに対のようになって綟れる対綟(むかいもじれ)（観音綟）になっている。文様は地緯(じぬき)を一越おきに浮かし，それを対綟を単位に用いての緯三枚綾(あや)調におさえている。穀織の名称はこの浮いた緯糸がちょうど米粒を並べた感じからであろうといわれている。〔北村哲郎〕

こめきって 【米切手】 米手形・払米(はらいまい)手形・正米切手ともいう。江戸時代，大阪などの蔵屋敷*の払米に対して発行した蔵預(くらあずかり)切手（保管証券）の一種。表面に俵数・引き換え条件・蔵の名などをしるす。蔵屋敷の払米を落札した米仲買は，その払米を処分するまで蔵屋敷に保管を委託し，米切手を受け取った。米切手は米市場で取引され，また金融にも利用された。蔵屋敷に蔵出米の準備なく発行されたものを空米(からまい)切手という。〔松尾 涼〕



コムンゴ　武蔵野音楽大学楽器博物館蔵



コメツキガニ

コメコン ［COMECON］ 西欧ではCommunist Economic Conferenceの略称で，正式にはＣＭＥＡ（Council for Mutual Economic Assistance）の略称，ロシア語でＳＥＶ（セブ）といい，共産圏（または東欧）経済相互援助会議と訳される。1949年1月，西側のマーシャル-プランとそれによるＯＥＥＣ（→OECD）の結成に対抗するものとして，ソ連の提唱により設立された東欧共産圏の経済協力機構。1959年12月の第12回総会でコメコン規約が採択され，1960年4月に発効。加盟国はソ連と東欧7か国（ブルガリア・ハンガリー・ポーランド・ルーマニア・チェコスロバキア・アルバニア・東ドイツ）およびモンゴル，キューバ，ベトナムの11か国で，ユーゴスラビアは準加盟国となっている。このうち，アルバニアは中ソ対立の激化に伴い，1962年末事実上脱退している。なお，中国・北朝鮮がオブザーバーを派遣している。

当初活動は盛んでなかったが，1950年代後半から強化され，1960年代にはいるとコメコン規約の発効，1962年6月の第16回総会における〈社会主義的分業の基本原則〉の承認，1964年1月のコメコン銀行の開業など，経済活動の分業化や多角的経済協力を推進し，緊密な経済ブロックを形成する方向に向かって努力が行なわれている。

具体的には，ソ連と東欧各国の長期経済計画の調整，社会主義的分業の原則に基づく生産の専門化と協業化，貿易の拡大を通じて経済統合を進め，1人あたりの生産・消費で資本主義諸国に追いつき追い越すことを目標としている。機構としては，総会・執行委員会・書記局・専門委員会・コメコン銀行などがあるが，勧告機関であって強制力をもたない。しかし，経済協力・分業化を推進していく過程において，共産圏内における経済力の格差・発展段階差に基づく利害の対立，さらに中ソの対立もからみ，共産圏の経済協力・統合の進展は必ずしもスムーズに行なわれているとはいえない。〔深海博明〕

こめそうどう 【米騒動】 米価騰貴を契機として起こった民衆の暴動。1890年（明治23）と1897年に北越地方を中心に起こったが，典型的なのは1918年（大正7）全国的な規模で発展した米騒動である。第1次世界大戦後に起こった経済恐慌*は国民生活を圧迫し，特に物価暴騰，米穀商・地主などによる買い占め・売り惜しみなどで1917年から米価は急騰し，戦前1升（1.8l）約12銭が，1918年には50銭を記録した。こうして8月3日富山県下の漁村の主婦たちが，米価引き下げ，米よこせの運動を起こし，それがたちまち全国的に波及し，36道府県310市町村で3か月間，米商・高利貸しの襲撃・焼き打ちなどの騒動が発生した。政府は70市町村へ軍隊を出動させてこれを鎮圧した。民衆の自然発生的な暴動であったが，労働運動*・普通選挙運動*を促進する役割を果たした。この事件で非立憲的と攻撃されていた寺内正毅(まさたけ)内閣は総辞職し，原敬(たかし)内閣が成立した。〔千野境子〕

こめつが 【米栂】 裸子植物・マツ科。亜高山帯に分布する常緑針葉高木。高さ20m，直径1mに達する。ツガ*によく似ているが，1年めの枝に細かい毛があること，球果が枝先で上向きに着くことなどで区別される。葉はツガよりも小さく，葉先は2叉(さ)し，枝に2列に並ぶ。雌雄同株で，5〜6月，枝先に黄色の雄花，緑紫色の雌花をつける。盆栽仕立てにしたり，建築材・パルプ材などに利用される。

こめつきがに 節足動物・甲殻類(こうかく)類・コメツキガニ科。淡灰色の小形のカニで，甲長・甲幅とも1㎝ほど。甲は後方に開いた角形で，甲面が著しく隆起する。鉗脚(かんきゃく)（はさみ）は弱々しい。干潟(ひがた)の表面の砂を口に運び，食物を摂取した残滓(ざんし)を団子形に丸めて巣穴のまわりに積み上げる。根室付近から沖縄諸島・黄海沿岸・セイロンに分布する。

こめつきむし 【叩頭虫】 こん虫類・鞘翅(しょうし)目・コメツキムシ科の総称。大きな群で，全世界から8,000種以上が発見されている。体長2㎜の微小種から65㎜に達する大形種まである。体形は比較的一定しており，細長く，いくぶん扁平(へんぺい)で，全体堅固である。温帯産の種では黒色・灰色・かっ色などのものが多く，熱帯産の種では鮮明な金属色のものがある。頭部は小さく，一部分は前胸背板におおわれ，触角は単純か鋸歯(きょし)状またはくし歯状。複眼は丸く，突出している。前胸腹板突起は強く，中胸および後胸腹板中に突出し，裏返

しにするとこれによってはね起きる性質がある。脚は短く，体の腹面のみぞに納められる。幼虫はハリガネムシとよばれ，ふつう細長く円筒形。幼虫の多くは朽ち木中やごみの下などに生活するが，土中で植物の根などを食害する害虫も多い。また，食肉性の種類もある。卵は朽ち木やごみの中，地上・地中などに産下され，幼虫は2〜5年で成虫になる。成虫は朽ち木や花に集まる種類が多いが，早春に果樹や灌木(かんぼく)などの芽を食害する種類も多い。アフリカ産のある種の幼虫のようにシロアリの巣の中で生活するものや，南アメリカ産のホタルコメツキのように，成虫の前胸背板の両側に発光器をもつような特殊の種類もある。日本からはサビキコリ・カバイロコメツキ・ツヤハダコメツキ・シモフリコメツキ・クシコメツキ・クチブトコメツキなど200種が知られている。〔鈴木邦雄〕

こめつつじ【米躑躅】 双子葉植物・ツツジ科。日本・朝鮮に分布し，深山にはえる落葉低木。高さ1m内外，枝は短くよく分枝する。葉は卵形で，枝の先に集まってつく。夏，枝端に1〜4個の小花をつける。花は白色または紅色をおびる。花冠は筒形で上部は5裂する。果実は卵状円錐(えんすい)形の蒴果(さっか)で，細かい伏毛がある。

コメット ⇨旅客機

コメディー ⇨喜劇

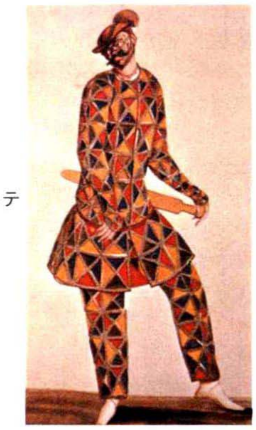
コメディア-デラルテ［commedia dell' arte］ 16世紀末から18世紀初頭にかけてヨーロッパに流行したイタリアの即興仮面劇。職業的技芸による喜劇の意で，コメディア-デラルテ-アル-インプロビッソともいい，コメディア-ソステヌータ(正統喜劇)と区別される。1520年代活躍したパドバの作家ルツァンテ(アンジェロ-ベオルコ)に始まるとされ，ベネチアのアンジェロ-カルモらによって推進されて通俗喜劇としての地位を確立した。

一般に，本格的な台本はなく，カノバチオとよばれる簡単な筋書きだけで技芸を競い合い，特にラッチオとよばれる幕間の道化的しぐさを見せ場とした。ラッチオはこっけいや風刺を主とし，卑猥(ひわい)なものが多い。また，登場人物は一定の仮面と性格によって分類され，俳優はそれぞれ得意の役がらをもった。役がらは地方の典型的人物によるものが多く，カピターノ(高慢でほら吹きの軍人)，アルレッキーノ(ずる賢い召使，道化)，コロンビーナ(恋の取り持ち役の女中)，ドットーレ(世間知らずの学者)，パンタローレ(年老いた商人，父親)などが代表的なもの。17世紀を頂点にヨーロッパ各地に広がったが，しだいに活力を失い，ゴルドーニ*の改革やC.ゴッツィの蘇生(そせい)の試みを最後に衰退した。後世に与えた影響は大きく，モリエール*やマリボー*などのフランス古典喜劇，ネストロイなどのウィーン民衆喜劇をはじめ，パントマイムから大衆演芸の分野まで足跡を残している。

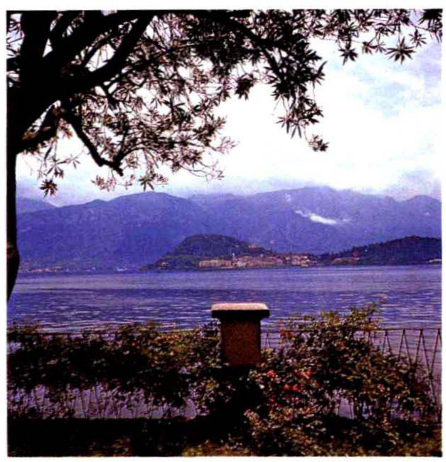
➔イタリア演劇〔大島　勉〕



コメツツジ　花冠は直径1cmほどで，おしべが長い



コメディア-デラルテ
アルレッキーノ



コモ湖　対岸はベラジョの町で，湖中に突き出した半島には美しいホテルや別荘が立ち並んでいる

コメディー-フランセーズ［Comédie-Française］ 中世の受難劇上演劇団の流れをくむフランス最古の国立劇場。1680年ブルゴーニュ座とマレー座の併合によりパリに成立した。〈モリエール*の家〉とよばれたり，テアトル-フランセーズとよばれたりする。あまたの名優を生み，革命期には分裂したりしたが，1803年，有名な俳優タルマを中心に再構成され，爾来(じらい)今日に至っている。伝統的な演技・演出は新鮮さを欠くとはいえ，フランス演劇に及ぼした影響は大きい。〔毛利三弥〕

コメニウス［Johann Amos Comenius (Jan Amoskomenský)］(1592〜1670) チェコスロバキアの教育哲学者・言語学者。諸学に通じた教養人で，近代教育学の祖。南モラビア出身。ヘルボルン大学・ハイデルベルク大学などを卒業，フス*の流れをくむ宗教界に身を投じた。三十年戦争の渦中(かちゅう)に迫害を受けて亡命，ヨーロッパ諸国を流浪し，アムステルダムで没した。終生祖国の解放を願い，恒久平和と民族間の友好を説き，統一的な世界国家の成立を念願して，同一言語による学問・思想の体系化に力を注ぎ，すぐれた業績を残した。代表作に《大学教授学》《言語への開かれた扉(とびら)》《世界図絵》などがある。〔千野栄一〕

こめぬか【米糠】 玄米をついて白米にするときとれる果皮・種皮および糊粉(こふん)層の粉砕物。タンパク質・脂肪のみならず多量のビタミンを含み，飼料・肥料とするほか，米油の原料となる。リパーゼ*作用が強いため脂肪が酸化されて酸敗を起こしやすいので，加熱乾燥して用いるのがよい。

ごめん【後免】 ⇨南国市

コモ［Perry Como］(1912〜　) アメリカのポピュラー歌手。家業の理容師時代から町の人気者だったが，テッド-ウィームス楽団を経て，1942年に独立，ソロ歌手となる。以来，ラジオ・テレビで絶大な人気を獲得。〈ペリー-コモ-ショー〉は日本でも放映されて好評を博した。ビング-クロスビーの流れをくむソフトなバリトン-ボイスは，あたたかい人がらとともにいまも広く愛好されている。《テンプテーション》はじめヒット曲も多い。〔鈴木道子〕

コモ(湖)［Como］ イタリア北部，スイス国境に近い湖。面積146km²，最大水深410m。アルプス氷河の侵食によってできた湖で，山麓(さんろく)に食い込むような逆V字形を呈す。湖水は南東部でポー川の支流アッダ川に流水する。湖南の古都コモは絹織物で知られ，西のマジョーレ湖・ルガノ湖とともに国際的な観光地となっている。

ごもくめし【五目飯】 かやくめし*(加薬飯)ともいう。たきこみご飯のことで，ニンジン・シイタケ・グリンピース・サトイモ・レンコン・タケノコ・ソラマメ・カンピョウ・ゴボウ・コンニャク・油揚げなど季節のもの数種を加え，これらを調味して米といっしょにたきあげる場合と，材料を下煮してたきあげたご飯に混ぜる場合がある。精進仕立てのほか，貝類・エビ類・鶏肉なども使う。飯は酒としょうゆを少々入れて普通にたく。〔塩川ふみ〕

こもちしだ【子持羊歯】 シダ植物・ウラボシ科。暖地の日あたりのよいがけや斜面に群生する大形の常緑シダ。根茎は横にはう。葉は2回羽状で深裂するが，切れ込みは中肋(ちゅうろく)には達しない。長さ50〜150cmで，たれ下がる。葉柄基部に明かっ色

➔96ページ

米

イネの種子はもみがらによっておおわれており，これを脱穀したものを玄米という。玄米は糠(ぬか)層におおわれている。これを取り除く作業が精米であり，精米されたものを白米という。広く米という場合，もみがらにおおわれたままのもみから玄米・白米に至るすべての形態におけるイネの種実を総称する。わが国では，産地での米の出荷形態は玄米で，消費地では白米を商品としての米の標準形態としているが，東南アジアなどもみで産地から販売される地域も少なくない。米は小麦とともに主食としての長い歴史をもち，したがって，米を主食とするアジアでは農業の主要部分を占めているが，同時にその生産はアジアに限られず，イタリア・スペインは古くから米産国として知られており，今日ではアメリカ・ソ連なども米産国として軽視できない。米は湛水灌漑(たんすいかんがい)の水田で生産されるものが多く，日本では99%の米が水田栽培(水稲)である。このため，米作を主体としてきたわが国農業では，耕地の51%までが水田として利用され，この結果用水灌漑が重要な地位を占める一方，苗代(なわしろ)・田植え・除草などにおける水田特有の管理・耕作形態がみられ，これが日本農業の歴史と現在の姿を特徴づけている。米はデンプン質のみならずタンパク質をも含む高カロリーの主食であるため，〈梅干しを，ながめるだけで飯を食い，なめるだけで飯を食い〉と落語にあるように，民衆の生活に深く根ざして今日に至っている。一方このことはわが国における肉類など動物性食物の生産と消費の発達を妨げる原因になった点も見のがせない。

【米の歴史】考古学的にみると，わが国の稲作の発展は弥生(やよい)文化の普及とともに，北九州を起点にして進められたものと考えられる。それ以後，今日に至るまで米の歴史は民衆の歴史でもあった。天平期の勅に〈諸国の調脚夫，事畢(おわ)って郷に帰るに路遠くして根絶す〉などとあり，貢租の米を都まで納めに行った帰りに力尽きて行き倒れる者があったことが記されている。この律令(りつりょう)制の時代から江戸時代の終わりまで，農民は貢租として米を権力者に納め，みずからは芋や雑穀を主食とすることが多かった。明治以後は米貢租の制度は廃止されたが，農村には地主制度が発達し，収穫量の過半に及ぶ米を小作料として取り立てるなど，小作農の場合1947年(昭和22)の農地改革まで，負担の重圧からは解放されなかった。また，田楽など皇室や貴族層の儀式化されたものから，民衆の田植え歌・秋祭りなどの歌舞祭祀(さいし)に至るまで米作りにまつわる文化の所産として今日まで伝承されているものも多い。

【米の成分】米の主成分はタンパク質とデンプン質である。タンパク質はアミノ酸態窒素化合物を含有しているが，化合物の種類は米の種類によって異なる。デンプンはその種類によって米の粘度に与える影響が大きく，アミロペクチンの多い米は粘りが強く，もち米がこれに相当する。米の成分比は産地によって若干の差がみられる。水分は日本米の場合14～15%で，中でも東北産米は関東および西日本産米より1%多い。外国産米はインド米の10%をはじめ，水分は概して少ない。タンパク質は7～8%の間にあって産地による差は少ない。脂肪の含有率は差が大きく，日本米では東北米が0.5%，西日本米が0.6%，また外国産米ではインド米が0.3%，ラングーン米が0.6%，タイ米が1.17%などである。炭水化物は75～80%で，産地による差は少ない。繊維は日本産米では少なく，0.1～0.3%であるが，外国産米はベトナム米の0.7%を頂点に含有率が高い。灰分は1%前後で若干の産地差がみられる。

世　界　の　米　(1966)　　　単位1,000 t

	米生産量(もみ)	貿易量(精米)			米生産量(もみ)	貿易量(精米)	
		輸出量	輸入量			輸出量	輸入量
ビルマ	8097	1100		セイロン	…		510
カンボジア	2283	168		インド	55000		786
中国	…	1100		インドネシア	14103		500
台湾	2960	260		日本	16552		794
韓国	5900	44		マレーシア	…		400
パキスタン	17800	186		フィリピン	4148		105
タイ	11800	1507		南ベトナム	4336		475
アラブ連合	2000	420		キューバ	…		250
マダガスカル	1400	…		ソ連	710		
アメリカ	3658	1352		メキシコ	335		
ブラジル	…	289		コロンビア	700		
イタリア	616	81		ラオス	623		
スペイン	385	37		その他	113294	397	3278
オーストラリア	…	85		合計	266900	7026	7096

《食糧管理統計年報》から

【形態と構造】米粒の形態はおおむね楕円(だえん)状であるが産地・種類によってかなり異なっている。日本の米は短粒で丸みをおびており，長さ4mm前後であるが，一般に東北・北陸の軟質米は関東および西日本の硬質米よりも粒形が小さい。また酒米は粒形の大きいことを条件としている。日本産米に比べて外国産米は概して粒形が長く，インド・インドシナ・ジャワ・中国などで一般にみられるものは6mm前後であるが，中国産米には8mmに達するものもある。これらを総括して長粒系という。

もみがらを取り除いた玄米はデンプンを主体とする胚乳(はいにゅう)と胚とによってできており，胚乳は薄い穀皮，さらにその外側を果皮・種皮・糊粉(こふん)層からなる糠層とよばれる部分がおおっている。

【主食としての米】わが国の主食としての米の消費形態には，白米食のほかにアズキ・たけのこ・シイタケ・野菜・貝・魚・鶏肉・牛豚肉などをたき込んだもの，また赤飯・もちなどがある。外国では，ビーフン(米粉)・パーボイルドライス(もみのまま蒸して乾燥精白したもの)などとして食する場合が多い。わが国では，古代はイネの収穫は穂首刈りが一般であって，律令制下でも穂首のまま貢租として納める地域もあったといわれる。このころは立ち杵(きね)・立ち臼(うす)を用いてまずもみを落とし，次にもみがらを除き，さらにある程度糠層をも除いて食用に供したらしい。米食を玄米から臼で精白してたくようになったのは江戸時代である。水車の発達は白米の白度を高め，白米食の普及を促し，これが江戸時代から今日まで続くことになる。今日わが国では米は90%まで主食用であり，加工消費されているのは10%にすぎない。加工向けのうちの7割弱は酒類の醸造用で，菓子・穀粉がこれに次ぎ，以下みそ・しょうゆ，飼料用などの順となる。なお精米の副産物である糠は飼料として使われるほか，搾油して米ぬか油として食用に供されている。

【稲作と日本農業】わが国の米の生産量は明治以降顕著に増大している。その変化のあとはグラフのとおりだが，1,000万tに到達する1930年は大きな画期であり，またこれが豊作貧乏といわれる恐慌状態の原因ともなった。その後，1954年ごろまで総生産量は停滞ぎみである。1960年に，1,286万tという空前の生産量が示されてから，1962年に1,301万t，そして1967年の1,431万t，1968年の1,445万tへと上昇する。米の生産量の変化は，作付面積と面積あたり収穫量が要因である。作付面積は，1929年に

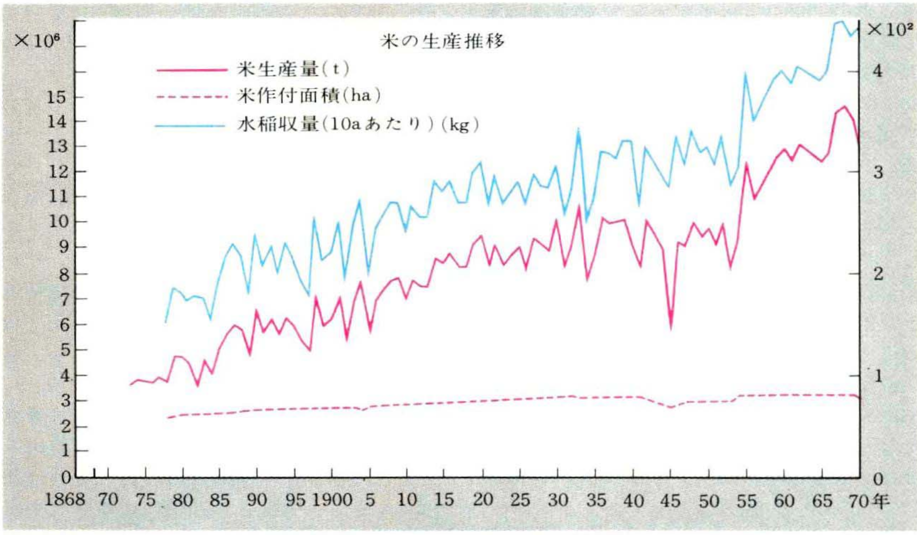
320万ヘクタールに達してから，1968年に至るまで40年弱の間に，10万ヘクタール弱の伸び(伸び率は３％)である。第２次世界大戦中から戦後の強権供出時期の間は，300万ヘクタールを割るが，これは戦争中の労力資材不足による一部稲作放棄と，供出割り当てに対する過少申告のためともいわれる。こうした経過をみると，わが国の稲作面積は水陸稲合わせて330万ヘクタールを限界としているようでもある。ただし，1960年以後陸稲は年々10,000ヘクタール程度減作となっている。なお，1967年以後，米価の相対的優位性を反映してか，東北・北陸・北海道における開田が進み注目されている。

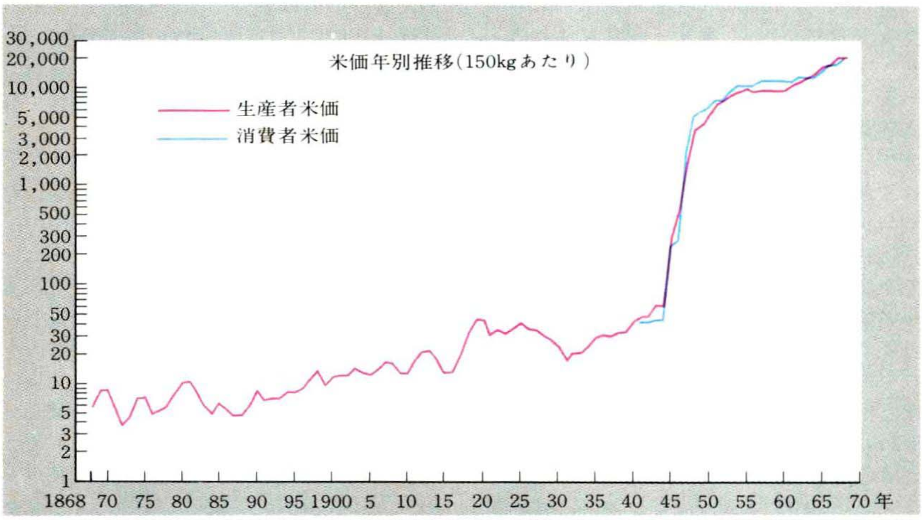
一方，生産力増加のより大きな要因である面積あたり収量をみると，明治10年代に10アールあたり玄米収量が１石(150kg)前後なのに対し，1920年(大正９)には２石台に達する。それ以後，増減をくり返すが1955年には2.64石，さらに1962年には2.72石(407kg)という驚異的な収量が示されるに至る。

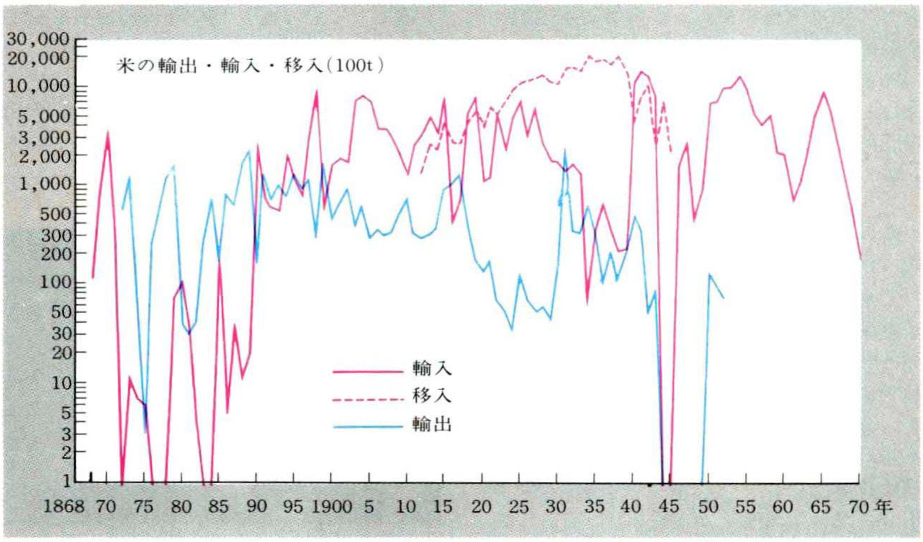
こうした米の単位面積あたり生産力の上昇を背景に稲作の機械化が進められるが，これは高度経済成長政策のもとにおける農村の労力不足の深刻化・兼業化に対応した稲作省力化と，経済自由化の中での稲作生産費の引き下げをねらいとしたものであり，1961年に開始された農業構造改善事業はその推進策として政府が進めているものである。

これらは具体的には，従来の自動耕耘機(こううんき)に代わる大形ないし中形トラクターの導入，田植え機・自動刈り取り機，また脱穀機能を併設したコンバイン，これを中形化したバインダー，収穫後のもみのための通風乾燥機・加熱通風乾燥機の使用などの一連の機械化の動き，さらにこれらを共同で使用するための稲作共同経営・稲作集団栽培などの組織化といった形で現われている。また，農協や協業組合あるいは個人がこれらの機械設備をもち，請負耕作を行なう例も少なくない。もみの火力乾燥は農協による大形化が多く(一般にライスセンターという)，これにもみ貯蔵サイロを併設したカントリー-エレベーターもみられるようになった。もみの共同乾燥によって，玄米の精選・包装の共同化・機械化も進められ，米の品質・規格の改善および統一に役だっている。

稲作機械化は一方では北海道の稲作拡大の契機ともなっている。これは，酪農・馬鈴薯(ばれいしょ)デンプン産業・ビート産業など北海道特有の産業が期待どおりに成長しないためでもあるが，広大な平原の水田化が急速に進んでおり，わが国稲作の配置に変更を加えつつある。







《食糧管理統計年報》から

【需給】1872年(明治５)60,000ｔの米を輸出したのに始まり，以降1889年までわが国は米の輸出国であった。しかし1890年以後輸入が増大し，1898年には約80万ｔの輸入(輸出は30,000ｔ)となる。また1912年以後は朝鮮・台湾の植民地産米の移入が加わり，わが国の米供給における輸移入米の比重はしだいに増大する。とりわけ植民地移入米の増加が目だち，1923年には輸入米をしのぐ。移入米は1931年には150万ｔを越え，1934年には，219万ｔとなる。これにこの年の

こ　め

輸入米(7,500 t)を加えると，わが国の米生産量の28%にあたるが，これは第２次世界大戦前の米需給における対外依存度がかなり高かったことを示している。敗戦により植民地を失った日本は，1945年の凶作も影響して過度の食糧不足に見舞われ〈米よこせデモ〉〈食糧メーデー〉など危機を反映する民衆の諸動向がみられ，戦後の外米(主として東南アジア産米)依存を特徴とする需給体制を迎える。外米輸入は1954年の173万 tを頂点に年々減少し，内地米の生産増強とともに米の国内自給度が高まったが，1967年の総収量1,445万 tの大豊作を機に国内産米の供給過剰傾向が認められるようになった。この結果，政府米の持ち越し量は1966米穀年度*の338万 tが，1968年度には675万 tへと倍増している。

〔食管制度〕1942年食糧管理法(いわゆる食管法)が公布施行され，国家による米・麦・芋類・雑穀など主食糧の直接統制が始まった。それまで，米穀法(1921)による米価調節，米穀統制法(1933)・米穀自治管理法(1936)における米の間接統制が進められてきたが，太平洋戦争下の国家総動員体制の一環としてこの食管法が制定された。食管法は，生産者農家に食糧の供出割り当てを行なって政府が直接に買い上げ，これを消費者に配給するもので，生産者は国家以外に販売しえず，消費者は国家以外からこれを買うことを禁じられた。1946年には食糧危機下に統制をさらに強化するための食糧緊急措置令が発せられ，占領下の食糧供出強権発動・占領軍直接出動によるいわゆるジープ供出が行なわれた。また，供出農家への奨励物資の交付，供米完遂奨励金・超過供出奨励金などによる供出推進策が1954年まで行なわれたが，芋類は1950年に，麦類は1952年に統制撤廃となった。1955年米穀予約売り渡し制度が実施され，供出割り当て制度から予約売り渡し制度(生産者が政府への売り渡し量を予約する)となり，食管法による統制も緩和のきざしを見せた。1969年自主流通米制度が実施され，生産者が政府以外に米を売ることができ，この米は政府統制下を離れて小売りすることができるようになった。しかし，食管法は撤廃されたわけではなく，政府の統制価格による無制限買い入れ方式は存続している。なお食糧需給が逼迫(ひっぱく)した時期には統制外の米(やみ米)の流通が激しく，大都市では消費量の30%に達したともいわれるが，1965年以降は５～10%と推測されている。

〔政府の買い入れ〕売り渡しの米価は農林大臣の諮問機関である米価審議会の答申をもとに政府が年々決定する。買い入れ米価はパリティー方式・生産費方式を経て生産費および所得補償方式へと変化している。米価決定時には生産者団体の米価要求大会・国会陳情など米価闘争が広範に展開され，米価算定方式や生産者米価への影響は少なくない。

〔流通機構〕日本における米の商品としての流通は江戸時代からと考えられるが，その機構は食管法の実施に至るまで当時の伝統的な色彩を強く残しながらも漸進的な近代化の過程をたどってきた。産地には米移出商があり，少量に販売する一般農家と大量に販売する地主から集荷商人や仲買人を経て玄米を集荷する。玄米の取引の包装単位は俵またはかますで４～６斗の容量制が一般であり，昭和期になると４斗を１俵とする傾向が強くなる。第２次世界大戦後玄米取引の容量制は重量制に変わり，60kgを１俵としているが，1966年ごろから30kgを単位とする紙袋包装が普及しはじめた。集荷された米は産地府県および近県で消費されるものがあり，これを古くから地回り米という。地回り米は生産者から直接小売りに渡る場合と，産地問屋を経て小売りに渡る場合とがある。遠隔地の市場への出荷は，明治期まではほとんど海路で，大正以降は鉄道貨車で輸送された。取引は産地の移出問屋と，消費地の問屋・仲買いとの間に行なわれることが多い。正米市場設置(1930)以降はその一部が競売に付されるようになった。消費地の問屋・仲買いの手を経て玄米は米小売商にもどされ，ここで精米して小売りされる。小売りの単位は，古くから升・合・勺などの容量によっていたが，大正末期から大都市では重量制(kg)に変わった。

明治末期から，米の取引の近代化の進展に伴って規格格付けによる銘柄取引が普及する。電信による市況連絡や契約の締結，銀行の手形割引業務の発達による支払い関係の近代化，鉄道の発達による輸送速度の飛躍的上昇がその基礎となった。国を単位とする銘柄たとえば讃岐(さぬき)米・摂津米・出羽米など，江戸時代に設定された産地銘柄は大正期まで維持され，昭和期には府県銘柄の使用が広範となる。この銘柄は米取引の大分類的な基準として長く利用されてきた。しかしこれが細かい規格化を伴わない段階では，実米の銘柄取引の基準としては不十分であった。そのため明治末期以降，各府県に米穀検査制度が普及し，また各地に細分された銘柄が成立することが新しい条件となった。また，昭和初期から一部の品種に格下げがなされたが，これが品種銘柄といわれるものである。

先物取引を行なう定期米市場は，江戸時代の米会所の伝統の上に発達し，食管制度の施行によって廃止となった。米相場を目的とするいわゆる相場師の活躍とともに，大量の取引を行なう問屋からはいわゆる掛けつなぎ売買機関として活用された。

〔守田志郎〕

の鱗片(りんぺん)がある。葉の上に無性芽を多数つける。

こもちまんねんぐさ【子持万年草】双子葉植物・ベンケイソウ科。越年草で，田のあぜや道ばたに多く，びっしり地面をおおう。茎は下部が横にはい，節から根を出す。高さ20cmくらい。葉はへら形で多肉。６月ごろ，茎の上部に径１cmほどで５弁の黄色花を多数つける。葉のつけ根に珠芽を生じ，地面に落ちてふえる。

こもちやまんば【嫗山姥】浄瑠璃(じょうるり)の題名。近松門左衛門*(もんざえもん)作。1712年(正徳２)竹本座*初演。遊女八重桐(やえぎり)が夫の亡魂により神通力を得た山姥となり，坂田公時(きんとき)を生む話を軸にした時代物*。八重桐が廓(くるわ)での夫とのなれそめをしゃべる場面は，歌舞伎(かぶき)に移され，〈しゃべり〉の通称で知られる。



コモチシダ　葉上に無性芽をつける

コモドおおとかげ【コモド大蜥蜴】爬虫(はちゅう)類・オオトカゲ科。インドネシアのコモド・フロレス両島に分布。現生トカゲ中最大で，体長3.2m，体重130kgに達する。現地では陸のワニとよばれ，四肢(しし)とあごの力が強く，野ブタなどを捕食する。個体数が少なく，保護されている。

こもの【菰野(町)】三重県三重郡の町。鈴鹿(すずか)山脈の御在所山(1,210m)から東へ三滝川・朝明(あさけ)川沿いに町域が広がる。人口29,000。東の台地・低地部は農業が盛んで，養蚕や茶・カキの産があり，菰野地区が中心となる。西の山地部は湯ノ山温泉を中心とした観光地で，御在所山までロープウエーが通じ，名古屋・京阪神(けいはんしん)から訪れる人が多い。

こものなり【小物成】近世における雑税。小年貢(こねんぐ)ともいう。本途物成*に対する語。大別して２種類に分けられる。一つは山林・原野・池沼などの土地の用益または産物に課する税で，山年貢・草年貢・茶年貢・池役・竹役などがある。他の一つは商工業に対して課する税で，市場運上・問屋運上・醤油屋冥加(しょうゆやみょうが)などが

ある。実際にはこのように税種目別に各自の名称があり，その税率も課税方法も時代と地方により雑多であった。そのうち固定化したものは郷帳(地方三帳*の一)に記載され，村高*のうちに算入されて，一定額の米または銭で納得した。しかし毎年増減があって一定しないもの，臨時的なもの，期間のあるものなどは郷帳に記載されず，これを浮役*(うきやく)と称した。1873年(明治6)に始まる地租改正*によって廃されたが，実質的には地方税に引き継がれたものもあった。
→運上　→冥加　〔高崎徳次〕

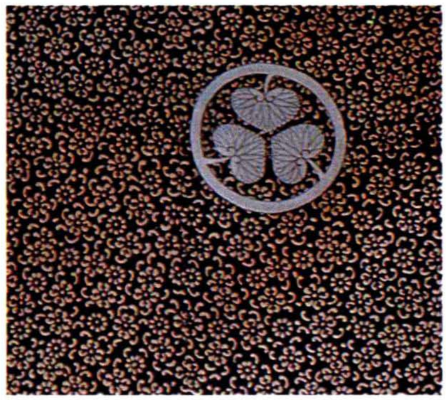
ごももぞのてんのう【後桃園天皇】(1758～1779)　在位1770～1779年。名は英仁(ひでひと)。桃園天皇の第1皇子。母は恭礼門院藤原富子。1762年(宝暦12)桃園天皇崩御のとき幼少のため践祚(せんそ)できず，伯母(おば)智子(ともこ)内親王(後桜町天皇)が即位。1770年(明和7)受禅し，翌年即位した。日記8冊がある。陵墓は京都市の月輪(つきのわ)陵。

こもり【子守】　清元節・日本舞踊の曲名。本名題《大和い手向五字(やまとがなたむけのいつもじ)》。五変化の一(→変化物)。作詞は増山金八，作曲は清元斎兵衛(さいべえ)。1823年(文政6)初演。越後(えちご)(新潟県)出の子守娘を描く。トンビに油揚げを奪われ追いかけてきて，人形で遊ぶさまや，ませたくどき*，座頭の振り*，綾竹(あやたけ)(民俗芸能の採り物から変じたつえ。赤白の布を交互に巻いてある)を使った新潟おけさに郷土色を出すくだりがある。〔如月青子〕

こもりうた【子守唄】　幼児を眠らせる目的で生まれた歌。世界各地に見いだされ，多くの場合，ゆっくりしたテンポと単純なパターンによっているが，この特色を生かしながら，手のこんだ作曲を行なう場合もある。日本では，子守女が仕事として子どもを眠らせるために歌うものが多かったため，歌詞には仕事のつらさ，主人への不満をこめたものが多い。西洋では，民謡としてだけでなく，作者のはっきりしているものが多い。シューベルトやブラームスの子守唄は特に有名であり，ショパンやフォーレのように，この題で器楽曲をつくった例もある。〔徳丸吉彦〕

こもりがえる【子守蛙】　両生類・コモリガエル科。ピパともいう。南アメリカ北東部に分布し，体長18cm，つねに水中で生活する。体は扁平(へんぺい)で，後肢(こうし)のみずかきが発達している。前肢でえさを押し込むようにして捕食。水中で雌の腰部を抱いた雄は，産み出された卵を数個ずつ腹部のひだに収める。これを水底へ降下するときに雌の背中に押し上げ，受精して付着させる。50個以上の卵は，雌の背面の小孔に1個ずつ収まって孵化(ふか)発育し，変態を終了して泳ぎ出る。〔松井孝爾〕

こもりねずみ【子守鼠】　有袋目・オポッサム科。マウスオポッサムの異名で，子を背に乗せて運ぶことからこの名がついた。



小　紋　小紋胴服部分　日光東照宮蔵

オポッサム*よりはるかに小さく，体長13cmほど。南アメリカ北部からペルーまで分布。

こもりばんてん【子守半天】　子どもを背負うときに着るはんてん。ねんねこばんてん・背負いばんてんともいい，江戸末期から江戸で用いられ，はじめは掻巻(かいまき)といって，はだかけ用の夜着と同じ形で身たけの短いもの。広そでで，子どもと背負う母親との首がはいるのでえり肩あきを大きくし，後ろに8cm内外くり下げてある。綿を背に厚めに入れた綿入れ仕立て。

コモリン(岬)［Comorin］　インド半島最南端の岬(みさき)。インド洋の支海アラビア海とベンガル湾とを分け，マナール湾を隔ててセイロン島に対している。ローマの地理書やマルコ-ポーロの旅行記にもしるされているという，ヒンズー教の古い寺院クマリがあり，現在も多数の巡礼者を集める。インド独立の父ガンジーの遺灰の一部はここから流されたといい，その記念堂が建立(こんりゅう)されている。

コモロ(諸島)［Comoro］　アフリカ大陸とマダガスカル島との間のモザンビーク海峡北方にあたる火山性の群島。4つの島からなるフランスの植民地であったが，1975年独立を宣言。1978年，国名をコモロ連邦イスラム共和国とした。面積2,171km²。人口34万(1978年推)。首都はモロニ。最大のグランドコモル島は木材を産し，他の島はココナツ・トウモロコシ・コーヒー・カカオ・チョウジ・サトウキビ・サイザル麻・綿・米・サツマイモ・ヤマイモなどを産する。住民はマラガッシュ人・アラブ人・ネグロで，回教を信ずる。付近の深海から生きている化石として有名なシーラカンス*が捕獲されたことでも知られている。〔大崎　晃〕

こもろ【小諸(市)】　長野県東部の市。室町時代，大井氏によって小諸城が築かれ，江戸時代には北国街道と佐久甲州街道が分岐する重要な宿駅で，城主はしばしば変わったが，1702年(元禄15)以来は牧野氏一万五千石の城下町であった。1954年(昭和29)市制施行。人口42,000。市域は浅間山の南西のふもと，千曲(ちくま)川上流の河岸段丘上に位置する。産業三大別人口比は28：30：42。県東部の穀倉地帯，佐久平一帯の商業の中心地である。県下有数の製糸工場地域であったが，最近は衰退している。信越本線と小海線の分岐点で，国道18号線・141号線・142号線が集まる。小諸城跡は懐古園とよばれ，島崎藤村の《千曲川旅情の歌》で名高く，その詩碑がある。近郊には軽井沢・浅間山・蓼科(たてしな)山など，観光地が多い。

こもん【小紋】　型染*の一。細かい文様の型紙を用いて布の片面に糊(のり)を置き，生地を染めたもの。江戸時代にはおもに裃(かみしも)に使用されたが，羽織や着物にも用いられた。小紋の文柄には鮫(さめ)・大小鮫・青海波・斜子(ななこ)・渦巻(うずまき)・渦霰(うずあられ)・山道・花菱(はなびし)・業平菱(なりひらびし)・鱗(うろこ)・菱菊・松葉結・籠目(かごめ)・亀甲(きっこう)・毘沙門(びしゃもん)亀甲・七宝・立涌(たてわく)・市松・鞘形(さやがた)・矢筈(やはず)などがある。江戸時代，各大名はこれらの柄の中から常時着用する柄を選んで専用し，他で使用することを禁じた。これをお止型(とめがた)とか定めの小紋とかいう。

型紙は薄くすいた美濃(みの)紙に柿渋(かきしぶ)を引き，幅は裂(きれ)幅，縦は約10cmの寸法に文柄を彫ってつくられる。彫型の方法には，錐彫(きりぼり)(錐のような道具で小円をうがち，その集合によって文様をつくる，鮫小紋など)，突彫(つきぼり)(模様に直角に刀を入れ，細かい柄物を彫るのに使う)，引彫(ひきぼり)(縞(しま)を彫るのに使う)，道具彫(あらかじめ文様の形につくられた刀を使う，細かい桜形などはこれによる)がある。現代は紗(しゃ)を張って漆で固めたり紗張りの型を使う場合もある。〔勝呂小枝〕

コモンウェルス［Commonwealth］　1649年イギリスのピューリタン革命*で国王処刑後に〈自由共和国〉が宣言されたときから，1653年クロムウェル*が護国卿(ごこくけい)に就任するまでの間の共和政体。なお，イギリス連邦*もこの名でよばれている。

こもんさいじょうやく【虎門寨条約】　1843年10月，中国の広州虎門塞で中国とイギリスの間に調印された条約。南京(ナンキン)条約*の追加条約で，輸出入税率・通商章程・最恵国条款などを含み，これによって中国ははじめて一方的な最恵国待遇条款を認めさせられ，外国侵略者のために植民地化の条件をつくった。

こもんじょ【古文書】　歴史の史料となる文書・記録をいい，古文書学は古文書の史料的価値を明確なものにするために研究される。古文書は，おおよそ次のように分類することができる。①公式様(くしきよう)文書(奈良時代～平安中期)，②公家様(くげよう)文書(平安中期以後が最盛期)，③武家様文書(鎌倉時代以後，武家社会において用いられる)，④証文，⑤帳簿。④と⑤は時代とさほど密接ではない。古文書学の対象としているのは主として中世のものまでで，近

世のものは分類法なども確立していない。〔飯田悠紀子〕

コモンズ［John Rogers Commons］(1862～1945) アメリカの経済学者。制度学派経済学の代表者。オベリン・ジョンズ・ホプキンス大学で教育を受けたのち，1904年にウィスコンシン大学に招聘(しょうへい)されるまで，教育者として多彩な経歴をもっている。彼は制度を，個人的行為を統制する集団的行為であると規定し，法制的諸制度に対して大きな関心を示し，労働問題・社会政策について実証的研究を進め，制度学派経済学の発展に貢献した。主要論文に《資本主義の法制的基礎》《制度派経済学》がある。〔松浦　保〕

こもんちょう【小紋鳥】 鳥類・キンパラ科。オーストラリア原産の飼い鳥で，スズメより少し小さい。高級フィンチとしてはコキンチョウについでなじみの深い鳥で，わが国には，大正時代に輸入された。頭・顔・くちばしは紅色，背部・翼・尾羽のあたりは緑かっ色で，頭部から胸・腹部にかけて小さい白い斑紋(はんもん)がある。この斑紋から英名はスター-フィンチとよばれる。性質はやや神経質であるが，じょうぶで飼いよい。巣引きには仮母を用いる。

コモン-ロー［common law］ 普通法。裁判所の判例法*として発達してきたイギリスの法体系。広義には大陸法*に対して英米法一般をさすが，狭義には制定法に対して判例を中心とする非制定法をさし，最狭義には非制定法の中でも，エクイティ(1875年まで存続した衡平法裁判所〔大法官裁判所〕の判例を通じて発達したもの)と区別されたコモン-ロー裁判所によって運用されるイギリス国内法をさす。大陸の成文法主義に対し，イギリスでは裁判所による判例法が発達し，それは法曹団(ほうそうだん)によってになわれ，また中世以来ゲルマン法*に由来する陪審制度*が保たれるなど，法秩序に断絶がなく，先例の蓄積によって継続してきた。このようなコモン-ローの特色は他面，先例拘束の慣行の厳格さからエクイティを生み出した。〔寺尾方孝〕

ゴヤ［Francisco José Goya y Lucientes］(1746～1828) スペインの画家。18世紀を代表する最大の画家のひとり。イタリア遊学後，1775年ごろからマドリードに定住し，王立タペストリー工場で下絵を描いているうち首席宮廷画家メングス(1728～1779)に認められ，カルロス4世の宮廷画家，のち首席宮廷画家となって多くの肖像画を残した。《カルロス4世とその家族の群像》は鋭い人物観察と直截(ちょくせつ)な表現により，王侯の肖像画中傑出している。有名な《裸体のマハ》《着衣のマハ》を描いたのもこの時期である。晩年，聴覚を失い，デモーニッシュな幻想のうちに人間の無慈悲・無気味な面を表現した。版画家としてもすぐれ，《カプリチョス》《戦争の悲惨》などのエッチングを残す。1824年フランスのボルドーに移り，その地で客死した。〔島田紀夫〕



ゴ　ヤ《まじない》1793～1798 ラサロ-ガルディアノ財団蔵

こやく【子役】 演劇・映画・テレビなどで，子どもの俳優のこと。特に歌舞伎(かぶき)では，幼年俳優が演ずるべき子どもの役のこともさし，《先代萩(せんだいはぎ)》の千松，《重の井(しげのい)子別れ》の三吉，《盛綱陣屋》の小四郎など有名。

こやぐみ【小屋組み】 屋根の荷重を受ける骨組み。形状は屋根ぶき材，あるいは意匠によって決まり，屋根ならびに天井荷重をささえ，さらに風・積雪などの荷重に耐え，建物の頂部を固める役目をする。木造と鉄骨造があり，木造はさらに和風と洋風に分かれる。和風小屋組みは，柱あるいは桁(けた)の上にそりをもった小屋梁(ばり)を載せかけ，その上に束(つか)を建て，さらに母屋(もや)を置き渡して小屋組みをつくるもので，棡(まぐさ)式とよばれ，小規模な住宅に用いられる。これは，屋根の全荷重を小屋梁が受けるので，大張り間構造には適当でない。小屋梁と桁との組み方により折り置き組みと京呂(きょうろ)組みとに分かれ，小屋の形態によって束建て小屋組み・投げ掛け小屋組み(片流れ)・与次郎小屋組みなどがある。洋風小屋組みは，すべてまっすぐな部材を用い，ボルト・くぎの接合金物によって三角形になりたつように組み合わせたもので，外力は各部材を通って両端の支点に集中するので，張り間の大きい学校・事務所・体育館などに利用される。陸梁(ろくばり)と合掌によって外側の三角形が構成され，束・方杖(ほうづえ)を入れ込み，母屋は合掌の上にすえつけられる。種類は多く，真束小屋組み・対束小屋組み・腰折れ小屋組みなどがある。鉄骨小屋組みは，形鋼・丸鋼・鋼管などの材料でトラスに架構され，リベットまたは溶接で接合されるので，木造に比べて大きさ・形ともに自由で耐力も大きく，種類も多様である。〔神山幸弘〕

こやすがい【子安貝】 軟体動物・腹足類・タカラガイ科の巻き貝の異名であるが，特にハチジョウダカラ(主として八丈島以南に分布し，長さ8cmに及ぶ大形の巻き貝)をさすことが多い。出産のとき産婦に握らせると安産できるというのが名の由来で，古くから安産のお守りにされてきた。

こやすがみ【子安神】 婦人が安産を祈る神。古くから信仰され，中世以来仏教の影響を多く受けている。現在西日本では，堂または神社に子安観音を安置して祈る例が多い。東日本では，子安地蔵あるいは子安様という塔を拝み，またこの地蔵や塔を中心として村々に既婚婦人で構成されている子安講がつくられている。毎月19日に婦人たちが集合するために，十九夜講とよぶ地方もある。利根(とね)川下流域地方では，この神の祭日に犬卒塔婆(いぬそとば)というY字形の木を立てて祭る例があり，子安神とイヌとの関係を示している。〔直江広治〕

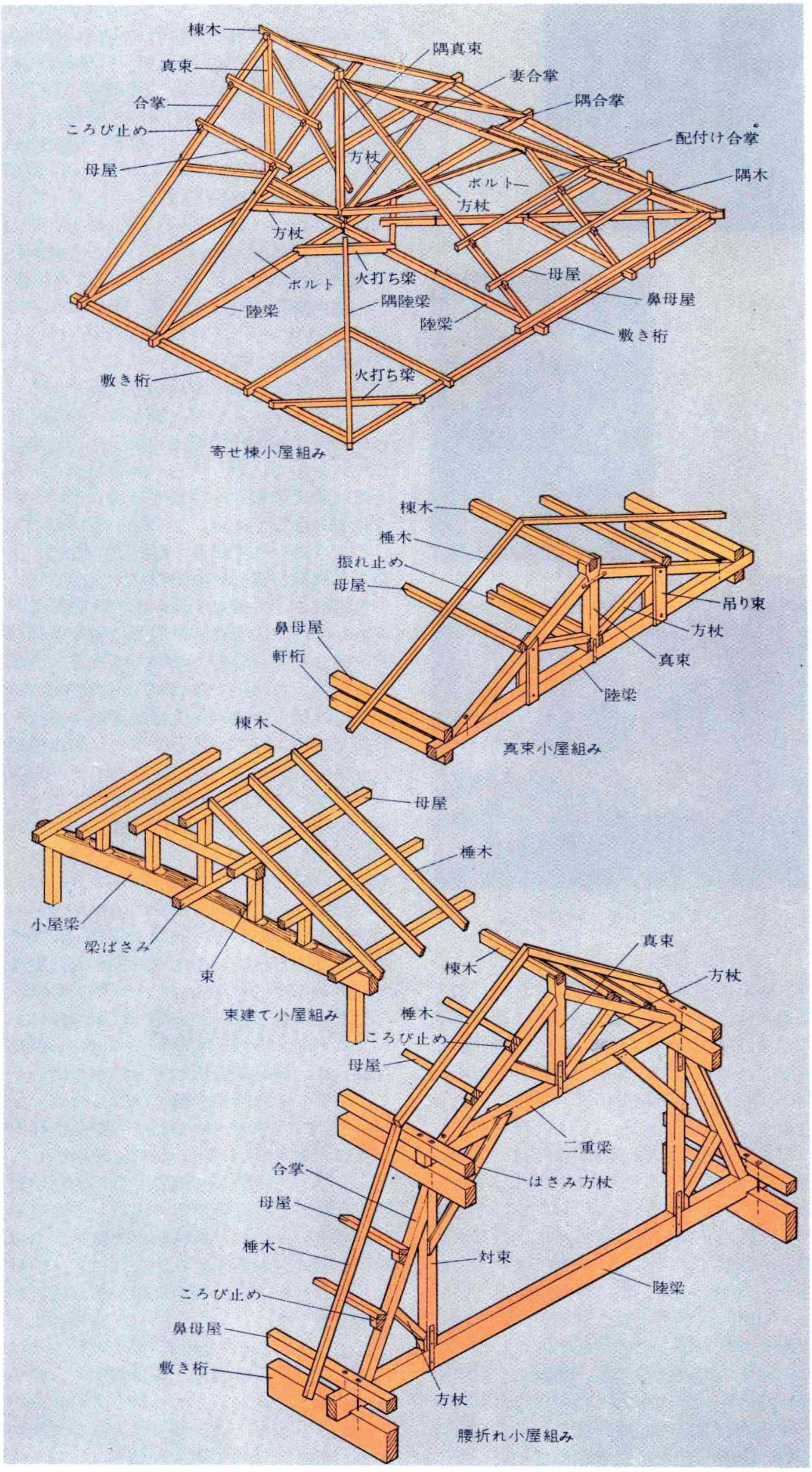
こやつくり ⇨ニワシドリ

こやまいけ【湖山池】 鳥取県東部，鳥取市西方にある湖。面積6.8km²，水面高度2m，最深9mであるが大部分は3m未満である。千代川下流左岸の地の沈降によってできた水面が，北部に発達した湖山砂丘にせき止められたものである。水は東部から湖山川となって千代川にはいる。湖中に七つの小島があって風趣を添えているが，青島は湖山砂丘とともに石器時代の遺物が出土したので有名である。人工魚礁による石釜(いしがま)漁業は全国でも珍しく，コイ・フナ・エビ・ウナギなどの漁獲が多い。南岸に吉岡温泉がある。〔長津一郎〕

こやましょうたろう【小山正太郎】(1857～1916) 洋画家・美術教育家。新潟県長岡市の生まれ。川上冬崖*(とうがい)の私塾(しじゅく)に学び，1876年(明治9)工部美術学校に入学，フォンタネージ*の指導を受けた。その後，浅井忠らと十一字会を結成，1889年明治美術会の創立に活躍した。また，冬崖の死後，私塾不同舎を設立し，中村不折・青木繁・荻原守衛(おぎわらもりえ)らを育成し，東京高等師範学校教授として教科書編集に携わるなど，美術教育に尽くした業績も大きい。〔陰里鉄郎〕

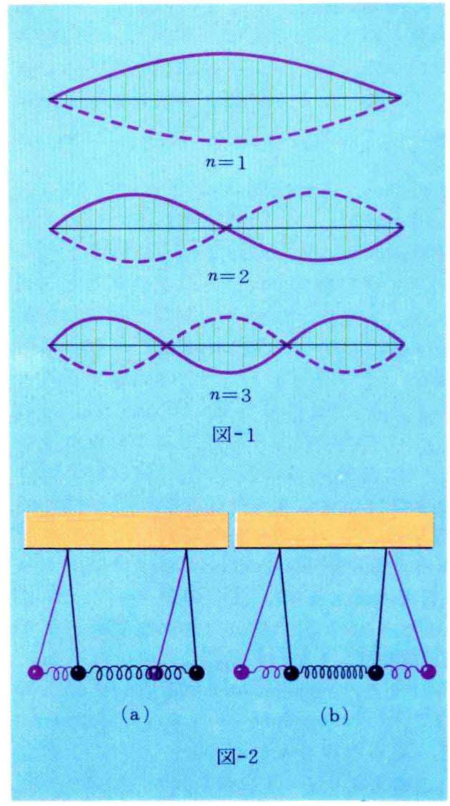
こやまゆうし【小山祐士】(1906～　) 劇作家。広島県の生まれ。慶応義塾(ぎじゅく)大学在学中，久保田万太郎*の指導を受け，のち岸田国士*(くにお)に師事，《劇作*》を創刊して《飜(ひるがえ)るリボン》《十二月》などの戯曲を発表。1934年(昭和9)の《瀬戸内海の子供ら》によって劇壇での声価を高め，《夕凪(ゆうなぎ)》《魚族》など瀬戸内海を舞台とする叙情的作品を発表。第2次世界大戦後は《二人だけの舞踏会》(1956)で岸田戯曲賞を受けた。

ごゆ【御油】 愛知県南東部，もと宝飯(ほい)郡の御油町で，1959年(昭和34)豊川(とよかわ)市に編入された。江戸時代には東海道



小屋組み

と脇往還(わきおうかん)の姫街道の追分にあたる宿場町として繁栄した。明治以後は，東海道本線の通過を忌避し，交通の要地としての機能を失ったが，名古屋鉄道本線・国道1号線が通じる。町並みはいまも宿場町のおもかげを伝え，西隣の宿駅赤坂との間に，約1kmにわたる松並み木(重要文化財)がある。〈夏の月御油よりいでて赤坂や〉と，夏



固有振動

の月の短さを両駅間の距離に託した芭蕉(ばしょう)の句が残る。〔浅井得一〕

こゆううんどう【固有運動】 恒星が空間内を運動しているために生ずる天球上の恒星の見かけの位置の変化。角速度*で表わす。rパーセク*の距離にある恒星が，われわれから見て接線方向にVkm/秒の速度で運動しているとき，恒星の位置は$\mu=V/4.74\times r$(″／年)の角速度で天球上を動く。固有運動は，恒星の接線速度が大きいほど，また距離が近いほど大きくなる。固有運動の最も大きな星はバーナード星で，その値は10.″3/年。肉眼で見える星全体の平均は0.″1/年程度である。〔磯部琇三〕

こゆうしょく【固有色】 自然界の物自体に固有な色彩。これに対して，光の状況，照明など外的関係によって変化する色彩を仮象色あるいは現象色という。木の葉の固有色は緑，雪の固有色は白である。しかし，緑の山を遠方から見ると紫にもなり，雪を頂く山も朝または夕方の光の下では茜(あかね)色の仮象色を呈する。印象派*の画家はこうした自然現象に着目し，木の葉が必ずしも緑ではなく，黄にも赤にもなるというところから固有色を否定し，独特の色彩観を絵画に表現した。〔古川俊英〕

こゆうしんどう【固有振動】 弾性体の棒や板，両端を固定して張った弦，管の中の気体などを振動させたときに起きる振動は，振動体の長さや物理的性質(弾性率・密度・張力など)によって決まる特定の振動数のものに限られる。この振動を固有振動ま

たは基準振動といい，その振動数を固有振動数という。たとえば，長さ l，単位長さあたりの質量が ρ の弦の両端を固定して張力 T で張ったときに起きる固有振動の振動数 ν_n は $\nu_n=\frac{n}{2l}\sqrt{\frac{T}{\rho}}$，$n=1, 2, \cdots\cdots$ で，その振動のようすは図-1のようになる。

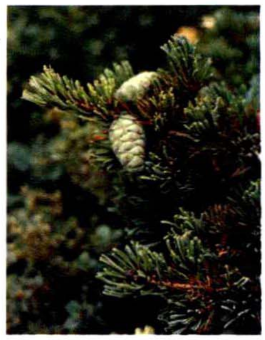
周期の等しい二つの単振り子のおもりの間を弱いつるまきばねで結んで振動させると，二つの振り子は，それぞれあるときは大きくあるときは小さい振幅で複雑な振動をする。しかし，理論的にはこの複雑な振動を，二つの振り子が一定の周期でそろって右・左と振れる振動(図-2a)と，それとはわずかに異なる周期で二つの振り子が互いに逆の向きに振れる振動(図-2b)とを重ね合わせたものとして説明することができる。二つの振り子を結合したものを自由度2の振動系とよび，この場合には二つの固有振動がある。多くの振り子を互いに結びつけると自由度の大きい振動系となり，その振動はいっそう複雑なものとなるが，自由度 f の振動系には f 個の固有振動があって，一般の振動はそれらの重ね合わせによって表わすことができる。〔有山正孝〕

こゆうめいし【固有名詞】 名詞の一種。同じ種類に属する個々のものを互いに区別するために与えられた命名。人名・地名・国名・年号・商号・書名・製品名・船名・機関施設・建設物の名称など。英語などでは，固有名詞には冠詞をつけないなどの文法的特性がみられるが，日本語では文法上普通名詞と差異はなく，意味上区別されるにとどまる。

こよう【雇用】 当事者の一方(労務者)が相手方(使用者)に対して労務に服することを約し，相手方がこれにその報酬を支払うことを約することによって成立する契約をいう(民法623条)。労務を供給する点では請負と類似しているが，請負は仕事の結果を目的としているのに対して，雇用は労働力の提供そのものである。民法上の雇用の規定は，労働者と使用者を独立・平等とみなし，契約自由の原則を基盤とする。したがって，労働者と使用者との間に実質的な独立と平等が存在しない今日では，労働関係は，もっぱら労働法と総称される一連の労働関係特別立法によって規定され，保護を受けている。したがって，現行民法の雇用に関する規定は，純粋の家事使用人や一時的な日雇労働者に適用されるだけである。〔黒木三郎〕

ごようきん【御用金】 江戸中期以降，幕府・諸藩が財政収入を補うため御用商人らに命じた臨時の賦課金。償還することを原則とする。幕府では米価の引き上げ，諸大名の財政救済，海防・長州征伐などの軍費，江戸城修築などを目的として三都の商人に賦課した。宝暦年間(1751～1763)に住友家ら34人に賦課したのがはじまりといわれ，幕末に至りしばしば実施された。最大賦課金額は，1866年(慶応2)第2次長州征伐の際の700万両であった。明治政府も財政確保のため初年にしばしば賦課したが，1869年(明治2)国債制度に切り替え，これを廃止した。〔松尾　涼〕


後陽成天皇


ゴヨウマツ


コヨテ　妊娠期間は60～65日で，5～6子を産む

ごようしょうにん【御用商人】 用聞・用達(ようたし)などともいう。江戸時代，幕府・諸藩に出入りして領主の用だてをした特権商人。蔵元・掛屋をはじめ，領主の日常必需品や奢侈品(しゃしひん)を弁達するものなど，種々の商人があった。彼らは領主への金融・仲買いなどにより巨富を得，領主は財政補充のため彼らに御用金を賦課した。中には諸藩の財政に参与し，藩政を左右する者も現われたが，多分に封建権力に寄生する前期的商業資本の性格をもち，多くは幕藩制の崩壊とともに没落した。〔松尾　涼〕

ごようぜいてんのう【後陽成天皇】(1571～1617) 在位1586～1611年。名は和仁(かずひと)，のち周仁(かたひと)。正親町(おおぎまち)天皇の皇子誠仁(あきひと)親王の第1皇子。母は新上東門院藤原晴子。1586年(天正14)正親町天皇のあとを受けて即位。豊臣秀吉(とよとみひでよし)・徳川家康(いえやす)の援助を得て衰微した皇室の尊厳回復に努力した。1588年聚楽第(じゅらくだい)に行幸。1611年(慶長16)政仁(ことひと)親王(後水尾天皇)に譲位。和学を好み，廷臣を集めてみずから《伊勢(いせ)物語》《源氏物語》を講じた。なお，慶長勅版は天皇の命で刊行されたものである。陵墓は京都市の深草(ふかさ)北陵。〔松尾　涼〕

こようたい【固溶体】 単一の相(固相)で均質な固体混合物，すなわちある結晶体に他物質が溶解しているもの。侵入型固溶体と置換型固溶体とがある。前者は，ある種の原子がつくっている結晶格子(こうし)のすきまに他種の原子がはいりこんでいるもので，鉄に炭素原子がはいりこんでいるマルテンサイトがその例。後者は，結晶格子の中の原子が他種の原子によって置き換えられたもので，鉄とニッケルの合金などがある。合金の特性を改善するのに用いられる重要な性質である。〔三輪誠・海津洋行〕

こようたいさくほう【雇用対策法】 労働力の需給が質・量両面にわたり均衡することを促進し，労働者がその能力を発揮できるようにして，労働者の職業の安定と経済的・社会的地位の向上を図ることを目的とする法律。わが国では1955年(昭和30)ごろから，貿易・資本の自由化を背景に，技術革新や産業構造の変化に伴い，若年労働力・技術労働力の不足がみられ，その対策が要請されてきた。これらの要請によって，職業訓練法・炭鉱離職者臨時措置法など一連の法律が制定されたが，雇用対策法は，それらの集大成として1966年制定された。その内容は，全国的な労働力の需給関係の情報収集とそのための組織の確立，技能労働者の養成と確保，中高年齢者の雇用促進などである。〔木元錦哉〕

ごようべや【御用部屋】 江戸城中にあって，大老・老中・若年寄(わかどしより)が執務したへや。最初は重臣たちが将軍の居所近くに集まって政務を合議・決裁したが，1684年(貞享1)そのへやで若年寄稲葉正休(まさやす)が大老堀田正俊(ほったまさとし)を殺害してから，将軍の居所から隔てて御用部屋が設けられた。それ以後将軍と重臣との意思疎通が不十分となり，将軍側近の側用人(そばようにん)が権勢をふるうようになった。へやは上下に分かれ，上は老中部屋，下は若年寄部屋であった。〔高崎徳次〕

ごようまつ【五葉松】 裸子植物・マツ科のヒメコマツの変種。葉は幅広く，白っぽい。果実は細長く，かわいても鱗片(りんぺん)はあまり広がらず，種子に大きなはねがある。観賞用として植えられる。

コヨテ［coyote］ 哺乳(ほにゅう)類・食肉目・イヌ科。オオカミに似るがやや小形で，体長96cm，尾長30cm，肩高60cmほど。オオカミより耳が大きい。ふつうオオカミは走るとき，尾を水平あるいは高く上げるが，コヨテは下げる。夏毛は明るい黄かっ色，

冬毛は灰色をおびる。中央アメリカ・北アメリカの草原にふつう1～2頭で生活し，ウサギ・プレーリードッグなどの小獣を食べ，ニワトリ・ヒツジなどの家畜をも襲う。

こよみ【暦】 諸種の時間的周期を組み合わせて時の流れをはかり，年代・日付を定める体系。またその体系に従って天体の出没，潮の干満などの自然現象や，週・年中行事など生活に関連した事項をしるしたもの。暦に用いられる時間的周期のうちで最も重要なものは，太陽・月・地球の運行に準拠した自然の周期日・月・年である。これに対して7日を単位とする週，1日を分割した時・分・秒や，100年を1期とする世紀などは人工的なものである。1日は地球の自転による昼夜の区別に由来し，われわれの日常生活に最も直接的な関係をもっている。1か月は月の満ち欠けを基にした周期で，文明の進歩した現在の生活にはさほど重要ではないかもしれないが，燈火の乏しかった大昔には月光の利用は生活を営む上で大事な意味をもっていた。また，1年の周期は季節の気候の変化に対応して，衣食住に大きな影響をもっている。文明が進むとともに，農業や宗教的儀礼などのために暦の必要が生じ，文化が早く開けた国にはそれぞれの国情に応じた暦が生まれてきた。バビロニア・エジプト・ギリシア・中国などでは，すでに数千年の昔にかなり精密な暦をもつようになったのである。

【暦法】月の満ち欠けの周期（1朔望月*(さくぼうげつ)）は29.5306日，1太陽年は365.2422日と，いずれも端数がつき，太陽年と朔望月の比も整数ではない。暦法の原理は，これら整数比にない時間周期を適当に組み合わせて，いちばん簡単でかつ社会生活に便利なものをつくることにある。洋の東西を問わず，古い時代に生まれた暦の多くは太陰暦*であった。これは1朔望月を基本の周期とし，新月または満月の日を1か月の初めにとっている。1朔望月は29.5日に近いので，29日の月と30日の月を交互に配し，12か月をもって1年と数える。しかし，正確には12朔望月は354.3671日であるから，月の位相と日付がずれるのを防ぐためには，0.3671日の端数を取り除くくふうをせねばならない。この端数を分数で近似させると，3/8，4/11，7/19，11/30……などが得られるから，分母の年数の間に分子の回数のうるう年を設けて30日の月を年7回に増せば，ほぼ目的を達することができる。代表的な太陰暦であるイスラム暦*では30年に11回のうるう年を置いている。

1太陰年（＝12朔望月）は1太陽年より約11日短い。したがって，太陰暦では毎年11日ずつ暦の日付と太陽の運行がずれ，3年で日付が季節より1か月早くなってしまう。そこで，2～3年に1回余分の月（うるう月）を入れ，1年が13か月になるうるう年を設けて，季節と日付の食い違いを調整するのが太陰太陽暦である。バビロン暦*・ユダヤ暦*・ギリシア暦*，古いローマ暦*・中国暦*などがこの暦法の例である。1太陽年と1朔望月の比は12.3683で，端数の0.3683を分数で近似すると1/3，3/8，4/11，7/19，123/334，……などが得られるから，分母の年数の間に分子の回数だけうるう月を置けば，月の運行と季節の調整をすることができる。バビロン暦やギリシア暦では8年間に3回うるう月を置く方法が採用されていたが，BC432年ギリシアの天文学者メトンによって7/19の割合でうるう月を配する方法が発見され，その後のギリシア暦やユダヤ暦ではこの置閏法*(ちじゅんほう)が採用された。つまり暦の19年を小の月110回，大の月125回，計235か月，6940日とするもので，19太陽年＝6939.6018日，235朔望月＝6939.6822日であるから，かなりよく近似されている。一方中国では，メトンの発見より数世紀もまえの周の時代に，19年7閏法が行なわれていた。

太陽暦は月の満ち欠けとは無関係に，太陽の運行だけによった暦で，エジプト暦*・ペルシア暦・ユリウス暦*・グレゴリオ暦*がこれにあたる。1太陽年も1日の整数倍ではなく，0.2422日の端数がつくが，これは1/4，7/29，8/33，31/128，97/400，……などの分数で近似できる。エジプト人は，1年をそれぞれが30日からなる12か月と5日の付加日に分けたが，シリウスが日の出直前に東の空に上る日を観測して，これが365.25日の周期でくり返すことを知り，4年ごとに付加日を1日増して6日とする暦をつくった。ユリウス暦も4年に1度のうるう年を置き，29年7閏法，33年8閏法はペルシア暦で採用された。400年97閏法は現行のグレゴリオ暦のものである。

【暦の改良】今日世界の共通正暦として採用されているグレゴリオ暦は，古代のローマで行なわれていた太陰太陽暦を改良して，カエサル*（ユリウス-カエサル）が制定したユリウス暦に起源をもっている。当時のローマ暦に4年を周期として平年（355日）・うるう年（378日）・平年（355日）・うるう年（377日）をくり返すきわめて不完全な太陰太陽暦で，カエサルの時代には季節が約3か月もずれていた。そこで彼は，BC46年に特別なうるう月を設け，総日数445日の年として季節の食い違いを正し，BC45年から1年を365.25日とする太陽暦を制定した。1年を構成する12か月の名まえは，次のような当時のローマ暦の名称を踏襲している。

Januarius	（1月）	Quintilis	（7月）
Februarius	（2月）	Sextilis	（8月）
Martius	（3月）	September	（9月）
Aprilis	（4月）	October	（10月）
Maius	（5月）	November	（11月）
Junius	（6月）	December	（12月）

このうち7月はBC44年カエサルを記念してJuliusと改称された。その後，BC43年～BC9年の間，暦をつかさどる僧官が誤って3年ごとにうるう年を置いたため，3日の差が生じた。アウグストゥス*は，これを消去するためにBC6年からAD4年に至る間うるう年を置くことを禁じ，AD8年から正しく4年ごとに閏日を設けることに定め，同時に8月をAugustusと改称した。

ユリウス暦は比較的進歩した暦であったが，1年の長さを365.25日にとったため真の太陽年との間に0.0078日の差があり，約400年間に3日の食い違いが出てくる。このため，ユリウス暦が制定されたころ3月25日にあった春分が，16世紀の終わりには3月11日ごろに移り，AD325年ニケヤの宗教会議で春分の日と定められた3月21日より10日も進んでしまった。時のローマ教皇グレゴリオ3世は，1582年10月5日から14日までの10日を取り除いて翌年の春分を3月21日にもどし，うるう年を400年間に97回設ける新しい暦，グレゴリオ暦を採用した。すなわち，西暦紀元年数が4で割り切れる年をうるう年とするが，100で割り切れる場合は除き，さらに400で割り切れるときは残すという置閏法を適用して，400年間に3日のずれを調整したのである。この改暦によって，暦の1年の平均の長さと太陽暦との差は10,000年に3日と大幅に減少した。

グレゴリオ暦は世界じゅうで広く使われているように，現在では最もすぐれた暦法であるが，完全なものとはいいがたい。その欠点としては，毎月の日数が等しくないこと，年始の日に意味がないこと，曜日と日付がまったく無関係なことなどがあげられる。フランス革命後の1793年，フランスにおいて行なわれた革命暦*はグレゴリオ暦改良の一つの試みであったが，あまりにも在来の習慣を無視して急進的であったため長続きせず，10数年ののちには再びグレゴリオ暦に復帰してしまった。その後もときに応じて改暦案が提案され，世界暦*はその代表的なものであるが，いまだ万人を納得させるに足る最良の暦法は出ていない。

【日本の暦】わが国において暦が正式に採用されたのは604年（推古12），中国から伝来した元嘉(げんか)暦（宋(そう)の暦）であった。その後9世紀のころまでは，中国で暦が改められるとそれが輸入されて，677年に儀鳳(ぎほう)暦，763年に大衍(だいえん)暦，857年に五紀暦，861年に宣明暦が採用された。宣明暦は以後800年以上にわたって長く用いられることになるが，その間，中国の幾度かの改暦にもかかわらず，わが国では行なわれなかった。この暦は1年の長さを365.2446日としているから，800年間に2日以上の差を生じてくる。江戸時代にはいると，文教の興隆に伴って天文暦学も盛んになり，中国の暦法中最も完備した元の授時暦の研究者が輩出した。中でも渋川春海*は授時暦をもとにして日本人ではじめて暦を編纂(へんさん)し，それは貞享(じょうきょう)暦として1684年

(貞享1)に施行された。その後8代将軍徳川吉宗(よしむね)による暦学の振興，西洋天文学の輸入などの影響を受けて暦の改良が行なわれ，宝暦(1754)・寛政(1797)の改暦を経て，1842年天保(てんぽう)暦が施行された。この天保暦はわが国のいわゆる旧暦最後の暦で，1873年(明治6)現在の太陽暦採用に至るまで続いたのである。〔守山史生〕

こより【紙縒】 和紙を細長く切ってよりをかけ，糸状にしたもの。〈観世より〉ともいう。上代には髪を結ぶのに麻糸を用いたが，7世紀に和紙がつくられてからは紙縒が用いられ，後世の元結い*の起源となった。羽織ひも，帳簿の閉じひもなどにも用いた。水引き*はこよりに米のりをつけて乾燥したもの，印籠*(いんろう)・笠*(かさ)・行李*(こうり)などはこよりを漆塗りした製品である。

コラ(半島)［Kola］ ソビエト連邦，ヨーロッパロシア北西部，北極海と白海を分ける半島。森林が広く分布し，ニッケル・ウンモ・リンカイ石などの地下資源も多い。メキシコ湾流の影響を受けて気候は緯度のわりには温暖で，港市ポリャルヌイは不凍の重要港となっている。

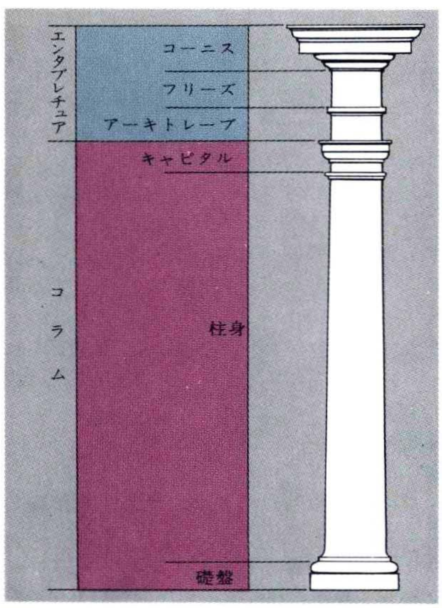
コーラー［Joseph Kohler］(1894～1919) ドイツの法学者。民法・刑法・国際法・比較法・法哲学などのあらゆる法領域にわたり，いずれも新見地を開拓し，数多くの業績を残した。特に，法哲学の分野では法律をもって文化の発展段階における一様相として進歩史的に記述し，みずから法哲学における新ヘーゲル派と称し，シュタムラー*の新カント法哲学に対抗した。また自由法*運動においても重要な地位を占めた。

ごらいごう【御来迎】 ⇨来迎

こらいふうていしょう【古来風体抄】 藤原俊成*(としなり)の歌論書。式子内親王の求めで，1201年(建仁1)に完成。《万葉集》から《千載和歌集》に至る和歌集について歌風の変遷を説き，秀歌に短評を加えたもので，中でも《古今和歌集》を歌の典型として尊重している。

コーラいんりょう【コーラ飲料】 炭酸飲料の一種。アルカロイド系の刺激成分を含む植物の種子や葉部の成分をアルコールなどで抽出・添加し，調合・味つけしてつくる。コカ-コーラはコカノキ*の葉とコーラノキ*の種子を原料とするものであるが，その原料配合は明らかにされていない。コカノキの葉には0.5～1.0％程度のコカインを含み，産地の原住民は葉をかんで疲労回復薬とする習慣があり，コーラノキの種子はカフェインなどを含み興奮薬とするところから，飲料への利用開発を考えたものと思われる。はじめアメリカでつくられて世界に広まり，わが国へは第2次世界大戦後アメリカ駐留軍向けに東京芝浦にコカ-コーラ-ボトラー社の工場が建設され，1960年(昭和35)に一般に市販された。〔斎藤 進〕


コラージュ　ラウシェンバーグ《作品》1960



コラム　トスカナ式(ローマ時代)

コラーゲン［collagen］ 皮・腱(けん)・骨・靭帯(じんたい)・軟骨などに含まれる硬タンパク質*の一種。膠原質(こうげんしつ)ともいう。自然状態では繊維状の固体で存在し，タンパク質分解酵素の作用を受けにくい。水または希アルカリと煮ると可溶性のタンパク質のゼラチン*に変化する。アミノ酸組成上の特徴は，シスチン・システイン・トリプトファンをまったく含まず，グリシン・プロリン・オキシプロリンの含量が非常に多いことである。ケラチン*とは異なり伸縮性に乏しい。〔山崎博子〕

コラージュ［collage］ 絵画の手法の一。印刷物の紙面や写真のはりつけを意味している。キュービスム*のピカソ・ブラックらのパピエ-コレ*に始まり，ダダ*やシュルレアリスム*の画家が多く用いた。当初は画面構成や色彩効果の要素とされていたが，しだいに象徴・比喩(ひゆ)や映像の喚起などの新鮮な表出効果にその目的が移った。エルンスト*の《百頭女》，クルト-シュビッターズの《メルツ》などは，その作品として有名。

コーラス ⇨合唱

コラズム-シャーちょう【コラズム-シャー朝】 中央アジアのアム川下流域のコラズム地方に建設されたトルコ系イスラム王朝(1077～1231)。11世紀，ガズニ朝の知事トルコ人アヌーシュ-テギンが独立，その子クトゥブッディーン-ムハンマドがコラズム-シャーを称し，12世紀末テキシュがイランを領有，テキシュの子アラー-ウッディーン-ムハンマドはアフガニスタンを取ったが，1220年ジンギス汗に討たれて死亡し，まもなく帝国は瓦解(がかい)した。〔若松 寛〕

コラート(高原)［Khorat］ タイ北東部にある高原で，西はメナム川に，東はメコン川に至り，タイの総面積の3分の1を占める。平均高度は100～200mであるが，南部および西部ではしだいに高くなり，1,000mを越える。住民はラオ族が中心で，米作と畜産を行なっている。行政の中心地ナコンラチャシマ(コラート)が南西部にある。

コーラのき【コーラの木】 双子葉植物・アオギリ科。アフリカ西部原産の常緑高木。高さ10m内外。葉は互生し，倒卵形で先がとがり，革質，長柄がある。葉腋(ようえき)に，円錐(えんすい)花序に黄色花を群生する。花弁はなく，がくが5～6裂する。果実は楕円(だえん)形で15cmくらい，内に4～10個の肉質で扁球(へんきゅう)形の種子がある。種子は原住民が体力保持増進に利用した。カフェイン・コラニン・精油を含み，コーラ飲料の原料とされる。

コラム［column］ 新聞紙面の社説*以外の定期的・継続的な短評欄。政治評論・社会時評・文明評論が主である。《朝日新聞》の〈天声人語〉〈素粒子〉〈今日の問題〉，《毎日新聞》の〈余録〉〈近事片々〉，《読売新聞》の〈編集手帳〉〈よみうり寸評〉などが代表的である。社説が数人の論説委員の持ち回りで新聞社の公式の見解を示すのに対して，コラムはひとりの筆者(コラムニスト)が皮肉とユーモアを交えて意見を発表する。わが国最初のコラムは1902年(明治35)の《大阪毎日新聞》の〈硯滴(けんてき)〉で，〈天声人語〉は1904年に設けられた。〔飯田良明〕

コラム［column］ 円柱。本来は楣(まぐさ)式建築のエンタブレチュア*をささえる構造用の円形独立柱であるが，西洋建築の伝統はこれを記念的効果の重要な要素として扱っている。正規のものは柱頭・柱身・柱脚の3部からなり，柱身に竪溝(たてみぞ)(フルーティング)が彫られたり，柱頭・柱脚の細部が加工され装飾化され，その形式には時代的な固有の特徴がみられる。➔オーダー

コラール［Kolar］ インド共和国南部，

マイソール州の金鉱産地。マドラス西方220km，海抜850mの高地にある。インドの金産出量の99％を占めるインド金鉱業の中心で，19世紀末にイギリス人によって採掘され，以来イギリス系の会社が経営してきた。鉱床は6km以上にわたり，約23,000人の労働者が働いている。しかし，産額は年々減少の傾向にある。1956年国有化された。

コラール　［Choral］　ドイツのプロテスタント教会の聖歌。ルターによって積極的に推し進められ，その宗教改革の重要な手段とみなされた。具体的にはカトリック教会のグレゴリオ聖歌*とは異なって，ラテン語ではなく，だれにでもわかるドイツ語で歌われ，旋律も拍節のはっきりした，歌いやすくて形態の明確なものが使われた。旋律は新しくつくられたものもあれば，カトリックの聖歌やフランスなどの民謡や芸術歌曲から借用されたものもある。16世紀にすでに単旋律ではなく合唱で歌う習慣が生まれた。バッハの4声部の編曲もそうした伝統に従ったものである。

なお，コラールはそのままで歌われるだけでなく，カンタータ*や受難曲*にも含まれて，宗教上の重要な機能を果たしている。また，バッハの多くの作品で知られるように，コラールに基づいてオルガンのための前奏曲や幻想曲がつくられている。さらに鍵盤(けんばん)楽器やリュートのための変奏曲がコラールを主題にすることが多い。

〔徳丸吉彦〕



コラン
《風景》
ルーブル美術館蔵

コラン　［Louis Joseph Raphaël Collin］（1850〜1916）　フランスの画家。美術学校でカバネル（1823〜1889）らに学び，1873年にサロン-デザルティスト-フランセーズに出品した《休息》で2等賞を受けた。作風は古典的で，色調も黒・かっ色を基調としていたが，のちにはベネチア派*を学び，穏やかな外光描写を見せた。1902年以降はアカデミー-コラロッシなどで後進を指導したが，黒田清輝らのわが国洋画家に与えた影響は大きい。

コーラン　［Kōran］　正しくは〈クルアーン〉といい，〈読誦〉を意味する。イスラム教*の聖典で，マホメット*が神がかりの状態で語ったことば（アッラー*の啓示）の集大成である。当時のアラビア半島には部族ごとにそれぞれの言語があり，マホメットは彼に下された啓示をメッカ方言で語った。イスラム教が全アラブに受け入れられるに至り，メッカ方言は〈アラビア語〉となったのである。《コーラン》は全114章からなり，第1章（開扉の章）を除けば，長い章から短い章の順に配列されているが，これはマホメットの定めたものではない。マホメットは啓示を1冊の本に編集しようとの意図をもってはいたが，それは彼の死とともに中断し，現在の《コーラン》として完成したのは第3代カリフのウスマーン（在位644〜656年）のときであった。



コーラン　ウマイヤ朝皇帝からペルシア王家に贈られた彩飾《コーラン》　16世紀　テヘラン考古博物館蔵

《コーラン》は〈メッカ啓示〉全94章と〈メディナ啓示〉全10章に二大別され，前者が詩的で，その初期のものは脚韻を踏んだ〈サジュウ体〉であるのに対し，後者は散文体である。この文体上の区別は内容に対応している。**〈メッカ啓示〉**　その特徴は純粋に宗教的であることにある。まず強調されたのは神の権能と恩寵(おんちょう)およびそれらに対する人々の務めの観念であったが，それはメッカの人々の激しい迫害によって深化させられ，神と人の関係は，現世と来世の強い緊張関係の下に，驚くほどなまなましい迫力をもって語られた。最後の審判の観念が強調され，不信仰のゆえに神の罰をこうむって滅亡した民族のテーマが《旧約聖書》やアラブの民間伝承にその素材を得てくり返されるようになったのはその一環としてであった。**〈メディナ啓示〉**　ヘジラ（622）に伴い，マホメットはメディナのユダヤ教徒と密接な関係をもつに至った。この関係，とりわけ彼らとの論争を通して，彼は《旧約聖書》に関していっそう正確な知識を得，それは《コーラン》に反映した。アブラハム・モーゼ・ノアの物語が《コーラン》には例外的に説話体で語られ，アブラハムがイスラム教の直接の祖とされたのはその一例である。この期のもう一つの特徴は啓示の範囲が信仰生活だけでなく，生活一般に及ぶようになったことである。マホメットはメディナにウンマ（宗教共同体）を建設し，この組織において宗教上の指導者であった彼はしだいに勢力を増し，ついには政治上の指導者となった。相続・婚姻などの社会的・立法的啓示が聖典である《コーラン》にみられるのはこうした事情によっている。

〔牧野信也〕

コーラングレ　⇨イングリッシュ-ホルン

コランダム　［corundum］　酸化アルミニウムの組成をもつ鉱物。鋼玉ともいう。Al_2O_3　三方晶系。比重3.95〜4.10，硬度9。純粋なものは無色透明であるが，不純物のため着色するものに，ルビー*・サファイア*・エメリー*などがある。主として熱変成作用を受けた結晶質岩石に産する。宝石（ルビー・サファイア）のほか研摩剤（エメリー）として使用する。

こり　**［垢離］**　主として病気平癒(へいゆ)や志願成就を神仏に祈願するとき，冷水や海水で身体を洗い清めて身心の汚れを取り去ること。また水垢離・塩垢離ともいう。これを行なうのを〈垢離かく〉とか〈垢離とる〉という。また寒中に行なう垢離を寒垢離という。山岳信仰とともに流行し，霊山や宗教的史跡には，いまでも垢離所が設けられている所が多い。

コリー　［collie］　イヌの一品種で，スコットランド産の牧羊犬。上品で姿が美しいため，各国に輸出され，家庭犬として飼われている。長毛と短毛の2種あるが，長毛種が一般的。毛色はセーブル（黄かっ色と白）・トライカラー（黒とかっ色と白）・ブルーマール（大理石色で青白い黒斑(こくはん)がある）などで，体高は56〜66cmくらい。

コリウス　⇨コレウス

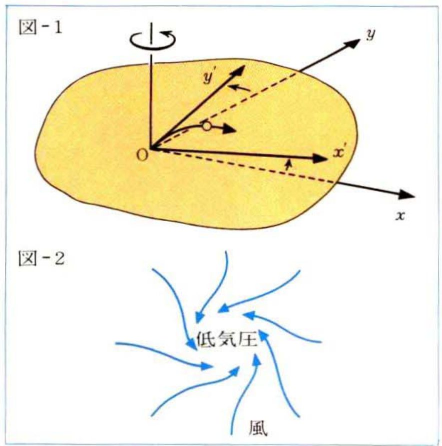
ゴリオじいさん　**［ゴリオ爺さん］**　バル

ザック*の長編小説。1835年の作。いなかからパリに出て来た学生ラスチニャックが，同じ下宿に住むふたりの特異な人物を知る。ゴリオ爺さんは盲目的な父性愛から娘に金をつぎこんで破滅し，脱獄囚ボートランは出世のためには自分の手をよごさなくてはならないと教える。このふたりに出会った野心に燃える一青年の社会への出発が，王政復古時代の上流階級と庶民階級の対比のうちに描かれる。〔小松英輔〕

コリオリ ［Gustave Gaspard Coriolis］ (1792～1843) フランスの土木技師で物理学者。エコール-ポリテクニクで解析幾何学・一般力学を教えた。力学，特に応用面についての研究があり，回転座標系で現われる見かけの力〈コリオリの力*〉の導入で知られる。科学アカデミー会員。

コリオリのちから 【コリオリの力】 慣性系*に対して等速回転運動をする座標系に現われる慣性力*の一。転向力ともよばれる。1828年，コリオリ*によって提唱された。図-1のように，慣性系Oxyでy軸の方向に等速直線運動をしている物体が，回転座標系$Ox'y'$では右曲がりの曲線を描くように見える。等速直線運動をしている物体には力が作用していないのだが，回転座標系では運動方向を右に曲げるような力が作用していると考えればつごうがよい。この力をコリオリの力という。その大きさは座標系の回転の角速度*と，回転座標系に対する物体の相対的な速度の大きさとの積に比例し，物体の運動の方向と直角の方向に作用する。地球の表面に固定された座標系は，地球の自転に伴って回転運動をするので，この座標系によって物体の運動を取り扱う場合には，コリオリの力を考慮しなくてはならない。地球上を運動する物体はコリオリの力の影響で，北半球ではつねに進行方向に対して右へ，南半球では進行方向に対して左へ曲がっていく。北半球では，周期の長い振り子を振動させるとその振動面が時計の針の回る向きにゆるやかに回っていく(→フーコーの振り子)。また低気圧に吹き込む風が右へ右へと曲がるため，低気圧の周囲には時計の針と逆の向きに回るうずができる(図-2)。これらはすべてコリオリの力によって起こる現象である。〔有山正孝〕

ゴーリキー ［Gor'kii］ ソビエト連邦，ヨーロッパロシア中部の同名州の州都。人口130万5,000(1976)。ボルガ川とオガ川の合流点にある。旧名はニジニ-ノブゴロド。作家ゴーリキー*の生地で，彼にちなんで1932年に改称した。ソ連の機械工業発祥の地で，〈ボルガ〉〈チャイカ〉など乗用車のほか，船舶・工作機械の製造，石油精製・木材・食品などの工業が盛んである。13世紀以降ボルガ水運の要衝にあたる交易都市として栄え，また，タタール人に対するモスクワ防衛の要塞(ようさい)でもあった。〔斎藤晨二〕



コリオリの力



ゴーリキー

ゴーリキー ［Maksim Gor'kii］ (1868～1936) ロシア・ソ連の小説家・劇作家。本名アレクセイ-マクシモビチ-ペシコフ。帝政ロシアの下層民として悲惨な生活を送り，劣悪な生活条件にもめげない民衆の代弁者として作家活動を始めた。《フォマー-ゴルジェーエフ》において発展する資本主義と社会の腐敗を描き，戯曲《敵》，長編小説《母*》では，革命勢力としてしだいに台頭するプロレタリアートの姿をとらえた。社会主義リアリズム*の方法意識を固めはじめ，革命運動に接近し，〈ズナーニエ派*〉を結成，《どん底*》などの戯曲を書いたが，1906年海外に亡命した。ロシア革命ののち，ソビエト作家同盟*の第1回大会の議長をつとめ，《アルタモーノフ家の事業》《クリム-サムギンの生涯(しょうがい)》などを発表，名実ともにソビエト文学の父となった。その生涯は《幼年時代》など自伝三部作に詳しい。〔藤家壮一〕

コリシウム ［corycium］ 先カンブリア時代の化石。フィンランドの始生代の千枚岩中に発見された嚢袋(のうたい)状または胞果状のセキボク*で，生物かどうかで長く論議されたが，炭素の同位体の研究により生物起源であることが証明された。

コリスチン ［colistin］ 1950年小山康夫(やすお)らが，福島県の土壌(どじょう)中から得た細菌の産出する抗生物質。グラム陰性菌に特異的に作用し，乳幼児の食中毒，百日咳(ぜき)・赤痢・腸チフス・パラチフス・虫垂炎および中耳炎などに著効を示す。また，ペニシリンを分解する酵素ペニシリナーゼを阻害するので，ペニシリンと併用すればその効力を増強する。耐性も認められず，副作用もない。

コリツォーフ ［Aleksey Vasilyevich Koltsov］ (1809～1842) ロシアの詩人。ロシアの美しい自然とともに，農民の貧苦や健康的な喜びをうたった。民衆詩人として多くの人に受け入れられ，プーシキン*・ベリンスキー*ら当時の文学者と親交があった。代表作に《森》《収穫》などがある。

こりつご 【孤立語】 言語の形態的構造による古典的分類法の一。語は実質的意味を表わすのみで，語自身はなんらの変更をこうむることなく互いに孤立し，その文法的機能は文中の位置によって決定される言語。中国語*・ベトナム語*をその代表的言語とし，またシナ-チベット語族*の言語はいずれも孤立語的性格が強いとされる。原則として語は1音節でそれ以上に分析することができないが，例外も多く，たとえば中国語の卓子(チュオツ)(机)はすでに二音節語となっている。中国語の〈他念書〉(彼は本を読む)において〈は〉〈を〉にあたる要素は，それぞれ〈他〉〈書〉の文中の語順により示される。しかし，中国語の場合も十分に孤立語的とはいいがたく，〈他念着書(呢)〉(彼は本を読んでいる)における〈着〉は，いわば膠着語*(こうちゃくご)的な接尾辞として用いられており，またその前の語が動詞であることを文中の位置にまつまでもなく決定する役目も兼ねている。→屈折語〔崎山 理〕

こりつしゅぎ 【孤立主義】 外交政策として他国と同盟を結ばず，孤立を維持する主義。イギリスの〈光栄ある孤立〉もこの一例だが，特にアメリカの伝統的外交政策をさす場合が多い。建国初期，ヨーロッパの複雑な国際情勢に巻き込まれることを懸念したワシントン*ら指導者は，中立主義・孤立主義に徹した。1823年には，モンロー主義*の宣言として明確に打ち出され，19世紀末まで続けられた。アメリカ-スペイン戦争*以降は，孤立主義の維持が困難となり，特に第2次世界大戦以後は現実外交の場から消滅した。しかし，孤立主義の感情は国民の間に根強く残存している。〔折井一彦〕

こりつしょうたく 【孤立荘宅】 それぞれの所有耕地に住居が孤立しているもの。田荘を有する家宅の意で，集落の平面形態では散村*形態に属する。北ドイツ平原のウェストファーレン(ウェーザー川以西)，オランダ，ベルギー北西部，フランスのブルターニュ半島，アイルランドなどのケルト民族の居住地であった地方に多く分布する。旧満州・内モンゴルの農家もこの形をとり，また日本では富山県西部の東礪波(となみ)郡・西礪波郡地方にみられる。成立については，開拓および農耕に便利なために自然発生したもの，制度(散居村落制)によるものなど，いろいろの説がある。〔佐藤甚次郎〕

コリニー ［Gaspard de Coligny］ (15

19～1572) フランスの貴族・軍人。イタリア戦争*やスペインとの戦いに参加した。1562年ユグノー戦争*が始まると，コンデ家*のルイとともに，ユグノー*の中心人物として活躍し，シャルル９世*が即位するとその信任を得た。しかし，これを危険視したカトリーヌ-ド-メディシス*とギーズ公にねらわれ，1572年８月襲われて負傷した。その直後，聖バルテルミーの虐殺*の犠牲となった。

コリマ(火山) [Colima] メキシコ中西部，西シエラマドレ山脈にあるメキシコ第３の高峰で活火山。高度3,960m。コリマ州の州都コリマの北方30kmにある。1869年の大噴火で北東山腹に寄生火山を生じ，以来山頂の主火口と寄生火山が噴火をくり返している。1885・1903・1913・1941年に大噴火があり，その溶岩流や熱雲・降灰のため大きな被害があった。

コリメーター [collimator] 有限距離の点(または線)光源の光線を平行光線にする装置。視準器ともいい，天文学では視準儀という。人工的に無限遠の所に光源や標板を置くためにも用いられる。通常，ランプの前面にピンホール板とかスリットを置き，これを通過した光を数枚のレンズからなるレンズ系(コリメーターレンズ)によって平行光線に変換する。その場合ピンホール板(またはスリット)はコリメーターレンズの焦点位置に置けばよい。分光器・反射測角器などの光学機械製作の際の無限遠調節などの装置として，オートコリメーターなどに応用される。〔加藤定雄〕

コリヤークぞく 【コリヤーク族】 古アジア諸族*の一つで，カムチャツカ半島北部に住む。人口は約8,000。民族名の語根〈コル〉は〈牧養トナカイ〉の意で，もっぱらトナカイ牧養に従事する者のほかに，定住して狩猟・漁労を主とする者がある。前者はトナカイのそり，後者は犬ぞりを使う。

こりやなぎ 【梱柳】 双子葉植物・ヤナギ科の落葉低木。熱帯～温帯に広く栽培されている。高さ１～３m。葉は対生または３葉輪生し，広線形，裏面は白色をおびる。雌雄異株で，春，葉に先だって花を開く。花は２cmほどの穂状で直立し，包は黒色のため，はじめ花穂が黒く見える。茎の皮をはぎ，木質部で，こうり・かご・いすなどをつくる。大葉・中葉・小葉のものがあり，大葉種は収量は多いが質が劣り，小葉種は収量は少ないが質はよい。中葉は，質・収量ともに中間型。気候温和で耕地の深いところによく育ち，日本では高知・長野・兵庫・愛媛の各県でおもに産する。繁殖はさし木による。１～３月に枝を刈り取り，３～４週間水田につけて柔らかくしてから皮をはぐ。〔横井朝子〕

こりゅう 【古流】 いけ花*流派の一。江戸中期，今井宗普の創始といわれる。２代家元安藤涼宇は江戸の加賀藩邸に出入りし，北陸進出の地歩をつくった。３代家元関本理遊のとき隆盛をきわめ，門人は江戸・北陸をはじめとして全国に及んだ。４代家元関本理恩以来雅号に〈理〉字を用い，現代まで受け継がれている。理恩は明治維新後のいけ花界の衰退に際して，1877年(明治10)金沢の近藤理清に５代家元を譲ったため，これを契機として多くの分派を数えるに至った。明治中期，池田理勉・千羽理芳らによって古流の東京復帰が行なわれ，1898年古流最初の統合団体として花友会が創設された。さらに1941年(昭和16)，全国華道古流協会が結成されて現在に至っている。古流の特色は，自然の出生を尊重し，極端な技巧をきらい，池坊*(いけのぼう)と遠州流*の中間をいくものとされ，家庭花として親しまれているが，第２次世界大戦後は現代花の分野においても活躍している。諸派のうち松藤会・松応会・松盛会・松禹会(しょううかい)・松線会・理恩会・清和会・曙会(あけぼのかい)・かたばみ会などが著名。〔大井ミノブ〕

ごりょう 【後涼】 ⇨こうりょう

ごりょう 【後梁】 ⇨こうりょう

ごりょうかく 【五稜郭】 北海道，函館(はこだて)市東部にある洋式の城郭。1857年(安政４)，箱館奉行(ぶぎょう)の竹内保徳(やすのり)らの発案で，蘭学者(らんがくしゃ)武田斐三郎(たけだあやさぶろう)が設計・監督し，８年の歳月を要して竣工(しゅんこう)した。はじめ柳野城とよばれたが，堀(ほり)と石がきによって輪郭が星形を呈するのでこの名に変わった。箱館戦争*に際して，榎本武揚*(えのもとたけあき)・荒井郁之助(いくのすけ)ら2,800人が籠城(ろうじょう)して官軍を迎撃した歴史をもつ。城跡は特別史跡に指定され，サクラで名高い。〔仲野 浩〕



コリヤナギ

ごりょうしんこう 【御霊信仰】 非業の死を遂げた者の霊が怨霊(おんりょう)となってたたりをなすという信仰で，怨霊の活動が疫病を流行させると恐れられた。奈良末期から平安時代にかけて，京都・奈良では疫病が蔓延(まんえん)したが，これは貴族の対立抗争で失脚した権力者の霊魂のたたりであると信じられ，その怨霊を慰めるためににぎやかな祭礼が営まれた。863年(貞観５)に御霊会が催され，その後，祇園(ぎおん)社(八坂神社)・北野天満宮*・今宮神社などが建立(こんりゅう)され，都市を中心に発達していった。この信仰の祭礼は伝統的な氏神*系統の祭礼とは異なり，期日は疫病流行のきざしが見えはじめる６～７月に行なわれた。〔山路勝彦〕

ごりょうりん 【御料林】 皇室の所有に属する山林。1889年(明治22)全国官有林・官有地のうち特定のものを御料地として皇室財産に編入したが，そのうち木曾(きそ)を含む岐阜と長野・山梨・愛知・奈良・三重の各県の山林地帯などが御料林となった。その後，東北諸県および北海道の一部山林が御料林に編入され，管理は帝室林野局があたり，森林経営から生ずる収入は皇室経済の主要部分を占めていた。1947年(昭和22)日本国憲法の施行とともにすべて国有林*となった。〔小林亥助〕

ゴリラ [gorilla] 哺乳(ほにゅう)類・霊長目・オランウータン科。類人猿*(るいじんえん)の一種。西アフリカにすむローランドゴリラ(テイチゴリラ)とアフリカ中央部にあるキブ湖の周辺にすむマウンテンゴリラ(ヤマゴリラ)の２亜種があるが，両者の違いは小さい。サル類中最も大きく，体重は雄で平均180kgであるが，278kgの記録もある。雌は雄の体重の３分の２。全身黒色であるが，雄は成獣になると背から腰が銀白色の毛におおわれる。ローランドゴリラの数は多いが，マウンテンゴリラは5,000～15,000頭しか生息していない。食性は植物食で，マウンテンゴリラの主食はセロリとたけの

五 稜 郭
空から見た五稜郭周辺。近年は堀の周辺にまで都市化が進み，住宅がひしめき合うようになった



こだが，飼育下では肉も食べる。10頭前後の家族的な群れをつくり，１頭のおとなの雄がリーダーとなる。１日の移動は数百メートルで，１頭に一つ毎晩新しい巣をつくって寝る。群れはなわ張りをもたず，仲のよい群れはときにいっしょになる。雄のひとりザルがいて，群れにはいったり出たりする。手で胸をたたく行動をドラミングといい，威嚇か興奮したときにする。22種の音声がわかっている。性質は神経質でおくびょう。人を襲うことは少ない。
〔河合雅雄〕

コリン ［choline］ 粘り気のある無色の吸湿性のある液体。強い塩基性を示し，炭酸ガスを

$$HOCH_2CH_2-N^+(CH_3)_3$$

吸収する。生体における多くの重要物質の構成成分となっているため，その欠乏はビタミンの欠乏症を思わせるような症状を示す。脂質代謝におけるコリンの欠乏は，脂肪肝を起こし，老齢では肝硬変の原因ともなる。若い成長期のネズミでは，この欠乏は腎臓(じんぞう)の出血性変性や，眼球などに出血を起こす。コリンは，セリン*の脱炭酸反応で生じたエタノールアミンに，メチオニン*からメチル基を供給することによって生合成される。この生合成にはアミノ酸の分解が関与しているため，食物中のタンパク質含量が影響する。

コリンを含む脂質には，レシチンやスフィンゴミエリンなどがあるが，レシチンは脂肪代謝や細胞の膜構造と強い関連をもち，スフィンゴミエリンは神経の髄鞘(ずいしょう)を構成している。アセチルコリンは，神経伝導における化学伝導物質で，シナプシスを通じて刺激を他の神経細胞に伝える働きをしている。
〔原野友之〕

ごりん 【五倫】 儒教で説く基本的人間関係。五常*とともに儒教の倫理説の根本をなす。儒教で説く〈倫〉(人間関係)は１対１の関係で，社会的関係とはいいがたい。《孟子(もうし)》では，父子(親愛の関係)・君臣(義の関係)・夫婦(差別の関係)・長幼(序列の関係)・朋友(ほうゆう)(信義の関係)の五つをあげ，《中庸》の〈五達道〉では父子と君臣の順序が逆になって，国家秩序が優先している。

コリンうずら 【コリン鶉】 鳥類・キジ科。ウズラよりやや大きな北アメリカ産のウズラ類の一種。全長約20cm。茶かっ色で顔とのどが白く(雌では淡黄色)，目からくび側へかけて顕著な黒色部がある。米名のボブホワイトの名でも知られているが，これはその鳴き声に由来する。コリンとは学名*Colinus*からとったもの。

コリングウッド ［Robin George Collingwood］ (1889〜1943) イギリスの哲学者・歴史家。オックスフォード大学教授。考古学・ローマ史研究に大きな功績を残す。また，クローチェ*・ビコ*の影響を受けるとともに，プラトンの著作にも親しみ，独自の歴史哲学を築いた。著書《歴史の観念》《哲学の方法試論》《新リバイアサン》《形而上学(けいじじょうがく)試論》ほか。



ゴリラ ローランドゴリラ。知能は高く，多くの芸をするので，動物園の人気者である



コリント《この人を見よ》1925 バーゼル美術館蔵

こりんご 【小林檎】 双子葉植物・バラ科の落葉樹。ズミの別名で，果実がリンゴに似るところからいわれる。➔ズミ

コリンズ ［William Wilkie Collins］ (1824〜1889) イギリスの小説家。物語構成にすぐれ，ディケンズ*との親交の中で互いに影響を及ぼし合い，社会問題の小説化を試みたが多くは不評であった。しかし長編《月長石》は，イギリス推理小説の初期を飾る傑作とされる。

コリント ［Corinth］ コリントスともいう。ギリシア本土とペロポネソス半島をつなぐ地峡部にある都市。人口約20,000(1965)。地峡部には1881年から12年の歳月をかけて完成したコリント運河があって，エーゲ海側のサロニカ湾とイオニア海側のコリント湾とを結ぶ。都市の起源はギリシアのポリス*で，紀元前７〜紀元前６世紀には海国としてギリシアのポリス中最強を誇ったが，ペロポネソス戦争に敗れ海上権を失った。その後商業都市として栄えたが，中世以後は衰えた。現在の都市は1858年の大地震後に再建されたもので，港からは干しぶどう・ぶどう酒が積み出されている。気候に恵まれ，史跡・名勝を訪れる観光客も多い。
〔野間三郎〕

コリント(地峡) ［Corinth］ ギリシア南部のペロポネソス半島頸部(けいぶ)。この地峡を開削したコリント運河(延長6km，幅23m，水深8m)は，エーゲ海とイオニア海とを結ぶ重要航路となっている。地峡部にあった古代ギリシアの都市コリントはギリシア本土とペロポネソス半島との交易によって栄えたが，現在の市は旧都より東方に移っている。

コリント ［Lovis Corinth］ (1858〜1925) ドイツの画家・版画家。ドイツ印象主義の代表者のひとり。暗い色調の写実主義から，外光派を経てやがて明るい画面へ移り，晩年には表現主義的な傾向を示す。肖像画・宗教画・風景画・静物画を制作，バルヒエン湖の風景画連作は名高い。1911年からは版画にも興味をもち，多くの銅版・石版画を残した。

ごりんとう 【五輪塔】 密教で行なわれる塔で，五輪卒塔婆(そとば)・五輪塔婆ともいう。密教で説く五つの根本要素を象徴化した方・円・三角・半円・宝珠の５形を銅や石でつくり，この順序に下から積み上げて塔の姿にしたもので，それぞれの形に梵字(ぼんじ)が刻まれる。密教の究極の悟りを成就した仏そのものとされ，これを建立(こんりゅう)すれば絶大な功徳があると信じられて，わが国では古くから供養塔や墓標にされてきた。今日一般的な木の角塔婆・板塔婆は，これの変形である。
〔平井宥慶〕

コリントどうめい 【コリント同盟】 BC338年，マケドニア国王フィリッポス２世*が，スパルタを除く全ギリシアのポリス代表を集めて組織した反ペルシア同盟。ヘラス同盟ともいう。当時ギリシア人は，ペロポネソス戦争*以降の慢性的内戦に疲れて平和を願っており，しかも非ポリス的なマケドニアの軍事的支配下にはいることは感情的に許せなかった。そこでフィリッポス２世は，全ギリシア人の受け入れやすい反ペルシアという旗じるしで同盟を組織し，ギリシア全体を支配した。これにより反マケドニア行為は許されず，土地の再配分や債務の帳消しも禁止された。
〔高山高雄〕

コール ［Nat King Cole］ (1917〜1965) アメリカのポピュラー歌手・ジャズ-ピアニスト。〈キング〉は愛称。はじめ兄のバンドでピアノをひいていたが，1939年楽団を結成。そのトリオは新鮮なジャズ-サウンドで注目を浴び，キャピトル-レコード入りしてからは，ジャズ唱法を生かした独特のハスキーな甘い歌声で人気を得，数多くの追従者を出したが，癌(がん)で急逝(きゅうせい)。《プリテンド》《トゥ-ヤング》のほか，ヒット曲が非常に多い。1960年・1963年に来日し

ている。〔鈴木道子〕

コールカッター [coal cutter] 炭層を採掘するための機械(採炭機)の一種。カッターピックとよばれる刃物を取り付けたチェーンを板状のわく(ジブ)の周囲に回転させて炭層を切削する。長壁式切り羽で使用され，炭層の下部に厚さ10数cm，深さ1～1.5mのみぞを掘っていく。

ゴルギアス [Gorgias] (BC483ごろ～BC376ごろ) 古代ギリシアの哲学者。ソフィスト*のひとり。シチリア島のレオンチノイの生まれ。生地がシラクサと争ったとき，救援要請使節としてアテナイを訪れ，その雄弁で知られた。エンペドクレス*の自然学的思想やパルメニデス*，エレアのゼノン*の論理などを学んだともいわれている。その後ギリシア本土に移り，ソフィストとして弁論や修辞の術を教えた。失われた著作《自然または非存在について》において，〈なにものも存在しない。存在するとしてもわれわれはそれを知ることができない。また，たとえ知ることができたとしてもそれを他の人に伝えることができない〉という三つの命題を掲げ，相対主義の立場に立って懐疑的態度を示した。〔本橋正義〕

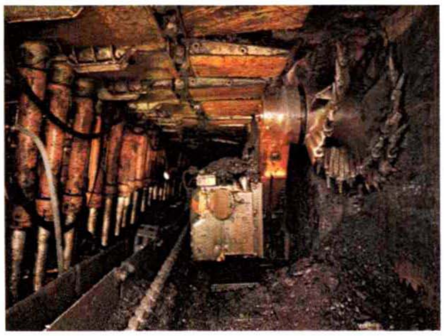
コルク [cork] 第2次肥大生長を行なう植物の根や茎の皮層内にできるコルク形成層*の分裂によってつくりだされた保護組織。コルク層ともいう。これをつくるコルク細胞は，細胞壁にスベリン(木栓(もくせん)質)が沈着し，原形質が失われて中空となった死細胞である。地中海沿岸産のコルクガシ*ではコルク層が著しく発達する。コルクは液体・気体を通さず，強酸・強アルカリにも侵されず，軽く，摩擦係数が大きく，圧縮性・弾力性に富み，熱・電気の不良導体である。これらの性質のため，びん類のせん，冷蔵庫などの断熱材，救命具，床材料などに利用される。〔高島文三〕

コルクがし 【コルク樫】 双子葉植物・ブナ科。地中海沿岸地方原産の常緑高木。高さ18m，径1.5mに達する。樹皮のコルク層が著しく発達し，樹齢20年くらいからコルク層を剝離(はくり)してコルク*をとる。その後は約9年めごとに剝離し，100～150年間とり続けられる。葉は卵形で先がとがり，上面は濃緑色で光沢があり，下面は灰色の毛を密生する。春，開花し，果実はコップ状の殻斗(かくと)をもつどんぐりの仲間。日本では中部地方以西にアベマキがあり，このコルク層も利用されるが，薄く品質が劣る。〔高島文三〕

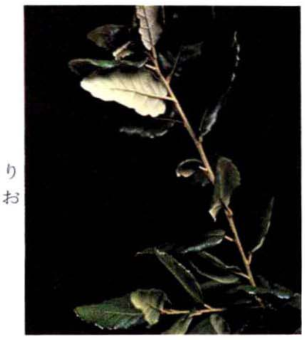
コルクけいせいそう 【コルク形成層】 後生分裂組織の一種で，コルクを形成する細胞層。皮層の外部にあって，外側にコルク組織を，内側に薄いコルク皮層をつくる。キョウチクトウのように表皮細胞がコルク形成層となるものもある。

ゴルゴタ ⇨カルバリ丘

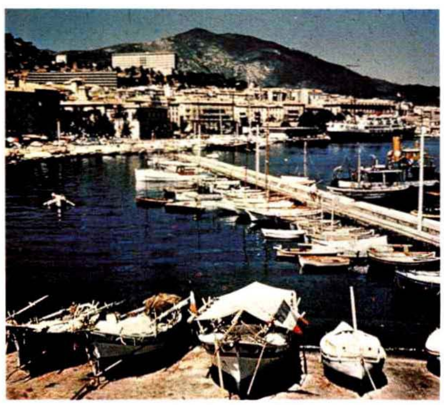
ゴルゴン [Gorgon] ギリシア神話の魔



コールカッター 写真のドラムカッターは，連続往復切截積み込みを行なう長壁式採炭機で，コールカッターの代表的機種



コルクガシ 葉は光沢があり下面は白色をおびる



コルシカ島 島の中心都市アジャクシオの港と町。ここにはナポレオンの生家や資料を集めた博物館があり，観光地として訪れる人が多い

女で，ステンノ・エウリュアレ・メドゥーサの三人姉妹をいう。ポルキュスとケトの子で，グライアイ*の姉妹。醜悪な顔，光る目，頭と腹部にはとぐろを巻いた多くのヘビをもつ。メドゥーサはポセイドン*の愛を受け，身ごもっているときにペルセウス*に殺される。その血から天馬ペガソスとクリュサオルとが生まれた。ゴルゴンの目を見た者は石に変えられるので恐れられた。

コルサコフ [Korsakov] ソビエト連邦，サハリン(樺太(からふと))州南部の都市。旧日本名大泊。人口33,000。南サハリンの重要な港で，南北に通じる鉄道の終点。水産加工・醸造・パルプなどの工業がある。1853年ロシアの要塞(ようさい)としてつくられ，日本領時代には北海道の稚内(わっかない)から連絡船の通う樺太の玄関口であった。現市名は，著名な水路学者にちなむ。

コルサコフしょうこうぐん 【コルサコフ症候群】 健忘症候群ともいう。新しい体験を覚える力，つまり記銘力や自分の置かれた時間・場所を認識する見当識が障害され，それに伴い出まかせの作り話をする状態。一種の精神症状で，大脳の広範な病変によるといわれる。アルコール中毒者に多くみられ，外傷・脳腫瘍(しゅよう)・痴呆(ちほう)・進行麻痺(まひ)などでもしばしば出現する。コルサコフはソ連の神経学者の名まえ。

コルサージュ [corsage] アクセサリーの一種。原意は上半身または婦人服のウエストから上部をいい，装飾品としては胸や腰の部分につける花飾りをさす。生花・造花ともに用いられ，夜のパーティー用にははなやかで大きめのもの，通常着には小花でつくる。なお，結婚式には，花嫁以外は白い花は避ける。

コルジエラ(山脈) [Cordillera] コルジエラは，いくつかの山脈からなる一群の山系を意味するスペイン語。狭義には南アメリカのアンデス山脈全体をさすが，広義にはアンデス・ロッキー両山脈を含む，環太平洋造山帯の両アメリカ大陸の山地全体の総称として使われる。

コルシカ(島) [Corsica] 地中海，イタリアの西，サルジニア島の北方にあたる島。フランス領。面積8,721km²。人口27万(1968)。ナポレオン1世の生誕地として有名。西海岸はリアス式海岸で，風景は変化に富む。オリーブ・ブドウ・タバコ・クワなどが栽培され，古くは，建築・船材用の木材を産したが，乱伐で減少した。おもな都市は北東岸にバスチア，現在の主都でナポレオンの生家の残るアジャクシオ，10世紀ごろ建設された商業都市ボニファチオがある。住民はイタリア人とフランス人の混血。〔大崎 晃〕

ゴルジたい 【ゴルジ体】 1898年イタリアのゴルジが動物の神経細胞で発見した細胞内小器官で，分泌細胞にもあり，硝酸銀による特殊な染色法によって光学顕微鏡で見られる。電子顕微鏡では動植物細胞ともに見られ，表面に微小顆粒(かりゅう)をもたない薄膜で囲まれた種々な大きさの扁平(へんぺい)な袋状のもの(ゴルジ層板・システルネとよばれる)が層状に並んでおり，まわりに小胞状のゴルジ小胞がある。そのため最近ではゴルジ体をゴルジ複合体・ゴルジ装置といっている。単位膜で囲まれた袋の内部は電子密度の高い物質が詰まっており，細胞内でできた物質を濃縮したり，一時貯蔵したりまたゴルジ小胞として外に分泌する役目を営むといわれる。➔細胞〔高島文三〕

ゴールズワージー [John Galsworthy] (1867～1933) イギリスの小説家。オックスフォード大学で法学を修め弁護士になるが，実務につかず，小説《資産家》，戯曲《銀

の小箱》の成功で文筆生活にはいった。社会的な正義感が強く，司法・社会制度の不備を批判する小説・劇を着実な写実手法で多く書いた。代表作の小説《フォーサイト家物語》で1932年ノーベル文学賞を受賞。その後，第1次世界大戦後の価値観の変化を正当に認識できぬ限界性のためもあり，時代から取り残されていった。〔長崎勇一〕

コルセット［corset］婦人服のデザインに合わせ，胴体を整えるために使用する下着。古くから用いられたが，多く用いられるようになったのは16世紀ごろからである。昔はウエストをきつく圧迫し，鋼や鯨骨などを使用してひもやかぎホックで強く締めつけ，胸から腰部の体形を整えた。その後，ささえになる骨も柔軟な針金が使用され，繊維素材も伸縮性のよいものが使用され，合成繊維の機能性が生かされている。最近では女性をコルセットの圧迫から開放し，ガーター-ベルトやガードルがこれに代わりつつある。なお，コルセットの一種で，胸・胴・腰囲を整えるオール-イン-ワン（コースレット）は，ドレッシーなカクテルドレスやイブニングドレスを着用するとき用いられる。〔小池千枝〕

コルソンごうきん［コルソン合金］C合金ともいう。銅-ニッケル-ケイ素合金で，1927年アメリカのM.G.コルソンによってつくられた。ニッケル2.7～5.0％，ケイ素0.7～1.0％，残りは銅という化学組成をもつ。一般にニッケル:ケイ素＝4:1のものが多く用いられる。引っ張り強さ70～100kg/mm²，伸び0.5～6.0％，電気伝導率は高く，標準軟銅に対して35～60％を示す。高力通信線・長距離送電線・トロリー線・ばねなどに広く用いられている。〔草川隆次〕

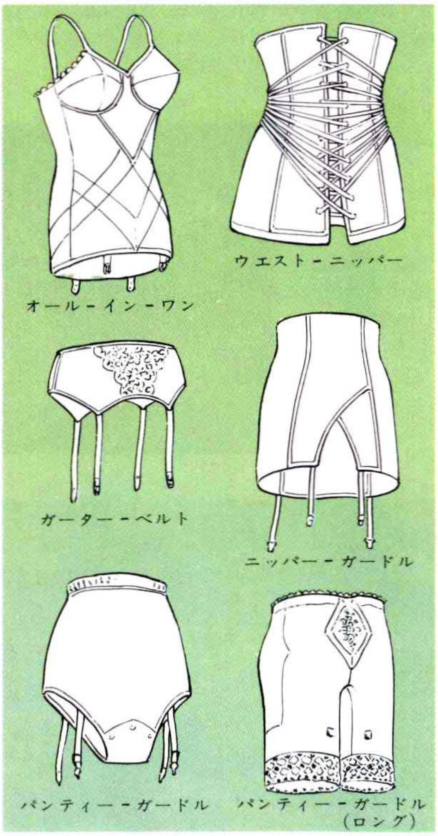
コルダー［Alexander Calder］（1898～　）アメリカの抽象彫刻家。はじめ工学を学び，のちに美術に転じた。1926年パリに出て針金彫刻をはじめ，ミロ・アルプ・モンドリアンらと交わり，〈抽象創造グループ〉にも参加，〈スタビル〉とよばれる抽象彫刻，さらに風などを利用しバランスによって動くモビールを創始した。

コルダイテス［cordaites］古生代石炭紀から二畳紀にかけて繁栄した裸子植物。幹の直径が4mにも達する巨木で，その頂端部にのみ葉を密生した。葉は単葉で細長く，平行脈を有し，葉脚はつねに馬蹄(ばてい)形凹入(おうにゅう)を有し，大きな葉ではその長さが1mにもなった。

コールタール［coal tar］石炭を乾留するとき生成するガスを冷却して得られる，黒色またはかっ色の粘稠(ねんちゅう)性油状物質。石炭タールともいう。通常水よりやや重く，中性成分・含酸素・含窒素および含イオウ化合物からなり，ほかにわずかな無機質・水分なども含まれるが，主成分は芳香族炭化水素である。コールタールは石炭の乾留温度によって高温タール（約1,000℃）



ゴールズワージー



コルセット



コルダー《一向鳥》1952

と低温タール（または低乾タール，約600℃）の2種に分けられ，組成や性状が異なる。原料炭に対する収量は高温タールは3～7％，低温タールは10～15％。高温タールは芳香族成分に富み，低温タールはパラフィンおよびシクロパラフィンなどの脂肪族成分に富む。コールタールを蒸留すると，ベンゼン・トルエン・キシレン・ナフタリン・アントラセンなどの環式炭化水素，ピリジンなどの塩基（タール塩基），フェノール・クレゾールなどの酸（タール酸）などの有用成分が得られる。これら各種タール製品は，染料・医薬・合成樹脂・合成繊維・溶剤・表面活性剤・燃料などに利用され，また，電極・カーボンブラックなどの製造や舗装用・防腐用などにも用いられている。〔寺沢誠司〕

コルチきかん［コルチ器官］内耳にあるうずまき管（蝸牛管(かぎゅうかん)）の基底膜上にある音の感受装置。らせん状に曲がっているのでらせん器官ともいう。コルチ器官には有毛細胞という音の受容細胞があり，うずまき管に伝わった振動が管内のリンパを動かすと，基底膜が振動して有毛細胞の毛が上をおおっている蓋膜(がいまく)に触れ，これが刺激となってその内破音が蝸牛神経（有毛細胞に連絡している）を通して脳に伝えられ，音の感受が起こる。〔蟠井　勉〕

コルチコイド［corticoid］副腎(ふくじん)皮質に含まれるステロイドで，アルドステロン・コーチゾンなどが代表的なもの。

コルチゾン　⇨コーチゾン

ゴルチャコフ［Aleksandr Mikhailovich Gorchakov］（1798～1883）ロシアの外交官。公爵。19歳で外交官となる。神聖同盟の会議に参加。1822～1850年の間，ロンドン・ローマ・ウィーン・フランクフルトなどヨーロッパ各国に駐在した。クリミア戦争の際にプロシアなどゲルマン諸国家の中立維持に尽くした。1856年外相，1870年より宰相となる。イギリス・オーストリアから離反させるためフランスに接近するが，ポーランド問題で対立し，1860年代からはプロシアに近づいた。しかし，ベルリン会議以後はドイツに失望し，再び親仏政策をとる。晩年外交上の影響力を失い，1882年引退。〔山県弘志〕

ゴールちょう［ゴール朝］アフガニスタンのイスラム王朝（1186～1215）。1186年ギャースッディーンは弟ムハンマッド-ゴーリーと協力してガズニ朝を滅ぼし，ゴール朝を確立した。ムハンマッドはその後今日のアフガニスタンの全域から西北インドまでを征服したが，のち部下の諸将が分立して衰亡した。

コルチン［cortin］副腎(ふくじん)皮質ホルモンの総称。多数のステロイドからなり，コルチコステロン・11-デハイドロコルチコステロンなどがある。塩類および水分の代謝を調節する生理的作用をもつ。

コルデー［Marie Anne Charlotte Corday d' Armont］（1768～1793）フランス革命時代，山岳党のマラーを暗殺した少女。プルタルコス・ルソー・ボルテールらの著作を読んで，自由を愛し専制を憎むことを学んだという。ジロンド党に接近してその影響を受け，マラーを専制者と信じて，1793年7月13日彼を刺殺した。この事件は山

岳党のジロンド党に対する攻撃の契機となり，恐怖政治*への道を開いた。

ゴルディぞく【ゴルディ族】 中国の松花江(しょうかこう)下流，アムール川沿岸，ウスリー川一帯の落葉樹林帯に居住。アルタイ系諸族に属するツングース系の少数民族。人口は1930年代で約12,000余。人種的にはモンゴロイド群に属する。生業は，森林・河川と密接に関連し，シカ・クマ・イタチなどの狩猟と川魚などの漁労を主とする。社会組織ではハラとよばれる族外婚的で父系の氏族組織をもつのが特色とされる。宗教生活はシャーマニズムが中心となっているが，現在ではかなり中国化している。〔竹村卓二〕

ゴールディング [William Golding] (1911～) イギリスの小説家。出世作《蠅(はえ)の王》のほか，《継承者》《自由な落下》《塔》などの作品がある。いずれも西欧古典文学への深い造詣(ぞうけい)に基づき，極限状況的な設定の中で，なまなましく寓話(ぐうわ)的な主題を描き出している。

コルテス ⇨身分制議会

コルテス [Hernán Cortés] (1485～1547) メキシコを征服したコンキスタドレス*のひとり。スペインの没落貴族の家に生まれる。大学卒業後新大陸に渡り，キューバで農園経営者として成功を収めた。1519年メキシコ征圧に出発，途中ベラクルス市を建設し，アステカ帝国のモンテスマ2世を捕え，1521年同帝国を完全に征服した。スペイン国王からメキシコ総督の称号とエンコミエンダ*を授与されたが，しだいにその権力を失った。カリフォルニア海岸を発見後，スペインで没した。〔松下 洋〕

コールてん【コール天】 ⇨コーデュロイ

ゴールデンゲート-ブリッジ [Golden Gate Bridge] 日本では金門橋という。アメリカ合衆国西部のサンフランシスコと，金門海峡(ゴールデンゲート)を隔てたマリン半島とを結ぶ鋼製のつり橋。全長2,825mで1937年に完成した。中央支柱間の距離は1,280m，橋の中央部の高さは海面から70mもあって巨船の通過も可能である。6車線の自動車用道路橋で，2本のケーブルをささえる二つの主柱は，海面上230mの高さをもち，美しい朱塗りのつり橋として有名である。〔野間三郎〕

コルト [Samuel Colt] (1814～1862) ピストルの発明家。アメリカ合衆国，コネチカット州ハートフォードの生まれ。16歳のとき船乗りになり，東インドへの航海中に6発リボルバーを発明，1836年特許を得た。アメリカ-メキシコ戦争により政府から1,000丁のピストルの注文を受けて工場を創立，さらに1855年ハートフォードに大規模な兵器工場を創立，南北戦争と西部開拓の波にのって発展し，今日ではアメリカ最大の銃器会社となった。〔山崎俊雄〕

コルトー [Alfred Cortot] (1877～1962) スイスに生まれ，フランスで活躍したピアニスト。パリ音楽院でディエメールに師事，20歳でデビューしたが，その後ワーグナーの作品を中心とする指揮者としての時期もある。1905年にティボー*・カザルス*とともに三重奏団を組織した。1917年にパリ音楽院教授，1919年にはエコール-ノルマル-ド-ミュジクの校長にもなった。ピアニストとしてはショパン・シューマンとフランス音楽にすぐれた解釈を示した。1952年(昭和27)来日。〔向坂正久〕



コルテス　メキシコに侵入するコルテス軍



コールドウェル

コールドウェル [Erskine Caldwell] (1903～) アメリカの小説家。ジョージア州の生まれ。南部の貧しい白人や黒人の生活を自然主義的な手法で描出したが，他方，そういった下層民たちのおおらかなユーモアにも注目し，その面での表現にも成功している。《タバコ-ロード*》《神の小さな土地》などのほか多数の短編小説があり，スタインベック*らとともに1930年代の代表的作家である。

ゴールドウォーター [Barry M.Goldwater] (1909～) アメリカの政治家。共和党右派の保守主義者。アリゾナ州の生まれ。1928年ストーントン陸軍士官学校卒業後，デパートを経営。第2次世界大戦中空軍パイロットになり，少将まで昇進した。1952年共和党から上院議員に選ばれ，1958年再選。1964年大統領選挙で民主党のジョンソン*と対決したが，過激主義的主張のために惨敗。法案よりも演説や著作で有名で，《ある保守主義者の良心》(1960)は彼の保守的思想を述べたもの。〔折井一彦〕

コールドゲーム [called game] 野球で，主審が試合終了を命じた試合。おもに降雨・日没などで続行が不可能なときや，得点に大差ができて継続の必要がないと認められるときに適用される。ふつう5回以上の攻守が終わっている場合はそれまでの得点で勝敗を決め，それ以前の場合はノーゲームとなる。

ゴールドコースト [Gold Coast] アフリカ西部ギニア湾岸，現在のガーナ共和国の大部分の地域をさす旧イギリス植民地の名称。中世に金の産出が豊富だったところから，ゴールドコースト(黄金海岸)とよばれた。近世には奴隷貿易で有名になり，はじめポルトガル人・オランダ人が進出したが，1850年以来イギリスの植民地となり，第2次世界大戦後，東に接するイギリス信託統治領トーゴランドを合わせてガーナとして独立した。

ゴルトシュタイン [Eugen Goldstein] (1850～1930) ドイツの物理学者。ベルリン大学付属天文台に勤めたのち，自己の研究室で物理学の研究に励み，気体の電気現象，特に低圧ガス放電(真空放電*)を研究し，陰極線*研究の先駆のひとりとなった。陰極線という名は彼の命名による(1876)。その後陽極線*(カナル線)を発見し(1886)，極光・陰極ルミネッセンスなどの研究もある。

ゴルトシュミット [Victor Moritz Goldschmidt] (1888～1947) ノルウェーの鉱物化学者・地球化学者。ドイツのゲッチンゲン大学教授となったが，1935年ナチスの政策によって追われた。変成岩に関する研究から，地球上および隕石(いんせき)中の元素分布について調べ，地球化学の基礎を築いた。

ゴールドスミス [Oliver Goldsmith] (1728～1774) イギリスの詩人・小説家・劇作家。苦学と放浪生活ののち，S.ジョンソン*との知遇によって文筆活動にはいった。随筆《世界の民》，小説《ウェークフィールドの牧師*》，喜劇《負けるが勝ち》のほか，産業革命による農村の荒廃を描いた詩《荒村行》などがある。生涯(しょうがい)にわたって貧窮に苦しんだ。

コールドチェーン [cold chain] 低温流通機構または低温流通体系。おもに生鮮食料品を持続的低温状態のもとに生産者から消費者に届ける流通体系をいう。1924年アメリカで凍結法の技術が開発され，これが急速冷凍法に発展したことにより出現した。アメリカでは早くから普及していたが，わが国では1966年(昭和41)秋，科学技術庁の勧めによって実用化されるようになり，大手水産会社・食品メーカーの体制づくりも本格化していった。流通経路は，食料品により多少異なるが，予冷，産地冷蔵庫での貯蔵，包装，消費地への輸送，中央卸売市場での貯蔵，小売店への発送，小売店での保管，冷凍ショーケースによる販売，各家庭における冷蔵庫またはフリーザーにおける保管となっている。なお，輸送には，冷蔵貨車・冷蔵トラック・冷蔵船・冷蔵コ

ンテナーなどが用いられる。コールドチェーンの効果は，①低温で保存するため，栄養分の損失，腐敗を防ぎ，消費者に新鮮なものを供給できる，②腐敗による損失や余分な部分の輸送によるロスを解消できる，③長期保有が可能になり，計画的な出荷が行なえるなどである。このため，これまで流通機構が負担してきた危険が減少し，流通経費の節減，価格の安定が図られるようになった。〔清水　晶〕

ゴールドディスク ⇨ミリオンセラー

ゴールド-トランシュ [gold tranche] IMF*(国際通貨基金)の各加盟国が無条件に外貨を引き出すことができる範囲をいう。IMF加盟国は国際収支の赤字を決済するために必要な場合には，規定された一定の範囲内で自国通貨を対価として，所要外貨をIMFから引き出すことができる。したがって各加盟国がIMFから外貨を引き出す場合には，その国の通貨のIMF保有額が増加することになる。

IMFの保有するある国の通貨がIMFから他の加盟国によって引き出される場合には，その国の通貨のIMF保有額は減少することになる。各加盟国は，当初において自国の割り当て額の75％に相当する自国通貨をIMFに出資しているから，その後自国通貨のIMF保有額が自国の割り当て額の75％以上に増加するか，75％以下に減少するかは，自国のIMFからの外貨引き出し高と，他の加盟国のIMFからの自国通貨引き出し高とどちらが多いかによって決まる。各加盟国の通貨のIMF保有額がその国の割り当て額の75％までの範囲をスーパー-ゴールド-トランシュとよび，75～100％までの範囲をゴールド-トランシュとよぶ。各加盟国は，スーパー-ゴールド-トランシュおよびゴールド-トランシュの範囲内では，無条件にIMFから外貨を引き出すことができる。したがってこの範囲内のIMF引き出し権は，各加盟国において対外決済準備と同様に取り扱うことができる。〔安井孝治〕

ゴルドーニ [Carlo Goldoni] (1707～1793) イタリアの劇作家。ベネチアに生まれ，法律を学んで弁護士になったが，早くから劇作に手を染めた。コメディア-デラルテ*の人物類型を打破し，新しい性格喜劇を次々つくりだした。《宿屋の女主人》《恋人たち》《奇妙なできごと》《キオッジア騒動》など，古典として残る作品が多い。また，後年パリの〈イタリア劇団〉に招かれて書いたフランス語の喜劇《陽気な気むずかし屋》なども定評を得た。〔赤沢　寛〕

コルドバ [Cordoba] スペイン南部アンダルシア地方の都市。グアダルキビル川に沿う河港で，人口24万9,000(1974)。小麦・オリーブ・ぶどう酒を産する。セビリアとともにアンダルシア地方の中心都市で，756年から1031年までは後ウマイヤ朝の首都となり，イスラム文化の中心として栄えた。10世紀ごろにはヨーロッパでも最も文化の高い都市の一つとなり，古代ギリシアの哲学や地理学の研究が進められ，のちのルネサンスをよび起こす機縁となった。市街の中心部は道幅の狭いアラビアふうの町並みが続き，周辺部の近代ふうの都市風景と対照的である。イスラムふうの古い建造物が多く，代表的な遺跡には8世紀に建てられたラーマン1世の大モスクがある。イスラム時代からの伝統をもつ金・銀細工や皮細工が行なわれている。〔野間三郎〕



コルドバ　裏町の住宅風景。典型的なスペインふうの民家で，外壁は白く石灰で塗られ，窓は草花などで美しく飾られている



コルネイユ

コルドバ [Cordoba] アルゼンチン中部の同国第3の都市。人口78万2,000(1975)。パンパ西部の農牧業の中心で，小麦・タバコなどの農産，ウシ・ウマなどの畜産物の集散とその加工工業を行なう。また，近年，航空機・機械・自動車・車両などの近代工業も興ってきている。1573年に建設された都市で，市街には当時の寺院・博物館など多くの建造物がみられ，1613年創立の大学や美術学校・天文台など文教施設も多い。

ゴールドラッシュ [gold rush] アメリカ合衆国における金・銀発掘ブームをいう。1848年カリフォルニア州コロマで金が発見されると，人々は金を求めてロッキー山脈地域へ殺到し，1849年だけで約10万人に達した(これを〈49年組〉という)。その後，コロラド・アイダホ・モンタナ・ダコタのブラック-ヒルスにもゴールドラッシュがみられた。また，1859年にはネバダのコムストック-ロードにシルバー(銀)ラッシュがみられ，これらは西部山岳諸州に〈鉱山王国〉を出現させた。ゴールドラッシュは，金・銀・銅・鉛などの発見で国富を直接に増加させ，パナマ地峡や大陸横断鉄道の建設を早め，西部・極西部開拓を促した。なおゴールドラッシュは，1851年オーストラリアのビクトリア，1897～1899年アラスカのクロンダイクにもみられ，最近では，1952年ブラジルのアスパ連邦地区のジャリ川で金鉱が発見され，ブームを生んだ。〔折井一彦〕

コルドリエ-クラブ [Club de Cordeliers] フランス革命時代の最も急進的な政治クラブ。1790年5月パリのコルドリエ修道院に本部を置いたのでこの名があるが，正式には〈人権の友の会〉という。マラー*・エベール*もこれに参加し，サン-キュロット*を地盤に戦闘的行動を主張し，1792年8月10日事件その他の大衆運動に活躍した。ジャコバン党*より急進的政策を唱えてロベスピエール政権を突き上げたが，エベールの処刑とともに勢力を失った。〔大野真一郎〕

ゴルトン [Francis Galton] (1822～1911) イギリスの遺伝学者・優生学者。ダンデストンに生まれ，医学を修めたが，巨額の遺産を受け継いで大学を中退し，やがて遺伝の研究にはいる。彼が創設した優生学研究所が1907年にロンドン大学に移管されたのち，ロンドン大学教授となる。遺伝学に統計的方法を導入し，子への遺伝に両親が2分の1ずつ関係するという見解を数式で表現した。また遺伝の研究に基づき優生学の必要性を提唱した。〔中村禎里〕

ゴルドン ⇨ゴードン

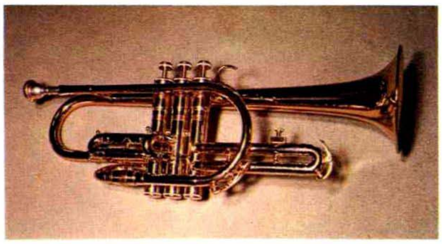
コルニーロフ [Lavr Georgievich Kornilov] (1870～1918) ロシアの陸軍大将。シベリアのコサック出身。1917年，二月革命*ののちペトログラード軍管区司令官，次いで臨時政府下のロシア軍最高司令官となったが，まもなくケレンスキー*と対立して罷免された。8月25日(西暦9月7日)，反革命クーデターを起こそうとしたが，ソビエト軍などの守備隊に鎮圧され，逮捕された。十月革命*直後首都を脱出し，南ロシアでアレクセーエフ・デニキンらとともに反革命軍を指導したが，1918年3月エカチェリノダルで戦死した。〔山県弘志〕

コルネイチューク [Aleksandr Evdokimovich Korneichuk] (1905～1971) ソ連の劇作家。ウクライナの労働者出身。黒海艦隊の反乱を扱った《艦隊の滅亡》で文名をあげた。代表作《プラトン-クレーチェット》は5か年計画に題材をとった作品で，スターリン賞を受けた。

コルネイユ [Pierre Corneille] (1606～1684) フランスの劇作家。弁護士の子として生まれ，イエズス会の学校で教育を受けたのち，みずから法廷に立ったこともある。早くから劇作に才能を示し，1629年処女作《メリット》が上演され成功を収めた。その名を決定づけたのは《ル-シッド*》で，古典主義*演劇の代表作となった。以来，事件

より人間の魂が劇の主題となり，時と場所を超越する普遍性を演劇的内容としてもつようになった。その他の傑作として悲劇《オラース》《シンナ》《ポリュークト》，喜劇《うそつき》などがあり，モリエール*・ラシーヌ*らの大劇作家と力を競い，多くの作品を書いた。名誉心と義務を重んじる克己的人間像を描くのを得意とし，いわゆる〈三一致の法則*〉をかなり忠実に守って，古典劇の父とよばれる。〔小松英輔〕

コルネット ［cornet］ 金管楽器の一。19世紀初めにフランスでつくられ，広く普及した。形はトランペットに似ているが，全体に小形である。トランペットよりも楽に音を続いて出せるかわり，音色はしばしば粗野といわれる。軍楽隊ではよく使われるが，クラシック音楽ではロッシーニやベルリオーズ・ビゼーの努力にもかかわらず，それほど使われていない。ジャズでも1920年ごろまではよく使われたが，その後はトランペットに代わられている。



コルネット

ゴルバートフ ［Boris Leontievich Gorbatov］ (1908～1954) ソ連の小説家。ドンバスに生まれ，職工生活を送りつつ若くして文筆活動にはいった。第2次世界大戦では赤軍記者として従軍。ドイツ軍に対するドンバス民衆の抵抗とパルチザン戦を描いた《降伏なき民》は，戦争文学の代表作である。

コルビエール ［Tristan Corbière］ (1845～1875) フランスの詩人。海洋のボヘミアンと称され，ゆううつと激情の交錯した詩集《黄色い恋》を残し，健康に恵まれず30歳で死んだ。死後，ベルレーヌ*が〈のろわれた詩人〉として紹介し，サンボリスムの詩人として重要視された。

コルヒチン ［colchicine］ イヌサフランに含まれるアルカロイドの一種。分子式 $C_{22}H_{25}NO_6$ 融点157℃の淡黄色結晶。化学的にはトロポロイド系の7員環をもつ化合物である。毒性が強く，劇薬に指定されている。中枢神経を麻痺(まひ)させるため，皮膚の知覚を鈍らせ，大量に用いれば呼吸麻痺を起こして死に至る。古くからリウマチ・痛風の薬として用いられているほか，制癌剤(せいがんざい)としても使用される。このほか，1937年ブレクスリーらによって染色体倍加作用が発見されて以来，遺伝学的に倍数体をつくるためにもしばしば用いられる。すなわち，分裂期にある細胞をコルヒチンの1%以下の水溶液に浸すことによって倍数体が形成されるが，これは細胞分裂に際して紡錘体の機能をコルヒチンが阻害するために，染色体が両極に正しく分裂せず，また細胞膜の形成も阻害するためとされている。〔鈴木郁生〕

コルビッツ ［Käthe Kollwitz］ (1867～1945) ドイツの女流画家・版画家。ベルリン，ミュンヘンで学び，1891年に医師カール-コルビッツと結婚，夫の診療を助けながら1943年までベルリンに住んだ。生涯(しょうがい)を通じて，自分の周囲に見た貧しい農民や労働者，または女性の目で見た母と子の悲惨な姿を描き続けた。ことに版画に独自の画境をひらき，ハウプトマン*の戯曲による《織工》《農民戦争》《死》などの版画連作は有名。〔松本芳夫〕

コルフ(島) ［Corfu］ ギリシア西岸，イオニア海にある島。ギリシア領。面積593 km²。肥沃(ひよく)な土地に恵まれ，オリーブ・ブドウ・アンズ・レモンなどの果実を産し，エビの産出でも有名。ホメロスの《オデュッセイア*》に出てくるシェリアはこの島だといわれている。都市国家コリントがBC734年に建設した植民地で，のちにペロポネソス戦争でアテネと争った。BC229年から1080年まではローマに支配され，以後ベネチア・ナポリ・トルコの支配を経て，1864年ギリシアに帰属した。〔大崎　晃〕

ゴルフ ［golf］ 定められた地点からクラブ(打棒)でもって，ボールをコースの各ホール(穴)に順次打ち込んでいき，ストローク(打球)の回数の少ないほうが勝者となる競技。

〔歴史〕 ゴルフの起源には諸説があるが，最も有力なのは，紀元80年にユリウス・アグリコラの率いるローマ軍がスコットランドを占領中，棒の先で小さな球を打つパガニカとよばれるローマの遊びがスコットランドに伝わり，それが土着してゴルフになったとする説であるが，いずれにしてもはっきりした根拠はない。1457年のスコットランドの議会記録や宮廷記録によれば，当時ゴルフの人気はかなり高かったらしく，サッカー*とともに武技・弓術の訓練を妨げるとして国王から禁令が出されたとしるされている。ゴルフ史上最古のゴルフ-クラブはロンドン南西部にあるロイヤル-ブラックヒース-ゴルフ-クラブで17世紀初頭の記録もあるといわれる。わが国でも有名なスコットランドのセント-アンドリュース-クラブは1754年に創立され，1834年にウィリアム4世によってロイヤル-アンド-エンシェンド-ゴルフ-クラブ(略称RAGC)の名称が与えられて，全国のゴルフ-クラブの統轄，規則の制定，選手権競技の運営をつかさどることとなった。1860年に第1回の全英オープン選手権競技，1885年に全英アマチュア選手権競技がそれぞれ創始され，19世紀から20世紀の初めにかけて，イギリスはゴルフの黄金時代を迎えた。しかし第2次世界大戦後，アメリカのゴルファーの技術が急速に進歩し，ボビー-ジョーンズ・アーノルド-パーマー・ジャック-ニクラウスら幾多の名選手を生み，現在ではイギリスを圧倒している。

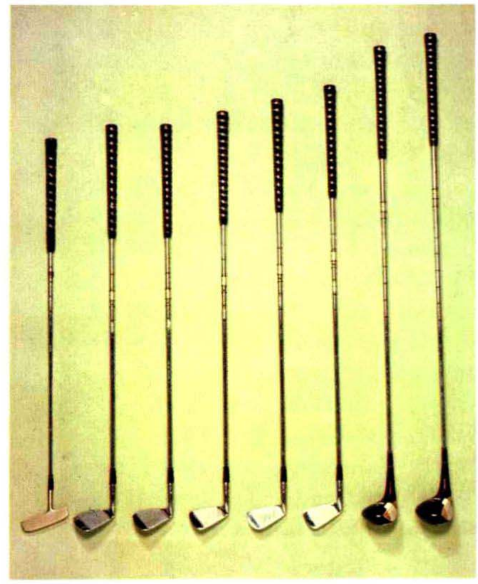
日本人で最初にゴルフをしたのは，1896年(明治29)ロイヤル-ブラックヒース-ゴルフ-クラブで競技をした水谷叔彦海軍中将であるといわれ，最初のゴルフコースは1903年神戸(こうべ)の在留外人が六甲山に開いた4ホールのものであった。また，1914年(大正3)日本人を会員とする最初のクラブである〈東京クラブ〉のコースが東京郊外の駒沢(こまざわ)村に開かれ，1922年に開場した程ケ谷(ほどがや)カントリー-クラブは，翌年わが国で最初の18ホールの正式コースとなった。第2次世界大戦後，わが国のゴルフ熱は非常な勢いで高まり，1969年(昭和44)春までの10年間にコースは550に達し，ゴルファーは300万人といわれるに至った。これは1コースあたり5,500人となる。ちなみに，アメリカでは8,500コース，1,000万人，1コースあたり1,000人足らずである。

〔用具〕 ゴルフのおもな用具はボールとクラブである。ボールは，はじめ皮の中へガチョウの羽毛を詰めたもので，これは満足な球形が得られず，飛距離もわずか25ヤード(22.75m)ほどであった。これが19世紀の半ばにグタペルカ*を用いたボールが出現すると，パター(クラブの一種)での打球の線は正確になり，飛距離も飛躍的に伸びてコースの拡大まで促すなど，ゴルフ界に新時代を開くことになった。グッター-ボールはさらにクラブの形にも影響を与え，従来用いられていたアッシュ材のシャフトがヒッコリー材に変わった。このような変化は他にも及び，多くの種類のクラブを使い分ける楽しみが増したり，これを運ぶためにキャンバス製の袋が用いられるようになった。しかも，1899年にはゴム-ボールが市場に現われ，それまで名人の手によっていたボールの製造は工場での量産へと変わり，性能の開発も科学的に進められるようになった。一方，新しいシャフト材としてアルミやステンレスが出現し，クラブ-ヘッド(打球部)も改良された。現在のボールは，凍結させた油脂や金属などのしんに細いゴムテープをかたく巻きつけ，その上をグッタペルカで包み，表面に空気の抵抗を少なくする小さなくぼみを多数つけ，塗料を塗って仕上げる。重さは1.62オンス(45.92g)を越えてはならないと規定され，直径は1.62インチ(4.118cm)より小さくないと定めたイギリス系のスモール-サイズと，それより0.06インチ大きいアメリカ系のラージ-サイズとがある。1938年以後，競技に用いられるクラブの数を14本までと制限し，長距離用のウッド-クラブ3～4本と中短距離

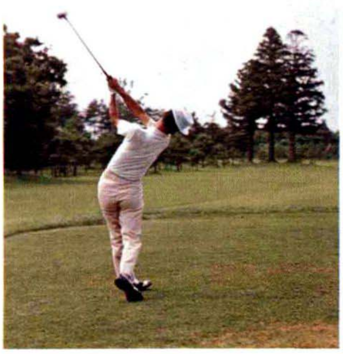
ゴ ル フ



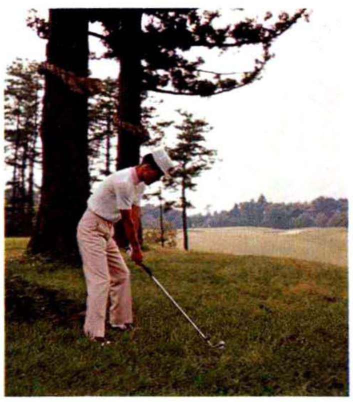
コ ー ス



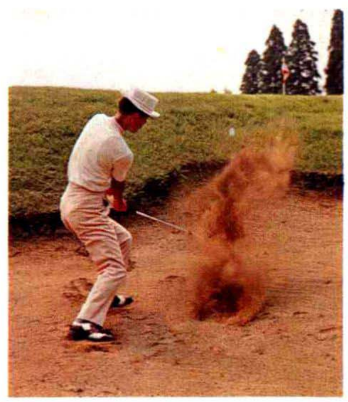
クラブ各種　右から　遠距離用(ウッド1番・3番)　中～短距離用(アイアン3番・5番・7番・9番)　バンカー-ショット用(サウンド-ウェッジ)　パッティング用(パター)



ドライバー-ショット



ラフ-ショット



バンカー-ショット



パッティング　第53回全米プロゴルフチャンピオンのジャック-ニクラウスのフォーム

用のアイアン-クラブ9～10本が使用される。クラブはシャフトの長いほうからウッド・アイアンそれぞれに番号がつけられる。ウッドの1番はドライバーとよばれ，長さ42～43インチ，重さ13～14オンスのものが用いられるが，番号がふえるにつれて2分の1インチ程度短くなり，重量とクラブ-フェース(打球面)のロフト(斜度)を増す。アイアンも同様である。ドライバーの飛距離は普通の人で200～250ヤード(182～227.5m)であるが，番号が増すにしたがって20ヤード(18.2m)程度短くなる。アイアンの場合，NO.3で180ヤード(178m)程度ならNO.8まで10ヤード(9.1m)刻みで短くなるとされており，NO.9のピッチング-ウエッジは特にグリーンにのせるために，またサンド-ウエッジはバンカーから打ち上げるために用いられる。パターはかたくて短いシャフトを特色とするが，クラブ-ヘッドの形はまったく多種多様である。

〔競技方法〕①マッチ-プレー：2人で各ホールごとに勝敗を決めながら，定められた数のホールを回り，勝ちホール数の多いほうが勝ちとする。②ストローク-プレー：18ホールのストローク合計が最少のものを優勝とする。ストローク-プレーは4人または3人1組みで行ない，2人だけの組みでは正式な競技と認めない。しかしほかに，2人ずつ組んでストロークの合計で勝敗を決めたり，1ホールを2人が交互に打ったりすることも行なわれる。また，アマチュアの場合〈ハンディキャップ〉(技量に応じて総ストローク数から差し引いてもらえる数)がある。その数は第2次世界大戦前は24までであったが，戦後は36までとなった。ハンディ9以下をシングルという(碁将棋なら有段というところ)。ゴルフでは，原則としてティー-ショットからボールをカップに沈めるまでの間ボールに手を触れてはならない。ただし，グリーン上で最初にパットする(グリーン上では，芝をいためないためにパターしか使用できない)まえだけ，ボールを拾い上げてふくことができる。なお，ゴルフには審判者がいないので，各ホールのスコア(ストローク数・罰打を含む)はプレーヤー自身が責任をもつところから紳士のスポーツといわれる。　〔藤岡　端〕

コルベール　[Jean Baptiste Colbert]（1619～1683）　フランスの政治家。ルイ14世*時代の蔵相。フーケ*の汚職を摘発してルイ14世の信任を得，1664年その後任として

蔵相(財政総監)になり,財政・経済・植民・文化政策など,広くフランスの行政を指導した。その中核となる重商主義政策において,彼は貨幣の量が国力を決定するとして,輸入をおさえて輸出を増す政策をとり,そのため工業を育成し,植民地の獲得に努めた。ギルド制の再編成と王立・特権マニュファクチュアの設置,東インド会社の設立とインド・北アメリカの植民地拡大などがその具体策で,その結果フランスの輸出産業は興隆し,オランダ・イギリスに対抗しうる国力をもつに至った。〔大野慎一郎〕

コルベールしゅぎ 【コルベール主義】⇨重商主義

コルベンハイアー [Erwin Guido Kolbenheyer] (1878～1962) オーストリアの小説家。ブダペストの生まれ。哲学・生物学を学び活動範囲が広く,多くの文学賞を受けた。スピノザを描いた《神を愛す》,三部作《パラツェルズス》など史上の人物を扱ったものに傑作が多い。形而上学(けいじじょうがく)的・生物学的な世界観と超個人主義を説き,ナチスに賛同した。

コルホーズ [kolkhoz] ソ連の社会主義的集団経営農場。ソフホーズとともにソビエト農業経営の一形態。集団的所有の下に置かれている土地を使用し,国有またはコルホーズ員所有の生産手段を使い,集団的に国家の生産計画に応じた農業生産を計画的に行なう。コルホーズには集団化の段階により,①トーズ,②農業アルテリ,③農業コムーナという三つの形態がある。①トーズ:最も低次の集団経営形態で,土地共同耕作組合といわれるように,土地利用と労働だけが社会化され,農具・役畜などの生産用具は個人所有である。所得は労働と生産用具の持ち分に応じて分配される。②農業アルテリ:農業用建物・諸施設・農業機械・役畜・種子などの主要な生産手段は社会化されているが,個人の消費生活に属するものや住宅,一部の家畜,小農具などに関しては個人所有が許され,住宅付属地での副業的経営が許されている。③農業コムーナ:生産手段だけでなく,コルホーズ員の個人的消費生活も共同化されていて,所得は平等に分配される。集団化の最も進んだ農業コムーナの成立する物質的・技術的基礎は現在のソ連ではまだ成立していない。いま行なわれているコルホーズは農業アルテリである。コルホーズの最高決議機関はコルホーズ員の総会であるが,総会によって選出された理事会・コルホーズ議長・監査委員会からなる常任執行機関がコルホーズの管理・運営・活動方針の決定などを行なう。〔常盤政治〕

コールユーブンゲン [Chorübungen] 〈合唱の練習〉を意味する教則本で,日本では第2次世界大戦前からこの名で親しまれている。著者はドイツの当時のすぐれた合唱指揮者であったフランツ-ビュルナー(1832～1902)。この練習曲は彼がミュンヘンにいたときのもので,正式には〈ミュンヘン音楽院の合唱の練習〉と題され,1876年に3巻に分けて出版された。日本ではソルフェージュ教材として普及しているが,元来は合唱のためのものである。〔徳丸吉彦〕


コルリ

こるり 【小瑠璃】 鳥類・ツグミ科。全長14cmほどで,雄は上面暗青色(瑠璃色),下面は白色で美しい。雌の上面はじみなオリーブ色。シベリア南部から日本北部にかけて分布する。日本には夏鳥として渡来し,北海道の平地,本州中部以北のおもに低山帯の森林中で繁殖する。〈チンチンチン,ピュルルルル〉と美声でさえずる。

コールリッジ [Samuel Tayler Coleridge] (1772～1834) イギリスの詩人・批評家。早くから詩作を始めたが,ワーズワースとの親交ののち真の詩的目ざめを遂げ,彼と共編の詩集《抒情(じょじょう)歌謡集》はイギリス-ロマン派の先駆となった。この中の《老水夫行》や,その後の《クリスタベル》《クラブ-カーン》などは,ロマン的色彩の濃い名詩といえよう。後半生は文芸批評や哲学に主たる関心を置き,詩における想像力について論じた《文芸的自叙伝》は批評史上重要な著作である。また,ギリシア文化や,カント・シェリングの哲学を研究,ロマン派の理論的支柱であった。〔五十嵐一〕

コール-レート ⇨コール-ローン

コル-レーニョ [col legno] 音楽演奏用語。〈木によって〉を意味するイタリア語で,バイオリンの弓の毛の部分ではなく,木の部分で弦をこすったり,たたいたりする方法。現代音楽に多いが,ハイドンやリストの作品にもある。楽譜では,〈arco〉(弓)と記された箇所で通常の奏法にもどる。

コルローディ ⇨コローディ

ゴルロフカ [Gorlovka] ソビエト連邦,ウクライナ共和国東部の都市。人口34万2,000(1976)。ドンバス炭田の中心都市の一つで,鉄道の要衝。石炭の採掘のほか,鉱山機械・コークス・化学工業も盛んである。

コール-ローン [call loan] 金融機関相互間で行なわれる,ごく短期間の資金の貸借。コールともよばれる。貸し手(出し手)側からはコール-ローン,借り手(取り手)側からはコール-マネーとよばれる。コールは,銀行の手形交換じりの決済など短期資金の調達,銀行の支払い準備金の運用としての意味をもつ。回収期日によって,貸した翌日回収できる翌日物,貸した翌日を除き請求通告の翌日回収できる無条件物,貸した翌月になってから請求通告の翌日回収できる月越し無条件物などの種類がある。コール-ローンの利率コール-レートは金融市場を敏感に反映するとされているが,わが国では資金偏在のためコールが長期化し,コール-レートが異常に高くかつ硬直化しているという不合理がある。〔速水 保〕

コルンバ [Corumba] ブラジルのマットグロッソ高原にある商業都市。人口39,000(1966)。ウシを中心とする畜産物の集散地。付近に世界最大の埋蔵量をもつといわれるマンガン鉱山がある。第2次世界大戦後鉱山の開発が進むとともに,その基地として重要になった。

コルンブいし 【コルンブ石】 製鉄や電子工学で重要なニオブおよびタンタルの原料鉱物。$(Fe, Mn)(Nb, Ta)_2O_6$ 斜方晶系。比重5.3～7.8,硬度6,劈開(へきかい)一方向に良好。鉄かっ色あるいは鉄黒色。主としてペグマタイト中に産する。

ごれいぜいてんのう 【後冷泉天皇】 (1025～1068) 在位1045～1068年。名は親仁(ちかひと)。後朱雀(ごすざく)天皇の第1皇子。母は後朱雀東宮時代の妃嬉子(きし)(藤原道長の娘)。関白藤原頼通(よりみち)の栄華,前九年の役などはこの時代のことである。皇子がいなかったので頼通はやむをえず天皇の異母弟で摂政家と外戚(がいせき)関係のない尊仁(たかひと)親王(後三条天皇)を皇太子とした。陵墓は京都円教寺陵。

コレウス [coleus] 一般にはコリウスとよばれる。双子葉植物・シソ科。アジア・アフリカ・オーストラリア・太平洋諸島などの熱帯や亜熱帯地方に分布する多年草,低木。約150種があり,ニシキジソ・コモンソウ・ハナジソなどが知られる。茎は高さ30～100cm,葉は広い心臓形で緑に丸い鋸歯(きょし)がある。白色や紫色の唇形(しんけい)の花をつけるが,花よりも紫紅色や模様のある葉を観賞するために栽培されるものが多い。➜観葉植物

コレカルシフェロール [cholecalciferol] ビタミンD_3のこと。カルシフェロール(ビタミンD_2)と同一の生物効果を有する。骨・歯の形成を助け,欠乏すると佝僂病(くるびょう)を起こす。白色の結晶で肝油中に多く含まれ,コレステロールより合成される。

ごれき 【呉歴】 (1632～1718) 中国,清(しん)初の文人画家。四王呉惲(しおうごうん)のひとり。字(あざな)は漁山,号は墨井道人など。生来の文人気質で権勢家と交わらず,気韻厚重といわれる品格の高い山水画を描いた。王石谷と同年でともに王時敏に学んだが,のち王蒙(おうもう)・黄公望らの影響を強く受けた。1682年天主教会にはいり,マカオで西洋画の技法を習得。その画系を虞山(ぐざん)

派とよび，形式化した呉派の南宗画に対して清新な画風を展開した点で評価される。〔中島純司〕

コレクター ⇨トランジスター ⇨真空管

コレジヨ ［Collegio］ イエズス会が一般青少年に神学教育を中心に学問・技芸を教授するために設けた教育機関。1551年ローマ大学，1552年ゲルマン大学を設立したほか，世界各地に設立され，日本でも1580年(天正８)豊後(ぶんご)府内(大分県)に創設されたが，のち迫害を受けて天草・長崎に移転した。聖職者を養成し，西欧文化を教えた。

コレステロール ［cholesterol］ ステロイドの一種で，コレステリンともいわれる。$C_{27}H_{46}O$ 融点148°C。白色光沢のある鱗片(りんぺん)状または粒状の結晶。1778年にヒトの胆石中にはじめて発見されたが，高等動物ではすべての組織中に0.05～5％含まれている。たとえば血液中には0.15～0.2％，胆汁(たんじゅう)中に0.06～0.16％含有されており，胆石は98％以上がコレステロールである。動物の体内で生産され，また消化管からも吸収される。生体内では，胆汁酸・ステロイドホルモン・ビタミンD類の前駆物質となるが，このほかの働きとして，溶血性の物質から血球を守る役目をするといわれる。しかし，血液中のコレステロールが増加して血管に沈着すると，動脈硬化症を起こす原因になるとされている。コレステロールは界面活性剤としての作用をもち，水を吸収する力を高めるので，親水性の軟膏(なんこう)の基剤に添加する。このほか養毛料(エタノールの刺激を減らす目的)や，化粧用洗剤などにも加えられる。工業的にはステロイドホルモン類の原料となる。〔鈴木郁生〕

これたかしんのう 【惟喬親王】 (844～897) 文徳(もんとく)天皇の第１皇子。母は紀名虎(きのなとら)の娘静子。父天皇は最愛の皇子惟喬を皇太子に立てようとしたが，皇弟惟仁(これひと)(清和天皇)が出生したため，その外祖父藤原良房(よしふさ)をはばかって果たさなかった。在原業平(ありわらのなりひら)と親交があり，生涯(しょうがい)を不遇のうちに終わった。

コレッジョ ［Antonio Allegri Correggio］ (1494～1534) イタリアの画家。作品の大半をパルマで制作。青年のころラファエロの《サン-シストの聖母図》を見て〈私も画家だ〉と叫んだという。その絵は明暗法と遠近法を極端に用いていて，盛期ルネサンスの崇高性をバロック的な官能性に代えた。パルマの聖ジョバンニ寺の《栄光のキリスト》，聖パウロ尼僧院の装飾天井画，本寺の《マリア昇天》などすぐれた天井壁画を残している。

コレット ［Camilla Collett］ (1813～1895) ノルウェーの女流作家。40歳を過ぎてから本格的な創作活動にはいり，社会的因習からの女性の解放を主題にした作品を次々に書いた。兄ウェルゲランの論敵ウェルハーベンとの悲恋が作品に影を落とし，《知事の娘たち》では肉親にしいられて不幸な結婚生活を送る女を描いた。イプセン・ビョルンソンらがなおロマン主義に呪縛(じゅばく)されているとき，自然主義の作風を示した。



呉　歴《湖天春色図》 上海博物館蔵



コレッジョ《幼児キリストを礼拝する聖母》 1512～1513 ウフィツィ美術館蔵



コ レ ニ ア

コレット ［Gabrielle Sidonie Colette］ (1873～1954) フランスの女流小説家。少女時代から鋭敏な感受性に恵まれ，作品には聴覚・視覚・嗅覚(きゅうかく)のみごとな表現がみられる。人間の欲望を微妙な心理分析の中に浮き彫りにし，《学校へ行くクローディーヌ》などのクローディーヌ物，晩年の《シェリー》のシリーズ，少年少女の欲望の目ざめを描いた《青い麦》などがある。

コレニア ［collenia］ 東アジア・北アメリカ・メキシコなどの原生代の石灰岩中に発見され，石灰藻(そう)の化石と考えられている。岩石の風化面では直径５～10cmの同心円状を呈する。コレニアを含む石灰岩を俗にうずまき石灰岩という。これに属するものにクリプトゾーンがある。

コレヒドール(島) ［Corregidor］ フィリピン，ルソン島南部，マニラ湾口にある火山島。バターン半島の南約５kmにある。面積5.8km²。漁村のサン-ヨセが唯一の集落。18世紀にスペインの堅固な要塞(ようさい)がつくられたが，1898年アメリカ-スペイン戦争のとき，デウェイ提督のアメリカ艦隊に無抵抗で降伏した。以後アメリカ陸軍の要塞となったが，第２次世界大戦中の1942年(昭和17)５月日本軍に降伏した。1945年２月，再びアメリカ軍が奪回，1947年フィリピンの主権にゆだねられた。〔大崎　晃〕

これやすしんのう 【惟康親王】 (1264～1326) 鎌倉幕府の第７代将軍。後嵯峨(ごさが)天皇の孫。父は６代将軍宗尊(むねたか)親王。母は藤原兼経(かねつね)の娘宰子。宗尊親王が執権北条政村(ほうじょうまさむら)に将軍職を追われたあと，1266年(文永３)３歳で征夷(せいい)大将軍となり，1270年臣籍に下って源姓を賜わる。1287年(弘安10)親王に復し二品(にほん)に叙せられた。1289年(正応２)執権北条貞時(さだとき)のため将軍職を追われ，帰京して嵯峨に隠居，のち出家した。

コレラ ［cholera］ コレラ菌の感染によって起こる消化器系伝染病。アジア南部に古くから流行し，ときどき世界各地で大流行をみた。国際検疫伝染病の一つで，わが国でも法定伝染病に指定されている。コレラ患者あるいは保菌者の糞便(ふんべん)・吐物中の菌が経口感染し，普通は１～３日の潜伏期間ののち，発病する。激しい下痢を起こし，下痢便は米のとぎしる様である。嘔吐(おうと)も強く，全身に強度の脱水症状を呈し，放心状態となる。ひどくなると無尿となることもある。下痢は，コレラ菌の毒素が腸管壁を刺激するために起こると考えられている。治療は抗生物質が有効であるが，輸液療法も重要。治療を行なわないと，50～70％の者が死亡する。〔清水喜八郎〕

コレラきん 【コレラ菌】 コレラの病原菌で，グラム陰性。1883年コッホによって

コレラ患者の大便中から分離された。下痢便や腸から分離した直後のものは，湾曲した楕円(だえん)の一端に1本の長いべん毛があり，すみやかに運動する。アルカリ性の培地に発育するので，他の菌と分離できる。O抗原を用いて，稲葉・小川・彦島(ひこしま)型に区別されている。➔エルトール菌

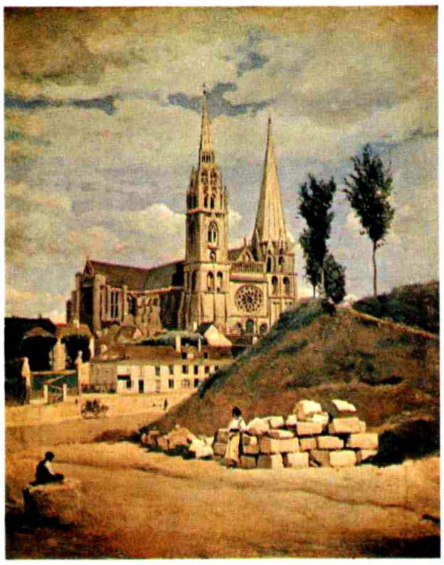
コレルリ [Arcangelo Corelli] (1653～1713) イタリアのバイオリン奏者・作曲家。幼時から音楽教育を受け，13歳のとき，ボローニャでバイオリンを学んだ。1681年スウェーデン女王クリスチナにささげた12曲のトリオ-ソナタ(作品1)を出版，1689年枢機卿(すうきけい)ピエトロ-オットボーニの首席バイオリン奏者兼楽長の地位を得，恵まれた環境の中で次々と傑作を生み出し，名声を獲得した。1710年引退し，以後静かに余生を送った。コンチェルト-グロッソ*形式の母体であるトリオ-ソナタは彼によって完成され，またコンチェルト-グロッソ形式を確立してヘンデル*やビバルディ*らに影響を与えた。一方，バイオリン奏者としては古典的バイオリン奏法の基礎を築き，多くのすぐれた演奏家を育て，その影響はヨーロッパ各地に及んだ。〔寺田兼文〕

ころ 【転子】 重い物を運ぶとき運びやすくするため，その下に敷く細い丸棒。引きずって運ぶよりも，丸棒が回転するので摩擦が少なくなりずっと楽である。車の場合も車軸と軸受けとの関係を考えると一種のころといってよい。これはすべりの摩擦をころがりの摩擦に変えて運搬を容易にしているのである。

コロー [Jean Baptiste Camille Corot] (1796～1875) フランスの画家・版画家。プサン*・ローラン*らの古典的なフランス風景画の伝統のうちに育ち，3度にわたるイタリア旅行によってしだいに自己の作風を確立した。パリ郊外のバルビゾンで着実な自然観察に基づく繊細な賦彩と明るい灰色調のあふれる風景画を描き，いわゆる〈バルビゾン派〉の一員とされる。晩年の作品に現われる新鮮な色彩は，印象派*の先駆と称される。人物画家としてもすぐれていた。《シャルトル大聖堂》《マントの橋》《真珠の女》《青衣の女》などの名作がある。〔島田紀夫〕

ごろあわせ 【語呂合わせ】 言語遊戯*の一。和歌の世界で発達した掛詞*(かけことば)が，中世の軍記物語・能・狂言・俳諧(はいかい)にも広がり，しだいに民衆にとけこんで江戸時代の地口*のしゃれとなった。地口のうち，特に文句全体のもじりを興味とするものを〈語呂合わせ〉といい，天明ごろ(1780年代)から大流行した。〈いなかざぶらひ茶店にあぐら〉(死なざやむまい三味線(しゃみせん)まくら)の類。

コロイド [coloid] 膠質(こうしつ)ともいう。物質粒子を細分化して2×10^{-5}～5×10^{-7}cmの大きさになると，特別な性質がみ



コロー《シャルトル大聖堂》1830 ルーブル美術館蔵

られるようになり，この範囲の大きさの粒子をコロイド粒子という。これが媒質中に分散している状態がコロイドである。コロイド粒子を含む媒質を分散媒，分散している物質を分散相(分散質)といい，全体を分散系という。コロイドを分散媒と分散相の状態によって分類すると表のようになる。コロイド粒子の形はコロイドの性質を支配する重要な要素であり，球形コロイドと線形コロイドに大別される。球形コロイドは多かれ少なかれ密な小球状粒子であり，線形コロイドは長い繊維状の単位体である。一般にコロイドとしては，液体の中に固体が分散したものが最も多く取り扱われてよく研究されている。このようなコロイドでは，粒子が分散媒と親和性の大きいものを親液性コロイド，小さいものを疎液性コロイドという。特に分散媒が水の場合にはそれぞれ，親水コロイド・疎水コロイドという。せっけん水・ゼラチン・デンプン水溶液は前者の例であり，金ゾル・イオウゾルは後者の例である。また，粒子が単分子的なものを分子コロイド，多分子的なものを会合コロイドという。分子コロイドは，分子1個がすでにコロイド粒子の大きさであり，このような巨大分子は高分子とよばれ，タンパク質・デンプン・寒天・ゴムなどの天然物質や，合成ゴム・合成繊維などがある。会合コロイドには，せっけん水のように低分子化合物が50～100ほど集まってミセルという集合体をつくるミセルコロイドと，金のコロイドのように微結晶体が集合した粒子コロイドがある。分子コロイド・ミセルコロイドは親液性であり，安定したコロイドが多く，粒子コロイドは疎液性であまり安定ではない。コロイドに強い光をあてると，粒子が不規則な運動をしているのが見られる。これは媒質の分子がコロイド粒

分散媒と分散相によるコロイドの分類

分散媒	分散相	呼称と実例
気体	液体	エーロゾル：霧・もや
気体	固体	エーロゾル：煙・炭塵
液体	気体	気体乳濁液：泡
液体	液体	乳濁液(エマルジョン)：牛乳
液体	固体	懸濁液(サスペンション)：泥水
固体	気体	固体泡：軽石
固体	液体	固体ゾル：ルビー・合金

子に不均等に衝突するために起こるもので，ブラウン運動といわれ，コロイド粒子の拡散はこれに由来する。粒子が小さいほど，また温度が高いほど活発に起こり，これを定量的に扱うことによってアボガドロ数*が求められる。一般にコロイド粒子が重力の場で沈降する現象があり，その沈降速度は粒子の質量と同体積の媒質の質量の差に比例する。粒子の密度が媒質の質量よりも大きければ，たとえ微粒子でもいつかは沈降するはずであるが，ブラウン運動による拡散のため重力と平衡を保っており，これを沈降平衡という。純粋でよく透析されたコロイド溶液は，非常に小さいが浸透圧を示す。コロイド粒子はコロジオンやセロファンなどの半透膜を通過できないので，これらの袋の中にコロイド溶液を入れ，これを溶媒の中に置くと溶媒がコロイド溶液を希釈するように侵入して，コロイド溶液の体積は増加する。コロイド溶液の粘度は他の溶液の粘度よりも大きい。球形コロイドでは，粒子の大きさによる影響は少ないが，濃度に比例して粘度が増大する。線形コロイドの粘度は球形コロイドの10～100倍ほどの大きさで，濃度とともに粘度は急速に増加し，また高分子がより長いほどいっそう急激に増加する。濃厚な酸化鉄ゾルやペンキのサスペンション(懸濁液(けんだくえき))などでは，チキソトルピーという現象がある。これはゲルに振盪(しんとう)などの外力を加えることによって，見かけの粘度を減少して液化するもので，放置すると再びゲルにもどり，可逆的にゾル―ゲル変換を行なう。この逆の現象にダイラタンシーがあるが，ある特殊な条件のもとでのみ実現される。コロイドの光学的性質としてチンダル現象があり，コロイド溶液に側面から光をあてると，光路が観察される。これは光が粒子によって散乱されるために生じる。コロイド粒子は光学顕微鏡では見ることはできないが，チンダル現象を利用して暗視野の限外顕微鏡で，その存在の確認と粒子の数や運動状態を調べることができる。金属コロイドはあざやかな色であるが，これは金属粒子の光吸収以外に光散乱があるためで，金ゾルでは紅赤色に見える。コロイド粒子は電荷をもっており，溶液に直流を流すと正の電荷をもつ粒子は負の電極に，負に帯電している粒子は陽極に集まる。この現象を電気泳動という。〔水野俊彦〕

ころがりまさつ【ころがり摩擦】⇨摩擦

ころぎす【蟋蟀螽蟖】こん虫類・直翅(ちょくし)目・コロギス科。翅端までの体長30～35mmで，体形はコオロギ類に似ているが，発音器・聴覚器がなく，著しく長い触角があり，夜行性。本州・四国・九州に分布し，樹上に生活し，口から吐く糸で葉をつづって巣をつくる。雌の産卵管は著しく細長く，先は上方に向かって曲がる。本種のほか無翅のハネナシコロギスが本州・四国・九州に，微小な翅(はね)があって産卵管が短くまっすぐなコバネコロギスが本州・四国・台湾に分布している。

ころざめ 軟骨魚類・カスザメ科。全長3mに達するサメ。体の幹部は細長いが，胸びれと腹びれが著しく水平に拡張しているため，全体としてはエイ類に似た外形を示す。体は青みのあるかっ色で，多くの黒斑(こくはん)とわずかな白斑が散在する。本州中部以南の浅海底にすむ。肉はかまぼこなどに加工される。皮はさめやすりにされ，カスザメ*のそれよりすぐれている。

コロジオン［collodion］ニトロセルロースを主成分とするピロキシリン(脱脂綿を硫酸と硝酸でニトロ化したもの)を，エチルアルコールとエチルエーテルの混合溶液(容積比1：3)にとかしたもの。溶媒が揮散すると透明ないし半透明のにかわ状になり，皮膚に塗布すれば保護剤となる。この薄膜に弾性を与える目的でひまし油を少量入れた弾性コロジオンは包帯固定に用いられる。コロジオン膜は高分子分子量測定・透析用などに使われる。

〔石戸良治・荒木洋之助〕

コロス［choros］古代ギリシア劇における合唱隊。主人公の運命に同調・対立しながら，事件を説明・批判する役割をもつ。ギリシア劇発生の母体であったが，俳優の役割の増大につれて衰退した。今日まで復活の試みが多い。➔ギリシア演劇

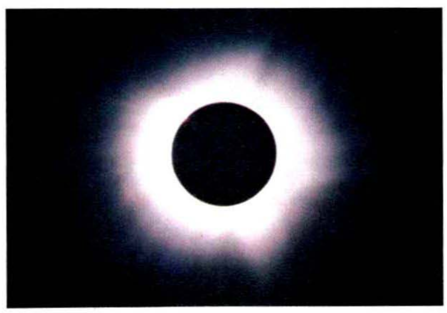
コロセウム［Colosseum］ローマにある古代ローマの最大の円形闘技場。皇帝ネロ*のあとを受けたベスパシアヌス帝が起工し，約10年の年月を要して，80年ティトス帝の晩年に完成した。近くにネロの巨像(コロッスス)があったので，中世末以降コロセウムとよばれた。長径188m，短径156m，高さ48.5mの4階建てで，50,000人を収容できる。各種競技・剣技や猛獣との格闘が行なわれ，またキリスト教徒の虐殺も行なわれた。浴場とともに古代ローマ人の娯楽場で，歴代皇帝は人気の獲得と人心収攬(しゅうらん)のため用いた。

〔高山高雄〕

コロタイプ［collotype］ゼラチンを版面とする写真印刷法。1870～1873年にドイツのヨセフ-アルバートが完成。感光乳剤は重クロム酸アンモニウムを主成分とし，水とグリセリンの溶液で湿潤し，コロタイプ印刷機でコロタイプインキを使って印刷



コロセウム



コロナ

する。濃淡あざやかな写真印刷ができるので，絵はがき・アルバム・絵画・写真印刷などの印刷に用いられる。ゼラチン版面であるので大部数の印刷ができない。

コロッケ［croquette］正しくはクロケット。魚・エビ・カニ・鳥獣肉・卵・野菜(ジャガイモ・タマネギ)など任意の材料を下調理し，つなぎ材料を混ぜ合わせて適当の形(木の葉・俵・西洋ナシ形)をつくり，小麦粉・卵・パン粉をつけて揚げる。つなぎ材料は濃いホワイトソース，つぶしたジャガイモなどが用いられる。揚げる温度は180℃，時間は2分くらい。ソースは，ふつうトマトソースを用いるが，ウスターソースを用いることもある。一般的には一品料理・温前菜・つけ合わせなどに用いている。

〔泉　敬子〕

コローディ［Carlo Collodi］(1826～1890) イタリアのジャーナリスト・小説家。本名カルロ-ロレンツィーニ。愛国精神に燃えて1848年と1859年のイタリア統一戦争に参加。雑誌・新聞に数多く執筆し，《目と鼻》《愉快な話》などを刊行した。本領は児童文学において発揮され，代表作《ピノッキオ*の冒険》は全世界の子どもに愛されている。

ころとう【葫蘆島】フールー島 中国東北部，遼寧(りょうねい)省の遼東湾北西部に開ける海港。錦州(きんしゅう)の南西方約50kmに位置する。干満の差が3mに満たないこと，水深が大であること，夏季の南風，冬季の北風を防ぐ地形にあって不凍港であることから，清(しん)末から注目されてきた。1908年東三省総督徐世昌(じょせいしょう)の提案によって湾頭と葫蘆島に大規模な築港が始められ，旧満州国時代，日本の工事によって1943年(昭和18)に完成した。現在，背後に開ける工業都市錦西(きんせい)の外港となっている。

〔千田　稔〕

コロナ［corona］太陽を大きく包んで惑星間空間に広がっているガス。皆既日食のとき，黒い月のまわりに真珠色の淡い光となって見られる。以前は皆既日食以外には観測できなかったが，現在ではコロナグラフ*によってコロナの明るい部分の観測ができるようになった。形は黒点の活動周期に従って変化する。黒点の極大期にはほぼ円形に近く，極小期には極方向のコロナが縮まって扁平(へんぺい)となる。このとき南北両極付近に磁力線を思わせる形が見られる。コロナは，その中にある電子が光球の光を散乱して鈍く光っている。コロナの電子の数は1 cm^3に約1億個である。明るさは非常に弱く，光球の100万分の10以下である。温度は100万℃の高温であるので，粒子が互いに激しく衝突し，イオンのもつ電子が数多くはじき出される。5,303Åのコロナ輝線は，鉄のもつ26個の電子のうち13個失った鉄イオンの発する線である。また，イオンのそばをかすめて通る電子からは，太陽電波が放射される。高温なのでX線や紫外線を光球よりも多く放射していて，人工衛星からも盛んに観測されている。〔日江井英二郎〕

コロナかんそくじょ【コロナ観測所】皆既日食以外におけるコロナの観測を主目的としてつくられた観測所。地上では，地球大気の散乱光にじゃまされてコロナが見えないので，空気の澄んでいる高山が選ばれる。日本では長野・岐阜両県にまたがる乗鞍岳(のりくらだけ)に東京天文台コロナ観測所がある。

コロナグラフ［coronagraph］皆既日食以外のときでも，コロナを観測できるようにくふうされた望遠鏡。太陽像の位置に円板を置き，人工的な皆既日食にする。さらに，①対物レンズは良質のものを使用し，②単レンズを使い，レンズの内面反射光をさえぎる，③レンズの縁から漏れる回折光をさえぎる，など散乱光には細心の注意が払われている。

コロナートゥス ⇨コロヌス

コロナほうでん【コロナ放電】気体中の自続放電の一種で，火花に至るまえの形態。電極間に高い電位差を加えたとき，電界が不均一となり，電位傾度の大きい電極付近の強い電離や空間電荷の増加によって局部的(電極を橋絡せず)に生じる部分放電である。極板の形状，電圧極性などによって外観が異なる。➔放電

コロニー［colony］単一生物種の集団。たとえば，細菌の集落，植物や固着性動物の集団，アリ・ハチなどの社会性こん虫の集団など。また，ネズミ・ペンギン・アザラシなど移動性のある動物の集団，転じて

集団営巣地をもいう。コロニー内の各個体の関係にはいろいろあり，植物・固着性動物・社会性こん虫のように全生活期間を経る場合を永続的コロニー，繁殖期にのみ形成するものを繁殖コロニー，繁殖とは直接関係なく，索餌(さくじ)・移動などのため季節的に形成するものを季節的コロニーという。〔船越真樹〕

コロニー [colony] 重症心身障害者が治療しながら生産労働に従事し，永住できるようにつくられた施設または居住者集団。元来は結核回復者のアフタケアの実践から生じた，低肺機能者や長期排菌者など社会生活困難な患者の生活の場としての施設をいった。身体障害者コロニーは，身体障害者の村である一定の地域に身体障害者の住居・保護・医療・基礎訓練・職業指導・教育の共同利用施設を設けたもの。コロニーの建設運動を推進するため，結核回復者コロニー協会が全国的につくられている。最近では愛知県が1965年(昭和40)度からはじめての精神薄弱者コロニー建設に着手し，翌年度国家予算に自治体に対する国庫補助が計上された。→身体障害者福祉〔椿 輝男〕

ゴローニン [Vasilii Mikhailovich Golovnin] (1776～1831) ロシアの海軍将校。1811年(文化8)ディアナ号艦長として千島列島・オホーツク海沿岸測量の際，国後(くなしり)島に来航して薪水食糧を求めたが，江戸幕府によって投獄された。獄中で蝦夷(えぞ)通詞や幕府役人にロシア語を，間宮林蔵*に天文測量術を教え，また彼らから日本の事情を聞いた。1814年高田屋嘉兵衛*(かへえ)と交換に釈放されて帰国。著書《日本幽囚記》(1816)は，ヨーロッパ各国語に翻訳され，ヨーロッパ人の日本認識に貢献した。〔山県弘志〕

コロヌス [colonus] もと古代ローマの農業耕作者を意味するラテン語であったが，主として小作人の意味で用いられ，後期ローマ帝国においては自由身分でありながら土地に縛られた農業労働者として重要な役割を果たした。このコロヌスの身分あるいは集団，さらにはそれを基幹とする農業構造をコロナートゥスとよぶ。

コロナートゥスの起源と本質については古来幾多の学説が提出されてきた。奴隷起源説・蛮人移住者起源説などが出されたのち，後期ローマ政府の徴税上の必要からつくりだされたとするハイステルベルクら財政起源説と，定額金納小作人の小作料滞納による長期分益小作化に遠因を求めるフュステル-ド-クーランジュの学説が有力で，今日においてはこの2説の延長線上で解釈されているといってよい。今日，テオドシウス法典やユスチニアヌス法典などに収められている4世紀の勅法や，土地台帳に基づいて明らかにされているところによると，4世紀には少なくとも2種類のコロヌスがあった。一つはみずから土地・家屋を所有



コロネード　サン-ピエトロ寺院の柱列



コロブス　クロシロコロブス

した上でなお他人の土地を小作した小農民コロヌス，他は土地も家屋ももたずに地主の小作地の耕作だけで生計を立てるコロヌスであった。後者は当時の徴税制度によって自分の名まえで納税せず，地主の名まえと責任で納税したため，地主への隷属度は増していった。332年の勅法で，逃亡を企てれば鎖につながれるとされたのはこの種のコロヌスで，法典では〈(地主の)土地台帳に登録されたコロヌス〉とよばれた。彼らは奴隷とは異なり自由身分で，原告としても被告としても裁判に出廷できたが，他面コロヌス身分でない一般の自由人女子との結婚は非合法とされ，登録された土地から移動することは禁ぜられ，地主の許可なしに自己の財産を売却することも許されなかったなど，事実上は奴隷や解放奴隷にかなり近い状態であった。しかし，地主もコロヌスを放逐したり他の農地に移動させたりすることを禁ぜられ，生まれた子は父のコロヌス身分を襲うこととされ，身分と職業への固定化が強められていった。このような登録されたコロヌスが，後期ローマ帝国の農業労働者として重要な地位を占めたことは確かであるが，今日の研究ではその重要性を過度に(排他的に)評価することは戒められている。自由な農民が主要な農業労働力であった地方も多いし，登録されたコロヌス自身，5世紀以後漸減する傾向を示したと主張する学説が今日有力である。〔弓削 達〕

コロネード [colonnade] エンタブレチュア(→オーダー)をささえる等間隔の柱の列。アーチ*をささえる場合はアーケード*という。

コロブス [*Colobus*] 哺乳(ほにゅう)類・霊長目・オナガザル科・コロブス亜科のうち，アフリカにすむ一群。ゲレザともいい，手の親指が退化して痕跡(こんせき)状なのでイボザルともいう。完全な樹上生活者で，木の芽や葉を主食とし，動物性のものは食べない。そのため胃がくびれて三つに分かれる。頰袋(ほおぶくろ)をもたない。地方差が大きく，分類は困難だが3系統に分けられる。クロシロコロブスが有名で，頭胴長55cm，尾長80cm，黒と白の美しいサルである。2～15頭の群れをつくり，なわ張りをもつ。奇怪な大きな声でなく。〔河合雅雄〕

ゴロブリョフけのひとびと 【ゴロブリョフ家の人々】 サルトゥイコーフ-シチェドリーン*の小説。1880年の作。父親と長男は酒で命を落とし，次男の欲深い偽善者ユードゥシカ(小ユダ)は狂死するというふうに，精神的に腐敗した地方地主一家が悲惨な最期を遂げて滅び去るさまを，自然主義的な手法で陰鬱(いんうつ)な調子に描き，農奴解放期の地主の没落するさまがうかがえる。

コロポックル アイヌの伝説。〈地下の穴に住む小人〉〈フキの葉の下にいる小人〉の意。寒飢にさまよったアイヌ人が地下の小屋を見つけ一夜を明かすと，翌日から入り口に食物が置いてあり，神様の慈悲と喜んだが，それは入れ墨をした小さな美女だとわかった。アイヌの先住民族ともいわれる。

ころもがうらわん 【衣ヶ浦湾】 愛知県三河(みかわ)湾西部の知多湾奥部をさし，単に衣ヶ浦ともいう。南北に細長い断層谷に沿う境川の侵食谷が沈水したもので，湾の周辺には，西側に武豊(たけとよ)町・半田市，奥部に刈谷(かりや)市，東側に碧海(へきかい)郡高浜町・碧南市があり，港湾地区・工業地区を形成している。多くの港は総合されて衣浦(きぬうら)港(1957年重要港湾指定)とよばれ，面積17km²の衣浦臨海工業地帯造成の核心とされる。高浜と半田市亀崎(かめざき)との間に1956年(昭和31)湾をまたいで長さ645mの衣浦大橋がかけられた。〔山口恵一郎〕

ころもがわ 【衣川(村)】 岩手県胆沢(いさわ)郡にあり，平泉丘陵の北麓(ほくろく)を東に流れて北上川に注ぐ衣川の流域を占める。人口5,800。大部分が山地で，主産業は農業と林業。前九年の役*で八幡太郎義家(はちまんたろうよしいえ)と安倍宗任(あべのむねとう)とが〈年を経し糸の乱れの苦しさに〉〈衣の館(たて)はほころびにけり〉とやりとりした地と伝えられる。

ころもがわのたて 【衣川の館】 高館(たかだて)・判官館(ほうがんだて)ともいう。現在の岩手県西磐井(にしいわい)郡平泉町高館にあたるといわれている。鎌倉初期，兄頼朝(よりとも)と不和となった源義経*(よしつね)は平泉の藤原秀衡*(ひでひら)をたよったが，秀衡の死後1189

年(文治５)，頼朝の圧迫に屈した秀衡の子泰衡(やすひら)に攻められて自殺した義経最期の地である。

コロラド(州)［Colorado］アメリカ合衆国西部の内陸州。面積26万9,000km²。人口249万6,000(1974)。州都デンバー。1876年８月１日，独立宣言の100年後に合衆国38番めの州となる。州名はスペイン語の〈赤〉の意。大部分がロッキー山脈に属し，南西部はコロラド高原へ移行する。雪をいただいた山々に，スキーセンター・温泉など多くの施設をもつ休養・レクリエーション地域として有名である。かつては鉱業と牧畜を主産業とする州であったが，最近は工業生産が第１位となっている。家畜と穀物の生産は合衆国全州中第２位で，鉱産額は第３位を占める。鉱産物では，モリブデンが世界総生産額の72％を占め，スズ・バナジウムの生産は合衆国第１位である。また，タングステン・ウラニウム・鉛・亜鉛・金などの生産も多い。工業生産では，肉・酪製品などの食品加工工業が最も盛んで，この分野では全国第１位。主要都市，デンバー・プエブロ。〔椙村大彬〕

コロラド(高原)［Colorado］アメリカ合衆国南西部，ロッキー山脈の南部とワサッチ山脈との間に広がる高原。水平な地層が1,800～3,300m隆起してできたもので，大部分がコロラド川*の流域である。高原上は年降水量800mmを示すが，低地では雨が少なく，半砂漠(さばく)の状態である。地形の変化に富み，景勝グランドキャニオン*などがある。

コロラド(川)［Colorado］アメリカ合衆国南西部を流れる川。ロッキー山脈の西斜面から流れ出し，コロラド高原*を横断し，カリフォルニア湾に注ぐ。全長約2,320km，下流部の800kmは航行可能で，流域面積は約59万km²。上流部は森林におおわれているが，中下流域は乾燥の地域で，グランドキャニオン*・ブライスキャニオンなど深い峡谷が刻まれ，国立公園になっている。また，フーバー-ダムをはじめ多くのダムと発電所がある。〔野間三郎〕



コロラド川　グランドキャニオンとコロラド川の流路。河岸近くの赤い断崖はレッドウォールとよばれ，流下する水もコーヒー色を呈し，川の侵食の強さを如実に示している

コロラドスプリングス［Colorado Springs］アメリカ合衆国，コロラド州中央部にある観光・工業都市。人口17万9,000(1975)。登山で名高いパイクス山(4,301m)の東のふもとにあり，風景が美しく，特に夏に訪れる人が多い。コロラド単科大学・合衆国空軍士官学校がある。また付近のクリップルクリークは金鉱山を控え，市内には西部第１の金の精練所がある。

コロレンコ［Vladimir Galaktionovich Korolenko］(1853～1921) ロシアの小説家。学生時代にナロードニキ*運動に加わって放校・流刑にあい，その体験を作品化して文名をあげた。《マカールの夢》《盲音楽師》など数多い作品は，下層民らの不幸な生活を描きながらも，楽天的で快活な，ときには感傷的なユーモアにあふれている。膨大な回想記《同時代人の歴史》がある。

コロン［colón］フランス語で〈植民者〉の意。特にヨーロッパ系のアルジェリア入植者をいうが，その大半はフランスからの入植者である。ナポレオン３世*時代に活発に行なわれ，アルジェリアはフランスの原料生産地および販売市場となった。1956年には約100万人に達し，最も肥沃(ひよく)な土地を所有し，諸産業を独占していたが，アルジェリア独立の際に大量帰国し，その後は数万人と推計される。

コロン［Colon］パナマ共和国中部，カリブ海岸の港市。人口60,000(1966)。同国第２の都市で，パナマ運河の北西にあたる。首都パナマと結ぶパナマ鉄道の終点で，運河と並ぶ陸上の地峡横断輸送の要地となっている。1850年鉄道建設とともに建設され，鉄道の建設者アスピンウォールの名をとって都市名としたが，のちにコロンブスの名をとって現名に改称した。

コロンタイ［Aleksandra Mikhailovna Kollontai］(1872～1952) 帝政ロシア・ソ連の女性革命家・政治家・外交官。1898年チューリヒ大学に入学。1906年ロシア社会民主党(メンシェビキ*)に加わり，しばしば国際社会主義者大会に参加した。1915年ボリシェビキ*となる。中央委員を経て，十月革命*後女性で初の人民委員となった。1923年以後ノルウェー・メキシコなどに大使・公使として駐在，1945年ソ連邦外務大臣顧問となる。婦人労働問題の啓蒙(けいもう)家としても有名。〔山県弘志〕

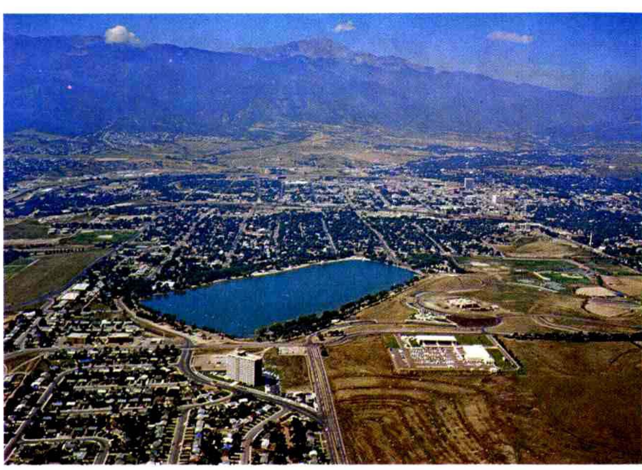
コロンバ　メリメ*の中編小説(1840)。コルシカ島を舞台に，《カルメン*》同様，野性的な情熱の女が描かれている。父親を殺された娘コロンバが復讐心(ふくしゅうしん)に燃え，兄オルソとともに苦難のあげくにあだを討つというもので，コルシカ島に特有のバンデッタ(復讐)の物語。

コロンバス［Columbus］アメリカ合衆国，ジョージア州西縁部にある工業・商業都市でチャタフーチー川に臨む。人口15万9,000(1975)。繊維工業・化学工業が盛んである。

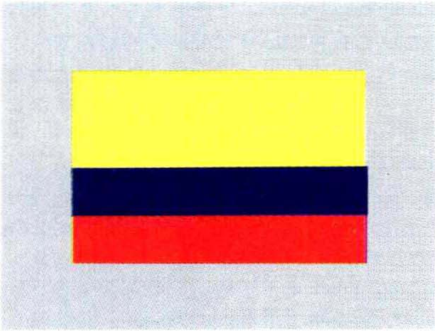
コロンバス［Columbus］アメリカ合衆国，オハイオ州の州都。人口53万6,000(1975)。州中央部に位置し，鉄鋼・鉱山機械・製靴(せいか)・消火エンジンなどの工業が盛んである。鉄道・航空路の一中心で，オハイオ州立大学，州の刑務所がある。

コロンビア(共和国)［Republic of Colombia, República de Colombia］南アメリカ北西部，パナマ地峡にくぎられて太平洋とカリブ海に面する共和国。面積113万8,914km²，人口2,636万(1979年推)。首都ボゴタ。

〔自然・住民〕国土の西部をアンデス山脈の北端をなす西・中央・東の各山脈がほぼ南北方向に走っている。西山脈はパナマ地峡に連なって，北アメリカへ延びる。中央山脈は北上してカリブ海に没し，東山脈は北隣のベネズエラから西インド諸島に連な



コロラドスプリングス　市街地と市の西にそびえるパイクス山。この頂上へはアプト式鉄道や自動車道路が通じている



コロンビアの国旗　スペイン統治に立ち向かったミランダ将軍の旗に由来し，1819年大コロンビア共和国の成立とともに国旗となった。黄色は国富・主権・正義を，青は高貴・忠誠・警戒心を，赤は勇気・名誉・寛大・勝利を象徴している



コロンビア





コロンビア　(左)首都ボゴタの中心街。立体交差の広い道路がつくられ，都市の近代化が進んでいる。右の建物はホテル　(右)茶色に成熟して収穫を待つサトウキビ。農産物集散の中心地カリ市付近のプランテーション

っている。山脈と山脈の間にはマグダレナ川・カリカ川流域の盆地が広がる。東はオリノコ川とアマゾン川の分水界をなす低い丘陵地で，その北の部分はリャノスとよばれる広大な草原に連なっている。平地は熱帯気候であるが,高度1,000mを越えると温帯気候となり，高度3,000mを越える雪線の近くまで居住地域となっている。７月を中心に雨季となり，１月を中心に乾季となる熱帯草原気候のタイプである。住民の20％は白人，58％が白人とインディオとの混血であるメスチゾ*で，純粋のインディオは７％にすぎない。人種的偏見はほとんどみられないが，白人は高原地帯に住み，メスチゾやインディオはその他の地域に住んでいる。公用語はスペイン語，宗教はカトリック，文盲率は約50％と高い。

〔産業・経済〕主産業は農業で，広い谷や盆地でサトウキビ・カカオ・コーヒー・ワタなどがつくられている。ことにコーヒーは品質のよいことで知られており，その生産高はブラジルに次いで世界第２位で，その輸出は総輸出額の70％を越えている。ほかに，パナマ帽・バナナ・砂糖を輸出しており，メデリンは農産物の集散地である。ボゴタ周辺の高度2,600ｍの高原では，小麦・大麦・トウモロコシなどの自給作物がつくられている。太平洋岸の地方は金とプラチナの産で知られ，マグダレナ低地は石油を産する。工業には，ボゴタの食料品，メデリンの織物・製靴(せいか)，カウカ谷の製糖などがある。貿易はアメリカ合衆国への依存が大きく，輸出の50％，輸入の60％を占める。マグダレナ川・カリカ川などの河川が交通上大きな役割を果たし，道路網はパンアメリカンハイウエーが国土を縦断している。

〔歴史・政治〕1525年スペイン人のバスチダスが植民地を建設して以来，スペインの植民地としてその支配下にあったが，1819年シモン-ボリバルによって,現在のベネズエラ・エクアドル・パナマに及ぶ大コロンビア共和国として独立した。その後，ベネズエラ・エクアドル・パナマが次々に分離独立し，1863年共和国の基礎がつくられたが，今日でも政情は安定しているとはいえない。大統領を元首とする二院制議会をもつ。　〔小栗　宏〕

コロンビア(高原)［Columbia］アメリカ合衆国北西部，ロッキー山脈とカスケード山脈の間に位置する広大な台地。平均高度1,200ｍ。第三紀半ば以後,10数回にわたる溶岩流の噴出によっておおわれ，厚さが50～150mに及び,表面は比較的平坦(へいたん)である。コロンビア川・スネーク川がこの台地を刻んでいる。

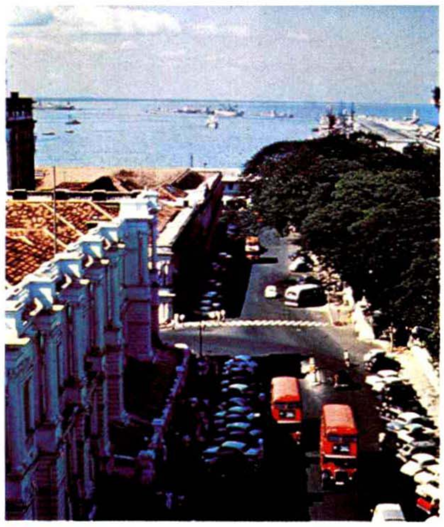
コロンビア(特別区) [District of Columbia] アメリカ合衆国の首都ワシントンが所在する特別区で，首都のための連邦直轄地。略称，ＤＣ。面積156km^2。人口81万5,000(1969)。ワシントン市とジョージタウン・ワシントン郡からなり，1871年に都市協同体として創設された。ポトマック川に臨んだメリーランド州西端中央部を占める。その領域は，最初はメリーランドとバージニアの両州から割譲された260km^2の広さであったが，1846年にポトマック川の南岸区域をバージニア州に返還した。この区の住民は地方政府の代議員の選挙権はなく，また連邦国会へその代表者を送ることはできない。しかし，1961年に批准された第23回法律改正によって，住民は大統領と副大統領を選ぶ権利が認められ，1964年11月の投票で実施された。区の政治は国会の直轄地域として1878～1967年は大統領任命の３人委員会によって行なわれたが，その後は大統領任命の１人の委員とその補助者，ならびに９人の市会議員によって管轄されている。〔相村大彬〕

コロンビア(川) [Columbia] アメリカ合衆国北西部の川。全長約1,850km，流域面積65万km^2。カナダのブリチッシュコロンビア州南部にあるコロンビア湖から流れ出して南流し，カスケード山脈を横断して太平洋に注ぐ。水量豊富なため発電に利用され，グランドクーリー-ダム・ボンヌビル-ダムなど多くのダムがある。河口から300km上流までは大形船の航行が可能である。

コロンビアだいがく 【コロンビア大学】 ニューヨークにある私立大学。1754年イギリス国王ジョージ２世の勅許により創設，キングス-カレッジと名づけられたが，アメリカ独立後の1784年コロンビア-カレッジと改称され，1929年総合大学となった。現在17の学部と四つのカレッジ大学院をもち，付属機関としてはゲーテ・カントらに関する蔵書で著名な図書館，大学出版部などが置かれている。

コロンブス [Christopher Columbus] (1446ごろ～1506) 新大陸(アメリカ)発見の探検航海者。イタリアのジェノバに生まれた。生年，家系，若いころの生活などについては不明の点が多い。若くして船乗りとなり，航海技術を身につけ，1476年ポルトガルに移住し，ポルト-サントの世襲知事の娘と結婚して家庭をもった。地理学者のトスカネリ*と文通し，地球球体説を信じ，西航してアジアへ達する航海を成功させることを念願とした。ポルトガル王室にこの計画を説いたがいれられず，スペインに移った。1492年スペイン女王イサベル*の許可と援助を得て，同年８月，３隻の船に120人の乗組員をもってパロス港を出航し，72日間の航海を続けて西インド諸島中の一島(これをサンサルバドル島と名づけた)に到達し，新大陸発見の端を開いた。彼はアジアの一角に達したものと信じ，さらに第２回航海(1493～1496)で小アンチル・大アンチル諸島方面を，第３回航海(1498～1500)でトリニダード島やオリノコ川河口方面を，第４回航海(1502～1504)でホンジュラス海岸やパナマ地峡方面に探検航海や植民地開発を行なった。しかし，彼の植民地支配は順調には進まず，新発見地は急には期待されていたほどの富をもたらさず，またスペイン宮廷の一部の者のねたみや反目もあり，反逆者として捕縛されたこともあった。晩年は貧困と失意のうちにバリャドリードで寂しく死んだ。〔保坂栄一〕


コロンブス


コロンボ　町のメーンストリートと港の遠景。イギリスふうの建物と濃い緑が落ち着いたふんい気をつくっている。港は町の北側にある

コロンボ [Colombo] スリランカの首都。セイロン島の南西海岸に位置する。人口62万(1974)。スリランカ最大の都市・貿易港で，特産の紅茶はじめ，ゴム・カカオ・ココヤシ製品を輸出している。東西交通の要点にあたるため，古くから船舶の重要な寄港地となってきた。1517年ポルトガルがこの地を占拠し，コロンブスにちなんで命名したが，1796年イギリスが占領した。第２次世界大戦後の1948年セイロン独立に際して首都と定められた。市街は海岸沿いに南北に延び，南部のゴールフェイスを中心に美しい景観を呈する。住民の大部分はシンハリ族で仏教を信仰している。アラビア人・ユダヤ人の居住も多い。セイロンの代表的な仏教寺院として知られるケラニヤ寺院をはじめ各宗教の寺院が立ち並んでいる。1877年に建てられた博物館や植物園もある。〔別技篤彦〕

コロンボけいかく 【コロンボ計画】 正式には南および東南アジア経済開発協力計画。経済開発を促進し，この地域の住民の生活水準を向上させることを目的とする経済協力機構。1950年１月セイロンのコロンボで開かれたイギリス連邦*外相会議でコロンボ計画協議委員会が設置され，1950年９月コロンボ計画が発表され，その後毎年加盟国各地で協議委員会が開かれている。計画期間は次々に延長され，1969年の委員会で1976年までの延長を決定した。

当初は，イギリス連邦内諸国相互間の資本・技術援助を目的としており，加盟国もイギリス連邦諸国に限られていたが，その後東南アジアのほとんどの国が参加して26か国(域内18か国，域外６か国)となり，日本も1954年(昭和29)に加盟している。この計画の特徴は，組織的・超国家的な単一計画ではなく，実施方式が２国間方式であり，被援助国が援助国と個々に交渉し，自己の必要に最も合った形の援助を受けるようになっている。資本・技術の二つの援助があり，技術研修生の受け入れ，指導技術者の派遣，実習用機械設備の供与などを内容とする技術援助にも重点が置かれている。機構としては協議委員会・技術協力審議会・事務局があり，あとの二つはセイロンのコロンボに常置されている。〔深海博明〕

こわいろ 【声色】 おもに歌舞伎(かぶき)俳優のまねをする芸。元禄(げんろく)時代(1688～1703)に起こったが，江戸中期以後普及し，《鸚鵡石*(おうむせき)》などの名せりふ集も刊行された。幇間(ほうかん)や寄席(よせ)芸人にもこれを表芸とする者が現われ，拍子木と銅鑼(どら)をもつ流しの芸人も出た。現在では，各種の芸能人のまねをする声帯模写のほうが盛んである。

こわくだにおんせん 【小涌谷温泉】 神奈川県足柄下(あしがらしも)郡箱根町にある温泉。泉温47～99℃。泉質は単純泉で，神経痛・不眠症・リウマチにきくといわれる。標高580ｍの斜面にあり，サクラ・ツツジの開花時には観光客が多く，近くの小涌園には熱帯植物園がある。小田原から箱根登山鉄道で小涌谷駅下車のほか，バスの便がある。

こわしょうぞく 【強装束】 〈こわそうぞく〉ともいう。糸の縒(より)とのりをきかせて筋目立てた装束。冠・烏帽子(えぼし)・直衣(のうし)などとともに用いた。この方法により，折り目正しく威儀を整えたもので，平安末期に鳥羽天皇の勅旨を受け，花園左大臣源有仁(ありひと)の創意になるという。したがって，これ以前のものは〈萎装束(なえしょうぞく)〉といい，肩の線など柔らかく丸かった。鎌倉時代へかけての武家興隆期にあたり，強装束のかどかどしさが喜ばれて流行した。

こわれがめ　クライスト*の喜劇。1806年の作。村長アーダムが夜中に村の娘エーフェのところに忍び入るが失敗し，翌日，彼はその事件を自分で裁かなければならなくなり，窮地をのがれようとするが，ついに馬脚を現わして村長の職を追われる。作者の非凡なリアリズムの才能を立証するドイツ喜劇中の傑作。

こん　【根】　方程式$f(x)=0$の解，すなわち，$f(a)=0$となるようなxの値aを，$f(x)=0$の根という。二次方程式$ax^2+bx+c=0$の根は，$(-b\pm\sqrt{b^2-4ac})/2a$と表わされる。数係数の二次方程式の根はこの式から直ちに求められるので，これを二次方程式の根の公式という。一般に四次方程式までは代数的に解くことができるので，このような根の公式が求められる。また，二次方程式$ax^2+bx+c=0$の2根をα，βとすると，$\alpha+\beta=-b/a$，$\alpha\beta=c/a$がなりたつ。これを二次方程式の根と係数の関係という。この根と係数の関係は，三次以上の方程式に拡張することができる。　〔菊池兵一〕

こんあつ　【根圧】　根で道管*内の水を上方に押し上げる圧をいう。地上部の切り口に検圧計を挿入(そうにゅう)して測定すると，植物の生長時期や季節によって違うが，1～2気圧程度である。根圧は水分の上昇を説明するのに考えられているが，この程度の圧力では10m以上の木については説明できない。根圧の起こる機構についてもまだ明らかにされないが，青酸カリのような呼吸阻害剤で根圧が低下することから，細胞の活性との関係が考えられる。〔代谷　康〕

こんいろ　【紺色】　色名。やや紫みのある暗い青色。本来は藍(あい)染めの濃い色をいい，古来から用いられてきた。藍染めによる色は，紺色・藍色*・縹(はなだ)色*・納戸(なんど)色*・勝色・甕(かめ)のぞきがあり，時代によって名称の違いが生じ，その区別の明確な基準はない。紺色にさらに赤みを加えた色は，ふつう茄子紺(なすこん)とよばれ，さらに赤みを増した色は紫紺という。日本工業規格(JIS)慣用色名〈紺(ネービーブルー)〉は，色相6.0PB，明度2.5，彩度4.0の色と規定されている。➔色　〔武井邦彦〕


強装束

こんいん　【婚姻】　一般には社会規範によって認められた制度上の男女結合関係の継続をいう。したがって，歴史的・社会的には習俗や宗教によって婚姻の実質的要件や形式的要件は異なる。原始社会における乱婚に始まるという仮説を唱える学説もあるが，一般には，婚姻集団が世代によって順序づけられる血縁家族からしだいに近親婚を禁ずるようになるプナルア家族へ，さらにこのような集団婚形態から単婚形態へ移行する過渡期に，夫婦双方が互いに主要な配偶者を選択できる対偶婚形態を経て，家父長制*家族における一夫多妻制や，女子の過少な地域における一妻多夫制などの婚姻形態を混在させながら，一夫一婦制*へと発展してきたものと考えられている。しかし，今日においてもまだ宗教や習俗上の規範が強く，一夫一婦制を原則としてとらない種族も，文明の遅れた社会には特に多くみられる。近代市民社会では婚姻を宗教的な規範から分離させて，国家的法規範で制度的に規制するようになり，一夫一婦制を原則としてとるようになったが，形式的な規制にとどまり，国家が夫婦や家庭になるべく干渉しない立場をとっている。しかし，社会主義諸国においては，法形式よりも実質的に男女平等を実現するため，国家や社会の諸機関・諸組織が積極的に婚姻や家庭を保護し，援助する立場をとっている。政治的・社会的構造の変革は，つねにまず婚姻や家族*の制度的秩序の改革に着手するため，社会構造と婚姻秩序は密接な関連を有する。わが国においては，明治維新以後に国家が直接に婚姻や家族について法律的に規制するようになった。

近代法における婚姻とは，独立した自由な意思主体者が，その自由な意思決定に基づく合意によって結んだ男女の結合関係を，法律上の手続きを経て登録したものをいう。封建的な家族制度*が存在していた時代の婚姻は，このような意味での近代的婚姻と性格をことにする。わが国でも，個人の尊厳と両性の本質的平等に基づく，真の一夫一婦制としての婚姻の自由が認められるようになったのは，第2次世界大戦後の新憲法においてである。民法では，婚姻は両性の合意を絶対的要件とし，これを届け出る(➔婚姻届)ことによってのみ効力を生ずるという法律婚主義*を採用している(民法739条)。しかし，そのためには次の要件を備えなければならない。すなわち，婚姻適齢(男は満18歳，女は満16歳)に達していること(民法731条)，重婚でないこと(民法732条)，女の再婚については待婚期間(前婚の解消または取り消しの日から6か月間)を経過したのちであること(民法733条)，近親婚その他法律で禁止した一定者間の婚姻でないこと(民法734～736条)，未成年者*の婚姻の場合は親の同意を得ていること(民法737条)などである。ただし，禁治産者*が精神回復中に婚姻をなすには後見人*の同意を必要としない(民法738条)。これらの要件を満たさない婚姻は，その届け出があっても受理されないし(民法740条)，誤って受理されて有効に成立しても，のちにその当事者・親族または検察官から裁判所へ取り消しの請求をなしうる(民法744条)。ただし，未成年者の婚姻に同意を欠いたときには取り消すことができない。詐欺や脅迫によってなされた婚姻も裁判所へ取り消しの請求をなしうる(民法747条)。取り消しの請求は，詐欺を発見し，もしくは脅迫を免れたのち，3か月以内にしなければならない(民法747条2項)。また，婚姻は人違いその他の事由によって当事者間に婚姻をする意思がないときや，婚姻届を提出しないときは無効である(民法742条)。

婚姻による効力としては身分的効力と財産的効力がある。身分的効力としては，夫婦は必ず同一の氏*を称しなければならない(民法750条)，同居・協力・扶助の義務がある(民法752条)，未成年者が婚姻したときは，これによって私法上の行為能力*を認められ，成年*に達したものとみなされる(民法753条)などがある。ただし，この場合でも選挙権など公法上の成年者としての権利は認められない。このほか，夫婦間の契約は第三者を害しないかぎりいつでも夫婦の一方からこれを取り消すことができる(民法754条)などを規定している。財産的効力としてはさらに二つの場合がある。①夫婦財産契約*による場合で，これは夫婦が婚姻届の提出前にあらかじめ財産関係を契約した場合にはそれに従うとするものである(民法755～759条)。しかし，この制度を利用する者は皆無といってよいほど少ない。②法定財産制による場合で，夫婦財産契約がなかったときは次の規定に従うことになっている。婚姻から生ずる費用は分担すること(民法760条)，日常家事の債務については夫婦は連帯して責任を負うこと(民法761条)，夫婦の一方が婚姻前から有していた財産はその者の特有財産とすること(民法762条)，夫婦いずれに属するか不明の財産はその共有にすること(民法762条2項)などである。なお，婚姻は離婚*または配偶者の一方の死亡および失踪(しっそう)宣告*によって解消する。　〔黒木三郎〕

こんいんしょく　【婚姻色】　魚類・両生類・爬虫(はちゅう)類などには繁殖期に限って体色が著しく変化するものがあり，このような体色を婚姻色という。ほとんどの種類では雄に特有な変化で，ヤリタナゴでは，全身の黒みが濃くなる一方，濃赤色の箇所ができる。イモリの雄では尾の部分に紫色のしま模様が現われ，トカゲでは繁殖期になると腹面に赤みがさすようになる。いずれも，色の現われる時期が生殖腺(せいしょくせん)ホルモンの支配を受けており，生殖腺の活動期に発色し，不活動期には現われない。また，繁殖期でも生殖腺を除去すれば色は

消える。このような動物に生殖腺を移植するか生殖腺ホルモンを投与することによって婚姻色を発現させることもできる。鳥類の羽衣が繁殖期に美しく変わる婚衣も一種の婚姻色であり，キンギョの雄にみられる追い星も色には関係ないが婚姻色と同じ意味をもっている。　〔蒲原春一〕

こんいんとどけ　**【婚姻届】**　婚姻の届け出または届け書のことをいう。民法は法律婚主義を採用しているため，婚姻は戸籍法(→戸籍)の定めるところにより，夫または妻の本籍地または所在地の市町村長に対して，当事者双方および成年の証人２人以上から，口頭または書面で届け出なければ効力を生じない(民法739条，戸籍法１・25条)。届け出があれば戸籍管掌者は婚姻が法令に違反しないかぎりこれを受理しなければならない(民法740条)。したがって，婚姻届は婚姻成立の絶対的要件であり，この届け出の受理によって婚姻は成立する。届け書に記載する事項は夫婦が称する氏，その他法令で定める事項である(戸籍法74条)。〔黒木三郎〕

こんいんのかいしょう　**【婚姻の解消】**　婚姻関係が終了すること。離婚による場合，配偶者の一方の死亡および失踪(しっそう)宣告による場合である。離婚による場合は，婚姻関係のいっさいが消滅し，配偶者との親族関係(姻族関係)も消滅する(民法728条)。また婚姻によって氏を改めた者は婚姻前の氏に復する(民法767条)。一方,配偶者の死亡および失踪宣告による場合も婚姻関係は消滅するが，姻族関係は当然には消滅せず，生存配偶者の意思表示(届け出を要する)によってのみ終了させることができる(民法728条２項)。また婚姻前の氏に復するか否かについても，姻族関係にかかわりなく生存配偶者の選択によるものとしている(民法751条)。婚姻の解消により,夫たり妻たる地位が失われるのだから，同居・協力・扶助義務もなくなり，夫婦財産関係の拘束もなくなる。また再婚も自由となる。ただし，妻に限って前婚の解消の日から６か月の待婚期間が置かれる(民法733条)。これは,生まれてくる子の父がだれであるかわからなくなる混乱を防ぐ趣旨である。〔黒木三郎〕

こんいんのこうりょく　**【婚姻の効力】**　⇒婚姻

こんいんのようけん　**【婚姻の要件】**　⇒婚姻

こんいんよやく　**【婚姻予約】**　将来結婚をしようという契約。婚約ともいう。民法には婚約についての規定はないが，判例によれば，誠心誠意をもって将来夫婦たるべきことを約束することによって成立するとされる。すなわち，結納の取りかわし，たる入れ・足入れなどの慣習的儀式の有無にかかわらず，確実な合意さえ認められればそれで婚約は成立したと認められるとする。婚約は，財産法上の契約の予約と異なり，



コ ン ガ



金戒光明寺　三重塔

強制履行義務はもたないが，正当な理由なくして破棄されたならば，それによって損害を受けた者は相手方に対して財産法上の損害賠償(たとえば,嫁入り道具を買った場合など)および慰謝料を請求できることが判例・学説によって認められている。なお判例は，実質的には婚姻生活にはいりながらも届け出してない関係(内縁)をも婚姻予約ということばを用いるので，単なる婚約より範囲が広い。〔黒木三郎〕

コンガ　[conga]　コンガ-ドラムスともいう。キューバの民俗楽器であるが，アフリカ起源のものといわれる。木をくり抜いた筒形の胴体の片面に皮膜を張ったもので，リズムを担当する。なお,約束によるパターンを通じて，遠くにいる人に合い図・信号を送るのにも使われる。

コンガ　[conga]　キューバに生まれたダンス，およびその音楽。カーニバルで黒人が行列をつくって練り歩くときの音楽から発生した。1930年代にこれが単純化され，４歩めに足をけり上げる独特のステップがついて，ヨーロッパやアメリカでも流行した。代表的な曲は《夜のコンガ》《ビーゴへ行く(セイ-シ-シ)》など。

こんかいこうみょうじ　**【金戒光明寺】**　京都市左京区黒谷町にある黒谷浄土宗鎮西派の本山。浄土宗祖法然上人(しょうにん)源空の念仏道場の一。白川禅房の遺跡であると伝えられ，法然の孫弟子(でし)恵尋がここに新黒谷を開いたのに始まる。豊臣秀吉(とよとみひでよし)のとき，寺領百三十石が寄進され，江戸時代に隆盛をきわめた。再三の火災にもかかわらず，今日みるような広壮な寺院として復興されている。

こんかん　**【根冠】**　根の先端を帽子のような形におおっている柔細胞群で，伸びていく根の生長点を保護している。根が生長するにつれて細胞は最先端からはがれていくが，根冠形成層の細胞が外のほうに向かって分裂して補う。→根

ごんき　**【権記】**　権大納言藤原行成(ゆきなり)の日記。原本は50巻らしいが，現存は22巻。991年(正暦２)から1011年(寛弘８)まで。この期間は藤原道長の隆盛期にあたり，当時の貴族社会・政治の様相をうかがう重要な史料である。

こんぎく　**【紺菊】**　双子葉植物・キク科。観賞用に栽培される多年草。野原に普通にみられるノコンギクの栽培品種である。高さ50cmほどで，地下茎でふえ，葉は長楕円(ちょうだえん)形で先がとがる。秋，濃紫色の頭花を多数つける。

コンキスタドレス　[conquistadores]　スペイン語で〈征服者たち〉の意。16世紀初頭から半ばにかけて，ヨーロッパ特にスペインからラテンアメリカに侵入した者をさす。彼らの社会的身分は必ずしも低くなく，貴族出身も多かったが，金銭的に恵まれず，これが彼らを新大陸探検にかりたてた最大の理由と考えられる。一様にスペイン国王と教会に対して忠実で，中世の騎士道精神の継承者でもあった。しかし，一獲千金を夢みて金銀採掘に専念し，原住民からの搾取はきびしかった。こうした植民方法は，農耕の定着を基本とした北アメリカ植民と対照的である。おもなコンキスタドレスに，コルテス・ピサロらがいる。〔松下　洋〕

ごんぎょう　**【勤行】**　仏門にはいった者が勤め励んで，仏道を修行すること。精進ともいう。修行は日常不断に行なわなければならず，その内容・方法もさまざまであるが，のちに経典の読誦(どくじゅ)などを仏前で行なうのを，特に勤行とよび，ふつう各寺院で日課として行なう朝夕の〈お勤め〉をさす。その方式や読誦する経典は宗派によって異なり，浄土宗では特に《阿弥陀経(あみだきょう)》などを読み念仏を行なう。他の宗派では《法華経(ほけきょう)》《理趣経》《般若心経(はんにゃしんぎょう)》などが読誦され，また宗祖が残した和文も読まれる。〔小沢憲珠〕

こんきょく　**【崑曲】**　中国，明(みん)・清(しん)代に流行した戯曲。明の正徳年間(1506～1521)の末ごろ，江蘇(こうそ)省崑山の魏良

輔(ぎりょうほ)が従来の海塩・弋陽(よくよう)の2腔(こう)(腔は曲調)に基づいて創案した新曲，およびそれによってつくられた戯曲をいう。楽器も太鼓・拍板のほかに，弦楽器・管楽器を用いている。一時非常に盛んになったが，清の乾隆(けんりゅう)の末ごろから地方の土戯(花部)の進出とともに衰微した。花部に対して雅部ともいう。代表作に《牡丹亭還魂記*(ぼたんていかんこんき)》《長生殿*》などがある。
〔今村与志雄〕

ゴング　[gong]　体鳴楽器*の一。容器状の楽器胴体をフェルトのような柔らかいもので巻いた桴(ばち)でたたいて鳴らす。ガムラン音楽*で使われる同名の楽器が語源となっている。円盤形の中央に近い部分が振動するので，縁のほうが振動するベル*とは原理的に異なる。材質は真鍮(しんちゅう)などの金属であるが，石・ガラス・木なども用いる。

コンクリート　[concrete]　セメント(あるいはアスファルト)・水・骨材*を主要原料とし，これらを適当な割合に調合して練り混ぜたもの。結合材としてセメントペーストを用いたものをセメントコンクリート，アスファルトを用いたものをアスファルトコンクリートというが，一般にはセメントコンクリートをさすことが多い。セメントコンクリートはセメントと水でつくったセメントペーストとじゃり(粒径5mm以上)・砂(粒径5mm以下)を練り混ぜ，適切な温度・湿度の下で硬化させる。砂のみを混ぜたものをセメントモルタルとよぶ。また，特殊な材料や工法によって製造または施工したものを，たとえば，人工軽量骨材コンクリートなどという。

まだ固まらないコンクリートをフレッシュコンクリートという。フレッシュコンクリートは，セメントペーストの粘性がよく，水がしみ出たり，骨材と分離しないものを用いれば硬化後に均質のものが得られる。経済的に均質のコンクリートを得るために，種々の混和材・混和剤を用いることがある。固まったコンクリートの強さや弾性・塑性，その他の諸性質は，主として水とセメントとの重量比W/Cに支配される。セメントペーストの濃度の高いもの(W/Cが小さいもの)ほど品質がすぐれている。圧縮強さが大きく，引っ張り強さが圧縮強さの約10分の1にすぎないのがコンクリートの特徴であるが，強さはある範囲でC/Wに比例する。すなわち，強さσとC/Wとの間には$\sigma = A + B \cdot C/W$(A，Bは材料による実験定数)の関係が成立する。

コンクリートは大気中の炭酸ガスその他によって中性化し老化する。また，凍結・融解などの気象作用によって表面が剝離(はくり)して破損する。このような性質を改善するため，コンクリート中に微細な独立した空気泡(くうきほう)を発生させる。このとき用いる混和剤をAE剤*といい，AE剤を用いたコンクリートをAEコンクリートという。



コンクリートミキサー　トラックミキサー

気象作用が激しい地方・環境条件のときはAEコンクリートを用いて耐久性の増進を図る。引っ張り強さが小さい弱点を補強した鉄筋コンクリート*やピアノ線を用いたプレストレストコンがある。〔神山　一〕

コンクリートブロック　[concrete block]　形状・寸法・強度など，一定の規準によって工場で製造されるコンクリート製の壁体材料。これを鉄筋コンクリートで補強し，組積して壁体とする。セメント*(ポルトランドセメント・高炉セメント・シリカセメント)と骨材(砂・じゃり・砕石・火山じゃり)をミキサーで混練し，動力による振動または振動と圧縮によって成形する。成形後，湿度100%，65℃を越えない室温で500℃h(度時)以上養生し，さらに400℃h以上の多湿状態で養生を続ける。その後7日以上保存して製品となる。

全断面積に対する圧縮強度によってA種ブロック(25kg/cm²)，B種ブロック(40)，C種ブロック(60)に区分され，水密性の上から普通ブロック・防水ブロックの区分がある。このほか，かさ比重によって重量ブロック(比重1.8以上)，軽量ブロック(比重1.8未満)に大別される。形状には，基本ブロック・半切ブロック・隅(すみ)用ブロック・横筋ブロック・横筋半切ブロックがある。
〔神山幸弘〕

コンクリートブロックこうぞう　【コンクリートブロック構造】　コンクリートブロック*を鉄筋とコンクリートで補強しながら積み上げて壁とした構造。耐久性・耐火性にすぐれ，断熱・防音の効果がよく，工費も鉄筋コンクリートより安いので木材資源の節約と都市の不燃化のため1950年(昭和25)ごろ採用された。床は鉄筋コンクリートスラブとし，壁頂には必ずスラブ・臥梁(がりょう)を設けて水平力に抵抗させる。建物規模は標高11m，3階までを限度としている。
〔神山幸弘〕

コンクリートミキサー　[concrete mixer]　セメント・水・砂およびじゃりを一様に練り混ぜるための機械。容器を固定し，中心にある軸についた羽根を回転させる強制練りミキサーと，内壁に羽根を固定して容器を回転させる重力式ミキサーがある。重力式ミキサーは，容器を傾斜させてコンクリートを排出する傾倒式とシュートを用いる不傾式とに分かれる。強制練りミキサーの混練時間は，高速回転させるために15～20秒で，重力式ミキサーの1分以内に比べて短いが，機械各部の損耗が大きい。特殊なものとしてトラックにミキサーを搭載(とうさい)し，運搬中に混練するトラックミキサーがあり，都市部におけるコンクリート混練の代表的なミキサーになっている。
〔神山幸弘〕

ゴンクールきょうだい　【ゴンクール兄弟】　兄はエドモン(1822～1896)，弟はジュール(1830～1870)。ともにフランスの小説家。ジュールの死まで，合作を続けた。自然主義文学の代表的作家であり，いなか出の女中が心身ともに堕落する生涯(しょうがい)を描いた《ジェルミニー-ラセルトゥ》は自然主義文学の一傑作とされ，合作の《日記》9巻も当時をしのぶ記録として高く評価されている。1903年から兄弟の遺産をもとに〈ゴンクール賞*〉が設けられた。〔池田公麿〕

ゴンクールしょう　【ゴンクール賞】　ゴンクール兄弟*の遺産をもとにしたフランスの文学賞。アカデミー-ゴンクールにより，1903年以降，毎年新進作家のすぐれた小説に与えられる。プルースト*の《花咲ける乙女(おとめ)たち》，マルロー*の《人間の条件》など，この賞によってデビューした作家は多いが，第2次世界大戦後はボーボアール*の受賞のように，必ずしも新人作家に与えられるとは限らなくなった。

コングロマリット　[conglomerate]　複合企業や多角的合併を示すことば。企業合併の形態としては，水平的合併と垂直的合併が代表的であるが，1950年代後半以降のアメリカの企業合併には，比較的関係の薄い業種の企業を吸収合併し，経営を多角化していく合併の方法が増大した。このような合併形態と，その結果生まれた多くの業種部門をもつ複合企業を総称してコングロマリットとよんでいる。たとえば，ITT*(国際電信電話会社)は電信・電話のサービスと機械製造販売の大企業であったが，1959年以来，ホテル・レンタカー・住宅建築・出版・化学繊維・個人金融会社・生命保険・投資信託・ガラス用材料・パンおよび冷凍食品という関連の少ない業種の企業を吸収合併し，1959年から8年間に純利益を42倍にも高めた。また，1954年には名もない小さな真空管会社であったリットン-インダストリーズ*も多業種の吸収合併により，1968年には売上高を600倍に増している。何業種以上の企業をもってコングロマリットと称するかは明確でないが，アメリカの経済雑誌《フォーチュン》などでは，8業種以

上のものとしている。

合併の方法としておもに用いられているのは，テンダー-オファー方式と，持ち株プーリング方式である。テンダー-オファー方式は，いわゆる買収申し入れであり，持ち株プーリング方式は，被合併会社の株式と交換に合併会社の株式を交付し，両社が合体した形式をとるものである。アメリカでコングロマリットが盛んに出現した理由としては，次のものが考えられる。第1に，合併の法的規制を回避することである。水平的合併や垂直的合併は一定の取引分野における競争を制限するという理由で，独占禁止法に規制されやすいが，多角的合併の場合にはこれに該当する理由が少ない。第2に，企業成長を目的として多角化することである。近年のように製品のライフサイクルが短く，技術の陳腐化の早い時代には，合併を通じて成長業種へ進出するのが最も容易な企業成長の方法である。最近は，コングロマリットが巨大化し独占的支配力を増大することに対して，各種の規制が加えられるようになり，1969年以降合併総数に占めるコングロマリットの割合は減少傾向をみせている。ただし，他国の企業を傘下(さんか)に収めるコングロマリットの形態は今後も増大し，国際的な企業多角化が進行していくであろう。〔原　豊〕

ごんげ　【権化】　梵語(ぼんご)avatāra(アバターラ)の訳。絶対なる神，仏教でいう法身(ほっしん)がさまざまに姿を変えて現われること。権化の考え方はヒンズー教のビシュヌ神や，ジャイナ教・仏教に共通にみられるもので，一神教と多神教という二つの信仰形態を融和しようとするところから生じた信仰形態であり，思想である。仏教では，大乗仏教になると，宇宙の根源である真実不変の法身が諸仏菩薩(ぼさつ)や人天龍鬼(りゅうき)などに変現すると考えるようになり，観音のように衆生の性格に応じて三十二身に身を変えて救済に現われる菩薩も登場する。日本では，本地垂迹(すいじゃく)が説かれて，日本固有の諸神も仏菩薩の垂迹であるとされ，権現といわれた。➔三身　〔大南龍昇〕

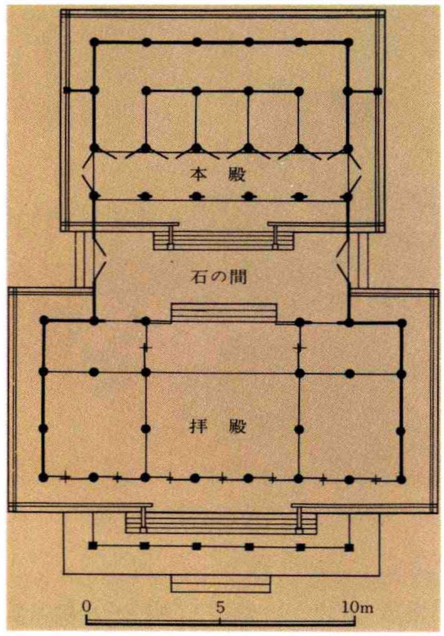
こんけい　【根茎】　地中や地表近くを長く横に張って，根のように見える茎，ハスやタケでは栄養分を貯蔵し，アオネカズラ(シダ植物)では多肉根茎となっている。

こんけつ　【混血】　異なる遺伝的集団に属する個体が交雑することによって生じる個体を混血児といい，これによって現われる現象を混血という。ある遺伝的集団が他の遺伝的集団と境を接する場合とか，ある集団に他の集団が侵入して，生殖に必要な期間接した場合に，必ず混血が起こり，新たな複雑になった遺伝的集団が生じる。

混血の現象は，人類の発生の初期から，多かれ少なかれあったものと考えられ，移住や隔離，遺伝的浮動，環境適応などを通して，新しい人種が生じたり，あるいは既成の人種が消滅したりすることがあった。コロンブスの新大陸発見に始まる大航海時代には，それ以前と比較にならないほど，急速に混血による遺伝子の移動が行なわれて，かなり安定していた遺伝子の地理的分布を乱し，変えていった。これは主として，大航海時代のにない手であったコーカソイドの遺伝子が，ニグロイド・モンゴロイド・オーストラロイドなどの遺伝集団に進出するという形で起こった。その例をあげておく。

①レホボート：南アフリカに移住したオランダ人で，ホッテントットの女性と結婚したため，社会的に追放されたボーア人が，1870年ごろ，レホボート町を建設，隔離が起こったもので，フィッシャーによって調査された。②ムラト：コーカソイドとニグロイドの混血。③メスチゾ：コーカソイドとアメリカ-インディアンまたはインディオとの混血。

こうした混血の結果生まれる子孫の特徴は，生物一般にみられるような雑種強勢がヒトではみられないことで，両母遺伝集団の形質の中間形が表現されることがほとんどである。このことは，すでにヒトの遺伝集団がホモ(同系接合体)の状態ではありえないことを示している。混血の結果，消滅しつつある人種の例としては，アイヌ人がしだいに日本人に吸収されつつあることがあげられる。また，ポリネシア，特にハワイでは，現在もなお，新しい人種をつくりつつある。〔鈴木　尚〕



権現造り　大崎八幡神社(仙台市)平面図



コンゴ人民共和国の国旗　1970年制定。1969年まで60年代前半に独立したアフリカ諸国に共通の緑・黄・赤の3色を配した国旗だったが，ハンマーと鍬と植物と星の新デザインに変った。



コンゴ人民共和国　首都ブラザビルにある政庁。白亜の古めかしい建物はフランス統治時代のおもかげを残している

ごんげん　【権現】　仏・菩薩(ぼさつ)が衆生を済度するために，わが国に神として化身すること。また化身して現われた神。奈良時代，本地垂迹説(すいじゃくせつ)によって，神号に権現菩薩を用いるようになり，平安中期以降特殊な信仰として一般に普及した。山王権現・熊野(くまの)権現・東照権現などが有名。明治の神仏分離により廃止された。➔権化

ごんげんづくり　【権現造り】　神社形式の一。本殿と拝殿との間に中殿があって，内部では連続しており，外部ではそれぞれの屋根が接続し合って変化に富む意匠をつくっている。北野天満宮(国宝)が最も古く，中殿は石の間とよばれ，その床が他の2殿の床より低くつくられている。中近世になって徳川家康(いえやす)を祭る東照宮の形式として用いられて以来，広く行なわれるようになった。なお，一般の権現造りでは中殿の床を低くせず，拝殿と同じ高さにするのが普通で，ここを相の間・幣殿などとよぶ例が多い。〔渡辺保忠〕

コンゴ(人民共和国)［People's Republic of the Congo, République Populaire du Congo］　アフリカ大陸中央部，コンゴ川中・下流の北側にある共和国。面積34万2,000km²，人口154万(1978年推)。首都ブラザビル。

〔自然・住民〕国土全体が高原状をなし，東のほうにゆるやかに傾き，コンゴ盆地に下がっている。国土の南は海岸平野で，ギニア湾に臨む。高温多雨で全土が密林にお

おわれているが，北部にはサバナもある。住民はコンゴニグロでバンツー語系の言語を話し，原始宗教とキリスト教信仰者が半分ずつを占める。公用語はフランス語。

〔産業・経済〕主産業は農業で，原住民はマニオク・ヤムイモ・サツマイモ・米・トウモロコシなどをつくり，プランテーション*で産するコーヒー・カカオ・アブラヤシ・バナナは輸出される。木材・鉛・金・鉄鉱・石油などの鉱産物も豊富で，このうち鉛の輸出量が大きい。これらの輸出品は，コンゴ川の河港である首都ブラザビルやポアントノアール港から輸出される。

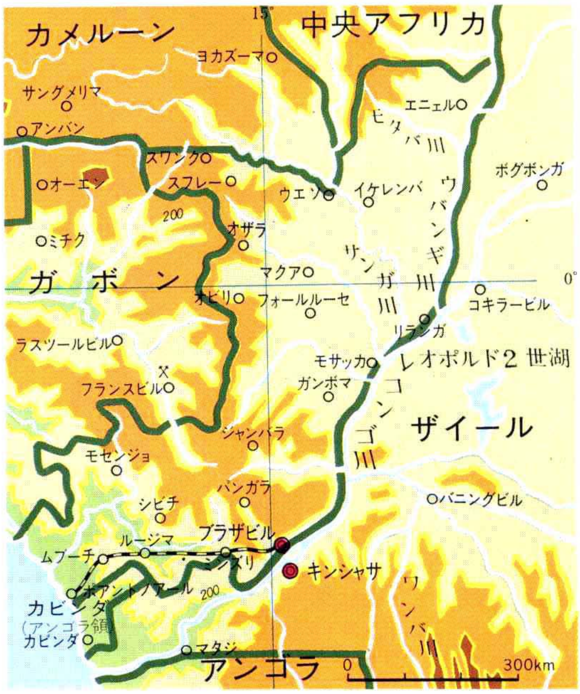
〔歴史・政治〕17世紀にフランスの領土となり，長くフランス領コンゴとよばれてきたが，1958年に自治共和国となり，1960年独立を宣言してコンゴ共和国と称し，フランス共同体に所属した。第２次世界大戦中，ドゴール将軍がドイツ反撃作戦の根拠地を置いたことで知られる。　〔小栗　宏〕

コンゴ(盆地)［Congo］　アフリカ大陸中央部に位置し，赤道の南北に広がる面積約340万km²の大盆地。山地や高原で囲まれ，盆地内の最低所も高度200mを示す。大部分はアフリカ大陸中最も降水量が多く，熱帯雨林におおわれているが，南部はサバナである。コンゴ川*の包蔵水力は大きく，木材の種類も豊富で，ダイヤモンド・コバルト・ウラニウムなど鉱物資源にも富む。

コンゴ(川)［Congo］　アフリカ大陸中央部を西に流れるアフリカ第２の長流。全長4,370km,流域面積369万km²。流路は赤道の南北にわたってウバンギ川やカサイ川など多くの支流をもち，四季を通じて流量が大きい。急流や滝があって航行は分断されるが，赤道アフリカの地方的な交通動脈としては重要で，河口からマタジまでの約170kmは外洋船も航行できる。支流を含めての包蔵水量は大きいが,電力開発はまだ始められたばかりである。19世紀後半のスタンリーとリビングストンの探検によって，この川はようやく全貌(ぜんぼう)を明らかにすることになった。　〔野間三郎〕

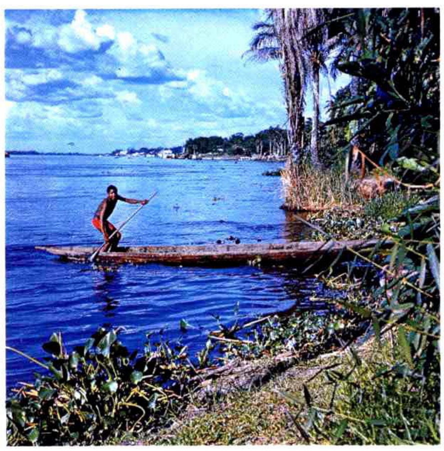
こんごういこまこくていこうえん【金剛生駒国定公園】　奈良県と大阪府の境をなす生駒山地・金剛山地を中心とする面積156km²の範囲で，1958年(昭和33)に指定された。生駒山(642m)は山頂がなだらかで，山腹には生駒聖天(しょうてん)として知られる宝山寺がある。金剛山*(1,125m)上の一帯はブナ・スギの自然林におおわれ，頂上には葛木(かつらぎ)神社，中腹には千早城跡，山麓(さんろく)には観心寺などの史跡が多く，史跡と自然美に富む公園である。〔木村東一郎〕

こんごういんこ【金剛鸚哥】　鳥類・オウム科。全長１mに及び，オウム科中で最も大きい。原産地は南アメリカ北部からメキシコにかけて。体は濃紅色で，翼の上部は黄色，下部は青色。動物園や小鳥店でよく見かけるが，鳴き声がやかましい。近縁



□300万人以上の都市　回100～300万人の都市　◎50～100万人の都市
◎ 10～50万人の都市 ⊙5～10万人の都市 ○5万人未満の都市　首 府 #油 田

コンゴ人民共和国



コンゴ川　中流のコキラービル付近。水ぎわにも水生植物が茂り，このやや下流にはツンバ湖などの広い湖沼地帯がある



コンゴウインコ　コンゴウインコ(左)とルリコンゴウインコ

のものに，体が濃紅色でコンゴウインコに似るが目のまわりに紅色の小点のあるベニコンゴウインコ，背部は青色で腹部は橙黄(とうおう)色のルリコンゴウインコ，全身がすみれ色で頭に黄色部のあるスミレコンゴウインコなどがある。

こんごうえいよう【混合栄養】　母乳が不足であるとき，あるいは母の就業などのつごうで時刻的に母乳が与えられないときに，一部を人工栄養*とすること。双乳栄養ということもある。母乳が１回量に足りないときは，母乳のあとに不足分の量だけ人工乳を与え，１回量はまにあうが次回の分が不足のときは次回を人工乳，その次は母乳と交互に与えることもある。

こんごうかい【金剛界】　梵語(ぼんご)Vajra-dhātu(バージュラ-ダートゥ)の訳。密教の世界観における認識的・実践的側面を表わし，直観的・理性的側面を表わす胎蔵界*に対する。金剛界を密教の最高存在である大日如来*の知法身の開示というのに対し，胎蔵界を大日如来の理法身の開示というのは，このことを表わしている。大日如来の知恵の徳はきわめて堅固であり，すべての煩悩(ぼんのう)を打ち砕く力があると考えられるので金剛界といった。このような世界観は《金剛頂経》に述べられるところであり，思想史的には唯識瑜伽行(ゆがぎょう)派の諸経典で説く認識論の哲学につながってくる。この世界観を図示したものが金剛界曼荼羅(まんだら)である。　〔金岡秀友〕

こんごうかんせん【混合感染】　２種以上の病原体が混合して同一感染巣にある場合をいう。嫌気性(けんきせい)細菌であるクロストリジウム属と好気性のブドウ球菌その他の菌の混合感染が，ガス壊疽*(えそ)である。

また，ウイルスと細菌の混合感染も知られる。細菌に2種以上のファージが混合感染することもある。混合感染した微生物は互いに協力関係にあったり，遺伝物質を授受したりすることもある。

こんこうきょう【金光教】もと教派神道(しんとう)13派の一。教祖金光大陣は俗名を川手文治郎(1814〜1883)といい，42歳のとき死線をさまよう大病にかかって神がかり，神命を受けて神意の取り次ぎの生活にはいった。天地金乃神(てんちかねのかみ)・生神金光大神(いきがみこんこうだいじん)を祭神とし，万物はその神徳によって生々化育すると説く。教義は〈御理解〉〈真道の心得12条〉〈道教の大綱20条〉〈信心の心得50条〉などに示され，心行を重んじ，神となって生きる信念を教える。1885年(明治18)神道備中(びっちゅう)分局に属して神道金光教会を唱え，1887年神道本局直属教会となり，1900年別派独立した。信者は岡山県を中心に西日本に分布し，公称信者49万。〔藤井正雄〕

こんごうきょう【金剛経】《金剛般若*波羅蜜経(こんごうはんにゃはらみつきょう)》の略称。空*を説く般若経典の中でも初期に成立したといわれる。中国では前後8回も訳されたが，最も古い鳩摩羅什*(くまらじゅう)訳が有名。空の語を用いずに空思想を表現している。中でも〈まさに住するところなくしてその心を生ずべし〉は有名な句。後世，特に禅宗の人人によって読誦(どくじゅ)された。

こんごうけいざい【混合経済】国民経済の中で，私有財産制・自由競争に基づく民間企業の活動分野と並び，政府や公的経済部門が大きな比重を占める経済をいう。資本主義の自由企業体制が高度に発達した段階で，無制限の自由競争に伴う不完全雇用や恐慌*を是正するため，政府が経済に積極的に関与するようになって成立してきた。1929年の世界恐慌*以後，景気回復策として実施されたアメリカのニューディール*政策をきっかけに，第2次世界大戦後はイギリス・スウェーデン・フランス・イタリアなど先進資本主義国の大半が混合経済体制の方向をとっている。こうした公私混合の経済体制を二重経済*と名づけ，①社会主義経済における中央集権制に比較しても，また，私的独占資本主義体制に比較しても，混合経済体制は広い権力の分散があり自由な経済活動の余地がある，②集権化された社会主義の低能率や，資本主義下における私的独占の生産制限や不完全雇用を免れることができる，とする説がある。〔加藤　寛〕

こんごうげかん【混合下疳】硬性下疳*の原因である梅毒スピロヘーターと，軟性下疳*の原因菌である多形性桿菌(かんきん)の両者の感染を受けて，局所に生じた有痛性のしこりをいう。➔梅毒

こんごうさん【金剛山】大阪府・奈良県境をなす金剛山地*の最高峰。標高1,125m。山地の南寄りに位置し，頂上は奈良県に属する。役小角(えんのおづぬ)が修行地として開いた山といわれ，頂上の葛木(かつらぎ)神社は修験道(しゅげんどう)の道場として知られてきた。西麓(せいろく)には，楠木(くすのき)氏の史跡が多く，千早城跡・赤坂城跡・観心寺・建水分(たてみくまり)神社などがある。



金剛山　葛城山の山頂付近から水越峠の鞍部をへだてて望む。山頂にはスギやブナの自然林が残されている



金剛寺(高幡不動)　不動堂本殿



金剛杵　左から独鈷杵，三鈷杵，五鈷杵　厳島神社蔵

こんごうさん【金剛山】クムカン山　朝鮮半島の脊梁(せきりょう)をなす太白山脈が江原道北部で日本海に迫る部分に展開する奇峰怪岩の一大山群の名称。昆盧峯(こんろほう)(1,638m)を主峰とする中央連峰の西側の内金剛，これと沿岸連峰との間の外金剛，沿岸連峰が海に没するあたりの海金剛に分けられる。全山が黒ウンモカコウ岩・斑状(はんじょう)カコウ岩よりなり，多様な侵食地形を呈する。新羅(しらぎ)時代創建の四大寺などが山間に配されていたが，朝鮮戦争によって多くの被害を受けた。しかしなお，朝鮮の代表的名勝地であり，朝鮮民主主義人民共和国側の貴重な保養地となっている。〔矢守一彦〕

こんごうさんち【金剛山地】大阪府と奈良県の境を南北に走る山地で，大和(やまと)川の谷を隔てて，北は生駒(いこま)山地に連なる。最高峰は金剛山*(1,125m)。主としてカコウ岩からなり，東側は断層崖(だんそうがい)で急傾斜するが，西側は緩傾斜で北流する大和川支流の石川の谷に面する。史跡が多く，金剛生駒国定公園*に含まれている。

こんごうじ【金剛寺】東京都日野市高幡(たかはた)にあり，新義真言宗智山(ちざん)派の寺院。一般には高幡不動といわれ，火防(ひぶせ)の不動として知られる。開創は行基，空海が不動明王を安置したと伝えられる。寺はもと山上にあったが，1335年(建武2)風害にあって現在地に移し，新築した。近世になって足利基氏(あしかがもとうじ)・氏満・満兼の崇敬厚く，寺運は栄えた。本尊の不動明王坐像(ざぞう)の光背に，建武2年堂が倒れ修理したとの墨書があり，二童子像とともに鎌倉期の制作と考えられる。〔永井信一〕

こんごうじ【金剛寺】大阪府河内長野(かわちながの)市天野町にある古義真言宗の寺院。開基は行基，空海もこの地に修行したと伝えられ，平安末期に阿観上人(あかんしょうにん)が再興して寺運繁栄の基礎を築き，後白河法皇の母八条女院が阿観上人に帰依して祈願所と定め，以後は女人高野とよばれた。南北朝時代，南朝秘史の舞台となり，後村上・長慶両天皇の行宮(あんぐう)があったが，1360年(正平15・延文5)足利義詮(あしかがよしあきら)らの兵火で多くの堂宇が焼失。本堂の大日如来・不動明王・降三世明王各像は鎌倉初期の制作。《延喜式》《延喜式神名帳》は平安中期の古写本，古刀は刀身が平安期，拵(こしらえ)は鎌倉期の国宝である。〔永井信一〕

こんごうしょ【金剛杵】密教*の灌頂(かんじょう)・加持祈禱(きとう)・護摩などの宗教儀式に使用する法具。金剛智杵ともいい，梵語(ぼんご)ではvajra(バジュラ)という。もともとはインドの武器であったが，密教ではこの威力によってすべての煩悩(ぼんのう)を打ち砕き，衆生(しゅじょう)が内在している仏となるべき性質の顕現に資するという象徴的な意を表わす。鉄・銅などでつくり，杵形(きねがた)の両端にある鋭い鋒(きっさき)の数によって独鈷杵(とっこしょ)・三鈷杵・五鈷杵・九鈷杵があり，特殊な形式に宝珠杵・塔杵などがある。〔河田　貞〕

こんごうせき【金剛石】⇨ダイヤモンド

こんごうのうぎょう【混合農業】穀類・牧草・根菜類・豆類を輪作し，穀物生産と畜産とを結合した農業の形式をいう。中世ヨーロッパの三圃(さんぽ)農法*がくずれ，商品経

済の進んだ社会で行なわれるようになった農法で，西ヨーロッパや新大陸では商業的傾向が強く，東ヨーロッパでは自給的傾向が強い。日本では北海道にみられ，混同農業ともよばれる。

こんごうぶじ 【金剛峯寺】 和歌山県伊都(いと)郡高野町高野山上にある真言宗の総本山。816年(弘仁７)空海は朝廷から真言密教の道場として高野山を賜わり，翌年伽藍(がらん)経営に着手。創建当初は即身成仏を期する修行の霊場であったが，平安末期覚鑁(かくばん)が伝法堂を建てて勅願寺とし，白河(しらかわ)・鳥羽(とば)・後白河の歴代法皇が深く崇敬するに及んで，朝廷・貴族の高野詣(もうで)がひんぱんとなり，荘園(しょうえん)と僧兵を擁する強大な仏教勢力となった。中世を通じて高野聖(こうやひじり)の全国回行が行なわれ，貴賤(きせん)僧俗の納骨のふうが流行した。近世にはいり，織田信長(のぶなが)に敵対したため1581年(天正９)多くの高野聖が殺され，1585年には豊臣秀吉(とよとみひでよし)の討伐を受けたが，木食応其(もくじきおうご)の調停で戦火を免れ，かえって秀吉の保護を得るようになった。1630年(寛永７)には雷火で寺塔が焼かれたが，将軍徳川家光(いえみつ)の帰依で復興し，また諸大名が高野山に墓所を設けることを競ったため，山上の寺院数は3,000を越し，一山の全盛期を迎えた。従来高野山内部では，学侶(がくりょ)・行人・聖の３派が青巌(せいがん)寺・大徳院・興山寺によって抗争していたが，近世に幕府の宗教統制にしたがって一山を興隆させた。1843年(天保14)には寺塔が火災にあったが，金堂は1860年(万延１)再建された。1868年(明治１)には３派が合同し，政府の要請により青巌寺を本坊とし，金剛峯寺に改称した。同寺に伝わる秘宝には国宝・重要文化財の類が多い。〔高崎徳次〕

こんごうぶつ 【混合物】 ２種以上の物質が互いに化学反応を起こさないで，単に混合しているものをいう。均一な溶相をなしているものと，不均一に混ざり合っているものとがある。一般に，物理的手段によって，それを構成している成分に分離することができる。

こんこうみょうきょう 【金光明経】 大乗経典の一つであるが，その教理は多くの経典の精要をとりまとめたものである。般若(はんにゃ)の空の思想と，法身(ほっしん)常住の思想を軸とし，天子に善政を勧め，四天王はじめ護法の善神がこれを守ることを説く。古来，わが国では《法華経(ほけきょう)》《仁王(にんのう)般若経》とともに護国三部経の一として知られ，全国の国分寺がよりどころとした経典である。

こんごうりきし 【金剛力士】 ⇨仁王(におう)

こんごうりゅう 【金剛流】 能楽シテ方の流儀名。古くは坂戸座といい，大和猿楽(やまとさるがく)四座の一。鎌倉時代前期からあった座で，金春座にも匹敵する古い歴史をもち，法隆寺に奉仕するなど有力な座であったが，その活躍は目だたなかった。室町時代末期に出た氏正(俗称鼻金剛)は芸もすぐれ，はなばなしい活躍をして脚光を浴び，中興の祖とされる。慶長年間(1596～1614)には，のちの喜多流流祖喜多七太夫(しちだゆう)が一時期大夫の職を継ぎ，大きな変革期を活躍したが，以後有力な大夫はなく，江戸期を通じて五流のうちでは最も目だたない流派であった。明治以後は京都を中心に，華麗な演技で親しまれている。〔片桐 登〕



金剛峯寺　不動堂



金剛鈴　左から尊永寺の塔鈴，宝珠鈴，五鈷鈴，三鈷鈴(後補)，独鈷鈴　東京国立博物館蔵

こんこうりん 【混交林】 複数の樹種からなる林で，ただ１種からなる単純林に対する語。適当な樹種と組み合わせた場合，林木相互の競争が緩和されて健全な発育を助長し，地力を十分に生かすことができるので，単純林に比べて諸害に強く，地力の低下が少ない場合が多い。

こんごうれい 【金剛鈴】 鈴の柄の部分に金剛杵(こんごうしょ)を付した密教法具。これを振り鳴らして諸尊を歓喜・驚愕(きょうがく)させる意図を表わす。金剛杵と同様に柄の形式により独鈷鈴(とっこれい)・三鈷鈴・五鈷鈴・九鈷鈴・宝珠鈴・塔鈴がある。単独にも使用されるが，金剛杵とともに金剛盤上に置いて一組みとされる。

コンコード ［Concord］ アメリカ合衆国，ニューハンプシャー州の州都。人口30,000(1970)。メリマック川に臨み，綿織物・毛織物などの繊維工業が特に盛んで，印刷出版・銀製品工業も発達している。

コンコード-グループ ［Concord groupe］ 19世紀中葉，アメリカ合衆国マサチューセッツ州のボストンに近いアメリカ独立戦争の古戦場コンコード周辺の田園風景を愛し，そこで活動した思想家・著述家たち。超絶主義派ともいわれ，アメリカ知識階級の最初の出現とみてもよい。超絶主義は，ドイツ観念哲学からとった名称で，当時のニューイングランドの商業的物質主義とユニテリアン派教会の〈冷たい主知主義〉に対抗するもので，ロック流の感覚を超絶した〈直観〉によって真理を把握(はあく)しようとするロマン主義的神秘思想である。機関紙《ダイアル》を刊行したり実験農場を営んだりした。主要人物は，提唱者ヘッジのほかエマソン・ソロー・オルコットら。アメリカの理想主義の系譜に占める位置はきわめて大きい。〔紳川 燕〕

コンコードのたたかい 【コンコードの戦い】 ⇨レキシントン-コンコードの戦い

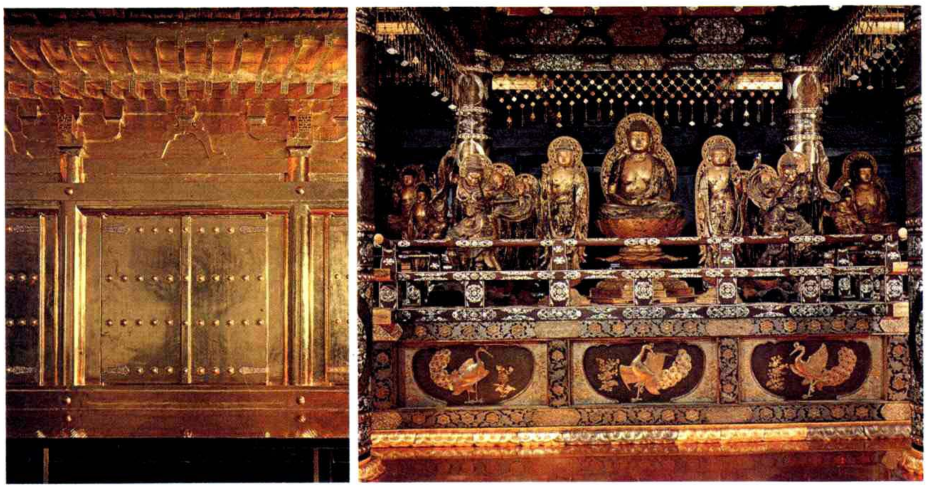
コンコーネ ［Giuseppe Concone］(1801～1861) イタリアの音楽教師・作曲家。約10年間パリで声楽およびピアノ教師として活躍し，ピアノ曲や歌曲を作曲した。その後，故郷のトリノに帰り，後輩の指導にあたる一方，教会オルガニストの地位についた。彼の５巻の教則本(中声用・ソプラノ用・メゾ-ソプラノ用，バスおよびバリトン用２巻)は有名で，19世紀以来愛用されている。

ゴンゴラ ［Luis de Góngora］(1561～1627) スペイン文学黄金世紀最大の詩人。コルドバの貴族の出身。サラマンカ大学に学び，24歳で僧籍にはいったが，世俗的生活と詩的情熱に身を任せた。作風には二つの傾向があり，一方では優雅さと機知に富む明快な文体で，庶民的感情をうたった。他方では，神話や聖書からの引用と極度に技巧的な修辞，文章構成などにより，〈ゴンゴリスモ〉とよばれる晦渋(かいじゅう)な文体様式を完成し，難解きわまる《ポリフェーモとガラテーアの寓話(ぐうわ)》《孤愁》などの傑作を書いた。〔牛島信明〕

コンコルダート ［concordat］ ローマ教皇と国家元首との間に結ばれた協約で，政教条約などと訳される。教会の財産，聖職者の任免，教会の特権，教育制度などをめぐる教皇と国家の紛争を調整したもの。1122年，聖職叙任権闘争を解決するため，ドイツ皇帝との間に結ばれたウォルムス協約が古い例である。特に1801年，ナポレオン政権との間に結ばれたコンコルダートが重要である。この協約は，フランス革命中カトリックが廃止され，教会財産も没収されていたのに対し，ブリュメール十八日以後権力を握ったナポレオンが，政権安定のためカトリック教会の必要性を認めて締結した。このほか1929年には，ムッソリーニ政権が教皇とラテラノ条約を結んで教皇とイタリア王国の絶縁状態に終止符を打った。〔大野慎一郎〕

コンコルド ⇨超音速機　⇨旅客機

こんさい 【根菜】 野菜類のうちで，植



金 色 堂　(左)正面部分,(右)内陣須弥壇

物学的にいう根・地下茎などをおもに食用に供するために栽培する種類の総称。ダイコン・ニンジン・ゴボウ・ジャガイモ・サトイモなど。

こんさく　【混作】　2種類以上のそれぞれ性状の異なる作物を同時に栽培すること。たとえば，アズキとサツマイモ，マメ科牧草とイネ科牧草など。地力の利用は高くなるが，牧草類を除き生産力は減退するので あまり行なわれない。*間作もその一種。

コンサート　⇨演奏会

ごんざとすけじゅう　【権三と助十】　歌舞伎(かぶき)脚本。2幕。岡本*綺堂(きどう)作。1926年(大正15)東京歌舞伎座初演。大岡越前守(えちぜんのかみ)の，いわゆる大岡裁きをもとにつくられた喜劇的なスリラー。神田の裏長屋に住む駕籠(かご)かきの権三と助十の兄弟が，義侠心(ぎきょうしん)から小間物屋彦兵衛(ひこべえ)の人殺しの冤罪(えんざい)を晴らし，真犯人の勘太郎を捕えるという筋。江戸庶民の善良で活気に満ちたどこかユーモラスな風貌(ふうぼう)を巧みに描き出した，作者の一代表作。　〔西尾邦夫〕

コンサートマスター　[concertmaster]　管弦楽団の第1バイオリンの首席奏者で，指揮者の指示に従って，または独自にアンサンブルを合わせ，演奏を導く仕事をする。さらに独奏のパートを受け持ったり，練習での指導も行なう。17世紀から19世紀にかけて，職業的な指揮者が活動するまでは，実質的に合奏の際の〈君主〉であったため，チェンバロをひきながら指揮する作曲者や楽長と，二重の指揮が行なわれていた。

こんし　【紺紙】　藍(あい)で紺色に染めた紙。*写経の料紙として用いられ，経文は金泥(きんでい)または銀泥で書写する。岩手県平泉の中尊寺所蔵の《一切経》は金泥と銀泥と1行おきに書写している。

こんし　【婚資】　婚姻に際して，婿のほうから嫁のほうに贈られる物品や金銭をいう。花嫁代償ともよばれる。その量や額および贈られる物については各民族でさまざまである。たとえば，南アフリカ牛牧民社会ではウシ，中央アジア遊牧民社会ではウマやヒツジ，ニューギニア高地民社会ではブタ，アメリカ-インディアンの社会，たとえばコマンチ族は矢などである。このような婚資の贈与を結婚の必要条件としている社会は，未開社会の約半数ないしは3分の2ほどであるといわれ，婚資は婿方親族と嫁方親族とを結合させる象徴物であり，同時に嫁の経済的価値をも象徴するものである。　〔竹村卓二〕



今昔物語集　鎌倉中期に書き写された断簡(巻24)(部分)。大東急記念文庫蔵

こんじきどう　【金色堂】　岩手県西磐井(いわい)郡平泉町にある中*尊寺の阿弥陀(あみだ)堂。棟木(むなぎ)の銘によれば1124年(天治1)の建立(こんりゅう)である。方三間，本瓦(ほんかわら)形板葺(いたぶ)きの小さな仏堂で，内も外も黒漆(くろうるし)で塗り，内部は金蒔絵(きんまきえ)・螺鈿(らでん)などを施し，荘厳具として透彫(すかしぼ)りの金具を用い，当代工芸の粋を物語る遺構である。堂内には藤原清衡(きよひら)・基衡・秀衡(ひでひら)の遺体と泰衡(やすひら)の首級を納め，仏壇上には阿弥陀三尊以下11体の仏像を祭る。鎌倉時代に套堂(さやどう)がつくられたが，近年解体修理の際にこれを別の場所に移建，新たにコンクリートの覆堂をつくり，さらにガラスケースで囲って保存してある。　〔永井信一〕

こんじきやしゃ　【金色夜叉】　尾崎紅*葉の長編小説。1897年(明治30)1月から6年間にわたって《読売新聞》に連載，広範な読者を得たが，未完に終わり，紅葉最後の大作となる。間(はざま)貫一は，許婚者の鴫沢(しぎさわ)宮が銀行家のむすこ富山唯継(ただつぐ)の金力の誘惑に負け，宮に裏切られる。貫一は報復しようとして，高利貸しの手代となる。しかし，金の鬼になることは貫一の救いにならない。また，宮も愛情のない結婚で幸福にはなれず，発狂する。物欲が幅をきかす時代風潮をとらえて描いたことや，雅俗折*衷体の美文によって世間に迎えられた。　〔木村幸雄〕

こんじちょう　【金翅鳥】　インド神話の鳥。梵語(ぼんご)garuda(ガルダ)の訳で，迦楼羅(かるら)ともいう。美しく輝く翼をもち，大地をおおうほどの大怪鳥。龍(りゅう)を食べ悲苦の声を出す。仏に帰依しているものはその害を免れるという。密教では，大梵天・大自在天などがこの鳥に姿を変えて衆*生を救うといい，文殊菩*薩(ぼさつ)の化身ともいう。インド教では，ビシュヌ神の乗り物である。

こんじゃくものがたりしゅう　【今昔物語集】　平安後期の説話集。古くから源隆*国(たかくに)の撰(せん)とする説もあるが確証はなく，仏教的色彩の濃いところから，僧侶(そうりょ)が撰集(せんじゅう)に関与しているとみる説が有力である。しかし，いまは散逸した隆国選の《宇治大納言物語》に触発されて成立したことは否定できない。収録された説話は1,200余話で，31巻からなり，8・18・21の3巻は欠けて伝わらず，題目だけがあって本文の欠けている巻もある。内容は，天竺(てんじく)(インド)の部(巻1～巻5)ではブッダの降誕から仏滅後の弟子(でし)たちの教化・伝法に至るまでの説話を収め，震旦(しんたん)(中国)の部(巻6～巻10)では仏教の中国への渡来・流布を物語る仏教説話のほか，孝子譚(こうしたん)・史譚などを収める。本朝(日本)の部(巻11～巻31)も，前半は仏教の伝来から諸大寺の建立(こんりゅう)，寺院の縁起，経典・菩薩(ぼさつ)の霊験譚，道俗の往生譚などの仏教説話からなるが，後半は藤原氏関係の説話をはじめ，強力・芸能・武勇・宿報・変化・悪行・怪異などのあらゆる説話を収めている。前半の仏教説話は本書の約7割近くを占め，内外の諸文献から取材したものが多く，単なる翻訳にすぎないものもあるが，生彩ある筆致で叙述され，撰者の人間的な興味とその深まりが注目される文学的にすぐれたものも少なくない。また，本朝世俗部にも躍動する人間像を描いた説話が数多くみられる。そこには貴族・武士・農民・遊女・盗賊・こじきなどあらゆる階層の人物が登場するが，これらは，略奪・凌辱(りょうじょく)などの悪行のかぎりを尽くす盗賊にみられるように，本能的に行動する強靭(きょうじん)な人間である。その描き方も，会話と行動を通して描く手法を用い，特に漢字かたかな交じりの文章は力感にあふれ，行動の文学を叙述するにふさわ

しく，次代の軍記物に継承され，和漢混淆文*(こんこうぶん)の確立をみることになる。〔竹鼻　績〕

こんしゅつよう　【根出葉】　ロゼットともいう。茎が著しく短いため，根から直接出ているように見える葉。タンポポやダイコンに見られる。

こんじゅほうしょう　【紺綬褒章】　⇨褒章

こんしょう　【混晶】　固体が液体にとけて溶液を形成することがあるように，ある固体(または結晶)が別の固体(結晶)中にとけて，見かけ上，均質な固体(結晶)をつくること，また混晶でできた均質な固体あるいは結晶。固溶体*と同義であるが，固溶体は主として合金に，混晶は鉱物に用いられる。天然岩石中のキ石・カクセン石・ウンモなどが混晶を形成する。

こんじょう　【紺青】　フェロシアン化第二鉄を主成分とする青顔料。ミロリーブルー・鉄青・ベルリンブルーともいう。化学式は，一般に$Fe_4[Fe(CN)_6]_3 \cdot nH_2O$で表わされる。第一鉄塩溶液にフェロシアンカリを加えて生じた白い沈殿に酸化剤を加えてつくる。外観によって金属光沢のあるブロンズ性と金属光沢のないノンブロンズ性の２種類がある。比重は1.7～1.9，吸油量は60～80ml/100g，酸には強いが，アルカリには弱い。被覆力・着色力はともに大きい。塗料・印刷インキ・絵の具・紙・リノリウムなどに用いられる。〔品田　登〕

こんじょういろ　【紺青色】　色名。わずかに紫みのある，暗い青色。紺青は藍銅鉱(らんどうこう)を粉末にした顔料で，日本画の岩絵の具として貴重である。同じ藍銅鉱から製される群青*よりも，顔料の粒が大きいため，やや暗く濃い色となる。紺青は高価なためもあって，今日では合成されている。その化学組成は$KFe[Fe(CN)_6]$で，プルシャン-ブルー・ベルリン青・ベレンスともよばれる。日本工業規格(JIS)慣用色名〈紺ジョウ色〉は，色相5.0PB，明度3.0，彩度4.0の色と規定されている。➔色〔武井邦彦〕

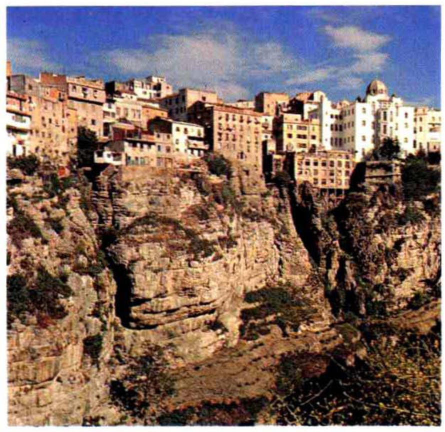
こんしょく　【混色】　⇨色

こんじん　【金神】　民間信仰の悪鬼神。巨旦大王の精魂として陰陽五行説より出たとされるが確説に乏しい。平安時代にわが国に移入され，陰陽家(おんみょうか)に忌まれたが，しだいに民間で信じられた。旱魃(かんばつ)・疫病などをつかさどり，その性が金性なので金神といわれる。七魂をもち，七処におり，干支(えと)や季節によって遊行し，その方位に向かって土木を興したり遠出をする者あれば，必ず７人を殺すといわれる。

こんすい　【昏睡】　最も深い意識障害*で，外界の刺激に反応しない状態。呼吸・循環・分泌などの自律機能は正常に営まれるが，睡眠と異なり強い刺激を与えても覚醒(かくせい)させられない。骨格筋は弛緩(しかん)し，反射は消失し，失禁を伴う。脳卒中・髄膜



ゴンズイ　赤色の果皮は裂開して黒色の種子が露出する



コンスタンチーヌ　石灰岩を刻むルメールの谷は深いがけをつくって町を取り巻いている。この谷にかかる橋は市内の観光地となっている

炎・脳炎・腫瘍(しゅよう)・外傷や糖尿病・尿毒症・一酸化炭素中毒などの代謝性障害によって起こる。意識は脳幹の網様賦活系によってつかさどられているので，この部の障害によって意識障害が起こる。〔井形昭弘〕

ごんずい　【権萃】　双子葉植物・ミツバウツギ科。東アジアの丘陵や低い山地にはえる落葉小高木。枝はやや太く紫黒色。葉は対生する奇数羽状複葉。小葉は５～９枚で先がとがり，上面は深緑で光沢がある。初夏，枝端に円錐(えんすい)花序に黄緑色の小花を多数群生する。がくは宿存する。果実は秋に熟し，裂開して黒い光沢のある種子を露出する。果皮の内側は鮮紅色で，対比が美しい。

ごんずい　【権瑞】　硬骨魚類・ゴンズイ科。岩礁地帯に分布する夜行性の海産魚。体長30cmほどで，体は細長くて頭が大きく，８本の口ひげをもつ。第１背びれと胸びれのとげには毒があり，刺されると激痛を覚える。体背部は黒かっ色で，体側に顕著な黄色の縦帯が２本走る。本州中部以南，台湾・フィリピン・インドネシア・インド洋・紅海などに分布する。海産魚としては珍しいナマズ類で，食用になる。

コーンスターチ　[corn starch]　トウモロコシの粒からとったデンプン。純白・無臭で純度が高く，かつ吸湿性が低く，デンプン類の中の高級品である。食品一般，特に製菓・ビスケット・冷菓，および調理用に広く使用される。また織物や紙類の糊料(こりょう)としても用いられているが，これはデンプン粒がわりあいにそろっており，糊化した際に粘度に安定性があり，そのうえのりの浸透性が強いためである。

コンスタン　[Benjamin Constant]　(1767～1830)　フランスの小説家。政治家としても活躍したが，スタール夫人*との恋愛をもとにした自伝的作品《アドルフ*》は，自我への鋭い洞察(どうさつ)によって恋愛感情の起伏をあざやかに描き，心理小説の代表的傑作といわれる。ほかに《赤い手帳》《内心の日記》などがある。

コンスタンタン　[constantan]　銅およびニッケルを主成分とする合金。銅50～60%，ニッケル40～50%，マンガン２%以下からなる。固有抵抗は49マイクロオームセンチメートル，平均温度係数は20×10^{-6}/度以下である。対銅熱起電力が40μV/度と高いので，銅あるいは鉄と組み合わされて熱電対*のマイナス側として使われる。

コンスタンチーヌ　[Constantine]　アルジェリア北東部の都市。人口24万4,000(1966)。地名は，この都市の再建にあたったコンスタンチヌス１世*の名に由来する。地中海岸からアトラス山脈を越えてサハラ砂漠(さばく)に至る通路の要衝にあたり，古くからアルジェリア東部の中心都市として発達した。市街はほぼ南北に走る断層谷の斜面から谷にかけて展開し，古いサルタンの王宮はこの地方の官庁や兵営になっている。近年郊外に化学工場が建設され，またチュニジアからモロッコに至る北岸国際航空路の中継地として東西交通の要地となった。〔小栗　宏〕

コンスタンチヌス(１世)　[Flavius Valerius Aurelius Constantinus]　(274ごろ～337)　ローマ皇帝。〈大帝〉とよばれる。在位306～337年。ディオクレチアヌス*帝が軍人皇帝時代の内乱を平定して樹立した後期ローマ帝国の強制的国家・社会体制を受け継いで，これをさらに強化・完成に向かわせるとともに，従来国家の手で組織的に迫害されていたキリスト教を公認し，これを後期ローマ帝国のイデオロギー的基礎とする歴史的巨歩を踏み出したことで有名。父コンスタンチウス１世の死後，父の軍隊に擁立されて西の正帝と称して以後，ディオクレチアヌスの四分治制が崩壊したあとの政治的混乱を巧みに切り抜け，312年ローマ市を占拠していた非合法皇帝マクセンチウスを攻めて敗死させ，西の覇者となった。伝説によれば，戦いの直前に幻をみてキリスト教に改宗したとされるが，事実313年西の正帝リキニウスと会談してキリスト教徒迫害の中止と，没収されていた教会財産の返還などを決め，これをミラノ勅令*として発布するとともに，みずからもしだいに

キリスト教に深く接近していった。

その後，リキニウスと政治的不和に陥り，リキニウスが再びキリスト教徒迫害を始めたため，324年リキニウスをアドリアノープルなどで破り，これを捕えて処刑したあとは死に至るまで帝国の唯一の皇帝であった。帝はキリスト教の公認以後，教会内の分裂の調停に努力し，313年ごろからアフリカの分派教会ドナトゥス派をめぐる紛争の収拾に努力し，325年には，主として東方教会を２分していたアリウスとアタナシウスの論争を治めるために，ニカイア公会議*を開催。さらに異教文化と深く結びついてきたローマ市と対抗させるために，キリスト教的首都として新都コンスタンチノープルを建設し，330年にこれを完成させた。国政はディオクレチアヌス帝の改革の線を発展させるものであったが，特に，都市参事会員身分の世襲化，移動の自由の制限，兵士身分の固定化，逃亡コロヌス*の強制的連れもどしと鎖による束縛などに例をみるような，帝国内のすべての職業と身分を一種のカースト的に固定化する専制君主体制を樹立した。その他，新しいソリドゥス金貨を中心とする貨幣制度の改革，従来の親衛隊長の財政管掌の宰相化，ゲルマン人傭兵(ようへい)を主体とする新近衛隊の設置を中心とする軍制改革，宮廷制度の改革などを行ない，後期ローマ帝国およびビザンチン帝国の基礎をつくった。〔弓削　達〕

コンスタンチヌスがいせんもん【コンスタンチヌス凱旋門】⇨凱旋門

コンスタンチノス(２世)［Konstantinos］(1940～　)　ギリシア王国国王。アテネ大学を卒業後，1956～1958年軍事教練を積んだ。1958および1959年アメリカを訪問。父パウル１世の死去で，1964年３月，国王となり，同年９月デンマークのアンネ-マリー王女と結婚。1967年４月成立した軍事政権の転覆を企てたが失敗し，同年12月ローマに亡命した。

コンスタンツァ［Constanța］ルーマニア南東部，黒海沿岸の要港。人口19万(1974)。古代ギリシアの植民地として建設され，古くから貿易港として栄えた。ドブルジア地方の中心で，石油・穀物・木材を輸出し，造船・繊維工業がある。西方のプロエシュチ油田とはパイプラインで結ばれている。1413～1878年にはトルコに支配され，古代ギリシア・古代ローマ・オスマン-トルコの旧跡が多い。

コンスタンツこうかいぎ【コンスタンツ公会議】1414～1418年，南ドイツ(現在はスイス)のコンスタンツで開かれた宗教会議。神聖ローマ皇帝ジギスムント*の提唱により，宗教界・政界から多くの代表者が集まった。この会議では，当時，アビニョン・ローマ・ピサにそれぞれいた３教皇を廃し，新たにローマにマルチヌス５世を選出して，教会の統一を図った。また，ウィクリフ*とフス派を異端とし，フス*を火刑に処した。



コンスタンツァ　ボーデン湖から流れ出るライン川にかかる橋には万国旗が立って，町は美しくいろどられている。また市内には，ゆいしょある古い建物が多い

コンスル　⇨執政官

こんせいがん【混成岩】２種以上のマグマ*が混じり合ったり，あるいはマグマがそれを取り囲む岩石を捕獲してとかしこんだ結果生じたと考えられる岩石。塩基性溶岩中に酸性岩*特有のチョウ石*が含まれていたり，センリョク岩*などの中に捕獲された岩片の中心部が完全にとけきらずに残っていたりすることから，混成岩の存在を推定することができる。

こんせいしゅ【混成酒】⇨酒

こんせいとうげ【金精峠】栃木県奥日光の湯元温泉と群馬県の片品川流域とを結ぶ峠。標高2,024m。両県の県境をなし，群馬県側には丸沼・菅沼(すがぬま)，栃木県側には湯ノ湖・切込湖・刈込湖などがあり，夏のキャンプ場としてにぎわう。沼田と日光を結ぶ国道120号線が通っており，1965年(昭和40)峠下に金精トンネルが完成した。

こんせききかん【痕跡器官】生物体が備える器官のうち，個体発生の過程で本来の機能を発揮するに至らず，形態的にきわめて不完全な状態で発育がとまるものをいう。いいかえれば，系統発生*の過程で退化し，もとの機能を失ったもののこと。進化論の考えに立つ比較形態学や古生物学の研究成果から，異なる種族の間でまず器官の相同*性が確認され，そのうえで当の器官が進化の過程で退化したものか否かが推定される。代表的なものは，人体の虫様突起・尾骨・尾骨筋，ウマの足の第２・第４指の骨など。退化した器官の中には，洞穴(どうけつ)性のこん虫の眼のように，形態的退化は明らかだが機能が不詳のものや，脊椎(せきつい)動物の脊索，陸生脊椎動物の鰓裂(さいれつ)のように発生過程の一定期間に現われたのち消失，または本来とは異なる機能をもつ器官に転化するものもある。これらは機能を失ったものとはいえず，厳密な意味での痕跡器官ではない。〔田隅本生〕

コンセプシオン［Concepción］チリ共和国中南部の都市。人口19万7,000(1970)。この地方の中心都市で，酪製品その他の農産物を集散し，皮革・織物などの若干の工業もみられる。コンセプシオン湾内にトーメイ・タルカワノの２港をもち，タルカワノには南アメリカ最大といわれる製鉄所がある。快適な気候に恵まれるが，たびたび地震に見舞われて大きな被害をこうむっている。現在の市街は，1939年の震災後に再建されたものである。〔小栗　宏〕

コンセルトヘボウかんげんがくだん【コンセルトヘボウ管弦楽団】⇨アムステルダム-コンセルトヘボウ管弦楽団

こんせんだいち【根釧台地】北海道の東端部，根室・釧路(くしろ)両支庁にまたがる火山灰性の原野。5,000km^{2}以上の広大な面積を占め，標高百数十メートルの台地状をなし，北西から南東に向かって緩傾斜し，標津(しべつ)川・西別川・釧路川などが流れる。一般に土壌(どじょう)はやせており気候冷涼で，特に南部の海岸近くは海霧の害がある。第２次世界大戦後も開拓が進められ，パイロットファーム(開拓農場)がつくられたが，いまだ未開発地が多く，開拓は将来にかかっている。〔高野　繁〕

ごんぞう【勤操】(754～827)　奈良時代の三論宗*の僧。大和(やまと)(奈良県)高市郡の人。12歳のとき大安寺の信霊に師事，16歳で高野山に登って修行，やがて南都に帰り，東大寺の善義について10余年間三論宗の教義を学んだ。813年(弘仁４)大極殿で《最勝王経》を講じ，また紫宸殿(ししんでん)に諸宗の学僧が集まり論議を行なった際には，選ばれて座主となり，大いに学識と論才を示し，天皇を感服せしめた。一説に空海*の師ともいわれ，高野山普門院に説法する座像がある。〔佐藤成順〕

こんそくちゅうるい【根足虫類】原生動物の一綱。原形質の流動性が強く，その一部は伸長して偽足*を形成し，これによって運動する。アメーバなどのように細胞がむき出しのものもあるが，有孔虫類などのように外殻(がいかく)をもつものも多い。通常，無性的な分裂によってふえる。単細胞動物であるため，顕微鏡でようやく認められる程度の大きさのものが多いが，有孔虫類には肉眼で認められるものも少なくなく，グロビゲリナ属・グロビゲリノイデス属などには殻(から)の長さが数センチメートルに達するものさえある。アメーバ類には淡水産のものが多く，有孔虫類は大部分が海産である。有孔虫類の死殻は海底に沈積して，いわゆるグロビゲリナ軟泥(なんでい)をつくる。なお，フズリナなどの化石有孔虫類は，地質学研究上で有名である。〔菅野　徹〕

コンソート［consort］16～17世紀のイギリスの室内楽演奏やそのための作品に与えられたよび名。当時，紳士・淑女のたしなみとして，ビオール(バイオル)・レコーダーなどの合奏が盛んに行なわれ，音域

は違っても同じ種類(たとえば高音や低音のレコーダーのみ)の楽器の演奏は〈完全な〉コンソート，またさまざまな楽器や歌を含むものは〈破格の〉コンソートといわれた。楽曲としては，舞曲や歌曲もあるが，ファンシーとよばれる対位法的なジャンルは代表的である。〔徳丸吉彦〕

コンソメ [consommé] 澄んだスープ(ポタージュ-クレール)にコンソメ・ブイヨン*・ポットー-フーがあるが，コンソメはブイヨンに脂肪分の少ない肉(臀部(でんぶ)肉)と野菜・香草・卵白などを加え，さらに煮なおしたもの。卵白に濁りが吸着されてよく澄んだスープができる。

コンダクタンス ⇨アドミタンス

コンタクトレンズ [contact lens] 眼球に直接かぶせる矯正(きょうせい)レンズ。多く近視眼に用いられるが，遠視眼や乱視*，白内障*手術後の目にも使用される。合成樹脂でつくり，規格はレンズの度，曲率半径，湾曲度および直径によって決まる。たとえば近視度3ジオプター，曲率半径7.6mm，直径9mmなど。レンズの直径・曲率半径は個人によって異なるが，日本人では直径9mm，曲率半径7.5mm前後が多い。角膜に直接かぶせて使用するので，敏感な人では使用に耐えられない場合もある。高度近視や白内障手術後の目には効果が著明で，舞台俳優など眼鏡を使用しにくい職業の人や，美容上から特に女性が多く用いている。使用は必ず医師の指導のもとに行なわれなければならない。〔氏原　弘〕

こんちいん 【金地院】 京都市左京区南禅寺福地町にある南禅寺*の塔頭(たっちゅう)。応永年間(1394～1427)南禅寺第68世住持の大業徳基が洛北(らくほく)鷹が峰(たかがみね)に開き，慶長初年(1596)以心崇伝が現在地に移して再建した。現在の大方丈は伏見城の一部を移建したものといわれ，襖絵(ふすまえ)はその後狩野(かのう)探幽・尚信(なおのぶ)らの手になった。また，小書院の襖絵は長谷川(はせがわ)等伯が描いた。茶室八ツ窓席と大方丈前の鶴亀(つるかめ)の庭は小堀(こぼり)遠州の設計による名席・名庭である。なお，室町時代の代表的な詩画軸の明兆筆《紙本墨画溪陰小築図(けいいんしょうちくず)》と宋(そう)の院体画の名品〈天山〉の鑑蔵印のある《絹本著色秋景冬景山水図》はともに国宝。明治洋画界の先駆者浅井忠の墓がある。〔永井信一〕

こんちいんすうでん 【金地院崇伝】 ⇨崇伝

コンチェルト ⇨協奏曲

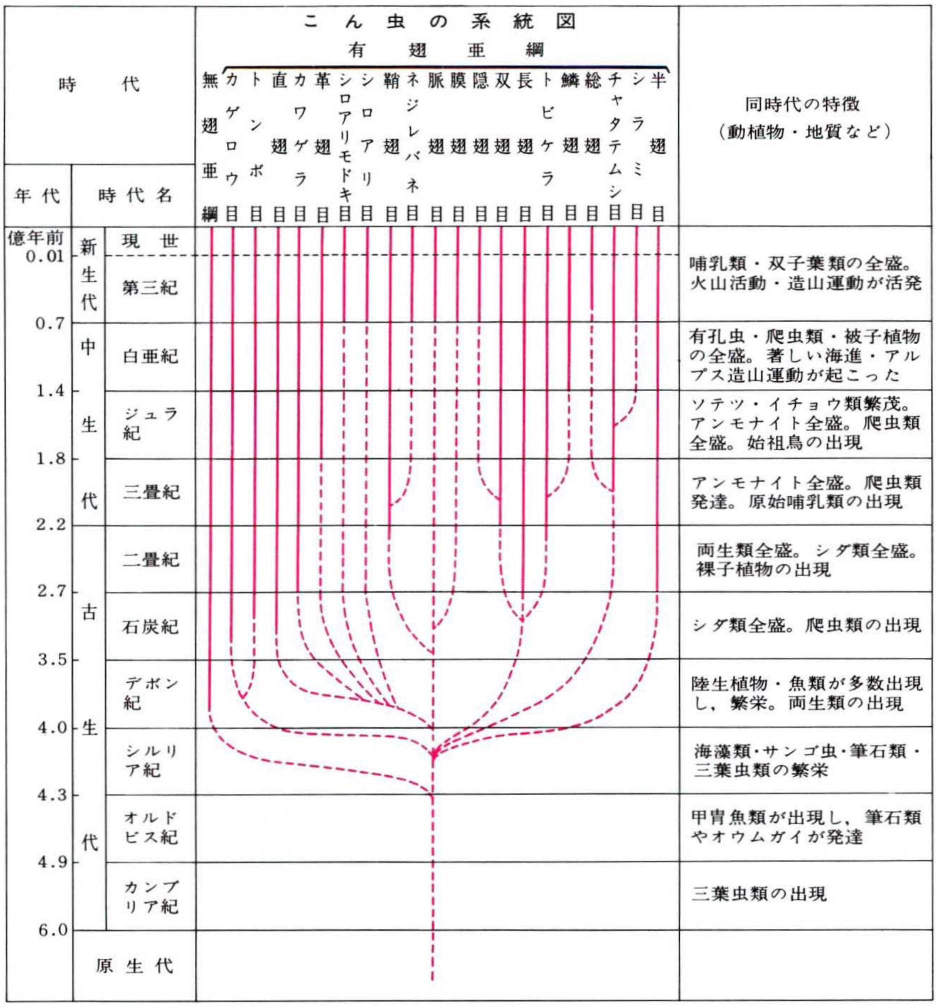
コンチェルト-グロッソ [concerto-grosso] 協奏曲*の一種。合奏協奏曲ともよばれる。独奏協奏曲と同様に，17世紀初頭から先駆的な形態が現われた。原理的には二つの音響グループを必要とし，小さいほうがコンチェルティーノあるいはソリ(独奏者群)とよばれ，大きいほうはリピエーノとよばれる。初期の代表的な例では，コンチェルティーノはバイオリン2部と通奏低音*(たとえばチェロとチェンバロ)で構成され，リピエーノは通奏低音を含む4声部で構成されることが多い。これら二つのグループの役割の違いは，独奏協奏曲の場合のように技巧の有無にはよらず，同じようなものを交替でひくことによって生じる音量と音色の変化である。代表的な例に，17世紀末のイタリアのコレルリ*，それをオーストリアに伝えたゲオルク-ムッファトの作品がある。なお，20世紀にはいって，独奏者の技巧性とは異なる響きを求めて，再びコンチェルト-グロッソの考えが復活し，ブロッホの作品が生まれた。ヒンデミット・バルトークらの《オーケストラのためのコンチェルト》もこれに近い。〔徳丸吉彦〕

コンチネンタル-タンゴ [continental tango] ヨーロッパのタンゴ曲および演奏スタイルをさし，日本だけで使われる用語。アルゼンチンに生まれたタンゴは，1905年ごろには新しいダンスとしてヨーロッパにも知られていたが，第1次世界大戦後アルゼンチン音楽家のヨーロッパ進出が盛んになり，1925年のフランシスコ-カナロ*楽団公演によって一つの頂点を迎えた。そして，ダンス音楽としてタンゴがもてはやされるようになり，タンゴを半専門的に演奏する楽団もできた。しかし，ヨーロッパではリズムは単純化され，また弱められ，メロディーの甘美さが強調されて，アルゼンチンでのものとは違った演奏スタイルが生まれた。楽器編成はヨーロッパの一般的なダンス楽団と同じだが，バンドネオンの代わりにアコーディオンを使用することが多い。一方，ヨーロッパ化されたタンゴが各国で作曲され，1928～1930年代の前半はコンチネンタル-タンゴの絶頂期となった。今日ヨーロッパではタンゴはかつてほどの人気はないが，日本ではムード音楽の一種として愛好されている。代表的曲目に《ジェラシー》《碧空(あおぞら)》《奥様お手をどうぞ》《バラのタンゴ》《夜のタンゴ》などがある。➔タンゴ〔中西義郎〕

ゴンチャローフ [Ivan Aleksandrovich Goncharov] (1812～1891) ロシアの小説家。地方の富裕な商家に生まれ，モスクワ大学卒業後，官界にはいり，文学サークルの回覧雑誌で習作を試みるうちベリンスキー*を知り，《平凡物語》を《現代人》誌に発表して大成功を博した。これは農奴制下の地主青年の生活上のロマン主義をついたものだが，12年後に発表した《オブローモフ*》でも農奴制下の青年の無気力・怠惰を徹底的に解剖批判した。1850年代末に《北のたより》の編集長となり，また検閲官をつとめ，1867年退職。プチャーチン提督に従って出た世界周航の体験を記した旅行記《駆逐艦パラーダ》がある。〔北垣信行〕

こんちゅう 【昆虫】 こん虫綱として，蛛形(ちゅけい)綱(サソリ類・クモ類)・甲殻(こうかく)綱(エビ類・カニ類)・倍脚綱(ヤスデ類)・唇脚(しんきゃく)綱(ムカデ類)などとともに節足動物門を形成する自然群。

【起源と進化】節足動物の体は，外形から見て互いによく似た多数の環節からできており，環節の一部分または大部分に1対ずつの脚あるいは付属肢(ふぞくし)があり，それら脚や付属肢もさらにいくつかの環節からできている。体制は著しく特殊化しており，その起源は古く，すでに古生代カンブリア紀，すなわち最も古い化石が発見される時代に多くの種類の化石が発見されている。したがって，化石がほとんど発見されない原生代後期には，すでにかなりの分化発展を遂げていたものと考えられる。しかし，これらの時代の節足動物はいずれも海中で生活するものばかりで，三葉虫綱や甲殻綱に属するものであった。節足動物は，他の諸動物に比べて，一般に環境への適応能力が大きく，その生活環境が広範囲で，したがって体制の分化にも変化が多く，種類も全動物中最も多い。その後海中の生活から陸上の生活へと進出していくにしたがって，いっそう高度の適応性を獲得していった。シルリア紀に至って，はじめて陸上生活をする節足動物が出現するが，それは蛛形綱に属するサソリ類のものである。デボン紀に至って陸性の倍脚綱が出現し，またこのころこん虫の最も古い化石と想定されるものがみられる。このころのこん虫の化石はわずかに数例で，しかも部分的な標本が得られているだけであるが，それらはいずれも翅(はね)をもたない無翅(むし)亜綱に属するものと考えられている。これらの数例を除けば，こん虫類の化石は石炭紀の初期に至ってはじめてみられる。石炭紀は陸上では極地まで巨大なシダ植物が繁茂していた時代で，適応性の大きい節足動物がよくその環境に順応して陸上に繁栄し，特異なこん虫類を出現させたことがよく理解される。上石炭紀におけるこん虫類は，すでに驚くべき分化を示していた。当時の原始的なこん虫類で今日もなお存続している群は，わずかにゴキブリ類のみであるが，二畳紀にはカワゲラ目(襀翅(せきし)目)およびカゲロウ目(蜉蝣(ふゆう)目)が出現し，またカマキリ類(直翅目・カマキリ亜目)や半翅目(セミ・ウンカ・カメムシなどの類)のほか，完全変態を行なうこん虫類の祖先型も出現した。中生代に至って現在みられるような諸群が次々と出現し，中生代中期のジュラ紀に至って現在のこん虫の目のほとんどは出現していた。新生代の第三紀以後においては，目はもちろん科・属に至るまで現在のものと同じものが多く，現在地球上でみられるこん虫界と大差のない状態に達していた。こん虫類は種々の適応形態を獲得したが，特に鳥類やコウモリ類の翼とは成立の起源の異なる特殊な翅を獲得するに至って，その適応と分化は極度に発達し，今日では地



こん虫

球上のほとんどあらゆる環境にこん虫類をみることができる。種数は数百万に達すると考えられ，全動物の4分の3以上を占めるといってよい。すでに学名がつけられたものだけで150万種以上あると考えられ，現在でも年々多くの新種が発見されている。

〔形態〕 こん虫類は，上述のごとく非常に長い歴史をもち，またきわめて多数の群に分化しているため，その形態も著しく多様であるが，その基本的な形態は等しく，全体としてよくまとまっている。こん虫の体の外表面は，他の節足動物と同様に皮膚が非常に硬化しており，いわゆる外骨格を成している。外骨格をもつことの主要な利益としては，筋肉の付着面積が大きくなること，水分の蒸発を防ぐこと，軟弱な体内の諸器官が保護されることなどがあげられよう。こん虫類は他の諸動物群と比較して一般に小形なので，体容積に比べて体表面積が非常に大きく，水分の蒸発率も高くなる。そこで，外骨格を備えることによって蒸発を防ぐという適応形態が発達したものと考えられる。また外骨格の存在は，こん虫類の体の小形化をもたらした主要因の一つであるといってよかろう。皮膚は，1層の細胞からなる真皮と，その内側の非常に薄い基底膜で体腔(たいこう)に接し，外側は非常に厚い表皮となっている。表皮はきわめて複雑な構造で，ふつう内表皮と外表皮の2層に分かれており，こん虫の諸生理上重要な役割を果たしている。また，こん虫の表皮には特有なタンパク質やキチン質などが含まれており，皮膚の真皮細胞からは表面の剛毛がつくられ，種々の感覚器や腺(せん)細胞が発達する。こん虫の体は1列に連なった多数の環節からなるが，頭部・胸部・腹部の3部分に大別される。

頭部は，外観は1個の環節であるが，皮膚がかたく，全体が頭蓋(とうがい)を形成している。頭部には1対の触角，1対の複眼および口器を形成する3対の付属肢がある。また，しばしば2～3個の単眼がある。これらの付属器官は，その大きさや形態がそれぞれの生活に応じて千差万別である。また，しばしば二次的に種々の程度に退化したり，完全に消失してしまっている場合もある。複眼は，非常に多数の個眼(小眼)の集合体で，各個眼はそれぞれ1個のレンズと網膜を備えている。個眼の数は，イエバエでは1複眼につき4,000個ほど，鞘翅(しょうし)目(甲虫類)のある種では25,000個に達するものがあるという。触角はふつう長く突出し，多くの節からなるが，その数や形状は群によって著しく変化に富んでいる。おもな形には，糸状・むち状・じゅず状・鋸歯(きょし)状・棍棒(こんぼう)状・球桿(きゅうかん)状・鰓葉(さいよう)状・櫛歯(くしは)状・羽毛状などがある。頭部の背面を頭頂，前面を顔，側面をほお，腹面を咽頭(いんとう)，後面(胸部と接続している部分)の周縁部を後頭という。口器の構造は群によって非常に異なっているが，機能上から咀嚼(そしゃく)型と吸収型に2大別され，咀嚼型が本来の形で，吸収型のものは食性に応じてのちに変化した

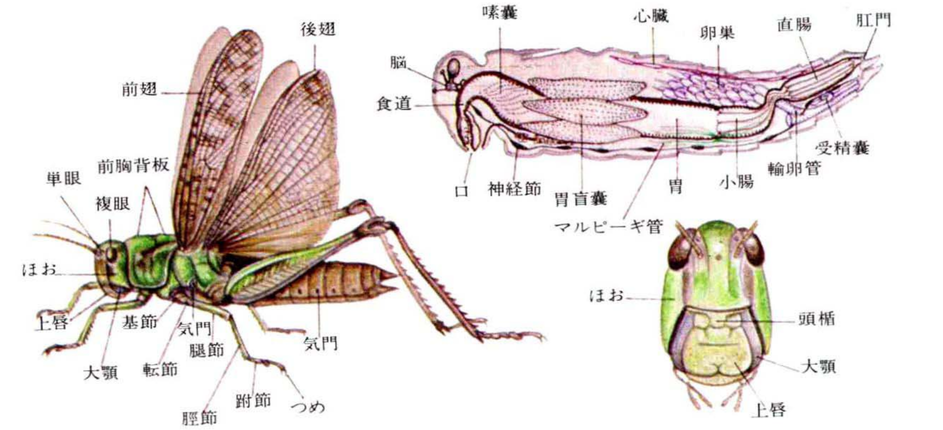
こん虫綱の分類

	目	代表的なもの		目	代表的なもの
無翅亜綱	原尾目	カマアシムシ	有翅亜綱	トンボ目	トンボ
	総尾目	ナガコムシ・イシノミ・ハサミコムシ・シミ		総翅目	アザミウマ
	粘管目	トビムシ		半翅目	カメムシ・セミ・ウンカ・アブラムシ・カイガラムシ
有翅亜綱	直翅目	バッタ・ケラ・ゴキブリ・ナナフシ・カマキリ		脈翅目	ヘビトンボ・クサカゲロウ・カマキリモドキ
	革翅目	ハサミムシ		長翅目	シリアゲムシ・ガガンボモドキ
	カワゲラ目	カワゲラ		トビケラ目	トビケラ
	シロアリ目	シロアリ		鱗翅目	チョウ・ガ
	シロアリモドキ目	シロアリモドキ		鞘翅目	オサムシ・ゲンゴロウ・カミキリムシ・コガネムシ
	チャタテムシ目	チャタテムシ		ネジレバネ目	ネジレバネ
	ハジラミ目	ハジラミ		膜翅目	ハチ・アリ
	シラミ目	シラミ		双翅目	ハエ・カ・アブ
	カゲロウ目	カゲロウ		隠翅目	ノミ

ものと考えられている。それゆえ，吸収型の口器はこん虫の群によって種々の適応的変化を遂げ，種々の形式のものがみられる。咀嚼型の口器は，頭部前端の頭楯(とうじゅん)，口部の前面をおおう上唇，その後方の1対の大顎(おおあご)(大腮(だいさい))，1対の小顎(小腮)，口部の後面をおおう下唇の各部分からなる。上唇は1個の平板な構造をしており，頭部の1部が伸長して可動的になったものと考えられる。

大顎は強大で，多くは歯を備えた構造をしており，左右がかみ合わされるため，群によっては左右の構造が不対称になっている。大顎の構造はまた食性とも密接に関連している。小顎は大顎より小形であるが，構造は複雑でいくつかの小部分からなり，そのうち特に鬚(ひげ)状の付属器は機能的に重要で，小顎鬚(小腮鬚(しょうさいしゅ))とよばれる。下唇は本来小顎とよく似た器官で，各構成部分はそれぞれ相対応しているが，小顎のような咀嚼の機能は失っている。これら大顎・小顎・下唇は，いずれも頭部の各環節に付属する付属肢である。吸収型の口器は液体状の食物を摂取するために変化したもので，多くは細長い管状となっており，これを口吻(こうふん)という。鱗翅(りんし)目(チョウやガの類)の口吻はコイル状に巻いていて，花の蜜(みつ)などを吸うときに伸長させるが，これは本来小顎が変化したものである。植物体の汁液(じゅうえき)や動物の血液を吸う半翅目や双翅目(ハエやカの類)では，口吻は下唇からできており，その他の部分は退化している。吸血性のこん虫や植物体から吸汁するこん虫では，大顎や小顎が寄主の皮膚に穴をあける器官に変化している。こん虫の頭部は，付属肢・神経系の構造および発生上の諸事実から，6個の環節が融合してできたものと考えられている。

胸部は前胸・中胸・後胸の3個の環節からなる。原始的な無翅亜綱のこん虫や幼虫などでは，これらの3個の環節は互いによく似た構造をしていて可動であるが，有翅亜綱のものでは，一般に中胸と後胸は密に結合していて前胸だけが自由になっている。シラミ目のように3個の環節が密に結合したものや，まれに頭部と前胸が結合している群もある。膜翅目(ハチ・アリ)では，腹部の第1節が後胸の1部と結合して，前伸腹節を形成する。胸部の環節の構造は，翅の有無によって変化し，また群によっても変化する。一般に，背腹両面と両側面に各1枚の板があり，これらをそれぞれ胸背板・胸腹板・胸側板といい，また前・中・後の3節を区別するため，それぞれ前・中・後の接頭語をつけて前胸背板・後胸腹板のようにいう。これらの各部分のうち，胸背はさらに数個の部分が区別されることが多い。鞘翅目や半翅目などでは，中胸と後胸の背板は翅におおわれて露出しない場合が多いが，中胸の一部が三角形状をなして露出し



こん虫　体制図

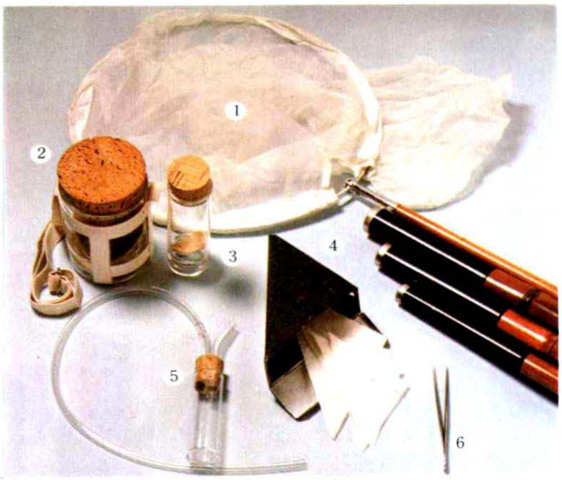
ていることが多く，この部分を小楯板とよぶ。胸部の各環節に1対の歩脚がある。また，中胸と後胸には，さらに各1対の翅をもったものが多いが，原始的な無翅亜綱のこん虫や寄生生活をするこん虫などには翅を欠くものが少なくない。また，同一種の中で一方の性(雌の場合が多い)や特別の個体には翅のないこともある。脚と翅はともに本来こん虫の運動器官であるが，脚は胸部の環節の付属肢であって，胸側板と胸腹板の間から突出し，普通は歩行や疾走などの運動をするが，しばしば前脚が獲物を捕えたり(カマキリ類など)，地中に穴を掘ったり(ケラなど)，その他種々の目的に適応した諸形態をもつことがある。また後脚は，しばしば跳躍(バッタ類やアシブトコバチ類など)や遊泳(ゲンゴロウ類や多くの水生こん虫など)の目的に適応した形態をもつものが少なくない。脚はふつう5部分からなり，基部のほうから基節・転節・腿節(たいせつ)・脛節(けいせつ)・跗節(ふせつ)という。基節は1節からなり，太く丸い環節で，しばしば体壁に固着して動かなくなったものがある。転節はふつう短く，やや三角形状の小環節で，脚の運動に重要な役割をもっている。最も長大な環節である腿節と細長い脛節には，しばしば長短のとげや剛毛が生じる。跗節は短いが，ふつう数節からなり，基本形では5節であるが，これより少ない場合も多く，同一こん虫でも脚によって跗節の環節数の異なることがある。跗節の末端部にはふつう1対のつめがあり，さらに爪間盤(そうかんばん)その他の微細な構造が付属する。翅は中胸と後胸に各1対あり，脚が環節の側下面から派生しているのに対し，胸側板と胸背板の間から生ずる。翅は，成長の段階で他の器官の完成されたのちに発達するが，本来胸部の背腹両面の皮膚が外方に張り出し，両者の間に気管系由来の翅脈が入り込んでできたものと考えられる。すなわち，翅は由来の異なる二つの器官が融合してできたこん虫類特有の器官で，無脊椎(むせきつい)動物中唯一の飛行器官である。こん虫類はこの翅を獲得したことによって空間を征服し，かくも著しい繁栄を築くことができたともいえよう。有翅亜綱中の最も原始的なこん虫，たとえば，シロアリ目(等翅目)では，2対の翅はほとんど等しい構造をもち，また互いに独立しているが，前翅と後翅の間にしだいに構造および機能上の分化が生じ，後翅の後縁から内縁に至る部分が幅広くなり，またこれを背面にたたむようになって前翅が後翅をおおうようになり，しだいに厚い構造に変化していったものが多い。鞘翅目の前翅はその最も著しいもので，これを鞘翅(翅鞘)という。半翅目異翅亜目(カメムシ類など)のものでは前翅の基半部が硬化し，前半部が膜質なので半鞘翅という。また，直翅目(バッタ・カマキリ・ゴキブリなどの類)・革翅目(ハサミムシの類)・半翅目同翅亜目(セミ・ヨコバイ・ウンカなどの類)では，前翅が半ば硬化しており，これを覆翅とよぶことがある。ネジレバネ目(撚翅(てんし)目)では，前翅は棒状の小器官に退化してしまっており，双翅目では逆に後翅がきわめて小さい棍棒状の器官に変化し，飛翔(ひしょう)の機能を失って特殊な感覚器官となっており，平均棍とよばれる。また鱗翅目では表面が微細な鱗粉でおおわれ，トビケラ目(毛翅目)では微小な毛が密生している。その他，翅は群によってきわめて著しい変化がある。翅にみられる脈は翅脈とよばれ，その数や配列は群によって非常に異なるが，同一の種においては一定していて変化が少ないため，その特徴は種類の識別や類縁関係を知る上できわめて重要視される。翅脈の配列ぐあいを翅脈相という。脈の名称は，初期の研究ではそれぞれの群によって別々に，また異なる方法でつけられたりしたが，現在では種々の群の間の相同関係もしだいに明らかにされ，個体発生における翅の形成の過程の研究結果にも基づいて，こん虫の翅脈相の仮想的な原始形態が考えられている。そして，それに基づいてそれぞれの翅脈の名称と，それを表わすための略符号もつく

られている。翅の主要な翅脈は，翅を縦に走る縦脈で，前方から後方に向かってそれぞれ前縁脈(C)・亜前縁脈(SC)・径脈(Ra)・中脈(M)・肘脈(ちゅうみゃく)(Cu)が区別される。それらの翅脈は，しばしば分枝したり，融合あるいは退化したりすることによって数が増減する。また，これら縦脈を連結する小さい翅脈(横脈)がしばしばきわめて多数みられ，どの縦脈どうしを連結しているかによってそれぞれ異なる名称がつけられている。縦脈と横脈に囲まれた部分を室という。

腹部の構造は比較的単純で，11個の環節と付属肢を伴わない尾節とからなる。大部分のこん虫類では，すべての環節を識別することはできないことが多いが，トンボ目(蜻蛉(せいれい)目)では11節が識別できる。また，無翅亜綱に属するこん虫の中には，有翅亜綱に属するこん虫とはかなり異なる体制をもったものがあり，原尾目(カマアシムシ類)では12個，粘管目(トビムシ類)では6個の腹環節がある。第1腹環節はしばしば後胸に隠れて見えず，膜翅目では後胸の一部と癒合(ゆごう)して前伸腹節をつくっている。一般に成虫では第7環節までの腹節には付属肢が現われないが，総尾目(ナガコムシ・シミなどの類)では痕跡(こんせき)的な脚がみられ，他の無翅亜綱のこん虫にも付属肢から変化した器官のみられるものがある。幼虫では，腹節の付属肢が種々の形で現われることが少なくない。第8腹節以下の腹節は小さく，種々に変形されており，この部分に消化器官系と生殖器官系とが開口している。生殖器官系の開口部には，交尾や産卵のための付属器官が発達しており，したがって雌雄によってその構造も異なっている。この生殖器官系に付属した外部構造を一般に外部生殖器とよぶが，その主要部分は第8～第10腹環節の付属肢が変化してできたものであり，またその構造は各種のこん虫の種類を識別するのに有効な指標となる重要な特徴となっている。最後の第11環節には尾状の付属肢の発達したものが少なくなく，これを尾毛という。

内部器官としては，消化系・神経系・循環系・呼吸系・筋肉系・生殖系がおもなものとしてあげられる。消化系は口から肛門(こうもん)に至る1本の管で，前腸・中腸・後腸の3主要器官からなり，ほぼ体の中央を走っている。中腸と後腸の結合部付近に排泄(はいせつ)器官であるマルピーギ管が開口するが，これはその数や長さなどがこん虫の群によって異なる。神経系は高度の発達を遂げており，大部分は頭部の背方にある脳から体の腹面を走っている神経節の連鎖に連なる中央神経系である。循環系は不完全で，体の背面にある背管によって代表され，閉塞(へいそく)しない。すなわち，血液は心臓から前半の動脈へ送られるが，動脈は頭部で終わっており，血液はそこで体腔内にあふれ，体内を循環して心臓へもどる開放血管系である。呼吸系はきわめて特異な気管系となっており，主要な気管は体の両側を走り，胸部の2対，腹部の8対の気門によって外部に開口している。気管は体内で複雑に分枝し，その末端は非常に細い気管となり，そこでガス交換が行なわれる。筋肉系は非常に複雑で，体と各付属器官の運動のほとんどすべてに重要な役割を果たしており，ある種のこん虫では2,000種類以上の筋肉束があるという。生殖系もいくつかの非常に複雑な器官の集合体である。一般にこん虫は雌雄異体で，生殖器官系も雌雄でその構造や機能が著しく分化しているが，ごくまれにワタフキカイガラムシ(半翅目)のような雌雄同体のこん虫もある。また，雌のみで単為生殖を行なうものもあり，それらでは生殖器官系も特殊な構造をもっていることが多い。雌の生殖器官系は，一般的には，卵が形成される1対の卵巣と，卵が体外に出されるときの通路である輸卵管および交尾の際に雄から受納した精子を貯蔵しておくための受精嚢(じゅせいのう)からなるが，特殊な粘性物質を分泌する付属腺をもつ場合もある。雄の生殖器官系は，精子が形成される1対の精巣と，精子を体外に送り出す通路である射精管からなり，射精管の基端部が外部生殖器である陰茎に連絡している。これらの体内の諸器官系のほかに，いくつかの特殊な組織があり，そのうちで最も重要なものは脂肪体である。これは体腔内のほとんどあらゆる部分にみられ，特に終齢に近い幼虫期に多く，栄養分の貯蔵などに役だっている。

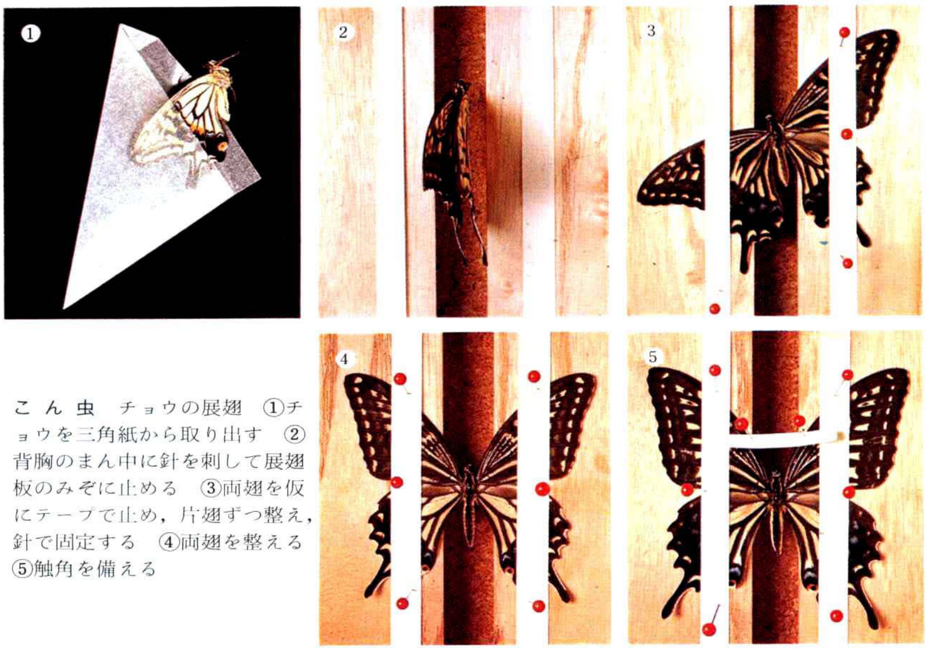
【こん虫の生活】こん虫は卵から成虫になるまでの間に長い成長の期間があり，この間に数回皮膚の外殻を脱ぎ捨て(脱皮)，そのたびごとに著しく体の大きさを増していく。この成長の過程はこん虫の群によっていろいろ異なり，あるものでは何回脱皮を行なっても体の構造には本質的な変化は起こらずに，大きさが増す以外には単に体の各構成部分の成長速度の比率が変化したり，あるいは付属肢(たとえば触角のような)の環節数が増加する程度である。これに対し他のものでは，何回かの脱皮の過程で著しい形態の変化(変態)が起こることがあり，その様式の複雑な群ほど，系統的に新しい時代に出現した群であることが種々の点から明らかにされている。それゆえ，変態の様式はそのこん虫群の起源の相対的古さを知る一つの重要な規準となるが，同じような様式の変態がまったく類縁の遠い群に独立に発達したと考えられる場合もある。このような現象を平行進化という。無翅亜綱のこん虫は，有翅こん虫よりも系統的にみて古い時代に出現したと考えられているが，これらのこん虫では卵から孵化(ふか)した幼虫(若虫)は，成長の段階で体の大きさが増すだけで，体制には本質的な変化が起こらないため，これを無変態という。有翅亜綱のものでは，系統的に新しい時代に出現したと考えられる群ほど複雑な変態様式を示している。直翅目などでは孵化直後の幼虫は，すでに成虫と本質的に違いのない体制をしているが，ただ翅だけは全然存在していない。しかし，脱皮をくり返して成長していく過程で，しだいに将来翅になるべき部分である翅芽が伸びて，最後の脱皮後にこれが著しい伸長をして翅を形成するのである。それゆえ直翅目の場合には，翅以外の部分については無翅亜綱のこん虫類の場合とほとんど同様であるといってもよい。そこで，このような発育を最も程度の低い変態とみなすことができ，少変態という。無変態と少変態を行なうこん虫では，成長期間である幼虫時代も，成長を完了した成虫時代も，ともに同じ環境で同じ食物を食べて生活している。半翅目に属するこん虫類も，直翅目と同様に少変態を行なうが，セミ類のようにその1段階進んだものと考えられるものもある。すなわち，セミ類は幼虫時代を土中で過ごし，植物の地下部から吸汁して成長するが，成虫になると純然たる空中生活に移行する。セミ類の幼虫の体制は，成虫とはやや顕著な差があり，特に前脚の構造や皮膚などは地中の生活によく適応している。もちろん，幼虫から成虫への変化は同時に生活環境の著しい変化をも伴っているから，単に翅が発達するばかりでなく，体の種々の部分に変化が生ずる。同じ半翅目でもヨコバイ類などの場合は，幼虫も成虫と同じ環境に生活しており，直翅目の場合のように典型的な少変態を行なう。カゲロウ目・カワゲラ目・トンボ目など，幼虫時代を水中で生活し，成虫は陸上で生活する原始的なこん虫類では，空中生活者が地下へ潜入する以上に大きな環境の変化があるが，成虫と幼虫とで特に著しく異なるのは呼吸器官で，上述の3目の幼虫ではそれぞれ特異な気管鰓が発達している。また，体制も水中生活に適しており，成虫の形とは著しく異なっている。このような場合を半変態という。ただしカゲロウ目は特殊で，水中生活の幼虫が脱皮して有翅の空中生活をする形態になっても，これはまだ成虫ではなく，さらにもう1回の脱皮を行なってはじめて真の成虫となるのである。それゆえ，この真の成虫のまえの有翅の時代を亜成虫とよぶ。亜成虫の時期はまったく食物の摂取をせず，量的成長を行なわず，脱皮ももう1回行なうから，これは幼虫の最終齢ともみられ，これらはその段階で成虫と同じ生活環境に移ると考えてもよいであろう。成虫以前に飛翔する機能を備えた翅を獲得したのは，カゲロウ目だけである。脈翅目・長翅目(シリアゲムシ類)・トビケラ目・鱗翅目・鞘翅目・ネジレバネ目・膜翅目・双翅目・隠翅目(ノミ類)などに属する高等な有翅亜綱のこん虫では，一般に幼



こん虫　採集用具　①捕虫網（つなぎざお）　②毒つぼ　③毒びん　④三角ケースと三角紙　⑤吸虫管　⑥ピンセット

虫と成虫では著しく形態が異なる。これらは幼虫時代に何回も脱皮を行なうが，その間に翅の構造が外部に現われてくることはまったくない。幼虫時代の成長の過程をみると，成熟した幼虫でもその体制は孵化直後のものとほとんど変わりがなく，量的な成長が行なわれただけであることがわかる。そこで，成長を終わっても，それからただ1回の脱皮によって形態の著しく異なる成虫に変わることはできず，成熟幼虫は脱皮をすると成虫になる準備段階としてのさなぎになるのである。さなぎの最も著しい特徴は，少数の例外を別として，運動や食物の摂取をせず，外観上は休眠のような状態になる。そのため，外敵を避けるために土中に潜入したり，枝幹の中や樹皮下でさなぎになったり，繭をつくってその中でさなぎになる。またハエ類のように，幼虫の皮膚を脱ぎ捨てずにその中でさなぎになるものもある。こうした運動器官の退化に伴う諸変化を別とすれば，さなぎの形態は幼虫よりもはるかに成虫に近く，しかも翅芽に相当する翅の構造も外部に現われていて，少変態を行なうこん虫類の老熟幼虫とほとんど一致する体制をもっているといってもよく，この形態から脱皮して成虫となるのは少変態における最後の脱皮とまったく同じである。しかし，いま述べたことは，形態の変化を外部からみた場合の考察で，実際の変態の様相はこれよりもはるかに複雑であり，幼虫の成熟時には内部のほとんどすべての器官もまだ成虫の状態になっていないので，さなぎの時代には，体内で白血球が幼虫時代の諸器官や組織を破壊して，それらの栄養を成虫の諸器官となるべきそれぞれのもととなる構造（成虫芽）へ運び，それによって成虫の新しい諸器官が形成されていくのである。すなわち，さなぎの時代は，外観は休眠のような静的な状態にみえるが，体の内部では一生の間で最も激しい代謝活動が行なわれているのである。このさなぎという時代を経過する変態を完全変態といい，これに対して前述の少変態や半変態などを総称して不完全変態という。この複雑な完全変態の起源や不完全変態との関係などについては，古くからさまざまな解釈が行なわれてきた。その代表的なものを紹介すると，原始的なこん虫類では，前述のように卵から孵化した幼虫がすでに成虫とほとんど同じ形態にまで分化しており，それから以後は単に量的成長によって成虫になる。この際，卵から孵化する以前には，受精卵の内部では細胞の分裂が行なわれて胚子（はいし）が形成されていく。胚子が完成すると，次いで触角・口器・脚などの付属肢が現われ，それがさらに進行すると，いっそうの発達を遂げるとともに，腹部の環節にも各1対の付属肢の痕跡が現われる。しかし，腹部の付属肢はやがて再び消失し，最初にできた頭部と胸部の付属肢だけがさらに発達していく。それがさらに進行すると，ほぼ成虫に近い形態が完成されて，はじめて幼虫が孵化してくるのである。そして，それ以後食物を摂取して成長期にはいるのである。しかし，完全変態を行なうこん虫類では，不完全変態を行なうものよりもはるかに早い段階で幼虫が孵化して量的成長を始めてしまい，量的成長が完了した段階では，まだ形態形成のほうが完成しておらず，そのためにさなぎの時代において量的成長を停止して質的成長を行ない，はじめて成虫の形態を完成することができる。高等こん虫類の出現した古生代末期の二畳紀から中生代にかけての環境の諸条件の急激な変化が，こうした完全変態という特殊な適応を行なわせたと考えられる。幼虫の諸形態には適応的変化が著しく多く認められ，たとえば脈翅目のカマキリモドキ類や鞘翅目のツチハンミョウ類やネジレバネ目のこん虫などの寄生性こん虫では，初期の幼虫は活発に歩行するが，一度寄生生活に移行すると不活発な型に変わる。これらのこん虫は，幼虫時代に一種の変態を行なうと考えられるので，これを過変態とよぶ。また，少変態をするこん虫に属するものでも，無翅のものは無変態である。さらに，直翅目・革翅目・半翅目などにも無変態といいうるものが少なくない。半翅目のアブラムシ類の無翅虫はその好例といえよう。これに対し，同じ半翅目のカイガラムシ類の変態は，不完全変態のものとしては最も発達したものといえよう。すなわち，その幼虫は活発に歩行するが，植物体上に固着すると脚が退化し，雄は有翅のこん虫となるので，完全変態を行なうこん虫類のさなぎに似た段階を経過する。変態は，そのこん虫の生活環境に著しく支配されるものであり，その諸様式は適応によって発達したもので，必ずしも類縁関係を反映してはいない。また，変態に関して，幼虫の時代というのはいわゆる栄養成長の段階であり，成虫が生殖成長の時代であるということは，生物学的に重要な意味をもっているといわなければならない。

〔こん虫の分類〕こん虫類は非常に多数の種に分化しており，その形態も複雑多様であるので，その分類にもさまざまな方法がある。しかし，こん虫類が全体として巨大な一つの自然群をつくっていることは疑問の余地がない。分類は，それを行なう際の規準となる特徴の選び方によって結果が異なってくることは当然のことであるが，こん虫類でもその最も大きい分類単位である目の認識において，すでに多数の異説がある。一般には25～30程度の目に分ける方法が広く採用されており，学術的にも適当と考えられるのでここでもそれに従うことにするが，中には50以上の目を置く説もある。二名式分類法の完成者であるリンネは，こん虫類を翅の特徴を基礎として7目に分け，その門下のファブリチウスは，口器の構造を基礎として8目に分けた。分類学の目標とすべきところは，自然分類体系の樹立であり，理想的にはいかなる特徴を基礎にしようとその分類の結果は同じものとなるはずである。現在の分類学は，もちろんリンネの時代から著しい発達を遂げているが，目の名称はリンネの採用した翅に基づいたものが今も多く使われている。翅は，こん虫の体の最も目につきやすくかつ最も重要と考えられる器官の一つであり，この翅の特徴が分類において第1に重要視されたのはきわめて当然のことであったといえる。以来，多くの学者によって種々の分類が提唱されてきたが，ここでは現在一般に広く用いられている分類法について，その概要を述べることにする。今日のこん虫の分類は，多くの研究者の努力によって，形態上の特徴ばかりでなく，発生や生理・生態などの特徴にもできるだけの考慮の払われたかなり自然分類に近いと考えうるものとなっている。ただし，こん虫の数がきわめて多いため，研究がほとんど行なわれていないような群もいくつかある。こん虫綱は，まず翅の有無によって有翅亜綱と無翅亜綱とに分ける。もちろん，翅の有無によって



こん虫　チョウの展翅　①チョウを三角紙から取り出す　②背胸のまん中に針を刺して展翅板のみぞに止める　③両翅を仮にテープで止め，片翅ずつ整え，針で固定する　④両翅を整える　⑤触角を備える

分けるといっても，本来は翅を有していたが種々の原因で二次的に翅を失ったと考えられるもの(たとえば隠翅目など)は当然有翅亜綱に含められる。無翅亜綱に含められている三つの目は，それぞれ互いに著しく異なる特徴をもつが，いずれもその系統発生の過程において翅をもったことがないと想定されるものである。それらのうち，総尾目に属するものは最も原始的な特徴をもつと考えられ，しかも有翅亜綱に最も近縁のものと考えられている。有翅亜綱のこん虫の分類には，古くから翅の特徴が重要視されてきているが，その他の特徴も重要である。変態の様式も古くから重要視されてきたが，外部の環境に対する適応としてさまざまに変化してきたものと考えられ，必ずしも類縁関係を反映していない。しかしながら，有翅亜綱のこん虫の中でも，完全変態を行なう高等なこん虫類は，古生代二畳紀以後に分化してきたものであり，互いに類縁関係があると考えられている。

〔こん虫類と人類〕こん虫類は，陸上のあらゆる環境に生活しているといってよく，地上のあらゆる生物はこん虫類との間になんらかの利害関係をもっている。もちろん人類も例外でなく，経済生活の諸面でこん虫類との交渉がある。こん虫類は利害関係から害虫と益虫に分けられる。害虫はさらに農業害虫・林業害虫・貯蔵食品害虫・屋内害虫・衛生害虫などに分けることができる。農業害虫は農作物に損害を与えるもので，およそ農作物でこん虫類の害をまったく受けないものはないといってよく，つねに農業生産物の5～30%がこん虫類の害を受けているといわれる。また，木材資源である樹木にも，生木・加工材の別なく多くの害虫がある。キクイムシ類・ゾウムシ類・カミキリムシ類による被害はしばしば無視できないほどはなはだしいことがある。また，シロアリ類による木造建造物の被害額は，年々ばくだいなものとなっている。農林業上の害虫に対する駆除方法としては，古くから農薬が広く使用されてきたが，農薬による土壌(どじょう)汚染や薬剤抵抗性品種の出現などによって，近年は農薬の使用に多くの問題が生じてきた。そして，近年急速に注目されてきているのは，天敵*による生物的防除である。天敵を利用すること自体は少しも目新しいことではなく，過去においてもしばしば用いられて大きな成功を収めたこともあったが，近年の生態学の急速な発展によって，複雑な自然界の均衡についての知見が著しく増加し，そうした知識を基礎とした有効な天敵利用の研究が盛んに行なわれはじめている。益虫として第1にあげられるのは，各種害虫を捕食したり寄生したりして，それらの加害および繁殖を減少させる天敵である。天敵として特に重要なのは，テントウムシ類・トンボ類・サシガメ類・カリュウドバチ類などの捕食性のこん虫と，ヒメバチ類・コバチ類・ヤドリバチ類・ヤドリバエ類などの寄生性のこん虫で，およそ天敵をもたないこん虫はないといっても過言ではない。しかしながら害虫・益虫という分け方は，人類との利害関係からみたものであり，たとえば幼虫時代は農作物を食害する害虫であり，成虫は果樹類の花粉を媒介して結実をもたらす益虫であるというような場合も少なくない。天敵のほかに有益なこん虫として，その生産物を人間生活に利用できるこん虫類がある。ミツバチ・カイコをはじめ，食用や薬用に供せられるこん虫類は，世界各国にきわめて多数知られている。また，こん虫類の中にはきわめて美しい色彩や形態のものが多く，装飾工芸品として利用されるものがある(チョウや甲虫など)。また，東洋諸国では広く鳴く虫やホタルなどのこん虫を愛玩(あいがん)する風習がみられる。それらも広い意味の益虫ということができよう。

〔こん虫採集〕こん虫類はきわめて種類が多く，小形で形態や色彩も著しく変化に富み，ほとんどあらゆる環境に見いだすことができる。そのため生物学的研究の材料として好適であるばかりではなく，日本はもちろん欧米諸国においても古くから健全な趣味として盛んにこん虫採集が行なわれてきた。こん虫類はその生活様式も千差万別であるから，ある特定の群を採集するためには，それぞれの生活様式についての知識やそれに応じた装備・技術が必要である。まず採集用具であるが，これは捕獲用具・殺虫用具・収容用具に分けられる。捕獲用具として第1に必要なものは捕虫網で，飛んでいるこん虫ばかりでなく，樹上や草むら・花上などにいるこん虫を捕える。捕虫網は，わく(スプリング製と鋼鉄製などがある)・袋(寒冷紗(かんれいしゃ)・亀甲紗(きっこうしゃ)のものが一般的)・柄(1本のものとつなぎざおのものがある)の3部分からなり，目的とするこん虫の種類や採集方法などに応じて使い分ける。一般には，チョウやトンボをとるための1本ざおの標準型が広く使われる。このほか，草むらなどにいるこん虫をとるための乱獲採集(スイーピング)用網や，袋の底に金網のざるをつけた水生こん虫用網などがある。また，樹上にいるこん虫をたたき落としてとるための四つ手網も慣れると便利であるが，これはかさでも代用できる。網の中にはいった小さいこん虫類や，地上・花上・樹皮下・石下・根ぎわ・樹液やキノコ類に集まったものなど，小形のこん虫をとるには吸虫管が便利である。これは，両方にコルク栓(せん)のついた管型と一方だけについたびん型とがある。朽ち木をくずしたり，土中や樹皮下に潜むこん虫をとる際には，根掘りやドライバーがあると好都合である。クソムシ類やシデムシ類など糞(ふん)や動物の死体，ゴミなどに集まるこん虫類をとるには大形のピンセットがあるとよい。薪(まき)や朽ち木・キノコ類などにつくこん虫は，布の袋にそれごと入れて自宅に帰ってからゆっくり調べるようにする。ガ類をはじめ燈火に飛来する習性のあるこん虫類は非常に多いので，燈火を利用して採集するのが能率よく，電源のある場合には100Wの電球または白色・青色の螢光燈(けいこうとう)，それに少し長めのコードを用意する。電源のない場所ではアセチレン燈を用いる。最近キャンプ用品として，煮たき兼用のカートリッジ式のブタンガスボンベを使用するランプがあり，長期の採集の際には非常に役にたつ。夜間採集の際は，ほかに2m四方ぐらいのもめんの白布と，それを張る麻ひもがいる。採集したこん虫を殺すには，チョウは捕虫網の底

に追い込んで外部から胸部を圧迫すればよいが，他のこん虫ではふつう毒管を使う。注射器は一般には必要ない。毒管に入れる薬品としては，一般には酢酸エチルが適している。しかし，色彩が変化しやすいものや毛の多いこん虫類には比較的もちが悪く，適当でない。ガ類・ハエ類・カ類など触角や脚のとれやすい軟弱なこん虫や毛の多いこん虫などには青酸カリが適しており，古くから専門家の間で広く使われてきたが，危険な薬品なので取り扱いや保存に十分な注意が必要で，青少年の単独使用は避けるべきである。その他殺虫剤としてはいろいろあるが上記の２種に比べて著しく劣り，特に少年用として市販されている殺虫剤は実用的でない。採集したこん虫は三角紙(チョウ・ガ・トンボなど)や四角紙(甲虫類など)に収容し，さらにそれらを入れる三角ケースや小形のきり箱などがあると便利である。

おもな採集法としては，すくいどり(飛んでいるこん虫を捕虫網ですくう)・スイーピング(捕虫網で草むらなどをすくう)・たたき網(樹木をたたいて四つ手網で落ちてきた虫を受けて吸虫管でとる)などがある。こん虫を採集するには，まずそのこん虫の生活様式や出現時期・習性などを知り，それを基にしてたんねんに捜すことである。採集したこん虫は，こん虫針に刺し，乾燥させ，それぞれ採集のデータ(採集した場所・日付・採集者のほか，必要に応じて寄主・採集法など)を書いたラベルを付して標本箱に入れて保存する。翅の大きいこん虫は展翅板を用いて翅を広げ，甲虫類・カメムシ類などでは展脚板を用いて脚をそろえる。微小なこん虫類は少し厚手の紙を小さく切った台紙にタラカントゴム糊(のり)などで付着させたり，微針やダブルピンに刺して標本にする。トンボ類などは腹部が折れやすいので細い竹ひごなどを通しておく。バッタ類などは腹部が腐りやすいので，切り開いて内臓を取り出し，ホルマリンを綿につけて内部をふいてから切り口をよく合わせておく。また，シラミ・ノミ・ナンキンムシなどの寄生性こん虫や各種の幼虫類などは，70％程度のアルコールに液浸標本とする。また非常に微小なこん虫(コバチ類やアザミウマ類など)は，プレパラート標本とする。標本箱は木製のものがよく，よく密閉でき，用材が充分に乾燥しているものを選ぶ。ガラスぶたのものとそうでないものがあり，大きさも何種類かある。標本箱の中には必ずナフタリンやかびよけ剤を入れ，なるべく乾燥した風通しのよい場所に保存する。

採集用具や標本製作用具・保存用具・薬品などは現在たいてい市販されているので，信用のおける商社のものを選ぶ。こん虫採集についての入門書や解説書・図鑑類も数多く出ているのでそれらを参考とし，また必要に応じて自分でくふうしてみるとよい。こん虫採集では山に登ることが多いので，登山の案内書や入門書も参考にして登山一般についての注意や装備などについて心得ておくと役だつ。〔鈴木邦雄〕

こんちゅうき【昆虫記】ファーブル*の作品。10巻。1879～1907年の作。貧困ないなか教師の著者が，自伝的回想を交えながら，独創的なくふうとたゆまぬ努力で多くのこん虫の生態を観察した記録を集成したもの。〈科学の詩人〉の手になる平明で詩精神に富んだ動物文学の古典でもある。

コンツェルン［Konzern］法律上では独立している二つ以上の企業が，資本的連携によって，実質的には一つの企業体を構成しているものをいう。企業集中*の最高形態である。資本的連携の方法には，資金貸し付けによるものと資本参加によるものとがある。広義のコンツェルンはこの両者を含むが，資本参加による企業集中をコンツェルンとよぶことが多い。資本参加によって支配する親会社と支配される子会社の関係が成立し，子会社がさらに子会社をもつことによってピラミッド型支配が成立する。また，生産会社が関連産業部門を支配する産業資本型コンツェルンと，銀行・産業間の緊密な結合関係によって，支配資本の節約を図る金融資本型コンツェルンとがある。持ち株会社を中心とする金融資本型コンツェルンは完全に資本的支配を実現するコンツェルンの最高形態である。第２次世界大戦前の三井・三菱(みつびし)などの日本の財閥はこれにあたる。→財閥〔加藤　寛〕



コンテナー　神戸港摩耶埠頭で，専用船〈箱根丸〉に積み込まれるコンテナー群

こんでい【健児】古代の兵制改革で設置された兵士。792年(延暦11)陸奥(むつ)(福島県・宮城県・岩手県・青森県)・出羽(山形県・秋田県)・佐渡(新潟県)・西海道諸国(九州諸県)を除く諸国の軍団*を廃止し，その代わりに設置した。その地方の郡司*・有位者・富裕者などの子弟を採用，１国30名から300名を指定した。当時軍団の兵士が弱体化し，ほとんど実戦の役にたたなかったので，強壮な健児に切り替え，農民の負担を軽減し，軍兵の質的向上を図ったものである。平安中期以降は必要性が乏しくなって消滅。〔菊池礼子〕

コンディヤック［Étienne Bonnot de Condillac］(1715～1780) フランスの哲学者。グルノーブル生まれ。リヨンで古典と哲学を，パリの神学校で神学を学ぶ。一時聖職につくがそれを捨て，サロンに出入りしてディドロ*・ルソー*らと知り合う。思想的にはロック*の影響を受けた。1754年に発表した《感覚論》で，認識の唯一の源泉は感覚にあり，記憶・注意・反省・判断・推理なども〈変形された感覚〉であると主張した。また，《商業と政治との相関的考察》では，富が労働によって生ずることを説き，近代経済学の先駆的な役割を果たした。〔石井忠厚〕

コンデけ【コンデ家】ブルボン朝から出たフランスの大貴族。初代ルイとその子アンリは，ユグノー戦争*にユグノーの中心人物として活躍した。17世紀のルイ２世(大コンデ)は一門中最も有名で，三十年戦争で武功をたて，フロンドの乱*にも関係したが，ネーデルラント戦争で名声を回復した。その子孫もブルボン朝に仕えたが，フランス革命中反革命運動に活躍したルイ父子をもって家系が絶えた。

コンテナー［container］貨物輸送に使用される一定の大きさ・形状をもった通い箱。日本海上コンテナ協会の定義によれば，〈貨物ユニット化を目的とする輸送容器で，異なった種類の輸送機関に対する適合性に重点をおいて決定された容積を有し，

おもなコンテナーの種類および諸元

種別形式			内寸法 高さ	幅	長さ	内容積	荷重
			mm	mm	mm	m³	t
国鉄コンテナー	普通	C900	2 208	2 327	5 909	30.5	10.0
	〃	C10	2 058	2 206	3 148	14.3	5.0
	通風	V10	2 051	2 150	3 092	13.5	5.0
	冷蔵	R10	1 832	2 036	2 976	11.1	5.0
	ホッパ	H90	1 895	2 197	3 097	9.5	5.0
	タンク	T10	1 650	1 650	3 100	5.6	5.0
海上コンテナー	ISO1A		2 195	2 300	11 998	60.6	26.9
	ISO1B		2 195	2 302	8 936	45.1	22.6
	マトソン		2 391	2 363	7 177	40.5	20.6
	シーランド		2 385	2 337	10 541	58.7	20.8

用途に応じた強度を備え，反復使用に耐えるもの〉となる。もともとは容器または入れ物のことで，これが輸送用具として特に注目されるようになったのは，その独自の機能，すなわち，この容器の使用により容器単位輸送が成立し，途中での中身の積み替えなしに戸口から戸口まで輸送することが可能となったなどの点による。同時に，荷役の機械化および荷役時間の短縮，荷造り包装費の節減および破損盗難事故の減少，船舶や貨車などの回転率の向上などの効果がもたらされた。また，コンテナーが主として運送事業者の保有となっている点も単なる容器と異なる。

コンテナーにはアルミニウム製の組み立て式コンテナー，プラスチック製またはゴム布製などのポリテナー・ヒシコンテナー・ハマコンテナー・フレキシブルコンテナーなどもある。輸送ユニットには，鉄道・海上・航空などがあるが，重要なのは，鉄道や船舶で使用されている大形のコンテナーである。これは，荷重が 5 t，10 t もしくはそれ以上の大形のもので，箱形の普通コンテナーのほかに冷蔵コンテナー・タンクコンテナー・通風コンテナー・ホッパコンテナーなどがある。わが国でみられるコンテナーのおもな種類・寸法は別表のとおりである。また，国鉄コンテナーと海上コンテナーとを比較すると，①国鉄コンテナーの荷重が 5 t または10 t であるのに対し，海上コンテナーはこれより大形で，しかも最近はISO*1 A形などのいわゆる40フィート(約12.2 m)形がふえてきている。②国鉄コンテナーが鉄道を主とし，駅から自動車で集配されているのに対し，海上コンテナーは海上を主とし，陸上では自動車や貨車で輸送される。③収納される貨物は，国鉄コンテナーの場合，国内一般の貨物であるが，海上コンテナーは，いまのところ国際貿易，すなわち輸出入貨物に使用されているのが特色である。

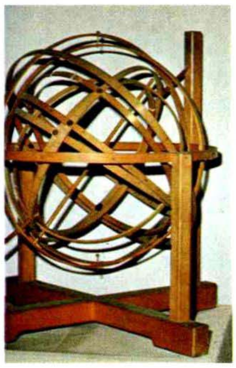
いずれにしてもコンテナーは，最近の港湾や駅頭における手荷役の困難性から，荷役機械の開発とあいまって，ますます普及発展するとみられている。〔坂本侑三〕

コンテナーせん 【コンテナー船】 海上コンテナーを使用して輸送を行なう専用船。コンテナー荷役に適した構造と設備をもっている。各種貨物は形状がそれぞれ異なるので，荷役に時間がかかったり，船倉の利用が不経済になったりする。このため，最近，一般雑貨を機械荷役に適したコンテナー*に入れて海上輸送することが始められた。コンテナー輸送が合理的に運営されるためには，岸壁には広いコンテナー置き場(コンテナーヤード)と特殊な荷役装置を要し，また，陸上輸送機関も一体となった輸送体系の整備が必要である。〔飯島幸人〕

こんでん 【墾田】 律令(りつりょう)制下新たに開墾した田地。治田・開田ともいう。大



コンテナー船 おーすとらりあ丸(24,000トン)



渾天儀
伊能忠敬記念館（千葉県佐原市）蔵

化改新以降，田地はすべて公田*となり，班田収授法*が施行されたが，やがて人口の自然増加，農民の逃亡によって公田が荒廃化しはじめ，班田の不足を招いた。その対策として政府は722年(養老 6)良田100万町歩開墾計画，723年三世一身法*，743年(天平15)墾田永代私有法*を公布したので，有力者は開墾地占有の公許を得て盛んに墾田開墾を進めた。のち765年(天平神護 1)墾田の私有をいっさい禁止したが，772年(宝亀 3)には，無条件で墾田の永代私有が公認されるようになり，貴族・社寺・富農は競って墾田開発を行なった。ここに初期荘園(しょうえん)の発達をみるに至った。➔荘園〔高崎徳次〕

こんでんえいだいしゆうほう 【墾田永代私有法】 743年(天平15)墾田*の永代私有を公認した法令。墾田永世私財法ともいう。723年(養老 7)制定された三世一身法*が所期の目的を達しなかったため，①位階*によって限定された面積を越えないこと，②国司の承認を得ること，③許可を得てから 3 年以内に開墾を終えること，④一般農民の農事を妨げないこと，などを条件として，墾田の永代私有を認めた。これにより，律令(りつりょう)国家の公地公民*制はその大原則をくずし，のちの荘園(しょうえん)制につながる大土地私有制が開始されることとなった。➔荘園〔高崎徳次〕

こんてんぎ 【渾天儀】 昔の中国や日本で用いられた天体の位置を観測する器械。最も古いものは前漢の時代(紀元前 1 世紀ごろ)につくられたといわれる。その後改良が重ねられて，17世紀に西洋の天文学が輸入されるまでは，東洋の代表的な天文観測器械であった。地平線，天の赤道，天の子午線など天球を表わす円環の組み合わせの内側に，天の両極を軸として回転する円環およびこの円環の中で南北に動く筒を備え，この筒を通して天体を観測し，円環に刻まれた目盛りでその天体の座標を測定した。〔守山史生〕

コンデンサー ［condenser］

1 二つの導体*の間に適当な誘電体*あるいは絶縁体を配置し，特別に多量の電荷*あるいは電気量をたくわえられるようにした装置。蓄電器ともいう。二つの導体にある電位差を与えたとき，誘電体を通してその表面に互いに正あるいは負の電荷を生ずる。このとき一定の電位差のもとでは誘電体の厚さが薄いほど，また誘電率*が大きいほど生ずる電荷密度は大で，したがって多くの電荷を蓄積できる。しかしあまり高い電位差を与えると放電し，誘電体の絶縁能力を破壊してしまう。この絶縁破壊を生じない最大電圧を耐電圧あるいは略して耐圧という。誘電体の種類によって，次のように分けられている。

①油入りコンデンサー：常温で粘度が低く，流動性・絶縁性の高い油を使ったもの。低電圧～高電圧用がある。②マイカコンデンサー：雲母(うんも)コンデンサーともいう。スズ箔(はく)でできた電極とウンモ薄片とを交互に積み重ねてつくられる。力率(➔電力)が0.1～1.0％程度で損失が少なく，周波数特性がよいため，測定用回路や高周波回路に用いられる。③紙コンデンサー：絶縁性の高い紙とスズまたはアルミニウム箔を積み重ねてつくられる。力率は0.5～3％程度だが小形で軽いので，電力の消費があまり問題にならない場合に用いる。〔堀内和夫〕

2 ➔集光レンズ

コンデンスミルク ⇨練乳

コント ［conte］ 短編小説*をさすフランス語。短編小説の中でも，ユーモアと風刺に富んだ軽妙な，ごく短い物語をいい，掌編小説としばしば訳される。モーパッサン・ドーデ・バルザックに名作が多く，日本でも江戸の小噺(こばなし)に例をみることができる。また，機知と皮肉に富む話芸を中心とする演芸をよぶこともある。

コント ［Auguste Comte］（1798～1857） フランスの哲学者・数学者で社会学の創始者。モンペリエに生まれ，パリで没。16歳でエコール-ポリテクニクに入学し，おもに数学を学ぶ。1818年サン-シモン*に師事したが，1824年に衝突して去る。彼は市民社会の危機の克服を自己の思想の根本的課題とし，その解決を知性のあり方に求めた。彼は人間の知識の発展段階を神学的・形而上学(けいじじょうがく)的・実証的に区分し，最後の実証的段階に至って真の科学が成立すると説く。さらに実証科学を抽象的なものから具体的なものへと分類・秩序づけ，最も

具体的で，自己の課題にこたえる学問として社会学を位置づけた。晩年は神秘的な考えにとらわれ，〈人類教〉を唱えてみずから大祭司になるという，純粋に実証的であろうとした精神との矛盾を示した。主著《実証哲学講義》《実証精神論》ほか。〔石井忠厚〕

こんどう　【混同】 相対立して両立させる価値のない二つの法律上の地位が同一人に帰属することをいい，債権*および物権*に共通の消滅原因である。債務者が債権者を相続したり，債務者が債権を譲り受けた場合などは，その債権は消滅する(民法520条)。また，ある土地に地上権*や抵当権*を有する者がその土地の所有権を取得すれば，その地上権や抵当権は消滅する(民法179条)。しかし，消滅すべき債権や物権が第三者の権利の目的となっているときには消滅しない。たとえば，相続したり，譲り受けた債権が質に入れられている場合や，一番抵当権者たる自分が二番抵当権を有する他人のいる土地の所有権を得た場合などである。また，手形や小切手などのように有価証券化された債権は一種の物として取引されるから，混同の法理は適用されない(手形法11条Ⅲ，小切手法14条Ⅲ)。〔黒木三郎〕

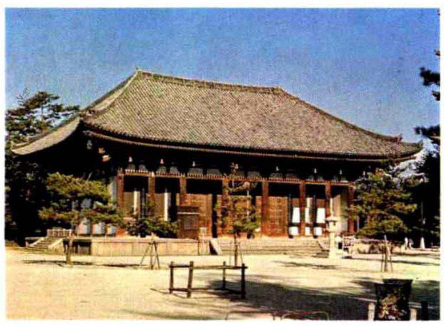
こんどう　【金堂】 伽藍*(がらん)中最も主要な建物で，本尊を安置する堂をいう。後世の寺院の本堂，仏殿にあたる。堂内に金色の仏像を安置するところから，この名がつけられたという。代表的な金堂には，飛鳥(あすか)時代の法隆寺，天平時代の唐招提(とうしょうだい)寺，平安時代の室生(むろう)寺，鎌倉時代の当麻(たいま)寺・醍醐(だいご)寺，室町時代の興福寺，桃山時代の教王護国寺・園城(おんじょう)寺などがある。比叡(ひえい)山の根本中堂も金堂にあたる。〔京戸慈光〕

こんどういさみ　【近藤勇】 (1834～1868) 幕末の幕臣。新撰組*(しんせんぐみ)隊長。名は昌宜(まさのぶ)。宮川久次の三男として武蔵(むさし)(東京都)多摩郡に生まれ，近藤周助に剣を学んでその養子となる。1863年(文久3)幕府の浪士募集に応じ土方歳三(ひじかたとしぞう)らと上京して新撰組を組織。芹沢鴨(せりざわかも)ら先輩・同僚隊士を暗殺し隊長となった。京都守護職*の支配下にあって尊王攘夷(じょうい)派志士の取り締まりを行ない，1864年(元治1)長州藩志士らを池田屋に襲撃(→池田屋事件)した事件は有名。1867年(慶応3)見廻組(みまわりぐみ)頭取として正規の幕臣となり，翌年鳥羽(とば)・伏見の戦い*ののちは，江戸に帰って甲陽鎮撫隊(ちんぶたい)を組織し，官軍と甲斐(かい)(山梨県)勝沼・下総(しもうさ)(千葉県)流山で戦ったが敗れ，捕われて同年4月斬首(ざんしゅ)された。〔松尾　涼〕

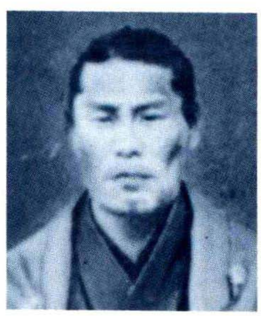
ごんどうくじら　【巨頭鯨】 哺乳(ほにゅう)類・クジラ目・ゴンドウクジラ科。ハクジラ類に属し，全長8.5mほど。体は濃灰黒色で，腹部はやや淡く，下顎(かがく)から肛門(こうもん)へかけて白色ないし淡色の模様がある。各大洋の暖海に分布し，200～500頭の大群をなすことが多く，おもにイカなどを食う。







金　堂
(上)　法隆寺金堂　国宝　飛鳥時代
(中)　唐招提寺金堂　国宝　天平時代
(下)　興福寺東金堂　国宝　室町時代



近藤　勇

コンドゥクトゥス　［conductus］ ラテン語の〈導く〉という意味の動詞に由来するとされるが明らかではない。12世紀から13世紀にかけてつくられた，ラテン語の歌詞による宗教曲で，単声のものも多声のものもある。多声のものは同時代の他のジャンルとは違って，グレゴリオ聖歌*を定旋律とせず，自由につくられた旋律を基とし，この旋律の上に厳格な1音対1音の上声部がつくられる。このような動きの多声楽をコンドゥクトゥススタイルとよぶことがある。代表的な作曲家にアルス-アンティクア*に属するペロチヌスがいる。〔吉田泰輔〕

こんとうこう　【今東光】 (1898～1977) 小説家。横浜市の生まれ。はじめ川端康成*(かわばたやすなり)を知って第6次《新思潮*》や《文芸時代*》の同人として新感覚派に属し，のち一時左傾した。1930年(昭和5)出家して春聴と号す。1956年《お吟さま》で直木賞を受賞。平泉中尊寺貫主，元参議院議員。

こんどうじゅうぞう　【近藤重蔵】 (1771～1829) 名は守重(もりしげ)，号は正斎，重蔵は通称。書物奉行(ぶぎょう)や大阪弓奉行をつとめ，江戸時代の北方探検家として知られる。1798年(寛政10)蝦夷地(えぞち)に渡り，千島列島の国後(くなしり)島・択捉(えとろふ)島を探検し，1802年(享和2)択捉島でロシアの標柱を抜き去って，代わりに〈大日本恵土呂府〉の木標を立てたことは有名である。多くの著書があり，《近藤正斎全集》に収められている。晩年は，同僚のそねみを受けたり，長子富蔵の殺人事件のために近江(おうみ)(滋賀県)大溝(おおみぞ)藩預けとなったりして不遇であった。なお，富蔵は八丈島へ流罪となったが，八丈島の開発や人々の教化に尽くし，《八丈実記》を著している。〔浅井得一〕

こんどうひでぞう　【近藤日出造】 (1908～1979) 現代政治漫画の代表的作家。長野県稲荷山(いなりやま)生まれ。本名秀三。岡本一平*に師事し，1932年(昭和7)杉浦幸雄(すぎうらゆきお)・横山隆一らと新漫画派集団を結成した。現在，日本漫画家協会理事長。著書に《にっぽん人物画》などがある。

こんどうよしみ　【近藤芳美】 (1913～　) 歌人。朝鮮馬山の生まれ。東京工業大学卒業後建築技師をしていたが，1932年(昭和7)中村憲吉*に会って《アララギ*》にはいり，憲吉の死後は土屋文明*に師事した。第2次世界大戦後の混乱期の中で，知的な現代感覚をもった作品で新風を展開，戦後のリアリズム短歌を指導する歌人として活躍，今日に至っている。歌集に《早春歌》《埃(ほこり)吹く街(まち)》《冬の銀河》《喚声》などがある。

こんどうれんぺい　【近藤廉平】 (1848～1921) 日本の海運発展に力を尽くした実業家。徳島県出身。医者の子として生まれ，慶応義塾(ぎじゅく)大学に学び，卒業後三菱(みつびし)商会に入社，吉岡(よしおか)鉱山の買収に手腕を発揮し，岩崎弥太郎*(やたろう)に認められた。有名な共同運輸会社との競争では横浜支配人として活躍。1885年(明治18)両社の合併により日本郵船が設立されるや同社に移り，1895年同社社長に就任，以来26年間わが国海運界の指導的地位にあった。特に日清(にっしん)・日露戦争，第1次世界大戦では兵器輸送に従事し，また，欧州航路・アメリカ航路を開設するなど，その業績は大きい。〔片岡一郎〕

コンドーム [condom] 弾性のある薄いゴム，またはその類似物質でつくられたサック。性行為に際して陰茎に着用し，避妊の目的を果たしたり，性病の感染を予防するために用いる。発明者である17世紀のイギリス人コンドンの名からとった名称。➔避妊法

ゴンドラ [gondola] ①ベネチア市内の運河で渡船の役目をする小船。装飾した観光用もある。船体は細長く約10m，船首・船尾は高くそり上がっており，5～6人乗り。船首・船尾にひとりずつ立ってオールでこぐ。船体の左右の形状が対称でないことが特徴である。②飛行船・気球・ロープウエーや高層建築の窓ふき用などで，人や設備を搭載(とうさい)するつりかごの部分。

コントラバス [contrabass] 擦弦楽器の一。ダブルベースまた単にベースともいわれ，バイオリン属の最も大きい楽器である。今日では，ホ音から上に4度ずつ高く調弦される4弦をもつものが多いが，低いほうにさらに1本，ハ音弦を加えたものも使われている。なお，19世紀までは3弦のものが普通であった。ジャズを別にすれば，この楽器はオーケストラで使われることが多く，その場合，チェロと同じ動きを低い音域で行なうのが普通である。したがって，この楽器のための協奏曲の数は少ない。作曲家としてはディッタースドルフ(1739～1799)・ドラゴネッティ(1763～1846)・クーセビツキー*が有名。〔徳丸吉彦〕

コントラルト ⇨アルト

コンドリオソーム [chondriosome] ミトコンドリアの別名➔細胞

コンドル [condor] 鳥類・コンドル科の鳥の総称。6種が南北アメリカ大陸に分布し，いずれも大形。翼開長3m以上で体重10kgにも達する最大種のアンデスコンドルやその次に大きいカリフォルニアコンドルなどは，幅広い翼に上昇気流を受けて高空を巧みに帆翔(はんしょう)する。また，小形級のヒメコンドルやクロコンドルは低空飛行も行ない，嗅覚(きゅうかく)と視覚によって動物の死肉を探索して主食としている。死肉食と関連して，くちばしとつめの力は他のワシタカ類のように強くない。頭部の羽毛がなく皮膚が裸出しているのは，腐肉からの細菌感染を太陽消毒によって防止するのに役だっていると考えられている。大形種は断崖(だんがい)の岩だなや岩の裂け目に営巣するが，ヒメコンドルとクロコンドルはおもに地上で営巣する。この科の鳥は旧世界産のハゲワシ類と一見形態が似ており，アメリカハゲワシともいう。分類学的には後者はワシタカ科の鳥である。〔安部直哉〕

コンドル(諸島) [Condore] プロコンドル諸島，あるいはコンソン諸島(中国名)ともいう。南シナ海，南ベトナムのカマウ岬(みさき)の東方にあるカコウ岩の群島。住民は漁業を営み，ウミガメや中国料理用の燕



ゴンドラ



コントラバス



コンドル　アンデスコンドル(雄)

窩(えんか)(ウミツバメの巣)をとる。1861年フランス領，1954年以後はベトナム社会主義共和国領。

コンドル [Josiah Conder] (1852～1920) イギリスの建築家。1877年(明治10)日本政府の招きで来日，内閣工部省技術官ならびに工学寮教師として工部大学校造家学科を担当し，わが国ではじめての本格的な建築教育を実施した。建築技術・建築教育・建築様式など，近代建築のあらゆる面にわたって大きな影響を与え，日本建築の近代化の基礎を築いたとされている。主要な作品に，鹿鳴館(ろくめいかん)・ニコライ堂・三菱(みつびし)一号館などがあり，東京国立博物館表慶館は現存する。〔川田伸紘〕

コンドルセ [Marie Jean Antoine Nicolas de Caritat, Marquis de Condorcet] (1743～1794) フランスの哲学者・数学者・政治家。北フランスのリブモン生まれ。16歳のとき，数学者としてダランベール*らにその才能を認められ，22歳で《積分論》，25歳で《解析論》を発表。蔵相チュルゴー*と交わり，《百科全書*》の経済学関係を執筆した。フランス革命に際してはジロンド党*の理論的指導者として活躍した。恐怖政治*のとき死刑を宣告され，8か月間隠れたのち，ジャコバン党に逮捕され，獄中で自殺した。この逃亡生活の間に有名な《人間精神進歩史》が書かれた。〔石井忠厚〕

コンドロイチンりゅうさん 【コンドロイチン硫酸】 高等動物の結合組織の主要成分で，軟骨に20～40%含まれている。アミノ酸・グルクロン酸・硫酸・酢酸などからできているが，組成は確定していない。生体内で生化学的に重要な役割を果たし，欠乏すると血液凝固作用などが低下する。医薬品として偏頭痛・神経痛などに鎮痛剤として用いられ，またナトリウム塩は食品添加物として魚臭除去の目的で魚肉ソーセージに，乳化安定剤としてマヨネーズ・ドレッシングに使用が許されている。〔鈴木郁生〕

コントロールタワー ⇨管制塔 ⇨空港

ゴンドワナたいりく 【ゴンドワナ大陸】 古生代末から中生代にかけて南半球にあったと思われる大陸。インド半島・オーストラリア・アフリカ・南アメリカなどには古生代末の地層が広く分布し，その最下部には氷河のあったことを示す陸成層*があり，その上には共通の動植物の化石を含む地層がある。そのため，その時代にはこの広大な地域に大陸ができていたと推定し，この大陸をゴンドワナ大陸とよんでいる。

こんにちあん 【今日庵】 名茶席の一。京都市裏千家家元邸内にある。裏千家の代表的な茶室。利休の孫千宗旦*(そうたん)が，不審庵を三男の江岑斎(こうしんさい)宗左に譲り，その裏に隠居所として建てた茶室と伝えられる。一畳台目向板という最小限の広さの茶席を，ふきおろし屋根でおおい，内部には床も設けずに，壁面でそれに代えている。このように構成を極度に切りつめたところに，侘茶(わびちゃ)人宗旦の意図が現われている。大徳寺の清巌(せいがん)禅師が腰張りに書きつけた〈懈怠比丘不期明日(けたいのびく明日を期せず)〉という語に感じて，宗旦が命名したという。現在の建物は1788年(天明8)の天明の大火以後の再興にかかる。〔桑田忠親〕

こんにゃく 【蒟蒻】 単子葉植物・サトイモ科の多年生草本。地中に茎の一部が肥大した塊茎(こんにゃくだま)ができ，葉が出ると塊茎の養分を消費して，年々塊茎を更新しながら肥大していく。また子球をつくることが多い。春，塊茎の頂部から葉を出す。葉柄は長さ1mにも及び，太く，特有の斑紋(はんもん)があり，先端はさらに3本の小葉柄に分かれ，多数の小葉を着生する。4～5年を経た塊茎の頂芽は秋に花芽となり，

翌春伸長して初夏に肉穂花序の花をつける。花は単性花で，肉穂の上部に雄花，下部に雌花をつけ，開花時には悪臭をもった油を分泌する。果実は球形で8～9月に黄赤色に熟し，1果に1～4個の種子がある。野生種はきわめて多く，東南アジアやアフリカの熱帯地方に分布する。わが国にはかなり古く導入された在来種と大正時代に中国から導入された中国種がある。ふつう春に塊茎を植えつけ，晩秋に葉が倒伏したとき肥大した塊茎*を掘りとる。塊茎にはマンナン*を含んでいるので，これを切り干しにして，こんにゃく粉の原料とする。〔松本正雄〕

食用のこんにゃくは，切り干しをついて粉にした荒粉を精製した精粉(こなこん)を湯でとき，ぬるい湯を加えながらのり状にこね，それに石灰乳または炭酸ソーダの溶液を加え，かき混ぜながら型箱に流す。適度に固まったら相当の大きさに切ってぬるい湯(石灰を少量とかしたもの)で加熱し，次に水に入れてあく抜きをする。関西では精粉でなく荒粉をおもに用い，製品の色は黒いが味がよい。糸こんにゃくは，以上の工程よりもいくぶんかためにこねたものをところてん突きで突き出して固めたもので，白滝は機械でそれよりも細目につくったものである。こんにゃくは栄養価は低いが，独特の感触を賞味され，田楽・煮しめ・白あえ・酢みそあえや，すき焼き・おでん・なべ料理に用いられる。飛鳥(あすか)時代に薬品として中国から伝わり，温石(おんじゃく)(いまの懐炉)の役目を果たしたものと思われるが，平安時代になって食用となった。〔佐藤友太郎〕

こんにゃくぼん【蒟蒻本】⇨洒落本(しゃれぼん)

こんのうりんぎょう【混農林業】林業を営む林地内に農作物をつくること。耕地の少ない山村に多い。起源は古く焼き畑*・切り替え畑*に端を発し，近世以後いわゆる木場作(こばさく)による集約作業にその形を残してきた。すなわち伐木跡地に2～3年ソバ・アワなどを前作し，そこにスギなどの苗木を植え，その後2～3年間作*を続けて森林とする形態である。日本の有名民間林業の多くはこの作業から始まっているが，現今の労力不足の山村では行なわれない。特長は造林地ごしらえ，下刈りの省力と作物に与えた肥料の残りを林木に利用できるなどである。〔中島道郎〕

コンバイン［combine］穀類・豆類の収穫機*の一種。わが国ではイネ・ムギを対象としたものが多い。コンバインは立毛状態の作物の中にはいって収穫物に作用し，機械を通過し，出口においては，精粒・屑粒(せつりゅう)が選別されているといった機能をもつもので，収穫機として最も高性能なものである。いろいろな形式があるが，わが国では自走型が多く，普通型と自脱型がある。普通型は脱穀部に欧米型脱穀機であるスレッシャーを採用したもので，自脱型とは日本で発達した自動脱穀機を組み込んだものである。普通型は一般に大形で性能もよいが，小面積の作業には不向きであり，自脱型は小形で，しかも性能がよいので，個人農家用として便利である。〔田原虎次〕

コンパウンド-ヘリコプター ⇨回転翼航空機

コンパクト［compact］粉おしろいを入れる携帯用の容器。鏡とパフがついており，美しく装飾されている。また，固形おしろい(粉おしろいにクリーム用の油脂を加えて圧縮したもの)を鏡つきの容器に入れ，パフを組み合わせたものをさすこともある。

コンパス ⇨羅針儀(らしんぎ)

ゴンパーズ［Samuel Gompers］(1850～1924) アメリカの労働運動指導者。〈アメリカ労働運動の父〉とよばれる。ロンドンに生まれ，1863年アメリカに渡る。葉巻き工，同組合委員長を経て，1886年職能別組織労働組合連合を再組織し，AFLを結成した。第1次世界大戦中は国防会議委員などをつとめ，政府に協力した。労働組合の経済闘争中心・労資協調・職能別組合主義・社会主義の排除を主張した。しかし，黒人や未熟練労働者の加盟を拒否し，進歩派指導者から批判された。〔折井一彦〕

コンパスしょくぶつ【コンパス植物】自然光の条件のもとで葉が南北の方向に出る植物。チサ・キショウブ・グラジオラスなど。一種の屈光運動と考えられ，光の方向の変化に伴って葉の出る向きも徐々に変わる。暖地では強い日光による蒸発から葉を保護し，高緯度地では強い東西の光が受けやすいなどの適応をもつと考えられる。

ごんぱち【権八】清元節・常磐津節(ときわずぶし)の曲名。本名題は，清元では《其小唄夢廓(そのこうたゆめもよしわら)》，常磐津では《権八小紫廓仇夢(ごんぱちこむらさきさとのあだゆめ)》。清元が名曲として知られ，上下2巻のうち上がよく演奏される。罪人白井権八とその愛人で遊女の小紫との夢の中での哀れな再会を描写している。説経節ふうの節回し，投げ節などの特徴を取り入れている。

コンバーチブルセダン［convertible sedan］乗用車の車体型式の一。普通のセダン*と同じように前後2列座席の5～7人乗りで屋根が折りたたみ式幌(ほろ)になっている。2ドア型・4ドア型がある。➔自動車

こんぱるぜんちく【金春禅竹】(1405～1470？) 能役者・能作者。実名，七郎氏信(うじのぶ)。金春流の確立者。世阿弥*(ぜあみ)の娘婿。本拠の大和(やまと)(奈良県)をあまり離れず，演能活動ははなやかでなかったが，一休や一条兼良(かねら)らの文化人と交友があり，理論家としてすぐれていた。《六輪一露》《歌舞髄脳記》《五音三曲集》その他の芸道論は仏教的色彩が濃く，能楽と歌道の一体を説いて思想的深みを示し，抽象的で難解でもある。作能は《芭蕉(ばしょう)》《雨月》《玉鬘(たまかずら)》などで，作風は閑寂。〔小林　責〕

こんぱるりゅう【金春流】能楽シテ方*の流儀名。古くは円満井(えまい)座とも竹田座ともいわれ，大和猿楽(やまとさるがく)四座中最古の歴史を有する。鎌倉時代から興福寺・春日(かすが)大社に奉仕しており，金春という名称は南北朝時代の金春権守(ごんのかみ)あたりかららしい。室町中期に出た金春禅竹*は，奈良を本拠として活躍し，義父世阿弥*(ぜあみ)と同じく数多くの能楽論を著わしたが，やや抽象論に傾いている。その後宗筠(そういん)・禅鳳(ぜんぽう)・岌蓮(ぎゅうれん)・禅曲らの名手があいつぎ，観世座と並ぶほどになった。豊臣秀吉(とよとみひでよし)政権下では，その愛顧を受けて観世座を上回る流勢を誇ったが，江戸時代になると，観世座の下風に立った。それでも奈良に領地をもち，古風な芸をもって，独特の地位を保った。今日では，流勢はややふるわないが，その芸風を愛する人は多い。なお，太鼓にも金春を名のる一流がある。〔片桐　登〕

コンピエーニュ［Compiègne］フランス北部パリ北東方70km，オアーズ川左岸の保養地。人口28,400(1962)。メロビング朝時代からフランス国王の離宮があったところで，貴族の別荘も多かった。南東方に広がる美しいコンピエーニュの森は142km²の広さがあり，代々の国王の狩り場であった。1430年ジャンヌダルクがここでイギリス軍に捕えられ，第1次・第2次世界大戦の休戦条約が結ばれたところでもある。

コンビナート［kombinat］工業立地条件のよい一定地域に，生産技術面において密接な関連をもつ企業を集めて，生産の効率化を図ろうとする企業集団をいう。

コンビナート形成の基礎となる技術的関係から次のように分類できる。①原料の供給と需要の関係にあるもの。古くはソ連の鉄鋼・石炭コンビナートにその典型をみる。②主要部門と副産物利用との関係にあるもの。鉄鋼とその副産物として発生する高炉ガスを利用する化学工業の結びつきなど。③原料供給・副産物利用が全生産工程で多角的な関係を形づくるもの。石油化学工業にみられる。このうち，近年に著しく増大しつつあるのは，③の石油化学コンビナートである。石油化学コンビナートは，石油精製の過程で生ずる揮発油留分(ナフサ)を分解して，アセチレン・エチレン・プロピレン・ブタン・ブチレンなどの中間原料を生産し，さらにそれから合成繊維・酢酸・溶剤・合成ゴム・樹脂などの誘導品を製造する生産工程を軸としている。だが，その結合形態は，個々の企業の性格，ナフサおよびエチレンなどの供給能力，誘導品需要確保の困難，資金調達面の制約などによってさまざまである。わが国の石油化学コンビナートは十指に余るが，同一資本系企業によって構成されたものと，異種資本系企業によって構成されたもの，さらには合弁



コンビナート

会社となっているものがあり，しかも，ナフサやエチレンの需給関係の動きに応じてコンビナート間に横の連係が生まれる場合もある。たとえば，千葉地区においては，非財閥系コンビナートである丸善石油化学コンビナートと，財閥系の三井石油化学および住友石油化学コンビナートがエチレン供給を軸にして横の結合を図っているなどがみられる。

コンビナートはこのように主として生産技術的な関係を軸として構成されているが，構成メンバーたる企業間の利害はつねに一致するとはかぎらず，また技術進歩によって旧技術が陳腐化する可能性は大であるから，その結合形態および構成は技術の発達に伴い，流動的なものである。〔原　豊〕

コンビーフ　正しくはコーンドビーフ。牛肉を塩づけしたもの。なるべく脂肪の少ない牛肉を食塩・硝石・蔗糖(しょとう)で塩づけし，約1時間煮沸してつくる。日本では一般にかんづめにしたものをいう。アルゼンチン・ウルグアイ・オーストラリア・アメリカなどが産地として有名。

コンピューター　⇨144ページ

コンピューターおんがく　［コンピューター音楽］　コンピューターを用いて作曲した音楽の総称。一般に，音の動かし方に関する作者の意図をコンピューターに与えて作曲させたもので，1957年のヒラーとアイザクソンの弦楽四重奏のための《イリアック組曲》はその出発点である。1960年代にはいると，偶然性の思想の影響を受けて，音の高さ・長さ・強さなどについてあるわくや関数関係だけをコンピューターに与え，その決定に偶然の要素がはいるようにしたものが次々に生まれてきた。クセナキス*や高橋悠治(ゆうじ)らはこうした方法ですぐれた作品を発表している。今日までのところ，コンピューターに楽譜(またはその数値的表現)を出させて，それを人間が演奏する作品が多いが，今後は電子工学的な方法で直接に音を出す装置と結びつくものが多くなると考えられる。〔徳丸吉彦〕

コンピュートピア　⇨コンピューター

こんぴら　【金毘羅】　梵語(ぼんご) Kumbhīra(クンビーラ)の音訳。宮毘羅などとも書く。元来〈鰐魚(がくぎょ)(わに)〉を意味するが，仏教では神格化され，薬師十二神将・般若(はんにゃ)守護十六善神の一尊で，雨乞(あまご)いや海難よけの善神として崇拝された。この神が讃岐(さぬき)(香川県)松尾寺の伽藍(がらん)守護神に勧請(かんじょう)されたのが，象頭山(ぞうずさん)金毘羅権現信仰の起こりである。現在は金刀比羅宮*(ことひらぐう)に奉祀(ほうし)されるが，依然として航海者や漁労関係者の厚い信仰を受けている。〔北条賢三〕

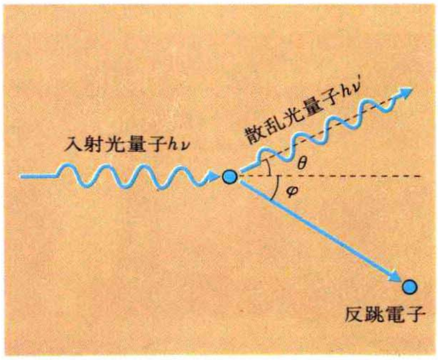
こんぴらだいごんげん　【金毘羅大権現】　⇨金刀比羅宮(ことひらぐう)

こんぶ　【昆布】　一般に，わが国で食用・調味料とされる産業上価値の高い褐藻(かっそう)植物・コンブ科の3属10数種類の海藻をさす。しかし，分類学的にいえば，コンブ科の中のコンブ亜科のコンブ属に属するもの7種，2変種，1品種と，トロロコンブ属2種，キクイシコンブ亜科のネコアシコンブ属に属するもの1種などである。コンブ科の海藻は北半球の寒海域のみに分布し，わが国では北海道・東北地方沿岸にだけ分布する最も大形の海藻で，マコンブ・リシリコンブ・ミツイシコンブ・ナガコンブなどが代表的なものである。マコンブは函館(はこだて)周辺を，リシリコンブは礼文(れぶん)島・利尻(りしり)島を，ミツイシコンブは日高地方を，ナガコンブは根室・釧路(くしろ)地方を主産地とし，生産量も多く利用価値も高い。その他の種類は量的にも少なく，質的にも価値が低い。一般に外海に面する干潮線以深の岩礁や礫(れき)に固着して生育

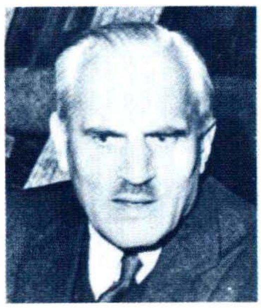
し，その生育帯はマコンブが最も深く7～14m，まれに40mに及び，リシリコンブは4～10m，ミツイシコンブ・ナガコンブは8～9m。コンブの体は扁圧(へんあつ)した帯状の葉状部，円柱状の茎状部，樹枝状の付着器からなる。葉状部には中帯部とよばれる溝(みぞ)状の凹凸(おうとつ)があり，縁辺は波縮している。長さ・幅・厚さは種類によって異なり，マコンブ・リシリコンブはふつう長さ2～3m，幅30cm，厚さ3mmほどで，幅広く肉厚の種類である。ミツイシコンブ・ナガコンブは長さ20mにも達するものがあるが，ふつう2～10m，幅2～6cm，厚さ1～2mmで，狭長肉薄の種類である。茎状部はふつう円柱状で，長さ3～15cm。茎状部から葉状部に移行する部分は扁平で，成長帯とよばれる分裂組織があり，上方に葉状部を下方に茎状部をつくる。茎状部の下端に付着器があり，これによって岩盤などに固着する。コンブは春から初夏にかけて急速に生長し，秋から春にかけて繁殖期にはいる。最大限満4年生存し，4年めのものは繁殖期を過ぎると固着器が岩盤から離れて流失する。繁殖期には遊走子嚢(のう)の集団が葉状部の表面に円形あるいは直線状に盛り上がって形成され，遊走子を放出すると葉状部分は先端からしだいに枯れて流失するが，春から初夏にわたる生長期にはいると再び生長帯の活動によって旧葉を押し上げるようにして新葉が伸長する。遊走子は基物に接触して固着すると直ちに発芽を始め，顕微鏡的な糸状体となる。糸状体には雌性体と雄性体とがあり，それぞれ卵子と精子とを生じ，受精によって新しいコンブが生じる。食用とされるコンブの採取は，満2年め以上のものが対象とされ，普通は1年めのものは〈みずこんぶ〉として採取しない。マコンブ・リシリコンブは元揃(もとぞろえ)こんぶ・折こんぶなどに，ミツイシコンブ・ナガコンブは長切こんぶ・棒こんぶなどとよばれる乾燥製品に製造され，各種食品の原材料として供給され，おぼろこんぶ・とろろこんぶ・塩こんぶ・佃煮(つくだに)・刻みこんぶ・だしこんぶ・煮こんぶ・こんぶ菓子・こんぶ茶など多種多様の食品に利用される。採取は7～9月が盛期で，年間生産量は乾燥製品として約30,000～40,000t，その90%以上は北海道沿岸で生産される。〔三浦昭雄〕

コンプトン ［Arthur Holly Compton］(1892～1962) アメリカの実験物理学者。オハイオ州ウースターの生まれで，ワシントン大学教授，のち同総長。X線の研究，特に結晶による散乱とコンプトン効果*の発見で知られる。1927年，C. T. R. ウィルソン*とともにノーベル物理学賞を受賞。1941年ごろから原子力研究に進み，原爆計画の国家委員会議長として推進者の役を果たした。

コンプトンこうか 【コンプトン効果】 X線やγ線のような波長の短い光を物質にあてると，その散乱波には入射波と同じ波長のほかに，これよりも長いものが含まれる，という現象。入射光量子は物質原子中の電子によって散乱されるが，同時に電子をはじき出す(反跳電子)。波長の増加は，電子の質量をm，プランク定数*をh，光の速度をc，散乱角(入射波の方向と散乱波の方向とがなす角)をθとすると，$(2h/mc)\sin^2(\theta/2)$で与えられる。ここで，$h/mc(=2.43\times10^{-10}\text{cm})$という量は長さの次元をもち，電子のコンプトン波長とよばれる。この現象の光量子*論による理論的説明およびその実験的検証は，1923年コンプトン*によって与えられた。光電効果*と並んで光の粒子性を示す現象の一つである。〔高林武彦〕



コンプトン効果


コンプトン


コンフリー

コンフリー ［comfrey］ 双子葉植物・ムラサキ科。ヨーロッパ原産の多年草で，和名はヒレハリソウ。高さ60～90cmに達し，長さ30～50cm，幅15～30cmの卵状披針(ひしん)形の葉をつける。茎の上部の葉は無柄であるが下部の葉は有柄，茎には広い翼が発達しており，全草に毛がある。6～7月，茎の先端部に長さ30cmの先が浅く分裂した鐘形花を多数つける。花色には白・紫・紅などがあり，本種に似たオオハリソウは茎に翼がないので区別できる。両種とも花を観賞するために栽培されるが，葉を強壮の効があるとして食べることがある。

コーンフレークス ［corn-flakes］ トウモロコシの粒をひきわって圧扁(あっぺん)したのち，味つけした食品。これにビタミンB_1・B_2・ナイアシンを強化することもある。朝食用として砂糖と牛乳をかけて食べるのが普通だが油で揚げて塩味で食べることもあり，最近では糖衣やチョコレートでコーティングしたものもある。

コンプレックス ［complex］ 精神分析用語で，スイスの精神病医ユングのことば。過去の苦痛な体験などがもととなって，その体験に付随して経験された強く不快な感情と，その感情に関連して二次的に結びつけられた観念群とからなる，心の深層的なしこりをいう。このもととなった苦痛な体験は，たいていの場合抑圧され，当人には意識されないが，これによって生じたコンプレックスは思考そのほか行動様式一般に強い影響を及ぼすようになる。性格的には，循環気質者には生じにくく，分裂気質やヒステリー性格者には生じやすい傾向にある。

コンプレックスは，その中核となる観念群によって，エディプス-コンプレックス・エレクトラ-コンプレックス*・インフェリオリティ-コンプレックス(劣等感)・去勢コンプレックス*などの区別がある。〔菊地 藍〕

コンプレッサー ⇨圧縮機

ゴンブロービッチ ［Witold Gombrowicz］(1905～1969) ポーランドの亡命作家。アルゼンチンに定住ののち，フランスに移った。他者とのかかわりのうちに自己を見失う不安な人間存在を描いた長編《フェルディドゥルケ》などの作品で20世紀文学中特異な地位を占める。1967年《コスモス》によりホルメントール賞を受賞。

こんぺいとう 【金平糖】 掛け物菓子*の一種で，角のある小さな糖菓。語源はポルトガル語のコンフェイトスで渾平糖・金餅糖などとも書いた。南蛮菓子の一種で，室町末期ごろの渡来。貞享年間(1684～1687)に長崎で盛んになり，京阪(けいはん)地方・江戸へと広まった。明治末期まで子ども用から茶菓子にまでも広く用いられたが洋菓子が輸入されてからはだんだん影を潜めていった。平面回転なべを適度の傾斜にささえて回転させ，下からたえず加熱しながらケシの実を入れ，これをしんに砂糖みつをふりかけ，かわいたらまたふりかけることをくり返しているうちに，しだいに角が生じ，粒ができる。〔塩川ふみ〕

コンベヤー ［conveyer］ 石炭・鉱石・じゃりなどのばら物および各種の部品，製品・箱・袋物などを一定の路線に沿って，連続的に運搬する機械。大量荷物の長距離輸送に用いるほか，工場の生産ラインや配

→147ページ

コンピューター

［computer］

情報を自動的に処理する装置。連続量をそのまま計算するアナログ計算機*と，有限桁(けた)の情報を取り扱うディジタル計算機とがあり，ここでは後者について説明する。

〔歴史〕 加減乗除の四則計算ができる機械はかなり古くからあった。そろばんはその元祖であるが，これは自動的に桁上げをすることはできない。歯車などを用いた自動桁上げのできる計算機械の原形は，17世紀にパスカル*やライプニッツ*らによって考案され，今日では手でハンドルを回す卓上計算機，電動機による電動計算機，計算装置を電子回路化した電子式卓上計算機にまで発展し，広く使用されている。

コンピューターは卓上計算機と違い，自動的に連続して一連の計算を行なうことができる。このような着想は，19世紀初期のバベッジに始まるが，電子工学が発達する20世紀後半になるまで実現していない。一方，19世紀末ホレリスは穿孔(せんこう)カードを使って統計や会計処理をすることを思いつき，今日のパンチカード-システム*の基をつくった。

はじめて実用になったコンピューターは，電磁リレーを基本回路とするリレー計算機であり，1937年にハーバード大学でマークⅠがつくられ，さらに第2次世界大戦中の電子工学の進歩に基づき，真空管を基本回路とする世界最初のコンピューターENIAC(Electronic Numerical Integrator And Computer)が1946年ペンシルバニア大学でつくられた。ENIACは，電子回路を使用したコンピューターの計算速度が，それ以前の計算機に比べて格段に速いことを実証した。

コンピューターで計算を行なうためには，あらかじめ計算順序を示す一連の命令(プログラム)と計算に必要な数値(データ)とを準備しなければならないが，両者を区別することなく記憶装置にたくわえておくと，計算の途中でコンピューター自身が判断を下して計算を進めることができ，コンピューター使用上の融通性が著しく増大する。現在のコンピューターは，フォン-ノイマンにより1946年に提案されたこのプログラム*記憶方式を採用している。その後，半導体*技術の著しい進歩により，真空管はすべてダイオード*やトランジスター*に置き換えられ，また磁気的な記憶装置が開発されてからコンピューターの信頼性が大いに上がり，現在のように多くの人々がコンピューターを使用できるようになった。



コンピュータールーム。富士通FACOM230-60。いちばん奥に並ぶのが磁気テープ装置で手前が中央処理装置。その間に制御卓・カード読み取り機・印刷機などが配置される

コンピューターは，計算装置の性能がいかに高くても，うまくプログラムをつくって与えてやらなければ，この性能を発揮することができない。そこで，コンピューターの利用技術，すなわちソフトウェア*がきわめて重要な位置を占め，コンピューターの性能の大半はソフトウェアの良否によって決まるといっても過言ではない。そして，ソフトウェアは最近の10年間に急速な進歩を遂げ，コンピューターの利用度を著しく増大させている。

〔コンピューターの構成〕 コンピューターは，種々雑多な構成要素からできているが，機能的に大別すると図-1に示すように，五つの部分に分けられる。赤線は情報の流れを示し，コンピューターの外部(人間や他の機械)から与えられたプログラムとデータを含む情報は，入力装置を通って記憶装置にまずたくわえられる。次に，プログラム(命令のつながり)を逐次1命令ずつ制御装置に読み出し，命令の種類に従って必要な指令を制御装置から青線で示すように，他の四つの部分に伝える。演算装置は制御装置からの指令を受けて，所要のデータについて演算(処理)をする。このとき，必要があれば記憶装置との間にデータがやりとりされる。計算結果はプログラムに従って出力装置からコンピューターの外部へ送り出される。

①情報の表現方法：コンピューター内部では，すべての情報は，電圧の高・低とか磁束の方向の正・負など，二者択一で示される電気的または磁気的な2進符号(0と1)の組み合わせで表現されている。nビット*の2進符号は2^n種類の情報を区別できるので，情報の種類数に応じて適当なビット数の符号を選ぶが，もとは文字情報の場合英文字と数字にいくらかの記号を加えたものには6ビットの符号を使用してきたが，最近は8ビット(1バイトという)の符号が普及し，264文字まで表現できるようになった。

数値情報には2進符号をそのまま使う2進表示と，2進4ビットで10進数1桁を表わす10進表示とがある。使用できる数値の桁数は一定長のものが多く，使用する数値の大小がさほど変化しない事務用計算の場合には最上位桁の前，または最下位桁の次に小数点を置いた固定小数点方式を用いると回路が簡単になり，加減算の計算時間が短い。一方，極端に大きな数や小さな数を取り扱う科学用計算の場合には，$0.x_1x_2\cdots\cdots x_n\times2^{\pm m}$(または$10^{\pm m}$)の形に数値を表現して有効数字$x_1x_2\cdots\cdots x_m$と指数$\pm m$とをその数値を代表する情報と定める浮動小数点方式とがある。

正負の符号には1ビットまたは1桁をあて，負数の表現は負符号と絶対値，または補数形を用いる。後者はさらに，1または2の補数(2進法)および9または10の補数(10進法)の2種類があるが，主として後者が用いられている。

②演算装置：いくつかのレジスターと加算器その他の演算回路とを組み合わせて演算装置を構成する。加算器とレジスターを図-2のように結合した累算器(アキュムレーター)に被加数を置き，記憶装置(または

他のレジスター。図ではMレジスター)上の加数とを加えることにより累算器上に和をつくる。減算の場合は減数を補数回路を通してから累算器に加える。乗除算を行なうには少なくとも3個のレジスターが必要である。n桁の乗算では被乗数を置くM-Qレジスターと累算器のレジスター(2倍長に取ることが多い)とは右向きのシフトレジスターであって，被乗数の最後の桁の数値の回数だけ乗数(Mレジスター)を累算器に加え，両レジスターを右にシフトし，また同じことをn回くり返して$2n$桁の積が累算器に得られる。除算は被除数を累算器に置き，これを左にシフトしながら除数(Mレジスター)が引けた回数をM-Qレジスターにつくっていくと商になる。

③記憶装置：記憶装置に情報を出し入れするのに要する時間(アクセス時間)には，マイクロ秒程度の高速なICメモリーやコアメモリーと，ミリ秒以上かかる磁性面メモリーとがある。半導体フリップフロップを高密度集積化したICメモリーは最も速く，数十ナノ秒で読み出しや書き込みを行なえるが，電源を切ったとき記憶を失う。直径1mm以下のフェライトリングの磁化の向きで記憶するコアメモリーは最も広く使用されている。このほかに，わが国で開発された磁性薄膜を使ったワイヤメモリーがある。これらはコンピューターの主記憶装置を構成する。

低速の磁性面記憶装置はおもに大容量の補助メモリーとして使用され，テープレコーダーと同じく磁化された磁性面がヘッドコイルの下を通るときコイルに流す電流で磁化して情報を書き込み，電磁誘導で出力電圧を取り出す。磁性面をドラム状にした磁気ドラム，円盤状の磁気ディスクおよびテープ状の磁気テープがあり，速度および容量はこの順に高⟷低，小⟷大となる。ほかに，磁気カードや超音波遅延線がときどき使用される。

④入出力装置：入出力装置はコンピューターと外界との仲介をする装置であって，外界が人間の場合と他のコンピューターや機械の場合とがある。人間が認識できる情報の表現方法は文字・記号・図形および音声などであり，コンピューターは2進符号の電気信号しか受け付けない。

コンソールタイプライターのように人間が鍵盤(けんばん)をたたいて直接コンピューターに情報を送る場合もあるが，一般には情報を穴の有無で符号化してパンチカードや紙テープのような記憶媒体にたくわえたのち，大量の情報をまとめて光電式のカードまたは紙テープ読み取り機でコンピューターに入れるのが普通である。前者は毎分200～2,000枚のカードを，後者は毎秒100～2,000字の速度で入力できる。文字や図形を直接コンピューターに読ませることは困難であるが，特殊な活字やインキを用いた文字読み取り機(光学式および磁気インキ式)が多く用いられるようになり，手書き文字の読み取りの研究も進められている。

文字を出力とする場合はブラウン管上に直接表現するのを除いて，紙に印刷して人間に表示するのが普通である。個人用にはタイプライターを使用するが，印刷速度(毎分4～5行)がおそい。多数の使用者に出力

図-1 コンピューターの機能図

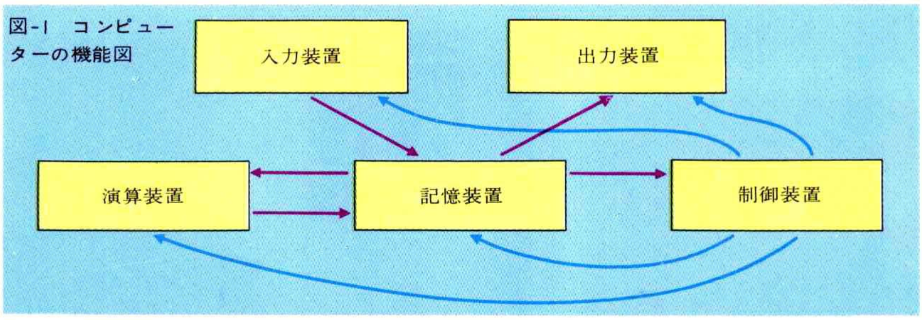
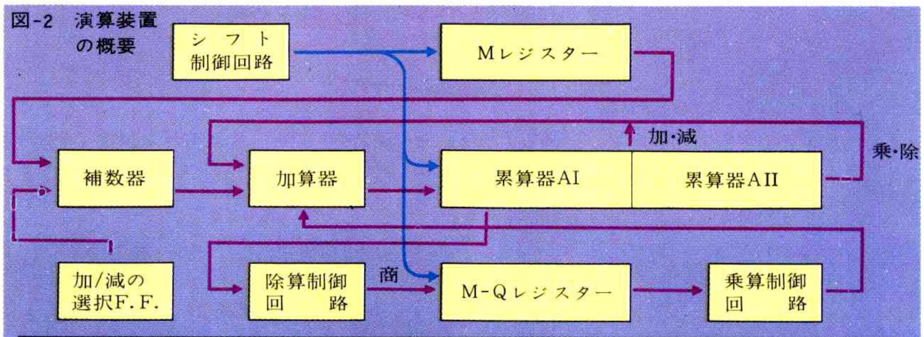


図-2 演算装置の概要



演算によるレジスターの内容の変化

演算の種類	M	演算前 AI	演算前 AII	演算前 M-Q	演算後 AI	演算後 AII	演算後 M-Q
加算 X+Y→Z	Y	X	—	—	Z	—	—
減算 X−Y→Z	Y	X	—	—	Z	—	—
乗算 X・Y→Z	X	—	—	Y	ZI	ZII	—
除算 X÷Y→ZあまりW	Y	XI	XII	—	WI	WII	Z

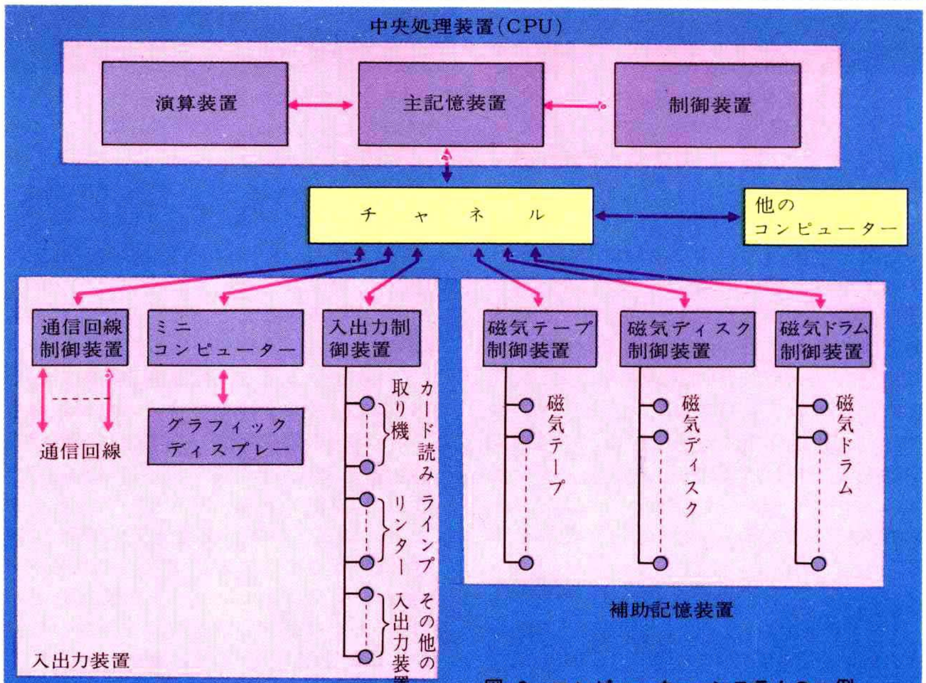
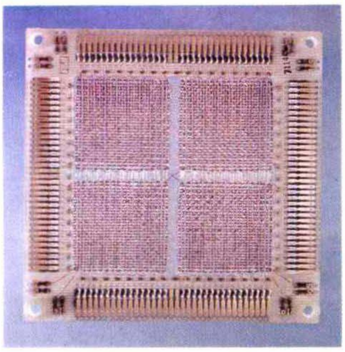
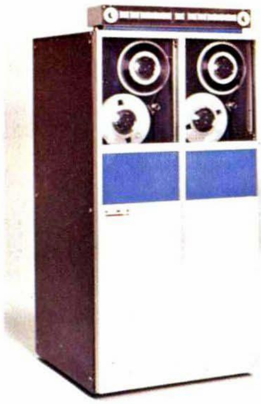


図-3 コンピューター-システムの一例

記憶装置



コアメモリー コア一つに1ビット記憶させることができる。巻き線は読み出しおよび書き込み用



磁気テープ装置 磁気テープは取り換え可能。連続した情報を大量に記憶するのに便利



磁気ドラム装置 容量は約2,000万ビットまでであるが，アクセス時間が短い

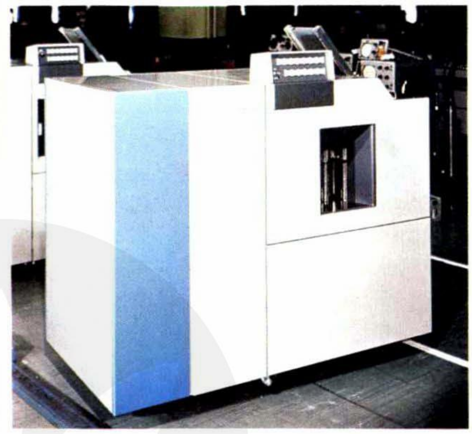


磁気ディスク装置 この写真は大ディスクで，ディスクの交換はできないが，中容量で交換可能なものもある

入出力装置







(左)**グラフィックディスプレー** 図形出力をブラウン管上に表示する。ライトペン(人物が右手に持っている)を用いて入力させることもできる (右)**ラインプリンター装置** 1行136字，毎分1,000行の速さで印刷する

カード読み取り装置 毎分約1,000枚ほどのカードを読んでコンピューターに情報を送る

を供給するラインプリンター(行印刷機)は1行分の字数(120字または132字)だけの活字をドラムなどに用意し，1行分を同時に印字し毎分数百行から1,000行以上の高速で印刷できる。最近は電子記録の原理により毎分10,000行以上の超高速印刷機が開発された。他のディジタルコンピューターやディジタル動作をする機械には，直接電気信号を受授すればよいが，アナログ動作をするコンピューターや機械との入出力装置にはA-DおよびD-A変換回路を必要とする。

【コンピューターのプログラム】 コンピューターの制御は，比較的少種類の基本的動作の組み合わせで行なわれ，1動作の指令を命令，命令の組み合わせをプログラムという。プログラムは記憶装置に格納されており，1命令ずつ制御装置に取り出され，解読されたのち，その命令の実行指令が他の諸装置に送られる。命令は動作の種類を指定する操作部と命令の対象となるデータの記憶装置内での所在場所を示すアドレス部とからできている。

プログラムの作成は適当な命令を選択して組み合わせることと，必要なデータにアドレスを与えることである。制御装置が直接解読できる2進符号(機械語という)でプログラムをつくることはまちがいを犯しやすいので，あまり行なわれていない。命令の操作部を人間の記憶しやすい文字の組み合わせ(たとえば，加算の命令にはADD)で表現し，またアドレス部もデータの名まえ(たとえばXとかTIMEなど)を利用して他と区別できるように表記する。この形式で書かれた命令はアセンブラーとよばれるが，そのままでは制御装置が解読できないので操作部を機械語の符号に変換し，また，異なった名まえのアドレス部に対応して実際のアドレスを割り付けるプログラムを用意し，機械語に変換したのちにはじめて実行可能となる。アセンブラーを利用するときコンピューターの使用時間は増大するが，プログラム作成時の誤りを少なくし，またその訂正を容易にするので，プログラムを完成するまでの全時間および労力を著しく軽減することができる。

プログラムをつくるとき与えられた問題を解析して処理手続きを定める。科学や工学の問題ならば処理手続きはいくつかの数式の集合として書かれるが，プログラム言語として数式の形式のままでコンピューターが処理できればいっそう便利であり，個々の命令についての知識なしでプログラムがつくれる。FORTRANはこの目的につくられたプログラム言語で，たとえば二次式ax^2+bx+cを計算してこれをyと置く場合，Y＝A＊X＊＊2＋B＊X＋Cと書き，ステートメントとよばれる。FORTRANのステートメントは，そのまま一つの機械語の命令に対応するのでなく，いくつかの命令を組み合わせて機械語に翻訳されるのであって，この種のプログラム言語をコンパイラーとよぶ。FORTRANはまた，たとえば判断を下すステートメントにはIFとかGO，TOのような日常言語(英語)を取り入れるなど数式以外のステートメントも使いやすいよ

うにくふうしてある。これはもともとはIBM社のコンピューター用につくられたプログラム言語で，広く世界各国で使用され，日本工業規格(JIS*)にも制定されている。科学計算用のコンパイラーにはこのほかALGOLがある。

コンピューターの大部分は，科学計算よりは事務処理に使用されており，その目的のコンパイラーにCOBOLがあってFORTRANより日常言語に近い表現が許され，入出力の記述が詳細にできるので作表などはずっと楽に処理できる。FORTRANとCOBOLの機能を合わせもち，さらに順につながったデータなどを処理するリスト処理言語なども含めたPL/1とよばれるコンパイラーが新たに登場し使用されるようになってきた。また，特殊な問題を処理するために特別につくられたプログラム言語があり，たとえばシステム-シミュレート用のGPSSやSIMSCRIPTとか工作機械をコンピューターで働かすためのAPTなど多数用意されている。

〔コンピューターのシステム〕 コンピューターの構造は図-3に示すとおりである。演算装置と制御装置および磁気コアやICメモリーで構成される主記憶装置とを合わせて中央処理装置(CPU)とよび，磁気テープ・磁気ディスク・磁気ドラムなど低速大容量の補助記憶装置と各種入出力装置(通信回線を通じて遠方に置かれているものも含める)などは周辺装置とよばれ，チャネルを介してCPUに接続されている。

一般にCPUの演算速度は周辺装置の処理速度に比べて数十倍から1,000倍以上も速いので，同時にただ一つのプログラムしか処理しない場合，おそい装置が働いているとき，CPUは休止しており能率が悪いが，いくつかのプログラムを用意し，あいている装置を活用して同時に複数のプログラムを処理させるとコンピューターをむだなく運転することができる。これを多重プログラム処理システムという。

多重処理の場合，いつどの装置にどのプログラムを処理させるかの選定を行なうが，その選定自体もコンピューターがそれ専用のプログラムによって決定することができる。すなわち，コンピューター-システムは，この管理プログラムに統率されて多くのプログラムを連続的にすべてを自動処理することができる。これをバッチ処理という。

バッチ処理では，パンチカードや行印刷機のような入出力媒体を経由するので，利用者が多くなると計算を依頼してから結果が手もとにもどるまでの時間が長くなる傾向がある。直ちに回答が得られるように，利用者(人間も機械も含めて)とコンピューターが直接結ばれているときオンライン-リアルタイム-システムというが非常に高価になる。しかし，利用者の情報伝送速度がおそい場合，コンピューターは入手した情報をきわめて短時間に処理してしまうので，多数の利用者に対して逐次分割して処理しても，利用者は連続して処理されているように感じ，自分ひとりでそのシステムを専有しているように利用できる。このシステムは，コンピューターの多数の利用者による時分割共同使用であってTSSとよばれる。

多重処理やTSSをきわめて高度に行なわせる場合には，単一のCPUでは不十分となり，いくつかの処理装置をもったマルチ-プロセッサー-コンピューター-システムが開発されている。

〔コンピューターの応用〕 コンピューターを使用目的により事務処理用と科学計算用とに分けているが，両者の間に本質的な差異はない。ただ事務処理用は多量のデータを取り扱い，それらを格納したファイルの照合と更新やレポートの作成がひんぱんに行なわれるので，ファイルの構成方法や取り扱いおよびレポートの作成方法に多くのくふうがなされている。また給与計算とか伝票の処理のような単純な事務処理だけでなく，在庫管理や生産管理など高級な事務処理をコンピューターで行なう会社が増大してきた。さらにこれらの情報をオペレーションズ-リサーチ*(OR)などの高度な手法で処理して事業体の管理者に提供し，経営の意志決定の資料とするMIS(経営情報システム)などに発展した。コンピューター-システムをリアルタイム-システムにすれば，経営のトップは必要なときにTSSを利用して必要な情報を取り出すことが可能である。

科学計算の場合は，数値計算への利用から始まった。数値計算は行列や連立一次方程式などの線形計算，代数方程式や超越方程式の求根，数値積分，関係近似，微分方程式の求解など確定的な計算や統計計算，さらに確率的な現象を乱数を用いて再現しながら計算するモンテカルロ法など，きわめて多くの分野に広がっている。

TSSの発達はコンピューターの利用法に革命的変化をもたらし，いくつかの大学や研究所では研究者は自分の研究室にTSSの端末を置き，必要なときにいつでもコンピューターを利用して即座に回答を得ることができる。また，押しボタン式の電話機を所有している人は，押しボタンダイヤルの操作により日本電信電話公社のコンピューターを用いて簡単な数値計算を行なえるようになっている。このシステムは，答えが音声で返ってくるので複雑な結果が出るような問題には不向きであるが，まもなく印刷電信機を使用してより高度のシステムが利用可能になる。また，いろいろな物を設計するような場合にも，図形の表示ができる端末装置(グラフィックディスプレー)を使用すればコンピューターの助力を得ることができる。このシステムを利用した設計をCADという。

コンピューターはシミュレーション*の強力な道具になっている。現代の大規模な各種システムはコンピューターによるシミュレーションなしでは計画できないであろう。機械からプラントまでの制御もコンピューターの重要な応用である。アポロ宇宙船の飛行には，きわめて大きなコンピューター-システムのバックアップがあって安全に運行されたのである。

コンピューターはまた，サービス事業でも偉大な貢献をしている。国鉄の〈みどりの窓口〉はオンライン-リアルタイム-システムの最も成功した例であって，座席の有無を知って(ファイルへの照会)，座席の予約(ファイルの更新)をし，直ちに切符を発行できる。銀行システムもその一つで，システムに加入している銀行ならば，どこの支店でも預金の出し入れができる。さらに，将来はクレジットカードとあいまって，金銭の受け渡しはすべて銀行にある預金口座間の振替で行なわれ，現金を必要としないキャシュレス社会に移行するだろうといわれている。

このように，コンピューターの発達はコンピューターがわれわれの社会生活において必要欠くべからざる存在となってきた。コンピューターを中心とした理想社会という意味でコンピュートピアなどということばまで生まれている。しかしながら，産業の不注意な発達が多くの公害を発生したように，情報化社会もまたコンピューター-システムの悪用による利益の独占とかプライバシーへの侵害など，新しい種類の害悪を生ずるおそれが多分にあり，コンピューター-システムの社会への導入に際して，われわれは細心の注意を払う義務があるものと考える。 〔小原啓義〕

送センター・流通倉庫などに広く用いられ，作業の合理化や省力化に役だっている。きわめて多くの種類があり，使用の目的や用途により選択される。①ベルトコンベヤー：フレームの両端に設けたベルトプーリーにエンドレスのベルトを張り，その上に荷物を載せて運搬するもの。ばら物の大容量・長距離輸送に最も適し，3m広幅ベルトの出現により，容量的には25,000m^3/時，機長も10数kmのものが可能になった。動く歩道(オートライン*)はベルトコンベヤーの原理を応用したものである。②チェーンコンベヤー：ベルトの代わりにチェーンを媒体としたもので，チェーンに直接荷物を載せるもの，チェーンに各種のアタッチメントを取り付け

てそれに荷物を載せるもの，チェーンに荷物をつり下げるもの，チェーンをといの中に通し，荷物との相互摩擦により運搬するものなど，多くの種類がある。③ローラーコンベヤー：多数のローラーまたはホイールを並べ，それにより箱詰めのもの，パレットなどを運搬するもの。④スクリューコンベヤー：といの中をスクリューによりばら物を運搬するもの。⑤振動コンベヤー：荷物を載せたといに振動を与えて運搬するもので，振動を与える方法により機械・電磁・電気式がある。⑥流体コンベヤー：流体を媒体として管中の荷物を運搬するもので，空気コンベヤー・水コンベヤーがある。気送管コンベヤーは主として伝票・書類などを入れたキャリア(気送子)を搬送するものである。⑦エアフィルムコンベヤー：運搬面と荷物の間に空気のフィルムをつくって摩擦を軽減し，荷物を運搬するもの。⑧エレベーターコンベヤー：荷物を垂直または急傾斜に連続運搬するもので，チェーンまたはベルトにバケットやアームを取り付けたものなどがある。〔加藤竹夫〕

コンベヤーシステム ［conveyer system］ 流れ作業方式の一。コンベヤー上で製造工程に従って部品を組み立てる方式。自動車やテレビジョンなどは非常に多くの部品で構成されているが，1台を1人で組み立てるには作業員が高度の技術を必要とし，数多くの部品をすべてそのまわりに集めなければならない。これでは不便であり，組み立てに多くの時間を要する。そこで，組み立て順序に従って機械・部品を配置し，しかも組み立て作業を分割してそれに必要な作業員を配置し，各作業員はコンベヤーによって流れてくる部品に各自専門の部分のみを組み立て，組み立てラインの最終にきて完全に組み立てられるようにした方式である。

1913年アメリカのH. フォード*が自動車の組み立て作業に利用して大きな成功を収めて以来，広く各種の作業に採用されるようになった。フォードの実験では1個の自動車用発電機の組み立てに1人の作業員が約20分要したが，これを29の作業に分割し，29人の作業員を発電機組み立てにあたらせたところ，1人あたり13分20秒に1個の割合で完成品ができあがった。のちに改良を加え5分に1個の割合で生産されるまでになった。なお，コンベヤーシステムによく似た流れ作業方式にタクトシステム(ドイツ式流れ作業方式)がある。これは第2次世界大戦に際し，ドイツで航空機の大量生産方式として開発され，組み立て作業中はコンベヤーが停止し，作業が終了すると次の工程へコンベヤーで部品を移動させる方式である。〔成田武男〕

コーンベルト ［Corn Belt］ アメリカ合衆国中部のトウモロコシ栽培の中心地域で，オハイオ州中部からインジアナ・イリ



コンベヤー (上)ベルトコンベヤー (下)チェーンコンベヤー

ノイ・アイオワの諸州を経てネブラスカ州中央部，カンザス州中央部にわたる範囲をいう。土壌(どじょう)が肥沃(ひよく)で，土地は平坦(へいたん)あるいはわずかな波状をなし，夏の気温が高く，しかも適度の降水量がある。トウモロコシなどの飼料作物を栽培し肉牛やブタなどの家畜飼育が盛んで，合衆国の農村で最も富裕な所である。〔相村大彬〕

コンベンショナリズム ［conventionalism］ 便宜主義・規約説・約束説などと訳される。フランスの科学者ポアンカレ*によって唱えられたもので，数学や科学の理論は，それが自然を記述するのに最も便利であるという観点から選ばれたものであるとする説。ポアンカレは，19世紀における非ユークリッド幾何学の成立に伴い，ユークリッド幾何学と非ユークリッド幾何学はどちらが真であるかという問題ではなく，どちらが応用に際して便利であるかという問題なのであるとし，そこからコンベンショナリズムの立場を樹立した。〔寺中平治〕

こんぼう 【混紡】 異種の繊維を2種以上混合して紡績する方式。その目的は，①主要な繊維の不足に対して入手可能な他の繊維を加えて数量を増すため，②各繊維がそれぞれその特長を持ち寄り，互いに相手の繊維の欠点を補い合って，用途に適した性能をもった製品をつくりあげるため，などである。近来は，主として②の目的によって行なわれる。原料繊維の組み合わせとその比率は，用途・目的によって定められる。天然繊維に合成繊維の混紡される場合は，天然繊維の吸水性が合成繊維の吸水・透湿の能力のないのを補い，代わりに合成繊維の耐久性・防皺(ぼうしゅう)性・形態安定性が，それを不足する天然繊維の欠点を補うという働きを発揮して，特長のみをもつ製品がつくられることになる。したがって，純製品より混紡製品のほうが欠点のないものとなるわけである。合成繊維類は多く混紡して製品化される場合が多い。綿-ビニロン混紡・綿麻-ポリエステル混紡などは耐久力・形態安定性を要する作業服地・制服地・シャツ地などに，毛-ナイロン混紡・毛-ポリエステル混紡・毛-アクリル混紡は形くずれしない服地などに用いられる。その他綿-レーヨン混紡・毛-レーヨン混紡・絹-毛混紡・アセテート-レーヨン混紡などがある。混紡製品の取り扱いは両繊維の性能を害さないように，低位のものを標準として処理する必要がある。〔小川安朗〕

こんぽう 【梱包】 包装または荷造りのこと。単に結束しただけのものから輸出向けなどの厳重なものまでさまざまな方法・形態がある。日本工業規格(JIS*)によれば，〈包装とは，物品の輸送保管などにあたり，価値および状態を保護するために適切な材料・容器などを物品に施す技法および施した状態をいう〉とし，さらにこれを個装・内装および外装の3種類に分ける。個装とは，品物の個々になされる包装で，バター1個，せっけん1個など，包装されたままの状態が商品であるところに特色がある。内装は，外装に対する内部の包装で，防湿紙で包んだり，緩衝材を挿入(そうにゅう)したりすることで，外装は，最も外側の包装で，運搬のためのものであり，荷印をつけた箱に納める，木でわく組みするなどがこれにあたる。包装を材料や形態からみると，木箱・透かし木箱・ワイヤバンドボックス・木わく・和だる・洋だる・板締め・かご・段ボール箱・紙袋・紙包み・ボンベ・ドラムかん・ブリキかん・鉄板あて・針金締め・帯鋼締め・合成樹脂びん・合成樹脂かん・合成樹脂袋・合成繊維袋・麻袋・もめん袋・網袋・ガラスびん・かめ・むしろ包み・こも包み・俵・かます・かや俵・なわ掛けなどに区分することができる。これらのうち，量的には段ボール箱や紙袋などが多くを占めており，俵やかますはほとんど見られなくなり，合成樹脂製の材料によるものが急増してきている。また，石油類をはじめ，セメント・小麦・飼料などをなるべく無包装のままで大量輸送しようとしているのも最近の動きである。〔坂本侑三〕

こんぼくりん 【混牧林】 林業と畜産との複合経営を行なう林地。経営形態を大別すると，林内に家畜を放牧飼育するものと，放牧と採草とを兼ねるものとがある。ふつう野草を利用するが，牧草を栽培する集約的なものもある。近来，中国・四国・九州の民有林で新植幼齢林に肉用和牛の放牧が増加しつつあるが，それは造林地の下草利用と下刈り・つる切りなどの労力を省力するためである。混牧林の経営は林地・林木の被害を少なくするため，放牧度の適正と

合理的造林法とが必要である。〔中島道郎〕

コンポジション　⇨構図

ごんぼだね　【牛蒡種】　岐阜県・長野県の一部にあるつきものの家筋。生霊(いきりょう)づき・とりつき筋ともいう。一般につきものは想像上の動物霊が憑依(ひょうい)するのが普通であるが，これは人の生霊がつくと信じられる迷信。ごんぼだねの家の者がだれかを愛したり恨んだりすると，その念慮が相手につくので病気になるという。病気は民間の祈禱師(きとうし)がなおし，予防には狛犬(こまいぬ)の図がらの護符をはっておく。他のつきもの筋の家と同様に，縁組みその他社会的に疎外されている。〔今野圓助〕

コンミューン　［commune］　広くは自治権を獲得したヨーロッパの中世都市一般をさすが，狭義には11～12世紀に主として北フランスに成立した中世都市の一形態をいう。都市ははじめ封建領主の支配下にあったが，中世後期に商業が著しく発展したことから，市民はその商業活動を保障し合うために，都市内部の平和・安全の確保，相互扶助を目的に互いに誓約を結んで一つの共同体をつくりあげ，その誓約団体の結成を封建領主か国王に承認させた。これをコンミューンとよび，共同体内の市民的連帯性が基本的性格となっていた。しかし，13世紀にはいると，フランス王権は封建領主に対抗するためにコンミューンを積極的に利用するようになり，その自治権・裁判権・軍事権は王権の保障によって強化された。そのため，共同体的性格はしだいに失われて，内部にも寡頭政治が出現するようになった。〔大野真一郎〕

こんめい　【昏迷】　精神活動が停止したかのように外界の刺激に無反応で，じっとして動かぬ状態。精神分裂病の緊張型にみられる緊張性昏迷，ヒステリー性昏迷，抑鬱(よくうつ)性昏迷などのほか，脳腫瘍(しゅよう)など器質的疾患の場合にもみられる。ふつう意識は失われていないが，刺激に応じる意志が極端に欠けているのが特徴的である。

こんめい　【昆明】　クンミン　中国，雲南省の省都。海抜2,000m近くの石灰岩の高原上にある。北ベトナムと通じる昆河鉄道(昆明～河口)や，昆霑(こんてん)鉄道(昆明～霑益(てんえき))・成昆鉄道(成都～昆明)が集まり，公路も四川・貴州・ビルマへと通ずる。7月の平均気温22℃，1月が9.5℃で年較差が少なく〈四時春のごとし〉といわれる。中華人民共和国成立以後は商業のほか，鉄鋼・機械などの工業が盛んになり，中国南西部における屈指の工業都市として発展してきている。〔千田　稔〕

こんめいちのそうじ　【昆明池障子】　清涼殿の東側弘廂(ひろびさし)の南端に立てられ北端の荒海障子と対する高さ1.8m，横2.7mのついたて障子。表に漢の武帝が水戦訓練のために長安城の西に掘らせたという昆明池の極彩色の唐絵(からえ)，裏に嵯峨野(さがの)の小鷹狩(こたかがり)の大和絵(やまとえ)が描かれている。嵯峨天皇の弘仁(こうにん)年間(810～823)，紫宸殿(ししんでん)の賢聖障子(けんじょうしょうじ)，荒海障子とともに描かれた。



昆明池障子　嵯峨野の小鷹狩の大和絵。裏に昆明池の極彩色の唐絵が描かれている

こんもう　【根毛】　根の表皮細胞から管状に伸びた単細胞性の細い毛のようなもの。土壌(どじょう)粒子中にはいりこんで水分・養分を吸収する。根の先端より1cmほどのところからその少し上のところまでに限ってはえる。根が伸びるにしたがって古い根毛は脱落するか吸収能力を失う。水生植物にはみられない。

こんやく　【婚約】　⇨婚姻予約

こんよばんこくぜんず　【坤輿万国全図】　中国，明(みん)末の1602年に北京(ペキン)で出版された世界地図。マテオ・リッチの作。縦約1.8m，横約4.15m。6幅。中国を中央に配し，左にヨーロッパとアフリカ，右に南北アメリカを置く。五大陸や寒・温・熱の3気候帯の観念が明確に示され，それまで中国人がいだいていた中華と四裔(しえい)(東夷(とうい)・南蛮・西戎(せいじゅう)・北狄(ほくてき))からなる世界地理観を根底から打破した。

コンラッド　［Joseph Conrad］　(1857～1924)　イギリスの小説家。ポーランドに生まれたが，故国を捨てマルセーユに行き，長い海員生活ののちイギリスに帰化，《オルメヤーの愚行》で小説家として登場。《ロード・ジム》《青春》《台風》などの海洋小説のほか，《ノストロモ》《スパイ》など一連の政治的な作品がある。多くは，熱帯や革命の世界など異常な極限状況を扱い，陰影に富む象徴的文体，斬新(ざんしん)な技法，濃密なふんい気の中で，人間性の暗い深淵(しんえん)が鋭く凝視される。同時代のH.ジェームズと並んで，主題・技法における現代イギリス文学の先駆的存在である。〔井内雄四郎〕

コンラート　［Konrad］　ドイツ国王。

[1] 1世(？～918)　在位911～918年。911年，東フランク王国のカロリング朝が断絶したのち，東フランクの部族公たちは西フランク王国のカロリング朝に服さず，フランケン公コンラートをドイツ国王として選んだ。しかし，王は異民族の侵入や部族公の割拠に悩み，王権はまったくふるわなかった。王は死に際し，次の国王にザクセン公を指名した。

[2] 3世(1093～1152)　在位1138～1152年。シュタウフェン家出身で，ザクセン家出身のドイツ国王ロタール3世の対立者として反国王派に推され，ロタールの死後，正式に即位した。しかし，王位は反対派との勢力争いのため不安定であった。第2回十字軍に参加したが，疫病流行のため成果をあげることができなかった。〔松　俊夫〕

こんりゅう　【根粒】　高等植物の根に細菌が共生し，根のところどころに異常肥大生長を起こさせてこぶ状となった部分。マメ科植物のほとんどのものにみられ，春，根毛から侵入した根粒細菌が皮層を通って内鞘(ないしょう)(内皮の内側の数層の柔組織)の組織を刺激し，異常肥大生長を根に起こさせてこぶをつくる。こぶの中には多くの根粒細菌があり，マメ科植物と共生生活を行なっている。また，ハンノキ・グミ・ドクウツギなどの根にも根粒が形成され，放線菌が共生する。なお根瘤病(ねこぶびょう)によるこぶも根粒ということがある。〔代谷　康〕

こんりゅうさいきん　【根粒細菌】　根粒菌ともいう。土壌(どじょう)細菌の一つで，リゾビウム属に属し，マメ科植物の根に生ずる根粒中に共生している。根粒細菌はマメ科植物の根から炭水化物などをとり，空気中の窒素を固定して窒素化合物をマメ科植物に供給する。マメ科植物が窒素肥料を与えられなくても育つのは，この根粒細菌のためであり，レンゲソウなどを栽培して田の中にすきこみ，緑肥として利用するのもこのためである。共生するマメ科植物の種類によって細菌の種類も違う場合が多い。根粒細菌は純粋培養を行なうこともできるが，この場合は窒素固定は行なわず，窒素源を与えなければならない。〔吉田精一〕

こんれいいしょう　【婚礼衣装】　結婚式に花婿・花嫁が着用する衣装。現今では，花嫁の色直しの衣装をも含めていうことが多い。元来，結婚式は神への誓約と祈願の意味をもつものであるため，その服装は祭服であり，清浄・華麗を主とするが，その国の民族的特徴や伝統的しきたりを継承する古典的な服装が多い。招婿婚であった平安時代には，夫は盛装して妻方に行ったが，特に定まる衣装はなかった。室町時代にはいると妻が夫方に行く形式となって結婚式が行なわれるようになり，身分による服装の規定ができて江戸時代の末まで続いた。武家では狩衣(かりぎぬ)・指貫(さしぬき)・直垂(ひたたれ)・素襖(すおう)・大紋・裃(かみしも)などの礼装が身分に応じて着られ，下級武士は半裃(半ばかま)とされた。富裕な町人も半裃を着用したが，一般庶民は羽織・はかまであった。嫁は清浄を表わす意味で振りそでの長着も帯・打掛・綿帽子もすべて白色を用い，白装束とよばれた。

明治以降，身分制度の崩壊に伴い，江戸

末期から公服となっていた黒五つ紋付の羽織*に襠(まち)ありばかまが花婿の衣装となった。長着には無地の節糸織・お召しなどが用いられたが，中流以上では黒羽二重五つ紋付で，藍鼠(あいねずみ)・青磁鼠色などの羽二重無垢(むく)の２枚重ねを着た。羽織は羽二重・斜子・奉書紬(ほうしょつむぎ)であった。夏季は，中流以上では平絽(ひらろ)の羽織に麻の水浅黄地の五つ紋付のひとえ長着であり，一般では麻の縞(しま)・絣(かすり)が着られた。また花嫁衣装の打掛は総模様(ししゅう)の大振りそでに変わり，白無垢２枚重ねの掛下長着，丸帯，高島田に角隠しで扇子をもつのが上級階級のしきたりとなった。色直しは好みの地色の振りそでにたて矢の字*に帯を結び，赤のしごきを結び下げ，箱迫(はこせこ)をふところに入れる。しかし，一般庶民は，黒五つ紋付江戸褄(えどづま)模様*の留めそでに白羽二重か白縮緬(ちりめん)の下着を重ね，たて矢の字結びの帯，しごきは黄色・桃色・赤を使うことが多かった。これに高島田に角隠しをして紅白の鼻緒のついた畳つき３枚重ねぞうりというのが1955年(昭和30)ごろまで続いた。その後，経済の高度成長に伴い，貸し衣装による豪華な振りそで・丸帯の姿が全国的に流行し，さらに1963年ごろからは，打掛がこれに加わった。男子は大正の末から和服がすたれてフロックコート，次いでモーニングコートが一般の礼装となり，これが婚礼に着られるようになった。しかし最近では，花嫁の打掛衣装に調和させるために，花婿の和装が復活しはじめている。黒紋付羽織・はかま・黒紋付長着に白無垢の下着を重ねるもので，やはり貸し衣装の利用が多い。男子のこの和装は一般礼装としても着用されるが，花嫁の打掛衣装は婚礼独自の式服として古来の伝統を伝えるものである。〔堀越すみ〕

婚礼衣装



将軍の婚礼　婿は麻の長裃で，緘熨斗目の小袖に白下着。嫁は小褂に緋の長袴，白紋綸子小袖の褂袴姿で公家ふう。楊洲周延《千代田之大奥》から

このように民族固有のもの伝統的なものが持続している中にも，最近はヨーロッパ風のウエディングドレスを着用する花嫁も増している。ドレスは清純無垢を象徴した白が決定的なものとされているが，再婚者は淡い色物を用いる。たけは長く，床にトレーン(すそ)を引き，長そでではだはほとんど出さないデザインが正式であるが，最近はショートスカートでそでなしのものや，簡単なスーツ形式のものもある。材質は，

現代の婚礼衣装

花嫁式服(冬用)	
打掛	振りそで。表：白紋綸子か紋緞子。地紋は吉祥模様(ツル・カメ・松竹梅・末広など)。錦織り・金襴・銀襴を使うこともある。裏：赤羽二重の通し裏
掛下長着	振りそで(口綿入れ・比翼仕立て)。白羽二重・白紋綸子の白無垢２枚重ね
長じゅばん	白羽二重。半えりは白羽二重か，白地に金・銀のししゅう入り
掛下帯	白紋綸子・白紋緞子・白地金襴・銀襴。文庫結び
かかえ帯	白地金襴。平ぐけ
帯締め	白羽二重，またはかかえ帯と同布。丸ぐけ
その他	たび：白。ぞうり：紅白の重ねか銀。角隠し：表は白，裏は赤の平絹。紙入れ：白地金襴・赤地錦。懐剣：白地金襴の袋入り。扇子・象牙骨に金銀の紙，白または赤の飾りひもつき

花嫁式服(夏用)	
長着	黒染め抜き五つ紋付き。総模様の振りそで。上着は絽縮緬か平絽，下着は白の平絽。ひとえ重ねでお引きずりに着る
長じゅばん	白平絽。半えりは同布に白・金・銀のししゅう入り
帯	錦織りか絽唐織りの丸帯・袋帯。ふくらすずめ，またはたて矢の字結び
帯揚げ	羽二重か縮緬の緋鹿の子絞り
かかえ帯	赤地金襴。平ぐけ
帯締め	白か赤の羽二重，またはかかえ帯と同布。丸ぐけ
その他	たび・ぞうり・角隠し：冬に同じ。箱迫，または紙入れ：赤地錦。扇子：黒塗り骨に金銀の紙，赤の飾りひもつき

花嫁色直し(冬・夏用)	
長着	総模様の振りそで。地色・紋の有無は随意 冬：上着は縮緬・紋綸子の表に同色無地のすそ回し。下着は白羽二重か白縮緬の無垢(比翼仕立て) 夏：上着は絽縮緬・平絽・紋紗など。下着は白平絽。最近は，冬・夏とも下着を省くことが多く，訪問着ですますこともある。長じゅばんは好みの地色無地
帯	丸帯か袋帯(夏・冬兼用)。ふくらすずめ・たて矢の字結び
帯揚げ	緋鹿の子絞り
帯締め	白か緋の丸ぐけ，または金・銀の組みひも
その他	たび：白。ぞうり：金・銀その他長着に調和したもの。紙入れ：赤地錦。扇子：黒塗りか象牙骨。角隠しはとり，高島田か洋髪

花婿式服	
羽織	黒染め抜き五つ紋付き。冬は羽二重のあわせ仕立て。夏は平絽のひとえ仕立て。ひもは白
はかま	襠ありばかま。仙台平・博多(はかた)平など。夏・冬兼用(夏専用としては絽)
長着	黒染め抜き五つ紋付き。冬はあわせ仕立ての２枚重ね。上着・下着とも羽二重の無垢。下着の地色は白か藍鼠など。夏は平絽のひとえ重ね
半じゅばん	冬はそでと半えりを下着と同色にそろえる。夏は白麻
帯	納戸色。献上博多織か紋織り。角帯
その他	たび：白。ぞうり：畳つきに白か黒の鼻緒。扇子：白





一般武士の婚礼
(左)婿はかちん色の半裃で，鉄色の無地熨斗目。嫁は白装束　(右)嫁の色直し　西川祐信《風俗玉鏡》から

絹・レースの豪華なふんい気が好まれて人気があるが，ウールでも美しいシルエットをつくりだすことができる。頭にはチュールのベールやウエディングハットをかぶるが，長さは自由である。欧米では代々伝わる豪華なレースを使用することが風習となっている。　〔小池千枝〕

こんれんじ　【金蓮寺】　京都市北区鷹ケ峰(たかがみね)にある時宗四条派の本山。もと四条京極にあったので四条道場ともいう。1308年(延慶1)浄阿(じょうあ)が，後伏見天皇の皇后広義門院(藤原寧子)の皇子(光厳天皇)安産祈願の功により開基となった。1788年(天明8)大火で焼失したが，1825年(文政8)再建され，1926年(大正15)現在地に移転。寺宝に《一遍上人(しょうにん)行状絵伝》20巻，《浄阿上人縁起》などがある。

こんろんざん　【崑崙山】　中国の伝説中の山。黄河の源と信じられ，遠く西方にあるものと考えられてきた。また天に至る高山，美玉を産する山とされ，戦国時代末期からは神仙境(しんせんきょう)の性格をおびるようになった。

こんろんさんみゃく　【崑崙山脈】　クンルン山脈　中国西部，パミール高原からチベット高原の北縁を東西に走る山脈。東方では数派に分かれ，西方はカラコルム山脈に連なる。最高峰はウルームスターグ山(7,723m)。19世紀末から20世紀初頭にかけてヘディン*らによって踏査されて，その概要が広く知られ，1911年(明治44)には橘瑞超(たちばなずいちょう)らの本願寺の西域調査隊によって日本人による最初の踏査がなされた。

コーンワル(半島)　［Cornwall］　イギリス，イングランドの南西部，大西洋に突き出す半島。イギリス海峡とブリストル海峡を分けている。イギリス本国では最も気候のよい地域で，農業が盛んである。イギリス海峡に臨んでプリマス市があり，貿易港・軍港として発達している。

さ

ざ【座】

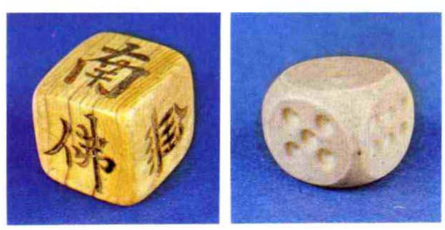
[1] 平安末期から鎌倉・室町時代に商工業者や運輸労働者・芸能人などが結成した特権的同業者団体。朝廷や寺社の儀式・法要などで特定の座席を占める奉仕者の集団から起こったが，平安末期になると朝廷や公家(くげ)・寺社などの本所*の要用に従うほか，営利活動を行なうようになり，本所もその奉仕を確保するために種々の特権を与えて保護した。古い例では1118年(元永１)の東大寺の鍛冶座(かじざ)があり，平安末期にはほぼ成立していたとみられる。中世になると商業経済の発達によって多くの座が成立し，それぞれ本所に生産物や労役などの座役を提供する代わりに，販売の独占権や諸税免除などの保護を受けた。座が最も発達したのは商品経済の進んでいた畿内(きない)，特に京都・奈良であったが，地方市場の発達に伴って，販売座席(市座)をもつ商人の諸座も結成された。戦国時代になると本所勢力の没落と新興商工業者の台頭，さらに戦国大名の領国経済拡大の欲求によって楽市・楽座*の政策がとられ，閉鎖的な座の組織は解体していった。江戸時代には一般商工業者の営業は自由であったが，幕府の貨幣発行所である金座*・銀座*・銭座*や幕府の専売事業を受け持つ銅座*・鉄座*などにその名が残った。〔鈴木英雄〕

[2] ➔宮座

さい【犀】 哺乳(ほにゅう)類・奇蹄(きてい)目・サイ科。第三紀*の後半に繁栄し，北アメリカ・ヨーロッパ・アジアに多くの種を産したが，第四紀*にはいってから多くは絶滅し，現在は南アジアに３種，アフリカに２種を産するのみ。四肢(しし)は短く，それぞれに３指・３蹄がある。頭は長く，また胴は長くて太い。尾は細く，先端に毛房がある。皮膚は厚く，毛はほとんどない。吻(ふん)の上の角は皮膚の角化したもの。性質は遅鈍。口は体のわりに小さい。目は非常に小さく，視力はきわめて弱い。縁に毛のはえた耳はらっぱ状で，聴覚は鋭い。ふつう１〜２頭で生活し，子はまる２年ほど母親と暮らす。ネパール・アッサムなどに分布するイッカクサイ(肩高1.6ｍほど，一名インドサイ)，ジャワのジャワサイ(肩高1.5m)，スマトラ・ボルネオ・マライ半島のスマトラサイ(サイ類中最小で，肩高1.4ｍほど)，アフリカのクロサイ(肩高1.6m，別名ニカクサイ)，シロサイ(サイ類中最大で，肩高２m)の５種類がある。〔今泉吉典〕



サ　イ　(上)クロサイ　(下)イッカクサイ



賽　(左)浄土双六に使用された賽と　(右)正倉院にある日本最古の賽(模造)　東京国立博物館蔵



彩　雲

さい【賽・骰子】 １〜６までの数を振り出し，勝負事に使用する用具。材料には木・土・骨・角・牙(きば)などがあり，古来象牙(ぞうげ)製を最上とする。賽の目は，立方体の６面の相対する面に１と６，２と５，３と４というように，目の数の合計がそれぞれ７となるものが世界的に流布している。賽の起源はきわめて古く，エジプト古代文明期にも遺物があったといわれ，メソポタミアのウル第一王朝の王墓から遊戯盤および賽が発見されている。BC49年カエサル*が〈賽は投げられた〉といってルビコン川を押し渡りローマに進撃した話は有名であるが，17世紀ごろからヨーロッパにダイス*ゲームが普及し，世界各地に伝わった。中国では古く神意を占う用具として六角柱状の木片の各面に文字を書いた賽が用いられたが，玄宗皇帝が楊貴妃(ようきひ)と骰子(とうし)を用いてすごろくに興じたと史書に記されているように，しだいに遊興に用いられるようになった。日本では735年(天平７)吉備真備*(きびのまきび)が囲碁・すごろくなどとともに唐からもたらしたのが最初の賽といわれている。はじめ宮中の遊戯として用いられたが，しだいに民間に伝わり，江戸時代になると，５個の賽を用いる遊びや２個の賽を用いる丁半という賭博(とばく)が行なわれ，いんちき賽もつくられた。なお浄土すごろくとよばれる古いすごろくでは，賽の６面に〈南無分身諸仏〉の６字を記したものが用いられた。➔双六(すごろく)　〔関　忠夫〕

サイアミン　⇨チアミン

さいいき【西域】　⇨せいいき

さいうん【彩雲】 絹積雲や高積雲の縁に，緑やピンクの薄い色がついて見えるもの。太陽光線が雲粒で回折されて現われる現象である。

さいえん【臍炎】 新生児の臍帯断端あるいは臍帯脱落後の創面に細菌が感染して起こる炎症。臍帯脱落後２〜３日に発病することが多い。へそのみでなく，隣接の皮膚も発赤腫脹(しゅちょう)し，症状が進行すると発熱，哺乳力(ほにゅうりょく)減退，体重減少など

の全身症状をも伴う。治療は，局所的にはリバーノールなどで湿布し，全身的には抗生物質などを用いる。

さいおんじきんもち【西園寺公望】1849～1940）政治家。号は陶庵（とうあん）。右大臣徳大寺公純（きんずみ）の次男に生まれ，幼時西園寺家の養子となる。1867年（慶応3）王政復古の際少壮公家（くげ）として参与となり，戊辰（ぼしん）戦争には山陰道鎮撫（ちんぶ）総督・東山道総督として転戦した。1870年（明治3）フランスに留学してソルボンヌ大学を卒業。帰国後明治法律学校（明治大学の前身）を設立，《東洋自由新聞》を創刊して自由民権思想（→自由民権運動）を広めた。1882年伊藤博文（いとうひろぶみ）の憲法調査に随行し，1885年以降特命全権大使としてオーストリア・ベルギー・ドイツに駐在して条約改正に努めた。帰国後は枢密院議長，文部・外務・大蔵の各大臣を歴任。1903年政友会総裁となり，1906年第1次西園寺内閣を組閣。1911年組閣した第2次西園寺内閣では2個師団増置案を退けて陸軍と衝突し，翌年総辞職。1919年（大正8）パリ講和会議（→ベルサイユ条約）に首席全権として出席，帰国して公爵を授けられた。以後元老として後継内閣首班推薦の任にあたり，立憲政治・政党内閣制を支持して健全な議会政治を理想としたが，軍部の政治進出をおさえられず，第1次近衛（このえ）内閣を最後に後継内閣首班推薦の任を辞した。〔高崎徳次〕



西園寺公望

さいおんじけ【西園寺家】藤原北家閑院の流れ。清華（せいが）家の一。琵琶（びわ）の家元として有名。公実（きんざね）の子通季（みちすえ）を祖とし，その曾孫（そうそん）公経（きんつね）が京都北山に西園寺を建立（こんりゅう）してのちこれを家名とした。公経は鎌倉幕府の支援を受けて太政（だじょう）大臣となり，以後朝廷・幕府間の連絡役，皇室の外戚（がいせき）として勢力をふるった。10世公宗（きんむね）のとき建武中興政府に謀叛（むほん）を企て滅ぼされたが，子実俊（さねとし）が再興した。30世公望（きんもち）は明治維新に功があり，公爵・元老となる。〔鹿野賀代子〕

さいかい【斎戒】⇨忌み

さいがいきゅうじょほう【災害救助法】1947年（昭和22）制定された法律。広範囲の地域に及ぶ震災・火災・水災など，または同一災害にかかった者が多数出たような非常災害に際して，国が地方公共団体・日本赤十字社，その他の団体や国民の協力によって応急的に必要な救助を行ない，被災者を保護し社会秩序を保全することを目的とする。救助の種類・程度・方法，国や都道府県の費用負担，都道府県が積み立てる必要基金などについて規定されている。

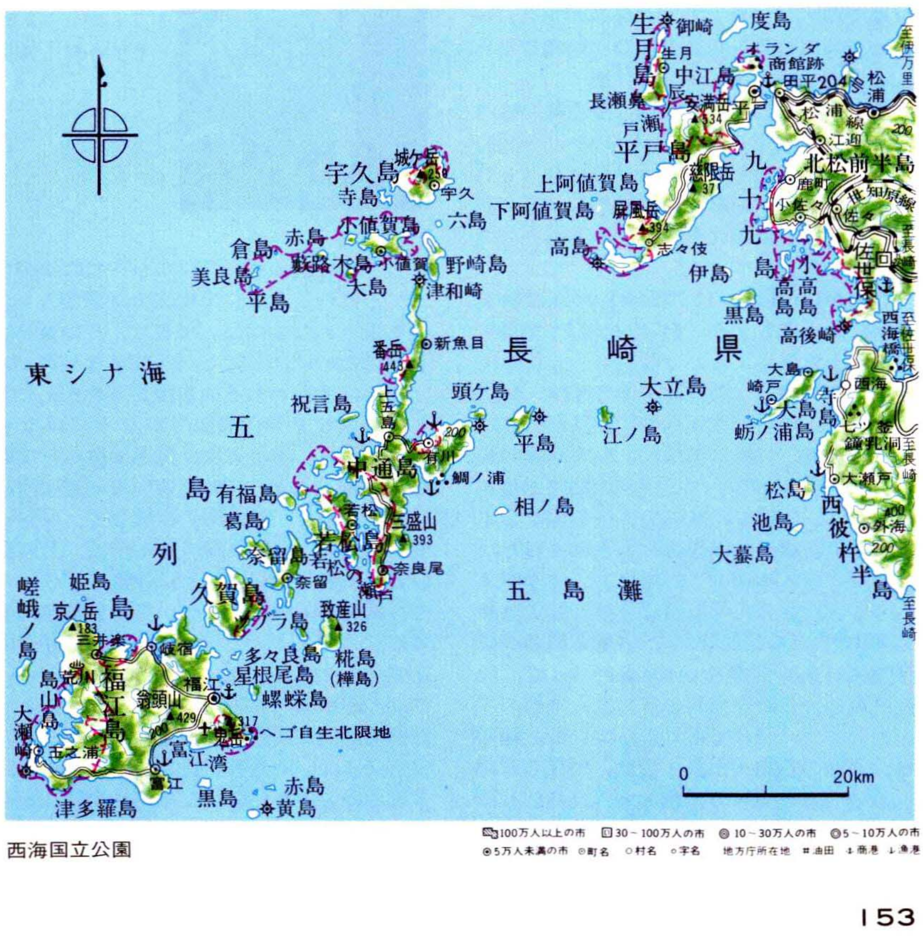
ざいがいこうかん【在外公館】大使館・公使館・代表部・領事館をさす。1970年（昭和45）3月末現在のわが国の在外公館は，大使館117（実館85，兼館32），日本政府代表部3（国際連合・ジュネーブ国際機関・経済協力開発機構），総領事館41，領事館10である。在外公館は，地域ごとに定期的に公館長会議を開いて情報交換などを行なう。また，外務省は在外公館の事務処理などの状況を随時査察している。

さいかいこくりつこうえん【西海国立公園】長崎県，北松浦半島西海岸の一部と，平戸島・生月島・五島列島などの海岸の一部を含む，面積243km²の地域で，1955年（昭和30）に指定された。多島海といわれ，大小170の島々が海面に浮かぶ景観で知られる九十九島の海岸がある。平戸島は鎖国時代の貿易地のなごりをとどめる史跡で名高い。五島列島はリアス式海岸がよく発達し，湾や入り江が多く，福江島の大瀬崎をはじめ高さ数十メートルの海食崖（かいしょくがい）もみられる。若松島と中通島の間には長さ16kmにも及ぶ若松瀬戸が知られる。北端の宇久島・小値賀（おじか）島や，南端の福江島は火山地形が発達し，鬼岳（おんだけ）（317 m）は臼状（うすじょう）の珍しい火山である。島の各所にキリスト教会の建物が並び，熱帯植物のアコウ・ビロウなども自生し，五島ツバキとともに美観を添えている。〔木村東一郎〕

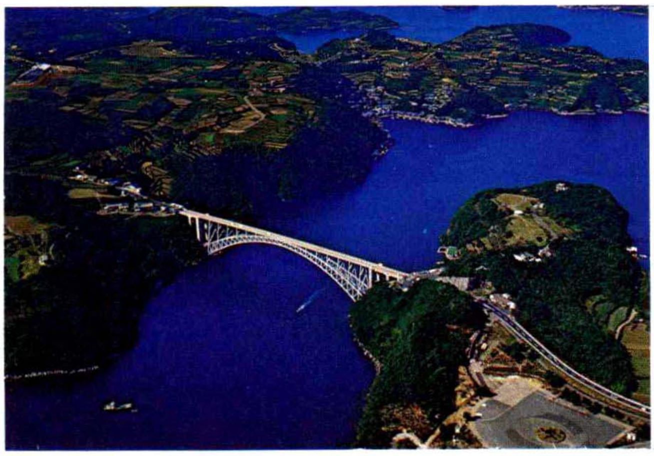
さいかいさいそうぎょぎょう【採貝採藻漁業】貝類や海藻（かいそう）類を採捕することを目的とする漁業。湾内でのアサクサノリやアサリ・ハマグリなどの増養殖業のほか，外洋沿岸におけるコンブ・ヒジキ・テングサなどの採藻，アワビ・サザエなどの採貝漁業がある。箱めがねを使用する〈見突き〉，裸海士（あま）・機械海士によるものがある。

さいがいたいさくきほんほう【災害対策基本法】1961年（昭和36）制定された法律。国民の生命・身体・財産および国土を各種の災害から守るため，国・地方公共団体や公共機関による防災体制の確立と責任の所在を明らかにし，防災計画の作成，災害予防，災害応急対策，災害復旧，災害緊急事態や財政金融措置などの災害対策の基本事項を定めている。第2次世界大戦後最大の被害をもたらした伊勢（いせ）湾台風（1959年9月26日の15号台風）を契機に計画的な防災の必要性が痛感されて，従来個別的であった災害関係の法律を相互に関連させ統一して制定された。〔原田政洸〕

さいかいどう【西海道】五畿（き）七道の一。現在の九州地方。古くは筑紫（つくし）・豊（とよ）・火・日向（ひゅうが）の4か国であったが，律令（りつりょう）制のもとで国郡制が整備されて，筑前（ちくぜん）・筑後・豊前（ぶぜん）・豊



西海国立公園



西海橋 大村湾の湾口針尾瀬戸にかけられた西海橋の優美な姿。有料橋で，国道206号(佐世保～長崎)線が通る

後(ぶんご)・肥前・肥後・日向の7か国と，壱岐(いき)・対馬(つしま)の2島が加えられた。その後，隼人*(はやと)族の住む未開の地であった南九州にも律令国家の開拓が進み，701年(大宝1)薩摩(さつま)・多褹(たね)島が置かれて8国3島，さらに713年(和銅6)大隅(おおすみ)を加えて9国3島となり，のち824年(天長1)多褹島が大隅に編入されて9国2島となり律令制時代の終期に至った。いずれも大宰府*(だざいふ)が統轄した。〔高崎徳次〕

さいがいはけん 【災害派遣】 自衛隊の救護活動の一つで，天災・事故などに際して人命・財産の保護の必要がある場合に，部隊または機関が派遣されることをいう。通常，都道府県知事・海上保安庁長官・管区海上保安部長などからの要請があり，事態やむをえないと認めた場合に防衛庁長官が派遣命令を下す。➔治安出動

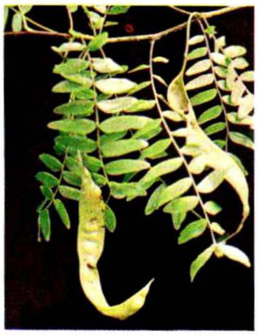
さいかいばし 【西海橋】 長崎県大村湾口にあり，国道206号線(佐世保～長崎間)が針尾(はりお)瀬戸を越える部分に設けられた道路橋。日本道路公団が建設した有料橋で1955年(昭和30)に開通し，西海国立公園*の開発に役だっている。

さいがいほけん 【災害保険】 ⇨新種保険

さいがいほしょう 【災害補償】 労働者が業務上負傷し，または罹病(りびょう)した場合の療養補償・休業補償・障害補償，業務上死亡した場合の遺族補償・葬祭料などに対する補償。労働基準法は，災害補償の要件・内容・履行について，民法の損害賠償*とは異なり，使用者の無過失責任*を規定している。災害補償の内容は法定されており，補償を受ける権利は，退職によって変更されることはなく，その譲渡・差し押えは禁じられている(同法83条，労働者災害補償保険法21条)。〈業務上〉の意について，行政当局は，これを業務の遂行性と業務の帰因性の二つに分けて取り扱っている。前者は，通常の執務・出張・宿直，事業の一部とみるべき宴会への出席など，具体的な使用者の指揮命令による場合のみならず，業務遂行に必要欠くべからざる行為中の事故ならびに施設の瑕疵(かし)から生じたものすべてを含むとする。出勤途上は原則として業務上とみなさない。後者は，その業務の遂行のために生じたという明確な証拠があること，すなわちその事故が業務をしたことと直接に相当因果関係がなくてはならないとする。使用者は，災害補償を行なわないと罰せられる(労働者災害補償保険法119条)。また，補償額の不満など，災害補償の実施について異議のある者は，所轄監督署長に対して審査または仲裁*を請求できその結果が不服であれば，労働者災害補償審査官の審査または仲裁を請求できる(労働基準法85・86条)。なお，国家公務員については，国家公務員災害補償法の適用により労働基準法と同程度の補償がなされ，地方公務員には，地方公務員災害補償法が制定されている。また船員には船員保険法が適用される(労働基準法84条)。〔木元錦哉〕



西　鶴



サイカチ　果実

さいかく 【西鶴】 (1642～1693) 江戸前期の俳諧師(はいかいし)・浮世草子作者。井原氏。本名平山藤五。別号に鶴永・四千翁・二万翁・西鵬(さいほう)・松風軒・松寿軒など。大阪の富裕な町家に生まれ，15歳ごろから貞門俳諧*を学んで21歳で点者となったが，1673年(延宝1)《生玉万句》を刊行，西山宗因*を中心とする新風の旗手となり，オランダ西鶴と称された。特に速吟にすぐれ，36歳のときに大阪生玉本覚寺で催した1昼夜1,600句独吟の《西鶴大句数》を皮切りに，しばしば矢数俳諧を興行，39歳のときに同じ本覚寺で1昼夜4,000句，43歳のときに23,500句の記録を樹立した。この間に，彼の関心はしだいに俳諧から小説に移り，1682年(天和2)《好色一代男*》を刊行，従来の仮名草子*の世界に現実的・積極的な町人の性欲・愛欲を主題とした〈好色物〉の新分野を開いた。以後，《好色五人女*》《好色一代女*》《男色大鑑(おおかがみ)》《諸艶(しょえん)大鑑(好色二代男)》などの好色物を続ける一方，伝統的な説話集の形を借りて諸国の珍談奇話を現実主義・人間主義的な視点から取り上げ，《西鶴諸国咄(ばなし)》《懐硯(ふところすずり)》《本朝二十不孝》《本朝桜陰比事》《西鶴俗つれづれ》《西鶴名残(なごり)の友》などの〈雑話物〉を執筆。また，町人とは異なった倫理・道徳のもとに生活していた武士階級にも関心を寄せ，《武道伝来記*》《武家義理物語*》《新可笑記》などの〈武家物〉をも書いた。しかし，近世にはいって特に社会に大きな影響力をもち，社会を実質的に動かしたのは新興町人層である。西鶴は，その商業経済を中心とした生活に個性と力をむき出しにした人間の生の真実を見いだし，《日本永代蔵*》には町人の才覚による致富を，《世間胸算用*》には下層町人の経済生活のきびしさを描いた。西鶴の本領はこの〈町人物〉に最もよく示されている。これら諸作を通じて西鶴は，古典的な表現を核とし，自由に新語・口語・俗語を取り入れて鎖文とよばれる個性的な文体を創造した。全作品を貫くきびしい写実と人間主義は，同時代から現代にまでも大きな影響を与えている。〔小池正胤〕

さいかじゅうりょうトンすう 【載貨重量トン数】 船舶で，積みうる貨物の重量を表わすトン数の一種。満載状態における排水量から空船状態における排水量を差し引いたものである。したがって，積みうる貨物の重量と燃料・食糧・飲料水・乗組員およびその所持品などの合計されたものである。商業上重要なトン数で，貨物船の運航や，用船料の基準として用いられる。また，現在タンカーや鉱石船などは載貨重量トン数を用いて大きさを表わすことが多い。記号DW。〔飯島幸人〕

さいかち 【皀莢】 双子葉植物・マメ科。川原など陽地にはえ，高さ9～12mに達する落葉高木。幹に枝の変化した太く鋭いとげがある。葉は1～2回羽状複葉で7～12対の小葉からなる。各小葉は長さ約2cmの

楕円(だえん)形，表面に光沢がある。5～6月，葉腋(ようえき)から黄色の蝶(ちょう)形花を長さ7～15cmの総状につける。単性花および両性花の2型がある。果実は長さ30cmばかりの扁平(へんぺい)な豆果で，中に扁平な種子が約10個はいっている。豆果にサポニンが含まれており，せっけんの代用に用いられた。材には光沢があり，建材・細工物に用いられる。〔加藤僖重〕

さいかちむし ⇨カブトムシ

さいかようせきトンすう 【載貨容積トン数】 船の貨物を積みうる容積を，40立方フィート（1.133m³）を1トンとして表わした数。しかし，貨物の中には包装貨物のようにすきまができて全容積を利用できないものと，撒(ばら)積み貨物のように全容積を利用できるものとがあるので，前者には袋入り容積，後者には撒荷容積が使用される。

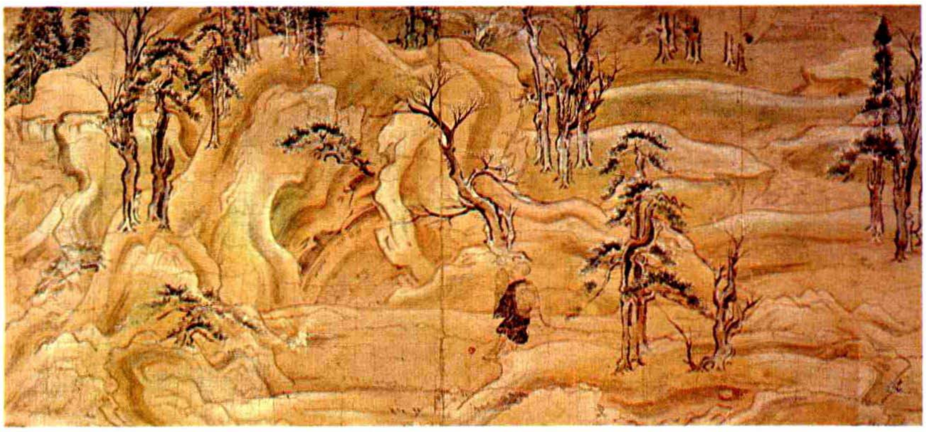
さいがわ 【犀川】 長野県中央部を流れる千曲(ちくま)川の一支流。松本盆地に集まる諸河川は明科(あかしな)町付近で合流し，筑摩(ちくま)山地を横谷をつくって横断し，長野盆地にはいって川中島付近で佐久・上田盆地から流れてきた千曲川に合流するが，この両盆地の合流地点の間の部分をいう。流程約80km。上流には高瀬川・梓(あずさ)川・奈良井(ならい)川など，峡谷美で有名な河川が多い。途中に人造湖の琅鶴湖(ろうかくこ)や小田切ダムがある。川中島は千曲川との合流点付近の中州で，武田(たけだ)信玄・上杉(うえすぎ)謙信の古戦場として名高い。〔長津一郎〕

さいがわ 【犀川】 石川県と富山県の境にある両白山地の北部に源を発し，北西に流れて金沢平野に出，金沢市街の南部を過ぎて日本海に注ぐ。流程56km。上流は急流で，しばしば洪水(こうずい)の害があったので1965年（昭和40）犀川ダムがつくられた。平野部はゆるやかで，河口の金石(かないわ)港は江戸時代に宮腰(みやのこし)とよばれ，10km上流の金沢城下町と結ぶ物資輸送路として重要であった。

さいき 【佐伯（市）】 大分県南東部の市。1941年（昭和16）市制施行。人口54,000。市域は佐伯湾*に面し，番匠川と堅田川のつくる三角州上に位置し，湾内の大入島や南の山間部を含む。産業三大別人口比は12:34:54。佐伯港はマグロ・カジキなどの漁業基地となり，水産物の水揚げが多い。水産加工・製材業などが行なわれ，近郊から産出する石灰石を原料とするセメント工業をはじめ，最近は軍事施設跡に造船・パルプ・合板などの近代工場が誘致され，臨海工業都市として発展している。日豊本線と国道217号線が通ずる。佐伯湾を眼下に見おろす城山には，鶴谷(つるや)城跡や明治中期に鶴谷学館の英語教師として赴任した国木田独歩の記念碑がある。

さいきねつ 【再帰熱】 ⇨回帰熱

さいぎょう 【西行】 （1118～1190） 平安後期の歌人・僧侶(そうりょ)。俗名を佐藤義清(のりきよ)といい，はじめ徳大寺家の随身をつとめ，のち鳥羽院(とばいん)の北面の武士となった。1140年（保延6）に出家し，仏道修行のかたわら歌作に励む。1149年（久安5）ごろ，大塔焼亡の件につき勧進聖(かんじんひじり)として高野山にはいり，まもなく奥州藤原氏の財力をたよって，初度の陸奥(みちのく)の旅に出たと推定されている。その後も修行を兼ねて中国・四国を旅し，また高野にもどってその興隆のために力を尽くしたが，1180年（治承4）のころに伊勢(いせ)（三重県）二見に移り，そこで源平の争乱をみている。1186年（文治2）東大寺再興の沙金(さきん)勧進のために，再度陸奥(むつ)に旅だつ。旅果ててのち，みずから編んだ《御裳濯河歌合(みもすそがわうたあわせ)》《宮河歌合(みやがわうたあわせ)》の判詞（批評）を，それぞれ藤原俊成*(としなり)・藤原定家*に依頼しているが，すでに病がちであったという。1190年（建久1），〈願はくは花のもとにて春死なむその如月(きさらぎ)の望月(もちづき)のころ〉とみずから願い求めて詠じたとおり，2月16日に河内(かわち)の弘川(こうせん)寺で病没。勅撰集(ちょくせんしゅう)への入集歌は〈十三代集*〉までに142首。家集に《山家集*》《聞書集(ききがきしゅう)》《聞書残集》《異本山家集》などがあり，ほかに作歌指導の歌話を筆録した《西行上人(しょうにん)談抄》がある。〔藤原昌好〕



西行物語絵巻　西行は吉野に桜花をたずねたが，花には早く，雪が降っていた

さいぎょうがさ 担子菌類・ヒトヨタケ科。春・秋季に馬ふんや腐植質の上に群生するきのこ。かさは1～3cm内外で，表面は黄灰色～灰白色，半球状・鐘形・円錐(えんすい)形など。湿ると粘性があり，ひだは黒色。無毒だが，似た仲間には有毒なワライタケ*がある。

さいきょうじ 【西教寺】 滋賀県大津市坂本本町にある天台宗真盛派の本山。創建は推古天皇のころと伝えられ，平安時代には源信が念仏道寺としたという。1486年（文明18）真盛が再興して念仏道場としたが，1571年（元亀2）織田信長(のぶなが)の比叡(ひえい)山焼き打ちで焼失。その後天正年間（1573～1591）に再建が行なわれた。客殿は伏見城の遺構と伝えられる。

さいきょうづけ 【西京漬け】 京都・香川・山口などの諸府県で醸造される西京みそ（甘味の強い白みそ）を用いるつけ物。マナガツオ・アマダイ・サワラなどの魚類や貝類・肉類を約半日塩をして身を締め，酒・みりんを加えて練ったみそにつけ込む。2日めごろが美味。これを洗わずにみそをふき取って焼いたものを西京焼きという。

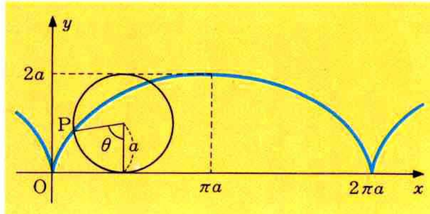
さいぎょうものがたりえまき 【西行物語絵巻】 西行*の生涯(しょうがい)の事績などを出家に始まって，その各地の行旅のうちに描いた絵巻物。鎌倉中期の作で，作者は不明。現在は徳川黎明会(れいめいかい)（第1巻）と大原家（第2巻）に各1巻が残っているが，当初は4巻か5巻あったと思われる。絵は細密な描線に淡泊な彩色を施して詩情の豊かさを漂わせている。なお，このほかの遺品には，室町期の海田采女(うねめ)筆と称するものと，これを模写した宗達筆の二作が知られている。〔村重　寧〕

さいきわん 【佐伯湾】 豊後(ぶんご)水道に開く大分県南部の湾入。北は蒲戸崎(かまどさき)，南は鶴御崎(つるみさき)（鶴見崎）の両半島にはさまれ，湾口約10km，奥行15km，湾奥の番匠川河口の三角州上に佐伯市が発達する。リアス式海岸をなして，特に南部は小支湾に富み，碆(はえ)と称する岩礁や島も多い。湾奥に大入島がある。湾岸には造船・人絹パルプなどの工場が立地する。前面の豊後水道中には水ノ子島燈台のある水ノ子島がある。〔山口恵一郎〕

さいきん 【細菌】 広義には葉状植物門の分裂菌綱の総称。これらは，葉緑素がなく，簡単な化合物から複雑な原形質の分子を合成すること，水に溶解した栄養源を細胞内に浸透させる栄養摂取法，二分裂法で増殖分裂すること，細胞壁をもち原形質膜と区別されるなどの特徴がある。狭義にはこのうちの真正分裂菌目に属するものをいう。形態によって，球菌・桿菌(かんきん)・らせん菌などに分けられ，比較的動物に近縁なスピロヘータ*や，細菌よりも植物型により近い分岐状菌・放線菌・糸状菌やリケッチア*・ウイルス*などとともに微生物と総称

される。細菌の核には核膜も染色体もないが，ＤＮＡの存在が認められる。通常ミクロン単位で表わされる程度の大きさであるが，非病原菌の中には数十ミクロンに達するものもある。細胞膜の成分によってグラム陽性・グラム陰性・抗酸性などに分類されるが，その外側に莢膜（きょうまく）を有する場合や，１本ないし多数のべん毛や，さらに微細な繊毛を有し，それらを動かして運動する菌や，運動をしない菌がある。また，生活環の中で，胞子を形成して菌にとってつごうの悪い条件下で生き残るものもある。細菌の体制をつくっている物質は動物体内に注入されると対応する特異抗体を産生するので，菌体は抗原物質の組み合わさったものと考えられている。細菌は地球上の陸地・水中を問わずいたるところに存在し，高空や深海などの低温部，火山や温泉など70℃ほどの高温部，塩類濃度の高いところなどにも，それぞれの環境条件に適合した細菌が生活している。イオウや鉄を栄養源とする細菌をはじめ，他の生物が分解することができない物質を分解する酵素をもつ細菌がある。また，アルコールや牛乳の発酵にみられるように，一定の化学変化を起こさせて人間に有用な物質を産生する細菌や，無用な物質を処理する細菌もあるので，広く工業や環境衛生対策にも利用されている。さらに，マメ科植物の根に寄生して空気中の窒素を固定する根粒細菌のように，農業上有用な細菌や土壌（どじょう）を肥沃（ひよく）にさせる細菌もある。これらの細菌は他の生物が合成した有機化合物を摂取して発育する他力栄養型菌と，無機物から菌体物質を合成する自力栄養型菌とに大別されるが，同一種の細菌でも変異によって他力栄養型となることがある。また，そのエネルギーを呼吸によって得る好気性菌と，発酵によって得る嫌気性菌，生活条件によってその両者を使用する通性嫌気性菌を区別することができ，嫌気性菌は酸素の存在下では分裂増殖できない。それらは，その発育を阻害する抗生物質の種類や感染するバクテリオファージの種類，抗原性物質の種類などによって，さらには細菌が物質を分解する能力などによって詳しく区別されている。

細菌は死亡した他の動植物の体成分を分解するほか，生きている動植物の呼吸器・腸管・膣（ちつ）などに正常な細菌叢（さいきんそう）として定着して生活したり，生物体に感染してそれらを感作*したり発症させたりする。このようにして病気の原因となる細菌を病原性細菌とよぶが，比較的特定な生物に特定な細菌が病気を起こす特異的な関係がある。感染した細菌のあるものは細菌毒素を産生して，生体に障害を与える。また，その抗原物質によって生体が感作されることも病気の過程を構成する。病原性細菌はプソイドモナス（緑膿（りょくのう）菌など），ビブリオ（コレラ菌・腸炎ビブリオ），腸内細菌（大腸菌・肺炎桿菌・プロテウス・サルモネラ・赤痢菌），ブルセラ（ペスト菌・野兎病（やとびょう）菌・鼻疽（びそ）菌・百日咳（ひゃくにちぜき）菌・ブルセラ菌・インフルエンザ菌・軟性下疳（げかん）菌），バクテロイド，ミクロコッカス（ブドウ状球菌），ナイセリア（淋菌・髄膜炎菌），ラクトバチルス（連鎖球菌・肺炎球菌），コリネバクテリア（ジフテリア菌），バチルス（炭疽菌・破傷風菌・ガス壊疽（えそ）菌・ボツリヌス菌），ミコバクテリア（結核菌・癩（らい）菌）などの科・属・種に分類されているが，高等生物のような有性生殖を行なわないために，分類の基準が流動的で，現在でも分類上の位置がしばしば変更されて命名されている。細菌は体制が簡単であり，増殖速度がすみやかで短期間に多数の世代を経過し，大腸菌のように簡単な人工培地内で多量に収穫することができるものもあるので，遺伝学や生化学のように数多くの種の生物に共通している生物学の基本的な法則を調べるために，広く用いられている。〔和気　朗〕



サイクロイド

さいきんがく　【細菌学】　細菌を研究する生物科学の一分科。基礎科学としては微生物の形態学・生理学・分類学や分布・変異・遺伝および進化に関する研究があり，物理学・化学や一般生物学の総合的知識をも含む。医学や農学の分野で応用科学として発展してきているが，細菌は増殖が速く，きわめて多数の生物を経済的に容易な技術で集めることができるので，生物学研究のよい材料となる。

さいきんコロニー　【細菌コロニー】　栄養を含む固形培地の表面もしくは内部に生きた細菌が存在し，温度や水素イオン濃度が発育に好適であると，細菌は分裂増殖しながら１か所に密集し，やがて目で見ることができる塊に成長する。これを細菌コロニーという。培地表面にのみ発育するもの，内部に食い込んで発育するものがあり，菌体表面の成分や構成菌の運動性の有無によって周辺平滑なスムースコロニー，ぎざぎざしたラフコロニー，粘性のあるムコイドコロニーなどに分けられる。また，中央部に凹部（おうよ）を生じるもの，産生色素によって着色するものなど，コロニーの性質によって構成する細菌の種類をある程度識別することができる。一定希釈の細菌浮遊液を固形培地にまいて発育するコロニーを数え，原浮遊液中の細菌数を数えることもできる。〔和気　朗〕

さいぐう　【斎宮】　伊勢（いせ）神宮に仕える未婚の皇族女性。斎内親王，略して斎王ともいう。崇神（すじん）天皇の皇女トヨスキイリヒメノミコトがはじめといわれる。以後断続的に任命されたが，674年（天武２）天武天皇の皇女大伯（おおく）皇女（14歳）を初例とし，後醍醐（ごだいご）天皇の皇女祥子内親王に至り，以後朝廷の衰微に伴って廃絶に帰した。

さいぐさひろと　【三枝博音】　（1892～1963）　唯物論哲学者・科学史家。広島の生まれ。1922年（大正11）東京大学哲学科卒。東洋大学などで教鞭（きょうべん）をとりながらカント・ディルタイ・ヘーゲルを研究。1931年（昭和６）ドイツに留学，モスクワを経て1932年帰国し，同年戸坂潤*らと唯物論研究会を創設。まもなく検挙され，日本思想史・科学史・技術史の研究に向かった。第２次世界大戦後は鎌倉大学校校長，横浜市立大学学長となり，また日本科学史学会会長をつとめたが，横須賀（よこすか）線鶴見（つるみ）事故にあい急逝（きゅうせい）。著書に《日本に於（お）ける哲学的観念論の発達史》《日本の思想文化》《三浦梅園の哲学》《唯物論者の倫理》《哲学するための序説》《技術の哲学》《西欧化日本の研究》その他多数がある。〔中川　誠〕

さいくつけん　【採掘権】　⇨鉱業権

サイクリング　［cycling］　自転車を利用するレクリエーションの一種。ポタリング（ピクニック程度の軽いもの），ツーリング（何日も旅を続ける），ラン（１日100km以上を走る），サイクルキャンピングなどの種類がある。サイクリングの特色は老幼男女の別なく，時間・場所・人数などに縛られず，だれにでもできることで，自然を味わいながら楽しむことができるため，その健全性と平易性によって，1961年，スポーツ振興法で国民に推奨すべきスポーツの一つに選ばれた。〔中出水　勲〕

サイクル　［cycle］　①波動の１秒間あたりの振動数の単位。サイクル/秒（c/s，cps），略して単にＣという記号を用い，Ｃの代わりにヘルツを用いることもある。②ある状態から他の状態を経て再びもとの状態へもどる循環過程。カルノーサイクル*のように１サイクルにおける作業物質と外界との熱と仕事のやりとりを論ずる熱力学的サイクル，地層の形成や侵食に関する地質学的サイクル，生体内の物質代謝に関する物質代謝サイクル，工程における操作サイクルなどがある。〔中野藤生〕

サイクロイド　［cycloid］　円が一直線上をころがるとき，円周上の定点Ｐの描く軌跡*。円の半径を a，Ｐが直線上にあるときにその位置を原点とし，その直線を x 軸とする直交座標を考える。円がころがったとき，円の x 軸との交点と点Ｐのなす中心角 θ を媒介変数*にとれば，サイクロイドの方程式は $x=a(\theta-\sin\theta)$，$y=a(1-\cos\theta)$

となる。

サイクロセリン ［cycloserine］ 1955年アメリカのヒディーらによって発見された放線菌の産出する抗生物質。1955年アメリカのキュールらが他の放線菌から得た抗生物質（オキサマイシン）と同一構造を有する。広い抗菌作用を示すが，その効力はペニシリン・ストレプトマイシンに比して弱い。しかし，これらと協力作用を示すので，併用して結核・尿路感染症などの治療に用いられる。

サイクロトロンきょうめい 【サイクロトロン共鳴】 金属または半導体*に磁場をかけるとき，その中の電子が磁場方向に進むらせん運動。サイクロトロン中の電子の運動と相似なのでこの名でよばれ，サイクロトロン運動ともいう。これを磁場に垂直な面内に射影してみると，回転運動が観測される。この回転運動の周期に等しい周期で振動する交流電場を作用させると，電子は交流電場からエネルギーを吸収する。磁場に垂直な面内で動く電子の質量をサイクロトロン質量とよぶ。この回転運動の周期は，サイクロトロン質量が小さいほど，磁場の大きさが大きいほど短い。サイクロトロン共鳴の実験から金属や半導体などのサイクロトロン質量が求められる。〔中野藤生〕

サイクロン ［cyclone］ インドのベンガル湾に発生する熱帯性低気圧*。多く6～11月に発生し，9月が最も多い。インド・セイロン島の東岸に多量の雨をもたらす。

ざいけ 【在家】

[1]出家*の対。生業を立てて家庭生活を営む状態，またその人をいい，いわゆる俗人である。仏道修行には出家するのが最良とされるが，在家のまま仏教に帰依することもあり，これらの人々も仏教教団の一員として信士（優婆塞（うばそく））・信女（優婆夷（うばい））とよばれ，仏弟子（ぶつでし）とされている。

[2]中世の国衙（こくが）・荘園*（しょうえん）で，住居とその付属の宅地・園地を含めた収取単位で在家役賦課の対象となった農民。在家住人は領主に対して在家役という雑公事（くじ）（→公事）や夫役を負担し，領主に対する隷属性が強かったが，しだいに独立的になり，脇（わき）在家を分出する者もあった。

さいけいこくたいぐう 【最恵国待遇】 通商航海条約や貿易条約において，締約国が自国の領域でいずれかの第3国またはその国民・企業に対して与えるのと同じ待遇を，相手国またはその国民・企業に対しても与えること。通商航海条約でこの待遇を約束した条項を最恵国条款という。内国民（自国民）待遇が内外人の無差別待遇であるのに対し，最恵国待遇は自国領域内において外国人相互間の待遇を同一にする主旨である。最恵国待遇には無条件定義と条件定義があるが，今日では〈直ちにかつ無条件に〉この待遇を与え，また対価を求めないこととされている。〔広部和也〕

ざいけいほうていしゅぎ 【罪刑法定主義】 どんな行為が犯罪となるか，どんな犯罪に対してはどのような刑罰が科せられるかについて，明確に法律で定め，それ以外の行為が罪とされることのないという，近代国家における刑法上の民主主義の原則をいう。これによって，権力側が政治的判断で人民をほしいままに処罰することが避けられるので，今日の憲法国家共通の原則と認められ，日本国憲法も31条・39条で明記している。この原則から，かりに反社会的ないし不道徳的行為と思われるものでも，刑法上明確な規定がないかぎり処罰すべきでなく，また法で定めた罰以外に，あるいはそれよりも重い罰を科することはゆるされない。また，犯罪の捜査，起訴，裁判のやりかたにおいても，人権を尊重する立場からの法定手続きが守られるべきであるとされている。〔鈴木安蔵〕

さいけっしょう 【再結晶】 不純物を含んだ結晶性物質を比較的高い温度の溶媒に多量に溶解したのち，これを冷却し，温度による溶解度の差を利用して目的とする物質を再び結晶として析出させること。この際，不純物は母液中に残る。結晶性物質の精製に常用される。

サイケデリック-アート ［psychedelic art］ 幻覚的な芸術。サイケデリック（LSD*などを用いて陶酔状態になること）の状態から生ずる視覚あるいは感覚の芸術的表現で，螢光（けいこう）色やストロボの利用，強い原色の対比などを特徴とし，ポスター・デザイン・映画への具現が多くみられる。代表的な芸術家の出現はみられていないが，一般への浸透がみられる。

さいけん 【債券】 ⇒有価証券

さいけん 【細見】 江戸時代から明治初期に刊行された遊郭の案内書。寛永（1624～1643）ごろの遊女評判記にはじまるといい，はじめ一枚刷りであった。その後，妓楼（ぎろう），揚屋，引手茶屋，遊女の名とその等級，男女の芸者，船宿，遣（や）り手の名などを書き並べたものとなり，それらを実際の家並みのまま配列し，廓（くるわ）全体の略図をなしている。形も横とじの冊子となったが，さらに安永（1772～1780）ごろからは縦とじとなった。表紙は黄，のちに茶表紙が多くなった。年間2～3種は発行されていたが，版元は終始不定であった。〔稲垣史生〕

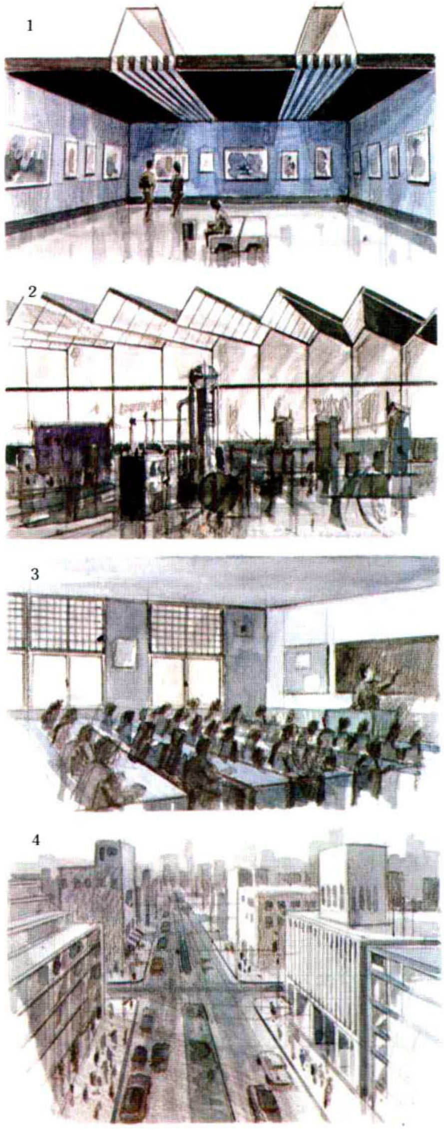
さいけん 【債権】 ある特定人（債権者）が他の特定人（債務者）に一定の行為をなすことを請求する権利をいう。債権は物権*とともに主要な財産権*であるが，歴史的には物権に遅れて発達した。しかし，金融資本が独占的支配を行なうに至った資本制経済社会では，債権は物権よりもむしろ優越的地位を占めるに至っている。債権者の債務者に対する〈一定の行為〉は積極的なもの（たとえば，賃金の返済請求など）でも，消極的なもの（たとえば，眺望（ちょうぼう）を妨げる建築をしないなど）でもよい。債権は物権と異なり権利に排他性を有しない。したがって，同一物に物権と債権が併存するときには物権が債権に優先する。〈売買は賃貸借を破る〉というのはこのことを意味する。また物権と異なり，同一物に内容を同じくする数個の債権を同時に成立させることができる。さらに他人の所有物や将来製作される物についても債権を成立させることが可能である。しかし不動産物権の貸借関係においては利用権者を保護するために賃借権に排他性を認めるようになり，債権の物権化の傾向がみられる（借家法1条・農地法19条）。債権は物権と異なり，一定の行為の請求はだれに対してもできるのではなく，債権・債務の関係にある者の間にのみ生ずる権利である。もっとも，債権者は第三者による債権の侵害に対しては不法行為*に基づく損害賠償を請求することができるし，また債権を実現するためには債務者の財産を保全するために第三者に干渉することができる。たとえば，債権者代位権*・債権者取り消し権*の行為などである。さらに直接的な権利侵害のあったとき，たとえば第三者による借地の無断使用などに際しては，債権侵害そのものを理由として，みずから侵害者に対して排除・回復の主張ができるという意見もある。なお，債権の発生する要件として主要なものは契約による場合と法定原因（事務管理*・不当利得*・不法行為*など）による場合であるが，遺言*によっても発生する。〔黒木三郎〕

さいけんしゃだいいけん 【債権者代位権】 債権者が債権*を保全するために自己の名において債務者に属する権利を行使しうる権利をいう（民法423条）。たとえば，債務者が債務の全額を弁済する資力を失っているにもかかわらず，貸し金の取り立てをしなかったり，時効*によって消滅するおそれのある権利を中断しなかったりなどして自己の権利の行使を怠っている場合に，債権者が債務者に代わって取り立てたり，時効の中断を行なったりすることのできる権利である。代位権を行使するためには次のような要件が必要である。①債権を保全する必要のあること。すなわち，債務者の一般財産が債務の全額弁済に不足であるのに，債務者が自己の有する債権を取り立てないとか，購入した不動産について登記*を怠っているような場合に，債権者は債務者に代わって取り立てまたは登記の移転をすることができる。②債権者の債権が弁済の履行期にあること。ただし，弁済期に至っていなくても裁判所の許可を得たときや管理行為*だけのときなどは代位権を行使できる。③債権者がみずから権利を行使すること。債務者がたとえ適当な方法を欠いている場合でもいったん自己の権利を行使したならば債権者は代位権を行使できない（民法423条II）。また，代位権行使の目的となる権利

は，一身専属権以外の権利に限られる(民法423条)。したがって慰謝料請求権のように，その権利を行使するか否かの選択が債務者の自由意思にかかる権利などについては代位権を行使することができない。なお，債権者代位権を行使したことにより得た財産や権利は債務者に帰属し，総債権者の利益となるのであって，代位権を行使した債権者のみが弁済の優先的地位を得るわけではなく，代位権行使に要した費用のみ優先的に弁済してもらえるにすぎない(民法306条)。〔黒木三郎〕

さいけんしゃとりけしけん 【債権者取り消し権】 債務者がその一般財産を減少する法律行為をなしたときに，債権者がその債権を保全するために債務者のなした法律行為を取り消し，減少した財産を取りもどす権利(民法424条)。詐害行為取り消し権ともいう。たとえば，債務者が債務の全額を弁済する資力を失っているにもかかわらず，所有物を債権者外の他人に非常に安く売ったり，あるいは債務を免除してやったりなどの行為をした場合，債権者はその財産を債務者のもとに取りもどしたり，債務を免除しなかったようにするなどのことができる権利であって，そのことによって強制執行の効果をあげさせて債権者を保護するために認められた権利である。取り消し権を行使するためには次のような要件が必要である。①債務者の行為が財産権を目的とする法律行為であること。したがって債務者の婚姻・縁組みなど財産権を目的としない行為は，結果的には債権者の不利益となるものであっても取り消し権を行使することはできない。②債権者を害する行為であること。ただし，債務者の一般財産が債務の全額を弁済する資力があるときには，債務者のなした法律行為に対して取り消し権を行使することはできない。③債務者の悪意による行為であること。したがって善意(→善意・悪意)によった行為については取り消し権は生じないなど(民法424条)。また，取り消し権を行使するには，債務者の詐害行為によって利益を受けている者を被告とし，詐害行為を取り消し，財産を取りもどすことを裁判所に請求しなければならない。取り消し権の行使によって取りもどされた財産は債務者に帰属し，総債権者の利益のために効力を生ずるものとなり，取り消し権を行使した債権者だけが優先的に弁済を受けるわけではない(民法425条)。なお，取り消し権の行使は取引の安全を確保するため時効期間は短期で消滅，時効にかかる(民法426条)。〔黒木三郎〕

さいけんじょうと 【債権譲渡】 債権の同一性をそこなわずに従来の債権者(譲渡人)から新債権者(譲受人)へ債権を移転することを目的としてなされる契約。債権が人的要素と強く結びついていたローマ法下では債権譲渡は禁止されていたが，債権から



採　光　採光のいろいろ　①美術館の天窓採光。ルーバー(日よけ装置)で直射日光をさえぎる　②のこぎり屋根採光の工場　③教室の側窓採光。窓の下半分のみ透明ガラスで，上部はガラスブロックまたはカーテンなどの日よけとした例　④都市採光。超高層建築の場合でも，前面に広場をとれば，建築基準法による斜線制限は不要

人的要素が取り除かれ，財産権としての価値が重視されるようになった近代法においては，債権譲渡は原則として認められている。ただし，法律が明文で禁止している場合(親族間の扶養請求権など)，当事者間で譲渡禁止の特約をした場合(ただし，譲渡禁止の特約は善意の第三者には対抗力をもたない)，その他債権の性質からみて譲渡が許されない場合などは債権を譲渡することはできない(民法466条)。債権譲渡は契約当事者間ではその合意だけで効力を生ずるけれども，譲渡のあったことを債務者および第三者に主張するためには次の要件を備えていなければならない。すなわち，売掛金や貸し金などの普通の債権(→指名債権)の場合は，譲渡のあったことを譲渡人から債務者に通知するか，債務者がそれを承諾することおよびその通知や承諾は確定日付のある証書によってなされることである(民法467条)。確定日付のある証書とは公正証書，公証人役場や登記所で日付印を押してもらった私署証書，内容証明郵便などである。また，手形・小切手・貨物引換証などの指図(さしず)債権の場合は，その証書に譲渡裏書きし，これを譲り受け人に引き渡すことである(民法469条)。これら商法上の有価証券については債務者への通知やその同意の有無にかかわりなく裏書き交付さえすれば，債務者へも主張できるとされている。〔黒木三郎〕

さいけんせん 【歳遣船】 歳船ともいう。室町中期以降江戸時代を通じて毎年一定数を限り朝鮮に派遣した使船。1424年(応永31)九州探題渋川義俊(よしとし)が送ったのに始まる。1443年(嘉吉(かきつ)3)対馬(つしま)(長崎県)の宗貞盛(そうさだもり)が特別に毎年50船の特送船契約(嘉吉条約)を結んだ。ほかに守護大名・大寺院なども参加したが，1512年(永正9)以後は宗氏のみが原則として認められ，船数も25船程度となって江戸時代も受け継がれ，明治に至った。使節の乗船したものを使送船，商人だけのものを興利船，宗氏のものを特送船とよんだが，実質はいずれも貿易船であった。この制度は李(り)氏朝鮮の倭寇(わこう)対策の一つであった。〔村尾元忠〕

さいげんばい 【蔡元培】 ツァイユワンペイ (1868～1940) 中国の学者・教育者。浙江(せっこう)省の生まれ。ドイツに留学して哲学・倫理学を学び，1912年，中華民国初代の教育総長(文部大臣)として新しい教育精神を提唱した。1917年，北京(ペキン)大学学長に就任，教員・学生の学問・研究と思想の自由を基本に，中国最初の近代文化運動を擁護し，支持し，五・四運動の起こる地盤を用意した。国民政府が成立すると，大学院院長・中央研究院院長などの要職についたが，1930年代にはいって蔣介石(しょうかいせき)の独裁に反対し，民権保障同盟をつくって人権と民主主義のために努力した。自由主義者として中国近代化に努めた代表的な知識人である。日中戦争中，香港(ホンコン)で病死。〔斎藤秋男〕

さいこ 【西湖】 〈にしのうみ〉ともいう。山梨県富士山麓(さんろく)にある富士五湖の一。面積2.3km²，水面高度904ｍ，水深76ｍ。富士山麓と御坂(みさか)山地との間にあった東西に長い湖が，富士山の火山活動の際の青木ケ原溶岩流によって分断されていまのようになったもの。自然の排水口はないが，人工で水を河口湖(かわぐちこ)に落とし，発電している。最大透明度10ｍとかなり透明で，南岸の青木ケ原樹海とともにけしきがよい。富士箱根伊豆(いず)国立公園に所属する。〔長津一郎〕

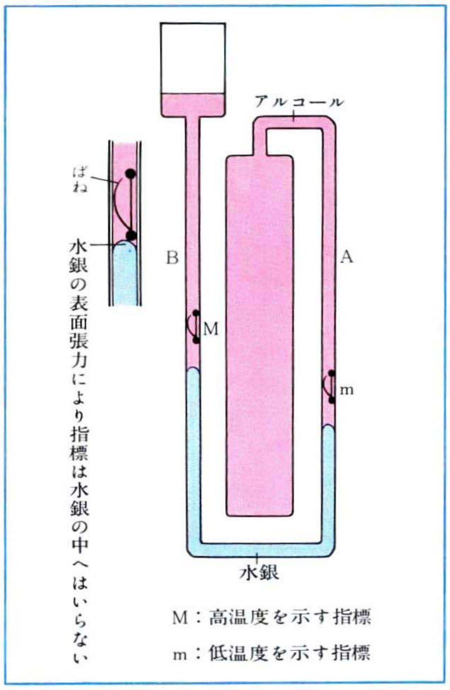
さいこう 【採光】 自然光を室内に取り入れて，室内を十分な明るさに保つこと。

よい採光とは，曇りの日や雨の日でも室内が明るく，しかも室内のいろいろな部分の明るさにあまり差がないような均斉(きんせい)のとれている状態である。明るくするということは物が見えやすくするためであるが，しかしまた，明るくても見えにくいこともある。美術館で絵が光ったり，教室の黒板が光ってチョークの字が見えないことがよくある。これはヒトの目が物を見る方向に，窓からはいった光が物に反射してはいってくるからで，悪い採光の例である。昔から日本で用いられている障子は，強い日光を柔らかい光に変える働きをするが，近代建築の窓にもすりガラスや特殊な加工をした拡散性のガラスがある。このほか，日ざしの方向を変えて室の奥のほうに光を届かせる指光性ガラスブロックもある。なお，採光は室内ばかりでなく市街地の道路や広場などについても考えねばならない。高い建物で，上の階の一部が下の階の壁面より後退しているのをよく見受けるが，これはセットバックといって道路に自然の光がよく届くようにくふうされたもので，建築法規で定められている。〔木村建一〕

さいこう【採鉱】鉱山において鉱石を掘り採る作業。坑内掘りと露天掘りとがある。坑内掘りでは，発見された鉱床*に到達するための道をつくり，必要な設備を整備する開坑*作業，実際に鉱石を掘り採る採掘，採掘した鉱石を運び出す運搬，採掘によってつくられた地下の空洞(くうどう)を保持する支保*，地下に湧出(ゆうしゅつ)する坑内水を排出し必要な用水を供給する作業，圧縮空気や電力などの動力を供給する作業，作業環境を整備し安全を確保する通気や保安など，いろいろの作業が含まれる。これらの諸作業にはあらゆる種類の機械・技術が必要である。鉱床から鉱石を掘り採るためには，爆薬による爆破や機械的に切りくずす方法，熱や水の力を利用して岩石を破壊する方法，さらには重力を利用して自然に崩壊してくる鉱石を採取する方法などが行なわれる。採鉱は鉱山の作業中最も中心となるもので，その計画と実施には綿密な検討と細心の注意が必要で，科学的な管理技術なども駆使される。露天掘りは地表に露出しているか，多少の表土の下にある鉱床を採鉱するものである。➔露天掘り〔山口梅太郎〕

さいごう【西郷(町)】島根県隠岐(おき)郡の町。人口15,000。隠岐諸島の中心になる町で，島後(どうご)南東部にある。古くは国府が置かれ，国分寺・国分尼寺もあった。近世，西回り海運の開発によって港町として発達し，現在は漁業と商業の町で日用品の集散が行なわれている。大山(だいせん)隠岐国立公園に編入後，観光客の増加が目だつ。境港・松江へ定期航路が通い，隠岐空港から米子(よなご)・出雲(いずも)へ定期便が通ずる。

ざいごうぐんじんかい【在郷軍人会】



最高最低温度計



最高裁判所

現役の服務を終えた(退役・予備役・後備役の)軍人を会員とする団体。各国により会の性格は異なるが，大別して戦時動員を容易にするための官製組織と，共済・親和を目的とする民間の団体との二つに分けられる。日本には，第2次世界大戦までは前者があり，アメリカの退役軍人会は後者に属するものである。日本の帝国在郷軍人会は，1910年(明治43)結成された。それまでの数多くあった団体を統合し，強力な軍部の指導のもとに全国の市区町村にまで組織化が十分になされていた。当初は軍人精神の鍛練，軍事能力の増強を目的としていたが，しだいに軍への協力が中心となり，大衆動員能力を高め，第2次世界大戦当時には軍の下部組織としての役割をになうまでになった。その組織は会本部・連合支部・支部・連合分会・分会よりなり，日本領土内はもとより満州国や中国占領地域内にまで及んでいた。〔森田　哲〕

さいこうけんさつちょう【最高検察庁】⇨検察庁

さいこうさいていおんどけい【最高最低温度計】一定時間内の最高温度と最低温度を測定するための温度計*。温度が上昇すると図においてAからBのほうへ最高温度を示す鉄片の指標(M)を押し上げるが，最低温度を示す指標(m)は止まったままである。温度が下がると，最低温度を示す指標(m)を押し上げ，最高温度を示す指標(M)はそのまま止まっている。この各指標の位置から，ある時間内の最高温度と最低温度を読み取る。〔中野藤生〕

さいこうさいばんしょ【最高裁判所】すべての裁判について最終的な判断を下す権限を有する裁判所で，憲法自体が名づけ，憲法によって設置されたものである。最高裁判所は東京に置かれ，長官のほか14名の裁判官からなっている。長官は内閣によって決定され，天皇が任命する。長官は75歳，他の裁判官は70歳を定年とする。

憲法は最高裁判所の権限として，国内のすべての法律・命令(政令・省令など)・規則・処分が憲法違反でないかどうかについて最終的に決定すること(違憲立法審査権*)，また最高裁判所が終審裁判所であることを定める(憲法81条)。最高裁判所の判決は最終的なもので，下級裁判所の判決を拘束し，また訴訟手続きなどについての規則*を制定することができる(憲法77条)。このほか下級裁判所の裁判官を指名し，この指名に基づいて内閣が任命する(憲法80条)。第2次世界大戦前の裁判官の人事は司法省が行なったが，司法権の独立を尊重する趣旨から，今日では法務省ではなく，最高裁判所が人事権をもつに至ったものと思われる。このような最高裁判所の重要な地位・権限に顧みて，その裁判官については，国民審査*の制度が定められている(憲法79条)。すなわち，任命後最初の衆議院議員選挙のとき，その任命・在職の可否について国民の投票によって決まるものとする。なお，その後さらに10年を経たのちの衆議院議員選挙において，さらに国民審査に服する。〔鈴木安蔵〕

ざいごうしょうにん【在郷商人】江戸中期以後農村に成長し，しだいに都市の特権商人と対抗するようになった地方商人。商品経済が農村に発達するにしたがって，直接農業生産者から分化し，穀物・綿・藍(あい)などの農産物やもめん・絹織物などの農村加工品の問屋*・仲買人として各地で活動した。主として豪農層によって経営され，その商業資本の運用によって問屋制家内工業が発達し，これが諸藩の国産品奨励政策とあいまって地方産業を興した。幕府の保護のもとに全国の商品流通を支配する都市特権商人は，その統制下にこれら在郷商人を置くことに努めたが，幕末期には生糸・絹織物の生産は工場制手工業の段階に達し，開国*後貿易統制を推し進める幕府・江戸問屋に対し，在郷商人からなる在方荷主は直接

貿易商人と取引して商品の輸出を行なった。幕府は1860年(万延1)五品江戸廻送令(かいそうれい)を出して貿易統制の強化を図ったが，この対抗は幕府と雄藩との政治的対立を促すこととなった。〔高崎徳次〕

さいごうたかもり【西郷隆盛】(1827～1877) 江戸末期・明治初期の政治家・軍人。大久保利通(としみち)・木戸孝允(たかよし)とともに維新の三傑と称せられた。通称吉之助。南洲(なんしゅう)と号した。薩摩(さつま)藩出身。藩主島津斉彬(なりあきら)に登用されてその近臣となり，1854年(安政1)斉彬の参府に従って江戸に出た。安政年間(1854～1859)江戸の政界に進出した薩摩藩を背景にして天下の志士と交遊。その間斉彬の内命を受けて，将軍継嗣に一橋(徳川)慶喜(よしのぶ)を擁立する運動に暗躍したが，1858年安政の大獄で弾圧された。おりから斉彬の死，藩論の保守化に直面して絶望し，同志の僧月照と入水(じゅすい)自殺を図ったが彼だけは救われ，藩命により奄美(あまみ)大島に流された。1862年(文久2)許されて帰藩。しかし，藩主島津忠義(ただよし)の父久光(ひさみつ)が公武合体強化のため出府するのに反対し，尊攘(そんじょう)派と合流すべく無断で上京。このため久光の怒りを買い，沖永良部(おきのえらぶ)島に再び流罪になった。文久3年8月18日の政変後，許されて帰藩。ただちに上京して薩摩藩の中心的人物として活躍。禁門の変や第1次長州征伐では幕府側に立ったが，第2次長州征伐以後は藩論を討幕に導き，1866年(慶応2)薩長連合を盟約した。続いて薩長両藩の討幕勢力を結集して縦横の政治工作を進め，王政復古・明治維新の実現に決定的な役割を果たした。新政府成立とともに参与に任ぜられ，東征大総督参謀として東下。旧幕臣勝海舟と会談して江戸に無血入城を実現した。北越に出陣したのち帰藩して藩政改革にあたり，その際，家格廃止・禄制(ろくせい)改革・軍備充実を行ない，薩摩に鹿児島士族を中核とする強力な〈西郷王国〉をつくり上げた。1871年(明治4)参議となり，廃藩置県に尽力したが，1873年征韓論(せいかんろん)に破れて下野。鹿児島に帰郷して私学校を設立し，士族の子弟を教育した。1877年2月私学校生徒に擁せられて挙兵，士族軍20,000名を率いて上京を企て西南戦争を引き起こした。熊本鎮台攻略に失敗してからは九州各地で官軍に破れ，同年9月鹿児島の城山で戦死した。〔高崎徳次〕

さいごうつぐみち【西郷従道】(1843～1902) 明治時代の軍人・政治家。鹿児島県出身。隆盛(たかもり)の弟。通称信吾(しんご)，戊辰(ぼしん)戦争では，官軍の隊長として東北に転戦した。1869年(明治2)，兵制調査のため山県有朋(やまがたありとも)とともに渡欧。翌年帰朝して近代兵制の創成に努めた。1874年征台の役には陸軍中将・征台総督としてその指揮にあたり，参議兼文部卿(もんぶきょう)をつとめ，第1次伊藤(いとう)内閣で最初の海



西郷隆盛

相となり，引き続き第2次山県内閣に至るまで海相・内相をつとめた。その間品川弥二郎(やじろう)らと与党的な政治団体として国民協会を結成し，その会長に推された。海軍大将・侯爵・元帥となった。〔高崎徳次〕

ざいこかんり【在庫管理】 企業は，作業および販売の連続性を確保するために，適当な量と質の原材料・仕掛品・製品をつねに維持しておかねばならない。これを在庫品といい，在庫品の量の計画・統制をする業務を在庫管理という。在庫管理が不十分な場合，材料不足のために機械が休止したり，完成品の不足のために販売が延期あるいは取り消されることになる。一方，在庫量が多すぎると材料や製品の品質低下を招き，保管費の増加，帳簿記録などの諸費用の増大を招来することになる。したがって，在庫管理は生産計画や販売流通計画と特に密接な連絡をとり，適正な在庫量を維持するようにしなければならない。重要な要因として在庫品の購入ロット量の決定がある。在庫計画は製品の販売高の増減，製品仕様書の変更，販売価格の変化，そして経済的諸条件の変動に従って調整されなければならない。最近よく活用される在庫モデルは多くの場合数学的モデルである。モデルでは需要の構造，調達期間，保管能力と費用，発注費，販売・流通経路等々につき，十分考慮されるべきである。➔資材管理〔清水 晶〕

さいこく【催告】〈金を支払え〉とか〈無能力者のなした行為を認めるか否か返事をせよ〉などというように，相手方に対して一定の行為を催促することをいう。債務者の債務(→債権)の履行に対する催告と，権利者の権利の行使に対する催告とがある。催告に応じない場合には，契約の解除権が発生したり，ある法律行為を追認または取り消したものとみなされるなど，その定められた期間内に確答しなければ法定の効果を生ずることになる。〔黒木三郎〕

さいごつうちょう【最後通牒】 一国の政府から他国の政府に対する最後的な通告で，一定の期限をつけて要求を提出し，それが容認されない場合には自由行動をとる旨の意思表示である。国交断絶や武力の行使の威嚇を含む場合もある。戦争に訴えることを内容とするものは，条件付き開戦宣言を含む最後通牒とよばれ，無条件容認を求めるのが普通であり，戦争開始の一方法とされている。

ざいことうし【在庫投資】 企業は，おもに取引や生産活動の円滑化のため，製品や原料の一部を在庫として保存する。この在庫残高を変化させることが在庫投資であり，在庫の減少は，負の投資となる。この投資は，設備投資などと異なって直接には生産能力を増大させない。在庫投資は，生産や取引方法の変化のほか，おもに経済が不均衡の状態において〈意図しない投資〉として起こる。たとえば生産過剰の場合に売れ残りの生産物が在庫投資の増加となるごとくである。〔富田重夫〕

サイコドラマ［psychodrama］ ウィーンの精神医モレノによって創始された集団心理療法の一技法。〈心理劇〉ともいう。不適応を生じている人(神経症者・精神病者・非行少年・問題児など)にある役を与えて即興的に演技させ，ドラマの役を通して抑圧された感情や葛藤(かっとう)を表現させ，診断的・治療的観点から障害を打破していこうとする方法である。心理劇を構成するものは，①演者(患者)，②舞台監督・演出家である治療者，③補助自我といわれる治療者の助手(必要に応じて患者とともに劇中の登場人物となる)，④観衆(演技者と同じような問題をもった人からなる)，⑤舞台(モレノの心理的過程の発展についての理論に対応するもので，3段の階段をもった円形の舞台)からなる。〔乾 吉祐〕

さいごのしんぱん【最後の審判】 世の終わりに人類が神によって裁かれるという思想。ユダヤ教でその特殊な終末思想と結合して形成された。《旧約聖書 ダニエル書》やユダヤ教黙示文学に説かれ，キリスト教に継承された。イエスが再臨し，死人の復活があり，アダム以来の全人類がひとりひとり審問され，義人には永遠の至福が，悪人には永遠の刑罰がそれぞれ与えられると説く。《新約聖書》では〈マタイの福音書〉中のイエスの毒ムギの比喩(ひゆ)にもみられるが，〈ヨハネの黙示録〉に最も鮮明に描かれている。〔石井忠厚〕

さいごのばんさん【最後の晩餐】 受難を覚悟してエルサレムに入城したイエスが訣別(けつべつ)の思いを胸に秘めて12弟子(でし)とともにした晩餐。ユダの叛心(はんしん)の露見とその退出という劇的な場面ののち，パンとぶどう酒の食事がなされた。イエスはその際，パンを〈わがからだ〉，ぶどう酒を〈多くの人のために流すわが契約の血〉と言って弟子たちに与えた。聖餐式の起源である。この夜イエスは逮捕され，翌日ゴルゴタの丘の十字架上で刑死したと伝えられる。〔石井忠厚〕

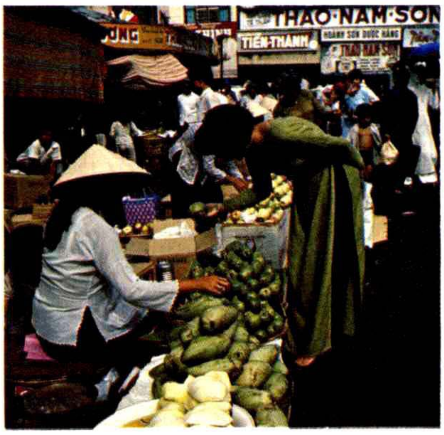
さいころ【賽】 ⇨さい

サイゴン［Saigon］ ベトナム社会主義共和国の都市(旧南ベトナムの首都)。サイゴン川河口から約50kmに位置するメコンデ

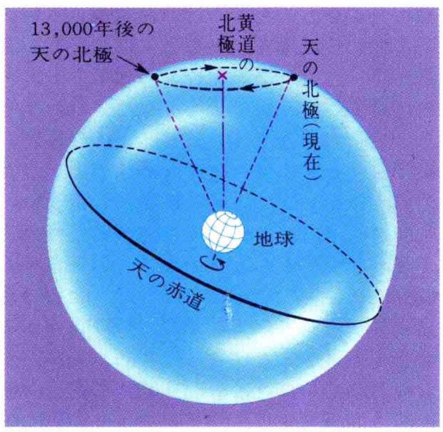
ルタの中心都心。人口182万5,000(1973年推)。政治・文化・産業の中心地で，食料品加工・ゴム・綿織物などの工業がある。サイゴン川岸には造船所・海軍基地があり，サイゴン港には20,000トン級の船舶が出入りできる。17世紀には小さな漁村であったが，1862年フランスが占領すると北部のハノイに対抗する南部の中心として計画的な都市づくりを行なった。市街はヨーロッパふうで並み木や公園が美しく，〈小パリ〉といわれる。19世紀以降，肥沃(ひよく)なコメンデルタが開発され，隣接するショロン地区の米の取引や精米工場の発展とともに，米の大輸出港として栄え，第2次世界大戦後南ベトナムの首都となった。独立宮殿，熱帯樹植物園，カンボジア・コーチシナの古美術のある博物館などがある。交通は河川・運河などの利用が主だが，自動車道路も整っている。しかし，ベトナム戦争による難民が流入したための人口増加と，戦火による市街の破壊は著しい。新政府下ではホー・チ・ミン市と呼ばれている。〔別技篤彦〕

さいこんたん 【菜根譚】 三教一致*の通俗処世訓を説いた中国，明(みん)代の書。洪応明(こうおうめい)の著作。中国よりも日本で愛読され，禅僧に始まり一般世間に流布した。超世俗の心術をもちながら世渡りをする心得を説いた350余条の気のきいた短文からなる。書名の〈菜根〉は，宋(そう)の汪信民(おうしんみん)の〈人常に菜根を咬(か)みうれば，すなはち百事なすべし〉(《小学》)のことばに基づく。

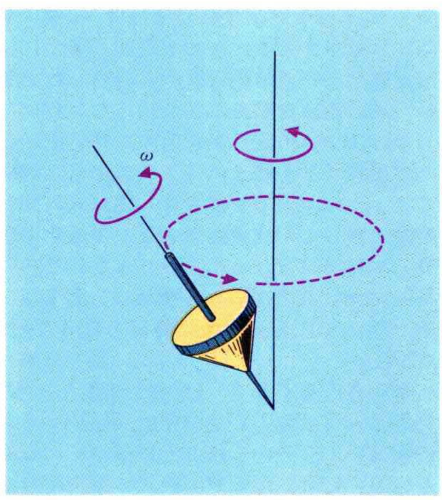
さいさ 【歳差】 太陽・月・惑星の引力により地球の自転軸の向き，軌道が変化して，天の赤道，黄道の位置が変化する現象。したがって，天球上における天体の座標にも変化が起こる。この現象は，紀元前約2世紀にギリシアの天文学者ヒッパルコス*が，150年ほどまえに行なわれた恒星の観測と彼の観測を比較して発見した。また，理論的には，18世紀の初めニュートン*によってはじめて説明された。歳差は日月歳差と惑星歳差に分けられる。日月歳差は地球の赤道面がふくらんでいることに起因する。太陽だけ考えると，太陽の引力は地球の赤道面と黄道面と一致させるように働く。もし地球が自転していなければ赤道面と黄道面は一致するが，地球は自転しているので，地球の自転軸は黄道の極のまわりを円錐(えんすい)運動する。これはこまの歳差運動*に対応している。月の引力も太陽と同じ作用をする。この太陽と月の作用は，赤道面の向きを変えるだけで黄道面の向きは変えない。一方，惑星は地球の赤道面の向きを変えず地球の軌道(黄道)面の向きを変える。これを惑星歳差という。歳差によって天の赤道，黄道ともに変化するので，天の赤道と黄道の交点である春分点，黄道と天の赤道の傾きは変化する。天体力学によれば，春分点の1年間の天球上における移動量は$50.''2564+2.''22\times T$，傾斜角は$23°27'8.''26-46.''845\times T$で表わされる。上式におけるTは，1900.0年から経過した時間を100年単位で表わしたものである。上式でわかるように，春分点は約26,000年で天球上を1周する。〔木下　宙〕



サイゴン 市内のマーケットのにぎわい。くだもののほかいろいろな食品が並んでいる。婦人のつける優雅な安南服が美しい



歳　差



歳差運動 こまの歳差運動

さいさうんどう 【歳差運動】 速く回転しているこまの軸を横に倒すような向きに力を加えると，軸の上端が図のように円を描いて，いわゆる首振り運動(みそすり運動)を始める。これを歳差運動という。いったん軸を鉛直から傾けると，こまに働く重力と抗力がさらに軸を傾けるような作用をするが，こまは軸の傾きを一定に保ったまま歳差運動を続ける。こまの質量をM，軸の下端から重心までの距離をb，軸のまわりの回転の角速度をω，慣性モーメント*をI，重力加速度をgとすると，歳差運動の周期は$2\pi I\omega/Mgb$となる。地球は一つの大きなこまと考えてよいが，太陽や月の引力がその回転軸の方向を変えようとする作用をもっているため，歳差運動をしている。➔歳差〔有山正孝〕

サイザルあさ 【サイザル麻】 単子葉植物・ヒガンバナ科。サイザル・サイザルヘンプともいう。メキシコのユカタン半島原産の多年草。栽培が容易なため，キューバ・アフリカ東部・フィリピン・マライ半島・東インドなどに広く栽培されている。リュウゼツラン*に似て，茎は短く，1～1.8mの剣状の葉が数十枚密生する。7～10年めごろ，1mほどの長い花茎を伸ばして多数の花をつけるが，ほとんど結実しない。花後に珠芽がつき，これが落ちて新個体となる。葉脈繊維は，漁業・船舶用の綱索の原料とされる。

ざいさんく 【財産区】 法律上，特別地方公共団体の一種で，普通の市町村のように，一定の地域を画し住民についての事務を扱う行政単位とは違って，山林・土地・公会堂その他の公共営造物などを管理するために，法人として認められたものをいう。現行地方自治法以前から続いている入会権*のもとの山林・土地や，用水路・温泉・建物・現金などを独立的に管理し処分するために設けられている。この場合，原則として，財産区の属する地方公共団体における管理・処分についての規定が適用される。財産区の財産について必要な経費は財産区が負担し，その収支は地方公共団体の会計と区別しなければならない。管理・運営上必要と認めるときは，知事は財産区の議会あるいは総会を設ける。また財産区管理会を置くことができる。➔区〔鈴木安蔵〕

ざいさんけい 【財産刑】 自然人または法人の財産を奪うことを内容とする刑罰。自由刑*(懲役・禁錮(きんこ)・拘留)とともに近代刑罰制度の主役を演じている。現行刑法は，財産刑を罰金*と科料*の2種類とし，いずれも一定額の金銭を取り上げることが内容で，罰金は20円以上，科料は10銭以上20円未満とした(刑法15条・17条)。しかし，第2次世界大戦後貨幣価値の著しい下落のため，1948年(昭和23)罰金等臨時措置法が制定され，当分の間，罰金は原則として1,000円以上，科料は5円以上1,000円未満とされ，刑法の各条文について定められた罰金・科料の額も50倍に引き上げられた(たとえば刑法116条に規定する失火罪の〈1,000

円以下の罰金〉を〈50,000円以下の罰金〉に読み替える)。罰金・科料を完納できない者は，未納額に応じて相当日数の間(罰金1日以上2年以下，科料1日以上30日以下)労役場に留置される(刑法18条)。なお過料*は，いろいろな金銭罰として使われているが，科料と異なり刑罰ではない。〔井上公耳〕

ざいさんけん 【財産権】 資本制社会において商品としての交換価値を有することを認められた権利をいう。物権*・債権*・無体財産権*・株式*などがある。非財産権である身分権*・人格権*に対する権利概念。

ざいさんぜい 【財産税】 財産を課税客体として課する税。財産を所有しているという事実に基づいて課す静的財産税と，財産移転の事実に基づいて課す動的財産税(相続税*など)があるが，一般に財産税という場合には静的財産税をさす。財産税は，課税の程度によって二つに分けられる。一つは，税率が低く，所有財産から生ずる所得を税源とするもので，名目的財産税とよばれ，もう一つは，税率が高く，所有財産自体を税源とするもので，実質的財産税とよばれる。実質的財産税は一般に臨時税としての性格をもっており，1946年(昭和21)に行なわれたわが国の財産税などがそれにあたる。恒久税としての財産税は，必ず名目的財産税という形をとり，その例として1950～1953年にわが国で行なわれた富裕税をあげることができる。〔西野義彦〕

ざいさんぶんよ 【財産分与】 離婚*に際して相手方に財産を分与すること。旧民法では財産分与は規定されておらず，柔弱な妻の追い出し離婚に際しては，手付け金が任意に与えられていたにすぎなかった。しかし，新民法は離婚をした者の一方は相手方に対して財産分与を請求しうることを認めた(民法768条1項)。財産分与請求権は，解釈的には夫にも与えられるけれども，本来は妻の保護のための規定である。したがって，財産分与の性格は，夫婦共同生活における財産関係の清算，すなわち家事労働にあたる妻は無収入であるが，妻の内助の功があってこそ夫は財産を蓄積できるのであるから，婚姻中に得た財産は夫婦の共有とみなされ，その共有関係を清算することや，離婚後の扶養を意味するとされる。財産分与の額および方法は当事者の協議によって定めてよいが，協議することが不能であるかまたはととのわないときは家庭裁判所*が決定する。ただし家庭裁判所に対して協議に代わる処分を請求するには離婚後2年以内にしなければ時効*によって消滅する(民法768条2項)。家庭裁判所は婚姻中における協力の程度，資産の状態，離婚の原因，離婚後の収入などのいっさいを考慮して分与すべきか否か，分与の額および方法を定めている(民法768条3項)。なお，内縁*の夫婦の場合にも財産分与の規定を適用すべきであるといわれている。〔黒木三郎〕

ざいさんぶんり 【財産分離】 相続*が開始された際，相続財産と相続人の固有財産とが混合することを防ぎ，相続財産を特別財団として分離することをいう。債権*の一般担保を保全するためのものである。すなわち相続財産が債務超過であれば相続人の債権者は不利益をこうむり，相続人の固有財産が債務超過であれば相続債権者(被相続人の債権者)および受遺者(遺贈*を受ける者)は不利益をこうむることになるから，両財産を分離して清算しようとする制度である。相続債権者および受遺者の請求による場合を第1種の財産分離といい，相続人の債権者の請求による場合を第2種の財産分離という。第1種の財産分離の場合は相続開始後3か月以内に，または両財産が混合しない間にその請求を家庭裁判所*にしなければならない(民法941条)。家庭裁判所が財産の分離を命じたならば，請求者は5日以内に他の相続権者・受遺者に財産分離の審判があったこと，および配当加入を一定期間内に申し出る旨の公告をしなければならない(民法941条2項)。債権申し出の期間が満了したときには，財産分離請求者および期間内に申し出た相続債権者・受遺者は，相続財産について相続人の債権者に優先して弁済を受けることができる(民法942条)。期間内に配当加入を申し出なかった者は相続人の債権者と平等な地位で相続財産から弁済を受けることになる。もし，完済が受けられなかった場合は，相続人の固有財産からも弁済を受けることができるが，この場合には，相続人の債権者がそれらの者に優先して弁済を受けることになる(民法948条)。第2種の財産分離の場合は，相続人が限定承認をすることができる間，または相続財産が相続人の固有財産と混合しない間に，その請求を家庭裁判所にしなければならない(民法950条)。相続財産を特別財団として清算する手続きは第1種の場合と同様である。相続人の債権者は，相続人の固有財産に対して相続債権者および受遺者に優先して弁済を受けることができる(民法950条)。なお，清算に関する費用は，第1種・第2種ともに相続財産の負担となる(民法885条)。〔黒木三郎〕

ざいさんもくろく 【財産目録】 一定の時期における商人の総財産に，土地はいくら建物はいくらといったように個別的に価額を付して記載した帳簿。商人の営業用財産の明細表であり，商業帳簿*の一種である。個人商人が開業時と毎年1回一定時期に，また会社が成立時と毎決算期に作成する〈通常財産目録〉(商法33条)と，会社の合併，資本減少，清算，更生のときなどに作成する〈非常財産目録〉の二つがある。各資産の評価基準は，財産目録調整のときにおける時価を越えてはならないことを原則としている(商法34条)。株式会社・有限会社の場合には，その取得価額または製作価額によることを要するとされ，特に固定資産*については，このうえさらに毎決算期に相当の償却をしなくてはならないとされている(商法285条ノ2，285条ノ3)。〔松本治雄〕

さいしいせき 【祭祀遺跡】 古代日本人が野外で祭祀および宗教儀礼を行なった遺跡の総称。縄文(じょうもん)文化・弥生(やよい)文化期にも認められるが，一般に祭祀・遺物の形式が類型化して全国に及んだ古墳時代*以降の遺跡をさす。祭祀遺跡の認定には土師器*(はじき)・須恵器*(すえき)・玉などの土製または滑石製模造品，鏡・鉄鎌(てつがま)などの金属製品，そのほか祭祀に使用された器具が，墳墓や住居跡でない場所に独立して出土することが必要。発見地付近には古来から崇拝の対象となった山岳・丘陵・岩石・樹木・池沼など自然物があり，また古社がある場合が多い。全国約300か所が調査されているが，三輪山(奈良県)・沖ノ島(福岡県)・神坂(みさか)峠(長野県)などが著名である。〔高崎徳次〕

さいじき 【歳時記】 季語*を四季あるいは12か月に分けて分類整理したもので，解説を加えたり，例句をあげたりしたものもある。現今では，解説や例句のあるものを歳時記，季語を分類整理したのみのものを季寄せと区別しているが，古くは必ずしも区別していない。連歌では独立した歳時記はなく，作法書に付録的に扱われた。紹巴*(じょうは)の《白髪集》《至宝抄》はその代表的なものである。俳諧(はいかい)の初期にもこの性格は受け継がれ，俳諧最初の季寄せである立圃*(りゅうほ)の《花火草》，斎藤徳元の《誹諧初学抄》などにもその傾向がみられる。しかし，しだいに歳時記・季寄せは重要視され，季吟*編の《山の井》(1648)は俳諧の季語のみを集録した最初の季寄せである。以後《俳諧番匠童(ばんじょうわらわ)》《をだまき綱目》《滑稽雑談(こっけいぞうだん)》《俳諧小づち》など多数の歳時記・季寄せが出された。中でも滝沢馬琴*の《俳諧歳時記》(1803)は江戸中心の季寄せとしてかなり世に行なわれ，これを増補改訂した《俳諧歳時記栞草(しおりぐさ)》は季語数3,400余り，明治以前の季寄せの最高峰の一つである。明治以後は新季語も多く採用され，また，図解を付けるなど，くふうされたものが出版されている。〔弥吉沙恵〕

さいしゅうとう 【済州島】 チェチュー島 朝鮮半島南西方にある島。1946年全羅(ぜんら)南道から分かれて道になった。木浦(もくぽ)の南140kmにあり，周辺にある大小37の島々を含む。面積1,840km²。人口約35万。行政の中心は済州市。朝鮮第1の大島で，島の中央にある漢拏(ハンラ)山(1,950m)は広大なすそ野を広げた楯状(たてじょう)火山。気候温暖で，朝鮮唯一の甘橘(かんきつ)産地として古くから有名である。水田に乏しいため，アワ・麦・ソバなど畑作物が多く，食糧の自給はできない。漢拏山の山腹は広大な牧場

として利用され，ウシの放牧が盛んである。水産業も盛んで，サバ・イワシ・タラなどの漁獲のほか，貝類・海藻(かいそう)の産も少なくない。工業はアルコール・水産物のかんづめのほか伝統的な螺鈿(らでん)細工が著名。済州市は島の北岸にあって，木浦・麗水定期船が通じ，大学・高校も設置されており，また名勝・古跡なども多い。〔船越昭生〕

さいじょう　【西条(市)】　愛媛県北東部にある市。江戸初期には一柳氏の陣屋町，のち，松平氏三万石の城下町となった。1941年(昭和16)市制施行。人口55,000。市域は瀬戸内海の燧灘(ひうちなだ)に面し，加茂川の扇状地上に位置する。産業三大別人口比は16：41：43で，加茂川の伏流水に恵まれて〈打ち抜き〉とよばれるわき水が多く，これを利用して，繊維・染色・製紙・食料品・機械・金属などの近代工業が盛んである。最近は東予港の建設工事や臨海工業地帯の造成が進み，東隣の新居浜市とともに東予新産業都市の中心である。四国最大の新西条火力発電所がある。予讃(よさん)本線・国道11号線・194号線が通じ，石鎚(いしづち)国定公園の観光基地となる。

さいじょう　【蔡襄】　(1012～1067)　中国，宋(そう)代の政治家・書家。また，茶人でもあった。字(あざな)は君謨(くんぼ)。興化仙遊(せんゆう)(福建省)の人。1030年の進士。諸州の知事を経てのち端明殿学士を拝し，没した。吏部侍郎を贈られ，のちに忠恵とおくり名された。詩文をよくし，書に長じて，その書は当時，宋朝第1といわれた。諸体をよくし，特に行書にすぐれ，小楷(しょうかい)・草書はこれに次ぐといわれる。唐の顔真卿(がんしんけい)を学んで，厳正な法度のうちに，典重遒勁(しゅうけい)な書風をつくりだし，蘇軾(そしょく)・黄庭堅・米芾(べいふつ)と並んで四大家と称される。著書に《茶録》《茘枝譜(れいしふ)》《蔡忠恵集》がある。〔中田勇次郎〕

さいしょうおうきょう　【最勝王経】　⇨金光明経

さいしょうこうばいすう　【最小公倍数】　二つ以上の正の整数(または整式)の公倍数のうちで最小(最低次)のもの。LCM(Least Common Multipleの略)と記す。たとえば，4と6の公倍数は12，24，36，……であるから，最小公倍数は12である。すべての公倍数は最小公倍数の倍数である。

【数の最小公倍数の求め方】①素因数分解(→素数)して，その中にある相異なる素因数の指数が最大なものの積をつくれば，求める最小公倍数が得られる。たとえば，$120=2^3\times3\times5$，$252=2^2\times3^2\times7$であるから，最小公倍数は$2^3\times3^2\times5\times7$である。

②次のように，与えられた整数の二つ以上が割り切れるような素数があったらそれで割り，割り切れるものはその商の下に書き，割り切れないものはそのままの数を下に書いて，この操作をくり返し，下に書かれた整数がどの二つをとっても互いに素になるまで続ける。こうして得られた除数と最後に出た整数の積をつくれば，求める最小公倍数が得られる。

2)	225	240	1260
2)	225	120	630
3)	225	60	315
3)	75	20	105
5)	25	20	35
	5	4	7

LCMは，$2^2\times3^2\times5^2\times4\times7=25200$

【整式の最小公倍数】因数分解して，その中にある相異なる因数の指数が最大なものの積をつくる。たとえば，$x^2y(x-y)$，$xy^3(x-y)^2$の最小公倍数は，$x^2y^3(x-y)^2$である。➔ユークリッドの互除法〔青柳雅計〕

さいしょうにじょうほう　【最小二乗法】　いくつかの観測値をもとにして，最も確からしい値，あるいはその関係を表わす式を近似的に求める方法。たとえば，2量x，yの間に，$y=ax+b$で表わされる関係があると考えられるが，定数a，bの値は不明であるとき，xとyの観測値の組(x_1, y_1)，(x_2, y_2)，……，(x_n, y_n)から，次のようにして，a，bの値を推定する。すなわち，おのおのののx_i $(i=1, 2, \cdots\cdots, n)$に対する$ax_i+b$と，観測した値$y_i$との差の2乗の和を

$$Q=(ax_1+b-y_1)^2+(ax_2+b-y_2)^2+\cdots\cdots+(ax_n+b-y_n)^2$$

とする。(x_1, y_1)，(x_2, y_2)，……，(x_n, y_n)が正確に一直線上に並んでいると，$Q=0$となるa，bの値があるが，一般には，誤差などのために，どんなa，bの値に対しても$Q=0$とはならない。それで，Qの値が最小となるようなa，bの値を用いる。

また，n回の観測値$x_1, x_2, \cdots\cdots, x_n$から，最も確からしい値としてこれらの平均値を用いる場合が多いが，それは差の2乗の和$(m-x_1)^2+(m-x_2)^2+\cdots\cdots+(m-x_n)^2$を最小にする$m$の値と一致する。〔小西勇雄〕

ざいじょうにんぴ　【罪状認否】　アレインメントの訳語。起訴*認否手続きとも訳される。公判廷に被告人を呼び出し，起訴事実を告知して，被告人から有罪または無罪の答弁を求める英米法の制度をいう。もし被告人が有罪を認めれば，証拠調べを経ずして判決をもって有罪を申し渡すことができ，無罪の答弁があってはじめて証拠調べが行なわれる制度である。これに似て異なるものに公判廷における自白*があるが，わが国の判例は自白は証拠として採用しても，証拠調べを経ずに有罪とされないことを明示(刑事訴訟法19条)し，証拠主義にのっとっている。〔井上公耳〕

さいじょうやそ　【西条八十】　(1892～1971)　詩人。東京の生まれ。早稲田(わせだ)大学英文科卒業後，一時文学を離れたが，児童雑誌《赤い鳥*》に詩を発表，処女詩集《砂金(しゃきん)》で詩人としての地位を確立。フランスに留学後，早稲田大学仏文科教授となった。《未来》《青杯》《詩人》などの同人を経て《白孔雀(しろくじゃく)》《愛誦(あいしょう)》などの詩誌を主宰。象徴詩人であるとともに，大正期の代表的童謡詩人である。

さいしょうりつ　【最小律】　植物には生育に必要な数種の元素あるいは養分があり，その植物の生育あるいは収量は，与えられた各養分のうちで十分量に対しての割合が最も少ない養分によって支配されるという法則。1840年リービヒ*によって唱えられた。たとえば，植物に窒素以外の養分を十分量与えてある場合には，リン酸肥料やカリ肥料などをそれ以上与えても効果はなく，生育は窒素肥料の量に比例する。このようにその生育を支配する養分は限定因子*の一つと考えられる。〔吉田精一〕

さいしょくみつど　【栽植密度】　ある面積内に生育する同一作物の個体数の大小について説明されることば。栽植密度が高いということは，あぜ幅・株間が狭いことであり，低いということは，栽植距離が広いことになる。栽植密度は植えつけられる作物の個体としての生長量と関係があるほか，土壌(どじょう)の肥沃(ひよく)の程度，管理技術の方法などによって変わる。密度の高いことは必ずしもよくなく，密度の低いことも収量をあげることにはならない。〔金木良三〕

さいしん　【再審】　民事・刑事の裁判において，確定判決に重大な誤りのある場合，当事者の申し立てによって審理を再開すること。

刑事訴訟法上，不当の事実認定から被告人を救済するために認められた非常手段で，法律解釈の統一を主眼とする非常上告とは異なる。確定判決を容易に動かすことは，判決の権威を失わせ，法秩序を不安定にするものであるから(法治主義*の否定)，容易に認むべきでない(一事不再理の原則*)が，事実認定の誤りに著しい理由がある場合は，例外的に不服を認めて確定判決を取り消すことができる。申し立てることができる場合は，①証拠の認定の誤り(証拠物の変造・偽造および証言の虚偽など)が確定判決により証明されたとき，②無罪，免訴，刑の免除の言い渡しなど，新たに明らかな証拠を発見したとき，③そのほか法律で定められた重要な事由がある場合に限られている(刑事訴訟法435条1～7)。また再審は，被告人の利益のためにのみ申し立てができ，不利益については申し立てることはできない。また再審開始が決定されて審理判決されても，原判決より重い刑を言い渡すことはできない。なお，再審は刑の執行が終わったのちでも，被告人死亡の場合でも，本人または遺族などから申し立てができるが，これは被告人の名誉回復や刑事補償を受ける利益があるからである。〔井上公耳〕

民事訴訟法上，控訴*・上告*など普通の方法による上訴の救済手段がなく確定した終局判決に対し，特に重大な誤りのある場合，当事者の申し立てによりその判決をした裁

判所に，さらにその当否を再審理させる手続きのこと。ただし，民事訴訟法420条に列挙されているものに限られる。たとえば判決の証拠となったものが偽造されたものであるとか，訴訟代理権のない者が代理として訴訟に立ち会ったとかの重大な事由ある場合である。再審の事由を当事者が知った日から30日以内に書面によって申し立てなければならない。再審の訴えは，確定判決についてのみでなく，確定判決と同一の効力をもつ和解，調停，請求の放棄，認諾などについても提起できる。〔内田剛弘〕

さいしんりがく 【差異心理学】 人間の意識や行動の共通性を見いだそうとする一般心理学に対し，個人個人の差，男女間・民族間の差，年齢による差など，個人あるいは集団の差異を問題にし，具体的な特殊性を明らかにしようとする心理学。シュテルン*によって体系的基礎が確立された。

さいすいき 【採水器】 海水や湖水の性質を調べるために，水をくみ上げる観測用器具。表面海水の採取には，ゴム製またはズック製の採水ばけつが用いられる。深海用には防熱装置をつけた絶縁採水器，またはナンセンの転倒採水器を用いる。前者は深さ約300mぐらいまでの測定に用いられ，水温は引き上げてから測定する。後者は船から繰り出される鋼線に何個も装着され，採水器を180°転倒させて，それぞれの深さでの海水を封入し，同時に採水器外部につけてある転倒温度計でその場所の温度を測定する。〔相原正彦〕

さいずちぼや 【才槌海鞘】 原索動物・尾索類・サイズチボヤ科。海生で世界の温水域に分布し，日本近海にもきわめて普通にみられる。体は背腹に扁平(へんぺい)な1mmほどの長方形で，後端に2本の突起がある。体中央の腹面からほぼ直角に，体の1.2倍ほどの長さの尾がはえており，側面から見るとかなづちを思わせるのでこの名がある。近似種が多く知られ，すべてが海生で，ほとんどのものが世界じゅうに分布し，浮遊生活を送る。

さいすん 【採寸】 被服の製作のために人体の体形を数量的にはかること。得られた数値をもとに機能性・審美性を加味して型紙*をつくる。立体裁断の場合は人台の補正や裁断上の参考寸法となる。巻き尺を使って実長をはかるのが最も一般的であるが，多数を早く採寸するにはカメラを使用し，撮影後に寸法を計算する方法もある。採寸箇所を少なくし相関性を利用して他の寸法を割り出す方法と，数多くの部位をはかる方法とがある。慣れない場合は計測誤差が多いので，胸囲・背たけ・肩幅など相関の低いところのみを採寸して，他は割り出しを利用すればよい。〔小池千枝〕

さいせい 【再生】 ⇨記憶

さいせい 【再生】 生物のからだの一部分がなんらかの原因で失われたりこわれたりした場合に，その部分が補われて元どおりの状態になろうとする現象。単細胞から多細胞に至る生物界に広くみられる。再生する能力や再生の方法は，生物の種類によって異なり。同一個体でも場所や年齢などの条件によって違いがある。比較的若い個体ほど再生能力は強く，オタマジャクシの尾などはよく再生するが，変態してカエルになるとほとんど再生しなくなる。イモリなどでは腕の部分から切断されてもある程度元どおりになるが，ヒトなどの高等な哺乳(ほにゅう)類では傷がなおる程度で，元どおりにはならない。しかし，胃などの場合には手術によって切除しても，腸がこれに代わるので，一種の再生と考えることができる。生理的再生と病理的再生とに大別できる。哺乳類の皮膚がたえず表面からはがれ落ち，内層から新しくつくられることや歯や毛がぬけ代わることなどは，正常な生理的現象として再生する生理的再生である。これに対し，病理的再生は修復再生・偶発的再生ともいい，偶発的原因でからだの一部を失ったり，傷ついたりしたときに見られる再生現象で，ふつう再生という語はこの意味で用いられることが多い。特に動物についてみると，再生するのに用いられる材料の種類によって，残った部分の細胞や組織がいったん分化を失ったのち，再分化して失ったものになるような例と，傷の近くに新しい材料が集まり，これが増殖・分化して新しい部分ができる真の意味の再生などに分けることもできる。後者の場合，多くの例では分化していない再生芽という細胞の集団がまず傷口に現われ，やがてこの中で分化が起こって，再生体がつくられる。本来は元どおりの部分をつくり，生活にさしつかえないようにするのが再生の目的であるが，必ずしももとのようにはならず，質的にも量的にも異常な再生体をつくることがある。これを不完全再生または非正型再生といい，異形再生・過剰再生・過少再生なども これに含まれる。いずれにしても再生は細胞の増殖・分化の問題で，発生現象の一環として，細胞・組織化学の面からも，また酵素の問題，核酸・タンパク質の合成などとも密接な関係があり，近年この方面の研究が盛んとなっている。〔蒲原春一〕



採水器
ナンセン型転倒採水器。最も多用される型で，寒暖計も2～4本装備できる。採水量約1,500cc

さいせい 【催青】 カイコの卵は自然温度のもとでも4～5月になると孵化(ふか)するが，多数の卵の胚子(はいし)を同程度に発育させ，予定月日にいっせいに孵化させるために適当な温湿度のへやに移し，孵化させることを催青という。

ざいせい 【財政】 ⇨166ページ

さいせいいっち 【祭政一致】 神を祭ることと政治を行なうことが不可分の関係にあった時代の政治観。古く支配者は神託*を聞いて政治を行なったから，神を祭って神意をうかがい，神意を人民の上に施行することがすなわち政治であった。神祭と政治がいずれも〈まつりごと〉といわれるのはそのためである。律令(りつりょう)制で神祇官(じんぎかん)を太政官(だじょうかん)と並置したことも，このような理念に基づくものであった。

さいせいかい 【済生会】 社会福祉法人恩賜財団済生会の略称。1911年(明治44)，大逆事件*後の社会不安対策の一つとして，明治天皇の下賜金150万円を基金に，生活困窮者の医療救済を目的に設立された。1952年(昭和27)に社会福祉法人となり，病院や乳児院など社会福祉事業を幅広く経営している。全国に141の施設と支部がある。

ざいせいがく 【財政学】 財政現象を研究の対象とする学問。具体的には，国および地方公共団体における諸経費の支出，租税の徴収，公債の発行・管理，国有・公有財産の蓄積・管理，官公営事業などがその対象となる。財政現象自体かなり多面的な要素を含んでいるので，経済学ばかりでなく，政治学・行政学・会計学・経営学などとの関連が特に強い。その研究分野には実証的部門と規範的部門とがある。前者は財政の制度や構造および国民経済との関連を究明するもの，後者は最適な財政活動とはいかなるものか，換言すれば，財政によって充足されるべき公共需要の内容と規模，収入調達のために賦課されるべき租税の種類・税率，発行されるべき公債の規模や種類などを明らかにするものである。

財政学は，まず17～18世紀にドイツで官房学(→カメラリズム)として，行政技術的性格の強いものが発達し，一方イギリスでA.スミス*らにより，自由主義経済学の立場から〈安価な政府〉の財政理論が打ち立てられた。19世紀になり，官房学の流れをくむドイツ財政学は，ワーグナー*を中心に国家活動の生産的役割を説いて〈経費膨張の法則〉を唱え，同時に租税論において累進課税*の採用による所得面分配機能を主張し，社会政策的財政学とよばれた。ケインズ経済学の確立以後は，それを基礎に経済政策的な財政理論(フィスカルポリシー*の理論)が急速に発達し，これが現代財政学の主流となっている。〔西野義彦〕

ざいせいかんぜい【財政関税】 主として，財政収入を得る目的で設けられる関税。財源の確保という点から，課税によって輸入が大きく減少することのない商品，すなわち輸入需要の価格弾力性の価が小さく，しかも国内に代替商品のないような商品が選ばれる。この観点から，自然的条件のために国内で産出しにくいもの(たとえば，日本における砂糖)に課税される場合と，財政上の必要から国内生産物に消費税を課するときに負担の不公平のないよう，国内消費税と見合った率に課税する場合がある。なお，財政関税は，会計制度の未整備であるが，農業から商業へ主要な経済活動が移りつつあるような後進国においては，主たる財源の一つである。保護関税*と違って，輸出財にも課せられる場合がある(たとえばタイの米など)。〔唐木圀和〕

さいせいけんぱ【再生検波】 ⇨検波

さいせいさんひょうしき【再生産表式】 マルクスが《資本論》第2巻第3編で，社会的総資本の再生産過程と流通について示した表式をいう。単純再生産表式と拡大再生産表式とがある。いずれも2部門分割(生産財部門と消費財部門とに分割)と商品の価値構成c＋v＋mを前提(c＝不変資本*，v＝可変資本*，m＝剰余価値*，不変固定資本は捨象)として展開している。単純再生産表式は，mが資本によってすべて消費されて蓄積されず，社会的総資本の再生産が同一規模で行なわれることを示す。

I　4,000c＋1,000v＋1,000m＝6,000
II　2,000c＋　500v＋　500m＝3,000

(I：生産財生産部門，II：消費財生産部門。資本の有機的構成(c：v)＝4：1，剰余価値率＝100％が前提とされる。)

この表式に示される再生産の条件は，①I(c＋v＋m)＝Ic＋IIc，②II(c＋v＋m)＝I(v＋m)＋II(v＋m)で，ここからIIc＝I(v＋m)が得られる。

次に拡大再生産表式は，剰余価値の一部が蓄積されて追加資本に振り向けられるところに特徴がある。それゆえ，単純再生産の場合と決定的に異なる追加労働力の存在と追加不変資本に見合う資本財の剰余が前提とされる。すなわち，I(c＋v＋m)〉Ic＋IIc，あるいはI(v＋m)〉IIcが拡大再生産展開のための物質的前提となる。

I　4,000c＋1,000v＋1,000m＝6,000
II　1,500c＋　750v＋　750m＝3,000

これはまた次のように配分される。

I　4,000c＋ 1,000v＋500m(k)
　　＋400m(c)＋100m(v)＝6,000
II　1,500c ＋750v＋600m(k)
　　＋ 100m(c) ＋50 (v)＝3,000

(m〔k〕＝資本家の個人的消費部分，m〔c〕＝追加不変資本，m〔v〕＝追加可変資本)すなわち，I部門の蓄積率を50％，追加資本の有機的構成は両部門とも原資本と同じとして，II部門の蓄積率はI部門に依存するものとして展開する。そして，次年度には次のような式で示される。

I　4,400c＋1,100v＋1,100m＝6,600
II　1,600c＋　800v＋　800m＝3,200

このように拡大再生産の基本条件は，I〔v＋m(k)＋m(v)〕＝II〔c＋m(c)〕として，より複雑な形で再現されていくことが明らかにされた。〔常盤政治〕

ざいせいせいさく【財政政策】 ⇨財政

さいせいせんい【再生繊維】 天然の繊維物質を原料として，化学的処理により整然とした繊維の形につくり変えた化学繊維*。主要なものはレーヨン*・キュプラ*などで，その他に牛乳タンパク繊維・大豆タンパク繊維・とうもろこしタンパク繊維・落花生タンパク繊維などが少量生産されている。

ざいせいとうゆうし【財政投融資】 国の投融資活動の総称であるが，一般には年年予算案とともに参考資料として国会に提出される〈財政投融資計画〉をさし，国が財政資金その他を一定の計画に従って出資したり，融資したりすることを意味している。財政投融資計画は，資金運用部資金・簡易保険資金・産業投資特別会計資金や，公募債・借入金などによって調達された資金を原資として，それを一定の公共目的に沿ってさまざまな分野，たとえば公社・公団などの政府関係事業に，日本開発銀行・公庫などの政府関係金融機関を通じて民間に，地方債の引き受けを通じて地方公共団体に供給している。財政投融資の特性として，①原資の大部分が郵便貯金・厚生年金積立金・簡易生命保険など，国民一般の零細資金からなっていること，②産業投資特別会計からの資金を除いて，原資の大部分が元利の償還を必要としていること，したがって，③その運用に際しても，運用先の事業が元利償還を保証するものであり，公共目的に合致したものでなければならないこと，などがあげられる。第2次世界大戦後の財政投融資計画では経済復興が優先され，基幹産業あるいは産業基盤への投融資に重点が置かれていたが，近年ではしだいに住宅・生活環境整備・中小企業・農林漁業など生活基盤ないし低生産性部門への投融資に重点が移行するようになった。〔西野義彦〕

財政投融資の対象別金額(単位　億円)

	1960年度(実績)		1970年度(実績)		1971年度(計画)	
	金　額	%	金　額	%	金　額	%
特別会計	95	1.5	371	1.0	435	1.0
公社	796	12.7	3 600	10.1	4 374	10.2
公庫等	2 405	38.5	16 034	44.8	18 898	44.1
公団等	692	11.1	9 345	26.1	11 444	26.7
地方公共団体	1 676	26.8	6 006	16.8	7 106	16.6
特殊会社等	587	9.4	392	1.1	442	1.2
琉球政府	—	—	51	0.1	105	0.2
合計	6 251	100.0	35 799	100.0	42 804	100.0

大蔵省《財政金融統計月報》(1971年4，5月)による

さいせいふりょうせいひんけつ【再生不良性貧血】 貧血の一種で，赤血球・白血球・血小板の骨髄での生成が著しく減少する疾患。患者の多くが死亡する危険な病気で，欧米ではきわめてまれであるが，わが国では比較的多くみられる。原因は不明であるが，放射線や薬剤(ベンゾール・ヒ素剤)などによって起こることもある。症状は貧血のほか，鼻・歯肉・皮下などの出血および発熱を伴うことが多い。治療は決定的なものがなく，以前は1年以内に80％が死亡した。しかし最近は，輸血，副腎(ふくじん)皮質ホルモン・止血剤の使用，脾臓(ひぞう)の摘出などの治療によって回復することがあり，死亡率はかなり減少している。おもな死因は，出血による貧血の悪化，白血球減少による抵抗力低下のための感染である。〔大橋辰哉〕

さいせいもう【再生毛】 羊毛*製品から反毛によって再び羊毛繊維を回収したもの。回収羊毛ともいわれる。紡毛織物などを製造するときに利用される。

さいせき【砕石】 堅硬な岩石を砕いて径5～100㎜くらいにしたもの。主としてコンクリートの骨材*として，または鉄道・道路工事用として用いられる。日本での年産額は数千万トンであるが，じゃり*が不足してきているので，今後ますます増産される見込みである。砕石に適した岩石は，堅硬なうえに砕いたときの形がよいことや，生じる微粉が少ないこと，風化しにくいことなどの特徴を要求される。硬質砂岩・安山岩・玄武岩・石灰岩・ドロマイトなどが適している。〔片山信夫〕

ざいせき【材積】 樹木や木材の体積。わが国ではその単位に立方メートル(㎥)を用いている。製材された材は3辺の長さを掛け合せて正確な材積を求められるが，丸太や立ち木では別の方法で略算して求める。丸太の材積は，その中央の断面積に長さを掛ける方法(フーベル式)，両端の面積の平均に長さを掛ける方法(スマリアン式)が古くから用いられた。しかし，現在は農林規格に示された方式，すなわち末口径の平方

→168ページ

財　政

国や地方公共団体の経済活動を財政という。どのような社会組織においても，国家と地方公共団体という政治的・行政的組織は不可欠であり，これらの公的組織は公務員を雇い，必要な資材を獲得して国民にいろいろの公共サービスを提供している。資本主義のもとでは，企業活動は原則として民間の手にゆだねられ，政府や地方公共団体は事業を営まない。したがって，公共団体は経済力あるいは資金を事業活動以外の方法で得なければならず，公権力によって強制的に国民の生産物の一部を獲得する租税収入が主要な収入源となる。

【財政のしくみ】資本主義の国家は原則として無産国家であり，その収入を主として租税にたよる租税国家である。国家や地方公共団体は公債を発行して必要な資金を獲得することもできる。しかし，公債はいずれは償還しなければならず，その財源は租税収入以外にはない。こうして無産国家は必然的に租税国家である。租税にはいろいろな種類があるが，大別すれば，所得を課税標準とする租税，消費にかかる租税，財産に課せられる租税になる。わが国の例でいえば，所得にかかる租税には国税として所得税・法人税があり，地方税として住民税や事業税がある。消費にかかる租税には物品税(国税)や酒税(国税)や揮発油税（国税)などがある。財産課税には国税で相続税や贈与税，地方税で固定資産税がある。別の観点からみて，所得課税と財産課税を直接税といい，消費課税は税の転嫁が予想されるので間接税という。現在のわが国の租税はアメリカやイギリスと同じように国と地方を合計して直接税の比重が高い。➔税

この租税収入によって公共団体は各種の歳出を行なっている。財政支出はもともと民間の企業や個人がなしえないサービスを提供することが目的であって，おもな歳出の種類は，国防・司法・教育・産業政策・公共事業・社会保障などである。最近どの国でも力点を置いているのが，経済の成長を図るための社会資本の充実を意図する公共事業費と，福祉国家の実現を図るための社会保障関係費である。そのほか，地域の経済力不均衡を反映する地方財政収入の不均衡を是正するためになされる，地方交付税*のような地方団体への支出が国家の支出の中で大きな比重を占めている。

収入と支出は予算という形で計理が行なわれる。どの国でも会計年度*は１年であり，わが国では４月から始まり翌年３月で終わる。予算編成は大蔵省が担当する。まず前年度秋ごろから，翌年度経済見通しを行なって税収を見積もる。各省からの予算要求をこの財源の大きさを考慮しながら査定し，正月前後に政府の原案ができあがる。国会でこの審議が行なわれ，年度末までに可決されるのが普通である。このようにして成立する予算は当初予算とよばれる。予算は，すべての予算要求を一時点で比較しながら査定するのが合理的であるわけだから，本来予算は一本でなければならない。しかし，たとえば公務員給与のベースアップとか災害復旧とか，あるいは食糧管理特別会計*への赤字補塡(ほてん)のための繰り入れとか，やむをえない財政需要が発生することがある。また，経済成長が予想以上に進むときには税の自然増収も見込まれる。こうして歳出と税収をふやすための追加予算が組まれる場合がある。あるいは，既定の予算項目を修正するための予算が組まれることもある。このような追加・修正の予算を総称して補正予算*という。➔予算

予算は一つの会計で示されることが原則であるが，しかし，政府の活動機構が複雑になるといくつかの特別会計*が必要になる。軍備・司法・義務教育・公共事業などの政府本来の任務のための歳出と，他方租税収入や公債収入を掲げているのが一般会計*である。これは政府予算の中心であって，通常の予算・財政論議はこの一般会計をめぐって行なわれる。わが国ではこのほかに非常に多くの特別会計が置かれている。造幣局や印刷局や郵政事業のような企業活動を行なっていて事業収入をあげていることや，道路・港湾・治水の公共事業を特別に計理するために(これらに対しては一般会計から租税収入が繰り入れられる)，11の事業特別会計が置かれているなどである。国立学校や国立病院の管理，また食糧管理制度がとられていることから８の管理特別会計がある。また政府は各種の社会保険を管掌しているために，厚生年金保険・国民年金保険・失業保険などの15の保険会計を設けている。そのほか，国庫金を運営するための資金運用部*の制度や国債整理基金の特別会計など，８の融資あるいは整理の特別会計がある。このように，1970年(昭和45)度においては実に43の特別会計が設けられている。このほかに，特別会計の形をとっていないが，政府関係機関として，専売公社・国有鉄道・電信電話公社の３公社，国民金融公庫・住宅金融公庫・日本開発銀行などの11の公庫銀行がある。これらの政府関係機関はすべて全額政府出資の公法人で，政府資金の融資を受けており，業務は政府の監督下にあり，一般会計や特別会計と並んで重要な財政運営の組織になっている。

わが国には古くから郵便貯金や簡易生命保険の制度があるほか，最近は社会保険制度が整備されて，預金や保険料の形で大量の資金が政府部内に蓄積されるようになった。この資金は資金運用部に集められ，一元的に経済発展と社会開発のために利用されることになっている。この資金計画が財政投融資資金計画である。これは予算ではなく，国会の承認を受ける必要はないが予算の参考資料として予算案とともに発表される。この資金は元本を保存しかつ預金利子を支払わねばならないから，歳出として使いきることはできず，有利に融資されなければならない。融資先は，公社・公庫・銀行などの政府機関が中心であり，公庫・銀行からさらに民間に貸し出される。

【第２次世界大戦後のわが国の財政政策】終戦直後は戦時財政の残務整理のため，財政は赤字を示し，インフレーションは激しく進行した。この勢いに急ブレーキをかけたのが，1949年度予算に示されたドッジ-ライン*であった。これは，国内の有効需要を圧縮して一挙にインフレーションの収束を図り，これによって生じる輸出余力によって国際均衡を達成し，経済の安定と自立を実現しようとしたものであった。このために，①一般会計・特別会計・政府関係機関を通じる総合財政収支の均衡と多額の債務償還，②復興金融金庫の新規融資の停止，③アメリカ援助物資売却代金の見返り資金特別会計(現在の産業投資特別会計*の前身)への積み立てなどのきびしい措置がとられた。このドッジ-ラインの財源的基礎を固めたのが1949年のシャウプ使節団の勧告に基づいた税制であった(➔シャウプ勧告)。このシャウプ税制はその後現在に至るまでわが国税制の基礎をなしている。その特色は，法人擬制説の立場から個人・法人を通じ所得税を中心とする累進税体系を整えたこと，直接税中心主義を貫いたこと，固定資産の再評価を行なってインフレーションによる資本の食いつぶしを防いだこと，さらに地方自治強化のため地方公共団体に独立財源を与え，国庫補助金を減らすとともに，地方財政平衡交付金制度を設けて地方財政の調整機能の強化を図ったこと，などがあげられる。

その後も均衡予算主義は長く堅持され，日銀信用に基づく低金利政策とあいまって戦後の経済復興，さらに昭和30年代の高度成長に著しく貢献した。わが国の税制が所得税に大きく依存していることは，均衡予算主義の採用が消費を抑制することを意味し，それが歳出を通じて財政投資に転換されて経済成長に役だったわけである。他方，低金利政策は民間投資を刺激したので，この財政ー金融のいわゆるポリシーミックスは高度経済成長をささえたということができる。他方，高度経済成長は税収を著しく増加させた。特に所得税や法人税はその税収の所得弾力性が高いため税の自然増を発生させ，放置しておくと国民所得に対する

図-1 一般会計租税および印紙収入の内訳
（1971年度予算）

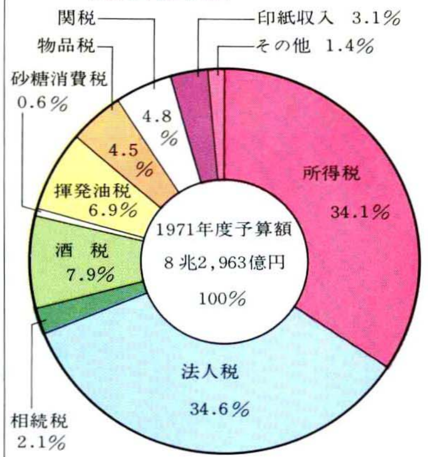
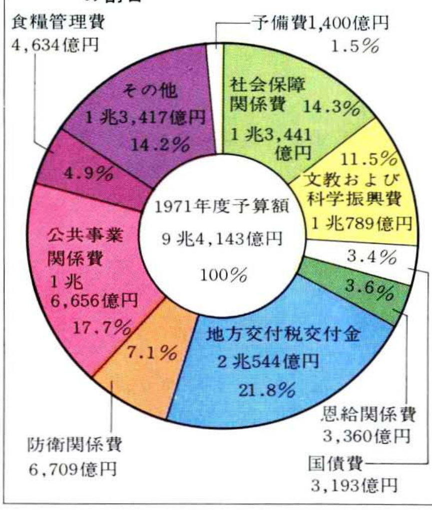


図-2 一般会計歳出予算に占める主要経費の割合



税収の比率（租税負担率）を急速に高めてしまう。このようにして，昭和30年代において直接税の減税要求が強まり，減税のルールをいかに定めるかが財政政策の中心課題の一つになった。いくつかの減税ルールが提案され実行されたが，昭和30年代半ばに主張されたのは財政規模を国民所得の20%にとどめ，それを上回る税の自然増はこれを減税に振り向けようとする方針であった。しかし，これによれば経済成長が継続しても財政の相対規模は不変である。そこでむしろ経済成長とともに財政の相対規模は漸増すべきであるという立場から，昭和30年代末期には，自然増の75%は歳出増の財源とし，25%を減税財源とすべきであるというプランが税制調査会から提案された。このような減税ルールの設定は，均衡予算主義のもとでは同時に財政規模決定のルールの設定にほかならず，その意味で戦略的に重要な意味をもつものであった。

昭和30年代も軽微な景気変動は存在したが，旺盛（おうせい）な投資需要の主導する高圧経済のもとで，微調整を行なうだけで高度成長を持続することができた。しかし，1964年から1965年にかけて経済は深刻な不況に陥り，設備が過剰になったり企業の財務状態が悪化したために停滞が長引いた。これに対して何度か公定歩合*の引き下げが行なわれたが，経済はなかなか回復しなかった。他方において，税収は景気の停滞を反映して法人税を中心にはじめの見積もりを大きく下回ることが確実になった。そこで，このような事態に対しては，均衡予算の原則にこだわって増税や歳出の削減で対処することは，かえって事態をいっそう悪化させることが明らかになった。そこで1965年夏には公共事業の実施促進，財政投融資の拡大などの措置がとられ，次いで1965年度補正予算で約2,600億円の歳入補塡公債が発行されるに至った。引き続いて編成された1966年度予算では財政法4条に基づく7,300億円の建設公債の発行を予定して，いままで租税収入でまかなってきた公共投資の大部分を公債収入でまかなおうとした。このように，景気政策として財政政策を積極的に利用する政策はフィスカルポリシー*とよばれる。わが国は1965年度のフィスカルポリシーの実施によって，いままでの均衡予算主義に終わりを告げ，公債を含めた財政時代にはいったのである。しかし，その後景気は急速に立ちなおり，税収の伸びは国民所得の伸び以上になると，税の自然増収を減税に回すべきか，それとも公債減額に回すべきかという選択が大きな問題になった。1967年度以降，歳出に占める公債発行高の割合（公債依存度）は顕著に低下したけれども，新規の公債発行は現在まで継続しているからである。大蔵省としては，公債依存度をできるだけ早く5%以下に引き下げようとして，一方では歳出の伸びを抑制し，既存の事業計画を再検討して整理し，他方では減税を小幅にとどめるよう強く主張している。そのために，財政硬直化の打開，補正予算をできるだけ排除しようとする総合予算主義のキャンペーンを現在強く行なっている。

〔財政政策の課題〕 今日どの国でも国民経済の中での財政活動の比重はかなり大きくなっており，どのような財政政策を実行するかは一国の発展にとってきわめて重要な影響を及ぼす。そこで最後に財政政策の任務に触れておく。

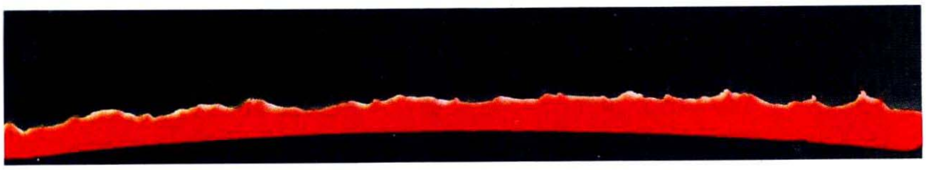
第1に，財政は公私の最適な資源配分を行なうことによって，公的欲求を適正に充足しなければならない。国民の欲求には私的な欲求と公的な欲求がある。私的な欲求は経済に競争が十分に行なわれていれば，価格機構の働きによって適切に充足される。たとえば，需要が増加する商品の価格は上昇し，その結果供給もふえる。他方，需要されなくなった商品は価格が下落し供給も減るというぐあいである。しかし，公的欲求は，治安・生活環境整備，道路のサービスのようにすべての人が等しい量の消費をするという特性をもっている。このような欲求は自分がそのサービスを享受しても他人を排除することがないから，各人が自己の負担でそのサービスを購入しようとはしない。需要が現われなければ供給もなされない。こうして価格機構の働きによっては公的欲求は充足されない。したがって，公共団体が予算という制度を利用してこのサービスを提供しなければならない。これが財政の基本的な任務である。そのためには，資源が民間から政府の手に移転されなければならない。租税はこの手段であって，租税負担が全然ない場合よりも租税によって資源が民間の手から政府に移されて公的なサービスが最適な水準で提供される場合のほうが国民の厚生水準は高まるはずである。したがって大事なことは，最適な水準の財政規模を確保するということである。

第2に，財政はフィスカルポリシーを実行することによって完全雇用と安定した経済成長を確保しなければならない。たとえば，不況のときには均衡予算主義にとらわれないで積極的に減税や歳出の増大を図る必要がある。インフレーションの場合はその反対の措置がとられなければならない。国庫は国民経済のバランスを図るために積極的にみずからの赤字あるいは黒字をつくりださなければならない。

第3に，財政は所得の再分配を行なうことによって，公正な所得分布の実現に努力しなければならない。そのためには，累進的な所得税制や相続税などが社会保障費と組み合わされて実施されなければならない。

重要なことは，財政はこの三つの任務のすべてを独立に果たさなければならないということである。たとえば，不況を克服するために，資源の適正配分の観点からみて無用な政府事業を興したり，歳出を拡大してはならない。そのような場合には，むしろ減税を積極的に推進して民間の投資や消費を刺激することがたいせつである。あるいはインフレーションを抑制するために，消費性向の高い大衆の所得を削減しようとして，所得税のしくみを逆進的にしたり大衆消費税を課してはならない。それでは第2の経済安定政策のために第3の再分配政策が犠牲になってしまうからである。そうではなく再分配政策に中立性を保持したまま，総需要の抑制を図るような増税措置がとられなければならない。この三つの任務をそれぞれについて最適に果たす場合，その財政政策は最適財政政策とよばれる。

〔宇田川璋仁〕



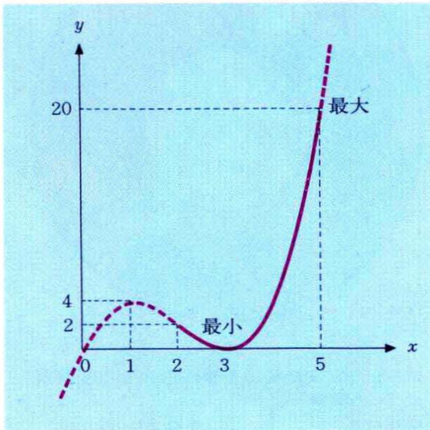
彩　層

に長さを掛ける方法が広く行われる。ただしこの方法では，長さにつれて大きな誤差を生じるため，6ｍより長いときは適宜修正される。立ち木の場合は測定が困難なために，胸高直径(日本では1.2ｍの高さの直径)と樹高だけからその材積を求める。古くは形数法(胸高直径から算出した断面積と樹高の積に樹種によって定まった係数を掛けて材積を求める方法)によったが，近ごろは立ち木材積表(胸高直径や樹高と材積との関係を示した表)を用いることが多い。

これらの材積は木材の実質の体積であるから実積とよばれ，これに対して層積という別の材積がある。単位は同じく立方メートルであるが，薪炭材・小枝などは実積で示すことが困難であり，またそれほど詳しくはかる必要もないので，これらを一定の形に積み上げた容積を材積とするものである。〔黒岩菊郎〕

ざいせきせんじゅうせいど【在籍専従制度】 職員の身分をもちながら，就業時間中もっぱら労働組合*の活動に従事する者を在籍専従者という。わが国では，官公庁・民間企業を問わず企業別組合が圧倒的に多いので，組合役員は職場に基盤を置いて活動せざるをえない。したがって，職員の資格をもつ組合役員が生じてくる場合も多いが，特に組合員が多数いる組合では，組合活動に専従する者が必要である。在籍専従制度には公務員・公共企業体職員に対して次の規制がある。①在籍専従の期間を通算3年とする。②在籍専従の期間は休職の取り扱いを受け，その期間は，退職金の算定の基礎となる勤続期間に算入されない。③休職専従の許可は，当局が相当と認める場合に与えられ，当局が許可の有効期間を定める。④在籍専従制度は，公務員法上，登録された職員団体にのみ認められる。在職期間を通じて3年の制限を定めた規定は，ILO87号条約批准(→ILO)に伴い改正されたが，この専従制度の制限については，団結権*および組合活動の自由を侵害するものだという批判がある。民間の在籍専従者は，労使の契約により，その間の賃金を与えないという以外には差別をしないというように，日本官公庁労働組合協議会*よりは比較的自由が認められている。〔木元錦哉〕

さいせつがん【砕屑岩】 岩石が地表で風化作用を受けて細かく砕けたものを砕屑とよび，それが水流や風で運搬されて，やがて堆積(たいせき)してできた岩石を砕屑岩という。砕屑物は大きさにより礫*(れき)・砂*・シルト*および微細な粘土分に分類される。



最大・最小

礫を主体とする岩石はレキ岩*，砂を主体とする岩石は砂岩*，シルトおよび粘土分を主体とする岩石はディ岩*とよばれる。なお火山の爆発でできた砕屑物が堆積してできた岩石を火山砕屑岩という。〔片山信夫〕

さいせっき【細石器】 中石器時代の代表的な遺物。打製の微小な石器で，幾何学形細石器と細石刃(せきじん)に大別される。しかし厳密には，長さ2～3cmの小剥片(しょうはくへん)からつくられた三角形・台形・長方形・三日月形などの幾何学的形態を有した極小石器をさす。細石器は，これだけで石器として使用したものではなく，数個ないしは10数個を柄に並べてはめこみ，ナイフ・のこぎり・もり・つり針・かまなどとして用いたいわゆる合成器具の刃をなすものであることが特徴である。〔河原純之〕

さいせんれいは【再洗礼派】 宗教改革時代，スイス・ドイツ・オランダで活動したプロテスタントの一派。幼児洗礼を否定し，自覚的信仰告白による受洗のみを真の洗礼と主張して再受洗を施したので，この名がある。ドイツ農民戦争に関係の深いミュンツァー*はこの派の預言者である。過激派として新旧両教会から迫害された。

さいそう【彩層】 太陽光球のすぐ外側を包んでいる大気層。厚さ2,000kmぐらいより外では針構造が見え，外側のコロナに接している。針構造はスピキュールとよばれ，光球から高さ5,000～15,000kmにまで達している。光が弱いので，皆既日食のときか，分光太陽写真儀*，ミリメートル波の電波，極紫外線のスペクトル(人工衛星に載せた分光器で得られる)などを使って調べられる。➔太陽

さいそうち【採草地】 家畜が利用できる草地のうち，家畜を放牧しないで草を刈る場所。自然の採草地と改良した採草地がある。自然の採草地のままで毎年草を刈り続けると，良質の野草が地力の減退とともに減少してくる。そこで，牧草の種子をまくとかマメ科の野草を増殖させるとかして，草の管理を行なわなければならない。

サイダ［Saida］ レバノンの都市。旧称シドン。人口22,000(1963)。地中海に面し，古代フェニキア時代からの貿易港で，ガラス製品の産地として知られた。サウジアラビアから西ヨーロッパ諸国へ送り出す石油のパイプライン(TAP＝トランス-アラビアン-パイプライン)のターミナルで，積み出し港になっている。

サイダー［cider］ 本来はリンゴの果汁(かじゅう)を発酵させたリンゴ酒(シードル)をいうが，わが国では炭酸ガス入り清涼飲料の一。1899年(明治32)にはじめて王冠を使い，シャンペン-エッセンスで着香した品を発売したのがサイダーの創業で，従来の玉ラムネと区別した。

さいだいこうやくすう【最大公約数】 二つ以上の正の整数(または整式)の公約数のうちで最大(最高次)のもの。GCM(Greatest Common Measureの略)と記す。たとえば，12と18の公約数は1，2，3，6であるから，最大公約数は6である。すべての公約数は，最大公約数の約数である。

【数の最大公約数の求め方】①素因数分解して，共通な素因数の指数が最小のものの積をつくれば，求める最大公約数が得られる。たとえば，$120=2^3\times3\times5$，$252=2^2\times3^2\times7$であるから，最大公約数は$2^2\times3=12$である。

②次のように，与えられた整数の全部が割り切れるような素数で割り，さらにその商が共通に割り切れるような素数があれば，それで割り続けて，共通に割り切れる素数がなくなったらやめる。このとき共通な素数全部の積が最大公約数である。

2)	120	252	420
2)	60	126	210
3)	30	63	105
	10	21	35

GCMは$2^2\times3=12$

【整式の最大公約数】二つ以上の整式の共通因数のうち，指数の最小のものの積をつくれば最大公約数が得られる。たとえば，$x^3y^2(x+y)$と$x^2y(x+y)^2$の最大公約数は$x^2y(x+y)$である。➔ユークリッドの互除法〔青柳雅計〕

さいだい・さいしょう【最大・最小】 与えられた条件のもとで，関数の値が最も大きくなることを最大という。実数値をとる関数$f(x)$があり，その定義域が定められているとする。変数xが定義域のすべての値をとるとき，これに対応して定まる関数の値のうちで，$x=c$のときの値$f(c)$が最大ならば，$f(x)$は$x=c$で最大であるといい，

$f(c)$を最大値という。同様に，$f(d)$が最小ならば，$f(x)$は$x=d$で最小であるといい，$f(d)$を最小値という。たとえば，三次関数$f(x)=x^3-6x^2+9x$は，xの変域をすべての実数とするときには，最大値も最小値もなく，$x=1$において極大，$x=3$において極小となる。xの変域を制限して，$2\leqq x\leqq 5$とすれば，$f(x)$は$x=3$において最小となり，最小値は$f(3)=0$である。また，$x=5$において最大となり，最大値は$f(5)=20$である。$f(x)$が閉区間$[a, b]$（$a\leqq x\leqq b$のこと）において連続ならば，$[a, b]$の中で必ず最大値および最小値をとる（ワイヤシュトラスの定理）。➔前ページ（図）〔青柳雅計〕

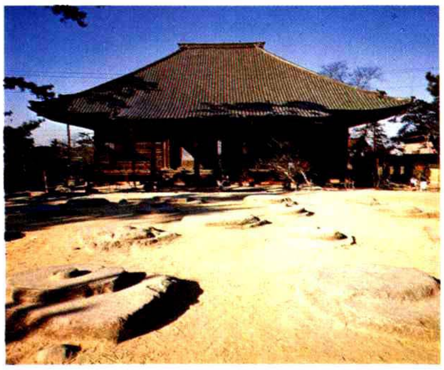
さいだいじ　【西大寺】　奈良市西大寺町に所在する真言律宗の総本山。南都七大寺（➔南都六宗）の一。765年（天平神護1）称徳天皇が僧道鏡*とともに東大寺*に並ぶ寺院として平城京に創建した。規模広大で多くの封戸*（ふこ）を施入されて盛観を誇ったが，846年（承和13）とその翌年の火災で焼失して衰えた。鎌倉時代に叡尊*（えいそん）が出て，236年（嘉禎2）戒律の中心道場として諸堂を再建したが，1502年（文亀2）再び火災にあった。現在の本堂は江戸時代に再建されたものである。境内は史跡に指定され，《十二天画像》《金光明最勝王経》10巻，その他，多くの国宝を蔵する。〔高崎徳次〕

さいだいじ　【西大寺】　岡山市に所在する真言宗の寺。金陵山西大寺観音院と称する。奈良時代，藤原皆足媛（みなたるひめ）の開基と伝えられている。鎌倉・南北朝時代に栄え，西大寺市はその門前町として発達した。再三炎上し，現在の本堂は1718年（享保3）の建立（こんりゅう）。旧正月14日夜には牛王殿（ごおうでん）での〈会陽（えよう）の秘法〉は裸祭りとして有名。

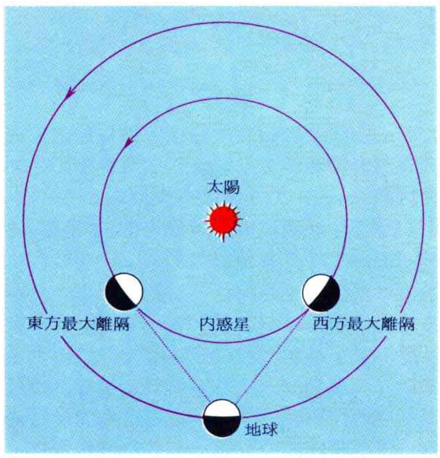
さいだいじ　【西大寺】　岡山県南東部にある岡山市の東部地区。1953年（昭和28），西大寺市として単独に市制を施行し，1969年に岡山市に編入された。中心市街は吉井（よしい）川西岸の旧西大寺町で，鎌倉時代末期に南都西大寺の末寺として建造された西大寺の門前町として発達し，江戸時代は吉井川の河口が米の積み出し港としてにぎわった。1962年赤穂（あこう）線が全通し，西大寺港の改修も進んで，南部は臨海工業地区として発展しつつあり，北部の国道2号線沿いにも工業地帯が興っている。〔浅井得一〕

さいだいまさつりょく　【最大摩擦力】
⇨摩擦

さいだいりかく　【最大離隔】　最大離角とも書く。①日周運動*によって，地平線下に没しない天体が極から最も東または西へ離れる現象。東に最も離れたときを東方最大離隔，西に最も離れたときを西方最大離隔という。すなわち，天体の方位角*が極大または極小に達したときが東方または西方の最大離隔である。②地球から見て，内惑星が天球上で太陽から最も離れる現象。東に最も離れたときを東方最大離隔，西に最も離れたときを西方最大離隔という。惑星の軌道は楕円（だえん）であるため，水星では18°～28°まで，金星では47°～48°である。このとき水星・金星とも半円形に見える。なお，外惑星は地球の外側を回るので最大離隔の現象は起きない。〔木下　宙〕



西大寺（奈良）　金堂と東塔礎石



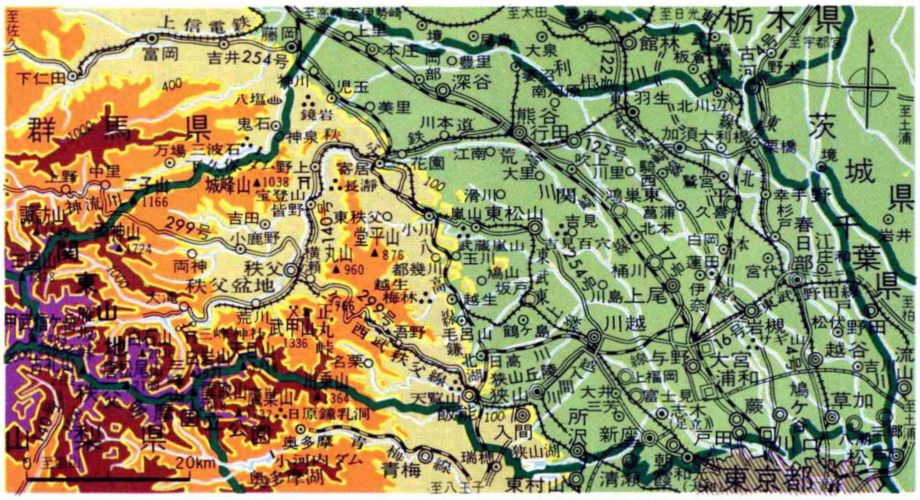
最大離隔

さいたま　【埼玉（県）】　関東地方中央部から西部にかけた内陸県。北は群馬県・栃木県，東は茨城県・千葉県，西は長野県・山梨県，南は東京都と接する。武蔵（むさし）の北半を占め，面積3,799km²，人口532万8,000，人口密度は1km²あたり1,402人。最近は近代工業の伸長と住宅地区の発展によって人口増加が著しい。県木はケヤキ，県花はサクラソウ，県鳥はシラコバト。県庁のある浦和以下39市と9郡（35町18村）に分かれる。県名は大化改新以来，利根（とね）川（いまの古利根川）西岸地区に武蔵国の埼玉郡が置かれたことにちなむといわれる。

〔自然〕地形は西部の山地と東部の平地に大きく2分される。西部は関東山地の北部にあたる秩父（ちちぶ）山地で，県域の約4分の1を占める。山地のやや東寄りに秩父盆地があり，盆地床の第三紀層は荒川の本支流によって侵食を受け，河岸段丘が発達する。盆地の周辺山地は大半が秩父古生層によって構成され，武甲山（1,336m）をはじめとして各地に石灰岩が広く分布する。秩父山地の周辺一帯は森林と峡谷の美しさに恵まれ，荒川が秩父盆地から流れ出て外秩父山地に刻む長瀞（ながとろ）峡谷は景勝地として名高い。南西端の長野・山梨両県との境には県下最高峰の甲武信ケ岳（こぶしがたけ）（2,483m）などの2,000m以上の高峻（こうしゅん）な山並みがあって，秩父多摩国立公園の区域内に含まれる。東部には，秩父山地と境を画する狭山（さやま）丘陵のほかは台地と低地が広がる。台地は，南方の東京都へかけて，関東ローム層におおわれた武蔵野台地があり，入間川北方の飯能台地，荒川東方の大宮台地などを含む。低地は荒川と古利根川の沖積地（ちゅうせきち）にあたる関東平野の一部で，かつては東京湾が深くはいり込んでいた地域である。北方の群馬県境には利根川があり南東方へ流れる。気候は一般に表日本式で，温暖であるが，西から北へかけての山地や内陸部は寒暑の差がやや大きく，夏は高温で雷が多く，冬は〈からっ風〉とよばれる乾燥した北西の季節風が吹く。県北の中心都市熊谷（くまがや）では年平均気温13.7℃，1月は2.5℃，8月は25.6℃，年降水量は1,294mmである。

〔産業〕産業三大別人口比は6：39：55。元来は農業県であったが，最近は立地条件に恵まれた県南地区を中心に近代工業が発達し，関東地方では東京都・神奈川県に次ぐ工業県となった。県民分配所得は1人あたり124万9,000円（1977）で，全国第16位。

〈農林水産業〉広い平地に恵まれて，耕地面積は14万3,000ヘクタール（1968）で県域の38％を占め，耕地率は全国首位，水田率は55.4％であるが，最近では工場や住宅地帯の進出につれて兼業農家の増加と専業農家の減少が目だっており，15万6,000戸の農家のうち，兼業農家率は77.7％を示す。古利根川・元荒川・荒川沿いの沖積地には用水路の完備した水田地帯が広がるが，南東部の低湿地では湿田のために田植えができず，じかまきをしている〈つみ田〉もみられる。米の平年収量は24万6,000t（1977）である。台地では麦・サツマイモなどの栽培が盛んで，麦類の平年収量は11万tである。京浜の大消費地を控えて近郊農業が発達し，水田の裏作に葉菜類，畑作では根菜・果菜類がつくられ，東京都で消費する野菜の約18％をまかなう。最近は果樹栽培も盛んで，ニホンナシは43,000tを生産し，福島県に次ぐ全国第5位を占める（1977）。なお，イチゴの生産は年間11,000tで，全国首位である。北西部では古くから養蚕が行なわれ，繭の産額は群馬・長野・山梨の3県に次ぐ全国第4位である。特産としては川口市内の安行を中心に，大宮台地の南東部で苗木・植木・盆栽が栽培され，狭山丘陵付近では狭山茶がつくられる。ウシ・ブタ・ニワトリなど，家畜の飼育頭数もしだいに増加しており，酪農は県南地方に発達し，ブタは22万7,000頭が飼育されて全国第6位である。林野面積は県域の35％を占め，秩父山地に



埼玉県

100万人以上の市　30～100万人の市　10～30万人の市　5～10万人の市
5万人未満の市　町名　村名　字名　地方庁所在地　油田　商港　漁港

はスギ・マツ・ヒノキなどの針葉樹林が多く，奥秩父には天然林がある。南西部の名栗(なぐり)川流域は西川材とよばれる良質のスギ材の産地である。《鉱工業》地下資源は，秩父山地で石灰岩が産出され，中津川の支流神流(かんな)川上流部にある秩父鉱山では鉛・亜鉛をはじめ，金・銀・銅・硫化鉄・マンガンなどを産出する。工業は，京浜工業地帯の延長にあたる県南地区を中心に発達しており，工業製品年間出荷額は1兆7,919億円(1968)で，全国第6位である。大宮台地上に南北に連なる川口・蕨(わらび)・戸田・鳩ケ谷(はとがや)・浦和・与野・大宮・上尾などの諸都市には輸送用機器・食料品・鉄鋼・化学・機械・電気機器など，広範な業種にわたる大小の工場が集まり，大宮・深谷・川越・狭山・草加には工場団地が造成されている。最近のこれらの工場地域では工業用水のくみ上げなどによる地盤沈下が著しく，年間平均の沈下量は70mmを越え，川口・戸田地区では130mm以上に達する。北部の利根川の水を上水道・工業用水などに総合的に利用する利根導水路の建設が進んでいる。秩父山地周辺は繊維工業が盛んで，秩父は絹織物や化繊織物の産地，本庄(ほんじょう)・深谷・熊谷は製糸業地である。秩父では武甲山の石灰岩を原料とするセメント工業が発達し，朝霞(あさか)の伸銅，入間のししゅう・レースのほか，行田のたびや被服，岩槻(いわつき)・鴻巣(こうのす)の雛(ひな)人形，加須(かぞ)のこいのぼり，春日部(かすかべ)・川越の桐(きり)だんす，小川の和紙，川口・鳩ケ谷のつりざお，深谷の陶管・かわらなど，伝統的な家内工業から出発した特色ある工業が盛んである。

〔交通・都市〕陸上交通は，東北本線・高崎線が主幹線となり，八高線・東武鉄道東上線・日光線，西武鉄道池袋線・新宿線が東京を中心とする放射状路線を形成する。1969年(昭和44)秋には西武鉄道新秩父線が，吾野(あがの)から秩父市へ通じ，池袋から83分の特急を走らせている。これらを横につなぐ同心円状路線には川越線・秩父鉄道・東武鉄道野田線があり，さらに東京都の外郭環状線の一部となる武蔵野東西線が柏(かしわ)市(千葉県)～浦和市～国分寺市(東京都)を結んで建設される予定である。江戸時代に栄えた利根川や荒川などの水運は衰えたが，これに代わってバス網が著しく発達し，東京都や県下各都市間の近距離交通に役だっている。国道は，4号線が東北本線，17号線が高崎線に沿って県域をほぼ南北に貫通し，江戸時代の主要道であった日光街道・中山道(なかせんどう)などに代わる機能をもつほか，国道16号線(東京環状道路)・122号線(もと日光御成(おなり)街道)・254号線(もと川越街道)が平野部を縦横に走り，北西部には甲府と秩父を結ぶ140号線が通ずる。将来は東北縦貫自動車道がつくられ，東部の加須市と久喜町にインターチェンジが設けられる予定できる。市の数は39で，都道府県中北海道の32を抜いて第1位。県政の中心である浦和市は，全国の県庁所在地の中で市制施行が最も遅れたが，最近は周辺地区とともに東京の衛星都市化して，人口が激増している。古い城下町で史跡に富む川越・行田，鉄道の町とよばれる大宮，鋳物の町川口，中山道の宿場町で県北の中心都市熊谷，秩父盆地の中心都市秩父，川越街道の宿場町・市場町であった所沢など，それぞれ独自の発展を遂げてきたが，一方では1953年の町村合併促進法施行以後成立した都市も多く，これらの都市の多くは新興工業都市あるいは東京の衛星住宅都市として順調な発展を遂げている。北部の行田市では将来東北縦貫自動車道の開通に備えて工業団地を開発する予定があり，中部の東松山市付近には研究学園都市の建設，その西の坂戸・鶴ケ島(つるがしま)両町に流通センターが建設される予定である。

〔歴史〕開発の歴史は，北西部の地域が最も古く先住民の貝塚(かいづか)や住居跡が各地で発見され，いまの行田市内の旧埼玉村付近には巨大な古墳群がある。県南東部の低い沖積地は，当時はまだ東京湾の深い入り江であった。大化改新の際に，武蔵国が設置され，708年(和銅1)秩父郡から銅が献上され，これによってわが国最初の銅銭である和銅開珎*(かいちん)が鋳造されたことが《続日本紀(しょくにほんぎ)》にみられる。奈良時代には朝鮮半島からの帰化人が南西部の台地付近に移されて，716年(霊亀2)に高麗(こま)郡，758年(天平宝字2)に新羅(しらぎ)郡が置かれ，これらの地に大陸文化を伝えた。入間郡日高町の聖天院(しょうでんいん)(高麗寺)には高麗(こうらい)の王族若光の墓といわれる石塔が残る。当時東京湾はしだいに後退し，南部の開拓によって東海道の交通が開けた。平安時代には荘園(しょうえん)の発達とともに武士団が発生し，平安末期から鎌倉初期にかけては，武蔵七党*が特に勢力をふるった。鎌倉時代末期から南北朝末期にかけて戦乱があいついで起こり，室町幕府の成立以後は関東管領の支配下にはいった。戦国時代には上杉(うえすぎ)・北条(ほうじょう)・武田(たけだ)諸氏の抗争の地となり，やがて北条氏の治下に置かれたが，北条氏の滅亡後は徳川家康(いえやす)が江戸を拠点として関東を支配した。江戸時代には，幕府が江戸の守りを固めるために，川越に松平氏十五万石，忍(おし)に阿部(あべ)氏十万石の譜代大名を配し，その他の地域は多くの天領・旗本領(はたもとりょう)として分割統治した。中山道・日光街道などの諸街道も整備され，沿道には多くの宿場町・市場町が発達した。治水や産業開発も進み，江戸を水害から守るために，利根川を銚子(ちょうし)方面へ東流させる大工事が完成し，見沼代用水などによる低地の灌(かん)・排水や野火止・三富などの新旧開発も行なわれた。1871年(明治4)の廃藩置県に際して，浦和県と忍・岩槻の両藩が合併して埼玉県が東部に新設されたが，もと川越藩であった西部には入間県が置かれた。1873年，入間県は群馬県に統合されて熊谷県となり，1876年，熊谷県が廃止されて現在の群馬県が生まれると，旧入間県が分離して再び埼玉県にはいり，現在の県域がほぼ確定した。
〔浅井得一〕

さいたらぶし【斎太郎節】岩手県・宮城県にかけて分布する民謡の曲名。《大漁唄(うた)い込み》の名でも知られる。斎太郎という漁師が銭座で働いていたときに知った《鋳銭唄(ぜにふきうた)》を舟唄に流用したものといわれる。なお，金華山・松島湾・気仙沼(けせんぬま)地方では行進曲のように歌われる。

さいたん【採炭】石炭を掘り出すこと。地表付近に厚い炭層がある所では，露天掘りが行なわれる。アメリカ・ソ連などには，大規模な露天掘り炭鉱があるが，わが国ではもっぱら，地下に坑道を掘進して炭層に到着してはじめて採炭を行なう。採炭法にはいろいろの種類があるが，最も多く用いられているのは長壁式採炭法である。長壁式採炭法では，数十メートルから200mに達

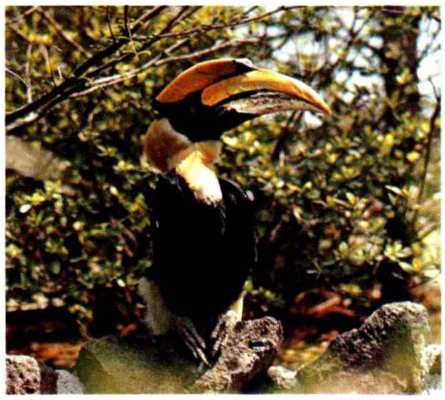
する直線上の長い切羽をつくる。切羽面に沿ってパンツァーコンベヤーを設置し，コンベヤーに沿って採炭機を移動させて採炭を行なう。切羽の天井の岩盤は鉄柱とカッペ*で支持し，採掘跡はずりで充塡(じゅうてん)することもあるが，自然に崩落させることのほうが多い。水平な炭層では，柱や壁に相当する部分の石炭を採掘しないで残していく残柱式採掘法が用いられることもある。傾斜が45°以上の急傾斜炭層では，金属鉱山などで用いられるのと同様な階段式採炭法が用いられる。　〔西松裕一〕

さいだん　【裁断】　衣服を構成するため計画的に材料を切ること。型紙に材料をあてて裁つ方法と，人台や人体をもとにして直接材料をあて，立体的に構成する方法とがある。前者を平面裁断，後者を立体裁断*という。

さいだんが　【祭壇画】　キリスト・聖母などを主題として，教会堂の祭壇に描いたり祭壇の背後に置く絵。中世以降16世紀ごろに多く制作された。2枚をつがい合わせた屛風(びょうぶ)状のもの，観音開きの扉(とびら)(ときには折りたたみ式で左右数枚ずつ)つきのもの，扉のないものなどがある。グリューネワルト*が1515年ごろに制作した九つの場面をもつ《イーゼンハイム祭壇画》では，扉を閉じると前面にキリストの磔刑(たっけい)，開くと両翼内面に聖告(受胎告知)と復活，中央に聖母子の絵がある。ほかにシエナ大聖堂のドゥッチョ*の《マエスタ》，ガンの聖バボン寺のバン-アイク*の作品などが有名。　〔宍戸　直〕

ざいだんほうじん　【財団法人】　一定の目的のためにささげられた財産の集合体を基礎として設立された法人*をいう。法人の実体が財産の集合体である点で，人の集合体である社団法人*と異なる。財団法人は祭祀(さいし)・宗教・学術・慈善・技芸，その他の公益を目的とするものに限られ，営利を目的とすることはできない。寄付行為*をなし，主務官庁の許可を得ることによって設立される(民法34条)。財団法人の運営については社団法人と大差はないが，財産の集合体が実体であるため，自主的に法人の活動を決定する機関をもたず，変更の許されない一定の規則(寄付行為)によってのみ活動しうる。財団法人は私立学校や医療法人などに多くみられる。　〔黒木三郎〕

さいちょう　【犀鳥】　鳥類・サイチョウ科の総称。全長40～160cm。一般に体に比べてくちばしが非常に大きく，上嘴(じょうし)に奇妙な形の付属物があり，これをサイの角にたとえてこの名がある。くちばしの内部はスポンジ状の小細な気室構造で非常に軽い。前方の3趾(し)の基部の一部分の癒合(ゆごう)がみられるが，これはこの科の属するブッポウソウ目の特徴である。サハラ砂漠(さばく)以南のアフリカからインド・東南アジア・ソロモン群島にかけての熱帯と亜熱帯



サイチョウ　オオサイチョウ



最　澄
《絹本著色聖徳太子及天台高僧画像》(10幅)より　国宝　平安後期　一乗寺蔵

に45種が分布する。アフリカのサバナに生息する2種以外は森林性で，果実・こん虫類・小動物などを食う雑食性。この科の鳥の最も特異な生態は繁殖習性にある。樹穴・空洞(くうどう)などに営巣するが，巣の口をくちばしが通るくらいの大きさに，雌または雌雄協力して土と唾液(だえき)で固める。雌は抱卵・育雛(いくすう)期間中ずっと巣内にとどまり，食物は雄が運んできて雌に与える。この期間は長いものでは100日以上になる。この間に雌は風切り羽と尾羽を換羽する。ひなが孵化(ふか)すると雌が入り口をこわして出る種もあるが，そのようなものでは幼鳥が再び巣の口をつくるといわれる。
〔浦本昌紀・安部直哉〕

さいちょう　【最澄】　(767～822)　平安初期の僧。日本天台宗の開祖。父は三津首百枝(みつのおびとももえ)，母は藤原藤子。幼名広野。諡号(しごう)は伝教大師。叡山(えいざん)大師・根本大師・山家大師ともいう。近江(おうみ)(滋賀県)滋賀郡古市郷の生まれ。778年(宝亀9)近江の国分寺の行表について出家し，14歳で得度。その後奈良に出て修学し，785年(延暦4)東大寺戒壇院で具足戒を受け，のち比叡山に草庵(そうあん)を構えて《法華経(ほけきょう)》《金光明経》《般若経(はんにゃきょう)》などを読み，智顗*(ちぎ)の説に基づいて教理を研究した。788年，同山に一乗止観院(いまの根本中堂)を創建した。797年内供奉(ないぐぶ)を命ぜられ，大蔵経書写の発願を立てるとともに，802年高雄山寺で天台宗義を講義した。これが天聴に達し，桓武(かんむ)天皇*は天台興隆の考えをもたれるに至り，ここに最澄は上表して入唐求法(にっとうぐほう)を請い，804年訳語僧として義真*を伴い，入唐した。

唐では，天台6祖湛然*(たんねん)の弟子(でし)である龍興(りゅうこう)寺の道邃(どうずい)，仏隴寺(ぶつろうじ)の行満より天台教学を受け，越州で善無畏(ぜんむい)の孫弟子の順暁より密教を受け，また多数の天台の疏記(しょき)を入手して，805年7月帰朝した。帰朝後，高雄山寺で灌頂*(かんじょう)を修した。当時，年分度者(年間に僧となれる資格者)は南都六宗*の10人と定められていたが，806年新たに天台法華宗(ほっけしゅう)から2名を加えることを上表して許され，ここに天台宗が公認された。815年，大安寺で天台を講じ，818年天台年分度者を大乗菩薩(ぼさつ)の出家とすることを願って《山家学生式*》を著わし，819年山上に大乗戒壇の設立を請うたが，小乗の戒律を基礎とする南都の諸大徳に反対された。最澄は《顕戒論*(けんかいろん)》で反駁(はんばく)したが，大乗戒壇の設立は彼の存命中には実現しなかった。822年(弘仁13)3月ごろ健康を害し，諸弟子に遺戒を与え，義真にいっさいを託し，6月4日，比叡山中道院に寂。

最澄の後半生は，南都の小乗仏教に対する大乗仏教の確立と大乗戒壇の設立にささげられた。特に法相宗の徳一とは教義をめぐって長く論争が行なわれた。徳一が南都仏教の立場から悟りに至りうる人間と至りえない人間との別を認める五姓各別説を説いたのに対し，最澄はすべての生きとし生けるものが仏になれるという悉有仏性説(しつうぶっしょうせつ)を唱え，その法統は義真・円澄・円仁(えんにん)・安慧(あんね)・円珍*と受け継がれた。上述の著書のほかに《発願文》《守護国界章》《法華秀句》《内証仏法血脈譜(けちみゃくふ)》など多数がある。➔天台宗　〔京戸慈光〕

ざいちょうかんじん　【在庁官人】　在庁ともいう。平安中期から鎌倉時代にかけて，地方官(国司*)は国衙*(こくが)(政庁)にあって政をとったが，国司が京都にとどまって任国に下らない傾向が強まるにしたがい，国司がいて命令を下す所を国庁(留守所)といったのに対し，現地の役所を国衙とよぶようになった。この国衙に常任する役人を在庁官人とよんだ。彼らは税所*(さいしょ)・大帳所・朝集所・健児所(こんでいしょ)・国掌所などの在庁所に属して事務を分掌した。平安末期には武士化する者が多く，鎌倉時代には幕府の有力御家人となっていった。千葉・三浦・秩父(ちちぶ)・畠山(はたけやま)・小山・結城(ゆうき)らの諸氏はその例である。

さいでいき　【採泥器】　海底堆積(たいせき)物を採集する器具。種類は多く，堆積物の種類，水深，巻き上げ機の能力などによって形式や大きさを使い分ける。曳航(えいこう)式・かみ合わせ式・柱状式に大別される。①曳航式：おもりについた採泥器を海底に沿って引っ張るもので，ただ1点の試料をとるのには不便だが，大量の試料を得るの

に便利である。②かみ合わせ式：バケットが海底に到達する衝撃でかみ合わせて試料をとるもので，一定面の雑多な堆積物を採集する利点がある反面，バケットの間に粗粒のものがはさまると，すきまから細粒なものは流れ去る欠点がある。③柱状式：ある１点の堆積物の層序をそのまま採集しようとするもので，火薬を利用して打ち込むもの，おもりで打ち込むものがあり，全長30ｍ内外の採集も行なわれている。〔船越　泉〕

さいていせいかつひ　【最低生活費】　健康で文化的な最低限度の生活を営むという，憲法25条で保障された生存権を具体的に生計費として算定するもの。生活水準の測定，最低賃金制度や生活保護の基準，労働組合の最低賃金要求の基準などに重要な指標となっている。算定方法の研究は労働者の窮乏化が進行しつつあった19世紀後半から始まっていて，わが国でも1916年（大正５）ごろから行なわれている。最低生活費算定方式には栄養学や環境衛生学の成果から次の３種がある。①必要生活物資を列挙してその価格を集計するマーケット-バスケット方式*（全物量方式），②必要摂取カロリーを設定し，食糧価格からエンゲル係数*を用いて算定するエンゲル方式。③従来の方法とは逆に，心身状態・生活内容からみて現実

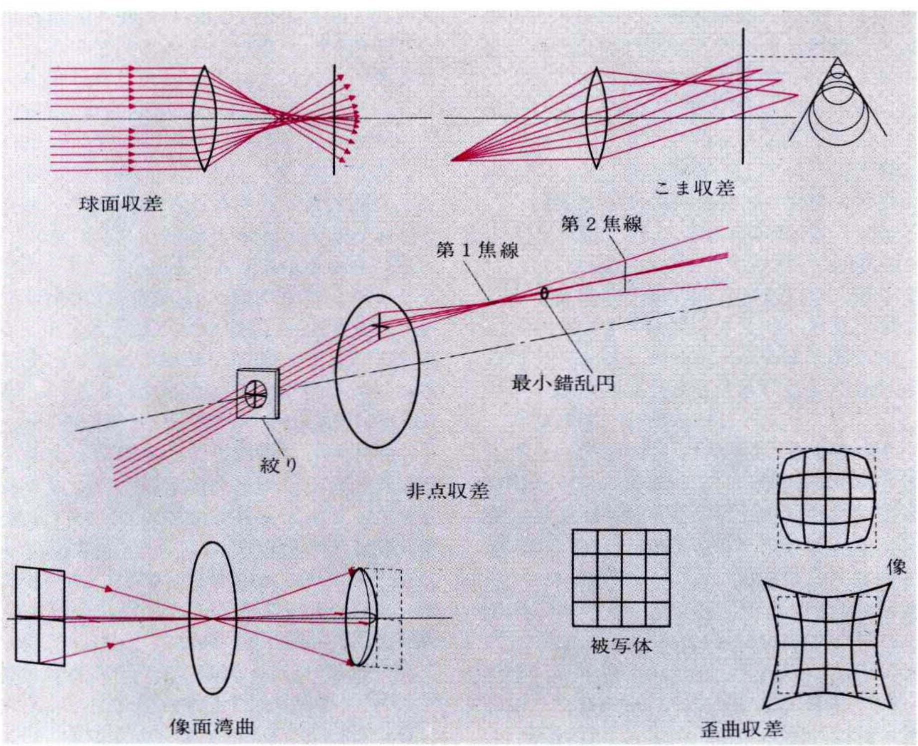


採泥器　筒状採泥器。鉛製12kgのおもりの下部に，上方のみに開く弁各１個ずつもつ鋼管３個が装着される。筒の長さ18.3cm

に最低生活に近い生活をしているとみなされる人々の生活費を調査して算出する労研方式である。この方式は1952年（昭和27）労働科学研究所が最低生活費の研究に用いたものである。〔椿　輝男〕

さいていちんぎんほう　【最低賃金法】　賃金の低廉な労働者について，事業もしくは職業の種類または地域に応じて，賃金の最低額を保障する法律。1959年（昭和34）制定。業者間協定を中心とする最低賃金法であったことから，経営能力の最低の基準で決められる可能性があり，また，賃金くぎづけの役割を果たす危険性がある。さらに，最低賃金は，労使対等で決めるという国際常識に反するなど，労働組合だけでなく学会からも強い批判が出ていた。そのため1968年業者間協定の方式が廃止され，審議会方式による最低賃金を中心とする法改正が行なわれて，ILO*26号条約や30号勧告にみられる労使対等の立場による共同・直接参加の思想に一歩近づいた。わが国のように，労働力移動が低く，全面的な産業別組合*組織がないところでは，一律最低賃金制の方向が必要という声が強い。〔木元錦哉〕

ザイデルのごしゅうさ　【ザイデルの５収差】　ドイツの天文学者ザイデル（1821～1896）の分類による球面収差*。一つの光軸のまわりに回転対称な光学系で，反射*・屈折*の起こる面が球面のとき，光線の光軸となす角および入射角が小さいならば，物体空間の１点から出たすべての光線は，像空間の１点に再び集まり完全な像をつくる。しかし，これらの角が大きくなると光線は像空間で必ずしも１点に集まらず，不完全な像しか生じない。ザイデルは光線の道筋を計算することにより，像の不完全さを５種類に分類した。光線が完全に１点に集まらず像がぼけるとき，その乱され方によって，狭義の球面収差・コマ収差・非点収差の３収差に分けられる。また，１点に集まっても平面の像が曲面になれば曲がり収差が存在することになり，また平面上でも像がゆがめばゆがみ収差が存在する。これらをザイデルの５収差という。〔吉原邦夫〕



ザイデルの５収差　〔球面収差〕近軸光線束と周辺部光線束の集束点が異なる。〔コマ収差〕対称軸をもつ光学系で，軸の外にある１点からの光線は１点に集まらず，彗星様の像となる（頂角60°）。〔非点収差〕軸外の物点からの光線束は互いに垂直な二直線に集合する（第１・２焦線）。これらの中間のある点（最小錯乱円）で断面は最小の円となり，この点の像が実物に最も近い。〔像面湾曲〕斜光線の焦点距離は軸光線の焦点距離より短いため，平面上の物体の像は曲面になる。〔歪曲収差〕像の倍率は中心部と周辺部で必ずしも一致しないため一般にはゆがんだ像ができる

さいと　【西都（市）】　宮崎県中部の市。日向（ひゅうが）の歴史上の中心地で，北西の台地上にある西都原（さいとばる）古墳群*は特別史跡に指定されており，奈良時代には国府がこの地に置かれたと考えられている。1958年（昭和33）市制施行。人口38,000。市域は，一ツ瀬川中流に沿う細長い沖積地（ちゅうせきち）と洪積（こうせき）台地にまたがる山がちの地形で，中心は妻地区である。産業三大別人口比は44：19：37。台地上では麦類・サツマイモの畑作が行なわれ，一ツ瀬川上流部の木材・木炭・シイタケなどを集散する。日豊本線佐土原駅から分岐する妻線と国道219号線が通ずる。

さいど　【彩度】　⇨色

さいとう　【彩陶】　おもに中国北部，黄河流域の華北地方で発達した陶技。制作時期は先史時代で，BC2500～BC2000年ごろと推定される。きめの細かい土を使い，いわゆる〈ひもづくり〉（粘土をひものようにして積み上げて成形する）でつくられており，主として平地に築いた円形窯で，約1,000℃内外の火度で焼かれたと思われる。表面をみがいたのち，黒・赤・白のどろ絵の具で渦文（かもん）・幾何文・動物文などを筆のようなものでくっきりと描いている。出土状況からみて特殊な用途のためにつくられたと考えられ，中国陶磁史上のはじめて

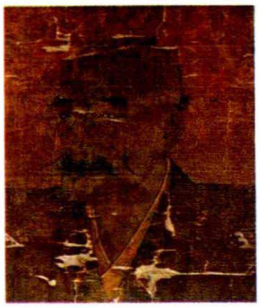
の焼き物であるにかかわらず，すでに格調の高さを誇っている。〔矢部良明〕

さいとうさんき【西東三鬼】(1900～1962) 俳人。本名斎藤敬直。岡山県の生まれ。日本歯科医学専門学校卒。昭和初頭の新興俳句興隆期に句作を始め，《走馬燈》《天香》に参加。1940年(昭和15)《京大俳句》弾圧事件に連座，逮捕された。1947年現代俳句協会を結成，翌年《天狼(てんろう)》創刊に参加。一時《俳句》編集長もつとめ，俳壇革新の第一線で活躍。鋭敏な感覚と虚無的な作風で知られた。句集《旗》《変身》などがある。

さいとうせつどう【斎藤拙堂】(1797～1865) 江戸末期の儒学者。伊勢(いせ)(三重県)津藩の江戸藩邸に生まれる。もと増村氏。昌平黌(しょうへいこう)で古賀精里に宋学(そうがく)を学び，24歳のとき藩校の学職となる。のち講官に推され，さらに藩主の侍講となって藩校の督学に進んだ。漢文をよくし，紀行文が巧みであった。西洋知識の吸収にも努めて種痘(しゅとう)を藩に導入するなど，藩政に功があった。著書に《拙堂文集》《海防策》など多数がある。〔田上光治〕

さいとうたかお【斎藤隆夫】(1870～1949) 政治家。兵庫県出身。1912年(大正1)衆議院議員となり，以来当選13回，憲政会・民政党に所属した。1936年(昭和11)広田内閣のとき，軍に対して二・二六事件の責任を追及し，その横暴を非難した。広田内閣に対する軍の政治介入が著しかったので，この発言は〈粛軍演説〉として世に迎えられた。1940年米内(よない)内閣のときには政府の日中戦争処理方針について追及し，当時公式に用いられていた〈聖戦〉という語の偽善性を突いたため，軍の憤激をかい，親軍的になっていた議会勢力がこれに迎合して除名処分となったが，ファシズムのあらしに最後まで抵抗した気骨ある政治家として，議会政治史上に名をとどめた。第2次世界大戦後は進歩党結成に参加，1946年第1次吉田内閣国務相，のち民主自由党顧問となった。〔高崎徳次〕

さいとうどうさん【斎藤道三】(1494～1556) 戦国大名。はじめ庄九郎と称し，山城(京都府)西岡で油売りを家業としたと伝えられる。美濃(みの)(岐阜県)の大名土岐頼芸(よりなり)の家中に出入りし，宿老斎藤利安(としやす)の臣西村三郎左衛門(さぶろうざえもん)の養子となって西村勘九郎と称した。1530年(享禄3)利安を殺して利政(としまさ)と名のったが，1538年(天文7)斎藤秀龍と称し道三と号した。1542年には土岐頼芸を尾張(おわり)(愛知県)に追い自立した。その後，頼芸が身を寄せた尾張の織田信秀(のぶひで)と講和し，信秀の子信長に娘をめあわせて盟約を固めた。稲葉山を根拠地に美濃を掌握したが，子の義龍(よしたつ)と争い交戦して敗死した。その領国は義龍・龍興(たつおき)と継いだが，1567年(永禄10)信長に滅ぼされた。〔高崎徳次〕



斎藤道三



斎藤茂吉

さいとうひでお【斎藤秀雄】(1902～1974)指揮者・チェロ奏者・音楽教育者。東京生まれ。上智(じょうち)大学卒業後ドイツに留学，帰国後新交響楽団(現在のNHK交響楽団)の首席チェロ奏者となる。1942年(昭和17)より指揮者としても活躍し，第2次世界大戦後は東京フィルハーモニー管弦楽団の指揮者となる。また桐朋(とうほう)学園大学教授として音楽界に貢献し，門下に小沢征爾(せいじ)・堤剛らがいる。

さいとうまこと【斎藤実】(1858～1936) 海軍大将・政治家。岩手県の生まれ。1877年(明治10)海軍兵学校卒業後アメリカに留学，海軍参謀部を経て各艦長・海軍省軍務局長を歴任。第1次西園寺公望(さいおんじきんもち)内閣海相就任以来，第1次山本権兵衛(ごんのひょうえ)内閣まで留任して海軍の軍備充実に努めた。1919年(大正8)朝鮮総督となり，日鮮融和の文治主義政治の統治方針を進めたが，三・一独立運動の際に投弾された。ジュネーブ軍縮会議には主席全権となり，帰朝後枢密顧問官となる。1929年再び朝鮮総督となり，1931年まで在任。1932年五・一五事件ののち挙国一致内閣を組織し，満州国承認・国際連盟脱退など軍部ファシズムへの道をたどったが，二・二六事件で暗殺された。〔高崎徳次〕

さいとうもきち【斎藤茂吉】(1882～1953) 歌人。別号童馬山房主人など。山形県の生まれ，旧姓守谷(もりや)。1896年(明治29)上京，開成中学・第一高等学校に学ぶ。1905年親類の開業医斎藤家に入籍。一高在学中正岡(まさおか)子規の《竹の里歌》を読んで作歌を志し，のち伊藤(いとう)左千夫に師事。《アララギ》創刊に同人として参加，和歌・歌論を発表して注目を受けた。一時は森鷗外(おうがい)の〈観潮楼歌会〉にも参加。1900年東京大学医科を卒業。病院勤務のかたわら，《アララギ》の編集も担当，中心的存在として同誌の発展に寄与。1913年(大正2)の処女歌集《赤光(しゃっこう)》は，強靭(きょうじん)な精神力であふれる生命を官能と叙情の交錯のうちに歌い切り，近代短歌史上の一大達成を示した。1920年《アララギ》に〈短歌に於ける写生の説〉の連載を開始，子規・左千夫らの写生論をさらに深め，〈実相観入〉に代表されるリアリズム論を展開し，評論面でも活躍した。第2歌集《あらたま》では，《赤光》の強烈な官能性は去り，叙情性は沈潜して現実性を増した。以後この歌風は基本的には変化しなかった。ほかにおもな歌集として《つゆじも》《ともしび》《白紅》《暁紅》《寒雲》など，評論に《柿本人麿(かきのもとのひとまろ)》があり，第2次世界大戦中は戦争を肯定するような歌も残したが，戦後の《小園》《白き山》などの歌集は自然の中に老年の生命を淡々と詠じた傑作である。なお，生涯(しょうがい)医業を続け，長崎医学専門学校教授・青山脳病院院長などをつとめた。また，小説家北杜夫(もりお)は茂吉の二男である。〔源　五郎〕

さいとうやくろう【斎藤弥九郎】(1798～1871) 江戸末期の剣術家。名は善道(よしみち)。越中(富山県)の人。15歳で江戸に出て神道無念流の岡田十松に入門し，のち練兵館を開いた。桂(かつら)小五郎・伊藤俊輔(いとうしゅんすけ)(のちの博文(ひろぶみ))ら勤皇の志士が門下に集まり，千葉周作・桃井春蔵とともに剣の三傑といわれた。国防への自覚から西洋の砲術や兵術を研究し，1843年(天保14)幕府が徳丸ケ原で洋式調練を行なった際，野砲の打ち方をつとめ，また1856年(安政3)には水戸(みと)藩邸で練兵館の門弟の集団演習を見せた。〔稲垣史生〕

さいとうよししげ【斎藤義重】(1904～) 洋画家。東京の生まれ。中学在学中から抽象絵画に関心をもち，二科展・黒色展に出品。1939年(昭和14)美術文化協会の創立に参加した。現在は無所属であるが，各種の国際美術展に出品して受賞している。わが国の抽象絵画の草分けのひとり。→次ページ(写真)

さいとうより【斎藤与里】(1885～1959) 洋画家。埼玉県の生まれ。本名与里治。京都で浅井忠らに学び，1906年(明治39)渡仏。1910年に帰国して後期印象派を紹介，1912年(大正1)フュウザン会結成の中心となる。その後文展に出品，1918年大阪に移り，1924年槐樹社(かいじゅしゃ)，1932年(昭和7)東光会を創立。1924年以降は雑誌《美術新論》を発行した。

さいとうりょくう【斎藤緑雨】(1867～1904) 小説家・評論家・随筆家。別号正直正太夫。本名賢(まさる)。伊勢(いせ)(三重県)神戸(かんべ)の生まれ。明治法律学校(明治大学の前身)中退。其角堂永機・仮名垣魯文(かながきろぶん)に師事。《小説八宗》で特異な風

刺的才能の批評家として認められ,《油地獄》《かくれんぼ》によって小説家の地位も得た。皮肉な視角による随筆も珍重された。

さいとばるこふん　【西都原古墳】　宮崎県西都市の西都原とよばれる東西約2.6km,南北4.2kmの広大な洪積(こうせき)台地上に所在する大小329基の古墳群。大半が円墳であるが,前方後円墳32基,方墳1基を数える。1912年(大正1)から1917年にかけて古墳研究史上画期的な学術調査が行なわれた。発掘古墳のうち代表的なものは前方後円墳の男狭穂塚(おさほづか)・女狭穂塚(めさほづか)(ともに御陵参考地)である。古墳群からは鏡・玉・武器・甲冑(かっちゅう)・馬具・家形埴輪(はにわ)・舟形埴輪などが出土し,埋葬部は粘土槨(かく)が多いが,大円墳鬼ノ岩屋古墳のように横穴式石室をもつものもあることから,成立の時期は古墳時代中期をさかのぼるとは考えられないが,神武天皇東征神話の中の日向(ひゅうが)の古代遺跡として注目された。御陵参考地を除き,1952年(昭和27)特別史跡に指定された。　〔高崎徳次〕

サイナスせん　【サイナス腺】　甲殻(こうかく)類の眼柄の中あるいは脳に近い部分に存在する組織。腺とよばれるが,分泌する場所ではなく,脳やX器官などの神経分泌細胞でつくられた分泌物がいったんたくわえられる場所である。サイナス腺から放出される物質はサイナス腺ホルモンまたは眼柄ホルモンとよばれ,体色を変化させるホルモン,脱皮を抑制するホルモン,卵巣成熟を抑制するホルモン,血糖量を調節するホルモン,心臓搏動(はくどう)を高めるホルモンなどが含まれる。　〔蒲原春一〕

さいなん　【済南】　チーナン　中国,山東省の省都。推定人口167万。黄河の南6kmほどに位置し,津浦(しんぽ)(天津(てんしん)～浦口(ほこう))・膠済(こうさい)(青島(チンタオ)～済南)両鉄道が本市で会する。明(みん)・清(しん)の済南府の首都であり,もと歴城県とよばれた。製粉・製紙・搾油・紡織・マッチ・セメント・陶器などの工業があり,ラッカセイ・油など農産物の集散も行なう。付近には大明湖・歴山・千仏山・呂祖廟(りょそびょう)などの名勝・史跡がある。　〔千田　稔〕

さいなんじけん　【済南事件】〈せいなんじけん〉とも読む。1928年(昭和3)5月,中国山東省済南で,日本軍と国民政府軍との間に起こった武力衝突事件。北伐を進めていた国民政府軍は同年5月1日済南に入城した際,第2次山東出兵で済南に駐在していた日本軍に撤退を求めたことから日中両軍は交戦し,日本軍と居留民に若干の死者を出した。国民政府軍は済南から大部分の部隊を撤収したので,事件はいちおう落着したようにみえた。ところが田中義一内閣は第3次山東出兵を行ない,5月9日・10日の両日にわたって済南城に総攻撃を決行し,中国軍と済南市民を多数戦死させ,済南を占領した。翌年3月の外交交渉で日本



斎藤義重《鬼》1957　神奈川県立近代美術館蔵



西都原古墳

軍が撤退して事件は解決した。しかし,この事件を契機として国民政府の対日政策は硬化し,その国家統一にあたって日本が示した軍事干渉は,日中関係の前途に深い禍根を残した。➔山東出兵　〔高崎徳次〕

さいにゅう・さいしゅつ　【歳入・歳出】　国の財政に関する用語で,一般に一会計年度におけるいっさいの収入および支出をさす。この場合,支出とは国の各般の需要を満たすための現金の支払いを,収入とはその支払いの財源となるべき現金の収納をいう。財政法では,歳入・歳出ともすべてこれを予算に編入すべきこと,また歳出は原則として公債および借入金以外の歳入をもってその財源としなければならないことを規定している。歳入・歳出予算とは,国の歳入・歳出の見積もりをいうが,この場合歳入予算は単なる見積もりにすぎないのに対し,歳出予算は単なる見積もりだけではなく,国会が政府に対して歳出権を与えるという意義をもっている。地方公共団体の場合も,歳入・歳出という用語が使用されているが,その意味は国の場合とほぼ同様である。➔予算　〔西野義彦〕

さいにゅうやく　【催乳薬】　出産後の乳汁(にゅうじゅう)分泌がなかったり少ないときに,乳汁の分泌を促す薬。胎盤から得られる物質,下垂体前葉ホルモン,肝臓から得られるビタミンF,酵母から得られるビタミンF_2などがこれに相当する。

さいにょうかん　【細尿管】　⇨尿細管

さいにん　【再認】　⇨記憶

サイネリア　⇨シネラリア

さいねんじ　【西念寺】　茨城県笠間(かさま)市稲田町にある浄土真宗の寺。稲田御坊・稲田旧跡ともいう。開山は親鸞上人(しんらんしょうにん)。越後(えちご)(新潟県)配流を赦免された親鸞は,1214年(建保2)のころ常陸(ひたち)(茨城県)に来住し,東国の貧農に専修(せんじゅ)念仏を勧め,約20年間にわたって伝道活動を続けた。その間の消息については明らかにされていないが,同国笠間郷の豪族稲田頼重(よりしげ)が念仏道場として坊舎を建て,そこで東国在来の大部分を送ったようである。親鸞は老年になって上洛(じょうらく)への旅にたつが,坊舎は浄興寺となって一宗興隆の基とされた。のち,同寺は他へ移転したので,親鸞の旧跡が消失するのを嘆き,頼重の子の笠間慶養院が同地に再興して西念寺と称した寺院が現在に及んでいる。　〔高崎徳次〕

さいのうきょういく　【才能教育】　ある特定の分野・方面で,一般よりもすぐれたレベルに達しうる素質に対しての教育をいう。本来,学校教育は,全部の子どもに対してすべての面にわたって学習させ,各人のもつ能力をまんべんなく発達させようとするものであるから,特定方面の才能を発見し伸ばすには,普通の学校教育以外の方法が必要になる。これが才能教育であり,大別して二つの具体的な方法がある。その一は学校教育の内部で行なうもので,音楽や運動専門の学校,数学・英語などの特設クラス,クラブでの特殊な指導訓練などである。その二は家庭を中心とした音楽や絵のおけいこ,英語塾などで,才能の早期発見と訓練をめざす早教育と共通の部分である。　〔石原静子〕

さいのかわら　【賽の河原】　死んだ子どもが,あの世で日夜小石を積まされると信ぜられる場所。親に先だった罪を償い,孝養のために小石を積むのを地獄の鬼が突きくずすが,その苦業を救うのが地蔵菩薩(ぼさつ)だと説かれている。名称については境を意味する〈塞(さい)〉からきたとする説が有力である。賽の河原と称する場所は,火山中腹の荒涼たる溶岩の原に限らず,高山のふもとや川の流域や平坦(へいたん)な野原など各地にみられ,子どもの足跡があったとか,夜中に泣き声が聞こえたとかいうような話も珍しくはない。現在の賽の河原信仰は村境や峠などの道祖神の祭場または死者の葬送地跡に,子育て地蔵・子安地蔵などの地

蔵信仰が強力に結びついたものとみられている。子どもたちの苦しみを少しでも助け，成仏できるようにと，通りがかりの人が小石を積んでやる風習はいまも各地にある。〔今野圓助〕

さいばいぎょぎょう【栽培漁業】 広い水域に人工的に孵化(ふか)飼育した多種類の有用水産生物の稚魚や稚子を放流し，それらの増殖を助長して，高度の漁業管理のもとにその水域全体の水産資源の維持と生産の増大をはかることを目的とした漁業。基本的には水産増殖と同じであるが，対象水域が広いこと，多種類の生物を対象としていること，漁業者みずからが〈つくりながらとる〉ことをねらいとしていることなどの点で新しい面をもっている。なお，一般には，古くから行なわれているサケ・マスの人工孵化放流や稚アユ・アサリ・ハマグリの移殖放流などの増殖事業，ハマチ・ニジマス・カキ・ノリ・ワカメなどの養殖業をも含めていう場合もある。〔今野敏徳〕

さいばいぎょぎょうセンター【栽培漁業センター】 栽培漁業*を推進するために国によって設けられた施設。1962年(昭和37)から1966年にわたって設置され，現在，屋島(香川県)・伯方(はかた)島(愛媛県)・玉野(岡山県)・上浦(大分県)の各事業場と上浦事業場志布志分場(鹿児島県)の5施設がある。これらを総称して，瀬戸内海栽培漁業センターとよんでいる。運営は，瀬戸内海関係1府12県と府県漁業協同組合連合会を会員とする社団法人瀬戸内海栽培漁業協会が国の委託を受けて行なっている。事業内容は，①放流用稚子の育成・配布・放流，②放流効果調査，③漁民研修など。栽培漁業では放流用稚子の大量生産が前提条件であるので，現在はその量産技術開発に最も力が注がれていて，すでにクルマエビをはじめ，マダイ・マダコ・トラフグ・カサゴ・メバル・ハギ・キジハタ・アイナメ・アナゴ・ガザミ・アワビなどについて，かなりの成果があげられている。〔今野敏徳〕

さいばいげんかい【栽培限界】 緯度・高度の面からみた作物栽培の限界地点をいう。栽培限界は温度・日照・降水量・地温・風，無霜期間の長短など，気象条件の制約を受けやすい。また経済面からみた限界も考慮する必要がある。水稲の栽培限界は，北緯51°，南緯35°の線であり，また高度の限界はわが国では1,350m(長野県南佐久郡南牧村野辺山(のべやま)高原)である。水稲二期作の限界は，年平均気温15℃，一期作は10℃以上の月が5か月以上あることが必要とされる。積算温度からみた水稲栽培の限界は2,500℃とされる。〔金木良三〕

さいばいばいのよやく【再売買の予約】 いったん売り渡した物を将来一定期間内に再び元の売り主へ売り渡すべきことを約する契約をいう。これと類似する制度として買いもどし*があるが，期間や再売買代金に関して厳重な制約規定があるため，あまり行なわれない。再売買の予約は，これを仮登記*すれば目的物が転売されてもその第三者に対して予約完結権が主張できるし，再売買の代金は最初の売買代金とは無関係であり，再売買されるときの評価額によって自由に定めればよい。金融手段として用いられる場合が多い。〔黒木三郎〕



賽の河原 新潟県佐渡島外海府海岸の賽の河原

ざいばつ【財閥】 巨大な独占的資本閥または日本型金融資本のこと。また，それらの組織を支配する家族的集団をさす。浙江(せっこう)財閥(中国)・モルガン財閥*(アメリカ)をはじめ各国に財閥とよばれるものはあるが，今日では財閥というと第2次世界大戦前の日本の財閥を意味することが多い。財閥は産業資本の確立期にその形を整え，国家の大幅な保護のもとに，金融・商業・繊維・鉱山などの部門を基礎として発展し，独占資本を形成し，半封建的勢力とも結びついて政治上の権力をも握るようになった。財閥の特徴としては，①金融や商業部門の比重が相当に大きく，それらを通じて諸産業を支配していたこと，②財閥本社がすべての支配を行なっており，株式を独占的に所有する閥族を首長とする人的結合がその基本をなしていたこと，③国家による大幅な保護のもとに育成され，つねに国家と密接な関連をもっていたこと，などがあげられる。三井・三菱(みつびし)・住友・安田は四大財閥とよばれる。三井合名会社・三菱合資会社*・住友総本店・安田保善社などの持ち株会社*は1910年(明治43)前後に設立されたが，それらは日露戦争後の不況期に多方面にわたって支配の手を伸ばし，日本経済の主要部門をおさえてきたのであった。すなわち，財閥は恐慌が起こるごとに群小の資本を次々に吸収し，いっそう強大なものとなった。そして第1次世界大戦後も財閥の支配権は着実に拡大していった。

とりわけ三井・三菱は最も代表的な財閥であって，その支配はわが国のほとんどすべての産業部門に及んでいた。三菱合資会社は1908年に機構改革を行ない，鉱業部・造船部・銀行部・庶務部の4部に分かれ，それぞれ独立採算制をとるようになった。また三井も，1909年にそれまでの三井家同族会を改組し，三井合名会社を持ち株会社として設立し，同時に銀行・物産・鉱山の三つを株式会社組織に改めた。しかし，三井3社が株式会社に改組されたといっても，その株式の大部分は三井家と関連会社によって所有され，事実上は同族会社であった。要するに，これら財閥の資本は三井家・岩崎家のものであった。しかもそれらの資本は，三井や岩崎の政商としての活動を通じて，国家の保護のもとに獲得され増大してきたものであった。この三井と三菱との間には，財界・産業界の支配権獲得をめぐって長期にわたる対立・抗争が展開された。三井は安田とともに政友会と結びつき，三菱は住友とともに憲政会(民政党)と結びついて，それぞれ勢力の伸長を図った。また，住友・安田は三井・三菱に次ぐ大財閥であった。住友は鉱業・金属を基礎とし，関西をその拠点として発展し，安田は金融閥であった。そのほか，大倉・渋沢などの財閥があった。ところで，1920年代に日産・日窒・森・日曹(にっそう)などの新興コンツェルンが登場してきた。これらはそれぞれ資本のほとんどすべてを重化学工業部門にもっており，この点で旧来の財閥と対照的であった。これらの新興コンツェルンは軍部との結びつきが密接であった。また，これら新興財閥も多かれ少なかれ四大財閥となんらかの関係をもっており，戦時体制の推進に力を貸している。

第2次世界大戦後，占領軍による日本の非軍事化・民主化の一環として財閥解体*が進められ，持ち株会社と財閥家族の所有株式の強制譲渡，財閥家族の追放，財閥系会社の活動制限などの措置がとられた。また，財閥の復活を防ぐために独占禁止法や過度経済力集中排除法が制定された。しかし，その後の占領軍の政策転換と日本経済の復興に伴って財閥解体措置は緩和または廃止され，しだいに銀行を中心とする資本参加・融資・重役派遣などを通じて財閥の再編成が進行している。〔加藤　寛〕

ざいばつかいたい【財閥解体】 第2次世界大戦後，占領軍によって行なわれた財閥*の経済力分散を図る政策。1945年(昭和20)9月アメリカ政府の対日方針でその解体方針が表明され，同年11月～1950年1月に制限会社の規制，他社の株式を保有することによって企業支配することを目的とする持株会社*を独占禁止法によって禁止し，不当な取引制限，不公正な取引方法を禁じて事業支配の過度の集中をおさえた。軍国主義の経済的支柱の解体，経済の民主化を目的としたが不徹底に終わり，1949年6月以降，独占禁止法の部分的緩和など政策転換が行なわれ，財閥系銀行を中心とする再編成・企業合併が現在進行している。〔安達淑子〕

サイバネチックス ⇨次ページ

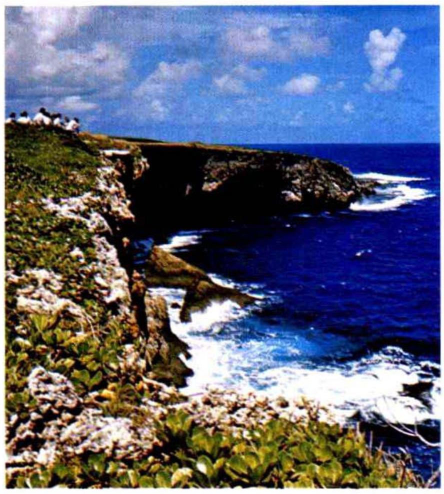
さいばら 【催馬楽】 日本の雅楽*の中の歌い物の一種。もとは民謡や童謡であったものが，貴族の手で管弦伴奏つきの曲に編曲された。平安初期に始まり，室町時代に一時すたれたが，17世紀に再興されて，明治時代には《安名尊(あなとう)》《山城》《蓆田(むしろだ)》《蓑山(みのやま)》《伊勢海(いせのうみ)》《更衣(ころもがえ)》の6曲が復活されて，今日，宮内庁楽部で演奏される。伴奏楽器は龍笛(りゅうてき)・篳篥(ひちりき)・笙(しょう)・箏(そう)・琵琶(びわ)各1で，音頭*が笏拍子(しゃくびょうし)を打つ。5拍子と3拍子の2種類があり，雅楽の中ではリズミカルなものとして知られる。〔山口　修〕

さいばん 【裁判】 ⇨180ページ

サイパン(島) ［Saipan］ 西太平洋のマリアナ諸島のうち面積・人口とも最大の島。面積121km²。人口約8,000。原住民はミクロネシア系のチャモロ人で，ほかに少数のフィリピン人とカロリン人がおり，サトウキビ・アブラヤシ・トウモロコシ・キャッサバ・マンゴー・パパイヤをつくる。第1次世界大戦後は日本の委任統治地となり，約20,000の日本人がサトウキビの栽培などに従事していた。第2次世界大戦中の1944年(昭和19)6月，71,000のアメリカ軍が上陸，44,000の日本軍は孤立の戦いを続けたのち，7月7日最後の攻撃を試みてほとんど全滅，一般邦人からも推定8,000〜10,000の戦没者を出した。アメリカ軍はここを基地として日本本土の空襲を強化し，またわが国ではこの島の失陥が東条内閣総辞職の直接の原因となった。戦後はアメリカの信託統治地となっている。➔マリアナ諸島

さいばんかん 【裁判官】 裁判所*を構成し，裁判*を行なうことを本来の職務と定められた国家公務員。裁判所の職員であっても，裁判官の補佐，司法行政事務を行なう者は裁判官とはいわない。最高裁判所長官・最高裁判所判事・高等裁判所長官・判事・判事補・簡易裁判所判事の別がある。最高裁判所長官は1名，最高裁判所判事は14名である。高等裁判所長官は8人（全国8か所，各1名）で，判事・判事補・簡易裁判所判事の定員はそれぞれ法律で定められている。裁判官になるには，ふつう司法試験*に合格し，最高裁判所の司法研修所で2年間の修習ののち試験に合格し，修習を終了することが資格として必要である。

最高裁判所の裁判官は，識見の高い法律の素養のある年齢40歳以上の者の中からこれを任命することとされ，そのうち少なくとも10人は通算して10年以上高等裁判所長官または判事の職にあった者の中から任命される。したがって，最高裁判所の裁判官の一部は，法律専門職になかった人からも任命する道が開かれており，違憲立法審査権*を憲法上付与されている最高裁判所が広い視野に立って高度の政治家的精神を発揮



サイパン島　島の北端は高い海食崖をつくる。写真は第2次世界大戦で悲劇のあったバンザイクリフ付近

することが期待されている。最高裁判所長官は内閣の指名に基づいて天皇が任命し，最高裁判所判事は内閣が任命して天皇が認証する。高等裁判所長官・判事・判事補および簡易裁判所判事は，最高裁判所の指名した者の名簿によって内閣がこれを任命する。高等裁判所長官は天皇がこれを認証する。下級裁判所*(高等裁判所・地方裁判所・家庭裁判所・簡易裁判所）の裁判官の任期は10年で，10年ごとに再任され，再任されないことは異例である。裁判官は，弾劾裁判所*の罷免の裁判，最高裁判所裁判官の国民審査*，心身の故障のために職務をとることができないと裁判により決定された場合を除いては，裁判官の意に反して免官・転官・転所，職務の停止または報酬の減額をされることはないとされている。裁判官は憲法において，良心に従い独立してその職権を行ない，憲法と法律のみに拘束されると定められ，司法権*の独立と裁判官の身分保障を確実にするために，憲法・法律が格別の配慮をしている。〔内田剛弘〕

さいばんけん 【裁判権】 法律上の争訟について審理裁判する権限。対象とされる事件の種類によって刑事裁判権・民事裁判権・行政裁判権に分けられる。裁判権の内容としては，裁判によって当事者を拘束し，証人・鑑定人を呼び出して尋問し，法廷警察権・訴訟指揮権を行使し，刑事裁判・民事裁判の執行によって当事者に強制を加えることができる。司法権*とおおむね同意味である。原則として日本国内のすべての人に対して及ぶが，外国の元首・外交使節など治外法権*を有する者には及ばないのが普通である。なお天皇・摂政に対しては刑事裁判権は及ばないとされる。〔内田剛弘〕

さいばんしょ 【裁判所】 権利・義務に関する具体的な紛争につき裁判権*に基づいて裁判を行なう国家機関。日本では，最高裁判所*・高等裁判所*・地方裁判所*・簡易裁判所*・家庭裁判所*がある（最高裁判所以外の裁判所を下級裁判所*とよぶ)。裁判所はそれぞれ独立しており，下級裁判所の裁判に不服のある者は上訴*して，より上級の裁判所の裁判を受けることができる。憲法は裁判所をすべて最高裁判所を頂点とする系列に組み入れ，軍法会議*のような特別裁判を認めていない。なお国際社会の裁判所に国際司法裁判所*があり，また裁判官に対する弾劾裁判所*が国会内にある。〔内田剛弘〕

さいばんしょしょきかん 【裁判所書記官】 ⇨裁判

さいはんばいかかくいじけいやく 【再販売価格維持契約】 一般には再販制度といわれる。製造業者や卸売業者が製品の卸売価格や小売価格についての販売価格を定める契約を結ぶこと。製品の価格協定であることから，公正取引に反するものといえる。しかし，製造業者の商標権を保護したり，小規模小売業者の販売活動を保護するためばかりでなく，消費者が直接・間接に利益を害されることを防止するためにも必要であるとして，独占禁止法*の適用除外例(私的独占禁止法24条の2)として認められ，1953年(昭和28)以降実施されている。指定品目と認められる条件としては，①商品の品質が一様であることを容易に識別できること，有標品であること，②契約が一般消費者の利益を不当に害さないこと，③商品が一般消費者によって日常使用されていること，④商品について自由な競争が行なわれていること，⑤販売業者が行なうにあたっては生産者の意志に反しないこと，の五つがあげられている。現在，歯みがき・せっけん(洗剤)・医薬品・化粧品の4業種(海外旅行者向けカメラは1971年4月指定品目から除外)が指定品目の適用を受けている。しかし，最近では物価問題と関連して消費者の立場から再販制度が取り上げられ，再販メーカーが高いマージン・リベートで卸売・小売業者を拘束し流通機構を支配していること，また一般消費者に対しては巨額の広告費・販売促進費をかけて製品を差別化し，業界の寡占化の傾向を強めていること，などの弊害・問題点が指摘されている。〔清水　晶〕

さいひょうかつみたてきん 【再評価積立金】 ⇨資産再評価

さいひょうせん 【砕氷船】 海に張った氷を割って航路を開く船。他船のために航路を開くものと，自船に砕氷装置をもって自力砕氷航行を行なうものとがある。砕氷設備としては，船首尾または横方向に傾斜用タンクをもち，タンクの水をポンプで移動させ，船を前後・左右に動揺させて船の重さで氷を割る方法と，船首材をがんじょうにつくっておき，機関の出力を大きくして，氷に突進して割る方法とがある。➔178ページ(写真)

さいひんち 【最頻値】 ⇨代表値

サイバネチックス
［cybernetics］

動物やヒトの神経系統の働きおよび機械の行なう自動制御と通信の働きについて総合的に取り扱う科学。この科学はアメリカの数学者・電気工学者ウィーナー*が1947年ごろに提唱したもので，サイバネチックスの名は，ギリシア語のキュベルネテス(舵(かじ)をとる人)に由来する。ウィーナーの著書《サイバネチックス》には次のように書いてある。〈われわれの状況に関する2種類の変化量があるものとする。これらの中の一方は制御できないが，他方は制御できるものとする。その場合，われわれは，制御できないものの過去から現在までの値に基づいて(情報を得て判断すること)制御できるほうの量を調節し(制御を行なうこと)，われわれに最もつごうのよい状況をつくりたいと望む。この目的を達成する方法を与える学問がサイバネチックスである。〉

〔歴史〕第2次世界大戦中にアメリカでレーダーが開発されたが，雑音の多いレーダーのデータから敵の飛行機の進路を予想しなくてはならなかった。このために雑音を除去する必要があった。ウィーナーは，アメリカの数学者シャノンあるいはソ連の数学者コルモゴーロフと同様，飛行機のとりうる進路に対応する信号の集まりの中から任意の信号を扱う問題を解いた。

〔方法〕①いま，一つの例として，航海中の船の場合について考えてみる。舵者(だしゃ)はまず風向きや海流などの状態，すなわち，自分では制御できない不定量が，あるときからいままでどのようであったかを知り，この結果をもとにして，自分で制御できる量，すなわち舵の調節量によって望みの進路に最も近い航路をとることができる。この舵者は，自然界の情報を得ること，その結果からどれだけ舵を動かしたらよいかを判断すること，および舵を制御することの三つのことを行なっている。

次に第2の例をあげる。ある飛行機の現在位置に対応するデータが雑音と混ざった形で得られたとする。一般的には信号の周波数成分の最も強い部分と雑音の最も強い周波数成分とは異なっている。したがって，雑音のはいった信号を濾波器*(ろはき)に通せば，信号の所要周波数を取り出すことができる。この結果を他の回路に与え，もとの信号が数秒後にどうなるかを推定することができる。いま，レーダーからのデータによって高射砲を照準する問題を考える。レーダーから飛行機の位置についてのデータが与えられるが，濾波器によって雑音を除いた一連のデータは，それぞれある程度の誤差を含み，ばらつきをもった測定点の集まりである。これをもとに，今後の位置を予測するために飛行機のコースをかなりよく表現する曲線を目測で引くことができる。しかし，機械によってこのような曲線を引くにはどうしたらよいかが問題であった。そのためには，最も新しいデータのみならず，ある程度まえのデータをも考慮せねばならない。ウィーナーは，これらデータの扱い方にいくつかの方法を考えた。一つは線形の予測であり，他は非線形の予測である。

一連のデータを単に平均してしまうと，飛行機が途中で方向を変えたような場合でも平均的な方向にまっすぐ飛んでいるという結果が出てしまう。これでは将来の予測が実際と大きくはずれてしまう。そこで線形予測が用いられる。この方法は，古いデータほど重みを少なくする。すなわち，新しいデータほど重要視する。レーダーから刻々と得られる飛行機までの距離に係数を掛ける。この係数を新しいデータに対しては大きくとる。このようにして係数を掛けた結果を加わえていき，予測データをつくりだすわけである。しかし，線形予測は係数の決め方がむずかしい。なぜなら，新しいデータの考慮のしかたが少なすぎると，過去のデータが重んじられているわけであるから，状況の変化に気づくのが遅れるので予測が追いつけない。逆に新しいデータに重きを置きすぎると目先のデータに振り回されて，古いデータを十分に利用できないため予想がはずれる危険性がある。状況変化がある場合には，上に述べた予測より非線形予測のほうが適している。これには線形予測以外のすべての方法，すなわち無限の方法がある。簡単な例をあげると，次のようなものがある。2台の予測器があり，一方はごく新しいデータのみを考慮し，他はかなりまえのデータまでも考慮する。この2台の予測器を用いて，次のデータを別別に予測させ，その二つの予測値と実際に得られたデータとを比較し，誤差の少なかったほうの予測器の出力を次の段階の出力として用いる。

②ところで，いま説明したような方法で予測を行なうには,計算をしなければならない。目標の動作がおそかったり直線的な変化のみの場合の計算は，われわれの手で行なうことができる。しかし，一般的には複雑な計算をすばやくする必要がある。このような計算のために考えられたのがオートマトンである。オートマトンは最初自動計算機などと訳されていたが，現在ではコンピューター*がその代表的なものであり，種々の計算および判断ができる。

③次に，計算された結果などをもとに制御を行なう。この場合，変化する状況を測定した結果の一部を用いて自分の状態を変えることをフィードバック*といい，目標からのずれが小さくなるようなフィードバックをネガティブ-フィードバックとよぶ。この種のフィードバックは，蒸気機関が定速回転を得るのに使われている。その方法は，ガバナーとよばれる調速器*によって速度を検出し，この値が一定となるよう蒸気を供給する弁の開く量がガバナーによって制御される。この場合，速度を測定した結果をフィードバックして目標値との差が0になるように速度を変化させる。また，生物における動作には，多くのネガティブ-フィードバックが取り入れられている。たとえば，われわれが紙コップを握りつぶさないで持ち上げることができるのも，手の皮膚から受ける感覚によって握力の測定を行なっているからである。

しかし，ネガティブ-フィードバックにおいても，ときには不安定になることがある。たとえば，指先に棒を立てようとするとき，棒が傾くとそれを見て倒れないような方向に動かす。しかし，指を動かす量が大きすぎると棒は逆向きに傾き，その度合いがかえって大きくなる。このように，補正しようとしたフィードバックが強すぎると，目標からのずれがますます大きくなり，不安定になることがある。ネガティブ-フィードバックには，線形のフィードバックと非線形のフィードバックがある。線形のフィードバックを施した系では，現在の状態変化の大きさは，過去の一連の状態変化の大きさに，それぞれの時間的古さにのみ関係した数を掛けて加え合わせたものである。線形のフィードバックは入力の種類によらず安定か不安定かのいずれかであるが，非線形フィードバックは入力の種類によって選択的に不安定となる。ネガティブ-フィードバックを用いた制御機構として，サーボ機構*がある。これは，変化する状況のもとで，ある目標を達成するために，情報に従ってつねに働く装置のことである。サーボはラテン語で奴隷を意味する。すなわち，人間の手先となって働いてくれる装置で，マニュピュレーター*などもこれに類する。サーボ機構にはネガティブ-フィードバックが施されているが，目標値が一定でなく，たえず変化する。

〔適応〕この学問は①情報理論*，②自動計算，および③制御理論に基盤を置いているが，前述したように，〈集めた情報をもとに将来の状態を予測して制御を行なう〉という，あらゆる分野に共通した内容を含んでいる。すなわち，いままでに用いた例は航空機や蒸気機関などの機械系であったが，サイバネチックスは次のようにすべての分野に関係している。自然科学では宇宙船の制御に，工業では生産工程の制御に，社会においては経済政策に，また，医学の分野においては治療などに関係している。〔内山明彦〕

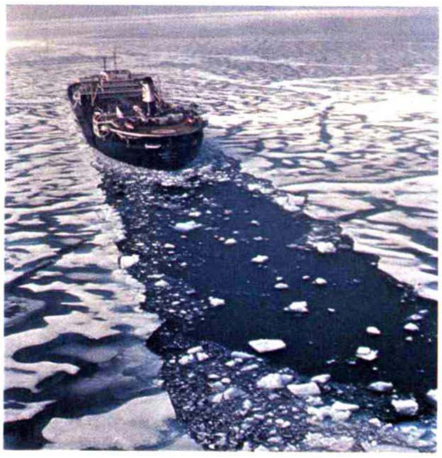
さいふ 【割符】 中世の為替(かわせ)手形*。切符ともいう。鎌倉時代に荘園*年貢(しょうえんねんぐ)の銭納化が行なわれると，その銭貨の輸送方法として替銭(かえぜに)という為替取引が始められ，室町時代になると一般の商取引の方法として発達した。これは現金を専門業者である割符屋(替銭屋)に払い込むと，金の領収，支払いの確約などを記入した割符を組んで，送達地で現金化するものであった。のちの為替・両替制度の起源となった。

さいぼう 【細胞】 ⇨184ページ

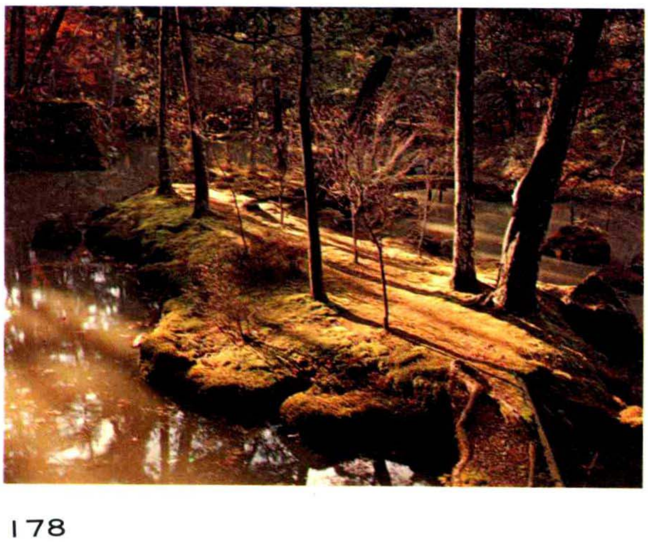
さいぼうえき 【細胞液】 細胞質*中の液胞を満たしている液。アントシアンなどの色素，無機塩類，糖，シュウ酸・酒石酸・クエン酸などの有機酸，イヌリン・タンニン・アルカロイドなどの物質をとかしており，弱酸性であることが多い。ある浸透価をもち，これが細胞が外から水分を吸収する原動力ともなっている。

さいぼうがく 【細胞学】 細胞の構造・機能を研究する生物学の一分科。1665年ロバート-フックがコルクの切片を顕微鏡で見て，ハチの巣形のものを細胞と名づけたのが細胞学のはじめとされる。それ以来1830年までに，生物体の形態的な構成単位が細胞であることが，多くの研究者によって広く確かめられた。そして細胞の内部は核と細胞質からなることが発見され，特に核の有糸分裂が注目されて，1800～1900年ごろまでは核を中心とした細胞学(核学)が主であった。一方，細胞質については，1900年以前にも色素体・ミトコンドリア・ゴルジ体などについて顕微鏡によってある程度の観察がなされていたがまだ十分でなく，1900年ごろから分解能が光学顕微鏡の20,000倍以上もある電子顕微鏡の利用と超薄切片の試料作製技術の開発によって，細胞質の微細構造の形態学的研究が飛躍的に進展した。しかし，現在では細胞を核と細胞質に分けて研究するという立場にとらわれず，細胞全体としての観点から研究されている。また，顕微鏡による記述的・定性的研究ばかりでなく，動的・定量的研究へと移行してきた。細胞集団の組織を摩砕して遠心分画する技術が発達し，純度の高い細胞構成物の化学成分・酵素活性・機能などの研究が行なわれるようになり，特に細胞化学として分類している。また，細胞中の染色体の行動と遺伝学の関連において研究するのは細胞遺伝学である。さらに，原形質の物理化学的性質を研究する細胞生理学という分野もあり，中でも原形質運動などが盛んに研究されている。最近では，以上のような細胞学の各分野の研究を含めて，生物体の構造と機能の単位という観点から，細胞を中心とした広い意味の生物学すなわち細胞生物学が盛んである。〔佐藤正一〕

さいぼうきかん 【細胞器官】 原生動物は１個体が１個の細胞でできているため，多細胞動物でみられるような，細胞が多数集まってできた器官はない。そのかわりに，細胞内の原形質が分化して，器官に相当する特殊化した構造があり，これを細胞器官という。その種類も多く，摂食・運動・感覚・排出などの目的に役だっている。運動器官としては繊毛・べん毛・仮足などがあり，栄養器官としては細胞口・囲口部・細胞咽頭(いんとう)・食胞・有色体などがあり，排出の目的のためには収縮胞・細胞肛門(こうもん)などがある。鞭毛虫(べんもうちゅう)類に多くみられる眼点*は感光性があると考えられ，ミドリムシの感光点も同じように感覚器官に相当する。ラッパムシなどの体表下に走る繊維構造はノイロネームとよばれ，神経毒に敏感な反応を示すので，神経繊維に相当する一種の感覚器官である。〔蒲原春一〕



砕氷船 砕氷石油タンカー〈マンハッタン号〉。アラスカから北極海を抜けて大西洋側まで原油を運ぶ



西芳寺 苑地庭園

さいぼうこきゅう 【細胞呼吸】 ⇨呼吸

さいほうじ 【西芳寺】 京都市右京区松尾神ケ谷町にある臨済宗天龍(てんりゅう)寺派の寺院。洪隠山(こういんさん)と号し，苔寺(こけでら)の通称がある。1339年(延元４・暦応２)この地の行基開基の西方寺を藤原親秀(ちかひで)が再興して禅寺となし，開山として夢窓疎石を迎え，寺号を改めたという。仏堂の建築，庭園の構築のすべては疎石によって行なわれた。庭園は上・下の２段からなり，下段は舎利殿を中心として黄金池を築き，池中の三つの島の一つに湘南亭(しょうなんてい)を建てた。枯れ山水の石組みを設けた上段には指東庵(あん)を建て，山上からの眺望(ちょうぼう)を楽しむ縮遠亭を設けた。当時のおもかげを残すものは池と島と石組だけである。〔永井信一〕

さいぼうしつ 【細胞質】 細胞の中の核を取り巻く原形質で，細胞の大部分を占め，不透明なコロイド状で粘性がある。細胞質基質に，ミトコンドリア・小胞体・リボゾーム・葉緑体・有色体・ゴルジ体などの細胞内小器官や顆粒(かりゅう)，油滴，液胞，デンプンなどを含んでいて，細胞内の生理作用の場となっている。

さいぼうしついでん 【細胞質遺伝】 大部分の遺伝形質の遺伝はメンデルの法則，すなわち染色体上に配列されている遺伝子の行動によって説明することができる。しかし，この法則にあてはまらない遺伝的現象も早くからいろいろな生物で発見されている。これらの現象は細胞質体に含まれる自己増殖性をもつ因子(細胞質因子)に支配されているという考え方で説明され，細胞質遺伝とよばれている。植物の光合成に重要な働きをもつ葉緑体，生物の呼吸酵素などの酵素系に関係のあるミトコンドリアなどは細胞の一構成成分であるが，これらは細胞質因子の一種である。その他，細胞質体中にはいりこんだ感染性の微生物，たとえばゾウリムシのキラー系統のもつカッパ一粒子，ショウジョウバエの炭酸ガス感受性系統のもつウイルスの一種のシグマ因子，ショウジョウバエの異常性比系統(SR系統)のもつスピロヘーターの一種のSR因子，バクテリアにみられる性決定因子(F因子)やコリシン因子などのエピゾームもこれにはいる。例をショウジョウバエのSR因子にとれば，このSR因子をもつ雌(SR雌)は毎代雌だけの子孫しかつくらない。これはSR雌が産んだ受精卵のうち，将来雄になるべきXY卵が発生の途上でSR因子の働きによって殺されてしまうのである。SR因子がなぜ

XY卵のみを選択的に殺すのかは，いまだ明らかではない。SR雌の体液を同種または異種の正常個体に注射することによってSR因子を容易に感染させることができる。最近では細胞質体中の遺伝情報をもった構造もDNAを含んでいることが明らかになってきた。細胞質因子はそれ自体特殊な作用をもっているが，その表現度は核内の遺伝子とも密接な関係をもっていることが多い。有性生殖をする生物では，これらの形質は細胞質をほとんどもたない精子を通して遺伝することはなく，つねに卵細胞を通して母から娘へと伝えられる。〔池田洋司〕

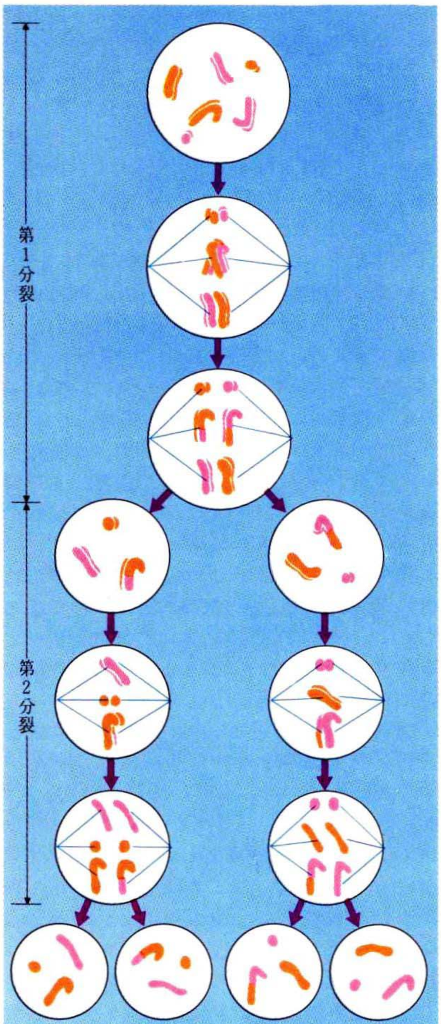
さいほうじょうど【西方浄土】⇨浄土

さいぼうせつ【細胞説】 すべての植物および動物の構造と働きは細胞が共通の構成単位になっているという説。1838年シュライデン*が植物体は細胞からできていることを，続いて1839年にはシュワン*が動物体についても同様であることを確かめて，細胞説が提唱された。細胞は生物体がつくったものであり，細胞の生活作用は原形質の働きによるのであるという原形質説などもあったが，卵細胞が1個の細胞であること多細胞生物も発生を始める初期には1個の細胞であることなどから細胞説の基礎が固まった。

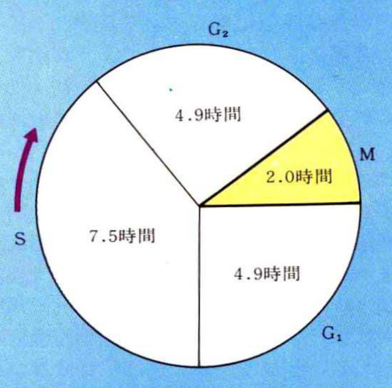
さいぼうないしょうか【細胞内消化】 細胞内に固形食物を取り込み，食胞を形成して消化すること。消化管による細胞外消化の対語。アメーバ・ゾウリムシなどの微生物や海綿動物などの下等動物で一般的にみられる。アメーバ・白血球などは仮足によって，ゾウリムシ・鞭毛虫（べんもうちゅう）などは食胞内に分泌された消化液によって消化・吸収する。海綿動物ではえり細胞・変形細胞で細胞内消化を行なう。腔腸（こうちょう）動物・扁形（へんけい）動物・二枚貝類などでは腸上皮細胞で細胞内消化のほか，細胞外消化も行なっている。なお，白血球の食作用は動物体の防衛が目的で，栄養の吸収を目的としたものではない。➔消化〔原野友之〕

さいぼうぶんれつ【細胞分裂】 一つの細胞が2個以上の細胞に分かれる現象。核分裂*と細胞質分裂が相伴って起こり，これによって細胞がふえる。細胞分裂の際には染色体が複製され，それが縦裂・分離することによって遺伝性が均等に保たれる。細胞分裂には体細胞分裂と減数分裂がある。また，核分裂については紡錘体の現われる有糸分裂と，核が柔らかいもちをちぎるようにくびれて切れる無糸分裂*とがある。しかし，普通の核分裂はほとんど有糸分裂である。したがって，細胞分裂は一般に有糸分裂をさす。

【体細胞分裂】生物体で生長の盛んな部分に起こる。その過程は次のいくつかのステージに分けられる。①間期：分裂と分裂の間の時期。核が顕微鏡的に不活性な状態にあるので静止期または休止期ともいうが，



減数分裂の順序



ソラマメ根端における体細胞分裂サイクル（19℃）
M：分裂期（前期63分，中期12分，後期22分，終期25分）
G_1-S-G_2：間期（S期にDNA合成が行なわれる）

細胞分裂

実際には核酸やタンパク質の合成期にあたる。染色体は細長く伸びた糸（染色糸ともいう）の状態である。仁（核小体）はその細胞に一定の数が存在する。②前期：分裂にはいった初期。染色体が短縮して太くなりはじめる。この時期には各染色体は二重構造になっている。仁はしだいに解体し，見えなくなる。前期の終わりごろ（前中期）に紡錘体が現われはじめる。③中期：紡錘体の中央部の赤道板に染色体の動原体が集まる時期。染色体は最も短縮するので，顕微鏡で観察するのに適した時期である。④後期：縦裂した染色体の2本の染色分体が，分かれて極に移動する時期。染色分体の移動は動原体と極を結ぶ紡錘糸の収縮によるものと考えられる。⑤終期：染色分体は極に集まり，しだいに伸びておのおのの輪郭が不明瞭（ふめいりょう）になる。仁が新たに現われ，核の形態を示す。動物細胞では細胞質がくびれ，植物細胞では細胞板でしきられ，二つの娘細胞が生ずる。

【減数分裂】動物において精子（厳密にいえば精細胞，これが変態して精子になる）・卵形成の場合，高等植物では花粉・胚嚢（はいのう）形成のときに行なわれる分裂である。これは2回の分裂を含み，相同染色体の対合と分離が行なわれ，そのとき染色体の部分的交換が起こり，2回の分裂によって染色体数が半減することなどが特徴である。分裂の経過は次のようである。①第1分裂：まず前期が時間的に長く（ユリの花粉母細胞で約6日），細糸期・接合期・太糸期・複糸期・移動期などいくつかの時期に分けている。細長い相同染色体どうしが互いに対合して二価染色体をつくり，それがしだいに短縮していく。各相同染色体は2本の染色分体に分かれ，相同染色分体の間で互いにねじれ合い，その交叉（こうさ）の箇所（キアズマ）で染色分体の部分的交換が起こる。これはとりもなおさず遺伝子の組み換えである。中期で紡錘体の内に二価染色体が赤道板に配列する。後期では相同の動原体が極に向かって移動し，姉妹染色分体は相伴って極に移る。終期では極に染色体が集合する。第2分裂にはいるまえに中間期がある。②第2分裂：これは体細胞分裂と変わりなく，前・中・後・終期に分けられ，第1分裂で同じ極に移動した姉妹染色分体どうしが分離して両極に分かれる。以上の2回の分裂によって，はじめの1個の母細胞から4個の娘細胞が生ずる。動物の精子の場合では精母細胞から四つの精子ができ，卵では一次卵母細胞から第1分裂で二次卵母細胞と一次極体，第2分裂で1個の卵細胞と3個の二次極体ができる。したがって成熟卵は1個のみ。➔183ページ（写・表）〔佐藤正一〕

さいぼうへき【細胞壁】 植物細胞の外側を包んで細胞を保護し，その形を保っている膜で，細胞質から分泌されてできた後形質で，主としてセルロース・ペクチン質などの多糖類からなる。動物細胞にはない。細胞膜とよんでいたこともあるが，細胞の微細構造に関する知識の進歩に伴って細胞壁とよばれるのが普通である。永久組織の細胞の細胞壁は層状構造になっている。細胞が分裂して最初できたばかりの細胞壁は

→183ページ

裁　判

〔実質的意義(広義)〕裁判とは社会関係における具体的な利害の衝突や紛争を解決・調整する規律を定めるために，法的な権威を与えられた第三者の判定であるといえる。

①分析的説明：㋑裁判の対象は，社会的関係事項に限られる。たとえ国際社会上のものであってもよい。国際司法裁判所*や国際軍事裁判*がその例である。しかし競技上の審判や度量衡の検定のようなものは，判定作用はあっても，それが社会的関係事項といえないのでその判断作用を裁判とはいわない。㋺裁判は具体的な利害の衝突や紛争の解決・調整を目的とする。民事裁判では，対等な立場にある私人間で，自由・身分・経済的利益などに関して生じた紛争の解決を目的としている。刑事裁判や行政裁判は，公権力をもつ国家または公共団体と人民との間に生じた公益と私益の衝突を社会的に調整することを目的としている。したがって，現実に具体的な利害の衝突や紛争が生じていないときは，裁判を起こしえない。㋩裁判は紛争の解決，利害調整のための具体的規律を判定するものである。たとえば，民事裁判では，通常当事者間の紛争となっている私法上の権利関係を確定し，それに結論的な判断を示すことによって具体的な解決規律を定める。刑事裁判では，被告人に対する刑罰権の有無と限度を具体的に確定して，公益と私益との調整規律を与える。ここで裁判と法規との関係について述べると，裁判は法規がなかった時代にも行なわれたし，また行なわれなければならなかった。法規がなかった時代の裁判は，裁判例によって行なわれた。しかし時代が進み，社会関係が複雑多岐となるにつれて紛争も増大，多様化し，裁判例も種々となってくると，裁判の公正・統一のために，その内容・方法について一定の規準が求められるようになり，法規がつくられるようになった。裁判の規準となる法規が制定されると，裁判官はその内容・手続きにおいて，その法規にしたがうことが要請される(これを裁判規範という)。こうして裁判官はその法規を具体的事件に適用して具体的解決規律を導き出すのである。ことに，成文法*主義をとる国が多くなった近代においては，立法技術が高度に進歩してきたため，成文法規が詳細に規定されるようになった。民事でいえば社会に発生する私法的生活関係のほとんどすべての分野を網羅(もうら)し，民法・商法などの私法法規を整備した。そのため，民事の裁判は事件に私法法規を適用して法律判断を示すことと同じようになった。ただ法規をいくら綿密に制定しても，すべてを完全に網羅できないし，時代の推移によって法規制定当時には予測できなかった事態も生じ，問題となっている事件に適用すべき法規を欠くこともある。そのとき，法規がないからといって，裁判を拒むことはできない。スイス民法1条は，〈法規がないときは，みずから立法者であったならば制定するであろう規準によって裁判すべし〉とし，1875年(明治8)のわが国の太政官(だじょうかん)布告には，〈民事の裁判に成文法なきものは，習慣に依(よ)り，習慣なきものは条理を推考して裁判すべし〉(第103号裁判事務心得3条)とあるのは，このような場合の裁判のしかたを示している。すなわち裁判は，それに適用すべき法規があればそれを適用し，法律判断としての結論を示せばよいが，法規がないときは法の精神(理念)・習慣・条理にしたがって，紛争解決・利害調整のために最も適切妥当と思われる判断を示せばよいというのである。ことに，イギリス法系のような判例法*をとる国では，いまなお原則として成文法がないため，裁判は成文法規の適用というよりは裁判例の集積のうちに，その事件に最も適切妥当な結論を見いだして最終判断を示すことにしている。〈成文法は判例法の行き詰まりを打開し，あるいは新しい分野を開くために，修正補充として制定するにすぎない〉。すなわち，ここでは成文法系諸国のように，裁判とは法規の適用という形ではなく，法規との定着性はきわめて薄い。なお，成文法系諸国においても同種の判例をくり返し集積することによっていわゆる判例法を成立させ，成文法の欠如を補充したり内容を修正したりしている。裁判と法規との関係は，だいたい以上のような関係で発展してきた。刑事裁判でも，当初は刑罰*法規がなくても，重大な社会秩序の破壊があった場合には，裁判を行ない，また行なわなければならなかった。ただ民事裁判と異なる点は，近代国家になっていずれの国も罪刑法定主義*を採用し，犯罪*として処罰すべき行為と刑罰の範囲を，必ず刑法*で規定しなければならないことである。刑法に規定されていない事項は有罪の裁判を受けることがないとしたため，刑事裁判とは，刑罰法令を適用して法律判断を示すことになったのである。以上をさらに要約すると，近代成文法諸国家における裁判は，多くの場合，法規を具体的事件に適用して，結論としての法律的判断を示すこととほぼ同義的になったといえる。㊁裁判は，第三者的立場にある者によってなされる。刑事裁判では被告人と検察官，行政裁判では人民と行政機関，民事裁判では原告と被告というように相対立する当事者があって，裁判をする者はつねに第三者の立場にある。みずからが当事者となって裁判をする自己裁判は，ここにいう裁判ではない。㊉裁判は，法的に当事者を拘束する力を有しなければならない。下された判定は，はじめから当事者に対して優越的な権威をもつものとして強制的に服従せしめる。この拘束力によって，はじめて裁判の目的が達せられるのである。これは当事者が判定内容を公正なものとして承認しているからではなく，またそれに服従しようとする当事者の意思が前提にされているからでもない。公正さは，上訴*によってのみ保障されるべきであり，服従は当事者の承認とは無関係に強制される。この点，当事者が合意して第三者の判断に服することを約束して成立する仲裁裁判とは異なる。

②以上の概念を包含するのがすべて実質的意義における裁判である。司法裁判所による民事裁判・刑事裁判・行政裁判のほかにも，憲法・法律の規定によって実質的裁判が認められている。たとえば，衆・参両議院が議員の資格に関して行なう資格争訟の裁判(憲法55条)，国会が罷免の訴追を受けた裁判官に対して行なう弾劾裁判(憲法64条)，行政機関の行なう各種の前審的審査(行政不服審査法による審査・再審査など)，特許法による審判・再審(特許法121～176条)，海難審判(海難審判法15～52条)，公正取引委員会の審判(私的独占の禁止および公正取引の確保に関する法律の適用除外等に関する法律49条以下)，電波監理審議会の聴聞(電波法83～99条)，人事院の審査・調査(国家公務員法86～92条)，人事委員会または公平委員会の審査(地方公務員法46～51条)などである。

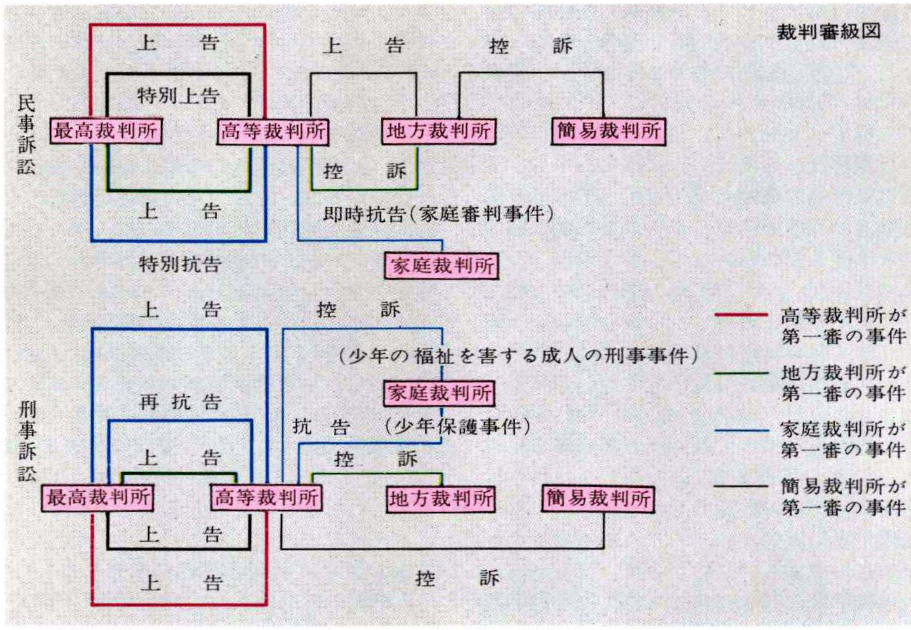
〔形式的意義(狭義)〕①現在，わが国の法令上の用語としての裁判とは，司法裁判所における裁判所または裁判官がその権限行使としての意思や判断を表示する場合の法律行為をいう。この場合，すべてが実質的意義における裁判とはかぎらないが，法令用語上用いられている(たとえば,訴訟指揮上の処分や命令)。形式的意義(狭義)では，司法裁判所以外の機関が実質的裁判をしても，それを裁判とはいわない。

②裁判の種類：㋑裁判は形式からいえば，判決・決定・命令である。判決は，実質的な裁判である。原則として終局的な判定で，口頭弁論*を経て(民事訴訟法125・187条，刑事訴訟法43条1項など)，公開の法廷で宣告される。判決によって裁判すべき事項は，各訴訟法において定められている。決定・命令は，原則として比較的軽微な事項や迅速を要する事項を処理するために，口頭弁論を経ないで行なう(民事訴訟法125条1項但書(ただしがき)，刑事訴訟法34条2項など)。㋺内容や効力からいえば，確認的裁判・形成的裁判・命令的裁判がある。確認的裁判とは，権利関係または法律状態の現存を確認する裁判である。たとえば，原告が所有権

を有することを確認する民事判決や，被告人は無罪であると宣告する刑事判決などである。形成的裁判とは，既存の権利関係または法律状態を変更し，あるいは新しく創設する裁判である。たとえば，離婚状態を生ぜしめる離婚判決，刑罰効果を発生せしめる有罪判決，行政処分の取り消し・変更を生ぜしめる行政訴訟判決などである。命令的裁判とは，当事者その他の関係人に一定の行為を命ずる裁判である。たとえば，被告に一定の金銭を命ずる民事判決，出頭を命ずる裁判(命令)などである。

③裁判の自己拘束力・確定力・執行力：裁判は，いったん成立した以上，不安定な状態におくことは好ましくないので，裁判を行なった裁判所または裁判官は，みずからが拘束されてこれの取り消し・変更をすることができないのが原則である。これを拘束力という。ただし，確定的な法律判断を示す裁判でないもの，たとえば訴訟指揮上の裁判などは，のちに不必要・不適当と認められればみずから取り消し・変更できることもあるが，これは例外である。裁判の取り消し・変更は，当事者の上訴・不服申し立てによって上級裁判所によってのみなされる。しかし，訴訟手続き上その余地がなくなると，裁判は形式的にその時点で確定する。確定すると，終局的判断としてその裁判された事項については，裁判所も関係人もこれを尊重し服従しなければならない。これを確定力という。しかしその効力の物的限界・人的限界・時間的限界については裁判の種類によって異なる(→既判力)。裁判は，紛争の解決，利害の調整を果たす必要から，裁判の内容に対応する状態を実現すべく，国家権力によって強制できる効力をもつ。これを執行力という。

【司法権の独立】近代国家における権能は，立法・司法・行政の三権に分立し(→三権分立)，その間に均衡と抑制をはかりつつ相互に独立して権限を行使させる制度をとっている。裁判は，近代法治国家(→法治主義)においては，原則として法規の適用による法律判断になるため，裁判を行なう国家作用を司法とよび，他の立法・行政その他の国家機関から指揮監督はもちろん，いっさいの干渉をされないように独立させている。これを司法権の独立という。裁判官は，原則としてその意思に反して，免官・転官・転所・職務の停止または報酬の減額をされることがない(裁判所法48条)。司法権の独立は立法・行政からの不当な侵害を防ぎ，国民の基本的人権*を保障し，民主主義*を守るために欠くべからざるものであるから，完全に守られなければならない。したがって，国政調査権に基づく調査であっても，具体的裁判について当事者や裁判官を尋問して，その当否を調査したりすることは司法権の独立を犯すものとして許されるべきではない。また，マスコミュニケーションの報道や，ある種の党派・団体のデモンストレーションや宣伝にしても，具体的な裁判について，その結果を左右しようと論難し，国民に裁判への不信を抱かせるような批判を加えたり，裁判官が職務の執行に不安をおぼえるような動きをし，正規の訴訟手続きを経ないで，直接・間接に裁判に干渉することは，厳に慎しむべきである。



【裁判(狭義)の範囲】①新憲法は，旧憲法下の裁判制度に比べて，司法権は最高裁判所*および下級裁判所*に専属させ，特別裁判所の設置を認めていない(憲法76条1項，2項)。裁判の対象となる範囲も，法律上の争訟となるかぎり行政の対象となる事項にまで広げ，実質的に法令審査の権限をも認めている。したがってわが国では司法権の独立を強固にするとともに司法優位の体制をとり，法のもとにおける平等の実現を期している。

②法律上の争訟：個人・法人・団体など法の保障する権利主体の間で，社会関係上の具体的な権利義務について，現に紛争衝突があり，それについての法律的判断によって具体的にそれが解決されるであろうと予期される訴訟を法律上の争訟という。その訴訟の対象になる権利義務または法律関係は，公法・私法上の区別を問わない。旧憲法下では，公法関係の争訟は行政裁判所が取り扱い，司法裁判所には管轄権がなかったが，新憲法下では，法律上の争訟であるかぎりすべて司法裁判の対象となっている。もっとも，いわゆる民衆訴訟(行政事件訴訟法5条)・機関訴訟(同法6条)は法規の適正な適用または公共の利益の保護を目的とするもので，厳密には法律上の争訟にあたらないが，司法裁判所に判断させることを適当として法律で特に例外的に認めている。しかし，法規を適用し法律的判断ができるからといって，単にそれだけでは裁判を求めえない。また，いかに重要な紛争・衝突事項でも，それが政策的なものや仮定的または抽象的な法規の解釈や適用の問題である場合は，法律上の争訟にならないから裁判の対象とはならない。たとえば，自衛隊が違憲か合憲かだけの判断を求める裁判は出訴を許されない。判例は，村議会で中学校設置について予算決議があり知事がそれを承認しても，その事実があったというだけでまだ行政処分*がないときは，その議決の無効確認を求めても，具体的な権利義務に関する争訟にならないとしている(昭和29年2月の最高裁判例)。

③いわゆる統治行為：統治行為の概念は，ドイツやフランスで比較的早くから論じられてきた。アメリカで〈政治問題〉とよばれるものとほぼ同じものと解されている。しかしその概念は，わが国はもちろん各国の実例や学説もさまざまで，まだ確定していない。一般には，法律上の争訟事項に該当し，これに対する有効・無効の判断が法律上可能であっても，それが国家統治の基本に関する高度の政治性ないし自由裁量*的な立法または行政上の国家行為に属する場合にそれをいうと解されている。このような事項は，一見きわめて明白に違憲無効であると認められないかぎり，裁判(司法)の対象とされないと解される。それは三権分立の制度下にあっても，司法権の行使があらゆる国家行為を無制限に司法審査の対象とすべきではなく，〈統治行為〉にあたるよう

な国家行為についての判断は，主権者である国民に対して政治的責任を負う政府・国会などの政治部門の判断にまかされ，最終的には，国民の政治的判断にゆだねられていると解すべきである。司法に対するこのような制約は，三権分立の原理に由来し，その国家行為の高度の政治性，裁判所の司法機関としての性格，裁判に必然的に随伴する手続き上の制約などにかんがみ，特定の明文はないが，司法権の憲法上の本質に内在する制約と理解されるからである（昭和35年6月8日最高裁判決)。〈政治問題〉は，つねに司法裁判の対象にならないと解すべきではないが，〈統治行為〉といわれる高度の政治的行為にまで裁判所の審査権を認めることは，司法機関に政治責任を負わせ，あるいは司法の独裁を認める結果となり，三権分立の原則からいって不当であることは明らかである。したがって，たとえば，衆議院解散の有効・無効の判断(前記最高裁判例)，日米安全保障条約批准の効力の問題(昭和34年12月16日砂川事件*に関する最高裁判例)，国会の議決による議員除名の有効・無効の問題(国会法123条)，国会召集の効力問題などは，司法裁判の範囲外にあると解すべきであろう。

④法令審査権：㋑立法機関によって制定せられた法律・命令・規則について，その制定手続きに違背があるかどうか(形式的審査)，その内容が上位の法令特に憲法に抵触しているかどうか(実質的審査)を審査し，その有効・無効を判断する権限をいう。特に，憲法に適合しているか否かを審査できる権限を違憲立法審査権とよぶ。法令審査権をどの範囲・程度で認めるかは，各国によって異なる。アメリカは完全な三権分立主義を採用しているので，実質的審査権も認めている。わが国の旧憲法下では形式的審査権だけが認められ実質的審査権がなかったが，新憲法下ではアメリカにならい実質的審査権も認めた。憲法81条は最高裁判所に法令審査権(違憲立法審査権)があることを明らかにしているが，同条は下級裁判所にも同様の権限があることを前提としていると解されている(昭和25年2月1日最高裁判所判例もこれを認めている)。㋺わが国の法令審査権は，司法権に付随した権能であると認められている。裁判所に違憲立法審査権を認めているといっても，これはヨーロッパ諸国にみられる憲法裁判所*として認めているのではない。外国の憲法裁判所は通常事件は取り扱わないで，固有の権限として直接に違憲であるか否かの判定のみをする裁判所〈しかも，始審にして終審〉である。わが国ではたとえ最高裁判所であっても，司法権に付随した権限として違憲立法審査権を認められているにすぎない。したがって，裁判所に法令などが違憲であるか否かの判断を直接に求めても出訴できない。具体的な法律上の争訟事件を提起して，その審判をするために必要な前提の範囲において，憲法違反か否かの判断を求めるよりほかはない。逆にいえば，裁判所は具体的な争訟事件が提起されないかぎり，そしてその事件の判決のために必要な範囲内においてのみ，はじめて憲法違反か否かの裁断を下すのであって，将来を予想して憲法およびその他の法令の解決に対し，存在する疑義論争に関して抽象的に裁断を下すような権限はない(昭和27年10月8日警察予備隊違憲訴訟に関する最高裁判例)。㋩法令審査権の対象：形式的意義の法律はもちろん，憲法に規定する規則(たとえば裁判所規則，国会両院の規則など)，行政機関の制定する政令・省令・規則・命令など(名称を問わない)，地方公共団体の制定する条例*(法律に準ぜられる)，行政機関の行なう具体的処分行為，その他いっさいの国家機関の行為が対象となる。しかし条約*は，憲法98条2項の規定から考えて，法令審査権の対象にならないと解される。㊁違憲決定判決の効果：下級裁判所でなされた場合と最高裁判所でなされた場合と区別して考える必要がある。一般的にいうと，裁判は当事者に対し具体的事件における紛争の解決，利害衝突の調整にあるので，最終的結論を主文で表示すれば十分である。そして，この主文に包含される判断に限って，当事者またはこれに準ずる地位にある者に対し既判力をもたせればよいのである(判決理由中での判断には既判力はない)。したがって主文を引き出すために判決理由中で，法律・命令・規則・処分が憲法に違反して無効であるとの判断を示したとしても，その判断には既判力がないから第三者や他の事件では，依然として有効として取り扱ってよいことになる。下級裁判所が違憲の判断を示す場合も，多くは理由中で示すこととなろう(主文に包含される範囲内で判断されることは考えられない)。したがって，下級裁判所の違憲判定判決の効果も，上記と同様に考えてよいであろう。すなわち，その違憲判断は，既判力をもたないと解せられる。そのように解すると，下級裁判所の違憲判断は，あまり重大な意味がないように思えるかもしれないが，同種の判例がくり返されると，一般的にも違憲無効とされる蓋然(がいぜん)性が高くなるという事実上の効果が生ずるから，この点でけっして無意義ではない。また，行政訴訟では，関係行政官庁に対する拘束力が認められている関係から大きな影響を及ぼすであろう(行政事件訴訟法32・33・38・41・43条など)。ところが最高裁判所が違憲無効の判断を示した場合は，以上と同じように考えるべきではなかろう。憲法81条は，最高裁判所に違憲立法審査権の終審裁判所として終局的に判断をする権限を認めており，その最高裁判所が判決理由中で違憲無効の判断をしたにもかかわらず，他の行政機関・下級裁判所，その他の第三者がその判断に拘束されないで独自の考え方をとったり，同種の他の事件で合憲として適用することは，最高裁判所の機能を失わせることになり，不当な結果となろう。そこで最高裁判所の違憲判断については，判決理由中で示されたものであっても，その判断の拘束力は当該事件および当事者だけに限らず，一般的に及ぶと考えるべきである。このような効力についての明文はないが，憲法自身が特別の効力として与えていると解すべきである。したがって，最高裁判所が違憲と判断したときは，その限度で，該当する法律・命令などはその制定が取り消されて無効となり，国会・行政機関・一般国民，および裁判所自身もすべてこれを有効として取り扱うことができなくなると解すべきで，この説が有力である。その無効が法令制定の当初にまでさかのぼるか，判断があった時点からあとになるかは説が分かれている。

【裁判機関】裁判を行なう機関としては，国家機関以外には認められない。行政機関が特定の事項に関して実質的な裁判をすることを認められているが，その場合は前審としてするのであって，終審としてはできない。そしてその事項が法律上の争訟に関するものであるかぎり，必ず司法裁判所の審査(裁判)を受けられる道を設けておかねばならない(憲法76条2項)。司法権の行使としてする裁判は，最高裁判所および下級裁判所に専属させられている。そして，憲法は，法の下の平等を法廷の平等にまで徹底させる趣旨で，非常の事件について臨時に裁判所を設置したり，特別の身分をもつ者あるいは特殊の性質をもつ事件についてだけ裁判権を認める，いわゆる特別裁判所の設置をいっさい認めない(憲法76条1項・2項)。司法裁判所は，最高裁判所を頂点として高等裁判所*・地方裁判所*・家庭裁判所*簡易裁判所*があり，各裁判所には裁判官・裁判所書記官その他の職員が置かれている。このような職員や機構をもつ官署としての裁判所を〈国法上の意味での裁判所〉という。これに対し各裁判所において具体的事件を処理するとき，1名ないし数名の裁判官(事件の性質・内容や審級に応じてその数が定まっている)によって構成される単位的な裁判機関を裁判所ということがある。これを〈訴訟法上の意味の裁判所〉といい裁判所の判決などというときの裁判所はこの意味で用いられる。➔裁判所　➔三審制度　➔行政訴訟　➔刑事訴訟　➔民事訴訟

〔赤塔政夫〕

ペクチン質の薄膜で，中葉という。しだいにその内側にセルロースを主成分とする第1次膜ができ，だんだん厚くなる。道管・仮道管の細胞ではさらに第2次肥厚をしており，その肥厚のしかたが部分的であるために模様が生じ，環紋・らせん紋・階紋などの模様や膜孔がみられる。また，細胞壁を通して細い原形質連絡がみられることがある。木部の細胞壁はさらに二次変化して，膜中にリグニン(木質)・スベリン(木栓(もくせん)質)が加わって木化・コルク化している場合もある。また，最外層表面の膜にクチン質が加わってクチン化したものもある。

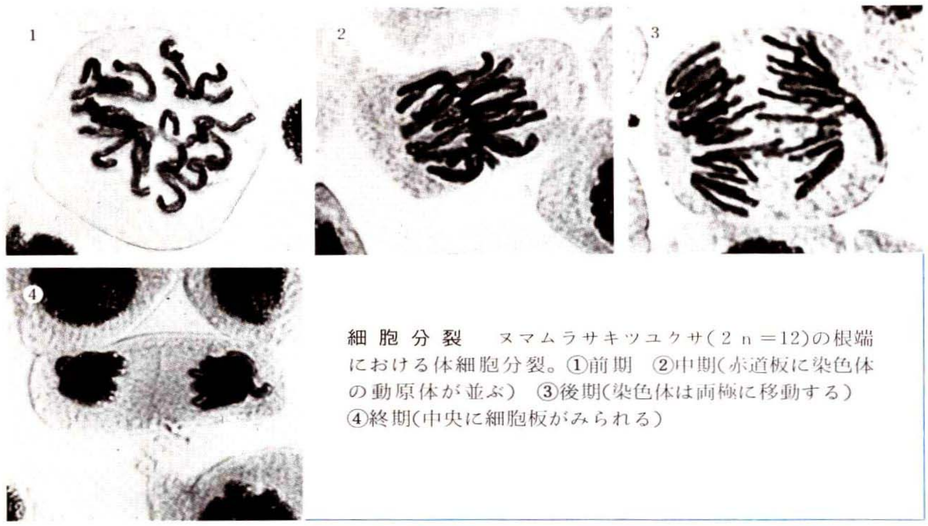
さいぼうまく　【細胞膜】 細胞の原形質の最外層表面を取り巻く原形質膜(形質膜)。動物・植物細胞の原形質表面の厚さ5～20 $m\mu$の薄膜で，半透性であるが，物質によって透過しやすいものと透過しにくいものとがある。なお従来，植物細胞にあるセルロース膜を細胞膜とよんだが，最近これは細胞壁*と改められた。

さいぼくパルプ　【砕木パルプ】 ⇨機械パルプ

さいほけん　【再保険】 保険を引き受けた保険者(多くの場合は保険会社)が，保険に加入した人々から引き受けた責任を，さらにその一部または全部につき，他の保険者に保険を付すること。この場合，はじめの保険者を元受け保険者，あとの保険者を再保険者という。したがって再保険とは，元受け保険者が元受け保険による責任負担のために受ける損害の一部または全部を再保険者が塡補(てんぽ)することを引き受ける保険で，責任保険*の一種となる。保険の原理として，保険契約件数が多ければ多いほど危険頻度(ひんど)が平均するという大数の法則*が働くが，再保険とは同質の危険を十分な数だけ集められない場合に必要とされる制度であり，さらにまた高額な保険の危険を量的に平均化して，その分散を図るためのものでもある。　〔庭田範秋〕

さいほしょうじょうやく　【再保障条約】 1887年ドイツとロシアの間に成立した秘密条約。1881年に更新された三帝同盟*は，バルカンにおけるロシアとオーストリアの対立によって継続が困難になったため，ビスマルク*はロシアを自国の陣営につなぎとめておこうとして，この条約の成立に努力した。条約の内容は，第三国との戦争に際して相互に好意的中立を守ること，バルカンにおける現状維持などを定めたが，1890年に解消した。

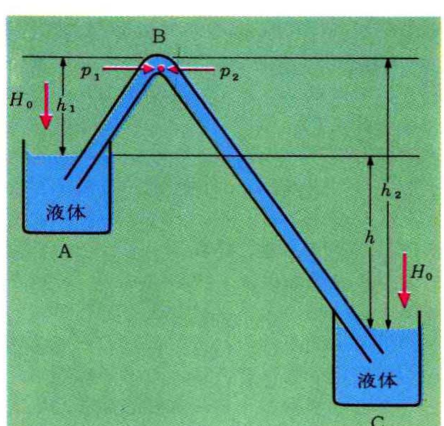
サイホン　[siphon] 長短の脚をもつ曲がった管に液体を満たし，高い所と低い所にある容器にそれぞれの脚を入れ，高いほうから低いほうへ流れるようにした装置。図において，液体の密度をρ，大気圧をH_0とすると，Aのほうから押す圧力は$p_1=H_0-\rho gh_1$，Cのほうから押す圧力は$p_2=H_0-\rho gh_2$で，Aのほうから押す圧力のほうが$p_1-p_2=\rho g(h_2-h_1)=\rho gh$だけ大きいから，Cのほうへ流れ出すのである。なお水の場合，最高点BがAの水槽(すいそう)の水面から10.34 m以上高くなると，Bの部分に真空ができて水は上がらなくなる。サイホンの原理を応用して，溶液の上澄み液だけを取り分けることができる。またダムの水位を一定に保つために，水面が上昇すると水を放出するサイホンダムがある。〔今淳治郎〕



細胞分裂　ヌマムラサキツユクサ(2 n =12)の根端における体細胞分裂。①前期　②中期(赤道板に染色体の動原体が並ぶ)　③後期(染色体は両極に移動する)　④終期(中央に細胞板がみられる)

体細胞分裂と減数分裂の比較

	目的	場所	分裂	染色体数	相同染色体の対合	交叉	後期における染色体の分離
体細胞分裂	生長	分裂組織	1回	変わらず	しない	しない	姉妹染色分体が分離
減数分裂	配偶子形成	生殖組織	2回	半減	する	する	第1分裂では姉妹染色分体は分離せず第2分裂で分離

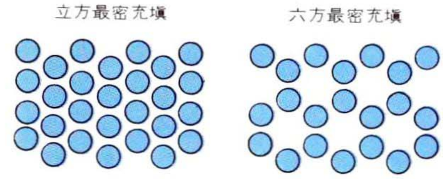


サイホン　構造

さいまろ　【才麿】 (1656～1738) 江戸前期の俳人。椎本(しいのもと)氏。本姓谷氏。初号則武。別号西丸・旧徳。大和(やまと)(奈良県)宇陀(うだ)藩士。浪人して江戸に下り，言水(ごんすい)・芭蕉*(ばしょう)・其角*(きかく)らと交遊，1679年(延宝7)に《坂東(ばんどう)太郎》を選し，芭蕉らと並んで談林俳諧*(はいかい)からの脱却を求めた。1689年(元禄2)以降は大阪に移り，来山*と並ぶ勢力を張った。紀行《椎の葉》《後椎の葉》など。

さいみつじゅうてん　【最密充塡】 同じ種類の原子をある体積の中に最も密に並べる詰め方。箱の中の球をゆさぶって最も密に詰める方法に相当する。金属元素とか希ガス元素などのように指向性のない結合をした原子群は，できるだけ密に並んだほうがエネルギー的に安定になる。立方最密充塡・六方最密充塡の2種の詰め方がある。球を一つの層の中で，どの球も6個の球と接するように並べる。この層の3個の球に接触させながら，上側に一つずつ球を並べて第2の層をつくる。第3層の球を第1層の球のないところ(穴)で，第2層の球も占めていない穴の真上に置くと，3層ずつのくり返しとなって立方最密充塡となる。また第3層の球を第1層の球の真上に置くと2層ずつのくり返しとなって六方最密充塡となる。希ガス元素が非常な低温で結晶になるときには，そのすべてが，また室温で金属が結晶するときは，その3分の2がど

→187ページ



最密充塡

細　胞

生物体の構造と機能の単位で，顕微鏡でやっとみえるほどの大きさであるが，その中に多くの複雑な構造をもっている。多くの生物は多数の細胞からなる多細胞生物であるが，細菌やアメーバのように一つの細胞からなる単細胞生物もあり，細胞それ自身が生物ともいえる。

〔発見史〕細胞の発見は，1665年ロバート-フックがコルクの切片を顕微鏡で観察したことに始まる。フックはニンジンやシダでも細胞を観察している。動物ではアントン-ファン-レーウェンフック*が1674年に赤血球を，1679年に精子を観察し，1702年に魚の赤血球をスケッチして，その中に核を描いている。しかし，核の明確な発見者はロバート-ブラウン*(1833)である。18世紀には多くの植物・動物の細胞が広く観察され，細胞は最小の生きた単位体であると考えられるようになった。そして19世紀初頭，トレビラヌス(1806)とリンク(1807)は植物細胞集団から単細胞を分離することに成功した。動植物の組織は細胞単位からなり，また細胞は分裂によって増殖するという細胞説*が，シュライデン(1838)やユーゴ-フォン-モール・ネーゲリー(1835)らによって提唱された。核内の小体(核小体あるいは仁)は1840年にボウマンによって発見された。細胞の内容を埋める物質は原形質と名づけられ(パーキニュ〔1840〕，モール〔1846〕)，それ以後原形質学が発達した。

生物学においては，このころあいついで画期的な論文が発表された。ダーウィンの《種の起源》(1859)，メンデルの〈遺伝の法則〉(1865)がそれである。さらにミクロトームによる切片法，固定と染色の細胞学的技術などが開発され，1873年にはそれによって核分裂のときに現われる物体，すなわち染色体がシュナイダーによって発見された。その後，染色体学あるいは核学が急速に進んだ。1882年フレミングは，核分裂の際に紡錘体が現われる過程を有糸分裂と名づけた。配偶子形成のとき染色体数が半減するという減数分裂*は，1905年ファーマーとムーアにより発見された。

一方，細胞質内の中心体は1888年ボベリーに，ゴルジ体は1898年ゴルジによって発見され，ミトコンドリアはフレミング(1882)・アルトマン(1890)らによりみつけられ，ベンダ(1898)によって確認された。20世紀にはいると，電子顕微鏡(1932)・位相差顕微鏡(1935)・紫外線顕微鏡(1938)があいついで発明され，また定量的に研究する器械がくふうされて，細胞学の進歩が一段と高まった。ポーターらによる小胞体(1947)，ワトソンとクリックによるDNA分子モデル(1953)，デ-デューブによる細胞消化に関係するリゾゾーム(1957)，ロバーツによるタンパク質合成に一役買っているリボゾーム(1958)など，多くの発見があった。➔細胞学

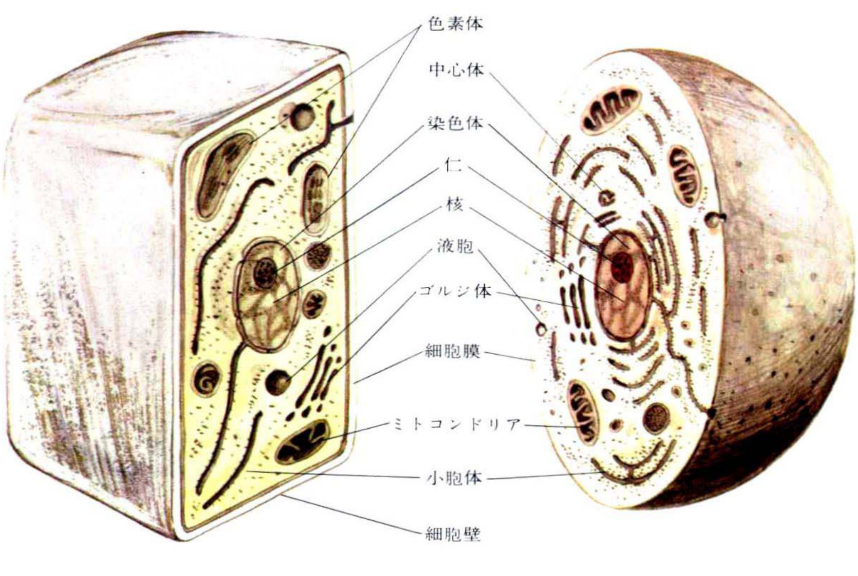


図-1　細胞の構造　(左)植物細胞　(右)動物細胞

〔細胞の構造〕細胞はふつう1個の球形の核とそれを取り巻く細胞質からなり，その外側は薄い細胞膜*(原形質膜)で外界と仕切られている。なお，植物細胞ではそのほかにセルロースからなる細胞壁*がある。核の内部にはその細胞種に一定した数の染色体と仁がある。細胞質は多くの構造要素と含有物からなる。その構造要素としてはミトコンドリア・色素体(植物細胞のみ)・リゾゾーム・小胞体・ゴルジ体・ミクロボディー・中心体(動物細胞と下等植物細胞)などがあり，これらは細胞質小器官といわれる。そのほか，液胞や細胞質基質がある。含有物あるいは後形質は，デンプン粒・タンパク質粒・脂肪粒・無機塩類など多くのものがある。

〈細胞の大きさと形〉ふつう細胞の大きさは5～100 μであるが，大きい細胞としては鳥の卵があげられ，ニワトリの卵(卵黄と胚(はい)の部分)は直径2～3 cmである。小さい例としてはインフルエンザ菌があり，その大きさは0.1 μである。なお，ヒトの細胞の容積は$200\mu^3$～$15,000\mu^3$である。細胞の大きさを決める要素はその表面積・容積・特異的活性などであり，その大きさを調節する機構は複雑である。哺乳(ほにゅう)類では臓器の大きさは種類によって異なるが，それを構築する細胞の大きさはおよそ等しく，一定容積の法則がみられる。細胞の形は球状から柱状まで種々である。この多様性は，となり合う細胞どうしの機械的な圧力や表面張力のような要素によるが，植物の水液の通路にあたる維管束が柱状であり，収縮する動物の筋肉細胞が紡錘形であるなど，形状と働きとの間には密接な関係がある。

〈原形質〉細胞の中身をつくっている生きた物質を一般に原形質といい，核も細胞質も本質的には原形質からなる。原形質は主としてタンパク質から構成され，その性質はコロイド*溶液に似ている。原形質のコロイドのタイプは半凝固型であるが，人工的に試験管内で示されるようなコロイド複合体(たとえばコアセルベートという親水性コロイド)よりさらに複雑なものと考えられる。

〔細胞の化学〕細胞を構成する化学物質のおもなものは，タンパク質・核酸・脂質・糖質(炭水化物)などの有機物質と多くの無機物質である。

〈タンパク質〉原形質の主成分であり，アルブミン・グロブリン・プロラミン・グルテリン・ヒストン・プロタミンなどのように単独で存在するもののほか，核酸と結合した核タンパク質，脂質と結合したリポタンパク質，糖質と結合した糖タンパク質のように他の物質と結合して複合タンパク質として存在する場合が多い。また，細胞内の働きを触媒する多くの酵素*がある。タンパク質は炭素・水素・酸素・窒素・イオウなどからなり，分子量は10^3～10^6までの高分子である。タンパク質を加水分解すると多くのアミノ酸*に解離し，20数種のアミノ酸が一定の数と順序によって配列して，生物種および組織種の特異性を示しているといえる。ブタのインシュリン*のアミノ酸組成は51個からなり，その結合順序も明らかにされている。

〈核酸〉五炭糖(リボース)と窒素を含む塩基とリン酸からなるヌクレオチドという単

位が反復・結合した高分子で，デオキシリボースを含むデオキシリボ核酸（DNA）とリボースを含むリボ核酸（RNA）の２種類がある。窒素塩基には，単環のチミン（T）・シトシン（C）・ウラシル（U）と双環のアデニン（A）・グアニン（G）の２型がある。チミンはDNAのみの成分，ウラシルはRNAのみの成分であり，他は共通である。DNAはおもに染色体に存在し，遺伝情報をになう物質である。RNAは仁・染色体・細胞質に広くみられる。RNAはタンパク合成に関与する。遺伝情報がDNAのどこに潜んでいるかについては，図-3に示されるように２本のらせんの糸（糖—リン酸—糖—リン酸）の糖についている塩基の違い，すなわちA・T・G・Cの配列順序によるものと考えられている。DNAの複製は図-4のように二重らせんがほどけ，各らせん糸が鋳型になって，それに相補的ならせん糸が新しく形成され，２組みの二重らせんがつくられるものと考えられている。

〈脂質〉 細胞小器官の重要な成分であり，特に細胞膜・ミトコンドリア膜・小胞体膜・核膜などの膜は脂質とタンパク質が結合してつくられている。また，細胞呼吸におけるリン酸化反応にも重要な役割を果たしている。脂質の誘導体にはビタミンD・E・K，性ホルモンなどがある。また，植物性や動物性の脂肪・油・レシチン・コレステロールのような物質を含んでいる。

〈糖質〉 炭水化物ともいう。糖質は緑色植物において二酸化炭素と水とから光合成によってつくられ，それを動物が食料として利用する。糖質の細胞内における役目はエネルギー源である。また，高分子の形で細胞の構造要素（たとえば植物の細胞壁）になっている。

〈無機物質〉 細胞内には多くの種類の無機塩類が含まれている。これらは水溶液として，またはイオンの状態で存在し，一般的にいえば細胞内の浸透圧やイオン平衡を保つ役をしている。また，鉄は赤血球のヘモグロビン，マグネシウムは葉緑体のクロロフィル構造の中心になっている。

〔核の構造と機能〕 核は１細胞にふつう１個存在し，細胞全体の働きの中心をなすたいせつな要素である。もし細胞から核を抜き取れば，残りの細胞質だけではまもなく死んでしまう。分裂していない間期核は一般に球状であるが，不規則な形状のものもある。若い細胞の核は球形で中央にあるが，分化した細胞では偏在したり，形が不規則であったりする。間期核は細胞質に接して二重膜である核膜で包まれ，内部にはその細胞種に特定な数の染色体（細長く伸びているので染色糸ともいう），数個の仁，染色中心（みられないものもある），これらを埋めている核質が存在する。核膜は光学

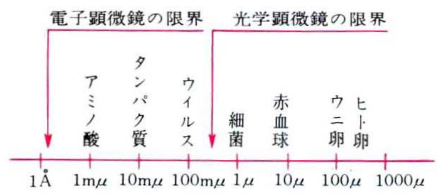
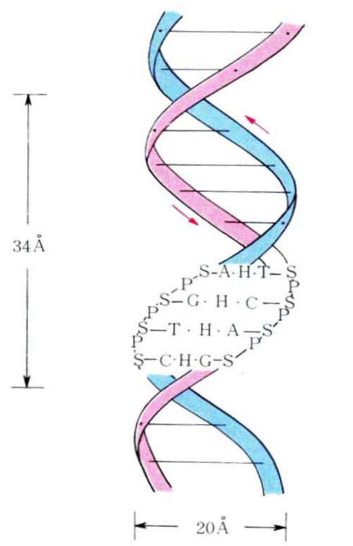


図-2　おもな細胞の直径とウイルス・タンパク質・アミノ酸分子の大きさの比較



S：デオキシリボース　P：リン酸　H：水素結合

図-3　ワトソンとクリックのDNA分子模型

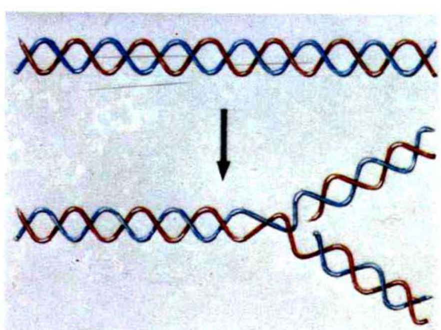


図-4　DNAの複製

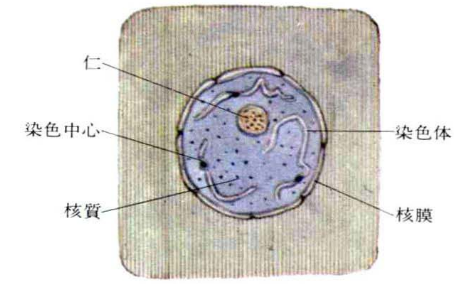


図-5　間期核の構造

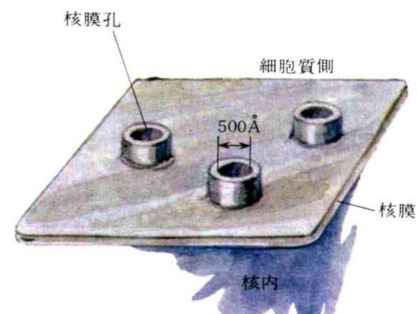


図-6　核膜の一部の立体模型図

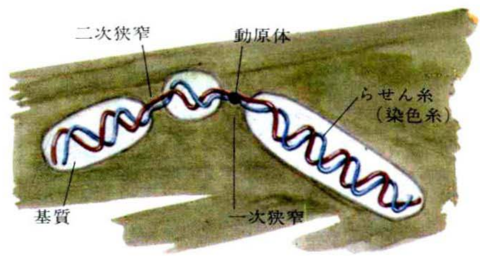


図-7　体細胞中期染色体の模型図

顕微鏡下では一重膜にみえるが，電子顕微鏡でみると二重膜からなる。その厚さは約300Å（オングストローム）で，ところどころに細胞質との交流通路にあたる直径500Åほどの核膜孔があり，図-6のように細胞質側にわずか突き出る管状物がある。核膜孔の数は一定していないが，核の活性が高いほどその数は多いとされている。神経細胞の核膜の場合は10,000個の孔があると推定される。ショ糖やポリペプチドのような低分子物質は核膜孔を容易に通過しうるが，卵白や血清アルブミンのような高分子物質は通過できない。核膜は，細胞質と違った核の内部環境をつくるものと考えられる。

〈染色体〉 間期核の染色体は細長く伸び，顕微鏡的には２本の繊維からなるが，少なくともその一部は核膜に接している。分裂にはいるにつれて染色体は短縮肥大し，中期・後期の染色体は最も短縮して観察するにつごうがよい。固定染色した染色体は円柱状で，一つ以上の狭窄（きょうさく）がある。染色体糸（牽引糸（けんいんし））がつく動原体のあるくびれを一次狭窄，そのほかにくびれがあれば二次狭窄といい，ソラマメなどではこの部分で仁が形成される（図-７）。染色体は２本のらせん糸からなり，推測ではあるが，それらはさらに段階的に細い糸条から組み立てられていると考えられる（図-８）。最終的にはDNAの二重鎖になるものとされる。これらの繊維状物は染色されやすいので，染色糸あるいは染色質といわれる。そのほか染色体にはこれらの糸を埋める基質がある。なお染色体の境界膜の有無については両説がある。

染色体は化学的にみれば主としてDNA

とヒストン*からなり，わずかのRNA・酸性タンパク質を含む。DNAは遺伝情報をになう重要な構成成分で，いわゆるDNAの二重鎖が幾重にも折りたたまれて染色体に収められており，言い替えれば染色体をつくっていることになる。ヒトの染色体数は2n=46であり，そのうち最も長い染色体は10μで，その中に収められたDNA糸は7.3cmにも及び，ヒトの全染色体のDNA糸を直線に引き伸ばせば174cmにもなる計算である。

染色体をつくる染色質は，染色性の差異から真正染色質と異質染色質に区別される。間期核の染色体は一般に淡く染まるが，中に濃く染まる部分があり，これを異常凝縮また異質染色質という。しかし，分裂中の中期・後期の染色体では，その差別が必ずしも明瞭(めいりょう)でない。また，オオバナノエンレイソウでは低温処理によって染色体に分染を生じ，よく染まらない部分がみられ(退色反応)，負の異常凝縮である。

〈核型〉 染色体は生物種によって一定の数・形・大きさを示す。これは遺伝学・分類系統学に役だつ特徴である。染色体はその大きさによってL(長)・M(中)・S(短)で表わしたり，またA・B・Cで示したりする。たとえば，ソラマメの染色体は$2n=12=2M+8S_1+2S_2$である(図-9)。

〈仁(核小体)〉 間期核には一つ以上の仁が含まれ，その数は生物種によって一定であり，ヒトの体細胞核には4個がある。仁は分裂にはいるとしだいに解体するが，分裂の終期に再び核内に現われる。ソラマメではM染色体の二次狭窄に接して新しく仁が形成され，この部分を仁形成部という。しかし，このような二次狭窄のない染色体をもつ生物種では，特定の染色体に形成される。

仁の電子顕微鏡的構造は，中央に80Åの太さのリボタンパク質からなるフィブリルのかたまりと，それを取り巻く多くの150～200Åのリボゾーム様粒子からなるとされる。仁はRNA・タンパク質・脂質を含み，その働きは細胞のRNA合成の動的な場である。腫瘍(しゅよう)，生長する卵母細胞，植物分裂組織の細胞，タンパク質分泌細胞，初期の赤芽細胞など，急速に生長する組織細胞の仁は一般に大きく，タンパク質合成が低下すると仁は小さくなる。このようなことからも，仁はタンパク質合成に重要な意味をもつことがうなずかれる。さて，細胞質ではリボゾーム粒子が多数存在し，ここでタンパク質合成が行なわれるのであるが，このリボゾームのRNAは仁に由来する。仁が間期核にはっきり存在し，分裂中にみえなくなることから，分裂になんらかの働きももっていることが考えられるが，これについてはまだ確実なことがらはわかっていない。

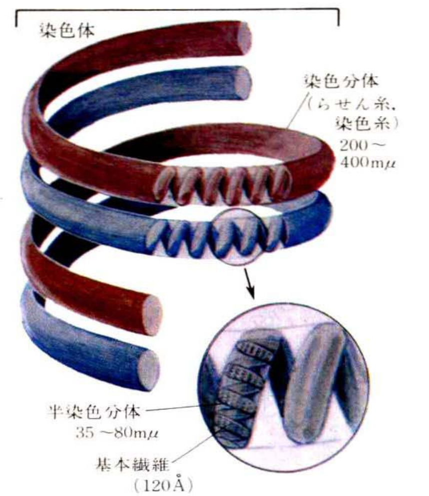


図-8　染色体の立体的微細構造を示す模型図

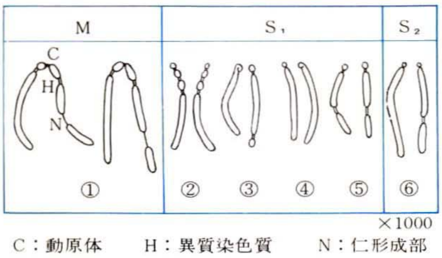


図-9　ソラマメの体細胞染色体　相同染色体は6組み

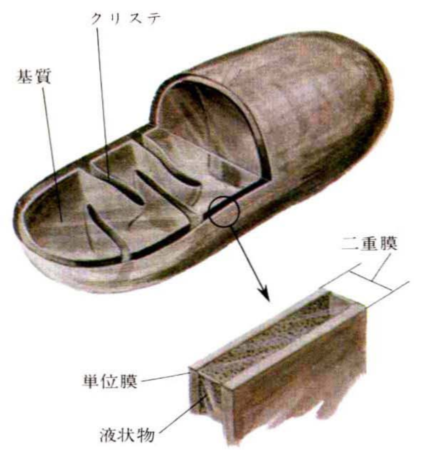


図-10　ミトコンドリアの一部を切断して内部構造を示した模型図

〔細胞質小器官〕 細胞質を光学顕微鏡でみると，植物細胞では特徴的な色素体，大きな液胞，ミトコンドリア，多くの顆粒(かりゅう)などがある。一方，動物細胞では中心体・ミトコンドリア・ゴルジ体，各種の粒子などが観察できる。しかし，特別な固定・包埋・超薄切片法によってつくられた組織標本を電子顕微鏡でみると，ミクロンやオングストロームのレベルで種々の小器官の微細構造を知ることができる。前にしるした小器官の微細構造はもちろんのこと，小胞体・リゾゾーム・ミクロボディー・リボゾーム，植物細胞のゴルジ体などの新しい小器官が最近に発見されている。

〈ミトコンドリア〉 大きさ0.5×2μの棒状・糸状あるいは粒状の小器官で，ヤヌスグリーンで生体染色して顕微鏡下にみることができ，細胞の種類にもよるが1細胞あたり平均1,000ほどが存在する。ミトコンドリアは細菌細胞以外のすべての細胞にみられ，チトクロームなどの呼吸酵素を含み，細胞呼吸に重要な役目をもっている。電子顕微鏡的な微細構造は，図-10に示したように全体が二重膜で包まれており，内部にくしの歯のようにクリステといわれる膜状物が突出していて，そのほかは基質である。クリステの厚さは200Aで，この膜にチトクロームなど電子伝達系・酸化的リン酸化酵素が並んでいると考えられている。このような膜はいずれも二重膜構造で，それぞれを単位膜といい，タンパク質と脂質からなる。ミトコンドリアの基質は無構造の部分に電子密度の高い250Åの顆粒が散在し，ここではクエン酸回路*の反応が行なわれるとされている。また，ミトコンドリア独自のDNAも含まれ，増殖と関係があると思われる。

ミトコンドリアの働きは外部から取り込まれた糖質を分解してエネルギーを得ることであり，正確にはピルビン酸からクエン酸回路を経てフラビン酵素・チトクローム系を通ってATP*が産生され，二酸化炭素と水に分解することである(図-11)。

$$C_6H_{12}O_6+6O_2+6H_2O \longrightarrow 6CO_2+12H_2O+686\,kcal$$

〈色素体〉 緑色植物にのみ存在する小器官で，その色調から白色または無色のものを白色体，緑色のものを葉緑体，その他の有色のものを有色体に分けている。最も普通のものは葉緑体である。

高等植物の生長した葉緑体はレンズ形で，厚さ1μ，直径4μである。二重膜で囲まれ，内部は無構造の基質(ストロマ)で満たされ，その中に0.3～0.5μの大きさのグラナが多数存在する。このグラナにクロロフィルやカロチノイドが含まれる。電子顕微鏡でみるとグラナは層板(ラメラ)のふくろの積み重ねからなり，各膜の厚さは30Åである(図-12)。グラナラメラはタンパク質と脂質からなり，クロロフィルのほかカロチノイドを含んでいる。ストロマは比較的無構造質であるが，顆粒やリボゾーム，光合成の産生物であるデンプン粒がみられる。また葉緑体独自のDNAも含まれるが，これは増殖の情報をになっているのかもしれない。

クロロフィルはa，b，cなどに区別されるが，いずれもマグネシウムを中心にして

四つのピロール環からなり，一部の側鎖に違いがある。

葉緑体の働きは，二酸化炭素と水を原料として，日光のエネルギーを利用して糖質をつくることにある。これを光合成という。

$$6CO_2+12H_2O+686kcal \longrightarrow C_6H_{12}O_6+6O_2+6H_2O$$

この反応はきわめて複雑である。まず水分子は光分解されて(H)と(OH)を生じ，(H)はCO_2を糖に還元し，(OH)はO_2とH_2Oになる。この際，光のエネルギーはクロロフィルbやカロチノイドに吸収され，それは次いでクロロフィルaに渡され，生じたNADPH*とATPが二酸化炭素を還元するカルビン回路*において糖の産生に利用される。

葉緑体は光合成によってデンプンをつくるが，その貯蔵は白色体で行なわれ，この白色体を特にアミロプラストという。白色体は光のもとでもラメラが発達していない色素体である。有色体は，一般に葉緑体のラメラ構造の解体，クロロフィルの分解によって生ずるが，ニンジンの根の場合は白色体から由来する。葉緑体の退色は花弁の発達や果実の成熟によって普通に起こる。有色体が植物の老化現象によって生ずるものであるかどうかは簡単に断定することはできないが，それに含まれるカロチノイドは葉緑体に含まれる活性のあるカロチノイドと違って不活性化している。

〈小胞体〉 超薄切片試料の電子顕微鏡による観察で発見された最も典型的な小器官で，細胞質内に広がる網目構造という意味で，ポーターらによってエンドプラスミック-レティキュラムといわれた(1947)。厚さ40〜50mμの平たいふくろのつながりからなるが，ふくろをつくる二重膜(小胞膜)には外面に150Åの大きさの粒子(リボゾーム)を伴うものと，そうでないものとがある(図-13)。前者を粗面小胞体，後者を滑面小胞体という。小胞膜で包まれた腔所(こうしょ)は小胞腔といい，一種の液状物で満たされている。リボゾームは小胞膜に付着するだけでなく，細胞質全体に分散し，その働きは核のDNAのもつ情報に基づいて特定のタンパク質を合成することである。小胞腔は産生された物質の集蓄と通路にあたるものと推定される。

リボゾームにおけるタンパク質合成のしくみは次のとおりである。染色体の遺伝子

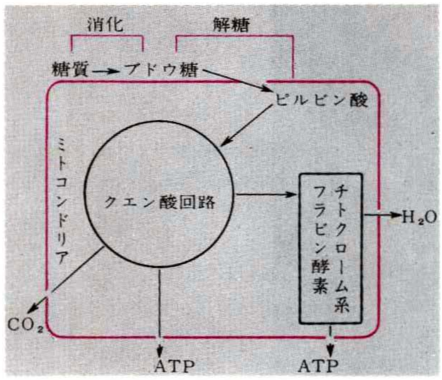


図-11　ミトコンドリアの呼吸経路

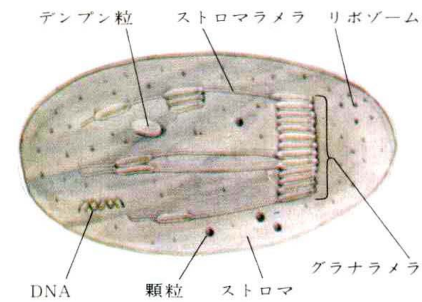


図-12　葉緑体の断面の微細構造

DNAの情報を写しとった伝令RNAは核から細胞質におもむき，リボゾームの表面に付着する。その情報に従って細胞質内にある自由なアミノ酸を転移RNAが運搬し，これをくり返してしだいにタンパク質が合成されるのである。伝令RNAがDNAよりコピーした情報は，究極にはDNAの塩基配列の転写である。それが特定アミノ酸を選択・指定するしくみは，伝令RNAのもつ三塩基の組み合わせの暗号表(➔核酸)による。たとえば，U(ウラシル)・U・Uの三塩基でフェニルアラニンが決定される。

〈ゴルジ体〉 多様な形態を示す小器官で，ゴルジ装置・ゴルジ複合体などともよばれる。その典型的な微細構造は，やや平行に並んだ数層のゴルジ層板(1個の厚さは約200Å)と，それの末端近くに散在する500mμの大きさのゴルジ小胞，また1μ以内の大きさのゴルジ嚢(のう)から組み立てられる(図-14)。その所在は，動物細胞のみならず植物細胞にも広く行き渡っている。ゴルジ体

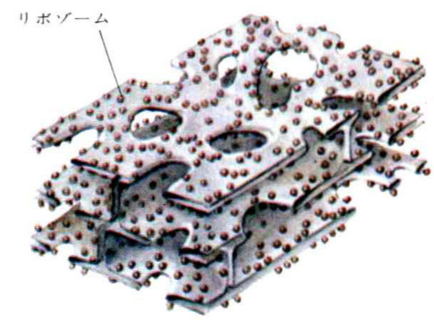


図-13　粗面小胞体の立体模型図

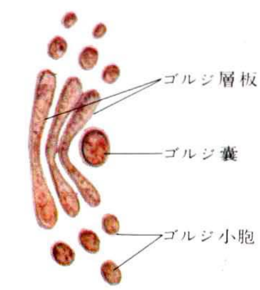


図-14　ゴルジ体の断面を示す模型図

の働きは分泌物の合成に関与し，特に動物では膵臓(すいぞう)のチモーゲン顆粒，哺乳類の腺細胞(せんさいぼう)の乳タンパク質，メラニン顆粒などの産生に関与する。

〈リゾゾーム〉 動植物細胞にみられる小器官である。リポタンパク質の一重膜で囲まれた約0.4μの大きさで，内部には酵素に富んだ電子密度の高い粒子からなる基質を含んでいる。十分に発達したものでは内に大きな中央液胞がみられる。リゾゾームが含む酵素には35種の加水分解酵素が分析されている。リゾゾームの働きは，細胞内に取り入れられた物質を消化することにあるとされている。その経路は，被消化物質がゴルジ小胞と合体してリゾゾームとなり，その内部で多くの酵素の働きによりしだいに消化が進み，ついに酵素活性を失ったリゾゾームの形で細胞外に放出される。

以上いくつかのおもな細胞質小器官をあげたが，それらは単独で働くのではなく，核の遺伝情報を中心として各小器官の連係のもとに働くものであり，細胞全体として，また細胞間・組織中，さらには生物体内全体の調節のもとに働いている。〔佐藤正一〕

ちらかの構造に属している。〔加藤敏郎〕

さいみょうじ　【最明寺】 ⇨明月院

さいみょうじ　【西明寺】 滋賀県犬上郡甲良(こうら)町にある天台宗の寺。龍王山(りゅうおうざん)と号し，池寺本坊の別称がある。開創は平安時代，三修上人(しょうにん)によると伝えられ，湖東三山の一つである。本堂(国宝)は鎌倉初期の建築で，内部は天台宗仏堂の典型的形式をもち，内陣須弥壇(しゅみだん)には秘仏の本尊薬師如来立像を中央に，藤原末から鎌倉時代にかけての作の多くの木彫仏が安置されている。また，三重塔(国宝)は鎌倉時代の建築で，内部壁面には法華経(ほけきょう)を主題にした絵画，四天柱には金剛界曼荼羅図(まんだらず)が描かれている。なお，庭園は江戸初期の作で，近江(おうみ)名園の一。

➔次ページ(写真)　〔永井信一〕

さいみん　【催眠】 被暗示性の異常にたかまった状態で，一見眠りに似ているが，それとははっきり区別される。この状態では意識の範囲は極度にせばまり，狭い通路を通して催眠を誘導した人物(催眠術者)の指示や意図はほとんど自動的に被催眠術者に受け入れられるようになる。この状態はト



西明寺
鎌倉時代に成った入母屋造りの本堂

ランスとよばれ，ヒステリーの朦朧(もうろう)状態や宗教的な恍惚(こうこつ)状態などの場合と同質であるが，術者と被術者との間の密接な人間関係(ラポール)をもとに，一定の操作によって人工的にもたらされるのが特徴である。その際，自分以外の他人が術者であるのが普通で，これは他者催眠とよばれるが，そのほか自分で自分自身に催眠をかける自己催眠，集団が催眠の対象となる集団催眠などがある。

〔催眠法〕被術者を一定の操作によって催眠状態に導き入れる技法は古くは催眠術とよばれたが，このことばには非科学的な響きがあるとの理由で，近ごろでは催眠法という用語が一般に使われる。この場合，ことばによる暗示(言語暗示)の効果が最大限に利用される。まず術者は被術者との会話を通して親密なふんい気をつくったのち，たとえば全身の緊張をゆるめさせたり，深呼吸をさせたり，光る小さな物体を見つめさせたりして，暗示にかかりやすい状態に誘導する。術者の言語暗示は低い声で単調にくり返されるが，場合によっては被術者の肩や手などからだの一部に触れることもある。そのあと術者は催眠のための特定の暗示(催眠暗示)をくり返し与える。たとえば，手がひざにくっついて離れない，腕がだんだん上にあがっていく，まぶたがだんだん下がって閉じてしまう，などという暗示で，被術者がこれに反応するようになればトランスにはいったことになる。この状態では，被術者の目は閉じ，顔はゆるみ，呼吸は深くおそいが，指示されたままの姿勢をいつまでも続けるカタレプシー*という特有な現象もみられる。そのほか，実際には存在しないものがみえたり聞こえたり(催眠性幻覚)，自分の名まえや年を忘れたり(催眠性健忘)，夢がみえたり，35歳の人が6歳の子どもにもどってそのようにふるまったり(催眠性退行)する。

催眠からさめると，被術者は催眠中のことを忘れているのが普通である(後催眠性健忘)が，催眠中にある指示を与えておくと，催眠からさめたあとで，指示どおりの行動をするが，本人は指示されてやったという意識をもたない(後催眠暗示)。

催眠現象はさまざまに応用される。催眠という心理的過程に伴う生理学的・生化学的変化を調べることによって，心身の相関を解明するという研究的な面は別として，臨床方面に限るだけでも，各種の心身異常を示す人たちの面接(催眠面接)・診断(催眠診断)・症状の分析(催眠分析)などに用いられる。しかし最も重要なのは治療として利用される場合で，これは催眠療法とよばれ，精神療法の一種として定着している。

〔催眠療法〕オーストリアの医師F. A. メスマーが18世紀末に催眠を医学的治療に使ったのが最初で，彼はその効果を動物磁気が被術者の体内を流動するためと考えたが，この説(メスメリズム)はむろん今日では信じられていない。現在，催眠療法としてさまざまの種類がある。たとえば，あなたの症状はもうなくなったという暗示を与えて症状を消失させる直接暗示の方法，暗示をくり返して性格をなおしていく方法，いろいろな困難や不安を解いて患者を元気づけてやる支持的方法，抑圧されている心の中のしこりを催眠下で発散させる方法(カタルシス*)などで，神経症*・心身症*をはじめとして不安・苦痛・劣等感や夜尿などの習癖がそのおもな対象となる。そのほか，抜歯などの歯科的処置や分娩(ぶんべん)の際の痛みを和らげたり，競技者などのいわゆる〈あがり〉を除いたり，肢体(したい)不自由者のリハビリテーション*などにも利用され，その応用範囲は広い。特別なものとして，ドイツのJ. H. シュルツのはじめた自律訓練法がある。これは，自己催眠を通して自分の心身の調整を図る方法である。〔宮本忠雄〕

さいみんやく【催眠薬】睡眠障害を除去する薬。睡眠薬ともいう。寝つきの悪さを除去する入眠薬と，眠りの短さを除去する熟眠薬とがあり，入眠薬はブロムワレリル尿素・ブロムジエチルアセチル尿素・抱水クロラールなどで吸収・排泄(はいせつ)が早く，熟眠薬はアモバルビタール・シクロバルビタールなどで，吸収・排泄は比較的おそい。いずれも興奮をおさえて，二次的に自然の眠りを招くものであり，精神安定薬もこの目的に使用しうる。自然睡眠は大脳と中枢とが交替で休息をくり返す経過をとるが，中枢に目ざめた状態に似た相が出るときを逆説睡眠といい，これが十分にあると寝足りた感じを生じる。最近，逆説睡眠の増加薬も現われだした。〔伊藤隆太〕

ざいむかいけい【財務会計】株主を含む投資家・債権者や国または地方自治体など，企業外部の利害関係者に経営の内容を伝達するための会計。企業会計は，それがになう機能または目的に基づいて，財務会計と管理会計*に分かれる。管理会計が企業内部の経営管理のための会計であるのに対して，財務会計は企業外部の利害関係者に対する会計責任を遂行するための会計であるところにその特質が存する。そのため，管理会計が内部報告会計といわれるのに対して，財務会計は外部報告会計ともいわれる。経営内容の伝達は，具体的には財務諸表*によって行なわれる。経営に直接関与しない各種の利害関係者は，この財務諸表を通してはじめて経営の状況を察知し，それに基づいて今後どのような行動をとるべきかを的確に決定することが可能となる。このような外部報告のにない手としての財務諸表を作成することこそ財務会計の中心的な任務である。財務会計はこのような任務をもつところから，一般に認められた会計原則や会計諸法規などの社会的なルールによって拘束されることになる。この点が管理会計との一つの大きな相違である。経済の発展に伴い，企業規模が拡大し，その社会的性格が増大するにつれて，財務会計はその重要性を高めている。〔森川八洲男〕

ざいむかんり【財務管理】企業における財務活動，つまり企業資本の調達と運用に関する管理をいう。企業の経営活動は，これを資本の面からみると，資本の調達と運用の過程としてとらえられるが，これが合理的かつ効率的に行なわれるための管理が財務管理で，これには，①資本の調達と運用に関する計画の設定(財務計画の設定)，②実施結果の統制(財務統制)の二つの手続きが含まれる。これらをより効果的に実施するために，管理会計*の手法，ことに予算統制*と経営分析*が利用される。前者は特に財務計画の設定に関して用いられ，後者は財務活動の実施結果を統制し，批判するために利用される。この両者が有機的に結びついてはじめて財務管理の合理的かつ効率的な遂行が期待されることになる。財務活動は，購買・製造・販売などの経営活動の遂行と密接に結びついている。その意味では，財務管理は単に財務活動の管理にとどまらず，広く経営全般にわたる総合的管理の一形態とみられる。〔森川八洲男〕

さいむしゃ【債務者】⇨債権者

ざいむしょひょう【財務諸表】企業が利害関係者に対して自己の経営成績および財政状態を報告するために定期的に作成す

る報告書。通常決算の際に日常の会計記録を基礎にして作成されるところから，会計報告書または決算報告書ともよばれる。企業を取り巻く各種の利害関係者，すなわち現在および将来の投資家・債権者・従業員，さらには税務当局などは，それぞれの立場からこれを分析して経営内容の良否を検討し，その結果に基づいて今後とるべき行動を決定する。そのような意味で，財務諸表は企業と社会を結ぶかけ橋である。企業会計原則に定められている財務諸表は，損益計算書・利益剰余金計算書・剰余金処分計算書・貸借対照表および財務諸表付属明細表などである。また商法では，株式会社が作成すべき計算書類つまり財務諸表として財産目録・貸借対照表・損益計算書・準備金および利益または利息の配当に関する議案などをあげている（商法281条）。
〔森川八洲男〕

さいむのひきうけ　【債務の引き受け】 債務（→債権）の同一性をそこなわずに，従来の債務者から新債務者（引受人）へ債務を移転することを目的としてなされる契約。債権が人的要素と強く結合しており，第三者への譲渡性が認められなかったローマ法のもとでは，債務の引き受けもまた認められていなかった。しかし，債権から人的要素が取り除かれ，財産権としての価値が重視せられるようになった近代法のもとでは，債権譲渡および債務の引き受けは原則として認められている。わが国の民法では債権譲渡と異なり，債務の引き受けについては明文の規定はないが，学説・判例は認めている。債務の引き受けの要件としては，債務が移転性のあるものに限られること，債権者・債務者・引受人の3当事者による協議を行ない，債権者の意思を無視して行なうことはできないことなどである。債務の引き受けにより，債務はそのまま引受人に移転して旧債務者は債務を免れることになるが，保証債務や第三者の提供した物上担保のみは，その保証人または物上保証人の同意なくしては移転しないと解されている。新債務者の資力いかんが保証人や物上保証人に直接的に重大な影響を及ぼすからである。なお，債務の引き受けに類似した制度として〈重畳的債務の引き受け〉といわれるものがあるが，これは従来の債務者が依然として債務を負い，引受人も同時に同一内容の債務を負うものであって，真の債務の引き受けではない。〔黒木三郎〕

さいむふりこう　【債務不履行】 債務者（→債権）が債務の本旨に従った履行をしないこと（民法415条）。本旨に従った履行であるか否かは契約内容・一般取引慣行・信義誠実の原則などからみて判断されるが，次の三つの態様がある。①履行遅滞：履行期において履行が可能であるにもかかわらず，履行期を徒過してしまう場合，②履行不能：債権の成立後，債務者の故意または過失によって履行することが不能となってしまった場合，③不完全履行：いちおう履行はなしたものの，その履行が完全でない場合，などである。債務不履行が生ずればその効果として強制履行を裁判所に請求できる（民法414条）ほか，損害賠償の請求（民法415条），また一定の要件のもとに契約の解除（民法541条・542条）をなすことが債権者に認められている。なお，債務不履行の問題が生ずるには，それが債務者の責に帰すべき事由に基づくことを要し，債務者の責によらない場合は債務不履行の問題は生じない。ただし，その挙証責任は債務者にあるとするのが学説・判例の立場である。
〔黒木三郎〕

ざいむぶんせき　【財務分析】 簿記手続きを通じて，企業の経営活動を総括する財務諸表に含まれる数値を定期的に分析して，経営活動の良否を判断すること。財務諸表分析ともいう。原価分析とともに経営分析の内容を構成する。この分析をより効果的にするために，特に同一企業について異なる期間との比較（期間比較），および同一期間について異なる企業との比較（相互比較）が行なわれる。これを特に財務比較といい，財務分析から区別することもあるが，これはむしろ財務分析の中に含められるべきものである。財務分析は，特に分析の対象となる資料の点から，貸借対照表分析と損益計算書分析とに分けられる。貸借対照表分析は，その名のとおり財政状態を示す貸借対照表に含まれる数値についての分析であり，これには資産構成分析・資本構成分析・資産資本対比分析，さらに資本回転分析などが含まれる。これに対して，損益計算書分析は経営成績を示す損益計算書に含まれる資料についての分析であり，費用収益対比分析や利益率分析がその主要なものである。さらに，財務分析は，その目的の点から収益性分析・生産性分析および流動性分析に分けられる。〔森川八洲男〕

さいむめいぎ　【債務名義】 私法上，一定の給付義務の存在を公証した文書。強制執行によってその内容を実現できる執行力を与えたものである。強制執行を迅速ならしめるためには，執行機関がいちいち権利の有無などを調べていてはできないが，債務名義があれば執行機関は盲目的にでも執行できる。債務名義には確定した給付判決，仮執行宣言つき給付判決，支払い命令・調停証書・和解証書・執行証書（公証人が作成した公正証書）などがある。→執行文
〔内田剛弘〕

ざいむよさん　【財務予算】 予算統制のために用いられる基本的な予算の一つで，特に資本の調達および運用に関する財務活動の基準として編成される予算をいう。その意味では，販売予算・製造予算と並ぶ部門予算の一種であるが，特に販売予算や製造予算などの部門予算の実施のために必要な資金の収支に関する財務活動を統制するところから，資金予算ともよばれる。財務予算は，特に予算期間の長短から，長期財務予算と短期財務予算とに分けられる。前者は1年以上のもので，設備予算や投資予算などの長期資本支出予算と，長期資本調達予算から構成される。これに対して，後者は1年未満のもので，現金収支予算および信用予算を含む。短期財務予算を単に財務予算とよぶこともある。〔森川八洲男〕

さいめいてんのう　【斉明天皇】 ⇨皇極天皇

さいめんのぶし　【西面武士】 後鳥羽（ごとば）上皇のときに始まる院司の一。院の御所の西のおもてに伺候したことから〈西のおもて〉ともいう。北面武士と同様，警衛や盗賊逮捕などを任務としたが，上皇の討幕計画の準備とみることもできる。畿内（きない）近国の武士が多い。承久（じょうきゅう）の乱以後廃止された。

さいもん　【祭文】 斎文とも書き，死者を弔うために読む弔辞。中世以降，中国の古い風習が禅宗の行事に組み込まれてから広く諸宗に採用された。江戸時代にはいって庶民信仰が盛んになると，山伏の徒が神仏の霊験・縁起や死者を祭る意味を文につづり，錫杖（しゃくじょう）・法螺貝（ほらがい）を用いて歌うようになった。のちに祭文読み・祭文師などとよばれる職業人が三味線（しゃみせん）を用いるようになってからは，その内容は野卑な歌祭文と変わった。

サイモンいいんかい　【サイモン委員会】 1927年，インドの将来を決めるため，その実情調査を目的としてイギリス議会が設けた委員会。自由党議員サイモンを長としたのでこの名がついた。委員会にはインド人がひとりも加えられなかったため，国民会議派はこれをボイコットして反イギリス運動を強め，さらにイギリス商品のボイコット運動にまで進み，ストライキも頻発（ひんぱつ）した。1929年の委員会報告書は効果的なものではなく，政府はやむなくイギリス－インド円卓会議に統治法の改正をゆだねた。
〔松下京子〕

さいもんどき　【彩文土器】 ⇨彩陶

さいもんのじ　【柴門の辞】 芭蕉（ばしょう）の俳文。別名《許六離別の詞（ことば）》。1693年（元禄6）5月，江戸勤番（きんばん）を終えて帰国する彦根（ひこね）藩士許六に贈った文。許六の画俳一致をたたえ，自分の風雅を〈夏炉冬扇〉と謙退しつつ，反面で藤原俊成・西行以来の〈細き一筋〉に立脚し，〈古人の跡を求めず，古人の求めたる所を求めよ〉と教えたもので，芭蕉の芸術観をよく示している。

さいゆ　【採油】 油層から石油やガスを採収すること。油層中では上部からガス・石油・水の順に流体が分布することが多く，油層開発の初期ではガスの膨張力や下部からの水の押す力などで油層内部の圧力が高く，石油は地表に噴出する（自噴採油）。油

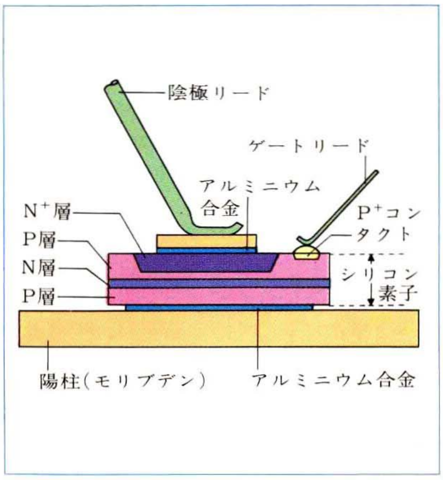
層内部の圧力が低下し，地表まで上がらなくなると，地表から高圧ガスを送り込んでくみ上げるガスリフト採油，先にポンプをつけた細い鉄棒（ロッド）をおろし，ロッドを上下に動かしてくみ上げるポンピング採油などが行なわれる。なお，産油量の増加や採収率（累計生産量の原始的埋蔵量に対する比率）をよくするため，油層にガスや水を圧入したり，熱を加えたりすることも行なわれる。〔田中彰一〕

さいゆうき【西遊記】 中国，明(みん)代の長編小説。作者は呉承恩*。20巻，100回。唐の太宗*の代，仏教経典を求めてインドに旅した玄奘*(げんじょう)の事績は唐末すでに伝説化し，宋(そう)代には講釈師の話本《大唐三蔵取経詩話》にも取り上げられた。金・元のころには脚色され，元末には続み物として《西遊記平話》（逸文のみ現存）が出た。その間，伝説は変容を続け，中でも孫悟空*の占める役割が増加してきたことが注目される。呉承恩はそれら変遷のあとを受け継いで集大成したといってよい。《西遊記》はその内容から，①孫悟空が天上界を騒がした話，②玄奘（三蔵法師）のおいたちと唐の太宗の冥土(めいど)旅行のこと，③三蔵法師が孫悟空（孫行者）・猪八戒(ちょはっかい)（猪悟能）・沙悟浄(しゃごじょう)（沙和尚(しゃおしょう)）という，いずれも妖怪(ようかい)から仏法に帰依した3人の弟子(でし)と龍(りゅう)の化身である白馬1頭とを連れて，妖怪変化(へんげ)を退治しながら続ける取経の旅，以上の3部に分けられる。わけても孫悟空の活躍ぶりはめざましく，あまりあてにならぬ猪八戒の所作もまたおかしく，こっけいみと童話的要素もあって，中国ばかりでなく日本でも江戸時代から愛読された。〔今村与志雄〕

サイラス-マーナー G.エリオット*の中編小説（1861）。いなか町の織工サイラスは無実の盗みの汚名を受けて婚約者に去られ，農村に移って15年，極端に節約して金をためたが盗まれてしまう。孤児を拾って養女にし，生活を共にするうちにがんこな心もなごむ。やがて養女は富裕な実父を退けてサイラスに孝養を尽くす。ユーモアに満ちた人物描写と緊密な構成をもつ寓話(ぐうわ)的な田園小説。

サイラトロン［thyratron］ 熱陰極を有する3極管に，適当な圧力で放電に必要な気体を封入した熱陰極格子(こうし)制御放電管。3極管に，アルゴン・キセノン・水銀蒸気あるいは水素などを封入すると，真空管における空間電荷制限作用が中和され，管内電圧降下がきわめて小さくなる。しかも，わずかな格子入力によって，放電開始を制御することができる。応答速度が速く，動作が確実であるため，継電器回路，電動機の速度制御，溶接器の制御，整流器の出力制御などに広く用いられる。〔伊藤糾次〕

サイリスター［thyristor］ PNPN接合構造（→ダイオード）を有する一種のシリコン整流器（→整流器）。シリコン制御整流器（SCR）とも，固体サイラトロンともいう。サイラトロンと同じ作用をする整流素子。整流器としての主電極のほかに，スイッチング用のゲート電極を備えていて，整流電流の導通角（交流の半サイクルを角度で表わしたもの）を制御することができるが，一度導通状態にはいると，主電極間に加わる電圧が0にならないかぎりこの状態が回復しない。〔伊藤糾次〕



サイリスター　構造

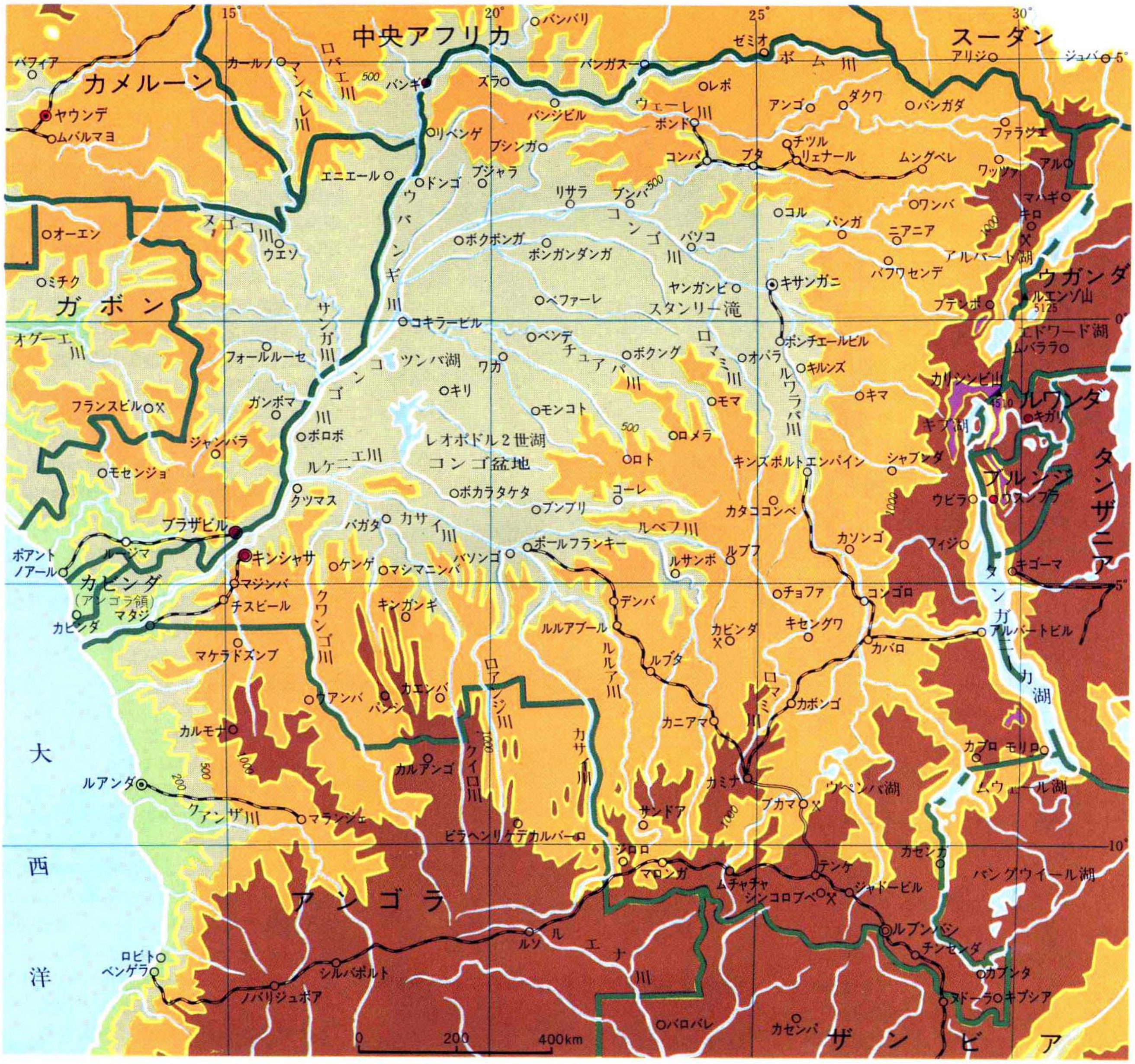
ざいりょうしけん【材料試験】 工業に用いられる各種の材料の性質を調べることをいうが，一般には機械的性質を調べる場合が多い。静的強さ試験として引っ張り試験・圧縮試験・曲げ試験・ねじり試験などがあり，動的強さ試験としてかたさ試験・衝撃試験・疲れ試験・クリープ試験・摩耗試験などがある。

①引っ張り試験：機械的性質を求めるのに最も一般的な，かつ重要な試験法。これによって求めた引っ張り強さを機械や構造物を設計する際の基準資料とすることが多い。材料に徐々に引っ張り荷重を加えたときの荷重と変形の関係から降伏点*・引っ張り強さ・伸び・絞り・弾性係数*・破壊エネルギーなどを求める。②圧縮試験：円柱状の試験片に軸方向に圧縮荷重を加え，材料の圧縮に対する強さを調べる。③曲げ試験：細長い試験片を両端に近いところでささえ，支点間の中央に長さに直角方向の荷重を加えて変形や曲げに対する強さを調べる。なお，曲げ試験として材料の加工性を調べるためのものがある。これは試験片を規定の半径をもつ型に沿って規定の角度だけ曲げ，湾曲部の外側に生じた亀裂(きれつ)の有無によって合否を判定する。④ねじり試験：試験片にねじりモーメント*を加えて，ねじれ角とねじりモーメントの関係を調べ，材料のねじりに対する強さを判定する。なお，以上の試験を一つの機械で行なえる試験機を万能試験機という。⑤かたさ試験：材料に鋼やダイヤモンドの圧子を押しつけ，それによって生じたくぼみの大きさから材料のかたさを求めるもの。一定の高さから小さいハンマーを材料の上に落下させ，そのはね返る高さによってかたさを求めるもの，材料の表面をとがったダイヤモンドの先でひっかいて傷をつけ，その幅によってかたさを求めるものなどがある（→硬度計）。⑥衝撃試験：材料の衝撃に対する抵抗力すなわち粘り強さやもろさを判定するための試験。衝撃試験機のハンマーで試験片に打撃を与え，その切断に要したエネルギーを計算し，それを試験片の断面積で割った値を衝撃値とし，これによって衝撃に対する抵抗力を判定する。⑦疲れ試験：ふつう1回加えただけでは破壊しないような力をくり返して加え，破壊したときのくり返し回数をはかる。力の加え方には引っ張り・圧縮・曲げ・ねじりなどいろいろある。なお，試験片にいくらくり返し加えても破壊の起こらない応力*の最大値を疲れ限度という。⑧クリープ試験：一定荷重を加えた状態で試験片に起こるひずみの変化の状況，すなわち単位時間におけるひずみの変化の割合や強さを求める試験。⑨摩耗試験：材料の摩耗に対する抵抗力を判定する試験。すべり摩耗試験・ころがり摩耗試験・衝撃摩耗試験がある。〔森田　鈞〕

ざいりょうりきがく【材料力学】 工業材料における強さ・弾性*・塑性*などの機械的諸性質を調べ，研究する学問。機械や構造物に外力が加わった場合，各部材にどのような作用を及ぼし，いかなる応力やひずみを生じるかを，理論および実験の両面から研究し，それらを総合して機械や構造物の設計を最も合理的かつ経済的にしようとするもので，基礎工学の重要な一分野をなす。

さいりん【蔡倫】（？～121） 中国，後漢中期の宦官*(かんがん)。諸学に通じ，精巧な器物をつくって後世の範となった。樹皮・麻布・ぼろぎれ・魚網などを材料として紙をつくり，105年，和帝に献じた。世人はこれを〈蔡侯紙(さいこうし)〉と名づけ，従来の木簡が重すぎ，絹布は高価にすぎる欠点を解消したものとして珍重した。安帝即位ののち政変に関連して自殺。

ザイル［Seil］ 登山用の綱。主として岩壁や氷雪上で，スリップなどからもたらされる危険から登山者を守るために使用され，特殊な場合にはつりあげなどにも用いる。ザイル-パートナーは1本のザイルを腰または肩に巻いて結び合い（アンザイレン），ザイルの摩擦と緊張で安全を確保（ジッヘル）する。特に危険な場所では，付近の固定物によって自己の身体を確保（セルフ-ビレイ）してからパートナーの行動を開始させるのが普通である。ザイルにはマニラ麻製とナイロン・テトロンなどの合成繊維製があり，合繊製は古くから用いられている麻製よりも軽くて扱いやすいが，鋭い岩角などの摩擦に弱いといわれる。長さはふつう20m・30m・40mの3種があり，太さは麻製



ザイール共和国

で直径10～13mm，合繊製で9～10mmが一般的である。左よりと右よりがあり，最近は編んだものもある。➔岩登り〔大島幸夫〕

ザイール(共和国) [Republic of Zaire, République du Zaïre] アフリカ大陸中部コンゴ盆地*の大半を占める共和国。面積234万5,409km²，人口2,794万(1979年推)。首都キンシャサ(旧称レオポルドビル)。

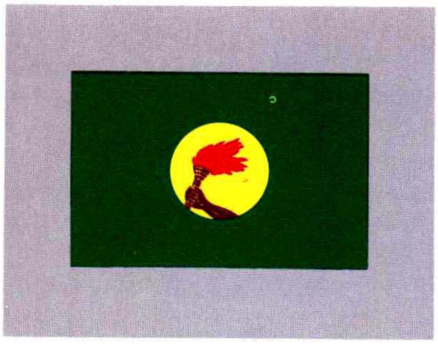
〔自然・住民〕国土の大部分がコンゴ川*流域にあたる。地形は南部から東部にかけて高度を増し，東北部のウガンダとの国境にそびえるルエンゾリ山(5,125m)は大陸第3の高山である。国土を赤道が横断し，気温は年じゅう高く，キサンガニの年平均気温は25.3℃である。降雨型は国土の北半と南半とでは異なり，北部は年じゅう雨が多く密林におおわれている。南部にはサバナが広がり，10～4月の雨季と，それ以外の月の乾季とに分かれる。住民はコンゴニグロとよばれる黒人が主で，バンツー語系の言語を話す。北部の一部にスーダンニグロが，東部には小人族のピグミーが住み，狩猟・採集の生活を主とし，補助的に農耕を営んでいる。


ザイル　岩壁や氷壁の登降には不可欠であり，特に危険なところでは互いにザイルで結び合い，ひとりが確保して安全を期する

〔産業・経済〕コンゴ川が航行に適せず，この地方に風土病の多いことなどから，20世紀にはいってからも開発はほとんど進まず，わずかに野生ゴム・やし油の採集をみるにすぎなかったが，第1次世界大戦後ベルギー政府の奨励などで，陸稲やワタの栽培が普及してきた。またヨーロッパ人によるコーヒーやカカオのプランテーション*が開かれた。鉱山資源の開発は早くからイギリス・ベルギーなどの外国資本により，南部のカタンガ地区を中心に行なわれた。世

界一の品質をもつといわれる銅鉱をはじめ，ダイヤモンド・コバルト・マンガン・タングステン・銀・金などのほか，世界総生産額の60％を占めるといわれるウラニウム鉱がある。このため，この地区の住民は国内他地域の住民よりも生活程度が高く，部族間の対立の一原因となっている。そのうえこれらの鉱物資源の開発に投資しているヨーロッパ・アメリカ先進工業国が，それぞれ現地部族と結合して相互の利害上の対立を生じていることも，いっそう複雑な事情をつくりだす結果になっている。カタンガ地区の鉱物資源の搬出は，鉄道によってアンゴラのベンゲラ港とモザンビクのベイラ港に送られている。

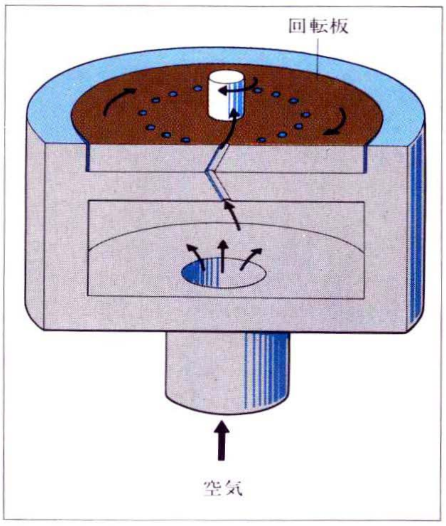
〔歴史・政治〕 ヨーロッパ諸国の中でもベルギーは早くからこの地域に関心をもち，コンゴ国際協会をつくって調査を進め，1908年にはここを植民地とした。第2次世界大戦後アフリカの独立運動の高まりに際し，1960年のブリュッセル会議で独立協定が結ばれ，同年6月独立を宣言した。しかし，周辺の植民地が10年近い準備期間をもったのち独立したのに対し，急速な独立であったため，国内各部族間の対立が激化した。特に経済的に恵まれたカタンガ地区は単独独立を希望したため内乱状態となり，1960年7月には国連軍の出動をみるに至った。初代首相には民族運動の指導者で統一コンゴの主唱者であったルムンバが就任したが，1961年2月暗殺された。1965年11月には無血クーデターによりモブツ将軍の軍事政権が樹立した。〔小栗　宏〕



ザイール共和国の国旗　1971年10月27日，国名をザイールに変更した時点で国旗も国歌も一新。国家と民族の統合を意味する黄色の円に，たくましい腕が革命の松明(たいまつ)をかざしている。

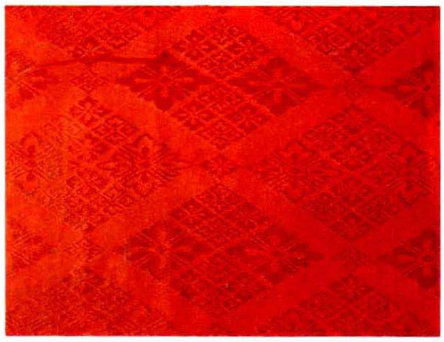
サイレージ　［silage］　エンシレージ・埋蔵飼料・埋草ともいう。多汁質(たじゅうしつ)の青刈り飼料を保存するために，一定の容器に密に詰め，一定期間放置して乳酸発酵をさせ，有害な腐敗発酵を防いで貯蔵したもの。これによって，冬の間にも夏と同じように，生草飼料を家畜に給与できる。材料としては，青刈りトウモロコシが最適であるが，いもづる・レンゲ・青刈り麦類・イネ科牧草類・マメ科牧草・青刈りダイズ・青刈りヒマワリなどが用いられる。容器をサイロという。サイロはふつう直径1.1～4.4m，高さは直径の2～3倍の円柱状のコンクリートまたはれんが造りである。地上に建造したものを地上式サイロ，地下に建造したものを地下式サイロという。ほかに，素掘り角形のトレンチサイロがあり，素掘りの内壁をビニルでおおった簡単なものや，コンクリートで側壁をつくったものなどがある。〔勝木辰男〕

サイレン　⇨セイレン



サイレン　サイレンの構造

サイレン　［siren］　等間隔に，同心円状に小穴をあけた2枚の円板に空気を送り，一方を回転させ，気流を継続させることによって大きな音を出す音響装置。各円板の穴が一致したときにのみ空気が流れ，小穴の数と回転数をかけた振動数の音が出る。円板の回転は電動機によるか，または空気流を利用したりする。フランスの物理学者カニャール-ド-ラトゥールが発明(1819)。もと音の振動数測定に用いられたが，現在では時報や信号に用いる。〔池谷和夫〕



幸　菱　女房装束綾織単(部分)紅地幸菱文　19世紀　東京国立博物館蔵

サイロキシン　⇨チロキシン

さいわいぎ　【幸木】　正月の飾り木。万(よろず)掛け・懸の魚(かけのお)ともよばれる。現在も四国や九州に多くみられる。1.5mほどのスギ丸太の棒を横にして，平年は12本，閏年(うるうどし)は13本の新わらでつくったつり手をつけ，ダイコン・ニンジン・芋などの野菜，ブリ・イワシ・タイの干物，スルメ・コンブなどの海産物をかけ連ねる。これらの品を，正月20日ごろまでかかって，少しずつ取りはずして食べる。この幸木は正月の歳神への供物という意味をもつものであるが，食物の豊富さによって幸福を感ずるという日本人の即物的な幸福観が，よく示されている。〔直江広治〕

さいわいびし　【幸菱】　〈こうびし〉ともいう。有職文*(ゆうそくもん)の中でも特異な様式を備えた花菱文。一つの花菱文を大・小の花菱を集めて構成し，この一単位の花菱をさらに小さな花菱文で四方に連接した複雑なもので，装束*の文様以外には見られない。花菱文以外の要素が一つも加えられていないこと，それにもかかわらずかたさが認められないことがこの文様の特色である。

サイン　⇨三角関数

サインペン　［signpen］　筆記用具の一種。1962年(昭和37)に日本で考案・開発され，1964年から国外でもその特性が認められ，年とともに輸出が増大している。フェルトペンとともにマーキングペンという公式名称に含まれ，サインペンは水溶性インキ，フェルトペンは油溶性インキを用いる。サインペンは軸の先端にナイロン・テトロン・アクリルの繊維を接着剤で固めた径2mmほどの細い円柱(長さ約3cm)のペン先(チップ)を差し込み，ナイロン・テトロンの繊維でつくられたインキ保持体(中綿)に適量の水溶性インキを含ませて軸内に装塡(そうてん)してある中しんに密着させ，毛管現象によってインキがチップに流れるしくみである。

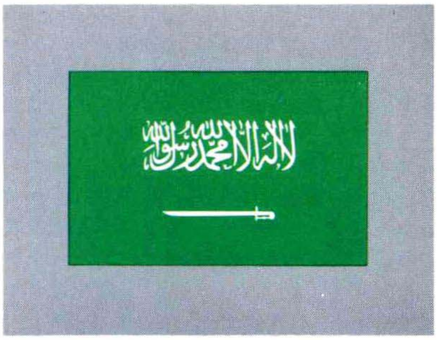
フェルトペンはフェルトマーカー・油溶性マーキングペンなどともよばれ，アメリカで第2次世界大戦中に考案され，日本では1951年ごろ，マジックインキという名称で発売された。ガラス・アルミニウム・プラスチック類の容器の中に，速乾性の油溶性インキを浸したフェルトを入れ，フェルトなどでつくられたペン先を取り付け，インキがフェルトを伝わって書けるフェルト式と，生のインキをそのまま容器に入れ，ペン先フェルトを押すと弁が開いてインキがペン先ににじみ出る液体式とがある。

〔三菱鉛筆(株)〕

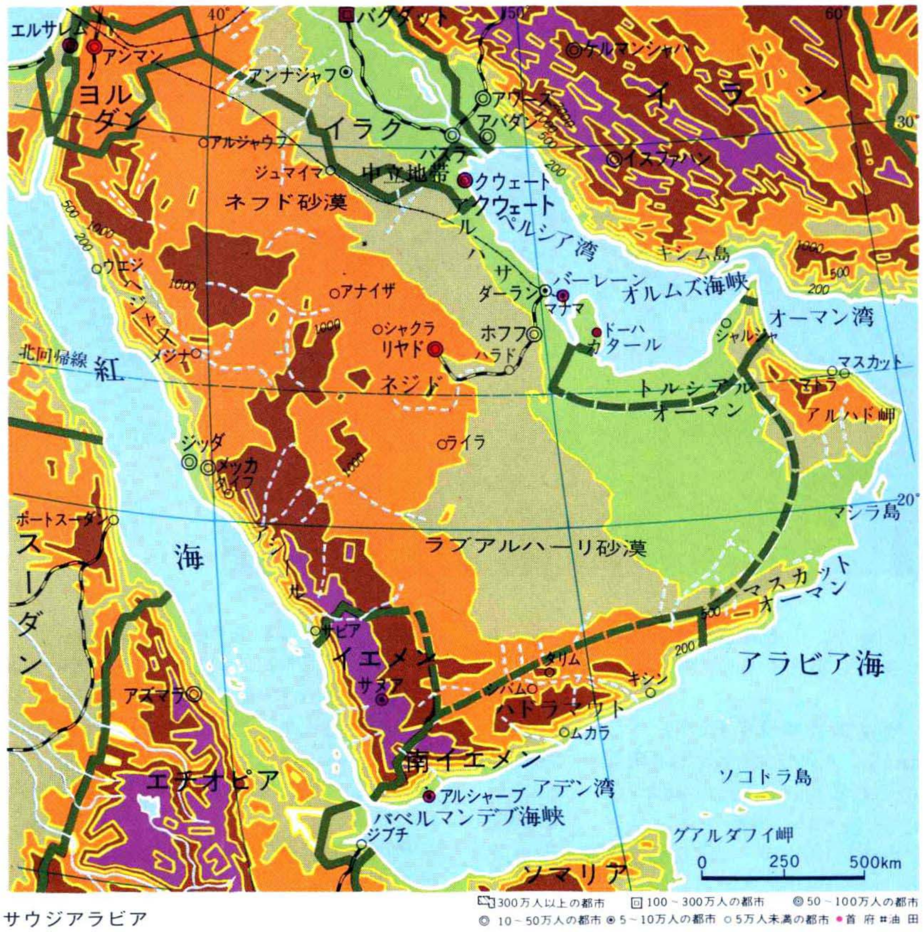
サウザンプトン　⇨サザンプトン

サウジアラビア(王国)　［Kingdom of Saudi Arabia］　アラビア半島の約80％を占める王国。東はペルシア湾，西は紅海に面し，北はイラク・ヨルダンなどと境している。半島の東南にはオーマン，南にはイエメン-アラブ・イエメンなどがある。面積214万9,690km²。人口811万(1979年推)。首都リヤド。

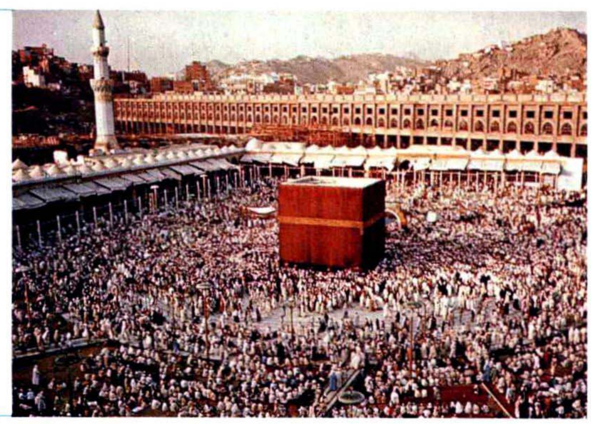
〔自然・住民〕 国土は広大であるが，大部分は砂漠(さばく)の高原である。紅海沿岸は山



サウジアラビアの国旗〈アッラーのほかに神はなし。マホメットはアッラーの預言者なり〉というコーランの冒頭のことばをアラビア語で書いてある。剣はイスラム教のために命をささげる決意と国家の統一を表わしている。なお，この旗は表裏どちら側でも字が正しく読めるように２枚の布を縫製することになっている



サウジアラビア



サウジアラビア
聖地メッカの町の中央大神殿に安置されるカーバ。広場はイスラム世界から集まった巡礼者によって埋めつくされている

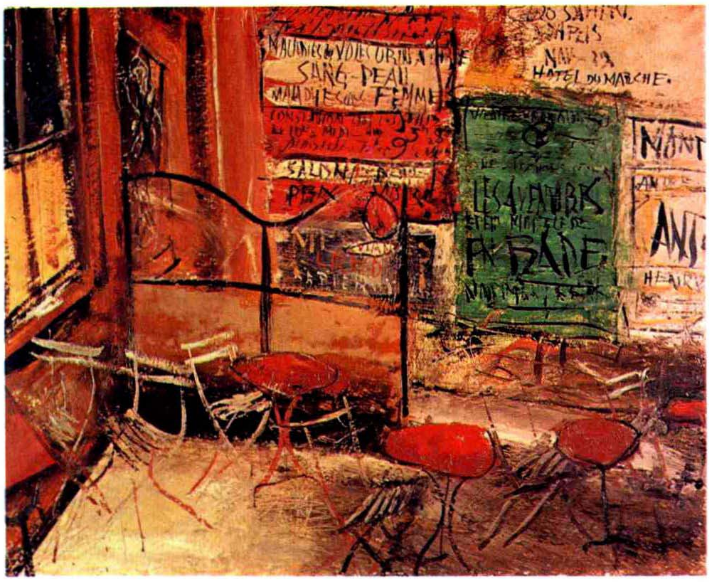
地が続き，中央部の砂漠を経てゆるやかに傾斜する。ペルシア湾沿岸は平原になっている。気候は亜熱帯気候下の乾燥気候で，わずかに紅海沿岸南部のアシール地方で多雨に恵まれるだけで，全般に年降雨量は100㎜に満たない。いちじに降る雨のため各地にワジ*が存在する。気温の年較差は大きく，夏季は日陰でも45℃にもなるが，冬は10℃ぐらいに下がる。住民はアラブ人，国語はアラビア語で，宗教はイスラム教だが，特に復古的厳格主義のワッハーブ派が支配的である。通貨はリアル（59円）。

〔産業・経済〕山地の谷間やオアシス，都市の周辺ではナツメヤシ・キビ・小麦・大麦などをつくり，中央の砂漠ではベドウィンが放牧生活をしている。1932年に発見された石油はこの国の経済の主柱であり，アメリカの四大石油会社共同出資のアラビア-アメリカ石油会社（アラムコ）が独占して経営している。採掘はおもにペルシア湾岸で行なわれており，およそ1,700kmのパイプラインがこの国の北部を横切り，レバノンのサイダ港まで敷かれている。純益の50％がアラムコから政府に支払われており，この石油関係収入は政府歳入の80％を占める重要な財源になっている。1966年の収入予算50億2,500万リアルのうち石油の実施料収入は39億8,700万リアルに達している。石油に伴って建設・セメントなどの工業も生まれている。鉄道はペルシア湾岸のダーランからリヤドまで通じ，自動車道路はかなり発達している。国有のサウジアラビア航空がある。紅海沿岸のジッダとイスラム教の聖地メッカには，毎年多くの巡礼者が訪れる。

〔歴史・政治〕16世紀以来オスマン-トルコ帝国に支配されていたが，イスラムの宗教改革とされるワッハーブ運動が18世紀半ばに起こって民族運動が高まった。1924年ヘジャズのハシム王家のフセインがカリフ即位を宣言したため，隣国のネジド王アブドル-アジズが1925年にヘジャスに攻め入り，みずからヘジャズ王位を兼ねた。1927年イギリスとの協定で独立を承認され，1932年これを合わせてサウジアラビア王国となった。憲法はなく，国王みずから政府の首班となり，各省の長官を兼ねることもできる。法律はすべてイスラム宗教法（シャーリア）により，コーランおよび教祖マホメットの言行録を法源としている。〔今井留吉〕

サウスオークニー（諸島）［South Orkney］南極大陸のパーマー半島の北東方にある不毛の群島。面積1,032km²。フォークランド諸島の一部として統治され，現在イギリス領。アンデス山系の火山列島で，短い夏以外は氷におおわれ，ウミツバメ・ペンギン・アザラシの繁殖地。1821年イギリス人G.パウエルが発見し，1903～1904年にスコットランド探検隊が遠征してからサイニー島に気象観測所が置かれている。

サウスオーストラリア（州）［South Australia］オーストラリア連邦の一州。オーストラリア大陸の中南部にあり，グレートオーストラリア湾に臨む。面積98万4,382km²，人口119万7,000（1973）。州都アデレード。西部はグレートビクトリア砂漠（さばく），北東部はエーア湖をはじめ多数の塩湖がある半乾燥の大鑽井（さんせい）盆地である。南東部は地中海性気候で，マーレー川下流域の沃野（よくや）が展開し，ブドウ・オレンジ・リンゴ・野菜などがつくられる。サウスオーストラリア山地は準平原面をもつ地塁状



佐伯祐三
《テラスの広告》
1927
ブリヂストン美術館蔵

の山地で，果樹園，乳牛の放牧地，ユーカリをはじめとする有用材の森林が多い。〔小栗　宏〕

サウスカロライナ(州)［South Carolina］アメリカ合衆国東南部の大西洋岸に面する州。面積78,400km^2，人口278万4,000(1974)。州都コロンビア。合衆国独立当時の13州の一。北西部のブルーリッジ山地はマツの森林におおわれ，東部の平野ではタバコとワタが栽培される。サバナ川の河口付近は低湿で海岸では砂丘が発達している。タバコの生産は合衆国第3位で，ほかに第2位のモモ・ラッカセイがある。三大綿業州の一つで，綿花工業は全米第1位。繊維工業は全工業生産額の45%を占める。南北戦争はこの州にあったサムター要塞(ようさい)の襲撃で始まり，1860年12月20日連邦政府から脱退したが，1868年再び加盟した。主要都市，コロンビア・チャールストン。〔相村大彬〕

サウスサンドイッチ(諸島)［South Sandwich］南大西洋の南緯57°，西経27°付近にちらばる火山群島。1775年7月30日にJ.クックが発見。現在イギリス領。

サウスシェトランド(諸島)［South Shetland］南極大陸のパーマー半島北端にある氷におおわれた火山群島で，イギリス人W.スミスが1819年に発見した。現在イギリス領。デセンプション島には天然の良港があり，かつて捕鯨船の基地であったが，現在は利用されていない。ほかの九つの島とともにどの島もほとんど植物を欠くが，ペンギン・ウミツバメが多く生息し，自然科学者の興味をひいている。

サウスジョージア(島)［South Georgia］南大西洋，フォークランド諸島の東方にあり，アンデス山系に属する火山島で，岩がちのため不毛。フォークランド諸島の一部として統治され，イギリス領。面積3,741km^2。一年の大半は雪におおわれ，主産業は捕鯨で鯨油を産する。住民は300人ぐらいだが，捕鯨の季節には出かせぎを加えて700人以上に増加する。1775年にJ.クックが発見した。なお，南極大陸の横断を世界で最初に試みたイギリスの探検家E.シャックルトン(1874～1922)はこの島に葬られている。〔大崎　晃〕

サウスダコタ(州)［South Dakota］アメリカ合衆国中北部にある州。面積19万9,000km^2，人口68万2,000(1974)。州都ピア。ダコタ地方は1861年に準州となったが，1889年に南北の2州に分かれ，ノースダコタとともに合衆国の39番め・40番めの州になった。ダコタはスー族のことばで〈友人〉の意。州の領域は長方形で北西から南東にミズーリ川が貫流し，東部ではライ麦・オート麦が栽培され，西部では春に小麦が栽培され，また広大な草原でウシ・ヒツジが飼育される。農地は全州面積の93%にも達し，全農業収入の80%が畜産による。金の生産額は合衆国第1位。ミズーリ川開発計画によってオアヒ・ビッグベンド・フォートランダルのダムが建設され，人造湖が多い。南西部ブラックヒルズ山地にウィンドケーブ国立公園があり，ラシュモア山の岩壁にはワシントン・ジェファーソン・リンカーン・T.ルーズベルトの4大統領の頭部大浮彫がある。主要都市，スーフォールズ・ラピッドシチー。〔相村大彬〕

サウル［Saul］紀元前11世紀末のイスラエル初代の王。《旧約聖書 サムエル記第1》で語られる。民に要求されて預言者サムエルはサウルを王に選ぶ。王は軍事面で活躍するが，やがて職分を逸脱してサムエルに見放され，部下ダビデ*の台頭に悩みつつ，ペリシテ人との戦いで果てた。過渡期の王の行動は宗教に干渉され，悲劇に終わった。

サウンド-オブ-ミュージック［The Sound of Music］ミュージカルの作品。リチャード-ロジャース作曲，オスカー-ハマースタイン2世作詞。1959年メリー-マーチン主演でブロードウェーで初演され，大ヒットした。1965年ジュリー-アンドリュース主演で映画化された。実在するトラップ-ファミリー-シンガーズをモデルにしたもので，暖かい人間愛と祖国愛などがオーストリア-アルプスを背景にうたわれている。《ド-レ-ミの歌》をはじめ，ヒットナンバーが多い。〔鈴木道子〕

サウンド-トラック［sound track］トーキー*のフィルムの片側にある録音帯。一般に行なわれている光学録音では，音を電気に，さらに光の強弱に変えてフィルムに記録，その逆の過程を経て音が再生される。ほかに磁気録音の方法もある。

さえきゆうぞう【佐伯祐三】(1898～1928) 洋画家。大阪の生まれ。1923年(大正12)東京美術学校を卒業して渡仏し，ブラマンク*・ユトリロ*の感化を受けた。1925年にはサロン-ドートンヌに《靴屋(くつや)》が入選，翌年に帰国して二科展に滞欧作を発表，二科賞を受賞した。かたわら〈1930年協会〉の結成にも参加している。のち再渡仏して1928年にパリに客死。鋭く神経質なフォーブ的作風で，パリの裏町風景に詩情みなぎる秀作を残した。〔匠　秀夫〕

サエタ［saeta］スペインのアンダルシア地方で歌われる宗教的な無伴奏の民謡。サエタは〈矢〉を意味し，聴衆の胸を矢のように鋭敏に刺す悲しい歌であることが直接的に表現されている。復活祭や聖体節に際しての路上行列などで歌われる。歌詞は4行詩で，イエス-キリストの受難が題材として扱われる。

さえのかみ【塞神】⇨道祖神

ざおう【蔵王(町)】宮城県刈田(かった)郡に属し，蔵王山*の南東斜面を占め，1955年(昭和30)に宮村と丹田村とが合併して誕生した。人口14,000。蔵王山登山口の一つの遠刈田(とおがった)口にあたり，遠刈田温泉・青根温泉・峩々(がが)温泉があり，登山客・スキー客が多い。

ざおうおんせん【蔵王温泉】山形市大字蔵王にある温泉。泉温41～55℃，泉質は硫化水素強酸性ミョウバン・リョクバン泉で，皮膚病・切り傷にきくといわれ，イオウ分が強いのでせっけんが使えない。蔵王山*西側中腹斜面の標高900mに位置し，冬は樹氷の美しさで知られる蔵王スキー場，夏は地蔵岳登山の根拠地となる。奥羽本線蔵王駅・山形駅からバスの便がある。

ざおうこくていこうえん【蔵王国定公園】山形県と宮城県にまたがり，蔵王山*を中心とする面積400km^2の地域で，1963年(昭和38)に指定された。蔵王・青根・遠刈田(とおがった)など温泉が多く，冬はスキー客でにぎわい，樹氷の美しさは有名である。蔵王エコーライン(有料自動車道)が通じ，蔵王温泉から地蔵岳の頂上にはケーブルカーの

便がある。

ざおうごんげん　【蔵王権現】　座王権現とも書き，金剛蔵王・蔵王菩薩(ぼさつ)ともよばれる。修験道*(しゅげんどう)の祖とされる役小角*(えんのおづぬ)が吉野(よしの)の金峰山(きんぷせん)で感得した神と伝えられ，修験者の尊崇の対象とされる。その像の由来は不明であるが，大智(だいち)を示す火炎を背に，衆生救済の大慈大悲を示す忿怒(ふんぬ)の形相をしており，右足を高く上げ左足を踏んで立っている。剣印を結んだ左手を腰にあて，三鈷(さんこ)を握った右手を頭上高く掲げるのは，地魔を押えて大地を鎮護し，天魔を破って正法を守ることを示す。また三つまたの宝冠は役小角の祈誓にあって，いずれもあきたらずと退けられた釈迦如来(しゃかにょらい)・千手観音・弥勒菩薩(みろくぼさつ)の総合を意味する。すなわち火炎(太陽)を背に，天魔地魔を押え，過去仏(釈迦如来)・現在仏(千手観音)・未来仏(弥勒菩薩)を超越して森羅(しんら)万象の基となるこの神は，仏神習合・生命再生を象徴し，修験道の本体を現前するものとされる。金峰山寺*蔵王堂に3体の木彫像が安置されているほか，大峰行者によって広められ，その分布はほとんど全国に及んでいる。　〔佐野文哉〕

ざおうざん　【蔵王山】　樹氷とスキーで代表される東北地方の名山。宮城・山形県境にまたがる火山で，宮城県側の県境に広がる南蔵王の屏風岳(びょうぶだけ)(1,817m)，不忘山(1,705m)と，北蔵王の刈田岳(1,759m)・熊野岳(くまのだけ)(1,841m)・地蔵岳(1,760m)などからなる。北蔵王は新しい火山群で，1895年(明治28)にも爆発した。二重式火山で，東に開いた馬蹄(ばてい)形の火口があり，刈田岳・馬ノ背・熊野岳は外輪山の縁にあたる。中央火口丘は五色岳(1,674m)で，その西に火口湖御釜(おかま)がある。五色岳・御釜付近は硫気のため植物はなく，山体をいろどる岩石の原色とコバルト色の滞水とは壮絶な火山景観を呈する。1962年(昭和37)から，山形県側の上山(かみのやま)温泉から宮城県側の遠刈田(とおがった)温泉へ通ずる蔵王エコーライン(有料自動車道)が開かれ，バスで山頂まで訪れることができる。山麓(さんろく)周辺には温泉・スキー場が多く，山形市寄りの蔵王温泉*の背後は東北指折りのスキー場である。蔵王国定公園*の中心である。　〔高野　繁〕

さおがし　【棹菓子】　ようかん・錦玉(きんぎょく)・外郎(ういろう)など，長方形につくられる菓子の総称。京都伏見の駿河屋(するがや)が創作した練りようかんを，寛政年間(1789～1800)の初め江戸深川の船橋屋が取り入れて江戸の好みに合うよう改良した。これは縦1尺2寸(約36cm)，横6寸(約18cm)，高さ1寸の容器に流し固めた(これを1船とよぶ)もので，12本に切り分けた1本を1棹(さお)とよんだ。のちにこれがようかんの一般的な形となり，棹物とよばれるようになった。　〔塩川ふみ〕



蔵王山　南側の刈田岳から見た中央火口丘五色岳(右)と火口湖の御釜。左の高まりは最高点熊野岳へと続く



早乙女　広島県山県郡壬生の囃田の早乙女

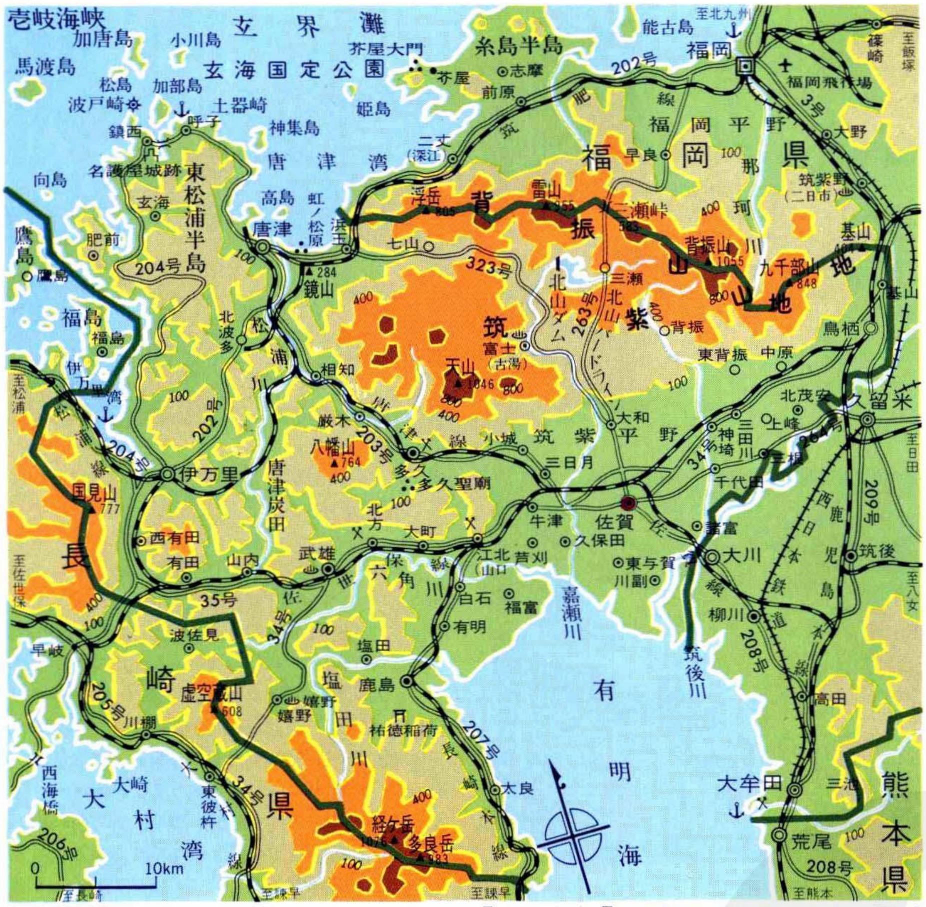
さおとめ　【早乙女】　田植えのとき，苗を本田に植えつける役目の女性。植女(うえめ)ともいう。元来は田植えの祭儀に重要な役割をもつ特定の者で，田主の家族の若い女性をさしたことばである。田の神を〈そうとく〉と称する地方があるが，それは田の神を祭った早男(さおとこ)の神態に由来した神名であり，〈さおとめ〉もそれに類する神役であった。それがのち，神役の意味がなくなり，田植えの主役としての女性の敬称となり，植女の意に転じたものと思われる。早乙女の装束は，紺の単衣(ひとえぎぬ)に赤い帯とたすき，白手ぬぐいに菅笠(すげがさ)をかぶる地方が多く，祭りに奉仕する晴れの装いの風をとどめている。　〔渡辺欣雄〕

さおとめばな　【早乙女花】　⇨ヘクソカズラ

サガ　［saga］　古代・中世の北欧散文文学の総称で，エッダ*やスカルド詩*などの詩文学に対して用いる。バイキング時代に，ノルウェーのハラル美髪王の王権拡大をきらってアイスランドに移住したノルウェーの豪族の間で栄えた。9～10世紀ごろから語り手が口承したが，12世紀の初め，アイスランドにラテン文字が導入されるとともにアール-フローデ(?～1148)がはじめて古代北欧語で筆録した。この書は《アイスランド人の書》とよばれ，1120年までのアイスランド史を抄述したものである。1220年以降1270年までがサガの短い黄金時代で，多くの傑作が生まれ，歴史的内容のものではスノッリ-スツットルソン*のノルウェー史《ヘイムスクリングラ》(別名《王たちのサガ》)，文化史的内容に富むものでは《エイイットルのサガ》が有名。ただし後者に扱われている事件は主として930～1030年の間のもので，筆録はその2世紀後であるから，神話・伝説的要素が多分に混入している。その他，氏族的内容のものには，《ニャルのサガ》《グレイティルのサガ》などがあり，また伝説的内容のものには，ドイツの《ニーベルンゲンの歌*》と対比される《ボルスンガ-サガ》，その続編とみられる《ラグナル-ロドブロクのサガ》《ノルナゲストのサガ》などがある。アイスランドでは他のヨーロッパ諸国と異なり，キリスト教がはいってきてからも異教神を中心とする神話・伝説がサガとして純粋な形で保存されてきたので，古代ゲルマン人の思想文化の研究に絶好の資料を提供しているばかりでなく，その高度の文化性から，今日も北欧浪漫主義の底流をなしている。　〔鈴木徹郎〕

さが　【嵯峨】　京都盆地の北西隅(ほくせいぐう)，保津川北岸の地域で，行政上は京都市右京区に属する。地名は平安初期に嵯峨天皇の離宮が置かれたことにちなむという。北東部は海抜90～100mの洪積(こうせき)台地，南西部は桂(かつら)川の氾濫原(はんらんげん)で，嵯峨野とよばれる。台地は平安期の歴代天皇の遊猟の地となり，平地は秦(はた)氏一族によって水田化されて，北部の広沢池(ひろさわのいけ)・大覚寺池の水が用水路によって灌漑(かんがい)に利用された。西部には，嵐山*(あらしやま)をはじめ大覚寺・清涼寺・天龍(てんりゅう)寺・落柿舎(らくししゃ)などの名勝史跡が多く，京都市の特別風致地区に指定されている。山陰本線の嵯峨駅周辺は保津川の溪口(けいこう)集落で，かつてはいかだ流しの木材を集散し，いまも製材工場が多い。保津川支流の清滝川の溪谷沿いには嵐山高雄パークウエー(有料道路)が通じ，北の高雄で国道162号線(周山街道)と連絡する。　〔浅井得一〕

さが　【佐賀(県)】　九州地方北西部の県。東は福岡県，西は長崎県に接し，北は玄界灘



佐 賀 県



佐賀市 市街南から佐賀城趾と市の中心部を望む。城の堀の内側は県庁・大学・図書館などの官公庁地区となっている

(げんかいなだ),南は有明海に面する。肥前の東半を占め,面積は2,432km² で九州地方最小,**人口87万1,000，人口密度は１km²あたり358**人。県木と県花はともにクス，県鳥はカチガラス。県庁のある佐賀以下７市と８郡36町６村に分かれる。

〔自然〕北部の背振山地と西部の丘陵地帯，南部の佐賀平野の３地区に大別される。背振山地は筑紫(つくし)山地の一部にあたり,大半がカコウ岩からなり，福岡県境をほぼ東西方向へ走り，有明海と玄界灘の分水界となっている。高さ1,000ｍ級の低い山地で，主峰の背振山(1,055ｍ)と天山(1,046ｍ)の間には多くの断層があり，高さ400～500ｍの地塁状の隆起準平原や小盆地が散在する。筑紫山地の西端は松浦川とその支流厳木(きゅうらぎ)川の断層によってくぎられ,西方には高さ200～300ｍの丘陵地帯が南北に連なる。中央部から西部にかけては壱岐(いき)海峡に面して東松浦半島が突き出し，海底まで延びる唐津(からつ)炭田を含む第三紀層が広く分布している。南の長崎県境には白山火山帯が重なって多良岳(たらだけ)(983ｍ)などの火山が噴出し,溶岩台地が広がり,その間に嬉野(うれしの)・武雄(たけお)などの温泉群がある。筑紫山地の南には筑紫平野の西半部にあたる佐賀平野*が広がる。佐賀平野は筑後(ちくご)川の本支流や，嘉瀬(かせ)川・六角川などの堆積(たいせき)作用と有明海の干拓によってできた平野で，縦横に走る水路網(クリーク)と多くの堤防が特色ある景観を呈する。平野北部は地下数メートルが砂礫(されき)層で，畑地が多く，南部は泥土(でいど)を主とする新しい沖積(ちゅうせき)層が発達し,水田地帯が開ける。海岸は，南北でまったくようすをことにし，北の玄界灘沿岸は湾入の多いリアス式海岸で，雄大な風光と豊富な史跡に恵まれ,唐津地区には特別名勝の〈虹(にじ)ノ松原〉もあって,玄海国定公園*に指定されている。これに対して南の有明海沿岸は河川の沖積作用と近世以来の干拓によってつくられた半ば人工的な海岸で，いまも海岸線はしだいに南へ前進している。

気候は一般に温暖で，かなりの雨量があり，クスノキ・アコウなど，南方系植物の自生北限となっている。県庁のある佐賀の年平均気温は15.6℃,年降水量は1,884㎜である。玄界灘沿岸は海洋性気候を示し，冬季も温暖であるが，有明海沿岸はやや内陸性気候を示し，山間部はかなり低温である。佐賀平野では夏季に豪雨による被害をしばしば受け，ときには干害を受けることがある。有明海は潮汐(ちょうせき)の干満が著しく，干拓地では台風期に高潮の危険にさらされることがある。

〔産業〕産業三大別人口比は**21：28：51**で農業を主産業とし，近代工業の発達は遅れ**ている。県民分配所得は１人あたり109万6,000円で,全国40位(1977)。〈農林水産業〉**農家数は75,000戸，兼業農家率は76.8%，肥沃(ひよく)な佐賀平野を中心に耕地面積は80,000ヘクタールで県域の約３分の１を占め，水田率は71.4%である(1968)。恵まれた自然条件，干拓による経営規模の拡大，進んだ機械化農業などによって，第２次世界大戦前までは米の反あたり収量は全国最高であったが，戦後，農業経営の細分化・多角化，地力の衰退などによってやや停滞した。しかし最近また復興して水稲10アールあたり498kg(1968)の収量は西日本では第１である。〈肥前米〉とよばれる良質の米を産し，平年収量は24万8,000ｔ(1970)で，阪神(はんしん)地方へ移出する。畑作は，麦類・サツマイモ・ジャガイモ・豆類などをおもにつくり，北部の唐津湾に臨む浜崎・玉島や南部の多良岳山麓(さんろく)ではミカンの栽培が盛んである。特産としては古い歴史をもつ嬉野町の茶があり，東松浦半島のニンニク・ユリ根は海外にも輸出される。平野部では最近乳牛・ブタ・ニワトリなどが飼育されているが，全国的には低位である。林野面積は約12万ヘクタールで，県域のほぼ半ばを占めるが，地形の関係で森林があまり発達せず，素材生産量は少ない。南部山地にはスギ・ヒノキなどの森林があって，製材・パルプ・坑木用木材などの生産

があり，人工造林の拡大，優良品種の普及を図る10か年林業振興計画が進められている。水産業は，玄界灘でイワシ・アジ・サバなどの漁獲があり，呼子・伊万里(いまり)などの漁港に水揚げされる。唐津湾・伊万里湾などの入り江では近年真珠の養殖が盛んである。有明海の広い干潟(ひがた)ではノリ・アサリの養殖が盛んで，ムツゴロウ・ウミタケなどの珍しい魚貝類を漁獲する。

《鉱工業》地下資源は西部の第三紀層地帯に広く分布する石炭が主で，唐津線沿線の唐津炭田，佐世保線沿線の杵島(きしま)炭田を中心としていたが，石炭産業の不振に伴い1972年限りですべての炭鉱が閉山し，約250年続いた佐賀県の石炭の歴史が終った。石炭を除いて，そのほかの地下資源らしいものとしては，わずかに有田焼の原料になる良質の陶土が有田付近にある程度である。工業製品の年間出荷額は4,108億円で，全国で第39位の低位にあり(1974)，食品工業が総出荷額の30%余を占め，機械金属工業などの近代工業はきわめて不振である。伝統をもつ有田の陶磁器工業は小規模な経営で行なわれ，出荷額も多くはない。佐賀市では食料品・電気機械・農機具・綿製品，佐賀平野一帯ではわら加工の板紙・テックス，唐津市付近では水産加工品・工作機械・木造船・セメントがわらなどの生産があり，唐津市と伊万里市には臨海工業地帯の造成が進んでいる。東部の鳥栖(とす)市では，自動車・自転車など，輸送に関係する工業が発展しており，東部内陸工業地帯の発展が期待される。

〔交通・都市〕陸上交通では，鹿児島本線の鳥栖駅で分岐して佐賀平野を貫通する長崎本線が主要幹線で，そのほか鹿児島本線支線の筑肥線や長崎本線支線の佐賀線・唐津線・佐世保線・松浦線などが県下を縦横に走っている。国道は鳥栖市と長崎市を結ぶ34号線，武雄市と佐世保市を結ぶ35号線が主要道路で，福岡市から唐津市・伊万里市経由で有田市へ至る202号線，唐津市から多久市を経由して佐賀市に至る203号線，伊万里市を経由して佐世保市に至る204号線，佐賀市から三瀬峠を越えて福岡市に至る263号線，久留米市に至る264号線などがある。バス・トラックの路線も発達して，伊万里市と福島(長崎県)を結ぶ福島橋や，東松浦半島北部の産業・観光開発を目的とした呼子～名護屋間の名護屋大橋(有料)も建設されている。海上交通では，玄界灘に面する唐津港・伊万里港以外にめぼしい港はない。おもな輸送貨物は砂・じゃりなどで，小形機帆船を中心とする短距離輸送が行なわれている。都市には，県庁のある佐賀市と，港湾・観光都市として活気のある唐津市，伊万里焼*の積み出し港ならびに水産加工都市の伊万里市，新興工業都市の鳥栖市，有明海沿岸の農漁業都市鹿島(かしま)市，温泉地として名高い武雄市，炭鉱都市の多久市と，それぞれ特色をもつ都市がある。佐賀・唐津以外の5市は，1953年(昭和28)の町村合併促進法施行後の新市である。



堺　市　堺泉北臨海工業地域の概観。海岸の埋め立て地には，鉄鋼・石油などの巨大企業が進出している。遠景は大和川を隔てて大阪地区に続く

〔歴史〕古くは肥後と合わせて火(肥)国(ひのくに)とよばれた。玄界灘の沿岸地域は古くから大陸と交流のあった先進地域の一つで，神功(じんぐう)皇后の三韓(さんかん)征討の基地とも伝えられる。大化改新の際に肥前となり，大宰府*(だざいふ)に近い佐賀平野は早くから開発されて，条里制が実施された。665年(天智4)，大宰府の守りとして県北東端の基山に築城された基肄城(きいのき)跡は特別史跡となっている。鎌倉時代以後，有明海では干拓が進み，文永・弘安の両役には戦場となった。南北朝時代以来，南朝方の勢力がかなり残存して，室町時代にかけて戦乱が絶えなかった。戦国時代には鎌倉初期以来の守護龍造寺(りゅうぞうじ)氏が一時支配したが，豊臣秀吉(とよとみひでよし)の九州統一後は鍋島(なべしま)氏がこれに代わり，朝鮮の役に際しては本営が東松浦半島の北端の名護屋に置かれ，その城跡は特別史跡に指定されている。江戸時代には，鍋島藩三十五万七千石が現在の県域の大半を領有し，小城(おぎ)・蓮池(はすいけ)・鹿島にその支藩があり，また唐津はたびたび領主が交替したが，幕末には小笠原(おがさわら)氏(六万石)がいた。また，鳥栖付近は対馬(つしま)の宗(そう)氏の所領であった。鍋島藩は《葉隠*》や，講談・演劇にしくまれた鍋島騒動で知られ，慶長年間(1596～1614)に朝鮮から伝えられた陶業は藩の保護政策のもとに有田を中心に行なわれ，酒井田柿右衛門*(かきえもん)らの名匠が出て，伊万里焼の名で全国に知られた。幕末の鍋島藩主鍋島閑叟*(かんそう)は長崎を通じて西洋文明を広く取り入れ，鉄の精練所の建設や種痘の採用などを積極的に推進して，時代の先覚者的役割を果たした。また勤皇の雄藩として王政復古に貢献し，薩摩(さつま)・長州・土佐の諸藩とともに〈薩長土肥〉と併称された。1871年(明治4)の廃藩置県に際して，伊万里県が設置され，1872年佐賀県に改称した。その後佐賀の乱*や西南戦争*などの戦乱によって行政区域がしばしば変更され，三潴(みずま)県・長崎県に併合されることもあったが，1883年に独立分離して現在の県域が確定した。〔浅井得一〕

さが　**【佐賀(市)】**　佐賀県の南東部に位置する県庁のある市。室町末期に龍造寺(りゅうぞうじ)氏が佐嘉(さが)城を築き，江戸時代は鍋島(なべしま)氏三十五万七千石の城下町であった。1874年(明治7)佐賀の乱*によって城や市域を焼失し，また多くの人材を失ったが，県の政治・経済・文化の中心地として復興した。1889年市制施行。人口**16万4,000**。佐賀平野*のおよそ中央部を占め，数次にわたる合併と拡張によって，背振山地の北麓(はくろく)から有明海沿岸にいたる市域を拡張した。市内にはクスの老木が随所にそびえ，縦横に走る水路沿いのヤナギとともに，城下町独特の景観を残している。城跡は県庁をはじめとする官庁・学校地区で，周辺の武家屋敷跡は住宅地区となり，南西に佐賀大学がある。産業三大別人口比は9：23：68。機械化農業が進んだ豊かな周辺農村地域を控えて，〈肥前米〉とよばれる良質の米やタマネギなどの農産物を集散し，商業活動が盛んである。近代工業はあまりふるわず，綿織物・電気器具・製粉・肥料・鋳物・菓子などの中小工場があるだけで，また鍋島段通・佐賀錦*(さがにしき)などの伝統的な家内工業が知られる。新市域では酪農が興り，有明海沿岸ではノリの養殖が行なわれる。長崎本線から佐賀線・唐津(からつ)線を分岐し，国道34号線・203号線・207号線・208号線・263号線で北九州各市と結ばれる。周辺部には川上峡・古湯温泉・北山ダムなどの観光地がある。特産に，ポルトガル伝来といわれる丸ボーロがある。〔浅井得一〕

さかい　**【堺(市)】**　大阪府中西部の市。市名は摂津・河内(かわち)・和泉(いずみ)3国の境に位置することにちなむ。古くから大和路(やまとじ)や熊野路(くまのじ)の宿駅として開け，南北朝の内乱後は東寺・住吉(すみよし)神社などの寺社や細川・山名・大内などの守護大名が争奪をくり返す軍事上の要地となった。室町時代には幕府の直轄地として対明(みん)

貿易の拠点となり，室町時代末期には南蛮船も往来して交易が行なわれ，西ヨーロッパにまでその名が知られた。応仁(おうにん)の乱後，町を守るために，市街の三方に堀(ほり)を巡らして傭兵(ようへい)を置く自治組織が発達し，納屋衆*(のちの会合衆*(えごうしゅう))の統治するわが国最初の自由都市となった。安土桃山時代には織田信長(のぶなが)の直轄地となり，豊臣秀吉(とよとみひでよし)が大阪城を建設すると，町民の多くは大阪へ移住させられ，大阪夏の陣では兵火を受けて焦土と化した。このような圧迫に抗しながら，堺商人*の中から武野紹鷗(たけのじょうおう)・千利休*・津田宗及*・納屋助左衛門*(すけざえもん)らの人材が輩出してすぐれた文化を生み出したが，江戸幕府の鎖国政策のために港市としての生命を失い，長崎・大阪にその繁栄を奪われた。明治以後は，往時の軍需産業に発する伝統の刃物工業を基盤として近代工業が発展し，1889年(明治22)に大阪と同時に市制を施行，その後数次にわたって市域を内陸部に拡張した。人口79万7,000。市域は大和川を隔てて大阪市の南に接し，大阪湾沿岸の沖積地(ちゅうせきち)(旧市域)と南東部の丘陵から北西方へゆるやかに傾斜した台地(新市域)からなる。産業三大別人口比は1：42：57。紡績・金属機械工業などが発達し，泉州紡織工業地帯の一環をなし，自転車部品の生産はわが国第1位である。包丁その他の刃物の特産品がある。農村部では，野菜が栽培されるほか，伝統的な家内工業で段通がつくられる。大和川筋から三宝の海岸埋め立て地ならびに大阪～鳳(おおとり)間の産業道路に沿う地域には大阪南部の重工業地帯が延びて10,000トン級の船舶を収容する堺新港が建設され，鉄鋼・アルミニウム・車両・発動機・ミシン・精糖・肥料・染料などの大工場が進出し，堺泉北臨海工業地帯の造成が行なわれている。海岸部は，浜寺付近を中心に大阪府南部の住宅地帯として早くから発達してきたが，近年は台地部の宅地開発が進んで，陶器山丘陵一帯には53,500戸を目標とする泉北ニュータウンの建設がほとんど完成。海岸部には，南海電鉄本線・国道26号線が，台地部には阪和(はんわ)線・南海電鉄高野線が走り，旧市街地の中央部には幅50mの大通りが縦横に通ずる。周辺部は名所・史跡に富み，市街地東部の三国丘(みくにがおか)台地には世界最大の仁徳(にんとく)天皇陵*や履仲天皇陵・反正天皇陵をはじめとする多くの前方後円墳があり，百舌鳥(もず)古墳群を形成する。大鳥造りの古式神社建築をもつ大鳥神社*や，紹鷗・利休らの墓のある南宗寺がある。なお明治以後には河井酔茗*(かわいすいめい)・与謝野晶子*(よさのあきこ)らの文化人が出ている。〔浅井得一〕

さかい　【境(町)】　茨城県南西部，利根(とね)川と江戸川の分岐点に臨む町で，猿島(さしま)郡に属する。人口26,000。江戸時代には対岸の関宿(千葉県)とともに利根川の河港として栄えたが，明治以後は台地の畑作を主とする農業が生活の基本となり，猿島茶とよばれる茶やタバコ・ハクサイ・スイカなどを産する。1964年(昭和39)関宿との間に境大橋が完成し，また東京との間に定期バスも通じるようになった。

さかい　【境(町)】　群馬県南東部，佐波(さわ)郡に属し，南端は利根(とね)川に沿い，西は伊勢崎(いせざき)市に接する。人口29,000。江戸時代には日光例幣使街道の宿場町，利根川の河港として栄え，足尾から銅(あかがね)街道を運ばれてきた銅がここで船に積まれた。現在は繊維・電気機器などの工業や商業が盛んで，最近は住宅地の進出も目だつ。



酒井田柿右衛門《色絵花鳥文大深鉢》東京国立博物館蔵



坂出市
海岸に面する工業地区。築港や新しい工場敷地の間に，枝条架式の塩田がまだ残されている

東武鉄道が通じ，バス交通も便利である。

さがいこういとりけしけん　【詐害行為取消権】　⇨債権者取消権

さかいしょうにん　【堺商人】　大阪の堺港を中心に活躍した貿易商人。1469年(文明1)遣明船*(けんみんせん)が応仁(おうにん)の乱*の戦火を避けて堺に寄港したことで一躍発展し，1476年以来5回の遣明船を出港させた。16世紀中ごろからイスパニア・ポルトガルとの交渉も始まって，南蛮文化摂取の仲介人として活躍した。納屋衆*とか会合衆*(えごうしゅう)による自治組織をつくっていたが，豊臣秀吉(とよとみひでよし)の商業政策によって大阪に強制移住させられた。〔村尾元忠〕

サカイぞく　【サカイ族】　⇨セノイ族

さかいだかきえもん　【酒井田柿右衛門】　肥前(佐賀県)有田の代表的陶工。家系は代々柿右衛門を継いで，現在は第13代である。初代柿右衛門は父円西とともに元和(げんな)年間(1615～1623)肥前白石から有田の南川原(なんがわら)に移り，染付(そめつけ)・青磁などを焼いていたが，中国，明(みん)後期の赤絵*の影響を受けて，赤絵(色絵)の創始に着手し，寛永・正保期(1640年代)に完成したと伝えられる。その後，有田の陶工たちは多く赤絵に転じ，1672年(寛文12)には赤絵町も生まれている。初代の作風は，当時は多量に輸入された中国のいわゆる南京(ナンキン)赤絵や呉須(ごす)赤絵ふうであろうと推定され，寛文ごろには柿右衛門焼の初期の様式が完成したと考えられる。元禄(げんろく)時代には，一時衰微した窯を6代の後見人渋右衛門(5代の弟)が助力し，作風も変化した。➔伊万里(いまり)焼　〔矢部良明〕

さかいただきよ　【酒井忠清】　(1624～1681)　江戸幕府の大老。1637年(寛永14)家督を継いで上野(こうずけ)(群馬県)厩橋(うまやばし)城十万石を領し，弟忠能(ただたか)に二万二千五百石を譲った。河内守(かわちのかみ)に叙任し，のち侍従となり，1651年(慶安4)家綱の将軍宣下のとき京都への使をつとめ，少将となり雅楽頭(うたのかみ)と改める。1653年(承応2)老中となり，1663年十三万石。1666年(寛文6)には大老に任ぜられた。大老・老中時代は旧来の老臣が死に，幕府の権勢が彼に集中した。明暦の大火*後，江戸城の下馬札前に屋敷を与えられたので，下馬将軍といわれた。1680年(延宝8)家綱の危篤にあたって有栖川宮(ありすがわのみや)親王を将軍に迎えようとしたが，老中堀田正俊(ほったまさとし)らの反対で綱吉(つなよし)が将軍となり，1681年(天和1)大老を退いた。〔松平秀治〕

さかいで　【坂出(市)】　香川県西部の市。古代にはヤマトタケルノミコト南征の伝説があり，安土桃山時代に赤穂(あこう)からの移民によって塩田が開かれ，内海沿岸に大塩田地帯が発達して〈塩の都〉とよばれ，江戸時代後期には，当時としては指折りの良港が築かれた。1942年(昭和17)市制施行。

人口67,000。市域は瀬戸内海の備讃(びさん)瀬戸に面する綾(あや)川下流の三角州平野上に位置し,塩飽(しわく)諸島の櫃石(ひついし)島や与島などを含む。産業三大別人口比は13：38：49。県下の過半を占める塩の生産があったが，最近は製塩法の進歩によって広い塩田が不要となり，大半は工場用地に転用され，今日では化学工業や紡績工業が盛んである。坂出港は県下一の貿易港で，川崎重工業の世界有数の23万トンのドックがあり，西部の番ノ州(ばんのす)の埋め立て地を中心とする臨海工業地帯が造成されている。予讃本線・国道11号線が通じ，本州・四国連絡架橋の一つとして，対岸の児島半島との間の児島——坂出ルートの計画が進められている。東部の五色台の一峰，白峰山には保元(ほうげん)の乱で流された崇徳(すとく)上皇の御陵があり，東麓(とうろく)には国府庁跡などの史跡が多い。西部の常盤(ときわ)公園は内海の展望がすぐれ，市民の行楽地となる。南西の市境には讃岐(さぬき)富士とよばれる飯(いい)ノ山がそびえる。

〔浅井得一〕

さかいとしひこ 【堺利彦】 (1870～1933) 社会主義運動の先駆者。枯川と号した。福岡県出身。第一高等中学校(旧制第一高等学校)中退。以後いくつかの雑誌・新聞社の記者を経て，1899年(明治32)万朝報(よろずちょうほう)に入社。幸徳秋水らと知り合い，社会主義思想に傾倒した。1903年幸徳らと平民社を起こして《平民新聞》を発行，同紙によって日露戦争非戦運動を展開した。一方では，日本で最初に《共産党宣言》を訳出し，また，雑誌《社会主義研究》を発行して盛んに海外の社会主義思想を紹介した。1906年西川光二郎・片山潜らと日本社会党を結成して社会主義最初の合法政党として出発した。1908年赤旗事件に連座して入獄。大逆事件を契機として社会主義運動の弾圧がきびしくなったため，出獄後は売文社を興して《へちまの花》を発刊し，運動のともしびを守り続けた。1920年(大正9)社会主義同盟を組織。1922年日本共産党の創立に加わり，翌1923年第1次共産党検挙事件で入獄した。その後，社会民主主義に転じ，1927年日本大衆党中央委員，1929年には東京市会議員当選。翌年全国大衆党が結成されると同党顧問に推され，さらに1931年満州事変の勃発(ぼっぱつ)に際して全国労農大衆党の反戦委員長となった。著書に《堺利彦自伝》《堺利彦全集》などがある。〔高崎徳次〕

さかいほういつ 【酒井抱一】 (1761～1828) 江戸後期の絵師。本名忠因(ただなお)。姫路城主酒井忠以(ただざね)の弟で，江戸の生まれ。多くの才芸に富み，書画・俳諧(はいかい)をもよくしたところから,谷文晁(ぶんちょう)や俳人其角(きかく)らと交わり，その生涯(しょうがい)を粋人的生活に送った。画業は，浮世絵・土佐派・円山(まるやま)派・四条派など諸派の技法を学んだが，のちには尾形光琳(こうりん)に深く傾倒し，その画風に倣(なら)った。1815年(文化12)にはみずから光琳百回忌を営み，《光琳百図》《尾形流略印譜》を出版した。なお，彼の最高傑作《夏秋草図屛風(びょうぶ)》は光琳の《風神雷神図屛風》の裏面に描かれ，琳派の末期を飾るにふさわしい優品である。ほかに御物《花鳥十二ケ月図》などが知られている。〔村重　寧〕



酒井抱一《四季花鳥図巻》(上巻，春夏部分)　東京国立博物館蔵



サカキ
ヒサカキ

さかいみなと 【境港(市)】 鳥取県北西端の市。島根半島によって冬の北西季節風から守られる境港は古くから天然の良港として知られ，江戸時代には西回り海運の発達に伴って鳥取藩の回米や鉄・もめんの積み出し港として栄えた。1956年(昭和31)市制施行。人口38,000。市域は夜見ケ浜半島の北半部を占め，中心市街は島根半島と夜見ケ浜の間の中江ノ瀬戸に沿い，東西に延びる。産業三大別人口比は12：32：56で，漁業と水産加工を主産業とする。港は隠岐(おき)諸島周辺の巾着網(きんちゃくあみ)漁業の根拠地となり，イワシやアジの水揚げが多く，イワシかんづめの生産は日本一である。最近は外港に10,000トン級船舶を収容する岸壁が完成し，フィリピンなどの南洋材，シベリアなどの北洋材の輸入港となり，中海(なかのうみ)新産業都市の中核となっている。南端の米子(よなご)空港には航空自衛隊の基地がある。境線で米子市と連絡し，隠岐汽船が松江～隠岐間の途中で寄港して隠岐諸島観光の基地となっている。

さがえ 【寒河江(市)】 山形県中央部の市。鎌倉時代に大江氏の城下町として開け，江戸時代には幕府の代官所が置かれた。1954年(昭和29)市制施行，人口41,000。市域は山形盆地の西部，最上(もがみ)川の支流寒河江川の扇状地の河岸段丘上に位置する。産業三大別人口比は30：31：39。オウトウ・モモなどの産が多く，またコンビーフの生産は全国の80％を占める。1954年，駅前に温泉が発掘されて，旅館の立ち並ぶ湯の町となった。市街の北郊にある慈恩寺は行基の開山と伝えられ，元和(げんな)年間(1615～1623)に建造された本堂と阿弥陀如来(あみだにょらい)木像は重要文化財。左沢(あてらざわ)線・国道112号線が通じ，山形交通の電車が西へ走って，月山や朝日連峰への観光基地となる。

さかえまち 【栄町】 名古屋市の中心部にある繁華街兼ビジネスセンター。中区のほぼ中央部，県庁・市役所の南，名古屋駅の東に位置し，広い道路に面して多くのデパートや商店が集まり，近代的な地下街も形成されている。裏通りには飲食店が多く，東京の銀座と似た景観を呈する。地下鉄1号線・2号線が交わる交通の要地で，周辺には名古屋城跡やテレビ塔がある。

さかき 【榊】 双子葉植物・ツバキ科。暖地の山林中に自生する常緑高木で，高さ10m前後に達する。葉は互生し，倒卵状の楕円(だえん)形で，厚くて光沢があり，鋸歯(きょし)はなく，5～10mmの柄がある。枝先の芽が少し曲がっているのが特徴。5～7月，葉腋(ようえき)に小さな白色五弁花が1～3個下向きに咲く。果実は直径7～9mmの球形で黒熟し，中に多数の種子がある。庭木として用いられるほか，神前に供えられる。なお，東京付近でサカキとよんで神仏に供えているものは，同じくツバキ科のヒサカキである。ヒサカキは本州以南のややかわいた山地にはえる常緑低木または小高木で，葉はサカキに似るが鋸歯がある。雌雄異株で，3～4月葉腋に1～3個の直径5mmほどの白色小花を下向きにつける。果実は直径5mmほどの球形で，紫黒色に熟す。

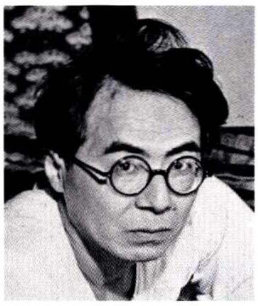
〔加藤僖重〕

さがぎく 【嵯峨菊】 双子葉植物・キク科の多年草。栽培ギクの一。江戸時代から明治時代にかけてキクの栽培が盛んになり，京都を中心に発達したのがこの種類である。糸菊の仲間で花弁が細く糸状をなし一茎一花。全体をほうきづくりに仕立てる。

さかきひゃくせん 【彭城百川】 (1697～1752) 江戸中期の南画家。名古屋の薬商八仙堂(はっせんどう)の子。名は真淵(しんえん)，字(あざな)は白川・蓬洲(ほうしゅう)。南宗画の学習から新画風の開拓を志したが，自己の様式を

確立する以前に没した。しかし，その意図は池大雅*や蕪村*(ぶそん)らに引き継がれ，日本南画の展開に基礎を築いた功績は大きい。俳人としても知られ，軽妙な俳画もよくした。著書に《元明(げんみん)画人考》がある。

さかぐちあんご　【坂口安吾】（1906〜1955）小説家。本名炳五(へいご)。新潟県の生まれ。東洋大学印度哲学科卒。《言葉》《青い馬》などの同人誌に参加，《風博士》《黒谷村》の2短編によって文壇に登場，観念的な作風が知られた。第2次世界大戦中は《現代文学》同人となり，《日本文化私観》《青春論》などの評論に独得のさえをみせた。戦後には形式的な道徳に反抗した評論《堕落論》や短編《白痴》などを発表。戦後の混沌(こんとん)とした世相に強い共感を呼んで一躍流行作家となり，太宰治*・織田作之助*・石川淳*(じゅん)らとともに無頼派・新戯作派(しんげさくは)などとよばれた。ほかに《吹雪物語》《道鏡》《桜の森の満開の下》《青鬼の褌(ふんどし)を洗う女》や推理小説《不連続殺人事件》，文明批評《安吾巷談(こうだん)》などがある。　〔源　五郎〕

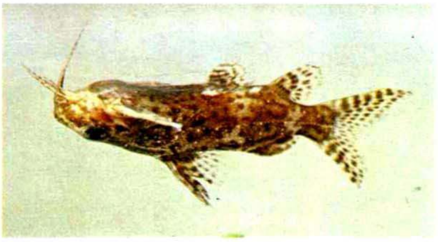

坂口安吾

さがくちだい　【差額地代】土地の豊度や位置の差異を基礎として生ずる地代のこと。同額の資本または等量の労働の投下にもかかわらず，豊度や位置などの土地条件の差異のために生産性に差異が生じ，生産物量，したがって生産物単位あたりの個別的生産価格や利潤率に差異が生ずる。こうした土地条件という〈独占しうる自然力〉を基礎として，優等地または生産性の高い資本のもとに，生産物または単位あたり個別的生産価格の差として現われる超過利潤を差額地代という。ここで，豊度の相異なる土地に並列的に資本が投下された場合に，優等地に生ずる地代を差額地代の第一形態という。また，同一の土地に追加的・継起的に投下される資本の生産性の差から生ずる地代を差額地代の第二形態とよんでいる。通常，差額地代は最劣等耕地には生じないが，第二形態成立のメカニズムを考えていくと最劣等地にも差額地代が生じうる。➛地代　〔常盤政治〕

さかご　【逆児】⇨骨盤位

さがごしょ　【嵯峨御所】⇨大覚寺

さかさなまず　【逆鯰】硬骨魚類・サカサナマズ科。アフリカだけに分布する。多くの種を含み，すべてがゆるやかな流れのある淡水にすみ，半夜行性。岸べのくぼみの天井になった部分に，さかさにはりついて休んでいることが多い。一部の種類はつねに腹を上にして泳ぎ，その姿勢で採餌(さいじ)する。このような泳ぎ方は他の魚にはけっしてみられない。古代エジプト遺跡からもこの魚の絵や彫刻が発見されている。なお，さかさに泳ぐことが知られているのは次の2種である。①シノドンチス-ニグリベントリス：全長は6cmまで。体は太短い長楕円(ちょうだえん)形。淡かっ色で，黒かっ色の


サカサナマズ

不規則な円紋が全身に散在する。うろこはなく，口に3対のひげがある。コンゴ中央部に分布する。②シノドンチス-バテンソーダ：全長は24cmまで。体は太短い長楕円形。うろこはなく，大きな脂(あぶら)びれが目だつ。全身かっ色。ナイル川やチャド・セネガル・ガンビアの川にすむ。2種ともに普通の魚とはまったく逆に，背より腹のほうの色が濃い。　〔菅野　徹〕

さがさわおんせん　【嵯峨沢温泉】静岡県田方郡天城(あまぎ)湯ケ島町にある温泉。泉温50〜60℃，泉質は芒硝(ぼうしょう)性苦味泉で，特に神経痛によいといわれる。狩野(かの)川上流に臨む静かな温泉で，観月の名所として知られている。伊豆(いず)箱根鉄道の修善寺駅からバスの便がある。

さかした　【坂下(町)】岐阜県南東部，恵那(えな)郡の町。木曾(きそ)川に沿い，東は長野県に接する。1911年(明治44)町制施行。人口6,400。製材業・木工業が行なわれ，ほかに生糸などの繊維工業があるが，南隣の中津川市へ通勤するものが多い。中央本線が通じ，裏木曾県立自然公園の出入り口となっている。

さかしたもんがいのへん　【坂下門外の変】1862年(文久2)1月15日，老中安藤信正*(のぶまさ)が水戸浪士を中心とする尊攘(そんじょう)派志士に江戸城坂下門外で襲撃された事件。信正は桜田門外の変*で暗殺された大老井伊直弼*(なおすけ)のあとを継いで幕政を担当したが，井伊の幕閣に列していた老中として尊攘派の反感をかっていた。さらに信正が公武合体*政策を推進し，幕権回復のために和宮*(かずのみや)降嫁を実現させ，また孝明天皇の廃帝を計画しているとの流言が行なわれたことが尊攘派の憤激を招き，信正暗殺が企てられた。暗殺は未遂に終わったが，浪士6名は全員その場で斬殺(ざんさつ)された。幕政を担当する大老・老中が相次いで浪士らに殺傷されたことは幕威をはなはだしく失墜させた。　〔高崎徳次〕

さがしゃかどう　【嵯峨釈迦堂】⇨清涼(せいりょう)寺

さがじんじゃ　【佐嘉神社】佐賀市松原町にある神社。当初の祭神は，藩政改革などに功績のあった藩主鍋島直正(なべしまなおまさ)で，1873年(明治6)に神祠(しんし)を建立(こんりゅう)し，松原神社と称した。例祭は10月12日。

サーカス　［circus］語源は，ラテン語で〈まるいもの〉を意味するが，本来は円形のリング(舞台)で，ウマに乗って種々のアクロバット(曲技)を見せることをさした。そのため，わが国などにおいては〈曲馬〉〈曲馬団〉などともいわれている。現在では，それが複雑化・組織化され，高度の訓練によって動物の芸当や人間の曲芸・奇術*・軽業*(かるわざ)を見せる見せ物になっている。

サーカスの起源は，古代ローマのアンフィテアトラム(円形演技場)とされている。ここでは，野外に設けられた円形のリングの周囲に階段式の観客席をつくり，ウマに引かせた戦車の競走や体育競技などが行なわれるのを見下ろすことができた。その代表的な建築物が，収容人員5万人という巨大なコロセウム*である。

現代に行なわれているサーカスは，1766年イギリスのアストリー(1742〜1814)がウマに乗って演技したアクロバットに始まる。また，1770年にアストリーはロンドンで馬芝居を上演した。この芝居は演目が《マクベス》で，平土間をリングに，俳優は慣らしたウマの上で演技した。その後彼はヨーロッパ諸国，アメリカ大陸を興行したが，各地で好評を博し，サーカスはたちまち欧米に広まった。いわゆるビッグ-トップといわれるテント張りで，中央にリング，三方ないし四方に観客席，正面にバンド，約10日間興行して次の興行地に移動するという形式も，18世紀中にはほぼ完成を見た。もっとも，当初の80年間は，ウマを使っての曲芸のみが行なわれたにすぎない。19世紀の半ばになって，動物の種類がふえ，人間のアクロバット・奇術・道化(ピエロ)が登場したところで，サーカスは変化に富む娯楽的な見せ物になった。この当時の代表的なサーカスに，ドイツのハーゲンベック，アメリカのベイリー-バーナムなどがある。20世紀にはいってから，サーカスは全盛期を迎えた。ことばによる説明が不必要で，ともかくその場所にいて，一見すればだれにとっても情景が観取され，理解されるという点に利点があったことが，その因をなしていた。

現在のサーカスの演技による内容は次のようなものである。①曲馬(ウマによる演技と，ウマに乗った人間による演技との両方がある)。②動物芸(ライオン・トラ・ヒョウ・クマ・ゾウ・イヌ・チンパンジー・

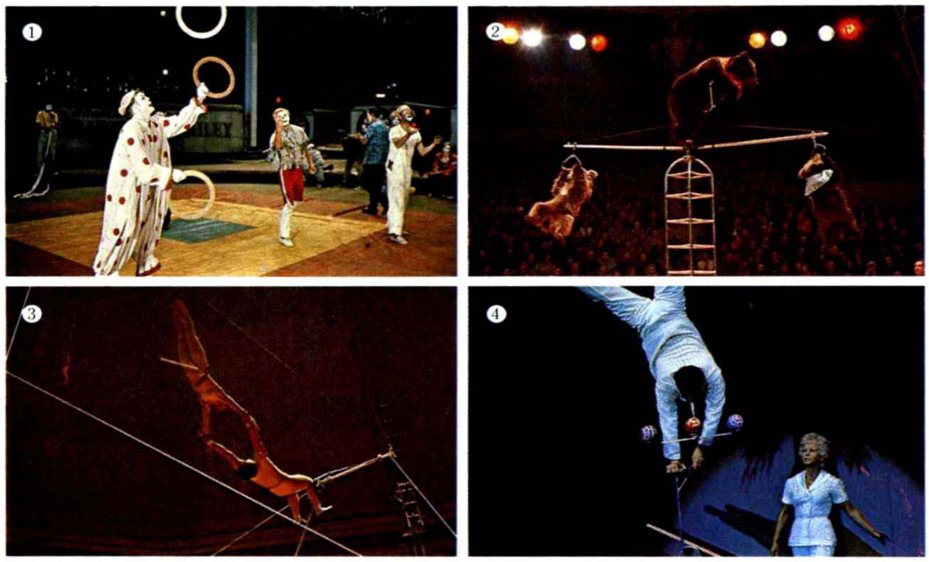
オットセイ・ハト・オウムなどによる演技)。このほか，人間による演技で，③空中曲芸(空中ブランコ・綱渡りなど)。④地上曲芸(自転車・オートバイ乗り・玉乗り・体軀(たいく)を用いて行なうアクロバットなど)。⑤奇術。⑥ピエロ。⑦パントマイムなどが種々に組み合わされて観覧に供されている。

現在の世界の代表的なサーカス団には，アメリカのリングリング-ブラザーズ(C. B. デミルの映画《地上最大のショウ》で有名)や大西部サーカス，イギリスのピカデリー-サーカス，ドイツのナショナル-サーカス，中国の北京曲技団，しばしば来日しているソ連のモスクワ-ボリショイ-サーカスなどがある。サーカスは，本来移動して行なわれるのが型であったが，最近では固定した土地・場所で興行されることが多くなった。興行がしだいに大がかりとなり，必要な人数・動物があまりにも多くなり，移動を行なうと運賃・労力・手間などで費用がかかりすぎるためである。

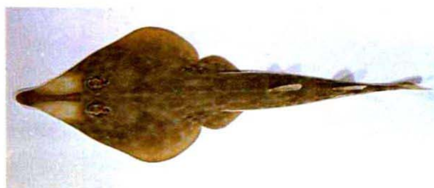
日本でのサーカスは，1870年(明治3)もと仙台藩士の石川清馬が，ウマ芝居をやったのが始まりである。内容は，手綱(たづな)を持たないで，腰でウマをあやつり，馬上で碁盤(ごばん)乗りなどを演じたり，和唐内の虎(とら)退治を演じたりすることが主であった。その後，1880年にイタリア人のチャリネが来日，東京秋葉原で興行してから，欧米ふうのサーカスが行なわれだした。興行師山本円蔵による〈日本チャリネ〉が全国を巡演したのは，このチャリネに刺激されている。当時は〈曲馬団〉といい，サーカスという呼称が用いられたのは1931年(昭和6)ごろからである。以後，有田(1906年創立)・木下(1908年創立)・シバタ(1922年創立)など大サーカス団が誕生。1956年には，日本仮設興行協同組合がつくられ，サーカス・見せ物を合わせて約90団体(サーカス団は23)が加盟したが，芸人や動物の不足から，次次と廃業，1966年ごろには木下サーカスただ一つとなってしまった。最近，シバタサーカスと矢野サーカスが復活し，三つになったが，内容的にも欧米には及ばず，さびしいかぎりである。〔福田生雄〕

さかずき【杯・盃】 酒を盛って飲むのに用いる器。《古事記》に〈酒杯(さかずき)〉とあり，《日本書紀》には〈盞(さん)〉と書かれている。古来人事の祝い事には杯をあげる一事が儀礼の中心となり，杯はその象徴として記念の贈り物とされる。三つ組みを正式とし，金・銀・スズなどの金属を打ち出しにして彫刻を施したものや塗り物・焼き物など，いずれも定紋あるいは吉瑞(きちずい)の模様を表わす。陶磁器の杯が普及すると，その性質上小形となって猪口(ちょこ)の名が出てきた。〔山本喜男〕

さかた【酒田(市)】 山形県北西部の市。江戸時代には庄内(しょうない)平野や最上(もがみ)川流域の米の大集散地で，西回り航路の開



サーカス ①ピエロ ピエロ学校(アメリカ)専修科の卒業演技 ②3匹のクマのシーソー ボリショイ-サーカス(ソ連)，中央が親グマ，二方が子グマ ③空中ブランコ ボリショイ-サーカス，離れようとしている演技者がM. R. モスセイエフ ④ボリショイ-サーカス，日本公演の演技



サカタザメ

設以来，庄内藩や米沢(よねざわ)藩の米倉が置かれ，酒田港は京都・大阪方面との取引によって栄えた。当時の酒田回船問屋の活躍ぶりは井原西鶴(さいかく)の《日本永代蔵》にしるされている。明治以後は米の集散が鉄道に受け継がれ，国立の米穀倉庫が設けられた。1933年(昭和8)市制施行。人口103,000。庄内平野のほぼ中央部，最上川河口北岸にある。産業三大別人口比は20：26：54。県下一の工業都市で，酒田港付近を埋め立てた大浜地区を中心に，酒田臨海工業地帯が造成され，化学・機械などの近代工業が盛んで，食品工業がこれに次ぐ。酒田港は，鉄道の開通後一時さびれていたが，最上川と分離して改修され，1962年には10,000トン岸壁が完成して，貿易港・工業港として発展している。〈本間様には及びもないが，せめてなりたや殿様に〉とその富裕ぶりをうたわれた江戸時代以来の大地主本間家の本邸は市の中央公民館，別荘は本間美術館となっている。北西の海上に浮かぶ孤島飛島も市域内に編入されており，その西方のウミネコの繁殖地として知られる御積(おしゃく)島とともに鳥海国定公園に含まれる。1976年10月，市の繁華街1,159棟を焼失した大火があった。〔浅井得一〕

さかたえいお【坂田栄男】(1920～) 囲碁棋士。9段。東京の生まれ。1929年(昭和4)増淵辰子(ますぶちたつこ)6段に入門，1935年初段となる。1947年日本棋院を脱退して囲碁新社を結成したが，復帰。1961年以来7期にわたって本因坊位を維持，名誉本因坊の資格を得た。

さかたざめ【坂田鮫】 軟骨魚類・サカタザメ科。全長約1mに達する海産魚。体は上下に押しつぶされた形で細長い。淡かっ色で模様はない。本州中部以南に分布し，底引き網でかなり多量に漁獲される。さしみ・煮つけなどにして美味。よく似たものに，南日本に分布し，体に多くの紋のような模様をもつコモンサカタザメがある。いずれも胎生。体が細長いためサメの名があるが，分類上はエイに属する。

さかたさんきち【坂田三吉】(1870～1946) 将棋棋士。堺(さかい)市の生まれ。天分の豊かさもあって，独学で8段となり，13世名人関根金次郎に対抗した。1925年(大正14)関西名人を自称して棋界から孤立したが，和解した。坂田流向かい飛車は有名。

さかたとうじゅうろう【坂田藤十郎】(1647～1709) 元禄(げんろく)期の上方歌舞伎(かぶき)を代表する俳優。京都の座元(ざもと)の子として生まれ，1693年(元禄6)ごろから作者の近松門左衛門(もんざえもん)と提携し，《傾城(けいせい)仏の原》《傾城壬生(みぶ)大念仏》などに主演。傾城買いの〈やつし〉の芸を示して〈和事〉芸の確立者とされ，写実的な芸風で知られた。2世・3世がいたが，さほど有名ではない。

さかつらがん【酒面雁】 鳥類・ガンカモ科。シナガチョウの原種で，翼開長1.5mほど。頭頸部(とうけいぶ)の赤かっ色の羽毛が目だち，酒を飲んだようにみえるのでこの名がある。カムチャツカ半島・シベリア東部・モンゴル・中国東北部で繁殖し，もとはわが国にも渡来して越冬したが，最近は

まったくみられない。

さがてんのう 【嵯峨天皇】(786～842) 在位809～823年。桓武(かんむ)天皇第2皇子。母は藤原乙牟漏(おとむろ)。809年(大同4)兄平城(へいぜい)天皇の譲を得て即位し，平城の皇子高岳(たかおか)親王を皇太子としたが，翌年薬子(くすこ)の*乱が起こると高岳を廃して皇弟大伴(おおとも)親王を皇太子とした。蔵人所(くろうどどころ)・検非違使庁(けびいしちょう)を設置し，《*弘仁格式(こうにんきゃくしき)》《新撰姓氏録(しんせんしょうじろく)》を選定するなど政治に努めたので，この時代を〈弘仁の治〉という。また，書をよくし，*三筆のひとりに数えられている。その書風は唐の欧陽詢(おうようじゅん)ふうと空海ふうとが交じっているといわれる。《光定戒牒(こうじょうかいちょう)》は光定の戒牒をみずから書いて下賜したものである。陵墓は京都嵯峨山上陵。 〔黛 弘道・春名好重〕

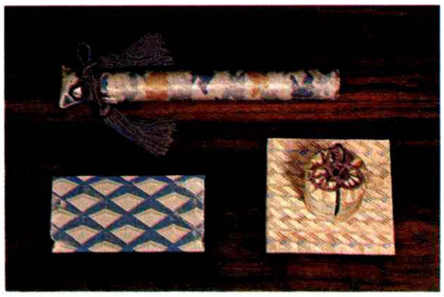
さかど 【坂戸(市)】 埼玉県中央部，入間郡に属する。1976年(昭和51)市制施行。人口74,000。産業比13：38：49。北部は入間川の支流越辺(おっぺ)川および高麗(こま)川流域の低地，南部は台地。江戸時代には脇往還(わきおうかん)の宿駅で市場町でもあった。近年，台地上に学校や工場が建設，南隣の鶴ケ島(つるがしま)町にかけて，日本住宅公団の坂戸鶴ケ島工業団地が造成されている。東武鉄道東上線が通じ，越生(おごせ)線が分かれる。

さかな 【魚】 ⇨魚類

さかな 【肴】 酒宴に添える料理や食品。古い時代には，菜よりも魚を特に美味なものとして酒のさかなは魚貝類がおもなものであったので，生魚類をさかなと転称したという。《倭訓栞(わくんのしおり)》にも〈肴は酒魚の義なるべし〉とあり，供応のさかなの種類に取肴(とりざかな)・引肴(ひきざかな)・追肴(おいざかな)などの記述がある。現在では，お通し・おつまみ・突き出し・前菜などとよばれ，会席*料理の口代わり，懐石*料理の*八寸などもさかなである。酒の味に調和し，酒を勧めるものであるから，日本酒には味の淡泊な魚・野菜料理，酢の物など，ビールには塩ピーナッツ・ポテトチップなどの塩分と脂肪のあるものが適する。 〔塩川ふみ〕

さかなやそうごろう 【魚屋宗吾郎】 ⇨新皿屋舗月雨暈(しんさらやしきつきのあまがさ)

さがにしき 【佐賀錦】 経(たて)に金銀平箔(ひらはく)糸・漆糸など，緯(ぬき)に絹の色撚糸(よりいと)を用い，種々の文様を織り出した手芸的な織物。簡単な織り台を用い，竹べらで経糸をすくい，あぐりとよばれる糸巻きで緯を通す。組織は綾(あや)を本来とするが，平織，綾・平混合もある。1枚の和紙の両端を5cmほどずつ残して，幅を細幅に裁断し，それを経糸として織るので，たけにも幅にも限度があり，通常は大きな長尺のものはつくれない。したがって，その利用も小物類に限られてきたが，最近は和紙でも長尺のものができるので，帯などを織ることも可能となった。しかし，市販されている帯は織機で織ったもので，本来の佐賀錦とは異なっている。佐賀錦の由来には諸説があるが，いずれにしても佐賀鍋島(なべしま)藩の姫や御殿女中の手すさびとしてつくられてきたようである。大正年間(1912～1925)に大隈重信(おおくましげのぶ)の提唱によって，東京を中心に堂上華族の婦人たちの手芸として行なわれるようになり，近年は手工芸の一つとして普及されつつある。 〔北村哲郎〕



佐賀錦 (上)笛袋 (下左)財布 (下右)茶入袋



嵯峨人形 《坐童》 西沢童宝玩具研究所蔵



坂上田村麻呂

さがにんぎょう 【嵯峨人形】 木彫彩色人形の一。金彩を加えた濃厚な着色，文様を浮き上がらせた盛り上げ彩色に特徴があり，置き上げ人形ともいわれている。嵯峨という名称の由来，創始の時期などは明らかでないが，古い遺品には唐子(からこ)や布袋(ほてい)・寿老人など道釈人物が主題となっている点や，彩色が仏像彩色に似ているところから，江戸中期に仏師たちの余技としてつくられはじめられたのではないかと考えられている。なお，江戸でつくられたと思われるものは江戸嵯峨とよばれている。 〔北村哲郎〕

ざがね 【座金】 ナットまたはボルトを締めつけるとき，ボルト穴が大きすぎたり，座面が傾斜したり，でこぼこがあるなどの場合に，ナットやねじ頭の下に敷く輪状の下敷き。おもに軟鋼板を打ち抜いてつくる。また，ナットのゆるみ止めとして，つめつき座金・したつき座金・ばね座金などが用いられる。ボルトで締めつけられるものが木材やゴムのように高い圧力に耐えられない場合にも，接触圧力を緩和する目的で用いられる。 〔森田 鈞〕

さがのあき 【嵯峨の秋】 箏曲(そうきょく)の曲名。生田流の曲であるが，山田流でも演奏される。1868年(明治1)ごろ大阪の菊末検校(けんぎょう)が作曲。歌詞は《平家物語》に取材し，《小督(こごう)の曲》などと同じ内容である。手*事物の形式をとり，器楽的な音楽美がある。

さかのうえのいらつめ 【坂上郎女】 ⇨大伴(おおとも)坂上郎女

さかのうえのたむらまろ 【坂上田村麻呂】(758～811) 平安初期の武将。東漢(やまとのあや)氏の一族。代々の武人の家に生まれ，791年(延暦10)大伴乙麻呂(おおとものおとまろ)の下で征夷(せいい)副使となり，796年鎮守府将軍，翌年征夷大将軍に任ぜられ，802年*蝦夷(えぞ)を討ち，胆沢(いざわ)城(岩手県水沢市)を築いて鎮守府を多賀城から移し，翌年さらに志波(しわ)城を築くなど，北上川流域の平定に功を立てた。桓武(かんむ)天皇らの信任厚く，805年参議，806年(大同1)中納言，810年(弘仁1)大納言に任ぜられた。〔黛 弘道〕

さがのせき 【佐賀関(町)】 大分県北海部(きたあまべ)郡に属し，豊予海峡に臨む佐賀関*半島を町域とする。人口20,000。瀬戸内海の南西入り口にあって海上交通の要地であり，漁港としても知られるが，1916年(大正5)銅の製錬所が設けられて有名になった。将来の九州～四国をつなぐ陸上交通計画の要地としても注目されている。

さがのせきはんとう 【佐賀関半島】 大分県東部で別府湾と臼杵(うすき)湾とを分ける半島。豊予海峡を隔てて四国の佐田岬(さたみさき)半島と相対し，瀬戸内海南西の入り口を扼(やく)する。半島先端の地蔵崎(関崎)には関崎燈台があり，ここから沖合い約3.5kmのところに高島・牛島がある。半島はおもに結晶片岩による変成岩類からなり，北岸は断層崖(だんそうがい)が発達し，分水嶺(ぶんすいれい)が南側にかたよっているため南岸も傾斜地が多く，階段状の畑ではサツマイモ・ムギ類・ミカンなどが栽培されている。先端に近い*佐賀関町は精練所の町として有名

である。〔味沢成吉〕

さがのはる【嵯峨の春】地歌・箏曲(そうきょく)の曲名。京都の松浦検校(けんぎょう)が三味線(しゃみせん)曲として作曲し，浦崎検校が箏の手をつけた。嵯峨や嵐山(あらしやま)あたりの風景をうたったもので，手事物*形式。箏は雲井調子，三味線は本調子，三下り，本調子。生田流で演奏され，器楽的なおもしろみがある。

さがのやおむろ【嵯峨の屋御室】(1863〜1947) 小説家・詩人。本名矢崎鎮四郎(しんしろう)。別号北邙(ほくぼう)散士など。江戸の生まれ。東京外国語学校露語科卒。坪内逍遙*(しょうよう)に師事。処女作《守銭奴の胆(はら)》，ツルゲーネフ*の影響を受けた《初恋》などで世に出た。作風は浪漫的かつ倫理的・宗教的である。《いつ真で草》などの新体詩，《小説家の責任》などの評論もある。ほかに《くされ玉子》《野末の菊》《流転》など。

さがのらん【佐賀の乱】1874年(明治7)2月佐賀県で起こされた不平士族の反乱。当時佐賀県では朝鮮侵略を唱える征韓党(せいかんとう)と攘夷(じょうい)保守の憂国党が結成されていた。江藤新平*は征韓論*に破れて佐賀県に帰郷すると征韓党党首に迎えられ，前秋田県権令島義勇(よしたけ)を党首とする憂国党とともに蜂起(ほうき)した。政府は参議大久保利通*(としみち)に軍事・裁判の全権をゆだねて現地へ急行させた。士族反乱軍はその数約3,000に達し，一時は県庁を占領したが，各地の士族勢力の呼応をみず，まもなく洋式装備の政府軍に鎮定された。政府は脱走した江藤・島を捕え，当時の改定律令(りつりょう)によらず梟首(きょうしゅ)の極刑に処し，反政府士族に威信を表明した。〔高崎徳次〕

さかはちちょう【逆八蝶】こん虫類・鱗翅(りんし)目・タテハチョウ科。発生の季節によって斑紋(はんもん)および色彩が著しく異なる。5月初旬に発生する春型は，翅(はね)が黒かっ色で黄赤色の不規則な斑紋が散在し，中央部に淡く黄色をおびた斜めの帯がある。7月の夏型および9月の秋型は，翅が黒色で前後翅の中央に太い淡黄色の斜めの帯がある。夏型・秋型の雌の斜帯はほとんど白色。翅を広げた長さは50mm内外。日本全土のほか，朝鮮・サハリン(樺太(からふと))・中国北部・アムール川流域地方に分布する。幼虫はイラクサ科植物の葉を食べる。若齢幼虫は食草の葉裏に群生しているが，成熟すると分散する。さなぎで越冬する。北海道特産のアカマダラは，形態や季節的変異・習性がこれと酷似するが，春型では前翅の第2・4室に白点があること，夏型では翅の裏面が濃赤かっ色(サカハチチョウでは濃黄かっ色)であることなどで区別できる。〔鈴木邦雄〕

さがはん【佐賀藩】江戸時代に肥前(佐賀県)佐賀地方を領有した藩。鍋島(なべしま)藩とも肥前藩ともいう。もと龍造寺(りゅうぞうじ)氏の領で，1587年(天正15)豊臣秀吉(とよとみひでよし)は九州平定後，龍造寺政家(まさいえ)に佐賀の地を安堵(あんど)したが，3年後秀吉は政家を隠居させ，家臣の鍋島直茂(なおしげ)に相続させた。直茂は関ケ原の役に西軍に属したが，帰国して西軍の立花宗茂(むねしげ)を討ったので所領を安堵され，以後廃藩置県まで12代続いた。外様(とざま)大名*で居城佐賀城，石高三十五万七千石。小城(おぎ)・蓮池(はすいけ)・鹿島(かしま)の支藩があり，福岡藩とともに長崎御番に任じた。そのような特殊な地位を占めたが，財政的負担も大で藩財政は窮乏し，1801年(享和1)財政の確立を企てたが失敗し，そのうえフェートン号事件*もあって藩主10代斉直(なりなお)は責任を問われ逼塞(ひっそく)を命ぜられた。11代直正(なおまさ)(閑叟(かんそう))は，殖産興業*の奨励，洋式軍事工業の推進などによって藩政を改革した。これによる藩勢力の強大化は明治維新の主導力ともなり，江藤新平・副島種臣(そえじまたねおみ)・大隈重信(おおくましげのぶ)らの人材を明治新政府に送った。廃藩後は伊万里(いまり)県，次いで佐賀県となった。なお，講談や劇などの有名な〈鍋島の猫(ねこ)騒動〉は，龍造寺氏の鍋島氏に対する恨みやその勢力回復の意図などから出たといわれる。藩士修養の書である《葉隠*》は有名。〔岡山泰四〕

さがへいや【佐賀平野】佐賀県南東部，筑紫(つくし)平野西部の佐賀県の部分にあたる沖積(ちゅうせき)平野で，北は背振山地，西は松浦・杵島(きしま)の丘陵性山地に限られ，南は有明海に面する。筑後(ちくご)川・嘉瀬(かせ)川・六角川によって山麓部(さんろくぶ)には扇状地が，下流地域には三角州が形成されており，三角州面では用排水路が縦横に走っている。有明海沿岸の干拓は13世紀のころから行なわれ，現在も大規模に続けられている。平野は米作が盛んで，第2次世界大戦前は〈佐賀段階〉とよばれ，現在も〈新佐賀段階〉とよばれて全国的に反あたり収量の高い米作が行なわれている。平野を北東から南西にかけて長崎本線が走り，佐賀市が平野の中心をなしている。〔味沢成吉〕

さがぼん【嵯峨本】京都の素封家角倉素庵(すみのくらそあん)が本阿弥光悦*(ほんあみこうえつ)の協力を得て，慶長の中ごろ(1610年前後)京都嵯峨で開版した版本。開版者の名によって〈角倉本〉とも，光悦が装丁の意匠を凝らし，版下の文字を書いたところから〈光悦本〉ともいう。光悦本の多くは，本文用紙に5色を用い，ウンモを引き，または雁皮(がんぴ)に胡粉を引き，その上に花鳥草木のウンモ模様を刷り込み，表紙にもウンモで花鳥などの模様を表わしたり，染色などを施し，日本画のさし絵を入れ，艶麗(えんれい)なかな文字を木活字で印刷し，大和(やまと)とじとした。《謡曲百番》《伊勢(いせ)物語》《徒然草(つれづれぐさ)》《源氏物語》などが知られている。〔庄司浅水〕



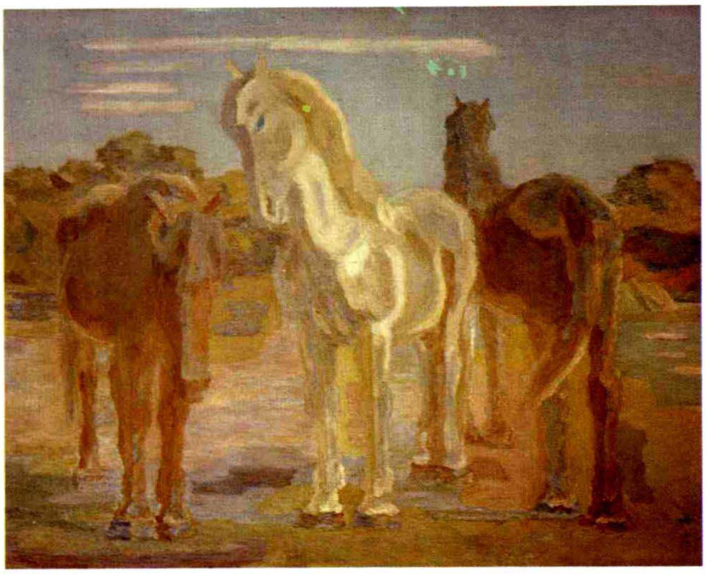
嵯峨本 《伊勢物語》古活字版(1608)

さかまた【逆叉・逆戟】哺乳(ほにゅう)類・クジラ目・イルカ科。シャチともいう。雄は体長9m，雌は小さく5.7mほど。背鰭(せびれ)はきわめて長く，2.5mに達するものもある。体上面は黒，下面は白色，白黒の境界は明瞭(めいりょう)で，目の上に小白斑(はくはん)がある。群れで行動し，世界じゅうに広く分布するが，南極海・北極海に多い。性質は荒く大形なクジラを襲って殺し，イルカ類・アザラシ類・魚類などなんでも食う。

さかまんじゅう【酒饅頭】小麦粉を甘酒で練った皮にこしあんを包んで蒸したまんじゅう*。酒の芳香が特色である。鎌倉時代，宋(そう)留学から帰国した聖一国師が製法を伝えたという。

さがみ【相模(国)】神奈川県の大部分を占める旧国名。東海道に属する。古く相武(さがむ)国(相模川流域)と師長国があり，大化以後あわせて相模国とした。もと足上(あしからのかみ)・足下・大住・余綾(よろぎ)・愛甲(あゆかわ)・高座(たかくら)・鎌倉・御浦の8郡であった。国府ははじめ高座郡(現在の海老名(えびな)町)，次いで大住郡(現在の中郡大磯(おおいそ)町)に置かれたらしいが，府跡は未詳。国分寺跡は海老名町に現存する。平安末期，土肥・梶原(かじわら)・三浦・和田ら平氏の一族，大友・首藤(すどう)ら藤原氏流の武士が土着し，源頼朝(よりとも)が起こるとこれを奉じて鎌倉に幕府*を創立した(→鎌倉幕府)。以後関東御分国*の一として幕府の支配下にあり，守護は三浦氏，次いで侍所・政所(まんどころ)の兼帯となった。室町時代には鎌倉公方*(くぼう)が置かれ，三浦・今川・上杉(うえすぎ)ら諸氏が守護となった。戦国時代には後北条(ごほうじょう)氏が小田原によったが，その滅亡後は徳川家康(いえやす)の所領となり，大久保氏が小田原城*を守った。廃藩置県*により小田原・荻野山中(おぎのやまなか)の2県とし，次いで韮山(にらやま)県と合わせて足柄県，さらに神奈川県と併合して今日に至る(ただし足柄県のうち旧伊豆(いず)国は静岡県に編入)。〔黛　弘道〕

さがみ【相模】平安中期の女流歌人。生没年未詳。中古三十六歌仙(かせん)の一。一名乙侍従。相模守(さがみのかみ)大江公資(きんすけ)の妻。1023年(治安3)に夫の任国相模(神奈川県)に下り，箱根権現に《相模百首》を奉



坂本繁二郎
《放牧三馬》
1932　ブリヂストン美術館蔵

納した。帰京後夫と離別。脩子(しゅうし)内親王家女房となり，赤染衛門(あかぞめえもん)・和泉式部(いずみしきぶ)らとともに一流歌人として活躍。歌風は明澈(めいてつ)で情熱的である。《後拾遺和歌集》以下の勅撰集(ちょくせんしゅう)に108首が入集，家集は《相模集》。〔沢田正子〕

さがみがわ　【相模川】　神奈川県中央部を南流して相模湾に注ぐ。流程119km。上流は桂(かつら)川とよばれ，富士五湖の一つ山中湖を水源とし，山梨県の郡内地方を流れて神奈川県にはいる。ここに人造湖相模湖があり，この下流に城山ダムによってつくられた津久井湖がある。津久井湖に合流する道志川は，わが国最初の洋式水道である横浜市営水道の水源である。相模湖より下流を相模川とよび，流域には段丘が発達し，特に城山ダムより下流の左岸に発達した広い段丘を相模原台地とよんでいる。河口付近は馬入川とよばれる。厚木市より下流の河床はじゃり採取が盛んに行なわれたため，河床の異常低下をきたし問題になっている。鉄道開通前，この川の舟運は関東山地南部と平野部とを結ぶ重要な交通路の役を果たした。〔長津一郎〕

さがみこ　【相模湖】　神奈川県西北部，相模川本流にある人造湖。満水面積3km²，水面高度165m，水深47m。満水時には湖の上流は上野原町付近に及ぶ。1940年(昭和15)から1947年までかかって神奈川県が，下流域の水害対策や灌漑(かんがい)用水・水道用水・発電などの多目的ダムとして築造したもので，わが国における河川総合開発の最初のケースとして注目を浴びた。ダムは，高さ57m，幅12m，長さ209m，発電能力28,000kW。貯水の一部は横浜市・川崎市の水道用水として利用される。以前この一帯は，清流とアユ漁で聞こえたが，湖ができてからは観光開発が急速に進み，東京都民の日帰り行楽地として発展し，中央高速道路のインターチェンジも近くに設けられている。〔長津一郎〕

さがみなだ　【相模灘】　相模湾の沖合いにあたり，伊豆(いず)・三浦・房総の3半島と伊豆大島によって囲まれる海域。相模湾とは伊豆半島基部の真鶴岬(まなづるみさき)と三浦半島南西端の城ケ島とを結ぶ線で区別され，伊豆半島南端の石廊崎(いろうざき)から大島を経て房総半島南端の野島崎へ至る線を南の限界とする。北東は浦賀水道より東京湾へ通じる。大陸棚(たいりくだな)の発達が悪く，急深で，水深はおおむね1,000m以上。黒潮の分派が大島を一巡するかたちで伊豆半島と大島との間から北東流し，房総半島と大島との間から南東流する。〔山口恵一郎〕

さがみはら　【相模原(市)】　神奈川県中北部の市。もと西部の上溝(かみみぞ)を中心とする養蚕地域であったが，1937年(昭和12)以来陸軍の学校・工廠(こうしょう)などの各種施設が設置されて発展した。1954年市制施行。人口42万8,000。相模川東岸の相模原台地上にあり，第2次世界大戦後，横浜線の相模原駅付近に中心市街が興って，1958年首都圏整備法の第1次市街地開発地域に指定され，新しい都市づくりが進んでいる。産業三大別人口比は2：45：53。横浜線沿線に造成された広大な工場地域では金属・電気機器・食品などの工場が操業し，相模原駅の東には旧陸軍の施設を利用したアメリカ軍の広大な補給廠がある。農村部では，米・麦・野菜の栽培のほか，養鶏・養豚が盛んである。南西部を走る小田急電鉄小田原線沿線は住居地域に指定されている。

さがみはらだいち　【相模原台地】　神奈川県中央部，相模川下流左岸に広がる洪積(こうせき)台地。東は境川でくぎられ，南北に細長い。古くは乏水性の台地のため開発が遅れていたが，第2次世界大戦後は畑地灌漑(かんがい)によって近郊農村となり，最近は京浜工業地帯の内陸への拡大に伴って，北の相模原市，中央の大和(やまと)市，南の藤沢市・茅ケ崎(ちがさき)市を中心に，この地域の工業地化・住宅地化が急速に進行している。

さがみわん　【相模湾】　神奈川県の前面に広くゆるやかに開く湾。伊豆(いず)半島基部の真鶴岬(まなづるみさき)と三浦半島南西端の城ケ島とを結ぶ線を湾口とし，その間約40.7km。湾内は深く，特に西部では海岸から1km足らずで水深200mを越え，直ちに1,000mに達する。これは日本海溝(かいこう)をつくる海底深谷の分派が房総半島・大島間から北西へ延長しているからである。東部の三浦半島側では大陸棚(たいりくだな)の幅が比較的広い。三浦市三崎港は遠洋漁業の基地，西部海岸はブリ定置網漁業地で，沿岸一帯の三浦半島・湘南(しょうなん)海岸・真鶴岬には観光地が点在する。〔山口恵一郎〕

さかもと　【坂本】　滋賀県大津市北部，比叡(ひえい)山のふもとから琵琶湖(びわこ)西岸に至る地区。奈良時代末期，最澄(さいちょう)が比叡山寺(のちの延暦(えんりゃく)寺)を創建して以来，その門前町として発展し，やがて諸国からの租米・物資を荷揚げする港湾都市として栄え，室町時代には近江(おうみ)第1の都市となった。織田信長(のぶなが)の比叡山焼き打ちによって町は焼失し，その後明智光秀(あけちみつひで)が坂本城主として善政を敷いたといわれるが，近世はもとの農村にもどった。本町にある日吉(ひえ)大社は延暦寺の鎮守として古くから朝廷の尊崇が厚く，叡山僧徒の強訴に際して都を騒がせた〈神輿(みこし)ふり〉で知られるが，いまは山王祭(4月12～15日)の行事としてそれが行なわれる。湖岸を走る江若鉄道に沿い，京阪(けいはん)電鉄の石山・坂本線の終点で，比叡山中堂へケーブルカーが通ずる。〔浅井得一〕

さかもとはんじろう　【坂本繁二郎】　(1882～1969)　洋画家。久留米(くるめ)市の生まれ。青木繁(しげる)の親友。1902年(明治35)に上京して，不同舎で小山正太郎に師事。太平洋画会展や初期の文展に出品。1914年(大正3)には二科会の創立に参加した。1921年から1924年にかけて滞仏。第2次世界大戦後は無所属となり，芸術院会員に推薦されて辞退，郷里にいて好んでウマやウシ，身辺の静物による瞑想(めいそう)的な幽玄の風致深い作品を描いた。1956年(昭和31)に文化勲章を受けた。〔匠　秀夫〕

さかもとりょうま　【坂本龍馬】　(1835～1867)　幕末の志士。土佐藩郷士の出身。1853年(嘉永6)江戸に遊学して千葉周作に剣を学んだが，ペリー来航など緊迫した時局に刺激されて水戸(みと)藩の攘夷(じょうい)論者と交友し，尊攘派志士として成長した。1861年(文久1)武市瑞山(たけちずいざん)の土佐勤王党に加わったが，土佐藩が尊王攘夷運動を弾圧するに至ったため脱藩して江戸に下り，勝海舟の門にはいって，開明的な政治思想の教えを受け，海軍操練所創立とともに塾頭(じゅくとう)となって航海術を学んだ。文久3年8月18日の政変後幕府の反動化か

ら海軍操練所が閉鎖されると，坂本ら学生は勝の紹介によって薩摩(さつま)藩の西郷隆盛*(たかもり)に引き取られ，同藩の援助のもとに長崎に社中(亀山隊)を組織して海運・貿易に従事した。第１次長州征伐*後薩摩藩は幕府協力から反幕へと転換したため，坂本は文久の政変以来宿敵の関係にあった薩長両藩の接近を図った(→薩長同盟)。その直後寺田屋騒動*で負傷したが，あやうくのがれて薩摩藩の保護を受けて鹿児島に去った。第２次長州征伐では長州藩軍艦を率いて幕艦と交戦，引き続き社中を統率して軍需品売買・輸送業務に従事しながら討幕勢力の結集に努めた。1867年後藤象二郎*の斡旋(あっせん)により脱藩の罪が解かれ，社中を海援隊*と改名し，その隊長となった。そのころしるした〈船中八策〉には大政奉還*や立憲政体・議会制度など新しい日本の政治体制が構想されている。同年10月大政奉還を実現させたが，11月15日京都の仮寓(かぐう)で陸援隊長中岡慎太郎*とともに刺客に襲われ，斬殺(ざんさつ)された。　〔高崎徳次〕

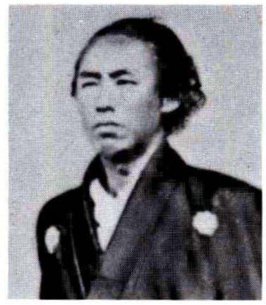
さかや　**【酒屋】**　⇨艶容女舞衣(はですがたおんなまいぎぬ)

さかや　**【酒屋】**　酒の醸造業者。平安時代にはまだこの名は見えないが，鎌倉時代になると京都七条付近を中心に多くの酒屋が密集し，鎌倉でも1252年(建長４)の飢饉(ききん)の際に幕府が酒の販売を禁止して民家の酒壺を破壊したこともあった。南北朝・室町時代を通じてますますその数を増し，15世紀には京都市中に342を数え，そのほか奈良・坂本・兵庫・西宮(にしのみや)・博多など水質のよい都市でも栄えた。醸造酒屋は本酒屋とよばれ，醸造には多額の資本を要するため高利貸しを営む者が多く，土倉*と併称されて室町時代の金融業者の代表的存在であった。そのため，幕府は酒のつぼ数に応じて酒屋役という営業税をかけ，酒屋役は土倉役とともに幕府の主要な財源の一つとなった。江戸時代には酒屋の規模も大きくなり，醸造酒屋のほかに酒問屋も現われた。この時代の酒屋もまた高利貸しを兼ねるのが一般的であり，鴻池(こうのいけ)家*のように酒屋から両替商に転業して豪商となった者もあった。　〔鈴木英雄〕

さかやき　**【月代】**　男子の頭髪を額から中央にかけて半月形にそること。源平の昔からこの風習があったともいうが，公家(くげ)たちが烏帽子(えぼし)や冠をつける場合額に髪の毛が見えないように抜毛をしたのがはじまりである。戦国時代の武士たちは戦場で兜(かぶと)をかぶると，むれたりのぼせたりするため，頭上を丸くそって気を抜いたという説もある。江戸時代の太平の世にも行なわれ，武士以外の一般男子に定着し，明治維新の断髪令まで続いた。

〔橋本すみ子〕

さがら　**【相良(町)】**　静岡県榛原(はいばら)郡に属し，駿河(するが)湾西岸に面する町。人



坂本龍馬



砂　岩　大阪府岬町淡輪産

口26,000。西部を占める牧ノ原台地は茶園として開かれ，中心集落の相良は茶の集散加工が盛んで，江戸時代には田沼氏の城下町であった。また，菅山(すげやま)地区には太平洋岸唯一の油田があったが，現在は稼行(かこう)していない。国道150号線が通る。

さかり　**【盛】**　⇨大船渡市

さがりは　**【下がり葉】**　日本音楽，琴古流尺八本曲の奥伝の一曲。〈下り波〉とも書く。りゅうちょうな旋律をもっており，昔は京都八坂神社の祭礼のときに吹いて流し歩いたといわれる。京都明暗寺門弟松山子から伝承された。なお，根笹派の錦風(きんぷう)流にも同名の曲があり，下がり葉の家紋をもつ家に対する敬意を表わす曲ともいわれる。

さがりゅう　**【嵯峨流】**　いけ花流派の一。京都嵯峨大覚寺における流派で，江戸時代後期に未生斎上田広甫(こうほ)(1790～1861)が嵯峨御所の花務職となって創始した未生御流に始まる。明治維新後，一時中絶するが，昭和初期に未生御流の伝統の上に盛花瓶花(もりばなへいか)と称する嵯峨流を合流させ，嵯峨流と総称して現在に至る。生花*，盛花瓶花および荘厳花(しょうごんばな)(立花*)の特色をもって広く普及している。➔いけ花

さかろ　**【逆櫓】**　⇨ひらがな盛衰記

さかわ　**【佐川(町)】**　高知県高岡郡の町。人口16,000。県の中部，仁淀(によど)川の支流柳瀬(やなぜ)川の流域にあり，佐川盆地の中心地で，高知市から県西部の各地，松山市(愛媛県)へ至る通路の要地であり，土讃(どさん)本線と国鉄バス松山～高知急行線が佐川駅で交差している。主産業は農業であるが，盆地周辺には石灰岩の埋蔵が多く，地質学上著名な鳥ノ巣の石灰産地などもあり，その積み出しも行なわれている。

さかわがわ　**【酒匂川】**　神奈川県西部，静岡県境近くで，富士山の東のふもとの水を集めた鮎沢(あゆさわ)川と丹沢山地西部の流れを集めた河内(かわうち)川が合流，酒匂川地溝帯(ちこうたい)を南下して相模(さがみ)湾に注ぐ。流程50km。上流の丹沢山地は風化が進んで流出する土石量が多く，そのうえ急流であるため荒川として有名で，古くから治水工事が行なわれてきた中で，二宮尊徳*のつくった堤防が松並み木とともに現在も残っている。下流の小田原平野には水田が広く分布し，上流にはミカン畑が増加しつつある。

〔長津一郎〕

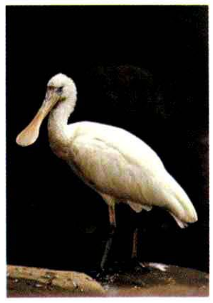
さかん　**【左官】**　壁塗りの職人。泥工(でいこう)・壁大工・塗大工(ぬりだいく)・壁塗(かべぬり)・鏝匠(こてしょう)などともいった。左官の名は平安時代の木工寮の属(さかん)として仕事をしたところから，あるいは大工棟梁(とうりょう)を補佐する左官であったところからきているといわれる。壁塗りははじめ領主の税賦役として行なわれていたが，江戸時代にはいって土蔵造りなどが盛んになるにつれて専門職としての地位が確立された。しかし，大工職ほど確固とした組織をもたず，大工の下請け的存在に終始してきた。今日ではセメント塗り，タイル張りなども行なう。　〔渡辺欣雄〕

さかん　**【主典】**　〈しゅてん〉ともいう。律令(りつりょう)制下，四等官*制における第四等の官の総称。記録・文案の作成，検査，公文の読申を職とする。官庁により用字をことにし，神祇官(じんぎかん)では史，太政官(だじょうかん)では外記・史，八省では録，職・寮で属，司で令史，弾正台(だんじょうだい)で疏，衛府で志，大宰府(だざいふ)で典，国で目などと記した。

さがん　**【砂岩】**　主として砂*の粒子が集まってできている堆積(たいせき)岩*。粒子の淘汰(とうた)の程度と，粒子の鉱物組成とによって，いくつかの種類に分類されるが，それらの間は連続的で境は明瞭(めいりょう)でない。セキエイ砂岩は，ほとんどセキエイの砂粒だけからなりたっているもので，淘汰もよく粒の大きさがそろっている。風化によってセキエイ以外の鉱物がほとんど全部分解しつくされた地域から流れ出て，海岸に近いところでくり返し水流に洗われて，粘土分を洗い流したときにできる砂岩である。ワッケとよばれる砂岩は淘汰が悪く，砂粒のほか10％以上の粘土分を含むものである。固結したものは一般に暗色を呈し，グレーワッケとよばれている。ワッケの仲間は，急激に流されてそのまま厚く堆積したため，淘汰不十分のままになったもので，したがって砂粒もセキエイ砂岩に比べると角ばっていて円摩されていない。砂岩を構成している砂粒は，主として次の３種に分類できる。①セキエイおよびチャート*，②チョウ


アオサギ


クロサギ


モモイロヘラサギ


ササゴイ

サギ

石類，③火山岩・結晶片岩・千枚岩・粘板岩・ケツ岩・細粒砂岩などの細粒岩の破片。セキエイのほかにチョウ石類の砂粒を多量に含む砂岩はアルコーズとよばれている。アルコーズはカコウ岩などの基盤岩類が露出している地域から供給された砕屑(さいせつ)物が堆積したものである。〔片山信夫〕

サガン ［Françoise Sagan］（1935～）フランスの女流小説家。19歳のとき処女作《悲しみよこんにちは》で一躍フランス文壇に登場し，数多くの小説・戯曲・映画シナリオを発表した。実存主義的土壌(どじょう)から生まれた作家で，恋愛のむなしさ，人間の心のうつろいやすさを透明な文体で描いている。

サキ ［Saki］（1870～1916） イギリスの小説家。ビルマに生まれ，ビルマ警察に勤務したのちロンドンに移り，風刺とユーモアに富む切れ味のよい短編を書いた。オー-ヘンリー*と比較されるが，サキの風刺には道徳臭はなく，むしろ幻想と残酷とに満ちている。短編小説集に《クロビス物語》《平和的玩具(がんぐ)》などがある。

さぎ 【鷺】 鳥類・サギ科の総称。極地を除く全世界に広く分布し，ヨシゴイ類とサンカノゴイ類からなる族，トラフサギ族，ゴイサギ族，アオサギ類やシラサギ類などからなる族，南アメリカ大陸の中北部に分布するアガミアサギただ一種からなる族の5族に分類することができるが，これらの族の類縁関係は学者によって意見は異なる。サギ科は60～70種からなり，コウノトリ目中でいちばん種数が多い。この科の諸特徴は①くびが非常に長く，特殊な腱(けん)があり，魚を捕えるとき長いくちばしをもったくびを伸ばし，飛行中はくびをS字形にたたみ縮むこと，②前方の3指の中央指のつめの内側に細かいくし状の突起があり，特に頭部のよごれを落としたり羽毛を整えたりするのに用いること，③胸・腰・股(また)・背などに特殊な粉綿羽区があり，この羽毛の先はほぐれて粉状になり，採食行動でよごれた羽毛にこの粉毛をまぶしつけて清掃すること，などである。いずれも湿地・湖沼・磯(いそ)などに生息し，多くのものが魚類・甲殻(こうかく)類をはじめ種々の水生動物を主食とするが，陸生こん虫類を主食とするものもある。しかしいずれにせよすべてが動


鷺
少年が舞う鷺の乱れ。白一式の装束で，頭に鷺のかぶりものをしている。シテは金春安明


サギゴケ

物食性である。ヨシゴイ類とサンカノゴイ類は，水辺のヨシ原や草生地の地上，あるいはあまり高くない草の茂みにばらばらに営巣する。他の類は樹上に集団営巣し，数種のものが混ざって繁殖することもある。ヨシゴイ類は，その黄かっ色の羽毛とくちばしとくびを上方に伸ばして周囲の草の背景にとけこんだ姿勢をとることにより，外敵を避ける習性がある。サギ類は繁殖に際して雄雌間できわだったディスプレー*を行なうものが多い。わが国には，サギ科の鳥は16種が記録されているが，小笠原(おがさわら)諸島産のオガサワラハシブトゴイは絶滅種である。〔安部直哉〕

さぎ 【鷺】 能の曲名。作者不明。四番目物。醍醐(だいご)天皇が平安京の禁苑(きんえん)神泉苑の池に降りたサギを捕えさせ，そのサギに五位の位を与えたという伝説（《平家物語》などにみえる）による。サギに扮(ふん)したシテが〈鷺乱れ〉という特殊な舞を舞う短い曲で，通例成人前の少年か60歳以上の老人に限りつとめることができる。ただし家元はこの制約を受けない。ツレとして天皇，ワキヅレが数人でその従臣をつとめ，サギを捕える蔵人(くろうど)がワキである。〔長尾一雄〕

さぎごけ 【鷺苔】 双子葉植物・ゴマノハグサ科。ムラサキサギゴケともいう。田のあぜなどに多くみられる多年草。葉は根ぎわに集まってつき，長楕円(ちょうだえん)形で縁に鋸歯(きょし)がある。春から夏にかけて高さ5～10cmの花茎を出し，紅紫色の唇形(しんけい)をした合弁花を数個つける。花の終わるころ，根ぎわより匍匐枝(ほふくし)を伸ばして繁殖する。

さぎざい 【詐欺罪】 人を欺罔(ぎもう)して財物を騙取(へんしゅ)する罪（刑法246条1項，詐欺取得），および人を欺罔して財産上不法の利益を得，または他人に得せしめる罪（同条2項，詐欺利得）。刑は10年以下の懲役，未遂も罰せられる。窃盗・強盗などのように相手方の意思に反して財産を奪取するのでなく，相手方に思い違いをさせて，それに乗じて財物（財産上不法の利益を含む）を受ける点において財産奪取罪と異なる。思い違いを起こさせた手段・方法や相手がどの点に思い違いを起こさせたかを問わない。また，欺罔方法と財物の交付についてて相当因果関係が存在すれば足りるので，欺罔した時期と財物の交付を受けた時期が異なっても成立し，欺罔される者と損害を受ける者が別人でも，あるいは行為者と財物の交付を受ける者が異なっても成立する。貸借名義で金銭をだまし取る場合は，相手が実は貸借でないのに貸借と思い違いをしていれば，たとえ本人が後日金銭を返すつもりであったと申し立てても詐欺罪は成立する。なお，詐欺罪の成立要件は思い違いによるとはいえ，相手の任意の意思に基づくものであるので，当事者の処分行為（財物の受け渡し，債務の免除，代金の支払いなど）が必要であり，また個人の財産を侵害する犯罪であるので，相手方になんらかの損害を与えることを要する。〔井上公耳〕

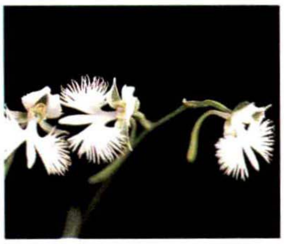
さきしま 【先志摩】 三重県志摩半島の南部，浜島から磯部(いそべ)の東部を通って国崎(くざき)を結ぶ線の南側をいい，先志摩台地とよばれる海抜30～50mの隆起した海食台地からなる。大王崎の西にあたる船越からは西に延びる東西約12km，南北約4kmの半島を形成し，西端には御座岬(ござみさき)があり，台地上に海抜111mの金毘羅(こんぴら)山が突き出している。半島の北側は真珠の養殖で有名な英虞(あご)湾に面し，出入に富んだおぼれ谷の海岸をなすが，南側は熊野灘(くまのなだ)に面して海食崖(かいしょくがい)が発達し，沖には大島・小島などの島々が散在する。一帯は自然美に富み，伊勢(いせ)志摩国立公園*に指定されている。〔味沢成吉〕

さきしましょとう 【先島諸島】 琉球(りゅうきゅう)諸島のうちで，台湾に近い部分をい

い，東の宮古諸島*と西の八重山諸島*に分かれる。

さぎそう　**［鷺草］**　単子葉植物・ラン科の多年草。本州・四国・九州に分布し，日あたりのよい湿地に自生する。球根は球形で走出枝を出し，その先に球茎をつけてふえる。茎は高さ20～40cm。葉は茎の下部に3～5枚つき，広線形で長さ5～10cm。7～8月，茎頂に1～3個の花をつける。花径は3cmほどで，白色。唇弁(しんべん)は基部で3裂し，中裂片は線形，側裂片は扇形で，縁が細かく裂けている。和名は花形がシラサギに似ることによる。　〔横井朝子〕

さきぞめおりもの　**［先染め織物］**　織るまえに繊維*または糸を染色して織ったもの。後(あと)染め織物*に対していう。繊維を異なる色に染めて混合し，紡織して霜降りの効果を出すことが羊毛服地に応用される。異色の糸染めによって縞(しま)織物を，部分的に防染して絣(かすり)織物を，色糸によって模様織物をつくることなどが行なわれる。一般に染色が堅牢(けんろう)である。



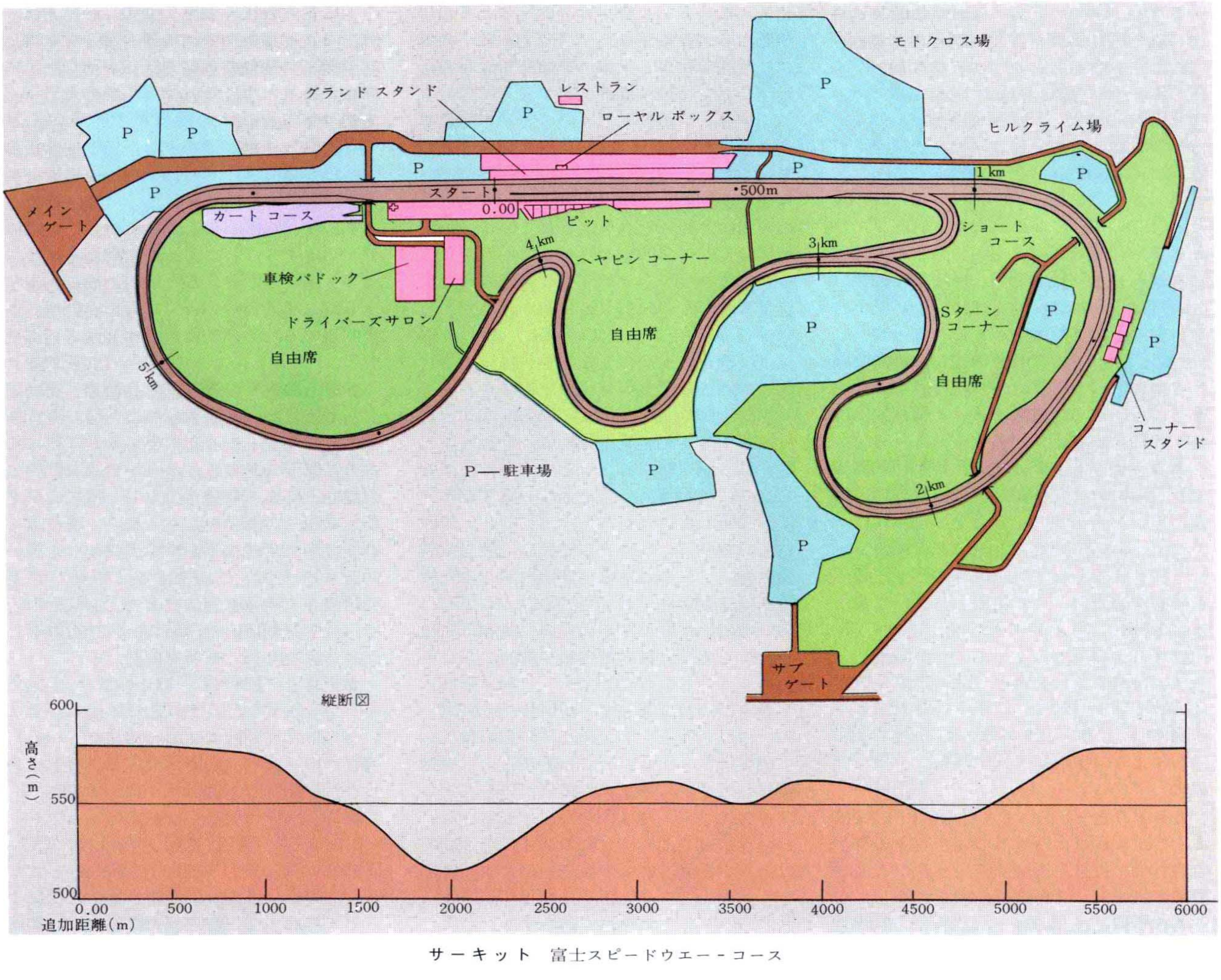
サギソウ

さぎちょう　**［左義長］**　小正月(1月14・15日)の火祭り。古くは宮廷の正月行事であったこの火祭りは，平安時代の多くの記録にみえ，三毬杖・三鞠打と記されている。室町時代以降はしだいに民間でも行なわれるようになり，現在では主として子どもたちの管理で行なわれている。語源は明らかではないが，関東から新潟県の一部にかけて，竹や木の棒を3本組み合わせて3脚としたものを〈さぎっちょ〉ということなどから，かつてはこの火祭りに屋外で臨時の火鉤(かぎ)にかけて食物を調理し，神に供え人も食べたものと思われる。〈とんど・どんど焼・さんくろうやき・さぎちょ・さぎっちょ〉など地方によって呼称が異なり，正月の松飾りを集めて焼く例が多いが，わら小屋をつくり，子どもたちが米やもちを共食し，最後に小屋を焼き払う地方もある。全国的にこの火にあたると病がなおるとか，書きぞめをかざしてまいあがれば書がうまくなるとかいったように，この火を神聖視している。➔鳥追い　〔渡辺欣雄〕

サーキット　［circuit］　自動車競走用の周回路。直線路，ヘアピンカーブなどの複雑なカーブ，坂道を組み合わせて構成され，自動車レースに必要なパドック(自動車の下見場)・ピット(タイヤ交換や給油を行なう場所)・監視塔などの施設のほか，観覧席が設けられている。わが国には鈴鹿(すずか)サーキット(三重県)・富士スピードウエー(静岡県)・東京サーキット(東京都)の公認サーキットがあり，公認レースのほかに一般の走行にも賃貸しをしている。

〔成田武男〕

サーキット-トレーニング　［circuit



サーキット　富士スピードウエー-コース

training〕 スポーツ-トレーニングの一種。1953年にイギリスのリード大学のモーガン-アダムソン教授によって考案された。30種近い運動のうちから適宜に5～6種(短いサーキット)あるいは10～12種(長いサーキット)を選び，一連の運動として連続して行なうもので，電気の回路をつなぐように運動を組み合わせるところからこの名が生まれた。循環機能・筋力・運動神経機能を順次に，しかも全面的に発達させる点で著しい効果があり，1960年のオリンピック-ローマ大会でデンマークのチームがこのトレーニングを採用したために好成績をあげて注目を浴びて以来，基礎体力養成の手段として世界的に行なわれている。　〔伊東春雄〕

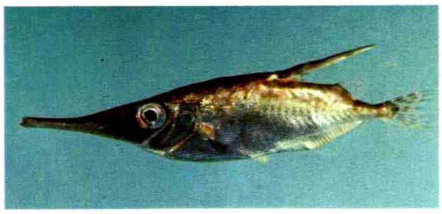
さきてぐみ　【先手組】 江戸幕府の職名。本来は戦陣の先鋒(せんぽう)をつとめる部隊。江戸幕府では，弓組(御先手御弓組)5組と鉄砲組(御先手御鉄砲組)15組に分かれ，若年寄の支配に属し，江戸城蓮池門(はすいけもん)・平川口・梅林坂・紅葉山下(もみじやました)・坂下門を警備し，将軍の出行に従い，また火付け盗賊改めとして市中を巡回した。1632年(寛永9)定められ，1866年(慶応2)廃止。

さきと　【崎戸(町)】 長崎県西彼杵(にしそのぎ)郡にあり，西彼杵半島の西方海上にほぼ東西に並ぶ蠣ノ浦(かきのうら)島・崎戸島・御床島・平島・江ノ島を町域とする。人口3,800。中心の蠣ノ浦島にある崎戸炭鉱は1907年(明治40)に開かれ，埋蔵量は3億tと推定される代表的な海底炭田で，かつては380万t(1966)の年出炭量を誇ったが，最近は182万t(1974)に減少した。なお，坑内ガスによる海水利用の製塩工場がつくられている。

さきとじま　【崎戸島】 長崎県西彼杵(にしそのぎ)郡崎戸町に属する面積0.41km²の小島で，東岸に本郷の集落がある。蠣ノ浦(かきのうら)島とともに崎戸町を構成し，両島を隔てる幅100mの水道には崎戸大橋がかけられている。かつて盛大であった崎戸炭田は蠣ノ浦島にある。

さきとたかしまたんでん　【崎戸高島炭田】 長崎県，西彼杵(にしそのぎ)半島の西方海域に浮かぶ崎戸島・高島などの島々に広がる炭田。高島炭鉱は18世紀の初めに発見され，高カロリーの弱粘結炭を産して，瀬戸内海製塩の燃料として使用されていたが，1868年(慶応4)イギリスの商人グラバーと佐賀藩の共同出資によって，わが国最初の西洋式採炭が行なわれた。崎戸炭鉱の開発は1907年(明治40)で，1966年(昭和41)には年間380万tの産出をみたが，近年の石炭不況により，出炭量・従業員数とも著しく減少している。　〔竹内淳彦〕

さきどりとっけん　【先取特権】 法律によって定められた特別な債権を有する者が，債務者の一般財産または特定財産から他の債権者に優先して自己の債権を弁済してもらえる権利(民法303条)。法律上，当然生ずる権利で，質権や抵当権のように契約に



サギフエ

よって生ずるものではない。また債権の直接的な効力ではなく，債権者の債務者の財産に対してなりたつ担保物権である。一般先取特権と特別先取特権との2種類がある。①一般先取特権：共益費用，雇い人の給料，葬式の費用，日用品供給費用の原因から生じた4種類の債権を有する者に認められ，担保の目的物となるのは債務者の全財産である(民法306条)。②特別先取特権：さらに動産の先取特権と不動産の先取特権に分かれる。前者は不動産の賃貸借費用，旅館の宿泊料，旅客・荷物の運送費，公務員の職務上の賠償費，動産の保存費用，動産の売買代金，種苗・肥料の代金，農工業の労賃の原因から生じた8種類の債権を有する者に認められ，担保の目的物となるのは債務者の特定動産である(民法311条)。後者は不動産の保存・工事・売買費用の原因から生じた3種類の債権を有する者に認められ，担保の目的物となるのは特定不動産である(民法325条)。民法は以上の先取特権を規定しているが，自動車損害賠償保障法・商法・保険業法・国税徴収法・地方税法などの法律にもそれぞれ規定されている。先取特権は担保の目的物の代わりのものの上にも優先権を行使しうるが(先取特権の物上代位性)，そのものの引き渡し前に差し押えしなければならない(民法304条)。また，先取特権は債権の全額の支払いを受けるまで目的物を競売してその代金を充当することもできる(民法305条)。これを先取特権の不可分性という。動産先取特権は，動産が第三取得者に引き渡されるとその上には及ばなくなり，不動産先取特権も，一定時期までに登記をしないと対抗力を生じない。先取特権の順位は，特別先取特権は一般先取特権に優先し，それぞれ相互間における先取特権は法定されており(民法329～331条)，同一順位の先取特権が同一の目的物に多数競合する場合には各債権額の割合に応じて弁済を受ける(民法332条)。　〔黒木三郎〕

さきひづけこぎって　【先日付小切手】 先付小切手ともいう。振り出しの日付として現実に振り出した日よりもあとの日を記載した小切手。通常は記載された振り出し日でなければ，支払いのために呈示しないという約束で振り出されるので，短期間ではあるが手形と同様の役目を果たすことになる。もっとも小切手法は，小切手を支払いの道具としての性格を徹底するために，振り出しの日付として記載した日よりまえに呈示された小切手は，〈呈示の日に支払うべきものとする〉としているので(小切手法28条)，振り出し日まえの呈示も小切手法上は有効である。➔小切手　〔松本治雄〕

さぎふえ　【鷺笛】 硬骨魚類・サギフエ科。全長20cmほどになる海産魚で，体は強く側扁(そくへん)し，長楕円(ちょうだえん)形。吻(ふん)は長く突き出し，管状。小さなうろこでおおわれ，感触はざらざらする。全身赤色。本州の中部・南部のやや深いところに分布する。利用価値はほとんどない。

さぎむすめ　【鷺娘】 長唄(ながうた)・日本舞踊の曲名。本名題《柳雛諸鳥囀(やなぎにひなしょちょうのさえずり)》という四変化の一つ(➔変化物)。富士田吉次・杵屋(きねや)忠次郎作曲。1762年(宝暦12)初演。雪景色の中でシラサギを象徴する白無垢(むく)姿の娘は，恋心を幽艶に訴える。花やかな娘気分に変わって踊ったのち，地獄の呵責(かしゃく)に苦しむせめとなる。引き抜きの効果が大きい。

さきものかわせ　【先物為替】 あらかじめ売買の約定がなされ，それから一定期間後に受け渡しが実行される外国為替。売買されるべき外国為替に関して，ドルとかポンドとかの外貨の種類・金額，その売買に適用される為替相場，外国為替の受け渡しが実際に行なわれる期間などがあらかじめ決定される。これを先物為替予約という。先物為替取引では先物為替予約日における先物為替相場が適用され，先物期間後の受け渡し実行日に直物為替相場や先物為替相場がどのように変動していても，それとはまったく関係がない。したがって先物為替を利用することによって直物為替に伴う為替リスクを回避することができる。また国際的な短期貸付の場合にも，為替リスクを回避するために先物為替が盛んに利用される。　〔安井孝治〕

さきものとりひき　【先物取引】 商品取引所で行なわれる取引方法の一種。売買契約の成立をもって直ちに現品を受け渡しする実物取引と異なり，あらかじめ取引商品の銘柄・価格・数量を決めて，将来の一定期日に現品の受け渡しを行ない，またはその期日内で反対売買(最初が売りなら買いに回る)を行なって決済することにして売買約束をする取引方法である。株式取引所で行なう定期取引は，事実上，先物取引と同じ意味をもつ。➔清算取引

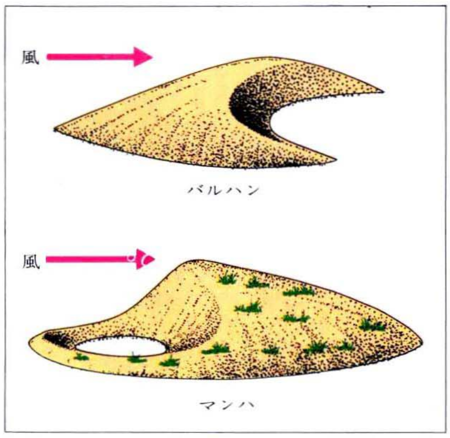
さきもり　【防人】 古代において北九州の防衛を任とした兵士。起源は明らかでないが，663年(天智(てんち)2)白村江(はくすきのえ)の戦いはその一大画期となった。令制(りょうせい)では諸国の軍団兵士中の一定数を3年交替で九州へ派遣する規定であったが，730年(天平2)東国(遠江(とおとうみ)〔静岡県〕・信濃(しなの)〔長野県〕以東)に限るようになり，その後，幾度かの変遷を経て10世紀ごろまで存続した。防人は大宰府(だざいふ)の防人司の管理下に自給自足の生活をたてまえ

として国防の任についたが，期限どおりに交替することは少なく，留守(るす)家族にとっても重い負担となった。母を殺してこの喪を利用することにより，防人の義務をのがれようとした話もある。《万葉集》には防人の歌が多く載せられているが，大部分は肉親・愛人との別離の苦痛をよんだものである。〔籏　弘道〕

さきもりうた　【防人歌】　防人*およびその家族の和歌。《万葉集*》巻20に，755年(天平勝宝7)の歌を中心に93首，東歌*(あずまうた)の中に6首が収められ，素朴(そぼく)な中に夫婦・親子の別離の情がたたえられていて，《万葉集》の和歌の一特色を示す。

さきやま　【先山】　鉱山で共同作業の指揮をとり，先頭に立って作業をする熟練労働者。先山を助けて補助的作業を行なう未熟練労働者を後山(あとやま)という。

さきゅう　【砂丘】　海岸や砂漠(さばく)で，風の働きによって砂が堆積(たいせき)してできた丘。世界各地に広く分布し，陸地面積の7％を占めるといわれる。砂丘の形成には，砂が十分にあること，地表が草木でおおわれずに裸出していること，砂がよく乾燥し卓越風の強いところで，そのうえなんらかの障壁があって砂の堆積が容易なことなどが条件とされ，次のような場合があげられる。①川が河口に運搬してきた砂を沿岸流が運び，さらに磯波(いそなみ)によって海岸に打ち上げられ，そこに卓越風が働いて海岸砂丘をつくる。わが国の日本海沿岸に多く，高さ60mに及ぶものもある。②自然堤防*帯において，川によって堆積された砂が，さらに風によって運ばれ，河畔砂丘をつくる。利根(とね)川の沿岸などにみられる。③乾燥地域の岩石の風化作用が盛んなところで，風が中粒の砂を運んでつくったもの。砂漠の砂丘がこれにあたる。④氷河によって削剝(さくはく)された岩屑(がんせつ)が特に冬季の卓越風によって運ばれてつくる砂丘。ドイツやポーランドの内陸には地質時代に発達した大陸氷河の末端に形成された砂丘がある。また，砂丘の形はさまざまであるが，基本的には次のように分けられる。①横列砂丘：卓越風の方向に直角に走るもの。海岸に平行して走る砂丘の多くがこれにあたる。②縦列砂丘：卓越風の方向に平行して走るもの。③放物線状砂丘：横列砂丘と縦列砂丘の結合したもの。④バルハン型砂丘：馬蹄(ばてい)形の砂丘で，凸面(とつめん)を卓越風の風上に向け傾斜がゆるやかであるが，風下側の凹面(おうめん)が急傾斜しているもの。砂漠に多い。⑤マンハ型砂丘：なんらかの原因によって砂の移動が止んで，固定した砂丘の風上側が削られて凹地ができたもの。モンゴルなどに多くみられる。このほか，固定した砂丘の頂が風によって削られ穴のあいた形状のウインドムルデ砂丘，固定した砂丘の上を新しい砂丘や火山灰がおおって古い砂丘が保存された化石砂丘(埋積砂丘)，風による堆積が進行中で風下へ少しずつ移動している移動砂丘などがある。〔桑原正見〕



砂　丘



砂　金　北海道問寒別川産

サーキュレーション　[circulation]　特定の新聞または雑誌の発行部数・販売部数。サーキュレーションに関する信頼すべきデータはABC(Audit Bureau of Circulationの略称，発行部数公査機関)によって定期的に発表されており，わが国では1958年(昭和33)に設立された財団法人日本ABC協会によって公表されている。サーキュレーションに類似した用語としてカバレッジがあるが，これは特定のテレビ局またはラジオ局の放送を視聴できる個人・世帯数を意味している。通常，それは視聴可能地域のテレビ・ラジオのセット所有台数で表わされる。近年，特に広告主の立場から，広告媒体のいっそう正確な普及・伝達の度合いを把握(はあく)しようとする努力がなされている。サーキュレーションに平均回読率を乗じたり，特定番組に実際にスイッチが入れられている総セット台数を重視したりする傾向がそれである。〔清水　晶〕

さぎょうきょくせん　【作業曲線】　精神的・肉体的な作業状況を時間的推移にしたがって示すグラフ曲線。作業条件，作業環境の適否，疲労度などを判定する手がかりとするもので，横軸に時間を，縦軸には作業量・錯誤量・災害発生頻数(ひんすう)などをとる。作業曲線の形は作業の種類，個人の諸特性により異なる。限られた筋肉のみを使用する作業と，使用する筋肉群を自由に選択できる作業とでは異なり，精神作業の場合はさらに異なる。意志力や情緒特性も作業曲線の形を変える。クレペリン検査(→内田クレペリン精神検査)はこの関係を利用し，作業曲線の形からパーソナリティーの特性を判定する。〔金子秀彬〕

さぎょうそしき　【作業組織】　作業者が担当する作業職能を遂行するための組織形態。一般に次の四つに分類できる。①万能職場作業組織：多品種の製品を生産するために汎用(はんよう)機械ないし万能機械を配置する。熟練工を要し，多種少量生産と受注生産に適する。②機種別職場作業組織：旋盤工場・フライス盤工場など。機械の種類別に職場を配置する。作業指導・監督に有利で，製品変更や機械故障などに弾力性がある。③品種別職場作業組織：同一職場で類似性の高い製品を生産する組織で，少種多量生産に適する。④流れ作業組織：機械を加工工程の順序に連続的に配置する。コンベアシステム*であり，大量生産に適合する。〔清水　晶〕

さぎょうりょうほう　【作業療法】　労働によって精神的・肉体的な機能回復を図り，行動意欲の蘇生(そせい)，環境への適応などを目的として行なわれる精神療法*の一。精神障害者・身体障害者・結核患者などの医療分野のほか，犯罪者の矯正(きょうせい)などにも活用される。精神科領域においては，入院患者の70％を占める内因性精神病*に特に効果があるとされ，最近は医師・看護婦・作業療法士のチームワークによって積極的に行なわれている。作業種目には事務的作業・機械的作業(清掃・洗たく)・生産的作業(裁縫・器具部品加工・農耕・畜産・園芸)・創造的作業(手芸・音楽・絵画)がある。なお，作業を広義に解釈して，生活訓練やレクリエーションのような日常の全活動を含める場合もある。〔松田健身〕

さきん　【砂金】　金は天然にはシゼンキン*として産することが多く，それは風化作用によってもほとんど変化しない。また，比重が大きいので，水流によって運搬されるときには，金粒よりはるかに大きな砂粒や礫(れき)といっしょに堆積(たいせき)して砂鉱床*を形成する。この砂鉱床として産する金粒のことを砂金という。小粒の砂金は一般に丸みをおびた扁平(へんぺい)な形をしているが，ときには結晶形を示すものもある。大きな塊は塊金とよんでいるが，日本で最大のものは北海道北見の枝幸(えさし)砂金地から産した塊金で，重量769gに達した。外国では，さらに大きなものも珍しくなく，オーストラリアからは80kgを越すものを産したことがある。砂金は特別に大きな設備を用いないでも採取できるので，未開地開拓の先駆としての役割を果たすことが少なくない。大規模な砂金採掘は，主として数百〜数千トンの採金船を使って行なわれてい

る。〔片山信夫〕

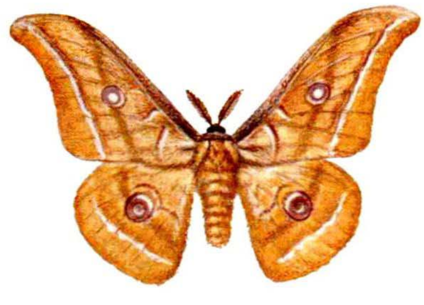
さく【朔】月と太陽の黄経*が等しくなるときをいう。➔新月

さく【柵】古代の城郭施設。〈き〉ともよばれる。木材を列立して一定地域を区画し，城郭化したものである。大化改新*後，政府は東北・西南地方の辺境にあいついで柵を設けた。信濃(しなの)川流域に設けられた渟足柵*(ぬたりのき)・磐舟柵*(いわふねのき)は，658年(斉明4)蝦夷*(えぞ)征討の前進基地となった。現在，古代の柵名と一致した遺跡はまだ発見されていないが，考古学調査が行なわれた柵跡として払田(ほった)(秋田県)・城輪(きのわ)(山形県)の遺跡が知られている。調査の結果，両柵ともスギ・クリ・ナラなどの巨材を角柱にして並べ立てて構築されていたことが知られる。古代末期，東北地方の豪族安倍(あべ)氏が北上川流域に厨川柵*(くりやがわのき)のほか11の柵を置いていたが，その柵の多くは集落化した城郭となっていたようである。〔高崎徳次〕

さく【佐久(市)】長野県東部の市。江戸時代に中山道(なかせんどう)の宿場町，内藤氏一万五千石の城下町であった岩村田を中心集落とする北佐久郡の浅間町と東村，南佐久郡の野沢町・中込町が合併して，1961年(昭和36)に市制施行，人口57,000。市域は佐久盆地*のほぼ中央部にあり，北部は浅間山の噴出堆積地(たいせきち)，南部は千曲(ちくま)川流域の沖積地(ちゅうせきち)野沢平に位置する。市役所は市域の中心にあたる北中込の桑園内に建設され，周辺に新しい市街地が形成されている。産業三大別人口比は27：36：37。野沢平には水田が多く，コイの養殖が盛んで，周辺山麓部(さんろくぶ)では最近，高冷地野菜の栽培が行なわれる。小海線，国道141号線・142号線が通じ，東郊に内山峡・荒船山・神津(こうづ)牧場などの行楽地がある。

さくイオン【錯イオン】⇨錯体

さくい・ふさくい【作為・不作為】行為者が積極的な行動によることを作為といい，その行動によって成立する犯罪を作為犯という。殺人罪・窃盗罪などがこれである。作為犯は，禁止規範に違反して行為した場合をいい，故意*によってなされる場合(故意犯)と過失*によってなされる場合(過失犯)がある。不作為とは，なんらの行動を示さないことをいい，法律上ある行為を期待されている者の不作為によって人の生命・身体・財産が害される結果が発生した場合，不作為犯としてその責を負わされる。不作為犯には，はじめから不作為の形式で決められている場合(純正不作為犯)と，作為の形式で決められている犯罪構成要件が不作為によって実現される場合(不純正不作為犯)とがある。現在の刑法では，前者には不解散罪*(刑法107条)・不退去罪*(同130条)・変死者密葬罪(同192条)・不保護罪(同218条1項)がある。後者は，理論上すべての犯罪について成立しうるが，行為者に結果の生ずるのを防止すべき法的義務(作為義務)が必要である。その根拠は，法に根拠がある場合はもちろん，契約による場合も，慣習上または条理上認められた場合であってもさしつかえない。〔井上公耳〕



サクサン

さくえん【錯塩】⇨錯体

さくかごうぶつ【錯化合物】⇨錯体

さくがんき【削岩機】岩石を火薬爆発によって破壊するために，火薬を充塡(じゅうてん)する穴をあける機械。柔らかい岩盤や石炭などには削られたものが廃棄されるように，回転軸にらせん溝(こう)のついたオーガドリルを，かたい岩盤や金属鉱床には岩石を打撃するロッドを用いる。動力源としては圧縮空気・電気・ガソリン機関などがあるが，主として圧縮空気を用い，毎分1,500〜2,000回の衝撃を加え，ロッドもしくはロッドの先端につけてあるビットで穴をあける。ロッドは各打撃ごとに少しずつ回転し，その先端から水または空気を吹き出して冷却・そうじの役目をする。ロッドは丸鋼・六角棒の高炭素鋼でつくられ，ビットには一文字・十文字・星形がある。あけられる穴はおよそ径2〜5cm，深さ100〜300cmで，機種には，上向き・水平・下掘り用などがあり，最近ではドリルジャンボとよばれる移動式台車の上に多数の削岩機を装備したものがある。〔神山幸弘〕

さくご【錯誤】意思表示*において，表示行為によって推断される意思と表意者の内心に存在する意思とが食い違うことを表意者が知らない場合をいい，意思の欠缺(けんけつ)の一態様である。表意者がその食い違いを知らない点で，心裡(しんり)留保*・虚偽表示*と区別される。法律行為*の要素に関する錯誤があった場合，表意者に重大な過失がないかぎり，法律行為は無効となる(民法95条)。法律行為の要素とは，法律行為の重要な部分で，錯誤がなかったならばだれでもその意思表示をしなかったであろうと考えられる程度を要する。錯誤には次のようなものがある。①内容の錯誤：保証*債務を連帯債務*と同じだと考えて連帯保証人としての署名捺印(なついん)をした場合など。②表示上の錯誤：5,000円と書くべきところを50,000円と書いた場合など。③動機の錯誤：鉄道が敷設されると思って土地を買い占めたが実際には敷設されなかった場合など。④伝達の錯誤：発信人の述べたことを電報局が打ち違え，まちがったことが受信人に伝えられた場合など。〔黒木三郎〕

さくさん【酢酸】CH_3COOH 代表的な脂肪酸の一つで，刺激臭のある無色の液体。純粋のものは冬季に凍結するため，氷酢酸ともいわれる。酒類の酢酸発酵時に生成し，水溶液は弱酸性を呈する。食酢には3〜5％含まれる。また，酢酸エステル*として芳香を有する植物中に見いだされる。生物学的には糖類・アミノ酸・脂肪などの代謝によって生成し，種々の代謝反応系に関与している重要な化合物である。脂肪酸・ステロイド類，あるいはプリン誘導体の生合成にも関与している。用途はきわめて広範囲にわたっており，セルロイド・酢酸ビニル・無水酢酸・アセトン・酢酸エステル類の製造原料に，無機塩類は湿布剤・媒染剤など医薬品製造原料に，あるいは調味料などとして使われている。〔石戸良治・荒木洋之助〕

さくさん【柞蚕】こん虫類・鱗翅(りんし)目・ヤママユガ科。大形のガで，翅(はね)を広げた長さ115〜140mm，体長30〜35mm。体・翅ともに黄色ないし暗紫かっ色で，翅には白色の斑紋(はんもん)がある。幼虫は4回の脱皮ののち，葉を巻いてその中にかっ色の繭をつくってさなぎとなり，越冬する。中国・東シベリアのアムール川流域地方原産であるが，繭から上質の絹糸がとれるため，日本にも明治時代に輸入され，現在でも近縁のヤママユ*とともに長野県有明地方で飼育されている。2化性で，飼料植物にはクヌギ・コナラ・ミズナラ・カシワ・キヌヤナギなどがあり，野外で放養される。繭の色は，飼料植物の違いに応じて異なる。サクサン糸はヤママユ糸と同じく強く，しかも安価で，絹紬(けんちゅう)の原料として用いられる。カイコからとれる絹糸に似て光沢があり，水に入れると収縮するが，肩掛類の材料として珍重され，そのほか絹糸・麻糸・綿糸などとの混織や羊毛の代用として利用される。ヤママユとの間に一代雑種をつくることができ，形態も非常に似ているが，前翅の一部や触角などで区別できる。〔鈴木邦雄〕

さくさんアミル【酢酸アミル】$CH_3CO \cdot OC_5H_{11}$ 酢酸とアミルアルコールが脱水縮合したエステルで，C_5H_{11}部の構造により8種類の異性体がある。その一つである酢酸イソアミルはリンゴの香気成分として見いだされている。人工果実エッセンスとしてナシの香料に用いられるほか，ニトロセルロースなど写真フィルム製造用の溶剤にされる。

さくさんエステル【酢酸エステル】酢酸とアルコールとから生成するエステルの総称。硫酸のような強い無機酸の存在下で

酢酸とアルコールを加熱するか，塩化アセチルまたは無水酢酸をアルコールに作用させて得られる。一般に芳香を有する無色・中性の液体で，人工果実エッセンスに用いられるものが多く，酢酸アミルはナシ，酢酸エチルはパイナップル，酢酸プロピルは西洋ナシの香気成分である。

さくさんエチル　【酢酸エチル】　$CH_3CO \cdot OC_2H_5$　酢酸とエチルアルコールが脱水縮合したエステルで，透明な揮発性・可燃性液体である。特有の果実香気を有し，人工果実エッセンスとしてパイナップルの香料に使われるほか，ニトロセルロース・ワニス・ラッカーの溶剤や医用に用いる。

さくさんきん　【酢酸菌】　アセトバクター属の細菌。天然にはふつう酵母類とともに果実・酒類のような糖やアルコールに富んだ天然物中に広く見いだされ，酸素の存在のもとに糖やアルコールを直接酸化して酢酸を生ずる。このため，発酵工業では酢酸の製造に用いられる。酒が古くなって酢になるのはこの菌の作用である。

さくさんせんい　【酢酸繊維】　⇨アセテート繊維

さくさんせんいそ　【酢酸繊維素】　セルロースに酢酸の化合したもの。1865年ドイツの生化学者シュッツェンベルガーがセルロースと無水酢酸とで創成したのに始まり，これをアセトンに溶解する発明によってアセテート繊維*を製造する方法へ展開した。

さくさんなまり　【酢酸鉛】　酢酸第一鉛 $Pb(CH_3COO)_2$ と酢酸第二鉛 $Pb(CH_3COO)_4$ の2種類があるが，一般には前者をさす。①酢酸第一鉛：酸化鉛（PbO）を暖かい希酢酸にとかして冷却すると，3水和物（鉛糖）として得られる。水溶液は渋い甘味を有する。塩基性炭酸鉛・クロム酸鉛などの鉛塩の製造原料，鉛めっき用，染色用に使われている。また医薬として収斂（しゅうれん）薬に使われている。毒性があるので長期使用は注意を必要とする。②酢酸第二鉛：四酢酸鉛ともいう。四三酸化鉛（Pb_3O_4）に暖かい氷酢酸を加えてとかし，冷却すると得られる。弱い酸化作用を有し，グリコールを酸化開裂してアルデヒドを与える。

〔石戸良治・荒木洋之助〕

さくさんビニルじゅし　【酢酸ビニル樹脂】　酢酸ビニルを重合*して得られるポリ酢酸ビニルを主成分とする合成樹脂。

$$n \cdot CH_2{=}\underset{\displaystyle OCOCH_3}{\underset{|}{CH}} \longrightarrow [-CH_2-\underset{\displaystyle OCOCH_3}{\underset{|}{CH}}-]_n$$

酢酸ビニル　　　ポリ酢酸ビニル

典型的な熱可塑性樹脂*で，可塑性を示すために必要な最低の温度（軟化点）が低い。工業的には，通常，酢酸ビニルの乳化重合によってラテックス*（ポリ酢酸ビニルエマルジョン）として生産される。繊維・紙の樹脂加工，塗料*・接着剤*などに使用され，軟化点が低く水に不溶性なのでチューインガムのベースに利用される。なお，ポリ酢酸ビニルはポリビニルホルマール繊維（商品名ビニロン*）の原料としても重要である。➔プラスチック

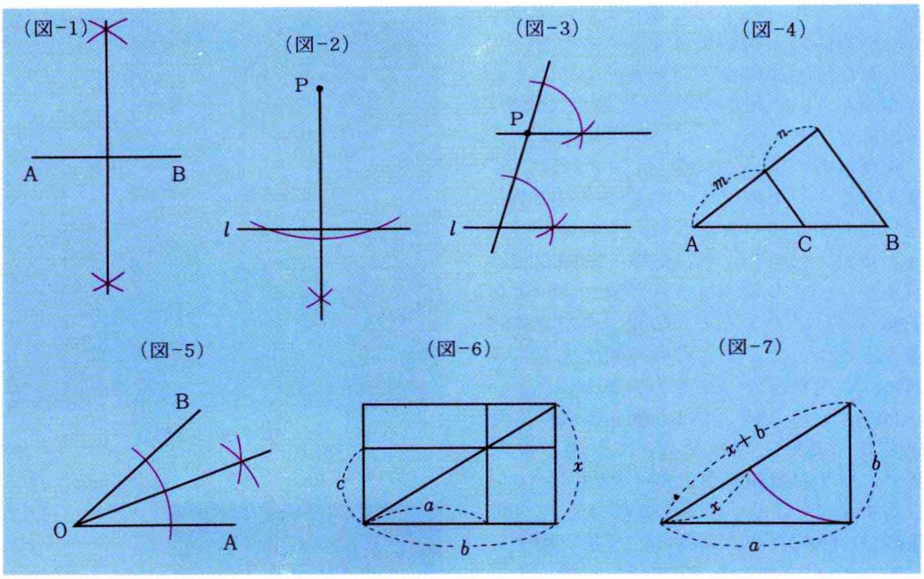
〔伊藤　卓〕

さくし　【錯視】　錯覚のうち特に視覚的なものをいう。錯視には，①平面図形の幾何学的錯視（たとえば，等線分がそれに付属した矢羽によって違った長さに見える），②同一図形で2種の見え方が交替して起こる反転錯視（たとえば，白い風車に見えたり，黒い風車に見えたりする），③月の錯視（水平線に近い月が中天の月より大きく見える），④一般に，同化*・対比*現象などといわれている錯視などがある。➔錯覚

さくしゅ　【搾取】　生産手段の所有関係を基礎として，所有者が非所有者の労働の生産物を無償で取得すること。原始共同体制度の下では，生産手段の私有もなく，生産力もきわめて低かったので，剰余生産物の生ずる余地もなく搾取は存在しなかったが，生産力が発達するにつれて剰余生産物が生じ，その利用・処分・支配をめぐって財産の私有と所有の不平等が発生することから搾取関係が生じた。階級社会はこうした搾取関係を基軸として成立している社会であり，奴隷制・封建制・資本制社会はそれぞれ階級社会の展開とそこでの搾取形態を特徴づけている。奴隷制は，生産手段の所有者が人間をも生産手段と同一視し，これを所有することによって無償労働を収取する搾取形態である。封建制は，土地の領有および所有関係が同時に身分的な支配・隷従関係として現われる，土地所有関係を通じての封建地代*収取の搾取形態である。さらに資本主義は，商品化された賃労働力の売買関係を通じた剰余価値*の取得という形態の搾取にほかならない。労働生産物のうち，直接生産者の取り分と搾取者の取り分との割合を搾取率といい，資本制社会では，可変資本に対する剰余価値の割合＝剰余価値率をもって示される。なお，内職や家内労働・請負労働における問屋や請負業者による加工賃の不当な引き下げやピンはね，中間商品による流通費の不当な引き上げなどは中間搾取とよばれている。

〔常盤政治〕

さくじょうそしき　【柵状組織】　高等植物の葉の組織の一つで，海綿状組織*とともに葉肉を構成する。葉の表面表皮の直下にあって，葉面に直角な方向に細長い細胞がほとんど細胞間隙（かんげき）をつくらないように並び，細胞には多量の葉緑体が含まれている。



作　図

さくず　【作図】　与えられた条件に適する図形をつくること。ある線分が与えられたとき，それを1辺とする正方形は，目盛りのついたものさしと分度器を用いても描けるし，あるいは，定規とコンパスだけを用いても描くことができる。特に，2点を結ぶ直線を引くだけの道具としての定規と，円を描くだけの道具としてのコンパスの2個の器具のみを用いて行なう作図を〈ユークリッドの作図〉といい，単に作図といえばふつうこれをさす。ユークリッドの作図では，与えられた線分の垂直2等分線を引く（図①），与えられた点からある直線に垂線をおろす（図②），与えられた点を通ってある直線に平行な直線を引く（図③），ある線分を一定比に分ける点を求める（図④），与えられた角の2等分線を引く（図⑤），などの基本的なものをはじめとして，作図によって，一次方程式 $ax=bc$ の解を求めること（図⑥），二次方程式 $x^2+2bx=a^2$ すなわち $(x+b)^2=a^2+b^2$ の解を求めること（図⑦）などもできる。その反面，ユークリッドの作図では不可能なものもある。最も有名な作図不能問題としては，任意の角を3等分す

ること，与えられた立方体の２倍の体積をもつ立方体の１辺の長さを求めること，与えられた円と等積な正方形をつくることの三つがあり，これを〈ギリシアの三大問題〉といっている。〔菊池兵一〕

ザクスカ［zakuska］ロシア料理の前菜。帝政ロシア時代に，おもに皇室を中心とした上流階級で発達した。この食前料理は，ロシアの特別に寒い気候と密接な関係がある。つまり寒中をやって来た訪問者を，正餐(せいさん)のできるまでの間，隣室で食前酒でもてなして，冷えた体を暖めてもらう際に，この料理をつまみとして出したというわけである。現在では，献立の最初に供せられ，種類も豊富になっている。キャビア，サケの薫製，魚のパイ料理，ニシンのオイルづけ，ソーセージのカナッペ，種種のつけ物などが代表的。〔泉　敬子〕

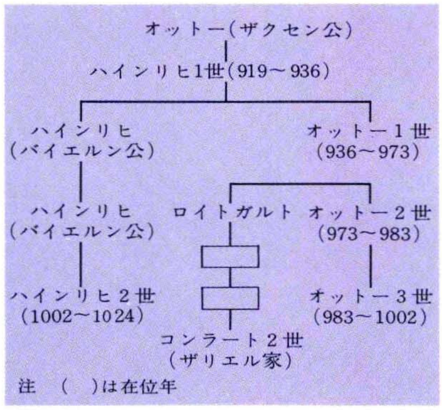
さくせい【鑿井】深井戸の一種。その掘り方には種々あるが，だいたい三つの方法に分けられる。①ロータリー式鑿井法：ドリルパイプの下端にきりをつけ，これに荷重をかけて回転させると同時に，きりの先端からたえず水を噴射させ，掘りくずを地上に排出させながら地層にもみこんでいく工法である。小規模のものに，主として土質調査用に使用されるボーリングマシン式が，大規模のものに，石油・天然ガスの掘削に用いられる普通ロータリー式がある。②パーカッション式鑿井法：おもに揚水用の井戸の掘削に用いられる工法で，ビーム式・クランク式・車載式がある。わが国に古来から伝わる上総(かずさ)掘り*はほとんどその姿を消している。③コンビネーション式鑿井法：ロータリー式とパーカッション式を併用した掘削法であるが，わが国では現在数台使用されているにすぎない。

〔森村武雄〕

さくせいきかい【鑿井機械】天然ガス・石油などの採掘や地下水の採水のために用いられる30m以上の深井戸を掘る機械。天然ガス・石油などの採掘にはロータリー掘りが，地下水に対しては綱掘りが用いられる。ロータリー掘り機械は鉄管を回転する装置，鉄管を巻き上げる装置および泥水(でいすい)ポンプより構成され，鉄管を回転して地層を破壊しながら井戸を掘り，掘削された土砂は循環する圧力泥水の力で鉄管と地盤との間から地上へ押し上げられる。綱掘りは地層に打撃を与える装置，巻き上げる装置が主要な機械で，ワイヤーロープにきりまたはサンドポンプを取りつけ，これを上下して地層に打撃を与えて破壊するもので，下降につれて管を押し込み，掘削が終了すると取水用ストレーナーつきの管を挿入(そうにゅう)し，周囲の管を取り除く。日本で行なわれていた上総掘り*はワイヤーロープの代わりに竹をつなぎ合わせたものである。

〔神山　一〕

さくせん【作戦】広義には，軍隊が与えられた任務達成のために遂行するあらゆる軍事行動をいう。狭義には，ある目的を達成するまでの一連の戦闘行動をいい，これに必要な補給活動を含む。かつての日本陸軍では，通常，師団以上の部隊のある期間にわたる敵対行動を総称した。陸戦での用語には，主作戦(主目的達成にあてる作戦)，支作戦(副目的にあてる他の作戦)，攻勢作戦(敵戦力の撃破や駆逐，あるいは地域の獲得や回復などの，ある特定の戦略目的達成のために実施する積極的な軍事行動)，防勢作戦(敵の攻勢に対して，地域または戦力の保持あるいは時間的余裕を獲得することなど，ある特定の戦略的目的達成のために実施する受動的な軍事行動)などがある。➔連合作戦　➔統合作戦〔森田　哲〕



ザクセン朝



サクソフォーン

ザクセン［Sachsen］ドイツ南東部の地方名で，ナチス時代はドレスデンを州都とする１州であった。英語ではサクソニー。西から南にかけて走るチューリンゲンの森，エルツ山脈のほかはゆるやかな平地で，エルベ川・ムルデ川・シュプレー川などが貫流している。気候温暖で穀物・果実などの農産に恵まれ，また石炭・鉄・銀・銅・ウランなどの地下資源の埋蔵もあり，工業地帯を形成している。繊維・機械・陶磁・ガラス・光学器具・化学工業のほか，楽器・書籍・たばこなどの製造が盛んである。中心都市は，ドレスデン・ライプチヒ・ツビカウ・カールマルクスシュタット(旧名ケムニッツ)で，ライプチヒ・ドレスデンは古くからドイツ学芸の一中心である。ザクセンという地名は，この地方が古くはゲルマンのザクセン部族の居住地であったことによる。その後フランク王国下にはいり，14世紀半ばからザクセン選帝侯国になる。1815年のウィーン会議でその北半をプロシアにさき，第２次世界大戦後ソ連の占領地区となり，1949年に東ドイツの一州となった。〔野間三郎〕

ザクセンシュピーゲル［Sachsenspiegel］ドイツ中世の代表的法律書。13世紀に下級貴族アイケ-フォン-レプゴーが編纂(へんさん)した。ザクセンの部族法を映し出すという意味で，シュピーゲル(鏡)の名がつけられた。序文のほか一般法(ラント法)と封建法(レーン法)とからなり，他の法律書の模範となった。

ザクセンちょう【ザクセン朝】神聖ローマ帝国*最初の王朝。919～1024年。919年，ザクセン家のハインリヒ１世*がコンラート１世*の指名を受けてドイツ王に選ばれたのに始まる。２代めのオットー１世*は統一を強化するとともに対外遠征を行ない，962年，教皇から西ローマ帝国の復興を意味する帝冠を授けられた。これが神聖ローマ帝国の起源となった。ハインリヒ２世*のあと，帝位はザリエル朝*に受け継がれた。

サクソ-グラマティクス［Saxo Grammaticus］(12～13世紀) デンマークの歴史家。流麗なラテン語で書いたデンマーク史《ゲスタ-ダノルム(デンマーク人の事跡)》は，神話時代から2,000年間にわたる16巻の大著で，ラテン語で書かれた作品中最も有名なもの。この作品が1185年から1222年の間に書かれたと推定される以外，その生涯(しょうがい)は不詳。姓も不明で，しばしば文法家のサクソとよばれる。

サクソニー［saxony］サクソニー羊毛・メリノー羊毛などを原料とした高級紡毛織物。主としてあや織物で，軽く起毛してよく毛刈りされ，柔軟な触感をもつ。格子(こうし)がらが多い。男子服地などに用いられる。

サクソフォーン［saxophone］ベルギーの楽器製造者アドルフ-サックス(1814～1894)が考案し，フランスで発表した管楽器。クラリネット同様リードは１枚で，金属管にオーボエのようなキーをつけたものである。音域により，ソプラニーノ・ソプラノ・アルト・テナー・バリトン・バス・コントラバスの７種があるが，アルトとテノールが独奏や合奏によく使われ，特にジャズでは重要な楽器となっている。奏法が合理的で，音程の安定もよく，音質がそろいやすく，音量変化もつけやすいという特徴もあるので，ブラスバンドでもよく使われている。〔徳丸吉彦〕

さくたい【錯体】$[Co(NH_3)_6]Cl_3$のように，原子またはイオン(主として金属元

素)のまわりに特定数の配位子(この場合NH_3)が結合して，一つの結合体をつくっている化合物の総称。錯化合物ともいう。金属原子またはイオンと配位子の間の結合は一種の共有結合であるが，有機化合物の結合とは異なり，結合に用いられる2個の電子は配位子中の原子から供給されることが多い。この場合，配位子が金属原子またはイオンに配位するという。$[Co(NH_3)_6]Cl_3$では，コバルトイオンに6個のアンモニア分子が窒素原子で配位しており，塩素イオンはコバルトイオンとは直接結合していない。1個の金属イオンに6個の分子が結合するという考え方は，1891年ウェルナーによって提出され，錯体化学の基礎概念になっている。一般に4個・6個の配位子が配位した錯体が多く(それぞれ4配位錯体，6配位錯体という)，4配位錯体では立体構造に平面型(I)と四面体型(II)があり，6配位錯体では八面体型(III)構造をとる。なお近年，5配位錯体・7配位錯体も数多くつくられており，また反応中間体としてはこの立体配置をとるものが多い。錯体は，錯塩・錯酸・錯塩基・錯分子(非電解質錯塩)に分類されるが，錯塩は錯酸・錯塩基の塩，錯分子は水溶液中で電離しない錯体をいう(従来は錯分子をも含めて錯塩といったが，塩でない化合物を含む不合理をなくすため，現在では錯体として区別する)。錯塩を水にとかすと，たとえば$[Co(NH_3)_6]Cl_3$の場合，錯陽イオン$[Co(NH_3)_6]^{3+}$と陰イオンCl^-とに電離する。このように$[Co(NH_3)_6]^{3+}$が一種の基として働くため，これを錯基とよぶ。また，最近急激に研究が進み，大きな分野を形づくりつつある有機遷移金属錯体を非ウェルナー型錯体といい，今までのいわゆる無機錯体をウェルナー型錯体という分類もある。〔三輪誠・海津洋行〕

さくだいら【佐久平】⇨佐久盆地

ざくつ【座屈】細長い棒が軸方向に圧力を受けるときや薄い板が広いほうの面に平行な圧力を受けるとき，ある荷重に達すると急に圧力の直角方向にたわみを生ずる現象。座屈を始めるときの荷重を座屈荷重といい，これ以上に圧力を増すと，物体はついには破壊する。

さくつけ【作付】畑や水田に作物を植えつけること。作付様式には，一定期間耕作したあとその耕地を放棄する代田法と，休閑地を設けてその耕地の回復をはかる休閑法がある。また，連年同一の耕地に作付する場合には，同一の作物を植える連作(連栽)と，数種の作物を一定の順序に従って栽培する輪作がある。作付面積は耕地に作物を植え付けまたは播種(はしゅ)した延べ面積をいい，温暖な地方では年に2回以上作付できるので，耕地面積よりも大きくなる。また，作付順位とは一定の耕地に種々の作物を栽培するときの順序をいう。作付率は一部の耕地を休閑する場合，作付された延べ面積の全耕地面積に対する比率をいう。〔金木良三〕

さくて【作手】荘園*(しょうえん)における農民の土地に対する権利。作職(さくしき)・作人職などともいう。平安時代に荘園農民は荘園領主から土地をあてがわれて請作*(うけさく)していたが，請作をくり返すうちに一種の土地に対する権利として生じた。鎌倉時代には加地子*の得分権をもつ名主職と名主に加地子を納める作人職に分裂したが，一般に前者を作手とよぶ。

さくていき【作庭記】平安時代になったわが国最古の造園書。著者は後京極良経(よしつね)といわれているが，定かではない。平安時代から鎌倉初期にかけての庭園造園の様式について，池・島・滝・遣水(やりみず)・石組(いわぐみ)・植栽・地割に至るまで詳しく記され，世界最古の貴重な資料である。この書は元来《前栽秘抄》といわれていたが，江戸時代ごろから《作庭記》と称された。

さくど【作土】作物の根が伸びて，そこから養分の吸収が行なわれる土壌(どじょう)の表層の部分。ふつう15～30cmの深さをもつ。粘土含量が少ないために養分保持力の低い土壌では，作土が深くなければ作物の収量は低下する。

さくどう【索道】⇨ロープウエー

さくなみおんせん【作並温泉】宮城県宮城郡宮城町にある温泉。泉温34～66℃，泉質はアルカリ性含塩泉で，胃腸病・神経痛・皮膚病などにきくといわれる。広瀬川上流の渓谷(けいこく)に臨み，近代的な旅館が多く，県下屈指の観光温泉とされている。仙山(せんざん)線作並駅，東北本線仙台駅からバスの便がある。

さくにゅう【搾乳】乳牛の乳をしぼること。乳牛管理のうちの最も重要な作業で，その技術の巧拙は乳量・乳質に大きく影響する。搾乳法には手しぼりと機械(ミルカー)搾乳とがある。前者では特に同一人が同一のウシを扱うことが泌乳量を低下させないために要求される。後者は搾乳労力の軽減のために広く使われているが，少頭数飼育の場合には必ずしも有利とはいえない。搾乳機には，次の3種類がある。①パイプライン式：しぼられた乳がパイプを通って牛乳室内のタンクにためられるもの。②ペイル式：1頭分ずつの乳が搾乳機に付属する容器にたまるもので，真空ポンプを定置して真空パイプで作動させる。③ポータブル式：真空ポンプと搾乳機とを台車に載せて移動できるようにしたもの。わが国ではペイル式が最も多い。〔大田正義〕

さくぶんきょういく【作文教育】第2次世界大戦前，小学校に〈綴方(つづりかた)〉，中等学校(旧制)に〈作文〉という教科があったが，戦後は作文教育という名のもとに国語教育の中に位置づけられるに至った。しかし，作文教育のねらいは単に文章表現の指導にとどまらず，文章表現を通して子どもの人格全体を教育することにある。わが国の作文教育の歴史はそのことを明らかにしてきた。明治初期以来の作文教育における形式主義・実用主義に対する批判は，1897年(明治30)前後に樋口(ひぐち)勘次郎によってなされ，子どもの自発活動と文をつづることが統一されるべきである，と説かれた。この主張は芦田(あしだ)恵之助らに継承され，大正期には彼の自由選題方式が現場に大きな影響を与えた。1918年(大正7年)に，鈴木三重吉*(みえきち)によって創刊された雑誌《赤い鳥*》は作文におけるリアリズム*を重視し，これが昭和期の〈生活つづり方*〉運動へとつながっていった。戦後の国語科教育における作文教育には，実用主義的ないし機能主義的な性格が濃厚であったが，1951年(昭和26年)の《山びこ学校》の出版などが契機となって，戦前の生活つづり方運動が復活し，〈日本作文の会〉という民間教育研究団体が中心となって，作文教育の理論と実践の研究が進展しつつある。作文教育の眼目は，子どもたちが現実を具体的に正しく見，それをリアルに表現し，認識とともに生活における主体的態度を形成していくことにある。〔中野　光〕

さくぼうげつ【朔望月】新月(朔)から新月，または満月(望)から満月までの時間。太陰月ともいう。1朔望月の平均の値は29.530589日＝29日12時44分2.9秒である。朔望月は，太陰暦*・太陰太陽暦*において暦をつくる基本となる。➔恒星月

さくぼんち【佐久盆地】佐久平ともいう。長野県東部にあり，北は浅間山(2,542m)，西と南は蓼科(たてしな)山(2,530m)・八ヶ岳(2,899m)，東は関東山地北部の山々に囲まれた南北に細長い盆地で，大部分が高原をなしている。中央を南から北に千曲(ちくま)川が貫流して沖積地(ちゅうせきち)を形成し，米作が行なわれている。海抜1,300m余の高冷地に水田が開かれ，千曲川最上流の南佐久郡川上村の水田は日本の最高所であるといわれる。周囲の山麓部(さんろくぶ)，特に八ケ岳から浅間山にかけての山麓はハクサイ・キャベツをはじめとする高原野菜の栽培地として有名であり，リンゴ・モモをはじめ果樹栽培も盛んである。また，付近は夏の避暑地・保養地としてにぎわい，急速に開発が進められている。しかし，冬は雪は少ないが寒さがきびしい。千曲川に沿って盆地中央を南北に小海線が走り，南の野辺山(のべやま)駅は海抜1,346mの地点にある国鉄最高所の駅であり，北端の小諸(こもろ)市で信越本線と接続する。小諸・佐久両市は盆地の主要都市で，特に佐久市付近はコイの養殖やオタネニンジンの栽培が盛んである。北東部には国際的な避暑地である軽井沢がある。〔味沢成吉〕

さくまぞうざん【佐久間象山】(1811～1864) 江戸末期の思想家・兵学者。信濃(しなの)(長野県)松代(まつしろ)藩士の子として生

まれる。名は啓(ひらき)，通称は修理。象山は号。江戸に出て佐藤一斎*に朱子学を学び，のち象山書院を開いて朱子学を講じた。洋学の必要を感じ，砲術・蘭学(らんがく)を修めて当時一流の洋学者ともなり，いわゆる〈和魂洋才〉を主張した。ヨーロッパ諸国の事情を知るため，門下の吉田(よしだ)松陰*の内密渡航を計画したが発覚し，松陰とともに投獄され，のち蟄居(ちっきょ)を命じられた。蟄居が解けてのちも藩政改革をめざして意見を具申したが用いられず，京都に出て開国論を主張した。攘夷(じょうい)を主張する勤皇の志士の反感を買い，刺客の凶刃に倒れた。主著に《省諐録(せいけんろく)》がある。

〔田上光治〕

さくまダム 【佐久間ダム】 愛知県北設楽(きたしたら)郡豊根村，天龍(てんりゅう)川の本流に，1956年(昭和31)に完成した重力式ダム。高さは156 m，総貯水量3億2,700万m³で，水力発電を目的として日本電源開発会社が最新式の機械・土木技術を採用するとともに，アメリカと技術提携をして施行した。堰堤(えんてい)の長さ291 m，湖水面積715km²で，観光用の遊覧船がある。佐久間発電所の最大出力は35万kWである。上流に平岡ダム(長野県)，下流に秋葉ダム，付近に大入渓谷(けいこく)の景勝地がある。〔木村東一郎〕

さくもの 【作物】 地歌*の種類の一。〈おどけもの〉ともよばれるように，こっけいなおもしろさをもつ。代表的な曲は《荒鼠(あれねずみ)》《たにし》《狸(たぬき)》《蛙(かわず)》《曲鼠》などで，たとえば《たにし》では，カラスにくわえられたタニシが，カラスにお世辞を言って口をあけさせ，うまくのがれる話である。18世紀中ごろに始まり，検校(けんぎょう)たちの非公式の集まりに座興とされたもので，作者名は明らかにされていない。

さくやく 【炸薬】 弾丸などの弾体内部に詰められ，信管発火により爆発を起こす軍事用火薬。第1次世界大戦以後，TNT*が重用され，これを直接弾体内に溶融充塡(じゅうてん)する場合が多かったが，第2次世界大戦以後の代表的炸薬はヘキソーゲン(トリメチレントリニトラミン)とされている。炸薬重量が全備弾量に占める比率は，榴弾(りゅうだん)では10～15%であるが，47mm以下の小口径弾では著しく小さくなる。

〔藤井冬木〕

さくら 【桜】 双子葉植物・バラ科・サクラ属のうち，特に花が美しく観賞にたえるヤマザクラなどの一群をいう。日本をはじめ，東シベリア・中国・ヒマラヤ地方に分布する。わが国には10種足らずの自生種があり，国外のものを加えるとその数倍になるものと思われるが，正確な数は判明していない。

〔歴史〕日本には全国的にサクラが自生し，有史以前から春の花時にはこれをながめて楽しんだと思われ，日本の国花ともいわれている。《万葉集》にもウメと並んでサクラをたたえた歌が多く，その中には屋戸にあるサクラをよんだものがあり，当時すでに山から移して栽培したとも思える。奈良・京都の付近にはヤマザクラとカスミザクラがあるので，大宮人はこの2種の花をたたえたものであろう。〈古(いにしえ)の奈良の都の八重桜〉(伊勢大輔(いせのたゆう))とよまれたので，平安朝にはすでに八重ザクラがあったものと思われる。今日奈良にある奈良八重ザクラがそれであるという確証はないが，これは元来カスミザクラの八重咲き品種であるから，当時これがあったとしても不思議ではなく，奈良近郊の山々の自生のサクラの中からこの良品を選び出したものであろう。また，このころには北陸地方との交通がよく開けていたので，同地方の山々に自生する濃色のエゾヤマザクラもあるいは京都に移されていたであろう。鎌倉時代には関東に文化が開けて，花は白いが形の大きなオオシマザクラも他のサクラとともに庭園に植えられた。これらの種類が同じ場所に植えられれば互いに雑種し合って，もともと山からよい系統のものを選んで移した子孫であるため，よい性質がますます選択されて美しくなり，八重咲き・大輪などが数多くつくり出されたと思われる。室町時代にはよい品種にはそれぞれ特別の名が与えられた。いまでも広く栽植されている〈普賢象〉もこのときに命名された品種である。江戸時代には今日みられる古くからの良品種の大部分が出現し，サクラの文献も松岡玄達の《怡顔斎(いがんさい)桜品》，市橋長昭選の《桜井雪鮮画・花譜》のほか多数が著わされた。明治にはいると荒川堤などにサクラが盛んに植えられ，三好学・牧野富太郎・小泉源一らの植物学者によって科学的に調査が進められ，またソメイヨシノが出現して桜花の景観を変えたのも見のがせない。第2次世界大戦後もサクラの保存と調査の必要が叫ばれ，遺伝学などを応用した研究や新品種の育成も行なわれ，また八王子市にある農林省林業試験場の浅川実験林には全国のサクラの品種が集められており，品種の保存と調査・研究にあてられ，兼ねて観賞にも利用されている。なお，アメリカのワシントンのポトマック河畔のサクラは，1912年(明治45)東京市長の尾崎行雄がソメイヨシノ1,000本，ヤエザクラとニオイザクラ2,000本を送ったものがもとになっている。ワシントンの一名所とされ，春にはいろいろな行事が行なわれる。

〔分類〕①ヤマザクラ系：最もサクラらしい種類で，樹皮は栗色(くりいろ)をおびて美しく，横に裂け目がはいる。若枝とがく筒には毛がない。葉は楕円(だえん)形で鋭鋸歯(えいきょし)をもち，葉柄の上方に一対の腺体(せんたい)がある。花は長い柄があって散房状または束状に数個集まってつき，以前にはプルヌス-セルラータの名で1種として取り扱われたことがあったが，現在では次の種に区別されることが多い。㋑ヤマザクラ：樹皮は濃い栗色。葉は長楕円形で，細かい単純鋸歯があり，下面は粉白色をおびる。花は数個が散房状につき，やや小さく，淡紅色。花色が淡いのでシロヤマザクラということもある。主として関東以西の丘陵地に分布するが関西にも多く，最も代表的なサクラである。㋺エゾヤマザクラ：オオヤマザクラともいう。本州中部地方では2,000 m 前後の山にはえ，東北地方や北海道では丘陵地に下り，西日本の山地にもまれに分布する。樹皮は黒みが強く，葉は楕円形でやや大きく，基部は丸いか浅い心形となる。花は束状について色が濃く，ベニヤマザクラとよばれることもある。㋩カスミザクラ：日本全国に分布し，前2種の中間の高さの場所にはえ，ときにそれらとの天然雑種をつくる。葉の下面や葉柄・花柄などの一部には開出毛があることが多く，ケヤマザクラとよばれたこともある。枝はヤマザクラよりも色が淡く，葉は倒卵楕円形，下面は光沢のある淡緑色で白みがなく，鋸歯はやや三角形で先はわずかに突出する。花は散房状または束状につき，淡紅色で，ヤマザクラよりも数日遅れて咲き，また芽出しの色が変化が少なく，あまり目だたない。㊁オオシマザクラ：伊豆(いず)諸島に自生し，伊豆半島や関東南部の海岸近くにも普通にはえ，まきにしたり，桜もちを包む葉をとるために栽培される。カスミザクラの海岸型と考えられるが，それよりも枝・葉・花が大きい。全体に毛がなく，花も白色のものが多い。今日のサトザクラの大部分にはこの種が関連をもっている。

②ミネザクラ：本州中部以北の深山にはえる小形のサクラで，タカネザクラともいう。葉は小さく，縁には切り込んだ重鋸歯がある。花は束状につき，淡紅色でやや小さい。葉の下面や葉柄・花柄などの一部に開出毛のあるものをチシマザクラという。

③マメザクラ：小形で，枝は細くよく分枝し，若い枝には葉・花部・がくなどとともに斜上する短毛がある。葉は小さくて重鋸歯をもち，基部の両側に各1個の腺体がつく。花は束状につき，小さく淡紅色。可憐(かれん)なので盆栽などにもよい。全体が緑色で花の白い品種の緑萼(りょくがく)ザクラは観賞用として庭園に植えられる。地方的に変異が強く，関東地方西南部にはやや大きいヤブザクラ，秩父(ちちぶ)地方にはブコウマメザクラ，近畿(きんき)地方にはキンキマメザクラがある。

④チョウジザクラ：マメザクラにやや似ているが全体に開出する長毛が密にはえ，葉柄は短い。花は小さく淡紅色で，下向きに咲く。本州・九州の低い山地にはえるが，日本海沿岸地方のものは花がやや大きく，葉も少し大きくて毛がやや少ないため，オクチョウジザクラの名で区別される。まれに八重咲きの栽培品種があり，雛菊(ひなぎく)

ザクラとよばれる。また，八重咲きのサトザクラの一種との雑種をムシャザクラ（奈天・高砂(たかさご)・茶碗(ちゃわん)ザクラ）といい，ときに栽培される。

⑤エドヒガン：サクラの中でいちばん長寿で大木になる種類で，全国の山中に自生し，寺院・神社などの境内に植えられる。樹皮は縦の裂け目がはいる。枝はよく伸び，葉・花部・がく筒などとともに腺質の斜上軟毛がある。葉は狭長楕円形で，側脈がやや多く，腺体は葉の基部につく。花は束状で，葉よりも先に咲き，がく筒は下半がふくれてつぼ形になる。ヤマザクラよりも花期が少し早く，春の彼岸に咲くというところからこの名がある。枝垂(しだれ)品種を糸ザクラといい，古くから栽培される。またマメザクラとの雑種と考えられるコヒガン（チモトヒガン・ヒガンザクラ）はエドヒガンよりも全体に小さく可憐で，観賞用に植えられる。自生はない。

⑥ソメイヨシノ：幕末のころに江戸の染井村（東京都駒込(こまごめ)）の植木商で育成・売り出されたもので，長い間その起源が不明であったが，オオシマザクラとエドヒガンとの雑種であることが実験的に確かめられた。したがって本来はサトザクラの一種として取り扱うべきであるが，習慣上別の種類として述べる。ヤマザクラ系のサクラによく似ているが，エドヒガン特有の腺質の軟毛があり，花期が早く葉に先だって咲き，腺体がしばしば葉の基部に移る。生長が早くて花は美しく，近時は日本全国で植えられている。しかし樹齢が短く，てんぐす病にかかりやすい。

⑦カンヒザクラ：ヒカンザクラ（緋寒桜）の名で知られていたが，ヒガンザクラと混同しやすいので改められた。関東地方以西の暖地で植えられ，枝が太くて黒みがある。花は早く咲き，緋紅色で半開し，下垂する。台湾山地の原産で，琉球(りゅうきゅう)を経て江戸時代に九州に伝わったらしく，ヤマザクラ系との雑種を寒ザクラ，シナミザクラとの雑種を十六日ザクラという。

⑧シナミザクラ：漢名を桜桃という。中国原産の小形の果樹で，古く渡来して暖地で栽培された。若時には多少の斜開毛があり，葉は小さい。花は葉に先だって咲き，小形で短い柄をもち，長いおしべが目だつ。花木として利用され，東海ザクラなどヤマザクラ系との雑種による品種がある。

⑨サトザクラ：栽培される美しいサクラの総称で，オオシマザクラなどのヤマザクラ系の品種が多いが，他のサクラとの間の雑種起源のものも含まれる。図示以外の変わった数品種を解説する。㋑天ノ川：オオシマザクラ系の淡紅色，半八重咲き品種で，枝と花柄が直立し，木の姿がほうき形になるのが著しい。花の純白のものを特に七夕(たなばた)という。㋺カンザクラ：ヤマザクラ系とカンヒザクラとの雑種と推察される。樹皮は黒みがあり，枝はごつごつし，花は一重咲きで早く開花し，色が濃い。各地に植えられるが，多少異品があり，東京の上野公園や静岡県の熱海(あたみ)・修善寺などが名高いが，それらの間には多少の違いがある。㋩稚木(わかぎ)のサクラ：ヤマザクラの一歳咲きの幼型品種で，高知県高岡郡佐川町尾川に自生品があったという。小木で，播種(はしゅ)後数年で開花する。花は一重咲きの淡紅色で，包がしばしば葉化する。㊁冬ザクラ：ヤマザクラ系とマメザクラとの雑種と考えられている。群馬県多野郡鬼石町三波川に多数栽植され，滋賀県米原町醒井(さめがい)のものと同じであるといわれる。少し斜上毛のある小形のサクラで，花は白か淡紅色の一重咲き。秋から冬にかけて咲き，春にも咲く。〔大井次三郎〕

さくら【佐倉(市)】千葉県北部の市。室町時代中期以降千葉氏の居城があり，成田街道の宿場町であったが，江戸時代は要害の地であるところから代々重臣が置かれ，幕末は堀田(ほった)氏十一万石の城下町であった。明治以後，歩兵連隊が置かれて軍都となった。1954年（昭和29）市制施行。人口100,000。下総(しもうさ)台地の中央部を占め，中心市街は鹿島(かしま)川低湿地に突出する鹿島台の突端に位置し，北部は印旛沼(いんばぬま)に臨む。産業三大別人口比は15：32：53。鹿島川流域の米・コンニャク・サツマイモ・ラッカセイなどの農産物を集散し，最近は京葉工業地帯と鹿島臨海工業地帯を結ぶ国道51号線が改修されて，その沿道に内陸工業地帯が造成されている。総武本線と成田線の分岐点で，京成電鉄成田線に沿い，千葉市や東京の住宅都市化している。佐倉城跡には国立の歴史民俗博物館の建設が予定されている。講談・歌舞伎(かぶき)で江戸時代の百姓一揆(いっき)指導者の代表とされる佐倉惣五郎*(そうごろう)の出身地といわれる。

さくらい【桜井(市)】奈良県中北部の市。1956年（昭和31）磯城(しき)郡桜井町が周辺部を合併して市制施行，さらに1959年には初瀬(はせ)，1963年には大三輪の2町を市域に編入した。人口56,000。奈良盆地の南東端と背後の山地を占める。産業三大別人口比は11：37：52。桜井は江戸時代以来の市場町・宿場町で，明治中期に桜井線，昭和初期に近畿(きんき)日本鉄道大阪線が通じ，国道165号線・166号線も集まる交通の要地である。宇陀(うだ)川や吉野(よしの)川流域の木材を集散する材木の町で，桜井駅周辺から南西方へかけて製材工場群が密集する。南

➜218ページ

サクラ　次ページの解説

①ヤマザクラ　寒いところを除いて，どこの丘陵地にもはえており，古くから和歌によまれ，絵にかかれ，日本の歴史とも関係の深い種類。春の芽出しの葉の色は緑から赤かっ色まで個体によって変化が多く，花と調和して美しい
②オオシマザクラ　花色は白が多いが，大形なのでサクラの改良には非常に貢献した。芽出しの葉の色は緑から黄かっ色までで，芳香のある花をつけるものがある
③エドヒガン　葉がまだ開かぬうちに花を開くので，葉を歯になぞらえてウバヒガンともいう。京都祇園のサクラは糸ザクラで，これの枝垂れ品種である
④カンヒザクラ　暖地に栽培される。開花が早く，鹿児島市では旧正月のころに咲く。他のサクラと交配させて，花色の濃い品種がつくられている
⑤エゾヤマザクラ　木はだが黒くて花色が濃く，ヤマザクラのような明るい感じの少ないサクラである
⑥ソメイヨシノ　明治維新のころに突然現われ，その起源に諸説があったが，遺伝学者の竹中要がオオシマザクラとエドヒガンの雑種であることを確かめた
⑦マメザクラ　富士山に多いのでフジザクラともいう。全体に小さく可憐で，はち植え盆栽に適している。特に生花として市場に出ることもある
⑧ジュウガツザクラ　エドヒガンとマメザクラの雑種であるコヒガンの栽培品種で，全体が小さく，花は淡紅色または白色で八重の小輪。十月ごろから咲き始め，冬を通じて花をつけるが，春に最も多く咲く。冬の花は花柄が短い
⑨松月　オオシマ系のサトザクラで，八重咲きではあるが開花期が早い。花は淡紅色でしだいに白みが強くなり，花弁は30枚くらい，めしべは葉化して緑色の1～2個の片となる。芽出しの葉は茶緑色
⑩普賢象　室町時代に命名され，古く京都市上京区千本閻魔堂にあったという。花は，淡紅色で重ね厚く，柄は細長で下垂し，花心に小さい緑色の2片があって，これを普賢菩薩の乗るゾウのきばに見立てたという
⑪奈良八重ザクラ　奈良市の知足院にあるものが有名で，ほかにも近時しばしば植えられている。芽出しは黄緑色，花は淡紅色で中輪であるが上品で，花弁は幅が狭くて約30枚くらい，花柄と葉柄および葉の下面の脈上にまばらに毛がある
⑫兼六園菊ザクラ　金沢市の兼六公園の名桜で，つぼみ時は深紅で開くと淡桃色となり，花弁の数が多く200枚に近い。柄が長くたれ下がり5月まで咲く。慶応年間（1865～1867）に孝明天皇から前田中納言に御下賜になったもので御所ザクラともいうとのことである
⑬黄ザクラ　鬱金の花色の淡い異品で，本来は同じ物としている人も多い。浅黄・黄金ザクラなどともいい，花が黄色で十数枚の花弁をもち，花柄はやや短い。御衣黄では花弁の中央に赤い線条がでるが，この品種にはない
⑭関山　花の色が濃色で美しく，大輪で八重咲き。花弁は約30枚でやや長い柄があって，たれて咲く。花心にはふつう2個の緑化した小片がある。関山はカンザンともセキヤマとも読む
⑮桐ケ谷　キリガヤツと読む。淡紅色の一重咲きで芳香がある。桐ケ谷は鎌倉の地名

サ ク ラ

→P215(表参照)




9
10
11
12
13
14
15

西部には文殊院西古墳(特別史跡)，蘇我石川麻呂(そがのいしかわまろ)が創設，のち寺内で自殺したことで知られる山田寺跡があり，南端部の多武峰(とうのみね)には藤原鎌足(かまたり)を祭る談山神社がある。東部の初瀬は初瀬川の渓口(けいこう)集落で，江戸時代には長谷(はせ)寺の門前町，伊勢(いせ)参宮の宿場町として栄えた。北部の三輪は大和(やまと)朝廷の発祥地といわれ，三輪山のふもとには古代信仰の中心であった大神(おおみわ)神社，古墳箸墓(はしのはか)(大市墓)がある。箸墓は長径275mに及ぶ前方後円墳で《古事記》《日本書紀》にしるされる倭迹迹日百襲姫(やまとととひももそひめ)を葬ったものと伝えられる。周辺地区には三輪そうめんの特産がある。三輪山から巻向(まきむく)山・龍王(りゅうおう)山のふもとにかけては歴代天皇の御陵や古社寺が多く，日本最古の道といわれる山ノ辺ノ道(やまのべのみち)が天理市を経て，北方の奈良市へ通ずる。〔浅井得一〕

さくらいじょうじ【桜井錠二】(1858～1939) 化学者。金沢の生まれ。1871年(明治4)大学南校に入学，1877年在学中に文部省の第1回留学生としてイギリスに留学，リービッヒ門下のウィリアムソンに原子論に基づく近代科学としての化学を学ぶ。1881年帰国して翌年東京大学教授となり，以後アトキンソン*ら外国人御雇教師に代わって日本人教授の体制が始まった。弟子(でし)の池田菊苗*らと理論化学および科学教育行政に尽くしたほか，溶液の沸点上昇法の改良(桜井-池田法)などの業績がある。1917年(大正6)理化学研究所長となり，1926年以後終生学士院院長をつとめた。〔山下愛子〕

さくらいろ【桜色】色名。サクラの花のような色。赤みをおびた，ごく薄い赤紫色。非常に淡い紅色といえばわかりやすい。本来は，非常に薄い紅染めによる色で，おそらくは平安時代の色名であろうか，聴色(ゆるしいろ)といわれていた。桜色と同じような紅色の系統には韓紅(からくれない)・桃花(もも)色・桃花鳥(とき)色などがある。日本工業規格(JIS)慣用色名〈桜色〉は，色相10.0RP，明度9.0，彩度2.5の色と規定されている。➔色〔武井邦彦〕

さくらえび【桜蝦】甲殻(こうかく)類・サクラエビ科。海生で，全長5cmほどになる。体は透明で，紅色の色素胞を散在するため，全体として淡い桃色に見える。体は側扁(そくへん)し，殻(から)は薄い。日中と月夜には海底近くの深所にいるが，やみ夜には70～80mの層まで浮上し，明け方近くに下降する。体に発光器を備え，発光する。生後満1年で産卵し，産卵後死ぬ。卵は浮遊卵。駿河(するが)湾の富士川河口付近から御前崎(おまえざき)付近に至る水深100～300mの海域で盛んに漁獲され，赤く着色して煮干しにつくられる。〔菅野 徹〕

さくらがい【桜貝】軟体動物・二枚貝類・ニッコウガイ科。海生。殻長(かくちょう)3cm，殻高2cmほどのややひし形に近い長楕円(ちょうだえん)形で，扁平(へんぺい)。殻(から)は薄く，表面は桃色または薄黄色。殻の内面も表面と同じ色彩を呈し，美しい。北海道南部から九州・朝鮮半島の内湾の潮間帯の細砂底に普通にみられる。なお，ニッコウガイ科の貝はいずれもよく似て美しい。本州から九州にかけての潮間帯に分布するモモノハナガイ・カバザクラなどはやや外洋性で，海水浴場の砂浜などにある桃色の貝殻の多くはこれらの種類である。〔菅野 徹〕

さくらがわ【桜川】能の曲名。世阿弥*(ぜあみ)作。四番目物。狂女物の代表曲。人商人に身を売った桜子が，常陸(ひたち)(茨城県)の磯辺(いそべ)寺で母と再会するものである。前場は，桜子の母が桜子の身のしろ金と手紙とを人商人から渡されて嘆き悲しみ，後場ではこの母が狂女の姿となって磯辺寺に現われ，桜川に流れる桜の花をすくい網ですくったりしながらわが子のゆくえのわからないことを嘆く。磯辺寺の住僧のもとには，どこからともなく寺を尋ねてきた子どもがあり，その子が実は桜子であったのでめでたく母子再会して曲を終わる。シテは母，ワキは磯辺寺の僧，子方は桜子。ほかに人商人や花見の里人をワキヅレがつとめる。流れる花を網ですくう〈網の段〉は特に有名。〔長尾一雄〕



サクラガイ

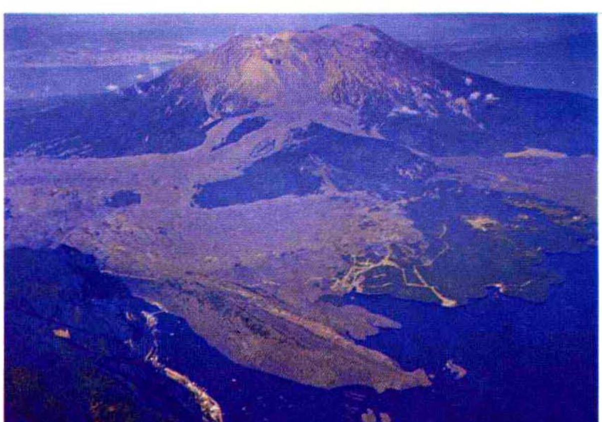
さくらぎみんでん【佐倉義民伝】歌舞伎(かぶき)の題名。本名題《東山桜荘子》。3世瀬川如皐*(じょこう)作。1851年(嘉永4)中村座*初演。佐倉惣五郎*(そうごろう)の伝説に基づく。領主堀田(ほった)家の圧制に苦しむ下総(しもうさ)(千葉県)佐倉の名主木内宗吾(そうご)が，一命を賭(か)けて将軍家に直訴する苦難の義挙を描く。宗吾が妻子と別れを惜しむ〈子別れ〉の場面が中心。

さくらさくら 日本古謡。いつごろの曲かわからないが，簡素な旋律と日本の代表的な花をうたっているところから国際的にも知られている。1923年(大正12)宮城(みやぎ)道雄が新箏曲(そうきょく)として作曲した《さくら変奏曲》はこれを主題として七つの変奏を施したもので，箏2面・十七弦箏のための純器楽である。

さくらじま【桜島】鹿児島市の対岸，鹿児島湾を隔ててそびえる活火山。東西11km，南北8kmの円形で，大隅(おおすみ)半島の一半島となっている。山は北岳(御岳，1,118m)・中岳(1,110m)・南岳(1,060m)の3峰からなり，このうち南岳山頂には噴火口があり，現在も噴煙を上げている。たびたび噴火をくり返し，特に1914年(大正3)には大規模な爆発があり，溶岩は桜島を大隅半島と地続きにした。新しい溶岩流の荒涼とした火山景観が全島を一周するバスからながめられ，多くの観光客が訪れる。霧島屋久国立公園に属する。〔高野 繁〕

さくらじまだいこん【桜島大根】鹿児島県桜島地方で栽培されているダイコンの品種。ダイコンのうちでは最も晩生。ずんぐりした形で，適地に栽培すると20kgぐらいになる。鬆(す)入りがおそく，肉が緊密で，かすづけ・みそづけにも利用する。

さくらそう【桜草】双子葉植物・サクラソウ科。各地の河岸の原野や山の低湿地に群生する多年草。関東地方では埼玉県浦和市の田島ケ原が自生地として有名で，特別天然記念物に指定されている。葉は根ぎわから多数出て，形は楕円(だえん)形，縁には大小の鋸歯(きょし)があり，質は柔らかく毛が多い。4～5月，葉よりも高く花茎を出し，先のほうに淡紅色ないし紅紫色の高坏(たかつき)形をした合弁花を多数つける。花は5裂し，先がさらに切れ込んでサクラに似て

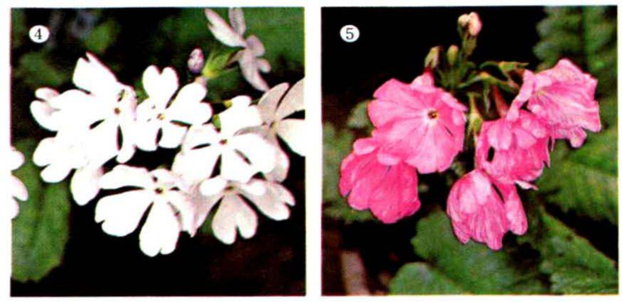


桜　島
東側上空から見た桜島。不毛の溶岩の分布が，左下の大隅半島とつながったようすをよく示している。遠景の対岸は鹿児島市街

いる。日本では古くから栽培され，江戸時代には300以上の園芸品種が知られ，わが国の代表的な花となった。現在，それらの多くは小石川の東大付属植物園に保存されている。同属に山地にはえる大形のクリンソウや高山性のハクサンコザクラ，ユキワリソウなど多くの種類がある。

サクラソウ科は，おもに北半球の温帯に分布する合弁花類の草本で，世界に約30属，500種がある。日本にはサクラソウ属・オカトラノオ属・ツマトリソウ属・ルリハコベ属などがあり，観賞用として栽培されるものが多い。花屋で見るシクラメンやプリムラもこの仲間である。〔小清水義隆〕





サクラソウ
①山野に自生するサクラソウ　②園芸品種の南京小桜
③白蜻蛉④秋の装い⑤木枯

さくらそうごろう【佐倉惣五郎】生没年不詳。近世の義民。本名木内惣五郎。通称宗吾(そうご)。下総(しもうさ)(千葉県)公津村の名主。1654年(承応3)佐倉*藩内200余か村の農民が年貢(ねんぐ)軽減を藩主堀田正信(ほったまさのぶ)に訴えたが，これが退けられるに及び，惣五郎は出府して単独で将軍徳川家綱に直訴(じきそ)した。その結果，農民側の要求はいれられたが，惣五郎夫婦と4子は処刑されたという。これが宗吾伝説の大要である。その伝説には真偽が入り混じり，一時は惣五郎の実在が疑われたが，1652年の水帳にその記載が発見されて実在人物とされるようになった。宗吾伝説が一般に流布されるようになったのは，江戸後期，農民一揆(いっき)が広域闘争となって展開されてからである。刑死ののち，その霊は郷里で祭られた。現在千葉県成田市に宗吾霊堂がある。〔高崎徳次〕

さくらだい【桜鯛】硬骨魚類・スズキ科。海生で，大きさは雌雄で異なり，雄は全長約20cm，雌は約15cmになる。体高が高く側扁(そくへん)し，マダイなどと体形が似ている。体色も雌雄で大いに異なり，雄は鮮赤色で体側にサクラの花びらを思わせる白斑(はくはん)を散らすが，雌では黄色みをおびた赤色で，背びれの棘部(きょくぶ)の直後に黒斑がある。千葉県以南長崎までの，やや深いところに分布する。非常に美しく，ときに水族館で飼われている。食用にもなる。なお，サクラの花の咲くころにとれるマダイのことを，サクラダイとよぶことがある。



サクラダイ　雄

さくらだじすけ【桜田治助】歌舞伎(かぶき)作者。4世まであるが，有名なのは初世(1734～1806)。俳名は左交。江戸歌舞伎を復興させた名作者で，江戸劇壇の第一人者として活躍した。天明期(1781～1788)らしくおおらかな作風で，せりふにしゃれけがあり，当時の世相をみごとに描いた。《御摂勧進帳(ごひいきかんじんちょう)》《伊達競阿国戯場(だてくらべおくにかぶき)》《大商蛭子*島(おおあきないひるがこじま)》などのほか，《戻*駕(もどりかご)》《吉原*雀(よしわらすずめ)》などの舞踊劇にもすぐれた作品を残している。〔服部幸雄〕

さくらたで【桜蓼】双子葉植物・タデ科。池やみぞの縁にはえる多年草。地下茎をもち，茎は直立して高さ50～100cm。葉は互生し，長さ5cmほど，かわくと赤かっ色になる。雌雄異株で，9～10月に直径5mmほどの淡紅色の美しい花を穂状につける。

さくらだもんがいのへん【桜田門外の変】1860年(万延1)3月3日，大老井伊*直弼(いいなおすけ)が江戸城桜田門外で暗殺された事件。直弼が勅許を待たずに日米修好通商*条約に調印したこと，安政の大*獄を起こしたことなどが原因。節句祝賀のため登城する直弼の行列は，待ち伏せていた薩摩(さつま)藩士1名を含む水戸(みと)脱藩の浪士ら18名に襲撃されて直弼は殺害されたが，浪士らも脱走者2名を除きその場で切り死に・自刃した。この事件により幕威の失墜はその後の政局に深大な影響を及ぼした。〔高崎徳次〕

さくらのその【桜の園】チェーホフ最後の4幕の戯曲。1903年の作。実際的能力に欠け，ただ過去の夢を追うラネーフスカヤ夫人は，抵当にはいった領地〈桜の園〉が競売に付されるのにどうすることもできない。もと農奴の成金ロパーヒンの現実的な提案も受け入れず，ついに〈桜の園〉は競売に付され，ロパーヒンの手に落ちる。現実社会の動きを理解できぬ人々の没落の哀感と，古きものに執着する人々の喜劇感が渾然(こんぜん)一体をなしている傑作である。〔川端香男里〕

さくらはん【佐倉藩】江戸時代に下総(しもうさ)(千葉県)佐倉地方を領有した藩。もと千葉氏の領だったが，江戸時代には譜代*大名が封ぜられ，たびたび領主交替があった。1642年(寛永19)堀田正盛(ほったまさもり)が封ぜられ，正盛が3代将軍家光(いえみつ)に殉死後子正信(まさのぶ)のとき改易。有名な佐倉*惣五郎(そうごろう)の話はこのときのことで，惣五郎弾圧の報いという伝説がある。次いで松平・大久保・戸田・稲葉・松平氏を経て1746年(延享3)再び堀田氏の領となり，十一万石を与えられ明治まで続いた。堀田正*睦(まさよし)は藩政を改革し，老中首座として幕政を左右し*開国を主張したが，将軍*継嗣問題で大老井伊直弼(いいなおすけ)と対立して辞職した。廃藩置県により佐倉県，次いで印旛(いんば)県となり，統合されて千葉県となった。〔岡山泰四〕

さくらます【桜鱒】硬骨魚類・サケ科。ホンマスまたは単にマスともいう。海生で，全長60cmに達する。体は細長く，かなり側扁(そくへん)する。背は暗青色で少数の小黒点が散在する。背びれには大きな黒斑(こくはん)があるが，産卵期に川を上るころには消失する。体側と腹面は銀白色。北海道を中心に，サハリン(樺太(からふと))・千島・沿海州・朝鮮東岸・カムチャツカ，本州の大部分に分布し，ときに朝鮮の西海岸や熊本県・瀬戸内海でもとれる。親魚は川をさかのぼって産卵し，稚魚は淡水中で1～2年を過ごし，17～25cmに成長してから海にはいる。海にはいってからの消息は不明だが，3歳魚となって母川に回帰し，産卵ののち斃死する。生食するときわめて美味で産額が少ないため高価。なお，ヤマ*ベはサクラマスの陸封型である。〔菅野　徹〕

さくらまばんば【桜間伴馬】(1835～1917)能楽師。金春*流シテ方。晩年，左陣

と改名。桜間家は熊本細川藩に仕えた能の旧家。1879年(明治12)に上京。技巧にすぐれた芸で,《邯鄲(かんたん)》《道成寺》などを得意とし,宝生九郎*・梅若実*とともに明治三名人と称される。桜間弓川(1889～1957)は伴馬の次男で前名を金太郎といい,芸術院会員。

サクラメント [Sacramento] アメリカ合衆国カリフォルニア州の州都。人口26万1,000(1975)。カリフォルニア盆地の中央に位置し,周辺の豊かな農業地域の中心都市で,農産物の集散とかんづめ工業が盛ん。建設の起源は1848年に付近で金鉱が発見されたときである。住民には日系人も多い。

さくらもち 【桜餅】 塩づけしたサクラの葉で巻いた菓子。砂糖で甘味をつけた小麦粉(いまは白玉粉あるいはもち粉を混ぜる)を平なべで小判形に焼いて皮をつくり,あん玉を包んで葉で巻く。サクラの花の色に似せて,皮に薄紅色をつけるものもある。

1717年(享保2),江戸向島の長命寺の門番山本新六が,8代将軍吉宗(よしむね)が向島に植えたサクラの葉を利用して,売り出したのがはじまり。葉の塩味とかおりがしみこんだ皮にあんの甘さが調和して,江戸人の嗜好(しこう)にかない,非常に繁盛したという。 〔塩川ふみ〕

さくららん 【桜蘭】 双子葉植物・ガガイモ科。暖地の崖地(がけち)や岩上に自生する多年生のつる植物。アジアの熱帯・亜熱帯に分布し,日本では九州南部に自生。観賞用として栽培される。茎は岩の上をはう。葉は肉質,楕円(だえん)形で,対生する。7～8月,淡紅色の小さな花を球状につける。

さくらん 【錯乱】 ⇨精神錯乱

さくらんぼ 【桜桃】 ⇨オウトウ

ざぐり 【座繰り】 古くから行なわれてきた製糸方法で,なべで繭を煮ながら糸をたぐり,歯車じかけの糸わくに取っ手を回しながら糸を巻き取る器具。その生糸を座繰り糸という。機械製糸に比して糸質は多少劣り,優良な細糸はできにくい。伝統的な絹織物のよこ糸などに用いる。

ザグレブ [Zagreb] ユーゴスラビア北西部にあるベオグラードに次ぐ同国第2の都市で,クロアチア*の主都。人口56万6,000(1971)。ドナウ川の支流サバ川に沿う河港で,首都ベオグラードとは高速道路で結ばれる。機械・毛織物・皮革のほか,ぶどう酒・干しぶどうを産し,毎年秋に国際見本市が開かれている。長くオーストリア-ハンガリー帝国に属していたのでゲルマン的色彩が濃く,小ウィーンとよばれる。

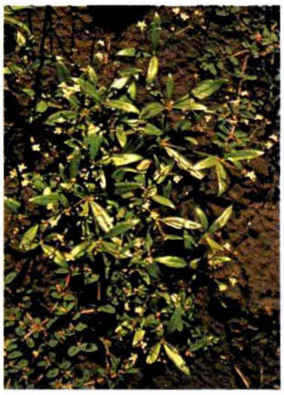
ざくろ 【石榴・柘榴・安石榴】 双子葉植物・ザクロ科。小アジア原産の落葉高木で,高さ5～10mに達する。枝は角張り,ところどころで短枝がとげに変わっている。葉は対生し,細長く長楕円(ちょうだえん)形で,長さ2.5～5cm,表面はなめらか。6～7月,枝先や葉腋(ようえき)に1～5個の花がつく。普通は朱色の六弁花であるが,黄色・白色・紋・八重咲きなどもある。おしべは黄色,多数で,子房下位である。果実は直径6～10cmの球形で,頂端にがく片が残っており,黄色に熟し,さらに赤く変化し,不規則に割れる。内種皮は淡紅色,透明で甘く,生食される。花を観賞するもの,酒醸造用のものなど,50以上の品種があり,世界各地に植えられている。材はかたく,皮のままみがいて床柱などにされる。根皮・樹皮は生薬の石榴皮で,ペレチェリンを含み,煎(せん)じて条虫駆除に用いる。〔加藤僖重〕



ザクロ



ザクロ石　茨城県真壁町山ノ尾産



ザクロソウ

ざくろいし 【柘榴石】 化学組成が$X_3 \cdot Y_2Si_3O_{12}$(X:Mg, Ca, Fe^{2+}, Mn^{2+}; Y:Al, Fe^{3+}, Cr)で表わされる一群の鉱物の総称。ガーネットともいう。X,Yとして,それぞれただ1種類の陽イオンのみを含むものは,人工的に合成されているだけである。天然のものは,X,Yとして,それぞれ2種類以上の陽イオンを含み,パイロープ($Mg_3Al_2Si_3O_{12}$)・アルマンディン($Fe_3Al_2Si_3O_{12}$)・スペサルチン($Mn_3Al_2Si_3O_{12}$)・グロシュラ($Ca_3Al_2Si_3O_{12}$)・アンドラダイト($Ca_3Fe_2^{3+}Si_3O_{12}$)を端成分とした固溶体*と考えられる。格子(こうし)定数11.459～12.048Å,密度3.582～4.318,硬度6～7.5,屈折率1.714～1.887。立方晶系。色は暗赤ないし赤かっ色のものが多いが,化学組成に応じて淡紅・黄・橙(だいだい)・緑・かっ色などさまざまである。斜方十二面体,または偏菱(へんりょう)二十四面体の結晶形を示すことが多いが塊状・粒状のものもある。広い範囲の変成岩や火成岩中に産出する。化学的にとけにくく,機械的に破壊されにくいので,砂や砂岩中にもしばしば含まれている。ザクロ石は硬度が高く,しかも劈開*(へきかい)がなく,砕くと不規則に角張った粒子になるので,研摩材として用いられる。時計の軸受け石にも使用され,透明で色の美しいものは宝石になる。 〔堀福太郎〕

ざくろそう 【石榴草】 双子葉植物・ザクロソウ科。路傍や畑の縁にみられる一年草。茎は細く稜(りょう)があり,高さ10～20cm。緑かっ色で根もとからよく枝分かれし,全体として横に広がる。葉は長さ1～3cmほどで細く,先がとがる。夏から秋にかけて枝先に黄かっ色の小花を多数つける。葉の形がザクロに似ているのでこの名がある。

さけ 【酒】 エチルアルコール(以下アルコールという)を含み,酩酊(めいてい)性をもつ飲料。酒の起源は,多くの神話・伝説によって語られているが,これは,酒に酔うことに神秘性を感じ,神を創始者にあてたためと考えられる。たとえばエジプトでは,オシリス*神がビールの製法を,ギリシアではディオニュソス*神(バッカス神)がぶどう酒の製法を伝えたといわれ,わが国ではスクナヒコナノミコト・オオヤマグイノミコト・コノハナサクヤヒメノミコトらが酒神として伝えられている。しかし実際には,貯蔵あるいは放置されていた果実が自然発酵したものをたまたま飲むことによって発見し,その後改良して今日の酒となったもので,特定の創製者があったわけではないと思われる。

【酒のできる原理】アルコールは糖類が酵母によって発酵する際に生成される。したがって,酒づくりの初段階では,まず糖類をつくることが条件となる。くだものなどでは,はじめから糖分を含むのでそのまま発酵させることができるが,米・麦などのようにデンプンを主成分とするものは,酵素によってデンプンを糖分に変えなければならない。麦の発芽するときできる酵素を利用したのがビールであり,日本酒*または中国の老酒(ラオチウ),朝鮮のマッカリなどは,米のデンプンをかびの酵素で糖化する方式をとる。これらの方法でできた糖分が酵母によって発酵し,アルコールが生成され酒になる。

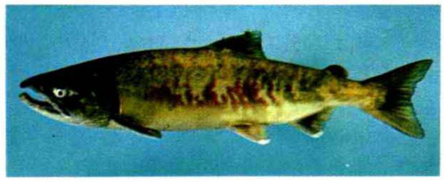
【分類】製造法による分類と税法による分

類とがある。

《製造法による分類》 ①醸造酒：発酵したものをそのまま飲料とする酒。醸造酒は，糖分が豊富な原料を用いて，酵母の作用だけで簡単にできる単発酵酒(ぶどう酒・りんご酒などの果実酒やヤシ酒・乳酒)と，主成分がデンプン質である米・麦などのように，一度デンプンを糖化したのち発酵させてつくる複発酵酒(ビール・日本酒・老酒および朝鮮の濁酒)とに分けられる。さらに，複発酵酒には，ビールのように一度糖化したのち発酵させる単純な過程を踏む単行複発酵酒と，日本酒・老酒・マッカリなどのように，糖化しながら同時に発酵が並行するという複雑な過程を踏む並行複発酵酒とがある。②蒸留酒：醸造酒またはその酒粕(さけかす)を蒸留したアルコール度の高い酒。エキス分は醸造酒よりも少ない。ウイスキー・ブランデー・しょうちゅう・高粱(こうりゃん)酒など。③混成酒：醸造酒・蒸留酒あるいはアルコールをベースにして，調味料・香料・色素などを加えてつくった酒。リキュール類・薬酒類・甘味ぶどう酒・合成清酒など。

《税法上の分類》 税法では，アルコール1度以上を含む致酔飲料を酒として課税対象とされる。したがって，果汁(かじゅう)・乳酸飲料などでもアルコール1度以上あれば酒として課税される。そして，消費者の担税力に応じた負担を課するため，酒類を10種類に分類している。( )内はその類がさらに細かく分類されていることを示す。①清酒，②合成清酒，③しょうちゅう(甲類・乙類)，④みりん(本みりん・本直し)，⑤ビール，⑥果実酒類(果実酒・甘味果実酒)，⑦ウイスキー類(ウイスキー・ブランデー)，⑧リキュール類，⑨スピリッツ類(スピリッツ・原料用アルコール)，⑩雑酒，などで，すべて原料・製造法に厳重な規定が設けてある。

〔酒の生理〕 酒に酔うのは，アルコールの麻酔作用による。普通の麻酔剤では，一定の量を与えればだれでもほぼ同程度の兆候を現わすが，酒の場合には同量でも酔度には個人差がある。これは，個人によってアルコールの血液への吸収度が異なるからであり，上戸でも下戸でも同程度の酔度であれば，両者の血中アルコール濃度はほぼ同じである。



サ　ケ

血中のアルコール濃度と酔度の関係は次のとおりである。①端正期：血中アルコール1／1,000以下，尿中1／100万以下。顔が赤くなる程度で，端正な態度を保つことができる。②鼻歌期：血中アルコール2／1,000，尿中1／100万以下。興奮状態となり，瞳孔(どうこう)が拡大し，制止作用が少なくなって軽口となり，後期には泣き上戸・笑い上戸などが出る。③けんか期：血中アルコール2～3／1,000，尿中2～3／100万。運動障害がひどくなってちどり足となり，自制心が少なくなってけんかなどをする。④抱柱期：血中アルコール3～4／1,000，尿中3～4／100万。歩行不能となり，よろめきすわる。柱などにつかまらねば立っておれない。ろれつはまったく回らない。みぞなどに落ちてけがをするのはこの時期である。⑤腰抜け期：血中アルコール5／1,000以上，尿中5／100万以上。腰が抜けて動けず，言語不能，視界が回る。⑥泥酔(でいすい)期：昏睡(こんすい)状態となって寝込んでしまう。

酒に酔って赤くなるのは，アルコールが血管の拡張神経を刺激して体表の血管を拡張するからであり，同時に心臓の鼓動も早くなり，血行を盛んにする。青くなるのは，拡張神経が麻痺して血管が縮小するからで，赤くなったのち大酒して青くなるのも同じ理による。大酒の翌日に二日酔いを起こすことがあるが，これはアルコールの分解中間物のアセトアルデヒドができるためであるという。〔住江金之〕

さけ【鮭】 硬骨魚類・サケ科。シロザケともいう。海生だが産卵は川で行なわれ，稚魚は川で育つ。全長1mに達する。体は細長いが側扁(そくへん)の度は少ない。背側は灰青色，腹側は銀白色。川をさかのぼりはじめると，黒・黄・桃色の混じった不規則な斑紋(はんもん)が現われる。このころの雄は，吻端(ふんたん)が伸長して下方に曲がり，いわゆる〈鼻曲がり〉となる。北千島・カムチャツカ・アラスカに分布する系統と，4～6月に東北地方や北海道東方水域に現われる系統(トキシラズ)および9～12月に北海道や本州の川にさかのぼる系統(アキアジ)がある。分布の南限は，太平洋側では利根(とね)川，日本海側では山口県と朝鮮の南端であるが，福島県・富山県以南には少ない。川をさかのぼった親魚は，浅い流れのゆるやかな支流にはいり，雌雄一対となる。雌は尾で激しく水をあおって，砂礫(されき)の川底に直径1m，深さ50cmに及ぶ産卵床を掘り，そこに産卵・放精する。次いで産卵床を埋めもどすが，その後親魚は疲れはてて死ぬ。卵は約60日で孵化(ふか)し，その後50日ほどは産卵床のじゃりのすきまで，完全に卵黄を吸収してしまうまで成長を続け，体長3.5cmほどになって外界に出てくる。これらの稚魚は，川を下って海にはいるが，川口に至るまでに平均5～7cmに育っている。川口を出た稚魚は，しばらくの間沿岸一帯を群泳する。体長6～10cmをすぎるころから沖合いに出て，その後の行動はわからなくなるが，アリューシャン列島の中部を含む北太平洋で成育するものらしい。日本海で成育するものはないといわれる。海で成長したサケは，3～6年後，生まれ故郷の川にさかのぼる。川をさかのぼるのは，4歳魚がほとんどである。サケが，孵化した川にさかのぼる(母川回帰)性質を利用して，日本では溯上(そじょう)するサケから人工採卵し，孵化させてから放流しているが，資源は急速に減りつつある。サケは日本では新巻(あらまき)・塩ざけ・かんづめにして最も歓迎される種類だが，アメリカではドッグ-サモンとよんで珍重されない。

サケ科の魚類のうち，サケ，カラフトマス*(セッパリマス・ピンク-サモン・ハンプバック-サモン)，ベニザケ*(ベニマス・レッド-サモン・ソックアイ)，マスノスケ*(キング-サモン)，ギンザケ*(ギンマス・シルバー-サモン)の5種は，北太平洋の重要漁獲物であるため，水産上は一括してサケ・マス類といわれることが多い。形態・生態は互いによく似ているが，分布・産額・食味には多少の違いがあり，北太平洋のアジア側ではカラフトマスが最も多く，次いでサケ・ベニザケ・ギンザケと続き，マスノスケはきわめて少ない。アメリカ側では，サケとベニザケの順位が入れ替わるほか，マスノスケの絶対数が多いという違いがある。日本ではサケが最も歓迎されるが，アメリカではベニザケ・マスノスケに人気がある。

なお，英語では，すべて海産のサケ科魚類はサモンとよばれ，淡水産または陸封型のサケ科魚類はトラウトとよばれている。サケ科魚類には，同一種の中に湖沼あるい

わが国の酒類消費量　(単位　kl)

種類＼年次	1965	1966	1967	1968	1969	1970
清酒	1 196 846	1 343 912	1 359 734	1 400 491	1 493 552	1 529 253
合成清酒	71 457	63 396	54 446	51 689	45 518	38 475
しょうちゅう	214 611	214 943	213 729	215 142	201 733	202 048
みりん	16 297	18 600	21 802	23 522	26 483	29 540
ビール	1 922 629	2 061 558	2 407 331	2 396 383	2 676 637	2 909 166
果実酒類	35 369	36 728	36 977	35 158	34 998	33 483
ウイスキー類	64 592	80 798	97 336	106 219	122 042	131 996
リキュール類	7 102	8 405	9 867	11 480	13 494	16 292
スピリッツ類	3 056	3 507	4 409	5 440	6 795	8 188
雑酒	1 154	852	666	640	661	784

(1971年10月，国税庁調べ)

は河川で一生を送る型(陸封型)と，産卵・孵化だけを河川で行ない，その他は海で育つ型(降海型)の二つをもつものがある。上記5種のうちでは，ベニザケにはヒメマス(カバチェップ)という陸封型があるが，それ以外のものには知られていない。〔菅野　徹〕

さけい【砂鶏】鳥類・サケイ科の鳥の総科およびそのうちの一種。砂漠(さばく)に生息し，ハト目に属すると考えられている。オーストラリア区を除く旧世界に16種が分布する。体はハトのように体胴部が太くて丸く，脚は短い。羽色は灰色・かっ色などの隠蔽色(いんぺいしょく)。群れ性で，種子・芽などを主食とする。地上に産卵し，ハト類一般とは逆に日中は雌が，夜間は雄が抱卵する。数十キロメートルも離れた水場に朝夕水を飲みに行き，嗉嚢(そのう)に35mlもの水をたくわえられるものもある。親鳥の羽毛は水をよく保ち，水場で羽毛をぬらしてきて，雛(ひな)を冷やすこともする。冬季の異常寒冷な年には，通常の分布域外に大群で渡りをする。サケイ科の一種であるサケイは，ユーラシア大陸の砂漠地帯に分布する。西ヨーロッパでは上記の異常な渡りが過去に数回記録されており，日本には1967(昭和42)～1968年の冬季に新潟県・滋賀県などに数羽がはじめて渡来した。〔安部直哉〕

さげお【下緒】刀のさやの栗形(くりがた)に通して下げるひも。大部分は絹でつくった組紐(くみひも)で平打ちが多いが，まれには丸打ちのものや革緒(かわお)もある。長さはふつう1.2～1.5mあり，斬(き)り合いの際にはたすき，敵を捕えるときには捕縄(ほじょう)として用いた。

さけかす【酒粕】もろみから清酒を絞り取った粕。原料の白米100kgから30kg内外が得られる。固形物50%，アルコール5%，糖分2.5%，デンプンおよびデキストリンを22%も含んでいる。まだ十分発酵原料になるので，しょうちゅう・粕酢・合成酒の原料として利用される。このほか直接食料として，奈良づけ・粕づけ類など鳥獣魚菜のつけ物の原料，また粕じるなどの料理方面の用途も多い。

さげがみ【下げ髪】女子の髪形の一種。中世の垂髪*の風習が近世まで残り，貴族・武家諸侯の奥方が用いた髪形である。当時一般庶民は，鬢(びん)・髱(たぼ)・髷(まげ)の結髪方法であったが，大奥では正式の場合，髷はほどいて下げるしきたりになっていた。明治以後は少女・女学生などにみられる。

さけびどり【叫鳥】鳥類・サケビドリ科の総称。ガンカモ目に属し，南アメリカに3種が分布する。現生鳥類に共通してみられる肋骨(ろっこつ)の鉤状(こうじょう)突起がない(始祖鳥*にはこの鉤状突起がなく，この類は原始的形質を残したものと考えられる)，骨の空胴構造が非常に発達している，皮下に空気層がよく発達し，特殊な叫び声を出す，翼の前縁に2本のつめ状突起があるなどの特徴がある。ガン類ほどの大きさで，沼地・森林に囲まれた潟湖(せきこ)・湿性草原などに生息し，水辺植物とその種子を主食としている。〔安部直哉〕

さけ-ますぎょぎょう【サケ-マス漁業】サケ科のうち，降海型の魚類(サモン)(→サケ)を捕護する漁業。海産のサケには淡水生活期と海洋生活期があるので，漁業もそのいずれかの生活期を対象として発達している。産卵のための遡河群(そかぐん)を迎えて，河川口域では地引き網や刺し網などで漁獲し，泥岸(でいがん)の浅い所では角網(かどあみ)や落とし網などの定置漁具が用いられる。日本沿岸の太平洋側では利根(とね)川以北，日本海側では山口県以北に分布し，北海道石狩川のアキアジ漁は有名である。海洋漁業にあっては，流し刺し網やサケ-マスはえなわが主漁具として用いられている。日本海中部でも若干の漁獲がなされるが，日本のサケ-マス漁業の中心は北洋漁場のそれである。しかしこれは，資源保護その他の目的で日本・ソ連・アメリカ・カナダの4か国間にきびしい漁業条約が締結されていて，無制限な漁獲は禁止されているが，わが国水産業の一主幹をなしており，例年5月中旬，母船を中心に100トン前後の独航船30～35隻が船団を組み，函館(はこだて)・釧路(くしろ)などの基地をあとに漁場に向かう。一定漁獲に達すると，その年度の漁業は終了する。日ソ漁業条約に基づく1971年(昭和46)春の日ソ漁業交渉では，日本のサケ-マス漁獲量は95,000tとなっている。〔石野　誠〕

ざこう【座高】正しくいすにかけた際の座面から頭頂までの垂直距離。身長と同様に人体の縦の成長を表わす指標として使われる。座高の身長に対する割合(座高÷身長×100)を比座高といい，この値が大きければ一般にあしが短く，小さければあしが長い体を表わす。

さこうしょう【砂鉱床】岩石または鉱床が風化分解する際に風化に対して強くかつ重い鉱物が水による選別作用を受けて集中してできた鉱床。分解しやすい鉱物，軽い鉱物は水によって流失する。砂鉱床を形成する鉱物は，シゼンキン・シゼンハッキン・イリドスミン・ジテッ鉱・チタンテッ鉱・クロムテッ鉱・ザクロ石・モナズ石・ジルコン・ダイヤモンドなどである。砂金は金の砂鉱床，砂鉄はジテッ鉱・チタンテッ鉱の砂鉱床，砂スズはスズ石の砂鉱床である。また，ジテッ鉱・チタンテッ鉱・スズ石など比較的黒っぽい鉱物が混じった砂鉱を黒砂という。アラスカのノーム地方の砂金，マレーシアの砂スズが有名で，わが国では岩手県久慈地方の砂鉄が知られる。〔今井秀喜〕

さこく【鎖国】1639年(寛永16)から1853年(嘉永6)まで，約215年間にわたる江戸幕府の対外封鎖政策およびその結果としての国際的孤立状態をいう。

【原因】キリスト教禁止と幕府の貿易統制による。近世初期には，豊臣秀吉(とよとみひでよし)・徳川家康(いえやす)が海外貿易を奨励したため，朱印船*貿易による日本人の海外渡航が盛んに行なわれた。しかし秀吉・家康は，ともにキリスト教の国内普及は封建支配の倫理と矛盾し，封建体制の強化・安定を阻害するものと考えた。またポルトガルと対日貿易を激しく争ったオランダは，対日貿易独占を企図して，ポルトガルのキリスト教布教は領土的野心によるとの進言をしたため，秀吉・家康はしばしば禁教令を発布してキリシタン*を取り締まった。しかし，貿易船で日本に潜入する宣教師は跡を絶たなかった。幕府は海外貿易の利益によって西国大名が富裕化することを恐れ，さらに糸割符*(いとわっぷ)仲間の生糸貿易独占の企てなどに動かされ，貿易統制策をとった。

【経過】1604年(慶長9)に糸割符制を創始して生糸輸入を統制し，1614年西国大名の所有する五百石積以上の大船を没収して大船の建造を禁止した。1616年(元和2)には貿易地を平戸・長崎の2港に制限し，1624年にはイスパニア船の渡来を禁止した。1631年奉書船*制度を創始，1633年には奉書船以外の日本船の海外渡航を禁止し，さらに5年以上海外に在留する日本人の帰国を禁止した。1635年日本船の海外渡航と海外在留日本人の帰国を禁止し，外国船の入港地を長崎に限定した。1636年ポルトガル人を長崎出島に移住させ，ポルトガル人との混血児をマカオに追放した。1639年ポルトガル船の渡来を禁止，1641年にはオランダ人を出島に移住させ，鎖国体制を確立した。

【鎖国下の状況】海外との交流は，通信国としての朝鮮・琉球(りゅうきゅう)と，通商国としての中国・オランダの4か国だけになり，海外の事情は，オランダの長崎商館長が毎年幕府に提出する《オランダ風説書*》によって幕府の一部関係者のみが知りえた。中国・オランダとの長崎貿易も江戸中期以降はしだいに制限を強化されていった。

【影響・意義】①鎖国によって近世封建体制(幕藩体制*)は強化・安定し，国内は長期間にわたる平和を維持した。②海外貿易の衰退により国内での自給自足の経済体制が確立し，諸産業の発達を促進した。③南洋日本町*が衰滅して日本人の海外への発展活動は不可能になり，進取の気風が封ぜられて島国根性が形成された。④世界の進運から取り残され，西洋文化の摂取が遅れた。その反面，元禄(げんろく)文化・化政文化(→文化・文政時代)など日本独自の文化が形成された。〔松尾　涼〕

さこくしかん【左国史漢】中国の散文叙事文学の最も代表的なもので，《春秋左氏伝*》《国語*》《史記*》《漢書*》の総称。いずれも漢代から広く読まれた書であるが，〈左国史漢〉の称はいわゆる〈明(みん)の七子〉，李攀

龍*(りはんりゅう)・王世貞*のころに始まる。わが国では江戸期の諸藩，私学の課業規制にこの称がみえ，荻生徂徠*(おぎゅうそらい)の《徂徠先生学則 付録》には，〈それ学問の道は，古に本(もと)づく。六経・論語・左国史漢は古書なり。人いずれか読まざらん〉とある。この考えは夏目漱石(そうせき)ら明治の文人にも受け継がれた。〔勝村哲也〕

さこつ 【鎖骨】 胸骨と肩甲骨*とをつなぐ管状の骨。S字状にゆるい湾曲をし，胸骨とは胸鎖関節，肩甲骨とは肩峰の部分で関節をつくっている。哺乳(ほにゅう)類には原則として存在するが，食肉目には存在しない。霊長類ことにヒトでは著しく発達する。鎖骨から起こる大胸筋は，テナガザルなどの枝渡り運動に必要な筋である。

ざこつ 【坐骨】 腸骨，恥骨と癒合(ゆごう)して寛骨を形成する骨。いすに腰をかけたときあたるのはこの骨の結節状の高まりである坐骨結節である。

ざこつしんけい 【坐骨神経】 ⇨脊髄(せきずい)神経

ざこつしんけいつう 【坐骨神経痛】 ⇨神経痛

サゴやし 【サゴ椰子】 単子葉植物・ヤシ科・サゴヤシ属の常緑の多年生植物。東南アジアからメラネシアの島々にかけて分布し，淡水または海水と淡水との交流する沼沢地に群生する。高さは10～15mで基部から葉が叢生(そうせい)する。葉は羽状複葉で，葉柄には長いとげがある。花は10～20年めに幹の頂部につき，大形の円錐(えんすい)花序になる。果実は1cmほどの球形で，鱗片(りんぺん)におおわれ，結実後に枯死する。開花直前，茎に多量のデンプンを蓄積するので，この時期に切り倒し，髄を細かく切って水洗してデンプンをとる。これを精製したものはサゴデンプンといい，古くから原住民の食糧とされ，また綿布用ののりや菓子の原料，ブドウ糖製造用として輸出される。新芽は食用になり，葉は屋根・かご・むしろに用いる。近縁のトゲサゴはサゴヤシに似ているが，葉柄や葉の中肋(ちゅうろく)に長いとげをもち，やはりデンプンをとるために栽培されている。〔横井朝子〕

さごろもものがたり 【狭衣物語】 平安後期の物語。作者は六条斎院(禖子(ばいし)内親王)に仕えた宣旨(せんじ)説が有力。成立時期は《源氏物語*》に遅れること1世紀前後であろうが，詳しくは不明。物語の名は狭衣大将のよんだ歌〈いろいろに重ねては着じ人知れず思ひそめてし夜半(よわ)の狭衣〉から出，内容は，堀河(ほりかわ)関白の子狭衣大将が従妹源氏宮に対する満たされない恋ゆえに，女二宮・飛鳥井姫(あすかいひめ)・一品宮(いっぽんのみや)らの女性をめぐって，苦悶(くもん)の多い恋愛遍歴を重ねていくようすを描く。物語の筋・人物・文章など，多くの点で《源氏物語》の影響が著しく，その亜流であるとの評は免れえないが，最近ではその模倣のしかた，心理描写の方法，長編物語としての構成力などに新しい評価の目が向けられている。伝本は鎌倉期の写本をはじめ数が多く，また，本文異同の激しいことは享受史の一面を物語るものとして興味深い。〔石埜敬子〕





サ　サ
(上)ミヤコザサ
(下)チマキザサ

ささ 【笹】 単子葉植物・イネ科・タケ亜科。以前は，植物体が小形で幹よりも葉が目だち，粽(ちまき)のように食物を包んだり牛馬の飼料にするなど，おもに葉を利用するものをササといい，これに対して大形で幹(分類上は稈(かん)といい，内部に空洞(くうどう)のある茎)が目だち，おもに幹や枝を利用するものをタケといった。現在は，たけのこが生長するにつれてタケの皮(葉の変形物)が下方のものから次々に落ちるものをタケ，生長したあとも長い間幹についているものをササとしている。ササやタケには……ザサ，……ダケ，……チクという名のものが多いが，その語尾だけではタケとササの区別はつけられない。たとえば，メダケ(女竹)・ヤダケ(矢竹)・ネマガリタケ(根曲竹)などはいずれも幹が目だってよく利用されるが，ササである。また，シャコタンチク(積丹竹)・カンチク(寒竹)・カンザンチク(寒山竹)も同様に美しい幹が目だつがササである。これに対し，高さが1～2mのオカメザサ(阿亀笹)は，世界で最も小さいタケである。ササは狭義にはササ類のうちのササ属(クマザサ属)をいい，広義にはほかにスズダケ属・メダケ属・アズマザサ属(シノ属)・ヤダケ属・カンチク属などを含む系統をタケ類と区別していう。

ササ属には40種ほどが含まれ，北海道・本州・四国・九州など日本全国に産するが，外国ではサハリン(樺太(からふと))(北緯51°以南)，千島列島(中千島ケトイ島以南)および朝鮮(朝鮮北部の一部と済州島)に分布するのみで，ほとんど日本特産といえる。そのうち，最もよく知られているのはクマザサ(隈笹)である。冬に葉の縁が白くなって美しいので，全国的に栽培されており，京都市付近の山地に自生品があることが近年わかった。タケの皮に粗毛が密生するほかは，植物体全体にまったく毛がないのが特徴である。チマキザサ(千巻笹)は，葉が大きくて広いので，粽*をつくるのに利用されることでよく知られている。これは雪国に産し，四国と九州では高山にだけ産する。チマキザサの一品種に，幹にかっ色斑紋(はんもん)のあるシャコハンチク(鷓鴣斑竹)があり，昔はきせる羅宇(らお)や筆の軸用に諸所で栽培されたが，需要が減ったためにいまは観賞用としてまれに庭に植えられているにすぎない。ササ属のうちで最も大きいものに高さ2～3mになるチシマザサ(千島笹)があり，幹の基部の直径が2cmくらいになって，幹の上部で密に枝を分岐する。根もとが強く湾曲しているのでネマガリダケ(根曲竹)ともいわれる。千島・サハリン・朝鮮北部・北海道・本州(東北地方および裏日本)に産し，ササ属のうちで地理的に最も北に，また高山の最も高所にはえる種類で，たけのこが美味なことでもよく知られる。ササ属の中の1群にミヤコザサ類がある。たけが低く，ふつう30～80cmくらいで，茎が細く，節が球状にふくらみ，ほとんど枝を出さない。タケ・ササには一般に枝があるが，枝のないのはこのミヤコザサ類だけである。これには10種ほどが含まれ，そのうちの代表種であるミヤコザサ(都笹)は京都の比叡(ひえい)山で最初に発見された。ミヤコザサ類は北海道と本州の表日本と四国・九州に分布し，最高積雪量が50cm以下のところにだけ限られて生育する。スズダケ(篶竹)属はササ属に最も近い仲間であるが，タケの皮が節間より長いため，茎全体がタケの皮でおおわれており，また枝先の葉2～3枚しかないので区別できる。

なおササの名は，風に吹かれると〈ササ・ササ〉と音をたてることから起こったとも，また細小竹(ささだけ)の下略であるともいわれる。〈笹〉は国字で，古くはタケの節と節の間を〈節(よ)〉といい，それに〈世〉をあて，竹を添えてできたといわれる。〔鈴木貞雄〕

ざざい 【座剤】 座薬ともいう。肛門(こうもん)・尿道・膣(ちつ)などに挿入(そうにゅう)する外用剤。カカオ脂・ラウリン脂・ポリエチレングリコールなどの基剤に医薬品を配合し，局所に入れると基剤が体温や分泌液に徐々にとけ，含まれている医薬品が直接に，または吸収されたのち作用して薬効を現わす。製法は，基剤に医薬品をよく混和し，手工法または器械によって挿入しやすい形(球形・円錐(えんすい)形・紡錘形など)にする。肛門座剤には全身作用を期待するものと，痔疾(じしつ)治療などのように局所作

用を主目的とするものとがある。全身作用を期待する場合とは，医薬品の内服が困難あるいは不可能なときや，内服では吸収されにくいときなどで，直腸から吸収させて薬効を現わす目的で応用する。ほかに，尿道・膣の局所疾患治療用として尿道座剤・膣座剤がある。〔江本龍雄〕

さざえ【栄螺】軟体動物・腹足類・リュウテンサザエ科。海生の巻き貝で，殻(から)は厚くてかたく，殻高(かくこう)10cm，殻径8cmほどに達する。殻口に石灰質で厚くかたいふたを備える。ふたの内面はかっ色，表面は白色で全面に細かいとげがあり，またゆるいらせん形のうね状の高まりがある。殻表に太い管状のとげ状突起があるものが多いが，波の静かな海域，特に瀬戸内などのものでは突起のまったくないものも珍しくない。殻表の色は淡かっ色であるが，フジツボ・ゴカイ類・チゴケムシや石灰藻(せっかいそう)その他の付着生物で色どられていることが多い。北海道南部から九州までと朝鮮半島・中国大陸沿岸の潮間帯の岩礁にすみ，褐藻(かっそう)類や石灰藻類を食べる。日本での産額は多く，つぼ焼きは海の味覚として有名。食べるときに，殻の奥のほうから出てくるうず巻きの部分が，生殖腺(せいしょくせん)で緑色ならば雌，クリーム色であれば雄である。〔菅野　徹〕



サ ザ エ

さざえわり ⇨ネコザメ

ささがき【笹掻き】野菜の切り方の一。おもにゴボウ・ニンジンを切るのに用いられる。材料を手に取って，薄くそぎ落とすように切る。笹の葉の形に似ているため，この名がある。

ささきくに【佐々木邦】(1883～1964) 小説家。静岡県の生まれ。明治学院高等部卒業。マーク＝トウェーン*の影響を受け，ユーモア小説《悪戯(いたずら)小僧日記》を書いて文壇に出た。作品は中流家庭に題材を求めたものが多く，《愚弟賢兄》《恋愛心理学》などがある。諧謔(かいぎゃく)的な作風を生涯(しょうがい)貫き，大正期自由主義を代表する大衆小説家である。

ささきこじろう【佐々木小次郎】(？～1612) 江戸初期の剣客。巌流と名のる。安芸(あき)(広島県)の毛利家の家臣とも，越前(福井県)の人ともいわれるが確証はない。若くして武者修業に出，ヤナギの枝がツバメを打つのを見て〈燕(つばめ)返し〉の剣法を得たと伝える。のちに小倉藩主細川忠興(ただおき)に仕えた。たまたま宮本武蔵*(むさし)がこの地を訪れた際，関門海峡の船島で勝負を競い，武蔵の木刀に打たれて死んだという。

ささきそういち【佐々木惣一】(1878～1965) 憲法学者。鳥取市に生まれる。1903年(明治36)京都大学卒業後，同大学で教授として憲法・行政法を講じ，のち名誉教授。憲法・行政法の権威として公法学界の指導的地位にあった。1933年(昭和8)滝川事件(→京大事件)に際して，学問の自由を守るため滝川教授らと辞職したことは有名。第2次世界大戦後，内大臣府御用掛として憲法改正草案(いわゆる佐々木試案)を作成した。主著に《日本行政法原論》《日本憲法要論》《日本国憲法論》などがある。〔吉田善明〕

ささきたかうじ【佐々木高氏】(1306～1373) 南北朝時代の武将。近江(おうみ)(滋賀県)の豪族で，佐々木氏の支流京極宗氏(むねうじ)の子。1331年(元徳3・元弘1)元弘(げんこう)の乱*以後，鎌倉幕府の命により後醍醐(ごだいご)天皇*を隠岐(おき)(島根県)に護送したが，情勢を観望して足利尊氏*(あしかがたかうじ)に討幕の挙兵を勧めた。建武中興*政府では雑訴決断所*の職員に列し，武家方の利益を代表した。次いで尊氏の謀反(むほん)に従い，室町幕府の創立にあたって殊功を立てたので評定衆*となり，近江をはじめとする4か国の守護となった。その後も幕府のために南朝*軍と各地で戦い，1338年(延元3・暦応1)には北畠顕家*(きたばたけあきいえ)の西上軍を破り，また四条畷(しじょうなわて)の戦い*では楠木正行(くすのきまさつら)を敗死させた。1350年尊氏・直義(ただよし)兄弟対立の際，尊氏方に属して活躍し，佐々木一族の大惣領(そうりょう)となり，法名を道誉と号した。文学に通じ，和歌・連歌をたしなみ，近江猿楽(さるがく)の保護者でもあった。〔高崎徳次〕

ささきたかおき【佐々木隆興】(1878～1966) 医学者。東京に生まれる。1902年(明治35)東京帝国大学医科大学を卒業。翌年同大学医化学教室にはいり隈川宗雄(くまかわむねお)教授について生化学を専攻するかたわら，杏雲堂(きょううんどう)医院施療部で診療に従事。1905年ドイツへ私費留学し，はじめシュトラスブルク大学，のちベルリン大学で生化学・病理学・内科学を聴講した。1913年(大正2)京都帝国大学医学部教授となり，内科学第1講座を担当。1916年退職し，父祖代々の杏雲堂医院長となり，診療に従うかたわら佐々木研究所を設立して生化学を中心とする研究を続けた。1924年，タンパク質およびこれを構成するアミノ酸の分解と合成に関する研究で帝国学士院恩賜賞を受け，1936年(昭和11)〈オルトアミノアゾトルオールの経口的投与による肝臓癌(かんぞうがん)生成の実験的研究〉で吉田(よしだ)富三とともに帝国学士院恩賜賞を再び授けられた。1940年文化勲賞を受賞。〔大鳥蘭三郎〕

ささきたかつな【佐々木高綱】生没年不詳。鎌倉初期の武将。秀義(ひでよし)の4男。母は源為義(ためよし)の娘。1180年(治承4)源頼朝(よりとも)挙兵の際，京都からよばれて石橋山の戦い*に加わる。兵法に通じ，杉山(すぎやま)で頼朝の危機を救ったり，特に宇治川の戦いで梶原景季*(かじわらかげすえ)との先陣争い話は有名。左衛門尉(さえもんのじょう)に任ぜられ，備前(岡山県)・安芸(あき)(広島県)など7国の守護となったが，1195年(建久6)家督を子重綱(しげつな)に譲って高野山にはいり西入・了智(りょうち)と号した。〔高崎徳次〕

ささきちゅうじろう【佐々木忠次郎】(1857～1938) 動物学者・こん虫学者。福井県に生まれる。東京大学生物学科卒業後，駒場農学校(のちの東京大学農学部)でこん虫学および養蚕学を教える。日本におけるこん虫学の始祖。カイコに寄生するウジバエの生活史に関する研究は著名である。

ささきのぶつな【佐佐木信綱】(1872～1963) 歌人・歌学者。三重県の生まれ。歌を国学者の父弘綱(ひろつな)に学び，父の主宰した竹柏会(ちくはくかい)を継ぎ，1898年(明治31)機関誌《こころの華(はな)》(のち《心の花*》と改題)を刊行した。新旧両派折衷の穏やかな歌風で，《思草(おもいぐさ)》《常盤木(ときわぎ)》などの歌集があり，ほかに，歌の歴史的研究をも行ない，《日本歌学史》《和歌史の研究》《評釈万葉集》，橋本進吉*らと共編の《校本万葉集》など著書が多い。〔堀井謙一〕

ささきみつぞう【佐々木味津三】(1896～1934) 小説家。本名光三(みつぞう)。愛知県の生まれ。明治大学政経科卒。1910年雑誌記者を経たのち，《呪(のろ)はしき生存》で作家としてデビュー。のち大衆小説を書きはじめ，《右門捕物帖(とりものちょう)》《旗本(はたもと)退屈男》などの連作で人気を博した。

ささきり【笹螽蟖】こん虫類・直翅(ちょくし)目・キリギリス科。体長12～15mm，前翅長14～17mm，雌の産卵管長8～10mm。頭部はよく突出し，複眼も球形でよく突出している。全体暗緑色，前翅の前縁および後脚の膝部(しつぶ)(腿節(たいせつ)と脛節(けいせつ)の接合部)などは明瞭(めいりょう)な黒かっ色。関東地方以南，中国・台湾・マライ半島・スマトラ・ボルネオなどに広く分布，樹林下のささやぶなどの日陰や多湿地に生活する。

ささげ【豇豆】双子葉植物・マメ科の一年草。つる性と矮(わい)性のものがあり，つる性のものは2mにも達する。夏に黄白～紫色の花をつける。品種によってさやの長さに変異があり，5cmぐらいの品種が多いが，30cmに及ぶ品種もある。長莢(ちょうきょう)のものは若莢を食用に供することができるが，短莢のものはもっぱら種子を利用し，アズキの代わりに使うことがある。温暖・乾燥を好み，春にまいて夏から秋に収穫する。長莢の十六ササゲや短莢のアズキササ

ゲなどの品種が有名である。〔松本正雄〕

ささごとうげ　【笹子峠】　山梨県東部，桂(かつら)川上流域の郡内地方と甲府盆地とを結ぶ峠。標高1,096m。古くから甲州街道の難所として知られてきた。現在，1903年(明治36)峠の東に開通した中央本線の笹子トンネル(長さ4,656m)と，1958年(昭和33)峠の北東側に通じた国道20号線の笹子トンネル(3,003m)がここを越えている。

ささごトンネル　【笹子トンネル】

1 山梨県東部，国鉄中央本線が笹子～初鹿野(はじかの)間で笹子峠を越えるところに建設された単線型鉄道トンネルで長さ4,656m。1903年(明治36)に開通した。1966年(昭和41)，中央本線の複線化工事に伴って，さらに平行して単線型トンネル1本を開通させたのが，新笹子トンネルである。長さ4,670m。旧トンネルを下り線，新トンネルを上り線として使用している。

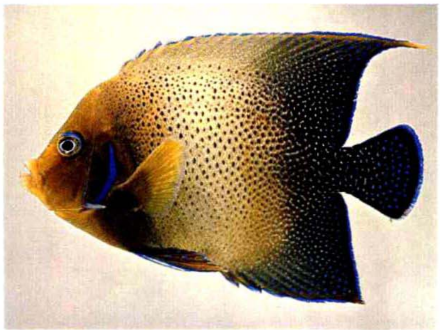
2 国道20号線(甲州街道)が笹子峠を越えるところに日本道路公団によって建設された有料道路トンネル。長さ3,003mで，わが国の道路トンネルでは関門トンネルに次ぐ長さをもつ。1958年開通し，甲府盆地の園芸農業や観光客誘致に大きな影響を与えている。〔青木栄一〕

さざなみ　【細波】　静穏な海面に風が吹いてくると，一面に縮緬(ちりめん)状の細かい波が発生する。これが〈さざ波〉である。波長が約1.7cm以下の短い波で，水の表面張力が原因で起こる。波の移動速度は，波長が短いほど速い。この表面張力波は，普通の重力波と違って，波の山が平坦(へいたん)で谷がとがっている。周期は約0.1秒以下。

さざなみやっこ　【細波奴】　硬骨魚類・チョウチョウウオ科。全長約40cmに達する海産魚。体は卵形で，体高が高く，側扁(そくへん)する。うろこは小さい。色彩は成魚と幼魚とでは別種とも思えるほど違う。成魚は，頭が黒く，体は黄かっ色。幼魚は，青黒色地にあざやかな波形の白色横帯を10数本つける。本州中部以南，アフリカ・オーストラリア・ポリネシアに分布する。

ささのつゆ　【笹の露】　地歌・箏曲(そうきょく)の曲名。別名《酒》。文化・文政(1804～1829)ごろに京都の菊岡検校(けんぎょう)が三味線(しゃみせん)曲として作曲し，のち八重崎検校が箏の手をつけて三味線と箏の合奏曲とした。本来，生田流の曲であるが，山田流でも演奏される。大規模な手事物形式を採用して前唄(まえうた)・手事・中唄・手事・後唄(あとうた)という構成になっている。和漢の故事を引用して酒の徳を礼賛(らいさん)する歌詞をもち，差しつ差されつの模様を描写したといわれる三味線と箏の掛合が多い。〔山口　修〕

ささのぼり　【笹野彫】　木彫りの郷土玩具(がんぐ)で，山形県米沢(よねざわ)市郊外，笹野観音の1月17日の縁日に縁起物として売られる。先住民のアイヌから伝えられたと



サザナミヤッコ



笹野彫



ササユリ

いわれる削りかけの技法で，木はだの白い粘りのあるサワグルミ・アブラコなどを材料に猿(さる)切り・ちちれなどという刀を使用してつくる。江戸時代，藩主上杉鷹山(うえすぎようざん)が農家の副業として奨励したことによって盛んになり，今日まで続けられている。〔牧野玩太郎〕

ささめごと　心敬の連歌論書。1463年(寛正4)生地紀伊(きい)(和歌山県)に下った際，土地の好士の求めによって書き与えたもの。上・下巻約60項目からなり，連歌の歴史，修行の心構え，付合(つけあい)についての親句疎句の説，理想とする風体，仏道歌道一如の説などが述べられ，中世芸術論の一典型ともいわれている。

ささめゆき　【細雪】　谷崎潤一郎の長編小説。1943年(昭和18)1月・3月号の《中央公論》に一部が発表され，1947年3月から翌年10月にかけて《婦人公論》に下巻が連載され完結した。大阪の船場の没落商家蒔岡(まきおか)家には鶴子(つるこ)・幸子(さちこ)・雪子・妙子(たえこ)の姉妹がいる。鶴子は辰雄(たつお)を迎えて家を継ぎ，幸子も貞之助を迎えて分家するが，縁遠い雪子の結婚は多くの縁談があるにもかかわらず不調に過ぎる。妙子は人形づくりに才能を発揮するが，行動的で男性関係で問題を起こす。ふたりの妹に幸子夫婦は苦労するが，妙子はバーテンダーの三好(みよし)と結婚し，雪子も公家(くげ)の血を引く御牧(みまき)と結婚する。《源氏物語》の現代訳をした作者の努力が生かされ，花見・月見・ほたる狩りなど伝統的な風流事の美麗な描写を交錯させて，昭和期の〈源氏〉とも称される。〔高原二郎〕

ささやきぐさ　【囁草】　⇨タケニグサ

ささやとうげ　【笹谷峠】　仙台(せんだい)と山形を結ぶ笹谷街道にあり，宮城・山形の県境をなす峠(標高906m)。昔の有耶無耶関(うやむやのせき)の跡がある。なお，現在は両市を結ぶ主要ルートは天童を経由する関山街道となっている。

ささやま　【篠山(町)】　兵庫県多紀郡の町。人口23,000。県東部の篠山盆地にあり，1955年(昭和30)旧篠山町と周辺4村が合併して新発足した。旧篠山町は，松平氏のち青山氏六万石の城下町として栄え，青山藩は尚武(しょうぶ)の気風が盛んなことで知られた。俗謡《デカンショ節》は江戸時代中期に士気鼓舞のためにこの土地でつくられたという。明治以後はここに歩兵連隊が置かれ，町からも多くの軍人を出した。第2次世界大戦中にマンガン輸送のため，軍の要請によって，福知山線の篠山口から篠山線が開通したが，現在は廃線となっている。

ささやまぼんち　【篠山盆地】　兵庫県北東部にある東西約16km，南北約8kmの盆地。古生層や中生層の丹波山地に囲まれ，盆地床は低湿で，加古川の支流篠山川が東から西へ蛇行(だこう)しながら貫流している。盆地のあちこちには侵食から取り残された丘陵がみられる。古くは近畿(きんき)地方から山陰地方に抜ける重要な地点で，江戸時代には丘陵の一つに篠山城が構築され，以西の諸大名の監視をさせた。旧城下町の篠山町が中心都市となっている。〔味沢成吉〕

ささゆり　【笹百合】　単子葉植物・ユリ科。山地のささ原などに自生する多年草。静岡県・新潟県以西，四国・九州に分布。鱗茎(りんけい)は広卵形で，径2～4cm，鱗片は白色である。茎の地下部には，鱗茎との間にその年の根が出る。茎は50～100cmになり，葉は被針(ひしん)形で先がとがる。8月ごろ茎の先に1～5個の花をつける。花は横向きに咲き，長さ10～15cmの漏斗状鐘形で，淡紅色。果実は倒卵形。和名は葉がササに似ることによる。

ささら　【簓】　日本の民俗芸能で使われる楽器。のこぎりの歯のように凹凸(おうとつ)をつけた竹棒(ささらこ)を，先を細かく割った竹(ささら竹)でこすって音を出す。なお，田楽などで用いる〈びんざさら〉とよばれるものは，竹や木の薄片を数多くひもで

通して集め，両端につけた柄を持って動かして音を出すもので，ささらとは異なる。

サザーランド [Graham Sutherland] (1903～1980) **現代イギリスの代表的画家。**1935年ごろまではおもに銅版画を制作していたが，その後は絵画に専念。1941年従軍画家となって戦争による情景を描いてからは，半抽象的風景画に作家の内的経験を加味した独自の作風を築いた。作品にはノーザンプトンのセント-マタイ教会の《キリスト磔刑(たっけい)図》にはじまる宗教画，《サマセット-モームの肖像》などの肖像画がある。

さざんか 【山茶花・茶梅】 双子葉植物・ツバキ科。暖地性の常緑小高木で，高さ10mになる。四国から九州・屋久島・沖縄諸島に分布。枝は多く，葉は厚く光沢があり，3～6cmの楕円(だえん)形。葉の両面の主脈や葉柄に毛があり，また，子房に密毛が，小枝には毛がある点でツバキ*と異なる。葉裏にはツバキのような黒点はない。10～12月，径4～7cmの五弁花をつける。花弁は1枚ずつ離れている。おしべは多数で黄色，花糸は基部で癒合(ゆごう)している。めしべは1本で，花柱は3裂する。翌年の秋～春に，直径約2cmの球形の蒴果(さくか)が熟し，3裂する。《花壇地錦抄(じきんしょう)》(1695)には50品種，《広益地錦抄》(1719)には20品種があげられている。その後しだいに品種数が増加して100品種余りつくりだされたが，欧米にはあまり知られていない。花色には白・赤・絞りなどがあり，一重咲き・八重咲きがある。 〔小杉清・加藤僖重〕

ササンちょう 【ササン朝】 (226～651) イランのファールス地方のササン家アルダシール1世*が建てたペルシア王朝。都をクテシフォンに定め，数世紀間西アジアを支配した。地方統治をパルチアの臣従王制から属州制に改めたが，封建貴族中心の社会構造はあまり変わらず，たび重なる対外戦争(対ローマ帝国・クシャン朝)や国内の宗教上の混乱(ゾロアスター教・キリスト教・マニ教・ユダヤ教などの混在による)などで国力は疲弊した。6世紀中コスロー1世が種々の改革を行ない一時国内を回復するが，新興のイスラム・アラブ勢力に抗しきれず，ネハバンドの敗戦(641)後まもなく滅んだ。美術・工芸は伝統的ペルシア芸術の復活がみられ，厳格さを尊ぶ影像，紋章的な意匠などにその特色がうかがわれ，その影響はシルクロードに乗って遠く日本にまで及んでいる。 〔小谷仲男〕

サザンプトン [Southampton] イギリス，イングランド南部の港市。人口21万3,000(1974)。イギリス海峡に面する入り江にあり，古くから良港として知られた。造船のほかに航空機・自動車などの工業があり，保養地でもある。1620年，新大陸をめざすメイフラワー号はここから出航した。

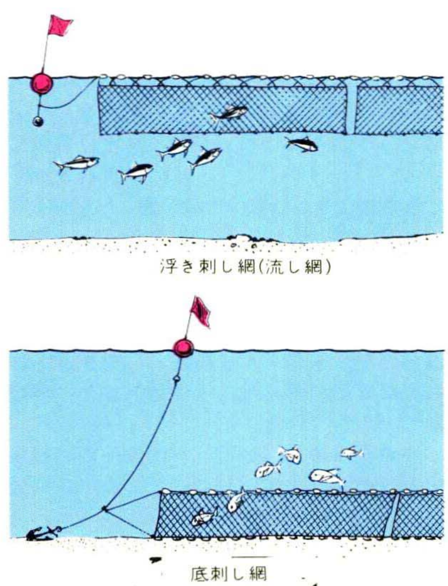
サザンマウンテン [Southern Mountain] アメリカ合衆国東部のアパラチア山脈地方(ケンタッキー・テネシー・バージニア・サウスカロライナ・ノースカロライナの各州)をさし，特にその森林開拓に集まった人々が単調な生活の慰めとして歌った最も伝統あるフォークソングをいう。イングランド・スコットランドなどの故郷の民謡，山岳開拓におけるできごと，それに伴う喜びや悲しみが歌われ，これが代々伝承的な方法で広められた。オールド-タイム-ミュージックともいう。楽器はフィドル(バイオリン)・ギター・5弦バンジョー・3弦ダルシマーなどが用いられ，ボーカルとストリング-バンド形式が多い。この音楽を構成するものは，イギリス系のバラッド，スクエア-ダンス，白人霊歌などであり，1920～1930年ごろが黄金時代とされる。 〔和田誠司〕



サザーランド《サマセット-モームの肖像》テート-ギャラリー



サ ザ ン カ



刺 し 網

さし 【砂嘴】 砂州*の一種で，陸地から海中に延びた堆積(たいせき)地形の先端が岬(みさき)や半島に達せずに海中で終わっているものをいう。砂嘴の先端では屈折した波が先端部を回り込むので，先端部は湾内に向かって鳥のくちばしのように曲がった形で発達していく。曲がり方の著しいものを鉤状(かぎじょう)砂嘴，さらにくま手のようにいくつにも分かれているものを分岐状鉤形砂嘴とよぶ。静岡県の三保ノ松原，北海道の野付崎は後者の例である。砂嘴は一般に砂から構成されているが，伊豆(いず)半島西岸の大瀬崎や戸田(へだ)湾のように大きい丸石からなることもある。 〔桑原正見〕

さし 【沙市】 シャーシー 中国，湖北省南部にある河港都市。人口約15万。旧名は沙頭。揚子江北岸に位置し，行政上は荆州(けいしゅう)専区の直轄市になっている。綿花・桐油(とうゆ)など周辺の産物の集散地として栄え，紡績・製粉などの工業も発達している。1895年の下関(しものせき)条約によって開港したが，北西にある宜昌(ぎしょう)が開港してから重要性は薄れた。

サージ [serge] 代表的な梳毛(そもう)織物*。綾(あや)組織で表面が平滑で光沢に富む。耐久性があるので，制服・背広服・コート・ドレス・スカート・ズボン・裏地などに広く用いられる。綿を原料とした綿サージ，レーヨン・合成繊維でつくったサージなどもある。いずれも紺・黒・ねずみ・茶などの無地のものが多い。

さしあみ 【刺し網】 ⇨次項

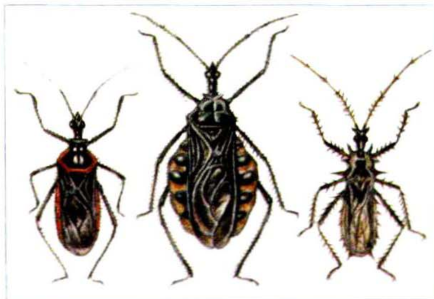
さしあみぎょぎょう 【刺し網漁業】 水中に網を垂直に張って魚その他の水産生物の通路をさえぎり，網目に刺し，または網地にからませて捕獲する漁業。網は浮子(あば)(浮力として働く)と沈子(ちんし)(沈降力として働く)によって水中に展開する。次のような種類がある。①浮き刺し網：沈降力より浮力のまさるもの。海面近くに張り，イワシ・ムロアジなどをとる。②流し刺し網：水中を自由に浮漂させるもの。北洋のサケ-マス漁業などに用いられる。③底刺

し網：浮力より沈降力のまさるもの。海底付近に張り，イセエビ・サザエ・カレイ・ヒラメなどをとる。なお，異なる目合いの網地を２～３枚重ね合わせて漁獲効果の向上をねらった改良形の網もある。
〔石野　誠〕

さしおさえ【差し押え】 刑事訴訟法においては押収*の一種。裁判所・裁判官または捜査機関が証拠物または押収すべき物を集め，これを確保するために，所有者や管理者の意思にかかわりなく強制的にその物を取り上げる処分のことをいう(同法99条１項)。原則として，差し押え状が必要であるが，例外として捜査機関が犯人逮捕の現場で行なう差し押えがある。この場合，裁判所は差し押える物を指定し，所有者や保管者に対してその物を提出することを命ずることができる(同条２項)。差し押えた物は，その必要がなくなった場合は，すみやかにその物の権利者に還付しなければならない。

民事訴訟法においては，国家機関が金銭債務または国税*の滞納処分などのため，特定の物または権利について差し押え，私人の事実上および法律上の処分を禁止する強制処分のことをいう。差し押えは執行官*が行ない，持ち運べるものは運び，持ち運び困難なものは封印や差し押えの標示をはる。この封印を破棄したり，標示を無視するような行為をした場合は，封印破棄罪となる。債務者保護の立場から差し押え禁止財産が法定されており，たとえば，債務者およびその同居家族の衣服・寝具・台所用品・食糧など，農業者の農具，大工の大工道具などは差し押えることができない。また給料・賃金などは，４分の１(裁判所が許可した場合は２分の１)までは差し押えができる。差し押えにより，債務者はその物の処分権を失って国家がこれを取得し，債権者は差し押えた代金または物から弁済または配当を受けるにとどまる。
〔井上公耳〕

さしがめ【刺亀虫】 こん虫類・半翅(はんし)目・異翅亜目・サシガメ科に属する一群のこん虫の総称。近縁のマキバサシガメ科に属する種類を含めることもある。幼虫・成虫ともに捕食性で，地上や花上などの植物体の種々の場所に生息して小形のこん虫類などを待ち，あるいは活発に活動して獲物を捕獲して吸血する。頭部は前方がとがり細長い。触角は糸状で４～５節。複眼はよく発達し，頭部の中央あるいは基部に位置する。口吻(こうふん)はふつう３節からなり短く，湾曲する。翅(はね)は一般によく発達しているが，短翅や無翅のものもあり，まれに同一種の中にもこの両者あるいは三者のみられることもある。全世界から2,500種以上が知られ，マキバサシガメ科を含めると3,000種ほどに達する。形態・色彩・習性などは変化に富み，他のこん虫類を捕獲・吸血するため益虫も多い。日本に分布する



サシガメ　(左)アカヘリサシガメ　(中)ヨコヅナサシガメ　(右)トゲサシガメ

代表的な種類には次のようなものがある。

①ゴミアシナガサシガメ：体長17mm内外，体は細長く淡かっ色。触角は細長く体長の約1.5倍。あしは全体長毛が密生し，特に中・後脚はよく発達して長い。一見ガガンボを思わせる形態をしている。本州・四国・九州に分布し，家屋の周囲にみられ，燈火にも集まる。②マダラカモドキサシガメ：体長4.5mm内外の微小種で，本州・九州に分布し，よく燈火に集まりカのように飛びまわる。③トビイロサシガメ：体長15mm内外，体は一様に淡黄かっ色。本州・四国・九州・朝鮮・台湾・フィリピンに分布し，枯れ草や石の下などに生活する。④フサヒゲサシガメ：体長７mm内外，体は黄かっ色で，触角やあしにきわめて長い剛毛を密生し，マツの樹幹に群生してアリ類を捕食する。本州・九州に分布する。⑤アカシマサシガメ：体長12mm内外，体は黒色で朱紅色の斑紋(はんもん)があり，本州・四国・九州に分布し，地上や塵芥(じんかい)中にみられる。⑥アカヘリサシガメ：体長14mm内外，体は一様に黒色で鮮紅色の斑紋があり，本州・四国・九州に分布し，草むらに多い。⑦ヤニサシガメ：体長14～15mm，体は黒色で，樹脂様の物質を装うことが多い。本州・四国・九州に分布し，５～６月にマツ類の枝の上に普通にみられ，冬季は多数の幼虫がマツ類の樹皮の間で越冬する。⑧ヨコヅナサシガメ：体長19～23mm，体は光沢のある黒色。本州の西南部から中国・インドに至る広い地域に分布する。⑨アカサシガメ：体長15～16mm，体はやや暗い朱色。本州・四国・九州・台湾に分布し，山地に多い。⑩トゲサシガメ：体長10mm内外，体は一様に淡かっ色で，全体に多数のとげがある。本州・四国・九州から中国・フィリピンまで分布し，雑草中にみられる。⑪オオトビサシガメ：日本に分布するサシガメのうち最大の種で，体長23mm内外，一様に茶かっ色。本州・四国・九州のほか，朝鮮・中国にも分布し，山地に多い。
〔鈴木邦雄〕

さしき【挿し木】 植物体の一部分を切り取って砂や土などにさし，発根させて新個体を得る繁殖方法。操作が簡単で，しかも１度に多数の個体が得られ，親の性質をそのまま伝えることができる利点がある。用いる植物体の部分によって，次のように分ける。①根ざし：根を掘り上げて長さ10～15cmに切り，地中に伏せておく方法。ボケなどに用いられる。②葉ざし：葉身をさすもの(サンセベリア・ベゴニアーレックスなど)と，葉柄をさすもの(ペペロミア)がある。③葉芽ざし：葉に茎の一部をつけてさす方法。アザレアなどの花木類に用いる。④茎ざし：最も多く行なわれる方法で，さし穂の性質によって次のように分ける。㋑芽ざし(頂芽や腋芽(えきが)をさす)，㋺緑枝ざし(生長が止まってやや木化した新梢(しんしょう)をさす)，㋩熟枝ざし(完全に木化した枝をさす)。㋑は草木，㋺㋩は木本植物に多く用いられる。なおさし木は，植物の種類によって適期を選んで行なうことがたいせつである。
〔小杉　清〕

さじき【桟敷】 劇場や興行場の観客席の一種。本来は地上より高くつくった台の意味で，平安時代の祭礼の際に貴族の見物席として道路の両側に設けられたのが起こりである。江戸時代から明治中期までの歌舞伎(かぶき)劇場で，客席が全部すわる席だった時代は左右両側と２階正面につくられていた上等席のこと。最近の劇場はほとんどがいす席になったが，まだ一部の劇場では左右に特別の座席を設け，それを桟敷とよんでいる。

ざしきわらし【座敷童子】 岩手県を中心に宮城・秋田・青森諸県で伝承されている屋内霊怪。〈わらし〉は子どもを意味する方言。旧家や金持ちの奥座敷にいる赤顔で垂髪の幼児と信じられ，これが他家から移ってくると繁盛するが，出て行くと家運が傾く前兆といい，家の守護神として手厚く供養する家が多い。たわいのないいたずらはするが害はせず，家族にだけは姿が見えるなどともいう。岩手県では〈座敷坊主〉〈二階童子〉や土間にいる〈こめつきわらし〉〈うすつきこ〉なども信じられており，昔は土蔵にいる〈くらぼっこ〉〈くらわらし〉の類が江戸でも信じられていた。この種の怪童は河童*(かっぱ)・山童など全国的に類型が多い。元来は家を守る神の一種，祖霊と考えられたので，祭りや非常の際などだけに示現するものであったが，祖霊信仰が衰えるのに伴って，奥座敷の神だなや土蔵の中などにいつもいると考えられ，さらに童形であることが妖怪(ようかい)化を早めたものと思われる。
〔今野圓助〕

さしこ【刺し子】 ⇨こぎん

さしこみ【差し込み】 ⇨疝痛(せんつう)

さしずしょうけん【指図証券】 記載されている金銭・物品などの債権*を裏書き*によって移転(譲渡)することができる有価証券*。証券上に指定(指図)された人またはその人がさらに指定する人が，その証券の権利者となり，弁済を受けることができる。ふつう〈甲殿またはその指図人にお支払いいたします〉という指図文句が記載されるが，

手形*・小切手*・倉庫証券*・貨物引換証*・船荷証券*など，商法上の典型的な有価証券は，指図文句がなくとも法律上当然に指図証券とされる。〔原田政洸〕

さしぬき【指貫】 平安時代に布袴*(ほうこ)・衣冠*・直衣*(のうし)・狩衣*(かりぎぬ)を着用するときに用いる袴(はかま)。括緒袴(くくりおのはかま)・奴袴(ぬばかま)ともいう。綾(あや)織物または平絹を八幅に仕立てたもので，すそをひもで指し貫き，着用のときに足首でくくるもの(げぐくり)と，ひざの下でくくるもの(しょうくくり)とがある。儀式のときのくくり方はげぐくりであり，普通はしょうくくりである。なお公卿(くぎょう)のものは有文であるが殿上人(てんじょうびと)以下のものは無文。〔河鰭実英〕



指　貫

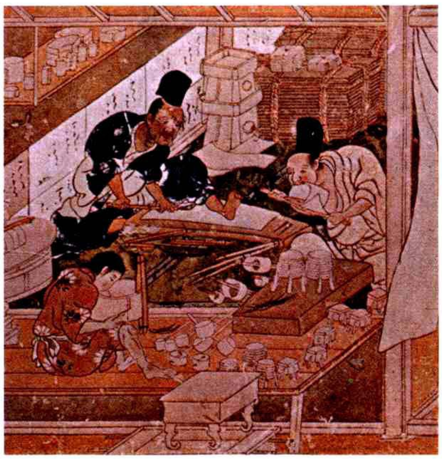
さしば【鸇】 鳥類・ワシタカ科。全長50cm前後，カラス大でトビよりひとまわり小形の全体にかっ色系の羽毛のタカ。東アジア中部に分布し，日本には夏鳥としておもに本州中部以南に渡来して，平地の低山や低山帯の森林に普通に繁殖する。ワシタカ類としてはよく鳴く特徴があり，〈ピックィー〉と鳴く。九州南端では秋季南方に渡るまえに数百羽の大群がみられる。東南アジアで越冬する。

さしばえ【刺蠅】 こん虫類・双翅(そうし)目・サシバエ科。体長5～6.5mm。全体灰黒色。形態は普通のイエバエに似ているが，口吻(こうふん)が長くてかたく，吸血に適する。世界共通種で，人畜の血液を吸い，その際に破傷風菌や炭疽(たんそ)菌を伝播(でんぱ)するといわれている。幼虫はイエバエに似たうじで，腐敗物を好み，特に暗く湿気の多い場所に生活する。これに近縁のもので家畜害虫として知られるノサシバエは，体長4mm内外，体は暗灰色で，北海道・本州のほか旧北区のほとんど全域および北アメリカに分布し，ウシ・ウマ・ヒツジなどから吸血する。〔鈴木邦雄〕

さしみ【刺身】 魚貝類を生のままつけじょうゆで食べる料理。日本料理独特のもの。京阪地方では〈つくり身〉ともいう。生のまま食べるので消化がよい。材料は鮮度の高いものを選び，取り扱いには衛生上注意が必要である。

〈種類〉 生のまま切った普通のさしみのほか，あらいや皮付きのままさしみにしたものがある。あらいには冷水で洗うものと湯洗いするものとがある。皮付きのままさしみにするものは，皮の上にふきんをかけ，熱湯を2～3回かけてすぐ冷水に取り，皮を柔らかくする皮霜(タイ・スズキなど)と，魚にくしを打って皮のほうを強火でさっと焼き，冷水にとって冷やす焼き霜(たたき)に分けられる。

〈作り方〉 まず魚を三枚におろしてうす身を取り，中央に包丁を入れて背・腹に分け，血合いを小骨とともに切り取り，皮をひく。切り方には代表的な平作り(切り重ね)のほか，引き作り・乱切り(ぶつ切り)・糸作り(細作り)・そぎ作り・さいの目切り・かき作りなどがある。つまと辛味：つまはさしみの盛り付けの色どりをよくし，魚の臭みを消し，味を引き立たせるなどの効果をもち，欠かせないものである。ダイコン・キュウリ・ミョウガ・ウドなどの千切りのほか，季節と魚の種類に応じて各種の飾りづまがある。また，香気と辛味を添えて魚臭を消し，うま味をいっそう引き立たせるために，辛味が用いられる。一般にワサビが多用されるが，おろししょうが・大根おろし・からしなども用いられる。つけじょうゆ：おもに生じょうゆを用いるが，土佐しょうゆ(かつお節を加えて煮たてる)ならなおよい。ダイダイ・レモンじるなどの酢で割ったものなども用いられ，淡水魚には酢みそ・からし酢みそがよい。〔塩川ふみ〕



指 物 師　狩野吉信《職人尽屏風》 喜多院蔵

さしもどし【差し戻し】 上訴*を審理した結果，原判決中に法律で定めた一定の破棄事由があり，原判決を支持すべきでないと認めた場合，上訴裁判所が原裁判所に新たに裁判すべき旨を命ずる決定をいう。さしもどしを受けた原裁判所は，事件についての審理をやりなおしたうえ判決をしなければならないが，その事件についての上級審の判断は下級審を拘束するため(裁判所法4条)，原裁判所は上訴審で示された判断に反して法律の解釈・適用，事実の認定を行なうことはできない。なお，上訴審が原判決を破棄したうえ，その事件の裁判を上訴審自身が行なうのを破棄自判*，原裁判所以外の裁判所に移送するのを破棄移送という。〔井上公耳〕

さしもの【指物】 差物とも書く。枘(ほぞ)や孔の木組み技法を応用して組み立てた木工芸品をいい，刃物で木をえぐって整形する刳物(くりもの)，薄板を曲げてつくる曲物(まげもの)，轆轤(ろくろ)を用いる挽物(ひきもの)とともに木工の基本技法である。ものさしが必要用具であったところから，この名が生まれた。たんす・文箱(ふばこ)・硯箱(すずりばこ)といった箱類，書だな・違いだななどのたな類，木組みを利用した欄間や障子など，指物による工芸品は多彩にわたっている。その技法は矧手(はぎて)・留(とめ)・柄組みに大別され，それぞれに種々の手法がある。また，板の反(そ)りを防ぐための端喰(はしばみ)も，欠かせぬ技法である。〔河田　貞〕

さしもの【指物】 具足*の背にさす標識。背旗とも書く。室町末期から江戸時代の合戦(かっせん)に用いられ，自己の武勇を誇示し，隊の目印にする。形は各自の好みによるが，多くは幟(のぼり)形式で軽快なものが用いられた。正方形の四方，幅と長さが1対1.5の四半，さらに幅を狭くして片側に切り込みをつけた切裂(きっさき)，馬簾(ばれん)などがあり，これに家紋や神仏の名号，または動物・器物の絵などをしるす。変形の指物には天衝(てんつき)・月輪・鳥毛丸・四手笠(しでがさ)・金扇などがあり，それぞれ趣向を凝らしている。指物を大形にし，従者に持たせるのを馬印*といい，逆に小形で腰にさすのを腰指といった。また小姓組・使番など，任務によって同一のものにそろえたものは番指物といった。〔稲垣史生〕

さしものし【指物師】 板材を差し合わせて箱・たんす・長持・櫃(ひつ)・たな・机・いすなどをつくる職人。古くから存在したが，江戸時代になって専門の職人として独立し，その名も家具職人の総称となった。精密な技術を必要とするところから，名人かたぎの職人が多い。

さしょう【査証】 ⇨ビザ

ざしょう【挫傷】 挫創(打撲創)・皮下出血・表皮剝脱(はくだつ)(擦過傷)の総称。表面の鈍な器物によって皮膚や組織が挫滅される外傷。皮膚と骨の間に脂肪組織・筋肉などの軟部組織が少ししか存在しない部分に起こりやすい。創面・創縁は不規則な凹凸(おうとつ)を示し，周囲組織は挫滅されて組織内に出血を伴い，壊死*(えし)に陥りやすい。創口が小さいにもかかわらず創洞(そうどう)が袋状となり，組織片が架橋状に残存することが多い。なお，皮膚が著しく伸展されて破綻(はたん)する裂創を伴う場合には挫裂創といい，人や動物の歯牙(しが)によって生ずる咬傷(こうしょう)も挫裂創の特殊なものである。〔青木利彦〕

さじょうかごうぶつ【鎖状化合物】 ⇨

脂肪族化合物

さじょうど【砂壌土】⇨土性

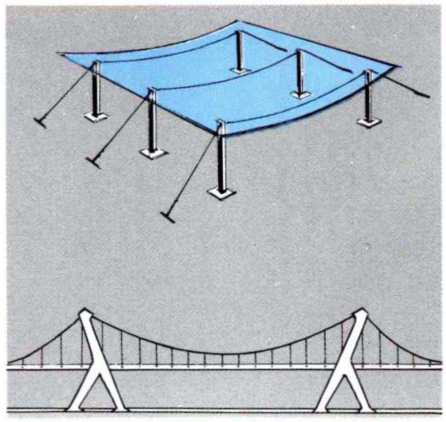
サージン [sardine] イワシの別名。ギリシア語サルディからきたもので，これは地中海のサルディニア島と関係があるというが，イワシの名が先か，島の名が先かについては，明らかではない。ひとくちにイワシといってもその種類は多く，サージンの定義は国により，時代によって変わってきているようである。アメリカの本によると，サージンはもと地中海産のピルチャードといわれるイワシの若い小魚で，サルディニア島の近海でとれるものに与えられた名であったが，このような狭い定義は，以前から破られて，フランス・ノルウェー・ポルトガル・アメリカなど世界各地でとれるクルペア属の若魚に適用されるようになったという。現在わが国では，日本産マイワシを含めてこれに近い種属の魚をいっている。

オイルサージン・トマトサージンはこれらを原料とするかんづめ製品であるが，〈sardine in oil〉(サージンの油づけ)とだけいっても各国には法律上の規定があり通関のとき問題になることがある。たとえば昭和初年，オイルサージンをフランスへ輸出したところ，フランスではサージンと称するものはサルディニアに属するものに限ると主張し，日本のイワシはクルペア属の魚であるからといって表示の変更を求められた。また1953年(昭和28)アメリカへ輸出したものの中にウルメイワシ(サルディニア属・クルペア属いずれでもない)が混ざっていたため拒絶された例もある。〔佐藤友太郎〕

さす【砂州】波が海岸を侵食したり，河川が運搬したりして生じた海中の砂礫(されき)が沿岸流によって他の海岸に運ばれ，流速の衰える岬(みさき)や半島の内側に堆積(たいせき)した地形をいう。このうち，岬や半島の先端を基点として延びた砂州の先端が海中に終わるものを砂嘴*(さし)とよび，さらに発達して砂嘴の先端がもう一つの岬・半島にまで達したもののみを狭義に砂州とすることもある。鳥取県の夜見ケ浜，京都府の天橋立(あまのはしだて)などがこの例である。河口に沿岸流による砂州が発達すると，河道が著しく曲げられたり，河口が閉塞(へいそく)されたりすることもある。〔桑原正見〕

ざす【座主】学徳がすぐれ，一座中の主となる僧の称。また，諸大寺の管主をいい，はじめ延暦寺*(えんりゃくじ)，のち金剛峯寺*(こんごうぶじ)・醍醐寺*(だいごじ)などに置かれたが，今日では延暦寺の座主(天台座主)のみに用いられる。日本における座主の呼称は義真*が最初で，公称としては854年(斉衡1)円仁*(えんにん)が勅宣によって任ぜられたのが最初。

サスカチェワン(州) [Saskatchewan] カナダ中西部の州，面積57万km²，人口92万6,000(1971)，州都レジャイナ。ほとんど全州を占めるサスカチェワン平原はロッキー山脈東部の斜面で，氷河堆積(たいせき)物におおわれ，東端は急崖(きゅうがい)でマニトバ低地に臨んでいる。南半はプレーリー*に属し，平均無霜日数100日を越え，雨量(年降水量300mm)の80%は4〜10月の6か月間に集中する。大陸横断鉄道の建設により20世紀にはいって急速に発展，小麦の大生産地域となった。近年，石油・天然ガスの産出があり有望視されている。〔相村大彬〕



サスペンション構造　構造例



刺　股　左から袖搦・突棒・刺股の三つ道具

サスカチェワン(川) [Saskatchewan] カナダ中西部を流れる川で，全長1,940km。ロッキー山脈に発し，南北二つの流れがサスカチェワン州*の中央部を東流してプリンスアルバートの東方で合流し，さらにシーダー湖を経て，ウィニペグ湖に注ぐ。河口から約1,500kmまで航行が可能である。

サスカツーン [Saskatoon] カナダ，サスカチェワン州第2の都市。サスカチェワン川*右岸に位置。人口12万6,000(1974)。カナダの春小麦地域の中心に位置し，小麦の集散地で，岩塩層に伴うカリ鉱床は世界でも有数である。2鉄道・3航空路・7公路が集中する交通の要地で，肉かんづめ・化学・セメント・機械・衣服工業が盛んである。農学と医学で国際的に有名なサスカチェワン大学がある。

サーストン [Louis Leon Thurstone] (1887〜1955) アメリカの心理学者。知能・態度・情意・性格など，複雑な心的機能の研究に高度な数学的方法(尺度構成的精神測定法・因子分析など)を開発したことで知られる。特に因子分析の発展に尽くした功績は大きい。スピアマン*の知能二因子説に対しては，多因子説を提唱した。

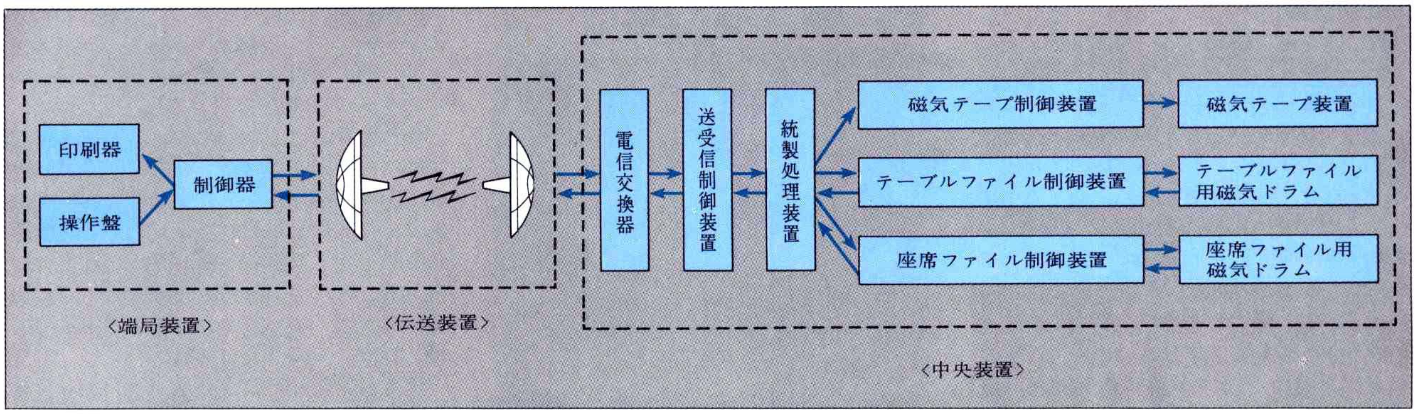
サスペンションこうぞう【サスペンション構造】ワイヤーあるいはケーブルをつって，大きな空間に屋根をおおったり，大きな径間に掛け渡したりする建築・土木構造。東京の国立体育館，九州の若戸大橋はその代表である。ワイヤーあるいはケーブルの引張力に依存しているので，有効な引張力を与えるためにはこれを支持するための十分な柱とアンカー，圧縮力に抵抗する十分なアーチ構造，特に風によって吹き上げられたり，横ぶれしないような補強材などが必要である。〔谷　資信〕

さすまた【刺股】江戸時代の捕物(とりもの)道具。〈さつまた〉〈くびがね〉ともいう。7尺5寸(約225cm)のカシの柄の先端にU字形の金具がつき，そのつけ根には多数の鉄針がある。これで相手の向こうずねを突き，ねじ倒し，U字のところで首を押えてなわをかけた。突棒(つくぼう)・袖搦(そでがらみ)とともに〈三つ道具〉といい，警察権の象徴として関所・船番所・見付番所・辻(つじ)番所などに飾られていた。

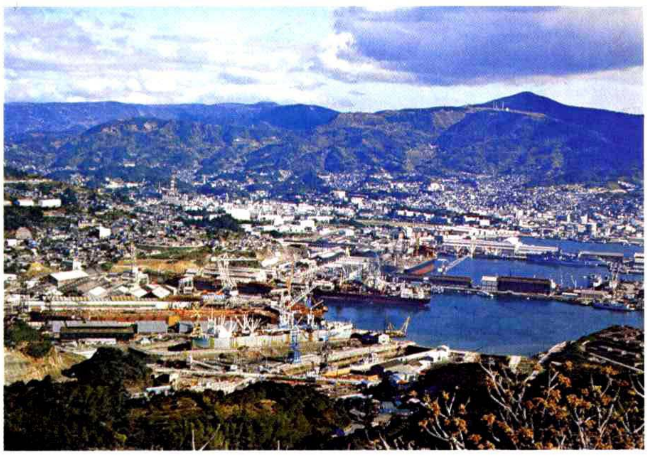
ザスーリチ [Vera Ivanovna Zasulich] (1851〜1919) ロシアの女性革命家。小地主の出身。1868年ナロードニキ*として革命運動に参加し，黒土分割派などを指導して再度の亡命をした。その間プレハーノフ*らとともに〈労働解放団〉を組織した。マルクス・エンゲルスの著作に接し，ロシア語に翻訳，普及に貢献した。1899年帰国して《イスクラ》紙などの編集にあたったが，労農同盟を基礎に置くレーニンの立場と対立した。1903年の社会民主党の分裂に際してメニシェビキ*となり，十月革命後はボリシェビキ*・ソビエト権力に敵対した。〔山県弘志〕

サスーン [Siegfried Sassoon] (1886〜1967) イギリスの詩人・小説家。ユダヤ系の富裕な家に生まれ，第1次世界大戦に参加し，反戦詩を発表。《反抗》《心の旅》などの詩のほか，散文の自伝的作品《ジョージ・シャーストンの思い出》がある。

ざせきよやくじどうそうち【座席予約自動装置】列車・航空機・船舶などで指定席の予約販売を行なう電子装置。増加する座席予約業務を能率的かつ正確に処理するために使用される。現在使用されている代表的な例は，1964年(昭和39)から国鉄で実



座席予約自動装置



佐世保市
佐世保港西部の造船業地区。建造中・修理中の巨船が多く見られ，クレーンが立ち並ぶ。市街地は遠景右手へ延びている

用化されている装置で，通称マルス(magnetic electronic automatic seat reservation systemの略)とよばれるものである。この例では，国鉄主要駅や交通公社の予約窓口(みどりの窓口)にある端局装置，座席を集中管理する中央装置，およびこれを結ぶ伝送路(有線・無線)から構成されている。端局装置では旅客の希望をセットし，これを符号化して中央装置に送り出すとともに，中央装置からの回答符号を解読して，文字や点燈によって操作盤上に表示する。中央装置では，空席の有無を記憶している磁気ドラムが，送られてくる符号を解読した情報に基づいて希望座席の有無を捜し，結果を再び符号化して端局装置に伝送する。この間，問い合わせてから回答が得られるまで約20秒，指定席があった場合は自動的に指定券が発売される。なお，中央装置では，端局装置別の売上額の集計や，統計資料などの経営・計画に必要なデータの作成も同時に行なうことができる。〔岩切千之〕

サセックス　［Sussex］　イギリス，イングランド南部，イギリス海峡に面した地方。行政上は東サセックス(面積2,147km²，人口66万1,000，主都ルーイス)と西サセックス(面積1,626km²，人口63万6,000，主都チチェスター)に分かれる。東西に白亜紀のサウスダウンズ丘陵が走り，東ではホップの栽培，北では牧牛・牧羊が盛んである。工業は皮革・毛織物・製紙などがある。ニワトリの優良品種サセックス種の起源地でもある。海岸にはブライトン・イーストボーンなどの海水浴場があり，観光客が多い。古くはアングロサクソン七王国の一つであるサセックス王国があったが，9世紀にイングランド王国の一州になった。〔梶川勇作〕

させぼ　【佐世保(市)】　長崎県北部の市。明治初期までは一寒村にすぎなかったのだが，1886年(明治19)海軍鎮守府が設置されてから発展し，1902年市制施行。第2次世界大戦中に空襲を受けて焦土と化したが，戦後在日アメリカ軍が旧海軍施設の大半を軍事基地として使用，自衛隊も駐屯(ちゅうとん)して，軍都の伝統をとどめている。人口25万3,000。市域は北松浦半島の南部，佐世保湾に注ぐ佐世保川に沿い，背後は600m内外の山地に囲まれ，中心市街は佐世保港付近に集まる。産業三大別人口比は7：26：67。佐世保湾北岸に旧海軍工廠(こうしょう)を引き継いだ佐世保重工業の大造船所があって，市の産業の中心をなし，佐賀県西半部や県西・北部の五島列島・平戸島を商圏とする商業活動も盛んである。また，佐世保炭田*の約30の炭鉱が市域に含まれる。近海に五島列島を中心とする大漁場があり，付近の九十九島では真珠養殖も行なわれる。戦後の佐世保港は貿易港・漁港としても繁栄しているが，アメリカの原子力潜水艦の入港などが社会問題となっているように，軍港的色彩が強く残っている。佐世保線・松浦線の終点で，国道35号線・204号線・205号線・206号線が集まり，佐世保港は五島・平戸方面への近海航路の起点となっている。背後の烏帽子岳(えぼしだけ)や弓張岳は佐世保湾を一望に収める景勝地で，付近には西海国立公園の中心地九十九島や西海橋などがある。〔浅井得一〕

させぼたんでん　【佐世保炭田】　長崎県北部から佐賀県伊万里(いまり)市付近にかけて広がる。北松炭田ともいう。芦屋(あしや)層群上部の佐世保層群中に多くの炭層がはさまり，一般には低品位炭が多いが，西部からは強粘結炭を産し，日本の重要なコークス原料炭産地になっている。最盛期には100を越える炭鉱があったが，近年の石炭不況で閉山する所が多く，不振にあえいでいる。

ざぜん　【坐禅】　仏教の最も基本的な修行法。両足を組み(→結跏趺坐(けっかふざ))，あるいは片足をのせ(半跏趺坐)，精神を統一し，静かに思惟(しい)する行法をいう。インドで古来行なわれていたもので，ブッダは菩提樹(ぼだいじゅ)のもとでこの坐禅を実践し，悟り*を開いた。以来，仏教の基本的修行法として尊重され，仏教徒の実践道である八正道・三学・六度のいずれにも数えあげられている。特に坐禅を最も重視する禅宗では，坐禅を単なる一手段とみることをしりぞけ，いっさいの仏法を坐禅の一行に集約して，坐禅こそ仏法の総府であり，安楽の法門であって，日常の行住坐臥(ざが)ことごとくが坐禅そのものであると主張している。→禅　〔田中良昭〕

させんせい　【左旋性】　⇒旋光性

さそいみずせいさく　【誘い水政策】　⇒呼び水政策

ざそう　【座瘡】　毛嚢(もうのう)に丘疹(きゅうしん)と膿疱(のうほう)とが同時にできたもの。尋常性座瘡(にきびと俗称される)・角性座瘡・酒皶*(しゅさ)性座瘡などがある。→にきび

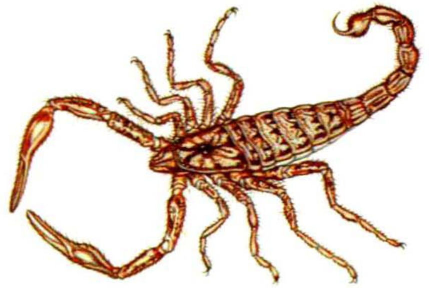
さそうとう　【左宗棠】　(1812〜1885)　中国，清(しん)末の洋務官僚。字(あざな)は季高。湖南省湘陰(しょういん)県の出身。太平天国の乱*

では曾国藩(そうこくはん)の配下となり，湘軍(義勇軍)を率いて活躍。太平軍平定後，福州の馬尾に船政局を建設して洋式海軍の設置に尽力し，またヤクブ-ベク*の反乱鎮圧を機に新疆(しんきょう)を回復するなどの功績をあげたが，イリ事件(→イリ条約)では武力解決を主張して清廷にいれられなかった。

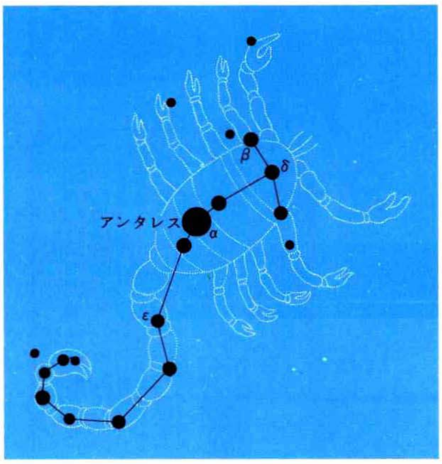
さそり 【蠍】 節足動物・クモ形類・サソリ目の総称。世界に約600種余りが知られ，熱帯地方を中心にして全世界に分布する。アフリカの赤道部や熱帯アメリカには体長25cmに及ぶ種類もいるが，大多数の種では3～7cmである。体は短い頭胸部と長い腹部とからなる。頭胸部には6対の付属肢(ふぞくし)を備え，第1対は長大なはさみ(鋏角(きょうかく))となり，第2対は触肢，残る4対は歩脚となる。また，頭胸部には，背側に2個の中央眼と6～10個の側眼がある。これらの眼はいずれも単眼である。腹部は，幅広い7個の体節からなる前腹部と，細長い6個の体節からなる尾のような形をした後腹部とに分かれ，後腹部の最終節は毒の袋となり，その先端に毒針がつく。敵を倒すときには後腹部を背上に翻し，毒針で刺す。古くからヘビとともに〈蛇蠍(だかつ)のごとく〉という形容があるほどきらわれ，恐れられているが，人命にかかわるような猛毒をもつものは世界に数種しかいない。

サソリは通常は夜行性で，日中は石や木の葉の下に潜む。こん虫やクモを捕食するが，普通は毒針を使わず，相手がひどく抵抗したときにはじめて毒針を用いる。1匹ずつ孤立して生活し，サソリどうしは，相争う性質が強い。雌は卵を背に背負って守ることが多く，孵化(ふか)した子サソリも母親の背にしっかりしがみついていることが多い。日本内地にはまったくみられず，八重山諸島に南アジア・オーストラリア・ポリネシアに広く分布するヤエヤマサソリという体長3cm内外でかっ色の種類がいるが，毒は弱い。ときに，南方からの積み荷に紛れて，日本内地の港に上陸して騒がれることがある。このようなものに宮古・八重山・小笠原(おがさわら)の各諸島を含む全世界の熱帯・亜熱帯に広く分布する，体長5cm内外のマダラサソリがある。名の示すように，黄色地に黒かっ色の斑点(はんてん)があり，毒は微弱である。中国東北部・朝鮮半島の一部には，体長6cm内外で緑かっ色のキョクトウサソリ(トクササソリ・ツクレサソリ・マンシュウサソリともいう)を産するが，この種類も毒は弱い。〔菅野　徹〕

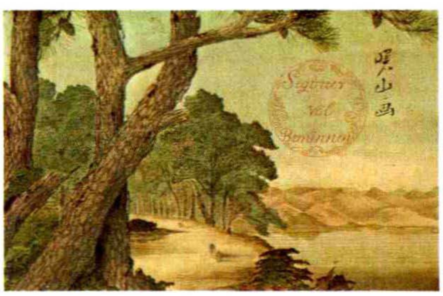
さそりざ 【蝎座】 てんびん座といて座にはさまれ，夏の南空にかかる黄道上の星座。赤く輝くα星アンタレス*を中心に，十数個の明るい星が半ば銀河に浸って大きなS字を描く。球状星団・散開星団・二重星など，小望遠鏡で楽しめる天体が多い。また，この星座の北部には強いX線を放射する天体，さそり座X-1がある。→星座



サソリ　キョクトウサソリ



さそり座



佐竹曙山《湖山風景》

さそりもどき 【擬蠍】 節足動物・クモ形類・ムチサソリ目・ムチサソリ科。体長8cm内外で，その半分ほどが尾である。サソリによく似ているが体節が多く，腹端に長く細いむち状の尾を備える。背面は黒く，他はかっ色。サソリと異なりまったく無毒。尾のつけ根に臭腺(しゅうせん)の開口があり，強い酢酸臭のある液を発射して敵を退ける。天草地方・鹿児島県・南西諸島・台湾や中国の華中・華南などに分布し，石の下などの湿ったところに潜み，こん虫などを捕食する。〔菅野　徹〕

さた 【沙汰】 理非曲直を明らかにすること。転用されて多くの意味のことばとして用いられる。中世においては政治上の諸問題について裁断することのほか，裁判することも沙汰と称した。鎌倉幕府の訴訟裁判には，所領に関する訴訟である所務沙汰，その他の動産や債権訴訟は雑務沙汰，刑事訴訟である検断沙汰の三沙汰があった。このほか土地を支配すること，課税・貢納すること，支給・弁済することなどの意味で沙汰の語が多く用いられる。貢納関係では租税を徴収することを取沙汰といい，租税を怠納することを無沙汰といった。また通知・報道・風説・評判などをもいう。〔鈴木英雄〕

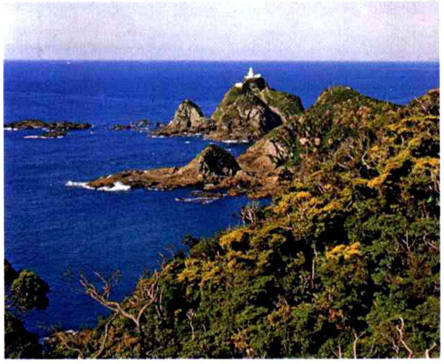
さだいじん 【左大臣】 令*(りょう)制で太政(だじょう)大臣に次ぐ高官。太政官の長官。大化改新時に阿倍倉梯麻呂*(あべのくらはしまろ)を任じたのが初例。太政大臣は常置の官ではなかったから，左大臣が事実上の首班である場合が多く，このため別名を〈一の上〉といった。唐名は左丞相(さじょうしょう)・左僕射(さぼくしゃ)・左相府など。明治維新後も太政官制制定に伴ってこれが置かれたが，内閣制度の創設とともに廃止された。

さたいねこ 【佐多稲子】 (1904～　) 小説家。本名佐田イネ。貧窮の中で職を転転としたが，中野重治*(しげはる)・窪川鶴次郎(くぼかわつるじろう)ら《驢馬*(ろば)》同人と出会い，プロレタリア文学運動に近づく。1928年(昭和3)《キャラメル工場から》を発表したのち，ナップ*に所属，《働く婦人》編集委員として活躍。その間にも《くれなゐ》を頂点とした作品活動は続いた。第2次世界大戦後には，自己の思想形成の体験を描いた《歯車》《灰色の午後》《渓流(けいりゅう)》などの作品がある。〔堀井謙一〕

ザ-タイムズ ⇨タイムズ-ニュースペーパーズ

さたけし 【佐竹氏】 中世における常陸(ひたち)(茨城県)の豪族。近世には秋田藩主。清和源氏の支族で，源義家*(よしいえ)の弟義光(よしみつ)が常陸介(ひたちのすけ)になり，その子孫が同国久慈郡佐竹郷に土着して佐竹氏を称した。源頼朝*(よりとも)の挙兵に隆義(たかよし)は従わなかったが，その子秀義(ひでよし)のとき鎌倉幕府*に服属。南北朝時代には足利尊氏*(あしかがたかうじ)に従い，戦国時代には北関東の強大豪族として小田原の後北条(ごほうじょう)氏と相対した。近世，義重(よししげ)は水戸(みと)に移って南進の勢いを示したが，1590年(天正18)小田原征伐*には豊臣秀吉(とよとみひでよし)に服属して常陸など五十四万石を領した。その子義宣(よしのぶ)は関ケ原の役で豊臣方に属したため出羽(秋田県)二十四万石に転封されて幕末に至り，戊辰(ぼしん)戦争*では奥羽列藩同盟*に加わらず，官軍に属した。明治維新後華族に列せられて侯爵となった。〔高崎徳次〕

さたけしょざん 【佐竹曙山】 (1748～1785) 江戸初期の洋風画家。秋田藩の藩主，名を義敦(よしあつ)，源通院と称した。銅山調査のために招いた平賀源内*によって，藩士小田野直武*(なおたけ)に洋画法が教授され，曙山は直武から伝えられ，みずから画筆をと



佐多岬　燈台は半島先端の大輪島にある。付近の海食崖は40～50mに達し，紺碧の黒潮が足下を洗っている

った。沈南蘋(しんなんぴん)の写生画風を折衷した静物画・風景画に佳作を残している。また，わが国ではじめてのまとまった西洋画論《画法綱領》を著わして，秋田派の洋風画の支柱として活躍した。　〔小林　忠〕

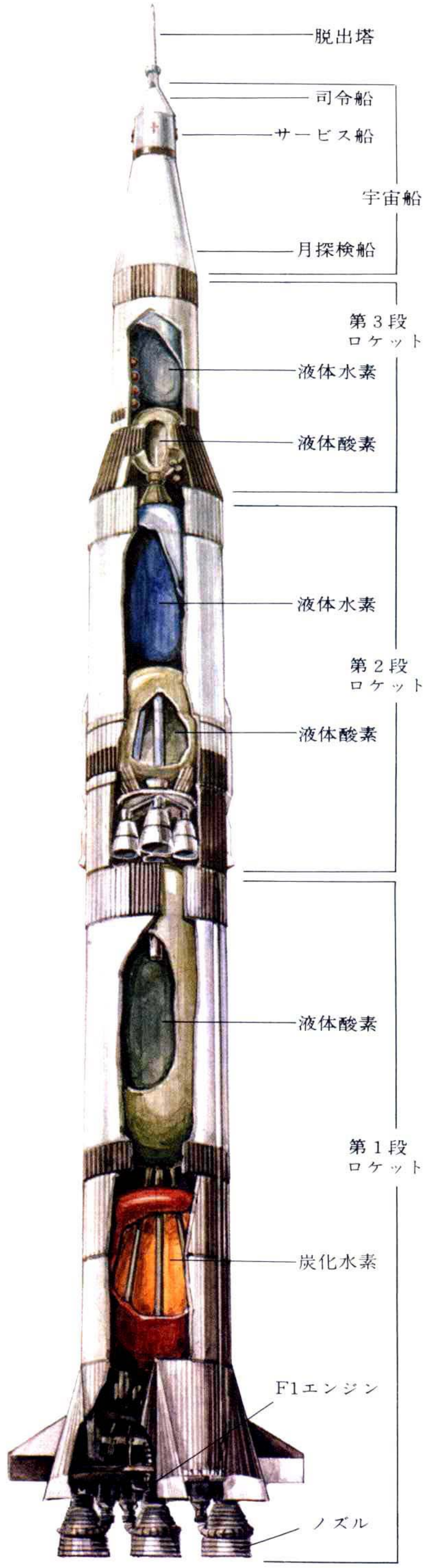
さだふさしんのう　**【貞成親王】**（1372～1456）伏見宮栄仁(よしひと)親王の子。崇光(すこう)天皇の孫。後崇光院を追号された。伏見宮家を継いだが，1425年(応永32)後小松上皇より親王号を宣下されたのを機に，剃髪(ていはつ)して出家。法号を道欽(どうきん)という。皇子が後小松上皇の養子となり，のち即位して後花園天皇となったため，1447年(文安4)太上(だじょう)天皇の尊号を受けた。日記《看聞御記》，著書《椿葉記(ちんようき)》《沙玉集(さぎょくしゅう)》などがある。　〔高崎徳次〕

さたみさき　**【佐多岬】**　鹿児島県大隅(おおすみ)半島の南端，北緯31°の南に位置し，本土の最南端にあたる。岬は中生層の砂岩とケツ岩の互層からなり，黒潮に洗われた40～50mの海食崖(かいしょくがい)が形成されており，一帯にはソテツ・ビロウ・ハマユウなどの亜熱帯植物が自生し，霧島屋久国立公園の一部になっている。先端の大輪島には1871年(明治4)創設の1等燈台がある。

さだみさき【蹉跎岬】⇨足摺崎(あしずりざき)

さだみさき　**【佐田岬】**　愛媛県西部，佐田岬半島西端の岬で，豊予海峡を隔てて佐賀関(さがのせき)半島の地蔵崎と相対し，瀬戸内海南西の入り口として古くから交通上重要な位置を占める。海食崖(かいしょくがい)が発達して，黄金磐(おうごんばえ)をはじめとする多数の岩礁が散在し，先端には佐田岬燈台がある。付近は雄大な自然美に富み，瀬戸内海国立公園の一部をなしている。

さだみさきはんとう　**【佐田岬半島】**　三崎半島ともいう。愛媛県西部に位置し，伊予灘(いよなだ)と宇和海とを分ける。西へ40kmも細長く突出した半島で，〈岬十三里〉ともいわれ，先端に佐田岬がある。豊予海峡を隔てて九州の佐賀関(さがのせき)半島と相対し，瀬戸内海南西の入り口を扼(やく)している。半島は結晶片岩の山地が海岸まで迫って黄金磐(おうごんばえ)・童子磐をはじめ多くの



サターン-ロケット　サターン5型

岩礁があり，ほとんど平地がなく，階段状の畑でミカンが栽培されている。半島頸部(けいぶ)の伊方町，中央の瀬戸町，先端の三崎町をはじめ，それぞれの集落間は船で結ばれ，かつては〈陸続きの離れ島〉とよばれていたが，1963年(昭和38)バスが開通した。岬付近は寒ブリの一本づりの漁場として有名で，夏は海士(あま)によるテングサ・アワビ・サザエの採集が行なわれる。自然美に富む岬付近は瀬戸内海国立公園に指定され，また亜熱帯植物のアコウの北限でもある。　〔味沢成吉〕

サタン　⇨悪魔

ざだんかい　**【座談会】**　数人が集まり，ふつうは司会者に促進されながら一つ以上の話題について語り合うもの。結論を出すことを目的としないのが普通であり，一つの話題についてみんなで考え，語り合い，経過を楽しむものである。話し合いにあたっては，必ずしも司会者の指名を待つことはなく，むしろ自発的に発言したほうが会が活気づき，話題も自然に発展する。その半面，自分だけが話を独占することがないように注意し，他の出席者にも発言の機会を与える。新聞・雑誌・ラジオ・テレビなどの座談会は，その話題にふさわしい人を集め，話し合いの経過を第三者に伝え，各自に考えてもらおうとするもので，シンポジウムの形式と似ている。　〔芳賀　綏〕

サターン-ロケット　［saturn rocket］　宇宙専用としてアメリカが開発した大形ロケット。3種類の型がある。①サターン1型：2段式。全長39m，直径6.5m。第1段は，H1型(ケロシンと液体酸素を使用)8基で推力680t，第2段は，RL10型(液体水素と液体酸素を使用)6基で推力41t。②サターン1B型：2段式。全長50m，直径6.5m。第1段は，H1型を改良したもので推力728t，第2段は，J2型(液体水素と液体酸素を使用)1基で推力91t。③サターン5型：3段式。全長86m，直径10m。第1段は，F1型(ケロシンと液体酸素を使用)5基で推力3,400t，第2段は，J2型5基で推力455t，第3段は，J2型1基で推力91t。サターン1型は，1958年に開発が開始され，1964年1月の末に初飛行が行なわれて，ロケットの最終段のからを含めて重さ17tの人工衛星を軌道に乗せた。サタン1B型は18tの重さの人工衛星を軌道に乗せることができ，1966年2月末に試射に成功，同年7月5日の発射では，最終段ロケットのからを含めて27tの人工衛星を実現した。サターン5型は，130tほどの人工衛星を軌道に乗せ，また，45tの宇宙船を月に送り出すことができ，月着陸用に用いられている。　〔原田三夫〕

サチュロス　［Satyros］　ギリシア神話の半人半獣の山野の精。しばしばシレノスと混同されるが，彼らよりも若い。ディオニュソスの従者で，酒と女を好み，踊りが得意である。低い鼻，2本の角をもつ丸い額，ウマのような尻尾(しっぽ)を有し，手にはつえか酒杯を持っている。のち，しだいに人間らしい姿で表わされるようになった。

ローマ神話の森の神ファウヌスと同一視される。

サチュロスげき　【サチュロス劇】 ⇨ギリシア演劇

さつえいき　【撮影機】 ⇨シネ-カメラ

さつえいじょ　【撮影所】 映画製作のための総合的な機能をもつ建築物，およびそれに付随する諸施設をいう。一般に，ステージ，照明などの諸設備，大道具・小道具など美術関係の製作室，メーキャップ・着付け，倉庫，録音室，編集室などの支度部屋(したくべや)，特殊撮影*のための施設，オープン-セットという戸外撮影の施設などからなっており，広大な敷地と閑静さを必要とするため主として郊外にある。➔映画

さつえいせんそう　【薩英戦争】 1863年(文久3)7月鹿児島湾で薩摩藩とイギリス東洋艦隊との間に行なわれた海戦。前年の生麦事件*について，幕府は償金10万ポンドを支払ったが，薩摩藩が犯人引き渡しを強硬に拒否したため，イギリスは東洋艦隊7隻を鹿児島に出動させた。薩摩藩の砲弾でイギリス艦隊は多くの損傷を受け，薩摩藩船3隻を焼いて湾外に去ったが，藩側も艦砲射撃を受けて鹿児島市街を焼かれた。この戦争で薩摩藩は近代兵器の偉力を知り，イギリスも薩摩藩の実力を評価して，戦後両者間に和議が結ばれ，急速に接近した。一方，幕府は終始傍観的で，日本政府として決然たる態度を示すことができなかったため，以後イギリスは薩摩藩と提携して対日政策を進めるようになった。〔高崎徳次〕



薩英戦争
《薩英戦争絵》
尚古集成館蔵

サッカー　［sucker］ 正しくはシーアサッカーといい，たてじまの縮みのある織物。織り方・化学的加工などによってしま状の縮みが与えられる。主として糸染めで，しまやこうしの模様を表わす。綿・アセテート・レーヨン・合成繊維などでつくられ，夏のドレス・ブラウス・子ども服・スポーツ服・パジャマ・カーテンなどに用いられる。

サッカー　［Soccer］ 正式名はアソシェーション-フットボール(ア式蹴球(しゅうきゅう))といい，世界各国で広く行なわれている球技。

【歴史】 起源については諸説がある。サッカーに似た遊びはヨーロッパではすでにギリシア・ローマ時代に行なわれ，中国でも2,000年ほどまえの漢代に同じような遊びをした記録がある。また中世・近世では，バイキングが襲った相手の首長の首をけり合ったとか，イギリスに侵入したデーン人の首をけり合ったなどの伝説も残っている。17～18世紀には簡単な規則もつくられたが，近代スポーツとして確立されたのは1863年で，イギリスフットボール協会(FA)が創立され，1866年にロンドン対シェフィールドの代表チームによるはじめての試合が行なわれた。1904年には国際蹴球連盟(FIFA)がパリで結成され，第2次世界大戦後は，植民地解放で独立した諸国に急速に広まり特にラテンアメリカには熱狂的に迎えられ多くの国際試合に活躍している。現在FIFAの加盟国は127か国に及んでいる。

わが国には1874年(明治7)にイギリス人ライメル-ジョンズが最初に紹介したといわれ，1897年東京高等師範学校でゲームとして正式に取り上げた。1917年(大正6)第3回極東大会が東京の芝浦で行なわれ，東京高師が初の国際試合に出場した。1921年日本蹴球協会が創立され，中等学校・高等専門学校・大学に争ってサッカー部がつくられるようになった。1929年(昭和4)にFIFAに加盟，以降各種の国際試合に出場し，第19回オリンピック-メキシコ大会には決勝リーグに進出してフランス・メキシコを下し，3位に入賞するほど成長した。現在では実業団リーグの活況はめざましく，サッカーの第一線は大学リーグから実業団に移り，プロ野球の試合にも負けない多数の観客を動員している。　〔藤岡　端〕

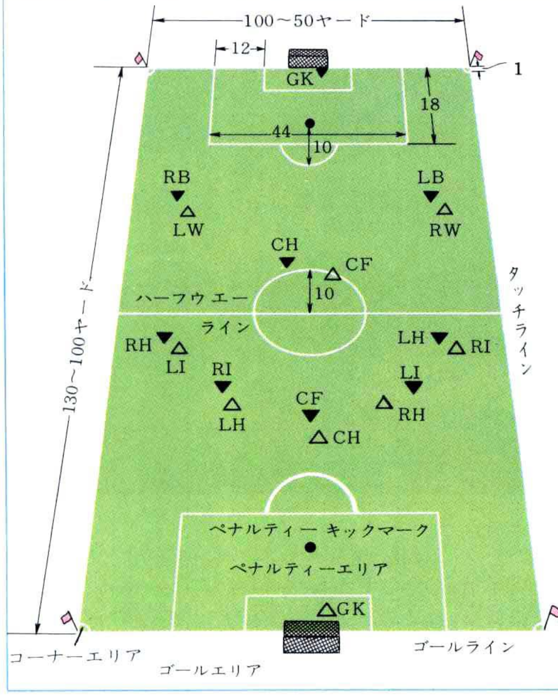
【競技方法】 競技は外被には皮またはその他の承認された材料を用い，外周28インチ(71cm)以下27インチ(68cm)以上，重さ16オンス以下14オンス以上のボールを，両チーム11人ずつでボールをまったく手を使わずに(ゴールキーパーだけはペナルティーエリア内では両手を使ってボールを扱うことが許されているが，5歩以上歩くことは許されていない)，足・からだ・頭などで運んで，相手方ゴールに入れて得点を争うものである。チームの基本的編成はゴールキーパー(GK，ゴール守備)1人，フォワード(FW，攻撃)5人，ハーフバック(HB，攻撃・防御)2～3人，フルバック(FB，守備)2～3人からなる。代表的なフォーメーション(陣型)は図のとおり。試合はトスによってキックオフの順とエンドを定める。主審が合い図を与えたのち，競技者のひとりが競技場の中央に置かれたボールをけり(キックオフ)，ボールを相手方の領域へはいった時点で競技が始まる。ボールがキックオフされるまでは，どの競技者もハーフラインを越えて相手方にはいることはできない。キックオフしないほうのチームの競技者はボールから10ヤード(約9m)以内に近づけない。得点のあった場合には，得点された側の競技者が上記と同様のキックオフを行なって再開する。ハーフタイム(休憩時間)後の競技再開はエンド(陣地)を交替し，前半の競技開始のときにキックオフしなかったほうのチームの競技者がキックオフする。

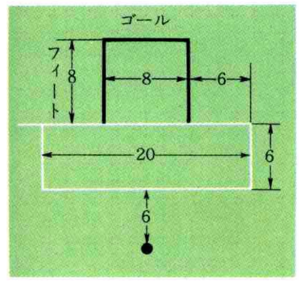
〈得点〉 ボールがゴールポストの間とクロスバーの下との範囲で，ゴールラインを完全に通過したときをもって得点とする。競技時間中に得点の多かったチームを勝ちとする。双方無得点であるかあるいは同点のときは引き分け。味方のミスによって自分のゴールにボールを入れた場合でも相手側に1点が与えられる。

〈競技時間〉 双方が協定した場合のほかは前半・後半それぞれ45分間の計90分の試合時間と，ハーフ-タイム5分とされる。事故その他のために空費された時間は前半・後半を問わずそれだけ延長する。

〈審判〉 主審(レフェリー)1名，線審(ラインズメン)2名によって行ない，審判員はいずれも上下とも黒色のユニフォームを着る。主審は競技ごとに任命され，競技規則を励行させ，争点について裁決を与える。また，競技の記録をとり，時計をはかって規定の競技時間あるいは当事者の合意で定めた時間の競技を行なわせたり，暴行を働いた選手に対して直ちに退場を命ずる権限などをもつ。線審はボールがアウト-オブ-プレーになったとき，およびどちらかの側がコーナーキック・ゴールキック・スローインを行なう権利があるかを指示することにあり，地もとチームの提供する手旗を持って，主審が規則によって競技を運行することを援助する。

〈スローイン〉 地上と空中を問わず，ボールが完全にタッチラインを越えたときは，ボールはその地点からボールに最後に触れ





各ポジションの名称 GKゴールキーパー RBライトバック LBレフトバック RHライトハーフ CHセンターハーフ LHレフトハーフ RWライトウイング RIライトインナー CFセンターフォワード LIレフトインナー LWレフトウイング RBとLBはフルバック RH・CH・LHはハーフバック RW・RI・CF・LI・LWはフォワード ◀印攻撃チーム ▷印防御チームのWMフォーメーション

数字はヤード



サッカー (左)ゴール前のヘッディングによる攻防戦 (右)キックの攻撃。朝日国際三国対抗サッカー大会の全日本対オーストラリア戦。1971 東京国立競技場

た競技者の反対側の競技者によって，任意の方向に投げ込まれる。スローインする者は投げるとき競技場に面し，各足の一部はタッチライン上または外側の地上になければならない。両手を使って頭の後方から頭上を通って投げ込む。スローインしたものは他の競技者がそのボールに触れるまでプレーしてはならない。

〈ゴールキック〉 ボールがゴールラインを完全に越えたとき，そのボールに最後に触れた者が攻撃側の者であった場合，守備側の競技者によってボールの出た地点に近い側のゴールエリアの半分内から直接ペナルティーエリアの外へボールをけり出す。

〈コーナーキック〉 ボールがゴールラインを完全に越えたとき，そのボールに最後に触れた者が守備側の競技者であった場合には，攻撃側の競技者がコーナーキックを行なう。ボールの出た地点に近いコーナーエリアの4分の1の円内に，ボール全体がはいっているように置いてキックするが，コーナーキックから直接得点できる。

〈オフサイド〉 相手の陣営深くにはいり込んで待っていて，そこへ後方からボールを送り込んでもらい，守備側が返ってくるまえにゴールをねらうことを防ぐための規則である。オフサイドの反則とは，攻撃側の選手が相手のエンドでパスを受けるとき，ボールと自分との間に相手側の選手が2名以上でない地点でボールを受けようとするときに与えられるもので，相手側に間接フリーキックが与えられる。ただし，この場合，味方選手がパスを出す瞬間における位置で判定を行なうもので，パスを受けた瞬間の位置ではない。

〈反則〉 サッカーの規則を違反すれば，相手側はじゃまされずに自由にボールをけり出してゲームを続行できる。これをフリーキックというが，相手の反則のぐあいによって，①直接フリーキック(直接ゴールをねらえる)，②間接フリーキック(直接ゴールをねらうことができず，キックしたボールが他の競技者に触れてからゴールにはいらなければならない)とに分かれる。

①直接フリーキック：次の八つの反則をすると，相手側はペナルティーキックとして直接フリーキックをすることができる。㋑ハンドリング：ボールを手で扱った場合。㋺プッシング：相手を手や腰で押した場合。㋩トリッピング：相手を足でひっかけた場合。㊁ホールディング：相手を手でつかまえた場合。㋭ストライキング：相手を手でなぐった場合。㋬ジャンピング-アット：足を上げて相手に飛びかかった場合。㋣バック-チャージ：背後から相手にチャージした場合(肩と肩のチャージは反則とはならない)。㋠キッキング：相手をけったり，けろうとした場合。

②間接フリーキック：次の反則をすると，相手側は間接フリーキックをすることができる。㋑オブストラクション：ボールをプレーする意志なく，相手の行動を妨害した場合。㋺ファイブステップ：ゴールキーパーがボールをもって5歩以上歩いた場合。㋩行動開始前のゴールキーパーへのチャージをした場合。㊁危険なプレー：主審が危険と認めるプレーをした場合。

③また，次の反則をすると退場を命ぜられる。㋑乱暴な行為や暴言を吐いたり，非常にきたない反則をしたと主審が判断した場合，㋺警告を受けたあとであるのに，また不法なプレーをくり返した場合。

④ペナルティーキック：ゴール近くまで攻め込んでこられ，非常に重大な局面でわざと反則するもので，場合によると警告や退場という処分もつく。ペナルティーマークにボールを置き，ける人とゴールキーパーとが1対1で向かい合って行なわれ，しかもゴールキーパーは，ボールがけられるまで足をゴールライン上に定着させ動かしてはいけないため，ほとんどがゴールインする。〔中出水勲〕

サッカーの用語

アドバンテージ 反則によるゲームの中断が，反則を犯した側に有利に展開すると判断したとき，主審が処罰せずにゲームをそのまま続行すること。

クロスバー ゴールポスト2本の上に渡された水平の横木。

ショートパス戦法 ボールを細かく味方にパスしながら敵陣に迫る戦法。

ハットトリック 1試合で，1人の選手が3得点あげること。

プレスキック 地上に置かれたボールをけること。

424システム ゴールキーパーを除く10人が，相手側に対して前方より4人・2人・4人と配置する陣形。

ざつかいきゅうじん 【雑階級人】 ⇨ラズノチンツィ

さっかく 【錯角】 ⇨角

さっかく 【錯覚】 観察の条件によって，事物がその客観的事実内容と，計量的に相違した関係において知覚される現象をいう。正常な人に共通して経験されるものであるが，その発生の原因については諸説があって一定しない。視覚的錯覚・触覚的錯覚・

運動感覚的錯覚などに区別される。①視覚的錯覚：一般に錯視といわれ，錯覚の大部分を占める。特に明るさ・色・形・大きさ・奥行き・長さなどにおける視覚的属性に関して錯視がみられ，ほかに静止物体が動いて見えたり運動物体が静止して見える錯覚，自分の身体が静止しているにもかかわらず運動しているように感じる運動の錯覚があり，また方角をまちがえる方向錯覚がある。②触覚的錯覚：指を交差させてその間に細い棒をはさむと，棒が２本に感じられるというアリストテレスの錯覚がよく知られている。③運動感覚的錯覚：同じ重量でも大きさが違うと，持ち上げたとき，大きいもののほうが小さいものに比べて軽く感ぜられるもの。

このような知覚における錯覚から，転じて判断における錯誤までを一般には錯覚というようになり，観察者の心構えや一時的な状態における不注意錯覚，情緒の変動による錯覚，想像による錯覚，記憶の錯誤（思い違い）なども錯覚として取り扱う場合がある。➔錯視　〔吉田俊郎〕

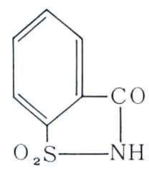
ざっかこうぎょう【雑貨工業】 一般に，食料品・繊維製品・機械類を除く最終消費財，あるいはそれらの原材料などに関連する若干の生産財を生産する業種をさす。具体的には，陶磁器・ガラス製品・日用金属製品・楽器・運動具・玩具(がんぐ)・はきものなど種々のものがあげられる。一つのまとまった業種というよりは，生産形態の異なる種々の業種の集合体といえよう。一般にわが国の雑貨工業は，中小企業がその生産主体の大勢を占め，輸出依存度は高く，近年の発展途上国の工業化ならびに先進国の特恵関税*供与に伴って輸出市場での競争が激化しており，機械化・量産化・高級化などを図ることによって，生産形態の転換を行なわなければならない状況にある。　〔原　豊〕

さっかしょう【擦過傷】 狭義の挫傷*(ざしょう)。鈍体が皮膚の表面に擦過するように作用して表皮が剝脱(はくだつ)し，真皮を露出しているものをいう。外力が弱いときには表皮剝脱（俗にいう〈すりむき〉）だけでとどまるが，ときとして皮下の出血や挫創と同時に生ずることもある。外観では単なる表皮剝脱であっても，皮下深部組織または臓器に重大な損傷を伴うことがある。たとえば頭部では脳挫傷・硬膜外血腫(けっしゅ)・硬膜下血腫など，胸・腹部では肺・肝・腎(じん)・脾(ひ)などの内臓損傷がある。　〔朝倉　了〕

サッカラ［Saqqara］エジプト・アラブ共和国の首都カイロの南28km，ナイル川西岸の砂漠台地の縁に位置する古代エジプトの墓地の遺跡。歴史時代の初め（BC3000年ごろ）メンフィス*が統一国家の首都に定められてからその墓地となり，王朝時代を通じて聖域としての名声を保持した。第３王朝の祖ジェセル王の階段式ピラミッドを中心として南北二つの墓地に大別される。北墓地には，初期王朝時代の貴族の大マスタバ墳，古王国後期の王のピラミッドおよび貴族のマスタバ墳（美しい浮き彫りで名高い），王朝末期のセラペウム（メンフィスの主神プタハの聖獣である聖牛ラピスのミイラを葬ったもの）などがあり，南墓地には古王国末期および中王国時代の王のピラミッドがある。➔エジプト（別丁）〔屋形禎亮〕

サッカラーゼ［saccharase］スクラーゼ・インベルターゼ・ショ糖分解酵素などともいい，ショ糖をブドウ糖と果糖とに分解する酵素。➔インベルターゼ

サッカリン［saccharin］$C_7H_5NO_3S$　２，３-ジヒドロ-３-オキソベンゾイソスルホナゾール，o-スルホ安息香酸イミドなどともよばれる。無色の結晶で，その希薄水溶液は



ショ糖の500倍の甘味を呈し，酸性を示す。通常ナトリウム塩となし，可溶性サッカリンとよび，人口甘味料に用いられてきたが，食品添加物としての適否が問題とされている。サッカリン酸ラクトンをサッカリンという場合もある。➔人工甘味料

サッカレー［William Makepeace Thackeray］(1811〜1863) イギリスの小説家。イギリス東インド会社の税務官の子としてインドに生まれた。幼少時に父と死別，イギリスで教育を受け，ジャーナリストとして活躍しながら，小説を書きはじめた。その風刺的なリアリズムは，感傷的な部分を除けば，18世紀の大作家フィールディング*の作風を継承するものとみられる。同時代のディケンズ*と対照的に，社会改良の意欲を示さず，人間を類型化せず，善悪混じり合った人間群像を描き，18世紀の随筆作家の筆法を応用してしゃれと荘重性を自由に組み合わせた文体を編み出した。思想の一貫性と深い人生観には欠けるが，上層中流階級の俗物性を辛辣(しんらつ)に描き出した。ユーモア雑誌《パンチ》に自筆の漫画入りで連載したものをまとめた風俗戯文集《イギリス俗物誌》や長編代表作《虚栄の市*》のほか，自伝的な教養小説《ペンデニス》，歴史小説《ヘンリー-エズモンド》，評論《イギリス滑稽(こっけい)作家論》など，その著作は多彩である。　〔長崎勇一〕



サッカレー

サッカロース［saccharose］ショ糖・スクロースともいう。主としてサトウキビ・サトウダイコンなどから生産される。➔ショ糖

さつき【皐月】 双子葉植物・ツツジ科。関東以西各地の渓流(けいりゅう)に沿った岩石上などに自生する常緑低木。高さ50〜150cm。葉は披針(ひしん)形で，枝先に集まってつく。枝・葉ともにかっ色の毛がある。６月，紅色の漏斗状の花をつける。旧暦の５月に開花するのでこの名がある。すでに江戸時代には，多くの品種が知られていた。ヨーロッパには1680年にジャワからオランダを経て導入されたと考えられている。サツキに他の原種２種が交雑されて，現在のアザレア*ができたといわれている。はち植え用として多く栽培される。





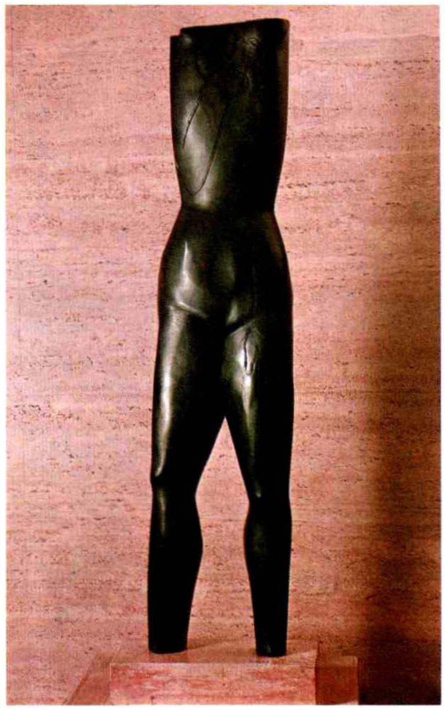
サツキ
愛好家が多く，園芸品種も数多く作出されている。①千代田錦　②業平　③玉牡丹　④金采　⑤八咫の鏡

さっきょく【作曲】 コンポジションの訳語で，音楽作品を創作すること。ただし，厳密な意味での創作が重視されるのは西洋近代に特有の観点であって，他の時代，他の文化圏では，音楽作品をつくることを意味しても，必ずしも独創性と結びついていない。

コンポジションは〈並べて置く〉〈いっしょにする〉を意味するラテン語の〈コンポネレ〉に由来し，旋律を小さな要素を並べてつくったり，いくつかの声部を合わせて多声部の楽曲を構成する際に用いられた。このように，ある程度既製のパターンを組み合わせる作業は，日本の近世邦楽においては〈節付け〉〈手付け〉〈作調〉という語に表わされている。これらはそれぞれ歌のパート，箏(そう)や三味線(しゃみせん)のパート，そして囃子(はやし)のパートにおける作曲を示している。また，ラーガ*という旋律法を基礎にして，即興的に演奏するインド音楽の場合も，広くは作曲の中に含められる。このように，作曲は多かれ少なかれ既存の材料やパターンによらざるをえないが，ただ，既存の部分を強調するか，新しく加えられた部分を強調するかは，文化集団によって異なる。また，既存のパターンがどのレベルにあるかも問題で，旋律形やリズム形の場合もあれば，もっとばく然とした様式にある場合もある。また，電子音楽のように音素材のレベルで考えるものもある。なお最近では，コラージュといって，既存の楽曲を借用して組み合わせるという作曲法が，クラシック音楽とポピュラー音楽の双方で盛んになりつつある。〔徳丸吉彦〕

さっきん【殺菌】 細菌を殺すこと。病原菌による感染と食物など保存を要するものの細菌の活動による変質を防ぐ目的で行なう。物理的方法として，乾燥・加熱とその結合(乾熱滅菌)，煮沸・高圧水蒸気による加熱，紫外線照射，放射線照射があり，化学的方法としては消毒液・有毒ガスの使用がある。細菌と抵抗力の強いその芽胞を殺すに十分で，しかも人体や保存すべき物に変化を与えることが少ない方法がすぐれた方法とされる。なお，滅菌とは無菌状態にすることをいう。〔和気 朗〕

ザッキン [Ossip Zadkine] (1890～1967) ロシア生まれの彫刻家。1907年にイギリスに渡って彫刻をはじめ，1911年からパリの美術学校に学ぶ。その後アンデパンダン展などに作品を発表。黒人彫刻(→黒人美術)の影響を受け，キュービスムに基づく独自のスタイルを展開した。なお，1928年(昭和3)には二科展にその作品が特別陳列され，二科会*の在外会員に推されたこともある。パリに留学した日本人で指導を受けた者も多い。〔三木多聞〕



ザッキン《ポモナ》1950 ブリヂストン美術館蔵

さっきんとう【殺菌燈】 細菌の発育を最も阻止する波長である2,650 Åの紫外線の照射装置。一般には，水銀蒸気とわずかのアルゴンまたは低圧状態でのネオンを収めた円筒形のガラス管の放電管で，2,537 Åの波長の光を出すものをいう。おもに加熱滅菌できない器具の滅菌*に使われるが，その方法は普通は無菌箱にとりつけた殺菌燈下に器具を置き，密閉して照射する。できるだけ殺菌燈の近くに置き，白紙などを用いて反射光も利用し，できるだけ一様に照射することが必要である。照射量は光源からの距離と照射時間によって決まるが，約30分で滅菌完了とみてよい。おもに金属ガラスなど表面がなめらかで深部の滅菌を必要としないものに用いられるが，換気装置の導管にとりつけたり，外科手術室や無菌室の空中細菌を殺すために装置したりすることもある。〔和気 朗〕

さっきんやく【殺菌薬】 広義では細菌を殺す薬の総称で，抗感染薬ともいう。これは体外または体表で殺菌の目的を果たす消毒薬(感染を体外および皮膚粘膜で防ぐもの)・防腐薬(食品および工業材料が菌によってそこなわれるのを防ぐもの)と，体内の感染を治療する化学療法薬とに分けられる。狭義では比較的短時間で殺菌するものをいう。しかし化学療法薬の場合，短時間で殺菌するには，その濃度を体内での菌の増殖を単におさえる(静菌作用)濃度以上にする必要があり，狭い意味での殺菌薬は，体外で使用されるものを暗に示している。いずれにしても，人体に害がなく，少量で十分な殺菌効果のあることが望まれ，ことに皮膚の粘膜やその傷害部に用いられるものは条件がきびしい。しかし，排泄物(はいせつぶつ)や電柱などの殺菌薬は，人体に摂取される可能性が少なく，大量に用いられるため，人体への影響よりも安価であることなどが考慮される。なお，菌に基づく人体からの異臭(口臭・わきが・汗足のにおい)を止めるものを防臭薬とよぶことがある。〔伊藤隆太〕

ザックス [Hans Sachs] (1494～1576) ドイツの詩人・劇作家。ニュルンベルクでくつ屋を営みながら詩作に従事。当時のほとんどあらゆるジャンルにわたる文学作品を書いたが，特にマイスターゲザング(工匠歌)をよくし，その最も代表的な作者といわれる。封建社会末期の世態人情を市民の現実的な立場から，風刺的に描いたものが多い。ルター*の宗教改革を熱心に支持した説話詩《ウィッテンベルクの鶯(うぐいす)》が有名。ワグナー*のオペラ《ニュルンベルクの名歌手*》は彼を主人公としたものである。〔市村 仁〕

ザックス [Julius von Sachs] (1832～1897) ドイツの植物生理学者。プラハ大学卒業後，フライブルクおよびビュルツブルク大学教授として，植物生理学上多くの業績を残した。中でも，葉緑体中におけるデンプンの検出や，水耕法を利用した無機栄養の研究は有名である。教育者としても，ド・フリースをはじめ多くの俊秀を育成し，生物学に大きな貢献をなした。

ザックス [Curt Sachs] (1881～1959) 音楽学者。ドイツに生まれ，アメリカ人として死んだ。広い視野をもち，特に比較音楽学(民族音楽学*)・楽器学の確立と発展に寄与した。一般西洋音楽史や世界舞踊文化にも通じ，またホルンボステルと共同で発表した楽器分類体系は論理的なものとして広く受け入れられている。

ザックス [Nelly Sachs] (1891～1970) ドイツ語を母国語とするユダヤ系女流詩人。ベルリンに生まれたが，1940年ストックホルムに亡命して以来その地に在住。ナチス支配下にあるユダヤ人の運命とユダヤ民族の苦難の歴史への共感を，《死の家にて》《星食》《イスラエルの苦難》などにおいて深い悲哀に満ちた詩にうたいあげている。1966年ノーベル文学賞を受賞。

ざつげき【雑劇】 中国の古典演劇の一。唐の中期に宮廷で行なわれた〈参軍戯〉とよばれるこっけい問答から発展したもので，初期には日本の狂言に類似したこっけいと諧謔(かいぎゃく)を主とする笑劇のようなものであったらしい。唐から宋(そう)にかけて人々に愛好され，雑劇と称されるようになった(金朝の治下では〈院本〉と呼称)。当時の《武林旧事》には約280の外題が記録されているが，実際の脚本は残っていない。その後，配役の数も増加し，歌唱も加わり，内容もそれぞれ独立した4段となるなど，劇的構成が整って，元代の〈元曲〉となる。その後，明(みん)代・清(しん)代にも継承されたが，規則もゆるみ，しだいに衰微した。〔西尾邦夫〕

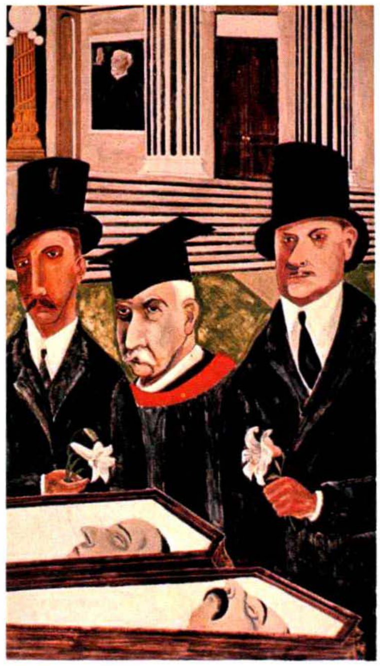
サッケッティ ［Franco Sacchetti］(1330？～1400？) イタリアの小説家・詩人。はじめ商人として各地を旅行し，のち北イタリア諸都市の市政官をつとめた。軽妙な筆致と辛辣(しんらつ)な心理洞察(どうさつ)によって，当時の市井の風俗・生活をさまざまな逸話にまとめた《物語集》300編(223編のみ現存)で知られる。またその詩作のいくつかは，当時の民衆音楽の姿を伝えるものとして評価されている。

さつげんがっき ［擦弦楽器］ 弦楽器あるいは弦鳴楽器を細分類するときに演奏法で分ける場合の一。弦を弓や棒でこすって鳴らすので弓奏楽器・擦奏楽器ともいう。打弦や撥弦と違って持続音を出すことができ，しかも管楽器のように呼吸に制約されないので，きわめて長く延ばすことができる。ヨーロッパのバイオリン族，イスラム圏に広くみられるルバーブ，東アジアの胡弓(こきゅう)・胡琴が代表的である。

ざっこ ［雑戸］ 律令(りつりょう)制下,諸官司に分属し，各種の手工業的特殊技術をもって奉仕した人民の集団。品部*(ともべ)とともに良民の最末端に位置して賤蔑視(せんべっし)された。彼らは年間を通じて一定期間，または臨時に所属官司に召役され，あるいは手工業製品を納め，その代わりに一般公民が負う諸税の一部を免除された。雑戸の起源は大化前代の部民制の中にあり，大化改新で部民が解放されて公民となったのちも政府の必要上解放されず，品部・雑戸となったのである。8世紀中葉以降順次解放され，しだいに消滅した。雑戸の一例として鍛戸(かぬちべ)・甲作(よろいつくり)・矢作(やはぎ)・馬飼いなどがある。 〔黛 弘道〕

ざっこく ［雑穀］ 穀実の収穫を目的として栽培されるイネ科植物(禾穀(かこく)類)で，イネ・ムギ類を除いた穀類をいう。トウモロコシ・アワ・キビ・ヒエ・モロコシ・ソバなど。このうち，ソバは双子葉類のタデ科に属するが，子実の主成分がデンプンであり，かつ栽培法も禾穀類と似ているので，便宜上雑穀として禾穀類に包含する。トウモロコシ・ソバを除き，他の雑穀の生産は年々減少している。

サッコ・バンゼッティじけん ［サッコ・バンゼッティ事件］ 1920年代，アメリカの保守的傾向を象徴する代表的でっちあげ事件。1920年マサチュセッツ州サウス-ブレーントリーのくつ工場で会計係と守衛のふたりが射殺され10,000ドルを奪われた事件の容疑者として，イタリア系移民で無政府主義者ニコラ-サッコ・バルトロメオ-バンゼッティが逮捕され，1921年7月死刑が宣告された。しかし，不十分な状況証拠，第1次世界大戦後の急進的思想に対する反動的風潮にかんがみ，起訴・裁判の公正を期しがたいとして，アメリカ内外の知識人労働者が判決に強く抗議し，釈放を要求した。公判再開は実現しなかったが，1927年州知事は特別調査委員会を設置して再審査した。その結果，公判手続きは正当との報告を得て，延期されていた刑の執行が行なわれた。しかし，疑惑は残され，さらにのちに真犯人が判明したため，この事件はアメリカ裁判史上，自由に対する汚点となった。 〔折井一彦〕



サッコ・バンゼッティ事件 同事件を批判したシャーンの《サッコ・バンゼッティの受難》 柩に横たわるのがサッコとバンゼッティ

さっさせいせつ ［佐々醒雪］ (1872～1917) 国文学者・俳人。京都の生まれ。本名政一(まさかず)。1894年(明治27)大野洒竹(しゃちく)・笹川(ささかわ)臨風らと〈筑波会(つくばかい)〉を興し，《帝国文学*》に《連俳小史》を連載し，人事に特色ある句を発表。東京大学国文科卒業。《俗曲評釈第一編江戸長唄(ながうた)》などの江戸文学の研究・評釈や《修辞法講話》などの修辞学の先駆的論稿もある。

さっさなりまさ ［佐々成政］ (？～1588) 安土桃山時代の武将。尾張(おわり)(愛知県)の出身。織田信長(のぶなが)に仕え，朝倉義景(よしかげ)討伐，石山本願寺一揆(いっき)(→石山合戦(かっせん))に戦功を立て，越前(えちぜん)(福井県)府中城を賜わり，のち越中(富山県)の富山城に移った。小牧・長久手の戦い*では，徳川家康*(いえやす)・織田信雄*(のぶかつ)と結んで豊臣秀吉*(とよとみひでよし)に対抗し，越中で挙兵した。しかし，豊臣秀吉と家康・信雄との間に講和が成立したため，秀吉に攻められて降伏した。1587年，秀吉の九州征伐*ののち，肥後(熊本県)に封ぜられたが，入国早々検地*を行なったため土豪層の激しい反乱が起こった。乱鎮定後その責任を問われ，摂津(大阪府)尼ケ崎に幽閉されて切腹を命ぜられた。 〔高崎徳次〕

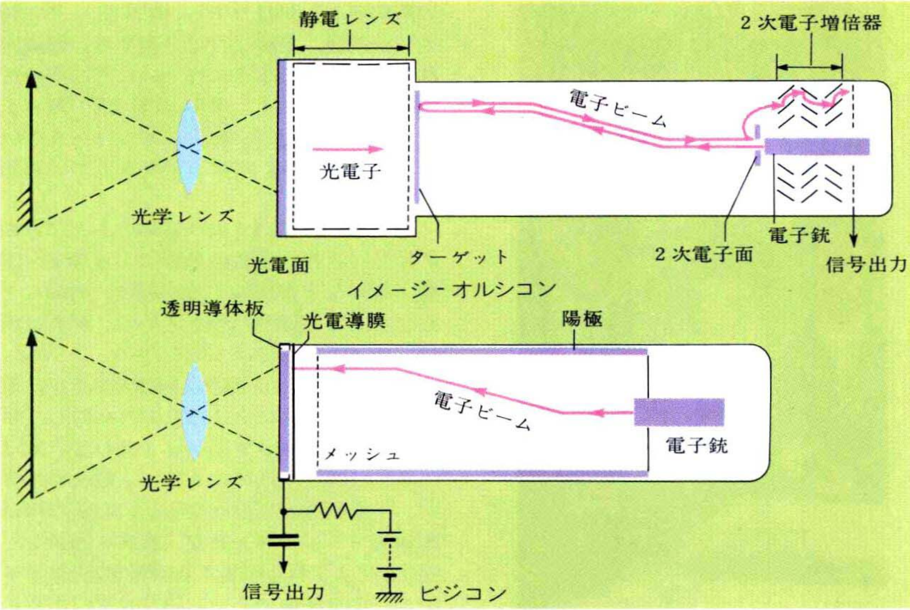
サッサフラスのき ［サッサフラスの木］ 双子葉植物・クスノキ科。北アメリカ原産の落葉高木。葉は互生し，楕円(だえん)形で長さ10cm前後，全縁または3裂する。雌雄異株で，葉の出るまえに径7mmほどの淡緑黄色の花が多数つく。果実は楕円形で長さ1～1.5cm，黒熟する。根皮にサフロールという芳香油を含み，たばこのかおりづけに用いられる。

ざっし ［雑誌］ 同一名称のもとに定期的に発行され，多数の筆者による論文・記事・創作などを収録する出版物。新聞などと合わせて定期刊行物ともいう。雑誌は新聞・放送と並んでマスコミュニケーション-メディア(マスコミ媒体)を形成するが，放送が電波メディアとよばれるのに対し，新聞とともに印刷メディアとよばれる。雑誌の種類は社会生活のあらゆる主題にわたるが，学術研究および社会生活に必要な体系的知識・ニュース・教養・趣味・娯楽などを(またはこれらに関する情報を)提供するのが主要な使命である。雑誌は発行回数から季刊・隔月刊・月刊・半月刊・旬刊・週刊誌*などに，内容・対象などから総合雑誌*をはじめ，時局・政治・法律・経済・科学・美術・文芸・婦人・児童・学習雑誌などに分かれる。また，一般雑誌に対し，学術専門雑誌・同人雑誌*・政党・団体などの機関誌・業界雑誌・PR雑誌など特殊な性格のものもある。雑誌のはじまりは1665年1月，法律家ドニィ-ド-サロがパリで発行した《ジュルナル-デ-サバン》であるといわれる。その後ロンドンの《フィロソフィカル-トランスアクションズ》(1665年3月)，イタリアの《ジオルナーレ-レ-レティラティ》(1668)，ドイツの《アクタ-エルディトルム》(1682)などがあいついで発行された。わが国では1867

わが国における雑誌の発行点数

種類	点数	種類	点数
図書・新聞	61	演劇・映画	37
総合	101	体育・スポーツ	75
哲学	24	諸芸・娯楽	25
宗教	58	日本語	9
歴史・地理	49	英語	15
政治	47	その他の諸国語	19
時局・外事	60	文学・文芸	82
法律	54	詩	27
経済・財政・統計	202	短歌	23
社会	70	俳句	48
労働	34	読物	168
教育	167	婦人	44
自然科学	50	青年	4
医学・衛生・薬学	191	児童	95
工学・工業	439	学習受験	32
家事・服飾・美容・料理	84	音の出る雑誌	6
農業・畜産業 林業・水産業	91	計	2,750
商業	79		
交通・通信	60	ほかに	
芸術・美術	68	学術雑誌	1,200
音楽・舞踊	52	官公庁雑誌	1,000

(《出版年鑑》1976年版)



撮像管 構造。電子ビーム集束コイルおよび偏光コイルは省略してある

年(慶応3)柳河(やながわ)春三が外国雑誌を模倣して発行した《西洋雑誌》が最初といわれ，1869年(明治2)廃刊となったが，雑誌という名称をはじめて用いたものである。現在わが国では前表のとおり多数の雑誌が発行されているが，最近の傾向として週刊誌の台頭，大形化，写真を主とした〈見る雑誌〉の増加などがあげられる。〔北島武彦〕

ざっしゅ 【雑種】 交雑種，異質接合体，ヘテロの個体，あいの子など，交配によって生じた遺伝的に均一でない個体。一般には属間雑種・種間雑種など違った属・種・系統・品種間の交配から生れた個体をさすが，同一種内の交配によって生じた個体でも，注目する遺伝子座についてホモ(均一)でないものは雑種とよぶ。属間雑種や種間雑種の雑種第1代は，ふつう不妊または不稔(ふねん)となるが，ときには両親よりもじょうぶな雑種強勢の現象もみられる。〔北川　修〕

ざっしゅきょうせい 【雑種強勢】 雑種の生存力が両親のいずれよりもまさっていること。ヘテロシスともいう。18世紀後半から，育種家は作物や家畜で近親交配を続けると収量が減り，奇形が現われ，繁殖力が下がるなど有害な結果が生じ，それが遠い系統のものとの交配によって回復することをしばしば経験してきた。このことから遺伝的に違いの大きい2系統(品種)間で交配し，その雑種の有利な点を利用する育種法が発達した。アメリカにおける雑種トウモロコシはその成功した例である。近親交配を続けた4系統A・B・C・Dを選び，第1年めにその二つずつ(A×B，C×D)を交配すると，どちらの組み合わせでも強健で収量の多い雑種ができる。次の年にはこれらの雑種を互い違いの列に植え，一方の雄花を除いておくと，雌花は他の列からの花粉のみを受けるので，強くて実りの多い二重雑種ができる。雑種強勢を利用した育種法は，ニワトリ・ブタ・ウシなどの動物や，サトウキビ・タマネギ・トマト・ナスなどの栽培植物に多くみられる。〔北川　修〕

ざっしょう 【雑掌】 部官衙(かんが)(役所)で雑事務に携さわる者の称であったが，一般には本所・領家が荘園(しょうえん)の管理にあたらせた者をいう。現地で年貢(ねんぐ)・公事(くじ)の徴収にあたる者を所務雑掌，在京して荘園に関する訴訟などの渉外事務にあたる者を沙汰(さた)雑掌といった。なお，江戸時代には公家(くげ)の家司を雑掌と称した。

さつじんこうせん 【殺人光線】 位相のそろった高いエネルギーの光を発振し，それによって人畜を殺傷しようとするもの。本来は，極超短波(電波)の生物に及ぼす影響力を兵器として利用しようという考えから研究が始められたが，今日ではレーザーの一種の光波(電磁波)を殺傷用に利用する研究がアメリカその他で行なわれている。レーザー光線をレンズで焦点を結ばせれば，1cm²あたり10万kWの熱量を出すといわれ，ICBM迎撃兵器としての可能性も考えられているが，今日ではまだ基礎的研究の段階を出ていない。〔藤井冬木〕

さつじんざい 【殺人罪】 他人の生命を奪う犯罪(刑法199条)。これが成立するには殺害の故意が必要で，傷つけるつもりで身体に危害を加えた結果被害者が死亡した場合は殺人罪ではなく，傷害致死罪(刑法205条)が成立する。しかし殺害の故意があれば，ピストルや刀で殺すこと，毒薬を飲ませること，乳飲み児に乳を与えないことによって死亡させるなど，その手段・方法は問われない。生命のあるかぎり，その対象が生育の見込みのない赤ん坊でも，瀕死(ひんし)の重病人でも殺人罪は成立する。相手が死亡すれば既遂となり，殺人行為はあったが生命に別条がなければ殺人未遂罪(刑法203条)となる。また，殺人の目的で，凶器や毒薬などを準備しただけでも殺人予備罪(刑法201条)となり，刑は2年以下の懲役。殺人罪は死刑または無期もしくは3年以上の懲役で，量刑の範囲は個々のケースに応じて幅が広い。〔野口恵三〕

さっせんちゅうざい 【殺線虫剤】 有害線虫，特に土壌(どじょう)線虫を防除するために開発された薬剤で，D-Dが1943年ハワイで土壌線虫の防除に成功して以来急にその効果が注目されるようになった。現在市販されているものに，D-D剤のほかにEDB剤(ネマヒューム・ネマトロン)・CDBE剤・DBCP剤(ネマゴン・ネマナックス・ネマセット)・DCIP剤(ネマモール)・DSP剤(カヤエース)・REE剤(サッセン)などがある。

さつぞうかん 【撮像管】 テレビジョンの撮像に用いられる電子管で，一種の光学像を電気信号に変える変換装置。広く用いられているものに，イメージオルシコンとビジコンがある。前者は光に対する感度は高いが構造がかなり複雑であり，後者は感度は高くないが構造が比較的簡単である。

イメージオルシコンの原理は，ターゲット上に直接光像をつくらずに，光電面上につくった光像をターゲット上に電子的に転写し，これを低速度の電子ビームで走査して，光の明暗に比例して反射してきた電子ビームを2次電子増倍器で増幅し，電気信号として取り出す。これに対して，ビジコンは，透明導体板上に形成した光電導膜からなるターゲット上に直接光像をつくり，これを電子ビームで走査し，光の明暗によって生じた電気伝導度の変化を利用して，電気信号をターゲットから直接取り出す。ビジコンは構造が簡単であり，小形で安価につくることができるため，工業用テレビジョンに多く用いられている。〔伊藤糾次〕

ざっそけつだんじょ 【雑訴決断所】 令外官(りょうげのかん)の一。1333年(元弘3・正慶2)建武中興政府が設置した訴訟機関。記録所とともに政府の中央政治機関となった。制度としては鎌倉幕府の引付衆(ひきつけしゅう)を継承し，主としてこの時期における土地問題の紛争解決にあたった。地方別にしてはじめは3番組に分けたが，訴訟件数の激増に伴い8番組に拡張した。各番の裁判長を頭人といい，その下に寄人(よりうど)・奉行(ぶぎょう)を置き，主として旧鎌倉幕府の裁判関係経験者をこれにあてた。しかしその開設期間は，1335年(建武2)足利尊氏(あしかがたかうじ)が反乱を起こすまでの約2年にすぎなかった。〔高崎徳次〕

さっそざい 【殺鼠剤】 ネズミ類を駆除するための薬剤。ふつうえさに混じて用いられる。古くはねこいらずで代表されたが，近年ノネズミを駆除するために数多くの殺鼠剤が開発された。中でもモノフルオル酢

酸塩剤(フラトール)・アンツー剤*・クマリン系剤*・チオセミカルバジッド剤(モルトール)などが代表的なものである。フラトールのような急性毒剤に対し，クマリン系剤では毒性が緩慢だが，数日間の連用で確実に死をもたらすというように，その作用機能も薬剤によっていろいろである。このほか，倉庫などでは青酸ガスなどの有毒ガスを用いて駆除することがある。〔深谷昌次〕

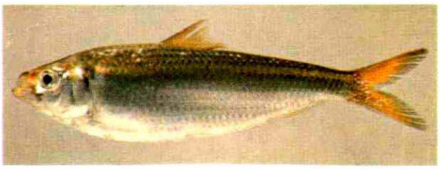
ざったいしょ【雑体書】⇨書体

さったとうげ【薩埵峠】静岡県の由比町と清水(しみず)市興津(おきつ)町との間の峠。山地が駿河(するが)湾に迫っているため旧東海道は約2kmの間，断崖(だんがい)の中腹をたどってつけられ，難所となっていた。現在国道1号線は海岸沿いに，東海道本線・同新幹線・東名高速道路はトンネルでここを通過している。

さつだにざい【殺壁蝨剤】果樹や蔬菜(そさい)を害するハダニ類を特異的に殺す薬剤の総称。初期には有機リン殺虫剤たとえばパラチオンとかEPNなども用いられたが，現在ではケルセン*・マイトラン・ミルバックス・キルバール・アッパ水和剤・カラセン・フェンカプトンなど，どちらかといえばはじめから殺ダニ効果をねらった薬剤が登場してきている。殺ダニ剤は抵抗性がつきやすいので，殺虫剤などに比べると有効期間が短いとされている。〔深谷昌次〕

さっちゅうざい【殺虫剤】害虫を殺し，農産物の生産をあげたり，人畜の環境衛生を良好に保つためにつくられた薬剤の総称。その歴史は古いが，農業分野で本格的に用いられるようになったのは1800年代中ごろからである。最初は植物からとった殺虫成分，たとえばデリスの根に含まれるロテノンとかジョチュウギクから抽出されたピレトリンあるいはタバコの成分ニコチンなどが使用される一方，ヒ酸鉛とかヒ酸石灰のような無機化合物がもてはやされた。第2次世界大戦後はＤＤＴ・ＢＨＣといった有機塩素剤，あるいはパラチオン・ＥＰＮ・マラソン*などに代表される有機リン剤が脚光を浴びたが，これら強力な殺虫剤には残留毒性の危険があったり，殺虫剤抵抗性害虫の出現などがあるので，このところこれからの農薬に対する新たな構想が各方面から出されている。今後はさきに述べた天然物農薬を見なおす必要もあろうが，人畜や魚介に毒性の低いいわゆる低毒性薬剤の開発に向かっていっそうの努力が傾けられるであろう。〔深谷昌次〕

さっちゅうざいていこうせい【殺虫剤抵抗性】こん虫が殺虫剤に対し抵抗性をもつこと。抵抗性について世界保健機構(WHO)では次のように定義している。〈あるこん虫の一系統において，ふつうの集団の大部分に致命的であるべき量の有毒成分に対し，耐えることのできる能力が発達することをいう〉。こん虫やダニが何代も同じ殺虫剤を


サッパ

受け続けると，その薬剤に対して弱い個体が死に絶え，生き残った強い個体からのみ子孫が生まれる。このため，しだいにはじめに比べて薬剤に強い集団ができあがる。すなわち，淘汰(とうた)によって虫の抵抗性が発達する。このような薬剤に対して強くなった系統を抵抗性系統という。殺虫剤抵抗性が大きな問題になったのは，DDT*が大量に使用されはじめてからであり，まずイエバエに，次いで各種の衛生害虫に抵抗性が生じた。さらに，ハダニやツマグロヨコバイなどの農業害虫でも抵抗性が生じている。わが国の衛生害虫では，イエバエ・アカイエカ・チャバネゴキブリの塩素剤抵抗性が著しい。〔鈴木 猛〕

さっちょうどうめい【薩長同盟】1866年(慶応2)1月21日薩摩藩と長州藩の間で結ばれた同盟。尊王攘夷(じょうい)運動*の中心である長州藩は，文久3年8月18日の政変*で薩摩・会津両藩をはじめとする公武合体*派に京都政局から後退させられ，その上禁門の変*で敗れたため，薩長の反目はますます強くなったが，志士の間では討幕実現のために薩長の提携が切望された。第1次長州征伐*後薩摩藩は公武合体から討幕へと藩論を転換し，一方，長州藩も坂本龍馬*(りょうま)の斡旋(あっせん)により薩摩藩の名義を借りて軍艦・武器を外国から買い入れる交渉が成立し，薩長和解の道が開かれた。第2次長州征伐開始にあたり，薩摩藩は幕府の出兵要求を拒否して諸藩の動向にも影響を与え，長州藩を有利にした。この情勢を機に薩長同盟を策した坂本は，京都薩摩藩邸において薩摩藩の西郷隆盛*(たかもり)，長州藩の木戸孝允*(たかよし)と会して盟約を結ばせた。内容は6か条からなり，対幕府戦争を想定して薩長両藩が軍事協力をすることを密約したものである。この同盟を転機として，討幕運動*が政治的に具体化することとなった。〔高崎徳次〕

さって【幸手(町)】埼玉県東部，北葛飾(きたかつしか)郡に属する。人口48,000。町の西南部を古利根(ふるとね)川が流れ，水利の便がよいため水田が開けている。江戸時代には奥州街道と日光御成(おなり)街道の合する重要な宿場町であった。昔の利根川の跡である権現堂川の西側にかかる御幸堤(みゆきづつみ)はサクラの名所として知られる。第2次世界大戦後は工場も多く進出している。東武鉄道日光線が通ずる。

サットン〔Walter S. Sutton〕(1876〜1916) アメリカの細胞学者。バッタの精母細胞を用い，減数分裂の際の染色体の行動が，メンデルの法則における遺伝要素の行動とまったく一致することを見いだした。また，形質の総数のほうが染色体数よりもはるかに多い事実から，1903年，1個の染色体は多くの遺伝単位を含むと主張し，連鎖*の着想を示唆した。

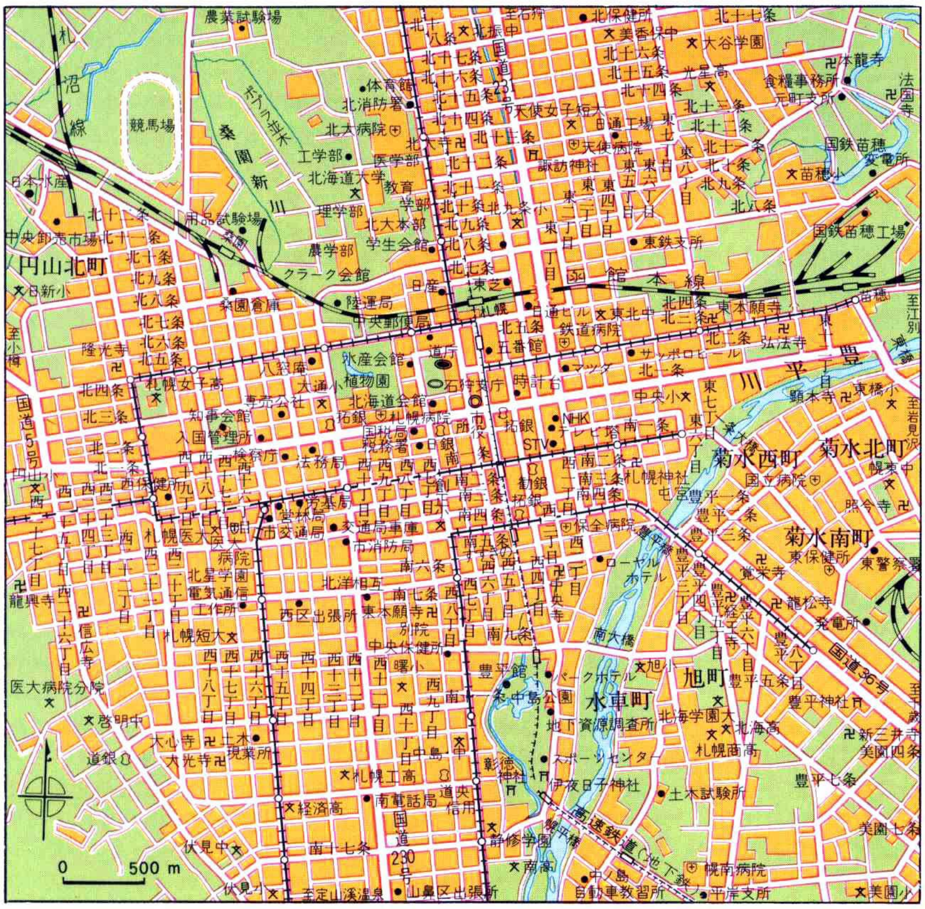
さつなんしょとう【薩南諸島】南西諸島*のうちの北東の部分をいい，鹿児島県に属する。北から竹島・硫黄(いおう)島・黒島の3島からなる口之三島(くちのみしま)，種子島(たねがしま)や屋久島を主とする大隅(おおすみ)諸島，九つの小さな火山島からなる吐噶喇(とから)列島*，奄美(あまみ)大島を主島とする奄美諸島*の四つに分けることができる。第2次世界大戦後は，1951年(昭和26)まで北緯30°より南の吐噶喇列島が，1953年まで北緯29°より南の奄美諸島がアメリカ軍の統治下にあった。〔浅井得一〕

さっぱ【鯯】硬骨魚類・ニシン科。全長約15cmに達する海産魚。体は非常に薄い。うろこは円鱗(えんりん)で，側線は不明瞭(ふめいりょう)。背は青緑色，腹は銀白色。コノシロ*によく似ており混同することがあるが，コノシロより体がはるかに薄く，またうろこに黒斑(こくはん)がないので区別できる。北海道以南，フィリピンまでの沿岸に分布し，ときに純淡水域にもはいりこむ。コノシロと同様に調理され，美味。特に，瀬戸内では，酢づけにしたものはママカリといわれ，賞味される。この名は，美味なためにご飯を食べすぎて，隣家に借りに行かねばならなくなる，というところからついたといわれる。〔菅野 徹〕

ざっぱい【雑俳】雑体の俳諧*(はいかい)の義で，本質的な俳諧文芸に対して，その末流に属する前句付*(まえくづけ)・冠付*(かむりづけ)など多種多様の通俗文芸の総称。前句付は，はじめ俳諧のけいことして行なわれたが，1690年前後(元禄期)ごろにはすでに付合*(つけあい)の機知や奇抜さをねらう傾向になり，俳諧から独立して民衆の間に流行した。川柳*(せんりゅう)は，前句付の付句が独立して生まれたものである。なお雑俳は，前句付のように付合性のあるものと，沓付(くつづけ)などのように付合性をもたず，一定の語句をよみこみ一句に仕立てるものとに大別できる。〔弥吉沙恵〕

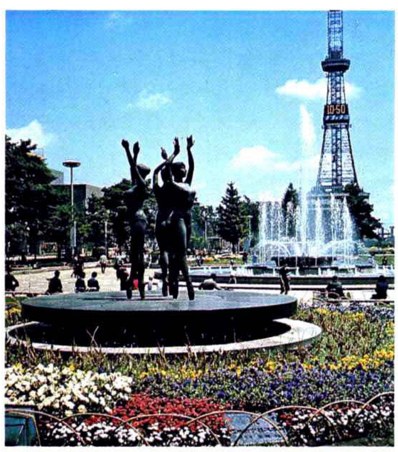
さっぷげんき【冊府元亀】中国，宋(そう)王欽若(おうきんじゃく)・楊億(ようおく)らの奉勅撰(ほうちょくせん)で，真宗のときに完成。1,000巻，目録10巻。歴代の君臣の政治に関する事績を31部，1,104門に分けて列挙している。唐・五代の研究には不可欠で，他にはみられない豊富な資料がある。

サッポー〔Sappho〕(BC612ごろ〜?) 古代ギリシアの女流叙情詩人。レスボス島の生まれ。紀元前7世紀中ごろに活躍し，政治的理由で一時シチリアに亡命した。結婚前の少女たちを集めて，詩歌・音楽・舞



札　幌　市





札 幌 市　(左)札幌市内の中心部。右手にテレビ塔に至る大通り公園，その向こうに豊平川が見える。左手前の緑地は植物園で，この付近が道庁・市役所などの集まる官公庁街　(右)大通り公園にある噴水・塑像・花壇。市民のいこいの場となっている

踊などを教えた。少女らを賛美した詩や少女たちの結婚を祝う祝婚歌などが残っている。また，自然をよんだ詩には独特の観察眼をみせ，民謡ふうの愛すべき素朴(そぼく)さがにじみ出ている。彼女の詩には比類ない優美さと簡勁(かんけい)さがあり，〈10番めのミューズ〉とたたえられた。　〔久保正彰〕

さっぽろ【札幌(市)】 北海道西部，半島部と本島部の接点に位置する市で，道庁が置かれている。江戸末期まではクマやシカの住む原生林の中にアイヌ人の小集落があるだけだったが，北海道・サハリン(樺太(からふと))の開発・経営のためにつくられた北海道開拓使*が，1871年(明治４)この地に置かれ，顧問としてアメリカから招いたケプロンらによって都市計画が進められた。市勢はその後順調に発展して，北海道の行政・文化・経済の中心となり，1922年(大正11)市制を施行した。第２次世界大戦後は，北海道開発の国策によって官庁や会社などの出先機関が集まり，市域も数回にわたって拡張されて琴似・豊平(とよひら)・手稲などの町村を編入し，マンモス都市化の道を歩んで1972年(昭和47)地方自治法政令にもとづく指定都市となり，中央・北・東・白石・豊平・南・西の７区制が施行されることとなつた。面積1,118.01km²，人口135万4,000。中心市街は石狩平野北西部，石狩川支流のアイヌ語で〈サト・ポロ・ペッ〉(かわいた広い川の意)とよばれた豊平川の渓口(けいこう)扇状地に発達し，初期の都市計画に由来する碁盤目状の整然とした街路が縦横に走る。その周辺には那須(なす)火山帯に属する手稲山(1,024 m)・円(まる)山(226 m)・藻岩(もいわ)山(531 m)などが西から南へかけて連なり，南東部には月寒(つきさっぷ)火山灰層のつくる台地が広がり，西郊35kmの地点には外港の機能をもつ小樽(おたる)港がある。産業三大別人口比は１：26：73で，市街地中央を東西に貫く大通りの北側と札幌駅との間には，官庁・銀行・会社・新聞社などが立ち並び，大通りの南側に狸小路(たぬきこうじ)などの主要商店街がある。駅の東側から苗穂・豊平の両駅周辺にかけては，ビール・バターなどの大工場や食料品製造・印刷などの中小工場があり，道央新産業都市に指定されてからは精密機械工業地帯の造成が進んでいる。近郊は野菜や果樹の栽培が盛んで，豊平のリンゴ，元村のタマネギなどがよく知られるが，最近は宅地化が進み，西部の円山から南東の山鼻・真駒内(まこまない)方面へ新興住宅地帯が延びている。

札幌駅には函館(はこだて)本線・千歳(ちとせ)線・札沼線が集まり，国道５号線(函館方面)・12号線(旭川(あさひかわ)方面)・36号線(苫小牧(とまこまい)・室蘭(むろらん)方面)が延び，バスの路線も発達している。1971年(昭和46)には千歳・小樽両市との間に有料高速道路が建設され，また同年末には第11回オリンピック冬季大会に備えて，全国初のゴムタイヤを使った市営地下鉄が開通した。なお，南東方面の千歳市にある千歳飛行場からは，東京・大阪・福岡などをはじめ道内各都市へ，北東郊の丘珠(おかだま)飛行場からは，道内各都市へ定期便が就航している。市内には開拓の歴史を物語る名所・史跡が多く，アカシア・プラタナスの並み木，季節の花が咲きそろう大通公園などは〈詩の都〉とよばれるにふさわしい情緒をただよわせる。北海道大学の前身である札幌農学校*の演武場は，1878年の建築で，市街の中心に近くそのまま残っており，白い木造洋館の時計台が札幌の象徴となっている。北海道大学は，ニレの大樹やポプラ並み木を構内にもつ美しい学園で，付属植物園が公開されている。また，北海道教育大学やいくつかの私立大学もあり，北海道の文教の中心都市となっている。観光地としては，明治初期の洋風木造建築として知られる豊平館や市民スキー場のある藻岩山，円山の原生林(天然記念物)，月寒の農林省種羊場，定山渓(じょうざんけい)温泉などがある。大倉山や手稲山のス

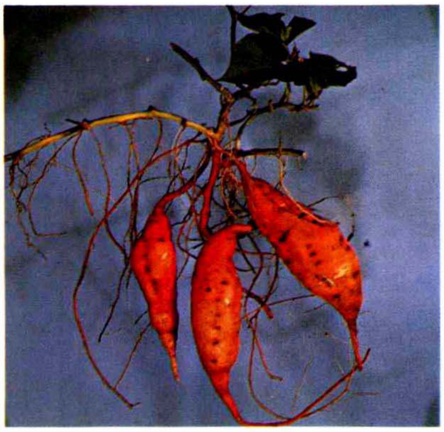
キー場，真駒内のスケート場などは，1972年(昭和47)の第11回オリンピック冬季大会において中心競技場となった。年中行事としては，大通公園と真駒内で行なわれる〈雪祭り〉(2月第1金・土・日曜)や〈ライラック祭り〉(5月の最終金・土・日曜)などが有名である。〔浅井得一〕

さっぽろのうがっこう 【札幌農学校】 北海道大学の前身。北海道開拓使*の役人養成を目的として1872年(明治5)東京に開拓使仮学校が設けられ，1875年札幌へ移転し札幌学校と改称した。このときマサチューセッツ農業大学からW. S. クラーク*ほか2名の外人教師を招いて教育内容の充実を図り，1876年札幌農学校と改称し，基礎科学を重視するカリキュラムを組んだ。その後1907年東北大学新設とともにその農科大学となり，1918年(大正7)北海道大学農科大学となった。札幌農学校にはクラークの影響によってキリスト教が定着し，内村鑑三(かんぞう)・新渡戸(にとべ)稲造らのキリスト教思想家が生まれている。〔加藤邦興〕

さつま 【薩摩(国)】 鹿児島県の西半，薩摩半島の部分をなす旧国名。西海道に属する。古くは隼人*(はやと)の居住地で，中央の政令は徹底しなかったが，8世紀以降律令(りつりょう)政府の支配がしだいに浸透した。もと鷹島(かごしま)・谿山(たにやま)・給黎(きいれ)・河辺(かわべ)・揖宿(いぶすき)・穎娃(えの)・阿多(あた)以下12郡あり，国府・国分寺は高城(たかき)郡(現在の川内市)にあったが，府跡は未詳。鎌倉時代の初め島津忠久(ただひさ)が守護となり，戦国時代には豊臣秀吉(とよとみひでよし)に屈服し，次いで徳川氏に臣従したが，島津氏は江戸時代を通じて薩摩・大隅*(おおすみ)2国を領する七十万石余の大大名であった。明治維新後鹿児島県となる。〔甤　弘道〕

さつまあげ 【薩摩揚げ】 揚げかまぼこの総称。魚肉のすり身を調味して油で揚げたもので，関東では〈さつま揚げ〉，関西では〈てんぷら〉，鹿児島地方では〈つけ揚げ〉という。油で揚げるので特有の濃厚な味をもち，多くおでん種に用いられる。魚肉のすり身だけのもののほか，ニンジン・タマネギなどの野菜を刻んだものや，ゴマ・ショウガ・コショウ・トウガラシなどの香辛料を加えた製品もある。また，ゴボウ・イカ・エビ・ゆで卵などをしんに巻き込んだ製品もある。原料魚としては，おもにアオザメ・ヨシキリザメ・アブラザメ・エソ・ホッケなどを用いる。〔佐藤友太郎〕

さつまいも 【薩摩芋・甘藷】 双子葉植物・ヒルガオ科。中央アメリカ原産の多年草であるが，日本では自然状態で越冬できない。リュウキュウイモ・カライモ・カンショともいう。地中に肥厚した塊根をつくる。茎はつる状に長く伸び，地上をはうものが多い。葉には10〜15cmの葉柄があり，葉身は心臓形のものや浅い切れ込みのあるもの，掌状のものなどがある。秋にヒルガ



サツマイモ　農林1号

オに似た漏斗状で淡紅色の花が総状花序につくが，日本での開花はまれである。熱帯・亜熱帯では結実し，朔果(さくか)に1〜2個の種子を生ずる。根は晩夏に非常に太っていも状となるが，その形や質は品種によってさまざまである。

サツマイモはその塊根を蒸したり焼いたりして食用とするほか，薄く切って乾燥し米に混じて飯にたき，また乾燥粉はいも団子につくる。そのほかデンプンを製して，のり・あめ・ブドウ糖・アルコールの原料などとする。収穫時における茎葉は家畜の飼料として好適。くずいもも飼料とする。品種には農林系統のほか，デンプン用として沖縄100号・護国など，食用として源氏・太白・紅赤・七福などは昔から著名である。塊根の成分は次のとおり。水分69.3%，粗タンパク質1.3%，粗脂肪0.2%，炭水化物28.7%，灰分0.8%。1971年(昭和46)度作付面積は10万7,000ヘクタール，収量204万1,000tで，10アールあたり収量1,907kg。

〔歴史〕 コロンブスがアメリカ大陸発見当時，すでに原住民により栽培されていたという。わが国へは1605年(慶長10)にまず琉球(りゅうきゅう)に伝わり，1698年(元禄11)には種子島(たねがしま)で栽培。その後1731年(享保16)，島根県石見(いわみ)の代官井戸正明がこれをつくり，飢饉(ききん)の対策としたため，中国地方に広まった。関東へは青木昆陽(こんよう)が1735年，薩摩(鹿児島県)から種いもを入れて普及した。

〔栽培〕 高温多照の気候に適する。生育期間中にはかなりの雨量が必要であるが，塊根形成時はむしろ乾燥ぎみのほうが良品を生産する。土性は，壌土(じょうど)ないし砂壌土に適し，作土が深く，排水の良好なことが必要である。サツマイモは育苗*して苗を移植する。小いもを直播(じきま)きする方法もある。育苗には醸熱温床・電熱温床が用いられ，1個200〜300gの種いもが2月下旬から3月下旬にふせこまれる。10アールあたり6〜10m²の苗床を必要とし，床温は30℃ぐらいが適当。4月下旬より5月上旬にかけて本圃(ほんぽ)に移植する。苗は30cm以上で，7〜8節以上の節のあるものがよい。うね幅70〜90cmの高うねがよいが，砂地では平うねでもよい。10アールあたり3,000〜5,000本の苗が必要であるから，株間は25〜30cmを普通とする。植え方には水平ざし・改良水平ざし・船底植えなどがあり，土質と土壌水分によって植え方は変わる。施肥はリン酸とカリに重点を置く。管理は除草・つる返しなど2〜3回。気温10℃以下になるまえに掘り取り収穫する。〔金木良三〕

さつまきりこ 【薩摩切子】 江戸末期に薩摩藩でつくられたカットグラス。1846年(弘化3)藩主島津斉興(なりおき)が城内騎射場跡に製薬館を設けて医薬の製剤を始め，その容器としてガラスびんを必要としたとき，江戸からビードロ師を招聘(しょうへい)した。これが薩摩ガラスの起源で，斉彬(なりあきら)の代に洋書に基づいて各種金属による発色剤を開発し，1855年(安政2)にガラス製造場を集成館に移して生産体制を高め，色ガラスのほかに鉛ガラスにカットを施した切子ガラスを産し，盛時には参与する工人も100人余に上ったと伝える。薩摩切子の製品は，皿(さら)・鉢(はち)・瓶(へい)・碗(わん)・坏(はい)からちろり・重箱などの日常飲食器までに及び，無色透明なもののほかに着色したものでは紅と藍(あい)が多い。文様は斜格子(しゃごうし)と横縞(よこじま)の組み合わせで亀甲(きっこう)文をつくり，細い鱗文(うろこもん)で埋める形式が多い。ただし，切子の類は器体を輸入して，カットのみを施すことも行なわれたと想像される。〔矢部良明〕

さつまごきぶり 【薩摩蜚蠊】 こん虫類・直翅(ちょくし)目・マダラゴキブリ科。大形のゴキブリ*で，体長25〜40mm。体は扁平(へんぺい)な楕円(だえん)形で，光沢のある黒色。頭部は背面からは見えず前後翅とも痕跡(こんせき)的。幼虫は茶かっ色で，不完全変態を行なうが，1世代を経過するのに要する時間は環境条件によって著しく変化し，ときに数年に及ぶこともある。九州南端から中国・台湾・インドに至る広い地域に分布し，雑食性で，幼虫・成虫ともに水辺に近い場所を好む。〔鈴木邦雄〕

さつまじょうふ 【薩摩上布】 苧麻(ちょま)の手紡(てつむぎ)細糸で織った麻織物。産地は八重山諸島・宮古諸島であったが，これらは江戸時代には薩摩藩の属領であったため製品はすべて薩摩藩に貢献され，藩の特産物として市販され，八重山の上布は薩摩白上布，宮古のは薩摩紺上布と称された。いずれも絣(かすり)と縞(しま)の2種があり，最高級品は1反の目方がわずかに255〜300gであった。紺上布は糸を泥藍(どろあい)で染め，製織後に生松葉の煮出し液で煮沸し，のりづけして生がわきのときと，乾燥後に長時間砧(きぬた)で打って仕上げる。このため表面はロウを引いたようになめらかで，光沢がある。現在は宮古上布の名でよばれている。〔北村哲郎〕

さつまじる【薩摩汁】骨付きの鶏肉や根菜類を濃厚なみそ味で煮るしる物で，もと鹿児島県地方の郷土料理。材料はひな鶏・ダイコン・ニンジン・ゴボウ・油揚げ・サトイモ・ショウガなど。骨付きの鶏肉を用いるのが特徴で，みそしるが鶏肉・野菜にしみこむまで煮込むのがこつ。古くはイノシシの肉が用いられたが，現在では鶏肉のほか豚肉も用いられている。わんに盛り，千切りショウガを吸い口に入れる。〔塩川ふみ〕

さつまのかみただのり【薩摩守忠度】⇨平忠度

さつまはん【薩摩藩】江戸時代，薩摩・大隅(おおすみ)(ともに鹿児島県)と日向(ひゅうが)(宮崎県)の一部を領有した藩。鹿児島藩・島津藩ともいう。外様(とざま)大名*。居城は鹿児島城。石高七十二万余石。藩主島津氏*はもと惟宗(これむね)といい，のち近衛(このえ)家領島津荘(しょう)の下司(げし)となって島津を称した。忠久(ただひさ)のとき日向・薩摩・大隅の守護となり，以後世襲してしだいに強大となり，戦国時代にはほとんど九州全土を支配したが，豊臣秀吉(とよとみひでよし)の九州征伐に敗れ，薩摩・大隅・日向3国のみに削られた。関ケ原の役では西軍に属したが本領(六十万五千石)を安堵(あんど)された。1609年(慶長14)琉球(りゅうきゅう)征伐の結果，琉球の十二万三千石を加えた。江戸中期ごろから藩の財政が窮乏してきたため，1827年(文政10)以来，斉興(なりおき)は側用人(そばようにん)調所広郷(ずしょひろさと)を用いて藩債整理・砂糖専売・琉球密貿易・新田開発などの政策を実行して藩政改革に成功し，藩力を強化した。斉彬(なりあきら)はお由良(ゆら)騒動・将軍継嗣問題・洋式軍備で知られ，公武合体*の雄藩の指導者として活躍したが，生麦事件*・薩英戦争*以後は尊王討幕に移り，長州とともに明治維新の原動力となった。また大久保利通(としみち)・黒田清隆(きよたか)・西郷隆盛らの人材を生み，新政府の中心勢力として薩摩閥を形成した。1871年(明治4)廃藩置県により鹿児島県となった。〔岡山泰四〕

さつまはんとう【薩摩半島】鹿児島県南西部の半島で，鹿児島湾を隔てて東は大隅(おおすみ)半島と相対し，西と南は東シナ海に面している。ふつう，東流する甲突川と西流する江口川を結ぶ線より以南をいう。半島の北部は火山灰台地，中部は500m内外の白亜紀の山々で占められ，分水嶺(ぶんすいれい)は東に寄っている。南寄りの中央部には川辺(かわなべ)盆地があり，万瀬(まのせ)川が西流し，南西部は中生層や深成岩の上に旧期火成岩が載って，山や台地が海に迫っている。坊津(ぼうのつ)はかつては中国への要港として栄えたところで，その北の野間岬(みさき)はリアス式の海岸をなし，一帯は坊野間県立自然公園に指定されている。西部の吹上浜は30mにも及ぶ砂丘が弧状の海岸線に沿って発達している。南東部は霧島火山帯が通じ，開聞岳(かいもんだけ)(924m)をはじめ，火口湖の池田湖，指宿(いぶすき)温泉などがあり，山川港は火口湖が海に通じたもので，これより西に火山噴出物による台地が広がっている。指宿から開聞岳にかけての一帯は霧島屋久国立公園*に指定されている。水田は海岸寄りの小平野や盆地にわずかにあるにすぎず，半島では畑作が主で，サツマイモ・タバコ・茶の栽培が盛んであり，またこれらを原料としたでんぷん・しょうちゅう・製茶などの工業が行なわれている。枕崎(まくらざき)・山川は遠洋漁業の港として，またかつお節の産地として有名である。鹿児島市南部の谷山地区は最近臨海工業地域として急速に整備されている。半島には県庁所在地の鹿児島市をはじめ，指宿・枕崎・加世田の4市があり，それぞれ鹿児島本線・指宿枕崎線・鹿児島交通線によって環状に結ばれている。〔味沢成吉〕



薩摩琵琶 奏者は薩摩琵琶の第一人者鶴田錦史



薩摩焼 薩摩茶碗 帖佐窯 江戸時代

さつまびわ【薩摩琵琶】近世邦楽の一種である語り物*としての琵琶楽の一。筑前(ちくぜん)琵琶*と並び称せられる。16～17世紀に盲僧琵琶が武士や町人の手で宗教から離れて教訓歌に使われるようになったのが起源と思われる。初期には士風琵琶・町風琵琶という様式の区別があったが，明治時代には統一された様式で全国に広まった。大正時代に優美な歌をめざす錦心(きんしん)流ができて，それまでの質実剛健な語りの様式は正派とよばれるようになった。〔山口 修〕

さつまやき【薩摩焼】九州薩摩地方(鹿児島県)で焼かれた窯芸の総称。慶長の役の際，薩摩藩主島津義弘(よしひろ)が朝鮮から連れ帰った陶工，金海・卞(べん)芳仲・朴(ぼく)平意・芳珍らによって始まったと伝えられる。竪野窯(たてのがま)系・龍門司窯(りゅうもんじがま)系・苗代川窯(なえしろがわがま)系の3系統に分けられる。とりわけ姶良(あいら)郡姶良町(もと帖佐(ちょうさ)村)宇都の竪野系の窯が最もすぐれ，その製になるものは特に帖佐焼として知られ，桃山期には茶入れ・茶碗(ちゃわん)などの茶陶を焼いた。すでに1612年(慶長17)に《サツマ焼肩ツキ》が文献《茶屋会記》にみえ，瓢(ひさご)形・文琳(ぶんりん)形・餌畚(えふご)形などの各種の茶入れをつくり，茶碗では半筒形が多く，おもに黒色系の釉(うわぐすり)がかかっているが，これと並んで白釉陶(はくゆうとう)もつくられた。また竪野窯系では，寛永年間(1624～1643)に肥前磁器にならって染め付け・青磁を始め，慶安年間(1648～1651)に京都の御室窯から色絵の法を学び，薩摩錦手(にしきで)を始めたという。苗代川系にあっても窯は変遷を重ねたが，有田の影響で白磁・染め付けを焼くようになり，白薩摩も焼かれた。このほか，芳仲の子孫が1688年(元禄1)姶良郡加治木町小山田高崎に築窯して龍門司窯を始め，天明年間(1781～1788)には有田の陶工を招いて平佐(川内(せんだい)市)の地に磁器窯が築かれ，幕末には赤絵・青磁・平佐鼈甲(べっこう)などを焼いて一時は盛んであった。〔矢部良明〕

さつもんどき【擦文土器】金石併用時代*後期，北海道全域から東北地方北部に発達した土器*。奈良・平安時代に盛行したと想定されている。体部にはは目様の擦文を有するのでこの名がある。良質の粘土を材料にして比較的高熱で焼成され，暗灰色を呈している。器形は主として鉢(はち)形・高坏(たかつき)形で，鉢形は口縁部が広く，底部は著しく小さくなり，上半部に割線文，底部付近に擦文が施されている。竪穴(たてあな)住居*跡から発見される場合が多く，土製の紡錘車*・土師器*(はじき)とともに出土する。〔高崎徳次〕

ざつよう【雑徭】⇨ぞうよう

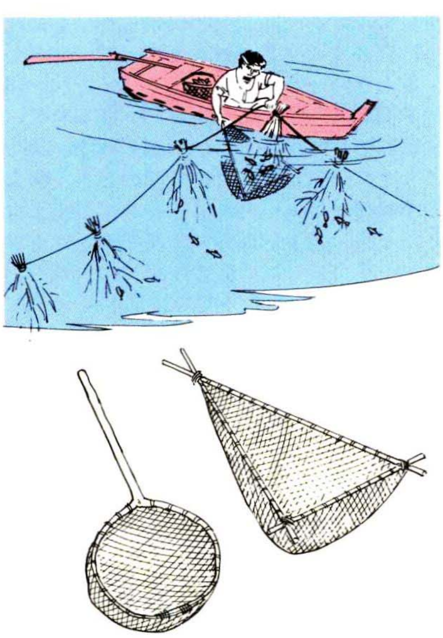
さであみ【叉手網】敷き網*類の一種。水中に敷設して魚のはいるのを待つか，魚を網中に誘導するか追い込むかして漁獲する。

サティ［Erik Satie］(1866～1925) フランスの作曲家。13歳のときパリ音楽院に入学，ピアノと和声学を学んだが，アカデミズムをきらい途中で退学した。以後独学で，1887年注目すべきピアノ曲《三つのサラバンド》を発表して，のちのドビュッシー*の語法を予告した。このころモンマルトルのカフェのピアニストになり，多くの詩人や画家たちと交流し，神秘主義的な秘密結

社〈バラ十字会〉に入団して，神秘思想の洗礼を受けた。第1次世界大戦後には，コクトー・ディアギレフ・ピカソらとともに，ダダイスム・キュービスムなどの動きに参画した。最近現代音楽の先駆的存在として再評価されている。主要作品は《貧者のミサ》《ナシの形をした三つの曲》《バラード》《ソクラテス》など。〔船山　隆〕

サディズム［sadism］相手に残虐行為を加え，相手の苦痛をみて性的興奮と快感を得る性衝動の異常。性的倒錯(→異常性欲)の一形態で，加虐愛ともいう。サディズムの名はフランスの作家サドが他人にあらゆる凌辱(りょうじょく)と拷問を加えて性的満足を得るような人物を描いたことにちなむ。

性的倒錯としてのサディズムは対象の倒錯ではなく，衝動の目標と充足方法の倒錯である。つまり，正常な性器愛ではなく，残虐な行為そのものによってオルガスムスに至る性器愛以前の性欲に由来する。フロイトは，このようなサディズムの傾向がすべての人間の幼児性欲として一定の発達段階(口唇(こうしん)期・肛門(こうもん)期・男根期)に現われる本能的心理的傾向であると考えた。すなわち，正常な発達の際にはこの傾向は性器愛に結合されるが，倒錯者ではこの結合が達成されずに倒錯としてのサディズムに走り，神経症者では性器愛に結合されそこなったサディズム傾向が抑圧されて無意識界で活動を続けている事実を指摘した。また，サディズムは反動形式を受けて，過度の同情心・慈善心・罪悪感などをひき起こす。強迫神経症者には特にこの傾向が著しい。のちにフロイトは一次的マゾヒズムが外界に向いてサディズムになるという理論を立てたが，精神分析ではしばしばサディズムが破壊衝動・攻撃性とほとんど同義に用いられる場合が多い。→マゾヒズム〔小此木啓吾〕



叉手網

サティヤ-グラハ［satya-graha］インド語で〈真理の把握(はあく)〉の意。インド民族運動の指導者ガンジーの行なった断食，イギリス官憲への不服従，イギリス製品の不買運動，デモ行進などの一連の非暴力・非協力運動，反イギリス独立運動の一形態をいう。ガンジーはその宗教的信条から〈人間の真理〉の実現が，一方では民族の自主独立運動とならざるをえず，他方では，そのための方法として物理的暴力は，結局無益かつ不正なるものと考えた。〔奈良康明〕

さてつ【砂鉄】岩石の風化によって分離した構成鉱物は，流水や波浪の作用で選別されて原地に残留し，あるいは別の場所に運ばれて，密度の似たものどうしが堆積層(たいせきそう)中に集中することがある。このような過程で，ジテッ鉱・セキテッ鉱・チタンテッ鉱などの鉄鉱物が集積したものを砂鉄という。普通は，砂鉄粒は鉄のほか少量のチタン・バナジンなどの金属元素を含み，その含有率は苦鉄質(塩基性)の火成岩に由来した砂鉄よりもケイ長質(酸性)の火成岩に由来した砂鉄のほうが高い。砂鉄は鉄鉱石，あるいはチタン鉱石となり，大量に集積している所は鉱床として採掘される。日本では，北海道内浦湾沿岸と青森・岩手・福島・千葉・鳥取の各県に多い。〔堀福太郎〕

サテライト-スタジオ［satellite studio］ラジオの放送本局から離れたところに設けられた小さな中継局。サテライトは衛星の意。人の多く集まる場所などに設けて実況放送をし，集まった人に見せたり放送に参加させたりすることによって新鮮な効果をあげている。

サテン　⇨繻子(しゅす)

さでん【左伝】⇨春秋左氏伝

サテン-ステッチ［satin stitch］基礎的なステッチの一種。下絵の面を刺し埋めるときに用いるもので，針目を立て，横または斜めに並ぶように縫う。縫い目には光沢があり，なめらかで繻子(しゅす)織りの感じに仕上げる。手法は単純であるが技術的にむずかしく，針目の長さ・間隔に注意がいる。日本ししゅうの平縫いに似ている。

サトー［Sir Ernest Mason Satow］(1843～1929) 幕末，日本に駐在したイギリスの外交官。1862年(文久2)イギリス公使館の通訳官・書記官として来日。尊王攘夷(じょうい)運動の高潮した時期に着任し，駐日公使オルコック，次いでパークスを助けて，日本との複雑な外交問題にあたった。実際の外交折衝を重ねるうちに幕府の無力を看破し，薩摩(さつま)藩の実力を評価して，イギリスの対日政策を倒幕派支持に向かわせたことは，わが政局に大きい影響を与えた。在日勤務期間が長く，日本人名として佐藤愛之助を名のった。1883年(明治16)離任。シャム総領事，ウルグアイ・モロッコ公使を経て，1895年には駐日公使となって来日した。その後，中国公使・ハーグ平和会議委員をつとめた。自叙伝《日本における一外交官》がある。〔高崎徳次〕

さど【砂土】⇨土性

さど【佐渡(国)】新潟県佐渡郡(佐渡島)の旧国名。北陸道に属する。もと雑太(さわた)・羽茂・賀茂(かも)の3郡。奈良時代には一時越後(えちご)国に合併したことがある。国府・国分寺は雑太郡(現在の真野町)に置かれた。鎌倉時代以後本間氏が地頭として勢威をふるい，戦国末期には上杉(うえすぎ)謙信・景勝(かげかつ)に征服されたが，豊臣秀吉(とよとみひでよし)は景勝を会津(福島県)へ移して直轄領とした。江戸時代には天領として佐渡奉行(ぶぎょう)の支配するところとなったが，これは佐渡金山の開発によって財源として重視されたためである。明治以後は佐渡県・相川県を経て新潟県に編入された。〔黛　弘道〕

サド［Donatien Alphonse François de Sade］(1740～1814) フランスの小説家・思想家。通称マルキ-ド-サド。プロバンス地方の貴族の家系の出身。放蕩(ほうとう)・瀆聖(とくせい)などの罪で生涯(しょうがい)の3分の1以上を牢獄(ろうごく)で過ごし，獄中で多くの作品を書き，精神病院で死んだ。《ジュリエットまたは悪徳の栄え》《ジュスティーヌあるいは美徳の不幸》《ソドムの120日》などの作品が著名。その作品は長く黙殺されていたが，20世紀にアポリネールをはじめとする，シュルレアリスムの詩人たちに再評価され，その深い文学性・思想性が認められるに至った。性の問題への異常なまでに徹底した迫り方が，その作品にいわば性の形而上(けいじじょう)学的な意味を与え，性を通して精神と物質(肉体)の弁証法を実現しつつ，人間存在における自由と悪の問題を根源的に追求している。〔立山順朗〕

さといも【里芋】単子葉植物・サトイモ科。インド地方原産の多年草であるが，わが国では1年草として栽培する。広く熱帯地方に分布し，タロイモといって常食にしているところもある。茎は短く，球～長卵形の塊茎をなす。葉柄は太く長く，多肉で，色は白緑から濃紫まで品種により異なる。葉身は大形のハスの葉状である。わが国ではほとんど花を見ることはできないが，まれに花茎を生ずることがある。花は円錐(えんすい)花序をなし，上部に雄花，基部に雌花をつける。開花後35日くらいで果実が熟し，1果内にはかっ色の小さな種子を多数含んでいる。地下部の塊茎にデンプンを含み食用とされるが，これには親いも・子いも・孫いもなどがあり，どのいもを食用とするかは品種によって異なる。わが国にはかなり古い時代に中国や南方地域から導入されているが，現在のような品種を利用したのは徳川時代からである。品種の数は非

常に多く，親いもを利用するヤツガシラ*や子いもも利用できる赤芽などが有名であり，葉柄をずいきとして利用できる品種もある。シュウ酸石灰の含量が多く，あまり多いものはえぐ味があって食用に適さない。春に塊茎を植え，秋に収穫するのが普通の栽培法である。〔松本正雄〕

さとう 【砂糖】 天然甘味料の一種。サトウキビからつくる甘蔗糖(かんしゃとう)とテンサイ(ビート)からつくる甜菜糖(てんさいとう)の二つがあり，いずれも成分は化学的に同じでショ糖*である。甘蔗糖の歴史はきわめて古いが，甜菜糖は新しく約200年ぐらいである。

【歴史】 サトウキビの原産地はインドで，甘蔗糖はBC327年アレクサンドロス大王時代のインド遠征隊の記録にはじめて現われ，石蜜(せきみつ)あるいは甘い石として紹介されている。のち中国に伝来し沙糖と書かれた。これはインド語のサルカラ(甘い沙礫(されき))の意訳である。一方西方では，地中海沿岸各地からヨーロッパに広まった。最初は名のとおり赤や黄色の沙礫のようなものであったが，紀元500年ごろからペルシア人の手で白くつくられるようになった。わが国への渡来は754年(天平勝宝6)にさかのぼり，鑑真和上(がんじんわじょう)がもたらしたみやげ品であった。しかし当時は食品としてではなく医薬品として取り扱われた。平安朝時代には中国式に沙糖と書いていたが，室町時代からは砂唐・砂糖と書き出している。平安時代には高貴薬とされていたが，室町時代には中国との貿易が盛んになったため，砂糖や砂糖菓子が紹介された。

わが国でサトウキビを最初に植えたのは，1609年(慶長14)奄美(あまみ)大島においてで，少し遅れて琉球(りゅうきゅう)でも行なわれ，やがて砂糖がつくられるようになった。しかし白砂糖の製造技術は各国とも秘密で，わが国の砂糖も長い間黒糖(黒砂糖)だった。

【分類】 原料・製法・精製程度・色相などから次のように分けられる。①原料による分類：甘蔗糖・甜菜糖。ほかにサトウモロコシの蔗粟糖(ろぞくとう)，サトウカエデの楓糖(ふうとう)，サトウヤシの椰子糖(やしとう)などがあるが，生産量はきわめてわずかである。②製法工程による分類：含蜜糖(糖蜜を含むもの)・分蜜糖(糖蜜分を分離したもの)。③精製程度による分類：粗糖・精製糖。④色相による分類：白砂糖・赤砂糖・黒砂糖。⑤加工形態による分類：粉糖・角糖・氷糖。⑥混合糖：花見糖・天光糖・初雪糖。

【製法(甘蔗糖の例)】 刈り取ったサトウキビの茎を圧搾機にかけて蔗汁(しょじゅう)をしぼる。搾汁はいろいろな不純物を含んでいるので濾過(ろか)して大きな不純物を除き，また静置して泥砂(でいさ)などを沈殿させて除く。こうして得られた糖汁に石灰乳を加えて中和したのち，加熱濃縮する(煎糖(せんとう)という)。このように煮つめて糖汁全体を結晶させたものが含蜜糖で，黒糖・赤糖・白下糖の順に不純物は少なくなり，結晶は大きくなる。白下糖はもっぱら和三盆*の原料として用いられている。黒糖は外観は悪いが，各種ビタミン・鉄分・カルシウム，そのほかの無機質を豊富に含み，ややくどいが特有の味をもつ。主として駄菓子(だがし)類に使用され，また黒ようかんの原料となる。

一方，糖汁を煮つめ砂糖の結晶をその母液から分離したものが分蜜糖で，残った液を廃糖蜜という。分蜜糖には粗糖と耕地白糖がある。前者は淡黄色または赤かっ色を呈し，一部はそのまま消費されるが，大部分は原料糖として消費地で精製される(精製糖と総称する)。耕地白糖はサトウキビ・テンサイの産地(耕地)で糖汁の精製をよく行なってのち濃縮・結晶操作をして得られ，そのまま用いられる白糖である。粗糖と耕地白糖は，精製しなくともすぐ消費できる砂糖という意味で直消糖とよばれる。わが国の砂糖の大部分は，粗糖(原料糖)を輸入してつくる精製糖であるが，甜菜糖の場合は現地で精製されるので耕地白糖である。

精製糖の製造法は，まず原料糖に多少の水を加えて洗い，次いで最少限度の水にとかして粗糖液をつくり，これを濾過・清澄したのち活性炭・骨炭・イオン交換樹脂・炭酸法など各種の脱色精製法を組み合わせて処理して精製糖液をつくり，これを煎糖・分蜜したのち仕上げを行なって製品とする。その結晶の状態により，ざらめ糖・車糖に大別される。

わが国でつくられているおもな精製糖は次の6種類である。①精製双目(ざらめ)・上双：結晶が大きく，純度は非常に高い。水分0.02～0.03％，糖度は99.83～99.93度である。②グラニュー糖：結晶の大きさは上双よりは小さいが高純度。製菓・清涼飲料・喫茶用などに用いられる。水分0.02～0.04％，糖度99.81～99.83度である。③精製中双：いったん精白したものにカラメルをかけて着色したもので，粗糖の中双とはまったく違ったもの。おもに製菓用である。水分0.02～0.06％，糖度は99.52～99.75度。④上白：次の中白・精製三温と同じく車糖に属する。結晶は小さく，色相は純白である。車糖は他の砂糖とは異なり少量の転化糖シロップ(ビスコという)を添加している。製菓用・家庭用に多く使用される。水分は0.53～2.00％，平均1.20％，糖度は平均97.0度である。手ざわりがさらっとしておらずしっとりとしているのが特徴。⑤中白：上と同じ車糖であるが，色相が灰白色である。もちろんビスコが添加されているが，上白に比べて糖度がやや低く平均95.0度である。⑥精製三温：灰かっ色の車糖。糖度は低く94度，農村家庭用として需要は多い。

【利用】 わが国では業務用60％，家庭用40％の比率で使用され，料理向きとしては白双のような純度の高い砂糖より車糖や黄双のような種類が用いられる。後者は糖度が白双より低いのに甘味を強く感じるといわれる。これはしる粉に少量の食塩を加えることにより甘味を引き立たせるのと同じように，車糖などに含まれる夾雑物(きょうざつぶつ)が甘味を強く感じさせるからで，この現象を対比現象という。また同じ成分でありながら，甘蔗糖のほうが甜菜糖よりいくぶん甘味が強いといわれるが，これはきわめて微量含まれている無機塩の差によるという。

砂糖は甘味料としてわれわれの味覚を満足させるほか，食品に対して防腐効果があるので貯蔵の目的にも大いに利用されている。砂糖づけ・練りようかん・練乳などがその代表的なもので，これは高濃度になると浸透圧が高くなり，微生物が繁殖できなくなるからである。〔佐藤友太郎〕

さどう 【茶道】 ⇨ちゃどう

ざとう 【座頭】

1中世の座*の長。

2当道座に属する下位の盲人。古くから盲人が語り物・謡などを語って町や村を来訪することがあり，特に平曲を語る琵琶(びわ)法師*は名高い。室町時代，明石覚一*が当道の座を結成し，全国的に統括した。江戸幕府は盲人の保護策として当道に配当金を与え，武家や町人から冠婚葬祭にあたって運上を取り立てる権利を与える一方，検校(けんぎょう)・別当・勾当(こうとう)・座頭・大衆の等級に分け，検校に座中を支配させ，これを統制した。のちにはあんま・鍼(はり)をも生業とし，またこれらの権利を得た当道は多額の金を保持し，座頭金と称して高利で貸し付け，江戸時代の金融機関の役を果たしたが，取り立ての過酷なことで庶民を苦しめた。なお，盲人の中で別派をなすものに京都青蓮院*(しょうれんいん)に帰属する地神座がある。彼らは地神経を読み荒神祓(こうじんばらい)をして歩き，民間文芸・伝説・昔話を普及し，成長させ定着させてきた。〔渡辺欣雄〕

さとういっさい 【佐藤一斎】 (1772～1859) 江戸末期の儒学者。江戸に生まれる。父は美濃(みの)(岐阜県)岩村藩の家老。幼時より文武両道にすぐれ，19歳のとき，藩主松平乗薀(じょううん)の第3子述斎の近侍となり，ともに井上四郎らに朱子学を学ぶ。20歳で士籍を脱して大阪の中川竹山に接し，陽明学に目を転じた。22歳で述斎とともに大学頭(だいがくのかみ)林信敬に学んだ。その間，塾(じゅく)を開いて門下の教育につくす一方，地方に遊学して名声を博した。のちに昌平黌*(しょうへいこう)の儒官となり，幕府の教育分野の旗頭(はたがしら)となり，将軍に進講したこともあった。朱子学が官儒であったため朱子学を講じたが，内心では陽明学に傾倒し，40年間の断片的思索ノートである《言志四録》にも陽明学的思索の跡がうかがわれる。ほかに《近思録》《周易欄外書》などの著書がある。門弟に安積艮斎*(あさかごんさい)・佐久間象山*らがいる。〔田上光治〕

さとうえいさく 【佐藤栄作】(1901〜1975) 政治家。山口県の生まれ。岸信介*(のぶすけ)の弟。東京大学卒業後鉄道省にはいり，1948年(昭和23)無議席のまま第2次吉田(よしだ)内閣の官房長官となる。1949年代議士に当選。自由党政調会長，同幹事長，吉田内閣の郵政・建設大臣などを歴任後，1953年再び自由党幹事長となった。翌年，造船疑獄事件*に連座して検察庁より逮捕請求があったが，犬養(いぬかい)健法相の指揮権発動*によって逮捕を免れた。1964年，池田首相の病気退陣のあとをうけて首相に就任。1968年自由民主党総裁に3選され，さらに1970年4選，72年7月退陣した。池田首相当時の高度経済成長政策を引き継ぎ，1969年渡米して佐藤・ニクソン会談により日米共同声明を発表し，新しく日米安全保障体制の強化に向かった。1974年度ノーベル平和賞受賞。　〔溝口　潔〕


佐藤栄作


サトウカエデ

さとうかえで 【砂糖楓】 双子葉植物・カエデ科。カナダ南部ないしアメリカ東部原産の落葉高木で，高さ35mに達する。葉は3〜5裂して対生である。葉の表裏ともに毛がなく，裏面は薄い青白色である。雌雄同株で，5月，黄緑色の花が束になってつく。花には花弁がない。3〜4月，幹に穴をあけて糖分を含んだ樹液をとり，これからメープルシュガー(楓糖(ふうとう))やメープルシロップをつくる。なお，カナダの国旗にはこの葉を図案化して用いられている。

さとうきび 【砂糖黍・甘蔗】 単子葉植物・イネ科。砂糖をとるために主として熱帯で栽培される大形の多年草。茎は基部より多数出て，高さ2〜4m，直径2〜6cmに達する。髄は柔らかい細胞からなり，細胞液中に多量の糖分を含む。葉は長く，先がとがり，幅2〜5cm，中央脈が太い。6〜8月，茎の先端に多数の小穂を密生させた長さ50〜60cmの円錐(えんすい)形の花穂をつける。小穂は長い絹毛をもち，1節に2個ずつ着く。穎果(えいか)は絹毛で遠くに飛ばされるが，熟すことは少ない。さし木や株分けなどにより，無性的にふやすことができる。また，交配によって品種を改良することもでき，多くの栽培種がある。わが国(鹿児島・香川・熊本の各県，沖縄諸島など)で栽培されているものは，シナサトウキビ(花穂の大枝に毛のあるもの)系統と考えられる。　〔加藤僖重〕

栽培されているものの原生地はニューギニアとインドの2説がある。熱帯原産であるため，その栽培の適地の年平均気温は24〜25℃，年降雨量は1,200〜2,000mmである。世界の主要栽培地は，インド・カンボジア・フィリピン・アメリカ・キューバ・コロンビア・ブラジル・ギアナなどや，アフリカ東南部・ジャワ諸島・台湾などである。わが国では主として沖縄諸島・南西諸島で栽培され，南西諸島の大島郡・熊毛(くまげ)郡で，1967年(昭和42)〜1968年度の作付け面積は12,671ヘクタール，産糖量は10万3,445tにすぎない。甜菜(てんさい)糖が26万6,000tで，両者合わせてもわが国の自給率は28.2%にすぎない。栽培は茎を切って苗とし，4月中旬に植え込み，11月下旬刈り取る(香川県の例)が，熱帯および亜熱帯圏では12〜15か月で収穫する。　〔金木良三〕

ざとうくじら 【座頭鯨】 哺乳(ほにゅう)類・クジラ目・ナガスクジラ科。1属1種で，体はずんぐりしており，頭胴長12.5m前後，体重29tほど。胸びれはきわめて長大で，頭胴の3分の1ほどに達する。体上面は黒，胸とのどにかけて白色。しばしば体表面に無数のクジラジラミが寄生する。冬は暖海に小群ですみ，春に極洋へ回遊，沿海や入り江に現われる。オキアミや小魚を食う。

さとうこういち 【佐藤功一】 (1878〜1941) 建築家。栃木県の生まれ。東京大学工科大学建築学科を卒業後，三重県技師などを経て，1910年(明治43)早稲田(わせだ)大学に建築学科を創設した。代表作品に早稲田大学大隈(おおくま)記念講堂などがある。

さとうこうろく 【佐藤紅緑】 (1874〜1949) 小説家・劇作家・俳人・児童文学者。青森県生まれ。本名洽六(こうろく)。弘前(ひろさき)中学を中退し，上京。新聞記者生活のかたわら，正岡(まさおか)子規*に俳句を学んで一家をなし，《俳句小史》(1902)などの著書もある。のち戯曲《侠艶録(きょうえんろく)》を書いて劇作家となり，小説《行火(あんか)》を発表して作家としても認められた。1927年(昭和2)雑誌《少年倶楽部(クラブ)》に《ああ玉杯に花うけて*》を発表して以後は少年小説に多く筆をとり，《紅顔美談》《一直線》《夾竹桃(きょうちくとう)の花咲けば》《花咲く丘へ》などによって少年少女を熱狂させた。他に通俗小説《大盗伝》《富士に題す》など。サトウ-ハチロー*・佐藤愛子の父。　〔大藤寛太〕

さとうじょうれい 【砂糖条例】 フレンチ-インディアン戦争*後，1764年にイギリスが北アメリカ植民地に対して制定した重商主義的法律。戦費を植民地に負担させるため，西インド諸島から植民地に輸入される糖蜜に対して1ガロンあたり3ペンスの税を課し，同時に密貿易禁止のため海事裁判所を拡大・強化したものである。税率は1733年の糖蜜条例の2分の1であったが，航海条例的性格をおび，法律執行を強化したため植民地人の強い反感をかい，印紙条例*(1765)とともにイギリス本国の対植民地課税権の当否をめぐる論争を巻き起こし，アメリカ独立の一原因となった。条例はイギリス商人の要求で1766年に修正され，税率は1ガロンあたり1ペニーに引き下げられた。　〔折井一彦〕

さとうそうのすけ 【佐藤惣之助】 (1890〜1942) 詩人。神奈川県の生まれ。千家元麿*(もとまろ)・小山内薫*(おさないかおる)・吉井勇*(よしいいさむ)らと交遊があり，1916年(大正5)神秘的な精神を示す処女詩集《正義の兜(かぶと)》を出版。1918年詩誌《嵐(あらし)》を発刊し，多彩な感覚を駆使した作品を発表した。のち詩誌《詩の家》を創刊し，《日本詩人*》の編集にもあたった。《華(はなや)かな散歩》《琉球(りゅうきゅう)諸島風物詩》など，詩集のほか，俳句・戯曲・小説・随筆・歌謡曲などの著作も多い。　〔堀井謙一〕

さとうだいこん 【砂糖大根】 双子葉植物・アカザ科の二年草。テンサイ(甜菜)ともいう。茎はきわめて短く，根は肥大して球〜長円錐(ちょうえんすい)形の塊根となる。根出葉の葉柄は長く，葉身は長楕円(ちょうだえん)状である。2年めの初夏に，高さ1mほどの花茎が伸び，細長い葉をつけ，各葉腋(ようえき)に枝を出して淡黄緑色の花をつけ，全体として円錐状をなす。地中海沿岸が原産といわれ，16世紀ごろからヨーロッパで栽培が始まり，飼料用や野菜として利用され，19世紀からは塊根の含糖量の高いことを利用して砂糖(甜菜糖)の原料に用いられるようになった。英語ではビート(beet)といい，砂糖原料用のものをシュガービート，野菜用のものをテーブルビートともいう。一般に砂糖原料用の品種には白い塊根のものが多く，葉や砂糖のしぼりかすのビートパルプは飼料とされる。野菜用の品種には赤紫色のものが多い。サトウキビが熱帯性の糖量原料であるのに対し，これは冷涼性の糖量原料といえる。わが国では北海道で栽培され，春種子をまいて，秋収穫するのが普通である。　〔松本正雄〕

さとうたいぜん 【佐藤泰然】 (1804〜1872) 蘭方医(らんぽうい)。武蔵(むさし)(神奈川県)川崎の在に生まれた。幼名を田辺(たなべ)昇太郎といった。1830年(天保1)医学を志し，足立長雋(あだちちょうしゅん)について蘭方医学を学んだ。1835年長崎へ遊学し，和田泰然と

改名。1838年江戸へ帰り，両国薬研堀(やげんぼり)で医業を開くかたわら学塾(がくじゅく)を開いて医生を教えた。1843年佐倉藩主堀田正睦(ほったまさよし)に招かれてその藩医となる。姓を佐藤と改め，順天堂を開設して診療を行なうとともに多くの医生の教導にあたった。またそのかたわら佐倉藩の改革にも参与した。1862年(文久2)横浜に移り，のち江戸で没した。〔大鳥蘭三郎〕

さとうただのぶ【佐藤忠信】(1161～1186) 平安末期の武将。陸奥(むつ)(岩手県)信夫(しのぶ)荘司元治(もとはる)の子。継信の弟。源義経(よしつね)の四天王のひとりで，義経が陸奥平泉の藤原秀衡(ひでひら)のもとにあったころから家人となり，源平合戦(かっせん)に従軍，その功によって兵衛尉(ひょうえのじょう)に任ぜられた。義経が兄頼朝(よりとも)と不和となったあともこれを守護し，京都に潜伏していたとき，糟屋有景(かすやありかげ)に発見され，室町の館で自刃した。〔飯田悠紀子〕

さとうつぐのぶ【佐藤継信】(1158～1185) 平安末期の武将。陸奥(むつ)(岩手県)信夫(しのぶ)荘司元治(もとはる)の子。忠信(ただのぶ)の兄。源義経(よしつね)の四天王のひとり。義経が陸奥平泉の藤原秀衡(ひでひら)のもとにあったころからその家人となり，義経に従って源平合戦(かっせん)に活躍し，屋島の戦いのときに義経の身替わりとなって戦死した。

さとうづけ【砂糖漬け】 豆類・果実・野菜類に砂糖液をしみこませ，砂糖の含量を大にして固定した製品。砂糖の防腐性によって長期の貯蔵がきき，独特の風味をもつ。材料は夏ダイダイ・リンゴ・ブンタン・アンズ・フキ・ショウガなどの砂糖づけが各地で行なわれ，名物として売られている。その他，クリ・豆類・サツマイモ・レンコン・甘橘(かんきつ)類の皮(ユズ)などの砂糖づけがある。はじめは薄めの砂糖液で煮込み，数回にわたってだんだん濃くしていき，最後に濃厚な砂糖液に浸し，乾燥して表面を砂糖の結晶でおおう。〔塩川ふみ〕

さとうのぶひろ【佐藤信淵】(1767～1850) 江戸末期の国学者・経世学者。通称を百祐，号は椿園(ちんえん)。出羽(秋田県)の人。佐藤家は代々農学・鉱山学の研究に従っていた。その家学を継ぎ，江戸の宇田川玄随らに洋学を学んだ。のち，諸国を遊歴した。一時隠遁(いんとん)し，吉田源十郎に神道を，平田篤胤(あつたね)に国学を学んだ。神道講談所建設問題で江戸払い，さらに追放となったが，その間才学を買われて宇和島・薩摩(さつま)・綾部(あやべ)各藩に出講。やがて許されて幕府に登用され，天保(てんぽう)の改革に参画した。日本の理想的国家像とその世界統治を夢見て理論化しようとした。著書《混同秘策》《天柱記》《垂統秘録》《経済要略》《農政本論》その他。なお，宮崎安貞・大蔵永常とともに〈江戸時代の三大農学者〉とされる。〔小田　博〕

サトウ-ハチロー (1903～1973)詩人。佐藤紅緑の長子で，本名は佐藤八郎。東京の生まれ。立教中学中退。福士幸次郎に師事し，1926年(大正15)の第一詩集《爪色(つめいろ)の雨》のほか，数多くの童謡集を発表。のちにユーモア小説や流行歌の作詩も手がけ，詩集《おかあさん》は好評であった。


佐藤春夫

さとうはるお【佐藤春夫】(1892～1964) 詩人・小説家・評論家。和歌山県新宮市の医家に生まれ，早くから詩歌を好んで《明星》《スバル》などに短歌を投じた。1910年(明治43)上京して生田長江・与謝野(よさの)鉄幹に師事し，永井荷風にひかれて慶応義塾(ぎじゅく)大学に入学。のち中退して詩歌に専念し，《スバル》《三田文学》などに近代的情感を古典的な格調でうたった作品を発表して注目され，処女詩集《殉情詩集》は大正期の代表的な詩集の一つとなった。詩業としてはほかに《佐藤春夫詩集》《魔女》《佐久の草笛》などの詩集や訳詩集《車塵集(しゃじんしゅう)》がある。小説家としては永井荷風・谷崎潤一郎の耽美(たんび)主義の流れをくみ，近代人の生活につきまとう倦怠(けんたい)と憂鬱(ゆううつ)を詩情豊かに描いた《西班牙(スペイン)犬の家》《田園の憂鬱》などによって文壇の注目を集めた。評論・随筆面でも《退屈読本》の名著がある。第2次世界大戦後には《晶子曼陀羅(あきこまんだら)》など伝記文学ふうの小説がある。日本芸術院会員。1960年文化勲章受章。〔木村幸雄〕

さとうやし【砂糖椰子】 単子葉植物・ヤシ科。インドおよびマライ半島原産の常緑の多年生植物。幹は直立して分枝せず，高さ10～20m。葉は羽状複葉で，長さ6～8m，幅3m。表面は暗緑色，裏面は灰白色。葉柄は短く，基部には暗かっ色の硬繊維がある。花序は葉腋(ようえき)から下垂し，大形で1mほどになる。花には一種の臭気があり，雌花は大形で径3cm，雄花は1.5cmほど。果実は倒円錐(とうえんすい)形で，長さ5cm，幅4cmほど，かっ色の3個の種子がある。つぼみの時期に，花序の軸を切って出る液から砂糖(椰子糖)をつくり，また，幹からはデンプンがとれる。葉柄の繊維は水に強く，なわの材料となる。

サトゥルヌス［Saturnus］ ローマ神話の農業神。のちにギリシア神話のクロノスと同一視された。この神は古い時代のローマの王で，農業を伝え，カピトリヌス丘に城を構えて黄金時代を現出したと考えられた。その神殿はカピトリヌス丘のふもとに建てられ，ローマの公庫・法律刻板・議決記録などが納められた。サトゥルナリア祭はこの神をたたえるためのきわめて陽気な祭りで，クリスマスの原型とされている。土星(サターン)，土曜日(サタデー)の語源はこれである。〔松田　治〕

さどおけさ【佐渡おけさ】 ⇨おけさ節

さとおやせいど【里親制度】 人間形成の時期に家庭環境に恵まれないため，心身の発達や機能に障害や欠陥が生じやすい要保護児童に対して，家庭に代わって養育の場を与え，適切な保護をする児童福祉事業。養護に欠ける児童には，捨て子のように保護者のいない場合と，離婚などによる欠損家族のように保護者がいても適切な監護を受けられない場合とがある。児童福祉法でいう里親とは，保護者がいないか，または保護者に監護させることが不適当と認められる18歳未満の児童を養育することを希望する者のうち，一定の審査を経て，都道府県知事が里親として適当と認め登録したものをさす。またこれによく似た制度に，保護受託者，いわゆる職親がある。これは前述のような養護を必要とする児童を対象にして，義務教育を終了した者を自己の家庭に預かり，または自己のもとに通わせて，保護し，その性能に応じて独立自活に必要な指導をすることを希望する者である。いずれも都道府県知事または指定都市の市長の認可が必要である。厚生省の調査では1968年(昭和43)の登録里親数は15,660，里親委託数は4,786人，委託児童数は5,501人で，過去5年間に徐々に減少している。いずれもその制度の活発な広報活動により，希望者の開拓と広い視野とが要求されるとともに，里親の老後扶養や里子の労働力を目的とした制度の利用もあるので，措置児童のアフターケアが必要である。〔松島　浄〕

サドカイは【サドカイ派】 祭司家系の貴族を中心とするユダヤ教の一派。パリサイ派と対立。名はダビデ王時代の大祭司サドクに由来するとされるが，党派形成は紀元前2世紀のハスモネ王朝成立のころである。〈モーゼ五書〉のみを律法とみて以後の解釈の伝承を排し，精神は肉体とともに滅び，したがって死者の復活や来世での賞罰はなく，また天使や霊は存在しないとした。保守的で神殿祭儀をもっぱらにし，AD70年ローマ軍がエルサレム神殿を破壊したあとは勢力を失った。

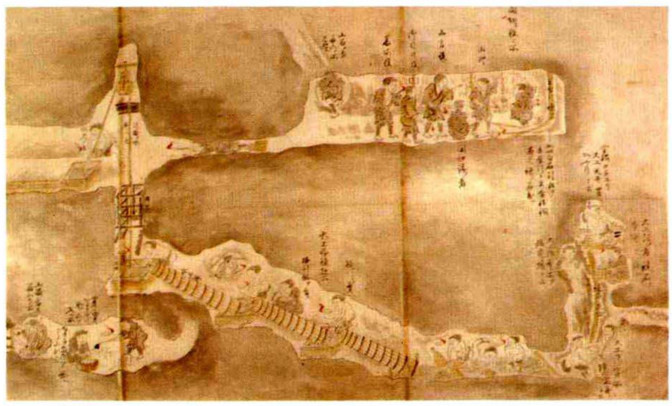
さとがえり【里帰り】 嫁が自分の郷里である生家に行くこと。特に結婚後はじめて生家に帰ることをいう場合もある。社会の近代化や核家族化などによって婚姻の様式が変化するにつれて，両家の儀礼的な色彩を多分にもっていたこの風習の内容も徐徐に変わりつつある。

さどがしま【佐渡島】 新潟県に属し，本土とは佐渡海峡を隔てて約40km西方の日

本海上にある沖縄につぐ島。面積857km^2。両津市と佐渡郡の7町2村からなり，人口87,000。島は，北東から南西の方向にかけて北に大佐渡，南に小佐渡の山地が並行してあり，最高所は大佐渡の金北山(1,173m)で，この両山地の間の地溝帯(ちこうたい)に国中平野や加茂湖がある。海岸線は北東に両津，南西に真野の湾入があるほかは多くが岩石海岸からなり，海食崖(かいしょくがい)がみごとに発達して，中でも大佐渡山地北岸の外海府海岸は風光雄大で，佐渡弥彦(やひこ)国定公園*に指定されている。付近を流れる暖流の対馬(つしま)海流のため，冬は暖かくて雪も少なく，夏は涼しい。森林にはカシ・ツバキが目だち，日本の暖帯林の北限にあたっている。島の開発は古くから行なわれ，縄文(じょうもん)および弥生(やよい)文化の遺跡も多く，《古事記》《日本書紀》にも大八洲(おおやしま)の一つとしてその名がある。奈良時代には真野に国府と国分寺が置かれた。724年(神亀1)以後，遠流(おんる)の地と定められ，順徳上皇*・日蓮*(にちれん)らがここに流された。佐渡金山*の開発以後は江戸幕府の直轄地として佐渡奉行*(ぶぎょう)の管轄下に置かれ，流人が金山で強制労働に服した。相川にある佐渡金山は，明治以後も採掘が続けられてきたが，最近は昔日のおもかげはない。主産業は農業で，国中平野の米は年産45,000tのうち半分を移出している。水産業ではスルメイカ・スケソウダラ・ブリなどがとれるほか，加茂湖でカキ，両津湾でワカメの養殖が行なわれている。新潟港から1日5回の定期航路が両津港に通じ，小木～直江津間の定期航路，新潟～両津間の定期航空路も開かれている。自然の美と豊富な歴史的遺跡のために観光客が多く，その数は年間40万人といわれる。民謡《佐渡おけさ》《相川音頭(おんど)》，小木の《たらい船》などが広く知られる。〔浅井得一〕



佐 渡 島
両津湾上空から見た加茂湖と細長い砂州の上に立地する両津市。背後は大佐渡の山地で，最高峰金北山が望まれる



佐 渡 鉱 山
《佐渡金山絵巻》(部分)
東京国立博物館蔵

さどぎつね【佐渡狐】 狂言の曲名。大蔵流・和泉(いずみ)流にある。脇(わき)狂言，百姓物。越後(えちご)と佐渡の百姓が年貢を納めに京都へ上る途中で道づれとなり，越後の百姓が佐渡は物事が不自由で，特にキツネがいないとのことだがというと，佐渡の者は数あるけだもののうちキツネがとりわけたくさんいると言い張り，ついに両者の腰の物を賭(か)けることになった。しかし決着はつかず，その判定を領主の館(やかた)の奏者(取り次ぎ)に頼むことにする。館に着くと佐渡の者はさっそくわいろを贈って奏者を買収し，キツネの特徴を教えてもらった。やがて両者の対決となり，奏者の助けでやっと勝った佐渡の者は賭けた刀をわが物にすることができた。しかし納得しない越後の百姓は，帰り道でキツネの鳴き声を尋ね，ウグイスの鳴き声をまねる佐渡の百姓の化けの皮をはぎ，刀をとってはいる。脇狂言らしからぬ結末で，相当に皮肉な味が感じられる。役人のずるさをみせるのはややなまなましすぎるが，見知らぬキツネのようすを説明するおかしみはくふうされており，あきさせない。越後の百姓はアド，佐渡の百姓と奏者のどちらかがそのときのつごうでシテとなり，ほかは小アド。〔片岡 登〕

さどこうざん【佐渡鉱山】 新潟県佐渡郡相川町にある金・銀鉱山。16世紀末に相川鉱山の一部である鶴子(つるし)銀山が領主上杉(うえすぎ)氏によって開発されたが，1603年(慶長8)大久保長安*が佐渡奉行(ぶぎょう)に任じられてからはアマルガム法による新式精錬法の導入によって産出量は飛躍的に増加した。鉱山は佐渡奉行監督のもとに各鉱区が定められ，鉱区には幕府直営の直山(じきやま)と山師の請負経営による自分山の別があった。寛永年間(1624～1643)までは豊富な金・銀の産出をみたが，それ以後は鉱脈の枯渇と採鉱技術の停滞のために産出額は減少の一途をたどった。1777年(安永6)以後，幕府は江戸・大阪の無宿者*を強制的に送り込み，水替え人足として残酷な重労働に従わせた。1869年(明治2)明治政府の所有となり，農商務省・大蔵省と所管を移したが，1896年三菱*(みつびし)に払い下げられ，現在は三菱金属鉱業の経営となっている。〔高崎徳次〕

さとことば【里ことば】 ⇨廓(くるわ)ことば

さとだいり【里内裏】 平安時代以後，平安京で皇城以外に臨時に設けられた皇居*。976年(貞元1)皇居炎上に際し，円融天皇が太政(だじょう)大臣藤原兼通(かねみち)の堀川第(ほりかわだい)に移ったのが最初で，以後火災・方違(かたたがえ)・物忌みなどがあるとき権門(官位高く権勢のある家がら)の家に行幸する例が多くなった。南北朝時代からは東洞院土御門(ひがしのとういんつちみかど)に設けられた里内裏は，やがて長く皇居となり，正式の皇居の観を呈するに至った。これが今日の京都御所*の起源である。ほかに，土御門内裏・閑院内裏・富小路内裏などが歴史的に有名である。〔黛 弘道〕

サドバリ [Sudbury] カナダ，オンタリオ州，ヒューロン湖北方にある鉱山都市。人口85,000(1968)。世界最大のニッケル産地で，世界産出量の90%を産出し，また銅・プラチナ・パラジウム・亜鉛も産出する。

サドビヤヌ [Mihail Sadoveanu](1880～1961) ルーマニアの作家。自然の美とそれに従って生きる農民の姿とを《水の王国》など数多くの短編に描き，ルーマニア人の生活百科全書であると評判された。民話に取材した《おの》，歴史小説《ニコアラ-ポトコアバ》も有名。

さどぶぎょう【佐渡奉行】 江戸幕府の職名。遠国(おんごく)奉行*の一。佐渡の相川に駐在して佐渡金山*の管理，島内の統治などにあたった。1601年(慶長6)創置されて，佐渡代官と称し，1603年佐渡奉行と改められて勘定奉行の兼務であったが，のち専任となり，定員1～2名。老中の支配下にあ

り，石高千石，職禄(しょくろく)1,500俵，百人扶持(ふち)。組頭(くみがしら)2人，与力30人，同心70人が付属した。

ザトペック［Emil Zátopek］（1922〜　）チェコスロバキアの生んだ世界的長距離選手。1948年の第14回オリンピック-ロンドン大会で10,000m競走に優勝，次の第15回ヘルシンキ大会では5,000m・10,000m・マラソンの3種目にそれぞれオリンピック新記録・世界新記録・世界最高記録で優勝，〈人間機関車〉といわれた。1941年に競技を始めてから1958年に引退するまでに，長距離全種目の世界最高記録を破った。なお，夫人のザトペコーワも，ヘルシンキ大会でのやり投げの優勝者である。〔伊東春雄〕



ザトペック(右)　第15回ヘルシンキ-オリンピック大会　5000m決勝　1952

さとみし【里見氏】清和源氏新田(にった)氏の分流。上野(こうずけ)(群馬県)碓氷(うすい)郡里見郷に土着して里見氏を称した。代々鎌倉・室町幕府に仕えたが，1441年(嘉吉1)家基が結城(ゆうき)合戦で戦死したとき，その子義実(よしざね)は安房(あわ)(千葉県)にのがれ，同国を経営した。戦国の世となり，義堯(よしたか)は上総(かずさ)(千葉県)を制圧し，1538年(天文7)小弓御所の足利(あしかが)義明を擁して北条(ほうじょう)氏綱と下総国府台(こうのだい)で戦ったが敗れ，その子義弘(よしひろ)は一時勢いを盛り返したが，再び北条氏康(うじやす)に敗れた。1590年(天正18)その孫義康は豊臣秀吉(とよとみひでよし)の小田原征伐に従ったが，秀吉の勘気に触れて上総を奪われ，安房1か国九万二千石となった。1614年(慶長19)忠義(ただよし)は妻の祖父大久保忠隣(ただちか)の謀反(むほん)に連座して本封を没収され，伯耆(ほうき)(鳥取県)三万石に封ぜられたが，死後嗣子がなく断絶。なお，義実の娘伏姫にまつわる《南総里見八犬伝》はよく知られている。〔高崎徳次〕

さとみとん【里見弴】(1888〜　)小説家。横浜市の生まれ。本名山内英夫(ひでお)。有島武郎(たけお)・生馬(いくま)の弟。《白樺(しらかば)》の同人となったが，1915年(大正4)《晩(おそ)い初恋》のころから白樺派を離れ，《善心悪心》《三人の弟子(でし)》などで文壇的地位を確立，吉井勇(よしいいさむ)・久米正雄(くめまさお)らと雑誌《人間》を創刊した。心理描写にすぐれて新技巧派とよばれ，代表作《多情仏心》では〈まごころ主義〉を唱道し，その姿勢は第2次世界大戦後の《見事な醜聞》などに至るまで変わっていない。

さとみはっけんでん【里見八犬伝】歌舞伎(かぶき)の題名。滝沢馬琴(ばきん)の有名な読本《南総里見八犬伝》の劇化で，幕末から数多く脚色されたが，それらの作品が折衷・洗練されて今日に伝わった。犬山道節の火遁(かとん)の術を中心にした〈円塚山(まるづかやま)のだんまり〉，犬塚信乃(しの)と犬飼見八(げんぱち)が屋根の上で戦う〈芳流閣〉などが見せ場。



サナエトンボ

さとみや【里宮】神が山から村人のいる里に降臨する際に宿る社。山宮(奥宮)に対して春宮・下社・前宮ともいい，山宮とともに1社をなす。日本の民間信仰では，農業の神が春に山から里に下って田の神となり，田植えの終了後ないしは収穫終了ののち，再び山へもどって山の神となるとされる。そうした神の去来の観念からみれば，里宮は里での神の顕現の場所ということになり，村民からみれば里宮によって本宮たる山宮にいる神を遥拝(ようはい)する場所ということになる。したがって，この2地点間を季節的に神が去来する神幸が，一つの神事として行なわれる例が多い。〔渡辺欣雄〕

さとむらじょうは【里村紹巴】⇨紹巴

さともようあざみのいろぬい【花街模様薊色縫】⇨小袖曽我薊色縫

さどやひこくていこうえん【佐渡弥彦国定公園】新潟県佐渡島の大佐渡一帯，加茂湖・小木半島，および本土側の弥彦山・角田山を含む。面積460km²の地域で，1950年(昭和25)に指定された。佐渡島の海岸は変化に富み，外海府・尖閣湾(せんかくわん)・小木海岸などが知られ，また金北山(1,173 m)が加茂湖の水面に写る姿も捨てがたい。新潟港と佐渡島の両津港との間に佐渡汽船のフェリーボートが通じている。弥彦山(638 m)は東のふもとに弥彦神社があり，展望のよい頂上までケーブルカーが通じている。〔木村東一郎〕

サトラップ［satrap］ペルシア帝国の官職名。州を統治するために王の代理として派遣された総督。サトラップの任命はキュロス2世のときから行なわれたが，制度化したのはダレイオス1世である。彼は帝国に20州(州の数はその後増減した)を設定し，各州にサトラップを置いた。サトラップは定められた租税額を徴収して王に納めるほか，州の行政と司法にあたり，また州の召集軍を指揮した。サトラップの権限はきわめて強大であったから，王は〈王の目，王の耳〉の監察官を派遣したり，地方の王直属の守備隊に監視させたりした。サトラップ制は，広大な領域を中央集権的に支配する有効な制度として，ペルシア帝国滅亡後も，アレクサンドロス大王やヘレニズム国家によって採用された。〔佐藤　進〕

さとり【悟り】仏教で説く人間の理想の境地。真理に対する無知(無明)と，煩悩(ぼんのう)に惑わされた執着心(渇愛)とを捨てきったところに現われ出る真実の智慧(ちえ)(般若(はんにゃ))の働きによって，真理と一つになりきる宗教的体験である。ブッダは，35歳のとき，菩提樹(ぼだいじゅ)下の端座冥想(めいそう)によって悟りを開き，仏陀(ぶっだ)となった。ブッダとは覚者(目ざめた人)の意で，真理としての縁起の法に目ざめたことを意味する。しかし，ブッダが悟った縁起の法が，ブッダの心内にとどめられて終わっていたら，今日の仏教は存在しない。ブッダがこの悟りの体験を語り出したからこそ，仏教は存在するのであって，仏教はブッダの悟りの具体化であるといえよう。しかもブッダは，自分ひとりが悟りを得て仏陀となることで満足せず，すべての人に悟りを得させたいという誓願のもとに，説法の旅を続けた。この誓願は，のちの大乗仏教徒たちによって特に尊重され，みずからは悟りを得ずとも他を悟りに至らしめん(自未得度先度他)という利他の行願に生きることが理想とされた。のちに中国で栄えた禅宗では，悟りが最もたいせつなこととされ，正師について坐禅修行に励み，問答商量をなし，悟りを開いた証明としての印可が与えられた。特に修行のために師から与えられるのが公案で，公案を集めた語録も多く伝えられている。〔田中良昭〕

サドワのたたかい［サドワの戦い］⇨ケーニヒグレーツの戦い

さどわら【佐土原(町)】宮崎県宮崎郡に属し，県の中部を流れる一ツ瀬川の下流部南岸を占める町。人口27,000。日豊本線・妻線の沿線にあり，国道10号線も通過する。中心集落の佐土原は江戸時代に島津氏の城下町であった。主産業は農業で，蔬菜(そさい)の促成栽培が盛んである。

さなえとんぼ【早苗蜻蛉】こん虫類・トンボ目・サナエトンボ科に属する小形のトンボの1種，あるいはサナエトンボ科に属するトンボの総称。サナエトンボは，腹長30mm内外，後翅(こうし)長26mm内外。黒色の地に黄色の斑紋(はんもん)があり，一見オニヤンマのような色彩を呈する。北海道・本州に分布し，晩春から初夏にかけて，イネの苗取り時期に発生するのでこの名がある。本州西部および四国・九州には，胸部の側面に黒条が2本ある(北海道・本州東北部

のものは1本)別亜種が分布する。

サナエトンボ科は,全世界から350種以上が知られ,日本からは20数種が知られている。大部分の種は中形で,いずれも黒色の地に黄色の斑紋があり,老熟すると青緑色をおびるものが多い。ヤンマ類やオニヤンマ類に似るが,静止時に翅(はね)を水平に広げて止まり,ヤンマ類やオニヤンマ類などのように懸垂しない。大部分の種は晩春から初夏にかけて発生するが,コオニヤンマやウチワヤンマなどの大形種には7月下旬から8月にかけて発生するものが多い。幼虫は流水中に生活するものが多く,川底の砂や泥中(でいちゅう)に潜入したり堆積物(たいせきぶつ)中に隠れて,水中にすむ小動物や水生こん虫の幼虫や成虫などをとらえて食べ,成虫になるのに数年を要する。〔鈴木邦雄〕

さなぎしま 【佐柳島】 香川県北西部,塩飽(しわく)諸島中の一島で仲多度郡多度津町に属する。面積2.1km²,人口600。全島が山地で,西斜面は急傾斜のために道もなく,東斜面には麦・サツマイモ・ジョチュウギク・草花などの段々畑が開かれている。東側に本浦と長崎浦の二つの集落があり,沿岸漁業が行なわれ,多度津〜笠岡(かさおか)間の定期船が寄港する。人口の流出が激しく,第2次世界大戦直後に比べると3分の1に激減している。門長屋のある民家が多く,両墓制をきびしく守っている。〔浅井得一〕

さなぎたけ 子嚢(しのう)菌類。鱗翅(りんし)目のガのさなぎに寄生するきのこ。棍棒(こんぼう)状で高さ3〜6cmぐらい,境界は不明瞭(めいりょう)であるが,頭部と茎部に分かれる。頭部は橙黄(とうおう)色,表面は粒状である。茎部は淡黄色〜白色。さなぎは通常地中に埋没している。薬用酒に使用される。

さなだむし ⇨条虫

さなだゆきむら 【真田幸村】 (1567〜1615) 安土桃山時代の武将。信濃(しなの)(長野県)上田城主真田昌幸(まさゆき)の次子。本名信繁(のぶしげ),幸村は通称。1589年(天正17)豊臣秀吉(とよとみひでよし)の近習となり,小田原征伐に参加。関ケ原の役では,父とともに上田城に籠城(ろうじょう)して西上する徳川秀忠(ひでただ)の大軍を阻止した。戦後高野山のふもと九度山に蟄居(ちっきょ)したが,大阪の陣(冬の陣)に豊臣秀頼に招かれて大阪城に入り,城の南部に急造した真田丸に拠(よ)って徳川方を悩ました。翌年の夏の陣では城外に出撃して家康(いえやす)の本陣に迫ったが戦死。〔高崎徳次〕

サナトリウム ⇨療養所

さなぶり 早苗振と書くこともある。田植え終了後の行事の一つ。関西方面では〈さのぼり〉,北陸や中国地方では〈しろみて〉,関東方面では〈さなぶり〉と称しているが,語源的には〈さのぼり〉といわれ,〈さ〉(田の神もしくは田植えをつかさどる神)の〈のぼり〉(お帰り)の祭りである。田の神あるいは屋敷神や村内の氏神などに早苗を供え,


真田幸村

田植えを手伝ってくれた家族・同族や近隣の人々を招いて祝宴を張る。とりわけ,早乙女(さおとめ)を上席にすわらせて祝う風がある。祭祀(さいし)単位によって〈村さなぶり〉と〈家さなぶり〉の2種があるが,現在では家族を中心とした家さなぶりが広く行なわれており,特に田植え労働の慰労宴的な傾向が強く,休日ともなっている。〔渡辺欣雄〕

サーニン アルツィバーシェフの小説。1907年の作。人生の目的は享楽,自己の内なる自然の欲求の満足にあり,それを妨げるいっさいは悪であると考え,実行する主人公サーニンを中心に,20世紀初頭ロシアの一地方の青年群像を描いた。社会革命に幻滅してよりどころを失った当時の若い世代の心情に大いに訴え,〈サーニニズム〉という流行語さえ生み出した。

サヌア [San'a] アラビア半島南西端にある北イエメンの首都。人口12万(1970)。海抜2,200mの高原に位置し,乾燥気候のアラビア半島の中では比較的湿潤である。市内に中国の援助で綿布工場が完成したが,これは国内唯一の工場である。市街は王宮を囲み,東の旧市街,西の新市街に分かれ,旧市街は行政・商業区域として織物などの手工業が行なわれ,紅海沿岸のホデイダまで自動車道路が通じている。6世紀のエチオピア人侵入を物語るキリスト教会の遺跡などがある。〔今井留吉〕

さぬき 【讃岐(国)】 香川県の旧国名。南海道に属する。もと讃岐国造(くにのみやつこ)の治めたところ。大化以後讃岐国とし伊予総領(いよのそうりょう)の管轄するところとなったが,大宝律令(りつりょう)施行とともに独立。大内(おおち)・寒川・阿野(あや)・香川など11郡。国府を阿野郡(現在の坂出(さかいで)市府中町),国分寺をその東方4km(現在の綾歌(あやうた)郡国分寺町)の地点に置いた。鎌倉時代には後藤・近藤・三浦・北条(ほうじょう)の諸氏が守護となり,室町時代には細川氏が守護を世襲したが,戦国末期に阿波国の三好(みよし)氏が実権を握り,次いで土佐国の長宗我部元親(ちょうそかべもとちか)に征服された。しかし翌年豊臣秀吉(とよとみひでよし)が元親を討って仙石(せんごく)秀久を封じ,次いで尾藤氏さらに生駒(いこま)氏がこれに代わった。江戸時代には高松に松平頼重(よりしげ)を十二万石で封じたほか,丸亀(まるがめ)・多度津(ともに京極氏)の2藩があった。〔黛　弘道〕

さぬきがん 【讃岐岩】 讃岐(香川県)を中心として,東は奈良県から西は大分県にかけての瀬戸内地帯に産する黒色緻密(ちみつ)な安山岩の一種。大きな斑晶(はんしょう)はなく,顕微鏡でみると,斜方キ石の小斑晶とガラス質の石基を主とし,ときにザクロ石やクロウンモを伴う。板状の岩片をつるしてたたくと,かんかんと高い音を出すので,俗にかんかん石ともよばれ,呼び鈴の代わりなどに用いられる。

さぬきさんみゃく 【讃岐山脈】 香川・徳島県境に,ほぼ東西に伸び,阿讃(あさん)山地ともいう。長さ約100km,幅10〜20kmで規模は小さく,高度も平均500mぐらいで,最高点は龍王山(1,057m)である。古生代の和泉(いずみ)砂岩・ケツ岩などからなり,山脈の南縁は中央構造線の断層で区切られ,吉野(よしの)川の谷に臨む。古くから山脈を南北に越える道が開け,西の猪ノ鼻(いのはな)峠,東の大坂越が最も使われた。現在はここを土讃線・高徳線が通り,ほかに山脈の中央を越える国道193号線もある。〔高野　繁〕

さぬきのすけにっき 【讃岐典侍日記】 平安後期の女流日記。1109年(天仁2)ごろに成立した。作者は讃岐典侍藤原長子。上下2巻からなる。上巻は,作者の仕えた堀川(ほりかわ)天皇の発病から崩御までの約1か月間の模様を看護した立場から赤裸々に語っている。下巻は,堀川帝の忘れ形見鳥羽(とば)天皇に再出仕し,おりにふれて堀川帝のおもかげを忍び悲しむ心情が年次を追って語られる。文章は必ずしもすぐれているとはいえないが,〈死〉を凝視した文学として異彩を放つ。〔間野知子〕

さぬきへいや 【讃岐平野】 香川県の北半を占める四国第1の平野で,南部の讃岐山脈からは東から数えて鴨部(かべ)川・香東(こうとう)川・土器川・財田(さいた)川などが流れて瀬戸内海に注いでいる。これらの川によって平野はそれぞれ大川平野・高松平野・丸亀(まるがめ)平野・三豊(みとよ)平野の四つに区分され,その間には溶岩台地が侵食された屋島・大平山・大麻山およびこれに続く山山が点在している。平野中央部の飯(いい)ノ山も同じ成因で,美しい円錐(えんすい)形をなして讃岐富士ともよばれている。平野を流れる川は上流のカコウ岩地帯を侵食し,山麓部(さんろくぶ)に扇状地を形成して天井川をなし,続いて下流に三角州を形成しているため,平野の大部分はカコウ岩による砂質土壌(どじょう)である。平野の開発は古く,条里制の遺構がみられ,また,瀬戸内式気候のため溜池(ためいけ)などによる灌漑(かんがい)用水の確保が図られ,さらに多くの谷口にはダムがつくられている。しかし,〈讃岐の五反百姓〉といわれるように1戸あたりの耕地面積は狭く,そのため輪作による耕地の利用率が高く,全国でも高い耕地生産性を示している。古くから生産が行なわれて



讃岐平野
平地に点在する大小のため池は讃岐平野の象徴。耕地の区画が美しい模様を織りなしている。写真は丸亀市南方

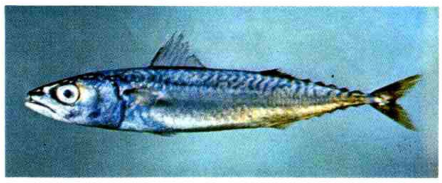
いた〈讃岐三白〉とよばれるもののうち，綿・砂糖はすでになく，最近では塩も姿を消そうとしている。山麓はミカンをはじめとしてブドウ・ナシ・モモなどの果樹栽培が盛んで，海岸は埋め立てが行なわれて臨海工業地域の形成が進められ，平野は大きく変貌(へんぼう)しつつある。海岸に沿って高松・坂出(さかいで)・丸亀・観音寺などの都市が集まり，県庁所在地の高松は四国の玄関口ともなっている。　〔味沢成吉〕

さねかずら　⇨ビナンカズラ

さねもりものがたり　**【実盛物語】**　⇨源平布引滝(げんぺいぬのびきのたき)

さの　**【佐野(市)】**　栃木県南西部の市。古くは天命宿とよばれ，平将門(まさかど)を討伐した豪族藤原秀郷*(ひでさと)の領地で，中世にはその子孫佐野氏が領した。謡曲《鉢木(はちのき)》などで名高い佐野源左衛門(げんざえもん)はその一族とされている。古くから天明釜*(てんみょうがま)の産地として知られたが，江戸時代には，日光例幣使街道の宿場町，市場町として栄え，中期以後織物生産が盛んとなり，佐野縮みとよばれる綿織物がつくられてから織物の町となった。1943年(昭和18)佐野町が犬伏・堀込(ほりごめ)の2町および3村を合併して，市制施行。人口79,000。市域の大半は，渡良瀬(わたらせ)川北岸の沖積(ちゅうせき)低地と秋山川・旗川のつくる扇状地上を占め，周辺は足尾山地南端の小高い丘陵に囲まれる。産業三大別人口比は11：47：42。綿・スフ織物を主体とする婦人・子ども服の特産地で，1964年首都圏市街地開発地域に指定され，伝統の鋳物技術と関連深い金属機械工業が発達している。農村部には兼業農家が多く，近郊野菜が栽培される。両毛線・国道50号線が市街中央を貫通し，東武鉄道佐野線が交差する。北東部に藤原秀郷の居城跡が残る唐沢山(からさわさん)県立自然公園があり，東郊に《万葉集》の東歌(あずまうた)で知られる三毳(みかも)山(223 m)がある。　〔浅井得一〕

さのう　**【砂嚢】**　鳥類の消化器官の一。食道と腸の間にあり，前胃と合わせてヒトの胃にあたる位置を占める。形はほぼ卵形



サ　バ

で，厚い筋肉質の壁をもち，ニワトリでは1分間に1～4回の割合で規則的に収縮する。この中には飲み込んだ砂粒がはいっており，その助けによって食物を機械的に細かくする働きがある。内部は酸性で，タンパク質の消化作用も行なわれる。植物食や石灰質の殻(から)などを食べる鳥はよく発達し，果実食・魚食・肉食の鳥では発達が悪く，壁は薄い。　〔浦本昌紀〕

さのさぶし　**【さのさ節】**　明治30年代から歌われだした流行歌。旋律は，これより少しまえ，明清楽(みんしんがく)の《九連環》の旋律に歌詞をつけて門付け芸人が歌った《法界節》を転用・変形したものといわれる。本調子あるいは三下がりの三味線(しゃみせん)の伴奏をつけることが多い。お座敷唄として好まれ，替え歌が非常に多い。

さのつねたみ　**【佐野常民】**　(1822～1902)　明治時代の政治家。日本赤十字社(→赤十字)の創設者。佐賀藩出身。1866年(慶応2)藩命によってフランスに渡り，産業・軍事を視察。帰国後藩の兵制改革に努めた。明治維新後，新政府のもとで海軍創設に努め，元老院議官・大蔵卿(きょう)・元老院議長・枢密顧問官・農商務相などを歴任。1877年(明治10)西南戦争*に際して博愛社*を起こし，官軍・賊軍の別なく傷病者の救護にあたった。1887年博愛社は日本赤十字社と改称され，彼はその初代社長に推された。　〔高崎徳次〕

さのとしかた　**【佐野利器】**　(1880～1956)　建築家。山形県の生まれ。1903年(明治36)東京大学工科大学建築学科を卒業。鉄筋コンクリートおよび鉄骨構造学を開拓し，日本人の構造になった初の作品として，日本橋丸善(関東大震災で崩壊・焼失)を残した。

さののちがみのおとめ　**【狭野茅上娘子】**　弟上(おとがみの)娘子ともいう。奈良朝中期の女流歌人。伝不詳。《万葉集*》の巻15に短歌23首を残す。そのすべてが越前*(えちぜん)(福井県)に流罪となった中臣宅守(なかとみのやかもり)に贈った相聞歌*(そうもんか)である。身を焦がす情熱的な恋愛をうたい，集中に異彩を放つ。

さのまなぶ　**【佐野学】**　(1892～1953)　社会運動家・歴史学者。大分県出身。1919年(大正8)東京大学政治科卒業後，南満州鉄道株式会社に入社。1922年早稲田(わせだ)大学講師となり，在職中日本共産党*創立に加わり，中央委員。翌年，第1次共産党検挙事件の端緒となった早稲田大学軍事教練反対事件の検挙からのがれるためソ連に亡命。1925年帰国して日本共産党の再建に努め，《無産者新聞》を主宰した。1927年(昭和2)日本共産党中央執行委員長，次いでコミンテルン(→インターナショナル)常任執行委員。1929年四・一六事件*で検挙されたが，1933年転向声明を出して世人を驚かせ，社会主義陣営に痛撃を与えた。転向により減刑されて出獄。第2次世界大戦後は天皇制護持，反共を唱えた。1947年には日本経済研究所を創立し，早大教授を兼任した。著書に《ロシア経済史》《日本古代史論》がある。　〔高崎徳次〕

さば　**【鯖】**　硬骨魚類・スズキ目・サバ科。サバ属の総称。日本近海に産するものは，マサバとゴマサバの2種である。マサバはホンサバ・ヒラサバともいい，全長約40cmに達する。体は紡錘形で肥満し，横断面は楕円(だえん)形。全身にごく細かいうろこがある。背は緑色(死後濃青色)で，波状の黒いしまがある。腹部は銀白色で，斑紋(はんもん)はない。サハリン(樺太(からふと))以南，日本全土・台湾・フィリピンの沿岸に分布する。ゴマサバは腹面に小黒斑が散在するが，それ以外はマサバとほとんど区別をつけられないほどよく似る。体の横断面は円形に近く，マルサバともよばれる。北海道から東シナ海に分布し，本州中部以南に多い。マサバ・ゴマサバとも産額が多く，日本の最重要食用魚の一つである。両種合わせて，年間50万～100万tの漁獲がある。一般に両種を区別して扱うことは少なく，魚屋の店頭でも，ほとんど区別せずに売られている。酢でしめたしめさば，さばずし，塩焼き，煮付けなどにして生食するほか，干物やかんづめにもされる。〈サバの生きぐされ〉といわれるほど，鮮度が落ちやすい。　〔菅野　徹〕

サバ　［Sabah］　マレーシア連邦，ボルネオ北海岸の東北端を占める州。州都コタキナバル(旧称ジェスルトン)。もとの英領北ボルネオ。面積80,520km²。人口63万3,000(1969)。地形は山がちでボルネオ島の最高峰キナバル山(4,077 m)がそびえるが，東海岸は出入りが多く，良港に富んでいる。住民はバジャウ・ムールットその他のマラ

イ系種族が多いが，華僑(かきょう)も約4分の1を占める。19世紀後半以後イギリスの支配を受けていたが，第2次世界大戦時の日本軍に占領され，戦後再びイギリスの植民地となったが，1963年9月，マレーシア連邦の1州となった。内陸は森林資源に富み，ラワン材などの木材の輸出が首位を占める。ほかにゴム・コプラなどを産出する。〔別技篤彦〕

サーバー ［James Thurber］（1894～1961） アメリカのユーモア作家・漫画家。1913年オハイオ州立大学に入学，卒業後地方新聞の記者を経てワシントンの国務省に勤め，1927年《ニューヨーカー》誌の編集に関係して，寄稿したり，みずからさし絵を描いたりした。その作品は，現代アメリカの機械文明社会にうごめく人間像を，独特のユーモアで，あるいは皮肉に，あるいはしんらつに描いている。作家としての代表作に《屋根裏部屋(へや)の梟(ふくろう)》などがあり，繊細で略画ふうの線で描いた《男性動物》などの漫画集もある。

さばえ 【鯖江(市)】 福井県中北部の市。はじめ真宗誠照寺(じょうしょうじ)派の本山で鎌倉時代に創建の誠照寺を中心とする集落であったが，江戸時代中期以降，間部(まなべ)氏五万石の城下町として発展した。1955年(昭和30)市制施行。**人口60,000。**市域は日野川に沿う武生(たけふ)盆地北部の洪積(こうせき)台地を中心に東西の低地や山麓(さんろく)部を含む。産業三大別人口比は10：54：36。かつては歩兵連隊の所在地であった。養蚕が盛んで，福井機業の南の中心として繊維工業が行なわれていたが，最近はめがねわくの製造が盛んで，全国の65％を生産する。北陸本線と国道8号線がほぼ平行して市域を南北に貫通し，福井鉄道が福井・武生の各市や織田(おだ)町と連絡する。

さばく 【砂漠】 気候がきわめて乾燥しているため，植物がほとんど生育せず，地はだが露出している土地をいい，その面積は陸地面積のほぼ10分の1以上を占めている。一般に，亜熱帯高気圧の影響で形成される低緯度砂漠(北アフリカ・西アジアの砂漠)，大陸内部に形成される中緯度砂漠(中央アジアの砂漠)，付近を流れる寒流の影響で形成される海岸砂漠(チリのアタカマ砂漠)に分けられる。砂漠の形成は，降雨量が少ないことだけでなく，気温が高くて蒸発量が多いことにも原因する。砂漠の雨量は年によって変動が大きく，数年間もまったく降雨のないことがあるかと思うと，一度に平均年降水量を越えて降ることもある。また，気温の日較差が大きく，日中は50℃を越すことも珍しくなく，この熱のため強い上昇気流を生じて砂あらしをみることがある一方，夜間は放熱冷却するため，0℃以下になることも珍しくない。また，岩石の膨張・収縮作用が起こり，岩石崩壊による風化作用が旺盛(おうせい)で，化学的風化作用も盛んである。表層は酸化鉄や酸化アルミニウムに富み，乾燥のため地下水からの毛管上昇や晶出により塩類皮殻(ひかく)がしばしば発達する。そのため，土壌(どじょう)は生産力の低い，いわゆる砂漠土となる。しかし，ときどき襲う豪雨によって侵食・運搬作用が著しく働いて，谷が刻まれ，山麓(さんろく)には扇状地がつくられる。砂漠といえば，砂丘*からなる広大な平原が想像されるが，むしろ砂礫(されき)岩塊が散在し岩盤が露出している岩石砂漠が大部分を占めており，サハラではこれをハマダとよんでいる。また，砂地からなるものは砂砂漠といい，表面は多少の起伏をもち，砂丘が大海の波のように広がっている。これをサハラではエルグ，中央アジアではクームとよぶ。

砂を伴う強い風は砂漠内に残る岩塊の基部を著しく侵食して，キノコ岩を形成したり，季節ごとに風向きが変わると風にあたる岩石の面が変わり，摩滅して三稜石*(さんりょうせき)がつくられる。さらに山地をも侵食して，準平原*化が進んでゆくが，侵食に対する抵抗が大きいところは，砂漠の海に島のように浮かぶ島山が残される。砂漠の中にはまったく河川がないわけではなく，ときどき襲う豪雨は通常は涸(か)れている川をたちまち洪水(こうずい)に変えるが，雨がやめばまた涸れてしまう。こうした河川をワジというが，ワジは地下水位が浅く，ときには湧出(ゆうしゅつ)してオアシス*をつくることがある。ここでは河床は砂礫であるが，平坦(へいたん)なため，しばしば隊商の交通路として利用されている。降水量の多い湿潤地域に水源をもって砂漠の中に流入している河川を外来河川という。水量が少ないと，タクラマカン砂漠に流入する諸河川のように砂漠中で河水を消失したり，湖に流入して海への出口をもたないものもあるが，ナイル川・アムダリア川・シルダリア川・コロラド川のように水量の豊富な河川は砂漠を貫流して海に到達している。砂漠で海への排水路をもたない湖は水位の変動が激しく，チャド湖のように湖面面積の変動の大きいものもある。また，湖の中には，地下水や河川から多量の塩分が供給されたり，激しい湖水の蒸発によって塩分が濃縮されて塩分濃度の高い塩湖とよばれるものがある。さらに湖水が減少し，乾固すると，湖底に粒土・塩類・セッコウ・ソーダなどが層をなして堆積(たいせき)した平坦面もみられる。これをプラヤとよんでいる。〔桑原正見〕

さばくきこう 【砂漠気候】 中緯度付近で年降水量が少なく，蒸発量が降雨量を超過している所の気候で，地表に植物は生育せず，砂漠*が生じている。乾燥の度合いを示すため，気温をT(℃)，雨量をP(mm)としたとき，乾燥指数$A=\dfrac{P}{T+10}$の式でAが10以下であると砂漠になる。この気候の特色は，降雨がきわめて少なく一般に年降水量は200～300mm以下，降雨の年による変動が大きく，数年間まったく雨が降らずそのあと一度に数十ミリメートルの豪雨になることもあり，気温日較差が大きく日中の最高気温が50℃を越す反面，夜は冷却して0℃以下になることも珍しくない。日中の強烈な日射で熱せられた空気の対流によって強風が吹き，ときには塵埃(じんあい)や土砂を空中高く巻き上げ，雷鳴をとどろかすこともある。砂漠気候地域はサハラ砂漠・アラビア砂漠のように一般に中緯度高圧帯に分布しているが，アタカマ砂漠・カラハリ砂漠のように海岸で寒冷な海水が湧昇(ゆうしょう)するところにも，海岸砂漠気候といわれる砂漠気候が分布することがある。〔桑原正見〕

さばくせいぶつ 【砂漠生物】 砂漠に生活する生物。砂漠はきわめて乾燥しているため，乾燥に耐えられる特殊な生物しか生活できない。植物は，水分の蒸発を防ぎ強い日射熱に耐えるために，サボテンのように厚く強い表皮と，とげのように退化した葉をつけているものが多い。動物は，サバクネズミなどの齧歯(げっし)類が多く，ほとんどが夜行性である。節足動物ではサソリが有名であり，サバクトビバッタなどのように砂漠の周辺やオアシスの草原を渡り歩くものもある。〔松本忠夫〕

さばくろん 【佐幕論】 江戸末期，幕府を佐(たす)けて時局の安定を図ろうとする政治論。18世紀末，杉田(すぎた)玄白*や儒学者古賀精里らが唱えた。ペリー来航と開国*に動揺した政局の中で無力を表出した幕府は，自力による勢力回復を実現できず，佐幕派大名は朝廷の伝統的権威を利用して幕府の再建を図る公武合体*策を進めた。しかし，討幕運動の進展に伴い，佐幕論は幕府再建のための改革論から単に幕府擁護論となり，討幕論と対立した。王政復古*により消滅。〔松尾　涼〕

さばずし 【鯖寿司】 しめさばを用いてつくるすし。京都の名物。〈ばってら〉ともいう。バッテラはボートを意味するオランダ語で，形がそれに似ているところからこの名があるといわれている。すし飯を棒状につくり，しめさばを載せ，白板コンブをかぶせて竹すだれで締める。

サバチエ ［Paul Sabatier］（1854～1941） フランスの化学者。1897年還元ニッケルを接触剤としてベンゼンに水素添加してシクロヘキサンを得ることに成功し，還元金属による不飽和有機化合物の接触還元法を創始し，有機化学に新しい分野を開拓し，今日の油脂化学工業の基礎を築いた。1912年グリニャール*とともにノーベル化学賞を受けた。

サパテアード ［zapateado］ スペインのアンダルシア地方の舞踊およびその伴奏音楽。フラメンコ*の舞踊技法の一つサパト(くつ)に由来し，ギター伴奏にくつ音のリ

ズムが加わる。3拍子系のリズムで，第2拍にアクセントをおく。舞踊は手や他の身体部分をくねらせて踊る激しいもの。サラサーテらの作品に取り入れられた。

サバナ ⇨熱帯草原

サバナ ［Savannah］ アメリカ合衆国ジョージア州南東岸にある港湾商業都市。人口11万1,000(1975)。製紙・精糖・肥料などの工業をはじめ，松脂(まつやに)・ワタの実の製品工業が盛んである。1788年に合衆国最初の黒人教会として建設されたアフリカン-バプチスト教会がある。なお，1819年の大西洋最初の横断汽船はここで設計され，町の名にちなんでサバンナ号と名づけられた。

さばふぐ **［鯖河豚］** 硬骨魚類・マフグ科。海生で，全長35cmほどになる。体はやや長いが，典型的なフグ型。背面はかっ色で腹面は白色，体側はなめらかで光る。本州中部から台湾にかけて分布。他のフグと異なり，まったく無毒であるが味は悪い。

サハラ(砂漠) ［Sahara］ アフリカ北部に広がる世界最大の砂漠(さばく)。一般には，ナイル川からアトラス山脈までの東西約5,000km，南北約1,800km，面積約900万km²をさす。狭義にはリビア・アラブ，スーダンにまたがるリビア砂漠・ヌビア砂漠を除いた西の部分をいうこともある。地名はアラビア語のサフラーで，〈荒れはてた土地〉の意。平地と台地が延々と続くが，中央部にアハガル・チベスチの二大山地があり，海抜3,000mを越す所もある。エルグとよばれる砂漠は，北部やナイル川沿岸のヌビア砂漠などに多く，大部分はハマダとよばれる岩石原やレグとよばれる岩石砂漠である。ナイル川を除いてはほとんど地表水のない乾燥地で，10年ぐらいほとんど雨の降らない地域もあるため，住民の生活は地下水の得られるオアシスに限られる。しかし，ときには局地的に大雨が降り，濁流となってかわいた河床(ワジ)を流れるが，この水もまもなく大部分は地下に吸い込まれてしまう。気温は日中，ひなたでは40～50℃になり，湿度も0％近くまで下がるが，夜間は気温が低下して霜さえみることがある。不毛の地とされる砂漠だが，オアシスを中心に数百万の住民が生活しており，農耕も行なっている。オアシスでは，ナツメヤシ・岩塩・牛皮・穀物やギニア湾岸からの象牙(ぞうげ)・金などを集散し，また古くは奴隷交易の隊商の中継点でもあった。最近は井戸による人工のオアシスが増加している。1920年代ごろから自動車道路・航空路がサハラを縦断するようになり，隊商は局地的な交易に限られるようになった。住民はアラブ人とベルベル人の混血が大部分を占めており，言語を除いた生活様式ではベルベル人の特徴をよく残しているといわれている。第2次世界大戦後，アルジェリア東部で石油採掘に成功して以来，フランス・イギリス・アメリカ・ソ連の手で急速に開発が



サハラ砂漠 大海の波のように大きくうねり，地平のかなたまで続く砂漠の景観。風によってできる細かい漣痕(リップル-マーク)が美しい



サハリン サハリン第一の港コルサコフ市(大泊)の石造りの住宅アパート群。

進められ，地中海沿岸と採油地を結ぶパイプラインも建設されている。〔大石堪山〕

サハリン ［Sakhalin］ サガレンともいう。日本名は樺太(からふと)。アジア大陸とは間宮(タタール)海峡で隔てられ，わが国の北海道に宗谷(ラペローズ)海峡で対し，北と東はオホーツク海に面する。面積76,626km²。二つの山脈が南北に走り，東部山脈にあるネベルスコイ山は1,398mで，二つの山脈の間の中央低地には北方に向かって流れるティム川と南方に向かうポロナイ(幌内(ほろない))川があり，両河川とも産卵のためサケが上ってくる。亜寒帯気候で冬はシベリア高気圧の北西季節風が吹き，寒さがきびしく，夏の東海岸は濃霧の日が多く日照が妨げられる。全島の70％が針葉樹林におおわれた低い山地で，農業は南部のススナイ平野で営まれ，小麦・大麦・ジャガイモ・マメ類・サトウダイコン・野菜がつくられる。アレクサンドロフスク・ウグレゴルスク(恵須取(えすとる))・シネゴルスク・ゴルノザボドスクに炭田があり，北東部平野のオハとエハビに産する石油は，パイプラインでシベリア東岸のニコライエフスクに送られている。トマリ(泊居(とまりおろ))・ホルムスク(真岡(まおか))・ネベルスク(本斗)にあるパルプ・製紙工業のほか南部に魚類かんづめ工業がある。鉄道・道路網はほぼ全島に及び，沿岸航路も夏の不凍期間だけ通じている。おもな都市として，アレクサンドロフスク・オハ・ウゲルゴルスク・ホルムスク・コルサコフ(大泊)・ドリンスク(落合)・ユージノサハリンスク(豊原(とよはら))があり，約50万の住民の大部分はロシア人でコサックの農業移民が多い。ほかに少数のアイヌ人・ギリヤーク人・ツングース人・ナナイ人が住む。第2次世界大戦終了時まで南部に多数居住していた日本人は戦後すべて引き揚げた。

古くは中国の領土であったが，1644年にはロシア人ポヤルコフが探検し，18世紀末からは日本人が多数渡島するようになり，領有を日本とロシアの間で争われるようになった。1875年に結ばれた千島樺太交換条約*でロシアの領土となり，流刑植民地として経営された。次いで日露戦争後のポーツマス条約*(1905)により北緯50度から南部が日本に譲渡されたが，第2次世界大戦末期にソ連が千島列島とともに占領し，今日に至っている。〔大崎　晃〕

サーバル ［serval］ 哺乳(ほにゅう)類・食肉目・ネコ科。大形のネコ類で，頭胴長75cm，尾は短く37cmほど。四肢(しし)は長く，走るのに適する。耳は三角形で大きい。体の地色は黄土色で一面に黒斑(こくはん)があり，下面は白い。尾には黒輪がある。アフリカの草原に広く分布し，レイヨウの子・ウサギ・ネズミ・鳥類などを食べる。昼間はやぶや岩の間で過ごし，夜活動する。

ザパロージェ ［Zaporozhe］ ソビエト連邦，ウクライナ共和国南東部にあるザパロージェ州の州都。旧名アレクサンドロフスク。人口76万(1976)。ドニエプル川の河港で，鉄道の要衝でもある。ドニエプローコンビナートの一中心で，鉄鋼・アルミニウム・機械・自動車・化学・電気機器などの有力工場をもつドニエプル川の水力発電の中心地。1770年につくられた要塞(ようさい)に起源をもつ都市で，第2次世界大戦前，ドニエプル発電所がつくられて，冶金(やきん)を中心とする工業都市として発展した。大戦ではドイツ軍による破壊をこうむったが，その後いちはやく復興した。この地方はコサックが多く居住し，ゴーゴリ*の小説《タラス-ブーリバ》の舞台になっている。〔斎藤晨二〕

ザハロフ ［Basil Zaharoff］ (1849～1936) 世界的な兵器商。典型的な〈死の商人〉といわれる。最初イスタンブールの商人であったが，1887年イギリスとスウェーデンの合併兵器会社ノルデンフェルトのアテネ駐在員となり，緊張の高まっていたバルカン諸国の軍備拡張熱をあおり，敵味方の区別なく兵器を売りさばいて巨利をあげた。その後マクシム鉄砲会社を同社に合併させ，さらに1897年にはこれをイギリス有数の兵

器会社ビッカース社に吸収させて，世界最大の兵器企業ビッカース-マクシム社を築き，会長に就任，大政商としてイギリス・フランス・ギリシアなどヨーロッパ諸国の政治家と結託，〈死の超セールスマン〉として遺憾なく手腕を発揮した。第1次世界大戦では連合軍の兵器供給庫として潜水艦・大砲・戦車などあらゆる武器を納入，ヨーロッパ屈指の大富豪となった。のち，戦時再来を期してギリシア-トルコ戦争を挑発(ちょうはつ)したが失敗して第一線より引退，老後はモンテカルロで賭博(とばく)場の経営にあたった。〔片岡一郎〕

サバンナごう【サバンナ号】世界最初の原子力商船。アメリカ合衆国において1958年起工し，1962年に完工した。総トン数12,220トン，原子炉PWR型(加圧水型)，熱出力69MW，最大速力21ノット，最大連続行動日数600日。貨客船で，旅客60名を含む総員210名を収容するといわれる。

さび【錆・銹】金属の腐食による生成物のことであるが，特に大気中あるいは水が存在する場合のものをいう。たとえば3%食塩水をよく研摩した鉄板上に1滴落とすと，一部分が陽極となって溶解現象$Fe \rightarrow Fe^{2+} + 2e^-$を起こし，電子を生じる。電子は鉄中を別の部分に流れ，そこで溶解している酸素および水と反応して$\frac{1}{2}O_2 + H_2O + 2e^- \rightarrow 2OH^-$という陰極反応を行ない，$OH^-$を生成する。溶液中の$Fe^{2+}$と$OH^-$とは拡散によって両極の中央で$Fe^{2+} + 2OH^- \rightarrow Fe(OH)_2$の反応を行ない，鉄の水酸化物を生ずる。この水酸化物は水にとけている酸素によりさらに酸化して$Fe(OH)_3$となり，脱水されて$FeO(OH)$，Fe_2O_3となる。3価の鉄酸化物は赤かっ色であるのでこれを赤さびという。大気中における鉄のさびは複雑であるが，乾湿のくり返しで大気中の水分の結露が腐食を促進する。

さびを生ずると多くの場合金属材料の機能はなくなるが，銅を含有する耐候性鋼は大気中において緻密(ちみつ)なさび(酸化皮膜)をつくり，そのさび層によってそれ以後の腐食する割合を減ずる。ステンレス鋼も同様に表面に形成された薄い酸化皮膜が腐食防止に役だっている。一般にさびを防ぐには，腐食性環境特に水分や湿気の除去，金属・非金属の被覆，電気防止法の適用などがある。〔上田重朋〕

さび【寂】文芸用語。《新古今和歌集》時代の和歌に起こり，心敬の連歌を経て，蕉風俳諧(しょうふうはいかい)に至って完成された美的理念。元来は荒涼たるさまを表わす語であるが，やがて荒涼の状態にある者の寂寥感(せきりょうかん)・孤独感を意味するようになった。その孤独寂寥感の中に，〈豪華華麗〉にまさる深い美を見いだそうとするものが〈さび〉の理念で，心敬において宗教的境地にまで深められ，芭蕉(ばしょう)に至って作者の心境の深さから発する閑寂枯淡の美的情調として完成された。〔奥野純一〕



サバンナ号



ザビエル



サビキコリ

さびいろ【錆色】色名。鉄の錆のような色。黄みをおびた，暗い灰赤色。一般に赤錆色と同じような意味に用いられているが，JIS Z8102-1961(1967確認)によれば赤錆色よりも彩度が低く，明度もごくわずかに低い。日本工業規格(JIS)慣用色名〈サビ色〉は，色相9.0R，明度3.0，彩度3.5の色と規定されている。➔色

ザビエル［Francisco de Xavier］(1506〜1552) 戦国時代，わが国に最初にキリスト教を伝えた宣教師。ナバラ王国の皇子に生まれ，パリ大学卒業。1534年ロヨラとイエズス会を創立，東方伝道を志して，1542年インドのゴアに渡り，インド・東インド諸島に布教。1547年マラッカで日本人アンジロー(ヤジロー)と出会って日本伝道を思い立ち，1549年(天文18)鹿児島に来航。領主島津貴久(たかひさ)の許可を得て伝道を開始し，約1年間の滞在中に信者200余人を得た。翌1550年天皇訪問のため京都に上り，平戸・山口・堺(さかい)を経て翌年1月入京したが，天皇にも将軍にも謁見できず在京わずか11日で平戸にもどった。再び山口を訪れ，領主大内義隆(よしたか)の許可を得て，当時繁栄をきわめていた山口を布教の根拠地とした。滞在半年足らずで豊後(ぶんご)(大分県)の領主大友宗麟(そうりん)の招請があったため，府内(大分市)におもむき伝道に従事した。ポルトガル船出航を機に1551年豊後を出帆。ゴア帰着後中国伝道を志したが，その渡航中1552年12月熱病のため上川島で死去。〔高崎徳次〕

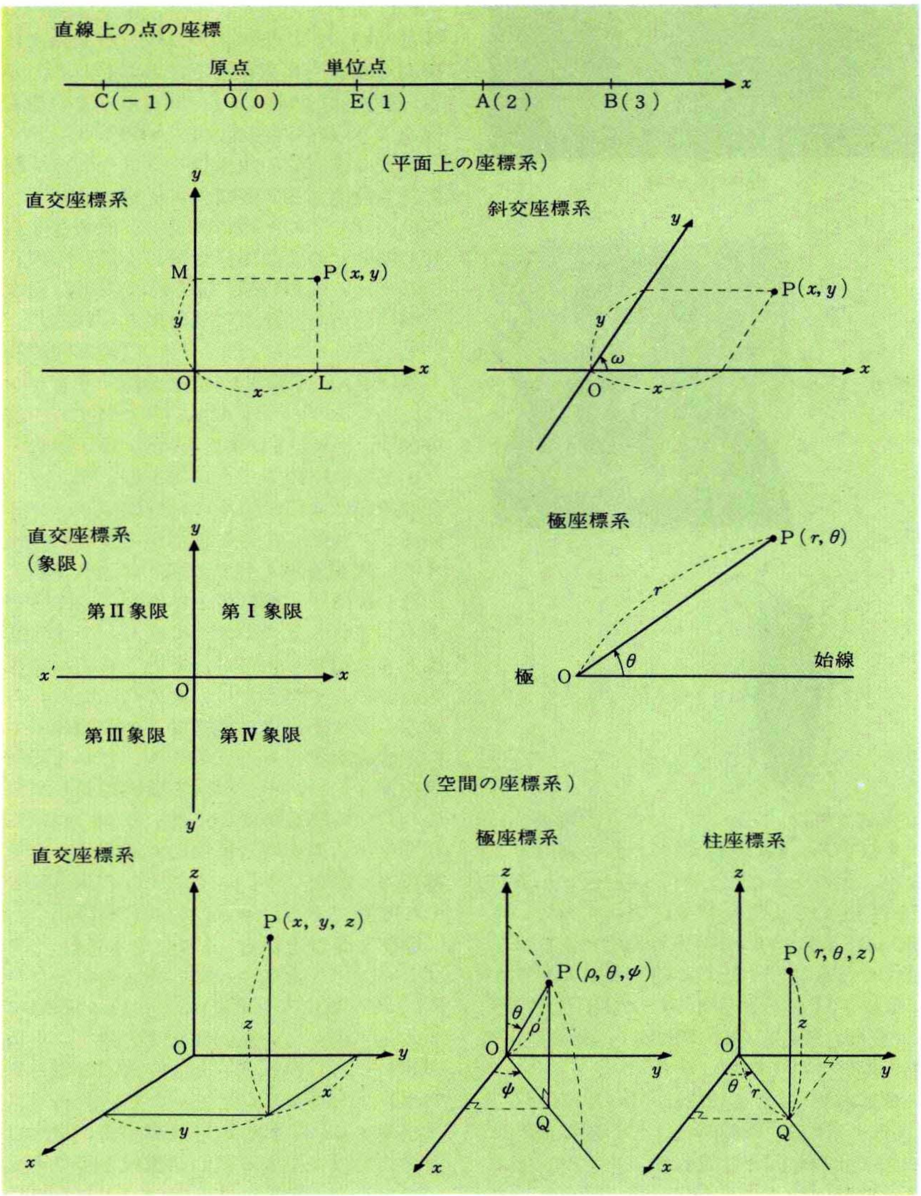
さびきこり【錆木樵】こん虫類・鞘翅(しょうし)目・コメツキムシ科。体長16mm内外。体は暗かっ色，脚は赤かっ色。背面は密に，腹面はまばらに微細な毛でおおわれる。日本・朝鮮に分布し，5〜9月ごろまで最も普通にみられる。幼虫はムギ類やジャガイモなどの害虫で，成虫はリンゴやミカン類の花を食害する。近縁のムナビロサビキコリは，同じくムギ類の害虫で，前胸背板が前方約3分の1の部分で著しく外方に張り出しているのが特徴。体長14mm内外。日本全国に分布し，夏季に普通にみられる。〔鈴木邦雄〕

さびきん【銹菌】担子菌類・サビキン科とメランプソラサビキン科に属する一群の菌類。サビビョウ菌ともいう。種子植物・シダ植物に寄生してさび病を起こす。サビ菌の菌糸体は宿主植物の細胞間隙(かんげき)に発達し，接触した寄主細胞から養分を吸収する。繁殖機関としての胞子は，サビ胞子のほかに柄子・夏胞子・冬胞子・小生子がある。これら五つのすべてをもって全生活環とする種類もあるが，そのうち1〜2を欠くもの，冬胞子だけのものなどいろいろある。サビ菌のある種類はその生活環中で宿主植物を変えることがある。これを異種寄生種といい，おもな宿主植物に対して他の一方の植物を中間宿主という。これに対して全生活環を同じ植物上で過ごすものを同種寄生種という。ムギやナシの病原菌として重要である。➔さび病〔曾根田正己〕

さびしきひとびと【寂しき人々】ハウプトマンの5幕の市民劇。秀才はだのヨハネスが学究生活を理解してくれない家庭に対する不満から，知的な女子大生アンナにひかれる。しかしヨハネスの貞節な妻を見たアンナが身をひいて去った日，ヨハネスは自殺する。宗教心厚い両親の古い世代と，科学の時代に生きる新しい世代との見えない断絶から，孤独に沈んでいく人々を描いた作品。1891年初演。

サービスさんぎょう【サービス産業】商業・対個人サービス業(理容など)・運輸業・通信業・放送業・金融保険業・公務・自由業など，財貨の生産ではなく，サービスの提供に携わる産業をいう。経済が発展し，所得水準が向上するにつれて，この部門の比重が高まってくる。特に工業化の進んだ国では，知識や情報の果たす役割が増大しつつあり，サービス産業の中でも知識産業・情報産業が中心的な部門に成長するものと予想される。なお，産業構造からみれば，第1次産業・第2次産業に対応し，第3次産業とよばれる。1970年(昭和45)の日本では，この部門の就業者構成比は，産業全体の47%に達し，1977年には53%に達した。〔原　豊〕

さびどめ【錆止め】大気中あるいは水分の存在下で金属が腐食するのを防ぐこと。防錆(ぼうせい)ともいう。金属は裸のまま使用されることはまれで，必ずさび止めが施さ



座　標

れている。さび止め方法は，金属の表面を化学的に不活性で，水分や酸素を通さない構造の物質で被覆し，環境と遮断(しゃだん)すればよい。最も広く行なわれているのは，めっき(金属被覆)と塗装とである。これらはさび止めを目的とするほか，装飾美化の効果も期待されている。

めっきのうちでは，電気めっきがよく行なわれている。たとえば，鉄をよく研摩したのち密着性のよい銅めっきをし，その上にニッケルめっきをし，さらに比較的薄くクロムめっきをする。塗装は俗にペンキと称する塗料をはけで塗り，自然乾燥させるのが普通であるが，これも下塗り・上塗りなどの塗膜を重ねる。さび止めの効果は，おもに下塗りにあるので，下塗りをさび止め塗装，その塗料をさび止め塗料ともいう。自動車や冷蔵庫・洗たく機などの家庭電気製品では，下塗りに電着塗装法を採用し，上塗りは焼付け型の塗料を吹き付けて加熱乾燥する。塗装の前処理としてリン酸処理などの化成処理を行なうと，塗膜の素地に対する密着性は向上する。〔上田重明〕

ザビニー［Friedrich Karl von Savigny］(1779〜1861) ドイツの法学者・政治家。マルブルク大学講師，ランズフート・ベルリン各大学教授を歴任，1842年プロイセンの立法大臣となる。自然法*に対してローマ法*を重視し，法は民族精神の現われであり，また民族文化から内発する歴史的所産であるから，人為的に制定すべきでないと主張して歴史法学の創始者の一人となった。この考えに基づく《立法および法律学に関する現代の任務》(1814)は，ドイツにおける統一法典の制定を主張するチボー*との間に法典論争をひき起こした。主著に《占有論》《中世ローマ法史》《現代ローマ法大系》などがある。〔原田政洸〕

さびびょう【銹病】 サビ菌*の寄生によって起こる植物の病気の総称で，ムギ類では葉・葉鞘(ようしょう)・穂に黄色・だいだい色・赤かっ色・濃かっ色の斑点(はんてん)(夏胞子層)を生じ，これから盛んに胞子が飛散して，蔓延(まんえん)する。ムギの成熟期になると，ごま粒状の小黒点(冬胞子層)ができ，発芽して小生子を生じ，小生子がムギから飛散して，アキカラマツ類・ヘビノボラズ類・トリトマラズ類などの中間宿主に寄生・越冬することが多い。発病したムギの葉は同化作用が衰え，早く枯れるので，穂数・粒数が減少し，くずムギを多く生じて減収となる。防除法は中間宿主植物を除去して菌の越年を防ぐとともに，抵抗性品種を用い，厚まきにせず，窒素肥料過多にならぬように栽培する。発病したときは石灰イオウ合剤・ジネブ剤・イオウ粉剤などを散布する。ナシ・リンゴの赤星病*もさび病の一種で，菌はビャクシン類で越冬し，マツのコブビョウ菌もクヌギを中間宿主とするが，インゲン・ネギのサビ菌は中間宿主を必要としない。〔渡辺　実〕

ざひょう【座標】 点の位置を表わす数の組。直線上の点の位置は1個の数で表わされ，平面上の点の位置は2個の数の順序対で表わされ，また，空間内の点の位置は3個の数の順序のついた組で表わされる。直線上に原点Oと単位点Eを定め，OEの長さを単位として原点からその直線上の点までの距離をはかり，Oに関してEと同じ側にある点には正の実数を，Eと反対側にある点には負の実数を対応させる。たとえば，Eと同じ側でOからOEの2倍の位置にある点には＋2を，Eと反対側でOEと同じ長さだけOから離れている点には−1を対応させる。このようにするとき，直線上の点と実数とは1対1に対応する。この実数をその点の座標という。

座標を定めるしくみを座標系といい，平行座標系・極座標系などがある。平行座標系で座標軸が直交している場合を直交座標系，そうでない場合を斜交座標系ともいう。平面は平行座標系で四つの割合に分けられるが，それぞれの部分の内部を象限という。∠xOy, ∠yOx′, ∠x′Oy′, ∠y′Oxの内部をそれぞれ第I象限・第II象限・第III象限・第IV象限という。空間の座標系には，このほか柱座標系がある。➔平行座標　➔極座標　➔デカルト〔青柳雅計〕

サファイア［sapphire］ 宝石名で，コランダム*のうち濃青色透明のもの。成分はAl_2O_3　薄青色から濃青色を呈する原因は0.1〜0.2%の二酸化チタンおよび少量の酸化鉄を含むためである。鉱物としては濃赤色のルビー*と同種で，ダイヤモンドの次にかたい。微小な不純物が規則正しく並んでいるものは，適当な方向から見ると6条の星光が浮いているように見え，スターサファイアとよばれて珍重されている。多くの

火成岩，特にセンチョウ岩，ペグマタイト中および変成岩のうち片麻岩や片岩中に産する。日本では岐阜県苗木・福島県石川に産し，美しいものはセイロン・カシミールなどに産する。人工サファイアは，酸素炎中でアルミナをとかし，コバルトおよびチタン塩を加えて着色し，結晶化させてつくる。宝石として，天然サファイアと区別がつかない。人工サファイアは軸受け・レコード針などに用いられ，大量に生産されている。9月の誕生石として，また45年めの結婚記念の宝石としてよく知られ，誠実を表わすとされる。〔加藤敏郎〕

サファビーちょう【サファビー朝】近世イラン王朝(1502～1736)。創始者イスマイル。シーア派のイスラムを奉ずる伝統的イラン民族国家であるが，スンニー派のオスマン帝国からの反撃が強く，脅威を避けて主都をタブリーズからカズビン，さらにイスパハンに移した。第5代シャー-アッバス1世は外敵との戦いに勝ち，イスパハンに壮麗な宮殿・モスクを造営し，ヨーロッパとの交渉もひんぱんに行なってその最盛期をつくりあげた。しかし，その死後は，再びオスマン帝国やアフガン族の侵略をこうむり，ついに滅亡した。〔小谷仲男〕

ザブジェ［Zabrze］ポーランド南部，クラクフの西北西80kmにある工業都市。人口20万4,000(1976)。鉄道交通の要地であるとともに，石炭の採掘をはじめ製鉄・機械・化学・ガラス・金属・醸造などの工業が盛ん。パイプラインによって，シュレジエン工業地域へガスを供給している。1939年までは，ドイツ帝国の東の最前線をなしたために，第2次世界大戦中は大きな戦災を受けた。13世紀に起こり，1742年プロシア領となったが，19世紀末までは小寒村にすぎず，その後急速に発展した。1915年にドイツ領となり，市名もヒンデンブルクと改めたが，1945年ポーランド領となって現在の地名にもどった。〔梶川勇作〕

ざぶとん【座布団】和室にすわるときに敷く保温と弾力に富んだ小形のふとん。古くは茵(しとね)とよんだ。座ぶとん地を袋状に縫った中に，綿を入れてつくる。近世の初め南蛮貿易によって移入されたワタは江戸時代にはいって広く栽培が行なわれ，ふとんの中綿として使われてから普及した。座ぶとん地は化繊・合繊・絹・麻などのほかに，パナマ・皮革も用いられる。すわったときのひざがしらから足指先まで(たけ)と腰がのる広さ(幅)が最小限度の寸法であるが，幅よりたけを4cm長くつくるのが普通である。しかし，婚礼に用意するめおと座ぶとんや鏡前座ぶとんのように大形の正方形のものもある。中綿はもめん綿(ふとん綿)が広く好まれているが，最近は合繊綿のものが増大しており，フォームラバー・ウレタンフォームに布をかぶせたものも使われている。〔堀越すみ〕

座ぶとんの仕上がり寸法ともめん綿の分量

種類	たけ	幅	綿の分量
	cm	cm	枚
大形	68	64	6～8
八端判(客用)	60	57	5～7
銘仙判(客用)	57	53	4～5
もめん判(家庭用)	57	53	3.5～5
子ども用	46	46	2
腰掛け用(とも待ち用)	42	38	1～2


サファイア
台湾，馬武督産

サブマージアークようせつ【サブマージアーク溶接】溶接法の一。コイル状の裸溶接棒を用い，溶接部の上に散布したガラス状粉末フラックスの中でアークを出して溶接する。ユニオンメルトともいう。1935年，アメリカのH.E.ケネディによって実用化された。裸溶接棒の送り，進行方向の送り，電流・電圧の制御などすべて自動的に行なわれる。大電流・高速送行が行なえるので能率が高い。軟鋼・高張力鋼・ステンレス鋼の溶接に使用する。〔内田信邦〕

サフラン［saffron］単子葉植物・アヤメ科。南ヨーロッパおよび小アジア原産の球根植物。観賞用・薬用として広く栽培され，日本には江戸時代に渡来した。秋に，多数の針状の葉がさや状の葉に囲まれて，花後に長く伸びる。10～11月に葉の間に淡紫色の花を開く。花は漏斗状で，筒部は細く，先は6枚に分かれ，花柱は黄赤色で上部で三分枝し，たれ下がる。この花柱を切り取り乾燥したものが生薬のサフランで，クロシンやピクロクロシンなどを含む。クロシンはカロチノイド系黄色色素のクロセチンの配糖体であり，ピクロクロシンは加水分解されるとサフラナールとD-グルコースを生じ，香気を有する。このため飲食料の芳香着色料にされる。また，鎮痛・鎮静薬の目的で家庭薬の原料としても用いられる。栽培は温暖で比較的雨量の少ない所が適する。なお園芸ではクロッカス属のうち，秋咲きのものをサフラン，春咲きをクロッカスといっている。〔横井朝子〕

サーブリッグ［therblig］作業動作を構成する最小単位としての要素動作のこと。サーブリッグの図示記号をサーブリッグ記号という。サーブリッグはF.B.ギルブレス(F.B.Gilbreth)が創案したもので，彼の名を逆つづりにしてサーブリッグと名づけた。ギルブレスは18種の要素動作を提唱したといわれるが，〈見いだす〉(find)は省いて，現在では図のように17種が使用されている。また，最近では，図示記号よりも簡便な英字記号が利用されている。ギルブレスはテイラー-システムの貢献者のひとりでもあり，作業内容を要素作業に分割してその所要時間を測定し，作業標準時間を算出することに貢献した。最近では自動的に撮影するカメラを利用したフィルム分析が多くの企業で活用されている。メモモーション分析法やマイクロモーション分析法がその例である。➔作業研究　➔動作研究　➔テーラー-システム　➔次ページ(図)〔清水 晶〕

サブリミナル-プロジェクション［subliminal projection］テレビジョンの画面や映画のスクリーンなどに広告文をごく短時間映し出す広告方法の一種。アメリカの広告研究家J.M.バリカリーが1957年発表した新技法で，人々の意識の壁を乗り越えて，広告文を心の深層に浸透させることをねらって行なわれる広告技術である。アメリカのニュージャージー州で映画の上映中，スクリーンに3,000分の1秒の速さで広告文を映し出したところ，売り上げが増したところから，注目されるに至った。〔須藤泰秀〕

サブレ［sablé］原意は〈砂をまぶした〉というフランス語で，ノルマンディ地方から生まれた干菓子。バターを柔らかくなるまで練ったものに砂糖を入れ，卵黄・香料を加え，その中に小麦粉を入れてこね混ぜ，4～5mmの厚さに形抜きしてオーブンで焼く。ナッツ類・ココア・くだものの皮などを加えて色や味を変える場合もある。

サブロック［subroc］submarine rocketの略称。アメリカ海軍の水中発射対潜攻撃用核爆雷。潜水艦から発射されるといったん空中へ出て飛行し，目標近くの海上に落下，自動追尾装置を作動させ，ホーミング魚雷となって敵潜水艦を追う。重さ約1,800kg，長さ約6m，射程約40km。1964年以来実用化されており，最も強力な対潜兵器の一。

サーベイヤー［Surveyor］月に軟着陸したアメリカの無人探査体。主体は複雑な円錐(えんすい)形のわくに観測器を取り付けたもの。太陽電池とアンテナを編笠(あみがさ)状にいただく。高さ3m，重さ1,125kg。底部に軟着陸用逆推進ロケットをもち，着陸時に3本の緩衝脚が開く。放射線・磁気・温度，月面の振動などを測定し，底部のテレビカメラが着陸まで月面を，着陸後は上向き3個のテレビカメラが回転反射鏡で周囲を撮影し，2mまで伸びる腕の採取した岩粉が分析され，結果はいずれも地球に送られる。1号は1966年6月にあらしの海に着

	記号の名称	サーブリッグ記号		説　　明
①	捜す Search	Sh		目で物を捜す形
②	選ぶ Select	St		選んだ物を指示した形
③	つかむ Grasp	G		手で物をつかむ形
④	から運び Transport empty	TE		からのさらの形
⑤	運ぶ Transport loaded	TL		さらに物を載せた形
⑥	保持 Hold	H		磁石で物を吸いつけた形
⑦	手放す Release load	RL		さらをさかさにした形
⑧	位置決め Position	P		手に物を置いた形
⑨	用意する Pre-position	PP		ボーリングのぴんを立てた形
⑩	調べる Inspect	I		レンズの形
⑪	組み合わせる Assemble	A		物を組み合わせた形
⑫	分解する Disassemble	DA		組み合わせから一つの部分を放した形
⑬	使う Use	U		useのUの形
⑭	避けられない遅れ Unavoidable delay	UD		つまずいて人が倒れた形
⑮	避けうる遅れ Avoidable delay	AD		寝ている形
⑯	考える Plan	Pn		頭に手をあてて考えている形
⑰	休む Rest for overcoming fatigue	R		いすに腰かけた形

サーブリッグ記号

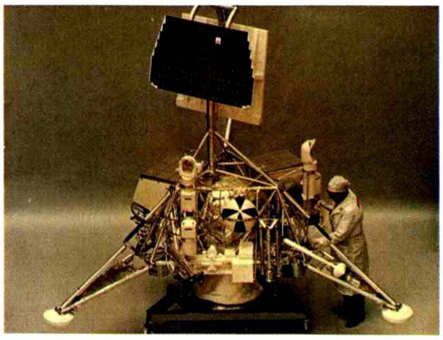
陸して1,000枚以上の写真を電送，1967年4月あらしの海に着陸した3号と，9月静かの海に着陸した5号が土を分析し，月の岩石が玄武岩に似ていること，粉塵(ふんじん)が積もっていないことなどを明らかにした。11月に打ち上げられた6号は中央の入り江に，1968年1月の7号は月の南極に近いチコ-クレーターの北側に着陸，これらも写真撮影と土質検査に成功した。〔原田三夫〕

さべつかかく　【差別価格】 市場で自由競争が行なわれている場合，同じ商品にはただ一つの価格が成立する(一物一価の法則*)。しかし，独占企業がすべての市場を独占することになると，その製品を異なる市場で異なる価格で販売することも可能になる。このように独占企業が利益の最大を目的として同一の製品を異なる市場に異なる価格で販売する場合，その異なった価格を差別価格という。差別価格が実際に効果を発揮しうるのは，購入者がある市場で購入した製品を他の市場で転売しないことが条件になる。国内市場と輸出市場との差別，電気や水道のように企業と購入者が生産設備を通じて結びついている場合の家庭用と工業用の料金の差異や，個人の提供するサービスのように転売が非常に困難な場合などがそれである。➔独占価格　〔藤枝省人〕

さべつかんぜい　【差別関税】 ⇨関税

さべつたいぐう　【差別待遇】 使用者が，雇用および労働条件に関し，特定の労働者を他の労働者と差別して取り扱うこと。

1労働基準法は，労働者をその国籍・信条・性別・社会的身分を理由として，労働条件について差別して取り扱うこと(3条)，また女子であることを理由として賃金について差別的取り扱いをすること(4条)を罰則をもって禁止している。憲法14条の〈法のもとの平等〉を具体化したものである。



サーベイヤー

2労働組合法は，組合員であること，労働組合を結成しようとしたこと，労働組合の正当な行為をしたことならびに労働委員会などへの申し立てを理由に，組合員を他の労働者と差別して取り扱うことを不当労働行為*として禁止している(7条)。不利益取り扱い・不利益待遇ともいう。この規定は，労働者個人の利益の擁護はもちろん，ブラックリストと結びついて長い間組合運動阻止のための使用者側の有力な武器として使われてきた経験から，団結権*という公益を守る観点から定められた。〔木元錦哉〕

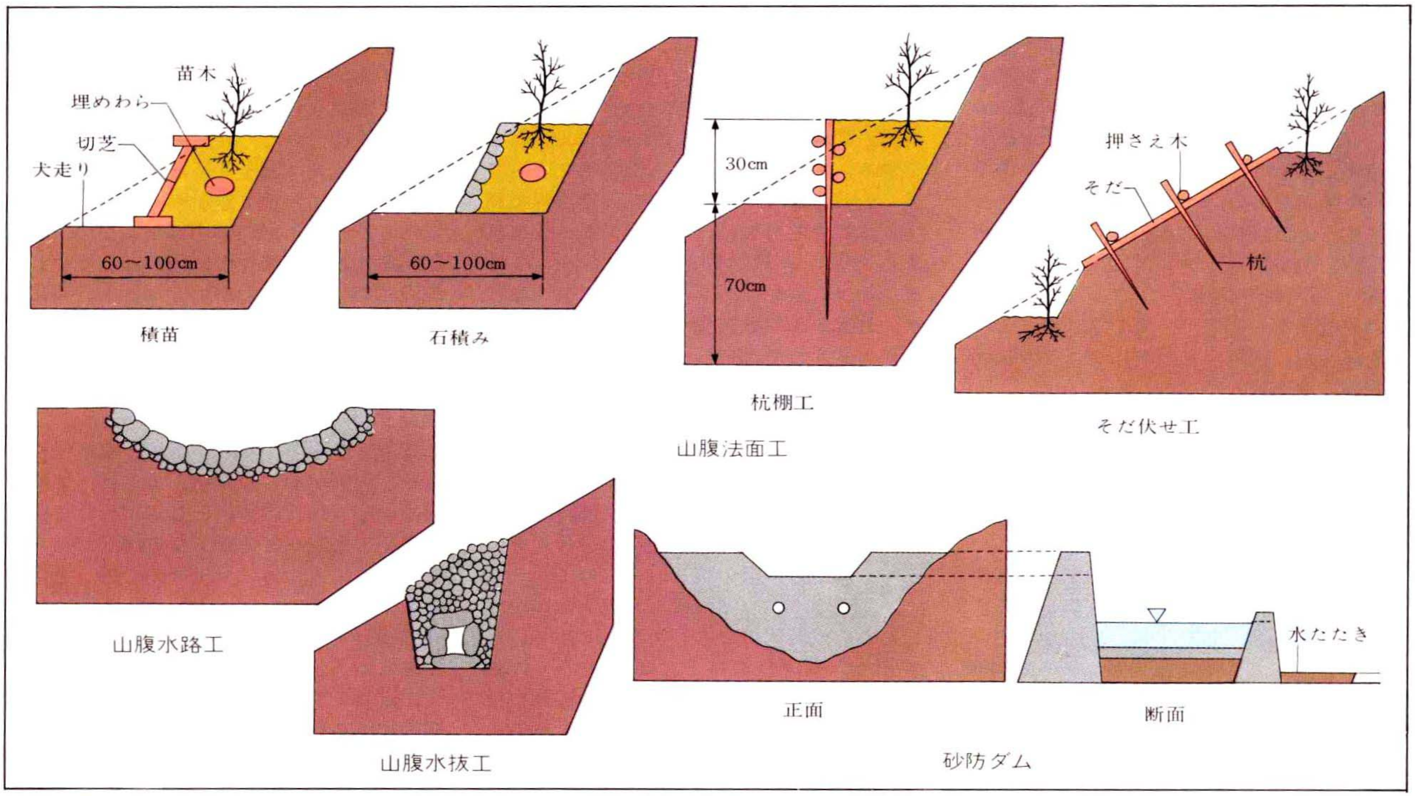
サボ　［sabot］ 木をくり抜いてつくられたくつ。材料にはヤナギ・ハコヤナギ・クルミ・ブナなどが用いられる。通常木ぐつといわれているもので，フランス・オランダでよく知られ，甲の部分に田園調の絵が描かれたもの，甲の部分に皮を使ったガロッシュとよばれるものもある。

サボイけ　【サボイ家】 サルジニア王国*からイタリア王国に君臨した王家。11世紀に創始され，15世紀初めサボイ公を称し，1720年サルジニア島を得てサルジニア王を称した。ナポレオンによって一時本土を占領されたが，ウィーン会議*で復活し，イタリア第1の国家となった。カルロ-アルベルト*のときリソルジメント*にのり出したが成功せず，その子ビットリオ-エマヌエレ2世*は1861年イタリア王国を統一・形成してイタリア王となった。ムッソリーニ*が台頭するとこれと結び，1922年ファシスト政権の成立を許し，第2次世界大戦後の1946年，国民投票の結果王制が廃止されて同家のイタリア支配は終わった。　〔大野慎一郎〕

さぼう　【砂防】 降水・地震・風化による山地の崩壊および土砂の移動を防ぎ，洪水(こうずい)による災害を防止する対策・措置。植林により降水を山地に多く保留して，河川への流出量を調節するとともに，土砂の崩壊・移動を食い止めるため，山はだに対する山腹工，谷間に対する溪流(けいりゅう)工を施す。①山腹工：法勾配(のりこうばい)の緩和を図る法切工，法面(傾斜面)の維持・固定を図る法面工，山腹の排水をよくする排水工，草木の生育を図る植樹工など。②溪流工：各種堰堤(えんてい)工・護岸工・水制工・床固め工など。なお，海岸砂防についても同じように，洗掘・崩壊・移動に対してそれぞれ対策が講じられるが，特に砂丘移動防止には植栽・防護さく・防砂林などが施される。　〔米元卓介〕

さほがわ　【佐保川】 奈良市北西部，春日(かすが)奥山より発し，三笠(みかさ)山・奈良市の北部を過ぎて奈良盆地の中央部を南下，末は大和(やまと)川にはいる。平城京の中心部を流れていたこと，また奈良時代に春をつかさどるとされる想像上の女神が佐保姫と名づけられたことなどから，この川は古歌によくうたわれている。

サーボきこう　【サーボ機構】 変化する状況下において，情報をもとにある目標をたえず追い続ける装置。サーボはラテン語で〈奴隷〉の意。宇宙通信用アンテナが人

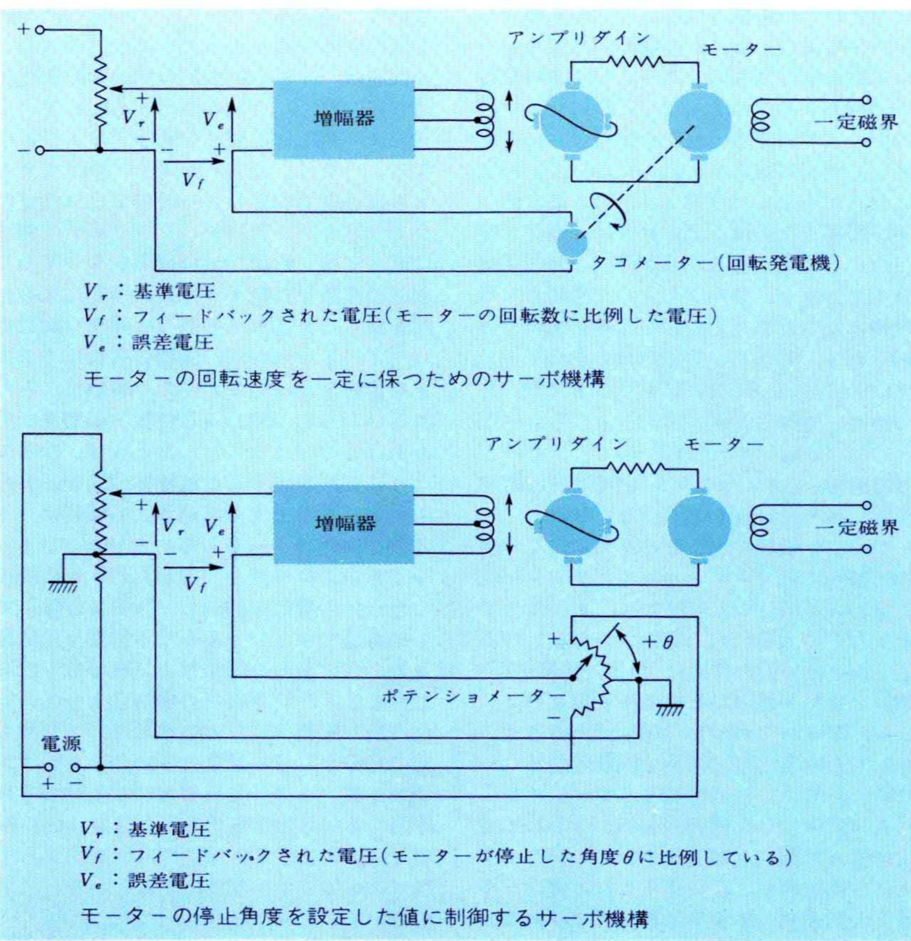


砂　防

工衛星を自動追尾することを考えた場合，情報として人工衛星の方向が得られるので，これに基づいて機械系がアンテナを動かす。その結果得られたアンテナの向きを検出して入力側にもどし（フィードバック），与えられた情報，すなわち人工衛星の方向との誤差が最小になるように追尾する。サーボ機構の入力信号（情報）は電気信号が便利であるが，空気圧または油圧も用いられる。信号の形式としてはアナログ式およびディジタル式があり，後者は精度を要する場合に用いられる。また，出力は，物体の向き・変位あるいは回転角など力学的な量である。出力を出す方法には電気式・空気圧式および油圧式がある。〔内山明彦〕

サポジラ　［sapodilla］　双子葉植物・アカテツ科。チューインガムノキともいう。熱帯アメリカ原産の常緑高木で，高さ20mに達する。葉は卵状楕円(だえん)形で厚ぼったく光沢がある。花は白色鐘状で葉腋(ようえき)に一つずつ下向きにつき，おしべ6，めしべ1よりなる。果実は卵形で甘く，生で食べられる。樹皮に含まれる乳液はゴム質のチクルで，チューインガムの原料となる。

サボタージュ　［sabotage］　労働者が，要求を貫徹するため団結し，使用者に対して，さまざまな方法で業務の運営を妨害する争議行為。大別すれば，①機械・製品などの破壊，毀損(きそん)など積極的手段を講ずる積極的サボタージュ，②ことばによって使用者を攻撃し，その業務を妨害する開口サボタージュ，③作業能率を低下させる消極的サボタージュの3種類に分けられる。



サーボ機構

わが国では，実定法上，怠業という語が用いられているが，この場合は消極的サボタージュを意味する。〔木元錦哉〕

サポテカぶんめい【サポテカ文明】メキシコ高原南部，オアハカ地方にサポテカ族がつくりあげた古代文明。アルバン山を中心に栄えたので，モンテ-アルバン文化ともいう。1世紀初めごろから15世紀まで続いたが，最盛期は6～9世紀。石造の神殿，精緻(せいち)な埋葬用甕(かめ)，前歯の突き出た顔の土器などが有名で，象形文字や天文学も発達した。建築・彫刻ではアステカ文明より想像力に富んでいる。

さぼてん【仙人掌】双子葉植物・サボテン科の総称。シャボテンともいう。アメリカ大陸の原産であるが，帰化植物として東南アジア・アフリカ・地中海沿岸・台湾南部・オーストラリアなどにも広がっている。日本には寛永年間(1624～1643)に渡来し，ほぼ帰化植物化しているものがある。分類学的特徴は，頂花・離弁花冠をもち，子房下位であり，果実は漿果(しょうか)で隔壁がなく，刺座があることなどであるが，著しい特徴は多肉植物ということで，このことから園芸上特別に扱われている。この植物は，アメリカ大陸内部に地殻(ちかく)の大変動が起き，土地の隆起と気象の極端な乾燥化が行なわれ，各地に砂漠(さばく)を生じたときにこの環境に適応した進化を遂げて，植物体組織の一部に貯水構造が発達し，多肉植物となったものである。わずかに数万年の歴史をもつにすぎない非常に新しい植物で，人間の直接の祖先が出現したのと前後して地上に現われた。したがって，地上に自然に出現した植物としては，最も新しく，現在もなお種が固定せずに，進化を続けていると解されるふしが多い。自生地は砂漠であるが，分布が主として熱帯から亜熱帯に及ぶために，しばしば熱帯植物と誤解される。しかし，実際には分布の範囲は北緯50°付近から南緯50°付近にも及び，かつ熱帯・亜熱帯の高原地帯を主たる自生地としている植物が大部分なので，いわゆる熱帯植物とはいいがたく，中には高山植物に近い寒冷を好むものも少なくない。

アニリン染料が現われるまえに，この植物に繁殖するコキニールカイガラムシが紅色染料の原料として重視され，オーストラリアなどで大量に人工栽培されたことがある。自生地付近の住民によって，建築材料・燃料・食料・飼料などに若干利用されているが，限られたわずかな種類であるうえ，もともと砂漠地帯で植物の繁茂が望めないために，たいした期待はできない。それよりも，多肉化した植物の姿態のきわめて変化に富んだ独特な観賞価値や花の美しさゆえに，園芸植物として珍重される場合が多く，人跡未踏の砂漠で困難な採集が行なわれたり，長途文明国にもたらされたりしている。

【名称と分類】英(米)名をカクタスといい，サボテンという日本名は，昔この植物を外国渡来の船員がシャボンの代わりに使ったということに由来するといわれる。本科は原種と変種を合わせて5,000～6,000種以上を含み，古くからいろいろな学者によって多くの分類がなされた。現在，園芸界で利用されている分類は，ブリトンとローズによるアメリカ式分類，バッケベルヒによるドイツ式分類などを中心として数種あるが，日本での伊藤芳夫(いとうよしお)の独特な分類やアメリカでの新しい分類などいっそう細分類化の傾向に向かっており，園芸界からは批判の声があがっている。多くの分類を総合・要約した，現在園芸界で応用されている分類によると，サボテン科をコノハサボテン亜科・ウチワサボテン亜科・ハシラサボテン亜科の三つの亜科に分け，その下にそれぞれ多数の属を設けている。

コノハサボテン亜科は，サボテンが出現したころの時代のおもかげをとどめている植物で，多肉質の枝と，葉(おそらく托葉(たくよう))の変形であるとげと，乾燥期には落葉する大きな葉を備え，普通の落葉樹に似ている。茎はやや多肉質で，非常に顕著な特徴は，若い枝の表皮に比較的永続性のある葉緑素をもち，水分の蒸散を強く抑制する独特な構造の気孔をきわめて少数もっていて，茎の多汁(たじゅう)・多肉な状態を長く保存する性質をもっている点である。この性質は，本科の植物が自生地の乾燥化が進むにつれて，それに進化・適応していくうえに，非常に重要な役割を果たすことになる。つまり，コノハサボテン亜科よりも，さらに砂漠植物として一段の進化を遂げたウチワサボテン亜科やハシラサボテン亜科に至っては，永続性の葉緑素をもつ茎と，水分の蒸散を抑制するために極度に気孔の数を減らし，またその気孔も独特な構造となっている。これが，植物の生理にまで大きな影響を及ぼして，他の一般植物にみられないいろいろ変わった性質・姿態をつくりあげることになった。たとえば，たるのように異様に肥大した植物体(茎)の95%内外までが水分であるというこの植物は，1年間の降雨量1mmから多くてせいぜい200mmぐらいの乾燥地で，根からわずかに吸収した水分の蒸散を抑制し，体内に貯蔵して，1年を過ごすというような不思議な生活をする。この蒸散抑制のため気孔の数を減らしたことと，特殊なその構造によって，同化作用や呼吸作用などの重要なガス交換も，強く抑制される結果になるので，このガス交換を気孔を通して外界と行なう代わりに，体内で独特な化学変化を行なって，同化作用で排出する酸素と呼吸作用で排出する炭酸ガスを体内で相互利用するという方法で処理する。

【栽培】夏は外気と同じ温度，冬は外気よりも多少高温が望ましいので，温室・フレームの中で，比較的開放栽培する。はちはやや小形の素焼きのものを用いる。排水・保水のよい土が適し，あらめの砂2/3，よく腐熟した腐葉土1/3ぐらいの混合土を用いるとよい。大部分のものが温暖な季節が生長期で，冬は乾燥休眠を求めるのが多いので，それを念頭において水をやる。多湿は禁物であり，光線不足の栽培は適しない。なお，砂漠植物として進化の段階が進むにつれて，乾燥に対して抵抗力が強くなると同時に，多湿・多肥を好まなくなるので，ハシラサボテン亜科よりはウチワサボテン亜科のほうが，またそれよりもコノハサボテン亜科のほうが，培養土の腐葉土分をふやし，土の湿りもやや多くする。また，樹木状から柱状，円筒状から短筒状，長球状，球状，扁平(へんぺい)球状の植物となるにつれて，土の多肥・多湿を好まなくなる傾向があるから，栽培にあたっても，その心得を適用する必要がある。

【繁殖】実生やさし木によって容易に繁殖できるが，庭で草花の種子をまくのと違って，はち・土・種子の完全殺菌など多少専門的知識を必要とする。さし木の場合は，傷口を必ず2～3日かわかして清潔な砂にさす。また，頂部をえぐったり，胴切りして，不定芽を多数強制的に発生させ，繁殖材料とする。3～5月ごろがさし木の適季で，実生は4～5月ごろから盛夏へかけて行なう。つぎ木も容易であるが，じょうぶで生育力の盛んな植物を台木にする。台木の頂部と穂木を切断して直ちに接着させ，糸で結ぶ。

【多肉植物】すでに述べたとおり，サボテン科の植物は，多肉植物の一つであるが，サボテン科だけで100属以上5,000～6,000種以上の植物を含む大きな群であるため，ふつうサボテン科の植物を多肉植物とよばない園芸上の習慣がある。また，それとは別に，サボテン科の植物とそれ以外のいろいろな科属の多肉植物を一まとめにして，園芸的にサボテンまたはシャボテンとして扱う場合が非常に多い。したがって，サボテン栽培園やその販売商・栽培書には，必ずといっていいくらい，サボテンとその他の多肉植物もいっしょに扱っている。多肉植物は，ユリ科・ヒガンバナ科・ヤマノイモ科・ツユクサ科・ザクロソウ科・ベンケイソウ科・マメ科・クラスラ科・ガガイモ科・ゴマ科・ウリ科・キク科など数十科100属以上に及び，これまた5,000～6,000種以上を擁するので，サボテン科に匹敵する一大園芸部門を形づくり，世界に多くの研究家や愛好家をもっている。サボテン同様砂漠地に自生して，かなり似た性質をもっているので，サボテンとともに栽培し観賞するのに適している。栽培にはサボテン科の植物よりも多少温度が低くてもよく，また多少ともより多肥・多湿であるのを好み，中にはかなり弱光線であっても栽培できるもの

サボテン



桜キリン(木の葉サボテン)



紅花ウチワ



毛柱サボテン



美花角



翠蟠玉



鳳頭　応天門



上は金王丸，下は黄金丸



砂漠丸



王翁



青王丸



鯱頭



紫盛丸



金鯱

多肉植物



鬼子母神(ヒガンバナ科)



水蓮華(ベンケイソウ科)



魚尾冠(ベンケイソウ科)



スタペリアーヒルスタ(ガガイモ科)

がある。最近ではサボテン科よりも多肉植物のほうが家庭園芸的には愛好者がふえている傾向にある。

なお多肉植物のうち，ザクロソウ科の植物体(葉)が球状を呈するリトープス属・コノヒーツム属・アルギロデルマ属・ディンラテンツス属などや，キク科のオトンナ属，クラスラ科の大部分のものは，冷涼な季節を生長期とするのが大部分なので，6～8月以後，9月ごろまでは極力涼しく乾燥させ，10月から冬を通して3月ごろまでの生長期にだけ水やりをする心得が必要である。〔龍胆寺雄〕

サボナローラ［Girolamo Savonarola］(1452～1498) ドミニコ会出身のキリスト教の予言的改革者・詩人・哲学者。幻視という神秘的体験によって神の使者としての自覚を得，キリスト教界の堕落を激しく攻撃し，サン-マルコ修道院次長のときに教皇と衝突して破門される。初期の説教は理性と《聖書》に基づいていたが，しだいに神秘的体験を語りはじめ，それに超自然的な権利を認めるよう主張，異端者としてフィレンツェで火刑に処された。キリストにならって質朴(しつぼく)な生活を送ること，信仰が理性と矛盾しないこととするなどの点で，トマス-ア-ケンピス・トマス-アクィナスの影響を受けている。〔玉井　治〕

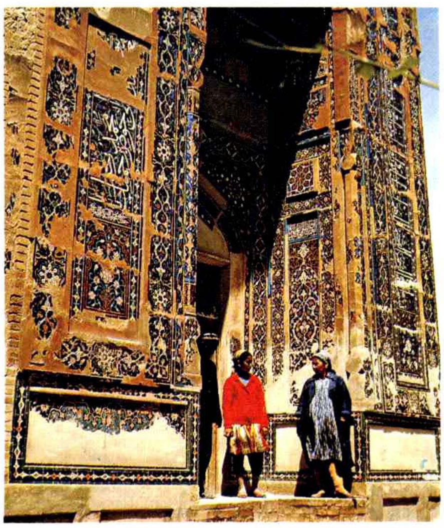
サポニン［saponin］植物中に含まれる一群の配糖体の総称。その水溶液があわだつのが特徴。無定形の粉末で，加水分解によってステロイド系またはトリテルペン系のサポゲニンと糖になる。一般に経口的には無毒で苦いものが多く，血管内に入れると赤血球をこわし，溶血を起こす。おもに種子植物中に含まれ，去痰(きょたん)薬のキキョウ根，強心薬のジギタリス葉などに多い。

ザボン【朱欒】双子葉植物・ミカン科。暖地に栽培されている常緑高木で，高さ10m以上に達する。葉は大形の長卵形で先がとがり，長さ20～25cmで鋸歯(きょし)がある。初夏，葉腋(ようえき)に白色の五弁花をつける。果実は冬，黄熟し，人の頭ほどの大きさになり食べられる。ミカン類の中で最も大きな果実である。砂糖づけを文旦(ぶんたん)づけといい，鹿児島の名産。果実が西洋ナシ形のものはブンタンともよばれ，果肉が紫色のものをウチムラサキ，白色のものをザボンという。

ザボンそう【朱欒草】双子葉植物・ナデシコ科。ヨーロッパ原産の多年草で日本へは薬用植物として明治初年に渡来。茎は高さ30～80cm。葉は対生し，長さ5～10cm。枝や葉を切るとせっけんのようなあわが出る。5～7月にかけて茎の上部に径2.5cmほどの白色または淡紅色の五弁花をつける。根にサポニン*を含み，去痰(きょたん)薬・体質改善薬として用いられる。また観賞用としてライラック色や桃色の変種，八重咲きなども栽培される。



サボナローラ フィレンツェ市政庁前の広場で火刑に処せられるサボナローラ　サン-マルコ美術館蔵



サマルカンド 市内には14～15世紀ごろにつくられたイスラム建築の遺跡が多い。写真はその一つで，シャヒ-ジンダの墓所

ざま【座間(市)】神奈川県中央部にある市。人口92,000。1941年(昭和16)現在の相模原(さがみはら)市にあたる相模原町の一部となったが，1948年分離・独立，1971年(昭和46)市制施行。相模川中流域の左岸にあり，市域はその沖積(ちゅうせき)低地と相模原台地にわたっている。江戸時代には宿場町・市場町として栄えた。かつて台地には陸軍士官学校をはじめ軍用施設が多く設けられて軍都として発展したが，第2次世界大戦後陸軍士官学校は在日アメリカ軍司令部となり，そのほかの軍用地は工場敷地などに転用されている。クリ・イチゴを産し，ブタは高座ブタとよばれて知られる。国鉄相模線と小田急線が通ずる。産業三大別人口比は2：48：50。

さまに【様似(町)】北海道，日高支庁南部，様似郡の1郡1町の町。人口8,100。北海道としては気候が温和で早くから開け，1804年(文化1)幕府はここに蝦夷地(えぞち)三寺の一つ天台宗等澍院(とうじゅいん)を建て和人の葬儀や追善にあたらせた。1952年(昭和27)町制施行。太平洋に面し，様似川の河口付近に日高本線の駅を中心とした市街地が発達している。陸繋島(りくけいとう)を利用した様似港は良港に乏しい日高地方の漁業の中心で，サケ・マス・コンブなどの水揚げが多い。日高本線の終点で，ここから多額の費用をかけて建設した〈黄金道路〉と通称される国道236号線が襟裳岬(えりもみさき)を経て広尾線の終点広尾まで走っている。襟裳道立自然公園の観光基地で，東部のアポイ岳(811m)の高山植物群落は特別天然記念物に指定されている。

サマラン［Semarang］インドネシア共和国，ジャワ島北海岸中部にある港市。人口64万7,000(1971)。中部ジャワの伝統文化の中心ジョグジャカルタ地方への北からの入り口にあたる。海陸交通の要点で，港は浅いが，ジャカルタ・スラバヤとともにジャワ三大港の一つで，商業が盛んである。市は低地の商業地区(ボジョン)と，背後の丘陵地を利用した住宅地区(チャンディ)とに分かれる。西南部のディエン高原には史跡がある。〔別技篤彦〕

サマリア［Samaria］パレスチナ中央部，死海の北西方の丘陵上にある古都。BC875年にオムリ王によって建設され，BC722年アッシリアに攻略されるまでの約150年間，イスラエル王国の首都として栄えた。アッシリアに攻略されたとき住民は奴隷として連れ去られ，アッシリア人が移住した。第2次世界大戦後，ヨルダン王国の領土となり，1967年イスラエルに奪還されたが，帰属は未解決のままになっている。

サマリウム［samarium］周期律表第Ⅲ族に属するランタニド元素。記号Sm，原子番号62，原子量150.35。1879年フランスのボアボードランによって，サマルスキー石から発見された。灰色の光沢がある金属で，かたくてもろい。比重7.7～7.8。融点1,300℃。2価または3価の化合物をつくる。2価の塩の水溶液は還元性をもっている。

サマル(島)［Samar］フィリピン諸島3番めの大島で，ルソン島の南東にある。面積13,411km²。北西から南東に山脈が走り，土地は肥沃(ひよく)で，大麻・サトウキビ・米・ココナツ・コーヒー・カカオ・タバコを産する。ほかに木材・竹・ロウ・石炭・金・銅を産する。

サマルカンド［Samarkand］ソビエト連邦，ウズベク共和国サマルカンド州の州都。1924～1930年の間はウズベク共和国の首都であった。人口30万4,000(1976)。ゼラフシャン川の南岸にあり，鉄道でタシケント・ブハラに結ばれている。機械・化学・ぶどう酒醸造・かんづめ・皮革・綿・絹などの工業が盛んであり，大学・研究所・歴史民族芸術博物館などの文化施設をもつ。中央アジア最古の都市の一つで，シルクロードによって栄えたオアシスの町として有名。

紀元前4世紀ごろマラカンダとよばれてソグド人の都市であったが，のち回教徒の東方発展の基地となり，13世紀にモンゴル人によって破壊された。のちチムール帝国の首都として復興し，現在も回教文化のおもかげを残す建築物，チムール王の墓所など多数の遺跡が保存されている。〔斎藤晨二〕

サマルスキーいし 【サマルスキー石】 放射能鉱物の一。$(Fe, Ca, UO_2)_3(Ce, Y)_2(Nb, Ta)_6O_2$ 斜方晶系。硬度5～6，比重5.6～5.8。ガラス光沢ないし樹脂光沢。黒色で，おもにペグマタイト中に塊状または柱状結晶として産する。放射能が強い。

サーマンちょう 【サーマン朝】 (874～999) 中央アジアのイラン系王朝。874年にナスルがマワランナフルを中心にしてアッバス朝から独立し，900年その弟イスマイルがサッファール朝を滅ぼして，ブハラに都し，王朝の最盛期が開幕したが，10世紀半ばごろから衰えはじめて，999年カラ-カン朝に滅ぼされた。

サーミスター ［thermistor］ thermal sensitive resistorの略。大きな負の温度係数をもった半導体素子。周囲の温度に敏感な抵抗体で，半導体の抵抗値が，温度が上がると急に下がる性質を利用したものである。マンガン・ニッケル・コバルトなどの酸化物を混合して1,000℃以上の高温でガラス状にとかし，2本の導線の間にビーズ状に形成して用いる場合が多く，酸化物の混合比を変えることにより温度係数を調整することができる。高感度の温度測定，増幅器の自動利得調整，トランジスター増幅器の温度特性の改善など多くの電子回路や電熱機器に用いる。〔伊藤糾次〕

さみだれ 【五月雨】 陰暦5月ごろ，梅雨時に降る長雨。➔梅雨

サムエルソン ［Paul Anthony Samuelson］ (1915～) 現代アメリカの代表的経済学者。シカゴ・ハーバード両大学で経済学を学び，現在マサチューセッツ工科大学経済学部教授として教鞭(きょうべん)をとっている。世界的に指導的な経済理論家で，その著《経済分析の基礎》(1947)は，雇用・生産・分配・価値に関する諸理論に貢献しただけでなく，動学的経済理論の前進に大きく役だった。彼の立場は，ケインズ以後の経済学とそれ以前の新古典派経済学との理論的結合によっている。1947年にアメリカ経済学界から最初のジョン-ベーツ-クラーク賞を受け，1970年度ノーベル経済賞を受賞した。主著に経済学の入門書《経済学》(上・下)，《乗数理論と加速度原理》《線型計画と経済分析》などがある。〔松浦　保〕

さむかわそこつ 【寒川鼠骨】 (1875～1954) 俳人。愛媛県松山市の生まれ。《大阪朝日新聞》を経て新聞《日本》，雑誌《日本及日本人》などの記者をつとめた。俳句を同郷の正岡(まさおか)子規に学び，子規の《寒山落木》を編集，《子規俳句評釈》《随攷(ずいこう)子規居士(こじ)》《正岡子規の世界》などを著わし，また《写生文作法》《寒川鼠骨集》の著作がある。第2次世界大戦後は子規庵(しきあん)の復興に努め，そこに住み，そこに没した。



サム-フランシス
《作品》 1960

さむけ 【寒気】 不愉快な寒さを感じることで，悪寒(おかん)ともいう。体温の急な上昇に伴い，皮膚の血管が収縮して毛穴が閉じ，熱が体内から放散しないようにする防衛反応で，このとき寒さを感じる。これに引き続いて発熱がみられる。体温の上昇がさらに急激であると，皮膚が蒼白(そうはく)となり，全身(特に四肢(しし))に激しいふるえが起こる。この状態を悪寒戦慄(せんりつ)といい，急性伝染病・ジフテリア・敗血症などでみられる。〔清水喜八郎〕

サムソン ［Samson］ 《旧約聖書 士師記》に現われるイスラエルの英雄。イスラエルの民が異教徒ペリシテ人の圧政に苦しんでいたとき，ヤーウェ神から怪力を授かり，イスラエルの指導者としてペリシテ人に反抗した。やがてペリシテ人の娘デリラの誘惑に負けて怪力の秘密を知られ，ペリシテ人に捕えられた。しかしペリシテ人の祭りの日，奇跡的に怪力を回復し，神殿の石柱を折って破壊し，みずからも死んだ。

サムナー ［William Graham Sumner］ (1840～1910) アメリカの社会学者・経済学者。1872年エール大学ではじめて社会学の講義を行ない，アメリカ社会学成立期の開拓者的役割を果たした。スペンサーの社会学を導入し，社会制度の実証的研究を推し進め，習俗(社会に行なわれる慣習的行為)・モーレス(社会が存続するために必ず守られなければならない重要な習俗)などの概念を設定して文化の社会学的研究の基礎をすえた。主著に《習俗論》がある。〔国近浩一〕

サムナー ［James Batcheller Sumner］ (1887～1955) アメリカの生化学者。ハーバード大学卒業後，ヨーロッパに留学したのちコーネル大学教授。ナタマメの尿素を分解する酵素ウレアーゼを材料にして，1926年，はじめて酵素の結晶化に成功，酵素の主成分がタンパク質であることを証明した。この業績は，タンパク質のような巨大分子が，生命現象において基本的な役割を果たしている事実を具体的に示した点で，分子生物学の礎の一部を構成している。1946年ノーベル化学賞を受賞。〔中村禎里〕

サム-フランシス ［Sam Francis］ (1923～) アメリカの画家。1947年に抽象画家として出発し，1950年パリでリオペルらとともに活躍。ドリッピング(たらし込み)による描法が特徴的。数次の来日でなじみが深い。

さむらい 【侍】 〈士〉とも書く。武士の称。〈さぶらう〉という語の名詞形で，もと公家(くげ)・貴人に近侍する者の呼称であった。平安中期以降，武士階級の成長に伴い，武士の中には摂関家(➔摂家)や院に伺候する者もあり，諸公卿(くぎょう)家でも警固の侍に武士を重用するようになったので，しだいに武士一般を侍と称するようになってきた。

さむらいどころ 【侍所】

1 平安時代，親王・摂関家(➔摂家)などに従う侍の詰め所，およびその家務の執行機関。

2 鎌倉幕府の政治機関。御家人の統制をおもな職務とする。1180年(治承4)に設置され，別当(長官)に和田義盛(よしもり)が補せられた。1213年(建保1)和田氏滅亡後は執権北条(ほうじょう)氏の兼職となり，検断沙汰(けんだんさた)(刑事訴訟)も加えるなど，しだいにその権限が強まった。

3 室町幕府の政治機関。鎌倉時代の先例にならって置かれたもので，長官を所司といい，山名・赤松・一色・京極(きょうごく)の4氏が交替で就任(四職(ししき)とよぶ)し，山城(京都)の守護職を兼帯することが多かった。〔鹿野賀代子〕

さめ 【鮫】 ⇨八戸(はちのへ)市

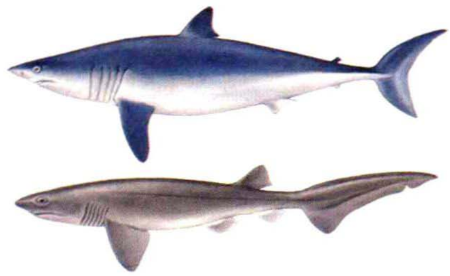
さめ 【鮫】 現生の軟骨魚類のうち，エイ類(板鰓(ばんさい)亜綱エイ目)とギンザメ類(全頭亜鋼)を除いた残りの魚(板鰓亜綱サメ目)を，一般にサメ(関西ではフカ，山陰地方ではワニということがある)という。体が細長く，表面には楯鱗(じゅんりん)というう ろ

こが密に並んでいて，ざらざらしている。このうろこは，他の魚類のものとは違い，歯と同じ構造をもつ。口は腹側につき，数列の鋭い歯があり，外側の歯がすり減って落ちると，内側の歯が順次せり出してきて交替する。目には瞬膜をもつものがある。尾びれは大きく，上半分(上葉)のほうが長い。胸びれの大きい種類が多い。えら穴はふつう5対(カグラザメ・ラブカは6対，エドアブラザメ・エビスザメは7対)あり，胸びれの前の体側に開く。頭部側面に噴水孔をもつものが多い。うきぶくろはない。硬骨をもたないが，ツノザメ類(ツノザメ亜目)とネコザメ類(ネコザメ亜目)では背びれの前縁に鋭いとげをもっている。すべてが体内受精を行ない，雄は腹びれ後縁に1対の交尾器をもつ。受精卵は，じょうぶな卵殻(らんかく)に包まれて外界に産み出される場合(卵生，ナヌカザメ・ネコザメなど)と，胎内で孵化(ふか)してから産み出される場合(卵胎生，オナガザメ・ラブカ・カグラザメ・ノコギリザメなど，ほとんどのサメ)とがある。卵生のものも卵胎生のものも産卵数は少ない。卵胎生のものでは，一般にオナガザメの4尾からノコギリザメの数十尾までの範囲内にある。大西洋産のサンド-タイガー-シャーク(ミズワニ科)では，わずか2尾である。これは，胎内で先に発生を始めた2尾が，他の卵を食べて成長するためである。

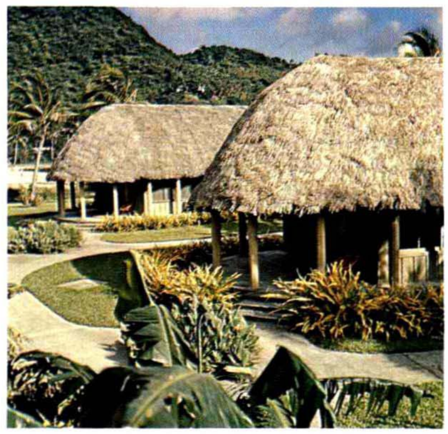
サメは世界に約250種あり，7亜目・19科に分かれている。ときに汽水域や淡水域に侵入するものもあるが，純粋に淡水中で生活するのは，中央アメリカ，ニカラグアのニカラグア湖にすむカルカリヌス-ニカラグエンシス(メジロザメ科)ただ1種のみである。日本近海には約80種を数え，生きている化石ともいうべきラブカ*やミツクリザメ*などの珍種を含む。このほか，深海にすみ，体長に発光器をもつカスミザメやフジクジラ，上下に押しつぶされたような形をしたコロザメやカスザメ，吻(ふん)がノコギリのようなノコギリザメ，体表と尾びれ上葉の長さがほぼ等しいオナガザメ，目が両側に飛び出したシュモクザメ，サザエを殻(から)ごとかみ砕いて食べるネコザメ，世界最大の魚であるジンベエザメ，2番めに大きいウバザメなどが知られる。

サメは肉の美味なものも多く，ほとんどの種類が食用とされているが，ツノザメ類の肉が生食されるほかは，ほとんどがかまぼこその他の練り製品の原料にされる。ヨシキリザメ・シュモクザメなどのひれは中国料理の材料としてとうとばれ，アイザメなどの肝臓からとれる油(スクワレン)は，化粧クリームの原料として重要である。また，サメの皮はなめしてやすりとして用いられる。日本でのサメ類の漁獲量は，年間50,000～60,000tである。

サメの中には海水浴客や海上の遭難者などを襲うものがあり，恐れられる。世界で



サ　メ　(上)全長7mになるアオザメ　(下)全長8mになるカグラザメ



サモア諸島　気候・風土に適応した屋根と柱をもつ開放的なサモアの住居。アメリカ合衆国領東サモアのツツイラ島

年間30人内外がサメのために殺されているといわれるが，日本近海での被害は少なく，ほとんど水温20℃以上の熱帯・亜熱帯水域に被害が集中している。世界で約12種といわれる人食いザメのうち，悪名の高いものは，ホオジロザメ・シュモクザメ・アオザメや，オーストラリアのオーストラリアン-ホエーラー-シャーク・グレイ-ナース-シャークなどである。大西洋のサンド-タイガー-シャークは胎児まで気が荒く，胎児に手をかまれた人がある。ジンベエザメ・ウバザメなど小魚しか食べない種類を除き，体長3mを越えるサメはどの種類のサメでも危険だといわれる。サメの襲撃を避けることは，古くから海に暮らす人人が強い関心をもった問題で，日本の漁師はかつて赤ふんどしを愛用し，地中海の船乗りは船からサメにパンを投げ与えたが，いずれもまじないの域を出ないものであったことはいうまでもない。第2次世界大戦中に，南太平洋の洋上に不時着した飛行機の乗員たちをサメから守ることを主眼にして，アメリカで対策が練られ，サメが忌避して近寄らぬ薬品として，70種以上の試作薬品の中から，酢酸銅を主成分とする忌避剤が開発された。しかし，この薬品は大西洋のサメには効を奏したが，太平洋のサメにはきかなかった。

サメには，自分を含む動物の血に興奮して狂暴になる性質が著しく，また他の動物が弱ったり，苦悶(くもん)したりしていると襲いかかる性質がある。そのため，サメのいる海では，モリで突いてとった血の流れる魚を身につけて泳ぐのは危険である。また，現われたサメを追い払おうとして，水面をたたいて水しぶきを上げたりすると，かえってサメを興奮させ，攻撃を受けやすい。〔菅野　徹〕

サーメット　［cermet］　ジェットエンジンの高性能化に伴い，通常の溶解法でつくられる耐熱合金*よりもはるかにすぐれた耐熱性をもつ材料として開発された材料。この材料の特徴は，耐火物の耐熱性と金属の靭性(じんせい)を兼備させようとして，両者を組み合わせたところにあり，微細な耐火物粒子を金属で結合させた一種の分散形複合焼結合金とみることができる。通常耐火物の量は30重量パーセント以上であって，各種の炭化物・酸化物・ホウ化物などの耐火物，結合金属としてはニッケル・コバルト・鉄，あるいはこれらの合金などが用いられ，各種の組み合わせが検討されたが，中で炭化チタン-ニッケル系のサーメットがよく知られている。〔藤井康次〕

さめはだ　【鮫肌】　皮膚の表面がざらざらしてサメの皮をなでるような感じがするものをさす俗称。毛孔性苔癬(たいせん)・尋常性魚鱗癬(ぎょりんせん)・アトピー性皮膚炎・小児乾燥性湿疹(しっしん)などの皮膚病が含まれる。前二者はビタミンAの内服や注射，サリチル酸軟膏(なんこう)，ビタミンA・D軟膏などの塗擦，脂肪分の多い食品をとるとよいが，いずれも難治である。後二者は湿疹*や皮膚炎*の治療をする。

ザメンホフ　［Lazarus Ludwig Zamenhof］　(1859～1917)　エスペラント*の創始者。ポーランドの眼科医。ユダヤ人・ポーランド人・ドイツ人・ロシア人など，異なる言語を話す民族が住むビアリストクのユダヤ系の家に生まれ，異民族間の反目の原因が言語の違いにあることをみて国際語*の必要性を感じ，エスペラントを考案した。1887年，最初の学習書《国際語》をエスペラント(希望する者の意)博士の名で発表，その普及に努めた。〔北村　甫〕

サモア(諸島)　［Samoa］　南太平洋のポリネシアにある群島で，三つの大島と七つの小島からなる。面積3,114km²。高温多雨の気候で密林が茂り，タロイモ・ヤムイモ・パンノキ・ココヤシ・カカオ・バナナを産する。1722年オランダの航海者J.ロッヘフェーンが発見。19世紀にはイギリス・ドイツ・アメリカ合衆国の3国が関心を寄せ，1899年にアメリカとドイツとで分割し，アメリカはツツイラ島・アウヌス島，ドイツはサバイ島・ウポル島・アポリマ島・マノノ島を領有した。第1次世界大戦後，ドイツ領の部分はニュージーランドの委任統治地となり，1962年に西サモアとして独立した。アメリカ領サモアの中心地ツツイラ島

のパゴパゴは良港。ウポル島はR. L. スチーブンソンが晩年の4年間を過ごしたことで知られる。→西サモア　〔大崎　晃〕

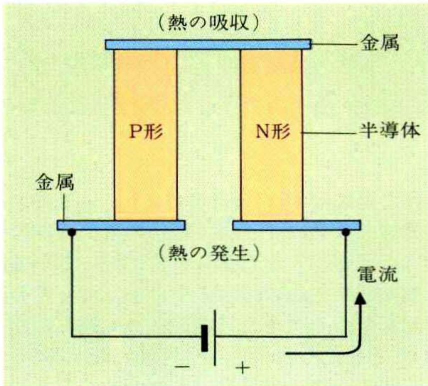
サーモエレメント　[thermoelement]　ペルチエ効果*による熱の発生現象を利用した，冷却あるいは加熱用の素子。ふつう2種の金属を接触させ，これに電流を流してペルチエ効果を発生させるが，2種の金属の代わりにP型とN型の半導体*を使用してもよく，ビスマスあるいはアンチモンとテルルの化合物半導体を用いると高い効率が得られる。接触部の電流の向きを変えると，発熱部と吸熱部が反転する。

サモスえいせい　【サモス衛星】　アメリカの軍事偵察(ていさつ)用衛星。satellites and missile observation systemの略称。1961年1月31日カリフォルニア州ポイントーアーゲロ基地からの打ち上げではじめて軌道に乗った。重さ1,860kg，極軌道*，遠地点547km，近地点475km，周期95分。第3号以降の詳細は発表されていないが，ミダス衛星などとともに，中国の核実験の探知にも使用されているといわれる。

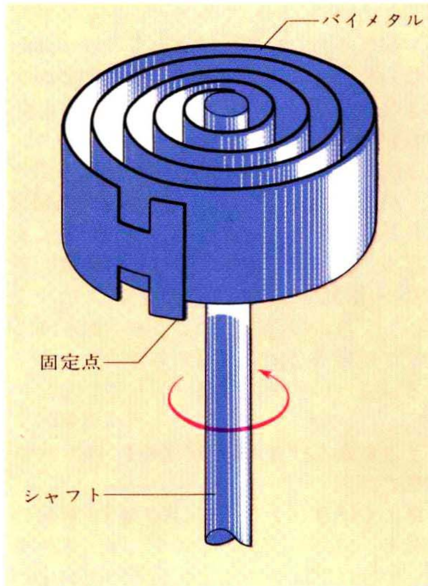
サーモスタット　[thermostat]　自動的に温度を一定に保つ装置。電熱器具・ガス器具・炉・恒温槽(こうおんそう)などに用いられる。方法には次のようなものがある。①金属の線膨張を利用したもの：バイメタル*を用い，その温度変化によるそりによって電気接点を開閉するもので，最も一般的である。②液体の体膨張を利用するもの：熱膨張率の大きいトルエン*と水銀を組み合わせ，これの温度による体膨張を利用して電気接点の開閉を行なわせるもので，恒温槽に用いられる。③温度による電気抵抗の変化を利用するもの：サイリスター*の温度による抵抗特性を応用し，継電器を通じて電気接点を開閉するものである。　〔田村康男〕

ざもと　【座元・座本】　江戸では座元，上方では座本と書いた。江戸の座元は歌舞伎(かぶき)劇場の持ち主で，幕府から興行権を与えられていた者をさす。〈太夫元(たゆうもと)〉ともよばれ，世襲であった。上方の座本はそのときどきの興業の代表者の称で，一座の俳優から選ばれた。なお，座本に対して興業主は名代とよばれた。

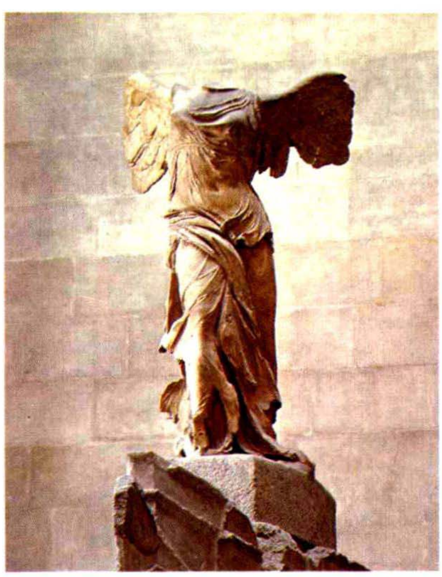
サモトラケのニケ　大理石による名作の声の高いギリシア彫像。〈ニケ*勝利女神像〉ともいわれ，1863年エーゲ海のサモトラキ島から出土した。建立は紀元前2世紀と推定され，シリア王アンティオコス3世(BC242～BC187)に対するロドス人の勝利を記念したものと考えられている。海からの風を受けて，両翼を広げて船の舳(へさき)に立ち，失われてはいるが，おそらく勝利の標識を右手に持っていたと思われる。首と両腕は欠失しているが，頭部は左に向いていたと思われ，左側面から見るように制作されていたという。なお，1950年の現地の再発掘などによって，右手薬指部分などが発



サーモエレメント　構造例



サーモスタット　バイメタル温度検出器の構造



サモトラケのニケ　ルーブル美術館蔵

見されている。

サモワール　[samovar]　ロシア・ソ連特有の湯沸かし器。中心に火のはいる筒が立ち，その周囲が水槽(すいそう)になっている。種々の形があり，中心の火槽は鉄製，周囲の水槽は銀・銅・スズなどでつくられる。18世紀，紅茶の普及に伴って発達した。

さや　【紗綾】　地を平組織，文様を四枚綾(あや)組織とした絹織物。白生地として織り，多くはあとで加工して用いられた。代表的な京紗綾では文様は雷文に限られていた。今日，一般に雷文を紗綾形とよぶのはそれによるものと考えられる。地がしっかりしていて張りもあるが，つやや柔らかさに欠ける。そのため，衣服の生地として用いられたが，主として男物に利用された。天正年間(1573～1591)に織りはじめられたといわれ，江戸初期には需要が多かったが，幕末以後は姿を消してしまった。〔北村哲郎〕

さや　【鞘】　刀身を納める具。口を鯉口(こいぐち)といい，鐔(つば)のない短刀・匕首(あいくち)では直接柄尻(つかじり)に接する。金具には一の足・二の足という足金物があり，鐺(こじり)との間に責め金物がある。足金物は帯執(おびとり)によって帯にはくためのものであり，また責め金物とともに鞘木の離れるのを防いでいる。打ち刀は帯にさしたので帯執および足金物がなく，代わりに反角(かえりづの)と栗形(くりがた)がつく。ともに帯にさしたとき，鞘の落ちるのを防ぐものである。栗形には下緒を結ぶ。鞘の表面は漆塗りや糸巻きにしたり，金・銅・銀の薄板で包んだりして装飾とした。平安時代の儀式用には黄金造り・蒔絵(まきえ)・螺鈿(らでん)など美術的に価値の高い鞘が用いられ，戦陣用でも銀蛭巻(ひるまき)や覆輪なども珍しくなかった。戦国期の野太刀には，トラやヒョウの皮でつくった尻鞘をかけたものもあった。

〔稲垣史生〕

ざやく　【座薬】　⇨座剤

さやはしちどり　【鞘嘴千鳥】　鳥類・サヤハシチドリ科。南極大陸のパーマ半島およびフォークランド諸島からハード島にかけての南極大陸付近の島々に，2種が生息する。いずれも，くちばしは太くて短く，上嘴(じょうし)基部にさや形の角片があり，顔に肉垂様に皮膚が露出し，体は丸っこく白色。海鳥の卵や雛(ひな)，種々の海産生物を主食としている。泳ぐこともできる。

さやま　【狭山(市)】　埼玉県南部の市。鎌倉街道の入間川渡河地点で，江戸時代から狭山茶の産地として知られた。1954年(昭和29)市制施行。人口122,000。市域は，武蔵野(むさしの)台地の一部とその段丘面にまたがる。産業三大別人口比は6：43：51。市内には製茶工場が多く，最近は繊維・時計・ゴムなどの工場も誘致されている。入間市にまたがる台地上に設置された陸軍航空士官学校跡は在日アメリカ軍のジョンソン基地となっている。西武鉄道新宿線が通じ，国道16号線(東京環状道路)に沿う。

さやまきゅうりょう　【狭山丘陵】　東京都と埼玉県にまたがる小丘陵地で，約40～

50mの比高で武蔵野(むさしの)台地上に島状に孤立している。厚いローム層でおおわれているが細かい谷が刻まれ，これを利用して1934年(昭和9)多摩川の水を引き入れて東京都の上水源である狭山湖(山口貯水池)・多摩湖(村山貯水池)がつくられた。周辺はレクリエーション地の一つとなっている。

さやまこ 【狭山湖】 埼玉県所沢市にある人造湖。山口貯水池ともいう。周囲22.6km，満水面積1.9km²。南にある多摩湖(村山貯水池)と同様，東京都区部の水道用水の水源としてつくられ，狭山丘陵を刻む柳瀬(やなせ)川の侵食谷の東の出口にダムを築造して水をたたえた。湖に流入する川はないが，東京都西多摩郡羽村町で多摩川の水を取水してここへ導水している。付近一帯は森林も広く風趣に富み，ユネスコ村をはじめ行楽の施設も整い，西武鉄道池袋線などの交通も便利で，東京・埼玉の人々の日帰り行楽地としてにぎわっている。県立狭山自然公園に指定されている。〔長津一郎〕

さやみどろ 【鞘味泥】 緑藻(りょくそう)類・サヤミドロ科。淡水に広く分布し，他物に着生したり固まって浮いている。直径30～50μの円柱形の細胞からなる無分枝糸状体。細胞が分裂伸長する際に古い細胞膜が裂け，裂け目が連続して細胞の上部に環紋を生ずる。一部の細胞が楕円(だえん)ないし球形にふくらんで生卵器となり，卵は環毛をもつ精子によって受精する。遊走子もより大形であるが，精子と同形である。

さようせん 【作用線】 ⇨力

さようてん 【作用点】 ⇨力

さよう・はんさようのほうそく 【作用・反作用の法則】 ⇨運動

さようりょうし 【作用量子】 ⇨プランク定数

さよく 【左翼】 ことばの本来の意味での左翼とは，議会活動における野党的存在を意味するものである。すなわち，フランス国民公会において，急進派が議長席に向かって左側の席に位置していたところから，一定の体制に最も批判的な議会内勢力を左翼とよぶ習慣が発生したといわれる。しかし今日では，もっと広く反体制的な勢力全体が左翼と表現されている。第2次世界大戦前，日本の左翼は〈無産陣営〉と表現されていた。労働者階級を中心とする勤労諸階級を包含する意味で〈無産階級〉という概念があり，〈無産陣営〉が左翼とされていたのである。戦後，日本の左翼は〈革新陣営〉と表現されている。社会主義勢力のほか反帝・独立・平和・民主の諸勢力を包含する意味で〈革新勢力〉としてとらえられ，〈革新陣営〉が左翼とされてきたのであるが，今日では〈革新〉概念の再検討が叫ばれている。労働者階級の指導性を不明確にしているがゆえに，受け入れられやすい〈革新〉概念はそれだけにあいまいであり，そのあいまいな概念にもたれかかってきた戦後の左翼は，そのままでは瓦解(がかい)するのであり，より強力な発展のためには〈革新〉概念の再構成を行なう必要があると考えられるに至っている。



サ ヨ リ

　戦後民主主義の体制の中にあって一定の役割を果たしてきた左翼陣営を〈既成の左翼〉ととらえるならば，その〈既成の左翼〉のわく組みを破って新しい左翼のあり方を追求する左翼勢力を〈新左翼〉ととらえることができるという主張が最近唱えられているが，その実践についてみると，むしろ反体制・革新勢力の分裂，特に反共産党の運動となっている。これが新しい解放運動の主体となりうるとは判断しえない。〈新左翼〉が戦後民主主義を否定するだけに終わり，戦後民主主義に代わる価値体系を生み出すことができないならば，〈新左翼〉は問題提起者としてのみ歴史に位置づけられることになる。〈既成の左翼〉の側からいえば，〈新左翼〉が行動で示す問題提起を受け止める余裕をもち，〈新左翼〉の動きをも吸収する柔軟な組織構造に自己を変革することができるか否かが最大の課題となっている。〔高橋彦博〕

さよくえんげき 【左翼演劇】 ⇨プロレタリア演劇

さよくげきじょう 【左翼劇場】 新劇の劇団名。1928年(昭和3)共産党弾圧事件をきっかけにプロレタリア劇場と前衛劇場が合同して結成された劇団。村山知義(ともよし)・久板栄二郎らを中心に，弾圧に対抗して，《西部戦線異状なし》など政治性に重点をおいた演劇の上演を推し進め，成果をあげた。1934年中央劇場と改称，さらに同年9月大同団結して新協劇団に移行した。

さよなきどり ⇨ナイチンゲール

さよのなかやま 【佐夜ノ中山】 〈さやのなかやま〉とも読み，〈小夜の中山〉とも書く。静岡県南西部榛原(はいばら)・小笠(おがさ)両郡の境の約4kmの坂道。旧東海道が金谷(かなや)町菊川から掛川市日坂へ至る道筋にあたり，付近は樹木が繁茂して往時のおもかげを残している。歌枕(うたまくら)として西行の〈年たけてまた越ゆべしと思ひきや命なりけりさよの中山〉(《新古今和歌集》)をはじめ，多くの歌や紀行文で知られる。伝説で有名な夜啼石(よなきいし)や妊婦塚(にんぷづか)があり，250mの最高点にある峠部落に子育て観音がある。〔浅井得一〕

さより 【細魚・鱵】 硬骨魚類・サヨリ科。全長40cm余りに達する海産魚。体は側扁(そくへん)し，細長く，サンマをさらに引き伸ばしたような形である。上顎(じょうがく)が短く，下顎は長く突き出ている。背は青緑色，腹は銀白色。日本と朝鮮の全沿岸に分布し，内湾の表層にすむ。ときどき水面を飛び，トビウオに近縁な魚であることを示す。吸い物の実やさしみなどにして美味な高級魚。

さら 【皿】 平らに開いた浅い食器。さらは〈さらけ〉すなわち浅いかめの意であるといわれる。食物をこの上に盛ったり，また他の食器の下に重ねて台として使用することもある。さらは世界各地で古くから使われ，中国では盤とよび，殷(いん)代にすでに青銅の盤の祭器があった。周代から漢代ごろまでの盤は青銅器が多かったが，隋(ずい)を経て唐代になると銀器ですぐれたものがふえ，三彩の陶製のものも現われ，しだいに陶磁製が多用されて宋(そう)代には主流を占めるようになった。日本では弥生(やよい)時代に土製のさららしいものがあったが，しだいに器形が整いさらの形となった。古い時代の文献では盤の字をあてるものが多く，中世後期になると皿の字を使うようになった。現在，さらの種類は数多く，盛り合わせを入れる大ざら，焼き物を盛る中ざら，もと調味料を盛ったためにその名があるという手塩ざら(小ざら)，もっと小さい猪口(ちょく)など，大小・形状さまざまである。

　西洋のさらの起源をみると，エジプトでは精巧な金属製のさらや彩色した土製のさらがあったようであり，これがヨーロッパや近東に及んだとみられる。また古代ギリシアには土器のさらがあって，これが発達して17世紀ごろ現在の西洋ふうのさらになったと推定される。〔山本喜男〕

サラエボ ［Sarajevo］ ユーゴスラビア中央部，ボスニア地方の中心都市。人口24万4,000(1971)。19世紀以来，国際紛争の舞台となった地で，1887年ベルリン条約によって，オーストリア-ハンガリー帝国の支配下に置かれ，1914年6月28日のサラエボ事件は第1次世界大戦の導火線となった。標高540mの高地にあり，金銀細工のほか，たばこ・ビール・カーペットなどを産する。14世紀に興り，1429～1851年にはトルコに支配され，第1次世界大戦後の1918年以後はユーゴスラビア領となる。住民はセルビア人とクロアチア人で，近郊に温泉保養地がある。〔梶川勇作〕

サラエボじけん 【サラエボ事件】 第1次世界大戦の発端となった事件。1914年6月28日，当時オーストリア領ボスニア州の首都サラエボで，オーストリア皇太子フランツ-フェルディナントがセルビアのナショナリストに暗殺された事件。これに先だつ1908年，青年トルコ党の革命をきっかけに，トルコは近代化の道をとり，民族主義がバルカンに育ちつつあった。そのさなかに，オーストリアがボスニア・ヘルツェゴビナを併合したため，セルビアなど諸民族間には対立が先鋭化していた。一方，帝国主義列強は三国協商と三国同盟を中心に対峙(たいじ)していた。こうした中でオーストリア

は７月23日，セルビアに最後通牒(つうちょう)を送り，28日宣戦布告した。ロシアはバルカンのスラブ系諸民族に呼応して総動員令を発し，ドイツはロシアに宣戦布告して第１次世界大戦に突入した。〔山県弘志〕

サラガット [Giuseppe Saragat]（1899～　）イタリアの政治家。1922年社会党に入党。ムッソリーニ政権の成立によりフランスに亡命した。第２次世界大戦後帰国して社会党に復帰したが，1947年ネンニら左派と対立して脱党，1951年社会民主党を結成して党首となった。戦後しばしば入閣し，温和な社会民主主義者として中道派連合の中心人物となり，1964年大統領に当選。

ざらがみ【更紙】 主原料として機械パルプ*を使用し，これに化学パルプ*を配合してつくった紙。化学パルプの配合率が40％以上のものは特に上更紙とよび，通常の更紙と区別するが，ともに強度・保存性がよくないため，前者はおもに雑誌・週刊誌などに，後者は事務用・学習用あるいはちらしなどの一時的な印刷物に使われる。

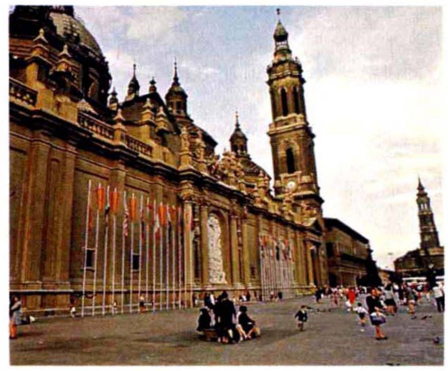
サラクルー [Armand Salacrou]（1899～　）フランスの劇作家。シュルレアリスム*の影響のもとに出発し，豊かな想像力にささえられた劇作術によって，人間存在の不安と苦悩を広範囲な題材のもとに追求した。代表作に《アラスの見知らぬ女》《怒りの夜》《神は知っていた》などがある。

サラゴサ [Zaragoza] スペイン北東部，エブロ川の中流右岸にある古い都市で，サラゴサ県の中心都市。人口54万7,000(1974)。小麦粉や織物・化学などの工業が盛んで，バルセロナからマドリードへ，あるいはフランス方面への交通の要衝となっている。周辺は夏は暑く冬は寒い乾燥地域で，灌漑(かんがい)によって耕作を行なっている。古くローマ帝国の要塞(ようさい)として興り，15世紀からアラゴン王国*の首都として栄えた。ゴシック様式の古い寺院やムーア人の建てた城塞の跡などが残っている。1474年創立の大学がある。〔梶川勇作〕

さらさ【更紗】 描(か)き染め・型染め・ろう染めなどの技法によって多色の比較的細密な文様を現わした綿布・絹布・化繊布などの総称。手描き染めの技法は古く紀元前から世界各地で行なわれ，また型染めも古代遺物の陶製の型板によって古い歴史をもつことが知られる。わが国に中国から更紗の伝えられたのは天平(てんぴょう)・飛鳥(あすか)時代であった。16世紀以後，いわゆる南蛮渡来の染織品としてインド・シャム・ジャワなどの更紗が輸入された。これを動機として，18世紀末にはその染色が行なわれて服飾界に流行した。技法により，染料・顔料などに固着剤を用いる描き更紗，粘土版・木版などの型板によって捺染(なせん)する型染め更紗，ろう防染によって色さしをするろう染め更紗(バチック*)などの種類がある。また，国別には，ペルシア更紗・シャ



サラエボ事件 第１次世界大戦の発端となったフランツ-フェルディナント暗殺の場　正面ビルの左角に暗殺者が立っていた



サラゴサ ゴシック様式の荘重なエル-ピラール大寺院と，市民のいこいの場となっているピラール広場。寺院の背後はエブロ川に臨む

更紗

インド更紗　①立花手花鳥文壁掛(手彩色)　17世紀　②鬼手草花文敷物部分(型染)　19世紀　③霜降手一房文敷物部分(型手彩色併用)　18世紀　④鬼手草花文敷物(ボーダー，型手彩色併用)　19世紀
ジャワ更紗　⑤ウダンリリス(霖雨)文サロン部分(手彩色)　19世紀
シャム(タイ)更紗　⑥宝珠形花文サロン部分(手彩色金彩)　19世紀　東京国立博物館蔵

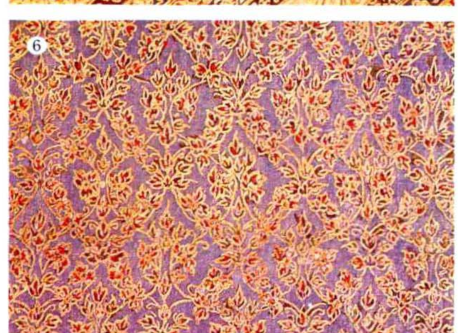
③


1


④


⑤


②


⑥


ム更紗・インド更紗・ジャワ更紗などの種別があり，技法・文様などに特徴がある。一般に更紗文様は，草花・鳥獣・人像などの細密な連続模様・組み合わせ模様などが多く，色彩は植物染料を主とする赤・黄・茶・緑・藍(あい)などで美しく染められ，いわゆる更紗模様という独特の文様である。産地では民族服地として用いるが，一般には装飾的に室内用品・装身用品・寝具などとして広く賞用される。〔小川安明〕

サラサーテ［Pablo de Sarasate］(1844～1908) スペインのバイオリン奏者・作曲家。幼時から神童とうたわれ，12歳でパリ音楽院に入学してアラールに学び，4年後優等で卒業。その後は独奏者として欧米各地に演奏旅行をした。多くの作曲家が彼の演奏技術とその音楽に魅せられて作品を献じたが，中でもラロの《スペイン交響曲》は名高い。サラサーテ自身の作品としては《チゴイネルワイゼン》などの小品が多い。

サラサバテイラ ⇨タカセガイ

サラザール［Antonio de Oliveira Salazar］(1889～1970) 現代ポルトガルの政治家。はじめコインブラ大学の経済学教授。ポルトガルでは，第1次世界大戦中から左右勢力による革命・クーデターが続いていたが，1926年コスタのクーデターにより独裁への道が開かれた。サラザールは，蔵相を経て1932年首相となり，翌年新憲法を発布して国家統一党の独裁によるファシスト国家体制を樹立した。スペイン内乱*に際してはファシスト側に立ち，第2次世界大戦では連合国側についた。大戦後マーシャル-プランの援助を得るため多少民主化を行なったが，長くその独裁権を維持した。1968年秋病気により36年間占めていた首相の地位を退いた。〔大野慎一郎〕

さらし【晒】

①布をさらすこと，または漂白した綿織物・麻織物をさしていう。第2次世界大戦前までは，主として夏の衣料として用いられていた。愛知県知多郡に産する知田晒，近江(おうみ)晒(野州(やす)晒)・奈良晒などが有名であった。漂白法は二つに大別される。一つは日光などを利用するいわゆる天日晒で，他は晒粉*などの薬剤を用いて行なうところの薬品晒である。

②晒木綿(もめん)・晒麻布などの略称。保温・吸湿性・耐洗性に富むので，膚着や幼児の寝巻き，衛生材料などに用いられている。在来はおもに小幅の織物をさしていたが現在では広幅のものがある。〔北村哲郎〕

さらしあん【晒餡】 乾燥さらしあんともいう。アズキを原料としてつくった生あんを水にさらしたのち火力乾燥したもの。長期の保存に耐え，使用の際は水を加えて練りさえすればまにあうので便利。しるこや和菓子の原料として広く用いられる。

さらしくじら【晒鯨】 クジラの尾びれや腹部のうね状の部分をさらしたもの。この部分を薄切りにし米ぬかをまぶしてよくもみ，水洗後水を切って熱湯に入れてざっと湯がいてつくる。脂肪が抜けて純白となった肉に黒皮が一部つき，ゼラチン質が多く弾力に富むため独特の舌ざわりをもつ。酢みそあえやみそしるの実として喜ばれる。



サラシナショウマ

さらしこ【晒粉】 粉末消石灰に塩素を吸収させて得られる白色の粉末。漂白・殺菌・消毒などに用いられる。原料の塩素は乾燥の必要もなく低濃度でもよいので，液体塩素製造の際の廃ガスを利用することが多い。ただし，炭酸ガス・水素ガスを多く含むものは好ましくない。さらし粉の主成分は，$CaCl_2 \cdot Ca(ClO)_2 \cdot 2H_2O$ で表わされる複塩で，有効塩素35～40％程度であるが，その有効塩素の量を大きくしたり安定性を増したりしたものに，高度さらし粉がある。これは石灰乳に塩素を通じ，真空中で蒸発させて生成する次亜塩素酸カルシウム $Ca(ClO)_2 \cdot 3H_2O$ を主成分としたもので，その有効塩素は60～70％に達する。これは熱に安定で長期保存に耐え，吸湿性も少ない。また，石灰乳に塩素を通じた液から不溶解分を除き，そのままさらし粉と同様の用途に使うことも多い。これをさらし液といい，有効塩素は8～10％である。使いやすく安価であるが，長期の保存には適さない。〔鈴木 篁〕

さらしな【更科】〈更級〉とも書く。長野県長野盆地南西部および周辺山地の地域名。もと信濃(しなの)の一郡であった。地名の由来については，シナノキの繊維で織った白布の意という説と，モンゴル語で〈サラ〉は白，〈シナ〉は坂の意であるとする説がある。姨捨(おばすて)山*(冠着(かむりき)山)(1,252m)のふもとにあたり，《更級日記*》や《更科紀行*》で知られ，またソバの産地として名高い。姨捨山は姥捨山伝説*に由来する山であるが，また《古今和歌集》《拾遺和歌集》に月の名所としてうたわれ，北のふもとの篠ノ井(しののい)線姨捨駅の東方一帯は，傾斜地に階段状に並ぶ水田に映る仲秋の名月の景観〈田毎(たごと)の月〉で知られる。〔浅井得一〕

さらしなきこう【更科紀行】 芭蕉*(ばしょう)の俳文紀行。1688年(貞享5)《笈(おい)の小文*》の旅ののち，越人*を伴い木曾路(きそじ)の月を賞した際の紀行文。従者の馬上の居眠りに無常を観じたり，同行の老僧の親切心に句作を妨げられて困惑したり，壁の破れから差し入る月をめでてのいなかぶりの酒宴に興ずるなど，ユーモラスで俳味にあふれている。推敲(すいこう)の跡をとどめる自筆本が現存する。

さらしなしょうま【晒菜升麻】 双子葉植物・キンポウゲ科。山地の木陰や草原などにはえる大形多年草。茎は高さ1mほど。葉は2～3回3出複葉で，小葉は卵形で先がとがり，縁に鋸歯(きょし)をもつ。夏，茎の先に白い小さな花を穂のようにつける。春，若葉をゆでて水にさらし，食用とするのでこの名がある。また根茎を乾燥したものは生薬の升麻で，漢方では解毒・解熱・発汗薬として用いられる。

さらしなにっき【更級日記】 平安後期の日記。作者は菅原孝標女*(すがわらのたかすえのむすめ)。父の任地上総(かずさ)(千葉県)を出発した13歳の少女時代から，51歳ごろまでの約40年間の生涯(しょうがい)の回想を叙情的・感傷的に記し，平安時代の女性の清純な情緒をよく表わしている。想念の世界に安住しようとしても，実現しえない女の哀れさが全体を貫き，浪漫的な世界と現実意識・宗教との交錯がこの作品を個性豊かなものとしている。

さらしめ【晒女】 長唄(ながうた)・日本舞踊の曲名。本名題《閏茲姿八景(またここにすがたのはっけい)》という八変化(→変化物)の一。作詞は2世桜田治助，作曲は4世杵屋(きねや)六三郎。1813年(文化10)初演。伝説の大力女，近江(おうみ)(滋賀県)のお兼が荒馬を押えたり(このくだりは略すことが多い)，からみの男を相手にすもうの手など力持ちぶりを見せる。くどき*から盆踊り，布さらしのくだりがあり，はでで変化に富む。初演は長唄・常磐津節(ときわずぶし)の掛合であった。

サラスバティー［Sarasvatī］ インド神話の女神。インド最古の聖典《リグ-ベーダ*》では聖河の神であったが，のち言語の霊力を神格化した女神バーチュと同一視された。ヒンズー教では創造神ブラフマン*の后(きさき)とされ，しばしば琵琶(びわ)を手に持つ美女として描かれ，学芸・音楽などの神として学生・作家・音楽家によって尊崇される。仏教の弁才天*はこれに由来する。

サラセニア［*Sarracenia*］ 双子葉植物・サラセニア科・サラセニア属の総称。北アメリカに自生する多年草の食虫植物で，約10種あるが，品種は多く，観賞用に用いられる。根出葉がらっぱ状で捕虫葉となっており，上の方にふた状の葉裂片がある。中にはいり込んだ虫は，内部に下向きの毛がはえているために出られず，酵素によって消化される。捕虫葉には種々の形，大きさのものがある。花は赤色・黄色・紫色などの5弁花で，長い花柄の先に一つつく。

サラセンていこく【サラセン帝国】 アラビア人の建てたイスラム教主国。正統カ

リフのウマイヤ朝・アッバス朝国家を含む。7世紀イスラム教のもとに統合したアラビア人は，イスラム布教の聖戦に名を借りて大規模な征服戦争を遂行し，たちまちにしてイベリア半島から北アフリカ・西アジア・インド西境まで迫る広大なサラセン帝国を築き上げた。ヨーロッパではアラビア人をサラセンとよび，ビザンチン帝国や十字軍の強敵であった。中国では白衣大食(ウマイヤ朝)や黒衣大食(アッバス朝)の名で知られた。9世紀になるとアッバス朝領内にイラン系やトルコ系の王朝があいついで独立し，次いでファティマ朝(エジプト)や後ウマイヤ朝(イベリア半島)がカリフを称するようになると，勢力は分裂して急速に衰え，13世紀にはモンゴルの世界征覇(せいは)によって名実ともに姿を消した。　〔小谷仲男〕

サラセンぶんか　【サラセン文化】 ⇨イスラム文化

さらそうじゅ　【沙羅双樹】 双子葉植物・フタバガキ科。東インド原産の高木で高さ30mに達する。葉は長楕円(ちょうだえん)形で先がとがり，表面はなめらか。花は黄色五弁花で円錐(えんすい)花序をなす。果実は鞘果(しょうか)で，先が4裂する。材は建材・家具材に用いられる。なお，ツバキ科のナツツバキをサラソウジュということもある。

さらそうじゅ　【沙羅双樹】 沙羅は梵語(ぼんご) śāla(シャーラ)の音写の転訛語(てんかご)。沙羅双樹は一双の沙羅樹の意で，ブッダが北インドのクシナガラで入滅した際，臥床(がしょう)の四囲にあった沙羅双樹の一方が枯れ，一方が生き残ったと伝えられる。

サラダ　［salad］ 本来は〈塩で調味した〉という意味の語で，野菜を主にして，ふつうこれを酢油ソースであえた料理をさす。昔，狩りの獲物を野で焼いて食べるとき，いっしょにとる野菜の食べ方がくふうされたものといわれる。したがって古くは肉料理のつけ合わせに用いられていたが，18世紀以後は肉・卵・魚などを用いて冷前菜につくるようにもなり，また野菜料理として独立した。食欲を増進し，ビタミンや無機質の給源として栄養価も高く，また，酸性食品である肉に，アルカリ性食品である野菜が必要であるなどの点から欠かせない。材料はレタス・チシャ(サラダ菜)・セロリ・クレソン・キャベツ・紫キャベツ・トマト・キュウリ・赤カブ・タマネギ・ニンジン・インゲン・ジャガイモ・エンドウ・カリフラワー・果実などで，多く生食とするが，材料によっては熱湯を通したりゆでたりして用いることもある。また鶏卵・鶏肉・マグロ・サケ・エビ・カニ・ハム・ソーセージなども用いられる。ソースはビネグレットソース・マヨネーズソースを基本にして種々のドレッシングがくふうされている。フランス料理ではサラダを次の2種に大別する。①サラド-サンプル：単純なサラダの意味で，主として生の野菜を1種類用い，ビネグレットソースで調味してロースト料理などに添えられる。②サラド-コンポーゼ：複雑なサラダの意味で，野菜のみでなく，いろいろな材料を組み合わせたり混ぜ合わせたりしたもので，ビネグレットソースやマヨネーズソースで調味する。多くは冷前菜用とする。　〔泉　敬子〕



サラマンカ　トルメス川に臨む町の中心部。丘の上にはカテドラルがそびえ，ローマ時代以来の遺跡が市内いたるところに見られる

サラダゆ　【サラダ油】 生野菜料理に使われる香味のよい高級食用油をいう。もとは地中海沿岸にできるオリーブ油を代表としていたが，現在では油の精製技術が進歩したので，特定の油に限らず，綿実油・大豆油・なたね油・とうもろこし油などを原料としてつくられる。白絞め油よりも精製工程をさらに高度にしたもので，色は淡く，舌ざわりよく，生食に適する最高の品質のもの。マヨネーズ・油づけなどに用いる。

さらち　【更地】 建物がなく，借地権や抵当権のついていない宅地のこと。さら地の売買は代金の受け渡しと登記だけですむので簡単で，建物や抵当権のついている土地よりも高価に取引されるのがふつうである。したがって，抵当権を設定した当時にさら地であった土地に建物を建てても，土地が競売された場合，建物のために法定地上権が成立することは認められていない(民法388条)。

サラディン　［Salāh al-Din Yūsuf］(1138～1193)　アイユーブ朝の創始者。もとファティマ朝の武将であったが，主家を倒して王朝を建て，西アジアを支配した。十字軍と戦って戦果をあげた。

サラトガのたたかい　【サラトガの戦い】 アメリカ独立戦争における1777年9月から10月にわたる激戦。サラトガはニューヨーク州北部，ハドソン川上流の地。バーゴイン将軍指揮下のイギリス軍約5,800名が13植民地分断のためカナダから南下，ゲーツ将軍の独立軍約2,000名とサラトガで衝突し，10月7日の戦いで植民地軍がイギリス軍を包囲して17日これを降伏させた。この勝利は独立戦争の転換点となり，この直後フランスはアメリカと同盟を締結，イギリス国内の内乱が国際紛争化するきっかけとなった。　〔折井一彦〕

サラトフ　［Saratov］ ソビエト連邦，ロシア共和国西部にあるサラトフ州の州都。ボルガ川下流の西岸にある。人口85万(1976)。ボルガ水系の大河港の一つで，鉄道の要衝でもあり，商工業が盛んである。機械・石油精製・食品加工・木材などの工業があり，さらに第2バクー油田地帯の一中心として石油・天然ガスを産出し，モスクワなどへパイプラインで送っている。古くはロシア最大の製粉工業があった。1590年につくられた要塞(ようさい)に起源をもち，市街は，規則正しい区割をなしている。六つの単科大学のほか，博物館・オペラ劇場・バレエ劇場などがある。　〔斎藤晨二〕

さらのき　⇨ナツツバキ

サラバンド　［sarabande］ 17～18世紀の代表的な舞曲で室内ソナタの一。ゆっくりした4分の3拍子で，起源はアジアともメキシコともいわれ，16世紀からスペインで踊られたが，その歌詞や動作が卑猥(ひわい)であるとして16世紀末には禁止された。17世紀になってフランスに伝えられ，テンポがゆるやかになって荘重さを加えた。この形がドイツ・オーストリアに伝えられた。

サラバンのしょうがいとぼうけん　【サラバンの生涯と冒険】 デュアメルの連作長編小説(1920～1932)。《真夜中の告白》《ふたりの男》《サラバンの日記》《リヨネークラブ》《彼自信の如(ごと)くに》の5巻からなる。平凡なひとりの男が聖人たらんとして無償の行為を行ない，魂の自由を体験するが，それが人間とはなにかと自分に問う契機になったという物語で，その精神的放浪が描かれる。

サラーフ-アル-ディーン　⇨サラディン

サラファン　［Sarafan］ ソ連の農婦たちの着る民族服。上等な文様織物を用い，ギャザーまたはひだのあるスカートで，上着はスリーブレス，ネックラインは丸・四角など。防寒的な衣服である。

サラ-ベルナール　⇨ベルナール

サラマンカ　［Salamanca］ スペイン西部，サラマンカ県の中心都市。人口13万9,800(1974)。マドリードの西北西170km，海抜1,700mの乾燥した高原にある古くからの交通の要地で，現在も各地方からの鉄道路線の交点となっている。陶器や皮革製品など多種類の小工業が盛ん。古代の遺跡や12世紀建造のロマネスク様式の寺院，16世紀建造のモンテリー宮殿などが残り，観光客が多い。1220年にアルフォンソ9世が創立した大学はオックスフォード・パリ・ボローニャの各大学と並ぶ歴史を有し，アラビア研究で知られている。　〔梶川勇作〕

サラミ　［salami］ 代表的なドライソーセージで，名称は塩肉を意味するイタリア語〈サラメ〉に由来する。一般に原料肉をあらく刻み，香辛料を強くきかせ，薫煙を行なわないで低温乾燥させる。調理せずに食べられ，水分が少ないので保存性がきわめ

てよい。➔ソーセージ

サラミスのかいせん　【サラミスの海戦】　BC480年9月，ペルシア戦争*の大勢を決した戦い。ギリシアはクセルクセス*の率いるペルシア軍にアッチカまで占拠されたが，テミストクレス*の指揮する約300隻の3段櫂船(かいせん)を主体とするギリシア連合海軍が，ほぼ倍のペルシア海軍を狭いサラミス水道に引き入れて壊滅させ，形勢を逆転した。翌年のプラタリアイの戦い*とともに，ギリシアの勝利を決定づけた。

ざらめとう　【双目糖】　砂糖の一種。結晶が大きく糖度が高い。色によって白双・黄双・中双などに分けられており，糖度は白双が99.0度，中双が98.6度，黄双が98.3度である。純度が高いので貯蔵性が高い。また白双では100～150℃に加熱しても着色することがないので，純度を必要とする練乳・粉乳に添加され，また，キャンデーや，無色の製品をつくる菓子原料に使用される。

サラリーマン　⇨ホワイトカラー

サラリーマンきんゆう　【サラリーマン金融】　町の金融業者が，サラリーマンを対象として行なう小口の消費資金の融資のこと。一般に融資額は融資を受ける人の月収の範囲内とされており，融資時，身分証明書などで身もと・勤務先を確認され，同時に連帯保証人を請求されることが多い。金利はきわめて高く，利息制限法の許す最高限である日歩30銭(年利10割8分)の先取りが通常である。資金使途は，旅行などのレジャー資金に充当されることが多いといわれるが，期日に返済できない場合，法外な延滞利息が要求されるなど悪質な業者もあり，利用にあたっては注意することが必要である。　〔池内得二〕

サラワク　［Sarawak］　マレーシア連邦東部，ボルネオ島北西部を占める州。州都クチン。面積12万2,000km^2，人口95万(1969)。南部にはカプアス山脈がそびえているが，海岸近くには低地が広がり，ラジャン川をはじめ河川が多い。住民は華僑(かきょう)が約3分の1を占め，次いで海ダヤク族・マライ族・陸ダヤク族が多い。1841年に内乱を鎮圧したイギリス人ブルークがブルネイ王国から割譲され，1888年にイギリスの保護領となった。第2次世界大戦中は日本軍に占領され，戦後はイギリスの直轄植民地となったが，1963年独立してマレーシア連邦の一州となる。ゴム・木材・サゴヤシ・コショウ・ボーキサイトなどを輸出するほか，金や石炭の埋蔵があり，東北端のミリには油田もある。鉄道がないため，河川が重要な交通路になっている。　〔別技篤彦〕

サラン　［saran］　ポリ塩化ビニリデン*系の合成繊維*の商品名。アメリカのダウケミカル社が1940年に塩化ビニリデンと塩化ビニルの共重合*物を原料とする合成繊維に命名したもの。



サーランギ
武蔵野音楽大学楽器博物館蔵

サーランギ　［sārangi］　北インド・パキスタンの擦弦の弦鳴楽器。羊皮を張った胴と幅の広いネックとは1本の木をくり抜いてつくる。通常，3本のガット弦，ときに1本の金属弦を加えて奏する。別に下部には11～36本の金属製の共鳴弦があり，美しい残響効果が意図されている。立てて奏するが，普通の弦楽器と違って，左手の指のつめで弦を横から押えて弦長を決める方法をとる。民俗音楽の歌舞の伴奏や，ヒンドスターニー芸術音楽の中で使われる。　〔山口　修〕

サランボー　フローベール*の小説。1862年の作品。古代カルタゴに取材したもので，カルタゴに反旗をひるがえした傭兵(ようへい)の隊長と，カルタゴの勇将の娘サランボーとの悲劇的な恋愛を主題にしたもので，作者の純然たる夢を描こうとする文体の実験でもある。

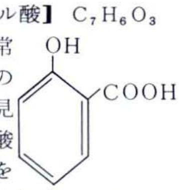
サリー　［saree］　インド婦人の外装。長い布を腰に巻き，一端を肩に掛け，ときには頭にかぶる着装形式。生地は薄地の透き通ったもので，縁飾りなどをつけたものが多い。柔らかなドレープを現わし優雅である。

ザリエルちょう　【ザリエル朝】　1024～1125年，4代にわたってドイツ王位および神聖ローマ皇帝の位にあった王朝。フランケン家ともいう。前半期は皇帝権の強化と帝国領土の拡大を図ったが，のちローマ教皇との対立が激しくなった。カノッサの屈辱*(くつじょく)で知られるハインリヒ4世*はこの王朝の3代めにあたる。

ざりがに　【蝲蛄】　甲殻(こうかく)類・ザリガニ科。淡水生で，体長7cmほどに達する。頭胸部は円筒形で，甲は厚くかたい。胃の中に石灰質でかたい粒状物(胃石)があり，食物を砕く作用がある。日本の特産種で，北海道・東北地方の水のきれいな小川にすむ。分布の南限は，太平洋側では岩手県福岡町，日本海側では秋田県大館(おおだて)市である。アメリカザリガニ*によく似ているが，甲がすべすべしていること，ややずんぐりしていること，清流にすみ色が青黒いことなどで区別できる。食用にできるが，肺ジストマの第2中間宿主であるため，注意する。加熱を十分にしなければ危険である。　〔菅野　徹〕

サリカほうてん　【サリカ法典】　フランク族の支族サリ族の部族法。クロービス*の晩年，6世紀初頭に成立。ゲルマン諸部族の慣習法を成文化した，いわゆる蛮民族法のうち最も重要なもので，ローマ法*の影響が少なく，ゲルマン固有法の要素を最も多く保存している。〈土地の相続権は女子に属せず，男系の傍系親に帰す〉という規定はヨーロッパ諸国の王位継承法に採用され，しばしば紛争の原因となった。

サリチルサン　【サリチル酸】　$C_7H_6O_3$　o-オキシ安息酸の別名。常緑樹の葉など，いくつかの植物中にエステルとして見いだされる。また，石炭酸ナトリウム塩に炭酸ガスを高圧下で作用させてつくられ(コルベ-シュミット法)，アスピリン・サリチル酸メチルなどの医薬品の原料となる。石炭酸に匹敵する防腐作用をもち，食品保存剤(日本酒ではたるづめだけに認可)などに用いられるが，国によっては使用が禁止されている。また，角質軟化，皮膚の防腐・洗浄，湿疹(しっしん)などに軟膏(なんこう)または酒精剤として使用される。



〔石戸良治・荒木洋之助〕

サリドマイド　［thalidomide］　非バルビツール酸系の鎮静・催眠薬。白色の針状結晶。効力はフェノバルビタール*の1/2，毒性は1/10以下で，バルビツール酸系催眠剤にない特長をもつとされていたが，1961年西ドイツにおいて新生小児のあざらし症奇形の発生が問題となった際に，小児科医レンツが妊娠初期のサリドマイド服用がその原因であると発表した。その後問題は全世界に広がり，わが国でも1962年(昭和37)にサリドマイド事件として有名になった。この医薬品は製薬会社によって回収され，現在は市販されていない。この事件を契機として，一般医薬品の安全性の問題が大きく取り上げられるに至り，現在では新しい医薬品の許可の際，必ず胎児に及ぼす影響について動物実験成績を必要とするようになっている。　〔鈴木郁生〕

サーリネン　［Eliel Saarinen］　(1873～1950)　フィンランド生まれの建築家。ヘルシンキで絵画・建築を学んだ。1899～1900年にパリ万国博覧会のフィンランド館を設計して国際的に認められ，競技設計で設計依託を獲得したヘルシンキ中央駅(1910～1914)は，正面は古風な彫像でモニュメンタルに飾られているが，新世紀に適合した形態を確立する20世紀初頭のすぐれた建築の一つである。1923年渡米して永住。

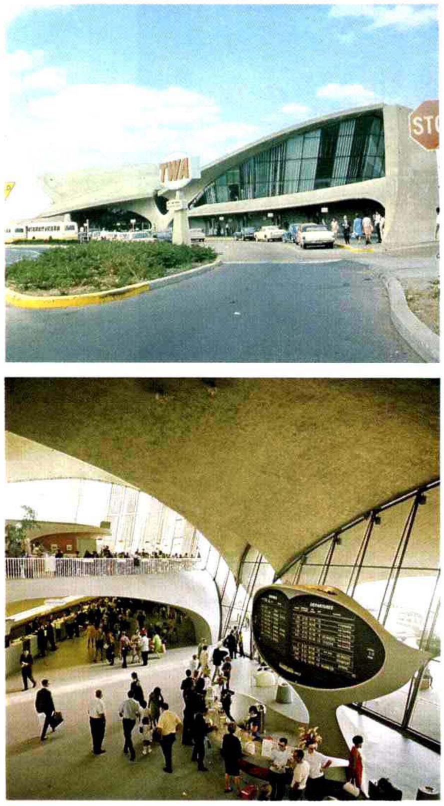
サーリネン　［Eero Saarinen］　(1910～1961)　アメリカの建築家。エリール-サ

ーリネン*のむすこ。1934年エール大学を卒業。1936年から1950年父の死亡まで父の事務所で設計活動を行なった。この間の仕事で注目されたのは，1948年にジェファーソン大統領記念碑の競技設計で，懸垂曲線を用いた美しいステンレスの大アーチのデザインである。また，最も注目されるのは，父から引き継いだミシガン州ウォレンのゼネラル-モーターズ技術センターの設計完成である。これは，ミース-ファン-デル-ローエ*の作品，イリノイ工科大学の影響を強く反映しつつ，1950年代後期までのアメリカ建築の一つの主要な傾向を決定づけたとされ，建築的芸術水準の高さを示している。その他マサチューセッツ工科大学の講堂や礼拝堂において，アメリカではじめての大シェル構造*を採用するなど，建築物の機能を空間造形的表現に結実させる努力を払っているが，一面では主観的過ぎるきらいもみられる。〔川田伸紘〕

サリバン ［Louis Henry Sullivan］（1856～1924） アメリカの建築家。マサチューセッツ工科大学に学び，1874年フランスのエコール-デ-ボザールに留学。帰国後，シカゴでダンクマー-アドラーのスタッフに加わり，設計家としての才能を発揮した。当時のアメリカでは，巨大な高層建築が建設されはじめていたが，サリバンを中心とする〈シカゴ派〉は〈形態は機能に従う〉という機能主義的な立場から建築物本来の機能にふさわしいデザインを追求し，軽快な構成美を生み出した。代表的作品には，ウェインライト-ビル・ギャランティー-ビル・カースン-パイ-スコット百貨店がある。なお，サリバンの建築理論は彼のもとで働いたF.L.ライト*によっていっそう発展させられた。〔川田伸紘〕

サリバン ［Harry Stack Sullivan］（1892～1949） アメリカの精神医学者。フロイト*の精神分析*を，ホルナイ・フロム*らとともに治療・理論の両面にわたって改革した新フロイト派の指導者。精神分裂病*の心理療法の開拓者でもあり，この臨床経験を通して対人関係理論を中心とするユニークな人格発達理論と精神病理学*を発展させ，今日のアメリカ精神医学(いわゆる力動精神医学)の基礎を築いた。著書に《精神医学における対人関係論》《精神医学的面接》などがある。〔小此木啓吾〕

サリバンしょう 【サリバン賞】 正式名称はジェームズ-E.E.サリバン-メモリアル-トロフィー。1930年，アメリカ体育協会(AAU)の創立者サリバンを記念してつくられたスポーツ賞で，毎年AAUからアマチュア-スポーツ界で最もすぐれたスポーツマンシップを示した者に贈られる。はじめはアメリカ国内だけを対象にしていたが，のち世界に広げられ，日本人では第19回オリンピック-メキシコ大会に体操で個人総合優勝を果たした加藤沢男(さわお)がはじめて受賞した。〔伊東春雄〕



イーロ-サーリネン (上)ニューヨーク-ケネディ空港TWA社ターミナルビル外景 (下)内部

サーリプッタ ［Sāriputta］ 生没年不詳。舎利弗(しゃりほつ)と音写される。インドの人。紀元前5～紀元前4世紀ごろマガダ王国，王舎城近くのバラモンの家に生まれたと伝えられる。博識であったが世の無常を感じて出家し，はじめ懐疑論者のサンジャヤ-ベラーティプッタに従い，のちにその教えに満足できず，ブッダの教説を聞いて友人モッガーラナ(目連)とともに多数の弟子(でし)を連れて仏教に帰依した。ブッダの十大弟子*のひとりとして知恵第1と称せられ，教団の指導的地位を占めたが，ブッダより早く没した。〔佐藤良純〕

サリンジャー ［Jerome David Salinger］（1919～ ） アメリカの小説家。ニューヨーク市にユダヤ人を父に生まれた。コロンビア大学などを転々とし，創作に専念する。第2次世界大戦に志願して従軍。1951年《ライ麦畑でつかまえて*》を発表して圧倒的な人気を博した。その後《九つの短編》や，現代アメリカの大衆生活を描破しようとする《フラニーとゾーイー》などの連作を発表している。

さる 【猿】 哺乳(ほにゅう)類・霊長目のうち，ヒトを除いた動物の一般的な呼称。➔霊長類 ➔ニホンザル

サール ［Ronald Searle］（1920～ ） イギリスの漫画家。ケンブリッジの美術学校を卒業したが，在学中から新聞などに漫画を寄稿していた。本格的な活動は，第2次世界大戦からの復員後1949年から投稿しはじめた《パンチ》誌によるところが大きい。のちには同誌の編集にも参画した。代表作に《聖トリニアン女学院の魔女》がある。

ざる 【笊】 細い割り竹で丸く編んだ容器。調理の材料を入れたり，洗った材料の水切りに使ったりするのが主であるが，近年は菓子やくだもの，また料理の盛り器として使われることも多くなった。入れるものや使用目的によって形や編み方が違い，丸ざる・目ざる・盆ざるなどの一般的なもののほかに，米揚げざる・水とりざる・うどんすくいなど特殊な形をしたものもある。材料は従来の竹製のほかに，ビニル被覆の針金製やステンレスの針金製，ポリエチレンなどのプラスチック製もある。〔山本喜男〕

ザール ［Saar］ 正しくはザールラント。西ドイツ西部，フランスとの国境付近の州。面積2,568km²，人口112万9,000(1969)。州都ザールブリュッケン。モーゼル川支流のザール川流域の丘陵地からなり，森林が多く，土地も肥沃(ひよく)である。産業の中心は年産約1,500万tの産炭を誇るザール炭田で，このためフランスのロレーヌ地方とともに古くからフランス・ドイツ両国の係争の地となった。フランスは，19世紀にナポレオンによってここを支配したが，ウィーン会議でプロシアに返還され，第1次世界大戦後ベルサイユ条約によって，国際連盟の管理下にはいり，フランスは15年間ここの石炭を採掘する権利を得たが，1935年の住民投票の結果ドイツにもどった。第2次世界大戦後，フランス占領地域となったが，1957年ドイツに返還された。〔梶川勇作〕

サルウィン(川) ［Salween］ チベットに発し，ビルマを南流してアンダマン海に注ぐ川。中国では怒江という。全長約2,410km。発源地はチベット東部のタングラ山脈で，上流部は両岸の山地が川底から900～2,800mにも及ぶ深い渓谷をなし，ビルマ東部ではシャン高原を縦断しており，陸上交通の大きな障害になっている。水位の変化が大きく，急流もあるため，小舟による航行しか行なわれない。河口付近では沖積(ちゅうせき)平野を形成して，ビルマの米作地帯になっている。〔大石堪山〕

さるおがせ 【猿尾枷・猿麻桛・松蘿】 地衣類・サルオガセ科。樹皮上まれに岩上に生ずる淡黄緑色の糸状地衣。長くたれ下がり，ふつう10～30cmで，まれに長さ数メートルに達する。基部の太さ1～1.5mm。二叉分枝をくり返し，しだいに細くなる。枯れかかった針葉樹が一面にサルオガセでおおわれているのをよく見かけるが，着生したため枯れたのか，樹勢の弱った木に着生しやすいのか明らかでない。わが国ではヨコワサルオガセが最も普通にみられる種である。➔次ページ(写真)

さるがきょうおんせん　【猿ケ京温泉】 群馬県利根(とね)郡新治(にいはり)村にある温泉。泉温48～64℃,泉質は食塩芒硝(ぼうしょう)泉で，神経痛・リウマチにきくといわれる。かつて笹(ささ)ノ湯・湯島の２泉があったが，赤谷川に相俣(あいまた)ダムができて，温泉の一部が湖底に沈んだので湖岸に新設された。江戸時代には三国街道の宿駅で猿ケ京関があった。上越線後閑駅からバスの便がある。

さるがく　【猿楽】 申楽とも書く。平安時代には散更(さるごう)ともいわれた。中国伝来の*散楽や手品・曲芸・傀儡(くぐつ)・隼人舞(はやとまい)・神楽(かぐら)などを含めた雑芸を総称し，その中で特にこっけいな所作・物まねをさす。神社の祭礼や宮廷あるいは貴族の宴席の余興に演ぜられたが，後者の場合は宴席の貴族が即興的に演ずることが多かった。専従者は鎌倉時代の末ごろ現われ,歌舞や物まねを中心として,寺社の下に*座を組んで祭礼に奉仕した。流派として今日に至っている春日(かすが)神社の大和(やまと)猿楽四座，結崎(ゆうざき)(観世)座・外山(とび)(宝生)座・円満井(えまい)(金春)座・坂戸(金剛)座は有名だが，ほかに宇治(京都府)・河内(かわち)(大阪府)・丹波(兵庫県・京都府)・近江(おうみ)(滋賀県)などにも多くの有力な座が成立した。特に室町時代の中ごろ，結崎座の*観阿弥(かんあみ)・*世阿弥父子は簡単な筋書きに歌舞を織り込んだ*能という形式の楽劇に諸種の改良を加え，将軍足利義満(あしかがよしみつ)の寵(ちょう)を得て一躍芸能界の主流になった。以後，能はこっけいを主体とする*狂言とともに猿楽を代表する演芸となり，古くから宮廷貴族の間に地位を得ていた*田楽に対抗して，おもに新興貴族である足利将軍家をはじめ，守護大名・戦国大名など武家を保護者として発展してきた。

〔村尾元忠〕

さるがくだんぎ　【申楽談儀】 正しくは《世子六十以後申楽談儀》。1430年(永享２)成立。*世阿弥(ぜあみ)晩年の芸談・教訓を二男元能(もとよし)が筆録整理したもので，奥書きによれば，同年元能が出家した際に，父の教訓をおろそかにしなかったことのあかしとしてまとめたものといわれる。冒頭の遊楽の道の根本を述べた条と，一忠・喜阿・増阿・犬王・観阿(観阿弥)・世子(世阿弥)の芸風を述べた段とを序として,以下の31条を本体とする。能と関連する諸芸能の歴史，先人や当代の役者の芸風など，当時の芸能界の実態がいきいきと描かれており，芸能の歴史的研究の資料としては最も貴重なものの一つである。さらに本書の記事が具体的な事例に即した談話を主としている点は，他の伝書のやや抽象論的な傾向を補うものとして価値を高めている。

〔片桐　登〕

サルガッソー(海)　[Sargasso] アメリカ合衆国の東方，大西洋のまん中にある海域。藻(も)の海ともいう。アゾレス諸島と



サルオガセ

北アメリカ南東岸，西インド諸島の間，北緯20～40°，西経30～75°にわたる。周囲をメキシコ湾流・カナリア海流・北赤道海流が流れ，海域の中心部では渦流(かりゅう)をなし，ゆるやかに右に回転している。この中心ではたくさんの海藻(かいそう)類が漂流しており，中でも黄かっ色のホンダワラ類(サルガッスム-ナタンス)が多いことからこの名がついた。カナリア海流が，メキシコ湾流の補充海流としてアフリカ西北部海岸から西に大西洋の中心へ向かい，この流れが渦流をつくる。このため通信機が発達しなかった時代には，この海域を航行する船舶は藻に自由を奪われて難破することが多く〈大西洋の墓場〉とよばれた。海域の水深は2,000～4,000ｍで，ヨーロッパにすむウナギの産卵地といわれる。

〔長津一郎〕

さるかにかっせん　【猿蟹合戦】 日本の昔話の一。サルとカニが握り飯とカキの種を交換し，サルにもらった種をカニが植えて育て，実をならせる。ところがカキをとってあげるといって木に登ったサルは，悪い実だけをカニに投げつけてカニを殺す。カニの子はそれを恨んで，他者の助力で親のかたきを討つ。この話は日本に古来からあったようだが，歴史とともに改編されており，対立する動物はサルとカニであることが多いが，サル・ガマ・キジ・ウサギなどがそれに代わる地方もあり，対立原因はカキだけではなく，ことに東北地方ではもちとなっている。助力するものはうす・きね・ハチ・クリが多いが，ヘビ・ハチ・きね・うす・包丁・卵というのもある。中国・モンゴルなどにも同様な話が分布している。

〔渡辺欣雄〕

さるがわ　【沙流川】 北海道南部，日高山脈北部を水源に西南流して太平洋に注ぐ。流程112km。流域は沙流川アイヌ人の居住地として知られ，特に平取町はアイヌの都とよばれる。上流には沙流川ダム・岩知志ダムなどがある。

さるくいわし　【猿喰鷲】 鳥類・ワシタカ科。フィリピンのミンダナオ島特産で，カニクイザルをおもに食べる。白とかっ色の斑紋(はんもん)の冠羽をもち，下面は白色，上面は黒かっ色で，鋭い顔つきをしている。アフリカのカンムリクマタカ，アマゾンのオウギワシとともにサルをはじめとする大形鳥獣を襲い，世界の三強ワシといわれる。

さるげんじのそうし　【猿源氏草子】 *御伽草子(おとぎぞうし)の一。求婚恋愛談。伊勢(いせ)(三重県)のいわし売り猿源氏は，洛中(らくちゅう)で評判の遊女螢火(けいが)を見そめ，大名と偽って首尾よく契りを結ぶ。そして身の上が悟られそうになったとき，巧みな歌物語をして螢火の心をひきつけ，のち富み栄えて，子孫も繁盛したというもので，歌の徳が強調されている。

ザルコマイシン　[sarkomycin] 日本で発見された最初の抗癌(こうがん)性抗生物質。1951年梅沢純夫(すみお)らが鎌倉の土壌(どじょう)から抗生物質を産生する放線菌を発見し，1952年梅沢浜夫らがこの抗生物質を精製してザルコマイシンと命名した。胃癌・腸癌・肝臓癌・肺臓癌・乳癌・子宮癌・ホジキン病などに静脈注射することにより，症状の緩和や延命効果が認められたが，現在はあまり使用されていない。副作用として一過性の血管痛・顔面紅潮・動悸(どうき)などがみられる。

〔川村次良〕

サルゴン　[Sargon] 古代オリエントの王名。原名は〈真の王〉を意味するシャルル-キーン。

[1] １世(？～ＢＣ2295ごろ)　*アッカド王朝の建設者。在位ＢＣ2350ごろ～ＢＣ2295年ごろ。紀元前24世紀後半，メソポタミア地方に最初の統一国家を樹立した。伝承によれば，娼妓(しょうぎ)の私生児として生まれ，葦舟(あしぶね)に乗せて流されたが庭師に拾われ，長じてキシュ王の侍従になったという。やがて王位を奪って即位し，アッカド市を建設し，軽武装の常備軍を創設した。やがて*シュメール都市国家群の覇者(はしゃ)ルーガルザグギシと戦ってこれを捕虜とし，南メソポタミアにはじめて統一権力を実現した。彼は度量衡制度の統一など商業と貿易の拡大に努め，数度にわたる大遠征によってユーフラテス川中流，シリア・パレスチナ・アッシリア・西南ペルシアにまでその足跡を残している。こうして，古代オリエント世界に強大な専制権力をもつ君主と広大な領域を支配する国家とが成立する。しかし，急激な膨張策は人民の負担を重くし，王の晩年は各地の反乱の鎮圧に費やされた。

[2] ２世(？～BC705)　アッシリア王。在位BC722～BC705年。クーデターによってシャルマネセル５世を倒し，新王朝を開いたが，猜疑心(さいぎしん)が強く，内訌(ないこう)が絶えなかった。しかし外征の成功はめざましく，ＢＣ721年には先王以来のサマリア征討を完成してイスラエル王国を滅ぼし，その住民をアッシリア王国の北部と東部に移した。ＢＣ714年の８度めの遠征において，ウ*ラルトゥ王国を完全に滅亡させている。

〔屋形禎亮〕

サルゴンおうきゅう 【サルゴン王宮】 紀元前8世紀末，アッシリアのサルゴン2世が都のコルサバードに6年の歳月をかけて建設した宮殿。石造で，彩釉(さいゆう)れんがの壁画，浮き彫りを施し，約700のへやをもつ壮大な規模であった。19世紀半ばにフランス人ボッタが発掘し，メソポタミアにおける最初の考古学的発掘となった。20世紀になってアメリカ人による大規模な発掘が行なわれた。

さるさわのいけ 【猿沢池】 奈良市奈良公園にある池。周囲350m余。興福寺の南崖(なんがい)下にあり，池を隔てて興福寺の五重塔を仰ぐながめは，古都奈良を代表するものの一つといわれる。池は興福寺の放生池であったから魚族が多い。奈良観光の中心をなす池で，池畔には旅館が多い。歌枕(うたまくら)として古歌によまれ，また平安の帝(みかど)の寵愛(ちょうあい)を失った采女(うねめ)がこの池に投身した伝説は《大和(やまと)物語》や能《采女》で知られており，池のほとりにそれを祭った采女社と，衣を掛けたという柳がある。 〔長津一郎〕

サルジニア(島) [Sardinia] イタリア半島の西方にあるイタリア領の島で，地中海第2の大島。面積23,726km²。チレニア海に浮かぶカコウ岩質の火山島で，周囲は険しい断崖(だんがい)で囲まれ，良港と平野に欠ける。古くから他地方との交流が少なかったため，住民は地中海諸島の中で最も純血の度合いが高い。身長が低く，ヒツジを飼い，小規模な農業を営むサルジニアの農民は，がんこな気質で知られる。山地の放牧場ではウシ・ウマ・ヒツジ・ロバ・ラバが細々と飼われ，コルクガシはイタリア人の業者が伐採して積み出す。ほかに亜鉛・鉛・マンガン・アンチモニー・モリブデン・銅・亜炭を産する。キリスト教渡来以前には，カルタゴとローマが次々と支配し，8～11世紀にはサラセン帝国が占領した。1720年サボイ家はサルジニア王国を樹立，1814年からはリグリア王国となり，1861年のイタリア統一王国以来イタリアの領土となった。南岸にあるガジリアリは古い港町で，ビザンチンからゴシック・バロック様式までいろいろの時代の建築が数多く存在している。 〔大崎　晃〕

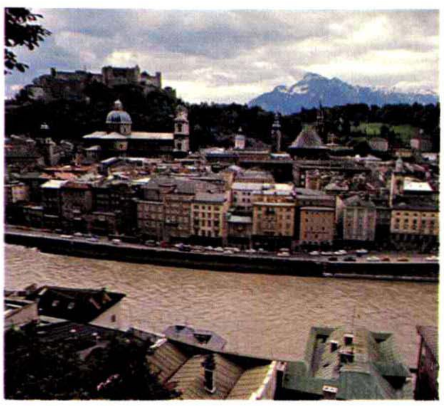
サルジニアおうこく 【サルジニア王国】 統一前のイタリアの一王国。はじめサボイ公国と称し，11世紀，サボイ家の支配下に北イタリアに成立した。17世紀前半以来フランスに隷属していたが，アウグスブルク同盟戦争に参加して独立，スペイン継承戦争の結果シチリア島を得てシチリア王国と称し，1720年にはオーストリアの要求によりシチリア島とサルジニア島を交換してサルジニア王国と改称した。フランス革命・ナポレオン時代，対フランス大同盟に参加したため，ナポレオンに本土を占領されてサルジニアを保持するのみとなったが，ウ



サルゴン王宮　サルゴン2世の王宮を飾っていた浮き彫り　大英博物館蔵



サルスベリ



ザルツブルク　市中を貫流するザルツァハ川を隔てて左岸地区を望む。町にはローマ時代以来の遺跡が多く，丘の上には古城が見える

ィーン会議により領土を拡大して復活した。その後改革と反動をくり返したが，カルロ-アルベルトのもとに憲法が施行され，オーストリアに宣戦してリソルジメントに乗り出した。結局大敗して王は退位したが，あとを継いだビットリオ-エマヌエレ2世は，その遺志を継いで王国の近代化に努め，1861年サルジニア王国を中心とする統一イタリア王国の樹立に成功。〔大野真一郎〕

サルスエラ [zarzuela] スペインの代表的な国民オペラ。その名はマドリッド郊外のサルスエラ宮に由来する。話される会話を含む点で，フランスのオペラ-コミックに似ている。作品としては17世紀初めから残されている。やがてギターやカスタネットの伴奏による舞曲が挿入(そうにゅう)されたが，民衆的な題材に欠けたため，18世紀にオペラ-ブッファに近い民衆的なトナディィリャによっておさえられた。しかし，19世紀半ばの国民運動によって再生し，悲劇的内容の強い3幕のものと1幕の軽いものとの両方が現在でも行なわれている。 〔徳丸吉彦〕

サルスチウス [Gaius Sallustius Crispus] (BC84～BC34ごろ) 古代ローマの政治家・歴史家。平民に生まれたが，元老院議員となり，財務官に任ぜられる。BC52年護民官となり，キケロ派と対立した。BC50年に追放されたが，BC49年カエサルによって財務官に再任された。アフリカ総督・ヌミディア地方総督を歴任したのち引退し，《カチリナ内乱史》《ユグルタ戦史》《歴史》などの著作がある。細部に多少の不正確さ・歪曲(わいきょく)がみられるが，いきいきとした描写や会話のおもしろさにすぐれ，文学的にも高く評価される。〔久保正彰〕

さるすべり 【猿滑・百日紅】 双子葉植物・ミソハギ科。中国原産の落葉高木で，高さ8mに達する。木のはだは赤かっ色でなめらかなため，サルもすべるとして名づけられた。小枝は四角形で，多数の花を対生もしくはほとんど対生につける。葉はほとんど無柄，長さ3～7cmの楕円(だえん)形ないし倒卵形で，鋸歯(きょし)はない。7～9月，小枝の先に円錐(えんすい)形に紅色ときに白色の花を次々と咲かせるので，ヒャクジツコウ(百日紅)の名がある。花は直径3～4cmの六弁花で，花弁は長さ1～2cmのちぢれた円形で，基部に細長い柄がある。おしべは約40本あるが，そのうちの6本は特に長く，紅色をおびて美しい。めしべは1本，1花柱である。果実は長さ1cmほどの楕円形の蒴果(さくか)で，6裂する。庭に植栽されるほか，材は床柱，農具の柄などに用いる。 〔加藤僖重〕

さるだひこのかみ 【猿田彦神】 日本神話の神。ニニギノミコトが天下ったときに，天の八衢(やちまた)にいて迎えたと伝えられる。《伊勢(いせ)二所皇太神宮御鎮座伝記》《倭姫命(やまとひめのみこと)世記》では，この神を宇治土公の祖，つまり宇治の地主神としている。《皇極紀》にはサルを〈伊勢大神の使い〉と称していて，アマテラスオオミカミの伊勢鎮座以前には，宇治土公の祭る神だったが，アマテラスオオミカミの鎮座によって，使者としての神に転落したものと思われる。日吉(ひえ)神社でも，神の使いはサルとなっている。サルは土地の主としての神のとりうる一つの形だったのであろう。〔宮井義雄〕

サルタン ⇨スルタン

ザルツブルク [Salzburg] オーストリア中央部，ドイツとの国境近くにある，この国第4の都市。人口12万9,000(1971)。東アルプス山脈の北山麓(さんろく)ザルツァハ川沿いに位置し，ドイツからウィーンへの交通の要地となっている。醸造・製本・大理石装飾品のほか楽器の生産で知られ，毎年

開催されるザルツブルク音楽祭は有名である。モーツァルトの生地で，記念館がある。ローマ時代からケルト人の集落があったが，5世紀に壊滅し，8世紀に再建された。以来，現在に至るまで宗教的色彩の強い都市で，多くの寺院がある。地名は〈塩の町〉の意で，近くに岩塩層があることから。〔梶川勇作〕

ザルツブルクおんがくさい【ザルツブルク音楽祭】オーストリアの有名な音楽祭。モーツァルトの生地であるザルツブルクでは，すでに1877年から断続的にモーツァルト祭が8回行なわれていたが，1917年にザルツブルク音楽祭協会がつくられ，1920年以降は毎年催される形となった。第2次世界大戦中は中断されたが，1946年から再開され，バイロイト音楽祭*とともに最も有名なものとなった。モーツァルトの作品が多く取り上げられるが，現代の作品も積極的に上演されている。〔向坂正久〕

ザルツマン［Christian Gotthilf Salzmann］(1744〜1811) ドイツの教育家。牧師の子として生まれ，イエナ大学で神学を研究し，牧師となった。1781年，J.B.バゼドウの汎愛(はんあい)学舎に招かれて，1784年独自の汎愛学舎を創設するまで，宗教教師・礼拝教師として活躍した。

ザルテン［Felix Salten］(1869〜1945) オーストリアの小説家。本名ジークムント-ザルツマン。ウィーンやベルリンで新聞記者をしながら小説・演劇・批評などの各方面で活躍し，オーストリアのペンクラブ会長に選ばれたこともある。動物に対する愛情が深く，野性の子ジカの成長を描いた作品《バンビ》(1923)は有名で，各国語に翻訳されている。

サルト［Andrea del Sarto］(1486〜1531) イタリアのルネサンス盛期における，フィレンツェ派の主要な画家のひとり。色彩と明暗の表現にすぐれていたピエロ-ディ-コシモ(1462〜1521)の弟子(でし)で，また，レオナルド-ダ-ビンチ*からも強い影響を受けている。主として壁画・祭壇画を描き，繊細な色彩感覚のうちに静穏な作風をつくった。[illegible]の作品は，ときにはバルトロメオ*やラファエロ*との類似性をも示している。代表作にウフィツィ美術館*の《アルピエの聖母》などがある。〔松本芳夫〕


サルト《アルピエの聖母》1517 ウフィツィ美術館蔵


サルトリイバラ


サルトル

サルトゥイコーフ-シチェドリーン［Mikhail Yevgrafovich Saltykov-Shchedrin］(1826〜1889) ロシアの小説家。地方地主の家に生まれ，学習院卒業後官庁にはいった。ベリンスキー*やサン-シモン*らの影響を受け，社会の矛盾と経済的不平等をついた作品の筆禍で，北方のブャトカに左遷されたが，数年後首都に帰されて復職。その後《現代人》誌の編集に従事し，同誌が閉鎖を命じられたのちはネクラーソフ*とともに《祖国雑誌》を発行，編集と創作を続けた。作品は《県の記録》《タシケントの人々》《モン-レポの避難所》など，スケッチとフィクションを突き混ぜて，社会を批判・風刺したものが多く，他にロシア史をなぞって歴代の皇帝と国民を戯画化した《ある町の歴史》，悪徳の地主一家の滅亡を自然主義の筆致で描いた《ゴロブリョフ家の人々*》がある。〔北垣信行〕

さるとびさすけ【猿飛佐助】戦国時代の忍者。講談本による架空の人物とも，忍術書に該当者がいる伝説上の人物ともいわれる。講談本では大正初めに出た立川文庫の《猿飛佐助》が初出で，大阪の講談師玉田玉秀斎の口演速記を立川文明堂が出版したもの。佐助は信州鳥居峠の山中で，戸沢白雲斎から忍術を学び，上田の城主真田幸村(さなだゆきむら)に仕えて豊臣(とよとみ)家のため間諜(かんちょう)として活躍する。一方，伝説上では本名を上月佐助といい，初世は武田勝頼(たけだかつより)に仕えて天目山の戦いで死に，2世が大阪の陣で討ち死にしたという。さらに伊賀(いが)十一忍者に数えられる下柘植(しもつげ)の大猿・小猿を，そのモデルだとする説もある。〔稲垣史生〕

さるとり【申酉】清元節・日本舞踊の曲名。本名題《再茲歌舞伎花轢(またここにかぶきのはなだし)》という三段返しの舞踊の一。作詞2世桜田治助。作曲は初世清元斎兵衛(さいべえ)とされる。1826年(文政9)初演。山王祭の描写で，いなせな鳶職(とびしょく)の頭(かしら)の踊りだが，芸者をからませることも多い。新内がかり(新内節をまねた節まわしで出ること)のくどき*，字余り都々逸(どどいつ)，木遣(きや)り歌など，はでな祭礼気分に満ちた作品である。〔如月青子〕

さるとりいばら【菝葜】単子葉植物・ユリ科のつる性低木。山野に自生し，他の植物に巻きつく。地下茎は太くかたい。茎は節ごとにじぐざぐに屈曲し，1〜2mになり，まばらにとげがある。葉は互生し，円形〜広卵形で，基部は丸く，全縁。質は厚く，光沢がある。葉柄は短く基部は広がって，巻きひげになっている。4〜5月，葉腋(ようえき)に，短い柄のある緑色の小花を散形花序につける。雌雄異株。果実は球形の液果で赤熟する。根茎は利尿薬・駆梅薬として用いることがある。ときに本種をサンキライということがあるが，サンキライは同属の別種で，中国中部以南の各省に分布して日本にはない。〔横井朝子〕

サルトル［Jean Paul Sartre］(1905〜1980) フランスの哲学者・小説家・劇作家。パリの中産階級の家に生まれ，エコール-ノルマル卒業後，哲学教師として各地を転転とした。1938年処女小説《嘔吐*(おうと)》で作家としてデビュー。この長編において官能的に表現された無神論的実存主義の思想は，哲学書《存在と無*》で体系づけられた。第2次世界大戦に従軍，捕虜となるが収容所から脱出。その体験と思想は，戦中から戦後の誠実な知識人としての活動として展開される。戯曲《出口なし》《汚(よご)れた手》や長編《自由への道》，雑誌《現代(レ-タン-モデルヌ)》の創刊と評論活動などである。人間の自由と行動の選択，現実への参加(アンガージュマン)についてのその思想は，文学理論としては《文学とはなにか》にみられ，哲学としては《存在と無》から《弁証法的理性批判》の独自な歴史哲学へと発展。その過程にはボーボワール*やカミュ*との親交，さらにはマルクス主義への接近とそれをめぐるカミュとの論争・決別などがある。ほかに短編集《壁》，戯曲《蠅(はえ)》《恭々(うやうや)しき娼婦(しょうふ)》《悪魔と神》哲学的回想

《言葉》など。➔実存主義　➔実存主義文学
〔森　英樹〕

さるなし【猿梨】双子葉植物・マタタビ*科。山地に自生する落葉つる性の小低木。葉は長さ5～6cmの葉柄をもち，葉身は広い楕円(だえん)形で，長さ5～10cm，幅4～7cm，光沢があり，縁には鋸歯(きょし)がある。雌雄異株で，5～7月，緑白色のウメに似た花をつける。果実は10～11月に淡黄緑色に熟し，甘味があり食べられる。

サールナート［Sārnath］インド，ガンジス川中流のベナレス近郊にある仏跡。ブッダの初転法輪(はじめての説法)の地鹿野苑*(ろくやおん)として著名であるが，12世紀末に回教徒の侵入によって完全に破壊されたためか，ダーメク塔という仏塔などを残すのみである。しかし，ここに早くから寺院が建てられ，大伽藍(がらん)を形成していたことは，玄奘(げんじょう)の《大唐西域記*》からも知られ，広い地域から発掘される遺跡や彫刻遺品によっても推察される。最古の遺品はアショカ王石柱*の獅子(しし)柱頭で，写真的な動物彫刻としてインド美術史の枢要な地位を占める。なお，この地の繁栄は，仏教の衰微とともに10世紀ごろには終焉(しゅうえん)した。〔西岡康宏〕

さるのこしかけ【猿腰掛】担子菌類・ヒダナシタケ目・サルノコシカケ科に属するきのこの総称。特徴は担子胞子ができる部分である子実托(しじつたく)が管孔(くだあな)状である。大部分は樹木に生じ，子実体の背中の部分で基物に密着してかさをつくらないもの，たな状(腰掛け状)で半円形のかさをつくるもの，かさと茎との分化がはっきりしているものがある。柔らかい肉質のものもあるが，一般に硬質のものが多く，コルク質・革質・木質など多種多様である。一年生のものと多年生のものとがある。

サルパ［salpa］原索動物・尾索綱・サルパ亜綱の総称。すべて海生で，浮遊生活を送る。体は太く短い円筒状で，筋肉がたるにたがをはめたように体壁を取り巻く。日本近海では，体長3～6mmのウミタル，4～5mmのトガリサルパ，10mmほどのヒメサルパ，20cmほどに達するオオサルパ，15cmほどになるモモイロサルパなどが普通にみられる。いずれもわずかに桃色・青色などに着色しているが，寒天質で透明であり，一見クラゲのように見える。〔菅野　徹〕

さるはし【猿橋】山梨県大月市の中央本線猿橋駅の東1.6kmの地点で桂(かつら)川にかかる橋。〈えんきょう〉ともいう。もとは国道20号線(甲州街道)の橋であったが，1932年(昭和7)に国の名勝に指定され，1962年から渡橋が禁止された。桂川はこのあたりで深い渓谷(けいこく)をつくっており，増水時には水圧が大きいために橋柱を立てることが困難なので，両岸から角材を組んで重ねる刎木(はねぎ)式の構造になっている。推古天皇の命により芝耆麻呂(しきまろ)がかけたものといわれ，サルの群れがフジづるを使って川を渡るのを見てヒントを得たと伝えられることからこの名がある。〔浅井得一〕



サルバドル　港に臨む市街地には近代建築が立ち並ぶが，旧市街にはコロニアふうの建物や古い寺院が多い



サルビア

サルバドル［Salvador］ブラジル共和国第4の都市。大西洋中部にある港市で，別名バイア。人口99万8,000(1970)。1549年に建設され，1763年までは，ポルトガルの植民地で貿易の中心地であった。市周辺の海岸地域一帯は古くからサトウキビの栽培が盛んで，砂糖の集散地であり，綿紡・醸造・製糖などの工業も行なわれる。

さるはむし【猿金花虫】こん虫類・鞘翅(しょうし)目・ハムシ科・サルハムシ亜科の総称。体の大きさはまちまちであるが，体形はハムシ科の中では比較的一定しており，全体が細長い凸字(とつじ)形のものが多い。亜熱帯から熱帯地方にかけて最も種類が多いが，日本からも比較的多数の種が知られている。成虫は各種植物の葉を，幼虫は多くの種類では土中で根部を食べ，農林業上の害虫として重要なものが多い。日本に産する代表的な種類にはスギ・ヒノキ・マツ・クヌギ・ナラ類などの害虫であるスギサルハムシ，サツマイモ・ヒルガオにつくイモサルハムシ，クリ・クヌギの害虫のトビサルハムシ，ブドウの葉や茎を食害するアカガネサルハムシ，体が白粉におおわれてリンゴ・クルミなどにみられるコフキサルハムシ(リンゴコフキハムシ)のほか，ドウガネサルハムシ・クロオビカサハラハムシ・サクラサルハムシなどがある。なお，サルハムシの名はツツハムシ亜科のヨツボシナガツツハムシ(ヨツボシサルハムシ)やツツハムシ亜科のヤツボシツツハムシ(ヤツボシサルハムシ)，ツヤハムシ亜科のドウガネツヤハムシ(ドウガネサルハムシ)，ハムシ亜科のダイコンハムシ(ダイコンサルハムシ)などのように，サルハムシ亜科以外のハムシ類にも付されてきたが，紛らわしいので改称されたものが多い。これらのハムシも，成虫・幼虫ともに各種の植物の葉や根を食害する。〔鈴木邦雄〕

サルバルサン［salvarsan］アルゼノベンゾールまたはアルスフェナミンとよばれるヒ素を含む梅毒治療薬。1910年エールリヒ*と秦(はた)佐八郎*によって多数のヒ素化合物の中から選び出されたもので，実験番号である606号が別名としてしばしば使用された。普通は水にとけやすい黄色粉末のナトリウム塩として，水またはブドウ糖にとかし静脈内に注射する。梅毒の各期，潜伏梅毒・先天梅毒などに用いられるほか，回帰熱にも使用する。副作用はきわめて強く，発熱・頭痛・下痢・肝障害などが現われる。現在では抗生物質の出現によりその使用は著しく減少している。毒薬。
〔鈴木郁生〕

サルビア［*Salvia*］双子葉植物・シソ科・サルビア属の園芸的に栽培される種類の総称であるが，ふつうサルビア-スプレンデンス(別名ヒゴロモソウ)をいう。ブラジル原産の観賞用草本で明治の中ごろ輸入された。日本では冬になると枯れるので一年草となるが，原産地では小低木となる。茎は四角形で高さ60～80cm。葉は卵形で縁に鋸歯(きょし)があり，対生する。夏，茎の上部に唇形(しんけい)をした大形の花を穂のようにつける。花は横向きに咲き，包葉・がく・花びらとも緋(ひ)色で美しい。そのほか品種によって紫・白色などがある。またセージとよばれるサルビア-オフィシナリスは薬用サルビアともいわれ，地中海地方原産の多年草で，高さ50～90cm。6～7月，紫色の唇形をした花を数段輪状につける。葉を乾燥したものをサルビア葉といい，うがい薬などの薬用にされたが，現在では主としてソースなどの香料として使用される。
〔小清水義隆〕

サルファざい【サルファ剤】スルホンアミド剤・スルファミン剤ともいう。一般にスルファミン(パラアミノベンゼンスルホンアミド)の誘導体で，抗菌作用をもつ化合物の総称。1934年ドイツの医学者ドマークらの研究によって，赤色プロントジル(2′,4′-ジアミノアゾベンゼン-4-スルホンアミド)が臨床に最初に用いられ，続いて多くの類似体が合成された。その後作用機序の研究により，スルファミンが細菌の必須(ひっす)物質であるパラアミノ安息香酸の拮抗(きっこう)物質であることがわかって以来，急速に研究が進み現在に至っている。1945年まで

に5,000種を越す化合物が合成され検討されたが，実際に使用されているものの代表として，スルファジアジン・スルファチアゾール・スルファグアニジンなどがある。前二者はグラム陰性菌に対しても作用があることを特徴とし，後者は消化管内感染症に効力がある。また，ホモスルファミンはガス壊疽(えそ)菌や破傷風菌のような嫌気(けんき)性菌に有効であり，プロミンはらい病の治療に用いられる。1945年ごろよりペニシリンをはじめとする抗生物質の出現により，サルファ剤の開発は一時停止した感があったが，抗生物質にも耐性やアレルギー性疾患における副作用などの問題が生じたため，サルファ剤が再び使用の度を増し，新しい製品が開発されるようになった。特に持続性の化合物の研究が進み，スルフィソミゾン・スルファメチゾール・スルファメトキシピリダジンなどが登場した。サルファ剤は一般に白色の結晶で，細菌感染症の治療に内服・注射剤・軟膏(なんこう)として広く用いられる。ブドウ球菌・肺炎球菌・溶血性連鎖球菌・淋菌(りんきん)・大腸菌・赤痢菌などに特に有効である。一部のサルファ剤には体内でアセチル化され，アセチル体の溶解性が少ないために，結石を生じたり腎(じん)障害を起こすなどの副作用があるが，多くはこの欠点が除かれている。しかし，ときにより血尿・白血球減少・顆粒(かりゅう)細胞減少・皮膚発疹(ほっしん)などの副作用も起こることがあるので，医師の指示により使用しなければならない。用法は症状や薬の種類により異なるが，一般には初回１～２g，以後0.5～1.0gを４～８時間ごとに服用する。腎臓炎などの場合は使用を避ける。〔鈴木郁生〕

ザールブリュッケン ［Saarbrücken］ 西ドイツ西部のザール州の州都。人口20万5,000(1975)。ザール炭田の中心に位置し，鉄鋼・金属・機械・織物などの工業が盛んである。ローマ時代から交通の要地で，フランク王国時代に要塞(ようさい)が置かれた。1321年に市制を敷き，1793年フランス領下の軍事基地となり，1815年プロイセン領となって工業が発達した。1919年以降，ザールの州都となる。

サルベージ ⇨海難救助

サルペドン ［Sarpedon］ ギリシアの英雄伝説の勇士。ホメロスの《イリアス》では，ゼウスとラオダメイアの子，ホメロス以後ではゼウスとエウロペの子とされる。トロヤ戦争では従兄弟(いとこ)のグラウコスとともに小アジア南西端のリュキアの軍を率いてトロヤ方に加わり，ギリシア軍の陣営を最初に突きくずすなどの活躍をするが，パトロクロスに討たれた。リュキアでは特に広く崇拝された。

サルホのたたかい 【サルホの戦い】 中国，清(しん)の太祖ヌルハチが，1619年明軍(みんぐん)に大勝した戦い。明・清交替の重大転機となった。サルホは，南満州の撫順(ぶじゅん)の東方，渾河(こんが)南岸の山名。ヌルハチの挙兵を聞いた明は，清の根拠地である興京(ヘトアラ)をつこうとして，大軍を四路に分けて派遣したが，この戦いで大敗を喫した。大将以下の戦死者46,000とされる。



サレルノ　サレルノ湾に沿って弧を描いて広がる市街の概観。かつてこの地は，第２次世界大戦における連合軍の上陸地であった

さるまわし 【猿回し】 大道芸の一種。猿曳(さるひき)ともいう。サルに芸をさせて米や金を求める芸人。古くから，サルはウマのやくよけの動物とされ，猿回しが厩祭(うまやまつり)に祈禱(きとう)を行なって祝言(しゅうげん)を述べるということはすでに鎌倉時代に行なわれていた。江戸時代には，諸大名はそれぞれ猿回しを置き，猿舞の役をつとめさせるようになった。これらの猿回し芸が大道芸に転じたものである。天明年間(1781～1788)には，サルにかつらをかぶせ，衣装を着せて，歌舞伎(かぶき)役者の身ぶりのまねをさせることが行なわれた。これが，いわゆる〈猿芝居〉であり，〈猿まね〉である。〔佐藤　薫〕

さるみの 【猿蓑】 乾(けん)・坤(こん)２冊の俳諧撰集(はいかいせんしゅう)。去来・凡兆編。1691年(元禄４)刊。其角(きかく)の序と冬・夏・秋・春の発句(ほっく)382句，歌仙(かせん)４巻，《幻住庵記(げんじゅうあんのき)》とその後文，丈草の跋(ばつ)からなり，芭蕉(ばしょう)以下門人ら118人が名を連ねる。特に芭蕉の作品は，《奥の細道》の旅のあとの蕉風の円熟境を示す叙景を中心とした幽玄・閑寂の作品を収め，〈俳諧の古今集〉と称される。

サレ ［Marie Sallé］ (1707～1756) フランスのバレリーナ。1721年パリ-オペラ座でデビュー。カマルゴの対抗手としてバレエ衣装の改革を実践したが，急進的すぎていれられず，イギリスに渡った。1734年，ロンドンで自作のバレエ《ピグマリオン》を上演，コルセット・ペチコートをつけず，ギリシアふうモスリンを身にまとって踊り，市民の熱狂的歓迎を受けた。サレの衣装改革は，のちのバレエに多くの示唆を与えた。〔高橋孝一〕

サレジオかい 【サレジオ会】 ⇨ドン-ボスコ会

サーレム ［Salem］ インド連邦南部，マドラス州の都市。人口30万9,000(1971)。交通上の要点であり，また紡績業の一中心をなす。さらに，付近にはジテッ鉱・クロム鉱の鉱山もあり，またメラギリ山地から発するコーベリー川の水を利用したメトールダムの発電所も開かれている。

サレーユ ［Sébastien Felix Raymond Saleilles］ (1855～1912) フランスの法学者。自然法の創始者。民法・比較民法・比較刑法の分野で業績をあげ，比較法学的方法を提唱した。グルノーブル・ディジョン・パリ各大学教授を歴任。社会は有機的に均衡をとりながら進化するのであるから，法はこの有機的秩序全体の科学的研究によって確定すべきであると主張した。主著に《ドイツ帝国民法典第１草案による債務の一般理論の研究》《歴史学派の自然法》などがある。〔原田政洸〕

サレルノ ［Salerno］ イタリア南部のカンパニア地方，ナポリの東南東45kmにある港市。人口15万9,500(1975)。絹・もめん織物や製紙工業が盛ん。サレルノ湾に面した古くからの商港で，９世紀にはヨーロッパで最も早く医学大学が創立されたが，1224年ナポリ大学ができてから衰えた。現在のサレルノ大学は，1944年に再建された。

サロイアン ［William Saroyan］ (1908～　) アメリカの小説家・劇作家。アルメニア系の家に生まれた。貧困の中に多くの職業を転々とした。それにもかかわらず楽観的な夢と叙情にあふれた作品を書き，《人間喜劇》《わが名はアラム》《人生の午後のある日》など，ユーモアとペーソスにあふれたゆるやかな文体の作品がある。戯曲《君が人生の楽しき時》はピュリッツァー賞に選ばれたが，辞退した。

サロスしゅうき 【サロス周期】 同じような日・月食がくり返される周期，223朔望月(さくぼうづき)(6585.3212日)にあたる。この値は19食年(6585.7806日)や239近点月(6585.5376日)に近く，太陽・月・地球の相対位置は１サロス周期ごとにほぼ同じ状態にもどる。１サロス周期には0.3212日の端数がつき，また19食年と完全には一致していないので，日・月食の見られる地域は，１サロス周期ごとに前回より西に経度で約120°，また南へ緯度で平均2.5°ずれていく。１サロス周期(18年11日)間に起こる日・月食の平均数は71で，そのうち45回が日食，26回が月食である。〔守山史生〕

サロート ［Nathalie Sarraute］ (1902～　) ロシア生まれのフランスの女流小説家《トロピスム》《見知らぬ男の肖像》やゴンクール賞を受賞した《プラネタリウム》などで，心理の始源的な動きをきめ細かな文体で描き，〈アンチ-ロマン〉の代表的作家のひとりとされる。ほかに評論集《不信の時代》がある。

サロード ［sarode］ 北インド・パキスタンの擦弦の弦鳴楽器。円形の胴と太く短い(先端に近いところほど細くなっている)ネックをもつ。7～8本の金属製の演奏弦と下部にとりつけた16本の共鳴弦とが張ってある。指板にはフレットがなく，小さな三角形のヤシの殻(から)ではじいて奏する。じみだが重厚な音色をもち，速いパッセージなど表現力に富んでいる。

サロニカ ⇨テッサロニキ

サロマこ 【サロマ湖】 北海道東北部，オホーツク海岸にある潟湖(せきこ)。面積149.2km²，水深19.5m，水面高度0m。北海道では最も大きく，日本全土で第3。南からサロマベツ川が注ぎ，水は砂州をきって海に流れるが，この水道はよく位置を変える。ニシン・サケ・ホタテガイをはじめとする海水産生物が多く，カキの養殖北限でもある。湖の周囲は海浜植物の群落が多く，湧別(ゆうべつ)原生花園があり，野趣に富んだ大形の自然美を楽しませる。網走(あばしり)国定公園に所属する。 〔長津一郎〕

サロメ ［Salome］ ユダヤの分封領主ヘロデ-アンチパス(在位BC4～AD39)の後妻ヘロデヤの娘。義父の誕生祝いに踊って喜ばれ，捕われて牢(ろう)にいたバプテスマのヨハネ*の首をほうびとして望んだ。サロメの名はこの場面を述べる《マタイの福音書》14章，《マルコの福音書》6章いずれにも記されず，ヨセフォスの《ユダヤ古代誌》によるもの。ワイルドの戯曲で名高い➙次項。

サロメ ワイルド*の戯曲(1893)。《新約聖書》に材をとった悲劇で，ユダヤの王女サロメの予言者ヨカナーンへの倒錯的な恋が，唯美的な象徴的手法で描かれている。いわゆる世紀末文学の代表作で，ビアズリーのさし絵でも著名。原文はフランス語で書かれ，翌年英訳された。

サロン ［Sarong］ マレー地方の住民の常用する腰巻き布。原語は〈筒〉の意。幅1m，長さ3～4mくらいの布を筒形にして胸までおおい，余った布を前でタックする。綿布にプリントした織物などが使われる。

サロン ［saron］ インドネシアの楽器。ガンサともいう。特にジャワ島とバリ島のガムラン音楽*で主要旋律を奏するのに使われる。真鍮(しんちゅう)の比較的大きな板状のものを鉄琴のように並べ，槌(つち)で打つ。

サロン ［salon］ フランス語で〈客間〉の意で，貴族や富豪が自邸の客間を開放して文人を招待し，作品の朗読・批評を行ない，また文学・芸術の自由な論談を楽しんだ集まりをいう。はじめ14世紀のナポリ宮廷に興り，やがてフランスに伝わった。社交と会話を楽しむフランス人の性格と合致して，17～18世紀盛んに開かれるようになり，フランス古典文学形成の重要な舞台となった。

サロン ［Salon］ 美術において，美術作品の展示の場所をいう。貴族などのサロン*に，美術家や作家らが集まって鑑賞・批評を行なったところからの呼称であるといわれ，1725年ルーブル宮のサロン-カーレがアカデミーの美術展覧会場にあてられて以来，通称として定着した。しかし，その後定期的に展覧会として開設されるようになったのは1737年である。現在，パリで開かれている恒例のサロンには，春季のサロン-デ-ザンデパンダン，1924年以来のサロン-デ-チュイルリー，装飾美術展として知られるサロン-ド-ラール-デコラチフ，五月展のサロン-ド-メ，秋季にサロン-ド-トンヌなどがある。



サロマ湖
北西部の湧別町方向から見たサロマ湖(右側)。中央に延びる沿岸州によってオホーツク海(左側)とくぎられている。遠くに知床半島の山々がかすんで見える



サロメ ビアズリーのさし絵より〈舞踏の代償〉



サワガニ



サワギキョウ

さわあじさい 【沢紫陽花】 双子葉植物・ユキノシタ科の山地に多い落葉低木。ヤマアジサイの別名。➔ヤマアジサイ

さわがに 【沢蟹】 甲殻(こうかく)類・サワガニ科。日本産の唯一の純淡水生のカニで，甲幅3cmほどになる。甲はほぼ四角。体色はあめ色・淡青色・淡黄色などで，斑紋(はんもん)や模様はない。はさみは，雄のほうが雌よりもはるかに大きく，また右側のものが左側のものより大きいことが多い。青森以南，沖縄諸島・台湾・山東半島に分布し，山間・平地を問わず水の澄んだ小川にすむが，田などにもはいりこむことがある。生涯(しょうがい)海に下ることがなく，卵は雌の腹部に抱かれ，ゾエア・メガローパの両幼生期を卵の中で過ごし，孵化(ふか)後もしばらく雌の腹部に抱かれて保護される。から揚げなどにして食べることがあるが，肺ジストマの第2中間宿主であるから十分に加熱しないと危険である。 〔菅野　徹〕

さわぎきょう 【沢桔梗】 双子葉植物・キキョウ科。山の湿地にはえる多年草。茎は枝分かれせず直立し，高さ50～100cm。葉は細く，長さ4～7cm，縁に鋸歯(きょし)がある。8～9月に茎の上部に青紫色のやや細い唇形(しんけい)の花を総状につけ，美しい。

サワークリーム ［sour cream］ 酸敗*させたクリーム。脂肪含量40％以下の生クリームを乳酸発酵させたもの。東ヨーロッパでつくりだしたものといわれ，菓子の材

料として用いられるが，ロシア料理のボルシチなど料理の風味づけにも用いる。

さわぐるみ【沢胡桃】双子葉植物・クルミ科。カワグルミともいう。山間の谷沿いに自生する落葉高木。高さ25m，太さ1mに達する。葉は大形の羽状複葉で，小葉11～13枚からなる。雌雄同株で，5月，雄花穂は前年の枝先に，雌花穂は今年の枝先につく。10月，黄かっ色の果実穂が20～30cmに伸びる。材を家具・げたなどに用いる。

サワークロウト［sourcrout］ピクルス*の一種で，キャベツを酸味づけにしたもの。キャベツのしんを取って細く切り，2.5%内外の食塩を混ぜ，押しをしてつけこむ。26℃に保って発酵させると約1か月くらいでできるが，乳酸として1.8%ぐらいの酸を生ずるようになる。乳酸菌の純粋培養をしたものを加えて発酵させることもある。

さわしば【沢柴】双子葉植物・カバノキ科。山地に自生する落葉高木で，高さ10m以上になる。幹は淡緑灰色でうろこ状の裂け目がある。葉は卵形～楕円(だえん)形で先がとがり，基部が心臓形で互生し，縁に細かい重鋸歯(じゅうきょし)がある。雌雄同株で，4～5月，雄花穂は前年の枝に，雌花穂は今年の枝先にたれさがる。材は薪炭にする。

さわだしょうじろう【沢田正二郎】(1892～1929) 俳優。東京生まれ。早稲田(わせだ)大学英文科卒。坪内逍遙(つぼうちしょうよう)の主宰する文芸協会，島村抱月の芸術座を経て，1917年(大正6)劇団〈新国劇〉を創立，《国定忠治》《大菩薩(だいぼさつ)峠》などの剣劇によって広く人気を集め，新しい大衆演劇を開拓した。➔新国劇

さわのちゅうあん【沢野忠庵】⇨フェレィラ

さわひよどり【沢鵯】⇨ヒヨドリバナ

さわむらそうじゅうろう【沢村宗十郎】歌舞伎(かぶき)俳優。屋号紀伊国屋(きのくにや)。代代〈和事*(わごと)〉にすぐれている。

1 初世(1685～1756) 武士の出身。上方の芸風を江戸に移し，2世市川団十郎とともに元禄(げんろく)歌舞伎の興隆に尽くした。

2 3世(1753～1801)《忠臣蔵*》の由良助(ゆらのすけ)が当たり役で，寛政期随一の立ち役*といわれた。

3 5世(1802～1853)《五大力*(ごだいりき)》の源五兵衛(げんごべえ)を得意とした幕末の名優。

4 7世(1875～1949) 第2次世界大戦後まで活躍。江戸の伝統を引く最後の和事役者といわれ，女方(おんながた)にも古風な味を示した。その三男が現在8世を襲名している。〔松井俊諭〕

さわむらたのすけ【沢村田之助】歌舞伎(かぶき)俳優。現在まで6世になるが，3世が最も有名。屋号紀伊国屋(きのくにや)。3世(1845～1878)は5世沢村宗十郎*の次男で，幕末江戸の名女方(おんながた)。美貌(びぼう)と天才的な演技力で人気を集めたが，脱疽(だっそ)によって両手足を切断，若くして不幸な生涯(しょうがい)を終えた。

さわやなぎまさたろう【沢柳政太郎】(1865～1927) 教育学者。長野県松本市の生まれ。1888年(明治21)東京帝国大学文科大学哲学科卒業，文部省にはいり，第一高等学校長などを経て1901年文部次官，1906年東北帝国大学初代学長となる。その後，1911年京都帝国大学総長に任ぜられたが，教授会の意向を無視した教授の罷免(➔京大事件)を行ない，退官。1917年(大正6)その教育理念の具体化として成城小学校を創立した。その趣意は，①個性の尊重，②自然と親しむ教育，③心情の教育，④科学研究を基とする教育にあった。〔福井幸雄〕

さわら【鰆】硬骨魚類・サバ科。全長1mに達する海産魚。体は細長く，かなり側扁(そくへん)する。うろこは細かい。側線は1本だが波状で多くの分枝を出す。うきぶくろはない。背面は灰色がかった青色，腹面は銀白色で，ところどころに暗灰色の丸い斑点(はんてん)を散らす。日本北部からオーストラリアに分布し，沿岸にすむ。照り焼き・さしみなどにしてきわめて美味な高級魚。近年，遠洋でとれる近縁種のカマスサワラ(オキザワラ)が魚屋の店頭によく現われるが，これは全長2mに達する大形魚で，丸い斑点の代わりに横のしま模様があり，味は大いに劣る。サワラの小形のものは，サゴシ(細腰)とよばれることが多い。〔萱野　徹〕

さわら【椹】裸子植物・ヒノキ科。山地に自生するが，おもに栽培されている常緑高木。高さ30m，直径1mに達する。小枝は互生し，その上に鱗片(りんぺん)状の葉が対生する。ヒノキに非常によく似ているが，葉先がとがる点で異なる。裏面はろう白色。雌雄同株で，春さき，枝の頂端に黄かっ色の雄花，紅紫色の雌花をつける。果実は10～11月黄かっ色に熟し，直径5～6mmの球形でヒノキよりはるかに小さい。庭木・いけがきとして用いられ，材はふろおけ・器具などに用いられる。

さわら【佐原(市)】千葉県北東部の市。江戸時代は利根(とね)川水運の河港，物資集散地，香取神宮*の門前町として発達した。1951年(昭和26)佐原町・香取町ほか2村が合併して市制施行。人口50,000。市域は下総台地の北端部と利根川下流の自然堤防上にまたがり，北部の新島は利根川本流と北利根川・横利根川に囲まれる低湿な水田地帯である。産業三大別人口比は30：19：51。東京の穀倉地帯とよばれる早場米の産地で，古くから酒・しょうゆなどの醸造も行なわれる。商業活動が活発で，昭和初期に利根川対岸の牛堀(うしぼり)町(茨城県)と結ぶ水郷大橋が開通し，商圏は茨城県南部まで拡大された。成田線が通じ，1970年，香取駅から鹿島(かしま)神宮に至る鹿島線が新設。また，京葉工業地帯と鹿島臨海工業地帯を結ぶ国道51号線が通じ，土浦を経て熊谷(くまがや)へ至る125号線の起点ともなる。水郷筑波(すいごうつくば)国定公園の観光基地で，新島と潮来(いたこ)町(茨城県)を結ぶ潮来大橋が最近完成した。新島の北部は十六島とよばれる水郷観光の中心で，特に加藤洲(かとうず)の十二橋が名高い。史跡には香取神宮や伊能忠敬*(いのうただたか)の旧宅と同記念館がある。鹿島町(茨城県)の鹿島神宮も近い。水郷地域ではフナづりやカモ猟が行なわれる。〔浅井得一〕

さわらしんのう【早良親王】(750～785) 光仁(こうにん)天皇の皇子。母は高野新笠(にいがさ)。桓武(かんむ)天皇の同母弟。桓武天皇即位とともに皇太子となったが，天皇の寵臣(ちょうしん)藤原種継*と対立，785年(延暦4)種継暗殺事件に連座して皇太子を廃され，淡路(兵庫県)に流されたが，途中絶食して死んだ。その後皇太子安殿(あて)親王(平城(へいぜい)天皇)のとき，宮中に怪異と不幸が続き，これを親王のたたりとして改葬し，800年には崇道(すどう)天皇と追号された。

さわり 主として日本伝統音楽について使われる用語で，さわる(触れる)という語源的意味が3通りに応用されている。義太夫節(ぎだゆうぶし)ではもともとは他の種類の音楽のある部分を借用することを意味した。それが多少転じて，曲中の聞かせどころ(聞き手の心に触れる)をも意味するようになり，これが音楽以外の一般にも応用されている。なお，三味線(しゃみせん)の一の糸の上駒(こま)のところで棹(さお)に微妙に接触させたり，近世の琵琶(びわ)の柱(ちゅう)を幅広くしたりするなど，故意に複合音を出そうとする音楽的効果としての〈さわり〉もある。〔山口　修〕

さん【酸】塩基*に対する語。狭義には，水溶液中で電離して水素イオン(ヒドロキソニウムイオン)を出す化合物。電離がほぼ完全なものを強酸(塩酸など)，わずかなものを弱酸(酢酸など)とよぶ。塩基度* n の酸を n 塩基酸($n=1,2,\cdots$)という。また，H_nXO_m で表わされる酸を酸素酸といい，H_nX_m 型を水素酸という。酸の広義の定義としてデンマークの物理化学者ブレンステッドは，プロトンを与えるものを酸，受けるものを塩基とした。アメリカ物理化学者ルイスは化学結合にも拡張して，電子対を受けるものを酸，与えるものを塩基と名づけた。酸の示す性質を酸性といい，酸味，青色リトマス紙の赤変，塩基の中和*などで示される。〔三輪誠・玉野秀樹〕

さん【賛】〈讃〉と同じく他人の美徳をほめたたえる意で，漢文では善美をたたえる文体の一種であり，仏徳をたたえる韻文をもさして，梵賛(ぼんさん)・漢賛・和賛などともいうが，ふつうには，画に題して，画に添え書きされた詩・歌・文をいう。自画自賛などの熟語にもなっている。なお，仏教音楽としての声明(しょうみょう)の一種にもある。

サン［The Sun］イギリスの大衆紙。

労働党系の新聞《デーリー＝ヘラルド》に代わって1964年ロンドンで創刊された。16～44歳の活動的な世代の男女を対象として政党色をもたない〈新時代の新聞〉として生まれた。4億円の宣伝費をかけて創刊号は350万部を売りつくし，はなばなしいスタートを切ったが，現在の発行部数は372万3,000部(1977)。

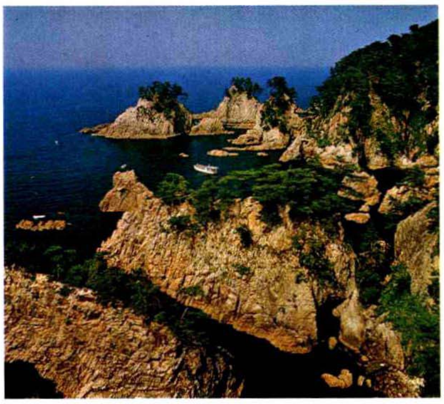
さん・アルカリていりょう【酸・アルカリ定量】物質の量を測定することを定量という。一定の酸とアルカリとが中和するときには両者の間に一定の量的関係がある。したがって酸・アルカリを中和させてその一方の量を知るならば，他方の量を知ることができ，これを酸・アルカリ定量という。酸・アルカリの定量を行なうにはその当量関係を利用する(→化学当量)。ふつう塩酸HClの1化学式量(36.5)および水酸化ナトリウムNaOHの1化学式量(40.0)をおのおの1当量とし，これとちょうど中和する他の塩基および酸の量が，その塩基および酸の1当量である。酸・アルカリ定量は酸・アルカリの中和反応の際，両方の当量すなわちグラム当量数がつねに等しいという関係に立脚しているので，濃度のわからない酸またはアルカリの溶液の濃度を次のようにして知ることができる。酸のN規定溶液VlとアルカリのN′規定溶液$V'l$とが中和したとき，酸のグラム当量数はNVで，アルカリのグラム当量数はN′V′であり，NV＝N′V′が成立する。いま，酸溶液の濃度Nがわかっていて，アルカリ溶液の濃度N′が未知であるとすると，実験からV，V′は知ることができるから，未知の濃度N′は$N'=\frac{NV}{V'}$で求めることができる。このとき，濃度のわかっている溶液すなわち濃度の標準になる溶液(標準溶液)を調製しておく必要があり，通常，酸の標準溶液としてはシュウ酸・コハク酸が，アルカリの標準溶液には水酸化バリウムが用いられる。〔三輪誠・野宮健司〕

サンアントニオ［San Antonio］アメリカ合衆国テキサス州南部の商業・軍事都市。人口77万3,000(1975)。テキサス最古の都市で，1718年スペイン人によって建設され，テキサス独立戦争当時のアラモの砦(とりで)が残っている。付近の大牧場地域の商業・経済の中心地で，羊毛・ウシの取引などが盛んである。住民の構成はアングロ－サクソン系51.2％・ラテン系41.4％・黒人系7.1％で，ラテンアメリカ的色彩が強い。陸軍の基地があり，避寒地・観光地としても有名である。〔相村大彬〕

さんいきょう【三夷教】唐代に中国に伝来した祆教(けんきょう)(ゾロアスター教*)・摩尼(マニ)教*・景教*の総称。祆教は南北朝末期に伝わり，波斯(はし)寺を各地に建てた。摩尼教は7世紀末に伝わり，768年長安に大雲光明寺を建立(こんりゅう)。景教は7世紀中ごろに伝わり，638年長安に波斯寺(のち大秦(たいしん)寺*と改む)が建てられた。3教の寺院を三夷寺と総称するが，いずれも〈会昌(かいしょう)の廃仏*〉により破壊された。



山陰海岸国立公園


山陰海岸国立公園　出入りに富むリアス式海岸が続き，海食作用によって豪壮な海食崖が発達している。写真は鳥取県浦富海岸の奇勝

さんいちごじけん【三・一五事件】1928年(昭和3)3月15日に行なわれた日本共産党*に対する大検挙事件。第2次共産党事件ともいう。日本共産党は27年テーゼ*に基づいて党の再建を着々と進め，1928年2月《赤旗*》を創刊し，同月行なわれた総選挙には党員を労働農民党*から立候補させ，その政綱を大衆の前に掲げるなど，公然と活動を始めた。このような赤化活動の表面化は政府・支配者層に異常な脅威を与えた。このため政府は3月15日早暁，日本共産党員および同調者1,600余名を治安維持法*違反の容疑でいっせいに検挙し，さらに4月10日には労働農民党と評議会に解散を命じ，次いで治安維持法の改正や特別高等警察*の拡充を行なった。この事件以後，左翼陣営に対する官憲当局の弾圧はいっそうきびしさを加えた。〔高崎徳次〕

さんいちどくりつうんどう【三・一独立運動】万歳事件ともいう。1919年(大正8)朝鮮の民衆多数が参加した独立要求運動。朝鮮は1910年(明治43)の日韓(にっかん)併合*により，日本の植民地支配を受けていたが，ロシア革命・中国革命および民族自決主義の世界の動きに刺激されて，朝鮮の民衆に独立の気運が広まり，1919年3月1日，前皇帝李太王(りたいおう)の葬儀の前日，ソウルで数千人の民衆が朝鮮独立万歳を叫んで独立宣言を発表し，大示威運動を行なった。この報道が伝わると，各地で独立運動が起こり，武装闘争にまで発展したが，日本側は直ちに軍隊・警察による武力弾圧で鎮圧した。朝鮮民衆の死者は8,000人であった。この独立運動は，民族的自覚に基づいた農民・労働者の広範な反抗を展開したので，日本の半島統治も従来の武断政治から文治政治へ転換した。その後，この日は長く朝鮮独立記念日として朝鮮民衆の間に銘記された。〔高崎徳次〕

さんいっちのほうそく【三一致の法則】17世紀フランスの古典主義演劇を支配した作劇上の基本法則。〈三統一〉〈三単一〉とも訳される。一つの劇は全幕を通じて同一の〈場所〉で起こり，発端から結末へと達する〈筋〉をもち，24〈時間〉以内のできごとであるべきだ，とする。アリストテレス*の《詩学》の一部が誇張して解釈されたもので，約2世紀にわたってフランスのみならずヨーロッパ各国の演劇を支配した。ラシーヌ*・モリエール*らはもとより，近代ではイプセン*がこの法則を遵守した傑作を残している。〔工藤隆一〕

さんいんかいがんこくりつこうえん【山陰海岸国立公園】鳥取県・兵庫県・京都府にまたがり，鳥取砂丘から浜坂・竹野を経て久美浜(くみはま)湾に至る海岸線に沿った面積89km²の地域。1955年(昭和30)に国定公園，1963年に国立公園に指定された。鳥取砂丘は日本最大といわれ，海から吹きつける強風のため砂が移動してできた風紋が珍しい。海食崖(かいしょくがい)からなる美しい海岸線の続く浜坂から香住に至る約26kmは，石英粗面岩・凝灰岩・ソーダ粗面岩・キ石・安山岩・集塊岩など多種類の岩質からなっているので特に有名である。ほかに浦富海岸，御火浦(みほのうら)の釣鐘洞門(つりがねどうもん)や千畳敷岩・黒島洞門・白石島，久美浜湾の小天橋などが名勝地として知られる。内陸部には城崎(きのさき)温泉や玄武洞がある。浦富海岸には海岸に沿って観光道路が，また，竹野～豊岡(とよおか)間には有料観光道路が通じている。山陰本線も海岸線に沿って走る

ので車窓からの風景がよい。〔木村東一郎〕

さんいんちほう　【山陰地方】　中国山地北斜面の地方をさし，名は古い行政区画の山陰道に由来する。鳥取・島根の2県および山口県日本海斜面の地域をいうが，広くは兵庫県・京都府の日本海斜面をも含め，山陰本線の通じている地域に相当する。➔中国地方

さんいんどう　【山陰道】　五畿(き)七道の一。中国地方から近畿地方にかけての日本海沿岸地域。建国神話ではこの地方に出雲(いずも)政権が君臨していたことを伝えている。律令(りつりょう)制下には，丹波・丹後・但馬(たじま)・因幡(いなば)・伯耆(ほうき)・出雲・石見(いわみ)・隠岐(おき)の8か国が置かれた。

さんいんほんせん　【山陰本線】　東海道本線の京都と山陽本線の幡生(はたぶ)(下関市)間を，鳥取・松江経由で結ぶ国鉄路線。営業キロ数675.4，ほかに支線5.5kmがある。1897年(明治30)京都～園部(そのべ)間が開通し，1933年(昭和8)に全線開通。山陰地方の海岸部を縦貫する幹線鉄道で，福知山・豊岡(とよおか)・鳥取・米子(よなご)・松江・出雲(いずも)・浜田の諸都市を通過している。

さんえ　【三衣】　僧の着用する3種の袈裟(けさ)，下衣・上衣・大衣をいう。下衣は安陀会(あんだえ)といい，日常の作業の際や就寝時に着用するもの。色は壊色(えじき)で，5条の布でつくられた。上衣は，鬱多羅僧(うったらそう)といい，礼拝や聴講，月に2度の修行僧の反省会である布薩(ふさつ)など，主として僧院内での公事の際に着用されるもので，7条の布片を縫い合わせてつくられた。大衣は，僧伽梨(そうぎゃり)といい，三衣の中で最大であるところからこの名がある。正装衣で，托鉢(たくはつ)や王宮における説法など，主として公式の外出の際に着用するもので，25条の布片を縫い合わせてつくられたものである。なお，三衣と一つの食器を合わせて三衣一鉢といい，僧が私有することを許され，仏教教団にはいるために所持しなければならない必需品とされた。〔田中良昭〕

さんエフばくだん　【3F爆弾】　水素爆弾の外側をさらに天然ウランまたはウラン238で取り巻き，放射性の降灰を多くすることをねらったもの。爆発時に，fission(分裂)・fusion(融合)・fission(分裂)の組み合わせの過程を経るところからこの名がある。この爆弾は，敵側の人畜に長期にわたる惨禍を与えるが，使用する側もまた地球大気の汚染による被害を免れることはできない。

さんえん　【三遠】　東洋画における遠法の基本。北宋(ほくそう)の郭煕(かくき)が《林泉高致》に説いた山水画の構成法。山を下から仰ぎ見る構成を高遠，山の手前から山の後方を見きわめる構成を深遠，近い山から遠い山を見通す構成を平遠といい，平遠は李唐(りとう)が完成し，深遠は南宋の院体画が巧妙に用いた。〈毎遠毎異・毎看毎異の山水の意態を究(きわ)め尽くす〉という考え方から，また主山とその周辺との関係にもさまざまな思想的意味づけを行なうものであるが，六朝(りくちょう)以来の画論に比べるとより明確に視覚遠近法的概念としての提出に意味があり，それぞれ仰視・水平視・俯瞰視(ふかんし)のことと解する立場もある。実作の上で，必ずしも一定の遠法にあてはめることが意識されるとは限らず，西洋画の遠近法と同次元で論ずることはできない。〔中島純司〕

さんか　【酸化】　⇨酸化・還元

さんか　【山窩】　山家・山稼・散家などとも書き，ポン・オゲ・箕(み)作り・箕直しなどともよばれる。九州から中国山脈，近畿中部から関東地方に分布している。家族が一団となって山間を漂泊し，〈せぶり〉と称する仮小屋または天幕に住み，男は川漁や流物の採集，女は箕・竹かご・ざるなどをつくったり修繕したりして生活を立てる。炊事のしかたも原始的で，川原に掘った穴に油紙を敷いて水をたたえ，焼け石を投じて入浴するといわれる。厳重な規律で統制され，仲間との連絡も強いという。その起源には，渡来した異種族，敗残者，あるいは中世の傀儡子(かいらいし)との類似からその後裔(こうえい)とするなど諸説がある。現在では急速に一般人の中にとけこみつつある。
〔合田　濤〕

さんか　【山歌】　中国の民間歌謡の一体。その起源は唐代と推定される。七言四句が基本形式で，唐詩の七言絶句の影響を強く受けている。その発生・普及した地方は，江南の呉語(上海(シャンハイ)方言)に属する地域なので，呉歌ともいわれる。明(みん)代にはいって特に盛んで，大部分は男女間の愛情を題材にしているが，礼法に束縛された当時の士大夫の感情生活にはみられない素朴(そぼく)な民衆の自然で健康な感情の流露が特色をなしている。馮夢龍(ふうぼうりょう)編の《山歌》がある。〔今村与志雄〕

サンガー　［Margaret Sanger］（1883～1966）　アメリカの産児制限運動家。ニューヨーク郊外に生まれ，はじめ小学校教師や看護婦となり，貧民街で女性の多産による生活苦の実態に触れ，その後ロンドンに渡って性心理学者H. エリスに師事した。帰国後，夫ウィリアムとともに産児制限運動を起こしたが，カトリック教会の反対にあって逮捕投獄された。1921年ニューヨークで最初の産児制限会議を開催して，アメリカ・日本・中国など世界各国にこの運動を波及させた。1952年国際家族計画連盟をつくり，その名誉会長となった。〔椿　輝男〕

サンガー　［Frederick Sanger］（1918～　）　イギリスの生化学者。ケンブリッジ大学を卒業。同大学で研究を続けている。1955年膵臓(すいぞう)ホルモンであるインシュリンの構造決定に成功した。彼のこの研究は，タンパク質におけるアミノ酸配列を解明した最初のもので，生命への化学的接近の一つの里程標となった。1957年ノーベル化学賞受賞。

さんかあえん　【酸化亜鉛】　ZnO　亜鉛華，あるいは亜鉛白ともいう。天然にはコウアエン鉱として産出。亜鉛蒸気の燃焼，あるいは炭酸塩・水酸化物・硝酸塩を空気中で強熱すれば得られる。白色の粉末で，熱すると黄色，冷えると白色にもどる。硫化水素や光線で変色しない。結晶は六方晶系。比重5.42(無定形)，5.70(結晶)，融点2,000℃(52気圧)で，水には難溶。両性酸化物で，ほとんどすべての酸にとけて亜鉛塩をつくり，また，アルカリにとけて亜鉛酸塩となる。白色顔料として多量に利用されるほか，ゴム製品・セルロイド・油布の充塡(じゅうてん)剤，化粧用・軟膏(なんこう)剤などの外用医薬，またリン酸と混ぜて歯科用のセメントに用いられる。➔顔料〔品田　登〕

さんかアルミニウム　【酸化アルミニウム】　Al_2O_3　工業的にはアルミナという。➔アルミナ

さんがい　【三界】　仏教用語で，有情(生あるもの)が生存する迷いの世界に，三つのランクをつけたもので，欲界・色界・無色界をいう。欲界は食欲・淫欲(いんよく)などの肉体的欲望を有するものが生存する世界で，六道のこと。色界は欲界より上の世界で，色(物質)がすべて微妙となる世界。無色界は色界の上の世界で，物質的なものがすべてなくなり，深妙な禅定に住するものが生まれる世界であるが，これも迷いの世界である。

さんかいかん　【山海関】　シャンハイコワン　中国，河北省東北端，万里の長城東端にあたり，遼寧(りょうねい)省との境にある都市。人口約70,000。古来，華北と東北の境界にあたる重要な関門として知られ，要害の地であるため〈天下第一関〉と称せられた。現在でも交通の要衝として重視され，幹線鉄道の京山(北京(ペキン)～山海関)鉄道と瀋山(しんさん)(瀋陽～山海関)鉄道の接続点になっている。また，19世紀末に建設された中国最古の橋梁(きょうりょう)工場がある。〔船越昭生〕

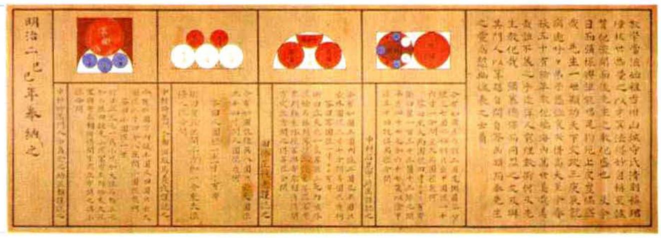
さんかいせいだん　【散開星団】　数十ないし数百の恒星が比較的まばらに集まった星の集団。銀河系内での分布は，銀緯±40°の範囲に限られていて銀河面への集中が著しく，また一般に距離は近い。種族Iの星の集まりで，主系列の高温度星を含んでいる場合が多く，球状星団に比べて年齢の若いのが特徴である。この種の星団の代表的な例はプレアデス星団・ヒアデス星団などで，全天に約400個発見されている。

さんがいぶし　【三階節】　新潟県柏崎(かしわざき)地方の民謡。《オイナ》という盆踊り歌であったが，いまではお座敷歌となって全国的に歌われている。〈米山(よねやま)さんから雲が出た〉で始まる歌詞が有名。同じ文句を1節の中で3回くり返すのが特徴。

さんかえん　【酸化炎】　⇨炎



散開星団
M45



算　額
至誠賛化流の始祖古川山城守の50回忌に奉納されたもの(復原)　東淵寺(東京都)

さんかカルシウム　【酸化カルシウム】
⇨生石灰

さんか・かんげん　【酸化・還元】　酸化とは，狭義には酸素が他の物質と化合する反応またはある化合物から水素を奪う反応である。広義には物質が電子を放つ反応であり，現象としては化合物中にある元素またはイオンの陽電荷の増加，陰電荷の減少として認められる。還元とは，酸化の反対の過程をいう。

$M^{+} \rightleftarrows M^{2+} + e^{-}$ ……………①

$2KI + Cl_2 \longrightarrow 2KCl + I_2$ ……②

上の①においては右向きが酸化，左向きが還元であり，②においてはヨウ素は－1→0価の変化をして酸化，塩素は0→－1価で還元されている。また，電気分解においては陽極では酸化，陰極では還元が起こっている。このように一つの反応系では，酸化と還元とがつねに当量に起こっている。有機化学においては，$RCHO \longrightarrow RCOOH$(酸化)，$RCOR' \longrightarrow RCH(OH)R'$(還元)のように狭義の酸化還元が大部分であるが，$H_2N-\langle\ \rangle-NH_2 \longrightarrow H_2N=\langle\ \rangle=NH_2$ のように脱電子による酸化の例もある。さらに，微生物による酸化還元も知られており，変化が選択的で合成化学的方法では困難な反応も場合により容易に行なうことができるなどの利点があり，特殊な製造化学に利用されている。　〔三輪誠・加藤康〕

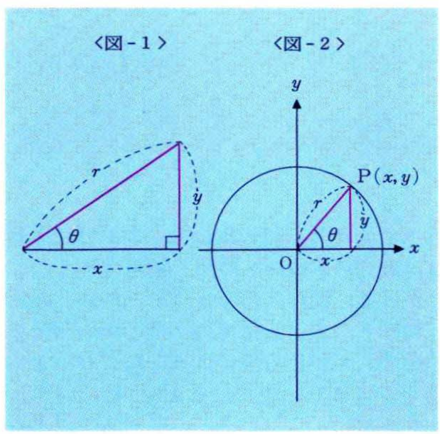
さんかかんげんこうそ　【酸化還元酵素】　広い意味での酸化酵素の総称。ふつう酸化酵素は直接酸素によって化合物を酸化するときの生体触媒をいうが，酸化還元酵素には脱水素酵素*・還元酵素*も含まれる。また，過酸化酵素*のように過酸化水素が媒体として反応に必要なもの，さらにはカタラーゼのように過酸化水素を分解するものまで含まれる。

さんがく　【散楽】　中国の民間で行なわれた歌舞演劇。宋(そう)代に芸術性の高い演劇ができるまで，漢から唐に至るまで盛んに行なわれた。娯楽的な要素が強く，曲芸・奇術なども含まれていた。日本には奈良時代から平安時代にかけて伝来し，日本的な芸能と結合して猿楽*(さるがく)となった。

さんがく　【算額】　絵馬*の一。数学の問題や解答を書いて神社などに奉納した。算額の問題を他の数学者が訂正したり，あるいは解答したりして，それによる論戦も多い。よい問題を思いついたとか，難問が解けたとか，また数学塾(じゅく)の繁栄や学問の進歩の祈願とか，子や孫の誕生，先生が弟子(でし)に与える免許状の代わりなど，奉納する目的はいろいろである。現存しているものでは，栃木県佐野市星宮(ほしのみや)神社(1683)のものが最も古く，次が京都市八坂神社(1691)のものである。塩竈(しおがま)神社・厳島(いつくしま)神社・成田不動・大国魂(おおくにたま)神社など，日本全国に500面以上も現存している。　〔下平和夫〕



三角貝　トリゴニア



三角函数

さんかくがい　【三角貝】　外形が三角形に近い中生代に栄えた二枚貝類。学名では一般にトリゴニアといい，多くの属種に分かれる。殻(から)の表面は，太い放射状の条やいぼ状のもので飾られている。中生代のジュラ紀や白亜紀の砂岩層に多産し，アンモナイト*やイノセラムス*に次いで地層区分や時代区分に役だち，示準化石*として尊重される。現生種としてはオーストラリア～インドネシアの海域にすむネオトリゴニアの一種のみが知られている。〔神戸信和〕

さんかくかんすう　【三角関数】　一つの角の大きさθを定めることによって，直角三角形の形が決まり(図-1)，その辺の長さの比も定まるので，この比はθの関数とみられる。この関数には6種類あり，これらを総称して三角関数または円関数という。

正弦関数　$\sin\theta = \dfrac{y}{r}$

余弦関数　$\cos\theta = \dfrac{x}{r}$

正接関数　$\tan\theta = \dfrac{y}{x}$

余接関数　$\cot\theta = \dfrac{x}{y}$

正割関数　$\sec\theta = \dfrac{r}{x}$

余割関数　$\mathrm{cosec}\,\theta = \dfrac{r}{y}$

一般角*θが与えられたとき，その角を表わす動径OPを，図-2のようにPを原点，Oを中心とする半径 r の円周上にあるようにとる。点Pの座標を(x, y)とするとき，一般角θの関数として，上と同様に正弦(サイン)・余弦(コサイン)・正接(タンジェント)・余接(コタンジェント)・正割(セカント)・余割(コセカント)の各関数を定義し，これらを総称して三角関数という。

$0° \leqq \theta \leqq 90°$ のとき，すなわち，θが直角三角形の一内角であるときの三角関数を特に三角比ということもある。角θによって定まる各三角関数の値を知るために，三角関数表が用いられる。

三角関数の相互関係は次の式で示される。

$$\mathrm{cosec}\,\theta = \frac{1}{\sin\theta} \qquad \sec\theta = \frac{1}{\cos\theta}$$

$$\cot\theta = \frac{1}{\tan\theta} \qquad \tan\theta = \frac{\sin\theta}{\cos\theta}$$

$$\cot\theta = \frac{\cos\theta}{\sin\theta} \qquad \sin^2\theta + \cos^2\theta = 1$$

$$1 + \tan^2\theta = \sec^2\theta$$

$$1 + \cot^2\theta = \mathrm{cosec}^2\,\theta$$

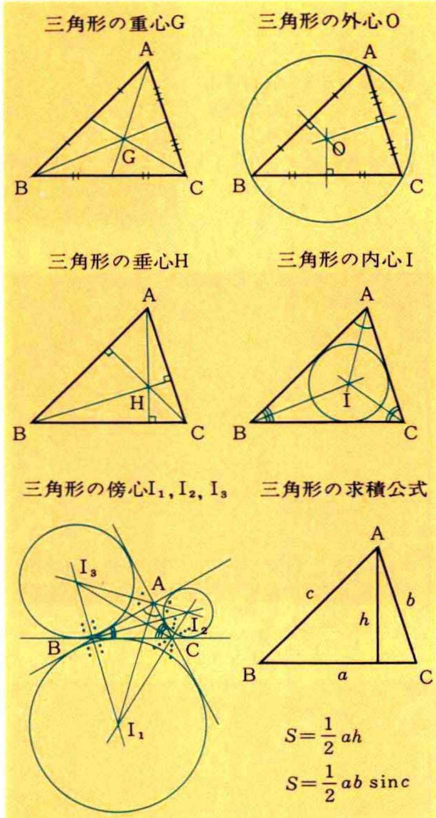
古代エジプト人は，ある程度の三角比の知識をもち，ピラミッドの建設やナイル川氾濫(はんらん)後の耕地の整理に役だてたと推定されている。円の中心角から弦の長さを求めることによって三角比の表をつくったのはヒッパルコス*である。現在用いられている記号などを導入したのはオイラー*である。　〔青柳雅計〕

さんがくきょうどう　【産学協同】　高等教育段階の教育・研究機関(大学・高等専門学校・研究所)と産業界との教育および研究面での協力関係をいう。中等教育機関と産業界との協力関係は，主として教育面に現われており，これを〈連携教育〉といっているが，高等教育段階でのそれは，共同研究・委託研究などの研究活動面での協力関係が重要な因子になっているところが特徴である。産学協同は，アメリカにおいて1899年ハーバート大学のA. C. クーリッジの提案，1906年シンシナチ大学のD. H. シュナイダーの実践によって始まったとされている。前者は，1908年おもに経営・管理者教育の機構として名高いハーバード－ビジネス－スクールの設立，後者は工学部系の産学協同制度のモデルとなった。工学部系の教育面での協同の方法は，大学の産業界に対する協力と，産業界の大学に対する協力に大別される。前者には，①産業技術者に対する昼間大学院課程，②夜間大学院課程，③夜間大学課程，④学内外の資格付与を伴わない工学課程などの設置，⑤大学の就職斡旋(あっせん)などがある。後者は産学協同教育制度といわれるもので，①一定期間の工場実習制度，②奨学金制度，③学生および教師の夏期雇用ならびに見学，④教育施設設備に対する資金援助などがある。また，研究面での産学協同の方法には，①契約研究，②大学教師の顧問活動，③奨学金制度を通しての大学院の研究活動，④大学付設研究所・独立研究所の研究活動，⑤各種の産業団体の資金援助・研究連絡のための機関・委員会制度，⑥大学の基礎科学研究に対する資金・施設の援助，などである。➔産業教育　〔山崎昌甫〕

さんかくきん　【三角布】　正四角形の綿布を対角線で切り離した二等辺三角形の布。普通の巻き軸包帯では巻きにくい部位，頭部・眼部・掌部などや肩・ひざ・ひじなどの関節部の傷の被覆・支持・圧迫・固定などに用いられる。短いほうの辺が 1 mあるものが使いやすい。➔包帯

さんかくきん　【三角筋】　肩の関節*をおおう三角形状の筋肉*。肩甲骨*の棘(きょく)と肩峰(けんぽう)，鎖骨の一部から起こり，上腕骨のほぼ中央の外側面にある三角筋粗面につく。この筋の収縮によって上腕が横に上げられる。腋窩(えきか)神経によって支配される。

さんかくけい　【三角形】　一直線上にない3点を順に線分で結んでつくられる図形。多角形のうちで最も簡単なものである。3点を頂点，3線分を辺といい，これらを合わせて三角形の6要素という。頂点がA，B，Cの三角形を△ABCと書き表わし，三角形ABCと読む。三角形を辺の長さの相等関係で分類すれば，どの辺も等しくないものが不等辺三角形，2辺が等しいものが二等辺三角形，3辺が等しいものが正三角形となる。また，最大角の大きさで分類すれば，最大角が鋭角・直角・鈍角であるにしたがって，鋭角三角形・直角三角形・鈍角三角形となる。三角形の3個の角の和は2直角で，どの辺も他の2辺の和より小さく，差より大きい。また，△ABCにおいて，AB＞AC，AB＝AC，AB＜ACであるにしたがって，∠C＞∠B，∠C＝∠B，∠C＜∠Bとなり，逆もなりたつ。



三 角 形

〔三角形の五心〕三角形の各頂点と対辺の中点とを結ぶ3本の中線，各辺の3本の垂直二等分線，各頂点から対辺に降ろした3本の垂線，各内角の3本の二等分線，1個の内角の二等分線と他の頂点における外角の2本の二等分線は，いずれも1点で交わり，それらの交点をそれぞれ重心・外心・垂心・内心・傍心(3個)といい，これらを合わせて三角形の五心という。外心はこの三角形の外接円の中心であり，内心は内接円の中心である。

〔求積公式〕△ABCにおいて，BC＝a，CA＝b，AB＝cとするとき，面積Sを求める公式として次のものがよく用いられる。

$$S=\frac{1}{2}ah,\quad S=\frac{1}{2}ab\sin C$$

ただし，hはAからの高さを表わす。また，$s=\frac{1}{2}(a+b+c)$とするとき，次のヘロンの公式 $S=\frac{1}{2}\sqrt{s(s-a)(s-b)(s-c)}$ がなりたつ。

〈合同条件〉2個の三角形が合同となるための条件は，次のどれかがなりたつことである。

①1辺とその両端の2角がそれぞれ等しい。

②2辺とその間の角がそれぞれ等しい。

③3辺がそれぞれ等しい。

〈相似条件〉2個の三角形が相似となるための条件は，次のどれかがなりたつことである。

①2角がそれぞれ等しい。

②2辺の比とその間の角がそれぞれ等しい。

③対応する3辺の比が等しい。

〈三角形の解法〉三角形の6要素のうち，合同条件のおのおのに掲げてある3要素が与えられれば，その三角形は定まる。このとき，与えられた3要素から，正弦公式や余弦公式を用いて未知の3要素を求めることを三角形を解くといい，その方法を三角形の解法という(➔正弦公式　➔余弦公式)。

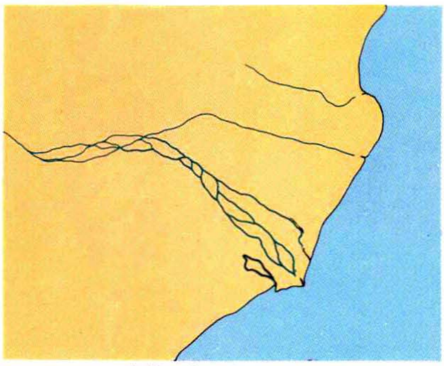
直線図形はいくつかの三角形に分割できるので，直線図形についての考察は三角形についての考察に帰着される。このように，三角形の求積公式や合同条件・相似条件は図形の研究の基礎として重要である。

〔菊池兵一〕

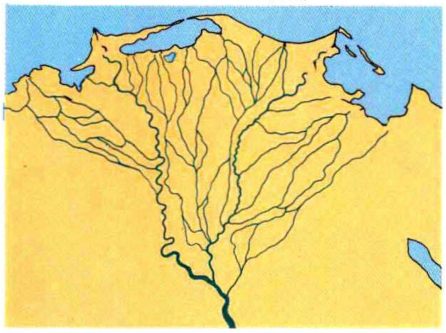
さんがくしんこう　【山岳信仰】　山を信仰対象として崇拝することは人類原初のころから行なわれてきた。①高山に関連する霊異の地象を畏怖(いふ)するもの，②山岳を神霊の宿る場所または祖霊の休む所として崇拝するもの，③高地を天にある神に接する場所と考えて空想上の山を信仰するものに大別できる。①は深山の洞穴(どうけつ)や火山の火口に恐るべき神霊が宿るとするもので，具体的には地すべりや活発な火山活動への畏怖から生じた。こだまを聞いて渓谷(けいこく)に山彦(やまびこ)が住んでいるといった類である。この場合，山を望見する場所に祭壇を設けて護摩*をたき，また山の神を山麓(さんろく)に勧請(かんじょう)して祭るなどのことが行なわれる。日吉(ひえ)大社*などのように，山麓に社殿が設けられているのはこの遺風である。②はわが国のような農耕民族に最も普通にみられるところで，山は祖霊の安らう場所とされ，春には祖霊が山から降りてきて田の神となり，秋には山に帰って山の神となると考える。これは山頂が天界に接しているところから，死者の霊が山に宿り，その霊の恵みによって，春になると陽光は注ぎ残雪はとけて，農作物へ太陽と水を供給してくれると考えたからであろう。インドから中国・日本にかけて，海べの高峰に現世仏である観音*を祭って補陀落(ふだらく)山と称するもの，大峰山の蔵王権現*や羽黒山の羽黒権現のように，山霊を祭る祠(ほこら)を建立するものなど，古来の山岳信仰が仏教と習合していまにそのおもかげをとどめている。③は主としてアジア西部を中心にギリシアからインドにかけてみられるもので，天空の高所に幻の山を夢想して崇拝

するものである。山岳を神の宿所として神界を高所に求め，ついに現実の山岳崇拝を延長して理想の高山を設定するもので，古代バビロニアのアラル，古代ペルシアのアルボリ，インドの須弥山*(しゅみせん)，古代ギリシアのオリンポス山*，中国の蓬萊(ほうらい)山*，ユダヤのシオンなど，すべて信仰上の理想の山々に擬したものである。神秘な山の霊域にはいって俗縁を断ち，特殊な法力を身につけようとしたのが，役小角*(えんのおづぬ)を開祖とする修験道(しゅげんどう)の行者であり，また山岳仏教を開いた最澄・空海による真言・天台密教の僧侶(そうりょ)たちであった。修験行者が山中苦行するのは，天と地の接点である山頂にあって，天と地との合一，つまり陰と陽との和合を図り，宇宙いっさいの生命力・生産力の根元を観ずるのを目的とするためであり，密教においては，山山の地形を兜率天*(とそつてん)，八葉の蓮台(れんだい)(➔曼荼羅(まんだら))にかたどろうとしたのである。➔修験道　〔佐野文哉〕

さんかくす【三角州】 河川が海や湖に流入するところで流速が衰えて運搬能力を失い，上流から運んで来た土砂などを河口の前面に堆積(たいせき)してこしらえた低平な堆積平野。その形がギリシア文字のΔに似ていることからデルタとよばれ，わが国では三角州という。代表的なものは，ナイル川・ミシシッピ川・黄河にみられ，わが国には規模がきわめて小さいが筑後(ちくご)川・石狩川・木曽(きそ)川・淀(よど)川などにみられる。形成の過程は，一般的に河川が運んできた物質が河口を基点として海底に堆積し，この作用が続けられて堆積面が海面上に現われる。しかし，堆積面は一様に平坦(へいたん)ではなく，自然堤防*が発達してわずかな起伏がみられるので，まず自然堤防の高まりが海面上に現われ，後背地はまだ海中に没している。ミシシッピ川のようにこの状態で河川が分流すると，その形はあたかも鳥の趾(あし)のように見えるので，これを鳥趾(ちょうし)状三角州という。さらに堆積が進むと後背地も海面上に現われ，三角州が完成する。ナイル川のようにこの三角州前面の外縁は円弧状をなすので，これを円弧状三角州とよぶ。しかし，静岡県の安倍(あべ)川のように三角州前面の湖海の運搬作用が強い所では，河口が突出しただけとなり，カスプ(尖(せん))状三角州になる。三角州は一般に扇状地*の前面に続く河口の堆積面であるから，礫(れき)などの粗粒物質は扇状地に堆積し，三角州は砂・粘土などの細粒物質からなり，地下水面が浅く，低湿地になることが多い。また，海抜高度の小さい平野では自然堤防をつくるので，うね状の地形ができる。洪水(こうずい)時に氾濫(はんらん)した水は長時間湛水(たんすい)し，その深さも大きいので被害が大きくなる。三角州上を流れる河川は河口付近で分流するが，その上流では蛇行(だこう)することが多い。さらに蛇行が発達すると，蛇行のたもとの部分が接近し，切断して旧流路は三日月湖*として残される。河口の近くでは潮汐(ちょうせき)が水位・流速などに影響を与え，底層に海水がくさび状に進入して潮入川となるが，その状態は流量・潮汐・河床勾配(こうばい)・地形などによって異なる。利根(とね)川では渇水期になると河口から40kmも海水が進入する。　〔桑原正見〕



尖状三角州(大井川)



円弧状三角州(ナイル川)



鳥趾状三角州(ミシシッピ川)　自然堤防

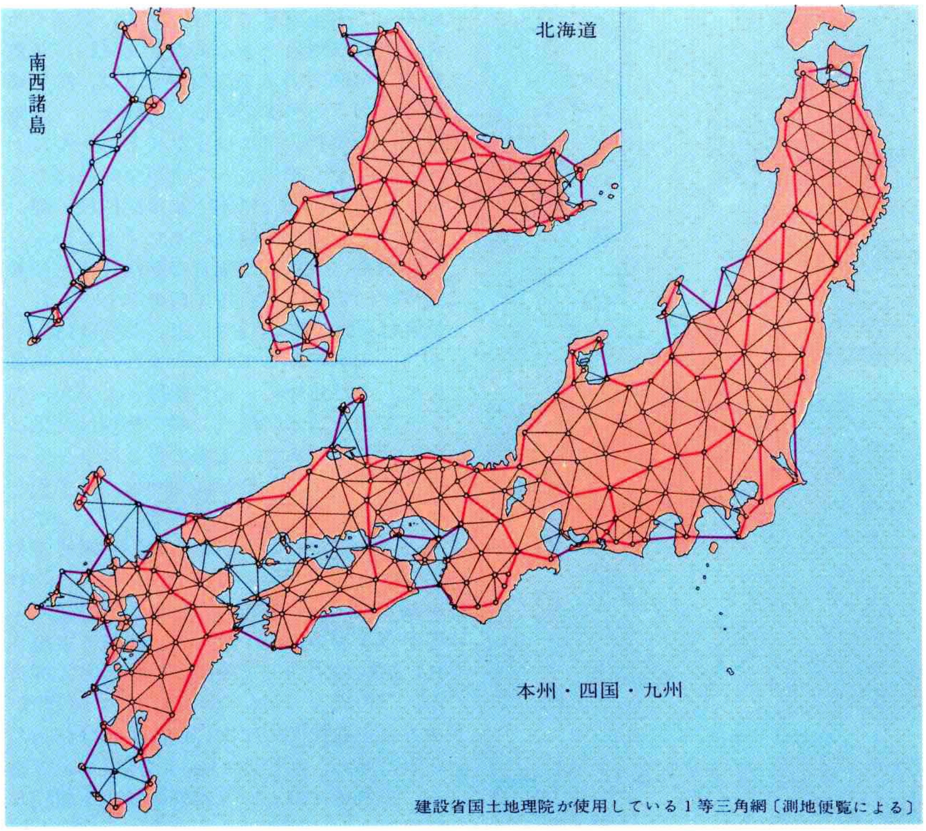
三角州

さんかくすい【三角錐】 ⇨角錐

さんかくそくりょう【三角測量】 地表の平面位置を測量する方法の一つで，広い範囲にわたって精度の高い測量を行なう場合に用いられる。三角法の応用で三角形の底辺の長さとその両端の三角を測定すれば，残りの一角が求められ，また残りの２辺も正弦比例の法則から求められる。しかしわが国の三角測量では，精度の向上と測定結果の点検のために三つの内角とも測量することにしている。計算によって求められた三角形をもとにして次の三角形を順次求め，それぞれの頂点を決定していくことができる。この方法では，途中に河川や湖沼などがあって直接測量できなくても，見通しさえよければ測量できる利点がある。三角測量で三角形の頂点を三角点とよび，測量範囲をおおう三角形の網を三角網という。測量範囲の位置決定には少なくとも一つ以上の三角点を天測によって求めなければならないが，わが国では国土基本図作成の際，この役割を経緯度原点に果たさせている。その位置は東京都港区麻布飯倉３丁目18番地内の旧東京天文台子午環の中心点とし，経度は東経139°44′40″5020，緯度は北緯35°39′17″5148を示している。また，三角測量の最初の三角形の一辺を基線とよぶが，わが国で国土基本図作成の際の基線は全国に13か所設けてある。基線の長さは３～５kmほどであったが，のち何回か拡大して現在は１等三角形の辺長に求めている。しかし最近では三角点間の距離は光波や電波を利用して正確に求められるようになった。わが国で国土基本図作成の際の三角測量は１等から４等までの４段階に分かれて実施され，等級に応じて三角網も１等から４等まで，三角点も１等から４等までの４段階がある。三角点間の平均辺長は１等は45km，２等は８km，３等は４km，４等は1.6kmである。三角点にはカコウ岩製の標石を埋没し，標石の上面に刻んである十字線の交点を三角点の正確な位置としているが，さらに標石の下側に盤石を埋めて安定を図っている。三角点の精度は，平面位置に対する誤差率は10cm以内，標高に対する誤差率は15cm以内とされている。第２次世界大戦後は測量の際に三角点が高層ビルによって障害を受けることが多いので，ビルの屋上に金属標を埋める方法もとられるようになった。１等三角測量は国土全体の位置関係を正確に表わすことを目的とするので，観測は厳密である。２等三角測量以下は１等三角測量によってあらかじめ決定されたわくの中で行なわれる。なお，航空写真*を用いて地図を作製する場合には，写真の標定点と地表の対空標識とを正しく標定(空中三角測量とよんでいる)するときに地表の対空標識として三角点が用いられる。➔次ページ(図)　〔桑原正見〕

さんかくてん【三角点】 ⇨三角測量

さんがくとう【山岳党】 フランス革命中の国民公会*の左派勢力。議席が議場の最高部にあったことからこの名がある。中心はジャコバン党*であったが，エベール派などもこれに属し，サン-キュロット*を社会的背景としていた。革命の急激な進展と内外の危機に乗じて勢力を急伸し，1793年６月ジロンド党*に代わって国民公会を支配し，公安委員会・革命裁判所をも掌中に収めて恐怖政治*を開始した。その後革命的政策を強力に推進したが，革命の進展により小市民と労働者の利害が対立したこと，ロベスピエールが右のダントン，左のエベールを粛正したため弱体化したことなどにより，



三 角 測 量

テルミドールの反動*によって崩壊した。
〔大野慎一郎〕

さんかくぼうえき【三角貿易】国と国との貿易が，輸出か輸入かの一方にかたよりすぎて，その間の商品交流が円滑に行なわれにくい場合，両国の間に特殊関係のある第三国を介入させ，３国間での国家協定によって実現させる貿易方式。第２次世界大戦後，ベトナムがまだフランスの領土であったとき，日本とフランスとベトナムとの間に行なわれた協定貿易*がその適例で，日本はベトナムから米や石炭を，ベトナムはフランスから各種の商品を，フランスは日本から生糸を求めたが，互いに代償となる商品が少なく，片貿易になりやすいので，３国間で協定を結び，日本はフランスから受け取るべき債権でベトナムへの債務を果たすという方法をとり，輸出入のバランスを調整した。〔上坂酉三〕

さんかくぼうし【三角帽子】
1 スペインの小説家アラルコン*の代表作。《アルコスの水車番》という民謡を題材に，水車小屋のおかみさんに横恋慕する市長をユーモアたっぷりに愚弄(ぐろう)したもの。木下順二*の《赤い陣羽織》はこれの翻案。
2 ファリャ*作曲のバレエ。１幕。ディアギレフ*の依頼で書かれ，アラルコンの原作によっている。1919年ロンドン初演で振り付けはマッシーン，装置はピカソで，ディアギレフのバレエ団のレパートリーとなった。また，このバレエに基づく組曲は《近隣の人たちの踊り》《粉屋の踊り》《終曲の踊り》の３曲からなり，オーケストラ演奏会でよく取り上げられる。〔向坂正久〕

さんかクロム【酸化クロム】クロムの酸化物。酸化クロム(Ⅲ)・酸化クロム(Ⅵ)がよく知られる。①酸化クロム(Ⅲ)：Cr_2O_3 三二酸化クロム。重クロム酸アンモニウム$(NH_4)_2Cr_2O_7$あるいは水酸化クロム$Cr(OH)_3$を熱するか，重クロム酸カリウム$K_2Cr_2O_7$を還元剤(たとえばイオウ)と熱してつくる。緑色の粉末。比重5.2。融点2,275℃。溶融冷却すると，構造が鋼玉*Al_2O_3と同形の菱面(りょうめん)体の結晶となる。耐熱性・耐酸性・耐アルカリ性が大。緑色顔料のクロムグリーン*である。塗料・印刷インキ・ガラス・陶器・セメントなどの着色，および研摩剤に用いられる。②酸化クロム(Ⅵ)：CrO_3 三酸化クロム。冷濃重クロム酸カリウム溶液に冷濃硫酸を過剰に加えると沈殿する。赤色針状の結晶。融点196℃。比重2.70。強い酸化剤。写真，漂白，金属の腐食，染色に用いられ，薬などにも利用される。〔品田　登〕

さんかこうそ【酸化酵素】酸素の力を直接借りて化合物を酸化する酵素*の総称。リンゴやジャガイモの皮をむいて空中に放置しておくと黒ずんでくるのは，酸化酵素のためであり，リンゴにはポリフェノール-オキシダーゼ，ジャガイモにはチロシナーゼが含まれる。なお，チトクロームC酸化酵素は，チトクローム*の鉄が還元されて二価になるのを，もとの酸化された状態(三価)にするために必要な酵素で，この酵素の存在によって呼吸*が最終段階まで円滑に行なわれる。〔井坂三郎〕

さんかざい【酸化剤】他の物質を酸化する能力のある物質をいう。すなわち，還元されやすい物質であり，酸素を与える働き，水素を奪う働き，他の物質の陽電荷を増させる働き，すなわち電子を奪う働きのある物質である(→酸化還元)。おもなものに，過マンガン酸(塩)，クロム酸および関連化合物($M^{I}_2CrO_4$・$M^{I}CrO_3$など)，硝酸および関連化合物($AgNO_3$，N_2O_4など)，ハロゲン，過酸化物(H_2O_2・Na_2O_2など)，ペルオクソ酸(塩)($M^{I}_2S_2O_8$・$C_6H_5CO_3H$など)，硫酸類，酸素酸(塩)($M^{I}ClO$・$M^{I}ClO_3$など)，金属塩類($FeCl_3$・$Pb(CH_3COO)_4$など)，酸素類(空気・オゾンなど)，酸化物(CeO_2・HgOなど)，ニトロベンゼンなどがある。酸化剤としての作用はその物質に固有の性質ではなく，より強い酸化剤との組み合わせでは還元剤*となる。たとえばH_2O_2は一般には$H_2O_2 + Mn^{2+} + 2OH^- \rightarrow MnO_2 + 2H_2O$のように酸化剤として働くが過マンガン酸塩との組み合わせでは$5H_2O_2 + 6H^+ + 2MnO_4^- \rightarrow 2Mn^{2+} + 5O_2 + 8H_2O$のように還元剤となる。〔三輪誠・加藤康〕

さんかしゅう【山家集】西行*の家集。流布本は六家集本で，春・夏・秋・冬・恋・雑(ぞう)に部類し，歌数1,569首。元来，これと《聞書集》《聞書残集》やその他の佚書(いっしょ)をも包含した3,000余首を収録する本があり，それが分散して伝わったものと考えられている。別に，晩年の作品600首ほどを収集した，いわゆる異本(《西行上人(しょうにん)家集》《西行法師家集》の名で伝わる)がある。

さんかチタン【酸化チタン】チタンの酸化物。ふつうは二酸化チタン(酸化チタン(Ⅳ))TiO_2をさす。天然にはキンコウ石・エイスイ石・イタチチタン石として産出。金属チタン，またはチタン酸を空気中で強熱するとできる。工業的には，チタンテッ鉱を濃硫酸でとかしだし，加水分解してメタチタン酸を沈殿させ，焼いて二酸化チタンとする。チタン白ともいい，白色の粉末。ルチル形・鋭錐(えいすい)形・板チタン形の三形態があり，このうちルチル形のものが白色顔料として重要。着色力・隠蔽力(いんぺいりょく)は白色顔料中最も大。比重4.26，融点1,825℃で熱に対しても安定。塗料・印刷インキ・絵の具・プラスチック・ゴム・捺染(なっせん)・レザー，人絹のつや消し，また高周波絶縁材にも用いられる。→顔料〔品田　登〕

さんかちっそ【酸化窒素】窒素の酸化物を総称することもあるが，一般には一酸化窒素NOをさすことが多い。一酸化窒素は，酸素と窒素を高温で直接反応させるか，銅に比重1.2程度の硝酸を作用させて得られる無色の気体である。水にはわずかし

かとけない。他の物質と反応しやすく，酸素にあえば直ちに酸化して，かっ色の気体の二酸化窒素NO_2となる。このほか窒素の酸化物には，一二酸化窒素(笑気)N_2O，三二酸化窒素N_2O_3，五二酸化窒素N_2O_5などがある。〔鈴木　篁〕

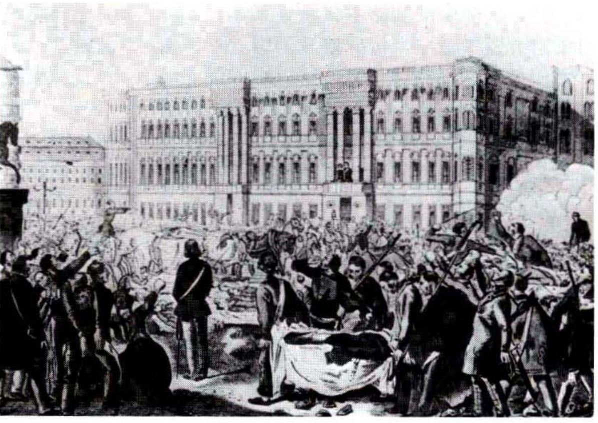
さんがつかくめい【三月革命】⇨二月革命

さんがつかくめい【三月革命】1848年3月，ドイツ各地に起こった市民革命。フランスの二月革命*の影響を受けて，まずウィーンで革命が起こり，メッテルニヒはイギリスに亡命した。それとともに領内のボヘミア人・ハンガリー人・イタリア人などがそれぞれ要求を掲げて運動を起こし，オーストリアの支配権は大きく動揺した。一方，ベルリンでも同じ3月に革命が起こり，国王が憲法の制定を約束し，自由主義者のカンプハウゼンが内閣を組織する事態が起こった。他の中小諸邦でも同様の状態となり，その結果同年5月，フランクフルト国民議会が開かれてドイツの統一が議せられた。しかし，統一の方法をめぐって議会は大ドイツ主義と小ドイツ主義に分かれて対立が続き，さらに市民階級が労働者階級の政治的進出を恐れて改革をためらったため，まもなく反革命派が勢力を盛り返し，同年10月にはウィーンで，11月にはベルリンでそれぞれ反革命が成功し，国民議会も解散させられた。翌1849年，西南ドイツやライン地方ではこれらを不満とする運動が起こったが失敗し，また執拗(しつよう)に続けられていた諸民族の運動も同年には鎮圧された。〔松　俊夫〕

さんがつじけん【三月事件】1931年(昭和6)3月，陸軍の革新将校によって企てられ，未発に終わったクーデター計画。当時内外のきびしい情勢に危機意識を高めていた陸軍革新将校のうち，参謀本部第2部長建川美次(よしつぐ)・軍務局長小磯国昭(こいそくにあき)を中心にして，桜会の橋本欣五郎(きんごろう)・鈴木貞一・長勇ら中堅将校や右翼の大川周明*ら一派が加わり，クーデターによって政党内閣を打倒し，一挙に軍事政権を樹立しようとした。その計画は，議会に労働法案が上程される3月20日を期して，民間の右翼団体と無産政党を動員して10,000名のデモンストレーションを議会にかけ，議会保護を名目にして軍が議事堂を包囲，同時に首相官邸，政友会・民政党の政党本部を爆破して浜口雄幸*内閣を総辞職させたうえ，陸相宇垣一成*(うがきかずしげ)を首班とする軍事政権を実現させるにあった。計画は3月中旬に中止されたが，それは宇垣の変心によるものとされている。この事件は，その後に続くクーデター計画の最初のもので，軍の独走は同年9月，早くも満州事変*を起こすこととなった。〔高崎徳次〕

さんがつどう【三月堂】⇨東大寺

さんかつはんしち【三勝半七】⇨艶容女舞衣(はですがたおんなまいぎぬ)



三月革命

さんかてつ【酸化鉄】鉄の酸化物の総称。酸化第一鉄FeO・四三酸化鉄Fe_3O_4・酸化第二鉄Fe_2O_3の3種がある。①酸化第一鉄：黒色の粉末または結晶で，シュウ酸第一鉄を空気を絶って焼くか，酸化第二鉄を一酸化炭素または水素で還元して得られる。②四三酸化鉄：赤熱した鉄に水蒸気を作用させて得られ，天然にはジテツ鉱として産出する。③酸化第二鉄：天然にはセキテツ鉱として産し，鉄の水酸化物・炭酸塩などを焼いて得られる弁柄*もこれである。ジテツ鉱・セキテツ鉱は製鉄原料とされ，弁柄は顔料として用いられる。なお，酸化鉄の用途として最も注目すべきはフェライト*の製造である。〔鈴木　篁〕

さんかどう【酸化銅】酸化第一銅Cu_2Oと酸化第二銅CuOの2種がある。①酸化第一銅：赤色の粉末または結晶で，天然にはセキドウ鉱として産出し，フェーリング液*の還元，銅塩の還元，電解酸化などによって製造される。陶磁器の釉(うわぐすり)，ガラスの着色剤，船底塗料などに用いられる。②酸化第二銅：黒色の粉末または結晶で，天然にはコクドウ鉱として産出，銅の加熱による直接酸化，または炭酸銅・硝酸銅などを焼いて得られる。釉，ガラスの着色剤，酸化剤，酸化触媒などに用いられる。〔鈴木　篁〕

さんかなまり【酸化鉛】酸素Oと鉛Pbの化合物の総称。亜酸化鉛Pb_2O，一酸化鉛PbO，四三酸化鉛Pb_3O_4，三二酸化鉛Pb_2O_3，二酸化鉛PbO_2などが知られる。亜酸化鉛は単一の化合物ではなく，PbOとPbの混合物と考えられている。PbOはPbを約300℃で焼いてつくられる黄色粉末で，密陀僧(みつだそう)またはリサージ*ともよばれ，顔料・塗料などに用いられる。Pb_2O_3は赤黄色の粉状結晶で，PbOと次亜塩素酸ナトリウムとを反応させて得られる。Pb_3O_4はPbOを約450℃に熱して得られる赤色粉末で，鉛丹*または光明丹ともよばれ，顔料・塗料に用いられる。PbO_2はPbOを塩素酸アルカリなどと溶融して得られる黒かっ色の粉末で，酸化剤や蓄電池の電極に用いられる。〔鈴木　篁〕

さんかふじんか【産科婦人科】産科学・婦人科学を実地に応用する臨床専門分科。医学の進歩とともに臨床学科が細分化されるに及び，婦人性器の生理・病理を研究する婦人科学のうちから特殊性を有する生殖の生理・病理に関する研究分野が分離され，独立したものが産科学である。婦人の最も重要な機能である生殖すなわち種族保存はきわめて生理的なもので，病的現象ではない。したがって，産科は妊婦・産婦・褥婦(じょくふ)・新生児などの病人でない人を対象とするのが特徴で，他の臨床学科が病的な人を対象とするのと対照的である。〔木川源則〕

さんかぶつ【酸化物】酸素と他の元素との化合物。一般に，金属元素の酸化物は水にとければ塩基となり(塩基性酸化物)，非金属元素の酸化物は酸となる(酸性酸化物)。また，両者の中間のものもあり(両性酸化物)，一つの元素が数種の酸化物をつくることもある。

さんかマグネシウム【酸化マグネシウム】⇨マグネシア

さんかめいが【三化螟蛾】こん虫類・鱗翅(りんし)目・メイガ科。サンカメイチュウ・イッテンオオメイガともいい，小形のガで，ニカメイガ*(ニカメイチュウ)とともにイネの害虫として知られる。成虫は，雌雄で色彩や斑紋(はんもん)が著しく異なり，一見別種のような外観を呈する。雄は，翅(はね)を広げた長さ20～24mm，前翅は灰かっ色で，中室端に2個の小さい黒点があり，翅頂から暗色の斜めの帯が走り，外縁には黒色の点列がある。雌は，翅を広げた長さ24～28mm，前翅は黄色で，中室端に1個の黒色の斑点があるほかは斑紋がない。本州南岸・四国・九州などのほか，台湾・中国から東南アジア一帯にかけて広く分布する。日本では成虫が4～5月，6～7月，9月の3回にわたって発生するためこの名がある。冬は幼虫態でイネの切り株中で越し，4月下旬にさなぎになって，やがて成虫となる。交尾後，イネの葉上に1mmほどで扁平(へんぺい)な卵を塊状に産みつける。卵は8～19日で孵

化(ふか)し，幼虫は茎の中に食い入る。本種の加害を受けたイネは成育を阻害され，特に本種の第3化期はイネの穂ばらみ期から出穂期にあたるため，加害の激しいときはもみの実りが悪く，収穫皆無となるような場合もある。〔鈴木邦雄〕

サンガロ［Sangallo］イタリアのルネサンス期に，主としてローマ・フィレンツェで活躍した建築家の一族。彼らがフィレンツェのサン-ガロ門の近くに住んでいたことからこの名でよばれる。ジュリアーノ(1445？～1516)はメディチ家に仕え，多くの作品があるが，プラトに建てられたギリシア十字形会堂マドンナ-デラ-カルチェリはブルネレスキの影響を強く受け，15世紀の建築様式の最も純粋で古典的な表現とされる。伯父(おじ)アントニオ(1455？～1534)はジュリアーノの弟で，初期には城塞(じょうさい)建築に携わり，ブラマンテの影響のもとで力のある建築家となった。代表作のモンテプルチアーノの教会堂マドンナ-ディ-ビアジョは，後期ルネサンスの理想的集中建築とされている。年下のアントニオ(1485～1546)はジュリアーノ・アントニオ兄弟の甥(おい)にあたる。1520年からなきラファエロを継いでサン-ピエトロ大聖堂の建築にあたり，終生をそれに費やした。また，ローマのパラッツォ-ファルネーゼの設計に従事したが中途で没し，そのあとをミケランジェロが継いで完工した。〔川田伸紘〕

さんかん【三関】伊勢(いせ)(三重県)の鈴鹿(すずか)関・美濃(みの)(岐阜県)の不破(ふわ)関・越前(えちぜん)(福井県)の愛発(あらち)関の総称。大化改新前から大和(やまと)朝廷と東国・北国との連絡路として重要視され，令(りょう)制でも兵士・武器を置いてここを守らせた。789年(延暦8)愛発関がすたれて近江(おうみ)(滋賀県)の逢坂(おうさか)関が加わった。奈良・平安時代において天皇・上皇・皇后の崩御などに際しては固関使(こげんし)をつかわして三関を守らせた。

さんかん【三韓】古代の朝鮮半島における馬韓・弁韓・辰韓(しんかん)3国の総称。これらはいずれも韓族の国家であるが，それ以後半島に割拠した百済(くだら)(馬韓の後身，王は扶余族)・新羅(しらぎ)(辰韓)・高句麗(こうくり)(扶余族)の3国をさしていうことも多い。

さんかん・ししき【三管・四職】室町幕府の主要な職制。三管は，管領(かんれい)に任ぜられる斯波(しば)・畠山(はたけやま)・細川三家をいい，最高の家格であった。四職は，三管家に次ぐ家格で，侍所頭人に任ぜられる山名・一色・京極・赤松の四家をいう。これら7家のうち京極・赤松2家だけは足利(あしかが)一族ではない。三管・四職は1398年(応永5)以後，4代将軍足利義持(よしもち)の代に確定し，応仁(おうにん)の乱以後は実質上の意味を失った。

さんぎ【参議】朝政を参議することから出た官名。令外官(りょうげのかん)。大臣(おおおみ)・大納言・中納言とともに太政官(だじょうかん)において重要国務を議決する高官。唐名は宰相。702年(大宝2)太政官のわくからはみ出た大伴安麻呂(おおとものやすまろ)らを臨時に参議としたのが最初で，731年(天平3)正式官名となった。9世紀初め観察使と改名したがまもなく復旧。次いで定員を8名としたので，別名を八座(やくら)とよぶに至った。明治維新後は大臣を助けて国政を議し，各省長官を兼ねたが，内閣制の施行とともに廃止された。〔黛　弘道〕

さんぎいん【参議院】衆議院とともに国会を構成する一院。選挙によって選ばれた全国民を代表する議員で組織され，定数は252人，そのうち全国区選出議員は100人，地方区選出議員は152人。任期は6年で3年ごとに半数が改選される。跛行(はこう)的両院制をたてまえとしていることから，参議院の権能は衆議院よりも弱い。法律・条約および予算の議決，内閣総理大臣の指名について両議院の意思が一致していない場合は，一定の条件のもとで衆議院の優越性を認めている。そのほか，衆議院解散のときは参議院も同時に閉会となるが，国に緊急の必要があるときは内閣の要求により緊急集会を開くことができる。しかし，この措置はあくまで臨時のもので，国会開会後10日以内に衆議院の同意がない場合は失効する。本来，理性の府，専門的識見の場として設置されたが，最近では政党化の傾向が強く，当初の設置趣旨が生かされていないとの批判が高い。➔衆議院〔吉田善明〕

ざんきゅう【残丘】侵食作用が地表に働いて，地表が平坦(へいたん)化されたとき，しばしば周辺とは不調和な一段と高い小丘が存在することがあり，これを残丘とよんでいる。残丘には，その部分の岩石が周囲より堅くて侵食に対する抵抗が大きいとき，平坦面上に山のように突出して形成される硬岩残丘と，2河川の分水界付近で侵食し残されて小丘を形成する源地残丘とがある。

サン-キュロット［sans-culotte］フランス革命中の革命的大衆をさし，〈キュロット(貴族・富豪に用いられた半ズボン)をもたない人たち〉の意。社会層は明確ではないが，小市民・小農・労働者を中心とし，大市民を背景としたジロンド党の施策に反対して，山岳党の独裁を実現した。しかし革命の進展とともに分裂し，テルミドールの反動以後はその政治的代表を失った。

さんきょう【三共】医薬品業界の大手メーカー。1899年(明治32)，高峰譲吉が発見してアメリカで量産化されていたタカジアスターゼの輸入販売を目的に設立された三共商店として発足，1907年合資会社に発展，1913年(大正2)株式会社となる。その後，東京製薬・サトウライト・内国製薬を合併。売り上げは医薬品83％，農薬11％で，ほかに食品(イースト類)・化粧品(養毛剤)部門をもつ。医薬品は医家向け80％，大衆薬20％。本社は東京，工場は品川・亀有(かめあり)・田無(以上東京都)，平塚(ひらつか)(神奈川県)，大阪，野洲川(のずがわ)(滋賀県)などにある。資本金82億8,000万円。年間売上高1,599億2,500万円，従業員数5,169(1980年9月)。

さんきょう【三峡】サンシャ　中国，四川・湖北両省境の楚西(そせい)山地を揚子江がうがってつくった峡谷で，古来舟航の難所として著名な3か所の険峡。ふつう，瞿塘峡(くとうきょう)・巫峡(ふきょう)・西陵峡をさす。その風景の雄大さは古くから詩文にうたわれた。これらの峡谷の成因は山地の上昇運動に先行して営まれた下方侵食の結果とされている。

ざんきょう【残響】⇨音響設計

さんぎょういがく【産業医学】産業化・機械化・技術革新などによって生産従事者に起こる職業病や労働災害・疲労などを予防・治療し，職場復帰を助けることを目的とした医学の一分野。健康障害の臨床医学的診断によって，重化学工業に多発しやすい有毒ガスや有料溶剤などによる産業中毒の化学的な原因，林業労働者の白蠟病(はくろうびょう)その他の物理的な原因などを立証している。

さんぎょうかくめい【産業革命】⇨286ページ

さんぎょうぎしょ【三経義疏】聖徳太子(しょうとくたいし)の著作と伝わる。《勝鬘経(しょうまんぎょう)》《維摩経(ゆいまぎょう)》《法華経(ほけきょう)》3経の注釈書の総称。成立は，それぞれ611年(推古19)，613年，615年とされ，わが国の仏教文献の最古のものとして貴重である。《法華経義疏》は太子の自筆本として現存し，《勝鬘経義疏》は唐の法雲寺明空が注を加えて，私鈔(ししょう)6巻をつくっている。

さんぎょうきょういく【産業教育】一般教養についての教育に対して，農業・工業・商業・水産業その他の産業に従事するために必要な知識・技能および態度を習得させようとする教育をいい，1951年(昭和26)の産業教育振興法によっている。

生産水準が低い段階での産業教育は，家庭においてあるいは中世の徒弟制度などによって営まれていた。しかし，18世紀後半の産業革命によって，従来の生産手段であった道具は機械に代わり，これに見合う多量な労働力が必要となった。この社会的要請の中で従来の徒弟制度は崩壊し，学校教育による産業教育が出発することになる。わが国においては，明治後期の紡績業中心の軽工業からしだいに機械・電気・化学など重工業が発達していく過程で新たな労働力養成が必要となり，1899年(明治32)に実業学校令が公布され，実業教育による産業教育の起点がつくられた。第2次世界大戦後は，実業教育という名称は産業教育に代わり，その内容も豊富になった。これを現状にみると，中学校での技術・家庭科，高

等学校の職業課程，高等専門学校・高等教育機関の産学協同制度など，産業教育の機関・制度は多様であり，今後の産業の多様化に応じて，いっそう多様な教育課程と教育機関が設けられるであろう。しかし，産業界の要請に追従することによって生じる教育のゆがみは憂慮され，生産技術の学習および労働を通して積極的に人間形成を志向する生産教育が，社会主義法における総合技術教育をモデルとして考えられている。

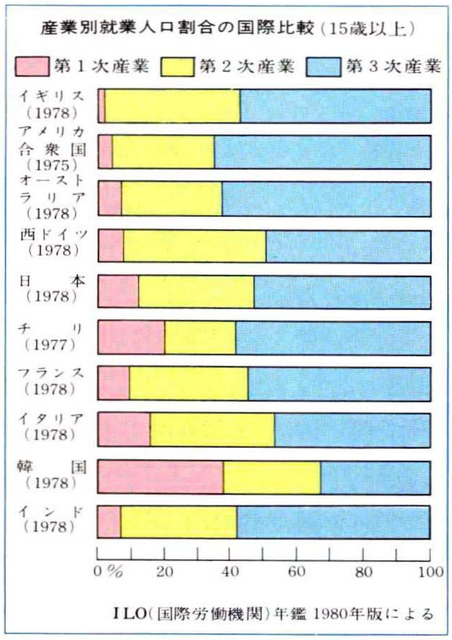
なお，現行の産業教育は，産業界全体に関する概要(生産技術・職種・組織・理念・人間関係など)を生徒に理解させる職業準備的なものと，将来生徒が従事する産業について専門的な知識・技術を指導する職業教育的色彩の強いものとに大別されよう。
➔生産教育　〔福井幸雄〕

ざんぎょうきょひ【残業拒否】⇨時間外労働

さんぎょうこうくう【産業航空】農薬散布・航空測量・航空写真や鉄塔の建設など，旅客や貨物の輸送以外の航空機使用事業。

さんぎょうこうぞう【産業構造】一国の経済を構成する諸種の産業の組み合わせの状態をいう。経済が発展するにつれて，全産業中に占める労働者の数(産業別就業者数)や国民所得の比重が，しだいに第１次産業*(農林水産・牧畜・狩猟業)から第２次産業(鉱業・製造工業・建設業)・第３次産業*(商業・運輸・通信・金融・公務・家事サービス)に移行する。このうち，第２次産業，特に工業の比重が増大してくる傾向を工業化とよぶ。また工業化の過程においても工業部門内部の構成が変化し，繊維工業・雑貨工業・食品工業などの軽工業によって工業化が開始され，しだいに鉄鋼業・機械工業・電力業・化学工業などの重工業または重化学工業の比重が高まってくる傾向があり，そのような重化学工業化を一般に産業構造の高度化とよんでいる。技術水準が低く，豊富で安価な労働力の存在した工業化の初期には，労働集約的商品または軽工業品の生産が中心となっていたが，技術水準が上昇し，労働力が高価で希少なものと変化するにつれて，しだいに資本集約的商品または重化学工業品の比重が増大してきている。産業構造はその国のもつ資源や需要の状態，技術進歩などによって影響を受けるものであり，それらは経済発展の段階によっても異なるから，経済の発展につれて産業構造が変化してくる。　〔加藤　寛〕

さんぎょうごうりか【産業合理化】新しい技術の導入や設備の近代化，経営組織の改善などによって生産性を高めることを企業の合理化というが，個々の企業だけでなく，一つの産業や経済全体に資本と労働と技術がうまく配分され，生産の効率を上げることを産業合理化という。このためには産業構造*や産業組織の再編成が必要で，



産業構造

たとえば斜陽産業の整理，中小企業の近代化，基幹産業*の育成や，カルテル*・組合など産業組織の整理が行なわれる。　〔加藤　寛〕

さんきょうごぎ【三俠五義】中国，清(しん)代の通俗長編小説。勧善懲悪を説いている。作者不詳。もとの名を《忠烈俠義伝(きょうぎでん)》という。120回。1879年(光緒５)の問竹主人の序がある。清末の講釈師石玉崑(せきぎょくこん)の口演に基づく。明(みん)代の裁判物である《龍図公案(りゅうとこうあん)》がその種本で，名裁判官包拯(ほうじょう)を中心とし，南俠・北俠・双俠(そうきょう)のいわゆる３俠４人の勇士と，鑽天鼠(さんてんそ)・徹地鼠・穿山鼠(せんざんそ)・翻江鼠・綿毛鼠のいわゆる５鼠５人の盗賊とが感化を受けて善に復し，民衆の害を除いて国のために尽くすというのがあら筋。のち，清末の学者兪樾*(ゆえつ)はこの作品を読んで感心し，改作して《七俠五義》をつくった。　〔今村与志雄〕

さんぎょうこくゆうか【産業国有化】重要産業を資本家の私的所有から国家の所有に移すこと。資本主義経済において，経済の発展や安定・平等・民主化の目的をもつ経済計画を有効に実行する手段として，国有化産業を中心とする公的部門の存在が大きな意味をもっている。イギリスでは労働党政府によって1945～1951年までの間に中央銀行・石炭・ガス・電気・国内運輸・鉄鋼・航空・海外電信などの部門が国有化されたが，国有化産業を中心とする公的経済部門が相対的に小部分(20％)にとどまっていたため，経済計画の目的を十分達成することができなかった。同じようにフランス・イタリア・スウェーデン・ノルウェーなどのヨーロッパ諸国においても，基幹産業の一部国有化の例がみられる。これに対し，社会主義国家では労働者政権のもとに基幹産業から始まり，全産業の国有化が実施される。ソ連では共産党が1917年の革命ののち次々と国有化令を出し，小企業以外はほとんど国有化された。　〔加藤　寛〕

さんぎょうしほん【産業資本】資本主義社会において，商品の直接的な生産過程*に投下される資本。直接生産者と生産諸手段との分離の結果として，資本主義固有の賃労働関係の成立を前提とするものであり，産業革命以後，19世紀の機械制大工場の資本制生産のもとに成立した。マルクス*は資本主義成立の基軸をなす〈資本の近代的基本形態〉としている。流通過程で商品の売買に携わる商業資本や，産業資本・商業資本に貨幣資本を供給する利子生み資本(＝銀行資本)とは異なる。しかし，商業資本も銀行資本も，産業資本の再生産過程を完結するために必要なプロセスを資本間分業としてになっており，その成立の根拠は産業革命を画期として成立した近代的な産業資本の再生産過程に求められる。この点で，資本主義成立以前の古い生産様式のもとで外部から流通部門を通じて関係しているにすぎない前期的な商業資本・高利貸し資本とは異なるものといえる。産業資本は，19世紀末以降における独占の形成の中で銀行資本との融合において金融資本*の成立をみる。なお，金融資本成立以前の資本主義，すなわち，独占資本と区別されたいわゆる自由競争時代の資本主義を産業資本主義とよぶこともある。　〔常盤政治〕

さんぎょうしほんしゅぎ【産業資本主義】⇨資本主義

さんぎょうしゃかいがく【産業社会学】産業社会の集団的側面を分析する社会学の一部門。産業社会そのものを統一的に取り扱うものではない。比較的新しい学問領域で，成立の端緒になったのは，1930年代の初めに行なわれた〈ホーソン実験*〉である。アメリカの経営学者F.W.テーラー(1856～1915)の科学的管理法に示されるように，合理化が極度に推し進められる中で，見忘れられていた人間の非合理的側面を再認識し，集団論として理論化しようとした。これは人間関係論*として知られている。その後職場集団の研究があいつぎ，それらの実証的研究の成果をふまえて体系的理論にまで高められたのは，第２次世界大戦後の1940年代の後半である。M.ウェーバー*の官僚制・行為の理論，T.パースンズ*のシステム論などが取り入れられてより精緻(せいち)な理論構築がなされている。最近の傾向としては，組織の行動科学的分析方法が取り上げられたり，また経営学・経済学・法律学・政治学・心理学など関連諸科学との共同研究が顕著になってきている。　〔国近浩一〕

さんぎょうしんりがく【産業心理学】産業活動に従事する人間の諸問題を，心理学の方法・原則を適用して研究する応用心

➔288ページ

産業革命

〈産業革命〉という語は今日きわめて多義に用いられている。たとえば，13世紀のイギリス羊毛工業に縮絨機(しゅくじゅうき)が導入されたが，これを〈13世紀の産業革命〉と称する。また16～17世紀に，イギリスに大陸から新工業が到来してかなりの繁栄をみるが，これを〈初期産業革命〉とよぶ例もある。あるいは，19世紀後半のドイツを中心とした重工業分野の技術的発展を〈第2次産業革命〉とよび，20世紀後半の原子力の導入を〈第2次(あるいは第3次)産業革命〉とよぶ場合もある。はなはだしきは，人類の石器使用から金属器使用への転換を人類最初の〈産業革命〉とよぶ場合さえある。〈産業革命〉という語を最初に使用したのは19世紀初期のフランスの社会主義者たちで，彼らは18～19世紀におけるイギリスの産業上の飛躍的発展が，ちょうどフランス革命と同じように，イギリスに政治的・社会的変革をもたらしたことを認め，これを産業〈革命〉とよんだのである。その後，マルクス・エンゲルス・トインビーらがそれを踏襲し，〈産業革命〉はほぼ上記の意味で用いられ，通常，道具に基礎を置く協業の一形態であるマニュファクチュア*を機械制大工場へ進転させた一連の技術的変革と，資本と賃労働の決定的対立に伴う社会的・政治的変革を示すことばとなっている。したがって，それは人類史上，特に資本主義確立以降，くり返し行なわれる単なる技術的革新を意味するものではなかった。

〔背景〕世界史上，最初に産業革命を成就し，〈世界の工場〉として世界資本主義の波頭に立ったのはイギリスであった。これにはいくつかの理由が考えられる。まず，イギリスでは大陸諸国に比べて当初から弱体であった封建的諸関係がいちはやく解体し，農村を中心に自成的な産業が国民的規模で展開し得た。16～17世紀には初期的な資本主義の成立をみたが，さらにイギリス革命によって資本主義的発展を阻害していた絶対主義的王権を打倒し，航海条令*を制定して国内の産業を保護し，諸外国との抗争に勝って海外進出の基礎を築くことに成功した。また，F.ベーコン以来の経験主義的伝統は，王政復古後の王立科学院に継承され，科学的知識を人間に役だつ具体的な生産技術と結びつける努力がたえず行なわれていた。このことはイギリスの産業構造が新技術の導入を可能にする柔軟性をもっていたこととともに重要なことであった。

一方，機械制大工場の成立は大規模な生産者の生産手段からの分離，すなわち農民の土地からの追放を前提としていた。したがって，第2次エンクロージャー*を基軸にした農業革命が，最終的原始蓄積の過程として産業革命の前奏曲をなしていた。17世紀以来，クローバーや子どもの頭大のカブなどの新作物が導入され，地味の枯渇(こかつ)を防ぎ，家畜の冬季飼料として利用されはじめ，しだいにこれの新しい輪作が普及していった。18世紀にはいると条播機(じょうはき)・三角すきなどの発明が行なわれ，農耕技術に著しい発展がみられた。チャールズ-タウンゼンドは土壌(どじょう)改良と新しい輪作の導入によってノーホーク農法を考案し，ホルカム・コークらはさらにこれを改良して生産性を高めた。また牧畜においてはベークウエルによる品種改良と科学的飼育方法が進められた。

こうした改良農業が最も効果を発揮するのは大農場においてであった。18世紀初頭，イギリスの耕地はその2分の1がいまだに開放耕地であり，農業生産力の発展を阻止する大きな原因となっていた。地主たちは土地をより生産的に使用し，地代の増収を図るために，エンクロージャーによる大農場の形成を欲した。18世紀前半はまえの時代に引き続いて〈私的エンクロージャー〉が一般的であったが，後半になるとエンクロージャーに対する反対を押えてこれを強行する必要に迫られ，議会立法による〈議会エンクロージャー〉が盛んになった。こうして1820年までに，イギリスの耕地はほとんど囲い込まれるに至った。囲い込まれた大農場は資本豊かな農業家に貸し出され，農業家は賃労働者を雇って経営を行なった。ここに，地代取得者としての地主，利潤取得者としての資本家的借地農，賃金取得者としての農業労働者という三分割制，すなわち農業における資本主義が成立した。この過程で小借地農・小舎住農らは没落し，生産手段をもたぬ賃金労働者の大群を形成することになった。

〔世界市場の形成〕18世紀前半は農業生産性の継続的発展により穀物価格は低下した。一方，賃金は一般に安定ないし上昇を示し，そのため国内需要の増大がみられた。また，工業製品の輸出も1720年代の一時的停滞を除けば順調に発展し，特に後半には西ヨーロッパ市場の活況に刺激されて貿易額は急激に上昇した。イギリスの海外進出は18世紀にはいっていっそうめざましく，スペイン継承戦争・オーストリア継承戦争・七年戦争をことごとく勝ち抜き，極東・インド・アメリカの植民地を完全に掌握し，ロンドンを中心にこれらの諸地域とヨーロッパを結ぶ国際的通商網を形成した。18世紀の中ごろには独占的なカンパニー制度はしだいに衰退しはじめ，これに代わって一定の規制のもとにすべての商人に貿易参加を認める規制会社の制度が導入され，その後の自由貿易に道を開いた。このように，熱帯・亜熱帯の地域に通商領域が拡大していくにつれ，伝統的な輸出商品である毛織物に代わって綿布が重要性を増した。

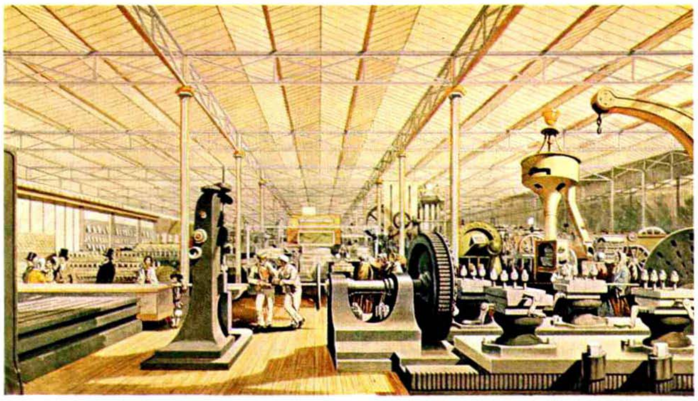
産業革命に関する主要な発明

年　代	発　明	発明者
1701ごろ	播種機	タル
1711	コークス溶鉱法	タービー1世
1712ごろ	気圧機関	ニューコメン
1733	飛杼	ケイ
1736	刷毛機	ポール
1740～1750	坩堝法	ハンツマン
1764ごろ	ジェニー紡績機	ハーグリーブス
1769	蒸気機関	ワット
〃	水力紡績機	アークライト
1779	ミュール紡績機	クロンプトン
1783	回転式蒸気機関	ワット
1783ごろ	攪伴式精錬法	コート
1785	力織機	カートライト
1787	蒸気船	サイミントン
1794	綿繰り機	ホイットニー
1804	蒸気機関車	トレビシック
1807	蒸気船の実用化	フルトン
1825	ロコモーション	スチーブンソン
1828	熱風炉	ニールセン
1832	水力タービン	フルネイロン
1837	電信機	モース
1855	ベッセマー法	ベッセマー
1856	アニリン染料	パーキン
1862	万能フライス盤	ブラウン
1864	平炉製鋼法	マルタン
1867	自励式発動機	ジーメンス
1870	電気炉	ジーメンス
1884	蒸気タービン	パーソンズ
1885	自動車	ダイムラー
1896	無線電信機	マルコーニ
1897	ディーゼル機関	ディーゼル

〔大工場制の出現〕産業革命によって最初に大工場制を出現するのは軽工業部門であったが，中でもその推進力となったのは新興のもめん工業である。1760年代初期のイギリスの綿布の総生産額は60万ポンド，年間輸出額は20万ポンドであった。同じ時期の毛織物の輸出額550万ポンドに比べればはるかに少ないが，18世紀中ごろの綿布輸出額がわずかに20,000ポンド前後であったことを考えれば1750年代から1760年代にかけて綿布の需要が飛躍的に増大したといえよう。綿工業における技術的改良は1733年のジョン-ケイの〈飛杼(とびひ)〉(→杼)の発明を皮切りとする。この発明によってはるかに能率的に製造可能になった。この結果，綿糸の供給が不足するようになり，効率の高い紡績機の要望に答えてハーグリーブスのジェニー紡績機，アークライトの水力紡績機，クロンプトンのミュール紡績機が次々に発明されるに至った。飛杼の導入以来足踏みを続けていた織布工程においても，カートライトによって力織機*の発明がなされ，漸次改良が加えられて広く実用に供さ



1813年当時のヨークシャー州リーズの炭坑と坑夫　坑道への上りおりや石炭の積み出しに，すでに蒸気機関が使われている



ロンドン大博覧会(1851)の機械・工業製品の展示場　イギリスを中心に世界各国から当時の最も新しい産業の結晶が集められた

れるに至った。また，この間にアメリカのホイットニーによる綿繰り機の発明があり，原綿の生産費の大幅引き下げに成功し，イギリス綿工業の発展に大きな貢献をした。綿工業はこうした技術的改良を基礎に，初期の家内工業から小規模工場を経て，蒸気力を動力源とする大工場へと急速に進展していった。1830年代には綿製品はイギリスの国産品輸出の50％を越え，国民総所得における比率もすでに第１位を占めるに至った。

ところで，大工場の出現を可能にしたのは蒸気機関の発明であった。これより以前，18世紀初頭ニューコメンによって気圧機関が発明され，炭坑の排水用ポンプとして用いられていた。ワットはこの機関に改良を加え，蒸気力でピストンを駆動する蒸気機関を発明し，1769年に特許を得た。彼はさらにこの機関を改良し，ピストンの上下運動を回転運動に変化させ工場の動力として使用することに成功した。やがて蒸気機関を従来馬力あるいは人力で動かしていた貨車に適用する計画が現われた。サイミントン・トレビシックらの実験ののち，1825年にはジョージ-スチーブンソンのロコモーション１号の発明によって蒸気機関車の実用化に成功した。これは鉄道時代の開幕を告げるものであった。蒸気船の計画も同じころから多数の人々によって手がけられたが，1807年アメリカ人フルトンによって実用化の第一歩が刻された。

このような発展の背景には18世紀初頭以来の製鉄業の発展があった。1711年ごろダービー１世によるコークス溶鉱法の発明が，18世紀後半にはクラネージ兄弟の反射炉鍛鉄法，ピーター-オニオンズの攪拌式(かくはんしき)精錬法，ヘンリー-コートの攪拌式の改良と着実に技術の革新が行なわれ，良質の鍛鉄を安い費用で生産することが可能になった。また，製鋼部門ではベンジャミン-ハンツマンによる坩堝(るつぼ)法が発明されたが，大規模な鋼鉄生産は19世紀後半のベッセマー法・マルタン法の導入をまたねばならなかった。

〔産業革命の社会的影響〕産業革命の底力ある変革力はイギリスの社会を一変させた。第１に産業ブルジョアジーの台頭である。彼らは自己の利益を拡大することを求め，国家の干渉を排して自由な経済活動を実現しようとした。アダム-スミスの《諸国民の富》は彼らのイデオロギーの体系化を示した。彼らは地主貴族によって独占されていた政治権力への参加を願い，1832年には第１次選挙法改正によってその目的を達成した。その後，彼らは穀物条令・航海条令の撤廃に成功し，自由主義経済を推し進めた。産業資本主義の確立は同時に大量のプロレタリアートの形成を意味していた。資本家と労働者の階級的対立はまさに産業革命のるつぼの中から生み出されたのである。産業革命は労働生産性の飛躍的上昇によって国民総所得の増大をもたらしたが，このことは労働者階級の生活水準の安定した上昇を意味しない。むしろ労働者階級の相対的窮乏化が強められ，少なくとも手織機によよる織布工の絶対的窮乏化は明らかであった。彼らは工業の機械化に反対し，しばしば機械打ちこわしを行なった。ラッダイト運動*はその最大のものであり，軍隊の出動によってようやく鎮圧された。大工場の下に統合された労働者たちはしだいに資本に対する組織的抵抗を学び取り，団結禁止法の撤廃とともに労働組合運動が高まり，全政治機構の変革を求める闘争へと向かった。

〔他の諸国の産業革命〕イギリスに次いで産業革命を経験し資本主義を確立していったのはベルギーであり，18世紀末から19世紀初頭にかけて機械制大工場を形成していった。これと前後してフランスも産業革命の段階に突入し，ナポレオンによる保護のもとに近代工業国をめざす努力がなされた。特に綿工業においては，力織機の導入によって19世紀半ばまでに大工場制が出現したが，産業革命が本格化するのは19世紀後半であった。ドイツは，19世紀前半は経済的にたちおくれた国であったが，19世紀後半には石炭産業が興隆し，鉄道の発達と歩調を合わせ鉄鋼業の発展がみられた。アメリカにおいては，1812年戦争によるイギリス製品の途絶が刺激となって，本格的な工業化が開始されたが，産業資本が確立するのは南北戦争後のことである。

ところで，1870年代から第１次世界大戦に至る独占資本主義段階の技術的革新を第２次産業革命とよぶ場合がある。これは電動機と内燃機関による動力源の変革と，鉄鋼工業・電気工業とそれに結びついた化学工業の発展を特色としている。本来の産業革命が消費財生産部門にあたる軽工業を中心に行なわれたのに対し，第２次産業革命は生産財生産部門を中心にした重化学工業の形成であり，その中心舞台もドイツ・アメリカの両国であり，イギリスがこれに続いた。特にドイツは，本来の産業革命を達成した直後から第２次産業革命に突入し，化学工業においては世界のトップに立つなどきわめて急速な発展を遂げた。

〔日本における産業革命〕日本の産業が近代化への道を歩みはじめたのは明治維新後のことであり，国家の保護育成政策と先進国からの技術導入によって進められた。そして，日清(にっしん)戦争後の約10年間ほどの短期間に産業革命を経験した。まず軽工業部門の綿紡績業をはじめとし，製糖業・製紙業があいついで近代的大工場制を確立していった。重工業部門はこれに比べてやや遅れたが，軍需工業と関連した造船業・製鉄業が国家の手厚い保護下に巨大産業として形成された。また交通運輸業においても，ほぼこの時期に大規模な近代的企業としての基礎を確立した。後進国日本の産業革命はイギリスにおける自生的な産業革命と異なり，上から近代化が推し進められたのである。これは，中小企業の広範な残存という日本の産業構造の特殊性の原因となった。

〔板橋重夫〕

日本標準産業分類(1976年5月改訂)

大分類		中分類
A：農業	01	農業(農業的サービス業を除く)
	05	農業的サービス業
B：林業・狩猟業	06	林業
	07	狩猟業
C：漁業水産養殖業	08	漁業
	09	水産養殖業
D：鉱業	10	金属鉱業
	11	石炭・亜炭鉱業
	12	原油・天然ガス鉱業
	13	非金属鉱業
E：建設業	15	総合工事業
	16	職別工事業(設備工事を除く)
	17	設備工事業
F：製造業	18 19	食料品・たばこ製造業
	20	繊維工業(衣服，その他の繊維製品を除く)
	21	衣服，その他の繊維製品製造業
	22	木材・木製品製造業(家具を除く)
	23	家具・装備品製造業
	24	パルプ・紙・紙加工品製造業
	25	出版・印刷・同関連産業
	26	化学工業
	27	石油製品・石炭製品製造業
	28	ゴム製品製造業
	29	なめしがわ・同製品・毛皮製造業
	30	窯業・土石製品製造業
	31	鉄鋼業
	32	非鉄金属製造業
	33	金属製品製造業
	34	一般機械器具製造業
	35	電気機械器具製造業
	36	輸送用機械器具製造業
	37	精密機械器具製造業
	38	武器製造業
	39	その他の製造業
G：卸し売業・小売業	40 41	卸売業
	42	代理商・仲立業
	43	各種商品小売業
	44	織物・衣服・身のまわり品小売業
	45	飲食料品小売業
	46	飲食店
	47	自動車・自転車・荷車等小売業
	48	家具・建具・じゅう器小売業
	49	その他の小売業
H：金融・保険業	50	銀行・信託業
	51	農林水産金融業
	52	中小企業・庶民・住宅等特定目的金融業
	53	補助的金融業・金融付帯業
	54	投資業
	55	証券業・商品取引業
	56	保険業
	57	保険媒介代理業・保険サービス業
I：不動産業	59	不動産業
J：運輸通信業	60	鉄道業
	61	道路旅客運送業
	62	道路貨物運送業
	63	水運業
	64	航空運輸業
	65	倉庫業
	66	運輸に付帯するサービス業
	67	通信業
K：電気ガス水道業	70	電気業
	71	ガス業
	72	水道業
	73	熱供給業
	74	物品賃貸業
L：サービス業	75	旅館その他の宿泊所
	76	家事サービス業
	77	洗たく・理容・浴場業
	78	その他の個人サービス業
	79	映画業
	80	娯楽業(映画を除く)
	81	放送業
	82	自動車整備及び駐車場業
	83	その他の修理業
	84	協同組合(他に分類されない)
	85	情報サービス・調査広告業
	86	その他の事業サービス業
	87	専門サービス業(他に分類されないもの)
	88	医療業
	89	保健及び廃棄物処理業
	90	宗教
	91	教育
	92	社会保険・社会福祉
	93	学術研究機関
	94	政治・経済・文化団体
	95	その他のサービス業
	96	外国公務
M：公務	97	国家事務
	98	地方事務
N：分類不能の産業	99	分類不能の産業

理学の一領域。温湿度，騒音状態，機械・装置などの物的環境と人間の精神機能との相互作用を研究する人間工学*と，職場内の人と人との相互関係を研究する人間関係問題とに大別される。前者は作業条件に対する作業能力・適性配置・災害責任を，後者は労働精神衛生，作業集団の特性などを課題とする。〔金子秀彬〕

さんぎょうとうしとくべつかいけい　【産業投資特別会計】　1953年(昭和28)アメリカの対日援助打ち切りにより，見返り資金特別会計の新規財源が皆無となったため，これに代わって設立された特別会計。同年度に発行された特別減税国債の収入金，対日援助見返り資金特別会計からの承継資産などを財源とし，これを政府事業に出資したり，日本開発銀行・日本輸出入銀行などを通じて重要基幹産業に投融資したりして，財政投融資活動の原資の一つとなってきた。その会計の資金源は，出資や貸付金の運用収入のほか，一般会計からの受け入れが主となっている。➔財政投融資〔西野義彦〕

さんぎょうぶんるい　【産業分類】　一国の産業構造を適切に把握(はあく)するために，すべての産業をなんらかの基準によって同種のグループに分類すること。これによって国際間の産業構造の比較が容易になる。国際連合の〈国際標準産業分類〉では，大分類として，①農業・林業・狩猟業・漁業・②鉱業，③製造業，④建設業，⑤電気・ガス・水道・衛生サービス，⑥商業，⑦運輸・倉庫・通信業，⑧サービス業，⑨その他に分け，さらにそれらを細かく分類している。わが国でもこれにならって，1949年(昭和24)に行政管理庁が〈日本標準産業分類〉を制定，その後改訂を重ねている。大分類は，①農業，②林業・狩猟業，③漁業・水産養殖業，④鉱業，⑤建設業，⑥製造業，⑦卸売業・小売業，⑧金融・保険業，⑨不動産業，⑩運輸通信業，⑪電気ガス水道業，⑫サービス業，⑬公務，⑭分類不能の産業，の14に区分され，さらにその下に中分類・小分類があり，全体として9999にまで細分類が行なわれている。〔加藤　寛〕

さんぎょうべつくみあい　【産業別組合】　熟練・不熟練，または職種・技能の区別をいっさいせず，同一の産業に従事する全労働者で組織される労働組合*をいう。資本主義の初期の段階では職業別組合*が多かったが，資本の集中・独占化が進むと，労働者の労働条件が産業ごとに類似してくること，産業全体の労働力を一つの労働組合に結集しなければ独占資本に対抗できないことなどの理由から，しだいに産業別組合に移行していった。日本では，企業別組合*が結成され，企業別組合が同一産業または同一業種と結集して産業別労働組合をつくっている。したがって，日本でいわれている産業別組合とは，正しい意味での産業別ではなくて，ほとんどが企業別ないし業種別である。〔木元錦哉〕

さんぎょうほうこくかい　【産業報国会】　⇨大日本産業報国会

さんぎょうみんしゅしゅぎ　【産業民主主義】　19世紀末，ウェッブ夫妻*がイギリスの労働組合内部の民主化運動について述べたときにはじめて用いられた語。しかし現在では産業や企業を運営するにあたって，労働者の企業への経営参加を認める産業関係や産業体制をいう。資本主義経済の発展に伴って，労働者は労働組合を組織して団体交渉権*をもつようになったが，労使の階級的対立関係を否定し，労使協調の立場に立ち，企業や産業の運営を労使間で協議する労使協議制*が産業民主主義の基礎となる。この労使協議制が企業レベルにとどまらず，産業レベルまで高められれば，産業の管理・運営は民主的に行なわれ，産業民主主義は民主的にダイナミックな発展をする経済を達成する条件の一つとなる。〔加藤　寛〕

さんぎょうよびぐん【産業予備軍】資本主義社会において，技術進歩に伴う機械の採用または改良の結果生ずる失業者群のこと。相対的過剰人口ともいう。マルクスは，産業予備軍は資本蓄積過程で省力的な技術進歩があるかぎりたえず生み出される，資本主義に必然的な産物であることを指摘した。資本の拡大再生産にとって必要な追加的雇用労働力の供給源であるだけでなく，景気のいかんによって雇用されたり解雇されたりするということから，戦時などの必要なときに現役軍に編入される予備役軍人になぞらえて，就業労働者を産業の現役軍，失業者を産業予備軍とよんだものである。その形態には，①景気変動によって雇用されたり解雇されたりする流動的形態，②形式的には就業しているようにみえるが，たとえば農業または農村労働力の場合にみられるように，よりよい条件での就業の機会があれば流出することを待ち構えているような潜在的形態，③就業が不規則・不完全な停滞的形態などがある。〔常盤政治〕

さんぎょうりっち【産業立地】産業活動を行なう場所を，さまざまな条件をもとにして選択すること。条件として考慮されるべきおもなものは，市場・用地・用水・建物・原材料・労働力・資金・税金・交通・通信・情報機関(官庁・研究所など)・関連産業・気候・災害(台風・洪水(こうずい)のおそれなど)・公害・生活環境などである。一国経済が発展し，産業技術が進歩するにつれて，産業の立地条件は変化してくる。わが国の産業は，これまで京浜・阪神(はんしん)・中京・北九州の四大工業地帯に集中する形をとってきたが，過度の集中によって交通・用地・用水条件が悪化し，また新しい技術の導入に伴い大形の立地条件を必要とする鉄鋼・石油・石油化学・電力などの重化学工業が旧工業地帯の周辺に新規の立地を求めて進出し，相互に技術的関連をもつコンビナート*を形成するようになった。しかし，大形設備を要するコンビナートの進出は，その地域周辺に新しく公害問題をひき起こし，地域住民の強い反対運動に直面することとなり，最近では地方自治体も従来の工場誘致政策を放棄して工場進出を阻止する動きをみせつつある。したがって，国土の狭小なわが国において，重化学工業の将来は産業立地面で大きな制約を課されることとなり，これを克服するには全国的な視野に立った国土利用の総合計画の必要性が増大している。〔原　豊〕

さんぎょうれんかんぶんせき【産業連関分析】企業の生産した生産物が産業全体および家計にどのように配分されるか，またある産業の生産物に対する需要が増加したときに他の産業に及ぼす影響はどのようなものであるかを，一国経済全体の観点から分析する方法を産業連関分析，または投入産出分析という。産業連関分析は数十の部門に分割した産業連関表に従って行なわれる。この分析はW.レオンチェフ*が1939年に当時のアメリカ経済をこの方法ではじめて分析したことから，〈レオンチェフの投入産出分析〉ともよばれている。経済全体を四つの部門，すなわち，農業・工業・家計・政府からなりたつものと仮定して，ある特定の1年間についてみれば，この間の生産物の流れは次の表によって表わすことができる。農業はこの年に全体として20だけの生産をし，それを自己の部門で4，工業部門で12だけ消費し，家計の消費や企業の投資，さらに政府の購入などの用途に4だけ販売する。この最後の用途は，それ以外の用途が産業間の中間取引であるのに対し，最終需要という。工業についても同様にして，その生産物40が農業と工業と最終需要に配分される。



三　曲　左から箏・三味線・尺八

		産出高の配分			
		農業	工業	最終需要	合計
生産要素の配分	農業	4	12	4	20
	工業	6	16	18	40
	付加価値	10	12	0	22
	合計	20	40	22	82

したがって，表を横に見ると，

4＋12＋4＝20　6＋16＋18＝40　①

のような需給関係が成立する。次に表を縦に見ると，農業は自己の部門で生産された生産額を4，工場部門で生産された生産額を6だけそれぞれ生産要素として使用する。そして，労働用役に対して賃金を支払い，利益をあげることになる。この賃金と利益の合計である10が付加価値である。工業も同様に農業から12を，自己の部門から16を使用し，12だけの付加価値を生ずる。これらの費用と利益は生産物の価値に等しいから，表を縦に見ると，

4＋6＋10＝20　12＋16＋12＝40　②

の関係が成立する。①と②から付加価値の合計(10＋12)と最終需要の合計(4＋18)は一致することがわかる。これは国民総生産にほかならない。このような産業間およびその他の部門との間の生産要素の投入と生産物の産出構造を一つの表にまとめたものを産業連関表というのである。この産業連関表の産業部門の各列をその総投入額で割ると投入係数が得られる。これは各生産物1単位を生産するに必要な各生産要素の投入量を表わす。これによって，家計の消費，企業の投資，政府の経済政策が変化するときには，経済全体として各産業がどれだけ生産物を産出しなければならないかが明らかになる。

以上の説明は，最終需要を与えて各産業の生産額を分析することにあるから開放体系とよばれる。これに対して最終需要も経済内部から決定されると考える分析方法を閉鎖体系という。産業連関分析は複雑な産業相互間の関連をよく分析しうる点で，最近の経済政策，中でも政府の経済計画モデルにおいては主要な役割を果たしており，今後よりいっそうの実証分析が期待される。〔藤枝省人〕

さんきょく【三曲】近世邦楽の用語で，3種の楽器を合奏すること。三曲合奏ともいう。今日最も普通に行なわれるのは，箏(そう)・三味線(しゃみせん)(中棹(なかざお)の三弦(さんげん))・尺八の組み合わせであるが，尺八が胡弓(こきゅう)に代わることもある。三曲の発生は未詳だが，18世紀末に箏・胡弓・尺八の合奏が行なわれた記録があり，江戸末期には箏・三味線・胡弓の組み合わせが盛んになった。明治維新によって普化宗に限られていた尺八が広く解放されたため，胡弓の役を尺八が代わるようになり，また最近では胡弓奏者の減少によって尺八のほうが多用されている。三曲合奏の発想そのものは，邦楽の他のジャンルにもあるヘテロフォニー的表現の一種である。19世紀初め，地歌の三味線に一種の変奏として箏を加える方法が現われたが，三曲はこれを拡張したものといえる。狭い意味での音楽構造の骨組みに貢献する度合いでは，三味線が最大で，尺八(胡弓)が最小である。すなわち，尺八のパートは他のパートへの依存度が最も強く，旋律的装飾としての性格が強い。箏と三味線との関係は，それぞれが完結した旋律の流れを示すだけでなく，相補的なリズムで交互に奏していく場合もある。《残月》《八重衣(やえごろも)》などは，三曲で演奏される代表的な曲である。〔徳丸吉彦〕

さんきょくかん【三極管】⇨真空管

さんきょくかんけんぱ【三極管検波】⇨検波

さんきらい【山帰来】⇨サルトリイバラ

ざんぎり【散切】男の髪形の一種で，斬切とも書く。髪を元結いやひもで結ばず切りそろえただけの髪形。室町時代からみられるが，江戸時代初期から中期にかけて総髪・なでつけとよばれ，浪人・剣術指南者たちの髪形であった。江戸時代末期以後の西洋文化の輸入に伴い，まず洋式調練を受けた兵士がざんぎり頭となり，その後明治新政府の断髪令によって一般にも普及し，〈ざんぎり頭をたたいてみれば文明開化の音がする〉と歌われたように，文明開化期



三騎龍
トリケラトプス



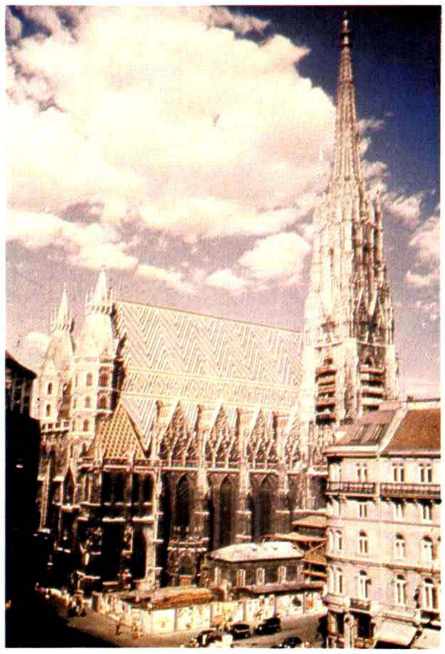
参勤交代
《参勤交代絵巻》(部分) 徳川黎明会蔵

の代表的風俗となった。 〔宮本袈裟雄〕

ざんぎりもの 【散切物】 歌舞伎(かぶき)の脚本の一種。世話物*のうち，明治維新後，当時の社会風俗を写して書かれた作品をいう。文明開化の象徴でもあった，まげを落としたざんぎり頭の男子が登場する世話物というほどの意味である。河竹黙阿弥*(かわたけもくあみ)が五世尾上(おのえ)菊五郎*・初世市川左団次*らのために書きおろした脚本が多く，《島衡月白浪*(しまちどりつきのしらなみ)》《霜夜鐘十字辻筬*(しもよのかねじゅうじのつじうら)》などが代表作。背景や登場人物の風俗だけは新しくても，作劇法と演出法は旧来のとおりだったので，新時代の歌舞伎劇へ発展するには至らなかった。 〔松井俊諭〕

さんきりゅう 【三騎龍】 学名をトリセラトプスといい，恐龍*の一種。野牛のような体格で，体長は8mぐらい。草食性四肢(しし)動物で，頭部にサイの角のようながんじょうな角を3本有する。北アメリカにおいて中生代白亜紀後期に栄えた。➔騎龍

さんきんこうたい 【参勤交代】 江戸時代，徳川幕府が大名*統制策の一つとして，一定期間を定めて諸大名を江戸に参勤させた制度。参覲(これが正しい書き方)交替とも書く。兵農分離による大名の家臣の城下町集中に起源し，徳川家康(いえやす)は関ヶ原の役後，幕府の成立に伴い諸大名の江戸参勤と妻子の江戸移住を勧めたが，その最も早い例が1602年(慶長7)前田利長(としなが)の江戸参府である。制度として確立したのは1635年(寛永12)の武家諸法度*(しょはっと)によるもので，大部分の大名は1年交替で在府(江戸にとどまる)・在国した。ただし関東の大名は半年交替，水戸(みと)家・役付き大名は定府(じょうふ)(つねに江戸にいる)，対馬(つしま)の宗家は3年に1度であった。この制度によって江戸には諸大名の屋敷が集まり，約50万前後の武士人口が集中して江戸は都市として発展し，また大名の往復により交通運輸の発達を促し，地方文化と江戸文化との交流にも役だった。しかし大名にとっては道中の費用，江戸屋敷の維持など大きな負担となり，それが幕府のねらいともいわれた。1862年(文久2)に至り幕政改革の一として大大名は3年に1度在府1年，その他は3年に1度100日在府，妻子の帰国はかってとなり，幕府の威信の失墜とともにしだいに有名無実のものとなっていった。 〔岡山泰四〕



ザンクト‐シュテファン大聖堂

さんぐうせん 【参宮線】 紀勢本線多気と終点鳥羽(とば)を結ぶ国鉄路線で営業キロ数29.1，駅数10。1897年(明治30)山田(現伊勢(いせ)市)まで開通し，1911年全線開通。もとは関西本線亀山(かめやま)～鳥羽間を参宮線と称したが，1959年(昭和34)紀勢本線の全通に伴って，現在の区間に短縮された。伊勢志摩国立公園へ至るルートにあたる。

ザンクト‐シュテファンだいせいどう 【ザンクト‐シュテファン大聖堂】 ウィーンのゴシック期を代表する建築物。1137年に着工され，14世紀に拡張された。第2次世界大戦のために壊滅的な打撃を受けたが，1952年厳密な考証の下に復原された。ハルレンキルヘ様式(➔教会堂建築)を取り入れた内部は，ステンドグラスの光に満たされている。高い大鐘塔は，ウィーンの象徴ともみなされ，全市のいたるところから望見される。 〔吉田玲子〕

サングラス 〔sun glass〕 目を太陽光線から保護する目的でつくられた有色ガラスおよびプラスチックレンズ使用の眼鏡。夏の強い日ざしおよび冬の雪山などでの紫外線よけや，眼疾の治療などに用いられる。有色ガラスレンズには，反射を防止するコーティングレンズ，紫外線にあたると色の変わるフォトクロミックガラスなどもある。有色プラスチックレンズは，ガラスレンズに比べて，軽さ・弾力性・強靭(きょうじん)性の面ですぐれ，着色も容易であり，親水性樹脂のコーティングにより防曇(ぼうどん)効果をもたせている。また，乱反射を防ぐ偏光レンズには，プラスチック製とガラス製とがある。なお，これらサングラスには，一般のめがねと同じように度つきのものがある。現在のサングラスは衛生上の目的以外にアクセサリーとして普及しているが，実用的には虹彩(こうさい)の青い人種に比べて，黒または茶かっ色の日本人にはほとんど必要ない。 〔鈴木晃佳〕

サンクリストバル 〔San Cristóbal〕 ベネズエラ共和国西部にある都市。コロンビアに続く高原にある最大の都市である。人口15万2,000(1971)。付近一帯はコーヒー園で，その集散を行なっている。コーヒーは石油をはじめとする鉱産物に次ぐこの国の重要な輸出品で，ここからプエルトカベヨへ運ばれて積み出されている。アンデス‐ハイウエー上にある交通の要地でもある。

サンクリストバル(島) 〔San Cristóbal〕 東太平洋のガラパゴス諸島にある島。諸島の政治の中心地で，サトウキビとコーヒーを産する。

サンクリストバル(島) 〔San Cristóbal〕 南西太平洋のソロモン諸島にある島。ココヤシを産する。イギリス保護領。

さんぐんへんせいたい 【三郡変成帯】 西南日本の内帯に，中国地方から北九州にかけて千枚岩ないし変成岩の低い結晶片岩の分布する変成帯。白亜紀のカコウ岩類によって広く貫かれているため，分布はとぎれ，断片的になっている。源岩は上部古生層と考えられ，変成作用*の起こった時代は古生代末から中生代初めといわれている。

さんげ 【散華】 仏前で花を散布し，仏

に供養すること。仏に対する尊敬や称賛の意味があり，自己の徳を積むことにもなる。本来は生花を用いたが，儀式のときにはおもに紙製のハスの花弁を用い，散布して鬼神の妨げを除き，道場に仏が入場することを請う。仏を称賛する偈(げ)を詠じ，歩きながら散華することもある。顕教では〈四箇法要(４種の儀式)〉の一，密教では〈二箇法要〉の一である。

ざんげ【懺悔】仏教では，〈懺〉は梵語(ぼんご) kṣama(クシャマ)の音写で，〈悔〉はその意訳。正しくは〈さんげ〉。自分の罪を悔いることで，インドの古い仏教教団では比丘(びく)たちが毎月決められた日に集まって自分たちの罪をお互いに告白し，二度と犯さないことを誓い合った。中国や日本の仏教では諸仏の前で自分の罪を悔い，滅罪を乞うた。懺悔のときに唱える〈我昔所造諸悪業(がしゃくしょぞうしょあくごう)，皆由無始貪瞋癡(かいゆうむしとんじんち)，従身口意之所生(じゅうしんくいししょしょう)，一切我今皆懺悔(いっさいがこんかいざんげ)〉という《華厳経》中の七言四句は有名である。

キリスト教では過去の罪悪を自覚し，これを悔いて告白すること。カトリックでは悔悛(かいしゅん)の秘蹟(ひせき)の一環として把握(はあく)される(→告解(こっかい))。プロテスタントでは，一般に懺悔は聖職者相手ではなく，神への祈りを通して直接行なわれる内面的行為である。〔岡部和雄・石井忠厚〕

さんけい【山系】⇨山脈

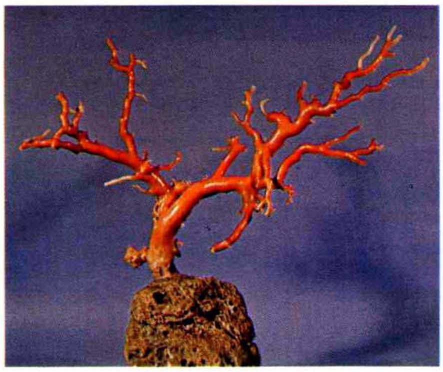
さんけい【山鶏】鳥類・キジ科。台湾の山地にのみ生息し，キジよりも大きい。雄の顔の皮膚は赤色で角状にとがり，冠羽・上背・中央尾羽は白色で目だち，下面は紺色で他の部分は紺・緑・紫色などの美しい鳥。雌はじみなかっ色。飼育下でもよく産卵し，動物園などでみかけられる。

さんげがくしょうしき【山家学生式】最澄の著書。１巻。《天台法華宗(ほっけしゅう)年分学生式》(六条式)を主体とし，《勧奨天台宗年分学生式》(八条式)および《天台法華宗年分度者回小向大式》(四条式)の３式からなる。最澄は小乗戒に代わって大乗戒の樹立を願い，818年(弘仁９)，比叡(ひえい)山に新たに大乗戒のための戒壇を設け，天台宗の僧はここで受戒し，さらに12年間とどまって修学することを定めようとした。この承認を得るため，嵯峨(さが)天皇に勅裁を請う上奏文の形式で書かれている。南都仏教はこれに反対を唱えたため，最澄はさらに《顕戒論》で反論し，死後７日で実現した。〔京戸慈光〕

ざんげつ【残月】地歌・箏曲(そうきょく)の曲名。生田流の曲であるが，山田流でも演奏される。天明・寛政(1781～1800)ごろ峰崎勾当(こうとう)が作曲した。門人松屋某の娘の死に際してつくられたといわれ，〈追善物〉の代表曲である。歌詞は，若くして死んだ女性を月にたとえ，月日の流れの速さを詠嘆する。手事物形式で，複雑精妙な器



三　弦　明清楽で用いられる中国の三弦　藤井有鄰館蔵



サンゴ　モモイロサンゴ

楽的手法を使っている。《雪》とともに作曲者の代表作で，地歌・箏曲の名曲でもある。

さんけつしょう【酸血症】⇨アシドーシス

さんげん【三弦】三味線(しゃみせん)の別名。中国の同類の楽器である三弦は明朝(みんちょう)末期から芝居音楽や民謡などに使われてきたもので，15世紀に琉球(りゅうきゅう)，さらに日本に伝わり，三線(さんしん)・三味線の原型となった点で重要である。大形と小形があり，ともに指にはめた義爪(ぎそう)か，指そのものではじいて奏する。

さんげんしょく【三原色】⇨色

さんげんにはく【三言二拍】中国，明(みん)代に刊行された通俗短編小説選集５種。すなわち《喩世明言(ゆせいめいげん)》(《古今小説》ともいう)《警世通言》《醒世恒言(せいせいこうげん)》の〈三言〉と，《拍案驚奇》初刻本と二刻本の〈二拍〉とをいう。三言は馮夢龍(ふうぼうりょう)の編で，二拍は凌濛初(りょうもうしょ)の編である。いずれも話本を40編ずつ(二刻《拍案驚奇》だけは39種と雑劇１種)収録し，その中には宋(そう)・元代の話本のおもかげをとどめるものがあって，明代の小説研究に貴重な材料を提供している。〔今村与志雄〕

さんけんぶんりつ【三権分立】近代国家の基本原理の一。権力分立ともいう。国家権力は，立法権・行政権・司法権の三つに分割され，相互に牽制(けんせい)しあうときに最もよくその専制化が防止されるとする思想。このような権力分立論を唱えた代表的な思想家には，ジョン-ロックやモンテスキューがいる。特にモンテスキューがその主著《法の精神》において，典型的な権力分立論を展開していることは有名である。元来，権力分立論は絶対主義下において君主・貴族・市民階級の三つの勢力が均衡した情勢を反映して主張されたものであり，勢力均衡が権力均衡論として展開されたものである。権力分立論は君主の権力を制限しようとして市民階級によって主張された政治的イデオロギーであったといえる。それゆえやがて市民階級が支配者階級に上昇しようとするときには，フランスではルソー，イギリスではベンサムにみられるように，権力分立論は批判され，不可分の絶対的な主権論が展開される。三権分立の原理はアメリカなどの大統領制をとる諸国において最も典型的に実現されたが，日本国憲法の基本原理としても採用されており，国会・内閣・裁判所に三権がそれぞれ所属するものとされている。その相互抑制のメカニズムは次のようになっている。すなわち，国会は内閣を不信任できるのに対して内閣は国会を解散することができ，裁判所は国会の制定する法律が憲法に適合しているかどうかを審査する違憲立法審査権をもつのに対し，国会は弾劾裁判所の裁判によって裁判官を罷免できる。さらに裁判所は内閣の行なう行政が憲法や法律に適合しているかどうかを審査する権能をもつのに対して，内閣は最高裁判所長官の指名と同判事の任命を行なうことができる。このような三権の相互抑制によって権力の専制化を防止しようとする権力分立論も最近はとみに形骸(けいがい)化してきたことは否定できない。議院内閣制をとる日本においては，政党政治の発達に伴って立法権と行政権が行政権優勢のうちにしだいに癒着(ゆちゃく)した結果，三権分立による相互抑制の機能が弱まり，多数派政党の専横化が目だっている。このように三権分立のメカニズムがその実効性を失っている事態は強く反省されなければならない。➔近代国家〔西尾孝司〕

さんご【珊瑚】腔腸動物のうち，かたい石灰質の骨格をつくるものの俗称。熱帯・亜熱帯の海にさんご礁を形成するイシサンゴ目(造礁サンゴ)と，花虫綱・八放サンゴ亜綱・ヤギ目・サンゴ科・コラリウム属に属して装飾品とされる狭義のサンゴとが含まれる。

コラリウム属のサンゴ類にはシロサンゴ・アカサンゴ・モモイロサンゴの３種があり，いずれも樹枝状に生長し，ほとんど一平面上に広がっていくので，全体が扇のような形になる。深い海底の岩礁に付着し，最も大きくなるモモイロサンゴでは高さ１m，幅２mに及ぶ。体は，生時にはかたい中軸骨格の上に柔かい外皮をかぶっている。中軸骨格は外皮中の骨片の癒着(ゆちゃく)によって形成され，かたく緻密(ちみつ)である。サンゴの枝にはポリプ(サンゴ虫)が不規則に分布する。ポリプには，イソギンチャクに似た花のような形の花形ポリプと，管状の管形ポリプとがある。前者には８本

の触手があり，プランクトンを捕食して栄養をつかさどる。後者はもっぱら生殖をつかさどる。管形ポリプから出た卵は水中で孵化(ふか)して幼虫となり，適当な岩の上に定着して次々と芽を出し，ポリプをふやし，枝を広げていく。花形ポリプは種によって大きさが違い，アカサンゴが最も小さく径1mmほどで，縮むと外皮の中に隠れる。モモイロサンゴでは1.5～2mmほどで，縮んだときも外皮の上にこぶ状に盛り上がっている。シロサンゴでは径2～3mmほどで，縮んだときはモモイロサンゴほどには盛り上がらない。枝の形状も，3種それぞれ少しずつ違い，シロサンゴは枝分かれが少なく，アカサンゴは小枝が短く枝分かれが多い。モモイロサンゴでは，長い小枝が細かく枝分かれする。アカサンゴの外皮と骨格は暗赤色，モモイロサンゴは桃色，シロサンゴでは外皮が黄色ないし赤く，骨格は白あるいは赤色がかった白色。いずれも北緯35～45°の間にすみ，暖かく潮のよく流れる水のきれいな300～1,500mの海底の岩に固着しているが，主生息深度はシロサンゴ・アカサンゴ・モモイロサンゴの順に大きい。コラリウム属のサンゴは，地中海と日本の南部近海にしか分布しない。日本近海では土佐湾・五島列島・甑島(こしきじま)列島・小笠原(おがさわら)諸島・八丈島・台湾北部などが産地で，サンゴ網という引き網を海底におろして，サンゴの枝にからませて引き上げる。サンゴの骨格の成長はきわめておそいので，サンゴ資源は枯渇しやすく，サンゴの漁場は長い年月の周期で移り変わる。

装飾用として最も重用されるのはモモイロサンゴで，色が美しく，質が最も緻密ですぐれている。アカサンゴは美しさにおいて前者に劣るが，種類は最も多い。シロサンゴは骨格の質がややあらいので，3種の中ではいちばん廉価である。いずれもみがいてつやを出し，帯留め・ネックレス・イヤリング・ブレスレット・ブローチ・カフスボタン・ネクタイピンなどに加工したり，そのまま置き物にしたりする。古今東西を通じ，金・銀や錦(にしき)などと並ぶ貴重なものの代名詞のようにいわれてきたが，最近は，人造宝石などにおされて，やや人気が停滞ぎみである。〔菅野 徹〕

さんごいろ【珊瑚色】 色名。サンゴのような色。わずかに紫みをおびた，薄くあざやかな赤色，ときにはやや朱色がかった色。日本工業規格(JIS)慣用色名〈サンゴ色〉は，色相2.5R，明度7.0，彩度10.5の色と規定されている。➔色

さんこう【散光】 ⇨散乱

さんこうえん【参考円】 ⇨単振動

さんこうごてい【三皇五帝】 中国，古代の伝説上の皇帝。春秋・戦国時代から漢・晋(しん)以来諸説があるが，いずれも三皇説は人類の，五帝説は中国民族の起源説とみるべきものである。《史記》では《五帝本紀》



散光星雲
北アメリカ星雲

に黄帝・顓頊(せんぎょく)・帝嚳(ていこく)・堯(ぎょう)・舜(しゅん)を，唐の司馬貞が補った《三皇本紀》に伏羲(ふくぎ)(庖羲(ほうぎ))・女媧(じょか)・神農をあげている。

さんごうしいき【三教指帰】 空海の著書。3巻。遊蕩児(ゆうとうじ)が儒学者に儒教の道徳を説かれて改悛(かいしゅん)する(上巻)。そこへ道学者が現われ，道教の高遠さを説いて，このふたりを感服させる(中巻)。さらに仏教の修行者が現われ，前の3人は衆生への実践活動こそ忠孝の道と説かれ，仏道に帰依する(下巻)。空海が出家する際，出家は人倫忠孝の道にそむくと非難する者があり，そこで儒・仏・道の3教の優劣を論じ，仏教のすぐれていることを主張した空海自身の思想遍歴が述べられている。草本とされる《聾瞽(ろうこ)指帰》1巻(自筆本・国宝)が金剛峯(こんごうぶ)寺にある。〔平井有慶〕

さんこうしゃごげんぎょう【三公社五現業】 日本国有鉄道・日本電信電話公社・日本専売公社の公共企業体(三公社)と，国の経営する郵便・林野・印刷・造幣・アルコール専売(五現業)の業務を行なう現業官庁。その職員は公共企業体等労働関係法(公労法)によって争議行為が禁止され，団体交渉権が制限されている。このため，公共企業体等労働組合協議会(公労協)は労働基本権奪還のため長年紛争を続け，またILO(国際労働機構)に提訴するなどしてきた。1965年(昭和40)再三にわたる勧告に従って政府はILO87号条約(団結権の保障などを規定した条約)を批准し，これを受けて公務員制度審議会を設けて公務員の労働基本権を中心に論じたが，結論を出すことができないまま，1970年10月任期切れとなった。〔寺尾方孝〕

さんこうせいうん【散光星雲】 付近にある恒星(この場合励起星という)の光を受けて輝いている，銀河系内の星間物質のかたまり。励起星の温度が高く波長の短い(したがってエネルギーの高い)紫外線を多く放射している場合には，星雲を構成しているガスは紫外域の連続光を吸収して可視域の強い輝線を放つ一種の螢光(けいこう)現象を起こす。かかる星雲を輝線星雲という。また励起星の温度が比較的低い場合には，星雲は星の光を反射するだけで，そのスペクトルに輝線はなく連続光のみである。これを反射星雲とよぶ。これら散光星雲は散開星団と結びついている場合が多く，銀河系内の分布は銀河面に集中する。〔磯部琇三〕

さんこうちょう【三光鳥】 鳥類・ヒタキ科。夏鳥として本州以南の各地に渡来し，平地や低山帯のおもに広葉樹林で繁殖する。体はおよそスズメ大で，くちばしと目のまわりは空色，頭・胸部は黒紫色，腹部は白色，上面は赤かっ紫色。雄の若鳥と雌の尾は短いが，雄の尾羽は年月を経るにしたがって長くなり，35cmにもなる美しい鳥。和名は〈ツキ，ヒ，ホシ(月日星)，ホイホイホイ〉と聞き取れる美しいさえずりによる。

さんごかい【珊瑚海】 オーストラリア北東方の南緯10～20°にある海域。オーストラリア大陸北東岸，ニューギニア島・ソロモン諸島・ニューヘブリジーズ諸島・ニューカレドニア島に囲まれている。オーストラリア大陸沿いのグレートバリアリーフ(大堡礁)をはじめ，さんご礁が発達していることから名づけられた。平均深度3,000～4,500m，最深部はニューブリテン海溝(かいこう)の9,140mと一般に深いが，ところどころに浅い海底があり，さんご礁になっている。この海域の島々の開発は遅れており，船舶の航行も活発ではない。第2次世界大戦中の1942年(昭和17)5月，日本海軍とアメリカ海軍の珊瑚海海戦がこの海域の北部で行なわれた。〔長津一郎〕

さんごくかんしょう【三国干渉】 1895年(明治28)日清(にっしん)戦争で戦勝した日本が清と下関(しものせき)条約を結ぶにあたって，ロシア・フランス・ドイツの3国が干渉した事件。この条約で割譲を受けた領土のうち，遼東(りょうとう)半島を日本が領有することは東洋の平和に害があるとして，3国はその還付を日本政府に申し入れてきた。当時の日本の国力では，この三国干渉を受諾せざるをえなかったため，国民憤激のうちに遼東半島を清に還付した。しかもロシアはその後，清から遼東半島を租借し，列国も競って清に侵略の手を伸ばし，露骨に帝国主義を推し進めた。このような情勢はわが国民に痛切な屈辱感を与え，3国への敵愾心(てきがいしん)から思想界に国民主義(➔ナショナリズム)が高揚した。〔高崎徳次〕

さんごくきょうしょう【三国協商】 第1次世界大戦前，イギリス・フランス・ロシア3国間に成立した政治的・軍事的友好関係の総称。1891年のロシア-フランス同盟，1904年のイギリス-フランス協商，1907年のイギリス-ロシア協商によって，3国が友好的な関係に立った結果生じたもので，三国協商として特定の条約または協商が結ばれたのではない。三国同盟に対抗するもので，特にドイツ包囲体制の成立を意味したが，ロシア革命ののちソビエト政権は戦

争から離脱したため，三国協商は崩壊した。〔松　俊夫〕

さんごくし　【三国司】　南北朝時代以降戦国期を通じ，16世紀後半まで存続した国司の家がら。飛騨(ひだ)（岐阜県）の姉小路(あねがこうじ)氏，伊勢(いせ)（三重県）の北畠(きたばたけ)氏，土佐（高知県）の一条氏の３家で，いずれも公家(くげ)が戦国大名化したものである。

さんごくし　【三国志】　中国の歴史書。65巻。三国時代の魏(ぎ)・蜀(しょく)・呉の興亡を描く。西晋(せいしん)時代の陳寿(233～297)の著。もともと私撰(しせん)の歴史であったが，その死後に正史として認められた。記述は魏と蜀とに好意的だとされるが，厳正な歴史家としての立場を失うことなく，簡潔な表現ですぐれている。南朝の宋(そう)代の裴松之(はいしょうし)の注を付して普及。なお日本では，明(みん)代の小説《三国志演義》もこの名でよんでいる。〔小南一郎〕

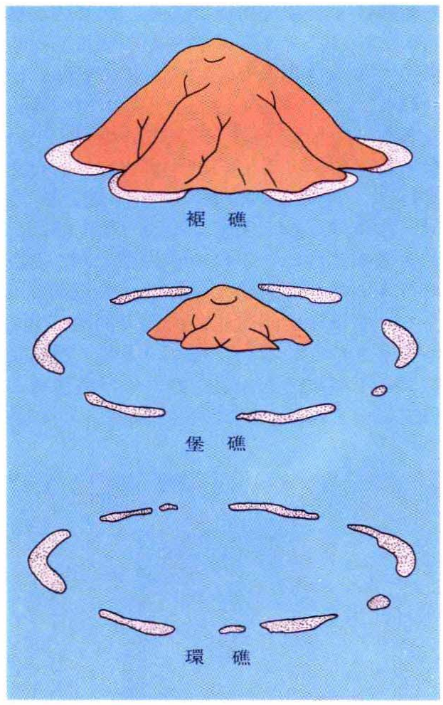
さんごくしえんぎ　【三国志演義】　中国，明(みん)代の長編小説。《三国演義》ともいう。《三国志》に基づき，《後漢書》などの史書や，後世にできた伝説や講談などを織り混ぜて再構成した軍談物。いまの形にまとめたのは，14世紀ころの羅貫中(らかんちゅう)である。現存最古の刊本は，1494年の序のある《三国志通俗演義》24巻，240則。後漢末，魏(ぎ)・呉・蜀(しょく)の３国が鼎立(ていりつ)，魏の曹操(そうそう)，呉の孫権らに対抗して，劉備(りゅうび)が関羽・張飛らの勇士と諸葛孔明(しょかつこうめい)の支持を得て漢王朝の命脈を蜀に保つ史話は，早くから講釈の形で民間に普及してきた。唐代すでにその例があり，宋(そう)代では《三国志》を専門に口演する講釈師が存在し，元代には戯曲に脚色されるなどした。元代に刊行された絵入りの講釈本《全相平話三国志》を見ても，読み物として普及していたことがうかがわれる。《三国志演義》は，これら《全相平話三国志》など先行する三国志物をより詳細にし，誤謬(ごびゅう)や荒唐無稽(こうとうむけい)のところは修正し，さらに挿話(そうわ)などを補って一大長編にまとめたもので，中国の民衆に愛好された。清(しん)代に，毛宗崗(もうそうこう)が金聖歎(きんせいたん)のやり方にならって批評と改訂を施した第一才子書《三国志演義》60巻120回が出て，テキストとして最も普及した。日本でも江戸時代以後流行し，翻訳《通俗三国志》50巻が出ている。〔今村与志雄〕

さんごくしき　【三国史記】　朝鮮，新羅(しらぎ)・百済(くだら)・高句麗(こうくり)の３国の史書。高麗(こうらい)の金富軾(きんぷしょく)らの選で1145年に完成した。50巻。朝鮮の三国時代に関する最古の史書で，貴重な資料であるが，中国の史書から引用したりした部分は，日時や内容について，厳密な批判をしなければならない。

さんごくじだい　【三国時代】　中国で，魏(ぎ)・蜀(しょく)・呉の３国が鼎立(ていりつ)していた時代をさし，漢王朝の支配する統一帝国が崩壊して，長い分裂時代の幕が切って落とされた時代。社会的な面では，漢代以来進行していた階級分化によって，豪族の勢力が各地で伸長し，経済的には貨幣流通の激減に伴って自給自足経済へと移行した結果，社会体制は封建的色彩を濃くして，もはや政治的統一を中国全体に及ぼすことは困難となっていった。このような豪族による支配体制は，国ごとに現われ方の相違がみられる。先進地帯である華北平原（淮水(わいすい)以北）を制圧した魏の支配下では，豪族勢力の伸長にもかかわらず，黄巾(こうきん)の乱にみられるような貧農大衆の抵抗と，知識人の階層が広範に存在したことによって，豪族の武人化がはばまれ，文人的な傾向をおびた貴族制社会が形成される。これに対して江南は当時まだ未開地の多い後進地域であったため，そこに建国した呉では，武人的色彩の濃い開発営田領主制的な体制が形成される。同じく後進地域に属するとはいえ，かなり早くから開発の進んだ成都盆地を中心に成立した蜀では，若干の支配豪族が連合しつつも，独力で政権を樹立し維持できるほどに強力でなかったため，外来者である劉備(りゅうび)を推戴(すいたい)して相互の調整を図る。このような分裂下に，魏を中心として栄えた文化は，漢代に支配的であった儒教倫理の規制を脱し，老荘思想を媒介とする個人の思索の深まりと，叙情詩の確立にみられるような感情の自由な発露を示すようになった。〔川勝義雄〕



サンゴジュ





珊瑚礁　グレートバリアリーフ。オーストラリア大陸北東岸沿いに連なる世界最大のサンゴ礁。延長2,000kmにも及ぶ

さんごくどうめい　【三国同盟】　1882年，ドイツ・オーストリア・イタリアの間に成立した軍事同盟。フランスのチュニジア占領を不満としたイタリアが同盟国を欲したことを契機として成立した。しかし，バルカン半島における利害の対立からイタリアと他の２国との関係が冷却し，第１次世界大戦中の1915年，イタリアが連合国側に立って参戦した結果，同盟は崩壊した。

ざんこくものがたり　【残酷物語】　リラダンの短編集(1883)。売文を業とするジャーナリズムへの風刺や，孤高の精神と俗世間との対立などを題材に，さまざまな境遇の人々を主人公にした28編からなる。象徴主義的な文体のうちに時代精神への痛烈な批判・風刺を表現，作者の神秘的理想主義を結晶させた作品。

さんごじゅ　【珊瑚樹】　双子葉植物・スイカズラ科。暖地に自生する常緑小高木で，高さ３～６ｍに達する。葉は対生し，長さ10～20cm，幅４～８cmで光沢がある。５～６月，枝の先に白色の小さい花を円錐(えんすい)状につける。果実は楕円(だえん)形で赤熟し，たれさがる。庭木・いけがきなどとして植栽されるほか，木理が細かいので材は細工物に利用される。

さんごしょう　【珊瑚礁】　造礁サンゴ虫の石灰質の遺骸(いがい)や石灰藻類(そうるい)が集積して形成された礁。造礁サンゴ虫の生息海水温度・塩分・水深に限られた条件があるので，さんご礁は熱帯・亜熱帯地方にのみ形成され，その他では小群落はあってもさんご礁はない。形態によって，裾礁(きょしょう)・堡礁(ほしょう)・環礁の３種類がある。

裾礁は大洋中の島や陸地の縁に接し，堡礁は島から離れて岸にやや平行に点在する。環礁は中に浅い海をかかえてこれを環状に取り巻くものである。さんご礁の成因についてはいろいろの説がある。ダーウィン*の沈降説によれば，島の周囲にこれを取り巻く裾礁ができ，次に島が沈降すると，サンゴ虫は上へと繁殖してさんご礁をつくり，島から離れた堡礁となる。さらに島が沈むと島全体は海面下に没してさんご礁のみが残り，環礁となる。最近さんご礁をボーリングで調査したところ，ダーウィンの沈降説を実証するような結果を得ている。なおほかに，デーリの唱えた，氷河の盛衰に基づく海面の昇降に関連するとする氷河制約説（氷河調節説）などがある。〔相原正彦〕

サンゴタール（峠）［Saint-Gothard］スイス南部，アルプス山中にある峠で，標高2,112m。中部ヨーロッパとイタリアとを結ぶ最も重要なアルプス横断の要路で，自動車道路と鉄道が通じている。峠の名は，1905年に焼失した峠の寺院の司教サン-ゴタールにちなむ。1830年に車道が開設されるまではロバが通れるだけの道があるにすぎなかったが，1882年には峠の下を全長約14,990mで世界第3位のサンゴタール鉄道トンネルが開通した。〔大石堪山〕

さんごちゅう【珊瑚虫】⇨サンゴ

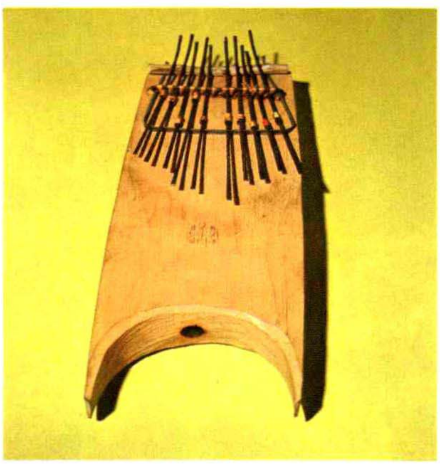
さんごへび【珊瑚蛇】爬虫（はちゅう）類・コブラ科。北アメリカ南東部から南アメリカ一帯に広く分布し，40種ほどが知られている。体長は90cmくらいのものが多く，最大種は1.5m。体色はいずれも赤・黄・黒系統の3色の横帯に分けられる美しい毒ヘビ。神経毒が強いが，小形のため実害は少ない。

さんごも【珊瑚藻】紅藻類・サンゴモ科。高さ5～8cm，平面的に複羽状に分枝し，叢生（そうせい）する海藻で，全体に厚い石灰質をかぶり，灰緑色。有性生殖のほか，果胞子・四分胞子による無性生殖をする。日本では本州の日本海側以外の各地に産する。

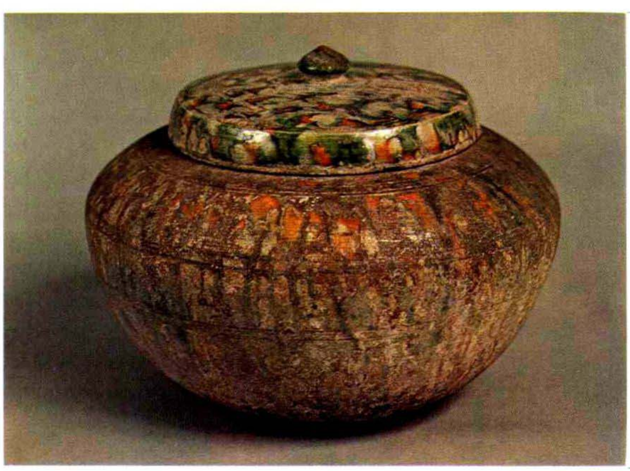
サンゴール［Leopold Sedar Senghor］（1906～　）セネガル共和国の政治家。パリ留学後，自治共和国の下院議員などを経てユネスコで活躍，1960年6月セネガルがスーダンとともにマリ連邦として独立連邦会議議長となり，同年8月分離独立して以来共和国大統領の地位にある。

サンザ［sanza］アフリカの楽器。箱形のものの上に金属製あるいは植物製の舌状の板をいろいろな長さに切って並べ，一端を固定して他方を親指ではじいて鳴らす。ここから〈親指ピアノ〉ともよばれ，またムビラという名でも広く知られる。楽器分類では問題のある楽器で，体鳴楽器にもリード楽器にも分類が可能である。娯楽的な個人あるいは2～3人の演奏から儀式的な規模の大きい合奏まで，さまざまの音楽に使われる。〔山口　修〕

さんさい【三彩】低火度の緑・褐（かち）・白・黄・藍（あい）などの釉（うわぐすり）をかけた陶磁器。高火度の灰釉（はいゆう）系統の釉（白磁・青磁など）と相対する低火度の釉は，鉛を溶媒に用いたいわゆる鉛釉で，鉄・銅・コバルトなどの金属で発色させて色釉をつくる。すでに，漢時代に緑釉・褐釉が盛んに使用されているが，種々の施釉で色調豊かな三彩が本格的に焼かれたのは唐代で，唐三彩とよばれて特に有名である。この影響はきわめて大きく，わが国の奈良三彩，渤海（ぼっかい）の三彩，遼（りょう）・金の三彩などは，直接これに学んで生まれた。宋（そう）・元ではわずかに一部の焼き物に用いられたが，明（みん）代には法花（ファーホア）とよばれる独得の三彩が生まれた。これは元時代に山西省方面で発達した手法らしく，器面に盛り上げた線で文様を表わし釉薬の混交を避けて自由な文様表現を可能にした。このほか，中国地方では交趾（こうち）釉とよばれるくすんだ発色の三彩も焼かれた。また，白磁をつくる素地に，五彩の絵の具で直接に文様を描く磁器の三彩も明（みん）後期にはみられ，清（しん）朝の康熙（こうき）年間には独自の色調の配合と文様を確立して，素三彩とよばれている。〔矢部良明〕



サンザ
武蔵野音楽大学
楽器博物館蔵



三彩
いわゆる奈良三彩の
三彩骨壺
東京国立博物館蔵

さんざい【散剤】ふつう，2種以上の医薬品を乳鉢（にゅうばち）・混合機・ふるいなどで均等に混和した粉末状の医薬品をいう。俗に粉薬といわれ，内服用と外用とがある。最近では内服用散剤の調剤に分包機を使用するため，細粒化した散剤も多くなった。吸収が速く，投与が簡単であり，また安価で携帯に便利なことなどから，古くから親しまれた剤形である。

ざんざい【斬罪】近世において武士に対して行なわれた死刑*の一種。捕縄（はじょう）をかけた罪人の首を，一刀のもとに切り落とすもの。人を斬殺する刑罰は世界に広く行なわれ，わが国の律*では死刑として絞とともに斬が定められていた。首を切り落とす死刑の方法は武士社会の間で一般に行なわれたが，定法として執行されるようになったのは近世以降である。切腹*よりも重い刑であったが，庶民に対する斬首の刑とは異なり，目隠しをせず，またその死体を刀剣の切れ味を試す〈様（ためし）もの〉としなかった。ただし，首は裁判の判決によって梟首（さらしくび）に処せられる場合もあった。明治維新後も、近代刑法が実施をみるまで，斬罪が行なわれることがあった。➔刑罰〔高崎徳次〕

サンサイド［suncide］カーバメート系殺虫剤*の一つで，ウンカ・ヨコバイ類に対し選択的な殺虫作用を示す。魚類に対する毒性は非常に低いが，人畜毒性は有機リン剤のダイアジノン*並みである。乳剤・水和剤・粉剤などがある。ボルドー液*などアルカリ性薬剤との混用は避けたほうがよい。

さんさいりゅう【三斎流】茶道の流派の一。千利休七哲のひとり細川三斎（忠興*（ただおき））を開祖とし，江戸初期に豊前（ぶぜん）（福岡・大分県）・肥後（熊本県）で形成された。現在では細川家の旧城下である熊本に存続している。点前（てまえ）など，現今の表千家流*や裏千家流*よりも古式を残している。

さんさいりょうり【山菜料理】山野に自生する食用植物を用いた料理。ビタミン・無機質に富み，すぐれた風味が賞味される。山形・秋田両県を中心とした東北地方，長

野・群馬・岐阜・富山・福井各県の山間部が知られる。主として用いられる材料は次のとおりである。①山のもの：ワラビ・ゼンマイ・シオデ・クサソテツ(コゴミ)・ネマガリダケ・アザミ・フキ・アケビ・サンショウ・マタタビ・タラ・ニワトコ・ウド・ヤマユリ・カタクリ・アマドコロ・シュンランなど。②里のもの：ツクシ・スイバ・イタドリ・アカザ・スベリヒユ・ハコベ・ジュンサイ・ナズナ・セリ・クコ・ヨメナ・ヨモギ・フキ・タンポポ・ツユクサ・ノカンゾウ・ノビルなど。③海浜のもの：ハマボウフウ・ツルナ(ハマヂシャ)・アシタバなど。《料理法》一般に野菜よりもあくが強いので，材料はゆでて，水にさらしたのち，浸し物・酢の物・あえ物にするのが一般的である。ゆでる場合は均一に柔らかく，色あざやかに仕上げる。かおりを生命とするものは熱湯にさっとくぐらせる程度にし，特にあくの強い山菜は多少時間をかけてゆでたのち，水にさらすか，乾燥または塩づけにする。また，苦味のあるものはてんぷらにするとよい。〔塩川ふみ〕

さんさがり　【三下がり】　三味線(しゃみせん)の調弦法の一。低い弦(第１弦)から完全４度を二つ重ねた間隔になる。本調子*の第３弦を全音下げたり，二上がり*の第１弦を全音上げてつくる。広範に使われるようになったのは比較的新しく，しんみりした箇所でよく用いられる。全曲三下がりで通したものに長唄(ながうた)《越後獅子》がある。

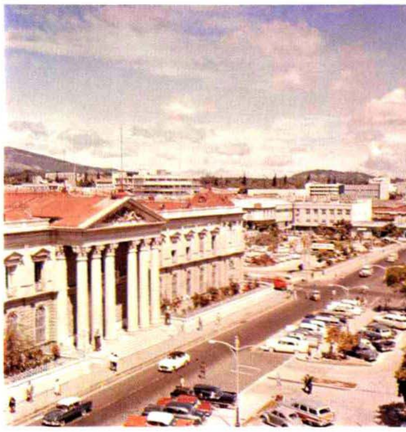
さんざし　【山楂子・山査子】　双子葉植物・バラ科。中国原産の落葉低木で，高さ１～２ｍ。枝は多く分枝し，小枝の変化した長さ５～８mmのとげがある。葉は倒卵形で長さ2.5～７cm，幅1.5～４cm，先が浅く３裂し，不規則な鋸歯(きょし)がある。４～５月，枝先に白色で直径２cm前後の５弁花を２～６個，上向きにつける。果実は直径10～12cm，球形で赤熟し，上部にがく片が残っている。庭木・盆栽として用いられる。果実を山査子といい，漢方では健胃・消化・整腸薬として用いる。また民間では，肉類の消化を助ける働きがあるといわれ，食用に供される。〔加藤僖重〕

さんさしぐれ　【さんさ時雨】　宮城県の代表的な民謡。福島県のものとする説もある。もと手拍子にのせた祝い唄(うた)であったらしい。明治以後，二上がりの三味線(しゃみせん)にのってお座敷化して広く知られるようになった。本唄(もとうた)は〈さんさ時雨と萱野(かやの)の雨は　音もせできてぬれかかるションガイナ〉。

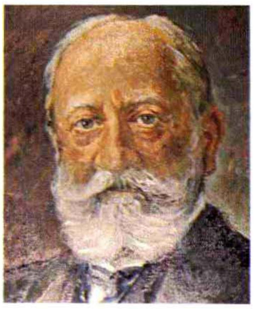
さんさしんけいつう　【三叉神経痛】　三叉神経の半月神経節またはその分枝の刺激による顔面の神経痛。虫歯・感染症・糖尿病・中毒・頭蓋(とうがい)底部腫瘍(しゅよう)による神経圧迫などが原因となるが，不明の場合も少なくない。激しい神経痛で，片側顔面全体に広がり，三叉神経に沿った圧痛が



サンザシ



サンサルバドル　バリオス広場に面して立つ大統領官邸の建物。サンサルバドルには最近日本の企業の進出が目ざましい



サン-サーンス

ある。注射による半月神経節遮断(しゃだん)や薬物治療が試みられる。なお，顔面における神経痛ではあるが，表情運動をつかさどる顔面神経には直接の関係はなく，表情運動は冒されない。〔井形昭弘〕

サンサルバドル　［San Salvador］　中央アメリカにあるエルサルバドル共和国の首都。人口33万7,000(1971)。太平洋に臨んだ高原中の海抜約670ｍの盆地にある。熱帯に位置するが，高地のため気温は年間を通して22～26℃で，比較的暮らしよい。年降水量は1,700mmで，１～５月までは乾季である。盆地では，住民の主食であるトウモロコシ，輸出用作物のコーヒー・ワタがつくられ，これら農作物の集散地として発展した。1525年に建設され，市街は緑が多く，公園のような都市である。日本の紡績会社も進出している。〔小栗　宏〕

サンサルバドル(島)　［San Salvador］　西インド諸島，イギリス領のバハマ諸島にある小島で，面積155km^2。コロンブスの第１回航海のとき，1492年10月12日に最初に発見されたと伝えられる。現在では，他の島との往来も少なく，諸島中でも孤立した未開な島の一つで，数百人の住民が農漁業を営んでいる。

さんさんかいおう　【三酸化硫黄】　SO_3で表わされる化合物。無水硫酸ともいう。α型(融点62.3℃)，β型(融点32.5℃)，δ型(融点16.8℃)の三つの形態があり，硫酸第二鉄・硫酸銅などを強熱分解すると得られる。工業的には，バナジウムまたは白金触媒を用いて亜硫酸ガスと酸素の混合ガスからつくる。水と激しく作用して硫酸になり，また98％くらいの硫酸にとけて発煙硫酸となる。これらのほか，有機合成試薬としてよく用いられるクロルスルホン酸などの製造原料とされる。〔鈴木　篁〕

さんさんかひそ　【三酸化砒素】　As_2O_3で表わされる化合物。三二酸化ヒ素・無水亜ヒ酸ともいい，俗には単に亜ヒ酸とよばれる。➔亜ヒ酸

サン-サーンス　［Charles Camille Saint-Saëns］(1835～1921)　フランスの作曲家。３歳になるまえからピアノの手ほどきを受け，５歳で作曲を始め，10歳で公開演奏会で演奏するほどの神童であった。1848年にパリ音楽院に入学。1858年に，当時のパリでは最高のオルガン奏者の地位であったマドレーヌ教会のオルガン奏者となった。1861年から４年間，ニデルメイエール音楽学校のピアノ教授をつとめ，フォーレ*などを輩出した。1864年からオペラに関心をもち，有名な《サムソンとデリラ》に着手した。また1871年にはフランスの器楽曲の発展のために，歌手ロマン-ビュシーヌとともに〈国民音楽協会〉を組織し，このころから多くの管弦楽曲・室内楽曲を作曲してその名は全ヨーロッパに広まった。晩年は海外を旅行して回り，1921年アルジェで客死した。作品はあらゆるジャンルにわたっているが，《動物の謝肉祭》をはじめとする器楽曲に最もよく現われているように古典的・保守的な表現をもっている。〔寺田兼文〕

サンジェ　［Gustane Singier］(1909～　)　フランスの画家。ベルギーの生まれ。1919年パリに出て，最初は装飾家・デザイナーを志した。近年の自然のフォルムに基づいた抽象的な作品には，ミロやクレーの影響が認められる。

サンジエゴ　［San Diego］　アメリカ合衆国カリフォルニア州南西太平洋岸にある港湾・軍事都市。人口77万4,000(1975)。自然の良港で，商港・漁港として利用されるとともに，合衆国海軍の基地がある。航空機・造船工業が発達し，観光地としても有名。

サン-ジェルマンじょうやく　【サン-ジェルマン条約】　第１次世界大戦後の1919年９月10日，パリ西郊のサン-ジェルマンで連合

国とオーストリアが締結した平和条約。ベルサイユ条約とともにベルサイユ体制の一環をなす。その内容は，①オーストリア-ハンガリー帝国の解体とオーストリア・ハンガリー両共和国の承認，②民族自決主義により旧領内の少数民族の独立(チェコスロバキア・ユーゴスラビア・ポーランド)の承認，③イタリア・ルーマニアへの領土割譲，④オーストリアの軍備制限，徴兵禁止，⑤ドイツ・オーストリアの併合禁止。これにより，ハプスブルク家のオーストリア帝国は領土・人口の4分の3を失い，中央ヨーロッパの一小国に転落した。〔折井一彦〕

サン-ジェルマン-デ-プレ［Saint-Germain-des-Prés］フランス，パリ市内，セーヌ川左岸にある地区名。パリで最も古い地区であり，同名の有名な聖堂がある。6世紀にサン-ジェルマン修道院が建てられたところで，現在の聖堂は11世紀に建造された。

サンジカリズム［syndicalisme］19世紀末から20世紀初頭にかけ，主としてフランス・イタリアにおいて形成された一種の社会主義革命理論。サンジカ(労働組合)を社会主義革命の主体と考え，労働組合のゼネストによって権力を奪取し，労働組合を基礎単位として社会主義社会をつくろうとするものである。前衛党とプロレタリア独裁を認めない点でマルクス主義とは異なり，無政府主義に近い。日本では大杉(おおすぎ)栄がこの立場をとった。〔西尾孝司〕

さんじかんすう【三次関数】変数をxとするとき，xの三次多項式で表わされる関数。
$f(x)=ax^3+bx^2+cx+d$ $(a\neq 0)$をいう。三次関数は一般に，極大と極小を一つずつもち，そのグラフはその上の1点に関して点対称である。

さんしきすみれ【三色菫】⇨パンジー

さんじきょう【三字経】旧中国の初等通俗教科書。《千字文》《百家姓》などとともに，庶民の子弟の学ぶ私塾(しじゅく)で広く使用された。南宋(なんそう)時代(13世紀)，王応麟(おうおうりん)の作といわれる。〈人之初・性本善・性相近・習相遠……〉と3字ずつくぎり，人倫の道を教えながら学習の重要性を説いている。なお，庶民教育の民族形式として受け継がれ，太平天国のときや抗日戦争から人民解放戦争の中でも，民衆への啓発・宣伝の目的で戦いの目標・内容をこめてこの形式によるテキストがつくられた。〔斎藤秋男〕

さんししけんじょう【蚕糸試験場】蚕糸の生産と利用に関する研究を行なっている農林省の試験研究機関。本場は東京都杉並(すぎなみ)区にある。1911年(明治44)に原蚕種製造所として創立され，1914年(大正3)蚕業試験場，1937年(昭和12)蚕糸試験場と改められた。支場は，東北(福島市)・中部(松本市)・関西(綾部(あやべ)市)・九州(熊本



三 社 祭

県植木町)などがある。クワの育種および栽培技術，カイコの育種および養蚕技術，製糸および絹繊維の加工技術に関する基礎的ならびに応用的研究を行ない，数多くの業績をあげてきた。〔赤井　弘〕

さんシーせいさく【3C政策】19世紀末から20世紀初めのイギリスの帝国主義政策で，南アフリカのケープタウン，エジプトのカイロ，インドのカルカッタを結ぶ線を対外政策の基本にしようとしたもの。しかし，ケープタウンからカイロに至るアフリカ縦断政策は，フランスのアフリカ横断政策と衝突し，1898年にはファショダ事件を起こした。またカイロとカルカッタを結ぶインド政策は，ロシアの南下政策やドイツの3B政策と衝突し，これらの対立は第1次世界大戦の原因の一つとなった。〔松下京子〕

ザンジバル［Zanzibar］東アフリカ南部のタンザニア連合共和国の一州。本土から35km離れたインド洋上のザンジバル島(1,700km²)とペンバ島(950km²)の二つの小島からなる。人口36万9,000(1969)。1890年以来イギリス保護領であったが，1963年イギリス連邦内の共和国として独立したタンザニアの1州となった。ザンジバルとはアラビア語で〈黒人の国〉の意で，古くからアラビアとの関係が深く，州都ザンジバルにはサルタンが君臨し，17世紀ごろからアラビア人による奴隷貿易と丁字香の輸出で繁栄した。住民は黒人76%，アラビア人17%，インド人6%，ヨーロッパ人0.1%である。アラビア人とインド人がチョウジのプランテーションを経営し，ほかにココヤシが小規模につくられる。〔小栗　宏〕

さんじほうていしき【三次方程式】変数(または未知数)についての三次の項を含み，四次以上の項を含まない方程式。すなわち，$ax^3+bx^2+cx+d=0$ $(a\neq 0)$の形に整理される方程式をいう。一般的な代数的解法は16世紀の中ごろタルタリアによって見いだされ，1545年カルダーノの著書《アルス-マグナ》で公表された。上の三次方程式の3根をα，β，γとするとき，根と係数との間に次の関係がある。
$\alpha+\beta+\gamma=-b/a$，$\alpha\beta+\beta\gamma+\gamma\alpha=c/a$，
$\alpha\beta\gamma=-d/a$
なお，四次方程式$ax^4+bx^3+cx^2+dx+e=0$ $(a\neq 0)$の代数的解法は，カルダーノの弟子(でし)フェラリやオイラーなどによって見いだされたが，いずれも三次方程式の解法に帰着される。〔菊池兵一〕

サン-シモン［Comte de Saint-Simon Claude Henri de Rouvroy］(1760〜1825) フランスの社会主義者。パリで貴族の家に生まれる。若くして軍務につき，1779年アメリカ独立戦争には義勇兵として参加した。フランス革命に際して財産を没収されたが，革命に共鳴した。のち投機事業によって巨利を得るが，財産を自己および他人の学問研究に使い果たし，晩年は貧困であった。1823年自殺未遂，その2年後パリで没。彼は，生産者がみずから支配し，各人の能力に応じた仕事，仕事に応じた報酬が与えられる産業社会を構想した。そこでは，資本家も生産者と考えられていたが，その広大な構想は後代の社会主義思想に大きな影響を与えた。著書《産業組織について》《ジュネーブ人の手紙》ほか。➔空想的社会主義〔石井忠厚〕

さんしゃしょうけい【三斜晶系】⇨結晶

さんじゃたくせん【三社託宣】室町時代から江戸末期まで広く普及し，庶民信仰の対象とされた託宣。天照皇大神宮を中央に，右に八幡大菩薩(はちまんだいぼさつ)，左に春日(かすが)大明神と書き，それぞれの下に正直・清浄・慈悲を強調する短文を付したもの。多く軸物として床の間にかかげられた。神・儒・仏三教が混然としているが，当時の日本の上下の信仰を端的に要約した観があり，吉田神道(よしだしんとう)で宣教されて以来，いっそう広く知られるようになった。〔小笠原春夫〕

さんじゃまつり【三社祭】東京都台東区浅草神社の祭で，5月16〜18日に行なわれる。江戸時代，神田明神・深川八幡宮(はちまんぐう)(富岡八幡神社)の祭礼とともに江戸三大祭の一つとされた。浅草神社は浅草寺本地で，浅草一帯の総鎮守。浅草寺の1寸8分(約5.5cm)の観音像を拾い上げたという土師真仲知(はじのおみまつち)と檜前(ひのくま)浜成・武成兄弟を祭るところから〈三社明神社〉ともよばれる。三社祭には獅子舞(ししまい)とびんざさら舞が出るので古来有名である。一時祭が中断されていたが，1955年(昭和30)から復活した。〔直江広治〕

さんじゃまつり【三社祭】清元節・日本舞踊の曲名。変化物《弥生(やよい)の花浅草祭》の中の一。作詞は2世瀬川如皐(じょこう)，作曲は初世清元斎兵衛(さいべえ)。1832年(天保3)初演。三社祭にちなんだもので，2人の漁師が善玉と悪玉になり，それぞれ善・悪と書いた面をかむって踊る。音楽的には，ふざけた歌詞にあった合い方をはじめ，終わ

りのほうの〈早い手玉や品玉の……〉に始まる玉づくしは，当時の見世物の感じを出したものといわれる。〔徳丸吉彦〕

さんしゅ　【蚕種】　カイコの卵。飼育の時期によって，春蚕(はるご)種・夏蚕種・秋蚕種の別があり，産下された卵が越年(休眠)するかしないかによって越年種と不越年種に区別される。また，その用途によって普通蚕種とそれをつくる原蚕種に分け，卵を生ませる形式によって框製(かまちせい)・平付け・散卵に区別されている。

さんじゅう　【三重】　邦楽用語。元来は声明*(しょうみょう)で最も高い音域をさした。平曲*でも，比較的長い琵琶(びわ)の前奏に続いて歌われる高音域で派手な旋律形がこの名でよばれている。三味線(しゃみせん)音楽では義太夫節*(ぎだゆうぶし)で最も重視され，ここでも高い音域の三味線のパターンが，大三重・愁(うれい)三重・勢(きおい)三重などに分化している。また，長唄(ながうた)でも大薩摩節(さつまぶし)の三重・段切れ三重・略三重などが使われる。下座音楽でも，それぞれの機能にしたがって，なげきの場に愁三重というように使われている。〔徳丸吉彦〕

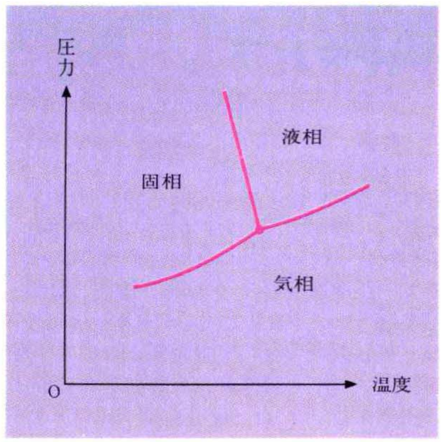
さんじゅうけつごう　【三重結合】　化合物内に3個の共有結合*で結ばれるような2個の原子があるとき，この結合を三重結合とよぶ。化学構造式では≡あるいは⋮⋮で表わす。三重結合で表わされる原子間の距離は，ほとんどの場合に単結合・二重結合に比べて短く，約1.2×10^{-8}cmである。不飽和性を有するため，水素添加をはじめとする種々の付加反応が起こる場合が多い。

さんじゅうさんげんどう　【三十三間堂】　京都市東山区七条通東大路にある。1164年(長寛2)後白河(ごしらかわ)上皇の勅願によって創建された蓮華王院(れんげおういん)の本堂で，内陣正面の柱間の数が33あることからこの名がある。1249年(建長1)市中の大火のため焼失，直ちに再建されて1266年(文永3)落慶，建物も仏像ももとどおりに復興し，中央に千手観音坐像，その両わきに千手観音立像1,001体を安置してある。ほかに風神・雷神像をはじめ，観音の眷属(けんぞく)である二十八部衆の木像があり，鎌倉彫刻の名品とされている。なお江戸時代諸国武士が弓技を競った三十三間堂通し矢は堂の背面の縁側で行なわれた。夕刻から翌日の夕刻にかけて65間(約120m)の距離を射るもので，15,000本中8,133本の記録がある。〔永井信一〕

さんじゅうさんげんどうむなぎのゆらい　【三十三間堂棟由来】　義太夫節(ぎだゆうぶし)の曲名。〈平太郎住家の段〉ともよばれ，今日ではこの段のみが上演される。宝暦年間(1751～1763)の作品を1825年(文政8)に改訂して発表したもので，今日の形はさらに明治以後になおされたものである。ヤナギの精が武士の平太郎の女房になるが，三十三間堂*の棟木(むなぎ)のために，そのヤナギを切ることになったため，夫と別れて死んでいき，子どもの緑丸の手ではじめてヤナギの大木が引かれるというものである。〈和歌の浦には名所がござる……〉で始まる木遣(きやり)音頭を使い，またそれを変形して，悲しみを表わすなど，明暗の対照がみごとである。〔徳丸吉彦〕



三十三間堂
桁行35間の蓮華王院本堂



三 重 点

さんじゅうし　【三銃士】　デュマ-ペール*の長編歴史小説。1844年の作。ルイ13世の時代，勇敢な青年剣士ダルタニアンが，近衛(このえ)の三銃士アトス・ポルトス・アラミスと組み，宰相リシュリューの奸計(かんけい)と戦う英雄物語。その男性的な波瀾(はらん)万丈のおもしろさで大衆的な人気をもつ。

さんじゅうそう　【三重奏】　3人の奏者のための室内楽の総称であるが，バロック時代のトリオ-ソナタは三つの声部を4人以上で奏するため，狭義の三重奏には含めないことがある。古典派以降の三重奏としては，ピアノ三重奏と弦楽三重奏が重要である。前者はピアノ・バイオリン・チェロの組み合わせで，弦楽四重奏よりも各奏者の個性的な演奏に依存し，それを許容する面が大きい。弦楽だけの三重奏は，バイオリン・ビオラ・チェロの組み合わせが多く使われている。なお，邦楽の三曲*合奏も広義には三重奏に含められる。〔徳丸吉彦〕

さんじゅうてん　【三重点】　物質の熱平衡状態は温度と圧力とを指定すれば定まるものであるが，この状態は必ずしも均一なものになっているとは限らず，いくつかの相*が共存している場合がある。どのような相が共存しているかは，与えられた条件のもとでエントロピー*が最大になる状態が実現するということから決まるわけで，二つの相が共存している場合は温度と圧力との値がある関数関係を満たすときであり，三つの相が共存するのは温度と圧力とが物質固有のある値になったときである。つまり，状態図*で3本の2相共存曲線が1点で交わったところが三重点であって，この点の温度・圧力では三つの相が共存している。たとえば，水の三重点は温度0.0075℃，圧力4mmHg(水銀柱ミリメートル)で，水・水蒸気・氷の三相が共存する。〔中野藤生〕

さんじゅうにねんテーゼ　【三十二年テーゼ】　1932年(昭和7)発表された日本共産党*の綱領的文書。〈三十一年テーゼ草案〉が農村における半封建制と天皇制*の独自の意義を軽視し，当面する革命の性格をプロレタリア革命*と規定した誤りを正し，また世界恐慌下の帝国主義戦争開始に反対し，日本革命の戦略的課題をコミンテルン(→インターナショナル)の指導下に明らかにした文書。主要な論点は，日本の支配体制は三つの構成要素(天皇制・地主的土地所有・独占資本)からなり，これらと対決し，天皇制の廃止，農業革命，8時間労働制の実施，財閥銀行の国有化などを当面の主要任務とし，したがって日本革命の性質を，〈社会主義革命への強行的転化の傾向をもつブルジョア民主主義革命〉と規定する点にあった。ここで，天皇制について，それが独占資本・寄生地主の上層部とかたく結合しながらも，単なる道具ではなく，それ独自の政策を進めている点，天皇制の独自の意義を明らかにした点，および天皇制と満州事変開始以来の戦争政策との結合を強調した点が特徴である。ところが，独占資本の評価とファシズム*の評価に若干欠けるところがあり，社会ファシズム論などの誤りも多少含まれていた。1936年ファシズム問題に

ついて〈日本の共産主義者への手紙〉が，人民戦線論と民主主義的権利の擁護を訴えるまで，実践運動はもちろん，社会科学・文芸理論・哲学など各分野に広範な影響を与えた。〔高木富士男〕

さんじゅうねんせんそう【三十年戦争】 1618～1648年，ドイツを舞台として行なわれた宗教戦争。アウグスブルクの宗教和議後も，ドイツでは宗教を理由とする紛争が絶えなかった。1618年，ボヘミア(ベーメン)王を兼ねたハプスブルク家のフェルディナント2世が新教徒抑圧策をとったため，ボヘミアの新教徒は反乱を起こし，新教徒のファルツ伯を王に迎えた。しかし反乱はスペインなど旧教徒の援助を受けた皇帝軍によって鎮圧された。カトリック勢力の拡大を恐れたデンマーク王クリスチャン4世は，1625年新教徒援助を理由に，イギリス・オランダの援助を受けて北ドイツに侵入したが，皇帝軍の名将ワレンシュタインに敗れ，野望は挫折(ざせつ)した。その後1630年，バルト海沿岸に野望をもつスウェーデン王グスタフ-アドルフがドイツの新教諸侯を援助するとの理由でドイツに侵入し，フランスの支持を受けて南ドイツにまで進撃してリュッツェンの戦い(1632)でワレンシュタインを破ったが，グスタフ-アドルフ自身も戦死した。そこでフランスは1635年以降公然と干渉に乗り出し，宰相リシュリューの策によって，カトリック国でありながら，ハプスブルク家をおさえる目的からプロテスタント諸侯を盛んに援助した。この戦争によってドイツは荒廃し，プロテスタント諸侯もフランスの干渉をきらったため，ようやく和平の気運が起こり，結局1648年，ウェストファリア条約が結ばれて戦争は終結した。〔松　俊夫〕

さんじゅうのとう【三重塔】 仏教建築の一。三層からなる層塔。日本最古のものは法起(ほっき)寺のもので，飛鳥(あすか)建築の遺構である。美しい塔として有名なのは奈良前期にできた薬師寺の東塔で，各階に裳階(もこし)(低いひさし屋根)をつけているので，六重塔のように見える。奈良後期にできたものは当麻(たいま)寺のもので，東西に2塔が並んでいる。塔身は側柱(かわばしら)と4天柱によってささえられ，中心には相輪をささえるための巨大な心柱が立っている。平安時代のものは浄瑠璃(じょうるり)寺・一乗寺のものが有名。鎌倉時代には興福寺・西明寺のほか，明通寺(福井県小浜市)・大法寺(長野県小県(ちいさがた)郡川西村)のものがあり，安楽寺のものは中国ふうの四重塔のように見える。室町時代のものは向上寺(広島県豊田郡瀬戸田町)・常楽寺(滋賀県甲賀郡石部町)のもので，いずれも国宝に指定されている。➜五重塔〔玉山成元〕

さんじゅうろっかせん【三十六歌仙】 藤原公任(きんとう)の《三十六人撰(せん)》(1010)に基づく36人の歌人。〈歌仙〉とは和歌にす



三重塔　薬師寺東塔　奈良時代前期　国宝

ぐれた者をいう。柿本人麿(かきのもとのひとまろ)・紀貫之(つらゆき)・凡河内躬恒(おおしこうちのみつね)・伊勢(いせ)・大伴家持(おおとものやかもち)・山部(やまべ)赤人・在原業平(ありわらのなりひら)・遍昭・素性・紀友則(とものり)・猿丸大夫(さるまるだゆう)・小野小町・藤原兼輔(かねすけ)・藤原朝忠(ともただ)・藤原敦忠(あつただ)・藤原高光・源公忠(きんただ)・壬生忠岑(みぶのただみね)・斎宮女御(にょうご)・大中臣頼基(おおなかとみのよりもと)・藤原敏行・源重之(しげゆき)・源宗行(むねゆき)・源信明(さねあきら)・藤原清正(きよただ)・源順(したごう)・藤原興風(おきかぜ)・清原元輔(もとすけ)・坂上是則(これのり)・藤原元真(もとざね)・小大君(こだいのきみ)・藤原仲文・大中臣能宣(よしのぶ)・壬生忠見・平兼盛・中務(なかのつかさ)。〔桑原博史〕

さんじゅうろっかせんえまき【三十六歌仙絵巻】 三十六歌仙の肖像を描いた絵巻。柿本人麿(かきのもとのひとまろ)以下の各歌人の画像に，その略歴と歌1首を添える。鎌倉期の制作。書は後京極良経(ごきょうごくよしつね)，絵は藤原信実(のぶざね)と伝えられている。描写はきわめて写実的であって，衣装の文様も精緻(せいち)につくられ，彩色も華麗である。もと2巻本として佐竹家に伝わったが，現在は各像ごとに諸家に分蔵されている。なお，佐竹本のほかに，上畳の上に座した姿で描かれた上畳本，白描による《釈教(しゃっきょう)三十六歌仙絵巻》などがある。〔村重　寧〕

サン-ジュスト［Louis Antoine Léon de Saint Just］(1767～1794) フランス革命期の政治家。ルソーの影響を受け，ジャコバン主義の思想を代表した。1792年9月，25歳で国民公会議員に選ばれ，公安委員会のメンバーに加わった。ロベスピエール派の闘士として恐怖政治を推進し，エベール派・ダントン派を告発してロベスピエールの権力確立に貢献した。1794年7月のテルミドールの反動で，ロベスピエールとともに処刑された。〔大野慎一郎〕

さんじゅつ【算術】 正の整数から発展して分数・小数の四則演算，および数量についての計算を中心とし，数量の関係特に応用問題の解決を取り扱う数学の分野。古くは中国に《九章算術》という書があるが，これは紀元前1,000年以上前に書かれたものといわれている。日本へは，554年(欽明(きんめい)15)に百済(くだら)を通って暦とともに中国のものが伝わってきた。1627年(寛永4)江戸時代の和算家吉田光由(よしだみつよし)が《塵劫記(じんこうき)》を著わし，算術は急に大衆化した。小学校の教科としての算術は，明治以来，1941(昭和16)に算数と改められるまで続いた。

〔応用問題〕 数量の関係を明らかにし，四則を応用して解く問題で，算術では重要なものとされていた。方程式を用いれば，結果は容易に求められる。いろいろの形に分けられているが，次に代表的な形の問題と解答を示す。

①植木算：学校の東側に長さ84mの土手があり，そこに7mおきにサクラを植えるには，サクラが何本いるか。

(解)　84(m)÷7(m)+1=13　　答13本

②追いつき算：Aが毎時4kmの速さで3時間まえに出発したのを，Bが毎時9kmの自転車で追いかけると何時間後にどこで追いつくか。

(解)　Bが出発するとき，Aは，4×3km先に行っている。この距離を毎時(9−4)kmずつせばめていくことになるから，12(km)÷5(km)=2.4(時)，すなわち2時間24分で追いつく。それは，出発点から9(km)×2.4=21.6(km)離れた地点である。

③過不足算：ミカンを子どもに分けるのに，3個ずつだと10個余り，5個ずつだと4個足りない。ミカンと子どもの数を求む。

(解)　分けてやる数を3個から5個へと2個ふやすのには(10+4)個必要であるから，子どもの数は(10+4)÷2=7(人)である。ミカンの数は3×7+10=31(個)である。

④仕事算：ある仕事をAは21日で完成し，Bは28日で完成するという。ふたりが共同でこの仕事をすれば，何日で完成するか。

(解)　Aは1日に仕事の$\frac{1}{21}$をし，Bは$\frac{1}{28}$をする。ふたり共同で1日にする仕事の量は，全体の$\frac{1}{21}+\frac{1}{28}=\frac{1}{12}$である。したがって，全体を完成するのに必要な日数は，$1\div\frac{1}{12}=12$(日)。

⑤旅人算：次の問題は出会い算の型で，上掲の追いつき算と合わせて旅人算という。45km離れた両地から，Aは毎時5kmの速さで，Bは毎時4kmの速さで同じ道を同時に向かい合って歩いていくと，何時間後にどこで出会うか。

(解)　ふたりは毎時(5+4)kmずつ近づく

から，45(km)÷9(km)＝5により，5時間後に出会う。その地点はAの出発点から，5(km)×5＝25(km)のところである。

⑥俵算：杉成算(すぎなりざん)・杉算・俵杉算ともいう。スギ丸太や俵を積み重ねて，全体で何本または何俵あるかを計算するものである。《塵劫記》に，底辺13俵で積み重ねていちばん上が1俵のときは，13×(13＋1)÷2＝91(俵)，また下底30俵，高さ8段の台形の形に積めば，上底は30＋1－8＝23(俵)であるから，(23＋30)×8÷2＝212(俵)となる，などの問題が絵入りで説明されている。

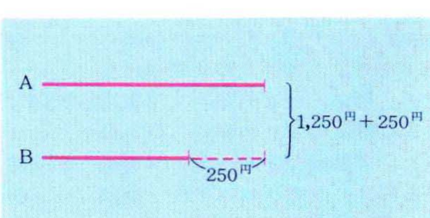
⑦鶴亀算(つるかめざん)：ツルとカメと合わせて頭数は13，足数は42である。おのおのの頭数を求めよ。
(解)　頭数13の全部がツルならば，その足数は13×2＝26。ところが実際の足数は42で，42－26＝16の差がある。この差はツルよりカメのほうが足が2本多いからで，カメの数は，16÷2＝8(匹)である。したがって，ツルの数は，13－8＝5(匹)。

⑧時計算：時計の長針と短針が7時と8時の間で重なる時刻を求めよ。
(解)　7時のとき短針は長針より35分の目盛りだけ先にいる。1分間に長針は1分，短針は$\frac{1}{12}$分の目盛りだけ進むから，1分間に長針は$1-\frac{1}{12}=\frac{11}{12}$(分)の目盛りだけ短針に近づく。したがって，$35\div\frac{11}{12}=38\frac{2}{11}$により求める時刻は7時$38\frac{2}{11}$分である。

⑨年齢算：ことし，父の年は41歳，子の年は5歳である。何年後に父の年は子の年の3倍になるか。
(解)　父子の年齢差は変わらない。この差が子の年齢の2倍になるときを求めればよい。すなわち，子の年齢は(41－5)÷2＝18，したがって，18－5＝13により13年後である。

⑩流水算：ある舟の静水における速さは毎時8kmである。いまある川を40分間下って，8km川下に達した。帰りは何時間かかるか。
(解)　下りの速さは毎時　$8\div\frac{2}{3}=12$(km)であるから，流れは毎時　12－8＝4(km)である。上りの速さは毎時8－4＝4(km)であるから，帰りは8÷4＝2(時間)かかる。

⑪和差算：A，Bふたりの所持金は合計1,250円で，AはBより250円多い。それぞれの所持金を求めよ。



(解)　A……(1250＋250)÷2＝750(円)
　　　B……(1250－250)÷2＝500(円)
〔青柳雅計〕


サンシュユ


サンショウ

さんじゅつきゅうすう　【算術級数】　⇒等差級数

さんじゅつへいきん　【算術平均】　何個かの数量の和を，その個数で割った商。相加平均，または単に平均ともいう。N個の数x_1，x_2，……，x_nの算術平均mは，次の式で表わされる。

$$m=\frac{1}{N}(x_1+x_2+\cdots\cdots+x_n)$$

統計的な資料が度数分布表で示されるように，x_1，x_2，……，x_nの度数がf_1，f_2，……，f_nのときには，次の式で表わされる。

$$m=\frac{1}{N}(f_1\cdot x_1+f_2\cdot x_2+\cdots\cdots+f_n\cdot x_n)$$

(ただし，$N=f_1+f_2+\cdots\cdots+f_n$)

実際の計算では，平均に近い値a(仮平均という)を決め，x_i-aの平均m_0を求めて$m=m_0+a$とする。また，$1/d(x_i-a)$の平均m_1を算出して，$m=m_1d+a$とする。

算術平均は，ならして1個あたりの量がどれだけかを表わすものであるが，特に統計では〈大数の法則〉などの便利な法則が知られ，重要視される。測定に平均値を用いるのも，その例である。　〔小西勇雄〕

さんしゅのしんき　【三種神器】　皇孫(すめみま)ニニギノミコトが，アマテラスオオミカミとタカミムスビノカミの命を受けて中国(なかつくに)を統治するため天下りするとき，アマテラスオオミカミから授かった八坂瓊勾玉(やさかにのまがたま)・八咫鏡(やたのかがみ)・天叢雲剣(あめのむらくものつるぎ)(→草薙剣(くさなぎのつるぎ))。三種神宝(みくさのかんだから)ともいう。鏡はアマテラスオオミカミが天岩戸(あめのいわと)に隠れたときに鋳られ，曲玉とともに出御を祈ってサカキに掛けられたもの，剣はスサノオノミコトが退治した八岐大蛇(やまたのおろち)の尾から現われたものと伝えられる。皇孫以来同床共殿で祭ってきたが，崇神(すじん)天皇のとき鏡と剣は大和(やまと)の笠縫邑(かさぬいむら)に移され，のちに鏡は伊勢(いせ)神宮，剣は熱田神宮の奉祀(ほうし)するところとなった。宮中には別の鏡・剣を御分霊として祭り，歴代の天皇はこれを奉持して相伝え，皇位の璽(しるし)とした。神器の継承により，歴代の天皇はすべてアマテラスオオミカミと一体化するのが神道信仰上の意味である。
〔永藤　武〕

さんしゅゆ　【山茱萸】　双子葉植物・ミズキ科。高さ5～10mの落葉高木。庭木に用いられる。枝・葉ともに対生し，枝は無毛であるが，葉の表には磁針形の毛がはえ，裏面の主脈と側脈の間にかっ色の軟毛がある。3～4月，黄色の花が葉に先だって前年の枝先に20～30個集まって咲く。果実は楕円(だえん)形で8～9月に赤熟し，中には大きな種子がある。花が黄色いところからコガネバナ，果実が赤熟することからアキサンゴともいわれる。種子を取り去った果実を乾燥したものは山茱萸といわれ，リンゴ酸・酒石酸などを含んですっぱく，漢方では滋養・強壮・収斂薬(しゅうれんやく)として用いられる。これを酒に浸したものは山茱萸酒といい，強精・強壮の効があるという。

さんじょ　【散所】　古代・中世における賤民の一種。本来は領主からその他の地子物を免除される代わりに，住民が領主に雑役などをつとめる地域およびその住民をさすことばであったが，住民には浮浪生活者が多く，隷属性が強かったためしだいに賤民視(せんみんし)され，室町時代には陰陽師(おんみょうじ)や遊芸人となる者も多かった。

さんしょう　【山椒】　双子葉植物・ミカン科。山野に自生する落葉低木で，高さ3～5m。枝は暗紫色で，枝や葉のつけ根にとげが1対ある。葉は互生する羽状複葉で，小葉は11～19個，小さな鋸歯(きょし)があり，鋸歯ごとに透明の細点がある。雌雄異株で，4～5月，ことし伸びた枝先に緑黄色の花を総状につけるが，イヌザンショウと違って花弁はない。果実は長円形で長さ5mm，秋にかっ色に熟し，黒色の丸い種子が1個ある。葉・花・果実は香辛料として用いられる。辛味は，精油のサンショオールによる。若葉は木の芽・葉ざんしょうなどといわれ，木の芽あえ・つくだ煮にされる。完熟した果実は干しざんしょうといわれ，吸い口やあしらいに，また粉にしたものは粉ざんしょうといわれ，あえ物やかば焼きなどに用いられる。また，乾燥した果実は薬用にされ，芳香性健胃腸剤・苦味チンキ原料などに用いられる。太い枝や幹ですりこ

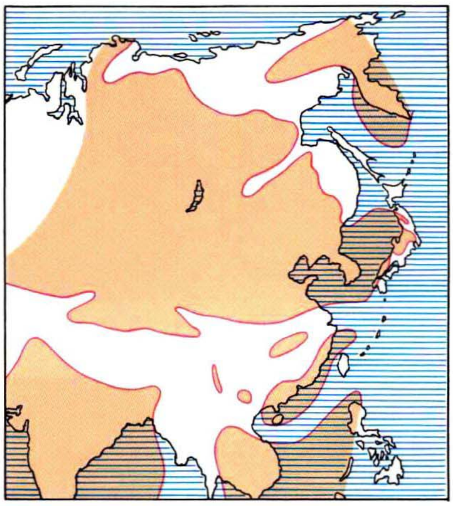
ぎをつくる。アサクラザンショウはとげのない品種で,薬用に栽培する。〔加藤僖重〕

さんじょう 【散調】 朝鮮音楽の一。俗楽に分類されるが，芸術性のきわめて高い器楽曲である。パンソリ(唱劇)の伴奏楽器であったプクのリズム型を基本にして18～19世紀にできたといわれる変奏曲ないし幻想曲的な長大な半即興曲である。チャンク(杖鼓)のリズム伴奏とソロ楽器による二重奏で，ソロ楽器はカヤグム(伽倻琴)・コムンガ(玄琴)・テーグム(大笒)など。通常，５部分からなり，テンポがおそいものから極端に速いものへと移行する。〔山口　修〕

さんじょう 【三条(市)】 新潟県中部の市。古くから信濃(しなの)川の河港として栄え，戦国時代には三条長尾氏の居城があった。江戸時代は村上藩の領地であったが，城下から遠く離れているために町人の活躍が盛んであった。江戸中期から三条金物とよばれる金物製造が興って，はじめは農具，のち大工道具をつくっていたが，遠く関東・信州・東北地方まで行商して三条商人の名を広めた。1934年(昭和９)市制施行，人口85,000。市域の中心部は信濃川と支流の五十嵐(いがらし)川・中之口川の合流点にあるが，第２次世界大戦後周辺農村部を編入して，五十嵐川扇状地全域が市域となった。産業三大別人口比は９：43：48。刃物・大工道具・ミシン部品などの生産が多く，約2,000の中小工場が密集しており，また繊維工場も多い。信越本線・弥彦(やひこ)線の分岐点で，国道８号線が通ずる。周辺農村部では良質の越後米(えちごまい)を産する。南東部の保内には日蓮宗(にちれんしゅう)本成寺派(ほんじょうじは)の総本山本成寺があり，また盆栽・庭木・花卉(かき)類の栽培が盛んで，特産の五葉松が名高い。

さんしょううお 【山椒魚】 両生類・サンショウウオ科の総称。体は一般に細長く，尾は変態後も消失しないのでイモリとともに有尾類とよばれ，原則として発達した四肢(しし)をもつ。先祖は中生代に栄えたブランキオザウルスやミクロザウルスといわれるが，古生代の両生類との系統関係はよくわかっていない。現生のサンショウウオは世界に200種ほどが知られ,日本には15種が分布する。山地の森林に生息する種が多く，昼間は石や倒木の下などに潜み，夜間出てミミズなどの小動物や魚の卵などの動かないえさを捕食する。繁殖期には水中に集まって産卵する。産卵は体外受精で，雄は雌の排出腔(はいしゅつこう)から出される卵塊に,だきつくようにして受精を行なう。卵塊はバナナ状や太いひも状で，清流の石の下などに１対ずつ付着する。成体の皮膚はなめらかで，肺呼吸のほかに皮膚によるガス交換をも行なうが，一部のものは肺を欠く。〔松井孝爾〕

さんしょううおせんそう 【山椒魚戦争】 チェコスロバキアの作家チャペックの長編



三 畳 紀

小説。《人民新聞》連載後，1936年に出版された。理性のあるサンショウウオをテーマに，資本主義の仕組み，ファシズムの危険，人類の滅亡を幻想的なSFの方法を借りて鋭く指摘した。

さんじょうおおはし 【三条大橋】 京都市街中央部を東西に貫く三条通の東寄り，鴨川(かもがわ)にかかる橋。京阪(けいはん)電鉄のターミナル京阪三条駅に近い。室町時代からすでにあったが，1589年(天正17)豊臣秀吉(とよとみひでよし)の命によってわが国最初の石柱橋としてかけ替えられ，江戸時代には東海道の終点となった。高山彦九郎(ひこくろう)が橋上に伏して御所を拝した話は名高く，その銅像が橋の南東のたもとにある。現在の橋は1912年(大正１)に改築したもので，一部に天正のときの擬宝珠(ぎぼし)を用いている。〔浅井得一〕

さんじょうがたけ 【山上ケ岳】 紀伊(きい)山地の中央にほぼ南北に連なる大峰連山の最北に位置する山。標高1,720ｍ。古生層からなり，巨岩や絶壁のある険しい山容をもち，７世紀ごろ役小角(えんのおづぬ)によって開かれたといわれる修験道の根本道場がある。いまでも全国でただ一つの女人禁制の山としても知られ,山頂には蔵王(ざおう)権現が祭られている。吉野熊野(よしのくまの)国立公園に属する。

さんじょうき 【三畳紀】 地質時代のうちの中生代を３分した第１番めの時代。トリアス紀ともいう。古生代の二畳紀のあと，ジュラ紀のまえ。約２億3,000万年前から約１億9,000万年前までの約4,000万年の期間を代表する。オーストリアからイタリア北部にかけてのアルプス相の海成層が三畳紀の時代区分の世界的基準となる。アンモナイト，特にセラタイト亜目が著しく発展し，頭足類のベレムナイト類(→箭石(やいし)類)も中ごろから栄えはじめた。二枚貝では，翼形類のクラライア・ダオネラ・ハロビアやモノチスが全世界的に繁栄した。三角貝は本紀中ごろからみられる。サンゴ類では古生代の四射サンゴ類・床板サンゴ類に代わって六射サンゴ類が出現した。両生類の堅頭類が石炭紀・二畳紀から引き続いて栄え，爬虫(はちゅう)類はすでに種々の方向に分化しはじめ,末期には原始哺乳(ほにゅう)類(有袋類)も出現した。陸上植物ではソテツ類・ベンネチテス類・イチョウ類・松柏(しょうはく)類などの裸子植物が大発展し，シダ植物も繁茂した。

気候は全般的に温暖で，大陸の内陸部はときどき乾燥気候に見舞われ，後期の東アジアは高温湿潤気候下にあった。海進は前期・後期に比較的著しい。テチス海に石灰岩に富むアルプス相の海成層が，環太平洋地域に砕屑(さいせつ)岩類に富む海成層が堆積(たいせき)した。大陸内部に陸成層が広く発達し，ヨーロッパ中部・西部に分布するもの(ドイツ相三畳系・新赤砂岩層)が代表的である。アジア大陸東縁部に激しい地殻(ちかく)変動があり，著例はインドシナ変動や日本における広義の秋吉(あきよし)造山または本州造山である。太平洋東側地域にも著しい変動が起こった。これらの変動の多くは二畳紀中に始まったものである。火山活動は地向斜内で行なわれたが，シベリア・北アメリカ・アフリカなどで塩基性火山岩の著しい噴出があった。〔田中啓策〕

さんしょうくい 【山椒喰】 ①鳥類・サンショウクイ科の総称およびそのうちの一種。オーストラリア・南太平洋諸島・東南アジアからアフリカ・マダガスカルの熱帯を中心に70余種が分布し，一般に留鳥で森林の樹上性のこん虫食の鳥。大きいものはハト大であるが，大部分はもっと小さく，スズメ大までがある。体形はほっそりし，尾は長めである。このうちの一種であるサンショウクイはこの類のうちでいちばん北方に分布し，夏鳥として本州・四国・九州の平地や低山帯の森林で繁殖する。樹上性でこん虫類を主食とし，巣材も幹に止まったまま樹皮をはがして集めたりする。スズメ大で，尾は長めであり，下面は白色，上面は灰色。冬季も少数は九州南部にとどまる。和名はサンショウの実を食べて，舌がひりひりするといっているように聞き取れる〈ヒリヒリ，ヒリヒリ〉という鈴のような美しい鳴きによる。〔安部直哉〕

さんじょうさねつむ 【三条実万】 (1802～1859) 幕末の公卿(くぎょう)。実美(さねとみ)の父。才学のある公卿として知られ，権大納言・議奏を経て武家伝奏に任ぜられ，ペリー来航で多事を加えるようになった朝廷と幕府との関係の処理にあたった。1857年(安政４)内大臣となり翌年辞職したが，孝明天皇の信任あつく特に朝議に参与した。そのころ幕府は対外条約・将軍継嗣問題につき勅許を得るため朝廷工作を進めたのに対し，条約反対と一橋(徳川)慶喜(よしのぶ)擁立を唱え，薩摩(さつま)・土佐・越前(えちぜん)藩主らと気脈を通じて幕府を窮地に立たせた。

さらに水戸(みと)藩への内勅降下，佐幕派の関白九条尚忠(ひさただ)の排斥に活躍したため，安政の大獄で幕府の圧迫を受けて隠居。1859年出家し，同年知行地の洛北(らくほく)一乗寺村で病死した。〔高崎徳次〕

さんじょうさねとみ【三条実美】(1837～1891) 幕末・明治の公卿(くぎょう)政治家。内大臣実万(さねつむ)の子。安政の大獄で失脚した実万の病没後，その遺業を継いで朝権回復・尊王攘夷(じょうい)に活躍し，過激派少壮公卿の指導者となった。1862年(文久2)姉小路公知(あねがこうじきんとも)とともに勅使として東下し，幕府に攘夷決行・親兵設置を伝えた。次いで国事御用掛を命ぜられ，宮廷の上層にあって尊王攘夷運動の高揚を図った。翌1863年長州藩と提携して，攘夷親征の計画を進めたが，文久3年8月18日の政変で失脚，七卿落ちのひとりとして長州にのがれた。第1次長州征伐で長州藩が恭順したのちは大宰府(だざいふ)に移され，王政復古の実現の機をうかがった。その後，薩長同盟，第2次長州征伐の失敗など幕府の威信が失墜するに乗じ，岩倉具視(ともみ)と気脈を通じつつ，一挙に討幕計画を推進した。1867年(慶応3)王政復古とともに帰京。議定・副総裁・輔相・右大臣を経て，1871年(明治4)太政(だじょう)大臣に達した。1873年征韓論(せいかんろん)が議せられた際には，太政官首班の地位にあって，征韓派・内治派間の調停に努めたが成功せず，苦境に立った。以後も太政大臣として政府首班の地位を維持していたが，政治の実権はしだいに藩閥政治家の占めるところとなった。1884年公爵，1885年太政大臣が廃せられたため内大臣として宮中に仕えた。その政治的生涯(しょうがい)のうち最も精彩を放ったのは，幕末動乱の渦中(かちゅう)にあって王政復古を推進した時期といえよう。〔高崎徳次〕


三条実美

さんしょうだゆう【山荘太夫】 丹後(京都府)由良の長者の名に由来する伝説。元来は長者の没落伝説で，説教節として広く流布した。安寿・厨子王(ずしおう)の姉弟は母とともに父の流刑地に旅する途中，人買いにだまされ，母は佐渡に姉弟は山荘太夫の僕婢(ぼくひ)に売り渡される。姉は弟を逃がして自殺するが，京に上った弟は立身して山荘太夫を討ち，佐渡に渡って盲目の母を救うという筋。〈さんしょう〉は三荘・山椒などの字をあてているが，芸能人化した散所に由来し，散所が長者の話を語り伝えているうちに，物語の主人公の名称になったものと考えられる。〔宮本袈裟雄〕

さんしょうだゆう【山椒太夫】 森鷗外(おうがい)の短編小説で，1915年(大正4)《中央公論》に発表。説教節正本《さんせう大夫》などをもとに，山荘(さんしょう)太夫伝説に合理的な解釈を加えたその歴史小説の代表作の一つ。伝説をふまえて，姉安寿が弟厨子王(ずしおう)のために犠牲となる決意と行動に重点を置き，献身的な愛に生きる女性像の典型化に成功した。

さんしょうていからく【三笑亭可楽】 落語家。江戸落語の名門で，8世まであり，現在中絶。

1 初世(1777～1833) はじめ櫛(くし)職人。のち山生亭花楽と号して落語を志し，諸国を放浪して江戸へ帰り，三笑亭可楽と改名。寄席(よせ)興行の初期の中心人物となり，三題噺(さんだいばなし)を創始した。小噺集《種がしま》を編集。門下から多くの名人を出して事実上寄席落語の祖となった。

2 7世(1886～1944) 2世談洲楼燕枝(だんしゅうろうえんし)の門下。じみな芸風ながら，江戸前の渋い調子が識者の熱心な支持を受け，昭和初期の代表的名手のひとり。《猫久(ねこきゅう)》《笠碁(かさご)》などを得意とした。〔長尾一雄〕

さんじょうてんのう【三条天皇】(976～1017) 冷泉(れいぜい)天皇の第2皇子。諱(いみな)は居貞(いやさだ)，母は藤原超子。在位1011～1016年。一条天皇の譲を得て即位したが，藤原道長は外孫後一条天皇を立てるため，1016年(長和5)眼疾を理由に退位を迫り，ついに譲位。〈心にもあらで憂世(うきよ)にながらへば　恋しかるべき夜半(よわ)の月かな〉はこのときの作。陵墓は京都の北山陵。

さんじょうにしさねたか【三条西実隆】(1455～1537) 室町後期の公卿(くぎょう)・歌人。公保(きんやす)の二男。内大臣正二位。出家して堯空(ぎょうくう)と号した。歌人として宗祇(そうぎ)から古今伝授を受けたほか，古典の研究や有職(ゆうそく)故実の学にも業績が多く，著書に《聴雪集》《装束抄》《源氏物語細流抄》などがある。日記は《実隆公記》とよばれ，室町時代の重要な史料である。

さんじょうのきょうけん【三条教憲】 三条教則・教則三か条ともいう。明治政府は，維新当初の神道(しんとう)国教政策が仏教僧侶(そうりょ)の抵抗を受けると，神祇(じんぎ)省を廃して教部省を置き，神官・僧侶を教導職に任じたが，教導職の国民教化の準則として定め，これと矛盾する説教を禁じたのがこれである。

第1条　敬神愛国ノ旨ヲ体スベキ事。
第2条　天理人道ヲ明ニスベキ事。
第3条　皇上ヲ奉戴(ほうたい)シ朝旨ヲ遵守セシムベキ事。〔中西正幸〕

さんじょうのすいくん【山上の垂訓】 イエス-キリストが山上で行なった説教。《新約聖書 マタイの福音書》5章～7章に記されている。類似の内容は《新約聖書 ルカの福音書》6章にも出ている。神の国にはいるために人間が備えねばならない諸条件を逆説と比喩(ひゆ)を用いて述べている。〈愛〉と〈悔い改め〉が根本にあるモチーフで，旧約的律法の要求する外面的・形式的精神と新約的福音の要求する内面的・人格的精神のあざやかな対照がみられる。そのきびしい倫理的要請のゆえに，いわゆる〈中間倫理〉として提出されたのだと解釈する人人もいる。しかし，イエスがこれを神を信ずる者の〈日常倫理〉すなわち当然行なわねばならぬものと考えていたことは，《新約聖書 マタイの福音書》7章24節以降から明らかである。〔石井忠厚〕

さんしょうも【山椒藻】 シダ植物・サンショウモ科。水田・池沼に分布する浮遊性の一年生植物。水面全体をおおうほどふえることがある。サンショウの葉に似た2枚の浮葉と根状の水中葉1枚が輪生する。秋に，大胞子がそれぞれ1個ずつはいっている数個の大胞子嚢(のう)よりなる大胞子嚢果1個と，多数の小胞子がはいっている多数の小胞子嚢よりなる小胞子嚢果数個が水中葉の茎部につく。

さんしょうりくぶ【三省六部】 中国，唐代の中央政府機構を表わす語。中書省は皇帝の旨を受けて詔書の起草を行ない，門下省はそれを審議して疑義があれば差しもどし，問題がなければ皇帝に実施を請い，認証を経て尚書省において執行する。尚書省は都省の下吏部(官僚人事)，戸部(戸籍・財政)，礼部(礼儀・祭祀(さいし))，兵部(軍事)，刑部(司法)，工部(土木・工作)があって政務の執行を分担する。一般に，門下省の職務は帝権に対する貴族勢力の干渉とみられているが，実際は同中書門下平章事などの有資格者が政事堂で合議して決め，中書省・門下省を経由するのは形式的なものになっていった。〔大庭　脩〕

さんしょく【三職】 ⇨議定

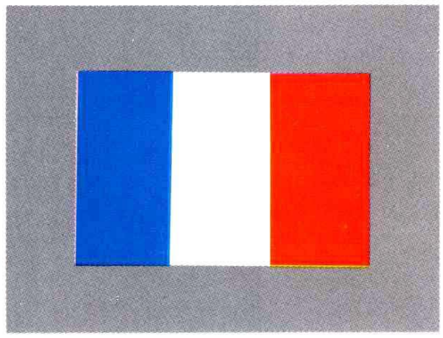
さんじょく【産褥】 分娩(ぶんべん)が終わってから，母体が妊娠前の状態にもどるまでの期間。通常6～8週間にわたる。妊娠中には，子宮・膣(ちつ)などの性器をはじめ，全身の臓器が妊娠の影響を受けているが，これらの変化はふつう産褥期間中に，急速に妊娠前の状態にもどる。妊娠によって大きくなった子宮は分娩後しだいに縮小し，だいたい分娩4週後には妊娠前の大きさにもどる。また膣および外陰の変化も，そのころにはもとにもどる。しかし腹壁は分娩後は弛緩(しかん)し，回復しても妊娠前のように緊張しない。月経は授乳している場合では1年ぐらいみないものがまれにあるが，ふつうは半年以内に再開する。授乳しない婦人では月経の再開が一般に早い。一般に分娩直後は後陣痛による下腹部の痛み，疲

労による発汗あるいは微熱が認められる。分娩後は主として子宮内面の胎盤剥離面(はくりめん)よりの血液に，創傷分泌物が混じった悪露(おろ)が排出される。悪露は分娩直後には多いが，しだいに減少し，産褥4週ごろにはほとんどなくなる。乳腺(にゅうせん)はすでに妊娠末期には十分発育しており，産褥4日ごろから乳房は緊満して，乳汁が分泌される。はじめは水様透明な初乳が分泌されるが，しだいに性質を変じて白色不透明の成乳となる。むかしは産後21日間は寝たままでいたが，かえって母体の回復にはよくないことがわかり，現在では正常産の場合は早期離床が一般に行なわれている。産褥期の異常としては，異常子宮出血・産褥熱・乳腺炎・膀胱炎(ぼうこうえん)・腎盂炎(じんうえん)などがある。➔分娩　〔木川源則〕

さんしょくき【三色旗】 旗面が縦または横に3段に分かれた旗。必ずしも3色が用いられていなくともよく，たとえばオーストリア国旗の赤，白，赤の旗も三色旗といい，さらに広義には中華民国の青天白日旗のように三つの部分が等分でない場合，すなわち，3色でできている旗一般をさす場合もある。著名なのは青，白，赤の縦3色のフランスの国旗である。この国旗は自由・平等・博愛を表わすトリコロールとして知られる。1794年に制定され，1814〜1830年の王政復古期に一時使用を中断されたが，七月革命以後国旗として復活した。旧フランス領の国々には三色旗を国旗とする国々が多く，特にアフリカ諸国の中には，赤・黄・緑の3色によって連帯を表わす例が多い。19世紀に独立を達成した中南米諸国の国旗も三色旗が大部分である。もとは，オランダの三色旗といわれ，市民革命の象徴とされている。➔国旗　〔吹浦忠正〕

さんじょくねつ【産褥熱】 分娩(ぶんべん)によって生じた性器の創傷面からの細菌感染により起こる産褥時の発熱性疾患。第2次世界大戦までは分娩死亡の1位を占めていたが，戦後は抗生物質の発見により激減し，出血・妊娠中毒症に次いで3位となった。産褥期の母体は全身的には抵抗力が弱く，性器には分娩により種々の創傷が生じており，かつ膣(ちつ)や子宮腔(しきゅうこう)内には血塊・胎盤の一部などが残留しているため，細菌に感染しやすい。したがって分娩経過中，不完全な消毒のもとに内診や助産行為がなされて病原菌の感染が起こると，産褥熱が発生する。感染菌の種類，感染部位，広がりなどにより，産褥熱の病状はまちまちである。　〔木川源則〕

さんしん【三線】 琉球(りゅうきゅう)音楽の中心的な楽器。〈さんしーの〉〈蛇皮線(じゃびせん)〉ともいう。中国の三弦が15世紀中ごろに伝えられたものといわれ，16世紀初頭に赤犬子(あかいんこ)によって改良され，盛んに用いられた。三味線(しゃみせん)より全体に小形で，角製のつめを指にはめて奏する。なお，三



三色旗　フランスの国旗。1789年7月14日のバスチーユ襲撃の翌日，国民軍司令官となったラファイエットが，市民と王の協力を象徴する青・白・赤の帽章を定めたことに由来する。青と赤はパリ市の色，白はブルボン家の色である。3色で自由・平等・博愛を表わすとされているが，視覚上の効果を重んじて青を少なく30：33：37の比率で用いられることがある



三　線　武蔵野音楽大学楽器博物館蔵

味線は永禄年間(1558〜1569)に沖縄から伝えられた三線を改良したものという。

さんじん【三身】 法身・報身・応身の3種の仏の身。仏教ではブッダが入滅したのちにブッダへの信仰から，ブッダに対する種々な見方がなされるに至り，三身説が生まれた。宇宙の真理そのものを仏の身と考えてこれを法身という。衆生救済のためにこの世に現われた仏を応身もしくは化身という。80歳で入滅した歴史上のブッダは応身にあたる。報身は過去の修行の報いとして仏になった仏をいう。

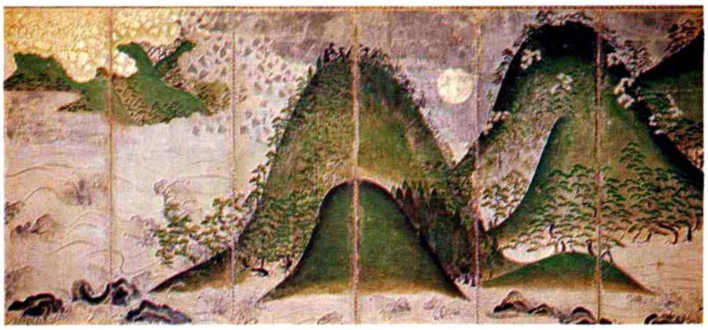
さんしんせい【参審制】 民衆の裁判参加の一形式で，一般市民(参審員)が職業裁判官とともに裁判をする制度。西ドイツの参審裁判所がこの例で，職業裁判官1人に参審員2人で行なわれる。陪審制による裁判と異なり，事実認定に対する控訴も許される。職業裁判官だけによる裁判がとかく官僚的で社会の実情にうといという批判があるが，参審制ではこの弊害を取り除く効果が指摘されている。

さんしんせいど【三審制度】 裁判を一回限りで終結させず，上訴させて異なる三つの段階の裁判所によって同一事件を重ねて審理させる制度。第一審・第二審・第三審の3段階に分けられる。わが国の裁判制度では，第一審と第二審が事件の事実関係を調べるたてまえとされ，第三審はもっぱら法律問題を審理することとされている。しかし，刑事事件では例外的に事実問題を取り調べることがある。第一審は地方裁判所・家庭裁判所または簡易裁判所，第二審は高等裁判所または地方裁判所，第三審は最高裁判所または高等裁判所で行なわれる。特殊の事件では，例外がある。〔内田剛弘〕

さんしんぽう【三新法】 地方行政・地方財政の強化・確立を目的とした明治政府による最初の統一的地方制度で，郡区町村編成法・府県会規則・地方税規則の総称。1878年(明治11)の第2回地方官会議・元老院会議の審査を経て施行された。郡区町村編成法は，従来の町村を無視した大区・小区制を廃止し，町村の自治性をある程度認めるとともに，郡長に強い権限を与えて町村戸長に対する官僚的統制を強化した。府県会規則は，府県会の権能を地方税による予算と徴収方法の議定と決済報告を受けることに限定したもので，議員の選挙権・被選挙権をそれぞれ地租税5円以上を納める満20歳以上の男子，地租税10円以上納める満25歳以上の男子とした。地方税規則は，地方行政に対する国庫負担を減少して地方財政を確立することを目的とした。1888年の市制・町村制，1890年の府県制・郡制の制定により廃止された。　〔原田政洸〕

さんすいが【山水画】 花鳥画・人物画とともに東洋画の三大分野の一つで，自然の景観を描く。形式上の概念ではないために意味する範囲は広く，花鳥画・人物画で同時に山水画である場合もある。主題は季感や景勝と密接なつながりがあり，素材としては人物・屋台・風俗などが包含される。水墨画に適し，その歴史は水墨画の歴史ともいえる。中国では神仙図(しんせんず)とともに最も古くからある分野であるが，六朝(りくちょう)ごろからしだいに独立し，唐の王維・李思訓(りしくん)・呉道玄らが描法を一変して宋(そう)以降のそれに見られるような基礎をつくり，南宗画・北宗画の区別も生じるようになった。南宗画は，士夫文人の好みに合ったところから文人画の概念が発生した。北宋時代には自然の大観を把握(はあく)する総合的な山水画が生まれ，画論上の位置も高く，全盛期を現出した。南宋時代には画院に北宗画的な筆法が盛んで，自然の截辺(せっぺん)をとって余白を重んずる小画面に傑作を生んだ。元末の四大家(呉鎮(ごちん)・王蒙(おうもう)・倪瓚(げいさん)・黄公望)，明(みん)末・清(しん)初の四王呉惲(ごうん)などは南宗画ふうであるが，いずれも山水画を第一とした。わが国においてはつねに中国の山水画の影響下に，各時代にわたって日本的な山水が描かれたが，純粋に山水画と考えられるものは平安時代から残る。大和絵(やまとえ)・漢画の別は問わず山水表現はあるが，鎌倉時代以降，宋元画の水墨を主とする山水画が輸入されるにつれて，漢画の画題として最も盛行し，周文以後の漢画家・漢画派

山水画



①



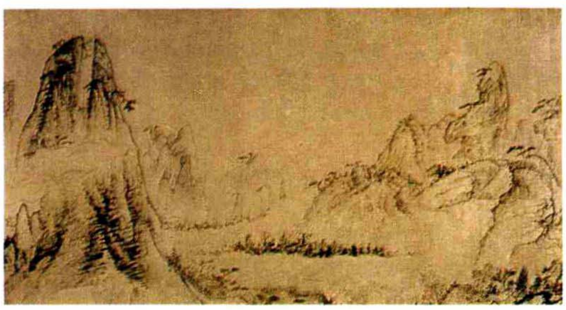
②



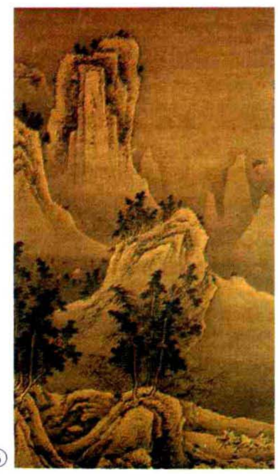
④



⑤



③



⑥

①大和絵画ふうの山水図として知られる《日月山水図屛風》 金剛寺蔵
②狩野元信 《山水図》 金地院蔵
③石濤 《黄山図巻》 清代
④戴進 《四季山水図》のうち〈冬景〉 明代
⑤浦上玉堂 《煙霞帖》のうち〈青山紅林図〉 梅沢記念館蔵
⑥《夏景山水図》 宋代 久遠寺蔵

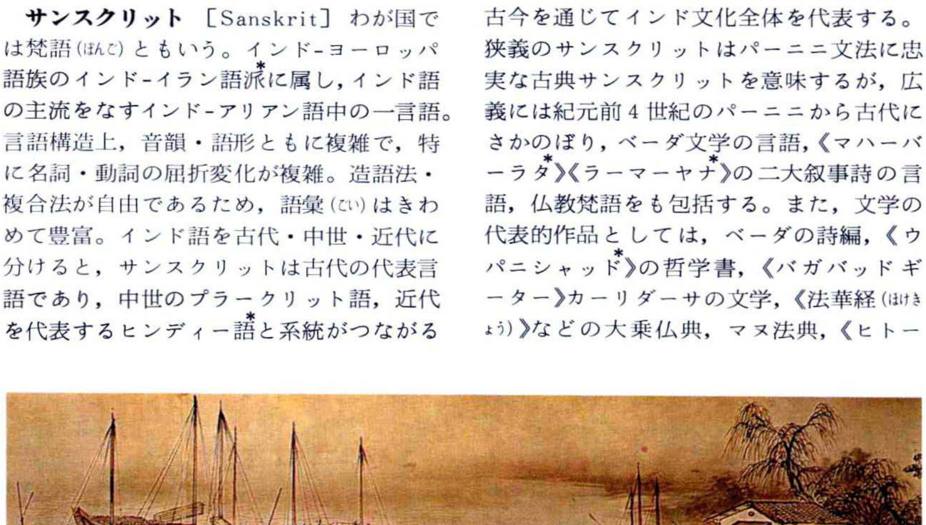
は山水画に本領がある。狩野(かのう)派*以降はしだいに花鳥画・人物画に重点が移ったが，室町・桃山・江戸時代を通じてあらゆる画派がこれを描き，また南画家たちは明・清の南宗画を学び，山水画の世界に新しい画域を開くなど，この伝統は明治時代にまで続いた。➔水墨画　〔中島純司〕

さんすいそえん　【酸水素炎】 吹管を使って酸素と水素をいっしょに燃やして得られる炎。温度は約3,000℃に達する。鉛の溶接や水中切断に利用されるが，酸素アセチレン炎*のような白心がなく，青白い外炎に囲まれた短い輝いた心よりなるため，肉眼による炎の調節がむずかしい。

さんすいちょうかん　【山水長巻】 雪舟筆の《四季山水図》。紙本墨画淡彩，一巻。縦39.7cm，横(長さ)586cm。国宝。巻末の落款から1486年(文明18)雪舟67歳の作であることが知られる。雪舟が明(みん)に入ってのち約20年を経て発表された山水画の大作で，筆法的には南宋(なんそう)の夏珪*(かけい)にならったものであろう。しかし，南宗画*にはないきびしい筆意と緊迫した構成感に満ち，室町時代の漢画の最高傑作に数えられる。なお，ほかに伝承作品や模本類が多い。

さんすうきょういく　【算数教育】 ⇨数学教育

サンスクリット　［Sanskrit］ わが国では梵語(ぼんご)ともいう。インド-ヨーロッパ語族のインド-イラン語派*に属し，インド語の主流をなすインド-アリアン語中の一言語。言語構造上，音韻・語形ともに複雑で，特に名詞・動詞の屈折変化が複雑。造語法・複合法が自由であるため，語彙(ごい)はきわめて豊富。インド語を古代・中世・近代に分けると，サンスクリットは古代の代表言語であり，中世のプラークリット語，近代を代表するヒンディー語*と系統がつながるが，古典語として豊富な文献を有する点で古今を通じてインド文化全体を代表する。狭義のサンスクリットはパーニニ文法に忠実な古典サンスクリットを意味するが，広義には紀元前4世紀のパーニニから古代にさかのぼり，ベーダ文学の言語，《マハーバーラタ*》《ラーマーヤナ*》の二大叙事詩の言語，仏教梵語をも包括する。また，文学の代表的作品としては，ベーダの詩編，《ウパニシャッド*》の哲学書，《バガバッドギーター》カーリダーサの文学，《法華経(ほけきょう)》などの大乗仏典，マヌ法典，《ヒトー



山水長巻《四季山水図》(部分)　雪舟　室町時代　防府毛利奉公会蔵

パデーシャ》などの寓話(ぐうわ)文学があるが，いずれも東洋思想の一大源泉となっている。さらに仏教の伝播(でんぱ)とともにサンスクリット語の経論が大量に翻訳され，その大部分が現存して，東洋文化史上の偉観をなしている。たとえば，漢訳大蔵経，チベット訳大蔵経がある(いずれもわが国で近年，復刻出版されている)。西洋ではバスコ-ダ-ガマのインド航路発見以来，インドへの関心が高まり，特に18世紀後半からサンスクリットの研究を中心とする古代インド文化への研究が比較言語学の成立をはじめ，宗教学・哲学・文学・史学・考古学・美術史などの分野にわたって著しい成果をあげた。さらに，このような西洋のインド研究が，インド人に自国文化の栄光を自覚させ，インド独立実現への影響を与えたことも重視すべきである。独立インドの憲法は，サンスクリットを公用語に指定している。〔村田忠兵衛〕

サン-スーシきゅう【サン-スーシ宮】東ドイツのポツダムにある離宮。サン-スーシ(無憂)の名は，これを建てたプロイセン王フリードリヒ2世*(大王)の命名になる。1745年大王のプランをもとにクノベルスドルフの設計で着工され，1749年完成。二つの宮殿と付随する小建築群，広大な庭園からなり，全体にフランス-ロココ様式の影響が顕著ではあるが，ドイツ-ロココの代表的な作例とされている。

サン-ステファノじょうやく【サン-ステファノ条約】ロシア-トルコ戦争(1877～1878)の結果，1878年3月3日，コンスタンチノープル近郊のサン-ステファノで調印された講和条約。これにより，トルコ帝国からモンテネグロ・セルビア・ルーマニアが独立，ブルガリア国民には大公選挙権が与えられ，ブルガリアの将来の政治組織を監督するため，ロシアが2年間軍隊を駐留させることになった。またボスニア・ヘルツェゴビナに自治権を与え，ギリシア人地域でギリシア人とトルコ人との同権を守ることなどが取り決められた。〔山県弘志〕

サンストーン［sun stone］日長石ともいう。シャチョウ石の一変種。セキテッ鉱またはハリテッ鉱の微結晶が裂開面または劈開(へきかい)面に沿って平行に並んでいるため赤色を呈し，ある方向から見ると反射光により日光のように輝く。ノルウェー・インドなどに産し，宝石として用いられる。

さんずのかわ【三途の川】死後，冥土(めいど)に行く途中で初七日に渡る川。三つ瀬川・わたり川・葬頭河ともいう。河畔に大樹があり，脱衣婆(だつえば)がいて亡者の着衣をはぎとり，それを懸衣翁(けんえおう)が大樹にかけ，枝のたれ方を見て生前の罪の軽重をはかり，緩急三つの瀬に分けて渡らせるといわれる。平安末期にわが国で選述されたといわれる偽経《地蔵菩薩発心因縁十王経(じぞうぼさつほっしんいんねんじゅうおうきょう)》に述べられている。〔藤井正雄〕



サン-スーシ宮　側面

さんぜ【三世】仏教用語で，時間を過去・現在・未来に3分したもので，過去世(前世)・現在世(現世)・未来世(来世)をいう。三世には2種の解釈がある。一つは人間の現実の生涯(しょうがい)を現世，出生以前の生存を前世，死後の生存を来世と考えるもの。他の一つは現実の一瞬間を現在とし，その前後のごく短い瞬間をそれぞれ過去・未来の二つの世と考えるものである。仏教では，一般に時間は仮に設立されたものとして実在視しないが，なかには三世を実在視し，そこに因果応報の教えを説くものもある。〔大南龍昇〕

さんせい(省)【山西】シャンシー省　中国，華北西部内陸の省。面積15万7,100km²。人口1,900万(1972年推)。省都は太原で，3省轄市(太原・大同・陽泉)，5専区，4市，96県を統括する。太行山脈・呂梁(ろりょう)山脈とその中に点在する諸盆地からなり，北部ではアワ・莜麦(ゆうばく)・春小麦・コウリャン(高粱)・ジャガイモが，南部では冬小麦・アワ・トウモロコシ・コウリャン・ワタなどが生産される。鉱産物に恵まれ，石炭(大同・陽泉・長治)・鉄(陽泉・蔭城(いんじょう)・青城)・塩(塩池)が著名である。近代工業も比較的発達し，鉄鋼・機械・セメント・化学などのほか，製粉・紡績・製紙などの工業が盛んである。鉄道は南北を貫く同蒲(どうほ)鉄道があり，太原で石太鉄道に連絡して京広鉄道に通じ，北方の大同では京包鉄道に連絡して北京(ペキン)・内モンゴル方面に通ずる。自動車道路は太原・大同・長治・運城を中心に発達しているが，河川交通は急流のためふるわない。明(みん)代から塩・絹の取引でならした山西商人の出身地として知られている。〔船越昭生〕

さんせいえん【酸性塩】水素塩ともいう。正塩*・塩基性塩*に対する語で，化学式の上で水素イオンを含む塩であるが，水にとけたときに酸性を示すとは限らない。酸を部分的に中和して得られる。多塩基酸に由来するものは以前は重○酸塩とよばれた。炭酸水素ナトリウム $NaHCO_3$(酸性炭酸ナトリウム)を重炭酸ナトリウムといったのはその例である。なお，フッ化水素酸のように一塩基酸であっても会合してできるフッ化水素カリウム KHF_2 のようなものも酸性塩とよばれる。〔三輪誠・玉野治〕

さんせいがん【酸性岩】火成岩の中で二酸化ケイ素 SiO_2 の含有率が66％以上のものをいう。酸性岩では一般に他の火成岩に比べてアルカリに富み，カルシウム・マグネシウム・鉄などに乏しい。したがって，有色鉱物*の含有も少なく，岩石全体の色は白っぽい。深成岩*ではカコウ岩*，火山岩*では流紋岩*が酸性岩の代表である。

さんせいけん【参政権】公的な政治に国民のひとりとして参加する権利。主として選挙権・被選挙権をいう。参政権の歴史はいわば選挙権の拡大の歴史で，19世紀後半以後多くの国で普通選挙制がとられるようになった。わが国では成年男子に関する普通選挙制の確立は1925年(大正14)のことであり，1947年(昭和22)に婦人を含めた普通平等選挙権がすべての成人に与えられた。選挙権が広く国民の利害を表わす権利であり，また社会を政治的に統合する機能をもつ以上，国民の総意を代表する議会制の基礎的な方式を意味することはいうまでもない。しかし他方，選挙権の行使が有効になされるためには，国家や官僚に政治を任せたままにしない国民自身の統治感覚が増すこと，その意味での政治的関心のあり方こそその実質を決めるといってよい。➔選挙〔溝口　潔〕

さんせいさんかぶつ【酸性酸化物】水と化合して酸素酸*を生ずる酸化物。大部分は非金属元素の酸化物で，酸無水物ともいわれる。無水硫酸 SO_3(三酸化イオウともいう)などがその例で，水にとけて硫酸となる。

さんせいしょくひん【酸性食品】⇨アルカリ性食品・酸性食品

さんせいせんりょう【酸性染料】スルホン酸基・カルボキシル基のような酸性基をもつ染料。羊毛・絹・ナイロンなどを簡便に染色でき，色相が豊富，日光堅牢度(けんろうど)もすぐれている。一般に洗たく堅牢度の小さいのが欠点。構造的にはアゾ染料・アントラキノン染料・カーボニウム染料をはじめあらゆる種属にわたっている。なかでもアゾ染料(モノアゾ染料・ジスアゾ染料が多い)が品種・色相ともに豊富であるが，ただ鮮明な青～緑色に乏しい。この点アントラキノン染料・カーボニウム染料(トリフェニルメタン系)ではこれらを容易につくることができ，特に前者は羊毛の青色染色にとってきわめて重要である。後者は堅牢度はよくないが美麗なため，絹・羊毛の染色をはじめ，インキ・食用色素*などへの用途がある。酸性染料はレーキ*製造の原料ともなる。➔酸性媒染染料〔稲田正作〕

さんぜいっしんのほう【三世一身法】723年(養老7)長屋王(天智(てんち)天皇の孫)政権下の律令(りつりょう)政府が発布した開墾奨励法。新たに溝池(こうち)をつくって開墾した場合は三世代，旧溝池を利用した場合は本人一身の間私有を認め，かつ免租の

特典を与えたもの。土地公有主義の原則を政府みずから放棄したものとして注目される。なお，この法令では期限がくれば墾田は収公されることになっているため，農民はその時期が近づくと耕作を怠るようになった。そこで政府は743年(天平15)これを廃し，墾田永代私有法*を発布した。〔黛　弘道〕

さんせいどじょう　**【酸性土壌】**　反応が酸性である土壌。気候が温暖で年間降雨量の多い日本のような場合，塩基，特にカルシウムの流亡が激しく，土壌が酸性になりやすい。日本の畑地土壌中46％はこのような酸性土壌とみられている。土壌酸性による生育障害は次のようなものに起因すると考えられている。①水素イオンによる養分吸収力の阻害。②アルミニウムイオンの溶解が促されることによる害。③カルシウム・マグネシウム・モリブデンの不足。④マンガンの過剰や，銅・亜鉛・鉛などの有害金属が存在し，その溶解度が高まって及ぼす害。このような酸性土壌中では，微生物特に細菌が少なくなって糸状菌が増加し，窒素固定や硝酸化成など作物の生育にとって有利な細菌の活性は低下する。酸性土壌の改善には，肥料用石灰または炭酸カルシウムを用いるとよい。また酸性土壌ではリン酸・マグネシウムの欠乏を起こしやすいのでこれらも施用し，土壌に緩衝作用を与えるための堆廐肥(たいきゅうひ)の施用は効果がある。〔浜田龍之介〕

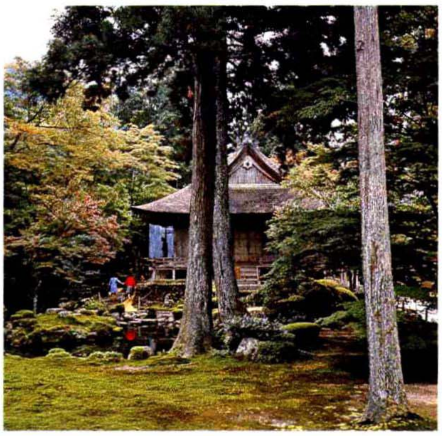
さんせいどしょくぶつ　**【酸性土植物】**　酸性土壌(どじょう)に生育する植物で，高層湿原にみられるミズゴケがこの典型である。寒冷によって植物枯死体の分解速度のおそい泥炭地(でいたんち)では，金属イオンの供給が悪く，遊離した腐植酸を含んでいる。また，土壌中からカルシウム・カリウムなどの金属イオンが溶脱され，粘土成分が水素イオンと結合する場合にも，土壌は酸性をおびる。

さんせいばいせんせんりょう　**【酸性媒染染料】**　酸性染料*であると同時に媒染染料*でもあり，両方の構造的特徴を合わせもつ染料。洗たくに対して弱い酸性染料の欠点を，金属媒染によって繊維上に不溶性錯塩を形成することで克服し，堅牢度(けんろうど)が改善されると同時に日光堅牢度も向上し，特に羊毛の堅牢染色として重要である。金属にはもっぱらクロムが用いられるのでクロム染料の名もある。構造的にはアゾ染料*に属するものが大部分であるが，ほかにアントラキノン染料*・カーボニウム染料*がある。染色法には，繊維の金属処理を染色の前に行なうクロム前処理法，クロム後処理法，同時に行なうメタクロム法(浴)がある。〔稲田正作〕

さんせいはくど　**【酸性白土】**　石英粗面岩が風化作用を受けてできた粘土。主組成はハロイサイトと非晶質ケイ酸塩との複合



サンセベリア
葉が美しく，観葉植物として栽培される



三千院　往生極楽院本堂

体($Al_2O_3 \cdot 6SiO_3 \cdot xH_2O$)。比重2.7～2.9,湿気を吸収しやすく，孔隙(こうげき)量は約60。白色または黄灰色,光沢はろう状。せっけんのような感触をもつ。水中で酸性を呈する。脱色作用・脱水作用と重合*および縮合*作用を有し，石油や油脂の脱色剤，精製洗たく用，製紙用乾燥剤などに使用される。新潟県南蒲原(みなみかんばら)郡・北蒲原郡に多い。〔加藤敏郎〕

さんせいひりょう　**【酸性肥料】**　土壌(どじょう)を酸性化するおそれのある肥料で，化学的酸性肥料と生理的酸性肥料がある。化学的酸性肥料はそれ自体が酸性を呈するもので，化学肥料ではアルカリ性肥料・中性肥料に比して圧倒的に多い。過リン酸石灰・硫安・塩安が代表的なものである。生理的酸性肥料は，作物に吸収されずに土壌中に残る部分によって酸性となるものである。たとえば，塩加(化学的中性肥料)・硫安ではカリやアンモニアが吸収されたあと，土壌中に塩素イオンや硫酸イオンが残って酸性化する。リン酸一アンモニウムは化学的酸性肥料であるが，生理的中性肥料である。このように化学的と生理的とは必ずしも一致しない。➔中性肥料　➔アルカリ性肥料〔早瀬達郎〕

さんせき　**【三跡】**　平安時代の中ごろの書の巧みな小野道風*・藤原佐理*(すけまさ)・藤原行成*の3人。それぞれの筆跡を野跡・佐跡・権跡(ごんせき)という。古くは3人を三賢といい，三賢の筆跡を三跡としたが，のちに三賢を三跡というようになった。

サンセバスチアン　［San Sebastian］　スペインの北端，フランスとの国境に近くビスケー湾に面する港市・保養都市。人口17万8,000(1974)。市街はピレネー山脈西麓(せいろく)の丘陵下の低地に広がり，気候温和で観光客が多い。1450年に起源をもつ港町で，かつてはアンチル諸島*との貿易港として栄えた。フランスに近いためしばしば攻撃を受け，破壊されたことがある。1886年に王室の別荘ができ，一時は政府の夏季の執務地であった。造船・金属・ガラス工業などが行なわれる。〔大崎　晃〕

サンセベリア　［*Sansevieria*］　単子葉植物・ユリ科・サンセベリア属。熱帯アフリカおよび熱帯アジアに分布する多年草で，およそ60種が知られている。数種が園芸用に栽培され，はち植えにして室内装飾用に用いられる。和名はチトセランという。花は黄色・淡紅色・緑白色などで，総状花序をなし,美しい。葉は，円筒状のもの(ボウチトセラン),緑白色の横じまがあるもの(チトセラン)，葉全面に白色の縦じまのあるもの(シロシマチトセラン)など，いろいろの形態がある。株分け・さし葉などでふやす。

さんぜんいん　**【三千院】**　京都市左京区大原来迎院町にある天台宗の寺。平安初期，延暦(えんりゃく)寺の別院として比叡山(ひえいざん)東塔の南谷に建てられ，のち東坂本の梶井(かじい)に里坊が設けられて，堀川(ほりかわ)天皇の皇子最雲法親王が住されてから梶井門跡(もんぜき)とよばれ，青蓮院(しょうれんいん)・妙法院とともに天台三門跡とよばれる。鎌倉期以来，大原に政所を設けて魚山の寺々を管理していたが，1871年(明治4)これを本坊として三千院と称するようになった。宸殿(しんでん)の南の庭の中心をなす往生極楽院本堂は藤原期の建物で，内陣には来迎姿の阿弥陀(あみだ)三尊の彫刻が安置されている。〔永井信一〕

さんぜんけ　**【三千家】**　茶道の流派の一。千利休*の開いた利休流茶道の直系が，利休の孫宗旦(そうたん)の3人のむすこから分かれた表千家流*・裏千家流*・武者小路(むしゃのこうじ)千家*流の三つをいう。宗旦の三男江岑斎(こうしんさい)宗左が利休伝来の茶室不審庵*(ふしんあん)を継いで不審庵4世を唱えたのが表千家，四男仙叟(せんそう)宗室が父宗旦の茶室今日庵*を継いで今日庵1世を称したのが裏千家，次男の一翁宗守が高松藩の御茶道(おさどう)(貴顕に仕えて茶事をつかさどるもの)をやめて帰京し，武者小路に茶室官休庵*を建てて，官休庵1世を唱えたのを武者小路千家と称する。〔桑田忠親〕

さんぜんせかい　**【三千世界】**　仏教用語で，小千世界・中千世界・大千世界のこと。三千大千世界ともいう。一小世界の大きさ

は，須弥山*(しゅみせん)を中心にして九山八海・四州・日月・兜率天*(とそつてん)などの諸天を含む。一小世界が1,000集まったものが一小千世界，一小千世界が1,000集まったものが一中千世界，一中千世界が1,000集まったものが一大千世界である。大千世界を三千世界ともいい，宇宙は無数の三千世界により構成されているとする。〔大南龍昇〕

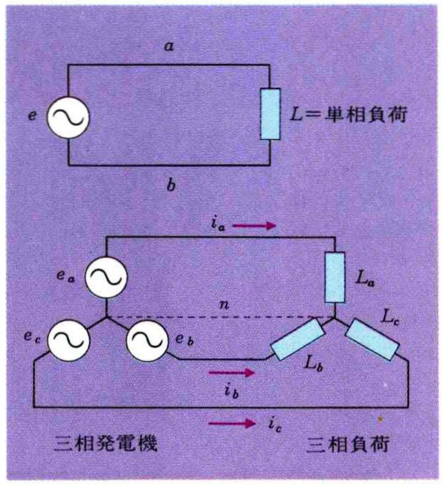
さんそ 【酸素】 周期律表第Ⅵ族に属する非金属元素。記号O，原子番号8，原子量15.9994。空気中に，体積で21%，重量で23%含まれ，水の成分として重量で88.9%，岩石・土壌(どじょう)の成分として約46%が含まれるなど，単体または化合物として自然界に最も豊富に存在する。クラーク数*は49.5で第1位。1772年スウェーデンのシェーレ*，1774年イギリスのプリーストリ*によってそれぞれ独立に発見され，フロギストン説*により〈フロギストンのない空気〉とよばれた。のちにラボアジェ*がフロギストン説を打破して，一元素として酸素と命名した。

工業的には液体空気の分留または水の電解(水素製造の副産物)によってつくられる。液体空気の分留によって得られた酸素は，微量の窒素およびアルゴンを含むことがある。実験室では過酸化水素水中に白金黒または過マンガン酸カリウムを加えると，純粋な酸素が得られる。そのほか，塩素酸カリウムと二酸化マンガンとを加熱して得る方法もある。

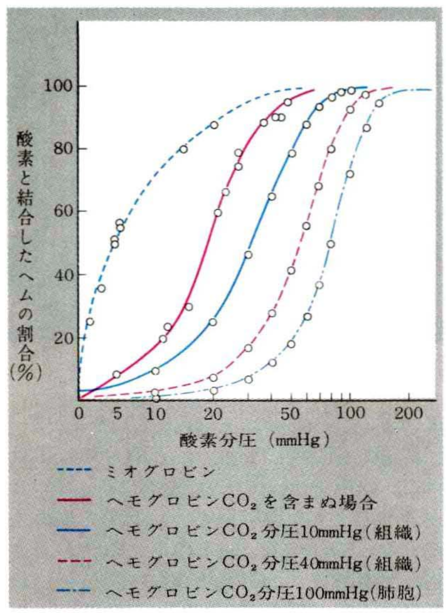
常温で無色・無臭の気体で，2原子分子(O_2)である。融点−218.76℃，沸点−182.97℃。液体酸素・固体酸素はともに淡青色。気体の比重は1.053(空気を1として)，水にわずかにとける。化学的に非常に活性で，直接に化合しない元素は希ガス類・ハロゲン・白金・金・銀などにすぎない。酸素の化合する反応は発達反応であり，いったん反応が始まると急激に進行する。炎を出して酸化反応が行なわれる場合を燃焼という。水素またはアセチレンとは，適当な条件では爆発的に反応する。酸素と他の元素との化合物は酸化物とよばれ，ふつう金属の酸化物は塩基性，非金属の酸化物は酸性である。

酸水素炎*・酸素アセチレン炎*として高温用熱源として用いられ，医療用として酸素吸入*にも用いられる。通常，高圧ボンベに詰めて市販されている。なお，酸素は生物に対して単体または水・デンプン・脂肪その他の化合物の状態で密接な関係をもっており，有機呼吸生物にとって単体の酸素は生活エネルギーを獲得するために欠くことのできない存在である。緑色植物は光合成*によって酸素を放出する。なお，酸素の同素体にオゾン*がある。〔古屋　弘〕

さんそアセチレンえん 【酸素アセチレン炎】 アセチレンと酸素の混合ガスの燃焼によって得られる炎。金属材料の溶接・切断に利用される。ガス溶接用の吹管にアセチレンと酸素を送って点火すると，アセチレン過剰炎(還元炎*)が生ずる。順次酸素量を増していくとアセチレン過剰の部分が消えるとともに炎が青白色化し，火炎の基部に円錐(えんすい)状の白色の輝度の高い部分(白心)ができる。この場合の火炎を標準火炎(中性炎)といい，アセチレンと酸素の容量比はだいたい1：1で，火炎の温度は約3,000℃である。アセチレン過剰炎はステンレス鋼・モネルメタル(ニッケルと銅の耐酸合金)などの溶接に，中性炎は軟鋼・アルミニウムなどの溶接に，酸素過剰炎は黄銅の溶接に用いる。〔内田信邦〕



三相交流



酸素解離曲線

さんぞう 【三蔵】 仏教の聖典を3分類したもの。蔵とは梵語(ぼんご)pitaka(ピタカ)の訳で，容器，籠(かご)の意。経蔵・律蔵・論蔵からなる。仏典が最初に編集されたのはブッダの死後まもなくで，これを〈三蔵の結集〉という。経蔵はブッダの教説の綱要を収め，律蔵は仏教教団の生活規定を収め，論蔵はブッダの教説を発展させて組織化・体系化した論書を収める。なお，一切経・大蔵経のことを三蔵ともいう。〔大南龍昇〕

ざんぞう 【残像】 感覚刺激を取り去ったあとにも興奮状態が続き，感覚的印象が残る現象。視覚の場合特に著しく，これをを視的残像といい，正の残像と負の残像がある。前者は原刺激と同質の残像で，強い刺激を短時間呈示した場合に生ずる。後者は原刺激に対して明暗が逆になり，色調が原刺激と補色の関係に見える残像で，普通程度の明るさの刺激を比較的長く凝視したときに生ずる。なお，動いている物体を注視したのち視線を転ずると，静止している物体が動いて見えるが，これを運動残像という。〔吉田俊郎〕

さんそうがく 【山相学】 わが国に古くから行なわれてきた山の形状・地質・気象などに関する学問。特に，鉱山発見の探鉱術をさす場合が多い。江戸時代後期の農政学者佐藤信淵*(のぶひろ)の《山相秘録》は，当時の探鉱技術を知ることができる。

さんそうこうりゅう 【三相交流】 大きさが等しく，位相が順次120°ずつずれた三つの交流電力。交流は単相交流*と三相交流に分けられる。原理的に，単相は2本の電線を使い，三相はa, b, cの3本と中性線nの計4本を用いる。三相交流発電機は外部回路a, b, cに対して，位相が互いに120°ずつずれた交流電圧e_a，e_b，e_cを加えており，これにより電流i_a，i_b，i_cが流れる。送電線路と負荷がa，b，c各相ともバランスがとれていれば，$i_a+i_b+i_c=0$となり，帰路nはなくてもよい。また，大地を帰路に使うことも多い。三相交流は三相用につくられた同期電動機*や誘導電動機*の電機子で回転磁界*を容易につくりうるし，効率よく回転トルクを得ることを可能にする。この点で単相電動機より大規模な電動力応用に適している。屋内動力用として，200Vの三相三線式交流が多く使われ，また近年400V級三相交流もふえる傾向にある。送電幹線においては送電の経済性を高めるために275kVの超高圧送電が数多く採用され，東京湾を囲む500kVの線路も完成し，500kVでの運転開始も間近い。〔田村康男〕

さんぞうし 【三冊子】 土芳*著の俳諧論書(はいかいろんしょ)。1703年(元禄16)ごろの成立。芭蕉*(ばしょう)の教えをもとに諸書を参照しつつ，蕉風俳論を①連歌・俳諧の歴史や式目など(白冊子)，②不易流行*・風雅の誠*の論と句評(赤冊子)，③芭蕉の言行や句作の心得(忘れ水・黒冊子)の3部にまとめたもの。《去来抄*》と並んで，芭蕉の俳諧精神を知る上に最も重要視される。

さんぞうほうし 【三蔵法師】 三蔵*にすぐれた理解をもつ僧侶(そうりょ)をいい，中国では仏典翻訳僧のこと。《西遊記*》に登場する三蔵法師は玄奘*(げんじょう)がモデルといわれる。玄奘は代表的な三蔵法師である。

さんそかいりきょくせん【酸素解離曲線】 酸素飽和曲線ともいう。ミオグロビンやヘモグロビンのヘムは酸素分子と結合するが，ヘモグロビンではヘムが酸素1個を受け取ると，他のヘムはさらに酸素と結合しやすくなるので，飽和曲線はシグモイドカーブを描く。これに対し，ミオグロビンは単純な双曲線を描く。二酸化炭素CO_2の存在はヘモグロビンと酸素の結合に影響を与えるが，これをボーア効果といい，血液中の炭酸量が増加するとヘモグロビンは酸素と結合しにくくなる。これは血液にとけ込む二酸化炭素が血液のpHに変化をもたらし，ヘモグロビンの活性中心に変化を与えるためである。肺胞と組織のそれぞれの酸素分圧におけるヘムの酸化量を，二酸化炭素を含む場合と含まない場合で比べれば，肺胞から組織へ向かった血液がそれぞれの場合にどれだけの酸素を遊離するかが読みとれる。これがヘモグロビンによって実質的に運ばれた酸素であり，二酸化炭素を含む場合のほうがその量の大きいことがわかる。〔原野友之〕

さんそきゅうにゅう【酸素吸入】 酸素欠乏を起こしやすい状態にある患者に酸素を吸入させ，体内のガス交換を容易にさせること。具体的には，呼吸抑制や大量出血あるいはショック状態にある患者，呼吸器病・心臓病・貧血などの患者，開胸や上腹部の手術を受けた患者，小児や老人で術後の患者などに行なう。手術後は気道閉塞(へいそく)を起こしやすいため，呼吸に対する管理は手術後の管理のうちで最も重要なものの一つである。酸素吸入の方法としては一般に経鼻カテーテル法・酸素テント・酸素マスクなどが用いられる。経鼻カテーテル法は鼻孔から口蓋(こうがい)の裏までカテーテルを挿入(そうにゅう)するもので，酸素は必ず水を通して湿気をもたせ，通常毎分6 *l* 前後の酸素を送る。〔三島好雄〕

さんぞく【山賊】 山中に巣窟(そうくつ)を構え，村里に出て追いはぎなどをする者。山盗人・山の刀禰(とね)・緑林などともいわれる。《和漢三才図会》には〈山野に窠居(そきょ)し，夜出て往来の貨を奪う，あるいは，衣服を剥取(はくしゅ)す。これを山賊と名づく〉と記されている。数人の小賊から，頭目が多数の輩下を領し，山塞(さんさい)を築いて団結する大賊まである。ヤマトタケルノミコトの上総(かみふさ)(千葉県)の悪鬼退治，坂上田村麻呂(たむらまろ)の信濃(しなの)(長野県)中房山の鬼退治などの伝説は，いずれも山塞にこもる賊徒退治で，凶悪な者を鬼と表現したのであろう。〔合田　濤〕

さんそくどき【三足土器】 3本足をもつ土器の総称。西アジアでは青銅器時代中期に，中国では龍山(りゅうざん)文化期に現われ出現の時期がほぼ同じなので興味がもたれる。特に中国で発達を遂げ，袋状の足をもつ鬲(れき)，棒状の足をもつ鼎(てい)が代表的器形である。鼎は肉を煮るのに，鬲はその上に穴のあいた甑(そう)を載せて穀物を蒸すのに用いた。鬲・鼎は殷(いん)・周時代に青銅器につくられ，祭祀(さいし)の器とされた。

さんそさん【酸素酸】 水素酸に対する語。酸素を含む無機酸で，オクソ酸ともいう。無機の基か元素Eに水酸基がついた化合物EOHのうち，$E^+ OH^-$のように電離しやすい場合は塩基というのに対し，$EO^- H^+$のかたちに電離しやすいときは酸素酸とよぶ。酸性酸化物と水の反応で得られる。通常，基の中心元素の名をつけて○酸とよぶ(たとえばリン酸は$O=P(OH)_3$)。その元素の酸化数が周期表の位置に対応した値をとるときは単に○酸，それより高い場合は過○酸，逆に低い場合は亜○酸とよぶ。➔酸
〔三輪誠・玉野秀樹〕

さんそせいこう【酸素製鋼】 製鋼過程中，酸化剤として酸素を使用する方法。熱効率が向上して出鋼時間が短縮されるので，製鋼能率が著しく良好となる。酸素の入れ方には大別して，①燃料とともに酸素を噴射する方法，②精錬期の溶鋼中に直接酸素を吹き込む方法がある。効果の大きいのは②の方法で，この場合酸素は，溶鋼中の過剰の炭素・ケイ素・マンガン・リンなどと発熱反応を起こし，温度が上昇すると同時に酸化精錬が進み上記成分が除去される。溶銑配合率が高い場合や低炭素鋼・純鉄の製造を目的とする場合はこの方法が有利である。①は高温度が得られるので燃焼が促進されて溶解時間が短縮でき，燃料を節約することができる。くず鉄の配合率が高いなど溶解時間が長くなる場合はこの方法が用いられる。いずれにしろ，安価で大量の酸素の供給が不可欠であるが，近年の大容量の酸素発生機の実現はこれを可能にし，酸素製鋼法も飛躍的に発達した。
〔草川隆次〕

さんそぞくげんそ【酸素族元素】 周期律表第ⅥA族に属する酸素・イオウ・セレン・テルル・ポロニウムの5元素の総称。室温で酸素は気体，他の4元素はいずれも固体の非金属元素。一般に，原子量が大きくなるにしたがって融点・沸点・硬度の増加がみられ，それに伴って融解熱・蒸発熱も高くなり，金属性が増す。最外核電子の配置が6個で，2個の電子を取り入れて希ガス型電子配置をとる傾向があるため，化学的性質が類似している。〔古屋　弘〕

さんそテント【酸素テント】 重症の呼吸困難や，ショック，冠不全の低酸素症などの治療に用いられる装置。患者の頭部から上半身を周囲から気密に遮断(しゃだん)できるプラスチック製の蚊帳のようなもので，中の空気を適当に酸素で置換して呼吸させ，また湿度や温度も適宜に調整することができる。酸素吸入よりも確実で，また快適な状況で酸素投与が行なえる。

さんそようせつ【酸素溶接】⇨ガス溶接

さんそん【山村】 農村や漁村に対して山地にある村落をいい，農村・漁村がその生業をもとにした呼び方であるのに対して，村の水平的位置をもとにした呼称である。生活様式としては林業のほか農業や牧畜などを複合的に行なっており，純粋に林業だけに依存している村はまずない。林業は用材や木炭など生産に従うほか，木工業や狩猟なども行ない，また林業労働者として雇われたりする。農業は傾斜地にアワ・ヒエ・トウモロコシ・ソバなどをつくり，焼き畑・切り替え畑もあり，階段状の水田もまま見られる。また高冷地野菜の栽培や高原を利用した牧畜も行なわれるが，一般に生産性が低く，最近では離村・出かせぎの増加による過疎状態の山村が目だっている。山がちの日本には山村が多く，中には九州の五家荘(ごかのしょう)や四国の祖谷(いや)のような隔絶山村もあり，風俗や言語に独特のものを残している例もみられる。山村の高度は，中部地方の飛騨(ひだ)山地では1,200 mあたりが限界で，これ以上高くなると雑穀の栽培が不可能となり，これが日本における集落の高度の限界とされている。〔浅井得一〕

さんそん【散村】 集落の平面形態の一。家屋が散在しているものであって，集村に対する語。疎村・点状村ともいう。ドイツ・ベルギー・フランス・イギリスの平地，アルプス地方やヨーロッパ北部の山地，アメリカ合衆国・カナダの新開地などに多い。わが国の集落は集村が基本であるが，富山県の礪波(となみ)平野，島根県の簸川(ひかわ)平野，静岡県大井川下流地域，岩手県北上川の中流地域の胆沢(いさわ)扇状地，北海道などに散村がみられる。〔佐藤甚次郎〕

ざんそんしゅけん【残存主権】 国家の領域の一部に外国国家の統治権(➔施政権)が全般的に行使されている場合，なおその国家が当該領域に対してもっている権利。潜在主権・残余主権ともいい，きわめて不完全な主権の形態である。権利の具体的内容は，当該領域を有する国がその領域を最終的に処分することができる権利であるとされ，また統治国が統治権の行使をやめた場合，当然当該領域国家の統治権が回復されるものとされている。対日講和条約第3条によって，沖縄・小笠原(おがさわら)諸島をアメリカを施政権者とする国際連合の信託統治地域にすることを予定し，それまでの間アメリカが立法・司法・行政の権能を行使することになっているが，これについて日本は残余の主権を有するものとされた。なお，小笠原は1968年(昭和43)に返還され，沖縄は1972年5月15日に返還された。
〔広部和也〕

さんぞんぶつ【三尊仏】 本尊と脇侍(きょうじ)のこと。三尊ともいう。多くは仏典に説かれたものが，仏像として表現された。発生はインドである。本尊と脇侍の組み合わせはさまざまである。釈迦(しゃか)三尊は本

尊を釈迦如来とし，脇侍には薬王菩薩（ぼさつ）・薬上菩薩，普賢菩薩・文殊（もんじゅ）菩薩，阿難（あなん）・迦葉（かしょう）などの組み合わせがある。盧舎那（るしゃな）三尊は脇侍に観自在菩薩・虚空蔵（こくうぞう）菩薩，薬師如来・千手観音など。阿弥陀（あみだ）三尊は観音菩薩・勢至菩薩が典型的な脇侍である。薬師三尊は日光菩薩・月光菩薩，弥勒（みろく）三尊は法音輪菩薩・大妙相菩薩を脇侍とする。〔大南龍昇〕

さんだ【三田(市)】 兵庫県南東部の市で，南は神戸（こうべ）市と境を接する。江戸時代には城下町で，九鬼氏が三万六千石を領していた。1958年(昭和33)市制施行。人口35,000。市域は武庫川上流の三田盆地と周辺丘陵部を占める。産業三大別人口比は20：27：53。周辺地域は古来灘（なだ）の酒造米や神戸ウシの産地として知られたが，最近は武庫川河畔の沖積地（ちゅうせきち）に福知山線・神戸国鉄有馬（ありま）三田線・国道176号線が通じ，阪神（はんしん）の衛星住宅都市化の傾向が強い。

さんだいきゃくしき【三代格式】 弘仁（こうにん）・貞観（じょうがん）・延喜（えんぎ）の三つの格式の総称。いずれも平安初期の編集で，律令（りつりょう）を時世に対応させながら施行していこうとする努力の現われとみられる。➔格式

さんたいし【三体詩】 中国，唐代の詩の選集。6巻。13世紀，宋（そう）末の周弼（しゅうひつ）の編。唐の詩人167人の作品を七言絶句・七言律詩・五言律詩の3体に分類して収録した。室町時代，宋に留学した禅僧の中巌が日本に伝え，五山の禅僧の間で流行した。江戸時代，刊本・注釈本が多く出て，明治になってからも広く読まれた。

さんだいじけんけんぱくうんどう【三大事件建白運動】 1887年(明治20)自由民権諸派が藩閥攻撃のために起こした政治運動。自由党解党以来分裂状態にあった在野勢力は，井上馨（かおる）外相の条約改正案が屈辱的であるとし，全国各地で政府の失政を攻撃する建白運動が起こった。彼らは片岡健吉らを総代として，①言論・集会の自由，②地租軽減，③外交失策の回復の三つを要求する〈三大建白書〉を元老院に提出し，運動は最高潮に達した。政府はこれに強い衝撃を受け，同年12月保安条例を発して民権運動家の幹部500余名を東京10里外に追放し，運動を抑圧した。〔高崎徳次〕

さんだいじつろく【三代実録】 ⇨日本三代実録

さんだいしゅう【三代集】《古今和歌集》《後撰（ごせん）和歌集》《拾遺和歌集》の3勅撰集の総称。和歌史ではこの時代を三代集時代とよぶ。〈後撰〉〈拾遺〉が示すように，《古今和歌集》を規範と仰ぎ，その知的な構成，繊細巧緻（こうち）な技巧をこらした詠法が理想とされた。3集の中での歌風の変遷も多少はあるが，《後拾遺和歌集》以降の勅撰集に対するとき，特に古今調を中核とする



サンタ-クローチェ聖堂

歌風として総括されることが多い。

さんだいばなし【三題噺】 落語の一種。演者が客に三つの題を出させ，その場で一つの落語にまとめる。文化年間(1804～1817)に初世三笑亭（さんしょうてい）可楽が創始した。《芝浜》《鰍沢（かじかざわ）》はその名作とされる。

さんたいもんだい【三体問題】 互いに万有引力を及ぼし合う任意の質量をもった三体が，任意の初期条件を与えられて行なう運動について，任意の時刻の3体の位置と速度を求める問題。一般には2体の場合のように，一般の3体の運動を長時間にわたって求めることは，いまのところできない。しかし，3体がつねに正三角形の頂点にあって共通の重心のまわりを公転する場合と，3体がつねに一直線上にあって共通の重心のまわりを公転する場合にのみ解が見つけられている。太陽・木星・トロヤ群小惑星の三体の場合は，正三角形解の実例である。〔木下 宙〕

さんたいりくじんみんれんたいかいぎ【三大陸人民連帯会議】 1966年1月3～15日，キューバのハバナで，アジア・アフリカ・ラテンアメリカ三大陸の82か国，512人の代表が集まって開かれた会議。三大陸人民連帯大会ともいう。この会議は，アメリカ合衆国をはじめとする帝国主義，新旧植民地主義を世界全人民の敵として非難し，ベトナム民族解放闘争を支援し，人民武装闘争の必要を強調，三大陸人民連帯機構を設けることなどを決議した。第2回会議は，1968年アラブ連合のカイロで開かれた。〔広部和也〕

サンダカン［Sandakan］ マレーシア連邦，北ボルネオ（サバ）州北岸の港市。人口30,000(1960)。天然の良港をもつ北ボルネオ最大の商業都市で，樹木に囲まれた美しい町である。日本向け丸太材の積み出しをおもに行なうほか，ゴムも輸出している。近年は近海のトロール漁業の基地として発展してきた。住民は大部分が華僑（かきょう）で，商業の実権を握っている。

サンタクララ［Santa Clara］ 西インド諸島，キューバ島中部にある都市。人口15万(1975)。古くからサトウキビ栽培の中心地の一つで，前世紀から続いている製糖工場も多い。南にある外港のシェンフエゴスとは鉄道で結ばれ，砂糖を積み出している。

サンタクルーズ［Santa Cruz］ ボリビア共和国の中東部にある都市。人口23万7,000(1976)。鉄道により，ブラジル国内を横断してサントス港に通じ，またアルゼンチン国内の鉄道各線に連絡する内陸交通の要地である。1595年にパラグアイからはいったスペイン人が建設して以来，長く内陸に孤立した小都であったが，陸上交通路が開かれたことや，首都ラパスとの間に空路定期便が開設されたことなどによって，1955年ごろから人口は急増し，アンデス山中の主要都市となっている。〔小栗 宏〕

サンタクルズ(諸島)［Santa Cruz］ 南太平洋のソロモン諸島に含まれる一群島で，12の小島からなる。火山島で，周囲をさんご礁が取り巻き，年じゅう高温多雨で密林が茂る。最大の島はヌデニ島。原住民はポリネシア人でココヤシを栽培し，漁業を営む。1595年にスペインの探検家メンダナが発見し，現在はイギリスの保護領。

サンタ-クロース［Santa Claus］ もと，小児・船員・商人の守護聖人とされる聖ニコラウスの愛称。祝日は12月6日で，その前日には贈り物を交換する習慣があった。これがオランダ系ピューリタンによってアメリカに伝えられてクリスマスと結びつき，北欧伝説が加わってトナカイに乗った老人の姿で現わされるようになった。

サンタ-クローチェせいどう【サンタ-クローチェ聖堂】 イタリア，フィレンツェにあるフランシスコ修道会派の教会堂。1295年アルノルフォ-ディ-カンビオの設計の下に着工されたと推定される。献堂式は1442年に行なわれた。簡素ではあるが寛濶なその空間性は，イタリア-ゴシック建築の代表的な作例とされている。洗礼堂には，ジョット・ドナテッロらの作品が納められている。

サンタバーバラ(諸島)［Santa Barbara］ アメリカ合衆国カリフォルニア州のロスアンゼルス沖30kmにある群島。数千種に及ぶ色あざやかな小島や美しい植物で知られ，地上の楽園として観光客が多い。チューインガム王，W.レグイリーが島の開発に手をつけ，サンタカタリナ島には，バードパークとマリンガーデンがある。

サンタフェ［Santa Fe］ アメリカ合衆国ニューメキシコ州の州都。人口39,000(1970)。ロッキー山脈中の標高2,100mの盆地にあり，1605年スペイン人によって建設され，かつてはサンタフェ鉄道の終点で交易都市として栄えた。スペイン植民地時代の風俗と遺跡が残っており，住民にはメキシコ人・インディオが多い。冷涼な気候で，避暑地・観光地としても有名である。

サンタフェ ［Santa Fé］ アルゼンチン共和国中部，ラプラタ川流域にある河港市。人口24万5,000(1975)。大洋航路の船も入港できる港湾施設をもち，西岸各地への鉄道の起点ともなる交通の要地。また周辺の農牧業の生産物の取引・加工の中心でもある。市内には製粉業をはじめ，酪製品やキョウチクトウ科の高木ケブラチョからとるタンニンの工場や，スズ・銅の精錬工場もある。都市の建設は1573年にさかのぼり，現在の市庁舎は1853年に憲法が成立・採択されたゆいしょある建物である。
〔大崎　晃〕

サンタフェ(道) ［Santa Fe］ アメリカ合衆国の古い交通路の一つで，サンタフェ鉄道*が開通するまでは重きをなしていた。フランクリン(現在のミズーリ州インデペンデンス)から当時メキシコの古都であったサンタフェまでを結んだ。1821年にフランクリンの一商人がメキシコとの交易路として開いたもので，その後馬車道として拡大され，開拓・通商路として重要な役割を果たした。

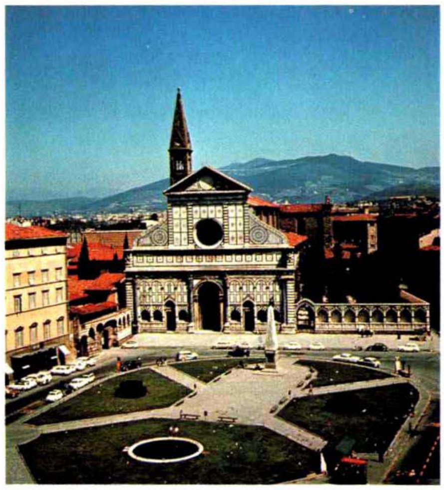
サンタフェ(鉄道) ［Santa Fe］ アメリカ合衆国最大の鉄道で，総延長21,000km。シカゴを基点として，太平洋南岸およびメキシコ湾岸におよぶ12州にまたがる地域を結ぶ。アチソン-トピカ-アンド-サンタフェ鉄道，ガルフ-コロラド-アンド-サンタフェ鉄道，およびパンハンドル-アンド-サンタフェ鉄道などの路線がある。中でもアチソン-トピカ-アンド-サンタフェ鉄道は1860年に創設され，シカゴから太平洋岸に達する大陸横断鉄道の一つとして重きをなしている。
〔大石堪山〕

さんたま ［三多摩］ 東京都西部で都の郡部を形成した西多摩・南多摩・北多摩3郡の総称で，西多摩郡は5町1村よりなるが南多摩と北多摩の2郡は消滅した。もとは武蔵(むさし)国多摩郡であったが，1871年(明治4)の廃藩置県で神奈川県に属し，1880年に東・西・南・北の4郡に分かれた。しかし，この地域は東京市民の上水道の水源にあたるので，1893年東京府に移管され，1896年に東多摩郡が南豊島(みなみとしま)郡と合併して豊多摩郡となり，1932年(昭和7)に東京市の一部となったために3郡が残った。最近この地域の人口の増加が急で新しい市が生まれ，本来の郡部は消滅の一途をたどるが，この地域にある市部をも含めて，一帯をさす呼称として広義に使うことがある。
〔浅井得一〕

サンタ-マリア-デル-フィオーレだいせいどう ［サンタ-マリア-デル-フィオーレ大聖堂］ イタリア，フィレンツェにあるルネサンス期を代表する建築物。はじめアルノルフォ-ディ-カンビオが建築にあたったが，その死後ジョット・ピサーノ・タレンティらが建立の責任者となった。フィレンツェの象徴とされ，ボールトはブルネレスキの



サンタ-マリア-デル-フィオーレ大聖堂



サンタ-マリア-ノベルラ聖堂

施工，鐘楼はジョットの設計である。

サンタ-マリア-ノベルラせいどう ［サンタ-マリア-ノベルラ聖堂］ イタリア，フィレンツェにあるドミニコ会のゴシック式教会。1278年の着工。大理石のファサードは1350年の着工になり，1456年アルベルティ*によって改装された。内部にはリッピ・ギルランダチョらのフレスコ画，トゥッチオの《マドンナ》，マサッチオの《聖三位一体》などが蔵されている。

サンタヤナ ［George Santayana］ (1863～1952) アメリカの哲学者・詩人・評論家。スペインに生まれ，幼時にアメリカに渡った。ハーバード大学教授。その思想は多方面に及んでいる。哲学においては，批判的実在論の提唱者で，自然的事物とは異なる形での〈本質〉がそれ自身で実在することを主張し，それは動物的信念によって認識されるとした。その考えは観念的傾向が強く，プラトンの考えに近いとされる。《理性の生活》のほかに自伝的小説《最後の清教徒》がある。
〔寺中平治〕

サンダル ［sandal］ 底皮がひもや皮ベルトなどで足に固定し，甲をおおわないはきもの。材料は皮・布・ビニル・麦わらその他で，材料やヒールの高さにより夜会用から海浜用まで種類は多い。古代エジプト王朝では上層階級の権力を示すためのものであった。

さんたろうごえ ［三太郎越］ 三太郎峠ともいい，九州山地の西南端が八代(やつしろ)海に尽きる所にある三つの峠の総称で，八代市南部から水俣(みなまた)市に至る約50kmの間に，赤松太郎越・佐敷太郎越・津奈木(つなぎ)太郎越の三つの峠が続く。国道3号線が通り，鹿児島本線もほぼ国道に沿ってトンネルでここを通過している。

さんだんじゅう ［散弾銃］ おもに散弾を撃ち出すための銃で，日本工業規格(JIS*)では，銃腔(じゅうこう)全長の2分の1以上にわたって腔線(ライフル)がなく，平滑な円筒面で構成され，銃身が50cm以上ある装薬銃と定義している。散弾とは鉛または鉛とアンチモニーの合金でつくられた球形の弾丸で，1発の実包に数粒～数百粒こめられる。主として野鳥や中・小形野獣の捕獲もしくはクレー射撃*に供される。小火器のうちで最も広く使用され，アメリカがインディアン征伐や暴徒鎮圧に使ったり，太平洋戦争などで数万丁使った例外的事実を除き，つねにスポーツのために使われてきた平和な武器である。発射される弾丸は弾網を形成するから，飛鳥・走獣を撃ちとるのに至極便利であり，17世紀以降の近代狩猟の方向づけと発展とに巨大な潜勢力として働いた。散弾銃の口径は，〈番〉をもって示され，1番とは1ポンドの鉛球の直径値と同じ寸法である。標準番径は12番で，その直径は18mm内外である。12番以上の大口径は獲物の維持上好ましくないため，多くの国々で禁止しており，わが国もこれにならっている。機構上の種類は多いが，水平二連式と自動装塡(そうてん)式が普及している。〔白井邦彦〕

サンタンデル ［Santander］ スペイン北部，カンタブリア山脈の北側，ビスケー湾に臨む港市。人口16万(1974)。サンタンデル県の中心都市。小麦粉・ぶどう酒・鉄・亜鉛を輸出し，漁業・水産加工業が盛ん。海岸が美しく，近くには先史時代のアルタミラ遺跡があり，観光地としても知られる。

さんだんとび ［三段とび］ フィールド競技の跳躍種目の一。踏み切り板のところまで助走して片足で踏み切り(ホップ)，踏み切った足で着地して2回めの踏み切りをし(ステップ)，反対の足で接地して最後の跳躍をし(ジャンプ)，着地する。もとホップ-ステップ-ジャンプともいったが，国際陸上競技連盟では1963年からトリプル-ジャンプとよぶようになった。古い歴史をもつ競技で，1465年にスイスで行なわれた(ただし，これは3回とも両足踏み切りだった)記録がある。日本に伝わったのは1874年(明治7)で，1928年(昭和3)以来，織田幹雄(アムステルダム大会)・南部忠平(ロサンゼルス大会)・田島直人(なおと)(ベルリン大会)がオリンピック3連勝を記録した。日本記

録は井上敏明の16.67m，世界記録はサネエフ(ソ連)の17.44mである。〔伊東春雄〕

さんだんろんぽう【三段論法】 推論式ともいう。演繹推理の基本形式で，〈すべてのMはPである。すべてのSはMである。ゆえにすべてのSはPである〉のように，二つの前提と一つの結論からなる。ただし，前提の一つもしくは結論が省略された省略三段論法や，二つ以上の三段論法が組み合わされた複合三段論法もある。結論の主語となる概念(S)を小概念，述語となるもの(P)を大概念，両前提に共通に含まれてSとPとを結びつける働きをするもの(M)を中概念あるいは媒概念といい，小概念を含む前提を小前提，大概念を含むものを大前提という。中概念の位置の相違によって四つの型ができるが，これらを格といい，それぞれの格について前提や結論となる命題が全称か特称か，肯定か否定かによってできる多様な型を式という。これらの式はすべてが妥当であるのではなく，三段論法の規則とよばれる一定の条件を満足して三つの概念相互の包摂関係を正しく示しうるのでなければならない。以上のように両前提がともに定言命題である三段論法を定言三段論法というが，外に前提が〈もしSがPならばQはRである〉という仮言命題を含む仮言三段論法と，〈SがPであるかQがRであるかである〉という選言命題を含む選言三段論法がある。〔石倉恒之〕

さんち【山地】 ⇨山脈

サンチー［Sanchi］ インド，マディア-プラデシュ州にある紀元前3世紀から紀元7世紀ごろにかけて造建された仏教遺跡。1818年にイギリス人のテーラーが発見したが，ことにその大塔は著名で，南北東西の順に建造された塔門には仏伝図・本生図が画面充塡(じゅうてん)的に浮彫で表わされ，刻銘によれば象牙彫(ぞうげぼり)師によって制作されたという。なお，これらの浮彫に強く包摂される工芸的感覚は特筆されるべきである。〔西岡康宏〕

サンチアゴ［Santiago］ チリ共和国の首都で，国のほぼ中央にある。人口327万4,000(1970年)。1541年に建設され，この国でも古い都市の一つで，スペインふうの古風な建築が多い。海抜500mの盆地にあり，南北に国土を縦断する幹線鉄道の中心的位置を占めるとともに，アルゼンチンへのアンデス山脈横断鉄道の起点となり，180kmを隔てて外港バルパライソと結ばれる海陸交通の要地である。市内には製粉・毛織物・製銅・製鉄や硝石を原料とする化学工業などが盛んである。1842年創立のチリ大学はこの国最古の大学である。地震帯にありその害を受けることも多い。〔小栗　宏〕

サンチアゴ-デ-キューバ［Santiago de Cuba］ 西インド諸島，キューバ島の東南岸の港市。人口31万6,000(1975)。狭長な湾の奥に位置する天然の良港で，1514年に



サンチアゴ　都心部の官庁街。大通り右の広場を前にする低い建物が大統領官邸で，その周囲には諸官庁の建物が立ち並んでいる

スペイン人によって建設され，1589年までキューバ島の首都であった。付近の山地から鉄・銅・マンガンの原鉱を産出する。また，砂糖・タバコ・くだものなどの輸出港で，首都ハバナから鉄道が通じている。

さんちょう【散超】 ⇨揚げ超

さんちょく【三陟】 サムチョク 朝鮮，江原道の日本海岸にある工業都市。近年，大白山を中心とする無煙炭・鉄・黒鉛・タングステンなど地下資源の開発と，平昌(へいしょう)ダムの建設を目的とする大韓民国(だいかんみんこく)政府の大白山総合開発計画で発展をみた。埋蔵量3億tといわれる韓国第1の無煙炭の炭田がある。北の墨湖港は三陟の外港で，石炭の積み出し港である。

サンチョ-パンサ［Sancho Panza］ セルバンテスの小説《ドン-キホーテ*》に登場するいなか者の従者。主人ドン-キホーテの高潔な理想主義とは対照をなす卑俗な物質主義者。おしゃべりで無知で抜けめないが，半面，庶民的で独特のユーモアもあり，世界文学史上，性格描写の一典型として不朽である。

サン-ティティエンスせいどう【サン-ティティエンス聖堂】 フランス，カンにある代表的なロマネスク聖堂の一。正面の両側には二つの塔が並び，内部は3層の側壁構成で構築されている。1066年にウィリアム1世*によって着工され，1077年にいちおうの完成をみたが，のちにゴシック的な要素を取り入れて今日の形態に至った。ドイツ-ロマネスク盛期の代表的建築とされるシュパイエル聖堂の影響を顕著に示しており，ゴシック的な細部にもかかわらず，様式的にはロマネスクである。〔吉田玲子〕

さんていどうめい【三帝同盟】 1881年，ビスマルクが三帝協商の復活をもくろんで，ドイツ・オーストリア・ロシアの間に成立させた同盟。内容は，締約国の一つが締約国以外の国の攻撃を受けたとき，締約国は好意的中立を守ることを約束したもので，フランスの復讐(ふくしゅう)を警戒するドイツや，イギリスと各地で対立しているロシアにとって有利であった。期限は3か年とされ，1884年にさらに3か年延長された。

ざんていよさん【暫定予算】 新会計年度が開始されるまでに本予算が成立しない場合，それが成立するまでの間をつなぐために暫定的に設けられた予算をいう。つまり，予算が審議されるべき時期に，国会解散や災害その他で，国会の召集が不可能な場合，あるいは年度開始前に予算が可決されない場合には，新年度が開始されても実行すべき予算がなく，そのままにしておけば国の機能は停止することになる。そこで，このような事態を避けるために，短期間の予算を作成して国会に提出する必要が生ずる。したがって，暫定予算には日常的な国家機関の活動に必要な基準的経費のみが計上され，新規事項に属するものは計上されないとされる。本予算が成立したときは，暫定予算は失効し，暫定予算に基づく支出や債務の負担は，すべて本予算に基づいてなされたものとみなされる。〔西野義彦〕

サン-テグジュペリ［Antoine de Saint Exupéry］（1900〜1944） フランスの小説家。飛行士としての生涯(しょうがい)を送り，処女作《南方飛行便》，困難な夜間飛行操縦に従事する人々を描いた代表作《夜間飛行*》などは，その職業経験を通して生み出された。死に直面した人間を描きながら，そこに人間の尊厳を見いだし，行動と思索を探求する1930年代の代表的作家である。ほかに，エッセイ《人質への手紙》，童話《星の王子さま》など。〔池田公麿〕

サンテチエンヌ［Saint-Étienne］ フランス南東部，ロアール県の中心都市。人口21万3,000(1968)。リヨンの南西約60km，炭田地帯の中心に位置し，鉄鋼業が盛んで，フランス全土の3分の1を生産する。14世紀半ばから石炭を採掘しており，長くフランスの兵器製造の中心地となっていた。1828年フランス最初の鉄道がここアンドレジオの間に敷設され，1831年にはリヨンとも鉄道で結ばれた。リヨンと並ぶ絹織物の生産地でもある。〔梶川勇作〕

サンテリア［Antonio Sant Elia］（1880〜1916） イタリアの建築家。ワーグナー*らウィーン派の影響を受け，新都市の壮大な計画に取り組み，1914年ミラノで〈新傾向集団〉展に発表した。社会主義者であったといわれているが，建築や都市をささえる社会経済的な基礎の認識に弱点が感ぜられる。彼の計画による建築は，死後コモに実現されて，建築造形的には多くの示唆を投げかけている。〔川田伸紘〕

サンド［George Sand］（1804〜1876） フランスの女流小説家。孤独な少女時代を過ごし，結婚生活に失敗，文学を志した。男装の麗人として芸術家たちと交わり，特にミュッセ*やショパン*との恋愛事件は名高い。処女作《アンディアナ》など情熱賛美の

作品を経て，人道的な社会主義の小説《コンシェロ》を発表。さらに風景と人間心理を繊細に描く《魔の沼》など田園小説を書いた。やがて自叙伝《わが生涯(しょうがい)の歴史》を経て《ビルメール侯爵》など上流社会を描く作風へと発展。その作品歴は，幾度もの転変を遂げたが，人間への信頼に貫かれ，女性解放思想の先覚者でもあった。戯曲・童話・紀行がある。〔田島　修〕

サンドイッチ　[sandwich]　パンを薄切りにしてバターを塗り，間に鳥獣肉・レバー・卵・野菜・くだもの・ジャムなどをはさんだ料理。パンの上にものを載せたり，はさんだりして食べる風習は西洋ではかなり古い時代からあったが，アメリカ独立戦争ののち，イギリスの海軍大臣の職にあったジョン-モンタギュー-サンドイッチ伯(1718～1792)が非常にばくち好きで，食事をする間も惜しみ，パンにビーフをはさんだ食物を食べながら続けたということから，サンドイッチとよぶようになったといわれる。それゆえ，もとはパン２切れの間にビーフまたはハムをはさんだものをいったが，その後，多種類の材料・料理など，なんでもはさむようになり，現在では多くの種類がつくられている。材料も国々によって特徴があり，たとえば，フランスではオムレツ，ドイツではソーセージ，アメリカではチーズなどのサンドイッチがある。

《形態別種類》①材料をはさんだクローズドサンドイッチ，②上に材料を載せたオープンサンドイッチ，③ジャムやペーストなどを塗って巻いたロールサンドイッチ，④１食分の材料のひな鳥・レタス・トマト・マヨネーズなどを幾段にも重ねたアメリカふうのクラブサンドイッチ，⑤色彩を考えてパンと中身を重ねたイギリスふうのリボンサンドイッチなどがある。

《調理の注意》使用するパンは，できたてのものより１日経過したものがよい。薄く切りやすく，またバターを塗りやすいためである。一般にパンは0.5cmぐらいの厚さに切り，バター・からしバター・マーガリン・マヨネーズなどを塗った上に材料を載せるが，これは中身の材料の水分がパンにしみこむのを防ぐためでもある。中身の材料は水分の多いものは不適当である。サンドイッチは食べやすいように適宜に切り，美しく盛りつける。色彩的に変化を与えるためにパセリやレタスを添えるが，パンが乾燥するのを防ぐのにも役だつ。現在では，軽食・ティーパーティ・携帯用などに広く利用されている。〔泉　敬子〕

サンドイッチ(諸島)　[Sandwich Islands]　ハワイ諸島の古いよび名。ヨーロッパ人で最初の渡来者といわれるイギリスの航海家ジェームス-クック*が1778年にここを訪れたとき，当時のイギリス海軍提督であったサンドイッチ伯の名をとって名づけた。➔ハワイ諸島


山東京伝

サンドイッチばん　【サンドイッチ板】　異種の板状材料をサンドイッチのように重ね合わせて一体としたもの。複合板ともいう。表板は，ベニヤ・ハードボード・プラスチック・金属板・石綿セメント板などで，じょうぶで意匠にすぐれ，耐火性・音響特性・耐薬品性などの一つまたはいくつかを備えている。心材は，軽量化・断熱・保温その他のためにハチの巣状・波状のフェノール樹脂含浸の折り曲げクラフト紙や発泡(はっぽう)プラスチック・バルサあるいはひき割り材・波形石綿スレートなどのほか，種類は非常に多い。採光用の板としてプラスチックをハチの巣状のコアの両面に張った製品もある。また，表面にスポンジ状のプラスチックやコルクシートを積層した壁用仕上げ材もある。壁とか床の部位を構成するサンドイッチパネルもある。➔パネル　➔複合材料〔難波蓮太郎〕

さんとう(省)　【山東】　シャントン省　中国，華北東部の省。山東半島*と華北平野の一部を占め，東は黄海・渤海(ぼっかい)に臨む。河北・河南・安徽(あんき)・江蘇(こうそ)の各省と境を接する。面積は15万3,300km²。人口5,800万(1972年推)。省都は済南。４省轄市(済南・青島(チンタオ)・淄博(しはく)・棗荘(そうそう))，９専区，19市，107県を統括する。山東半島の海岸線は出入りが多く，煙台・威海・青島など，70にものぼる良港に恵まれる。黄河は省北部を北東流して渤海に注ぎ，流域に広大な黄土質沖積土(ちゅうせきど)の平野をつくっている。省中央部には泰山(1,532m)・魯山(ろざん)(1,080m)などを主峰とする山地があり，この西側に東平湖・独山湖・微山湖などが並んでいる。中国で最も早くから開発された地区の一つであり，耕地面積は省全面積の50%以上を占め，人口密度も高い。小麦・トウモロコシなど食糧作物のほか，綿花・ラッカセイ・タバコなど商品作物の産が多く，古来，山間では養蚕や柞蚕糸(さくさんし)(ヤママユガ科のサクサンの繭からとれる糸)の採取，沿海部では山東塩が生産されていた。地下資源にも恵まれ，石炭(淄博・棗荘・坊子)・鉄鉱石(金嶺鎮(きんれいちん))のほか，金・鉛などを産出する。また済南・青島などを中心として紡織・化学・食品・機械・ゴムなど近代工業も行なわれる。沿岸部では漁業が行なわれ，漁獲量は中国有数である。交通は西部を津浦(しんぽ)鉄道が走り，済南において東西に走る膠済(こうさい)鉄道(青島～済南)と合するほか，半島部に藍煙(らんえん)鉄道(藍村～煙台)がある。また，青島・煙台・威海・龍口(りゅうこう)などの良港は，旅大・営口・上海(シャンハイ)などと結ばれる海の玄関口となる。黄河下流では民船の交通も行なわれる。〔船越昭生〕

さんどう　【産道】　分娩(ぶんべん)時に胎児の通過する経路。骨盤および子宮頸部(けいぶ)・膣(ちつ)・外陰からなり，このうちの骨盤を骨産道，その他の部分を軟産道という。産道の大小・形状・硬軟により分娩の難易に影響するところが大きい。骨産道は入り口(骨盤入口部)は横に広く，出口(骨盤出口部)は，縦に長い曲がった管になっている。この寸法・形はレントゲン骨盤計測で正確に知ることができる。➔分娩

さんとうきょうでん　【山東京伝】　(1761～1816)　江戸時期の戯作者(げさくしゃ)。本名岩瀬醒(せい)，通称京屋伝蔵。画号北尾政演(まさのぶ)，狂号身軽織助。江戸深川の生まれ。浮世絵を北尾重政(しげまさ)に学び，黄表紙*《御存商売物(ごぞんじのしょうばいもの)》《江戸生艶気樺焼*(えどうまれうわきのかばやき)》，洒落本*(しゃれぼん)《令子洞房(むすこべや)》で流行作家になった。《通言総籬*(つうげんそうまがき)》は洒落本の最高傑作とされる。寛政の改革による洒落本発禁の罰を受けてのちは，教訓的な黄表紙や伝奇的な合巻*に転向。軽妙な機知にあふれるところは，江戸後期戯作者の典型とされる。合巻作者山東京山は弟，滝沢馬琴*は弟子(でし)にあたる。〔小池正胤〕

さんとうさい　【山東菜】　ハクサイの一品種。東京近郊で栽培され，つけ物に利用される。➔ハクサイ

さんとうしゅっぺい　【山東出兵】　国民政府*が中国統一のため北伐*を進めた際，日本軍が３回にわたって中国山東省に出兵した事件。1927年(昭和２)５月，蒋介石*(しょうかいせき)の率いる北伐軍が華北に及んだので，北伐を阻止する名目で田中義一*内閣は山東省に出兵させ，張作霖*(ちょうさくりん)を利用して華北・満州に勢力を増強しようとした。国民政府は強く抗議したものの，中国共産党との内戦のため一時北伐を中止し，内外の反対もあって日本軍も撤兵することになった。しかし翌1928年，再び国民政府軍が北伐を開始するに及び，田中内閣は第２次・第３次の山東出兵を行ない，国民政府軍との間に済南事件*を起こした。中国革命*途上において，日本が行なったこの軍事介入は，中国民衆の間に広範な排日運動をよび起こすことになった。〔高崎徳次〕

さんとうせいじ　【三頭政治】　古代ローマの共和政末期における３人の政治家・軍人の政治的同盟。三頭はBC42年にオクタビアヌス(のちのアウグストゥス*)ら３人が任命された〈国家建設三人委員〉の〈三人委員〉にあたるラテン語〈トリウムウィリ〉の訳

語であるが，それにちなんで，BC60年以後カエサル*らが結成した私的な同盟も三頭政治とよばれ，これを第1次，前者を第2次として区別する。

〈第1次三頭政治〉 BC60年，スペイン総督を終えて帰国したカエサルは，最大の実力者ポンペイウス*，最大の富豪クラッスス*と，3者それぞれの政治的野望を達成するために3人の力を貸し合う(具体的にはそれぞれの政治的勢力を動員しあって民会での投票で応援すること)という政治的密約を結んだ。この密約に従って，カエサルは翌年の執政官に立候補して当選し，BC58年に退職してから5年間，属州ガリアなどの統治権を獲得した。ポンペイウスは東方遠征に従軍した彼の退役兵に土地割り当てを許す法案の成立を勝ち取った。その後，3者の結合がゆるむと，BC56年ルカの会談で再確認した。それに従って翌年，ポンペイウスとクラッススは執政官となり，任期後5か年の属州統治権を獲得し，カエサルはガリア統治権をさらに5年間延長した。この取り決めに従って，クラッススはシリア総督となったが，パルチア遠征を企てて失敗し，BC58年戦死した。カエサルの娘でポンペイウスの妻となり両将の結合の環をなしていたユリアがBC54年に産褥死(さんじょくし)すると，第1次三頭政治は解体した。

〈第2次三頭政治〉 カエサルの暗殺後ローマに生じた政治的混乱を収拾するために，遺言状でカエサルの相談人に指定されていたオクタビアヌスは遊学先のギリシアから帰り，アントニウス*とレピドゥス*を加えて〈国家再建三人委員〉に任命された。これは，実質的に独裁官と同様の無制限の権限によって国家秩序の再建を図るものであった。3者は全属州を3分割し，オクタビアヌスがアフリカ・サルジニア・シチリアを，アントニウスがガリアおよび北イタリアを，レピドゥスがスペイン・南フランスを，それぞれ自己の管轄としたうえ，カエサルを暗殺した共和主義者の掃蕩(そうとう)に乗り出し，BC42年フィリッピの戦いでブルートゥス・カッシウスらの軍を破った。その後，3者の間には激しい勢力争いが続くが，BC40年とBC37年に三頭政治の再結合が図られた。BC36年レピドゥスが脱落，BC31年アントニウスはアクチウムの戦い*でオクタビアヌスに敗れて翌年自殺し，三頭政治は終わった。〔弓削　達〕

さんとうはんとう 【山東半島】 シャントン半島 中国北東部，黄海と渤海(ぼっかい)の間に突き出す半島。ほぼ東経190° 30′以東の地で，西部を黄河および淮河(わいが)による沖積地(ちゅうせきち)で囲まれ，主として片麻岩，古生層の岩石によって構成される。海岸線は出入りが多く，煙台・威海・青島(チンタオ)などの良港に恵まれる。内陸部は山が多いが，沖積地には耕地が広く開け，雑穀・果実を産する。人口は密で，多数の移民を出してきた。



サントス　サントス港の埠頭と接岸する日本船あるぜんちな丸。引き込み線・クレーン・倉庫など港湾施設が整っている



サントドミンゴ　市街とサントドミンゴ港の遠望。スペインふうの町は美しく，近代建築もふえ，港は活気を呈している

サントゥール [santur] イラン(ペルシア)のチター系の打弦の弦鳴楽器。等脚台形の木製の箱の上に約80本の金属弦を平行に張り，4弦ずつ1組み1音に調律する。水平に構えて，両手に持った木製のばちで弦をたたいて奏する。3オクターブ以上の音域をもつ。きらびやかな音効果をもち，即興演奏が基本となっている。同じ系統の楽器は中近東から東ヨーロッパに広く流布する。

サントクレール-ドビル [Henri Stiennes Sainte-Claire Deville] (1818〜1881) フランスの化学者。テナール*に学ぶ。パリ大学教授。1849年五酸化窒素を発見。1854年アルミニウムの工業的製法を発明。高温における熱解離を研究し，気体反応から化学平衡の概念を明らかにした。

サントス [Santos] ブラジル共和国南東部にあり，リオデジャネイロに次ぐこの国第2の港市。人口34万1,000(1970)。ブラジルコーヒーの積み出し港として発展した。北西の内陸にある経済・産業の中心都市サンパウロの外港の役割を果たし，港は外洋から5kmはいりこんだ狭い水道の奥にあり，風波から守られた良港である。市街は熱帯低地に位置するが，暑熱はきびしくなく，日本移民は，これまでここから内陸に向かい，今日，約2,000人の在留邦人が居住している。〔小栗　宏〕

サンド-スキー [sand ski] スキーの滑走面に油を塗って，砂丘の斜面を滑降するもの。ウインタースポーツであるスキーを，雪のないシーズンに楽しみたいというところから生まれたもので，わが国でも，千葉県の御宿海岸や鳥取砂丘などで行なわれる。

サントドミンゴ [Santo Domingo] 西インド諸島，ドミニカ共和国の首都。人口67万3,000(1970)。1961年まではトルヒーヨとよばれた。スペインが新世界に建設した最初の植民都市として知られ，古風で美しいスペインふうの建築が多く残っており，中でも1540年に建てられた寺院にはコロンブスの壮麗な墓がある。ほかに，南北アメリカにおける最初の本格的な病院として知られるサンニコラス病院などゆいしょある多くの建築がある。ドミニカ最大の港市で，砂糖・コーヒー・カカオ・バナナ・タバコ・ラッカセイ・ボーキサイト・鉄鉱石・セメント・木材などを輸出する。政治・経済・交通・文化の中心でもある。〔小栗　宏〕

サントニン [santonin] セメンシナ*の花やミブヨモギ*などに含まれる薬用成分で，駆虫薬として使われる。白色の結晶で，光によって黄色になる。特に回虫に有効であるが，その作用は寄生虫を死滅させるのではなく，麻痺(まひ)させるだけなので，緩下剤を併用して排出させる。副作用として，黄視現象や味覚・嗅覚(きゅうかく)の異常があり，多量服用すると嘔吐(おうと)・腹痛・てんかん様けいれん・血尿などが起こる。通常1回の服用量は0.1g，連続服用するときは就寝前と朝食前にする。劇薬。〔中館正弘〕

サンドバーク [Carl Sandburg] (1878〜1967) アメリカの詩人。家が貧しく，苦学し，さまざまな職業に従事しながら詩作を続け，《シカゴ詩集》を発表，大都会と民衆を卑俗なことばをも取り入れた自由詩で力強くうたいあげ，民衆詩人といわれた。ほかに《とうもろこしの皮むきたち》《煙と鋼鉄》などの詩集と膨大な伝記《リンカーン伝》がある。

さんどびきゃく 【三度飛脚】 ⇨飛脚

サント-ブーブ [Charles Augustin Sainte-Beuve] (1804〜1869) フランスの詩人・批評家。ユゴー*とともにロマン主義の運動に参加，《16世紀フランス詩歌および演劇の歴史的批評的概観》で世に出，詩集《ジョゼフ-ドロルムの生涯(しょうがい)，詩および思想》や小説《愛欲》などを発表した。のち批評に専念，《現代作家の肖像》などでロマン主義を離れ，印象批評と科学批評を結んだ独自な批評を展開。柔軟な批評精神と深い人間観察をその作品の中に体現して，近代批評の父とよばれた。主著に《月曜閑談》がある。〔池田公麿〕

サンドブラスト［sand blast］鋳造において，鋳物の表面に圧縮空気によって砂を吹きつけ，付着している砂や酸化物などを除去して，表面を清浄にする機械。鋳物の中空部の狭いところに付着した砂でも，有効に除くことができる。

サンドポンプ［sand pump］泥砂(でいさ)や濁水を輸送するためのポンプ。満水したケーシング内で羽根車を回転させ，水に遠心力を与えて圧力を生じさせ，その力で吸い上げる方式をとり，普通のうず巻きポンプよりじょうぶにつくられている。形には，横形・つり下げ式などがある。一般には建設工事の排水工用として用いられているが，大形のものをポンプ船に取り付けて埋め立て工事にも用いられる。

サントーメ(島)［São Tomé］別名セントトーマス島。西アフリカ，ギニア湾の赤道付近にあるポルトガル領の火山島。プリンシペ島と合わせて，1975年ポルトガル領からサントメプリンシペ民主共和国として独立した。面積964 km²，人口9万(1978年推)。首都はサントメ。最高点はピゴデサントーメ山の2,024 m。かつて奴隷貿易がこの地で盛んであった。その後奴隷取引の中心がアフリカ大陸に移ってからは，サトウキビ栽培が盛んになったが，ブラジルで砂糖が大量に生産されるようになると衰退した。19世紀には，コーヒーとカカオのプランテーション*が広がり，1908年には世界のカカオ生産の6分の1を占めた。〔大崎　晃〕

サントリオ［Santorio Santorio］(1561～1636) イタリアの医学者・生理学者。カポディストリアの生まれ。パドバ大学を卒業し，主として同大学で研究。生理学における定量的研究の開拓者。人間の水分収支を測定し，無覚発汗の存在を明らかにした。温度計を最初に医学に使用した人でもある。

サンナゼール［Saint-Nazaire］フランス西部，ロアール川の河口北岸にある都市。人口63,000(1968)。東方にあるナントの外港の役割を果たす。フランス最大の造船所があり，鉄鋼業が盛んである。

さんにんかたわ【三人片輪】狂言の曲名。大蔵流・和泉(いずみ)流にある。雑狂言。わけあって不具者を召しかかえようという有徳人(大金持ち)のもとへ，一文なしになった3人のばくち打ちが，盲・いざり・おし(シテ)を装って次々と訪れ，召しかかえられる。金持ちが3人を信用しておのおのに絹と銭と酒の蔵を預けて外出すると，にせかたわたちは，すぐさま本性を現わし，酒を飲み，ばくちをし，絹を盗んで逃げようと相談をまとめ，まず酒蔵で酒宴を始める。ところが，歌ったり舞ったりしているさいちゅうに主人が帰宅。あわてた3人は，盲がおしに，いざりが盲に，おしがいざりにそれぞれ変装をまちがえ，金持ちに追い込まれる。かたわ者やばくち打ちなどを素材にしながら，明るく楽しい曲になっているのは，曲の眼目が酒宴の場にあるからだろう。かたわ者の3人に腕ききの演者がそろう。〔片桐　登〕



三人吉三廓初買　3世歌川豊国の錦絵から，お坊吉三(初世河原崎権十郎)とお嬢吉三(3世岩井久米三郎)万延元年正月14日市村座にて上演

さんにんきちさ【三人吉三】⇨次項

さんにんきちさくるわのはつかい【三人吉三廓初買】歌舞伎(かぶき)の脚本名。通称〈三人吉三〉。別名題《三人吉三巴白波(ともえのしらなみ)》。河竹黙阿弥*(かわたけもくあみ)作。1860年(万延1)市村座*初演。女装の盗賊お嬢吉三が大川端(おおかわばた)で独白する〈月もおぼろに白魚の〉の名せりふで知られる世話物*。このあと，お嬢がお坊吉三・和尚(おしょう)吉三と義兄弟の契りを結び，同じ吉三と名のる3人の盗賊が100両の金をめぐって展開する複雑な因果物語である。

さんにんしまい【三人姉妹】チェーホフ*の4幕の戯曲。1900年の作。地方都市に住む3人の姉妹オリガ・マーシャ・イリーナのもとに，亡父の縁で軍人たちが訪れ，恋が芽ばえる。彼女たちはモスクワへ帰ることと，俗化した兄アンドレイが大学教授になることを夢みているが，夢は次々にくずれ，醜い現実が現われる中で，姉妹は，絶望を乗り越えて生きることの意味を見いだしていく。

さんにんほうし【三人法師】御伽草子*(おとぎぞうし)の一。《三人懺悔冊子(ざんげそうし)》《三人僧》ともいう。高野山で修行する僧3人の出家遁世(とんせい)談。恋女房を盗賊に殺され，その菩提(ぼだい)を弔うために出家した僧(第1話)と，その盗賊こそは自分であり，悪行を後悔して出家したと告白する僧(第2話)との奇遇，楠木正儀(くすのきまさのり)の北朝降参事件をからませながら，出家後もなお家を捨てきれぬ人間の弱さを嘆く僧(第3話)の話からなる。御伽草子中の白眉(はくび)と称される。〔信太　周〕

さんにんわらい【三人笑い】⇨新薄雪物語

さんのうしんこう【山王信仰】日吉(ひえ)神社(山王社)の祭神，山王権現に対する信仰。全国に広く分布する日吉神社の本宮は滋賀県大津市坂本町にあり，天台宗総本山延暦(えんりゃく)寺の鎮守神として歴代皇室の崇敬を受けてきた。山王とは霊山を守護する神霊をいい，もともとは山の神の意味である。昔，比叡山の山法師たちがこの神の神輿(みこし)を奉じ，神話と称して朝廷に強訴したことはよく知られる。天台宗の教線拡大に伴い，山王権現は各地に勧請(かんじょう)されたが，東京都千代田区永田町(ながたちょう)にある日枝(ひえ)神社*は江戸城鎮護の神として文明年間(1469～1486)に勧請されて以来，〈山王さま〉とよばれて市民に親しまれてきた。なお，山王権現の使わしめはサルと伝えられ，そのため山王社の祭を申(さる)の日に選んで行なう神社が少なくない。また，山王権現は安産・子育て・縁結びなどに霊験があるとされている。〔直江広治〕

さんのうとうげ【山王峠】栃木・福島県境にある峠。標高902 m。会津若松から阿賀(あが)川沿いに田島を経て鬼怒川(きぬがわ)温泉と結ぶ国道121号線が通ずる。日光地方と会津盆地との最短路で，幕末の戊辰(ぼしん)戦争のとき激戦地の一つとなったところ。

さんのうとうげ【山王峠】栃木県日光の戦場ケ原の北にある三岳の東の峠(標高1,739 m)。南側には光徳牧場があり，峠の北側には刈込湖と切込湖がある。

さんのうまつり【山王祭】⇨日吉(ひえ)神社　⇨日枝神社

さんのうれいげんき【山王霊験記】日吉(ひえ)山王の創立の由来・霊験などを叙した絵巻。遺品のうち，一つは静岡日枝神社蔵の1巻で，奥書きに弘安(こうあん)11年(1288)とある。剝落(はくらく)著しいが，柔らかい描線と細密な描写などに当時の大和絵(やまとえ)の一面を伝え，後二条関白師通(もろみち)のこうむった神罰を記している。ほかに，叡山(えいざん)の僧侶(そうりょ)の伝にのっとった京都蓮華寺本(れんげじほん)(久保家蔵)2巻と，滋賀生源寺本1巻，穎川家本(えがわけほん)1巻。ともに室町期の作で，六角寂済(せきさい)筆と伝えられる。〔村重　寧〕

さんのつづみ【三鼓】雅楽の高麗楽(こまがく)に特有の打楽器。唐楽で用いられる羯鼓*(かっこ)と同じように，合奏で指導的な役割をもっている。羯鼓より大きく，ばちは右手にだけ持って打つ。

さんのへ【三戸(町)】青森県三戸(さんのへ)郡に属し，同郡の中心をなす。人口17,000。馬淵(まべち)川とその支流の熊原(くまはら)川の合流点に位置し，昔は奥州街道の宿駅として栄えた。南部氏発祥の地といわれ，東北本線三戸駅の近くの丘陵上がその居城址(きょじょうし)という。平安朝時代の〈住谷野の牧〉はここを中心とした地で，古来名馬の産地であったが，現在は養豚や養鶏がこれに代わっている。蔬菜(そさい)栽培および紅玉種を主とするリンゴ栽培が盛んである。

さんのみや【三宮】神戸(こうべ)市の東部，生田区にある市内随一の繁華街。1931年

(昭和6)東海道本線の高架切り換えで三宮駅が現在地に設けられ，京阪神(けいはんしん)急行・阪神の両電鉄も乗り入れて，沿線地区の住宅化が進み，東神戸のターミナルとして急激に発展した。第2次世界大戦後は，旧生田川沿いに市役所・神戸新聞社が進出し，国際会館・交通会館などが新設されて神戸市の政治・文化の中心市街となった。中心商店街の三宮センター街は，十合(そごう)・大丸両百貨店を結ぶ地の利によって発達し，広大な地下商店街がつくられた。付近には映画館・劇場・飲食店などが軒を連ね，元町*をしのぐにぎわいをみせている。　〔浅井得一〕

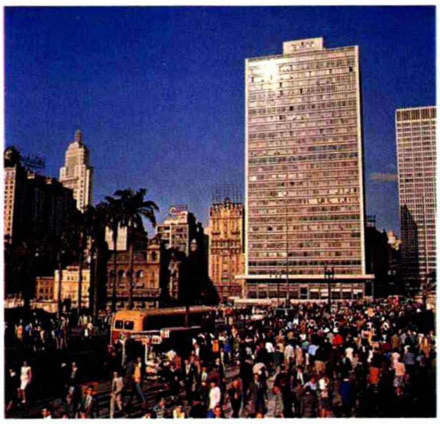
サンバ　[samba]　ブラジルを代表する音楽。基本リズムは2拍子で，バランソ(ジャズのスイングに相当する)とよばれる揺れるような独自のリズム感覚をもっている。その起源は，さまざまの打楽器のリズム伴奏と歌で行列して踊る集団ダンスにある。世界的な観光名物になっているリオデジャネイロのカーニバル*の行列はこの型を受け継いだもの。これが都会ふうに洗練されて社交ダンスのサンバが生まれ，リズムを弱めてテンポをおそくした歌謡曲としてのサンバも盛んにつくられている。世界的に有名な曲に《ブラジル》《チコ-チコ》《バイア》などがある。なおアルゼンチンの民俗音楽サンバはこれとは別である。〔中西義郎〕

さんば　【産婆】　出産を助けたり，出産前後に産婦のめんどうをみたり，出生児の世話をする女性。とりあげばば・ひきあげばば・こずえばばなど，地方によって名称が異なる。産婦のおば・母親などがこれにあたることもあるが，多くは部落で助産のうまい老婆がなった。帯祝い(→岩田帯)にあたって頼むことが多く，それ以後産屋(うぶや)祝い・名付け祝い・宮参り・誕生祝い・初節供などにも正客として招いた。出生児と産婆は，仮親と子の関係を結ぶ地方もあった。→助産婦　〔渡辺欣雄〕

さんぱい　【酸敗】　食用油その他の油脂食品，またこれらを用いてつくった加工食品が，油脂の変化によって食用に適しなくなる現象。原因は，油脂の酸化によって過酸化物を生じ，さらに進むと分解してアルデヒド*やケトン*類を生ずるため，また加水分解によって低級の脂肪酸*になるためである。酸敗を防ぐには，酸化防止剤を利用するほか，低温で乾燥した光のあたらない所で空気と接触させないように貯蔵するのがよい。　〔佐藤友太郎〕

さんばいず　【三杯酢】　合わせ酢*の一種。等量の酢・しょうゆ・酒を混ぜて煮たものをさまして用いる。酢にだし・しょうゆ・砂糖・塩を合わせることもある。魚貝類・野菜類の酢の物に用いられる。

さんばいたい　【三倍体】　3組のゲノム*をもつ倍数体。二倍体と四倍体の交配によって得られる。相同染色体が3本あるため，成熟分裂で染色体が接合するのは通常そのうちの2本だけで，残り1本はそのまま一方の極にいく。したがって，三倍体の配偶子のほとんどはどの染色体かが余分にはいっている。このような配偶子が受精すれば，接合体の生理に狂いを生じ，正常な発育を遂げることはむずかしく，ほとんど例外なく生殖力がないかまたは著しく低い。タネナシスイカはこれを応用したものである。　〔北川　修〕



サンパウロ　市の中心街と市民の雑踏。近代的な超高層ビルが林立するが，スペインふうの古い建築物も残っている。ブラジルで最も日系人の多い町である

サンパウロ　[São Paulo]　ブラジル共和国南部にある主要都市で，サンパウロ州*の州都。人口518万7,000(1970)。標高790mの高所だが温暖な気候で，ブラジル高地で栽培されるコーヒーの集散地として発展し，今日ではこの国の経済・産業の中心都市に変わりつつある。1948年から始めたブラジル経済建設5か年計画やメッタ計画による農業・工業・鉱業の拡充発展の際，サンパウロは計画の中心地となった。また，ブラジル移民の受け入れ基地でもあり，人口の社会増加もめざましく，1888年にはわずか30,000であったが，1910年37万，1940年132万，1957年315万，1963年430万と激増している。産業面では，ブラジルの400余の綿工場のうち約半数がここにあるほか，食料品加工や金属工業も盛んである。近年，新興工業地帯が港市のサントス*と結ぶハイウエーに沿って建設されている。　〔小栗　宏〕

サンパウロ(州)　[São Paulo]　ブラジル南部にある州で面積37,289km²，人口1,777万2,000(1975)。ブラジル高原の南部の一角を占め，大西洋に臨む狭い海岸平野と高原をもち，亜熱帯から熱帯にまたがるが，海抜800～900mの高度のため涼しくて住みよい。この国の綿の生産の70%，砂糖の50%，コーヒーの33%を占め，60,000を越える工場も全国工業生産額の半ばを占めて，政治・経済上，最も重要な州である。また，この国最大の貿易港サントス*を有し，西ヨーロッパ各国や日本からの移民が集中し，約20万の日系人がいる。〔小栗　宏〕

さんばがわへんせいたい　【三波川変成帯】　中央構造線*の南側に平行して，関東山地から九州まで連続して分布する中程度以下の変成作用*を受けた変成帯。北側は中央構造線で限られているが，南側は変成作用を受けていない古生層に漸移するようで明瞭(めいりょう)でない。源岩は上部古生層で，変成作用の起こった時期については中生代末，古生代末～中生代初期，古生代末～中生代末とする諸説がある。

さんばし　【桟橋】　船を横づけするための構造物，すなわち係船岸の一種で，脚部の上に梁(はり)を掛け，床を張った構造のもの。陸岸からほぼ直角に突き出し，その両側に船を接岸する突堤桟橋と，陸岸に沿った横桟橋(片桟橋ともいう)とに大別される。桟橋は，軽い構造なので軟弱地盤のところにもつくれるし，また耐震的設計もしやすい。ただし，突堤桟橋は船の衝撃にいくらか弱いこと，大きな上載荷重には耐えがたいこと，横桟橋は他の様式の係船岸に比べて一般に工費がかさむ傾向があるなどの欠点もある。川筋などで適当な水深のところまで突き出したあと岸に平行につくり，その沖側だけに接岸させる島桟橋は，構造的には突堤桟橋と同様である。〔佐島秀夫〕

さんばそう　【三番叟】

1 能の別格の曲目である《翁*(おきな)》の後半部分の舞いおよびその部分の舞い手である狂言方の役の名称。構成には種々変遷があったが，現在の構成のあらましは次のとおりである。まず三番叟の役は《翁》の曲のはじめに登場する。しかし，前半はなにもすることなく控えている。後半になり3人の小鼓と1人の大鼓で烈しく囃(はや)しだすと立ち上がり，喜々として躍動的に舞いはじめる。次いで老人面黒色尉(こくしきじょう)をつけ，面箱持ちと簡単な問答をしてから鈴を受け取り，それを振りながら，はじめはごくゆるやかに，しだいにテンポを速めて舞って終わる。

2 歌舞伎(かぶき)舞踊の曲名および登場人物名。能の《翁》は，若衆歌舞伎時代から歌舞伎に輸入されていたが，大衆は荘重味のある《翁》の前半の部分よりも，軽妙洒脱(しゃだつ)で滑稽味(こっけいみ)のある後半の三番叟の部分のほうに親しみを感じていたので，歌舞伎では三番叟の部分だけを踊るようになり，《舌出三番(しただしさんば)》《操三番(あやつりさんば)》など三番叟物と称される一連の音楽および舞踊劇を生むようになった。中村座・市村座・新富座にあっては，300年間，毎朝開演に先だって，三番叟を踊ることを常としていた。この曲の根本精神が，天下太平・国土安穏を祈願するところにあることによる。　〔佐藤　薫〕

さんぱちしきほへいじゅう　【三八式歩兵銃】　旧日本陸軍の代表的小火器。1905年(明治38)に試作が完成し，翌年正式採用さ

れた。30年式歩兵銃を改良したもので，口径6.5mm，最大射程2,000m，槓桿(こうかん)式5発装塡(そうてん)の連続発射，弾道の低伸と命中精度が良好であった。


三八式歩兵銃

サン-バルテルミーのぎゃくさつ［サン-バルテルミーの虐殺］ ⇨聖バルテルミーの虐殺

サンパン［sampan］ 中国・マライ半島・東インド方面で用いられる小形船。甲板がなく平底で船首が低く，船尾は高く傾斜している。手こぎのものと帆走するものとがあり，陸と船の間の交通用として用いられる。なお一般に，港内や河川で用いられる通い船・伝馬船(てんません)・はしけなどのこともいう。

さんはんきかん［三半規管］ ⇨半規管

さんぱんごはんうんどう［三反五反運動］ 中華人民共和国の初期，主として資本家とそれと結んだ政府幹部の不正に反対し，規律を正す運動。1951～1952年，中国は朝鮮戦争に義勇軍を送ると同時に，国内で増産・節約運動を起こしたが，その過程で，全国の企業・機関に不正がはびこっていることが明らかになった。三反とは，汚職・浪費・官僚主義に反対することであり，五反とは，贈賄，脱税，国家資財の横領，原料のごまかし，国家経済情報の盗み取りに反対することをいう。当時は〈新民主主義経済〉といって，資本家の利益を一面では制限しつつ，一面では彼らの活動を利用する，複雑な性質をもつ政策のとられた過渡期であった。中国が社会主義へ移行するためには，労働者の国家建設事業に対する責任と規律，特に資本家に対する指導性を自覚させることが重要な課題であった。共産党がこの運動を起こしたのは，このような教育効果を意図したためである。〔斎藤秋男〕

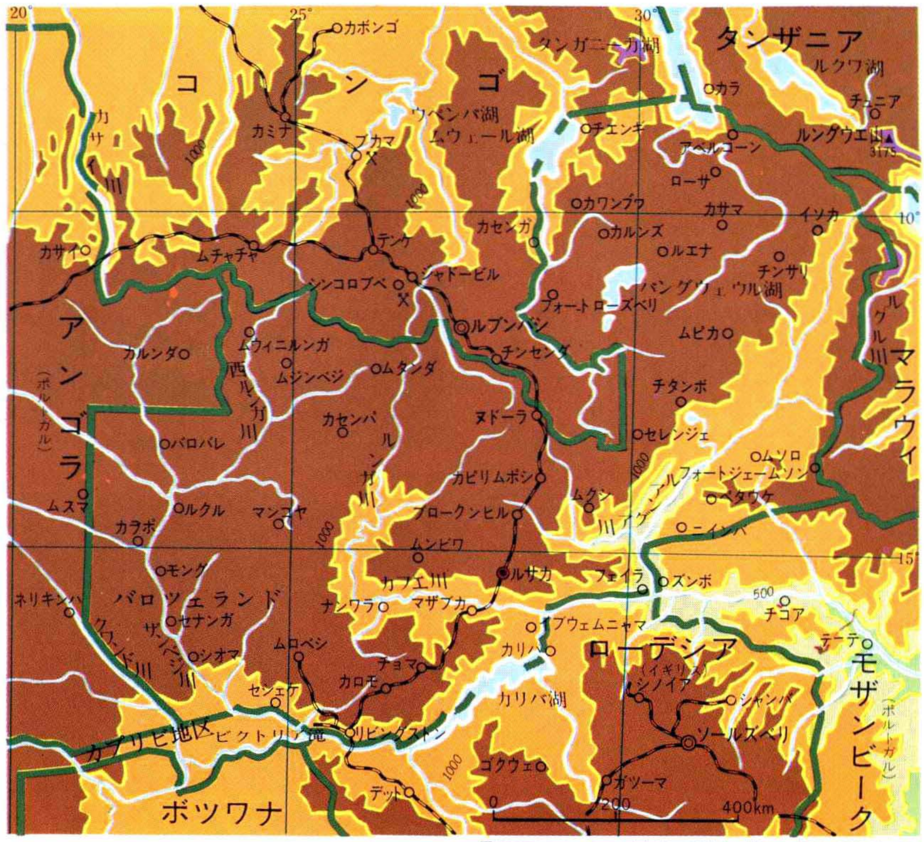
さんぱんのらん［三藩の乱］ 中国，清(しん)初の反乱。清初に明(みん)から帰順して清の中国平定に功をたてた呉三桂(ごさんけい)・尚可喜(しょうかき)・耿継茂(こうけいも)（その子耿精忠）は王爵を与えられて雲南・広東(カントン)・福建に駐し，三藩といわれた。彼らは強大な権力を奮い，しだいに清と対立するようになった。1673年康熙帝*(こうきてい)の中央集権政策に対し，呉三桂がまずそむき，他の2藩がこれに応じ，台湾の鄭(てい)氏もこれに通じて大乱となったが，1681年鎮定され，清の中国支配がここに確立した。

〔若松　寛〕

ザンビア(共和国)［Republic of Zambia］ アフリカ南部，コンゴ盆地の南に連なる高原の内陸国で，イギリス連邦に属す。面積75万2,614km²，人口565万(1978年推)。首都ルサカ。

〔自然・住民〕アフリカ南部最大の川であるザンベジ川の上流を占め，北東部には1,500mの高度をもつタンガニーカ高原が広がる。コンゴ共和国との国境地域は熱帯多雨林気候で年降水量1,200mmを越えるが，南部は11月から3月に雨季をもつサバナ気候で，年降水量は500～800mm程度。原住民は人口約220万のバンツー系の黒人で，約60の部族に分かれ，粗放的な農耕・牧畜・狩猟・漁労などを行ない，北東部の鉱山労働者として働く者も多い。また鉱山関係者を中心に約65,000人のオランダ系白人もいる。人口の2割はキリスト教徒だが，原住民の多くは各種の原始宗教を信仰している。

〔産業・経済〕第1次世界大戦後，南アフリカ連邦からはいりこんだオランダ系ヨーロッパ人とイギリス資本の南アフリカ会社の手で鉱山の開発が行なわれた。現在，銅は世界生産の11％を占め，この国の輸出額



ザンビア

300万人以上の都市　100～300万人の都市　50～100万人の都市
10～50万人の都市　5～10万人の都市　5万人未満の都市　首府　油田


ザンビアの国旗　1964年制定。赤は自由のための闘争，黒は国民，オレンジ色は鉱物資源，緑は天然資源を表わす。ワシは自由と国内の諸問題を処理していく能力の象徴とされ，北ローデシア時代の旗に描かれていたものである



首都ルサカのスナップ。外国商社や銀行の建物，おびただしい自動車の駐車など，町には新興国の気運がみなぎっている

の約90％を占める。1964年の独立後，鉱山開発権は政府の所有となったが，なおイギリス・アメリカ合衆国の資本が残っている。このほか西南部の盆地内で栽培されるタバコも重要な輸出品の一つである。内陸国のため，物資は鉄道でポルトガル領アンゴラか南アフリカ共和国の港を利用する。

【歴史・政治】1884年イギリスの政治家セシル-ローズがイギリス南アフリカ会社を設立し，ザンビア西南部の有力部族の酋長(しゅうちょう)と協定を結び，鉱山開発権を得た。またこの地域をイギリスの保護領とし，付近の地域を含め，ローズの名にちなみローデシアとよんだ。1924年会社はこの地域をイギリス植民地省の管轄下に置き，1945年には南ローデシア・ニアサランドとともに中央アフリカ連邦をつくり，イギリス連邦内の自治領となった。しかし南ローデシアはイギリス系白人の力が大きく，当時北ローデシアとよばれたザンビアはオランダ系白人の人口が多く，ニアサランドは黒人の自由がかなり認められていたので，まず1953年には南ローデシアが分離したのち，1964年に北ローデシアが独立して，ザンベジ川の名にちなんでザンビア共和国となった。黒人との間も平和的に共存を保つ。議会は一院制。公用語は英語。　〔小栗　宏〕

サン-ピエトロだいせいどう　【サン-ピエトロ大聖堂】　ローマのバチカンにあるカトリック教会の本山。旧大聖堂は４世紀初めにローマ皇帝コンスタンチヌス１世の建立になるが，現在の建物は15世紀の再建である。1452年に新工事が始まったが途絶，16世紀にブラマンテの案に沿って再開，彼の死後ラファエロ・ミケランジェロの手を経て17世紀になってようやく今日の形をなすに至った。17世紀後半にベルニーニの円柱回廊が加えられたが，実に３世紀もの月日が完成までに費やされ，したがって諸様式の粋が複合されて，内部の壁画・美術品も質が高く量も膨大をきわめている。　〔吉田玲子〕

サン-ピエール　［Abbé de Saint-Pierre］（1658～1743）フランスの聖職者・政治思想家。本名シャルル-イレーネ-カステル。1695年ティロン僧院長およびアカデミー会員。1712年枢機卿(すうきけい)ポリニャックの秘書としてユトレヒト平和会議に出席し，翌1713年《永久平和の草案》を出版し，カントら後代の平和論者の先駆となる。1718年《多元会議制(摂政の代わりに顧問会議をもってする制度)を論ず》で，当時の政治・法律・社会制度に鋭い批判を加えたため，アカデミーから追放された。ルソーに大きな影響を与えた。　〔石井忠厚〕

サンピエール（島）　⇨サンピエール-エ-ミクロン諸島

サンピエール-エ-ミクロン（諸島）［Saint Pierre et Miquelon］　北アメリカ北東岸，ニューファウンドランドの南方にある



ザンビア　ルサカ郊外にある化学肥料工場。日本の大企業と地元ザンビアとの合資によって建設された



サン-ピエトロ大聖堂



サン-ビターレ大聖堂　モザイク壁画の〈キリストと二天使〉

二つの島。面積240km²。人口約5,000人。フランスがかつて北アメリカ大陸にもっていた広大な植民地のなごりで，現在もフランス領。カコウ岩質の基盤からなり，植物は少ない。付近を流れる暖流のメキシコ海流のため沿岸は冬も不凍。西方にミクロン島，東方に良港があるサンピエール島が並び，好漁場のグランドバンクを控えて，タラの漁獲が多く，塩乾魚とかんづめを産する。漁期にはフランス本国から出漁してくる漁船も多くにぎわう。16世紀の初めにバスク人の漁夫が最初に渡島して，1660年からフランス人の漁夫が定住を始めた。その後イギリス・フランス間で領有をめぐって争ったが，1814年のパリ条約でフランスの領土であることが認められた。近年カナダへ移住する島の青年が多く，人口が減少している。　〔大崎　晃〕

さんびか　【賛美歌】　ギリシア語のヒュムノスに由来するヒムの訳語で，ギリシアでは広く神々や自然を賛美する歌であったが，中世以降はもっぱらキリスト教徒が神をたたえる歌をさすようになった。カトリックの聖歌，イタリアのラウダ，ドイツのコラールなどが含まれる。日本では，主としてプロテスタントの日本基督(キリスト)教団が編纂(へんさん)したイギリスやアメリカの歌が賛美歌として知られ，歌いやすい旋律，各声部がいっしょに動くリズム，慣用的な和声進行などによって，会衆に親しまれている。なお，ゴスペルソングのような新しい賛美歌を作ることもしだいに盛んになりつつある。　〔徳丸吉彦〕

さんビーせいさく　【３Ｂ政策】　第１次世界大戦直前，ベルリン・ビザンチウム（イスタンブール）・バグダットを結ぶドイツの世界政策。ドイツは19世紀末以来，近東方面への進出を図り，ベルリンを起点にバルカン半島・小アジアを経てペルシア湾に至る３Ｂ鉄道の建設を計画した。この計画はしばしばイギリスの３Ｃ政策やロシアの南進政策と激しく衝突し，国際的危機を深める結果となった。

サン-ビターレだいせいどう　【サン-ビターレ大聖堂】　イタリア，ラベンナにあるビザンチン様式の教会堂。530年ごろ，ビザンチン帝国皇帝ユスティニアヌス１世とその妃テオドラが建立。ボールトをいただく八角形の聖堂はコンスタンチノープルの様式の影響を受けた点もあるが，ラベンナ独自の建築家たちの考案になるものとする学説もある。有名な内部のモザイクは，全体に緑色がかった諧調(かいちょう)をもつ。

さんぴつ　【三筆】　平安時代の初めの書のじょうずな嵯峨(さが)天皇・空海・橘逸勢(たちばなのはやなり)の３人。また，藤原行成・藤原行能(ゆきよし)・藤原行尹(ゆきただ)を〈世尊寺の三筆〉，近衛信尹(このえのぶただ)・本阿弥(ほんあみ)光悦・松花堂昭乗を〈寛永の三筆〉，隠元・木庵性瑫(もくあんしょうとう)・即非如一(そくひにょいち)を〈黄檗(おうばく)の三筆〉，市河米庵(いちかわべいあん)・巻菱湖(まきりょうこ)・貫名菘翁(ぬきなすうおう)を〈幕末の三筆〉という。

さんビーてつどう　【３Ｂ鉄道】　20世紀初めにドイツが計画したベルリン～ビザンチウム(イスタンブール)～バグダット間の鉄道計画路線。19世紀から20世紀初頭にかけてのドイツはバルカン半島から小アジア方面への進出を企て，そのために鉄道建設の計画を立てたが，第１次世界大戦に敗れて成功しなかった。

さんひめ　【三姫】　歌舞伎(かぶき)用語。人形浄瑠璃(じょうるり)から移された歌舞伎狂言に登場するお姫様役のうち，最も演技がむずかしいとされている３種の役。《本朝二十四孝》の八重垣(やえがき)姫，《鎌倉三代記》の時姫，

《祇園(ぎおん)祭礼信仰記》の雪姫がそれで，丸本歌舞伎に登場するほかのお姫様役が概して類型的であるのに対し，主役ともいうべき重要な役として描かれている。

サンフアン ［San Juan］ プエルトリコの首都。人口45万3,000(1970)。プエルトリコ島北岸にあり，サンファン湾口の小島と本島にまたがって市街が発達している。新大陸で建設年代の最も古い都市の一つで，プエルトリコの交通・運輸・産業などの中心地である。タバコ・ゴム・砂糖の輸出港で，国際空港・プエルトリコ大学もある。

サンフアン ［San Juan］ アルゼンチン中部，アンデス山脈のふもとにある都市。人口11万3,000(1975)。同国の奥地における商工業と地方行政の中心で，近郊ではブドウ栽培と牧牛飼育が盛んで，市内にはぶどう酒醸造工場や，肉牛の取引所がある。チリ国境に近く，チリとの交易も盛んである。1944年の大地震でひどい被害を受けたが，すでに復興している。

さんぶいっそうのほうなん 【三武一宗の法難】 中国で，儒教や道教の立場から，仏教を弾圧した四つの事件の総称。446年の北魏(ほくぎ)の太武帝，574年の北周の武帝，844年の唐の武宗，955年の後周の世宗の場合をさす。中でも唐の武宗の事件は〈会昌(かいしょう)の廃仏〉といわれ，隋(ずい)・唐に形成された宗派仏教の衰退を招く原因となった。

さんぷう 【杉風】 (1647～1732) 江戸前期の俳人。杉山(すぎやま)氏。通称鯉屋市兵衛(こいやいちべえ)。別号に採荼庵(さいだあん)・蓑翁(さおう)・一元など。幕府御用の魚商で，芭蕉(ばしょう)が江戸に下った初期からその生活面を助け，1680年(延宝8)の《常盤屋句合(ときわやのくあわせ)》などを通して蕉風の形成・確立に参加。その篤実の人がらは芭蕉から〈東三十三国の俳諧奉行(はいかいぶぎょう)〉と信頼された。

サンフォライズかこう 【サンフォライズ加工】 綿織物の防縮加工の一種。アメリカのサンフォード社の開発した方法で，1934年ごろから実用化された。その装置はフェルトの曲面に織物をあてて回転させ，これが平面になるときに縮むよう，シリンダーの間で固定される機構になっている。こうして十分縮ませて仕上げるので，その収縮率は1％以下を保証している。シャツ地・ブラウス地などに応用されている。

さんぶかい 【三部会】 フランスの身分制議会。僧侶(そうりょ)・貴族・第三身分をそれぞれ代表する議員によって構成されたのでこの名がある。1302年，フィリップ4世が教皇ボニファキウス8世と争うために，広く国民の支持を得ようとして召集したのに始まる。議員はほとんどが王の指名により，権限も国王の課税要求に対する承認とそれに関連して戦争開始と終結への同意に限られ，立法権も認められず，開催も国王の一方的意志によっていた。百年戦争中，王権を制約する行動に出たこともあったが，



サンフランシスコ　近代的な高層ビルとは対照的な昔ながらのケーブルカーが走り，市民の足となっている。遠くにベー - ブリッジが見える

戦後王権が回復するとたちまち撤回され，その後ときどき開催されたこともあるが，1614年を最後として絶対主義時代にはまったく無視された。1789年5月，財政改革を契機として1世紀半ぶりに召集されたが，議決方法をめぐる特権身分と第三身分の議員間の対立から，国民議会へと発展的解消を遂げフランス革命を迎えることになる。〔大野慎一郎〕

さんぷき 【散布機】 薬剤施用器具の一つのタイプで，一般には噴霧機を意味するが，広い意味では散粉機その他も含まれる。噴霧機も散粉機も人力用の比較的小形なものから畜力あるいは動力を用いた大形なものまでいろいろある。最近の傾向としてはスピードスプレーヤーのように一度に大面積の圃場(ほじょう)を消毒できるようなものが普及してきている。また空中散布用には特殊な散布機が考案されている。

ざんぶぎかい 【残部議会】 ピューリタン革命の最中，1648年12月～1653年4月の間，独立派の支配した議会。はじめは国王処刑・貴族院廃止・共和政宣言など民主化政策を進めたが，しだいに長老派へ接近して民主的改革には熱意を示さず，革命の後退を図るようになった。そのため軍隊の議会不信は再び表面化し，O.クロムウェルによって解散させられた。1659年再び召集されたが，半年足らずで終わった。

さんぶきょう 【三部経】 3部の経典のこと。数多い経典の中から同類の思想や信仰形態のものを，特に3部選んだもの。浄土三部経は《無量寿経》《観無量寿経》《阿弥陀経(あみだきょう)》，法華(ほっけ)三部経は《無量義経》《法華経》《普賢観経》，真言密教の大日三部経は《大日経》《金剛頂経》《蘇悉地経(そしつじきょう)》，弥勒(みろく)三部経は《弥勒上生経(じょうしょうきょう)》《弥勒下生経》《弥勒成仏経》，鎮護国家三部経は《法華経》《金光明経》《仁王経(にんのうきょう)》である。〔小沢憲珠〕

さんぶぎょう 【三奉行】 江戸幕府の寺社奉行・町奉行・勘定奉行の三役をいう。なお，徳川氏の三河(みかわ)時代の3人の奉行，高力与左衛門(よざえもん)清長・本多作左衛門重次(しげつぐ)(鬼作左)・天野三郎兵衛康景(やすかげ)をさすこともある。

さんぶけいしき 【3部形式】 2部形式とともに西洋音楽の最も基礎的な楽曲形式。前者がA—Bとすれば，3部形式はA—B—Aと図式化される。それぞれの長さが8小節のものが基礎となるが，この構成はもっと大規模にも用いられ，メヌエット・スケルツォも3部形式とされる。歴史的にはグレゴリオ聖歌以来多くの様式でこの形式が使われているが，19世紀になると明快な姿のものが多くなっている。

さんぶつかいしょ 【産物会所】 ⇨物産会所

さんぶつじ 【三仏寺】 鳥取県東伯郡三朝(みささ)町門前にある天台宗の寺。山内は幽邃(ゆうすい)な岩山と渓谷(けいこく)に満ち，本堂の裏手の急坂を登ると大岩壁のくぼみにかかって奥の院投入(なげいれ)堂がある。藤原時代の建築で，優雅な趣を有し，堂内には藤原末期から鎌倉期にかけてつくられた数体の木造蔵王(ざおう)権現立像が安置されている。寺にはほかに一木造りの十一面観音，長徳3年(997)の銘を有する懸仏(かけぼとけ)がある。〔永井信一〕

さんぷど 【散布度】 統計的資料の値の散らばりの度合い。ふつう，標準偏差などを表わすが，変量の範囲，すなわち最大値と最小値の差を用いて表わすこともある。

サンフラワー ⇨ヒマワリ

サンフランシスコ ［San Francisco］ アメリカ合衆国カリフォルニア州中部の太平洋岸にある港湾都市。人口66万5,000(1975)。市街はサンフランシスコ湾と太平洋を隔てる丘陵性の半島部に位置し，湾の入り口にある有名なゴールデンゲート-ブリッジ(金門橋)が北方のマリン半島と，サンフランシスコ-オークランド-ベイ-ブリッジが東方のオークランドと連絡している。坂の多い都市で，ケーブル電車は有名である。かんづめ・精糖・衣類などの軽工業が行なわれ，貿易港である港からはくだもの・機械・米などを輸出し，コーヒー・自動車を輸入している。合衆国東部と結ぶ三つの大陸横断鉄道は，フェリーボートでこの都市に連結されている。日本人・中国人の移民が多く，中国人は市街の中央部にチャイナタウンをつくっている。サンフランシスコ湾は1769年にスペイン探検隊が発見し，以後メキシコ領となったが，1846年にアメリカ合衆国が占領し，翌1847年サンフランシスコと命名した。1848年シエラネバダの山中で金鉱が発見され，ゴールドラッシュで急速に

発展し，1850年に市制をしいた。〔相村大彬〕

サンフランシスコかいぎ 【サンフランシスコ会議】

1 第2次世界大戦の連合国全体会議。1945年4月25日～6月26日，50か国が参加して戦後の国際機構について討議し，国際連合憲章(→国際連合)を採択した。

2 1951年(昭和26)9月4～8日に行なわれた対日講和条約*調印会議。正式名は〈日本国との平和条約の締結および署名のための会議〉。1947年7月アメリカは極東委員会*を構成する11か国に対日講和予備会議を提唱したが，アメリカ・ソ連の主張の対立により見送りとなった。1949年9月ワシントン極東会議で東西両陣営の対立を背景に，分離講和(ソ連の不参加を予定した多数国講和)の方針を協議した。1950年6月アメリカ国務省顧問ダレス*は各国代表に〈対日講和7原則〉を示して個別的折衝を行ない，条約草案を起草した。中国招請について，国民政府を招請しようとするアメリカと，中華人民共和国を推すイギリスの間に対立が生じたが，両政府とも招請しないこと，また会議は条約案審議のためでなく，条約調印の会議とすることで意見が一致した。1951年8月最終案が協定され，同年7月日本を含む50か国に招請状が出されたが，インド・ビルマ・ユーゴスラビアは不参加，新たにベトナム・ラオス・カンボジアのインドシナ三国が招かれ，主催国のアメリカ・イギリスを含めて52か国が参加し，9月4日サンフランシスコで会議を開催した。同月8日，ソ連・ポーランド・チェコスロバキアは出席したが調印せず，結局日本と48か国が調印し，1952年4月8日発効した。なお日本からは，吉田(よしだ)茂首相が全権大使として参加・署名した。➔日米安全保障条約　〔原田政洸〕

サンフランシスコこうわじょうやく 【サンフランシスコ講和条約】 ⇨対日講和条約

サン-フランチェスコきょうかいどう 【サン-フランチェスコ教会堂】 イタリア，アッシジにあるフランシスコ修道会最初の教会。1228年から1253年にかけて建立(こんりゅう)され，聖フランシスコ*の遺骸を祭る。教会堂は丘の上と下に分けられ，ともにゴシック様式であるが，とりわけ上部教会堂に強くその特徴がみられる。上部教会堂のジョット派の連作壁画は有名である。下部教会堂にもチマブエ・ロレンツェッティ兄弟マルティーニらのフレスコ画がある。〔吉田玲子〕

サンプリングちょうさ 【サンプリング調査】 集団の傾向や事象を統計的に調査する方法の一つ。標本調査ともいう。国勢調査など，考察の対象とする集団や事象の全体を調べる全数調査に対し，その一部を調べる方法。全体の集団を母集団，調査する部分を標本(サンプル)といい，標本に含まれる個体の数を標本の大きさという。たとえば，全有権者の政党別支持率を知るために，1,000人の有権者を選んで調べるとすると，全有権者が母集団で，選んだ1,000人が大きさ1,000の標本である。このとき，標本における支持率から母集団における支持率を推定することになるが，実際とは多少の差異が生ずる。この誤差を小さくするには標本の大きさ n を大きくすればよいように思われるが，必ずしもそうとは限らず，また n があまり大きいとサンプリング調査の利点が失われる。それで n をあまり大きくしないで，しかも誤差をなるべく小さくするように，層化抽出法*などが用いられる。これらの方法では，起こりうる誤差の程度をあらかじめ算出することができる。〔小西勇雄〕

さんぶん 【散文】 〈散文〉の〈散〉とは，制約をうけない意であり，平仄(ひょうそく)・押韻*あるいは字数などに制限のない文章，つまり音韻律による詩や音数律による和歌・俳諧(はいかい)に属さない，ふつうの文章をいう。物語・小説・随筆などの文学ジャンルは散文による文学であり，散文詩*は定型や韻律を離れた散文形式の詩である。したがって，一般には，散文は韻文に対立する文学概念であるが，広く創造的文学全体に対立させて散文という場合がある。その場合には，創造的文学全体を〈詩〉と把握(はあく)し，その対立概念として，一般の実用的文章を広く〈散文〉とよぶのである。平凡でおもしろみなく，詩情に乏しいことを〈散文的〉というのは後者の概念の適用である。〔鈴木一雄〕

さんぶんし 【散文詩】 散文で書かれながら，詩にみられる技法的，ないし文学的性質をもった作品。自由で内面的なリズム，緊密で様式的な構造，感情や想像力の高揚といった要素がある。フランスにおける散文詩の創始者ベルトラン*の《夜のガスパール*》に想を得たボードレール*は，〈律動，脚韻なくして十分音楽的な詩的散文の奇跡〉を企てて，散文詩集《パリの憂鬱(ゆううつ)》をものし，散文詩に新しい可能性を与えた。同じくフランスのランボー*・マラルメ*，ロシアのツルゲーネフ*，アメリカのホイットマン*らの試みた散文詩も世に知られ，日本では北川冬彦(ふゆひこ)・萩原朔太郎(はぎわらさくたろう)らにすぐれた作品がある。〔星野恒彦〕

さんぶんそんえきほう 【三分損益法】 中国，春秋時代以後行なわれた音律測定法の一つで，管の長短と音高の関係を算定する。三分損一法(基本の律管の3分の2の長さの律管によって完全5度上の律を得る)と三分益一法(基本の律管の3分の4の長さの律管によって完全4度下の律を得る)の二つの方法を交互に行なって十二律*を得る。ピタゴラスがモノコードという一弦琴を用いて行なった測定法と同じである。日本では順八逆六といわれる音律測定法が，中国の影響としてある。〔山口　修〕

さんぺいじる 【三平汁】 北海道の郷土料理。松前藩の賄方(まかないかた)斎藤三平がつくりだしたものといわれる。塩づけのニシンを野菜・こんにゃく・焼き豆腐といっしょにあくを取りながら長時間煮込み，味を整える。酒かすを加えることもある。今日では塩ざけ・塩ますや魚のあらも用いられている。

さんへいほうのていり 【三平方の定理】 ⇨ピタゴラスの定理

さんべおんせん 【三瓶温泉】 島根県大田市三瓶町にあり，近年まで志学温泉とよばれていた。泉温43℃，泉質は含土類食塩泉で，神経痛・リウマチにきくといわれる。三瓶山*の南中腹に湧出(ゆうしゅつ)する山麓(さんろく)の代表的温泉で知られる。三瓶山登山や東の原スキー場への休憩地として利用される。山陰本線石見大田(いわみおおた)駅，三江北線粕淵(かすぶち)駅からバスの便がある。

さんべさん 【三瓶山】 島根県中央部にある火山。標高1,126m。準平原状の低い中国山地の上に噴出した火山で，最高峰の親三瓶(男三瓶)・女三瓶・子三瓶・孫三瓶の峰々からなる。日本神話の〈国引き〉の柱と伝えられ，古くは佐比売(さひめ)山ともよばれた。すそ野の高原はかつてウシの放牧場として利用されてきたが，第2次世界大戦後は開拓民が入植し，酪農が行なわれている。山麓(さんろく)の三瓶温泉*も知られ，大山隠岐(だいせんおき)国立公園に属する。〔高野　繁〕

ザンベジ(川) ［Zambesi］ アフリカ南東部を流れる川で，全長2,740km，流域面積約1330,000 km^2。アンゴラとコンゴの国境をなす山地に発し，ザンビア西部からローデシア北部の国境沿いを東流してチンデ(モザンビーク)でモザンビーク海峡に注ぐ。アフリカの他の河川と同じく内陸の重要な交通路になっているが，有名なビクトリア滝をはじめ急流が多いため航行可能な部分が少ない上に断続的である。下流部は15世紀末ごろからヨーロッパ人に知られていたが，中流部は19世紀中ごろリビングストンの探検によってはじめて知られるに至った。なお，急流を利用して1959年ザンビアとローデシア国境にカリバーダムが建設された。〔大石堪山〕

さんべつ 【産別】 ⇨全日本産業別労働組合

サン-ベルナール(峠) ［Saint Bernard］ ヨーロッパ中部，アルプスの最高峰モンブランの東方にあり，大サン-ベルナール峠とその南の小サン-ベルナール峠とがある。前者は，スイスとイタリアの国境に位置し，海抜2,469m。スイスのローヌ川河谷にあるマルチーニからイタリアのポー川上流にあるアオスタに通じ，ローマ時代から知られていた。1800年5月，ナポレオンがイタリア遠征軍を率いてこの峠を越えたのは有名。1964年，峠の南東方に道路トンネル(長さ約5.8km)が開通した。小サン-ベルナール峠は，

モンブランの南方，フランスとイタリアの国境に位置し，海抜2,188m。〔大石堪山〕

サンボ［sambo(samgo)］ 1938年にソ連で生まれた新興格技で,名称は〈武器なき自衛〉を意味するロシア語のかしら文字を組み合わせたもの。帝政ロシア時代から各地方に伝承されてきた多くの格技のうち，グルジア共和国のチダオバ，アルメニア共和国のコキ，アゼルバイジャン共和国のグレシュ，蒙古相撲(もうこずもう)などを中心に，およそ23種の格技の長所をとってつくられた。柔道に似ており，おもに，倒す，投げる，固めるなどの技を競う。柔道衣に似た上衣とショートパンツ・レスリング-シューズを着用し,試合はレスリング-マットの上で行なわれ，競技規則もレスリングに準じたものが採用されている。最近，わが国でもレスリング・柔道のトレーニングの方法として注目されている。〔呉 政男〕

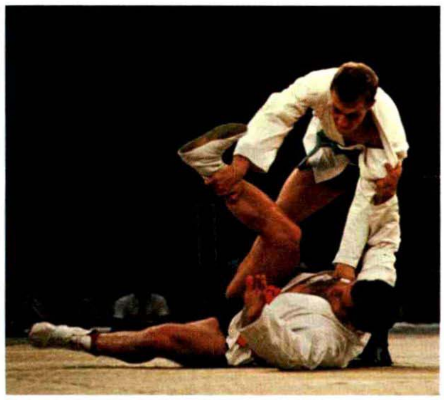
ざんぼあ【朱欒】 1911年(明治44)から1917年(大正６)まで刊行された文芸雑誌。《思ひ出*》の刊行後，新しい叙情詩風を立てた北原白秋*の創刊・編集で，後期浪漫派の掉尾(とうび)を飾る。上田敏*・与謝野晶子*(よさのあきこ)・高村光太郎*・斎藤茂吉*・志賀直哉*(なおや)ら，明星派・パンの会派・白樺(しらかば)派・アララギ派などのすぐれた作家・詩人・歌人を集め，また室生犀星*(むろうさいせい)・萩原朔太郎*(はぎわらさくたろう)らが育った。《勿忘草(わすれなぐさ)》と題した白秋・三木露風*の記念碑的特集号がある。〔堀井謙一〕

ザンボアンガ［Zamboanga］ フィリピン共和国，ミンダナオ島西南部のザンボアンガ半島の先端に位置する港市。人口24万(1975)。1635年スペイン人が要塞(ようさい)として建設したが，キリスト教徒とイスラム教徒のモロ族とで繰り広げた長い争闘の中心地であった。第２次世界大戦中の1941年には日本軍に占領された。現在はフィリピン南西部の商業・交通の中心で，スル海の主要貿易港となっている。コプラ・マニラ麻などを輸出し，木材工業も行なっている。〔別技篤彦〕

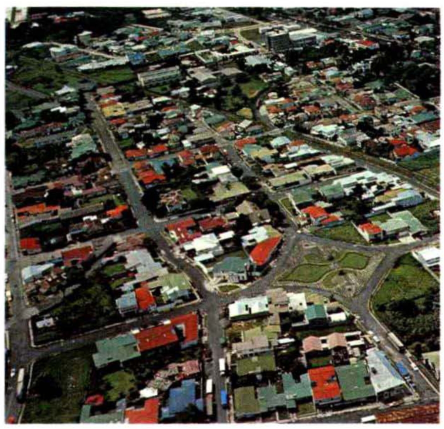
さんぼう【参謀】 ⇨幕僚

さんぼう【三宝】 仏教徒が尊重すべき三つの宝の意で，仏・法・僧をいう。三宝に帰依することが仏教徒の第１条件である。〈仏〉とは真理を悟った者の意で，ブッダをさし，また仏典に説かれるいっさいの仏をもいう。〈法〉は教えの内容で，悟られた真理のこと。〈僧〉は仏を尊び，法を修習する人々の和合のつどいをいう。三宝はブッダの死後，仏教を伝える目的から，仏を仏像に，法を経巻に，僧を出家者に意味づけて用いられた。〔大南龍昇〕

さんぽう【山砲】 分解してウマに乗せ，あるいは人力で運ぶことができるようにつくられた野砲の一種。直接歩兵の戦闘に協力することができる。しかし，命中精度は射距離が延びるにしたがって，同一口径の野砲に比べて低い。日本陸軍の九四式山砲の場合，口径75mm，砲身長1,560mm，砲身重量94kg，最大射程8.3km。



サンボ　日本・ソ連親善柔道大会に特別参加したソ連選手どうしのサンボ模範試合。1967年　日本武道館



サンホセ(コスタリカ)　市街はスペイン風で美しく，写真は住宅街フランシスコ－ペラルタ地区の景観。色とりどりの屋根と緑のしばふをもつ住宅が並ぶ

さんぼういん【三宝院】 ⇨醍醐(だいご)寺

さんぼういん【三法印】 〈諸行無常〉〈諸法無我〉〈涅槃寂静(ねはんじゃくじょう)〉をいい，仏教の標識・特質を表わす。〈涅槃寂静〉の代わりに〈一切皆苦〉を置くこともある。行とは諸原因が合して現われた精神的・物質的現象のすべてをいう。仏教はすべてのものを現実生存との関係において把握(はあく)する立場にあるから，不滅(常住)でない流転の相を示す現実世界は〈諸行無常〉として認識される。認識によって把握された現実世界をかりに客観的に表示すれば，存在するもの(法)の集合である。しかし，これらの存在は時間とともに消滅変化して実体(我)がない。ゆえに〈諸法無我〉という。しかるに凡夫は無常なるものに常住を妄想(もうそう)し，無我なるものに我なるものを希求するが，その望みは満たされることはない。ここに凡夫は不満と矛盾を感じる。かくて〈一切皆苦〉と断定される。かような現実世界の苦の原因は滅せられるべきであり，その理想の境地を〈涅槃寂静〉という。〔塚本啓祥〕

さんぽうしょうけい【三方晶系】 晶系*の一。少なくとも３回対称軸または３回回映軸を１本だけもつ。結晶軸は長さaの互いに120°で交わる３本と，第４の長さcで前３軸に直交する軸とである。c軸を３回対称軸の方向にとる。セキエイ・ホウカイ石などがこれに属する。六方晶系と合わせて広義の六方晶系とすることもある。

さんぼうほんぶ【参謀本部】 1878年(明治11)に設けられた日本陸軍における国防・用兵に関する中央統括機関。長官は参謀総長で天皇を直接補佐する(統帥権の独立)。平時には，国防・用兵に関する計画を立案し，戦時には，大本営陸軍部の主力となって作戦指導にあたった。部内の編制は情勢の変化により変遷があったが，おおむね総務部と第１ないし第４部からなり，さらに教育・作戦・編制・動員・防備・情報・謀略・鉄道・船舶・通信などの各部門に分かれていた。〔森田 哲〕

ざんぼうりつ【讒謗律】 1875年(明治８)自由民権論者の反政府攻撃を封ずるために公布された言論取り締まり令。前年に板垣(いたがき)退助*らが民選議院設立建白書*を提出して以来，藩閥専制に対する民間有志の攻撃が激しくなり，その言論活動を抑圧するために制定された。新聞紙条例*とともにこの法令に触れて処罰される者が多く，言論界の自由が奪われたが，そのためかえって反政府運動を激発させた。

サンホセ［San Jose］ アメリカ合衆国カリフォルニア州，サンフランシスコ湾の南端部にあるサンタクラーラ地方の中心都市。人口55万6,000(1975)。野菜・果実の集散地。〈カリフォルニア第１の都市〉とよばれ，州における最初の民間人による開拓地が開かれ(1777)，最初の州政府所在地となり(1849)，最初の州知事の出身地であり，州で最初の公立学校が設置され(1795)，また州で最初の高等教育施設であるサンホセ大学もここに設置され(1857)，合衆国で最初にラジオ放送局が設けられた(1909)ゆいしょあるところで知られている。〔椙村大彬〕

サンホセ［San José］ 中央アメリカにあるコスタリカ共和国の首都。人口22万6,000(1975)。海抜1,163mの高原にあるため熱帯に位置するが，涼しい気候である。周辺は肥沃(ひよく)な土壌(どじょう)に恵まれ，品質のよいコーヒーをはじめ，カカオ・サトウキビの栽培が盛んで，農産物取引の中心地である。国立農業試験場があり，アメリカ合衆国や日本の農業技術の導入が行なわれている。またチョコレート・綿製品・かんづめ・香水などの工場がある。〔小栗 宏〕

さんぽのうほう【三圃農法】 一定地域の耕地を３分し，３年に１回の休耕をおいて夏作(オオムギ・エンバクなど)と冬作(コムギ・ライムギなど)の回転耕作をする農業形式で，休耕することによって地力を回



サンマリノの国旗　1793年制定。紋章はカシワとゲッケイジュに囲まれて王冠と白いダチョウの羽をつけ，国の歴史とかかわりの深いチタノ山の三つの岩峰とペネとよばれる白塔が描かれている。紋章の下のリボンには〈自由〉と書かれ，この国がすでに近世初頭から独立国であったことを表わしている

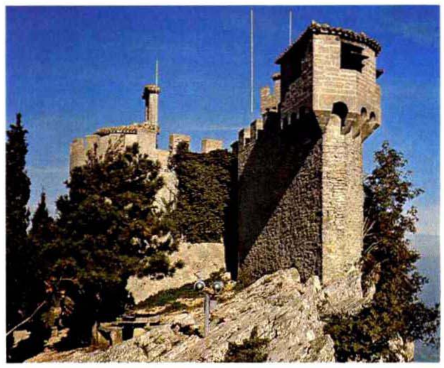
復させ，土地の肥沃(ひよく)度を保つことを目的としている。中世西ヨーロッパの荘園(しょうえん)で支配的であった農業形式で，農民の土地は三圃に分属し，耕耘(こううん)にすきを利用したことや休耕地に放牧したことなどのためにに強い規制を伴っていた。

サンボリスム　⇨象徴主義

さんぼんぎ　【三本木】　⇨十和田市

さんぼんぎはらだいち　【三本木原台地】　青森県東部，十和田市を中心として広がる洪積(こうせき)台地。陸羽街道(国道4号線)が南北に貫き，奥入瀬(おいらせ)川・五戸(ごのへ)川などが，ほぼ東西に台地を刻んでいる。乏水性の原野であったが，江戸時代末から開拓が始まり，第2次世界大戦後も開拓が進んだ。戦前は採草地・軍用地として利用されたが，最近では乳牛がふえ，酪農が行なわれている。東端を東北本線が走り，三沢市がある。　〔高野　繁〕

さんぼんじろ　【三盆白】　結晶粒の細かい白砂糖。いわゆる白車糖で，手ざわりがしっとりしている。これは結晶が小さく，くっつき合いが起こって固まりやすいので，2～3％の転化糖を加えているからである。



サンマリノ　チタノ山の三つの山頂に築かれた城砦のうちの第2の塔。13世紀ごろのもので，断崖の上にそそり立っている

一般家庭用のほか，あん・キャラメル用に多く消費される。元来は四国地方でつくられる在来法の分蜜(ぶんみつ)白糖をいったが，現在ではこれを特に〈和三盆〉と称して，風味がよいので高級和菓子に用いられる。精白することからこの名がある。〔佐藤友太郎〕

さんま　【秋刀魚】　硬骨魚類・サンマ科。全長40cmに達する海産魚。体は薄く細長い。下顎(かがく)は上顎より突出している。背側は青黒く，腹側は銀白色。北太平洋や日本海に広く分布する。外洋性だが，産卵のときなど内湾にはいることもある。太平洋産のものは，北西太平洋群・中央太平洋群・カリフォルニア近海群の3群に分かれている。日本漁船の漁獲するのは北西太平洋群に属するサンマである。例年20数万tの水揚げがある重要食用種だが，1968年(昭和43)には漁獲量が14万tに激減，1969年にはさらに減った。このため落語《目黒の秋刀魚》や佐藤春夫の《秋刀魚の歌》でなじみの大衆魚が，一躍高級魚に名を連ねるに至った。塩焼き・煮付けなどのほか，産額の多いときには干物・かんづめ，つりの餌(え)などに用いられる。細長く銀白色に輝く体を刀身になぞらえ，また漁期が秋であることから，秋刀魚の漢字があてられた。　〔菅野　徹〕

さんまい　【散米】　祓(はら)えあるいは神社などに参拝のとき，米を神前にまき散らすこと，およびその米。〈うちまき〉ともいう。最もそぼくな形の神供と考えられる。今日ではオヒネリなどといって，米あるいは銭を白紙に包んで供えられる。

サン-マドレーヌせいどう　【サン-マドレーヌ聖堂】　パリにある古典主義様式を代表する建築。1764年に着工されたが中断，1806年ナポレオンがビニョンに命じてフランス軍の勝利の記念堂として建立(こんりゅう)を続行させた。ナポレオン没後の1814年未完成のまま，再びビニョンの設計による教会へと変更され，1842年に完成した。古代の神殿を模し，コリント式円柱が立ち並ぶ。

サンマリノ(共和国)　［Republic of San Marino, Republica di San Marino］イタリア半島北部にある小共和国。面積61.2km²人口20,000(1978年推)。ほかに20,000人近い出稼ぎ者が国外にいる。首都サンマリノは人口約5,000で，チタノ山(790m)上にあり，アドリア海沿いのリミニと鉄道・バス・ヘリコプターで連絡している。政治は，5年ごとに普通選挙で選ばれる60名の議員が担当する。議員の半数はキリスト教民主党で，婦人参政権は1960年に与えられた。輸出品はチタノ山などで産する石材と，ぶどう酒・絹などであるが，年間225万人(1966)も訪れる観光客と，1877年から続いている郵便切手発行による収入が多い。伝説では，4世紀半ばにダルマチア(ユーゴスラビア)の石切り職人であったサン-マリヌスがここに迫害をのがれて建国したといわれるヨーロッパ最古の国で，1631年ローマ教皇によって独立が承認された。現在の政治制度は1906年の革命によってほぼ成立したものである。　〔梶川勇作〕

サン-マルコだいせいどう　【サン-マルコ大聖堂】　イタリア，ベネチアにある典型的なビザンチン様式の教会堂。現在の大聖堂の中心をなす部分は11世紀後半の着工。祖型は五つのドームをもつギリシア十字形会堂のプランによって設計された。交易都市ベネチアの富を結集した教会堂で，数多くの財宝を蔵しているが，中でもかつては祭壇を飾っていた金・銀・七宝・宝石でつくられた《パラ-ドーロ》は有名である。

サン-マルタン　［Louis Claude de Saint-Martin］(1743～1803)　フランスの哲学者。アンボアーズで生まれ，パリ郊外で没。軍人としてボルドー駐屯(ちゅうとん)中，あるユダヤ人を知って神秘主義にめざめたという。のちストラスブールでベーメ*の著作に触れ，神知学に興味を移す。彼の説く理想社会は〈自然的霊的神政政治〉であった。主著《人間精神の役目》《神・人間・宇宙》。

サンマルチーニ　［Giovanni Battista Sammartini］(1700または1701～1775)　イタリアの作曲家・オルガン奏者。ミラノに生まれ，生涯(しょうがい)の大半をここで過ごした。ミラノの諸教会のオルガン奏者を経



サン－マルコ大聖堂

て，1730〜1770年にサンタ-マリア-マグダレーナ修道院の合唱長を努めた。1737年から4年間グルックを教えたことは広く知られている。作品は2,000曲以上にものぼるといわれ，中でも1734年から書きはじめた24曲の交響曲は音楽史上重要な作品である。〔寺田兼文〕

さんみいったい 【三位一体】 キリスト教の根本的な教理の一。神の本質について，神は実体においては一つだが，父・子・聖霊という三つの位格(ペルソナ)を有するという。三つの位格の関係は，父は他から受けることなしに神性をもち，子(キリスト)は父から生み出され，聖霊は父と子から(ギリシア正教は〈子から〉を否定する)発出されるという関係である。また，神の御業の中で〈創造〉には父，〈贖罪(しょくざい)〉には子，〈浄化〉には聖霊がそれぞれ対応させられる。聖書自体にはこの語はないが，3者の並記はある。キリストの神性をめぐる論争のあったニケア公会議(325)で，三位一体の概念は内容的には正統教義として確立されたが，定式化されたのはテルトゥリアヌスを経てアウグスチヌスにおいてである。〔五十嵐誠・石井忠厚〕

サン-ミケーリ [Michele Sanmicheli] (1484〜1559) イタリア，ルネサンス期の建築家。父と伯父(おじ)に指導を受けたのち，ローマで古代建築と彫刻の研究を行なう。1528年以降はベネチアの築城主任となり，要塞(ようさい)都市化計画に従事した。初期の作例に，モンテフィアスコーネ大教会堂，オルビエトの聖ドメニコ教会堂，パラッツォ-ベビラッカがあげられる。

さんみゃく 【山脈】 山地が脈状に連続している地形をいう。褶曲(しゅうきょく)作用によってできた褶曲山脈と，断層運動によって生じた断層山脈とがある。また，これらの山脈が河川や氷河の侵食を受けて基盤岩石を露出した地形を示している場合を特に侵食山脈とよぶことがある。アルプス・ヒマラヤ・ロッキー・アンデスなどの各大陸の背骨をなす山脈は地質時代に何回かの造山運動を経ているが，このうち最も新しいものは新世代第三紀のアルプス造山運動によって形成されたものが多い。〔小栗 宏〕

さんみんしゅぎ 【三民主義】 孫文が唱え，辛亥(しんがい)革命の前後を通して中国の国民革命の指標となった理論。儒教・近代国民主義・社会主義など雑多な要素を含み，革命の発展とともに発展した。1905年の創唱当時は，清朝(しんちょう)打倒中華回復・民国建設・地権平均のスローガンを掲げ，それが民族主義(民族国家独立による国際的平等)・民権主義(君主専制を排除した民主主義国家，そのための立憲政治)・民生主義(人民の経済的平等の保障)に結晶していった。五・四運動以後の彼の思想の変化は1924年の〈国共合作〉を導いたが，その思想は新三民主義ともよばれる。これは反帝国主義の民



サンモリッツ　サンモリッツ湖と湖畔に立ち並ぶホテル。町からは白雪をいただく東部アルプスの山々が望まれる



三　門　東福寺三門　室町時代　国宝

族主義，〈耕す者に土地を〉という土地平均論の民権主義，〈資本の節制〉という産業国有化の考えで，かなり社会主義の性格が濃い。孫文の没後，国民党は三民主義を儒教主義的に解釈し，中国共産党は新三民主義の方向を新民主主義へと発展させた。➔孫文 〔西 順蔵〕

さんむじけん 【三無事件】 1961年(昭和36)12月池田勇人(はやと)内閣打倒を企て，クーデター計画を進めていた容疑で，川南豊作(元川南工業社長)・三上卓(五・一五事件の元海軍中尉)ら13名が検挙された事件。彼らが無戦争・無税・無失業の〈三無〉を唱えていたので，この名でよばれる。計画によれば，現体制を変革するため池田内閣打倒を図り，国会に突入，閣僚を監禁して非常事態を宣言させる予定であり，その実施のためかねてから対自衛隊工作も試みていた。計画の粗雑さからして成功の見込みはなく，その動機と合わせて時代錯誤との批判を世から浴びた。検挙はその後も続き，検挙者のうち10名が起訴され，破壊活動防止法の適用を受けた。前年の浅沼稲次郎社会党委員長暗殺など続発する右翼による暗殺計画に対し，治安当局は警戒体制を強化した。〔高崎徳次〕

サンモリッツ [Saint Moritz] スイス南東部，イタリアとの国境にそびえるベルニナ山(4,055 m)の北麓(ほくろく)にある観光地。イン川上流の谷間，海抜1,810 mに位置し，ウィンタースポーツで名高く，1928・1948年にはオリンピック冬季大会が開かれた。南にあるサンモリッツ湖の美景や近くの温泉を訪れる人も多く，国際的な保養地でもある。

さんもん 【山門】 ⇨金門五三桐(きんもんごさんのきり)

さんもん 【山門】 寺院の正面にある楼門。元来寺院が山に建てられたため，平地や市街に建っても山門とよぶようになったという。また寺院そのものを山門ということもある。なお，園城(おんじょう)寺の寺門派に対し，延暦(えんりゃく)寺を総本山とする山門派の略称でもある。

さんもん 【三門】 古くは寺の南大門・東大門・西大門の総称。のち禅宗寺院の正門をいう。涅槃(ねはん)にはいるための三解脱門の略称。知恵門・慈悲門・方便門をさす場合もある。重層楼門の2階建て，わきの左右に山廊と上層に登る階段がある。楼上には勾欄(こうらん)つきの縁をめぐらし，内部には仏壇の中央に釈迦(しゃか)三尊，左右に羅漢像(らかんぞう)を並べるのが普通。最古のものは室町初期に建てられた東福寺の三門。ほかに大徳寺・南禅寺・妙心寺・知恩院のものなどが有名である。〔玉山成元〕

さんもんオペラ 【三文オペラ】 ブレヒトの戯曲。ジョン-ゲイの《こじきオペラ》を翻案した序曲と3幕8景の音楽劇。1928年の作。ロンドンの盗賊とこじきとをめぐるこの作品は，〈泥棒(どろぼう)はブルジョワだが，ブルジョワは泥棒か〉という方程式を突きつけ，観客を挑発(ちょうはつ)する目的をもっていたが，《匕首(あいくち)メッキーの殺人物語(モリタート)》をはじめとするクルト-ワイルによる音楽にも助けられ，かえってブルジョワ観客から大歓迎を受け，ブレヒトの名を一躍世界的にした。〔五十嵐敏夫〕

さんもんきょう 【三門峡】 サンメンシャ 中国，山西・河南両省の境界にある黄河中流の険峡。両側が断崖(だんがい)で，水面には二つの岩山が露出し，水路を人門・鬼門・神門の三つに分けているのでこの名がある。急流で舟運には危険なため，古来何度か川幅の拡張工事が行なわれたが成功しなかった。しかし，黄河治水開発総合計画の一環として，1957年から6年がかりで大貯水池が建設され，華北の水利・水力の一大中心となった。〔日比野丈夫〕

さんもんごさんのきり 【楼門五三桐】 ⇨金門五三桐

さんもんさんとう 【三問三答】 中世における幕府の訴訟手続きの形式。原告である訴人が訴状に証拠文書を添えて幕府の問注所に訴訟を提起すると，引付では被告である論人に答弁を求める問状(といじょう)を発して訴訟内容について陳弁を求め，論人は陳状(答弁書)を提出する。訴人・論人はそ

れぞれ訴状・陳状を3度提出して自己の正当性を述べ，幕府はこれに基づいて裁決を行なう。

さんや【山谷】 東京都台東区北東部，もとの山谷町を中心とする地区。現在の清川・日本堤・東浅草にあたる。一帯は低湿地で，かつては住民が少なかったために〈三家〉とよんだことから地名が起こったという。東日本最大の簡易旅館密集地域で，大阪の釜ケ崎(かまがさき)(あいりん地区)と併称される。旅館数は約200，宿泊人は1,000～15,000で，大半は自由労働者であり，関東・東北の農村出身者が多い。

さんやすがかき【三谷菅垣】 琴古流尺八の本曲の奥伝の一曲。普化(ふけ)尺八の《三谷》という曲を琴古流に移入したもの。箏(そう)の手法である菅垣の等拍的リズム感を反映させた点で，自由リズム的な他の曲と異なる。

さんゆうていえんしょう【三遊亭円生】 落語家。江戸落語の名門で現在6世まで。

1 初世(1768～1838) 初世三笑亭可楽の門人。もと山遊亭猿松(えんしょう)。芝居噺(しばいばなし)を得意とし，はじめて身ぶり・声色(こわいろ)・鳴り物入りで演じた。作品に《宮戸川》，著作に《東都噺者師弟系図》がある。門下多く，その派を三遊派という。

2 4世(1846～1904) 三遊亭円朝の門下。明治初期の名手。後世への影響が大きい。

3 5世(1884～1940) 4世橘家(たちばなや)円蔵門下。豪放な芸風で人気があった。

4 6世(1900～1979) 5世の養子。幼時に義太夫(ぎだゆう)語りとして高座に上り，10歳で落語家となる。正統派の第1人者であり，落語協会会長もつとめた。1978年，落語協会脱退。落語三遊協会を興す。円朝作の人情噺を得意とする。

さんゆうていえんちょう【三遊亭円朝】 (1839～1900) 落語家。本名出淵(いずぶち)次郎吉。2世三遊亭円生門下。7歳で小円太と称して初高座，17歳で真打ちとなり，円朝と改名。《累ケ淵(かさねがふち)後日怪談》(のちに《真景累ケ淵》と改題)の道具入り芝居噺(ばなし)や《怪談牡丹燈籠(ぼたんどうろう)》の人情噺などの自作自演で人気を得た。1872年(明治5)新時代にかんがみて道具噺を弟子(でし)の3世円生に譲り，扇子1本の素噺に転じ，時勢の実録流行の風潮に応じて《安中草三(あんなかそうざ)》《塩原多助》を自作自演し，モーパッサンなどの翻案物をも手がけた。江戸落語を集大成し，近代落語興隆の基礎をなした巨星。〔興津　要〕

さんゆうていえんゆう【三遊亭円遊】 落語家。江戸落語の名跡で6世が現存。

1 初世(？～1838) 初世三遊亭円生の門下。のち初世金原亭馬生となる。芝居噺(しばいばなし)をはじめて道具入りで演じ，また続き物を創始。4世坂東三津五郎はその弟。

2 3世(1849～1907) 三遊亭円朝門下。明治初期の代表的人気者で，当時遊里で行なわれたという《すててこ踊り》を高座で演じ，全東京の人気をさらった。また古典落語を当世ふうに改作して演じ，《野ざらし》はその代表作。その人気から俗に初世と称され，また鼻の大きかったことから〈鼻の円遊〉の異名もある。〔長尾一雄〕

さんゆうていきんば【三遊亭金馬】 落語家。江戸の落語家名としては三遊亭金馬と立川金馬とがあり，前者は4世が現存，後者は3世三遊亭金馬の門人が4世立川金馬となったことがある。3世(1894～1964)は初世三遊亭円歌の門人。3世三遊亭円馬に多くを学び，教養のある独自の芸風で昭和期の代表的名手のひとりとなった。《とうなす屋》《つくだ祭り》などを得意とし，新作もある。東宝名人会専属として，一般の寄席(よせ)にはあまり出演しなかった。〔長尾一雄〕

さんようしんかんせん【山陽新幹線】 東海道新幹線の新大阪と鹿児島本線の博多(はかた)間を結ぶ，全国新幹線鉄道網の幹線鉄道。延長553.7km。新大阪～岡山間は1972年(昭和47)，岡山～博多間は1975年(昭和50)3月10日開業。東海道新幹線と連絡して東京～博多間を6時間56分で結び，山陽地方や北九州は大阪の日帰り行動圏（1～3時間圏）にはいって，太平洋ベルト地帯相互の時間距離は大幅に短縮された。山陽新幹線にはトンネル区間が多く，全線の約47％に達し，特に六甲トンネル(16,250m)・新関門トンネル(18,713m)は，従来のわが国最長鉄道トンネルの記録をいちじるしく更新した。なお山陽新幹線の中間駅は新神戸(しんこうべ)・西明石(にしあかし)・姫路・相生(あいおい)・岡山・新倉敷・福山・三原・広島・新岩国・徳山・小郡(おごおり)・新下関(しんしものせき)・小倉の14か所である。〔青木栄一〕

さんようしんぶん【山陽新聞】 岡山市で発行されている日刊新聞。1879年(明治12)1月4日創刊。当時は《山陽新報》と題して発行していたが，1936年(昭和11)《中国民報》と合併して《山陽中国合同新聞》となり，翌年《合同新聞》，さらに1948年5月現紙名となった。発行部数約36万(朝刊，1980)。

さんようちほう【山陽地方】 中国山地南斜面の地方をさし，名は古い行政区画の山陽道に由来する。岡山・広島両県と山口県の瀬戸内海斜面の地域をいうが，広くは兵庫県の瀬戸内海斜面をも含め，山陽本線の通じている地域に相当。➔中国地方

さんようちゅう【三葉虫】 古生代に栄えた海生の節足動物にはいる化石動物。古生代の重要な示準化石。体はキチン質の膜でおおわれているが，背面は石灰やリン酸で硬化して背甲をなす。体節数は不定であるが，体は頭部・胸部・尾部の3部に分かれる。頭部は分類上重要で，中央部の隆起した頭蓋(とうがい)とその左右の遊離頬(ほお)とからなる。体はさらに縦に走る2本のみぞによって，中央の軸部と左右の肋部(ろくぶ)に3分されるのでサンヨウチュウの名がある。目は一般に複眼で大小さまざまである。胸部の腹面には2枚の付属肢(し)があり，走行や遊泳をした。変化に富む尾をもっていた。カンブリア紀初期に発生し，オルドビス紀に繁栄し，古生代末期に絶滅した。世界各地から産出し，わが国からも数少ないが産出する。〔神戸信和〕

さんようでんき【三洋電機(株)】 家庭電気製品専業の大手メーカー。1947年(昭和22)井植歳男(としお)の個人経営の町工場としてスタートし，1950年三洋電気(株)となる。自転車用の発電ランプの製造から始まって，昭和30年代の家庭電化ブームの端緒となった噴流式洗たく機の発売で家庭電器総合経営の地盤を確立した。現在カラーテレビ・ラジオ・テープレコーダーなどの無線機器を中心に卓上電気計算機・冷凍機器などの特殊機器部門にも進出している。輸出は130余国に実績があり，外国との技術契約はアメリカのRCAのほか7社と提携している。岐阜にカラーテレビ専門工場をもつ。本社大阪。資本金414億6,200万円，年間売上高5,841億円，従業員数16,576(1980年9月)。

さんようどう【山陽道】 五畿(き)七道の一。現在の中国山脈の南部，瀬戸内海に面する地方。古くは〈西の道〉と称され，崇神(すじん)天皇のとき四道将軍のひとり吉備津彦命(きびつひこのみこと)が派遣されたことが《日本書紀》に記されている。大和(やまと)朝廷にとって穀倉地帯また大陸交通の中継地として重んぜられた。律令(りつりょう)時代にはいって七道中最も重要な地方行政区とされ，その管下は播磨(はりま)(兵庫県)，美作(みまさか)備前・備中(びっちゅう)(ともに岡山県)，備後(びんご)・安芸(あき)(ともに広島県)，周防(すおう)・長門(ながと)(ともに山口県)の8か国であった。各国府を連ねる官道は京都と大宰府(だざいふ)を結ぶ幹線として道幅も大路と定められ，宿駅の設備も特に充実された。平安中期以後，律令体制・対外関係の衰退により地方行政区としての重要性は減じたが，瀬戸内海航路の発達に伴って沿岸各地は繁栄し，中世・近世を通じて先進的な産業地域となった。〔高崎徳次〕

さんようほんせん【山陽本線】 東海道本線神戸(こうべ)と門司(もじ)間を結ぶ国鉄路線で営業キロ数535.0。ほかに支線8.8kmがある。1888年(明治21)に神戸～姫路間が開通し，1901年には下関(しものせき)まで，1942年(昭和17)に下関～門司間の関門鉄道トンネルが開通した。山陽地方の海岸部を縦貫し，姫路・岡山・倉敷・福山・尾道(おのみち)・広島・徳山・下関などを結んで，東海道本線とともに太平洋ベルト地帯を走るわが国の最重要鉄道の一。全線が電化されている。〔青木栄一〕

ざんよちっそ【残余窒素】 血液中の血漿(けっしょう)タンパク質以外の含窒素化合物，すなわち尿素・尿酸・クレアチン・クレア

チニン・アミノ酸・インジカン・アンモニアなどの窒素の総量。臨床検査において血液化学成分の定量検査の一つとして日常よく計測されるもので，血液を除タンパクし，酸化・蒸留・滴定という手続きを経て計算する。正常値は20～40mg/dlで，これが増加した状態を窒素血症という。尿毒症は必ずしも残余窒素の増量と数量的平行関係にないが，真性尿毒症には必ずその増量がみられ，病勢の進行とともに増量することが多い。急性糸球体腎炎(じんえん)でも増量することが多いが，ネフローゼでは末期以外には増量しないのが普通。ワイル病・重症肝疾患(急性黄色肝萎縮症(いしゅくしょう))・心不全などでも増量をきたすことがある。〔藤井和明〕



三陸海岸
陸中海岸国立公園の北端に近い北山崎付近の景勝。ここから南へ海食崖が断続し，リアス式海岸特有の複雑な地形を展開する

さんらん【散乱】 ある方向に進む波または粒子が，原子・分子または微小な物質粒子にあたって，はじめと違う方向へ進む現象。波の場合は一般に散乱体を中心として四方八方へ広がる散乱波を生ずる。電磁波(光・X線など)の散乱は，散乱する原子などの内部の電子が入射波の電場によって強制的に振動させられ，これが新しい電磁波の源となって四方へ波を送り出し散乱波を生ずるものと考えられる。したがって，通常散乱波の振動数は入射波の振動数に等しい。しかし，光の入射と同時に原子などの状態が変化して遷移が起こると，状態の差にあたるエネルギーが光波に付け加わる(または減ぜられる)ために，散乱波の振動数は入射波のそれと異なりいわゆるラーマン効果が現われる。波長の短いX線などの散乱の場合，原子内電子は自由電子とみなすことができ，コンプトン効果を生ずる。粒子線の散乱では，ラザーフォードの行なった原子によるα線の散乱が歴史的に有名である。〔吉原邦夫〕

さんらんかん【産卵管】 おもにこん虫，また魚類のあるもので輸卵管の末端が体外に突出して産卵のためにつごうよくなっている管状の突起。代表的なものはこん虫の直翅(ちょくし)類にみられ，陰具片という3対の突起からできている。産卵管の形状も産卵の習性によっていろいろで，木材中にいるカミキリムシの幼虫に産卵するオナガバチなどは長さが数センチにもなる。ハチでは本来の産卵管が毒針となっているものがある。双翅類や鞘翅(しょうし)類の産卵管は，腹端の2～3節が細長くなってできている。〔蒲原春一〕

さんりくかいがん【三陸海岸】 北は青森県八戸(はちのへ)市東部の鮫崎(さめざき)から岩手県を経て宮城県北東部の牡鹿(おじか)半島南端にある金華山に至る全長600km余に及ぶ太平洋側の海岸。昔の陸奥(むつ)・陸中・陸前の3国にまたがることからこの名がある。海岸はその西側を走る北上山地と同じ砂岩・粘板岩やこれを貫くカコウ岩・キリョク岩などからなっている。海岸線は，宮古市(岩手県)以北は隆起海岸で出入の少ない直線状を示し，さまざまな海成段丘が発達するが，宮古市以南は沈降海岸で典型的なリアス式海岸が発達し，出入が多い。海岸は湾入と岬(みさき)が交互に連続し，それぞれの湾の奥には漁港が発達し，宮古・釜石(かまいし)などは漁業の根拠地となっている。かつてこれらの湾は津波の被害に悩まされたが，現在は防御施設の整備が進められている。岬の長い切り立った海食崖(かいしょくがい)や無数の岩礁に太平洋の荒波が打ち寄せて雄大な自然美を形成し，多くの海岸は陸中海岸国定公園に指定されている。また，天然記念物に指定されているウミネコやオオミズナギドリの繁殖地もある。〔味沢成吉〕

さんりづか【三里塚】 千葉県成田市の南東地区。下総(しもうさ)台地の中央部にあり，江戸時代に佐倉牧(さくらまき)の一部として開発され，1885年(明治18)宮内省管轄の下総御料牧場が置かれて家畜・家禽(かきん)の育種改良が行なわれた。牧場の入り口はヨシノザクラ15,000本が咲きそろうサクラの名所として知られたが，新東京国際空港(成田空港)の予定地にはいり，1969年(昭和44)に牧場は栃木県塩谷(しおや)郡高根沢町に移転した。

さんりゅう【産瘤】 分娩(ぶんべん)のときに，胎児のはじめに出てくる部分(先進部)に生じた柔らかい瘤(こぶ)状のもの。頭部に生じたものを頭瘤，顔面に生じたものを面瘤という。先進部が子宮口によってたえず輪状に強く圧迫されることにより発生する。分娩直後に最も著明で，およそ24時間後には消失する。

ざんりゅうこうしょう【残留鉱床】 既存の岩石または鉱床が，おもに化学的風化作用によって，岩石中に含まれているとけにくい有用成分が地表に残留集中して生じた鉱床。たとえば，オウドウ鉱中に少量の金が含まれる場合，風化作用によりオウドウ鉱は流失し，金は残留するため金鉱床となったものである。また，岩石が風化分解していくつかの元素が流失する一方，ある元素は化学的に沈殿して残留するため，その含有量が高まることがある。この残留した元素が有用元素であれば残留鉱床とよばれる。たとえば，熱帯地方で比較的ケイ酸分の少ない岩石が特殊な場所で風化するとケイ酸は流失し，鉄・アルミニウムが集中した土壌(どじょう)となる。これをラテライトといい，そのうちアルミニウムが集中したものがボーキサイトである。〔今井秀喜〕

ざんりゅうじき【残留磁気】 磁界の中で磁化された鉄やニッケルなどの強磁性体で，外部磁界を除いたあとでも磁性体内に残る磁気。残留磁化ともいわれる。永久磁石は，残留磁気を利用するものである。

さんりゅうしゅ【霰粒腫】 眼瞼(がんけん)に半球状のかたいかたまりができる疾患。眼瞼の裏側にある眼板腺(がんばんせん)(脂肪を出す腺)の慢性炎症によるもので，発赤も痛みもない。放置しても自然に吸収される場合と，しだいに大きくなって結膜面が皮下で破れる場合がある。治療は切開掻爬(そうは)によって内容物を取り出すことである。

ざんりゅうたいせきぶつ【残留堆積物】 岩石が風化し，水にとけやすい成分が水にとけて運び去られたあとに残る粘土・鉱物などをいう。チョウ石に富んだ岩石が風化して生じる粘土や，有色鉱物が多量に含まれる塩基性火成岩が風化して生じるカッテツ鉱やセキテツ鉱などがその例である。

さんりょうし【山陵志】 蒲生(がもう)君平の著。2巻。1808年(文化5)初刊。山崎闇斎や水戸(みと)学の学統につながる蒲生君平は，寛政年間(1789～1800)，再度山河を跋渉(ばっしょう)して歴代天皇の山陵荒廃のさまを調査し，これを刊行した。神祇(じんぎ)・姓族など，〈九志〉編纂(へんさん)の構想の一環として《職官志》に続くもので，幕末尊王論の先駆をなすものとして知られる。

さんりょうせき【三稜石】 風で吹き飛ばされる砂によって削られてできた三つまたは二つの面，三つまたは二つの稜をもつ小石。風食の激しい砂漠(さばく)地方や海岸地方でみられる。➔次ページ(図)

さんりん【山林】 樹木の集団生育地をいう。一般には林地をさす。また，林木からなる森林と同意義に用いられる。山林はおおむね林業の対象であるが，生産用地外

の禁伐林も含まれる。山林の文字は古代からの古語で，森林の文字は明治以来の新語である。山林は木材などの林業生産の場であるとともに，気候の調和，水源涵養(かんよう)，土砂の流出を防ぐなど間接効用が大きい。近ごろ自然保護の思想の向上と，レクリエーション需要の増加につれて，観光と保健休養の対象として重要性が高まりつつある。〔中島道郎〕

さんりんじどうしゃ　【三輪自動車】　車輪の数が3個(前1輪・後2輪)の自動車。原動機を用いて走った最初の車が，1770年にフランスの技術者クノーが蒸気機関を装備してつくったものであったことは，その歴史的古さを物語っている。わが国では1920年(大正9)，当時の輸送機関として重要な位置にあった人力車に，2馬力程度のエンジンを改造取り付けたものが最も古いといわれる。構造が簡単で実用的なため，トラックとして第2次世界大戦後非常に多くみられたが，小形四輪トラックの普及により1955年の90,000台からしだいに生産台数が減退し，近年ではその姿はほとんどみられなくなった。構造は，前輪の懸架方法が二輪自転車に類似していることを除けば，ほとんど普通の四輪車と同様である。➔自動車　〔成田武男〕

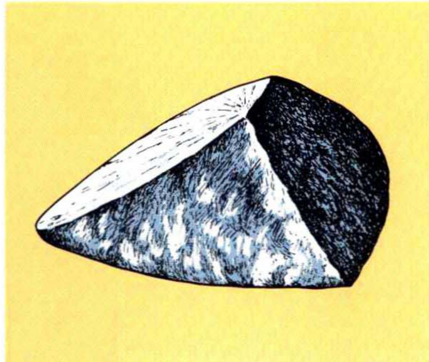
さんりんそう　【三輪草】　⇨ニリンソウ

さんりんぼう　【三隣亡】　暦日の吉凶に関する俗信の一。三輪宝とも書く。1・4・7・10月の亥(い)の日，2・5・8・11月の寅(とら)の日，3・6・9・12月の午(うま)の日。その他，毎月の亥・寅・午の日を三隣亡に数えることもある。この日は建築を行なうことを忌み，行なえば火災や倒壊が起こり，自家だけでなく三隣をも亡(ほろ)ぼすというのでこの名があるという。六曜による友引・仏滅・大安などとともに，今日も行なわれている。〔渡辺欣雄〕

サンルイ　［Saint Louis］　西アフリカの大西洋岸にあるセネガル共和国の港市。人口49,000(1961)。かつてフランスによる西アフリカの植民地経営の基地として栄え，今日でもラッカセイ・皮革・サイザル麻などの積み出し港として重要。セネガル川河口のサンルイ島にあり，海港であるとともにセネガル川の河川交通の基点である。独立まではフランス領モーリタニアの首都であった。

サンルイスポトシ　［San Louis Potosi］　メキシコ中部にある都市で，同名の州の首都。人口29万2,000(1976)。メキシコ高原の山間盆地にある標高1,870 mの地。16世紀にサンペドロ銀山が開発されてから発展，のちに農業が進むと，綿花・タバコの集散地ともなった。建設が古く，スペインふうの建築・寺院が多く残っている。

サンレモ　［San Remo］　イタリア北西部，リグリア海に臨む港市。人口55,000(1961)。観光地として知られ，保養客・避寒客



三稜石



サンレモ　海岸に臨んでホテルが立ち並び，岸にはヨット・ボート・遊覧船などがひしめき合い，観光客でにぎわっている

でにぎわう。丘陵上には19世紀建造のロマネスク様式寺院などの残る旧市街があり，海岸沿いには別荘やホテルの多い新市街が展開している。果実や花の取引が盛んで，毎年ここで開かれるサンレモ音楽祭は有名。

サンレモおんがくさい　【サンレモ音楽祭】　イタリアのサンレモで，毎年1月または2月，3日間にわたって開かれる音楽祭。イタリア人の作詞家・作曲家による応募作品の中から，あらかじめ20～30曲の新作カンツォーネを選んで参加曲とし，2日に分けてそれぞれをふたりの歌手が歌い，10～14曲の入賞曲を決める。最終日に入賞曲が再び歌われて1～3位が決定する。審査はおもにジャーナリストからなる会場の審査員と，主要都市に設けられた一般人の審査委員会の両者があたるが，年によって方法が異なる。シーズン-オフのサンレモへ観光客を誘致する手段として1951年から始められ，1958年の優勝曲《ボラーレ》の大ヒットで有名になった。その後，外国人歌手の参加も認め，世界的な流行曲を送り出している。〔永田文夫〕

さんろう　【参籠】　⇨御籠(おこもり)

さんろんげんぎ　【三論玄義】　中国，隋(ずい)の吉蔵の著。《中論》《百論》《十二門論》の三論を中心に，さらに《大智度論(だいちどろん)》の要旨を述べた三論宗の根本聖典。前半では邪説を論破して正しい説を明らかにすること(破邪顕正)に力を注ぎ，後半では三論を重要視する理由を説き，また四つの論のおのおのの特質と相互の関連性を解明している。一方的なものの見方を離れて中道の立場に立つことを主眼とする著者の思想が明らかである。〔佐藤成順〕

さんろんしゅう　【三論宗】　中国で成立した仏教の宗派の一。ナーガールジュナ(龍樹)の《中論》《十二門論》とその弟子(でし)アーリヤデーバ(提婆)の《百論》の三論を根本聖典とするので，三論宗とよばれる。その教義の特色は，空の思想に基づき，実体的なものの見方，一方的な考え方を離れ，なにものにも執着しない中道の立場に立つことを理想の仏教的実践とする点にある。三論は鳩摩羅什(くまらじゅう)によって5世紀初頭に中国語に訳され，その門下特に僧肇(そうじょう)によって研究され，その後道朗・僧詮(そうせん)・法朗としだいに発展し，吉蔵に至って大成された。日本へは高麗(こうらい)の僧慧灌(えかん)によって，625年(推古33)にはじめて伝えられた。南都六宗の一。〔佐藤成順〕

さんわおん　【三和音】　17～19世紀の西洋音楽の最も重要な和声的な構成要素で，ある音(根音)から上方に3度と5度の関係になる三つの音で構成される和音。2音間の音程を下から記すと，①長三和音(長3度に短3度)，②短三和音(短3度に長3度)，③増三和音(長3度に長3度)，④減三和音(短3度に短3度)の4種がある。



さんわぎんこう　【三和銀行】　1970年(昭和45)3月末の貸し出し残高で都市銀行第4位。1933年12月鴻池(こうのいけ)・三十四・山口の3銀行の合併で誕生。その後1942年に辻林(つじばやし)・吏池・河泉・乙訓(おとくに)・山城八幡(やましろはちまん)銀行の営業譲渡を受け，さらに1943年尾州銀行，1945年三和信託・大同・大和田銀行をそれぞれ合併，1960年に信託部門を東洋信託銀行に譲渡した。代表的なピープルス-バンクをめざしており，三井銀行・第一勧業銀行・野村証券と組んで，海外の〈国際合同銀行〉設立に参加するなど積極的拡大を図っている。本店大阪市東区，支店は東京・横浜・神戸(こうべ)・札幌(さっぽろ)・サンフランシスコ・ロンドンなど海外を含め230。資本金891億円，1979年3月期預金残高9兆495億円，従業員数16,891(1979年3月)。

し

し 【市】 ⇨市町村

し 【詩】 ⇨次ページ

し 【詞】 中国の詩の一形式。唐代では律詩や絶句を楽章として歌ったが，音楽の曲調に合わせるため五言・七言の形式のほかに不規則な句法の新しい歌辞をつくり，唐末から五代にかけてその形式が完成した。これが詞である。晩唐の詩人温庭筠(おんていいん)が代表的詞人であるが，芸術的に完成させたのは五代南唐の後主李煜(りいく)である。宋(そう)代にはいって全盛期を迎え，艶麗(えんれい)な叙情の小曲として愛好されたが，豪放な傾向の詞も出た。現代中国の毛沢東は詞の名手として知られる。日本でも漢詩の伝来とともに伝わり，兼明(かねあきら)親王(《本朝文粋(もんずい)》にある)に詞の作があり，そののち漢詩人の余技としてつくられ，田能村(たのむら)竹田に《塡詞(てんし)図譜》があるが，韻律・句法がむずかしく，漢詩ほど盛んではなかった。➔漢詩　〔今村与志雄〕

し 【史】 中国，古代における文書記録の官。周代の太史・内史，戦国末の御史，秦(しん)・漢以降の卒史・掾史(えんし)・佐史・小史はみな各官庁の属僚であり，書記であるが，君主に侍御する史官であった御史が秦以降は監察官になり，公府や将軍府などの長史も幕僚長の性格をもつようになり，政治の重要部分を担当する者もあった。

し 【死】

生命活動や機能が停止して，再びもとにもどらない状態。死は，生物の個体を全体としてみる場合(全体的死)と，個体を構成する各部分・各臓器・組織・細胞を考慮に入れてみる場合(部分的死)とでは著しく異なってくる。個体の死後でも構成各部分はなお生き続け，全細胞が死滅するまでの過程では生と死とはゆるやかな移行時期がある。たとえば，個体の死後でも筋肉は電気刺激に対して反応し，瞳孔(どうこう)は薬品に対して反応する。個体の死とは，医学的には心臓拍動と呼吸運動の永久的停止をさしている。しかし，臨床的にこの時点を明確に決めることは必ずしも容易ではなく，特に最近，臓器移植の進展に伴って心臓機能停止前に起こる脳機能停止(➔脳死)をもって死とみなす風潮が生じている。現在世界的に死の認定について，法律・外科学・生理学・脳波学・法医学などの各専門家の間で再検討されており，特に心臓移植に関して，心臓提供者についての死(脳死)の認定は慎重でなければならず，死を予見して生きている心臓を摘出するということは，医学倫理や人間感情から許されるべきではないとの意見も強い。なお，世界保健機関が決めた心臓移植に際しての死の時点を判定する指針は，次のとおりである。①外部の刺激に対してあらゆる感覚がなくなる。②筋肉がまったく緊張を失う。③呼吸の自然停止。④血圧がなくなり，人工的にも血圧を保つことができない。⑤脳波の完全停止。

心臓・肺・脳の機能の永久的停止に続いて死の直後より早期死体現象といわれる一連の変化がみられる。死の確徴とされている死斑(しはん)の形成および死体強直が認められれば死は確実であり，蘇生(そせい)は不可能である。また，法律上では死の概念は特に定められてないが，判例から心臓拍動の有無が生死を判別する規準になっていると判断される。➔死体現象　〔朝倉　了〕

じ 【辞】 ⇨詞・辞

じ 【柱】 ⇨ちゅう

じ 【痔】 痔疾ともいう。肛門(こうもん)のはれ・疼痛(とうつう)・出血などをきたす疾患を総称する一般用語で，それぞれまったく別の痔患である痔核・痔裂・痔瘻(じろう)をいう。

シーアイエー ［CIA］ Central Intelligence Agency　アメリカ中央情報局の略称。1947年の国家安全保障法に基づいて設立され，国家安全保障会議の統轄下にある。いわゆるアメリカのスパイ網・情報組織の総元締めで，その組織網は世界各国に設置されているといわれる。たとえばカストロ政権下のキューバに侵攻を企てた背後にCIAの暗躍があったことはよく知られた事実であり，またベトナム戦争はじめ，インドネシア・カンボジア・中近東などの紛争に際してのCIAの働きも，その膨大な予算に守られて半ば公然として認められている。わが国でも第2次世界大戦後生じた怪事件のいくつかに関係しているといわれている。〔溝口　潔〕

三角記号	仕上げ程度	表面あらさ(S記号)
∼	なめらかな生地	
▽	荒仕上げ	35S以上
▽▽	中仕上げ	12S～25S
▽▽▽	上仕上げ	1.5S～6S
▽▽▽▽	精密仕上げ	0.8S以下

仕上げ記号

シーアイエフ ［CIF］ ⇨シフ

シーアイオー ［CIO］ ⇨AFL-CIO

しあくしょとう 【塩飽諸島】 ⇨しわくしょとう

しあげきごう 【仕上げ記号】 機械製図に仕上げの程度を指定するための記号。古くから三角記号が用いられてきたが，日本工業規格(JIS)では表面あらさを表わすS記号を記入することを勧めている。現在S記号は三角記号と併用する習慣にしているものが多い。

ジアスターゼ ⇨アミラーゼ

シアーズ-ローバック ［Sears Roebuck & Co.］ 全米に通信販売網と小売店網をもつ，世界最大の小売販売会社。利益の8割が小売店収入であり，形式にはスーパーマーケットとデパートがある。1886年にリチャード-シアーズが通信販売を手がけたことに始まり，現在では消費者金融や保険事業も子会社で行なっている。子会社オールステート-インシュアランスは自動車保険会社として世界的に有名である。カタログ販売と電話販売も行なっており，海外進出に子会社が活躍している。本社シカゴ。年間売上高89億ドル，従業員数35万5,000(1969)。〔氏家　尚〕

ジアゾかごうぶつ 【ジアゾ化合物】

1 ジアゾ基＞N_2をもつ化合物の総称。最も簡単なものはジアゾメタンCH_2N_2であるが，実際は$N^-=N^+=CH_2 \longleftrightarrow N\equiv N^+-CH_2^-$という共鳴混成体をなしている。反応性が非常に大きく，有機合成化学上の試薬として重要である。

➔327ページ

詩

【中国における詩の概念】中国において，文献上最も古く詩を定義づけているのは，中国最古の経典群に属する《書経*》と《詩経*》においてである。ともに孔子*(こうし)が編纂(へんさん)したといわれる古典だが，両書の中における比較的短い詩の説明を要約してみると，ほぼ次のようになる。すなわち，人の心の中において，感情および思想がある方向に傾くのが〈志〉であり，それをことばで表現したものが〈詩〉というものである，と。さらに，ことばの表現だけで足りない場合は舌打ちをして嘆く，それでも足りなければ声を長く引っ張って歌う，それでも足りなければいきおい手を舞わせ足を踏むようになる，と。

以上の定義は一見ごく簡潔であるが，後述するヨーロッパにおける詩の誕生・特質と比べても，多分に共通するところが多い。ここにはまた，日本をも含む東洋の詩の原初的な意味が明らかにされているといえる。言語上のリズムともいうべき韻律*は，東西を問わず，詩一般の特質の一つであって，特に中国においては古くより脚韻*がその主要な役割を果たしてきたのである。

中国の詩は，中国文学*の主流として，まさに伝統と歴史を誇るものであるが，その詩形上の種類としては，時代順に，古体詩と近体詩に大別され(以上をわが国では漢詩*とよんでいる)，さらに，1917年の文学革命以後の現代詩などとよばれるものがあるが，革命以後の詩はともかくとして，それ以前のものには，かなり厳格な作詩上の法則があって，時代を経るにしたがって，中国の詩は，いわゆる起承転結的な傾向を強くもつようになった。これらをわが国の歌に比べるとき，中国の詩の構造はより論理的であるといってよかろう。

詩のジャンルとして，中国の詩で最も発達したのは叙情詩であって，劇詩は，元の〈雑劇*〉から現代の〈京劇*〉に至るまで，幾多のみるべき作品がつくられたが，叙事詩はほとんどないに等しい。英雄詩的な叙事詩や想像力をたくましくした作品は意外に乏しく，その題材は主として日常身辺事や対自然の範囲に限られるのであるが，注目すべきことは，これらの詩の素材は，あくまで前述の心中に湧起(ゆうき)する〈志〉を表現するための手段ないし動機以上のものではないという点である。これが中国の詩に叙情詩が多いゆえんである。➔漢詩

【ヨーロッパにおける詩の概念】ギリシア語の詩(ポイエシス)ということばは，〈創作〉〈生産〉を意味する。ギリシア人は，芸術というものを基本的には模倣の技術とみなしていた。そして，このような意味での芸術の中で，言語による創造的な芸術をさして〈詩〉とよんだ。その限りでは，ほとんど今日いうところの〈文学〉の意義に等しいといってよく，これがヨーロッパにおける詩の根本概念となった。しかし，ギリシア以来，ヨーロッパの文学の大半は韻文*でつくられる伝統が長く続いたので，韻文からなる文学を詩の概念で一括する傾向がおのずと定着するに至った。これがいわば詩の第2の，そして狭義の概念規定であって，同時に現代における詩の通念ともなったのである。

しかし，さらに詩の概念は，より狭義に限定されるに至る。それは，必ずしも上記の第2の概念を完全に排除するに至ったわけではないが，今日でも広く流通しているもので，詩をもっぱら叙情詩にのみ限定する概念である。すなわち，詩はその内容上の種類として，叙事詩・叙情詩・劇詩の3種類に分類されることが多い。そして，叙事詩と劇詩とは，時代が下るにつれて，散文*形式の文学がこれらに代わって主流を占めるようになったのに対して，叙情詩の多くは，現在に至るまで，根強く韻文形式を維持しつづけている。これが，詩といえば叙情詩を暗に意味する，詩の第3の概念なのである。

なお，いま一つ，別種の詩の概念が加えられる。これは，たとえば，〈この絵にはポエジー(詩)がある〉というときの詩の概念である。この場合の詩とは，詩心とか詩趣とでもいうものをさすのであって，日本ふうにいえば，〈あわれ〉とか風雅とか風流とかに相当しよう。この用法は，芸術以外の対象について，たとえば〈この町には詩がない〉というように，しばしば使われている。

【詩の誕生】詩の発生については，世界を通じてほぼ共通した説明がなされ，承認されているといってよい。たとえば，その動機としては，祝祭の行事と結びつけて，祈禱(きとう)とか舞踊をあげることもできようし，作物の収穫の際の労働歌と考えることもできようし，後代へ歴史を残す記憶の手段として，リズムのあることばを使用するということもいえよう。要するに，複数の人間からなる集団があり，その集団がある連帯的・協同的行動をとろうとすれば，そこにおのずから共通のリズムを共有することが，その作業の能率をあげるにも，その娯楽の効果をあげるにも，いっそう好都合であるに違いない。これらさまざまの動機によって，高揚した人間の口から律動的なことばが発せられることは，古今を通じて変らない現象である。律動的なことばが詠嘆へ，詠嘆はさらに歌唱へ，歌唱はさらに舞踏へと激しさを増すという古代中国経典の説明は，ヨーロッパにも，そしておそらくはわが国にもほぼ適用できるように思われる。

【詩の特質】多くの詩は，歴史的には，韻文で語られ，あるいは書かれてきた。しかし，韻文と散文との相違を科学的な厳密さで叙述することはきわめて困難である。ヨーロッパでいえば，アリストテレス*からT. S.エリオット*に至るまで多数の文学者が詩その他の定義を試みてきたが，そこには共通項もあるが，それ以上に微妙な差異があって，決定的な定義はとても得られそうにない。ここでは，詩の若干の特質を述べておく。

詩の第1の特質は，散文による文学的表現とは異なり，韻律を有するということである。人間は，動植物と等しく，そしておそらく自然界と等しく，もともとリズムをもっているといえる。われわれの呼吸や脈搏(みゃくはく)のリズムは端的にこのことを示している。つまり，人間は，文学とか芸術などの人間的ないし人工的表現の以前に，人間としてリズミカルに生きているのであり，存在自体がリズムと切り離すことができないのである。

この特質は，詩の翻訳が可能かどうかを考察するとき，いっそう明白になるはずである。あるイギリスの詩人が言うように，スピノザの哲学は，その弟子(でし)が説明しても依然としてスピノザの哲学であり，トルストイの小説は翻訳されても依然としてトルストイの小説である。しかし，詩は，これを他の表現に移し変えたならば，たとえそれができたとしても，それはもはや詩とよばれるものではなく，いわば，最も本質的な何物かを失った一種の詩の残骸(ざんがい)にすぎないのである。ブランク-バース(五脚抑揚調の無韻詩)とよばれる詩形が使用されているシェークスピア劇を，それを散文体に書き変えた文章と比較すれば，専門家でない通常の読者でも，原文からある重要な何物かが消失したことに必ず気づくに違いない。

詩は，いうまでもなく，言語を素材としてつくられた文学的表現である。そして小説も，それは散文体ではあるが，その素材もやはり言語にほかならない。しかしながら，同じ言語を用いても，詩において言語はしばしば日常的性格を離脱し，いわば詩的言語ともいうべき性格に転化しうる。いいかえれば，詩は，詩に独特な言語の組み合わせその他の手法によって，ことばの日常性のほかに，あるいはそれと同時的に，象徴的表現を獲得することができるのである。ただし，詩以外の文学においても，部分的にせよ詩的表現を導入することは可能であり，事実，その例はけっして少なくない。➔叙情詩 ➔叙事詩 ➔劇詩

〔日高八郎〕



シアトル ピュージェット湾に臨む港の埠頭群と市の中心部。背後に美しい市街地が果てしなく広がる

2芳香族アミンから誘導されるジアゾニウム塩およびその関連化合物をいうこともある。その場合も分子中には−N=N−，−N^+≡Nがある。代表的な例は塩化ベンゼンジアゾニウム〔C_6H_5−N≡N〕$^+Cl^-$である。爆発性のものが多い。

ジアゾニウムえん【ジアゾニウム塩】ジアゾニウムイオンと酸の陰イオンとでつくられている塩で，一般式ArN_2Xで表わされる。Arは芳香核を，Xは無機酸の酸基を表わす。一般に，安定に存在しうるのは芳香族ジアゾニウム塩だけである。広い意味でジアゾ化合物ということもある。芳香族アミンの塩に，亜ショウ酸を作用させると得られる。化学的に非常に重要な化合物で，各種芳香族化合物や染料の合成原料に使われている。爆発性があるので注意が必要である。〔石戸良治・荒木洋之助〕

シアター-ギルド［Theatre Guild］ニューヨークにある会員制の演劇団体。商業主義を排し，芸術的価値の高い作品の上演を目的として1919年に組織された。前身はワシントン-スクエア劇団。アービングの《ジョン-ファーガスン》の成功で基礎を固め，1925年劇場をもつようになった。イプセン・ストリンドベルイ・ショー・ライス・ハワード・アンダースン・サローヤンらの欧米のすぐれた作品を紹介，アメリカ演劇に与えた影響は大きい。オニールの後期の作品のほとんどはシアター-ギルドの手で上演されている。1930年代になると初期の実験的精神を失い，そのため一部メンバーが脱退し，グループ-シアターを結成，さらに経済上のゆきづまりから一時劇団を手放したが，のち地方の予約会員の増加，1943年の《オクラホマ》の大ヒットで立ちなおり，現在に至っている。〔岡崎涼子〕

じあつ【地圧】地下の岩盤にかかっている圧力。地下の岩盤内部にはどこでも，それより上方にある岩石の重量にほぼ相当するだけの圧力が加わっている。このような岩盤内に坑道やトンネルを掘削すると，その周囲の岩盤には掘削前の地圧の数倍にも及ぶ圧力が発生する。そのため周囲の岩盤が破壊されたり，支保が押し曲げられたりする。また，長い年月の間には，周囲の岩盤がせり出してきて，坑道の断面積がはじめの半分近くになったりすることもある。このようにわれわれの目に触れる地圧の作用のことを地圧現象という。〔西松裕一〕

しあつりょうほう【指圧療法】指や手のひらなどで〈つぼ〉どころを押して疲れをとり，体の変調を整え，病気の予防や治療に応用する手技療法。押圧・反射の二つの手技があり，押圧は押すことによって体の形を正すもの，反射は体の形のかたよりから起こる機能を整えるものである。もともと指圧法は，古来の抑按調摩(よくあんちょうま)の術(➡按摩)や，柔道の活法(活を入れる)，導引の術(古来の呼吸を整える健康法の一)を総合して経験的に体系づけた手技療法であるが，大正の初期(1800年代)にアメリカの整体療法であるカイロプラクテック・オステオパシーなどの骨格矯正(きょうせい)法を取り入れて今日に至っている。いろいろの流派があり，やり方にもいろいろあるが，だいたい圧法と運動操作に分けられる。圧法は指圧の基本手技で，軽く快く押す方法，強くやや衝突様に押す方法などがあり，ともに〈圧〉によって生体機能の反射効果を期待し，筋肉の緊張や各種の苦痛を除くために行なう。運動操作は圧法のあとで，体の節々を十分に曲げ，伸ばして，節々の重苦しさや軽い痛みをとる方法である。

ふつう，うつむけの姿勢にさせて頸部(けいぶ)から足の方向に治療し，次にあおむけにさせて同様に上から下に，大きな筋肉や筋肉と筋肉のみぞに沿って指圧する。押す力は3～5kg圧(はかりを押せば，針の動きで押す力はだいたいわかる)で，1か所3～5秒間押す。間隔は3cmくらい，指先の力でなく，術者の体重を軽く静かに指先にかかるように押すのがこつである。専門の治療師になるためには，高等学校卒業を入学資格とする2年制の指圧マッサージの専門学校を終え，都道府県知事の行なう試験に合格してはじめて指圧師になれる。〔芹沢勝助〕

ジアテルミーりょうほう【ジアテルミー療法】高周波療法の一種。短波療法ともいう。波長数百ないし数十メートルほどの交流電流を人体に通電する。この程度の電流では知覚神経への刺激がなく，ジュール熱によって人体内部を暖めるので，深達性温熱のために利用された。しかし，のちに出現した超短波療法が，より均一な加温を行なうことが知られるにおよんで，現在ではほとんど使われなくなった。

シアトー［SEATO］⇨東南アジア条約機構

シアトル［Seattle］アメリカ合衆国，ワシントン州の太平洋岸，ピュージェット湾に臨む港湾都市。人口48万7,000，大シアトル142万(1975)。1851年，製材工場の建設が市の起源で，1897年以降のアラスカ・カナダにまたがるクロンダイク地方のゴールドラッシュ時代には，その出入り口として急速に発達した。湖と湾に囲まれて平地に乏しく，市街は海岸から背後の丘陵にまで延びている。合衆国東部地方と連絡する4本の大陸横断鉄道の終点にあたり，貿易商業都市としても重要な位置にある。ボーイング航空機会社があり，航空機の生産，造船業，鉄鋼・アルミニウムなどの工業が盛ん。日本人移民も多く，1861年創立のワシントン大学がある。〔相村大彬〕

シアナミドなまり【シアナミド鉛】無機顔料の一。$Pb(CN)_2$ 淡黄色の微細な針状結晶。石灰窒素を水に懸濁させ，濾液(ろえき)に可溶性塩を加えて沈殿，製造する。比重6.4～6.8。さび止め顔料として用いられる。大気中に塗膜がさらされると徐々に分解してアンモニアを放出し鉄面に微アルカリ性の状態がつくられる。鉄面への腐食を防ぐとともに，そのアルカリ性によってビヒクル(展色剤)と反応し，鉛の金属せっけんがつくられ，塗膜は強靭(きょうじん)性・耐候性・耐水性を増す。➔顔料〔品田 登〕

シアヌーク［Norodom Sihanouk］(1922～) カンボジア民族戦線代表。元カンボジア王国元首。1941年母方の祖父モニボン国王の死去により即位。1949年フランスからの独立を宣言。1955年2月には王位を父スラマリット殿下に譲り，同年9月人民社会主義共同体を率いて総選挙で大勝，首相となる。1960年4月，父国王の死去に伴い，即位をやめて国家元首に就任し，積極的中立外交を推進した。カンボジアはインドシナ半島でただ1国平和を守っていたが，1970年4月，外遊中にロンノル・マタ・シクら軍部のクーデターにあい，カンボジア民族戦線を組織，復帰をねらっている。中国・ソ連など社会主義国の大部分，スーダンなど中立諸国の一部はシアヌーク支持を表明している。〔吹浦忠正〕

シアノコバラミン［cyanocobalamin］ビタミンB_{12}とよばれる暗赤色の結晶。吸湿性で水によくとける。ウシの肝臓からはじめて分離されたが，ある種の微生物の培養

液中にも含まれている。生化学的に核酸の合成，アミノ酸代謝などに関係がある。医薬品としては注射剤として悪性貧血・妊娠性貧血・白血球減少症などに用いる。

シーアは 【シーア派】 イスラム教の一分派。語源はシーアット-アリー(アリーの一党)にあり，ウマイヤ朝を開いてカリフと称したムアウィアを帝位を奪う者とみなし，第4代カリフのアリーのむすこたちをカリフの位につける運動を起こした人々にその起源をもつ。マホメットの血を引く者以外をカリフとして認めず，マホメットのいとこアリーとその子孫にのみイマーム(教主)としての神聖性を認める。イスマイル派など多数の分派を生じたが，正統派の12イマーム派はイラン的解釈を施されて発展し，16世紀初頭にイランの国教とされ，現在に至っている。イランのほかにはイラク・シリア・イエメンにかなりの信徒を擁するが，その数は諸分派を総計しても全イスラム教徒の1割弱である。 〔牧野信也〕

じあまり 【字余り】 文芸用語。和歌・連歌・俳諧(はいかい)など一定音数の句で構成される作品において，いずれかの句の音数が定型をはみ出しているものをいう。作者の内面的必然性に基づくものは，効果的な場合もある。定型の音数に足らないのを字足らずといい，字余り・字足らずの極端な場合を破調という。

シアム ［CIAM］ Congrès Internationaux d'Architecture Moderneの略称。近代建築国際会議。1928年6月28日ラ-サラにおける第1回大会以来，1956年ドゥブロニクでの第10回大会まで約30年間続いた建築家の国際組織。既成のアカデミズムを攻撃し，技術的・経済的・社会的条件と，都市構造との関連で建築をとらえなおし，機能的かつ合理的な建築をつくろうという運動を起こした。第2回最小限住宅，第3回合理的区画，第4回機能的都市などというテーマでアテネにおいて会議が行なわれた。この会議において，都市を住居・労働・余暇・交通という四つの機能としてとらえ，それぞれの機能にふさわしい都市計画を行なうべきだという，100条に及ぶ原則を掲げたアテネ憲章がつくられた。CIAMの理念はアカデミズムや政府から無視されながらも各国の建築家に思想的な影響を与え，個々の建築を通して生かされていった。会議は第2次世界大戦によって中断されたが，戦後再開され，第6回ヨーロッパの復興，第7回住宅の連続性，第8回都市の核，第9回住宅憲章と，その活躍は戦後の復興計画や住宅問題と積極的に取り組み，建築家に社会的責任を自覚させた。そして，第10回大会を最後にCIAMの運動は幕を閉じた。 〔竹内泰夫〕

シアル ［sial］ 大陸の地殻(ちかく)の上部を，下部のシマに対していう。化学組成は，酸素・ケイ素・アルミニウムを主成分としている。

シアルクいせき 【シアルク遺跡】 イラン高原中央に位置する先史遺跡。1933〜1937年のR.ギルシュマンの発掘以来，考古学上の重要な遺跡として注目されている。南北二つの丘と二つの墓地からなり，合わせて6時期にわたる居住跡がある。シアルクⅠ〜ⅣはBC4500〜BC3000年ごろの金石併用時代のもので，美しい彩文土器の展開がみられる。その後居住がとだえていたが，再びBC1200〜BC800年ごろになって二つの墓地に新しい居住者の遺物が残されており(シアルクⅤ〜Ⅵ)，これらは文明が鉄器時代に移行するようすを伝えている。 〔小谷仲男〕

シアルコート ［Sialkot］ 西パキスタン北東部，パンジャブ地方にある都市。人口20万4,000(1972)。カシミールとの国境に近いが，地形的にはヒンドスタン平原の北端にあり，海抜250m程度である。ラホールの北約100km，チェナブ川左岸に位置し，農産物の集散地で，テニスのラケットの製造も行なっている。古い城跡とシク教の使徒ナーナクの廟(びょう)がある。また，カシミールに対する軍事基地の一つである。

シアン ［cyan］ $(CN)_2$ 無色の気体で，融点−27.9℃，沸点−21.2℃，特有の刺激臭があり，猛毒。水銀・銀などのシアン化物を赤熱するか，硫酸銅とシアン化カリウムの混合溶液を熱して製する。化学的には塩素に似ている。

シアン ［cyan］ 色名。シアン-ブルーともいう。やや緑をおびた青色。原色版印刷・多色刷オフセット印刷などに三要色の青として用いられている。日本工業規格(JIS)慣用色名〈シアン〉は，色相5.5B，明度4.0，彩度8.5の色と規定されている。➔色

シアンかカリウム 【シアン化カリウム】 ⇨青酸カリ

シアンかすいそ 【シアン化水素】 HCN 無色の液体で，融点−13.2℃，沸点25.7℃。猛毒で，その致死量は0.06g。シアン化ナトリウム・シアン化カルシウムなどを硫酸で分解してつくる。また一酸化炭素とアンモニアとからホルムアマイドを中間体として合成することができる。水・アルコール・エーテルにとける。水溶液はシアン化水素酸(青酸)といわれ，弱酸性を示す。殺虫剤・有機合成・シアン化合物の製造など，多くの用途がある。

しい 【思惟】 ⇨思考

しい 【椎】 双子葉植物・ブナ科。一般にはスダジイのことをさす。暖地に自生する常緑高木で，庭木としても利用される。高さ25m以上，太さ1.5mに達し，枝を多く出す。葉は広披針(ひしん)形で厚く，先にあらい鋸歯(きょし)があり，裏面に灰白〜淡かっ色の毛がある。5〜6月，その年の枝の上方の葉腋(ようえき)に雌花穂を，下方の葉腋に黄色の小さな花を密生した雄花穂をつける。果実は長卵形で先がとがり，翌年の秋に熟し，食べられる。本州南部に多いツブラジイの果実は丸く，幹はなめらかであるが，スダジイの樹皮は縦に割れる。建築材・器具材やシイタケ栽培の台木に用いられる。 〔加藤僖重〕

じいうんどう 【示威運動】 労働者・学生，その他一般大衆が一定の社会的要求の実現をめざして集団的に行なう活動をいう。おもに街頭行進(デモ)による。政府や経営者に要求実現のための心理的圧力を加えるため，あるいは自己の要求を一般の人々に広く知らせるため，ときには自己の勢力の誇示のために行なわれる。社会運動や大衆運動はこのような示威運動という形態をもって進められる場合が多い。示威は〈表現の自由〉として憲法21条に保障された国民の基本的権利の一つと認められている。 〔西尾孝司〕

しいか 【詩歌】 短歌雑誌。1911年(明治44)4月前田夕暮が創刊。《明星》の歌風にあきたらない人々に迎えられて，自然主義短歌運動の中核となる。同人には富田砕花・尾山秋人らがおり，若山牧水・斎藤茂吉・北原白秋らが寄稿した。1918年(大正7)《アララギ》の隆盛におされて休刊。1928年(昭和3)の復刊後は，自由律口語短歌の中心となった。のち，文語定型に復帰したが1944年休刊。第2次世界大戦後は三たび復刊したが1957年に休刊している。

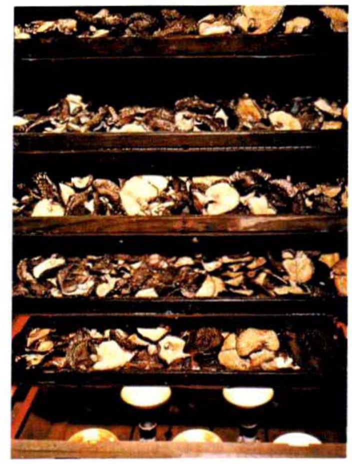
じいしき 【自意識】 一般に他者を認識したとき，相対的に分化し，区別される自分自身に対する意識をいう。多くの場合，自己肯定・自己否定・自己不確実などの自己に対する感情や評価をともなうが，広範な内容を含み不明確なことばであるため，学問的には内容をより厳密に定義して，自己概念(現象学派)・自我感情(精神分析学派)・自我意識(精神分析学派・意識心理学派)などのことばが使われている。➔自我

しいたけ 【椎茸】 マッタケ科のキノコ。日本・朝鮮・台湾で栽培され，ほかに中国・フィリピン・セレベス島・ボルネオ島などに分布。カシ・シイ・クリなどの枯れた幹や枝に生ずる。かさは円形で径5〜15cm，上面は茶かっ色で鱗片(りんぺん)がある。ひだは白色。肉質は繊維状で充実している。日本では，1664年(寛文4)以前から静岡県で栽培されていた。当時は秋季伐採したままのイヌシデやナラ類を原木として用いたが，やがて中国の影響を受けてこれになた目をつける伏せ込み法が用いられた。これは自然に飛来する胞子を期待したものである。人工接種法は1895年(明治28)から用いられ，菌糸・胞子を，さらには種木(菌糸の繁殖しやすいほだ木を細かく切ったもの)を埋め込む方法が考えられた。昭和になって純粋培養種菌を用いるようになり，栽培法は安定化し，現在では純粋培養の種駒(たねごま)(楔形(くさびがた)の木に種菌を培養したもの)

を接続する栽培が広く行なわれ，また優秀な系統(品種)が多数選抜されるなど，栽培法は確立された。栽培用原木はナラ類・クヌギ・シイ・イヌシデなど，樹齢８～20年ぐらいで，直径10～20cm程度のものを冬季伐採し，１ｍぐらいに玉切り(原木を用途にしたがって一定の長さに切断すること)し，春先き種駒を打ち込む。接種した原木は約１か月ぐらい１か所に積んで菌糸の活着を助け，次いで林内や光線を制限した人工のカバーの下に伏せ込む。早いものでは，菌糸は満１年で伸びきって子実体(キノコ)が出てくる。ほだ木(菌糸の繁殖した原木)はキノコの発生に都合のよい暖かくて，湿度の高い場所に移す。系統によってキノコの発生時期に差があるが，春秋のいずれかに発生するものが多く，降雨ののちにいっせいに発生する。これが露地栽培であり，おもに干しシイタケに加工される。乾燥は乾燥室や乾燥器を用い温度60℃以下の低温で５～12時間かける。成品は，肉が厚くかさが未開から半開程度の〈どんこ〉と，かさが全開で肉の薄い〈こうしん〉に大別される。最近は生シイタケ用の栽培がふえている。完熟したほだ木に乾燥・浸水・芽出しなどの作業を加えてビニルハウスに入れて発生させる。このような室内栽培では，系統を組み合わせることにより周年栽培が可能である。干しシイタケの産地は大分・宮崎・静岡の各県であるが，最近は群馬・埼玉・茨城などの各県に新興の生シイタケ産地が形成されて，新興産地の産額は従来の産地での産額を抜こうとしている。干しシイタケは国内消費のほかに香港(ホンコン)・シンガポール・台湾・アメリカなどに多量に輸出される。干しシイタケのうま味はようやく欧米人にも理解されるようになってきた。シイタケには特有のかおりとうま味があり，各種の料理に用いられる。うま味の主成分はリボ核酸が酵素によって分解してできるグアニル酸で，かおりはレンチオニンというイオウ化合物である。干しシイタケにはこのほかビタミンＤの母体であるエルゴステリンが多量に含まれるのですぐれた食品である。最近では動脈硬化を防止する薬効も認められている。〔中村克哉〕

しいちろくじけん【四・一六事件】1929年(昭和４)４月６日に行なわれた日本共産党*に対する検挙・弾圧事件。前年の三・一五事件*で日本共産党は有力な幹部を失い，甚大(じんだい)な打撃を受けたが，モスクワから市川正一・鍋山(なべやま)貞親らの幹部が帰国し，残っていた三田村四郎らと党活動の再建を図った。田中義一内閣は治安維持法*を改正し，特別高等警察*の機構を拡充して，極左分子の根絶を期していたが，ついに共産党の第３次検挙を行なった。市川・鍋山・三田村ら幹部はほとんど検挙され，佐野学*も上海(シャンハイ)で捕われた。〔高崎徳次〕





シイタケ
(左)栽培。ほだ木に成長した子実体
(右)乾燥。収穫したシイタケを赤外線で乾燥する



ジイド

ジイド［André Gide］(1869～1951) フランスの小説家。父は南フランスのユゼス出身の法学者，母は北フランスルアンの旧家の出で熱烈なキリスト教信者。ジイド自身が述べているように，父母の出身地，つまり南・北フランスの風土的要素がその気質の中に同居し，複雑な精神が形成された。処女作《アンドレ-ワルテルの手記》で，従姉(いとこ)マドレーヌへの思慕を中心に魂と肉体の葛藤(かっとう)を描いたが，その後マラルメ*のもとで象徴主義の影響を受けた。1893年のアフリカ旅行を契機として，精神的混沌(こんとん)の中から生命の強靭(きょうじん)さをよみがえらせ，《パリュード》《地の糧*(かて)》《背徳者*》などを発表して文壇に地歩を築いた。その後，《狭き門*》《法王庁の抜け穴》やその文学論の集大成ともいうべき《贋金(にせがね)つくり*》などの小説を書くほか，自伝《一粒の麦もし死なずば》や《コンゴ紀行》など，多くのジャンルにおいて才能を発揮した。1932年には共産主義への転向を表明したが，《ソビエト紀行》ではソ連の現実を見聞しての批判がこめられている。評論家としてもすぐれ，《ドストエフスキー》などの著作があり，また20世紀フランス文学に新風を吹き込んだ文芸雑誌《NRF(エヌエルエフ)》の創刊に尽力してその中心的役割を果たし，みずからの創作活動とともに新しい小説への道を開拓した。なお，1889～1949年の《日記》はジイドの精神史の誠実な記録となっている。1947年ノーベル文学賞を受賞。〔池田公麿〕

しいなりんぞう【椎名麟三】(1911～1973) 小説家。本名大坪昇(のぼる)。兵庫県の生まれ。《深夜の酒宴》《重き流れの中に》で作家として出発，第２次世界大戦後の重く暗い現実の中に内面的〈自由〉を追求し，生の可能性を探った。なお，その文学の主要なテーマは，いわゆる社会意識と観念的実存的思考との統一にある。ほかに《深尾正治の手記》《永遠なる序章》《邂逅(かいこう)》《自由の彼方で》《美しい女》など。

しいのき ⇨シイ

しいば【椎葉(村)】宮崎県北西部，東臼杵(ひがしうすき)郡の村。耳川の最上流部にある僻村(へきそん)で，人口5,700。面積は537km²で，県下の市町村中最大であり，人口密度は１km²あたり11人。村域の95％は山林で，山が深く，谷が険しいため，明治時代までは焼き畑*耕作によるヒエ・アワを常食としていた。平家の落人(おちうど)部落という言い伝えがあり，那須(なす)(源氏)・椎葉(平氏)の姓が残る。1955年(昭和30)日本最初のアーチダム(高さ110ｍ，長さ340ｍ，貯水量9,200万m³)が上椎葉に完成し，最大出力90,000kWの発電所がある。国道265号線・九州横断林道がほぼ南北に走り，日豊本線富高駅(日向(ひゅうが)市)から県道をバスで４時間半で達する。《ひえつき節*》の鶴富姫(つるとみひめ)ゆかりの鶴富屋敷は，1956年重要文化財に指定された。

しいら【鱰】硬骨魚類・シイラ科。体長２ｍに達する海産魚。体は細長く，大いに側扁(そくへん)し，細かな円鱗(えんりん)でおおわれる。前額部が張り出し，特に老成した雄では著しい。体は青緑色で腹面は黄色みをおび，全体に小黒点が散在する。温帯・暖帯の海に産し，日本では本州中部以南に分布し，特に日本海に多い。表層近くを泳ぎ，他の魚類を追って捕食する。流木などの陰に集まる性質があるので，竹や細い木をたばねて海面に浮かべて捕える〈シイラづけ〉という漁法もある。肉は美味で，さしみなどとして高級魚の代わりをつとめることもある。形態も分布もよく似た近縁種のエビスシイラは全長１ｍほどで，ひれの条の数がシイラよりも少ない。〔菅野徹〕

しいれ【仕入れ】商品を再販売し，自企業に利益をもたらすことを目的として，小売業者が，製造業者もしくは卸売業者から商品を購入することをいう。近代経営においては，販売活動と仕入れ活動は，相互に密接不可欠な関係を有しており，しかも商店における基本的機能を形成するものである。今日のように経営環境が複雑かつめまぐるしく変化する時代では，消費者の志向理念に立脚し，つねに販売を前提とした仕入れが行なわれ，インフォメーションの収集・分析を通じて，顧客の欲求と需要に基づく仕入れが行なわれる必要がある。商店の仕入れ管理は，商品の種類・品質(商品の選定)，数量(仕入れ量の決定)，時期(仕入れ時期の決定)，価格(仕入れ価格の決定)，仕入れ先(仕入れ先の選定)に関する内容をもつ。これは五つの適正とよばれているが，その本質において顧客の需要に即した仕入れがなされることである。仕入れ方法としては，①仕入れの場所によるもの，②仕入れの数量によるもの，③仕入れの時期によるもの，④仕入れの主体に関連するもの，⑤仕入れの技術に関連するもの，などの観点からの分類が考えられる。〔清水　晶〕

しいん【子音】〈しおん〉ともいう。おもに，舌・くちびるその他の音声器官によって息の流出を妨害することによってつくられる音で，母音と組み合わされて音節をつくる。音素はふつう母音と子音に二大別される。母音が大きな，それ自体安定した響きをもつ楽音で音節の中心をなすのに対して，子音はたいてい響きの小さい騒音を主とする音であるか，もしくは楽音であっても音声器官の急速な運動によって瞬間的に変化し，母音に比べ独立性が弱い。発音の方法によって破裂音(閉鎖音)・摩擦音・破擦音・鼻音・流音・半母音などに，発音の位置によってくちびる音・舌先音・前舌音・奥舌音・声門音などに，発音時の声帯・声門の状態によって有声音と無声音，また有気音と無気音に分類される。子音の数は言語によって異なるが，10個内外から数十個までである。ふつう，日本語には15個，英語には24個の子音を認める。〔上村幸雄〕

日本語の子音一覧

		くちびる音	舌先音	前舌音	奥舌音	声門音
破裂音	無声音	p	t		k	
	有声音	b	d		g [1]	
摩擦音	無声音		s			h
破擦音	無声音		c			
	有声音		z [2]			
鼻　音	有声音	m	n			
流　音	有声音		r			
半母音	有声音	w		j		

(1)　語頭以外では鼻音(ŋ)にもなる。
(2)　摩擦音にもなる。

しいん【死因】死亡をひき起こした原因(死亡原因)。直接に死亡をひき起こした一連の病的事象のはじまりとなった疾病(しっぺい)・損傷，致命傷を生じさせた事故または暴力の状況を原死因という。たとえば，腎炎(じんえん)から続発した高血圧症が原因で脳出血で死亡した場合，死因は脳出血であるが，腎炎は原死因である。また二つ以上の原因があって，そのいずれもが死因となりうる場合には，この両者を競合死因という。わが国における1970年(昭和45)の上位主要死因は，①脳血管疾患，②悪性新生物，③心疾患，④不慮の事故，⑤老衰，⑥肺炎および気管支炎，⑦高血圧性疾患，⑧全結核，⑨自殺，⑩肝硬変の順となっている。なお，死亡診断書に記載されるものについては世界保健機関の定めた国際疾病分類基準に従って分類し，原死因を表示することになっている。〔朝倉　了〕

じいん【寺院】僧職者が居住し，勤行や修行や布教をするところ。仏寺・僧寺・伽藍(がらん)・精舎(しょうじゃ)・道場などともいう。原形はブッダ時代のインドの精舎。日本では，6世紀半ば欽明(きんめい)天皇のとき，蘇我稲目(そがのいなめ)が向原の家を捨てて寺としたのが最初である。以後七堂伽藍の制も完備し，平安初期になると山中に建てられるようになったが，鎌倉時代以後は平地に移った。寺には官寺・私寺，僧寺・尼寺の別があり，宗派によってよび方も異なる。江戸時代にはいると本末制度(→本山)が確立し，檀那(だんな)寺に発展した。➔仏教建築〔玉山成元〕

じいんけんちく【寺院建築】キリスト教寺院・回教寺院・仏教寺院など一定の宗教に属し，教義の宣布，儀式の執行，司祭・僧侶(そうりょ)の生活などの施設を含む宗教建築。宗教によっては慣習的に寺院とよばないものもあり，古代エジプトやギリシアの宗教建築は神殿建築とよばれ，日本でも寺院建築は仏教建築を意味し，神社を含まない。一般に寺院建築などの宗教建築は，機能的実用性にとどまらないで，心に訴える芸術的表現を重んじるので，時代を代表する芸術的建築の主流をなしてきたが，近世にはいって宮殿・邸宅・官衙(かんが)・公共建築などの世俗の建築が興隆してからは相対的に時代の中心建築の王座から退き，近代はますますこの傾向が強まっている。〔渡辺保忠〕

じいんはっと【寺院法度】江戸幕府が仏教各宗・寺院・僧侶(そうりょ)を統制するために制定した法令。正しくは〈諸宗寺院法度〉という。1597年(慶長2)，徳川家康(いえやす)はその領地である関東に〈関東浄土宗法度〉を発布したが，関ケ原の役以後は，1601年高野山あてのものに始まり，1616年(元和2)身延山久遠寺あてのものに至るまで，真言・天台をはじめとする各宗に対する34通が発布された。制定に関与したのは崇伝で，その要目は宗学儀礼の奨励，本寺・末寺関係の確立，僧侶の階級厳守，悪僧徒党の庇護(ひご)禁止，寺格の区別厳守，僧侶の任命法などである。1665年(寛文5)各宗に共通した〈諸国寺院御掟(おきて)〉9条が制定されて完成した。〔岡山泰四〕

じうた【地歌】地唄とも書く。京阪(けいはん)の地方性と結びついて成立した三味線(しゃみせん)音楽の代表的なジャンルの一。三味線音楽として成立は最も古く，17世紀初めの三味線組歌(→組歌)に始まる。組歌は短い歌を集めたものであったので統一を欠いていたが，元禄(げんろく)年間(1688～1703)統一と歌詞の一貫性をもった長歌(《松尽し》《七草》など)が現われ，さらに長歌よりも気のきいた破格の歌という意味で端唄(はうた)とよばれたジャンルが現われた。これは今日最もよく演奏される《黒髪》《小簾(こす)の戸》《雪》などを含むもので　地歌の典型といえるものである。地歌には，このほか芝居歌・作物(さくもの)・浄瑠璃物(じょうるりもの)などと分類されるものがある。芝居歌は《道成寺》《石橋(しゃっきょう)》など，歌舞伎(かぶき)で使われたり，その様式を模したものをいう。浄瑠璃物は初期の浄瑠璃を取り入れたもので，それぞれの名をとって，たとえば繁太夫物(しげたゆうもの)などとよばれる。地歌の一般的な特徴は，他の三味線音楽に比べてテンポがゆっくりしており，音をかたまりとしてよりも，1音1音の響きとニュアンスをたいせつにする点にある。撥(ばち)を皮にあてて打楽器的な印象を与えることのないようにし，左手はコキといってかすかなグリッサンドを用いる。歌の表現法も，大幅な音量や気分の変化を追わず，室内楽的な抑制された表現を目的としている。なお，地歌は箏曲(そうきょく)にも移し替えられ，また三曲の形態で演奏することも多く，今日では地歌と箏曲の区別ができにくくなっている。〔徳丸吉彦〕

じうたい【地謡】能(謡曲)の地の詞章をうたうこと，また地をうたう者。その詞章は，第三者的に表現されることもあれば，シテ・ワキの心中を述べていることもあるが，必ず謡であってことば(せりふ)ではないことが特色。扮装(ふんそう)はせず，地謡座(→能舞台)に前後2列に端座してうたう。地謡はシテ方の職務で，普通は8名。後列4名のうち中央に近い1名を地頭(じがしら)といい，全体を統率する。

シウダドトルヒーヨ ⇨サントドミンゴ

じうたまい【地歌舞】地歌によって伴奏される舞踊。上方舞の一つで，京舞のおもな部分を占める。いまは大劇場やホールで舞われることもあるが，本来は座敷舞。山村流の流祖初世山村友五郎(1781～1844)が歌舞伎(かぶき)の振り付けをする一方，一般からも弟子(でし)をとり，江戸と違ってそう

した弟子には座敷舞だけを教えたのに始まる。地歌が沈静なものであるため，地歌舞も静かな象徴的なものが多く，演者の心を表現するのを特に目的とする。近年その特色と価値が認められて隆盛になった。
〔戸部銀作〕

じうん　【慈雲】 ⇨飲光(おんこう)

しうんどう　【視運動】 地球の公転や天体自身の運動などによって，天体の天球上の見かけの位置が変化すること。

しえ　【紫衣】 紫色の袈裟(けさ)と法衣のこと。天皇から賜わるもの。《延喜式》には斎会の講師は浅紫綾(あや)と定めているが,その後,紫は法師,僧正は緋(ひ)の袈裟となる。法衣の紫は青蓮院(しょうれんいん)法親王が常用したが，江戸初期になると，寺院の格で着用が指定され，大寺では許可を得て着用するようになった。

ジーエーアールピー　［GARP］ ⇨地球大気開発計画

シェイエス　［Emmanuel Joseph Sieyès］（1748～1836） フランスの政治家。僧侶(そうりょ)出身なのでアベ-シェイエスとよばれる。フランス革命直前に《第三身分とは何か》(1789)を著わした。1789年の三部会にパリの第三身分の代表として選出され，国民議会の創設などに努力，ルイ16世の処刑にも賛成票を投じた。のちベルリン大使・総裁・第二執政・元老院議員となり，革命政治家としては例外的に生き延びたが，王政復古で追放されオランダに亡命，七月革命後帰国した。〈ミラボーとともに革命を生み，ナポレオンとともに革命を葬った〉といわれる。〔喜多迅鷹〕

じえいかん　【自衛官】 防衛庁の職員はすべて自衛隊員であり，特別職の国家公務員である。これを大別すれば,制服職員(自衛官)と非制服職員(非自衛官)になる。非制服職員は事務次官・書記官・部員・事務官・技官・教官・書記および技手に区別され，おもに防衛庁内局・付属機関に配置される。制服職員は警察予備隊発足当時は警察官,保安庁時代は保安官(陸)・警備官(海)と呼称され，防衛庁時代にはいってから自衛官とよばれた。自衛官は各幕僚監部・統合幕僚会議・部隊・機関の主体を構成し，その一部に非制服職員を付属的に配置している。警察予備隊当時の定員は75,000であったが，1975年3月現在，自衛官の総定員26万6,046名，非自衛官24,784名。その内訳は陸上自衛隊の自衛官18万，非自衛官12,114名，海上自衛隊の自衛官41,388名，非自衛官4,646名,航空自衛隊の自衛官44,575名，非自衛官5,016名,統合幕僚会議の自衛官83名，非自衛官35名，防衛庁内局等の非自衛官2,973名である。

自衛官の職種は，任務遂行を能率的にするために各自の素質・技能に応じて定められ，さらに一定の資格を備えた技能は特技として公認される。陸上自衛官の職種には普通(歩兵)・機甲・特科(砲兵)・航空・施設(工兵)・通信・武器・需品・輸送・化学・警務(憲兵)・会計・衛生・音楽の14科がある。海上自衛官の職種は艦艇・航空・技術・情報・通信・監理・衛生・音楽である。航空自衛官では幹部(将校)と曹士(そうし)(下士官兵)で異なり，幹部は指揮幕僚・飛行・管制・情報・気象・通信電子・武装・装備・施設・輸送・補給・生産調達・監理・総務人事・教育・警備・研究開発・衛生および音楽の19種，曹士の職種は技術関係が細分されて29種になっている。

自衛官の階級は将・将補・1佐・2佐・3佐・1尉・2尉・3尉・1曹・2曹・3曹・1士・2士・3士の14に分けられ，正式の呼称は，陸将・海将補・1等空佐・2等陸士などとなる。

隊員の補充は志願者に試験を実施して選抜採用する。募集は，2等陸海空士・幹部候補生・航空学生・自衛隊生徒(旧軍の少年兵)・防衛大学校学生・看護学生・婦人自衛官・貸費学生(委託学生)および予備自衛官(旧軍の在郷軍人に相当)などの各種に分かれ，それぞれ各個に行なわれている。

なお，自衛隊員は職務を行なうにあたり，次の宣誓書に署名・捺印(なついん)することになっている。〈私は，わが国の平和と独立を守る自衛隊の使命を自覚し，法令を遵守し，一致団結，厳正な規律を保持し，常に徳操を養い，人格を尊重し，心身をきたえ，技能をみがき，政治的活動に関与せず，強い責任感をもって専心職務の遂行にあたり，事に臨んで危険を顧みず，身をもって責任の完遂に努め，もって国民の負託にこたえることを誓います。〉〔森田　哲〕

じえいかん　【自衛艦】 海上自衛隊に所属する艦艇。警備艦艇として護衛艦・潜水艦・掃海艦(艇)・敷設艦(艇)・駆潜艇・魚雷艇・哨戒艇(しょうかいてい)・揚陸艦(艇)，特務艦艇として潜水艦救難艦・給油艦・特務艇・砕氷艦などである。例外を除き自衛艦隊に属する艦艇のことをいい，地方隊や港務部などの艦艇や船舶で上記の艦種に属さないものは自衛艦とはよばない。

じえいかんたい　【自衛艦隊】 海上自衛隊の第一線部隊。護衛隊群よりなる護衛艦隊，航空群を集めた航空集団や掃海隊群，潜水隊群，海上訓練指導隊群その他の直轄部隊よりなり，特定の警備区域をもたず，日本近海の警備(特に対潜)・船団護衛を主任務とする。自衛艦隊司令官と自衛艦隊司令部がこれを指揮する。おもな自衛艦と航空機の大部分を傘下(さんか)に収めている。

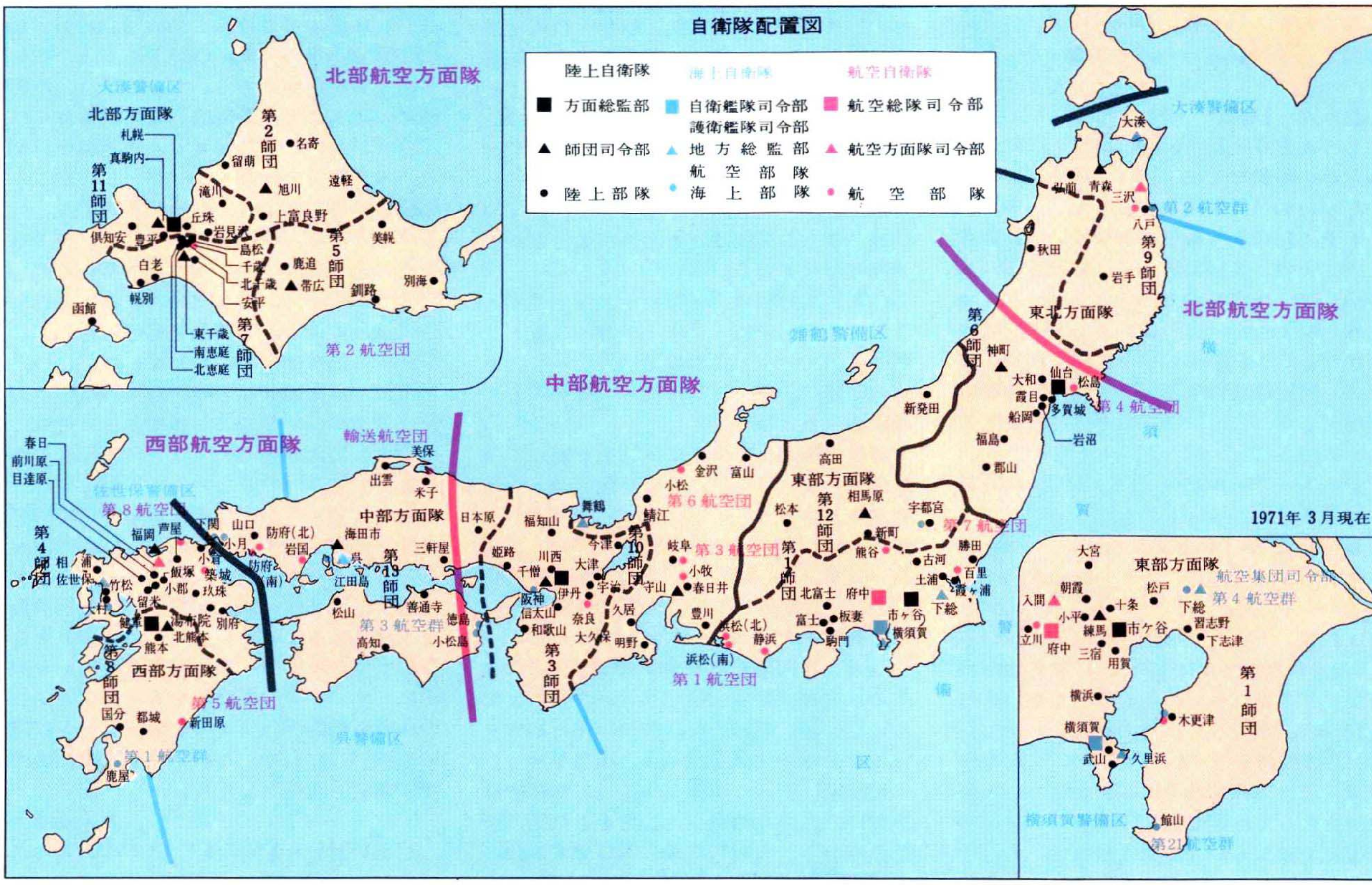
じえいけん　【自衛権】 国家が存在し発展していくうえで，もし他国家から緊急不正の攻撃・侵略を受けた場合，当然それに対して抵抗し，みずからの安全を守りうるものと考えられ，やむをえない場合には実力を行使しても，この攻撃を排除することが許されるとされる。これが今日国際法上認められている自衛権である。現代世界には，各国家が独立国として併存し，すべての国家が単一の世界国家に含まれて統一的な裁判に服するには至っていないため，なにが緊急不正の攻撃・侵略であるか，どちらの主張が正当であるかについては，国内法におけるような最終的判断の機関はまだできていない。したがって，各国はそれぞれ，みずからの行動・主張を正しいとし，結局は軍事力によって紛争を解決するという状態となる。自衛権は，しばしばこの軍事的衝突(戦争・事変などといわれる武力行使)の理由づけとなる場合が多い。国際連合は，このような事態を避け，平和的に解決する国際機関として発足したが，いまだ十分にはこの問題を解決していない。国際連合憲章は，個別的自衛権として各国の主張する自衛権を認めるほか，集団的自衛権として相互に一致して共同行動をなしうるものと認めたが，集団的自衛権が諸国家の間での同盟をすら正当化する観念となっているおそれもある。

日本国憲法は，独立国家としての自衛権は当然にあるものとしつつも，この自衛権を裏づける軍事力・戦争行為をみずから放棄し，すべての国際紛争をもっぱら外交その他の平和的手段によって解決すべき大原則を採用した点で，これまでの自衛権の内容に革命的改革をもたらしたといえる。
〔鈴木安蔵〕

じえいたい　【自衛隊】 日本の自衛のため1954年(昭和29)6月施行の自衛隊法により組織された実力部隊。法的には防衛庁長官の管掌する諸機関(施設庁を除く)全部と陸上・海上・航空の各自衛隊をさすが，一般には後者の3自衛隊のみを総称することが多い。自衛隊の任務は，自衛隊法第3条に〈わが国の平和と独立を守り国の安全を保つため，直接侵略および間接侵略に対し，わが国を防衛することを主たる任務とし，必要に応じ公共の秩序の維持にあたるもの〉とあり，この任務遂行のための防衛出動，治安出動，災害派遣，海上の警備行動，領空侵犯に対する措置などの諸行動が定められている。自衛隊の最高指揮監督権は内閣総理大臣にあり，防衛庁長官はその下で自衛隊の隊務を統括する。陸上・海上・航空の各幕僚長は長官の指揮・監督を受け,各幕僚監部の業務(防衛警備・教育訓練・編成装備・配置・情報・経理・補給・人事などの計画・立案と執行)を掌理する。

自衛隊は日本の防衛力漸増の一段階である。その成立経過をみると，まず1950年6月朝鮮戦争の勃発(ぼっぱつ)により日本占領の連合国軍が朝鮮に出動したとき，日本国内の治安に空白が生じたため，連合国軍最高司令官マッカーサーは日本政府に指令して75,000名からなる警察予備隊を創設させた。その後日本とアメリカの間に講和条約と日米安全保障条約が結ばれ，その結果，警察

自衛隊









中央記念式典 (左)陸上自衛隊 (中)海上自衛隊 (右)航空自衛隊

予備隊は1952年保安隊に改編され，さらに日米相互防衛援助協定(MSA協定)の成立に伴い，自衛隊が設置されて，防衛力が増強された。日本はこの協定によりアメリカから軍事援助を受ける条件として，〈自国の防衛力増強に必要なすべての合理的な措置〉をとる義務を負うことになった。しかし，戦争放棄と軍備の不保持を定めた日本国憲法のもとに，実質的には軍隊と異ならない実力部隊である自衛隊を置くことは問題であった。当然盛んな憲法論議が起こり，自衛隊存続の是非はたえず政治問題の焦点となってきた。これに関し歴代政府は，自衛のための戦力保持は違憲でないとの解釈のもとに日本の防衛体制の整備に努めている一方，野党側は，この政府の態度は憲法改正・再軍備につながるものとして強力に反対している。

陸上自衛隊の機構は上図のとおり，幕僚監部・各方面隊・直轄部隊・機関からなる。方面隊は2～4個師団と直轄部隊を指揮し，担当地域の警備に任ずる。師団は普通科連隊(3～4個)，特科連隊，戦車・施設・通信の各大隊，偵察(ていさつ)・対戦車・武器・補給・輸送・衛生の各隊からなり，定員9,000名の師団4個と，7,000名の師団9個がある。方面隊直轄部隊としては特科団(または群)・施設団・方面航空隊・通信隊・教育団などがあり，北部方面隊には戦車群，東部方面隊には空挺団が編入されている。陸上自衛隊装備兵器の大部分は，当初アメリカから供与または貸与されたものであったが，逐次国産兵器により更新されている。1971年3月現在，各種火砲約4,610門，装軌・装輪車両約24,300両，航空機約350機である。海上自衛隊の機構は上図のとおり，海上幕僚監部・部隊・機関からなる。部隊のおもなものは自衛艦隊・地方隊・教育航空集団・練習艦隊などである。自衛艦隊は護衛と警備の任務をもち機動的に行動する。地方隊はそれぞれ警備地域を分担し，重要港湾など沿岸警備にあたる。教育航空集団はおもに操縦士の教育訓練を行なう。保有艦艇は1971年3月現在496隻，約19万0,900t，航空機約260機である。これらはほとんど国産化されてきた。航空自衛隊の機構は上図のとおり，航空幕僚監部・航空総隊・飛行教育集団，その他直轄の部隊・機関からなる。航空総隊は航空方面隊

3個を指揮し本土の防空にあたる。飛行教育集団は機種に応じて段階的な教育訓練を担任する。航空自衛隊の装備は迎撃戦闘機，地対空ミサイル・レーダー網が主体であり，1971年3月現在の保有機数は約970機である。→自衛官　〔森田　哲〕

ジーエイチキュー　［GHQ］ General Headquarters of the Supreme Commander for the Allied Powersの略。連合国最高司令官総司令部の略称。第2次世界大戦後の日本に対する占領政策を推し進めるため1945年(昭和20)8月に設置された。当初は最高機関であったが，同年12月ワシントンに最高決議機関として極東委員会*が設けられ，さらに1946年4月最高司令官の諮問(しもん)機関として対日理事会*が東京に設けられ，GHQはこれらに従うたてまえであったが，実際はほとんど独裁的に支配権を行使した。公職追放*・財閥解体*・農地解放*などの一連の日本民主化政策を推進し，新憲法制定にも強い影響力を行使するなど占領期間中には絶大の権力をふるったが，1952年4月，対日講和条約の発効とともに廃止された。　〔西尾孝司〕

しえいでん　【私営田】 平安初期の在地豪族による直営田。政府の経営する公営田(くえいでん)に対するもの。豪族たちは牛馬・農具などの生産手段をたくわえ，在地農民の徭役*(ようえき)を労働力として私墾田の直接経営を行なった。奴隷的な労働者もあったろうが，おもなものは在地農民であった。このような労働力は古代奴隷制から中世農奴制への過渡的性格を示すものと思われる。

じえいのうみん　【自営農民】 ⇨ヨーマン

ジェーオーシー　［JOC］ ⇨日本オリンピック委員会

シェーカー　［shaker］ カクテル*をつくる器具。構造は材料を入れるボデーと，ストレーナー(大ぶた)とキャップ(小ぶた)からできている。材質は銀・銀めっき・ステンレス・クロムなど，またボデーがガラスになっているものもある。使用のときは，シェーカーをよく冷やしてのち，カクテル材料と氷を入れ，氷がとけないように手早く振り混ぜる。銀製はよく冷え，氷がとけにくいので最良とされている。

シェークスピア　［William Shakespeare］(1564～1616) イギリスの劇作家・詩人。中部イングランドのストラトフォード-オン-エーボンの生まれ。8人兄弟の第3子で長男。父ジョンは農産物販売や製皮を業とする資産家で，母メアリはカトリックの旧家の出身。少年時代については伝説的なこと以外明らかでない。町の中等学校に学んだと考えられるが，家運が傾いたためか高等教育は受けなかった。18歳のとき8歳年長の女と結婚，やがてロンドンへ出たが，その日付は不明。27歳前後から劇作に従事するとともに詩作も始め，1593

シェークスピア







(中)生家
(下)最初の戯曲集　1623年版
大英博物館蔵

年に書初の物語詩《ビーナスとアドーニス》を，翌年《ルークリースの凌辱(りょうじょく)》を出版。1609年には，早くに創作されていた《ソネット集》を出版した。劇作は，喜劇17編，史劇10編，悲劇10編，合計37編(このうち他人との合作と思われるもの10編)を数えるが，創作年代は1590年ごろから1613年ごろまでと推定されている。初期の傑作《ロミオとジュリエット*》《真夏の夜の夢*》から二部作《ヘンリー四世》を経て，やがて創作力の頂点を示す四大悲劇《ハムレット*》《オセロ*》《マクベス*》《リア王*》の時期にはいるが，壮大さと人間性の深淵(しんえん)への洞察(どうさつ)においてギリシア悲劇に比肩しうるとされている。この時期には，暗い影のある作品がにわかにふえ，作者の一身上になにかが起こったとも考えられる。以後，《あらし*》などの悟りを開いたような作品数編を残し，47歳で突然筆を折り，故郷に隠退。その作品は，イギリスというわくを越えた世界最大の劇作家・詩人として，後世に深い影響を及ぼした。とりわけその大胆にして骨格の整った作劇術，力強いリアリズムの精神と奔放な想像力，あるいは人間性への鋭く，受容力の広い観察など，時代や国籍を越えて人間を打つものがある。ほかに劇作として《じゃじゃ馬ならし*》《ベニスの商人*》《お気にめすまま*》《十二夜*》《ジュリアス-シーザー*》《アントニーとクレオパトラ*》《コリオレーナス》など。　〔日高八郎〕

シェークスピアものがたり　【シェークスピア物語】 チャールズ-ラム*とその姉メアリー-ラムの共著によるシェークスピア*の戯曲20編の散文物語(1807)。弟が悲劇6編を，姉が喜劇14編を担当。安易な筋書きではなく，原作の表現を部分的に取り入れ，あるいは作中人物の心理を的確に解釈して，原作の香気を効果的に伝えている。

ジェゴスワレス　［Diégo Suarez］ アフリカ南部のマダガスカル島北端にある港市。人口30万(1964)。天然の良港で，タマタブ・マジュンガと並ぶこの国三大貿易港の一つで，造船工場・製塩工場がある。

シーエーシーエム　［CACM］ ⇨中米共同市場

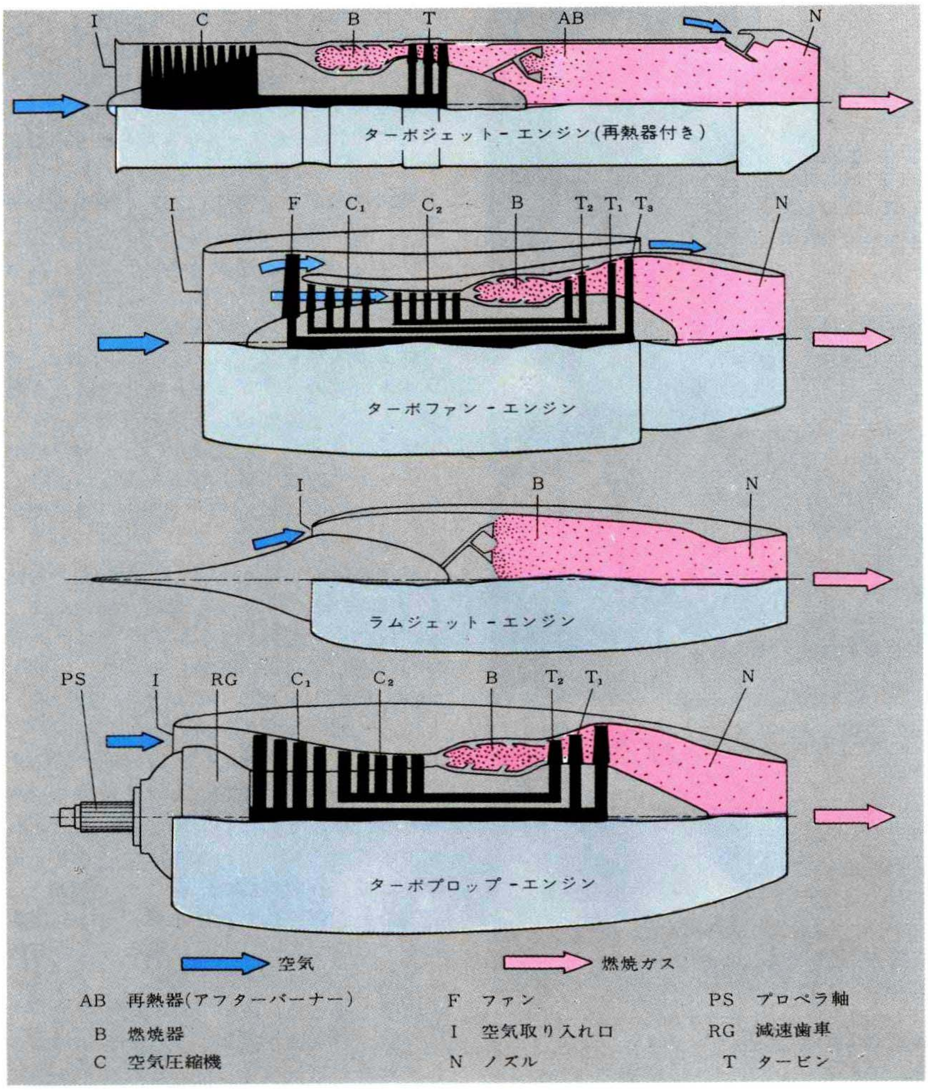
しえじけん　【紫衣事件】 朝廷による紫衣(高徳の僧に許される紫色の法衣および袈裟(けさ))の勅許は古くから行なわれ，勅許料は朝廷の収入源でもあった。1613年(慶長18)徳川家康(いえやす)は紫衣法度(はっと)を出して特に大徳寺・妙心寺・知恩院などの住持について勅許のときは事前に通告すべきことを規定し，朝廷に対する優越を示そうとしたが，その後幕府は法度が励行されず，勅許がみだりに行なわれていることを取り上げ，1627年(寛永4)これを無効とし，上人号をも停止した。後水尾天皇は退位を決意するほど激怒したが，幕府はこの処置に抗議した大徳寺の僧沢庵(たくあん)・江月らを流罪に処した。次いで1629年後水尾天皇は突然，皇女興子内親王(明正天皇)に譲位して幕府に抵抗を示した。これにより奈良末期以来の女帝が出現した。〔岡山泰四〕

ジーエスアール　［GSR］ ⇨精神電流現象学

ジェスイットきょうだん　【ジェスイット教団】 ⇨イエズス会

シェストフ　［Lev Shestov］(1866～1938) ロシアの哲学者。本名は，レフ-イサコビッチ-シュバルツマンという。シェークスピアに関する評論によって注目され，主著《悲劇の哲学》が1903年にフランス語訳されてからは，神秘主義的思想家として世界的に有名になった。ロシア革命後フランスに亡命し，1920年以来パリ大学ロシア研究所教授をつとめた。その思想はドストエフスキー*・ニーチェ*から影響を受けて，反理性主義の立場に立つもので，第1次世界大戦後の精神的荒廃の時代に大いに流行し，当時の日本の思想界にも影響を与えた。　〔飯塚勝久〕

ジェスルトン　［Jesselton］ マレーシア連邦，北ボルネオ(サバ)州の州都。人口22,000(1960)。ボルネオの最高峰キナバル山(4,077 m)の西にある港市で，ゴムを積み出す。ここから西南約150kmのウェストンまで鉄道が通じており，また空港も整備され



ジェット-エンジン

て，マライ半島・香港(ホンコン)・マニラと結ばれる。

しエチルなまり 【四エチル鉛】 $Pb(C_2H_5)_4$ テトラエチル鉛ともいう。無色・油状の液体。特有の芳香をもち，毒性が非常に強い。自動車や航空機用のガソリンの性能を高めるため，アンチノック剤として混入する。毒性が強いので四エチル鉛を加えたガソリンは着色してある。皮膚が液体に触れたり，蒸気を吸入したりすると徐々に神経系統が冒され，中毒を起こす。

ジェット-エンジン ［jet engine］ 高温ガスをノズルから噴出させ，その反作用によって推力を得る原動機。主として航空機用推進装置として用いられる。

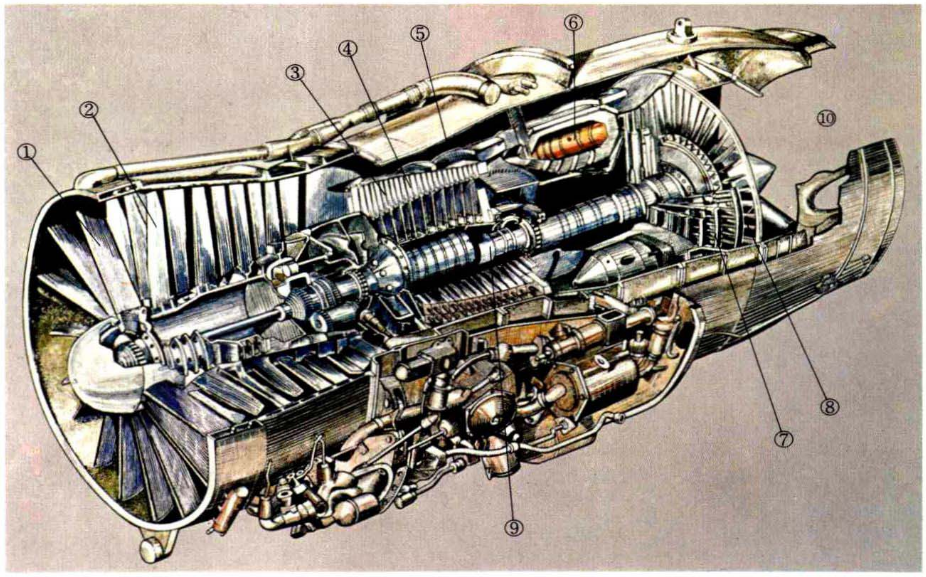
【作動原理】ジェット-エンジンには各種の形式があるが，作動原理はほぼ同じである。すなわち，空気を吸い込んで圧縮し，その中に燃料を吹き込んで燃焼させ，発生した燃焼ガスのエネルギーの一部をタービンによって吸収して空気圧縮機の駆動に使う一方，残ったエネルギーをノズルによりガスの運動エネルギーに変換して推力を発生する。

【種類】〈ターボジェット-エンジン〉空気圧縮機で圧縮された空気は，燃焼器で燃料と混合して燃焼し，タービンを回転させる。空気圧縮機はタービンと共通の軸で連結されていることによって駆動される。タービンを出た燃焼ガスは再熱器(アフターバーナー)にはいり，ここで再び燃料と混合されて燃焼し，ノズルから高速で噴出する。この形式のエンジンは超音速機に多く用いられる。亜音速機用のエンジンとして再熱器のない形式も多い。

〈ターボファン-エンジン〉ターボジェット-エンジンの(特に低速における)効率を改善する目的で開発された。増設されたタービンT_3によってファンを駆動し，ファンで圧縮された空気の一部はそのまま側路を通って後方に噴出して，燃焼ガスとともに推力を与える。その意味で，このエンジンはまたバイパスジェット-エンジンともよばれる。ファンを通って冷態のまま噴出する空気流量と，燃焼ガスとして高温で噴出する空気流量との比をバイパス比といい，これの大きいものほど亜音速のときに，特に離昇など低速時に熱効率が高い。超音速機用として，再熱器つきのターボファン-エンジンも開発されており，構造の簡単さをねらう小形のものを除いて，ターボジェット-エンジンはターボファン-エンジンに移行する傾向にある。バイパス比は1ないし3の程度から，ジャンボジェット機用の大形で5～8の程度に達し，離昇時の燃料消費率はターボジェット-エンジンの25～30%，高亜音速の巡航時で70%程度に改良される。特に垂直離着陸機用に開発されたターボジェット-エンジン，またはターボファン-エンジンをそれぞれリフトジェット-エンジン，またはリフトファン-エンジンとよぶ。リフトファン-エンジンにはファンとそれを駆動するタービンとをエンジン本体から切り離して別の場所に装備し，燃焼ガスの導管でつなぐ形式や，ファンを出た冷態の空気および燃焼ガスの出口に回転式の偏向器を設け，推力の方向を離着陸時には垂直上向きに，巡航時には水平前向きにする形式などがある。リフトジェット-エンジンおよびリフトファン-エンジンは特に(推力)／(重量比)の大きいことが重要であって，イギリスのロールスロイス社開発のリフトファン-エンジンではこの比が20：1に達し，わが国の航空宇宙技術研究所が開発したリフトジェット-エンジンJR200でも約16：1となっている。

〈ラムジェット-エンジン〉飛行速度が十分大きくなると，流入する空気をせき止めるだけで十分な圧力上昇(これをラム圧という)が得られ，圧縮機を省略することができる。この形式は，運動部分がほとんどなく，構造が最も簡単である特徴をもつが，飛行速度が音速の数倍という高速にならないと有効に作動しない欠点をもつ。実用されるとしても将来の極超音速機用としてであろう。ラムジェットの仲間にパルスジェット-エンジンがある。ラムジェットに似た給気系の入り口にハーモニカのリードに似た弁をもち，エンジン全体の気柱の振動と弁の振動を同調させると，空気の吸い込み・圧縮および燃焼が間欠的に行なわれ，空気の慣性によって低速でも多量の空気を吸い込み，ある程度の推力を得ることができる。この形式も構造が簡単であるが，燃料消費量が大きく，振動も大きい。第2次世界大戦中にドイツが有翼ミサイルV-1号のエンジンとして使用した。

〈ターボプロップ-エンジン〉ジェット-エンジンの仲間では多少毛色が変わっているので，狭い意味でジェット-エンジンというときには，この形式を含まない。内部のしくみはターボジェット-エンジンとほとんど同じであるが，燃焼ガスのエネルギーの大部分をタービンで吸収し，空気圧縮機を駆動するのに必要な分以外は，減速歯車を介してプロペラ軸に導く。ノズルから噴出するガスの推力はわずかで，推進装置として



ジェット-エンジン　ターボジェット-エンジン(ロールスロイス　スペイ)　①低圧圧縮機静翼　②低圧圧縮機動翼(4段)　③高圧圧縮機静翼　④高圧圧縮機動翼(12段)　⑤低圧空気バイパス　⑥燃焼器　⑦高圧タービン(2段)　⑧低圧タービン(2段)　⑨圧縮機駆動軸(2軸)　⑩ノズル

は副次的な役割を果たすにすぎない。この形式のエンジンは，プロペラを用いてはじめて飛行機の推進装置になるわけであるから，速度が600km/時ぐらいまでの低速機にしか使えない反面，低速における熱効率はターボジェット-エンジンよりはるかにすぐれており，さらにピストン-エンジンに比べて軽量・小形という長所をもっている。そのために，500馬力程度以上のプロペラ機用エンジンをすでに独占してしまい，より小さい出力のものにも進出していくものと思われる。

〔特徴〕 プロペラを使用するエンジンは，概括的にいうと飛行速度が変わってもパワーが一定であるのに対し，ターボジェット-エンジンは推力が一定，したがって飛行速度が増大するとそれに比例してパワーが増大する性質をもっている。プロペラ機では越えることができなかった音速の壁をジェット機によって越えることができたのは，主としてこの性質によるものである。エンジンの単位重量あたりの推力および単位正面面積あたりの推力が大きいこともこの種のエンジンの特徴であって，垂直離着陸機などという着想もジェット-エンジンの発達によって現実化したものであり，ヘリコプターの実用性もターボシャフト-エンジンの採用によって大幅に向上した。ピストン-エンジンと違って，往復運動部分がほとんどないので信頼性が高いこと，燃料として比較的低廉な燈油を主体にしたものも使用できる。一般に，空気中の酸素を利用するエンジンは空気密度が小さい高空に上るにしたがって出力が低下するが，ジェット-エンジンでは低下の度合いがピストン-エンジンに比べて少なく，この点でも高高度の高速飛行に適している。一方，同一高度で気温が高くなったときの出力低下の度合いはピストン-エンジンより大きい。

〔開発の経過〕 航空用ジェット-エンジンの着想はかなり古いものであるが，今日のような形態を整え，現実に推力を出すような原動機が生まれたのは，1920年代の終わりから1930年代の初めにかけてイギリスのホイットルの研究に負うものであり，1939年にはドイツで世界最初のターボジェット機He178が初飛行を行なった。第2次世界大戦の終了とともに，軍用機からターボジェット化が始まり，一方イギリスを中心にターボプロップ-エンジンの開発が開始された。続いて，1949年初飛行に成功したイギリスのDHコメットを皮切りに，旅客輸送機もターボジェット時代にはいり，今日では軍用・民間用を問わず，ごく小形の軽飛行機を除き，ほとんどの機種が広義でのジェット-エンジンを搭載(とうさい)している。この間，低速時の効率を改善する目的でターボファン-エンジンが開発され，バイパス比の大きいものは騒音の低減に役だつこともあって，ターボジェット-エンジンの大部分はターボファン-エンジンに置き換えられつつある。また，ターボプロップ-エンジンは500～3,000馬力級からさらに小出力の領域にまで進出し，ピストン-エンジンを圧迫している。

わが国では，第2次世界大戦中に海軍によってターボジェット-エンジンが開発され，ネ20を搭載した橘花(きっか)はわが国初のジェット機となった。第2次世界大戦後はJ3とよぶターボジェット-エンジンが開発されて防衛庁の練習機T1Fに搭載されているほか，先述のJR200も製作されている。その他外国からの技術導入により数種のターボジェット-エンジンおよびターボシャフト-エンジンが生産されている。〔中口　博〕

ジェットき 〔ジェット機〕 ジェット-エンジン*によって推進される飛行機。エンジンの種類で，ターボジェット機・ターボファン機・ラムジェット機などに分けられる。

ジェットきりゅう 〔ジェット気流〕 ⇒ ジェット-ストリーム

ジェットじどうしゃ 〔ジェット自動車〕 ジェット-エンジンによって推進される自動車。普通の自動車は2輪以上の駆動車輪をもつが，ジェット自動車は駆動車輪をもたずジェット-エンジンの推力で走行する。このため自動車として実用には向かず，もっぱら速度記録用自動車として製作されている。代表的なものはスピリット-オブ-アメリカ-ソニックI・グリーンモンスターなどがあり，アメリカにおいてそれぞれ時速966.571km(1965年11月15日)，927,871km(1965年11月7日)が記録されている。〔成田武男〕

ジェット-ストリーム 〔jet stream〕 中緯度地帯の上空では一般に西風が卓越しているが，その中で特に高度10kmの付近にある狭い範囲に集中している強い西風の流れ。ジェット気流ともいう。地球を取り巻いて帯状に分布する。中心位置は，夏には北緯45～50°の高緯度にあって風速は比較的弱く，冬には北緯30～40°の低緯度にあって風速も強く，100m／秒以上にも達する。日本付近のジェット-ストリームも秒速100mを越えることがあり，世界でも特に強いので有名である。ジェット-ストリームの位置も風速も日々変動している。一般に，風速は高さとともに増し，成層圏にはいって減少する。このような風速分布が形成されるのは，基本的には地球の自転と日射による熱的影響による。西風が高さとともに増すのは，気温が南で高く北で低いためで，成層圏にはいって減少するのは気温分布が逆になるためである。ジェット-ストリームが狭い範囲に集中するには，気温の南北傾度が対応する狭い範囲で大きくなっていなければならない。このように気温傾度が狭い範囲で大きくなっているところが，いわゆる前面である。

ジェット-ストリームはそれに伴う前面によって2種類に大別して考えることができる。一つは極前面に対応するもの，他は亜熱帯前面に対応するもので，前者をポーラージェット，後者を亜熱帯ジェットとよぶ。この2種類のジェットはいつでも存在するとは限らず，いずれか一方だけのこともあり，また合流して強まっていることもある。ジェット-ストリームの成因については，その北または南側で角運動量あるいはうず度(流体の回転性の運動の度合いを示す量)が一定に保たれながら気流の南北混合が起こることによるとするロスビーの説と，南北からの合流によるとする合流説が古くからあるが，大気の立体構造と矛盾なく説

明できるまでに至っていない。最近では運動方程式や熱力学方程式などをコンピューターで数値積分し，これによってジェット-ストリームを含む大気の状態を再現しようという実験が行なわれている。〔曲田光夫〕

ジェットねんりょう　【ジェット燃料】　ジェット機用の航空燃料。大別してナフサ型・燈油型の２種があり，前者は原油の蒸留で得られる重質ナフサ留分，後者は燈油留分を水素化精製，精留して製造される。ジェット燃料としては，①発熱量が高いこと，②燃焼性がよいこと，③イオウ分が少なく腐食性がないこと，④耐寒性がよく，低温でもロウ分・氷などの固形物を生じないことなどが要求される。

シーエーティーテスト　【CATテスト】　⇨TATテスト

シェードさいばい　【シェード栽培】　⇨遮光(しゃこう)栽培

シェトランド(諸島)　［Shetland］　イギリス諸島中最北端に位置する諸島で，100余の島からなるがそのうち住民のいるのは29の島である。総面積1,425km²。人口18,000(1961)。メーンランド・アンスト・フィトラーなどの島々があり，中心都市リウィックはメーンランド島にある。シェトランド人は，文化的にはスカンジナビア人との関係が深く，８～15世紀はノルウェー領であったが，1469年スコットランド領になった。航空機の発達した現代でも諸島はイギリス本土との交流が少なく島民は自給的な生活を続け，タラ・ニシンの漁業，大麦・エンバク・ジャガイモの農業，ウシ・ウマ・ヒツジの牧畜業を営んでいる。〔大崎　晃〕

ジェトロ　［JETRO］　Japan External Trade Organization の略称。日本貿易振興会。1958年(昭和33)政府全額出資で設立された財団法人。政府の後援と民間の協力により海外市場の調査，取引の斡旋(あっせん)，日本商品の展示・紹介，情報の収集・提供などを行なって，貿易の振興を図ることを目的としている。毎年，《海外市場白書》を発表，刊行している。前身は，海外市場調査会・国際見本市協議会・日本貿易斡旋所協議会の三者が統合してつくられた財団法人日本海外貿易振興会。本部は東京・大阪で，支部や海外事務所を各地に設けている。〔上坂酉三〕

シエナ　［Siena］　イタリア中部，トスカナ地方の都市。フィレンツェの南方50kmにあり，人口64,000(1967)。ぶどう酒と大理石の産出で名高い農業地域の中心で，海抜300ｍの丘陵上に位置する。古代・中世建造の遺跡が多く，ことにシエナ大聖堂はイタリアで最も美しいゴシック建築とされる。1300年創立の大学があり，またシエナ派絵画の中心地となった芸術の都である。中世から行なわれているパリオという競馬会も有名。古代エトルリアの都市として興り，アウグストゥス時代にローマの植民地となった。12世紀に自由都市となり，13世紀には商業・金融業で栄えた。現在農業機械・ガラス・肥料・家具などの工業が行なわれている。〔梶川勇作〕



シエナ大聖堂

シエナだいせいどう　【シエナ大聖堂】　イタリア-ゴシックを代表する床に大理石を用いた建築物。シエナ本寺ともいう。1229年着工，1259年身廊部を完成，1264年穹窿(きゅうりゅう)部が完成した。その後，これを基にサンタ-マリア-デル-フィオーレ以上の壮大な寺院の建造を計画し，1340年に着手した。しかし，その後ペストの流行などもあって中断され，当初の計画によって完成した。

シエナは　【シエナ派】　イタリア中部の都市シエナを中心に13世紀末から14世紀にかけて栄えた画派。まずドゥッチオ-ディ-ブオニンセーニャ(1260？～1319？)が出て，当時イタリアを支配していたビザンチン様式(→ビザンチン美術)にゴシック様式(ゴシック美術)を取り入れて，甘美優雅で温和な作風を始めた。その弟子(でし)マルチーニは，さらに夢幻的情緒豊かな，しかも装飾性の強い作風によってこの画派の画風を確立し，その後ロレンツェッティ兄弟らは，フィレンツェ派と並ぶ14世紀のイタリアの二大主流画派に成長させた。フィレンツェ派の合理主義の写実的画風に対して，シエナ派は優雅な装飾性に特色がある。特にマルティーニはアビニョンにおもむき，フランスに多大の影響を与えた。15世紀にはサセッタやロレンツォ-ベッキエッタが出たが，先人の画風を踏襲するのみで新味を出せず，フィレンツェ派の新芸術に圧倒された。16世紀にソドマがその派の最後を飾った。〔三輪福松〕

ジェニー　［François Gény］　(1861～1956)　フランスの法哲学者。ディヨン大学・ナンシー大学教授。1899年《実定私法における解釈方法と法源》を著わし，形式的な法源のほかに，社会の発展に対応する法制定の学問的方法として〈科学的自由探求〉の範囲内において論理的に完成することを提唱して，当時ドイツ・オーストリアで起こっていた自由法運動に学問的基礎を与えた。《実定私法における科学と技術》(1914)では科学の哲学的基礎が自然法思想であることを明らかにし，実定法は自然法の科学的認識による論理的構成であるから，法は科学であるとともに技術であると主張した。〔原田政洸〕

シェニール　［chenille］　一種の飾り撚糸(ねんし)およびその織物。糸に別の糸が短くよりこめられたもので，毛虫糸・モール糸などともよばれる。その織物は再織り・モール織りなどといわれ，表面がパイル(添毛)状になっていて，テーブルかけ・ひざかけ・タオル・敷き物などに用いられる。多くは綿・レーヨン・羊毛などでつくられていて，多彩な模様が織り出されるものが多い。

ジーエヌピー　［GNP］　⇨国民総生産

ジェノサイドじょうやく　【ジェノサイド条約】　集団殺害を防止するための条約。正式には，〈集団殺害罪の防止および処罰に関する条約〉。ジェノサイドとは，特定の国民・人種・民族または宗教的集団に対して行なわれる大量殺害のことで，第２次世界大戦前から大戦中にかけて，ナチス-ドイツがユダヤ人に対して行なった迫害や集団殺害はその典型的な例である。このような集団殺害を国際法上の犯罪とするために，1948年の第３回国際連合総会でこの条約が採択され，1951年１月12日に発効した。条約によれば，集団殺害とは，①集団構成員を殺すこと，②集団構成員に対して重大な肉体的または精神的な危害を加えること，③全部または一部に肉体的破滅をもたらすために意図された生活条件を集団に対して故意に課すること，④集団内における出生を防止することを意図する措置を課すること，⑤集団の児童を他の集団に強制的に移すこと，である。このような集団殺害を直接行なった者だけでなく，そのための共同謀議に参加した者，教唆者・共犯者も罰せられ，未遂も罰せられる。また，統治者や公務員によってなされるか，私人によってなされるかを問わない。条約の実施については，各締約国が必要な立法措置を行なうことを義務づけられている。処罰は，行為地の国の裁判所だけでなく，国際刑事裁判所での審理も予定している。→国際犯罪〔広部和也〕

ジェノバ　［Genova］　イタリア北西部，リグリア海に面するこの国第１の港市。人口80万6,000(1975)。地中海沿岸ではマルセイユ(フランス)と並ぶ良港で，オリーブ油・ぶどう酒・絹・ビロードなどを輸出し，石炭・石油・機械類などを輸入する。市街は港に面した周囲の山腹に階段状に展開し，歴史的な建造物が多い。中でも12世紀建造

の聖ロレンツォ寺院や，16世紀建造の市長の館は美しく，13世紀創立の大学をはじめ，美術館・劇場・図書館などの文化施設に富む。紀元前3世紀にすでにリグリア海の主要港として知られ，ローマ滅亡後はロンバルドやサラセン帝国の支配を受けたが，十字軍時代には独立して都市国家として栄え，コルシカやピサを征服した。その後ベネチアに敗れたが，16世紀には再び独立した。1797年にはリグリア共和国，1815年にはサルジニア王国にはいった。コロンブスや作曲家パガニーニの生地でもある。〔梶川勇作〕



ジェノバ
港の風景。埠頭には石油タンクが立ち並び，出入りの船舶が多い。造船業も盛んで，修理の船がドック入りしている

シェパード ［shepherd］ ドイツ原産のイヌの品種。以前はドイツのババリアやチューリンゲン地方の牧羊犬であった。19世紀末に科学的計画繁殖により改良され，軍用犬として第1次世界大戦で組織的に用いて多大の成果を収めてから，世界的に知られるに至った。第2次世界大戦でも，各国が歩哨(ほしょう)・伝令・傷兵捜索・運搬・警備などに用い，戦線で働いたシェパードはばくだいな数に上った。そのほかに警察犬・盲導犬，工場の警備犬として用いられるが，訓練することによりイヌがもつ最高の能力を発揮できるといわれる。性質は知的でよく主人に服従し，形態はオオカミに似ている。体高は55～65cmくらい。➔イヌ〔大野淳一〕

シェープ ［SHAPE］ Supreme Headquarters Allied Powers in Europe 北大西洋軍(ヨーロッパ連合軍)最高司令部のこと。北大西洋軍は，1950年5月の北大西洋条約機構*(NATO)理事会のロンドン会議の決議に基づき，同年12月のブリュッセル理事会，1951年2月のリスボン理事会を経て設置されたが，シェープはブリュッセル会議で設置され，1951年4月から正式に活動をはじめた。これは大西洋諸国の軍隊を一本化したもので，シェープの指揮の下におかれている。シェープは現在，加盟15か国のうちフランス・ギリシャを除く13か国の軍隊を統轄している。所在地は当初パリ郊外ロッカンクールにあったが，フランスの離脱で1967年6月末ベルギーのブリュッセル郊外のカストーに移った。

ジェファーズ ［Robinson Jeffers］(1887～1962) アメリカの詩人。少年時代ヨーロッパに滞在したが，のちカリフォルニアに定住した。旧約聖書に基づく近親相姦(そうかん)を主題にした第3詩集《タマール》によって認められ，続く詩集《あし毛の種馬》は暗さの中に宗教的な感情が強く表わされた代表的作品となった。

ジェファソン ［Thomas Jefferson］(1743～1826) アメリカの政治家。第3代大統領。在任1801～1809年。バージニア西部農園主の家に生まれる。ウィリアム-アンド-メアリー大学卒業後弁護士となり，バージニア植民地議会議員を経て1774年大陸



ジェファソン

会議代表となる。1776年歴史的な〈アメリカ独立宣言〉を起草。その後バージニアに帰り，長子・限嗣相続制など植民地時代の封建的諸制度の廃止に努め，1779年に州知事に就任した。1783年再び大陸会議代表に選出されてドル通貨制度確立，〈北西部土地条例〉制定を提案した。1785年フランクリン*の後任としてフランス公使に任命されたため，連邦憲法制定会議に参加しなかったが，〈権利章典〉の追加を条件にこれを支持した。1789年ワシントン*大統領の下に初代国務長官に就任したが，中央集権・親英的な財務長官ハミルトンと対立して1793年辞任。民主共和党(現在の民主党の原流で，現在の共和党とは別)を組織，1796年大統領選挙に出馬したが，アダムズに敗れて副大統領となった。〈1800年の革命〉でフェデラリスト党を破って大統領に当選，翌年新首都ワシントンで執務を開始した。独立革命後の保守的傾向を排して，少数意見の尊重，宗教・言論・出版の自由の確立など，独立宣言に盛られた理想の実現に努め，いわゆる〈ジェファソニアン-デモクラシー〉の時代を招来。対外的には，従来の憲法厳格解釈主義を放棄して，1803年ミシシッピ川からロッキー山脈に至る広大な土地をフランスから購入して西部発展の基礎を築き(➔ルイジアナ購入)，ナポレオン戦争に対しては中立の維持に努めた。1809年引退後はバージニアのモンティセロに住み，マディソン・モンローの相談役をつとめる一方，1819年バージニア大学を創立，その学長として民主的教育を普及させた。政治面での活躍により〈アメリカ民主主義の父〉とよばれ，また教育・哲学・自然科学・農業・建築・言語学などにも造詣(ぞうけい)が深く，〈モンティセロの聖人〉ともよばれた。〔折井一彦〕

シェフィールド ［Sheffield］ イギリス，イングランド中央部にある工業都市。人口56万2,000(1974)。ペニン山脈東側にあるヨークシャー地方の工業地帯の中心で，ヨーク・ダービーの石炭とハンバー川支流のドン川の水力発電を基盤とした鉄鋼業が特に盛んである。山地から良質の砥石(といし)を産するため，14世紀以来刃物の生産で名高い。1858年ベッセマー法による最初の製鉄所が建てられた。1905年に創立された医学部と工学部からなる大学はイギリスの主要大学の一つである。14世紀建造の聖ピーター教会など古い建物も多く，周辺の農村風景も美しい。〔梶川勇作〕

シェフチェンコ ［Taras Grigorievich Shevchenko］(1814～1861) ロシアの詩人。ウクライナの農奴出身。はじめ画家としての道にはいったが詩作に転じ，《コブザーリ》をはじめ，農奴制に対する憎悪をうたった詩集によって革命的農民詩人として活躍。革命グループに属し，1847年から10年間流刑に処せられた。その詩の多くはウクライナ語で書かれ，ほかに農民の地主に対する反乱を描いた叙事詩《ガイダマキ》や小説・戯曲がある。〔灰谷慶三〕

シェブルール ［Michel Eugène Chevreul］(1786～1889) フランスの有機化学者。化学者ボークランの工場で化学を学び，1824年王立ゴブラン織り工場の染色技師長および化学教授となる。油脂を研究して脂肪酸とグリセリンからなることを明らかにし，せっけん製造の基礎である鹸化*(けんか)反応を発見。1830年ジャルダンの自然史博物館の教授。1839年には《色彩の同時対照の法則の発見について》を著わした。これは新印象派絵画の理論的根拠になっている。

シェヘラザード ⇨シェラザード

ジェボンズ ［William Stanly Jevons］(1835～1882) イギリスの経済学者。ロンドンのユニバーシティー-カレッジで数学・植物学・化学を学んだが，経済的理由から若くして勉学を中絶，オーストラリアに渡り，造幣局の分析官として勤務した。そこで経済問題に興味をもち，再びイギリスにもどって，経済学の研究に専念した。マンチェスター，ロンドンのシティー-カレッジで教鞭(きょうべん)をとるかたわら，論理学・統計学・経済学ときわめて広い分野にわたる著作を発表。《経済学の理論》(1871)によってウィーン大学のメンガー*，ローザンヌ大学のワルラス*とともに，限界効用の原理に基づく近代経済学の体系を確立した。また，彼は景気変動理論として，〈太陽黒点説〉を唱えたことでも有名である。〔松浦　保〕

ジェミニけいかく ［ジェミニ計画］ 長期飛行とランデブー・ドッキング実験のため，2人乗りのジェミニ衛星(カプセル)を打ち上げたアメリカの計画。アポロ計画が着陸船を月に着陸させる方式に変更されたのに伴い，1962年に計画された。ジェミニカプセルの形はマーキュリー衛星のものに似ているが，直径2.54m，長さ3.5mで内部がそれより50%ぐらい広く，重さ3.2t，タイタン2型ロケットで打ち上げられた。1号は1964年4月，カプセルの性能試験のため無人で軌道に乗せられ，回収はされなかった。2号は1965年1月，大気圏再突入試験のため無人で弾道に打ち上げられ，3号は同年3月，グリソム・ヤング両飛行士を乗せて地球を3周，はじめての軌道面変更に成功した。4号は同年6月地球を62周，ホワイト飛行士がはじめて宇宙遊泳を行ない，5号は同年8月，地球を120周，約8日間飛んだ。ランデブーは6・7号で実験され，まず1965年12月4日に打ち上げられた7号が，地球を206周，13日18時間半飛んで長期宇宙飛行の記録を立て，12月15日に打ち上げられた6号とのランデブーに初成功した。ドッキングは1966年3月，アームストロング・スコット両飛行士を乗せた8号がアジェナ衛星を相手として初成功したが，姿勢制御用ロケット故障のため26分で切り離された。9号は同年6月，アジェナとランデブーはしたが，アジェナに異常が認められたためドッキングは取りやめた。1966年7月に10号が，はじめてアジェナ衛星との完全なドッキングに成功，8号ともランデブー，コリンズ飛行士が宇宙遊泳して8号の宇宙塵*(うちゅうじん)実験装置を回収した。同年9月には11号が，11月には12号が，いずれもアジェナとのドッキングに成功，11号はアジェナのロケットで1,367kmの高さに上ってそれまでの人間の高度記録を立て，アジェナをロープで引っ張って回転，人工重力の実験にも成功した。また，12号のオルドリン飛行士は3回にわたり5時間半の船外作業を行なった。〔原田三夫〕



ジェームズ１世

シーエム ［CM］ ⇨コマーシャル-メッセージ

シーエムイーエー ［CMEA］ ⇨コメコン

ジーエムかん ［GM管］ ⇨ガイガーミュラー計数管　⇨放射線計数管

シーエムシー ［CMC］ カルボキシメチルセルロース*(carboxymethylcellulose)の略。乳化剤・接着剤などに用いられる。

ジェームズ ［James］ イングランド国王。

1 1世(1566～1625) 在位1603～1625年。メアリー-スチュアートの子。1567年ジェームズ6世としてスコットランド王位につき，1603年エリザベス1世*の死後，ヘンリー7世の子孫であるところからイングランド王位を兼ね，スチュアート朝*の祖となる。イギリス国教制度を励行してカトリック教徒や非国教徒を圧迫，国民の不満を招いた。王室の奢侈(しゃし)，放漫な政策，アイルランド討伐などにより財政窮乏し，重税を課して議会の反撃をかった。みずからは王権神授説を奉じ，絶対王政を強化，そのため1621年議会から大抗議文を突きつけられ，ピューリタン革命*の一因をつくった。

2 2世(1633～1701) 在位1685～1688年。チャールズ1世*の子。兄チャールズ2世の死後即位すると，王権神授説を奉じて反動政策を強化し，常備軍の創設，反王分子の粛清，カトリックの復活などを策した。わけても特免権を行使して審査律*を無視し，1687年寛容宣言を発布してカトリック教徒に公職を与えるなど専制政治を敷いたため，反乱事件があいついだ。ホイッグ党はもちろん，好意的なトーリー党をも敵対せしめ，ここに議会は王の廃位を宣言し，王女メアリとその夫オレンジ公ウィリアムを王に推戴(すいたい)して名誉革命*の成功をみた。彼はフランスに亡命，その後ルイ14世の援助のもとにアイルランドに上陸して王位奪回を試みたが失敗に終わった。〔松下京子〕

ジェームズ ［William James］(1842～1910) アメリカの哲学者・心理学者。ニューヨークの生まれ。作家ヘンリー-ジェームズ*の兄。ハーバード大学教授。その哲学的関心は，観念論的な合理論の宗教性と唯物論的な経験論の科学性とを調和させることにあり，絶対的一元論を排し，真理の規準をわれわれの具体的経験を導く上での実際的な有用性におくプラグマチズム*を説いた。心理学においては，意識を流動する関係としてとらえ，これを生理的機能から明らかにしようとする機能主義心理学*を唱えた。主著《心理学原理》《宗教経験の諸相》《プラグマチズム》。〔石倉恒之〕

ジェームズ ［Henry James］(1843～1916) アメリカの小説家。心理的写実主義の手法の開拓者として知られる。のちに著名な哲学者・心理学者となる兄ウィリアムとともに，幼時より牧師の父から特異な教育を受け，ヨーロッパ各地に学んだ。作品のおもな主題は，アメリカ中流階級出身の素朴(そぼく)な自信家と，洗練された文化の中にあるヨーロッパ貴族たちとの，さまざまな対比である。《アメリカ人》《デイジー-ミラー》《ある淑女の肖像》などがその代表作。文体は，用語とリズムに比類ない微妙さをもち，人物や筋の扱いは慎重な距離感をもってなされ，会話の描写はとりわけ洗練されている。ジェームズが影響を受けた作家は，ホーソーン*・ツルゲーネフ*・フローベール*ら。後年はロンドンに住み，のちイギリスに帰化した。作品はほかに《ねじの回転》《はとの翼》《大使たち》など多数。その文学は，難解さのゆえに同時代の一般人には受け入れられなかったが，ジョイス*など〈意識の流れの文学*〉の先駆として，多くの作家に影響を与えた。〔越智道雄〕

ジェームズ-ランゲせつ ［ジェームズ-ランゲ説］ 情緒の本質に関する学説の一。1884年アメリカの心理学者ジェームズ*によって，翌年にはデンマークの生理学者ランゲ*によって，それぞれ独立に提唱されたので，ジェームズ-ランゲ説とよばれる。刺激と情緒との関係は，一般に，クマを見て，こわいから逃げるというように，刺激→情緒→身体的変化と考えられているが，彼らは刺激に対して起こる生理的反射によってまず身体的(血管・内臓などの)変化が起こり，この変化が知覚されて情緒が起こるという逆過程を提唱している。この説は極端すぎて多くの批判を受けたが，情緒過程における身体的変化(有機感覚)が人間の情緒体験の主要な部分をなしているのは事実であり，特に飢え・かわき・性的興奮のような欲求に関連した感情については，身体的変化を優先させるこの説も無視できないとされている。〔佐伯喜和子〕

シェーラー ［Max Scheler］(1874～1928) ドイツの哲学者・社会学者。ミュンヘン生まれ。イエナ大学に学び，ミュンヘン大学講師，ケルン大学教授をつとめる。オイケン*の生の哲学*，さらにフッサール*の現象学*を学び，生の哲学の立場に立ちながらも方法論として〈現象〉を用いた。その特色は〈哲学的人間学〉の提唱にあり，みずからのカトリック信仰を基盤とした〈全人〉の理想を述べ，現代ドイツ哲学に大きな影響を与えた。主著《哲学的世界観》。

シェラザード [Schéhérazade] リムスキー-コルサコフ*作曲の交響組曲。1888年の作で，彼の代表作に数えられている。シェラザードは《千夜一夜物語*》の語り手の姫の名で，〈海とシンドバッドの船〉〈カレンダー王子の物語〉〈若き王子と姫〉〈バグダッドの祭り〉の４曲からなっている。ディアギレフ*はこれを１幕のバレエとして，1910年にパリで初演している。なお，同名の作品はほかにもあり，特にラベルのオーケストラ伴奏による歌曲が名高い。 〔向坂正久〕

シェラダイジング [sherardizing] 亜鉛を鉄鋼部品の表面から内部へ浸透させ，耐食性の表面層を形成する方法。乾式亜鉛めっきともいう。回転する気密な円筒容器中に，表面を清浄にした被処理物と亜鉛粉末とを入れて密閉し，350～375℃で３～12時間加熱するのが普通。耐食性は溶融めっきに劣るが，被処理物の寸法変化が少ない。

シエラネバダ(山脈) [Sierra Nevada] スペイン南部，アンダルシア地方東南部にある山脈。地中海岸に沿って東西に走り，平均標高2,500m，延長約100km。最高峰のムラセン山(3,482m)をはじめ万年雪を載せる峰もあり，ベテラ峰(3,392m)は氷河をもつ山としてはヨーロッパの最南端に位置する。鉱産資源に恵まれ，また南斜面ではブドウ・オリーブなどの果樹やサトウキビの栽培が盛んである。

シエラネバダ(山脈) [Sierra Nevada] アメリカ合衆国西部，カリフォルニア州東部からネバダ州にかけて南北に走る山脈で，カリフォルニア盆地とグレートベースン*とを分ける。延長約690km。最高峰ホイットニー山(4,418m)をはじめとする4,000m級の高山が連なる。氷河や氷河遺跡が多く，峡谷や滝が発達して景勝地に富み，ヨセミテ・セコイア・キングズキャニオンの三つの国立公園がある。山脈の東側は乾燥しているが，西側は降水量が多く大森林を形成する。冬は降雪のために山脈越えの交通がしばしば途絶する。

シエラマドレ(山脈) [Sierra Madre] メキシコ中央部のメキシコ高原の縁辺部をなす山脈で，東・西二つのシエラマドレ山脈と，それが合流した南シエラマドレ山脈からなる。ロッキー山脈の延長で，アメリカ合衆国との国境から南のテワンテペク地峡まで全長約2,400km，高度2,000～4,000mである。東・西両山脈の間はアナワク高原で，南部ほど高度を増し，オリサバ山(5,658m)やポポカテペトル山(5,452m)などの火山もある。金属資源に恵まれ，特に西シエラマドレ山脈には鉱山が多い。

シエラモレナ(山脈) [Sierra Morena] スペイン南西部，アンダルシア地方の北方にあってグァダルキビル川とグァジアナ川の間を東西に走る山脈。全長約400km。1,000m前後の高原状の山地で，銅・鉄・スズなどの鉱産資源に富む。また，オリーブ・ブドウなどの栽培や畜産も行なわれている。



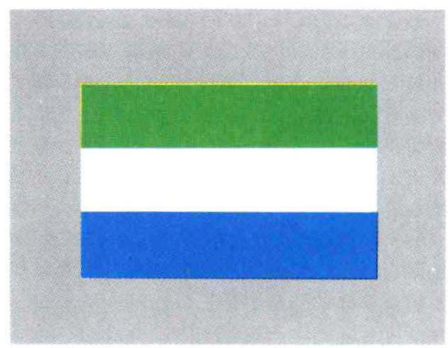
シエラネバダ山脈 白雪をいただいて連なるシエラネバダの山並み。シエラネバダはスペイン語で〈雪の積もった山地〉を意味する

ジェラール [Charles Frédéric Gerhardt] (1816～1856) フランスの化学者。A.ローランとともにベルセーリウスの二元説に反対し，新しい化学式を主張して構造式における基型説を提唱，今日の有機化学の基礎概念となった同族体の意味を明らかにした。

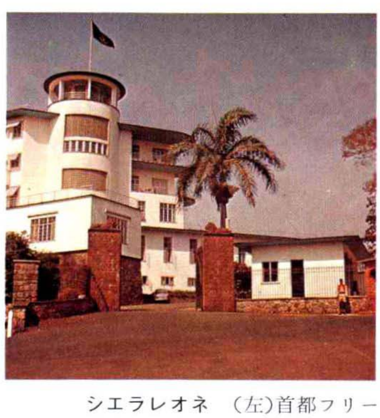
シエラレオネ(共和国) [Republic of Sierra Leone] アフリカ大陸西部のギニア湾岸にある共和国。面積71,740km²。人口347万(1978推)。東隣のリベリア共和国と同様解放された黒人奴隷が建国した国で，18世紀末に各地のイギリス植民地にいた奴隷を解放してここに移住させたものである。さらにその後アメリカ合衆国の独立に伴い，アメリカと西インド諸島にいた奴隷も合わせて移住させた。しかし原住民であるギニア系黒人と移住した解放奴隷との関係はうまくいっていない。首都フリータウンは，その名に建設者の希望をこめて解放奴隷が建設した都市で，西アフリカ最良の港である。1961年４月共和国として独立し，イギリス連邦に属した。熱帯多雨の気候で，フリータウンの年雨量は3,495mmに達し，土地の肥沃度(ひよくど)は低い。人口の８割が農牧業に従

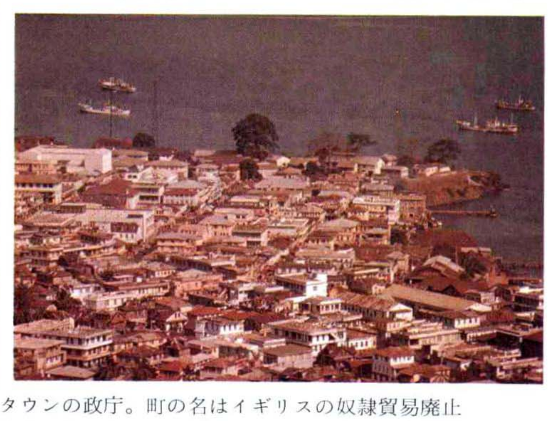


シエラレオネ



シエラレオネの国旗 1960年制定。緑は農業・天然資源とシエラレオネの山々，白は統一と正義，青は唯一の良港フリータウンが世界平和に貢献できるようにという希望を表わしている





シエラレオネ (左)首都フリータウンの政庁。町の名はイギリスの奴隷貿易廃止により解放された人々の安住地となったことによる (右)フリータウンの市街景観。海岸に山が迫っているため，狭い坂道と緑が多い。港は天然の良港で，イギリスふうの静かな町並みが広がる

事し，コーヒー・カカオ・アブラヤシ・米・タバコなどをつくるが技術は低い。しかしダイヤモンドと鉄鉱石の産出が多く，輸出額の1位と2位を占める。独立後の政治をリードしているのはシエラレオネ人とよばれる解放奴隷の子孫で，人口の6割を占める原住民のメンデ族やテムネ族は教育程度も低くて，伝統的な生活を続けている。議会は一院制で現在シエラレオネ人民党が勢力をもつ。フリータウンにあるフーラ-ベイ大学は19世紀の初めに創立された西アフリカ最古の大学。公用語は英語。〔小栗　宏〕

シェラン　［Alexander Kielland］（1849～1906）　ノルウェーの小説家。富裕な商人の家の生まれ。大学で法律を学び，卒業後フランスへ留学。帰国後は大工場を経営したが，イプセン*の《人形の家*》が発表された1879年，《短編集》を著わして突如文壇に出た。徹底的な自然主義者で，特に社会の虚偽と宗教的偽善を憎んだが，その反面ブルジョア的な私生活との矛盾に悩んだ。その代表作で今日ノルウェー文学の古典といわれる《ガルマン-ボルシェ商会》は，彼自身の家庭をモデルとして富豪一家の道徳的腐敗にメスを入れたもの。急進的な社会改革への熱情が破綻（はたん）したことを示す《ヤーコブ》(1891)を発表後筆を断ち，余後は故郷スタバンガーの市長となった。

〔鈴木徹郎〕

シェラン(島)　［Sjëlland, Zealand］　別名ジーランド。デンマーク東部にある島。北はカテガト海峡，東はスンド海峡を隔ててスウェーデン，さらにバルト海に面する。デンマークの首都コペンハーゲンはこの島の東部にある。面積6,800km²。小丘陵と低地や湖沼からなる平坦（へいたん）な島で，土壌（どじょう）が肥沃（ひよく）なためほとんどが農牧地になっている。気候は温和でトウモロコシの産が多く酪農が営まれ，バター・ベーコン・ミルク・卵を産する。スカンジナビア・ユトランド両半島の中間に位置するため，古来から飛び石の役割を果たしてきた。北東端にはクロンボルク城のある歴史的な港町ヘルシンゲル，コペンハーゲンの西方には古い教会のある町ロスキルレがある。

〔大崎　晃〕



P. シェリー

シェラン(島)　［Ceran Is., Seran Is., Serang］　別名セラム島。マライ諸島中のモルッカ諸島にある島でニューギニア島西方に位置する。インドネシア領。面積18,553km²。多くの入り江と狭い海岸平野があり，島の中央にビナジャ山(3,110m)がそびえる。サゴヤシ・イネ・サトウキビ・ココナツ・トウモロコシなどを栽培し，ほかに漁業も行なわれる。北東岸のブラでは石油を産出し，ワハイは島第一の港。原住民はマライ人とポリネシア人の混血で回教徒。16世紀にポルトガル人の宣教師が渡来し，1650年以後はオランダの植民地になったが，インドネシアの独立後インドネシアに編入された。

〔大崎　晃〕

シェリー　［Percy Bysshe Shelley］（1792～1822）　イギリスの詩人。政治上の因襲や宗教的規律をきらい，オックスフォード大学在学中に《無神論の必要》というパンフレットを著わし，放校処分にあった。ロマン主義*の精神にあふれ，人間の解放や情熱の発露，永遠の美と真実の探求による理想郷の実現を信じた。生来の叙情詩人として，バイロン*・キーツ*と並称される。その詩は，社会変革への情熱と理想主義的な傾向とを反映。《雲》《西風の頌（うた）》《ひばりに寄せて》などの作品が名高い。ほかにキーツの死をいたんだ《アドナイス》や《鎖を離れたプロメテウス》などの長詩，詩論《詩の弁護》がある。

〔五十嵐一〕

ジェリコー　［Théodore Gericault］（1791～1824）　19世紀フランスの代表的画家。アカデミックな伝統に不満をいだき，大胆で激情的な表現を目ざした。イタリア遊学後発表した《メデュース号の筏（いかだ）》により，ロマン主義運動を推進した。また，数多いウマの絵（特に《エプソンの競馬》）は写実主義的技法のさえを示している。



ジェリコー　《獅子と馬》
ルーブル美術館蔵

シェリーしゅ［シェリー酒］⇨ぶどう酒

シェリング　［Friedrich Wilhelm Joseph von Schelling］（1775～1854）　ドイツの哲学者。ウュルテンベルク州レオンベルクの牧師の家に生まれた。チュービンゲン大学でヘーゲル*・ヘルダーリン*とともに学ぶ。1798年，23歳でイエナ大学助教授，のちウュルツブルク大学・ミュンヘン大学・エルランゲン大学を経て，ヘーゲルの後任としてベルリン大学に迎えられた。その思想はドイツ観念論*をカント*・フィヒテ*からヘーゲルへと橋渡しする位置にあり，ロマン主義的で神秘的直観を基調とする。初期には，その出発点となったフィヒテ哲学に欠けていた自然哲学を補うことから出発し，次いで自然と精神が絶対者の展開相として根源的に同一であると説く〈同一哲学〉に至り，ここから人間に自由は可能かという問題を提起し，それに現実的人間の存在の非合理性を説いて，のちの非合理主義哲学に影響を与えた。さらに晩年は宗教にも関心を寄せ，ヘーゲルの立場を〈消極哲学〉として，みずからは〈積極哲学〉を説いた。最近この晩年の思想は実存哲学の立場から注目されている。主著《先験的観念論の体系》《人間的自由の本質》など。

〔豊福英利〕

シェリング　［Henryk Szeryng］（1918～　）　メキシコのバイオリニスト。ポーランド生まれ。ドイツのフレッシュ，フランスのブィヨンらに師事して，1952年から独奏者として活動をはじめ，その演奏活動は世界的なスケールをもっている。パリ時代にメキシコの作曲家マヌエル-ポンセに私淑し，同国に帰化してメキシコ音楽院の教授となった。バッハを得意とする。2回来日している。

シェルこうぞう　［シェル構造］　ちょうど貝殻（かいがら）のように，曲面によって外力に対抗できるように計画された建築・土木関係の構造。体育館や講堂など大きな空間の屋根の構造として利用されている。シェル構造の力学的利点は，部分的には曲げモーメントなどの影響を受けるが，主として面内応力（垂直応力・剪断（せんだん）応力）が作用することである。この面内応力のことをシェル構造では膜応力といい，この膜応力のみを求める理論を膜応力理論という。

シェル構造は鉄筋コンクリート造りとするのが普通であるが，また，鉄骨によって網のように部材を組み合わせてつくられる場合もある。このようなシェルを特に鉄骨シェルと名づけている。シェル構造の形には，円筒・球・HP（ハイパボリック-パラ

ボロイド)などがある。円筒形などは1方向のみに曲率があるから単曲面といっているが，球形などでは2方向に曲率をもつために複曲面とよんでいる。単曲面のシェルでは，シェル全面に曲げモーメントの影響を受ける。〔谷　資信〕

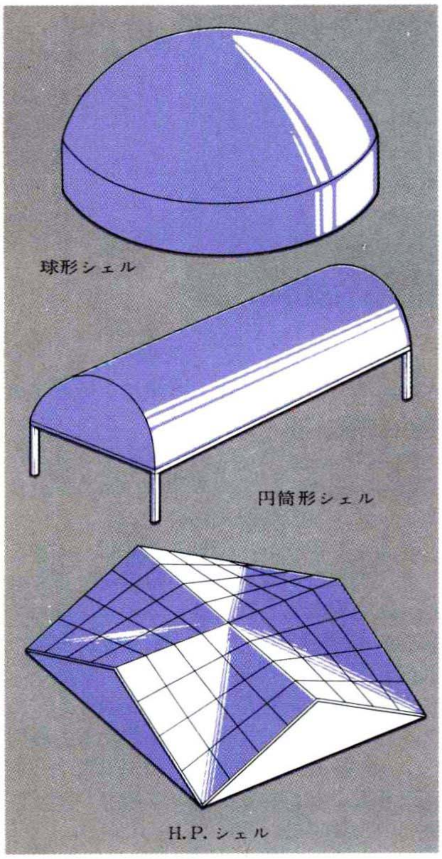
シェルせきゆ［シェル石油］アメリカの総合石油会社。売上高はアメリカ国内で5〜6位。ロイヤル-ダッチ-シェルグループ*の100％子会社で，アメリカ国内の原油採掘権・販売権を占有している。油田は，ラー沖合い・テキサス沖合い・ロングビーチ沖合いなどのほか，現在開拓中のところもあり，生産量は増加しつつある。販売量のいちばん多いものは自動車用ガソリンで，特に液化石油ガスの需要は急増している。航空燃料では民間航空用の潤滑油と燃料が主である。また，石油化学品の研究や農業化学品，グリセリンなどの工業化学品の生産でも年々売り上げを伸ばしている。日本では子会社のシェル石油が販売を行なっている。本社ニューヨーク。年間売上高33億1,707万ドル，従業員数39,000(1970)。〔氏家　尚〕

シェルター［shelter］掩護遮蔽物(えんごしゃへいぶつ)または避難場所をいう。軍用語では掩蔽部のこと。人員・器材資材・施設などを，砲爆撃や放射線などから防護する工作物をいう。最近，アメリカや西欧諸国では核・ミサイル攻撃に対する大規模な地下掩蔽部の名称に使っている。

シェルパ［Sherpa］チベット族系の高地住民で，おもにネパール東部のドゥドーコシ峡谷地帯に住む。シェルパの語は〈東方の人〉を意味するチベット語に由来する。小麦・大麦・トウモロコシ・ジャガイモなどの栽培に従事し，ヤクその他の家畜を飼育する。名誉と武勇を重んずる熱心なラマ教徒である。エベレスト山やローツェに近接するクーンブ氷河地域がおもな居住地のため，常時3,000m以上の高地で生活し，またチベットとの交易のため4,000m以上の高地を旅行することが多く，高地に適した体質を備えている。このため，イギリスをはじめとする各国のヒマラヤ探検隊の荷かつぎに雇われて大いに活躍している。〔佐々木宏幹〕

シェルハーク［Richard Sherhag］(1907〜　) ドイツの気象学者。ベルリン大学(当時のフリードリッヒ-ウィルヘルム大学)卒業後，ハンブルク海洋気象台にはいり天気予報を担当。現在はベルリン自由大学の地球物理気象研究所長。彼の業績で重要なものに，上層気流が発散しているところでは低気圧が発達するという発散説や，1952年に発見した成層圏の突然昇温の現象などがある。1969年3月に来日し，いくつかの講演を行なった。〔根本順吉〕

シェルブール［Cherbourg］フランス北西部，コタンタン半島の北端のイギリス



シェル構造　構造例

海峡に臨む港市。人口40,000(1966)。石炭や木材を輸入し，おもにイギリスへ乳製品や野菜を輸出し，また海軍基地の置かれる軍港でもある。機械・造船工業が行なわれ，兵器工場がある。ローマ時代から集落はあったが，ルイ14世によって城砦(じょうさい)や港湾が建設されてから発展し，19世紀前半に大防波堤が完成した。第2次世界大戦中は，連合軍の上陸地となって市街は壊滅的な打撃を受けた。〔梶川勇作〕

シェルモールドほう［シェルモールド法］鋳造において，加熱した金型に合成樹脂(レジン)を粘結剤とした砂を振りかけ，樹脂の熱硬化作用によってかたい殻状(からじょう)の鋳型をつくる方法。第2次世界大戦中ドイツで発明され，戦後アメリカで発達し，1951年ごろ日本に導入された。鋳型を長時間保存することができ，またこの方法でつくった鋳物は表面がきれいで寸法精度が高いので，あとの機械仕上げの工程が大幅に省けるが，合成樹脂の値段が高く，金型をつくるにも費用のかかるのが欠点である。〔加山延太郎〕

シェーレ［Karl Wilhelm Scheele］(1742〜1786) スウェーデンの化学者，薬剤師。薬局を営むかたわら化学実験を行ない，酸素を発見したが，発表はプリーストリ*に先を越された。また，塩素を発見したほか，乳酸・リンゴ酸など多数の有機酸やフッ化水素酸など種々の無機酸を発見。さらに，シアン化水素の製造や殺虫剤・顔料に用いられるシェーレグリーンなどを発見し，これらの化学的性質を明らかにした。

シェーレ［Schere］鋏状(はさみじょう)価格差。独占的な産業と非独占的な産業との間には生産物の販売方法・販売価格の上で差があると考えられる。独占的な産業では高い利益を確保するために価格を引き上げるか，あるいは高位に価格を安定化させることができる。しかし，非独占的な産業では競争が激しいから，価格は一般に低下する傾向にある。それゆえ，ある一定の期間をとってみると，独占産業と非独占産業の生産物の価格には鋏状の価格差が生ずることになる。この用語はソ連において1922年から1923年にかけて，工業生産物の価格の高騰と，農産物の価格の低落現象が論議の的になり，これを〈鋏恐慌〉とよんだことによる。このような価格差が生ずるのは，工業部門では生産量を需要に合わせて調整することができ，カルテルやトラストによる生産および流通の統制も可能であり，概して価格の下方硬直性と生産の価格弾力性が高く維持されるのに対して，農業部門にあっては自然的条件から価格の変化に生産量を短期的に調整させることがむずかしく，また，小規模企業が多いため総生産量や価格に対する個々の企業の影響力が非常に弱いことによる。近年では，シェーレ概念は景気循環の恐慌時にあてはまるだけでなく，長期的な局面においても存在すると考えられるようになった。そこでは長期的に，工業部門の独占的産業が農業部門を収奪する概念として受け取られている。〔藤枝省人〕

シェレーピン［Aleksandr Nikolaevich Shelepin］(1918〜　) ソ連共産党中央委員会政治局員兼全ソ労働組合中央評議会議長。1940年入党，1941年モスクワ歴史・哲学・文学専門学校を卒業。党中央委員，最高会議代議員兼国家保安委員会議長，中央委書記，副首相兼党・国家統制委員会議長，党中央委幹部会員(のち政治局員と改称)などを経て1967年7月現職につく。ソ連共産党内きっての理論家として強い影響力を示している。〔吹浦忠正〕

ジェローム［Jerome Klapka Jerome］(1859〜1927) イギリスの小説家。ロンドンの貧家に生まれ，種々の職業を経たのち，ユーモア小説《閑人閑談》《ボートの中の三人》の大成功によって作家となった。特に後者は世界各国で翻訳されて著名。ほかに多くの戯曲がある。

ジェロムスキ［Stefan Zeromski］(1864〜1925) ポーランドの作家。ネオ-ロマン主義の影響を受け，叙情性に富む文体と，象徴主義的表現主義的手法によるリアリズムを特色とする。その一貫した創作上のモチーフは，民族解放と社会正義実現をめざす激しい情熱であった。代表作は，歴史小

説《灰》，鋭い社会批判の《家なき人々》《早春》など。他に戯曲作品もある。

ジェロントロジー ⇨老人病学

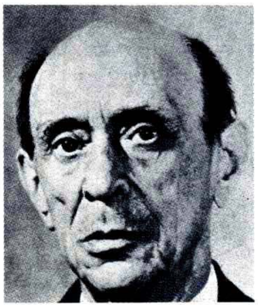
じえん【慈円】(1155～1225) 鎌倉初期の天台宗の僧で歌人。関白藤原忠通(ただみち)の第6子。11歳で叡山(えいざん)に入り天台座主に至る。歌人としては建久期(1190～1198)の中心人物のひとりで，《新古今和歌集*》撰集(せんしゅう)のための和歌所寄人(よりゅうど)となった。同集には西行*に次ぐ92首が入集している。自由な速吟を得意とし数多くの歌を残した。後人の編んだ家集《拾玉集*》，史論書《愚管抄*》などがある。

ジェーン-エア シャーロット-ブロンテ(→ブロンテ姉妹)の小説(1847)。不幸な寄宿学校生活を送った孤児ジェーンは，ソーンフィールド荘の家庭教師に雇われ，その家の主人ロチェスターと愛し合うが，彼には狂人の妻がいることがわかって立ち去る。流転のすえに再びソーンフィールド荘を訪れ，妻に家を焼かれて失明したロチェスターと結ばれる。メロドラマふうの筋運びと情熱的な構想によって，出版後直ちに評判となり，今日まで読者が絶えない。〔橋本槇矩〕

しえんかたんそ【四塩化炭素】CCl_4 無色の液体で，比重1.5942，融点−22.86°C，沸点76.679℃。二硫化炭素に鉄を触媒として，塩素または塩化イオウを反応させて得る。100gの水に20℃で0.08g溶解し，アルコール・クロロホルム・エーテルにとけ，また油脂・タールなどにもとける。蒸気が重く不燃性であるため消火剤に用いられるが，有毒なホスゲン*を生じるので注意を要する。また，有機物の溶剤や抽出剤・殺虫剤などにも用いられる。

シェンキェービッチ［Henryk Sienkiewicz］(1846～1916) ポーランドの作家。世界的ベストセラー《クォー-バディス*》によって，1905年度ノーベル賞を受けている。早くから作家活動にはいり，写実的な長短編を数多く発表した。思想的には，相次ぐ反乱の失敗後，経済技術の進歩と超階級的な奉仕のうちにあすの希望を夢みた，いわゆるポーランド実証主義の影響を強く受けている。その本領は歴史小説にあり，過去に祖国ポーランドの栄光を探り，亡国の悲運に沈む同胞を鼓舞激励した長編三部作《火と剣もて》《洪水(こうずい)》《郷士ボウォディヨフスキ》や，《十字軍団の騎士》が代表作。ほかに，ポーランドの農村や移民の悲惨に材を取った短編《楽師のヤン》《勇士バルテック》《燈台守(とうだいもり)》《パンを求めて》や，少年読物《砂漠(さばく)と密林》などが著名である。〔米川和夫〕

ジェンチーレ［Giovanni Gentile］(1875～1944) イタリアの哲学者・政治家。クローチェ*とともに第2次世界大戦前のイタリア哲学の代表者であった。その哲学は極端な一元的観念論の立場に立つ。彼は個



シェーンベルク

別的精神の存在，理論と実践，主体と客体，過去と現在との区別を否定した。ファシズムを支持して，その代表的理論家となり，1922～1924年には文部大臣をつとめている。フィレンツェで暗殺された。

ジェントルマン［gentleman］ イギリスで，貴族の位階はないが紋章を許された者。歴史的概念としては，ヨーマン*以上で貴族以下の土地所有者，富裕な借地農，法曹家(ほうそうか)，聖職者，富裕な商人など，広く中産階級上層部を含む社会層をもいう。この意味で，イギリス資本主義発展の基幹となった階層であり，16世紀を画期として支配階級としての地位をほぼ確立して，20世紀の初頭にまで及んだ。

ジェンナー［Edward Jenner］(1749～1823) イギリスの医学者で，牛痘(ぎゅうとう)接種法の発見者。バークレーの近くに牧師の子として生まれた。1762年のころから医学を学びはじめ，1770年ロンドンへ出てJ.ハンターについて学んだ。1773年帰郷して医業を開く。自然界の動物についても関心を寄せ，その観察をおこたらなかった。〈牛痘に感染した人は一生涯(しょうがい)天然痘にかからない〉というその地方の言い伝えに着眼し，それについての研究を詳細かつ慎重に行なった。1796年一酪農婦の手から採った牛痘苗を一少年の腕に植えて成功。1798年に《牛痘の原因と効果に関する研究》という論文を発表し，医学界の大きな反響を呼び，賛否両論が沸騰した。しかし，1800年ごろにはその真価が広く認められるに至り，イギリス国会はその功績に対し年金を贈った。ジェンナー自身はその後もバークレーで開業医を続け，田園生活を楽しみながら余生を送った。〔大鳥蘭三郎〕

シェーンバイン［Christian Friedrich Schönbein］(1799～1868) ドイツの化学者。化学工場の職人として働きながら化学を学ぶ。1821年ごろから研究活動にはいり，1829年にバーゼル大学に招かれ，1835年正教授となる。ショウ酸と鉄の反応を研究。1839年にはオゾン*を発見。また，硫酸とショウ酸の混合物の酸化作用を研究している途上で，綿火薬を発見した。

シェーンベルク［Arnold Schönberǵ］(1874～1951) 20世紀最大の作曲家のひとり。ウィーンのユダヤ人の商家に生まれ，正統的な音楽教育を受けることなく育ち，父の死後高等学校を退学して銀行員になった。以後チェロなどをひいて古典音楽に親しむうちに作曲家になることを決心した。初期の作品の中では，デーメルの詩による弦楽六重奏曲《浄夜》，メーテルランクの戯曲による交響詩《ペレアスとメリザンド》，ヤコブセンの詩による《グレの歌》などが知られるが，いずれも複雑な和声法や膨大な管弦楽によって，後期ロマン派ふうの官能的な作品である。

その後，第1次世界大戦前まではウィーンとベルリンの間を往復し，劇場の指揮者や大衆音楽の編曲で生活した。ウェーベルン*やベルク*に作曲を教えはじめたのもこのころで，以後この3人は終生友情を保ちつつ，新しい音楽の創造に貢献した。この時期には，《第1室内交響曲》《第2弦楽四重奏曲》《ゲオルゲ歌曲集》《五つのオーケストラ曲》，モノドラマ《期待》《ピエロ-リュネール》などの作品を残しているが，その作風は〈無調〉〈無主題〉といわれているもので，長調・短調のいずれかがはっきりしない響きの中で，人間の内面にある矛盾や情念を表現しようとした。こうした作風は，当時の絵画との関連上，表現主義とよばれることもある。

《ピエロ-リュネール》以後，シェーンベルクの創作は停滞する。これは，彼が2年ほど第1次世界大戦に参戦したことと無関係ではないが，おもに作曲法上の問題からであった。10年ほどの沈黙ののち，1923年に《五つのピアノ曲》《セレナーデ》《ピアノ組曲》を発表したが，これらはいずれも彼が創案した12音技法というまったく斬新(ざんしん)な作曲法によるものであった。1933年，ヒトラー政権の樹立とともにベルリンでの公職を追われ，フランスを経てアメリカに亡命。以後ロサンゼルス郊外に居を定めて，《バイオリン協奏曲》《ピアノ協奏曲》《ワルシャワの生き残り》など，円熟した12音技法による作品を残した。➔12音音楽〔船山 隆〕

しお【潮】 ⇨潮汐(ちょうせき) ⇨潮流

しお【塩】 ⇨食塩

ジオイド［geoid］ 地球物理学の一用語。地球の形は楕円(だえん)体といっても，実際には高さ8kmに及ぶ高山や，深さ10kmに達する海溝(かいこう)もある。そこで地球を表現する形として，平均海水面によって置き換えたものを考える。陸地では，仮想的に網目状に細い運河を掘り，そこに海水を導き入れたとして，平均海水面に相当するものを考えるようにし，このようにして地球全体を，一続きの面でおおうことができる。この仮想的な地球の形をつくる面をジオイドという。ジオ(geo)は大地を，オイド(oid)は形を意味する。ジオイドは，地球上の各地において重力の方向と垂直面をなしている。ジオイドの形は，当然，地表付近の地殻(ちかく)構造によって支配され，かなり凹

凸(おうとつ)をもつ面となる。したがって，地球を理想化した形で表わした地球楕円体は，ジオイドとは違っている。〔相原正彦〕

しおうごうん【四王呉惲】中国明(みん)末清(しん)初の呉派の文人画家のうち，6人の大家をまとめての称。王時敏・王鑑・王翬(おうき)・王原祁(おうげんき)・呉歴・惲格(うんかく)(惲南田)をいう。

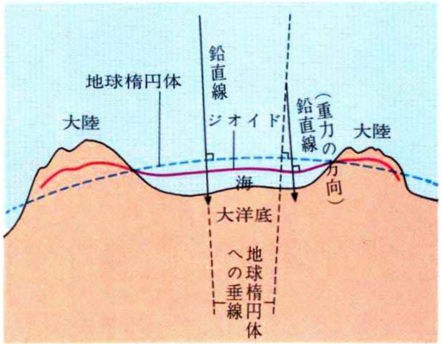
しおがま【塩竈】落雁(らくがん)ふうの干菓子。宮城県塩竈市の銘菓で，江戸時代からつくられている。みじん粉(もち米をいって粉にしたもの)に白砂糖・水・水あめと少量の食塩を加えてよく混ぜ，ゆかり(アマモ)またはいった黒ごまを少量混ぜ，木わくに入れて固めてつくる。現在では中にあんを入れたものもある。塩竈(しおがま)神社の祭神塩土老翁神(しおつちのおじのかみ)が，乾飯(ほしい)をいってこれに海草からとった塩を加えた間食の作り方を民に教えたのがはじまりといわれる。〔塩川ふみ〕

しおがま【塩竈(市)】宮城県中部の市。古くから塩竈神社の門前町，陸奥(むつ)の国府多賀城の外港として開け，その後三陸漁業の中心基地として発展した。1941年(昭和16)市制施行。人口60,000。松島湾の南西部に面し，産業三大別人口比は7：30：63。塩竈港の水揚げ量は毎年全国で上位を占め，1964年に建設された東洋一の広さをもつといわれる魚市場をはじめ,冷凍施設や製氷・水産加工などの施設が整備されている。仙台(せんだい)湾新産業都市建設の中心となり，港湾整備計画が進み，1958年には10,000トン岸壁が完成した。特別名勝松島を控えて観光客も多く，松島湾ではノリやカキの養殖も盛んである。西方の台地上にある塩竈神社は，海上守護・安産の神として名高く，港祭(8月5日)には神輿(みこし)を乗せた龍頭(りゅうとう)の船が湾内を渡る。東北本線のほか，仙台から仙石線が通じ，国道4号線も通過する。

しおがまぎく【塩竈菊】双子葉植物・ゴマノハグサ科。山地の日あたりのよい草地にはえる多年草。茎は高さ30～60cmで赤みをおびる。葉は互生ときには対生し，細い卵形で先がとがり，縁に波状の鋸歯(きょし)がある。8～10月，茎の上部に包葉をもった紅紫色の唇形(しんけい)花を多数つける。

しおがまじんく【塩竈甚句】宮城県の民謡。九州北部の《ハイヤ節》が日本海を北上し，津軽を経て太平洋沿岸に移入されたもので，明治中期までは《アイヤ》とよばれた。〈ハットセ〉という囃(はや)しことばは《南部アイヤ》の〈ハットサッサー〉の転訛(てんか)。酒席などで，三味線(しゃみせん)・太鼓などの伴奏でにぎやかに歌われる。

しおがまじんじゃ【塩竈神社】宮城県塩竈市一森山にあって，塩土老翁神(しおつちのおじのかみ)・武甕槌神(たけみかづちのかみ)・経津主神(ふつぬしのかみ)を祭る。シオツチノオジを先導としてタケミカヅチ・フツヌシの2神が国土平定ののちこの地に至り，塩を焼くことを教えたので，3神を塩竈大明神と総称して祭ったものと伝えられる。古来，航海の神，安産の神として信仰され，その護符は全国に広く頒布されている。7月10日の例祭には流鏑馬(やぶさめ)・藻塩焼(もしおやき)などの特殊神事が行なわれ，また港祭(8月5日)も広く知られている。〔佐野文哉〕



ジオイド



シオカラトンボ　(上)雄　(下)ムギワラトンボともいわれる雌

しおから【塩辛】魚貝類の腸・卵あるいは肉片を塩づけにし，これらに含まれるあるいは他から加えられる酵素の働きによって熟成させた食品。歴史はかなり古く，アユの塩辛(うるか)は平安朝のころすでにつくられていた。

ふつう，カツオの腸(わた)，イカの肉，アワビの腸，ナマコの腸，ウニの生殖巣，アユの卵および腸などが用いられる。カツオの場合は酒盗，ナマコではこのわた，アユではうるかとよぶ。イカでも越中産は，イカの肉片と墨袋でつくるので〈黒づくり〉の名があり著名。このわたは尾張，酒盗は紀伊(きい)・土佐などを名産地とする。また北海道などではサケの背腸を塩辛にしたものをめふんといって珍重される。多く酒のさかなとして愛用されるが，あたたかい飯の副食にも適している。〔佐藤友太郎〕

しおからとんぼ【塩辛蜻蛉】こん虫類・トンボ目・トンボ科。中形のトンボで，腹長32～40mm，後翅(こうし)長36～43mm。未熟の雄および雌は黄かっ色の地色で，腹部背板に2本の条斑(じょうはん)があるが，成熟した雄は黒化し，主として腹部背板の前方より6ないし7節まで白色粉を装う。このため，俗に雄をシオカラトンボ，雌をムギワラトンボという。ヨーロッパから中央アジアにかけて小形の原種が分布し，日本全土・台湾・朝鮮・中国などに分布するものはその亜種とされている。各地の平地に春から秋まで最も普通にみられる種類である。近似種のシオヤトンボは，腹長25～28mm，後翅長31～33mm。成熟雄は全体白色粉を装うが，地色は黄色をおびる。日本列島の特産亜種で日本全国に分布し，4～6月に水田近くなどに多くみられる。オオシオカラトンボは大形で，腹長34～36mm，後翅長40mm内外。成熟雄は全体に黒化し，青灰色の粉を装う。また，翅基部に黒色部があることから上記2種と容易に区別できる。日本全土のほか，台湾・朝鮮・中国に分布し，夏季に普通にみられる。〔鈴木邦雄〕

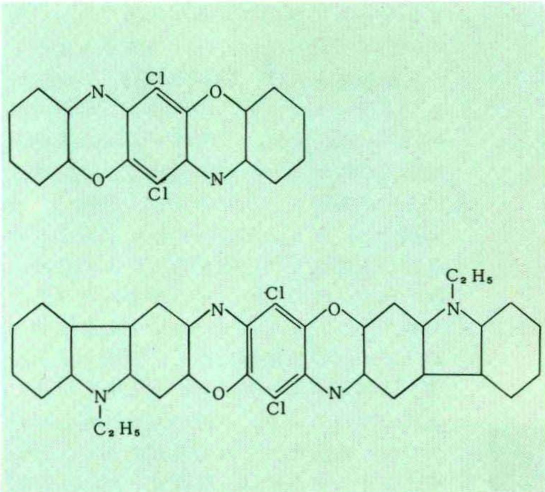
ジオキサジンがんりょう【ジオキサジン顔料】有機顔料の一。基本構造は次ページで表わす。これ自体の色は赤。耐溶媒性が劣るので，各種の置換基が導入され改良が試みられている。現在実用化されている顔料は図の化学構造で表わされるカルバゾルジオキサジンバイオレットで，あざやかな紫。着色力が大きく，耐光性にすぐれる。➔顔料　➔次ページ(図)

しおぐさ【汐草】緑藻(りょくそう)植物・シオグサ科の総称。海水中だけでなく，淡水・汽水中にも生ずる。多くの種類があり，また形態変異が著しい。一列細胞の分枝体で，他物に着生する。海産で大形のチャシオグサでは，高さ40cmに達する。マリモも現在シオグサ属に含められている。2べん毛の遊走子を生ずる体と，2べん毛の配偶子を生ずる体とがあるが，両者は外形的には同じである。

しおくみ【汐汲】長唄(ながうた)・日本舞踊の曲名。本名題《七枚続花錦絵(しちまいつづきはなのにしきえ)》。作詞2世桜田治助，作曲2世杵屋(きねや)正治郎。1811年(文化8)江戸市村座で初演。能の《松風》に取材したもので，海女(あま)松風が行平を慕う汐汲みの振りから口説(くどき)にかけて特に有名である。➔次ページ(写真)

しおざかい【潮境】⇨潮目

しおさけ【塩鮭】塩づけにしたサケ。製法に散塩法と新巻塩蔵法がある。前者は散塩しつつ山積みにして1週間以上たってから箱づめにする方法，後者は箱の中に直接入れて散塩し，数時間放置したのち冷蔵庫に入れて10日以上貯蔵する。元来〈新巻〉



ジオキサジン顔料
(上)基本構造　(下)カルバゾル
ジオキサジンバイオレット

というのは，北海道でその年新たに川を上ってきたサケを薄塩でていねいに処理して当座用につくった高級品のことで，散塩法によるものよりは食塩量が少なかった。しかし，現在では，海でとれたサケを山積み塩蔵したものも冷蔵庫などを使用して薄塩で塩蔵できるので，塩分含量では区別ができなくなっている。　〔佐藤友太郎〕

しおざわ　【塩沢(町)】　新潟県南魚沼郡にあり，六日町盆地南部に位置する。人口21,000。古くは三国街道の宿場町で，現在も上越線・国道18号線が通る。付近は越後(えちご)上布の産地であり，また，石打地区をはじめ各所にはスキー場が多く，農家副業としての民宿でにぎわう。

しおじ　【塩地】　双子葉植物・モクセイ科。山野に自生する落葉高木で，高さ6～10mに達する。トネリコの仲間である。葉は大形の羽状複葉で7～9枚の小葉からなり，対生する。初夏，枝の先に円錐(えんすい)花序を出し，花冠のない小形の花を群生。秋に大きな翼果をつける。材は，建築材・家具材として用いられる。

しおじり　【塩尻(市)】　長野県中央部の市。江戸時代は中山道(なかせんどう)と三州街道が分かれる宿場町で，明治末期からは中央本線・篠ノ井(しののい)線の分岐点となった。1959年(昭和34)市制施行。人口52,000。市域は松本盆地の南端にあり，北は松本市，東は岡谷(おかや)市，南は辰野(たつの)町と接し，西には中部山岳地帯の山々が連なる。市街地は桔梗ケ原(ききょうがはら)の一角を占め，もと宿場町の西方にある塩尻駅の周辺部が中心集落となる。産業三大別人口比は25：38：37。桔梗ケ原は水に乏しい台地であったが，1869年(明治2)以来開墾が行なわれ，いまは県下のブドウの主産地で，ぶどう酒の醸造工場がある。付近の山地の石灰岩を原料として窒素肥料を生産する昭和電工の工場があり，旧宿場付近には諏訪(すわ)・岡谷方面から精密機械工業の工場が進出している。中央本線・篠ノ井線，国道19号線・20号線・153号線が集まる交通の要地。桔梗ケ原南縁の平出(ひらいで)遺跡*は縄文(じょうもん)式時代から平安時代初期にわたる古代住居跡である。市域東端の塩尻峠(999m)は中央高地における表日本と裏日本の分水界となる代表的な峠で，中部山岳地帯を一望に収める景勝地であり，塩尻市と諏訪市・岡谷市方面とを結ぶ定期バスその他の自動車交通量が多い。　〔浅井得一〕



汐　汲　三蓋傘を使ってのはなやかなくだり。歌詞は傘づくしになっている(7代目尾上梅幸)

しおぜ　【塩瀬】　本来は国内向け絹織物の一種。経糸(たていと)を密にして，太い緯糸(ぬきいと)を平組織とした生(き)の経畝(たてうね)織物。布面に博多(はかた)織*のような細い畝が横に見えること，また比較的厚地でしなやかなのが特徴である。厚地の羽二重*という感じから，塩瀬羽二重ともよばれてきた。織り上げ後精練・染色して，従来は女性の帯地・衿(えり)地・袱紗(ふくさ)地，男物の羽織地などに用いられた。この地合いに綾(あや)や繻子(しゅす)組織で文様を織り出したものを紋塩瀬という。また塩瀬の外観を有する御召*(おめし)を塩瀬御召と称する。近年の合化繊ものは緯畝のはっきりしないものが多く，自生地のほか無地染，捺染(なっせん)または縞織(しまおり)・縫い取りによる紋織などが施され，ワイシャツ・婦人服・子ども服・ブラウス・スリップなどに利用されている。いつごろから織り出されたかは明らかでないが，1789年(天明9)ごろには盛んに製織されていたと考えられる。　〔北村哲郎〕

しおづけ　【塩漬け】　食品の塩蔵法。最も原始的なつけ方で，古くから行なわれている。食塩は材料内に浸透して水分を除き，細胞膜が破壊して細胞間の成分の交流がたやすくなり，また細菌の発育を阻止する。すぐきのように長期間になると発酵して乳酸菌が生育し，特有の風味が出てくる。なお，そのまま食用にするもの以外に，からしづけ・かすづけなど加工つけものの原料にするために貯蔵の目的も兼ねる塩づけがあり，下づけまたは貯蔵づけという。　〔塩川ふみ〕

しおで　【牛尾菜】　単子葉植物・ユリ科。原野や山林に自生するつる性の多年草。葉柄の基部の托葉(たくよう)が変形した1対の巻きひげで他物に巻きついてよじ登る。葉は互生し，有柄で，葉身は卵形で先端が急にとがり，濃緑色で，長さ5～8cm。雌雄異株で，7～8月に葉腋(ようえき)から長柄を出し，球状に淡緑色の小花をつける。果実は球形の液果で，径5mmほど，青黒色に熟する。ヒデコなどともいわれ，若芽は山菜として珍重される。日本各地，朝鮮・中国・台湾に分布する。

しおどめこう　【潮止め工】

1海辺の干拓工事で，あけておいた堤防の開口部を，工事の終わりに締め切って土地と海とを絶縁すること。

2河川の河口およびそれに近い下流部で，海水が川をさかのぼるのを防ぐための構築物。農業用・工業用・上水用として取水している場合には，海水の混入による塩害を受けるので，河川を横断して床固めあるいは堰(せき)を設けてこれを防止する。

シオニズム　［Zionism］　ユダヤ人のパレスチナにおける祖国回復運動。シオンはヘブライ王国ダビデ王の居城があったエルサレム南東の丘。ローマ帝国によるエルサレム征服後，国を失ったユダヤ人は世界各地に分散したが，19世紀末各地でユダヤ人迫害に対して国家建設運動が起こり，1897年テオドール-ヘルツルのシオニスト団が組織された。1917年イギリスがバルフォア宣言(→バルフォア)でユダヤ人を支持，1920年パレスチナがイギリスの委任統治下にはいって運動は急速に発展し，1948年5月委任統治満期に伴いイスラエル共和国が成立，シオニズム運動はいちおう目的を達成したが，周辺のアラブ諸国との間にいまも紛争が絶えない。　〔折井一彦〕

しおのみさき　【潮岬】　紀伊(きい)半島の

最南端，和歌山県西牟婁(にしむろ)郡串本(くしもと)町にある岬で，本州の最南端(北緯33°26′)にあたっている。かつては島であったが，砂州*によって紀伊半島と結ばれ，陸繋(りくけい)島となった。もとの島の部分は波の浸食による平坦(へいたん)な海食台で，3段の海岸段丘からなっている。沖合いには黒潮が流れるため，冬も暖かく，気温の年較差が小さい。台風をはじめ冬の季節風などの風が強く，屋敷には防風林がみられる。台地の西南端には1873年(明治6)に設置された1等燈台の潮岬燈台をはじめ測候所・無線局がある。海岸は，高さ60mもの海食崖(かいしょくがい)が続き，太平洋の怒濤(どとう)が打ち寄せてすばらしい自然美を展開する。吉野熊野(よしのくまの)国立公園に含まれ，ホテルや展望台など観光施設も完備している。〔味沢成吉〕

しおばらおんせんきょう【塩原温泉郷】 栃木県塩谷郡塩原町にあって，箒(ほうき)川の渓流(けいりゅう)に臨む，大綱・福渡・塩釜(しおがま)・塩ノ湯・袖ケ沢(そでがさわ)・畑下(はたおり)・門前・須巻(すまき)・古町・奥塩原・元湯の11温泉群をいう。泉温36～75℃，泉質は単純泉・弱食塩泉・重曹(じゅうそう)食塩泉などである。古くから知られ，かつて元湯は〈元湯千軒〉といわれたほどにぎわったが，1658年(万治1)の大地震で被害を受け，当時のおもかげはない。近くには鍾乳洞(しょうにゅうどう)・七滝・屛風岩(びょうぶいわ)など，景勝地も多い。交通は東北本線西那須野(にしなすの)駅からバスの便がある。〔木村東一郎〕

しおばらたすけ【塩原太助】(1743～1816) 江戸後期の商人。もと上州(群馬県)塩原の百姓だったが，江戸へ出て炭屋に奉公し，苦労のすえ，本所相生(あいおい)町で大富豪になる。この立志伝を三遊亭(さんゆうてい)円朝*が《塩原多助一代記》につくり，さらに3世河竹(かわたけ)新七が同じ名題の歌舞伎(かぶき)に脚色した。

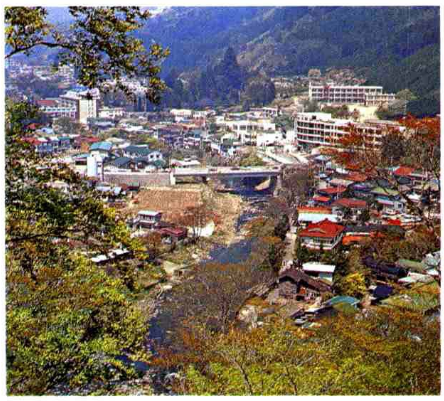
しおひがり【潮干狩り】 旧暦の3月3日前後の大潮のとき，砂浜海岸で貝類を拾い，小魚を捕えて遊ぶこと。江戸時代の多くの文献には江戸・大阪の町人が雛(ひな)祭り前後に浜べに出て行楽に興じたことが記され，古くから磯(いそ)遊び・磯祭りなどとよばれ行なわれていた。宮城県の牡鹿(おじか)半島では磯祭り，九州西海岸一帯では磯遊びなどとそれぞれ呼称し，潮干狩りを雛祭りの行事とする風習がほぼ全国にある。

しおふき【潮吹】 軟体動物・二枚貝類・バカガイ科。殻(から)は三角形でよくふくらみ，紫がかった白色で，周辺は紫色が濃いことが多く，黄かっ色の殻皮(かくひ)をかぶる。殻長4cm，殻高4cm，殻幅3cmほどに成長する。本州中部以南九州までと，朝鮮・台湾・中国の内湾の砂泥底(さでいてい)に多産する。砂が多くまずいが，つくだ煮にすると外見がハマグリやアサリに紛らわしい。

しおまねき【潮招き】 節足動物・甲殻(こうかく)類・スナガニ科。甲幅3cm，甲長2cmほどのカニで，甲は前方に広い台形。雄のはさみは左または右が強大だが，雌で左右同大で小さい。体は暗青色で，若い個体では大きいはさみは紅色，老成したものでは淡い橙黄(とうおう)色。有明海・沖縄諸島・朝鮮・中国・ボルネオ・シンガポールなどに分布し，浅海に群生して泥上(でいじょう)の有機物を拾って食う。雄は干上がった干潟(ひがた)の上で，大きなはさみを上下に振る。有明海では，塩辛(がんづけ)にして賞味する。近似種のハクセンシオマネキは，甲幅2cm，甲長1cmほどで，外形・体色は前種に似るが，はさみの色が白く，香川県・長崎県大村湾・鹿児島県などに，さらに朝鮮・ホンコン・インド・マライ半島・アフリカ東岸などにも分布する。〔菅野 徹〕



潮 岬 黒潮の流れに臨む潮岬燈台。漁港串本を通って岬の先端まで観光バスがはいり，展望台・みやげ物屋などもあり観光地化している



塩原温泉郷 箒川沿いに旅館の立ち並ぶ塩原温泉郷福渡付近。かつての清流箒川も汚染が目だってきている



潮 目 犬吠埼東方の潮目

しおみだけ【塩見岳】 長野・静岡県境，南アルプス中部の主峰で，仙丈ケ岳(せんじょうがたけ)から赤石岳に至る赤石山脈主脈のほぼ中央に位置する。標高3,047m。漆黒の秀麗な山貌(さんぼう)は遠望でもその特色がとらえられる。南と東側は大井川上流の西俣(にしまた)・東俣の谷，北側は天龍(てんりゅう)川の支流三峰(みぶ)川の谷が深く食い込む。南アルプス国立公園に属し，ハイキングコースは伊那(いな)盆地側から三伏峠(2,580m)を経るコースが一般的である。〔高野 繁〕

しおめ【潮目】 水温・塩分など性質の違った水塊が接すると，なかなか混じり合わず，その境界面は一つの曲面をつくる。これを潮境という。潮境と海面とが交わってできるすじが潮目である。潮目では海草・あわ・ごみなどが集まったり波が立ったりしており，その両側ではよく水色が違っている。潮境では海水の上昇・下降の鉛直運動が盛んで，上昇流に伴って深層の栄養塩類に富む海水が上昇してくるためプランクトンが繁殖し，魚類が集まって絶好の漁場となる。黒潮・親潮の接する三陸沖・メキシコ湾流とラブラドル海流の接するニューファンドランド沖などが有名である。〔相原正彦〕

しおやあぶ【塩屋虻】 こん虫類・双翅(そうし)目・ムシヒキアブ科。体長23～30mm。体は黒色で，頭部と胸部はそれぞれ黄かっ色粉・かっ色粉でおおわれ，後方には黄色毛がはえる。腹部は基部5～6節の各節後縁に，黄色粉と黄色毛からなる横帯がある。雄では尾端に白色毛の塊があるが，雌では第7・8節とも青色の光沢があって黒色毛を装う。日本全土のほか朝鮮に分布し，各地に最も普通にみられる。各種のこん虫を捕えて体液を吸収する。

しおやき【塩焼き】 魚貝類に塩を振ってじか火で焼く調理法。一般に振り塩をしてすぐ焼くのがいちばんおいしい(アユ・エビ・イカ・貝類など)。材料の持ち味を最高に生かせるが，新鮮な材料を用いることがたいせつ。海魚では，タイ・サワラ・キス・スズキ・カマス・イサキ・サンマ・イワシなど，川魚では，アユ・ヤマメなどに適する。代表的な小ダイの姿焼きは，下ごしらえした魚の腹の中とまわりに塩を振り，20～30分おいて，さっと水洗いして水けをふき取り，金ぐしに刺して全体に化粧塩(焼く直前にもう一度軽く塩を振ること)を振り，尾・ひれなど焦げやすい部分には多めの塩をまぶし，強火の遠火で上身から焼く。サンマ・イワシなど皮の薄い魚は，塩を振っ

て約5分置いて焼く。　〔塩川ふみ〕

しおん　**【紫苑】**　双子葉植物・キク科。アジア大陸原産の大形多年草。日本では九州地方に自生するが，観賞用・切り花用として栽培もされる。茎は高さ1.5～2mになり，葉とともにざらつく。根ぎわの葉は大形で長さ30cmにもなるが，茎につく葉は小さい。秋，枝分かれした茎の上部に多数の淡紫色の頭花をつける。根は漢方では鎮咳(ちんがい)・鎮静薬として用いられる。

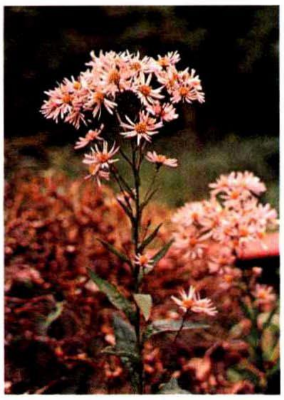
しおん　**【四恩】**　仏教で人間が受けている恩恵を4種に分類したもの。《心理観経》では，①子に対する慈悲である〈父母の恩〉。②因果関係によって現在の生存がある〈衆生の恩〉。③正しい政治の保護である〈国王の恩〉。④人々の苦を救い，悟り*に導く仏・法・僧の〈三宝の恩〉をさす。また，《正法念処経》では，母，父，如来，説法の法師の四恩があり，父母を仏の教えに導き，仏教を信ずることが報恩であるという。

じおん　**【字音】**　⇨漢字音

じおんじ　**【慈恩寺】**　山形県寒河江(さがえ)市慈恩寺鬼越にある新義真言宗智山(ちざん)派の寺。寺伝では行基の開基，または波羅門(ばらもん)僧正の草創とされる。慈恩寺はもと天台宗・真言宗など22寺からなる一山の総寺号で，天台・真言両宗に兼属していたが，現在は一宗を立てている。本堂・不動堂・薬師堂・阿弥陀堂(あみだどう)・地蔵堂・釈迦堂(しゃかどう)・三重塔・仁王門(におうもん)などがあり，本堂の本尊弥勒菩薩坐像(みろくぼさつざぞう)は胎内の墨書銘によると1298年(永仁6)法橋寛亮(かんりょう)の作。阿弥陀堂の阿弥陀如来坐像は鎌倉初期の作である。　〔永井信一〕

しおんとりょう　**【示温塗料】**　特定の温度で明瞭(めいりょう)な変色をする特殊な塗料。被塗物の表面温度の測定に用いる。示温塗料には，顔料として用いる化合物の特性により，一定温度以上で変色したのち，温度が下降してもその色を保つ不可逆形と，一定温度以下になると再びもとの色にもどる可逆形の2種類がある。不可逆形は顔料としてコバルト・鉄・銅などの金属化合物でアミン・アンモニウム・炭酸塩・結晶水などを含むものを用い，その変色は化合物の熱分解などの化学変化で顔料の組成が変わることにより起こる。可逆形は顔料として重金属のハロゲン化物，その錯塩・複塩を用い，その変色は化合物の結晶形の転移・脱吸水などの物理的変化により起こる。塗膜形成要素にはニトロセルロース・ビニル樹脂・フタル酸樹脂・ケイ素樹脂などを用いる。エンジン・ラジエーターの温度分布，モーター・変圧機・電線などの過熱防止，危険物容器・貯蔵庫の災害防止用。〔鈴木荘司〕

しか　**【鹿】**　哺乳(ほにゅう)類・偶蹄(ぐうてい)目・シカ科。体は細く，四肢(しし)は長く，体毛は短く，とがった蹄(ひずめ)をもつ。涙孔は2個。雄にはふつう枝角があるが，枝角をもたないものは上顎(じょうがく)犬歯が発達し，



シオン



示温塗料　中央ペイント株式会社の示温塗料〈シオン〉C－70の温度による変化。(　)内はマンセル近似色



シ　カ　ほえるニホンジカの雄

牙(きば)状を呈する。また，トナカイでは雌も枝角をもつ。角はふつう年に1回脱落する(シフゾウは年2回)が，落ちるとすぐに，ビロード状の柔毛がはえた皮膚でおおわれた袋角が生じる。袋角の内部には血管や神経が充満し，感覚は鋭敏。内部の化骨が完成すると外面の皮膚は枯れて落ちる。2歳のものは枝分かれせず，年齢とともに枝が多くなり，ニホンジカではふつう6歳で枝の先端が4本ある4尖(せん)3叉(さ)となる。しかし，枝の出方は栄養状態などにより，5歳になっても1尖しかない例もある。胃は4室に分かれ，食物は反芻(はんすう)し，ジャコウジカ以外のものには胆嚢(たんのう)がない。夏冬で体色は異なり，夏毛は短く明るいが，冬毛は厚く長く暗色である。多くのものは目の前に孔(眼下腺(がんかせん))があり，繁殖期にはそこからにおいを出す。ふつう1産1～2子。

次のような亜科に分けられるが，ジャコウジカ亜科とキバノロ亜科のものは角を欠く。①ジャコウジカ亜科：ヒマラヤ・チベットからシベリア・サハリンに分布するジャコウジカを含む。②キバノロ亜科：朝鮮・中国に分布し，上顎犬歯が口外に突出しているキバノロが含まれる。③キョン亜科：中国・台湾に分布し，短い1叉の角があるキョンを含む。④オジロジカ亜科：南・北アメリカに分布し，体の大きなオジロジカ・オグロジカを含む。⑤ヘラジカ亜科：全北区*に広く分布し，平たく枝の多い大形の角をもつヘラジカを含む。⑥トナカイ亜科：北極地方に分布するトナカイを含む。⑦シカ亜科：ニホンジカ・シフゾウ・スイロク・ダマシカなどを含む。

ニホンジカは東アジア特産で，日本のほか，ウスリー・朝鮮・モンゴル・台湾・中国に分布し，日本では北海道・本州・四国・九州・五島列島・対島(つしま)・屋久島・馬毛島にみられる。馬毛島産のものはマゲシマシカとよばれ，近年生息数が減少し，国際保護獣に指定されている。日本産では南と北で体の大きさ・角の長さ・色・形など著しく異なる。南方のヤクシカは小形で肩高80cm以下であるが，北方のエゾシカは大形で肩高1m内外である。ふつう群生し，雌は幼獣や若い雄とともに，雄は雄だけで群れをつくる。繁殖期には雄どうし激しく戦い，勝者は数頭ないし10数頭の雌を従え，ハレムをつくる。朝夕活動し，草やコケ，木の芽などを食べ，日中は風下の見通しのきく場所で休息する。危険が迫ると，しりの白色の長毛を立てて仲間に警告する。妊娠期間は6～7か月で，子は晩春に生まれ，幼獣は生後約1年母親とともに生活し，その後独立する。　〔今泉吉典〕

しか　**【歯科】**　歯を中心に，歯肉・顎骨(がくこつ)・口腔(こうこう)軟組織などに現われる病気の予防と治療をその対象にする医学の一分科。同じ体の一部門であるにもかかわらず，教育も制度も，一般医学とは別個に独立して存在しており，教育は歯科大学または大学の歯学部において行なわれ，法律的には歯科医師法が適用されている。歯科の特徴として，むし歯をはじめ，組織の欠損をきたした部分を，人工的な金属・合成樹脂・陶材などで補う必要があり，このため歯科医師は一般医学のほかに基礎歯科学を，さらに金属学・高分子化学・力学・工学など多方面の知識を必要とする。これが一般医学と分かれて存在している一つの理由といえる。臨床歯科学は，これら基礎的な学問

のほかに，保存治療学・口腔外科学・補綴(ほてい)学・矯正(きょうせい)学・歯科レントゲン学に大きく分けられる。保存治療学は，むし歯や歯肉炎・歯槽膿漏症(しそうのうろうしょう)などの治療を行ない，歯を抜去せず，保存させるための学問である。口腔外科学は，口腔・顎骨・顔面などに現われた病気のうち，外科的な処置を必要とする疾患を対象にした学問である。手術として最も頻繁(ひんぱん)に行なわれているのは，抜歯であるが，そのほか，口腔諸組織にみられる炎症・外傷・腫瘍(しゅよう)・奇形などが対象になる。補綴学は，むし歯で失われた歯の実質欠損を，金冠とか継続歯で補ったり，抜歯したあとの欠損を義歯で補い，咀嚼(そしゃく)や発音機能の回復を図るのを目的とした学問である。矯正学は，歯並びやかみ合わせの不正などを，特殊な装置を用いて，正常な歯並びや咬合(こうごう)状態に導き，口腔の機能回復と，審美的な調整を図るための学問である。歯科レントゲン学は，歯・顎骨・顎関節などを対象とするが，一般のレントゲン撮影や診断と異なって，特殊な技術と知識を必要とするため，独立した学問となっている。

〔成田令博〕

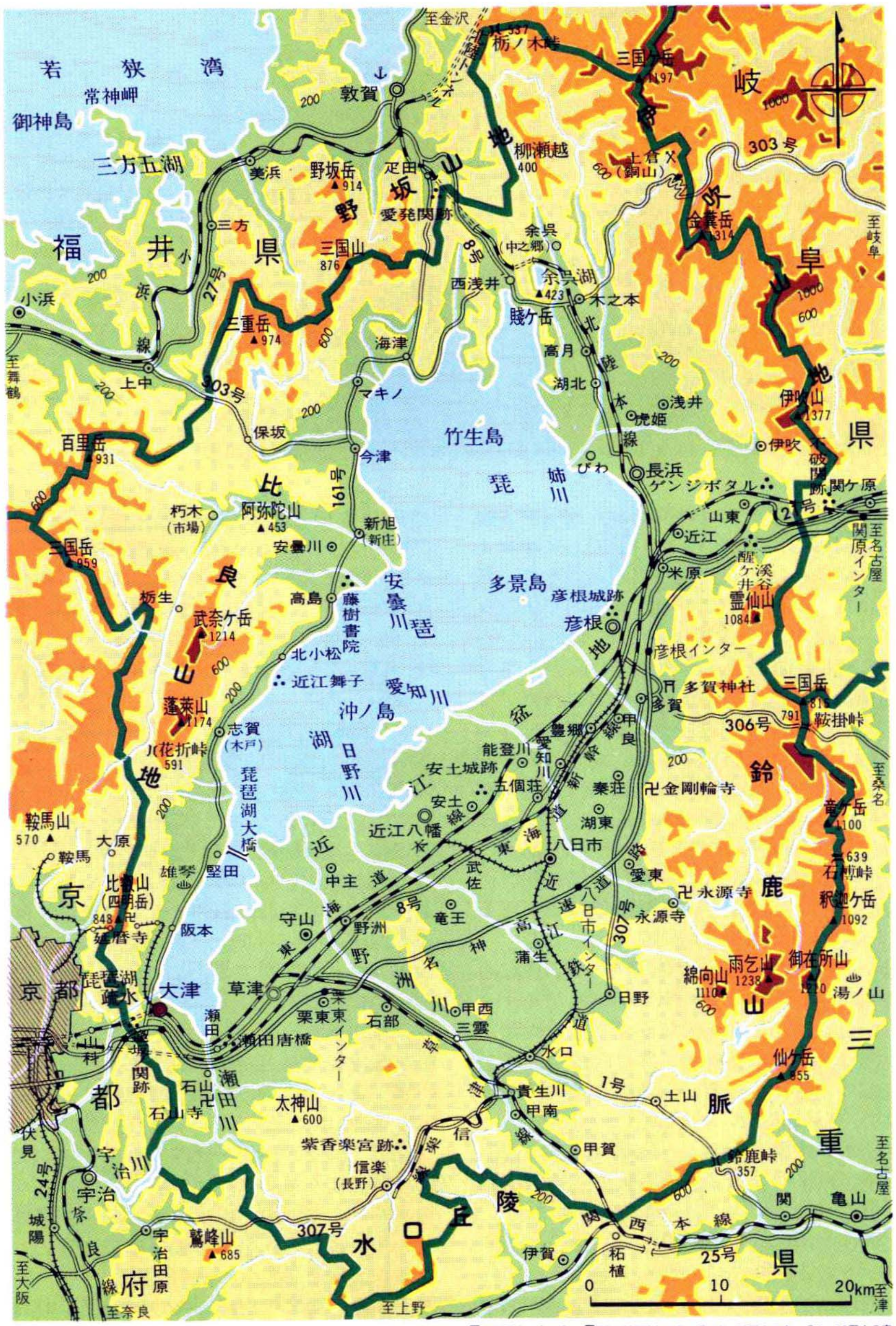
しか【志賀(町)】 福岡県粕屋(かすや)郡に属した旧町名。博多(はかた)湾口を扼(やく)する砂丘半島〈海ノ中道〉の西部と，それに続く陸繋(りくけい)島の志賀島*(しかのしま)からなっていた。まだ志賀島村とよんでいた1955年(昭和30)の人口13,000に比べると激減している。1971年(昭和46)福岡市編入。漁業を主とし，ビワ・ミカン・イチゴ・野菜などの促成栽培も盛んである。古く弘安(こうあん)の役*には対馬(つしま)・壱岐(いき)に続いて志賀島に元の大軍が上陸し，激戦が行なわれた。そのときの遺跡に蒙古(もうこ)首切塚(くびきりづか)などがある。志賀島を中心に史跡に富む景勝地として，観光客が多い。西戸崎まで鹿児島本線から分かれる香椎(かしい)線が通じている。

しか【子夏】(BC507～BC400？) 中国，古代の儒学者。姓は卜(ぼく)，名は商。子夏は字(あざな)。〈孔門の十哲*〉のひとりで，子游*(しゆう)とともに〈文学〉の科のもとに並んでいる。ふたりとも，孔子の教えのうち客観的な礼*に重点を置き，荀子*(じゅんし)や法家*を生んだ思想傾向の人で，この点，孔子の仁*の教えを心情的道徳に展開した曾子*(そうし)・子思*・孟子*(もうし)と対照的な弟子(でし)であった。そのうち，子夏は礼の形式に対して厳密であったが，子游は礼の時代的変化を認めて，その中の礼の精神を重んじた。ためにその学派の中には礼の形式を否定する大同思想*が生まれたといわれる。

〔西　順蔵〕

しが【歯牙】 ⇨歯

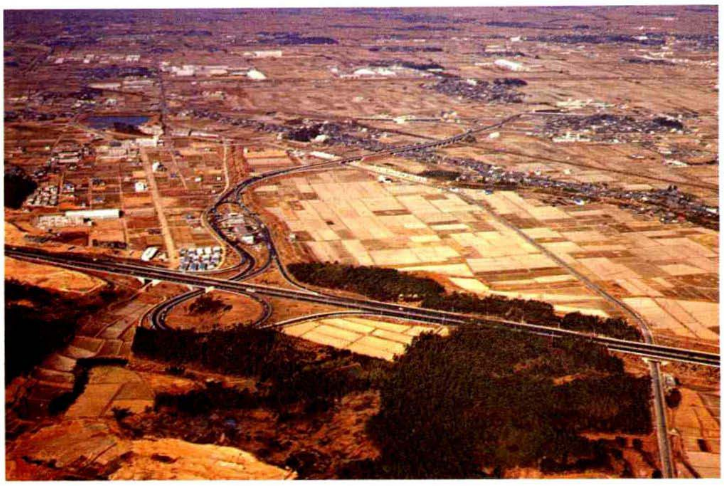
しが【滋賀(県)】 近畿(きんき)地方北東部にある内陸の県で，西は京都府，東から南へかけては岐阜・三重の両県，北は福井県と境を接する。近江(おうみ)の全域を占め，面積4,016km²，人口106万9,000，人口密度は1km²あたり269人。県木はモミジ，県鳥はカイツブリ。県庁のある大津ほか7市と12郡(42町1村)に分かれる。



滋賀県

100万人以上の市　30～100万人の市　10～30万人の市　5～10万人の市　5万人未満の市　町名　村名　字名　地方庁所在地

〔自然〕 本州のほぼ中央部のわが国で最も南北に狭い地峡部にあたり，県域にはわが国第一の湖の琵琶湖(びわこ)(面積694.5 km²)を中心とし，第三紀末の地盤の褶曲(しゅうきょく)と断層運動によって生じた近江盆地が開け，盆地周辺には東に伊吹(いぶき)山地と鈴鹿(すずか)山脈が，西に比良(ひら)山地と比叡(ひえい)の地塁山地がほぼ南北に走る。県下の最高峰は岐阜県境の伊吹山(1,377 m)で，鈴鹿山脈北端の霊仙(りょうぜん)山(1,084 m)との間に古代以来の交通の要衝として知られる関ケ原(岐阜県)の狭隘部(きょうあいぶ)がある。その南方，三重県境にある御在所山(1,210 m)の周辺一帯は自然林や動植物などの自然環境に恵まれ，1968年(昭和43)鈴鹿国定公園の区域に指定された。伊吹・鈴鹿の両連峰から発する河川には姉川・愛知(えち)川・日野川・野洲(やす)川などがあり，琵琶湖東岸に広い沖積(ちゅうせき)平野をつくる。これら河川の上流部は風化しやすいカコウ岩質の山地で，土砂が下流部に堆積(たいせき)されて天井川となるものが多い。西の比良・比叡の連峰は湖岸に迫り，安曇(あど)川のほかにみるべき川はなく，平地も少ない。湖南の低



滋賀県 名神高速道路栗東インターチェンジ付近。この付近は国道1号線と8号線(京都～新潟)の分岐点にもなっており，工場進出が著しい

地を流れる瀬田川は琵琶湖から流出する唯一の河川で，宇治川・淀(よど)川と名を変えて大阪湾に注ぐ。琵琶湖周辺は山水の自然美に富み，湖西の比良山，湖南の宇治川ライン，湖北の余呉湖(よごのうみ)や賤ケ岳(しずがたけ)，湖東の伊吹山や醒ケ井(さめがい)を含む地域は，琵琶湖国定公園に指定されている。古くは近江八景，最近では琵琶湖八景などと数えられる景勝地に富む。北岸近くの湖上には竹生(ちくぶ)島があり，湖南には延暦(えんりゃく)寺・日吉(ひえ)神社・園城(おんじょう)寺(三井寺)・石山寺などの古社寺が多く，湖東には安土城跡・彦根(ひこね)城跡の特別史跡がある。気候は内陸型で，気温の年較差が大きく，彦根市では年平均気温13.8℃で，1月は2.9℃，8月は26.2℃を記録する。周辺山地部は平野部と比べて年平均気温が2～3℃低い。湖北と湖南の気候は著しく異なり，北部は裏日本型気候で，冬は北西季節風が卓越して積雪量が多く，南部は瀬戸内型気候で，雨量は比較的少ない。

【産業】産業三大別人口比は10：43：47。主産業は米作農業と繊維工業であるが，最近は湖南地方を中心に重化学工業が発達し，京阪神(けいはんしん)工業地帯へ琵琶湖の水を供給する総合開発計画も進んでいる。県民分配所得は1人あたり129万6,000円(1977)で，全国第11位を占める。《農林水産業》耕地面積は53,900ヘクタール，水田率は89％で，米の平年収量は25万3,900t(1972)に達し，近畿地方唯一の移出県である。近江盆地は古くから良質の江州米の産地として知られ，湖北や山間の一部を除くほとんどの水田で二毛作が行なわれる。裏作には麦類・グリンピースなどがつくられる。湖南の丘陵部では果樹や花，南東端の甲賀郡では茶の栽培が行なわれ，湖北の姉川流域は養蚕地帯である。湖東や湖南の平野部では有名な肉牛近江牛が飼育され，最近は近郊農業や酪農が盛んである。水産業はおもに琵琶湖で行なわれ，アユ・フナ・モロコ・ハス・シジミなどを漁獲し，最近は淡水真珠の養殖が行なわれている。アユの稚魚は全国の河川に移出し放流される。水産漁獲量は7,641t(1969)で，全国の内水面漁獲量の6％を占める。《鉱工業》地下資源では伊吹山から霊仙山にかけて石灰岩の産出があり，甲賀郡ではカコウ岩の分解した陶土を産する。工業では，古い伝統をもつ麻・絹などの紡績工業から発達した繊維工業や，セメント・化学・機械・窯業・土石製品などの諸工業が中心で，工業製品の年間出荷額は3,822億円(1969)に達する。繊維工業は大津市・彦根市・長浜市などの周辺に分布する化学繊維・各種紡績工業が主体である。伝統的な家内工業としては，近江八幡(おうみはちまん)市や愛知川町の近江麻布・近江かや，長浜市の縮緬(ちりめん)・ビロード，新旭(しんあさひ)町の縮み織りなどがある。このほか，特産物としては彦根市の仏壇，信楽(しがらき)町の陶器，草津市の竹根ステッキ，日野町・甲賀町の配置売薬などが知られ，三重県境に近い君ケ畑(神崎郡永源寺町)は椀(わん)・盆などの木地の産地として古くから有名。

【交通・都市】東国・北国と京都を結ぶ交通の要地にあたるために，陸上交通は古くから開け，東海道・東山道・北陸道が通じていた。また，琵琶湖の水運は貨物輸送上重要な役割を果たし，湖南に堅田(かたた)・坂本・大津，湖北に海津・塩津・朝妻の要港があった。江戸時代に諸街道が整備されると，東海道は京都から大津を経て鈴鹿峠を越えて伊勢(いせ)へ通じ，中山道(なかせんどう)は草津で東海道と分かれ，琵琶湖の東岸に沿って関ケ原から美濃(みの)へはいった。このほか，中山道の鳥居本宿から北へ分かれ，長浜・柳ケ瀬(やながせ)・栃ノ木(とちのき)峠を経て越前(えちぜん)へはいる北国街道や，大津から琵琶湖西岸の坂本・今津・海津を経て敦賀(つるが)に出る西近江路があった。いまは，これらの旧街道に沿って，東海道本線・北陸本線・草津線・信楽線や湖西線が通じ，近江鉄道の電車・バスは湖東と県南東部を結んでいる。また，東海道本線山科(やましな)駅から湖西を北上して北陸本線近江塩津駅に至る74.1キロの新線湖西線が1974年完成した。自動車交通は，東海道沿いに国道1号線，中山道・北国街道沿いに8号線・21号線，西近江路沿いに161号線が通ずる。また，名神高速道路が8号線の東方を走って，大津・栗東(りっとう)・八日市・彦根の4か所にインターチェンジが置かれており，琵琶湖東岸から新潟県へ通ずる北陸縦貫自動車道路や八日市と四日市(三重県)を結ぶ江勢道路の建設工事も進められている。最近は有料道路の建設も盛んで，大津市堅田と守山(もりやま)市との間には琵琶湖大橋，京都府との境には奥比叡ドライブウエー・比叡山道路があり，湖北の伊香郡には奥琵琶湖パークウエーが1971年開通，観光面で新しい局面を開いた。琵琶湖の水運はかつての重要性を失ったが，大津を中心とする定期航路がある。都市には，東海道本線に沿って大津市・草津市・近江八幡市・彦根市，北陸本線に沿って長浜市，近江鉄道に沿って八日市市がある。長浜・彦根・近江八幡は城下町，大津は琵琶湖の湖港兼宿場町，草津は東海道・中山道の分岐点にあたる宿場町として発達し，そのほか，織田信長(のぶなが)の居城として名高い安土や東海道の宿駅水口(みなくち)，中山道の宿駅愛知川，琵琶湖北西岸の湖港今津なども古くから発達した集落である。近江八幡・八日市・草津は，1953年町村合併促進法施行以来の新市。

【歴史】古くは近淡海(ちかつあふみ)(都に近い湖の国の意)とよばれ，琵琶湖は〈あふみのみ〉とよばれた。山城・大和(やまと)などの先進地域に接して早くから開け，先史時代の遺物・遺跡に富む。飛鳥(あすか)時代には天智(てんち)天皇の大津京が置かれ，近江令(りょう)が発令されたが，壬申(じんしん)の乱によって，都は大和に移った。奈良時代には聖武(しょうむ)天皇の離宮が紫香楽(しがらき)に造営され，奈良中期から平安時代にかけては荘園(しょうえん)が発達し，延暦寺・日吉神社・園城寺などが有力な領主となった。鎌倉・室町の両時代には各地に仏教文化が広まり，中世石造美術の宝庫といわれるほど石造物の遺跡が多い。鎌倉時代から戦国時代にかけては，守護の佐々木氏やその支流六角氏・京極氏などの豪族が台頭して戦乱がうち続き，永正年間(1504～1520)には浅井氏が主の京極氏を倒して小谷城によった。次いで，織田信長は六角氏・浅井氏を滅ぼして安土に城下町を経営し，楽市・楽座の制度を実施した。江戸時代にはいって，井伊氏が北の彦根藩三十六万石，本多氏が南の膳所(ぜぜ)藩六万石を統治したほか，多くの大名領・旗本(はたもと)領・公卿(くげ)領・幕府直轄領などに分かれた。一方，近江八幡や愛知川を中心とする商業活動が活発で，鎌倉時代以来の行商の伝統をもつ近江商人*は京都・大阪・名古屋はもとより，江戸・東北・蝦夷地(えぞち)までも進出して，その名を全国に知られた。郷土芸術として有名な大津絵*が全盛をきわめたのは寛永から元禄(げんろく)に至るこ

ろである。1871年(明治4)の廃藩置県によって大津県・長浜県が置かれ，翌1872年に大津県は滋賀県，長浜県は犬上県と改称したが同じ年に犬上県が滋賀県に合併され，その後県域の数次の変更を経て1881年に現在の県域が確定した。〔浅井得一〕

シーガー［Pete Seeger］(1919～) アメリカのフォークソング歌手・作詞家・作曲家。ニューヨークの生まれ。ハーバード大学を中退して民謡の採集と研究のため放浪。ガスリー*の死後はフォークソング界の第一人者として活躍し，平和運動も推し進めている。なお，父のチャールズ(1886～)はアメリカの大学に音楽学を導入し，のちに民族音楽研究のためのメログラフ(メロディーをグラフとして書き留める機能)を発明した。

じか【磁荷】 磁極*の強さ。磁気量ともいう。静電気の源泉として電気量すなわち電荷*を考えたのに対応して，静磁気の源泉として考えられるもので，電荷の場合と同じく，クーロンの法則*に従う力が働く。この法則によれば，磁荷 m の同じ(相異なる)磁極を真空中で互いに r m離しておくと，

$$F=\frac{\mu_0 m^2}{4\pi r^2}\ (\text{ニュートン})$$

の力が反発力(吸引力)として働く。μ_0は真空の透磁率*で$\mu_0=4\pi\times10^{-7}$(ヘンリー/m)だから，磁荷 m をはかる単位は(ニュートン/ヘンリー・m)＝(アンペア回数・m)である。磁極のうちN極の強さを正，S極の強さを負と決める。

磁気量をもつ物質はどのように分割しても必ず2個の磁極をもつから，磁荷が単独に現われることはない。しかし，磁気的な現象の説明のためには，磁荷が単独に存在すると考えると便利なことが多いので，仮想的によく利用されている。〔堀内和夫〕

じか【磁化】 物質が磁気をおびた状態になること。帯磁ともいう。多くの物質は，もともと磁気をおびていないものでも，磁界内に置くと，その磁界に沿った両端に正負の磁極を発生する。これは，その物質が外から加えられた磁気的な作用により，磁気的に分極して内部に磁気双極子*を生ずるためと考えられる。磁化の強さは，内部に分布する磁気双極子のもつ磁気モーメント*を単位体積あたりにはかったもので表わされ，磁化された物質の磁性*・形・寸法によって異なる。➔磁性 ➔磁性体 〔堀内和夫〕

じが【自我】 一般心理学で，直接的な意識体験の中の自己意識を意味し，自己に関する統一制・不変性・連続性(同一性)として意識され，しかもパーソナリティーの中核をなすものをいう。この意味で自我は，主体たる自我(我)の意識と，主体たる人の意識体験に現われる客体としての自我(自己)の意識に区別される。一方，精神分析学においては，フロイトが導入した精神構造論において自我ということばを用いているが，これは，イド*・超自我*と並んで精神を構成し，生物学的基礎の上に発達的に成長するパーソナリティーの中核をなすもの，外界に適応できるように，人間の本能的欲求と現実世界との仲介の機能をもつもの，社会的・歴史的生活経験の中で人格的な自我同一性を保つもの，と考えられている。〔北田穣之介〕



死　海 イスラエル側から見た死海。一木一草もない荒れた山はだを静寂な湖面に落としている。強い塩分のため，湖には生物は見られない

じが【爾雅】 中国，古代の字書。3巻，19編。漢語についての最初の語彙(ごい)集で，いわば訓詁(くんこ)のための字書の起こりである。孔子の門人の作ともいわれるが，実は古代語に関して伝承された解説を前漢の学者らが集録したものであろう。前3編は〈釈詁〉〈釈言〉〈釈訓〉と題し，古代語の動詞・形容詞・虚詞などを集めてあり，後16編は〈釈親〉〈釈官〉〈釈器〉〈釈楽〉〈釈天〉〈釈地〉〈釈丘〉〈釈山〉〈釈水〉〈釈草〉などに分かれ，内容別に古代語の名詞を集めてある。〈卬(こう)・吾・台・予・朕(ちん)・身・甫(ふ)・余・言とは我なり〉のように，多くの古代語を並べて，最後に常用のことばで説明する。その材料は経書にとどまらず，《列子》《荘子(そうじ)》《管子》などにも及ぶ。これは語彙分類の基本型を示したもので，その流れは後世の〈訓詁名物の学〉となって発展し，《広雅》(魏(ぎ)の張揖(ちょうゆう)編)や《埤雅(ひが)》(宋(そう)の陸佃(りくでん)編)となった。爾は邇(ちか)いこと，《爾雅》という書名は〈古代の雅言に近づく〉の意であろう。〔藤堂明保〕

しかい【司会】 各種の合会・集まりを，表面に出て進行させること。これを行なう人が司会者。司会者を必要とする会合・集まりには，講演会・討論会・会議・座談会・音楽会・演芸会・宴会，各種の式などがある。討論会や会議では議長・座長ともよばれる。今日では結婚披露宴(ひろうえん)や芸能ショーの司会を業とする司会業が存在し，テレビ番組の司会を専門とするテレビ司会者という肩書きも生まれている。

司会者の仕事は会合の種類や規模によってかなり異なる。なんらかの方針を決定する会議では，招集権をもつ最高責任者やその問題について最も知識をもった者が司会役を勤めることがある。一方，芸能ショーの司会者のように，事前に進行プランができており，出演者の紹介だけを行なえばいいものもある。後者では進行・促進係としてのウエートは小さく，むしろ，インタビューアーとして，あるいは会の進行に間を置くための係りとしてのほうに存在理由がある。いずれの場合も司会者はその会の成功・不成功を左右する重要な役割を果たすのであるから，まず経験の有無が問題になる。会の性格や目的を理解し，これにふさわしい行動をとれることが第1条件である。性格が円満で広い知識をもっていることは有利な条件であるが，〈司会者は目だちすぎてはいけない〉ということにこだわりすぎて消極的になるのは好ましくない。議論が紛糾し，収拾がつかなくなったとき，少数の発言者が話を独占しがちなとき，出席者が一様に無口なとき，会場のふんい気が停滞しているときなどには，むしろ積極的に発言し，ときには発言をさえぎったり，司会者の個人的な意見を示したりすることも必要である。しかし通常は，出席者が発言しやすい機会をつくったり，また，出演者が芸を演じやすいようなふんい気をつくることがおもな仕事である。よい司会を行なうためには，事前に会の性格・目的，出席者の氏名・立場，会場のようすなどを知っておくことが必要である。〔芳賀　綏〕

しかい【死海】 Dead Sea。アジアの西部，イスラエルとヨルダンの国境にある塩湖。アフリカから北上したヨルダン地溝帯(ちこうたい)の一部にあたる。面積980km²。湖面は海面下392mで，世界じゅうで最も低い。湖底は海面下790m。塩分は食塩と塩化マグネシウムがおもで，海水の6倍以上の濃度にあたる。このため人間は湖中に沈むことがなく鶏卵もその一部が水面に浮かぶという。ヨルダン川が北端へ注入しているが，ほかに多数ある河川はワジ*で，注入する水量が少ない。ヨルダン川河口付近にわずかに生物が認められるだけで，生物がいないことから死海とよばれている。〔長津一郎〕

じかい【磁界】 ⇨磁場

しかいし【歯科医師】 口腔(こうこう)疾患の予防ならびに治療などの，歯科医療に携わることのできる人。治療内容としては，むし歯の治療，抜歯，欠損部の充塡(じゅうてん)，補綴(ほてい)，義歯の作製，歯並びの矯正(きょうせい)，歯肉軟組織疾患の処置，顎口腔外科手術などであるが，そのほか，これら疾患の予防処置・保健指導も行なう。歯科医師となるためには，歯科医師国家試験に合格し，厚生大臣から免許を受け，歯科医籍に登録され，歯科医師免許証の交付を受けなければならない。国家試験の受験資格としては，文部大臣の定めた歯科大学または大学の歯学部を卒業する必要があるが，このほか外国の歯科大学卒業者，または外国の歯科医

師免許証をもっている者で，歯科医師国家試験予備試験に合格し，所定の資格を得た者も認められる。〔成田令博〕

しがいせん【市街戦】都市の市街地における戦闘。市街地には堅固な建物や施設が多いので，防者は頑強(がんきょう)な抵抗を行ない，しかも彼我ともに偵察(ていさつ)や部隊移動が困難であるから，激烈かつ悲惨な戦闘が各所で行なわれるのが通常である。また，住民の避難救護など困難な問題がある。したがって近代戦では彼我ともに都市の戦場化を極力避ける傾向がある。しかし，某都市の占拠が軍事的・政治的・経済的に価値ある場合は，その都市の争奪をめぐって大規模な市街戦が発生する。〔森田　哲〕

しがいせん【紫外線】電磁波*の一種。波長がだいたい3,970Å(オングストローム)以下の放射線をいう。紫外線は，近紫外線(3,970～2,900Å)，水晶を透過する(水晶範囲の)紫外線(2,900～1,900Å)，シューマン線(1,900～1,200Å)，ライマン線(1,200～600Å)，ミリカン線(600Å以下)と細別され，また，1,900Å以下を遠紫外線と総称する場合もある。一般に，よく利用される紫外線の波長範囲は1,850～3,800Åで，波長の短いほうから順にオゾン生成・殺菌・紅斑(こうはん)・光化学作用などがあり，全波長域にわたり螢光(けいこう)作用がある。それぞれに有効な波長帯域の紫外線を効率よく出す人工光源として，石英ガラス製の高圧または低圧水銀ランプが開発されている。また炭素アーク燈，水素・ヘリウムなどの放電管もよい光源である。自然では太陽光が光源であるが，およそ3,000Å以下のものは大気中のオゾンに吸収されて地上に到達しない。多くの物質は紫外線に対して不透明であるが，ガラスの特殊なものは3,000Åぐらいまで，水晶は1,900Åぐらい，ホタル石・フッ化リチウムの純粋なものは1,200Åくらいまでよく通す。水や空気もよく通すが，酸素が1,900Å以下をよく吸収するのでそれ以下は望めない。気体では，ヘリウム・ネオン・アルゴンは全領域にわたりよく通すが，遠紫外のところにそれぞれ吸収線をもつのが特徴である。紫外線の研究には水晶分光器・回折格子*(こうし)分光器・真空分光器が用いられ，紫外線の検出には螢光体・写真乾板・光電管・光電池などが用いられる。青写真の焼き付け，宝石・古文書の鑑定，殺菌消毒，くる病・リウマチの治療などに利用される。〔中山忠巳〕

しがいせんけんびきょう【紫外線顕微鏡】紫外線*で顕微鏡写真を撮影するとき，および生物体の紫外線吸収を見るときなどに使用する紫外線用の顕微鏡。初期には紫外線を透過するホタル石やセキエイを対物レンズに使ったが，色収差*の補正が困難なので最近は反射形の対物鏡が多く用いられる。分解能*も高い。任意の波長の紫外線で顕微鏡写真がとれるもの，三つの異なる波長の紫外線でとった像を可視光の3色に変えてカラーテレビのブラウン管で見えるようにしたものがある。〔中山忠巳〕

しがいせんしゃしん【紫外線写真】紫外線*を写真感光材料によって撮影する方法。紫外線を含んだ光源や，その光源によって照射された物体からの放射線を紫外線用写真機で撮影する方法，紫外線により螢光*(けいこう)またはリン光*を発する物体自身あるいはその物体を使って間接に紫外線を撮影する方法，紫外分光写真機によって撮影する方法などがある。主として学術用に使用されるが，紫外線顕微鏡*にも応用される。〔中山忠巳〕

しがいせんとうかガラス【紫外線透過ガラス】特に紫外線が透過しやすいようにつくられたガラス*。普通のガラスは，原料から混入してくる微量の酸化鉄などのために，紫外線の透過が悪い。この透過をよくするためには，原料の品位，化学組成，製造工程に種々の注意が必要で，特に不可避的に混入する鉄イオンを還元して2価にする必要がある。さらに短波長の紫外線を通すためにはセキエイガラス*が用いられる。日光浴のための窓ガラス，太陽燈や水銀放電管の管球などに使われる。〔境野照雄〕

しがいせんりょうほう【紫外線療法】紫外線を治療に利用する光線療法の一種。紫外線には，殺菌作用・皮膚紅斑(こうはん)作用・ビタミンD生成作用などがあるが，波長によって作用が異なり，ビタミンD生成などの生物学的作用は280～310mμ付近で最も強い。生体内では0.5mmくらいの深さにしか達しないのでもっぱら皮膚に作用するが，全身にも影響を与え，カルシウム代謝，造血機能の改善，病気に対する抵抗力を増大させる。化学療法の進歩とともに，今日では療法の対象は皮膚科領域に限定されつつある。〔増田武弘〕

しかいのしょ【死海の書】《死海文書》ともいう。1947年死海に面する洞穴(どうけつ)でベドウィンの少年によって発見され，またこれを発端として周辺の多くの洞穴で次次に発見されている《旧約聖書》・ヘブライ語写本などの総称。クムラン洞穴からは《イザヤ書》《ハバクク書注解》《外典創世紀》《教団規律書》《光の子と闇の子の戦い》など，また《旧約聖書》の正典・外典・偽典のおびただしい断片，銅板巻物などが出た。紀元前1世紀ごろ，エルサレムの正統的ユダヤ教から離れて厳格に律法を守っていたエッセネ派に属するクムラン教団の文書であるとされ，その修道院廃墟(はいきょ)も発見された。《旧約聖書》研究などの貴重な資料である。〔松田　治〕

しかえいせいし【歯科衛生士】歯科医師の直接指導のもとで，歯および口腔(こうこう)疾患の予防処置を行なったり，治療の助手や口腔衛生教育などの仕事に携わる者。歯石の除去やむし歯予防のためのフッ素塗布などがおもな仕事で，一般に女性の職業とされる。文部大臣または厚生大臣が指定した歯科衛生士学校または歯科衛生士養成所を卒業し，国家試験に合格したのち歯科衛生士籍に登録し，都道府県知事の免許を受けなければならない。〔成田令博〕

しかおい【鹿追(町)】北海道，十勝(とかち)支庁中西部にあり，然別(しかりべつ)川の上流に位置する町。人口6,800。畑作が主で，石狩山地南麓(なんろく)の200～400mの台地にジャガイモ・テンサイ・豆類・エンバクなどを産するが，近年は酪農に主力を注いでいる。北部の山岳地帯は大雪山国立公園に含まれ，然別湖をはじめ扇ケ原・然別峡温泉など観光地にも含まれて訪れる観光客が多い。

しかかりひん【仕掛品】原価計算*期末において，製造途中にある未完成品。仕掛品の原価は，個別原価計算の場合には，特定製造指図書(さしずしょ)に割り当てられた原価を集計することにより容易に計算できるが，総合原価計算の場合には，一期間の製造のために費消した原価が期末仕掛品と製品に配分され，そこでは仕掛品と原価の確定を通して製品の原価が計算されることになるため，仕掛品をどのように評価するかが基本的に重要な問題になる。

しかぎこうし【歯科技工士】歯科医師の指示によって歯科技工の業務を行なう者。歯科技工とは入れ歯・金冠・継ぎ歯・矯正器(きょうせいき)などの歯科治療材料をつくることである。1955年(昭和30)に公布された歯科技工士法により，厚生大臣の指定した歯科技士養成所を卒業したのち，歯科技工士試験に合格した者にその資格が与えられる。

じかきょくせん【磁化曲線】⇨磁気ヒステリシス

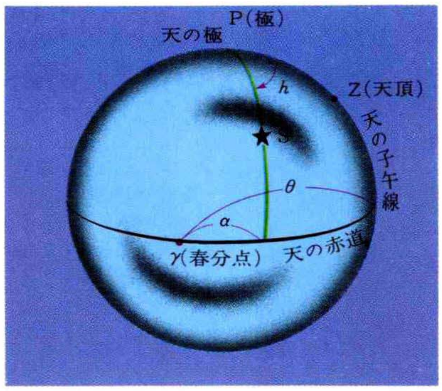
しがきよし【志賀潔】(1870～1957)細菌学者，赤痢菌の発見者。仙台(せんだい)に生まれる。本姓佐藤氏。1886年(明治19)東京に遊学し，翌1887年大学予備門(のちの第一高等学校)にはいる。のち帝国大学医科大学へ進んで医学を修め，1896年に卒業。ただちに伝染病研究所にはいり，細菌学を専攻。1897年赤痢患者の糞便(ふんべん)中から一種の桿菌(かんきん)を発見し，これを赤痢病原菌と断定した。1901年ドイツに留学，ハンブルクで開かれた万国自然科学会議の細菌学分科会議に出席し，赤痢菌発見に関する自説の承認を得た。その後，フランクフルト-アム-マインの実験治療学研究所にはいり，エールリヒに師事して，生物化学・免疫学・化学療法などを研究。1905年帰国し，医学博士の学位を受ける。1911年再び渡欧して，エールリヒのもとで癌(がん)・結核の化学療法を研究。1914年(大正3)伝染病研究所移管に際し北里柴三郎*(しばさぶろう)所長とともに伝染病研究所を辞任，1915年北里研究所第四部長となる。1920年慶応義塾(ぎじゅく)大学医学部教授となったが，同年10月朝

鮮総督府医院長に任ぜられ，京城医学専門学校長を兼任。1926年(昭和1)京城大学教授となり，医学部長・総長を歴任した。1944年文化勲章を授与された。1948年学士院会員。仙台市名誉市民。〔大島蘭三郎〕

しかく　**【視覚】**　光の刺激を受けて外界の状況を知る外感覚の一つで，その器官を視覚器または光受容器官という。ほとんどすべての動物に認められる。たとえば，ミドリムシは原始的な視覚器である眼点*をもち，クラゲはかさの縁に，ヒトデは腕の先にそれぞれ視覚器がある。こん虫類や甲殻(こうかく)類は複眼*と単眼*をもち，脊椎(せきつい)動物ではさらに複雑かつ高度な視覚器をもっている。なお，光覚も同義に使われるが，一般に広義の視覚をいい，皮膚光覚など未分化の光受容様式も含まれている。ヒトの視覚器は，単に視覚ともよばれ，眼球とその付属器官である眼筋・まぶた・涙器とから構成されている。一般に目というときには，眼球だけでなく視覚器をさす場合が多い。ヒトやサルは両眼の視線を同一点に向けるが，ウサギやニワトリは左右の視覚器がそれぞれ別の視野をもつ。前者を両眼視，後者を単眼視という。ヒトの両眼視による視覚の判断は空間の位置，視覚器からの距離・大きさ・形・奥行き(深さ)などについて行なわれるが，他の感覚から得た過去の経験に助けられ，触覚などによる印象と視覚による印象の結びつきが密になるほど，判断が正確になる。しかし，視覚の判断にも誤りやすいものが少なくない。これを錯覚視(錯視)という。〔平野修助〕

しがく　**【詩学】**　文芸批評の一部門で，詩の性質・法則・方法を取り扱う。最も名高い古典はアリストテレス*の《詩学*》で，古代から近世まで詩学の有力な規範とされてきた。アリストテレスの主要な関心は，詩の種類・性質・形式に注がれ，特に叙事詩と悲劇の分析が詳しく，また詩の中に悲劇・喜劇を含めているので，広く文学論ともいえるものである。ローマのホラチウス*，フランスのボワロー*に《詩法》とよばれる作品があり，文学者の心得として読まれたが，これらも詩学の部類にはいる。近世までは，詩学と修辞学*とが文学論のすべてであった。今日，詩についての論議は〈詩論〉とよばれる。〔星野恒彦〕

しがく　**【詩学】**　ギリシアの哲学者アリストテレス*の代表的著書。原題は《創作(詩作)について》という。BC 330年ころに書かれた。主としてホメロス*の叙事詩や悲劇について論じている。まず，芸術を主題・表現手段・表現様式によって分ける。悲劇と喜劇の本質的な相違を述べ，次に叙事詩を成立させるもの，悲劇に不可欠の条件を定義し，その優劣を決定する根拠などを，主として作劇的技術の見地から分析する。ここで述べられた文学論は近代・現代の文学論に深い影響を与えている。〔久保正彰〕



時　角

じかく　**【耳殻】**　⇨外耳

じかく　**【時角】**　天球上の天体Sと天の極Pを通る大円が，天の極と天頂を通る大円(子午線)とのなす角度。図のhに相当する。時角は子午線から西向きに360°まで通算するが，一般には15°を1時間の割合で換算して，0時から24時まで時間の単位で表わされる。たとえば，時角が69° 7′ 30″は4時36分30秒である。地方恒星時*θと，天体Sの赤経αと，時角hの間には$h=\theta-\alpha$なる関係がある。したがって，赤経αの天体が南中すると，その天体の時角は0となり，$\theta=\alpha$となる。すなわち，このとき，その地点の地方恒星時は，その天体の赤経に等しい。〔木下　宙〕

じかく　**【痔核】**　俗にいぼ痔ともいい，直腸下端から肛門(こうもん)部にかけて存在する。静脈叢(そう)に鬱血(うっけつ)が起こり，それが拡張して静脈瘤(じょうみゃくりゅう)を形成した状態。粘膜におおわれて内肛門括約筋よりも上部にあるものを内痔核，肛門部皮膚におおわれて外肛門括約筋の下部に存在しているものを外痔核という。痔核は発生に長期間を有するため青年期以後に多くみられ，明らかに男性に多い。しかし女性でも妊娠時には骨盤壁の血行障害が起こるために高度の痔核が発生しやすい。日本人の排便姿勢，長時間の座仕事や楽器の吹奏，また便秘・喘息(ぜんそく)・百日ぜき・妊娠などが原因とされ，アルコール飲料の習慣性摂取，下痢やひんぱんな浣腸(かんちょう)なども誘因といわれる。内痔核の主症状は排便時の出血であるが，ときに肛門外に脱出(脱肛)して還納の困難なことがある。外痔核では出血をみることは少ないが，感染が起こると血栓(けっせん)性静脈炎が起こって浮腫(ふしゅ)・発赤や高度の疼痛(とうつう)を伴う。これを痔核発作という。

痔核はきわめて多い疾患であるが，保存的治療で軽快すれば手術の必要はない。出血・痔核脱出・痔核発作などがあるか鬱血をきたしやすい職業に従事する者は手術を行なう。〔三島好雄〕

しかくけい　**【四角形】**　一平面上の4点がどの3点をとっても同じ直線上にないとき，これら4点を順に4本の線分で結び，どの2線分も交わらないようにしてできる図形。四辺形ともいう。四角形をつくるもとになった4点を頂点，4線分を辺といい，辺上の任意の2点を結ぶ線分がつねに四角形の内部または辺上にあるものを凸(とつ)四角形，そうでないものを凹(おう)四角形という。また，4点を順に結んだ線分のうちに交わるものがあるものをねじれ四角形，4点が同一平面上にないものを空間四角形という。

【台形・平行四辺形】　1組みの対辺が平行な四角形を台形または梯形(ていけい)といい，特に，平行な辺の両端の角がそれぞれ等しくなっている台形を等脚台形という。また，2組みの対辺がそれぞれ平行な四角形を平行四辺形という。平行四辺形には，定義も含めて次の性質がある。

①2組みの対辺がそれぞれ平行である。
②2組みの対辺の長さがそれぞれ等しい。
③2組みの対角の大きさがそれぞれ等しい。
④2本の対角線は互いに他を2等分する。
⑤対角線の交点に関して点対称である。

これらはいずれも四角形が平行四辺形となるための十分条件にもなっており，以下に述べる平行四辺形の特殊な図形にそのまま受け継がれる。

【長方形】　すべての角が直角の四角形を，長方形または矩形(くけい)という。長方形は，となり合った2角の等しい平行四辺形ともみられる。長方形には平行四辺形の性質のほかに，次の性質がある。

①4個の角はすべて等しい。
②2本の対角線の長さは等しい。
③対角線の交点を通り辺に垂直な2本の直線のおのおのに関して線対称である。

【ひし形】　すべての辺の長さが等しい四角形を，ひし形という。ひし形は，となり合った2辺の長さが等しい平行四辺形ともみられる。ひし形には平行四辺形の性質のほかに，次の性質がある。

①4辺の長さはすべて等しい。
②2本の対角線は互いに垂直である。
③2本の対角線のおのおのに関して線対称である。

【正方形】　すべての辺の長さが等しく，すべての角が直角になっている四角形を正方形という。正方形は頂点が4個の正多角形*であり，となり合った2辺の長さの等しい長方形とも，また，となり合った2角の大きさの等しいひし形ともみられる。したがって，正方形は上にあげた平行四辺形・長方形・ひし形の性質をすべてもっている。

一般には，四角形は円に内接または外接するとはかぎらないが，円に内接するときは対角が互いに補角をなし，円に外接するときは2組みの対辺の長さの和は等しい。いわば，長方形には外接円，ひし形には内接円が必ず存在し，正方形には外接円・内接円がともに存在する。〔菊池兵一〕



シカゴ　ミシガン湖に面する市の中心地区で，高層建築が林立する。右手の緑地はグランド公園，さらにその右方にヨットハーバーが見える



志賀高原　新雪の志賀高原。立ち木のふぜいを生かした樹氷が夕日にはえて美しい。正面は雪化粧をした笠ヶ岳(2,076m)

しかくげんご　【視覚言語】　いわゆる言語(音声言語・文字言語)に対し，点・線・面・色彩・空間などの視覚的表現をコミュニケーションの手段とする言語。ケペシュ*は《視覚言語》において，視覚的コミュニケーションの本質を20世紀的視覚認識に基づいて理論づけたが，人間とその知識を統一すること，人間を統一された存在に再形成することの両方において視覚言語は欠かせない方法の一つであるとしている。視覚言語は，他の伝達の媒介物よりも効果的に知識を伝播(でんぱ)しうるし，そのダイナミックな形象の感覚的な活力によって，静的なことばの概念形成力は強められる。なお，視覚的伝達は普遍的で国際的な力をもつものであり，その意味でも今後の新しい研究に大きな期待がもたれる。　〔武井邦彦〕

しがくせいど　【視学制度】　教育活動全般にわたり，国(文部省)と地方(教育委員会)が行なう指導・助言・連絡調整についての制度。その歴史的沿革は，1890年(明治23)の〈小学校令〉から始まった。まず郡に1名の視学が置かれ，1897年には道府県に地方視学が，3年後に視学官・視学が置かれた。その後，1908年には〈文部省視学官及視学委員職務規定〉が定められて学事視察が本格化し，1913年(大正2)には督学官と改められ，1942年(昭和17)には教学官と改称された。現行の中央視学制度としては，文部省の初等中等教育局および大学学術局に視学官および視学委員，社会教育局に社会教育官，体育局に体育官が置かれ，地方視学制度としては，教育委員会事務局に指導主事*・社会教育主事が置かれている。第2次世界大戦前における視学制度は，教育に関する指導・助言活動から逸脱して，監督・命令・検閲の機関として特に人事への介入を通じて教育の国家統制に大きな役割を果たした。　〔山崎昌甫〕

じかくだいし　【慈覚大師】　⇨円仁

シカゴ　[Chicago]　アメリカ合衆国，イリノイ州北東端ミシガン湖畔にある国際都市。人口309万9,000。大シカゴ698万(1975)。ニューヨークに次ぐ合衆国第2の都市。鉄道開通以前に，ミシガン湖の南西端からシカゴ川をさかのぼり，運河でミシシッピ川に出られたことが，シカゴ発展の最初の要因となった。現在は20の幹線鉄道，12のハイウエー，26の航空路がここを起点として全国に放射しており，シカゴ港はセントローレンス水路の完成により，五大湖沿岸地域だけでなく，直接ヨーロッパ諸港と結ばれており，水陸交通の要地となっている。広い農業地域を背後にもち，その集散とかんづめなどの加工，農機具・鉄鋼・金属・車両・皮革などの工業が盛んであり，中でも出版印刷業は世界最大である。市街は碁盤目状の計画都市をなし，都心には市庁や，合衆国農産物の3分の2を扱う同国第1の穀物取引所，合衆国第2の株式取引所，新聞社・ホテル・劇場などが並ぶ。都心の東側は商店街で，ミシガン通りやステート通りがあり，北側は住宅地，南側は黒人居住区や工業地区となっている。50万を越える黒人のほか，外国人も多く，国際都市としての性格を強くもっている。シカゴ大学・イリノイ工業大学など83を数える大学や，美術館・図書館の文化施設も整備されている。　〔椙村大彬〕

しがこうげん　【志賀高原】　長野県の北東隅(ほくとうぐう)，群馬県境近くに広がる火山性の高原。草津白根山(2,150m)，笠ヶ岳(かさがたけ)(2,076m)，赤石山(2,109m)などに囲まれた標高1,400～1,700mの溶岩流からなる起伏の大きい高原で，中央部に志賀火山(2,036m)がある。南北約7kmの高原には大小70余の湖沼があって変化に富む景観を呈し，観光地として知られる。キャンプ場・スキー場・スケート場，リフト・ロープウエーの施設も完備している。1965年(昭和40)に長野県の山ノ内温泉郷(湯田中・渋など)から，ここを経て群馬県の草津に至る志賀草津高原ルートが開通した。上信越高原国立公園の一部。　〔高野　繁〕

しかこくじょうやく　【四か国条約】　1921年(大正10)12月30日，ワシントン会議*でアメリカ・イギリス・フランス・日本の4か国が調印した太平洋の現状維持に関する条約。九か国条約*や海軍軍備制限条約と並ぶ同会議の産物で，太平洋地域の各国領土・属地を相互尊重すること，紛争発生に対して共同会議で解決を図ること，他からの攻撃に対する措置について締結国の了解を得ることなどが決められた。これとともに日英同盟*の破棄が決められたが，当時中国をめぐって日本と対立していたアメリカにとって，懸念の対象であった日英同盟の破棄は外交的勝利であった。　〔折井一彦〕

しかこくどうめい　【四か国同盟】　⇨四国同盟

シカゴこうきょうがくだん　【シカゴ交響楽団】　アメリカの五大交響楽団の一。1891年にセオドール-トーマスによって組織され，はじめこの創立者の名をとっていたが，1912年より現在の名称となった。2代めの常任指揮者フレデリック-ストックの長い在任期間(1905～1942)にオーケストラの骨格が固まり，以後ドフォー・ロジンスキー・クーベリック・ライナー・マルティノンらの指揮者によって，ヨーロッパ-スタイルの交響楽団として育成された。　〔向坂正久〕

シカゴざいばつ　【シカゴ財閥】　アメリカ八大財閥*の一。ニューヨークのウォール街を中心とする東部勢力に対抗する最も有力な地方財閥。シカゴ四大銀行(コンチネン

タル-イリノイ-ナショナル信託銀行・シカゴ-ファースト-ナショナル銀行・北部信託銀行・ハリス信託銀行）を中心として，食品（スウィフト・アーマー），機械（インターナショナル-ハーベスター），石油（テキサコ），通信販売・百貨店（シアーズ-ローバック），新聞（シカゴ-トリビューン）などを支配し，銀行資本と産業資本との緊密な結合をつくりだしている。重工業部門が弱いことから近年相対的な地位の低下がみえるが，シカゴが農産物の大集散地，食品および重工業の一大中心地となり，ニューヨーク・ロサンゼルスとともにアメリカを3分する商圏であること，さらにはセントローレンス運河によって五大湖と大西洋とが直結し，交通の便がよいことなどから従来の孤立主義的傾向を改め，その発展に努めている。〔片岡一郎〕

シカゴだいがく　【シカゴ大学】　アメリカのシカゴにある私立大学。1892年，ロックフェラー財団の寄付金をもとにバプテスト教会によって設立された。デューイによる実験学校，カリキュラム編成などの研究で名高い。現在ハイスクール2年終了で入学する4年制カレッジ（教養学部）と，カレッジ修了後入学する人文・自然・生物・社会の4学部とその大学院のほか，専門部門として神・法・経営・行政・図書館・医の大学院をもつ。付属機関として，バルザック・ゲーテなどの資料で知られる図書館，六つの研究所がある。

シカゴ-トリビューン　［The Chicago Tribune］　アメリカ中西部の有力日刊新聞。1847年創刊。当初ジョン-スクリップスが主筆をつとめ，1855年ジョセフ-メディエルらが経営を引き継いだ。シカゴ最古の新聞で，政治的には一貫して共和党を支持し，ニューディールに反対し，民主党に有利な記事は故意にでもゆがめる傾向がある。一般的に政治面の評価よりもスポーツ面における評価のほうが高い。発行部数はシカゴ最大で，平日版約80万6,000部，日曜版112万5,000部。

しかざん　【死火山】　⇨活火山

しがしげたか　【志賀重昂】（1863～1927）明治・大正時代の地理学者・政論家。札幌（さっぽろ）農学校卒業。1886年（明治19）太平洋南西部の諸島を巡遊して《南洋時事》を著わし，一方1888年には三宅雪嶺（みやけせつれい）らと政教社をつくって欧化主義の思潮に反対し，機関誌《日本人》によって国粋保存を主張した。さらに1896年松隈内閣（→松方正義（まさよし））の農商務省山林局長をつとめ，また代議士となって政治にも携わった。著書《世界山水図説》などによって海外事情を日本に紹介し，《日本風景論》（1894）で日本の自然や民族の美を説き，日本民族の東洋君臨を主張した。〔飯田良明〕

しがしま　【志賀島】　⇨しかのしま

しがしゅ　【歯牙腫】　歯の形が異常な大きさや形となって現われる奇形の一種。歯をつくるもとの組織である歯胚（しはい）に，なんらかの原因が加わることにより，エナメル質をつくるエナメル芽細胞，象牙（ぞうげ）質をつくる象牙芽細胞，セメント質をつくるセメント芽細胞などの数が異常に多くなったり，構成に不均衡を生じたりした結果起こる奇形である。真の腫瘍（しゅよう）であることは少ない。

しかしゅう　【私家集】　家集（かしゅう・いえのしゅう）ともいう。《万葉集》編纂（へんさん）当時からあったが，平安時代の和歌の隆盛に伴い，歌人自身の作家意識と歌人追慕の精神から，自選・他選両様の私家集が多数つくられた。その内容は，物語ふうの《伊勢集（いせしゅう）》《一条摂政集》，紀行ふうの《増基法師集》，日記ふうの《成尋阿闍梨母集（じょうじんあじゃりのははのしゅう）》，記録ふうの《大斎院前御集（だいさいいんさきのぎょしゅう）》など多彩である。平安後期から鎌倉時代にはいると，在野の歌人の私家集には多様性を残しながらも，専門歌人のそれは作品集としての意識をもち，個人歌集ではあっても公的な性格を強めていった。《六家集》の名で一括される藤原俊成（としなり）らの私家集を見れば明らかである。鎌倉時代から室町時代にかけては，和歌の地域的・階層的浸透に伴って，私家集をもつ人も増していく。鎌倉武士の私家集である《金槐（きんかい）和歌集》《信生法師集》などはその一例である。近世では，さらに広範囲にわたっていることはいうまでもない。〔桑原博史〕

しかしゅう　【詞華集】　アンソロジーともいう。有名無名の多くの作者の詩歌を集め，ある時代の詩歌の様式と傾向を代表する選集。古くは《ギリシア詞華集》があり，中国では《詩経》《唐詩選》などがあり，わが国では《万葉集》や《古今和歌集》に始まる勅撰（ちょくせん）和歌集などがある。

じかじゅせい　【自家受精】　雌雄同株（体）の生物で，同一個体のもつ雌性生殖細胞（卵細胞）と雄性生殖細胞（精細胞）との間で起きる受精。自家受精を続けるとヘテロの遺伝子座は毎代半減し，しだいにホモになっていく。有性生殖を行なう多くの生物では，自家受精を防ぐ機構（たとえば自家不和合性や自家不稔（ふねん）性など）の発達しているものが多い。

じかそうがく　【時価総額】　上場株式の銘柄それぞれについて，時価にその発行済み株式数を乗じ，合計した金額のこと。時価総額は株式市場の規模を示す一つの指標であるので，預貯金残高や保険純資産など，他の投資物件との規模の比較に使用される。また，時価総額は，平均株価などの株価指標と組み合わせて，株式市場における株価変動の内容を知るのに用いられる。

じかた　【地方】

1 室町幕府の職名。京中の家屋・宅地・訴訟などの事務をつかさどった。長官は地方頭人。

2 江戸時代，一般に町方（都市）に対して農漁村をいい，転じて広く農村行政・土地制度・租税制度から農業技術などの意に用いられた。地方役人は農政担当の役人，地方巧者は地方支配に巧みな役人のことをいう。

じかた　【地方】　日本舞踊の舞踊者を立ち方というのに対して，音楽を受け持つ人たち。広く笛・太鼓・鼓などのはやしの演奏者を含めていう場合もあるが，正確には唄（うた）と三味線（しゃみせん）だけをさす。〈地〉は土台の意で，音楽が舞踊の根本をなすという考えを表わしている。なお，歌舞伎（かぶき）の中に含まれている舞踊にもこの語は使用される。

じかたさんちょう　【地方三帳】　江戸時代，地方支配のため必要とした基本的な帳簿。御取箇郷帳（おとりかごうちょう）（御成（おなり）箇郷帳とも，略して郷帳ともいう。村ごとに村高・反別・租税などの基本的項目をしるす）・年貢（ねんぐ）割付（正しくは御年貢可納割付（おさむべきわりつけ）のこと。御取箇郷帳に基づいた年貢の徴収令状）・御年貢米金皆済目録（年貢完納ののち村方に渡される受領証。またこのことを代官から勘定所へ進達したもの）の3種をいう。〔岡山泰四〕

じかたさんやく　【地方三役】　⇨村方三役

じかたちぎょうせい　【地方知行制】　江戸時代の知行制度の一つで，武士が主君から領地を分け与えられる制度。俸禄（ほうろく）制度に対する。江戸幕府の初期，旗本（はたもと）や上級藩士は地方知行制によって領地を与えられ，その知行地をみずから行政して農民から〈殿様〉として仰がれた。17世紀後半になると，多くの大名は地方知行制から俸禄制度に改めて藩地全部をその直轄地とする方針をすすめ，領地の土地・人民を直接支配することによって藩主としての集権力を強めた。〔高崎徳次〕

じかたび　【地下足袋】　戸外労働用に地面にじかにはくゴム底のたび。戸外をたびだけで歩くことは江戸時代から行なわれ，はじめはもめん底であったが，明治中期以後ゴム底を用いることが始まった。大正時代にはいってからは農・山・漁村や鉱山などでの労働や登山などに広く用いられ，経済上・能率上非常に貢献したが，近年はくつがこれに代わり，需要は少なくなってきている。

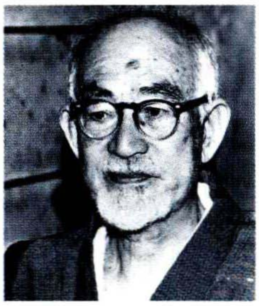
じかちゅうどくしょう　【自家中毒症】　周期性嘔吐症（おうとしょう）（アセトン血性嘔吐症・発作性アセトン血症）の俗称。2～10歳くらいの小児が，急にぐったりして嘔吐し，アセトン血症を伴う状態。1914年（大正3）伊東祐彦（いとうすけひこ）によって，〈疫痢または劇症小児赤痢のような中毒症状で，熱あるいは下痢はなく，ただ中毒症状だけの場合をさす。意識障害・けいれんも起こることがあり，コーヒー残渣（ざんさ）様のも

のを吐き，尿にアセトン・インジカンが陽性となる〉と定義された。原因は体質的なものに，上気道感染，あるいは身体的・精神的過労，気候の変化，食餌(しょくじ)過誤などの誘因が加わって起こる。本態は代謝障害で，糖質代謝と脂質代謝があり，また，タンパク質代謝障害もあると考えられる。また中枢神経と，下垂体副腎(ふくじん)皮質系に作用する刺激も本態と考えられ，しかもこれらの系統が発育過程において特に敏感な小児が本症にかかりやすい。症状としては倦怠(けんたい)・不機嫌(ふきげん)・嘔吐・頭痛・腹痛を訴え，脈搏頻少(みゃくはくひんしょう)，顔面蒼白(そうはく)，腹部が舟底形に陥没し，股動脈音が聞かれる。嘔吐がひどくなると，ときに血液を含んでコーヒー残渣様吐物となり，嗜眠(しみん)状，脱水状態に陥り，呼気にアセトン臭がある。尿はアセトン(ケトン体*)陽性となる。治療としては対症的な輸液療法と鎮静剤が用いられている。〔高橋悦二郎〕

しがつテーゼ【四月テーゼ】1917年4月，亡命地から帰還したレーニン*が，ペトログラード(レニングラード)で開かれたボリシェビキ*の集会と労働者・兵士代表ソビエト全ロシア協議会のボリシェビキ・メンシェビキ*合同集会で《現在の革命におけるプロレタリアートの任務》と題して発表したテーゼ。全10項目よりなり，ツァーリズム打倒後の社会主義革命をめざすロシアの労働者階級の任務を定式化したものである。おもな内容は，戦争の帝国主義的性格の確認，ロシアの現在の時期がプロレタリアートへの権力の移行の段階に進みつつあるという認識に立ち，少数派であるボリシェビキの任務がソビエトへの権力移行を大衆に説明することにあると設定し，革命の第1段階(ブルジョア民主主義革命)から第2段階(プロレタリア社会主義革命)でとるべき方策として土地国有化，銀行の統制，社会的生産とその分配に対するソビエトの統制，インターナショナル*の革新などを提起したものである。〔山県弘志〕

しかつべのまがお【鹿都部真顔】(1753〜1829) 江戸後期の狂歌師・黄表紙作者。本名北川嘉兵衛(かへえ)。江戸の人。蜀山人*(しょくさんじん)に狂歌を学び，狂歌四天王のひとりとされた。狂歌を俳諧歌(はいかいうた)と改称，和歌の優美に近づけようとして石川雅望*(まさもち)と対立したが，実作では及ばなかった。《狂歌数寄屋風呂(すきやぶろ)》などの狂歌集のほか，黄表紙がある。

しがなおや【志賀直哉】(1883〜1971) 小説家。宮城県石巻(いしのまき)市の生まれ。2歳のとき両親と上京，祖父の家に住み，祖母の愛育を受けた。学習院に学び，18歳のとき内村鑑三*(かんぞう)に近づいてキリスト教に接し，また中等科で武者小路実篤*(むしゃのこうじさねあつ)を知って影響を受けた。東京大学英文科に入学，のち国文科に転じたが，中退して創作に専念した。1910年(明治43)武者小路ら学習院時代の友人と同人誌《白樺*(しらかば)》を創刊。《網走(あばしり)まで》《正義派》《清兵衛(せいべえ)と瓢箪(ひょうたん)》《范(はん)の犯罪》などの短編を発表後，1912年(大正1)に《中央公論》に発表した中編《大津順吉》が文壇的出世作となり，理想主義的な自我肯定の新風をもたらした。一方，父との不和が高じ，家を出て尾道・松江・京都・鎌倉・赤城山などを転々としたが，やがて千葉県我孫子(あびこ)に落ち着き，父との和解も成立。この過程で《城の崎(きのさき)にて》《好人物の夫婦》《和解》など調和的な心境を描く中期の代表作が生まれた。1921年(大正10)から代表的長編《暗夜行路*》にとりかかり，1937年(昭和12)に完成して近代小説に不動の位置を築いたが，その後は創作意欲が衰え，作品の発表もまれになった。強い自我と個性によって実生活と創作とを統一・調和させた私小説*の代表的作家であった。〔木村幸雄〕



志賀直哉



ジガバチ

じがね【地金】合金溶製その他の金属加工に供される金属素材やめっき・塗装をされる台板金属をいう。いずれも，使用目的に応じて，それに耐えうる組成・組織および表面状態などが要求される。

しかのしま【志賀島】〈しがしま〉ともいう。福岡県粕屋(かすや)郡志賀町に属する島で，面積約5km^2。博多(はかた)湾口の陸繋島(りくけいとう)で，海ノ中道という砂丘半島と，満切(道切)(みちきり)とよばれる長さ1km余の砂州によってつながっているが，満切は満潮時には海水がはいってくる。1931年(昭和6)に橋が完成して，交通は自由になった。1784年(天明4)に，この島の南東端叶崎(かのうざき)付近の水田から〈漢委奴国王印*(かんのわのなのこくおうのいん)〉が一農夫によって発見されて，日本の古代史の解明に重要な手がかりを与えたことは名高い。そのほか文永・弘安(こうあん)の役*に関する史跡に富み，また景勝の地で国民休暇村や国民宿舎もあり，玄海国定公園の一中心となっている。〔浅井得一〕

しかのとおね【鹿の遠音】尺八の曲名。古典本曲の一で，普化宗の教義や経典から離れたものの代表的な曲。正しくは《呼返(よびかえし)鹿の遠音》という。琴古流の曲が最も有名で，山中で呼び合う雌雄の鹿の鳴き声を模写した描写音楽であり，尺八の技巧が尽くされている。1管でも演奏されるが，本格的には2管の掛け合い式で演奏される。

しかのぶざえもん【鹿野武左衛門】(1649〜1699) 落語家。大阪生まれ。中橋広小路で辻噺(つじばなし)を演じた江戸落語の始祖。1694年(元禄7)，著書《鹿の巻筆》の筆禍事件により流罪となった。

じがばち【似我蜂】こん虫類・膜翅(まくし)目・ジガバチ科の一種およびジガバチ科の総称。ジガバチは体長18〜25mm。体は黒色で，腹部は藍色(あいいろ)をおびる。腹柄第2節の後半と腹部第1節の全体が赤かっ色を呈する。翅(はね)は灰かっ色をおび，翅脈は黒かっ色。頭部と胸部には灰かっ色の長短の毛が密生し，脚には銀白色の微毛が多い。日本全国のほか，サハリン(樺太(からふと))・朝鮮・中国などに分布する。雌の成虫は各種の鱗翅(りんし)類の幼虫を毒針で麻酔し，地中に掘った幼虫室に運んで，その体上に産卵する。幼虫はこれを食べて成長し，繭をつくってさなぎとなって越冬し，翌年の夏に羽化して地上に脱出する。近縁のミカドジガバチは，腹部第2節も赤かっ色をおび，頭楯(とうじゅん)が下方に向かって三角形状に突出し，その先端が鋭くとがっているなどの点で容易に区別できる。また，地中に営巣せず，樹上の空洞(くうどう)などに小石や木片を運んで営巣する習性があり，他のジガバチ類とまったく異なっている。本州・九州のほか，朝鮮・ウスリー地方などに分布し，シャチホコガ科の幼虫を狩ることが知られている。フジジガバチ(タイワンジガバチ)は体長25〜35mm，雌は腹部が藍色で，腹柄部の腿節(たいせつ)および脛節(けいせつ)が赤かっ色を呈するが，雄はほとんど全体黒色。本州・四国・九州のほか，台湾・朝鮮・中国から広く南方にかけて分布する。

ジガバチ科は大きな群で，全世界から多数の種が知られている。狭義のジガバチ類は，細長く棒状の腹柄部をもち，いずれもクモ類や鱗翅類の幼虫や直翅類などを狩る代表的なカリュウドバチ*である。上記3種のほか，腹柄が黄色のキゴシジガバチ，全体青藍色のルリジガバチ，黒色で黄かっ色の小紋のあるモンキジガバチ，アメリカ原産で1945年(昭和20)侵入し東京付近に土着したアメリカジガバチなどが日本産の代表的なジガバチである。広義のジガバチ類は，上記のほかにアナバチ・トガリアナバチ・ジガバチモドキ・コシボソアナバチ・ハナダカバチ・ツチスガリ・ギングチバチなどの各群を含んでいる。それらの大部分も，他のこん虫類やクモ類を狩るが，獲物

の種類は種によって比較的一定で，営巣習性も単純なものから複雑なものまで群によって変化に富んでいる。〔鈴木邦雄〕

じかはっこう【時価発行】株式会社が増資を行なうとき，新株式の発行価格(増資払い込み額)を，そのときの株式市場の時価を基準にして決める株式発行の方法をいう。日本では従来，額面発行がほとんどで習慣的に行なわれているが，欧米特にアメリカでは時価発行増資が多い。時価発行によって額面を越えた払い込み額は，資本準備金として発行会社の自己資本に加わるため，自己資本充実の有力な方法の一つである。日本では呉羽(くれは)化学が1962年(昭和37)と1964年に西ドイツ方式の一部額面払い込み，一部時価発行増資という形態をとったが，その後発行市場の充実により，1968年10月に日本楽器製造がはじめて大量公募による完全な時価発行増資を行なった。今後は増資形態の一つとして定着する傾向にある。〔日東証券調査部〕

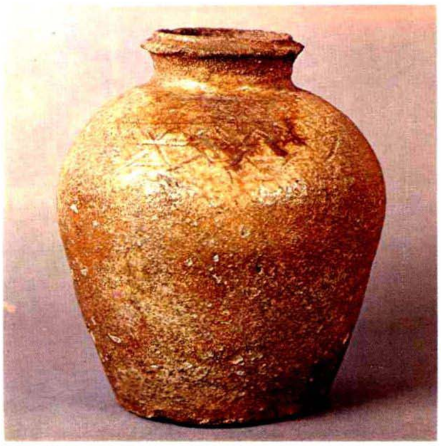
しかばん【私家版】営利を目的としない少部数の個人的出版物をいう。イギリスでは19世紀末，ウィリアム-モリスが，私家版印刷所のケルムスコット-プレスをおこしてから盛んになり，コブデン-サンダーソンのダブス-プレス，ホーンビーのアシェンデン-プレスなどが出現した。ケルムスコット-プレス版《チョーサー著作集》(1896年刊)，ダブス-プレス版《聖書》(1903～1905年刊)，アシェンデン-プレス版のダンテの《神曲》(1909年刊)は，それぞれの私家版印刷所の代表作品であり，〈近代印刷の三大理想書〉といわれるものである。アメリカでは，ブルース-ロジャースのリバーサイド-プレス，アップダイキのメリーマウント-プレス，グラブホーン兄弟のグラブホーン-プレスなどが私家版印刷所として知られ，次々と傑作を生み出している。わが国では，寿岳文章の向日庵本(こうじつあんぼん)，西川満の日孝山房本，志茂太郎の日本愛書会本，武井(たけい)武雄刊本作品などが私家版として著名である。〔庄司浅水〕

じかびやき【直火焼き】材料に直接火をあてて焼く方法。くしに刺して，または網に載せて焼く。塩焼き・照り焼き・きじ焼き・かば焼き・黄み焼き・うに焼き・魚田・でんがく・しぎ焼きなどの調理法がある。

しかま【飾磨】兵庫県姫路市の南部地区。瀬戸内海播磨灘(はりまなだ)に臨み，市川が揖保(いぼ)川とつくる複合三角州上に位置する。1940年(昭和15)単独で市制を施行，1946年姫路市に編入された。飾磨江は歌枕(うたまくら)として多くの歌に読まれた景勝地で，江戸時代には姫路の外港として繁栄した。明治以後，藩政時代の干拓地を利用して敷島紡績・山陽製鋼・日本砂鉄などの大工場が進出した。第2次世界大戦後は，港湾施設の改修，火力発電所の設置などによって重化学工業地域の造成が進み，西隣の同じ

私家版 ウィリアム-モリス作《ラブ-イズ-エナーフ》(愛は十分) 1897，ケルムスコット-プレス刊。さし絵はバーン-ジョーンズ作





信楽焼 信楽自然釉刻文壺 東京国立博物館蔵

姫路市内広畑地区とともに播磨工業地域の中核となっている。〔浅井得一〕

しがやまりゅう【志賀山流】日本舞踊の流派の一。舞踊の家元としては最も古い家柄で，古い踊りの型を伝えている。元禄期(1688～1703)の人で，歌舞伎(かぶき)舞踊の最初の専門振付師といわれる志賀山万作を流祖とする。6世を継いだ歌舞伎俳優中村仲蔵はこの流儀を興隆させたが，のち代代が女性の家元となり，劇場と離れてしまったために，現在は栄えていない。

じかゆうかい【自家融解】死亡ののち，組織および細胞が酸素の欠乏によって変性壊死(えし)に陥り，体内の酵素(タンパク融解酵素や消化酵素など)の作用を受けて融解し，消化分解される状態。自家融解の遅速は，環境(温度の高低，感染の有無など)によって著しく影響され，時間の経過とともに赤色調から青藍紫(せいらんし)色と変わる。また細菌の感染があると腐敗を生じ，ガスを発生したり，悪臭を発したりする。

じかようしゃ【自家用車】個人または一般会社が所有して旅行・レクリエーション・事務連絡などに用いる自動車。自動車登録番号標板は白地に緑文字であるから緑地に白文字の事業用(営業用)自動車と区別できる。→営業用自動車

しがらき【信楽(町)】滋賀県の南部，甲賀郡の町。人口14,000。1954年(昭和29)旧信楽町を中心に4か村が合併した。町の中心は草津線貴生川(きぶかわ)駅から分岐する信楽線の終点信楽駅に近い長野で，信楽焼の産地として知られる。黄瀬(きのせ)には聖武(しょうむ)天皇によって営まれた離宮紫香楽宮(しがらきのみや)跡がある。

しがらきのみや【紫香楽宮】聖武(しょうむ)天皇が近江(おうみ)甲賀郡紫香楽村(滋賀県甲賀郡信楽(しがらき)町)に造営した離宮。甲賀宮ともいう。天皇は740年(天平12)に定めた恭仁宮(くにのみや)にも落ち着かず，紫香楽の地に離宮をつくってしばしば通い，743年には大仏造立(ぞうりゅう)を発願し，745年には都と定めた。しかし，人々はこれに反対して不穏な情勢となったため，同年5月天皇はついに平城京に帰還することとなり，ここに紫香楽宮は廃絶に帰した。〔黛　弘道〕

しがらきやき【信楽焼】滋賀県甲賀郡信楽町で焼かれた窯芸。起源は明らかでないが，鎌倉後期の常滑陶(とこなめとう)の作風をそのまま写した作風もみられ，室町時代の年号を刻んだ土符が信楽町から発見されたり，長禄(ちょうろく)2年(1458)銘の蓋付壺(ふたつきつぼ)の発掘例もあって，鎌倉期から室町初期にかけて特色ある焼き物になったと推測される。室町時代にはつぼやはちなどの雑器を焼いたが，後期になって茶人が着目し，佗茶(わびちゃ)の美意識の世界で茶器に見立てられて転用されるようになった。俗にいう鬼桶(おにおけ)・擂盆(らいぼん)・神水壺(おこうずいつぼ)などはこの種のものである。なお，信楽焼は鈍白色の素地にチョウ石粒が混入しているのが特色で，灰釉(はいぐすり)がかかった作品が多い。また，桃山時代には明らかに茶陶も焼いている。〔矢部良明〕

しがらみそうし【しがらみ草紙】文芸雑誌。はじめ《文学評論柵(しがらみ)草紙》と題し，1889年(明治22)創刊。44号以降は《しがらみ草紙》と改題し，1894年59号をもって廃刊。文壇の誤った流れに柵をかけるとして，森鷗外(おうがい)が新声社の同人と創刊した。ドイツ美学に基づく文芸評論を中心とし，翻訳・小説・詩などを掲載。評論では鷗外と坪内逍遙(しょうよう)との〈没理想論争〉が有名で，おもな創作・翻訳に鷗外の《うたかたの記》《即興詩人》などがある。尾崎紅葉・幸田露伴らも寄稿した。〔堀井謙一〕

じかりつ【磁化率】物体の磁化の強さとその物体の置かれた外部磁場との比。磁化率は正・負の値をとることができ，正のものには磁性の現われる機構の相違に応じて常磁性体・強磁性体などがあり，負のもの(磁化が磁場と反対方向を向く)は反磁性体とよばれる。強磁性体の磁化率は常磁性体のそれに比べてはるかに大きく，また反磁性体の磁化率の絶対値は常磁性体の磁化率よりさらに小さい。

しかりべつこ【然別湖】北海道中央部，石狩山地の南部にある湖。面積3.45km²，水面高度797m，水深99m。然別火山群の中にたたえられたもの。水はトーマベツ川とな

って十勝(とかち)川の支流然別川へはいる。周囲は冷涼温帯性針葉樹の原生林に囲まれ，西岸に然別・山田の2温泉がある。大雪山国立公園に所属する。

しかわかしゅう 【詞花和歌集】 6番めの勅撰(ちょくせん)和歌集。崇徳(すとく)上皇の命により，藤原顕輔(あきすけ)が1151年(仁平1)に選進した。中古以来の勅撰集に採用されていない歌を選択・収集し，歌人192人，歌数411首で，勅撰集中で最小の規模となった。巻数・部立て・歌風まで《金葉和歌集*》にならっているが，曾禰好忠*(そねのよしただ)・和泉式部*(いずみしきぶ)らの採歌が多く，現実的で淡々として平明清新な歌風を特色とする。

しかん 【史観】 ⇨歴史

しかん 【子癇】 妊娠中毒症*の妊婦・産褥婦(さんじょくふ)が，特有の全身けいれんと昏睡(こんすい)を起こした状態。一般には初産婦に多いが，国・人種・階級・社会状態・時代などにより頻度(ひんど)は異なっている。一般には500～800回の分娩(ぶんべん)に1回ぐらいと思われるが，最近は妊婦指導が行き届いた結果，しだいに減少の傾向にある。子癇の起こる時期は分娩時が最も多く(⅔)，妊娠中がこれに次ぎ(¼)，産褥時が最も少ない(⅕)。症状は全身の強いけいれんの発作と昏睡を特徴とし，発作は突然発現することもあるが，頭痛・吐き気・嘔吐(おうと)・視力障害などを前駆症状として訴えることが多い。子癇の場合生まれた子の発育は不良で，子死亡率が高く，また母体死亡率も高い。すぐれた降圧剤・鎮静剤の出現により近年は母体死亡率は減少した。
〔木川源則〕

しかん 【篩管・師管】 篩部*の主要素で，シダ植物以上の高等植物にみられる管状の組織。同化物質の移動に利用され，木部の主要素である道管・仮道管が死細胞であるのに対して，生きた細胞である。各細胞間の隔膜や側膜に微小な孔(篩孔)があり，原形質連絡をする。篩孔の集まりを篩板といい，階紋状に配列するもの(シナノキ)，不規則に配列するもの(フジ)，1個しかないもの(カボチャ)などがある。被子植物の篩管にはふつう伴細胞がある。これは柔細胞で，篩管母細胞が縦裂して一方は篩管に，他方は伴細胞となる。伴細胞は篩管細胞の栄養に関連していると思われる。
〔加藤僖重〕

しかん 【士官】 日本海軍の幹部の地位にあった武官。海軍将校と将校相当官からなり，前者は兵科将校と機関科将校に，後者は軍医・薬剤・主計・造船・造機・造兵・水路の各科に分かれる。士官の階級は尉官から佐官・将官へと進む。兵科将校の階級は海軍少尉・中尉・大尉・少佐・中佐・大佐・少将・中将・大将である。兵科以外の各科の将校の階級名には科の名称を入れる。たとえば海軍機関少尉・海軍主計大尉など。ただし，機関科出身の将官には〈機関〉の語



然別湖 紺碧の水をたたえた湖面には静寂がみなぎる。左手湖岸の建物は然別湖畔温泉，遠景中央の山はウペペサンケ山(1,870m)

を省く。なお，将校相当官の最上位は各科により異なるが中将以下である。以上のほか特務士官の制度があった。これは准士官から選抜して士官に任用したもので，階級は通常尉官にとどまるが，佐官に特進する道も開かれていた。➔将校 〔森田 哲〕

しかん 【止観】 〈止〉は心の妄動(もうどう)や執着を止めて，心を特定の対象に注ぐこと，〈観〉は正しい知恵に従って，法(真実)の働きの千差万別を観(み)ることで，仏道を完成させる瞑想(めいそう)法の一。ブッダはこれを無我・中道とよんだ。のち，智顗*(ちぎ)はこれをみずからの実践法として整然たる体系づけを試み，漸次止観・不定止観・円頓(えんとん)止観の3段階を立てた。また，智顗の著《摩訶止観*(まかしかん)》の略称としても用いられる。➔一念三千 〔京戸慈光〕

しかん 【屍姦】 異常性欲*に属する性的倒錯行為の一種で，死体を玩弄(がんろう)し，性愛行為を行なうこと。ネクロフィリア・死体愛などともよばれ，主として男性にみられる。

じかん 【次官】 ⇨政務次官

じかん 【耳管】 中耳の鼓室*と咽頭(いんとう)とをつなぐ管。エウスタキオ管または欧氏管ともいう。側頭骨内を通る部分は骨性の壁であるが，咽頭に近い部分は内上方が軟骨の壁で保護されている。耳管鼓室口から耳管咽頭口(咽頭への開口部)までの距離(耳管の長さ)は約33mmである。耳管咽頭口の咽頭壁の粘膜面には輪状の高まりがあり，これを耳管隆起という。耳管の内面粘膜は鼻咽頭腔(こう)をおおう粘膜の引き続きである。鼻咽頭の炎症が耳管に及ぶと，粘膜の腫脹(しゅちょう)のため空気の通りが悪くなり，その結果，鼓膜内外の圧差ができて痛み・難聴が起こる。この際，鼓膜は内方に押される。ケーブルカーなどに乗って上昇する際，一時的ではあるが同様の現象が起こるが，これは大気圧が急激に下がるためである。この場合は反対に，鼓膜は外方に押される。唾液(だえき)を飲み込んで鼓膜内外の圧を等しくしてやると痛みがとれる。〔幡井 勉〕

じかん 【時間】 哲学上の問題としての時間は，空間と並んで古代から多くの哲学者によって論じられ，それぞれの世界観の相違に応じて異なった定義と概念を与えられているが，物理学で問題とするのは，周期的な自然現象，たとえば振り子の運動や地球の自転運動などによって単位が決められ，測定されうるような客観的な時間である。

近代科学史上，最初のはっきりとした時間の定義はニュートンによって与えられたが，彼は地球の自転運動などによって定義される感覚的な〈相対時間〉と区別して，慣性の法則*がそこでなりたつような時間としてどんな外部的対象にも関係なく一様に流れる数学的な〈絶対時間〉を定義した。絶対時間は同様にして定義された絶対空間とともに絶対運動という考え方をつくりだし，ニュートン力学にとっての基礎的な概念となった。

しかし，カントによって先験的な純粋直観の形式として哲学的に基礎づけられ，2世紀にわたって確固不動なものとして考えられたこの絶対時間の概念は，今世紀における相対性理論*の誕生によって根本的な変革を受けることになった。すなわち，二つの現象の同時性が観測者の運動状態によって異なるというアインシュタインの認識は，時間を観測者の運動状態に依存する相対的なものとすることによって絶対時間の概念を否定するとともに，それまで互いに独立なものとして考えられてきた時間と空間を4次元時空という一体のものとみなし，さらに一般相対性理論においてはこの4次元時空が物質の存在と密接に関連し，相互に影響を及ぼし合うものと考えられ，ニュートンの等方均質な時間空間は非等方非均質な時間へと変革された。 〔高林武彦〕

しかんいんし 【弛緩因子】 ⇨筋収縮

じかんがいろうどう 【時間外労働】 労働基準法に定める1日8時間，1週48時間を越えて労働すること。労働基準法は時間外労働について，年少・婦人労働者などに対して禁止・制限したが，そのほかは，最低2割5分の割増し賃金の支払いと時間外協定を締結すれば，時間外労働をさせても処罰しないと規定している(同法36・37条)。アメリカやソ連では，時間外労働が週40時間を越えると5割の割増し金を支払わねばならないが，日本では週48時間を越えても2割5分であり，ILO*(国際労働機関)1号・30号条約に違反して時間外労働の長さを限定していない。また使用者は，次の場合割増し賃金を支払えば，時間外協定がなくても時間外労働をさせることができる。①災害その他避けることのできない事由によって，臨時の必要がある場合において，使用者が行政官庁の許可を受けたとき，②非現業公務員については，公務のため臨時の必要がある場合。 〔木元美代子〕

じかんきょうさくしょう　【耳管狭窄症】 耳管*が閉塞(へいそく)したままでいる状態。中耳腔(こう)と上咽頭とは耳管を通じて交通しており，嚥下(えんか)やあくびなどをすると耳管が開いて空気が流通する。感冒によって鼻咽腔炎・耳管カタル・中耳カタルなどが起こると，上咽頭の粘膜が，続いて耳管粘膜・耳管リンパ節が腫脹(しゅちょう)して，管腔は閉鎖され通気障害が起こる。症状としては，耳の閉塞感・難聴・耳鳴り・耳痛または自分の声が強く響くとか，外耳道から見て鼓膜の陥凹(かんおう)などがみられる。原因から区別すると，耳管自体が狭窄を起こしている真性狭窄と，耳管咽頭口または耳管外に種々の障害のある仮性狭窄とがある。治療としては，原因である炎症を取り除くこと，耳管から中耳腔に空気を通すことなどの方法がある。　〔清水淑郎〕

しかんこく　【四汗国】 ジンギス汗の4子が封領として与えられ，のちに独立した四つの汗国。オゴタイ汗国*・チャガタイ汗国*・キプチャク汗国*・イル汗国*をいう。

じかんちかく　【時間知覚】 時間の持続の意識，物事の時間的前後関係・時間的長短・時間間隔の意識などを時間知覚という。時間知覚には次のようなものがある。①時間閾(じかんいき)：人間が感じうる最も短い時間間隔で，視覚刺激によれば22msec，聴覚刺激では2msecとなっている。②時間錯誤：二つ以上の刺激を継時的に与え，それぞれの質的な相違を比較判断するとき，二つの刺激の間の時間間隔が判断に影響を与え錯誤を起こす場合。さきに与えられた刺激が過大評価される場合を正の時間錯誤，過小評価される場合を負の時間錯誤という。③時間評価：時間がどのくらい経過したかの判断は，経過時間中の経験の質的・量的差異によって異なる。興味ある経験で満たされている時間はそのときは短く感じられるが，それを想起した場合は長く感じられる。④S-効果：順次に三つの光点を瞬間的に点滅して，2光点間の時間間隔を比較すると，光点間の距離が大きいほど時間間隔も大と感じられる。⑤タウ効果：S-効果と逆に時間的条件によって空間距離の知覚が影響される現象をいう。　〔吉田俊郎〕

しがんへいせいど　【志願兵制度】 ⇨兵役制度

しき　【式】 数や変数を示す文字を四則(＋，－，×，÷)や√，sinなどの演算記号で結んだもの。特に区別する必要がある場合には，数の式，文字の式ということもある。文字の式で，文字に数値を代入して得た値を式の値という。また，二つの式の関係を等号や不等号などで示したものを関係式，(全体の代金)＝(単価)×(個数)のように，量の関係をことばの関係式で表わしたものをことばの式という。

しき　【式】 律*・令*(りょう)および格(きゃく)(→格式)の施行細則。単行法令の場合もあれば，また法典としての式もあった。律・令は当初からその細目を式にゆだねるところが多く，式なしでは律・令の運用は不可能であった。のち政務執行を図るため官庁ごとに式をまとめた法典(諸司式)が編集された。弘仁(こうにん)・貞観(じょうがん)・延喜3代の式(→三代格式)はその例である。

しき　【職】 本来〈つかさ〉という語に相当し，律令(りつりょう)官制では中宮職・左右京職・摂津職などのように，職務官庁や職掌を意味した。省の下，寮の上にあたる。その後，荘園*(しょうえん)制の発展に伴い，荘園の諸職が本来の職務を示すと同時に，領家職・預所職・下司職のように，その職務に付随した権益を意味するようになり，さらに純然たる土地の権益そのものを示すようになった。

しき　【識】 仏教において対象を分析し，認識・判断する心の作用をいう。梵語(ぼんご)vijñāna(ビジュニャーナ)の訳。仏教では，すべての存在や現象を識の対象，心作用の属性とし，通常次の6識を立てる。①眼識は色形，②耳識(にしき)は音声，③鼻識はかおり，④舌識は味覚，⑤身識は触覚，⑥意識*はそれ以外のいっさいを，それぞれ認識する。唯識学派や法相宗(ほっそうしゅう)は，さらに自己中心的な執着心を起こす末那識(まなしき)と，すべての存在や日常経験の根元としての阿頼耶識*(あらやしき)を加えて8識とする。大乗仏教では，この世界は迷いのある分析的な識の世界であるが，分析が加わらず，存在のありのままを直観的に把握(はあく)するものを，識と区別して知恵*とよび，知恵の世界への転換を悟りとする。〔小沢憲珠〕

しき　【色】 仏教用語。梵語(ぼんご)rūpa(ルーパ)の訳で，形あるもの，物質的存在をいう。古来仏教を論ずる人々によって，色とは，変化し，こわれ，二物が同時に一定の空間を占有できないなどの性質をもつものと解釈されている。また，単に視覚器官の対象の意味で，青や黄などの色彩と長短・円形などの形をもいう。

しき　【指揮】 音楽の演奏に際して奏者たちを導いてよいまとまりと解釈の統一を与える仕事をいう。人数の少ない室内楽では，奏者の中のリーダー格が自分も演奏しながらこの仕事を行ない，またテンポやリズムなどは，それを示すのにつごうのよいパートを奏している者が交互に行なうことが多い。西洋でも指揮者という指揮の専従者が現われたのは19世紀からで，バロック時代ではチェンバロやオルガンの奏者がひきながら指揮し，またバイオリンの首席奏者がその役割をにない，古典派になっても，指揮者は二役だった。指揮の最も基本的な目的は，音楽の拍を正しく示して，テンポを決めるとともに音の出し方に一致を与えることにある。このため，今日では2拍子・3拍子・4拍子などに，国際的に通用する指揮棒(あるいは手)の動かし方が使われている。しかし，指揮は指揮者の音楽作品に対する解釈を示すことが究極的な目的であり，すぐれた解釈を示すものが高い評価を与えられている。なお，日本の伝統的な音楽には指揮の機能だけを果たすものはおらず，雅楽の場合の羯鼓(かっこ)や三鼓(さんのつづみ)の奏者，三味線(しゃみせん)における立三味線の奏者の導きや，あるいは奏者のかけ声や打楽器によって合奏が整えられる。

しき　【士気】 モラールともいう。ある集団の目標達成に関して，そのメンバーが持続的に示す態度・意欲をいう。一般に士気が高ければ集団内の結束力は固く，集団の醸成する態度に規制されて成員個人は組織に満足感をもつことになる。したがって，組織の経営・管理には組織成員の士気をいかに高めるかが重要な課題となり，そのため近年特に産業界では，客観的に士気の高低・態様を知る種々の士気調査(モラール-サーベー)が行なわれている。

〔太田垣瑞一郎〕

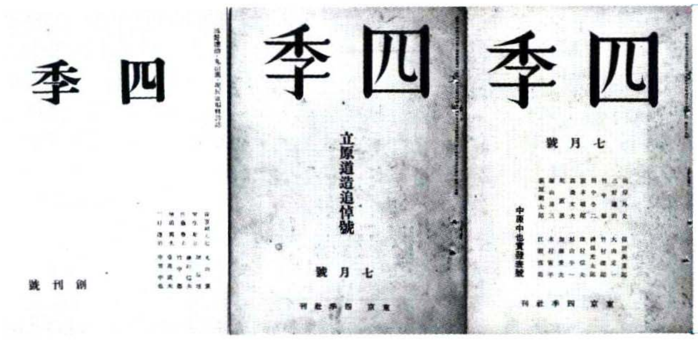
しき　【四季】 季節の区分のうち，温度を主として1年を4期(春・夏・秋・冬)に分けたもの。現在一般に，3・4・5月を春，6・7・8月を夏，9・10・11月を秋，12・1・2月を冬としているが，天文学や二十四気*の分け方はこれと異なる。南半球では，北半球に対して夏と冬，春と秋が逆になる。四季の区別が明らかなのは温帯地方であって，熱帯地方ではふつう乾期と雨期の2期に区分され，寒帯地方では温度の変化はあっても夏といわれるほどの期間はごく短く，さらに極地方では1年間を通じて冬の状態である。

日本では四季の移り変わりが顕著で，人人の日常生活の全面に季節感がはいりこんでいる。同じ雨でも，降る時期や感じの違いで，春雨・つゆ・夕立ち・しぐれなどとよび分けており，古く和歌集では春・夏・秋・冬という部立て(分類)をし，特に俳諧(はいかい)では季節感を作品の重要な要素として季語というものをつくりあげた。

しき　【四季】 音楽作品。《四季》と名づけられた作品はいくつかあるが，今日よく演奏されるものは，次にあげたようなものである。

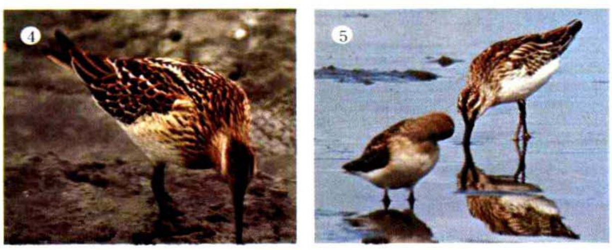
[1]ビバルディ*作曲の協奏曲集。12曲からなる《和声とインベンションの試み》の第1番から第4番までが〈春〉〈夏〉〈秋〉〈冬〉と名づけられ，《四季》として独立して演奏される。バイオリンを独奏部にもち，描写音楽的手法がとられている。

[2]ハイドン*作曲のオラトリオ。イギリスの詩人トムソンの詩を，バン-シュビーテンがドイツ語訳したものを台本とした。初演は1801年。〈春〉〈夏〉〈秋〉〈冬〉の4部に分かれ，農夫シモン(バリトン)，その娘ハンネ(ソプラノ)，その恋人ルーカス(テノール)と合唱からなる。農民の素朴(そぼく)な宗教感情を通して四季の情景を歌っている。



四　季　左より第2次創刊号，立原道造追悼号(1939)中原中也賞発表号(1941)





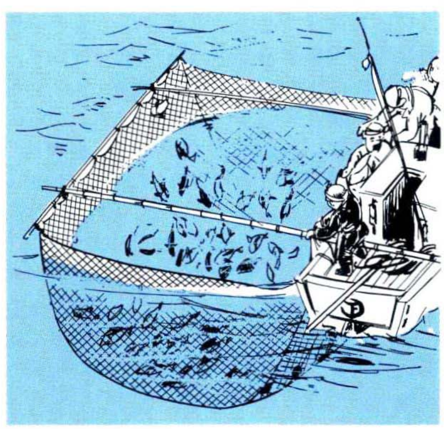
シ　ギ
①オバシギ　②ハリモモチュウシャクシギ　③アカエリヒレアシシギ　④アメリカウズラシギ　⑤キリアイ

③グラズノフ作曲のバレエ曲。振り付け師マリウス-プチパの依頼で，1899年につくられた。1幕4場からなり，第1場〈冬〉に始まり，〈春〉〈夏〉〈秋〉で終わる。

④チャイコフスキー作曲のピアノ曲集。1876年に完成。1月から12月までの12曲からなり，11月の〈トロイカ〉は特に有名である。〔向坂正久〕

しき【四季】詩誌。堀辰雄(ほりたつお)の編集で，1933年(昭和8)季刊2冊を出し，翌年10月から月刊となって，1944年6月に終刊。また，第2次世界大戦後にも復刊されて5号で終刊。堀・丸山薫(かおる)・三好(みよし)達治らを中心に，作品・評論・訳詩の掲載があった。フランス文学に親しく，日本文学の伝統に立った三好，ドイツ-ロマン派によった丸山・立原道造らがみられ，主知派の詩とプロレタリア詩派との間に，新しい叙情詩派を育てた。同人としては上記の人人のほかに，井伏鱒二(ますじ)・萩原朔太郎(はぎわらさくたろう)・竹中郁(いく)・津村信夫(のぶお)・中原中也(ちゅうや)・神西清・神保光太郎・室生犀星(むろうさいせい)・伊東(いとう)静雄・田中冬二らが加わっていた。なお，1967年復刊されている。〔堀井謙一〕

しき【史記】中国古代の歴史書。伝説的な五帝の時代から前漢の武帝の時代までの通史で，正史の最初に置かれる。130巻のうち120巻が前漢時代の司馬遷の著，残りの10巻は褚少孫(ちょしょうそん)らの補作とされている。紀伝体の体裁をとり，本紀12巻，



敷き網

表10巻，書8巻，世家30巻，列伝70巻からなる。司馬遷の現実主義的な人間観察を，簡潔な文章で力強く表現した，すぐれた歴史書であり，文学作品としても高く評価されている。〔小南一郎〕

しき【志木(市)】埼玉県南東部の市。人口50,000。もとは志良木(しらき)と書き，8世紀ごろ新羅(しらぎ)から移住して帰化・定着した人たちの新羅郡の地といわれる。中心集落の引又は江戸時代は新河岸(しんがし)川の河港で，三・八の日には市が立った。明治初年，新座(にいざ)郡志木宿と改称，1889年(明治22)町制を施行し，1955年(昭和30)宗岡村と合併して足立(あだち)町となり，1970年現市名に改称して市制を施行。市域は武蔵野(むさしの)台地北東部から荒川西岸の低地に広がり，東は浦和市，南は朝霞(あさか)・新座の両市と接する。産業三大別人口比は2：42：56。かつては野火止(のびとめ)用水と新河岸川の合流点周辺に開かれた新田集落で，おもに畑作が行なわれたが，第2次世界大戦後は住宅や学校・工場が進出して都市化が急速に進んでいる。東武鉄道東上線が通じている。

しぎ【鷸】鳥類・シギ科の総称。約80種からなり，全世界に広く分布するが，ほとんどのものが北半球で繁殖する。周極地帯と高緯度地帯で繁殖するものも多く，繁殖地と越冬地の間を南北の渡りをする。4亜科に分類され，それぞれダイシャクシギ・クサシギなど，タシギ類・トウネン類・キョウジョシギ類が属する。嘴(くちばし)の長さ2cm弱，全長15cm前後のトウネンのように小形のものから，長さ20cm弱で上方に凸形(とつがた)に湾曲した長い嘴をもち，全長60cm以上のホウロクシギのように大形のものまである。一般に嘴は長く，羽毛は雌雄でよく似ている。灰色・かっ色・黒色・白色などからなる羽毛をもつものが多く，じみだが品のある美しい鳥である。クサシギのほか数種のものは樹上で他の鳥やリスなどの古巣の上に営巣するが，大部分は地上に営巣する。ほとんどのものが海岸や湖沼地帯の水辺に近いところで繁殖するが，内陸の草原や林内の水から離れた所で繁殖するものもある。普通は水辺で種々の水生生物に沿って渡りをするので，わが国は渡りの重要な中継地であり，春秋の渡りの時期には海岸・干潟(ひがた)・川・湖沼などに多くが渡来し休んでいく。日本では42種が記録され，イソシギ・オオジシギ・ヤマシギの3種が繁殖しているが，最近の工業化で干潟・浅海が埋め立てられてシギ・チドリ類の生息地が急減し，この類の生存に大きな影響を及ぼしている。〔安部直哉〕

じき【磁気】磁石のもっている作用の俗称。磁石の吸引力・反発力，物質の磁化などの作用の原因をなす実体に名づけられたもの。現在では，物質を構成する素粒子，主として電子の運動がそれらの作用の原因をなしていることが知られている。そこまで微視的にみると，磁気の本質にはより深い研究を必要とするものが残されている。少なくとも，磁気と電気とが密接不可分であることは明らかである。

しきあみ【敷き網】漁具の一。水中に網を展開させ，上方に魚が集まったときに網を揚げて漁獲を行なう。サンマ棒受網などのように表層近くで使用するものが多いが，四艘張り網などのように海底付近に展開させておいて使用するものもある。

じきあらし【磁気嵐】ほぼ規則正しく日変化している地球の磁場が，一時的に不規則変化を起こす現象。地球表面の各地で

ほとんど同時に起こる。太陽表面の一部に爆発などがあると，帯電粒子が飛んできて地球の近くに達することによって起こるとされている。春分・秋分のころに最も多く，年平均の変化は太陽黒点の数に比例して増減する。磁気嵐に伴ってデリンジャー現象*が生じ，オーロラとも密接な関係がある。

しきい【敷居】和風造作材の一。戸・障子・襖(ふすま)・窓などの下部にすえられた横木で，これに溝(みぞ)を掘り，上部の鴨居*(かもい)とともに建具のレールや下わくの用をする。使用する場所によって敷居・一筋敷居(雨戸用)，特殊な場合として差し敷居・畳寄せなどがある。材料としては摩耗するのでかたいサクラ・マツ・ヒノキ・ツガなどが用いられる。

しきいしじゅうきょあと【敷石住居跡】⇨住居址(し)

しぎうなぎ 硬骨魚類・シギウナギ科。体は側扁(そくへん)し，きわめて細長く，尾部は糸状に伸びる。両顎(りょうがく)が著しく長く，しかも上顎は上方へ下顎は下方へそれぞれ湾曲するので，特異な形態となる。体正中線の背面・腹面のほぼ全域にひれがつく。背側は淡かっ色で，腹側には黒色素胞が散在する。全長約1.5mに達し，大西洋・太平洋・インド洋の深海に分布する。

じきかいろ【磁気回路】磁束線(磁気誘導Bの力線)のつくる回路。磁性体*の中のBの分布するようすが，導体の中の電流*の分布とまったく同様なので，磁束*の管に沿って一周するドーナツ状の管路をこのように名づけて，電気回路*と同様に扱う。

磁気回路の磁力線*に沿って一周する磁界の強さHの積分値は，磁気回路に巻きついているコイルの全電流(n巻きコイルI〔A〕が流れているとき，nI〔アンペア回路〕)に等しい(→磁場)ことから，これを電気回路の起電力に対応して起磁力(m.m.f.と略称)と名づける。また，磁気回路の断面を通る全磁束の数ϕ(ウエーバ)を電気回路の電流に対応させることにより，磁気抵抗(リラクタンスともいう)Rを$R=V_m/\phi$(アンペア回数/ウエーバ)で定義する。ただし，V_m(アンペア回数)は起磁力。これが磁気回路のオームの法則*である。透磁率*μの磁性体で断面積A，長さlの磁気回路をつくると，$R=l/\mu A$(アンペア回数/ウエーバ)。実際には，磁気回路は鉄心でつくられるが，その中に空気のギャップ部分がはさまれることが多い。ギャップ部分の長さl_0が小さいと，磁束はそこでも断面積A内に集まっているものと考えられるから，全磁気抵抗Rは，空気の透磁率をμ_0として$R=l/\mu A+l_0/\mu_0 A$となる。普通は$\mu\gg\mu_0$なので，$l\gg l_0$でも$l/\mu\ll l_0/\mu_0$が成立し，空気のギャップの磁気抵抗が全磁気抵抗の大部分を占めることになる。〔堀内和夫〕

しきかく【色覚】可視光線*の波長に応じて起こる感覚。すなわち，色を感ずる目



磁気コンパス

の能力をいう。色覚は視細胞*のうちの錐状体(すいじょうたい)(網膜の最外層にある円錐細胞の外端に備わる円錐状の突起)の働きによるもので，次の三つの要素に分けることができる。①色調：波長の差異によって生ずるもので，おもなものは波長の長い順から赤・橙色(だいだいいろ)・黄色・緑色・青色・藍色(あいいろ)・菫色(すみれいろ)である。②明度：各色彩の自覚的な明るさをいう。昼間は黄色が最も明るく見え，スペクトル*の左右へ移るにしたがってしだいに明度が下がっていくが，夕方にはそれがずれて，緑が最も明るく見える(プルキニエ現象)。③飽和度：単純光線(ある一定の波長のみの光線)に白が混ざると白っぽく，黒が混ざると黒っぽく見えるが，このような色調の純粋度をいう。なお，色覚の異常には色盲*と色弱がある。〔氏原 弘〕

しききん【敷金】不動産の賃貸借，とりわけ家屋の賃貸借において，賃借人が賃料の支払いその他賃貸借契約上の債務を保証することを目的として賃貸人に支払う金銭をいう。したがって，賃貸借契約終了後に家賃の延滞，家屋の毀損(きそん)による損害賠償その他の債務がなければ敷金の返還請求ができ，債務が敷金の全額に達していなければ，残額の返還請求が認められる。家主は賃貸借契約期間中に，賃借人が賃料の支払いを怠ったりした場合などは敷金をこれに充当することはできるが，その義務はないとされる。したがって延滞賃料の支払請求は，敷金とは無関係にできる。なお，家主が変更した場合の敷金は，原則として新家主に引き継がれる。〔黒木三郎〕

しきけ【式家】藤原四家の一(→藤原氏)。不比等*(ふひと)の三男宇合*(うまかい)を祖とし，宇合が参議・式部卿(しきぶきょう)であったのでこうよばれる。その子広嗣(ひろつぐ)は740年(天平12)大宰府(だざいふ)で挙兵して刑せられたが，ほかの良継(よしつぐ)・清成・田麻呂(たまろ)・百川*(ももかわ)の兄弟は奈良末期から平安初期にかけて政界に活躍した。清成の子種継は長岡遷都に尽力中暗殺され，さらにその子仲成・薬子兄弟が薬子の変*を起こしてからは政治的に不振となり，その門流からは佐世(すけよ)・明衡(あきひら)らの学者がでたにすぎない。〔高崎徳次〕

しきけんはつどう【指揮権発動】法務大臣は検察官*の職務に関し検察官を一般に指揮監督するのであるが，個々の事件の取り調べまたは処分については，検事総長のみを指揮することができる(検察庁法14条)。この権限の行使を指揮権発動とよぶ。1954年(昭和29)の造船疑獄事件において当時の法務大臣犬養健(いぬかいたけし)が発動したことは有名。すなわち同年4月，船主協会・造船業者・商船会社と政界との間の贈収賄(ぞうしゅうわい)を巡る検察庁の捜査が保守政党の中心に及び，自由党幹事長佐藤栄作*の逮捕請求に至ったとき，犬養法相は検事総長に対して逮捕を延期するよう指揮権を発動し，事実上捜査打ち切りとなった。〔寺尾方孝〕

しぎけんぽう【私擬憲法】明治初年の自由民権運動*の中で，民権主義者たちが国会開設・憲法制定の要求に立って起草した憲法草案。〈ひそかに憲法に擬す〉というほどの意味であろう。私考憲法・私草憲法ともよばれている。1880年(明治13)から翌年の自由民権運動頂上期にかけて書かれ，今日まで40近い草案が発見されている。

じきコンパス【磁気コンパス】磁石が地磁気の方向をさすことを利用して方位を知る器具。船舶ではこれによって必要な針路に船を向け，また沿岸の物標や天体の方位を測定するのに用いて，昔から航海計器の中では最も重要なものである。磁気コンパスは，中国の北宋(ほくそう)のころ(1000年ごろ)磁針がつくられて航海用として用いられたのが起こりだといわれている。文献によれば13世紀ごろは，磁針を糸でつるしたり，わらに通して水を入れた容器に浮かべて北を知る方法が用いられていたという。

磁気コンパスには構成上2種類ある。コンパスカードを入れてある半球形のボールの中に液体(アルコール40%と蒸留水60%の混合液)を満たしてあるものを液体コンパスといい，液体を用いないものを乾式コンパスという。現在では後者はほとんど用いられていない。コンパスカードの目盛り方には3種類あって，一つは円周を360°に分画する度数式分画法であり，もう一つは東西南北を基点としてその中間点をとり，またそれを2分するというぐあいに分画して円周を32点に分け，さらに各点を4分して全体を128分画する点式分画法である。度数式分画法では，さらに北と南を基準として各象限ごとに北40°東とか，南45°西とかいうようによぶ方式と360°式とに分かれる。コンパスはコンパスボールを架台に載せて使用するが，船体が鉄製であるために生ずる誤差(自差)を修正するための装置が設けられている。➔羅針儀(らしんぎ)〔飯島幸人〕

しきさ【色差】⇨色

しきさいえいが【色彩映画】色彩をもった映画。天然色映画ともいう。ただし，

技術的観点から正確にいえば，この両者は同義でなく，色彩映画は彩色映画と天然色映画の総称である。彩色映画は，撮影された黒白映画(モノクローム-フィルム，単色映画)に着色ないし彩色したもので,彩色の方法には染色法と調色法がある。染色法は，黒白映画のポジの画像を手塗りや紙型を使って着色するもので，1894年エジソン*によって公開された《胡蝶(こちょう)の舞い》がその代表的作品である。調色法は，ポジの銀像をさまざまな金属化合物に置き換えることによって彩色する方法で，1922年アメリカのハンバーガーによって発明された染料調色法で色彩が一段と豊かになり，これ以後彩色映画の主役は染色法から調色法へと完全に移行した。しかし，彩色映画は，自然の色彩をフィルム自体の発色により再現する天然色映画(カラー-フィルム)の発達によって，天然色映画の仕上げ上での単なる一技法へと追いやられ，色彩映画といえば天然色映画をさすほどにまでなった。この天然色映画は，技術上，加色法と減色法に大別される。加色法は，自然の色彩はすべて赤・青・黄の原色に分解できるという考えから，自然光を3原色に分解し撮影したものを，あとで再び重ね合わせて自然色を再現しようとするものであった。しかし，この方法は，分解撮影・映写などにたいへん複雑な手続きを必要とするため，1930年代以降はほとんど減色法の補助的な形でしか用いられなくなった。減色法は，色彩に対する考え方が加色法の反対で，たとえばある花が赤いのは赤い色がそこにあるからではなく，光線のうち赤以外の光線がすべて吸収されてしまうからだと考える。したがって減色法は，反射した色を除いた残りの色彩を用いて目的の色彩を得ようとするものである。1915年アメリカのコダックが開発した旧コダクロームは，減色法の最初であった。その後1933年にマゼンタ・シアン・黄の3色に分解する方法が考案され，減色法による色彩再現力は著しく改良され，他をしのぐことになった。1935年アメリカのイーストマン-コダック社が開発したコダクローム，1940年ドイツのアグファ社が開発したアグファカラーなどは，減色法によるカラー-フィルムの代表的なものであり，以来今日に至るまで，色彩映画の中心は減色法天然色映画で占められている。映画作品としては，1934年の《ラークカラチャ》や1935年の《虚栄の市》が最初の本格的な色彩映画であり，1935年の《風と共に去りぬ》は色彩映画の魅力を広く世界中に知らしめた記念的作品である。これらアメリカ映画に対して，日本では1951年(昭和26)にフジカラーによって最初の色彩映画《カルメン故郷に帰る》がつくられた。
〔波多野哲郎〕

しきさいちょうせつ 【色彩調節】 生活環境を構成している諸物体を計画的に彩色することによって，保安・衛生・能率などの効果をあげ，より多くの情報を短時間のうちに能率的に察知させ，人間のもつ本来的な機能を十分に発揮させようとする彩色の方法をいう。色彩設計・色彩計画・カラーコンディショニング・カラーダイナミックス・カラーエンジニアリングなどは，いずれも色彩調節の意である。

本来，人間は色彩に対して特殊な心理的反応を示す。すなわち，赤系統および黄系統の色に接すると暖い感じをもち，その補色である青系統・緑系統の色に接すると寒寒とした感じを受ける。このような暖色・寒色のほかに，進出・後退色，拡大・縮小色，興奮・沈静色など，色に対する心理的反応があり，これらの色の諸条件を組み合わせると，目だつ色，目だたない色，季節感に適した色，適さない色，産業能率を上昇させる色，事故を少なくする色などが考えられる。また，2色以上を配色したときに，色彩の調和感によって快・不快の感情が伴う。

以上のような諸条件を総合的に配慮し，人間を取り巻く諸物体を彩色するのが色彩調節である。色彩調節の対象となるものは建造物・機械器具・調度品・包装紙・広告・衣服など多種多様である。〔吉田俊郎〕

じきざいりょう 【磁気材料】 磁気*的な性質をもち，それを利用するために用いられる材料。主として，電子機器*の記憶装置あるいは制御用の部品として用いられる。一般に，強磁性体金属，あるいはそれらの合金や化合物を用いたものが多く，鉄・ニッケル・コバルトやニッケル合金・フェライトなどがある。

じきさん 【直参】 直接に主人に仕える家来の意で，江戸時代では将軍直属の武士のこと。将軍に謁見(えっけん)する資格のある者(御目見*(おめみえ)以上)を旗本(はたもと)，資格のない者(御目見以下)を御家人といい，一万石以下の知行，もしくは蔵米を給与された。18世紀の初め(享保ごろ)には旗本5,200余，御家人17,300余名を数えた。

しぎさんえんぎ 【信貴山縁起】 信貴山に毘沙門天(びしゃもんてん)を祭った高僧命蓮(みょうれん)に関する物語を説いた絵巻物。〈飛倉(とびくら)〉〈延喜加持〉〈尼公(あまぎみ)〉の3巻からなり,命蓮の不思議な霊力,妹との再会などの説話がおもな内容である。《源氏物語絵巻》と対照的で，一つの画面が長く，物語の展開が流動的で，絵巻物の特性の最もよく現われた作品である。上流階級から庶民に至る世界が描かれ，人物描写も動き・個性・表情が豊かで写実的である。暢達(ちょうたつ)な筆による描線を主体とし，彩色はむしろ従で，〈作り絵*〉に対する大和絵(やまとえ)のもう一つの典型をなす。平安時代の作で，筆者は覚猷(かくゆう)(鳥羽(とば)僧正)の説もあるが確証はない。朝護孫子寺(信貴山寺)蔵。国宝。〔村重　寧〕

しぎさんじ 【信貴山寺】 奈良県生駒(いこま)郡平群(へぐり)村信貴畑にある信貴山真言宗の本山。信貴山寺は通称で，正しくは朝護国孫子寺。聖徳(しょうとく)太子の創建といわれ，〈信貴の毘沙門(びしゃもん)〉で知られるように本尊は毘沙門天。現在の諸堂は1602年(慶長7)豊臣秀頼(とよとみひでより)の造営。なお，寺宝に《信貴山縁起*》(国宝)がある。

しきし 【色紙】 書または絵を書く特定の料紙。屏風(びょうぶ)・障子の色紙形が独立したものである。漢字または絵を書く大色紙は縦27.3cm，横24.2cmで，近年はかなを書くにも用いる。かなを書く色紙は縦19.4cm，横17cm，小色紙は縦18.2cm，横16cm，それより小さいのは豆色紙という。色紙に一定の書式はないが，かなはたいてい散らし書きにする。色紙形は，平安時代の初めに障壁画の上方に色のある別紙をはり詩歌・賛文を書いたもの。〔春名好重〕

しきじうんどう 【識字運動】 中国の成人大衆を対象とする基礎教育運動。漢字による読み書き学習を識字という。外国の支配と経済開発の立ち遅れで，膨大な人口の大部分が文盲のままに置かれた中国の近代化のために,知識人は早くから国語・国字の改革に努力していた。大衆を文盲から解放する識字教育を社会教育運動として推進したのは，1921～1923年，北京(ペキン)など主要都市での平民教育運動(指導者は，晏陽初*(あんようしょ)・陶行知*(とうこうち))がはじめである。1930年代には，文盲一掃の方法として，ローマ字方式が実験されたことがあり，共産党も延安時代にこれを採用した時期があるが，農民はローマ字になじまず，結局，漢字による識字運動に転換した。中華人民共和国になってから，人民解放軍部隊を中心に，注音符号(漢字のルビにあたる)を利用して,集中的に漢字を習得させる〈速成識字法〉が奨励された。全国の政治的統一のもとで，一方で共通語の浸透，一方で漢字の簡略化(簡体字という)が進み，労働者・農民の業務余暇学習が組織的に実施される過程で，年を追って文盲は減少している。中国の国字改革は長期的には，表意文字である漢字の標音化をめざすものであるが，当面は漢字による文盲一掃，教育普及，すなわち識字運動の任務は継続するわけである。

義務教育の普及を誇る日本でも，未解放部落で差別されてきた婦人たちが，しだいに学習の権利に目ざめ，グループをつくって，自分の名まえを書くことから勉強をはじめ，これをみずから識字運動とよんでいる事実がある。〔斎藤秋男〕

しきしないしんのう 【式子内親王】 (1151？～1201) 鎌倉初期の女流歌人。〈しょくし〉ともいう。別号は大炊御門斎院(おおいのみかどさいいん)・萱斎院(かやのさいいん)など，法号は承如法。後白河(ごしらかわ)法皇の皇女。10歳ごろから11年間加茂の斎院として奉仕，1197年(建久8)出家。作品には自然や人生への深

い観照がにじみ，一種哀切の響きがあって，《後鳥羽院御口伝(ごとばいんおんくでん)》には〈斎院はもみもみとある様によまれき〉と評された。家集に《式子内親王集》がある。〔佐藤恒雄〕

しきじゃく【色弱】⇨色盲

しき・しゅうき【始期・終期】 始期・終期は，ともに期限である。期限とは，法律行為の効力の発生・消滅，または債務の履行を，将来到来することの確実な事実の発生まで延ばす場合におけるその事実をいう。たとえば，来年の4月1日に代金を支払う，という場合における来年の4月1日がそれである。したがって始期とは，その到来することが確実な期限によって法律行為の効力が発生し，また法律行為から生じた債務の履行ができるようになる期限をいう。効力の発生時期については，民法は規定していないが，理論上は認められている。また，終期とは，法律行為の効力が消滅する期限をいう。たとえば，自分の死ぬまで毎月5,000円を贈与するという場合がそれである。〔黒木三郎〕

じきじょうらん【磁気擾乱】 太陽面での爆発に伴って，地球磁場の強さが著しく増減する現象。太陽面から吹き出した荷電粒子が，地球磁気圏の磁気圧を変えるために起こると考えられている。太陽面の爆発から約40時間後，地球上の全地点でほぼ同時に始まり，10～20時間程度続く。春分および秋分のころに多く起こり，また27日(太陽の自転周期)ならびに11年(黒点数の変動周期)の周期性が認められる。下部電離層(D層)内の電子密度を異常に増加させるので，無線通信を妨害する。〔堀福太郎〕

ジギスムント［Sigismund］(1368～1437) 神聖ローマ皇帝。在位1411～1437年。ハンガリー王・ボヘミア王も兼ねた。父王カール4世*の遺策を継いで東方経営に力を注いだが，1396年オスマン-トルコ征討を企てて大敗した。1414年教会分裂の解決をはかってコンスタンツ公会議*を開いたが，この会議でフス*が火刑になったことからフス戦争が起こった。

しきそ【色素】 広く有色の物質をいう。植物・動物・鉱物など天然に存在する天然色素(葉緑素・カロチン・血色素など)と人工的に製造する合成色素がある。用途や性質から染料*と顔料*とに大別され，前者は水(まれに有機溶剤)に可溶で物を染める性質があり，後者は水や油に不溶である。それぞれに無機物質と有機物質とがあるが，後者が圧倒的に多く，前者は現在では顔料の一部に用いられるにすぎない。➔染料 ➔顔料〔稲田正作〕

しきそう【色相】⇨色

じきそうきょくし【磁気双極子】 小さい磁石*のこと。1対の磁極*が微小距離を隔てて存在するもの。磁気ダイポールともいう。磁針などもその例である。磁石や磁化*された物体をどのように細かく分割しても，必ず磁気双極子が現われるので，磁気の源泉は磁気双極子であると考えることができる。磁気双極子の強さは，(磁気モーメント*)＝(正極の強さ)×(磁極間の距離)で表わす。

また，小さい円周上を流れる電流が発生する磁界*は，磁気双極子がつくる磁界と同じである。このことから，物質内に生ずる磁気双極子とは，物質内電子の円運動の現われであることがわかる。〔堀内和夫〕

じきぞうふくき【磁気増幅器】 電流の磁気作用を利用した増幅器*。制御用機器に多く用いられる。その原理は次のとおりである。まず，ドーナツ状に閉じている鉄心*をもったリアクトル(〔純〕インダクタンス*を得るためにつくられた装置)のコイルに直列に(純)抵抗*R(Ω)を挿入(そうにゅう)し，これに低周波の交流電圧v(V)を加えたときに流れる電流をi(A)とすると，鉄心(の磁束)が飽和していなければ，リアクトルのインダクタンスL(H〔ヘンリー〕)が大きい値をとるため，コイルのリアクタンス*がきわめて大きく，電流i(A)が流れにくいので抵抗での電圧降下Ri(V)は小さい。次にリアクトルのコイルに新しく2次巻き線を加えて直流励磁(コイルに直流を流して鉄心を磁化*すること)を施すと，交流電圧vによってコイルに生ずる磁束と直流励磁による磁束とが同じ向きに発生し重ね合わされるときには，鉄心が飽和してくるのでコイルのインダクタンスは小さくなり，まえとは逆に $L\dfrac{di}{dt}$ となって，コイルのリアクタンスがきわめて小さくなるので，電流iは大きな値をとり，結局Riも大きくなる。このように，入力として2次巻き線に直流の微小変化を与えて，鉄心を不飽和の状態から飽和状態に変えてやることができれば，入力の小さな変化が，出力として大きな交流電圧Ri(V)の変化に変換されて現われる。したがって，高周波電流を整流して直流になおし，これを直流励磁入力とすることによって，高周波増幅が可能となる。〔堀内和夫〕

しぎぞうむし【鷸象鼻虫】 こん虫類・鞘翅(しょうし)目・ゾウムシ科・シギゾウムシ属の総称。体は菱形(ひしがた)に近く，きわめて細長い口吻(こうふん)をもつ。口吻は，短い種でも体長の約2分の1に達するが，ツバキシギゾウムシのように体長よりも長いものもある。幼虫は，種々の木の実に侵入して内部を食害する。全世界から多くの種類が知られており，日本からも15種内外が知られ，クリの実につくクリシギゾウムシは，害虫として特に有名である。ほかに，コナラシギゾウムシ・エゴシギゾウムシなどが代表的な種類である。

しきそくぜくう・くうそくぜしき【色即是空・空即是色】 仏教用語。〈色はすなわちこれ空，空はすなわちこれ色なり〉と読む。大乗経典の《般若経(はんにゃきょう)》の中心思想で，同時に大乗仏教を貫く基本的な思想でもある。《般若経》のエッセンスを集約した小経典《般若心経》に，この一節がある。〈色即是空〉は，五蘊*(ごうん)の第一である色(物質的存在)は互いに関係し合って変化しており，現象としては存在しても，本来的には実体はない，すなわち空なりとするものである。これは否定をくり返していく方向であるが，〈空即是色〉は，否定が究極に達して，すべては実体がない(空)とされた瞬間，ひるがえって，そのまま現実の全存在(色)が真に肯定され，価値を発揮してくるとするのである。〔大南龍昇〕

しきそさいぼう【色素細胞】 色素を含む細胞で，体色のもととなる。色素はとけて存在することもあるが，多くは顆粒(かりゅう)となって色素細胞中に含まれる。組織中の一定位置にあり，大形で樹枝状の突起があるものを特に色素胞といって区別することもあるが，広義にはこれも含む。色素胞では色素の顆粒が内分泌的または神経的，ときにはその両者の支配によって，収縮や拡張をするので体色変化を示す。含まれる色素によって，メラニンを含む黒色色素胞，カロチノイド系を含む黄色色素胞，グアニンを含む白色色素胞に分けられる。頭足類の色素細胞は特別な構造をもち，多数の色素細胞が集まり，中心部とそこから放射状に出る部分からできている。この放射状部が周囲の筋肉の活動で収縮・拡張して体色の変化を行なう。〔蒲原春一〕

しきそたい【色素体】 プラスチドともいい，植物細胞中の小器官。無色のものを白色体，緑色のものを葉緑体，他の有色のものを有色体という。白色体は茎や地下茎，斑(ふ)入りの細胞などにみられる。有色体にはカロチノイド*などの色素が含まれ，葉緑体から葉緑素が脱落したり，白色体から生じたりする。葉緑体は葉緑素を含み，光合成によってデンプンを合成する。

しきそたんぱくしつ【色素蛋白質】 特定の色素を含むタンパク質で，複合タンパク質の一。主として生体中で酸化還元反応を触媒する。色調および触媒能の特異性は，それぞれの色素によって異なる。①ヘムタンパク質：鉄を含むポルフィリン核をもち，赤色をおびる。ヘモグロビン*・ミオグロビン*・チトクローム*など。②金属イオンとタンパク質との錯体。ⓐ銅タンパク質：ヘモシアニン(甲殻(こうかく)類・軟体動物の呼吸色素)・ヘモクプレイン(ウマ・ヒツジの血液中にある)など。ⓑ鉄タンパク質：フェリチン(肝臓などで鉄を貯蔵する)・フェレドキシン(光合成系)など。③カロチンを含むタンパク質：甲殻色素タンパク質(甲殻類の体色素で，アスタキサンチンを含む)・視紅(ロドプシンともいわれ，網膜に含まれる感光性の物質。ビタミンAとタンパク質との複合体)など。④フラビンタンパク質：一般に黄色をおび，フラビ

ンヌクレオチドとタンパク質との複合体で，酸化還元反応を触媒する酵素。黄色酵素・チトクロム還元酵素・キサンチン酸化酵素・フマル酸還元酵素など。〔原野友之〕

ジギタリス［*Digitalis*］双子葉植物・ゴマノハグサ科。キツネノテブクロともいう。ヨーロッパ原産で，観賞用および薬用として栽培される多年草。茎は根ぎわから数本直立し，高さは1mに達する。根ぎわからでる葉は卵形で大きいが，茎につく葉は小形である。夏，茎の上部に紅紫色あるいは白色の鐘状の花を穂のようにつける。葉を乾燥させたものは生薬のジギタリスで，ジギトキシンやその配糖体などを含み，強心利尿薬として古くから使われているが，劇薬に指定されており，しろうとの使用は危険である。なお，ジギタリス属にはこのほか，やはり薬用植物として栽培されるケジギタリスやキバナジギタリス・オオキバナジギタリスなどがある。〔小清水義隆〕

じきたんこう【磁気探鉱】物理探鉱法の一種。ある地域の磁場の強さを測定して局部的な異常の分布を知り，それによって地質状態，ことに磁性鉱物の分布などを探査する。

しきちょう【色調】⇨色覚

しきていさんば【式亭三馬】(1776～1822) 江戸後期の洒落本(しゃれぼん)・黄表紙・合巻・滑稽本(こっけいぼん)の作者。本名菊地久徳。通称西宮太助。別号に本町庵(ほんちょうあん)・四季山人など。江戸浅草に生まれ，古本屋・化粧品屋などを営み，化粧水〈江戸の水〉を売り出した。黄表紙《稗史億説(くさぞうしこじつけ)年代記》は草双紙の変遷をしくんだ趣向で注目され，《雷太郎強悪物語(いかずちたろうごうあくものがたり)》は合巻形式創始の作品として知られる。特に滑稽本《浮世風呂(うきよぶろ)》《浮世床》の2作は，銭湯と床屋を舞台に，そこに出入りする人物をリアルに描写し，独特のユーモアと風刺を表現した。家業にも熱心で，作品中に自家製品の広告を出すなど，江戸後期の典型的職業作家である。〔小池正胤〕

じきディスク【磁気ディスク】⇨コンピューター

じきテープ【磁気テープ】⇨録音 ⇨コンピューター

しきでん【職田】律令(りつりょう)制で官職に応じて官人に支給された田地。太政(だじょう)大臣・左右大臣・大納言(内官)に40以下～20町，大宰帥(だざいのそち)以下地方郡司(外官)に至るまで10以下～1町を与えた。大宝令(→大宝律令)では前者を職田，後者を公廨田(くがいでん)とし，養老令(→養老律令)ではいずれも職分田としたが，のちには再び職分田と公廨田の別を立てた。職田は原則として不輸租であり，就職すれば支給し，死没すれば収公するが，内官は正当な理由でやめたあとにも，もとの半ばを支給されていた。〔黛　弘道〕

じきどう【食堂】寺院において衆僧が





ジギタリス　(上)ジギタリス　(下)ケジギタリス



式亭三馬

食事をする建物。規模は寺の大きさ，つまり僧尼の数によって異なるが，おおむね講堂の規模に対応することが知られる。位置はいわゆる三面僧坊の東北，すなわち寺の境内の東北隅(とうほくぐう)にあり，僧尼の起臥(きが)する僧房との連絡の便が考慮されている。内部は石か塼(せん)(かわら)でふき，床をおいて座した。正面に文殊(もんじゅ)など聖僧の像を置き，まずこれに食事を供えてから食事を始めた。法隆寺・園城(おんじょう)寺などに古い遺構を伝える。〔黛　弘道〕

ジギトキシン［digitoxin］ゴマノハグサ科の多年草ジギタリスに含まれるステロイド系配糖体の一種。白色～淡黄色の微細結晶で味はきわめて苦い。酸で加水分解することによってジギトキシゲニンと3分子のジギトキソースを生成する。薬効としては心筋収縮力の増加，搏動(はくどう)数の減少，心機能不全に伴う血圧の改善，利尿作用などがあり，鬱血(うっけつ)性心機能不全症，特に高血圧性や動脈硬化性のものに使用される。常用量は1日0.1～0.6mg。副作用は悪心(おしん)・嘔吐(おうと)などがある。毒薬。〔中館正弘〕

しきどず【色度図】⇨色

じきドラム【磁気ドラム】⇨コンピューター

しきないしゃ【式内社】《延喜式》(→延喜格式(きゃくしき))の神名帳に登録された官社。毎年2月の祈年祭に神祇官(じんぎかん)あるいは国司の奉幣を受ける神社で，全国で3,132座，2,861所あった。式内社には神祇官に諸社の祝(はふり)が参集し，直接幣帛(へいはく)を受けて持ち帰る官幣社と，神祇官に代わって国司が祝に班幣する国幣社の別があり，いずれにも案上(机の上)の幣を受ける大社と案下の幣を受ける小社の別があった。官幣大社は祈年祭のほか，月次(つきなみ)祭・新嘗(にいなめ)祭の幣にあずかり，中でも相嘗祭の幣にあずかるものは特に重んじられた。また官幣・国幣大社で名神祭にあずかるものもあり，その他さまざまな区別があった。なお，式に載せぬものを式外社という。〔黛　弘道〕

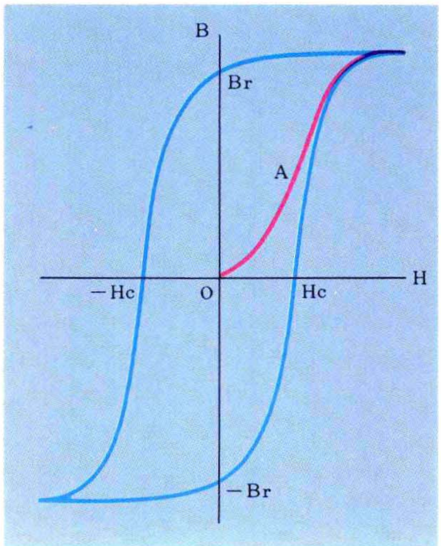
しきねじま【式根島】伊豆(いず)諸島，新(にい)島の南西2.5kmにあり，行政上も新島本村に属する。面積3.8km²，人口約800。低平な台地性の島で，もとは新島と地続きであったが，1703年(元禄16)の大地震で分離したといわれる。もとは新島への薪炭材の供給地であったが，1888年(明治21)から住民が定住するようになった。島の北岸に野伏(のぶし)港があり，沖合いに東京～大島～新島～神津(こうづ)島～下田の定期船が寄港する。住民の生活は，ムロアジ・タカベ・サバ・トビウオなどの漁業にたより，またわずかな耕地に麦・サツマイモをつくり，ブタを飼っている。飲料水はまったく天水にたよっているが，南東部にはその泉効から内科湯とよばれる地奈多(じなた)，外科湯とよばれる足付の2温泉がある。他の伊豆諸島の島々とともに，富士箱根伊豆国立公園の区域内に指定され，近年は観光客が多い。〔浅井得一〕

しきねんさい【式年祭】式は〈定め〉の意で，定められた年に常例によって行なう祭りをさす。個人の霊祭(みたままつり)について式年祭という場合は，死亡日から3年・5年・10年・20年・30年・40年・50年・100年め，および以後100年めごとに行なうのが普通である。また，各神社においても式年祭を行なうことがあり，その場合の年次はさまざまである。たとえば鹿島(かしま)神宮では13年めごとの9月1日～3日に御船祭がある。式年にあたり新殿を造営する場合には，特に式年遷宮祭という。有名なのは伊勢(いせ)神宮の式年遷宮祭で，20年ごとに新殿をつくり，御神体を移す。〔土岐昌訓〕

しきのながめ【四季の眺】地歌・箏曲

(そうきょく)の曲名。京都の松浦検校(けんぎょう)(?〜1822)が三味線(しゃみせん)伴奏の曲として作曲した。《宇治巡り》《深夜の月》《四つの民》とともに〈松浦の四つ物〉の一つで，京流の手事*物の大成期の作品である。のちに八重崎検*校が箏の手をつけた。楽曲構成は前唄(まえうた)〜手事〜後唄(あとうた)の3部形式である。

じきヒステリシス【磁気ヒステリシス】強磁性*体の磁気誘*導Bと外部磁界H(→磁場)の間の履歴現象(→ヒステリシス)。すなわち，BとHとの関係を表わす磁化曲線に現われるヒステリシスである。図は磁化していない強磁性体の磁化曲線を示す。磁*化していない強磁性体に磁*界をかけない状態がO点である。ここで外部磁界Hを増すと，磁気誘導BはOAの曲線を描いて増加し，ついには飽和する。この状態を磁気飽和という。飽和した状態でしだいにHを減らすと，今度はもとの道を通らずに，点B_rへ向かってBが減少する。すなわち一度磁化した強磁性体は，外部磁界をなくしても磁気誘導が0にならないで，Brなる残留磁*化をもつ。この結果，磁*石ができる。Bをもっと減らして0にまでするためには，まえとは逆の方向に磁界をかけることが必要で，$B=0$を与える$-H_c$を抗磁力とよぶ。さらに，Hを逆方向に増すと，まえとは逆方向に強磁性体が磁化されて，いまと同様の曲線が描かれる。このように，磁化曲線に可逆性がなく，磁気ヒステリシスを起こすような磁性体のことを，特に硬質磁性体といい，ヒステリシスの現われる磁化曲線を磁気ヒステリシス曲線とよぶ。〔堀内和夫〕



磁気ヒステリシス曲線


シ　キ　ミ

じきひずみ【磁気歪】強磁性体*を磁化*すると，その形と大きさが変化し，また逆に変形させると磁化状態が変わる現象。磁歪(じわい)ともいう。このときのひずみは，一般に小さく，長さの変化として10^{-3}〜10^{-4}%程度であるが，その力はかなり大きい。磁気ひずみによって電磁気的振動を機械的振動に変えることができるので，超音波発生器などに利用される。

しきふ【敷布】シーツ。敷きぶとんをおおう布。標準はふとん*より15cm四方広い幅130cm，たけ230cmだが，ベッド用の大きなものもある。吸湿性に富み，洗たく・摩擦に強い材質として，純綿のます目織り，その他地紋織りやタオル地が好適とされるが，麻・綿・化合繊(ビニロン・レーヨンなど)の交織もある。敷布が病院以外の一般家庭で使用されるようになったのは，衛生思想が発達した明治以後のことである。

じきふ【食封】律令(りつりょう)制下，高位高官の者に与える俸禄(ほうろく)の一種。一定数の課戸(税負担者である成年男子〔課丁〕のいる戸)を指定し，そこから出される租の半分と庸調(→租・庸・調)全部を政府が仲介して封主に与える制度。指定された課戸を封戸(ふこ)という。食封には官職に応じて与えられる職封(しきふう)(令では大納言以上)と，位階に応じて与えられる位封(令では三位以上)，功に対して与えられる功封，院*や皇族(→皇室)に与えられる院宮封や，特別の勅による別勅封，社寺に対する神封・寺封などの種類があった。律令制の衰退とともに封戸は封主すなわち上級貴族の私領と化し，さらにはその荘園*(しょうえん)の一部となることさえあって，食封制はしだいに消滅した。〔黛　弘道〕

しきふく【式服】⇨礼服

しきぶしょう【式部省】令*制(りょうせい)における官司で八省の一。中央にあって，文官の考課・選叙など人事一般をつかさどり，合わせて大学を管理した。被管官庁に大学・散位の2寮がある。唐名は李部(りぶ)または吏部。天智(てんち)天皇時代の法官の後身で758年(天平宝字2)藤原仲麻呂(なかまろ)により文部省と改名されたが，彼の没落とともに復旧した。平安時代には官職の世襲化が進み，卿(かみ)は親王(李部王)，輔(すけ)は日野・菅原(すがわら)・大江諸家が独占するようになり，しだいに有名無実となった。〔黛　弘道〕

しきぶんでん【職分田】⇨職田

じきへいき【磁気兵器】磁気機雷・磁気魚雷および磁気探知機などの総称。磁気機雷・磁気魚雷はともに敵艦底の近くで磁気起爆により爆発させるものである。磁気機雷の実用は，1939年ドイツがイギリス本国沿岸に敷設したのが最初である。磁気機雷・磁気魚雷は，対抗防御法の発達にもかかわらず，第2次世界大戦を通じて大威力を発揮した。磁気探知機は，第2次世界大戦中に，日本およびアメリカによって開発された対潜捜索兵器の一種で，水面下に磁性体である潜水艦がいると，その上空を飛ぶ航空機上で磁場が急速に変化することを利用する。現代の対潜機は，すべてこれ(MAD, magnetic airborne detectionの略称)を装備している。磁気探知機は，このほか地雷の発見などにも用いられている。〔藤井冬木〕

しきべついき【識別閾】⇨閾

じきほうわ【磁気飽和】⇨磁気ヒステリシス

しきみ【樒】双子葉植物・モクレン科。暖地に自生する常緑高木で，高さ5〜7mに達する。しばしば寺や墓地に植えられる。枝や葉を切ると一種の香気がある。葉は互生し，厚くなめらかで長楕円(ちょうだえん)形，長さ4〜8cm，幅1.5〜2.5cm。4〜5月，直径2cmほどの黄白色の花を葉腋(ようえき)につける。花弁とがく片はほぼ同形・同大で，12枚前後ある。果実は8〜12個の袋が星形に集まった袋果で，直径2cmあり，秋に熟して縦に裂け，黄かっ色で光沢のある種子をつける。果実はアニサチンを含み有毒である。

しきめい【色名】色を表わす方法の一。個々の色にそれぞれ名まえをつけてよぶ方法で，一般に多く用いられ親しまれている。大別して一般色名と慣用色名に分けられる。一般色名は，〈白，明るい灰色，灰色，暗い灰色，黒〉の無彩色*の5段階と，〈赤，黄赤(橙色(とうしょく))，黄，黄緑，緑，青緑，青，青紫，紫，赤紫〉の有彩色*の10色相名を基本色名にとり，これに〈赤みの，黄みの，……；明るい，暗い，薄い，にぶい，あざやかな，深い，さえた，……〉の特定の修飾語をつけて表わされる。小豆(あずき)色・鶯(うぐいす)色・桃色などは慣用色名で，茜(あかね)・臙脂(えんじ)・萌黄(もえぎ)・浅葱(あさぎ)・納戸(なんど)・群青(ぐんじょう)・鴇(とき)……などの古来の色名から，オリーブ・スカーレット・オレンジ・セピア・ベージュ・カーキ・エメラルドグリーン・セルリアンブルー・チャコールグレー……などの外来色名に及ぶ。商品によっては，流行色名として特別に命名して発表されるものもある。➔色〔中山忠巳〕

しきもう【色盲】先天的な色覚*異常の一。全色盲と部分色盲に大別され，後者はさらに赤緑色盲と青黄色盲に分けられるが，実際には赤緑色盲がほとんどである。全色盲ははなはだまれにしかない疾患でまったく色を感じない。したがって，外界の事物はあたかも黒白写真のように一色に見え，ただ明暗や濃淡を感ずるのみである。これ

を一色型色覚者ともいう。多くの場合，視力は0.1以下の弱視で，明るい所ではまぶしく感じて見にくかったり，眼球振盪(しんとう)のある場合もある。全色盲患者の網膜には，視細胞の中の円錐(えんすい)細胞の機能が欠けて，桿状(かんじょう)体の機能だけが存在すると考えられる。桿状体は明るさを感知する細胞で，その機能は暗順応状態でいちばんよく発揮される。正常人と全色盲者とを暗室に入れて暗順応状態にすると，両者の目の感覚は同じようになることから，全色盲の目は暗順応眼と同じであるといえる。血族結婚によって現われることが多い。

赤緑色盲は赤緑色弱とともに先天性色覚障害の大部分を占め，しばしばみられる疾患である。赤緑色覚が欠けているが，青黄色覚には変わりがなく，外界が青・黄およびそれを混ぜ合わせた色からなっているように見える。健常者に比べて外界の色彩ははなはだ単調で，赤と緑の部分は灰色と区別がつかない。日本では男子の約4～5％を占め，女子は男子の約10分の1である。また，赤緑色盲は伴性遺伝をし，その遺伝子はX染色体にある。女性ではX染色体が二つあるので，二つの染色体がともにその遺伝子をもたぬかぎり色盲は現われないが，男性にはX染色体が一つであるため遺伝子があれば必ず色盲となる。したがって女子には少なく，色盲の遺伝子をもつが正常に見える女子を通じてその男児に遺伝する。なお色弱にも色盲と同じく，全色弱・赤緑色弱・青黄色弱の3種があり，それらはともに，それぞれの色感受性が減退したものである。この色弱と色盲との間には，いろいろの段階があり，両者を区別することが至難であることから，この両者を総称して色覚異常とよんでいる。〔氏原　弘〕

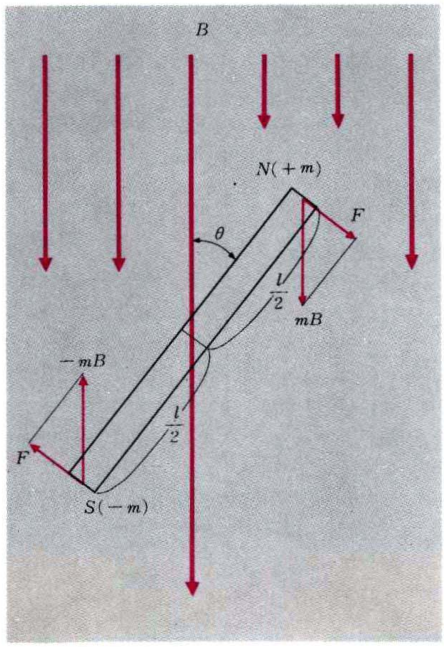
【色盲検査】 代表的なものに色盲検査表と色盲検査鏡がある。色盲検査表は色盲異常(色盲と色弱)を簡単に発見するためのスクリーニングに用いられるもので，世界的に定評のある石原式をはじめ，東京医大式や大熊(おおくま)式などがある。一定の色調・明度をもった色斑(しきはん)を文字や数字の形に配列し，その余地を種々な形・大きさ・色調・明度をもった色斑で埋めたもので，正常者には読めても異常者に読めないものやその逆のものなどを巧みに組み合わせて表にしたものが石原式で，色弱の程度の判定を目的としたものが東京医大式や大熊式である。色盲検査鏡(アノマスコープ)は，色覚異常の程度まで調べるもので，赤色光と緑色光は相互的に明るさの加減ができ，黄色光は単独にできるようになっている。その黄色の色調と同じようになるまで赤色光と緑色光を混ぜ，両者の分量を測定して異常の程度や種類を決める。〔平野修助〕

しきもく【式目】 式条ともいう。式は法式，目は条目で，法律または規準を箇条書きにしたものをいい，おもに中世の法令を集成したものを称した。1232年(貞永1)制定の御成敗(ごせいばい)式目は幕府の根本法となったが，その後の追加法令を式目追加と称した。室町幕府も御成敗式目にならって建武式目を制定した。朝廷では記録所の式目が定められたが，連歌もその貴族化とともに式目を設けるようになり，1372年(文中1・応安5)二条良基(よしもと)は，《応安新式》を編纂(へんさん)した。戦国時代の国法にも式目の名称でよばれているものがみられ，近代初期には廻船(かいせん)式目が定められている。➔分国法　〔高崎徳次〕

しきもくじん【色目人】 中国，元代の西域人。諸色目人の略称。ナイマン・ウイグル・サラセン・タングートなど20余の種族を含む。元朝は支配下の諸種族をモンゴル人・色目人・漢人・南人に4分類し，待遇を異にした。色目人は準支配者とみなされ，政治・経済・特に財政面で活躍した。

じきものかわせ【直物為替】 外国為替銀行と顧客との間，あるいは為替銀行相互の間で外国為替売買契約の成立と同時，あるいはその後2～3日以内に，その代金の受け渡しが実行されるような外国為替をいう。直物為替は，また現物為替とよばれることもある。国際間の決済に際して為替を利用する場合，当事者は，つねに為替相場の変動によって損失をこうむる危険(為替リスク)にさらされているから，このような危険を防ぐために直物為替とともに先物為替が利用されている。〔安井孝治〕

じきモーメント【磁気モーメント】 1組みの磁極の強さと磁極間の距離との積。強さ±mの二つの磁極をもち，長さl(メートル)の磁石が，磁界B(➔磁気誘導)の中に置かれているとする。正負の磁極には，おのおのmB(ニュートン)の大きさの力が働き，磁石は偶力を受ける。この偶力のモーメントは，$F=-mlB\sin\theta$である。磁石によって与えられた量ml(アンペア回数-m^2)は，磁石が単位磁界($B=1$)に置かれたときのモーメントを与える量であることから，磁気モーメントとよばれている。厳密には，磁気モーメントはベクトル量で，その向きは負の極から正の極を向いている。



磁気モーメント

〔堀内和夫〕

しきもりいのすけ【式守伊之助】 ⇨行司

しぎやき【鴫焼き】 焼いたナスに練りみそを塗った料理。ナスの皮をむき，小さいものは縦二つ割り，大きいものは，1.5～2cmの輪切りにし，金ぐしなどでぶつぶつと穴をあけ，ごま油を塗って油のしみたころ金ぐしに刺して両面を柔らかく焼く。これに練りみそを片面のみにつけて少し焦げめをつけ，青ジソを敷いた器に盛る。ケシの実，いりごまを振ってもよい。また，みそ・酒・砂糖・水をよく混ぜて火に掛け，煮たったところへ油で焼いたナスを入れて弱火で煮たものを〈なべ鴫焼き〉という。〔塩川ふみ〕

しきゅう【子宮】 女性生殖器の中軸に位し，小骨盤腔(こう)の中央で膀胱(ぼうこう)と直腸との間にある西洋ナシ形の無対の筋性中腔性臓器。卵管で受精した受精卵を着床させ，これを育てて胎児となし，さらに成熟胎児となれば収縮して分娩(ぶんべん)現象を起こす。大きさは年齢や機能状態によって大きな違いがあるが，成人女子では全長7.0cm，最大幅4.3cm，厚さ2.5cm，壁の厚さ2.0cm。膀胱や直腸の充満度によってその位置が影響されるが，正常位は前傾で，子宮体と子宮頸(けい)との間に軽度の前屈がみられる。子宮底・子宮体および子宮頸の3部に区別される。子宮底は上前部の最も幅の広い部分で，その両側に左右の卵管が開口している。子宮体は子宮底の後方に続いて子宮の中央部を占め，子宮峡部は体の下方に続く短い部分である。子宮頸はその下に続く円柱状部で，その下部に子宮口が開口している。なお，子宮の内腔を子宮腔といい，その形はほぼ子宮の外形に一致している。子宮は下部が膣(ちつ)と結合し，左右の子宮縁から側方に延びて骨盤側壁に至る子宮広間膜および固有卵巣索の二つの結合組織索によって固定されている。子宮壁は粘膜・筋肉・漿膜(しょうまく)の3層からなり，粘膜は子宮内膜ともよばれている。〔藤井和明〕

しきゅうがいにんしん【子宮外妊娠】 受精卵が子宮腔(しきゅうこう)以外の卵管・卵巣や，あるいは腹膜などに着床・発育するもの。子宮外妊娠の大部分は卵管妊娠(94～98％)であり，卵巣や腹膜に妊娠することはまれである。卵管妊娠でも妊娠初期は月経が止まり，乳房がはって黒かっ色に着色し，軽いつわり症状を呈するなど，普通の妊娠

と変わらないことが多い。しかし，妊娠２～３か月ごろまでに，卵管の中に発育していた卵とその付属物とがはがれて腹腔に出たり(卵管流産)，卵管が破れて中にあった卵が腹腔に出たり(卵管破裂)して，妊娠が中絶する。中絶を起こすと急に出血したり，激しい下腹痛が起こる。危険なのは出血で，特に破裂の場合は腹腔内に大量の出血が起こって，血圧が下がり，貧血となる(ショック状態)。このような場合は，輸血・輸液をしないと生命が危険な場合がある。また，すみやかに開腹手術をして外科的に止血しなければならない。〔木川源則〕

しきゅうがん 【子宮癌】 子宮にできる癌。子宮頸部(けいぶ)に発生する子宮頸癌と子宮体に発生する子宮体癌があるが，前者が90～95％を占める。また，子宮癌全体では女性の癌のうち最も多く，約３分の１を占める。

頸癌は統計的には40歳代に最も多く，次いで50歳代の順で，60歳以上，30歳以下には少ない。また，早婚の女性に多く，未婚者には少ないといわれている。発生頻度(ひんど)は人種などによって異なり，ユダヤ人や回教徒では少なく，アメリカの黒人，カナダのインディアン，日本人などに多い。癌発生の原因は不明で，遺伝関係も否定されている。好発部位は膣(ちつ)の扁平(へんぺい)上皮と頸管の円柱上皮の移行部。この部に発生した癌は発育増殖し，しだいに周囲組織に浸潤して，膣・膀胱(ぼうこう)・直腸などを侵し，またリンパ管を介してリンパ節に転移し，末期には肺・肝などの遠隔臓器にも転移する。進行程度によって４期に分けられる。Ｉ期は子宮頸部にのみ限局するもので，Ⅱ期・Ⅲ期と進行程度は強くなり，Ⅳ期は膀胱・直腸などに広がった場合である。頸癌の初期症状として重要なのは不正子宮出血で，特に性交時の出血(接触出血)は初期症状として重要。初期症状として帯下を訴えるものは少ない。治療法のおもなものは手術療法と放射線療法である。わが国では初期癌Ｉ～Ⅱ期のものには主として手術療法が行なわれ，永久治癒(ちゆ)率は60～90％，末期癌Ⅲ～Ⅳ期には放射線療法が行なわれ，10～40％の治癒率である。早期に癌を発見し，治療すればほとんど100％に近い高い治癒率を期待しうる。幸いなことに，局所解剖的にも診断技術的にも早期診断が容易であるので，癌年齢の婦人は定期的検診を受けることが望まれる。

子宮体癌は比較的高年者，閉経期近くの者に多く発生し，比較的早期から悪臭のある漿液(しょうえき)性の帯下を出すことが多い。手術療法・放射線療法が行なわれるが，治癒率は進行度によって異なり，平均85％である。〔木川源則〕

しきゅうきんしゅ 【子宮筋腫】 筋肉と結合組織が異常に増殖した子宮の良性腫瘍(しゅよう)。子宮に発生する良性腫瘍の代表的なもので，お産の経験のない30～50歳の中年婦人に多い。大部分は子宮体部に生じ(全体の95％)，子宮頸部(けいぶ)に発生するものはまれである。筋腫の大きさはアズキ大からおとなの頭大まである。主要な症状は月経過多・月経痛，腫瘍による圧迫症状(尿意頻数(ひんすう)・神経痛様疼痛(とうつう)など)で，症状の程度は腫瘍の発生する部位や大きさなどにより異なる。筋腫が相当の大きさに達するまで無症状の場合もある。治療は筋腫の部分を取り除く筋腫摘出術または子宮全摘除が行なわれる。〔木川源則〕

しきゅうこうくつ 【子宮後屈】 子宮の位置の異常の一種。ふつう子宮は小骨盤の上部の中央にあり，軽く前方に屈している。これに反して後方に屈していれば後屈というが，可動性のある後屈は障害がないかぎり，臨床上異常とはいえない。しかし，後屈の原因として周囲臓器の腫瘍(しゅよう)による圧迫とか，炎症・癒着(ゆちゃく)により，腰仙痛(ようせんつう)・腹痛などが永続するものは異常であって，整復手術が試みられる。

しきゅうしかんしゅっけつ 【子宮弛緩出血】 分娩(ぶんべん)後，胎盤が出たのち子宮の収縮が悪く，胎盤剥離(はくり)面の血管が閉鎖することができないために起こる出血。正常でも胎盤が剥離して排出されるとき(分娩第Ⅲ期)は約200ccの出血があり，この量が500ccを越えるときは異常である。お産が急速に終わったとき，子宮が過度に大きくなった妊娠(羊水過多・双胎など)，お産が長引いたときなどに起こりやすい。弛緩出血のときはいろいろな方法で子宮収縮を促進する処置をとる。

しきゅうたい 【糸球体】 ⇨腎(じん)小体

しきゅうだつ 【子宮脱】 子宮脱垂症ともいう。子宮の一部または全部が膣(ちつ)入り口より外部に現われる子宮の位置異常の一種。子宮が体外にまで現われず，体内で下降した状態は下垂という。お産の回数の多い婦人，農婦，労働婦人などに多い。しばしば膣脱・膀胱脱(ぼうこうだつ)・直腸脱が合併し，下垂感・脱出感・下腹痛・尿意頻数(ひんすう)などを訴える。治療としては整復手術が行なわれる。

じきゅうどう 【磁気誘導】 ①一般には物質に磁気的性質が誘導されること。磁化と同じ。外から加えられた磁気的な作用によって，物質内に分極*が生じて磁気双極子*が分布し，その結果，磁気的な性質が生ずることをいう。→磁化 →磁性体

②また，磁束密度*のことをいい，磁気誘導度とよばれる量のこと。Bで表わすのが普通である。単位はウェーバー/m²(Wb/m²)。

外部磁界H_1のあるところに磁性体*を置くと磁化されて磁気モーメント*Mを単位体積あたりにもつ磁石になる。この誘導されてできた磁石は，物質の内部に新しい磁界H_2を加える。このとき，全体的な磁界の強さは物質の内部で$H=H_1+H_2$となる。μ_0を真空の透磁率*とするとき，Bは$B=\mu_0(H+M)$で定義される。磁化率*kを$M=kH$で定義するから，$B=\mu_0(1+k)H$である。透磁率$\mu=\mu_0(1+k)$を用いると，$B=\mu H$という関係に導かれる。透磁率μはHの関数であるから，磁気透導BはHに比例するわけではなく，Hを十分に大きくするとBは飽和し(→磁気飽和)，また，一度大きくしたHを０にもどしてもBが０にならないという性質(→残留磁気)や，再びHを増加させると，違う値をとりながらBが増加するという性質(→磁気ヒステリシス)などが，多くの磁性体にみられる。

磁束線(単位面積を通過する本数がBの大きさに等しいように選んだもの)は，Hの磁力線とは異なり，いかなる物質内でも閉曲線を描く。

磁気誘導がBであるような磁界の中を点電荷*q(クーロン)が速度v(メートル毎秒)で運動するとき，vが磁力Bと角度θをなすならば，点電荷に$F=qvB\sin\theta$(ニュートン)の力(ローレンツの力とよばれる)が働く。この力が，磁界の力学法則のもとであることが知られている。このため，磁界の基本量としては，磁界の強さHよりもこの磁気誘導Bのほうが重要である。〔堀内和夫〕

しきゅうないまくえん 【子宮内膜炎】 淋菌(りんきん)・連鎖球菌・ブドウ球菌・大腸菌などの感染によって起こる，子宮内膜の炎症。分娩(ぶんべん)または流産後や，避妊リングの子宮腔(しきゅうこう)内挿入(そうにゅう)，試験的掻爬(そうは)などにより発症する。分泌物増加(血性・膿性(のうせい))・微熱・下腹痛などの症状がある。臨床上は子宮内膜が侵されるときは筋層もまた影響を受け，子宮内膜筋層炎となることが多い。慢性の子宮内膜炎としては結核性子宮内膜炎がある。〔木川源則〕

じきゅうひりょう 【自給肥料】 販売肥料の対語で，農家が自家生産する肥料の総称。堆肥(たいひ)・厩肥(きゅうひ)・糞尿(ふんにょう)・生わら・緑肥・草木灰に大別される。窒素・リン酸・カリなど肥料成分そのものの含有量は一般に低く，化学肥料で代替できるものである。しかし，それらの肥料成分の形態がすぐれている場合が多く，微量要素の補給，土壌(どじょう)の物理的状態の改善，土壌微生物の生息のための環境良化などのためには，現在でもまだこれに代わるものがない。近年生産供給量が非常に減少していることは憂慮される。〔早瀬達郎〕

しきょう 【司教】 英語bishop(ビショップ)のカトリック教会における訳。聖公会・日本ハリストス正教会では〈主教〉を用いている。《新約聖書》では明確ではないが，２世紀初頭のイグナチウスは司教・長老(司祭)・執事の３聖職位のあったことを明記している。司教は教会の最高職位であって，一定の教区を管理・総括する責任，司祭を

任命する権威を有し，信徒の堅信式も執行する。ローマ教会の司教は教皇である。

しきょう【詩経】 中国最古の詩集。《毛詩》，または単に《詩》ともいう。全305編。作品の時代は2,500年前の500年余にわたる期間。現在の形にまとめられたのはだいたい紀元前6世紀。いずれも音楽に合わせる歌詞で，国風・小雅・大雅・頌(しょう)の4部に分類される。国風は，各国の郷土音楽で，周南・召南・邶(はい)・鄘(よう)・衛・王・鄭(てい)・斉(せい)・魏(ぎ)・唐・秦(しん)・陳・檜(かい)・曹(そう)・豳(びん)の各国別に160編を収め，小雅と大雅は例外を除き西周の詩で，小雅には74編，大雅には31編をそれぞれ収録，小雅には国風に類似した詩が少なくない。頌は賛美の歌，祭祀(さいし)の音楽で，周・商・魯(ろ)に分かれ，40編を収録。周頌がいちばん古く西周時代の作品で，商頌は紀元前8～7世紀ごろの宋(そう)国の作品，魯頌は7世紀の魯国の作品である。編纂(へんさん)者は孔子という説があるが真偽は不明。テキストは漢代に魯・斉・韓(かん)の3学派のテキストと毛学派の《毛詩》古文テキストがあったが，後者が優勢で，他のテキストを圧倒して今日に至っている。詩形は，周頌を除くと短詩形が多く，一句は四言を主としている。古代中国人の生活感情を素朴(そぼく)に表現し，中国文学最古の詩集として重んぜられる。なお，各詩のはじめに大要を要約した《詩序》があり，冒頭の《関雎(かんしょ)》の詩の序は，一編の大意のほか，《詩経》全体の大意を述べ，後世の文学論の源流となった。〔今村与志雄〕

じぎょう【地業】 建物の上部構造より加えられる荷重を地盤に伝達する部分。建物の規模・重量ならびに地盤の性質により，杭(くい)打ち地業・砂地業・じゃり地業・割りぐり地業・捨てコンクリート地業などに分かれる。杭打ち地業には，かたい地盤まで杭を到達させて建物を支持させる支持杭と，杭と地盤との摩擦により支持する摩擦杭とあり，木製・コンクリート製・鋼製などがある。砂地業・じゃり地業・割りぐり地業はいずれも地盤を掘った底を締め固めるために用いられる。特殊なものに，いかだ地業・井筒地業・ろうそく地業などがある。〔神山幸弘〕

じぎょうきょうどうくみあい【事業協同組合】 商業・工業・サービス業などを営む中小企業者によって結成される協同組合で，中小企業等協同組合法に基づいて設立されている。目的は，中小企業者の公正な経済活動の確保，自主的経済活動の促進によってその経済的地位の向上を図ろうとするもので，そのために生産・加工・販売・購買・保管その他の共同施設，事業資金の貸し付けおよび借り入れ，福利厚生施設，経営および技術の改善向上のための教育施設など各部面にわたる組合事業を営む。〔清水　晶〕



シギリア石窟　岩壁にある色彩の鮮明な壁画

じぎょうさい【事業債】 金融機関の発行する金融債に対する語で，金融以外の業務を営む企業によって発行される債券。

じぎょうぜい【事業税】 1948年(昭和23)の税制改正によって，従来の営業税が廃止され，新たに事業に対する税として設けられた道府県税。これは，法人事業税と個人事業税とに分けられる。法人事業税の場合，電気供給業・ガス供給業・生命保険事業および損害保険事業を行なう法人については，各事業年度の収入金額，その他の事業を行なう法人については，各事業年度の所得がそれぞれ課税標準となる。標準税率は前者が収入金額の1.5％，後者は所得金額により年所得の12・9・8・6％となっている。個人事業税の場合，事業を行なう個人については，暦年による前年所得が課税標準となる。その標準税率は，第一種事業(商工業)および第三種事業(自由業)については課税所得金額の5％，第二種事業(農林水産業)については課税所得金額の4％，また第三種事業のうち助産婦・あんま・はり・きゅうなどについては，課税所得金額の3％となっている。なお，事業税は，事業にとって一種の経費とみられているので，所得税または法人税の所得計算には必要経費の扱いあるいは損金への算入が認められている。〔西野義彦〕

じぎょうだん【事業団】 公企業の一種で，それぞれ特別の法律に基づいて設立される特殊法人。政府・地方公共団体からの出資，政府補助金，借入金などを財源とし，業務は政府の監督下に置かれる。その目的は，公団と同じく非金融的な政策の実施にあるが，公団ほど大規模ではなく，価格安定・地域開発・技術開発・雇用促進などの特殊的・短期的な目的を主としている。現在(1971年9月)下表のものがあるが，設立以来長い年月にわたって存続し，もはや成果が期待できないもの，客観状勢が一変して存在理由のないものが少なくないという批判もある。〔原　豊〕

じぎょうぶせい【事業部制】 経営管理組織は組織の階層間の決定権が上層に集中しているか，それぞれの階層に分散しているかによって集権管理と分権管理に分けられるが，分権管理の一形態に事業部制がある。製品別・地域別・顧客別の事業部に分化され，これを基礎として形成されている組織構造で，独立採算制のもとに生産・販売，場合によっては資本の調達もそれぞれの事業部ごとに行なわれる。

じきょく【磁極】 ①棒磁石の両端や馬蹄(ばてい)形(U字形)磁石の先端などのように正負の磁荷が物質の表面に現われたもの。この磁極は単独に分離することはできず，必ず正負の磁極の対として存在する(→磁気双極子)。正の磁荷をもつ磁極を正極または北極(N極)，負の磁荷をもつ磁極を負極または南極(S極)という。②発電機・電動機などの回転機器において，磁束を発生させるために設けられた突起部。③特に，地球を磁石と考えたとき，地磁気の伏角が90°の地点。この地点は南・北半球に一つずつあり，それぞれ磁南極・磁北極とよぶ。両磁極とも地理上の極点とは一致しない。〔堀内和夫〕

シギリアせっくつ【シギリア石窟】 セイロン島中部の岩山の中腹にある洞窟。獅子(しし)の山とよばれる岩山は180m余の高さをもち，5世紀末には頂上にカッサパ1世の居城がつくられていたが，現在では洞窟に描かれている壁画によって知られている。壁画はカッサパ1世の時代になったと推定され，婦人の上半身の裸像が21体，さまざまな姿態を見せて，黄・赤・緑などの色調で簡素に表現されている。下半身は雲中に隠れているが，上半身のわずかな装身具などが裸形を引き締める。裸像は散華(さんげ)する婦人とその侍女であるとされている。描法は，アジャンターの壁画と感覚的な共通性を示す。〔西岡康宏〕

しきりょう【式量】 原子記号を使って

事業団の種類

宇宙開発事業団	小規模企業共済事業団	動力炉・核燃料開発事業団
海外移住事業団	新技術開発事業団	日本原子力船開発事業団
海外技術協力事業団	石炭鉱害事業団	日本蚕糸事業団
簡易保険郵便年金福祉事業団	石炭鉱業合理化事業団	年金福祉事業団
金属鉱物探鉱促進事業団	畜産振興事業団	八郎潟新農村建設事業団
雇用促進事業団	中小企業振興事業団	労働福祉事業団
公害防止事業団	中小企業退職金共済事業団	
産炭地域振興事業団	糖価安定事業団	

物質の原子の種類と数の相対比を最も簡単に表わした化学式*を組成式といい，組成式に示されている各原子の原子量*の総和を式量という。たとえば，過酸化水素の分子式はH_2O_2で示され，この組成式はＨＯで，式量は水素原子と酸素原子の原子量の和１＋16＝17である。塩化ナトリウムのような分子式で書き表わすことができない無機化合物が多く存在するが，この場合には式量が使用される。

じきりょう【磁気量】 磁気*の大きさを表わす物理量。ＣＧＳ単位系*では，クーロンの法則*により，１ダインの力を生ずる磁極の強さを単位磁気量としている。

じきりれき【磁気履歴】 ⇨磁気ヒステリシス

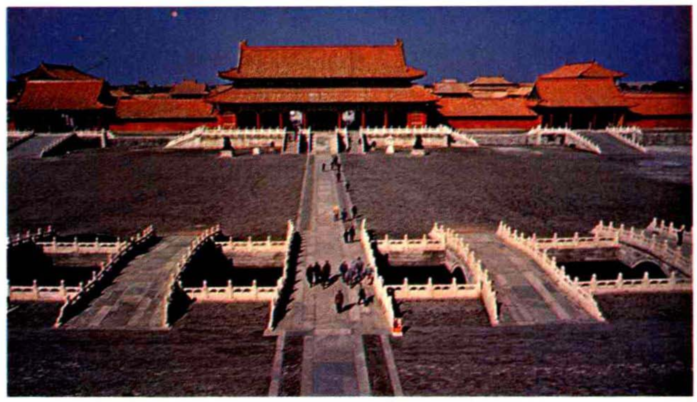
ジキルはかせとハイドし【ジキル博士とハイド氏】 スチーブンソン*の小説(1886)。二重人格という古くて新しい問題を悲劇に浮き彫りにしたスリルとサスペンスに富む作品で，《宝島*》とともに作者の代表作とされる。ジキル博士は学識もあり徳望もある医者であったが，人間の内にある善悪の２要素を分離する薬を発明し，これを服用してハイドに変身して凶事を行ない，追いつめられて自殺する。

じきろくおん【磁気録音】 ⇨録音

しきん【資金】 企業が即座の支払いに応ずるために保有する財源のこと。通常は，正味運転資本，すなわち流動資産*から流動負債*を控除したものが資金と考えられている。収益があがっても，資金量とのバランスがとれないと，黒字倒産*なども発生することがあり，適正な資金量を保有することは，スムーズな企業活動に非常に重要である。なお，会計用語としてでなく，一般に資金という場合は，特定の目的に使用される金銭をさし，目的によって育英資金・政治資金などとよばれる。〔山桝忠恕〕

しぎん【詩吟】 本来は漢詩に節調をつけて吟唱すること。そのよび方にはほかに朗詠・朗嘯(ろうしょう)・朗吟・吟詩・吟詠などがあって，今日では邦楽の一種となっている。漢詩が日本に移入され，奈良朝には最初の漢詩文集《懐風藻*(かいふうそう)》ができ，平安朝には《和漢朗詠集*》ができて，琵琶(びわ)や琴の伴奏による一定の曲譜をもった〈朗詠〉が生まれた。

現在の詩吟と古代の朗詠とは直接の関係はないようで，いまの詩吟は，江戸末期湯島の聖堂(聖堂流)や米沢(よねざわ)・会津・水戸(みと)・熊本などの各藩学で，教授や書生たちが漢詩文の素読→朗読→朗吟と，それぞれの流儀で行なったものがその源流とみられている。中でも大分日田の広瀬淡窓は塾(じゅく)教育の主科目に詩吟を用い，咸宜園流(かんぎえんりゅう)を生んだ。幕末から明治にかけては各志士の間で，剣舞と併用して，士気を鼓舞するために行なわれた。大正の末から朗吟の対象が漢詩のほかに和歌・俳句・新体詩へと，さらに現代詩・訳詩へと発展して〈吟詠〉と呼称されるようになった。



紫禁城
大和門

現在の節調の流派は，①素朴(そぼく)単調な漢学者流節調，②濃艶(のうえん)な技巧型の琵琶調的節調，③両者をふまえてくふうされた詩吟調(朗詠調)に大別される。また各会派のあり方も，①修養主義的，②芸術主義的，③芸術・修養並行的とそれぞれ特徴づけられる。現在全国の詩吟・剣舞・詩舞の統合された団体として，財団法人日本吟剣詩舞振興会がある。〔坂本坦道〕

しきんうんようひょう【資金運用表】 企業の諸取引は，究極的には現金によって決済されるが，信用制度の発達その他の理由で，債権・債務が多く発生するようになり，現金の収入と支出とによって企業の経済活動を把握(はあく)することはそれほどの意味をもたなくなった。一方，収益と費用とから損益計算を遂行しようとする会計システムには，具体的な財貨の動きを看過しがちになるという欠点がある。そこで資金*というものが重要となり，その増減を把握することが必要となった。そのための計算書が，資金運用表または資金計算書とよばれる。この計算書によって，資金の増減が，源泉と使途という観点から把握される。資金の源泉とは，減価償却*費控除前の利益，社債や株式の発行などをいい，資金の使途とは，設備資産の購入，社債の償還，税金や配当金の支払いなどをさす。〔山桝忠恕〕

しきんうんようぶ【資金運用部】 1951年(昭和26)大蔵省預金部を改組して，新たに設けられた国庫内の勘定科目の一つで，資金運用部資金を統合管理し，運用している。資金運用部資金は，郵便貯金*をはじめ各種特別会計*からの預託金で構成されており，財政投融資*の原資の中で，大きなウエートを占めている。政府資金総合運用のたてまえから，郵便貯金，各種特別会計の積立金は，すべて資金運用部に預託されなければならないことになっており，このほか国庫余裕金や特別会計余裕金・各種資金なども，この資金運用部に預託できることになっている。これら預託金に対しては利子が支払われる。郵便貯金以外の預託金で大きなものは，厚生年金*および国民年金*などの積立金である。このように資金運用部資金は，国民大衆の零細資金からなっているので，その運用についても，公共利益と確実有利という観点から，その対象が限定されている。特に最近のように，厚生年金・国民年金の積立金が比重を高めてくると，郵便貯金と異なり，強制徴収という形をとっているだけに，還元融資の問題など，運用のしかたにいっそうの配慮が必要となる。〔西野義彦〕

しきんけいかく【資金計画】 企業がその支払い能力(流動性)を確保するために行なう計画。資金の源泉と使途とに関する計画，および，資金を構成する個々の項目の増減に関する計画を含み，通常それらは資金計画表にまとめられる。これは，資金の調達と運用との調整を図り，かつ，資金の構成内容を適正に維持することをねらいとしている。そのほかに，政府が国民経済の運営に必要な財政資金について計画を立てる場合にも資金計画ということばが用いられる。第２次世界大戦中にわが国で行なわれた国家資金計画はその典型である。〔山桝忠恕〕

しきんざん【紫金山】 ツーチンシャン 中国，江蘇(こうそ)省南西部，南京(ナンキン)の北東にある山。別名鍾山。標高466ｍの景勝の地で，南麓(なんろく)には中国革命の父孫文を葬る中山陵や，明(みん)の太祖の孝陵などがあって，山紫水明の行楽地となっている。山上には天文台があって，中国最古の天文儀が保存されている。

しきんじょう【紫禁城】 中国の北京(ペキン)にある明(みん)・清(しん)の宮城。明の永楽帝が15世紀の初めに造営。中華民国以後故宮とよばれ，現在は故宮博物院となっている。北京内城の皇城といわれた地域の中央部に位置し，南北約960ｍ，東西約750ｍ，高さ約10ｍ。高い城壁に囲まれて４門があり，周囲には堀(ほり)が巡らされている。城中は乾清門(けんせいもん)を境として南北に分かれ，南半は公式の政治に用いられる外朝で，建築は豪壮，太和・中和・保和の３大殿を中心とし，文華殿と武英殿とを両翼に配する。北半は皇帝の私生活が行なわれる内廷で，建築は美麗，乾清・交泰・坤寧(こんねい)

の3宮殿を中心とし，東西に6宮，北辺に御花園と欽安殿(きんあんでん)を，さらに東側に寧寿宮とその花園，西側に慈寧宮とその花園を置く。なお，文華殿には《永楽大典*》などを蔵し，武英殿には欽定の図書が収蔵されていた。〔勝村哲也〕

しきんせき【試金石】 もと砂金などの鑑定に用いたまっ黒な岩石。砂金と紛らわしいオウテッ鉱*や風化したウンモ*などは，これにこすりつけても目だった条痕*(じょうこん)は出ないが，金ならばあざやかな黄金色のすじがつく。日本では三重県と和歌山県の県境地帯の北山川流域から産する那智黒(なちぐろ)が用いられた。那智黒は特別緻密(ちみつ)な石で，現在では主としてすずり石や黒の碁石，置き物などの工芸品に加工されている。〔片山信夫〕

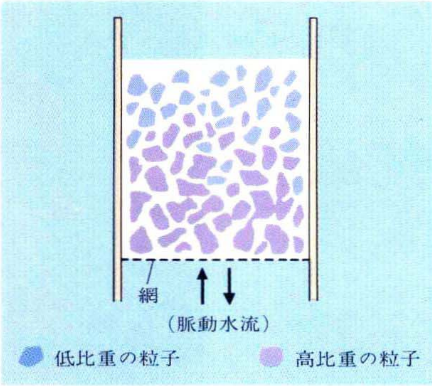
じく【軸】 機械において回転運動を伝えるのを目的とする丸棒。軸受け*でささえられ，歯車やベルト車などを取り付ける。なお，それに作用する荷重や使用目的によって次の3種類に大別される。①伝動軸：動力の伝達を目的とし，おもにねじりを受ける軸。②車軸：主として曲げを受ける軸。③スピンドル：工作機械の主軸のように寸法が精密で変形量が少ないことを必要とする軸。

ジグ［jig］ 工作機械で加工する際に，位置決めを正確にしたり，工作精度を向上させたりするために，工具を案内するもの。特に穴あけ用のドリルジグ，中ぐり用のボーリングジグなどがよく用いられる。ジグを使用することにより生産能率が上がり，しかも互換性のある製品を得ることができるから，大量生産の場合にはきわめて重要な意味をもつ。わが国では治具と書くこともある。

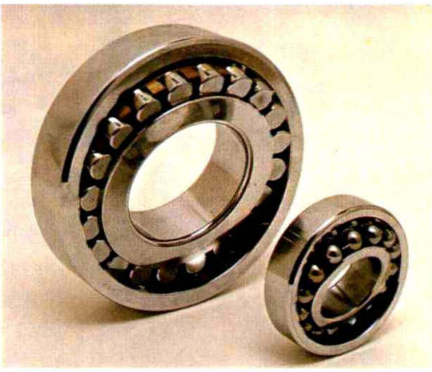
ジグ［jig］ 上下に脈動する水流の働きを利用して，石炭・鉱石などを比重の大小により成層させ，分離・選別する装置。選炭に広く用いられ，重い鉱物の選鉱方法としてもしばしば利用される。

ジーグ［gigue］ 17～19世紀に数多くつくられた舞曲で，室内ソナタ*では最後に置かれるのが原則である。イギリスで生まれ，フランスとイタリアでそれぞれの形に発展させられた。フランスの場合は，8分の6拍子，4分の6拍子で，付点リズムをもち，6度・7度・8度などの幅広い跳躍をもつことが多い。また，後半の開始を冒頭の旋律の反行形で始めたり，フーガ的な扱いを示すことも多い。イタリアの場合は，テンポをもっと速くし，フーガ的ではなく，速いパッセージを奏して，運動性を前面に押し出したものが多い。〔徳丸吉彦〕

じくうけ【軸受け】 軸をささえて軸にかかる荷重を受ける役目をする機械部品。ベアリングともいう。荷重の方向が軸に直角方向の場合のものをラジアル軸受け，軸方向の場合のものをスラスト軸受けという。



ジ　グ



軸受け　(左)ころ軸受け　(右)玉軸受け

また，軸が軸受けの中で油膜を介してすべるすべり軸受けと，転動体が間にはさまれてころがる構造のころがり軸受けとにも分類される。さらに，ころがり軸受けは転動体がころの場合のころ軸受け(ローラーベアリング)と球の場合の玉軸受け(ボールベアリング)とに分けられる。ころがり軸受けは，すべり軸受けに比べると非常に摩擦抵抗が少ない。

すべり軸受けにおいて直接に軸をささえる部分を軸受け金というが，この材料としては油の吸着性，熱の伝達性などを考慮してホワイトメタル・銅合金などが用いられる。また，多孔質の金属のすきまに油をしみこませたオイルレスベアリングとよばれるものもある。そのほか，合成樹脂や宝石なども軸受けの材料として用いられている。ころがり軸受けは軸とともに回転する内輪と，固定された外輪との間に鋼製のころまたは球がはいっており，これらのころがり運動によって軸が回転する。〔森田　鈞〕

じくうけこう【軸受け鋼】 軸受け*の球・ころ・内輪・外輪などに使用される低合金鋼。高速度下の摩耗とくり返し荷重に耐える性質，すなわち耐摩耗性・高疲労強度が要求されるから，鋼の清浄度や組織の均一性が強く要求される。化学成分は高炭素クロム鋼(炭素0.43～0.48%，ケイ素0.15～0.35%，マンガン0.60～0.85%，クロム0.90～1.20%，その他リン・イオウ0.03%以下)である。

じくうけごうきん【軸受け合金】 軸受けに使用される合金。次のような特性が要求される。①摩擦係数が小さい，②耐摩耗性が大きい，③荷重に耐えるためのかたさと抗圧力がある，④衝撃振動に耐える靭性(じんせい)がある，⑤軸になじみやすいように適度の粘性をもつ，⑥熱伝導率が大きい，⑦安定な潤滑油皮膜を表面につくるなどである。金属組織的には，一般に比較的柔らかい地の中にかたい化合物が散在する合金が適しているといえる。代表的軸受け合金に次のようなものがある。①バビットメタル：スズ75～90%，アンチモン3～15%，銅3～10%。高速度・高荷重のエンジン軸受けなどに用いる。②マグノリアメタル：鉛80%，アンチモン15%，スズ5%。高荷重，低速度の電車車輪軸受けなどに用いる。③イソダメタル：亜鉛91%，銅5%，アルミニウム4%。安価な材料を要するところに用いる。④ケルメット：銅65～75%，鉛25～35%。高荷重・高速度の自動車・航空機のエンジン軸受けなどに用いる。ほかに，青銅・リン青銅・鉛青銅も用いる。〔藤井康次〕

じくきょ【軸距】 自動車の前車軸と後車軸の中心間の寸法。ホイールベースともいう。大型トラックで後ろが2車軸のものにあっては，この2車軸間のまん中を後車軸の中心とみなす。乗用車では軸距を大きくとれば室内を広くでき，乗りごこちも向上する。通常，全長の5分の3程度である。

シクきょう【シク教】 インドの宗教の一。ナーナク(1469～1538)がインド神秘主義の伝統の上にイスラム教の要素を加味して創設した。ナーナクはパンジャブ地方ラホール近くの出身で，唯一絶対の神を信じ，既成宗教の儀礼や偶像を否定し，人間の平等や他宗教への寛容を説いた。彼を初代のグル(祖師)とする。第5祖アルジャン-マル(1563～1606)の時代に勢力は伸張したが，このため彼は当時のイスラム王に虐殺された。第9祖テーグ-バハドゥル(1622～1675)もみずからの信仰を捨てず，ムガール帝国のアウランゼブに刑死させられている。彼の子で第10祖ゴービンド-シン(1666～1708)はグル制を廃止し，イスラム教徒に対抗するため教徒全員の軍隊化を企てた。彼はカールサーという団体を組織してあらゆるカースト*からの入団を認め，剣(つるぎ)を用いる入信の儀礼を行なって，信徒全員にシン(ライオン)の名を与えた。同時に五つの誓い，すなわち長髪にする，くしを所持する，ひざ上までの下衣を着用する，鉄の腕輪をつける，剣を帯用することを定めた。彼が暗殺されたのち，シク教団は分裂したが，反イスラム運動はますます盛んになり，ついにランジート-シン(1780～1839)は首都をラホールに定めて独立した。しかし，2度にわたるシク戦争*でイギリスに敗れて，イギリスの植民地の一部となった。シク教徒は頭にターバンを巻き，体格は一般によく，

世界最強の兵士とうたわれた。信者数は780万人(1961)，インド総人口の1.79％を占める。〔奈良康明〕

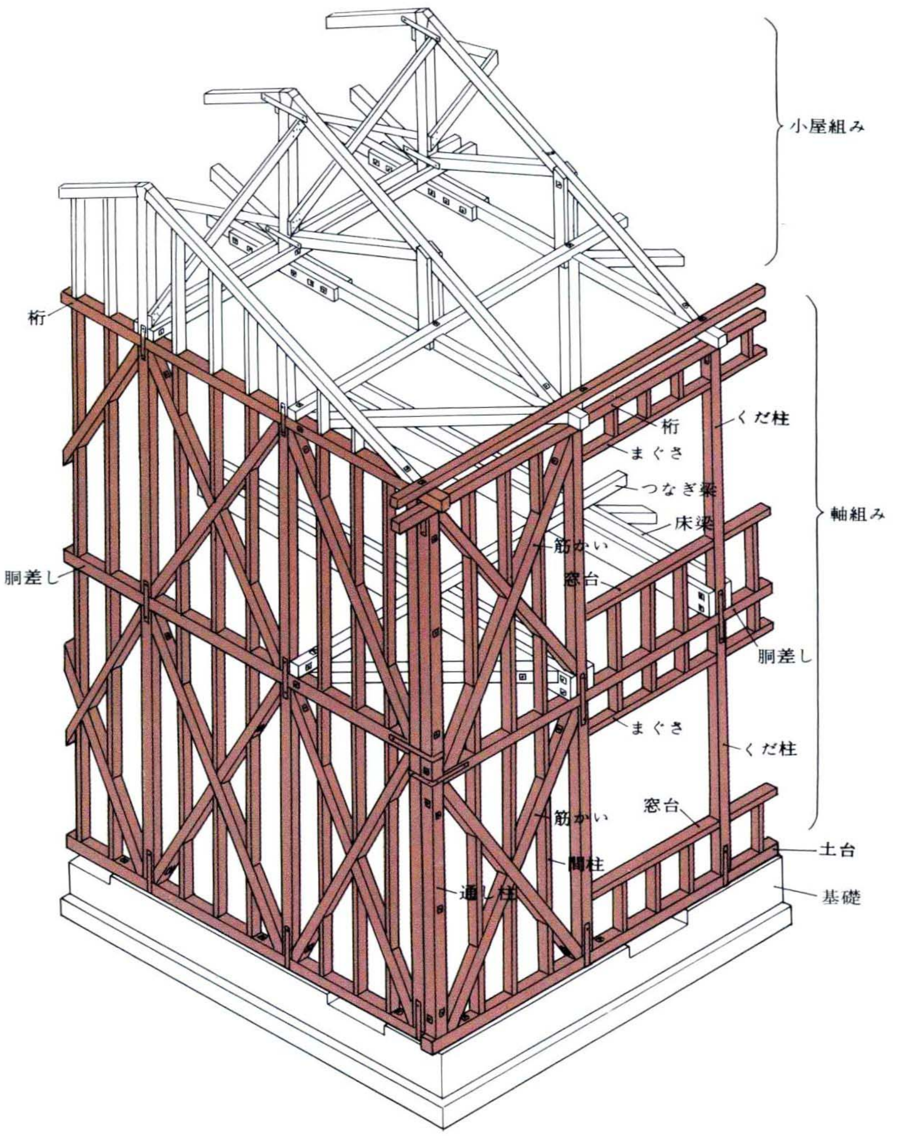
じくぐみ【軸組み】 木造・鉄骨造のような架構式構造の壁体骨組み。真壁構造では土台・足固め・柱・胴差し・桁(けた)・筋かいなどにより，大壁構造では以上のほかに窓台・まぐさ・はかま腰・台輪・方づえなどによって構成される。屋根荷重・床荷重ならびに積載荷重のような鉛垂に働く荷重は，桁・胴差しより柱を伝って土台へと伝えられ，地震・風などの水平に働く力は，桁・柱・土台・筋かいで構成するトラス架構で抵抗する。建物に加わる力に垂直画で抵抗するのが軸組みで，材の寸法，筋かいの配置とその数，耐久性などが問題となる。〔神山幸弘〕

しぐぜいがん【四弘誓願】 菩薩*(ぼさつ)の4種の誓願のこと。仏道を志し，これを実践するすべての菩薩に共通する誓願で，〈総願〉ともいう。①すべての生きとし生ける者を，悟り*の岸に渡すことを誓う〈衆生無辺誓願度〉，②いっさいの煩悩(ぼんのう)を断ち切ることを誓う〈煩悩無量誓願断〉，③仏の教えは無尽ではあるが，学び知ることを誓う〈法門無尽誓願学〉，④このうえない悟りを仏道によって体得することを誓う〈仏道無上誓願成〉の四つからなる。①は利他の行で，大乗仏教の特色であり，②～④は自己の悟りをめざす自利の行である。この思想はインドの初期大乗仏典に源流がみられ，中国では天台宗の智顗*(ちぎ)の《摩訶止観*(まかしかん)》，日本では源信の《往生要集*》などに説かれ，各宗に共通する仏教者の誓願である。〔小沢憲珠〕

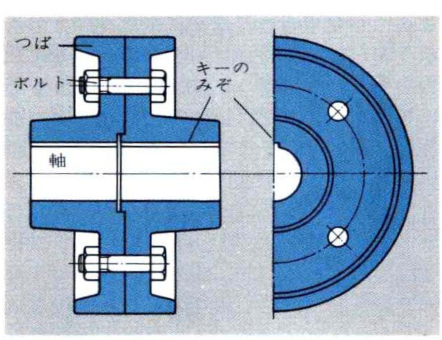
シクせんそう【シク戦争】 1845～1846年，1848～1849年の2度にわたるイギリスと西北インドのシク教徒との戦争。シク族は19世紀の初めランジート・シング(在位1792～1839年)のもとに統一され，パンジャブ地方を占める強力な独立国となっていたが，西北インドやアフガニスタンの支配と植民地化をめざしたイギリスと衝突するに至った。激烈な戦闘ののち，ついにイギリス軍は勝利を占め，パンジャブ地方を植民地に加え，アフガニスタンに攻め入る西北国境をおさえ，さらにインド最大の穀倉・綿作地帯を手に入れた。〔小谷仲男〕

じくせんぼんせん【竺僊梵僊】(1292～1348) 中国，元代の臨済宗の僧。来来禅子と号す。明州象山県(浙江(せっこう)省寧波)の人で，俗姓は除氏。古林(くりん)清茂の弟子(でし)。1329年(元徳1)に明極楚俊(みんきそしゅん)に従って来日し，大宰府に至る。大友貞宗(さだむね)の豊後(ぶんご)(大分県)万寿寺への招きを断わり，翌年鎌倉にはいった。北条(ほうじょう)高時*・足利尊氏*(あしかがたかうじ)に尊敬され，浄妙寺・浄智(じょうち)寺に住した。また無量寺の開山となり，その後京都の南禅寺・真如寺，鎌倉の建長寺を歴任した。この法系は日本禅宗二十四流の一つで，梵僊派(また古林派・梅林門徒)という。〔石井修道〕

じぐち【地口】 言語遊戯*の一。関西では口合いともいう。ことわざや成句と同音・類似音の別の語をあてて，違った意味にとりなす洒落(しゃれ)で，のちに複雑化し語呂(ごろ)合わせ*に変化する。〈着た切り雀(すずめ)〉(舌切り雀)，〈太兵衛(たへえ)に武兵衛はかなわない〉(多勢に無勢はかなわない)などをいう。



軸　組　み



軸継ぎ手　構造

じくつぎて【軸継ぎ手】 二つの回転軸を連結するための機械部品。回転中にその連結を断続できない継ぎ手とできる継ぎ手とがある。後者はクラッチとよばれる。前者の中には二つの軸端にそれぞれフランジと称する円板状の部品を取り付け，これをボルトで結合するフランジ継ぎ手，二つの軸端に一つの中空円筒をかぶせて結合するスリーブ継ぎ手などがある。クラッチには互いにかみ合うつめを軸端に取り付け，これを軸方向に移動して連結を断続するかみ合いクラッチ，円板や円錐面(えんすいめん)の摩擦を利用する摩擦クラッチなどがある。また二つの軸が多少の角度をなしているときに用いる自在継ぎ手*，軸心が少しずれて平行な位置にあるときに回転を伝えるオルダム継ぎ手もある。〔森田　鈞〕

しくつけん【試掘権】 鉱業権*は試掘権と採掘権に分けられるが，試掘権は鉱物の探索試掘を目的とする権利である。試掘権の存続期間はこれを登録した日から

2年であるが，試掘権者の申請によりこれを2回(石油を目的とする試掘権は3回)にかぎり延長することができる。延長する期間は1回ごとに2年とし，その延長の申請は存続期間満了前3か月以上6か月以内に手続きをとらなければならない(鉱業法18条)。期間延長の申請を受けた通商産業局長は，試掘権者が誠実に探鉱した事実が明らかであり，かつ鉱床の状態を明らかにするためにその探鉱を継続する必要性を認めた場合にかぎり延長を許可する(鉱業法19条)。試掘権者が鉱業経営の見通しをつけたときには採掘権設定の出願ができるし，通商産業局長もまた試掘鉱区が採掘権の設定に適すると認めたときには，採掘権設定の出願を命ずることができる。試掘権者が命令に従わないときは，試掘権をも取り消すことができるとされている(鉱業法49・55条)。〔黒木三郎〕

ジグなかぐりばん 【ジグ中ぐり盤】 中ぐり盤*の一種。ジグ*のように穴の位置や寸法が非常に精密なことが必要なものを加工するための，特に精度の高い中ぐり盤である。そのために中ぐり主軸およびテーブルの位置を決める精度がきわめて高く，0.001～0.003mmの精度で加工することができるが，このような場合は恒温室で使用することが望ましい。普通は立形であるが，横形のものもつくられている。

しくはっく 【四苦八苦】 仏教で人生の苦悩の根本原因である生・老・病・死と愛別離苦・怨憎会苦(おんぞうえく)・求不得苦(ぐふとくく)・五陰盛苦(ごおんじょうく)をいう。➔苦

ジークフリート ジロドゥー*の戯曲(1928)。自作小説《ジークフリートとリモージュ人》を劇化し，ジューベ*の演出によって絶賛を博した。戦争で記憶を喪失し，仏独二つの祖国をもつことになった主人公を通して，両国の相互理解と協調を願った作品。華麗な文体と豊富なイメージの織りなす劇空間によってことばの演劇を復活させ，フランス演劇の進展に一時期を画した。

ジークフリートせん 【ジークフリート線】 ドイツの伝説《ニーベルンゲンの歌*》の英雄ジークフリートにちなんで名づけられたドイツの要塞(ようさい)。①1917年，第1次世界大戦中ドイツ軍が西部戦線に築いた要塞。ヒンデンブルク線ともいう。②第2次世界大戦前，フランスのマジノ線*に対抗して築かれたもので，1935年の再軍備宣言が行なわれて以後着工，1938年つくられた。堅固な地下要塞で，延長400kmに達する。1944年連合軍によって突破された。

じぐも 【地蜘蛛】 節足動物・クモ形類・ジグモ科。他のクモ類に比較して脚が短く，体のつくりががんじょうである。上顎(じょうがく)がよく発達して前方に突き出ているので，頭胸部が大きく見える。体長は雌で約2cm，雄は約1cm。雌は暗かっ色，雄は黒かっ色である。北海道以南の日本全土および台湾に分布し，日陰のかきね・石がきなどの地中に，長い管状の巣をつくる。



シクラメン
パーシカム種



シ ク ン シ

ジグモンディー [Richard Adolf Zsigmondy] (1865～1929) ドイツの化学者。ゲッチンゲン大学教授。コロイド溶液の製法およびその性質を研究し，1903年コロイド粒子をみる限外顕微鏡*を発明した。これらコロイド化学における基礎的方法の創始に対し，1925年ノーベル化学賞を受けた。

シクラメン [*Cyclamen*] 双子葉植物・サクラソウ科。地中海沿岸産の多年草で，15～16種が含まれ，半地下性の扁球(へんきゅう)から多数の葉を出す。葉には長い柄があり，葉身は心形で厚く，表面に白斑(はくはん)のあるものが多い。裏面は染色をおび，縁にしわが寄り，小鋸歯(きょし)がある。葉よりも長い花柄を出し，その上に1個の花をつける。昔は薬用(下剤)として用いられたが，17世紀になってから観賞用になった。はち植えとして12月から3月ごろまでながめられるので，近年著しく需要が多くなった。現在栽培されているのは，大部分パーシカム種の改良された園芸品種である。その改良はイギリス・ドイツ・フランスなどで行なわれたが，近年特にドイツが盛んである。花形によって次の五つに分類される。①普通咲き(パーシカム咲き)：花弁は平滑で，満開時に反転上向する。大部分の品種がこれにはいる。②パピリオ咲き：花弁の先端が波状になる。弁幅はやや狭い。③ロココ咲き：波状弁で，縁に切れ込みがある。④ラッフルド咲き：前2者の中間型。⑤八重咲き。9月に種子を平箱にまき，温室内で冬を越し，順次はちを大きくする。10～20℃が適温。〔小杉　清〕

しぐれてい 【時雨亭】 名席の一。京都市東山の高台寺境内にある茶室。傘亭*(からかさてい)と土間廊でつながれ，一組みの建物となっている。傘亭と同じく，利休好みで，伏見城にあった豊臣秀吉(とよとみひでよし)の茶亭を移建したものといわれる。茅葺(かやぶき)，入母屋(いりもや)造りの2階建ての茶室で，階下は土間で，一隅(いちぐう)にかまどを設ける。渡り廊から階段を上がると，階上は上段と下段に分かれ，下段には床があり，そのわきにかまどが設けられ，上段は吹き抜けになっている。

しぐれに 【時雨煮】 魚介類にショウガを細く千切りにして加え，つくだ煮ふうに色よく煮上げたもの。伊勢(いせ)湾の名物であったハマグリの時雨煮に始まるが，現在ではハマグリに限らず，アサリ・カツオ・マグロなどでもつくる。お茶づけや弁当のお菜，通し肴(ざかな)などによい。

シクロヘキサン [cyclohexane] C_6H_{12} ヘキサヒドロベンゼンともいう。ナフテン系炭化水素(脂環式化合物)の代表的なもので，炭素6個が環状につながった化合物である。ベンジン様の臭気をもつ無色の液体で，融点6.5℃，沸点81℃。石油やガソリン中に少量含まれる。立体化学的にも重要な化合物で，いす形・舟形の2種の構造が可能。

しくんし 【使君子】 双子葉植物・シクンシ科。中国原産の常緑性のつる植物。葉は対生し，長楕円(ちょうだえん)形で鋸歯(きょし)はなく，有毛である。夏，枝先に紅色の花を穂状につける。緑色のがく筒が非常に長いので，花柄のように見える。花弁5枚，おしべ10本，めしべ1本よりなり，子房下位である。果実は5個の稜(りょう)があり，両端がとがる。果実を回虫駆除薬として用い，また観賞用として暖地や温室に栽培される。

じげ 【地下】 元来は宮中の清涼殿*に昇殿を許されない官人または家格をさすことばで，〈しもびと〉ともいった。四位の公卿(くぎょう)で昇殿を許されない場合もあるが，六位以下をさすのが普通である。後世は宮中に仕える者以外をすべて地下または地下人といい，特に農民をさす場合もあった。

しけい 【紙型】 ⇨活版印刷

しけい 【死刑】 受刑者の生命を奪う刑罰。生命刑ともいう。わが国の刑法では，内乱罪・外患罪・放火罪・殺人罪・強盗致死罪・強姦(ごうかん)致死罪などに死刑が認められ，最近では年間10ないし20の死刑の確定判決がある。死刑は，原則として判決確定後6か月以内に法務大臣の命令が下され，それから5日以内に監獄内において，検察官・監獄長などの立ち会いのもとに絞首によって執行されることになっているが，実際は判決確定後相当年月が経過して執行される場合が多い。これは，恩赦*などの機会を与えるための配慮である。犯罪時に18歳未満の者に対しては，少年法*に基づいて死刑とせず，無期刑を科する。死刑囚が心神

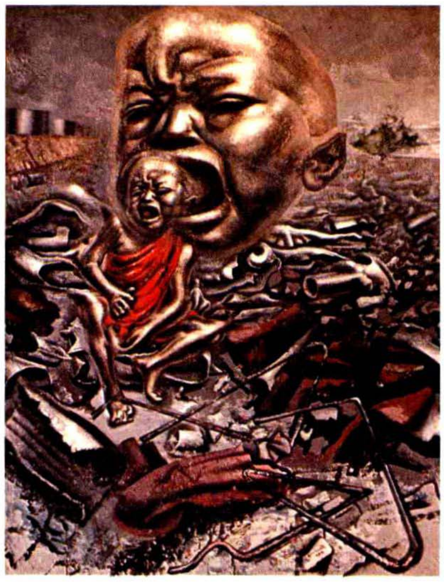
喪失の状態または妊娠しているときは執行は停止され，回復後または出産後，法務大臣の命令をまって執行される。死刑の方法は国によって異なり，絞首(日本,アメリカの一部の州)・斬首(ざんしゅ)(フランス)・銃殺(ソ連・ユーゴースラビア)および電気殺・ガス殺(アメリカの一部の州)がある。

死刑の存置・廃止をめぐって古くから対立があり，18世紀の啓蒙(けいもう)思想の時代にカントは死刑廃止論を唱え，ベッカリーアらは人道的立場と刑事政策面から死刑廃止論を展開した。わが国でも明治初期，津田真道らが，最近では正木亮(あきら)らが中心となって死刑廃止論を唱え，1901年(明治34)以来死刑廃止法案をたびたび議会に提出したが，成立をみなかった。廃止論の論拠は，①誤判の場合の回復不可能，②死刑の威嚇力の否定，③被害者の救済に無益などという刑事政策的な面，④人間が人間を裁いてその命を奪うことができるか，⑤人に生命を与えることのできない国家に，人から生命を奪うことができるか，などの人道的立場である。これに対して存置論は，①社会防衛の見地(凶悪犯罪などの防止)，②被害者の遺族の気持ち，③応報，④国民感情などから，死刑の存置はやむをえないとする立場である。1948年(昭和23)死刑は憲法36条に禁止している残虐な刑にあたり，憲法違反ではないかという訴えに対し，最高裁判所の合憲であるとする判断が示されている。現在死刑を廃止している国は，オーストリア・オランダ・スイス・イタリア・ノルウェー・デンマーク・スウェーデン・イギリスおよび中南米諸国とアメリカの一部の州など10余国である。➔刑罰
〔井上公耳〕

じけいけっしょう【自形結晶】鉱物や化合物の結晶で，そのもの特有の結晶面で囲まれているものをいう。火山岩の斑晶(はんしょう)や晶洞(しょうどう)中で結晶が成長する場合のように，一般に気体や液体中で早期に晶出した鉱物がゆっくり成長した場合に自形結晶となることが多い。

しけいしゅよう【歯系腫瘍】歯原腫瘍ともいう。歯を構成する組織から発生する腫瘍をいい，ほとんどあごの骨の中だけにできる特殊な腫瘍である。腫瘍が小さいうちは気がつかないことが多いが，大きくなると痛みを伴い，あごにかたいはれが見られるようになる。臨床的には，歯根嚢胞(のうほう)・歯嚢性歯嚢胞・エナメル上皮腫・歯牙腫をいっているが，真の腫瘍はエナメル上皮腫のみといってよい。

じけいれつ【時系列】ある変量の時刻に応じた観測値の系列。たとえば，毎月の平均気温や毎年の米の生産高などは時系列である。単なる時系列には，なんらかの原因による周期的な変化や長期的な傾向のほかに，偶然的な変動も含まれている。それで，長期的な傾向をはっきりさせるためには，時系列の数値を，前後に一定の個数だけとった平均値(これを移動平均という)に置き換えてみるとよい。たとえば，1年を周期に変化すると考えられる月別平均気温では，各月を中心とする1年間の移動平均を求めてみると，気温の周期的な変化や偶然的な変動が消され，長期的な傾向をみるのに便利になる。移動平均をとる区間が適当であれば，移動平均からの差で周期的な変化も予測されるし，また，長期的な変化や周期的な変化を仮定し，それらを除いた残りの変動を確率論的に処理して，仮定の適否を判定したり，時系列の未来値を推定したりすることもできる。〔小西勇雄〕


シケイロス《叫びの谺》1937　ニューヨーク近代美術館蔵

じけいれつかいせき【時系列解析】統計集団の時間的変化を時間の順序にしたがって配列したものを時系列といい，このような時系列の動きがどのような原因で起こるかを統計的に解析する方法を時系列解析という。ふつうこの動きは趨勢(すうせい)的な動き，循環的な動き，不規則な動きの合成されたものであると考えられ，これを分解する方法が時系列解析である。

シケイロス［David Alfaro Siqueiros］(1898〜1974)　メキシコの画家。オロスコ・リベラとともに〈ビッグ-スリー〉とよばれる。1919〜1922年までヨーロッパに遊び，メキシコの革命的ふんい気に適した民主的・民衆的な芸術の必要性を痛感する。1929年メキシコに帰って壁画の制作に従事，1930年代には壁画制作のチームを組み，彼の考えるプロレタリア芸術を具体化した。巧妙な短縮法，単純化されたインディオふうのフォルムによって，従来の伝統的な壁画の技法を否定した。〔島田紀夫〕

じげうけ【地下請】荘園(しょうえん)の年貢(ねんぐ)を村単位で請負う制度。百姓請・惣村(そうそん)請ともいう。南北朝時代以降，名主を中心とする荘園村落の自治組織である惣の主体性が確立してくると，荘園領主は年貢の納入を連帯責任として村単位に請負わせることによってその確保をはかった。なお，地下とは殿上人に対する地方の農民をさす。

しげき【刺激】生体に作用し，なんらかの反応をひき起こすもと，あるいはその可能性を有するものをいう。

1刺激と名づけられるものの範囲や定義には，諸説がある。おもなものをあげると，①光や音のように生体の外からくるもの，②ホルモン，その他の分泌物のように生体内部にあって，ある組織に加えられるもの，③人物・けしきなど外界にある刺激源とよばれるもの,④その他,そこから生体の感覚器官に与えられるエネルギー，などである。たとえばけしきの場合，けしきそのものが刺激となり，また網膜に映った像も刺激である。この場合，両者を区別するために，前者を遠刺激，後者を近刺激とよぶ。刺激は，その量質・時間的関係・空間的関係，生体との関係などによって，実際に個人に与える作用は異なる。すなわち，刺激の強さがある程度以上になると生体に感受されるが，その感受されはじめる量と，まだ感受されない量との境(識別閾(しきべついき)または刺激閾)に置かれる刺激値(閾値)には，個人の感受力や場の状況，刺激の性質などによってある程度の変動がある。〔吉田俊郎〕

2生体が刺激を受け入れることを感受といい，受け入れられた刺激は，それぞれの生体に特有の生理的変化(興奮)をひき起こしたのち，特定の反応となって発現される。本来，すべての生活形は多かれ少なかれ刺激に対して応答する性質をもっているが，特に神経・感覚細胞・筋肉などはそれが著しい。また，植物の刺激運動も刺激に対する反応である。刺激には光・熱・水・接触・電気・化学物質・空気などによる物理的・化学的作用ないしは状態変化がある。
〔吉田精一〕

しげき【詩劇】韻文で書かれた戯曲。部分的に散文の混じったものまでも含めていうが，ふつう散文による詩的情緒の豊かな戯曲は除外される。ヨーロッパでは古代ギリシア以来詩劇が劇の主流を占めてきた。16世紀末，演劇の黄金時代であるイギリスのエリザベス朝のころマーローやシェークスピアによってブランク-バーズ強弱五脚の無韻詩が完成され，韻文による戯曲は散文に劣らぬ柔軟性と力強さをもつに至った。さらに17世紀にはフランスでコルネイユ・ラシーヌらがアレクサンドラン(十二綴音(てつおん)の句格詩)による荘重な悲劇を書いた。このころになると，悲劇は韻文，喜劇または喜劇的場面には散文が用いられるようになる。18世紀以後は散文による戯曲が劇の主流を占めはじめ，19世紀後半以降は近代劇の発展や写実主義の影響を受けてこの傾

向はますます強まった。こうした中にあってなお詩劇の伝統は保たれ，イギリスのビクトリア朝のブラウニングやテニソン，フランスのユゴー・ロスタン，ドイツのヘッベル・ハウプトマンらがすぐれた詩劇を残している。今世紀ではイギリスのT.S.エリオットが理論と実作において注目され，ほかにC.フライ・イエイツらが詩劇作家として知られている。日本では能楽や歌舞伎（かぶき）の一部に詩劇的な伝統がみられるが，それらは形式的なものにすぎない。
〔白川宣力〕

しげきうんどう　【刺激運動】　生体が外部から種々の刺激を受けたために誘発される運動。刺激およびそれに対する反応の方向性に関して，屈性・走性・傾性に分けられる。また，その運動の方法の上から，生長運動・膨圧運動・移動運動に分けられる。

しげきはんのうせつ　【刺激反応説】　行動は刺激に対する反応であると説く学習理論の一。S（刺激）－R（反応）説，連合説ともいう。刺激と反応との連合には①刺激が空腹・性的欲求・苦痛など人間の内部から起こる生得的なもので，反応との結合も元来生得的なものと，②地位・金銭への欲求など，刺激が社会的条件による獲得的なものであり，反応との結合も経験を通して成立する社会的水準のものとがある。動物における刺激はほとんど生得的な要素に支配される。また，後者に関しては条件反射の原理に負うところが多い。生活体はこれらの刺激に対して，単に受動的に反応するだけでなく能動的に反応し，満足を生ずるなんらかの連合をつくる傾向をもっている。　〔原田彰子〕

しげさぶし　【しげさ節】　島根県隠岐（おき）地方の民謡。しげさの〈しげ〉は〈出家〉の転訛（てんか）とも女の名ともいわれる。新潟県の《三階節》および《しゅげさ節》が隠岐に移入されたもので，酒席の唄（うた）として今日なお盛んに歌われる。

しげたゆうぶし　【繁太夫節】　浄瑠璃（じょうるり）の一種。1735年（享保20）ごろ，宮古路豊後掾（ぶんごのじょう）の弟子（でし），宮古路（のち豊美（とよみ））繁太夫が1735年ごろから語りはじめたものという。劇場よりもお座敷芸としての性格が強かったらしく，盲人によって受け継がれ，今日では地歌に寄生する形で伝承されている。したがって，音形的には他の浄瑠璃と関係をもち，地歌よりは節回しの細かさがあるが，全体としては地歌的になっている。《名残（なご）りの橋尽し》や《紙屋治兵衛（じへえ）》の〈茶屋場〉などが有名。

しけつほう　【止血法】　出血を止める方法。一時的止血法と永久的止血法があり，後者は主として手術などの際に行なわれる。①一時的止血法：出血部位の圧迫や，出血部位の中枢側で主幹動脈（→動脈）を圧迫する方法などが行なわれ，四肢（しし）では止血帯などが用いられている。小静脈（→静脈）や毛細管からの出血は，圧迫によって血管収縮や血液凝固などで自然に止血することが多いが，主幹動脈からの出血では骨に向かって中枢側で動脈を圧迫し（静脈性出血では末梢（まっしょう）静脈を圧迫），できるだけ早く専門の処置をする必要がある。②永久的止血法：外科手術の際の出血には毛細管出血・静脈出血・動脈出血がある。毛細管からは実質性出血といわれる点状出血が起こり，ガーゼで圧迫するか創縁が密着するように縫合すれば容易に止血する。静脈出血では暗赤色の静脈血がたえず流れ出るので，ガーゼで圧迫するか止血鉗子（かんし）で出血部をはさみ，これを細かい絹糸で結紮（けっさつ）するか高周波電流で凝固させる。動脈出血では鮮紅色の血液が搏動性に奔出する。静脈と同様に結紮するが，やや太い動脈では安全のため二重に結紮する。もろい組織では血管とその周囲組織をいっしょに括約縫合する。骨からの出血にはとかしたロウを詰め込み，脳のように柔らかい組織には暖かい高張食塩水（浸透圧の高い，すなわち濃い食塩水）を浸したガーゼや筋肉片をあてる。　〔三島好雄〕

しけつやく　【止血薬】　出血を止める薬の総称。皮膚あるいは外から薬を適用できる部位の出血に対しては，組織を収斂（しゅうれん）したり，血管を直接収縮させる塩化第二鉄やアドレナリンなどの外用薬を用いる。外用薬を適用できない部分に対しては，注射あるいは経口的に与えて血液凝固を促進するアドレノクローム・ビタミンK_1などが用いられる。

しげのいこわかれ　【重の井子別れ】　⇨恋女房染分手綱（こいにょうぼうそめわけたづな）

しげののさだぬし　【滋野貞主】　（785～852）　平安初期の儒者・詩人。827年（天長4）に《経国集》，831年に《秘府略》1,000巻（現存2巻）を選した。うち，後者は中国文書の類従で，所収文書の数1,500種以上に及ぶ。その性は温厚・慈愛に富み，仏教への志も厚かったと伝える。

じげは　【地下派】　近世歌壇の一派。貞徳とその門人元政上人（しょうにん）・季吟・加藤盤斎らによって広く民間に流布した。堂上派（とうしょうは）に対する。歌風は依然として旧守的であったが，木下長嘯子（きのしたちょうしょうし）やその門弟の下河辺（しもこうべ）長流・契沖（けいちゅう）をはじめ，荷田春満（かだのあずまろ）・戸田茂睡らを経て賀茂真淵（かものまぶち）に至る堂上派歌学に批判的な学者歌人の活動は，地下派の名にふさわしい。　〔奥野純一〕

しげみつまもる　【重光葵】　（1887～1957）　政治家・外交官。大分県に生まれる。東京大学卒業後外務省にはいり，1931年（昭和6）駐華公使，以後駐ソ大使・駐英大使を歴任。1943年東条内閣の外相，小磯（こいそ）・東久邇（ひがしくに）内閣の外相となる。第2次世界大戦終了直後，政府代表として，ミズーリ号上において日本の降伏文書に調印。1947年極東国際軍事裁判によりA級戦犯として禁錮（きんこ）7年の刑に処せられたが，1950年仮出獄。1953年出獄後改進党総裁に迎えられ，同年衆議院議員に当選。翌年自由党の鳩山（はとやま）派と合流して日本民主党を組織，副総裁となる。第1次・第2次鳩山内閣の外相をつとめ，日ソ交渉，日本の国際連合加盟に努力した。　〔溝口　潔〕

しけん　【私権】　⇨公権・私権

しけん　【試験】　個人の知識・技能・問題解決力・表現力など学習効果を評価するために用いられる方法。教育方面で最も多く用いられるが，入社試験のようにそれ以外でも使われる。具体的な方法として筆答法・口答法・実技法があり，作製手続きで分ければ教員など試験者自身がつくる場合と，組織的に研究作製され標準化されたテストとがある。筆答法の中には，一定の主題について文章で自由に書かせる論文体テストと，空所を埋めさせたり正答を選ばせたりする客観テストとがあり，それぞれ長所・短所をもつ。よいテストの条件としては，妥当性（知ろうとする当の能力を正しく測る）と信頼性（偶然や試験者の主観で左右されない）が高くなければならない。従来の試験は知識量や技能の測定にかたよって断片的になることが多く，さらに多面的・全人的な能力を測定する方法が必要とされている。　〔石原静子〕

じけん　【時圏】　時角圏ともいう。天の極を通り，天の赤道と直交する大円で，地球上の等経度線に相当する。ある地点で天頂を通る時圏は，その地点の子午線である。

じげん　【次元】

1 物理：長さ・質量・時間の単位をそれぞれ〔L〕，〔M〕，〔T〕で表わすと，これらの基本単位から導かれる組み立て単位は，一般に〔Q〕＝〔$L^x \cdot M^y \cdot T^z$〕で示される。これは，基本単位と組み立て単位との関係を示すもので，次元式とよばれ，またQの次元（ディメンション）は$L^x \cdot M^y \cdot T^z$であるという。たとえば，速度の単位には1 m/秒，1 cm/秒，1 km/時などあるが，いずれも長さの単位を時間の単位で割ったものである。つまり，速度の単位はいろいろあっても，次元は等しく〔LT^{-1}〕となる。次表は，種々の物理量の次元を示したものである。角は同種類の二つの量，すなわち弧と半径との比であるから単なる数で，無名数ともよばれ，ディメンションは0で，〔1〕と表わす。

次元式を知れば単位の換算は容易である。たとえば，長さと時間の単位をそれぞれL_1，T_1およびL_2，T_2と置いたときの速度の単位をV_1，V_2，速度の値をv_1，v_2とすると，$v_1/v_2=V_2/V_1=(L_2/L_1)\cdot(T_2/T_1)^{-1}$。したがって，たとえば1 m/秒は3.6km/時であることが直ちに算出できる。

物理式がなりたつとき，各項の次元はすべて同じでなければならない。たとえば，

初速度v_0で自由落下する物体の落下距離を与える式$x=v_0t+\frac{1}{2}gt^2$の両辺の各項の次元は〔x〕=〔L〕，〔v_0t〕=〔LT^{-1}〕×〔T〕=〔L〕，〔$\frac{1}{2}gt^2$〕=〔LT^{-2}〕×〔T^2〕=〔L〕で，すべて同じである。次元の異なる物理量は必ず性質が違う量であるから，それらを互いに等しいとおいたり，相互に加減算を行なうことは無意味である。　〔有山正孝〕

2数学：レール上の電車は前後にしか走れないが，グラウンドで遊ぶ子どもは前後・左右に行動でき，空中では，小鳥が前後・左右・上下のどの方向にも飛べる。これは，線は一方向のみの広がりであるのに対し，面は二方向の，空間は三方向の広がりをもつことを意味する。数学での次元は，このことを表わしたもので，直線や円周は一次元の集合，平面や球面は二次元の集合，われわれの住む空間や球の内部などは三次元の集合であるという。直線上の点Pの位置は1個の数でP(x)と表わされ，平面上の点Pの位置は2個の数の組みでP(x, y)と表わされるように，次元の数は，点の位置が何個の数の組みで表わされるかによって定まる。点の位置がn個の数の組みでP(x_1, x_2, ……, x_n)と表わされる集合をn次元の集合またはn次元空間という。地球上の地点は緯度と経度で表わされるように，球面上の点は2個の数の組みで表わされるから球面は二次元空間である。　〔小西勇雄〕

量の名	次元	量の名	次元
面積	〔L^2〕	力	〔LMT^{-2}〕
体積	〔L^3〕	圧力	〔$L^{-1}MT^{-2}$〕
角	〔1〕	運動量	〔LMT^{-1}〕
密度	〔$L^{-3}M$〕	仕事	〔L^2MT^{-2}〕
速度	〔LT^{-1}〕	仕事率	〔L^2MT^{-3}〕
加速度	〔LT^{-2}〕	ヤング率	〔$L^{-1}MT^{-2}$〕

じげんじ　【慈眼寺】　⇨野崎観音

シーケンスせいぎょ　【シーケンス制御】　何段階かの仕事を，定められた手順に従って自動的に進めていく制御方法。古くから使われた制御法で，現在でも広く取り入れられている。代表的な例としてはエレベーターの自動運転がある。これは，利用者の呼び出しに応じてエレベーターのかごを移動させること，ドアーの開閉，指示された行き先への移動，再びドアーの開閉，などがあらかじめ決められた順序に従って判断を伴いながら行なわれる。複雑な場合には計算機を入れて制御することもある。

じげんばくだん　【時限爆弾】　投下もしくは取り付けたのち，一定時間後に爆発するように装置した爆弾。投下爆弾の場合は，投下後に発火装置を拘束する物質が化学的に溶解しはじめ，この溶解が終わると同時に爆発が起こる。構造物などに取り付ける時限爆弾は，信管に時計装置を使用したもの。いずれも謀略的・奇襲的効果で相手側に大きな恐怖感を与える。

しご　【死語】　伝達の手段として使用する者がなくなって，言語変化を停止した言語。使用者が文化的・政治的に劣勢となったり，人口が減少したりすると，その言語の利用価値が低下して，他の優勢な言語がとってかわり，死語が生まれる。現代のフランス語・イタリア語・スペイン語などに発展・変化して存続しているが，ラテン語自体は固定してしまった。わが国の奈良・平安時代の言語も同様である。

じこインダクタンス　【自己インダクタンス】　⇨インダクタンス

しこう　【視紅】　⇨ロドプシン

しこう　【歯垢】　歯の表面に見られる白い柔らかい付着物。粘液や剝離(はくり)した口腔(こうこう)粘膜の細胞，白血球，食物のかす，細菌などからなり，口腔清掃の十分に行なわれない場所にたまりやすい。これに唾液(だえき)中の石灰塩が沈着すると歯石になり，発酵作用や細菌の作用のために，むし歯・歯肉炎・歯槽膿漏(しそうのうろう)症の原因となる。

しこう　【思考】　一般的には〈考える〉という人間の精神作用を総括していう語で，思惟(しい)ともいう。感性の作用とは明確に区別される。論理学では，思考の過程を概念・判断・推理の三つの作用よりなるとみている。概念は多くの経験から共通のものが抽象されて一般化された表象であり，判断は二つの概念の関係についての理解であり，推理は二つの判断の関係を明らかにすることである。この思考過程の形式がいわゆる三段論法であって，これによって対象の全体や法則性などが認識把握(はあく)されるとする。心理学的な意味では，さまざまな問題事態や課題状況に対処してこれを解決する精神の働きを総称して思考という。回り道や道具の製作など知的動作による課題解決は動作的思考といわれ，言語や記号の使用によるものは言語的思考といわれる。また，具体的な事象に関する直接的な思考は直観的思考・対象的思考・具体的思考などとよばれるが，これに対して，現在だけでなく過去や未来に関する事象や抽象的事物などを対象とする思考は抽象的思考とよばれ，一般には具体的思考から抽象的思考へと思考は深化・発展する。特にこの抽象的思考の段階においては，言語や記号の高度の利用による複雑な思考が可能となり，その成果としての思想が形成されるに至る。また，非常に解決の困難な問題事態において，その解決が突然可能になることがあるが，これは〈開明(イルミネーション)〉とか〈ひらめき(インスピレーション)〉などとよばれる。思考はさらに，課題解決のために，その課題・目的とそれを実現する手段との間の関係を読み取る働きもなし，そのような思考を〈見通し〉〈洞察(どうさつ)〉とよぶ。このほか，過去の経験の再生によって以前と同じ解決をする再生的思考に対し，まったく新しい課題事態や新発明・新発見などの場合の生産的思考とよばれるものもある。　〔本橋正義〕

しこう　【志向】　スコラ哲学において，精神が直接対象に向かうことを第1志向といい，この第1志向そのものが精神の対象となる場合を第2志向という。ブレンターノはこの用語を再び取り上げ，心理現象の特性を表わすものとした。弟子(でし)のフッサールは志向的体験を現象学の対象と考え，その精細な分析を行なった。フッサールによると，志向は外界の事物と心理現象との関係ではなく，意識に内在すると同時に非実在的なもの，すなわち意味の関係であるという。　〔飯塚勝久〕

しこう　【施行】　法令の公布後，その効力を現実に発生させること。その期日を施行期日という。法令は，公布の日から起算して満20日を経過した日から施行されるのを原則とする(法例1条本文)が，近時の法令は，むしろその法令自体に施行期日を定め，しかも公布の日から即日施行すると定める場合が多い。➔公布

しこう　【支考】　(1665～1731)　江戸前期の俳人。各務(かがみ)氏。別号は東華坊・西華坊・獅子庵(ししあん)・見龍(けんりゅう)など。美濃(みの)(岐阜県)の生まれ。1690年(元禄3)芭蕉(ばしょう)に入門。晩年の〈かるみ〉を理解し芭蕉の最後の旅に随行，よく師に仕えたが，芭蕉没後は師説を売りものに諸国を巡り，多くの編著を刊行して地方に勢力を扶植した。1711年(正徳1)死を偽って郷里に隠れ，門人蓮二房(れんじぼう)・白狂・渡辺(わたなべ)ノ狂などの変名で著述を続けた。その不実の性格が忌まれ，後世，蕪村(ぶそん)らから軽侮されたが，虚実論を中心とする俳論と平明の句風で蕉風を普及した功は大きい。著書に《葛(くず)の松原》《笈(おい)日記》《続五論》《俳諧十論》などがある。

〔奥野純一・尾形仂〕

しごう　【諡号】　死後追贈する号。おくり名。国風諡と漢風諡の2種がある。国風諡は703年(大宝3)持統太上天皇に大倭根子天之広野日女尊(おおやまとねこあめのひろのひめのみこと)と追諡したのを最初とし，すべて7例にとどまるが，漢風諡は神武から桓武(かんむ)まですべての天皇にある。以後は数例を数えるばかりであったが，幕末，仁孝(にんこう)天皇から復活した。このほか臣下に贈られたもの，私に諡号を制定したもの，儒者に門人弟子(でし)から贈ったものなどがある。ただし仏門にはいり剃髪(ていはつ)した者には諡号を贈らない。　〔黛　弘道〕

じこう　【時効】　一定の事実状態が一定期間継続する場合に，この事実状態が真実の権利関係に一致するかどうかを問わないで，そのままこの事実状態に対応する法律効果を認めようとする制度。

〈民事上〉取得時効と消滅時効とに分けられる。前者は一定期間他人のものを占有する者に権利を与え，後者は一定期間行使されない権利を消滅させる制度である。

時効期間が満了すれば時効は成立する

わけだが，当事者が時効の利益を受けようとすること，すなわち援用をしなければ裁判所は時効による判決をなしえない(民法145条)。時効は遡及効*(そきゅうこう)を有し，その効力は起算日にさかのぼる(民法144条)。また，その基礎となるところの継続した事実状態に，それと相いれない一定の事実が生じた場合には，その期間の進行が中断され，すでに進行した時効期間は法的に無意味なものとなってしまう。これを時効の中断という。たとえば，時効によって不利益を受ける者が訴えを提起したり，差し押え*をしたり，あるいは相手方に自己の権利を承認させた場合などである(民法147条)。時効期間の満了近くに時効を中断することが困難な事情のある場合には，時効の完成を一定期間猶予することも認められている。これを時効の停止という。

取得時効は，所有権*と所有権以外の財産権*について認められる。その要件としては，20年間所有の意思をもって平穏かつ公然に他人のものを占有*することである。善意かつ無過失で10年間占有した場合にも認められる(民法162条)。消滅時効は，所有権以外の財産権についてのみ認められる。所有者がその権利行使をしなかったため，他人が取得時効によって所有権を取得し，その結果として所有者は所有権を失うことになるが，それは消滅時効とは別問題である。消滅時効は権利を行使しうるときから進行し，民事債権は10年(民法167条1項)，商事債権は5年(商法522条)，債権また所有権でないその他の財産権は20年(民法167条2項)を経過すると消滅時効にかかる。権利の特質によっては短期の消滅時効が規定されているものも多い(民法168～174条ノ2)。

〈刑事上〉 公訴*の時効と刑の時効とに分けられる。前者は確定判決前に一定の時間が経過した場合，刑罰権を消滅させる制度であり，後者は確定判決後に有罪者の逃走などによって，一定期間経過後刑の執行を免除する制度である。それぞれ犯した罪，確定した刑の重さによって時効の期間に差が設けられている。公訴の時効期間は，死刑にあたる罪では15年，無期懲役・禁錮(きんこ)にあたる罪では10年，10年以上の有期懲役・禁錮にあたる罪では5年，5年未満の懲役・禁錮または罰金にあたる罪では3年，それら以下の罪については1年である(刑事訴訟法250条)。刑の時効期間は，死刑では30年，無期懲役・禁錮では20年，10年以上の有期懲役・禁錮では15年，3年以上では10年，3年未満では5年，罰金では3年，拘留・科料・没収では1年である(刑法32条)。〔黒木三郎〕

じこう 【自貢】 ツーコン 中国，四川省中部の都市。重慶の西約180kmにある省轄市で，新中国になって，自流井・貢井の2市が合併してできた都市である。中国第1の岩塩産地として知られ，〈四川塩〉の名で，四川・雲南・貴州・湖北・湖南などの各地に広く送られている。4世紀中ごろから井戸による塩水の採掘法が始められ，唐代に拡張されたと伝えられるが，現在は井戸に清水を注入して岩塩をとかし，これをくみ上げて煮詰める方法をとり，その燃料には付近で産する天然ガスを利用している。現在の産塩量は年120万t程度と推定され，近年は産塩の増加とともに化学工業の発展が著しい。ほかに電気器具・耐火材料・セメントなどの工業が行なわれている。〔船越昭生〕

じこうこうか 【時効硬化】 高速度鋼や ジュラルミンなどの合金を急冷または冷間加工した場合に，時間の経過につれてかたさを増す現象。焼きもどし硬化・析出硬化ともいう。焼き入れされた状態の過飽和固溶体において，溶質原子が溶媒原子の空間に集合して，あるいは微細な粒子を析出して，塑性変形抵抗が高まることによって硬化する。高速度鋼の場合はオーステナイト鋼のマルテンサイト*化による硬化で，ジュラルミンの場合は銅原子集合体の微小な析出による。〔秋枝哲児〕

しこうさくご 【試行錯誤】 人間や動物が，新しい問題場面に置かれたとき，手あたりしだいにさまざまなやり方を試みたあげく，偶然に問題を解決することがある。このような試みを反復するうちに，無効なやり方が排除されて，ついには有効なやり方のみが残るようになることをいう。これを試行錯誤と名づけ，習慣形成の基本型とみなしたのはC.L.モーガンである。その後，ソーンダイク*は，問題箱での動物実験を通じて，これを，学習の基本過程とみなし，定立した〈効果の法則〉との関連でこれを重視した。〔佐藤方哉〕

しこうしょうがい 【思考障害】 思考の働きの障害。精神医学では思考形式の障害と思考内容の障害とに大別される。思考形式の障害とは，考えの組み立て方・進め方など思考過程の障害で，①躁病(そうびょう)にみられる考えが次から次に浮かんできてまとまりのつかない観念奔逸，②鬱病(うつびょう)の場合の考えが渋滞して進まない思考抑制，③脳疾患にみられる同じ考えがくり返され進行しない保続症，④てんかんの場合の思考がまわりくどい思考迂遠(うえん)，⑤精神分裂病にみられる思考が突然とだえる思考途絶や脈絡のない考えがばらばらに現われる思考滅裂などがある。思考内容の障害には，妄想*(もうそう)，強迫観念*，支配観念(特定の観念が意識を占有する)，思考の作為体験(他人によって思考させられる，あるいは思考を奪われる)などがある。なお，思考障害を，精神分裂病に特有の思考滅裂や思考の作為体験などにのみ限定して用いる場合がある。〔北田譲之介〕

しこうせい 【指向性】 アンテナや音響機器が電磁波や音波を空間内のある特定方向に強く出す，あるいはある特定方向からそれらを受ける場合に感度が高いとき指向性があるという。指向性の鋭さはある平面内で放射エネルギー(それに代わる電界強度や音圧を用いるときもある)，あるいは受信感度が最大になる方向を基準とし，そのエネルギーが半分になる2方向間の角度で表わされ，半値角という。互いに直交する2平面内の一方だけに鋭い指向性を示すファンビームや両者ともに鋭いペンシルビームなどがある。〔小原啓義〕

しこうせいじ 【視恒星時】 歳差*・章動*によって天球上を変動する真の春分点の時角*で定義される恒星時*。真恒星時ともいう。

しこうちょく 【死硬直】 ⇒死体強直

しこうてい 【始皇帝】 (BC259～BC210) 中国最初の統一帝国秦(しん)の初代皇帝。名は政。秦の荘襄王(そうじょうおう)の子。247年，31代秦王となる。即位10年めに丞相(じょうしょう)の呂不韋(りょふい)を廃して親政に移ると，東方の六国を次々と破って軍事的に天下を統一し(221)，また法家思想家の李斯(りし)を起用して，郡県制による中央集権体制を確立し，文字・貨幣・度量衡などの文化的な統一とともに，焚書坑儒*(ふんしょこうじゅ)によって思想の統一をも行なった。本土の統一後北方には蒙恬(もうてん)将軍をつかわして匈奴(きょうど)を討つと同時に，趙(ちょう)や燕(えん)の長城をつないで万里の長城*を完成し，南方は安南地方にまで版図を広げた。国内では，阿房宮*(あぼうきゅう)などの大建築，道路の建設などを行ない，東方への巡幸や封禅などの儀式により皇帝のカリスマ的支配権の強化を努めた。しかし，始皇帝が巡幸の途上で崩ずると，秦帝国は混乱に陥り，のち2代で政権は漢に移った。〔小南一郎〕

しこうひん 【嗜好品】 栄養を中心に食品を分類するとき，生体の生命維持に直接の関係をもつ栄養食品と区別される食品で，人の味覚を楽しませるものの総称。食欲を進め，消化を助け，気持ちを爽快(そうかい)にする作用をもつので間接的には栄養上効果のある場合もあり，また直接栄養になるものもある。酒類・菓子・茶・清涼飲料・調味料などがこれに属する。

しこうりょうさくもつ 【嗜好料作物】 工芸作物*の一。人が社会生活を営むうえにおいて，疲れた精神や高ぶった神経を休め，ときには逆に神経を刺激・興奮させる目的をもって使用する，または働きを有する作物。たばこ・茶・コーヒー・カカオ・ガラナ・コーラなどが含まれるが，一般にチャに含まれるビタミンCを除いて，栄養的価値は認められない。刺激あるいは麻酔性の物質を含む。たとえば，たばこのニコチン，茶・コーヒー・ガラナなどのカフェイン，ココアのテオブロミンなど。大部分の嗜好料作物は熱帯地方の産物であって，昔は原住民が享楽的・儀式的に用いたのがはじめとされる。喫茶は中国において，コ

ーヒーはアラビアで，カカオは中南米で用いられたのがはじめである。コーヒーは全世界人口の3分の1が，茶は2分の1以上が用いており，カカオは3億以上の人々が利用している。南米人はマテ茶やガラナを愛用し，アフリカ人はコーラを利用しているが，特にコーラはコーラ飲料として全世界に広まりつつある。〔金木良三〕

しこうろくみん【四公六民】⇨五公五民

じごえ【地声】日本の伝統音楽の発声法の一。裏声*に対する。声帯の全域が振動し，発生した声音の大部分が胸腔(きょうこう)に共鳴するため，裏声に比べて倍音が多く，響きが豊かである。

じこかぶしき【自己株式】株式会社が取得または質受けした自社の発行済みの株式*のこと。株券は有価証券であり，財産上の価値もあるので，会社は自社の株式を取得することは不可能ではないが，これを無制限に認めると，実質的には資本の払いもどしとなって資本充実の原則に反するし，また会社がこれによって株価を操作するなど投機の弊を助長することになる。このため，商法は次の四つの場合に限って認め，これ以外の自己株式・取得を禁止している。①株式消却のためにするとき，②合併，営業全部の譲渡，③会社の権利実行，④株式の買い取り請求権行使による株式の買収などである。

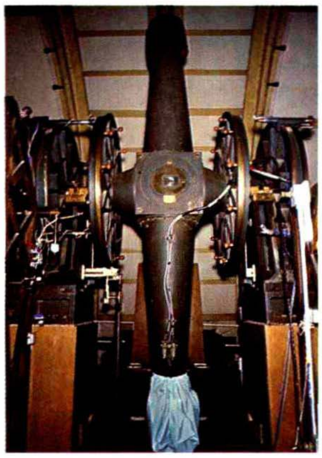
なお①の場合には，会社は遅滞なく株式失効の手続きをとらねばならず，②ないし④の場合には，相当の期間内にこれを処分しなければならないことになっている(商法210・211条)。〔松本治雄〕

しごかん【子午環】子午線を通過する天体の高度・時刻を測定して，その赤緯・赤経を求める装置。すなわち，天体の位置決定を主目的とする。正しく東西に向いた水平軸に直角に口径20cmぐらいの望遠鏡が取り付けられ，望遠鏡は子午線に沿ってのみ動く。水平軸には，南中*高度を精度よく測定するために直径1m以上の精密な目盛り環がついている。また，器械の水平は水銀面によって保たれる。仲間に子午儀*がある。

しごき【扱き】女性の帯の付属的な装飾品。晴れ着に帯をおはさみ*に結んだとき，帯幅の下端に二巻きして後ろわきで大きく両輪に結び下げる布。中幅(48cm)でたけ250cmくらいの絹縮み・紋縮緬(ちりめん)・紋綸子(りんず)などをうこん・緋(ひ)・桃色などの無地に染めて用いる。仕立てずそのままましごいて締めるのでこの名がある。本来は長着のおはしょり*をからげるのに用いられたが，腰ひも*が使われるようになってからは装飾用になった。現今は女児の7歳祝い着にみられるにすぎない。➔かかえ帯〔堀越すみ〕

しごぎ【子午儀】天体の子午線通過を観測する装置。構造は子午環*とまったく同一であるが，望遠鏡は口径5cm程度，高度測定の目盛り環は直径5cmぐらいで，水平は気泡(きほう)によって求められる点，子午環より精度は落ちる。本機は，子午線通過の時刻を観測して赤経を求めたり，逆に赤経の知られている恒星を利用して地方恒星時の狂いを求めるのに使用される。

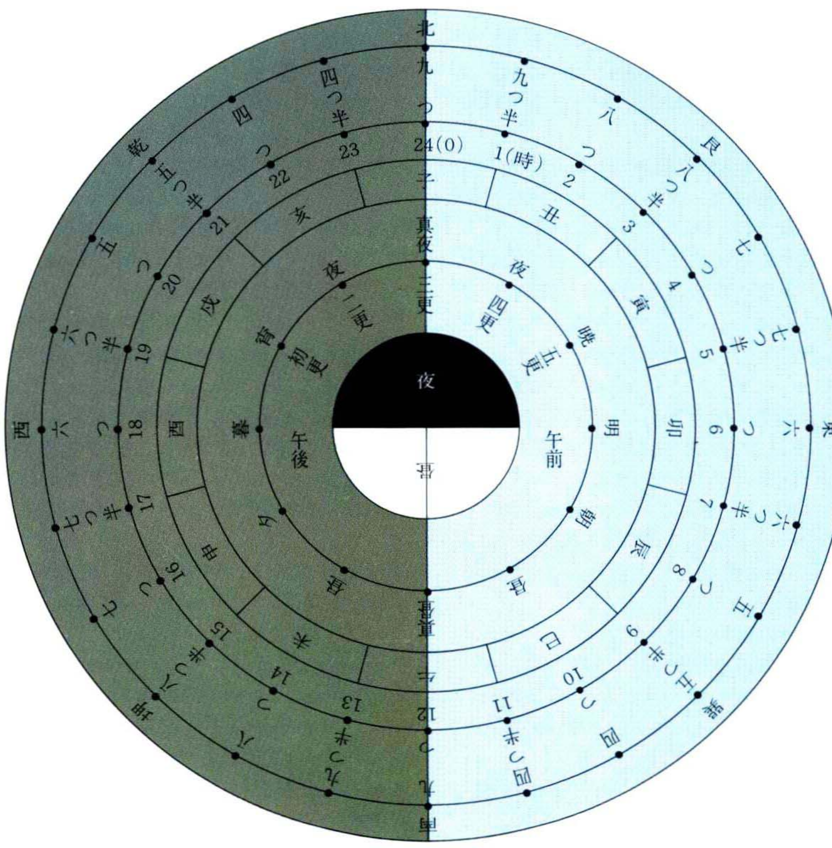
じこきんゆう【自己金融】内部金融ともいう。企業の自己資本のうち株式資本金を越える準備金や積立金を資金源として企業の支出をまかなうこと。これらの資金源は企業利潤からの繰り入れ部分であり，内部留保部分を表わす。したがって，自己金融の比率の高さは経営の安定・堅実性を示す一つの指標といえる。資本主義の発展とともに先進国では外部金融よりも自己金融の比率が高くなっているが，わが国ではまだ自己金融の比率はきわめて低い。


子　午　環

しこく【四国】⇨四国地方

じこく【時刻】たえず流れていく時のある瞬間の値。時の経過を座標軸で表わしたときには，その軸上の1点に相当する。時刻と時刻の間隔が時間である。現在の時刻は，地球の自転をもとにして天文学的に定められ，基準の天体が基準の子午線に対してどういう時角*にあるかで定義される。太陽の日周運動から決めた時刻が太陽時*，恒星の日周運動から決めた時刻が恒星時*で，太陽時には平均太陽時*・真太陽時*の2種類がある。また，基準の子午線のとり方によって，地方時*・地方標準時・世界標準時の区別がある。日本で用いている時刻は，東経135°の子午線に準拠した地方標準平均太陽時である。平均太陽時の世界標準時はグリニッジにおける標準時で，世界時*ともいう。

実際に天文台で時刻を決めるには，恒星の子午線通過を観測して恒星時を求め，それを平均太陽時に換算する。なお，最近天体観測の精度向上に伴って，地球の自転速度が完全には一様でないことがわかってき



時　刻　現在と昔の時刻



地　獄　渡し守カロンの舟に詰め込まれて地獄に渡る人々　ミケランジェロ《最後の審判》(部分)　システィナ礼拝堂正面祭壇背後

た。そこで学問的には，惑星や衛星の公転運動を基準にした暦表時*が使われることがある。

【昔の時刻】大昔の人々は，夜明け・日没によって昼・夜の交替を知り，それを生活の基準としていたと想像される。つまり太陽を時計にして，非常に素朴(そぼく)な真太陽時を使っていたのである。水時計や砂時計が発明されて時の流れを等しい間隔で刻むことができるようになると，日出・日没を境として，昼夜を別々に12等分する時刻の定め方が用いられた。昼夜の長さは1年じゅうを通じて変化するから，1時間の長さも一定せず，昼の1時間は夏に長く，冬に短い。このような時刻の定め方を不定時法といい，これに対して現在われわれが用いている，昼夜を合わせて等分する方法を定時法という。

不定時法は，紀元前2000年以上もまえのエジプトに始まり，ギリシア・ローマを経て世界各国で長い間用いられていた。江戸時代における時刻の数え方もこの不定時法である。すなわち，夜明けから日暮れまでの昼を6等分し，日暮れから夜明けまでの夜を6等分して，それぞれを〈一とき〉と名づけた。したがって，〈一とき〉はおおよそ現在の2時間に相当する。夜明けを〈明け六つ〉，それから〈五つ〉〈四つ〉と数え，正午は昼の〈九つ〉とよぶ。午後は〈八つ〉〈七つ〉を経て日暮れの〈暮れ六つ〉に至る。夜にはいると〈五つ〉〈四つ〉と数え，真夜中が〈夜の九つ〉，その後は〈八つ〉〈七つ〉を経過して〈明け六つ〉になる。

もう一つの時刻の数え方として，十二支を用い，真夜中を子の刻として，図のように配置する方法も用いられた。現在われわれが用いている〈正午〉〈午前〉〈午後〉は，この時代のことばのなごりである。

〔守山史生〕

じごく【地獄】　梵語(ぼんご)naraka(ナラカ)またはniraya(ニラヤ)の訳で，奈落迦(ならか)・泥囉夜(にらや)と音写される。仏教において，三悪道・五趣・六道*・十界の一つとされる。人間はみずからつくった罪業によってこの地下の牢獄(ろうごく)に行くといわれ，代表的な地獄界として八大地獄(八熱地獄)・八寒地獄・孤地獄・十六地獄などがある。

八大地獄は，《倶舎論*(くしゃろん)》《往生要集*》によれば，次の八つの地獄に分けられる。①等活地獄：われわれの住む世界のすぐ下方にあり，殺生をした者が落ちる。鉄棒や刀で肉を裂かれ，死んでは蘇生(そせい)して苦が続く。②黒縄(こくじょう)地獄：貪欲(とんよく)と盗みによって落ちる。③衆合地獄：邪淫(じゃいん)にふけった者が落ちる。赤熱したくちばしをもつワシや，刀でできた葉をもつ木々の林にはいって苦を受ける。④叫喚地獄：殺・淫・盗・飲酒の罪によって落ちる。大がまの熱湯や鉄室の火で苦を受ける。⑤大叫喚地獄：前項の罪に妄語(もうご)の罪を重ねた者が落ちる。⑥焦熱地獄：前項の罪に邪見の罪を重ねた者が落ちる。⑦大焦熱地獄：前項の罪のほかに戒律を守る女を犯した者が落ちる。⑧無間(むげん)地獄(阿鼻(あび)地獄)：最下層にある極苦最上の地獄で，五逆*の罪を犯した者が落ちる。地下に重畳をなすこの地獄の構想が暑熱の風土条件と古代国家のきびしい刑罰の観念に基づいたものであることがわかるであろう。また地獄の居処は，大海の周囲を巡る大金剛山と第2の大金剛山との中間，鉄囲山(てっちせん)の外，閻浮(えんぶ)州(→閻浮提)の下方および江河山辺また地下空中など，種々に規定されている。

地獄の様相は，勧善懲悪のため地獄の責苦の情景を描写した地獄変相(地獄絵図)に見ることができる。アジャンター石窟(せっくつ)の第17窟や中央アジアのベゼクリク*の壁画が知られ，キジルの千仏洞(せんぶつどう)や敦煌*(とんこう)の千仏洞でも発見されている。中国では唐代以降盛んに作成され，日本では閻魔*や地蔵菩薩*(ぼさつ)の信仰に基づいて地獄変相図の多くがつくられた。

こうした地獄思想の発生について，インドで後期ベーダ文献の時代になると，ヤマ神(閻魔)が死および死後の世界と関係づけられるようになり，他界に到着した人間の善悪をはかるという信仰，すなわち死後審判の思想が現われた。叙事詩《マハーバーラタ*》では，ヤマ神は亡者・餓鬼の王として君臨するようになり，地獄の方位・場所・情景・責苦の描写とともに地獄思想の固定化がみられる。やがて《マヌ法典》《ヤージュニャバルキヤ法典》《ビシュヌ-プラーナ》などで21の地獄名が列挙されている。これらヒンズー教の影響をうけて，仏教でも早い時代から地獄の思想が導入され，善因善果・悪因悪果の応報思想にも採用されて，《ダンマ-パダ》第306詩や《スッタニ-パータ》(コーカーリヤ章)などに地獄に関する記述が盛り込まれたものと思われる。前述の〈八大地獄〉などの地獄観は，西暦2～3世紀頃になって《正法念処経》《倶舎論》《大智度論(だいちどろん)》などにおいて体系的に整理されたものといえよう。　〔山折哲雄〕

キリスト教では悪魔*と悪魔に従った者が永劫の罰を受ける場所またはその状態をさす。《旧約聖書》ではシェオールといわれ，神に逆らった者が刑を受ける場所をさす。シェオールの原意は死後に死者のおもむく冥府(めいふ)または黄泉(よみ)の意で，刑罰の観念は含まれていない。《旧約聖書》全体では原意のままの用法が一般的である。《新約聖書》ではいわゆる地獄をゲヘナとよんでいる。ゲヘナはヘブライ語で〈ヒンノムの谷〉の意。ヒンノムはエルサレム南西の実在の地名で，邪教モロック(バール神)崇拝が流行した際，幼児がいけにえとして捧げられた地として有名である。その後，この地は動物や罪人の死体，廃物の焼却場として使われ，火の絶えることがなかったという。この光景の印象からゲヘナははじめ象徴的に，のちには端的に地獄をさす語になった。また〈タルタロス〉も地獄の意に使われている。これはギリシア神話で，ハデス*(死者を統率する神の名から転じて冥府の意)のさらに下方にあって，ゼウスが巨人たちを閉じ込めた場所をさす。

原始キリスト教以来，キリスト教では地獄の存在そのものに関しては論争がなかったが，《新約聖書 マタイの福音書》にしるされている地獄における〈永遠の刑罰〉の〈永遠〉の解釈が問題になった。〈永遠の〉の原語形容詞アイオーニオスは名詞アイオーンの派生語であるが，アイオーンは本来〈永(なが)い時期〉というだけの意であるから，〈永遠〉とは異なるという解釈も成立し，これと神の愛*の観念が結合し，地獄の刑罰はいつか時が満ちて終わり，罪人はむろん，悪魔すら救われるという主張がオリゲネス*以来あった。しかし，正統信仰はこれを退け，字義どおりの解釈を正しいとしている。

地獄における苦罰の内容に関してはカトリック教会が最も詳細な説明を与えている。それによると，神を永遠に失う苦しみ(喪失の苦罰)と永遠の火に焼かれ続ける苦し

み(感覚の苦罰)との二つが最も本質的であるとされる。近代神学においては，前者に焦点を合わせつつ，神の意志に反逆して自己の意志に執着することから必然的に生ずる倫理的帰結として，神との交わりが遮断された状態が地獄であると規定することもある。これは比喩(ひゆ)的用法というべきであろう。なおカトリック教会では，天国と地獄の中間に，一時的な浄めを受ければ昇天が可能な死者のために，煉獄*(れんごく)なる存在が考えられている。　〔石井忠厚〕

しこくさんち【四国山地】 四国中央部をほぼ東西にわたって広がる山地で，北部を除いてほとんど四国全域を占めている。東は紀伊(きい)水道を隔てて紀伊山地へ，西は豊後(ぶんご)水道を隔てて九州山地へ連なり，いずれも沈水海岸をつくっている。山地の北側は，ほぼ徳島・新居浜(にいはま)・松山を結ぶ中央構造線*で境される。地質は山地の長軸に沿って帯状に，変成岩・古生層・中生層が北から南へ配列している。一般に険しく，東には剣(つるぎ)山地，西には石鎚(いしづち)山脈があり，また吉野(よしの)川上流の大歩危(おおぼけ)・小歩危などの横谷が深い渓谷(けいこく)を刻んでいる。　〔高野　繁〕

じごくぞうし【地獄草子】 地獄の世界のさまざまなようすを描いた絵巻物。鎌倉時代初期の制作で，奈良国立博物館蔵(旧原家本)と東京国立博物館蔵(旧安住寺本)の各1巻が伝わる。両者同筆とはいいがたいが，闊達(かったつ)な描線を主体とし，あざやかな彩色を用い，地獄の恐ろしい光景を巧みに描出しながら，絵画としての美的表現もそこなっておらず，当代絵仏師の卓抜した筆になると思われる。平安時代末期から盛行した六道思想のもとにつくられたもので，《餓鬼(がき)草紙》《病草紙(やまいのそうし)》とともにこの種の絵巻の貴重な遺品である。
〔村重　寧〕

じごくだにおんせん【地獄谷温泉】 長野県下高井郡山ノ内町にあり，山ノ内温泉郷の一湯。泉温60～95℃，含食塩セッコウ苦味泉で，神経痛・皮膚病・リウマチなどにきくといわれる。横湯川峡谷の地獄谷にあり，天然記念物の噴泉塔は水蒸気を数十メートルの高さに吹き上げる。静かな温泉で夏涼しく，長野電鉄湯田中からバスの便がある。

じごくだにおんせん【地獄谷温泉】 富山県中新川(なかにいかわ)郡立山町にあり，泉温43℃，泉質は硫化水素泉で，胃腸病・皮膚病にきくといわれる。北アルプス立山中腹の標高2,300mの高地に位置し，名のとおり，つねに亜硫酸ガスや水蒸気・熱湯を吹き上げている。立山開発鉄道室堂で下車，そこから徒歩。

しこくちほう【四国地方】 日本の8地方の一つで，北は瀬戸内海を隔てて中国地方，東は紀伊(きい)水道によって近畿(きんき)地方，西は豊後(ぶんご)水道によって九州地方と相対する。わが国第4の大島四国(面積18,256km²)とそのまわりの島々を含み，行政上は徳島・香川・愛媛・高知の4県に分かれ，面積は18,798km²で全国の4.98％，人口は419万8,000で3.6％を占め，8地方中面積・人口ともに最小である。地名は阿波(あわ)・讃岐(さぬき)・伊予・土佐の四つの国からなることに由来する。

【地形】中央部を幅の広い四国山地*が東西に走り，地形上の北四国と南四国を分けている。また中央構造線*が山地の北寄りを東西に走っていて，地質構造上の内帯と外帯に分けている。四国山地は紀伊山地・九州山地に続くもので西部には西南日本では最高の石鎚(いしづち)山(1,981m)，東部には第2位の剣山(1,955m)があり，いずれも高く険しい。また北四国には近畿地方の和泉(いずみ)山脈から続く讃岐山脈が，高縄(たかなわ)半島には高縄山塊がある。四国山地の南麓(なんろく)からは四国第1の長流吉野(よしの)川(194km)が，先行性河流をなして，大歩危(おおぼけ)・小歩危の峡谷をつくって四国山地を横断，四国山地と讃岐山脈の間の中央構造線に沿って東流し，下流に四国最大の徳島平野をつくっている。このほかの主要河川もすべて四国山地から発し，東流するものに那賀(なか)川，南流するものに物部(ものべ)川・仁淀(によど)川・四万十(しまんと)川，西流するものに肱(ひじ)川・重信(しげのぶ)川があり，発電にもよく利用され，四国地方ばかりでなく，阪神(はんしん)地方への重要な電力の供給源となっている。物部川と仁淀川の下流には高知平野，重信川の下流には松山平野が開ける。北流して瀬戸内海へ注ぐ川はいずれも短いが，讃岐山脈から流れる土器川や香東(こうとう)川・鴨部(かもべ)川が，下流に複合扇状地としての讃岐平野をつくっており，その中には飯ノ山(422m)・屋島をはじめとする多くの残丘*があって，特異な景観を示している。海岸線は比較的複雑で，北は高縄半島と讃岐半島が燧灘(ひうちなだ)をいだき，佐田岬(さだみさき)半島が西に突出して，豊予海峡を隔てて九州の地蔵崎(大分県)と相対し，南は室戸岬(むろとざき)と足摺崎(あしずりざき)にはさまれて土佐湾がある。瀬戸内海には小豆(しょうど)島や，塩飽(しわく)諸島・芸予諸島に属する島々など，大小の島が多く，大三島のように広島県の沿岸に近い島で，愛媛県に属しているのもある。

【気候と生物】北四国は雨の少ない瀬戸内式気候で，年平均気温15°C，年降水量1,300mm前後，南四国は表日本式気候で，黒潮の影響を受けて温暖多雨であり，年平均気温16°C，年降水量2,500mm前後で北四国の倍に近い。また南四国は冬も霜を見ることがまれで，足摺崎の初霜の平均は1月9日で南九州より遅く，終霜の平均は2月4日でこれも南九州より早い。ここではシイ・カシなどの常緑広葉樹林が分布し，アコウ・ビロウ・ハマオモトなどの亜熱帯植物がみられ，高知平野の一部では米の二期作が行なわれている。四国には，日本の他の地域ではすでに絶滅しているカワウソが愛媛県佐田岬半島にわずかに生息しており，特別天然記念物に指定されている。吉野川の上流のオオダイガハラサンショウウオは紀伊山地にすむものと同種であり，また愛媛・高知両県はヤイロチョウの繁殖地である。かつてツキノワグマは四国にはいないとされていたが，いまでは四国山地にいることが確認されている。高知県の土佐犬やチョウビケイも貴重な存在で，天然記念物に指定されている。

【農林漁業】耕地は北四国によく開かれ，中でも香川県の耕地率は30％に達し，水田率も75％で，二毛作がよく行なわれているが，雨が少なく大きな川もないので，灌漑(かんがい)はため池にたよることが多い。南四国では平野も狭く，耕地率も低い。米の年生産高は約60万t，日本全体の約4％で，南四国では米が自給できない。南四国の段々畑に多いサツマイモは米の補いとして重要であった。ミカンはこの地方の特色ある作物の一つで，特に愛媛県は静岡県と毎年全国一を争い，香川・徳島両県にも多く栽培されている。また，高知県の促成野菜による収入は米の収入よりも多く，香川県のジョチュウギクは全国第1である。香川県はまたブドウ・イグサ・タバコの全国有数の産地である。高知県のミツマタとコウゾは，いまでは少なくなっているが，ともに収穫量は全国第1で，ミツマタは紙幣の原料としてなお重要である。また山地では牛がよく飼われているが，かつて讃岐山脈の徳島県側から讃岐平野へ春と秋に出かせぎする借耕牛(かりこうし)は，帰りに米を積んで帰るので米牛とよばれて有名であったが，いまでは耕耘機(こううんき)の普及によってほとんどみられなくなっている。林業は，温暖で雨の多い南四国に盛んで，吉野・四万十・仁淀・物部・那賀などの各河川の流域のツガ・モミ・スギ・ヒノキ・マツなどの森林が重要な資源となっている。水産業は，瀬戸内海沿岸でタイ・イワシ・サバなどの零細漁業とハマチ・クルマエビ・ノリ・ワカメなどの養殖が行なわれているのに対して，太平洋沿岸ではブリがとれ，カツオ・マグロなどの遠洋漁業も盛んである。真珠の養殖は瀬戸内海や宇和海で行なわれている。瀬戸内海沿岸では古くから製塩業が盛んであったが，海水から直接塩をとるイオン交換樹脂膜法が出現するに及んで，現在では製塩業はまったく近代化し，塩田はほとんど姿を消しつつある。

【鉱工業】四国の地下資源としては愛媛県の別子銅山の銅が第1であったが，1973年閉山。他にはカコウ岩，愛媛県の弓削(ゆげ)島や高知県の須崎(すさき)市で石灰岩を採掘している程度である。北四国は瀬戸内工業地域の一部を形成しており，坂出(さかいで)市

の造船，別子銅山を控えた新居浜（にいはま）市の機械・化学，松山市の石油などの工業のほか，綿紡績やレーヨンなどの繊維工業が愛媛県を中心にみられる。愛媛県の今治（いまばり）市は全国の50％のタオルを出荷している。南四国の工業は不振で，高知・須崎両市にセメント工場がある程度である。在来工業としては丸亀（まるがめ）市のうちわ，小豆島のしょうゆ・そうめん，川之江市・伊予三島市（いずれも愛媛県）・伊野町（高知県）の和紙，松山市付近の伊予絣（いよがすり），高知県のかつお節などがある。

【交通・都市】全体として山がちのために，鉄道は他の地方に比べると普及が遅れ，四国循環鉄道もまだ完成していない。国鉄の幹線としては，予讃（よさん）本線（高松～宇和島）・土讃本線（多度津～窪川（くぼかわ））・徳島本線（徳島～阿波池田）・高徳本線（高松～佐古（徳島市内）があり，支線には，予土（よど）線が1974年に北宇和島から中村線の若井まで全通したのをはじめ，中村線が窪川から中村まで，牟岐（むぎ）線が徳島から海部（かいふ）まで延びたが，徳島県と高知県を結ぶ太平洋岸沿いの連絡はまだない。私鉄は香川県に高松琴平電鉄，愛媛県に伊予鉄道がある。航路は高松～宇野，堀江（ほりえ）（松山市内）～仁方（呉（くれ）市内）の鉄道連絡船のほか，関西汽船の高松～大阪，大阪～松山～別府，小松島～大阪，高知～大阪，南海汽船の小松島～和歌山港などをはじめ，近畿・中国・九州の諸港との航路がよく開け，またフェリーボートもよく利用されている。本州と四国の連絡橋の建設は，1970年（昭和45）に発足した本州四国連絡橋公団によって調査や実験が進められ，1973年に神戸―鳴門，児島―坂出，尾道―今治の３ルートを決定，1975年12月になって尾道―今治ルートの大三島橋が工事を始めたのをはじめ，３橋とも工事中に入っている。徳島・高松・松山・高知の各県庁所在地には空港があり，全日空や東亜国内航空による東京や大阪をはじめ，広島・福岡・大分・宮崎・鹿児島などへの定期航空路が開けている。人口で第１の都市は松山市（39万）で，高松（31万）・高知（29万）・徳島（24万）がこれに続くが，いずれも県庁所在地で，また旧城下町である。そのほかの都市はいずれも小さく，人口10～20万の都市としては愛媛県に新居浜（14万）と今治（12万）の二工業都市があるだけで，残りは人口50,000～10万の都市が６，50,000以下の都市が18となっている。徳島県は市がわずか４で，鳥取県とともに全国で最小の県である。

➔７巻385ページ（地図）　〔浅井得一〕

じこくてん　【持国天】　⇨四天王

しこくどうめい　【四国同盟】　1815年ロシア・オーストリア・プロイセン・イギリスの間に結ばれた同盟で，1818年フランスが加盟して五国同盟となった。ヨーロッパの平和維持とフランスの革命再発防止を目的とし，神聖同*盟の精神を具体化したもので，自由主義・国民主義運動を抑圧する反動的役割をにない，1821年オーストリアの両シチリア王国派兵，1822年フランスのスペイン出兵などをとりきめた。ウィーン体制の強力な支柱となっていたが，イギリス外交の自由主義化により，1822年同盟は崩壊した。　〔大野慎一郎〕

じごくのきせつ　【地獄の季節】　ランボ*ーの詩集。1873年作と推定される散文詩10編からなる。超人間的な〈ボワイヤン（見者）〉の詩法の挫折（ざせつ），ベルレーヌ*との傷害事件，あるいは西欧文明や信仰の問題などで深刻な苦悩に陥った彼が，それらすべてを迷妄（めいもう）として血祭りにあげ，絶望のうちにも自己の現実的な生への脱出口を探る悲痛な告白の書。巻末にうたわれる〈絶対的近代〉の要請は，腐敗した人間社会への峻烈（しゅんれつ）な批判ともなっている。

じこくひょう　【時刻表】　列車の発着時刻の一覧表。旅客列車の時刻表は駅に備えつけるよう法令で義務づけられている。駅に掲示してある時刻表には，その駅の発車時刻，列車名・行き先・乗り場などを記載した〈列車発車時刻表〉，その駅の到着時刻，列車名・始発駅・到着番線などを記載した〈列車到着時刻表〉などがあり，前者はすべての駅に，後者はおもな駅に掲示されている。そのほか，〈列車線別時刻表〉〈電車標準時刻表〉などが関係駅に掲示されている。

駅の時刻表は，1872年（明治５）鉄道開業当初の〈鉄道列車出発時刻および賃金表〉以来，時刻改正のたびに書き替えられて現在に至っている。市販の時刻表は1894年10月に出された月刊の〈汽車・汽船旅行案内〉が第１号。現在は日本交通公社や弘済（こうさい）出版社などから月刊で発行され，隠されたベストセラーともいわれる。〔藤田　実〕

じごくへん　【地獄変】　芥川龍之介*（あくたがわりゅうのすけ）の短編小説（1918）。地獄変の屏風絵（びょうぶえ）作製を命じられた練達の絵師良秀（よしひで）は，人間的に偏向性をもち，芸術的感興に耐ええず，燃える牛車（ぎっしゃ）内に苦しむ上臈（じょうろう）の実見を望み，ついに御殿奉公する自分の娘を焼かれ，生涯（しょうがい）の傑作を完成後くびれて死ぬ。《戯作三昧（げさくざんまい）》とともに作者の芸術至上主義を表わしている作品。

しこくれいじょうはちじゅうはっかしょ　【四国霊場八十八ケ所】　四国にある弘法（こうぼう）大師（空海*）の霊場88か所をさす。これを巡拝することを四国遍路という。第１番霊山寺から第88番大窪（おおくぼ）寺までで，阿波（あわ）（徳島県）23（現24），土佐（高知県）16，伊予（いよ）（愛媛県）26，讃岐（さぬき）（香川県）23（現22）所。大師は讃岐で生まれて四国各地で修業したといわれ，大師信仰の一つとして霊場が生じた。各寺の宗派はほとんど真言宗*である。この霊場も時代によって異なり，室町時代には33か所であったが，のち88か所が一般的となる。〔杉坂靖子〕

しごこうちょく　【死後硬直】　⇨死体強直

じこしほん　【自己資本】　社債・借り入れ金などの他人資本に対する語で，企業の資本主によって出資された資本と，企業内部で蓄積された資本との合計部分をいう。株式会社の場合，自己資本は資本金・資本剰余金・利益剰余金の三つの項目からなる。

じごしん　【事後審】　⇨三審制度

しごせん　【子午線】　地球上において両極を通る任意の大円。すなわち，ある地点を通る経線はその地点における子午線である。特に，ロンドンの旧グリニッジ天文台を通る経度*0°の経線を本初子午線*といい，経度をはかる基準となっている。また，天球上において，天の両極と天頂を通る大円をいい，ふつう天の子午線とよぶ。天の子午線は，天体の方位角や時角*をはかる基準になる線で，位置天文学において最も基本的な基準線である。　〔木下　宙〕

しこぜんしょ　【四庫全書】　中国，清（しん）の乾隆帝*（けんりゅうてい）の命によって中国の古典と名著を網羅（もうら）した大叢書（そうしょ）。1772年から10年間，紀昀*（きいん）らが編集にあたった。宮中の書物と民間の善本3,460種を，経・史・子・集の４部に分けて集めたため，四庫の名がある。書物の選択にあたっては，清朝に好ましくないものを禁書にして焼却を命じたため，思想統制のための事業であったともされる。全冊７部ずつの《四庫全書》が手写され，中国の要地に書庫を建てて収蔵するとともに，その解題として〈四庫全書総目提要〉がつくられ，重要な書物は〈武英殿聚珍版（しゅうちんばん）〉として刊行されて，清代の学芸の発展に寄与した。

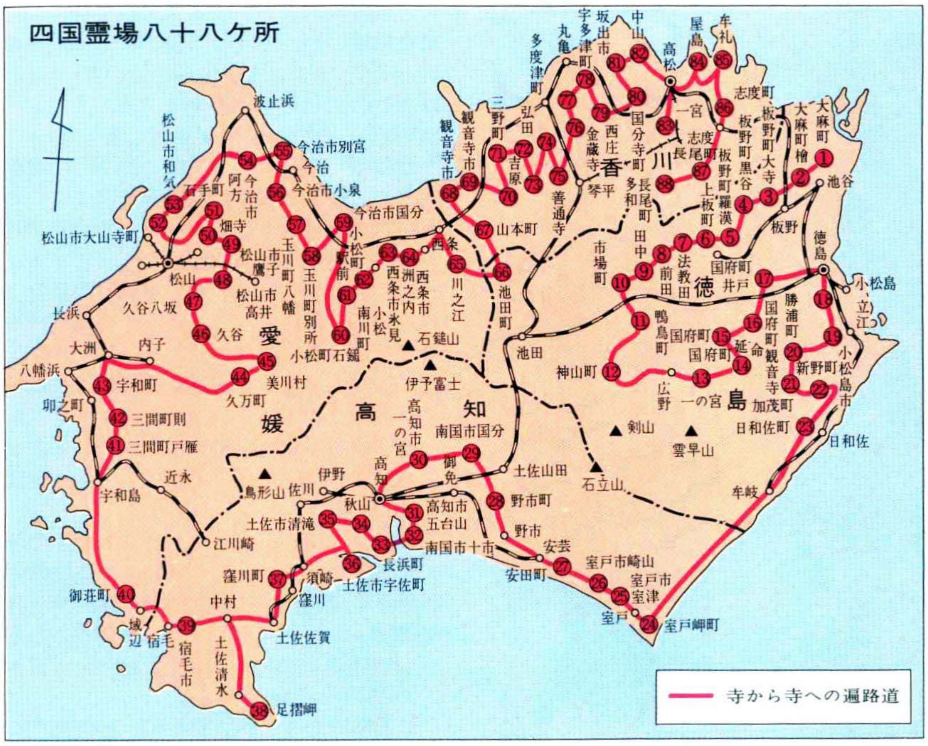
〔小南一郎〕

しごせんつうか　【子午線通過】　⇨南中

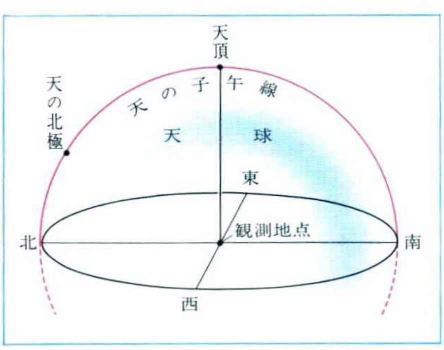
じこそがい　【自己疎外】　⇨疎外

しこたん　【色丹（島）】　北海道根室半島の東方にある島。歯舞（はぼまい）諸島の東に色丹水道を隔てて位置し，北は千島列島の国後（くなしり）・択捉（えとろふ）両島に対する。面積255 km²。地形は200ｍ前後の台地で，北端付近の斜古丹山（413ｍ）が最高。日本人は，江戸中期から漁業のため渡島し，1884年（明治17）に日本政府は北千島に居住していたアイヌ人の一部をこの島に移住させた。斜古丹・イネモシリなどの部落が1945年（昭和20）まであった。第２次世界大戦後はソ連が占領しているが，日本も固有の領有権を主張している。近海で操業する日本漁船とソ連巡視船との間に，領海侵犯をめぐる事件が絶えない。　〔大崎　晃〕

じこちゅうしんせい　【自己中心性】　物事を自分本位・自分中心に考え，主観と客観とが十分に分化していない心性を表わす概念。ピアジェ*によって指摘された子どもの心理の根本をなす特性で，自分の立場からしか物事を考えられず，相対的なものの



①霊山寺	⑯観音寺	㉛竹林寺	㊻浄瑠璃寺	61香園寺	76金倉寺
②極楽寺	⑰井戸寺	㉜禅師峰寺	㊼八坂寺	62宝寿寺	77道隆寺
③金泉寺	⑱恩山寺	㉝雪蹊寺	㊽西林寺	63吉祥寺	78郷照寺
④大日寺	⑲立江寺	㉞種間寺	㊾浄土寺	64前神寺	79高照院
⑤地蔵寺	⑳鶴林寺	㉟清滝寺	㊿繁多寺	65三角寺	80国分寺
⑥安楽寺	㉑太龍寺	㊱青龍寺	51石手寺	66雲辺寺	81白峰寺
⑦十楽寺	㉒平等寺	㊲岩本寺	52太山寺	67大興寺	82根香寺
⑧熊谷寺	㉓薬王寺	㊳金剛福寺	53円明寺	68神恵院	83一宮寺
⑨法輪寺	㉔最御崎寺	㊴延光寺	54延命寺	69観音寺	84屋島寺
⑩切幡寺	㉕津照寺	㊵観自在寺	55南光坊	70本山寺	85八栗寺
⑪藤井寺	㉖金剛頂寺	㊶龍光寺	56泰山寺	71弥谷寺	86志度寺
⑫焼山寺	㉗神峰寺	㊷仏木寺	57栄福寺	72曼荼羅寺	87長尾寺
⑬大日寺	㉘大日寺	㊸明石寺	58仙遊寺	73出釈迦寺	88大窪寺
⑭常楽寺	㉙国分寺	㊹大宝寺	59国分寺	74甲山寺	○内は札
⑮国分寺	㉚善楽寺	㊺岩屋寺	60横峰寺	75善通寺	所番号



子午線

関係の理解ができない。したがって空想と，客観的現実との区別がつかず混同したり，総合的なとらえ方ができないために，全体のつりあいのとれない絵を描いたり，木や石に生命・心があると考えたり（アニミズム）する。また，幼児が大ぜいいても会話にならず，おのおのがかってに独言しているだけであるなど，自分中心の世界にだけ生きている特徴を表わすものである。このような未分化な状態は経験と社会生活を重ねていくにつれて，修正される。〔深津千賀子〕

しこつこ【支笏湖】 北海道西部，支笏洞爺(とうや)国立公園*東南部にある湖。面積77.3km^2，水面高度248 m，水深363 m。わが国では田沢湖に次いで深く，湖底は海面下115 mに達する大カルデラ湖である。オコタンペ湖から出るオコタンペ川と美笛川が注ぎ，水は東より流出して千歳(ちとせ)川となり，末は石狩川にはいる。千歳川上流には発電所があり，中流にあるサケ・マスの孵化(ふか)場は有名。湖の周辺には樽前(たるまえ)山，風不死岳(ふっぷしだけ)，噴煙を上げる恵庭岳(え

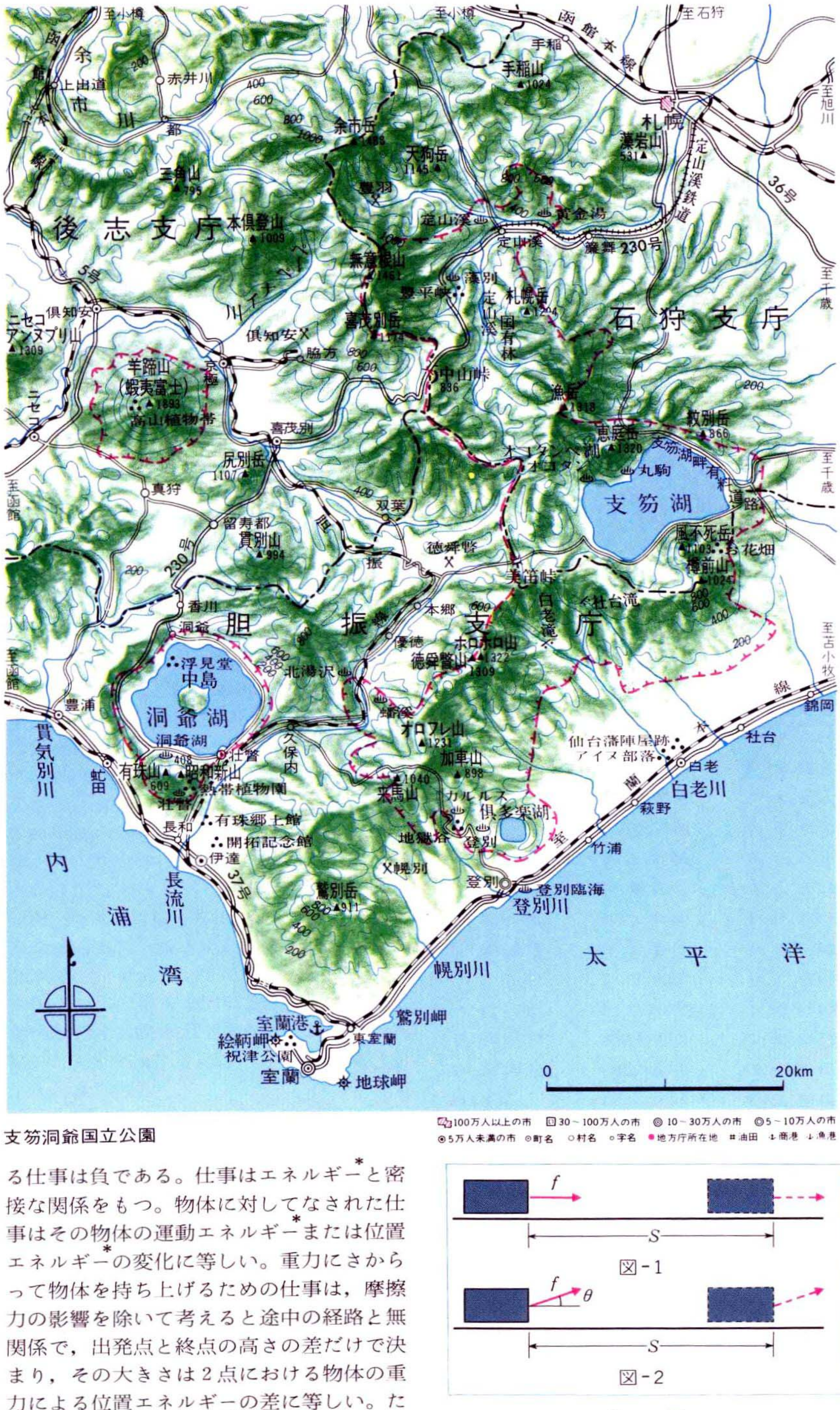


支笏湖 湖畔からは北岸にそびえる恵庭岳が間近に望まれる。支笏洞爺国立公園の一中心をなす

にわだけ)がそびえる。アメマス・ニジマスを産する。湖面は冬季にも結氷しない。湖畔に丸駒(まるこま)温泉がある。〔長津一郎〕

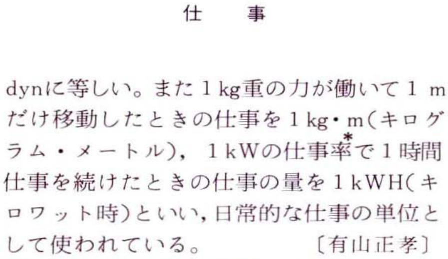
しこつとうやこくりつこうえん【支笏洞爺国立公園】 北海道の定山渓(じょうざんけい)から支笏湖・倶多楽湖(くったらこ)を経て，登別温泉に至る地域に，洞爺湖・羊蹄(ようてい)山を加え，面積986.6km^2で，1949年（昭和24）国立公園に指定された。支笏湖は日本最大のカルデラ湖で平均深度266m，そのまわりを恵庭岳(えにわだけ)(1,320m)をはじめ多くの火山に囲まれ，西南に白老滝・社台滝がある。洞爺湖も凝灰岩の台地にできたカルデラ湖で湖岸から蝦夷富士(えぞふじ)の名で知られる羊蹄山(1,893m)の雄姿が望まれる。定山渓と豊平峡は集塊岩を深く刻んだ峡谷で奇岩と針葉樹林の景観が美しい。登別温泉は泉量の豊かさと泉質の種類の多いことで知られ，付近にある地獄谷は水蒸気や硫気を噴出し名勝地になっている。➔次ページ（地図）〔木村東一郎〕

しごと【仕事】 物理学では，物体に大きさ f の力が作用して力の方向に距離 s だけ変位したとき（図-1），その力がその物体に $f\cdot s$ の仕事をしたといい，物体は $f\cdot s$ の仕事をされたという。変位の方向が力の方向と角度 θ だけ異なる場合には（図-2），$f\cdot s\cos\theta$ を仕事と定める。もっと一般に，物体が曲線に沿って移動する場合には，曲線に沿っての微小変位を ds，その方向と力の方向のなす角を θ とすると，仕事は積分 $\int f\cos\theta\, ds$ で与えられる。物体に力が働いても変位が0の場合や，変位の方向が力の方向と垂直の場合には，仕事は0となる。手に重い物体を持っていると動かなくても人間は力をついやして疲労するが，物理学的には仕事をしていないとする。また重い物体を持ち運んでも，鉛直方向に上げ下げしなければやはり仕事は0である。変位の向きが力の向きと正反対の場合には仕事は負であると考える。摩擦のある面上で物体を引張る場合，摩擦力が物体に対してす



支笏洞爺国立公園

る仕事は負である。仕事はエネルギー*と密接な関係をもつ。物体に対してなされた仕事はその物体の運動エネルギー*または位置エネルギー*の変化に等しい。重力にさからって物体を持ち上げるための仕事は，摩擦力の影響を除いて考えると途中の経路と無関係で，出発点と終点の高さの差だけで決まり，その大きさは2点における物体の重力による位置エネルギーの差に等しい。たとえば，ゆるやかな斜面*に沿って引き上げれば，力は小さくてすむが，移動距離は長くなり，正確に計算してみると仕事の量は変わらない。滑車・ねじ・てこなどを使っても同様である。この法則を仕事の原理という。仕事の単位にはジュール(J)，エルグ(erg)が用いられる。1Jは1N(ニュートン)の力が働いて1mだけ変位したときの仕事，1ergは1dyn(ダイン)の力が働いて1cmだけ変位したときの仕事で，1Jは10^7 dynに等しい。また1kg重の力が働いて1mだけ移動したときの仕事を1kg・m(キログラム・メートル)，1kWの仕事率*で1時間仕事を続けたときの仕事の量を1kWH(キロワット時)といい，日常的な仕事の単位として使われている。〔有山正孝〕



仕　事

しごとざん　【仕事算】　⇨算術

しごととひび　【仕事と日々】　古代ギリシアの叙事詩人ヘシオドス*の叙事詩。父の遺産相続の際，不正な手段で彼の権利を侵害した，なまけ者で要領のよい兄(あるいは弟)に，勤労の尊さを教えさとしたもの。828行からなる。前半は戒めの部分で，パンドラの壺(つぼ)，五つの種族の話をして怠惰を戒め，正義を説く。次に隣近所とのつきあい方を格言ふうに語り，後半は農耕の要領，農事暦・航海暦などをうたっている。

しごとりつ　【仕事率】　単位時間になされる仕事*の量。工率ともいう。機械に仕事をさせるとき，機械の能力を示す一つの尺度として大切な量である。仕事率の単位は，1秒間に1J(ジュール)の仕事をするときの仕事率を1W，1,000Wを1kWとするが，工業用や日常的には馬力*(HP)という単位も使われる。

ジゴマ　［Zigomar］　フランス映画の題名。1911年上映。ジャッセ監督による連続活劇映画で，覆面の盗賊ジゴマが活躍する。日刊紙《ル-マタン》のレオ-サジーの小説からとったもの。同種のものに《ファントマ》《ニック-カーター》がある。

じこゆうどう　【自己誘導】　⇨電磁誘導

シコルスキー　［Igor Ivan Sikorski］　(1889～　)　アメリカの航空技術者。ロシアのキエフに生まれ，フランス・ドイツでブレリオ・ツェッペリン*について学んだ。1909年ヘリコプター*を試作したが成功せず，主として通常の形式の大形機の設計に従事。1913年世界最初の多発動機飛行機の飛行に成功し，1919年アメリカへ移住した。飛行機工場を建設してユナイテッド飛行機製作会社の一部門の責任者となり，シコルスキー型飛行機を設計。1939年再びヘリコプター製作に取り組んで成功し，アメリカのヘリコプター製作の創始者となった。

しこん　【支根】　⇨側根

しこん　【紫紺】　色名。紺がかった暗い紫色。日本工業規格(JIS)慣用色名〈紫紺〉は，色相8.5P，明度2.0，彩度4.0の色と規定されている。➔色

しこん　【紫根】　植物染料*の一種。ムラサキソウ科の多年生植物の根からとる紫色の色素。ツバキなどの灰汁(あく)(炭酸アルカリ)に布をつけて干すことをくり返したのち，紫根をすりつぶして浸出させた紫色液中に浸して染色する。現在は秋田県・岩手県などにわずかに残っているにすぎない。

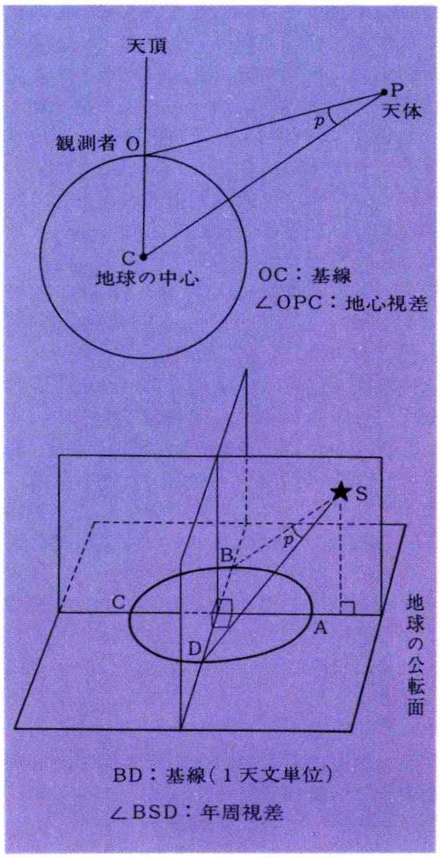
じこんちけいしょうえん　【自墾地系荘園】　荘園*成立の一類型。9世紀以前に貴族・寺社が未開の荒地を占定し，自力で開墾してつくりあげた荘園。初期荘園には，このほかすでに開墾された零細な百姓治田や，口分田の私領化した田地などを寄進されたり，買得して成立した既墾地系荘園もあり，10世紀以降の寄進地系荘園*と区別する。

しこんのうほう　【歯根嚢胞】　むし歯を放っておくと，歯髄の炎症から歯根膜炎*と

なり，さらに歯をささえている歯槽骨(しそうこつ)へと炎症が波及していく。炎症で歯槽骨が破壊されたあとに，肉芽組織が形成された状態を歯根肉芽腫というが，この状態が長引くと肉芽は変性して液状となり，上皮で取り囲まれた袋状のものとなる。歯根の先にできたこのような状態のものを歯根囊胞とよんでいるが，これを治療せずにさらに放置しておくと，一見腫瘍(しゅよう)のようにしだいに大きさを増していくので，臨床上，歯系腫瘍に入れて分類されることがある。したがって，真の腫瘍ではなく，炎症を起こしたあとの産物である。大きくなるまで気がつかないことが多く，やがて歯根の先にある歯肉に膨隆を生ずるようになる。囊胞の治療には，抜歯をして摘出するか，あるいは抜歯をせずに，歯根尖(しこんせん)切除術によって囊胞だけを摘出するかする。　〔成田令博〕

しこんまくえん　【歯根膜炎】　歯は，歯槽骨(しそうこつ)に直接固着しているのではなく，間に薄い歯根膜という組織が存在し，咬合力(こうごうりょく)が加わったときの緩衝の役目をしている。この歯根膜に起こる炎症をいう。歯根膜炎の大部分は，むし歯から細菌が侵入し，歯の内部を通って，根の先にある小孔を通じて歯根膜に炎症が及ぶ。このため，歯が浮き，痛くてかめない症状がみられるようになる。

しさ　【視差】　異なる2地点から見た天体の方向の違い。ふつう，地球上の観測者とある基準点から見たときの方向の違いで表わす。天体の距離が遠いほど，視差は小さい。観測地点と地球の中心とからそれぞれ天体を見たときの方向の差，つまり地球の半径を基線にもつ視差を地心視差，地球の公転半径を基線にもつ視差を年周視差という。視差と基線の長さが求められれば，天体までの距離がわかる。年周視差p(角度の秒)と距離D(パーセク*)との間には，$D=1/p$の関係がある。　〔磯部琇三〕



視　差



自在継ぎ手　上は1個，下は2個1組み

シーザー　⇨カエサル

じさ　【時差】

1　➔均時差

2 経度の異なる2地点間の時刻の差。世界各国はおのおの自国の経度に準拠して太陽の日周運動に合った標準時をもっている。したがって，同じ瞬間でも国が違うと時計が指示している時刻は異なる。

しさい　【司祭】　英語priest(プリースト)の訳で，カトリック教会・聖公会・日本ハリスト正教会の用語。司教*の協力者・助手であり，司教とともに一つの司祭団を構成する。《新約聖書》では〈長老〉と訳されている。明確な職制の定まったのはキプリアヌス*以来。礼拝の執行，聖餐の聖別や他のサクラメントを執行し，赦罪を告げる権限を有している。なお，プロテスタント教会は聖職制をもたないが，職能上ほぼ牧師に相応する。

しざいかんり　【資材管理】　生産計画に合致した適切な品質の資材を所要期日までに，適切な価格で，所要数量入手可能なように計画し，購入し，保管する業務をいう。生産には，多くの材料・部品・消耗品などが必要であり，これら資材が製品の品質や原価，さらに作業の進度までも決定する。資材管理のおもな業務は，資材計画・購買管理・外注管理・倉庫管理などである。資材は特注品と常備品に分類できる。常備品の購買方法には定期発注方式と定量発注方式とがある。最近では，コンピューターを導入し，経営工学的な方法を取り入れ，資材管理を計画的・有効的に遂行するようになった。➔購買管理　〔清水　晶〕

じざいつぎて　【自在継ぎ手】　機械の二つの回転軸が一直線上になく，多少の角度をなしているときに回転を伝えるための軸継ぎ手。しかし，原動軸の角速度*が一定でも従動軸の角速度は一定にはならず，2軸のなす角度が大きいほど従動軸の角速度の変動は大きい。この欠点は，この自在継ぎ手を2組み用いることによって補われる。角度は8°ぐらいまで動力伝達が可能。自動車や工作機械に用いられる。

しさいぼう　【視細胞】　網膜*の最外層に1列に並んだ光の受容器となる細胞。形状から桿状体(かんじょうたい)細胞と錐状体(すいじょうたい)細胞に分けられる。桿状体細胞は弱い光も感受するが，錐状体細胞は強い光(昼光)だけを感受する。

ヒトでは黄斑(おうはん)(網膜を内側から見た場合，眼球壁後極の内面にあたり，視力の最も鋭いところ)の部分の中心窩(か)というところは錐状体細胞が最も多く，網膜の周辺部に向かってしだいに少なくなっている。視細胞には視紅とよばれる感光色素を含んでいる。視細胞で感受された光の刺激は，網膜内の第2層の双極細胞，第3層の神経細胞を経て視神経となり脳の中枢に伝えられる。

原生動物のアメーバには，特別な光受容器はないが，体の一部に光をあてると，負の走光性を示す。ミドリムシでは鞭毛(べんもう)の基部にある眼点が光受容器で，光の強弱のみを感じる。後生動物(多細胞動物)のクラゲのある種類では，かさの縁の触手基部で，視細胞と色素細胞が水晶体のまわりに集まって単眼をつくるものがある。また，ナミウズムシ(プラナリア)には，体の前方に2個の眼があり，杯状に並んだ色素細胞の内側に視細胞があり神経と連絡している。いずれも光の強弱を感じるにすぎない。タコ・イカや脊椎(せきつい)動物ではレンズをもった普通のカメラ眼である。これらの眼ではいずれも網膜があり，その上に像を結ぶ。節足動物に見られる複眼は，多数の個眼からなり，個眼は外側に角膜，その下に円錐形レンズ，その下に桿状体細胞がある。
➔目　〔幡井勉・橋本長〕

しさかじま　【四阪島】　愛媛県越智(おち)郡宮窪(みやくぼ)町に属し，燧灘(ひうちなだ)の北西部にある島群。ふつうは美濃(みの)島・家ノ島・鼠(ねずみ)島・明神島の4島をいうが，北西にある梶(かじ)島を含めることもある。面積は5島あわせて約2km²。宮窪町は越智郡の大島の東半部と四阪島を含むが，四阪島は実際には新居浜(にいはま)市との関係が深い。1893年(明治26)住友の経営になる別子銅山が新居浜に洋式製錬所をつくったところ，その煙害が社会問題化したので，1895年無人島であった四阪島を買収し，家ノ島に製錬所，美濃島に社宅の建設をはじめ，1905年作業を開始した。現在この両島は，鉱滓(こうさい)による埋め立てで陸続きとなっている。2,500人の住民の95%までは，住友金属鉱山四阪島製錬所の従業員とその家族で占められている。島には水がないため，新居

浜から船で運び，電気は海底ケーブルで送られてくる。製錬所では，別子銅山からのほか輸入鉱石による銅の製錬と，ニューカレドニア島からの輸入鉱石によるニッケル製錬を行なっている。〔浅井得一〕

じさくのう【自作農】 農家のうち，自己所有地が経営耕地面積の9割以上のものをいう。わが国では，地租改正によって生まれた自作農は寄生地主制の発展により減少し，小作争議が激化してきた。このため，1926年(大正15)に自作農創設維持法が制定され，小作地の自作地化が図られた。第2次世界大戦後の農地改革は自作農主義を徹底したもので，1965年(昭和40)には自作農は全農家の80％に及んでいる。

じさつ【自殺】 ⇨384ページ

じさつかんよざい【自殺関与罪】 他人に自殺をそそのかしたり(自殺教唆)，自殺しようとしている者に毒薬を与えたり(自殺幇助(ほうじょ))する犯罪(刑法202条)。心中の片割れとして生き残った者は，場合によってこの罪に問われる。しかし，無理心中は相手の意思に反してなされるから殺人罪(刑法199条)にあたる。刑は6か月以上7年以下の懲役または禁錮(きんこ)。未遂も罰せられる(刑法203条)。➔自殺

しさん【資産】 一般には財産と同義に用いられ，一定の金銭的価値を有するものをいう。それには，現金・預金・土地・建物などのように有形の物財と，特許権その他の権利のように，無形ではあるが金銭的価値を有するものとが含まれる。しかし，企業会計において資産という場合には，それよりも広く，会計手続き上一時資産性を与えられる繰り延べ勘定も含まれる。すなわち，会計上資産とは，大きく分けて流動資産・固定資産および繰り延べ勘定の三つからなる。流動資産は，短時日のうちに(正確には1年以内に)現金に変わる回転の速い資産で，これは当座資金と棚卸(たなおろし)資産とに分かれる。当座資産とは，現金および現金化が容易な資産をいい，現金・預金，回収可能な受け取り手形・売掛金，および市場性のある有価証券をさす。棚卸資産は在庫品ともいい，生産・販売の過程で消費され，現金化される原材料・仕掛品・商品などからなる。固定資金は，長期にわたって企業に滞留する資産で，1年以内には現金にはならない，回転速度のおそいものをいう。これには，土地・建物・機械装置・船舶・工場備品などの，具体的な形態を有する有形固定資産と，営業権・特許権・地上権・商標権・実用新案権・意匠権・鉱業権などの各種の権利よりなる無形固定資産，および，関係会社に対する持ち株(投資有価証券)・出資金，あるいは長期貸付金など，1年以上の長期債権である投資の三つが含まれる。資産として観念される繰り延べ勘定は，本来的には費用としての性質をもつものが，期間損益計算の必要から，一時的・計算的に資産として処理されるものをいい，これには，前払い費用・創立費・開業費・新株発行費・開発費・試験研究費・社債発行差金・建設利息などがある。〔山桝忠恕〕

しざん【死産】 胎児が母体から排出される以前に死亡して娩出(べんしゅつ)された場合をいう。一般には分娩開始前の死亡と分娩中の死亡，さらに分娩後まもなくの死亡をも一括して死産といわれているが，時期については定義されていないので，医学的にはあいまいなことばである。日本産科婦人科学会では，妊娠第29週から生後7日までの時期を狭義の周産期とよび，その間の児死亡を周産期死亡と定義している。

しさんさいひょうか【資産再評価】 資産を一般物価指数などを用いてその帳簿価額を時価に合ったものになおすこと。資産評価の恣意(しい)性を認めると利益操作を許すことになるから，通常は法に従って，資産は一部の例外を除き取得原価によって表示することになっている。しかし，インフレーションが高じているときには，取得原価のままですえおくことは，かえって事実をゆがめ，資産を不当に安く評価することになるとともに，その結果，資産価額を基礎とする減価償却費を過小に計上することになり，その分だけ架空利益が生ずる。そして，それを配当その他に処分すると，資本の食いつぶしを招くことにもなる。そのような欠陥を排除するために，1950年(昭和25)4月に，戦後の激しいインフレーションにかんがみて，資産再評価法が公布された。同法はその後1951年・1953年に改正をみ，三たび資産を再評価しうる措置が講じられ，1954年には，資本金額5,000万円以上の株式会社などに対し，資産再評価が強制された。〔山桝忠恕〕

しさんひょう【試算表】 一定期間におけるすべての取引が，総勘定元帳の各勘定口座へ正確に記入されたかどうかを調べるために，すべての勘定口座の金額を一表に集め，借方・貸方別に記載し，その合計額が貸借平均の原則に基づいて一致するかどうかを確かめる計算書をいう。ただし，試算表においては，貸借平均の原則を害さない程度の誤謬(ごびゅう)や脱漏もありうるので，検証能力にもおのずと限界があり，万全のものではない。試算表には，合計試算表・残高試算表・合計残高試算表・繰り越し試算表など種々のものがある。〔山桝忠恕〕

しさんひょうか【資産評価】 資産の価値を測定し，それを貨幣単位によって表わすこと。企業が有する資産は，市価の変動，貨幣価値の変動などにより，あるいは資産自体を使用することなどに伴って，日々その価値を増減させるが，いろいろな事由によって，企業は，一時点における資産の価値を決定しなければならないことがある。最も重要な事由は，会計年度末における決算に際しての資産評価である。ただ，決算に際しては，評価の恣意性を排除するために，市場性のある一時所有の有価証券など一部の例外を除いて，資産は取得原価をもとにし，そのうち当期の費用となる部分(固定資産の減価償却費など)を除いた，残りの部分をもって資産評価額とする方法がとられる。なお，棚卸(たなおろし)資産については低価主義が認められ，時価が取得原価より低い場合には時価による評価ができる。〔山桝忠恕〕

しし【刺史】 中国の官名。前漢の武帝が全国を13州に分け，各州に刺史をおいて郡の太守以下の地方官を監察させたことに始まり，後漢では民政に関与し，兵権をおびることもあった。六朝(りくちょう)では都督の下の民政官となり，隋(ずい)では漢・六朝の郡の太守と同格であった。なお，宋(そう)以降は武官の一階級を表わすにすぎなくなった。

しし【子思】 (BC472～BC431) 中国，古代の儒学者。名は伋(きゅう)，子思はその字(あざな)である。孔子の孫で曾子(そうし)の学を伝えたといわれる。その学問はのちさらに孟子(もうし)に祖述されて発展した。子思の著に《子思子》があったというが現存しない。現在彼の名で伝わるものが《礼記(らいき)》中に4編あり，そのうち《中庸》の中間部分が彼の思想を表わしている。そこにみられるものは〈中庸〉という現存秩序に忠実な常識的な道徳的態度であり，その中心はやはり孝であった。しかし，《中庸》は後世の儒家に重んぜられ，《四書》の一つに数えられている。

シーシー［cc］ ⇨立方メートル

し・じ【詞・辞】 単語を文法上の性質から二大別したもの。分類のしかたに2説ある。①橋本進吉の文法論では，単独で文節をつくる単語を〈詞〉とよび，つねに詞に伴って文節をつくる単語を〈辞〉とよんだ。助動詞・助詞が辞で，それ以外の品詞は詞に属する。詞・辞は，それぞれ，自立語・付属語に対応する。②時枝誠記(もとき)の文法論では，客体的な事がらを概念化して表記した単語を〈詞〉とよび，主体的な立場(判断・感情など)を直接的に表現した単語を〈辞〉とよんだ。感動詞・接続詞・助動詞・助詞が辞であって，それ以外の品詞は詞に属する。〔市川　孝〕

ししあいぼり【肉合彫】 彫金技法の一。墨線の濃淡・強弱・肥痩(ひそう)などを表現しようとして，筆の穂先にあたる部分を深く，筆腹の部分を浅く彫る絵画的な片切彫(かたぎりぼり)と，より彫刻的な効果を示す高肉彫の中間の技法。浅い彫りでできるだけ浮彫(うきぼり)の立体感を表わそうとする。したがって，彫金部分の最も高い面が地金の素地面とほぼ等しい状態をなしている。江戸時代の金工家杉浦(すぎうら)乗意の創案といわれている。〔河田　貞〕

ししうど【猪独活】 双子葉植物・セリ

科。山地の日あたりのよい草原にはえる大形の多年草。全体に細かい毛がある。茎は円柱状で中空，高さ1～2m。葉は2～3回3出複葉。小葉は卵形で，鋸歯(きょし)がある。葉柄の基部はさや状となり茎を包む。8～10月，枝先に大きなかさ状の花をつける。花弁は5枚で白色。果実は楕円(だえん)形で翼がある。

シージーエスせいでんたんいけい【CGS静電単位系】⇨電磁気単位系

シージーエスたんいけい【CGS単位系】長さの単位としてセンチメートル(cm)，質量の単位としてグラム(g)，時間の単位として秒(s)をとり，これらの基本単位とそれから誘導されるすべての単位の総称単位系。物理学ではCGS単位系がよく使われていたが，実用としては各単位の大きさが小さすぎるので，最近はMKS単位系*が多く使用されるようになった。なお，熱に関する量を表わすときは，温度の単位としてセ氏目盛り*を別に用いる。また，電気や磁気に関する量の単位としてはCGS静電単位系やCGS電磁単位系が用いられる。➔単位

〔今淳治郎〕

シージーエスでんじたんいけい【CGS電磁単位系】⇨電磁気単位系

ししおざる【獅子尾猿】哺乳(ほにゅう)類・霊長目・オナガザル科。マカク属に属すサルで，インド南西部常緑樹林にすむ。頭胴長50cm，尾長30cm，尾の先に房状の毛があり，顔の周囲に茶かっ色の毛があってライオンに似る。全身黒色。雑食。マカク属の中では樹上性。群れは10～20頭でなわばりをもつ。

しじかかく【支持価格】需要に対して相対的に生産物が供給過剰になると価格が大幅に下落し，生産者が大きな損害を受けることがある。それを防止するため一定の価格にまで下落した場合，政府その他の公機関が生産物の買い入れを行ない，それ以上の値下がりを防ぎ，価格を一定以上に維持するよう努める。この場合の価格を支持価格という。価格支持政策*が実施される業種は農産物に多い。それは農産物の生産が需要の変動に対して適切に対処しにくいからである。アメリカでニューディール政策の一環として価格支持制度が採用されたことは有名である。〔藤枝省人〕

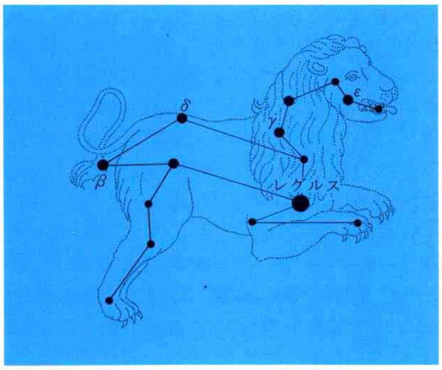
ししがたにじけん【鹿ケ谷事件】後白河院(ごしらかわいん)の近臣が平氏討滅をはかった事件。平治の乱*ののちしだいに専横化した平氏が後白河院と政治的に対立するに及び，院の近臣であった藤原師光(もろみつ)・成親(なりちか)，平康頼(やすより)・俊寛らは京都東山鹿ケ谷にある俊寛の山荘で平氏討滅の謀議を凝らしたが，1177年(治承1)6月多田行綱の密告によって露見するところとなった。師光は首をはねられ，成親は備前(岡山県)に，康頼・俊寛らは鬼界島(鹿児島県)にそれぞれ流された。以後，院と平氏との関係



シシウド



シシオザル



しし座

は一段と険悪になった。〔飯田悠紀子〕

ししき【四職】⇨三管・四職

ししき【士師記】《旧約聖書》の第7書。士師(出エジプト以後王制までの指導者)時代のイスラエルの歴史(紀元前12～紀元前11世紀)。序部はカナン征服の情況，2章6節～16章は士師の活動，あとはダン族・ベニヤミン族関係の記述。神は契約にそむく民を苦しめ，悔い改めたとき士師を送って救済する。おもな士師はオテニエル，女預言者デボラ・ギデオン・サムソンら。バール(古代シリアの神)信仰に走りがちな民との対比で，彼らの神ヤーウェの裁きと救いの精神が強調される。〔松田　治〕

じしぎ【地鷸】鳥類・シギ科・タシギ属のアオシギ・タシギ・オオジシギ・チュウジシギ・ハリオシギの総称。後三者は野外では種の識別ができないことが多く，ジシギ類と総称名でよばれる。タシギ類ともいう。➔シギ

しじご【指示語】〈これ・それ・この・その〉のように，なにかを指示する(さし示す)働きをもっていることば。代名詞*は，人や物や事がらをさし示すことばで，ふつう，人称代名詞と指示代名詞とに分けられるが，この指示代名詞を中心にして，指示語をまとめてみると，〈こそあど〉とよばれる体系が形づくられる。〈こそあど〉は，指示語の中心になるものであるが，〈こそあど〉以外の代名詞も，もちろん指示語のうちであり，さらに，〈前者・後者〉，あるいは〈本問題・同委員会〉の〈本・同〉(〈この・その〉の意を表わす)というようなことばも，指示する働きをもっているので，指示語に含められる。そのほか，〈次のように〉〈以上のように〉の〈次・以上〉なども指示語に加えることができる。

〈こそあど〉の語句は，次のように使い分けられる。**〈こ系〉**一般に，自分の側にあると認めた事物をさすのに用いる。自分がいま述べた事がらを，自分に近いものとしてさしたり，また，自分がこれから述べようとする事がらをさしたりすることもある。**〈そ系〉**一般に，相手の側にあると認めた事物をさすのに用いる。自分がいま述べた事がらを，離れた立場でさしたり，また，特に話しことばでは，相手がいま述べた事がらをさしたりすることもある。**〈あ系〉**自分と相手のどちらの側にあるともいえず，しかも，両者が共通に了解していると認められる事物をさすのに用いる。**〈ど系〉**位置づけが決定していない事物をさすのに用いる。

一般に，指示語の用い方としては，①現場の事物を指示する場合，②文脈の中(文中)の事がらを指示する場合，③文脈の外にある事がらを指示する場合(〈ど〉系の語などの用いられる場合)，に分けられる。文脈の中の事がらを指示するのは，特に〈こ系〉と〈そ系〉で，中でも〈そ系〉が多く用いられる。指示語の指示する範囲は，語句とは限らず，文や段落の全体にわたることもある。

〔市川　孝〕

指示語一覧表

品　詞	こ(近　称)	そ(中　称)	あ(遠　称)	ど(不定称)
代名詞	これ ここ (こちら こっち)	それ そこ (そちら そっち)	あれ あそこ (あちら あっち)	どれ どこ (どちら どっち)
形容動詞	こんなだ	そんなだ	あんなだ	どんなだ
連体詞	この	その	あの	どの
副　詞	こう	そう	ああ	どう

ししざ【獅子座】春の夕方，南の空にかかる黄道上の星座。α星レグルスを柄の端にして，やや暗い星がかまの形に並んでいるのが目じるしである。かまの刃にあたるγ星アルギエバは美しい連星*で，小望遠

➔386ページ

自　殺

【統計からみた自殺者】自殺を社会現象として受け取った場合，通例，一群の統計資料が提出される。たとえば，アメリカ合衆国の資料によれば，自殺者の出現率は年齢とともに増加し，男性の率は女性のそれの３～４倍であり，白人は黒人の４倍，新教徒はカトリック教徒の７倍であるという。また，都市は農村より多く，経済不況時には増して戦時は著しい減少を示す。国別にみると，アメリカ合衆国での年間自殺者数は人口10万に対して戦時には10人程度，経済不況時には15人程度といわれ，フランス・ベルギー・スウェーデン・フィンランドがこれとだいたい同様であり，スペイン・イタリア・ノルウェー・カナダ・イギリス・オランダ・ポルトガルはアメリカより少なく，西ドイツ・オーストリア・チェコスロバキア・ハンガリーはアメリカを凌駕(りょうが)している。なお，日本での自殺者統計は15～22人であるという。しかしながら，これらの統計的数字から論理的になにが導き出されうるかについては疑問の余地が多い。自殺者数の地域差や，極端な例では国公立大学と私立大学との学校差の統計のごときは，関連した詳細な統計資料の分析を行なったうえでないと，自殺研究上無価値といってもよい。

【自殺の原因】人が自殺を問題として取り上げるのは，自分で自分の生命を断つという，とてもなみたいていではできないことをあえて行なうのは，どんなせっぱつまった事情があったのかという疑問からであろう。われわれは了解可能な自殺の例を知っている。たとえば，敵に捕われた軍人が機密を漏らすのを恐れて自殺するという種類の想定は了解可能であるし，誤ってお家の宝をこわした奴婢(ぬひ)が自害するのも当然の自殺と考えられる。そこで，こうした例を手がかりとして，一般の自殺者もまた同じように彼らにとってやむをえないせっぱつまった事情(窮迫状況)があったのであろうと推測することは自然である。そうして，自殺の原因としてしばしば，病苦・貧困・失恋・厭世(えんせい)・絶望・悔恨や重大な失敗などが列挙される。しかし，これは，自殺者のひとりひとりに実際にこうした原因が指摘されたということよりも，なにか窮迫状況があったはずである，そうでなければ死ぬはずはないから，といった考えからの推測とみるべきであろう。しかし，年間の失恋者数や貧困者数は人口10万人あたり20人や30人ではすみそうもないので，もっと各人ごとに特別な事情に自殺原因を求めねばならないことになる。

【自殺者の性格】こうして第２に，自殺者特有の性格が追求され，性格的原因を自殺原因とする考えが生まれる。なにが真にせっぱつまった事態であるかは，個々人の性格によって異なる。過敏で内気で気が弱く，困難に立ち向かう気力を欠き，孤独で助言者や助力者をもたないとすれば，些細(ささい)な事がらが，万事窮した状況として受け取られるに相違ない。この考えから出発して，なにが自殺者的性格であるかを整理してみると，過敏・弱さや困難を克服打開する能力的不足またはその気力と粘り強さの不足，ないしはそうした習慣づけの不足，生き続けねばならぬ必要(生活上の役割や責任)の不足，またはそれを重視しない自己中心的ないし内閉的性格，相談相手や助言者の欠如ないしそれを求めようとしない内閉的性格，窮迫状況に置かれるとすぐ一つことを思いつめてそれだけで頭がいっぱいになり，知的な判断が失われて考えが極度にせばまる性格，などがあげられる。この最後の点についてさらに一言すれば，自殺の企図には本能的に死の恐怖という制動がかかるはずであるのにあえてこれを実行するのは，窮迫状況に置かれるとすぐ考えがせばまって思いつめ，他の必要な事がらがなにも念頭に浮かばなくなる結果ではないかと考えられる。なお，これらの特性のほかに，慢性的または周期的に異常な抑鬱(よくうつ)状態を示す病的性格や，上述の内閉的性格の異常に激しい病的性格などが当然あげられる。この点は自殺と精神病との関係として，なお別個の角度からの検討を必要としている。

【死の願望】窮迫状況が，ある種の人々を自殺に追いやることは確かであるし，その人々に上述の性格特徴がしばしば指摘されることも否定できないであろうが，これらの性格特徴をもつ人の数は自殺者数に比してあまりにも多く，そのうえ，窮迫状況からの出口は自殺にかぎらない。それの理性的解決は別としても，ある人々は発狂によって，別の人々は神(入信)によって，さらに別の人々は犯罪によって，これを解決しようとする。宗教心理学の研究所にみられる〈入信動機〉は〈自殺の動機〉といわれているものと酷似している。そして，どう調べても窮迫状況を推測しえない自殺事例があり，いわばやむをえず死に追いやられた自殺だけでなくむしろ進んで求められた自殺もある。そこで自殺論としては，死の願望という考えが生まれ，表面的原因としては窮迫状況が指摘されても，自殺という出口が選ばれた背後には死の願望があったのであろうという考えが生まれる。

死の願望の一つの表現は憧憬(どうけい)的自殺である。自殺にはなにかぞっとするような深刻な詩的・哲学的・神秘的なすばらしさがある。この，ぞっとする〈よさ〉が青年にとって魅力的であって，たとえば《若きウェルテルの悩み》のウェルテルにあこがれての自殺も，ウェルテルの服飾をまねる流行心理以上に，この魅力につかれた死の願望と考えてよかろう。本来，そうした魅力や願望が人の心に存在し，文学や演劇がそれを促進したと考えたい。それではその死の願望とはなにか。人生には美しいすばらしい瞬間があるが，それはこわれやすく，すぐ日常性の卑しさによって汚されてしまう。死だけが，この美しい状況を永遠のものにしてくれる。いちばんよいポーズで幕を降ろすとそれが永久化されるように，人はときとして完成の瞬間を永久化するために自殺する。愛の極地を永久化するために幕を降ろす。結婚をはばむおびただしい困難を長い年月の末についに打開しえたふたりが結婚の夜自殺したという例は，死によってその瞬間を永久化しようとする願望の実現であると考えられる。

【自殺の自己矛盾】自殺という行為にはいたるところに矛盾が指摘される。生は求められるべきであり，死は忌むべきものである。生は快であり，死は苦である。そのような死を求めるということは本来矛盾である。窮迫状況で自殺するというが，生の意志があってこその窮迫状況で，生の意志を欠き死を求めているのならば失意も不満も絶望もないはずではないか。多くの人々が麻薬中毒で慢性的に自殺している。人はこれを説明して麻薬の快が死の恐怖を凌駕したというが，これはむしろ麻薬には〈死に至る快〉があるというべきではないか。しかし，死に至ることがどうして快でありうるのであろうか。ここでわれわれは，西欧人をひどく驚かせた侍たちの復讐(ふくしゅう)や責任感での腹切りを考えなければならない。復讐はかたきを殺す行為であるが，それが不可能であるとき殺人行動を自己自身に向ける。この腹切りは自己自身に向けた他殺行動である。それは矛盾であるが，他殺の攻撃破壊欲は充足される。責任上の自殺は自責行動・自己懲罰行動である。ここでも罰する者と罰せられる者とは同じ自分自身で，〈自分は罰せられねばならない〉と同時に〈自分は罰しなければならない〉のである。そうして，自己懲罰には罰せられる苦痛があるとともに，罰する満足すなわち道徳の仮借なき執行者であることの満足がある。罰せられる苦痛が激しければそれだけ懲罰行為の遂行が実証され，懲罰者としての自己の満足も増大する。そのため，復讐のための自殺や責任感からの自殺では，ときとしてひどく残忍な，ぞっとするような形式がとられる。仇敵(きゅうてき)を責め殺し，極悪人を責め殺す残忍さが自己自身に向けられるからである。自殺がこうした自己矛盾を含む行為であることの説明を，自殺研究者は回避することができない。

自殺が含むこのような自己矛盾を昔の人ならばおそらく悪魔を持ち出して説明したであろう。悪魔が死への道に快の幻想を与えるとか，自己破壊が生きる手段であるかのごとく思わせるとかの説明である。現代人は，もちろん悪魔を知らないので，精神病・精神異常・病的性格などに悪魔の役割を演じさせ，自分で自分の生命を断つのは気が変になっていたためであるとしようとしている。こうして自殺研究者は，自殺と精神障害の関係に着目する。実際，精神病者には自殺者・自殺未遂者や以前に自殺企図のあった者がきわめて多い。研究者によって出現率の数字そのものにはかなりの動揺があるが，いずれにしても一般の出現率をはるかに上回っていることはまちがいない。しかし，精神病と病的性格とを合わせての統計でみても，自殺者にはそれらに属しないものが多数あるのであり，そのうえ，こうした統計は自殺と精神病(ないし病的性格)との間になんらかの関係があることを語ってはいても，けっして両者間の直接の因果関係を立証しているものではない。すなわち，一方が他方の単なる誘発原因であるのかもしれず，また，両者は共通の一原因から並行的に生起する二つの事象なのかもしれない。自殺未遂者の報告には，自分を呼ぶ声に誘われて海岸の絶壁に立った，といったような幻覚体験の記述がみられるが，精神病者がこうした幻聴に媒介されて自殺した場合，これを精神病による自殺と断定してよいかどうかは疑問である。幻聴の内容に含まれる死の意志が，精神病に起因するという立証を欠いているからである。

〔自殺行為に関与するもの〕 自殺には過失ないし偶然の事故死とみなされるものが少なくないといわれるし，また反対に，事故死の多くは自殺であるという見方もある。しかし，自殺であるか，それとも本人の意図に属しないできごとによる〈予想外の死〉であるかの区別は可能でない。なぜならばその区別には，過失とはなにかの理論，自分の意志でというときの〈意志〉とはなにかの理論が必要であり，そのうえそれをあるときのある人について現実に調べる方法がなければならないからである。自動車の事故死をすべて自殺と断定する人はいないであろうが，無謀なドライブや登山はしばしば自殺的行為とよばれる。たしかにそれらは自殺に似ている，自殺と区別できない，自殺とみられてもしかたがないという意味で〈自殺的〉である。しかも無謀と無謀でない行為との区別は至難であり，したがって自殺と自殺的行為との区別も至難である。自殺的行為にはこのほかに，麻薬・アルコールなどの中毒的摂取があり，健康の維持を度外視した極端な禁欲主義，寝食を忘れての仕事への没頭などがあり，また偏執的な不養生がある。意識面・自覚面において，彼らは自殺の意志をもたないであろう。しかしながら，この意志または意図は，それ自身がいかなるものであるか不明であるうえに，その存在を立証する手だてがない。自殺未遂者の数は自殺者の数の9倍といわれているが，ここでも自殺意志の有無で両者を区別することはむずかしい。

さて，こうして自殺とその周辺の諸現象とを合わせて考えてみると，おおむね次のように集約することができる。第1に，自殺に含まれている上述の自己矛盾は，これを精神病に押しつけて，気が変になったことからの非合理としてかたづけてしまうわけにはいかない。昔の人ならば悪魔で説明したであろう自己矛盾を解くためには，やはり〈死の願望〉とか〈死の本能〉とか名づけられるべき，ある基礎的なものを仮定する必要があるかと思う。それは生の自己建設傾向に対立する自己破壊傾向であり，生の〈創造〉に対する死の〈否定〉を意味する。この二つの互いに矛盾する基本的傾向は，単に自殺という行為に現われるだけでなく，すべての冒険的行動や英雄的・献身的行動の背後に存在し，また各種の目的と結びついた攻撃・破壊・否定の行動の基盤として存在し，結論的にはすべての人間行動の根底に存する最も基本的なものと考えられる。これは実証の範囲を越えた理論的仮説であるが，その理論的当否は別としても，自殺という行為の十分な理解は，このような人間存在の基本的問題の解明からなされねばならないことを示している。第2に，自殺という行動も他の人間行動と同様に，その人のその時の精神状況の全体から理解されなければならない。言い換えれば，死の本能だけが原因なのでもなければ，ウェルテルの模倣だけが原因なのでもなく，たまたま，たとえば青酸カリが手にはいったことだけが原因なのでもなく，そしてそれらのすべてがその人の自殺の原因なのである。どれが真の原因であるとか，どれが直接でどれが間接の原因であるとかいう区別はない。そこには，そのときどきの外界の認知，社会事象の認知，感情・情緒，欲求・願望，思想・信念，身体内の諸感覚などのすべてが関与している。そこでこの点からみれば，自殺行動だけでなく人間行動のどれについても，たとえば，自殺は一般にいかなる原因(または動機)からなされるか，といったような一つの原因や動機を求める質問それ自体が人間行動についての理解を欠くものといってよい。

〔自殺の予防〕 自殺の危険の早期発見と予防とについては現在，研究も貧しく信頼しうる方法も見いだされていない。この事情には，精神病その他の入院患者の場合を除いては自殺者を事前に研究することができないとか，自殺未遂者についての研究成果をそのまま自殺者にあてはめるわけにはいかないとかいうことも関係があろうが，それ以上に，人々が自殺に対して暗い回避の態度をもち，これに触れたり語ったりすることを避けている結果のようにみえる。社会は長い間，性の問題を取り上げることを避けてきたが，自殺に対する態度にもそれに似た，ただしもっと暗い，禁忌に似た態度がうかがわれる。自殺は疾患でもなく犯罪でもない。一般には，他人に重大な損害を与える行為でも，社会の安寧秩序を乱す行為でもない。宗教上の禁止がないかぎり，社会は必ずしも明確に自殺を不道徳としているわけではない。これを奨励する人もないが，当事者に対してはむしろ同情的である。それにもかかわらず，それは半ば恐れられ，回避される。この暗い触れたがらない気持ちがなにに起因するかは，自殺研究のたいせつな課題の一つであると考える。

自殺研究のたちおくれから，予防についてもしばしばまちがった俗説が案外に流布されている。たとえば，一度死に損じた人は死なないとか，死を口にする人は死なないとか，このようなことがまじめに信じられている。しかし，少なくとも精神病者の自殺例については事実はまったくこれと反対であって，自殺未遂者はしからざる者よりも自殺の危険をよけいにもっており，日常死を話題とする人は自殺の公算をよけいにもっているといわれる。この点は精神病患者に限られないとみてよいようである。自殺候補者の発見に，心理学的検査を使用しようとする考えは，特にロールシャッハテストの研究者にみられ，いくつかの報告がなされているが，その多くは精神病者の自殺未遂経験をもつ者ともたぬ者とが検査像にいかなる差異を示すかの研究であって，自殺の危険をもつ一般人の早期発見という段階までにはなお相当の隔たりを残している。それゆえ，自殺の予防的措置としては，現在のところ精神の健康という精神衛生的努力以外にはない。精神の健康とは精神の異常に対立する概念ではなく，したがってそれは精神の異常がないということではなく，むしろ若干の異常特徴をもっていても社会適応を失わずに高い生産性を示しうるような精神状況をいうのである。それは，一面において高い課題解決能力を示すとともに，他面において旺盛(おうせい)な生の意欲をもち，自己破壊の基本的衝動を外向きの生産・創造の活動に転用することのできる精神状況である。教育とはこれに向かっての努力にほかならないのである。そうして，かりに心理学的検査によって自殺の要注意者が早期発見されえたとしても，その予防はやはり精神の健康への訓練以外にはないと考えられる。〔戸川行男〕

鏡の対象として好適。また，この星の付近にはしし座流星群が出現するので有名である。➔星座

ししざりゅうせいぐん【獅子座流星群】11月中旬しし座(明け方の東空)に見られる流星群。周期33年のテンペル彗星(すいせい)のこわれたかけらが，母彗星の軌道上にばらまかれて太陽を巡り，地球がその軌道を通り過ぎるとき見られる現象である。1799年，1833年，1866年には激しい流星雨が観測され，ある地方では1時間に20万個の流星が降ったという。最近ではそれほどめざましい出現はない。

ししじま【獅子島】鹿児島県西北部八代(やつしろ)海にある島で，出水(いずみ)郡東町に属する。面積12.4km²，人口約2,000。島は，天草諸島(熊本県)の南東に接し，山がちで，海岸には溺(おぼ)れ谷が目だち，地形的には天草諸島の一部と考えられる。サツマイモ・麦などを段々畑につくり，またイワシ漁を行なって煮干しをつくっている。集落は溺れ谷の奥に御所浦・片側(かたそば)・幣串(へぐし)があり，片側から出水市の米之津へ定期船が出ている。〔浅井得一〕

じじしんぽう【時事新報】1882年(明治15)3月福沢諭吉によって創始された日刊新聞。不偏不党の中立を期し，明治十四年の政変を契機とする政党機関紙ブームの中でも，日本を代表する新聞であった。紙面の第1の特徴は，日本の国家的利害という高い視点から言論を見聞し，特に経済記事は生彩を放った。また報道の迅速性を重んじたことは，1893年日本最初に海外通信社ロイターと特約を結んだことにも表われている。その後大阪で創刊した《大阪時事》の不振で急速に下降線をたどり，1936年(昭和11)12月《東京日日新聞》に吸収され，第2次世界大戦後の1946年1月に復刊したが，1955年10月《産経新聞》に再び吸収合併された。〔前納弘武〕

ししそうじょう【師資相承】仏教における師と弟子(でし)との間の正しい法の相続。師とは弟子を教導するもの。資とは師が教を施すべき資料となるもの，すなわち弟子をいう。特に禅宗では，よりどころとすべき経典をもたず，師と弟子との人格的な触れ合いによって，師が体得している真理を心を通して弟子に伝える。いわゆる以心伝心をたてまえとするところから，特に師資相承が重視され，そのため伝法の際には，師資が密室で荘重に行なうのを決まりとしている。〔田中良昭〕

ししつ【脂質】リピドともいう。水に不溶で，アセトン・クロロホルム・エーテルなどの有機溶媒に可溶な物質群に対して慣習的に与えられた名称。溶解性によって分けられていて，必ずしも特定の化学構造に基づいてはいない。現在では，長鎖脂肪酸とアルコールとのエステル，およびそれに類した物質群と定義され，類脂質(リポイド)とは区別されている。大別すると，単純脂質と複合脂質に分けられる。①単純脂質：脂肪酸とアルコールとのエステル。グリセリド(グリセリンの脂肪酸エステルの総称)・ロウなど。②複合脂質：脂肪酸とアルコールのほかに，イオウ・糖・リンなどを含む。〔原野友之〕



ジシバリ

じじつうしんしゃ【時事通信社】第2次世界大戦直後に解散した同盟通信社のあとを受け，その事業と人員の一部を引き継いで設立された通信社。1945年(昭和20)11月創立された。国内の通信網をはじめ，海外駐在特派員および主要な外国通信社との契約によって得た内外の経済・通商関係のニュースを関係業種別に提供している。付帯事業として各種の世論・市場調査や出版活動なども行なっている。

しじつがん【資治通鑑】中国，宋(そう)の司馬光が編纂(へんさん)した編年体の歴史書。294巻。英宗の詔を受けて着手し，神宗の1084年に成る。はじめは《通志》といったが，神宗から〈政治の参考に資する通史〉という意味でこの名が与えられた。戦国時代から五代末まで(BC403年〜959年)を，独自の王朝正統論に基づき，豊富な史料と考証を加えて統一的に記述している。隋(ずい)・唐・五代の部分は正史と同等の価値をもち，元の胡三省(こさんせい)の注は本文を補正する点ですぐれている。〔勝村哲也〕

じじつこんしゅぎ【事実婚主義】社会の慣習により事実上の婚姻とみられる男女の結合関係について，直ちに法律上の婚姻と認める立法主義をいう。法律婚主義(形式婚主義または届け出婚主義の意味に用いられることもある)に対する概念である。わが国民法は法律婚主義を採用する結果(民法739条)，事実婚は法律上の婚姻とは認められず，いわゆる内縁関係が生ずることとなる。立法論として法律婚主義を維持すべきか，事実婚主義を加味すべきかが争われたこともあるが，法律関係が画一的である点で法律婚主義がすぐれているとし，以後立法論としては法律婚主義が通説となっている。しかし，婚姻の成立は，単に法律婚主義か事実婚主義かという立法論の優劣を争う問題としてよりも，いかにすれば憲法24条に規定する家庭生活における個人の尊厳，両性の平等が守られるかという立場から考えられねばならない。したがって，近時わが国の届け出主義に対する批判が強まり，内縁関係の法律的処理とともに，社会慣習上の婚姻成立の形式(たとえば挙式や披露(ひろう)など)と法律上の成立時期を一致させようとする立法論が学説の上で注目されている。〔黒木三郎〕

じじつしん【事実審】⇨三審制度

しじつたい【子実体】多数の菌糸が集まったもので，胞子形成に関与する。種類によって固有の形があり，肉眼で見られるような大きなものは，一般にはきのこといわれる。➔きのこ

シージーティー〔CGT〕⇨フランス労働総同盟

じしばり【地縛】双子葉植物・キク科。イワニガナともいう。日あたりのよい山野の裸地や路端に普通に見られる多年草。茎は細長く地上をはう。葉は根ぎわに集まり，卵形で質は薄く，長い柄がある。春から夏にかけて10cmほどの花茎を伸ばし，先に径2cmほどの黄色の頭花を2〜3個つける。種子には冠毛があり風で飛ばされる。茎が地面をはいまわるのでこの名がある。

シジフォス ⇨シジュポス

シジフォスのしんわ【シジフォスの神話】カミュの評論。小説《異邦人》と同時期(1942)に発表され，不条理の哲学を説いたもの。人間には死という避けがたい宿命がある以上，人間の行為は無益な情熱の発露であるが，この受難ともいえる不条理を明晰(めいせき)に認識し，なおも永遠の反抗を生き抜くことこそ，人間の尊い価値であるとする。

ししぶんろく【獅子文六】(1893〜1969) 小説家・劇作家・演出家。本名は岩田豊雄(とよお)。横浜市の生まれ。慶応義塾(ぎじゅく)大学中退。フランスに遊学して演劇を学び，帰国後の1937年(昭和12)，岸田国士(くにお)・久保田万太郎らと文学座の創立に参加。また，1934年から獅子文六の筆名でユーモア小説を発表，《悦ちゃん》《胡椒息子(こしょうむすこ)》《信子(のぶこ)》や戦争文学《海軍》などがある。第2次世界大戦後は《てんやわんや》《自由学校》《大番》など，時代の流れを巧みにつかむ軽妙なタッチで，風刺性のある明るい風俗小説を発表した。ほかに自伝的小説《娘と私》，戯曲《東は東》，演劇評論などがある。1969年文化勲章受章。〔上笙一郎〕

ししまい【獅子舞】獅子頭(ししがしら)をかぶって舞う民族芸能の一種。二つの系統に分かれる。一つは伎楽系統の獅子舞で，獅子頭につづく布の胴の中に2人かそれ以上の人がはいり，太鼓をつけないものである。この例としては，全国各地に散在する〈祭礼の獅子〉，東北地方に多い〈権現の獅子〉，岐阜県の〈金蔵獅子〉などがあげられる。もう一つは風流(ふりゅう)系統の獅子踊りで，獅子頭には1人だけはいり，胸につけた太鼓を



シジミ　セタシジミ

打ちながら踊るものである。この例としては，福島県その他にある〈三疋(さんびき)獅子〉，青森・岩手・宮城の各県に多い〈鹿踊(しかおどり)〉，岩手県や東京都に残る〈龍頭(りゅうず)の獅子〉，新潟県の〈角兵衛獅子(かくべえじし)〉などがあげられる。〔佐藤　薫〕

しじみ【蜆】 軟体動物・二枚貝類・ヤマトシジミ科。ふつうシジミとよばれるものには，マシジミ・ヤマトシジミ・セタシジミの3種が含まれる。いずれも殻(から)がほぼ三角形で，よくふくらみ，成長すると殻長(かくちょう)4cm，殻高3.5cm，殻幅2.5cmほどになる。殻の内面は紫色ないし白色で，表面に黄緑色ないし黒かっ色の殻皮をかぶる。成貝では，殻頂部が剝落(はくらく)して，灰白色の殻が露出することが多い。殻の色調は種によって多少異なり，マシジミでは幼貝で黄緑色，成長にしたがい黒みがかる。光沢がにぶく，通常小黒斑(こくはん)があり，殻表はなめらかでない。ヤマトシジミは，幼貝では黄かっ色で放射帯を示すことがあり，成長にしたがって黒みが強くなり，殻表はなめらかで光沢が強い。セタシジミはヤマトシジミに似ているが，内面の紫色が濃く，またときに橙色(とうしょく)をおびる。それぞれ生息場所と生殖法が異なり，マシジミは本州・九州・朝鮮・中国北部の純淡水の河川の砂泥底(さでいてい)にすみ，雌雄同体で胎生であり，卵は体内で受精，孵化(ふか)し，0.2mmほどの子貝になって産まれる。ヤマトシジミは，サハリン(樺太(からふと))以南九州までと朝鮮に分布し，海水のさす河口付近にすむ。雌雄異体で，体外受精をする。孵化した子貝は，しばらくの間浮遊生活を送ってから，水底に定着する。セタシジミは琵琶湖(びわこ)特産で，雌雄異体，体外受精をする点はヤマトシジミと同じであるが，受精卵は砂底に沈み，孵化した子貝はすでに小さな貝殻をつけており，浮遊生活を経ずにすぐ定着生活にはいる。推定されるところでは，琵琶湖にはかつて海に接した時代があり，湖の水が汽水になっていて，汽水性のヤマトシジミが住んでいたらしく，その後湖と海がしだいに遠ざかって湖の水が純淡水の方向に進んだが，このシジミは死滅せず，生活史をいくらか変えながら生きのびて今日みるセタシジミになったものらしい。どのシジミも食用になり，みそしる・時雨煮(しぐれに)などにされるが，マシジミよりもヤマトシジミのほうがはるかに美味で，セタシジミもこれに劣らない。〔菅野　徹〕



シジミチョウ(右は雄)　コツバメ　スギタニルリシジミ

ウラナミアカシジミ　ミズイロオナガシジミ　ミドリシジミ

シジミチョウ



シジミバナ

しじみちょう【蜆蝶】 こん虫類・鱗翅(りんし)目・シジミチョウ科のチョウの一種またはシジミチョウ科の総称。シジミチョウはヒメシジミともいい，翅(はね)を広げた長さ30mm内外。雄の翅表は紫色をおびた青色，前翅前縁部は白色の鱗毛をかぶる。前翅の外縁部と後翅の前縁部・外縁部は幅広く黒色に縁どられる。縁毛は白色で長く，きわめて顕著。翅の裏面は灰白色，翅基部はやや青色をおび，前翅・後翅ともに外縁部は細く黒色で，これに平行して3黒紋列がある。雌の翅表は暗かっ色，後翅外縁に近く橙色紋(とうしょくもん)を生ずることがあるが一般には不明瞭(ふめいりょう)。北海道・本州・九州のほか，朝鮮・中国・サハリン(樺太(からふと))・シベリア・ヨーロッパまで広く分布し，いくつかの亜種に分けられている。北海道では全道に普通に産し，本州では関東中部に多産するが西南部にいくにしたがって産地が局限される。幼虫はヤマボクチなどの葉を食べ，成虫は年1回6月ごろから8月にかけて出現する。なお，近似の種にミヤマシジミ・アサマシジミ・ヤリガタケシジミ・イシダシジミなどがあるが，いずれも酷似しており，同定は著しく困難である。いずれも幼虫はマメ科植物の葉を食べる。

シジミチョウ科は大きい群で，全世界から約3,000種，日本からも約60種が知られている。いずれも小形で，翅を広げた長さが50mmを越える種はほとんどない。翅の表面は種々の色彩を呈し，しばしば金属的光沢をもつ。また，アゲハチョウ科などにみられるような尾状突起をもつ種類も多い。日本に産する種ではキマダラルリツバメが2本の尾状突起をもっているが，他は1本あるいは無尾である。雌雄で色彩をことにする種が普通で，一般に雄の翅表が金属的光沢をもつことが多い。幼虫は短く扁平(へんぺい)でナメクジ状を呈し，しばしば表面に種々の形状の突起をもつ。ある種は体から特別な物質を分泌してそれを求めるアリ類と共生することが知られ，日本にはクロシジミ・ゴマシジミ・オオゴマシジミ・キマダラルリツバメなどがある。またゴイシシジミのように，幼虫がタケやササにつくタケノアブラムシを捕食して生活する肉食性の種もあるが，大部分の種は草食性で，マメ科植物を食べるものが多い。成虫は，年に1～数回発生し，草原や樹上を飛翔(ひしょう)する。日本に産する代表的な種類には，アカシジミ・ウラキンシジミ・ウラゴマダラシジミ・ミズイロオナガシジミ・ミドリシジミ・カラスシジミ・コツバメ・トラフシジミ・キマダラルリツバメ・ムラサキシジミ・ルーミスシジミ・ゴイシシジミ・ベニシジミ・クロシジミ・ウラギンシジミ・シジミチョウ・ゴマシジミ・ヤマトシジミ・ルリシジミ・ツバメシジミ・ウラナミシジミなどがある。〔鈴木邦雄〕

しじみばな【蜆花】 双子葉植物・バラ科。コゴメバナともいう。中国原産の落葉低木で，高さ1～2m。葉は楕円(だえん)形で互生し，上半分に鋸歯(きょし)があり，裏面に柔らかい短毛を密生する。花をつける短い枝には全縁の葉が束生する。花は4月ごろ

に咲き，白色の八重咲きで直径８㎜ほど。観賞用に庭などに植えられる。

ししゃく　【子爵】 ⇨爵位

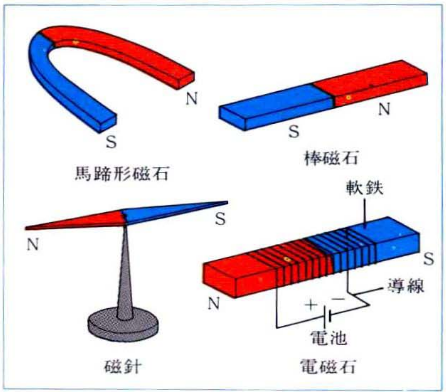
しじやく　【指示薬】 色の変化または濁りの生成などによって反応の終結を知ることのできる薬品。酸アルカリの定量では，中和点付近のpH値によって急激に色の変わる物質を指示薬として使用する。指示薬がpH値の変化によって色の変わるpHの範囲を変色域という。変色域がpH＞７にあるものは酸に敏感な指示薬，pH＜７のものはアルカリに敏感な指示薬で，pH７付近に変色域のあるものは中性指示薬とよばれる。この性質を利用して，ある水溶液のpH値を知ることができる。すなわち，種々の指示薬をしみ込ませて乾燥した試験紙(pH試験紙)をつくり，検液中に浸して紙に表われた色からそのpH値を知る。なお，指示薬のpH値の変化による変色についてはいくつかの理論がある。その他，螢光(けいこう)指示薬・化学発生指示薬・放射性指示薬などがそれぞれの目的に従って用いられている。

〔三輪誠・野宮健司〕

指示薬	変色域(pH)	酸性色	アルカリ性色
リトマス	4.5〜8.0	赤	青
フェノールフタレイン	8.0〜9.8	無色	赤
メチルレッド	4.2〜6.2	赤	黄
メチルオレンジ	3.1〜4.4	赤	橙黄
チモールブルー	1.2〜2.8	赤	黄

じしゃく　【磁石】 鉄粉を引きつける程度に帯磁させた物体。ジテツ鉱は古くから天然の磁石として知られているが，一般には人工的に帯磁させた人工磁石をさす。さらに人工磁石は，一時磁石と永久磁石に分けられる。人工磁石は，磁性体*を電流を通じたコイルの中に入れて帯電させたもので，電流を切ったとき，すなわち外部磁場を取り去ったとき，軟鉄のように磁性を失うものを一時磁石，強磁性体*特に鋼のように長期間磁性を保つものを永久磁石という。磁石には磁力が最も強く働く箇所が必ず２か所ある。これを磁極*といい，正極(Ｎ極)・負極(Ｓ極)という。一時磁石は，磁束*密度が電流によって自由に変化できるので，電磁クレーン，工業用電動機・発電機の磁極，変圧器，テープレコーダーのヘッド(磁気テープを磁化して録音するところ)などに用いられる。永久磁石は，性質上磁束密度の大きいものは得られないので，比較的小形の方位磁石，模型用モーターの磁極，スピーカーなどに用いられる。その種類には，棒磁石・馬蹄(ばてい)形磁石や方位磁石に使われる針状のものなどがある。〔堀内和夫〕

じしゃくこう　【磁石鋼】 残留磁気*および保磁力の大きな鋼。永久磁石用に使われる。19世紀の終わりごろにタングステンを７〜８％含んだ鋼がつくられたのがはじ



磁　石　磁石の種類



四射サンゴ　古生代石炭紀



死者の書　第30章　死者(左端)がホルスによってオシリスの前に導かれてくる　大英博物館蔵

めである。この合金の保磁力は約65エルステッド*である。また，タングステンの代わりにクロムを用いた２〜６％クロム鋼の磁石もつくられた。よくみられる馬蹄(ばてい)形磁石はこれである。その後1916年(大正５)日本でＫＳ鋼*，さらにＭＫ鋼*・新ＫＳ鋼*があいついで発明された。ＭＫ磁石はアメリカなどでは主成分であるアルミニウム・ニッケル・コバルトのかしら文字をとってアルニコとよばれている。270〜600エルステッドから，さらにアルニコ８では1,300エルステッドまでの保磁力を有する。1952年オランダのフィリップス社が保磁力1,700〜2,600エルステッドの微粒子を集めたバリウム-フェライト磁石を発明し，また1955年アメリカで鉄-コバルト合金の細長い微粒子をつくることに成功した。これはESD磁石といい，アルニコ磁石と同等の強い磁性をもっている。〔長谷川正義〕

ししゃさんご　【四射珊瑚】 古生代のオルドビス紀から二畳紀にかけて生存したサンゴの一類。多くは単体であるが，古生代後期には群体もある。隔壁の配列は４の倍数をなし，しわの寄った外皮がよく発達する。外形は，単体では円錐(えんすい)状・円柱状・さら状など，群体では樹枝状・塊状・束枝状など，変化が多い。500以上の属が知られ，45科に分類される。

ししゃのしょ　【死者の書】 古代エジプトの新王国時代以後，パピルス*に記されてミイラに副葬された冥界(めいかい)の案内書。古王国時代のピラミッド-テキスト，中王国時代の棺柩(かんきゅう)文と同じく，死者の復活を助けることを目的とした呪文(じゅもん)の集成である。統一的なテキストがあるわけではなく，使用された呪文はパピルスごとに違っている。〈アニのパピルス〉は特に多数の呪文を含むので名高く，1842年ドイツの学者レプシウスによって《死者の書》として集成された。特に第125章が有名で，オシリス*の主宰する裁判において，死者が罪の〈否定告白〉を行ない，魂が正義のはかりにかけられて無罪と認められて復活するまでに必要な問答・呪文を記してある。〔屋形禎亮〕

じしゃぶぎょう　【寺社奉行】 神社・寺院の行政をつかさどった鎌倉幕府以来の武家の職名。鎌倉時代では，幕府直轄地の社寺に対して監督・祭祀(さいし)法要・営繕・人事・訴訟などをつかさどった。はじめは常置のものではなく，担当の社寺の名を冠した奉行であったが，1293年(永仁１)北条(ほうじょう)時連を奉行と定め，同時に京都六波羅(ろくはら)にも置いて畿内(きない)近国の社寺行政を行なわしめた。室町時代では前代にならったが，のちに寺奉行と社家奉行とに分け，さらに延暦(えんりゃく)寺(山門奉行)・東大寺・興福寺(南都奉行)など特定の社寺にも奉行を置いた。江戸時代では，はじめ崇伝*・板倉勝重*(かつしげ)が寺社行政をつかさどっていたが，1635年(寛永12)はじめて３人の大名が寺社奉行に任ぜられた。奏者番*である譜代大名*の兼職で，定員はおおむね４名，三奉行の筆頭となり，老中の支配に属した。自邸を役宅とし，全国の社寺および社寺領の管理，僧尼・神官・楽人・検校(けんぎょう)・連歌師などの監督，関八州以外の旗本領(はたもとりょう)の訴訟などをつかさどった。地位が高く，老中までの出世の道が開けていた。

〔岡山泰四〕

ししゃも　【柳葉魚】 硬骨魚類・キュウリウオ科。全長15cmほどで，体は細長く側扁(そくへん)し，尾びれの後縁は深く切れ込む。体背側は暗黄色，腹側は銀白色で，ひれは淡色。成熟した雄では，体が一様に黒かっ色で，しりびれが特に大きい。北海道の太平洋岸の沿岸に分布する。11月，産卵のために鵡(む)川・沙流(さる)川・十勝川・釧路(くしろ)川などを群れをなしてさかのぼる。卵は４〜５か月で孵化(ふか)し，稚魚は海に下って成長する。２〜３歳で産卵する。鮮魚・乾物ともに美味。シシャモはアイヌ語の〈ス

スハム〉のなまったもので，ヤナギの葉の意。アイヌの伝説では，天上の神の国のヤナギの落葉の化身で，秋になると天上を慕って川をさかのぼるのだという。〔菅野　徹〕

じしゅ　【自首】　犯人自身が，犯罪事実を捜査機関に申し出ること。他人を介して申し出てもよい。一般の告訴*・告発*と同じく，自首は単なる捜査の開始を促すだけのもので，その後の捜査手続きおよび起訴*のいかんは，告訴・告発の場合とまったく同じである。なお自首は，刑法上，刑の軽減・免除の根拠となる。

ししゅう　【刺繡】　布地・皮などに針を通した糸で繡(ぬ)い取りする手芸。破損した布を補繡したのがはじまりといわれる。衣類その他に装飾文様をつける方法として，古くから各民族に好んで用いられ，民族の嗜好(しこう)性や風土に結びつき，それぞれの生活様式を反映させながら，特色ある発展を続けてきた。日本では，飛鳥(あすか)・天平(てんぴょう)時代以来，すぐれたししゅうの伝統があるが，明治以後は欧米のししゅうの技術が流入し，学校教育にも取り入れられるようになった。

【西洋のししゅう】ヨーロッパのししゅうの源流は，遠く古代エジプトやバビロニアに発し，ギリシア・ローマを経て中世に受け継がれたものといわれる。アッシリアや古代ペルシアの浮き彫りに見られる服飾文様は，おそらくししゅうであろうと考えられている。クリミア半島のギリシア植民市の墓跡から発見された紀元前5世紀ごろの毛織物の中にも，ししゅうを施したものがあり，すでに古代ローマではさまざまな金属製のししゅう針が用いられていた。古代ローマの正統を継ぎつつオリエント文化の体質を受け入れたビザンチン帝国でも，絹地に金糸を豊かに用いた豪華なししゅうが広く使われ，東欧の諸民族のみならず，西欧にも大きな影響を及ぼした。一方，サラセン帝国のもとで開花した中世イスラム教徒の卓越したししゅうも西方に伝わり，12世紀前半，パレルモの工房でアラビア人が製作した金糸と真珠のマントは，オーストリアの国宝として現存している。西欧では10世紀ごろ，はじめ僧院の中で祭式用の装飾として，ししゅうが行なわれたようである。現存する最古のししゅうはフランスのバイユー美術館にある11世紀ごろの綴錦(つづれにしき)で，これはノルマン人の手になったものである。13世紀からししゅうは民間に普及し，十字軍による東方技術の伝来によっていっそう発達した。15～16世紀には，ルネサンス絵画の発展を土台に，イタリアを中心にめざましい進歩を遂げ，衣服・帽子からくつ・手袋に至るまでししゅうが施され，富裕な市民の家庭では，特にししゅう職人をかかえるほどであった。17世紀のフランスでは，ルイ14世の保護のもとに，衣服・とばり・窓かけ・家具などに豪華なししゅうが施され，以後フランス宮廷の趣味は，全ヨーロッパの宮廷を風靡(ふうび)するに至った。18世紀にはいって，とばりや家具に金襴(きんらん)が多く使用されるようになると，宮廷貴族の服飾を除いてししゅうは後退し，フランス革命がこれに拍車をかけた。しかし，民間手芸としてのししゅうは，むしろその後いっそうの発展を遂げ，各地の伝統的な工芸の一部として，独特の美を競うようになった。日本には明治以後この技法が伝わり，多色のししゅうはフランスししゅう*とよばれている。〔山村あい子〕





ししゅう
(左)浅黄地鰡葦文様掛下帯(江戸後期)
(右)紅白段短冊貝花卉文様縫箔(部分)(桃山時代)

【中国ししゅう】中国では染めの発達はあまりなく，織とししゅうが発達し，特にししゅうは精巧な技術で仏教関係以外のものでは衣服のそで・胸・くつの飾りなどに用いられた。宋(そう)代は技巧が非常に繊細で，細い絹糸・髪の毛などを用いて細かい針目でししゅうをし，またサンゴの玉などを繡いの中に取り入れてししゅうしている。図柄は明(みん)・清(しん)のころから写実的となり，今日に至っている。繡い方は唐代は鎖繡いが多く用いられており，ほかに刺し繡い・相良(さがら)繡いなどである。明・清代の繡い方の特徴は，糸を割った継ぎ針繡い(鎖繡いのように見える)が多く見受けられる。

現在の中国では蘇州(そしゅう)・四川・広東(カントン)・湖南がししゅうの盛んな地方で，その地方地方でそれぞれの特徴があるが，繡い方は主として刺し繡い・両面繡い・肉入れ繡い・相良繡いが多く用いられ，糸は平糸のままか，あるいはより糸とし，いずれも細い糸で針目が非常に細かいことが特徴としてあげられる。繊細な技巧を用いたもの，また立体的な作風として金糸・銀糸を用いて肉入れ繡いを併用した重厚豪華なもの，精巧な両面繡いのついたてなど多種類である。図柄は写実的で龍(りゅう)・クジャク・ボタン・花びんなどの題材が多く，色彩は緑・藍(あい)・朱・赤・金で中国特有の配色である。用途は額面・ついたてなどおもに観賞用で，比較的服飾には用いられない。

【日本ししゅう】中国の影響を受けて日本的に発達した伝統あるししゅうをいう。現存している最古のものに，中宮寺の天寿国繡帳*残闕(ざんけつ)(国宝)があり，また法隆寺伝来の宝物の中に繡仏がある。そして，6～7世紀のころすでにこのような巧みなししゅうが製作されたという事実から推察して，その源は古代ギリシア・ローマ・ペルシアなどから発し，中国南北朝・隋(ずい)・唐の時代に数々の大陸文化とともに日本に流入されたものと考えられる。

奈良時代には唐の影響によって技巧は進歩し，この時代初期の技巧をしのぶものとして，勧修(かんじゅ)寺に釈迦如来(しゃかにょらい)説法図繡帳がある。奈良時代盛時の遺品としては，正倉院に幾多の精巧な作品を見ることができる。

鎌倉時代の作品では，西念寺の阿弥陀(あみだ)三尊が精巧な繡仏として知られている。このように古い時代の遺物としては，おもに繡帳か繡仏など仏教に関するししゅうが多く見られるが，中世のあとは主として衣装の装飾に用いられるようになった。室町時代になると，明代のもろもろの工芸品とともに金襴・緞子(どんす)などの高級な織物が輸入され，さらに桃山時代になって明から織工が堺(さかい)に来て織物の技法が伝えられ，織物の発達とともにししゅうのわざも盛んになり，近世初期の豪華な能衣装・打掛・小袖(こそで)などにししゅうが用いられた。また，ししゅうのみでなく，摺箔(すりはく)・絞り染めなどと併用して用いられた。

江戸時代中期，友禅染めの技術が発達して多彩な絵文様を染めた小袖がつくられるようになると，友禅染めの部分に，立体感を与えて染めをいっそう美しくする目的でししゅうを用いた。そうしてこのころから，衣装においては染めを引き立たせるための従の立場に変わっていった。ししゅうが主となる作品といえば，観賞用の屛風(びょうぶ)・ついたて・額面などに日本ししゅうの精巧な技術を見ることができる。

明治になって欧風のししゅうが流入されたが，日本ししゅうの伝統の美しさは高く評価され，主として小袖・帯・半えり・帛紗(ふくさ)などに用いられ，また屏風・額面・ついたてなどは海外に輸出されるようになった。

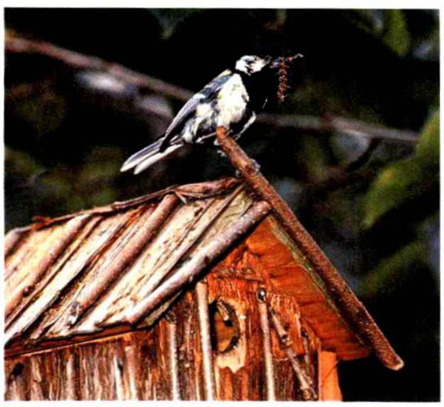
日本ししゅうの技法は非常に緻密(ちみつ)である。これは繡い地をししゅう台に張ることによって，平らに張られた布にししゅうするので，細かな技術を用いることができる。繡い糸は釜糸(かまいと)(生糸を4～10本そろえ，弱いよりをかけて練ってつくった柔らかい糸)を用い，これをこのまま用いる場合(平糸)と，好みの太さによりをかけて用いる場合とある。いずれも絹特有の光沢に加えて金糸・銀糸などを用いるので，多彩・華麗・豪華な感じとなる。

〈材料〉 ①繡い地：ふつう，平織りの絹が繡いやすいが，地質は用途により適当な布を選ぶ。絹地ばかりでなく最近の新しい布地も用いる。②繡い糸：多種類あるが，おもに釜糸・金糸・漆糸などである。

〈基礎繡い〉 基礎繡いの種類は多いが，普通に用いる代表的な繡い方は以下のものである。①平繡い：縦または横に糸を並べて繡う。おもに花卉(かき)に用いる。②まとい繡い：細い線を斜めに繡う。ごく細い場合はまつり繡いともいう。③鎖繡い：鎖の形に繡う。④肉入れ繡い：繡い上がりに厚みが出る繡い方。ふつう共糸・もめん糸を用いるが，フェルト・綿などを入れる場合もある。⑤芥子(けし)繡い：繡い紋によく用いる。細い弱い糸で裁縫の平返し繡いの要領で，小さなけし粒のように繡う。少し大きめの粒を星繡いという。⑥両面繡い：両面から見て同じになるように繡う。⑦刺し繡い：細めの糸で短い針目を幾度もくり返して刺し継ぐ。針目の増減，糸の方向を自由に変えられるため，鳥・動物のからだ，大きな花卉などを写実的に繡うのに適する。⑧相良繡い：小さな粒のできる繡い方で，繡い糸はごく弱くよる。⑨割り繡い：一つの形の両側から中に向かって斜めに繡う。⑩駒(こま)取り繡い：金糸・銀糸をはじめすべて駒に巻いた糸を，別の細い糸で押えながら留めていく方法の総称。代表的な繡い方に平埋め繡い・チャラ取り繡いがある。⑪匹田鹿の子(ひったかのこ)繡い：地引き(繡う部分の端から端まで布目と同方向に平糸を渡す)の上に，強めによった糸で正方形に渡し，その交点を細糸で地引きと同方向に小さく留め，正方形の中心に相良繡いを入れる。地引きなしでも用いる。⑫匹田繡い：ごく少し縦長の四角に，強めによった糸を渡し，その交点を3針で留め，まん中のをいちばん短くして中心が丸い感じに残るようにする。その菱(りょう)の中心に星繡いを入れる。⑬叩(たた)きぼかし繡い：3針か4針くらい針足をそろえ，方向を変えながら埋める繡い方。図案ふうな広い面を埋める



ししゅう　基礎繡いのいろいろ　①肉入れ繡い，②たたきぼかし繡い，③芥子繡い，④平繡い，⑤匹田繡い，⑥相良繡い，⑦刺し繡い，⑧匹田鹿の子繡い，⑨菅繡い，⑩割り繡い(左)とくさり繡い(右)，⑪チャラ取り繡い，⑫平埋め繡い



シジュウカラ

場合に適当である。⑭菅(すが)繡い：布目の横糸に沿って強くよった糸を渡し，渡した糸を細い留め糸でぐの目に留める。糸の間隔はふつう糸1本くらいあけるが，詰める場合もある。〔中島政子〕

じしゅう　【時宗】 日本仏教の宗派の一。時衆・遊行(ゆぎょう)衆・遊行宗ともいう。鎌倉末期に始まり，開祖は一遍*上人智真(ちしん)。一遍ははじめ証空*の弟子(でし)聖達(しょうたつ)に浄土の奥義を学び，のち1274年(文永11)紀伊(きい)(和歌山県)の熊野(くまの)神社で神託を受けて悟りを開き，一遍と称した。成道後入滅までの16年間はもっぱら諸国を巡りながら，〈南無阿弥陀仏(なむあみだぶつ)決定往生六十万人〉と書いた札を配り，声をあげ鉦(かね)をたたいて踊りながらする念仏を説いた。時宗では南無阿弥陀仏の六字名号を称する当体(自己)こそ往生そのものである(行住坐臥(ぎょうじゅうざが)の往生)と説き，臨終と平生とが相即して，いまの刻一刻が死であり，生であると説いた。時宗の名もここに由来する。一遍は遊行を本とし，寺院の建立(こんりゅう)はきらったが，2祖他阿(たあ)真教が無量光寺(神奈川県相模原(さがみはら)市)に止住して以来，寺院を建立し止住する者が多くなった。時宗の最盛期は鎌倉末期から室町初期で，一時は12派を数えるほど隆盛をきわめ，文学や美術にも大きな影響を与えた。しかし，室町後期以降，戦乱の激化や，真宗の興隆，時宗の禅宗化などの影響を受け，急速に衰微した。現在は400余寺の小教団で，総本山は神奈川県藤沢市の清浄光(しょうじょうこう)寺(→遊行寺)である。〔広川堯敏〕

じじゅう　【侍従】 ①令(りょう)制で中務(なかつかさ)省に属する官人。定員8名，そのうち3名は少納言の兼任。つねに天皇の側近に侍し，小事についてこれを補佐した。のち次侍従が設けられ，御前の雑事に奉仕した。数は，《延喜式》(→延喜格式)で92人，即位・大嘗(おおにえ)など臨時の儀式に奉仕する者として擬侍従4名が選補され，その他酒番侍従などが設けられた。②明治時代以後の官制。天皇の側近。1869年(明治2)宮内省内に設置。現在は宮内庁*に属する。〔黛　弘道〕

しじゅうから　【四十雀】 鳥類・シジュウカラ科の総称およびそのうちの一種をいう。シジュウカラ科の鳥は南部アフリカ・マダガスカル島・オーストラリアを除き，おもに北半球に広く分布し，3亜科，59～65種からなる。いずれもいわゆる小鳥とよばれる大きさのものばかりである。全般的には森林性であるが，ツリスガラ亜科のものは，やや開けた場所に生息する。こん虫類やその他の無脊椎(むせきつい)動物を主食とするが，種子を主食とするものもあり，また動物食性のものでも冬季にはかなり植物を食べる。一般に留鳥性。シジュウカラ亜科は43～45種からなり，森林性で，短いがしっかりしたくちばしをもち，こん虫類を主食とし，また木の実を足にはさんで割って食べたり，樹皮下や裂け目にたくわえたりする習性がある。一般に自然の樹穴に営巣するが，自分で穴を掘るものもあり，また巣箱をよく利用する。エナガ亜科は8～12種からなり，体長より長い尾をもつものがある。羽毛と地衣類を主材に，クモの糸も用いて球形の巣を樹木に掛ける。ツリスガラ亜科は前記の2亜科と生息場所が異なり，たとえばユーラシア大陸に広く分布するツリスガラでは水辺の低木林やアシ原に生息し，枝先に穂を集めて楕円(だえん)形の巣をつりさげる。

シジュウカラ科の一種であるシジュウカラは，ユーラシア大陸に広く分布するこの科の代表的な小鳥である。日本全地に分布し，頭上・頸部(けいぶ)と体下面の中央に幅広い黒色縦帯がある。ほおは白色で目だち，体下面は中央部を除き白色，上面は淡緑色と灰色。平地・低山帯の森林に生息し，庭に掛けた巣箱でもよく繁殖する。活発に樹



四十八体仏　①191《摩耶夫人及び綵女像》のうち〈摩耶夫人像〉，②144《阿弥陀三尊像》，③145《仏形坐像（如来坐像）》 ④155《弥勒菩薩半跏像》 ⑤156《弥勒菩薩半跏像》　東京国立博物館蔵（144～191の番号は法隆寺献納宝物目録による）

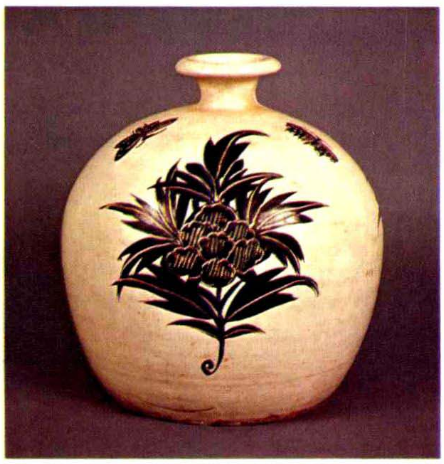
木の間を活動し，〈ツピツピツピ〉とさえずる。動物のうちでこの種ほど生活が詳しく研究された種類はなく，現在もヨーロッパと日本の研究者によって研究が続けられている生物学上重要な種。　〔安部直哉〕

じしゅうかん　【時習館】　熊本*藩の藩校。1755年（宝暦5）藩主細川重賢（しげかた）が創設し，秋山玉山が最初の学頭となる。文武両道を教育したが，兼備を強制することなく長所を生かす方針をとった。館生のうち士卒の子弟を官生といい，平民の子弟でもすぐれた者を入学させて民生といった。朱子*学を主としたが，それ以外の儒*学をも教授した。設備・学制ともによくととのい，他藩の模範となった。なお，上総（かずさ）桜井藩・常陸（ひたち）笠間（かさま）藩・下野（しもつけ）大田原藩・三河吉田（みかわよしだ）藩・駿河（するが）小島藩・加賀大聖寺（だいしょうじ）藩にも同名の藩校があった。　〔岡山泰四〕

しじゅうくにち　【四十九日】　七七日ともいう。死後次の世に転生するまで，死者の霊魂が浮遊している期間で，死者を弔ってから7日ごとに霊魂を慰めて死の国へ送る行事が行なわれる。民間の忌みの思想と仏教儀礼とが結びついたもので，仏教ではこの期間を中陰・中有という。民間のいわゆる忌中で，四十九日めは満中陰といって追善供養を終わり，忌明けとなる。

ししゅうこ　【四州湖】　⇨ルツェルン湖

しじゅうそう　【四重奏】　クァルテットの訳。西洋音楽で四つの声部をもつ合奏曲の総称。したがって，室内楽としても大合奏としても，4声部の場合は四重奏とよばれ，18世紀の作品には各声部がひとりか複数かが不明確な曲が多い。また，バロック時代の通奏低*音の声部は数人で奏しても一つと数える。古典派以降では，弦楽四重奏が四重奏の代表であるが，木管による四重奏，ピアノにバイオリン・ビオラ・チェロを加えたピアノ四重奏もかなりある。



磁州窯　《白釉黒花牡丹文瓶》　東京国立博物館蔵

しじゅうはったいぶつ　【四十八体仏】　東京国立博物館蔵（法隆寺献納宝物）小金銅仏群。四十八体仏と呼称されてはいるが，52体を数える。もとから法隆寺に伝わるものと，1078年（承暦2）飛鳥（あすか）の橘（たちばな）寺荒廃後に移されたものからなるが，それを区別することはいまではむずかしい。飛鳥時代から白鳳（はくほう）時代にかけてつくられたものが大部分で，中に干支を刻んだ造像銘を有するものがあり，制作年代を推定する重要な手がかりとなるが，年代の設定に諸説あってまだ定説をみない。保存の状態は良好で，わが国金銅仏のうち白眉（はくび）をなす。　〔永井信一〕

しじゅうまがりとうげ　【四十曲峠】　鳥取・岡山県境にあり，米子（よなご）市と津山市を結ぶ国道181号線がここを越えている。標高770m。かつては，山陰の松江・米子方面から上方へ出る出雲（いずも）街道の要衝であったが，明治以降，山陰線や伯備（はくび）線の開通によって衰えた。中国山地の分水嶺（ぶんすいれい）となっているため，冬季の積雪が多い。北にある毛無山からの大山（だいせん）・日本海・隠岐（おき）諸島一帯の眺望（ちょうぼう）はすばらしい。

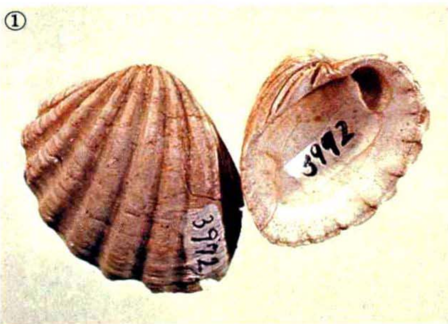
じしゅうよう　【磁州窯】　中国，宋（そう）代に興った河北省磁県彭城鎮（ほうじょうちん）の窯芸。宋代以来今日まで陶器を焼き続け，中国で最も有名な窯（かま）である。特に北宋時代にすぐれた作品がつくられ，南の景徳鎮*窯と対峙（たいじ）して華北の特色を示しているが，元・明（みん）以降は粗雑なものが多い。一般に，作風には変化があり，素地を白化粧して黒で文様を描いた黒花，それに掻落（かきおとし）技法を加えたもの，白土と赤土を交ぜて練った素地の練上手（ねりあげて），黒絵具を器表に流した墨流し，黒釉（こくゆう）掻落，堆線文（ついせんもん）などを同時に焼いたと思われ，これに低火度の緑釉・青釉を掛けたものもある。なお，磁州窯以外に同様の作風を示す窯跡が付近の地域から発見されており，修武窯（河南省修武県当陽峪（とうようよく））はその例である。　〔矢部良明〕

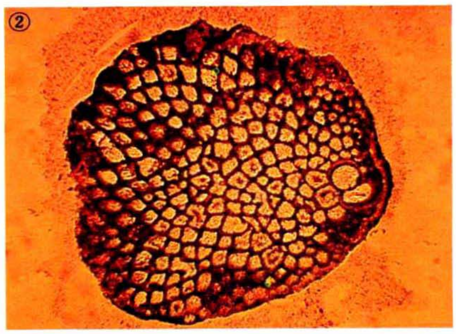
しじゅほうしょう　【紫綬褒章】　⇨褒章

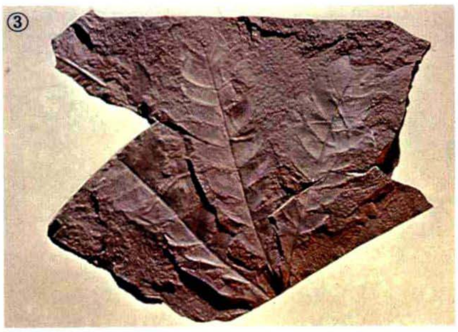
シジュポス　［Sisyphos］　ギリシア神話の伝説上の王。アイオロスの子でコリントスの王。人間の中で最も狡猾（こうかつ）な者として有名。一説によると，ゼウ*スの不興を買い，彼のもとに死神が送られたが，彼は逆に死神を捕え，そのためしばらくは地上で死ぬ者がなかったという。神々の怒りに触れて地獄へ送られた彼は，罰として，丘のふもとから頂上へ岩を運ぶ仕事を命じられたが，いつも岩があと一歩のところでころがり落ちるので，シジュポスの罰は永遠に続いているとされる。　〔松田　治〕

じしゅりゅうつうまい　【自主流通米】　⇨食糧管理制度

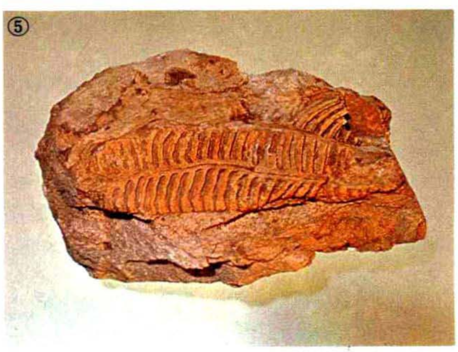
しじゅんかせき　【示準化石】　地質時*代の比較的限られた短い時代に，広範囲に生存していた生物の化石種で，その時代を示











示準化石　①ベネリカルディアーパンダ(二枚貝)　新生代第三紀鮮新世初期　静岡県掛川市西方産　②ミオジプシナ(高等有孔虫)　新生代第三紀中新世初～中期　岐阜県瑞浪市産　③ニルソニア　(裸子植物ソテツ類)　中生代ジュラ紀　石川県尾口村産　④タニシの仲間　中生代ジュラ紀　石川県下立山々麓産　⑤レプトダス(腕足貝)　古生代二畳紀　宮城県気仙沼市産

す代表的な化石種。標準化石ともいう。古生代ではサンヨウチュウ・ボウスイチュウ・腕足貝・サンゴ，中生代ではキクイシ・二枚貝・サンゴ，新生代ではユウコウチュウ，哺乳(ほにゅう)類などが示準化石として重要である。また，1種類の示準化石だけでなく，何種類もの示準化石を組み合わせれば，いっそう正確な時代がわかる。地層の時代的変化を示準化石によって識別し，地層累積(るいせき)の新旧の分類を行なうことを分帯という。　〔神戸信和〕

ししゅんき　【思春期】　青春期ともいい，個人差はあるが，男女とも12～13歳から16～17歳ごろまでをいう。この時期になると，第2次性徴が現われ，身体的には，性ホルモンの分泌により陰毛が現われ，男子では陰茎・陰嚢(いんのう)の発達，女子では陰核・大陰唇(だいいんしん)・子宮・膣(ちつ)の発達，月経の開始がみられる。男子の声変わり，肩幅の増大，女子の乳ぶさや骨盤の発達が起こるのもこの時期である。一般に思春期にはいるのは男子よりも女子が早いとされ，女子の平均身長が一時男子を上回るのも発達の時期の差を示すものである。心理的には，性の目ざめの時期で，激しい性的衝動が現われ，情緒的に不安定となる。しかし，性意識は未分化で，一時的に同性愛*や性的倒錯*の現象が現われることもある。霊肉一体の異性愛の形態をとるのは思春期に続く青年期後期においてである。➔青年期
〔斎藤幸一郎〕

しじゅんき　【視準器】　⇨コリメーター

しじゅんせつ　【四旬節】　キリスト教の教会暦で〈灰の水曜日〉から復活祭*の前日までの日曜日を除いた40日間。《新約聖書》にみえるキリストが荒野で行なった40日間の断食に由来し，信者はこの間悔い改め，斎食に服する。かつてはこの40日間は大斎(朝は少量，昼は十分に，夜はふだんの半分の量の食事をとること)とされたが，今日では緩和され，日本では聖金曜日にだけ行なわれる。➔カーニバル

ししょ　【四書】　経書*のうち《論語》《孟子(もうし)》《大学》《中庸》の併称。これは朱子学*すなわち新儒教の経典であり，したがってその基準となる解釈は朱子*の《論語集注(しゅっちゅう)》《孟子集注》《大学章句》《中庸章句》によるものである。その総称《四書集注》の中に朱子学の根幹を読むことができる。と同時に後世の朱子学批判の多くは，この四書に対するそれぞれ独自の注釈の形で現われた。➔五経正義

ししょ　【司書】　主として公共図書館で業務に従事する専門職員。図書館法(1950年4月制定)第4条では〈図書館に置かれる専門的職員を司書および司書補と称する〉と規定している。司書資格は，①大学に2か年以上在学して62単位以上を修得した者または高等専門学校を卒業した者で司書講習を修了した者，②大学を卒業し，在学中図書館に関する科目を履修した者，③2年以上司書補として勤務経験を有し，司書講習を修了した者，と定められている。司書の職務内容は，①総務(立案・企画など)，②整理(図書の選択・注文・受け入れ，分類，目録作製など)，③奉仕(閲覧と貸し出し，案内および参考奉仕など)に大別される。約70の大学・短期大学が学内または文部省委嘱の司書講習で資格取得に必要な科目の講座を開設し，司書の養成にあたっている。なお，司書補は司書の職務を助ける者で，①司書の資格を有する者，②高等学校を卒業し，司書補講習を修了した者，と定められている。　〔北島武彦〕

じしょ　【辞書】　語を集め，これを一定の順序に配列して，読み方・意味・用法などを説明した本。字引・字典・字彙(じい)などともいう。現代では，辞書を，①語の説明を主とした〈辞典〉，②漢字の読み方・意味の説明を主とした〈字典〉，③事がらの説明を主とした〈事典〉に分けるのがふつうである。①辞典には，一国の言語をあらゆる方面にわたって広く集めた普通辞典と，一定の分野や種類の語に限った特殊辞典とがある。普通辞典には，見出し語と説明とが同じ言語である国語辞典と，異なる言語である対訳辞典(外国語辞典ともいう)とがある。特殊辞典には，特殊語辞典と専門語辞典とがある。②字典には，漢和字典がある。③事典には百科事典・学習事典・地名事典・人名事典などがある。

日本で辞書がつくられるようになったのは，中国大陸との交通が開け，漢字・漢文と接するようになってからである。はじめは，中国の辞書をそのまま利用していたが，やがて，それを手本として辞書をつくるようになった。中国には，語の意味の異同によって分類し配列した《爾雅*(じが)》などの〈意義分類体〉と，漢字の字体によって分類し，その読み方や意味を説明した《説文解字*》《玉篇*(ぎょくへん)》のような〈字書〉と，漢字の韻の異同によって漢字を分類した《広韻*》のような〈韻書〉との3種類があった。日本で最初につくられたものとして，《新字(にいな)》《楊氏(ようし)漢語抄》《弁色立成》が知られているが，現存しない。現存するのは平安時代のものからで，字書・韻書・意義分類体の順でつくられた。平安時代の辞書は，いずれも中国の辞書を模倣したもので，字書の形式をとった最古のものは空海の《篆隷万象名義*(てんれいばんしょうめいぎ)》(830年以後成立)で，これは漢字を部首で分類し，漢文で注をつけ

たものである。僧昌住(しょうじゅう)の《新撰字鏡*(しんせんじきょう)》(900年ごろ)は，漢字を偏・旁(つくり)で分類し，万葉がなの和訓をもつ最古のものである。また，法相宗(ほっそうしゅう)の僧がつくったとみられる《類聚名義抄*(るいじゅみょうぎしょう)》(1081年以後)がある。韻書の形式では，菅原道真(すがわらのみちざね)の父，是善(これよし)の《東宮切韻》(847～850年の間に成立)が知られているが，原本は散逸した。意義分類体では，源順(したごう)の《倭名類聚抄*》(931～938年の間に成立)が最古のものである。物の名を集めたもので，最初の百科事典といわれる。

〔国語辞典〕院政時代にはいると，はじめて日本独自の形式(いろは順)に国語を配列した辞典が誕生した。すなわち，橘(たちばな)忠兼の《色葉字類抄*》(1144～1181年ごろ成立)である。これは，語をいろは47部に分け，各部を意味で分類したもので，語形から漢字を求めるためのものである。はじめ3巻本であったが，のち増補されて10巻本《伊呂波(いろは)字類抄》となった。

鎌倉・室町時代にはいると，日常語を集めた辞典ができた。意義分類体のものでは，建仁(けんにん)寺の僧がつくったという《下学集》(1444)，《頓要集(とんようしゅう)》(室町初期)，飯尾永祥(いいおえいしょう)の《撮壌集(さつじょうしゅう)》(1454)などができ，いろは引きのものでは，文明年間(1469～1487)以前に成立した《節用集*》や《運歩色葉集》(1548)があり，五十音引きのものに，大伴広公の《温古知新書》(1484)がある。《温古知新書》は五十音順に配列した辞典の最古のものである。そして，これらの国語を集めた辞典は，いずれも漢字を知るためのものであった。

江戸時代になると，《下学集》《節用集》が引き続いて用いられたほか，学者や文人が語の意味を引くための辞書がつくられた。これは，国学が盛んになり，古語研究の必要が生じたためである。語義をしるしたものは，院政時代の歌論書の中にみられ，鎌倉時代以後は，和歌のための《和歌色葉集》，連歌のための《無言抄》《匠材抄》，《源氏物語》読解のための《仙源抄(せんげんしょう)》《類字源語抄》などがあったが，いずれも特殊辞典の域を出なかった。それがこの時代になると，海北若沖(じゃくちゅう)の《和訓類林》(1705)，石川雅望(まさもち)の《雅言集覧》(1826年以後刊行)がつくられた。これは古語・雅言を広く集めたものである。そのほか，俗語・方言をも加えたものに谷川士清(ことすが)の《和訓栞(わくんのしおり)》(1777年以後刊行)，太田(おおた)全斎の著といわれる《俚言集覧(りげんしゅうらん)》がある。

明治以後，西洋的形態を取り入れた辞典がつくられ，品詞名がしるされるようになった。漢語を多く取り入れた高橋五郎の《和漢雅俗いろは辞典》(1888～1889)，大槻文彦(おおつきふみひこ)の《言海*》(1889～1891)，アクセントをしるした山田美妙の《日本大辞書》(1892)など特色のある辞典がつくられ，やがて，落合直文(なおぶみ)の《言泉》(1921～1929)，上田万年・松井簡治共編の《大日本国語辞典*》(1915～1928)，大槻文彦の《大言海*》(1932～1937)，平凡社の《大辞典》(1934～1936)のような大形の辞典が現われた。中形のものでは，金沢庄三郎(しょうざぶろう)の《広辞林》，金田一京助の《辞海》，新村出(いずる)の《広辞苑(こうじえん)》などがあり，そのほか小形の辞典は現在多数刊行されている。

〔漢和字典〕漢和字典は《篆隷万象名義》《新撰字鏡》《類聚名義抄》のあと，字書では，鎌倉時代に《字鏡》と藤原為長(ためなが)の《字鏡集》が，室町中期には《倭玉篇》がつくられた。《倭玉篇》は漢字1字ごとにかたかなで音と訓を示したものである。韻書では《東宮切韻》のあと南北朝時代に虎関師錬(こかんしれん)の《聚分韻略》がつくられ，のち改編されて《三重韻》となった。そのほか，意義分類体に四声・いろは順を加えた《平他字類抄》がある。江戸時代には《倭玉篇》が使用されたほか，《字彙》《康熙(こうき)字典*》が中国から移入された。そのほか，経書の用語や日常の漢語を集めた片々たる熟語字典もつくられ，明治以後の漢和字典の資料となった。明治以後は，《康熙字典》が漢和字典の模範とされ，現代のような熟語に注解を加えたものが生じた。三省堂編集部編の《漢和大辞典》(1903)，服部宇之吉(はっとりうのきち)・小柳司気太共編の《詳解漢和大字典》(1916)，上田万年・岡田正之(まさゆき)ら共編の《大字典》(1917)などがつくられ，現代では，諸橋轍次(もろはしてつじ)編の《大漢和辞典》(1960)が最大のものである。

〔対訳辞書〕対訳辞典は漢和字典を除くと，室町時代からみられる。キリシタン宣教師のつくった《拉葡日(らぽにち)辞書》(1595)，《日葡辞書》(1603)などがあり，江戸時代には，稲村三伯らの《ハルマ和解》(1796)，藤林普山の《訳鍵(やっけん)》(1810)，桂川甫周(かつらがわほしゅう)らの《和蘭(オランダ)字彙》(1855)などの蘭和辞典，ゴシケビッチの《和魯(わろ)通言比考》(1857)，堀(ほり)達之助らの《英和対訳袖珍(しゅうちん)辞書》(1862)，村上英俊の《仏語明要》(1864)，J.C.ヘボンの《和英語林集成》(1867)などがつくられた。明治以後は，柴田昌吉(しばたしょうきち)・子安峻の《英和字彙》(1872)と，J.C.ヘボンの《和英語林集成》で英和辞典と和英辞典の基本の形式が定まり，これを手本として，イギリス・アメリカを中心に，フランス・ドイツ・ロシアなどの対訳辞典がつくられ今日に至っている。

〔特殊辞典〕特殊辞典では，語源辞書として経尊の《名語記》(1275)，松永(まつなが)貞徳の《和句解》(1662)，貝原益軒の《日本釈名》(1700)，新井(あらい)白石の《東雅》(1717)など，類書に《塵袋(ちりぶくろ)》(1264～1288年ごろ)，寺島良安の《和漢三才図会*》(1712)，山岡浚明(まつあき)の《類聚名物考》(1703～1705)など，方言辞典に越谷吾山(こしがやござん)の《物類称呼》(1775)などがある。そして，明治以後は，類語・反対語・女性語・隠語・外来語などの特殊語辞典，また，哲学・法律・株式などの専門語辞典が多数刊行されるに至った。➔百科事典　〔飛田良文〕

シーショア　[Carl Seashore]　(1866～1949)　アメリカの心理学者。1902年からアイオワ州立大学で音楽心理学を中心に，多くのテストを作製した。その音楽才能テストはいまでも広く利用されている。重要な研究著作には，《音楽心理学》のほか，声楽や器楽でのビブラートに関するもの，また音楽演奏の客観的分析に関するものなどがあり，その科学的態度は高く評価されている。

ししょう　【視床】　⇨脳

ししょう　【私娼】　⇨売春防止法

ししょう　【支承】　橋の本体を支持する部分。橋自身の重さや，それに作用するすべての外力荷重を確実に橋脚や橋台に伝達しうる構造にする。温度変化で橋が伸縮するのを妨げないようにしたり，地震の際に橋が転落しないようにいろいろなくふうがこらされている。

しじょう　【市場】　市場は元来商品としての財貨の取引に関する概念であるが，今日では広く労働市場や資本市場までも含む概念と考えられている。商品経済があまり発達していなかった時代には，生産物の取引は特定の場所で行なわれたために，そのような場所を市場(いちば)(➔市)とよんでいたが，資本主義経済の成立とその発展に伴って，市場はもはや特定の場所・建物を意味しない抽象的な概念となり，商品の購入者と販売者とが必ずしも一定の取引場所で売買しなくても，さらに取引商品が実在しなくても，購入者と販売者の間に商品取引が成立すれば，そこに市場が存在すると考えられるようになった。市場形態は，購入者と販売者の数，市場に関する知識の程度，新しい購入者や販売者がその市場にたやすく参入できる程度，あるいは，取引商品が同質である程度，によって区別することができる。

その最も極端な場合は完全競争市場である。完全競争とは市場の完全性と，競争の純粋性とを合わせもつ状態をさす。完全な市場とは，情報が完全であることをいう。つまり，すべての購入者と販売者は市場で取引されるどのような価格についても，また需要量・供給量についても，さらに商品の生産費についても，完全に知ることができるものと仮定される。競争の純粋性とは，その市場では購入者も販売者もその数が非常に多く，何人も単独ではその商品の価格に影響を与えることができないし，商品の価格は与えられたものとして考えなければならない状態をいう。また，購入者や販売者がその市場に参入したり，市場から退散したりすることも自由であると仮定される。

完全競争の市場とまったく対照的な状態は完全独占の市場であり，そこではただ1人の販売者が存在するのみである。完全な独占企業にとっては，どの程度の数量の商品を市場に供給するかはどのような価格をつけるかによって決まる。独占企業は利益を最大にするように価格を選び，供給量を決めることができるのである。

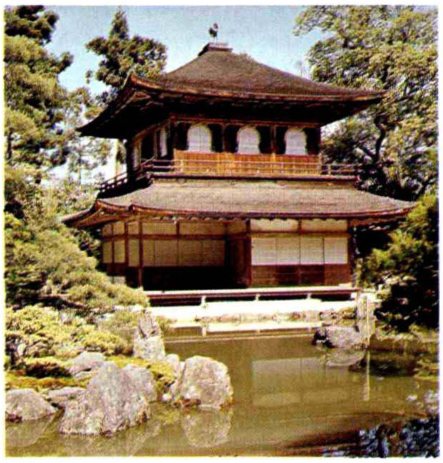
完全独占市場と完全競争市場との間にはいろいろな市場形態が存在する。複占市場・寡占市場・独占的競争がそれである。また独占には販売者が市場を形成するか，購入者が形成するかによって，供給独占・需要独占の区別がある。販売者と購入者双方に独占が存在するとき，それを双方独占という。複占とは販売者が2人の場合であり，寡占は販売者が数人存在する場合をいう。このように販売者が複数存在する場合には，ある販売者は他の販売者の行動を考慮してみずからの行動を決めなければならない。これに対して独占的競争市場では，販売者は比較的多く存在するが，それぞれの生産物が完全に同質的ではなく，したがって他の存在を考慮する必要はない。購入者が品質・商標・デザイン・包装の違いや，宣伝・広告などによって，ある特定の生産物に対する愛着をもつようになると，その生産物の販売者は一種の独占力をもつことになる。このような生産物の状態を生産物の差別化という。この生産物が差別化された市場が独占的競争，あるいは不完全競争の市場である。〔藤枝省人〕

しじょうかかく 【市場価格】 市場において需要と供給の関係によって決められる財貨の価格をいう。需要と供給は本来変動しやすい性質をもっているものであるから，需要と供給の一致点で決まる価格もまた変動しやすい。一般に市場においてその財貨に対する全需要と全供給が一度に出会うということはほとんどなく，現実の市場ではある特定の需要量に対して供給は一部ずつ行なわれ，さらに需要量も部分的に増減することになるから，この意味から市場価格はつねに変動にさらされているといえる。財貨の供給量が独占・寡占などの企業形態によって制限される，市場のすべての情報が容易に知らされない，というようなことは市場価格を変動させる典型的な場合といえるであろう。〔藤枝省人〕

しじょうきん 【糸状菌】 ⇨かび

じしょうこつ 【耳小骨】 ⇨中耳

じしょうじ 【慈照寺】 京都市左京区浄土寺銀閣寺町にある臨済宗相国寺派の寺。一般に銀閣寺とよばれる。1482年(文明14)足利義政*(あしかがよしまさ)は東山の浄土寺山に山荘東山殿を造営してそこに移り，1490年(延徳2)病死するまで，建築と作庭を続けた。没後遺志によって相国寺に属する寺となり，義政の院号慈照院をとって慈照寺と名づけられた。地割り・石組みなど自然環境を取



慈照寺 銀閣

り入れた広壮な庭園の池の北に東求堂(とうぐどう)，池の西のほとりに銀閣が建っている。東求堂は義政の持仏堂で，書院建築の初期の遺構であり，近世日本住宅の基となった。銀閣は北山の金閣(→鹿苑(ろくおん)寺)にならって銀箔をはるつもりであったが，義政の死により未完成に終わった。上層を仏殿ふうに，下層を住宅ふうにつくり，東山文化*を代表する遺構である。〔永井信一〕

ししょうせつ 【私小説】 ⇨わたくししょうせつ

しじょうせんきょりつ 【市場占拠率】 マーケット-シェアともいい，産業需要に対する個別銘柄需要の割合をいう。同じ種類の商品，すなわち顧客層を等しくし，用途において特に密接な代替関係にある商品の産業全体の売上高のうちに，その産業を構成する個々の企業，またはその銘柄ないし商標に対する需要が占める割合を意味する。

しじょうちゅう 【糸状虫】 線形動物・線虫綱に属す線虫類。フィラリアともいう。人畜の寄生虫としてきわめて重要なものが含まれる。ヒトに寄生するものは現在約5種が知られているが，わが国にはバンクロフト糸状虫・マレー糸状虫の2種が存在する。バンクロフト糸状虫は広く世界の熱帯・亜熱帯に分布し，わが国では北海道を除く全国にみられる。マレー糸状虫は東南アジア・西南太平洋各地に分布し，わが国では八丈小島に少数流行している。成虫はいずれも体長50～100㎜の糸状の細い線虫で，リンパ管やリンパ節に寄生する。成熟雌は卵殻(らんかく)に包まれたミクロフィラリアとよばれる幼虫を産出し，幼虫は血液中に出現する。その出現には日周性があるが，両種とも力によって媒介される。感染の経過は長年月にわたり，典型的な場合は急性期に熱発作(草ふるい)をくり返し，リンパ管炎などもみられる。慢性期には乳糜尿(にゅうびにょう)・陰嚢水腫(いんのうすいしゅ)・象皮病*などがみられ，患者の苦痛が大きい。治療は急性期や潜状期にはジエチルカルバマジン製剤を用い，慢性期にはそれぞれの症状に応じて治療する。予防には力の駆除，住民の集団検診，集団駆虫が必要で，わが国では近代国家事業として，おもな流行地で集団検診・集団治療を行ない，大きな成果を収めつつある。その他の人の糸状虫症としては，熱帯アフリカ・ラテン-アメリカにオンコセルカ，中央アフリカにロアーロアなどが広く分布している。それぞれブユ・アブの類が媒介する。〔山本 久〕

しじょうちょうさ 【市場調査】 マーケティング-リサーチともいう。企業経営がマーケティング*の諸問題を認識し，かつこれを解決するのに必要な情報を収集・記録し，これを分析する体系的・客観的な研究をいう。市場調査の役割は，会社の意思決定および市場管理に実証を与えること，会社の市場地位とその市場活動の実情を明示することにある。

市場調査は最初，概括的な見通しをつけるためデータ源の予備調査から始まる。すぐに入手可能なデータ源，たとえば販売・財務・生産に関する各種記録を検討し，さらにその問題に直接・間接に関連する外部の出版物をも分析して問題点を明らかにし，そのうえで次の段階の調査計画と実施の基礎を設定する。調査計画の第1段階は調査目的の決定であり，その目的に必要な情報種類が設定される。情報源泉は一次的・二次的源泉に分類される。一次的源泉とは，必要な情報種類が質問書や面接などによって直接に入手できる情報源泉であり，二次的源泉とは各種の政府刊行物や一般刊行物，社内の報告書などの情報源泉である。必要な情報の全部が二次的源泉から入手しうるなら調査方法は問題とならないが，一次的源泉に依存する場合には調査方法の決定が必要である。主要な調査方法としてサーベイ法・観察法・実験法の三つがある。①サーベイ法：個人面接・郵送質問・電話面接などによって個々の回答者から情報を収集する方法。②観察法：調査者がアイカメラなどの観察器械を介して観察する方法，直接に調査者が観察する方法の二つに大別される。調査計画が決定されると，次にその計画に沿ってデータが収集される。調査票や報告が回収されると，PCSやEDPS*などの方法によって集計・分析が行なわれる。分析された統計的結論はマーケティング政策に対する一連の勧告として解釈され，実践的な結論が導き出される。

市場調査として利用度の高いものとして次のものがあげられる。市場潜在需要の展開，市場占拠率(マーケット-シェア)分析，市場特性の決定，販売分析，競争製品調査，新製品受け入れと潜在需要，短期売り上げ高予測，景気趨勢(すうせい)調査，製品テスト，販売割り当て，販売地域の決定，流通経路，流通費調査，広告効果調査，媒体調査などである。〔清水 晶〕

しじょうてんのう 【四条天皇】（1231～1242） 在位1232～1242年。名は秀仁。後堀河（ごほりかわ）天皇の第１皇子。母は藻壁門院（そうへきもんいん）藤原竴子（しゅんし）。わずか２歳で即位し，左大臣九条教実（のりざね）・道家・兼経らがあいついで摂政*となった。特に外祖父道家の専横はなはだしく，在位11年で没した。陵墓は京都市の月輪陵（つきのわりょう）。

しじょうどおり 【四条通り】 京都市のほぼ中央部を東西に通ずる街路。東は八坂神社門前から西は桂（かつら）川を越えて松尾神社前に至る市道で，延長約８km。寺町と西大路の間は，ほぼ平安京の四条大路にあたり，室町時代には商店や土倉（とくら）が立ち並び，〈四条立売〉とよばれる商業活動が盛んであった。江戸時代には鴨（かも）川以東に祇園*（ぎおん）の繁華街が興り，1912年（大正１）には市街電車が通じた。現在，四条烏丸（からすま）付近は金融機関の並ぶビジネスセンターとなり，四条河原（かわら）町周辺は，烏丸通りや三条通りへかけて大丸・高島屋などのデパートや新京極*などの盛り場が繁華街を形成する。河原町と西院の間には京阪神急行電鉄京都線が地下軌道で走り，そのうち河原町と烏丸の間には歩道専用の地下道〈四条プロムナード〉が通ずる。祇園祭には山鉾（やまぼこ）の主要巡行路となる。〔浅井得一〕

しじょうなわて 【四条畷（市）】 大阪府北東部の市。1970年（昭和45）７月北河内（きたかわち）郡四条畷町が市制施行。人口５万0,000。平安時代以来東高野街道に沿う交通の要地として開け，四条畷の戦い*の古戦場で名高い。市域は奈良県境を走る生駒（いこま）山地西斜面と西方を流れる寝屋川流域の平野部にまたがる。産業三大別人口比は１：50：49。平野部はタマネギ・ナス・キュウリなどの近郊農業地帯であるが，最近は製薬・織布・金鋼製造などの工業が盛んである。片町線が東高野街道沿いに南北に走り，東西に通じる国道163号線と交差する。楠木正成（くすのきまさしげ）が攻略した飯盛（いいもり）山（317m）山頂の古城跡や，その討ち死にの地に正行（まさつら）を祭る四条畷神社，楠木塚（づか）とよばれる正行の墓などの遺跡がある。

しじょうなわてのたたかい 【四条畷の戦い】 南北朝時代，南朝*方の楠木正行*（くすのきまさつら）が足利（あしかが）方の高師直*（こうのもろなお）らを河内（かわち）（大阪府）四条畷*に迎撃した戦い。南朝軍は関東から吉野（よしの）（奈良県）へ帰還した北畠親房*（きたばたけちかふさ）を迎えて内部統一をすすめていたが，1347年（正平２・貞和３）楠木正行の軍勢を主力とする南朝軍が河内南半を制圧したため，足利尊氏*（たかうじ）は一挙に吉野の政権を壊滅すべく高師直・佐々木高氏*らを将とする大軍を南下させた。翌年１月南朝軍は四条畷に出撃し，一時は師直の本営に迫ったが，後方を高氏軍に襲われて敗北し，正行・正時（正行の弟）は自刃した。師直の軍は吉野に進撃して皇居を焼き，後村上天皇は賀名生（あのお）（奈良県）にのがれた。〔高崎徳次〕

しじょうは 【四条派】 日本画の流派の一。江戸時代後期に松村呉春*（ごしゅん）を祖として興り，その流れは近代にまで及んでいる。平明な写実的描写になごやかな詩情を盛り込んだ画風は，京都を中心とする関西の市民層に歓迎され，江戸時代後期の京都画壇を風靡（ふうび）した。呉春の家が四条通りの東洞院（ひがしのとういん）の東にあったことから四条派と称される。画家としては，呉春・松村景文・岡本豊彦（とよひこ）・柴田義董（ぎとう）・塩川文麟（ぶんりん）・柴田是真・幸野楳嶺*（ばいれい）・竹内栖鳳*（せいほう）らの名があげられる。〔小林　忠〕

じじょえいゆうでん 【児女英雄伝】 中国，清（しん）代の長編小説。41回。満州貴族の文康の作。文康は安徽（あんき）の徽州知府・駐蔵大臣までなったが，子どもたちが浪費して財産をつぶしたので憂悶（ゆうもん）の心を散らすために執筆したという。才女と英雄を兼ねた女性何玉鳳（かぎょくほう）（十三妹（シーサンメイ））の活躍が全編のおもな内容で，主人公の安公子が張金鳳という美少女と，次いで何玉鳳とを妻にし，その助けで出世するという才子佳人小説である。北京（ペキン）語で書かれ，旧北京の言語・風俗を知るによい資料。〔今村与志雄〕

ししょきょうゆ 【司書教諭】 小・中・高等学校などの学校図書館*で図書館業務を担当する専門的職員。学校図書館法（1953年８月制定）第５条で〈学校には，学校図書館の専門的職務をつかさどらせるため，司書教諭を置かなければならない〉と規定し，教諭の資格をもち，司書教諭講習を修了した者をもってあてることを定めている。司書教諭の職務内容は，①管理的職務（学校図書館運営の総合的計画の立案・実施と学校の教育計画への寄与など），②技術的職務（図書館資料の選択・構成，分類作業と諸記号の決定，目録作成など），③奉仕・指導的職務（館内閲覧・館外貸し出しの事務，読書相談・読書指導など）に大別される。約80の大学・短期大学が学内または文部省委嘱の司書教諭講習で資格の取得に必要な科目の講座を開設し，その養成にあたっている。〔北島武彦〕

じじょでん 【自叙伝】 作者が自分の生涯（しょうがい）について書いた伝記をいう。日記がいわば非公開を原則とした自分自身のための記録とすれば，自叙伝は公開を前提とした後世のための記録である。ともに人間の表現欲ないし記録欲の現われといえよう。すぐれた伝記は読者を動かし，自叙伝は作者本人の手になるだけに，独特な興味を呼び起こすが，真実が曲げられ，誇張に流れやすいといえる。アウグスチヌスやルソー*の《告白*》のような教訓的・自己批判的なものも少なくないが，この２書に刺激をうけて書かれたというゲーテの《詩と真実*》のような，彼のいわゆる〈詩的個性の発展史〉もある。フランクリン*の《自叙伝》や，わが国のものでは福沢諭吉*の《福翁自伝》は，その人間臭のゆえに，人をひきつけてやまないものがある。〔日高八郎〕

ししょばこ 【私書箱】 ⇨郵便私書箱

ジージョン ⇨ディジョン

しじら 【縅】 今日では，特殊な組織や織り方，加工法によって布面に表わした縮皺（ちぢみじわ）をさすが，縮皺を出すには次のような方法がある。①張力を異にする２種の経糸（たていと）による法。②２種の異なった組織を組み合わせた混合組織による法。そのほか太さの異なる糸を経または緯（ぬき），あるいは双方に用いて，布面に凹凸（おうとつ）のある縞（しま）や格子（こうし）を織り出したものもあり，また繊維がある種の薬品によって縮む性質を利用した，塩縮加工などがある。経緯ともに絹糸を用いた縅では，近世素袍（すおう）や裃（かみしも）など男子の礼服着用の際その下に着られた熨斗目（のしめ）に利用されているものが代表的であり，綿織物では徳島県の特産阿波（あわ）縅が著名である。奈良時代・中世にも〈しじら〉と称されるものはあり，文献にもみえているが，それらは撚糸（よりいと）によってしぼを出す縮緬*（ちりめん）に類するものと考えられる。したがって，今日の定義による縅の製作は中世末ごろに始まったものと推察される。〔北村哲郎〕

シシリー（島） ⇨シチリア島

じしん 【地震】 ⇨次ページ

じしんがく 【地震学】 地震*およびそれに関連する諸現象を研究する学問で，地球物理学*の一部門。地震について自然科学的な議論がされるようになったのは，19世紀後半に地震計*が開発されてからである。現在は世界中の1,000以上の地点に設置された地震計で常時観測が行なわれ，１個の地震の震源・発震時刻・マグニチュード*・発震機構などが決められる。また多くの観測から，地震の時間的・空間的分布，地震の数とマグニチュードとの関係，地震に伴う地殻（ちかく）変動などが調べられる。このような研究を総合して，地震の本質や原因を解明し，予知を可能にしようとする努力がなされている。一方，地震波観測から地球内部での速度分布を求め，これから内部の密度・圧力，弾性・非弾性的性質や内部構造が明らかにされている。さらに，高温・高圧下の岩石の物性論と結びつけて，地球内部で進行する過程が議論される。〔堀福太郎〕

じしんかとう 【地震加藤】 ⇨増補桃山譚（ぞうほももやまものがたり）

ししんけい 【視神経】 ⇨脳神経

じしんけい 【地震計】 地震を記録する装置。地震計自身が動いては計測を行なうことができないので，空間に不動点をつくらなければならない。絶対不動点をつくることは困難であるが，水平動に対しては，振り子の固有周期よりはるかに短い周期で

➔399ページ

地　震

地球内の限られた部分の弾性ひずみの状態が急激に変化すると，弾性波が発生し，四方八方に伝播(でんぱ)する。この弾性波で地面が振動する現象を地震という。ふつうは原因が自然のものをさし，人工地震*と区別する。このように原因が自然のものでも，かなり長い時間同じような振動が続くものは，脈動*とよんで，数分以内で終わる地震とは区別する。

古代ギリシア・ローマの学者たちは，何物をも砕く地震の法外に大きな力は，万物の根源をなす〈元素〉である火・空気・土・水の働きによって生ずると考えた。四元素のいずれが主役を演ずるのか意見は分かれたが，このような考えは中世まで引き継がれた。しかしこれらの説は地震についての正確な観察に基づいたものではなく，頭の中で組み立てられた憶測にしかすぎなかった。地震の本質を人々がおぼろげながら理解しはじめたのは，18世紀になってからである。1750～1760年の間に，ヨーロッパ西部はしばしば強い地震に襲われた。中でも，1755年リスボンの地震は歴史に残る大災害をもたらした。これを契機にヨーロッパ中の多くの科学者が地震に関心を向けた。特に地震の知識を深める上で大きく貢献したのは，ケンブリッジ大学のJ. ミシェルである。1761年，ミシェルは，地震の振動は地殻(ちかく)内を弾性波が伝わるために起こるもので，その波は発生した場所からあらゆる方向に広がり，しだいに消滅することを指摘した。さらに，震源の位置を決める方法を考案し，また地震の伝わる速さを見積もった最初の人ともなった。しかし，地球内部や弾性波についての正しい知識もなく，精密な観測装置をもたなかった当時の人々の，地震についての理解はまだ不完全であった。1846年，アイルランドの地質学者R. マレットは，当時確立されていた力学の法則に基づいて，地震波伝播の理論をたてた。昔から地震について語られ，文書に書き残されてきた多くの観察は，互いになんの関連もなさそうにみえ，ときには矛盾するようにさえ思えたが，これらの記録が一つの体系内で説明される機運が，このころに生まれた。マレットはまた，地震の本質を探るには，地震波の伝わる速さ・振幅・周期を正確に測る計器の開発と，組織的な観測網の整備が必要なことを力説し，さらには，このような観測が地球内部の性質を解明するのに役だつことをも暗示した。彼が望んだような地震計*は，1880年に，日本に在留していたイギリスの機械学者J. W. ユーイングにより考案された。この地震計の開発と，20世紀にはいって日本・インド・アメリカなどで起こった大地震が契機となって，近代的地震学が発展してきた。一方，地震の研究は，かつては憶測の対象でしかなかった地球内部の状態を，科学的に探究する道をついに開いた。

〔地震波〕地下のある部分が衝撃を受けると，その部分の岩石の体積や形が周期的に変化する。この振動は次々に隣接する部分に伝わり，エネルギーが波動として伝えられていく。これが地震波で，地震波は地球という弾性体の中を伝わる弾性波である。このような地震波を発生する部分を震源といい，震源の真上の地表の点を震央という。

限りなく広がった一様な弾性体の中には，一般に2種の弾性波が伝わる。一つは，波を伝える媒質の体積変化，つまり圧縮と膨張の状態が伝わるもので，疎密波とよぶ。これは，媒質の各部分が，波面の進む方向に平行に振動するので，縦波ともよばれる。縦波は体積を変えようとする力に対する反発力をもった物質中を伝わる。したがって，固体・液体・気体いずれの中をも伝わる。他の一つは，ねじれの状態が伝わるもので，ねじれ波とよぶ。これは，媒質の各部分の振動方向が，波面の進む方向に直角になるので，横波ともよばれる。横波は形を変えようとする力に対する反発力をもった物質中を伝わる。したがって，固体の中だけしか伝わらない。

地球のように表面のある弾性体では，振動が表面付近に限られ，表面近くだけを進む表面波が生ずる。表面波にも2種類ある。一つは，媒質粒子が，波の進む方向と表面の法線とを含む面内で，楕円(だえん)を描いて運動するもので，その存在を予見した人の名をとって，レイリー波とよばれる。他の一つは，一様な弾性体の上に地震波の速度のおそい層が重なっている場合に，上層内を伝わるもので，媒質粒子は波の進む方向に直角で表面に平行な方向に振動する。これは，その存在を予見した人の名にちなんで，ラブ波とよばれる。

縦波と横波は同時に震源を発し，四方八方に伝わっていく。その速さは，かたい物質中ほど大きく，密度の大きい物質中ほど小さい。したがって，かたさや密度が違う物質にぶつかると，その界面で反射波や屈折波が生ずる。地殻内では，縦波は6～7km/秒，横波は3.5～4km/秒程度の速さで伝わる。表面波の速さは，波長や表面付近の構造で違うが，一般に横波よりややおそい。したがって，各観測点には，まず縦波が到達する。これをP波とよび，次いで到達する横波をS波とよぶ。表面波は，震央付近ではS波とほぼ同時に到達するが，遠方へいくにつれ，しだいにS波よりおくれていく。マントル上部では，P波は8km/秒，S波は4.5km/秒ぐらいであるが，深くなるとともに速くなり，地下2,900kmにある核との境では，P波は14km/秒，S波は7.5km/秒程度になる。核にはいると，P波の速さは約8km/秒に落ちるが，さらに深く進むにつれ再び増大し，中心では約11km/秒になる。このようにして，震源を発したP波は約21分で地球の反対側に達する。S波は核内では伝わらない。このことから，核は液体の状態にあると考えられている。P波もS波も，3次元的に広がっていくので，エネルギーを失いやすく，振幅は距離とともに急速に減少していく。それに対し表面波は，薄い表層内を1次元的に広がっていくので，エネルギーはいつもこの層内に閉じ込められ，他の部分にはあまり散逸しない。そのため，表面波はP波やS波より遠くまで伝わるし，振幅が減少していく度合いも小さい。表面波は約2時間半で地球表面を1周するが，大地震の場合には，6周以上もしたものが観測されたことがある。

〔地震計の記録〕P波やS波は減衰が大きく，また地層の境などで反射したり屈折したりするので，その振動の形はどんどん複雑になっていく。また，表面波は地球を何回も回ってくることもある。このような波が入り交じって観測点に到達するので，地震計にはきわめて複雑な波形が描かれる(図-1)。はじめに振幅の小さい波が現われる。人体にはがたがたという感じを与えるもので，初期微動*とよばれる。これはP波による振動を表わしている。しばらくして振幅の大きい波が現われる。人体にゆさゆさという感じを与えるもので，S波による振動を表わしている。

〔震源の求め方〕P波と同時に震源を発したS波は，1秒ごとに一定の割合いでP波より遅れる。したがって，震源から観測点までの距離Dが大きくなるほど，初期微動継続時間tは長くなる。すなわち，Dはtに比例し比例定数をkとすると，$D=kt$の関係がある。そこで，kの値がわかっている場合は，3地点，たとえば，東京・銚子(ちょうし)・水戸(みと)の地震計からtを読みとってDを計算し，3点を中心としDを半径とする球面を描くと，それらは地下の1点で交わる。そこが震源である。これを紙面上の作図で求めるには，図-2に示したような方法を用いる。地図上で3観測点，たとえば，東京・銚子・水戸を中心とし，Dを半径とした円を描く。この3円が交わってできる3本の共通弦は，点Eで交わる。この交点Eが震央である。次に，Eと3点のうちの一つ，たとえば東京とを結んだ線に，Eから垂線を立てる。この垂線が東京を中心とする円と交わる点をHとすると，直線EHの長さが震源の深さを与える(図-2)。Eと銚子，Eと水戸を結んでも同様に震源が求められる。kはP波とS波の速さ

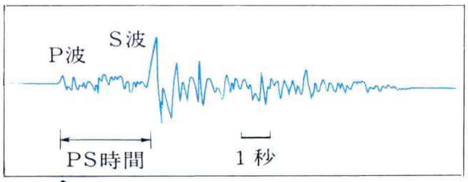


図-1 震源の近い地震の記録

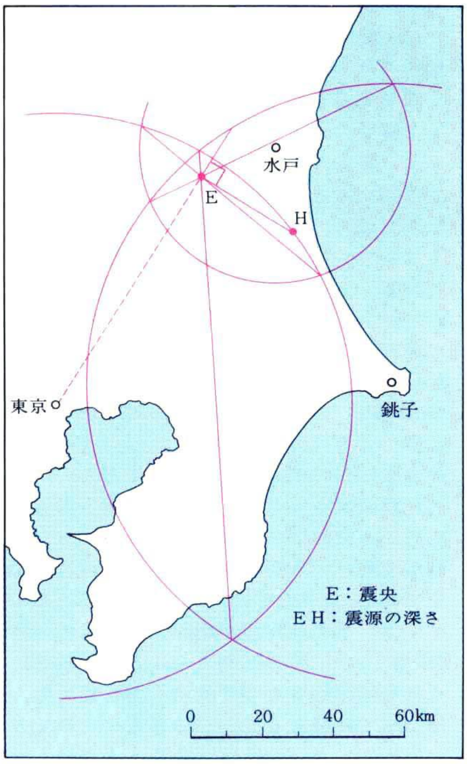


図-2 3観測点のPS時間から震源を求める方法

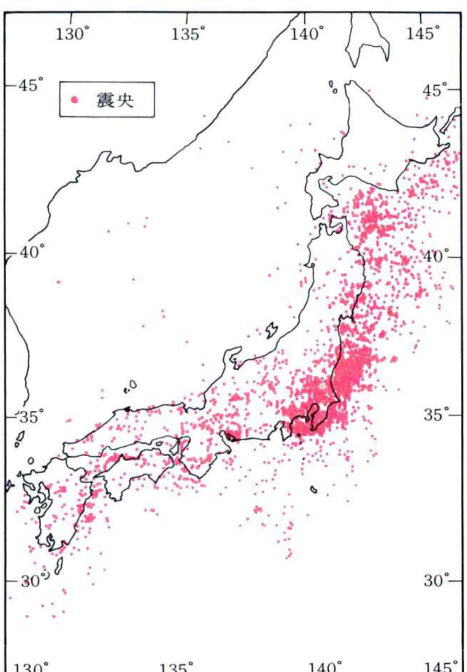


図-4 1900〜1950年の日本付近の顕著地震・稍顕著地震の震央分布

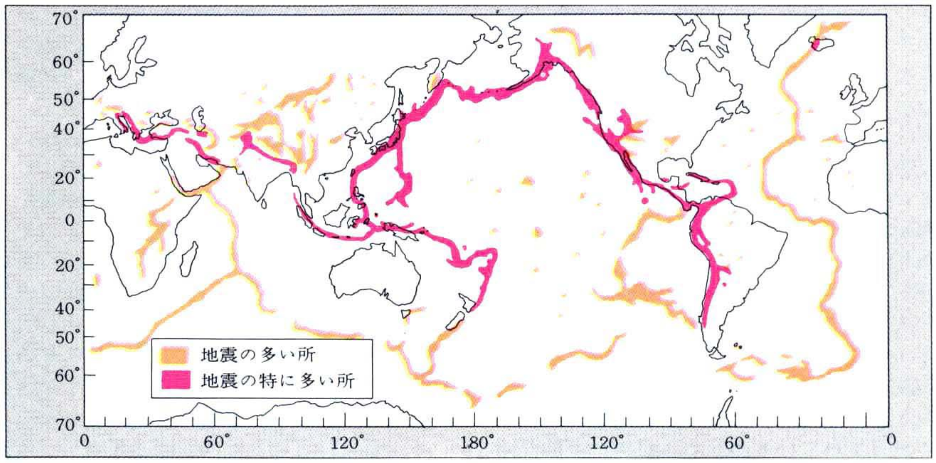


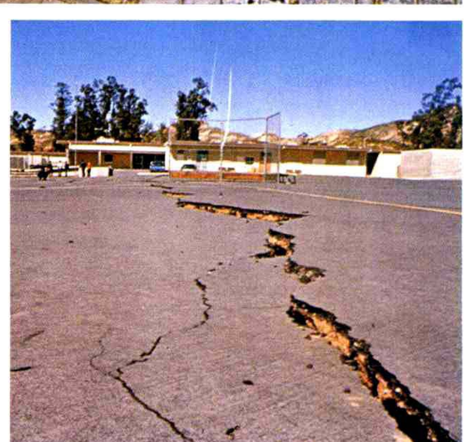
図-3 世界の震央分布



図-5 日本の顕著地震・稍顕著地震の震源の深さの分布







地震による災害
(上)山くずれ(青森県八戸市，十勝沖地震) (下左)家屋の破壊(青森県，十和田観光電鉄三本木駅，十勝沖地震)(下右)小学校校庭にはいった亀裂(アメリカ，ロサンゼルス地震)

から決まる値で，ふつう6～8km/秒程度であるが，地殻の構造や震源の深さなどでも変わるので，一般には未知数として取り扱われる。この場合には，4地点以上でtを測ると震源が求められる。

〔震度〕一つの地震でも，その激しさは土地ごとに違う。おのおのの土地における地震動の激しさの程度を震度という。震度は観測地点にきたときの地震のエネルギーに関係していて，地震動の振幅・周期・速度・加速度・継続時間，地盤の強弱などがからみあって決まるものである。したがって，震度を正確に表わすには地震計の記録を読みとらねばならないが，地震計はどこにでも設置されているわけではない。任意の地点でいくつかの地震の震度を比べたり，一つの地震について，地点ごとの震度の違い方の大勢を知るには，もっと手早く便利なものさしのほうが役にたつ。このような目的で，適当なめやすを設け，震度に等級をつけたものを震度階といい，気象庁では表-1に示した震度階を用いている。

〔地震の大きさ〕地震の大きさ(規模)は，震源から出るエネルギーの量に関係している。したがって，おのおのの土地にきた地震エネルギーに関係する震度とは別の概念である。小さな地震でも，震央付近では激しく揺れることがある。大きい地震でも，震央を遠く離れた土地では人体に感じない。地震の大小をはっきりした尺度で区別して用いていたわけではない。実際に，地震の大小はいろいろな表わし方をすることができる。気象庁では，地震動を人体が感じる地域の広さで，地震の大きさを4階級に区別し，最遠有感地点が，震央から300km以上のものを顕著地震，200～300kmのものを稍(やや)顕著地震，100～200kmのものを小区域地震，100km以下のものを局発地震とよんでいる。また，どこでも人体に感じなかったものを無感地震という。

地震をもっと定量的に論じようとする立場からは，マグニチュード(記号M)という尺度が用いられる。これはアメリカのC.F.リヒターが1935年に提案したもので，震源から波動という形で送り出された運動エネルギー量に関係した値である。Mは，震央から100kmの地点で，特定の性能をもった地震計(ウッド-アンダーソン型地震計)に記録された最大振幅をミクロン単位で測り，その値を常用対数で表わしたものである。つまり，最大振幅が1μならMは0，1cmならMは4で，最大振幅が10倍になるとMが1だけふえる。実際には，震央距離100kmの地点に標準型の地震計があるとは限らないので，適当な震央距離・地震計で測った値を，Mの定義に合うように換算する。

Mと震度とは別のものであるが，ともに地震のエネルギーにかかわるので，まったく無関係のものではない。同じ震央距離の所で震度の大きい地震ほどMは大きいであろう。多くの地震の震度と震央距離を統計的に調べると，震度は距離とともに一定の法則で減っていくことが知られる。このような調査から，震央から100kmの所における震度IとMとの間には，$M=0.5I+4.85$の関係があることがわかっている。日本には地震計などなかった昔から多くの地震の記録があり，それから震度が推定でき，上の式を用いると，古い地震のMを決めることができる。表-2に示されたMの値は，このようにして決められたものである。

〔地震のエネルギー〕地震は，地下のある部分から突然にエネルギーが放出され，それが波動という形で四方八方に送られる現象である。したがって一つの地震のエネルギーは，その地震波を記録したすべての地震計について波の振動エネルギーを求め，それを時間的にも空間的にも寄せ集めて，はじめて見積もることができる。これはきわめてやっかいな仕事である。ところがつごうのいいことに，Mと，地震波全体の中に含まれたエネルギーE(単位エルグ)との間には，$\log E=1.5M+11.8$という関係がある。そこでふつう，地震のエネルギーは，この式から求められている。この式からわかるように，Mが1.0だけふえると，エネルギーは約30倍になる。Mが7.0の地震1回分のエネルギーは，Mが6.0の地震30回分のエネルギーに相当するわけである。

地震は地下の岩石がこわれたときに起こるものであるが，岩石は無限に大きい変形には耐えられず，ひずみが一定の大きさになると破壊してしまう。つまり，岩石の単位体積あたりにたくわえられるひずみエネルギーの量には，一定の限界がある。さらに，一続きのひずみの広がりにも一定の限度がある。その結果，地震のエネルギーには上限があることになる。実際に，一度の地震で日本中の家屋がみんな倒れたということもなかった。昔からの世界中の大地震の記録をみても，有感半径はほぼ1,000kmが最大である。Mのほうからみると，これまでに決められた最大は，1960年のチリ地震のM8.75である。上の式によると，最大の地震のエネルギーは約8×10^{24}エルグということになる。これ以上の地震はなさそ

表-1 気象庁震度階

震度	名称	相当する状態
0	無感	地震計のみに感じ，人体には感じない
I	微震	静止している人，または地震に特に敏感な人だけが感じる
II	軽震	一般の人々が感じ，戸障子がわずかに動く
III	弱震	家屋が揺れ，戸障子ががたがた鳴り，電燈のようなつり下げたもの，器内の水面などの動揺がわかる
IV	中震	家屋の動揺が激しく，すわりの悪い器物は倒れ，8分目ぐらいはいっていた水が器からあふれる。歩行者にも感じられる
V	強震	壁に裂け目がはいり，墓石・石どうろうなどが倒れ，煙突・石がきなどが破損
VI	烈震	家屋の倒壊は30％以下で，山くずれ・地割れなどを生じ，多くの人は立っていることができない
VII	激震	家屋が30％以上倒れ，山くずれ・地割れなど地変が激しい

表-2 日本のおもな地震

年	月・日	地名 (地震名)	M	全壊・流出・全焼家屋	死者	備考
416?	7・14	河内	—	—	—	日本最古の記録
869	5・26	陸奥	8.6	多数	1 000	大津波
1096	11・24	畿内・東海・南海道	8.4	多数	多数	津波。東大寺の被害
1498	8・25	東海・南海道	8.6	1 000	5 000	津波
1703	11・23	江戸・東海道	8.2	20 162	5 233	江戸・小田原大火災
1707	10・4	畿内・東海・南海・西海道	8.4	29 000	4 900	大津波
1847	3・24	信濃・越後(善光寺)	7.4	37 500	12 000	山くずれで犀川氾濫
1855	10・2	江戸・下総	6.9	14 346	7 000	藤田東湖圧死
1891	10・28	美濃・尾張(濃尾)	8.4	80 000	7 273	根尾谷断層出現
1896	6・15	三陸(三陸沖)	7.6	10 617	27 122	大津波
1923	9・1	関東南部(関東)	7.9	576 262	142 807	東京大火災
1933	3・3	三陸(三陸沖)	8.5	7 512	3 008	大津波・火災
1944	12・7	東海・南海道(東南海沖)	8.3	29 200	998	大津波
1946	12・21	南海道(南海道)	8.1	19 923	1 330	大津波・火災
1948	6・28	福井平野(福井)	7.2	39 380	3 895	火災
1952	3・4	十勝・日高・釧路(十勝沖)	8.2	920	33	津波
1964	6・16	新潟・秋田・山形(新潟)	7.5	1 960	26	石油タンク火災・津波
1968	5・16	三陸・十勝(十勝沖)	7.9	6 728	52	津波

うである。とはいえ，この値は，広島に落とされた原子爆弾の約10,000倍に相当し，大地震のエネルギーは途方もなく大きいものである。

【地震の分布】地震は地球上で一様に起こるものではない。地震のない日は1日もない所もあれば，地震がまったく起こらない地域もある。図-3に示したように，地震が多いのはある細長い地域に限られている。地球全体としては，地震の起こらない場所の面積のほうがはるかに広い。特に地震が多いのは，日本列島を含めて，太平洋を取り囲む地域で，環太平洋地震帯とよばれる。世界中の地震の80％以上はこの地域で起こる。地中海からアジア南部を経て，東南アジアで環太平洋地震帯に合流する地帯や，海洋の中央海嶺(かいれい)を連ねる地帯にも地震が多い。

大部分の地震の震源は，深さ数10kmまでの所にある。震源が地下100km以上の深い地震が起こるのは，浅い大地震が起こる地域のごく近くに限られる。特に，300km以上の深い地震は，太平洋を取り巻く地域の一部でしか起こらない。これらの地域では，ときに数100kmの深さに震源があることがあり，地下700kmで起こった地震もある。

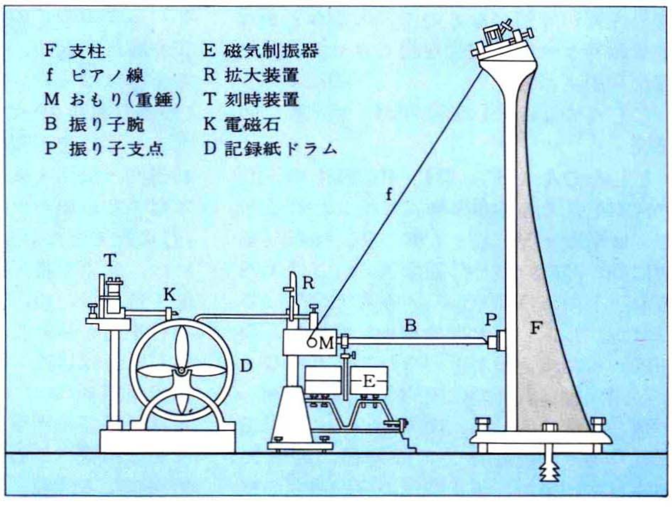
日本は特に地震の多い国である。日本とその付近から出る地震のエネルギーは，長い期間で平均してみると，世界中の地震のエネルギーのおよそ15％にも及んでいる。図-4は1900～1950年の間の，顕著地震と稍顕著地震の震央を示したものである。日本の中でも，地震の分布には著しい地域差があり，北海道にはほとんど地震は起こっていない。日本の地質構造は，フォッサ-マグナ*を境として，東北日本と西南日本に分けられるが，地殻構造の差は両地域の地震の性質にも反映している。東北日本では，陸地よりも太平洋に出たところに，地震の起こりやすい場所が三つのかたまりになっている。日本の古文書には10,000近くの地震の記録が残っていて，そのうち大地震とよんでよさそうなものが260ほどある。ところで，これら大地震の多くは，三陸沖と東海道・南海道沖に起こっている。つまり，大地震は，図-4に見られる震央の密集地域の間のすきまに起こっていることになる。西南日本では，地震の数が少なく，しかも細長い地域に密集している。

図-5は震源の深さを示したものである。東北日本の地震は，深さ30kmから70kmあたりに密集している。西南日本の地震は深さ40kmより浅い部分にかたまっている。日本の地殻の厚さは地域により異なるが，平均すれば30kmくらいになる。したがって，東北日本の地震の大部分はマントル上部で起こり，西南日本の地震の大部分は地殻内で起こると考えてよい。

【震災】激しい地震は堅牢(けんろう)な建造物をも破壊する。ときには地面に急激な変位や変形を起こす。その結果人命や財産を損傷し，人間生活に大きな災害をもたらす。大地震にはたいてい土地の隆起や沈降が現われ，地下水脈が変わったり，温泉が止まったりすることもある。海岸地帯では土地が海中に没し，あるいは港湾の水深が変化し，日常生活に影響を受けることが多い。小さな島が水没し，多数の人が死んだこともある。狭い範囲で大きな変位を与えるような力が及ぼされると，断層が生じ，道路や鉄道が破損する。濃尾地震による根尾谷断層，カリフォルニア地震によるサン-アンドレアス断層などは有名な例である。山地ではしばしば山くずれが起こる。埋め立て地・堤防など地盤の軟弱なところは地割れができやすく，割れ目から水や砂を吹き出すこともある。海底で大地震が起こり海底地形に急激な変動を生ずると，津波が発生する。三陸沖や東海・南海道沖は大地震が起こる地域であるが，そのため日本は古来しばしば津波による惨害を受けた。アメリカ大陸沖やアラスカ沖で発生した津波が日本を襲うことも珍しくない。地震の災害を特に大きくするのは火災の発生である。住居の大多数が木造である日本では，大地震に大火災はつきものである。

【地震の原因】地震とはどのような現象なのかはかなりよくわかってきた。だが，地球内部のある部分が急に振動を始めるまでに，どのような過程がどのように関連し，どのような経過をたどって進行するのかはわかっていない。したがって，地球上のある場所に，あるとき，ある大きさの地震が，なぜ起こるのかわからない。つまり地震の原因はまだ解明されてはいない。このようなわけで，地震の災害を避けるために切望される地震予知*も，はっきりしためやすがたたない現状である。それにしても，地震が密集している地域は，第三紀以降，造山運動が激しかった地域か，あるいは現在もそれが進行しつつある地域である。しかも，海溝(かいこう)や火山の分布とも密接な関係がある。地震の原因は，造山運動や，マグマの発生・活動の原因と切り離しては考えられない。〔堀福太郎〕

糸の先を左右に振るとおもりがほとんど動かないことを応用し，上下動に対してはばねを利用するなど，地震動の大きさ・方向・周期などに応じて適当な振動系をつくれば，近似的な不動点が得られる。地震計は，このような不動点に比べて地面がどのように動いたかを紙面上に記録させるもので，振り子(感震器・換震器)・減衰器・拡大装置・記録装置の4部分からなる。地震動は同時に前後・左右・上下に動く複雑な振動であるから，これを3成分に分けて3台の地震計に記録させる(水平動記録用の地震計は，それぞれ正しく東西方向と南北方向に設置する)。また，地震動の周期に応じて短周期地震計・長周期地震計があり，そのほか目的に応じて速度計・加速度計・ひずみ地震計・海底地震計などがつくられている。〔堀福太郎〕



地震計

水平動地震計の一例

ししんせい 【始新世】 地質時代*のうちの新生代第三紀を5分した第2番めの時代。暁新世のあと，漸新世のまえ。約3,700万年前に終わり，この時代とまえの暁新世を合わせた期間は約2,800万年である。始新世の名称は現生種の出現を意味し，1833年イギリスの地質学者ライエルによって提唱された。始新世の地層の標準地域は，ベルギー・フランス北部・イギリス南東部・イタリアである。

じしんたい 【地震帯】 ⇨地震

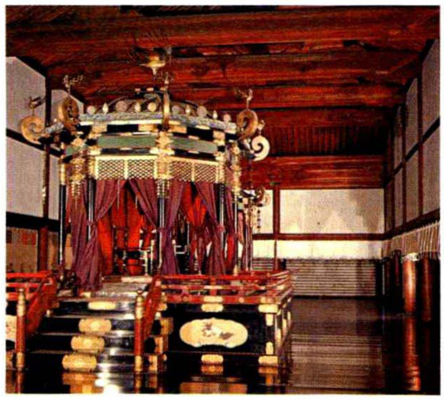
じしんたんこう 【地震探鉱】 物理探鉱*法の一種。岩石中を波動として伝播(でんぱ)する弾性波の速度を測定し，地下の地質構造

を推定するもの。ふつうダイナマイトを爆発させて弾性波を起こし，電磁型の受振器を使って波形をフィルムに撮影する。弾性波は性質の違う岩石の境界面で反射・屈折するので，地震探鉱には反射波を使う反射法と屈折波を使う屈折法とがある。また，弾性波の伝播速度は岩石の密度・弾性・硬度・含水量などによっても変化するので，それらの事項を十分考慮して行なう必要がある。地表調査の実施できない平野や海底などの地下構造を推定するのに適し，炭田・油田の探鉱や土木事業にも応用される。地質学的にみて，地震探鉱によって推定しうる対象は不整合面・背斜・向斜・断層，傾斜した構造などである。　〔平山　健〕

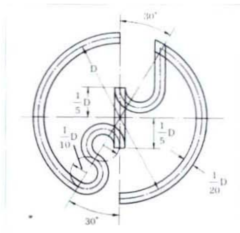
じしんたんさ　【地震探査】　地震波の伝わり方に基づいて，地球内部の構造や状態を推定する調査法。鉱床の開発に利用するときには，特に地震探鉱という。大陸や海底の地殻(ちかく)の構造調査，石炭・石油などの鉱床開発のための地質調査，土木工事の地盤調査などに広く活用される。地震動は，弾性波として岩石の種類に応じた速度で伝播(でんぱ)し，また異種の岩石の境界で反射や屈折をして地表に現われ，地震計に記録される。この現われ方は，通過した場所の性質によっていろいろ違ったありさまを示すので，地震波の走時曲線を調べると，震源と観測点の間の地域を構成する種々の地層の厚さや傾きを推定することができる。屈折波を捕える屈折法と，反射波を捕える反射法とがある。自然の地震を利用するときは，弾性波のエネルギーが大きいので遠方まで伝わり，広い地域の探査をすることができるが，発震の時刻や位置の精度が悪いので，精密な構造解析ができない。ふつう地震探査では，地下数キロメートル以内の鉱床の所在や，地下数十メートル以内の地盤の性質が問題になるので，火薬などを地中で爆発させて地震動を起こさせる人工地震が利用される。　〔堀福太郎〕

じしんつなみ　【地震津波】　⇨地震　⇨津波

ししんでん　【紫宸殿】　京都御所の正殿で，即位式その他重要儀式の行なわれる所。古くは南殿・南大殿とも称した。794年(延暦13)の平安遷都以来，重要儀式などは大内裏の正庁である朝堂院の大極殿で行なっていたが，しばしば火災によって焼失し，のち代わって紫宸殿が用いられるようになった。紫宸殿は御所の代表的な建物で南面して建ち，東西約33m，南北約23m，入母屋(いりもや)造り檜皮葺(ひわだぶき)の屋根，高床式の純日本建築で，平安時代の寝殿造りの様式をとっている。母屋の中央に御帳台(みちょうだい)(即位や朝賀などのときには高御座(たかみくら))があり，天皇のいすと左右に剣璽を安置する机が置かれ，へやの背面には賢聖障子(けんじょうのしょうじ)がはめられている。母屋の外側の四方に廂(ひさし)があり，さらにその外



紫宸殿　紫宸殿内部にある高御座



ジス
製品に関するジスマーク

側に一段低く簀縁(すのこえん)が巡り，廂との境に蔀戸(しとみど)がつけられている。正面の縁から庭に下る所に18段の階段があって，中央の階下の東に〈左近の桜〉，西に〈右近の橘(たちばな)〉が植えられている。前面の南庭には白砂が敷きつめられ，儀式の際は旛(ばん)を立て，文武百官が列立した。庭の周囲には円柱と白壁の回廊が巡らされ，南正面に承明門，東面に日華門，西面に月華門がある。　〔小林玄助〕

じしんばん　【自身番】　江戸時代，江戸・大阪・京都などで各町内の自警のために設けられた番所。はじめ地主らが自身で番にあたったのでこの名があるが，のちには家主や雇人が勤め，さらに番人を雇ったりするようになった。町内に数か所設けられ，1850年(嘉永3)には江戸に990か所もあったという。その費用は町方が負担し，町内の巡回・公用・火の番のほか雑務を処理し，不審の者が現われれば捕えて奉行所(→奉行)に訴え出た。しかし泰平になれたころには，飲酒や碁・将棋にふけったりして警備を怠ったため，幕府からしばしば綱紀の乱れを戒められた。　〔岡山泰四〕

じしんほけん　【地震保険】　地震による損害を塡補(てんぽ)する保険。地震による損害には，地震の衝撃による倒壊・破損・埋没などの損害，地震に伴う火災による損害，地震による津波・洪水(こうずい)その他の水災によって生ずる損害などがある。そしてこれらは広範な地域にわたり大損害を起こすことが予想されるので，民営の保険では引き受けに相当な困難があるとされる。したがって地震国といわれるわが国でも，要望はありながら，実現が遅れていた。1964年(昭和39)の新潟地震を経て，ようやく1966年，日本地震再保険会社の設立によって実施されるようになった。この保険は被災者の生活安定という社会保障的見地に立ちながらも，保険の引き受けにはかなり制限があり，また実際に地震で大損害の生じたときには，個々の保険加入者への保険金支払いは削減されるもので，まだ十分な保障制度とはなっていない。　〔庭田範秋〕

じしんよち　【地震予知】　地震の発生地・場所・規模などを事前に知ること。一般にいわれている地震予知は，ある地域に住んでいる人々が，地震の災害に対処する準備を前もって整えようとすることを目的としている。この目的のために有効なものとして要求されるのは，破壊的な地震(マグニチュードおよそ7.0以上)を，一つの県程度の範囲を限定して，数か月以前に，予知し警報を出すことである。地震のような突発的現象の発生には偶発的な要素が多いようにみえるが，破壊的地震が起こるまえには，なにか先駆的現象があると考えられている。実際に，過去の地震についての観測からみると，地下にエネルギーが十分に蓄積されてきた段階や，それがついに発散される段階に対応して，次のような現象があるらしい。①土地の異常な隆起・沈降・傾斜・伸縮，②微小地震の頻発(ひんぱつ)，③地殻(ちかく)内の弾性定数の変化，④地球潮汐(ちょうせき)定数の時間的変化，⑤地磁気や地電流の時間的変化。これらの現象が大地震のまえにどのように現われるのか，まだよくわかっていない。したがって有効な予知は確立されていない現状である。いずれにしろ，大地震に先行する異常現象の測定は，迅速・精密に，しかも広範囲にわたって行なわれねばならない。そのためには国家的規模での総合調査が必要とされる。　〔堀福太郎〕

ジス　［JIS］　Japanese Industrial Standardsの略称。日本工業規格。鉱工業品，鉱工業に関する技術の標準化を定めているわが国の国家規格。JISは1949年(昭和24)に制定された工業標準化法に基づき，業界・学界・官界の代表その他学識経験者で構成される日本工業標準調査会の審議を経て，主務大臣により決定される(1969年10月現在6,866件)。JISでは，日用品から原子力産業関係の品物にわたる広範な商品(ただし，医薬品・農薬・肥料は除く)に関する事項をはじめ，建築物・構築物の設計・施工方法などについても定められている。

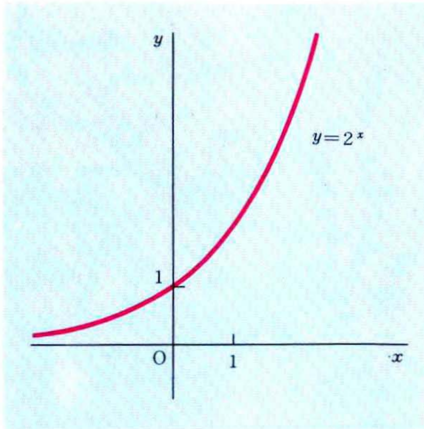
JISは政府の定めるものであるが，他の民主主義国の国家規格と同様に，その適用は一般には関係者の自主に任されている。しかし，使用者・消費者の便宜のため，またJISの実施促進を図る目的から，工業標準化法ではJISマーク表示制度について規定している。この制度はイギリス・フランスなどの同種の制度にならったもので，JISが制定されている品物や加工技術(めっき・熱

処理など)のうち，主務大臣が特に指定した品目・種目のものについて，製造または加工業者が政府の許可を得たのち，自己の責任でJISマークをJISに該当するものにつけて供給する制度である。許可にあたっては政府職員によって審査が行なわれ，社内規格の整備と品質管理の実施が一定の基準(品目・種目ごとに政府が定める)に達していることが許可条件となっている。〔東　秀彦〕

しすい　【試錐】 各種の鉱山や炭鉱の探鉱，石油や天然ガス，塩水・温泉水などの採取，鉱山の坑道などの通気孔・排水孔の設置，土木工事のための地盤や地質の調査，地盤を堅固にするためのセメント注入などの目的で，地中に細い穴を掘ること。日本でも2,500mを越える深さの試錐が地質調査のために行なわれている。試錐孔の直径はふつう50～600mmであるが，アメリカでは2mほどの直径で200mを掘った例がある。試錐の方法は人力で行なう方法と機械による方法とがある。わが国で古くから使われている上総(かずさ)掘り*は人力で行なう試錐の代表的なものである。機械による方法にも衝撃式と回転式とがあり，衝撃式はロープに試錐具をつけ，その先端に金属製の刃をつけてロープによって上下運動をさせて岩盤に穴を掘るものである。回転式は中空の鋼管の先に工業用ダイヤモンドを使った輪状のきりをつけ，それを回転させて穴を掘るものである。鋼管は中空であるから岩石の棒状のコアまたは岩心とよばれる標本をとることができる。また，掘進の際は岩粉を取り除いたり，冷却や回転をよくするために送水しながら掘進するのが普通である。試錐は垂直に行なうことが多いが，目的によっては水平や斜めの方向に行なうこともある。〔平山　健〕

しずい　【歯髄】 歯を構成する硬組織の一つである象牙(ぞうげ)質に囲まれた歯髄腔(こう)(歯の内部にある腔所)を埋める軟組織。膠様(こうよう)組織に属し，血管・神経に富む。歯髄の表面で象牙質に接するところに歯髄細胞の特殊化した象牙芽細胞が1列に並び，長い突起(歯繊維)を象牙質の歯細管に出している。象牙芽細胞は象牙質をつくっていくが，完成した歯にも存在し，象牙質の栄養に関係すると思われる。象牙質がカリエス(虫歯)にかかり，侵食されたり，さらに歯髄が露出すると歯痛が起こる。これは歯髄に分布する歯槽(しそう)神経の枝が炎症によって刺激を受けるからである。➜歯〔幡井　勉〕

しずいえん　【歯髄炎】 歯髄に起こる炎症。虫歯が進行して，歯質が表面から侵食されていくと，歯の中心部にある歯髄は外表から近くなり，冷たいものや熱いもの，または細菌の侵入などの影響を受けて炎症を起こすようになる。軽度な単純性歯髄炎から化膿(かのう)性歯髄炎になると水がしみる程度であったものが耐えられないような



指数関数　指数関数のグラフ

激しい痛みに変わる。このようになると，もはや歯髄を鎮静することはできなくなり，抜髄(俗に神経をとるという)しなければならなくなる。〔成田令博〕

しすいこうほう　【止水工法】 地下構築物の湧水(ゆうすい)を止める工法。トンネルや地下鉄道などでは，完成後の使用目的から構築内への地下水の浸入を防ぐことが望ましい。そのための止水工法としては，モルタル注入や薬液注入*などが多用されている。

しすう　【指数】

1数または文字の右肩に付記して，それを掛け合わせた回数を示す数字または文字。同じ数または文字を何回か掛け合わせた積を，その数または文字の累乗という。たとえば，$a\times a$，$a\times a\times a$，……はaの累乗で，これを簡単にそれぞれa^2，a^3，……と表わす。この場合のaの右肩の数字を指数(累乗の指数)という。この定義によると，指数は自然数に限られるが，さらに定義を拡張して，$a^{-n}=\frac{1}{a^n}$，$a^0=1$，$a^{\frac{1}{n}}=\sqrt[n]{a}$ ($a\geqq 0$)とすれば，有理数$\frac{n}{m}$に対して，$a^{\frac{n}{m}}=\sqrt[m]{a^n}$ ($a\geqq 0$)となる。指数はさらに実数や複素数にまで拡張できる。➜累乗　➜指数法則

2物価・生産量・生計費などの変化のようすをわかりやすくするために，ある時期の数量を基準にとってこれを100とし，これに対する他の時期の数量を比率で表わしたもの。〔青柳雅計〕

じすう　【次数】 単項式に含まれる文字因数の個数。たとえば，$3x^3yz^2$にはxが3個，yが1個，zが2個含まれるから，合計して，この単項式の次数は6次であるという。また，$3x^3yz^2$はxについて3次であるというように，ある文字だけに着目して次数を考えることもある。そして，次数が大きいことを高次，逆に小さいことを低次であるという。多項式の場合には，その中に含まれる単項式の次数のうち，最も高いものを，その多項式の次数とする。たとえば，$2+5x+x^3$は3次式，ax^2+bx+cは$a\neq 0$のときにxについて2次式である。〔菊池兵一〕

しすうかんすう　【指数関数】 aを正の定数*，xをすべての実数値をとる変数とするとき，関数$f(x)=a^x$をaを底とする指数関数という(➜関数)。指数関数$f(x)=a^x$は，$f(x_1+x_2)=f(x_1)\cdot f(x_2)$で，$-\infty<x<\infty$において連続であり，$a>1$ ($0<a<1$)のとき単調増加(減少)関数である。また，指数関数a^x ($a>0$，$a\neq 1$)の逆関数*が対数関数$\log_a x$である。指数関数は，適当な解釈によって複素数*にまで拡張される。たとえば，複素数$Z=x+iy$に対し，$e^z=e^{x+iy}=e^x(\cos y+i\sin y)$と定義される。ここで，$e$は自然対数の底である(➜対数)。〔杉岡司馬〕

しすうほうそく　【指数法則】 累乗の計算において，指数の間になりたつ法則。すなわち，$a>0$，$b>0$とし，m，nを正の整数とするとき，次の恒等式を指数法則という。

$$a^m a^n=a^{m+n} \qquad \frac{a^m}{a^n}=a^{m-n}\ (m>n)$$

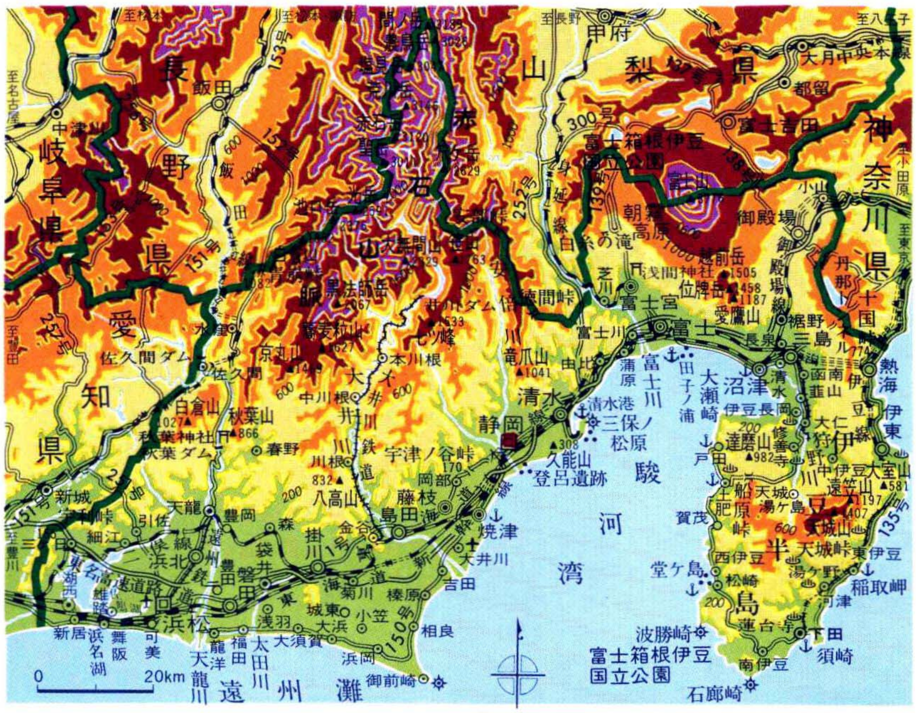
$$(a^m)^n=a^{mn} \qquad (ab)^m=a^m b^m$$

$$\left(\frac{a}{b}\right)^m=\frac{a^m}{b^m}$$

このとき，$a^0=1$，$a^{-m}=\frac{1}{a^m}$，$a^{\frac{q}{p}}=\sqrt[p]{a^q}$と約束すれば，これらの法則は$m$，$n$が任意の有理数のときにもなりたつ。また，これらの法則はm，nが任意の実数になる場合まで拡張することができる。➜指数関数〔菊池兵一〕

しずおか　【静岡(県)】 中部地方南部にある県。南は太平洋に面し，東は神奈川県，北東は山梨県，北西は長野県，西は愛知県と接する。駿河(するが)・伊豆(いず)・遠江(とおとうみ)の全域を占め，面積7,324.13km²，人口345万4,000，人口密度は1km²あたり472人である。県花はツツジ，県木はモクセイ，県鳥はサンコウチョウ。県庁のある静岡以下21市と12郡(49町5村)に分かれる。

【自然】〈日本の屋根〉といわれる中部地方の南へ突き出たひさし部にあたり，北の高い中部山地からしだいに傾斜して南の太平洋岸の低地に至る。糸魚川(いといがわ)～静岡構造線が富士川の溪谷(けいこく)沿いに南北に走り，その西と東では地形が著しく異なる。西側は古生層・中生層の水成岩を主とする地域で，北西部に高さ3,000m内外の険しい赤石山脈(南アルプス)があり，北から日本第2の高峰白根山(北岳)(3,192m)，塩見岳(3,047m)，赤石岳(3,120m)が長野県境に連なり，周辺一帯は南アルプス国立公園*に指定されている。赤石山脈の南東方には身延(みのぶ)山(1,148m)を主峰とする身延山地がある。東側は第三紀層などの火山岩からなる地域で，富士火山帯が南北に走り，山梨県境に日本最高峰の富士山(3,776m)，神奈川県境に箱根山(1,438m)，伊豆半島中央



静岡県

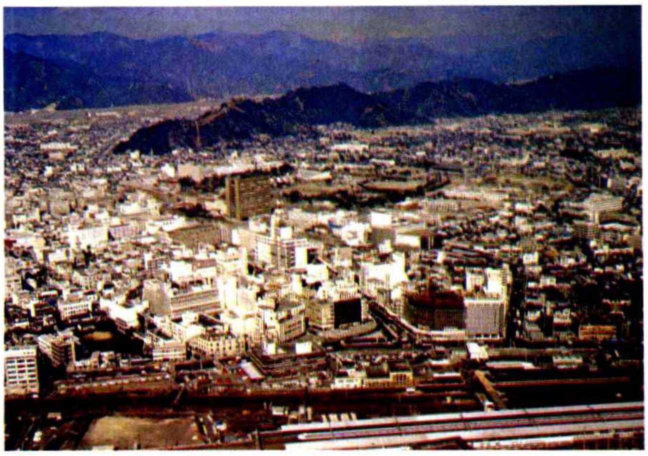
100万人以上の市　30～100万人の市　10～30万人の市　5～10万人の市　5万人未満の市　町名　村名　字名　地方庁所在地　油田　商港　漁港

部に天城(あまぎ)山(1,407m)などの諸火山がある。付近一帯は山水の風光美に恵まれ，熱海(あたみ)・伊東など多くの温泉もわき出て，富士箱根伊豆国立公園*に指定されている。県域を流れる河川の多くは北部山地を発して，深い渓谷をつくって南流し，海岸線に東西に延びる沖積(ちゅうせき)地平野を形成する。古い沖積地は隆起して，三方原(みかたがはら)・磐田原(いわたはら)・牧ノ原の台地となる。おもな河川には，遠州灘(えんしゅうなだ)に注ぐ天龍(てんりゅう)川，駿河湾に注ぐ大井川・安倍(あべ)川・富士川などがあり，いずれも水量が豊かで流れが早く，上中流部には佐久間ダム・畑薙(はたなぎ)ダムなど，多くの水力発電施設がある。伊豆半島には天城山から北西流して駿河湾に注ぐ狩野(かの)川がある。1969年(昭和44)には，天龍川中流部が長野・愛知両県にまたがって天龍奥三河(おくみかわ)国定公園に指定された。海岸線は西部に遠州灘沿岸のなだらかな砂浜海岸が続き，浜松市南方に大規模な中田島砂丘があり，その西方に沈水性の浜名湖がある。東部は太平洋に突き出す伊豆半島と御前崎(おまえざき)が駿河湾を囲む。伊豆半島は沿岸に大規模な海食崖(かいしょくがい)が続き，屈曲が多い。気候は黒潮の流れる遠州灘に接するため，冬暖かく，晴天の日が続く表日本型気候で，特に東伊豆や静岡市付近や浜名湖北岸は東海式気候とよばれる温暖な地域である。年平均気温は16℃内外で，平野部では無霜期間が長い。年降水量は2,000mmを越え，伊豆半島や富士火山帯・赤石山脈の山間部では特に降水量が多い。

〔産業〕産業三大別人口比は10：40：50。温暖な気候と豊かな風土に恵まれて農林水産業が古くから発達し，最近では近代工業も成長して各種産業の均衡がよく保たれている。県民分配所得は1人あたり年間**128万9,000円で，全国第12位を占める(1977)。〈農林水産業〉**耕地は県域の約6分の1を占め，水田率は44%，米は諸河川流域の沖積地でつくられ，平年収量は16万2,000t(1970)あるが，県内消費量にはるかに及ばない。耕地の30%は樹園地で，温暖な気候を利用してミカンやチャの栽培が盛んである。ミカン畑は興津(おきつ)付近を中心に山地の南斜面に多く，年産41万4,000t(1977)をあげて全国第2位である。チャ畑は，牧ノ原台地一帯を中心とし，緑茶と紅茶を合わせて49,440tを産する(1970)。久能山の南斜面を利用した石がきイチゴの促成栽培は全国的に名高く，温室・フレーム栽培は三保のキュウリ・トマト，天龍川河口付近のメロンなどが代表的であるが，しだいに海岸の砂地や水田地帯にも広まっている。ウシ・ブタ・ニワトリなどの飼育頭数は全国でも上位を占め，特にニワトリの飼育は1,155万羽(1970)を数えて，愛知県に次ぎ全国第2位である。伊豆半島や富士山麓(さんろく)，天龍川・大井川・富士川・安倍川などの上流流域は森林資源が豊富で，素材生産量は117万m³(1970)に及び，全国有数の林業県である。特に天龍川・大井川の上流の赤石山脈一帯には未開発の原生林があり，アカマツ・スギ・ヒノキなどの美林が多い。水産業では，焼津(やいづ)・清水(しみず)・下田などに遠洋漁業基地があり，遠く南太平洋・インド洋まで出漁してマグロ・カツオなどを水揚げするほか，各地でイワシ・アジ・サバなどの沿岸漁業や沖合い漁業も盛んで，漁獲総量は年間22万3,000t(1970)に達し，わが国第6位の水産県である。特産には浜名湖周辺や大井川下流のウナギ養殖と伊豆半島のテングサがある。**〈鉱工業〉**地下資源には金・硫化鉄があるが，現在採掘されている地域は少なく，伊豆半島の持越・土肥(とい)鉱山の金・銀，天龍川流域の久根鉱山・峰ノ沢鉱山の硫化鉱も採掘量はあまり多くない。水力発電はきわめて盛んで，電源地帯は大井川・富士川・天龍川に集中，佐久間・畑薙・井川などの大規模な発電所から京浜・中京・阪神(はんしん)などの工業地帯に約100万kWの電力を供給している。なお，県下の発電は富士川以東が東京電力の50kWサイクル系，西側が中部電力の60kWサイクル系と分かれる。このような水利と交通上の利点に恵まれて，近代工業の進展が著しく，駿河湾奥一帯と浜松周辺には工業地帯が形成され，工業製品出荷額は1兆7,849億円(1970)(全国第7位)に及び，軽工業と重化学工業の比率はほぼ半々である。工業地帯は沼津・三島地区，岳南地区，清水・静岡地区，浜松地区の四つの中心をもつ。沼津・三島地区は機械・金属などの新興重工業地帯で，岳南地区では富士山のわき水を利用した製紙・パルプ工業が富士・富士宮両市で比較的古くから発達しているほか，富士市に自動車・電気機械・化学肥料・合成繊維・製薬などの工場が進出している。清水・静岡地区では清水・蒲原(かんばら)にアルミニウム工業があり，静岡では製茶や食品工業がおもに行なわれる。1965年(昭和40)，これらの3地区を結んだ駿河湾沿岸地域は工業整備特別地域に指定され，東駿河湾臨海工業地帯が形成されている。西部の浜松地区は西隣の豊橋地区(愛知県)とともに古くから紡績・染め物などの繊維工業があり，浜松周辺では自動車・オートバイなど輸送用機械工業が盛んで，また楽器の出荷額は全国一である。伝統的な家内工業としては，浜松付近の遠州織物(別珍・コール天)，静岡の木工などが名高い。

〔交通・都市〕太平洋沿岸部は古くから東西交通の要路にあたり，大化改新の際には東海道に駅馬が置かれた。関東地方の開発が進んだ平安中期以後は交通量がますます増加し，鎌倉時代には関東に政権が移ったためにさらに重要な交通路となった。その後，江戸時代にはいると，西国諸大名の参勤交代によって東海道の機能が著しく発達し，富士川や天龍川の流域沿いに中央高地へはいる道筋も開けていった。今日の陸上交通では，東海道本線・同新幹線がほぼ平行して太平洋岸の諸都市を結び，県の主要動脈となっている。東海道本線の支線に御殿場線・身延線・清水港線・飯田線・二俣(ふたまた)線・伊東線などがあり，県下各地や近県との連絡の役割を果たしている。私鉄には静岡鉄道・大井川鉄道・遠州鉄道・岳南鉄道・伊豆箱根鉄道・伊豆急行などがあ

り，伊豆急行は伊東線に接続して東京まで乗り入れている。道路交通では，かつての東海道線は国道1号線として全国でも最も利用度が高く，1969年に開通した東名高速道路には御殿場・沼津・富士・清水・静岡・焼津・吉田(よしだ)・菊川・袋井・浜松・三ケ日(みっかび)の11か所にインターチェンジが設けられている。国道52号線は本州横断道路として興津と韮崎(にらさき)(山梨県)を結び，さらに141号線・18号線と延長して，新潟県直江津にまで達する。このほか，伊豆半島には国道135号線・136号線が通じ，静岡～浜松の海岸線を結ぶ国道150号線，浜松から北へ延びる152号線などがある。最近は有料道路の建設も進み，日本道路公団の東伊豆道路・遠笠山(とおがさやま)道路のほか，県営・民営の浜名湖レークサイドウエー・伊豆スカイライン・日本平パークウエー・熱海観光道路・同パークウエー・湯河原パークウエー・富士山有料道路などがあり，いずれも観光開発に大きな役割を果たしている。これらの道路を利用して，国鉄・公私営のバスもよく発達しており，特に伊豆半島や天龍川筋には全国でも有数のバス交通網が敷かれている。京浜・中京・阪神の各工業地帯を結ぶ太平洋ベルト地帯の中心部にあたるために，国道1号線その他の主要道路には工業製品その他の物資を運ぶトラックの往来が昼夜の別なく激しい。海上交通では，港湾施設の整った清水港は国際貨物貿易港として大きな役割を果たしているが，海岸が遠浅であるため一般に良港に恵まれず，太平洋側の各府県の中では港湾利用率が最も低い。しかし，最近では沼津・田子ノ浦・江ノ浦などで港の施設の整備が進んでいる。太平洋岸はわが国でも人口密度が最も高い地域で，江戸時代には徳川家譜代大名の城下町や東海道の宿場町が多く集まり，今日の都市形成の基盤となった。県庁所在地の静岡はもと府中または駿府(すんぷ)とよばれ，徳川家康(いえやす)の居城地で，のち城代が置かれたが，いまは名古屋に次ぐ中部地方の代表都市である。城下町には浜松・掛川・清水・沼津の4市があり，その他の都市の大半はいずれも城下町・市場町に起源を置く。東部の駿河湾沿いには三島・沼津・富士，富士山のふもとには御殿場・富士宮などの各都市が集まる。西方の静岡平野から浜名湖にかけては，清水・静岡・焼津・藤枝・島田・掛川・袋井・磐田・浜松・浜北・天龍の諸都市が連なる。伊豆半島には熱海・伊東の2市をはじめ多くの温泉地があるが，山がちのため人口密度は低い。南端の下田市は歴史上由緒(ゆいしょ)の深い土地である。富士山の北のふもとや赤石山脈中の山間部は人口がきわめて少ない。県下21市のうち，藤枝・掛川・御殿場・袋井・天龍・浜北の6市は1953年の町村合併促進法施行以後の新市で，下田・裾野(すその)・湖西(こさい)は1970年以後の新市である。



静岡市　市の中心部静岡駅と駅前のビル街。中景は駿府城址で県庁などのある官庁街。背後に延びているのは賤機山の丘陵

〔歴史〕縄文(じょうもん)文化時代には関東や中部山岳地帯がさきに開けたが，その文化はやがてこの地方に及んで，北伊豆地方を中心に発展したと推定される。一方，西日本に起こったイネづくりの農業や金属器使用の弥生(やよい)式文化は東海地方にはいり，東西両文化の接触地となった。約2,000年前の遺跡といわれる登呂(とろ)遺跡*は，この間の事情をよく示している。やがて大和(やまと)朝廷の勢力がこの地方へ延びて東海道が通じ，四道将軍の1人武渟川別命(たけぬなかわわけのみこと)の派遣や日本武尊(やまとたけるのみこと)の東征などがあったと伝えられ，賊にはかられた尊が焼津付近で野火攻めにあったという話は草薙(くさなぎ)の剣の伝説で名高い。大化改新で遠江・駿河・伊豆の3国が設置されると，磐田・府中(いまの静岡市)・大仁(おおひと)にそれぞれ国府が置かれた。1192年(建久3)，源頼朝(よりとも)の鎌倉幕府開設によって東海道筋はさらに開け，14世紀には今川氏が遠江・駿河の守護に任じられ，府中を本拠として約200年にわたって勢力を保ったが，1560年(永禄3)9代今川義元(よしもと)が織田信長(のぶなが)と戦って敗死し，以後は遠江から進出した徳川家康が駿河をも領有した。江戸時代には譜代大名の6藩と幕府領・旗本領(はたもとりょう)に分かれ，井上氏六万石が浜松，太田氏五万石が掛川，本多氏四万石が田中(いまの静岡市)，松平氏一万石が小島(いまの清水市)，水野氏三万石が沼津を分割統治した。東海道53次のうち22の宿場が現県域内に置かれたため，交通の要地としての地位が高まった。伊豆は幕府の直轄地として代官所が韮山に置かれていたが，幕末には代官江川太郎左衛門(たろうざえもん)が大砲の鋳造を行ない，下田港が開港場に指定されて最初のアメリカ領事館が置かれた。1871年(明治4)の廃藩置県に際して，静岡県・浜松県・足柄(あしがら)県ができたが，1876年，静岡県が浜松県を合併し，足柄県から伊豆を編入して，現県域が確定した。〔浅井得一〕

しずおか【静岡(市)】 静岡県の中南部に位置する県庁の所在地。古くは駿河(するが)の国府が置かれ，府中または駿府(すんぷ)とよばれた。戦国時代に今川氏が駿府城を築き，碁盤目状の市街地が発達した。江戸初期，将軍職を秀忠(ひでただ)に譲った徳川家康(いえやす)の隠居地となり，のち城代が置かれた。また，東海道の主要宿駅で，商工業も発達した。1889年(明治22)市制施行，人口45万7,000。中心市街地は，安倍(あべ)川下流の扇状地上に位置する。産業三大別人口比は8：35：57。清水(しみず)・焼津(やいづ)・藤枝の各市をはじめ，県中部に広い商圏をもつ商業都市である。周辺で産する茶やミカンを集散し，製茶やミカンかんづめなどの食品工業が発達し，全国一の茶問屋街がある。輸出向けの漆器(静岡塗)が特産で，家内工業のサンダル・げた・鏡台・雛人形(ひなにんぎょう)の生産も古くから盛んである。そのほか，石がきイチゴ・温室栽培のキュウリなどの農産物もある。東海道本線・同新幹線が通じ，東の清水市とは静岡鉄道が連絡し，県内各地とバス路線によって結ばれる。東名高速道路のインターチェンジが置かれ，国道1号線が市域を貫通し，150号線が海岸線に沿って浜松に通じる。駿府公園を中心に北部には浅間神社，サクラの名所賤機山(しずはたやま)公園・静岡大学があり，南東部の海岸付近には登呂(とろ)遺跡*(特別史跡)，南西部には由比(ゆい)正雪の墓がある。近郊には東照宮のある久能山や日本平・大崩(おおくずれ)海岸などの史跡や景勝地に富む。〔浅井得一〕

しずおかじけん【静岡事件】 明治中期，自由民権運動*左派が起こした政府転覆計画未遂事件。明治政府の打倒をめざして，1886年(明治19)7月，箱根離宮落成式に臨席の政府要人暗殺計画を進めていたが，その準備中発覚し，100余名が逮捕され，24名が強盗罪で処刑された。静岡県居住者が大部分で，検挙も同地方を中心に行なわれたので静岡事件という。1884年以来あいついで起こった各地の激化事件に呼応して挙兵する予定であったが，そのたびに時期を失い，最後の手段として起こされたのがこの事件である。〔高崎徳次〕

しずおかしんぶん　【静岡新聞】　静岡市で発行されている地方新聞。第２次世界大戦時における新聞統合により，当時静岡県内にあった《静岡民友新聞》《静岡新報》を主体に浜松・清水(しみず)・沼津・熱海(あたみ)各市内の日刊紙９紙を統合して，1941年(昭和16)12月１日発足した。発行部数約55万6,000(朝刊，1980)。

しすか　【敷香】　⇨ポロナイスク

しずかごぜん　【静御前】　生没年不詳。平安・鎌倉時代の女性。京都の白拍子であったが，神泉苑(しんせんえん)の雨ごいの舞で源義経(よしつね)に見そめられ，愛妾(あいしょう)となって盛衰をともにした。吉野(よしの)山で義経に別れたのち，僧兵に捕えられて母の磯禅師(いそのぜんじ)とともに鎌倉へ送られた。源頼朝(よりとも)に義経の所在を問われたが答えず，鶴ケ岡八幡宮(つるがおかはちまんぐう)社前で歌舞を演じ，義経への思慕を表わした。義経の子を生んだが，頼朝の命令により殺された。　〔稲垣史生〕

しずがたけ　【賤ケ岳】　琵琶(びわ)湖の最北端とその北の余呉湖(よごのうみ)との間にある地塁状の山で，最高点は423ｍ。一帯はハイキングコースとなっており，頂上から琵琶湖を一望できる。ここから余呉湖畔に至る地域は，豊臣秀吉(とよとみひでよし)が柴田(しばた)勝家を破った古戦場として名高い。

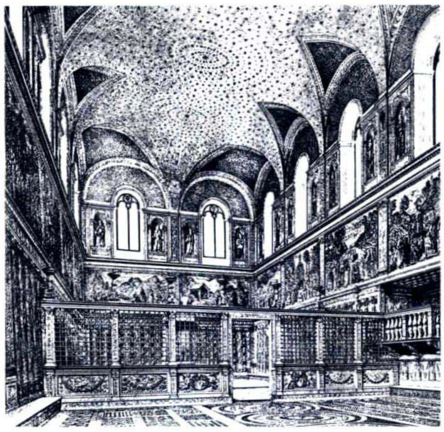
しずがたけのたたかい　【賤ケ岳の戦い】　1583年(天正11)賤ケ岳*を中心に豊臣秀吉(とよとみひでよし)と柴田(しばた)勝家*の間で行なわれた合戦。本能寺の変*で明智光秀(あけちみつひで)を滅ぼして名声をあげた秀吉および織田信長*(のぶなが)の次男信雄(のぶかつ)と，織田氏の宿将柴田勝家・滝川一益(かずます)および信長の三男信孝(のぶたか)らの対立が深まり，1583年４月21日秀吉は勝家の軍と賤ケ岳で戦い，勝家は敗れて居城北庄(きたのしょう)城で自刃。一方信雄は岐阜城に信孝を討った。秀吉はこの戦勝で信長の覇業(はぎょう)を継ぐこととなり，全国統一の基礎を築いた。なお，この戦いで槍(やり)をもって活躍した直臣の加藤清正*(きよまさ)・加藤嘉明*(よしあき)・福島正則*(まさのり)・平野長泰(ながやす)・脇坂安治(わきざかやすはる)・糟谷(かすや)武則・片桐且元*(かたぎりかつもと)は〈賤ケ岳七本槍〉として知られる。　〔高崎徳次〕

しずかなドン　【静かなドン】　ショーロホフ*の長編小説(1928〜1940)。雄大なドン地方の自然を背景に，革命と反革命の激しい戦いの中で革命の本質を見失い，自己の生きる道を見いだせぬまま破滅していくコサックの青年グリゴーリー-メーレホフの生涯(しょうがい)を描いた物語。年代記的細密さと叙事詩的雄大さをもち，社会主義リアリズム*の代表的作品とされる。

しずくいし　【雫石(町)】　岩手県西部，盛岡市の西方にある岩手郡の町。人口19,000。奥羽山脈の東斜面，雫石川の中・上流域を占める。農業・林業・牧畜が主で，山間には鶯宿(おうしゅく)その他の温泉が湧出(ゆうしゅつ)している。中心集落の雫石は雫石川中流の段丘上に位置し，かつては雫石氏が居館を構えた所で，松田街道の宿駅として発達した。雫石盆地の中心をなし，田沢湖線・国道46号線が通じ，北方の岩手山への登山口でもある。



閑谷学校



システィナ礼拝堂　15世紀後半の礼拝堂内部のスケッチ，現在，円形の天井にはミケランジェロの天井画，正面に《最後の審判》がある

シスター-キャリー　ドライサー*の小説。初版は1900年に出たが，内容の不道徳性を理由に発売禁止となり，1912年に再刊された。いなかからシカゴに出てきた夢想家の少女が，セールスマンや妻のある酒場の支配人などの男性を遍歴，やがてニューヨークでミュージカル-スターになるという物語。酒場の支配人はのちに出世した少女に捨てられ，こじきにまでおちぶれて自殺し，主人公も苦い成功感しか味わうことができない。自然主義の作風による作者の処女作。映画《黄昏(たそがれ)》の原作。　〔越智道雄〕

しずたにがっこう　【閑谷学校】　江戸時代，岡山藩*の郷学(ごうがく)。閑谷黌(こう)ともいう。1668年(寛文８)藩主池田光政*(みつまさ)は領内の村123か所に，庶民の子弟教育のために手習所を設置した。1670年(寛文10)和気郡閑谷にもその一つが設置され，1675年(延宝３)には他の手習所を全廃して閑谷学校のもとに統合し，講堂・聖堂・文庫などを整備し，学田も寄付された。藩営郷学の最も早いものの一つで，庶民教育の振興に重要な役割を果たした。1870年(明治３)廃校になったが，現在，その遺構のうち，講堂は国宝に，大成殿・文庫・校門・練塀(ねりべい)などは重要文化財に指定されている。　〔岡山泰四〕

シスチン　[cystine]　含硫アミノ酸の一種で，1810年に天然アミノ酸の中で最初に発見された。毛髪・つめの構成タンパク質であるケラチン中に，特に多く含まれる(11〜12％)。タンパク質を構成する２個のポリペプチド鎖を連結する役目を果たしていることが多く，生体内では，タンパク質の生合成の二次・三次構造の形成の際に，システイン*２分子の間の酸化縮合によって生成するものと考えられる。

システィナらいはいどう　【システィナ礼拝堂】　教皇シクストゥス４世がバチカン宮殿内に建てた教皇のための廟所(びょうしょ)。建築家はジョバンニ-デ-ドルチ，1473年に着工，1481年に完成した。簡素な建物であるが，内部を飾る彫刻と絵画群はルネサンス美術の宝庫とさえいいうる。壁画は，左側はモーゼ，右側はキリストの生涯(しょうがい)を画題にし，祭壇画の《最後の審判》と天井画はミケランジェロが描いている。

システイン　[cysteine]　含硫アミノ酸の一種で，不安定な化合物で空気により容易に酸化されてシスチン*となる。多くのタンパク質の構成アミノ酸として広く見いだされるほか，還元グルタチオン中に存在して，生体内での酸化・還元に重要な役割を果たしている。生体内ではセリン*から生成される。

システムズ-エンジニアリング　[systems engineering]　略称ＳＥ。組織工学ともいう。従来の組織論が命令系統・報告系統に関して主として縦割りの考え方を扱っていたのに対し，人間と機械が組み合って仕事をする際の機能的なつながりを扱う学問分野。ここでシステムとは比較的大規模なもの，たとえば世界的な電気通信網とか，航空会社の予約システムのような，人間・通信・コンピューターを含んだものをいうが，企業内の受注から生産・出荷までを含むコンピューターによる情報処理のつながりのさせ方などをさす。システムズ-エンジニアリングの最近の成果としてアポロ宇宙計画とその実施があげられる。なおコンピューターを操作する技術者をシステム-エンジニアーとよんでいる。〔十代田三知男〕

ジステンパー　[distemper]　犬瘟熱(けんおんねつ)ともいう。通常イヌにみられるウイルス性の伝染性疾患で，まれにネコにもみられることがある。特に幼犬が侵されやすく，大流行をみることがあり，死亡率は高い。梅雨期・晩秋に多発しやすく，本病に１度かかるとある程度免疫性ができる。皮疹型・消化器型・呼吸器型・神経型・混合型があり，腸内寄生虫(回虫・十二指腸虫)

が寄生していると悪化しやすい。予防には，生後約90日は母体から受けた免疫性をもっているので，80日前後に完全駆虫ののち，予防注射を実施する。　〔岡田十九郎〕

ジストマ　⇨吸虫

しずない　【静内(町)】　北海道，日高支庁中西部，静内郡の町で1郡1町。古くは日高アイヌの居住地の中心で，町名はアイヌ語の〈シュッナイ〉(ふもとの川)にちなむ。1871年(明治4)には徳島藩士が集団入植し，のち北部の豊畑(とよはた)地区が真言宗徒，御園地区が御料牧場の従業員によって開拓されるなど，その発展の基礎は多彩である。人口2万5,000。太平洋に注ぐ静内川の河口付近に海岸段丘が発達し，管内一の市街地が形成される。静内川流域には水田地帯が広がり，ゆるやかな起伏を示す段丘面には農林省種畜牧場をはじめ，牧場が多い。日高本線・国道235号線(浦河国道)が通じる。海岸段丘上に江戸時代初期に松前藩と戦って敗北したアイヌの酋長(しゅうちょう)シャクシャインのチャシ(砦(とりで))の遺跡があり，10月の〈シャクシャイン祭〉にはアイヌの伝統的な歌や踊りが奉納される。

しずはたおび　【賤機帯】　一中節・長唄(ながうた)の曲名。一中節は本名題《尾上雲(おのえぐも)賤機帯》で，謡曲の《隅田川(すみだがわ)》に似た趣向をもつ。長唄は本名題《八重霞(やえがすみ)賤機帯》で，1828年(文政11)10世杵屋六左衛門(きねやろくざえもん)の作曲になるが，一中節の影響が強い。

ジスプロシウム　[dysprosium]　周期律表第Ⅲ族ランタニド族元素の一。原子番号66，記号Dy，原子量162.50。1886年にフランスの化学者ボアボードランが吸収スペクトルによってホルミニウム*化合物にさらに一種の新元素を含むことを発見し，ギリシア語の近づきがたいという意味で命名した。融点1,500℃(推定)，比重8.56。化学的性質は他のランタニド族元素に類似。

じすべり　【地滑り】　山地の斜面の表層部が不安定になり，重力によって下へ移動する運動の中で，長時間にわたってゆるい速度で土地がずり落ちる場合をいう。同種の運動の中には急激に山の斜面がくずれる山津波や急斜面が一時にくずれる山くずれ，その他きわめてゆるい速度で土地が移動する震引(ないびき)などがある。地すべりは地質的には第三紀層の地域，断層で破砕された地域，温泉などによって生じた変質帯などに起こることが多いが，これらはいずれも軟弱で水を多量に含み，粘性を失った地層の上に重なっている表層部に起こりやすい。したがって，長雨・豪雨，急な雪どけなどのあとに起こることが多い。起こりはじめた地すべりを止めることはほとんど不可能であるが，起こる可能性のある地域にボーリングを行なったり，横井戸をつくったりして，地下水を取り除くことが予防手段と考えられている。　〔平山　健〕



シスレー
《森に行く女達》 1866　ブリヂストン美術館蔵

シスマ　⇨教会分裂

シスモンディ　[Jean Charles Léonard Simonde de Sismondi]　(1773〜1842)　スイスの経済学者。歴史家，文学史の研究者でもある。古典派経済学を最初に批判した書物《経済学新原理》(1819)の中で，自由競争における経済的安定の欠如を指摘し，過少消費の結果生ずる経済的不況について論及した。著作は，彼以後の多くの諸学派によって展開された恐慌論争の出発点をなすものである。

ジズヤ　[Jizya]　イスラム世界における人頭税。イスラム教アラブ人は布教に名を借りた戦いにより，広大な土地を征服したが，その支配下の住民でイスラム教を信じない者は，ジズヤやハラージュ(地租)を貢納することによって，従来の信仰や生命・財産の保証を得ることができた。税は銭納で，国家の収入源となった。

シスレー　[Alfred Sisley]　(1839〜1899)　フランスの画家。1862年グレールのアトリエにはいり，モネ*・ルノアール*・バジーユらと知り合う。1866〜1870年の間サロンに出品。クールベ*・コロー*の影響が認められる。1873年ごろから印象主義運動に積極的に参加，1874年の第1回印象派展に出品した。風景画を得意とし，パリ近郊の景色を好んで描いた。→印象派

しせい　【四声】　⇨声調

しせい　【市制】　⇨市町村

しせい　【刺青】　谷崎潤一郎の短編小説。1910年(明治43)11月《新思潮*》に発表。江戸末期の腕ききの刺青師(いれずみし)清吉は，美女のはだに妖艶(ようえん)な美を彫り込む〈快楽と宿願〉をいだき，偶然のことから駕籠(かご)の女に麻酔をかがせ，その背に精魂こめた女郎ぐもの形を彫るが，彫られた女の最初のいけにえが清吉自身となる，というもの。永井(ながい)荷風の絶賛を浴び，谷崎の出世作となった。

しせい　【賜姓】　天皇から姓を賜わること。古代においては，功により上級の姓に上げられることが，罰として下級の姓に落とされることと並んで行なわれた。一方，皇族が姓を賜わって臣籍に降下することも多く，これらははじめ公(きみ)を姓としたが，八色の姓*(やくさのかばね)制定以後は真人を姓とした。さらに平安初期以後は源氏・平氏などいずれも朝臣(あそん)を姓とするのが一般となった。これは藤原朝臣の隆盛に伴い，真人姓より朝臣姓が重んじられるようになったからであろう。　〔黛　弘道〕

じせい　【自生】　広義には野生と同義で，生物が人為による保護なしに生活し増殖していること。施肥・投餌(とうじ)や競争種・害敵の除去などの保護を伴う栽培・飼育と区別する。狭義には，帰化生物・外来種を除く特定の地域に野生している在来種をいう。したがって，最近広範に野生化している外来種(セイヨウタンポポ・セイタカアワダチソウなど)は，保護を加えてはいないが日本の自生植物とはいわない。

じせい　【磁性】　磁気的な性質，すなわち，磁化*されている，あるいは磁化されうる性質をいう。磁性をもつ物質は，磁性体*とよばれる。たとえば，鉄は磁石*によって引きつけられ，また磁石のN極とS極は互いに吸引し，同種の極は互いに反発する(→磁極，磁荷)。これらは，巨視的な磁気的性質である。磁性の根源は，物質を構成する素粒子，主として電子の挙動にあることが知られている。

じせい　【辞世】　元来はこの世を辞すること，すなわち死ぬことであるが，一般には死に際して，あるいは死期の近づいたのを知って残す偈頌(げじゅ)・詩歌の類，つまり〈辞世の句〉の意に使われている。著名な例をあげれば，豊臣秀吉(とよとみひでよし)の〈つゆとおきつゆと消えにしわが身かななにはの事も夢のまた夢〉，松尾芭蕉(ばしょう)の〈旅に病んで夢は枯野をかけ廻(めぐ)る〉などがある。

しせいえん　【四声猿】　中国，明(みん)代の戯曲4種，すなわち《狂鼓史》《玉禅師》《雌木蘭(しもくらん)》《女状元》のこと。徐渭*(じょい)の作。曹操*(そうそう)の威光に屈せず，その面前で半裸体のまま鼓を打って曹操をののしった禰衡(でいこう)，妓女(ぎじょ)の誘惑に一度は負けながら，あとでは済度した禅僧，男装して従軍した木蘭，やはり男装して官

吏登用試験を受け，状元に及第した女性などという男まさりの女性の話をそれぞれ脚色したもので，作者の強い自我が表わされている。〔今村与志雄〕

しせいかん【司政官】 軍の占領地で軍政または民政に従事する文官名。第２次世界大戦時，占領した南方諸地域統治のため日本国内から軍人以外の専門家を選抜して派遣し，政治・法律・経済・文化などの顧問あるいは行政担当者とした。勅任官待遇(軍の将官級)の者を司政長官，奏任官待遇(佐尉官級)の者を司政官とよんだ。欧米各国にもこれと類似した制度がある。

しせいけん【施政権】 立法・司法・行政の三権を行使する権限。統治権*とほぼ同義。ふつう，国際連合の信託統治*を行なう権能を意味し，一般に施政権者は立法・司法・行政の全権をもち，関税・財政・行政一般などについて自己の領域と同じ扱いをする。なお，対日講和条約第３条によって沖縄はアメリカの施政権下に置かれたが，日本は残存主権*をもつとされている。

じせいざいりょう【磁性材料】 磁気的性質に関して有用な特徴をもつ材料。原子の磁気モーメント*の特徴により次のように大別される。①フェロ磁性体：磁気モーメントが同一方向のもので，鉄・ニッケルなどがこれに属する。②フェリ磁性体：結晶中のＡ・Ｂ２種の格子の磁気モーメントが逆方向で大きさが違い，差し引きの結果強磁性を示すもの。フェライト類がこれに属する。③寄生強磁性体：Ａ・Ｂ２種の格子の磁気モーメントが逆方向で，大きさもほとんど同じであるが，方向のそろっている部分があり，やや強磁性を示すもので，α-Fe_2O_3などがこれに属する。④準強磁性体：強い磁場を与えられたときにだけ強磁性を示すもので，$FeCl_2$などがこれに属する。

実用面から，軟磁性材と硬磁性材に分類される。①軟磁性材：金属質のもの(鉄・鉄-ニッケル合金・パーマロイ圧粉など)と，フェライト質のもの(マンガン-亜鉛系・銅マンガン系など)がある。透磁率大，保磁力小，ヒステリシス損失小で，変圧機や発電機の磁心などに用いられる。②硬磁性材：格子変態型(タングステン鋼・KS鋼など)，析出型(MK鋼・銅-ニッケル-コバルト合金など)，微粒子型(鉄-コバルト合金・フェライト粉など)がある。保磁力大，エネルギー積大で，電気計器や継電器の磁石などに用いられる。〔秋枝哲児〕

しせいじ【私生子】 法律上の婚姻関係にない男女間に生まれた子のことをいうが，1942年(昭和17)の民法改正によって私生子の名称を廃止したので，今日法律上の用語としては存在しない。封建的・父権的家族制度下の社会においては親の権威は絶対的であり，子の人格はほとんど認められていなかったから，まして婚姻外に生まれた子に対するとなるとその冷遇はきわだっていた。特に一夫一婦制*を神聖視するキリスト教下のヨーロッパでは，婚姻外に生まれた子には父がだれであるかを捜索することさえ許されないという過酷な扱いがなされていた。しかし，それとは別に父権的家族制度のもとでの親子は，父系・父子関係が尊重されるため，わが国でも民法旧規定では私生子のうちにも庶子という特別な子の地位が認められていた。すなわち，父が認知*した私生子は，父の妻の意思とは無関係に当然父の家へはいり，父の妻との間に嫡母庶子関係を生じ，その庶男子は嫡出女子に優先して家督相続*上の順位を有していた。新民法は子の人格の尊重と保護を図り，庶子という特別の地位と名称を廃し，婚姻外に生まれた子は父との関係でも，母との関係でも一律に嫡出でない子として扱い，これらの子に対しては父の氏*を称する義務も，父の親権*も存しないとしたが，一夫一婦制のたてまえから嫡出子の２分の１の相続権しか認められておらず，嫡出子と平等の扱いを受けていない。しかし，社会主義国家の家族法では，婚内子と婚外子についての差別はまったくない。〔黒木三郎〕

しせいしき【示性式】 分子内にある主要な基をくくり出して表わした化学式。構造式を要約したものといえる。これにより，化合物の主要な化学的特性が読み取れる。メタノールはCH_3OH，酢酸はCH_3COOH，グリシンはH_2NCH_2COOHのように表わし，これらの物質が，それぞれアルコール*，有機*酸，アミノ酸*に属し，それぞれの特性をもつことが一見してわかる。

しせいせいぎょ【姿勢制御】 ロケット・人工衛星・探査体・宇宙船など，宇宙飛行体の基準方位に対する角度を変更すること。誘導の第一操作として行なわれることが多い。ジャイロと連動して噴射の方向を変える装置により自動的に行なわれる場合と，噴射方向の違ういくつかの小ロケット(ジェット)が，地上からの指令・自動装置または乗員により発動して行なわれる場合がある。観測ロケットが垂直に上るためには姿勢がつねに垂直に保たれるよう，衛星打ち上げロケットでは角度が変わるように制御されなければならない。アポロ宇宙船も速度変更に主ロケットの使い分けのため幾度も180度回転した。〔原田三夫〕

しせいせいど【四姓制度】 ⇨カースト

しせいせいど【氏姓制度】 古代，大和(やまと)朝廷*における政治・社会組織。氏*とは家父長的家族の集合体である豪族をさし，本来は血縁的紐帯(ちゅうたい)で結合するが，ときには血縁観念のみあって実際上血縁のない者をも包含した。氏の長は氏上(うじのかみ)で，成員である氏人を統率し，氏神を祭り，氏内の争訟を裁くなどの権限を有するとともに，対外的には氏の代表者として大和朝廷に出仕し，世襲の，かつその氏に固有の職につき，一定の政治的発言権を有した。その氏の政治的身分を示すものが姓である。姓は本来氏人らが氏上を尊んで用いた敬称にすぎなかったが，天皇はこれを利用して，姓の序列を定めるとともに，その与奪の権を握って豪族をおさえた。このようにして姓はその氏の政治上の地位・身分を表示するものとなった。氏には，そのために労力・物資を提供する義務を負う部民(→部)があり，氏・氏上・氏人の所有する賤民(せんみん)，すなわち奴婢*(ぬひ)が隷属した。氏の経済的基盤はこの部民および奴婢にあった。このようにみれば氏はいわゆる氏族と同じ概念ではなく，政治的に一定の地位ないし権利を保有する同族団あるいは擬制的同族集団ともいうべきもので，換言すれば大和朝廷の政治組織の１単位であった。大化改新*はこのような制度の行きづまりを打開するために断行されたのである。〔黛　弘道〕

しせいだい【始生代】 ⇨先カンブリア代

じせいたい【磁性体】 外から加えられる磁気*(外部磁界という)によって磁化*される物質。すなわち磁化率*が０でないものをさす。磁化率が正で非常に大きいものを強磁性体*，正で小さいものを常磁性体*，負で小さいものを反磁性体*とよんで分類している。磁化率の正・負とは，それぞれ外部磁界と同方向・逆方向に磁化されることを意味する。一般に，反磁性体・常磁性体の磁化率はきわめて小さく，磁石*を近づけても，ほとんど反発力や吸引力を感じない。〔堀内和夫〕

しせいどう【資生堂(株)】 化粧品のトップメーカー。世界的にも業界の五指に数えられる。全国的に強固な販売網をもっているのが強みであり，特色でもある。1872年(明治５)，個人経営の洋風調剤所からスタートし，1921年(大正10)合資会社，1927年(昭和２)に株式会社組織となる。品質本位・共存共営・消費者中心・堅実・徳義尊重の五大主義を貫いて企業イメージの固定化を図り，化粧品業界に地歩を固め発展してきた。セールスメンバー約10万店，チェーンストア15,000店，ホームセールスチェーン300店のネットを誇り，資生堂販売商事会社は75を数える。なお，アメリカ・オーストラリアの現地業者と提携するなど，海外進出にも力を入れている。最近は国内で男性用化粧品や洗剤部門に進出し，この面でも業績を伸ばしている。本社東京，工場は東京・大船・掛川。**資本金104億600万円，年間売上高2,796億3,300万円，従業員数13,714(1980年５月)。**

しせいどうどう【四世同堂】 中国現代の小説家老舎*の長編小説。第１部《惶惑(こうわく)》(1945年刊)，第２部《偸生(とうせい)》(1946年刊)，第３部《飢荒》(1946年発表)の３部作からなる。日中戦争時代，日本軍の占領下にあった古都北京(ペキン)を舞台として，その一隅(いちぐう)に，老人夫婦・むすこ夫婦・孫夫婦，孫の子どもたちというように４世

代が同居している祁(チ)家の人々を主人公として，戦争時代の北京の市井人の苦難に満ちたさまざまな生き方を描き出したもの。作者の郷土北京に対する素朴(そぼく)な愛情が，読む者の胸を打つ。〔今村与志雄〕

しせいほうしんえんぜつ【施政方針演説】 国会の会期のはじめに，対外政策や国内政策について内閣総理大臣が行なう演説。施政方針演説は通常，衆議院で先に行なわれ，次いで参議院でも行なわれる。この演説は内閣(政府)の政治方針ないし政策を示すものであり，与党の選挙綱領と並んで重要な政府の行為であるから，国民生活にも関係の深いものである。また政府が議会と国民に対する責任において，政治を行なう姿勢にあるかどうかもこの演説から理解することができる。〔影山日出哉〕

しせき【歯石】 歯の表面に付着する石灰塩のかたい物質。歯の清掃を怠ると，粘液，剝離(はくり)した口腔(こうこう)粘膜の細胞，白血球などからなる白く柔らかい歯垢(しこう)が付着し，これに唾液(だえき)の中のカルシウムが沈着すると歯石になると考えられている。主成分はリン酸カルシウムで，下顎(かがく)前歯の内側，上顎大臼歯(だいきゅうし)の外側の歯肉に接した歯頸部(しけいぶ)にたまりやすい。歯石はその名のようにかたく，歯肉に接して付着するため，歯肉にたえず機械的な刺激を与える一方，細菌の巣ともなるので，歯肉炎*や歯槽膿漏(しそうのうろう)症*の重要な原因となる。1年に1度くらいは除去する必要がある。〔成田令博〕

しせき【史跡】 歴史的遺跡の総称。史跡には，土地そのものが歴史的意義を有する場合と，営造物が史跡となっている場合とがある。前者はおもに戦争・交通・都市などの遺跡で，直接に史実を示す遺物*はあまり残存せず，自然的状態のものが多い。しかしその地理的条件の観察や出土遺物・関係文献・伝承などとの照合研究から多くの歴史的意義がとらえられる。古戦場・旧街道などがこの種の遺跡である。後者は付近の土地をも含む場合が多く，わが国では神社・仏閣・城郭・庭園などである。これらの史跡のうち文化財保護委員会が重要と認めたものを指定史跡といい，管理団体を定めて保護させるのがふつうで，現状変更を行なうときは委員会の許可が必要とされる。また史跡のほかに，天然記念物あるいは名勝として価値の高いものには，〈史跡及び天然記念物〉あるいは〈史跡及び名勝〉として指定する。前者の例は栃木県日光杉並み木，後者の例には奈良県吉野(よしの)山などがある。さらに，指定史跡のうち特に重要と認めたものは特別史跡として指定し，その保護に特別の配慮が払われている。広島県厳島(いつくしま)などはその例である。1971年現在，史跡の指定件数は851(うち特別史跡は51)。〔高崎徳次〕

じせき【耳石】 ⇨平衡石

しせきぼ【支石墓】 ⇨墓

しぜつ【歯舌】 キチン質の基底膜の上に横列となった小歯が無数に並び，やすり様の構造をした帯状のもの。二枚貝類を除く軟体動物の口の中にある小歯の模様は動物の種類によって異なり，分類上の大きな特徴となっている。口からこれを出して，食物をかき取る。

じせつ【自切】 敵に尾や肢(あし)を捕えられたり，こわされたとき，動物がその部分を自分で切り離してしまう現象。自己切断・自截(じせつ)などともいう。無脊椎(むせきつい)動物の扁形(へんけい)動物・ミミズ類・軟体動物・ヒトデ類・甲殻(こうかく)類・こん虫類(ガガンボ類・直翅(ちょくし)類)などによくみられるが，トカゲの尾のように脊椎動物でも知られる。いずれも敵から逃げる目的で行なわれる反射の一種と考えられる。多くの場合，切断しやすくできている特定の部分があって，この部分は出血を防ぎ，強い治癒(ちゆ)・再生の能力をもっていることが多い。〔蒲原春一〕

ジゼル [Giselle] バレエ作品。2幕。台本ゴーチエ*・サン-ジョルジュ。振り付けコラリ・ペロー。音楽アダン。1841年，パリのオペラ座で初演。村娘ジゼルは王子アルブレヒトと恋に落ちるが，王子にいいなずけがいたため恋を失う。ジゼルは絶望のあまり発狂して死ぬ(1幕)。ジゼルは，森へ来た男たちを死ぬまで踊らせる妖精(ようせい)となる。ジゼルの墓参りに来たアルブレヒトは，妖精に捕われて踊りに引き入れられるが，ジゼルの霊に救われる(2幕)。ドラマチックな要素とロマンチックな要素を兼ねた傑作で，現在上演される古典バレエ中最古の作品。〔高橋孝一〕

しせるたましい【死せる魂】 ゴーゴリ*の代表的長編小説(1842〜1852)。ペテン師チーチコフが，数年に1度の国勢調査の間に実際は死亡していながら帳簿上は生きている農奴を買い集め，辺境の土地に帳簿上移住させて大地主になろうともくろみ，地主屋敷を歴訪する物語。地主の性格が，粗暴・ほらふき・感傷家・けちなどと，グロテスクに個性的に描かれ，鋭い観察力と想像力によって当時のロシア人の欲望が描き出される。主人公が改悛(かいしゅん)するという第2部以下が構想されていたが，実現しなかった。〔北垣信行〕

しぜん【自然】 ギリシア語フュシス，ラテン語ナトゥラにあたる語で，古代ギリシア哲学では，自己のうちに自己をささえ発展させる力を有する〈存在〉〈生成〉を意味し，神の外的創造による所産としての〈自然〉という中世的自然観とは異なっていた。中世では，〈自然〉は神の被造物としてその内在的創造性を奪われる。ここでは〈自然〉は神の啓示*・恩寵*(おんちょう)・奇跡*に対して二義的意味をもつにすぎない。さらに，ほぼ原罪*と同義的に否定されるべきものと考えられている。しかし，潜在的には神の似姿としての人間のほかの被造物に対する特権的地位が認められている点で，近代の自然観を準備したといえる。ルネサンス期は人間が自然との友好的関係を回復した時期といえる。ブルーノ*は能産的自然を美的にうたった。17世紀，F.ベーコン*は自然の利用を計画した。19世紀には独断的機械論者によって，自然は厳密に決定論的因果律に支配されるメカニズムの体系とされ，力学をはじめ諸自然科学の発展，技術・機械・産業の急速な発展をもたらした。しかし，19世紀以後，むしろ人間の所産によって人間が疎外されたことへの反省と実証科学そのものの成果によって，人間と自然の連続性が回復され，能産的自然観が復活したといえる。ベルグソン*・W.ジェームズ*・ホワイトヘッド*ら，現代思想の底流となっている。〔石井忠厚〕

じせん【磁選】 磁場*の中で鉱物粒子に作用する磁力*を利用した選鉱法。天然鉱物としては格別に大きな磁化率*をもつジテッ鉱の選鉱に使われる例が最も多いが，ジリュウテッ鉱・チタンテッ鉱・クロムテッ鉱・テツマンガン鉱・リョウマンガン鉱・軟マンガン鉱・硬マンガン鉱・モナズ石・ザクロ石などのような強磁性体*鉱物の選鉱にも応用されている。また，一般の工業材料や研削滓(けんさくさい)などの鉄を除くのにも利用されている。〔井上外志雄〕

じぜんうんどう【事前運動】 立候補以前に明らかな選挙運動を行なうこと。公職選挙法は，選挙の公示をもって選挙活動は始められ(129条)，これに違反すると一般人は1年以下の禁錮(きんこ)または15,000円以下の罰金，公務員の場合は2年以下の禁錮または30,000円以下の罰金(239条)としているが，実情は公示前に事実上の選挙戦が国会報告会や後援会のつどいなど，あらゆる手だてで始まっているといわれている。また選挙運動を極端に制限する現行法にも問題があるといわれる。〔溝口 潔〕

しぜんかいぞう【自然改造】 自然の地理的環境を変える土木事業をいうが，有史以来続けられてきた人間の自然に対する営み一般から区別して，計画的な高度の自然環境開発をさす。このことばは，ソ連で1928年から始められた5か年計画ではじめて使われたもので，人造湖の建設による水力発電の開発，内陸水路の整備，洪水(こうずい)調節，灌漑(かんがい)用水路の建設と，植林による土地改良や耕地の造成，気候の緩和や砂防などを事業内容としていた。このことばはソ連・中国など社会主義諸国では用いられているが，アメリカ合衆国や日本などでは〈総合開発〉の名でよんでいる。〔大石堪山〕

しぜんかがく【自然科学】 物質的自然についての科学，すなわち物質的自然に関する体系化された知識と理論の総体，といち

おうの定義を与えることができるが，その境界は必ずしも明確でない。天文学・物理学・化学・生物学・地質学などは明らかに自然科学であるが，医学・農学・工学の諸分野はこれらと密接に関連し，連続的につながっているものの，技術的な性格をもつ点で多少の違いを認めなければならない。しかし，普通はこれらまで含めて自然科学とよぶことが多い。さらに地理学となると，扱う対象が自然的環境と人間的事象の両方にわたる。重点の置き方によって自然地理学と人文地理学に分け，前者を自然科学に後者を人文科学*に分類するとしても，両者の境界は画然としているわけでない。人間も物質的な体系に連なる以上，自然科学的研究の対象となりうることは明らかだが，では心理学は自然科学なのかどうか。精神的機能が神経系における物質的過程にになわれるかぎり，心理学も自然科学の一部であるが，人間の精神的活動を神経系の物質的過程のみに帰着させがたいことも明らかである。むしろ，自然科学という概念は歴史的なものとみるべきである。それは，世界が物質と心とにきっぱり分けられるとするデカルト*の物心二元論に根ざしている。近代科学はこの二元論を前提として，まず自然科学，特に力学を軸として成立し発展を遂げはじめた。18世紀における天体力学の著しい成功は力学的決定論を生み出し，19世紀には人間の精神的事象まで含めたあらゆるものが自然科学的に説明されるという科学的唯物論が唱えられた。それに対する反動として，またその目標が性急には実現しえないことが明らかになるにつれ，精神科学ないし文化科学の独自性，人間的諸事象の物質的自然への還元不可能が主張され，自然科学と他の学問との違いが自覚されるに至った。しかし，20世紀，特に第2次世界大戦前後から，さまざまの境界領域の発展によって，自然科学と人文科学・社会科学の境界が流動化し，両者の方法の共通面が強調されるに至った。自然科学ははじめ自然の物質的構造と運動の解明を目標としたが，19世紀半ばのエネルギー保存の法則*の確立は宇宙のもう一つの構成要素としてのエネルギーの重要性を明らかにした。さらに最近の情報科学の発展は，世界の全面的な理解には情報の流れという観点が不可決であることを示した。いま，この情報を介して自然科学と人文科学・社会科学の接近と一体化が急速に進んでいる。　〔広重　徹〕

しぜんかへい　【自然貨幣】　実物貨幣・商品貨幣ともいう。貨幣以外の商品としても通用する実体的な価値をもった貨幣。貨幣として歴史上最初に出現し，小麦・ウシ・貝殻(かいがら)などが用いられた。➔貨幣

しぜんきゅうかい　【自然休会】　⇨休会

しぜんきん　【自然金】　金の鉱石鉱物。Au　等軸晶系。硬度2.5～3，比重19.3。正六面体あるいは正八面体の結晶として産する。金色もしくは金白色で，金白色のものは銀を多量に含む。鉱石中では主として微細な粒状・片状または線状などを呈する。



シゼンキン　先端部分がシゼンキン。兵庫県中瀬鉱山(現在は閉山)産



シゼンギン　岐阜県神岡鉱山産

しぜんぎん　【自然銀】　銀の鉱石鉱物の一。Ag　一般に不純物を含む。等軸晶系。硬度2.5～3，比重10.5。結晶形を示すものはきわめてまれである。通常は粒状・線状・樹枝状・板状，あるいは繊維状をなして産する。天然に産するものは多くさびて灰色・黒色である。一般に金・銅・水銀・プラチナ・ビスマスなどを少量含んでいる。

しぜんこう　【自然光】　天然の光源から受ける光のことで，太陽・月・星その他自然現象より発する光をさすが，生活に寄与するものは，太陽による昼光である。昼光は直射光・天空光(青空光・曇天光)を屋外・屋内について考えるのであるが，これらはその地点・季節・時刻による太陽高度，天候の状態，大気のふんい気によって大きく変動する。その分光エネルギーの分布は，紫外から可視域を経て赤外に至る広い範囲にわたり，上記の要因によりその色温度*も大きく変化する。なお，最近は人工光源の発達に伴い，人工昼光が現われ，照明ならびに建築関係をはじめ色材・織物・写真・印刷・舞台など色彩を取り扱う業界で重要視されつつある。　〔中山忠巳〕

しぜんこうえん　【自然公園】　⇨公園

じぜんじぎょう　【慈善事業】　宗教的・人道的見地から貧民・傷病者・罹災者(りさいしゃ)・孤児・浮浪者などを救助し，保護する公共的な救済事業。初期においては，封建的な身分関係を背景にした上からの恩恵的な事業の性格が強かったが，産業革命を経て，近代資本主義が発展するにつれて，社会問題についての社会的認識や制度的責任が自覚され，教会や各種の慈善団体の私的慈善の方法も組織化されるようになった。その意味では社会福祉事業*に先行する救済事業として歴史的に評価されているが，現在においても公的扶助やその他の社会福祉事業を補完する事業として救世軍*の活動，慈善病院，慈善興行，バザーによる慈善会などが行なわれている。　〔松島　浄〕

しぜんしゅぎ　【自然主義】

1すべて実在の世界は自然科学の方法によって説明することができるとする方法論的一元論。この立場によれば，時間的・空間的に存在する自然的対象のみが実在し，認識の対象となりうる。その生成変化はただもっぱら自然的原因によるのであり，これ以外のいかなる原理に基づくのでもない。したがって，自然はそれ自体完結した独立の体系である。超自然的実体から導かれたり，超越的目的に支配されるものではない。人間はかかる自然の一部である。また，その精神活動・文化・社会・歴史などもすべて自然の一過程にしかすぎないとする。この思想は19世紀後半のヨーロッパに，人間の問題を自然科学的に追究しようとする自然主義文学として現われ，日本の文壇にも影響を与えたが，今世紀にはいって，特に倫理学の領域で脚光を浴びるようになった。倫理的自然主義とは，道徳性の根拠を快楽・幸福などの自然的対象に置き，道徳的判断を自然的事実に関する判断としてとらえる立場であり，アリストテレス・ベンサム・デューイらの理論に代表される。しかしムーアはこれらをすべて，非自然的で定義できない〈善〉を自然的概念で定義しようとする誤り(自然主義的な誤り)を犯すものとして退けた。ここから，〈ある〉から〈べき〉を導き出すことができるかどうかという現代の倫理学における中心問題の一つが展開されることになった。　〔石倉恒之〕

2フランス19世紀後半の小説家ゾラ*を中心に起こった文学思潮。19世紀前半から中葉にかけて興隆した写実主義*の一分派ともいえ，当時の思想界に支配的だった実証主義哲学，ことにテーヌ*の決定論や実験科学の隆盛などの影響下に生まれた。ナチュラリスムの訳語であり，この語は，自然科学者が生体に対して実験するように，文学者は人事万象に実験を試みようとするいわれである。ゾラは《実験小説論*》でそうした立場を表明，〈ルーゴン＝マッカール叢書*(そうしょ)〉で実作化した。社会的には近代ブルジョア社会の停滞期であり，その腐敗面の描出に鋭い力を発揮したが，一方，作家の主体的な姿勢を欠くことにもなった。フランスではゾラを中心にドーデ*・モーパッサン*・ルナール*，イギリスではハーディ*・ムーア，ドイツではハウプトマン*・ホルツ，北欧ではイプセン*・ストリンドベルイ*，ロシアではツルゲーネフ*らがこの思潮に属する。日

本では，1902年(明治35)からゾライズムの名のもとに自然主義が移植され，小杉(こすぎ)天外*・永井(ながい)荷風*・田山花袋*・島崎藤村*・徳田秋声らが自然主義的作品を書いた。〔池田公麿〕

③美術史的には，明瞭(めいりょう)な概念規定は行なわれてはいないが，クールベ*らの写実主義*を自然主義ということが多い。また，広義には印象主義(→印象派)を含めて称することもある。

しせんしょう【四川省】 スーチョワン省 中国，揚子江上流部にある省。面積56万9,000km²。人口7,500万(1972年推)。省都は成都。3直轄市(成都・自貢・重慶)・12専区・3自治州に分かれ，5市・181県・3自治県を統括する。古来〈天府の国〉と称せられる豊かな土地で，小麦・大麦・コウリャン(高粱)・トウモロコシ・サツマイモなどのほか，ワタ・タバコ・アサ・サトウキビ・ナタネなど商品作物の産も多く，伝統的な養蚕業も盛んである。また養豚も行なわれ，特産のブタの毛のブラシは海外に輸出されている。西部の高原地帯では，ウマ・ヒツジ・ヤギなどが放牧されている。近代工業は機械・紡織・製紙・電力などの諸工業が重慶をはじめ，成都・宜賓・楽山などで行なわれる。河川交通は揚子江を中心に支流を含めて延べ12,000kmの水路があり，鉄道は成渝(せいゆ)鉄道(成都～重慶)，宝成鉄道(宝鶏～成都)が完成し，貴州・雲南と連絡する川黔(せんけん)鉄道・川滇(せんてん)鉄道が建設中で，自動車路・航空路も整備されつつある。〔船越昭生〕

しぜんじん【自然人】

①社会契約論*において，その理論的前提となった自然状態に生存する個人のこと。社会・国家成立以前の自然状態においては，各人を制約する人為的なものはいっさい存在しないから，各個人は絶対的に自由・平等であり，自己のみに従う自然権の主体と規定された。しかし，思想家によって自然人の観念は異なり，その相違が社会契約とその結果である国家観を異ならせた。ホッブズ*によれば〈万人に対する万人の闘争〉という有名な自然状態の規定にみられるように，自然人はオオカミとして孤立し，相互に恐怖にさらされた存在であったし，自然状態を自然法の支配する可能的闘争状態とするロック*は，自然人を理性的主体として考えた。また，自然状態を相互孤立的状態とするルソー*の自然人の規定は，善良な野蛮人であった。

②法律上，法人に対する概念。民法上，権利能力を所有する個人をいい，〈出生によって権利能力が生じる〉(民法1条3項)と規定している。自然人の権利能力は死亡によって消滅するが，特に損害賠償請求・相続・遺贈については胎児もすでに生まれたものとみなされる(民法721・886・965条など)。また，失踪者(しっそうしゃ)は，失踪宣告*により死亡者とみなされる(民法31条)。〔原田政洸〕

しぜんじんるいがく【自然人類学】 主として生物学的方法論によってヒトの身性を研究する人類学。研究の対象は，人種的変異，ヒトの器官の生長と時代変化，生体と生態の相互作用などである。

自然人類学の歴史は，1669年タイソンが解剖学の知識を援用して，ピグミー(実際にはチンパンジーだった)がヒトとサルをつなぐものであることを発表したときに始まるとしてよい。その後にブルーメンバハらの研究を経て，分類学の方法がヒトにも適用され，いくつかのヒトの分類法が考察された。ヒトの進化の研究も，自然人類学の発展に大きな刺激を与えた。最近では，ヒトの進化のプロセスの解明に遺伝学的アプローチを試みる方向が注目されている。〔鈴木 尚〕

しぜんすいぎん【自然水銀】 水銀の重要な鉱石鉱物。常温では液体。Hg 一般の水銀鉱床中にシンシャ*(HgS)などとともに小さい滴状で産する。イタリア・スペイン・中国・メキシコなどに大鉱床が存在し，わが国では，北海道イトムカ*鉱山が有名である。

しぜんすう【自然数】 1から始まって2，3，4，5，……と1ずつ増し，限りなく続く数。自然数全体の集合は，加法と乗法について閉じている無限集合で，物を数えるにも，物事に順序をつけるのにも用いられる。その基本性質は，ペアノの公理としてまとめられている。➔公理 ➔計量数 ➔順序数

しぜんすうはい【自然崇拝】 天地・日月・星辰(せいしん)・風雨・山川・岩石・植物などの自然物を神聖なものとして崇拝すること。イギリスの人類学者タイラー*は自然物に霊的存在を認め，消極的禁忌・呪術(じゅじゅつ)的儀礼・祭祀(さいし)などを実修する未開民族社会の宗教をアニミズム*と名づけ，宗教の原初形態と考えた。マレットはこれを部分的に修正し，すべてのものに生・精気のみを考える段階を認め，アニマチズムと名づけた。他方，ポリネシアの土人は自然物にマナという呪力があると信じている。マナは半人格的な力の観念，宇宙に充満している力または生命力の観念を基底としている。デュルケーム・モースらのフランス宗教社会学派はこれに注目し，呪術も宗教も本質的には神秘的力に依存するとした。また，シュミットはピグミーやサモエード・コリヤーク・エスキモーなどの宗教を調べ，早くから一神論が未開人の間に存在することを主張した。〔竹村卓二〕

しぜんぞうしゅう【自然増収】 一般に，税制上の増税措置によらないで，租税収入が増加する現象をいう。経済が急速に拡大していくような場合には，同一税制のもとでも，年々の税収は増大してゆく。このように自然増収が生ずるのは，税収が国民所得の大きさに依存して決まることによっている。したがって経済が縮小していくような場合には，当然この逆の自然減収という現象が起こる。第2次世界大戦後のわが国経済は，一貫して高度成長の過程にあったため，年々の自然増収は相当の額に達していた。したがって，年々かなりの減税措置が実施されてきたにもかかわらず，この自然増収が減税分をまかなって，なお前年より大きな税収額をもたらし，この増収分は新規財源として年々増大していく経費をまかなうためにあてられている。〔西野義彦〕

しせんそくど【視線速度】 物体の速度の視線方向の成分。天体の視線速度は，天体が地球に対して近づくか，遠ざかるかの運動をしているときの速度をいう。視線速度をもつ天体からの光はドップラー効果*によって波長が変わり，スペクトル線の位置は，われわれに近づいている場合は紫側に，遠ざかる場合は赤側にずれ，その量は視線速度に比例する。この関係を利用して，天体のスペクトル線の波長と，実験室の波長とを比較することにより，視線速度の方向と大きさを知ることができる。〔磯部琇三〕

しぜんたいすう【自然対数】 ⇨対数

しぜんちりがく【自然地理学】 地球表面の自然現象を地域的な観点から研究する地理学の一部門。19世紀にドイツの地理学者アレキサンダー-フンボルト*によってはじめて科学的な位置づけがなされた。気候学・陸水学・地形学・土壌(どじょう)地理学・植物地理学などを含むが，近年はこれらが一つの科学として独立していく傾向がみられる。

しぜんていぼう【自然堤防】 三角州*を流れる河川の両岸にある比高の小さい，幅の広い微高地。人工堤防の存在しない河川では，洪水(こうずい)の一部が河川を越えてあふれたとき，流水による土砂の運搬力が減って河岸に土砂が堆積(たいせき)し，自然堤防を生ずる。自然堤防は現在の河道の河岸ばかりでなく，かつての古い河道の河岸にも形成されていたから，流路が変化したところでは畝(うね)状に幾重にも発達している。

しぜんてつがく【自然哲学】 元来は，普遍学としての哲学から自然科学が実証科学として独立する以前の自然研究およびその成果の総称。自然学ともいう。しかし現代では，自然科学の成立しうる基礎・根拠を問い，これを基礎づける哲学をもさす。古代ギリシアのイオニア派*にみられるように，哲学は自然哲学から始まった。彼らは一様に自然のアルケー(原理・根源)を追究したが，さらにプラトンは《チマイオス》で自然について神話的・形而上学的思惟を展開し，アリストテレスも《フュシカ》で理性と観察を結合した自然学の構成を企てた。中世にはあまり行なわれなかったが，ルネサンス時代にはカルダーノ*・テレシオ・ブルーノ*・カンパネラ*らが現われ，古代の体

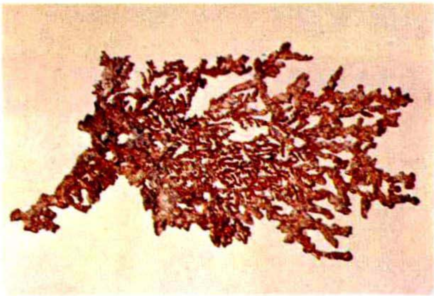
系の復活や汎神論(はんしんろん)的自然観が説かれた。19世紀のドイツ観念論*では自然科学の経験的・実証的方法に意識的に対立して，思弁的方法による自然の形而上学が企図された。一方，自然科学の成立根拠を基礎づける哲学としての自然哲学は，カントをはじめとしてマールブルク学派・西南学派によって認識論の一般的研究から試みられた。また，マッハ*・ポアンカレ*・ラッセル*らも特殊科学の研究から自然科学的認識の客観性とその限界を明らかにする自然哲学を築いた。〔石井忠厚〕

しぜんどう【自然銅】銅の重要な鉱石鉱物。Cu　等軸晶系。硬度2.5～3，比重8.9。樹枝状・不規則塊状に産し，普通はさびてかっ色である。断口は銅赤色を呈する。

しぜんとじんせい【自然と人生】徳富蘆花*(ろか)の随筆小品集(1900)。自然描写を中心にした87編の散文詩を中心に編集され，豊かな情感のうちに自然の姿を美しい文体でさまざまな角度からとらえ，作者の自然詩人としての名を高めた。

しせんのたたかい【泗川の戦い】慶長の役(→文禄(ぶんろく)・慶長の役)における有名な戦い。泗川は朝鮮慶尚(けいしょう)南道にあり，日本軍の本拠，新寨(しんさい)が築城された。1598年(慶長3)10月1日，明(みん)軍が四方からこの新寨を攻め，城門を破って攻め込もうとしたとき，明軍陣中の火薬が爆発した。日本軍の守将島津義弘(よしひろ)・忠恒(ただつね)はその機をとらえて出撃し，大勝利を得た。明軍の死者は7,000余人にのぼった。

しぜんはっか【自然発火】物質が空気中において常温で自然に発熱し，その熱が徐々に蓄積されてついに燃焼を起こす現象。火災事故の原因の一つである。発熱の機構はおもに酸化熱あるいは分解熱によるものであるが，吸着熱による場合もある。アマニ油・エノ油などの乾性油の主成分は不飽和の脂肪酸グリセリドで，その不飽和結合に酸素が結合して硬化し皮膜をつくる。この性質を利用して塗料などに使用されているが，この酸化のときに発熱する。この種の油は容器にはいっている状態では発火するまでに至らないが，ぼろきれなどに浸ませておくと，空気との接触面積が大きく，また熱伝導も悪いので，しだいに発熱が蓄積して自然発火温度に達して燃えだし，しばしば火災の原因となる。貯炭場の石炭も自然発火を起こすことがあるが，これは成分のフムスの酸化熱によるものである。分解熱の例としては，セルロイドの自然発火がある。主成分のニトロセルロースがしだいに分解し，その熱が蓄積されて発火するものである。特に古いセルロイド製品は自然発火のおそれが多いので注意しなければならない。また活性炭や木炭などの製造直後のものは吸着熱によって発火することがある。〔寺沢誠司〕



シゼンドウ　鳥取県岩美鉱山産

しぜんはっせいせつ【自然発生説】生物が無生物から直接に形成されるとする学説。古代から19世紀に至るまでさまざまな形で主張された。これを否定するものとして，まず1668年にイタリアの生物学者レーディが，腐肉を入れた容器を封じると，そこにはウジが発生しないことを証明した。しかし，ちょうどそのころ発見された微生物については，自然発生を認める意見が科学者の間でも跡をたたなかった。この問題に最終的な解決を与えたのはパスツール*である。彼の実験の一例をあげると，生物浸出液を入れ煮沸した容器の口を細長くS字状に曲げておけば，密封しなくとも微生物は曲がりかどにたまって浸出液に到達しないので，浸出液には微生物は自然発生しない。この実験によって，微生物でも自然発生しないこと，つまり生物は生物から生じることが証明された。

なお，古代・中世の自然発生説は，素朴(そぼく)な民間伝承や神秘的な奇跡説に結びついていたが，18世紀のそれはむしろ生命永久説の否定を通じて進化の思想につながっていた点は注意すべきであろう。〔中村禎里〕

しぜんビスマス【自然ビスマス】ビスマスの鉱石鉱物の一。Bi　三方晶系。硬度2～2.5，比重9.7～9.8。265℃で溶解する。通常，葉片状・繊維状で産する。天然では自形結晶はまれであるが，人工では容易に結晶して平行連晶をつくる。もろく，小刀で切ることができる。金属光沢を有し，銀白色。わが国では神岡・足尾・生野などの鉱山に産する。

じぜんぶんせき・じごぶんせき【事前分析・事後分析】経済活動は経済主体の行動によってひき起こされるが，その経済主体が計画し意図した経済諸量間の関数関係に基づく分析を事前分析という。他方，実際に実現された経済的諸量は，経済主体が事前に意図した諸量と一致するとは限らない。このように，経済活動の結果として成立した諸事実を回顧的に整理し分析する方法を事後分析という。

しせんべんごにん【私選弁護人】⇨国選弁護人

しぜんべんしょうほう【自然弁証法】エンゲルス*の未完の遺稿《自然弁証法》ではじめて使用された用語。この著書でエンゲルスは近代自然科学の成果を総結集し，自然全体を統一的に〈弁証法〉として把握(はあく)し規定する。自然弁証法は唯物論的認識論の原則，すなわち自然認識の弁証法の原則と，唯物論的存在論の原則，すなわち自然様式の弁証法の原則とからなっている。唯物論的認識論の原則は，物質が客観的に実在し，それの認識は反映によってなされるが，個々の認識結果はつねに相対的真理であり，実験によって無限に客観的真理に近接することが可能であるという原則である。唯物論的存在論の原則は，①対立物の相互浸透の法則，②量から質へ，および質から量への転化の法則，③否定の否定の法則，という3法則を意味する。自然弁証法の評価はマルクス主義者の中でも必ずしも一定ではなく，弁証法的唯物論*の基礎をなすという見解と，人間社会についての弁証法的唯物論の自然界への単なる応用としてしか評価しない立場がある。しかし自然を切断的にしかみない機械的唯物論とは反対に，自然を歴史的・主体的に把握するところに自然弁証法の立場と意義がある。この立場は20世紀の科学者，特にソ連のオパーリン*らによって受け継がれている。〔仲村計美〕

しぜんほう【自然法】人間の本性に基づき，あらゆる時代と国を越えた普遍的な法。しばしば実定法*と対する。自然法に基づいて人間が享受し，要求できるとされる諸権利を自然権というが，自然法と自然権の考え方は古代にまでさかのぼることができる。古代ギリシアのストア派が宇宙は理性によって支配されており，理性に従う生活こそ賢者の生活だと考えたのはすでに自然法的な考え方の萌芽(ほうが)とみることができる。中世にはトマス-アクィナス*が，神の世界支配の下部としての自然法が道徳・身分制度の基準をなすと主張した。宗教改革ののちにキリスト教が分裂した結果，神の権威に基づく自然法という考え方にかわって，人間の本性に基づく自然法という考え方が，グロチウス*らによって唱えられるようになった。この自然法の考え方は近代の個人主義に受け継がれ，自然法は個人の幸福追究の権利，さらに革命権・抵抗権としての自然権の基礎をなすと考えられるようになり，市民革命の重要な理論的武器となった。〔米沢克夫〕

しせんぼうどう【四川暴動】中国，清(しん)末に鉄道国有化の資金を外国借款にたよろうとしたのに反対して四川省で起こった暴動。義和団の乱*後，列強が中国への経済的・軍事的進出を進めたのに対して，中国では利権回収の動きがあったが，開明的な立憲派は鉄道の民営化を実現するため保路同志会を組織し，政府の国有化政策に抵抗して暴動を起こしたもの。これを契機として武昌(ぶしょう)の新軍が蜂起(ほうき)し，辛亥

(しんがい)革命*の発端となった。〔大谷敏夫〕

しぜんほご【自然保護】 自然を積極的に保護管理すること。大別して二つの概念が含まれる。一つは，比較的狭い地域内の自然をまったくあるがままの状態で保存管理する場合で，絶対保護といわれる。他の一つは，自然を保存すると同時にその資源を開発して，産業・公共福祉・災害防止などに利用する場合で，前者に比べて広域的な保存の立場をとる。自然保護の思想は18世紀ごろからヨーロッパを中心に芽ばえたが，19世紀以降の近代産業の発展と人口の増加・都市集中化は各種の産業開発・観光開発を無計画に押し進め，自然破壊を加速度的に進展させる結果を招いたことにより自然保護の必要性を一段と認識させた。現在では憲法で自然保護を規定している国もある。西ドイツの自然保護憲章では，公共の福祉のために私有権にある種の制限を加えている。またアメリカやカナダでは，国立公法制度の下で自然保護が発達してきた。日本では，自然公園法・都市公園法・森林法・文化財保護法などで自然保護の施策がとられているが，欧米諸国に比べて著しくたちおくれている。しかし一方では，日本自然保護連盟や日本鳥類保護連盟などの民間諸団体が自然保護憲章制度の運動を起こしている。

自然保護の対称とされるものには，動植物・森林・大気・水質・国土・風景などがある。人類は有史以来，これらの自然や天然資源を開発することによって生活を維持し，社会・経済を発展させてきた。しかし自然は一つの精妙な，生物群集と無機的環境の総合された物質系(生態系)をなしており，人間を含めて生物共同体はこの自然の系の中で調和を保って生命活動を営んでいる。この生態系では，これに関与している構成者のどれか一つが欠けても，その系の循環構造が破壊されてしまい，あるものは短時間の間に消滅する可能性もある。たとえば，森林は多様な生物社会の均衡を調整している巧妙な系であるが，このような系をある程度完全な形で保護することにより，局地的な気候条件の安定，災害防止，水源確保，大気の浄化などが保障される。人間は生態系内の一員であるため，生態系の保存は人類の健全なる発展を約束するものであるという考え方から，本来あるがままの自然の平衡系をできるだけ保護しようとする運動が推進されている。このほか，学術上価値の高い動植物を自然のままで保存したり，野生鳥獣と人類の共存の問題，すぐれた景観の保護管理など，史跡・名勝・天然記念物などの保存も重要な自然保護の分野である。〔増沢武弘〕

しぜんほどう【自然歩道】 すぐれた自然環境の中を歩いて自然に親しみ，自然への理解をはかる目的で整備される歩道。すでにアメリカ・イギリスでは，それぞれ〈ナショナル-シーニック-トレイル〉〈ロング-ディスタンス-フットパス〉として整備されている。わが国では厚生省が自然公園行政の一環として，明治の森高尾国定公園(東京)から明治の森箕面(みのお)国定公園(大阪)までの東海自然歩道(1,350km)をつくりつつある一方，長野・石川・神奈川の各県にも整備しつつある。歩道の幅員は1.5m，付帯施設には沿線の自然・文化財を解説するビジター-センターや案内施設・宿泊施設などを整備するものとしている。〔豊川　洋〕

しせんぼんち【四川盆地】 スーチョワン盆地　中国，四川省東部の成都・重慶を含む広大な盆地で，面積約6,300km²。気候は温暖湿潤で産物に富むが，周囲を北は大巴(だいは)山脈，西は大雪山脈，南は雲貴高原と山地に囲まれ他地方と隔絶していたために独自の文化が発達し，たびたび独立政権が成立した。成都の北西にある灌漑(かんがい)施設として有名な都江堰(とこうえん)は，すでに紀元前3世紀にはできていたといわれる。米をはじめ小麦・トウモロコシ・サツマイモ・サトウキビ・チャ・ナタネ・ワタ・アサなどを産し，古くから養蚕も盛んである。人口密度は1km²あたり200人を越え，中国有数の人口密集地になっている。成都・重慶の両市は西南地区における鉄道・自動車交通の要地で，近代工業の発展もめざましい。〔日比野丈夫〕

しぜんみんぞくのおんがく【自然民族の音楽】 世界の音楽文化領域を区分設定するとき，ごく大ざっぱな方法として高文化社会における音楽と無文字社会における音楽とに区別することが行なわれる。文字をもたずにもっぱら口承によって伝統を維持している社会は，未開民族・原始民族・土人といった不当な名称を与えられることが多いが，彼らのもつ音楽の多様性をみてもわかるように，けっして低文化ということにはならない。芸術活動は多岐にわたり，享受の度合いはむしろ高いとさえいえる。したがって，できるだけ価値判断を伴わない用語として自然民族あるいは無文字社会というレッテルが世界音楽の分類に使われる。自然民族の音楽に対して関心が向けられた当初は，進化論的な考え方にしたがって，音楽の発展段階上のごく初期的な形態や，あるいは音楽の究極的な起源の形態でさえも見いだされるに違いないという態度が顕著であった。実際には，場所が変わればそれなりに音楽形式の展開過程が異なるということがいまでは常識となっている。含まれる領域はアメリカ大陸の原住民(エスキモー*・アメリカ-インディアン*・インディオ)，アフリカ(主としてサハラ砂漠(さばく)以南)，オセアニア・ニューギニア・オーストラリア原住民の諸民族が主要であり，ほかにはアジア大陸やヨーロッパに散在する文明との接触の少ない少数民族がある。音楽の物的産物としての楽器は資材が必要であることからそれぞれの民族のおかれた自然環境によって種類の多少を規定されることが多い。また，一つの民族がつくりあげた楽曲のレパートリーは一定のわく内に収まる様式にしたがっていて，いわばマンネリズムをもっている。しかしこのような限定条件を越える努力が交易や技術の拡大を通して行なわれる。楽器・作曲法・楽曲・音楽習慣などが伝播(でんぱ)してそれぞれの民族による変容が加えられて音楽形態の多様性が生じてくる。その際に旋律構造・リズム・多声性・楽式構造・音色関係といった音楽的側面ばかりでなく，遊び・宗教儀礼・仕事(労働)・社会機構(親族関係・共同体など)といった音楽外的側面との音楽の結びつき方にも，それぞれの民族の強調の置き方が違っている。全体に自然民族にあっては音楽は純芸術というよりも社会的な機能を与えられていることのほうが多い。➔民族音楽〔山口　修〕

しせんりょうこばんのうめのは【四千両小判梅葉】 歌舞伎(かぶき)の脚本名。通称〈四千両〉。河竹黙阿弥*(かわたけもくあみ)作。1885年(明治18)千歳座(ちとせざ)(のちの明治座*)初演。1858年(安政5)野州無宿富蔵と浪人藤岡藤十郎が江戸城の御金蔵を破って四千両を盗み処刑された事件を脚色した世話物*。大詰〈伝馬町牢内(ろうない)〉の写実的な描写で知られる。

しせんわかしゅう【私撰和歌集】 ひとりまたはそれ以上の選者によって，私的に編集された歌集。私撰集ともいう。勅撰集*に対する称であるが，その内容・種類は多様である。形式で分ければ，《新撰和歌集*》などのように勅撰集にならった形式，《古今和歌六帖*(ろくじょう)》のような類題歌集形式などとなり，また，動機や内容の点では歌学上の対立があって勅撰集への不満から生まれたもの，宗教界へ和歌が浸透した結果として僧侶(そうりょ)の作のみが選ばれたもの，鎌倉武士の興隆に伴って関東歌人の作を集めたものなどがあり，時代を下れば下るほど多彩となった。〔桑原博史〕

しそ【紫蘇】 双子葉植物・シソ科。中国南部原産の一年草。栽培もされる。草全体に芳香があり，茎は断面が四角で，よく枝分かれし，高さ20～50cmになり，全体として丸く茂る。葉は対生し，広卵形で先はとがり，縁に鋸歯(きょし)がある。葉の色は茎とともに紫色を呈し，質は柔らかい。夏～秋に茎の上部の葉のつけ根に花穂を伸ばし，淡紫色の小さな唇形(しんけい)の合弁花を多数つける。花が終わると先が五つに裂けた筒状のがくが残り，底に4個の分果をつける。日本でも古くから栽培され，葉は生のまま香味料にしたり，梅酢に入れて赤色にし，梅干しやショウガの色づけにしたりする。塩づけの葉を乾燥させて刻んだものを〈ゆかり〉といい，ご飯にふりかけたり菓子の塩竈

(しおがま)に使ったりする。花の終わった果穂は，てんぷらやそば・さしみなどの薬味として用い，また穂からしごき取って塩づけやつくだ煮などにする。果実からはエゴマ*と同様に油がとれ，揚げ油や香りつけなどに使用する。葉の色が緑色の品種のものをアオジソといい，これは花が白色で紫葉のものより香気が強い。葉はてんぷらにしたり，さしみの添え物にされる。アオジソに対して紫葉のものをアカジソとよぶこともある。そのほか，葉に多くのひだがあるチリメンジソやアオチリメンジソなどの品種があり，ともに食用となる。〔小清水義隆〕

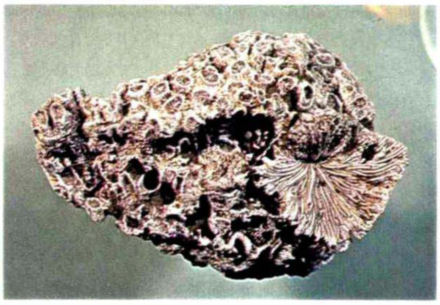
しそう【刺創】 刺し傷ともいう。刀・槍(やり)・きり・くいなど先のとがった刺器によってできるきず。刺入口・刺創管，ときに刺出口がみられる。短刀などの有刃刺器の場合には，刺入・刺出の際に刺創に連続して切創を伴う(刺切創)。刺入口が小さいため外見は小さい傷あとしかないが，重い内部損傷ができることも多い。頸部(けいぶ)では頸動・静脈，胸部では肺・心臓および大動脈，腹部では肝・腎(じん)・脾(ひ)・腹部大動脈や大静脈などの切損を伴うこともしばしばあり，胸・腹腔内などに多量の出血をきたして急死する可能性もある。〔朝倉　了〕

しそう【思想】 ある事がらについての体系的な考え。理知的・理論的な考えのほか，意欲や気分も含まれる。思想の内容には，自然(宇宙)や社会(世界)や歴史や神や人間自身がある。思想は生活に根ざし，体験的・意識的に言語などによって表出される。表出された思想は逆に生活の主体(集団ないし個人)に働き返し，生活体の考え方や行動を将来に向けて導く役目をする。こうして，思想は現実の生活によって生まれ，発展するとともに，生活を変化・発展させる。こうした二重性をもって発展する思想は，歴史的社会生活の歴史の中で，それをになう人間の主体的な自覚作用によってつねに生きつづけ，前進しつづけている。これが思想史といわれるもので，古代・中世・近代・現代の諸思想として段階づけられ，時代と生活様式に応じてそれぞれ特色づけられる。

思想は社会生活の諸活動の領域に応じて，政治思想・経済思想・道徳思想・宗教思想として分化するが，他面人間存在の主体的な自覚によってつねに統括され統一され，本来〈社会思想〉として全般的・体系的に把握されるべきである。また，社会集団が生産関係と生産力の観点から階級的に構成され，社会の史的発展も階級闘争においてみられるときは，思想はイデオロギー*としてとらえられ，思想の党派性とか思想的立場がうんぬんされる。観念論的諸思想はブルジョアジーを表わすもの，弁証法的唯物論はプロレタリアの階級打破のための闘争武器といわれる。思想問題や思想の自由，保守思想と進歩思想などにもそうした意味合いが含まれている。社会集団の考えを代弁したり，あるいはそれから独立して批判的に独自の世界観や人生観を表出したりする場合，そうした代表的・指導的な個人は思想家とよばれる。現代の民主主義社会では人はそれぞれ社会の主人であるべきなのに，現実の事態はむしろ逆に，技術革新に伴って生活の物質化，政治経済機構の機械化がいよいよ進み，各人は自主的判断をもたない衝動的・隷属的な大衆に堕しつつある。すなわち，人は無思想になり，人間性を失い，社会は人間不在になりつつある。ここで人はひとりひとりが本来の思想家となり，思想の自覚作用を発揮して人間性を回復し，社会を人間らしさで満たさねばならない。〔村治能就〕



シ　ソ　チリメンジソ



示相化石　イボヤキ(六射サンゴ)　第四紀氷河時代後の温暖期浅海を示す。千葉県館山市産

しそうかせき【示相化石】 生物の中には生存環境などの条件がきわめて限定されているものがある。造礁性サンゴ・ユウコウチュウ・陸生植物などがそれで，その化石からはその生存当時の海域や陸域の諸条件を推定することができる。このように，地層の堆積(たいせき)当時の諸環境を推定することができる化石を示相化石という。示相化石は示準化石*とともに地史学上きわめて重要である。

しそうこつえん【歯槽骨炎】 歯をささえている歯槽骨の炎症。主として虫歯を介して内部へ化膿(かのう)菌*が侵入することにより起こり，歯根膜炎*から，さらに骨根の周囲の骨へと炎症が波及したものである。症状は，発熱・痛みを伴い，原因となった歯に相当した歯肉が赤くはれ，やがて膿瘍(のうよう)となって切開が必要となる。治療は安静にして冷湿布を施し，抗生物質・消炎剤の内服や注射を行なう。急性炎症がおさまってから，原因となった歯を抜去する必要がある場合が多い。〔成田令博〕

じぞうざき【地蔵崎】 島根県八束(やつか)郡美保関(みほのせき)町に属し，日本海に突出した島根半島東端にある岬(みさき)。沖合いには地ノ御前・沖ノ御前の二つの岩礁があり，岬には1等燈台の地蔵崎燈台がある。岬は断崖(だんがい)をなし，日本海の荒波が打ち寄せて自然美に富み，岬から半島の北側に続く海岸線は出入りが多く，美保ノ北浦の景勝地もあって，大山隠岐(だいせんおき)国立公園に指定されている。

じぞうざき【地蔵崎】 関崎ともいう。大分県の東部，北海部郡佐賀関(さがのせき)町に属し，佐賀関半島の東端にある岬(みさき)。豊予海峡を隔てて四国愛媛県の佐田岬と相対し，瀬戸内海の南西の関門をなす。岬の沖合い約3.5kmのところには高島・牛島があり，岬には関崎燈台がある。

しそうのうろうしょう【歯槽膿漏症】 歯周症ともいう。歯のまわりの組織(歯肉・歯根膜・歯槽骨)が，慢性進行性に破壊されていく病気。虫歯とともに口腔(こうこう)内の二大疾患の一つである。原因はまだ不明な点が多いが，次のようなものが考えられている。口の中の原因では，①歯石やよく合っていない金冠・義歯などによる持続性の機械的な刺激，②食物のかすなどの腐敗発酵による化学的な刺激，③冷熱による刺激，④細菌感染，⑤歯並びの不正や歯ぎしり，⑥かむときに一部の歯ばかりに負担がかかる場合。そのほか，全身的な要素として糖尿病・腎臓病などの新陳代謝(たいしゃ)障害，各種ビタミン・栄養素の欠乏，ホルモンの異常なども重要な因子となる。症状は，歯肉が歯から剥離(はくり)されて深いポケット状の盲嚢(もうのう)が形成され，そこへ細菌が感染して膿汁(うみ)が出るようになる。この状態が長く続くと，歯をささえている歯槽骨にまで炎症がおよび，骨も破壊・吸収されて歯がゆらぎ動くようになる。これは炎症型といって若い人に多く見られる型である。高齢者の場合は萎縮(いしゅく)型といい，歯槽骨や歯肉の退縮がさきに起こり，あとで炎症を伴うものが多い。治療としては，歯石の除去を行ない，清潔に保ち，歯肉に対して刺激となっている原因があればそれを除く。また，盲嚢が深い場合は，内外を搔爬(そうは)したり病的な歯肉の切除を行なう。すでに歯の動揺が著しいときは，抜歯しなくてはならないが，動揺が軽い場合は歯を連結・固定して強化する。その他，一部の歯にばかり負担がかからないようにかみ合わせをなおす必要もあるし，全身的原因があるときには全身療法も必要である。また

家庭では，歯の清潔，歯肉のマッサージ，定期検診などを正しく励行することである。〔成田令博〕

しそうはりあみ【四艘張り網】 敷き網類の一種。4隻の船が適当な間隔を保って定置し，網具全体を水中に敷設し，これらの船から張り綱を用いて，網を操作する。魚が網に乗ったことを確認してから，4隻の船がいっせいに網をたぐり寄せて揚げる。

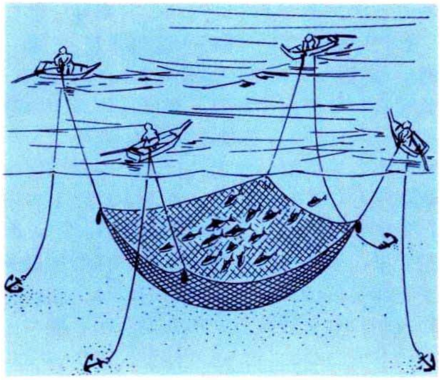
じそうほう【自走砲】 比較的大口径のカノン砲や榴弾砲(りゅうだんほう)を，戦車と同じ車体の上に架設し，野戦における機動集中攻撃に威力を発揮する一種の戦闘車両。第2次世界大戦中に急速に発達し，戦後も各国の陸軍によって装備されている。わが国の陸上自衛隊も105mmと155mmの自走榴弾砲(いずれもアメリカ製)のほか，自走無反動砲その他を保有使用している。

じぞうぼさつ【地蔵菩薩】 菩薩の一。梵語(ぼんご)Kṣitigarbha(クシティガルバ)の訳。〈お地蔵さま〉の名で親しまれている。ブッダが入滅し，弥勒(みろく)菩薩がまだこの世に生まれ出ない，いわば無仏の時代にあって，六道の衆生を救おうとする大悲の菩薩である。その像は比丘(びく)形で，左手に宝珠，右手に錫杖(しゃくじょう)を持つものが多い。中国や日本では古くから盛んに信仰され，〈雨降り地蔵〉〈とげ抜き地蔵〉〈子安地蔵〉など，庶民の切実な願望を反映した地蔵菩薩が全国にたてられた。〔岡部和雄〕

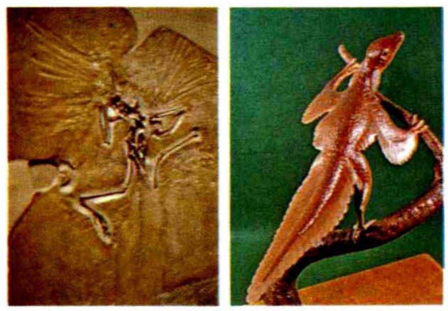
じぞうぼん【地蔵盆】 地蔵菩薩(ぼさつ)を供養する法会。地蔵会・地蔵祭ともいう。中世以降，地蔵には十益・十福があると信じられ，毎月24日を祭日とする地蔵講が組織された。特に盆の終わった7月24日は地蔵盆といい，町内の地蔵尊に供物・燈明をささげて供養が行なわれ，おもに児童の祭りとして年中行事化された。青森県の恐山では，この日にいたこの口寄せが行なわれる。

しそう・りょうしんのじゆう【思想・良心の自由】 内心の自由ともいう。日本国憲法19条は，思想および良心の自由を侵してはならないことを規定している。良心とは思想とわかちがたく結びついている人間の精神作用であるが，より根本的・道徳的なものといえる。外国の憲法では，これを信教の自由と並べ，あるいは信教の自由のかわりに保障していることからも，このように解することができる。国民すべての思想・良心について，国家権力が統制したり処罰することを禁止したものである。したがって第2次世界大戦前にみられたような治安維持法・新聞紙法・出版法などの取締法令は許されない。〔鈴木安蔵〕

しそか【紫蘇科】 双子葉植物・シソ目に属し，世界に約160属3,000種があり，広く分布するが，特に地中海および西アジアに多い。多くは草本，まれに木本。ふつう茎や葉に香気がある。茎はふつう四角形。花は唇形(しんけい)をした合弁花。日本にはタツナミソウ・キランソウ・カキドウシ・ウツボグサなどが山野に自生する。また，シソ・ハッカなどの有用植物やサルビアなどの観賞用植物も多い。



四艘張り網



始祖鳥 (左)化石。イギリス，大英博物館蔵 (右)化石をもとに復元したもの。国立科学博物館蔵

しそく【脂燭】 携行用燈火の一。紙燭(ししょく)ともいう。松の木を長さ40～50cmほどに切って先をあぶってこがし，油を浸ませて，手もとを紙・布などで巻いたもの。また，紙や布を細く巻いてよった上に油を浸ませたもの。平安・鎌倉時代にかけて，夜間殿上の歩行に照明具として用いられたが，あんどん・ちょうちんの普及によってしだいに姿を消した。

しそく【四則】 数や式についての加法(＋)・減法(－)・乗法(×)・除法(÷)の四つの演算の総称。四則演算ともいう。四則については次の基本法則がなりたつ。

交換法則　$a+b=b+a$　$a\times b=b\times a$

結合法則　$(a+b)+c=a+(b+c)$

　　　　　$(a\times b)\times c=a\times(b\times c)$

分配法則　$(a+b)\times c=a\times c+b\times c$

　　　　　$(a+b)-b=a$

　　　　　$(a\times b)\div b=a(b\neq 0)$

四則演算では，加法と乗法が基本になり，分配法則は加法と乗法を結びつける法則である。なお，減法は加法の逆演算として，除法は乗法の逆演算として定義される。

ある種の数や式の集合があって，0(加法の単位元)で割ることを除外すれば，その集合の範囲内で四則演算がつねに可能であるとき，この集合は体をなすという(→群)。たとえば，有理数全体の集合は，0で割ることを除外して，その範囲内で四則演算がつねに可能であるから体をなす。この体を有理数体という。〔杉岡司馬〕

しぞく【氏族】 ⇨うじぞく

しぞく【士族】 明治維新後，旧武士階級に付けられた身分呼称。1869年(明治2)版籍奉還後，旧幕臣・旧藩士および公卿(くぎょう)の下士らを士族と称することとした。初め足軽などの下級武士を卒族としたが，1872年卒族のうち世襲だった者を士族に，ほかは平民として卒族を廃止した。士族の総数は約190万人(1873)。華族に次ぐ身分として平民に優越し，いちおう旧武士の封建的感情を満足させたが，廃藩置県後は秩禄(ちつろく)処分・徴兵令などの公布により生活的特権と家職を奪われたため，不平士族として反政府運動に走る者がつづいた。しかしその半面，誇りと教養を役だたせて各界に頭角をあらわした例も多かった。社会の近代化に伴っていつか有名無実となり，1947年(昭和22)の戸籍法の全面改正で消滅した。〔高崎徳次〕

じそく【磁束】 磁力線の束。厳密には，ある面を垂直に通過する磁力線の数を，その面を通過する磁束という。磁束のMKS単位はウエーバー(Wb)である。単位面積を垂直に通過する磁力線の数は，磁束密度とよばれ，単位は〔Wb/m^2〕である。いま磁束密度Bが，断面Sの法線方向となす角をθとするとき，Sを通過する磁束ϕは$\phi=\int_S B\cos\theta\,ds$の式によって得られる。また，磁束密度$B$と磁界の強さ$H$との間には，物質の透磁率を$\mu$として，$B=\mu H$なる関係がある。〔堀内和夫〕

しぞくじゅさん【士族授産】 明治初期，困窮した士族に生計の途を図った政府の施策。1876年(明治9)政府は家禄(かろく)制度を廃止して，士族に家禄に応じた金禄公債証書を交付したが，金禄公債の年賦償還金や利子では生活するのが困難であったため，大部分の士族は帰農したり，金禄公債を換金して〈士族の商法〉を営んで失敗した。失意の士族のうちには反政府運動に走る者があり，そのため政府は北海道などの開墾移住を奨励し(→屯田兵(とんでんへい))，事業資金の貸付を行なった。商工業における独立経営化はほとんど失敗したが，士族授産が農耕地の増加や近代産業の発展に果たした貢献は高く評価されている。〔高崎徳次〕

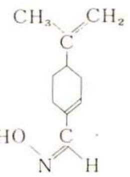
しぞくせいど【氏族制度】 ⇨うじぞく

じぞくみつど【磁束密度】 ⇨磁気誘導

しそちょう【始祖鳥】 中生代ジュラ紀に生存した，鳥類の先祖と考えられる古鳥亜綱の1属。学名アーケオプテリクス。ドイツのバイエルン地方の中生代ジュラ紀後期の石灰岩から発見された2個の標本(1個は大英博物館に，1個はベルリン博物館に保存される)と断片的な化石とが知られているだけである。カラス大で，頭骨は現代の

鳥類に似て平たいが，目は大きく，上下のあごに円錐(えんすい)形の鋭い歯があり，前肢(ぜんし)は翼になっているが,先端になお3本の指を残し，その先端には鋭いつめをもつ。尾は恐龍*(きょうりゅう)のように長い。体は明らかに羽毛におおわれていて鳥であるが，ハチュウ類にも似ている。〔神戸信和〕

しそとう【紫蘇糖】$C_{10}H_{15}ON$　ペリラルチンともいう。アオジソなどから得られる精油のシソ油中に約50%含まれるペリラアルデヒドのアンチオキシムのこと。水に難溶性であるが，その甘味はショ糖の約2,000倍といわれ，サッカリンにまさる。しかし，加熱すると分解してシソ臭を発するため甘味料としての用途には限界があり，菓子などに香料として加えられる程度である。



した【舌】口腔(こうこう)底から口腔に突出し，種々の方向に走る横紋筋*からなる器官。その表面に重層扁平(へんぺい)の上皮組織からなる粘膜をかぶっている。粘膜には味覚器が分布し，筋肉の働きによって食物を混合して咀嚼(そしゃく)作用をし，言語発声の働きに関与しあわせて味覚にあずかるなど重要な機能をもっている。舌筋は内舌筋と外舌筋とに分類され，前者は舌自体にあり，上下に縦舌筋，それにはさまれて横舌筋・垂直舌筋があり，後者にはおとがい舌筋・舌骨舌筋・茎突舌筋が含まれ，それぞれおとがい・舌骨・茎状突起と舌底面をつないでいる。いずれも舌下神経に支配され，随意運動を営む。

粘膜の表面には4種類の舌乳頭がある。①糸状乳頭：舌体背面全体にわたって密生し，表面上皮が角化するため白い粒々が認められる。②茸状(きのこじょう)乳頭：前者より数が少なく,舌体背面に散在し(舌尖(ぜっせん)には多い),角化しないので赤い粒々として認められる。③葉状乳頭：舌の側縁にあって条をなしている。サルやウサギではよく発達している。④有郭乳頭：舌体と舌根部との境界をなす逆V字形の分界溝(こう)の前に1列に並ぶ8～15個の大きな乳頭である。糸状乳頭を除いて，他の3種の舌乳頭には乳頭基部に味蕾*(みらい)が分布している。

胃腸疾患その他の疾病(しっぺい)時に，舌苔(ぜったい)の量・色調に変化が起こるが，原因は不明である。舌の下面の左右に舌下ひだがあり，これは舌下腺(せん)がその下にあるためにできたもので，両側舌下ひだの交点にある舌下小丘には舌下腺管と顎下腺管(→唾液(だえき)腺)が共通に，または独立して開口している。分界溝より後方の舌根部には多数の舌扁桃(へんとう)とよぶリンパ組織があり，また分界溝の角に舌盲孔という陥凹(かんおう)がある。これは胎生期に甲状腺*と連絡する甲状舌管の遺残物で，甲状腺原基が原始口腔粘膜から陥入することによってできることの証拠である。〔幡井　勉〕

したいいきざい【死体遺棄罪】死体・遺骨・遺髪または棺内に蔵置した物を損壊・遺棄または領得する罪。刑は3年以下の懲役(刑法190条)。墳墓を発掘し死体などを取り出して遺棄した場合は，墳墓発掘死体遺棄罪として刑が加重され，3月以上5年以下の懲役に処せられる(刑法191条)。遺棄とは，死体などを他の場所に移して遺棄する場合のほか，死体については，埋葬義務者がこれを放置してその場所から離れ去る場合も含む。なお，死体を土中に埋没しても，法令・慣習などにより定められた埋葬でない場合は遺棄にあたり，また死体には手足など死体の一部を含むほか，胎児の死体でも人体の形を備えたものは含まれる。〔井上公耳〕

したいかいぼう【死体解剖】死体をメスで切開し，体内の状態(構造の異常・病変の有無など)を検索すること。系統解剖・病理解剖・法医解剖の3種に区別される。なお，系統解剖・病理解剖を行なうには遺族の同意が必要である。①系統解剖：医科大学などの医学教育機関で人体の正常構造を明らかにするために行なわれる。②病理解剖：生前の病気の状態を臨床経過・診断と関連させて明らかにするために行ない，将来の診断・治療の参考とする。③法医解剖：法律上または社会上の必要により行なわれるもので，種々の災害事故死・中毒死や一部の急病死・自殺・他殺などを含む変死者についての死因や死亡前後の状況などの究明を目的としている。なお，殺人・傷害致死・業務上過失致死その他の犯罪容疑のある死体については，法に定める鑑定手続きにより行ない，一般にこれを司法解剖*という。これに対して行政上，死因調査・確定のために死体解剖保存法に基づき監察医*によって行なわれるものを行政解剖*という。〔朝倉　了〕

しだいきしょ【四大奇書】中国，明(みん)代につくられた《三国志演義*》《水滸伝*(すいこでん)》《西遊記*》《金瓶梅*(きんぺいばい)》の4編の長編小説をさしていう。

したいきょうちょく【死体強直】死体硬直ともいう。人の死後しばらくは筋肉が弛緩(しかん)しているが，死後2～3時間たつと収縮してかたくなり，一定時間を経て緩解する。強直は下顎(かがく)の関節から始まって足の関節に終わる下行型が多いが，まれには足から始まる上行型もある。強壮な人は強直が強くて長く持続するが，老人・小児・新生児では弱くて早く消失する。夏期には早く出現して早く緩解するが，冬期には発現も緩解も遅れる。強直の成因はもと死後に筋肉内で産生された乳酸*によって筋肉の膨化が起こるためとされていたが，現在ではアデノシン三リン酸*(ATP)の分解に伴って起こると考えられている。〔青木利彦〕

じだいくぶん【時代区分】歴史を考え歴史を認識するための方法として，歴史観などの一定の基準によって歴史の推移を区分すること。歴史は段階的に移り変わるものであるから，その段階の特質を考え，個個の歴史現象をそれぞれの段階に位置づけるのである。時代すなわち歴史的経過の区画は，個別の歴史現象の歴史的意義を考えることにより生まれ，時代区分はすべての歴史的経過を系統的に配列する基準である

世界史で一般に行なわれている時代区分は，古代・中世・近世のいわゆる三分法である。三分法はルネサンス時代のヨーロッパの人文主義者によって生み出され，ドイツのクリストフ・ケラーによって確定された。すなわちルネサンス(近世)から過去を見て，古典時代の文化を理想の時代(古代)とし，その間の時期を退廃と無知の時代，否定さるべき暗黒の時代(中世)としたものである。五分法は三分法の古代の前に原始時代，近世のあとに最近世(現代)を置くものである。発展段階説は経済史学を中心として19世紀後半から発展したものである。この説には，①リストの狩猟状態・放牧状態・農業状態・農工状態・農工商状態の段階概念,②ロッシャーの自然・労働・資本の3要素が支配的役割を果たす3段階の説，③ヒルデブラントの財の配分過程を重視した自然経済・貨幣経済・信用経済の3段階の説,④シュモラーの村落経済・都市経済・領域経済・国民経済の4段階の説，⑤ビュヒャーの採集経済・封鎖的家族経済・都市経済・国民経済の4段階説などの諸学説がある。現代において歴史学の時代区分の主流をなすものは，マルクスの生産様式を基準とする発展段階論である。マルクスは，原始共同体・奴隷制・封建制・資本主義・社会主義の五つの社会構成体を段階的に設定し，これに対応するウクラード(経済制度・経済様式)として原始共同体制・奴隷制・封建制・小商品生産・資本主義を考えた。これにより，三分法は生産力の発展を原動力とする社会構成体発展の段階論として理論的に体系化された。

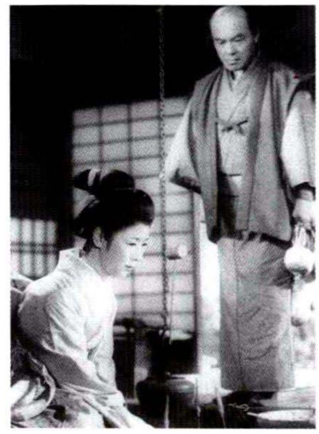
日本においては，13世紀前半の慈円の《愚管抄》から時代区分が行なわれ，のち北畠親房(きたばたけちかふさ)の《神皇正統記》,新井白石の《読史余論》でも時代区分が行なわれている。現在，政治史・社会経済史・文化史などの各領域でそれぞれ独自の時期区分がなされているが，一般的に用いられているのはヨーロッパ史学の時代区分を導入したもので，原始・古代・中世・近世・近代・現代とされている。この中世・近世はヨーロッパ史学における中世である。また発展段階論から，原始共産制社会・古代奴隷制社会・中世封建制社会・近代資本主義社会の時代区分をも用いている。〔松尾　涼〕

じだいげきえいが【時代劇映画】明治維新以前の時代に取材した日本映画の総称。

その大多数は江戸時代，特に幕末，および戦国時代に集中している。平安朝や奈良朝の時代に取材したものもあるが，それらは別に王朝ものとよばれることが多い。時代劇映画の大多数は，武士あるいはやくざを主人公とし，彼らが刀で斬(き)り合いをする場面，すなわち〈チャンバラ〉をおもな見せ場にしているので，剣戟(けんげき)映画・チャンバラ映画ともよばれるが，中には剣戟と関係なく，町人の生活を描いた作品もある。チャンバラ映画の傑作としては，古くは伊藤大輔*(だいすけ)監督の《忠治旅日記》，第2次世界大戦後には黒沢明*監督の《七人の侍》がある。また町人を描いたものには，溝口(みぞぐち)健二*監督の《西鶴(さいかく)一代女》や篠田正浩(しのだまさひろ)監督の《心中天網島》が傑作。日本映画の歴史において，時代劇映画はつねに主流をなし，監督としてはほかに山中貞雄*(さだお)・伊丹(いたみ)万作*・マキノ雅弘(まさひろ)・内田吐夢*・小林正樹*(まさき)・稲垣浩*(ひろし)ら，人気俳優として尾上(おのえ)松之助*・阪東(ばんどう)妻三郎*・大河内(おおこうち)伝次郎・長谷川一夫*(はせがわかずお)らを輩出，日本人の心のふるさとともいえる世界をつくっている。→日本映画　〔佐藤忠男〕

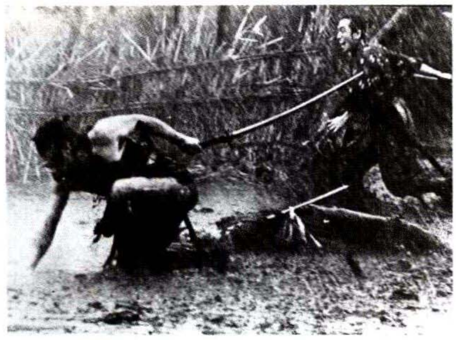
時代劇映画





(左)《大岡政談－魔像》(稲垣浩監督，1938)　時代劇映画のスター阪東妻三郎主演の娯楽映画

(右)《西鶴一代女》(溝口健二監督，1952)　日本人の美意識を古典的な映画世界に結晶した名作



《七人の侍》(黒沢明監督，1954)　力動感あふれる活劇場面によって一時代を画した傑作



《心中天網島》(篠田正浩監督，1969)　江戸時代の町人の世界を現代的な映像美で描いた

したいけんあんしょ　【死体検案書】　医師が，みずから診察していたものでない人の死体に対して，医学的知見を証明する文書。かつて診察したことがあっても，文書作成時に死因*と認められる病歴についての知見が得られないときには，死亡診断書*でなく死体検案書を発行する。書式は死亡診断書に類似する。

したいげんしょう　【死体現象】　生物が死亡すると機能が失われるので，死体は一連の物理的・化学的変化を受けて腐敗し，ついには崩壊する。そしてその間に，死体にいろいろの変化が起こるが，これを死体現象という。比較的早期に発現する早期の死体現象と，長時間を経てから起こる晩期の死体現象とがある。前者は筋肉弛緩(しかん)・皮膚蒼白(そうはく)化・死体冷却・血液就下(死斑*(しはん))・死体強直*・角膜混濁・皮膚変色などがある。後者は腐敗と崩壊が主であるが，特殊な条件下においては死体は崩壊せずに屍蠟*(しろう)やミイラ*のような永久死体となって長く残る。死体現象特に早期の死体現象から死亡時間を推定して，これを犯罪捜査に役だてることが多い。　〔青木利彦〕

じだいとう　【事大党】　朝鮮，李朝(りちょう)末期の政党。第26代李大王(りだいおう)(1852～1919)の王妃(おうひ)閔*(びん)氏一族を中心とし，清(しん)国への臣属化を図る。朝鮮は仁宗(1623～1649)以来，清国に依存する鎖国政策をとっていたが，1876年(明治9)に朝鮮の開国を促す江華条約(日鮮修好条規*)が日本との間で結ばれ，親日的な独立党*が生まれたので，これに対抗しようとして結成された。京城事件*の渦中(かちゅう)にあって両党の対立は続いたが，1884年から1894年，日清戦争直前まで政権を握った。　〔勝村哲也〕

したいはっしょうどう　【四諦八正道】　仏教の根本原理および悟り*への実践の方法を示す基本的教説。諦は梵語(ぼんご)satya(サチャ)，パーリ語sacca(サッチャ)の訳で，根本原理としての〈真理〉の意。八聖道とも書く。四諦は①苦諦(くたい)(現実の世界は苦である)，②集諦(じったい)(苦しみの原因は人人の真理に対する無知や執着などの煩悩(ぼんのう)にある)，③滅諦(真理を知り，執着を断つことが悟りの世界である)，④道諦(悟りの世界に達するための修行方法，すなわち八正道)をさす。八正道は，①正見(しょうけん)(正しく真理を見る)，②正思(しょうし)(正しく道理を思惟(しい)する)，③正語(しょうご)(真実のことばを語る)，④正業(しょうごう)(正しい行ないをなす)，⑤正命(しょうみょう)(正しい生活を送る)，⑥正精進(しょうしょうじん)(悟りに至る正しい努力をする)，⑦正念(しょうねん)(つねに悟りに心を留め，邪念を離れる)，⑧正定(しょうじょう)(心を集中し，精神の統一をなして禅定に入る)をさす。　〔佐藤良純〕

したいふ　【士大夫】　中国の支配階級，中国文化のにない手となった階級。周代の封建制度下では諸侯に仕える者として大夫と士があり，大夫には上大夫・下大夫，士には上士・中士・下士の別があった。上大夫は卿(けい)ともよばれた。身分は世襲で，土地や俸禄(ほうろく)が分与された。春秋時代以降の人材登用によって士大夫の制度は衰え，官職の制度が発達したが，六朝(りくちょう)時代に九品官人法*が行なわれると庶民との間に越えがたい障壁をもつ貴族階級をさすことばとして用いられた。科挙*制度の盛んとなった宋(そう)代以降は儒教的教養をもつ読書人・知識階級を意味し，官僚および官僚であった者，官僚になりうる資格をもつ者の総称とされた。　〔勝村哲也〕

したいふじゆうじしせつ　【肢体不自由児施設】　1947年(昭和22)制定の児童福祉法に基づいて設定された施設。同時に医療法による病院でもある。手足やからだの不自由な児童を治療するとともに，独立自活に必要な知識技能を与えることを目的とする。1968年12月末までに全国で73施設(定員8,383)が設立されており，医療施設と並行して学校教育法に基づく養護学校または特殊学級を併設している。肢体不自由児に必要な医療・機能訓練や，日常の生活指導，学校教育などの社会復帰をも行なっている。また1967年の児童福祉法改正によって，これら児童を国立療養所に委託入所させることができるようになった。　〔松島　浄〕

じだいまつり　【時代祭】　京都市左京区岡崎町にある平安神宮*の祭り。1895年(明治28)平安遷都1,100年を記念して平安神宮が創建されたが，その記念祭の一環として平安諸社が主催して毎年10月22日の神幸祭を中心に時代祭を催すことになった。平安時代から明治時代に至る歴代の風俗の移りかわりを，行列に仕組んで見せ，長さ数キロメートルに及んで風俗絵巻が展開される。

→次ページ(写真)



時代祭

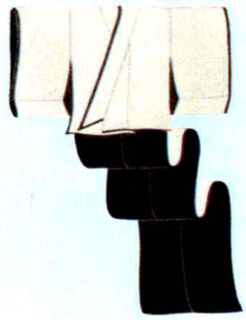
じだいもの　【時代物】　浄瑠璃(じょうるり)・歌舞伎(かぶき)脚本の一種。一般社会に取材した〈世話物*〉に対し，武家・貴族など上層階級に起こった歴史的事件を脚色した作品をいう。狭義には，この中でも，平安朝以前の歴史・伝説を脚色した〈王代物〉，江戸時代の大名の事件を扱った〈お家物*〉に対し，源平時代から大阪の陣までのできごとに取材したもの。《義経千本桜*(よしつねせんぼんざくら)》《曾我(そが)の対面*》などがある。

したいようじ　【視太陽時】　⇨真太陽時

したうけきぎょう　【下請け企業】　⇨次項

したうけせい　【下請け制】　機械工業・金属製品工業など，多数の部品や製品を用いて組み立てや加工を行なう工業部門の大企業が，それらの部品や製品のうちで比較的に加工度の低いものや厳密な規格を要しないものを社外の中小企業に発注したり，生産工程の一部を委託したりする制度。この場合，発注する大企業を親企業，受注する中小企業を下請け企業という。下請け企業がその仕事の一部を再下請けに出すこともあり，このようにして親企業を頂点とするピラミッド型の組織が成立する。親企業からみれば，少量の部品のために設備投資をすることなく，それを専業とする下請け企業に発注すれば生産費を低くおさえられ，また景気変動の際には発注量の増減を通じてその衝撃を弱められる。しかし，製品の質の向上・維持のためには下請け企業の技術も高水準になければならず，その点からも下請け企業を不安定なままに放置することはできない。〔加藤　寛〕

したおび　【下帯】　男子の陰部を包んで腰に結ぶ布。ふんどしともいう。さらしもめんでつくる。六尺ふんどしは並み幅でたけ6尺(220cm)，越中ふんどしは並み幅で120cmのたけの一方に小ひもを縫いつけた形，もっこふんどしは並み幅を二つ折りとしてたけ50cmくらいにたたみ，たけの一方は折り山としてくけつけ，一方につけた小ひもを腰に締め，一端を折り山に通して結ぶ。江戸時代は入浴に下帯を締めたので，湯もじともよばれる。〔堀越すみ〕



下　襲



薄物ひとえの下に透いて見える下着(右2人)　鳥居清長画による



小袖の重ねの下着　鈴木春信画による

下　着

したがさね　【下襲】　束帯のときに半臂*(はんぴ)あるいは袍*(ほう)の下に着る衣。後身は長く，袍の下から出るのがふつうであったが，天皇の用いた下襲を除いて，鎌倉時代以降は腰から切ってすそが別となった。なお，身たけのみのすそも下級の役人の官服にあった。これを纔若(さいじゃく)(わずかにという意)といった。室町時代末期からは下襲を着ないで下襲のえりをつけた大帷子*(かたびら)を着用することもあって，すそをこれに添えた。〔河鰭実英〕

したがり　【下刈り】　林を仕立てる場合，植栽木の生育を妨げる雑草木を刈り払う作業。造林木を生存競争から守り，受光・通風をよくし，水・栄養の争奪を有利にするために行なわれ，林を全面に刈り払ったり，植列に沿って条状に刈ったり，苗木の周囲だけを坪刈りしたりする。苗木が草たけを十分抜くまでの間，年に1～2回ずつ春～夏に実行する。一般に下刈りがまを用いるが，最近は背負い式などの動力刈り払い機や，刈り払い機をつけたトラクターも用いられる。また下刈りに代わって，薬剤で雑草木を枯殺することもある。〔川名　明〕

したぎ　【下着】〔洋服〕上着の下に着るものの総称。保温・衛生などのほかに，上着の形を保つ土台として着くずれを防ぐ役目をする。その種類や着用法は地域の生活環境によって変わりつつあるが，次の3種に大別される。①ファンデーション(補正着)：ブラジャー*・ガーター・ガードル*・コルセット*など。②アンダーウエアー*(はだ着)：ブリーフ(パンティー)・ブルーマース・シャツ*など。③ランジェリー*(装飾下着)：スリップ*・キャミソール*・ペチコートなど。

婦人もので最も一般的な着方としては，まず土台としてブラジャー・ガードル・ブリーフをつけて，その上にスリップを着用する。その他個人差・地域差によってシュミーズ*やシャツを併用する例も多い。材料としては，はだに直接つけるものなのではだざわり・吸湿性のよさがたいせつである。スリップなどやや中間的なものははだざわりもよく上着とのすべりのよいものが好ましい。機能面からは伸縮性のよいメリヤスものがよく，色調としては清潔感などから，白が最も多く使用されているが，上衣の色に合わせたりがら物にしたりして趣味性を満足させるものもある。また，レース*やフリル*飾りなど，表面に現われないところにも装飾性を求める向きもある。〔小池千枝〕

〔和服〕①はだにじかに着るはだ着用と，はだ着と表着(うわぎ)の間に着る間着*(あいぎ)を含めた総称。時代・階層・男女の別によって多くの種類がある。㋑古代～中世：犢鼻褌(とくびこん)・ふもだし・たふさぎ・褌(したのはかま)・大口・汗衫(かんさん)などが庶民の下着であり，公家(くげ)社会の男子のはだ着は後世間着となった単衣*(ひとえ)・帷子*(かたびら)・小袖，間着は礼服*(らいふく)の大袖の下に着る盤領(あげくび)形の小袖に半臂*(はんぴ)・下襲*(したがさね)・衵*(あこめ)・打衣*(うちぎぬ)・単衣・帷子・小袖など。女子のはだ着は単衣・小袖(これらも後世間着となる)，間着は小袖・単衣・打衣・袿*(うちき)・重袿*(かさねうちき)など。これらは奈良時代に唐の衣服から取り入れら

れ，その後気候・風土・住居その他の環境によって国風化したものである。庶民の間でははだ着・間着の分化はほとんどなかった。㋺近世以降：新興武士階級や裕福になった町人などの衣生活が豊かになり，はだ着・間着が大いに分化した。男子のはだ着は下帯・股引(ももひき)・ぱっち・じゅばん・はだじゅばん・半じゅばんなど。明治以降はこれに猿股(さるまた)・ズボン下・腹巻きが加わり，間着は半じゅばん・長じゅばん・胴着・小袖の重ねの下着など。女子のはだ着は二布(ふたの)・きゃふ・ゆもじ・蹴出(けだ)し・腰巻きなどとじゅばん・はだじゅばん・半じゅばん。間着は男子と同様のものに打掛下の下着などであった。

②小袖の重ねの下着：近世以降，小袖が大いに発展し，豪華さを表わすために綿入れ小袖を2枚，3枚，それ以上も重ねて着た。いちばん上のものを表着といい，それ以下に重ねるものを下着という。㋑男子：白無垢(しろむく)の下着を着るのは大名でも総領に限られ，一般武士や裕福な町民は羽二重定紋付きの表着には鼠色(ねずみいろ)無垢か浅黄色無垢を，熨斗目(のしめ)小袖羽二重紋付きの表着には小紋染めの下着を重ねた。初冬10月と初春3月は1枚，11月～2月までの極寒期には2枚重ねるのがならわしであった。2枚の下着は対下着といって同布で仕立てた。㋺女子：男子とは違って白無垢の下着に禁制はなく，広く着られた。特に御殿女中は礼装・日常着を問わず白下着であり，一般でも無地紋付きの表着には白下着がならわしであった。表着が無垢でなく変わりずそのときには下着の裾回(すそまわ)しも表着と同布とする。➔婚礼衣装

〔堀越すみ〕

したきりすずめ 【舌切雀】 動物昔話の一。屋根に干した団子を，爺(じじ)の飼っていたスズメがみんな食べてしまう，おこった婆(ばば)は罰としてスズメの舌を切って放す。山から帰った爺はスズメの宿を捜しに行き，歓迎されてつづらにはいった宝物をもらって帰る。婆がまねてスズメの宿を訪れるが，もらったつづらには化け物がはいっていたという筋。スズメがのりを食べて舌を切られたとか，婆が川で拾ったウリの中にはいっていたスズメがのりを食べたなど桃太郎の話に近いものもあり，類話は全国に多く，鎌倉時代の《宇治拾遺物語》にこれと似た話の〈腰折れ雀〉の話がしるされている。江戸時代には赤本にもなり，よく知られた日本の代表的な昔話の一つである。

〔山路勝彦〕

したじちゅうぶん 【下地中分】 下地相分・下地均分ともいう。荘園(しょうえん)における荘園領主と地頭との争論解決の一方法。鎌倉時代の地頭は幕府権力を背景に武力をたのんで領家の年貢(ねんぐ)の抑留や下地(田畑・山林・塩浜など，すべて収益の対象となる土地そのものをさす)の押領を行ない，









シダ植物 ①マツバラン ②イヌドクサ ③ヒモラン ④カタヒバ ⑤コシダ ⑥サンショウモ ⑦ヘゴ

領家との間に争論が絶えなかった。このような争論を解決する目的で，土地そのものを折半あるいは2対1などの割合で分割して領家と地頭それぞれの領有権を認め，互いに干渉・侵犯せぬようにした。➔地頭請

〔鈴木英雄〕

したじとりょう 【下地塗料】 塗装の際，さび止め効果のため，また付着性を高めたり，被塗面の凹凸(おうとつ)を均一かつ平滑にするために，上塗り塗料の下地として塗布する塗料。プライマー・パテ・サーフェーサーがある。①プライマー：被塗物によく付着し，以後の塗膜の付着性を増し，金属塗装の場合にはさび止めの効果ももつ。②パテ：素地や下地の凹所・くぎ穴・亀裂(きれつ)部分などにへらでつけ，はだなおしを行なうことを目的とする。③サーフェーサー：素地や下地の平滑さの不足を補なうことを目的としており，比較的厚い塗膜をつくるために用いる。いずれも油性系・ラッカー系および合成樹脂系のものがあり，また，水性系や焼き付け形のものもあり，それぞれ用途によって使い分ける。塗装に際しては，まずプライマーを塗り，さらに素材の種類や用途などの必要に応じて，パテづけ・水とぎ・サーフェーサー塗装を行なったのち上塗り塗料を塗装する。

〔鈴木荘司〕

したじまど 【下地窓】 小舞壁下地の一部に壁を塗らないで，そのまま窓の格子(こうし)のように見せかけた窓。実際には小舞壁下地よりは上等な材料を用い，仕事もていねいにする。竹・ハギで格子状につくり，つる草をからませ，また窓には掛け障子，引き障子をつける。茶室・数寄屋(すきや)建築によく用いられる。

しだしょくぶつ 【羊歯植物】 植物分類学上の一門。胞子体(無性世代)と配偶体(有性世代)が独立して存在し，規則正しい世代交代をする植物群である。胞子体は根・茎・葉に分化し，ふつう葉の裏に胞子嚢(ほうしのう)群をつくるが，別に胞子嚢穂をつくることもある。胞子が発芽して生じた配偶体は，胞子体に比してはるかに小さいが，その上に造精器と造卵器ができる。造精器から泳ぎ出した精子は造卵器中の卵に到達して受精し，胚(はい)をつくり，それが生長して胞子体となる。シダ植物の維管束の木部は道管がなく，仮道管だけからなる。維管束が茎から分かれて葉に入る際に葉隙(ようげき)を生じる型(大葉類といい，ほとんどのシダ植物とすべての種子植物が含まれる)と生じない型(小葉類といい，マツバラン・トクサ・ミズニラ・ヒカゲノカズラなどが含まれる)がある。古生代石炭紀に最も栄え，高さ数十メートルに達した種類もあったが，現生種はわずかな木生シダを除いてすべてが草本である。シダの分類は古くから行なわれ，種々の体系が出されているが，マツバラン綱・ヒカゲノカズラ綱・トクサ綱・ミズニラ綱・シダ綱(狭義のシダ類)に大別される。①マツバラン綱：最も原始的な体制をとどめている維管束植物で，根も葉もなく，二叉(にさ)分枝をくり返す茎があり，茎のところどころに3室からなる単体胞子嚢群ができる。デボン紀・ゴトランド紀に栄えたが，現生のものは2属数種にすぎない。②ヒカゲノカズラ綱：根・茎・葉があり，小葉類。胞子葉は枝の先端に密に集まり，その上に胞子嚢をつくる。同形胞子をつく

る群(ヒカゲノカズラ科)と異形胞子をつくる群(イワヒバ科)とがある。③トクサ綱：真の根・茎・葉があり，茎は緑色の円筒状で関節構造をなし，中空で外面に縦の隆起があり，ケイ酸を多量に含んでいる。葉はかっ色の小さな鱗片(りんぺん)状で，節部につく。石炭紀に非常に繁茂したが，現生種は30種程度である。④ミズニラ綱：水中にはえ，塊状の根茎から線形の長い葉が束になって出る。葉の長さは20～60cmになる。小葉類。葉の基部は急に広くなっており，その内側に胞子嚢ができるが，大胞子嚢と小胞子嚢の区別があり，前者は外側の葉に，後者は内側の葉につく。⑤シダ綱：最も進化したシダ植物。葉は大形で，大葉類。葉はさまざまの形に分化している。胞子嚢は葉の下面にでき，集まって胞子嚢群をつくる。胞子嚢群は円形・線形など種々の形をしており，分類の基準となる。胞子は同形で，発芽すると心臓形の配偶体(前葉体)となる。現在，地球上に約175属9,300種が知られており，大部分が陸生であるが，デンジソウ・アカウキクサ・サンショウモなどの水生シダもある。〔加藤僖重〕

したてまわし 【下手回し】 ⇨上手回し

したどりせいど 【下取り制度】 顧客が使用しているある品物をある特定の値段で引き取ると同時に，同じ使用目的・用途の新製品を販売するシステム。技術革新の進展がめざましく，新製品の開発が急速に進行している時代における企業戦略の一つである。1900年初頭のアメリカの自動車産業の興隆とともに始まったもので，新製品の開発や販売競争の激しい耐久消費財(ミシン・電気製品・自動車など)部門によく見受けられる。この制度の長所としては，顧客は耐用年数に近づいた商品と引き換えに新品を割安に購買できること，企業側は顧客の買い換え需要を刺激して販売増進を果たすことができること，下取り品の再生によって潜在需要を開拓できること，などがあげられる。〔清水　晶〕

ジダノフ 〔Zhdanov〕 ソ連，ウクライナ共和国南東部ドニエック州のアゾフ海に臨む都市。人口46万7,000(1976)。旧名はマリウポリで，現市名は政治家ジダーノフの


シタバガ　オニベニシタバ

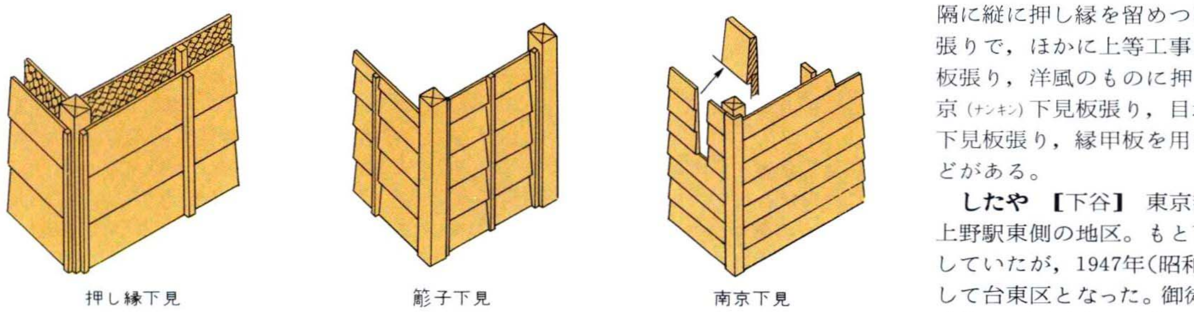
生地にちなんで1948年に改称されたもの。製鉄・冶金(やきん)・機械・化学などの工業があるほか，冶金研究所が置かれている。この地方の重要な港で，アゾフ海対岸のケルチ付近に産する鉄鉱石の移入と，ドネツ炭田の石炭積み出しが行なわれる。

したばが 【下翅蛾】 こん虫類・鱗翅(りんし)目・ヤガ科・シタバ属に属する一群のガの総称。広義にはシタバガ亜科に属するガの総称。シタバ属は，ユーラシア大陸の中北部および北アメリカ大陸に多数の種が知られており，日本からも30種ほど発見されている。中～大形の種が多く，翅(はね)を広げた長さが100mmを越えるものもある。いずれの種も，前翅は樹皮やコケによく似た色彩と模様をしているが，後翅は紫・白・赤・橙黄(とうおう)・黄などの地色に黒色の条紋をもつ美しい種類が多いので，シタバ(下翅)の名がある。日本では北海道と本州の山岳地帯に種類が多く，四国・九州では少ない。7～9月に出現する種類が多く，発生は年1回，冬は卵で越すと考えられている。成虫は，昼間は薄暗い林の中や人家の軒下などに静止し，夜間に熟した果実や樹液などに集まり，燈火にもよく飛来する。静止時には前翅が後翅をおおうため，樹皮やコケに酷似していて発見しにくい。ムラサキシタバ・シロシタバ・オオシロシタバ・ベニシタバ・オニベニシタバ・キシタバ・コガタキシタバなどが日本産の代表的な種類である。シタバ亜科にはきわめて多くの群が含まれて広義のシタバは著しく多様な群となっている。トモエガ類・アケビコノハ類・クチバ類・エグリバ類・キリバ類およびアツバ類の一部などが含まれる。〔鈴木邦雄〕

したびらめ 【舌鮃】 硬骨魚類・ウシノシタ科およびササウシノシタ科の総称。体は長楕円(ちょうだえん)形で，尾部のほうが細くとがり，大いに側扁(そくへん)する。カレイ目に属し，マガレイ・ヒラメなどと同時に海底に側面(ウシノシタ科では右側面，ササウシノシタ科では左側面)を下にして生活する。ササウシノシタ類には美味な種類がないが，ウシノシタ科には美味なものが多く，アカシタビラメ・クロシタビラメ(クロウシノシタ)の両種は産額も多い重要な食用魚である。アカシタビラメは30cmほどになり，有眼側は赤かっ色で，無眼側は白色。有眼側の中軸行と背辺と腹辺とにそれぞれ1本ずつ側線が走る。日本全土・台湾・中国南部などに分布し，表皮を取り除いてフライ・ムニエルなどにする。クロシタビラメは40cmほどになり，有眼側は黒かっ色，無眼側は白色であるが，黒色のひれで縁どられる。有眼側は櫛鱗(せつりん)で，無眼側は円鱗，アカシタビラメと同様に3本の側線が有眼側にある。日本全土・朝鮮半島・中国南部に分布する。食味は前種より著しく劣る。シタビラメ類はヨーロッパでも珍重され，イギリス海峡のシタビラメ料理は有名。〔菅野　徹〕

しだほせん 【私拿捕船】 絶対主義時代に盛んに行なわれた公認の海賊船。一国の政府が敵国の通商貿易を破壊する目的で，民間の武装船に免許状を与え，個人の責任で相手国の商船を捕獲することを認めたもので，16～17世紀にイギリスやオランダがスペインの海上勢力を打破するために利用した。1570～1572年エリザベス1世*の免許を得たドレーク*の私拿捕船が西インド諸島に遠征し，スペインの銀船隊を襲撃したのは有名。

したみいたばり 【下見板張り】 板張りによる外壁仕上げの一種。細長い板を横に使い，おのおのの板が少しずつ重なり合う(羽重ね)ように張り上げたもの。木構造の外壁では，この下見板張りが最も自然で，施工が容易であり，経済的で断熱性にすぐれるが，延焼火災に対しもろい。最も多く用いられているのが下見板の上から45cm間隔に縦に押し縁を留めつけた押し縁下見板張りで，ほかに上等工事に簓子(ささらこ)下見板張り，洋風のものに押し縁を用いない南京(ナンキン)下見板張り，目地をつけた箱目地下見板張り，縁甲板を用いた縁甲板張りなどがある。〔神山幸弘〕



下見板張り

したや 【下谷】 東京都台東区の西半部，上野駅東側の地区。もと下谷区として独立していたが，1947年(昭和22)浅草区と合併して台東区となった。御徒町(おかちまち)は江戸時代に下級武士の屋敷があったところで，谷中には寺が多く，根岸は江戸中期から谷

文晁(ぶんちょう)・大田南畝(なんぽ)などの文人が多く住み，鬼子母神(きしもじん)と朝顔市で知られる入谷，樋口一葉(ひぐちいちよう)の《たけくらべ》の舞台となった龍泉(りゅうせん)寺のほか，不忍池(しのばずのいけ)・広小路・池之端(いけのはた)・車坂・金杉(かなすぎ)・三ノ輪などの町々を含む。〔浅井得一〕

シタール［sitar］北インドの代表的な撥弦(はつげん)楽器。ペルシアのセタール(リュート系の3弦の撥弦楽器)がインドに渡って改良されたもので，長いさおと小さな胴をもち，しばしばヒョウタンの共鳴胴がつけられる。標準的なものは7本の金属弦をもち，4度・5度関係に調弦される。他に12～13本の共鳴弦をもつ。多数のフレットがあり，フレットは可動のものもある。左指にやし油をつけて弦を押え，右手の人差し指につけた金属のプレクトラム(つめ)で奏する旋律楽器である。代表的な演奏家にシャンカールがいる。〔山口　修〕

しだれざくら【枝垂桜】⇨サクラ

しだれやなぎ【枝垂柳】双子葉植物・ヤナギ科。中国原産の落葉高木で，高さ5～10m。街路樹や庭木として古くから用いられる。細い枝が長くたれ下がる。葉は互生し，披針(ひしん)形で，長さ5～15cm，幅5～12mm，細かい鋸歯(きょし)がある。表面は光沢があるが，裏面は白色である。雌雄異株で，3～4月に葉に先だって，短枝に長さ2～3cmの黄緑色の花穂をつける。

したん【紫檀】双子葉植物・マメ科。インド南部からセイロン島にかけて自生する常緑高木で，高さ6～10m，幹の直径40～60cm。葉は互生し，3小葉(まれに4～5小葉)からなる。各小葉は楕円(だえん)形～円形で，3～10cm，表面には光沢があり，裏面には灰白色の毛が密生する。花は黄色で赤色の条があり，葉腋(ようえき)および枝先に10花前後からなるふさをつける。果実はほぼ円形で平たく，まわりは大きな翼で囲まれ，中に1～2個の種子がある。材には紅色色素サンタリンを含み，羊毛や皮を染めるのに用いられた。材はかたく，木目も美しいので建築材・工芸材に利用される。

しだん【師団】陸軍の編制上の基本的な一単位。ナポレオンが数個師団をもって軍団を編制するまでは，師団が国軍統帥上の最大単位であった。近代軍建設当時の師団は，歩兵2個連隊からなる旅団を2個合わせて基幹としたが，第1次世界大戦以後各国の軍隊は旅団を廃し，歩兵3連隊を基幹とする3単位制をとるようになった。日本陸軍の師団は，指揮連絡・経理衛生の各機関を備える諸兵連合部隊であり，戦略単位部隊とよばれた。➔旅団　➔作戦

じだん【示談】民事上の紛争について裁判外で当事者が和解*または仲裁*によって解決を図ること。自動車事故における被害者と加害者の間にはたとえば損害賠償や慰謝料*について示談の行なわれることが多い。しかし，示談の法的効力については，示談成立時の当事者の判断や予測可能性，第三者の介入などが問題になる場合も多い。



シダレヤナギ



シチー　古い建物と狭い道路のシチーの一角。銀行や証券取引所など金融関係の店舗が多い。この地域をはずれると高層建築が建つ。

シチー［City］シチー-オブ-ロンドンともいう。イギリスの首都ロンドンの中心地区で，ロンドン発祥の地。面積2.5km^2。紀元43年に侵入したローマ人が，テムズ川北岸の洪水から安全な低い丘陵を城壁で囲み，ロンジニウムと称したのがはじまりである。今日のロンドンはこれを中心に周辺の28区から構成されている。現在，銀行・保険会社などが多いビジネスセンターとなっており，夜間人口は約5,000であるが，昼間人口は50万を数える。〔梶川勇作〕

シチェチン［Szczecin］ポーランド北西部，ドイツとの国境に近いオーデル川河口にある港市。人口37万3,000(1976)。ステッチンともいう。バルト海の重要港の一つで，スカンジナビア半島との取引が多く，また運河でベルリンと結ばれている。チェコスロバキアなどへの貨物も扱い，石炭・木材を積み出す。また，造船・毛織物・パルプ・精糖などの工業も盛ん。起源は11世紀ごろのスラブ人の集落で，中世にハンザ同盟*都市の一つとして活躍した。1648年のウェストファリア条約でスウェーデン領となり，1720年プロシア領となってからはベルリンの外港として栄えたが，古い建造物は第1次・第2次世界大戦の戦火で消失してしまった。〔梶川勇作〕

シチェドリーン　⇨サルトゥイコーフ-シチェドリーン

しちおうこく【七王国】アングロ-サクソン人がイングランドに侵入後に建設した七つの王国。北より，ノーサンブリア・マーシア・イースト-アングリア・エセックス・ウェセックス・ケント・サセックスをいう。6世紀後半から9世紀初頭まで，これら諸部族国家は覇権(はけん)をめぐって相互に抗争し，一国が興隆するとしばしば他の諸国はその宗主権のもとに置かれるという事態がくり返された。七王国はいずれもローマ-カトリック教を信仰し，キリスト教文化を発展させた。9世紀初頭エセックス王エグバートによりほぼ統一された。

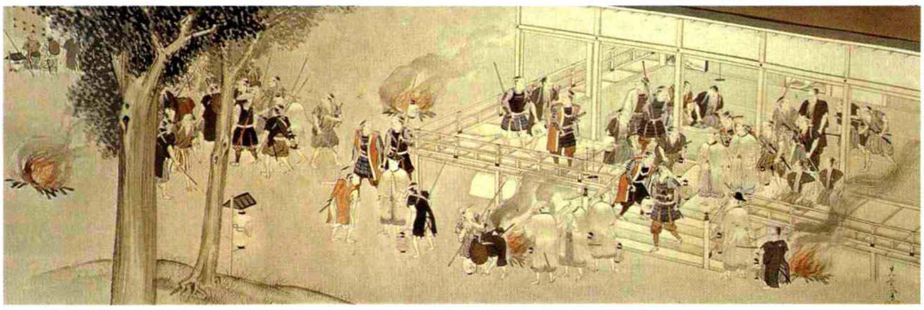
しちかくし【七覚支】仏教で悟り*への到達を助ける七つの方法。①念覚支は心にはっきり覚えて忘れぬこと，②択法(ちゃくほう)覚支は真の教えを選び，偽の教えを捨てること，③精進覚支は心を打ち込んで休まぬこと，④喜覚支は真の教えを得て喜ぶこと，⑤軽安(きょうあん)覚支は心身ともに快適なこと，⑥定覚支は心を集中して乱れぬこと，⑦捨覚支は心の固まらぬことをいう。

しちがつおうせい【七月王政】1830年，七月革命*によって成立したルイ-フィリップ*の立憲王政。大市民・大地主が社会の支配権を握り，有権者が国民の1%にも満たない極端な制限選挙を行なった。1840年代はギゾー*が政局を指導したが，買収によって議会を支配して金権政治を行ない，外交でも東方問題でフランスの孤立化を招いて失政を重ねた。当時フランスの産業革命は急速な展開をみせ，その結果中小市民の経済的実力が向上し，彼らは選挙権を要求して七月王政に反抗した。一方，労働者も社会主義の刺激を受けて七月王政に対立し，1848年このような反政府運動は二月革命*となり，ルイ-フィリップは退位して七月王政は崩壊した。〔大野慎一郎〕

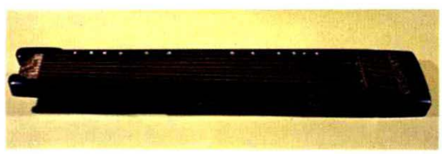
しちがつかくめい【七月革命】1830年フランスの復古王政を打倒した市民革命。ナポレオン没落後のルイ18世の復古王朝は，アンシャン-レジーム*復活を望む旧貴族・高僧と，ナポレオン戦争*に疲れて社会の安定を求める市民階級との妥協の上に成立した。しかし，秩序回復による商工業の発展は市民階級の活動を活発にし，これに脅威を受けた旧貴族・高僧の反動攻勢を招いた。1824年ルイ18世没後，超王党派首領シャルル10世*が即位して極端な反動政治となり，市民階級を中心に反政府運動が高まった。1830年3月議会は反動ポリニャック内閣不信任を決議，これに対し総選挙を行なって敗れた政府が，アルジェリア遠征の余勢をかって抑圧に乗り出したため，7月パリに小市民・労働者・学生の暴動が起こり，シャルル10世はイギリスに亡命して復古王政は崩壊した。小市民以下は共和政樹立を望ん



七月革命
7月28日，ローアン街で王党軍と戦う民衆
カルナバレ美術館蔵



七卿落《七卿落図》高知青山文庫蔵



七弦琴 武蔵野音楽大学楽器博物館蔵

だが，革命の激化を恐れた大市民の策動により，オルレアン家ルイ-フィリップをいただく立憲王政が成立。革命の結果アンシャン-レジーム的要素が一掃されてフランスに市民社会が成立した。その影響でベルギーの独立，ポーランドの反乱，ドイツ・イタリアの国民主義運動が起こり，ウィーン体制の崩壊をもたらした。〔大野真一郎〕

しちきょうおち【七卿落】幕末，三条実美(さねとみ)ら7名の公卿(くぎょう)が長州藩へ脱走した事件。文久3年8月18日の政変で，公武合体派の工作により尊王攘夷(じょうい)派勢力は一挙に失脚。同日実美ら尊攘派の公卿7名は長州藩士・尊攘派志士と洛北(らくほく)の妙法院に集結。その数2,600余名に及んだが，軍議の結果長州に下って再挙をはかることに決した。三条実美・三条西季知(すえとも)・沢宣嘉(のぶよし)・東久世通禧(ひがしくぜみちとみ)・四条隆謌(たかうた)・錦小路頼徳(にしきのこうじよりのり)・壬生基修(みぶもとなが)の7名の公卿は，翌19日早暁豪雨の中を長州藩士・志士らに守られて徒歩で大阪に至り，海路長州に向かった。その後七卿は官位を奪われたまま長州藩地および太宰府に滞在して時運の進展をはかった。1867年(慶応3)王政復古とともに復位，入京が許された。〔高崎徳次〕

しちく【紫竹】単子葉植物・イネ科。ハチクの変種。全体に小形で，観賞用または細工用として栽培する。稈(かん)は中空で直立し，円筒形で径2～5cm。1年めは緑色であるが，2年めに黒紫色が加わり，最後に純黒色となるのでクロチクともいわれている。

しちけん【質権】債権者が，債権の担保として債務者または第三者から受け取った物を債務が弁済されるまで留置し，債務の弁済がなければこれを競売にして，その代金によって他の債権者よりも優先的に弁済を受けることを目的とした担保物権をいう(民法342条)。質権の目的物(質物)は譲渡性のある物または財産権に限られ(民法343条)，その種類によって動産質・不動産質・権利質に分けられる。質権を設定するにはその目的物を引き渡さなければその効力を生ぜず(民法344条)，しかも，質物を質権設定者に代理占有させることは禁止されている(民法345条)。したがって，金融の手段としての担保物権である点では抵当権と類似しているが，抵当権が目的物を抵当権設定者のもとにとどめ，その使用・収益を許すのに対し，質権は目的物を質権設定者から取り上げ，その使用・収益を禁ずるところに差異がある。そのため，債務者がそれを使用して収益をあげる工場・貸し家・生産設備などについては抵当権が利用されることになる。質権者は不動産質を除くほか(民法356条)，原則として質物を占有するだけで，みずから使用・収益をなすことができず，ただその果実を収取して弁済に充当することができるだけである(民法350条)。債務の弁済がなければ質物の価値から優先弁済を受けることになるが，それには競売法の規定によらなければならない。債務者が弁済期間の特約によって債務不履行の際に弁済として質物の所有権を債権者に取得させることを約束(流質契約)しても，またその他法律に規定した方法によらないで質物を処分することを約束しても無効である(民法349条)。ただし，商法上の質権については流質契約が認められている(商法515条)。質権はまた，質権設定者の承諾がなくてもこれを他人に質入れ(転質)することができるが，それがために生じたいっさいの損害の責任は負わねばならない(民法348条)。〔黒木三郎〕

しちげんきん【七弦琴】中国に古代から伝わる弦楽器で，琴(きん)ともいう。箏(そう)より小形であるだけでなく，音高を定める柱(じ)がなく，勘所を左手で押え，右手で奏する。日本には奈良時代に伝えられ，平安時代にはよく使われたと思われる。しかし，いったん衰え，江戸時代に明(みん)の僧侶(そうりょ)心越(しんえつ)によって再輸入された。中国古代から聖人の楽器といわれていたこともあって，江戸時代には武士階級に多くの愛好者がいた。〔徳丸吉彦〕

しちごさん【七・五・三】11月15日に，5歳の男児，3歳・7歳の女児を神社に参詣(さんけい)させる祝い。関東地方で多く行なわれる。江戸時代の武家社会において男児5歳の祝いを袴着(はかまぎ)，女児7歳の祝いを帯解(おびとき)と称して祝ったが，現在でも長野県では〈おびむすび・おびとき〉と称して3歳の子が新しい帯をつけて宮参りをする風がある。今日のように独立した祝いとしたのは江戸時代の武家に発したもので，11月15日が選ばれたのはその日が氏神祭りの日だったからである。児童の成長のたいせつな折りめに氏神に守護を祈願し，かつ社会の成員としての地位(氏子帳に登録するのは3歳で，7歳を境にして氏子集団に再加入する)を周囲から認めてもらおうというのが，この行事の本来の趣旨であった。〔渡辺欣雄〕

しちごちょう【七五調】日本の詩歌の基本的な調子の一。7音の句に5音の句が続くことによって生ずる。五七調より遅れて現われ，平安期以後から明治期の新体詩に至るまで広く用いられてきた。重厚荘重な五七調に比べ，優美・軽快である。

しちしとう【七支刀】奈良県天理市の石上(いそのかみ)神宮に蔵する宝刀。中央の鋒(ほう)と3本ずつ左右交互に突出した刃先と合わせて7本の鋒をもつのでこの名がある。七枝刀(ななさやのたち)ともいう。刀身部の両面に金象眼で泰和4年(369)に百済王(くだらおう)が

倭王(わおう)のためにつくったとしるされ，両国の国交開始の時期について重要な手がかりとなる。国宝。

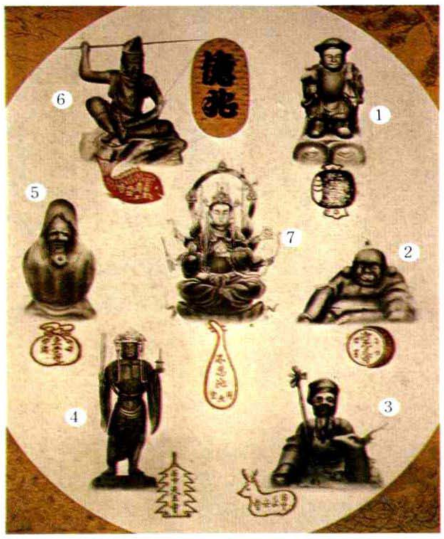
じちしょう【自治省】 地方自治・公職選挙・消防に関する事務を取り扱う国の行政機関。第2次世界大戦後内務省の廃止に伴い，内務省の外局であった総理庁(のち総理府)自治課が1949年(昭和24)地方自治庁，1952年に自治庁として独立，1960年7月自治省に昇格した。おもな業務は，①地方自治・公職選挙の諸制度の企画・立案・指導監督，②国と地方公共団体との間の，また地方公共団体相互の連絡調整，③消防事務の処理である。組織は内部部局として官房のほか，行政・選挙・財政・税務の4局からなり，外局として消防庁，付属機関には地方財政審議会・中央選挙管理会・自治紛争調停委員会・自治大学校などがある。〔寺尾方孝〕

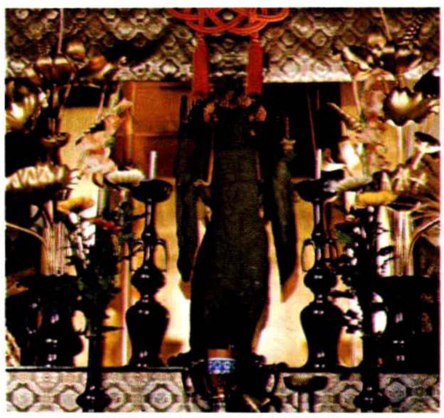
じちしょくみんち【自治植民地】 北アメリカ大陸のイギリス植民地中，植民地人の自治によって統治されたロード-アイランド・コネチカット両植民地。ロード-アイランドは，自由主義的教義によって神政政治の苛酷(かこく)なマサチュセッツ湾植民地から追放された牧師ロジャー-ウィリアムが1636年に建設し，1663年国王特許状で承認された。コネチカットは，信教の自由を求めてマサチュセッツを去った牧師トーマス-フーカーによって1636年に建設され，1662年国王特許状で承認を得た。いずれも政教分離の原則を確立したほか，人民主権の原則を打ち立て，総督・参議会議員など公務員の選出権，公務員の権限を制限する権利の承認によって政治の人民的管理を実現した。特に議会運営を規定した1639年の〈コネチカット基本法〉は近代的民主主義の最初の成文憲法として知られ，アメリカ-デモクラシーの発祥地をここに求める学者もいる。〔折井一彦〕

しちせい【七声】 ⇨五声

シチトウイ【七島藺】 単子葉植物・カヤツリグサ科。リュウキュウイともいう。熱帯から亜熱帯の塩水と淡水の混じる泥海に広く分布する多年草で，古くから中国・沖縄諸島や日本の西南部で栽培された。根茎は黒かっ色で長く伸び，ところどころから稈(かん)を直立させる。稈は高さ1〜2m，緑色，平滑で，断面は三角形。葉はさや状に退化し，茎の下方を包む。晩夏に，茎頂の包葉の間に花穂をつける。茎を裂いてよく乾燥させ，畳表・ござ・はなむしろ・かご・かます・ぞうり表・製紙原料などに用いる。イグサ科のイ*からつくったものよりも外観は悪いが，耐久力が大きい。

しちどうがらん【七堂伽藍】 堂塔殿舎をそなえている仏教の大寺院のこと。堂舎の数は7に限らず，大伽藍の意。起源は明らかでないが，江戸時代に一般化したことばらしい。ふつう七堂伽藍とは，金堂*・塔*・講堂*・鐘楼*・経蔵・僧坊・食堂*(じきどう)をいうが，宗派によって名称・種類が異なる。法相宗(ほっそうしゅう)では，金堂・講堂・山門*・塔・左堂・右堂・浴室，真言宗では，金堂・講堂・灌頂堂(かんじょうどう)・大師堂・経堂・大塔・五重塔*をいう。また天台宗では，中堂・講堂・戒壇堂・文殊楼(もんじゅろう)・法華堂・常行堂・双輪堂，禅宗では，仏殿・法堂・僧堂・庫裏*(くり)・三門*・西浄・浴室とさまざまである。➔伽藍配置〔玉山成元〕





七福神 (上)谷中七福神の色紙 東京都台東区谷中天王寺蔵 ①護国院の大黒天 ②御花見寺の布袋 ③長安寺の寿老人 ④天王寺の毘沙門天 ⑤東覚寺の福禄寿 ⑥青雲寺の夷 ⑦不忍池弁天堂の弁才天 (下)天王寺の本尊の毘沙門天

しちねんせんそう【七年戦争】 1756〜1763年，オーストリア・フランスとプロイセン・イギリス間の戦争。オーストリア継承戦争*でシュレジエンを奪われたマリア-テレジア*は，プロイセンに復讐(ふくしゅう)を企ててフランスと同盟した。これに対してプロイセンは，当時植民地戦争でフランスと対立していたイギリスと結んだ。プロイセンのフリードリヒ2世は一時オーストリア・フランス・ロシアの攻撃を受けて苦境に立ったが，北アメリカ・インドにおける戦いにイギリスが勝利を収め，ロシアのピョートル3世が即位してプロイセンと和したので，1763年フベルトゥスブルク条約*により終戦となった。プロイセンはシュレジエンを確保してオーストリアに比肩する地位*を固め，イギリスはフランスとパリ条約*を結んで北アメリカ・インド植民地を奪取し，植民地戦争における勝利を決定した。〔大野慎一郎〕

しちはかせじけん【七博士事件】 日露開戦前夜，東京帝国大学教授を中心とする7人の博士が日露開戦を唱えた事件。1903年(明治36)6月富井政章(まさあき)・戸水寛人(ひろんど)・寺尾亨(とおる)・高橋作衛・中村進午・金井延*(のぶる)・小野塚(おのづか)喜平次が桂(かつら)首相を訪問し，日露開戦を主張する意見書を提出した。当時，ロシアの満州進出に対し，日本国内では対露政策が硬軟両論に分かれ，激しく論争されていた。意見書は公表されて世上の話題となったが，この主戦論は政府にとって対露外交上有利な材料となった。なお，講和にあたってもポーツマス条約*反対を唱えたため，1905年戸水らは処分された。➔戸水事件〔高崎徳次〕

しちぶきんつみたて【七分金積立】 江戸時代，老中松平定信(さだのぶ)が寛政の改革*の一つとして実施した政策。1791年(寛政3)定信は江戸の地主が負担していた町入費の節減を命じた。町入費は町費のことで，祭典費・消防費・道路修繕費などにあてられていた。はじめは，減額分で地主に地代・店賃(たなちん)を引き下げさせようとする低物価政策として発案されたが，実際には社倉*設立の備荒政策(➔備荒貯蓄)に変わった。すなわち，減額分の2割は地主手取り分，1割は町入費分とし，残りの7割を積立金として災害・凶作の際に江戸の窮民に米や銭を与えることにした。この積立金で米穀を買い入れ，保管する事務所として江戸町会所が設立された。はじめ江戸市民に不評判であったが，のちに多くの窮民を助け，明治維新後東京府に引き継がれた額は170万両に達し，東京府庁・市役所の建造，養老院の設立，大橋の架橋などの資金となった。〔高崎徳次〕

しちふくじん【七福神】 福徳をもたらすという7神。今日では一般に，大黒天*・夷(えびす)(恵比寿*)・弁財(才)天*・毘沙門天*(びしゃもんてん)・寿老人*・布袋*和尚(ほていおしょう)・福禄寿*(ふくろくじゅ)をいうが，時代により福神に対する観念の違いがあり，その組み合わせも異なり，鍾馗*(しょうき)・吉祥天*・猩々*(しょうじょう)などを入れることもあった。その発生はおおむね室町時代末期以降の遊戯的俗信によるものと思われ，その数も〈七難即滅・七福即生〉などのめでたい句にならったものらしい。江戸時代中期以降，正月3日に行なわれる七福神参りが江戸で流行して一般化し，正月2日の宝舟*の習慣なども生じ，七福神は吉兆の象徴として，絵画や彫刻の題材となり，庶民と親しい存在とな

った。〔渡辺欣雄〕

しちぶしゅう【七部集】⇨俳諧(はいかい)七部集

しちぶつ【七仏】釈迦牟尼仏(しゃかむにぶつ)(ブッダ)以前に出生した仏。過去七仏ともいい，毘婆尸仏(びばしぶつ)・尸棄仏(しきぶつ)・毘舎浮仏(びしゃふぶつ)・拘留孫仏(くるそんぶつ)・拘那含牟尼仏(くなごんむにぶつ)・迦葉仏(かしょうぶつ)，および釈迦牟尼仏の7仏をいう。漢名は梵語(ぼんご)の音訳で，伝訳により小異がある。七仏信仰はインドでもかなり古くからあったらしく，重罪を除き，功徳は広大と信じられた。前の3仏は遠い過去(荘厳劫(そうごんこう))の仏，あとの4仏はそれに続く現在に近い賢劫の仏とされる。〔平井宥慶〕

しちみとうがらし【七味唐辛子】⇨七色とうがらし

しちめんざん【七面山】山梨県南部，富士川右岸の身延山地にあり，標高1,982m。身延山と谷を隔ててその西にそびえる。赤石山脈の前山の一部にあたり，古生層からなり，山頂部東面に七つの崩壊壁をもつのでこの名がある。身延山とともに日蓮宗(にちれんしゅう)の霊場で，北側山腹に道場がある。

しちめんちょう【七面鳥】鳥類・キジ科。肉用の家禽(かきん)で，北アメリカ南部などに生息する野生種を家禽化したもので，コロンブスがアメリカ大陸を発見したときにはすでに家禽化していたといわれる。野生種は夏には3,000m以上の高山に移動するが，秋には低地に下り，地上に30個内外の卵を生み営巣する。原産種がイギリスに輸入され，さらにアメリカに逆輸入されて改良され，今日に至ったといわれている。代表的な品種にはB. B. ブロンズ(胸広シチメンチョウ)とベルビル-スモールホワイトがある。前者は，羽色は青銅色で光沢があり，大形で，雄は16kg，雌9kg，雛(ひな)の初期における成長はきわめて早いのを特徴とする。後者は，アメリカのベルビル中央農業研究所でつくりだされた小形種で，羽色は純白，顔・あしは薄桃色，体重が市場販売に手ごろなことから，現在アメリカでは大半が本種となっている。一般にシチメンチョウでは雌雄の体重の差異が大きく，交尾の際に雌が傷つくことが多いので，雌には大形のものを，雄には小形のものを選んで交配するか，人工授精を応用するのがよいとされている。〔一戸健司〕

しちや【質屋】物品(動産)を質(→質権)に取り，金銭を貸し付ける庶民金融機関。鎌倉時代に質営業を専門とする業者が出現し，室町時代には土倉・土蔵とよばれるようになり，江戸時代に質屋という名称が生まれた。質屋営業法(1950)によれば，流質最低期限は3か月であり，他の法律で金利は最高日歩30銭に制限されている。民営のほかに地方公共団体・社会福祉法人の経営する公益質屋があるが，所得水準の上昇にしたがって，現在では利用者が減少している。〔速水　保〕



シチメンチョウ

しちや【七夜】出産してから7日めに行なう祝い。産婦および夫が産後守らなければならないいろいろな禁忌が，この日に晴れたり，または弱まる一段階となることが多い。この日，赤子をはじめてうぶ屋から出して，家の神々にお参りさせる地方がかなりある。一方，この日を名付け祝いと称して，生児の名を祖母とかおばにあたる親族や，名づけ親によって命名の儀礼が行なわれる地方も多い。

シチュー［stew］獣鳥肉・野菜をスープストックやソースで長時間煮込んだ料理。用いる材料によりビーフシチュー(牛肉)・ビールシチュー(子牛肉)・チキンシチュー(若鶏肉)・ラムシチュー(子羊肉)・タンシチュー(ウシの舌)・キドニーシチュー(ウシの腎臓(じんぞう))などの種類があり，また用いる液汁(えきじゅう)によりホワイトシチュー・トマトシチュー・ブラウンシチューなどとよぶ。また羊肉を用いて牛乳で白く仕上げるアイルランド独特のアイリッシュシチューなどもある。いずれも，厚手の深なべを用い弱火で十分時間をかけて煮込む。〔泉　敬子〕

しちゅうぎんこう【市中銀行】中央銀行に対する語で，民間の銀行をいう。わが国では市中銀行は都市銀行と地方銀行が主である。このことばは中央銀行の金融政策の主要な対象となるという意味で用いられる場合が多い。

しちゅうこん【支柱根】⇨気根

しちゅうせん【私鋳銭】奈良・平安時代，官鋳の皇朝十二銭以外の偽造・模造の銭貨をいう。鋳銭は，政府直属の鋳銭司でつくられ，これ以外のものを私鋳銭とよんだ。709年(和銅2)以後，しばしば私鋳の禁止令が出され，犯す者は遠流(おんる)の刑が適用されて大赦にも除外されたが，鋳銭司の技術が民間技術とあまり隔絶していなかったこともあり，ときには刑を適用せず彼らを鋳銭司の支配に置くこともあった。15世紀後半から皇朝十二銭や中国から渡来した宋銭(そうせん)・明銭(みんせん)の模造が盛んになり，しばしば撰銭(えりぜに)の対象となったが，江戸時代には貨幣制度が整備されて姿を消した。〔村尾元忠〕

しちょう【仕丁】律令(りつりょう)制で1里50戸ごとに賦課された労役。50戸から正丁2人を中央に送り，諸司の雑役にあてたもの。3年交替で，50戸からその食料などを供給した。奈良時代における主要労働力として重要であったが，あいつぐ造営事業に酷使されて逃亡する者も多く，律令制の衰微とともにしだいに行なわれなくなっていった。

しちょう【死徴】死の確徴。死の判定を脳死の段階で行なうか心臓死の段階で行なうかによって，また肉眼的に判定するか心電図・脳波のような機能検査に基づいて判定するかによって，解釈に多少の差がある。脳死の段階では，①外来の刺激に対して反応せず，昏睡(こんすい)状態で不動である。②呼吸の自然停止，③瞳孔(どうこう)散大・対光反射消失，④血圧の人工的維持不能，⑤脳波完全静止，⑥筋肉弛緩(しかん)・皮膚蒼白(そうはく)などが認められるが，心臓死の段階ではさらに心臓搏動完全停止が死徴に加えられることになる。しかしまれにはいったん死亡したようにみえても生き返ることもあるので，厳密な意味での死徴には死斑(しはん)や死体強直も含ませるべきである。〔青木利彦〕

しちょうかくきょういく【視聴覚教育】一般的には視聴覚教具・教材によって行なわれる教育方法。そのはじまりは17世紀にコメニウスが《世界図絵》を初等教育に用いたことにあるといわれる。当時は人文主義の教育が行なわれ，教育の材料をギリシア・ローマの古典に求め，教師が授ける知識を単に記憶するという言語偏重主義であった。これへの批判として生まれたのが，いまでいう視聴覚教育である。18世紀にはいって，J.J.ルソーは根強い伝統的な言語偏重主義の教育を批判し，事物の直接的感覚経験を基盤として事物を確実に認識できる方法を示した。そして，ルソーの影響を受けたペスタロッチは，直観はすべての認識の絶対的基礎であるという原則の教授法に立った。しかし，今日これらは伝統的視聴覚教育論とよばれ，映画誕生以後の視聴覚教育論とは区別されている。

19世紀末から20世紀の初めにかけて，実物・絵図・標本・模型・地図などの教育メディアに代わって，近代的で機械的な視聴覚メディアの技術的開発が行なわれた。映画誕生以降を近代的視聴覚教育とよぶ。これら二つの視聴覚教育論は，ともに言語偏重主義・教師中心主義の教育に対する批判から生まれたものであるが，その本質的な違いは，前者は反言語主義の立場に立ち，後者は必ずしもそうではないという点である。この違いは心理学の発展に負うところが多い。人間の思考がつねに言語を媒介にして行なわれることは，現代の心理学では常識になっている。この場合の言語とは，主として情報の伝達交換に用いられる外言

のみでなく，自分の中で思考を思考ならしめる内言を含めた意味である。今日の視聴覚的方法が，一つは理性的把握(はあく)を与えるために，言語を伴う豊かな感性的体験を与えるものと考えるのは，言語の役割を重視したからにほかならない。

現代の視聴覚教育は，映画やテレビと並んで，ティーチング-マシン*やランゲージ-ラボラトリーによる学習もその中に入れる。もはや集団学習としての形態だけでなく，個別的な能力学習の側面が付加されて，教育工学として位置づけられてきた。〔寺内礼治郎〕

しちょうそん【市町村】地方自治の基礎的単位で，その区域内に居住する住民を構成員とし，自治権を有する普通地方公共団体。都道府県*に包括されるが，法的には対等な地位を有する。市町村のもつ自治権は，自治立法権(条例・規則の制定)・自治財政権(市町村税の賦課・徴収)・自治行政権であり，これに必要な議決機関として地方議会(市町村議会)，執行機関として市町村長・教育委員会・選挙管理委員会・人事委員会・農業委員会などがある。市・町・村それぞれの性格は基本的に同じであるが，市は人口50,000人以上で中心市街地に60％以上の戸数が集中していること，商工業など都市的業種人口が60％以上あること，高等学校・公民館・図書館など一定の施設その他の要件を備えることが必要とされ，規模の大小により市・町・村は多少取り扱いに差異がある。第2次世界大戦前は自治権をもたない単なる行政単位であったが，戦後は地方自治の原則を掲げる憲法8条の規定を受け，自治権をもつ法人として1947年(昭和22)制定の地方自治法が詳細に定めるところとなった。➔地方公共団体 ➔地方自治〔寺尾方孝〕

しちょうそんちょう【市町村長】普通地方公共団体である市町村*の長。市町村を統轄し代表する，執行機関として次の権限を有する。①議会への議案の提出，予算調整と執行，決算表の議会提出，会計の監督，公の施設の管理。②地方行政機関の支所・出張所の設置およびその指揮監督。③長の補助機関である職員の監督。④市町村内の公共的団体の活動の調整・監督にあたる。議会との関係では，議会を召集し，不信任の議決を受けたときはこれを解散することができる。また議会の議決に異議があるときはこれを再議に付すこと(再議権)ができ，専決処分権(議会の議決を要しない軽易な事項を長の判断で決定する権限)を有する。その地位は住民の直接選挙によって選出され，任期は4年。国会議員・地方議員，地方公共団体の常勤の職員を兼ねることはできない。〔寺尾方孝〕

しちょうそんどう【市町村道】道路法(法律)で区分している道路の種類の一。市町村の区域内にある道路のうち，市町村長が認定した道路をいう。市町村道の管理はその道路のある市町村長が行なう。なお，大都市の区道は地方の市町村道にあたり，区長が管理する。

しちょうそんみんぜい【市町村民税】⇨住民税

しちょうねつ【弛張熱】⇨体温

しちょうへい【輜重兵】陸軍の一兵科。西欧各国で輜重兵が設けられたのは19世紀の中ごろ以降である。その任務は，軍の作戦行動に従い，各種輸送機関を運用して弾薬糧秣(りょうまつ)その他の軍需品の輸送補給を行ない，軍の戦闘力を維持させることである。輜重兵は通常連隊を編制し師団・軍などに編入される。輜重の輸送運搬は元来はウマ・車・人によったが，逐次自動車部隊に改編された。日本軍では補給を軽視する傾向が長い間続いたので輜重兵も重視されず，車両化も遅れた。兵員についても平素は基幹要員のみを保有しており，戦時になると召集兵により充足する制度であった。輜重兵が重視され始めたのは第2次世界大戦開始後のことである。〔森田　哲〕

しちょうりつ【視聴率】一定の時間に，特定放送局の特定のテレビ番組を視聴した個人または世帯の割合を，特定地域内の全テレビ人口(世帯)に対して百分率で表わしたもの。ラジオの場合は聴取率という。NHKの調査ではテレビ視聴率1％につき全国で95万人と推定されている(1974年4月)。調査方法はビデオメーターを受信機に設置し，自動的に記録をとる機械調査法，番組放送中に電話で視聴している番組名を聞く電話調査法，各家庭に配った調査表にそのつど記入してもらう日記式調査法，調査員が直接対象者に質問する個人面接調査法などがある。〔飯田良明〕



シチリア島　メッシナ海峡に臨むメッシナの町と港。対岸はイタリア本土のカラブリア地方の山々。本土と連絡する白いフェリーが入港する

シチリア(島)［Sicilia］シシリー島ともいう。イタリア半島の先端にある地中海最大の島。面積25,700km²，人口488万4,000(1967)。イタリア領。本土を縦断しているアペニン山脈の延長上に位置し，イタリア本土とはメッシナ海峡で隔てられ，地質・気候・文化の点で本土とは違った特色をもつ。火山が多く，特にエトナ火山(3,295 m)は有名。

住民は，イタリア人・ギリシア人・アルバニア人・ムーア人などの混血で，ノルマン人・ゲルマン人・フランス人・イギリス人の影響もみられる。シチリア語はイタリア語と違い，イタリア人にはほとんど理解できないといわれる。イタリアでは最も開発が遅れ，住民の大多数は，いまなお貧しい生活を送っており，島外への移民も多い。おもな産業は農業と漁業で，西岸の積み出し港の名マルサラで知られるぶどう酒と，オリーブ・レモン・アーモンド・モモ・イチジクを産する。近年，鉱山の開発や石油の試掘が行なわれている。

この島が最初に歴史に現われるのは，カルタゴ人がペノルモス(現在のパレルモ)に植民地を建設したときで，その後シラキュース・カタニア・ザンクル(現在のメッシナ)にギリシア人が植民地をつくった。BC241年からローマ帝国の植民地になり，535年からは東ローマ帝国の支配下にあり，サラセン帝国の領土だった時代を経て，17世紀にはノルマン人に占領された。1738年からはナポリのブルボン家が支配し，1860年のイタリア本土統一の翌年にイタリアに編入された。第2次世界大戦中の1943年7月，連合軍は北アフリカからこの島に上陸し，1か月余の戦闘のすえ占領し，ヨーロッパ大陸進攻の橋頭堡(きょうとうほ)になった。現在シチリアは，イタリア共和国から，かなりの行政自治権を与えられている。主要都市はパレルモ・メッシナ・カタニア・シラクサなど。〔大崎　晃〕

シチリアーノ［siciliano］シチリア島起源の舞曲。17～18世紀にイタリアにかぎ

らず，多くの国の芸術音楽の中に取り入れられた。8分の6拍子や8分の12拍子で，強拍が付点8分音符によって長くなっているため，流れるような感じを与える。声楽曲にも使われるが，多くの合奏曲のほか，ヘンデルやバッハの鍵盤(けんばん)楽器の曲が有名である。➔パストラーレ

しちりがはま　【七里ケ浜】　神奈川県鎌倉市の南西部，相模(さがみ)湾に面した稲村ケ崎(いなむらがさき)から西へ腰越の小動ケ崎(こゆるぎがさき)までの約4kmの海岸をいう。地名はかつて6町(約660m)を1里としたとき，ここが7里あったことに由来する。海岸は砂浜をなしているが背後は土地が高まり，もとは保養地であったが最近は住宅地として開発されている。海べに沿って江の島鎌倉観光電鉄や国道134号線が走り，海浜からは近くの江の島をはじめ，大島・三浦半島・富士山などのながめが美しい。浜の中央に〈真白き富士の嶺(ね)，緑の江の島〉の歌で知られる逗子(ずし)開成中学校生徒の遭難記念碑がある。〔味沢成吉〕

じちりょう　【自治領】　イギリス連邦はイギリス本国と自治領で構成されている。19世紀中期以降，イギリスの植民地は，カナダ・オーストラリアなど対内自治を認められるものが現われ，これを自治領(ドミニオン)とよんだ。しかし，これらも外交能力などは依然として認められなかった。第1次世界大戦後，自治領の増加もあって，しだいにその従属性を脱却し，1926年の帝国会議によりイギリス本国と同等の地位を有する自治的団体として認められ，さらに1931年のウェストミンスター条令によって，独自に外交使節を派遣すること，自主的に外国と条約を締結すること，本国議会の法律は自治領がそれを要求，またはそれに同意しないかぎり自治領に適用されないことなどが法制化された。ここにおいて自治領は，国王への忠誠のもとに，独立の主権的地位をもって，イギリス連邦を構成するものとなった。しかし，第2次世界大戦後，インド・パキスタンなどのように，国王に忠誠を誓わずに連邦にとどまるものが現われ，国王は単に相互の自由な結合の象徴としてのみ認められ，イギリス連邦が変質するに及んで，自治領という呼称も構成国(メンバー)とよばれるに至った。➔イギリス連邦〔広部和也〕

しちりん　【七輪】　台所道具の一。関西では〈かんてき〉という。木炭・たどん・練炭などを用いて煮物・焼き物をする炉。一般に土製で，持ち運びのできる小形のもの。燃料費が7厘で足りるというところからこの名が起こったという。近来は電気・ガス・石油などの熱源による金属製のものが多いが，これらもこんろまたは七輪の名でよばれている。➔こんろ

じちん　【慈鎮】　⇨慈円

じちんさい　【地鎮祭】　〈とこしずめのまつり〉ともいう。土木・建築の起工にあたり，その土地を守る神(産土神(うぶすなのかみ)・大地主神(おおとこぬしのかみ))を祭り，土地の平安堅固であることを祈る祭り。起源はきわめて古く，《持統天皇紀》の691年の条に〈新益京を鎮(しず)め祭る〉とあり，《古語拾遺》の神武天皇の条にも，大宮地の霊を祭られたとある。祭儀は時代によって少しく形を変えてはいるが，一般には敷地の中央に斎場を設け，神の降臨を願い，神饌(しんせん)を供え，祝詞(のりと)奏上を行なったのち，土地の四方および中央をはらい清め，米・酒・切木綿(きりゆう)を散供し，次に鎌(かま)で刈りぞめ，鍬(くわ)で穿(うが)ちぞめを行ない，さらに地中に鎮物(しずめもの)(鉄製の人形・鏡・盾(たて)・鉾(ほこ)・刀子(とうす)・玉など)を埋納して，土地の安全を祈念する形態をとっている。〔小野和輝〕

シーツ　⇨敷布

じついん　【実印】　住居地の市(区)町村長に印鑑登録(1人1個に限られる)をした印鑑証明書の発行を求めうる印判。認め印に対する。➔印鑑証明

しつう　【史通】　中国，唐代の劉知幾(りゅうちき)の歴史理論書。20巻。内編と外編に分かれる。内編では《尚書(しょうしょ)》《春秋》《左伝》《国語》《史記》《漢書》の六家の体裁と長短を解明し，外編の《自叙》では編纂(へんさん)の由来を説く。《直書》《曲筆》《擬古》編などの史料批判は後世の史家の範となった。注釈書に清(しん)の浦起龍(ほきりょう)の手になる《史通通釈》がある。

しつがい　【湿害】　畑の土壌(どじょう)の過湿のため，根の生育・機能が停止または弱化して，作物の生育・収量に被害をこうむること。したがって，水田の作物にはみられない。畑作物の土壌水分に対する反応は，作物の種類によって異なるが，一般的には，土壌の三相，すなわち，固相・液相・気相の比が，それぞれ50：25：25がよいとされ，最大容水量の60〜70％をもって最適水分とする。需根作物(根を利用する目的で栽培される作物)は一般に耐湿性が低いとされるが，サトイモは例外で土湿の高いのを好む。湿害を避けるには，耐湿性の強い品種を栽培したり，うねを高くして栽培したりするほか，排水施設による土地改良が効果的である。〔金木良三〕

じっかい　【十戒】　仏教で10種の徳目からなる戒。十善戒・十重禁戒などがある。十善戒は，身に関して①生きものを殺さない，②盗みをしない，③淫欲(いんよく)にふけらない，口に関して④うそをいわない，⑤二枚舌を使わない，⑥悪口を言わない，⑦心にもないことを言って人にへつらわない，意に関して⑧欲深ではいけない，⑨怒りをおさえなければならない，⑩仏教の正しい教えを知らなければならないの十善を守る戒であり，このうち①〜④は五戒と同じである。十重禁戒は，十善戒の①②③④に，⑤酒を売ること，⑥他人の過失をあばくこと，⑦自己をほめて他人をそしること，⑧財や法を惜しむこと，⑨他人の懺悔(さんげ)を受けつけないこと，⑩三宝をそしることの六つを禁ずる戒が加わったものである。〔京戸慈光〕

じっかい　【十誡】　モーゼに率いられたイスラエルの民に，神がシナイ山で与えたという10か条のおきて。《旧約聖書　出エジプト記》20章，《旧約聖書　申命記》5章に記されている。文体は断言的なものと説明つきのものの混合で，①ヤーウェのみを神とすべきこと，②偶像礼拝の禁止，③神名を乱用してはならない，④安息日を守ること，⑤父母を敬うこと，⑥殺人の戒め，⑦姦淫(かんいん)の戒め，⑧盗みの戒め，⑨偽証の戒め，⑩隣人のものを欲してはならない，がその内容である。①〜④は神と人，⑤〜⑩は人と人の間で守らねばならない基本的な定めであり，それまで律法をもたなかった民の信仰および生活の指針となって今日に至っている。文体が2種類に分かれることは年代想定の手がかりとなり，全体としてモーゼ時代にさかのぼって考える学者もいる。〔松田　治〕

しつがいけんはんしゃ　【膝蓋腱反射】　大腿(だいたい)四頭筋の膝蓋部にある腱(膝蓋腱)を打つことによって，大腿四頭筋が収縮する反射。脊髄(せきずい)機能の一。通常いすに腰をかけ，下腿をたれた姿勢で膝蓋腱を打腱槌(つち)で急に打って，下腿が前方に振れる程度によって検査する。反射の減弱または消失は，反射弓の障害によるもので，かっけ・神経炎・反射中枢部の脊髄炎などが疑われる。反対にこの亢進(こうしん)は，中枢神経の上位の部が障害されて反射中枢への抑制が減退したことを示し，脳出血・上部脊髄疾患・神経衰弱などが疑われる。〔平野修助〕

しつがいこつ　【膝蓋骨】　膝関節部にあるクリの実形をした扁平骨(へんぺいこつ)。俗に皿(さら)とよばれる。大腿(だいたい)四頭筋の腱(けん)の中に含まれ，膝関節窩(か)にはまり込んだ一種の種子骨で，まれに欠如することもある。骨の下端と脛骨(けいこつ)との間に膝蓋靭帯(じんたい)が張っている。大腿四頭筋は膝蓋骨とこの膝蓋靭帯を介して脛骨粗面についているので，膝蓋骨の下にある膝蓋腱の部分を打腱槌で急に打つと下腿がはね上がる。➔前項〔幡井　勉〕

じっかこくぞうしょうかいぎ　【十か国蔵相会議】　IMFの一般借り入れ協定(GAB)に参加した先進主要諸国10か国の大蔵大臣および中央銀行総裁会議。わが国も参加している。この会議は，国際通貨制度に関して，1オンス＝35ドルの現行金価格と固定為替(かわせ)相場制度の維持という前提条件のもとに，将来に予想される国際流動性の不足に対処するために，新しい準備資産を創出する諸方策を検討し，1967年8月に

干支五行配合表（数字は干支番号）

五行	兄弟						
木(き)	兄—甲 え きのえ	1 甲 子 きのえ ね	11 甲 戌 きのえ いぬ	21 甲 申 きのえ さる	31 甲 午 きのえ うま	41 甲 辰 きのえ たつ	51 甲 寅 きのえ とら
	弟—乙 と きのと	2 乙 丑 きのと うし	12 乙 亥 きのと い	22 乙 酉 きのと とり	32 乙 未 きのと ひつじ	42 乙 巳 きのと み	52 乙 卯 きのと う
火(ひ)	兄—丙 え ひのえ	3 丙 寅 ひのえ とら	13 丙 子 ひのえ ね	23 丙 戌 ひのえ いぬ	33 丙 申 ひのえ さる	43 丙 午 ひのえ うま	53 丙 辰 ひのえ たつ
	弟—丁 と ひのと	4 丁 卯 ひのと う	14 丁 丑 ひのと うし	24 丁 亥 ひのと い	34 丁 酉 ひのと とり	44 丁 未 ひのと ひつじ	54 丁 巳 ひのと み
土(つち)	兄—戊 え つちのえ	5 戊 辰 つちのえ たつ	15 戊 寅 つちのえ とら	25 戊 子 つちのえ ね	35 戊 戌 つちのえ いぬ	45 戊 申 つちのえ さる	55 戊 午 つちのえ うま
	弟—己 と つちのと	6 己 巳 つちのと み	16 己 卯 つちのと う	26 己 丑 つちのと うし	36 己 亥 つちのと い	46 己 酉 つちのと とり	56 己 未 つちのと ひつじ
金(かね)	兄—庚 え かのえ	7 庚 午 かのえ うま	17 庚 辰 かのえ たつ	27 庚 寅 かのえ とら	37 庚 子 かのえ ね	47 庚 戌 かのえ いぬ	57 庚 申 かのえ さる
	弟—辛 と かのと	8 辛 未 かのと ひつじ	18 辛 巳 かのと み	28 辛 卯 かのと う	38 辛 丑 かのと うし	48 辛 亥 かのと い	58 辛 酉 かのと とり
水(みず)	兄—壬 え みずのえ	9 壬 申 みずのえ さる	19 壬 午 みずのえ うま	29 壬 辰 みずのえ たつ	39 壬 寅 みずのえ とら	49 壬 子 みずのえ ね	59 壬 戌 みずのえ いぬ
	弟—癸 と みずのと	10 癸 酉 みずのと とり	20 癸 未 みずのと ひつじ	30 癸 巳 みずのと み	40 癸 卯 みずのと う	50 癸 丑 みずのと うし	60 癸 亥 みずのと い

十干十二支

IMF特別引き出し権（SDR*）に関する大綱を発表した。大綱は同年９月，リオデジャネイロで開催されたIMF総会で正式に議決され，SDRの発足をみた。1971年８月にアメリカ・ドルの金交換が正式に停止された際にもこの会議が開催され，主要諸国間の意見の交換が行なわれた。国際通貨不安のおりから，この会議の重要性は今後ますます増大するものと思われる。〔安井孝治〕

しっかざい【失火罪】 過失によって火事を起こす罪（刑法116条）。建造物・汽車・電車・艦船・鉱坑を焼いたとき，または人が住居に使用せず，もしくは人の現存しない建造物・艦船・鉱坑を焼いたときはそれだけで失火罪となるが，自分の所有の建造物その他のものを過失で焼いたときには，公共の危険が生じたときに限って本罪に問われる。たばこの吸いがらを不注意に投げ捨てたり，電気アイロンのスイッチを消し忘れたような場合などにも本罪は成立する。刑は50,000円以下の罰金。業務上必要な注意を怠った場合，または不注意の程度が特に大きい場合は刑が加重され，３年以下の禁錮（きんこ）または15万円以下の罰金に処せられる。〔野口恵三〕

じつかわえんじゃく【実川延若】 歌舞伎（かぶき）俳優。現在３世。屋号河内屋（かわちや）。

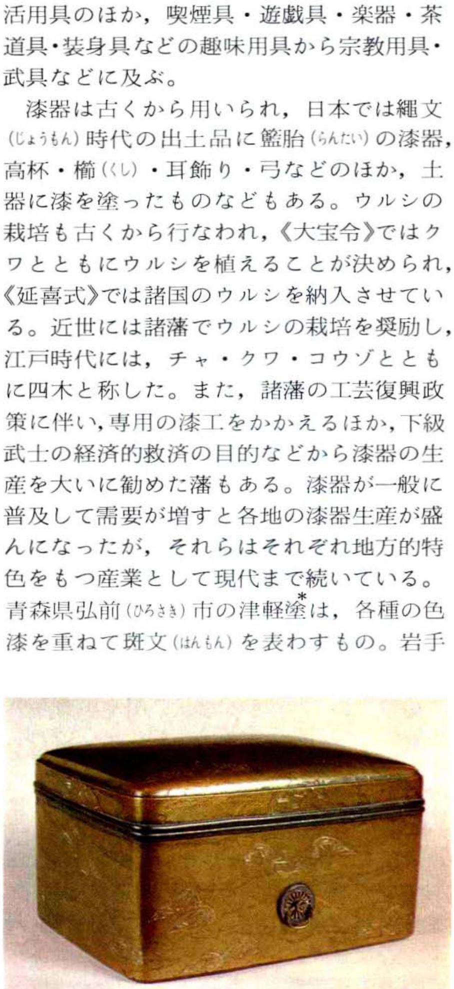
1 初世（1831〜1885） ２世実川額十郎の門弟。上方和事の名人といわれ，世話物*を得意とした。

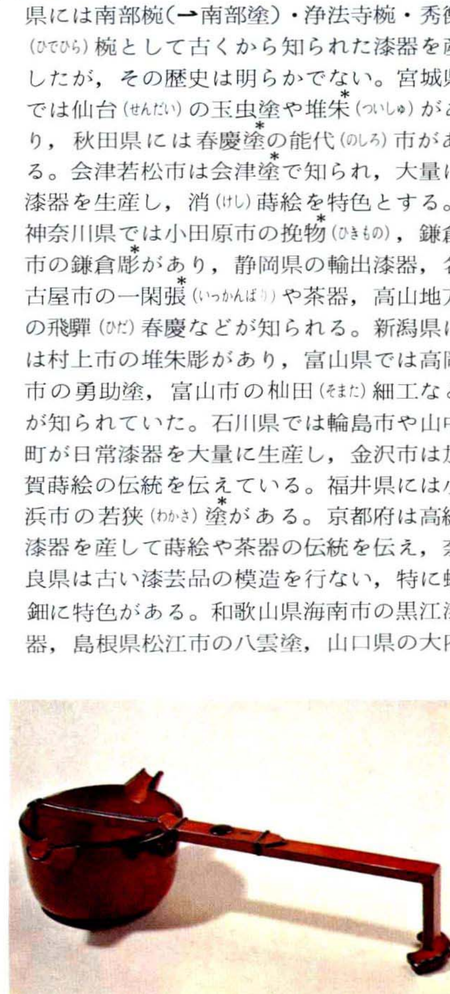
2 ２世（1877〜1951） 初世の長男。親譲りの和事*のほか，時代物*の立ち役*実悪にもすぐれ，初世中村鴈治郎*（がんじろう）に対抗した。芸術院会員。現３世（1921〜 ）はその長男。

じっかんじゅうにし【十干十二支】 十干と十二支の組み合わせで陰暦法の年・月・日・時を表わすもの。〈えと〉ともいう。十干とは，もと日の順序を示すのが目的であると思われて，旬（10日）の１日めから甲・乙・丙・丁・戊（ぼ）・己（き）・庚（こう）・辛・壬（じん）・癸（き）の文字をあてて表わす。十二支は，１年の天象・気象・年中行事にちなんで，子・丑（ちゅう）・寅（いん）・卯（ぼう）・辰（しん）・巳（し）・午・未（び）・申・酉（ゆう）・戌（じゅつ）・亥（がい）の字をもって表わす。その起源は，殷（いん）代の甲骨文までさかのぼれる。その後，干支に陰陽説*・五行説*が加えられ，それが欽明（きんめい）天皇（510〜570）のころ日本に伝えられた。後代になって十二支に動物名（あるいは架空の動物），鼠（ねずみ）・牛・虎（とら）・兎（うさぎ）・龍（たつ）・蛇（へび）・馬・羊・猿（さる）・鶏・犬・猪（いのしし）などをあてた。また，陰陽道*（おんみょうどう）の思想が強く結びつき，生まれ年の干支の動物の性質がその人の性格や運勢を支配すると考えるほどに迷信化した。〔渡辺欣雄〕

しっき【漆器】 広くは漆を用いて加工装飾した漆芸品といいうるが，一般には漆塗りの実用器物をさす。漆器の種類は，飲食器・家具調度・化粧具・文房具などの生活用具のほか，喫煙具・遊戯具・楽器・茶道具・装身具などの趣味用具から宗教用具・武具などに及ぶ。

漆器は古くから用いられ，日本では縄文（じょうもん）時代の出土品に籃胎（らんたい）の漆器，高杯・櫛（くし）・耳飾り・弓などのほか，土器に漆を塗ったものなどもある。ウルシの栽培も古くから行なわれ，《大宝令》ではクワとともにウルシを植えることが決められ，《延喜式》では諸国のウルシを納入させている。近世には諸藩でウルシの栽培を奨励し，江戸時代には，チャ・クワ・コウゾとともに四木と称した。また，諸藩の工芸復興政策に伴い，専用の漆工をかかえるほか，下級武士の経済的救済の目的などから漆器の生産を大いに勧めた藩もある。漆器が一般に普及して需要が増すと各地の漆器生産が盛んになったが，それらはそれぞれ地方的特色をもつ産業として現代まで続いている。青森県弘前（ひろさき）市の津軽塗*は，各種の色漆を重ねて斑文（はんもん）を表わすもの。岩手県には南部椀（→南部塗）・浄法寺椀・秀衡（ひでひら）椀として古くから知られた漆器を産したが，その歴史は明らかでない。宮城県では仙台（せんだい）の玉虫塗や堆朱*（ついしゅ）があり，秋田県には春慶塗*の能代（のしろ）市がある。会津若松市は会津塗*で知られ，大量に漆器を生産し，消（けし）蒔絵を特色とする。神奈川県では小田原市の挽物*（ひきもの），鎌倉市の鎌倉彫*があり，静岡県の輸出漆器，名古屋市の一閑張*（いっかんばり）や茶器，高山地方の飛騨（ひだ）春慶などが知られる。新潟県には村上市の堆朱彫があり，富山県では高岡市の勇助塗，富山市の杣田（そまた）細工などが知られていた。石川県では輪島市や山中町が日常漆器を大量に生産し，金沢市は加賀蒔絵の伝統を伝えている。福井県には小浜市の若狭（わかさ）塗*がある。京都府は高級漆器を産して蒔絵や茶器の伝統を伝え，奈良県は古い漆芸品の模造を行ない，特に螺鈿に特色がある。和歌山県海南市の黒江漆器，島根県松江市の八雲塗，山口県の大内



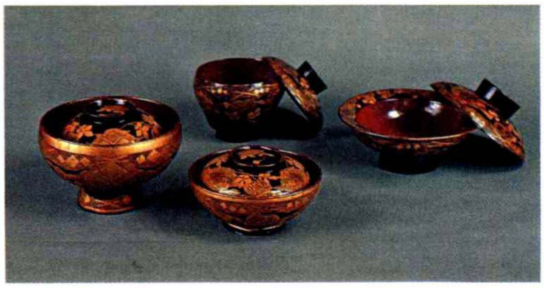


漆　器（平安，室町時代）（左）《片輪車螺鈿手箱》平安時代（右）《朱漆塗両口銚子》室町時代









漆　器（江戸時代）
（上）《梅蒔絵硯箱》（左，身）（右，蓋）
（下左）《網干鷺蒔絵棚》 東京国立博物館蔵 （下右）《枝菊漆絵椀》

塗なども独特の漆器である。〔荒川浩和〕

しづきただお【志筑忠雄】（1760～1806）江戸時代の天文学者・物理学者。長崎の通詞，志筑家の養子。はじめはオランダ通詞であったが，のちこれを辞退した。《暦象新書》《求力論》など天文・物理に関する数多くの著書があり，伝写本ながら当時かなり普及した。ニュートンの力学・引力説，光学などは志筑の著書によってはじめて日本に伝えられた。また，彼の主張した星気説は，カント-ラプラースの星雲説に符合するものであるといわれる。〔根本順吉〕

シッキム［Sikkim］ヒマラヤ山脈南麓(なんろく)にあるインドの州。面積7,107km²，人口19万1,000(1969年推)，州都ガントク。北は中国チベット自治区，東はブータン，西はネパール，南はインドの西ベンガル州に接する。すべて山地からなり，西端の最高所カンチェンジュンガ山(8,616m)はヒマラヤ山脈第3の高峰である。海抜4,000～2,500mの所は密林で，2,500～1,500mの所ではトウモロコシやキビが栽培され，また一部には水田があり，オレンジ・リンゴもつくられている。住民はネパール人が最も多く，ほかにチベット人系のボチャ族と土着のレプチャ族がいる。住民多数の宗教はラマ教。17世紀からボチャ王朝が支配したが，19世紀にはイギリスの支配下に置かれ，1950年から1975年3月まではインドの保護国だった。〔大崎　晃〕

じっきゃくるい【十脚類】節足動物・甲殻(こうかく)類・十脚目の動物をいい，エビ・シャコ・ヤドカリ・カニが含まれる。背甲が胸部全体をおおい，前方の1～3対の脚肢(きゃくし)は顎脚(がっきゃく)として捕食・摂食に用いられ，後方の5脚肢は歩脚となって運動に用いられる。第1歩脚ははさみとなることが多い。腹節は，カニなど分化の進んだグループでは発達が悪く，胸部の下にたたみ込まれるようになる。変態が著しく，ノウプリウス・ゾエア・ミシス・フィロゾーマ・メガローパなどの幼生がある。主として海産だが，淡水産・陸産のものも多少知られる。三畳紀以後に化石が知られる。現生種は約9,000種。

じつぎょうがっこう【実業学校】近代社会において，農・工・商・水産・林業などの各分野で生産的職業に従事しようとする青少年に対し，実際的な教育を行なう中等教育程度の産業教育機関の総称。わが国では，教育令によって明治10年代（1877～1886）から農学校・商業学校の設立が進められ，1893年(昭和26)の実業補習学校規程，1894年の簡易農学校・徒弟学校規程および実業教育費国庫補助法によって実業教育を大きく発展させ，1899年の実業学校令によりこれらの実業教育機関を制度的に統一し，定義づけた。そこでは実業学校を〈工業農業商業等の実業に従事する者に須要(しゅよう)なる教育を為(な)す〉ことを目的とする機関とし，その種類は工業学校(徒弟学校を含む)・農業学校(蚕業・山林・獣医・水産学校などを含む)・商業学校・商船学校および実業補習学校と規定している。実業補習学校は，小学校卒業の農工商就業者をパートタイムで3年以内就学させ，実業に必要な知識・技能と小学校教育の補習を授ける機関で，大正期にはいって農業補習学校を中心に急激に増加したが，1935年(昭和10)青年学校*に統合されて実業学校のわくから除かれた。1943年，中学校令の公布によって実業学校令は廃止され，第2次世界大戦後の新学制は実業学校系統を〈専門教育を主とする学科〉として，高等学校のわく組みの中に包括することとなった。〔赤司政雄〕

じっきょうけんぶん【実況見分】捜査機関が令状を用いないで行なう検証*行為のこと。任意捜査の手段として，しばしば用いられる。捜査機関がみずからの五感作用をもって，事実の認識を得ようとする行為である。重要な事犯については，裁判官の発する検証令状によることが原則であるが，事犯が軽微な場合，現場が屋外である場合，急を要する場合などには実況見分が行なわれる。この場合住居に立ち入って行なう実況見分は，必ず家人の了解を得るとともに，立会人を置く必要がある。また，夜間住居に立ち入る場合は，令状を用いて検証しなければならない。捜査または裁判上の効果は，実況見分と検証とはなんら異ならない。〔井上公耳〕

じつぎょうどうしかい【実業同志会】1923年（大正12）鐘淵紡績(かねがふちぼうせき)社長武藤山治*が実業家有志を支持勢力として組織した小政党。1924年総選挙で武藤以下8名が当選，産業立国・国利民福を綱領にして議会に臨んだ。産業資本の利益を代弁する政党として発足したが，武藤個人の指導力が強く，議会では主として政友会*に同調した。1928年(昭和3)の最初の普通選挙では，当選者わずか3名に転落した。1929年，国民同志会に改組したが，1932年解散。〔高崎徳次〕

しつぎょうほけん【失業保険】被保険者が失業した場合に，失業保険金を支給して，その生活の安定を図ることを目的とする保険。失業を保険原理によって救済する失業対策の一種で，1911年イギリスで国営強制保険として創設され，以後各国とも社会保険*として行なわれている。わが国では1947年(昭和22)の失業保険法によって実施され，政府がこれを担当する。5人以上の労働者を雇用する事業主に雇用される者は，当然に適用を受ける。ただし，日雇い労働者や季節的労働者などは，一定の条件を満たさないかぎり適用除外となる。なお，日雇い労働者を対象とする日雇失業保険がある。保険給付に要する費用は，原則として4分の1（日雇失業保険については3分の1）を国庫が負担する。保険料率は賃金の

1,000分の13で，事業主および被保険者が折半して負担し，事務費は国庫が負担する。受給資格は離職前1年間の被保険者期間が通算して6か月以上であったとき生じる。1975年(昭和50)雇用保険法に改訂。
〔庭田範秋〕

じつぎょうほしゅうがっこう【実業補習学校】 ⇨実業学校

しっきん【失禁】 抑制しえないことをいい，通常，排尿・排便が抑制できず無意識に起こることをさす。意識障害のほか，脊髄(せきずい)障害でしばしば膀胱(ぼうこう)・肛門(こうもん)の括約筋がゆるみ，失禁を起こす。なお，感情が抑制できないことを感情失禁という。➔尿失禁

ジッキンゲン［Franz von Sickingen］(1481〜1523) ドイツの騎士。人文主義者を支持し，宗教改革後はルターらを擁護した。1522年フッテン*らと協力して騎士戦争*を指揮したが，失敗して戦死した。

じっきんしょう【十訓抄】 鎌倉中期の説話集。編者は六波羅二臈左衛門(ろくはらにろうざえもん)入道。〈じっくんしょう〉ともいう。少年の処世訓として，280余の逸話を古書から抜粋し，〈心操(こころばえ)・振舞を定むべき事〉など10か条の儒教的徳目に分けて収めている。いわゆる文学としての価値はあまり高いとはいえず，多くは倫理・道徳を説いた書物として読まれた。

しっくい【漆喰】 塗り壁材料の一種で，日本に古来からある仕上げ材料。現在の工法は明治から大正にかけてできたようである。最近はその需要が少なく，むしろドロマイトプラスターが多く用いられており，しっくいと混同しやすい。原料は，消石灰・貝灰($Ca(OH)_2$)・のりからなり，消石灰・貝灰は，空気中の炭酸ガスを吸収して硬化する。そのため，最初はアルカリ性であったものが，6か月ぐらいすると中性化し油性ペイント塗りが可能となる。のりは海藻(かいそう)のツノマタを水とともに煮て得た粘稠液(ねんちゅうえき)で，これはおもに施工時の作業性をよくする。天井用には下げお，壁にはすさ*を入れて補強する。〔難波蓮太郎〕

しつけ【仕付け】 2枚以上重ねた布が動かないように仮に押えておくために縫う縫い方。洋裁では縫い目や折り目をあらかじめ押えて，次の作業をしやすくするために行なわれることが多いが，和裁では主として縫い目の折り山を押えるために行なわれ，本縫いあとか着用時に取り去る。糸は特に撚(よ)りの少ない細い諸撚糸(もろよりいと)が適し，布によってもめん糸と絹糸(ぞべ)を使い分ける。縫い方には一目落とし・二目落とし・三目落とし・縫いじつけがあり，目数の多いものほど強く押える。なお，布と同色の縫い糸で，表に小針を出して縫う〈かくしじつけ〉は，着用中の形くずれを防ぐ役目をもつもので，取らずに着用する。
〔堀越すみ〕

しつけ【躾】 社会生活上，日常的に必要な基本的行動様式を他律的にくり返して習熟させ，身につけさせ，ある一定の習慣を形成する教育的行為。したがって，いつの時代，いずれの民族にも存在するが，しつけが行なわれるためには，その社会の成員の大多数が承認し，同意し，かつ実践する社会生活上の習慣・行動様式がなくてはならない。しかし，社会が流動し，価値観が混乱している現代では，どのような方向で，どういう内容のしつけをどのようになすかは，現代教育学の一つの課題となっている。〔河口道郎〕

じつげつたん【日月潭】 台湾中部，埔里(ほり)盆地南方の山地にある淡水湖。面積5.4km²。別名龍湖(りゅうこ)。湖の北半は日輪の形を示し，南半は月の形を示すところからこの名が生じた。標高726.5mにあり，濁水渓(だくすいけい)の上流から水を引いて湖面を750mにまで高め，南西の谷に流して水力発電を行なっている。周囲の高峰が湖面にはえ，景勝地として有名。

しっけん【執権】 鎌倉幕府*の職名。将軍に次ぐ地位で，元来は朝廷の記録所*における職名であった。また院政*では，院庁の別当で常時事務を主宰する者をいった。鎌倉幕府となって，政所*(まんどころ)の初代別当大江広元*が執権と別称されたが，3代将軍源実朝*(さねとも)のとき北条時政*(ほうじょうときまさ)が広元と並んで政所別当となり，幕府の実権を握って執権と称した。その子義時(よしとき)は1213年(建保1)侍所別当和田義盛*を倒して政所・侍所の別当を兼任し，執権と称した。その後文武の実権は執権の手中に帰し，将軍の無力化とともに幕府における真の統率者となった。執権職は北条氏*によって世襲され，鎌倉幕府の滅亡まで執権政治が行なわれた。なお，室町幕府*では将軍の補佐役を執権または執事*と称した。
〔高崎徳次〕

しつげん【湿原】 地下水位の高い泥炭層(でいたんそう)の上に形成される草原。湿原は低層湿原→中間湿原→高層湿原の遷移系列をなしており，高層湿原は泥炭の堆積(たいせき)にしたがって湿地の乾燥化を招き，ワレモコウやワラビなどの侵入によって山地草原へと遷移する。

過湿や低温状態のもとにある土壌(どじょう)では，植物遺体の分解がおそく，泥炭が形成される。低層湿原はヨシ-スゲ湿原ともいわれ，群落構成種はおもにヨシ・スゲ類である。地下水などによる無機塩類の供給量が多く，その陽イオンによって腐植酸が飽和されるため酸性を示すことはなく，一般に富栄養湿原である。寒冷地では低温のため枯死体の分解速度は著しくおそく，低層湿原での泥炭の堆積が進むにしたがって，地下水(無機塩類)の供給が減少する。そのため，腐植酸は非飽和・イオン化した状態となり，酸性度を増してpH4程度にまで達する。このような酸性泥炭層上にはミズゴケを主とする群落が形成され，これを高層湿原(ミズゴケ湿原)といっている。ツルコケモモ・ヒメシャクナゲなどの低木を混えるので厳密には草原とはいえず，貧栄養湿原である。〈高層〉の名は，湿原中央部ほどミズゴケの生育に適して泥炭の堆積が進むため，湿原が丸底の皿(さら)を伏せたように盛り上がっていることに由来する。低層湿原から高層湿原へ移行する過程の湿原を中間湿原といい，中栄養湿原である。群落構成種はホロムイスゲ・ヌマガヤなど。
〔船越真樹〕

じっけん【実験】 ある対象について現象を人為的に起こし，対象に関する情報を知ろうとする科学技術上の操作。自然科学では器械装置を用いて複雑な自然現象の中の一連の過程を抽象し，これを観察し記述する。天体現象や気象現象では自然そのままが対象になる。これに対して現象にあずかるものや環境の条件を人為的に制御できる場合には，さまざまな状況において現象が観察される。この自然への能動的な働きかけが実験であり，受動的な前者の場合が観測である。実験においては条件状況を系統的に設定して単純にし，現象の原因や法則性への分析を可能にする。さらに測定を精密にして分析を深める。また，実験条件の範囲の拡大や極端化を図り，自然では得られがたい特殊な状況をつくりだして新事実を発見する。たとえば，真空技術の進歩による電子の発見，極低温の実現による超伝導現象の発見はそれである。新しい実験方法や装置のくふうは実験家にとって大事な仕事である。実験は理論や経験からの指針によって計画される。同時に仮説や理論を検証する。もし，その推論が実験事実に明らかに反したならば，仮説や理論は廃棄または修正されなくてはならない。さらに，それらにかかわる法則の限界が問われる場合すらある。〔荒川泰二〕

じっけんしき【実験式】

1 経験式ともいう。実測によって諸量の間に見いだされた関係を要約整理して表わした式。理論的根拠は明らかではないが，実用上有用であり，適切に表現された式は理論の組み立て発見に重要な役割を果たすことが多い。

2 化合物に含まれている各種の元素の原子数の割合を示す最も簡単な化学式をいう。元素分析または総分析の結果から，成分元素の重量百分率を求め，それぞれの原子量で除して原子数の割合を算出し，これを最も簡単な整数比に置き換えて求める。ブドウ糖の例をとると，炭素・水素・酸素の重量百分率は，40.01％，6.66％，53.33％であり，それぞれの原子量で除すと3.33，6.61，3.33となり，原子数の比は1：2：1で，その実験式はCH_2Oと表わされる。別に分子量の測定を行ない，実験式に係数を乗じ

て分子式を得る。ホルムアルデヒドCH_2O，グリセリンアルデヒド$C_3H_6O_3$はブドウ糖と同じ実験式をもつ。これらの物質は互いに異量体とよばれる。〔竹下三吉〕

じっけんしょうせつろん【実験小説論】 ゾラ*が書いた自然主義*文学運動の宣言ともいうべき論文(1880)。生理学者ベルナール*の《実験医学研究序説》の理論を文学に適用したといわれる。人間は環境によって形成・支配されるもので，小説はその人間の状態を客観的に描けばいいと述べる。この方法論がゾラの《ルーゴン-マッカール叢書*(そうしょ)》において実践された。

じっけんしんりがく【実験心理学】 自然科学における実験的方法を適用して心的事象を研究する心理学。学問として体系化されたのは19世紀で，ブント*の実験心理学やフェヒナー*の精神物理学に始まるが，いずれも組織的にではなかったが，それ以前にアリストテレス*・ロック*・バークリー*らの哲学者が心的現象の究明に実験的方法を試みている。

じっけんどうぶつ【実験動物】 動物学の研究目的に使われる動物。原生動物から哺乳(ほにゅう)類に至るあらゆる種類が含まれるが，実験の目的によって必ずしもどれでもいいのではなく，最もつごうのよい動物に限られる。狭い意味では，医学研究の目的に使われる動物をいうこともあり，ハツカネズミ・ダイコクネズミ・ウサギ・モルモットなどが有名。動物生理学の研究にカエルなどがよく使われ，また両生類の卵は発生学の研究に欠くことのできない材料である。遺伝学にはショウジョウバエが大きな役割を果たしてきた。いずれにしても，飼育が容易で，取り扱いやすく，しかも容易に入手できるもの，などの条件を満たす必要がある。

じっけんほじょう【実験圃場】 研究実験を行なうための水田や畑をいう。実験や研究のための圃場は，相当面積にわたって，表土や地下心土の土質が均一であり，また地下水の高低もなく，どの部分をとってみても均一な条件下にあり，かつ周囲の環境が均質であることが望ましい。土壌(どじょう)の理化学性などは，数年ないし10数年の間ならし栽培が行なわれて，はじめて均質化するものと考えてよい。

しっこうかん【執行官】 各地方裁判所ごとに置かれる公務員*。強制執行*を実施する執行機関の一。裁判所法制定前は執達吏とよび，裁判所法実施後は執行吏とされ，さらに1966年(昭和41)執行官法が制定されて執行官となった。執行官の業務は民事訴訟法や競売*(けいばい)法などの法令で定められている。執行裁判所に比べて執行機関としての特徴は，事実行為を要する執行処分，たとえば，有体動産に対する執行や不動産引き渡し請求権の執行などにあり，付随的には債権差し押えの付随的執行として差し押え債権の証書の取り上げなどがある。裁判所の発する文書の送達も重要な職務の内容である。執行官は一般公務員と違って給与所得はなく，手数料から収入を得る。その手数料が一定の額に達しないときは，国庫から補助金を受けることになっている(裁判所法62条)。〔内田剛弘〕

しっこうきかん【執行機関】 決定された事項や意志を実現させるため，その執行を行なう機関一般をさす。議決機関，または意志機関に対する。国会に対する行政部(内閣)，地方公共団体においては議会に対する知事・市町村長など，公益法人における理事，会社における業務執行社員・取締役会などが執行機関といわれる。また，行政部においては，行政官庁の命令に従って実力をもって職務を遂行する機関，たとえば，警察官・麻薬取締官・海上保安官・税関職員・国税徴収職員などを執行機関とよぶ。さらに民事訴訟法では，債権者の申し立てによって強制執行*を行ない，また訴訟法上の書類送達，裁判の執行などを行なう執行官*・執行裁判所・受訴裁判所を執行機関といい，刑事訴訟法では，刑事裁判の執行指揮者である検察官*，および直接執行にあたる検察事務官・司法警察職員(→司法警察)・監獄官吏などがこれにあたる。〔原田政光〕

じっこうしつど【実効湿度】 ⇨湿度

しっこうぶん【執行文】 債務名義*に執行力があることを明示し，執行当事者を公証するため，公証官吏が確定判決など債務名義の末尾に付記する公証文言。〈前記正本は被告某に対し強制執行のため原告某に付与する〉のような文言をいう。債務名義(確定判決とか，仮執行*宣言付き終局判決とかある種の公正証書など)は，すべて強制執行のために執行文が必要であるが，執行文の必要のないものとして次のものがあげられる。①仮執行宣言付き支払い命令，②仮差し押え仮処分命令，③検察官の執行命令，④本来の執行の付随的執行としての債権差し押え命令に基づく債権証書の取り上げの執行。〔内田剛弘〕

しっこうゆうよ【執行猶予】 有罪者に刑の言い渡しをする場合，情状によって一定の期間その執行を猶予し，その期間を無事経過すれば刑の言い渡しは効力を失うものとする制度。3年以下の懲役・禁錮(きんこ)または50,000円以下の罰金刑の言い渡しを受けた者のうち，禁錮以上の前科がなく，改悛(かいしゅん)の情ある者に対して，1年以上5年以下の執行猶予をつけることができる(刑法25条以下)。執行猶予期間中罪を犯せば，猶予を取り消され，実刑に服さなければならない。比較的軽い罪を犯した初犯者で，改悛の情ある者に対してまで一律に刑を執行することは，かえって自暴自棄に追いやるとともに，刑務所内で悪感化を受ける危険すらあるのでこのような制度が設けられた。この制度を補完するものとして保護観察*の制度が設けられている。〔井上公耳〕

しっこうり【執行吏】 ⇨執行官

じつごきょう【実語教】 平安末期から近代初頭にかけて用いられた初等教育用の教科書。作者は未詳で，漢詩にならった五言句48連が収録されている。内容は，智(ち)の礼賛(らいさん)に終始し，智は学問に励むことによって得られると主張されている。中世には広く書写されていたが，盛んに用いられたのは江戸時代で，寺子屋*などでは他の往来物*を合わせてあるいは単独で学習され，刊本となって流布した。

じっこくとうげ【十石峠】 関東山地の北部，群馬・長野県境にある峠。利根(とね)川の支流神流(かんな)川の谷と信州側の佐久地方とを結ぶ十石街道(県道)がここを越えている。標高1,356m。峠の名は，佐久方面の米穀が日に10石輸送されたことに由来するといわれ，上州側の峠下の白井にはかつて関所が置かれていた。

じっこくとうげ【十国峠】 日金山ともいい，箱根火山の外輪山箱根峠から南へ延びる尾根が熱海(あたみ)市に下がるところにある。標高774m。ここから伊豆(いず)・相模(さがみ)・武蔵(むさし)・駿河(するが)・遠江(とうとうみ)・甲斐(かい)・安房(あわ)・上総(かずさ)・下総(しもうさ)・常陸(ひたち)の10か国が望まれるところからこの名がつけられた。峠下を箱根峠～熱海峠間の有料道路が通り，そこから頂上へのケーブルカーがある。

しつごしょう【失語症】 聴力や構音に関係する末梢(まっしょう)器官そのものの運動には異常がないのに，大脳皮質の言語中枢の障害のため，言語を理解したり概念をことばに構成したりすることのできないものをいう。言語の理解はできるが自発的に発語できないものを運動性失語症，言語の理解そのものができないものを感覚性失語症といい，それぞれ運動性および感覚性言語中枢(右ききの人では左大脳半球にある)の障害によって起こる。〔井形昭弘〕

じつごと【実事】 歌舞伎(かぶき)の演技・演出法の一。勇武を誇張した荒事*に対し，常識円満な人物が演ずる，写実に近い技法のこと。この種の役がらを得意とする俳優を実事師とよぶ。《忠臣蔵》の大星由良之助(ゆらのすけ)などがその例。

じつざいろん【実在論】 認識の本性に関する哲学の根本的立場の一つで，観念論と対置されるが，歴史的にはさまざまな学説があり，両者の区別は必ずしも明確ではない。①プラトンのイデア論において，イデア*(観念)の実在を主張するもので，イデアは感覚的事物より実在的であり，後者は前者の反映または模倣であるとする説。この種の実在論(実念論)は，中世の普遍論争*となって再び現われる。②普遍すなわち一般観念は，個物から独立して存在する

という説で，普遍は単に名目にすぎないとする唯名論(ノミナリズム)と対立する。③存在は，意識主体の認識とは独立に存在するという説で，多くの理性論者はこの立場に立つ。④存在は，その本性からして思考とは別のものであり，思考から引き出すことはできないという説。経験論者の立場はこれにあたる。⑤現代の数学において，数学的真理は精神の恣意(しい)的産物ではなく，われわれの外に存在し，事物と同じ性格の必然性をもつという説。このように実在論の形態にはいくつかの傾向があり，歴史上の哲学思想は多かれ少なかれ，そのいずれかと関わりをもっている。そこで，実在論を思想の形式から区別すると，①われわれの日常的な自然的立場での知覚・経験をそのまま実在とする素朴(そぼく)実在論，②プラトンや中世哲学およびある種の理性論者などにみられる唯心論的実在論，③われわれの観念は現実世界の反映であるから現実そのものを認識させるとする唯物論的実在論，などに分けられる。〔飯塚勝久〕

しつじ【執事】鎌倉幕府・室町幕府の職名。元来公家(くげ)・武家の社会において家務・家政にあたる者の上席者をいい，院政*では院庁の別当中，常時事務を主宰する者を執事または執権*と称した。①鎌倉幕府では政所*(まんどころ)の次官，問注所*の長官の職名となり，政所執事は二階堂氏，問注所執事は三善(みよし)氏の世襲職となった。②室町幕府では将軍補佐の職名となり，高師直*(こうのもろなお)・細川清氏らが任命されたが，1362年(正平17・貞治1)斯波義将*(しばよしまさ)が新任の際に管領*と称するようになった。同幕府の政所・問注所の長官も執事と称し，政所執事ははじめ佐々木・京極・二階堂氏がのち伊勢(いせ)氏が任ぜられ，問注所執事は町野・太田(おおた)氏に世襲させた。関東管領*の補佐役も執事といい，はじめ畠山(はたけやま)氏のち上杉(うえすぎ)氏の世襲職となった。関東管領が公方(くぼう)と称せられるようになると，その執事を関東管領とよぶようになった。〔高崎徳次〕

じっし【実子】⇨親子

しっしきせいれん【湿式製練】鉱石中の金属を適当な方法によって酸またはアルカリなどの液体にとかし，この溶解した金属を置換法・電解法により溶液から分離する製練法。あらかじめ酸化焙焼(ばいしょう)・硫酸化焙焼・塩化焙焼を行なって溶解しやすい化合物にしておくことが多い。金銀の青化法，亜鉛の電解採取法などがあり，銅・マンガン・クロム・カドミウムなども湿式法により製練される。

じっしつはん【実質犯】犯罪のうち，外部的動作だけでなく，それによって起こった結果をも具備することを成立要件とする犯罪。形式犯*に対する。たとえば，形式犯(偽証罪・不退去罪など)は外部的動作のみで犯罪が成立して結果を重視しないのに対し，実質犯(殺人罪・窃盗罪など)は行為のほかに結果を重視する。このため，実質犯では，特に行為と結果の因果関係が重視される。

じっしゅう【実習】学校内の施設や校外の現場で実務の見習いをすること。もともと実業学校系統で，卒業後すぐに現場の役にたつ人間を育成するための方法として登場したものであるが，師範学校における教生もその一形態と考えてよい。その後，正確な理論を習得するには，その理論の応用である現場の実務と連係させるのが当然だという考え方が生まれ，種々な教育の分野で実習を含めた教育方法が考えられるようになった。医師のインターン，農学部の農場実習，社会学の社会調査実習などである。しかし，これらの経験を重視する教育課程が効果をあげるには，綿密な計画が先行しなければならない。〔浜田陽太郎〕

じっしゅうえんでん【十州塩田】⇨塩田

じっしゅうんけい【十種雲形】⇨雲

じっしゅきょうぎ【十種競技】陸上競技の混成種目の一つで，男子だけの種目。10種目の競技を2日間で行ない，それぞれの成績による得点の合計で順位を決める。種目は，第1日が100m・走り幅とび・砲丸投げ・走り高とび・400mの各競技，第2日が110m障害・円盤投げ・棒高とび・やり投げ・1500mの各競技である。1912年の第5回ストックホルム大会からオリンピック種目に採用され，競技が激しく名勝負が多いところから，マラソンと並んでオリンピック競技の花と言われている。各記録の得点は，国際陸上競技連盟で定めた混成競技採点表によって計算される。日本記録は鬼塚純一の7,082点(1970)，世界記録はアメリカのW.ツーミルの8,417(1969)。〔伊東春雄〕

しつじゅんだんねつげんりつ【湿潤断熱減率】飽和空気が断熱(ある物体系が外部と熱エネルギーの交換を行なわないこと)的に上昇するときの気温の下がる率。大気中では上層ほど気圧が低いので，水蒸気を含んだ空気が断熱的に上昇するときに気温が下がるが，水蒸気で飽和している場合には，気温が下がるとともに凝結を起こして潜熱を放出し，気温の下がり方が緩和される。これは大気中の降雨雪現象を論ずる際に重要である。乾燥断熱減率*は約1℃/100mで一定値であるが，湿潤断熱減率は気温や気圧によってその値が変わる。〔曲田光夫〕

じっしょうしゅぎ【実証主義】19世紀後半から今世紀初頭にかけて，ヨーロッパを風靡(ようび)した思想運動。その基本的な特徴は，超経験的なもの，形而上学(けいじじょうがく)的なもののいっさいを排して，観察された事実のみを知識の対象とし，すべての知識を自然科学の方法によって統一し体系化しようとするところにある。これを提唱したのはコント*で，彼は人間の歴史および知識の進歩には神学的・形而上学的・実証的の3段階があること，および実証的段階こそは科学の時代を意味し，諸現象の観察を通じてそこに客観的法則を見いだし，これに基づいて合理的予見を行なうことの可能な段階であると説いた。現在，実証主義はその認識批判としての性格を強め，すべての有意味な命題は観察によって直接的に検証しうる原子的命題に還元することができなければならないとし，よって物理学を基礎とする統一科学を構想する論理実証主義*として展開してきている。〔石倉恒之〕

しっしん【湿疹】俗には瘡(くさ)・爛(ただれ)という。皮膚病のうち最も多いものである。原因は複雑で，先天的に湿疹になりやすい体質の人や，内臓疾患などの内因がある場合に，外からの機械的・物理的・化学的刺激や，体内から血行性に皮膚に作用する薬物・食餌(しょくじ)成分などが加わって生ずる，皮膚のアレルギー性疾患であると考えられている。症状は多彩で，急性と慢性に分けられるほか，年齢別・身体部位別や症状によって分類されている。

①急性湿疹：患部が赤くなり，アワ粒大の丘疹や小さな水疱(すいほう)ができて非常にかゆい。水疱はそのままかわき細かい鱗屑(りんせつ)となってはげ落ちる場合と，水疱内容が混濁して膿疱(のうほう)となったり，破れて糜爛(びらん)面を生じ，しみ出てきた淋巴液(りんぱえき)・血液・膿汁(のうじゅう)がかわいて痂皮(かひ)(かさぶた)を生じたりする場合がある。痂皮のとれたあとはしばらくの間落屑が続く。これらの病変は通常，同時にみられる。炎症が激しい場合は浮腫(ふしゅ)を生じ，それが顔に現われると眼瞼(がんけん)がはれて眼裂が狭くなる。

②慢性湿疹：湿疹が長い間続いたり，同じ場所に反覆して生ずると，患部の皮膚は厚くこわばり，表面がざらざらしてくる。通常は黒ずんでみえるが，ときには逆に色素脱失をきたして淡色になることもある。このような病変部に急性湿疹様の変化がくり返して再発することがしばしばあり，自覚的には激しいかゆみがある。

治療法としては，皮疹に適した軟膏(なんこう)療法がたいせつである。小範囲で軽症のものはオリーブ油で軽くぬぐい，ホウ酸亜鉛華軟膏を塗布し，シッカロールを散布するか，ガーゼをあてて包帯する。これで直らない場合や広範囲で症状が重い場合は，皮膚科専門医の治療を受けたほうがよい。症状に応じて副腎(ふくじん)皮質ホルモン，鎮痒(ちんよう)・消炎・殺菌剤含有軟膏などを用いる。食餌(しょくじ)は刺激物を避け，はだ着はよく洗ったもめんメリヤス製がよい。洗顔や入浴は病巣がかわいていれば支障ないが，症状の重いときは避けなければならない。〔田嶋公子〕

しっしん 【失神】 意識が突然消失し，その持続が一過性で数分以内のもの。俗に気絶という。➔気絶

じっしんほう 【十進法】 数を唱えたり書いたりするとき，10になるごとに上の単位の1としてまとめていく方法。日常用いている整数・小数はこのしくみになっていて，わが国では一から上に十・百・千・万・十万……億……兆……など，下に分(ぶ)・厘・毛・糸・忽(こつ)などの単位がある。古代から，ほとんどの民族が十進法を用いてきたが，それは人間の手の指が10本あることに起因するといわれる。しかし，数や量の表わし方は十進法に限られるものではなく，ダース・グロスのように単位関係が次々に12倍になっている十二進法や，時間の秒・分・時の単位関係のような六十進法も用いられ，コンピューターでは二進法が用いられている。 〔杉岡司馬〕

じっすう 【実数】 有理数と無理数とを合わせた数。数概念は，自然数（1，2，……）から始まって整数（0，±1，±2，…）へ，さらに有理数（n/m，mとnは整数，$m \neq 0$）へと拡大されていく。この有理数までの範囲では，これを全部直線上に並べたときに，まだ至るところにすき間が生ずることになる。たとえば，$x^2=2$となるようなxは有理数ではないので，そのところだけすき間があくことになる。このようなすき間を残らず埋めるのが無理数である。そこで，有理数と無理数を合わせた実数全体の集合にはすき間があいていないことを保証する公理を，〈実数の連続性の公理〉という。これは，微積分などの基礎になっている性質である。

このほか，実数全体の集合は，次のような性質をもっている。まず，実数の集合の範囲内で，0で割ることを除外して，四則演算がつねに可能である。すなわち，体をなす（➞群）。また，実数の集合は，任意の2数に大小の関係が定められるので，全順序集合である（➞集合）。なお，実数の集合も，有理数の集合もともに無限集合であるが，濃度（無限の程度）はまったく違うこともわかっている（➞計量数）。 〔杉岡司馬〕

しっせいかん 【執政官】 古代ローマの最高の官職。〈コンスル〉の訳語で統領とも訳される。紀元前6世紀末，王政廃止に伴い，王の宗教上の権限を除くいっさいの権力，すなわち政治・裁判・軍事にわたる無制限の権力を受け継いだもの。はじめはプラエトルとよばれた。定員2名，任期1年。最大の民会である兵員会における選挙によって選出された。同僚制で職権の分割を行なわず，それぞれが完全な統一的な命令権（国家権力の発動権を意味する〈インペリウム〉の訳語）を有し，互いに相手の職権行為に対する取り消し権を有するため絶対権力の牽制(けんせい)となった。BC367年の改革以前はパトリキ（貴族）のみが就任できたが，以後1名はプレブス（平民）と決められ，BC172年には2名ともプレブスとなった。しかし，執政官を出す家がらは事実上少数の富裕な実力者の家がらに限られ，それらはノビレスとよばれて支配層を形成した。スラの改革以後，執政官の職権は兵員会の召集と法案提出に限られたが，任期満了後は総督として属州に出張し，政治的実力をたくわえた。帝政期にはいってからは実質的権限はほとんどなくなり，任期も数か月に短縮されたが，年頭の執政官の名が紀年名に用いられるなどの名誉は残り，その地位は6世紀初めまで存続した。 〔弓削　達〕

しっせいしょくぶつ 【湿生植物】 湖や川などの水辺や湿地に生育する植物。土壌(どじょう)の通気が悪いため，イネ・イ類のように根に通気組織を発達させている植物が多く，地上に呼吸根を出している場合もある。蒸散量は大きく，蒸散の抑制に関与する構造上の発達が悪いため，乾燥には弱い。

しっせいどうぶつ 【湿性動物】 陸上の森林下の土壌(どじょう)中，沼や池や川の周辺，湿地性草原など，湿度の高い場所にすむ動物。典型的なものとして，プラナリア・ミミズ・ヒル・ナメクジ・カタツムリ・ダンゴムシや両生類などがある。森林下の土壌中は湿度が高く，非常に多種類の動物が生息している。

しっせいろくまくえん 【湿性肋膜炎】 ⇨肋膜炎

じっせん 【実践】 人間が生命の保持や意志の表現のためになす行為。理論に対して用いられるが，知性を特質とする人間の行為なのであるから，理論と完全に切り離して考えることはできない。したがって，実践についての哲学者たちの見解の相違は，理論との関係をどのようにみるかによる。学問を理論的と実践的とに分けたのはプラトンとアリストテレスであるといわれるが，この区分はスコラ派に受け継がれ，今日でも用いられている。古代ではアリストテレスがテオリアを説き，理論優先の立場をとるのに対し，キュニコス派は実践を重要視している。近代哲学ではカントが《実践理性批判》において，理論に対する実践の優位を唱えたといわれるが，この立場は理論理性に裏づけされている。現代ではマルクス主義が実践を強調し，人間のすべての活動は物質的な運動を基盤とすると説く。理論と実践のどちらを重視するにしても，一般にこれらの立場は両者をなんらかの形で同一視するか，一方を他方の部分とみなすという関係づけを試みているのである。 〔玉井　治〕

じっせんてつがく 【実践哲学】 実践的なもの（行為に関するもの）の哲学であり，生の現実へのわれわれの態度を決定し，倫理的・社会的な形式や価値の側面から意志の行為を考える哲学。アリストテレスは，《形而上学(けいじじょうがく)》《ニコマコス倫理学》その他で，自己の学問体系を，真理を目的とする〈理論学（テオレチケ）〉と，行為を目的とする〈実践学（プラクチケ）〉に分けている。これは，《デ-アニマ》で理論理性と実践理性に分けたのに対応する。さらに〈制作学（ポイエチケ）〉を加えて3分した箇所もある。これらはカントの理論哲学・実践哲学・芸術哲学および目的論の3批判書の領域に似ている。理論学は自然学・数学・神学（第1の哲学）を含み，制作学は詩学である。実践学は，なによりも政治学であって，倫理学はその一部であり，統帥術・家政学・修辞学（弁論術）はそれに従属するものである。政治学は，国においていかなる学問が行なわれるべきか，各人はいかなる学問をいかなる程度まで学ぶべきであるかを規制するもので，人間の善を目的とした。つまり人間に関することどもの哲学を完成するものであった。のちに道徳哲学・倫理学と同義に用いられているが，やはりこれらも人間探究の学の意味が中心にあり，心理学・政治学を含んでいる。アリストテレスは神学を最も尊い学としたが，実践哲学を最高の学とした者はカントである。カントは，実践理性は理論理性よりもすぐれており，英知界の法則を与えるとした。ここから目的の王国・人格の尊厳などの豊富な思想が語られる。➔自律 〔中川　誠〕

じっせんりせいひはん 【実践理性批判】 カントの主著の一。批判哲学3書のうち，〈第2批判〉といわれる。1788年刊行。《純粋理性批判》（1781）は知識を現象の世界に制限したが，本書はこの成果をふまえて信仰の世界を基礎づけ，批判哲学の精神を積極的に展開した。道徳法則があるということは自由があるということであり，道徳法則を意識しているということは実践理性の事実である。実践理性は，最高善（徳と幸福の一致）の概念を媒介として霊魂の不死と神の存在を要請する。道徳法則はこうして宗教に至る。他方，理論的には自由の理念と目的論的世界観によって，理論理性と実践理性の一致（現象の世界と道徳の世界の一致）が証明され，批判哲学が体系化された。 〔中川　誠〕

じっそう 【実相】 仏教で本来，本体・実体・真相などを意味し，すべてのもののありのままの姿をさす語であったが，のち真実の理法，不変の理法という意味に深められた。原始仏教の縁起の理法を別の語で表現したものである。のちに中国天台宗の智顗(ちぎ)は，最も完全な自己発見の場を実相とよび，迷える人間に直ちに永遠の仏の命を体得する世界であると説いた。

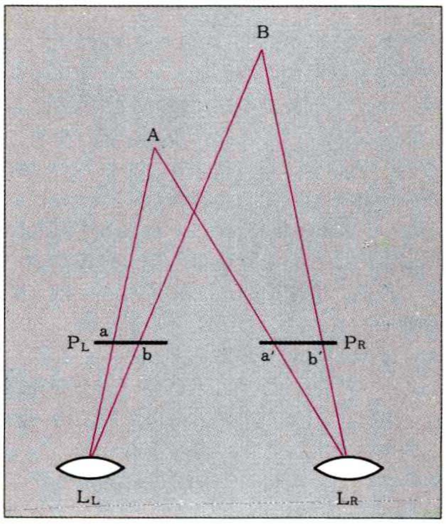
じつぞう 【実像】 光学系を通過した光線が実際に集まってつくる像。物体空間のかってな1点から出た光線束が，レンズなどの光学系を通過したのちに，すべて再び実際に1点に集まるならば，物体空間の任意のものの姿が像空間に実際に再現される。

写真機では，実像の生ずる位置にフィルムなどを置いて被写体を撮影する。虚像ではこのようなことはできない。実像がもとの物体と上下が同じ向きのときは正立実像，さかさまのときは倒立実像という。〔吉原邦夫〕

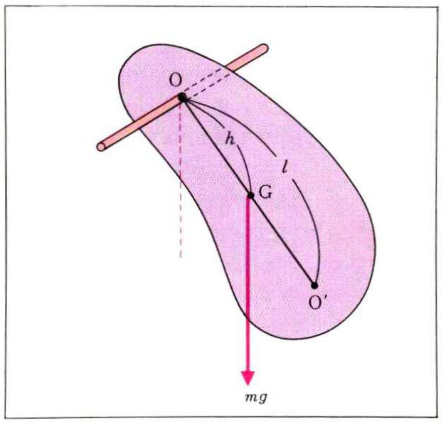
しっそうせんこく【失踪宣告】不在者の生死不明の状態が永続して死亡の蓋然(がいぜん)性が強い場合，その者の身分関係や財産関係を確定させるため，家庭裁判所が利害関係人の請求により死亡したものとみなす審判をいう。失踪宣告はふつう7年，戦地に臨んだ者や沈没した船舶にあった者など特別の危難に遭遇した者については1年継続して生死が不明である場合に行なわれる(民法30条)。失跡宣告がなされると，普通の場合には7年間の失踪期間が満了したとき，特別の危難に遭遇した場合にはその危難が去ったとき，たとえば，戦争の場合は，その終了時，船舶の場合は，沈没時に死亡したものとみなされる(民法31条)。その時点から相続が開始され，生存配偶者は失踪者との婚姻関係が解消されるため再婚が可能となる。失踪者が生存していたり，死亡とみなされた時期と違う時期に死亡したことが証明されれば失踪宣告は取り消されることになるが，それがため失踪宣告後善意でなした行為の効力が変わることはない(民法32条)。したがって，たとえば失踪宣告後その取り消されるまでの間に失踪宣告を信じてなした行為についてはその利益の存する限度で返還すれば足りるとされる。また，その期間中に善意で再婚した場合には，失踪宣告が取り消されても前婚が直ちに復活するわけではない。一時的に重婚の成立も考えられるが，前婚については離婚手続き，後婚については取り消し請求によっていずれか一方を解消できる。〔黒木三郎〕

しっそく【失速】飛行機の翼や軸流圧縮機のはねのような揚力面に沿う流れが，上面(背面)からはがれて揚力が減少する現象。流れが剝離(はくり)する原因としては，迎角が一定の限度(飛行機の翼の場合は失速角，圧縮機の場合はサージ限界などという)を越えて増すこと，あるいは翼面上に衝撃波ができ，衝撃波後方の圧力上昇がある限度を越えることなどがあげられる。

じつぞん【実存】哲学用語。現実存在の略語と考えられるが，語原的にはラテン語のエクジステンチア，すなわち〈現にあるもの〉をいい，事物の本質・潜勢的能力を意味したエッセンチアと対立する。本質が多くの事物に共通の概念的本性であるのに対し，実存は個物そのものまたはその現存性をいう。このように，スコラ哲学では実存は一般的に存在するものを意味したが，キルケゴールは特に主体的存在としての人間の存在を強調するためにこの語を用いた。今日，実存哲学ないし実存主義という場合の〈実存〉とは，この意味での人間の具体的



実 体 鏡



実体振り子

存在とそのあり方をいう。したがって，実存は単にいまある人間の存在だけでなく，あるべき姿としての人間の存在をも含むのであり，自然的に与えられているものをつねに乗り越えていくところに実存の真の意味があるといえる。➔実存主義〔飯塚勝久〕

じつぞんしゅぎ【実存主義】⇨次ページ

じつぞんしゅぎぶんがく【実存主義文学】もともと実存主義は，キルケゴール・ヤスパース・ハイデッガーらドイツ哲学者によって理論的根拠を与えられていたものであるが，これを文学的立場として表明したのはフランスのサルトルである。したがって，厳密には実存主義文学は，自己の立場を《存在と無》で哲学的に論理づけるとともに，小説や戯曲においてその立場を文学的に展開したサルトルの文学をさすと考えるべきであるが，一般には，実存主義的な思想的立場から，人間の苦悩・不安を表現する文学的傾向を包含する。サルトルの諸作品が，特にその評論《文学とはなにか》が示すように，近代資本主義の社会における人間の自由と行動が最も中心的な主題となり，方法的には現象学・精神病理学などを採用することが多い。実存主義文学の作家としては，フランスにおけるサルトル・マルロー・ボーボワール・ジュネ・イヨネスコ・ベケットら，その他ではチェコスロバキアのカフカがいる。ただし，明確な定義があるわけではなく，作家によって，あるいは作品によって，さまざまな傾向と展開を示している。〔池田公麿〕

じつぞんぶんせき【実存分析】⇨現存在分析

ジッダ［Jeddah］サウジアラビア中部，紅海岸にある海港都市。人口56万1,000(1974)。海路による外国からのイスラム教徒のメッカ巡礼の上陸地であり，この国最大の貿易港でもある。国際空港がある。商業が盛んで，陶器・織物・金属加工などの工業もある。政府は首都リヤドに外交官の駐留を認めないため，諸外国の大公使館・領事館などがあり，サウジアラビアの外務省もここにある。

じったい【実体】〈下にあってささえるもの〉の意味をもつラテン語スブスタンチアの訳で，哲学ではさまざまに変化していく現象の根底にあって，それを制約している恒常的な基本存在。アリストテレスはウーシアと呼び，主語とはなっても述語とはならない具体的な個物をおもにさした。中世哲学では普遍論争にその一端がうかがえる。近世哲学では大陸合理論で最も重視され，デカルトは他によらずして存在するもの，自存するものと解して，無限実体を〈神〉，有限実体を〈精神〉と〈物体〉に限定した。スピノザはこの定義を厳密に適用し，〈神(自然)〉のみを実体とした。ライプニッツは二者の機械的自然観に対抗してモナド(単子)を実体とした。イギリス経験論では消極的に取り上げられたにすぎず，カントではカテゴリーの一つにとどまっている。それ以後の哲学史上では，実体が〈絶対〉〈永遠〉などの観念を背景とするのに対し，近代的思想がそれらに対する不信をかてとして発展してきたことから，主要な位置を占めることはない。➔属性〔石井忠厚〕

じったいきょう【実体鏡】2枚の立体写真を用いてその写真を立体的に見せる光学装置。立体鏡・ステレオスコープともいう。構造は図のように両眼の間隔に相当する位置に2個の同様の凸(とつ)レンズL_L，L_Rを置き，それぞれのレンズの焦点面に実体写真機で撮影した実体写真$P_L P_R$を配したもので，左眼でL_L，右眼でL_Rを通してP_L，P_Rを見ると写真上の相対応する2点a，a′はAに，b，b′はBの位置にあるように見え，立体感を生ずる。この原理を応用したものに測距儀や実体比較測定器・航空測量用測定器などがある。〔加藤定雄〕

じったいふりこ【実体振り子】水平にささえられた軸のまわりを振動する剛体。物理振り子・複振り子ともいう。単振り子は

➔434ページ

実存主義

狭義には，第２次世界大戦直後フランスの哲学者サルトル*によって主張された哲学思想をいい，代表的思想家としてほかにメルロ-ポンティ*やボーボワール*らをあげることができる。このグループは機関誌《レ-タン-モデルヌ*》(1945年創刊)によって幅広い活動を行ない，1940年代および1950年代の思想界において指導的役割を演じた。しかし，今日では一般にもっと広い意味で使われており，サルトル流の実存主義をはっきりと拒否しながらも，実存*ということばに特別の意味と重要性を認めている哲学者たちの思想にもこの名が与えられている。ヤスパース*はすでに1931年以来自己の哲学的立場を実存哲学と名づけているし，ハイデッガー*は実存哲学とも実存主義ともいわないが，現存在*の実存論的分析を詳細に行なっているところから，広い意味での実存主義者に数えられる。カトリック教徒であるマルセル*はキリスト教的実存主義というよび名を受け入れている。

ところで，これらの哲学者たちがいずれも問題にしている実存とはなんであろうか。ドイツの哲学者ボルノウ(1903～　)によれば,実存の概念は存在者の本質存在(エッセンチア)と現実存在(エクジステンチア)という古くからの区別に由来している。本質存在とはあるものがなんであるかという内容上の規定をさし，現実存在すなわち実存とはあるものが現に存在することをいう。しかし，実存主義という場合の実存はあくまで人間の実存に限られる。そこで実存主義を簡単に定義すれば，人間が現にあるそのあり方を特に問題にする思想ということができるであろう。このように広く考えると，あらゆる哲学が多かれ少なかれ実存主義的であり,フランスの哲学者ムーニエ(1905～1950)のように実存主義の起源をメーヌ-ド-ビラン*やパスカル*を越えて，遠くソクラテスやストア派の哲学者たちにまでさかのぼることもできるわけである。

けれども，今日われわれが理解しているような意味で実存ということばをはじめて使い，これを徹底的に追究してみせたのは19世紀のデンマークの宗教的思想家キルケゴール*であった。彼の著わした多くの攻撃的・論争的な著作には，現代の実存主義の原型がほとんどすべてといえるほど含まれている。その中でも彼の実存思想が最も直截(ちょくせつ)に説かれているのは，1846年に偽名を用いて出版された《哲学的断片への結びとしての非学問的あとがき》であろう。この〈断片〉とか〈非学問的〉といういささか奇異な題名そのものに，すべてを体系化し，学問にしてしまう時代思想(ヘーゲル哲学および思弁に堕したキリスト教)に対する痛烈な皮肉がこめられている。彼によれば，キリスト教の本質は個々の単独者に自己の永遠の救いかまたは永遠の滅びかの二者択一を迫るところにあり，われわれは無限の情熱をもってこれにあたらなければならない。信仰の問題は，いかなる学問的積み重ねによっても到達しえない異質な事がらである。客観的真理と称するものは，単独者である人間の究極的関心事に対してはあくまで近似的真理にとどまる。われわれがすべてをかけて手に入れたいような真理は，客観的内省や学問体系によって得られるのではなく，主体*に徹することによって体得される。彼の〈主体性こそ真理であり，真理は主体性にある〉という有名なことばはその端的な表現であって，これはのちに実存主義の標語とされるに至った。

キルケゴールとは一見正反対の立場をとりながら，人間的生の現実に目を向けない時代思想を激しく攻撃する点で非常に近い関係にあるのはニーチェ*である。彼もまた，その強烈な反理性主義のゆえに，ハイデッガー・サルトルをはじめとする現代の実存主義に甚大(じんだい)な影響を及ぼした。ニーチェは出世作《悲劇の誕生》(1872)でギリシア世界を構成する二つの要素，アポロン的なものとディオニュソス的なものとの対立を指摘したが，一般的なギリシア像とは逆に，生の恐怖と陶酔を象徴するディオニュソス神のほうをより根源的なものと考えた。彼の思想は，このときから一貫してソクラテス(プラトン)主義，すなわち本能を阻害し，道徳的・理論的人間を称揚するギリシア以来の伝統思想に対する批判と攻撃という形をとる。われわれの生の悲惨と無意味を前にして，なおたじろぐことなくこれを肯定しようとする積極的ニヒリズムは，その到達点を示すものである。積極的ニヒリズムとは，要するに人間的生の現実をそのままの姿で受け入れる強い精神，誠実な精神のことである。超人*，神の死，永劫(えいごう)回帰*，いっさいの価値の転換，などの衝撃的なことばの意味もそこにある。このようなニーチェの根本思想は，現代の無神論的な実存主義の源流といってよいであろう。

キルケゴールとニーチェ，ハイデッガーに従えば必ずしも類縁性はないとされるが，しかし，とにかく現代の実存主義の起源と考えていいこのふたりの思想家は，ごく少数の例外を除いて同時代人に理解されることなく終わった。特にキルケゴールは20世紀にはいるまでほとんどまったく顧みられなかった。だが，この間に間接的ではあるが，結果として実存思想の復興を促すような仕事が果たされつつあった。ベルグソン*は19世紀末《意識に直接与えられたものについての試論》(1889)および《物質と記憶》(1896)によって，哲学における実証主義的・主知主義的傾向を批判し，生の体験を重視する哲学を打ち出した。同じころディルタイ*は，人間の生は自然科学におけるような〈説明〉によってではなく，〈了解〉によって探究さるべきことを唱え，精神科学の基礎を確立しようとした。さらに，心理学における動向も無視できない。今世紀初頭に成立したゲシュタルト心理学*は，それまでの要素的なものの見方,すなわち対象を分析していって最小の要素に到達し，その要素の結合法則を探ることが心理現象を解明する唯一の方法だとする考え方に打撃を与え，全体的なものの見方を説いた。これらはフランスの哲学史家ブレイエ(1876～1952)のことばを借りれば,20世紀における総合の要求,全体観の要求として特徴づけられるものである。しかし，中でも特に実存主義と密接な関係をもつに至るのはフッサール*の現象学*であった。現象学はフッサールの思想の発展段階によって異なる様相を示しているので，必ずしも一義的にはとらえられないが,簡単にいえばそれまでの実証主義的哲学に対する根本的批判であったとみることができる。現象学のモットーとした〈事象そのものへ〉という考え方は，煩瑣(はんさ)なまでの論理的手続きを必要とするので，事象そのものへの接近どころか，これとはまったく逆の方向に行ってしまったようにも思われるが，そのめざすところが哲学における実証主義的傾向の克服にあるとすれば，フッサール自身の哲学がどれほど非実存的にみえようとも，根底においては現象学的実存主義への通路をもっていたのである。

こうした反主知主義・反実証主義の動向を決定的にし，人間存在の根本的なあり方を探究する実存主義への道を開いたのは，フッサールの弟子(でし)ハイデッガーの主著《存在と時間*》であった。実存思想の歴史におけるこの書のもつ意味ははかりしれないものがある。彼はそこで実存範疇(はんちゅう)とよばれる諸概念を展開し，キルケゴールが詩的に描いた人間の不安な姿を体系的に論述した。現存在(人間存在)は〈世界-内-存在*〉として自己の周囲に道具連関の世界をつくりあげているが，一般的には〈ひと〉というあり方の中に本来の自己を見失っている。〈おしゃべり〉や〈好奇心〉に陥って，実存の不安から逃避している。このような非本来的あり方は，現存在が〈終わりへの存在〉であることを自覚するとき,その根拠のなさを暴露する。現存在はむしろ積極的に自己の死を先取りし，日常的な非本来性を打ち破るべく決断を迫られているのである。《存在と時間》以後の諸著作が示しているように，ハイデッガーの哲学は以上のような実存の現象学に尽きるものではないが,にもかかわらず彼はキルケゴールとニーチ

ェによってはぐくまれた実存思想を現代において最も深く受け継いだ実存哲学者のひとりとみなすことができる。

ヤスパースは《現代の精神的状況》(1931)において実存哲学を唱え，翌年主著《哲学》3巻を刊行し，実存哲学の体系を組織した。彼の実存哲学は科学と宗教に対する緊張関係をその基礎に置いている。彼はM.ウェーバーを敬愛し，彼自身も一流の精神医学者だったことから明らかなように，実存哲学者の中でも特に科学的認識の意義を認めている。しかし同時に，科学的認識は全体的な存在認識ではありえず，最終的には人生に対していかなる目標も与ええないと考えている。哲学にはまた，宗教的信仰に生きる人々の現実にいかに対処するかという根本的な問題がある。実存は特にこの面において現われる。ヤスパースは，対象的な認識のわくをはみ出すような存在を包括者とよぶ。まず存在者がその中に現象してくるような包括者は〈世界〉であり，私およびわれわれがそれである包括者は〈意識一般〉といわれる。しかし，私自身は意識一般に尽きるのではなく，意識をになう〈現存〉であり，また〈精神〉である。さらに，意識された精神の現存から〈実存〉への飛躍が残されている。だが，この実存という包括者とかかわるのはもはや単なる〈世界〉ではなく，〈超越〉である。したがって，ヤスパースの実存とは自己自身に対して態度をとると同時に，超越者に対して態度をとるような自己存在をいう。しかし，人間ははじめからこのような本来的自己ではありえず，単に可能的実存としてある。われわれは哲学することの歩みにおいて，可能的実存から本来的実存へ，すなわち超越者とのかかわりにおける自己自身にならねばならない。

同じころ，フランスではマルセルがやはり実存主義的思想を形成しつつあった。彼はカトリックに改宗後はじめて書いた哲学論文《存在論的神秘とそれへの具体的接近》(1933)において，現代の特徴を人間の機能化としてとらえた。われわれはしだいに自分自身を生命的・社会的機能の集合としか考えられなくなってきている。このようなもろもろの機能概念によって動かされる世界は，表面上の多彩さにもかかわらず根本的には空虚な世界であり，そこに現代人の不安と絶望がある。マルセルはここで彼特有の概念〈問題(プロブレム)〉と〈神秘(ミステール)〉の区別を説く。機能化され，技術化された世界においては，いわゆる問題は数多く提出されながら，根源的な存在への要求すなわち神秘は見いだされない。そして，この存在論的神秘は反省的思惟(しい)の対象とはなりえず，反省を越えた反省，第2の反省ともいうべきものを予想する。このようなマルセルの思想は明らかにキリスト教的意識に貫かれているが，しかし彼も言っているようにキリスト教の啓示を前提にしなければ理解できないものではない。そこに，ヤスパースの場合と同様，宗教そのものとはいちおう区別された彼の実存思想の独自性がある。

サルトルは，実存主義という名称を公然と標榜(ひょうぼう)し，かつ普及させた哲学者であり，現代の代表的な実存哲学者の中では無神論を掲げる唯一の人でもある。その実存概念もいくらか異なっている。ハイデッガーにしろヤスパースにしろ，実存は人間の単なる現存をいうのではなく，その本来的なあり方として規定されている。ところがサルトルにあっては，実存は人間存在そのものを意味する。彼は《実存主義はヒューマニズムである》(1946)の中で，実存主義の立場を次のように要約している。まず，実存とは本質に対することばである。ところで，人間以外の物体についてはこの本質が優先する。たとえば，ペーパーナイフのような品物はそれ自身一つの現存をもってはいるが，それがつくられた過程を考えれば，その用途すなわち本質がまっさきに念頭に置かれている。これに対し，人間存在においてはその実存が本質に先だつ。そもそも，人間にはペーパーナイフの場合のような本質はありえない。人間はまず実存する。われわれがいかなる人間になるかははじめから決まっているのでなく，われわれ自身がつくったような人間になるのである。人間はみずからつくるもの以外の何者でもない。これこそが主体性の意味であり，また自由の唯一の内容である。だが，それゆえにわれわれはおおうべくもない大きな責任を背負い込んでいる。この責任はわれわれを不安に直面させる。多くの者はこの不安をのがれるために，われわれにつきまとうさまざまな条件を持ち出し，自由を制限しようとする。だが，これはむなしい。人間の本質をあらかじめ決定することなど，だれにもできないからである。実存主義は現実を直視し，実存という不安な自由を進んで引き受ける。ここで述べられた実存主義は，彼自身専門家向きの哲学と注意しているように，主著《存在と無*》における精緻(せいち)な存在論的探究に基づいているが，ただし主著では本来の意味での実存ということばはほとんど出てこない。くり返し使われている〈人間存在〉がこれにあたるであろう。

サルトルの実存主義は，その飽くことない自由の論証とあらゆる外的権威を排する人間主義のゆえに，マルクス主義の自己献身にも，また伝統的なキリスト教の無力にも満足できない人々をひきつけた。しかし，問題点も残されている。サルトルの実存概念はすでに触れたように，ハイデッガーの現存在，ヤスパースの可能的実存にあたる。彼らにあっては，真の実存とは存在または超越にかかわるものをいい，単なる人間存在のあり方ではない。これはマルセルについてもいえる。実存はその意味で実存にとどまることができない。実存主義は実存と実存を越えるものとの比類ない緊張関係を維持するところにその固有の意義がある。だが，サルトルの場合にはこれが必ずしもあてはまらない。少なくともその初期の主著において描かれた実存は，まったくの自由の中にあって，その行く先をつかみかねている。そこで彼が見いだした突破口は，1950年代における彼の活動が示しているように，社会的現実へのよりいっそうのかかわりであった。実存思想の根源には，超越者との単独者的緊張関係があったことを思えば，サルトルの世界内在への徹底は実存主義というものの多様性を示すと同時に，それが秘める逆説的性格を暗示しているようにみえる。なお，メルロ-ポンティの実存的現象学は死後ますますその声価を高めて，今日ではフッサールの最も正統的な後継者という評価を確立している。

このほかにも，ロシアの哲学者で革命後フランスに去ったシェストフ*およびベルジャーエフ*，イスラエルのユダヤ教哲学者ブーバー*，《シジフォスの神話*》で〈不条理の思想〉を唱え，のち《反抗的人間》(1952)を書いてサルトルらと訣別(けつべつ)したカミュ*，女工という苛酷(かこく)な現実体験を自己に課しながらキリスト教的神秘主義の思想に到達したシモーヌ-ベーユらは，広い意味での実存主義的思想家に加えることができよう。これらの人々もまた，それぞれ重要な思想を現代に投げかけているが，ここではその名をあげるにとどめる。

比較的近年の動向では，1963年ユネスコ主催で行なわれたキルケゴール生誕150年記念講演会での代表的実存哲学者による講演が興味をひくが，中でもサルトルとハイデッガーの主張は，実存思想が今日いかなる意味をもっているかを最も深い形で示しているように思われる。《弁証法的理性批判》(1960)でマルクス主義を現代唯一の哲学と規定したサルトルは，〈単独的普遍者〉と題して熱烈な講演を行ない，キルケゴールを依然として彼の同時代人とみなしている。また代読という形をとったハイデッガーの報告書はキルケゴールについて一言も触れず，ただみずからのことばのみを語りながら，根底においてキルケゴールの思想に最も近いという印象を与えている。このように実存主義は本来逆説的であり，ときにはそれが現われているところになく，現われていないところにあるという性格すらもっている。むしろこの矛盾の中にこそ，実存主義はよく生きることができるといえるかもしれない。　〔飯塚勝久〕

理想的に簡単化したものであるから，現実の振り子は多くの場合，実体振り子と考えたほうがよい。実体振り子の振動の周期 T は，振れが小さいとき，$T=2\pi\sqrt{I/mgh}$ で与えられる。ただし，I は固定軸のまわりの慣性モーメント*，h は固定軸と重心Gとの距離である。これは長さ $l=I/mh$ の単振り子の周期に等しいので，この l を実体振り子の〈相当単振り子の長さ〉という。また，この実体振り子の周期は，図のように $OO'=l$ となるようにO′をとると，全質量がO′点に集まった単振り子の周期に等しい。O′をOに対する〈振動の中心〉という。しかも，O′を軸として振動させると，その周期はOを軸としたときと同じになるから，O′とOとはその役目を交換することができる。この原理を応用したケーターの可逆振り子は重力加速度を測定するのに用いられる。〔今淳治郎〕

しったん 【悉曇】 梵語(ぼんご)で〈成就〉を意味するsiddhaṃ(シッダン)の音写で，わが国において，梵語およびその文字をいう。古代インドにおける文字の二大潮流であるカロシュティ文字とブラーフミー文字のうち，後者に由来する。ブラーフミー文字は，もと北セム系文字の最古形であるフェニキア文字に端を発し，紀元前後から南北両系の特徴を示しはじめ，4世紀半ば以後は北方系文字と南方系文字とに大別されるようになった。北方系文字の一つであるグプタ文字から6世紀に発達した一字体が，シッダーマートリカー文字であり，これが悉曇文字の起こりである。梵語や現代インド諸語の代表的表記であるナーガリー文字はこれと同系統に属し，7世紀に起こったものである。

悉　曇　悉曇字母表

番号	悉曇文字	ローマ字表記	漢字音訳	かな表記
摩　多(母音)				
(1) 通摩多				
1	𑖀	a	阿	ア
2	𑖁	ā	長阿	アー
3	𑖂	i	伊	イ
4	𑖃	ī	長伊	イー
5	𑖄	u	塢	ウ
6	𑖅	ū	汚	ウー
(2) 別摩多				
7	𑖊	e	藹	エイ
8	𑖋	ai	長藹	アイ
9	𑖌	u	奧	オ
10	𑖍	au	長奧	オウ
11	𑖀𑖽	aṃ	暗	アン
12	𑖀𑖾	aḥ	悪	アク
13	𑖆	ṛ	哩	リ
14	𑖇	ṝ	長哩	リー
15	𑖈	ḷ	呂	リョ
16	𑖉	ḹ	嚧	リョー
体　文(子音)				
(1) 5類音				
a. 牙音				
17	𑖎	ka	迦	キャ
18	𑖏	kha	佉	キャ
19	𑖐	ga	伽	ギャ
20	𑖑	gha	哦	ギャ
21	𑖒	ṅa	我	ギョウ
b. 歯音				
22	𑖓	ca	者	シャ
23	𑖔	cha	遮	シャ
24	𑖕	ja	社	ジャ
25	𑖖	jha	社	ジャ
26	𑖗	ña	若	ジョウ
c. 舌音				
27	𑖘	ṭa	吒	タ
28	𑖙	ṭha	侘	タ
29	𑖚	ḍa	茶	ダ
30	𑖛	ḍha	駄	ダ
31	𑖜	ṇa	拏	ドゥ
d. 喉音				
32	𑖝	ta	多	タ
33	𑖞	tha	他	タ
34	𑖟	da	陀	ダ
35	𑖠	dha	陀	ダ
36	𑖡	na	那	ノウ
e. 唇音				
37	𑖢	pa	波	ハ
38	𑖣	pha	頗	ハ
39	𑖤	ba	婆	バ
40	𑖥	bha	婆	バ
41	𑖦	ma	麽	モウ
(2) 遍口音				
42	𑖧	ya	也	ヤ
43	𑖨	ra	囉	ラ
44	𑖩	la	羅	ラ
45	𑖪	va	縛	バ
46	𑖫	śa	奢	シャ
47	𑖬	ṣa	沙	シャ
48	𑖭	sa	娑	サ
49	𑖮	ha	訶	カ
50	𑖩𑖿𑖩𑖽	llaṃ	濫	ラン
51	𑖎𑖿𑖬	kṣa	吃灑	キシャ

悉曇文字は斎藤興隆師の書による。漢字表記は澄禅《梵習悉曇類集》による

悉曇という語は，広くは摩多(また)(母音)と体文(子音)の双方をいったが，狭くは摩多のみをさす。その数は古来，42・47・50・51など，いろいろに整理されてきた。なおこの呼び方は，インドで初学者に字母表や綴字(てつじ)18章を授ける際，その冒頭に，〈成就吉祥あれ〉という呪句(じゅく)を置くので，それが字母の称になったといわれるが明らかでない。中国では，隋代にはじめて悉曇の称があり，わが国には天平年間(729～748)に南インドから伝えられた。わが国においても，中国以来の悉曇学が継承・発展され，五十音図のような文字の学のみならず，文法学の体系ができた。〔金岡秀友〕

シッタン(川) ［Sittang］ ビルマ中南部，イワラジ・サルウィン両河川間を南流する川で，全長550km。シャン高原の西縁に沿って南流し，マルタバン湾に注ぐ。南北に狭長な河谷は肥沃(ひよく)な平野で，人口密度も高く，米作が盛んである。川に沿ってピンマナ・タウングーなどの都市がある。

じっちけんしょう 【実地検証】 ⇨検証

じって 【十手】 長さ1尺5寸(約45cm)前後の鉄製の武器。江戸時代に捕吏の用いたもので，当時の警察力の象徴とされた。円形あるいは四角・六角などの鉄身の手もと近くに鉤(かぎ)がついており，柄の端に房紐(ふさひも)を結んだ。朱房は町方与力と同心，紫房は関八州取締出役と定められ，いわゆる岡っ引の用いる十手は手紐だけで房はなかった。これを用いて相手の腕などを強打したり，刀で切り込んできたときには鉄身で受けて，鉤ではさみ，ひるむところを捕えた。〔稲垣史生〕



十　手　(上)鉄製無鉤　最初の十手の形　(中)真鍮製丸形　与力・同心の指揮用　(下)鉄製丸形　捕吏用　明治大学刑事博物館蔵

しつてん 【質点】 質量*をもつが，大きさをもたない理想化された物体。大きさがないから力が作用しても変形したり回転したりはしないので，運動を調べることが容易である。実在の物体はすべて大きさをもっているが，これを質点の集まりと考えれば，質点の運動の法則に基づいて大きさのある物体の運動を調べることができる。また，運動の範囲，他の物体の大きさやそれとの距離に比べて物体の大きさがはるかに小さい場合には，その物体を質点として取り扱ってよい。たとえば，太陽を巡る地球の運動を調べる場合には，地球を質点とみなしてよい。〔有山正孝〕

しつでん 【湿田】 ⇨水田

シッド ［El Cid］(1030～1099) 本名はロドリゴ-ルイ-ディアス-デ-ビバール。イスラム教徒にエル-シッド(君主)とよばれた。スペインの伝説的英雄で，国土回復運動*に活躍した騎士。カスチリア王国*の諸王に仕え，イスラム教徒と戦って武功をたてたが，のちアルフォンソ6世と不和になり，イスラム王のもとに走った。12世紀，彼をテーマとした武勲詩《シッドの歌》がつくられ，コルネーユの悲劇《ル-シッド*》も彼を主人公にしたものである。〔大野慎一郎〕

しつど【湿度】 大気中の空気が水蒸気を含む度合い。湿度を表わすにはいろいろの方法がある。ふつう用いられるのは相対湿度で，これはそのときの温度に対して含みうる最大の水蒸気量に対する現在量の比率を，百分率で表わしたものである。

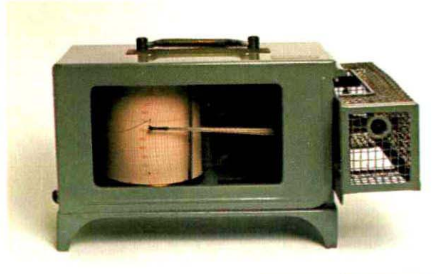
相対湿度に対して，1 m³中に含まれる水蒸気の質量をグラム単位で表わしたものを絶対湿度という。また，1 kgの湿った空気中に含まれる水蒸気の質量をグラム単位で表わしたものを比湿という。同じように1 kgの乾燥した空気と共存している水蒸気量を混合比という。湿度は10％以下になることもあるが，100％に達することもある。わが国各地の年平均湿度は75〜80％程度である。湿度の変化には気温の変化が大きく影響する。一般に気温が高いときに湿度は小さく，気温が低いときに湿度が大きい。〔曲田光夫〕

シットウェル［Edith Sitwell］（1887〜1964） イギリスの女流詩人。ふたりの弟オズバート（1892〜 ）・サシュベレル（1897〜 ）とともに現代詩を代表する三姉弟として名高い。斬新（ざんしん）なイメージと現代的な音楽性に富み，高度に感覚的・技巧的な詩を書いた。《正面》《寒冷の歌》《原子時代の3部作》などのほか，詩人論・詩論がある。

しつどけい【湿度計】 空気中の湿度を測定する測器。毛髪湿度計*・乾湿計*・露点計・電気湿度計・絶対湿度計などがあるが，気象観測でふつう用いられるのは毛髪湿度計と乾湿計である。常温では乾湿計が精度がよく，取り扱いも簡単であるが，低温では露点計のほうがあらゆる点ですぐれている。

しつないオペラ【室内オペラ】 オペラに比べて一定の様式をもたず，編成の小規模なものをいう。19世紀になって，ベルディ*やワーグナー*の作品でオペラの歴史が頂点に達すると，それに続くオペラ作家はベルディらの模倣者となるか，あるいはバロックやクラシックのオペラに理想を求めるかに分かれた。そして，19世紀のオペラに対するアンチテーゼの一つとして，少数の登場人物，控えめな舞台装置など，はなやかなオペラに比べて内面的な内容を表現しようとしたものがこれである。代表作として，R.シュトラウスの《ナクソスのアリアドネ》，ヒンデミットの《カルディラック》，メノッティのいくつかの作品などがある。〔吉田泰輔〕

しつないがく【室内楽】 西洋音楽における器楽の代表的な形態の一つ。演奏に必要な人数は多くても10人前後で，古典派以降の曲では一つのパートがひとりで奏されることがほとんどである。また，ハープシコードやピアノのための独奏曲は，時代が古いほど機能としては室内楽と同じものであるが，これらを独奏曲として，室内楽から区別することも多い。その原形は中世においてすでにみられるが，盛んに作曲されるようになったのはルネサンス期以後であり，そこではレコーダー・ビオールなどによる合奏が紳士のたしなみとして行なわれた。バロック時代になると室内ソナタ*をはじめとするいろいろな曲種が生まれ，古典派になると弦楽四重奏*が優位に立った。室内楽はアマチュアのためにも書かれたが，その精密なアンサンブルとすぐれた聴衆のために，オペラや合唱では行ないにくい様式上の実験の場として，作曲家の語法革新に貢献している。〔徳丸吉彦〕





湿度計
（上）自記毛髪湿度計
（下）アスマン通風乾湿計

しつないソナタ【室内ソナタ】 教会ソナタ*と並ぶバロック時代の器楽曲の形式の一。室内とは宮廷の演奏室をさし，そこで演奏された曲であるところから舞曲が中心であった。17世紀末にコレルリ*に代表されるイタリアの音楽家たちが定めた形式では，前奏曲*で始まり，アルマンド*・クーラント*・サラバンド*・ジーグ*の各舞曲が続く。これを基本として，ガボット*やブーレー*が加わったりする。これらの構成法は，独奏曲，通奏低音つきの独奏ソナタ，トリオ-ソナタ，コンチェルト-グロッソ*などにも広く使われている。〔徳丸吉彦〕

しつにん【失認】 視覚や触覚などの感覚は正常でも，対象を認知できない状態。つまり，物があることがわかっていても，それを特定の対象として認識できないため，意味がわからない。視覚失認・聴覚失認・触覚失認や身体の部分を認識しえない身体失認などが含まれる。脳血管障害・脳腫瘍（しゅよう）・外傷などに際してみられ，大脳皮質・病巣の部位によって種々の症状が出現する。

じつねんろん【実念論】 ⇨普遍論争

ジッパー ⇨ファスナー

シップオーナー［ship owner］ 船主あるいは貸し船専門業者。海運業として船舶を使用し，旅客・貨物の運送を営み，俗に船会社といわれるもののうち，船を所有しているが，自分では運航せずに他の運航業者に船を貸すか，運航を委託することを目的とするものをいう。これに対し，他の船主から船舶を用船し，または運航の委託を受けて事業を営むものをシップオペレーター（運航業者）という。なお，自分の所有する船舶を運航して事業を営むものはシップオーナーであると同時にシップオペレーターでもある。〔飯島幸人〕

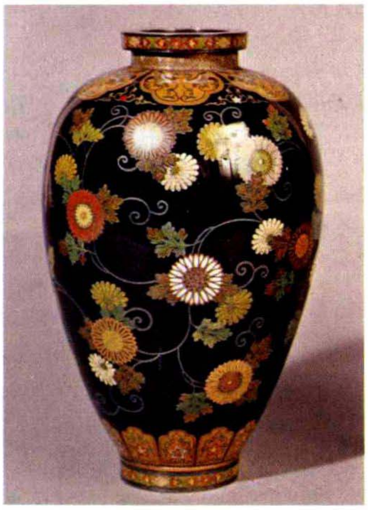
しっぺい【疾病】 ⇨病気

しっぺいほけん【疾病保険】 疾病にかかった場合の治療費または治療のため休業する場合の勤労所得の喪失の，一方または双方の補償をすることを目的とする保険。わが国の健康保険*や労災保険*がこれである。

じっぺんしゃいっく【十返舎一九】（1765〜1831） 江戸後期の戯作者（げさくしゃ）。本名重田（しげた）貞一，通称余七，ほかに酔斎・十偏斎など。駿河（するが）府中（静岡市）の幕臣の家に生まれ，はじめ大阪で浄瑠璃（じょうるり）の作者となったが成功せず，江戸に出て，《心学時計草》以下多数の黄表紙*・合巻*を述作するうち，滑稽本*（こっけいぼん）《道中膝栗毛*（どうちゅうひざくりげ）》が評判になり，20年にわたって書き継いだ。主人公の弥次郎兵衛（やじろべえ）・喜多八は狂言のシテ・アドを利用したものだが，喜劇の主人公の典型とされ，今日まで多くの模倣作が出た。滝沢馬琴*とともに，原稿料で生計を立てた最初の作者で，大衆の好みをとらえるのに巧みだった。ほかに，洒落本*（しゃれぼん）・読本*・人情本*，家庭向き実用書などのあらゆる方面に作品を残した。〔小池正胤〕

しっぽう【七宝】 仏教経典に記される金（こん）・銀（ごん）・瑠璃（るり）・頗梨（はり）（水晶）・車渠（しゃこ）（シャコガイ）・赤珠（赤真珠）・碼瑙（めのう）の七種の宝をさすが，珊瑚（さんご）・琥珀（こはく）などを加える場合もある。

しっぽう【七宝】 金属の素地をくぼめてガラス質の釉（うわぐすり）を焼きつけ，装飾文様を表わす技法。エマイユともいう。釉によって多種多彩の華麗な装飾効果をあげることができる。ガラス質を定着させる方法によって，有線七宝（エマイユ-クロアゾンネ）と象嵌（ぞうがん）七宝（エマイユ-シャンルベ）の2種がある。前者は素地に金・銀・銅・真鍮（しんちゅう）などの細線で文様の輪郭をつくり，輪郭線で区分されたそれぞれの面に別種のガラス質釉を充塡（じゅうてん）して焼きつける。これは，ビザンチンに起源するといわれる。後者は素地に鏨（たがね）で文様を彫出し，その凹部（おうぶ）に釉を象嵌して焼きつける。有線七宝ほど細緻（さいち）な文様を表




七　宝　(左)並河靖之《七宝菊文瓶》1894　東京国立博物館蔵　(右)《七宝火馬鳳凰文椀形鉢》　中国明～清代　東京国立博物館蔵

現できないため，彫金細工の装飾法の一つとして用いられることが多い。

わが国における最古の遺例は，奈良県高市郡明日香(あすか)村の牽牛子塚(けごしづか)古墳出土の七宝装飾金具で，朝鮮三国時代の芬皇(ふんこう)寺石塔内具や金鈴塚出土品の七宝手法と類似し，大陸文化の影響が知られる。およそ2世紀を経た8世紀の遺品である正倉院の《黄金瑠璃鈿(るりでん)背十二稜(りょう)鏡》は，銀線による有線七宝として卓抜した技術・意匠とともに世界有数の名品である。以後は，12世紀の平等院鳳凰堂(ほうおうどう)《四葉花文七宝扉(とびら)止環》に象嵌七宝の手法がみられる以外，室町時代に中国から輸入されたものの中にわずかに七宝細工がみられる程度で，数世紀の間はまったく空白の時代が続く。17世紀以降再び活況を呈し，襖(ふすま)の引手金具，鴨居(かもい)の釘隠し，刀剣の鐔(つば)に優品を数多くとどめている。　〔河田　貞〕

しっぽうもん　【七宝文】　数個の円形の交差によって生じた幾何学的文様の一種。いわゆる七宝とは関係がなく，なぜこの名が冠せられるか明白ではない。ただ，四方襷(よもだすき)(➡襷文)が永禄年間(1558～1570)に十方という名でよばれ，これがしだいになまったという説もある。しかし，これとはまったく違った文様の輪違(わちがい)が，形状からすると七宝とよく似ている。七宝文は，わが国のみではなく，古くはエジプト第13王朝時代の建造物の天井装飾に用いられていることが知られている。これは，この文様の発祥地を語っている点で興味深い。各種の工芸品をはじめとして，広く一般に用いられている文様である。　〔毛利　登〕

しっぽくりょうり　【卓袱料理】　長崎に伝わる独特の料理。江戸時代，長崎には中国料理が早くから伝わり，一方，幕府派遣の代官に伴われて来た江戸の調理人も多く，江戸前料理が幅をきかせた。この両方が混ざり合って生まれたのが，卓袱料理である。卓袱とは，中国ふうの朱塗りの食卓を



七 宝 文 《赤綸子七宝繫石畳文紋振袖》部分　石畳文は下部　京都工芸繊維大学蔵

さし，その上に料理が供されたことから，この名まえでよぶようになった。料理法は日本料理に近いが，食べ方は中国ふうで，料理の品数に制限はないが，必ず偶数にし，1卓の人数も偶数で決める。献立は小菜と温菜に分かれ，しる物以外はすべて大ざらか大ばちに盛って出す。豚角煮(東坡肉(トンポーロウ))は代表的な温菜の一つである。　〔塩川ふみ〕

しつむりつ【悉無律】⇨全か無かの法則

しつめい　【失明】　社会的には眼を使って仕事をすることのできない程度の視力減退をいい，わが国では眼前1mにおいて指数を弁じ得ない状態をいう。医学的には視力0，すなわち光すら感じなくなった状態である。

じつようえいせい　【実用衛星】　人間の日常生活に直接役だつ人工衛星。自然科学の研究のための科学衛星に相対するもの。気象衛星・通信衛星・航海衛星がこれに属する。初期の人工衛星はすべて科学衛星であったが，アメリカが試験的なものとして，1958年に通信衛星スコアを，1959年に気象衛星バンガード2号を打ち上げ，本格的なものとして1960年に気象衛星タイロス，航海衛星トランシット1B，通信衛星のエコーとクーリエ1Bを打ち上げた。気象衛星は，気象学の研究にも役だつから科学衛星も兼ねている。　〔原田三夫〕

じつようしゅぎ　【実用主義】　⇨プラグマチズム

じつようしんあんほう　【実用新案法】　物品の形状・構造または組み合わせにかかる考案の保護および利用を図ることによってその考案を奨励し，産業の発達を図ることを目的として制定された法律。1905年(明治38)制定され，1959年(昭和34)に全面的に改正された。前述のような考案が，新規かつ産業上利用できるものは，出願により実用新案として登録され実用新案権(工業所有権の一種)が生じる。この権利者は，考案にかかる商品を独占的に製造・販売・使用することができるし，さらに他人に，その製造販売をゆだねることもできる。実用新案権の存続期間は，出願公告の日から10年をもって終了する。　〔松本治雄〕

じつようたんいけい　【実用単位系】　基本単位あるいはそれから導かれた誘導単位が，日常取り扱う量に対して大きすぎたり小さすぎたりして不便な場合，または具体的測定が困難な場合に，実用上便利なように定めた単位系。電流のアンペア・ボルトなどはもともと実用単位として定められたものである。➔単位

しつらくえん　【失楽園】　ミルトンの叙事詩。初版(1667)は10巻であったが第2版(1674)から12巻に改編された。雅語豊かな荘重な無韻詩体による深遠な宗教的世界観が骨格をなし，《旧約聖書》に取材したアダムとイブの原罪が描かれる。神に反逆した大天使ルーシファは敗北して大悪魔セータンとなり，堕天使群を励まして集魔殿堂を築いて復讐(ふくしゅう)を誓い，まずアダムとイブを誘惑する。しかし原罪を刻印されたふたりは，〈ノアの洪水(こうずい)〉までの人類の未来を大天使ミカエルの描く幻像で示されつつエデンの園を追放される。執筆時の作者は清教徒革命が挫折(ざせつ)したため逆境にあり，この作品には神に啓示される理性によって真の自由を回復しようとする意志が示されている。　〔長崎勇一〕

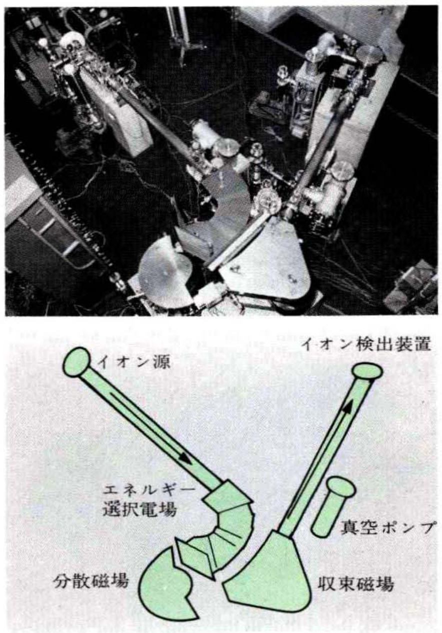
しつりょう　【質量】　物体に力を加えると，力と同じ方向に加速度を生じる。その大きさは加えた力の大きさに比例するが，一つ一つの物体によって異なる。同じ大きさの力を加えたときに生じる加速度の大小は，その物体が力の作用に対して示す反応の大小，すなわち慣性が小さいか大きいかを示すもので，定量的には(力の大きさ)÷(生じる加速度の大きさ)によって表わされる。この量をその物体の質量，または慣性質量という。一方，ニュートンの〈万有引力の法則〉によれば，二つの物体間に働く万有引力の大きさは，物体間の距離の2乗に反比例し，二つの物体の質量の積に比例する。したがって，ある物体を，一定の基準

の物体から一定の距離の位置に置いたときに受ける万有引力に比例する量として別な質量を定義することができる。これを重力質量という。慣性質量と重力質量はそれぞれ慣性の法則，万有引力の法則という別々の法則に基づいて定義される量であるから，両方が一致するとはかぎらないが，実験的研究の結果，これらは完全に一致することが確かめられた。質量は不滅のものと考えられていたが，アインシュタイン*の特殊相対性理論によれば質量もエネルギーの一つの形態で，光の速度をcとすると$E=mc^2$の関係がなりたつことが示された。この理論は原子核反応*によって実証された。〔有山正孝〕

しつりょう【質料】 本来は〈素材〉の意味で，形を与えられて一定のものとなる材料的なもの。これをはじめて哲学的概念として用いたのはアリストテレス*で，彼は，質料を形相*と相関的なものとして存在の根本原理と考えた。家を形相とすれば，材木が質料にあたるものであり，このように，現実性・能動性としての形相に対し，質料は可能性・受動性と考えられた。近世自然科学の発展に伴って，この質料は〈物質〉の概念に転化したが，一方カント以後，認識の形式によって加工される〈素材〉の意味も与えられた。〔本橋正義〕

しつりょうけっそん【質量欠損】 原子核の物理学原子量（^{12}Cの質量を12.0とする単位で表わした原子量*）Mと，質量数Aとの差$M-A$を質量欠損とよぶ。原子番号Zの原子核の質量M_0はZ個の水素原子と$A-Z$個の中性子の和，すなわち水素原子の質量$m_H=1.00783$質量単位，中性子質量$m_n=1.00867$質量単位を用いて$M_0=m_HZ+m_n(A-Z)$となるが，実際の原子量Mとは等しくならない。それは核子*が集まって原子核を形成する際に質量の一部をエネルギーとして消費するからで，$M-M_0$を結合エネルギーという。単位は物理的原子量で表わされた質量単位で，通常MeV/c^2（メガエレクトロンボルド/光速度^2）略してMeVを用いる。1質量単位は$931.5MeV/c^2$。結合エネルギーが負の値をとる原子核は安定である。〔福井崇時〕

しつりょうさようのほうそく【質量作用の法則】 均一系における可逆反応の平衡を考えるとき，化学反応に関与している物質の濃度が，平衡にどのように作用するかを示した法則で，化学にとって重要な法則の一つである。化学反応の速さは，温度一定のとき，その時刻に存在している反応物質の濃度（正確には活動度）に比例するから，たとえば$A+B \rightleftarrows C+D$の可逆反応の場合，左から右への反応の速さはK_1〔A〕〔B〕（〔 〕はその物質の濃度を表わす）で，同様に逆方向の反応の速さはK_2〔C〕〔D〕。反応が平衡にあるとき，正逆反応速度は等しいから，〔A〕〔B〕/〔C〕〔D〕$=K_2/K_1=K$なる関係が成立する。これを質量作用の法則といい，Kを平衡定数とよぶ。1867年にグルドベリ*とワーゲ*によって発見されたため，〈グルドベリ-ワーゲの法則〉ともよばれる。質量という名称はむしろ濃度，もっと正確には活動度と名づけられるべきである。〔三輪誠・海津洋行〕



質量分析器 大阪大学の二重収束形質量分析器。従来の，電場と磁場を用いて方向とエネルギーを収束させる方式に，さらに別の磁場を挿入して大きな分散を得られるようにしてある。分解能は約120万

しつりょうすう【質量数】 原子核*を構成する核子*の数。陽子*数Z，中性子*数Nとすると質量数は$A=N+Z$で表わされるが，実際の核の質量を正確に表わすものではない。^{12}Cの質量を12.0とする質量単位で表わした水素原子の原子量$m_H=1.00783$，中性子質量$m_n=1.00867$でほとんど1に等しいから質量数Aと原子量Mとはほぼ等しくなる。

しつりょうひ【質量比】 ロケットが推進剤を積んだときの質量（地上では重量と同じ）と積まないときの質量の割合。質量比が大きいほど高速が得られるが，ロケットの構造の上から制限され，7以上にすることはむずかしい。

しつりょうふへんのほうそく【質量不変の法則】 ⇒質量保存の法則

しつりょうぶんせきき【質量分析器】 原子核*の重さ（質量）を測定する装置。気体放電や電子衝撃による電離などでイオンをつくり，これをまず静電界で加速して一定のエネルギーを与え，次に静磁界中を通すと，イオンは磁界の強さをB（ガウス），イオンの質量をM（原子質量単位），加速電圧をV（ボルト），イオン価の数をnとすると，$r=(144/B)(MV/n)^{1/2}$で与えられる半径の円軌道を描く。rの単位はcmである。イオン価を同じとすればイオンの質量によって半径rが異なる。このイオンの軌道位置を測定すれば質量が求まる。一般には，すでに質量の測定されているイオンを標準として他を相対的に求める方法をとる。

世界最初の質量分析器は，1912年にトムソン*がつくった放物線法とよばれるもので，この装置でネオンの同位元素が発見された。陽極線を方向が同じ電界と磁場を通して写真乾板にあてると，いくつかの放物線状に感光するのがみられる。これは，質量と電荷が同じイオンは速度の順に一つの放物線上に並ぶからで，イオンが写真乾板にあたると光と同じように感光作用を起こすため，イオンがあたった場所を測定できるという原理によっている。アストン*はこの方法を改良し，速度の違うイオンを同一点に集める速度集束法を考案し(1919)，陽イオン質量分析法を発達させ，1920年末までに九つの化学元素のアイソトープ*を発見した。デンプスターは方向集束をもたせてイオン強度を増し分解能（質量Mの付近において識別しうる質量差をΔMとすれば）$M/\Delta M$を高め(1918)，ベインブリッジ・マッタウフらは1936年ころに速度集束と方向集束とを同時に行なえる二重集束形質量分析器をつくって性能を飛躍的に進歩させた。最近では分解能は10^6を越えるものがつくられ，原子核の質量の精密測定がなされている。

ニーアらにより改良された装置は質量分析計とよばれ，精密なものや簡便なものなど種々製作され，同位元素の検出だけでなく化学分析・工業分析などに利用されており，真空装置や高圧装置の漏洩(ろうえい)検出器としても応用されている。この漏洩検出器はヘリウムを検出する特殊な分析計で，よく調整されたものでは1気圧，1ccのヘリウムが1年かかって浸入する程度の漏れでも検出できる。〔福井崇時〕

しつりょうほぞんのほうそく【質量保存の法則】 質量不変の法則ともいう。化学反応では，反応の前後で全質量は不変であるという法則。1774年フランスのラボアジェ*によって示された。しかし，相対性理論*によればエネルギーも質量を有するから，エネルギー変化を伴う反応では質量変化を考えねばならない。核反応ではこの補正が必要であるが，一般の化学反応では測定にかかるほどの大きさにはなりえない。

じつろくもの【実録物】 近世中期以後行なわれた読み物の一種。実録体小説ともいう。〈軍談の双紙〉ともよばれたように，講釈師の台本に手を加えて読み物としたもの，もしくはそのスタイルにならって書かれた読み物をいう。確かな典拠・事実に基づくものとして，作り話としての小説よりも重くみられ，写体の形で貸本屋の手を通じ読者に渡された。内容は，御家(おいえ)騒動物・敵討物(かたきうちもの)・裁き物・武勇伝，

あるいは白浪物(しらなみもの)・俠客伝(きょうかくでん)などに大別される。徳川氏の治世を語って御記録読みと称した講談が大衆娯楽の世界に進出した享保(きょうほう)～宝暦(1716～1763)ごろから出現し，小説や演劇の材料としてもてはやされながら，明治10年代の半ばまで引き続き行なわれた。〔渡辺守邦〕

して【シテ】能または狂言で，曲中の主人公をさす場合と，その主人公役を演ずる者をさす場合とがある。中入りがあるときは，前場のほうを前ジテ，後場のほうを後ジテという。シテを演ずるのは，能ではシテ方だけに限られるが，狂言ではその区別はない。

してあみ【四手網】⇨よつであみ

してい【視程】物を見通しできる程度を表わす尺度。地平線の明るい空を背景として黒い物体が見える距離で表わす。視程は，大気汚染の度合いを示す大気の混濁度を示すめやすとなり，また航空機の安全な離着陸を確保するための要素となる。雨・雪・霧などを生ずることがないほど乾燥している大気中では，浮遊煤塵(ばいじん)による大気の汚染状態が視程を大きく左右する。一般に，視程障害となる主要なものは雨・雪・霧・煤煙・煙霧などで，特に風が弱く，大気下層に逆転層などの安定層がある場合視程は悪くなる。〔曲田光夫〕

シーティーシー［CTC］centralized traffic controlの略称。列車集中制御装置ともいう。ある線区内の駅のポイントや信号機の取り扱いを遠方制御すると同時に，列車に対する指示を行なって運転の円滑化をはかるシステム。制御所にはその線区の軌道表示盤があって，各駅の信号機やポイントの状態，列車の位置など運転取り扱い上必要な表示および故障の表示が自動的になされるようになっている。この表示盤を監視しながら，制御盤あるいは列車無線を通じて的確な列車の制御を行なうことができる。この方式は各駅の運転業務を1か所に集中するので，要員の節減や，保安度の向上，列車運行の正常化などの効果がある。わが国では，1954年(昭和29)に京浜急行久里浜線に設備されたのが最初である。東海道新幹線のCTCは世界で最も規模の大きいエレクトロニクスを導入した最新式のものである。〔宍塚正幸〕

していつうか【指定通貨】大蔵大臣により対外取引の決済に指定された通貨。指定通貨はその通貨が国際通貨として広く用いられているか，また，わが国との貿易関係が密接な国の通貨であるかどうかによって決められる。現在わが国で受領通貨として指定されているものは，アメリカ-ドル・イギリス-ポンド・ドイツ-マルク・フランス-フラン・日本円など16種で，支払い通貨には制限は設けられていない。

してかた【シテ方】能・狂言に携わる役者のうち，能のシテを勤めることのできる者をいう。今日では，観世・宝生・金春・金剛・喜多の各流(シテ方五流という)に属する者のみがシテとなりうる。職掌分担はシテのほかにシテヅレ・子方・地謡・後見・作り物作成などがある。



シデコブシ



ジテッ鉱　長崎県大串産

してきゆいぶつろん【史的唯物論】弁証法的唯物論を歴史・社会に適用したマルクス主義の歴史観・社会観。唯物史観ともいう。1840年代，マルクスとエンゲルスによってはじめて明確に説かれた。社会のあり方は物質的生活の生産様式(生産力と生産関係の統一)によって規定され，社会の発展は生産力と生産関係の矛盾によってもたらされると考える。社会はこれまで原始共産制・奴隷制・封建制・資本主義・社会主義の五つの基本的な生産様式を経てきており，それぞれの生産関係には固有の政治的法律的関係，宗教・芸術・科学などを形成する。➔上部構造　➔自然弁証法〔豊福英利〕

しでこぶし【幣拳】双子葉植物・モクレン科。庭木として用いられる落葉小高木で，高さ3mに達する。葉は長楕円(ちょうだえん)形で，長さ5～8cm，裏面には脈に沿って毛があり，互生する。初春，枝先に直径7～10cmで香りのよい淡紅色の花をつける。花弁とがく片の区別がつかず，合わせて12～18片ある。各片は倒披針(とうひしん)形で，長さ4cm前後。

してつ【私鉄】⇨民営鉄道

じてっこう【磁鉄鉱】代表的鉄鉱石。Fe_2O_3・FeO 等軸晶系。比重4.5～5.3，硬度5.5～6.5，{111}に不完全な劈開(へきかい)がある。正八面体あるいは斜方十二面体の結晶をなす。金属光沢を有し，鉄黒色，不透明。あらゆる鉱物中最も強い磁性をもつ。化学成分中，2価のFeはMg,Ni,Tiなどと置き換えられる。火成岩・変成岩中にわずかずつ存在し，分布も広く産地も多い。

してつそうれん【私鉄総連】⇨日本私鉄労働組合総連合会

シデナム［Thomas Sydenham］(1624～1689) イギリスの医学者。ドーセットシャーの生まれ。1642年オックスフォード大学にはいったが，まもなく起こったピューリタン革命に議会派として加わり，国王軍と戦った。1645年大学へもどってワダム-カレッジにはいり，医学を学んで1648年に卒業し，ロンドンで開業した。のち，フランスのモンペリエに遊学し，ヒポクラテスの医学を研究した。1661年ロンドンに帰ってからは開業医として専心し，ヒポクラテスを信奉して，実地の観察と診療とをなによりも重んじた。イギリスのヒポクラテスとよばれる。〔大鳥蘭三郎〕

しではらきじゅうろう【幣原喜重郎】(1872～1951) 大正・昭和時代の外交官・政治家。大阪府出身。東京大学卒業後，1896年(明治29)外交官となり，1914年(大正3)オランダ駐在公使，翌1915年外務次官。1919年駐米大使を命ぜられ，1921年のワシントン会議には全権委員として参列した。その間男爵を授けられた。1924年には加藤内閣の外相となり，引き続き第1次若槻(わかつき)内閣・浜口内閣・第2次若槻内閣の外相を歴任した。浜口首相遭難後は臨時首相代理をつとめた。その外交は合理主義に徹し，英米との強調を旨としていた。外相在任中に中国革命に際会したが，大陸問題には対華不干渉を方針とし，欧米列強との協調外交をすすめ，その外交は幣原外交とよばれた。1930年(昭和5)ロンドン海軍軍縮条約を成立させ，政友会・軍部・右翼から〈幣原軟弱外交〉と非難された。第2次若槻内閣の外相在任中満州事変が勃発(ぼっぱつ)し，その平和収拾につとめたがならず，同内閣が崩壊して下野したのちはファシズムの進展をよそに，節を守って在野生活を貫いた。第2次世界大戦後，1945年10月首相となり，占領下，敗戦後のきびしい国政にあたった。新憲法の草案作成に着手したが，翌年4月総選挙で与党の日本進歩党が敗れて辞職。次いで第1次吉田(よしだ)内閣の国務相として入閣，その間日本進歩党総裁になった。1947年日本民主党の結成にあたったが，ほどなく脱退して民主自由党に入り，同党最高顧問。1949年衆議院議長に推され，在任中病死。〔高崎徳次〕

しでむし【埋葬虫】こん虫類・鞘翅(しょうし)目・シデムシ科の一種およびシデムシ科の総称。シデムシは，ヤマトモンシデムシともいい，体長23mm内外，体は黒色で，鞘翅に各2個の大きい波状横帯紋がある。頭部はほぼ凸字(とつじ)形で，前胸背板は中央前方で最も幅広くやや亀甲(きっこう)状。鞘翅はほぼ長方形で，先端部は切断状で，腹端3節が露出する。本州・四国・九州のほか，

台湾・朝鮮・中国・モンゴルなどに分布する。動物の死体に集まり，これを地中に埋める習性があるので埋葬虫の名がある。近似の種にマエモンシデムシ・ヨツボシモンシデムシ・ヒロオビモンシデムシなど数種があるが，本種は雄の脛節(けいせつ)が内方に湾曲していることなどで区別できる。

シデムシ科は大きな群で，全世界から1,000種以上が知られる。分類上は，ハネカクシ科・デオキノコムシ科などに近く，ハネカクシ上科に含まれる。大部分の種が地上に生活し，腐敗した動物質を食べる。日本には約30種類が分布し，3群に大別できる。第1群はモンシデムシ類で，動物の死体を土中に埋め，これに産卵し，母虫は動物の死体とともに土中にあって幼虫が成長するまで養育する習性がある。日本にはそのほか，クロシデムシ・ヒメクロシデムシなど約10種ほどが産する。第2群はヒラタシデムシ類で，扁平(へんぺい)な体で，やはり動物の死体に集まるが，幼虫もきわめて活発に動きまわる。モモブトシデムシ・オオモモブトシデムシ・オオヒラタシデムシ・ヒメヒラタシデムシなど約15種が知られる。ヨツボシヒラタシデムシは，例外的に樹上に生活して鱗翅(りんし)類の幼虫を捕食する。第3群は小形種ばかりを含む群で，山地の石の下や朽木などにみいだされ，クロツヤシデムシ・オサシデムシなど数種が知られている。なお，従来シデムシ科に含められていたチビシデムシ類は，現在では独立の科として扱われることが多い。チビシデムシ科は，1.5～5.0mmの微小種ばかりを含み，日本からは約20種が発見されている。動物の死体に集まる種類が多いが，洞穴(どうけつ)性の種も知られている。〔鈴木邦雄〕

してん【死点】往復動機関*においてピストンの運動の向きの変わる位置で，速度は瞬間的にゼロになる。ピストンが軸心から遠い位置を上死点，軸心に近い位置を下死点という。圧縮のときは，下死点が圧縮始めの位置，上死点が圧縮終わりの位置となる。

しでん【私田】⇨公田

じてん【辞典・事典】⇨辞書

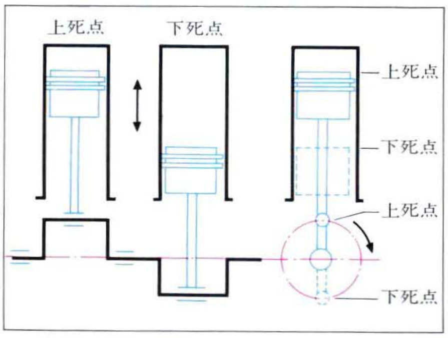
じてん【自転】天体が自身の重心を通る軸を回転軸として回転する現象。その軸を自転軸とよぶ。地球の自転軸(地軸)は，詳しく調べてみると，空間に対しては歳差*・章動*，地球に対しては極運動*を行なっている。また，自転速度も一定でなく，1日の長さが100年間に0.001秒長くなる永年変化やごくわずかな年周変化が観測されている。惑星の自転周期は，木星のように約9時間という速いものから，水星のように59日というおそいものまで多種多様である。〔守山史生〕

じでん【自伝】⇨自叙伝

じでん【寺田】奈良・平安時代の寺院の所有田。寺院は大化改新以来政府の保護統

シデムシ
オオヒラタシデムシ



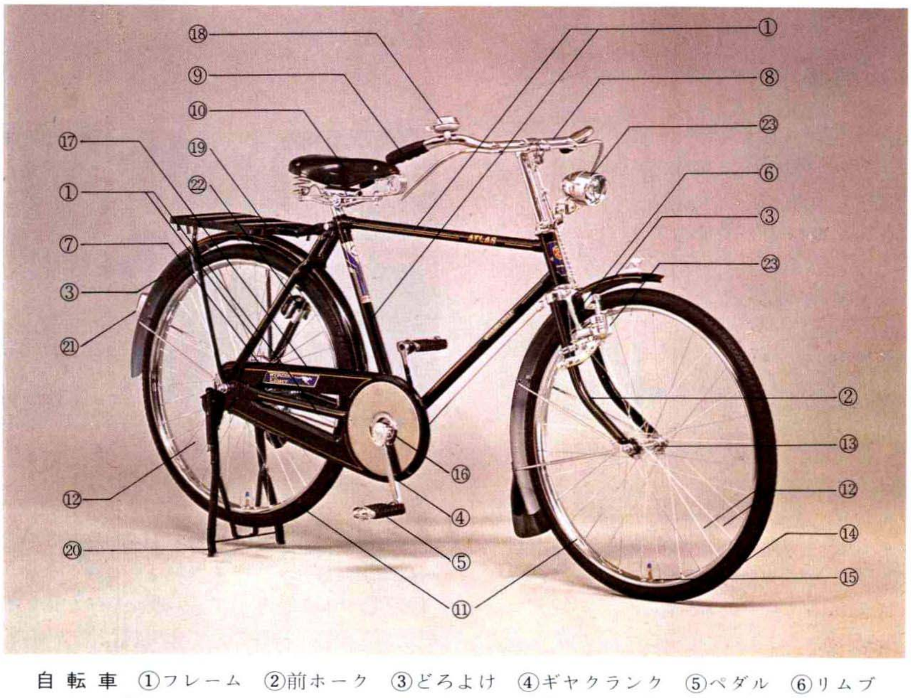


死　点

制策により一定の田を与えられ，それを経済的基盤とした。令*では，寺院に対する個人の寄進を禁じたが，実際には行なわれており，加えて743年(天平15)墾田永代私有法*の発布以後，寺院は大々的な墾田開発に乗り出し，広大な寺田を所有するに至った。墾田は原則として輸租田*であるが，寺院は政府との特別な関係を利用して不輸租の特権を認めさせ，寺領荘園(しょうえん)発達の地盤を養った。〔黛　弘道〕

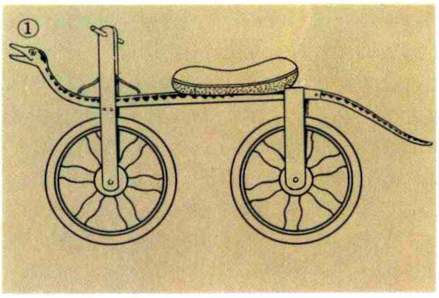
じでんかん【磁電管】⇨マグネトロン

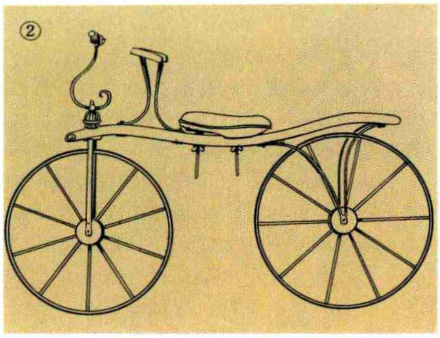
じてんしゃ【自転車】座席をもち，乗員の手足によって駆動・操縦される軌道によらない車両をいい，リヤカー・サイドカー・三輪車(輪タクなど)・厚生車(身体障害者用)などを含むが，一般には二輪車をさす。〔発達史〕1790年フランスのド-シブラックがつくったセレリフェール(ラテン語で〈早く運ぶ〉の意)が最初の自転車といわれる。これは木馬に2個の木製車輪を縦につないだものであった。その後，ドイツのドライスはこれを改良してハンドルで方向を変えられるものをつくったが，これらはいずれも足で地をけって前進した。この点をはじめて解決したのはイギリスのマクミランで，1839年ペダルを踏むと，てことクランクによって後車輪が回転するものをつくった。続いて1860年フランスのミショーは前車輪にクランクとペダルの付いたものをつくったが，これが工業化された最初のものである。その後一時期，スピードを上げるためにこれを改良して前車輪を極端に大きくしたオーディナリーが流行したが安定性に欠け，危険であった。チェーンで後輪を回転させる形は，1879年イギリスのローソンによってつくられ，スターレーがこれを改良して安全形が生まれた。これが今日の自転車の原形である。この間，硬質ゴムタイヤ・ボールベアリング・スプリングつきサドルなどの発明，改良も進められたが，それに加えて1886年イギリスのダンロップの空気入りタイヤの発明により自転車は画期的な進歩を遂げ，ほぼ現在の形になった。日本には明治初期に数種類輸入され，1883年(明治16)には国産第1号車がつくられたが，本格的に国内生産が始められたのは明治20年代

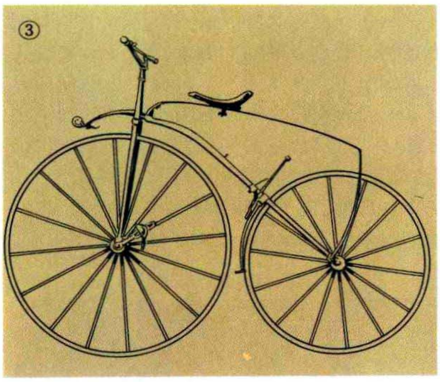


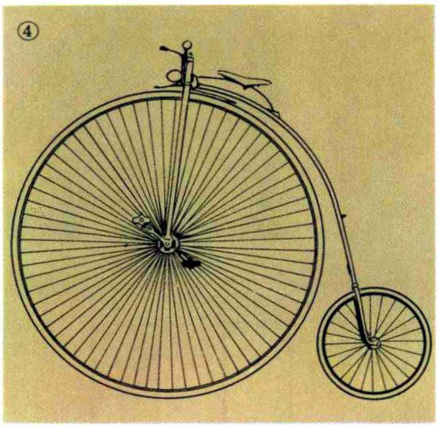
自転車　①フレーム　②前ホーク　③どろよけ　④ギヤクランク　⑤ペダル　⑥リムブレーキ　⑦バンドブレーキ　⑧ハンドル　⑨にぎり　⑩サドル　⑪リム　⑫スポーク　⑬ハブ　⑭タイヤ　⑮タイヤ空気弁　⑯クランクピン　⑰チェーンケース　⑱ベル　⑲キャリヤー　⑳スタンド　㉑後部反射器　㉒錠　㉓発電ランプ

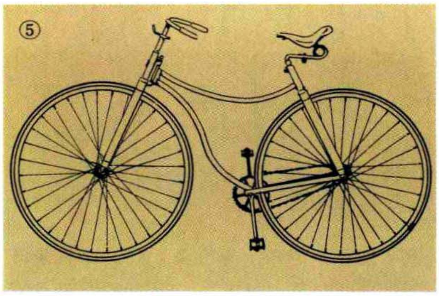
自転車











自転車の変遷 ①シブラックのセレリフェール(1790)。②ドライジーネあるいはボビーホース(伊達馬)とよばれたもの。ハンドルで方向を変えることはできるが，ペダルもクランクもなく，地をけって進んだ(1818)。③ミショーのベロシペードあるいはボーンシェーカー(背ゆすり)。前輪がやや大きく，これにクランクとペダルがついている(1867)。④オーディナリ(普通車)。スピードを上げるために前輪を非常に大きくしてある。乗るのがむずかしく，危険でもあった。図はかなり改良された形(1879)。⑤セーフティー(安全車)。前後輪等径，チェーン後輪駆動で，近代的なサドルもついている。現在の自転車の母型である(1885)

以降である。

〔構造〕主要構成は車体部・駆動部・制動操縦部・車輪部，その他に分けられる。①車体部：骨格をなす部分で，フレーム・前ホーク・どろよけからなる。②駆動部：脚力を機械力に変える部分で，ギヤクランク・フリーホイール・ペダル・チェーンがこれに属する。③制動操縦部：自転車の走行中，運動を抑制し進行方向を調整する機構で，リムブレーキ・ハンドル・にぎり・サドルがこれに属する。④車輪部：自転車の転動機構で，リム・スポーク・ハブ・タイヤ・チューブ・タイヤ空気弁からなる。⑤その他：クランクピン・チェーン引きのほか，付属品としてチェーンケース・ベル・キャリヤー・スタンド・後部反射器・錠・ランプなどがある。以上の部品を細分すると，普通自転車の場合で200種以上，個数にして2,000個以上に及ぶ。このほかスポーツ車などには変速機があり，これには後輪ハブ内に装置した３～４段の内装式と，前後のギヤを複数にしてチェーンで切り替える３～10段以上の外装式がある。



自転車競技 第19回オリンピック・メキシコ大会の白熱したロードレース 1969

〔種類〕用途によって種々のタイプがあるが，だいたい次のように分類できる。①実用車：主として軽量荷物の運搬や商用などに用いられる。通常，車輪の径の呼び26(外径で26インチ，66cm)，常用速度12～14km/時，標準重量21kg，リムの形式はBE(引っ掛け式)。②軽快車：主として通勤・通学・買い物などに用いられる。通常車輪の径の呼び26，常用速度14～16km/時，標準重量19kg，リムの形式はWO-3(針金式箱型幅広)。内装式変速装置をもつものを含む。③スポーツ車：主としてサイクリングなどに用いられる。外装式変速装置をもつ。通常，車輪の径の呼び26，常用速度16～20km/時，標準重量17kg，リムの形式WO-2(針金式箱型幅狭)。④子ども車：子ども用の車。車輪の径の呼び12(30cm)以上24(61cm)以下。⑤特殊車：上記以外の特殊な用途のための車。運搬車・競走車・タンデム車(２人乗り自転車)・折りたたみ車など。

〔わが国の自転車産業〕1914年(大正３)第１次世界大戦の拡大につれて自立自給するようになり，1937年(昭和12)には生産・輸出とも第２次世界大戦前の最高を記録した。終戦後一時は完全停止状態に陥ったが，その回復も早く，1950年には戦前の最高時をしのぎ，1960年には300万台，1970年には453万台(うち輸出107万台)と増加し，アメリカに次ぐ世界第２位の生産国となった。また最近の種類別需要は実用車が減少し，軽快車・スポーツ車などが増加する傾向にある。1970年の生産台数の内訳は，実用車26万6,000，スポーツ車99万9,000，軽快車131万3,000，子ども車120万1,000，特殊車74万9,000である。〔吉田利政〕

じてんしゃきょうぎ 【自転車競技】 自転車を用いて行なうスポーツの総称で，自転車球技や競輪*も含む。1896年の第１回オリンピック-アテネ大会以来オリンピックの正式種目となっており，現在ではピット(曲走路部分に傾斜をつけ，アスファルト・セメント・板などで舗装した競技場)と道路で行なわれる。種目は，①1,000ｍタイムトライアル：独走してタイムを競う。②スクラッチ：２名の選手が２周(ピットの大きさにかかわらず)する間にあらゆる技術を駆使して相手の動きを知るためにつごうのよい位置を占め，最後の200ｍを力走して勝敗を決する。③タンデム-スクラッチ：２人乗り自転車によって行なわれる４周のスクラッチレース。④4,000ｍ追い抜き：２人の競技者が競技場の真向かいの地点から同一方向へスタートし，一方が他方に追いつけば勝ち。追いつけなければ，4,000ｍのタイムで勝負を決定する。⑤4,000ｍ団体追い抜き：２組，各４名の走車で行なわれる追い抜きレース。追い抜きおよび完走タイムはそれぞれ先頭から３番めの走車によって決定される。⑥個人ロードレース：町から町または周回コースで，150～200kmを競走する。⑦100kmチーム-タイムトライアル-ロードレース：平らな道路上を４名の走車からなるチームが独走し，先頭から３番めの走車のタイムによって決定する。なお，国際アマチュア自転車競技連盟および国際プロ自連によって共催される世界選手



四天王　東大寺戒壇院蔵の《四天王立像》　塑造　国宝　天平時代　①持国天　②増長天　③広目天　④多聞天

権大会が，アマ・プロ・女子に分かれて毎年行なわれる。またこのほかに，長日時連続の長距離ロードレースが各国で行なわれるが，フランス1周の12日間レース，ルソン島1周の10日間レースなどが知られ，わが国では東北1周の6日間レースが行なわれる。〔一条信幸〕

じでんしょうせつ　【自伝小説】　作者の精神的な成長過程を小説として描いたものをいう。自伝よりは文学性・虚構性が強く，必ずしも一人称〈私〉を主人公としない。ロレンスの《息子(むすこ)と恋人》，ゲーテの《詩と真実》，ケラーの《緑のハインリヒ》などが著名。日本の私小説は自伝的要素は弱く，即自的な身辺雑話の小説化であり，北杜夫(もりお)の《楡家(にれけ)の人々》などが自伝小説といえよう。

してんのう　【四天王】　仏教では四方鎮護・国家守護の4神をさす。須弥山(しゅみせん)の中腹の四王天に住み，帝釈天(たいしゃくてん)の外将として天下を守護するので護世天ともいう。東方に持国天，南方に増長天，西方に広目天，北方に多聞天がおり，梵天(ぼんてん)・帝釈天とともに仏教守護の善神にあげられる。元来バラモンの神々であったが，1世紀ごろ《金光明経》において護世安民の天部となった。わが国でも盛んに信仰されたことは，四天王寺だけでなく，東大寺をはじめ諸国に金光明四天王護国之寺(国分寺)が建立(こんりゅう)され，四天王の造像が行なわれたのをみても知られる。密教像では胎蔵界曼荼羅(たいぞうかいまんだら)外金剛部の四門に住し，調伏息災の本尊とされた。現存する四天王像の多くは中央アジア系で，武将のごとく革甲を着用するが，法隆寺金堂の像はイラン系の鱗甲(りんこう)である。のち，仏教の四天王にならって，武将や和歌・技芸にすぐれたもの四人を選び，〈四天王〉とよぶようになった。〔北条賢三〕

してんのうじ　【四天王寺】　大阪市天王寺区元町にある和宗本山の寺。聖徳太子発願の最初の寺院として，593年(推古1)



四天王寺
五重塔

に建立(こんりゅう)された。836年(承和3)雷火のため破壊され，その後近年に至るまで罹災(りさい)と復興をくり返してきた。現在の建物は1961年(昭和36)に復興をみたもので，伽藍(がらん)のおもなものは鉄筋コンクリート造りであるが，伽藍配置はいわゆる四天王寺式伽藍配置をなし，創建当初の姿を現わしている。境内は史跡に指定され，《四天王寺縁起》《扇面法華経(ほけきょう)冊子》《懸守(かけまもり)》などの国宝がある。〔永井信一〕

しと　【使徒】　〈派遣された者〉を意味するギリシア語アポストロスの訳で，キリストの福音を宣教するためにつかわされた者。キリストはイスラエルの12支族にしたがって12人の使徒を選んだ。12人はシモン(ペテロ)とその兄弟アンデレ，ゼベダイの子ヤコブ(大ヤコブ)とその兄弟ヨハネ，ピリポ，バルトロマイ，トマス，マタイ，アルパヨの子ヤコブ(小ヤコブ)，タダイ，熱心党員シモン，イスカリオテのユダである。ユダの裏切り後はマッテヤ。12使徒は主としてユダヤ人の宣教にあたった。のち，イエスキリストとは生活をともにしなくとも，ある地方，ある国にはじめて福音を伝えた者をも使徒とよび，パウロは代表的である。〔石井忠厚〕

しど　【志度(町)】　香川県の北東部，大川郡にあり，志度湾に臨む。人口20,000。《平家物語》に合戦場としてみえ，江戸時代には製塩地として知られた。いまは米と果樹の農業，ノリ・カキの養殖と遠洋漁業があり，桐(きり)げたの特産もある。高徳本線・国道11号線に沿い，高松琴平電鉄が高松市と連絡し，高松市への通勤者が多い。海辺にある志度寺は四国第86番の札所で，庭園は県下で知られる名園である。

シード　［seed］　スポーツ用語。勝ち抜き試合で，強い選手やチームをあらかじめ想定し，それらがはじめに組み合わないように適当な位置へ分散させた組み合わせをつくること。最も強いと想定された選手・チームを第1シードといって組み合わせのトップに置き，第2シードを最後尾に置く。

じとう　【地頭】　鎌倉幕府によって任命された一種の荘官(→荘園)。本来は現地を意味することばで，転じて在地の開発領主をさすようになったが，これらの開発領主は多く平氏の家人となってその権限を保障され，地頭とよばれていた。1185年(文治1)幕府は源義経(よしつね)の逮捕を口実に地頭を設置する勅許を得た。しかし，地頭の設置は荘園領主である貴族，寺社にとって大きな脅威となったので強くこれに反撃し，地頭の設置範囲も謀反人跡などに限定された。地頭の権限は下地(田畑・山林・塩浜などすべて収益の対象となる土地)管理権・徴税権・警察権であり，得分として反別5升の兵糧米(ひょうろうまい)を取得した。承久(じょうきゅう)の乱後，幕府は3,000余か所の没収地に新たに地頭を補任し，地頭制度を通じて幕府の全国的支配が確立された。この地頭を新補地頭とよぶのに対し，旧来の地頭を本補地頭という。本補地頭の得分は先例によってさまざまであったが，新補地頭のうち，得分の先例のないものには田畑11町，別に1町の給田，反別5升の加徴米を取得する権利が与えられた。このように，地頭は経済的得分権を伴う職権を有し，その権利を地頭職，その権利をもつ人を地頭

とよんだ。そのため，地頭職は一族の間で分割相続されることが多く，分割相続した庶子分を一分地頭，全体を総領する家督を総地頭ともいった。〔鈴木英雄〕

じどうあんていそうち【自動安定装置】 ⇨ビルト-イン-スタビライザー

じとううけ【地頭請】 荘園(しょうえん)領主の年貢(ねんぐ)を地頭が請け負って進納する制度。鎌倉幕府によって設置された地頭は，その権限を利用して不法に年貢を抑留することが多く，荘園領主との間に紛争が絶えなかった。このような紛争を避けるために，本所・領家側は荘園の管理はいっさい地頭に任せるかわりに，豊凶にかかわらず毎年一定の年貢の納入を地頭に請け負わす方法をとった。

しとうが【指頭画】 手指や手のひらに墨をつけて描く一種の曲画。中国清(しん)の画家高其佩(こうきはい)が始めたものと伝えられ，わが国では柳沢淇園(きえん)・池大雅が名手として知られる。

じどうが【児童画】 幼児が描いた絵をさすことが多い。しかし，その明瞭(めいりょう)な位置づけは近代絵画とかかわりあって行なわれた。児童画研究を最初に行なったのは，イタリアの美術史家で，1887年に《子どもの美術》を著わしたコラド-リッチである。その後，この分野は各国で開拓され，児童の創造意欲の表現性が認められた。わが国では第2次世界大戦後に急速に発展し，現在では欧米の水準に近づいている。

じどうかせん【自動化船】 主機操作の遠隔制御を中心として，船内各機器を大幅に自動化させた船。日本は世界にさきがけて自動化船の建造に踏み切り，注目されている。まず1957年(昭和32)に，原子力船調査会の航海計器グループは，自動化船の必要性と可能性について検討し，その実現を提案した。このことは関係者の関心を喚起し，1959年に運輸大臣から造船技術審議会に対し，〈船舶の自動操縦化の技術的問題〉の検討について諮問がなされるに至って，造船関係の大量の技術者がこの問題に取り組むこととなった。その結果として技術的な開発，特にジーゼル船の自動制御および遠隔操作の面において非常な成功を収めるに至った。1961年11月には，三井造船建造の三井船舶所属船金華山丸(載貨重量9,800トン，航海速力18.25ノット，機関出力12,000馬力)は，これらの技術を大幅に取り入れ，航洋船としては世界最初の船橋制御の自動化船として出現した。その後の新造船は多かれ少なかれ，この自動化技術を取り入れており，1970年現在では，新造航洋船のほとんどは自動化船である。

自動化の要点は，主機の発動・停止・逆転，各種冷却水系，潤滑油移送系，発電装置，空気供給排除系，燃料移送清浄系，温度湿度調整系，機器の正常運転監視系などの自動化で，さらに進んで，荷役装置，



指頭画 長沢蘆雪《酔李白図》

航海術関係などに至る一連の自動制御が行なわれる方向に進んでいる。〔茂在寅男〕

じどうがっき【自動楽器】 演奏者によらず機械的な装置によって音楽を生み出す器機類。一般に，発音体・音列配置記録装置・動力装置からなり，既存の楽器を自動式に改良したもの(自動ピアノ・自動オルガンなど)と自動楽器としてのみ存在するもの(オルゴールなど)に大別できる。

しとうかん【四等官】 令制(りょうせい)では，諸司の上級事務官は原則としてすべて4等級からなり，これを四等官といった。すなわち長官(かみ)・次官(すけ)・判官(じょう)・主典(さかん)である。長官は当該官司の事務を統轄し，次官はそれを助け，長官に事故あるときはその代理をする。判官は官司内の検察と文案の審査，主典は文案の作成・記録をその任とした。官司の格によりあてる字は異なるが，読みはすべて同じである。

じどうき【児童期】 発達のどのような面に注目するかによって説が分かれるが，狭義には，6歳ころから12〜13歳ころまでの時期をいう。これは小学校在学時代にあたるので，学童期ともいう。それ以前の家庭生活を中心とした生活から脱して，新しい社会性を身につけ集団生活を学ぶ時期である。また，知識生活時代と名づけられているように，読み・書き・計算などの基礎的能力をはじめとして，知的に急速な発達を遂げる時期でもある。情緒的には，それ以前の幼児期，あとに続く青年期に比べて，比較的安定している時期で，扱いやすい年ごろといわれる。〔斎藤幸一郎〕

じどうクラッチ【自動クラッチ】 自動的に動力の断続を行なう装置。クラッチ操作を容易にし，変速に伴う断続操作を解消するため，①遠心力により摩擦クラッチを作動させる自動クラッチ，②機関の吸入管負圧や圧縮空気を利用し，変速レバーと連動で摩擦クラッチを作動させる自動クラッチ，③電磁力によってクラッチ板を吸引する自動クラッチなどがある。しかし，流体式のトルクコンバーターの発達により，スクーターやオートバイの一部に遠心式自動クラッチが用いられているほかは実用化の例は少ない。➔クラッチ〔成田武男〕

じどうげき【児童劇】 一般に児童を観客の対象とする演劇をいう。日本ではじめて児童のための演劇が紹介されたのは，1903年(明治36)東京本郷座で巌谷小波(いわやさざなみ)・川上音二郎らによって上演された〈おとぎ芝居〉である。その後，坪内逍遥(しょうよう)が児童劇の理念を明らかにし，児童劇の呼称を用いて理論的根拠を確立した。児童劇は大別して，①児童自身が主体となって演ずる，広義の学校演劇に属するもの，②おとなの役はおとな，子どもの役は子どもが演ずる，おもに職業劇団を中心に行なわれるもの，③新劇団が本公演の合い間におとなだけで演ずるもの，とに分かれる。しかし，②③の場合，入場料を高くできない，観客動員がむずかしい，などの制約が多すぎるため，その興亡は激しい。映画教室と同じように，演劇教室とよばれる児童劇団の学校巡演も行なわれてはいるが，すぐれた児童演劇の上演は経済的にも困難で，作品の数も少なく，質的レベルも低い。先進諸外国のように国や自治体の補助金を増額するなどの，根本的な助成対策が必要とされる。➔学校演劇〔西尾邦夫〕

じどうけんしょう【児童憲章】 児童の基本的人権，その成長・福祉・平和などの保障を定めた憲章。1924年(大正13)国際連盟によって〈児童の権利憲章〉が制定されてから，アメリカ(1930)をはじめ多くの国々で制定された。日本でも1951年(昭和26)5月5日(子どもの日)，中央児童福祉審議会の提案によって，前文・総則・本文(12条)からなる憲章が制定され，基本的権利，生活・家庭・教育・社会の環境保障，衣食住の保障，身体障害児の保護，労働条件などが規定された。➔児童福祉 ➔国連児童権利宣言

じどうさんりんしゃ【自動三輪車】 ⇨三輪自動車

じどうし【自動詞】 ⇨動詞

じどうしゃ【自動車】 ⇨444ページ

じどうしゃうんてんめんきょ【自動車運転免許】 道路交通法に，自動車および原動機付自転車を運転しようとする者は，公安委員会の運転免許を受けなければならないとあり，公安委員会の行なう運転免許試験に合格した者に免許証が与えられる。免許の種類は第1種運転免許・第2種運転免許および仮免許の3種に大別される。

第1種には，①大型自動車免許(大型免許)，②普通自動車免許，③大型特殊自動車免許(大型特殊免許)，④牽引(けんいん)免許，⑤小型特殊自動車免許(小型特殊免許)，⑥原動機付自転車免許(原付免許)，⑦自動2輪車免許(2輪免許)の7種類があり，それぞれ表の自動車が運転できるほか，旅

客自動車(タクシー・バスなど)の回送の場合に運転が許される。第2種には，①大型第2種免許，②普通第2種免許，③大型特殊第2種免許，④牽引第2種免許があり，それぞれの第1種で運転できる自動車と旅客自動車の運転ができる。仮免許は道路上で運転練習する場合に受ける免許である。

受験資格は第1種の場合，前記①～④は満18歳以上，⑤～⑦は満16歳以上であり，第2種の場合満21歳以上の者で，第1種の①～④の免許を受けていて，さらにその運転経験が3年以上の者に限られる。運転免許試験は，①運転について必要な適性，②運転について必要な技能，③自動車および道路の交通に関する法令についての知識，④自動車の構造および取り扱い方法について行なわれる。しかし，公安委員会の指定した自動車教習所*の卒業証明書がある場合と，自動車整備士の資格がある者などは第1種の運転免許試験の一部が免除される。なお，免許証は有効期間が満了するまえ1か月の間に適性検査を受けないと有効期間が更新されない。上記のほかに道路交通に関する条約により国際運転免許が認められており，免許(小型特殊・原付・仮免許を除く)を受けている者は国外運転免許の交付を受けることができる。運転免許証の番号は，全国の運転の記録をすべて電子計算機に記憶させるためのコード番号で15けたの数字で構成されている。はじめの2けたは公安委員会の所在(30は東京都)を，次の2けたは交付を受けた西暦年の末尾をそれぞれ表わしており，続く6けたが登録番号，次の1字が再交付の回数を示している。ハイフン以下の数字は照会用の一連番号である。

第1種免許と運転できる自動車等の種類

第1種免許の種類	運転することができる自動車等の種類
大型免許	大型自動車・普通自動車・小型特殊自動車・原動機付自転車
普通免許	普通自動車・小型特殊自動車・原動機付自転車
大型特殊免許	大型特殊自動車・小型特殊自動車・原動機付自転車
2輪免許	自動2輪車・小型特殊自動車・原動機付自転車
小型特殊免許	小型特殊自動車
原付免許	原動機付自転車
牽引免許	牽引自動車

〔成田武男〕

じどうしゃきょうしゅうじょ【自動車教習所】 自動車の運転に関する技能や法令および自動車の構造，取り扱い方法について教習を行なう所。自動車教習所には技能指導員・技能検定員のほか，構造・法令の教習を行なう者がおり，運転練習のため周回コース・幹線コース・坂道コース・屈折コース・曲線コース(S字コース)・方向変換コースなどが組み合わされたコースや，必要な自動車が備えられている。これらの施設が政令で定められた基準に適合していれば公安委員会の指定が受けられ，この教習所の卒業証明書があると第1種免許の運転免許試験の一部が免除される。1968年(昭和43)12月末の全国の指定自動車教習所数は1,152校，自衛隊・警察関係などの指定教習所を含めると1,206校に達し，年間約20万人の卒業生を出している。〔成田武男〕

じどうしゃきょうそう【自動車競走】 定められたコースで自動車のスピードなどを競う競走。19世紀末から始められ，自動車の性能向上に非常に役だった。現在も各自動車メーカーが優秀車種の製作を競っているが，運転技術も競技の重要な要素を占め，花形選手も誕生している。

〔競技の種類〕レース・ラリー・タイムトライアルなどがあり，レースはさらにロードレース・サーキットレース(カーブなどさまざまな道路状態を取り入れた周コース)・トラックレース(路面を傾斜させて高速に合致させたコースを周回する)の3種に分かれる。競走に使う〈車種〉は次の4種に大別される。①フォーミュラ(規格車。必要最小限の装備でつくられたレース専用車，単座オープン)，②スポーツカー(レース専用の2座席スポーツカー)，③グランドツーリングカー(ふつうスポーツカーといわれているもの。車体と機械部品は市販されているものでなければならない)，④ツーリングカー(市販の量産車)。ラリーは速度を競うレースではなく，定められた規則に反した場合に与えられる減点の少ないものを勝者とする技術テストのようなものであり，タイムトライアルは独走して記録を競うものである。

〔歴史〕1894年にフランスのパリ～ルーアン間(80マイル)で競われたレースが最初とされる。その翌年にはアメリカのシカゴでも賞金5,000ドルのレースが行なわれ，その後欧米各国に広まっていった。1900年代にはいると本格的なスピードレースが始まり，1906年にはフランスでグランプリレース，1911年にはアメリカで500マイル-インディアナポリス-スピードウエーレース(略称インディ)が始まった。あらゆる車種を対象にイギリスのマン島TTレースの生まれたのが1923年で，このころにはイギリス・ドイツ・イタリアなどでもグランプリレースが始まっていた。1904年，盛んになった自動車レースを各国共通の約束で行なえるよう，国際自動車連盟(FIA)がつくられ，現在は統一された規格でレースが行なわれている。日本では大正後期に一部の愛好者が競技会を開き，昭和初期まで何回か行なわれたが，本格的なレースが行なわれたのは1963年(昭和38)の鈴鹿(すずか)サーキット*(三重県鈴鹿市，1周6,004m)での第1回日本グランプリレースが最初。現在は，富士スピードウエーも新設され，本田技研工業の車が外国のフォーミュラに挑戦(ちょうせん)するほど，わが国にも本格的な自動車レース時代がようやく訪れてきた。なお，オートレース*のプログラムに四輪車のレースが加えられているが，これは競走に車券をかける日本独特のものである。〔浮田裕之〕

じどうしゃじゅうりょうぜい【自動車重量税】 自動車の車検または届け出に際して，自動車の使用者に対し，自動車の重量を基準として課される税。車検を受ける自動車および使用の届け出をする軽自動車を課税物件とし，自動車の使用者を納税義務者とする。税率は自動車を自動車検査証の有効期間2年と1年とで区分して，乗用自動車は車両重量に応じ0.5tごとに5,000円(2年)または2,500円(1年)とされ，トラック・バスなどは車両総重量に応じて1tごとに5,000円(2年)または2,500円(1年)とされる。2輪の小型自動車は3,000円(2年)または1,500円(1年)。軽自動車については，2輪以外のものが7,500円，2輪のものは4,000円。自動車重量税の税収のうち，4分の1相当額は市町村の道路財源として市町村に譲与されるが，残りの4分の3相当額は国の一般財源として一般会計の収入とされる。その使途は，主として道路その他の社会資本の整備のための財源にあてられる。施行期日は1971年(昭和46)12月1日から。〔西野義彦〕

じどうしゃしゅとくぜい【自動車取得税】 道路に関する費用にあてるための道府県目的税。自動車の取得者に対して，自動車の主たる定置場所在の道府県が課税する。課税物件となるのは普通自動車・小型車および軽自動車のうち3輪以上のもので，特殊自動車・2輪の小型自動車・軽自動車は含まれない。課税標準は自動車の取得価額，税率は取得価額(または通常の取引価額)の3％である。ただし，取得価額が15万円以下の自動車に対しては免税される。自動車取得税のうち，徴税費相当額を控除した額の10分の7，10分の3相当額が，市町村および指定市に対して，それぞれの道路の延長および面積に案分して交付される。〔西野義彦〕

じどうしゃぜい【自動車税】 自動車の所有者に対して課される税。道府県税の一。課税客体となる自動車は，乗用車・トラック・バス・小型自動車などで，2輪の小型自動車・軽自動車・特殊自動車は含まれない。標準税率は自動車1台につき車種・軸距・用途などで区分されており，たとえば，トラックの場合で年額15,000円，乗用車の場合で，総排気量が1,500cc以上のものは，年額24,000円(自家用)と8,000円(営業用)となっている。賦課期日は毎年4月1日で，それ以後の取得分については，その翌月から月額で課税される。納期は4月および10月。〔西野義彦〕

自動車

道路運送車両法によれば，原動機(エンジン)を用いて，軌条あるいは架線によらないで陸上を自由に走る車両のうち，原動機付き自転車以外のものと定義されている。したがって，架線から電源をとるトロリーバスは自動車とはいわないが，原動機の種類，車輪の数，車両の形状には関係しないため，電気自動車・蒸気自動車・自動二輪車は自動車に含まれる。また，法令では，原動機をもたないトレーラーも自動車として扱われている。

〔発達史〕昔，陸上の運搬には牛馬を使役していたが，人類の知恵が進むにつれて重量物の運搬にころを利用したり，大木を輪切りにした車輪で車をつくったりした。この当時は，車といってももっぱら人力や家畜の力によっていたが，他の動力で自走させたいという人類の夢は時代とともに進み，いろいろな試みがなされた。1600年ごろオランダのステビンは風力を利用した帆走車を，また1647年にはヨハン-ハウソッシュはぜんまい式自動車を発明したが，いずれも実用性に乏しかった。1769年ワット*によって蒸気機関が発明されると，この蒸気機関を利用した蒸気自動車*の研究が進められ，1770年フランスのクノーがはじめて三輪の蒸気自動車を完成したが，これは重量も重く，速度も10km/時にも満たないものであった。その後，おもにイギリスで蒸気自動車の改良が進められ，1834年ハンコックが乗り合い蒸気自動車を考案したが，このころが蒸気自動車の全盛期といえる。しかし，蒸気機関は大きなボイラーを必要とし，蒸気を得るのに時間がかかるなど自動車用エンジンとして不向きであったため，これに代わる内燃機関の研究が19世紀初めころから盛んに進められていた。

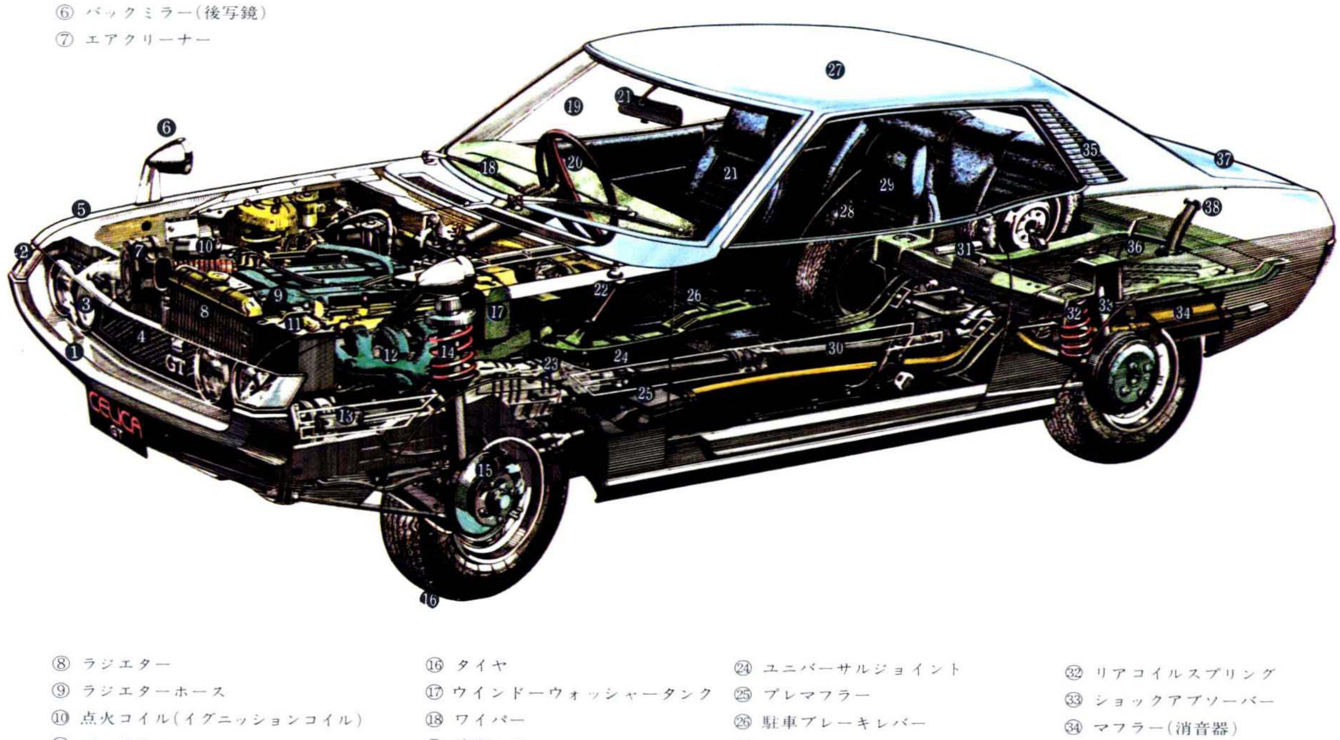
1876年ドイツのオットーが4サイクル機関の実用化に成功，1880年イギリスのクラークが2サイクル機関の実用化に成功すると，この内燃機関を原動機とした自動車が多くの人々によって製作されるようになった。その代表的なものは，1885年ドイツのダイムラーのガソリン自動車であり，ベンツのガソリンエンジン装備の三輪車である。アメリカでもガソリン自動車の製作研究が行なわれ，1902年にオールズが大量生産を開始，また1908年にはフォード*が低廉で庶民向きの有名なT型乗用車の大量生産を開始した。その後，1911年キャデラックに電気スターターが，1922年フランスのシゼールにラックピニオン式ステアリング・四輪独立懸架が，1923年イタリアのフィアットにオーバーヘッドカムエンジンが，1928年キャデラックにシンクロメッシュ式トランスミッションが採用されるなど，各部の改良・研究が進められ，今日みられる自動車にまで発達した。

一方，わが国にはじめて現われた自動車は，1900年(明治33)4月横浜に住むアメリ

乗用車の構造と名称

① バンパー
② 車幅燈
③ ヘッドランプ
④ ラジエターグリル
⑤ フェンダー
⑥ バックミラー(後写鏡)
⑦ エアクリーナー

セリカ1600GT
エンジン形式　水冷直列4気筒
最高出力　115 PS/6,400 rpm
最大トルク　14.5 kg-m/5,200 rpm
最高速度　190 km/時

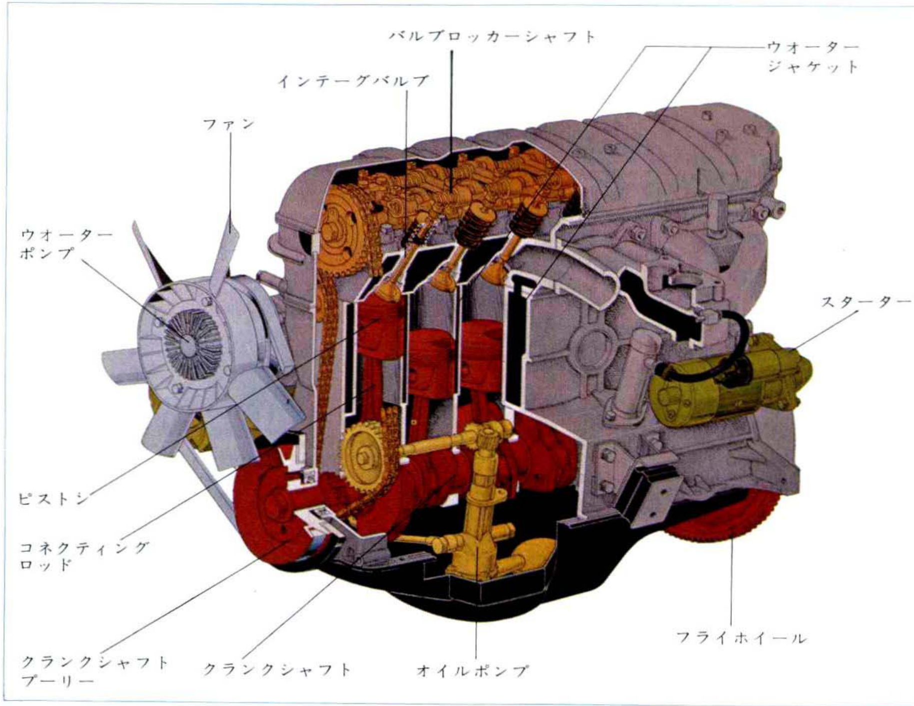


⑧ ラジエター
⑨ ラジエターホース
⑩ 点火コイル(イグニッションコイル)
⑪ バッテリー
⑫ エキゾーストマニホールド
⑬ サイドフラッシャー
⑭ コイルスプリング
⑮ ディスクブレーキ
⑯ タイヤ
⑰ ウインドーウォッシャータンク
⑱ ワイパー
⑲ 前窓ガラス
⑳ 操向ハンドル
㉑ 室内バックミラー
㉒ シフトレバー
㉓ 変速機
㉔ ユニバーサルジョイント
㉕ プレマフラー
㉖ 駐車ブレーキレバー
㉗ ルーフ
㉘ シート
㉙ ヘッドレスト(シート一体型)
㉚ 推進軸(プロペラシャフト)
㉛ ドアハンドル
㉜ リアコイルスプリング
㉝ ショックアブソーバー
㉞ マフラー(消音器)
㉟ クオータールーバー
㊱ 燃料タンク
㊲ トランクリッド
㊳ 燃料注入口

カ人トンプソンが輸入した蒸気自動車である。翌年には，アメリカのロコモビル社の日本代理店が，わが国初の自動車販売店として設立された。自動車がはじめて日本人の手によってつくられたのは，1902年自動車販売店の技師内山駒之助(こまのすけ)によるガソリン乗用車で，この自動車のエンジンは2気筒12馬力程度のものであった。その後多くの人々が自動車製作に取り組んだが，関連諸工業の未発達から量産化が遅れ，その間に欧米の自動車がどんどん輸入されるようになり，第1次世界大戦・関東大震災を契機に急速に普及した。東京では，大震災で市電(現在の都電)が壊滅したため，約800台のT型フォードを輸入してバスとして使用(いわゆる円太郎バス)した。普及した自動車のほとんどがフォードやゼネラルモーターズ社のものであったので，国産化の必要を感じたときの政府は国産車育成のため種々の保護政策をとり，今日の自動車工業にまで発展した。

【自動車の問題点と将来】 自動車交通は経済の発展とともに急速に普及・発達し，わが国の総貨物輸送量47億4,000万tの87.8％を，旅客輸送では鉄道と自動車を合わせた輸送量の57.5％にあたる217億8,000万人(いずれも1969年度)を占めている。1台あたりの人口は全自動車において8人，乗用車のみでは19.5人(1968年度)にまで普及した。しかし，アメリカでは全自動車において2.0人，乗用車において2.4人であり，かなりの差がある。また，道路延長1kmあたりの自動車台数は，わが国の道路総延長が長いこともあって12台(1969年3月)と割合低い台数にある。しかし一方，自動車交通の急速な発達に伴う道路や駐車場などの諸施設の不足，市街地の交通渋滞の慢性化，交通事故*の増加などの諸問題に加え，排気ガス・騒音などによる公害が社会問題として大きく浮かび上がってきた。このような諸問題に自動車がどのような形態で対処していくかは重要な問題であるが，当面は自動車の基本的構成に大きな変化はなく，技術の進歩とともに各部装置の改良が中心となるであろう。たとえば有害排気ガスに対しては，エンジンの改良・浄化装置の装着などとともにガスタービンエンジンや蒸気エンジンなどの有害排気ガスの少ないエンジンの開発，さらに排気ガスが出ず，静かな電気自動車が都市交通などに進出するであろう。また交通事故対策には，歩行者と自動車を分離する立体交差，専用道路の整備，信号機およびガードレールなど交通施設の完備，運転容易な自動車，事故の際に乗員を保護する諸装置などが研究されており，逐次採用されている。

【構造】〈全般〉 自動車の構造はボディー(車体)とシャシ(車台)に大別される。ボディーは，運転者や乗客および荷物を積載する部分で，用途に応じていろいろな形状がある。シャシは，ふつう，自動車の背骨にあたるフレームに，エンジン・動力伝達装置(クラッチ・変速機・推進軸・差動装置など)・走行装置(車輪や車軸)・かじ取り装置・ブレーキ装置・懸架装置・付属装置などを取り付けたものである。一般には，シャシの上にボディーを載せる方式が多いが，乗用車では軽量化や強度を増し，また床面を低くするためにフレームとボディーを完全に一体化し，ボディー自体に力を負担させるモノコック構造(単体構造)を採用したものもある。これら構造については，道路運送車両法の保安基準に定められており，この基準に合格しない車は道路上を走ることはできない。



エンジン(水冷式)

〈エンジン〉 ガソリン・軽油・ガスなどの燃料を燃焼させ，生ずる熱エネルギーを機械的エネルギーに変換する装置である。現在使われている自動車用機関のほとんどはガソリンエンジンとディーゼルエンジンであるが，最近はロータリーエンジンも実用化されるようになった。また競争用自動車では，ガスタービンを搭載(とうさい)したものもある。自動車用エンジンは形や大きさが制限されることから，軽量・小形で高出力であることが望ましく，燃料の取り扱いも容易で経済的なことが要求される。

①ガソリンエンジン：気化器(キャブレター)でガソリンと空気を適当な割合(重量比で1対12〜13程度)に混合・霧化し，燃焼室で圧縮・点火・爆発を行なわせる。小形・軽量で高出力を出し，比較的作動が静粛であることから，乗用車の大部分と小型トラックおよび小型バスに多く利用されている。

②ディーゼルエンジン：ピストンで圧縮され，高温となった空気の中へ高圧で軽油を霧状に噴射し，燃焼を行なわせる方式で，ガソリンエンジンに比べて振動・騒音が大きく，寒冷時は始動しにくい。しかし，燃料の軽油がガソリンに比べて廉価であるうえに燃料消費率が少なく，電気点火装置・気化器がないため故障が少ないなどの利点があって，ほとんどの大型トラック・大型バスに使用されている。

③ロータリーエンジン：自動車用に実用化されているものはガソリンを燃料とし，三角形状のローターで混合ガスを吸入・圧縮・爆発・排気を行なわせるものである。往復運動部が少ないためになめらかな回転をすること，同出力のガソリンエンジンより小形で部品点数の少ないものができるなどの特長をもつ一方，加工方法がむずかしく，燃料・オイルの消費が多いなどまだ未解決の点もある。

④ガスタービン：圧縮した空気を燃焼室へ導き，燃料を燃焼させ，この高温・高圧のガスを多数の翼を円周上に取り付けたタービンに吹き付けて回転させるものである。ガソリンエンジンより小形・軽量で，重油・軽油・燈油など低質燃料でよい。しかし，毎分40,000〜50,000回転という高回転を実用回転数まで減速する装置が必要であり，高温にさらされるタービン翼は高級な材料を必要とするほか，燃料消費率が悪いので，競争用自動車に使用されている程度であるが，最近では大型高速トラックに採用され

自動車の歴史


①ベンツの最初の自動車　1886


②パッカードルナバート　モデルB　1900

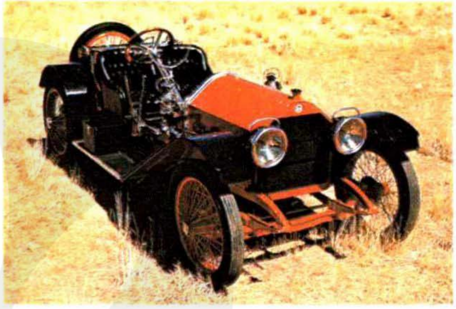

③フォード　モデルA　1903


④トーマスツーリング　モデルXXXVI　1907


⑤ステアリングライト　ツーリングカー　1908

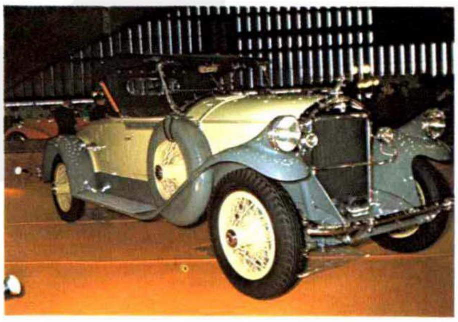

⑥メーサーレースアバウト　シリーズJ　1910


⑦ロールスロイス　ツァラー　1910


⑧スタッズベアカット　シリーズB　1913


⑨フォード　モデルT　クーペ　1915


⑩スタッズベアカット　1923

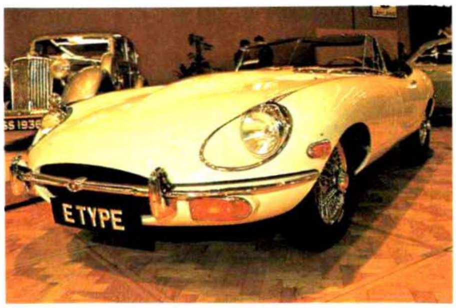

⑪ピアスアロー　ランナバウト　1928


⑫パッカード　コンバーチブルセダン　1931


⑬ハドソンボートテイル　スピードスター　1931


⑭ロールスロイス　1939

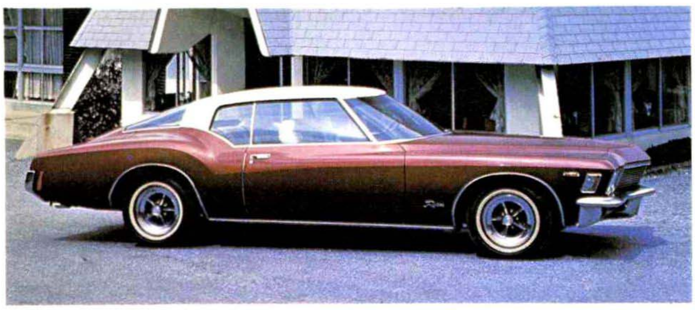
世界の乗用車



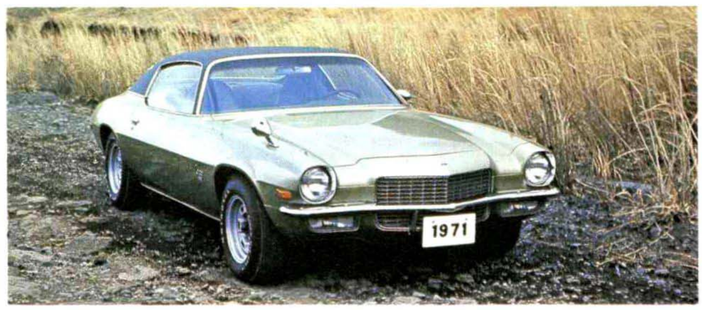
ジャガー　Eタイプ(イギリス)



ロールスロイス　シルバーシャドウ(イギリス)



ビュウィック　リビエラ(アメリカ)



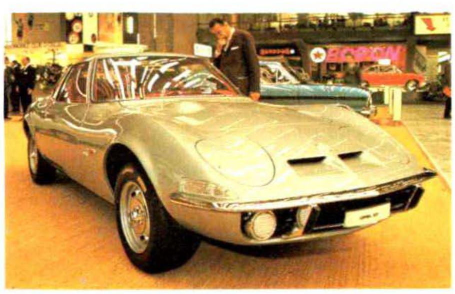
シボレー　カマロ(アメリカ)



メルセデス-ベンツ(西ドイツ)



ボルボ　164(スウェーデン)



オペル　GT(西ドイツ)



フィアット　124スポーツスパイダー(イタリア)



シトロエン　DS20(フランス)



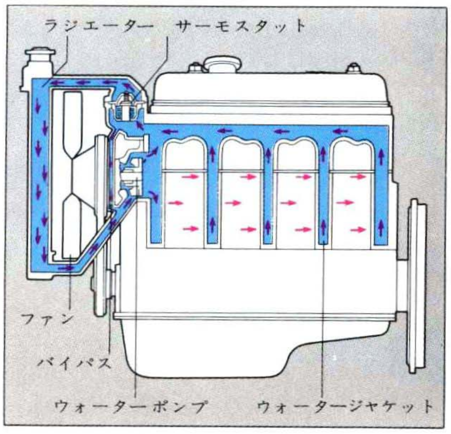
カローラ　1200デラックス(日本)



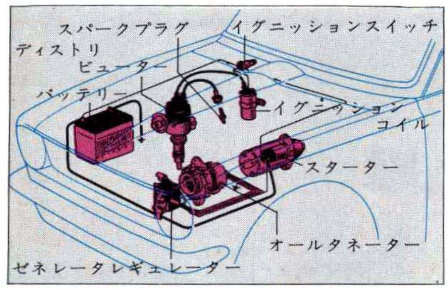
スカイライン　2000GT-X(日本)



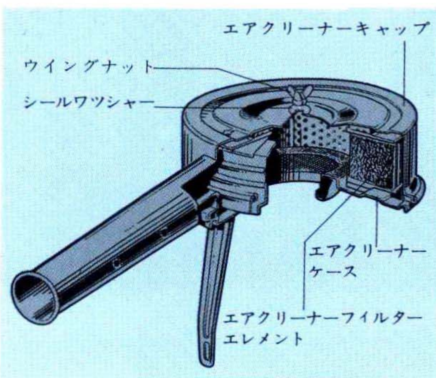
ルノー　R12TL(フランス)



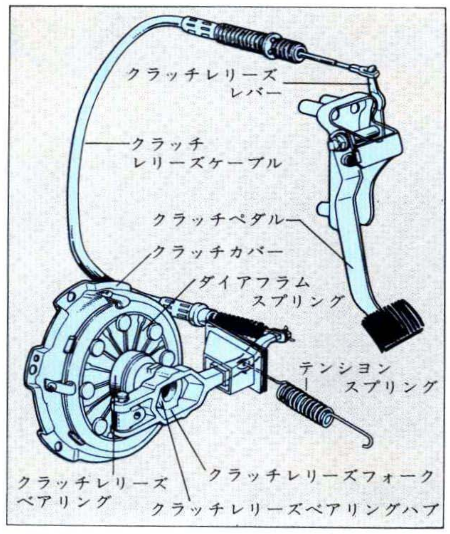
エンジン冷却系統(水冷式)



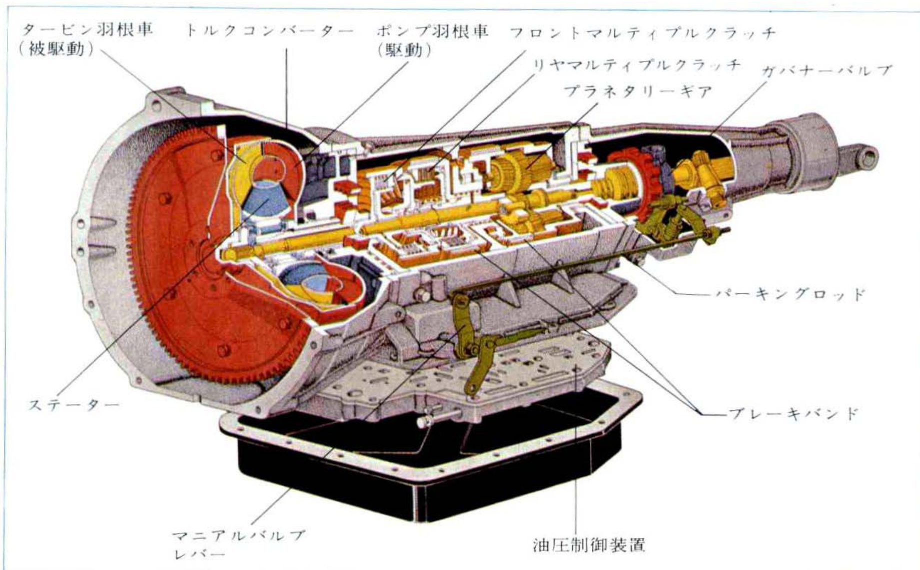
エンジン電気系統



エアクリーナー



クラッチ系統



トルクコンバーター式自動変速機

る動きもある。

このうち，ガソリンエンジンとディーゼルエンジンには，その作動方式に2サイクル式と4サイクル式が，また冷却方法に水冷式と空冷式がある。4サイクル式は，ピストンの作動が混合ガスを吸入する吸入行程，圧縮する圧縮行程，圧縮されたガスが爆発・膨張する爆発行程，燃焼ガスを排出する排気行程の4行程に分けられ，ピストンの2往復，すなわちクランクシャフト2回転でこの4行程を行なうもので，大部分の自動車はこの方式を採用している。

2サイクル式は，ピストンの上昇行程で圧縮と吸入を，下降行程で爆発と排気を行なうもので，ピストン1往復，クランクシャフト1回転で全行程を完了する。弁機構がなく，小型で高出力が得られるため軽自動車や二輪自動車に用いられるが，潤滑方法に難点があり，有毒排出ガスが多くなる欠点をもつ。一方，シリンダー内で爆発した混合ガスは1,400～2,000℃の高温に達するため，このままではピストンやバルブが焼きつくなどの障害を起こしやすいが，これを防ぐためにシリンダーやシリンダーヘッドを水で冷却し，熱せられた水をラジエーター(放熱器)へ導いて空気(外気)で冷却するのが水冷式である。空冷式に比べてエンジンが重くなり，冬期に不凍液を入れるなど保守にも若干手数を要するが，エンジン音が静かなこと，冬期は温水を利用して室内暖房ができるなどの特長をもつ。これに対して空冷式は，シリンダーやシリンダーヘッドに冷却フィンを設け，燃焼ガスの熱をフィンを通じて直接空気で冷却する方式であるが，ファンを使って強力に冷却する強制空冷式もある。ラジエーターや水が不要でエンジンを軽くできるため，小型自動車や二輪自動車などに用いられる。

〈動力伝達装置〉エンジンで発生した動力は，クラッチを接続することによって変速機・推進軸(プロペラシャフト)・最終減速機・差動装置(デファレンシャルギア)を経て駆動車輪に伝えられる。①クラッチ：クラッチはエンジンの動力を任意に断続する機構で，発進・変速・停車の際に用いる。自動車用クラッチは，石綿を合成樹脂で固めた摩擦板をフライホイールに押しつける摩擦クラッチか，エンジンに接続された羽根車で油にエネルギーを与え，変速機に接続された羽根車を回転させる流体クラッチが多く用いられる。このほか，遠心式あるいは真空式の自動クラッチもあるが，一般の自動車には使われていない。

②変速機：自動車用エンジンの回転力は，大きな回転力を必要とする発進・登坂・加速に十分な大きさでないため，エンジンと駆動輪の間に自動車の速度と走行抵抗に応じて回転力を増大させる装置が必要となる。これが変速機である。変速機は変速比が連続的に変化すること，構造が簡単で操作が容易なことが理想であるが，効率や価格の制約があるので，自動車用には数個の大小歯車を組み合わせて回転力を変化させる歯車式変速機が多く使用されている。近年，運転を容易にする目的で電気式・流体式の自動変速機が発達し，中でも流体式トルクコンバーターと遊星歯車装置とを組み合わせたものは乗用車に多く取り付けられているが，燃料消費が若干多く，加速性も少し犠牲になる。

③推進軸：普通に見られるフロントエンジンで後輪駆動の自動車では，変速機と最終減速装置(ファイナルギア)との距離が長いため，その間は推進軸(プロペラシャフ

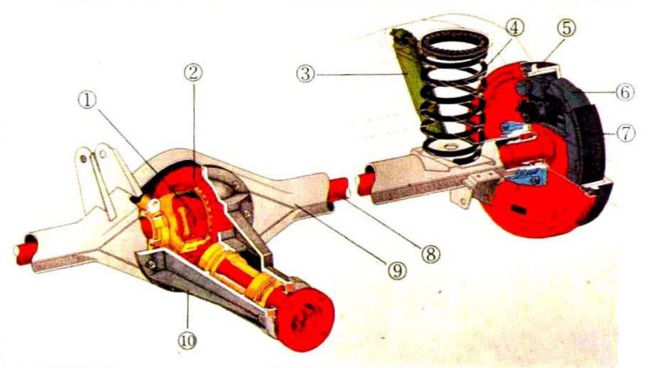
ト)で回転力を伝達する。変速機はフレームに固定されているのに，後車軸は上下に振動するため，相対位置がつねに変化する。このため，ユニバーサルジョイント(自在継手)やスプライン軸を設けて確実に伝達できるようになっている。軸は軽くするためパイプを用いている。

④最終減速装置と差動装置：変速機の高速段すなわち直結の場合，推進軸の回転力は自動車を走らせるには適さないため，回転を駆動軸へ伝達するときにさらに減速し，回転力を増すとともに回転の方向を車輪の回転方向に変換する。これが最終減速装置で，ふつう傘歯車(かさはぐるま)を用いる。また，自動車が進行方向を変えると外側の車輪は内側の車輪より速く回転しないと車輪がすべりを起こす。このため，適当な回転差を与える差動装置が最終減速装置といっしょに駆動車軸管に組み込まれている。

《後車軸》 自動車の重量をささえ，エンジンの回転力を車輪に伝える働きをする。軸受けの使い方によって，全浮動式・半浮動式・¾浮動式がある。

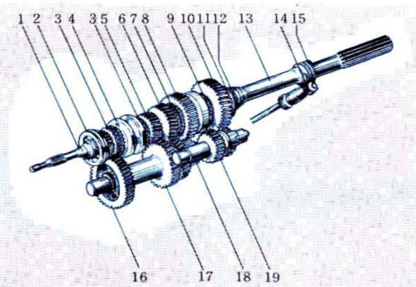
《かじ取り装置》 自動車は一般に前車輪を操作して進行方向を変える。前車輪はキングピンを中心に旋回させ，左右の車輪を同じ方向に向けるためタイロッドで前車軸が連結されている。曲線路を走るとき，内車輪と外車輪の回転中心を一致させ，前車輪が横すべりしないようくふうされている。このような機構をアッカーマン式かじ取り装置という。かじ取り操作が軽く，確実に行なわれ，前車輪に横すべりや横ぶれなどが起きないようにするため，前車輪には種種の角度が与えてある。これを前車輪の整列(ホイールアライメント)といい，キャンバ(下が狭い)・キングピン傾き(内側へ傾く)・キャスタ(後ろへ傾く)・トーイン(前が狭い)がある。大型乗用車になると，その自重によってかじ取り操作が重くなるため，油圧を利用したパワーステアリングを使ってハンドル操作を軽くしたものもある。

《ブレーキ装置》 ブレーキは常用ブレーキ(フットブレーキ)と駐車ブレーキ(サイドブレーキまたはハンドブレーキ)とに分けられる。常用ブレーキは運転者が走行中の速度を低下させたり，停止させるためにブレーキペダルを踏む方式のもの，駐車ブレーキは手動レバーあるいはハンドルを引いてブレーキを掛けるもので，おもに駐車の目的のために用いる。道路運送車両法の保安基準に，常用ブレーキと駐車ブレーキとはおのおの独立して作用する構造にしなければならないと定められており，万一常用ブレーキが故障しても駐車ブレーキで安全を確保するように考慮してある。常用ブレーキは，車輪に取り付けられたブレーキドラムに石綿を合成樹脂で固めたブレーキライニングを押しつけて制動させる内部拡張式ブレーキが広く用いられているが，最近のスポーツカーや乗用車には安定性のよいディスクブレーキ*が採用されることも多い。



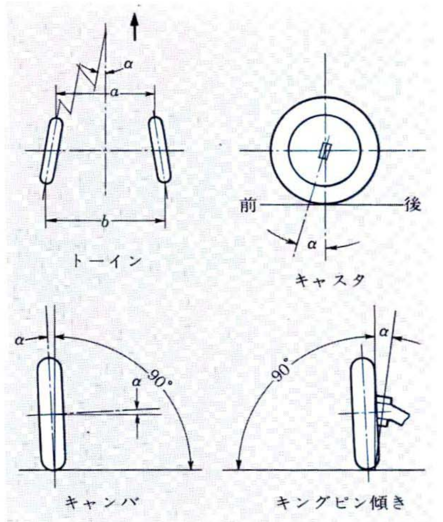
①差動装置
②最終減速機
③ショックアブソーバ
④コイルスプリング
⑤ブレーキドラム
⑥ブレーキシュー
⑦ブレーキライニング
⑧リアアクスルシャフト
⑨リアアクスルハウジング
⑩ディファレンシャルキャリア

ディファレンシャル

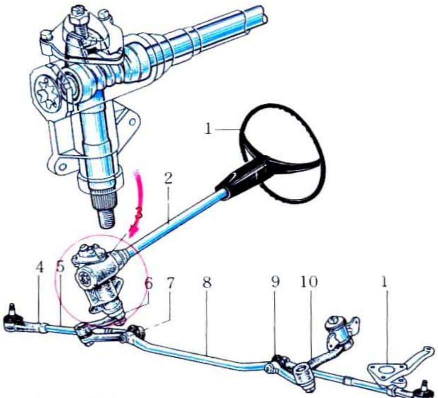


1 インプットシャフト
2 ベアリング
3 シンクロナイザリング，No.3
4 トランスミッションハブスリーブ
5 サードギア
6 セカンドギア
7 シンクロナイザリング，No.2
8 リバースギア
9 シンクロナイザリング，No.1
10 ファーストギア
11 ベアリング
12 ナット
13 アウトプットシャフト
14 スピードメータードリブンギア
15 スピードメータードライブギア
16 カウンターシャフト
17 カウンター ギア
18 リバースアイドラギアシャフト
19 リバースアイドラギア

トランスミッションギア

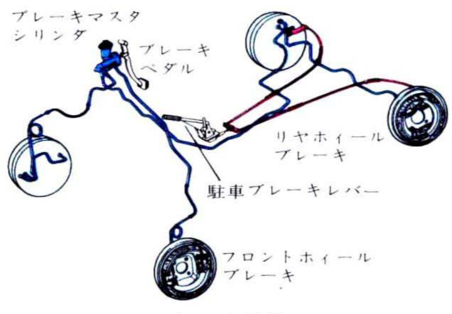


前輪の整列



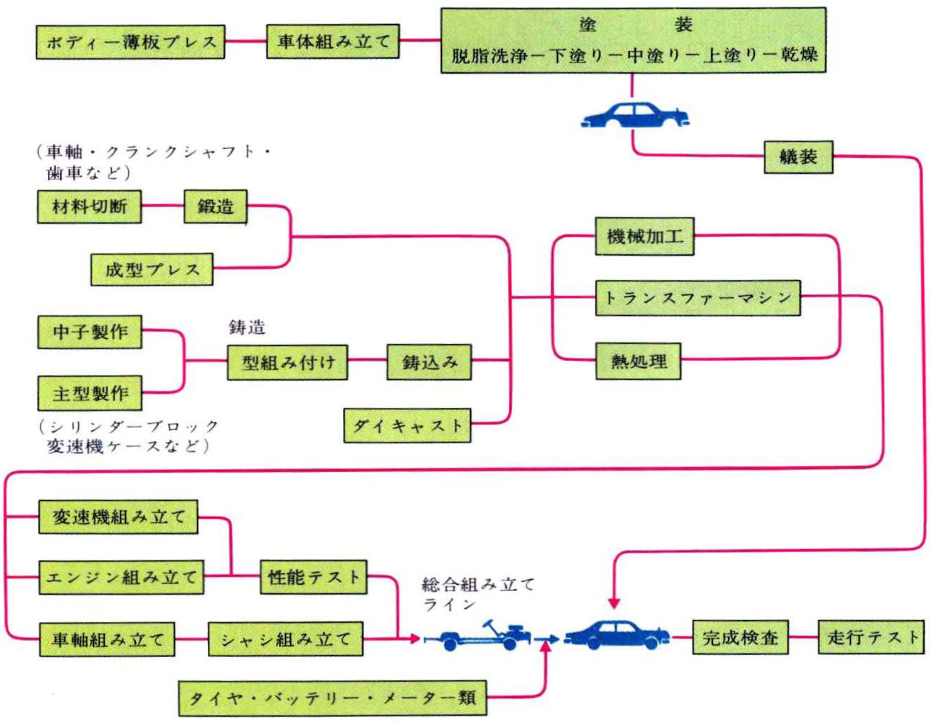
1　ステアリングホイール
2　ステアリングコラムチューブ
3　ステアリングギアハウジング
4　タイロッドエンド，No.1
5　ステアリングタイロッド
6　ピットマンアーム
7　タイロッドエンド，No.2
8　ステアリングリレーロッド
9　ステアリングリンクジョイントダストシール
10　ステアリングアイドラアーム
11　ステアリングナックルアーム

ステアリング機構



ブレーキ系統

ブレーキペダルを踏んだ力は油圧によってあるいは機械的に倍力され，車輪ブレーキに伝えられるが，現在では油圧式が多い。バスやトラックなどの重い車では足の力だけでは作動力が不足するので，圧縮空気やエンジンの真空を利用した圧縮空気倍力装置や真空倍力装置などが用いられている。なお，真空倍力装置については乗用車や小型トラックにも広く採用されるようになった。駐車ブレーキには，常用ブレーキの車輪ブレーキを共用した形式と，推進軸にブレーキドラムを設けてブレーキライニング



自動車の製造工程

で締め付ける推進軸ブレーキとがある。

〈懸架装置〉 路面からの衝撃を吸収し，乗りごこちをよくするための装置。懸架ばねと緩衝器がこれで，車軸の取り付けは懸架ばねを介して行なわれる。懸架ばねには板ばね・コイルばね・トーションバーばね・ゴムばね・空気ばねなどがある。トラック・バスには板ばねが多く，乗用車では前車軸の懸架にコイルばねが多く用いられている。また，乗用車の懸架方法には左右の車輪が独自に上下する独立懸架機構を採用した例が多く，車輪のみが道路の凹凸(おうとつ)に応じて上下するので，乗心地・走行安定性をよくするのに役だっている。また，ばねのみで懸架すると上下振動が長く続いて乗心地を悪くするため，この振動を適当に減衰させるのが緩衝器*(ショックアブソーバ)で，フレームとばねの間に取り付けられている緩衝器には固体摩擦式と粘性摩擦式があり現在ではほとんどが粘性摩擦式である。

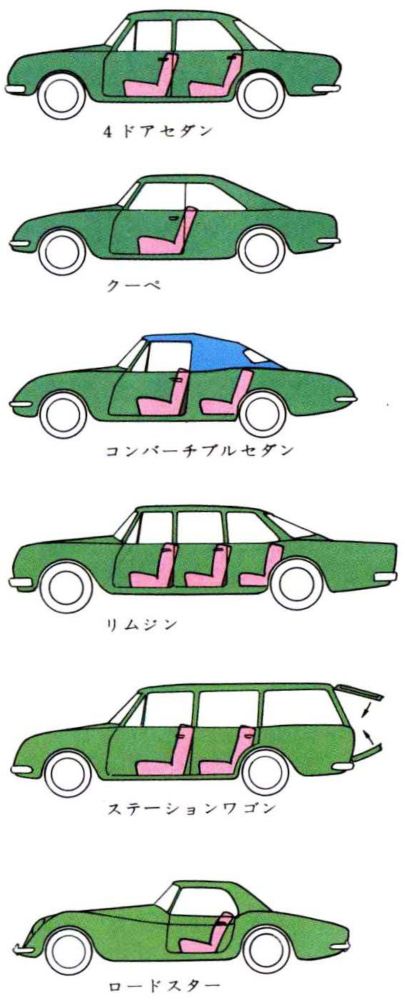
〈車体付属装置〉 上記各種装置のほかに，主に交通の安全を確保する目的で前照燈・尾燈・制動燈などの燈火類，自動車の速度やエンジンの冷却水の温度や油圧・燃料量などを示す計器類，方向指示器，雨天にフロントの窓ガラスをふくワイパー，歩行者や他の車両などに自動車の接近を知らせる警音器，後方の交通状況を確認する後写鏡(バックミラー)などが必ず備えてあり，このほか居住性をよくするために冷暖房装置・ラジオ・時計などを備えた自動車がふえている。また，最近では事故時の傷害を最小限にするために室内を厚いパッドで包んだり，安全ベルト・安全まくら・衝撃吸収式ハンドルなどを設置するようになった。

〔製造〕 大部分の自動車は注文生産ではなく，自動車製造会社が市場調査に基づく需要を見込んで多量に生産し，廉価に販売する形態をとっている。新形車の企画から市場に発表されるまでにはふつう3～4年を要するが，その間の過程は次のように要約できる。①モデルの決定：市場調査・需要予測により自動車の大きさ・種類・主要性能を決定。②設計：決定された主要諸元，性能に基づくエンジン・駆動系・懸架装置・ブレーキ装置などの各部設計が始められ，同時に次の手順でスタイルが決められる。㋑カーデザイナーによる多数の着色見取り図(カラースケッチ)案の準備，㋺選ばれた着色見取り図から⅕縮尺程度の粘土立体模型(クレーモデル)を作製し，検討のうえ最終的に一つを選び出す，㋩検討修正されたモデルの現尺の線図(現図)を作製，㊁実物大の模型作製，㋭各部を修正し，最終的な現図・ゲージの作製。③試作：各部の設計，スタイルの決定がなされると，各種の機構を織り込んだ試作自動車が製作される。④試験検討：試作自動車は性能測定試験・騒音振動試験・耐久走行試験などのほか，保安基準の適合などが確認され，不十分なところは再度設計・試作・試験を経て完全な自動車が誕生する。⑤関連部門との調整：生産に移すことになると，生産部門・生産管理部門・販売部門など関連部門との間に製造方法・設備・販売時期・価格などについての調整が行なわれ，原価調査が行なわれる。

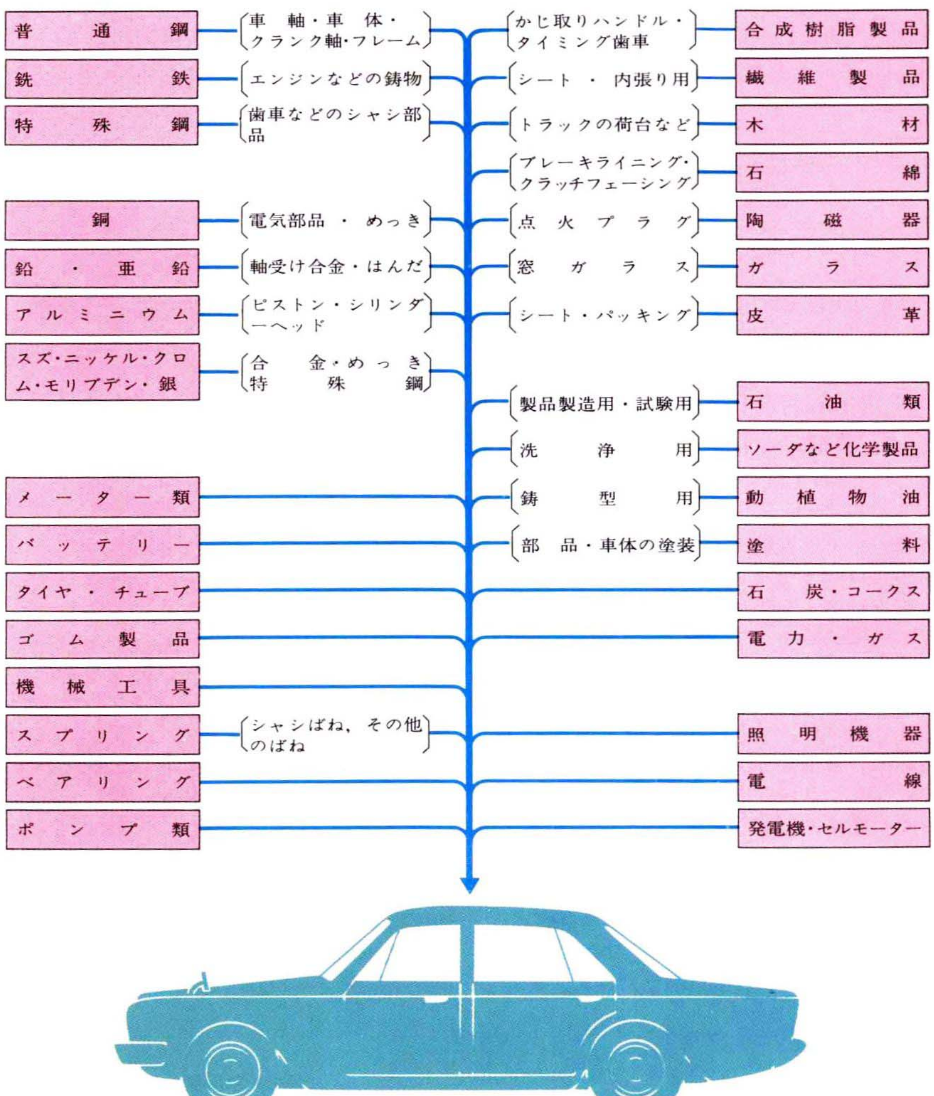
自動車は1万数千点の部品からなるが，これらの部品すべてが自動車製造工場で生産される訳ではなく，外注加工に出すもの

自動車の種類

分類形式		自動車の種類
用途・形状による分類	乗用車	セダン・リムジン・クーペ・ステーションワゴン・コンバーチブル・ロードスター・オープンカー・スポーツカー・レーシングカー・オートバイ・スクーター
	トラック	ボンネットトラック・キャブオーバトラック・ライトバン・ピックアップ
	バス	ボンネットバス・キャブオーババス・マイクロバス
	トラクター・トレーラー	フルトレーラー・セミトレーラー・ハウストレーラー
	特別用途車	宣伝車・救急車・緊急自動車・郵便車
	特別装備車	ダンプ自動車・ミキサー自動車・消防自動車・レッカー自動車
	特殊車	フォークリフトトラック・ショベルローダ・ロードローラー・ブルドーザー・自走クレーン・雪上車
	軍用車	水陸両用自動車・装甲車・ジープ
構造による分類	車輪数	二輪自動車・三輪自動車・四輪自動車・多輪自動車
	エンジン位置	フロントエンジン自動車・リヤエンジン自動車・アンダーフロアエンジン自動車
	駆動方式	前輪駆動車・後輪駆動車・総輪(全輪)駆動車
	フレーム方式	フレーム構造自動車・フレームレス自動車
エンジンにによる分類		ガソリン自動車・ディーゼル自動車・ロータリーエンジン自動車・液化石油ガス自動車・ガスタービン自動車・ジェット自動車・蒸気自動車・電気自動車
法令による分類	道路運送車両法	普通自動車・小型自動車・軽自動車・大型特殊自動車・小型特殊自動車
	道路交通法	大型自動車・普通自動車・大型特殊自動車・自動二輪車・小型特殊自動車



乗用車の形による種類



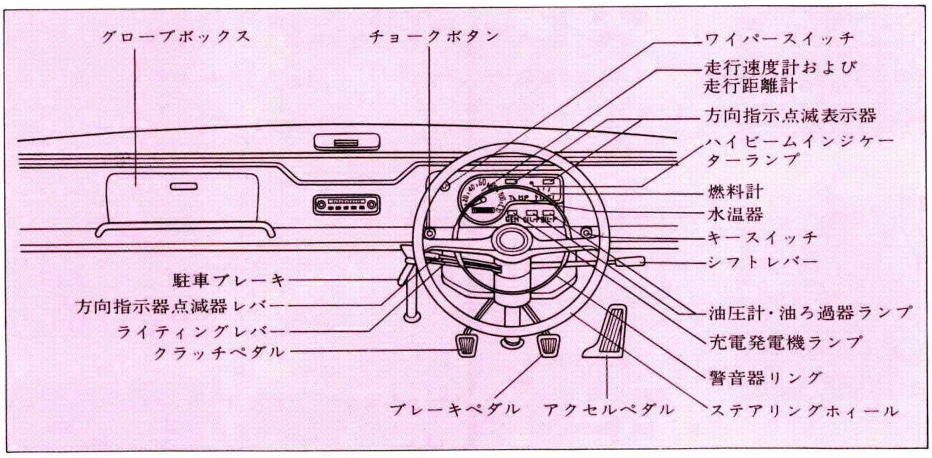
自動車の構成材料

やタイヤ・バッテリー・ヘッドランプなど専門の製造会社から完成品として購入するものもかなりある。また，自動車に使われる原料・資材は別掲図のように非常に多種多様であって，自動車工業が一大総合工業といわれるゆえんである。このため自動車工業は，関連産業の発達した国でなければ成立せず，その規模がその国の経済水準を表わすバロメーターとさえいわれている。

〔成田武男〕

【自動車工業】 自動車工業は，自動車１台の生産に１万数千点にわたる多数の精密な部品を使用する総合組み立て工業であり，広範囲な関連産業の発達と，高い技術水準を必要とする。たとえば，鉄鋼・アルミニウム・ゴム・ガラス・プラスチック・繊維・塗料から，内燃機関・電気機械，そしてプレス機械や組み立て用機械などの高品質，経済性を備えたものに至るまですべてが恒常的・安定的に供給されなくてはならない。また，自動車工業が発展するためには，家庭電化や自動車などの耐久消費財に対する需要が拡大するまでに国民の所得水準が向上していて，モータリゼーションが進行していなければならない。したがって，自動車工業は，高度に発展した経済を象徴する産業ということができる。現在，世界各国の中でも，自動車工業が国民経済の中で大きな比重を占める国は，アメリカ・日本・西ドイツ・フランス・イギリス・イタリア・スウェーデンを数えるだけである。

わが国において自動車が企業生産されたのは，1914年(大正３)の快進社をもってはじめとする。その後，日本フォード・日本ゼネラル-モーターズのアメリカ系２社とトヨタ自動車・日産自動車の進出をみたが，1938年(昭和13)，戦時体制の下にアメリカ系２社の生産は停止され，1941年に軍用トラックを中心に44,000台の最高生産量をあげたにすぎなかった。だが，第２次世界大戦後，1949年に占領軍によって全面生産再開を許可されて以来，日本の自動車産業は着々と発展し，特に1960年代の高度経済成長過程には急速な伸びを示し，1963年には100万台，1966年には200万台，1967年には300万台,1969年には400万台に達し，1970年には500万台を越え，そのうち乗用車は317万8,700台を数えるに至っている。これに伴って，1964年ごろから自動車の輸出が急速に増大し，1969年の乗用車輸出は56万台，商業車輸出は30万台を越えるようになった。このような自動車工業の発展は，わが国の所得水準の向上に加えて，価格低下と品質向上による内外市場の拡大，さらに道路条件の改善などのほか，政府による自動車工業の保護育成政策にあずかるところが大であった。特に，保護関税・輸入制限・補助金によって，わが国の自動車工業は国際競争から隔離され，自動車需要の増大が国内企業の量産規模の拡大，価格低下と結びつけられたことは特筆すべきことであろう。国際競争から隔離された国内市場



操縦装置の各部名称

では，トヨタ自動車・日産自動車の上位2社をはじめ，いすゞ自動車・プリンス自動車・日野自動車・三菱(みつびし)重工業・富士重工業さらに二輪ないし三輪メーカーから軽四輪ないし四輪市場に参入した東洋工業・ダイハツ・本田技研が入り乱れて激烈な競争をくり広げていた。しかし，1965年の乗用車輸入の自由化を経て，1966年の日産自動車・プリンス自動車の合併を皮切りに，トヨタ自動車・日野自動車，トヨタ自動車・ダイハツの提携，最近は，三菱重工業・クライスラーの提携，日産自動車・いすゞ自動車，東洋工業・フォード，いすゞ自動車・ゼネラル-モーターズ(GM)の提携というように，きたるべき資本自由化に備え，業界の再編成が進行しつつある。こうして，市場は寡占的様相をいっそう濃くしつつあり，1970年の自動車生産は，トヨタ・日産の大手2グループと，そのほか4社によって完全に市場が分割されている状況である。

わが国の自動車工業にとって今後問題になるのは，第1に資本自由化，第2に国内需要の停滞，第3に公害ならびに安全対策の要請であろう。資本自由化が進展をみないのは，それによってアメリカのビッグ-スリー(GM・フォード・クライスラー)の日本進出が予想されるからである。だが，わが国の乗用車の対米輸出は1969年には22万6,000台に達し，量産規模でも(適正生産規模を1車種年産20万台とみれば)，性能・価格面でもアメリカに比べてそれほど遜色(そんしょく)ない水準に達している車種が少なくないとみてよい。それゆえ，適正生産規模以下の車種を多くかかえている企業と，販売力に劣る企業以外は資本自由化に耐え抜くことができるであろう。

むしろ自動車工業にとって大きな衝撃を与えるのは，乗用車の国内普及率の頭打ちである。乗用車需要は普及率が世帯あたり50%以上になるとその伸びが停滞することが各国の経験から明らかにされている。わが国においても，乗用車普及率は1972年ごろに50%を越えるものと予想されている。これに加えて，自動車公害と交通安全対策のために新しい技術の開発とその装着が強く要請されるようになりつつある。これは，技術面でもコスト面でも，わが国自動車工業に大きな負担を課すことになる。こうして，今後の自動車工業において内外資本間の競争はいっそう激化するとともに，従来のような高収益・高成長という産業環境には大きな変化が訪れるものと予想される。

〔原　豊〕

【種類】自動車には非常に多くの種類がある(450ページ表参照)。

【運転】自動車を運転するには，一定の資格を得なければならず，都道府県の公安委員会が行なう運転免許試験に合格した者に与えられる。受験のための運転練習は一定条件のもとに仮免許を受けて路上で運転することもできるが，自動車教習所*で運転を習うほうが安全で，しかも早道である。運

自動車の用語

〈寸法・重量に関する用語〉

全長　自動車の最前端から最後端までの長さで，付属物は含まれる。はしご車は，はしごを折りたたんだ状態。

全幅　自動車の最も幅広い寸法で三角窓は閉じた状態。後写鏡は除く。

全高　自動車の最も高い部分の地上からの寸法。アンテナは下げた状態。ふつう低い車のほうが重心が低く安定している。

軸距　ホイールベースともいう。前車輪の中心から後車輪の中心までの寸法。軸距を大きくとると室内スペースは広くなるが最小回転半径を小さくしにくい。

最低地上高　車体の最も低い部分と地面との寸法。一般に差動機(デファレンシャルギヤ)ケースの下面がそれに相当し，乗用車では180mm前後が多い。

車両重量　空車状態の重量。この状態に乗車定員と最大積載量を載せたものが車両総重量である。

乗車定員　その自動車に乗ってよい人数。定員1名の重量は55kgで計算する。1名分の座席は奥行・幅とも40cm以上必要であるが，12歳未満の子どもは3人をおとな2人とする。

最大積載量　バンやトラックに積んでよい荷物の重量。乗用車で登録されているワゴンは最大積載量の規定がなく，手荷物を載せる程度。

〈性能に関する用語〉

最高速度　平坦(へいたん)な舗装路，無風状態，車両総重量状態で出せる最高速度。日本では単位にkm/時を用いる。

燃料消費率　平坦舗装路を一定速度で走った場合の燃料消費率。燃料1lで走れる距離をkm/lの単位で表わす。

登坂能力　最大積載，定員乗車のときにローギヤ(第1速)で登れる最も急な坂の勾配。単位は$\sin\theta$で表わし，$\sin\theta=0.360$とあれば100m走って36m登る坂のこと。

最小回転半径　かじ取りハンドルをいっぱいに切って低速で旋回するとき最も外側の車輪が描く軌跡の半径。ふつう，前車輪の軌跡がそれに相当する。

〈エンジンに関する用語〉

総排気量　エンジンの1シリンダーの排気量にシリンダー数を乗じたもの。

圧縮比　圧縮行程前のシリンダー容積と圧縮終了時の容積の比。この値を高くすると高出力を期待できるが，あまり高くなると高オクタン価または高セタン価の燃料を必要とする。

最高出力　そのエンジンで出せる最も力の強い率。出力は仕事の率であるから回転力と回転数を合わせ考えたもので，わが国では単位にPS(仏馬力：1秒間に75kgの物体を1m持ち上げる仕事量)を用い，そのときの回転数を併記する。

最大トルク　最も強い回転力。トルクが大きいほど加速力もあり急坂路を登ることができる。単位にはkg-mを用いる。1kg-mは1本の軸から直角に1mの長さの棒をつけ，その棒の先端に1kg重の力を加えたとき軸に発生する回転力である。

〈変速機に関する用語〉

変速比　変速機の入力軸と出力軸の回転数の比。走行状態に応じて選択できるが，普通は前進の場合乗用車で3〜4段，バス・トラックで4〜5段である。最終段の変速比はふつう1.00であるが，エンジン負担を軽くするために0.8程度に設計したものもある。

減速比　変向機・減速機・動力取り出し装置などにおいて，入力軸と出力軸の回転数の比。普通は減速機の場合をさす。

転のまえには，走行時の故障や故障による事故を防止するために，かじ取りハンドル・ブレーキ・タイヤ・シャシ・ばね・原動機・燈火・警音器・方向指示器・後写鏡・計器などに異常がないかどうかを点検するとともに，燃料・潤滑油・冷却水・バッテリー液の量を確認する。タイヤの空気圧は高速道路を走る場合には標準より20～30％程度高くする。運転に必要な装置は，運転席の前面にかじ取りハンドルを中心として配置されている。そのおもなものは次のとおりである。①点火スイッチ：蓄電池から点火系統・計器類へ電流を流すスイッチで，普通は始動スイッチと一体になっている。②スロットルボタン：気化器のスロットルバルブに連結され，エンジンの回転数を適当に固定する。③チョークボタン：気化器のチョークバルブに連結されており，これを引くと混合ガスが濃くなり，冬季のエンジン始動を容易にする。④アクセルペダル：気化器のスロットルバルブに連結され，エンジン回転数を変える。⑤クラッチペダル。⑥ブレーキペダル。⑦駐車ブレーキレバー。⑧シフトレバー：変速機のギヤのかみ合わせを変えるレバー。⑨方向指示器スイッチ。⑩速度計。⑪走行距離計。⑫水温計：エンジン冷却水の温度を示す。⑬燃料計。⑭電流計または充電警告燈：蓄電池への充電状態を示す。⑮油圧計または油圧警告燈：エンジンオイルの送油圧力を示す。

〈始動〉 駐車ブレーキが掛けてあるか，シフトレバーがニュートラル(中立)位置にあるかを確認し，点火スイッチを入れ，アクセルペダルを軽く踏んで始動スイッチを入れる。エンジンが掛かったら，油圧・充電状態に異常がないかどうかを確かめ，しばらく暖機運転をする。冬季にはエンジンが冷えていると始動しにくいので，チョークボタンを引いてから始動スイッチを入れる。

〈発進〉 クラッチペダルを踏んでローギア(第1速)に入れる。発進の合い図をし，後方の交通状態を確認して駐車ブレーキをはずす。続いてアクセルペダルを軽く踏み，クラッチペダルを徐々にゆるめ，クラッチがつながったらアクセルペダルを踏み込むと発進する。

〈加速〉 自動車が走り出して速度が10km/時程度になったなら，クラッチをすばやく切り，アクセルペダルをもどしてシフトレバーをセカンドギア(第2速)へ入れる。クラッチをつなぎながらアクセルペダルを踏み込み，これをくり返して順次高速ギアへ移す。自動変速機ではこの繁雑な操作は不要で，アクセルペダルの操作一つで車速や走行抵抗に応じて自動的に変速される。

〈減速〉 急な上り坂や自動車の速度が落ちてエンジンの回転力が不足する場合はクラッチを切り，シフトレバーを1段低い位置へ入れ，エンジン回転をあげてクラッチをつなぐ。このときシンクロメッシュ機構(同期のかみ合い機構)のない変速機ではダブルクラッチ操作を必要とする。

〈停止〉 アクセルペダルをもどし，ブレーキペダルを踏んで徐々に速度を落とす。自動車が止まる少しまえにクラッチを切り，完全に停止したら駐車ブレーキを掛け，シフトレバーをニュートラル位置にもどしたうえでクラッチペダル・ブレーキペダルの順に足を離す。車から離れるときはエンジンの点火スイッチを切り，後方の交通に注意してドアを開ける。なお坂路での駐車には，点火スイッチを切ってから上り坂ではローギアへ，下り坂ではバックギアへ入れておき，万一駐車ブレーキが十分にきいていない場合の暴走を避ける。

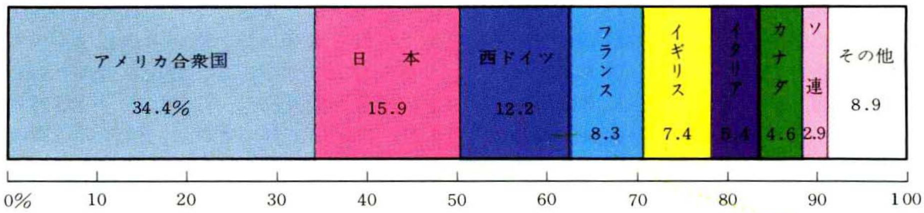


図-1　主要国の自動車生産高推移

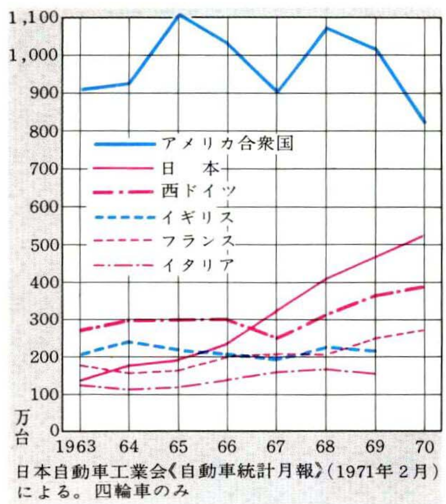


図-2　世界の自動車生産高(1969)　総生産高は2,948万台(中華人民共和国を含まない)

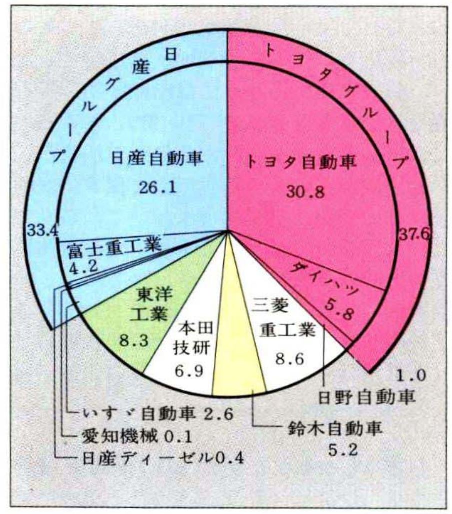


図-3　企業別生産シェア状況(％)(1970)(軽四輪を含む)

〔買い方〕 自動車を買うには使用目的・購入予算・維持費や駐車場の大きさ，家族構成あるいは経済車か高性能車かなどから，種類およびクラスを決める。次のことを念頭に入れ，スタイルの好みを加味して銘柄を決めるとよい。①よく売れる自動車はよい自動車である。②アフターサービスの行き届いたメーカーを選ぶ。③性能面ばかりでなく，扱いやすい自動車かどうか，また最高出力よりは最大トルクを比較する。④中古車として手離すときに有利な自動車，すなわち償却費の少ない自動車がよい。さらにカタログを調べたり自動車に詳しい人の意見を聞いたうえ，実際に運転して十分納得のいく自動車を選定し，信用ある販売

自動車主要メーカーの年間生産台数(1970)　　単位：千台

メーカー	国別	生産台数	メーカー	国別	生産台数
GM	アメリカ	3 594	イギリス-フォード	イギリス	589
フォード	〃	2 658	プジョー	フランス	577
フォルクスワーゲン	西ドイツ	1 938	カナダ-フォード	カナダ	566
フィアット	イタリア	1 644	シトロエン	フランス	563
トヨタ自動車工業	日本	1 609	三菱重工業	日本	457
クライスラー	アメリカ	1 452	東洋工業	〃	430
日産自動車	日本	1 374	ドイツ-フォード	西ドイツ	410
ルノー	フランス	1 196	フランス-クライスラー	フランス	403
ブリティッシュ-レイランド	イギリス	962	本田技研	日本	393
オペル	西ドイツ	821	ダイムラーベンツ	西ドイツ	387

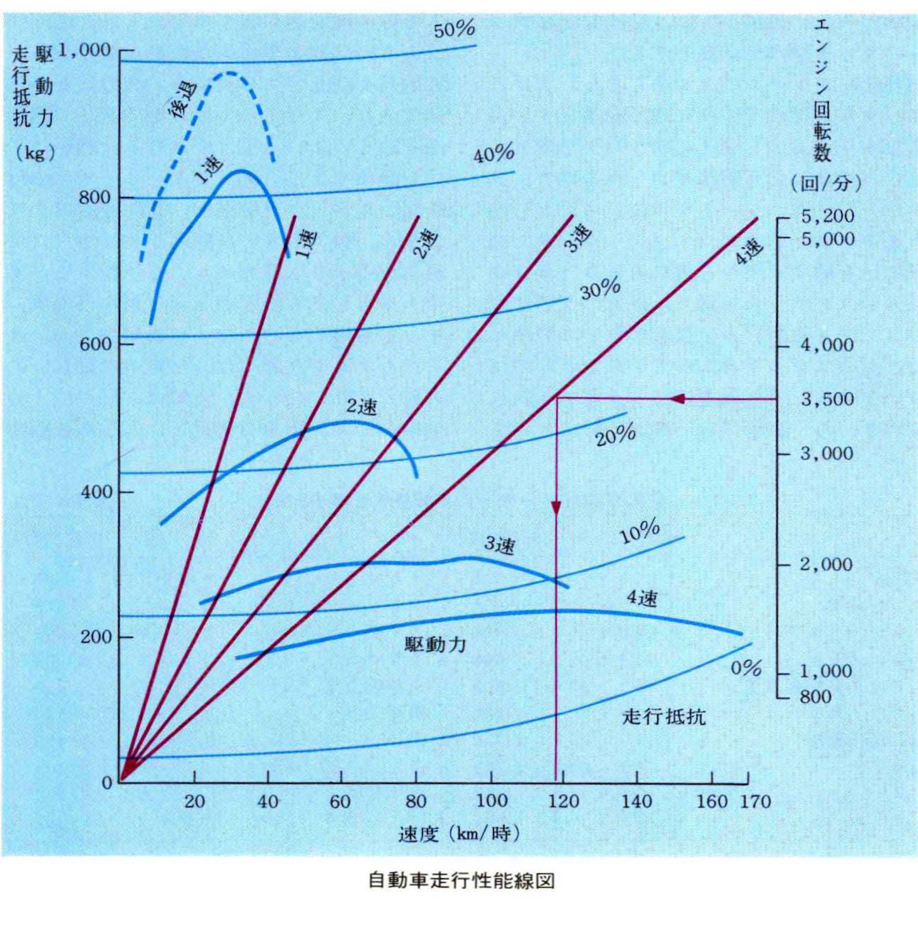
資料　日本自動車工業会

店から購入することである。近年は中古車も販売店で保証期間を設けて販売しているので，安心して購入できる。購入時には，自動車の購入費のほかに，自動車取得税*・自動車税*・自動車重量税*・自動車損害賠償保険料などの出費がある。

【登録】自動車はその安全の確保，所有権の登録，盗難の予防などの目的から運輸省で管轄する各地の陸運事務所へ登録を義務づけられ，また保安基準に適合していることを確認されたものでなければ運行できない。新規登録にあたっては印鑑証明，所有権を証明する書面(譲渡証明書)，保安基準に合格したことを証明する自動車検査証・自動車税申告書・自動車損害賠償責任保険証明書のほか，主要都市においては路上でない保管場所のあることを証明した警察署長の証明書を添付しなければならない。新規登録のほか，自動車検査証の有効期間満了後引き続きその自動車を使用する場合受ける継続検査，自動車登録原簿の記載内容に変更を生じた場合，たとえば住所の変更時に行なう変更登録，所有者の変更を行なう移転登録などがある。登録が受理されると登録番号標板(ナンバープレート)が与えられ，自動車に封印される。登録番号標は，陸運事務所またはその支所を示す所在地名，バス・トラック・乗用車などの種類を表わす数字および登録の順に与えられるひらがな文字と4けた以下の数字で構成される。自動車検査証の有効期間は，旅客運送事業(営業用車)や貨物の運送に用いる自動車，乗車定員11人以上の自家用車などは1年，乗車定員10人以下または車齢10年以下の自家用車は2年である。また，有効期限が一目でわかるように，検査標章をフロントガラスの内側に貼付(てんぷ)することになっている。

【整備】自動車は，長期間使用されるので，道路交通の安全を確保し，燃料や潤滑油の消費量軽減，性能の維持向上，寿命の延長などのために，各部の点検をはじめとして定期整備・分解整備を怠ってはならない。整備には，運転者が行なう仕業点検や予防整備・計画整備・分解整備などがある。仕業点検は，運転前に保安上重要な箇所を点検するもので，道路運送車両法の第47条に1日1回実施することが義務づけられており，その点検箇所はかじ取りハンドル・ブレーキ・タイヤ・シャシばね・原動機・燈火装置・警音器・窓ふき器・後写鏡・各種計器，および前日の運行において異常が認められた箇所となっている。予防整備は，故障発生前あるいは著しい性能の低下前に行なうもの，計画整備は一定の走行距離・期間をめやすとして点検調整を行なうものである。さらに，エンジンやシャシを分解して整備する大掛りなものが分解整備である。道路運送車両法に基づく自動車点検基準に点検時期・点検箇所の標準が定めてあるが，具体的な内容については各自動車メーカーからその自動車に合った整備基準を示している。〔成田武男〕

じどうしゃそうこうせいのうせんず【自動車走行性能線図】自動車の走行速度に対する駆動力(自動車を走らせる力)曲線・走行抵抗曲線および変速機の各段におけるエンジン回転数を一つの線図にまとめたもの。駆動力はエンジンの回転力が変速機と最終減速装置(ファイナルギア)で倍力されたものである。走行抵抗には，タイヤのころがりと各部の摩擦で生ずるころがり抵抗，道路の勾配(こうばい)による勾配抵抗，走行速度と前面投影面積に比例する空気抵抗とがあり，自動車が走るにはこの抵抗より大きな駆動力を必要とする。単位は抵抗・駆動力ともキログラムで表わす。抵抗曲線のパーセントは道路の勾配を$\sin\theta$で表わしたもので，各変速段で登ることのできる勾配が読み取れる。自動車走行性能線図は，自動車の走行性能を詳しく知ることができ，自動車の性格を知る上に非常に便利である。〔成田武男〕



自動車走行性能線図

じどうしゃそんがいばいしょうせきにんほけん【自動車損害賠償責任保険】自動車の運行中に生じた人身事故による被害者を救済するために，自動車保有者の賠償能力を保証することを目的とする保険。わが国では1955年(昭和30)施行の自動車損害賠償保障法により実施せられた加入強制の保険であり，保険会社にこの保険引き受けの義務を課したもので，社会保障的性格を有するとされ，営利性が排除されている。第2次世界大戦後，わが国では，自動車の急速な発展とともに自動車事故が急激に増加し，各種の事故防止手段にもかかわらず，人間の注意力の限界を越えて事故が不可避的に発生するようになり，自動車事故犠牲者の救済が社会的大問題となった。自動車損害賠償責任保険は，この被害者に対する損害賠償を至急かつ適切に行なうために生まれたものである。この保険は，無過失責任の原則，すなわち自動車の保有者側に加害者としての責任がほとんどない場合でも，被害者に所定の保険金が支払われる。さらに，他人の自動車を無断で使用するいわゆる泥棒(どろぼう)運転によって被害を受けたり，ひき逃げをされたり，また，保険をつけていない自動車によって加害された場合でも，被害者に保険金は支払われる。19

69年11月，死亡および後遺障害の最高保険金額を300万円から500万円に引き上げるために，保険料率を全車種平均で1.99倍に引き上げた。〔庭田範秋〕

じどうしゃそんがいばいしょうほしょうせいど【自動車損害賠償保障制度】 自動車を運行する者が，その運行によって他人の生命または身体を害したときは，これによって生じた損害を賠償しなければならないとし，その賠償を保障する制度。1955年(昭和30)から自動車損害賠償保障法(略称自賠法)が施行されており，その責任については，自己および運転者が自動車の運行に関し注意を怠らなかったこと，被害者または運転者以外の第三者に故意または過失のあったこと，ならびに自動車の構造上の欠陥または機能の障害がなかったことを証明したときに限り賠償責任を免れられるという，ほとんど無過失責任*に近い責任を果たしている(自賠法3条)。また，自動車は自動車損害賠償責任保険*の契約が締結されているものでなければ運行してはならないとしているが，ある一定基準により運輸大臣から許可を受けた自家保障者は，責任保険を締結しなくても自動車を運行させることができる。事故による損害は保険会社との強制的な契約による法定保険金額で賠償を受けられる(自賠法5・55・15～17条)。保有者の知れない自動車や責任保険の被保険者でない者(国・日本専売公社・日本国有鉄道など)の自動車によって被害を受けた者については，政府の自動車損害賠償保障事業によって賠償を受けられるものとしている(自賠法71・72条)。〔黒木三郎〕

じどうしゃどうろ【自動車道路】 自動車の専用交通を目的としてつくった道路の総称。わが国の法規上の分類では，高速自動車国道・自動車専用道路・一般自動車道・専用自動車道，の4種類がある。①高速自動車国道：東名高速自動車国道・名神高速自動車国道などで，全国的な自動車交通網の枢要部分を形成するもの。特に高速走行が要求されるため，最も高級な道路構造をもつ。②自動車専用道路：大都市その他交通の輻輳(ふくそう)する地域の，自動車交通の高速化と円滑化を図るためにつくった自動車専用の一般国道あるいは都道府県道である。これに属するものに首都高速道路・阪神(はんしん)高速道路・第3京浜高速道路などがある。③一般自動車道：事業者が政府の認可を受けてつくった一般の自動車の通行に供用する道路。主として観光地の有料道路で，道路公団が管理していないものがこれに属する。④専用自動車道：自動車運送事業者が，政府の認可を受けて，その運送事業専用の自動車の通行に供用する道路で，一般の自動車の通行はできない。観光地などにわずかにある。〔森　麟〕

じどうしゃほけん【自動車保険】 自動車の所有・使用・管理に関連して生ずる損害を塡補(てんぽ)するものとして自動車につけられる保険。これは，自動車の衝突・墜落・転覆・火災・盗難などの偶然な事故によって生じた損害に対し保険金を支払うものと，自動車運転中の事故により，車外の他人の財産や家畜に損害を与えた場合の賠償金を塡補するものと，さらに同様に車外の他人の死傷による損害に対する賠償金の塡補のものとがある。なお，乗務員や搭乗者(とうじょうしゃ)の傷害に際して保険金を支払うものもありうる。広義では，自動車保険は自動車損害賠償責任保険*を含むが，狭義では加入の任意であるものをさす。〔庭田範秋〕

しどうしゅじ【指導主事】 第2次世界大戦後，教育委員会*の制度創設に伴い，従来の視学(→視学制度)に代わって，都道府県および市町村の教育委員会事務局に設置された教育専門職員。視学と異なり，学校に対する命令・監督権をもたず，もっぱら学校における教育課程，学習指導そのほか，教育に関する専門的事項を指導・助言するのが職務である。教育委員会は，大学以外の公立学校教員のうちから，教育についての識見を有し，かつ教育の専門的事項に教養と経験のある者を，一定の選考ないし推薦によって指導主事に任命する。身分取り扱いは，特別の定めのある場合を除いて，地方公務員法*が適用される。〔佐藤英一郎〕

しどうしょうぐん【四道将軍】 崇神(すじん)天皇時代，東海・北陸・山陰・山陽の4方面に派遣されたという伝承上の4人の将軍。《日本書紀》によれば，孝元天皇の皇子大彦命(おおひこのみこと)を北陸に，その子武渟川別命(たけぬなかかわけのみこと)を東海に，孝霊天皇の皇子吉備津彦命(きびつひこのみこと)を山陽道に，開化天皇の皇孫丹波道主命(たにわのみちぬしのみこと)を山陰道に派遣し，命令に従わない者は武力をもって討伐することとした。《古事記》では将軍の名も多少異なり，四道のうち山陽道を欠き，派遣の時期も異なる。大和(やまと)朝廷*発展期の四方征討の歴史から構想された説話で，史実ではないと思われる。〔黛　弘道〕

じどうしょうじゅう【自動小銃】 歩兵科小銃班の主力火器として用いられる発射速度迅速な小銃。空冷式の反動利用式連発機構をもち，給弾方式は20発入りの弾倉によるのが普通。発射速度は毎分350～550発，銃の先端には折りたたみ式の脚がつけられる。全自動と半自動のものがある。→小銃

じどうしょうにんせい【自動承認制】 automatic approval system略称AA制。輸入貿易が政府の管理下にある現行の外国為替(かわせ)管理法のもとで，輸入を欲する者が，外国為替銀行*を通じて申請すると即日自動的に承認が得られる貿易制度をいう。貿易自由化が進むにつれて，輸入制限を受ける少種の特殊品目を除き，自由化のわく内におかれている自動承認品目(AA品目)は，銀行を通じて申請すると，その内容が形式的条件を満たしているかぎり，自動的に輸入の承認が受けられる。1963年(昭和38)までは，この承認は外貨予算の範囲内でなされる外貨割り当て制をとり，申請を受けた銀行は，そのつど日本銀行に外貨の残額の有無を確かめる必要があった。しかし1964年4月からは外貨予算制度の廃止によってその必要がなくなり，1971年10月現在では輸入の自由化は95%まで進んでおり，これに自動輸入割り当て制*の品目を加えると，大半の外国物資は自由に輸入できる。〔上坂酉三〕

じどうしょっき【自動織機】 広義には人力を用いない力織機*をさすが，特に自動的によこ糸を供給し，あるいはよこ糸が切断すると機械が停止する装置をもった織機をいう。作業能力が大で所要人員が少なくてすむため，近来の大工場はこれを採用している。豊田(とよだ)佐吉*らの自動織機の研究発明は世界的に有名。

じどうしんりがく【児童心理学】 児童について研究する心理学の一分野。児童をはじめて科学的に研究したのはコメニウス*といわれる。彼は，子どもは小形のおとなではないという考えから，子どもの独自性を主張し，能力に応じた教育の必要をはじめて説いた。その後，ルソー*・ペスタロッチ*らが児童研究の先駆的役割を果たした。現代の児童心理学は，ドイツのプライヤー・シュテルン*，アメリカのホールらの研究により体系づけられ発展した。児童心理学の目標は大きく分けて二つある。一つは，子どものあらゆる年齢段階での心理学的な特徴を精密に記述すること，他は，子どもの行動の年齢的な発達についての説明を与えることである。方法は，初期のころには主として自然的観察の方法にたよっていたが，現在は実験的観察，すなわち，質問紙法・検査法・面接法・統制的観察法・社会測定法などの方法が取り入れられ，また，教育心理学・臨床心理学・精神分析学などの隣接分野との関連がいっそう深まってきている。〔斎藤幸一郎〕

じどうせいぎょ【自動制御】 人手に代わって機械が自動的に操作を行なうことを一般に自動制御という。バイメタル*を用いた電気ごたつ*は，最も簡単な例である。

一般の自動制御では，制御しようとするものの量を測定すること，測定結果を制御装置にもどすこと，すなわち，フィードバックすること，および目標値と比較をして対称を制御することなどの過程をふむ。自動制御は，このようにフィードバックを伴うフィードバック制御と，エレベーターのように定まった手順に従って仕事を行なうシーケンス制御とがある。また，フィードバック制御は，さらに電気ごたつのように，一定の状態を保つべく制御をする定値制御と人工衛星の追尾のように目標がたえず変化する追値制御とに分けられる。追値制御にはサーボ機構*が利用される。ほかに，

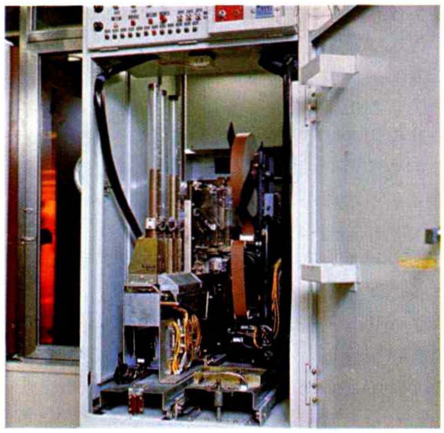
とられる制御方式によって，プログラム制御・計算機制御などがある。プログラム制御は，工作機械の制御や熱処理用の炉の温度制御のように，目標値の時間的変化があらかじめ決められている場合の制御である。また，計算機制御はコンピューターを自動制御に取り入れるものであり，制御系とともに計算機を働かせるオンライン制御系とそうでないオフライン制御系とがある。〔内山明彦〕

じどうそうだんしょ【児童相談所】 児童の教育や育成についての相談に応ずる機関を総称するが，大別して2種類ある。一つは，大学付置・教育研究所付置，あるいは私立の児童相談所で，他は児童福祉法に基づき都道府県・指定都市が義務的に設置している相談所である。都道府県が設置している相談所は，児童について必要な調査，判定および指導をすること，家庭や学校などからの児童についての相談に応ずること，さらに一時保護のための施設を設けて行なう第三部制がある。所長には知事または市長から法的措置のための諸権限が委任されている。したがって，警察署・学校・児童福祉司・社会福祉関係・民生委員・児童委員・家庭裁判所・少年教護員らと密接に関係をもって活動している。これに対し，研究機関や私立の相談所には法的な拘束性がないが，数が少なく，ときに費用がかさむなどの難点がある。〔小菅茂雄〕

じどうたんじゅう【自動短銃】 近接戦闘用の携帯自動火器の一。短機関銃ともいう。拳銃弾(けんじゅうだん)または機関銃弾を着脱式弾倉により使用し，空冷ガス利用式の連発機構をもつ。全長は肩あてとも70～75cm，重量4kg，発射速度は毎分450発が普通。

しどうでんどうき【始動電動機】 自動車のエンジンを始動させるために設けられ，バッテリーの直流電源で回転する電動機。小形で強力なものが要求されるため，今日ではほとんど直巻き電動機が使用される。直巻き式は回転速度の低いときに強回転力を出し，回転の上昇とともに小回転力となる特性をもっているので，バッテリーのような限られた電源を有効に利用できる性質がある。始動電動機では始動時のみエンジンにかみあい，それ以外は離れていなくてはならないので，この動力の断続を自動的に行なう機構が組み込まれている。〔成田武男〕

じとうてんのう【持統天皇】（645～702）幼名は鸕野讃良(うののさらら)皇女。天智(てんぢ)天皇*の第2皇女で，657年(斉明3)大海人(おおあま)皇子の妃となった。天智天皇の死後壬申(じんしん)の乱*では終始皇子に従って軍中にあった。皇子が即位して天武天皇*となるに及んで，その皇后となり，690年即位した。697年文武天皇*に譲位し，最初の太上天皇*となった。陵墓は奈良県高市郡の檜隈(ひのくま)大内陵。





自動販売機　自動券売機の内部(上)と群管理方式による自動券売機の一群

しどうどうき【示導動機】 ライトモチーフ・主導動機ともいわれる。オペラ・楽劇・標題音楽などで，登場人物やドラマの状況に対応をもたされた一定の音楽的な動機。劇の進行によって変形されながら，劇と音楽の関係を有機的にする。ワーグナー*の作品で多用されたが，彼以前のオペラにも例があり，また彼以後にも影響を与えた。

じどうとしょかん【児童図書館】 おもに15歳以下の児童・青少年を対象に設けられた図書館をいう。わが国では1887年(明治20)3月，東京市神田区一ツ橋にあった大日本教育会が書籍館内に小学生部を設けたのがはじまりである。現在全国の公共図書館に児童室として併設されているものが約320，独立した児童図書館が約10館あり，後者の代表として広島市立児童図書館がある。これら児童図書館にはふつう児童係司書が配置され，資料の閲覧・貸し出し・読書相談などのほか，お話会・映画会・子ども会などの集会活動を通して，児童・青少年への奉仕を行なっている。最近，団地をはじめ民間の有志の人々が自宅の一隅(いちぐう)を開放して設けた家庭文庫が全国に約160あるが，これらも広義には児童図書館に含めることができる。〔北島武彦〕

じどうにりんしゃ【自動二輪車】 ⇨オートバイ

じどうはんばいき【自動販売機】 硬貨を投入することによって商品を自動的に販売する機械。硬貨操作式機械ともいう。世界で実用化した最初のものは，1820年イギリスに出現したたばこ自動販売機である。その後アメリカで大いに発達し，第2次世界大戦後，電子工学の進歩と呼応して著しく性能が向上し，大量普及が実現した。わが国では大正末期にはじめて使用されたが，本格的な発展をみたのは1959年(昭和34)以降である。食品自動販売機・飲料(水)自動販売機・たばこ自動販売機・切符自動販売機・切手(はがき)自動販売機・日用品(雑貨)自動販売機などのほか，両替機・自動写真撮影機などがあり，いずれも販売面における人手不足を補い，人件費の節約，休日・夜間を問わず24時間無人営業ができるなど大きな特長を有する。

構造的には，硬貨を受け入れて計数する会計機構，商品を格納する部分，商品を送り出す機構およびこれらを円滑に機能発揮させる制御装置からなり，商品・用途に応じて冷却・加熱・恒温・攪拌(かくはん)・殺菌衛生・印刷・容器送り出し・硬貨返却・警報・金額表示などの装置が付加されている。最近は，急速な応用分野の拡大に伴い，硬貨の代わりにクレジットカードを使った自動販売機のシステムが日本で開発され，諸国に技術輸出されている。〔船越　泉〕

じどうふくし【児童福祉】 広義には，児童が心身ともに健全な状態で出生し，保健・教育・レクリエーション・安全について健全に成長することが保障されるいっさいの活動をいう。狭義には，特殊な障害のある児童に対して専門家によって行なわれる組織的な活動をさす。児童福祉ということばは第2次世界大戦後用いられるようになったもので，はじめは人道主義的な啓蒙(けいもう)思想から貧困・犯罪・疾病(しっぺい)・不具廃疾などの異常児(特殊児童)へのあわれみと同情に基づいて児童を保護することに用いられていた。ところが普通一般児童の健康増進，乳児死亡率の低減，環境改善などの防犯的・社会改良的な保護の必要が生じ，やがて児童の基本的人権の尊重を基調とする生存と文化生活の権利主体とみなされるようになった。さらに児童福祉法の制定・実施に伴って，児童福祉のことばが一般化するようになった。児童福祉を確保するため，世界各国はそれぞれ法律的措置を講じており，1906年のイギリスの児童法，1935年のアメリカの連邦社会保障法，1940年のホワイトハウス会議第4回会議で採択された〈アメリカにおける児童の保健，教育および社会福祉の基準〉などがある。

わが国においては1933年(昭和8)の〈少年教護法・児童虐待防止法〉の制定によって14歳未満の被虐待児の保護が考えられ，また1937年には貧困母子の救済を目的とした母子保護法が制定された。そして，児童福祉面の部分的法規が総合立法化したの

が，児童福祉法である。この法律は1947年公布，翌年施行され，その後10数回の改正を経て今日に至っている。この法律は5章72条からなり，第1章第1条〈児童福祉の理念〉に〈すべて国民は，児童が心身ともにすこやかに生まれ，かつ，育成されるよう努めなければならない〉〈すべて児童は，等しくその生活を保障され，愛護されなければならない〉とあり，第2条〈児童育成の責任〉に〈国および地方公共団体は，児童の保護者とともに，児童を心身ともにすこやかに育成する責任を負う〉と規定している。そして，児童福祉審議会・児童相談所・児童福祉司その他児童福祉のための機関の設置・権限・職務を明記している。さらに第2章〈福祉の措置および保障〉では，保健所・福祉事務所・児童相談所について，母子保健指導・要保護児童の措置を明記し，第3章〈児童福祉施設〉では施設の種類，内容とその運営を規定し，第4章〈費用〉，第5章〈雑則〉では課税除外・罰則などを明記している。児童福祉施設については，助産施設・乳児院・母子寮・保育所・児童厚生施設・養護施設・精神薄弱児施設・精神薄弱児通園施設・盲ろうあ児施設・虚弱児施設・肢体(したい)不自由児施設・重症心身障害児施設・情緒障害児短期治療施設・教護院の14種がある。

ところで児童の呼称と年齢について児童福祉法は18歳未満を児童とよび，これを乳児(満1歳未満)，幼児(満1歳より小学校始期まで)，少年(小学校始期より満18歳未満)の3期に区分しているが，労働基準法では15歳未満，学校教育法では12歳未満を児童とし，現行法令では児童の年齢は一定していない。なお，厚生省では，児童福祉法施行15周年を記念して1963年に〈児童福祉白書〉を発行し，今日の児童は危機的段階にあるという表明をしている点や，エレン・ケイのいった〈20世紀は児童の世紀だ〉という理念をふまえると，社会の変動過程からも対策面のいっそうの強化が要請されてくるといえよう。〔椿　輝男〕

じどうふくししせつ【児童福祉施設】児童福祉法にもとづいて国・地方公共団体その他の者が設置する要保護児童のための施設で，次のものがある。助産施設・乳児院・母子寮・保育所・児童厚生施設・養護施設・精神薄弱児施設・精神薄弱児通園施設・盲ろうあ児施設・虚弱児施設・肢体不自由児施設・重症心身障害児施設・情緒障害児短期治療施設および教護院。

じどうふようてあてほう【児童扶養手当法】国が父と生計を同じくしていない児童について，児童扶養手当を支給することによって児童の福祉の増進を図ることを目的とする法律。1961年(昭和36)公布，翌年施行。当該児童の母または養育者に支給されるが，一定所得以下の者に限定される。

じどうぶんがく【児童文学】児童対象の文学に対する一般的な呼称。ジュニア小説・少年少女小説・童話・幼年童話・少年詩・童話・口演童話・児童劇・伝承童話・絵本などのジャンルを総称するもの。児童文学という呼び名は，明治30年代の雑誌《児童研究》や《児童世界》に始まり，大正時代になって一般化した。

《日本の児童文学》日本の児童文学の源流は，遠く伝承文学の世界に求められるが，明治時代以前の読み物は，いわゆる婦女子をひとからげにした未分化な児童観の上に成立しているので，通常近代的な児童観に立脚した児童文学の歴史は明治の20年代に始まるとされる。

三輪弘忠の《少年之玉》(1890)，巌谷小波(いわやさざなみ)の《こがね丸》(1891)が，日本の創作児童文学の出発点といわれ，それ以前の《通俗伊蘇普(イソップ)物語》やベエルヌの《九十七時二十分間月世界旅行》などの翻訳物は，その気運を促したものとされている。《こがね丸》は，当時の大出版社博文館のシリーズ物〈少年文学叢書(そうしょ)〉の第1巻で，続いて尾崎紅葉の《二人椋助(ふたりむくすけ)》，山田美妙の《雨の日ぐらし》が出版された。出発は戯作(げさく)的な《こがね丸》に始まったが，その後小波はおとぎばなし作家として明治期の幼少年を熱烈な読者とする大きな存在となり，《日本昔噺(むかしばなし)》(24巻)《世界お伽噺(とぎばなし)》(100巻)などを著わしたほかに，全国的に童話口演を行なった。一言でいえば，小波のおとぎばなしは児童の心情を娯楽によって解放しようというもので，児童文学の本質のある側面を具体化したものであった。おとぎばなしが，その対象を小学低学年生においたのに対し，年齢の高い児童たちは当時のナショナリズムの風潮を反映した押川春浪の科学冒険小説のとりこになるのである。《海底軍艦》《武侠(ぶきょう)の日本》などは明治30年代の少年たちにはなばなしく迎えられた。また，外国児童文学の翻訳では明治期の傑作と評された若松賤子(しづこ)の《小公子》，森田思軒の《十五少年》が雑誌に連載された。

博文館を舞台に雑誌《少年世界》《幼年雑誌》に掲載されたおとぎばなしは，明治30年代末ごろになると，しだいに芸術性の希薄を問われるようになり，その一番手が小川未明・竹久夢二(ゆめじ)らの編集する児童文芸雑誌《少年文庫》であった。未明は，この雑誌を皮切りに童話集《赤い船》(1910)によって，おとぎばなしからの脱皮を主張していくのである。もちろん，小波自身も，おとぎばなしの変質を強いられるようになる。

大正期にはいると，おりからの教育思潮を反映して童心主義が叫ばれ，鈴木三重吉の主宰する《赤い鳥》の登場によって，多くの文壇作家が動員され，童話・童謡の黄金時代がやってくるのである。有島武郎(たけお)の《一房(ひとふさ)の葡萄(ぶどう)》，佐藤春夫の《実さんの胡弓(こきゅう)》，芥川龍之介(あくたがわりゅうのすけ)の《蜘蛛(くも)の糸》，豊島(とよしま)与志雄の《てんぐ笑い》，西条八十(やそ)の《お山の大将》，野口雨情の《十五夜お月様》などの秀作はこの時期に《赤い鳥》《金の星》《童話》などの雑誌に発表された作品である。また，専門の児童文学作家も《赤い蠟燭(ろうそく)と人魚》(小川未明)・《虎(とら)ちゃんの日記》(千葉省三(しょうぞう))・《兎(うさぎ)の電報》(北原白秋)などの童話・童謡を刊行した。作家の心の中に描いた観念的な児童像に向けて書かれたこれらの作品は，どちらかというと心情的傾向が濃く，リアリスティックな千葉省三・有島武郎などの作風には新鮮みがあった。また，同じころ，雑誌《良友》を舞台に幼年童話のジャンルを開拓した浜田広介もいた。しかしこれらの作品はしだいに現実の児童たちの生活から遊離し，それに代わって児童たちの現実をとらえるリアルな作品が大正時代末期から期待されるようになり，槙本楠郎(まきもとくすろう)を中心としたプロレタリア児童文学の運動が，これにこたえるかのように勃興(ぼっこう)したが，現実には階級闘争の理論がさきばしり，豊かな表現内容をもった児童文学の誕生をみないまま，結局昭和10年代の坪田譲治にまで持ち越されるのである。一方，この時期に東北農村でひっそりと《注文の多い料理店》《風の又三郎》などを著わし，孤高な文学世界を構築していた児童文学の巨星宮沢賢治がいた。

そして，プロレタリア児童文学運動が体制の弾圧と内部的弱さのために後退したあと，坪田譲治の善太三平物を中軸にすえた塚原(つかはら)健二郎・岡本良夫・川崎大治・下畑(しもはた)卓などのすぐれたリアリズム童話が花開くのである。第2次世界大戦中の児童文学は，児童文学作家へのきびしい制約のために，いつのまにか文学報国の中に埋没してしまった。

戦後，日本児童文学者協会の設立や《赤とんぼ》《銀河》などの芸術性の高い児童文芸雑誌の再興の中で，児童文学創作も熱をおびてきた。《ノンちゃん雲に乗る》(石井桃子)・《ビルマの竪琴(たてごと)》(竹山道夫)・《太陽よりも月よりも》(平塚武二(たけじ))・《二十四の瞳(ひとみ)》(壺井(つぼい)栄)・《五十一番目のザボン》(与田準一)・《三太武勇伝》(青木茂)などの傑作が次々に創造されたのであった。

しだいに短編童話から豊かなストーリーをもつ長編形式へとスタイルを変えながら，同時に1953年(昭和28)テレビ放映のはじまりと児童マンガの台頭の中で，児童文学作品も推移していくのである。

昭和30年代になると，《コタンの口笛》(石森延男)・《風の中の瞳》(新田(にった)次郎)・《だれも知らない小さな国》(佐藤暁(さとる))《木かげの家の小人たち》(いぬい・とみこ)・《赤毛のポチ》(山中恒(ひさし))・《秋の目玉》(福田清人(きよと))などの少年少女小説，《な

がいながいペンギンの話》(いぬい・とみこ)《王様のたまごやき》(寺村輝夫(てるお))・《ベロだしちょんま》(斎藤隆介)などの幼年童話と，児童へのアピールを第1とした児童文学が続く。

一方，西欧の名作絵本の輸入に刺激されて，幼児の発達段階をふまえた絵本が創作され(→絵本)，従来の絵本の定型を破る飛躍を遂げたのである。そして，児童文学に対する社会的関心の高まりの中で，児童文学作家・研究者の研究が深まり，児童への伝達の問題にもようやく脚光があてられようとしている。

〈世界の児童文学〉 17世紀までの世界の児童文学は，固有のジャンルとしての成立はみられず，イソップの寓話集(ぐうわしゅう)，ギリシア神話，イギリスの昔話といったたぐいのものが子どもの心をとらえていた。こうした寓話・民話・神話・伝説などの伝承文学に児童文学としての息吹(いぶ)きを与えたのが，ペローであり，グリム兄弟であった。17世紀末から始まったこの伝承文学の児童文学としての再生の試みは，児童文学のオリジナルな作品の創造活動をも刺激し，18世紀のデフォーの《ロビンソン-クルーソー》，スウィフトの《ガリバー旅行記》が書かれ，さらに1744年にはイギリスの出版人ニューベリーが古い童唄(わらべうた)を集録した《マザー-グースの唄》を世に送ることになるのである。

しかし，なんといっても，近代児童文学のはなやかなスタートは19世紀のアンデルセンの純麗な童話の出現に始まるといえよう。彼の《おやゆび姫》をはじめとする空想に満ちた数々のメルヘンは児童文学をはじめて自由で固有な世界に仕立てあげた。この傾向は，ラスキンの《黄金の川の王様》，キングスリーの《水の子》の出現，そしてキャロルのファンタスティックな作品《不思議の国のアリス》が書かれたことでみごとに定着した。

さらに19世紀にはデフォーやスウィフトの系譜を継ぐスティーブンソンの《宝島》の登場で，児童文学の冒険もののパターンも開拓される。コロッディの《ピノッキオ》もこの時期である。

その後，近代的な児童観の確立に伴い，児童文学独自の理論の研究がすすみ，シューエルの《黒馬物語》やウィーダの《フランダースの犬》などの動物児童文学のパターンも新たに生まれ，家庭読物としての児童文学がオルコットの《若草物語》やバーネットの《小公子》によって開拓された。マーク-トウェーンが《トム-ソーヤーの冒険》を，ベルヌが《海底二万里》などの空想科学小説を書いて，子どもばかりでなくおとなをも魅了したのもこの時期にあたる。

20世紀にはいると，空想物語にしても冒険物語にしても，新しい展開を見せはじめ，イギリスではバリの《ピーターパン》の目をみはらせる空想の世界を手はじめに，デ-ラーメアの詩，トーキンの《ホビットの冒険》，C.S.ルイスの壮大華麗な《ナルニア国ものがたり》，グレアムの《ヒキガエルの冒険》，キップリングの《ジャングル-ブック》，E.ネスビットの《砂の妖精(ようせい)》，トラバースの《メアリー-ポピンズ》，ノートンの《床下の小人たち》，ヒルダ-ルイスの《飛ぶ船》，ピアスの《トムは真夜中の庭で》と，現代児童文学における空想王国を創造したのである。もちろん，空想物語はイギリスばかりでなく，アメリカのサーバーの《たくさんのお月さま》，ハウムの《オズの魔法使い》，ロフティングの《ドリトル先生物語》，スロボトキンの科学空想小説もある。一方，冒険物語のほうは，やはりイギリスに始まり，トリーズの《ロビン-フッド》物，アーサー-ランサムの《ツバメ号とアマゾン号》，ガーネットの《ふくろ小路一番地》がある。この冒険物語のパターンに新しい展開をみせたのが，ケストナーであった。従来の冒険の舞台であった海洋や山岳を，一気に読者児童たちの生活する都会に移し変えたことは，あらゆる階層の子どもたちにいっそうアピールする市民的な冒険の世界を提供することとなったのである。

こうして現代の児童文学は，ファンタジーとリアルな冒険物語がひしめきあいながらも，しだいに現実生活に根をおろしながら両者が接近し，児童読者に密着した形象化がなされてきている。

カナダの児童文学の理論家リリアン-H-スミスは，〈現代の児童文学は，子どもの自由で自主的な選択の上に築かれるもの〉と言っている。イギリスのC.S.ルイスは，読者論をもとにしながら現代の児童文学をとらえ，ともに最も現代的な児童文学に対する見解を語っている。〔岡田純也〕

じどうぼうくうかんせいそうち【自動防空管制装置】⇨バッジ

じどうほうこうたんちき【自動方向探知機】⇨方向探知機

じどうゆにゅうわりあてせい【自動輸入割り当て制】automatic import quota system 略称AIQ制。輸入代金の支払いにあたり，通産省の認めた特定品目のものには，その審査を必要とせず，単に申請書を出しただけで銀行の輸入承認が得られ，自動的に輸入の割り当てが受けられる制度をいう。この輸入割り当ては，もとは外貨で割り当てられていたが，1964年(昭和39)4月の外貨予算制度の廃止により，外貨割り当てが数量基準による割り当て方式に替えられたので，現制度では，その該当品目にはその輸入数量がメーカーまたは商社に割り当てられる。わが国で輸入の自由化というときは，自動承認制によるAA品目のほかに，このAIQ品目をも含める。〔上坂酉三〕

しどうようりょう【指導要領】⇨学習指導要領

しどうようろく【指導要録】学校教育法施行令による児童・生徒の学習・健康状況および生徒を指導するうえに必要な家庭環境などを記録した原簿をいい，二つの機能をもっているとされる。その一は，児童・生徒の在学状況を記録し，第三者に学籍を証明する戸籍簿的機能であり，その二は児童・生徒を指導するための教育上の資料としての役割である。これらの目的を満すために学籍の記録，出欠の記録，健康の記録，学習の記録，行動および性格の記録，標準検査の記録などが記載されている。学習の記録は，特にすぐれたものを5として，その教科の学習が著しく不十分なものを1とする5段階評価で記録し，行動および性格の記録はA・B・Cの3段階評価で記録される。評価法を絶対評価とすべきか相対評価とすべきか，行動および性格の評価に記録者の主観がはいらないかなどの問題点がある。また，法的には指導要録の作成者は学校長であるが，実際は学級担任が記録・作成し，学校長がその正誤を確認して保管させ，原本は当該児童・生徒の卒業後あるいは転退学後の翌日から20年間保存される。転入学に際しては，原本の写しを相手校に送付しなくてはならないとされる。

今日の指導要録は，1900年(明治33)に制定された学籍簿から発するが，学籍簿は戸籍簿的な性格が強く，児童・生徒の指導に資する面に欠けていた。そのため1949年(昭和24)に生徒指導要録と改称され，現行の内容となった。〔福井幸雄〕

じどうれっしゃせいぎょそうち【自動列車制御装置】⇨ATC

じどうれっしゃていしそうち【自動列車停止装置】⇨ATS

じどうろうどう【児童労働】労働基準法は，満15歳に満たない児童を労働者として使用することを罰則をもって禁止した(同法56条・118条)。これは，保健・教育・社会的見地からみて，ILO(国際労働機関)59号・60号条約に従ったものである。ただし，労働基準法は次の二つの例外を認めた。①非工業的事業で児童の健康に無害であり，しかも労働が軽易であれば，所轄庁の許可を受けて満12歳以上の児童をその修学時間外に使用することができる。②満12歳未満の児童も，映画の制作および演劇の事業には，所轄庁の許可を受けて修学時間外に使用できる。いずれの場合も，労働時間は修学時間を含めて1日7時間，1週42時間以内である(同法60条2項)。なお，児童福祉法は，別の観点から満18歳未満の者を保護している(同法1条・4条)。〔木元美代子〕

しとく【四瀆】中国において，水源から直接海にはいる独立の河川という意味で，揚子江・淮水(わいすい)・黄河・済水の四大河川をいう。五岳とともに信仰の対象とされた。夏の禹王(うおう)が四大河川を祭ったことがあり，前漢以後は五岳とともに祭られ

た。なお，山東省聊城(りょうじょう)県に近い済廟(せいびょう)は，元来済水を祭ったものであるが，済水が黄河・淮水より揚子江に通じるところから四瀆祠(しとくし)とよばれて名高かった。四瀆の祭祀(さいし)は歴代の官府によって行なわれ，清朝(しんちょう)まで継続した。なお，一説には済水のかわりに漢水を入れる考えもある。〔船越昭生〕

しとしろん【詩と詩論】詩誌。季刊。1928年(昭和3)9月～1931年12月。のち《文学》と改題，1932年3月～1933年6月まで続いた。安西冬衛(ふゆえ)・三好(みよし)達治*・上田敏雄・近藤東・北川冬彦(ふゆひこ)・春山行夫*・神原(かんばら)泰らが創刊同人。ほかに西脇(にしわき)順三郎*・北園克衛*(かつえ)・滝口修造・竹中郁(いく)・村野四郎・丸山薫(かおる)・阪本越郎らも寄稿した。ブルトン*の《超現実主義宣言書》などシュルレアリスムの詩や詩論をはじめ，ヨーロッパの新しい文学を翻訳・紹介し，新詩精神〈エスプリ・ヌーボー〉を提唱。いわゆるモダニズムの詩人たちの拠点で，詩の造型的形式的試みは美学的な実験室の観を呈した。同時代のプロレタリア詩運動とともに現代詩の展開に画期的な位置を占める。〔源　五郎〕

シトシン［cytosine］2-オキシ-6-アミノピリミジン。核酸を構成するピリミジン塩基の一。DNA*・RNA*ともに含まれ，広く生物界に分布しているが，T_2・T_4・T_6など偶数番号の大腸菌バクテリオファージには含まれていない(代わりにオキシメチルシトシンをもつ)。

しとしんじつ【詩と真実】ゲーテ*の自叙伝。4部20章からなる。生誕から1775年秋ワイマール公国に移住する26歳までの，幼年期・少年期を経ていわゆる〈若きゲーテ〉時代を扱う。その叙述は委曲を尽くし，当時の社会情勢と文化運動との有機的関連をつねに視野の中において，彼自身の人間形成を立体的にたどる。

しとしんじょう【使徒信条】カトリック教会では《使徒信経》という。キリスト教徒が信ずべき基本的な教えを簡明に表わした祈り。〈我は天地の造り主，全能の父なる神を信ず。我はそのひとり子，我らの主，イエス-キリストを信ず〉ではじまる。十二使徒(→使徒)によって伝えられたといわれるところからこの名があり，中世以降キリスト教諸教会で使用される基本信条の最初におかれた。

シドッチ［Giovanni Battista Sidotti］(1668～1715) イタリアのイエズス会宣教師。シチリアの生まれ。日本伝道の志に燃え，マニラで日本語を勉強したのち，1708年(宝永5)屋久島に上陸。捕えられて長崎を経て江戸に送られ，小石川のキリシタン屋敷に監禁され，獄死した。なお，新井白石は彼を尋問し，《采覧異言(さいらんいげん)》《西洋紀聞》を著わし，洋学の端緒となった。

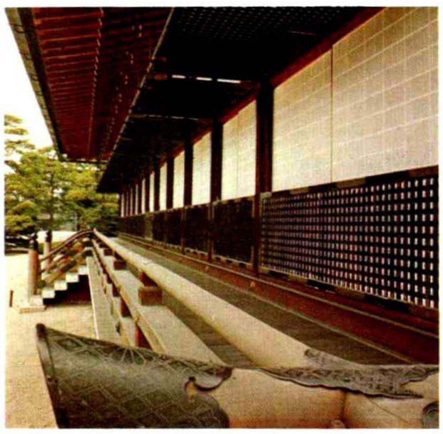
シドニー［Sydney］オーストラリア東南岸，タスマン海に臨むオーストラリア最大の貿易港で，ニューサウスウェールズ州の州都。1788年に流刑植民地として開かれたことに起源をもつ。人口5万8,000(1974)。おぼれ谷であるポートジャクソン湾口に位置した天然の良港で，羊毛・小麦・木材・石炭などを輸出し，また機械・自動車・飛行機・毛織物・皮革・食品加工など各種の工業が盛んである。気候温暖で海港としての美しさはブラジルのリオデジャネイロと並び称せられ，古都のおもかげを残す市街には公園が多く，ポートジャクソン湾の両岸はハーバーブリッジで結ばれている。中心部には州政庁・博物館・総合大学・工業大学・芸術大学などがあり，メルボルンと並ぶこの国の経済・文化の中心地となっている。〔小栗　宏〕



シドニー　シドニー港とポートジャクソン湾に架かるハーバーブリッジ。上景はシドニーの都心部で，橋には鉄道も通じ，手前の北郊とを結んでいる

シドニー［Sir Philip Sidney］(1554～1586) イギリスの詩人・政治家。名門の出で，エリザベス女王の宮廷に仕え，対スペイン戦争で戦死。ソネット*集《アストロフェルとステラ》などのほか，プラトンの詩批判以来の文学論を概説し，当時の詩や演劇の状況をも批判した詩論《詩の弁護》が知られる。エリザベス朝における理想的人間の典型として多方面で活躍，スペンサーやシェークスピアに影響を及ぼした。

シートベルト［seat belt］安全ベルト。自動車が衝突時，乗員が前へ放り出されないよう固定するために用いるベルト。また，飛行機の離着陸時にも用いる。自動車用のベルトの材質にはレーヨンが多く用いられ，ベルトのかけ方によって次の種類がある。①腰ベルト(ラップベルト)：両端が床に取り付けられたベルトを腰の部分にまわし，中央のバックルで腰を締めつける。上半身は自由な動きがとれるが，衝突時に前に倒れ，計器板や前面ガラスなどに頭をぶつける危険があり，前席には不向き。②斜肩かけベルト：ベルトの一端を床に，他端を斜上方に取り付け，肩から腰へ斜めにベルトをかける。上半身の保持も可能であるが，束縛された感じが強い。③両肩かけベルト(フルハーネス)：腰ベルトに，さらに両肩を保持するベルトを加えた形式。最も安全であるが，上半身を束縛するので運転者には不向き。これらシートベルトは乗用車などの運転席(営業用車では乗客用も)に備えることが義務づけられている。〔成田武男〕



蔀　京都御所小御所の回廊と半蔀

しとみ【蔀】日本建築の開口部に用いる建具の一形式。蔀戸ともいう。表裏とも格子(こうし)とし，間に板を入れた建具を，上の長押(なげし)に蝶番(ちょうつがい)金具で取り付けて開口部を閉ざしたもので，この金具を軸にして水平に持ち上げ，軒からたらしたつり金具でささえてあかりを取り入れる。はじめは住宅や神社などに限って用いられたが，平安時代中ごろから仏堂にも使われるようになった。柱間いっぱいを一枚の蔀で建てこむのが古型式であるが，大きすぎて開閉に不便なので，上下2枚に分けて建てこんだものを半蔀(はじとみ)という。上の半蔀ははね上げ，下の半蔀は柱に桟(さん)で留め，必要な場合にははずせるようになっている。〔渡辺保忠〕

しどみ【樝子】⇨クサボケ

シトロエン［Citroën S.A.］フランスの自動車メーカー。ルノー・プジョーに次ぎフランス自動車界第3位。おもに中小形車を製造。バスや大形輸送車など実用車両の分野ではフランス最大のメーカーである。研

究機関も盛んで，新しい減速比，操向装置の改良・改革を行ない，売上高を伸ばしている。国外市場にも進出を試みており，ヨーロッパ自動車界第5位の地位を確保している。イタリアのフィアット*と業務提携。本社パリ。年間売上高13億9,000万ドル，従業員数83,000(1969)。〔氏家　尚〕

シトロン　［citron］　双子葉植物・ミカン科。インド・マライ半島原産の常緑高木で，ミカンの仲間。日本では温室内で栽培されている。葉は広楕円(こうだえん)形で鋸歯(きょし)があり，先がとがっていない。果実は円錐(えんすい)形で黄色を呈する。生食には適さず，加工したり，飲料とする。

シナイ(半島)　［Sinai］　紅海の北部で南に突き出している半島。紅海を東はアカバ湾，西はスエズ湾に分け，大半が砂漠(さばく)である。エジプト・アラブ共和国の一州で，アフリカ大陸と西アジアの掛け橋であるが，北東部はイスラエルと国境を接しているため，両国間の国境をめぐる紛争が絶えない。西のスエズ地峡にあるスエズ運河は，ヨーロッパとアジアを結ぶ航路の要衝で，エジプト・アラブ政府の所有である。

じないちょう　【寺内町】　室町末期，浄土真宗本願寺派などの寺院の境内に発達した商業集落。門前町*が社寺の門前に自然に展開したのに対して，寺内町は周囲に土居を築き，堀(ほり)を巡らし，門柵(もんさく)を設けるなど防備施設を備えて建設された。それは，蓮如*(れんにょ)らが戦国時代に布教拠点として寺院を各地に建立(こんりゅう)したとき，僧侶(そうりょ)・信徒を他宗徒や領主の攻撃から守る必要があったからである。1496年(明応5)蓮如がつくった石山本願寺*はのち豊臣秀吉*(とよとみひでよし)の城下町*となり，現在の大阪市として発展するもとを開いたが，ほかに越前(えちぜん)の吉崎(よしざき)(福井県坂井郡蘆原(あわら)町)，和泉(いずみ)の貝塚(かいづか)(大阪府貝塚市)，越中の井波(富山県東礪波(ひがしとなみ)郡井波町)が知られる。〔高崎徳次〕

しないもじ　【シナイ文字】　1904年，ペトリー*によってシナイ中央台地で発見された刻文はのちに約50か所になったが，少なくとも紀元前15世紀より以前のエジプト治下でセム人がその言語を記したものという。ガーディナーらによれば，このまがいアルファベットの頭音法による用字と簡略な線で書かれる字形とは，エジプト象形文字に由来し，それとフェニキアなどの北セム文字との間をつなぐ失われた一環をなすのだと主張されている。〔日下部文夫〕

しながちょう　【支那鵞鳥】　鳥類・ガンカモ科の家禽(かきん)。原種はサカツラガン。中国大陸の原産で，その内種には白色とかっ色の別があるが，おもに飼育されているのは白色である。頭部の前端にこぶがあり，小形で雄は5.5kg，雌4.5kg，卵重は160gに達するが，産卵数は40個と少ない。外敵に対する警戒心がきわめて強いため，番犬の代用として用いられる場合がある。

しながわ　【品川(区)】　東京都の南西部に位置する23特別区の一。東は東京湾に臨み，北西は目黒，北東は港，南は大田の各区と接する。1947年(昭和22)品川・荏原(えばら)両区が合併して成立。面積16.24km²，人口33万9,000。東部は東京湾および目黒川に臨む沖積地(ちゅうせきち)と埋め立て地で，西部は武蔵野(むさしの)台地の一部目黒台上を占める。江戸時代には海岸を走る東海道沿いに品川の宿場町が発達し，明治後期以後は目黒川・立会川の低地に電気・機械などの工場群が設置され，大崎工業地域が形成されている。東海道に沿う地区やその前面の埋め立て地にも工業地域が発達し，埋め立て地には大井競馬場や倉庫群がある。1972年末には大井埠頭(ふとう)の埋め立て工事が完成して，新中央卸売市場もつくられる予定である。台地上には大正時代後期から住宅地が発達し，最近は各種工場の進出も著しい。東海道本線・国電山手線・同京浜東北線・京浜急行電鉄が集まる品川駅を中心に縦横に交通網が形成され，モノレールや都営地下鉄1号線などもあり，海岸通り・第1京浜道路(国道15号線)・第2京浜道路(国道1号線)・中原街道・高速1号線など，京浜地帯を結ぶ多くの道路がある。五反田・大井町の両駅は東京急行電鉄の池上線・田園都市線のターミナルとなり，駅周辺にそれぞれ小規模な副都心を形成している。〔浅井得一〕

しながわやじろう　【品川弥二郎】　(1843〜1900)　明治時代の政治家。長州藩出身。松下村塾*(じゅく)に学び，高杉晋作*(たかすぎしんさく)らと尊王攘夷(じょうい)運動*に加わって活躍した。1870年(明治3)プロイセンに留学，のち公使館員として地方制度・農政などを研究。1876年帰国後は内務省・農商務省の高級官僚としておもに産業政策の推進につとめた。また三菱(みつびし)に対抗して共同運輸会社を設立したが，1885年両社が合併して日本郵船(株)となったのを機にドイツ公使に転出。帰朝後宮中顧問官などを経て第1次松方内閣の内務大臣となり，1892年の総選挙には藩閥専制を攻撃する民党(反政府政党)に激しい選挙干渉を加えたため，世の非難を浴びて辞職。1892年西郷従道*(つぐみち)らとともに政府擁護のため政治団体国民協会を結成し，その副会長となった。〔高崎徳次〕

じなき　【地鳴き】　鳥類の鳴き声の一種。鳥の声は1種類の鳥でもいろいろであるが，それを大きく二つに分ける。繁殖期に聞かれる主として音楽的な声で一般に鳥の歌といわれているものをさえずりといい，繁殖期・非繁殖期を問わず聞かれるそれ以外の声を地鳴きという。地鳴きは一般に〈チッ〉とか，〈ツーツー〉〈ピーピー〉などのように短い非音楽的な声である。ただし，カラスや水鳥などではこの区別がはっきりしない鳥もかなり多い。地鳴きという語は元来飼鳥家，特にさえずりの美しい鳥を対象にする人々のことばであって，厳密に定義される内容を持つものではない。〔浦本昌紀〕

しなぐり　【支那栗】　双子葉植物・ブナ科。中国から渡来した栽培種で，クリ*に似ているが，葉の裏に腺点(せんてん)がなく，また果実と総苞(そうほう)(いが)との接合部(へそ)の面積が狭いなどの違いがある。果実は甘く，甘栗*には最適。

しなじへん　【支那事変】　⇨日中戦争

シナトラ　［Frank Sinatra］　(1915〜　)　アメリカのポピュラー歌手・映画俳優。ニュージャージー州の生まれ。クロスビー*の影響を受けて歌手の決心をし，1937年コンテストに入賞，1939年にハリー=ジェームス楽団，1940〜1942年にはトミー=ドーシー楽団の専属となり，1942年末に独立。1951年ごろからクルーナー歌手から脱皮し，力強い男性的唱法と人間性豊かな表現を確立。また映画俳優としても成功した。1971年3月突然音楽界からの引退を発表。代表作はレコード《アイ=リメンバー=トミー》，また映画《地上より永遠に》がある。〔岩浪洋三〕

しなの　【信濃(国)】　長野県の旧国名。東山道に属する。古く科野国造(しなののくにのみやつこ)が置かれたが，大化改新以降は国司に支配された。国府ははじめいまの上田市に，のち松本市に置かれ，国分寺は上田市に建てられた。721年(養老5)その一部をさいて諏方(すわ)国を置いたが，731年(天平3)諏方国を廃して旧に復した。筑摩(つかま)・伊那(いな)・安曇(あずみ)・諏方・水内(みのち)・更級(さらしな)・高井・埴科(はにしな)・小県(ちいさがた)・佐久の10郡であった。平安末期，信濃源氏が興り，源義仲(よしなか)，次いで源頼朝(よりとも)に属した。鎌倉時代には北条(ほうじょう)氏一門が守護となり，室町時代には小笠原(おがさわら)氏が守護に任じられたが，戦国末期には国内の分裂に乗じて武田(たけだ)信玄が小笠原・諏方・木曽(きそ)らの諸氏を従え，村上氏を追ってほぼ全土を併呑(へいどん)し，やがて川中島に上杉(うえすぎ)謙信と激突した(→川中島の戦い)。1582年(天正10)織田信長(のぶなが)が武田氏を滅ぼして，国内各地に諸将を分封したが，信長の死後徳川家康(いえやす)の手に帰した。江戸時代には松本・飯田(いいだ)・高遠・高島・飯山・松代(まつしろ)・上田・小諸(こもろ)等々の諸藩が立てられ，廃藩置県ののち，筑摩・長野の2県となり，1876年筑摩県のうち信濃4郡を長野県にあわせて今日に至っている。〔黛　弘道〕

しなのおいわけ　【信濃追分】　⇨追分

しなのおいわけ　【信濃追分】　長野県の北東部，浅間山の南麓(なんろく)の地区で，現在は北佐久郡軽井沢町に属する。江戸時代には中山道(なかせんどう)と北国街道の分岐点にあたる宿場町として栄え，軽井沢・沓掛(くつかけ)の宿とともに，浅間の三宿とよばれた。


シナノオトギリ


信濃川 新潟県南蒲原郡栄村鬼木の上空から見た信濃川の下流と新潟平野の眺望。右へ流れるのが信濃川本流で，右端の集落は三条市。左へ分岐するのは中之口川で，屈曲点に燕市が見える

ここの馬子歌を三味線(しゃみせん)にのせた民謡《信濃追分》は，各地の追分節のもとになっている。江戸時代後期には本陣の油屋を中心に戸数500余戸，そのうち遊女屋・茶屋が50戸，遊女は300余人といわれた。明治以後は鉄道からはずれて衰退し，大正末期には50余戸を数えるにすぎなくなったが，最近は国道18号線に沿って別荘や寮が立ち並び，上信越高原国立公園の観光基地となって復活のきざしを見せている。かつての街道の分岐点に道標や常夜燈などの遺跡があり，北部に明治天皇行在所跡がある。晩年の堀辰雄*(ほりたつお)がここで闘病生活を送り，その旧宅が残っている。〔浅井得一〕

しなのおとぎり【信濃弟切】双子葉植物・オトギリソウ科。ミヤマオトギリともいう。本州中部以北の高山にはえる多年草。茎は根ぎわより数本伸び，高さ10～30cm。葉は対生し，長い卵形。夏，茎の上部に径2cmほどの黄色い五弁花を数個つける。

しなのがき【信濃柿】双子葉植物・カキノキ科。本州の伊豆(いず)以西，四国・九州に分布する落葉高木で，マメガキ*の変種とされている。6月ころ，葉腋(ようえき)に黄白色の四裂花をつけ，秋に小形の漿果(しょうか)をつける。未熟の果実から渋をとるために栽培される。

しなのがわ【信濃川】長野県南東部の関東山地に水源をもつ千曲(ちくま)川が，犀(さい)川を合して北上，長野県北東部から新潟県にはいって信濃川と名を変える。新潟県中央部を北東に向かい，新潟平野を横ぎって新潟市で日本海に注ぐ。全長367km，わが国第1の長流で，流域面積12,050km²，利根(とね)川・石狩川に次ぎわが国第3位。長野県・新潟県の主要都市の多くがこの川に沿っている。信濃川とよばれている部分はおよそ150kmで，十日町盆地を過ぎて魚野川を合わせ，平野部に出ると越後(えちご)山脈からの水を集めて川幅の広い水量豊かな流れとなり，下流では中之口川などの分流を生じて海に向かう。新潟平野の灌漑(かんがい)と舟運に，河口港新潟市の発展にこの川の果たした役割は大きい。しかし低湿な平野部はこの川の増水により洪水(こうずい)の被害がくり返され，また運搬物は河口に堆積(たいせき)して船舶の出入に大きな障害となってきた。この欠点を除去するために，河口より上流55kmの大河津(おおこうづ)付近から寺泊に流れる分水路の開削が1909年(明治42)から着手され，15年余を費やして1923年(大正12)に完成した。新水路は延長10km，幅270～720mで，大河津分水または新信濃川とよんでいる。最近さらに新潟港安定整備のために新潟市内に関屋分水路計画が進んでいる。なお，小千谷(おぢや)市より上流部では古くから電源開発が行なわれ，信濃川発電所(最大出力16.5万kW)，千手発電所(最大出力12万kW)など100を越える発電所がある。〔長津一郎〕


シナノキ


シナノキンバイ

しなのき【科木】双子葉植物・シナノキ科。山地に自生する落葉高木で，高さ20mに達する。葉は3～6cmの柄をもつ心臓形で，長さ3～10cm，幅4～8cm，裏面の脈腋(みゃくえき)にかっ色の毛がある。6～7月，葉脈に白色の香りのよい五弁花が20～40個たれ下がる。へら形の包葉が花序の柄の部分にある。果実は小さな球形で，細毛でおおわれる。材は柔らかいので，細工物，マッチの軸などに用いられる。シナノキの仲間には神社に植えられるボダイジュ*，中部山岳地帯に多いオオバボダイジュなどがある。

しなのきんばい【信濃金梅】双子葉植物・キンポウゲ科。北海道や本州北部・中部の高山にはえる多年草。茎は高さ25～80cm，葉は掌状に5裂する。7～9月に茎の上部に径4cmほどの花をつける。花弁は橙黄(とうおう)色で線状に変化し，がく片は黄色で花弁状をなし美しい。

しなのまいにちしんぶん【信濃毎日新聞】長野県を代表する日刊紙。創刊は1873年(明治6)7月5日に第1号を発行した《長野新報》にさかのぼり，一時休刊されたこともあったが，現在まで90数年の歴史をもつ，わが国新聞界の最古参の一つである。大正改元とともに社名を信濃毎日新聞社と改め，1942年(昭和17)5月第2次世界大戦中の新聞統合により《信州毎日》《北信毎日》《中信毎日》《信州合同》などを統合して現在に至っている。発行部数35万2,000部(朝刊，1980)。

シナプシス ⇨対合

シナプス〔synapse〕神経繊維*の終末が他の神経細胞*・筋繊維(→筋肉)に接触する部位。興奮はシナプスを介して伝達される。興奮の伝導は，特殊なものを除いては化学物質の伝達によってなされるとされるが，シナプスは生理的にみて，興奮の伝達は一方向のみで，興奮の伝わる時間が遅れ，疲労しやすく，化学薬剤に対して敏感であるなどの特徴がある。

しなみざくら【支那実桜・桜桃】双子葉植物・バラ科。中国原産のサクラで，花は淡紅色の五弁花で，花弁の先がへこむ。果実は紅色に熟し，甘ずっぱく，食用にされるが，セイヨウミザクラの果実(いわゆるさくらんぼ)よりも小さい。主として関西で栽培されるが，その数は多くなく，果樹としてよりもむしろ早咲きのサクラとして観賞用にされる。

シナモン〔cinamon〕双子葉植物・クスノキ科のニッケイの樹皮からとった香辛

料。➔ニッケイ

じなり 【地鳴り】 大地震の直前または震源の浅い地震が頻発(ひんぱつ)するときなどに，地面の振動が空気伝播(でんぱ)し聞こえるもの。遠雷，風の音，重い物体を落とすような音などに感じられる。地動が感じられなくても，それが空気の振動に変わったときそれを感じとる耳の感度の高さのためである。なお，地動が人体にも感知される場合には鳴動という。

シナリオ ［scenario］ 映画の脚本。ことばの由来は，16世紀のイタリアで盛んだったコメディアーデラルテ*の役者たちが互いにかわした演技上の注意とせりふの受け渡しの覚え書きにあるといわれる。映画の初期，無声映画*時代には，製作者・監督・俳優のメモ程度のものであったが，トーキー*になって以後は製作上重視され，その形式・内容ともに整った。そして新たにシナリオーライターが誕生し，シナリオの映画における位置が確立するにしたがって，演劇のドラマツルギーに比すべきシネマツルギーの問題も，映画の創造方法にとって重要なものとなった。日本では，登場人物のせりふと場面の説明，いわゆるト書きを各シーンに分けて書く形式がおもであるが，欧米では登場人物のせりふと場面構成とを別別のライターで書く場合が多い。また，近年では数人で合作されることが盛んである。スタッフや俳優の討議によってシナリオが変更されていく場合，映画の完成がシナリオの完成といった例も見受けられる。
〔波多野哲朗〕

ジナル-アルプス ［Dinaric Alps］ ユーゴスラビア西部，アドリア海岸に沿って走る山脈。全長約650km。北はジューリーアルプスを経てアルプスに続き，南はアルバニア北部のドリン川流域に至る。高度1,000m以上の台地状をなし，所によっては2,000mをこえる石灰岩の峰々が続く。北西部のカルスト地方は，その溶食地形によってカルスト地形*という語の由来になっている。

じなんきょく 【磁南極】⇨磁極

しなんしゃ 【指南車】 中国で発明された方向指示計を装置した車。天子の行列の先頭車として使用された。二輪車の上に，車輪と連動する数個の歯車の箱が置かれ，この箱上に歯車と連結する軸が垂直に立ち，軸上に方向を指示する人形が位置する。最初に人形を南に向けておけば，車の進行方向にかかわらず，人形はつねに南をさす。後漢の張衡の発明といわれる。磁石はまったく使用していない。

シナントロプス-ペキネンシス ⇨北京(ペキン)原人

シーニア ［Nassau William Senior］ (1790～1864) イギリスの経済学者。オックスフォード大学に学び，のち同大学ドラモンド記念講座教授となる。節欲説を最初に明確に展開したことで知られる。これは，リカード*やその他の古典学派の人々が，資本の利潤は労働者の剰余労働を源泉とすると説いたのに対して，利潤は資本家が消費の欲望を自制して，手持ちの貨幣を資本として利用することに対する報酬であると説明したもので，のちの利潤学説の発展に大きな影響を与えた。主著《シイニオア経済学》。
〔松浦　保〕

しにいたるやまい 【死に至る病】 キルケゴール*が《死に至る病》(1849)の中で用いた語で，絶望を意味する。絶望はありのままの自己の姿を知らない無自覚の状態に始まり，さらに深まると，真に自己であろうとするか，あるいはしないかという自覚的な絶望になる。この絶望は神の前にひとり立つ決断をなすこと，すなわち信仰によってのみ克服される。この決断をあえて拒むかぎりにおいて，最も深い絶望は罪であり，信仰から最も遠いものであるけれども，絶望がこのうえなく深められることによってのみ信仰が生じるのであるから，絶望は最も信仰に近いともいえる。
〔玉井　治〕

しにえ 【死絵】 歌舞伎(かぶき)役者や浮世絵師の死亡に際して，その肖像を描いて板行した追善絵。寛政年間(1789～1800)から幕末にかけて，流行した。像主の名のほかに，閲歴や没時・享年・法号・墓所などを記し，辞世や追善の歌句を添えるのが通例である。

しにがみ 【死神】 人を死に誘う悪霊で，取り付かれたら命が助からないとか，死にたくなるなどと語られている。貧乏神と同じように，こうした悪霊にも神の名をつけるのは民間信仰の一類型であった。祈願の対象ではなく，警戒され忌みきらわれるが，伝染病をもたらすと信じられた疫病神(やくびょうがみ)などに比べると実生活との関係はきわめて薄い。なお，悪念を抱いたまま死んだ者の遺霊が凝って死神になるとも説かれている。
〔今野圓助〕

しにく 【歯肉】 上顎(じょうがく)・下顎の歯槽(しそう)突起をおおう粘膜。歯齦(しぎん)ともいい，俗に歯茎とよばれる。きわめて厚く，骨膜と密着する。

しにくえん 【歯肉炎】 歯肉にみられる炎症。一般には，歯に接している部分の歯肉のみが赤くはれる辺縁性歯肉炎(単純性歯肉炎)が最も多い。口の中の原因としては，歯石の沈着，よく合っていない充塡物(じゅうてんぶつ)や金冠・義歯などの存在，歯列不正，冷たいもの，熱いものによる刺激，細菌感染などが関係する。そのほか全身的には，栄養障害・新陳代謝異常・内分泌障害・胃腸障害・血液疾患・熱性疾患・アレルギーなど，多くの因子が原因となる。これらの原因，ならびに体の抵抗力などの強さによって，単純な歯肉炎から，さらに潰瘍(かいよう)をつくったり，壊疽(えそ)に陥ったりする潰瘍性歯肉炎や壊疽性歯肉炎などが起こる。また，慢性の刺激が長く続くと肥大性歯肉炎などになる。治療としては，まず原因を除去し，歯石除去を行ない，口腔(こうこう)内の清潔に努め，症状に応じて抗生物質・栄養剤・抗アレルギー剤・副腎(ふくじん)皮質ホルモンなどを使用する。
〔成田令博〕

しにくしゅ 【歯肉腫】 歯肉にできる腫瘍(しゅよう)の総称。その性質によって炎症性のものと，腫瘍性のものに大別される。この腫瘍は，歯の存在と密接な関係にあり，歯肉・歯根膜や歯槽骨(しそうこつ)の骨膜などから発生する。炎症性歯肉腫の中には，妊娠性歯肉腫(妊娠腫)のように，妊娠の月数とともに発生・増大し，出産後には縮小したり消失してしまうようなものもあるが，多くの場合，腫瘍のある場所の歯・歯槽骨を含めて摘出手術を行なう。
〔成田令博〕

しにくしゅっけつ 【歯肉出血】 歯肉からの出血。歯肉に充血や鬱血(うっけつ)をきたすような歯肉炎*や歯槽膿漏症*(しそうのうろうしょう)があると起こるが，血友病・白血病・悪性貧血などの血液の病気やビタミンC欠乏による壊血病など，全身的な病気のある場合にもみられる。歯肉出血は生命にかかわる血液病の初期症状として現われることがあるので，止まりにくい出血のある場合は注意を要する。

シニスム ［cynism］ 本来は，ソクラテスの弟子(でし)アンチステネス*が開いたキュニコス派の思想を意味するが，今日一般には，既成の社会制度や伝統・習慣などの権威を，すべて意識的に無視または蔑視(べっし)する生活態度や冷笑的な思想傾向をいう。➔キュニコス派

しにみず 【死水】 末期(まつご)の水ともいう。臨終のとき，顔に振りかけたり，口に注いだりする水で，魂呼び*と同じように完全な死に至らせまいとする蘇生(そせい)のための呪術(じゅじゅつ)の一つと考えられる。地方によって，顔に水を振りかけたり，吹きつける方法，筆・綿・紙，鳥の羽根，シキミ・サカキの葉などに水を含ませてくちびるを潤す方法がある。また地方によっては，死者のまくらもとに水を入れた茶碗(ちゃわん)を供えたり，埋葬後息つき竹という竹を立て，その竹に水を注いだりする習俗もある。
〔渡辺欣雄〕

シニャック ［Paul Signac］ (1863～1935) フランスの画家。1880年のモネ展を見て画家になる決意を固めた。1884年第1回アンデパンダン展を機にスーラ*やクロスと親交を結び，点描主義の技法を採用した。スーラとともに新印象主義の代表者・指導者となり，理論的著述《ウージェーヌ-ドラクロアより新印象主義まで》を著わす。イタリア・オランダ・スイスなどを旅行，河景や風景を好んで描いた。➔印象派

しにゅう 【市乳】 牛乳を処理して，そのままの形で飲めるようにしたもの。法律によって品質および処理法が規定されている。

牛乳は細菌が繁殖しやすく，ことに病原菌が混入するおそれがあるので殺菌を行なう必要がある。しかしあまり高温で処理すると，タンパク質が変性し，栄養価も下がり，風味も低下するので，殺菌は慎重に行なわれる。殺菌方法には低温殺菌法・75℃以上15分間加熱殺菌法・高温殺菌法・瞬間殺菌法などがある。最近では瞬間殺菌法がもっぱら採用されているが，これにも高温短時間法・超高温法(110～150℃に1～20秒間加熱する)などがある。殺菌後直ちに10℃以下に冷却することが必要で，その後びん・テトラパックなどにつめる。〔佐藤友太郎〕

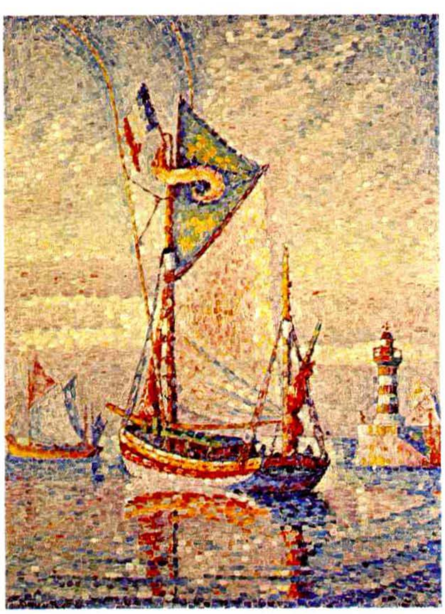


シニョレッリ
《聖母子》(部分)
ウフィツィ美術館蔵

シニョレッリ [Luca Signorelli] (1441？～1523) コルトーナの生まれ。イタリア初期ルネサンスの画家。人体，ことに裸体の写実的デッサンにすぐれ，多くのフレスコ壁画・油絵を制作した。シクストゥス4世に招かれて，バチカンのシスチナ礼拝堂*を装飾している。精力的なリアリズムの先駆者としてミケランジェロ*に与えた影響は大きい。代表作としてはオルビエト聖堂の《最後の審判》があげられる。

ジニン [Nikolai Nikolaevich Zinin] (1812～1880) ロシアの化学者。はじめカザン大学でロバチェフスキーとともに数学を学び，のち，同大学の教授。物理学から化学へと関心を移し，1837年ベルリンへ行きミッチェルリヒのもとで化学を学ぶ。芳香族のニトロ化合物を主として研究し，アニリン*を発見。ロシアの化学教育の基礎をつくり，ブトレロフや作曲者としても有名なボロディン*に大きな影響を与えた。

しぬき 【仕抜き】 日本舞踊の用語。大ぜいが出て踊っている中で，そのうちのひとりまたはふたりだけが出てきて，自分の受け持ち分を踊ること。総踊りに対してい



シニャック《コンカルノー港》 1925 ブリヂストン美術館蔵

い，風俗舞踊に多い。

じぬし 【地主】 ⇨ 次項

じぬしせい 【地主制】 封建的土地所有がブルジョア的発展によっても一掃されず，資本主義的諸関係に適応して存続するとき，それは各国資本主義の構造と相互に規定しあいながら種々の形態・制度をとる。地主制はその土地所有制度の一つである。封建制度下の商品経済の発展に伴い土地保有に対する権利も拡大し，土地の私的所有が形成されてゆくとともに農民階層の分化が進行する。農民階層の中に事実上所有する土地を生産者である農民に貸し付け，経済的剰余の全量を小作料として取得する封建的土地所有の本質をもつ地主的土地所有が現われる。これが封建的領主制の解体後も資本主義社会に存続し，農業・農村社会を支配している体制を地主制という。**〈地主制の展開〉** 江戸中期以降，商品経済の発展とともに進行してきた農民の分化は，1873年(明治6)の地租改正*による私的土地所有の法認と地租金納化を基礎として，西南戦争処理のための不換紙幣の増発と，その収束過程を経過する中で，促進され，地域差をもちながら地主的土地集中が急速に展開した。地主的土地所有のもとでの小作制度*は，旧来の慣行と高率現物形態をとる小作料が維持されていた。これにより米市場の拡大と米価が上昇する中で，みずから耕作も行なう耕作地主の，小作料に収入を依存する寄生地主への転化が進み，地主的土地集中とあいまって1873年30％前後と推定される小作地割合は1908年には45％に及んだ。寄生地主は米の主要販売者であったばかりでなく，地方的金融業・銀行・鉄道・諸産業への投資などを行なって，資本主義発達の一翼をにない，さらに制限選挙法により帝国議会に多数の地主を選出し，また，市町村制施行を通じて農村における支配体制を整備するなど，国家権力の強力な構成要素であった。地主制は，第1次世界大戦前における日本資本主義にとっては，低廉労働力，米と繭に代表される低廉農産物供給機構の軸であって，資本主義興隆をささえてきたものである。

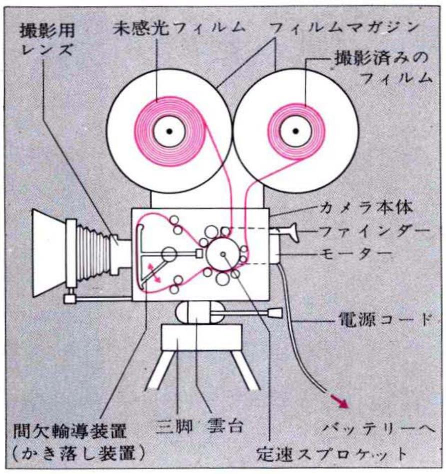
〈地主制の解体〉 大正期にはいると小作争議*は激化して，地主制を動揺させてくる。一方，台湾・朝鮮の植民地米移入の増加と，世界的経済恐慌に見舞われ，米価は昭和初頭には下落し，地主制の危機は激化し，すでに50町歩以上の大地主は内地では1919年(大正8)を頂点として以後漸減し，土地の売り逃げ，山林所有への転化という現象がみられるようになっていった。第2次世界大戦の拡大に伴う戦争経済の進展の中で，小作料の引き上げを停止する小作料統制令(1939)が施行され，米穀配給統制の開始(1940)によって地主の米商人的活動は封じられ，さらに供出米の生産者価格と地主価格との乖離(かいり)が米価の二重価格制によって進められ，地主の経済的立場に不利をもたらしていった。この政策は戦争による労働力不足のもとで，農業生産力を増強し，食糧を増産しようという総資本の要求に基づくものであるが，その底には，農民的商品生産の発展に対する地主的土地所有の重圧への対抗が続いていた。1941年(昭和16)に至ってなお3,000件台の小作争議*が記録され，1944年でも2,000件を数えている。第2次世界大戦後，占領軍指令により農地改革が行なわれ，この過程で，地主は所有地を確保しようと，小作人の土地の引き上げや，地主保有地の拡大のため政治的に努力するが，広範な農民運動の力のもとで改革は遂行され，また戦後のインフレは農地売却所得の価値を減じ，ここに地主は決定的な打撃を受け，地主制は解体をみたのである。〔高山隆三〕

シネ-カメラ ［cine-camera］ 映画撮影用のカメラ。映画撮影機または単に撮影機とよぶこともある。映画の撮影はある一定時間の流れの中で対象を写しとる作業であるから，これに用いられるシネ-カメラは，流動する長い帯状のフィルムに連続的に画像を撮影するしくみになっている。したがってシネ-カメラは，通常の写真機(スチール-カメラ)と同じように，レンズやそれに付随する距離・絞りなどの調節装置やファインダーなどを備えているばかりでなく，長尺のフィルムを収容するためのフィルム-マガジン，フィルムを動かすための回転装置，また流動するフィルムをレンズの背後で一瞬間停止させる間欠輸導装置，そしてフィルムがレンズの背後を通過する瞬間の露光を防ぐシャッターなどを含んで，その主要部分を構成している。

シネ-カメラの歴史は，これらの諸部分によってになわれている機能が，スチール-カメラに一つずつ加えられ改良されていった軌跡であるということができる。したがって，厳密な意味でのシネ-カメラの原形を定めることはむずかしい。たとえば，1877年にアメリカのマイブリッジによってつくられた映画は，12台のカメラを一定間隔で並列してその前方に馬を走らせ，次々とシャッターを切って撮影したようなものであった。そして，このように単純な原理が，アメリカのエジソン*やイーストマン，フランスのパテやゴーモン，イギリスのウィリアムソンなど，それぞれの国の先駆者たちによって開発され発展していったのである。使用されるレンズもまた，単一なものから交換可能なものとなり，やがて２～３本のレンズをつけた円盤をそのつど回転して使用するターレット式が生まれた。また最近では，１本のレンズで広角から望遠までが自在になるズーム式が多用されるようになってきた。このズーム-レンズも，当初は数本分のレンズの機能を１本で果たせるという消極的な理由から使われていたが，いまではあらゆる状態で焦点の定まることが保証されるようになって，ズーム-イン・ズーム-バックなどの映画に不可欠の表現形式のために積極的に使用されるようになっている。フィルム回転装置も，最初は手動であったものがぜんまいを使ったねじ式に移り，現在ではバッテリーを使ったモーターによるものが大部分を占めるようになってきている。それにしたがって回転速度も自在になり，１コマ撮影はもちろんのこと，１秒間に２コマから64コマまで自由に速度を調節できるようになった。また１秒間に16コマ(無声映画*)，24コマ(トーキー*)の定速回転を保証し，同時録音の際には録音機のモーターの回転とシンクロナイズ(同調)するようなシネ-カメラも現われている。カメラの規模に関しては，フィルム幅の歴史とともに，まずスタンダードすなわち35ミリカメラ(フィルムの幅が35ミリのもの)が開発されたが，やがて記録用として手動可能な小型のものが重宝がられるようになって，ついに16ミリカメラが生まれた。さらに家庭用・アマチュア用として最近では８ミリカメラが驚異的な発達を示して，大型カメラのもつほとんどの性能を網羅(もうら)するまでになっている。一方，劇場用としては70ミリなどの大型カメラの開発が進められている。このほか，モーター音の消去，絞りやズームの自動化，有線・無線による遠隔操作，フィルム装塡(そうてん)の簡便化など，シネ-カメラのすべての部分には日々技術的な改良が加えられているといってよい。

これらの急激な技術革新を全体的にみれば，シネ-カメラはしだいに小型化・軽量化・簡便化されて，専門家でなくても使えるようなものをめざして進んでいるといえよう。

➔映画　〔波多野哲朗〕



シネ-カメラ


シネラリア

シネクラブ ［ciné-club］ 映画鑑賞のための会または組織。映画史上の名作，商業的な映画館で上映されない実験映画などをおもに上映・鑑賞する。1920年代の初頭，フランス映画の向上のためにデリュック*が組織したのがはじまり。ともすれば受身の立場になる観客の要求に基づいて上映作品を決定するのが特色で，各国で盛んに組織されるようになった。

じねつ 【地熱】 ⇨ちねつ

ジネブざい 【ジネブ剤】 一般にダイセンという商品名で知られる殺菌剤。エチレンビスチオカルバメートの亜鉛塩で，銅剤に弱いハクサイのような作物にかなり濃厚な液を散布しても薬害を生じない。しかし，アルカリ性薬剤と混用すると効力が落ちるばかりでなく，薬害を起こす危険がある。ウリ類の炭疽病(たんそびょう)・べと病，ハクサイの黒斑病(こくはんびょう)，ジャガイモの疫病，ナス・トマトの疫病・炭疽病，ナシ・リンゴの黒星病・赤星病に卓効がある。　〔深谷昌次〕

シネ-ポエム ［ciné-poème］ 映画詩。一定の事件を客観的に描写するのではなく，風景や風物を描くことによって，ある詩的気分を表現しようとする映画。まとまったストーリーはなく，視覚的リズムと音によって詩的世界をつくる。イベンスの《セーヌの詩》(1958)などが著名。

シネマスコープ ⇨ワイド-スクリーン

シネマテーク ⇨フィルム-ライブラリー

シネマトグラフ ⇨リュミエール兄弟

シネマ-べリテ ［cinéma vérité］ 映画用語。映画(シネマ)と真実(ベリテ)からなるフランス語の合成語。虚構を排して被写体の生きた真実に迫ろうとする記録映画の方法。ベルトフ*・フラハティーら映画作家，写真家のブレッソン*らの流れをひき，リチャード-リーコックの〈ダイレクト-シネマ〉やカナダ国立映画局の記録映画とも呼応しつつ，フランスの人類学者ジャン-ルーシュによって確立された。その《われは黒人》(1959)により世界的名声を獲得。生の声と映像とを映画の世界に導入し，ヌーベル-バーグ*への刺激ともなった。ルーシュの傑作として《ある夏の記録》(1961)があり，その後は虚構と現実の弁証法を追究。映画作品としては，クリス-マルケルの《美しき５月》(1963)やベルトラン-ブリエの《ヒットラーなんか知らないよ》(1964)などのインタビュー形式にも，その発展の跡がたどれる。　〔蓮実重彦〕

シネラマ ⇨ワイド-スクリーン

シネラリア ［cineraria］ 双子葉植物・キク科。和名をフウキギク・フキザクラといい，花屋ではサイネリアとよぶ。カナリア諸島原産で，明治初期に観賞用としてはいり，温室で栽培される越年草。茎は高さ40～60cm。葉は心臓形で縁は波を打ち，葉柄には翼があり，基部は茎をいだく。12～3月，茎の上部にキクに似た紅・紫・白色などの美しい頭花を多数つける。

じねんこじ 【自然居士】 能の曲名。観阿弥*(かんあみ)の代表作。四番目もの。自然居士は，はじめ法相宗(ほっそうしゅう)，のち禅宗に帰依して俗体のまま仏教の説法をよくした一種の芸能人。この自然居士が，京都東

山の雲居(うんこ)寺で7日間の説法をした。その最後の日，ひとりの童女が両親追善のために美しい小そでをささげた。ささげものにつけられた文中に〈みのしろごろも〉とあったところから，居士は人買いに身を売ったものと察し，説法を半ばに切り上げて人買いの船を追う。船出まぎわに追いついた居士は，童女が船底にとらわれているのを見つけるが，人買いはすぐには譲らず，結局居士はさまざまの芸能を見せて楽しませた末，許されて童女とともに都に帰る。居士の芸づくしが見せ場で，居士は中之舞，船の曲舞(くせまい)，ささらの語(かたり)，羯鼓(かっこ)をたてつづけに演じる。シテは居士，ワキ・ワキヅレが人買いをつとめるほか，居士の従者を間狂言(あいきょうげん)が，童女を子方が受け持つ。〔長尾一雄〕

じねんじょ 【自然生・自然薯】 ヤマノイモの別名。山野に多く自生するので，栽培品のナガイモに対してこの名がある。➔ヤマノイモ

じねんほうに 【自然法爾】 法爾自然・法爾道理ともいう。阿弥陀仏(あみだぶつ)の本願の救いと考えられ，法然のことばを収録した《和語燈録》にみえる。親鸞(しんらん)の書簡をまとめた《末燈鈔(まっとうしょう)》の〈自然法爾章〉では，文字に即した語釈が加えられ，自然も法爾も意味は同一とされ，人為のはからいを離れて法の道理そのままに現われ，また，阿弥陀の本願力に身を任せることであるとし，阿弥陀そのもの，およびその救いの積極性を強調した。〔山折哲雄〕

しの 【篠】 単子葉植物・イネ科・タケ亜科。ササ類の一部であるアズマザサ属(シノ属)の総称，およびメダケ属・ヤダケ属を含めたものの総称。アズマザサ属は本州・四国・九州だけに産する日本特産のササである。種類が多いが，一般に幹が繊細でほとんど利用価値がない。トウゲダケ(峠竹)が東北地方で材を利用し，たけのこが美味なので食用にされるほか，コチク(小竹)が観賞用や盆栽として栽培されるくらいである。〔鈴木貞雄〕

しのいえのきろく 【死の家の記録】 ドストエフスキーの小説(1861～1862)。作者の4年間の牢獄(ろうごく)生活の精緻(せいち)な記録であると同時に，囚人の性格把握(はあく)，正常と異常の区別の無意味さの発見，民衆の貴族に対する抗弁不可能な憎悪(ぞうお)の中で孤立した自己への凝視と省察など，作者が人間観・文学観において次期に変貌(へんぼう)・再生することを告げる作品である。

シノイキスモス [synoikismos] ギリシア語で〈集住〉の意。紀元前10～紀元前8世紀に，村落に分散して住んでいたギリシア人が，アクロポリスを中心に集まり住んだことをさし，ここにポリスが成立した。氏族制から貴族支配に移る過程で，貴族階級が他身分とは別に集まることが政治的・軍事的に必要であったために行なわれたと考えられる。

しのう 【子嚢】 子嚢菌類の有性生殖によって生ずる胞子嚢。ふつう円筒状または棍棒(こんぼう)状で，中には通常8個の子嚢胞子が1列に並ぶ。子嚢を生ずる子実体は子嚢果といわれ，子嚢は層(子実層)となって存在する。子実層が裸出しているかどうかによって，裸子器(子嚢盤)と被子器(子嚢殻)に分ける。裸子器はチャワンタケなどにみられる，被子器は上部に穴のあいた球形やフラスコ形・徳利形などの子嚢果の内腔(ないこう)につくられる。

しのうきんるい 【子嚢菌類】 子嚢胞子をつくる菌類で，担子菌類・藻菌(そうきん)類とともに真正菌類を形成する。子嚢菌類にはかび・きのこの一部と酵母菌が含まれ，これらはさらに原生子嚢菌類と真正子嚢菌類とに分類される。菌糸体は糸状で多く分岐し，隔膜をもつ(酵母菌を除く)。有性生殖の結果，一つの単相核が接合し，核隔合ののち減数分裂を行ない，ふつう4個または8個の単相核をもつ子嚢胞子を子嚢中につくる。子嚢菌の形態・構造は多種多様であって，酵母のように単細胞またはそれに近い状態のものから複雑なきのこ状の結実構造をもつものまで含んでいる。酵母の子嚢は裸出していて，複雑な構造をもたない(原生子嚢菌類の特徴)。コウジカビやアオカビのある種は，数多くの子嚢が菌糸の集まってできた球形の閉子器(被子器ともよぶ)にばらばらに包まれている。アカパンカビやキイトミウムなどは，ふさ状に整然と並んだ子嚢がとっくり形・洋ナシ形の被子器にはいっている。マメザヤタケ・サナギタケ・麦角菌などは子座の中に被子器が形成される。チャワンタケ類などの盤菌類は子嚢果が盤状・さら状・わん状をし，直径は数ミリメートルから数センチメートルとなり，有茎または無茎で色素をもった肉質であり，これは裸子器とよばれる。裸子器は成熟すると子嚢が上部の表面に列状に並び，のち子嚢胞子が放出される。無性生殖はおもに分生胞子によるが，分生胞子の形状や形成法はさまざまである。子嚢菌には植物病原菌が多く含まれる。〔曽根田正己〕

しのうこうしょう 【士農工商】 近世封建社会における基本的身分制。すでに豊臣秀吉(とよとみひでよし)の兵農・商農分離策があったが，江戸時代にはいって完成した。武士は封建支配層として最上位にあり，多くの特権を享受した。農民は封建社会の根幹として次位にあったが，最も強い統制を受けた。工は手工業生産に従事し，商とともに町人ともよばれ，都市・町に居住した。商人は生産に携わらぬことで最下位に置かれたが，その経済的実力により江戸中期以降は武士をも圧倒する力をもった。明治維新後，四民平等のたてまえがとられ，制度としては解消された。〔松尾　涼〕

しのうせいしのうほう 【歯嚢性歯嚢胞】 歯が発生していく過程は，歯小嚢という袋状の組織の中で，エナメル質や象牙(ぞうげ)質などがつくられていくが，この歯小嚢が，なにかの刺激を受けて，徐々に嚢胞状に発育したもの。多くの場合，埋伏歯の歯冠を取り囲んで嚢胞がつくられる。歯としては，埋伏している犬歯・知歯に多くみられ，ほとんど気がつかないうちに顎骨(がっこつ)の中で大きくなり，やがて骨に膨隆を触れるようになる。治療は，一般に，嚢胞といっしょに歯も抜去する。〔成田令博〕

しのしょうにん 【死の商人】 戦争によってばくだいな利得にありつく商人またはグループ。大規模な軍需産業を一手に握る連中をいうもので，特に近代の戦争では，武器弾薬をはじめあらゆる戦争兵器の使用が増大しているため，その利益も天文学的な数字になる。資本主義の進展と帝国主義的な侵略政策は，このような軍需産業を肥大化した。

しのしょうり 【死の勝利】 ダヌンチオの小説(1894)。3部作《薔薇(ばら)のロマンス》の第3部をなす。官能へ耽溺(たんでき)する主人公の激しく揺れ動く心の遍歴を，詩的文体を駆使して描いたもの。みずからの情熱にひきずられて死に至る主人公の姿に，作者の情熱・罪・罰をめぐる思想が如実に描き出されており，発表後世界的名声を博した。

しのたに 【死の谷】 デス-バリーの訳名。アメリカ合衆国西部，カリフォルニア州中東部にある砂漠(さばく)の地溝帯(ちこうたい)で，海抜0m以下の部分が250km² もあり，最低部では海抜高度－85mに及ぶ。年降水量は5.2㎜で，夏季は合衆国で最も暑く，最も乾燥するところといわれ，開拓者や動物が多く死んだのでこの名がある。観光地としても知られ，付近一帯は国定記念物地域となっている。

シノニム ⇨同義語

しののいせん 【篠ノ井線】 中央本線塩尻(しおじり)と信越本線篠ノ井(長野市郊外)間の国鉄路線。営業キロ数67.9。1900年(明治33)に篠ノ井～西条間が，1902年に全線が開通。中央本線と信越本線を結ぶ本州中央部横断鉄道の一環で，塩尻～松本間が電化(直流)され，大部分の列車が中央本線との間に直通運転を行なっている。

しののめしんぶん 【東雲新聞】 1888年(明治21)1月，大阪で創刊された自由主義の立場に立つ新聞。当時，保安条例で東京を追われた中江兆民が主筆となり，植木枝盛(えもり)・栗原亮一(くりはらりょういち)ら自由党系の人々が参加した。後藤象二郎の大同団結運動を支持し，のち大同倶楽部(クラブ)系の機関紙となった。その売れゆきは《大阪朝日新聞》をしのぐほどでもあったというが，兆民が東京に移ると衰退し，1891年9月に休刊，まもなく廃刊となった。〔前納弘武〕

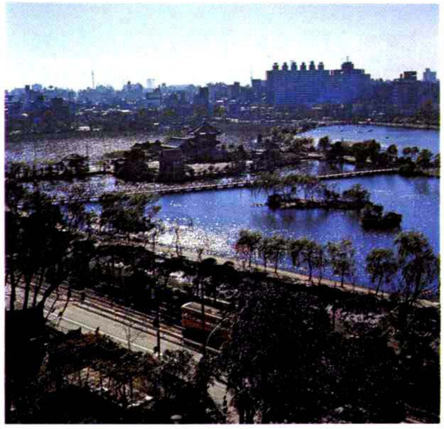
しのはい 【死の灰】 原水爆爆発の際で

きる放射性の空中落下物。原水爆が爆発すると，強烈な爆発力のために地上の岩石などが粉砕されて空中に舞い上がり，それが気流によって遠くへ流されてから落下する。この落下物中には核分裂による放射性物質が多量に含まれているので，これを浴びると強度の放射能障害をひき起こし，ときには死に至る。これは灰のように細かい粒子状なので，高さは地上数十キロメートルに達し，半径数百キロメートルに広がる。1954年(昭和29) 3月1日，太平洋ビキニ環礁におけるアメリカの水爆実験の際に，予想された危険区域の外(ビキニ環礁の東方約130kmの洋上)にいた日本のマグロ漁船第5福龍丸(ふくりゅうまる)がこの死の灰を浴び，乗組員全員(23人)が放射能障害を起こした。9月23日にはその中の久保山愛吉が死亡するに至り，原水爆実験は内外ともに大きな社会問題となった。〔加藤敏郎〕

しのばずのいけ 【不忍池】 東京都台東区，上野公園にある周囲2kmの池。武蔵野(むさしの)の東縁上野台と本郷台の間は，古代までは東京湾の入り江であったが，川の堆積(たいせき)で周囲が埋め立てられて現在の水面が残った。以前は藍染(あいぞめ)川が注いでいたが，いまはたまり水の状態である。池中の小島および弁天堂は，1625年(寛永2)天海が寛永寺を開いたときに池を琵琶湖(びわこ)になぞらえてつくったもので，のち渡月橋がかけられた。明治中期までは文人の遊ぶ風雅の地であった。いまは南東部に古くから名所とされたハスを残し，西部はボート遊びの池，北部は水上動物園(上野動物園分園)となっており，都民のいこいの場として親しまれている。〔長津一郎〕

ジノビエフ ［Grigorii Evseevich Zinoviev］ (1883～1936) ソ連の政治家。ユダヤ人で，本名ラドミスリスキー。1901年共産党員となる。1908～1917年国外へ亡命し，レーニン*を補佐して機関紙編集にあたる。十月革命*に際してはカーメネフ*とともに武装蜂起(ほうき)に反対し，蜂起に関する党の秘密をもらしたため，レーニンによって除名を要求され，その誤りを認めた。ペトログラード-ソビエト議長・党中央委員会政治局員を経て，1919～1926年コミンテルン*執行委員会議長として国際共産主義運動に貢献し，レーニンの死(1924)後党内の実力者のひとりであったが，1925年〈新反対派〉の組織者のひとりとなり，のちにトロツキー*のグループに加わったので，1932年党を除名された。1934年の第17回党大会で自己批判したが再び除名され，1936年の〈反革命公判〉でカーメネフらとともに処刑された。〔山県弘志〕

しのぶ 【忍】 シダ植物・ウラボシ科。山地の岩の上や木の幹につく多年生の落葉シダ。根茎は太く，長くはい，かっ色大形の鱗片(りんぺん)がつく。葉は数回羽状分裂し，小脈の終端に胞子嚢(ほうしのう)群をつける。



不忍池 上野の山から見おろした不忍池。池のまん中に弁財天の堂がある。背後は本郷台で，ここにも高層ビルが建ち始めた



シノブ





志野焼 (上)《志野茶碗(銘卯花墻)》 (下)《鼠志野草文向付》東京国立博物館蔵

包膜はコップ状。植物体に風鈴などをつけたりして観賞する。

しのぶいし 【忍石】 石灰岩・粘板岩・安山岩などの裂け目をとおして浸み込んだ，コロイド状の酸化マンガンや酸化鉄から結晶してできたもの。デンドライト・模樹石ともいう。黒色ないし黒かっ色のみごとなシダの葉状，樹枝状を呈することが多く，化石とよくまちがえられる。岐阜県養老地方によく見られ，この地方の俗称が忍石であったことに由来している。装飾用石盤に用いられる。

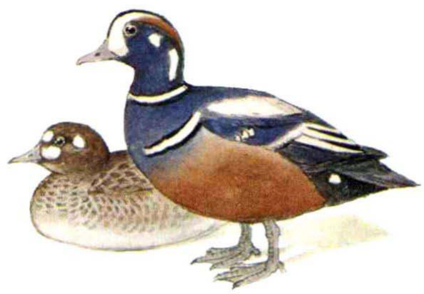
しのぶえ 【篠笛】 日本の横吹きの笛の一種。指孔は七つ。竹笛ともよばれる。長唄囃子(ながうたばやし)・下座音楽・里神楽(さとかぐら)などに使われる。能管*や龍笛*(りゅうてき)と異なり，竹がほとんどそのままの形で使われるため，音は軽い感じを与える。音高が定まりにくいが，それがまた特徴となって旋律を吹く。長唄の場合は主旋律と同音で奏するが，これを使い出したのが里神楽や獅子舞(ししまい)であったため，二上がり・三下がりなどの民謡的な性格の箇所で用いられる。また，下座では悲哀を強調するためにも用いられる。なお，奏者は音高の異なる12本の笛をもっていて，三味線(しゃみせん)に合わせて1本を選んで使う。〔徳丸吉彦〕

シノプシス ［synopsis］ あらすじの意。映画や演劇において，シナリオ・台本を作成する前段階として，主要な登場人物の性格や時代的背景・劇的葛藤(かっとう)などを中心に，一つの物語にまとめたもの。映画企業では企画の検討材料として用いられることが多い。

しのやき 【志野焼】 岐阜県土岐(とき)市近傍のいわゆる美濃窯(みのがま)で桃山時代に焼かれた陶芸の一作風。ややあらい白土(艾土(もぐさつち))でつくられた器形に長石質の白釉(はくゆう)を厚くかけたものが基本の姿で，さらに諸種の技法が加わって，絵志野・鼠(ねずみ)志野・赤志野・紅志野・練上(ねりあげ)志野などに分類される。絵志野は素地の上に鉄質の絵の具で簡略な文様を描き，その上に白釉をかけたもので，志野陶の中で最も遺品が多く，優品を残している。鼠志野は，酸化鉄を多く含んだ鬼板の泥漿(でいしょう)を全体に化粧がけし，それに文様を線彫りして白釉をかけたもので，鼠色の地に白象嵌(ぞうがん)ふうの文様が浮かぶところからこの名がある。赤志野は鼠志野と同じように，鬼板を全面にかけたものであるが白釉が薄く，赤の発色を得たものをいう。鬼板の代わりに〈赤ラク〉とよばれる土を用いたものが紅志野で，鉄絵文様の描かれたものが多い。また，白土と赤土とを混ぜ合わせて成形し，白釉をかけたものが練上志野である。志野焼は，わが国の陶磁史上はじめて白釉と鉄絵の具を用いた陶芸で，代表的な独自の様式を樹立し，作品の多くは茶わん・水差し・香合・はちなどの茶の湯の場で用いる茶陶

で，その起源は明らかではないが室町後期と推定され，桃山時代の文禄・慶長期（1592～1614）にすぐれた遺例が多く，その窯跡は土岐市・多治見市近傍の大萱(おおがや)・高根・久尻(くじり)定林寺などに残っている。〔矢部良明〕

しのりがも 鳥類・ガンカモ科。全長40cm前後の海ガモで，雄は濃い紺色・錆色(さびいろ)の複雑な模様の羽毛で，目先から頭側にかけて広く白色部があり，美しい。雌は全体にかっ色。日本には冬季に主として本州中部以北の沿岸に少数が渡来し，北海道にはやや多い。



シノリガモ

しば【芝】 単子葉植物・イネ科。ワシバ・ノシバともいわれ，日あたりのよい草地に自生する多年草。茎は地面を長くはい，節からひげ根と短い茎を直立させる。葉は線形で長さ5～10cm，幅2～5mmで，長毛があるが，のちに脱落する。5～6月，5～20cmの花茎を伸ばし，長さ3～5cmの花穂をつける。小穂は長さ3mmで1花よりなり，なめらかである。近縁のものに，小穂の狭いコウライシバ(造園ではビロードシバなどという)，海岸にはえるオニシバ・ナガミノオニシバなどがある。





シ　バ
(上左)シバ　(上右)オニシバ　(下)コウライシバ

シバ［Sheba］ アラビヤ南部，現在のイエメン南西部にあったシバ国の女王。《旧約聖書 列王記第1》の10章1～13節に，ソロモンの名声を聞いてその知恵を試そうとやってきたが，予想をはるかにこえる知恵・繁栄に驚嘆し，数々の高価な品物を贈り，また贈られて，自国へもどったと記されている。交易がほんとうの目的だったらしい。

シバ［Siva］ ヒンズー教の主神の一。〈吉祥〉の意。《リグ-ベーダ》では暴風神ルドラとして登場するが，ヒンズー教ではシバ派の最高神とされ，ビシュヌ派の最高神ビシュヌとともに最も有力な神である。妻はパールバチー，乗り物は雄ウシのナンディである。彼は戦場などの恐ろしい場所に潜み，あらゆるものを破壊する。また，ヒマラヤのカイラーサ山にあって瞑想(めいそう)にふけり，その瞑想によって世界が維持されると考えられている。舞踊・音楽の主としても尊崇され，おもにリンガ(男根)の形で崇拝される。世界の創造神ブラフマン・維持神ビシュヌとともに破壊神シバは三位一体とみなされ，これらの三神は同一神の異なった局面と考えられている。〔前田専学〕



シ　バ　エレファンタ石窟の《踊るシバ像》8世紀

しば【芝】 東京都港区の東部から南部にかけた地区で，もと芝区として独立していたが，1947年(昭和22)麻布・赤坂の2区と合併して港区となった。江戸時代には寺社・武家地として知られた地である。東側は東京湾に面し，埋め立て地に電気関係を主とする大小の工場が集まり，かつ東京港の主要岸壁地区をなす芝浦がある。北東部は銀座に続く商店街の新橋で，その南に東京タワーや増上寺のある芝公園がある。南部は，芝・三田・高輪(たかなわ)・白金などの町々で，三田にはイタリア・オーストラリアなどの大使館，慶応義塾(ぎじゅく)大学がある。高輪・白金は山の手の高級住宅地で，高輪には泉岳寺があり，白金には明治学院大学・北里大学・聖心女子学院・国立公衆衛生院・東大医科学研究所・国立自然科学教育園などの学術・文化施設が目だつ。なお芝公園の北方にある高さ26mの愛宕(あたご)山には，防火(ひぶせ)神を祭る愛宕神社があり，また1925年(大正14)に日本で最初のラジオ放送局が置かれたところとしても名高い。〔浅井得一〕

じば【磁場】 磁化された物質や電流によって，空間に磁気力が作用しているとき，場の概念にしたがってその空間に名づけられた名。磁界ともいう。磁場は，磁力線や磁束によって図示される。磁場の強さは，磁気誘導 B および透磁率 μ を用いて，$H=B/\mu$(アンペア回数/m)で表わす。強さ m の磁極が単独に置かれているとき，そこから距離 r の点における磁界の強さ H は，その同じ点に強さ1の磁極をもってきたときに，これに働くクーロンの力の $1/\mu$ となる(→クーロンの法則)。また，磁力線に沿って1周する閉曲線 C に沿って積分 $\int_c Hdx$(x は c の上の長さの座標)を計算すると，それが閉曲線 C を貫く全電流(A)である(アンペールの法則)。〔堀内和夫〕

しばい【司馬懿】（179～251） 中国，魏(ぎ)(三国)の権臣。字(あざな)は仲達。河南省河内の豪族。曹操(そうそう)から長子曹丕(そうひ)の養育係を命ぜられ，曹丕即位ののち重用された。次の明帝のとき，蜀(しょく)の宰相諸葛孔明(しょかつこうめい)と五丈原で戦い(234)，孔明の病没によって勝利を収めた。238年には公孫氏を討って南満州・北朝鮮を平定，242年呉を攻め淮水(わいすい)流域に屯田(とんでん)を置いた。以後朝廷の実権を握り，孫の司馬炎が魏を倒して晋朝(しんちょう)を建てる基礎をつくった。〔勝村哲也〕

しはいかいきゅう【支配階級】 階級社会において政治上・経済上優越した勢力をもち，国家や社会を支配する権力を握っている階級。階級社会の歴史的発展に即していえば，①奴隷制社会における奴隷所有者たる貴族階級，②封建社会における領主および上級家臣団，③資本主義社会における資本家階級，およびその政治的代弁者たる政府与党の政治家や上級官僚などがそれにあたる。→階級

しはいすみれ【紫背菫】 双子葉植物・スミレ科。山地や山のふもとの日陰に多い多年草。直立した茎がなく，葉は根もとに集まり，長い三角状で基部は心臓形。春，8cmほどの花柄を出し，先に紅紫色の花をつける。葉の裏が紫色をおびるのでこの名がある。

しばいぬ【柴犬】 イヌの品種。本州の中部から山陰地方の山岳地帯に分布した小形日本犬で，ウサギ・テン・タヌキ・イタチ・キツネ猟に用いられた。現在はおもに番犬として飼われる。産地により信州柴・美濃(みの)柴・石州柴などの呼称がある。体高は36.5～39.4cmくらい。→イヌ

しばいばなし【芝居噺】 落語の一。大阪では芝居に関するはなしをさすが，東京では演出が芝居調の人情噺をいう。はなしが佳境にはいったとき後ろ幕を切って落とすと，繭居がかりの道具立ての背景になり，はなしも歌舞伎調(かぶきちょう)になる。演者は衣装を引き抜きで替え，鳴り物を聞かせるときには短刀・出刃などの小道具も使う。

しばうら【芝浦】 東京都港区の東部地区で，地名は芝地区の海岸部にあたることにちなみ，現在町名に芝浦1～4丁目がある。東京湾北西岸に沿う東京港の中心地区で，広い埋め立て地には大形船舶の接岸設備が整



司馬江漢《不忍之池》
1784　東京国立博物館蔵

い，運河も縦横に通じ，それに面して倉庫が立ち並ぶ。江戸時代から明治・大正期にかけては沖合いの船からはしけで貨物を運んでいたが，関東大震災で内外の救援物資が芝浦に集まったことを契機として築港が始まり，大正末期から昭和にかけて，南から芝浦岸壁・日の出桟橋(さんばし)・竹芝桟橋がつくられ，汐留(しおどめ)駅から芝浦岸壁まで3.8kmの臨港鉄道も建設された。港の発展につれて日本電気・沖電気工業をはじめ大小の工場が集まり，重工業地帯を形成している。首都高速道路の高速1号羽田線や浜松町駅からのモノレールが都心と東京国際空港を結んでほぼ南北に走り，竹芝桟橋からは伊豆(いず)諸島への定期船が出ている。芝浦3丁目に芝浦工業大学があり，また日本の代表的な総合電機メーカー東京芝浦電気株式会社の発祥の地である。〔浅井得一〕

しばえび　【芝蝦】　甲殻(こうかく)類・クルマエビ科。甲は薄く柔軟で，外形はクルマエビに似ているが，小形で15cmほどにしか成長しない。淡青色で多数の青色小斑点(はんてん)がある。東京湾・瀬戸内海・有明海などの内海・内湾の砂底に多く，産額も多い。東シナ海・南シナ海・黄海にも分布する。クルマエビには劣るが美味で，重要な食用エビである。

しばえん　【司馬炎】　(236～290)　中国，晋(しん)の初代皇帝。世祖，武帝。司馬懿(しばい)の孫。父司馬昭のあとを継いで晋王となり，265年魏(ぎ)(三国)から禅譲を受けて帝位につく。280年，呉の孫皓(そんこう)を降して中国を統一した。郡県制に封建制を併用，律令を整備して国の政治体制を整え，戸調式の発布と占田法・課田法を制定して自作農の育成と大土地所有の制限を試みた。しかし，国軍は弱く，そのうえ晩年には皇后の父楊駿(ようしゅん)が権力をふるい，また各地に封建していた宗室の力が強くなったため，炎の死後に八王の乱や永嘉(えいか)の乱が起こった。〔勝村哲也〕

しばおんこう　【司馬温公】　⇨司馬光

じはく　【自白】　刑事訴訟法では，被疑者または被告人が，自己の犯罪事実および刑事責任を認める供述のこと。犯罪事実を



シバザクラ

認めても，正当防衛などの違法性阻却事由を述べて，無罪を主張する場合は自白ではない。かつて自白が〈証拠の王〉といわれたのは，自己に不利益なことを陳述するのであるから真実にまちがいないと見なしたからである。しかし，捜査機関が事件解決を急ぐあまり，自白を強制したり拷問を行なったりする危険があるため，憲法および刑事訴訟法は，人権の保障と誤判決の防止の観点から〈任意性のない自白および任意性の疑わしい自白の証拠能力を否定する〉とともに，〈自白が唯一の証拠である場合は有罪とされない〉と規定し，自白の証拠能力を制限している(憲法38条2項・刑事訴訟法319条)。しかし，現在でも任意性のある自白が証拠のうちで大きな地位を有している点には変わりはない。

民事訴訟法では，自己に不利になるような具体的事実を告白し，しかもその告白が相手方の主張の全部あるいは一部と一致した場合に限って成立する行為をさす。この場合，慣例として裁判所は自白の真偽を判断する必要はない。〔井上公耳〕

しはくし　【市舶司】　中国で海上貿易に関する事務を担当した役所。唐代の714年はじめて広州に設置され，宋(そう)代に完備し，広州・泉州・温州・明州・杭州(こうしゅう)・秀州・密州に拡大されて，元に及んだ。明(みん)代には海禁(内外船舶の往来・通商に関する禁制)に伴う密貿易が増大し，その役割は減少する傾向にあったが，16世紀倭寇(わこう)以後はまったくその意味を失った。清(しん)代には市舶司はなく，広東(カントン)に海関が設けられた。〔勝村哲也〕

しばぐり　【柴栗】　双子葉植物・ブナ科のクリの一種。種々の型のうちの一型で，土壌(どじょう)のよくない土地に生ずる小形のものをさす。➔くり

しばこう　【司馬光】　(1019～1086)　中国，北宋(ほくそう)の政治家・学者。涑水(そくすい)先生・司馬温公などとよばれる。1038年進士となり，以後順調に昇進したが，神宗が王安石を登用して新法を実施すると，旧法党の中心人物として反論戦を展開した。しかし，中央政界から身を引く結果となり，《資治通鑑(しじつがん)》の編集に傾注し，これを完成。神宗が没して幼い哲宗が即位すると，宣仁太后(せんにんたいこう)の訓政に宰相として登用されたがすぐ死んだ。〔衣川　強〕

しばこうかん　【司馬江漢】　(1738～1818)　江戸時代の銅版画家・洋画家。名は峻(しゅん)，字(あざな)は君嶽(くんこく)，江漢は号で，ほかに不言道人・春波楼などともいった。はじめ狩野(かのう)派に学び，次いで鈴木春信ふうの浮世絵を描いて春重(はるしげ)を称し，さらに宋(そう)紫石について沈南蘋(しんなんぴん)の写生画風を学んだが，のち平賀源内に感化されて西洋画法に心酔した。わが国ではじめて本格的な銅版画の制作に成功し，多くの傑作を残した。著書《西洋画談》は江戸時代の数少ない洋画論の一つである。〔小林　忠〕

しばざくら　【芝桜】　双子葉植物・ハナシノブ科。モスフロックスともいう。北アメリカ原産の多年草で，乾燥した野原にみられる。春，地面に敷きつめたように開花するので，毛氈(もうせん)花壇の材料とされる。サクラに似た白・桃・濃桃色の花をつける。

しばし　【斯波氏】　清和源氏足利(あしかが)氏の一流。足利家氏が陸奥(むつ)(岩手県)斯波郡に下って斯波氏を称したのに始まる。代々尾張守(おわりのかみ)に叙せられたので尾張家ともいい，室町幕府にあっては兵衛督(ひょうえのかみ)または兵衛佐(ひょうえのすけ)に任ぜられたので武衛家ともよばれた。曾孫(そうそん)高経(たかつね)は，足利尊氏(たかうじ)に従って越前(えちぜん)・若狭(わかさ)(ともに福井県)の守護となり，高経の子義将(よしまさ)は前後3度管領(かんれい)となり，細川・畠山(はたけやま)氏とともに三管領の一つとなった。義将の子義重(よししげ)は，応永の乱の功により遠江(とおとうみ)(静岡県)・尾張(愛知県)の守護職を与えられた。下って義健(よしたけ)の死後は正嗣がなかったので庶流の義敏(よしとし)がはいったが，養子の渋川義廉(よしかど)が家督を継いだために相続争いが起こって没落し，これが応仁(おうにん)の乱の一因となった。なお，高経の弟家兼は奥州探題となり，子孫は大崎氏・最上(もがみ)氏を称した。〔村尾元忠〕

しばしょうじょ　【司馬相如】　(BC179～BC118)　中国，漢代の文人。蜀(しょく)(四川省)の人。辞賦にすぐれていたので漢の武

帝に登用された。武帝が西南の夷（い）を討伐したとき，《巴蜀（ばしょく）を諭（さと）す檄（げき）》や《蜀の父老を難ず》などの文章を書いて尽力した。代表的な辞賦に《子虚賦》《上林賦》があり，皇帝貴族の狩猟の盛大さや皇帝の庭園の豪華さを描き述べたもので，賦という文学形式の発展史上，重要な役割を果たした。なお，貧乏時代，富豪の娘卓文君との間の恋愛は有名な故事となって，後世詩文に題材を供している。〔今村与志雄〕

しばせん【司馬遷】（BC145？～？）中国，前漢時代の歴史家。字（あざな）は子長。太史令の官にあったため，太史公とよばれる。若い時代から各地を旅行し，古い記録・伝説の収集に努めた。父の司馬談は，自分が果たせなかった歴史の編纂（へんさん）を司馬遷に託して死んだ。BC99年，将軍李陵（りりょう）が匈奴（きょうど）に捕えられたとき，その弁護にあたって武帝の怒りをかい，宮刑に処せられたが，そのいやしめに堪えて《史記》130巻を完成した。鋭い人間観察と現実主義的な思考法をもった，漢代の代表的な知識人である。〔小南一郎〕

しばぜんこう【芝全交】（1750～1793）江戸後期の黄表紙作者。本名山本藤十郎。別号司馬全交・司馬交。江戸芝の生まれ。水戸（みと）藩の狂言師。《時花鸚今茶曾我（はやりやすひわちゃそが）》をはじめ多くの黄表紙を書いたが，特に《大悲千禄本（だいひのせんろっぽん）》は千手観音が手を１本ずつ損料貸しに出す趣向で，うがちを発揮した作品として知られる。

しばた【新発田（市）】 新潟県北東部の市。1423年（応永30）新発田氏が新発田城を築き，江戸時代には溝口（みぞぐち）氏五万石の城下町で，新潟平野北東部の穀倉地帯を控えて市場町として栄えた。明治以後は歩兵16連隊が置かれ，軍都として発展した。1947年（昭和22）市制施行，人口77,000。市域は山形県境の飯豊（いいで）山（2,105m）の山頂から干拓の行なわれている旧福島潟（ふくしまがた）の潟湖（せきこ）地帯に至る加治川流域一帯を含み，中心市街は加治川渓口（けいこう）扇状地の扇端に位置する。産業三大別人口比は24：24：52。周辺平野部の米その他の農産物を集散するほか，伝統的な酒造りと製材業が盛んである。近年，新潟新産業都市に含まれ，1969年秋に開港した新潟東港の至近背後都市として工場の誘致が進んでいる。加治川上流部の赤谷鉱山は藩政時代から鉄・亜鉛・鉛などの鉱産があったが，最近は産額が減って廃鉱になった。羽越本線が通じ，新潟とは白新線，赤谷とは赤谷線で結ばれ，国道７号線のバイパスが通ずる。あやめ湖，サクラの名所加治川堤などの景勝地があり，胎内二王子県立自然公園や磐梯朝日（ばんだいあさひ）国立公園の新潟県側の観光基地である。明治の実業家大倉喜八郎の出身地で，諏訪（すわ）町にある新発田藩の足軽長屋跡は1969年に重要文化財に指定された。〔浅井得一〕

しばた【柴田（町）】 宮城県南部，阿武隈（あぶくま）川とその支流白石川の合流部を占める柴田郡の町。1956年（昭和31）船岡（ふなおか）町と槻木（つきのき）町とが合併して誕生。人口32,000。槻木は奥羽街道の宿場町，船岡は伊達（だて）騒動の立て役者原田甲斐（かい）の居城地であった。その城跡は西方の丘にあり，いまは船岡公園となって観光客でにぎわう。食品・木工などの工業がある。東北本線と国道４号線が通じ，仙台（せんだい）市への通勤者も多い。

しばたかついえ【柴田勝家】（1522～1583）安土（あづち）桃山時代の武将。清和源氏の流れで，斯波（しば）氏の一族といわれる。権六のち修理亮（すけ）と称した。はじめ織田信長（のぶなが）の弟信行に仕え，信長を倒して信行を擁立しようとして失敗し，信長に降服した。その後歴戦して戦功をたて，信長第１の宿将となって信長の妹お市の方をめとり，越前（えちぜん）（福井県）北庄（きたのしょう）（福井市）によって北陸経営にあたった。本能寺の変後信長の後嗣をさだめる清州会議に参加し，信長の三男信孝（のぶたか）を推して，長男信忠（のぶただ）の嫡子三法師を擁立しようとする豊臣秀吉（とよとみひでよし）と対立した。1583年（天正11）信孝を奉じて滝川一益（かずます）と結び，一挙に秀吉を除こうとして出撃したが，賤ケ岳（しずがたけ）の戦いで秀吉の軍に敗れ，居城北庄で自殺した。〔高崎徳次〕

しばたきゅうおう【柴田鳩翁】（1783～1839）江戸後期の心学者。名は享，字（あざな）は陽方，通称は謙蔵。京都の人。父母の死後江戸に下り，７年間苦学したが志を得ず，25歳で帰京した。39歳で手島堵庵（とあん）に入門して心学を学び，のち心学教化に尽くす。45歳のとき失明したが，その後も各地に巡講し，心学を広めた。著書に《鳩翁道話》がある。

しばたけいた【柴田桂太】（1877～1949）植物生理化学者。東京に生まれる。1899年（明治32）に東京大学の植物学科を卒業。第一高等学校・東北大学を経て東京大学教授。フラボンの研究，チトクロームの研究，光合成機作の研究などですぐれた成果をあげた。

しばたつと【司馬達等】 生没年不詳。６世紀の帰化人。鞍作部（くらつくりべ）の工芸集団を率いて朝廷に仕えた。《扶桑略記》によると，522年来朝とあるが不詳。仏教伝来の当初蘇我（そが）氏と協力して仏教普及の中心的人物となった。敏達（びだつ）天皇の代に蘇我馬子の命を受けて仏教の修行者を求め，その子島女・多須奈（たすな）も出家して，家族をあげて物部（もののべ）氏による仏教迫害の中でよくその信仰を貫いた。なお，鞍作止利（くらつくりのとり）はその孫。〔高崎徳次〕

しばたれんざぶろう【柴田錬三郎】（1917～1978）小説家。岡山県の生まれ。本姓斎藤。慶応義塾（ぎじゅく）大学支那（しな）文学科卒業。1951年（昭和26）《イエスの裔（すえ）》により直木賞を受賞。《眠狂四郎無頼控》などにより剣豪小説ブームをまき起こした。

じばち【地蜂】 ⇨クロスズメバチ

しばちゅうたつ【司馬仲達】 ⇨司馬懿（しばい）

しばづけ【柴漬け】 平安時代からある歴史の古いつけ物で，京都の名産。ナス・ムラサキジソ・ウリ・ミョウガ・トウガラシ，タデの穂を加えて10～20日間ぐらい塩づけにしたもので，香味・色彩ともにすぐれている。これを圧搾器でよく水をしぼり，細かく刻み，しょうゆ・みりん（砂糖）などで調味して１週間ぐらいつけ込んだものを味しばづけという。

ジハード［Jihād］ イスラム教徒の異教徒に対する戦いで，聖戦とよぶ。イスラムの改宗戦争は〈剣かコーランか〉といわれるほど熱烈なもので，この戦いで殉死する者は直ちに天国に上っていっさいの罪悪は許され，聖戦に流す１滴の血は断食と礼拝の２か月にまさるとされた。

しばのりつざん【柴野栗山】（1736～1807）江戸後期の儒学者。讃岐（さぬき）（香川県）高松の生まれ。郷里で後藤芝山（しざん）に師事し，18歳のとき江戸に出て昌平黌（しょうへいこう）に学ぶ。32歳阿波（あわ）藩の儒者となり，1788年（天明８）昌平黌教授に任ぜられ，官学復興に活躍した。古学排斥のため，老中松平定信（さだのぶ）に〈寛政異学の禁〉を建議した。古賀精里・尾藤二洲（にしゅう）とともに〈寛政の三博士〉といわれる。博識で漢文に長じていた。著書《栗山文集》その他。〔小田　博〕

しばふ【芝生】 シバを一面に植えつけてある土地。芝生には次の効用がある。①観賞用：芝生の緑は慰安感を与える，②保健用：夏涼しく冬暖かい，③飛塵（ひじん）防止用：ほこりの飛ぶのを防ぐ，④広場を与える：家庭では一家だんらんの場を与え，公園や運動場では遊ぎや運動をする場を快適にする，⑤土くずれ防止用：根を広く張るので盛土斜面などの土くずれ防止に好適。

〈しば〉〈しばくさ〉などの語は古くから歌などによまれ，《万葉集》などにも見受けられるが，この語は下草や小木の類をも含む広い意味をもっていた。現在，造園に用いられるシバを大別すると，日本シバと西洋シバに分けられる。

日本シバにはコウライシバ・ビロードシバ・ノシバがあり，高温期に生育するが冬は休眠する。性質はじょうぶでいかなる土質にも生育し，乾燥・大気汚染・潮風などにも耐え，病虫害にも強い。草たけが低いので刈り込み回数も少なくてよく，刈り込み・踏圧にも耐える。しかし，張り付けに労力を要し，日陰や停滞水に弱い。コウライシバはノシバの改良品種で，葉の細いもの，中等のもの，細いものがあり，細いものほど良質とされ，耐寒性はやや劣るが，庭園・公園・競技場などに用いられる。ビロード



暫
鎌倉権五郎景政(17世市村羽左衛門)の元禄見得，後方の腹出しがそれに賞めことばを述べる

シバは葉が非常に細く，柔らかさではすぐれるが，やや繁殖力が劣り，耐寒性が弱いので暖地向きである。ノシバは葉が広くてかたく，すわると手足にやや痛みを感じるが，じょうぶなため手入れも簡単であり，公園・運動場・道路わきなどや土手の土止め用に植えられる。西洋シバは牧草になる種類が多く，冷涼地や冬の芝生としてよく，日陰にも育つが，夏に病害を受けやすく，草たけが高くなるので，刈り込みを多くする必要があり，水や肥料を多く要する。種子繁殖で数種を混合してまくことができ，新設に労力を要しない。日本ではあまり普及していない。バーミューダーグラス類・ベントグラス類・ブルーグラス類・フェスキス類・ライグラス類などがある。

日本シバは薄くはいだものを一定の寸法に切って売っており，これを張ってつくる芝張り法が一般的である。張り方には，目地の間隔を3cmほど置いて張っていく目地張り，一枚置きに張る市松張り，すき間なく張るべた張り(めくら張り)などがある。時期は無霜期であればいつでもよいが，3〜4月が最適期。日当たりがよく，水はけのよい土地に植え，施肥・灌水(かんすい)をする。刈り込みを年に数回行なう。雑草が混じるとシバが弱り外観もそこなうので，除草を行なう。

しばまたたいしゃくてん【柴又帝釈天】 東京都葛飾(かつしか)区柴又にある日蓮宗(にちれんしゅう)の寺。柴又帝釈天は通称で，寺名は題経寺。寛永年間(1624〜1643)月忠上人(しょうにん)が開山となって創立。一時堂舎が荒廃したが，1778年(安永7)に庚申(こうしん)の年にあたる第9代の住職日敬が日蓮上人の親刻と称する帝釈天の板本尊を堂舎の棟(むね)から発見，これを庶人に拝ませて寄捨を募ったところ，江戸末期に流行していた*帝釈天信仰と*庚申信仰とが結合して，江戸市民の信仰を大いに集めた。江戸の近郊に位置し，江戸川に臨んで風光に富み，江戸市民の絶好の参詣地(さんけいち)となった。明治・大正期から現在に至るまで，庶民的な信仰を集めて親しまれている。〔高崎徳次〕

しはらいじゅんびせいど【支払い準備制度】 ⇨準備預金制度

しはらいめいれい【支払い命令】 簡易*裁判所が債権者の申し立てにより，金銭その他の代替物または有価証券の一定数量の給付を目的とする請求についてとる，簡易な督促手続き。支払い命令が相手方に送達されてから2週間内に異議を申し立てないときは，債権者の申し立てによって*仮執行宣言を受ける。さらにこれに対しても相手方から異議のない場合には，確定判決と同じ効力をもたせることができる。相手方が争力のない場合や少額債権の場合に，訴訟を起こすより簡易なので利用されている。〔内田剛弘〕

しばらく【暫】 歌舞伎(かぶき)狂言。元来*顔見世狂言に必ず挿入(そうにゅう)される趣向の一つであるが，それが独立した一場として固定したもの。悪人が善良な男女の首を討とうとするとき，主人公が花道の揚幕から〈しばらく〉と声をかけて登場することから生まれた俗称がそのまま外題となったものである。1692年(元禄5)に，初世*市川団十郎が《大福帳朝比奈百物語》でこの趣向を演じたのが最初で，1697年(元禄10)の《参会名護屋》で，今日のような演出がつくられたとされる。主人公の名は，その年の顔見世の〈世界〉によって決まったため，いくつもあるが，現在行なわれるものは鎌倉権五郎景政(かげまさ)である。紅の筋隈(すじくま)をとり，柿色の素袍(すおう)に長い太刀(たち)をつけ，豪快な*荒事で演じる。〈*つらね〉と〈元禄見得〉は《暫》の重要な演技である。*歌舞伎十八番の代表的な作品。〔服部幸雄〕

しばられたプロメテウス【縛られたプロメテウス】 古代ギリシアの悲劇詩人*アイスキュロスの悲劇。《火をもたらすプロメテウス》《解放されたプロメテウス》と3部作をなす。BC460年代の末，アイスキュロスの晩年の作品という説が有力である。ティタン神族のひとり*プロメテウスは神々をあざむいて人間に火を与え，さまざまな技術を教えた。これを怒ったゼウスは懲罰のためにプロメテウスをコーカサスの岩壁に縛りつける。*オケアノスの娘ネレイデスらが同情して集まっているところへ，ゼウスのためにウシに変身させられた人間の娘*イオが狂いさまよってくる。プロメテウスはイオの行く末を予言する。しかし，自分の将来を知りたがっているゼウスには予言を拒否したため，ゼウスの雷によって地底に沈められる。暴力的なゼウスの姿と，人間愛ゆえに反逆的なプロメテウスの意味をめぐって，多くの問題を含む作品。〔久保正彰〕

しばりょうたろう【司馬遼太郎】(1923〜　) 小説家。本名福田定一。大阪の生まれ。大阪外国語学校蒙古(もうこ)語科卒。新聞記者生活を経て1959年(昭和34)《梟(ふくろう)の城》で*直木賞を受賞，風土感に根ざした時代小説の新風をもたらした。その後歴史小説に接近し，《龍馬(りょうま)がゆく》《国盗り物語》《殉死》《世に棲(す)む日々》などを発表，その第一人者となった。語り口の妙，歴史截断のみごとさに定評がある。

しはん【死斑】 死後まもなく体の下部(背面)に発生する斑紋。死後に早くて1時間，普通は3〜4時間で発生する。はじめは斑紋状であるが，時間がたつにつれて癒合(ゆごう)して背面全体に生じるようになる。圧迫されている部分には死斑が生じない。一般に色は赤紫か暗赤紫色であるが，一酸化炭素中毒死・青酸中毒死では赤色，凍死では鮮紅色，塩素酸カリ中毒死・亜硝酸ソーダ中毒死などでは暗かっ色，硫化水素中毒死などでは緑色である。死斑は血液が重力によって血管に沿って下方に移動する(血液就下)ために生ずる。したがって窒息死や急性心臓死のように血液が凝固しないで流動性である場合には早く強く現われるが，失血死のような血流量が減少している場合には現われ方が弱い。また，死後およそ10時間以前の死体においては，死斑を指で圧すると一時的に褪色(たいしょく)するし，死体の位置を変えれば死斑が移動するが，それ以上時間が経過している死体では褪色も移動も起こらない。〔青木利彦〕

じはん【自判】 ⇨三審制度

じはん【児斑】 蒙古斑(もうこはん)ともいう。乳幼児の腰部・臀部(でんぶ)・大腿部(だいたいぶ)外側・肩甲部および頸部(けいぶ)などに見られる青みがかった色素斑。モンゴル人その他の東洋人に多く，はっきり見られ，日本人乳児では99.5%に見られるが，5〜6歳では約50%，10歳では約3%に減り，成人ではまったく見られなくなる。白人種にまったくないというのではなく，色素が薄いためにほとんど見えないか，見られても1〜2%にすぎない。わが国では地方により，胎児のときに産神様(うぶがみさま)に早く生まれよとたたかれたあとであると信じられている。〔宇留野勝正〕

しはんがっこう【師範学校】 主として，初等学校教員を養成することを目的として設けられた学校。1872年(明治5)の*学制において師範学校の開設を定め，東京に設立された。その後各府県に設立され，1886年の〈師範学校令〉によって制度的にも内容的にも確立した。*森有礼がこれを推進し，師

範学校の教育に国家主義の原理を導入し，兵式体操を採用，全寮制のもとでの軍隊式教育をめざした。そのため，卒業生に〈師範タイプ〉といわれる共通の性格的特徴が形成され一般的には自由で創造的な教育者の造出をはばんだといわれている。

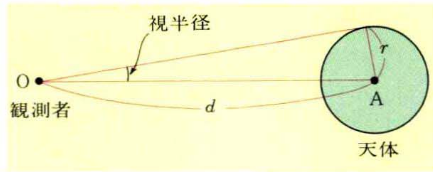
1907年に，それまで高等小学校卒業者を入学資格としていたのが，新たに中等学校卒業者を入れる本科第2部が併設され，のちにはこれが重きをなして1943年(昭和18)に専門学校に昇格した。第2次世界大戦後は新制大学の教育学部と学芸大学*の母体となった。〔中野　光〕

しはんけい【視半径】 天体の見かけの半径を見込む角度。天体の実際の半径を r，地球と天体間の距離を d とすると，視半径は $\sin^{-1} r/d$ で表わされ，r に比べて d が大きいので $\sin^{-1} r/d \fallingdotseq r/d$ なる関係がなりたつ。したがって，視半径は半径が大きいほど大きく，また，半径が同じであれば距離が小さいほど大きくなる。すなわち，視半径は，実際の半径に比例し，距離に反比例する。恒星では，いちばん近いもの(ケンタウルス座の α 星)でも4.3光年もあるので，視半径は観測にかからない。視半径が問題になるのは太陽系内の天体であり，太陽と月の視半径はともに約16′である。日食・月食が起こるのは，太陽と月の視半径がたまたま同じ値に近いからである。〔木下　宙〕

ジバンシー［Hubert de Givenchy］(1927〜　) フランスの服飾デザイナー。ボーベに生まれ，美術学校に学んだ。モードに関心が強く，ファット・ルロン・スキャパレリ*などの店で働き，特にスキャパレリの影響を強く受けた。1952年独立して店を構え，時代の要求を的確にとらえた若々しく機能性の高い作風で大成功を収めた。彼のプレタポルテ*は日本人にも愛好される。

じばんちんか【地盤沈下】 軟弱な地盤が広い地域にわたって沈降する現象。河川の三角州のような軟弱な地層でできた地帯は，長期間には自然に地層が固まり，体積が収縮して地表面が低くなる。このような地域で工場などの井戸が地下水をくみ上げると，地下水位は極端に下がり，地層の圧縮はいよいよ進むので地盤の沈下を生じ，いわゆるゼロメートル地帯といわれる海面下の地域を生じる。東京江東区の一部では，最近の4〜5年間に4m近くも沈下して江東ゼロメートル地帯を生じ，新潟県下でも天然ガス・塩水のくみ上げなどで沈下を起こしている。このような地域では，堤防をつくったり用水の制限をしたりして沈下に対する対策を行なっている。地殻(ちかく)変動(たとえば地震)に伴う沈下や，長期にわたって自然に行なわれる海岸の沈降などがあるが，一般に地盤沈下という場合には前記の作用をさしている。〔平山　健〕

しはんびょう【紫斑病】 出血性素因*の主症状の一。内皮細胞間物質の代謝異常



視　半　径

(毛細管壁の透過性亢進(こうしん)により，血漿(けっしょう)や血球が壁外に流出するもの)によって起こる。皮下ならびに粘膜下に出血し，赤紫色の斑紋が出現する状態をいう。本態性血小板減少性紫斑病・症候性血小板減少性紫斑病・中毒性血小板減少性紫斑病・リウマチ性紫斑病・線維性溶解性紫斑病などに分類される。

しばんむし【死番虫】 こん虫類・鞘翅(しょうし)目・シバンムシ科の総称。微小ないし小形の種が多く，体は円筒形，頭部は下向きで前胸背板下に隠される。触角は鋸歯(きょし)状・くし歯状・根棒(こんぼう)状を呈する。幼虫はコガネムシ型で非常に小さく，枯れ木中に生活するものが多い。一般には主として乾燥した動植物質のものを食物として生活し，害虫が多い。全世界から約1,200種が知られ，日本には約30種が分布する。日本に産する代表的な種類には次のようなものがある。①ジンサンシバンムシ：体長2.5mm内外，全体明るい赤かっ色で，灰黄色毛が密生する。クスリヤナカセともいい，乾燥植物質や加工品の害虫。本州・四国・九州のほか，世界各地に分布する。②フルホンシバンムシ：体長3mm内外，濃赤かっ色，鞘翅は暗色。古本の害虫として知られ，本州のほかヨーロッパなどに分布する。③トサカシバンムシ：体長4〜6mm，黒色で，背面は黄かっ色と白色の短毛と黒色の毛塊による不規則な斑紋(はんもん)を現わす。北海道・本州に分布する。④ケブカシバンムシ：体長4〜5mm，濃かっ色で，背面には灰黄色の微毛を密生し，かっ色毛による2本の不明瞭(ふめいりょう)な横帯を現わす。枯材を害する。本州・四国・九州のほか世界各地に分布する。⑤クシヒゲシバンムシ：体長4.5mm内外。暗かっ色ないしかっ色，鞘翅はやや淡色。顕著なくし歯状の触角をもつ。枯れ木のほか，畳表やテックスなどを穿孔(せんこう)する。日本全土のほか東南アジアから知られる。⑥タバコシバンムシ：体長2.5mm内外，黄赤かっ色で，黄色毛を密生する。タバコの大害虫で，乾燥した種々の植物質をも害する。本州・四国・九州のほか世界各地に分布する。〔鈴木邦雄〕

じひ【慈悲】 仏教用語。慈は梵語(ぼんご)maitreya(マイトレーヤ)またはmaitrī(マイトリー)の訳，悲は梵語karuṇā(カルナー)の訳。慈は元来，友情を意味することばで，〈不請之友(ふしょうのとも)〉と経にある語と同義で，あらゆる人々に変わることのない，真実の愛情をいだくこと。悲は，〈子どもをなくした母親の悲しみ〉を意味し，つらい体験をもとに，それを振り替えて，相手の立場になって積極的に相接し，その苦しみをいやすこと。古来から慈は与楽，悲は抜苦とよばれている。仏が人々の苦しみを自己の苦しみとして同調するのを同悲といい，仏と人間が同じレベルにあることを強調している。特に仏の偉大な慈悲を，大慈悲または大悲とよんで区別することもある。〔石上善応〕

シービーアールへいき【CBR兵器】 Cはchemical(化学の)，Bはbiological(生物学の)，Rはradiological(放射線学の)の略で，それらを利用した兵器の総称。きわめて高価である核兵器に比べ，安価でしかも大量殺戮(さつりく)が可能であり，また建物などを破壊しない点にCBR兵器の特長がある。1960年9年23日の国連総会で，ソ連のフルシチョフ首相がはじめてCBR兵器の生産停止を主張したが，米ソともこの兵器の開発に努力している。制限戦争における効用が特に大きいとされる。〔藤井冬木〕

じびいんこうか【耳鼻咽喉科】 耳・鼻・咽頭・喉頭の解剖・生理・病理・予防・治療に関する学問で，耳科学と鼻科学および咽喉科学とが合併して成立した臨床医学の一分科である。臨床においては，気管・食道科学と音声・言語学が関連分科として，取り扱われる。

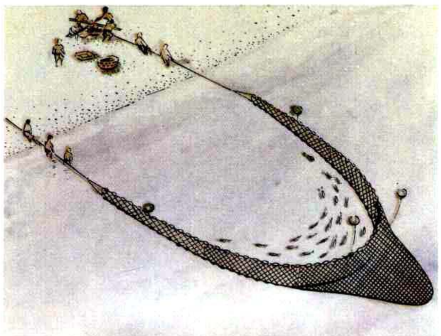
すべての医学の分野が紀元前ヒッポクラテスの時代にさかのぼるように，耳科学はすでにこの時代にある程度経験的に発達し，その後イタリアにおける系統的解剖学の発達によってルネサンス以降になって，耳や鼻の細かい部分がわかってきた。当時の解剖学者の名をとって，たとえば顔面神経管をファロピウス管，耳と鼻咽腔(びいんこう)をつなぐ耳管をエウスタキオ管(欧氏管)とよんで現在でも用いている。また当時最大の解剖学者ベザリウスは，耳小骨のうち槌(つち)骨・砧(きぬた)骨を発見し，その弟子(でし)によって鐙(あぶみ)骨が発見されている。19世紀になると，解剖および生理の研究もいっそう精細に発達し，耳鼻咽喉科学が臨床医学としての基礎を確立したのはフィルヒョウ*の細胞病理学の確立によってである。なお，鼻科学・咽喉科学の発達は耳科学よりは遅れ，19世紀の中期に反射鏡(額帯鏡)が発見されてから急速に進歩した。

抗生物質の発見後，化学療法の発達によって，耳鼻咽喉科の臨床では乳様突起炎などの急性化膿(かのう)性疾患が姿を消しつつあり，現在は非炎症性の聴力障害・前庭機能障害・言語障害・神経性疾患・悪性腫瘍(しゅよう)そしてアレルギー性疾患・慢性炎症(慢性副鼻腔炎や慢性中耳炎)および奇型などの治療が，おもな対象となってきている。〔清水淑郎〕

シービーエス［CBS］ Columbia Broadcasting System の略称。コロンビア放

送システム。アメリカのテレビ・ラジオ放送の事業体。ABC*・NBC*・MBS*とともにアメリカ四大ネットワークの一。1927年2月ラジオ放送を開始し，1931年7月はじめてテレビの定期実験番組を放映した。1951年世界最初のカラーテレビの商業放送を開始。時流に敏感で，企画実施においても迅速な機動性をもち，アメリカ国民の娯楽生活にとけこんでいる。本社はニューヨーク。なお，1968年(昭和43)日本のソニーと合併会社CBSソニーを設立した。〔飯田良明〕

じびきあみ【地引き網】 引き網の一種。網を陸岸に引き上げて漁獲を行なう網具。両翼網と袋網とからなるのが普通で，翼網には引き寄せるためのロープが連なっている。敷設の方法には片手回しと両手回しとがある。前者は，一方の曳行(えいこう)ロープを陸岸から1隻で沖合いまで網を張り延べていき，適当な場所で袋網部を投入，続いて陸岸に向かいながら他の翼網を海中に投じ，陸上に他端のロープを渡す。後者は，2隻の漁船を用い，沖合いで袋網部を投入，続いて両翼網，曳行ロープを海中に投じ，他端を陸岸に渡して敷設を終わる。遠浅の海岸で用いられることが多く，アジ・サバ・イワシなどがおもな漁獲対象物である。近年は，大ぜいの労務者を投入するわりには漁獲量が少ないので，漁法としてはすたれてきた。〔石野 誠〕



地 引 き 網

シービーシー［CBC］ Canadian Broadcasting Corporation の略称。カナダ放送協会。1936年11月カナダ放送法に基づいて設立された特殊法人。全国的放送業務を運用するための公共企業体で，カナダ全土にわたる直轄局と加盟私設局放送網に対して自主番組と商業番組を送っている。本部はオタワ。11名の理事会によって運営され，財源は法定助成金と受信機と部品に対する物品税，さらに商業放送による収益などによっている。なお，日本の中部日本放送*(CBC)とは別。〔飯田良明〕

シービーユーばくだん【CBU爆弾】 Cluster Bomb Unit(散弾型爆弾)の略。爆弾の中に子爆弾があり，それがさらに無数の小鉄球を四散させて対人殺傷を効果的に行なう。その形状から，パイナップル爆弾・ボール爆弾などとよばれる種類があり，アメリカ軍がベトナムで使って非難された。

しびょうし【四拍子】 能における楽器。すなわち能管*・小鼓*・大鼓*・太鼓*の総称。構造的にはいずれも簡単で，音色も単純であるが，一曲上演の音楽的成功不成功のかぎを握るものといってよい。謡の伴奏や役者の登退場・舞などの伴奏が主たる役割で，曲によっては太鼓は使用されない。

じびょうし【地拍子】 謡曲のリズムの取り方。謡曲にはリズムに合わぬ部分もあるが，リズムに合う部分〈拍子合(ひょうしあう)〉は，基本的には1句を8個の拍子に配分してうたわれる。この〈八つ拍子〉のリズム法に，1拍を1字に割り当てる大ノリ，1拍を2字に割り当てる中ノリ(修羅(しゅら)ノリ)，および特殊な拍子配分をする平ノリ・渉拍子地(わたりびょうしじ)の4種がある。なお，七五調などのように8個の拍子に分割することのできる1句を本地というが，ほかに，4個の拍子にあたるトリ，6個の拍子にあたる片地，2個の拍子にあたるオクリなどの短い句が挿入(そうにゅう)されたり，1句の途中に特殊な節を設けたりすることもあって，このような場合にはリズムがきわめて複雑になり，地拍子を理解するためにはなみなみならぬ習練を要する。また1句が終わって次の句に移る場合にも，上のように複雑な地拍子の規則に従って各種の間が設けられるが，多くの場合これを空白とせず，前の句の終わりを長く引いて歌ってこの間を埋め，単に息つぎの短い休止だけを残す。間は短い順に半声の間，本間，当ルヤの間，ヤの間，ヤアの間，ヤヲの間，当ルヤヲハの間，ヤヲハの間，長ヤヲハの間という。〔長尾一雄〕

しひょうしょくぶつ【指標植物】 生物の生活を支配する各種環境条件のうち，おもに気候因子と土壌(どじょう)因子の総合された条件を表示するときに役だつ植物や植物群落のこと。植物は各種環境条件に対する反応を顕著に示すため，生活条件が明らかな植物については，その生育地の環境条件を物理化学的測器を使用することなく，植物の生活を通して推察することができる。指標植物の研究は1920年代から始まり，農林業の適地判定や土地生産力の管理のために利用されている。〔片岡寛純〕

しびれ【痺】 一種の知覚異常で，一般には長くすわっていたときにあしに起こるしびれる感じをいう俗語。いろいろな意味が含まれ，布などを隔ててさわられたような鈍い感じ，ちくちくしたりぴりぴりしたりするような感じや，非常に敏感になっている状態などにも用いられる。手あしのしびれは，末梢(まっしょう)血管の圧迫や障害によって起こり，動脈硬化やレイノー症候群が原因となることがある。なお，電気にしびれる，舌がしびれるなど，しびれという語は異なった感覚を表現する場合に用いられることがある。

しびれうなぎ ⇨デンキウナギ

しびれえい【痺鱝】 軟骨魚類・シビレエイ科。体長30cmに達し，体は背腹方向に扁平(へんぺい)なうちわ形で，うろこがなく，柔軟である。胸びれの基部の皮下に腎臓(じんぞう)形の大きな発電器があって放電する。噴水孔が目の直後にあり，目よりも大きい。背びれは1基。背面はかっ色で，濃かっ色の不規則斑(はん)がある。腹面は背面より色が淡く，中央部に白いまだら模様がある。本州中部以南の浅海に住む。卵胎生で，5月ごろに4～6尾を生む。食用にしない。近縁種のヤマトシビレエイは全長1mに達し背びれが2基あり，体に斑紋がなく一様に暗かっ色である。発電器その他の特徴はシビレエイに似る。本州中部以南のやや深いところに分布する。

しびれなまず ⇨デンキナマズ

シフ［CIF］ cost, insurance and freightの略称。シー-アイ-エフともいう。貿易取引用語で，運賃・保険料払い込み条件をいう。CIF値段とは貿易品を目的国行きの本船に積み込むまでの費用を含めた本値段に，輸入地までの海上保険料と海洋運賃とを加えた価格で，輸入港沖着値段ともいう。国際的にみると貿易様式の70～80%はこの建て値による。なお，貿易当事者の間の取引がCIF値段で建てられると，国際慣行では〈CIF条件の売買契約〉を結んだものと認められ，その売り手と買い手は次の義務を負う。①売り手は，輸出港でその本船に約定品を船積みするまで，いっさいの責任(費用・危険)を負担する。②この船積みにより，以後買い手はその貨物についていっさいの危険(喪失・損傷)を負担する。③売り手は危険負担者となる買い手のために，船会社と運送契約を結び，運賃を払い，約定品を船積みし，船荷証券*を入手する。また保険会社と保険契約を結び，保険料を払い，保険証券を入手する。④このため売り手は本値段のほか，外国仕向け港までの保険料と運賃を負担するので，価格はCIF値段となる。⑤売り手は船荷証券と保険証券にインボイス*を加え，これらの船積み書類*を買い手に提供する義務を負う。⑥買い手はこの書類を受理しそれと引き換えに代金を支払う義務を負担する。すなわちCIF条件では，輸出港での本船船積みをもって売り手と買い手の責任限界とすること，売り手による約定品の引き渡しは，船積み書類の調達と提供によって行なわれること，また，買い手による代金の支払いは書類と引き換えになされること，こうした複雑な契約内容を条件とするところに特徴があり，これらは国際商業会議所の制定したインコタームズ(国際貿易条件)規則で定められている多年の慣行である。〔上坂酉三〕

しぶ【渋】 未熟な青いカキから得られる渋味のある混合成分。生のカキを砕き，水

を加えて数日放置し，濾過(ろか)し，その上澄み液を濃縮すると，カキの10～29％に相当する量の渋が得られる。赤かっ色ないし黒かっ色の液で，非常に複雑な成分からなり，主成分は数種の縮合タンニンからなっており，シブオールといわれるものである。シブオールは平均組成$C_{14}H_{20}O_9$で，糖を含まず，分解するとフロログルシンと没食子酸を生じる。紙や繊維の補強に使われることが多く，渋紙製造・木材塗料・漁網染料，漆の下地塗りなど広い利用面がある。

〔石戸良治・荒木洋之助〕

しぶ【篩部】 維管束*を構成する主要素の一。篩管・伴細胞・篩部柔組織・篩部繊維からなり，同化産物の通路・機械組織・貯蔵組織としての機能をもつ。シダ植物・裸子植物は伴細胞・篩部繊維を欠く。一次篩部は根端や茎端の前形層からつくられ，二次生長をする植物では形成層から二次篩部がつくられる。篩部は，並立維管束では形成層の外側，複並立維管束では木部の内外両側，外篩包囲維管束では木部を取り巻き，内篩包囲維管束では木部に取り巻かれ，放射維管束では木部と交互に並ぶ。

ジープ［jeep］ 山地を走破できるような強力な駆動力をもち，人が歩いて渡れる深さ(50cm程度)の川ならば渡ることもできるうえ，車体上部は幌(ほろ)でつくられており，前窓は前方へ倒すことができる自動車。アメリカ陸軍用に設計製作された四輪駆動の小型車で250kgの荷物の搭載(とうさい)あるいは4名(運転者を含む)乗車ができる。偵察(ていさつ)や1/4tトレーラーの牽引(けんいん)，負傷者の運搬に使われるほか，機関銃・無反動砲を搭載して戦闘車両にも使えるように車高を低くでき，敵に目だたずにすむ幌形式の車体が採用されている。〔成田武男〕

しぶえちゅうさい【渋江抽斎】(1805～1858) 江戸末期の漢方医。名は全善(ぜんせん)。字(あざな)は道純。津軽藩医允成(ただしげ)の長男として江戸に生まれる。早くから儒学を市野迷庵(めいあん)・狩谷棭斎(かりやえきさい)に，医学を伊沢蘭軒(いざわらんけん)に学び，長く藩医を勤めた。1844年(弘化1)幕府の医学校躋寿館(せいじゅかん)講師となった。医業のかたわら和漢の古書を収集鑑定し，《経籍訪古詩》を著わすなど，書誌学者・考証学者としても知られる。なお，森鷗外(おうがい)に史伝小説《渋江(しぶえ)抽斎*》がある。〔小田　博〕

しぶえちゅうさい【渋江抽斎】 森鷗外*(おうがい)の後期を代表する長編小説。徹底した調査に基づく作法により，一般に史伝小説とよばれるものである。1916年(大正5)《大阪毎日新聞》《東京日日新聞》に連載された。《武鑑》収集中に遭遇した渋江抽斎*にみずからと同じ資質・性向を見いだして，自己の理想像として描いた。

ジフェニル［diphenyl］ $C_{10}H_{12}$ ビフェニルともいう。ベンゼン2分子が直接結合した化合物である。伝熱媒体・柑橘(かんきつ)類用殺菌剤として，また，医薬品や染料の製造原料として用いられている。



ジープ(ランド・クルーザー)



渋沢栄一

ジフォスフォピリジンヌクレオチド［diphosphopyridine nucleotido］ DPNと略称されるが，近時はニコチンアミド-アデニン-ジヌクレオチドといわれる。➔NAD

シフォン［chiffon］ 密度があらく地の透いてみえる縮緬(ちりめん)の一種。絹・レーヨン・アセテートなどでつくる。無地・縞(しま)で，ドレス・ブラウス・ベール・婦人帽・人形衣装などに使われ，装飾的効果を現わす。

しぶおんせん【渋温泉】 長野県下高井郡山ノ内町にある山ノ内温泉郷の一湯。泉温29～95℃。泉質は弱食塩泉で，神経痛・皮膚病・リウマチなどにきくといわれる。志賀高原のふもとにあり，1304年(嘉元2)の開湯といわれ，江戸時代には草津街道の宿場としてにぎわった。古くから近在の人人の療養温泉として知られ，旅館街などにそのおもかげがみられる。志賀高原と草津高原を結ぶ新道の開通以後観光・湯治客がふえ，近くに大木平観光センターがある。長野電鉄湯田中駅からバスの便がある。

〔木村東一郎〕

シフォンベルベット［chiffon velvet］ きわめて薄地の絹織物の地に，レーヨン糸などでパイル(添毛)を織り込んだビロード織物。パイルの部分を模様に織り出したものがある。婦人服地・肩かけ・装飾衣料などに用いられる。

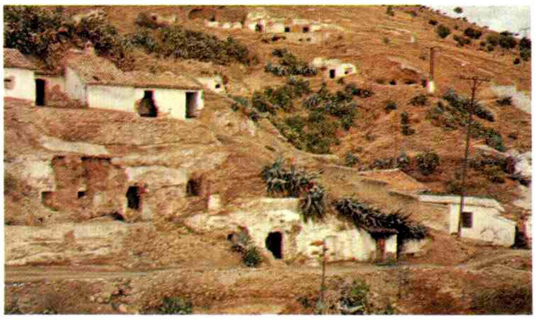
しぶかわ【渋川(市)】 群馬県中央部の市。江戸時代には三国街道に沿う宿場町・市場町であった。1954年(昭和29)市制施行。人口47,000。市域は榛名(はるな)山東斜面の末端部にあり，利根(とね)川と吾妻(あがつま)川の合流点に臨む谷口集落で，東部は利根川西岸の河岸段丘上を占める。産業三大別人口比は11：36：53。製糸・木工業をはじめ，鉄鋼・金属・化学などの近代工業も発達し，周辺農村部にはコンニャクの特産がある。上越線と長野原線の分岐点にあたり，国道17号線が通じ，伊香保(いかほ)温泉を経て榛名山に至る有料道路が西へ走り，奥利根・上信越高原方面への観光基地となっている。

しぶかわしゅんかい【渋川春海】(1639～1715) 江戸時代の天文学者・暦学者。京都の生まれ。はじめ安井(または保井)算哲といい，1692年(元禄5)に名を助左衛門(すけざえもん)に変え，1702年に姓を渋川と改めた。春海は字(あざな)。父のあとを継ぎ，もとは幕府の碁所の一員であったが，天文暦学にも詳しく，当時用いられていた宣明暦*が天象と2日近くも食い違っていることをみて，1684年(貞享1)中国の授時暦を参考にして新しい暦法を編集した。これを貞享暦(じょうきょうれき)といい，翌年から用いられた。この功績によって幕府初代の天文方となり，1689年には江戸本所の屋敷内に天文台を建てた。貞享の改暦までは，日本では中国の暦をそのまま用いていたのであるが，春海がはじめてこれを日本に適した暦に改めたので，彼は日本の暦学の祖といわれている。《日本長暦》《天文瓊統(けいとう)》をはじめ，暦学についての著書が多い。〔根本順吉〕

じふく【時服】 時候に応じて着用する衣服。奈良・平安時代以降，朝廷から毎年春秋または夏冬の二季に皇親以下諸臣に賜わった。ただし，のちには絁(あしぎぬ)・糸・布などその材料を賜わり，また臣下には季禄(きろく)として官位に応じて賜わり，すべて中務省(なかつかさしょう)がつかさどった。また江戸時代には，徳川将軍が大名・旗本(はたもと)に恩賞・贈答の趣旨で時服を与えた。これは綿入の小袖(こそで)で，あまりひんぱんに出したため持ち回りの傾向さえ生じた。

〔稲垣史生〕

しぶさわえいいち【渋沢栄一】(1840～1931) 近代日本を代表する大実業家。武蔵(むさし)(埼玉県)の豪農の家に生まれ，一時は尊王攘夷(じょうい)運動の志士であったが，1864年(元治1)一橋慶喜(よしのぶ)に仕えて幕臣となり，1867年(慶応3)渡欧，先進諸国の近代産業・経済事情を見聞してきた。このとき得た知識が，後年日本資本主義の指導者として近代化を推し進めるのに大いに役だった。帰国後，新政府の招きに応じて大蔵省官吏となり，租税・金融・銀行などの諸改革に力を尽くした。1873年(明治6)近代産業設立をめざして実業界に転じ，第一国立銀行創立を手はじめに，王子製紙・東京瓦斯(ガス)など，1916年(大正5)財界を勇退するまでに500余の各種会社・銀行の設立・経営に参与し，一方，手形交換所などの諸





ジプシー
(左上・下) スペインのグラナダ近郊のジプシー部落。彼らは山腹に穴を掘って住まいとし，定着している
(右上) ポルトガルのジプシー。家財道具いっさいを持ち，数家族でまとまって放浪している

機関開設にも携わり，日本近代経営はこの人によって確立されたともいえる。晩年は教育・文化・社会事業に力を入れ，この方面における業績も偉大である。〔片岡一郎〕

しぶさわけいぞう【渋沢敬三】(1896～1963) 渋沢栄一*の嫡孫。東京出身。東京大学卒業後，横浜正金銀行，第一銀行副頭取，日本銀行総裁を経て，1945年(昭和20)幣原(しではら)内閣に蔵相として入閣，新円切り替え，財産税の施行など，第2次世界大戦後のインフレーション収拾のため苦心し，経済再建に力を尽くした。一時追放を受けたが解除されて，国際電信電話会社社長・IOC常任理事などで活躍したほか，民俗学・生物学者としても著名で《日本魚名集覧》などを著わし，私財を投じて常民文化研究所を設立し，多くの学者の育成に努めた。〔片岡一郎〕

しぶし【志布志(町)】鹿児島県曽於(そお)郡の町で，志布志湾*に臨む。人口21,000。藩政時代は海外貿易で栄え，現在は大隅線・志布志線・日南線が会する大隅(おおすみ)半島の交通の要地で，港湾の整備も進んでいる。付近はシラス*の台地が広がり，サツマイモを中心に和牛とブタの産がある。1955年(昭和30)，沖の枇榔(びろう)島を含む海岸地帯が日南海岸国定公園に指定され，観光開発も進められている。

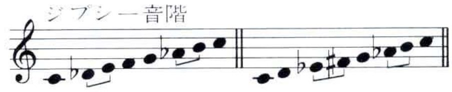
ジプシー［gypsy］インドを根拠地とされている無国籍放浪民族の一つ。多くの名称をもつが，〈ジプシー〉はエジプト人に由来する。彼らがいついかなる理由でインドを離脱し放浪生活にはいったか明らかでない。だいたい1000年ごろペルシアに達し，二つの系統に分かれ，一つは南西部に下ってエジプトと北アフリカに進み，他は北方コースをたどってヨーロッパ・バルカン諸国に及んだとされている。のちに南北アメリカ・オーストラリア・シベリアにも住むに至った。人口は約500万人，そのうち約100～150万人がヨーロッパに住んでいると推定される。言語はインド-ヨーロッパ語族に属するロマニー語。元来，移動・放浪の生活であったが，現在のヨーロッパでは移動・定住・半定住の諸生活形態がみられ，都市居住者がふえている。ジプシーは多くの種族に分かれているが，諸種族を統合させるような統率者や機構をもたない。各種族はいくつかの同族集団に分かれ，同族は数家族か数十家族で構成され，各家族は同一のテント・家屋に住む。種族には選ばれた首長がいて集団生活をつかさどり祭司を兼ねる。伝統的に歌舞音楽師・かじ屋・占い師，博労(ばくろう)などで知られ，特にウマの飼育と鑑定には定評がある。音楽的才能に恵まれ，その演芸はヨーロッパの祭りや祝宴に不可欠とされ，スペインやロシアのジプシーダンスは著名。宗教は多神教的・呪術(じゅじゅつ)的性格が強いが，近年キリスト教に改宗するものが増加してきている。〔佐々木宏幹〕



シフゾウ

〔音楽〕ジプシーは広域にわたる流浪の民族であるので，純粋のジプシー音楽はありえない。俗にジプシー音階と名づけられている増2度の音程を二つもつ和声的音階は，インド西部にいるジプシーがもともともっていたものがハンガリーを中心とする東ヨーロッパのジプシーに伝わったものだとされている。これは，トルコ・ギリシアの音楽にも影響を与えた。音階だけでなく演奏慣習や音楽に対する考え方は，東ヨーロッパ・スペインの民俗音楽の中にはいり込んでいる。情熱的で，色彩豊かな特徴をもっている。即興演奏が中心。〔山口　修〕

ジプシー音階



じぶしょう【治部省】律令(りつりょう)制下における中央官制八省の一。五位以上の官人の婚姻・継嗣・氏姓・陵墓・喪葬・僧尼・蕃客(ばんかく)などのことをつかさどった。被官に雅楽・玄蕃の2寮および諸陵・喪儀の2司があった。長官である卿(かみ)には大・中納言や親王を任じ，すこぶる重視されたが，のちには多く公卿(くぎょう)の兼任となり，有名無実となった。

しぶしわん【志布志湾】宮崎・鹿児島両県にまたがり，広くは都井岬(みさき)と火崎を結ぶ線，狭くは荒崎と高崎を結ぶ線を湾口とする日向灘(ひゅうがなだ)に広く開く大湾で，別名を有明湾と称する。北部に福島川，湾奥に菱田(ひしだ)川，南部に肝属(きもつき)川が流入し，北西岸に長さ16kmにわたる砂浜が開けるほかは岩石海岸をなす。北部には天然記念物に指定されている熱帯植物の繁茂する枇榔(びろう)島があり，その両方の砂浜海岸とともに日南海岸国定公園に含められている。湾北に地方港湾の志布志港(鹿児島県)，福島川の河口に福島港(宮崎県串間(くしま)市)がある。〔山口恵一郎〕

しふぞう【四不像】哺乳(ほにゅう)類・偶蹄(ぐうてい)目・シカ科。肩高1.1mほど。夏毛は短く赤茶色，冬毛は長く密で灰色をおびたバフ色。くびの長毛と尾の先は黒茶色。角は雌にはなく，雄の角は1年に2回はえ変わる。野生種の知られぬ珍獣で，1860年代に北京(ペキン)で飼育中のものが発見された。その後，北京のものは絶滅したが，イギリスに移入されたものが増殖し，現在では日本の動物園でも見られる。頭はウマに，角はシカに，からだはロバに，ひづめはウシに似るが，そのどれでもないというところからこの名があるという

しぶたみ【渋民】岩手県岩手郡玉山村西部の集落。もとは単独で渋民村を構成していたが，1954年(昭和29)玉山村ほか2村と合併して玉山村となった。北上川上流に沿い，西に岩手山(2,041m)，東に姫神岳(1,125m)を望む山紫水明の地で，歌人石川啄木*(たくぼく)の生地として知られる。東北

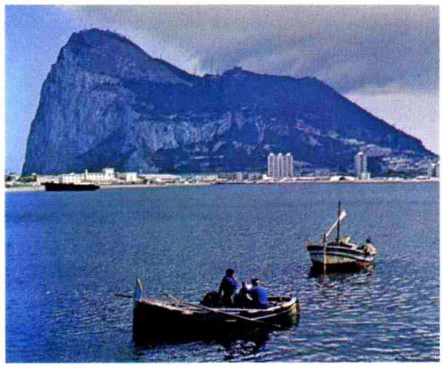
本線渋民駅があり，国道4号線が通ずる。啄木が幼少時を過ごした宝徳寺，代用教員時代の渋民小学校，北上川河畔の〈やはらかに柳青める北上の岸べ目に見ゆ泣けとごとくに〉の歌碑など，文学史跡が多い。

ジブチ ［Djibouti(Jibuti)］ アフリカ東岸にある港市でフランス領ソマリランドの首都であったが，1977年共和国として独立した。面積2万2000km²，人口11万(1977年推)。首都ジブチ。国土の大部分は不毛の乾燥地で産業は未発達。紅海の出入り口を制する戦略的に重要な位置にあり，フランス兵が駐屯している。

ジフテリア ［diphtheria］ ジフテリア菌によって起こる法定伝染病。菌は粘膜，特に咽頭(いんとう)後壁に付着増殖して毒素を出す。毒素は上皮細胞を冒して壊死(えし)・潰瘍(かいよう)をつくり，そこにフィブリン・白血球などからなる乳白色または灰黄白色の偽膜を形成する。毒素は全身に循環して全身症状を起こすが，菌はふつう病巣に限局して増殖する。寒冷期に飛沫(ひまつ)感染する。潜伏期は2～7日，多くは急性に発熱し，咽頭痛を訴え，イヌがほえるようなせきと呼吸困難を伴うことが多い。咽頭発赤は著明で偽膜がみられ，頸部(けいぶ)リンパ腺(せん)も腫脹(しゅちょう)し，顔全体がはれて見える。病巣部位によって，咽頭ジフテリア・喉頭(こうとう)ジフテリア・鼻ジフテリアに大別されるが，そのほか眼瞼(がんけん)結膜・女子外陰部・耳・へそ・皮膚などを侵すことがある。合併症には毒素による心筋障害や軟口蓋麻痺(なんこうがいまひ)・眼筋麻痺などの神経後麻痺がときにみられる。ネフローゼ*の形をとることもあるが予後は良好のものが多い。鑑別を要する疾患には，扁桃炎(へんとうえん)・仮性クループなどがある。治療は血清療法やペニシリン・エリスロマイシンなどの抗生剤療法によるが，ジフテリア後麻痺・心筋炎などの予防上から，病初2週間の絶対安静が必要。なお，予防にワクチンを用いるようになってからは，ジフテリアはほとんどみられなくなった。
〔高橋悦二郎〕

ジフテリアきん 【ジフテリア菌】 ジフテリア*の病原となるグラム陽性桿菌(かんきん)。非抗酸性で菌体端または菌体中の不定部位に異染小体とよばれる顆粒(かりゅう)がある。染色標本では，菌体は一端で付着して松葉形に見える。運動性はなく，芽胞を形成しない。好気性発育が原則であるが，嫌気(けんき)性の菌株もある。バクテリオファージがこの菌に組み込まれると無毒株が有毒株になる溶原変換現象は有名である。病気は粘膜に増殖したこの菌が産生する強力な毒素によって起こる。 〔和気　朗〕

じふとへんけん 【自負と偏見】 オースチン*の小説(1813)。中産階級のいなか地主ベネット夫妻には5人の娘があり，近所に別荘をもつ青年紳士ビングリーは長女ジ



ジブラルタル　アフリカ側からジブラルタル海峡を隔てて望む〈ジブラルタルの岩〉。この標高約400mの岩峰は要塞化されている



シプリペジウム

ェーンに好意を示し，その親友ダーシーは次女エリザベスの明敏さと活発さにひかれる。しかし，ダーシーの名門の自負とエリザベスの勝気さによる偏見とがぶつかり，それらはやがて正しい認識に至る。緊密な構成のもとに皮肉とユーモアのうちに描かれる生彩ある会話や性格描写・日常生活などによって，当時流行した感傷小説とは異なるリアリズム小説となっている。
〔長崎勇一〕

しぶや 【渋谷】 東京都渋谷区*の中南部，国電渋谷駅付近の繁華地区で，新宿・池袋と並んで東京の山手(やまのて)副都心の一つを形成している。江戸時代には大山街道に沿う小集落で，1889年(明治22)に豊多摩(とよたま)郡渋谷村となり，1909年に町制施行，1932年(昭和7)に東京都に編入されて渋谷区の一部となった。東に宮益(みやます)坂，西に道玄坂があり，この二つの坂にはさまれた渋谷駅を中心に商店街や娯楽街が発達し，東急・西武などのデパートがある。山手線のほか地下鉄銀座線・東京急行電鉄東横線・京王帝都電鉄井の頭(いのがしら)線やバス路線が集中し，東京急行電鉄玉川線は廃止されたが，その路線に地下鉄が敷設された。東京西郊の住宅地を背後に控えたターミナルとして，より以上の発達が見込まれている。駅の西口広場には忠犬ハチ公の銅像がある。 〔浅井得一〕

しぶや 【渋谷(区)】 東京都特別区の一つで，1932(昭和7)豊多摩(とよたま)郡の渋谷・代々幡(よよはた)・千駄谷(せんだがや)の3町が合併してできた区で，1965年に一部を港区にさき，新宿区の一部を編入した。面積15.1km²，人口23万8,000。東京都特別区域の南西にあたり，新宿・中野・杉並(すぎなみ)・世田谷(せたがや)・目黒・港の各区に囲まれている。中心は中央やや南寄りにある山手線渋谷駅付近の繁華街で，副都心としての性格をもち，これに次いで南隣の恵比寿(えびす)駅付近が地下鉄日比谷線の開通によって発展している。山手線に沿う渋谷川の谷すじを除いては大部分が山手台地で，主として住宅地になっており，小田急電鉄や京王帝都電鉄京王線の各駅付近にはそれぞれ商店街が形成されている。また北部の山手線代代木・原宿両駅の西側には，広大な内苑(ないえん)をもつ明治神宮と，オリンピック東京大会に使用された国立代々木競技場やNHK放送センターがある。南東部には青山学院・国学院・実践女子・聖心女子などの大学や，日本赤十字社中央病院・広尾病院などの医療機関が集中している。〔浅井得一〕

ジブラルタル ［Gibraltar］ スペイン南端，ヨーロッパとアフリカ大陸とを分けるジブラルタル海峡*に臨む要塞(ようさい)都市。イギリス領。イギリス海軍の基地で，全域が要塞化されている。面積6.5km²。人口25,000(1967)。住民の大部分はジェノバ・マルタやポルトガルからの移住民の子孫である。要塞は，スペイン本土と細長い砂州で結ばれ，海抜425mの石灰岩の岬(みさき)に構築され，海峡を見おろしている。この岩山の西岸，ジブラルタル湾内には天然の良港があって，艦隊が停泊できる。711年ムーア人によって建設され，地名はその将軍に由来する〈ジェベル-ニル-タリク〉(タリクの岩)の転訛(てんか)である。1462年スペイン領となったが，1704年スペイン王位継承戦争の混乱に乗じてイギリスが占領し，1713年ユトレヒト条約によってスペインから正式に割譲された。以来スペインは，再三にわたってこれを取り返そうとしたが果たさず，今日に至っている。 〔梶川勇作〕

ジブラルタル(海峡) ［Gibraltar］ 地中海西端の，北はイベリア半島西南端のトラファルガル岬(みさき)，南はアフリカ大陸モロッコ北部のスパルテル岬にはさまれた海峡。幅15～20km。大西洋と地中海，さらにスエズ運河を通じてアジアとの航路の要衝にあたり，イベリア半島側にはイギリスの植民地ジブラルタル*，アフリカ側にはスペインの軍港セウタがある。

しぶりばら 【渋り腹】 結痢，または裏急後重ともいう。直腸が刺激に対して病的に鋭敏な状態になり，便意をひんぱんに催し，排便した直後にまたすぐ便意を催す



紙　幣　①備中足守10文預かり札　②1両預かり私札　③太政官札金10両札(1868～1872)　④改造紙幣5円(1882～1899)　⑤山城御薬種切手札1文　⑥文政四年一人札　⑦新国立銀行券1円(1877～1889)　⑧改造紙幣10円(1883～1889)

状態。しかし実際には，肛門(こうもん)括約筋のけいれんのために排便はほとんど行なわれず，痛みを伴うようになる。大腸炎・赤痢・直腸癌(ちょくちょうがん)・梅毒・痔(じ)疾患などの際に起こる症状で，治療は原因除去が第1である。

シプリペジウム ［cypripedium］ 単子葉植物・ラン科。植物学上はパフィオペディルム属にはいるが，園芸上は古い属名のシプリペジウムを用いている。原産地はインド・ビルマ・マライ半島・ボルネオ島・ニューギニアなどの熱帯アジア。植物学上これに属する植物としては，クマガイソウ・アツモリソウなどがある。山地の樹陰で湿度の高いところに自生する地生ランで，多くの園芸品種がつくられる。栽培は比較的低温でよく，夏は冷涼に保つ。半日陰・高湿度を好む。➔前ページ(写真)〔小杉　清〕

しぶんかつとうち 【四分割統治】 ⇨ディオクレチアヌス

しぶんしょぎぞうざい 【私文書偽造罪】 ⇨文書偽造罪

しへい 【紙幣】 紙でできている貨幣。銀行券と政府紙幣があり，いずれも金貨などの本位貨幣と兌換(だかん)される兌換紙幣と兌換されない不換紙幣があるが，現在の管理通貨制度のもとでは不換が一般的である。不換紙幣は戦費調達などの目的で増発される場合には，過去においてしばしばインフレーションをひき起こした。紙幣は実体的価値をもたない名目貨幣(信用貨幣)であるから，その流通には貨幣信用経済が発達し，紙幣が一般的受領性をもつようにならなければならない。フランス革命後のアッシニア紙幣，アメリカ南北戦争後のグリーンバックス紙幣，第1次世界大戦後のドイツのマルク紙幣，第2次世界大戦後のギリシアのドラクマ紙幣，ハンガリーのペンゴ紙幣などはインフレーションと結びついた不換紙幣の例として有名である。わが国における紙幣のおもなものには江戸時代の藩札，明治時代の太政官(だじょうかん)札，為替(かわせ)会社の紙幣，国立銀行券などがあったが，1882年(明治15)の日本銀行設立以後は日本銀行券に統一され，政府紙幣は補助貨幣となった。現在，わが国で発行されるものは日本銀行券だけである。➔貨幣〔速水　保〕

じへい 【自閉】 ⇨精神分裂病

じへいしょう 【自閉症】 1943年にカナーが記載した小児の精神疾患。他人との感情的な交流や親近関係を求める気持ちが少なく，極端な孤立に陥る，いわゆる人間関係喪失の状態で，自己中心的でしかも一方通行で，教育のためのカリキュラムにも応じない。ことばもあまり話さず，話す場合にも無意味な語や同じことをくり返し話す常動言語，アクセントのない単調な音声，命令形と受命形の転倒など，特有な言語障害を示す。また，みずから興味をもった対象に対してはきわめて熱心でそれに強く固執し，もしそれができない場合には強い不安に陥る。1歳以下でこのような傾向に気づかれることがあるが，両親が気づくのは多くは2～3歳のころである。精神薄弱や聾(ろう)とまちがえられることが少なくない。治療は困難であるが，根気のよい精神療法を行なうと，症例によって軽快をみることがある。予後も悪く，重症の白痴と区別が困難になるものもある。〔高橋悦二郎〕

しへいせいり 【紙幣整理】 松方財政(➔松方正義(まさよし))によって実施された不換紙幣(➔兌換(だかん))の整理。明治維新後，新政府は富国強兵・殖産興業の国策遂行に要する費用をまかなうため，太政官札(だじょうかんさつ)その他の不換紙幣を多額に発行した。ことに西南戦争に際しては，ばくだいな軍事費支出のため不換紙幣を乱発したため，インフレーションをひき起こして，財政の混乱をきたした。1881年(明治14)大蔵卿(きょう)となった松方は，財政再建のため徹底的な紙幣整理を開始し，1882年中央銀行として日本銀行を設立，乱立していた国立銀行の発行券を回収し，1885年からは本格的な日本銀行券の兌換を開始した。紙幣整理を行なうにあたって政府はきびしい行政費の節減や増税を断行したため，一般国民は甚大(じんだい)な経済的打撃を受けた。しかし，紙幣整理はいちおう完成し，日本が近代国家として発展する経済的基礎が整えられた。➔銀本位制〔高崎徳次〕

しべちゃ 【標茶(町)】 北海道，釧路(くしろ)支庁中東部，川上郡南部にある町。明治中期に北海道集治監釧路分監や硫黄(いおう)精錬所が設置されて市街地の形成が始まり，

馬産が盛んであったが，第２次世界大戦後は約350km²の未開拓の丘陵地帯を利用した酪農経営が進んでいる。1950年(昭和25)町制施行，人口12,000。中心市街の標茶は根釧(こんせん)台地の中央部にあり，南の釧路平野との接点にある糖路湖・シラルトル沼は観光地として知られる。釧網本線から標津(しべつ)線を分岐する。糖路湖畔は，かつてアイヌが常食していたヒシ(アイヌ語でペカンペ)の実の産が多く，その実りを神に感謝する〈ペカンペ祭〉(９月中旬の土・日曜)が行なわれる。

しべつ　【士別(市)】北海道中北部の市。1899年(明治32)から屯田兵(とんでんへい)が入植して本格的開拓が始まり，翌年旭川(あさひかわ)鉄道が開通して，肥沃(ひよく)な土地を利用した農業開発が進んだ。1954年(昭和29)市制施行，人口30,000。市域は，名寄(なよろ)盆地の南部，天塩(てしお)川流域と剣淵(けんぶち)川・犬牛別川の流域の盆地床を含んで，肥沃な堆積地(たいせきち)が広く，東は北見山地，西は天塩山地の支脈に連なる山地に囲まれ，寒暑の差が大きい内陸性気候を呈する。産業三大別人口比は33：25：42。天塩川流域の水田は米作の北限に近く，犬牛別川左岸の南士別や丘陵地では，ジャガイモ・テンサイ・アスパラガスなどの畑作が行なわれ，最近オーストラリアから輸入したメンヨウの飼育が行なわれている。日本テンサイ糖の工場のほか，酪農・農産かんづめ・木材・車両関係の工場がある。宗谷(そうや)本線・国道40号線・239号線に沿う。

シベリア　［Siberia］　ロシア語ではシビーリという。ソ連のウラル山脈以東，北は北極海から南はカザフ高原およびモンゴル人民共和国との国境の間に広がる地域をいう。東西5,000km，南北3,000kmにわたり，面積1,133万km²。ソ連全土の２分の１余の地域を占める。人口2,523万(1968)。地名は，16世紀末まで西シベリアに勢力をもっていたシビル汗国*に由来し，ロシア人の東進につれてウラル以東の広い範囲をさす名称となった。ただし，ソ連ではウラル山脈の東のふもとからレナ川流域までをシベリアとし，それ以東を極東とよんでいる。

【自然・住民】シベリアは，ふつう三つの地域に分けられ，ウラル山脈からエニセイ川までを西シベリア，これより東，ヤブノロイ・スタノボイ山脈など太平洋分水嶺(ぶんすいれい)までを東シベリア，さらにその東を極東とよんでいる。西シベリアは南のアルタイ山脈から流れるオビ川とその支流による低湿な平原が大部分を占め，東シベリアは台地と山地が多く，極東でもアムール川流域などの平野のほかは山地が海に迫っている。気候は夏と冬の二つの季節だけで，冬の寒さはきびしく－40～－50℃にも達するが，乾燥した無風状態のため居住も困難ではない。一方，夏は比較的高温になり，東シベリアのヤクート地方では年較差が60℃になる。しかし，西シベリアと極東の沿海地方では海洋の影響で気候はやや和らいでいる。シベリアをおおう永久凍土(ツンドラ)の南限は西シベリアでは北緯66°付近だが，東シベリアや極東では北緯50°付近にまで下がる。植生は北極海沿岸部は樹木を欠くツンドラで，その南は南北の幅1,000kmに及ぶ針葉樹林帯(タイガ)がおおう。そこには黒テンをはじめとする高価な毛皮獣が多く生息している。住民は，かつてネネツ・エベンク・ヤクート・ブリヤート・チュクチ・コリヤークのほか，フィン系・サモエード系・トルコ系・ツングース系・モンゴル系・古アジア系などの少数民族が，原始的な狩猟・漁労やトナカイの遊牧などの生活を営んできた。しかし，16世紀以来，ロシア人が現在のシベリア鉄道*沿いの一帯やオビ・エニセイ・レナなどの大河の流域に多数移住し，今日ではシベリアの人口の約96％を占めている。人口の分布は東西では大きな差があり，１km²あたりの人口密度は西シベリアの10.5人に対して東シベリア北東部では0.1～１人となっている。

【産業・経済】シベリアにはソ連の天然資源の３分の２があるといわれる。特に包蔵水力はその62％，石炭は90％，鉄鉱は53％，木材は78％を占めるほか，各種の非鉄金属やダイヤモンド・金・銀などの鉱床がある。石油も以前から知られるサハリン(樺太(からふと))北部のほかに，西シベリア低地やレナ川流域に大油田が発見されている。しかし，1959年からの７か年計画以後，開発が組織的に進められ，現在，ソ連全体に占めるシベリアの工業生産高の割合は石炭30％，電力16％，鉄鋼10％，製材31％，紙９％，化学肥料５％などとなっている(1965)。おもな工業地域は，西シベリアのクズネツク，東シベリアのアンガラ・バイカル，それに極東の三つのコンビナートが代表的なもので，これらは原料産地とエネルギー産地とを計画的に結合したコンビナートによって発展してきた。西シベリアは鉄鋼・機械・化学など重工業の比重が大きく，クズバス工業地帯とノボシビルスク・オムスク・トムスクの３都市を中心とする工業地帯は，全シベリアの産業開発の基地となっている。このほか西シベリア南部には農業機械・農産加工・化学などの工業の盛んなバルナウルを中心とするアルタイ工業地帯がある。東シベリアは木材・紙・パルプ・電力・非鉄金属の精錬などが工業の中心である。クラスノヤルスク工業地帯では木材・電力・アルミ・化学などの工業が盛んであり，イルクーツク工業地帯にはこれらのほかに石油・機械・軽工業などの工場が建設されている。さらにクラスノヤルスク・イルクーツク・ブラーツクを結ぶアンガラ-エニセイ工業地帯がつくられ，シベリア開発の新たな拠点になろうとしている。極東は水産加工・木材・製紙・非鉄金属の精錬などがおもな工業で，ハバロフスク・ウラジオストクが中心だが，本格的な工業地帯として完成されるのはこれからである。農業は寒冷な気候のため南部に限られる。西シベリア南部は黒土地帯で，革命前から小麦・大麦・燕麦(えんばく)・ジャガイモ・テンサイの重要な産地であり，極東のアムール川・ウスリー川の流域では小麦・燕麦・米・アマ(亜麻)・ダイズ・テンサイなどを産する。また，農業地域の北部への拡大のため，耐寒品種の改良や農業技術の改善などが進められている。しかし，農牧生産のソ連全体に占める割合はまだ低く，穀物17％，牛乳14％，羊毛13％など(1965)にすぎない。

【歴史・政治】シベリアにはマンモスなどのすんだ後期旧石器時代から，すでに人類が生活していたことが，遺跡(アンガラ川岸・イルクーツク付近)などで解明されているが，ロシア人到来以前の民族や文化は，ユーラシア大陸の南部から北部へ向かって移住あるいは伝播(でんぱ)したものらしい。ロシア人がシベリアにはじめて進出したのは，11世紀ごろのノブゴロド人の毛皮商人らであり，1581年のエルマクの遠征以後本格化した。先陣はコサックで，冬営地やさくを築きながら東進した。1598年にはシビル汗国を滅ぼし，ツーラ(1600)，クズネツク(1618)，エニセイスク(1619)，クラスノヤルスク(1628)と進み，1632年にはヤクーツクが建設され，続いて1661年に建設されたイルクーツクとともにその後の東方探検の基地となった。そして，デジネフのシベリア東北端回航(1648)，ポルヤコフ・ハバロフのアムール川到達(1649)，アトラソフのカムチャツカ半島探検(1667)，ベーリングの２回にわたるベーリング海峡・アラスカ沿岸・カムチャツカ半島・アリューシャン列島の調査などが行なわれた。これらの探検の主目的は，毛皮獣や金などの資源の調査にあった。探検のあとには，農民・流刑囚が送られて開発が始められ，ロシアの勢力圏内に組み込まれていったが，南東部では清(しん)との間に国境問題が起こり，1689年にネルチンスク条約，1727年にキャフタ条約，1858年にアイグン条約，1860年の北京(ペキン)条約を経て，アムール川流域と沿岸州のロシア領が決まった。革命前は政治犯などの流刑地としても知られたが，1905年のチェリャビンスク～ウラジオストク間約7,400kmを結ぶシベリア鉄道の開通は，シベリアがヨーロッパと結びつくこととなり，政治的・経済的に画期的な意味をもった。1917年10月の革命後，日本のシベリア出兵*などがあり，反革命運動が1922年ごろまで続いた。

〔斎藤晨二〕

シベリアきだん　【シベリア気団】　冬季，アジア大陸に発生する大陸性極気団の代表的なものである。地上は氷雪におおわれ，放射冷却によって地面付近はきわめて気温が下がり，高気圧形成とともに下降気

流を生じて顕著な逆転層*がつくられる。気温が低いために水蒸気量も小さく，氷雪面への昇華によって下層の空気はいっそう乾燥する。この気団の発生地では天気がよいが，日本海・東シナ海などに流出してきた場合には，海面からの熱と水蒸気の補給によってシベリア気団は著しい変質を受け，それが日本列島に吹き込んでくると裏日本の降雪となる。シベリア気団は冬季日本の天気に大きな影響を与える。〔曲田光夫〕

シベリアこうきあつ 【シベリア高気圧】 冬季，シベリアで発達する背の低い高気圧で，大陸性寒帯高気圧の代表的なものである。直径数千キロメートル以上に及ぶ広大なもので，中心示度も1,040ミリバールにも達するが，背が低く，3kmの上層では高気圧は消えてしまう。シベリア気団*の形成と一致しているが，その寒気の氾濫(はんらん)に伴う移動性高気圧は日本の天気に大きな影響を与える。

シベリアしゅっぺい 【シベリア出兵】 第1次世界大戦中，ロシア革命*に干渉するため，日・英・米・仏連合軍がシベリアに出兵した事件。1918年(大正7)3月，ソビエト政権がドイツと単独講和条約を締結すると，7月これら4か国はシベリアにいるチェコスロバキア軍捕虜の救出を名目にシベリアに共同出兵を行なったが，真の目的はロシア革命に対する軍事干渉を意図したものであった。寺内正毅*(まさたけ)内閣は，この機会にシベリアを勢力下に置こうとして，協定の兵力をはるかに越えた73,000人を派兵し，バイカル湖以東のシベリアを占領，英・米・仏軍の撤兵後も引き続き駐兵した。しかし，赤軍の反撃，列国の非難，国内の反対のため，なんら得るところなく，多数の死傷者と10億円の戦費を犠牲にして，1922年10月シベリアから撤兵した。

〔高崎徳次〕

シベリアてつどう 【シベリア鉄道】 ソ連，シベリア南部を東西に横断する鉄道で，本線はウラル山脈東麓(とうろく)のチェリャビンスクと日本海沿岸のウラジオストクとを結ぶ。全長約7,400km。1891年シベリアの開拓を目的に着工，1905年一部開通し，これによってロシア帝国のアジア進出が強化された。全線開通は1916年で，1936年全線が複線化した。第2次世界大戦後は，ソ連政府によってアンガラ-バイカルコンビナート・極東コンビナートなど東シベリアの開発が進められており，この鉄道のになう役割は大きい。主要線区は電化され，モスクワ～ウラジオストク間が直通運転されている。〔大石堪山〕



シベリア鉄道 オムスク付近を通過する同鉄道の列車。全席が指定制でモスクワ～ウラジオストク間の直通列車は日に1本しか運行されない



シベリウス

シベリウス ［Jean Sibelius］(1865～1957) フィンランドの作曲家。少年時代から音楽的な才能を発揮した。家族の要望ではじめヘルシンキ大学の法科にはいり，やがてヘルシンキ音楽院に移り，4年の在学ののちベルリンとウィーンに学んだ。1892年に帰国して母校の教授となり，《クレルボ交響曲》を発表して認められ，さらに交響詩《エン-サガ》で国外にも知られるようになった。1897年教職を去って作曲に専念し，《第1交響曲》(1899)《第2交響曲》(1901)や交響詩《フィンランディア》などの名曲を書いた。1904年以後耳疾に悩まされてヤルベンパーの山荘にひきこもりがちだったが，以後五つの交響曲ほかを発表した。1925年の《タピオラ》を最後に，ほぼ30年間は大作を創作しなかったが，国民的な大作曲家として敬愛を集めた。〔向坂正久〕

ジーベル ⇨ゲベル

ジベレリン ［gibberellin］ ギベレリンともいう。植物ホルモン*の一種で，最初はイネの徒長をひき起こす原因となる物質として，イネ馬鹿苗(ばかびょう)病菌の培地中から単離された。現在では，この菌の生産物として少なくとも12種，さらに高等植物からも少なくとも5種のジベレリンが発見されている。これらのジベレリン類は互いに構造が類似している。高等植物の生長を促進するという点でオーキシン*と類似しているが，葉の生長促進，植物体内の移動に極性*のないこと，葉柄の上偏生長を起こさないなどの点で，明らかにオーキシンと異なった生理作用を示す。ジベレリンの著しい作用として，生長促進・発芽促進・休眠打破・開花促進・着果増加・果実生長促進などがみられる。応用面での利用も盛んで，ブドウをジベレリン処理すると種子なしになるばかりでなく，大粒になり，収穫期も早くなる。このほか，野菜・草花などへのジベレリンの利用分野はますます広がりつつある。〔吉田精一〕

しへん 【詩編】 《旧約聖書》の第19書。150編の詩の集成で，5巻に分かれる。全体として紀元前3世紀末までに現在の形に整えられたらしい。表題にダビデ・アサフ・エドトン・ソロモンなどの名がみられるが，直ちに作者とはみなしがたく，たとえばダビデの名のある72の詩編のうち何編が彼の作なのか明確でない。唯一の神ヤーウェ*の偉大なわざ，深い恵みがうたわれ，敬虔(けいけん)な人の魂がその信仰，不安，罪，唯一の救いである神への感謝のうちに表わされる。その重要性は初期キリスト教会ですでに認識され，《新約聖書》ではしばしば引用されている。中世以来多くの教会で読み歌われる。〔松田 治〕

しべん 【思弁】 哲学用語。ボエチウス*はテオリア*(純粋観照)の意味に用い，アウグスチヌス・スコラ哲学者・神秘主義者らはラテン語の〈鏡〉の意にさかのぼって《コリント人への第一の手紙》第13章12節により，神のわざから神を間接に認識することと解した。したがって思弁は経験*を越え，経験の基礎にある精神的な，超感覚的な，神的なものの認識を意味する。これをカントは《純粋理性批判*》で〈理論的認識はいかなる経験においても到達しえない対象あるいは対象の概念をめざす場合は思弁的である。これ(思弁的認識)は自然認識(経験)に対立するのであるが，自然認識は可能的経験において与えられうる対象あるいは対象の述語以外をめざさない〉と表わしている。また，思弁哲学はカントによれば可能的経験の限界を越えて試みられた思弁理性の認識による哲学であり，プラトン・デカルト・ライプニッツの哲学など，さらにドイツ観念論をもいう。ヘーゲルの思弁は現実を具体的・全体的にとらえようとするものであり，《エンチクロペディー》において〈思弁的なものあるいは肯定的・理性的なものは，対立した二つの規定の統一を，すなわち対立した二つの規定の解消と移行とに含まれている肯定的なものを，把握(はあく)しようとする〉と説かれている。〔中川 誠〕

しへんけい 【四辺形】 ⇨四角形

じへんせい 【磁変星】 磁場*の強さが周期的に変化する恒星。スペクトル型*はA型の特異星で，磁場の強さは数百ガウス以上である。希土類イオンの吸収数が強く，磁場の変化とともに強さが変わる。星の自転にしたがって太陽の黒点よりも大規模なものが，周期的に現われるという説が有力。

しほ 【支保】 地下の空洞(くうどう)を維持するため，周辺の岩盤や土砂をささえるもの。支保を使用材料によって区別すると次のようなものがある。①れんがまたは鉄筋コンクリート：昭和にはいって鉄筋コンク

リートが普及するまでは，トンネル，鉱山の立坑など半永久的に維持する必要のある所での支保は，多くの場合，れんがを積んでつくられたが，現在ではこれに代わって鉄筋コンクリートが用いられている。また，場合によっては，大形のコンクリートブロックを積み上げたり，ボルトでつないだりして支保をつくることもある。②木材：掘削したのち，他の材料で本格的な支保を施すまでの仮支保として木製支保が用いられる。また，次に述べる鋼製支保と岩盤との間を埋める材料として木材が用いられる。坑木の大部分は支保に用いられる。③鋼鉄：トンネルの仮支保や鉱山の坑道支保として現在最も多く用いられているのは，形鋼やレールを曲げてつくったアーチ形の支保である。他方，炭鉱の切り羽で用いられる鉄柱・カッペも鋼製支保の一種である。なお，水圧鉄柱・カッペ・移設用水圧・ジャッキを組み合わせて，人力を用いないで移設できる自走支保があり，炭鉱の長壁切り羽で用いられる。〔西松裕一〕

しほう【刺胞】 腔腸(こうちょう)動物の刺胞類に属するヒドラ・イソギンチャク・カツオノエボシなどに特有な構造。体表(特に触手)・胃腔の内面などに多い。刺胞は刺細胞の中につくられる後形質性のもので，おもにゼラチン様の物質からなる。刺細胞内には中空な刺胞嚢(しほうのう)があり，その一端に中空な刺糸が内側に収められている。体表面には刺針といわれる刺激を受け取る一種の装置があり，これが刺激されると刺糸が刺胞嚢のふたを押し開いて突出する。刺糸には中の毒液を射出したり，からみつけたり，粘着したりするものがある。クラゲに刺されて痛いのは，刺細胞から出る毒液のためである。〔蒲原春一〕

しほう【私法】 公法に対する用語。定義については，対等な取引関係の法，私益に関する法，社会生活に関する法など，学説によって異なる。元来，公法・私法の区別はローマ法上の概念で，これを近代ヨーロッパが継承して国家の公権力行使に有利なように設定されたのであるが，国家が関与する領域が拡大するにつれて，両者の区別は明確でなくなってきた。一般には，私益・対等関係を規律する法が私法といえよう。私法の一般法は民法，特別法としては商法・小切手法などがあげられる。〔原田政洸〕

しぼう【脂肪】 脂質の一種。グリセリンと高級脂肪酸とのエステル(中性脂肪)であるが，このうち常温で固形のものだけをさすこともある。アルカリによる脂肪の加水分解は鹸化(けんか)とよばれ，グリセリンと，脂肪酸のアルカリ塩(せっけん)を生じる。生体中で水と二酸化炭素までに燃焼すると，タンパク質や炭水化物の場合の約２倍のエネルギー(9.3 Cal/g)を発生し，水分が少なくて貯蔵できるため，エネルギーを最も密度の高い形でたくわえている。過剰のエネルギーは脂肪としてたくわえられ，また通常のエネルギー源は脂肪となっている。こん虫・両生類・爬虫(はちゅう)類・鳥類などの卵発生時のエネルギー源も脂肪である。

脂肪はリパーゼによる加水分解でグリセリンと脂肪酸を生じ，それぞれ小腸の粘膜に吸収されるが，腸壁内で脂肪に再生される。さらにここでリポタンパク質で外側をおおわれたヒロミクロンを形成してから乳糜管(にゅうびかん)へはいり，鎖骨下静脈・門脈を経て肝臓へ運ばれる。脂肪の酸化は，その前段階として再び加水分解を受ける。グリセリンは解糖系によって，脂肪酸はβ-酸化によって，いずれもアセチル-CoAにまで酸化される。アセチル-CoAはミトコンドリアのトリカルボン酸回路や電子伝達系で水と二酸化炭素にまで酸化される。脂肪の生合成は酸化の逆反応ではなく，脂肪酸が，ミトコンドリアもミクロソームも含まない細胞質でアセチル-CoAから合成され，次いでミクロソームでグリセリンとエステル結合をつくる。脂肪組織ではつねに貯臓脂肪の加水分解と再エステル化がまったく別の経路を通じて行なわれ，これらの反応はホルモンなどの要因によって調節されている。インシュリンはエステル化の反応を促進し，成長ホルモン・甲状腺(こうじょうせん)刺激ホルモンなどは加水分解反応を促進して，動物のエネルギー利用を最適の状態にしている。〔原野友之〕

しぼう【子房】 被子植物のめしべの下部にある袋状のもので，中に胚珠(はいしゅ)がある。子房は受精後発達して果実となる。１～数枚の心皮が癒合(ゆごう)した合着子房，それぞれの心皮が別々の子房となる離生子房がある。また，一室からなる子房を一室子房，二室のものを二室子房などという。さらに，子房と他の花葉との位置関係により，子房上位(花被より上にある。アブラナ科・リンドウ科)，子房下位(花被より下にある。キク科・ウリ科・アヤメ科)，子房中位(花被の中間にある。ユキノシタ科)に分けられる。胚珠のつく位置を胎座といい，心皮の縁にある側膜胎座，心皮の縁が中央部にはいり込んで癒合した軸にある中軸胎座，心皮の縁とは関係なく，中央に突出した柱の上にある独立中央胎座などがある。一般に胚珠には卵１個，助細胞２個，極核２個，反細胞３個があり，卵の受精後に胚珠は種子となる。〔加藤僖重〕

しぼう【死亡】

1 ➔死

2 自然人が，人格すなわち権利能力を喪失するのは死亡によってである。法律上ある人の権利能力が終了したか否か，またいつ終了したのかを確定することは，相続その他に関連して重要な意味をもっている。死亡の事実および時期については，通常の死亡の場合，戸籍法の定めるところにより，死亡年月日時分および場所などを記載した届け書に医師の死亡診断書または死体検案書を添付して届け出ることになっており(戸籍法86条)，それによって明らかであるが，実際にはゆくえ不明者のように死亡したか否かが明らかでなかったり，あるいは親子が船舶の沈没に遭遇した場合などのように，死亡したことは確実だがその死亡の時期の前後が明らかでない場合も多い。そこで民法は，これらの場合に法律上の取り扱いの困難の生ずることを避けるため，前者については死亡したものとみなす失踪(しっそう)宣言の制度(民法25条以下)，後者については事実上ありえないことだが同時死亡の推定の規定を設けている(民法32条12項)。〔黒木三郎〕

じほう【時報】 ⇨報時

しほうかいぼう【司法解剖】 犯罪に関係ある死体について，犯罪事実を立証し，犯罪行為と死因との因果関係を明らかにすることを目的として行なう死体解剖。死体の死因を究明し，死亡の種類(病死・自然死・自殺・他殺・災害死・過失死・中毒死など)を判断し，損傷または疾病(しっぺい)の種類，部位形状程度，凶器の種類・用法を調べ，死後時間の推定，血液型，毒物の有無の決定などを行なう。身もと不明の死体であると，性別・年齢推定などの個人識別を行ない，女性については性交・妊娠・分娩(ぶんべん)などについても検査を行なう。司法解剖を行なうには判事の死体処分許可状が必要であり，検察庁からの鑑定嘱託書を受けてから着手するのが常である。〔青木利彦〕

しぼうかたしょう【脂肪過多症】 脂肪肝などは除き，体全体の脂肪組織中に脂肪が異常に蓄積した状態。体の脂肪の割合を測定することは困難であるが，男性では体重の約15％，女性ではこれよりもやや多いとされる。日常ではしばしば肥満(➔肥満症)と同意語に用いられている。外因性のものと内因性のものがあるが，大部分は前者に属し，摂取エネルギーの過剰と消費エネルギーの過少という不均衡によるものである。後者は内分泌疾患や食欲中枢の異常から起こるもので，比較的少ない。最近は脂肪過多症を基礎とし，糖尿病・心臓疾患・胆石症などの病気が起こりやすいことが明らかにされている。〔佐野隆志〕

しぼうかん【脂肪肝】 種々の原因により肝臓の脂肪含有量が増加(10～40％)した病的状態をいい(正常では３～５％)，独立した疾患ではない。高脂肪食，低タンパク食，アルコールの常用，飢餓，ビタミンＢ群や抗脂肝因子(コリン・メチオニンなど)の欠乏などの食餌(しょくじ)性の原因のほか，肝臓毒(四塩化炭素・リン・クロロホルムなど)・感染症(結核・産褥熱(さんじょくねつ)・肺炎など)・内分泌疾患(糖尿病・甲状腺(こうじょうせん)中毒症・下垂体前葉機能亢進症(こうしんしょう))や貧血・膵疾患(すいしっかん)などに際してみられることがある。特別決った症状はないが，

通常軽度の腹部膨満感や食欲不振・全身倦怠感(けんたいかん)を訴え，触診により腫大(しゅだい)した肝臓に触れることが多い。近年肝機能検査と肝生検(臓器穿刺術(せんしじゅつ)の一)で容易に診断できるようになった。原病のある場合はその治療を行なうが，食餌性の脂肪肝はコリン・メチオニンなどの投与を行ない，禁酒，高タンパク高炭水化物食の摂取をさせる。糖尿病に伴う脂肪肝ではインシュリン治療を行なう。〔佐野隆志〕

しほうぎょうせい【司法行政】裁判所およびその職員の人事・運営に関する行政。三権分立の趣旨に沿って司法権の独立を確保するため，この行政権は裁判所に属し，最高裁判所が最終の監督を行なう。裁判官・職員の任免・補職・監督，裁判所の会計・経理，裁判所の支部，出張所の設置の権限がこれに含まれる。司法行政は各裁判所の裁判官会議によって行なわれるが，監督権の行使は裁判事務に影響を及ぼしたり制限を加えてはならない。〔寺尾方孝〕

しほうけいさつ【司法警察】犯罪の捜査，被疑者の逮捕，逮捕状・拘留状の請求，証拠の収集などを目的とした司法権の作用。本来は行政機関の地位にある者が，犯罪捜査を担任して行なわれる作用を意味したが，1875年(明治８)の行政警察規則において，はじめて規定された。第２次世界大戦前における司法権の作用は検事の職務とされ，警察官はその補助者にすぎなかったが，戦後刑事訴訟法の改正や警察法の制定によって，捜査は警察本来の権限とされ，独立捜査権をもつこととされた。司法警察の職務は，警察官のほか特別司法警察職員が行なう。司法警察職員とは，捜査の実施をつかさどる者で，主として警察官をさしていうが，森林・鉄道その他特別の事項について捜査を行なう行政庁の職員，および司法警察職員等指定応急措置法により指定されたものである。たとえば，監獄官吏・営林局職員・船長・皇宮護衛官・国鉄公安職員・海上保安官・麻薬取締官・郵政監察官・自衛隊警務官などである。司法警察職員は，司法警察員と司法巡査に分かれる。捜査の権限には差異があり，令状請求，留置の決定，仮還付などの重要な権限は司法巡査には与えられていない。なお，1953年(昭和28)の刑事訴訟法の改正で，逮捕令状などの請求は警部以上の司法警察員に限られることになった。〔井上公耳〕

しほうけん【司法権】三権分立のうちの一。法的紛争の生じた場合，どちらの側が法的に正しいか，いずれの主張が認めらるべきかを判断し，宣言する権能。刑事関係では，刑法の定めに従って，ある行為が罪となるか，どんな罰を科すべきかについて，国家を代表する検事(検察官)と被告人との争いについて判断し，有罪か無罪かを決定する。民事関係では，国民相互の民事上の争いについて，原告・被告相互の権利義務について判断する。たとえば，債権・債務・契約が正当なものかどうか，あるいは結婚・離婚・相続などについての争いについて，公的に決定する。行政裁判(→行政訴訟)では，国や地方公共団体と国民との間で，公的活動によって，国民が権利を傷けられたか，公的活動が不法かどうかなどの争いについて判断する。このほか，労働関係における法的争いについての最終的判断も司法作用の一つである。さらに日本国憲法のもとでは，国や公共団体の処分，制定された法令・条令などが憲法に違反しているかどうかについて判断するいわゆる違憲立法審査権も，司法権の権能となっている。

司法権は，最高裁判所および下級裁判所によってのみ行使されることが憲法に規定されている(76条)。また，司法機関(裁判所)は，行政権をはじめいかなる圧力からも独立し，憲法および法律にのみ基づいて判断する。裁判にあたっては，個々の裁判官が自主独立し，なんらの指揮命令をも受けずに裁判する。これを〈司法権の独立〉という。→裁判 →三権分立〔鈴木安蔵〕

しほうけんしゅうじょ【司法研修所】裁判官その他の裁判所の職員の研究および修養，ならびに司法修習生の修習に関する事務を取り扱うための最高裁判所の付置機関(裁判所法14条)。

しほうけんのどくりつ【司法権の独立】⇨裁判官

しほうさいばんしょ【司法裁判所】司法権の行使にあたる裁判所。一般には単に裁判所といっている。行政裁判所に対するが，日本国憲法は行政裁判所を認めていないので，現在の日本の裁判所はすべて司法裁判所である。

しぼうさん【脂肪酸】脂肪を加水分解して得られる有機酸で，天然のものはふつう偶数炭素の直鎖状をなし，末端にカルボキシル基をもつ。一般にグリセリンなどとエステル結合をなしている。エステル結合をつくっていない脂肪酸でも，血清中のものはアルブミンと結合するなどして，生体中では遊離の脂肪酸は微量である。脂肪酸は生物の重要なエネルギー源で，水と二酸化炭素にまで酸化される。脂肪酸の酸化に必要な酵素の多くはミトコンドリア中に含まれ，カルボキシル末端から一度に炭素２原子ずつが酸化されていく。この過程をβ-酸化といい，２個の炭素原子はアセチル-CoAとしてトリカルボン酸回路で酸化を受ける。脂肪酸の合成は，構造をもたない細胞質中で行なわれ，二酸化炭素とアセチル-CoAからパルミチン酸まで合成される。この過程は数種の酵素の複合体によって触媒される。生成された飽和脂肪酸はミクロソームで不飽和化を受け(ω-酸化)，ミトコンドリアでさらに炭素数がふえる。〔原野友之〕

しほうしけん【司法試験】裁判官・検察官・弁護士志望者が必要な学識およびその応用能力を有するかどうかを判定する国家試験。1949年(昭和24)公布の司法試験法(1952年改正)に基づいて毎年１回行なわれる。第１次試験および第２次試験があり，第１次試験は，大学卒業程度の一般教養に関する学力の判定，第２次試験は，第１次試験合格者および第１次試験の免除者(同法４条に規定)を対象に，筆記・口述試験を行なう。司法試験の合格者は司法試験考査委員の合議によって定め，合格証書が授与される。なお合格者のうち，最高裁判所から命ぜられ，司法研修所・裁判所・検察庁・弁護士会で実務を修習中の者を司法修習生といい，２年以上修習のうえ試験に合格すると，判事補・検事・弁護士になる資格を取得する。

しぼうしゅ【脂肪腫】リポームともいう。脂肪組織が増殖してできる良性腫瘍(しゅよう)。被膜があり，限局性で分葉構造を有する脂肪組織からなる。主として皮下組織から発生し，肩・背部・四肢(しし)伸側に好発する。深部の脂肪腫はまれであるが，前頭部・後頭部の腱膜(けんまく)下などに生ずる。20歳以後の女子に多く，発育は徐々であるが，きわめて大きくなる。

しぼうしゅし【脂肪種子】貯蔵物質として，おもに脂肪を含む種子。トウゴマ(ヒマ)・アブラナ・ツバキなど，高等植物種子の約70％はこれに属する。種子の発芽の際に，脂肪はエネルギー源や幼植物の構成材料に用いられる。これらの植物油は，オレイン酸などの不飽和脂肪酸のグリセリドが主体で，液体のものが多く，食用油として用いられる。

しほうしょう【司法省】1871年(明治４)刑部省・弾正台に代わって設置された中央行政機関の一。裁判・検察・行刑をつかさどり，初代司法卿(しほうきょう)は江藤新平。1885年内閣制度成立に伴って司法大臣を設置。幾多の官制改正があったが，司法大臣が検察事務を指揮し，その管理のもとで，民事，刑事，非訟事件，戸籍，供託，監獄や少年の審判・矯正(きょうせい)，司法保護，検察庁に関する事項など，裁判所の権限外の司法行政事務を管掌し，司法関係に強大な権力をもっていた。1947年(昭和22)同省を廃止して法務庁を設置，1949年法務府と改称，さらに1952年法務省となった。〔原田政洸〕

しほうしょし【司法書士】他人の依頼により，一定の手数料を受けて，裁判所・検察庁・法務局・地方法務局へ提出する書類(訴状・登記申請書・申立書など)を代わって作成することを業務とする者。一定の資格を必要とし，法務局または地方法務局の長の認可を要する。

しぼうしんだんしょ【死亡診断書】診療中の患者が死亡した場合，医師が作成する医学的判断を証明する書類。死亡前24時

間以内に診察した患者については，死後に診察をしなくとも作成することができる。死亡診断書中には氏名・性別・生年月日・職業，病死，自殺，その他の変死，中毒死の別，病名，発病の年月日，死亡の年月日時，死亡の場所などを記入する。しかし，死亡の状態が予想されていた死に方と異なっている場合には，死亡前24時間以内に診察した患者についても死後の診断を行なう必要がある。➔死体検案書　〔青木利彦〕

しぼうぞくかごうぶつ【脂肪族化合物】有機化合物のうち，分子中の炭素原子が環状になったり芳香環を形成したりしないで，鎖状につながっている化合物の総称。脂肪中に存在する化合物がほとんどこの種の化合物であるのでこの名があるが，鎖状であることから鎖式化合物とか非環式化合物ともいわれる。

しぼうぞくたんかすいそ【脂肪族炭化水素】脂肪族化合物のうち，炭素と水素だけからなる化合物の総称。分子中の炭素がすべて鎖状であり，環状や芳香環は形成していない炭化水素である。したがって鎖式炭化水素ともいわれる。また，パラフィン系炭化水素・メタン系炭化水素ともいわれる。

しぼうそしき【脂肪組織】皮下，臓器の小葉間，臓器間の結合組織にあって，ヒトでは体重の約10％を占める。皮下脂肪の量は年齢・性・部位で多様性を示し，女性では乳腺(にゅうせん)周囲・腰・大腿部(だいたいぶ)に多い。脂肪組織は保温や保護作用を行なうだけでなく，食物の炭水化物が転化した脂肪がこの組織を構成する脂肪細胞に貯蔵され，全身の物質代謝に重要な働きをしている。色調は通常黄白色であるが，動物性食品を多くとると黄色調が強くなる。なお，冬眠動物(ヤマネ・ハムスター)には腋窩(えきか)・肩・縦隔・腎門(じんもん)など特定部位にかっ色脂肪組織がある。この部位の脂肪細胞のミトコンドリアにはチトクロムが豊富なためである。　〔蟠井勉・橋本長〕

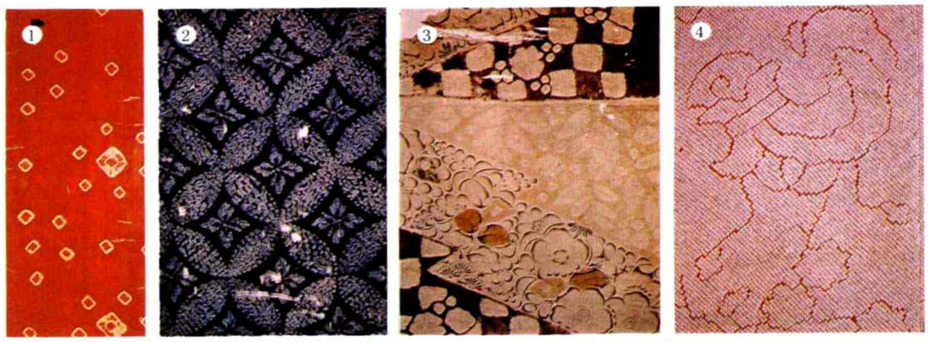
しぼうのかたまり【脂肪の塊】モーパッサンの小説(1880)。ゾラの周辺に集まった若い作家たちの中編小説集《メダンの夕べ》に発表，師のフローベールに絶賛されて文壇への登場を決定づけた。プロイセン-フランス戦争を背景にし，〈脂肪の塊〉とよばれる娼婦(しょうふ)を中心に，戦争の悲惨と人間の醜悪とを写実的な筆致で描いている。

しぼうぶんかいこうそ【脂肪分解酵素】⇨リパーゼ

しぼうほけん【死亡保険】被保険者の保険期間中の死亡を事由として保険金の支払われる保険。死亡によって起こりうる経済的な損失を補おうとするもので，これには保険の契約のときから一定期間を保険する定期保険と，その生涯(しょうがい)にわたって保険する終身保険とがある。➔生命保険

しほうほご【司法保護】⇨更生保護

しぼうりつ【死亡率】一定の人口に対する一定期間の死亡数の割合。次の三つが代表的である。①一般死亡率：粗死亡率ともいい，人口1,000に対する年間死亡の割合で，その年の死亡者数をその年の人口で割り，それを1,000倍したものである。年齢構成・死因などが考慮されないので，一地方の限定された時期の死亡推移をみる場合に適する。②特殊死亡率：年齢・性・職業などによって分類された特別な集団における死亡率のことである。③訂正死亡率：標準死亡率ともいい，ある地域が，規準とする別の地域の性・年齢別人口をもったと仮定したときの死亡率で，数か国の衛生状況を比較するのに役だつ。　〔宮川　実〕





絞　染
①一目絞　奈良時代　②縫締絞　室町時代　③辻ケ花染　桃山時代　④総疋田　江戸時代　⑤巻上絞　江戸時代　⑥鳴海絞　竹田嘉兵衛　明治時代
①②④東京国立博物館蔵

シーボーグ［Glenn Theodore Seaborg］(1912～　)アメリカの化学者。原子核反応を研究し，アメリシウム・キュリウム・カリフォリウムなどの新元素をつくった。これら超ウラン諸元素の発見に対して，アメリカの物理学者E. M.マクミランとともに，1951年ノーベル化学賞を受けた。

しぼくさんそう【四木三草】江戸時代，生活必需の植物とされたものの総称。四木はクワ・ウルシ・チャ・コウゾを，三草はアサ・アイ・ベニバナをいうが，ワタ・タバコ・アブラナ・エゴマ・アカネ・イなどのうちから数えることもあった。各藩はこれらを専売制度や他領移出制限などを行なってその栽培を保護・奨励し，各地で特産化した。会津(福島県)のウルシ，山城(京都府)のチャ，阿波(あわ)(徳島県)のアイなどはその代表。

じほっきょく【磁北極】北半球において，地磁気の伏角が90°になる地点。地理的南極とも，地磁気の双極子の軸が地表面と交わる磁軸極とも異なる。磁北極の位置は地球に対して静止せず，つねに移動している。1960年の位置は，北緯74.9°，西経101.0°である。

しぼり【絞り】写真用語。写真レンズなどの透過光量を調節するための装置。シャッター速度(露光時間)とともに，撮影の露光量を決定する因子である。一般には虹彩(こうさい)絞りという機構が用いられるが，これは数枚の三日月形の金属羽根を巴(ともえ)状に組み合わせ，周囲のリングを回転すると羽根が動いて，中央の穴の大きさが連続的に変化するようにつくられている。普及型カメラでは一枚の板に大小の穴を配列し，これを横にすべらせてレンズの明るさを変えるが，この板絞りでは中間の値(中間絞り)が利用できない。絞りによるレンズの明るさの単位にはF値を用いる。〔新川幸信〕

しぼりぞめ【絞染】基本的には，布帛(ふはく)の一部を摘(つま)み括(くく)り，あるいは縫い締めなどして防染し，染液に浸染して文様を染め出す技法。一般的にはその必然的な結果として，布面に凹凸(おうとつ)や縮皺(しゅくしゅう)のある点が特徴である。古くは纐(ゆはた)・目交(もっこう)・纐纈(こうけち)・目染・作目(つくりめ)・目結(めゆい)などとよばれ，近世では括り方や染め上がりの状態などから種々の名称が付された。技法には，大別して①鹿子絞(かのこしぼり)：一目鹿子・疋田(ひった)など，②縫絞(ぬいしぼり)：杢目(もくめ)絞や辻(つじ)ケ花染など，③手筋絞：柳とかみどり絞とよばれるもの，④嵐絞(あらししぼり)，⑤桶絞(おけしぼり)などがある。絞染は，古くは中国やインカ帝国でもなされていた。わが国では，その技術の存在は奈良時代以前にさかのぼるが，奈良時代には技術の著しい進歩や生産の増加をみた。以後，この技術は特に庶民の文様染として引き続き行なわれてきたと考えられるが，小袖(こそで)の発達に伴って，再び盛行，各種の技法が生じた。〔北村哲郎〕

ジーボルト［Philipp Franz von Siebold］(1796～1866)ドイツの医師・博物学者。日本における通称はシーボルト。ビュルツブルクに生まれ，同地の大学を卒業したのち，1813年(文化10)に来日，1828

年(文政11)いわゆるシーボルト事件*を起こし，翌1829年帰国。1856年(安政３)から1862年(文久２)まで再び来日。日本の動植物を採集・研究して外国に紹介したほか，西洋の近代化学を日本人に教示し，日本の近代化に貢献した。

ジーボルト［Karl Theodor Ernst von Siebold］(1804～1885) ドイツの動物学者。ビュルツブルクに生まれ，ベルリンなどで学び，ブレスラウ・ミュンヘン大学などの教授を歴任。ラマルクとキュビエに始まった動物の近代的分類を推し進め，1845年節足動物・原生動物の名称を創出した。P. F. ジーボルト*のいとこにあたる。

シーボルトじけん【シーボルト事件】江戸後期，オランダ商館付き医師ジーボルト*がスパイの嫌疑(けんぎ)で国外追放に処せられた事件。1826年(文政９)，商館長の江戸参府に随従した彼は，江戸滞在中学者たちと知識の交換に努めたが，幕府の天文方高橋景保(かげやす)から伊能忠敬*(いのうただたか)の実測した《大日本沿海輿地(よち)全図》を贈られた。鎖国*下の日本では外国人が日本地図を入手することは国禁であったため，1828年，幕吏からスパイの嫌疑をかけられてきびしい尋問を受け，国外追放刑に処せられた。高橋景保もこれに連座して獄死し，ほかに多くの処刑者を出して，蘭学*(らんがく)研究者の痛ましい受難事件となった。〔高崎徳次〕

しほん【資本】現代の資本主義社会における資本の役割はきわめて大きいものであるが，資本とはなにかについては多くの議論がある。まず第１に，資本は生産資本と貨幣資本に区別される。生産資本とは，過去に生産された生産物で，将来の生産のために使用される物的生産手段をいう。たとえば，建物・設備・原料・仕掛品・完成品の在庫などである。これらの物的生産手段を資本財という。資本財が労働や土地のような生産過程から生み出される生産物ではない，いわゆる本源的生産要素と異なるのは，まさに生産過程から生み出された中間生産物であるという点にある。これに対して貨幣資本とは，利潤を獲得する目的で利用されるもので，生産資本がなんら特定の社会的・経済的・法律的関係を前提とするものではないことからどのような社会体制のもとでも存在するのに対し，貨幣資本は私有財産に基づいて形成される特定の経済組織，すなわち資本主義的生産機構においてのみ存在する概念である。このように歴史的・社会的関係において考えられる貨幣資本は，一般的には生産要素を購入し，それを結合して迂回(うかい)生産*を可能ならしめ，新生産物の販売を通じて利益をあげることを目的としている。

マルクスの表示を借りれば，

$$G - W \left\langle \begin{matrix} A \\ Pm \end{matrix} \right. \cdots\cdots P \cdots\cdots W' - G'(G+g)$$



思　凡
初演の舞台。ヒロイン(藤間静枝，のちの藤蔭静樹)は，僧院からあこがれの俗界へと去っていく

ただし，W＝生産手段，G＝貨幣資本，
A＝労働，Pm＝生産手段，P＝生産技術，
W′＝新生産物，g＝剰余価値

となる。生産手段の中には土地・労働，その他生産技術などが含まれており，貨幣資本は生産資本よりも広い概念のものなのである。資本に対する利子という概念は，資本のこの循環的流れの中から生まれてくるのであり，この意味からすると資本の本質は貨幣資本にあるということができる。貨幣資本は貨幣形態に始まり，生産の過程において種々の実物的形態をとる。それらは耐久的固定資本財(建物・機械など)・土地に投下される固定資本と，原材料・労働に投下される流通資本に分かれる。

マルクスは，資本が産業に投ぜられる場合は産業資本，商業に投ぜられる場合は商業資本と定義した。産業資本は内容的には貨幣資本と同一の概念であるが，マルクスは前期的商人資本と対比するためにこの用語を使った。産業資本にとって必要な前提は，生産手段ならびに生産手段をもたない労働者の存在ということである。労働者の存在を前提とするゆえに，産業資本は生産過程で賃労働者を労働させ，剰余価値*を創造するという特徴をもつ。一方，商業資本は産業資本の流通過程における機能をさしたものである。商業資本は，一部分は貨幣に移行するために商品として存在する(商業資本)。他は商品に移行するために貨幣として存在する(貨幣資本)。そして，商業資本の機能はG－W－G′によって示されることになる。G′がGを超過した額が商業利潤である。マルクスは，これを生産された総剰余価値が，一般的利潤率を介して商業資本に配分されたものであると考えた。

さらに，マルクスは，資本を不変資本*と可変資本*とに区別した。不変資本は，土地・建物・機械・原材料などの購入にあてられる資本で，営利資本が貨幣資本から生産過程を経て剰余価値を生み出す諸段階において，ただその価値を移転するだけである。これに対して可変資本は，労働力の購入のために見返りとして賃金の支払いにあてられる資本であって，剰余価値の源泉として生産過程において価値増殖をするという意味をもつ可変的な概念として考えられている。不変資本に対する可変資本の比率を資本の有機的構成*といい，これは各産業によって異なるとともに，資本蓄積の増加によって変化するが，資本主義の発展によって，不変資本の占める割合は増加し，資本の有機的構成は高度化したといわれる。マルクスは労働価値説の立場にたっているから，労働のみが価値を生みふやすと考え，資本の概念に労働を含ませているが，現代の経済理論では，労働に対する購買力の部分は資本の中に入れないのが慣例になっている。つまり，マルクスの不変資本のみが資本と定義されている。それゆえに現代経済学の用語では，資本の有機的構成を資本・労働比率あるいは労働１単位あたりの資本装備率という。〔藤枝省人〕

しぼん【思凡】日本舞踊。1921年(大正10)５月，第９回〈藤蔭会(ふじかげかい)〉で藤間静枝(しずえ)(のちの藤蔭静樹*(しずき))初演。中国の古劇から福地信世が翻案した新舞踊で，若い尼僧が浮き世と異性へのあこがれから尼寺を去っていく姿を描いた作品。

じほん【地本】江戸時代の中・後期に出版された書物で，主として草双紙*類，中本(滑稽本*(こっけいぼん)・人情本*)などをいう。近世前期の江戸においては，上方(京阪)からの移入本が多かったが，中期以後は江戸の出版も盛んになって，上方から移入される読本や絵本と区別するためこの名が使われた。

しほんいじのげんそく【資本維持の原則】会社は，その資本金の大きさに相当する会社財産を実質的に保持しなければならないという原則。資本充実の原則ともよばれる。株式会社においては，株主の有限責任により，債権者に対する担保となるものは会社財産だけであるために，特に会社財産を確保することが要求されることになる。資本維持の原則は，資本確定の原則，資本不変の原則とともに，資本に関する三原則の一つであり，資本団体としての株式会社をささえる重要な基礎的原則である。〔森川八洲男〕

しほんいどう【資本移動】国際間における資本の移動，すなわち国際投資をいう。一般的には，貸し付け期限の長短を基準として，１か年未満であるか１か年以上であるかにしたがって短期資本移動(短期投資)と長期資本移動(長期投資)とに大別される。

①短期投資：具体的には，外国における確実な短期証券，たとえば大蔵省証券・銀行引き受け手形などの保有，コール貸し付け・外国銀行預金などの形態をとっているが，このような短期投資の行なわれる動機からみると，次のように区別される。㋑金利裁定：より多額の利子所得の獲得を目的として低金利国から高金利国に短期投資が行なわれる。㋺為替(かわせ)投機：為替相場の変動を利用して投機的利益の収得を目的として１国から他国に短期資本が移動する。㋩

資本価値の保全：経済的・政治的・社会的な不安が予想される場合，これに伴う危険を回避し，資本価値を保全しようとする動機から，国際間における短期資本の移動が発生する。そのほか，貿易業者相互間の短期貿易信用の供与も短期資本の移動にほかならず，また金の輸出入も，その効果についてみれば実質的には短期資本の移動と同様に考えることができる。

②長期投資：長期投資は一般に直接投資と間接投資とに分類されている。直接投資は外国にある支店・分工場・子会社などに対する投資であり，間接投資は，外国政府あるいは外国企業の発行した公債・社債・株式などに対する証券投資であるが，また長期の貸付金債権もこれに含まれる。

〔安井孝治〕

しほんか　【資本家】　資本の人格的にない手。具体的には資本を所有しこれを貸し付けて利子を取得したり，労働者を雇って事業を行なって利潤*を取得する人をいう。資本は，本来単なる貨幣や生産手段のことではなく，自己増殖を行なう価値のことであるが，それがその自己増殖の出発点と帰着点において貨幣形態をとることから貨幣＝資本とみるようになり，単に貨幣の所有者を資本家とするような見方も生まれてきた。しかし，資本はたえず自己増殖する運動体としてとらえられなければならない。資本家とはこのような〈自己増殖する運動体〉としての資本の人格的にない手なのである。したがって，資本家は，①直接的生産過程に資本を投じて利潤を得る産業資本家，②流通過程に投じて利潤を得る商業資本家，③利子取得を目的とする利子生み資本家＝銀行資本家などに分けられる。しかし，株式会社*制度の発達により資本の所有と経営の分離が行なわれてくると，必ずしも自分自身の資本をもたない企業家が生まれてくる。このような企業家も，自己増殖を行なう資本の人格的にない手であるから資本家とみなされる。〔常盤政治〕

しほんきん　【資本金】　企業経営の基礎となる資本主の出資額。株式会社の場合，商法に基づいて決められるので法定資本金ともいう。原則として，株式会社の資本金は発行済み額面株式の額面総額，および発行済み無額面株式の発行価額の総額(ただし，無額面株式はその発行価額の4分の1を越えない金額を資本に組み入れないことができる)とで構成される(商法284条2)。

しほんけいすう　【資本係数】　資本ストックKと，その使用から産出された生産量Yとの比，すなわちK/Yを資本係数，または資本産出高比率という。国民経済全体として考えた場合，その値は国民所得に対する実物資本量の比となる。資本係数の値が大なることは，生産物1単位あたりの資本量が大なることを意味し，迂回(うかい)生産*がより長期化されたことを表わす指標となる。この値は，アメリカやイギリスでは長期的にほぼ一定であることが確認されている。生産量の増分ΔYに対する資本量の増分ΔKの比，すなわち$\Delta K/\Delta Y$と表わした場合，特に限界資本係数，または投資係数とよんでいる。〔富田重夫〕

しほんざい　【資本財】　企業が生産を行なうのに必要な原材料・機械設備・工場施設の総称。生産物として直接消費者の欲望充足に役だつ消費財*に対応する語。生産過程において利用され，生産物の上にその価値を転化していくところから生産財*ともよばれる。なお，新しく生産された生産物も，さらに加工されることになればそれらも資本財である。このような場合の財を中間生産物ともいう。

しほんじゆうか　【資本自由化】　商品の輸出入に対する直接統制の撤廃，関税の引き下げを内容とする貿易自由化*に応じて，外資導入*(借款，外国市場における株式・社債の発行など)に対する制限をしだいに緩和し，いずれは国際間での資本の自由な移動を実現しようとするものである。1967年(昭和42)7月から実施に移されたわが国の資本自由化は，対内直接投資の自由化を意味している。これは1964年のわが国のＯＥＣＤ*(経済協力開発機構)加盟を契機として具体化しはじめたもので，1967年7月の第1次に始まり，1969年3月第2次，1970年9月第3次，1971年8月第4次と進行し，外資の持ち株比率50％まで自動認可する第1類自由化業種が500余種，外資の持ち株比率100％まで自動認可する第2類自由化業種が228を数え，非自由化業種は7業種を残すのみになった。農林水産，石油精製・販売，電算機製造などの7業種も個別審査業種という方法がとられている。

〔白石　孝〕

しほんしゅうし　【資本収支】　商品貿易とともに1国の対外経済活動をつかむうえに重要な資本取引の収支。対外諸取引は経常取引収支*と資本取引収支とに大別され，国際収支に記録される。資本取引とは，国際間における債権債務関係の変化を伴うような取引で，政府・民間の区分のほかに，長期・短期の資本の移動に分けられる。形式上，償還期限が1年未満の債権債務の変化は短期資本，1年以上の債権債務の変化は長期資本として区別されている。短期資本のとる主要形態は，外国銀行預金，外国金融市場における銀行引き受け手形，大蔵省証券のような短期証券の保有，コール-ローンなどである。長期資本の主要形態は，直接投資・間接投資・長期貸付金などである。直接投資とは，外国にある自国企業の支店・子会社などに対する投資であり，間接投資とは外国の公社債・株式に対する投資である。短期資本の移動の中には投機性の強い不安定な要素が含まれているので注意を要する。なお，貨幣当局によって国際決済手段として使用される金の対外取引は対外的な債権債務関係の変化とみることができるから，資本取引の中に含めて考える。以上の諸項目に記録される受け取り額と支払い額との差額を資本取引収支という。経常取引も資本取引をも含めて国際収支全体についてみれば，国際収支の受け取り総額と支払い総額とは必然的に一致するのであるから，経常取引収支が黒字(赤字)であると，資本取引収支はそれと同額だけ赤字(黒字)である。〔安井孝治〕

しほんしゅうやくざい　【資本集約財】　Ｘ財およびＹ財の2財が，それぞれ資本および労働の二つの生産要素をある比率で組み合わせることによって生産可能であるとする。所与の商品価格比率のもとで，Ｘ財の資本-労働比率がつねにＹ財の資本-労働比率に比して高い場合，Ｘ財を資本集約財といい，Ｙ財を労働集約財という。ただし，一般にはこの定義に厳密に適合しなくても，重化学工業品を資本集約的商品，軽工業品を労働集約的商品とよぶ。〔唐木圀和〕

しほんしゅぎ　【資本主義】　⇨次ページ

しほんじゅんびきん　【資本準備金】　会社が法律で定められた義務として積み立てた資本*の剰余金。すなわち営業活動による利益以外の剰余金である。その財源は営業活動による利益以外のものであるから，本来株主*の出資の一部その他資本に準ずべき性質のものであり，株主に利益として配当すべき性質のものではなく，全額積み立てを強制されている。積み立てを要するものは商法に列挙されている(288条)。

しほんちくせき　【資本蓄積】　建物・工場・機械・道具・装置・在庫品などの実物資本のたくわえ(ストック)を年々増大させていく過程を資本蓄積あるいは資本形成という。たとえばある期間をとったとき，期首より期末に資本のたくわえがふえているならば，その差がこの期間に蓄積された資本の量，すなわち純投資を表わす。一般に先進国では後進国に比べて資本蓄積が進んでおり，それが先進国における高い生活水準を保証している。また，資本蓄積は生産の増加，すなわち経済成長に非常に大きな役割を果たしているし，人口増大に対しても，増加する労働力に雇用機会を与え，また労働者1人あたりの資本装備率を高くし，分業と大規模生産の利益をよりよく活用することによって労働の生産性を上昇させる。そしてまた，資本蓄積は技術進歩を生みだす母胎となりうるのであり，よりすぐれた技術の導入を可能にする通路となる点が特に注目されなければならない。一方マルクス経済学では資本蓄積は剰余価値*を資本に再転化することと定義されている。資本主義社会の再生産の過程はそのまま資本蓄積の過程であり，より多くの剰余価値を求めて社会的な拡大再生産が行なわれていく。

〔富田重夫〕

資本主義

資本主義に関する定義は人によってまちまちであり，必ずしも一致した見解はみられない。マルクスは資本主義を社会の歴史的発展の一段階とみなし，《資本論》において資本主義的生産構造を生産力と生産関係の面から理論的に考察した。この対象となったのは18世紀後半から19世紀にかけてのイギリス社会，すなわち封建的社会体制の崩壊後，産業革命*を経て確立されたイギリス産業資本主義である。資本主義を一定の経済体制として規定したゾンバルト*によれば，資本主義とは経済の主体である生産手段の所有者と客体である生産手段をもたない労働者によって生産がなされ，営利主義・合理主義の支配する経済体制である。またM.ウェーバー*は，近代資本主義を社会構造としてではなく，精神的な態度として観念的に把握(はあく)し，合法的利潤を職業(使命)として組織的・合理的に追求する精神的態度によって特徴づけた。そのほか，資本主義に関してもろもろの定義・規定がなされるが，基本的にいえることは資本主義とは私有財産制*を基礎とし，一方には生産手段を所有する資本家階級，他方には生産手段から切り離され自己の労働力を売って生活する労働者階級が存在し，私的利潤追求を目的として商品生産が行なわれる経済社会体制，および理念としている。実際の資本主義社会は封建制度の解体とともに発生し，まずイギリスにおいて18世紀後半の産業革命を経て確立，その後ヨーロッパ・アメリカ・日本に急速に広まった。その後，資本主義はその発展に伴って様相を変化させつつあり，確立時の資本主義と現代の資本主義とでは性格に大きな違いが生じてきている。

【資本主義経済体制】 資本主義経済の基礎は私有財産制である。財産あるいは生産手段の私的所有は資本主義以前の社会体制においてもみられたが，資本主義に本質的なことは生産手段がごく少数の資本家階級によって私有され，多数を占める直接生産者たる労働者階級は生産手段をもたず，自己の労働力を商品として資本家階級に売って生活を維持するよりほかないことである。販売のために生産が行なわれる商品生産は資本主義生産の本質とされるが，これを以前の単純な商品生産と区別するのは資本主義生産がこのように労働力までもが商品化された最高に発展した商品生産だということである。労働者は労働力たる商品の販売を通じて資本家と自由・対等な契約関係を結ぶかぎり封建的身分関係から解放され，人格的自由を獲得したといえるが，その反面生産手段から切り離され，生存を維持するために自己の労働力を資本家に売り渡さざるをえない。こうして，直接生産者が労働者であるにもかかわらず，資本主義社会における経済活動の主体は自己の所有する生産手段および購入した労働力を用いて生産活動を行なう資本家階級となる。労働者の労働によって得られた成果のうち労働者に支払われるのは必要労働部分，すなわち労働力の再生産に必要な生活手段の価値に等しい部分のみであり，残りの不払い労働(剰余労働部分)は剰余価値として資本家が取得する。この剰余価値が資本家の利潤であり，私的利潤追求という営利動機が資本主義経済を動かしている動機なのである。営利追求動機による利得活動は欲望充足経済においては存在しない。資本主義社会にあっても欲望充足のための家計活動は存在するが，経済活動を支配し，実際に経済を動かしているのは営利追求のための利得活動・企業活動であるといえる。

以上はおもにマルクス経済学の立場からみた資本主義生産の特徴であるが，ここから資本主義に特有ないくつかの弊害が指摘される。マルクス経済学における資本主義の基本的矛盾とは，生産力と生産関係の矛盾，生産の社会的性格と生産関係の私的性格との矛盾の二つをいう。資本主義が発展するにつれて，生産はますます社会的様相をおびてくる反面，生産手段および生産の成果は依然として少数の資本家に私的・資本主義的に領有されている。結局，資本主義生産におけるこの基本的な矛盾からもろもろの矛盾が発現し，資本主義体制はみずから崩壊せざるをえなくなり，社会主義*へと移行していく運命にあるというのがマルクス経済学の結論である。

資本主義は従来の封建的束縛から人々を解放し，多くの面で，近代社会の建設に貢献した。また，工場制大工業の確立，その後の絶え間ない技術革新によって，かつてなかった巨大な生産力増大を可能にした点で，大きく評価されなければならない。さらに，資本主義は自由競争を前提とした市場経済であるから，そこにはおのずから価格による調節作用が働き，経済秩序が保たれることが期待された。A.スミス*は各人の自由な利潤追求行動がおのずから神の見えざる手に導かれ，社会全体の福祉につながるとして自由放任主義を主張した。しかし，現実の問題として，慢性的失業，生産と消費の不均衡から生ずる周期的過剰生産恐慌，資本・労働の対立激化など，もろもろの矛盾がだれの目にも明らかな現象となった。

慢性的失業はマルクス経済学においては資本主義的蓄積の一般法則――相対的過剰人口または産業予備軍*の累進的生産として説明される。利潤追求をめざして，個々の資本はその生産を拡大し，資本蓄積を推し進める。それは必然的に技術水準を高め，ますます大規模な機械を駆使し，機械による労働力排除が行なわれる。これは個々の資本についてだけでなく，社会的総資本についてもあてはまることであり，資本主義的蓄積が進むとともに機械使用による資本の有機的構成*の高度化は労働に対する需要を相対的に減少せしめる。この相対的過剰人口の存在は単に資本主義的蓄積の産物であるばかりでなく，逆にそのときどきの資本の必要に応じて弾力的に労働を供給する産業予備軍として資本主義生産をささえることになり，特に景気循環において重要な役割を演ずるとされる。実際に，資本主義の発展とともに，こうした慢性的失業の現象が深刻化した。ケインズ*は《雇用・利子および貨幣の一般理論》の中でこうした不完全雇用が資本主義社会の中で常態となりうる危険性を取り上げ，完全雇用*達成のための政府の金融・財政政策の必要性を主張した。このように，失業は資本主義に必然的な現象であり，不可避であるとするのがマルクス経済学者の見解である。これに対して近代経済学者は，いちおう現象として存在しうることは認めるが，これは国家の政策によって除去可能であるとみる。

次に周期的恐慌について考察すると，個個の資本家は，利潤(剰余価値)の生産・領有をめざして，お互いに競争しながら蓄積を続け，生産を無限に拡大しようとする。そして，生産されたものが実現されるためには，市場において有効需要が存在しなければならない。それにもかかわらず，この資本家の生産拡大意欲は前述したように資本の有機的構成を高め，可変資本部分(労賃部分)を少なくし，一般大衆の消費力はますます制限されざるをえなくなる。この生産と消費との矛盾が過剰生産恐慌の原因であって，マルクス経済学では必然的なものとされている。現実に，19世紀の初めから過剰生産恐慌は約10年という周期をもって現われるようになった。恐慌は企業の破産，大量失業などもろもろの経済的混乱を生み出し，資本主義の矛盾を最も集中的に表現するものである。さらに労使の対立についても，マルクス経済学の見解によれば生産増大につれてますます多くの富が資本家の手に集中する反面，労働者はますます窮乏化していくなどの原因によって，資本主義社会では必然的に激化していくとみなされる。しかし，これらの周期的恐慌，労使対立など資本主義の矛盾も，国家の政策によって除去ないし緩和されうるとするのが近代経済学者の見解である。実際に，1929年の世界恐慌ののち，国家が大幅に経済に介入するようになってから現代までの資本主義社会を通じて，これらの矛盾がそのままの形では現われなくなった。

〔資本主義の発展過程〕資本主義は次のような段階を経て発展してきた。①商業資本主義：封建体制の中で商品貨幣経済が発展してくるにつれて，農奴制や手工業同職ギルドなどの封建的拘束がしだいにくずれ，独立自営農民や独立の手工業者が生まれる。これら独立小生産者は，さらに土地その他の生産手段を奪われて賃金労働者に転落するものと，富を蓄積して資本家になっていくものとに両極分解される。このように，一方の極に生産手段を失い，賃金労働者として自己の労働力を売って生きていくよりほかない人々が形成され，他方の極に資本として投下されるべき貨幣が資本家の手に蓄積される――この過程が資本主義的生産関係を生み出す前提であり，資本の本源的蓄積*過程とよばれる。本格的資本主義はこの過程を経てはじめて確立するのであり，この時期はいわゆる資本主義の成立期である。この過程における支配的資本は前期的資本すなわち商人および高利貸し資本であるところから，商業資本主義段階ともいわれる。資本主義発展の典型的な型を示しているイギリスでは，マニュファクチュア*が全面的に発展した16～18世紀がだいたいこの時期にあたる。産業資本はマニュファクチュアとして発展してきたのであるが，この発展のしかたに関しては二つの対立した見解がある。一つは，この時期のマニュファクチュアが商業資本と密接に結びついていたとする説である。すなわち，手工業者は問屋制前貸しを行なう商人に支配権を握られ，事実上は賃労働者となっていた。そして，商人が事実上のマニュファクチュア所有者として発展してきたとする。このように，商業資本が問屋制前貸し制度を通じて産業資本に転化したという説に対して，逆に産業資本と商業資本との対立を強調する説がある。すなわち，農村工業の基盤の上にマニュファクチュアが発展し，これが問屋制商業資本に対抗して産業資本として独立の発展を遂げたとする見解である。いずれにしろ，この時期における支配的資本は商業資本であり，絶対主義国家は積極的に資本の発展のための諸政策をとった。これら国家の政策は重商主義政策とよばれる。

②産業資本主義：本格的な資本主義である産業資本主義は，産業革命を経てはじめて確立した。産業革命はまず18世紀後半のイギリスにおいて起こり，その後ヨーロッパ各国・アメリカなどに急速に広がっていった。以前のマニュファクチュア段階においても単純手労働を基礎とした賃金労働者が形成され，資本・労働の関係による社会的生産が行なわれていたが，産業革命たる工場制大工業の出現とともに，この生産様式が決定的・支配的となるに至った。最初の木綿(もめん)工業などの繊維工業における機械採用は，機械に対する需要を促し，重工業その他あらゆる部門にわたって革新が行なわれた。産業資本主義段階は，このようにして全社会的に資本主義的生産様式が確立し発展を遂げた時期であり，この資本主義生産のにない手が産業資本である。この意味で，産業資本の運動は最も典型的な資本の運動を示す。そして，資本主義の典型的な型として考えられているのがこの産業資本主義である。産業資本主義は自由貿易・自由競争を前提としていた。工場制大工業の出現により，各企業はその経営・生産規模を飛躍的に拡大したとはいえ，いまだ小規模でかつ多数存在していた。産業資本は，以前の商業資本のように国家の重商主義政策・保護貿易政策にたよることなく，みずからの自由な運動のために安価ななにもしない自由放任の国家，いわゆる夜警国家*を求めた。A.スミスの自由放任主義は，この時期の産業資本の要求を最もよく示しているものである。この産業資本の運動は各自私的利潤を求めて競争を続けながら蓄積を進め，それ自体必然的結果として資本の集積・集中をもたらした。資本主義的生産様式が確立したことにより，失業や過剰生産恐慌などもろもろの矛盾も現われ，これは資本蓄積に伴ってますます激化する様相をおびた。こうして産業資本主義は，19世紀の60～70年代を頂点として，その後は独占資本主義へと移行した。

③独占資本主義：産業資本は，競争に刺激されて絶え間ない技術革新(新しい機械採用)を余儀なくされ，その生産規模を拡大してきた。競争に勝った大資本は負けた資本を自己の手に収めてますます大きくなり，また競争を生き延びるために弱い中小資本は互いに寄り集まって一つの大資本を形成するようになった。近代的な株式会社*制度は，こうした大規模資本の形成を大いに促進する役割を果たした。独占資本主義段階に支配的な資本は，このように大規模化した産業資本(独占資本)である。独占資本は，それが銀行資本と密接に結びついているという特徴から，ヒルファーディング*はこの時期を金融資本主義と規定した。彼は，産業資本に対する銀行資本の優位性を主張し，金融資本を〈銀行によって支配され，産業資本家によって充用される資本〉と定義した。レーニンは，資本主義の最高の発展段階としての独占資本主義を帝国主義*と規定し，この時期に独占資本は金融資本の形態をとると指摘したが，金融資本概念を〈生産の集積，そこから成長してくる独占体，銀行と産業との融合あるいは癒着(ゆちゃく)〉と規定し，その成立の基礎をあくまでも独占体の支配においた。さて，独占資本は一つの産業において，さらに多くの産業にわたって，その生産，販売市場の大きな部分を占め，それによって独占的な支配権を確保し，競争を排除するに至った。自由競争時代に働いていた価格による需給調節という自動的調整作用が働かなくなり，富はますます少数の手に集中し，一般大衆の窮乏化が進むにつれて，資本主義の諸矛盾がますます激化された形で現われるようになった。1929年の全世界的な大恐慌およびそれに続く深刻な不況はこの矛盾を最も集中的に示している。このように，独占段階にはいって諸矛盾が激化してくるにつれて，各資本主義国は資本主義体制を存続させるため，自由放任主義的政策を放棄し，積極的に経済活動に介入してくるようになった。1930年代のアメリカ政府のニューディール*政策は，この代表的なものである。これ以後の資本主義は国家独占資本主義*とよばれるが，現代に至って資本主義社会におけるさまざまな変貌(へんぼう)を背景に資本主義変貌論が唱えられ，国家独占資本主義というよりは修正資本主義*などの表現が用いられるようになった。

〔現代資本主義〕資本主義諸矛盾の集中的表現である1929年の世界恐慌を経て，資本主義社会は変貌を遂げたといわれる。それまでの夜警国家に代わって強力な国家，すなわち資本主義体制を維持するために金融・財政その他の政策を通じて積極的に経済活動に介入する国家が現われた。第2次世界大戦後の資本主義社会は，このような国家の経済的介入がさらに強化され，恒常化した社会である。独占資本は強力な国家をバックとしてますますその地位を固め，社会の生産力も飛躍的に拡大してきた。それとともに，それまで激化していた資本主義の諸矛盾，階級対立とか周期的恐慌などの現象に変化がみられるようになってきた。現代社会が資本主義であるかぎり，依然として生産関係が私的であるかぎり，生産力が拡大して社会化すればするほど，資本主義の基本的矛盾はさらに激化した形で内在しているはずである。しかしながら，現実にこうした矛盾は以前のような形では発現しなくなった。こうした現代資本主義をめぐって，資本主義ははたして根本的に変化したか否かの点でもろもろの論議がかわされている。これまでの資本主義とは異なる現代資本主義の特徴として，次のような点があげられる。①まず，経済活動の主体として，私企業だけでなく政府の活動が大きくなったこと。政府は生産手段を国有化し，公企業として企業活動をするほか，財政・金融政策などを通じて広く経済の調整を行なうようになった。この結果，経済内においてかなりの程度の組織化・計画化が可能になったこと。②株式会社制度が高度に発展した結果，私企業である現代の大企業を支配しているのは資本所有者である株主ではな

く，それとは別個の専門経営者である。これは，経営者革命として早くからアメリカのバーナムによって唱えられたところである。③前述した公的部門の役割の増大，経営者支配などの結果，経済活動の目的・動機にも変化が生じ，いままでの私的利潤追求目的に代わって，長期的観点から経済の安定を図ったり，国民の福祉をめざすような経済活動もなされるようになったこと。④労働者階級の組織が拡大・強化したこと。それにつれて，労働者の窮乏化現象とは逆に，所得分配が平等化する傾向(所得革命)が現われたり，さらに労働者が経営に参加する場合も出てきた。ガルブレイスの唱えた拮抗力(きっこうりょく)理論は，このように労働組合のほか消費者団体・農民団体などいわゆる独占資本の権力に対抗する力によって，独占資本による弊害が除去されうるとの主張である。さらに⑤資本主義に必然的なものとみなされていた周期的恐慌・大量失業などの現象がみられなくなったことがあげられる。

以上のようなことから，現代資本主義はいわゆる資本主義ではなく，質的に変貌を遂げているとする見解があり，修正資本主義とか大衆資本主義・福祉国家などという表現が用いられるようになった。これに対して国家独占資本主義を主張する立場は，それはあくまでも現象面にすぎないとする。いまだに生産手段の大部分が少数独占資本の手に握られているかぎり，国家も単に独占資本を擁護する機関にすぎず，資本主義の矛盾は内在する。経営者革命といっても，経営者は結局株主の利益を代表するものであり，資本の機能を果たしている。所得革命の最大の典拠であるクズネックの論文の統計数字には多くの疑問点があげられる，そして資本主義の矛盾が以前のような形で発現しなくなった代わりに，クリーピングインフレーションのような慢性的なインフレ状態がみられる，などの指摘がこの立場の人々からなされている。一方こうした立場にありながらも，これまでの現象的な変化を評価し，国家の公共的性格を認めてその計画的活動により，また労働者階級の力の増大により，資本主義の矛盾はなくならないまでも，ある程度緩和することができるとみる者もいる。〔加藤　寛〕

しほんちょうたつ　【資本調達】　企業が経営活動に必要な資本を獲得すること。資本調達の方法は，自己資本の調達と借り入れ資本の調達に大別される。このうち自己資本の調達は，その源泉からさらに元入れ資本の調達と自己金融による調達とに分かれる。自己金融による資本調達が企業内部からの調達方法であるのに対して，元入れ資本としての自己資本の調達(株式会社の場合には株式の発行)，および借り入れ資本の調達(社債の発行ならびに金融機関からの借り入れ)は外部調達方法である。自己金融による調達は企業利潤の大きさによって制約されるが，その限度を越えて資本が必要とされる場合には，企業外部からの調達方法が利用されることになる。これらの諸方法の中から，企業は所要資本の用途，金融市場または証券市場の状況，資本費用などを考慮して，最も有利な方法を選択する。〔森川八洲男〕

しほんのしゅうせき・しゅうちゅう　【資本の集積・集中】　資本の集積とは，資本が生産した剰余価値または利潤を資本に再転化することを通じて，資本が累積的に拡大していくことをいう。資本の集中とは既存の数個の資本の合併，大資本の小資本吸収によって，一つのより大きな資本になっていくことをいう。したがって，資本の集積と集中とは個別資本が大きくなっていくという点では共通しているが，資本の集積が同時に社会全体としての資本の増大を意味するのに対し，資本の集中は必ずしも社会全体としての資本の増大を意味しない。しかし，資本の集中はそのことによって生産力を増進するのが普通であり，そのことを通じて資本の集積を促進し，生産に必要な資本量(最低必要資本量)を増加させ，競争企業の資本集中をよび起こす。このように，両者は相互に密接なつながりをもって進行し，生産の集積を促進して独占資本の形成をもたらす。〔常盤政治〕

しほんのゆうきてきこうせい　【資本の有機的構成】　投下資本総額のうちで占める生産手段の価格(不変資本C)と労働者を雇うために支払われる資本額(可変資本V)との組み合わせ関係($\frac{C+V}{C}$)をいう。資本主義社会で生産を行なうためには機械とか道具とか，原材料のような生産手段を購入し，労働者を雇わなければならない。この両者の割合は，各生産部門での歴史的に規定された一定の技術水準を前提とした，生産手段と労働力との結合のしかたいかんによって規定される。たとえば，1人の労働者が1台の機械しか運転できないか，あるいは5台の機械を操作できるかという技術水準の程度にかかわるものである。このような技術的に規定される生産手段と労働力との結合関係を資本の技術的構成という。資本の有機的構成は，この資本の技術的構成を価値(価格)的に表わしたものにほかならない。資本主義の発達に伴い，技術が高度化し，機械や設備などの固定設備を多く必要とするようになり，資本における生産手段と労働との比率はしだいに前者が優位を占めるようになる。これを資本の有機的構成が高度化したという。有機的構成の高度化は技術的進歩を意味する。〔常盤政治〕

しほんりえきりつ　【資本利益率】　利益の投下資本に対する割合。すなわち，資本利益率$=\frac{利　益}{投下資本}\times100$である。この数値は，企業に投下された資本がどの程度効果的に運用されたかを示すもので，企業の収益性を判断するうえで基本的に重要な指標となる。分母にどの資本概念を用いるかによって，総資本利益率・自己資本利益率・払い込み資本(資本金)利益率などに分かれる。なお資本利益率は，売上高利益率$=\frac{利益}{売上高}\times100$と，資本回転率$=\frac{売上高}{投下資本}$から構成される。したがって，資本利益率を高めるためには，一方で利幅を大きくするとともに，他方で資本の回転を速めることが必要となる。〔森川八洲男〕

しほんろん　【資本論】　科学的社会主義の創始者カール-マルクスの代表的著作で，マルクス主義思想体系の中核をなす経済学の古典。全3巻からなり，第1巻は〈資本の生産過程〉，第2巻は〈資本の流通過程〉，第3巻は〈資本制生産の総過程〉となっている。副題が〈経済学批判〉となっているように，古典学派や〈俗流経済学〉を批判しながら資本主義の本質を明らかにしようとしたものであるが，そのねらいは近代ブルジョア社会の経済的運動法則を暴露することにあった。資本主義社会での富の基本形態は商品であるとして，まず商品の分析から始め，商品，貨幣，貨幣の資本への転化，というように，抽象的なものから具体的なものへと追求する〈上向法〉的順序で論述されている。マルクスが生存中に出版されたのは1867年に刊行された第1巻だけで，第2巻は1885年に，第3巻は1894年に，それぞれマルクスの死後，エンゲルスの編集によって刊行された。なお，《剰余価値学説史》は本来《資本論》第4巻にあたるもので，最初カウツキーの編集によって刊行されたが，最近ソ連および東ドイツのマルクス-レーニン研究所の編集によって新版が刊行されている。現行《資本論》全3巻を完訳した邦訳としては，高畠素之(たかばたけもとゆき)訳，長谷部文雄(はせべふみお)訳，向坂(さきさか)逸郎訳，マルクス-エンゲルス全集刊行委員会訳などがある。〔常盤政治〕

シマ　［sima］　大陸の地殻(ちかく)の下部や，大洋底の地殻をつくっている部分の総称。化学組成は，酸素・ケイ素・マグネシウムを主成分としている。➔シアル

しま　【島】　大陸に対して相対的に小さな陸塊をいう。島を成因から分類すると，元来大陸の一部であったものが何らかの原因で大陸から分離して生じた陸島と，大陸とは何ら関係をもたない洋島とがある。陸

島には日本列島やマライ諸島・セイロン島・イギリス諸島・ニューファンドランド・ニューギニアなどがあり，いずれも大陸棚(だな)上にのっている。洋島は大洋底にある火山の頂上が海上に現われた火山島が大部分で，アイスランド・アゾレス諸島・カナリア諸島・ハワイ諸島・伊豆七島・小笠原諸島などがある。また，熱帯に多いさんご島は火山を基盤とした火山島の一種(マーシャル諸島・カロリン諸島・ギルバート諸島など)が多いが，なかには大陸棚上に発達したグレートバリアリーフのようなものもある。島は単独に存在することもあるが，いくつもの島が列状に並び島弧を形成することも多く，その外側には海溝(かいこう)が発達している。また洋島はマントル*の対流に伴って，年々わずかずつ移動していることが最近の研究によって明らかにされている。大部分の島は本陸から離れ，孤立した社会を形成し開発が遅れがちであるが，大西洋や太平洋中の洋島の中には，大陸間の国際的な連絡に重要な意味をもつものも少なくなく，海底電線の中継地，遠洋漁業の補給地，海上・航空交通の中継地などが置かれている島々もある。〔小栗宏・桑原正見〕

しま　【志摩(国)】　三重県東部志摩半島の旧国名。東海道に属する。もと島津国造(くにのみやつこ)の治下で，大化改新以後志摩国が建てられ，答志・英虞(あご)の2郡であった。国府・国分寺は現在の志摩郡阿児(あご)町。中世には金沢(北条(ほうじょう))・仁木(にき)・土岐氏らが守護*となったが，戦国末期には水軍を率いる九鬼氏が，織田・豊臣(とよとみ)，次いで徳川氏に属して全土を支配した。江戸時代には鳥羽(とば)一藩のみ。明治に至り，鳥羽県・度会(わたらい)県を経て，1876年(明治9)三重県に併合され，現在に至っている。〔絲　弘道〕

しま　【志摩(町)】　三重県の東部，志摩郡にある町。人口17,000。1954年(昭和29)和具・御座など5町村が合併してできた。志摩半島の南端，先志摩*にあり，北の英虞(あご)湾の入り江や南岸の海食崖(かいしょくがい)の風景にすぐれ，伊勢(いせ)志摩国立公園*にはいる。主産業は英虞湾の養殖真珠を中心とする漁業。国道260号線に沿い，賢島から町内各地に定期船が通う。

しまあじ　【縞鰺】　硬骨魚類・アジ科。体は長楕円(だえん)形で著しく側扁(そくへん)する。背部は緑かっ色，腹部は銀白色で，体側中央に幅の広い黄色縦走帯がある。えらぶたに明瞭(めいりょう)な1個の黒斑(こくはん)がある。全長1mに達し，岩手県宮古市以南の対岸や八丈島などに分布し，一部の地方では養殖されている。アジ類中最も高級なものとされ，さしみ・すし種などとして珍重される。

しまあじ　【縞味】　鳥類・ガンカモ科。コガモ大の小形のカモ。雄の顔頸(がんけい)部は栗色(くりいろ)で，太く白い目だつ眉線(びせん)



シマアジ



シマウマ　(上)グラントシマウマ　(下)グレービーシマウマ

がある。雌は全体にかっ色。春秋の渡りの時期に，おもに川・池などに渡来し，コガモと混群になることが多い。ほとんどのものが日本では越冬せず，インド・マライ半島などに南下して越冬することで，他のカモ類と異なる。

しまい　【仕舞】　能の略式演奏。面・装束を用いず，紋服に袴(はかま)あるいは裃(かみしも)姿で，地謡によって曲の一部(クセ・キリなど)を舞う。舞い手は原則としてシテ1人。いわば能のデッサンであり，能のけいこは仕舞から始められる。なお，狂言の同種の演奏を小舞という。

しまいそうしつ　【島井宗室】　(1539～1615)　安土桃山時代の豪商。名は茂勝，剃髪(ていはつ)して宗室と号した。博多(はかた)の酒屋・金融業の家に生まれ，九州諸大名に対する金融や海外貿易で巨富を積んだ。1587年(天正15)豊臣秀吉(とよとみひでよし)の九州征伐*の際，神谷宗湛*(そうたん)とともに戦火で焼けた博多の復興を命ぜられた。千利休*・古田織部*(おりべ)に茶道を師事し，茶の湯を通して秀吉をはじめとする諸大名との関係を深め，政商としての位置を獲得した。文禄(ぶんろく)・慶長の役*に先だち，渡鮮して詳細の事情を偵察(ていさつ)し，戦役中は博多の監督権を与えられ，宗湛とともに兵糧(ひょうろう)輸送にあたった。1601年(慶長6)黒田長政*(ながまさ)が筑前(ちくぜん)(福岡県)に封ぜられた際，福岡城の築城に資金を献じた。〔高崎徳次〕

しまうま　【縞馬】　哺乳(ほにゅう)類・奇蹄(きてい)目・ウマ科。肩高1.2mほど。19世紀末に絶滅したクァッガに酷似する。小形で，体の地色は白～淡黄土色，しまは黒～濃かっ色。しまは地方により非常に差異がある。耳はやや小さく，くびの下に肉だれがない。腰にはしご状の短い横じまがない。アフリカ東南部にすみ，バーチェルシマウマ・チャップマンシマウマ・セロウスシマウマ・グラントシマウマの4亜種に分けられ，動物園などで最も普通に見られる。近縁種にヤマシマウマ・グレビーシマウマがある。

しまおとしお　【島尾敏雄】　(1917～　)　小説家。横浜市の生まれ。九州大学文科卒業。第2次世界大戦下，特攻隊指揮官として奄美(あまみ)群島の加計呂麻(かけろま)島に駐屯(ちゅうとん)。特攻隊における死の体験とその下での恋愛が文学の原形質を形成し，《出発は遂(つい)に訪れず》などのすぐれた戦争文学を生んだ。また《死の棘(とげ)》など病妻ものの連作で夫婦の根源的なあり方を追究。ほかに《島の果て》《マヤと一緒に》《島へ》のほか，評論集《非超現実主義的な超現実主義の覚え書》がある。1955年(昭和30)以来，奄美大島名瀬市に住んでいる。

しまおりもの　【縞織物】　原則的には直線によって構成される幾何学的文様*の織物の総称。生地の経(たて)方向のものを経縞，緯(ぬき)方向のものを緯縞(よこじま)という。経緯の線の交差する弁慶縞のように，縞とよばれる場合もあるが，これらは通常は格子(こうし)と称されている。しかし，経緯の方向でなく，斜めの線で表現されたものは斜縞(ななめじま)とよばれている。また，蛇行(だこう)する線によるものを，ときによろけ縞などと称することもあり，さらにある単位文様が経なり緯なりに線状に表現されたものも縞とよばれる場合もある。

縞は，経緯の糸が直交する織物組織の原則に最も添っている。その意味で，縞は織物の意匠としては最も原始的なものといえるし，普遍的であるから，いずれの民族あるいは地域の織物にもみられる。したがって，縞はまず織物として出発し，わが国ではその後縞の意匠が染物にも応用されて，種々の発展を遂げてきた。奈良時代には綺(かんばた)と称される緯縞の細ひもや経縞を地にして文様を織り出した長斑錦(ちょうはんきん)，緯の縞文様を織り出した繧繝錦(うんげんきん)など立派な縞織物が織られていた。中世には資料が乏しく明らかでないが，単純な縞・

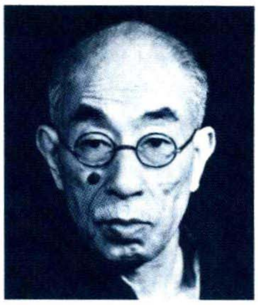
格子の類は織物の基本的な意匠であったから，庶民の衣料などにはかなり用いられていたと考えられる。しかし，この縞織物が盛行したのは近世のことで，特に南方の木綿(もめん)縞織物が渡来してからは，庶民の男女の衣服に盛んに用いられ，各地で製織されるようになった。また，染物にも縞文様は利用された。その結果さまざまな柄がつくられ，万筋(まんすじ)とか千筋，大名縞・滝縞・三筋立(みすじだて)などという種々の名称も生まれたし，上田縞・八丈縞・郡内縞・青梅(おうめ)縞などという産地名を付けた各地の特色ある縞織物もつくられた。〔北村哲郎〕

しまおんせん【四万温泉】 群馬県吾妻(あがつま)郡中之条町にある温泉。泉温38～58℃。泉質は含食塩芒硝泉(ぼうしょうせん)で，特に，四万川の渓流(けいりゅう)に沿う温泉口・山口・新湯・日向見(ひなたみ)の4湯は胃腸病にきくといわれる。温泉の歴史は古く，1683年(元和3)すでに浴舎があったといわれる。長野原線中之条駅からバスの便がある。

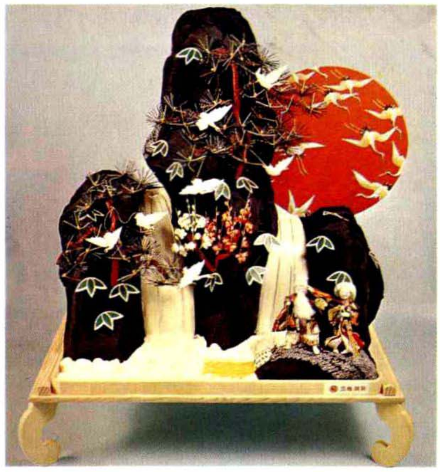
しまか【縞蚊】 こん虫類・双翅(そうし)目・カ科のシマカ属の総称。体長3～6.5mmの小形の種類が多く，いずれも胸部背面に白色の縦条がある。昼間活動して吸血し，種々の疫病を媒介する種類が多い。亜熱帯から熱帯地方に多くの種を産し，日本からも約20種が知られる。ヒトスジシマカは，黒色で銀白色の斑紋(はんもん)のある小形種で，本州・四国・九州のほか，中国からアジアの熱帯地方にかけて広く分布し，デング熱の媒介者として知られる。ネッタイシマカは，全世界の亜熱帯・熱帯に広く分布し，日本では九州以南に知られ，デング熱のほか黄熱病をも媒介する。シマカ属では，上記のほかフィラリア(→糸状虫)の中間宿主として知られている種類が多く，トウゴウヤブカ・ミスジシマカ・シロカタヤブカなどが特に重要である。幼虫は，溜水(りゅうすい)・用水などに生活する。〔鈴木邦雄〕

しまぎあかひこ【島木赤彦】(1876～1926) 歌人。本名久保田俊彦(としひこ)。長野県の生まれ。小学校教員をつとめながら作歌活動にはいり，1903年(明治36)《比牟呂(ひむろ)》を創刊，また，伊藤(いとう)左千夫の門下として《アララギ》によった。精神と生活の密着をめざす独自の写生論〈鍛錬道〉を説き，自然と自己の合一する境に生まれる〈寂寥相(じゃくりょうそう)〉〈幽遠相〉を理想とした。歌集《氷魚(ひお)》《太虚集(たいきょしゅう)》のほか，歌論《歌道小見》などがある。〔三浦　仁〕

しまきけんさく【島木健作】(1903～1945) 小説家。本名朝倉菊雄。北海道札幌(さっぽろ)市の生まれ。苦学して東北大学選科にはいり，社会主義に関心をもって農民運動に参加。三・一五事件で検挙されて転向を表明し，以後作家を志した。1934年(昭和9)処女作《癩(らい)》の発表以来，転向の苦悩を乗り越えようとして新しい生き方を真摯(しんし)に探り続け，知識人・青年層の共感



島崎藤村



島　台　蓬萊山・鶴亀・松竹梅や高砂の尉と姥を配した島台

を得た。代表作に《生活の探求》《赤蛙(あかがえる)》などがある。〔三浦　仁〕

しまざきとうそん【島崎藤村】(1872～1943) 小説家・詩人。長野県の生まれ。本名春樹(はるき)。明治学院普通学部本科卒。在学中キリスト教に入信したが，のちに棄教。《文学界》同人として北村透谷から深い影響を受けた。はじめ詩人として出発，自我の苦悩と欲求を仮託の生にうたいあげた《若菜集》《一葉舟》《夏草》《落梅集》の4詩集は，近代ロマンチシズムの開花を告げた。次いで散文に転じ，信州北部の自然を背景として，部落民の悲劇を描いた《破戒》は，自然主義文学の本格的到来を告げたものとして，大きな反響を呼んだ。以後，《春》《家》《桜の実の熟する時》など一貫して自伝的作風を追い，家族制度の桎梏(しっこく)と旧家の暗い血の宿命を追究，《新生》はその頂点を示し，宗教的解脱への志向をあらわにした。昭和にはいってからは，父正樹(まさき)の生涯(しょうがい)を《夜明け前》に描き，続いて《東方の門》を執筆したが死によって中絶。このほか童話・紀行・随筆にも多くの作品を残した。〔小泉浩一郎〕

しましま【島々】 長野県松本市の西方，南安曇(みなみあずみ)郡安曇村の中心集落。北アルプスから流下する梓(あずさ)川が松本盆地に出る溪口部にあたり，商店も多い。松本市から松本電鉄の電車・バスが通じ，バスはさらに梓川沿いの国道158号線(野麦街道)で上高地へ通ずる。

しまじもくらい【島地黙雷】(1838～1911) 浄土真宗本願寺派の僧。周防(すおう)(山口県)の人。熊本の原口針水に師事し，1866年(慶応2)大洲(おおす)鉄然とともに萩(はぎ)に学校を開く。欧米の宗教事情を視察して，〈政教分離〉〈信教の自由〉の原則を学ぶ。明治維新に際し，政府に神祇(じんぎ)省の廃止と教部省の設置を建議し，宗教政策に大きな影響を与えた。1871年(明治4)木戸孝允(たかよし)と図って雑誌《新聞雑誌》を発刊し，また，女子教育に貢献するとともに，晩年は盛岡市の願教寺に入寺して，養子の大等とともに奥羽地方に布教した。〔坂東性純〕

しまだ【島田(市)】 静岡県中南部の市。江戸時代には東海道の宿場町で，旅籠(はたご)・茶屋が立ち並び，17世紀末に大井川の歩行(かち)越しの制度が確立してから，増水による川留めのときには旅客があふれた。いま，年中行事として〈大井川蓮台(れんだい)渡し〉が7月中旬に行なわれている。なお，日本髪の島田髷(しまだまげ)は，この宿場の遊女たちが最初に結ったものである。1948年(昭和23)市制施行。人口171,000。市街は大井川下流左岸の扇状地上に位置し，右岸の金谷(かなや)町と相対する。産業三大別人口比は15：44：41。大井川上流の木材を集めて製材工業が発展し，紙パルプ・繊維・什器(じゅうき)などの生産が多い。周辺農村部は清浄野菜の産地で，南部に牧ノ原台地を控えて茶の加工・取引が盛んである。東海道本線・国道1号線が通ずる。

しまだい【島台】 婚礼などの饗宴(きょうえん)に飾る縁起物。島形・州浜形ともいう。州浜を形どった足つきの台に，松竹梅，尉(じょう)・姥(うば)，鶴亀(つるかめ)などを飾ったもの。蓬萊山(ほうらいさん)を模したといわれる。

しまだぐみ【島田組】 江戸時代から明治初年にかけての豪商。呉服商・両替商を家業として，京都を本拠に江戸にも開店した。当主は代々蛭子(ひるこ)屋八郎右衛門を襲名。享保(きょうほう)年間(1716～1735)ごろに幕府の十人組両替商に加えられ，島田組と称した。明治維新には三井組・小野組とともに御用金を調達，功労によってともに新政府の為替方(かわせがた)を命ぜられ，官金出納を取り扱った。公金の無利子運用などで利益をあげたが，1874年(明治7)政府は官金取り扱い規則の改正で為替方の担保をきびしくしたため，それに応じられず，小野組に続いて倒産した。〔高崎徳次〕

しまださぶろう【島田三郎】(1852～1923) 明治・大正時代の政治家・ジャーナリスト。旗本(はたもと)の家に生まれ，沼津兵学校，次いで大学南校などに学び，1874年(明治7)《横浜毎日新聞》の主筆となり，自由民権論を唱えた。一時明治政府にはいったが，明治十四年の政変で大隈重信(おおくましげのぶ)に従って下野し，立憲改進党創立に参加。国会開設以来大正末期まで衆議院議員に連続当選し，その雄弁により議会の闘士として

知られた。また《東京毎日新聞》主筆・社長となり，廃娼(はいしょう)運動・足尾銅山鉱毒事件などに活躍。大正政変には国民党を脱して立憲同志会(のちの憲政会)に加わり，ジーメンス事件で政府を追及。その後尾崎行雄と並んで普通選挙運動の推進者となった。主著に《開国始末》《条約改正論》などがある。〔高崎徳次〕

しまだせいじろう【島田清次郎】(1899～1930) 小説家。石川県の生まれ。早くから放浪生活を送り，1919年(大正8)生田長江の推薦で長編《地上》の第1部を出版。一青年の精神的成長を描いたこの作品が大正デモクラシー興隆期の気運に応じ，特に青少年に歓迎されてベストセラーとなった。第4部(未完)まで発表したが，のち精神異常をきたして不遇のうちに没した。

しまだまげ【島田髷】 女性の基本的な髷形の一。長い髪を頭頂で折り曲げたたみ，中央をひもで結んだもの。古墳時代の埴輪(はにわ)にもこのような髷をみることができる。近世になって再度現われた島田髷は，男性の髷が母体となっており，近世初期に結われた兵庫髷と並ぶ最も単純な髷であった。島田髷の名称の由来はいろいろあるが，東海道島田宿の遊女が結いはじめたというのが通説となっている。

江戸初期から末期まで，女の髷が数種類生まれてはすたっていったが，この髷だけは流行の波を乗りきり，明治・大正を経て昭和の現在まで残っている。最初は遊女に結われたものが，その髷の結い方によって，根の高いものを文金ふうあるいは高島田と称して，御殿女中や武家の子女に結われ，根の低いつぶし島田・投げ島田のような形は，芸者・水商売向きとされた。江戸封建社会の影響は，髪形にもはっきり反映していた。名称だけでも〈しめつけ島田〉〈やつし島田〉〈とりあげ島田〉〈さえだ島田〉〈きりすみ島田〉など数十種類残されているが，どのような形を結うのか，現在判然としないものもある。〔橋本澄子〕

しまちどりつきのしらなみ【島衛月白浪】 歌舞伎(かぶき)の脚本名。通称〈島ちどり〉。河竹黙阿弥(かわたけもくあみ)が引退記念のつもりで書いた作で，1881年(明治14)新富座初演。明治初年の世相を描いた散切物の代表作。二人組の強盗明石(あかし)の島蔵と松島千太のうち，罪の報いを知った島蔵が，千太を九段の招魂社で意見してついに改心させる話。

しまづし【島津氏】 南九州の雄族。薩摩(さつま)藩主。平安末期から南九州で活躍し，鎌倉時代に広言の子忠久(ただひさ)は源頼朝(よりとも)の御家人となり，本領薩摩の島津荘(しまづしょう)地頭職を安堵(あんど)され，さらに薩摩守護を世襲した。初代忠久は頼朝の庶子ともいわれるが確証はない。室町時代には薩摩・大隅(おおすみ)(ともに鹿児島県)・日向(ひゅうが)(宮崎県)3国の守護を兼ねたが，

島津斉彬



一族の内政が激しく分裂した。戦国時代貴久(たかひさ)のとき，薩摩・大隅2国を統一し英主と称され，その子義久(よしひさ)もまた大友・龍造寺(りゅうぞうじ)両氏を倒して九州を制圧した。1587年(天正15)豊臣秀吉(とよとみひでよし)に降伏，薩摩・大隅・日向3国の旧領を安堵された。関ケ原の役に西軍に属したが許されて，江戸時代には七十七万石の大名となった。幕末には斉彬(なりあきら)・久光らの指導勢力を出し，討幕の中心勢力となった。明治時代になって公爵。〔鹿野賀代子〕

しまつしょ【始末書】 公務員または私人が故意または過失によって，事故を起こした場合，その事実を上司または官署(官公吏を含む)に具申する文書。謝罪の内容を含んでいるものを始末書，事がらの始終のみを述べたものを顚末書(てんまつしょ)と使い分ける場合もある。

しまづなりあきら【島津斉彬】(1809～1858) 江戸末期の薩摩(さつま)藩主。1851年(嘉永4)父斉興(なりおき)の跡を継いで藩主となり，藩政の刷新，殖産興業につとめた。英明の聞こえが高く，琉球(りゅうきゅう)を介して西洋の事情に通じ，西洋文物の輸入，海防軍備の充実をはかった。1852年鹿児島に反射炉を設置，またガス燈をはじめ火薬・ガラス・陶磁器・紡績などの製造工場を設け，1857年(安政4)これらを総称して集成館と命名した。西郷吉之助(のちの隆盛(たかもり))ら下士の人材を登用して藩権力を集中するとともに，開明派大名として徳川斉昭(なりあき)・阿部正弘(あべまさひろ)・松平慶永(よしなが)ら諸藩主と親しく交わり，国事に接近するようになった。政局が将軍継嗣問題や条約勅許の問題で紛糾するや，一橋(徳川)慶喜(よしのぶ)擁立を幕府に建白するなど積極的な活動を示したが，緊迫した情勢の中で死没した。〔高崎徳次〕

しまづひさみつ【島津久光】(1817～1887) 江戸末期の上層政治家。薩摩(さつま)藩主島津斉興(なりおき)の庶子。藩主継嗣をめぐって嫡出の兄斉彬(なりあきら)を推す斉彬派と久光派とが争って御家騒動〈高崎崩(くずれ)〉を起こしたが，斉彬が藩主となった。その没後，遺命によって，久光はその子忠義(ただよし)を藩主とし，みずからは〈国父〉として藩主の実権を握った。1862年(文久2)幕政改革の勅命を受け，藩兵を率いて大挙東下し，雄藩の実力を背景にして公武合体運動の中心となった。文久3年8月18日の政変で尊王攘夷(じょうい)派勢力が京都から一掃されたのちは朝廷の参与となり，国政に参加したが，まもなく公武合体派の雄藩連合は解体して久光は帰国した。その後，彼の意志を越えて，西郷隆盛(たかもり)ら下級武士勢力の活動により討幕運動が進展し明治維新となった。征韓論(せいかんろん)分裂後，1874年(明治7)左大臣に就任したが，その保守性は新政府にいれられず，1876年辞任して帰郷，引退した。のち公爵となる。〔高崎徳次〕

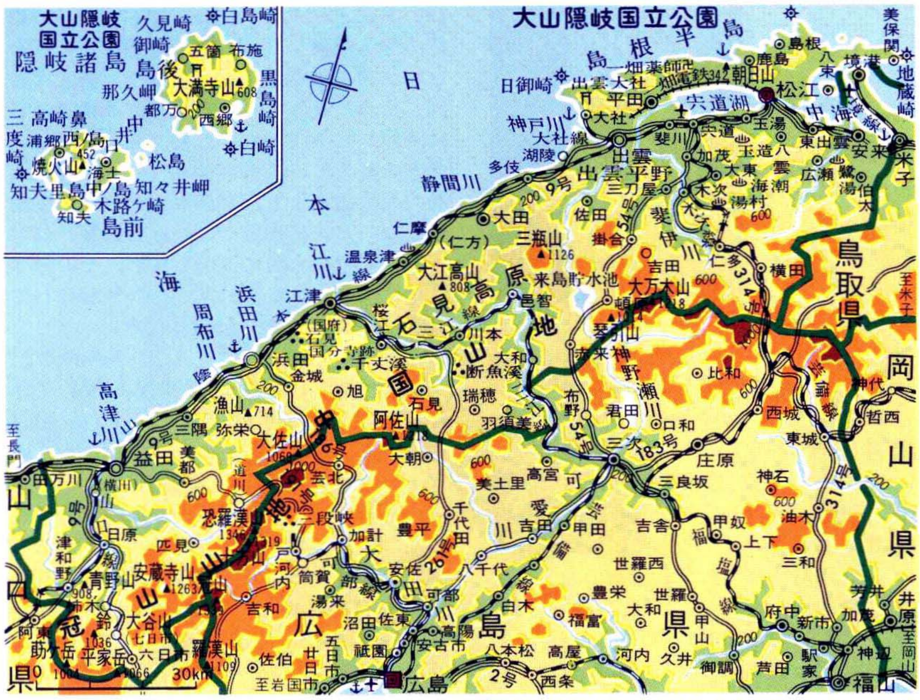
しまづやすじろう【島津保次郎】(1897～1945) 映画監督。東京の生まれ。正則英語学校卒。松竹蒲田(かまた)撮影所にはいり，小山内薫(おさないかおる)に師事，1921年(大正10)監督としてデビュー。腕のよい職人はだの監督として，多数のメロドラマや風俗的な日常スケッチふうの作品をつくった。代表作は《隣の八重ちゃん》《お琴と佐助》《兄とその妹》など。門下から五所平之助・吉村公三郎(よしむらきみさぶろう)・木下恵介(けいすけ)らが出た。〔佐藤忠男〕

しまづよしひさ【島津義久】(1533～1611) 安土桃山時代の武将。はじめ忠良・義辰。修理大夫。1566年(永禄9)父貴久(たかひさ)の跡を継いで薩摩(さつま)・大隅(おおすみ)(ともに鹿児島県)，日向(ひゅうが)(宮崎県)の守護となり，伊東(いとう)氏を日向から追い，次いで大友・相良(さがら)・秋月・龍造寺(りゅうぞうじ)・高橋・筑紫(つくし)らの諸氏を破ってほぼ九州全土を勢力下に収めたが，1587年(天正15)豊臣秀吉(とよとみひでよし)の九州征伐の大軍に屈し，家を弟義弘(よしひろ)に譲り，剃髪(ていはつ)して龍伯と称した。〔岡山泰四〕

しまづよしひろ【島津義弘】(1535～1619) 安土桃山時代の武将。義久の弟。はじめ忠平・義珍(よしまさ)。法号惟新。兵庫頭(かみ)。1587年(天正15)義久とともに豊臣秀吉(とよとみひでよし)に降ったが大隅(おおすみ)(鹿児島県)を与えられ，次いで大隅・薩摩(さつま)(ともに鹿児島県)・日向(ひゅうが)(宮崎県)三国を安堵(あんど)された。泗川(しせん)の戦いで明(みん)軍を撃破して大功をたて，関ケ原の役では豊臣方に属して最後まで勇戦し，徳川家康(いえやす)の本陣横を突破して伊勢路(いせじ)から堺(さかい)まで出て海路帰国した。世人はこれを島津氏の背進といってたたえた。1602年(慶長7)許されて本領を安堵されたが，家を子家久に譲り，大隅加治木に籠居(ろうきょ)した。義弘は，伊東氏との激戦場木崎原に，大友氏を破った高城川原に，また高野山に，敵味方戦没者慰霊のための供養塔を建てた。無比といわれるその武勇とあいまって，情味深い博愛の精神がうかがわれる。〔岡山泰四〕

しまどじょう ⇨ドジョウ

しまとびけら【縞飛螻】 こん虫類・トビケラ目・シマトビケラ科の一種またはシマトビケラ科の総称。シマトビケラは，体長



島根県

15〜18mm，翅(はね)を広げた長さ23〜33mm。体は黒かっ色，顔面は黄色。触角は著しく長く，前翅(ぜんし)の2倍にも達する。前翅は光沢があって，黄色の地に黒かっ色の帯があり，後翅は暗色で透明。成虫は5〜9月に平地や低山地に出現するが，発生地はやや局限されている。本州・四国のほか，シベリア，中国東北部などに分布し，燈火にもよく飛来する。

シマトビケラ科は大きな群で，後翅が大きく，前翅よりも幅広い。翅を広げた長さが20mm内外の種類が多く，色彩もよく似たものが多いので，分類はきわめてむずかしい。幼虫はシミ型で，多数の気管鰓束(さいそく)をもち，流水中に生活して，砂をつづって石の割れ目や岩石の表面などに巣をつくり，入り口に吐糸で網を張って，微小な動物やプランクトンなど捕える。しばしば発電所の導水管の内壁に群生して造巣し，そのため流水量を減少させるので電力の害虫として問題とされる。日本に分布する代表的な種類には，シマトビケラのほか，ギフシマトビケラ・コガタシマトビケラ・キマダラシマトビケラ・エチゴシマトビケラなどがある。〔鈴木邦雄〕

しまながし　【島流し】 ⇨遠島

しまね　【島根(県)】 中国地方北西部の**県。北は日本海に臨み，東は鳥取県，南は広島県，西は山口県に接する。**出雲(いずも)・石見(いわみ)・隠岐(おき)の全域を占め，面積6,627km²，**人口78万9,000**，人口密度は1km²あたり119人。県花はボタン，県木はクロマツ，県鳥はオオハクチョウ。県庁のある松江以下8市と12郡41町10村に分かれる。

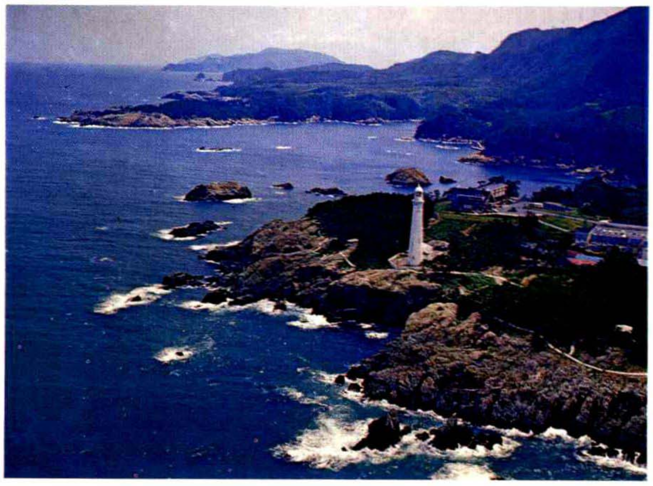
〔自然〕山地が県域の大半を占め，平地は北東部にわずかに開けるにすぎない。中国山地は南の山口・広島両県との境にそびえる1,200〜1,300mの山々を分水嶺(ぶんすいれい)として南西から北東へかけて延び，日本海に迫るにしたがって低い丘陵性の石見高原となる。中国山地に発する各河川は一般に短くて流れが早く，上流部流域は風化しやすいカコウ岩質であるために天井川*が多い。山間部の諸川流域には盆地状の低地や谷底平野が開ける。東部の斐伊(ひい)川や神戸(かんど)川は松江・出雲の両平野をつくり，西部の山地から発する高津川は匹見川・津和野川との合流点付近に小平野をつくる。中央部を北西流する江(ごう)川は県下一の長流であるが，沿岸に平地をもたないいわゆる無能川である。石見高原には白山火山帯が重なって，東部に三瓶(さんべ)山(1,126m)などの鐘状火山群があり，広い裾野(すその)が開けて温泉がわき出している。北東部には島根半島が日本海に突出して，宍道(しんじ)湖と中海(なかのうみ)を抱く。島根半島と中国山地にはさまれた低地帯に広がる松江平野・出雲平野は県の穀倉地帯となっている。海岸線は，島根半島の北岸に北浦とよばれるリアス式海岸がみられるほかは一般に単調で，特に西部の石見海岸は出入りが少ない。島根半島の北方，40km余の沖合いにある隠岐諸島には，島前(どうぜん)・島後をあわせて180余の火山島が集まる。三瓶山や島根半島海岸部，隠岐を結ぶ地域は大山(だいせん)隠岐国立公園*に指定されている。気候は裏日本型で，浜田市の年平均気温は14.7℃，年降水量は1,655mm，また県の冬の降雪量は鳥取県より少なく，西へいくにしたがって減少する。冬は北西の季節風が強く，出雲平野では防風林の築地(ついじ)松が民家の回りにみられる。

〔産業〕産業三大別人口比は20：31：49。平野が狭く，資源や良港にも乏しく，また本土の主要地域から離れているなどのために近代工業は全般的にふるわず，第1次産業への依存傾向が強い。県民分配所得は1**人あたり104万7,000円(1977年)で，全国で第43位である。《農林水産業》耕地は県域のわずか11%で，零細な兼業農家が多い。**水田率は73%，米の平年収量は18万8,000t(1970)で，消費人口が少ないために阪神(はんしん)地方に移出している。米作の中心は出雲平野で，そのほか中海沿岸・高津川下流・山間盆地などにも水田が開ける。出雲平野には湿田が多く，わずかに高畦(たかうね)栽培によって緑肥作物のウマゴヤシなどがつくられる程度であったが，最近は排水工事による乾田化が進んでいる。石見・隠岐両地方には畑作が多く，隠岐で行なわれていた牧畑耕作は島前にわずかに残るだけである。最近は三瓶山斜面や中国山地の山間部にも畑地が拡張され，高冷地農業によって麦・豆類・サツマイモなどをつくっている。果実では，出雲市・安来市周辺の二十世紀ナシ，大社町・国府町周辺のブドウ，邑知(おうち)郡奥地のカキが名高い。工芸作物には，水田裏作のイグサ，中海の大根島のチョウセンニンジン，石見和紙の原料となるミツマタ・コウゾなどがある。古くから行なわれた和牛の飼育はいまは山間部だけにとどまり，平野部では酪農が増加しつつある。林野面積は県域の79%を占め，盛んであった林業は，薪炭の需要減と用材林の過伐のために，最近は生産が衰えている。水産業は，暖寒両流の交わる隠岐諸島周辺の好漁場を控えて，浜田港ではアジ・サバなどの水揚げが多いが，最近は沿岸漁業から沖合い漁業に重点が移っている。また，沿岸各地にワカメ，隠岐にスルメの特産がある。《鉱工業》地下資源は，セッコウとモリブデン鉱が全国一の産出を誇り，県下一帯に埋蔵される黒鉱*の発掘も1965年(昭和40)以降行なわれている。島根半島中部の鹿島(かしま)町には1974年に完成した中国電力の鹿島原子力発電所(出力46万kW)がある。工業は一般にふるわず，工業製品の年間出荷額は1,129億円で，全国でも低位である(1968)。最近まで繊維工業が中心であったが，松江市に鉄工団地，浜田市に木工団地が新しく造成された。特定の工業地域はなく，鉄道沿線の都市部にパルプ・レーヨンなどの大工場が点在するにすぎない。伝統的な家内工業として，石見・出雲の和紙，浜田の畳表，横田のそろばん，松江の清酒などがある。

〔交通・都市〕山陰本線が日本海沿岸を東西に走り，県交通の大動脈となる。木次(きすき)線・山口線が山陰本線から分かれて南へ走り，江津から中国山地を横断し三次に

至る三江線は，1975年に北線と南線が接続し，島根・広島県の新ルートとなった。島根半島の西岸基部の大社町には出雲から大社線が通じ，一畑電鉄の電車・バスの路線は半島各地を結ぶ。道路交通は，国道9号線が山陰本線と平行して東西に走る主要幹線となり，54号線・261号線・186号線・187号線は県域を南北に縦断する。益田(ますだ)市からは9号線と分かれて191号線が海岸線を走り，下関(しものせき)へ通ずる。これらの道筋を利用して，日本海沿岸の各都市から山陽・京阪神地方へトラックの定期便が往来しており，バス交通は近県各地に長距離便が通じている。海上交通は，江戸時代に西回り航路が発達して美保関(みほのせき)などの要港があったが，近年はまったくふるわず，松江港から隠岐に定期航路があるにすぎない。夏季には，出雲空港から定期航空便が大阪と隠岐に通じている。人口は，最近県外への流出の傾向が強くなり，その防止策が講じられている。人口密集地域は日本海沿岸の平野部で，特に東部の松江・出雲の両平野には県下8市のうち県庁のある松江をはじめ，周辺物資の集散地出雲や平田，鉱工業都市で民謡〈安来節〉の発祥地安来の4市が集まる。中部の大田市はセッコウの産地として知られ，江川河口の江津市には化学工業が発達している。西部の浜田市には県下第1の漁港があり，益田市は周辺物資の集散地である。8市のうち，大田・安来・江津・平田は，1953年の町村合併促進法施行以降の新しい市である。

【歴史】出雲地方は，朝鮮半島に近いために大陸文化の影響を受けて早くから開け，4世紀ごろまで有力な豪族が勢力をふるっていたが，その後は大和(やまと)朝廷の支配下に属した。縄文(じょうもん)時代・弥生(やよい)時代に属する多数の遺跡があり，日本建国にまつわる〈国引き〉や〈国譲り〉などの神話・伝説も語り伝えられている。隠岐は島後南端の西郷町に国府が置かれたといわれ，鎌倉時代以後は遠島の島となり，承久の乱*後には後鳥羽(ごとば)上皇，元弘(げんこう)の変*後には後醍醐(ごだいご)天皇が流された。石見地方には国府が置かれた(現在の国府町)が，長く僻遠の地としてとり残され，中世末に石見銀山が開発されてからようやく活気づき，天文年間(1532～1554)には毛利・尼子両氏の争奪の地となった。室町時代から戦国時代にかけて，出雲・隠岐は山名・京極・尼子の各氏，石見は益田・大内・毛利の各氏が領有した。安土桃山時代には出雲大社の巫女(みこ)出身の出雲の阿国(おくに)が出て，歌舞伎(かぶき)の始祖となった。江戸時代には，松平氏が松江藩十八万六千石，浜田藩六万石，亀井(かめい)氏が津和野藩四万三千石を領有するほか，いくつかの小藩と幕府直轄の石見銀山領に分割統治された。享保(きょうほう)年間の大飢饉(ききん)に際して，銀山の代官として赴任した井戸平佐衛門がサツマイモの栽培を奨励して人々の難を救った話が知られる。1871年(明治4)の廃藩置県で島根県が設置されたが，その後数次にわたって分離統合をくり返し，1881年に現在の県域が確定した。〔浅井得一〕



島根半島
半島西端の日御碕付近と燈台。末端は海岸線の出入が細かく，海食崖が続く。出雲大社の奥ノ院といわれる日御碕神社がある。一帯は大山隠岐国立公園の区域内に含まれている

しまねはんとう【島根半島】 島根県北東部の東西約65km，南北は最も広いところで約20kmの東西に細長い丘陵性の半島。かつては島であったが，出雲(いずも)平野や松江平野の形成によって陸続きとなったもので，その間の地溝帯(ちこうたい)に宍道(しんじ)湖や中海(なかのうみ)が生じた。高さ250～500mの東西に延びる山地は，火成岩に貫かれた砂岩・ケツ岩などの第三紀層からなり，東西方向を軸とする褶曲(しゅうきょく)構造をなしている。半島東部の日本海側はリアス式海岸をなして断崖(だんがい)が続き，半島最北端の多古鼻やその西の潜戸(くけど)鼻付近は日本海の荒波によって海食洞(かいしょくどう)や海食崖がつくられている。また，半島西端の日御碕(ひのみさき)付近の海岸は柱状節理がみられ，岬(みさき)先端には日本一高い燈台があり，自然美に富んだこれら一帯の海岸は大山隠岐(だいせんおき)国立公園に指定されている。半島北側の出入の多い海岸線の湾頭には山はだに密集した漁村が多くみられ，半島南側は比較的平地が多く，おもに水田耕作が行なわれている。〔味沢成吉〕

しまのうち【島之内】 大阪市南区の南西部地区。北は長堀(ながほり)川，南は道頓堀(どうとんぼり)川，東西は東横堀川・西横堀川に囲まれる。江戸時代から問屋街が発達し，北に接する船場*とともに，大阪の商業活動の中核地となった。御堂筋(みどうすじ)はいまはビジネスセンターとなり，心斎橋筋には高級商店街が軒を連ねる。

シマノフスキー［Karol Szymanowski］(1882～1937) ポーランドの作曲家。ウクライナの貴族の子として生まれた。ワルシャワで作曲を学び，1905年に〈若きポーランド〉のメンバーとして活躍を始めた。その後ベルリンでワーグナー・R.シュトラウスらの作品を研究したが，ウィーンでドビュッシーやストラビンスキーの作品を聞き，急進的な立場の作品を書くようになった。国外での評価に比べ，国内では認められるのはおそかったが，今日のポーランド楽派の隆盛に大きく寄与している。〔向坂正久〕

しまはがれびょう【縞葉枯病】 ウイルスによるイネの病害。イネの新葉が巻いたままねじれてたれ下がり，枯れる。早く展開した葉には黄白色のしま模様を生ずる。草たけは低く，穂は出すくんで奇形となり，ほとんど実らない。病原ウイルスはヒメトビウンカによって媒介され，ウイルス保毒虫から経卵伝染で子虫に伝えられる。防除法は媒介こん虫であるヒメトビウンカを駆除し，イネは早まき・早植えを行なう。1本植えをせず，また，被害にあった株を除去する。〔渡辺 実〕

しまばら【島原】 京都市下京区の西本願寺と山陰本線丹波口駅の間にある旧遊郭地区。室町時代初期に南の九条にあったといわれる遊里が，そののちしばしば移転して，1640年(寛永17)に室町六条からここに移って定着した。地名はそれまで朱雀野(すざくの)とよばれたが，遊郭の形が島原城に似ているからとか，遊郭移転のそうぞうしさを移転直前に起こった島原の乱になぞらえたとかいわれて，島原が通称となったものである。郭(くるわ)の内部には上之町・中之町・下之町・中堂寺町・大夫(たゆう)町・揚屋(あげや)町の町割りがあり，入り口の門は現存している。江戸中期以後は，地理的に不便なこともあって新興の祇園*(ぎおん)などに押されてふるわず，かろうじて余命を保っていたが，1958年(昭和33)の売春防止法施行によって廃止された。しかし歓楽街的な色彩はいまも残っている。揚屋町の角屋(すみや)は郭の建築がいまも完全に保存されて，江戸時代の町人文化を代表するものとして重要文化財に指定されている。〔浅井得一〕

しまばら【島原(市)】 長崎県南東部，島原半島東端の市。江戸時代初期に松倉氏，島原の乱*後松平氏七万石の城下町となった。1792年(寛政4)眉山(まゆやま)(819m)の爆発に

よって城下町の南部地域が埋没し，海上に九十九(つくも)島が形成された。明治以後は島原半島の中心都市となり，1940年(昭和15)市制施行。人口46,000。市域は，雲仙岳(うんぜんだけ)の東麓(とうろく)，有明海に臨み，森岳(島原)城の城下町と，島原港を中心とする港町とに２分される。産業三大別人口比は20：20：60。扇状地の末端にあるために良質のわき水に恵まれ，紡織・染色・醸造などの家内工業が早くから興ったが，近代工業は発達していない。街路の両端の水路ではニジマスの養殖が行なわれている。周辺ではサツマイモ・麦などの畑作が盛んで，近年はミカン園も増加しており，ミカンのかんづめやしょうちゅうなどをつくる食品工業が市の主要財源となった。長崎～雲仙～阿蘇(あそ)～別府を結ぶ観光ルートに沿い，雲仙天草国立公園観光の基地となっていて，雲仙道路・島原道路などの有料道路があり，島原鉄道が諫早(いさはや)市と連絡する。島原港から長洲(ながす)町(熊本県)・大牟田(おおむた)市・三池(福岡県)へ定期航路，島原外港から熊本県三角(みすみ)町・松島町へフェリーボートが通ずる。1618年(元和４)に松倉氏の築いた森岳城跡には最近天守閣が復元されており，武家屋敷のなごりを残す町並みやキリシタン遺跡などの名所・史跡も多い。最近，市内に泉温は低いが温泉を掘りあて，新しく温泉都市ともなった。〔浅井得一〕

しまばらてつどう　**【島原鉄道】**　九州の長崎本線諫早(いさはや)から島原半島の加津佐を結ぶ鉄道を経営する交通企業で，多数の沿線バス路線をもっている。1908年(明治41)設立。鉄道の営業キロ数78.5。諫早～加津佐間は1928年(昭和３)に全線開業し，一部に旧口之津鉄道が建設した路線を含んでいる。雲仙(うんぜん)天草国立公園を訪れる観光客の輸送に役だっている。

しまばらのらん　**【島原の乱】**　1637年(寛永14)から翌年にかけて，肥前(長崎県)島原半島と肥後(熊本県)天草島の農民38,000人が，この地方に根強いキリシタン信者と結合して起こした農民の一揆(いっき)。島原城主松倉氏の苛酷(かこく)な政治とキリシタン弾圧に対して，1637年11月に島原の農民が蜂起(ほうき)した。さらに天草の農民も，小西行長の遺臣らとともに天草四郎を盟主としてこれに呼応し，島原に渡り廃城の原城にたてこもった。幕府は板倉重昌(しげまさ)を急派し，近隣諸藩に出兵を命じて一揆勢を攻撃させたが容易に鎮定できず，このため老中松平信綱(のぶつな)を派遣した。重昌は信綱到着直前の1638年１月１日に総攻撃をかけ，失敗して戦死した。信綱は12万の兵で一揆勢を包囲し持久策をとり，２月末，相手方の糧食欠乏・疲労を見越し総攻撃をかけ原城を陥落させた。一揆参加者は全員処刑。しかし鎮定軍側も18,000余名の死傷者を出した。この一揆によりキリシタン禁圧は強化され，鎖国を促進することとなった。〔松尾　涼〕



島原の乱　島原陣戦闘図屏風(部分)(斎藤秋圃筆)　福岡県秋月郷土館蔵



シマヘビ

しまばらはんとう　**【島原半島】**　長崎県南東部，雲仙岳(うんぜんだけ)(1,360ｍ)を中心とする半島で，北は有明海，東から南にかけて島原湾，西は橘(たちばな)(千々石(ちぢわ))湾に囲まれる。半島北西部の基部は約3.5kmの地峡をなし，北部には島原火山の峰々がそびえ，南部には第三紀層の上に噴出した台状の南有馬火山がある。火山の裾野(すその)は農耕や牧畜が行なわれ，穀倉地帯をなしている。しかし，半島西部の橘湾沿岸は島原火山を東西にきる千々石断層とこれに直交する断層で急崖(きゅうがい)をなし，裾野を欠いている。中心集落は島原市で，島原鉄道が諫早(いさはや)から島原を経由して南端の口之津まで走っている。自然美に富み，特に中央部は雲仙天草国立公園の一中心となっている。この地方は16～17世紀にはキリシタン信仰が栄え，1637年(寛永14)から翌年にかけての島原の乱は半島南端の口之津で最初に起こった。〔味沢成吉〕

しまばらわん　**【島原湾】**　長崎県島原半島と熊本県天草下島との間の早崎海峡を入り口として，東方および北方へ深く湾入する海域。水深30～120ｍ。湾奥の荒尾・諫早(いさはや)線あたり以北の浅海(20ｍ以下)は有明海と称されるので，実際に島原湾の名でよばれるのは熊本・島原前面の海域で，南は宇土半島によって八代(やつしろ)海と隔てられ，三角(みすみ)瀬戸・柳瀬戸・本渡瀬戸でつながる。潮汐(ちょうせき)の干満の差が大きく，広大な干潟(ひがた)を生じ，沿岸では古くから干拓が進められてきた。〔山口恵一郎〕

しまはんとう　**【志摩半島】**　三重県東部，伊勢(いせ)湾口に突出する半島で，鳥羽(とば)市と志摩郡の北域を含み，渥美(あつみ)半島と相対している。北部は紀伊山地の延長で，中生層の砂岩やケツ岩による起伏の激しい山地からなり，南部は中生層の上に洪積層(こうせきそう)を載せた海抜数10ｍの隆起海食台地からなっている。海岸線は出入の多いリアス式海岸地形をなし，特に南部にはその発達が著しく，英虞(あご)湾・的矢湾などの大きな入り江がある。黒潮の影響から気候は温暖で，気温の年較差も小さく，特に南部の先志摩では暖地性植物のハマユウが自生している。南部の海岸は太平洋の荒波や風雨が強く，集落には防風のための石がきがみられる。古くから伊勢神宮に海産物を貢納し，また海女(あま)漁業と真珠の養殖が有名である。半島全体が伊勢志摩国立公園に指定されている。〔味沢成吉〕

しまふくろう　**【島梟】**　鳥類・フクロウ科。全体にかっ色で，長い羽角をもち，虹彩(こうさい)は黄色，趾(あし)に羽毛がはえていない。翼開長1.5m 前後の巨大な鳥。南千島・サハリン(樺太(からふと))・北海道のみに分布する。北海道の原生林には少数が生息しているが繁殖の確証はまだない。あまりに立派な鳥であるため，悪質な狩猟違反者に密猟されていることがある。

しまへび　**【縞蛇】**　爬虫(はちゅう)類・ナミヘビ科。日本で最も普通に見られるヘビ。北海道・本州・四国・九州に分布し，平地や山地の草原・森林・水田などにすむ。全長1.2～1.5mで，はっきりした４条の縦じまがあるが，個体によって体色・斑紋(はんもん)に変異がある。性質はおとなしく，昼行性でカエル類を好むほか，小哺乳(ほにゅう)類・鳥類とその卵をも捕食。６～８月に５～20個ほどを産卵し，30～40日くらいで孵化(ふか)する。肉は美味だが，寄生虫をもつものもあり生食は避ける。なおカラスヘビといわれるのは，本種の黒色変種である。〔松井孝爾〕

しまみみず　**【縞蚯蚓】**　環形動物・貧毛類・ツリミミズ科。体節部は80～110，体色は淡赤色だが，各体節の中央部に紫かっ色の太い糸があり，横じま模様を呈する。世界じゅうに分布し，有機物に富んだ多湿の土壌(どじょう)に普通におり，魚つりのえさに用いられる。

しまむらほうげつ　**【島村抱月】**　(1871～1918)　美学者・評論家・演出家。本名滝太郎。石見(いわみ)(島根県)の生まれ。東京

専門学校(早稲田(わせだ)大学の前身)文学科に入学して坪内逍遙*(しょうよう)に師事，卒業とともに《早稲田文学》の編集に従事，文筆活動も開始。また母校で美学を講じ，その成果は名著《新美辞学》にまとめられた。一方，後藤宙外・小杉(こすぎ)天外らと《新著月刊》を創刊，小説に才を示した。1905年(明治38)イギリス・ドイツへの留学から帰国後は《囚(とら)はれたる文芸》《文芸上の自然主義》《自然主義の価値》などを発表，自然主義の指導的評論家として活躍。のち演劇活動にも従事したが，松井須磨子*(すまこ)との恋愛などから，1923年(大正12)須磨子とともに芸術座*を結成，新劇の大衆化に努めた。

〔源　五郎〕

しまりす　【縞栗鼠】　哺乳(ほにゅう)類・齧歯(げっし)目・リス科。背上面に黒色の5本の縦じまがあり，頭胴長14cm，尾長11.5cmほど。おもに森林地帯の地上で生活し，昼行性で巣は地下につくる。マツの実などの食物を口内の頰嚢(ほおぶくろ)に入れ，巣穴に運ぶ。シベリア・中国・サハリン(樺太(からふと))・北海道などに分布し，冬寒い地方では冬眠する。ペットにされる。

しまんげどう　【指鬘外道】　生没年不詳。央掘摩羅(おうくつまら)ともいう。指鬘は〈飾りものの指〉を意味する梵語(ぼんご) Aṅgulimála (アングリマーラ)の訳。外道は仏教より見て他の教えまたはそれに従う者をさす。北インドの舎衛城(しゃえじょう)に生まれたという。人々を殺し，切り取った指を首飾りとしていたところからこの名がある。1,000人めに母を殺さんとしてブッダに教化され，出家した。凶賊といえども改心し，出家して修行をなせば悟りを得られることを説く物語として多くの仏教経典に記される。

〔佐藤良純〕

しまんとがわ　【四万十川】　渡川ともいう。高知県西部を流れ土佐湾に注ぐ。四国山地を水源とし，上流を仁井田(にいだ)川といい，支流檮原(ゆすはら)川，吉野(よしの)川を合わせて四万十川となる。流程185km。降水量の多い四国山地を流れるので水量が豊かで，以前から電源として注目されていたが，交通不便で着手されなかった。最近，この川の流域一帯を含めて四国西南総合開発特定地域に指定され，治山・治水と電源・森林開発を目的として新しい動きがみられるようになった。　〔長津一郎〕

しまんろくせんにち　【四万六千日】　7月10日の観音菩薩(ぼさつ)の縁日。十日詣(まいり)・千日詣ともいわれる。この日に参拝すれば，46,000日，すなわち一生涯(いっしょうがい)日参したのと同じ功徳が得られるとされる。一般に〈ほおずき市*〉とよばれている東京の浅草寺のものが最も有名であるが，神奈川県鎌倉市の長谷(はせ)観音，千葉県長生郡の笠森(かさもり)観音など，関東地方に多くみられる。46,000の数は経典には現われてこないが，道教の人寿与奪の思想，すなわち功過格(道教の道徳律を示した一連の書物)の中に43,800という近似の数がある。

〔京戸慈光〕

島村抱月





シ　ミ
ヤマトシミ

しみ　【衣魚】　こん虫類・総尾目・シミ科の一種またはシミ科の総称。シミはヤマトシミともいい，体長8～9mmで，全体細長く，長い触角をもち，尾端に3本の長い尾毛がある。触角・尾毛はともに体長の3分の2に達する。体の地色は黄白色であるが，全体に暗灰色の鱗片(りんぺん)におおわれ，銀白色の光沢をおびる。日本・台湾・中国・インドネシア・インドなどに広く分布し，屋内に生活して，紙類や人造絹糸などを食害する。暗所を好み，ほとんど全年にわたって見られる。

シミ科は全世界から約200種が知られるが，日本には数種がいるにすぎない。いずれも10mm内外の小形の種類で，体は細長く扁平(へんぺい)，胸部が最も幅広く，表面は全体に鱗片でおおわれる。屋内に生活するもののほか，落葉間や石の下，堆積物(たいせきぶつ)の下，洞窟(どうくつ)の中などを好み，またシロアリやアリの巣中に生活する種類も知られている。ほとんど全世界に広く分布して紙類を食害するセイヨウシミはヤマトシミよりも黒色が強く，ほとんど銀白色に光らない点で区別できる。日本では屋外でしか発見されていない。また，朝鮮にはやはり紙類を食害するチョウセンシミが知られている。日本には，海岸の断崖(だんがい)の岩穴中で生活するセトシミ，アリの巣中に生活して複眼がまったく退化したクボタアリシミ，ほとんど全世界に分布して乾燥食料品にしばしば大害を与えるマダラシミなどが知られている。　〔鈴木邦雄〕

しみ　【染】　肝斑(かんぱん)の俗称。かっ色または黒色の不正形の斑紋で，境界明瞭(めいりょう)なものが多く，ふつうメラニン色素の沈着以外に変化はない。一般に女子に多くみられ，顔面，特に目の付近にできやすく，多くは対称性である。妊娠や生殖器障害が原因となることがあり，日光や疲労によって増悪する傾向がある。治療には原因が明らかな場合はそれを除き，直射日光を避け，ビタミンCの内服，剝離膏(はくりこう)の外用などが行なわれる。なお，しみとよばれるものに，細胞機能の衰えによって色素が沈着する老人性の色素斑と老人性疣贅(ゆうぜい)がある。

シミオナート　[Giulietta Simionato] (1910～　) イタリアのメゾ-ソプラノ歌手。1933年にフィレンツェのコンクールに優勝し，1935年からミラノのスカラ座*に出演し，第2次世界大戦後の1947年，トーマ*の《ミニョン》で高い評価を受けてから世界的な歌手となった。日本には1957年以後，4回にわたってイタリア歌劇団のメンバーとして訪れている。

シミーげんしょう　【シミー現象】　自動車が走行中ある速度に達すると，前車輪や車軸を含めたかじ取り装置全体に生ずる自励横振動。シミー現象は，前車軸のアライメント，かじ取りリンク装置の遊び，タイヤの特性(空気圧が少ない場合)などに関係するので，これらを正しく保てば防止することができるが，自動車の構造上シミー現象を起こしやすい場合にはダンパー(緩衝器)を設けたものもある。

しみず　【清水(市)】　静岡県中南部の市。古くから港町として知られ，1924年(大正13)，もと東海道の宿駅であった江尻(えじり)ほか1町と合併して市制施行。人口242,000。市域は駿河(するが)湾に臨む海岸に平行する3列の浜堤上に発達し，西方には巴(ともえ)川下流の低湿地が広がる。産業三大別人口比は9：41：50。清水港は三保半島の砂嘴*(さし)を天然の防波堤となし，港内約9 km²の半ばが10m以上の水深をもつ良港で，江戸時代には駿府(すんぷ)(静岡市)の外港として，富士川・蒲原(かんばら)港経由で運ばれた甲州米を江戸へ積み出した。1899年(明治32)開港場に指定され，茶の輸出港として発展した。以来数次の港湾拡張によって埠頭(ふとう)や埋め立て地がつくられ，中心の県営埠頭は巴川河口北の日之出町岸壁と，南の村松・清水埠頭に分かれ，延長2km余，20,000トン級船舶2隻，10,000トン級4隻，3,000トン級4隻の接岸が可能である。臨海鉄道・道路が通じ，背後の広い用地には日本鋼管の造船所をはじめ，かんづめ・製粉・製糖・合板製材などの工場群・倉庫群が立ち並ぶ。東亜燃料・豊年製油・日本軽金属の3大工場は埋め立て地にそれぞれ専用岸壁をもち，海中送油管によって10万トンの大形タンカーも就役できる。おもな輸出品にはオートバイ・魚介類・船舶などがあり，年間輸出額は998億円(1967)で，全国主要港中第7位

を占める。木材・原油・大豆・トウモロコシ・ボーキサイト鉱などを輸入する。湾奥には海面貯木場，東方には遠洋漁業基地の江尻港がある。1965年(昭和40)以来，中央に防波堤をつくり，興津(おきつ)・袖師(そでし)に四つの埠頭と荷役機械6基・コンテナーヤードなどを設ける拡張工事が進められ，1973年完成の予定である。東海道本線・国道1号線・52号線が通じ，東名高速道路のインターチェンジが置かれ，バスが静岡市をはじめ近郊各地を結ぶ。周辺には三保ノ松原，羽衣ノ松，日本平，久能山などの景勝地に富み，高山樗牛(ちょぎゅう)の墓がある龍華(りゅうげ)寺，平安末期の法華経(ほけきょう)(久能寺経)(国宝)がある鉄舟寺，清水次郎長の墓がある梅陰寺などの寺院も多い。〔浅井得一〕

しみずけんせつ【清水建設(株)】建設大手五社の一。建築工事では業界3位,土木工事では6位。1804年(文化1)清水組として創業，1937年(昭和12)資本金250万円で株式会社となり，1948年現社名となった。完工度の割合は建築73%，土木25%など。プレハブ住宅の生産にも乗り出している。本社東京。資本金275億円，**年間完工高6,022億円，従業員数9,749(1980年9月)。**

しみずこん【清水崑】(1912～1974)漫画家。長崎県の生まれ。長崎商業学校を卒業，上京して岡本一平の門にはいり，1933年(昭和8)ごろから各紙誌に漫画を描いた。第2次世界大戦後の河童(かっぱ)を擬人化した《かっぱ天国》は著名である。

しみずじんご【志水甚五】(?～1675)肥後(熊本県)の志水家初代の鐔工(たんこう)。通称は仁兵衛(じんべえ)，名は一幸(かずゆき)。江戸初期に活躍したが，異色の作家として知られ，作風は武骨の観があり，古雅の趣があると評される。鉄鐔(つば)に真鍮(しんちゅう)などを用いた据物象嵌(すえものぞうがん)を施し，サル・ワシなどを描いている。

しみずたかし【清水多嘉示】(1897～1981)彫刻家。長野県の生まれ。はじめ画家を志し，1919年(大正8)以降二科展に出品，1923年渡仏してサロン-ドートンヌなどに出品。ブールデルに師事して彫刻に転じ，サロン-デ-チュイルリー会員となる。1928年(昭和3)帰国，院展彫刻部・国展・帝展に出品。第2次世界大戦後は日展・新樹会展に発表，1953年芸術選奨文部大臣賞を受け，1965年日本芸術院会員となる。代表作《男坐像(ざぞう)》など。

しみずとうげ【清水峠】三国山脈中に位置し，群馬・新潟両県境にある。標高1,448m。西の三国峠とともに，古くは越後(えちご)と関東を結ぶ通路として重要であったが，道が険しいため江戸時代以後すたれた。明治時代になってから新道が開かれて一時重要なルートになったが，現在はほとんど廃道に近く，自動車も通れない。

しみずトンネル【清水トンネル】上越





清水次郎長
静岡県清水市梅蔭禅寺境内にある清水次郎長の銅像と榎本武揚の筆になる墓碑



志水甚五《松上鷹図鐔》東京国立博物館蔵

線が三国山脈を横断する部分の水上(みなかみ)～越後(えちご)湯沢間に設けられた単線形鉄道トンネル。長さ9,702m。1931年(昭和6)に開通したもので，1962年北陸トンネルが開通するまでわが国最長の鉄道トンネルであった。1967年上越線の複線化工事に伴って，さらに単線形の新清水トンネル(長さ13,490m)ができたので，旧トンネルを上り線，新トンネルを下り線が使用している。

しみずのじろちょう【清水次郎長】(1820～1893)江戸末期の侠客(きょうかく)。駿河(するが)(静岡県)清水港の船持ち高木三寿郎の次男で，本名は長五郎。叔父(おじ)の米屋，山本次郎八の養子となって次郎長といわれた。幼年から粗暴で，早くから賭博(とばく)や傷害事件で国もとを出奔し，たちまち養家をつぶして無宿になったが，いつか博徒の間に顔が売れ，遊侠の仁義から闘争の絶え間がなかった。1864年(元治1)伊勢(いせ)(三重県)荒神山での黒駒(くろこま)の勝造との血闘などは有名である。1868年(明治1)官軍の江戸進撃に際し,東海道総督府判事伏谷如水から名字・帯刀を許されて街道筋の取り締まりを委嘱され，また幕府の榎本(えのもと)艦隊が台風のため清水港へ漂着，乗員が官兵にきられたとき，その死体を厚く葬っている。これらのことに対する評価は別として，新時代の代表的侠客には違いなく，晩年は清水港で安穏に過ごした。〔稲垣史生〕

しみずのじろちょうでん【清水次郎長伝】侠客(きょうかく)清水次郎長の伝記を描いた講談。3代神田(かんだ)伯山作。1884年(明治17)，次郎長の養子山本五郎が次郎長や子分の話をまとめて《東海遊侠伝》を刊行，これを旅講釈師松廼家太琉(まつのやたりゅう)が講談化したのを伯山が改作して人気を博した。

しみずはまおみ【清水浜臣】(1776～1824)江戸後期の国学者・歌人。号は泊洦舎(さざなみのや)。江戸の人。医を業とするかたわら，国学・和歌を村田春海(はるみ)に学び，名文家の誉れが高い。温厚な人柄で，松平定信(さだのぶ)など権門の知遇を得，門人も多かった。歌風は優雅清麗で，家集《泊洦舎集》のほか，《語林類葉》《泊洦筆話》など多くの編著がある。

しみどうふ【しみ豆腐】⇨凍り豆腐

しみぬき【しみ抜き】衣服についた部分的なよごれの除去法。普通の洗たくでは，生地を痛め，染色を脱色させるおそれのあるときに用いる。次の方法がある。①機械的方法：ブラシやへらで除く。または，加熱してとかし出す(どろ・ロウなど)。②溶剤浸出法：水溶性のしみは水または洗剤水溶液で，油性のしみは有機溶剤で浸出させる方法。油性のしみなどに用いられる。揮発油(ベンジン)・四塩化炭素・アルコール・アセトン・シンナー(酢酸エチル・酢酸ブチル・ブタノール・セロソルブ・トルエンなどの配合品)などから適当な溶剤を選定(クリーム・ポマード・口紅・くつ墨・印刷インキ・ペンキ・チューインガムなど)。③化学的方法：酸にとけるしみは酢酸・シュウ酸の希薄水溶液で溶出(鉄さび)。アルカリで中和ないし溶出するものは，揮発性の弱アルカリであるアンモニア水による(果汁・汗)。漂白剤を用いる。ただし，色物では染色を脱色しないものに限定される。特殊薬品を特定のしみに適用。ヨードチンキをチオ硫酸ソーダ(写真現像の定着液)で，青インキをショウ酸で。④酵素法：タンパク分解酵素(血液・乳汁)，デンプン分解酵素(のり・オートミール)。〔矢部章彦〕

シミュレーション［simulation］考察の対象とする実際の状況からモデルをつくり，それによって実験を行なうこと。モデ

ル実験または模擬実験と訳されるが，原語でよばれる場合が多い。シミュレーションを行なうには，まず設定された問題に基づいて実際の状況から生ずるデータが収集され，整理される。そして，実際の状況の動作を記述したモデルがつくられ，このモデルに基づいて実験を行なう。ただし，ここでいうモデルとは，モデルそのものがあるわけでなく，実際の状況における物事の間の関係を明確にするよう記述することであって，たとえばいくつかの変量の間を微分方程式で結ぶとか，製品に対する需要量のように確率分布で表現するものなどがある。

実験に際しては，紙上に手による計算でモデルの動作を実現できる場合もあれば，アナログ計算機やディジタル計算機を使って動作を追跡するような大規模なものもある。また，特別なシミュレーターを用いて動作を実現する場合もある。実験結果を検討してモデルを修正するなど，フィードバックを通してよりよいシミュレーションを行なうことも望ましい。結果が一意的に定まる状況に対するものを確定的シミュレーション(たとえば航空機の運動など)，そうでないものを不確定シミュレーションという。さらに後者は，在庫問題など確率的な状況を取り扱うモンテカルロ-シミュレーションと競合的状況を扱うゲーミング-シミュレーションとがある。 ➔コンピューター 〔小原啓義〕

シミュレーター [simulator] シミュレーションにおいて，モデルの動作を自動または半自動的に実現する物理装置。たとえば，航空機の操縦練習などをいきなり実物で実施することは危険であるから，フライト-シミュレーターといって実際の操縦席とまったく同じ装置をつくり，かじなどを動かすと計器類や窓から見える外のけしきなどが，実際に操縦しているのと同じように動くしかけを用いて訓練を受ける。これは教育訓練用シミュレーターとよばれる。同一形式の数式で記述できる別な物理現象を利用して，実際には設定が不可能な状況のテスト，たとえば本物の装置ならば破壊されてしまうような条件でのテストとか，高速すぎて直視できない現象を低速化する，あるいはおそすぎる現象を速くして観察を可能にするなどの研究用(テスト用)-シミュレーターがあり，アナログ計算機などはその代表である。確率的あるいは競合的状況についてのシミュレーションを行なうにはハードウェアとしてのシミュレーターよりも，ディジタル計算機のプログラムとして，種種の状況を設定して計算機に与え，これを解析する手段がとられることが多い。〔小原啓義〕



シミュレーター 飛行機の操縦練習用のフライト-シミュレーター。写真はジャンボジェット機用

じみょういんとう【持明院統】 鎌倉・南北朝時代，大覚寺統と皇位を争った後深草天皇の皇統の一。名称は後深草天皇の皇子伏見天皇が譲位後京都の持明院殿にはいったのに由来する。皇位継承をめぐる両統の対立に鎌倉幕府が介入して両統迭立(てつりつ)の協約が成立したが，これが南北朝の動乱(➔南北朝時代)の一因となった。足利尊氏(あしかがたかうじ)の支持を得た持明院統は北朝を相承したが，後小松天皇のときに至って，南朝をあわせ現在の皇室に及んでいる。〔高崎徳次〕

じみょういんりゅう【持明院流】 持明院基春(1453～1535)を始祖とする書道の流派。基春は世尊寺行高に世尊寺流の書法を学び，1529年(享禄２)世尊寺家が絶えると，朝廷の書役をつとめた。

しみん【市民】 ⇨次ページ

しみんかいきゅう【市民階級】 ⇨第三階級

しみんかくめい【市民革命】 絶対主義から市民社会への移行過程にみられる政治的・社会的変革。ブルジョア革命ともいう。封建社会内部でしだいに成長し，経済的実力を蓄えたマニュファクチュア経営者・小手工業者・農業経営者などが，みずからの利害に対立する封建的土地所有(封建的地代・農奴制)や封建的身分制度を打破し，市民階級による階級的支配の確立をめざす。その際，職人・徒弟などの下層市民や小農民をも自己の勢力内に吸収して革命を遂行する。おのおのの革命の内容は革命前の各国の経済的社会的発展の状況や国際的環境によって一様でない。代表的な例として，17世紀のイギリス革命(ピューリタン革命・名誉革命)，18世紀末のフランス革命があげられ，以後，両国では産業資本が発達し，資本主義社会の成立と発展を促進した。19世紀半ばのドイツの三月革命，1905年のロシアの革命も市民革命とみなされるが，ブルジョアジーの未成熟などの歴史的事情のため，革命は不徹底に終わった。

しみんしゃかい【市民社会】 封建社会の身分的秩序から個人を解放した市民革命によって成立した社会。基本的人権が保障され，万人が法の前に平等(形式的自由)である社会であり，一般には資本主義社会とほぼ同様な意味をもつが，市民意識の定着も重要な要素である。その成立はピューリタン革命・名誉革命・フランス革命によるが，ドイツ・日本などでは封建的階級との妥協の上に成立した。ふつう1945年(昭和20)以前の日本の社会を市民社会とはいわない。市民社会は，産業革命以後，ブルジョアジーとプロレタリアートに階級が分極化したことによって，個人の自由と人権の尊重というその理念の形骸(けいがい)化を生じている。〔原田政洸〕

しみんせいのうえん【嗜眠性脳炎】 ⇨A 型脳炎

じみんとう【自民党】 ⇨自由民主党

しみんびょうどう【四民平等】 1869年(明治２)版籍奉還に伴い，士農工商の身分制が撤廃されたこと。1871年穢多(えた)・非人などの賤民(せんみん)の差別が廃された。1872年戸籍法の実施によって作成された壬申(じんしん)戸籍では，国民のすべてが臣民として平等に扱われ，平民の苗字(みょうじ)許可，また移転や職業選択の自由や平民と華族・士族間の通婚の自由が許され，そのほか種々の身分的制約が除かれた。しかし，実際には華族・士族・平民の別は新しい身分制度を確立し，華族を中心とする天皇制をささえる特権的身分制度が生まれ，人はすべて平等であるという根本理念は国民生活に具現するには至らなかった。〔高崎徳次〕

しみんほう【市民法】 今日までつながりをもっている世界最古の法であるローマ法は，ローマ市民だけに適用される法と，他の諸国民との関係についての法とからなっていたが，後者を万民法というのに対して，前者は市民法とされた。しかし今日用いられている市民法ということばは，近代国家での私法の総称を表わす。平等な市民，契約の自由，私有財産権の保障などが基本原則で，民法・商法などが代表的なものである。資本主義体制が普遍的に発展するにつれて，広く諸国でこの原則による私法が用いられてきた。ときには資本主義法・ブルジョア法ともいわれる。〔鈴木安蔵〕

しみんラジオ【市民ラジオ】 電波法で定められた資格をもたない一般の人が，電波を連絡用に短距離，小規模に使用するとき，簡易無線局の利用で通信できる規定が電波法にあり，この目的に使用される無線送受信機を市民ラジオまたは市民無線・トランシーバーなどという。無線送受信機は多く手で持ち運べるほどの小形装置で，型式検定品を購入すればだれでも容易に簡易無線局を開くことができる。登山・ハイキング・魚つりなどのレジャーや建築現場・一般商店の連絡など多くの用途に使用できる。ただし，通信距離が短く１km程度までであること，また同一地域で多くの局が同一周波数での通信をするため混信が避けられない。市民ラジオ用の周波数は25.01～27.5，154.45，154.49，154.53，154.57，154.61，465.05，465.15，467，468.75 お

➔498ページ

市　民

【市民の語義】市民ということばは，元来ブルジョアというフランス語にあてて用いることばであるが，ここでいうブルジョアとは，今日一般に資本家ないし有産者という意味で用いられているものに限定されてはならない。

ブルジョアという語はいろいろな意味で用いられているが，元来それは城郭を意味する〈ブール〉という語に由来する。すなわちブルジョアとは，中世末期以来の都市*の周囲に張り巡らされた城郭の中に居住する住民を意味している。ブルジョアが歴史の舞台に上るのは，1789年以後のフランス革命*においてである。フランス革命はブルジョア革命とふつういわれているように，ブルジョアを主体として行なわれた革命である。1789年の前年からフランスのルイ王朝*政権は財政困難を理由に，大幅な増税案の提出を準備した。当時の三部会*は，僧侶(そうりょ)・貴族・ブルジョアの三つの身分の代表者によって構成されていたが，増税案の内容はもっぱらブルジョアに負担がかかるものであった。そこから，不満をもったブルジョアらによってフランス革命が起きたのである。ところが，この時期のブルジョアといわれるものは，上層の僧侶や貴族の階級と最下層の階級との中間にいて何人かの人間を雇用し，商・工・農の仕事に従事して税金を納付していた，いわば当時の中産階級*であった。それゆえ，ブルジョアという語をもって，直ちに今日いわれる資本家ないし有産者を考えるのは当を得ていない。

このようなわけで，フランス革命はブルジョア革命なのであるが，ブルジョアという語が市民と訳されるところから，市民革命*ともいわれる。またブルジョア革命後に形成された社会のことは，ブルジョア社会ないし市民社会*とよばれる。ところがブルジョアによるこのような政治革命が遂行されるのと相前後して産業革命*が準備され，この産業革命が進行する過程で，産業資本家と工場労働者との階級的対立が現われてきた。もちろん，たとえばフランス革命期のブルジョアのすべてが産業資本家になったわけではなく，そのうちの一部が産業資本家になったのであり，またそれにつれて金融資本家も現われてくる。これらの者が大ブルジョアといわれるものであり，大ブルジョアになることから取り残された者が，いわゆる小ブルジョアまたは小市民である。さらにこれらの小ブルジョアの下には工場労働者や貧農などがいるわけである。しかし，大ブルジョアによって代表されるブルジョアジー*と工場労働者によって代表されるプロレタリアート*という二大階級の対立が顕著になり，ここから，今日一般にブルジョアという語によって，資本家ないしは有産者が意味されるようになったのである。しかしすでに明らかにされたように，この場合のブルジョアという語は，今日用いられている市民という語とはかけ離れていることに注意すべきである。

今日一般に市民という語でよばれているものは，対立する二大階級のうちのブルジョア階級をさすのではなく，むしろ二大階級の対立を内に含みながら，市民社会とよばれる新しい近代的社会を構成するものをさしている。もちろん市民社会は，すでに述べたようにブルジョア社会ともいわれるのであるから，それを構成する分子を市民という語と同一の意味でブルジョアといえないことはないが，今日そういう意味ではブルジョアという語は用いない。よく市民運動という語が用いられるが，その場合の市民とは市民社会ないしはブルジョア社会完成後のブルジョアを意味していない。むしろ今日，公害防止・戦争反対・平和維持などのスローガンのもとに起こされる市民運動というのは，市民社会つまりブルジョア社会において経済的・政治的覇権(はけん)を握っているブルジョア階級の専横に反対する運動であることが多い。この場合の市民運動の主体である市民とは，市民社会，つまりブルジョア社会を構成する主権者として，市民社会の安全と平和とを守ろうとする意識の所有者たちである。したがって市民とは，ブルジョア社会を構成する主体をさすのであり，それはブルジョア社会の成立過程に現われた意味でのブルジョアではあっても，ブルジョア社会完成後の支配階級であるブルジョア階級に属するブルジョアという意味ではない。むしろそれは，市民社会すなわちブルジョア社会がその成立の一条件としている民主主義体制の確立という基本的要素に由来する公民*という資格において現われるものである。

市民社会は経済的側面からいうならば，資本主義的経済組織を備えた社会である。ところが資本主義的経済組織は私的所有制を前提とする経済組織であって，本来労働の自由，企業の自由，職業の自由，所有の自由を前提とするものである。しかもそれらの自由はいずれも個人の自由にかかわるものであるから，資本主義的経済組織の形成者としてのブルジョアは個人主義*を前提としている。したがってブルジョアという語も元来個人的存在を意味するが市民社会にはその資本主義的経済が個人の自由を前提として成立するものでありながら，一方そのような個人の自由の過度の行使を制限し，それを統制するものとして国家*が存在する。このような国家権力の指導のもとに行動する人間は，公共的秩序に従うものとしての公民である。経済上および政治上最も典型的な形で市民革命と産業革命とがからみあって二重革命が進行したフランスにおいては，ブルジョアという語は完全に私的な存在と考えられ，またこれに対立する公共的存在の人間としては，公民という意味でのシトワイヤンという語が用いられている。

このようにフランス語ではブルジョアとシトワイヤンという語が対立して用いられるのであるが，今日一般に用いられている市民運動に従事する市民とは，まさにこのフランス語におけるブルジョアとシトワイヤンとの双方の語の意味を兼ね備えている。つまり，個人の自由という意味で国家権力の専横に対しては基本的人権*を守り，人間の尊厳を維持する私的存在として市民という語が用いられると同時に，また他方では市民社会の安全と平和をみずから脅かすブルジョア階級の専横を攻撃する市民は，公的存在の資格において現われているのである。

【市民社会と市民】すでに説明したように，市民というものは市民社会を構成するものである。それゆえ，市民というものを正しく理解するためには，いちおう市民社会というものを理解してかからねばならない。

市民社会というものがいちはやく典型的な形をとって現われたのはイギリスにおいてである。イギリスでは市民社会のことをシビル-ソサエティーとよんでいるが，シビルという英語は，①非教会的，②非政府的，③非軍事的というような多義をもっており，したがって市民社会というのは，①世俗的な，②民間の，③平和な社会というような意味をもっていた。中世の封建社会は，ローマ教会を中心とするキリスト教教会と，諸国の封建的領主の政権と，さらにそれらをささえる軍隊の力などによって構成されていたが，そうした中で営まれていた庶民の平和で世俗的な日常生活を母体とする社会生活が，シビルな，つまり市民的な社会と考えられていたのである。ルネサンス*や宗教改革*の運動とともに封建社会が崩壊する過程において，それまで封建社会のもとに埋もれていた庶民の社会生活が表面に現われた。これが，近代市民社会である。庶民の日常生活の根幹をなすものは日常の経済生活であったから，近代市民社会はいきおい経済活動を根本とする社会となった。そういう経済活動がブルジョアの手によって推し進められたのが，近代資本主義経済なのである。そこから，近代市民社会が資本主義社会であることが明らかになるはずである。

そのような近代市民社会がいちはやく形成されたのは，すでに述べたようにイギリ

スにおいてであり，それに次いではフランスである。この2国に比較すると，ドイツははるかに遅れており，歴史的事情は異なっているが，日本もまたドイツよりさらに遅れている。このような近代市民社会の成立事情の相違が，市民というものの性格の相違をつくっている。したがって市民の問題を論じるにあたっては，市民社会の成立の事情を知っておかねばならない。

市民社会が成立するためには，封建的社会体制が破棄され，市民的社会体制が確立されねばならない。封建的社会体制の基礎は封建的土地所有制にあるから，この土地所有制の破棄が市民社会成立の第1条件となる。たとえばイギリスにおいていちはやく市民社会が成立したのは，近代初期にマニュファクチュア*が成立し，小ギルド(→ギルド)の親方であるスモール-マスターズやエンクロージャー*のために土地を失ったヨーマン*などの独立自衛の小市民がそのにない手の中心になったためである。フランスにおいては，フランス革命の過程で分割地農民がつくられることによって，近代的土地所有の基礎が確立した。ところがドイツにおいては，18世紀末においてもグルント-ヘルシャフトやグーツ-ヘルシャフトなどの封建的土地所有制度が堅持されており，19世紀になっても貴族的地主であるユンカー*の勢力が強かったために，土地所有制の近代的改革が著しくたちおくれた。日本においても，明治維新以後の土地所有制度は半封建的とよばれるようなたちおくれを示していた。それらがドイツや日本における市民社会の完成を遅らせる原因となったし，また同時に近代的市民意識の形成を遅らせることになった。

近代市民社会の成立にとっての第2の条件である近代的社会体制の樹立に関していえば，封建的身分制度の打破すなわち近代市民的法律制度や政治組織の確立がその中心となる。基本的人権，私有財産制度*，民主的政治参加，主権在民の政治理念等々にささえられなければ，近代的社会体制は樹立されない。イギリスにおいてはすでに17世紀にそれらの確立がみられ，フランスにおいては18世紀のフランス革命によってそれらが確立されている。ドイツや日本がそれらの点においても著しくたちおくれていたことは，周知のとおりである。

【市民革命と市民意識】 中世封建社会の崩壊のあとに，近代市民社会が建設されたといっても，その崩壊の過程で市民社会の自然成長的な成立がみられたのではなく，むしろ市民社会のにない手であるブルジョア階級，つまり市民階級の手による革命運動によるところが大きい。そのような市民革命すなわちブルジョア革命は，まずイギリスでは17世紀に起こった。すなわち，1640年に始まるピューリタン革命*は，1648年のクロムウェル*の独裁政治の出現によって挫折(ざせつ)することになったが，この市民革命は1668年の流血をみなかった名誉革命*によって完成をみた。これによって議会政治が確立され，民主的政治参加への道が開かれることになり，そこからすでにイギリスの市民社会の姿が現われた。この市民革命の成功は産業界においても近代的経済体制の確立を促すこととなり，やがてきたるべき産業革命を招来することになる。18世紀後半にはアダム-ファーガスン(1723～1816)によって市民社会についての考案が行なわれているが，彼のいう市民社会とは産業国家のことであった。またアダム-スミス*は《諸国民の富》の中で商業社会の分析を行なったが，それは市民社会の経済的側面を考察したものである。この両者によって市民社会の経済体制が分析されたのであるが，それはきたるべき産業革命を準備するものであった。このようにしてイギリスにおいては，17世紀に市民的政治体制が確立され，18世紀後半からは市民的経済体制が促進されることによって，近代的市民社会の体制が樹立された。また，それによって市民意識が確立されたことはいうまでもない。

フランスにおいては絶対王政が比較的強固であったために，市民革命は18世紀のフランス革命によってようやく緒についた。フランス革命は1780年代の財政危機に端を発して，最初は貴族による革命に始まり，やがてブルジョア階級による革命をひき起こした。1789年7月以降にはブルジョアの革命に続いてサン-キュロット*を中心とする庶民階級の革命，さらには農民層の革命をひき起こした。それゆえ，フランス革命はブルジョアを主体とした革命であるとされながら，すでにその革命の進行過程でブルジョアに対立する諸階級が立ち上がっていることがわかる。それにしても，人権宣言*の中でうたわれている〈自由・平等・博愛〉の理念の強調は，明らかに近代的・民主的政治体制の確立を強調したものである。

もっとも，フランス革命によって市民社会の民主的体制が確立されたといっても，経済的体制の面では農民の封建的身分の桎梏(しっこく)が取り除かれ，農地の封建的所有形態が若干近代化されるにとどまって，経済体制の全般的近代化は実現されなかった。そのために，19世紀の七月革命*および二月革命*にその解決が引き延ばされた。もっとも，二月革命によってブルジョア革命がいちおうは完成されたものの，やがてまもなくルイ-ナポレオンによるクーデターによって政治的独裁制がしかれ，大資本家の覇権(はけん)が確立される。1871年のパリ-コンミューン*の断圧によって反体制運動は強力におさえつけられることになったが，パリ-コンミューンそのもののうちにプロレタリア階級の明確な階級的自覚と近代的市民意識の高揚がみられる。それ以後もフランス市民のうちにはパリ-コンミューンの記憶がながく生き残り，1968年の五月革命の発生もそれを抜きにしては考えられない。

ドイツにおける市民革命は1848年の三月革命*にみられる。この場合，フランクフルトにおいては主権在民の民主的な国民議会*の設立が提起されたが，結局はプロイセンの王権によってそれが押しつぶされた。しかも，この時代のドイツは諸連邦の連合体であって，まだ近代的統一国家にはなっていなかった。ドイツが1871年に近代的統一国家を形成したのは普仏(ふふつ)戦争*の勝利の結果であったが，とにかく近代的統一国家となったドイツは，1870年代以降に産業革命を強力に推し進め，それによって政治体制と経済体制の両面にわたってようやく市民社会を完成した。しかし，その市民社会形成の過程は〈上から〉のものであって，官僚主義(→官僚制)の弊害におちいることになった。したがって，市民意識の発達も十分とはいえず，やがてナチズムの台頭をも許すことになったのである。

日本の市民革命は明治維新に求められるであろうが，明治維新の推進力が下層の武士階級を中心としたものであり，しかもそれが王政復古*の形をとったから，市民革命としては中途はんぱなものであった。明治憲法にしても，その憲法下における土地所有制度・教育制度・産業組織などいずれも半封建的なものであった。

したがって，日本における市民意識ははなはだしく立ち遅れている。第2次世界大戦前までの日本人は教育勅語にみられるような超国家主義*的教育理念のもとに教育されたから，市民意識からよりはむしろ臣民としての国民意識が強かった。戦時中の軍官民というスローガンにみられるように，一般国民は単なる庶民として取り扱われていた。したがって，そこには臣民意識はみられたにしても，市民意識はほとんどみられなかった。

戦後の新憲法下においてようやく近代的市民社会の理念が打ち立てられ，市民意識もようやく高まるようになった。ことに1959年の警職法闘争や1960年の安保闘争*において市民の示威運動が国会の内部にまで進出したことは，過去の歴史にはみられない市民意識の高揚とみなすことができる。それ以後においても沖縄闘争や安保闘争において市民意識の露出がみられるし，また公害問題や物価問題その他の社会問題をめぐっての地域闘争においても活発な市民運動が展開され，そのうちに西欧なみの市民意識がようやくみられるようになった。

〔樺　俊雄〕

よび468.85メガヘルツ(MHz)が割り当てられており，出力は3～5W以下，バンド幅はAMで6KHz以下，FMのときは30KHz以内である。〔小原啓義〕

じむかで【地百足】節足動物・唇脚(しんきゃく)類・ジムカデ目の総称。体は細長く弱弱しい。一般に体色はかっ色系で，体長4cm内外の種類が多く，落葉の下などに群生することが多い。脚の数は31～170余対で，最前と最後の歩肢(ほし)胴節に気門を欠く。孵化(ふか)幼虫は成体と同数の胴節や歩肢がある。

じむかんり【事務管理】一般に，経営の合理化は熟練の移転，つまり労働者から管理者への熟練の移転によって進められ，その管理者の管理業務が質的・量的に増大する過程で，管理者がこの業務のより合理的な遂行を意図する場合，その管理者は管理者固有の管理業とこの業務に対する準備業務とを分割して，後者を他の人々に移行する必要が生じてくる。このようにして，固有の管理業務から分化して成立した業務を事務という。事務は，管理の準備的業務にほかならないが，事務が専門的に分化し，多数の専門的事務職員によって担当・分担せられる場合に，おのずから各事務執行そのものの管理が問題にならざるをえない。そしてここに事務管理の成立をみる。事務は，情報の収集・処理・伝達を実現するための用具として，事務活動の構成要素である人間および物的手段(文書・帳簿・設備・機械器具・消耗品など)を使用する。したがって事務管理は，大きくは事務の実体的管理と費用的管理に分類される。事務諸要素の実態をとらえて，それらが個々にあるいは総体として事務目的に役だったかどうかを，その事務過程と成果に照らして考察することが前者であり，これに対して人間および物的手段を価格をもつ価値としてとらえて，その消費の動きとその結果が事務目的に役だったかどうかを考察することが後者である。〔清水 晶〕

民法上の事務管理とは義務がないのに他人のために事務を行なうことをいう(民法697条)。元来，義務のない者は，みだりに他人の事務をすべきではないが，本人の利益を図ることは，社会の共同生活の利益を図ることに適合する点もあることから，事務管理が認められており，債権関係の発生原因となる。他人のためとは，他人の利益を図る意思をもってすることであり，事務とは，人の生活に利益をもたらすいっさいの仕事である。しかし，事務管理は，債務の目的となりうるものであることを要するため，祈禱(きとう)などは事務管理でないとされる。事務の管理者は，いったん仕事を始めたならば，本人，その相続人または法定代理人がそれを受け継ぐまで管理継続の義務を負い，また本人は管理者に必要な経費を支払う義務を負う。〔黒木三郎〕

じむぐり【地潜】爬虫(はちゅう)類・ナミヘビ科。北海道・本州・四国・九州に分布し，平地よりもむしろ山地に多く，2,000mの高地にも分布する。全長1mくらい。腹面は黄白色に黒かっ色の市松模様があるのが特徴。もっぱらネズミ類を食べるので，農林業に有益である。

シムノン［Georges Simenon］(1903～) フランスの小説家。ベルギーの生まれ。17歳の処女作以来，新聞記者を職として多くの作品を発表。1930年から始まるメグレ警部を主人公とする一連の推理小説で有名。文体は話しことばで華麗さはないが，人物と情景が一体となるふんい気を独自なリアリズムで喚起し，ジイドに絶賛された。代表作は《男の道》《黄色い犬》《雪は汚れていた》など。

シムラ［Simla］インド共和国北部，ヒマチャルプラデシ地方にある都市。人口43,000(1961)。海抜2,000mの高地で，ヒマラヤ前山の一部に属する。イギリス植民地時代の1819年に最初のイギリス人避暑地とされ，夏季にはインド政庁もここへ移るならわしであった。以後交通機関の整備に伴って避暑地として発展した。

じめい【耳鳴】⇨耳鳴り

しめいさいけん【指名債権】債権者が特定している債権をいい，指図(さしず)債権のように債権者がはじめから変更されることを予定されているものと区別される。貸し金や売掛金などの普通の債権などがこれに属する。➔債権譲渡

しめいてはい【指名手配】犯人の氏名はわかっているが，居所がわからない場合，全国または関係があると判断される地域の警察本部および警察署に，犯人の逮捕を依頼すること。原則として文書(刑事日報)で行なうが，緊急の場合は電話・電信・模写電送などで行なわれる。氏名が判名しない場合でも偽名・人相・特徴などで手配を行なうことができる。

しめいとうひょう【指名投票】内閣総理大臣は国会によって指名され，その指名は記名投票によって行なわれている。これを内閣総理大臣の指名投票という。国会が内閣総理大臣を指名することは議会と内閣の信任関係を基礎とする議院内閣制の第一歩である。投票によって過半数を得た者が指名され，その指名はすべての案件にさきだって行なわれる。また総理大臣の指名が衆・参両議院の間で意見を異にするときは衆議院の優越性が認められている(憲法67条)。〔吉田善明〕

しめさば【締鯖】3枚におろしたサバに，塩を振って肉を締め，酢につけてさらに締めたもの。さしみ，さばずし，ちらしずし，酢の物に用いられる。辛味には，ワサビ・からし・ショウガがよく合う。

多量の塩をしたサバは，脱水凝固により身が締まり，魚肉から水分が遊離するので，特有の魚臭も少なくなる。また，サバは肉質がやわらかく，身割れがして細菌が侵入しやすいので，新鮮なものを用いて，手早く調理する。

貯蔵温度が高いとすぐ鮮度が落ち，うま味成分のヒスチジンが分解してヒスタミンを生じ，蕁麻疹(じんましん)などの原因になることがある。〔塩川ふみ〕

しめじ【占地】担子菌類・シメジ科。通常はホンシメジをさすが，シメジ属のきのこの総称となる場合もある。ホンシメジは夏から秋にかけて広葉樹林または雑木林の地上に，群生または点々と発生するきのこである。かさは2～10cmくらいで，はじめ半球形ないしまんじゅう形，のち扁平(へんぺい)に開く。表面は平滑で，はじめ暗色のち淡灰色から灰黒色となる。かさの周縁部ははじめ内側に曲がり込んでいる。肉は白色である。茎は高さ3～10cm，径0.5～2cm，白色であり，内部は充実している。通常下部がふくらんでいる。〈においマツタケ，味シメジ〉のたとえどおり，美味な食用菌である。寄生主の木の根に菌根をつくり，毎年同じ地域に発生する。栽培することはできない。〔曽根田正己〕

しめだいこ【締太鼓】能や歌舞伎(かぶき)の囃子(はやし)で使われ，単に太鼓とよばれることも多い。2枚の皮をたらい形の木製の胴の両側にはり，それをひもで締め，2本のばちで打つ。奏法は，余韻を止めるものと響かせるものに加えて，音量の大中小の変化を基本とする。歌舞伎囃子は能楽囃子の方法を基本としながら，さらに細かいばちさばきを用いて，多くのパターンを形成している。そこには，初期歌舞伎以来の民俗芸能の影響が認められる。また，この楽器は里神楽(さとかぐら)や風流(ふりゅう)などでも活用されている。〔徳丸吉彦〕

ジメトエート［dimethoate］有機リン剤の一種で，ヤノネカイガラムシ・アブラムシ・ハダニ類によくきく殺虫剤である。速効的であると同時に残効性も高い反面，ナシやモモには薬害が出やすい。経口毒性はかなり強いが，経皮毒性は低く，魚類に対してもあまり心配はいらない。乳剤・水和剤・粉剤がある。

しめなわ【注連縄】七五三縄・標縄とも書く。社殿・祭場・鳥居などに張り渡し，内外の区画をなして清浄域であることを表示する。新わらを左結いに結ってつくり，これに紙垂(しで)を付けて用いる。形態により大根じめ・牛蒡(ごぼう)じめ・輪飾りなどの種類がある。

ジーメン【Gメン】⇨FBI

ジーメンス［Ernst Werner von Siemens］(1816～1892) ドイツの電気技術者。ジーメンス4人兄弟の長兄として，ハノーバーの御料地小作人の家に生まれ，砲兵学校に学んでいるうちに電気に興味をもつようになった。士官在任中，電信機の

改良とグッタペルカ被覆の地下ケーブルの発明で自信を得て退官。1847年機械工のハルスケとともに，電信機の製作と敷設にあたるジーメンス-ハルスケ会社を創立。この会社はロシアにおける電信線建設を独占して大企業となった。さらに発電機の実用化に着手し，1867年自励発電の原理を発見して，電力技術開拓の基礎を開いた。ドイツ電気技術の父とよばれ，晩年は国会議員としてドイツ工業政策や国立研究所の創設などに尽くした。〔山崎俊雄〕

ジーメンス [Wilhelm Siemens(Sir William Siemens)]（1823～1883） ドイツ生まれのイギリスの工業家。英語読みではシーメンス。E. W. von ジーメンス*の弟。兄の発明を工業の発達したイギリスで利用するため，1844年ロンドンへ渡る。熱に関する技術に才能を示し，1847年再生蒸気機関を発明。また，ジーメンス-ハルスケ商会の代理者として，イギリス工業界に地位を築いた。弟のフリードリヒが，ガラス工業用に発明した蓄熱式加熱法を製鉄業に応用し，マルタン*と協力して平炉製鋼法〈ジーメンズ-マルタン法〉を発明した。1859年イギリスに帰化し，爵位を授けられた。〔加藤邦興〕

ジーメンス [Friedrich Siemens]（1826～1904） ドイツの技術家。E. W. von ジーメンス*の弟。蓄熱式加熱法を発明し，高温技術を研究。ガラス製造を研究し，今日のガラス工業の祖とされている。

ジーメンスじけん 【ジーメンス事件】 1914年(大正3)1月，兵器発注にからむ日本海軍とドイツのジーメンス社との贈収賄(そうしゅうわい)暴露事件。海軍当局はジーメンス社との独占契約とみせかけ，その代償として3.5～15%の手数料を受け取っていたが，さらにイギリスのビッカース社とも25%の手数料で契約していた。この間ジーメンス社東京支社員が書類窃盗の罪でベルリンで裁判に付されたことから，事実が公にされ，1月，議会で野党の立憲同志会は島田三郎*を先頭に，第1次山本権兵衛*(ごんのひょうえ)内閣の責任を追及した。当時山本内閣は，軍閥官僚政府として国民の間に反感が強まっていたため，事件は内閣打倒の国民運動にまで発展した。2月，東京の日比谷(ひびや)公園では数万の民衆を動員した国民大会が開かれ，警官と憲兵が衝突する流血事故を起こした。議会ではばくだいな海軍拡張費を含む政府予算案が不成立に終わり，一方艦政本部第4部長藤井光五郎，海軍大佐沢崎寛猛らが検挙されて，3月山本内閣は総辞職した。〔高崎徳次〕

ジメンヒドリナート [dimenhidrinate] 抗ヒスタミン薬*であるジフェンヒドラミンの8-クロルテオフィリン塩で，白色の結晶，味は苦い。車酔い・船酔いなどの動揺病，つわり・メニエル症候群*・迷路疾患などに効果がある。車酔いなどの予防には50mgを出発前30分に，その後は食前に経口投与する。大量投与すると眠けを生じる。

しも 【霜】 天気の晴れた夜間に，地物が放射によって冷却し，温度が0℃以下になって地物の周囲の薄い気層中の水蒸気が飽和に達し，地物上に凝結して氷結したもの，あるいは地物上に昇華によって直ちに氷結したもの。霜には，鱗片(りんぺん)状・針状・羽状などの結晶形のものと，無定形のものがある。気温が0℃以下わずかに低いときには，水蒸気がいったん微細な霧粒となり，地物に付着して凍り霜となるが，結晶形をなしていない。気温が0℃以下，−10℃付近までになって飽和するときは水蒸気は昇華して霜となり，六角柱または盤状をなして重なっている。霜ができるのは地面近くの気温が0℃以下に下がる場合であり，このような気温降下は地形に大きく左右される。凹地(おうち)や盆地では重い寒気がたまるために霜になりやすい。またこのような凹地に向かう道に沿って寒気が流れるために，そこに霜ができやすく，これを霜道という。一方，南面した傾斜地，水辺・林のほとりなどは気温が下がりにくく，霜は発生しにくい。霜は農業に重大な影響をもっていて，大被害を受けることがしばしばある。〔曲田光夫〕

しもう 【刺毛】 イラクサ・アサなどの植物の茎や葉にある針状の毛。表皮細胞を主体に，その基部にある基本組織なども加わって大形となった毛状体で，細胞壁は厚くかたくなり，先端は鋭くとがって，ケイ酸質化している。先端のすぐ近くにくびれている部分があり，動物の皮膚に突き刺さるとここから折れやすく，折れると細胞内に含まれているヒスタミン・アセチルコリンなどの毒液が出る。

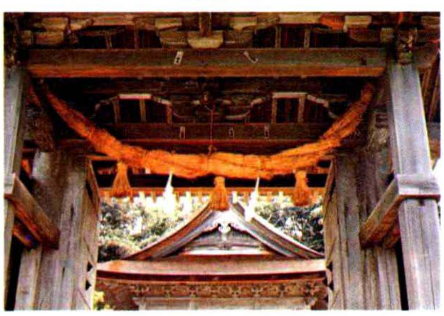
しもうさ 【下総(国)】〈しもふさ〉とも読む。千葉県北部・茨城県南西部(近世まで東京都の東部，埼玉県の東南部も含む)を占める旧国名。総州。東海道に属する。はじめ総国(ふさのくに)といい，のちにこれを分けて上総*(かずさ)・下総の2国とした。葛飾(かつしか)・千葉・印旛(いんば)・匝瑳(そうさ)・海上(うなかみ)・香取・埴生(はにゅう)・相馬(そうま)・猿島(さしま)・結城(ゆうき)・豊田(とよだ)の11郡があった。国府・国分寺は現在の市川市国府台(こうのだい)にあった。大化改新は印波・下海上(しもつうなかみ)の国造(くにのみやつこ)の治下にあったが，大化改新後下総国を建てた。平安中期以降は平氏一門が土着し，平将門(まさかど)の乱(→承平・天慶の乱)も起こったが，その後も平氏の勢力が強く，中世を通じて千葉氏が守護*となった。永享(えいきょう)の乱*後関東が乱れるに及んで，国内は騒然となり，やがて北条(ほうじょう)氏の治下にはいり，次いで徳川家康(いえやす)の所領となった。近世には古河・関宿・佐倉などの諸藩が置かれたが，廃藩置県後は半ばは印旛県を経て千葉県に，半ばは新治(にいはり)県となり，のち茨城県に編入されて今日に至っている。〔黛 弘道〕

しもうさだいち 【下総台地】 千葉県北半の下総の国域に広がる洪積(こうせき)台地で，常総台地の南半部にあたる。台地の西は江戸川で境され，北は利根(とね)川の沖積(ちゅうせき)低地で終わる。南の房総半島に移る部分は高度も100mを越えるが，全般的には40～50mである。表面は関東ローム層でおおわれ，手賀沼・印旛(いんば)沼などのほか樹枝状の侵食谷に刻まれている。→次ページ(写真)

しもかまがりじま 【下蒲刈島】 広島県呉(くれ)市の南東方にあり，本土とは幅わずか1km余の猫瀬戸(ねこのせと)で隔てられる。


多賀大社


気比神宮


気多神社


宮地嶽神社

注連縄



下 総 台 地
銚子市西方の下総台地の景観。前面から右手は沖積低地で，帯状の森林でおおわれる斜面を登ると台地上に畑が広がる。比高は約50mある

南方にある上黒島・下黒島の小島とともに安芸(あき)郡下蒲刈町を形成し，下蒲刈町の面積は8.7km²，人口4 300。住民はミカンをつくり，イワシ・タイなどをとり，石灰岩を採掘しているが，呉市への通勤者も多い。中心集落は東岸の三之瀬。

しもがも　【下鴨】　京都市の北部，左京区の賀茂(かも)川と高野川の合流点付近から両川の上流部約2kmにわたる地区。山城一ノ宮の賀茂御祖(かものみおや)神社(下鴨神社)に沿う本通りをはさんで，高野川沿いに下鴨東通り，鴨川沿いに下鴨西通りがある。地名は上賀茂と同様，賀茂神社に仕えた賀茂(鴨)氏にちなむ。下鴨神社と上賀茂神社(賀茂別雷(かものわけいかずち)神社)と共同で行なわれる葵(あおい)祭(5月15日)が名高い。鴨川堤は市民の散策地，周辺一帯は住宅地区となっており，府立植物園・府立総合資料館がある。〔浅井得一〕

しもかもおんせん　【下賀茂温泉】　静岡県加茂郡南伊豆(みなみいず)町にある温泉。泉温40～125℃。泉質は食塩泉・石膏(せっこう)泉・芒硝(ぼうしょう)泉で，皮膚病にきくといわれる。青野川に沿う田園に温泉宿が点在する。湯量多く泉温も高いので，泉熱を利用した野菜・果実・草花などの温室栽培が行なわれ，最近は製塩も始められた。伊豆急行下田駅からバスの便がある。

しもがもじんじゃ　【下鴨神社】　⇨賀茂神社

しもかわこうざん　【下川鉱山】　北海道上川支庁下川町にあり，銅6,800t(1970)のほか亜鉛・金・銀などを産出する。1923年(大正12)発見され，1941年(昭和16)から三菱(みつびし)金属鉱業が経営している。

しもきたはんとう　【下北半島】　青森県北東部のおの形をした半島で，斗南(となみ)半島ともいう。北西端の大間崎は本州最北端をなし，約20km隔てて北海道の亀田(かめだ)半島と相対し，北東端に突出した尻屋崎(しりやざき)は津軽海峡と太平洋とを分ける。地形は西に大きく張り出し，内側に陸奥(むつ)湾を抱く。半島の主部は奥羽山脈の延長にあたる恐山山地からなり，その上に恐山火山群が重なる。山地の東側はかつて海峡であった田名部低地で，さらにその東は尻屋崎から南へ第三紀層からなる丘陵(下北丘陵)が伸びている。これらの山地の大部分は森林におおわれ，特に恐山のヒバ林は著名で，林業が盛んである。農業はジャガイモ・豆類を主とする畑作と酪農が行なわれているが，夏の〈やませ〉による気温の低下などがあって不振である。中心集落のむつ市では最近原子力船の母港が建設され，また重化学工業の建設計画も進められている。尻屋崎付近には良質な石灰石や砂鉄を産出する。恐山山地周辺には温泉が多く，仏ケ浦の景勝とあいまって，付近一帯は下北半島国定公園に指定されている。〔味沢成吉〕

しもきたはんとうこくていこうえん　【下北半島国定公園】　青森県，下北半島の恐山山地の中央部と，半島西部の牛首岬(うしのくびみさき)から佐井に至る海岸を含み，面積187.03km²で，1968年(昭和43)に指定された。恐山火山(828m)のいくつもの峰がつくる火口壁は蓮華八葉(れんげはちよう)の霊物となり，中央には火口湖の宇曾利山湖(うそりざんこ)がある。湖の北岸には噴気孔や温泉が多く，〈地獄〉とよばれ，名所である。西部海岸は断崖(だんがい)で，名勝仏ケ浦がある。〔木村東一郎〕

じもく　【除目】　平安時代以降，大臣以外の諸官職を補任する儀式のこと。除は前官を除去すること，目は新官を目録に記すの意。毎年春に諸国司を任命するのを県召(あがためし)の除目，秋に京官(内官)を補任するのを司召(つかさめし)の除目といい，そのほか臨時除目(小除目)・兼官除目・女官除目等々各種の除目があった。除目は売官に関連して朝廷貴族の関心の的であった。

しもくぼダム　【下久保ダム】　群馬県多野郡鬼石町，利根(とね)川水系の神流(かんな)川に，1968年(昭和43)に完成した重力式ダム。高さ129m，総貯水量1億3,000万m³，下久保発電所の最大出力15,000kWで，洪水(こうずい)調節・灌漑(かんがい)・水力発電・上水道・工業用水など多目的ダムとして水資源開発公団が建設した。灌漑面積は16,614ヘクタールに及ぶ。

しもこうべながる　【下河辺長流】　(1627～1686)　江戸初期の歌人・国学者。初名共平。通称彦六。大和(やまと)(奈良県)の人。京都に出て木下長嘯子(ちょうしょうし)に師事し，のち大阪に隠栖(いんせい)。堂上歌学の伝統主義に対して革新的立場をとり，徳川光圀(みつくに)から《万葉集》の注釈を依嘱されたが，辞して契沖(けいちゅう)を推薦した。契沖の《万葉代匠記》は長流の説に負うところが多い。《万葉集管見》《枕詞燭明抄(まくらことばしょくみょうしょう)》などを著わし，国学の先駆者としての位置を占める。歌集に《林葉累塵集(るいじんしゅう)》がある。〔平田澄子〕

しもごえ　【下肥】　人糞尿(じんぷんにょう)を腐熟させたもので，古くから自給肥料として用いられ，化学肥料が全盛をきわめている現在でも多くの農家で利用されている。窒素0.5～0.7％，リン酸0.1％，カリ0.2～0.3％を含み，ほかに少量の石灰・苦土・ケイ酸と1％弱の食塩を含む。新鮮なものは直接施用すると作物に害作用を与える。また食塩を含むため，大量連用すると土壌(どじょう)の酸性化を招き，石灰の施用が必要である。都市の糞尿の処理には環境衛生上の問題もからんで衛生的処理が望まれている。近年，空気・微生物の活用による活性汚泥(おでい)・発酵乾糞が生産され，蔬菜(そさい)・花などの施設栽培などによく用いられている。〔早瀬達郎〕

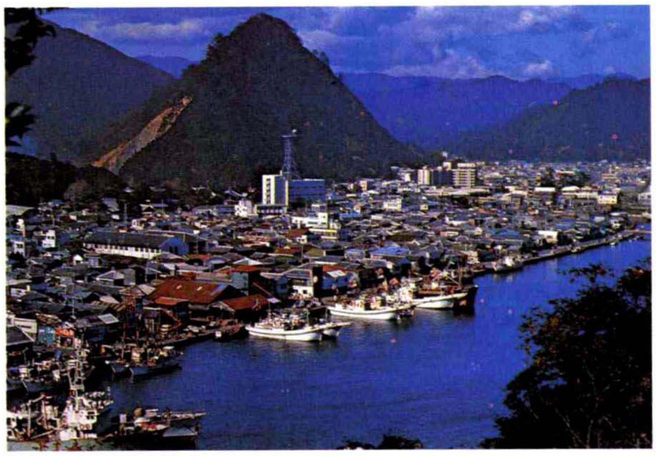
しもざわかん　【子母沢寛】　(1892～1968)　小説家。本名梅谷松太郎。北海道の生まれ。彰義隊生き残りの祖父に育てられ，それが後年の作風をつちかった。明治大学法学部卒。読売新聞・毎日新聞などの記者を経て，《紋三郎の秀(ひで)》でデビュー，股旅物(またたびもの)に新境地を開いた。代表作は《国定忠治》《弥太郎笠(やたろうがさ)》，明治維新に取材した《勝海舟》《父子鷹(おやこだか)》など。

しもすわ　【下諏訪(町)】　長野県諏訪郡の町で，諏訪湖の北岸に位置する。人口27,000。古くから諏訪神社下社の門前町，温泉集落，さらには中山道(なかせんどう)と甲州街道とが分岐する宿駅として栄えた。中央本線開通後は製糸業で発展したが，第2次世界大戦後製糸業が衰微するとともにカメラ・オルゴール・時計などの精密機械工業に転換した。下諏訪温泉は泉温25～75℃，泉質は食塩泉で，胃腸病・婦人病・リウマチなどにきくといわれる。各所から湯が湧出(ゆうしゅつ)する古風で静かな温泉として知られ，近くには諏訪湖・水月公園などがある。中央線下諏訪駅からバスの便がある。

しもせかやく　【下瀬火薬】　下瀬雅允(まさちか)(1859～1911)が開発した強力爆薬の通称。フランス人チュルパンが1886年に完成したメリニット(ピクリン酸)にいちはやく注目した下瀬は，これを多量かつ安全に弾丸の炸薬(さくやく)とする方法を考案し，列国に先んじて弾丸の爆発威力を著しく高める

ことに成功した。日本海軍は1893年(明治26)にこれを正式採用。日露戦争において大きな効果をあげ，大正末期まで日本海軍はこの火薬に絶対の信頼を託し続けた。
〔藤井冬木〕

しもだ 【下田(市)】 静岡県伊豆(いず)半島南東岸の市。1971年(昭和46)1月市制施行。人口32,000。江戸時代には江戸～大阪航路の要地で，下田港は回船の日和(ひより)待ち港として栄え，他の伊豆の諸地域とともに幕府の直轄地で下田奉行(ぶぎょう)が置かれた。1854年(安政1)に日米和親条約によって開港し，1856年アメリカ初代駐日総領事ハリスが着任して柿崎の玉泉寺に仮総領事館を置き，2年後の日米修好通商条約の締結で日米外交の舞台となった。市域は下田湾に臨む市街地から北西方の蓮台寺(れんだいじ)温泉，北東部の白浜へかけて広がる。産業三大別人口比は11：18：71。観光サービス業が主体で，蓮台寺から引き湯した下田温泉にはホテルが立ち並ぶ。白浜地区には古くからテングサの特産があり，海女(あま)によって潜水採集されている。また，草花・ピーマン・エンドウ・ミカンの栽培も盛んである。夏は海水浴場・キャンプ場としてにぎわう。伊豆急行電鉄とほぼ平行して国道135号線が半島東海岸を走り，その一部は東伊豆道路(有料道路)となっている。下田港は伊豆諸島への定期航路や沖合い漁業の基地であり，また市内にはペリーの宿舎了仙(りょうせん)寺，総領事館跡の玉泉寺，唐人お吉の墓などの史跡，白浜海岸，爪木崎(つめきざき)，海中水族館などの観光資源に富む。年中行事に〈黒船祭〉(5月16～18日)がある。
〔浅井得一〕



下田市
稲生沢川左岸に広がる市の中心部。川沿いの岸壁には大漁旗をなびかせた漁船が集まり，活気を呈している

しもだうたこ 【下田歌子】 (1856～1936) 歌人・女子教育家。幼名鉐(せき)。美濃(みの)(岐阜県)の生まれ。早くから和漢の学を修め，その歌才を認められて1872(明治5)～1879年宮中に出仕，歌子の名を賜わる。以後華族女学校・実践女学校・女子学習院などの創設に参画，要職につき，1920年には愛国婦人会会長となる。作風は桂園(けいえん)派ふうを出ないが，古雅で余情を含む。

しもだじょうやく 【下田条約】 ①1854年(安政1)下田において林大学頭とペリーの間で結ばれた条約。下田追加条約ともいうが，正しくは日米和親条約付録協定。13か条からなり，下田を中心に7里の遊歩地の設定，上陸アメリカ人の市内見物の許可，休息所・埋葬地の設置などを内容とする。②1857年，下田において井上清直・中村時万とハリスとの間で結ばれた条約。日米和親条約の不備を改訂した条約で，日米約定ともいう。9か条からなり，長崎の開港，アメリカ人の下田・函館(はこだて)居住権，総領事の商品直接購入権，領事裁判権などを内容とし，日米修好通商条約締結への道を開いた。③1854年12月調印した日露和親条約のこと。
〔原田政洸〕



シモツケ

しもだて 【下館(市)】 茨城県西部の市。地名は，藤原秀郷(ひでさと)が平将門(まさかど)を討った際に置いた館の一つに由来する。江戸時代には石川氏二万石の城下町で，栃木県の真岡(もうか)とともに，真岡もめんの生産と取引が盛んであった。1954年(昭和29)市制施行。人口61,000。常陸(ひたち)台地の北西端，鬼怒(きぬ)川と小貝川にはさまれた沖積地(ちゅうせきち)上に位置する。産業三大別人口比は24：35：41。西の鬼怒川沿岸の低地には水田地帯が発達し，東の小貝川流域では麦・豆類・野菜類などの畑作が行なわれ，ウシ・ブタ・ニワトリなどの飼育も多い。明治以後，真岡もめんの生産は衰えてたび底に代わり，全国生産の80%を占めていたが，いまでは男子服の縫製業が興っており，最近は通信機・合成樹脂・コンクリートなどの大企業も立地している。水戸(みと)線から真岡線を分岐し，関東鉄道・国道50号線が通ずる。

しもだぶぎょう 【下田奉行】 江戸幕府の職名。伊豆(いず)(静岡県)下田港須崎(すさき)に番所を置き，江戸湾口を守り，往来の船舶や積載貨物の検査などにあたった。1616年(元和2)創置され，1720年(享保5)浦賀奉行が設置されて廃止となったが，海防の急により1842年(天保13)再置され，2年後再び廃止，1854年(安政1)日米和親条約により復活，1859年下田港の閉鎖によって廃職となった。定員1～2名，老中の支配下にあった。
〔岡山泰四〕

しもつ 【下津(町)】 和歌山県の北西部，海草郡にあり，紀伊(きい)水道に臨む。人口18,000。1955年(昭和30)下津町を中心に4村が合併した石油とミカンの町。紀勢本線・国道42号線に沿う。下津湾は水深が大きく，タンカーの出入に適し，丸善石油の製油所が湾奥にある。ミカンは湾を巡る山腹に栽培されている。

しもついぶし 【下津井節】 岡山県倉敷市下津井の民謡。《下津井小唄(こうた)》ともいう。最上(もがみ)川の舟唄や富士川の舟唄と同じ系統らしい。江戸時代から下津井港を中心に歌われたお座敷唄で，もめん紡ぎ唄としても歌われる。同系の節回しの唄が各地にあり，〈下津井節型〉とよばれる。

しもつきまつり 【霜月祭】 ⇨収穫祭

しもつけ 【下野】 双子葉植物・バラ科。山野の陽地に自生する落葉低木で，庭木に用いられる。高さ1m前後で，多数の茎を出す。葉は長楕円(ちょうだえん)形～広披針(こうひしん)形で，鋸歯(きょし)があり，長さ2～8cm，幅1～4cm。花序は扁平(へんぺい)な半球状で，多数の淡紅色の小さな花が1年めの枝先に集まって咲く。各花の直径は3～6mm，がく片5枚，花弁5枚からなり，おしべは20～30本あり，花弁よりも長い。花期は5～8月。果実は袋果で，毛がなく，普通5個ずつ集まる。9～10月，黄かっ色に熟し，乾燥すると裂ける。

しもつけ 【下野(国)】 旧国名。東山道に属する。古くは毛野(けぬ)国の一部であったが，のち上下2国となり，本国には下毛野国造(くにのみやつこ)が置かれた。大化改新以降那須(なす)国とあわせて下野国が建てられ，国司の治下にはいった。国府は現在の栃木市，国分寺は下都賀郡国分寺町にあった。もと阿蘇(あそ)・足利(あしかが)・梁田(やなだ)・都賀・河内(こうち)・寒川・芳賀(はが)・塩屋・那須の9郡。平安中期以降，藤原秀郷(ひでさと)の後裔(こうえい)が小山を根拠地として栄え，宇都宮・那須氏とともにやがて源頼朝(よりとも)の麾下(きか)に属した。中世には足利氏が栄えたが，戦国時代には国内大いに乱れた。江戸時代には宇都宮(うつのみや)・烏山(からすやま)・黒羽・足利の諸藩が置かれたが，宇都宮以

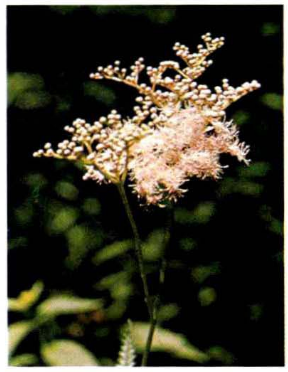
外はいずれも譜代の小藩であった。明治に至り諸県を栃木・宇都宮の２県にまとめ，次いで1873年これをあわせて栃木県とした。〔黛　弘道〕

しもつけそう　【下野草】　双子葉植物・バラ科。クサシモツケともいう。山地にはえる多年草で，ときに観賞用として庭に植えられる。茎は直立して，高さ20～80cm。葉は羽状に分かれ，先端の小葉は掌状となり，縁に鋸歯(きょし)がある。夏，茎の上部に淡紅色の５弁の小花を散房状につける。花がシモツケ*に似ているのでこの名がある。

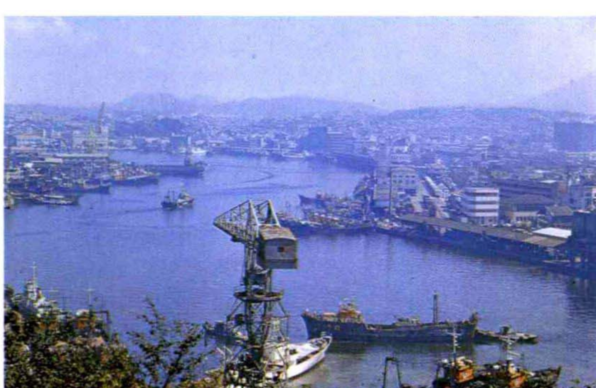
しもつま　【下妻(市)】　茨城県南西部の市。江戸時代は幕府の直轄地で，鬼怒(きぬ)川水運を利用して江戸へ農産物を送る中継地であった。1954年(昭和29)市制施行，人口31,000。市域は筑波(つくば)山の西方，東西を小貝川と鬼怒川にはさまれた沖積地(ちゅうせきち)上にあり，その間を北から南へかけて数本の小河川が流れる。産業三大別人口比は34：29：37。河川沿岸は水田地帯で，河流の間には畑作地が広がる。米やキュウリ・トマト・イチゴ・スイカなどの野菜類のほか，アマ・かんぴょう・キリ製品・花火などの特産がある。明治中期以後は鉄道の幹線から離れたため市勢が衰えたが，近時機械・工具などの工場を誘致して近代化をはかっている。関東鉄道・国道125号線が通ずる。北部にあった大宝城・関城は北畠親房(きたばたけちかふさ)を助けた下妻氏・関氏の居城で，大宝城跡は史跡に，大宝八幡(はちまん)神社本殿は重要文化財に指定されている。また，筑波峰(つくばね)の詩人として名高い横瀬夜雨の生家は県の文化財となっている。

しもなかやさぶろう　【下中弥三郎】　(1878～1961)　出版経営者。社会運動家でもある。兵庫県出身。独学で小学校教員となったが，1914年(大正３)に平凡社を創立，主に事典・叢書(そうしょ)出版に乗り出し，《現代大衆文学全集》《世界美術全集》などを出して成功，独自の出版領域を確立した。社会運動にも強い関心をもち，自由主義的立場をとり，日本最初の教員組合である啓明会や農民自治会を結成，第２次世界大戦後は世界連邦運動を提唱するなど，多彩な活動を続けた。〔片岡一郎〕

しもにた　【下仁田(町)】　群馬県南西部，甘楽(かんら)郡の町。人口16,000。町域の大部分は山地で，南牧(なんもく)川と西牧川が合流して鏑(かぶら)川となる地点に位置する。かつて渓口(けいこう)集落で，２・５・９の市場町として栄え，特に長野県との交通および取引の要地であったが，明治以後は製糸業が盛んとなり，いまも工場が残っている。高崎市に通ずる上信電鉄の終点にあたる。特に傾斜畑を利用してのコンニャク栽培とその加工が盛んで，〈下仁田コンニャク〉として全国にその名が知られる。長野県境に近く，回りには妙義山・荒船山がそびえ，観光地として有名な神津(こうづ)牧場が西方にある。

シモツケソウ



下仁田町　付近の農家で見られるコンニャクイモ干し。〈下仁田コンニャク〉として名高く，傾斜畑を利用しての栽培が盛んである


下関市
彦島との間の小瀬戸に臨む下関漁港。ここには大小の造船所をはじめ多くの漁業会社や水産関係の工場が集まっている

シモニデス　［Simonides］　(BC556ごろ～BC468ごろ)　古代ギリシアの叙情詩人。エーゲ海のケオス島に生まれた。アテナイの独裁者ヒッパルコスに招かれてアテナイに滞在し，その間ディテュランボス詩競演に56回優勝した。詩は理知的で，詩を通じて人々を啓蒙(けいもう)した。ヒッパルコス没落後はテッサリアの王侯スコパスに招かれたが，BC490年再びアテナイに帰り，ペルシア戦争の戦没者のために多くの印象深い墓碑銘を捧げた。〔久保正彰〕

しものせき　【下関(市)】　山口県南西端の市。もと赤間関(赤馬関)(あかまがせき)とよばれ，明治時代まで馬関と通称された。古代には神功(じんぐう)皇后の三韓(さんかん)征伐の基地になったといわれ，中世には市街東部の壇ノ浦で平家が滅亡した。戦国時代には大内・陶(すえ)・毛利の諸氏が興亡し，江戸時代には毛利氏の支藩が長府五万石，清末一万石の２地区をそれぞれ領した。寛文年間(1661～1672)の通貨制度の確立や西回り航路の開発によって〈西の浪華(なにわ)〉とよばれる商業の中心地となり，幕末まで引き続き繁栄した。1864年(元治１)には下関事件*が起こり，幕府の長州藩討伐の誘因になった。1871年(明治４)廃藩置県に際して赤間関となり，1889年市制を施行したが，1902年下関市と改称した。明治末には朝鮮海峡を越えて釜山(ふざん)との間に連絡航路が開かれて大陸貿易が栄え，第２次世界大戦中に戦災を受けたが，その後順調に復興している。市域は瀬戸内海の周防灘(すおうなだ)と日本海の響灘(ひびきなだ)の間に突き出す本州南西端の半島部南端を占め，関門海峡を隔てて北九州市と相対する。人口26万2,000。産業三大別人口比は８：31：61水産業・工業を主産業とし，下関港は遠洋漁業の基地となり，水産物の水揚げ高は18万9,000ｔで全国第６位(1967)である。港付近には水産加工・製罐(せいかん)・漁網・船具・製氷・冷凍などの関連工場が多く，関門海峡西口の彦(ひこ)島には造船・金属・機械などの大工場が集まる。商業活動は以前ほど盛んではないが，大規模な青果市場や鮮魚市場がある。山陽新幹線・山陽本線・山陰本線と国道２号線・９号線・191号線が集まり，新関門トンネル・関門トンネル・関門国道トンネルによって九州地方と直結する交通の要地で，関門架橋は1968年(昭和43)から着工，わが国最大の長さ1,068ｍの橋を1973年完成開通。市内には功山寺の観音堂(国宝)，住吉(すみよし)神社の本殿(国宝)，綾羅木郷(あやらぎごう)台地の弥生(やよい)式遺跡，壇ノ浦に入水した安徳天皇を祭る赤間神宮，仲哀天皇の豊浦宮(とよらのみや)跡，長門(ながと)鋳銭司跡，下関条約*の締結が行なわれた料

亭(りょうてい)春帆楼などの名所史跡に富む。特産にかまぼこ・煮干し・ウニなどがあり，名物のフグ料理は全国に知られる。〔浅井得一〕

しものせきじけん【下関事件】 四国艦隊下関砲撃事件ともいう。1864年(元治1)8月，イギリス・フランス・アメリカ・オランダの4国連合艦隊が長州藩*の攘夷(じょうい)運動を押えるために下関(馬関)砲台を砲撃，占領した事件。開国*ののち予想外に激化した攘夷運動に圧せられた幕府は，1863年(文久3)諸藩に攘夷の決行を命じた。尊王攘夷運動*の中心となっていた長州藩は決行日と定められた5月10日を期し，関門海峡を通過するアメリカ・フランス・オランダの艦船を砲撃した。イギリス・フランス・アメリカ・オランダはその報復措置と，あわせて日本に攘夷の不可能性を悟らせ，貿易高の衰退傾向を食い止めようとする意図のもとに，列国軍艦計17隻を関門海峡に出動させ，陸戦隊が上陸して砲台を破壊した。禁門の変*直後の長州藩は政治的混乱の中にあったが，4国と講和条約を結び，償金300万ドルはその後折衝の末，攘夷発令の責任を取って幕府が支払った。攘夷の無謀を悟った長州藩は，以後急速に軍事力の近代化につとめ，高杉晋作*(たかすぎしんさく)を中心に討幕派に成長していった。〔高崎徳次〕

しものせきじょうやく【下関条約】 日清(にっしん)戦争*の講和条約。1895年(明治28)3月，日本・清国は，山口県下関市の春帆楼を会場にして，講和会議を開催した。翌月，清国側は李鴻章*(りこうしょう)・李経芳，日本側は伊藤博文*(いとうひろぶみ)・陸奥宗光*(むつむねみつ)によって条約を調印，5月8日批准書を交換した。前文および11か条からなり，その大要は次のとおり。①朝鮮の独立を承認する。②遼東(りょうとう)半島・台湾・澎湖(ほうこ)島の割譲。③償金として2億両(りょう)(約3億円)を支払う。④従来の日清修好条規を廃し，新たに清国と欧米諸国の間に結ばれているのと同様の通商条約を締結する。⑤新たに沙市(さし)・重慶・蘇州(そしゅう)・杭州(こうしゅう)を解放する。⑥条約施行の保障として日本軍が一時威海衛を占領する，などであった。この条約で，戦勝国としての日本の要求はほぼ満たされたが，条約締結直後の三国干渉*により，遼東半島は清へ返還することになった。遼東還付は戦勝に酔っていた日本国民を痛憤させたが，その返還の代価を入れて償金は当時の邦貨で総額3億6,000万円に達した。本条約で得られた新領土・海外権益・償金により，わが国力は著しく増強され，その後の帝国主義的発展の原動力となった。〔高崎徳次〕

シーモノフ [Konstantin Mikhaylovich Simonov] **(1915～1979)** ソビエトの作家。詩人として出発，小説・戯曲など広い分野に活躍している。第2次世界大戦の従軍記者の経験をもとに，戯曲《ロシアの人々》，スターリングラード攻防戦の叙事的小説《昼となく夜となく》を発表し，一躍文名を得た。戦後は戯曲《プラハのくり並み木の下で》《ロシア問題》，詩集《友と敵》など，冷戦下のソビエトの立場を支持する作品を書き，つねに党の文芸政策に忠実で，現実的な問題をテーマにしている。〔川端香男里〕



下村観山
《白狐》(二曲一双屏風右隻) 東京国立博物館蔵

しもばしら【霜柱】 地中の水分が柱状の氷の結晶として，地中から地表に向かって析出した現象。関東ローム*に最もできやすく，長さ10cm以上に達する場合もある。下端で成長して上へと押し上げて行き，のち，地面が冷えすぎて土が凍りはじめると成長は止まる。霜柱は農作物を枯死させたり，寒地では土壌(どじょう)を持ち上げて建物や鉄道線路を傾けることがある。

しもふりすずめ【霜降天蛾】 こん虫類・鱗翅(りんし)目・スズメガ科。体長45～50mm，翅(はね)を広げた長さ105～130mm。体・翅ともに暗灰色。前翅には中央に2個の波状線があり，後翅はほとんど黒かっ色で後角付近のみ灰色をおびる。翅の裏面は暗灰かっ色。日本全土のほか，台湾・朝鮮・中国などに分布し，成虫は5～10月に出現する。幼虫は，ゴマ・シソ・キリ・クサギ・ヒイラギの葉を食べる。

しもべおんせん【下部温泉】 山梨県西八代(にしやつしろ)郡下部町にあり，国民温泉に指定されている。泉温28～38℃，泉質は単純泉・弱食塩泉で，打撲・骨折・外傷・胃腸病にきくといわれる。古くは武田(たけだ)信玄の隠し湯として名高く，戦国時代には戦傷者を湯治させたといわれる。なお，北部の丸畑は木食(もくじき)五行の生誕地で知られる。身延線下部駅からバスの便がある。

しもむらかんざん【下村観山】 (1873～1930) 日本画家。和歌山県の生まれ。狩野芳崖*(かのうほうがい)・橋本雅邦*に学び，1896年(明治29)東京美術学校を卒業(1回生)，同校助教授となる。1898年校長岡倉天心*の退職に伴って同校を退き，日本美術院の創立に参加，初期院展の精鋭として画名を高めたが，1901年再び母校教授となる。外遊後，文展開設とともに審査員となったが，1914年(大正3)官設展を去り横山大観*と日本美術院再興の中心となる。広く古典の手法に精通し，技巧秀抜な作風で知られた。

しもむらこじん【下村湖人】 (1884～1955) 教育者・小説家。佐賀県の生まれ。本名虎六郎。旧姓内田。東京大学英文科卒業。はじめ文学を志したが，養家の没落から教職につき，佐賀県下の中学・高校校長を経て大日本青年団講習所長となる。教育者としての経験から青少年向けの小説を多く執筆，《次郎物語*》は特に教養小説として高く評価されている。ほかに，随想集《教育的反省》，歌集《冬青葉》などもある。

しもむらひろし【下村宏】 (1875～1957) 政治家・新聞人。号は海南。和歌山県出身。東京大学政治科卒業後，逓信省を経て台湾総督府に移り，民生長官・総務長官を歴任。1921年(大正10)村山龍平(りゅうへい)に招かれて朝日新聞社に入社，専務・副社長として大正から昭和前期における同社の発展に寄与した。1936年(昭和11)広田弘毅(こうき)内閣の組閣に際して朝日新聞社を退社したが，陸軍の反対によって入閣は実現しなかった。1937年貴族院議員，1943年日本放送協会会長，1945年鈴木貫太郎内閣の国務大臣兼情報局総裁となり，第2次世界大戦終結時まで在任した。〔原田政洸〕

しもやけ【霜焼】 凍瘡(とうそう)ともいう。異常な寒冷にさらされて起こる凍傷*と異なり，5～10℃くらいの軽度の寒気にくり返しさらされることによって皮膚の末梢(まっしょ

う)血管が麻痺(まひ)し，局所の皮膚が赤紫色にはれるもの。その部分は冷たく，暖まるとかゆみが強くなる。ひどくなると水疱(すいほう)・糜爛(びらん)・潰瘍(かいよう)を生ずるが耳たぶ・鼻端・ほお・手足などに生じやすい。皮膚血管が寒冷に対して抵抗力の弱い人，小児や貧血性の人がかかりやすい。予防には手袋やくつ下などを用いて防寒に注意し，局所のマッサージや温浴で血行をよくする。特に湿気を伴った寒さによって起こりやすいため，水仕事のあとはかわいた布でよくふく。足の場合は，くつの中が湿らないようにし，血行を妨げるような窮屈なはきものを避ける。ビタミンEその他末梢血行をよくする内服薬や外用薬を，皮膚科医に相談のうえ用いるとよい。

〔田嶋公子〕

しもやまじけん【下山事件】 1949年(昭和24)7月5日，日本国有鉄道初代総裁下山定則(さだのり)が常磐(じょうばん)線綾瀬(あやせ)～北千住(きたせんじゅ)間の線路上で轢死体(れきしたい)となって発見された事件。他殺説・自殺説が対立したが，真相不明のまま，1964年に時効*によって捜査が打ち切られた。当時，ドッジ-ライン*による人員整理のため，政府と国鉄労働組合の対立が激化して団体交渉は打ち切られ，政府は事件直前の7月4日に第1次整理者37,000人を発表した。この非常事態の最中に起こった事件として，一時は共産党・労働組合側に容疑の目が向けられた。この事件直後の7月12日第2次人員整理者の通告が開始され，引き続き三鷹(みたか)事件*・松川事件*が起こった。

〔高崎徳次〕

しもよのかねじゅうじのつじうら【霜夜鐘十字辻筮】 歌舞伎(かぶき)の脚本名。通称〈霜夜鐘〉。河竹黙阿弥*(かわたけもくあみ)作。1880年(明治13)新富座初演。5世尾上(おのえ)菊五郎*ら当時6人の名優が各自に題を出し，それを材料に脚色した散切物*。敵どうしの士族六浦正三郎と巡査杉田薫(すぎたかおる)の和解，悪党讃岐(さぬき)の金助と按摩(あんま)宗庵(そうあん)の争いなどが描かれている。

しもん【指紋】 指頭にある乳頭隆線の表わす紋理。その形状は生涯(しょうがい)不変であるのみならず，同一の指紋を有するものはない。したがって，最も確実で簡単な個人識別の方法とされている。

大別すると次の3種類に分けられる。①弓状紋：隆線が一側から他側に向かって弓状をなして走るもので，ふつう弓状紋と突起弓状紋とがある。②蹄状紋(ていじょうもん)：隆線が片側から起こりはじめて上方に向かって走り，馬蹄形をなして再びはじめの側に逆流するもので，1個の三角州を有する。蹄状線が母指側から起こって母指側に逆流するものを甲種蹄状紋，小指側から起こって小指側に逆流するものを乙種蹄状紋という。③渦状紋(かじょうもん)：渦巻(うずまき)のような形状をした渦状線や大小の円形または楕円(だえん)形が相重なった形状の環状線，または蹄状線その他の隆線をもって独立し，まれには混合して形成される指紋をいい，ふつう2個の三角州を有している。これをさらに細分すると純渦状紋・二重蹄状紋・双胎蹄状紋・有胎蹄状紋・変態紋・混合紋などに分けられる。



指　紋

指紋の整理配列を便利にするために，紋様に応じて数字による規定の標示(指紋価)が行なわれている。すなわち弓状紋に1，甲種蹄状紋に2，乙種蹄状紋に3～6，渦状紋に7～9の価がつけられている。またわが国で採用されている指紋原紙には，左手の示指・中指・環指・小指・母指の順に各指紋価を列記したものを分子とし，右手5指の価を列記した数字を分母として，5桁(けた)の分数式(指紋式または指紋番号)で記載され，たとえば $\frac{2\odot126}{37540}$ と記されている。⊙は隆線が損傷していて指紋価がつけられないもの，0は指頭の欠如しているものを意味している。生体や死体の個人識別にあたっては十指指紋法が威力を発揮するが，犯罪の現場指紋では効果が少ないので，十指指紋法のほかに一指指紋法があって，これによって個々の指紋が詳細に分類されている。

生体や死体の指紋をとるには，指紋用黒色インキを用いる回転法と指型法がある。また現場指紋をとるには，粉末法・蒸気法・液体法などがあるが，いずれも指紋を形成している皮膚隆線は，汗腺(かんせん)出口の配列でできているので，そこに汗が付着していることを応用して考案されたものである。指紋は主として個人識別に利用されるが，指紋の遺伝形態がある程度までわかっているため，親子鑑定に利用されることも多い。また，指紋型の出現率は民族によって差があるので，民族学に応用されることもある。

〔青木利彦〕

しもんきかん【諮問機関】 行政庁の諮問に応じて参考意見を陳述することを職務とする行政機関の一種。官庁の付属機関として設置される。審議会・協議会・調査会などの名称でよばれるものがこれにあたる。諮問機関の意見・勧告は尊重されねばならないが，法的拘束力はもたない。構成は多くの場合学識経験者あるいは利害関係者による。中央教育審議会・選挙制度審議会などその数は多い。

シモンズ ［Arthur Symons］(1865～1945) イギリスの詩人・批評家。19世紀末の唯美主義・象徴主義運動の推進者として活躍，20世紀以後も時流に関せず象徴理念を深め，多くの文学研究・芸術論を発表した。また，フランス象徴派の詩業を体系的にイギリスにはじめて紹介した業績は大きい。その思想は，ペイター*の唯美主義を受け継いだもので，芸術活動を死の寂滅感克服のための美的転化とみる。主著は《文学上の象徴派運動》《ウィリアム-ブレイク論》《ボードレール研究》など。

〔長崎勇一〕

シモンズびょう【シモンズ病】 脳下垂体*前葉または視床下部(間脳の腹方部)の病変によって起こる下垂体全体の機能低下症。シモンズ症候群ともいう。1914年シモンズによって臨床像・病理所見・病因についての報告が行なわれたためこの名がある。下垂体への小血管の異常のため前葉が貧血・壊死(えし)を起こした場合に多く，腫瘍(しゅよう)炎症・血栓(けっせん)などが原因となる。このうち出産時に性器よりの大量出血があり，下垂体の虚血性壊死が原因となるものを特にシーハン病とよぶ。下垂体前葉ホルモンの欠乏により副腎(ふくじん)不全，甲状腺(こうじょうせん)機能低下，性腺機能低下が起こり，そのため発育不全・体温下降・知能低下・性器機能低下などの症状を伴う。原疾患を治療するとともに，副腎皮質ステロイド・甲状腺ホルモン・性ステロイドの補充を行なう。

〔安沢龍徳〕

しゃ【紗】 搦(からみ)織物の一つ。地経糸(じたていと)に搦経糸(からみたていと)が緯一越(ぬきひとこし)ごとによじれながら組織している織物。通常は地経1本，搦経1本の2本よじれであるが，搦経を2本にした3本よじれもある。地合が薄くすきまがあるから通気性がよい。一般に織り上げ後精練染色するが生のままで用いられることもある。正倉院裂(ぎれ)のうちにわずかに遺品があるから，奈良時代にも製織されていたことは確かであろう。

しや【視野】 目を動かさないで見ることのできる範囲。視野の広さは視線を基準として角度をもって表わす。その広さは色によって異なり，健康者の視野は白色が最も広く，青色がこれに次ぎ，緑色が最も狭い。そのため，視野の周辺部はすべての色に対して色盲*であり，次いで部分色盲の所があり，色覚*が完全なのは中心の約30°以内の部分である。また外下方が最も広く，内方と上方とが最も狭い。このうちでまっすぐ一点を注視したとき，外方約15°，下方約3°の位置にだいたい円形の視野が見えなくなる点があり，これを盲点という。視野がなんらかの病気などで冒されると，狭窄(きょうさく)・暗点*が起こる。

【視野計】視野の大きさをはかるもので，フェルスター視野計・ブェルム視野計・ブェルム平面視野計がある。視野の周辺部を測定するのにはフェルスター視野計が，中心部はブェルム視野計が用いられる。原理は凹面(おうめん)の中心にある指標を注視し，

一眼を固定し他眼は閉じる。検者は第2の指標を動かして，その見える範囲を測定するわけである。〔平野修助〕

シャー［Shāh］ 中世・近代ペルシア語で〈支配者〉〈国王〉を意味することば。一般にペルシア王をさすが，ムガール皇帝の称号にも用いられた。アケメネス朝ペルシア帝国の王は，地方諸王に君臨する王として〈シャー-ハーン-シャー〉(諸王中の王)と称した。

しゃあ 大分県臼杵(うすき)市都留(つる)(津留)の漁民をさす俗称。1605年(慶長10)に安芸(あき)国能地(広島県三原市幸崎(さいざき)町能地)から，この地に移住した平家の舎人(とねり)である車者の子孫だという伝説をもつ。能地の漁民と共通点の多いのは事実だが，古代の海産物採取者である海部(あまべ)との関係を明確にしなければ，その起源は解明できない。〈しゃあ〉は，打瀬網(うたせあみ)漁業を専業とするが，専用漁業権をもたず，漁船に妻子を乗せて漂泊的な水上生活を営む漂海民の一種といえる。現在では，行商船業者となり，さらに大阪や北九州方面へ出かけて水上運送の賃金労働者となる傾向がみられる。〔清水由文〕

シャー-アッバス(1世)［Shāh ʻAbbās I］ 生没年不明。ペルシア，サファビー朝第5代の君主(在位1587～1629年)。大帝と称される。新都をイスファハンに定め，壮麗な宮殿・モスク・庭園を造営して最盛期を示した。ヨーロッパの諸国はイランの絹を求め，あるいはインド・東南アジアへの足がかりにサファビー朝との友好関係を求めたので，ヨーロッパ文明も多く取り入れられた。

しゃい【斜位】⇨斜視

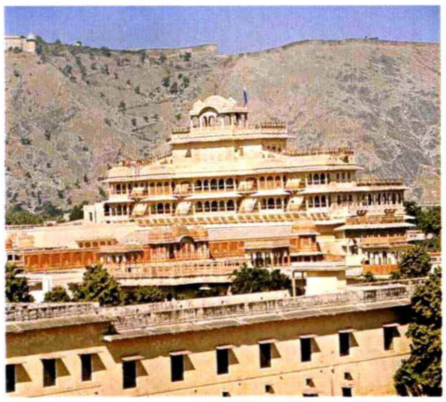
シャイアン［Cheyenne］ アメリカ合衆国北西部，ワイオミング州の州都。人口40,000(1970)。州の南東端，ララミー山地の斜面に発達した州第1の都市。付近は牧場地域で，炭田と鉄鉱山もある。大陸横断鉄道に沿い，ロッキー山地方面への自動車旅行者の観光・行楽基地となっている。

シャイデマン［Philipp Scheidemann］(1865～1939) ドイツ共和国の政治家。1903年，社会民主党から国会議員となり，第1次世界大戦ではエーベルトとともに同党右派の指導者として政府に協力した。1918年，ドイツ革命が起こると，民衆の動きを敏感にとらえて共和制を主張し，革命後の人民代表委員会(臨時政府)の一員となり，革命派に対抗した。1919年，ドイツ共和国大統領エーベルトのもとで初代首相に就任，まもなく辞職したが，その後も国会議員をつとめ，ナチス政権の成立とともにデンマークに亡命した。〔松 俊夫〕

ジャイナきょう【ジャイナ教】 インドで紀元前5世紀ごろから有力となった宗教。現在でも，大きな組織をもってはいないが，強力な信者を有し，インド思想に大きな影響を与えてきた。修行によって迷いにうちかち，解脱(げだつ)した最高の完成者をジナ(勝者)とよび，その宗教をジナ(耆那)教，あるいはジャイナ教とよんだ。仏典ではニガンタ(尼乾陀)ともよんでいる。BC477年に没したといわれるマハービーラ(大雄(だいゆう))によって組織化され，確立された。仏教と同じように，正統バラモンの流れから出たのではなく，ガンジス川を中心とする中インドから興り，沙門(しゃもん)とよばれるグループの中心勢力として，仏教とともに発展した。1世紀末ごろ，裸で修行する空衣(くうえ)派と，白衣のみを着る白衣(びゃくえ)派とに分裂したといわれる。ジャイナ教では最終目的を解脱と涅槃(ねはん)に置く。解脱はいっさいの繋縛(けばく)から離れた状態をいい，それは正見(しょうけん)・正智(しょうち)・正行(しょうぎょう)の実践徳目を行なうことによって得られるとする。そのためには形而上学(けいじじょうがく)的考察を加える。宇宙は大別して生命(ジーバ)と非生命(アジーバ)からなりたっている。生命は地・水・火・風・動物・植物の6種に存在する生命力を実体的にとらえる。非生命は運動の原理・運動を停止する原理・虚空・物質，それに生命を合わせて五つの実在体とする。これがジャイナ教の世界構成要素の原理である。生命は地獄・畜生・人間・天上の4迷界をさまよい，たえず苦しみの生存をくり返す。このためには過去の業(ごう)を滅ぼし，生命の本性を発現させるようにしなければならない。その徹底のためには出家して修行者となることで，これをビクという。彼らは不殺生・真実語・不盗・不婬(ふいん)・無所有の五つの大戒を遵守する。特に不殺生戒は重視された。そのため，在家の信者も，農業などの生産に従事することを好まず，商人が圧倒的に多い。現在，ジャイナ教徒は200万に満たないが，商人や金融業者が大半を占めているのもそれによる。また，前世紀までインドの民族資本はジャイナ教徒の手中にあったともいわれるほど互助的性格が強かった。ガンジーのアヒンサー運動はジャイナ教の不殺生の思想に基づいている。そのことからも現在のインド思想に多大の影響を与えていることが知られる。〔石上善応〕



ジャイナ教美術
《祖師頭部》
砂岩製　2世紀
ラクノー博物館蔵



ジャイプール 〈風の宮殿〉として知られているハワーマハル王宮。町の大通りに面してその美しい威容を誇っている



シャイヨー宮

ジャイナきょうびじゅつ【ジャイナ教美術】 ジャイナ教の美術の総称。仏教と比較してその活動はおそく，しかも栄えなかった。しかし，仏像が制作されはじめたクシャン朝には，ジャイナ教祖の像をつくるようになり，作品も残っていて，ことにマトゥラー出土の像が有名である。なお，中世における遺跡のエローラ石窟(せっくつ)寺院やカジュラーホのパルシュバナタ寺院などはよく知られている。

ジャイプール［Jaipur］ インド共和国北部にあるラジャスタン州の州都。人口61万5,000(1971)。デリー西南300kmの三方を丘に囲まれた古い城下町で，1728年，ジャイ-シング2世により建設された。インドでは珍しい方形の計画的都市で，街路も幅広い。織物・エナメル・金属・宝石細工などの生産で知られる。かつての王宮は壮麗な建物で，中にはジャイ-シングが18世紀につくった天文観測台もある。

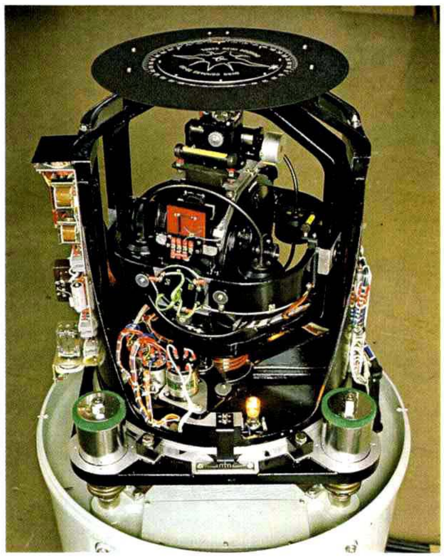
シャイヨーきゅう【シャイヨー宮】 パリ，セーヌ北岸にある長大な東西翼屋をもつ博物館。対岸のエッフェル塔と相対し，1937年の万国博覧会には展示館として使用されたが，1878年の博覧会に建てられたトロカデロ宮をかかえ込むような設計である。

現在，東翼にはフランス記念博物館，西翼には人類博物館・海洋博物館があり，中央広場にあるシャイヨー劇場とともにパリの文化センターとして知られている。

ジャイロコンパス [gyrocompass] 高速度に回転するこまの軸が一定方向をさすことを応用して真の方位をはかる計器。1852年にフランスの物理学者フーコー*によってその特性が解明され，ジャイロコンパスの基礎ができた。ジャイロコンパスは高速度に回転させたジャイロに対して地球重力のみが作用するような自由をもたせると，これが地球の自転に感応してジャイロ軸が真北をさすという性質を利用したもの。

ジャイロスコープ [gyroscope] 回転軸を自由な状態にして回転できるようにした一種のこま。ジャイロスコープは，写真のようにこまのような構造をしたものであって，ジャイロはジャイロ軸のまわりに自由に回転し，この軸端をささえている水平環の軸は，さらに水平軸のまわりに自由に回転できるが，その軸端をささえる垂直環は垂直軸のまわりに自由に回転できるようになっている。これらの各軸は互いに垂直になっているから，ジャイロの軸は空間のいかなる方向をもさすことができる。回転しているジャイロは他からジャイロの軸方向を変えようとする力が働かないかぎり，空間の一定方向をさして静止する方向保持力をもつ。外力が加わるとその力にはそのまま従わないで，一定の法則によって軸が運動を起こす性質がある。この性質からジャイロコンパス*が考えられた。〔飯島幸人〕

ジャイロパイロット [gyropilot] ジャイロコンパス*を制御力源とする自動操舵(そうだ)装置で，船舶や航空機に用いられる。オートパイロットが正式の名。ジャイロコンパスの方位安定性を利用して，船の針路の刻々の変化をこれによって検知し，船首方位の偏移に応じて自動的にかじをとらせるもので，操舵の結果，針路が与えられた針路に復すれば自動的にかじは中央にもどるという方式のものである。この基本的な方式から装置はいろいろと改良されて，現在では天候のよしあしによって，または船の積み荷の多少によって，あるいは偏針・復針の角速度の大小によって，それぞれ適当な操舵量が自動的に決定される方式のものが使われている状態である。日本ではスペリー式と北辰(ほくしん)式の2種類が行き渡っている。〔茂在寅男〕



ジャイロコンパス



ジャイロスコープ

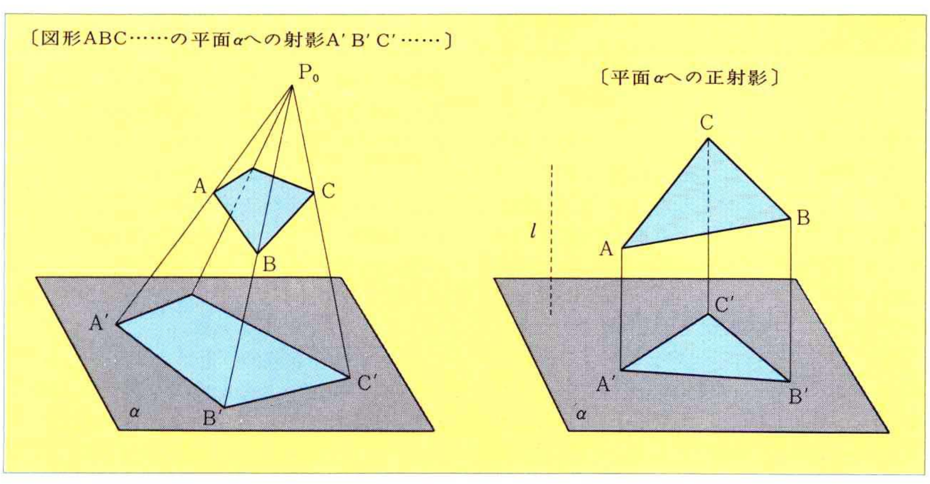
しゃいんけん 【社員権】 団体(法人*)の構成員が，その構成員たる地位に基づいて団体に対して有する包括的権利をいう。株式会社の株主権，公益社団法人の社員権などがこれに属する。社員権は，共益権と自益権とに分けられる。①共益権は，団体(法人)の経営活動の参加に関する権利で，議決権・少数社員権・業務執行権などがその主要なものである。②自益権は，団体(法人)の一員たることによる社員個人の経済的利益に関する権利で，営利法人における利益配当請求権・残余財産分配請求権などがその主要なものである。もっとも，共益権はもっぱら法人の利益のために行使する権利であり，しかもそれは社員が社員たる資格において有するのではなく，機関の資格において有する権限であるとして，自益権とは本質的に異なるものとし，社員権という包括的権利を否定する学説や，社員権を認めながらも，それは権利としてではなく社員たる地位に伴う権能と義務であるとする学説などのいわゆる社員権否認説も有力である。〔黒木三郎〕

シャウジカウ ⇨オルジョニキーゼ

シャーウッド [Robert Sherwood] (1896～1955) アメリカの劇作家。主として歴史劇・喜劇の分野で活躍，いわゆるハイ-コメディ(高級喜劇)の作家のひとりである。代表作に，戦争批判をこめた《ローマへの道》《愚者の喜び》などのほか，《化石の森》《イリノイのリンカーン》などがある。ピューリッツァー演劇賞・伝記賞を受賞。

シャウプかんこく 【シャウプ勧告】 1949年(昭和25)，アメリカのシャウプ使節団によってなされた，わが国税制に対する勧告。第2次世界大戦後の日本経済の再建にあたって税制を根本的に検討し，永続性ある体系はいかにあるべきかを具体的に示したものであり，税体系としては統一性と一貫性をもつものであった。そのおもな特徴は，①直接税中心主義：税制の中心を所得税・法人税に置く，②法人擬制説：法人税に比較的軽い税率を採用し，配当所得を優遇する，③資本蓄積の促進：資産再評価法・租税特別措置などの設定，④地方財政および地方自治の確立：地方税の充実と，地方財政平衡交付金制度の設定などである。シャウプ勧告に基づく税制改革は1950年から施行され，その後，毎年のように税制の手なおしが行なわれてきたが，これはシャウプ税制のもつ大衆負担過重に対する軽減への歩みともみることができる。現行の租税制度はこの勧告による税制を基礎としているといえる。〔西野義彦〕

しゃえい 【射影】 一点P_0と他の点Aを通る直線をつくることをP_0から点Aを射影



射　影

するといい，直線P_0Aと平面αとの交点A′を点Aの平面αへの射影という。P_0から図形上の各点を射影することを，P_0からその図形を射影するといい，P_0を射影の中心という。

射影の中心P_0が直線lの方向に限りなく遠ざかると，直線P_0Aはlに平行になる。この場合の射影を平行射影という。すなわち，点Aから直線lに平行に引いた直線と平面αとの交点A′をAの射影とする場合である。特に，直線lが平面に垂直な場合には正射影という。透視図は視点を中心とする射影を用いて表わし，平面図や立面図は正射影を用いて表わす。また，平面における点や線分などの定直線gへの射影も，上記と同様に考えることができる。特に，空間において，点Aから定直線gへおろした垂線の足A′を，点Aのg上への射影ということもある。〔小西勇雄〕

しゃえいきかがく【射影幾何学】透視図では，長方形が長方形でない四角形になったり，円が楕円(だえん)になったりするが，3点が一直線上に並ぶとか，4点が調和点列であるなどという性質は変わらない。このように透視図にしても変わらないような図形の性質を研究する数学の一部門が射影幾何学である。射影幾何学は18世紀末から19世紀に開拓された幾何学で，ユークリッド幾何学や非ユークリッド幾何学をその特別な場合として含む最も広い幾何学であるといわれる。〔小西勇雄〕

しゃか【釈迦】⇨ブッダ

しゃが【著莪】単子葉植物・アヤメ科。林内に群生し，庭にも植えられる多年草。根茎は横走し，走出枝を出して繁殖する。葉は剣状で20～40cm，常緑で光沢があり，2列に並んで基部ははかま状に茎を包む。4～5月ごろ花茎を伸ばし，大形の総状花序をつける。花は直径5～6cm，白色で淡青紫色のまだらがある。外花被は倒卵形で，縁に細歯牙(さいしが)があり，中央に橙色(とうしょく)のとさか状の突起がある。内花被は少し小形で，先端に切れ込みがある。花柱は赤紫色で，大きなとさか状の突起があり，縁に長毛を有する。果実は結実しない。〔横井朝子〕



シャガ



ジャガー

ジャガー［jaguar］哺乳(ほにゅう)類・食肉目・ネコ科。西半球のネコ類中最大で，頭胴長1.7m，尾長70cmに達する。体の地色は灰～黄かっ色で黒斑(こくはん)がある。ヒョウに似ているが，黒色のバラのような大きな斑紋があり，さらにその中に小さな黒点があるのが異なる。クロヒョウのように全身黒色のものもある。アメリカ合衆国南西部のアリゾナ州・テキサス州からアルゼンチン北部までの川や沼地近くの密林に生息。泳ぎや木登りがうまく，魚類・カメ・ペッカリー・ナマケモノなどを食う。

しゃかいいがく【社会医学】傷病の要因として社会的環境や生活諸条件の劣悪性と医療保険制度の社会的検討を特に重視する立場で，予防や社会復帰などの総合的な医学をめざすもの。技術革新や都市の過密化ないし地域開発などによる公害の発生など，社会変動のひずみが人間の健康にさまざまな障害を及ぼすことに注目して，これまでの個人医学から公衆衛生活動をふまえた予防医学として，組織的・社会的行為としてとらえ，その社会的責任の上に立って，医療保障制度を拡充するものである。〔松島　浄〕

しゃかいうんどう【社会運動】社会体制の階級的矛盾から起こる社会問題の解決を行なうために，組織された集団によって起こされる集団行動。単なる突発的群衆行動とはことなり，明確な将来社会の理想像や変革のための具体的な行動綱領が前提とされ，その根底に社会的矛盾の客観的認識をもった持続的運動である。歴史的には，市民社会の成立以降に属し，特に産業革命以後の資本主義社会の階級対立の顕在化した時期に現われる。被支配者側の経済的要求が中心となるが，その前提として政治的解決が必要条件とされる。最も進展した段階では，根底からの体制変革を指向するが，社会改良主義運動のように，部分的改革を目標とすることもある。また，その問題の所在や発生の根拠によって，政治的・経済的領域以外に，文化・芸術・宗教・農民・婦人などのそれぞれの社会運動として行なわれることもある。しかし，いずれにせよ資本主義の矛盾が激化すると，一定のイデオロギーと結びついて，部分的運動も体制そのものの変革を指向してゆくこととなる。なお現代の社会運動は，基本的民主主義の進展と大衆的自覚の高揚から，労働運動や社会主義運動のほかに，大衆運動としても現われてくる。この場合には，具体的な日常問題から出発し，部分的・一時的運動として終わることもあるが，イデオロギー的基礎づけと，組織化がなされるならば新しい社会運動の形態を生みだすことにもなろう。具体的な政治的・経済的・社会的契機(たとえば公害など)によって各市民層の広範な主体的運動がいっせいに起こり，ある程度体制側の政策変更を生みだし，社会改革の実をあげることもある。しかし，大衆運動も中核的組織が生まれて，意識化と組織化が随伴しなければ，体制変革としての社会運動にまではたかまりにくい。〔国近浩一〕

しゃかいか【社会科】社会諸科学の学問的成果に基づき，社会生活上の諸問題やそれを成立させている諸条件についての科学的認識を得させ，かつ次代をになう市民にふさわしい社会的な知識・能力および態度を育成するために，初等・中等の諸学校に設置されている教科。教科としての社会科の成立は，1910年代アメリカにおける中等教育改造の動きに求められる。それは，中等教育改造の社会的要求および発展する社会科学の要請にこたえるために，社会生活上意義を有し，しかも生徒の興味を起こさせる問題に即して，従来の社会的な諸教科の再編をはかろうとする場であった。1930年代には，地理・歴史・公民などの伝統的な教科のわくをはずして，社会的な問題を多角的に理解させようとする一般社会科が，小学校やハイ-スクールに採用され，普及していった。また，社会科を中心としてあらゆる教科を総合するコア-カリキュラムも一部の州で実施された。

第2次世界大戦後の日本では，アメリカ駐留軍の示唆により，新学制の発足とともに，〈今日のわが国民の生活からみて，社会生活についての良識と性格を養うこと〉を目的とする社会科が新設された。この教科は，従来の修身・歴史・地理に代わるものであり，その実施を通じて，当時の日本社会の課題である民主化に貢献するものとして，広く識者や教育関係者の間に迎え入れられた。当初，小学校の社会科はアメリカのコア-カリキュラムの影響を受けて経験学習を基本とし，また中・高校の社会科は一般社会科を中核として，地理・歴史・時事問題など，必修または選択の科目を配した。その後，数次の改訂を経て，社会科新設の精神はしだいにゆがめられるとともに，経験主義の立場は急速に後退して教科主義の立場が強調されていった。この間，社会科のあり方をめぐって，問題学習か系統学習か，低学年社会科の存廃，さらに市民性育成科か社会科学科かといった基本的な論争がいくたびか展開されてきたが，これら

の問題はいまだに解決をみていない。現在，小学校は，低学年で学校・家庭を中心とする生活や社会事象，生活と生産その他の諸活動の簡単な関連などの学習，中学年で地域における生産活動，生活の移り変わり，地域生活の相互関係，自然環境と人間生活の関連などの学習，高学年では農・工業の生産，地理的環境，政治の働きとしくみ，歴史的発展などの学習を行なっている。中学校は，第1学年で地理的分野，第2学年で歴史的分野，第3学年で政経社的分野(1972年以後は公民的分野)の3分野を置いている。高等学校は，第1学年で地理，第2学年で倫理・社会，第2・第3学年で世界史，第3学年で政治・経済および日本史(普通課程B類型の場合)を配している。

〔佐藤英一郎〕

しゃかいかいそう　【社会階層】　⇨階層

しゃかいかいりょうしゅぎ　【社会改良主義】　⇨改良主義

しゃかいかがく　【社会科学】　社会事象に関する経験科学の総称であり，自然科学*に対する。政治学・経済学・統計学・法律学・社会学・宗教学などが含まれる。自然科学と同様に客観的法則性を追究するものであるが，その認識の主体と客体とが同じであるために，自然科学にない困難性をもつ。人間は単なる歴史の従属的存在ではなくて，みずからの意志によって主体的に歴史のにない手になる。このように実践とかかわりあいをもつところに社会科学の特殊性がある。近代初期の段階においては，発達していた自然科学の影響をうけて，社会科学は自然法則と同じ意味での法則性の追究を行なっていたが，それは中世的な形而上学*(けいじじょうがく)的思弁を否定し，封建社会の束縛から自由になろうとする新興市民階級の理論的武器となった。その後市民社会*が確立し，ブルジョア支配階級が成立すると，社会科学もその性格を変えていった。一方においては，市民社会を維持する学問として，社会科学は独自の方法論を確立し，より整序されたものになった。他方，被支配階級として定着しつつあったプロレタリアートは資本主義社会を批判的に分析し，みずからの階級を解放するためにマルクス主義*理論をもった。これのみが社会科学であるとする見解もある。実践を伴ってこそ科学であるという考えから，被支配階級はマルクス主義理論によって歴史を書き替えるべく行動しようとする。すなわち理論と実践を弁証法*的に統一させようとするのである。これに対し，実践の問題や政治的な価値判断を排除して，科学的客観性を確立するために，価値から自由であるべきだとするM.ウェーバー*の主張も現われてくる。そのほかにも，19世紀的な包括的理論にあきたらず，より精密な科学として成立させようとする種々の努力も行なわれており，多岐的である。

〔国近浩一〕

しゃかいがく　【社会学】　人間の社会的共同生活を研究する科学。19世紀前半にフランスのコント*によってはじめて用いられたが，彼の社会学は社会現象の包括的認識をめざす，いわゆる総合社会学的立場で，社会科学*と同じ意味であった。その理論的粗雑さが批判され，心理学的発想が取り入れられ，社会化の形式を研究する形式社会学*が生まれた。これはまた他の社会諸科学と同様に，個別科学として社会学を位置づけようとする努力でもあった。しかし，その超歴史的・非現実的性格が批判されて，実証的経験科学としての現代社会学が成立し，進歩した社会調査技術や，社会心理学・文化人類学の業績が取り入れられて，理論的に高められた。また，社会的行為を分析の単位とし，文化や制度としての集団を実証的にとらえる行動科学的立場から，他の諸社会科学と統合的に研究する傾向も生まれてきている。

〔国近浩一〕

しゃかいかくめい　【社会革命】　⇨革命

しゃかいかくめいとう　【社会革命党】　Sotsialisty-Revolyutsionery　ロシアの政党。略称エスエル。農民運動を背景に1902年旧ナロードニキ*各派が合同して結成。都市・農村の小ブルジョアを代表し，理論的にはナロードニキ思想とマルクス主義の混合で，個人テロを重視した。二月革命*後メンシェビキ*とともにソビエト内部の多数派を占め，党首ケレンスキー*らを臨時政府に入閣させた。十月革命*後，その一部は国外に亡命し，一部はボリシェビキに転向した。

しゃかいきょういく　【社会教育】　社会教育法では，〈学校教育法に基き，学校の教育課程として行なわれる教育活動を除き，主として青少年及び成人に対して行なわれる組織的な教育活動(体育及びレクリエーションの活動を含む)をいう〉とし，教育基本法の社会教育の条項では〈家庭教育及び勤労の場所その他社会において行なわれる教育〉と規定している。事実，公民館・図書館・博物館，青年の家などの社会教育施設における青年学級・勤労青年学級・婦人学級など，社会教育活動の実態をみると，その対象は児童・少年・青年・成人の各年齢層にわたり，青少年・成人の場合には市民・勤労者・農民，さらに特に主婦をも含む社会の各領域の人々にわたっている。また，このほか社会通信教育も約120課程，40万人の受講者を対象に活動している。

これらの社会教育活動は，私人・社会教育団体・公益団体・地方公共団体・国などそれぞれ性格をことにする主体が行なっているが，戦前の軍国主義的・国家主義的・権威主義的な教化運動としての社会教育のあり方を批判し，個人主義・自由主義・平和主義を基調とし，民衆の自主的・自発的自己教育，相互啓発教育であることを目標として展開されている。なお，社会教育法では，〈すべての国民があらゆる機会，あらゆる場所を利用してみずから実際生活に即する文化的教養を高めうるような環境を醸成する〉ことが，社会教育活動に対する国および地方公共団体の任務であるとしている

〔山崎昌甫〕

しゃかいきょういくほう　【社会教育法】　⇨前項

しゃかいけいやくせつ　【社会契約説】　社会あるいは政府の起源を社会成員の意志的同意に求め，その起源をもって社会(政府)の合法的根拠を問おうとする説。この思想はギリシアのソフィストに発し，プラトン・エピクロスらの著作にもうかがえるが，現実的な影響力をもつのは宗教改革以後，16世紀末から17世紀にかけて，新教徒が信仰の自由を獲得するために抵抗権の根拠をこの考えに求めてからである。カルバン派の法学者アルトゥジウス(1557～1638)はその代表者である。しかし理論的に確立されたのは，ホッブズ*・ロック*・ルソー*によってである。ホッブズは人間の自然状態を戦争状態と規定し，平和と秩序を求めて各人が自己の自然権を主権者に全面的に委託したとして，なおも絶対王政を正当化したが，ロックは自然権をより確実に守るために，その一部を政府に委託したにすぎないとした。したがってこの目的に背反するときは政府を否定できるとして抵抗権を確立した。ルソーは自然状態を認めながらも，社会成立の必然性をも認め，社会成員全員の利益の達成を目的とする立法社会において，個人として失うものを社会成員として取りもどすことを考えた。現在，社会契約説は歴史学・文化人類学の成果によって一種の虚構とみなされているが，中世的神学的国家観を打破し，近代市民社会の成立に果たした役割は高く評価される。

〔石井忠厚〕

しゃかいけいやくろん　【社会契約論】　⇨民約論

しゃかいげき　【社会劇】　人物の性格を重視する性格劇に対して19世紀に生まれた呼称で，劇中事件や人物の社会的背景を重視する演劇。作者の社会意識や思想に裏づけられる。近代劇*の多くはこれに属する。イプセン*の《人形の家*》《幽霊》などはその適例とされる。

しゃかいけん　【社会権】　国民が人格的存在として生存発展してゆくために欠くことのできない基本的権利。憲法に，〈国家権力がこれを侵してはならない〉と明記されており，近代憲法国家の基本原理であるが，今日の高度に発達した資本主義社会においては，フランス革命当時の人権宣言*が示したような市民的自由だけでは国民の生存・発展は全きをえない。そこで国民の生活を国家が保障するとか，老人や病気の者にもいろいろな社会福祉*政策で保護を与えるとか，また労働者に団結権・罷業権を認める

などの必要が強く主張されるに至った。このような基本権を，社会権という。国家権力が個人および国民の自由に干渉しないという点から定められた諸基本権，言論・集会・結社・宗教・学問などの自由，あるいは正式の逮捕状や捜査状なしに官憲がみだりに国民を拘束したり住居を侵したりすることを禁じて保護する人身の自由などが，個人的基本権，あるいは自由権的基本権といわれるのに対して，社会権とか生存権的基本権といわれるのである。広くこうした基本権が認められるに至ったのは，1917年のロシア革命における勤労人民の権利宣言，それの影響とみられる第1次世界大戦後のドイツ憲法(ワイマール憲法*)以後であるが，今日では，社会主義国家においては当然のこととして憲法に明記され，さらに資本主義諸国の憲法も，広くこれを保障し，また1948年国際連合において可決された世界人権宣言*にも認められている。日本国憲法も，国民の生存権・社会福祉・社会保障に対する権利(25条)，貧富によって差別されずに等しく教育を受ける権利(26条)，労働する権利(27条)すなわち就労・就職しうる権利，失業に対して保護される権利，また団結・団体交渉および罷業その他の団体行動をなしうる権利(28条)などを保障している。これらの憲法上の権利は，単に国家の目標，政治の責任を示したものだというだけではなく，実益のある国民の権利として実現されねば，憲法の規定も十分な意味をもたぬことになろう。〔鈴木安蔵〕

しゃかいじぎょう【社会事業】⇨社会福祉事業

しゃかいじつざいろん【社会実在論】社会学の用語で，社会名目論*に対比される。社会を個人の集合体以上の客観的な実体であるとみなす考え方で，スペンサー*らの社会有機体説*とデュルケーム*らの集団表象説において最も強く主張される。スペンサーは社会を生物有機体との類比で考え，社会とは個人の集合体でありながら，しかも個人の生滅を越えた一個の実体的な統一体であると考えた。デュルケームは，集団表象は個人の外に存在して個人を拘束する一定の様式として現われた社会事実であるとし，社会を実体的なものとして客観的に扱うべきであると考えた。〔米沢克夫〕

しゃかいしほん【社会資本】直接に生産活動にあたる生産資本とは異なり，産業の発展や住民の福祉の基盤となる公共的な資本設備のことで，生産活動に間接的に寄与するところから〈社会的間接資本〉ともいう。これらの施設は営利を目的とする私企業では採算に合わないことなどから，その地域を政府や公共団体が統制している。社会資本の種類は，①医療施設や教育訓練施設など個人の能力を開発するもの，②上下水道・ガス・電気・交通通信施設・公園など生活環境を向上させるもの，③輸送用道路，港湾・輸送施設，水利・用水施設，情報施設など，産業の発展の基盤となるもの，④国土保全施設・治安施設など，国家や国土環境の開発となるもの，に分類することができる。わが国で社会資本の必要が論じられるようになった理由には，①国民経済が急速に成長して産業が活発に発展するのに，それをささえる道路や港湾など産業基盤となる社会資本が不足して生産の効率を阻害している，②都市の集中化が進み，住宅難，上下水道の不備，交通難，交通事故の増大，公害など生活基盤となる社会資本の不足がめだってきたことなどがあげられる。〔加藤　寛〕

しゃかいしゅぎ【社会主義】資本主義*の発展は，資本と土地の集中，小経営の滅亡，富の分配の不均衡，労働者階級の困窮と人間的な悲惨，失業，生産過剰と恐慌など，さまざまな矛盾に満ちた現実をうみ出した。そのような現実に対する批判の目を資本主義の基礎そのものにまで及ぼして，生産手段の私的所有を廃し，それを社会の共同的所有に移すことによって新しい社会を築き上げようとする思想や運動が，社会主義である。社会主義ということばがこの意味に使われるときには，共産主義もその中に含まれる。これが第1の意味である。しかし第2に，社会主義ということばは，そのような理論や運動によってつくられる社会そのものをいう場合にも使われる。社会主義の思想は資本主義の成立とともに芽ばえ，19世紀前半のイギリス・フランス・ドイツに開花したが，これを科学的な理論体系にみのらせたのはマルクス*とエンゲルス*であり，これを受け継いでさらに発展させて社会主義革命の実現に導いたのがレーニン*である。こうした現実の動きの中では，社会主義とは資本主義(社会)から共産主義(社会)への移行の過渡的段階を意味している。すなわち，マルクス主義によれば，資本主義を革命*によって打倒したあと，プロレタリアート*が政権をとって生産手段の社会的所有を確立し，経済の計画的運営によって全人民の生活向上をめざすが，その段階ではまだ生産力の発展が不十分なために，〈能力に応じて働き，働きに応じて受け取る〉という原則の支配を受けざるをえない。これが社会主義の段階であり，これを越えてさらに共産主義の段階，すなわち〈能力に応じて働き，必要に応じて受け取る〉ことのできるような豊かな社会を実現するのが人類史の発展の道であるといわれる。このような理論的および実践的見地に立つものとして，マルクス-レーニン主義はふつう共産主義とよばれており，これに対して今日では社会主義ということばの第3の用法として，マルクス主義から分離した，あるいはこれと別個に出現した社会改良主義的な思想や運動(➡社会民主主義)を，マルクス-レーニン主義(共産主義)との原則的な区別を特に強調しつつ社会主義とよぶ言い方も行なわれている。

【マルクス以前の社会主義思想】近代資本主義が成立するには，一方において貨幣資本を集積し，他方においては旧来の生産方法を解体し，小生産者から土地その他の生産手段を奪って，資本のもとで賃金労働者として働かざるをえないような人々をうみ出す暴力的な過程が必要であった。この動きが出始めたころ，トマス-モア*はエンクロージャー*による農民からの土地収奪を非難して，私有財産も貨幣もない自由と平等の共同体をユートピアとして描いている。しかしこれは，古い支配層の立場からの発想に基づいていた。貧農・貧民層の立場からの社会批判の出現はブルジョア革命期をまたなければならなかった。ブルジョア革命(市民革命*)を通じて，封建的諸特権が廃止され，生命・自由・財産に関するブルジョア的諸権利が確立されたのであるが，イギリス革命(ピューリタン革命・名誉革命)の中ではディガーズとよばれる最下層民の運動を代表するウィンスタンリーが，私的所有とそれに基づく搾取と収奪が続くかぎり，政治上の自由と平等も実質的には実現されないと主張し，フランス革命の中では啓蒙時代の思想家モレリの影響を受けたバブーフ*が，財産の特権に対して労働と享受の平等を唱え，政権奪取のための武装蜂起(ほうき)を企てた。19世紀にはいると，イギリスでは本格的な産業資本主義の時代を迎え，資本による無限の酷使にあえぐ労働者階級の悲惨な状態が大きな社会問題となり，労働者の組織的運動も行なわれるようになった。フランスでも，ブルジョア革命の徹底による封建遺制の一掃，資本の育成と産業革命の推進，そこから生ずる資本主義的矛盾の解決という三つの入り組んだ問題が生じ，それに対決する姿勢からさまざまな社会主義思想が生まれた。イギリスのオーエン*は人道主義的な立場から自分の工場内の合理的な生産・労務管理を行ない，労働者の保護と幼児教育を実践した。また，社会環境の改善を重視して，生産と交換の協同主義的な組織をつくることが，生産力を高め，労働者を悲惨な状態から救う道であると主張して，アメリカにニュー-ハーモニー共産村を建設した。この実験は失敗に終わったが，その後も彼は協同組合をつくり労働組合運動に献身するなど，社会運動に大きな足跡を残した。フランスでは，サン-シモン*が全社会を一つの工場に見立てて，これを産業者と科学者を中心に組織することを考えた。フーリエ*は，国家を社会の無秩序を永久化するための圧迫の手段であると断じ，人間の疎外と貧窮化の克服をファランステールという農業協同村に求めた。このふたりがフランスの社会思想に与えた影響はきわめて大きい。しかし，サン-シモン・フーリエ・オーエンは，いずれも資本

主義の矛盾の本質をとらえることができず，自分たちの描いた自由で平等な諸個人の協同社会を実現するための具体的現実的な理論と政策をもつことができなかった(→空想的社会主義)。これらの空想的社会主義者が生産力の発展という視点から社会主義を構想したのに対して，小ブルジョア的急進主義の立場からする労働全収権の主張が，これと並行して現われた。イギリスのリカード派社会主義者，フランスのプルードン*の思想がそれである。こうした影響を受けて，ドイツにも，フーリエ・オーエンに学んで分配の平等を求めたワイトリング，人道的な見地から共同体の中に人間疎外の回復を求めたヘスらが現われた。

【マルクス以後の社会主義とその運動】以上のような諸思想を批判的に継承して，社会主義を科学的な体系に仕上げたのがマルクスとエンゲルスであった。ふたりはドイツ古典哲学の弁証法を唯物論的に改作し，史的唯物論*をうち立てて，人間の社会意識は社会の経済的構造を反映すること，政治的諸制度は経済的基礎のうえにたてられた上部構造*であること，たとえば近代国家の種々の政治形態がプロレタリアートに対するブルジョアジーの支配に役だっていることを明らかにし，またイギリス古典経済学の遺産である労働価値説*をもとに剰余価値*論を完成させ，それを基礎として資本主義の生成・発展・消滅の法則，共産主義の実現の必然性を解明して，その実現のための運動を指導した。彼らは，ラッサールの妥協的態度，プルードンやバクーニン*の無政府主義，バブーフの思想を受け継いだブランキ*の極左冒険主義をきびしく批判して，労働者階級と広範な人民大衆の団結を基礎とする革命運動を呼びかけた。マルクス主義はこれ以後社会主義の代表的潮流となって，しだいに各国に普及した。しかし，帝国主義の時代にはいるころから，ドイツの社会主義政党はしだいにマルクスの見解を修正して改良主義的傾向を強め，第1次世界大戦に際してはプロレタリア国際主義を捨てて自国の政府を支持する態度をとるまでになり，左派のマルクス主義者たちもこの傾向と徹底的にたたかう者はまれであった。こうした日和見(ひよりみ)主義的傾向は他の諸国の社会主義政党にもほぼ共通してみられ，唯一の例外はレーニンに指導されたロシアのボリシェビキ*であった。1917年のロシア革命後，社会民主主義者の多数はマルクス主義とはっきり絶縁して，フェビアン主義などとともに非マルクス主義的社会主義の潮流を形づくっているが，他方，マルクス-レーニン主義は急速に国際社会主義運動の中で支配的地位を確立し，第2次世界大戦中は広範な反ファシズム闘争において指導的な役割を演じた。第2次世界大戦後は，中国をはじめ多数の社会主義国が建設されて，共産主義への発展をめざしている。しかし反面，それぞれ独自の道を歩む多数の社会主義国家の存在が，社会主義運動の統一にさまざまな困難を投げかけていることも否定できない。➔共産主義 ➔社会主義経済 ➔マルクス主義〔池田貞夫〕

しゃかいしゅぎインターナショナル【社会主義インターナショナル】 ⇨コミスコ

しゃかいしゅぎけいかくけいざい【社会主義計画経済】 ⇨社会主義経済

しゃかいしゅぎけいざい【社会主義経済】 一般に社会主義経済という場合，資本主義社会が廃止されたあとに達成される新しい社会の経済体制を意味する。広義の社会主義社会は広義の共産主義社会と同じ意味で用いられる。すなわち，資本主義的私有財産制，資本家による労働者の搾取を否定して公有財産制を確立し，生産の計画化が行なわれる社会である。これに対し，狭義の社会主義社会とは，広義の共産主義社会の第1段階――資本主義廃止後にすぐ続く低い段階の共産主義社会であり，第2段階のより高度の共産主義社会への物質的・技術的基礎をつくる過渡期の社会である。➔共産主義 ➔社会主義

生産手段の公的・社会的所有形態としては国家的所有のほかにコルホーズ*的(協同組合的)所有形態が存在し，前者が現段階における最高の社会的所有形態とみなされている。生産手段の公的・社会的所有により，経済の主体はもはや私的企業ではなく，政府や公的企業となる。こうした社会主義的生産・所有関係が確立されることによって，資本主義に固有の矛盾であった生産力と生産関係の矛盾，その発現形態たる恐慌*・慢性的失業などの現象は消滅する。資本家による労働者の搾取はなくなり，資本家は経済の主体たる地位・支配権を失い，階級として死滅していく運命となる。こうして国家はブルジョア支配国家からプロレタリア独裁国家へと移行する。

経済の主体が私的企業から政府や公的企業に移ることは，経済の目的・動機を変化させる。すなわち，私的利潤の追求に代わって社会全体のたえず増大する物質的・文化的欲望の充足という社会的利益追求が経済の目的・動機となる。さらに，政府・公的企業の経済活動は私的企業間の自由競争に代わって経済を全面的に計画化する。国家による完全独占体制下の計画経済はそれまでのあらゆる資本主義的・競争的要素を排除するが，この場合社会主義競争だけは存在する。社会主義競争は，労働の生産性および生産量を高めるため，社会主義の原則に沿って労働者の協力と援助のもとに行なわれるが，この場合大きな役割を果たすのが労働の量および質に応じた分配の原則で，労働者の物質的関心がある程度利用されている。こうした競争の要素を除くと，社会主義経済体制はあくまでも国家による全面的計画経済である。したがって中央政府が生産・分配・支出など自己の作成した計画に沿って，個々の国営企業および協同組合のあらゆる経済活動を直接・間接に管理・規制する。

現在，ソ連を中心とする社会主義諸国は中央集権的計画経済を土台としながらも，そこから生じる諸々の欠陥を除去するための努力を試みつつあり，それに応じて現代の社会主義経済体制も以前とは異なった様相をおびつつある。ソ連は1917年の革命後プロレタリア独裁国家のもとに，生産手段の国有化および計画経済を前提として社会主義化を進めてきた。典型的社会主義経済体制といえる，いわゆる本格的な中央集権的計画経済の採用は1928～1932年実施の第1次5か年計画に始まる。これ以後現代まで続くソ連の経済体制はこの中央集権的計画経済である。主要物資に対する数量目標，これに対応した資金および労働力配分を計画するのに，その作成・実施に至るまで中央政府の機関がこれを行なっている。各企業は政府のたてた計画を実行する義務を負っているが，この与えられた生産課題を意欲的に遂行しようとする刺激策として設けられたのが，いわゆる現行の成績指標によるボーナス制度であり，さらに根本的な改革案として1962年リーベルマンによって〈利潤導入論〉が展開された。これは企業に与える計画課題の内容を生産物の品目・数量・納期にとどめ，資本・資材の選択などについては，大幅に企業の自主性を認めようとするものであり，また企業の成績指標として企業の獲得する利潤率(総資本に対する収益率)を取り上げようとするなど，現行制度を根本的に変革する画期的提案といえる。また1964年には消費者の需要と生産計画を結びつける需要直結方式が試験的に試みられ，その後さらに生産財産業にもこの方式が広げられた。このように企業の自主性は高められ，利潤・利潤率が成績評価の重要な指標となりつつあり，ソ連および東欧諸国の社会主義経済体制はその形態を変えつつあるのが現状である。〔加藤　寛〕

しゃかいしゅぎけいざいがく【社会主義経済学】 社会主義の立場に立った経済学の意に用いられていたが，今日では社会主義的生産様式または社会主義国の経済を研究対象とする経済学をさすのが定説となってきている。このような経済学が生まれたのは，1917年のロシア革命によって1930年代の中ごろにソ連に社会主義社会が世界ではじめて確立してからであり，さらに第2次世界大戦後，東欧や中国にもプロレタリア革命が起こって，社会主義がもはや単なる未来像としてでなく，現実のものとなったからである。しかし，歴史の浅いきわめて若い学問であるだけに，まだ十分に整備された理論体系として成立するには至っていない。しかし，1954年にソ連で刊行された《経済学教科書》でマルクス経済学の展開と

して，社会主義生産様式についての経済学的体系化が試みられ，その後，1965年からの新経済政策立案の基礎となった投資効率論を中心とする，計画経済論を主要な内容とするものをもって社会主義経済学とするようになった。しかし，このような社会主義経済学に対しては，中国社会主義の立場から否定して，いわば別の社会主義経済学を主張する見解がある。それは，社会主義経済を共産主義への過渡期としてとらえ，分権的計画化方式と文化革命とを内容とする，新しい社会主義経済の理念に立つ社会主義政治経済理論を主張している。

〔常盤政治〕

しゃかいしゅぎしゃちんあつほう【社会主義者鎮圧法】1878年にビスマルク*によって制定された法律。当時のドイツにおける最有力の社会主義政党であったドイツ社会民主党を弾圧し，非合法化しようとする目的をもっていた。この法律は1890年にビスマルクの引退とともに廃止された。日本においては1925年(大正14)制定された治安維持法*が文字どおりの社会主義者鎮圧法であった。

しゃかいしゅぎリアリズム【社会主義リアリズム】ソ連における文学・芸術の基本的方法。1932年に提唱され，ソビエト作家同盟*の第1回大会(1934)で〈現実をその革命的発展において，真実に歴史的具体性をもって描き〉〈労働者を社会主義の精神においてイデオロギー的に改造し教育する〉ことと定義された。第1次5か年計画による社会主義建設と歩調を合わせたもので，マルクス*・エンゲルス*の芸術観，特にエンゲルスが写実主義*について〈典型的情勢における典型的性格を描くこと〉と述べた規定などを取り入れるとともに，ベリンスキー*以来のロシアにおける文学観，芸術の社会的役割や人民への奉仕を説く伝統的なロシア人の考え方を継承している。自然主義*的リアリズムが現実の否定的側面のみをあばき，また〈ラップ*〉の唯物弁証法的創作方法がイデオロギー偏重に向かうという欠陥が明らかにされたのち，両者の偏向を克服するものと考えられた。最初にこの方法への道を開いた作品は，批判的リアリズムと革命的ロマン主義を統一したゴーリキー*の小説《母》とされ，また新しい時代の肯定的人間像を描いたオストロフスキー*の《鋼鉄はいかに鍛えられたか》もこの方法論にたつ小説とされた。社会主義建設に奉仕する文学にとって望ましいものすべてを含む世界観・創作方法・表現形式の混合した概念で，その後もさまざまに論議され，その定義・実践は多様化している。しかし，諸外国の作家に与えた影響はきわめて大きく，わが国でも蔵原惟人*(これひと)など多くの理論家・芸術家に深い影響を及ぼした。

〔川端香男里〕

しゃかいしょうせつ【社会小説】文芸用語。日清(にっしん)戦争後の社会問題の続発を受けて，内田魯庵*(ろあん)・後藤宙外*・田岡嶺雲*(れいうん)らが硯友社*(けんゆうしゃ)的作風の情緒的写実主義のわくを打破し，より広い社会的視野を小説に求めたところから生まれた。たまたま，1896年(明治29)10月《国民之友》に掲げられた〈社会小説出版予告〉が口火となり，賛否の論がいっせいに起こり，その過程で，貧民や労働者に対する同情，下層社会の真相の描写，社会的に広範な事象への取材など，その概念が明確化されていった。また魯庵は，政治界に取材した風刺文学としての社会小説を《政治小説を作るべき好時機》などの評論で唱導，宙外も魯庵の論を発展的にとらえて論じた。作品には，魯庵の《くれの廿八(にじゅうはち)日》，宙外の《腐肉団》，岩野泡鳴*(ほうめい)の《放浪》などがある。これらの作品には，社会の腐敗面の暴露のみに終わってしまう傾向も少なからずあったが，当時の社会にあって，文学によって社会・政治批判を行なうという意図は達成され，やがて徳富蘆花*(ろか)や木下尚江*(きのしたなおえ)らによる社会主義小説に継承される。

〔小泉浩一郎〕

しゃかいじんやきゅう【社会人野球】日本社会人野球協会が主催する大会名。1927年(昭和2)東京日日新聞社(現在の毎日新聞社)の提唱で始まった。大正年代から昭和初期にかけての日本の野球界は，東の大学野球*と西の中等野球(現在の高校野球*)とに2分されていた。そして，中等野球で活躍した選手は大学野球で見ることができたが，卒業後社会に出て官庁・会社などに就職して野球を続けていても，ファンにはその成長した姿をみる機会はなかった。第1次世界大戦後，日本は経済的にも一段と成長し，会社チームが各地に続々と誕生し，相互の試合もしだいに活発化していった。そうした情勢に着目して，東京日日新聞社が創設したのが都市対抗野球大会で，各都市の最強チームを東京に集めるという方法で発足した。第1回大会(1927)は東京の神宮球場で行なわれ，その後も第2次世界大戦中の中絶を除いて現在まで毎年夏東京で行なわれている。この大会は実業団大会などともよばれていたが，1949年に日本社会人野球協会が創立されてからは，現在の名でよばれるようになった。

この大会は県予選・地区予選を勝ち抜いたチームがその所在都市を代表して東京の中央大会に集結して行なわれる。その予選が各県・地区独特の方法で行なわれるというのも特色の一つとされ，勝抜き一本やりのトーナメント形式，リーグ形式，チャレンジ方式(前年の代表チームにその地区の第1位が挑戦(ちょうせん)する)，敗者復活制など，あらゆる試合形式が取り入れられている。なお，この大会はアマチュア野球のアジア選手権大会の予選も兼ねている。

〔鈴木美嶺〕

しゃかいしんりがく【社会心理学】社会環境の中で諸種の条件に規制されて生活している人間の経験や行動を，それらの諸特性との関連において理解しようとする心理学。19世紀末から20世紀初頭にかけて社会学・文化人類学に隣接する科学として一般に認められるようになった。きわめて広範な領域を含んでいるが，便宜的には次の三つの水準に分けて考えられる。①社会の中の個人の行動の研究。②個人と個人の相互関係の研究。集団内の相互関係，集団の発達と構造，リーダーシップなどの問題を取り上げ，家庭や職場における人間関係の改善，産業心理学の課題である仕事の能率向上などを研究し，実際問題とも結びついた分野。③流行・宣伝・世論・流言・マス-コミュニケーションなどの集団行動，あるいは文化・国民性の問題，犯罪・自殺・群集心理などの社会病理現象を扱う分野。具体的には，観察的方法・実験的方法・調査的(統計的)方法など，関連諸科学の中で発達してきた手法をさまざまに取り入れて研究がなされており，ソシオメトリー・態度測定法などは，その一例である。

〔菊地　藍〕

しゃかいじんるいがく【社会人類学】一般には，人類社会における種族・民族などの諸問題を研究する学問の分野をいう。ただし，この学問に対する考え方は国により学者により異なっている。歴史的にみると，社会人類学が一個の学問として確立されたのは20世紀にはいってからであり，特にデュルケーム*らの影響を受けたラドクリフ-ブラウン*のアンダマン諸島の調査研究や，マリノフスキー*のトロブリアンド諸島における研究からその体制が整えられた。彼らの分析方法は，社会機能を重視するもので，〈構造機能主義〉とよばれ，今日ではその方法に対して種々の批判が加えられている。しかし，一般的に社会人類学が民族学*特に歴史民族学において多く行なわれるような壮大な歴史的再構成を排除し，また心理学的な個々の接近も除外し，研究対象の単位を多くは最大政治単位(たとえば部族・国家)としていること，長期にわたる精密な現地調査に基づいて社会制度間の機能関係を分析し，恒久的な構造のモデル化を試みていることなどは，現在の多くの専門研究者にもあてはまることであり，社会人類学の主流とみなすことができるであろう。

〔森部　一〕

しゃかいせいさくがくかい【社会政策学会】1872年ドイツの新歴史学派経済学者のワグナー*・シュモラー*らを中心に設立された学会。社会主義には反対し，労働者に対する社会保障を充実させて資本主義の発展を期するもので，ビスマルク*の社会政策を理論的に裏づけるものとなった。自由主義者はこの一派を皮肉って講壇社会主義*と称した。

しゃかいたいしゅうとう【社会大衆党】昭和初期の社会主義政党。1931年(昭和6)満州事変*勃発(ぼっぱつ)と同時に無産政党の一部にファシズム転向を生じたため，社会民衆党*・全国労農大衆党は無産政党の統一戦線を緊要とし，翌1932年7月合同して社会大衆党を結成。党首に安部磯雄*(あべいそお)，書記長に麻生久*(あそうひさし)を推した。反資本・反共・反ファシズムの三反主義を掲げ，機関紙《社会大衆新聞》を発行するなど，1937年の総選挙には37議席を獲得し，無産政党として空前の大政党となった。しかし，日中戦争*勃発直後の第6回党大会では，旧綱領を破棄し，軍の主張を取り入れて軍国主義的新綱領を採択し，人民戦線運動(➡人民戦線事件)に反対。その後，国家総動員法*・産業報国連盟(➡大日本産業報国会)などファシズム体制樹立には積極的な協力を示した。1940年近衛文麿(このえふみまろ)の新体制運動*が発足するに及び，これに呼応して大政翼賛会*参加のため同年7月6日解党した。〔高崎徳次〕

しゃかいちょうさ【社会調査】集団や社会の構造と機能およびその変動を究明するため，すなわち社会事象を実際に現地で資料収集し，直接に観察・記述・分析する一連の作業，あるいはその方法をいう。社会調査は，はじめ社会政策・社会事業などの社会病理的な問題解決という実践目的のために企てられたが，のちに未知の社会の事実を発見することを意図するもの，また社会科学の仮説や理論を創出・検証するものなど，科学的概念を導き出すための組織的方法の確立へと進んできた。社会調査のアプローチは大別して，大きい社会に関して横断的に調査する統計的方法と，少数の社会的単位に関して多面的・集中的に調査する事例研究法がある。しかし，あくまでも社会生活との関連においてその意義が求められるときにのみ社会調査となりうるのであって，ばく然とした資料の収集だけでは社会調査とはなりえない。〔斎藤昌男〕

しゃかいてきかんせつしほん【社会的間接資本】⇨社会資本

しゃかいてきこうせいかんすう【社会的厚生関数】⇨厚生経済学

しゃかいてきひよう【社会的費用】現代の企業は，利潤追求という利益目的を有すると同時に社会的責任ないしは公共的責任を自覚した社会福祉目的を有しており，この二つの面を合わせもってこそ企業の維持・成長が図られる。このような観点からみると，たとえば大気汚染(煤煙(ばいえん)・塵埃(じんあい)・悪臭・有毒ガスなどによる汚染)，水汚染，騒音・振動，水不足，交通麻痺(まひ)，地盤沈下などの公害のほとんどは，企業の生産活動の直接ないし間接の副産物にほかならず，社会的責任ないしは公共的責任として，私企業がそれらに対する対策・補償を講じる義務がある。この対策費にあてられる私的費用を社会的費用という。〔清水　晶〕

しゃかいとう【社会党】⇨日本社会党

しゃかいとう【社会党】1905年結成された，フランスの中道左派の政党。19世紀の末以来分裂を続けていた社会主義諸派を統一して成立したが，ロシア革命の刺激もあって，第1次世界大戦後1920年共産党が分離した。その後一時左翼カルテルを結成，1936年には人民戦線の結成によりはじめて議会第一党となり，政権担当のイニシアチブをとったが，共産党・急進党と一致せず分裂した。第2次世界大戦後は労働者階級の支持を大幅に失い，1958年ドーゴール政権に参加したため左派が脱退した。その後，左翼色を強め，重要企業の漸新(ざんしん)的社会主義化，欧州統合の支持などを主張。〔喜多迅鷹〕

しゃかいとう【車会党】明治時代の人力車夫の結社。1882年(明治15)10月自由党左派の奥宮健之*(たけゆき)と人力車夫三浦亀吉(かめきち)が，馬車鉄道会社設立で生活を脅かされた東京の人力車夫数千人を糾合して，生活擁護のための懇親会として馬車鉄道反対同盟会を組織，12月結党式を行なって車会党とした。しかしまもなく奥宮・三浦らが検挙されて自然消滅。

しゃかいびょうり【社会病理】一般には，生活欲求や生活目的の充足が阻害される状況をさし，人間の生活機能の障害状況を社会学の観点からみるときにいう。社会病理の現象としては，①個人の身体的・精神的レベルで発生する病理，②直接的な集団生活環境レベルで発生する病理，③地域社会のレベルで発生する病理，④産業化・大衆社会化・情報社会化などの社会変動のレベルで発生する病理，⑤社会体制の欠陥や不備などのレベルで発生する病理など，発生条件によって分類されている。①〜③は個人や家族や地域社会などの生活条件を主として問題とするが，④と⑤は全体社会の構造や機能の条件を問題にし，社会病理全般の発生にとってその基底的条件と考えられる。一般に，すべての社会病理現象には，これらの五つの条件が直接または関接に作用しているとされている。

〔社会病理の理論〕社会病理の理論は次のように大別される。①一般理論：史的唯物論・精神病理論・疎外論・文化的遅滞論などがあげられる。史的唯物論では資本主義社会の構造上の矛盾や欠陥を暴露し，マクロ的立場から社会問題に接近するのに対し，精神病理論は個人の精神の異常性を明らかにするミクロ的立場から家族や文化の病理に接近する。疎外論は史的唯物論の副次的理論の面と精神病理論の心理的な病理論の面との両者にかかわりのあるものであり，文化遅滞論は社会の構成要素内の不均衡(物質文化と精神文化の伝播(でんぱ)速度のずれなど)の指摘から社会病理発生の解明に寄与するものである。②基礎理論：社会解体論・アノミー論・社会不適応論・社会参加論・社会緊張論・文化葛藤(かっとう)論・逸脱行動論があげられる。社会解体論は，個人や集団や社会・文化の組織や構造の崩壊という，いわば包括的・総合的な立場から社会病理にアプローチするものである。アノミー論は，組織や構造の構成要素である価値基準(規範)の混乱を重視する。社会不適応論は，個人と環境との不均衡を問題にする。社会参加論は，生活欲求充足のための集団参加や制度利用の状態に重点を置いている。社会緊張論は，価値基準や感情関係の対立や不一致から問題に接近する。逸脱行動論は，個人の社会的行為の過程を重視して，上記諸理論を包括するとともに，次の特殊理論をも含んでいる。③特殊理論：主として犯罪*・非行*に関する理論であり，㋑分化的接触論，㋺非行副次分化論，㋩分化的機械構造論，㋥分化的同一化論，㋭中和論，㋬相対的欠乏論，㋣攻撃行為論などがある。このうち㋑〜㋭は犯罪・非行の学習理論に属し，㋬と㋣は生活手段の理論に属する。

〔個人の病理〕個人の病理は，パーソナリティー*に関するもの，身体に関するもの，行動に関するものの三つに大別される。このうちパーソナリティーに関するものは，正常なパーソナリティーが種々な条件のため一時的にせよ異常な状態に陥る場合，たとえば一時的な精神錯乱や心理的アノミーの状況と，本来的な精神病的パーソナリティー(精神障害)との二つがあり，後者には精神病(中毒も含めて)・精神病質・神経症・精神薄弱などが含まれる。身体に関するものとは身体障害のことで，視覚障害・聴覚障害・肢体(したい)不自由がそのおもなものである。行動に関するものとは逸脱行動のことで，これには種々なものが含まれるが，その主たるものは犯罪・非行・売春・変死(事故死)・自殺*などである。これらの個人の病理の発生は，社会病理の原因または結果として考えられている。たとえば，パーソナリティーの病理では現象的には精神障害が取り上げられるが，精神障害が地域住民の態度や職業的階層によってその発生率に変化がみられること，精神障害者の発生が生活行動のシステム，とりわけ家族との人間関係の中の共感性の欠如過程に多くみられること，一酸化炭素中毒や水銀・カドミウムなどの公害によって精神障害の発生することなどが指摘されている。身体障害では，ときとしてパーソナリティーの病理の条件ともなるが，多くの場合には生活機能の阻害要因となるため，その阻害状況が家族の貧困化を招き，社会病理を結果することなどが指摘されている。また逸脱行動では，特に非行・自殺などが取り上げられており，非行に関しては非行を学習する社会過程が重視され，また家族や同輩集団や地域社会や価値規範の対立・葛藤が要因として指摘されている。自殺に関しては，

青年期の地位志望の挫折(ざせつ)や老年期の家族的人間関係からの疎外などが社会的要因として追究されている。

【集団の病理】集団単位または集団のできごととして起こる社会病理である。中でも，家族と職場集団は人間の最も基本的かつ普遍的な欲求である性や愛情と生活資源の充足実現の場であり，しかも恒常的・日常的な集団関係である。家族集団の具体的な病理現象としては，離婚・家出・欠損家庭・留守家族・貧困家庭・老人世帯などがあげられる。離婚・家出は，家族集団の病理の結果現象であるが，欠損家庭は親の欠損から生ずる問題であり，留守家族は親の不在からくる〈かぎっ子〉の問題，貧困家庭は貧困に帰因する問題，老人世帯は人口の老齢化と核家族*化に伴う問題が課題とされている。職場集団の病理としては，職場緊張・組合分裂・不当労働行為*・倒産・失業・事故・災害・職業病*などがあげられる。職場緊張は社会緊張の一つで，職場集団の人間関係のもつれの解明であり，組合分裂はその原因とそれによる組合機能の阻害が問題とされ，不当労働行為は逸脱行動としての労働行為の意味が問題とされている。倒産・失業は，経営解体と失業による生活解体の問題が対象となる。事故・災害は産業化の進展とともに多発するが，その様態や影響が問題とされる。職業病は，負傷・熱傷・凍傷・眼疾患・塵肺症(じんぱいしょう)・中毒・皮膚炎などの業務上の疾病(しっぺい)で，これらの多発する経営組織や組織内人間関係の要因が問題とされている。このほか，政治集団の病理として，政治的無関心と投票率，政党*の派閥化，圧力団体*の利己的権力への接近などが問題とされ，さらに公務員犯罪としての汚職の社会的要因などが問題とされている。また集団病理では，反社会集団たとえば非行集団・やくざ集団・窃盗集団などの成立の過程と発生要因の研究もさきの個人病理の研究と関連した重要な病理的集団組織の研究となっている。

【地域社会の病理】地域社会を単位として発生する社会病理で，特に都市社会が巨大化し，その支配力が強大となっているところから，都市化の変動とその影響による地域病理が重視されている。都市化の様相から，都市地域・郊外地域・農村地域の三つの病理が取り上げらるている。都市地域の病理として，公害*・交通渋滞・過密居住・〈どや街〉などがあげられ，郊外地域の病理としては，生活不便・郊外的悲哀・犯罪*・事故の多発化などが含まれ，農村地域の病理としては，出稼(でかせ)ぎ*・過疎現象・嫁飢饉(よめききん)などが問題とされている。地域社会の病理にはなおこのほかに，いわゆるマイノリティー-グループの病理がある。地域の中で孤立して部落化する集団のことで，権力的に劣勢な階層や人種的に劣勢とみられる集団の病理性が問題とされる。前者には，わが国の未解放部落(→部落解放運動)に対する地域住民の身分的・職業的差別の実態が問題とされており，後者にはアメリカの黒人や黄色人種集団(→人種問題)，わが国ではいわゆる第3国人部落などが問題とされている。

【社会変動の病理】全体社会の変動の立場から現代社会に特徴的な諸現象と社会病理との関係をみようとするもので，特に問題となるのは，現代化の諸状況ないし社会的圧力として，産業化・大衆社会*化・官僚制*化などの変動過程である。これらの状況が社会病理の発生とかかわり合うのは，諸状況に内在する病理的特性が作用するためであり，しかも諸状況が急激に変化し，進展しているところから，社会病理発生への影響力が特に大きくなるものとみられている。産業化の病理としては，産業人口構造の変動による若年労働力の不足と人口老齢化の問題や都市産業への人口集中による都市生活文化の病理，雇用階層の増大による核家族化とその影響による家族の病理などが，産業化の視点から問題とされている。また，技術機械化や産業組織の巨大化に伴う人間性の疎外*，階層*構造の変化による所得水準の平準化と階層上昇への社会的障壁(学歴・縁故など)との矛盾，経済成長とインフレーションの矛盾からくる生活への不安などが指摘されている。大衆社会化の病理として，特にマスコミュニケーションの大量伝達機構の異常な発達が市民の思考様式を標準的・没個性的・受動的なものへ変化させ，マスメディア*の独占化が誇大化された情緒性・非合理性・衝動性を培養する危険性のあることが指摘されている。なお，大衆社会の病理現象としては，レジャー*行動における野球・競輪などにみられる群集の暴徒化現象，上流社会的地位への消費的模倣，大事故発生時にみられる逃避行動やマイホーム主義の現象などがあげられている。官僚制の病理は現代社会を権力と組織の合理化時代とみる視点から問題とされる。官僚制は形式的に合理化された規則の体系であるが，これに対して絶対的服従を義務づけられる過程で，組織の機能障害が起こるものとされている。たとえば，仕事の非能率化，責任の回避，指導性の不足，セクショナリズム，主従関係的上下序列の温存，政策決定への情実混入などが官僚制の病める状況として指摘されている。

【社会体制の病理】一般的には資本主義の発展段階と資本主義体制の階級構造的矛盾から社会病理現象が派生するものとして論ずる立場であるが，この場合は社会病理という用語を用いず，社会問題という用語が一般に使われている。〔那須宗一〕

しゃかいふくし【社会福祉】 わが国の慣例的用語では，憲法第25条にある〈すべて国民は，健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する。国は，すべての生活部面について，社会福祉，社会保障*及び公衆衛生*の向上及び増進に努めなければならない〉というところにみられ，社会保障や公衆衛生と並列して規定されている。その具体的内容または方法としては，社会保障制度審議会の定義によれば〈国家扶助の適用を受けているもの，身体障害者，児童，その他援助育成を要するものが，自立してその能力を発揮できるよう，必要な生活指導，その他援護育成を行うこと〉にある。このようにわが国の現行法規のもとでは，社会福祉は援護育成を要するものへの公私にわたる社会的諸活動という意味で使用されている。もともと社会保障と社会福祉の違いは，前者が国家の財政的措置による経済的保障を主眼とするのに対して，後者は地方自治体や民間の組織活動によって生活の物心両面にわたる援護育成を主眼としているところにある。また一般に現在の社会福祉の対象は第2次世界大戦前の社会事業のように，生活上，現にハンディキャップを背負って困窮している者だけを救済するものでなく，広く国民の生活を対象として，積極的・予防的方法を講ずるところにこれまでの社会事業との違いが強調されている。しかし，実態として，公的にはまえの審議会の定義にもみられるように，戦前の民間社会事業とほぼ同義語に使用されている場合が多い。

英米においてはわが国のように社会福祉を狭義に限定せず，社会事業のほか社会政策・社会保障・公衆衛生・教育までも含む用語として広義に使用されている。たとえばイギリスでは〈社会福祉は全国民の物質的・精神的・社会的最低生活を確保するための公私の社会的諸サービス全般〉と定義づけており，労働者保護の社会政策・社会保険のほか義務教育補償の政策までも社会福祉の範囲に含め，きわめて広範なとらえ方をしている。アメリカでは，たとえば〈個人およびグループが，標準的な生活ならびに健康を保つために計画された，さまざまな社会的サービスと諸制度の組織的体系〉と定義づけられており，やはり広義に解されている。

現行の社会福祉の法規は生活保護法・児童福祉法・老人福祉法・母子福祉法・身体障害者福祉法・精神薄弱者福祉法の六つの社会福祉法を主軸として体系化されている。なおこれらのほか，売春防止法・公益質屋法などの中で規定された施設を加え，社会福祉事業*に関する共通事項を定めたものとして〈社会福祉事業法〉があるが，施設の性格によって第1種・第2種という類型化がなされ，それぞれの施設が分類されている。社会福祉には以上の六つの法制が施行されているが，運用上の実態としてなお多くの問題が残されている。ことに生活保護法は処置を必要とする対象者の数に比べて，機関・施設・従業者の数があまりに少ないこと，児童福祉法の対象者の特性に対応した

機能的な分類収容が不十分であること，老人福祉法の施設や機関を運用する財政が乏しく，憲法第25条の精神とはほど遠いものがあること，母子福祉法は公立施設と民間施設との格差がはなはだしく，民間の社会福祉が経営的に貧しく問題が多いこと，身体障害者福祉法は各施設・機関の間の連絡・調整が円滑にいっていないことなどが指摘されている。社会福祉の事業活動面での専門的方法として，カウンセリング*・ケースワーク*・ソーシャル-グループ-ワーク*・コミュニティ-オーガニゼーションの四つが主要なものとなる。〔那須宗一〕

しゃかいふくしじぎょう【社会福祉事業】 全国民を対象とする社会保障*・医療保障*などの一般的社会施策の補充的働きをする保護事業。具体的内容は1951年(昭和26)制定の社会福祉事業法において規定されているが，1950年ごろまでほぼ統一的に使用されていた社会事業法とその意味内容は実質的に同じである。その特質は，①資本主義制度の維持・存続と近代社会的人間関係が前提となり，②その対象は国民一般ではなく，労働者・小農民・低所得者・貧困者ら，社会的障害のにない手たる国民大衆であること，③対象の存在は現存の社会制度(資本主義制度)に固有の欠陥があるとされ，④それゆえ問題が起きた場合，それは個々人の罪ではなく，社会自体にあること，⑤したがって保護は，国家の義務であり同時に保護されることは国民の権利であるといった点である。〔広瀬卓爾〕

しゃかいほう【社会法】 市民法*の原則が，経済や社会生活に対する国家干渉の排除，市民生活における私的自治にあったのに対して，社会法は国家が立法によって介入し，社会的・経済的矛盾を正そうとするものである。資本主義社会の発展につれて，貧富の隔たり，自由競争の弊害がひどくなり，個人主義・私有財産尊重を基本とする民法や商法のもとでは，国民の大多数の生活が十分に保護されなくなり，必然的に，労働組合の保護，最低賃金や労働時間についての国家的規制，また多くの社会保障*制度の確立が要求されるに至った。第1次世界大戦以後，急速に広まり，社会主義国家の発展による計画的な経済建設や勤労大衆の生活保護などの影響も大きい。社会法は次のように分類される。①民法の契約自由の原則を越えて，労働者と雇い主との関係や労働条件について規制する労働法，②生活保護法をはじめ多くの社会保障についての法，③経済・貿易，また環境衛生などについての統制の諸法など。学者によっては分類は一致しないが，労働法・社会保障法・経済法，さらに教育法などの諸分野にわたっている。もちろん社会主義国家における社会主義法とは異なり，資本主義的法であり，資本主義体制の中でその欠点を補正しようとする法である。〔鈴木安蔵〕

しゃかいほけん【社会保険】 社会構成員の経済生活を保障するために，その生活を脅かす事故が発生した場合，一定基準の給付をする保険。社会保険は公的な扶助と並んで，社会保障制度の内容をなすものであり，国民の窮乏化を防止する防貧的役割を主として果たすものである。沿革的には，社会保険の対象者は労働者，特に低所得者階層であって，その範囲も非常に限定されていたが，今日では各国で全国民に保護を提供している。この保険は人について発生する事故に限定され，労働能力と労働機会の喪失で，傷病・廃疾・死亡・出産・老齢・失業・多子などに対してである。保険の運営は原則として国家自身・公共団体ならびに公法上の組合によって行なわれる。しばしば強制加入制が採用され，これが特質の一つとされることも多い。またこの保険の財政は，国により，さらに保険部門によって程度は異なるが，概して保険のつけられている以外のものからの費用分担があり，それに国家の補助が加わる点でも他の保険と異なる。わが国の社会保険には，健康保険*・日雇い労働者健康保険*・船員保険*・厚生年金保険*・国民年金*・失業保険*・労働者災害補償保険(労災保険*)・国家公務員災害補償ならびに各種共済組合制度などがある。〔庭田範秋〕

しゃかいほしょう【社会保障】 ⇨516ページ

しゃかいみんしゅうとう【社会民衆党】 1926年(大正15)12月，労働農民党*を脱党した日本労働総同盟の右派社会主義者によって結成された右翼的無産政党。委員長安部磯雄*(あべいそお)，書記長片山哲*。1928年(昭和3)，第1回普通選挙で4名の代議士を出し，無産政党中最も多く当選。社会民主主義を掲げて反共的議会主義を方針とした。1931年満州事変*に際しては戦争支持を表明したが，翌年には反資本主義・反共・反ファシズムの三反綱領を採択，次いで無産政党統一の気運が進む中で，合同をめぐって国家社会主義を唱える赤松克麿*(かつまろ)らが分裂。同年7月，合同派は全国労農大衆党と合同して社会大衆党*を結成した。〔高崎徳次〕

しゃかいみんしゅしゅぎ【社会民主主義】 資本主義社会制度を改め，その私有財産制を変え，主要な生産手段(土地・企業・鉄道など)を国有にして，広く国民の幸福・平等をめざす政治上の主義。共産主義あるいはマルクス・レーニン主義と異なるのは，主として議会政治を通じて平和な社会革命を実行するという点であると理解されている。現在のイギリス労働党の立場は民主社会主義だとされているのに対し，ドイツやイタリア・フランスなどの社会主義政党は，社会民主主義の政党だといわれているが，その理論的・政治的立場に違いはない。第1次世界大戦で，ロシアに社会主義革命が実現するまでは，広くヨーロッパをはじめ，全世界でマルクス主義の立場に立つ無産政党は，ほとんどすべて社会民主党を名のった。社会民主主義は，マルクス主義と同じものと考えられたといってよい(ドイツ社会民主党をはじめ，ロシアのレーニンらはロシア社会民主党をつくっていたし，日本での最初の無産政党も，日本社会民主党である)。しかし，ドイツの社会民主党は，第1次世界大戦に際して帝国主義戦争に協力し，また国内でも，単なる議会主義政党になって，プロレタリア革命*を忘れ改良主義*となった。そこでレーニンらは，もはやマルクス主義の政党，プロレタリア革命の政党として，社会民主党を名のるべきではなく，無産党とすべきだとした。今日ではソ連をはじめ全世界的にマルクス主義政党は共産党を名のるようになり，社会民主主義あるいは民主社会主義は，マルクス主義とは離れた政治上の戦術をとる穏健な議会主義的政党の基本的態度となる。〔鈴木安蔵〕

しゃかいみんしゅとう【社会民主党】 1890年，ドイツ社会主義労働党*が改称して成立。翌年にはマルクス主義的なエルフルト綱領*を制定，その後党勢を拡大して第1次大戦前には議会で第1党を占め，ヨーロッパ最大の社会主義政党となり，第2インターナショナル*でも指導的立場にあった。しかし党勢の拡大とともに19世紀末以来党内にベルンシュタインらマルクス主義に反対する修正主義派が有力となり，第1次世界大戦の際には政府の戦争政策を支持した。ドイツ革命*では同党左派から分かれた独立社会民主党およびスパルタクス団*(共産党)の革命運動をおさえて主導権を握り，ドイツ共和国の中心勢力となったが，1933年ナチス政府によって解散させられ，第2次大戦後再建したが，現在ではマルクス主義を完全に捨て去った。〔松　俊夫〕

しゃかいみんしゅとう【社会民主党】 ①日本最初の社会主義政党。日清(にっしん)戦争*後の資本主義発展期を迎えて，1901年(明治34)労働組合期成会・社会主義協会によって先駆的社会主義運動を進めていた安部磯雄*(あべいそお)・木下尚江*(きのしたなおえ)・片山潜*・幸徳秋水*・河上(かわかみ)清・西川光二郎らが創立。綱領として軍備全廃，階級廃止，生産手段と交通機関の国有，財産の公平な分配，普通選挙実施，貴族院廃止などを掲げたが，即日解散を命ぜられ，創立宣言を掲載した諸新聞も処分を受けた。

②第2次世界大戦後の政党。1951年(昭和26)平野力三*(りきぞう)を中心に社会革新党・全国農民組合を主体として結成されたが，党勢ふるわず翌年解党。〔高崎徳次〕

しゃかいみんしゅろうどうとう【社会民主労働党】 ロシア最初の社会民主主義政党。1898年3月ミンスクで第1回大会を開き創立されたが，実質的には1903年の第2回大会が創立大会であった。この大会で

党はボリシェビキ(多数派，レーニンら)とメンシェビキ(少数派)の２派に分裂した。ボリシェビキが唯一のマルクス主義党であり，ロシアのプロレタリアートの前衛で1918年ロシア共産党と改称した。

しゃかいめいもくろん【社会名目論】社会学の用語で，社会唯名論ともいい，社会実在論に対比される。社会を単なる個人の集合体，もしくは個人の間の相互作用の名まえにすぎないとみなす考え方である。17世紀の社会契約説はその先駆的な考え方であり，18世紀の自由主義思想家たちは個人の性質が社会の性質を決定すると主張した。タルドらの心理学的社会学，ジンメルの形式主義社会学も社会名目論的な考え方であるということができる。〔米沢克夫〕

じゃがいも ナス科の一年生草本。ジャガタライモ・バレイショともいう。葉は羽状複葉で長い葉柄を有し，７～８個の楕円(だえん)小葉と托葉(たくよう)状の小さな葉片からなる。花は葉腋(ようえき)から生じた花梗(かこう)の先端に７～８個着生し，集散花序をなす。花梗は１cm内外，がくは星状に分枝する。花冠は直径約３cm，めしべ１，おしべ５。稔性(ねんせい)花粉を生ずるものが少ないため，果実を生じがたい。茎は60～90cm，地下茎は匍枝(ほし)となって先端に塊茎(いもの部分)を生ずる。塊茎には多数の芽があり，栄養繁殖に用いられる。主成分はデンプンで，食用のほかデンプン採集用にも栽培する。ヨーロッパ・アメリカでは小麦に次ぐ重要な食糧である。

原産地は南アメリカのアンデス山系の高原地とされ，ヨーロッパには1560～1570年ごろペルーを征服したスペイン人によってまず本国に伝えられ，その後18世紀ごろまでにイタリア・イギリス・ドイツ・フランスなどに栽培が広がった。日本には1598年(慶長３)ジャワ島のジャガタラ(現在のジャカルタ)から伝えられたが，本格的な栽培は明治以降である。

【栽培】種いもによる栄養繁殖がふつう。種いもの条件は次のようなことがあげられる。①病原などのない健全なものであること。②塊茎は成熟後休眠期があり，これを過ぎないと萌芽(ほうが)しにくいため，齢が適当であること。③大きさが適当(40～60g)であること。種いもが大きい場合は切断して用いるが，芽の分布が頂部に密であるため分布を一様とするよう注意する。切断面にわら灰を塗布すると腐敗・病害を避けやすい。うね幅70cm，株間30～45cm。暖地では２月中～下旬から，寒冷地では５月上～中旬から植え付ける。10アールあたり120～160kgの種いもを必要とする。施肥料は1,500kgの生産量に対して窒素８kg，リン酸３kg，カリ12kgである。収穫期は品種・地域・播種(はしゅ)期によって多少異なるが，播種後約４か月，下部茎葉が黄変しはじめたころがよい。品種には農林１号・男爵・アーリーローズ・ベポー・紅丸などがある。1970年の作付面積は158,800ヘクタール(うち春作150,600，秋作8,200)，収量3,611,000t(春3,488,000t，秋123,100t)，10アールあたり収量は春2,320kg，秋1,490kgである。日本における主産地は北海道・長野県・群馬県など。世界ではドイツ・ソ連・ポーランド・フランス・イギリスなどで多く産し，ヨーロッパで全世界収量の約90％を占める。〔金木良三〕

しゃかいもんだい【社会問題】社会問題は大別すると二つの見解に分かれる。その一つは，社会問題は資本主義体制の構造的な欠陥に基づいて，基本的・必然的にしかも全社会的な規模で現われるものとし，ことに資本主義の経済の発展から生まれてくる労働問題を中核として，人口問題，家族制度の問題，婦人問題，住宅問題，物価問題，中産階級問題などを資本主義の経済的構造の矛盾からとらえる見解である。マルクスを代表者とするもので，ドイツの社会政策学者にはこの見解を採用するものが多い。

これに対し，アメリカでは社会生活上の障害または不調整の大量的な存在に関する総括的概念として用い，犯罪・貧困・心身障害・自殺・スラム・少数異民族の問題など社会の変動・発展に機能的に適応できない社会の脱落者，社会福祉の対象となる問題を取り上げている。この立場では，社会病理と社会問題は同一視される傾向があり，社会病理現象のうちで，特に社会生活に重大な脅威や不安を与えていると判断されたものを社会問題と規定し，広義の社会病理の概念中に含んで用いられる。社会病理学者エリオットとメリルの説はその代表的なものである。

社会問題の成立要件として次の四つが基本的なものとされている。①人間が生存するための衝動的欲求と欲求対象物を獲得する関係において，不充足・不公平・対立・障害をもたらすような不適応現象が現に存在していること。②これらの不調和・障害をもたらす不適応現象が存在しても，単に社会の必然的・不可避的現象と考えられたり，神のなすわざであって人間では解決しがたい運命的なものと考えられるときは，社会問題とならない。すなわち，それが人間の力で解決でき，また，解決する価値があると信じて問題解決を図る実践的契機が存在すること。③これらの不適応，矛盾の現象が人間の力で解決できると自覚しても，それらの問題が単に少数の者だけの現象であるならば，社会問題とはならない。少数の人によって自覚された不適応現象でも，それが社会全般の人々に共通する問題であり，社会集団の存廃に影響を与える問題であること。④不適応・矛盾の問題は価値判断として好ましくなく悪いものであるという判断がなされ，現に好ましくないものはよきものへ変革すべきであるという社会理想の理念があって，この社会理想の高揚につれていままで十分に自覚されなかった潜在的社会問題が顕在化の可能性を含んでいることなどである。

一般に社会問題について十分な知識をもたず，またもっていても科学的でないことが多い。この点に関して，社会問題に対する一般の人々の態度には，①無関心型，②運命論型，③宗教的帰依型，④批判型(社会問題を論議することは時間の浪費)，⑤感傷型(人道主義に同情)，⑥社会科学型(社会構造の変革によって理想社会を建設しようとする型)などがみられる。しかし，社会生活上に起こる生活障害は排除すべきであるという点においては，社会問題に対しての共通した見解がみられる。〔那須宗一〕

しゃかいゆうきたいせつ【社会有機体説】社会の本質を生物有機体との類比によって説明しようとする社会学の考え方。すでにコントに見いだされるが，スペンサーその他によって，種々の形に発展させられた。スペンサーは，成長するにつれて量が増大する点，機構が集合ないし分化している点，機能が分化している点，分化した器官が相互に依存し合っている点，全体の生命が部分の生命より長命である点などにおいて，社会と生物有機体との類比が成立すると考え，この観点から社会の構造・機能・変化などを説明した。〔米沢克夫〕

しゃかがだけ【釈迦ケ岳】紀伊(きい)山地中央部の大峰山脈の南寄りにそびえる山。標高1,800ｍ。東側は北山川，西側は十津(とつ)川の谷に臨み，地形は険しい。吉野熊野(よしのくまの)国立公園に含まれ，南東の山腹には修験道(しゅげんどう)の信仰登山者の古くからの宿坊である前鬼の宿坊がある。

しゃかく【社格】神社についての待遇上の格式。祭神の神威や崇敬者の興隆などによって神社の社会的地位に等差を生じてくるのは，古くから記録によって認められる。式内社(延喜式神名帳に登載された神社)2,861社は，当時存在した神社のうち特に知られた神社として国家的待遇を受けたもので，官幣社・国幣社に分けられ，さらにそれぞれ大・小の２等に区別された。平安中期から後期にかけては，畿内(きない)を中心に22社の名社が国定し，また諸国では一宮(いちのみや)・二宮・三宮などや総社が現われ，一般諸社と区別して特に尊重された。明治以降は，社格制度が設けられて官幣社(別格・大・中・小)，国幣社(大・中・小)，府・県社・郷社・村社・無格社に分けられたが，第２次世界大戦後に廃止された。その後神社本庁では，ゆいしょ・規模・活動・財政などを総合してことにすぐれた神社を別表神社とし，特別な取り扱いをしている。→官国幣社〔土岐昌訓〕

じゃかご【蛇籠】鉄線で亀甲(きっこう)形などの編み目をもつかご(径60cm，長さ９

→518ページ

社会保障

〔社会保障の意義〕社会保障ということばが，法律ないし制度の上で，はじめて用いられたのは，1935年(昭和10)の社会保障法である。同法の内容は単に社会保険*と公的扶助を一つにセットしたものにすぎなかったが，1945年イギリスの社会保障制度の成立をみるに及んで，今日一般に理解されているように，全国民に対し生まれてからの一生を保障するところの制度を意味するものとして定着した。わが国においては，1946年制定の日本国憲法第25条に現われたのが，公的文書における初見である。さて前段において社会保険の意味するものについて，一般的に定着している理解があるようにいったが，厳密にいえば，同じ社会保障制度といっても国によってその意義・内容をことにし，また学者によっても考え方が違うところが少なくない。そこでここでは，いちおう次のように理解しておく。

人は，だれでも生きる権利(生存権)を有するものである。したがって自分の力(収入)でその生活をささえることができない事態に対しては，国はその責任において，その生活を保障しなければならない。かくて社会保障とは，国がそのような責任を果たすために樹立する制度であるということができる。そもそも人間にとって〈生きる〉ということは，それ自体，絶対の意味というか，価値をもっていることはいうまでもない。したがって生きる権利としての生存権ないし生活権は，基本的人権*のうちにあっても，その中核である。そして今日の社会において，この生存ないし生活を維特するための基本的条件は，それがために必要とする収入をもっていることである。したがって，この生存権を受けて，国の責任において，これを守るための制度としての社会保障にあっては，病気・老齢・失業などの諸般の事情によって人がその本来の収入を喪失した場合，その者に所要の収入はその生活を維持し，その生存を守るための原資として，その者に与えられなければならない。国としては，それがために必要とする資金は，当然これを一般租税によって準備するか，または保障(険)料によってまかなうのである。このうち，一般歳入をもってまかなわれる制度は公的扶助とよばれ，保障(険)料をもってまかなわれる制度は社会保険とよばれるが，これらが相互に有機的に機能するときこれを社会保障という。

そもそも人間が，生まれながらにもっている固有の権利としての生活権，ないし生存権という基本的人権に対し，それを受けて国側で，それを保障する責任なり義務があるとする根拠としては，おおむね次のものが考えられる。第1は，この権利は，人が生まれながらにもっている固有の権利であって，この権利に対応する義務を負うところの相手方となるものは，特定の個人ないし特定の集団ではありえない。そこで，このような義務を負担するものは，理論の上からみても，またその能力の上からしても，国である。第2に，人間のもつ固有の権利としての生存権は，人間のすべてがもつという意味において普遍的な権利であるから，それを保障する義務は，人間が全体として共同でこれを負担することは当然である。ところが，30数億に上る全世界の人間は，観念的には人類共同体を形成するものであるとしても，歴史あって以来今日まで，この観念上の人類共同体は，現実に人間の生存権を保障しうるような具体性をもつ組織体として結成されたことがない。それに対し，人間が結成するところの組織体として強固な団結をもち，ある意味においては運命的な共同体ともいうべき実態を備えている唯一のものは国である。ある種の宗教団体や文化団体にあっては，その団結の強さ，あるいはその包含する範囲の大きさにおいて，国に劣らないもの，あるいはむしろ国を越えるものがないわけではないが，公権を背景として，人間生活の全部面に対して強固な統制を行なうところの団体としての国とは，おのずから異なるわけである。第3に，国は，前段に述べたとおり，その固有の権力としての統治権を背景として，その国民に対し，人間生活の全半面を包含しそれに対し統制を行なうところの人間集団である。ところが，このように解せられる国に対し，歴史あって以来現実に存在した国の多くのものにあっては，その統治権ないし主権は，皇帝とか王とかいわれる個人が，これを掌握し，あるいは版図拡大のためにする戦争，あるいはそれら帝王の権力の誇示，ないし栄華の達成がその究極の目的とされ，人民はそのような目的に奉仕するための道具にすぎない存在であった。

ところがいまや，統治権ないし主権は，このように，国という集団を組織している人間(国民)に由来するものとされ，その権力の行使はこれを国民の代表にゆだねられている。このような国においては，その究極の目的は当然に国民に奉仕することである。人間が人間として共通にもっている願望は，一口でいえば，福祉に満ちた人生を送るということである。したがって，人間によって組織された人間自体の集団である国が，人間の福祉の維持と推進を，その究極の目的として運営されることは当然であるといわなければならない。このようにして，福祉を守るための制度としての社会保障の樹立と推進は，現代の国にとっては唯一ではないとしても，その最高の任務であるとみるべきである。

〔わが国における社会保障〕前述のとおり，社会保障は人間が人間として生きるという基本権をもつものであり，国側にあっては，その基本権を保障する責任を負うという原理のもとに樹立される国の制度であるがゆえに，このような原理に関しての一般の認識ないし国家的承認のない時代にあっては，厳格な意味における社会保障は存在しない。

わが国において，生存権の確認，そして国がそれを保障するために社会保障制度の樹立と推進の義務を負うことを明確に宣言したのは，第2次世界大戦終了を契機として成立した憲法である。かくてわが国の社会保障は，終戦に始まり，今日までようやく4半世紀の歴史をもつ。前段において，社会保障は一般歳入の一部をもってまかなわれる公的扶助と，特別の保障(険)料をもってする社会保険が相互有機的に機能して，はじめて成立するものであるとした。したがって，公的扶助なり社会保険なりの制度が存在しているからといっても，それらの存在が直ちに社会保障の成立を意味するものではない。わが国においては，これを明治時代以後に限定しても，公的扶助は1873年(明治6)の恤救(じゅっきゅう)規則の公布にまでさかのぼることができ，社会保険は1922年(大正11)の健康保険法の制定にさかのぼることができる。ところが恤救規則は，人民御憐憫(ごれんびん)の思想から出たもので，上から下へのお情けであった。すなわちそこには人間の生きる権利に対応する国の責任というような観念はなんらこれをみることはできない。また1922年の健康保険法をはじめ，1938年の国民健康保険法，1939年の船員保険法ないし1942年の労働者年金保険法にしても，その制度樹立の真意は，産業平和，労働生産力の増強であるとか戦力としての国民，特に壮丁の健康の保持，戦力としての船員の確保，ないし購買力の調整，戦費の調達などにあったことは明瞭(めいりょう)であって，人間の生存それ自体に至上価値をおき，それを保障することが国の義務であるとする観念は，まったくそこに見いだすことはできない。したがって戦前のそれらの制度は，形態は公的扶助であり，社会保障であるとしても，両者を合わせてこれを社会保障制度であるとみることはできない。たかだか戦後に成立した社会保障の部門として操り入れられることになった公的扶助・社会保険などであり，それも換骨奪胎され，その指導精神なり根本観念なりについて，180°の転換をしての前駆形態としてみることができる程度のものである。

第2次世界大戦後に成立した憲法において，人間の生存を守る制度として発足した社会保障は，戦前ないし戦時中に制定をみ

た各種の公的扶助・社会保険に対し新しい魂を吹き込み，それらを社会保障の部門として所定の地位と機能を与えるとともに，従来欠けていた部門，たとえば失業保険とか，被用者以外の国民に対する年金制度とかの部門の樹立を行なうことによって，はじめて成立したとみるべきである。なお最近においては，児童手当制度の成立に意欲的に取り組むことによってこの社会保障制度の推進と完成に努力を傾けている。社会保障制度は，これを均衡的に体系的に整備することを心がけないで，単に要求の強いというだけでその部面の推進を図れば，そのことは，かえって国民の間に社会保障による保護の不均衡をきたし，ひとりひとりの国民にあまねくその生活を守るという，社会保障の理念から逸脱することになる。

わが国の社会保障は，これを現在あるがままの姿からみれば，その内容をなす各制度は比較的長い年月にわたり樹立されてきたものであり，制度相互の間に思想的・観念的な統一・脈絡を欠き，それらの与える保護にも厚薄まちまちであって，まったく均衡がとれているとはいいがたい。わが国の社会保障のうち，公的扶助の部門は生活保護制度を中心として構成され，全国民に対し，まったく差別のない保護を与えている。これに対し，社会保険の部門は，相互にほとんど連絡のない複雑多岐の制度に分立している。この概要を表示すれば次のごとくなる。

①被用者を対象とする社会保険

(イ) 公的被用者を対象とする制度
国家公務員共済組合(医療と年金)・国家公務員災害補償制度・地方公務員共済組合(医療と年金)・地方公務員災害補償制度・公共企業体職員共済組合

(ロ) 民間被用者を対象とする制度
健康保険制度・日雇労働者健康保険制度・厚生年金保険制度・失業保険制度(日雇失業保険を含む)・労災保険制度・船員保険制度(医療・年金・労災・失業)・私立学校教職員共済組合制度・農林漁業団体職員共済組合制度

②被用者以外の国民を対象とする社会保険
国民健康保険制度・国民年金制度

上にその概略を述べた公的扶助と社会保険の各制度のほか，社会保障を広義に解して，これを構成する部門として社会福祉*と公衆衛生*・医療を加えることがある。社会福祉や公衆衛生の諸制度を，このように公的扶助ないし社会保険とともに社会保障を構成する1部門とみるか，それとも本来の社会保障を構成するものは公的扶助と社会保険であって，社会福祉や公衆衛生は社会保障に対してはそれに関連する制度とみるかは，学者によってその見解をことにする。

次に主要各国の社会保障の概要をみよう。

【イギリス】イギリスにおいては，公的扶助は遠く1601年エリザベス女王の時代の救貧法にその端を発し，社会保険は，1911年のロイド-ジョージによる国民保険制度として創始された。それらは時代の要求に即応して，漸次改善・発展を遂げてきたのであるが，第2次世界大戦を契機として，この国が国家として意欲的に取り組んだところの福祉国家の建設，ないし推進のための中核的制度として発足した社会保障の中に取り入れられた。すなわち1939年に勃発(ぼっぱつ)した第2次世界大戦は，イギリスにとっては終始苦しい戦いであったが，開戦ののちまもなく首相チャーチルは，戦後に当面すべき荒廃より復興し，国家再建のための計画を検討樹立することの必要を痛感し，その問題を所管する大臣としてグリンウッドを任命した。かくして，グリンウッドは，戦後復興問題の最重点事項として国民生活の保障問題をとらえ，それがための調査立案のため，1941年ビバリッジを長とする委員会を設けた。この委員会における検討の結果は，翌1942年，ビバリッジ報告として政府に提出された。ビバリッジはこの報告書において，イギリスにおける公的扶助および社会保険ならびにこれに関連する諸制度は，長年にわたり時代時代の必要に応じて，漸次樹立され発展を重ねてきたものであり，各国における同種の制度に比較しても，遜色(そんしょく)をみない制度であるとして，これを高く評価しながらも，現実には今日制度間の谷間にあって，なんらの保障をも受けることのできない階層，あるいは受けうるとしても，その保障の額が過少であって，保障の効果のあがらない階層のあることを指摘した。そしてなお進んで，第2次世界大戦を契機として，これらの制度を統合し，体系化し，さらにその足らざる制度を創設し，〈ゆりかごから墓場まで〉の全生涯(ぜんしょうがい)にわたり，ひとりひとりの国民に対し，その所得を奪い，生活を脅かすようなすべての脅威から守るところの保障を与えることを勧告したのであった。

この勧告に盛られている構想を基礎として，1943年，政府は社会保障の樹立のための成案を作成し，翌年これを国会に提出したのであるが，かくて成立した制度は次のとおりである。

家族手当法(1945)・国民保険法(1946)・国民保険法(業務災害)(1946)・国民保険事業法(1946)・国民扶助法(1948)・児童法(1948)

以上6基の法律による制度は，いずれも1948年7月5日から実施に移され，ここにはじめて全国民に対し，その生涯の生活を保障するところの社会保障制度の発足をみたわけである。かくて全国民に対し幸福な生活を守ることこそ，国家の究極の目的であるとする福祉国家実現の推進に一歩を踏み出したのであった。

しかし，その発足以来20数年の社会保障の歩みはけっして平坦(へいたん)なものではなかった。はじめ無料で発足した医療保障は，まもなく処方箋(しょほうせん)料・眼鏡・義歯などについては患者一部負担方式の導入が行なわれ，また短期給付にしろ，長期給付にしろ，現金給付の額は全国民に対して従来の収入に関係なく，均一額とされていた。これに対し，1961年以降その長期給付(老齢給付)については，従来の収入が一定額を越えるものには，それに比例する醵出(きょしゅつ)を徴収するとともに，その給付額にも差などを付することに改められた。かくてビバリッジ構想以来イギリスの社会保障を貫くところの原理として，はなばなしく宣伝された全国民に対する均一醵出と均一給付の原理は，もろくもくずれ去った。さらに，そのうえ1966年以降は失業手当・疾病(しっぺい)手当などの短期給付についてもこの比例給付方式の導入をみたのであった。そもそもビバリッジ構想において，均一醵出・均一給付の原理が採用された理由は，社会保障からの給付は，イギリス国民として納得できる最低の生活をまかないうる均一給付とし，それを越える高度の生活については，国民各自の責任において準備するのが当然であるとされ，そして，このような均一の給付をまかなうためにする醵出は，これまた当然に，全国民が均一にこれを負担すべきであるとの考え方であった。イギリスの社会保障制度が，その創設にあたってとった均一醵出・均一給付の原理を180°転換することを余儀なくされたゆえんのものは，均一醵出・均一給付をもってしては，経済成長に見合う給付を行なうことが不可能となり，制度そのものの硬直性が顕著となったからと考えられる。

【アメリカ】19世紀から20世紀にかけてアメリカは，ヨーロッパ諸国に比べ新興国の性格をもち，したがって国民は開拓者精神の意気高く，広大なる地域と豊富なる資源を背景として，その経済の発展は目を見張らせるものがあり，特に第1次世界大戦以後は西欧諸国に対しても債権国として優位の立場を占め，永久の景気を謳歌(おうか)したのであった。ところが1929年のニューヨーク株式市場の暴落を契機として発生した世界恐慌*は，史上最高の規模をもって荒れ狂い，生産の停止ないし後退，したがって民衆の生活の窮迫は言語に絶するものがあった。以前にあっては，恐慌に続いて発生する不景気は，いかに深刻なものであっても2～3年の年月の経過にしたがって徐々に回復し，生産も増加し，所得も増大するのであるが，このたびの不景気は，そのような景気循環ないし景気の自動的回復の型を

破り，1932年に至ってもなお失業者は1,000万人を越え，生活困窮者は1,800万人に上った。そこで，ルーズベルト大統領は，経済の運営に関して，従来の自由放任の伝統的な方式を改め，政府の介入による新規まきなおし(ニューディール政策*)を進めることを決意し，一方においては産業復興法によって生産の再建をめざすとともに，一方においては目前の生活困窮者の救済に乗り出した。そして1932年以後実施された緊急救済のための諸施策を経て，1935年に成立をみたのが社会保障法であった。この法律による社会保障制度は，①被用者のための老齢年金制度，②公的扶助制度，③児童保護制度，④生活資金融通を目的とする信用組合制度などからなるものであるが，その中心をなすものは①の老齢年金制度である。この老齢年金制度は，鉄道従業員(別個の制度をもつ)を除く，すべての被用者を対象とする醵出制年金制度であって，はじめは老齢年金のみであったが，まもなく1937年には遺族年金が追加され，続いて障害年金を加え，今日においては老齢者のための医療保険をもその中に含むに至った。その適用範囲も，1950年には自営業者に対し，また1956年には農民ならびに専門職(医師・弁護士その他)の自営業者に対し拡大され，今日ではアメリカ国民の90％に適用され，その生活の保障に貢献している。

〔ドイツ〕ドイツの社会保険の起源は，遠く19世紀の帝政時代にさかのぼる。すなわち1881年ウィルヘルム1世は，社会政策のマグナ-カルタ*ともいうべき詔書を公布し，それに基づいて，1883年には疾病保険，1884年には災害保険，1889年には老齢廃疾遺族保険などの諸制度の発足をみたのであった。これらの各種保険は，当時ようやく勃興してきた社会主義運動に対抗して，帝国としての国家体制を防衛するため，宰相ビスマルクの献策により，一方においては治安警察力のむちによる弾圧とともに，一方ではこれら社会保険による生活の保障をあめ玉として実施されたものである。このビスマルクによる社会保険の体系は，第1次世界大戦後1918年に制定された失業保険法を加えて，いちおうその完成をみたのであった。第2次世界大戦ののち，ドイツは東西に分割されて，今日に至っており，西ドイツにおける現行制度は，適用の拡大，給付の改善など幾多の修正が行なわれたのであるが，制度の大綱としては戦前のものが堅持されている。また東ドイツの制度はソ連の影響下にあるが，その大綱はこれまた戦前のそれが踏襲されている。

〔フランス〕フランスの社会保障は，1893年の医療扶助法をはじめとして，第2次世界大戦の勃発に至るまで，十指に余る各種の制度を樹立し，年金・失業をはじめ社会保障のすべての部門に及んでいたのであるが，戦後1945年にそれらを整理統合して，現行の制度の樹立をみたのであった。現行の社会保障制度は，①商工業被用者のための一般制度，②農民のための制度，③公務員その他特殊職域労働者のための制度に大別されている。一般商工労働者のための制度は，①社会保険，②業務災害，③家族手当の3部門からなっている。社会保険の部門は，疾病・出産・廃疾・老齢・遺族などに対する給付を含んでいる。疾病給付は，医療費の8割を償還する方式をとっており，各種年金給付は，その所要財源については，賦課方式を採用している点が英米ならびにドイツの制度に対し対照的である。

以上，主要国の社会保障制度の概観を試みたのであるが，いまや，世界において100を越える国々が，この社会保障制度を樹立し，国の責任において国民の生活保障を行なっているが，そのうち特にソ連などの共産諸国，またスウェーデンなど北欧3国などは，それぞれ独自の社会保障制度を推進している。〔末高　信〕

mぐらい)を編み，その中に玉石を詰め込んだ護岸*材料。河海の堤防や岸の法覆工(のりふくこう)や根固め工として使われる。昔はかごをふじづるや竹で編んだが，古くから護岸・水制*にきわめて多く採用されてきた。

しゃかさんぞん　【釈迦三尊】　⇨三尊仏

ジャガタラぶみ　【ジャガタラ文】　江戸幕府の鎖国*政策によって，国外追放を受けた混血児とその母親が，ジャワ島のジャガタラ(ジャカルタのなまり)から故国に送った書簡。江戸幕府は1635年(寛永12)日本人の海外渡航を禁止し，翌年スペイン・ポルトガル系混血児287人をマカオに，1639年にはイギリス・オランダ系混血児32人をジャカルタに追放した。最初は国外に追放された日本人と故国との交通は厳禁されていたが，1655年(明暦1)ごろから禁令が緩和された。これらの手紙のうち〈はる〉という名の女性のものが西川如見*の《長崎夜話草》にジャガタラ文の名称で載せられている。その手紙は，〈あら日本恋しや，ゆかしや，見たや，見たや〉という詠嘆で結ばれ，読者の心を打ったが，多分に如見の潤色も加わっているとみられている。〔高崎徳次〕

ジャカード　[jacquard]　フランスのJ.M.ジャカール*が1801年に完成した紋織機，およびそれで織った紋織物に紋紙を利用して複雑な模様織物を能率的に織り出す織機として広く普及し，絹織物・化繊織物などに用いられている。タペストリー・ブロケード・ダマスク・ネクタイ地・敷き物など，各種の糸で精巧な模様が織られる。



シャガール《黄昏》1938～1943　パリ国立近代美術館

しゃかむにぶつ　【釈迦牟尼仏】　仏教の開祖ブッダのこと。梵語(ぼんご) Śākya-muni-buddha(シャーキャムニ-ブッダ)の音訳で，ブッダは現在のネパール地方の小部族シャーキャ族の出身であったことから，その部族の聖者という尊称でよばれた。➔ブッダ

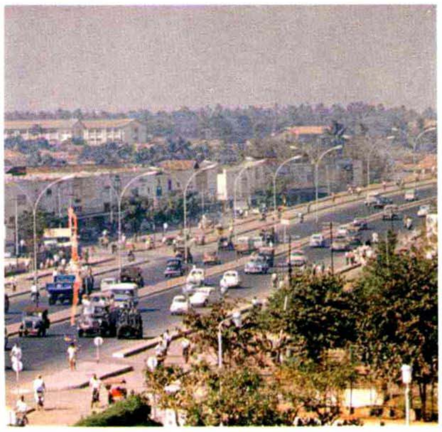
シャガール　[Marc Chagall]　(1887～　)　エコール-ド-パリ*の1人に数えられている。ポーランドとの国境に近いビテブスクのユダヤ人部落に生まれ，ペテルブルクの美術学校に学んだのち，1910年パリに出る。第1次・第2次世界大戦の期間を除いてはおもにパリを中心に活躍し，現在は南仏バンスで制作している。キュービスム*の影響から出発したが，やがて神秘的象徴主義と奔放な詩的想像力にささえられた独自な幻想を本質とするようになる。画面ではさまざまな追憶や夢や体験，さらにいっさいの時空が交錯して，一種魔術的な色彩の世界を織り出している。〔岸野悦子〕

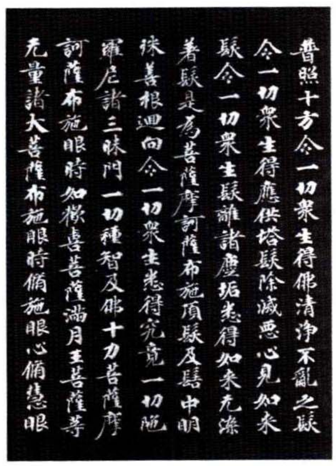
ジャカール　[Joseph Marie Jacquard]　(1752～1834)　フランスの発明家，紋織機で有名。リヨンの絹織工の子。製本や活字鋳造の徒弟をつとめ，精巧な模様を織る紋織機の改良に志した。1801年に完成した織機は，従来の紋織機の発明を組み合わせたもので，絹織物工業への貢献が認められ，多くの表彰を受けた。日本では彼の発明になる機械をジャカード*とよんでいる。

ジャカルタ　[Djakarta]　インドネシア共和国の首都。東南アジア第1の都市で，ジャワ島西北部海岸に面し，チリウン川下流に位置する。人口457万6,000(1974)。旧名バタビア。古くはスンダカラパとよばれ

る地方的集落であったが，1527年バンタン王国によって征服された際，ジャカルタ（勝利の町の意）と改名された。1619年バタビアと改め，以来オランダ領東インドの中心として発展した。1945年インドネシア共和国が独立し，その首都となるとともに，再びジャカルタと改称された。市街は約10kmにわたって南北に細長く延び，海岸に近く華僑(かきょう)商店の多い下町（商業地区）コタ-ラマと，新市区（官庁・学校・住宅地区）コタ-バルーとに分かれる。またチリウン川の多数の運河が貫流して，木立ちも多く典型的な熱帯都市の景観を示している。第２次世界大戦後は新興国の首都として発展しているが，住民の貧富の差は著しく，さらに独立後は人口が急激にふえている。旧バタビア城などの史跡に富む。鉄道の要地でもあり，フマヨラン国際空港がある。なお，江戸初期には日本人の南洋発展に伴って移住する者が少なくなく，ジャカルタをジャガタラとなまって知られたが，その後鎖国政策の強化により1639年（寛永16）にはオランダ系混血児およびその母親がここに追放され，その悲哀は〈ジャガタラ文*〉で知られる。〔別技篤彦〕

しゃきょう　**【写経】**　仏教の経典を書写すること。また書写された経典。インド初期仏教では経典は口承によって伝えられ，写経は行なわれなかったようであるが，のちに大乗仏教では仏塔の礼拝，経典の読誦(どくじゅ)とともに写経の功徳が高く評価されている。中国では２世紀中ごろ，後漢に経典の漢訳が行なわれると，写経が盛んに行なわれた。北魏(ほくぎ)にはすでに一切経(いっさいきょう)の書写が行なわれ，隋(ずい)・唐のころには一般にも普及した。しかし，北宋(ほくそう)に印刷術が起こって経典の刊行が行なわれるようになると，写経は衰えた。わが国では，673年（天武１）大和(やまと)（奈良県）の川原寺で一切経を書写したことが《日本書紀》にみえるが，現存の写経で最も古いのは686年河内(かわち)（大阪府）の教化僧宝林が書写した《金剛場陀羅尼経(こんごうじょうだらにきょう)》であり，書風は唐の欧陽詢(おうようじゅん)ふうである。奈良時代には仏教が盛んになるとともに写経も盛んに行なわれ，特に官設の写経所では経師・経生は経文を書写し，校生は校正し，装潢(そうこう)は紙を染め，継ぎ，表紙・軸をつけて巻子本*(かんすぼん)に仕立て，題師は外題を書いた。また官設に限らず寺院・貴族などの写経所があり，なかでも東大寺の写経所の活躍はめざましかった。当時の書風は隋・唐ふうである。平安初期に修行本位の天台・真言両宗が盛んになると，写経はやや衰えたが，平安後期に末法思想が広まると再び盛んになった。特に《法華経(ほけきょう)》の書写が流行し，書風も和風になり，料紙・表紙・見返し・軸などに善美を尽くした装飾経がたくさん書写された。《久能寺経》《平家納経*》は最も優美


ジャカルタ　メインストリートの一つタムソン街。増大する交通量に備えて，整備された道路が次々と建設されている


写　　経　伝空海筆　《真字切》


笏

華麗である。また《下絵経冊子》や《扇面古写経*》など，種々趣向を凝らした写経もつくられた。しかし，鎌倉時代に新しい宗派が広まり，また宋の版経が輸入されるようになると，写経は再び衰えた。その後は，功徳を積む目的で信仰心の厚い人々によって行なわれた。

なお，写経はふつう巻子本で，料紙に界を引いて，楷書(かいしょ)で１行17字詰めに書写する。字形はやや扁平(へんぺい)にして整斉(せいせい)である。墨字のほか金字・銀字・彩字・血字などがある。また，書写の態度によって，時間を限って急速に行なう頓(とん)写経，一定の規式に従って書写する如法経，ひとりで全巻を書写する一筆経などがある。〔春名好重・京戸慈光〕

しゃぎり　**【砂切】**　車切とも書く。囃子(はやし)のパターンの一で，狂言では能管だけで奏され，１曲がめでたく終了するときに用いられる。歌舞伎(かぶき)の下座音楽としては，最後の幕を除く各幕の終わりで，拍子木に続いて笛・太鼓・大太鼓で奏するパターン。

しゃく　**【笏】**　礼服*(らいふく)または束帯*着用のときに，官人が威容を正すために持つ長方形の細長い板。〈さく〉ともいう。クジラの骨でつくった牙笏(げしゃく)とイチイでつくった木笏がある。養老律令*(りつりょう)では礼服着用のときには五位以上は牙笏，六位以下は木笏（束帯着用のときには一般の人々も持った）とそれぞれ規定していた。朝廷の公事を行なうときに，儀式の次第などを忘れないよう，裏に笏紙をはったりした。なお，神官や神拝のとき，衣冠を着けての神拝にも笏を持った。〔河鰭実英〕

しゃく　**【尺】**　尺貫法の長さの単位。かね尺と鯨尺の２種あり，かね尺の１尺は１mの10/33（約0.30303m），鯨尺の１尺はかね尺の1.25尺，すなわち，１mの25/66（約0.37878m）と定められている。尺を基本として，単位系が次のように組み立てられている。ただし，間以上はかね尺の場合のみ。

寸＝１/10尺，分＝１/10寸，厘＝１/10分，毛＝１/10厘，丈＝10尺，間＝６尺，町＝60間，里＝36町。

しゃく　**【勺】**　①尺貫法の面積の単位。１/100歩（坪）に相当し，約0.033m^2にあたる。②尺貫法の体積の単位。１/100升に相当し，約18.039mlにあたる。

しやく　**【試薬】**　俗に化学薬品ともよばれる。化学分析または化学的な各種の試験・検査，試料の調製などに用いられる化学物質の総称で，保健衛生・治療などに供せられる医薬品*と区別される。そのうち，無機化合物を無機試薬，有機化合物を有機試薬といい，常温・常圧で固相のものを固体試薬，液体のものを液体試薬，気相にあるものを気体試薬という。塩酸や硫酸などの一般的な試薬のほかに，ネスラー試薬*などのような特定の目的に用いられる分析試薬もある。なお試薬は，いろいろの純度格差が設けられており，使用目的や要求精度に応じて選択使用される。〔三輪誠・野宮健司〕

しゃくい　**【爵位】**　日本では，1884年（明治17）華族*令によって定められた公・侯・伯・子・男の五爵位をいう。はじめの授爵者は華族および明治維新前後の功労者とその嗣子で508名を数えた。1889年大日本帝国憲法*で，授爵は天皇の大権行為の一つとされ，同時に発布された貴族院*令によって，満30歳に達した公・侯爵の全員，および伯・子・男爵中，同爵の間で互選された者は貴族院議員になることが定められた。爵位

は世襲で，授爵後さらに功労があれば昇爵され，伊藤博文*(いとうひろぶみ)らの藩閥政治家の中から公爵に達する者も出た。多くは政治家・軍人・官吏であったが，のちには実業家にも授爵されるようになった。第2次世界大戦後，1947年(昭和22)新憲法施行とともに廃止された。〔高崎徳次〕

しゃくし【杓子】飯・しるなどをすくう調理用具。一般に飯用のものを〈しゃもじ〉といい，古くは〈かい〉あるいは〈へら〉とよんでいた。昔から形態の変化に乏しく，竹製や漆塗りもあるが白木製が最も多い。しる用のものはおもに金属製で〈玉じゃくし〉とよばれ，小さな穴をあけた〈穴じゃくし〉はしるの中から煮物をすくい上げるのに用いられる。

じゃくし【弱視】目に病気が認められないのに十分な視力のないものをいう。生まれつき視力の弱い先天性弱視，斜視などで目を使わないために起こる廃用性弱視，ヒステリーで起こるヒステリー性弱視などがある。

しゃくしな【杓子菜】双子葉植物・アブラナ科。タイサイ・ホテイナともいう。中国原産の一年草で，カブの変種とされる。日本では関西および九州で栽培される。高さ30～75cm。葉は根ぎわに集まり，倒卵形で，葉柄は大きく多肉。花は4弁で淡黄色。つけ菜として利用される。

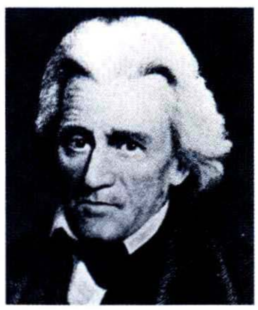
しゃくじょう【錫杖】鳴杖・智杖(ちじょう)・徳杖などともいい，僧侶(そうりょ)・修験者(しゅげんじゃ)の持つ杖(つえ)。インドで，僧侶が遊行するとき，毒蛇(どくじゃ)や毒虫の害を防ぎ害獣を退散させるために振り鳴らし，勧進のときにこれを鳴らして民家の注意を喚起したり，来意を告げたりするのにも用いる。大乗や密教では法会の儀式用具として使用され，梵唄(ぼんばい)(→声明(しょうみょう))を唱するときに錫杖を振り鳴らして唱和する。頭部をなす金属製の錫と木製または金属製の杖の部分からなり，錫は二股(ふたまた)をつくって各股に三環をつけるのが通例である。〔河田 貞〕

しゃくじん【石神】いしがみ・しゃぐじ・ざぐじともよび，社宮司・社公司・佐久神などの字をあてることもある。石神という字名は全国的にみられる。神霊がある特別な石にこもるとする石神(せきしん・いしがみ)信仰に基づくもので，石神として祭られる石には形や色に特色あるものが多い。ある種の石は霊威あるものと考えられ，成長するとか，子を生んでふえるなどの伝説を伴うものがある。なお，石神信仰の内容は百日咳(ひゃくにちぜき)をなおすとか，病をとってくれるとかの民間療法の意味で祈願されているものが多く，また境を守る神ともされている。〔直江広治〕

ジャクソン［Jackson］アメリカ合衆国ミシシッピ州の州都。人口16万7,000(1975)。州の中央部に位置し，パール川に沿い，商工業を中心とする州第1の都市。綿花の取引が盛んで，石油工業が発達している。州の教育・文化の中心地で，ミシシッピ大学医学部やジャクソン-カレッジなどがある。



錫　杖
高山念禅所持(寺伝)(法隆寺献納宝物)東京国立博物館蔵



A・ジャクソン

ジャクソン［Andrew Jackson］(1767～1845) アメリカ合衆国の第7代大統領。在任1829～1837年。開拓民の子としてサウスカロライナ州に生まれる。1802年テネシー州民兵軍司令官となり，1812年戦争*に参加し，1815年ニューオーリンズの戦いでイギリス軍を敗り，一躍国民的英雄となる。1828年庶民の絶対支持を得て大統領に当選しアメリカ史上最初の〈丸木小屋生まれの大統領〉となった。任期中は〈人民に支配せしめよ〉のスローガンのもとに国民的要求に沿った政治を行ない，いわゆる〈ジャクソニアン-デモクラシー〉の時代を招来した。1837年引退してからは故郷テネシー州の農園で余生を送った。

ジャクソン［Mahalia Jackson］(1911～1972) アメリカのゴスペル歌手。ニューオーリンズの生まれ。信仰心の厚い両親のもとで育ち，16歳でシカゴに出て聖歌隊などで歌う。1930～1940年代にかけてゴスペルの育成と普及に尽くした。1947年の《ウィル-ムーブ-オン-アップ-ア-リトルハイヤー》で一躍人気歌手となる。黒人独特のソウルと敬虔(けいけん)な響きをもつ歌は多くの人々に感動を与えてきた。代表作に《グレーテスト-ヒット》(CBS)がある。1971年4月来日。〔岩浪洋三〕

ジャクソンビル［Jacksonville］アメリカ合衆国フロリダ州北東部，セントジョーンズ川河口近くに発達した河港都市。人口56万2,000(1975)。商業都市であるとともに，塗料・油脂・肥料・たばこ・綿製品などの工業があり，木材・綿などを積み出す。観光保養地にもなっている。

じゃくたいほけん【弱体保険】⇨標準下体保険

しゃくちほう【借地法】建物の所有を目的とする借地関係において，借地人の保護を図るために制定された特別法。1921年(大正10)に東京・大阪などの大都会を施行区域として制定された。その後1941年(昭和16)に借地人の保護強化のための大改正を行なうとともに，施行区域の制限も廃して全国に適用するものとした。さらに1966年には，第2次世界大戦後からの住宅難事情のためその一部が改正され今日に至っている。借地法に規定するおもな内容は，①物権である地上権*と債権である賃借権*のうち，建物の所有を目的とするものを統一して借地権と称し，両権利の差異を解消して同一効力を付与しようとしていることである(借地法1条)。②借地権の存続期間の長期化の規定であり，借地権の存続期間を契約で定めなかったときには石造・土造・れんが造などの堅固な建物は60年，その他の建物は30年の法定借地期間が認められている。借地期間を契約で定める場合でも，それぞれについて30年・20年未満とすることはできず，この期間を下回る特約をなしたときには，特約がなかったものとして法定借地期間が適用される。ただし，期間満了前に建物が朽廃したときには借地権はこれによって消滅する(借地法2条)。朽廃とは建物が自然に腐食してその社会経済的効果を失うことをいい，天災地変による滅失のことではない。③法定更新の強化規定であり，借地契約が終了したときに建物が残っている場合，借地人が契約の更新*を請求したならば，地主がこれに対してみずから土地使用を必要とすることその他正当事由あることの異議を遅滞なく述べないかぎり，前契約と同一条件でもって借地契約は更新されたものとみなされる(借地法4条)。また借地権消滅後借地人が土地を継続して使用している場合に地主がこれに対して遅滞なく異議を述べなかったときも同様である(借地法6条)。更新後の借地期間は堅固な建物は30年，その他の建物は20年である。④借地人に建物買い取り請求権を認める規定であり，契約の更新がなければ借地権は消滅することになるが，その際建物をとりこわして更地*(さらち)にしてから地主に明け渡さなければならないようでは社会経済的にも損失であるため，地主にその建物を時価で買い取る義務を負わせている(借地法4条2項)。⑤両当事者に地代の増減請求権を認める規定であ


ゴマダラナミシャク


ハイイロオオエダシャク


ユウマダラエダシャク

シャクトリガ

り，公租公課の増減，土地価格の高低および近隣土地の地代に比較して不相当になったときには，契約条件にかかわらず当事者は将来に向かってのみ地代の増減を請求することができる。協議がととのわない場合，裁判所で決めてもらえる(借地法12条)。⑥事情変更による借地条件の変更についての規定であり，防火地域の指定や付近の土地の利用状況その他の事情変更により従来の借地条件を変更することが適当と認めるに至ったときには，当事者はこれについて協議することができ，協議がととのわない場合，裁判所で決めてもらえる(借地法8条2項)。⑦借地権の譲渡・転貸の緩和についての規定であり，借地人がその所有の建物を他人に売り渡したい場合，それが賃貸借に基づく土地の賃借権であるならば，地主から賃借権の譲渡・転貸の同意を得るか，地主と建物の買い主との間に新たな借地契約が成立しなければ賃借権をもって地主に対抗することはできない。そこで，借地法は建物を第三者に譲渡・転貸しても地主に不利益が生ずるおそれがないにもかかわらず，地主が借地権の譲り渡し・転貸の承諾をしない場合には，借地人は裁判所から地主の承諾に代わる許可を求めうることを認めている(借地法9条2項)。以上のような規定は，土地賃借権という債権を物権化させるものであり，借地人の地位はこれによって著しく保護されることになった。〔黒木三郎〕

しゃくちょうくう 【釈迢空】 ⇨折口信夫(しのぶ)

しゃくどう 【赤銅】 銅に金2～8％を加えた合金。なお少量(1％内外)の銀を含むものもある。古来日本で美術品の製作に用いられる。赤銅の製品を緑青7.5匁(約28g)，タンバン5匁(約19g)，水2.5升(約4.5 l)の溶液中で煮沸すると表面に美麗な紫かっ色の被覆物を生じ着色する。

しゃくとりが 【尺取蛾】 こん虫類・鱗翅(りんし)目・シャクトリガ科の総称。単にシャクガということが多い。非常に大きい群で，全世界から約8,000種が知られ，日本にも約600種が分布する。小形ないし中形の種類が多い。体は細長く，翅(はね)は体に比べて大きい。口吻(こうふん)は一般によく発達している。腹部は一般に短い。脚は一般に細長く，特に前脚はよく発達する。翅は大きく，翅脈も発達しているが，フユシャク類の雌のようにほとんどあるいは完全に退化しているものもある。多くのものは夜行性で，燈火にもよく飛来するが，昼間活動性の種類もかなり知られる。中でもカバシャク・キオビエダシャクなどはチョウのような美しい色彩をもち，日中活発に飛翔(ひしょう)する。成虫は初夏に出現するものが多いが，早春だけ出現する種類や秋季にのみ出現する種類もある。また，フユシャク類のように晩秋から厳寒期にかけてのみ成虫の出現する特異な群もある。幼虫はふつうシャクトリムシといわれ，細長い円筒状をしており，毛でおおわれることはほとんどない。胸脚のほか，腹部の後端部に数対の腹脚があり，歩行の際は腹部の背面を馬蹄(ばてい)形に曲げ，ちょうど人差し指と親指で長さをはかるときの状態に似る。静止時には腹脚で小枝をつかんで体を直線的にするため，枯れ枝と見誤るほどである。大部分の種が樹木の葉を食べ，草本につくものが少ないことは，この特異な歩行と関係があると考えられる。森林害虫・果樹害虫・庭園樹害虫などが多いが，大きな被害を与える種類は多くない。サクラ・モモなどにつくウスバフユシャク，リンゴにつくイチモジフユナミシャク，チャノキにつくチャエダシャク，クワにつくクワエダシャク，スギにつくミスジツマキリエダシャクなどが重要な害虫として知られている。

シャクガ科は，エダシャク亜科・ナミシャク亜科・カバシャク亜科・アオシャク亜科・ヒメシャク亜科・ホンシャク亜科の6亜科に分類され，日本にはエダシャク亜科とナミシャク亜科に属する種類が多い。また，これらの亜科をすべて独立の科として扱う研究者もある。日本に産する代表的な種類には，上記のほかカバシャク・シロオビフユシャク・ホシシャク・キバアオシャク・チズモンアオシャク・シロオビアオシャク・ヒトツメオオシロヒメシャク・キガシラオオナミシャク・ウメエダシャク・キオビエダシャク・キマダラツバメエダシャク・アミメオオエダシャクなどがある。〔鈴木邦雄〕

しゃくとりむし 【尺取虫】 ⇨シャクトリガ

しゃくなげ 【石楠花】 双子葉植物・ツツジ科・シャクナゲ属のうち，高さ2～3mの常緑低木で，深山に自生するものの総称。葉は細長い楕円(だえん)形で全縁，縁は裏側に少しまき，厚ぼったく，革質で，表面には光沢がある。花は5～6月に前年の枝先に多数つく。アズマシャクナゲは，本州中部の山地に分布し，花冠は直径4～5cm，先が5裂し，おしべ10本，子房は5室で淡かっ色の毛があり，花柱は無毛，果実は短い円柱形で長さ1.5～2cmある。ツクシシャクナゲは本州中部以西，四国・九州の山地に分布し，花冠は直径4～5cm，先が7裂し，おしべ14本，子房は7室でかっ色の密毛があり，花柱は無毛，果実は細長く，7裂する。ハクサンシャクナゲはアズマシャクナゲより高地(1,000～2,000m)に分布し，花は白色～紅色などである。キ






シャクナゲ (上)ツクシシャクナゲ (中)キバナシャクナゲ (下)ハクサンシャクナゲ

バナシャクナゲは本州中北部の高山帯・北海道・サハリン(樺太(からふと))に分布しており，花冠は淡黄色である。その他，日本にはホソバシャクナゲ・ヤクシマシャクナゲなど数種があり，いずれも観賞用として植えられる。〔加藤僖重〕

しゃくはち【尺八】日本・中国で用いられる縦吹きのリードのない竹製管楽器。今日，尺八といえば，江戸時代の普化宗(ふけしゅう)に属する虚無僧(こむそう)によって使われはじめたものをさす。これはさまざまな大きさがあるが，1尺8寸(約55cm)のニ(D)管を基準とし，表に4孔，裏に1孔をもつ。普化宗では尺八は法器とされ，その音楽も宗教上の意味をもっていたが，ここから出た江戸中期の黒沢琴古が琴古流*を興し，さらに明治維新で普化宗が廃宗になり，一時衰えたが，1896年(明治29)には都山流*も生まれ，今日では多くの弟子(でし)をもっている。

尺八は穴の全開・全閉のみで出せる音が音楽構造的に重要な音であるが，穴を半分あける方法や，首を縦に振ってくちびると歌口(マウスピース)の角度を変化させることによって望みの音高を得ることができる(→メリ・カリ)。また，首を横に振ることにより音量を変化させ，一種のビブラート的効果も与える。江戸時代に成立したと思われる古典曲は比較的単純な骨組みに，上に述べたような細かなニュアンスで変化をつけて複雑にしたものであるが，使われるパターンは多くの曲に共通している。なお，明治以後も新曲がつくられているが，最近10年くらいの間に，広瀬量平・諸井(もろい)誠*・武満徹*(たけみつとおる)らが現代の音楽技法や音楽観を尺八の技法に結びつけてすぐれた曲を書き，また，古典の奏者のほかに，青木静夫(しずお)・横山勝也(かつや)らの現代曲の解釈にもすぐれた若手の奏者が現われて，純器楽としての尺八音楽が注目されている。なお，普化尺八以外に一節切*(ひとよぎり)・天吹*(てんぷく)がある。〔徳丸吉彦〕

尺八



しゃくびょうし【笏拍子】雅楽の打楽器。木の2枚の板で，歌唱のリーダーが両手にもって打ちつけて音を出し，リズムを明確にする。大和歌(やまとうた)や催馬楽*(さいばら)で用いられる。なお歌舞伎(かぶき)の下座音楽では，上述のもののほか，二つの小さな木魚を組み合わせたものをこの名でよぶこともあり，また願人(がんにん)坊主*の鳴り物として用いられた。

しゃくぶく・しょうじゅ【折伏・摂受】仏教で人々を教導する2種の方法。折伏は相手を強く説いて打ち砕き，迷いをさまさせる方法，摂受は相手を受け入れて穏やかに説得する方法で，《勝鬘経(しょうまんぎょう)》に説かれている。吉蔵*は《勝鬘宝窟(ほうくつ)》において，剛強を威力によって降伏(ごうぶく)して悪を離れしめ，柔軟を道力によって摂取して善に住せしめると注釈している。智顗*(ちぎ)は《法華経(ほけきょう)玄義》において，法華の折伏は劣悪の異説を論破し，涅槃(ねはん)の摂受は異説の存在を許容することと解した。日蓮(にちれん)は《開目鈔*(かいもくしょう)》において，摂受と折伏は水と火のように立場が異なり，摂受の者は折伏を笑い，折伏の者は摂受を悲しむといい，無智悪人が国土に充満しているときは摂受を，邪智謗法(ほうぼう)の者が多いときは折伏をとるべきであるとし，末法の破法の国においては折伏が有効であると主張した。〔塚本啓祥〕

しゃくほう【釈放】留置場または監獄に拘束されている被疑者または被告人の拘束を解くこと。被疑者については，①拘束の必要がなくなったとき，②拘留状が発せられなく逮捕期間満了のとき，③不起訴処分が決まったときなど，被告人については，①拘留期間満了のとき，②無罪や執行猶予の判決があったときなどには釈放しなければならない。なお，刑期満了および保釈*による身がらの自由は，出所という。

しゃぐまゆり ⇨トリトマ

しゃくめいけん【釈明権】民事訴訟法上，事案の内容を明らかにする主役は原告・被告の当事者であるが，裁判所もまた紛争を解決する責任上，当事者の口頭弁論のときに不明瞭(ふめいりょう)の箇所を質問したり，陳述の趣旨を了解するために質問したりする権能がある。これを釈明権という。

しゃくやく【芍薬】双子葉植物・キンポウゲ科。中国北部原産の多年草で，短い根茎から紡錘形の根が多数出る。高さ0.5〜1mで，葉は長い柄で互生し，2回3出複葉。花は直径12cmほどで，茎の上に1個つく。果実は袋果で，熟すと裂ける。BC500



一重　金ずい

翁咲き　冠咲き

バラ咲き　オランダシャクヤク

シャクヤク

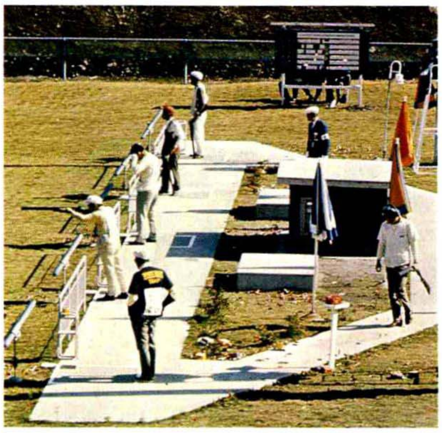
年ごろから薬草として栽培されていたが，隋(ずい)代(581〜619)から花が観賞されるようになり，園芸品種も増加した。わが国では，《仙伝抄(せんでんしょう)》(1445)に栽培の記録があり，《花壇綱目》(1681)には32品種，《花譜》(1694)には100品種余りが掲げられている。明治時代にも100品種以上が数えられ，昭和初期には700に及ぶ品種が記録されている。これらは主としてアルビフローラ種から改良されたものである。このほかに西洋シャクヤク・オランダシャクヤクといわれるオフィシナリス種から改良されたものがあり，これは南ヨーロッパ・西部アジア原産で，開花期が10〜15日早い。近年アメリカで作出されたキバナシャクヤクも知られる。シャクヤクは花型によって，一重・金ずい・翁吹き・冠咲き・手毬(てまり)・半バラ・バラ咲き・半八重・平バラなどに分けられる。栽培は日あたりのよい肥沃(ひよく)な壌土(じょうど)につくる。繁殖は株分けによる。〔小杉 清〕

シャクルトン [Ernest Henry Shackleton] (1874〜1922) イギリスの探検家。スコット*の第1回南極探検(1901)に隊員として参加し，以後南極探検に生涯(しょうがい)をささげた。1907〜1908年にはみずから探検隊を組織して南極に向かい，南磁極を発見し，南緯88°23′に達したが事故のため引き返した。1914〜1916年には南極大陸の横断を試みたが南氷洋で難船し，さらに1921年の探検では不幸にも船中で病死した。

じゃくれん【寂蓮】 (1139？〜1202) 鎌倉初期の歌人。本名藤原定長。父は俊成*(としなり)の弟俊海で，父出家後俊成の養子となったが，俊成の嫡男定家が生誕したので定家が10歳になった1171年(承安1)ごろ養子を辞して出家したらしい。以後嵯峨(さが)に住み，また諸国を旅したが，中央歌界でも活躍し，《新古今和歌集*》選者のひとりに選ばれた。定家とともに俊成歌風の正統を受け継いだ歌人である。家集に《寂蓮法師集》がある。

シャクンタラー 5世紀のインドの詩人カーリダーサ*の戯曲。7幕。山間の庵(いおり)に住むシャクンタラー姫は王ドフシャンタに見そめられ，妊娠して都に王を訪ねるが，仙人(せんにん)ののろいを受けた王は姫を思い出さない。しかし，やがてのろいは解けて，ハッピー-エンドで結ばれる。人情の機微や風物の描写に非凡な詩才が発揮されていて，インドで最も著名な戯曲であるとともに，18世紀末ヨーロッパに紹介されて絶賛された。〔原 実〕

しゃけい【斜頸】 頸部が傾いて拘縮を起こした状態の総称。筋性斜頸が最も多いが，炎症性斜頸や火傷などによる瘢痕(はんこん)性斜頸，頸椎(けいつい)の奇形やカリエスなどによる骨性斜頸，錐体(すいたい)外路系統による神経性斜頸，まれに脊髄(せきずい)性小児麻痺(まひ)による麻痺性斜頸，習慣性斜頸，耳性斜頸，複視・斜視による眼性斜頸などがある。整形外科で原因を確かめて治療にはいるべきで，みだりにマッサージなどを行なうべきでない。〔山中英夫〕





射撃競技 (上)クレー射撃 (下)ライフル射撃 第24回長崎国民体育大会 1969

しゃげききょうぎ【射撃競技】 ライフル銃・拳銃(けんじゅう)・散弾銃によって標的を撃つ競技。15世紀から16世紀にかけてヨーロッパ各地に急速に広まった競技。1897年フランスのリヨンで第1回世界射撃選手権大会が行なわれ，オリンピック種目としては第2回大会から正式競技として採用された。日本での射撃競技の歴史は1882年(明治15)射撃競技団体の東京共同射撃会社が生まれたことから始まり，1925年(大正14)東京大学・明治大学の学生を中心に日本学生射撃連盟が結成され，その年の第2回神宮大会に正式競技として採用された。第2次世界大戦後は真のスポーツとして全国的に普及し，現代射撃競技の統轄団体として日本クレー射撃協会(JCPSA)・日本ライフル射撃協会(NRAJ)があり，国際射撃連合(UIT)に加盟している。

【種類】 ライフル銃とピストルを使用し，実包で標的を射撃するライフル射撃と，散弾銃を使用するクレー射撃競技に大別する。国際的競技種目は①エアー-ライフル競技(空気銃)：ポンプ式・スプリング式・ガス銃の種類があり，口径4.5mmで20分以内に10発射撃し，伏射・膝射(しっしゃ)・立射の3姿勢競技に分かれる。②フリー-ピストル：口径5.6mmで距離50mから60発を3時間以内で射つ。③ランニング-ディア：シカを模した動く標的を距離100mから立射。④ラビット-ファイヤー-ピストル：25mの距離から5個の回転式シルエットを口径5.6mmの自動式拳銃・連発式拳銃で立射。⑤クレー：通常6名の射手による1射団が直径11cmのクレー(ピッチ・石灰を材料とした円形のもの)を空中にトラップ(放出機)で飛ばし，これを口径12番(18.5mm)以下の散弾銃で15mの距離から射ち，標的が粉砕されたものを命中とし，その得点数によって順位を決定する競技で，次の二つに分けられる。㋑クレー-ピジョン(トラップ)：一直線上に置かれた5グループのトラップから前面90°の範囲へ放出された1個のクレーを順次射台を回って25発射を1ランドとし射つ。4・8・12ランドの種目がある。㋺スキート：ハイ-ハウス(高い射台)とロー-ハウス(低い射台)から放出する2個のクレーを1〜8までの射台から射撃し，1と2，6と7の射台では二つ同時に放出されたクレーを2重撃する。その他，スモール-ボアー-ライフル・フリー-ライフルがある。〔中出水勲〕

しゃけつ【瀉血】 治療の目的で静脈血を100〜300cc採血すること。高血圧症の治療に使われたことがあったが，現在では高度の肺鬱血(はいうっけつ)・肺水腫(はいすいしゅ)・真性多血症などで試みられ，心臓循環系の負担を軽くするのに効果がある。ただし貧血のあるときは禁忌である。

ジャケット [jacket] 短いコートに似た上着の総称。上着としてズボンやスカート・ワンピースなどと組み合わせる場合と，スーツとして上下そろえて用いる場合がある。一般的にはそでつきで前あきのものが多い。たけはウエストたけくらいのボレロとよばれる短く軽快なものから，ヒップラインたけ，さらに長めのロングジャケットといわれるものまであり，それ以上のたけになるとコートの分野にはいる。型はボックス・セミフィット，ウエストにぴったり合わせたものなどあり，シルエットに特別の制約はない。〔小池千枝〕

しゃけん【車検】 ⇨自動車

しゃこ【鷓鴣】 鳥類・キジ科のシャコ類の総称。一般にウズラ*よりくちばしが長めでがっしりしている。尾もやや長め。ヨーロッパ・アジア・アフリカに分布し，ヨーロッパ・アジアではシャコ(アジア中央部に分布するハト大の鳥)およびイワシャコ*類，日本ではコジュケイ*など，狩猟鳥として主要なものが多い。カンムリシャコはマライ半島・ボルネオ・スマトラに分布し，コジュケイよりも小形で，雄は赤紫色の冠毛があり，上面はオリーブ色，下面は黒青色で美しいので知られる。台湾特産のミヤマテッケイは第2次世界大戦前に日本の山野に放鳥されたが，現在は定着していない。



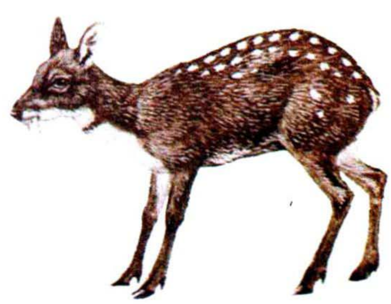
シャコ



ジャコウアゲハ



ジャコウウシ



ジャコウジカ

しゃこ 【蝦蛄】 甲殻(こうかく)類・シャコ科。体長18cmほどになり，頭胸部は小さく，腹部は長大で，背後方向に扁平(へんぺい)である。尾部と尾脚は大きく，どろを掘ったり移動するのに用いられる。強大な捕脚が1対あり，小魚やゴカイ・エビ・カニなどを捕食する。全体に灰青色で，ところどころが青・黄・だいだい色などにいろどられる。雌は6月ごろに産卵し，球形の卵塊を口の付近にかかえこんで保護する。孵化(ふか)した幼生は，シャコ類に特有のアリマ幼生(プセウドゾエア幼生ともいい，他の甲殻類のゾエア幼生に似るが腹部が長い)となり，浮遊生活をする。次いで2～3の変態を経たのち，底生生活に移る。日本全土に分布し，内湾のどろ深い10～30mの海底に尾で穴を掘って潜み，ふつう明け方に他の動物を捕食するが，大きな捕脚を用いて捕食するようすは陸上のカマキリを思わせる。ゆでて甲を除き，食用にされる。エビ・カニ・ヤドカリなどと異なり，ゆでても赤くならずに紫紅色になる。塩ゆで・煮付け・すし種などにして賞味され，春から初夏にかけて腹に卵(かっ色で，独特の歯ごたえと風味があり，東京付近では俗にカツブシといわれる)をもっているものは，特に珍重される。よく似たものにミナミシャコがあり，瀬戸内以南に分布する。さらに，南方海域には，ハナシャコ・フトユビシャコ・トラフシャコなど，多くの美しい種類がいる。わが国でもときにこれらをみかけることがある。〔菅野　徹〕

じゃこう 【麝香】 ムスクともいい，中央アジア・サハリン(樺太(からふと))の山岳地帯にすむジャコウジカ*の腺嚢(せんのう)に含まれるアズキ粒大の赤かっ色～黒色の腺分泌物で，その香嚢を切り取って乾燥したもの。そのままでは不快な臭気を有すが，十分に希釈すると特有の芳香を放ち，アルコールに3か月ぐらいつけておくと淡茶色の液体(ジャコウチンキ)になる。有香成分はムスコン(0.5～2％)。保留力が強く，特に高級香料の保留剤とされるほか，強心剤などに用いられる。〔岡部平八郎〕

じゃこうあげは 【麝香揚羽】 こん虫類鱗翅(りんし)目・アゲハチョウ科。体から特異な香気を発するためこの名がある。翅(はね)を広げた長さ90～110mm。雌雄で著しく色彩が異なる。雄は黒色で，後翅はやや濃色で紫色をおび，表面よりも淡色な裏面の外縁各室には紅色の三日月状紋がある。雌は暗灰色で，翅脈と翅縁部が濃色。後翅には淡黄赤色の三日月状紋がある。裏面は表面よりも濃色。体は雌雄ともに黒色・両側部と尾端部は紅色を呈する。北海道を除く日本全土のほか，台湾・朝鮮・中国に分布する。成虫は，寒冷地や山地では年2回(5～6月，7～8月)，暖地では年3回(4～5月，6～7月，8月)発生する。日本に産する黒色のアゲハ類中，最も緩慢に飛翔(ひしょう)し，路傍や草地を低く飛び，ツツジ・ネムノキなどの花に好んで集まるが，他の多くのアゲハ類のように湿地に集まって吸水する習性はない。幼虫は暗紫色で白色の帯があり，終齢に至っても全身に肉棘(にくきょく)状の突起を備え，他のアゲハ類の幼虫とはまったく異なる。さなぎは俗に〈お菊虫〉とよばれ，橙黄(とうおう)色で，ロウ状の光沢があり，胸部の背面には橙色紋がある。また腹部背面の側部に，各節ごとに顕著な葉状突起が並んでいる。幼虫の食草としてはウマノスズクサ・オオウマノスズクサが知られている。蛹態(ようたい)で越冬する。ジャコウアゲハ類は，日本からは本種のみが知られているが，アジアの熱帯地方に種類が多い。この種に属する種は，いずれも体から特異な香気を放つので鳥類からきらわれるが，この種に擬態*する種類が数種知られている。〔鈴木邦雄〕

じゃこううし 【麝香牛】 哺乳(ほにゅう)類・偶蹄(ぐうてい)目・ウシ科。雄は頭胴長2.2m，尾長8cm，肩高1.3mほど。雌は雄よりもやや小さい。四肢(しし)が太く，外見はウシに似るがヤギ類に近縁とされる。角は雌雄ともにあり，体毛は長く暗かっ色～黒色で，背の中央部は黄白色～かっ色。足は白色。北アメリカの北東部に分布し，小群で生活する。顔に麝香腺(じゃこうせん)があり，交尾期に雄は麝香に似た強いにおいを出す。

しゃこうさいばい 【遮光栽培】 一般に花が咲くのには日照時間の長短に影響されることが多いので，人工的に日長を調節して花を早く咲かせることができる。これを日長処理といっている。日長処理のうち日の長さを短くすることを実用化したものを遮光栽培(シェード栽培)といい，黒いビニルか布で遮光するのが普通である。キクの花を早く咲かせるための遮光栽培が有名である。また，逆にキクの花が咲くのを遅らせるために電燈で照明する栽培を電照栽培といっている。

〔松本正雄〕

じゃこうじか 【麝香鹿】 哺乳(ほにゅう)類・偶蹄(ぐうてい)目・シカ科。小形のシカで，頭胴長90cm，尾長5cm，肩高60cmほど。体は暗かっ色で淡灰色の霜降りがあり，あごの下，ももの内側は白色。原始的なシカ類で，雄の上顎(じょうがく)犬歯は長くきば状で，角がない。下腹部には麝香*のとれる麝香腺(じゃこうせん)がある。カシミール・中国・アムール川流域・サハリン(樺太(からふと))などに分布し，山地の森林に1～3頭で生活する。

しゃこうダンス 【社交ダンス】 ソーシャルダンスの訳語。社交・娯楽を目的とし，男女一対で踊る舞踏をいう。フォークダンス*(民族舞踊)はこのジャンルにははいらない。民族舞踊は本来，野原や広場など野外で行なわれた民衆舞踊に対する名称であるのに対し，社交ダンスは別名〈ボールルームダンス〉ともよばれているように，室内舞踊である。大部分の社交ダンスは民族舞踊を母体として生まれ，そのかぎりでは観賞用ではなく，あくまで踊り手みずから楽しむ民族舞踊的性格をもっている。しかし，カップルダンスという閉鎖性のため，厳密な意味では民族舞踊の集団性をもたないのがその特徴である。

ボールルームダンスはルネサンスの宮廷舞踏会にすでに萌芽(ほうが)がみられる。当時のボールルームでは〈ブーレ〉〈パバーヌ〉〈シャコンヌ〉などの荘重優雅な踊りが宮廷人によって踊られていたが，これらはすべて幾組みかの男女が列や輪をつくり，その変形を楽しむ集団性が強調されたものであった。17世紀の中葉，ルイ14世時代に〈メヌエット〉が現われた。もともとフランスのポワトー地方の民族舞踊であったものが，リュリによって宮廷バレエに取り入れられ，宮廷向きに改良されたものである。ゆるやかな4分の3拍子の音楽に乗って，幾組みかの宮廷紳士淑女が斜め頭上に手をさゝげ合って登場し，静かに踊る典雅な踊りで，集団の踊りというよりはカップルダンス的性格が強かった。社交ダンスの起源はこの〈メヌエット〉にあるとされている。これは18世紀末までヨーロッパの宮廷舞踊の主要なレパートリーとなっていたが，現在では行なわれていない。現在の社交ダンス中最も古い歴史をもつのは〈ワルツ〉である。オーストリアや南部ドイツの片いなかに民族舞踊として発生したこの踊りは，1780年ごろボールルームに取り入れられた。これはその後ヨハン-シュトラウス*の音楽を得て全ヨーロッパに流行し，第1次世界大戦まで〈社交ダンス〉の代名詞ともなった。しかも，それまでの社交ダンスでは男女の接触は手や腕のみに限られていたが，〈ワルツ〉の出現によってはじめて男女が相擁して踊る形式が生まれたのである。

20世紀にはいり，アメリカでジャズ音楽が発達するとともに社交ダンスの形式・内容ともに大きく変化した。現在行なわれている社交ダンスは〈ワルツ〉を除いてそのほとんどが南北両アメリカ大陸に起源を有している。まず第1次世界大戦直前には，アメリカ黒人の踊りに源を発する〈フォックストロット〉〈ワンステップ〉〈ツーステップ〉がバーノン-キャッスルという飛行大尉によって創案され，その後種々の変種が生み出された。1910年代には〈ターキートロット〉〈ブルース〉，1920年代では〈チャールストン〉〈ブラックボトム〉，1940年代には〈ジッターバック〉(これは占領軍によってわが国に紹介され，〈ジルバ〉とよばれた)。1950年代には〈ロックンロール〉などの新リズムが全世界に広まっていった。一方南アメリカのリズムも1910年代のアルゼンチンの〈タンゴ〉(今日行なわれている踊りはアルゼンチンからパリに移されてフランス化したもので，いわゆる〈パリジャンタンゴ〉である)を皮切りに，1920年代の〈ルンバ〉，1940年代の〈コンガ〉と続き，1950年代には〈マンボ〉が大流行し，〈ロックンロール〉と並んで第2次世界大戦後の若者たちの中に浸透していった。

わが国の社交ダンスの歴史は1880年(明治13)代の鹿鳴館(ろくめいかん)の舞踏会に始まり，第1次世界大戦後には〈フォックストロット〉



ジャコウネコ

が輸入された。しかし健全娯楽という社交ダンス本来の主旨が曲解されていたためあまり盛んにならず，大衆化されたのは第2次世界大戦後である。そして1960年代には〈タンゴ〉〈ワルツ〉〈ルンバ〉〈ブルース〉など従来の社交ダンスに加えて，〈チャチャチャ〉〈ツイスト〉〈ゴーゴー〉などめまぐるしく流行し，現在では社交ダンスの観念も明確ではなくなってきた。〈ツイスト〉や〈ゴーゴー〉などは社交・娯楽の目的のほかにスポーツ的要素も多く，しかもこれらはもはやパートナーとともにステップを踏むカップルダンスではなく，個人的創意による自由なステップの独舞に変わってきている。これらのものも含め，社交・娯楽を目的とした室内ダンスを総称して〈社交ダンス〉とよぶ人もいるが，やはり発生的にみても冒頭に定義したように男女のカップルダンスとするのが妥当であろう。〔高橋孝一〕

じゃこうねこ【麝香猫】 哺乳(ほにゅう)類・食肉目・ジャコウネコ科。頭胴長54cm，尾長36cmほど。左右の耳は接近し，口先はやや短くとがる。臭腺(しゅうせん)は発達する。体は淡かっ色で黒色の小斑(しょうはん)があり，背の中央付近は，斑が連なり5本の線となる。ヨーロッパジェネットに似るが，前足が黒く，のどが白く3本の黒線が横ぎる。中国南部・台湾からインド・セイロン・スマトラ・ジャワなどまで分布し，マダガスカルにも移入。森林にすみ，木登りも巧み。なんでも食べる雑食性。臭腺の分泌物は香料とされる。

じゃこうねずみ【麝香鼠】 哺乳(ほにゅう)類・食虫目・トガリネズミ科。頭胴長14cm，尾長9cmほど。体上面は濃かっ灰色で，尾には少数の白色の長毛が散生する。エチオピア・エジプトから東南アジア・中国などに広く分布するが，日本では沖縄・九州地方に産する。夜行性で，人家またはその付近にすみ，小動物を食う。悪臭を放つのできらわれる。九州へは貨物などとともにはいった。

しゃこがい【硨磲貝】 軟体動物・二枚貝類・シャコガイ科。二枚貝類中最も大形の種類でオオジャコなどともいわれ，殻長1m，殻高(かくこう)65cm，殻幅20cm，重量200kgに達する。殻(から)はきわめて厚く，ほぼ扇形を呈する。殻には，5条の大きな放射肋(ろく)があり，腹縁で左右の殻が深く波状にかみ合う。表面は灰白色，内面は白色で，陶器様の光沢がある。太平洋中西部・インド洋などに分布し，サンゴ礁の割れ目に腹縁を上にして口を少しあけている。外套膜(がいとうまく)は，個体によって鮮青色・青緑色・緑色・緑かっ色などの変異があり，腹縁から少しはみ出している。また，肉は食用となり，殻はそのまま水盤として庭園に置かれたり，碁石その他のものに加工される。よく似た種類に，ヒレジャコ・シラナミガイ・シャゴウなどがある。ヒレジャコは，前種より小さく，殻長30cmほど。肋にひれ状の突起をもっているので区別がつく。殻表は白色のものが多いが，赤色や黄色にいろどられたものもあり美しい。奄美(あまみ)諸島以南のインド太平洋水域のサンゴ礁に広く分布する。シラナミガイ(ナガシャコ)は殻長20cmほどで，放射肋は7～8条あり，短いひれ状の突起がつく。殻高が低く，全体にやや横長の楕円(だえん)形を呈する。殻表は灰白色，内面は白色陶器様の光沢があり，外套膜は個体により違うが，緑色・青緑色・青藍(せいらん)色・緑かっ色・かっ色など。サンゴ礁の割れ目にはいっている。沖縄諸島以南のインド太平洋水域に分布し，小笠原(おがさわら)諸島にも普通に産する。シャゴウはほぼ菱形(ひしがた)で，殻長は20cmほどになり，7～8条の大きな放射肋があって，肋間に小肋がある。また殻面の全面に小突起が多い。殻表は黄白色で，紫紅色の斑点(はんてん)がある。内面は白色で光沢がある。奄美以南のインド太平洋水域のサンゴ礁に分布する。〔菅野　徹〕

じゃごけ【蛇苔】 コケ植物・苔(たい)類・ゼニゴケ科。北半球に広く分布し，陰湿地に群生する。葉状体は二叉分枝し，幅1cmほど。表面は濃緑色で光沢があり，細かい六角網目模様がヘビのうろこを思わせる。雌雄異株で，雄株は無柄円板状の雄器床をつけ，雌株は高さ5cm余りの長柄上につり鐘形の雌器床をつける。

しゃこたんはんとう【積丹半島】 北海道西部，日本海に突出する幅約30km，長さ約40kmの半島。第三紀層を基盤として800m前後の安山岩台地が広がり，これに積丹岳(1,255m)・余別岳(1,298m)などの火山群が重なっている。これらの山脚は海に迫り，半島先端で絶壁をなす神威岬(かむいみさき)・積丹岬の二つの岬が半角状に突出するのをはじめ，半島を取り巻く海岸線は高さ数十メートルにも及ぶ海食崖(かいしょくがい)を形成し，内陸部は地下資源が豊かで，稲倉石のマンガン，大江の鉛，余市の鉛・亜鉛などが有名である。平地に乏しく，農業はふるわない。かつてニシン漁で栄えたが，現在は半島基部の余市・岩内を基地としてスケソウダラ・コウナゴ・イカなどを漁獲している。



積丹半島
山地が海岸まで迫り，険しい断崖が続く。波の侵食による奇岩・怪石や岩礁は，いろいろな伝説を伝えている

海岸線はいたるところ絶壁をなして波食作用による種々の景勝地をつくり，一帯はニセコ積丹小樽(おたる)海岸国定公園に指定されている。〔味沢成吉〕

しゃこたんみさき【積丹岬】北海道西部，積丹半島*最北端の岬で，後志(しりべし)支庁積丹町に属する。背後の半島から続く安山岩が海に迫って絶壁をなし，海食による奇岩怪石が立ち並び，付近には暗礁が多く，激しい潮流とあいまって航海の難所となっている。岬の近くには漁業無線局がある。付近はイカ・スケソウダラの好漁場で，岬の南には入舸(いりか)漁港がある。ニセコ積丹小樽(おたる)海岸国定公園に含まれる。

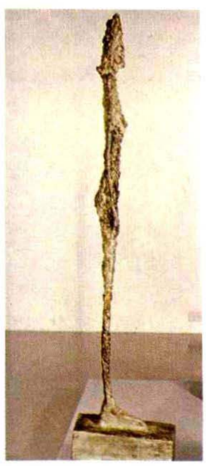
しゃこつこう【車骨鉱】鉛・銅・アンチモンの鉱石。$PbCuSbS_3$ 斜方晶系。硬度2.5〜3.0，比重5.81〜5.83。複雑な結晶形を示し，柱面および卓面の発達した形が多く，柱面には縦の条線がある。劈開*(へきかい)は{010}で不完全。金属光沢で，鋼灰色，不透明。鉛・亜鉛鉱床に産する。

ジャコバンとう【ジャコバン党】フランス革命中，1792年4月の対オーストリア宣戦をめぐってジャコバン-クラブは分裂し，ブルジョア派はジロンド党*を結成し，ロベスピエール*を中心とするサン-キュロット*は，八月事件によって王権を打倒したのち，9月国民公会成立とともに〈憲法の友の会〉を〈ジャコバン協会〉と改称した。これが純粋な意味でのジャコバン党で，1793年山岳党*の中心として独裁権を握ったが，1794年テルミドールの反動*により事実上壊滅した。〔大野慎一郎〕

ジャコビン［jacobin］鳥類・ハト科*の飼い鳥。インド・セイロン・ビルマなどに分布するカワラバトから改良されたもので，エリマキバトともよばれる。頸部(けいぶ)の羽毛がさかだち，毛深いえり巻きをつけたような形を呈している。わが国においても古くから飼育され，白色・赤色・二引などの品種があるが，赤色が最も有名である。



ジャコビン



ジャコメッティ
《高い人》 1947

ジャコブ［Max Jacob］(1876〜1944) フランスの詩人。ブルターニュ半島カンペールのユダヤ人の家に生まれる。鋭いアイロニーと悪魔的な奇行によって新しい現実の発見を求め，諧謔(かいぎゃく)と神秘に満ちた作品を書いた。ピカソ*・アポリネール*らと親交を結び，その言語の自由な駆使による詩法はキュービスム・シュルレアリスム*に深い影響を及ぼした。のちカトリックに回心。ナチの収容所で病死した。代表作は散文詩《骰子筒(さいづつ)》，詩集《中央実験室》など。〔森　英樹〕

ジャコブ［François Jacob］(1920〜) フランスの分子遺伝学者。パリ大学を卒業したのち，パスツール研究所で活躍している。1960年同僚のモノーとともに，遺伝子の作用調節に関するオペロン説を提唱した。これは，遺伝子群オペロンの一端にオペレーターとよぶ特殊な遺伝子が存在し，これがリプレッサー(抑制因子)と結合するとオペロンの働きが阻止されるというものである。1965年モノーとともにノーベル医学生理学賞を受賞。→遺伝子〔中村禎里〕

ジャコメッティ［Alberto Giacometti］(1901〜1966) スイス生まれの彫刻家。イタリアを経て1922年以来パリに住み，ダダイストのグループに加わり，1930年ごろからシュルレアリスム*の運動に参加した。はじめは抽象的な表現を示すが，しだいに細長いフォルムとごつごつした肉づけをもつ独特の作風に至り，人間の存在を実存主義的に追求し続けた。油絵や版画・詩作も少なくない。

シャコンヌ［chaconne］ルネサンス期のスペインの舞曲。本来，野性みのある舞踊であったが，バロック時代にはいると比較的ゆっくりした3拍子の舞曲として器楽曲に用いられた。その特徴は，組曲の他の舞曲と異なり，変奏を絶え間なくくり返す点にある。多くの場合，主題は簡潔な低声部の進行であったり，和声進行の図式であったりする。バッハの無伴奏バイオリン-ソナタ中の曲が代表的である。

しゃさい【社債】株式会社が，企業資金を調達するために，公衆から募集する方法によって負担した債務に対する債権で，通常多額の会社債務を多数の部分に分割して，その権利を表わす有価証券として発行したものをいう。新株の発行と並んで，株式会社の企業資金調達の方法として用いられる。合名会社・合資会社でも，このような起債ができるが，通常は株式会社が行なうので，狭い意味で社債とは株式会社の社債だけをさす。

公衆から多額・長期の資金を調達する方法であるので，公衆の保護のため特別にその手続きなどが法律で決められている(商法296条以下)。一定の利息の支払いと償還期限が決められ，元本の償還が約束されている点で，株式*とは異なり，純然たる会社に対する債権である。社債権者は，会社の構成員である株主と異なり，会社の外部にいる債権者であるために，会社の経営に参加することはできないが，株主があまり積極的に株主総会に出席せず，各決算期の利益配当も平均化して，株式が投資の対象として考えられているといった現在の経済上の現象からみると，法律的にはまったく異なる株式と社債も，社会的・経済的にみると共通点を多分にもつようになり，株式の社債化といった傾向も顕著である。このようなところから法律上も議決権のない株式を認めたり，株式に転換することのできる転換社債など，株式と社債の中間的形態のものも認めている。〔松本治雄〕

しゃし【斜視】俗にやぶにらみといわれる眼科疾患。ものを見るときに，一眼の視線だけが注視物体に向かい，他眼の視線は注視物体外の方向にある。他眼の視線の方向によって内斜視(視線が内方に向かう

もの)・外斜視・上斜視・下斜視などという。ふつう，斜視している目の運動には異常はないが(共働性斜視)，眼筋麻痺(まひ)の場合には異常がある(麻痺性斜視)。また，斜視している目は使用されないので，視力が落ちる場合がある(斜視弱視)。共働性斜視では上斜視・下斜視はまれで，内斜視が最も多く，特に6歳以下の子どもの斜視ではほとんどのものが内斜視である。しかし，6歳以上になってから斜視となったものは外斜視が多い。また，一点を注視しているとき片側の目を遮蔽(しゃへい)すると，隠された目の視線も目標に向いているものを正位というのに対し，目標以外に向いていない状態を斜位(潜伏斜視)という。斜視のものは両眼視機能を失っているが，斜位のものは片目の遮蔽物を除けばその目は直ちに目標に向かい，両眼視をする。斜位のものは，両眼視をする場合，斜位の度だけ視線を寄せているため，眼精疲労を起こすことがあり，頭痛・眼痛，目の圧迫感，吐きけなどを訴える。

治療は，斜視の場合，両眼視の訓練と手術によるが，6歳を過ぎると両眼視機能の回復が困難になるので，できるだけ早く斜視を発見して治療する必要がある。斜位の場合は，軽度のものはプリズムで視線を矯正(きょうせい)すればよいが，強度のものは手術による。〔氏原　弘〕

ジャージー　［jersey］　外衣用のメリヤス地およびこれに類似した織物の名称。はじめイギリスのジャージー島の漁夫用衣料としてつくられたといわれる。裁断縫製して外衣用に使うメリヤス地として，本来紡毛糸で編まれたものであるが，現在は梳毛糸(そもうし)・綿糸・化繊糸でもつくられ，横編み・縦編みがあり，起毛・捺染(なっせん)・ししゅうを施すこともある。スーツ・ワンピース・スカート・スラックス・スポーツシャツ・帽子・手袋など，広く用いられる。編み地は密で，伸縮性を強調することなく形を保つことを特色とする。織物としては，主として紡毛糸を用いて織り，軽くフェルトさせて仕上げ，メリヤス地に似た性状を与えたもの。主として婦人服・外衣などに用いられる。〔小川安朗〕

しゃじくそうるい　**【車軸藻類】**　輪藻類ともいう。ふつう緑藻植物に含められるが，現在では独立の門とする傾向が強い。淡水，まれに汽水に生じ，湖沼ではしばしば大形植物群落の最下限である車軸藻帯をつくる。葉緑体が小円板状で，クロロフィルa・bを含み，同化産物がデンプンであること，細胞壁がセルロースであることなどは，この群が緑色植物の系統上にあることを示す。しかし，栄養体のすべての部分が節と節間の交互する体制をもつこと，雄性生殖器官の複雑な構造，無性生殖細胞をつくらぬことなど，特有の性質をもつ。一方その体制は，柔組織をつくらず基本的には分枝系状体であること，節間細胞の多核状態，受精卵の発芽時に減数分裂の起こること，完全な水中生活などは緑藻との類縁を示し，他方精子の形，保護構造をもつ生卵器，発芽時に原糸体を生ずることなどはコケ植物への類縁を示す。この仲間にはシャジクモ・フラスコモなどが含まれる。化石は古生代のものが知られている。

しゃじくも　**【車軸藻】**　緑藻(りょくそう)類・シャジクモ科。各地の淡水，ときに汽水に見られ，水底に仮根で定着する。中軸と輪生枝からなる体はスギナ状で，高さ40cmに達する。雌性生殖器は輪生枝の節上に生じ，その下方に雄性生殖器が生ずる。2べん毛の精子によって受精した卵は黒色となって越冬し，翌年発芽する。無性生殖は栄養生殖のみ。

しゃじけんちく　**【社寺建築】**　神社および仏寺に属する建築の総称。古代の初めにおいては，神社と仏寺とでは建築表現が明確に異なり，それぞれが独自性をもっていたが，年代が下るにつれて神社建築の細部に仏教建築の要素が導入され，近世になると建築の細部様式としてはまったく同一の性格を備えるようになったため，両者を一括するこの名称が生まれた。一般世俗の建築とは細部様式も構法も異なり，その設計施工には最も正統的な大工技術を必要とするが，近世になると社寺建築を扱える大工はしだいに特殊化して，堂宮大工とよばれるようになった。〔渡辺保忠〕

ジャージーシチー　［Jersey City］　アメリカ合衆国，ニュージャージー州，ハドソン川右岸にある商工業都市。人口24万4,000(1975)。川を隔てて対するニューヨーク市とはトンネルと地下鉄で連絡している。多くの鉄道や航路の起点で，石炭や農産物を積み出し，電気器具・化学工業の中心地でもある。

しゃじつしゅぎ　**【写実主義】**　主観の側からの働きかけを排し，客観的対象をあるがままに描写しようとする立場。美術では自然主義と区別しがたい。ただ，あるがままの描写とはいえ，観察・表現という美術家の創作活動に基づく以上，なんらかの形でそこに個性が反映してくるのは当然である。先史時代の洞窟画(どうくつが)からヘレニズム(→ギリシア美術)，13世紀ゴシック彫刻，バン-エイク兄弟やデューラー・ベラスケス・ゴヤらの芸術には写実主義的傾向が著しいが，他面，それぞれにおける写実主義は特有の傾向をも有している。なお，19世紀にクールベが打ち立てた〈写実主義〉は，〈あるがままに現実を直視し描写すること〉を基に，現実的題材の選択と形や色の客観的描写をめざす自覚的運動として特殊な意味をもっている。〔松久勝利〕

〔文学〕文芸用語としての写実主義(リアリズム・レアリスム)は，まず広義にはロマン主義と対立し，夢想的・非現実的な傾向に対して，現実をあるがままに的確にとらえようとする文学傾向をいう。こうした傾向は，いつの時代にもあり，ヨーロッパ中世の文学作品にも写実主義的要素をみることはできる。しかし，写実主義が一つの文学思潮を明確に形成したのは19世紀以降であり，特にフランス文学において飛躍的発展を示した。その背景には，科学と技術の進歩による実証主義的精神の勃興(ぼっこう)があり，近代社会の支配的階級であるブルジョワ階級の現実感覚が基盤となっていた。バルザック・フローベール・ゾラらの文学がその代表的なもので，人間事象への冷酷な直視・観察をその文学的方法の中核とした。ゾラの自然主義は，そうした方法をさらに科学的に深化したものである。イギリスではディケンズ・サッカレー・ハーディ，ロシアではプーシキン・ゴーゴリ・ツルゲーネフ・トルストイらが写実主義の作家といえ，この19世紀写実主義の特徴は，自由な形式をもつ小説が主流を占めたことである。その後20世紀にはいって，写実主義は各国でそれぞれに展開・深化され，ロシア革命後のソ連ではゴーリキーらによる新しい写実主義の提唱となり，社会主義リアリズムに発展した。また，外面描写に終始する19世紀写実主義に対して，作家の内的観察力に基礎をおいた写実主義への発展もみられた。トーマス-マン・マルロー・サルトル・メイラーらの文学は，そうした意味で19世紀写実主義を越える20世紀の写実主義である。日本における写実主義の歴史は，そのまま近代文学の歴史である。1885年(明治18)の坪内逍遙(しょうよう)の評論《小説神髄》に始まり，二葉亭(ふたばてい)四迷の評論《小説総論》や小説《浮雲》，尾崎紅葉の写実的な風俗小説《三人妻》，小杉(こすぎ)天外によるゾラの方法の移植などによって明治20年代から30年代にかけて確立され，田山花袋・島崎藤村らの自然主義的傾向に受け継がれ，発展させられていく。

〔池田公麿・長崎勇一〕

じゃじゃうまならし　**【じゃじゃ馬ならし】**　シェークスピアの喜劇。1594年の作と推定される。イタリアの新興都市パデュアの富豪の姉娘カテリーナは，美人で優しい妹ビアンカと違い，荒々しい気性のじゃじゃ馬娘で，近づく男もいなかったが，ペトルーキオーという紳士が求婚者として現われカテリーナを荒療治で手なずけて貞淑な妻にするという物語。劇中劇の構成をもつ笑劇的作品。

しゃしゅつざせき　**【射出座席】**　軍用ジェット機などに用いられている乗員用の座席で，爆管に点火することにより乗員は座席とともに上方に射出され，落下傘(らっかさん)によって安全に着地できるようにしたもの。高性能のジェット機は翼面荷重が大きいので，エンジンが故障した場合には，滑空して安全に不時着する可能性がほとんどない。

このような場合に乗員の生命を守る目的で使用されているもので，低空で脱出しても落下傘が有効に働くように，十分な高さまで打ち上げる能力をもつ。〔山口　博〕

しゃしゅつせいけい　【射出成形】　主として熱可塑性プラスチックの成形法で，原料の充塡(じゅうてん)，可塑化・成形・冷却，成形品の取り出しが連続的に行なわれる。連続操作によって成形時間を著しく短縮でき，一様な条件で一定の品質のものを多量に能率よく成形できることが最大の特徴である。射出成形機の一連の操作は次のとおりである。①一定量の原料が自動的に加熱シリンダーの後部へ充塡される。②金型が閉じる。③ピストンが前進して加熱シリンダー中の溶融原料を型の中へ注入する。③金型は冷却水の循環によりつねに冷却してあるため，直ちに固化が始まる。⑤一定時間ののち，成形品が固化したら自動的に型が開いて成形品を外に押し出す。〔福沢敬司〕

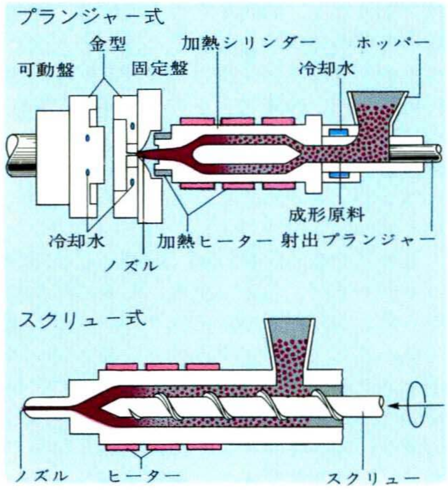
しゃしん　【写真】　⇨530ページ

しゃしんき　【写真機】　⇨カメラ

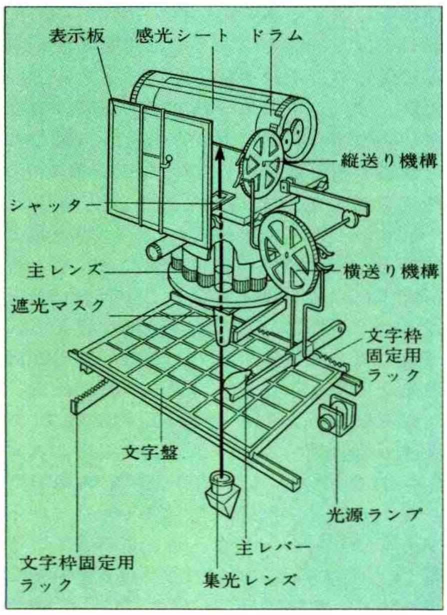
しゃしんけがき　【写真罫書き】　⇨罫書き

しゃしんしょくじ　【写真植字】　写真植字機によって，印刷用の原版のもとになるものをつくること。写真植字機は，和文タイプライター・カメラ・引き伸ばし機の機能を組み合わせたもので，写真タイプライターともよばれる。タイプライターの活字の部分にネガ文字のはいったガラス製の文字板があり，その中から必要な文字を選んでレンズを通して，暗箱に装塡(そうてん)されている印画紙またはフィルムなどの感光材料に1字ずつ撮影をしていく。感光材料に撮影された文字は，現像・定着などの写真処理をする。これをもとにして，凸版(とっぱん)・オフセット・凹版(おうはん)などの印刷用の刷版がつくられる。写真植字機は活字組み版では得られない数多くの機能をもち，なかでも，1個の字母から縦長・横長・右上がり・左上がりなど300種以上の文字がつくられることは大きな特長である。また，文字だけでなく，単純な記号などから複雑な地紋や飾り罫(けい)などもつくられる。

写真植字機は，わが国独自の発明品で，1925年(大正14)に石井茂吉・森沢信夫(のぶお)らの手によって試作第1号がつくられている。実用機になったのは1929年(昭和4)ごろからで，まず大手の印刷会社が採用しだしたが，量的には微々たるもので，活字組み版の補助的な域を出なかった。第2次世界大戦にはいってからは生産も思うに任せず，つくられても軍用印刷に使われることが多かった。戦後は，印刷工場の不足もあって写真植字機への要求が強く，すぐに生産は開始されたが，それでも1955年ごろまでは活版主流の中でわき役的な域を出なかった。しかし，欧米からの新しい製版技術の流入，経済復興による商業印刷物の著しい増量に伴い，写真植字機の需要は急激



射出成形



(正　体)　格調の高い文字
(平　体)　格調の高い文字
(長　体)　格調の高い文字格調
(平斜体)　格調の高い文字
(長斜体)　格調の高い文字

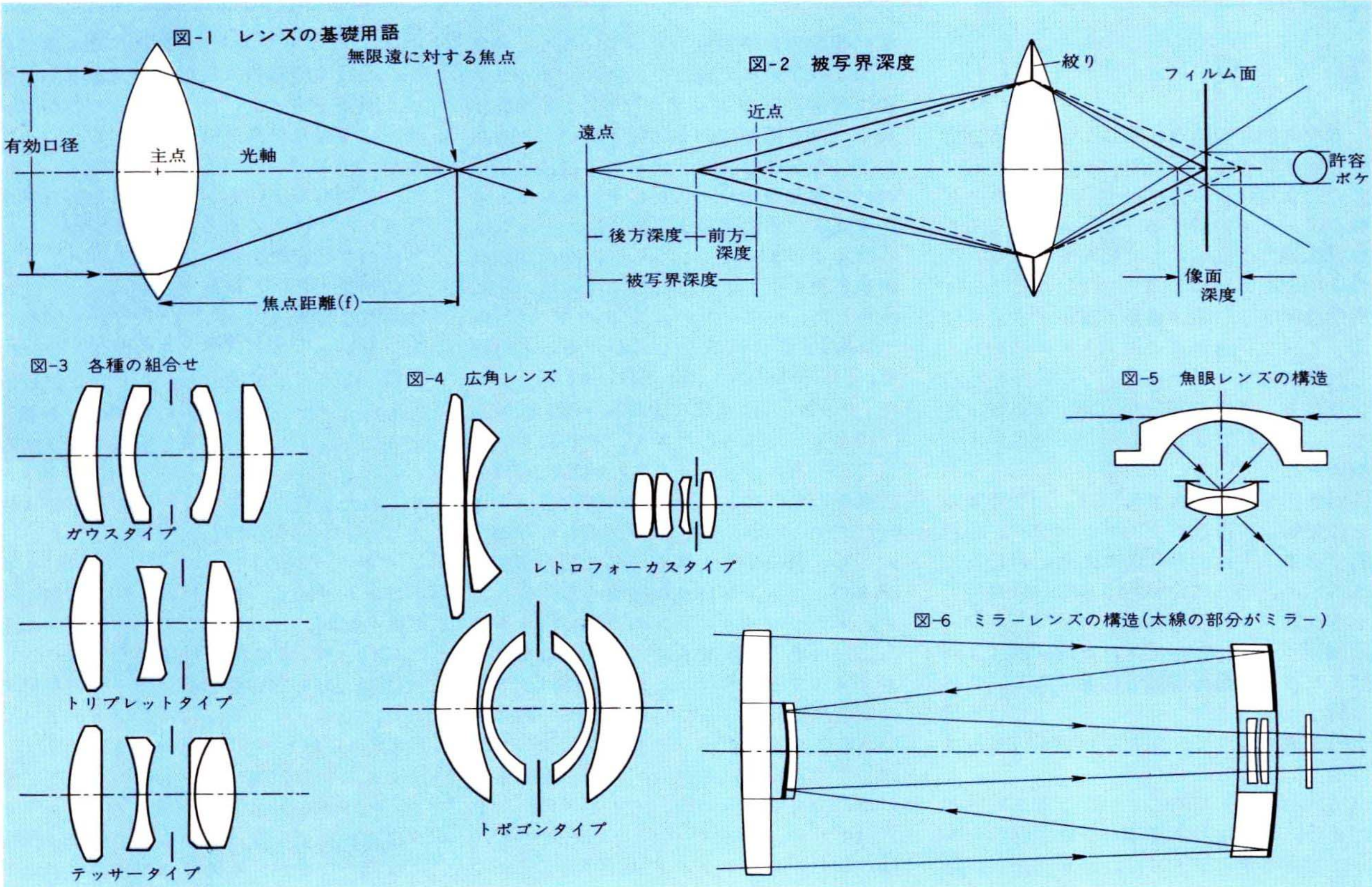
写真植字　(上)写真植字機の原理図　(下)写真植字の正体文字と変型文字

に高まってきた。現在では，広告・カタログ・ポスターなどの複雑な体裁で，変化のある幾種もの文字を使う商業印刷物の組み版は，ほとんどすべて写真植字によっている。また，1960年代にはいってからは，商業印刷の分野だけでなく，書籍・雑誌類にも積極的に使われるようになり，本文専用機の開発も行なわれ，1965年にはコンピューターによって制御される全自動写真植字機も稼動(かどう)にはいり，新聞社，大手の出版・印刷企業に採用されつつある。将来活字に変わって写真植字による組み版が主流を占める日も遠くはない。〔島田　寛〕

しゃしんそくりょう　【写真測量】　地表の形態を写真撮影し，写真から地表の形状を測定する技術をいう。一般には航空(空中)写真*測量をさすが，建築設計・レントゲン写真・電子顕微鏡写真や波などの測定などにもこの原理が用いられ，応用写真測量とよばれている。また，撮影点が地上にあるときを地上写真測量とよび，ダム構築などの土木工事や交通事故現場の測量に用いられており，撮影点が空中にあるときは空中写真測量とよばれ，地形図の作成にこの方法が用いられている。空中写真測量には1枚の写真から各像の位置を測定する簡単な写真測量と，2枚の重複した写真から各像の位置と高さと実体視して測定する実体写真測量とに分けられる。実体写真測量では複雑な計算を要し，修正・地図化はすべて実体図化機によって自動的に行なわれている。地上測量と同じく写真測量から地図をつくる場合にも三角点を基準点としているが，この基準が写真によく写るように撮影前に対空標識を放置してから写真撮影が行なわれる。空中写真撮影は撮影区域を数本の平行な飛行コースに分けて飛び，コースとコースの間は30％ほど重複して撮影するのが普通である。撮影後は空中写真を実体図化機にかけて，基準点と撮影関係を決定(標定という)する。これを空中三角測量という。さらに空中写真に写らない影の部分や，判読できないものは現地で調査し，勉強する。わが国では50,000分の1地形図から2,500分の1国土基本図まで各種の地図作成にこの方法が使用されている。また写真測量は，空中写真の内容の判読，たとえば林相・植生調査，土地分類，土地利用調査，各種の災害調査，地質・地形調査，考古学的調査，軍事査察などにも用いられており，写真判読とよばれている。➔空中写真　〔桑原正見〕

しゃしんでんそう　【写真電送】　⇨ファクシミリ

しゃしんてんちょうとう　【写真天頂筒】　恒星の子午線通過を観測して，時刻または緯度を決定する装置。天頂に向かって垂直に立った望遠鏡で，筒の下(焦点距離の約半分の所)に水銀盤を置き，その面で反射した星の像を対物レンズの直下に置いた写真乾板に撮影する。天頂付近で子午線を通過する星を追いかけて，南中*の前後に写真乾板の方向を180°変えて写真をとり，乾板上の星像の位置関係から子午線通過の時刻を求める。これは天文観測による時刻の決定法としては最も精度が高い。〔磯部琇三〕



写真レンズ

しゃしんレンズ【写真レンズ】 写真撮影に使用するレンズの総称。撮影レンズともいう。凸(とつ)レンズや凹(おう)レンズを何枚か組み合わせた複合レンズで，全体として凸レンズの働きをする。写真レンズは物体の像が単一の平面上に鮮明に結ぶことが必要であり，したがってあらゆる収差ができるだけ除かれていなくてはならない。複雑なレンズ系を用いるのはおもにこのためであるが，完全に解決することは不可能で，各収差を適当にばらつかせてよりよい画面をつくるようにしている。このレンズ系の中心を主点という(図-1)。光軸に平行な光の，焦点から主点までの間隔が焦点距離(f)で，f=50㎜などと表示する。

レンズの明るさは，実際に光が通るレンズ部分の直径である有効口径とレンズ通過後1点に集射する光束の角度によって決まるため，口径比(有効口径／焦点距離)で表わすが，一般にはこの逆数であるF値(Fナンバー・F価)が使われ，F2.8，1：2.8，f/2.8などと表示する。F値が小さいほどレンズは明るい。写真レンズでは開放絞りのときの最小F値で示し，また絞り穴が多角形の場合これと同面積の円の直径を有効口径としてF値を算出する。レンズの主点から撮影画面の対角線に対して張る角度を画角あるいは写角という。したがって画角は焦点距離とネガの対角線長によって決まる。両者のほぼ等しいときを標準レンズといい，画角は50°前後(35㎜版なら焦点距離40〜60㎜)である。レンズが着脱できないカメラにはこの標準レンズが取り付けてある。画角が標準レンズより大きいレンズを広角レンズ(短焦点レンズ)，小さいレンズを望遠レンズ(長焦点レンズ・狭角レンズ)という。以上の画角は厳密には有効画角といわれる。一般にレンズの結像は中心から離れるにつれて鮮鋭度も明るさも低下するが，一定のレベルまでは結像したものとみなす。この広さを包括画角といい，その直径をイメージサークルという。大形カメラでは有効画角に対して包括画角が大きいほどあおり撮影の範囲が広がるので特に重視される。

肉眼の分解能には限界があり，ある範囲のぼけは1点に結像したように見える。このための許容限界(最小錯乱円)は，ふつうネガの対角線長または標準レンズの焦点距離の1/1000〜1/1500としており，35㎜版の場合，これは1/30㎜に相当する。この結果像面深度が生まれる。これを被写体側に置き換えたものが被写界深度(図-2)で，次式で計算される。

$$t=\frac{dFl^2}{f^2\pm dFl}$$ (＋は前方，－は後方深度)

d：許容ボケの直径，F：Fナンバー，l：物体距離，f：焦点距離

【レンズのタイプ】光学特性(屈折と分散)の異なる2種のガラスを使った単レンズを組み合わせたものが最も単純な形式である。いろいろな組み合わせレンズは，ここから種々の収差を少しでも取り除く方向に努力した結果生まれてきた。この場合，単レンズをはり合わせたものを1群とよび，何群何枚構成とよぶ方法が一般に使われている。初期の写真レンズは絞り穴をはさんで前群と後群が対称に配置された対称形式が用いられ，前群で生じた収差を後群で逆に光を通して補正した。この代表的なものは19世紀末のガウスタイプである。近代的なレンズ設計は1894年，H.D.テイラー(英)のトリプレットタイプに始まる。現在も普及カメラに使われるタイプで，中央の凹レンズで凸レンズの収差を軽減し，広い範囲の像面湾曲を除去したものである。この改良型が1902年，ドイツのツァイス社が発表したテッサータイプである。3群3枚構成のトリプレットタイプの最後部をはり合わせレンズに変え，3群4枚構成としたもので現在はF2.8級レンズに用いられる(図-3)。さらに第2レンズも3枚はり合わせとして3群6枚構成に発展させたのが，1931年，ツァイス社の大口径レンズ，ゾナーF2であった。

→535ページ

写　　真

光や放射線の強さに応じて変化する感光性物質を利用して，これに画像を記録したもの。またはその方法。写真はさまざまな観点からその特質をあげることができるが，視覚伝達の手段という立場からみれば，次の３項をその特質と考えてよいだろう。①科学技術的な性質：絵画や彫刻が手わざによってほしいままに表現できるのに対して，写真はまったく科学技術的な手続きの上になりたち，単なる熟練や直感では処理できない。それがさまざまな表現の特性を生む原因となっている。②記録的な性質：写真は対象物をありのままに記録し，伝達する。その記録は容赦なく克明で，冷徹で，客観的である。そして具体的であり，直接的である上に，多分に自動的である。③複製できる性質：１枚の陰画から何枚でも容易に印画をつくることができ，また印刷によればどれほど多量の複製も可能である。この性質はマスコミュニケーションにおける視覚的要素のうちで，重要な役割を果たしている。

【写真の歴史】写真がこの世に生まれ出るために，なによりも重要なのは感光性をもった物質の発明であった。感光性物質が発明されれば，その他の条件はほぼ用意されていたからである。

カメラについては，すでにレオナルド-ダ-ビンチ*の非公開のノートにカメラ-オブスキュラ(→カメラ)の原理が記されていた。また，はじめて公開された出版物は，G. B.デラ-ポルタの《自然の魔術》(1558)においてだったが，原理としては同じであった。要は，光のもれないまっ暗なへやの一方の壁に小さな穴をあけると，それがレンズの作用をして向かい側の壁面に外部の像が映るという仕掛けであった。その像の上に紙をあてて筆でなぞれば絵が描けた。のちに，小穴の代わりにレンズを付けた携帯用のカメラ-オブスキュラなどが画家の間で広く使われだしたが，画家がこのような器具を使って絵画を量産するには，それなりの理由があった。18世紀末に勃興(ぼっこう)してきた中産階級が，盛んに複製画や安い肖像画を求めたからである。画家自身もまた，正確な遠近法や克明な描写に心をとらえられていた。世は実証主義的な風潮の夜明けの中にあったからである。しかし，光の像を紙の上になぞるよりも，そのまま自動的に記録できる方法があるなら，それにこしたことはない。問題は，光の像をそのまま固着させる方法の発明にある。こうした事情を背景として，多くの人々が感光性物質を捜し求めていた。

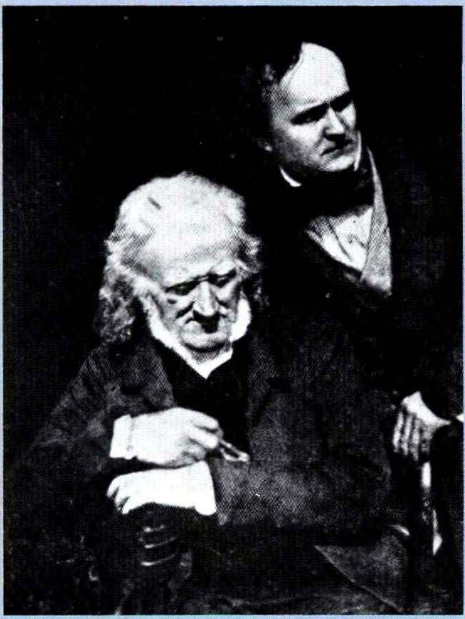
ドイツの物理学者J. H.シュルツは，1727年に銀塩類が感光性をもっていることをはじめて科学的に立証した。また，イギリスの物理学者T.ウエッジウッドは，硝酸銀溶液をつけた紙や皮の上に絵をかいたガラスや木の葉を載せて日光にあて，濃淡まで表わした画像を得た。しかしその画像は，それを見るために光の中に持ち出すとたちまち消えてしまった。こうして，次の問題は画像が消えないように固着する方法の発明にあった。フランスのJ. N.ニエプス(1765～1833)はこれに成功したが，それは陰画で，白い所は黒く，黒い所は白く写っていた。その後，彼は正常な陽画を一度の手続きで得ようとくふうしたすえ，それにも成功した。一方，ダゲール*もまた独自に写真の研究をしていた。ニエプスの研究成果を知ったダゲールは，用心深い文通をくり返したのち，共同研究の提案をして組合契約を結んだ。ニエプスはその後まもなく死んだが，ダゲールはニエプスの方法に修正を加えていっそう完全なものにし，これをダゲレオタイプと名づけた。この方法はフランス政府に買い上げられ，1839年に一般に公開された。このダゲレオタイプによって，はじめて安定した写真術が人々のものとなったのである。その後，イギリスの科学者W. H.フォックス-タルボット(1800～1877)は，1841年にカロタイプ(紙印画法)と名づける方法を考案した。これは，最初に陰画をつくり，それから陽画を複製するという画期的なアイデアで，１枚の陰画から何枚でも陽画がつくれる点は，近代の写真術の基本的な考え方となった。だが，1851年イギリスのF.スコット-アーチャー(1813～1857)の湿板コロジオン法が発表されると，ダゲレオタイプもカロタイプも一時に没落した。湿板コロジオン法は，露出時間が圧倒的に少なくてすんだからである。これは，1871年にイギリスのR. L.マドックス(1816～1902)によって乾板が開発されるまで，長い期間にわたって実用された。

感光材料の開発とあわせて，カメラにもさまざまな改良が加えられた。カメラの最も重要な部分はレンズとされ，当時の感光材料の感度の低さを補うために，口径が大きくしかも鮮鋭なレンズが求められた。F.フォクトレンデルの依頼でウィーンの数学者J. M.ペッファルが設計したF：3.6のレンズが1841年に発売されたが，これはダゲレオタイプのレンズの16倍もの明るさのあるレンズだったので，C.ツァイスがアナスチグマット-レンズを発売するまで，世界で最も広く愛用されるレンズとなった。こうして露出時間がしだいに短くなると，人物をとるのも容易になってきた。こうして，写真のポートレートが肖像画に代わってその需要を満たす時期が到来したのである。

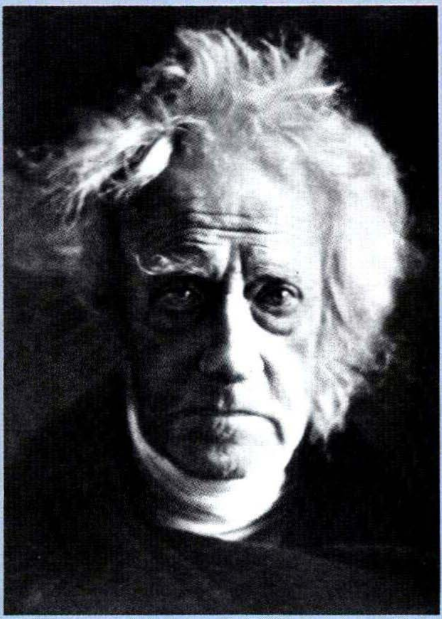
R.ビアードは，ロンドンの王立工芸学校の屋上にポートレート-スタジオを開いたが，連日大盛況の人気で，紳士淑女が所狭しと順番を待っていたという。これがヨーロッパで最初の営業写真館である。フランスではA. E.ディデリ(1819～1890)が，1854年に名刺写真の特許をとって営業写真館を経営した。彼のくふうは１枚の湿板の上に８枚から12枚の名刺大の写真をとり，あとで切り離すという量産方式であった。これは非常な評判をよび，１日2,000枚前後のポートレートを売って，その財産がパリの話題になるほどであった。こうした熱狂的ともいえるポートレートの需要は，必然的に安価だが質の悪い写真を数多く提供することになった。しかし，その格調の高さとすぐれた表現によって，今日でも評価されるポートレートを残した写真家もいた。

イギリスのD.O.ヒル(1802～1870)もそのひとりである。彼は当時一流の風景画家であったが，1843年に１枚のカンバスの上に474人の肖像を描く仕事を引き受けた。彼は友人から写真を下絵に使うことを勧められ，カロタイプに巧みなR.アダムスン(1821～1848)を紹介された。２人の協力はアダムスンが27歳で夭折(ようせつ)するまで続き，その作品は1,500点に及んだ。カロタイプは陰画に紙を使っているので細密な描写には向かないが，そのラフで省略されたディテールは，かえって単純なマッスで画面を構成するのに都合がよかった。造形力の豊かな２人は，巧みにこれを使いこなし，独特の魅力を生み出している。また，ナダール*は1853年に兄のアドリアンとともにパリで写真館を開いたが，これは有名人のサロンとしても人気を集め，バルザック・ボードレール・ドラクロワ・ドーミエ・サラ-ベルナール*などのポートレートを残した。彼の作品は，無地の背景に４分の３身像でとったのが多いが，おおげさなポーズを避け，顔の表情を中心としたごく自然なポートレートである。彼はまた実験家としてさまざまな試みをした。気球の上からパリの空中写真をとったり，アーク燈の光で地下墓地の写真をとったのは，いずれも世界最初の試みであった。イギリスのJ. M.カメロン夫人(1815～1879)は，48歳になってから非常な情熱をこめて写真をはじめた。彼女は，生活のためではなく，まったく自身の興味から始めたので，思うがままの仕事をした。顔を中心にしたクローズアップや，多少のブレも意に介しないとり方，わざわざ粗悪なレンズをつくらせて周囲をぼかしてとる方法など，すべて人物の性格描写に集中するための手段として使った。彼女はよいアマチュア写真家のひとりであった。

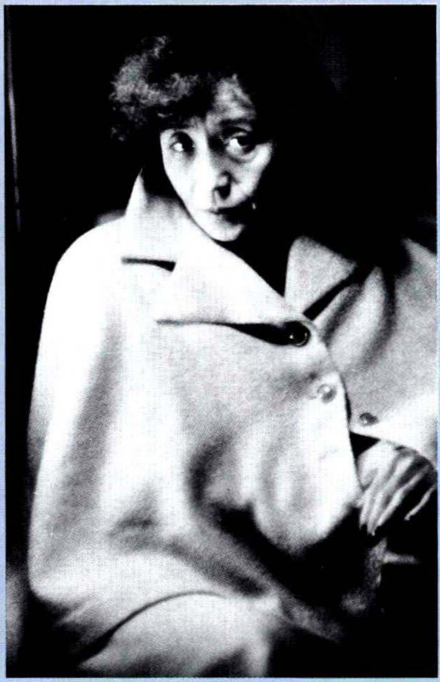
こうしたポートレートの隆盛によって，写真は民衆の中へ浸透していったが，一方絵画主義的な写真もヨーロッパでは大きな



①

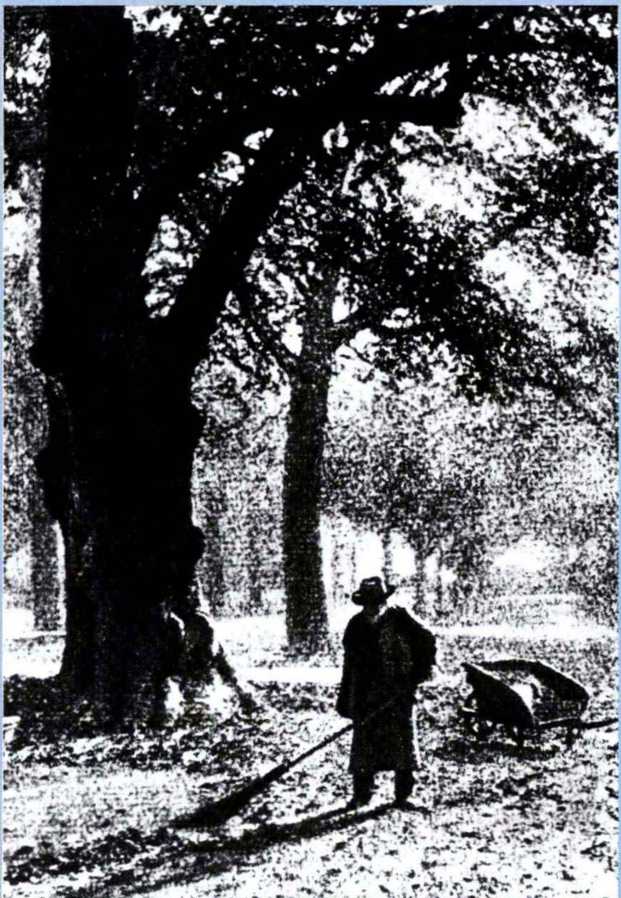


②



③

④



①ヒルとアダムスン 《ヘニングとリッチイ》 1845年ごろ
②カメロン 《ハーシェル像》 1867
③木村伊兵衛 《N夫人》 1950
④ラクロア 《公園を掃く人》(ゴム印画) 1900
⑤スティーグリッツ 《終着駅》 1893

⑤



勢力を占めつつあった。写真は手法をことにした絵画として考えられていたのである。イギリスのH. P. ロビンソン(1830〜1901)の著書《写真における絵画的効果》(1869)はこうした考え方に迎えられて非常な反響を呼んだが，それはアカデミックな絵画の構図法をそのまま踏襲した絵画追従の方法論にすぎなかった。こうした流行は，写真本来のアクチュアリティーを見失ったばかりでなく，写真の本質を発見してその開発に努めるべきだいじな段階で，大きな回り道をしいられることになったともいえる。ロビンソンの《臨終》は，5枚の陰画からの合成写真*で，少女の死を演出したものであった。またO. G. レイランダー(1813〜1875)の30枚の陰画を使った合成写真《人生の二途》も，こうした作品の典型として名高い。写真に人工を加えてつくり上げる，いわゆる芸術写真はしだいに盛んになり，修整術やソフトフォーカス(軟焦点)-レンズの開発，あるいは印画紙面の質感を絵画の質感に近づける試みなどがなされた。また，ピグメント印画法と総称されるゴム印画法，カーブロ印画法，ブロモイル印画法なども，写真の調子やデテールを絵のように見せかけるために好んで用いられた。当時の写真の傾向はほとんど絵画主義を信奉しており，例外はきわめてまれだったのである。そうした風潮の中で，P. H. エマソン(1856〜1936)は数少ない反絵画主義の写真家のひとりであった。彼は医師としての教育を受けていたので，H. フォン-ヘルムホルツ*の〈生理学的光学〉をよく理解していた。その上，彼は当時の芸術思潮であった自然主義に共鳴していたので，肉眼に映る印象をそのままに記録するのが正しい写真の方法だと考え，〈自然主義的写真〉を唱えて絵画主義的写真に猛烈な抗議を行なった。彼は，講演と論文と，そして《ノーフォク-ブローズの生活と風景》という実物印画の画集などでその主張をくり返した。しかし，エマソンの支持者ですら，彼の主張をすり替えて，ソフトフォーカス-レンズの利用を絵画主義的な写真へ向けてしまうありさまだった。A. スティーグリッツ(1864〜1946)は，写真が絵画と併立する独自の芸術であることを広く認めさせる運動に力を注いだ。彼は，鮮鋭な描写をする機能と，率直でありのままを記録するという写真の特性の上に立って，ストレート-フォトグラフィーとよばれる作品をとった。彼は写真家としての実践のほかに，〈フォト-セセッション〉というグループをつくり，雑誌《カメラ-ノーツ》や《カメラ-ワーク》を発行し，また〈スタジオ291〉を開いて写真と美術一般，特に前衛美術の紹介に力を尽くした。写真の独自な特性を発掘する彼の努力はきわめて多方面に及び，近代写真の基礎を築いた。E. スタイケン(1879〜1973)は，〈フォト-セセッション〉の評議員のひとりであるが，1955年の彼の企画・編集による〈われらみな人間家族〉展は，各国に巡回展示され大きな反響を呼んだ。ストレート-フォトグラフィーの先覚者あるいは旗手として，P. ストランド・C. ミラー・E. ウェストン(1886〜1958)がいる。ウェストンは，ソフトフォーカスやアブストラクションから，ついには〈写真への道は写実主義の途にあることを固(かた)く信じる〉ようになった。彼は，8×10インチのカメラでレンズを最小絞りにしてとり，それを密着焼きにする方法をとったので，その作品はきわめてシャープな上にグラデーション(階調)が整っていた。ウェストンの作品に強い印象を受けた若い写真家たちがグループをつくり，それを〈f64グループ〉と名づけた。これはレンズの最小絞りを意味し，同時に極限までの鮮鋭さを象徴する名称であった。このグループに，現在アメリカの写真界に重きをなすA. アダムズ(1902〜　)がいる。フランスのアトジェ*は，生活のためにパリの風物や美術・建築を記録していたが，一部のシュルレアリストに高く評価されていたものの，不遇の生涯(しょうがい)を終えた。しかし，後年に至って彼が

写真の用語

カメラポジション　被写体に対するカメラの位置。カメラアングル(被写体に向けたカメラの光軸方向と水平面とのなす角度)とカメラデスタンス(被写体に対するカメラの距離)がある。いずれも画面効果を決定するだいじな要素である。

グラデーション　階調のこと。黒白写真では白から黒に至るまでの間に多くの階調があるが，これをどの程度の段階として使うかは，重要な表現上の問題である。

コントラスト　写真の明暗の差，または階調の段階のこと。明暗差が極端に短縮されて，中間の調子が乏しいとき，コントラストが強いとか調子がかたいという。

サロン写真　自然の風景の中に天啓を求めた，朦朧(もうろう)とした絵画的写真のこと。1893年，イギリスの新進写真家たちの展覧会の名称に，フランスの保守的高級美術展の通称名をとってサロンと名づけたことに始まる。

スナップショット　英語の意味は，飛び立つ鳥などを猟銃で速射すること。転じて，特に小型カメラで適切なシャッター-チャンスに迅速に被写体を撮影することをいう。1860年に，イギリスの写真化学者J. F. ハーシェルが用いたことば。スナップ撮影などとも使われる。

ズーミング　露光中にズームを移動させ，放射状に流れた画面をつくるテクニック。

DPE　developing(現像)・printing(焼き付け)・enlarging(引き伸ばし)の略。写真の後(あと)処理のことをいい，転じて写真の現像仕上げをする店のことをいう。

テクスチュア　〈織り地〉をさす英語に由来することばで，写真を含めたデザイン用語として，視覚的触覚の意。特に写真の場合，レンズの精緻(せいち)な描出力を駆使して，被写体のテクスチュアを表わすことが特性でもあり，重要とされる。

フラッシュ撮影(シンクロ撮影)　フラッシュバルブ(閃光(せんこう)電球)やストロボの光を利用する撮影。カメラのシンクロ接点を使ったシンクロ撮影は，同調発光により高速撮影ができる。

ブレ　撮影の際，露出中に①手に持ったカメラが動く，②三脚が動く，③被写体が動く，あるいは引き伸ばし中に，④引伸機が動くことをいい，写真の鮮鋭さや調子をそこなう大きな原因となる。

ポートレート　一般には肖像・人物写真の総称であるが，専門的には肖像画では得られない写真特有の質感表出を活用し，対象人物の感情・心理のひだに切り込み，一瞬のうちに人物の全体像を定着したものをいう。

〔特殊技法に関するもの〕

ソラリゼーション　感光乳剤は強い光を受けると，黒くなるべきところがかえって黒さを減少する現象をいう。最初に写真表現に応用して有名なのはマン-レイの作品である。

ディストーション　おもにレンズに由来するゆがみで，残存収差による場合もあるが，幾何遠近法的に匡正(きょうせい)不可能なゆがみもある。表現に逆用することも多い。

デフォルメーション　写真のレンズは自動的に幾何光学的な描写をするが，これを故意に歪曲(わいきょく)し，強調する手法。

ネガティブフォト　現像を終えたフィルムは，明暗の関係が逆転しているが，これをそのまま最終作品としたもの。

ハイコントラストフォト　白から黒に至る階調のうち，中間の調子を飛ばして省略し，強いコントラストで表現した写真。

フォトグラム　印画紙の上に直接，あるいは間接に物を置いてこれに光をあて，物の形や影で画面を構成する方法。

ペンジュラムフォト　ひもでつるした振り子に点光源を装置して，これに運動を与えたときの軌跡を下からカメラで記録したもの。

レリーフフォト　同じ写真の透明なネガとポジを重ね合わせ，わずかにずらせたものを引き伸ばすと，ちょうど彫刻の浮き彫りに似た効果となる。

ローキー　ハイキー　画面の大部分が暗い陰影によって占められた黒っぽい写真をローキーという。重厚で落ち着いた作品となる。ハイキーはその逆に白っぽく，明るく軽快で清潔な感じを与える。

関心を向けた日常の事物の素朴(そぼく)な記録がいかに幻想的であるかが発見され，現代の写真に大きな影響を与えている。

第1次世界大戦を経過すると，絵画主義写真あるいはサロン写真とよばれる傾向から，しだいに近代写真への脱皮の速度を早めてきた。L.モホリ-ナギ(1895～1946)は，大戦後ドイツに創立されたバウハウス*の教授となったが，写真の全領域にわたって理論づけをし，視覚表現手段の一つとしての客観的位置づけをした。彼は，自由なカメラアングル，レンズの描写の特殊性などを重視した。また，カメラを使わない写真フォトグラムを写真表現のだいじな手段の一つと考えていた。マン-レイ*もシュルレアリストの立場から個性的な写真をつくっていたが，やはりフォトグラムを重視して，自分の作品の場合にこれをレイヨグラムとよんでいた。1924年ごろ，ドイツではノイエ-ザッハリヒカイト*(新即物主義)という芸術思潮が起こったが，A.レンガー-パッチュやH.レルスキーなどはこの立場から活動した。これは感傷や情緒，きれいごとやごまかしのつくりごとなどに反発して，非情で客観的な描写こそ写真の特質を生かすものだという考えだった。また，日常的な題材に価値を見いだしていたので，これがルポルタージュフォト(報道写真)へと発展する下地ともなった。

写真の発明の当初から，これを旧来の芸術の一部に組み入れようとする流れと，単なる記録のよき手段と考える流れの二様の方向があったとみることができる。記録の方向へ向かったひとりにR.フェントンがいる。彼は1855年に従軍写真家に任命されてクリミア戦争の撮影をした。彼は湿板コロジオン法を使ったので，暗室の設備をした荷馬車に大量の器材を積んで取材して回った。300枚をこえるその写真は，木版画にしてロンドンの新聞に掲載されたが，これが戦争や事件を刊行物で報道した最初の写真とされている。そして，M.B.ブレディ(1823～1896)は，すでにダゲレオタイプで《米国名士肖像集》を刊行しているほどの写真家だったが，1861年に南北戦争が起こったとき，助手のA.ガードナーとともに戦線へ向かい，幾多の危険を切り抜けて7,000枚にも及ぶ写真をとった。ガードナーは途中からブレディのもとを離れて，T.H.オサリバンなどとともに独自に戦争を記録し，《戦争写真スケッチ集》を刊行している。彼らは，戦後に再開された大陸横断鉄道の敷設や，辺境開拓事業のための探検隊に加わり，多くの貴重な記録写真を残している。こうした記録報道の精神は，J.O.リース(1849～1914)やL.W.ハイン(1874～1940)らに受け継がれた。リースは新聞記者としてニューヨークのスラム街の実情を撮影し，社会問題のキャンペーンを行なって成果をあげた。ハインも移民問題を写真でキャンペーンしたが，紡績工場で働く児童の過酷な実情を撮影した写真は世論を動かし，議会で児童労働法を制定するに至る力となった。1929年の大恐慌にはじまるアメリカの不景気に対処するため，ルーズベルト大統領はニュー-ディール政策を推進したが，その機関の一つである農場保全行政局(ＦＳＡ)では資料部を設けてR.E.ストライカーの指導のもとに多くの写真家が起用され，国民に理解と協力を求める広報活動が進められた。最初に招かれたのはW.エバンスとD.ラングで，この2人を中心としてA.ロスタイン・B.シャーン・C.マイダンス・G.パークスなど大勢の写真家が参加している。この間に彼らのすぐれた作品の多くがつくられたばかりでなく，ドキュメンタリー写真(記録写真)の意義と性格がここで明確になった。のちに続くグラフ-ジャーナリズムの勃興とともに，これは写真の主要な形式の一つとして発展するのである。

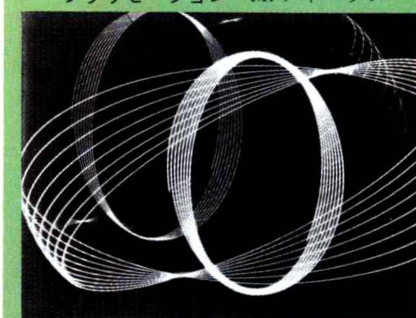
当然のことであるが，こうした写真表現のさまざまな展開には，社会的思潮の流れと物質的環境が裏付けとなっているはずである。その物質的な面，すなわち写真機材が現代に近づくにしたがって著しい影響をもたらすのは，小型カメラの台頭と感光度の上昇においてであろう。ドイツのE.ザロモン(1886～1944)は，小型カメラによって法廷や国際連盟の会議場をひそかに撮影した。それらは，当時の機材の能力としては困難な撮影と考えられていたが，彼は1925年に発売されたエルノスターF：2という明るいレンズをいちはやく利用して，生き生きとした率直な写真をとって人々を驚かせた。世間ではこれをキャンデッド(率直・公平)写真とよんだ。そして，くしくも同じ1925年に発売されたライカＡ型は，ザロモンのようなとり方にふさわしいカメラとして〈キャンデッドカメラ〉とよばれた。ブレッソン*は，キャンデッドな手法で日常的な題材をとり，1954年にその作品を《決定的瞬間》という写真集にまとめて写真表現の新しい局面を示している。彼は，後に戦争をとって名高いキャパ*やD.シーモアなどとともに〈マグナム-フォトス〉を創立(1947)したが，これは報道写真の指導的グループとなった。こうした写真家は，小型カメラの機動性を活用してはじめてなりたつ表現法を身上としているのである。

ノイエ-ザッハリヒカイトの運動は，ドイツのグラフ-ジャーナリズムを盛んにする契機として働いた。写真新聞からはじまって，のちに週刊グラフ雑誌《ベルリーナ-イラストリールテ-ツァイツング》の発刊となり，ルポルタージュフォトの組み写真とい

特殊技法



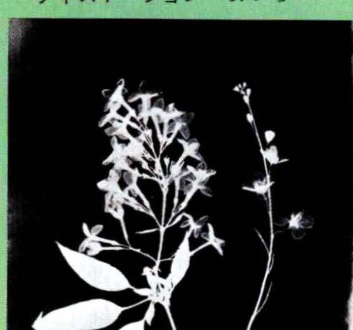
ソラリゼーション　M.ディエッツ



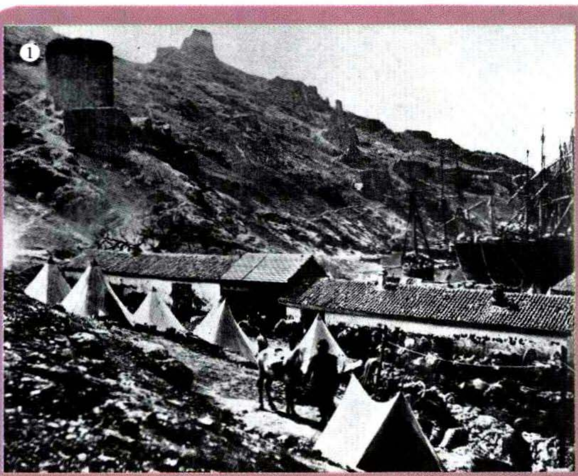
ペンジュラムフォト　P.キートマン



ディストーション　Y.ジョエル

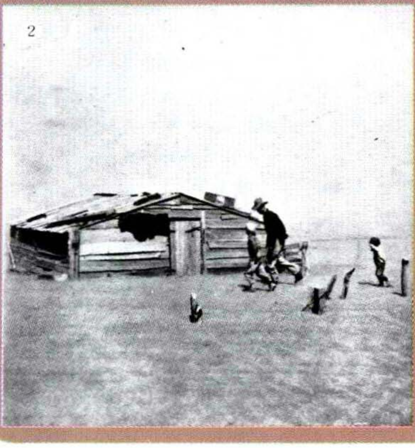


フォトグラム　W.H.F.タルボット



記録写真

①フェントン《バラクラーバ港入り口の砦》(クリミア戦争に取材した湿板写真)1855
②ロスタイン《突風の中を歩く農夫とむすこ》1936
③ザロモン《ザロモンがまたとってるよ!》1931
④リース《スラム街, 59½マルベリ-ストリート》1888







う形式の開発など，その影響は広く世界に及んだ。アメリカでは，FSAの広報活動などで,すでにグラフ-ジャーナリズムの隆盛する気運をはらんでいたが，やがて《ライフ》(1936)や《ルック》(1937)の創刊に始まるグラフ雑誌の隆盛期を迎えた。1938年イギリスでは《ピクチャーポスト》，フランスで《マッチ》(のちの《パリ-マッチ》)などが続々と刊行され，ピクチャー-ストーリーやフォト-エッセーなどの形式がいっそう充実した形に発展した。なお，名取洋之助*はドイツでグラフ誌の写真家として活躍したが，のち帰国してわが国の報道写真の指導的な活動をした。グラフ誌は写真家の主要な舞台となり，たとえば《ライフ》の専属写真家や寄稿写真家は，その時期における最も注目すべき写真家でもあった。M.バーク-ホワイト(1906～1971)・A.アイゼンステット・A.ファイニンガー・P.ハルスマン・L.マッコムそしてW.E.スミスらは，すぐれた作品を《ライフ》に発表してつねに話題となった。一方では，消費生活がしだいに充実してくるにつれて，ファッション写真と広告写真の要求も増大してきた。R.アベドンやI.ペンはこの分野できわめてユニークな感性を示している。また，近年めまぐるしく変転する世相を反映して，ドキュメンタリーの分野でも，新しい表現によるさまざまな写真家が輩出しはじめている。W.クラインの《ニューヨーク》における意表をついたテクニックや，R.フランクの知的な凝視でアメリカの問題点を指摘する《アメリカ人》などは，最近の写真家に及ぼしている影響が大きい。

〔日本の写真史〕ダゲレオタイプが日本に渡来したのは1840年(天保11)といわれているが，これには諸説があってさだかでない。日本人としてはじめて写真をとったのは，上野俊之丞(しゅんのじょう)が購入したカメラを島津斉彬(なりあきら)に献上する際であったという。俊之丞の四子上野彦馬(ひこま)(1838～1904)は，1862年(文久2)日本で最初の写真館を長崎に開いた。また，下岡蓮杖(れんじょう)(1823～1914)も同年，横浜に写真館を開いている。しかし，器機も知識も入手の途がなかなか開けず，実験をくり返しながら開発する苦労はなみたいていのものではなかった。

写真が実用の段階にはいるのは明治を迎えてからであった。初期の写真は，欧米と同様にポートレートと記念写真が主流であった。ただし，最近調査された資料によれば，戦争・事件・風俗などの記録が意外と多く発見されている。1881年(明治14)に上野彦馬がはじめて乾板を使ったのち，輸入品や国産品(1898)が発売されると，熱心なアマチュア写真家が一段とふえた。そして1904年に大阪で浪華(なにわ)写真倶楽部(クラブ)，1907年には東京写真研究会が結成され，また1921年(大正10)に福原信三は〈光とその階調〉という作画の主張を発表したが,これははじめての本格的な写真論として注目された。1930年(昭和5)を境として，ヨーロッパの前衛写真に触発された新興写真の運動が台頭した。絵画主義的ないわゆる芸術写真への反発がしだいに高まりつつあったときなので，新興写真は大きな勢力を占めて安井仲治・中山岩太・野島康三・木村伊兵衛*(いへえ)，そして批評家の伊奈信男(のぶお)などの活躍がみられる。しかし，第2次世界大戦を迎えたのちは，報道写真一色となった。

戦後の混乱が安定すると，ようやく写真界も活発になった。現在では写真産業においても写真人口においても世界の一,二を争うほどで，職業写真家の層も厚く，国際的な舞台で多くの写真家が活躍するまでになった。近年の写真家の業績は，時をおいての評価にまつ所が多いが，土門拳*(けん)・浜谷浩*(ひろし)の活動はその代表といえるだろう。 〔大辻清司〕

現在の大口径レンズはガウスタイプの第2，第3レンズを2枚はり合わせとした，4群6枚構成のガウス変形タイプが多い。1934年，ドイツのライツ社のズマールF2に始まり，さらに接合面を分離して空気レンズを導入した同社のズミクロンF2が，現在の地位を確立したといえる。

望遠レンズには2種類あり，一つは標準レンズと対比される狭角レンズで，焦点距離が長いものをいう。他の一つ，つまり狭義には焦点距離に比べてレンズ筒長を短くしたものをいい，基本的には望遠鏡*と同様に凸レンズの背後に凹レンズを配置する形式をとっている。広角レンズ(図-4)は対称型が多く，画角80°を越すものは，1933年，独ツァイス社が開発したトポゴンタイプを基本型としている。広角レンズの一種にレトロフォーカスタイプがある。レンズの背後にミラー部のある一眼レフでは，普通の広角レンズを使うと，レンズ後部がミラーにつかえるため特別に開発されたもので，前方に凹レンズを置き，合成焦点距離を大きくしている。フランスのアンジェニュー社の同名のレンズから生まれた名まえで，別名逆望遠といわれる。この考え方は画角180°に達する魚眼レンズ(図-5)にも受け継がれている。レトロフォーカスには広角レンズの宿命だった周辺光景不足を弱める利点もある。ズームレンズは映画の世界から導入されたもので，レンズ構成の一部を前後に動かすことによって，焦点面(フィルム)を固定したまま，焦点距離を連続的に変化させるもの。ふつう，ズーム比(焦点距離の最短と最長の比率)が3倍程度で，例外的に6倍ズームがある程度だが，映画やテレビの撮影用にはズーム比20倍のものも生まれ，近い将来はレンズ交換を代用するほどの実用性も出てきた。凸・凹面鏡を使ったミラーレンズ(図-6)も，超望遠に使われている。反射鏡光学系(カセグレンタイプ)では像面湾曲が激しいので，現在使用されているものはレンズ系を併用したカタジオプトリックタイプである。この方式には超望遠レンズを小形・軽量化する利点がある。写真レンズは全体としては凸レンズなので，これに凹レンズを組み合わせることで焦点距離を変化させ，レンズ交換と同じ効果を得るようにするのがコンバージョンレンズ(コンバーター)である。元来はレンズが着脱できないカメラで，フィルター同様にレンズ前わくに取り付けるものだったが，現在では一眼レフのレンズとボディーの中間に取り付けるリアーコンバーターもある。

なお，一般にガラスと空気の接触面では約5％の反射による光量のロスがある。これを避けるために，フッ化マグネシウムを真空内で蒸発させてレンズの表面に薄膜状に付着させる技術が用いられている。これがコーティングである。1960年代末から



ジャスパー - ジョーンズ 《ビールの罐》 1960

多層膜コーティングという理想に近い方式も開発され，ズームレンズやレトロフォーカスなどの構成枚数の多いレンズの性能向上が期待されている。また一方では，レンズ材質にも目が向けられている。希元素を含む新種ガラスは普及カメラにも使用されているが，さらにプラスチックやホタル石などの新材料も実用化されている。また，レンズの表面が球状であるために収差が起きるので，この点から放物面などを使った非球面レンズも開発され，すでに実用化段階にはいっているが，レンズ研摩のむずかしさから高価になるのが難点である。

〔新川幸信〕

ジャス ［JAS］ Japan Agriculture Standardの略称。日本農林規格。農林水産物の品質改善を主目的として1950年(昭和25)5月に制定された農林物資規格法により設けられた農林水産物に関する規格。等級および標準を定め，適格の物資にはJASマークがつけられる。物資の種類の指定と規格の制定は農林大臣が農林物資規格調査会に諮問するか，あるいは公聴会を開いて決める。JASマークをつけるには，農林省の機関や大臣の認可した登録機関の厳密な検査を受けなければならない。1971年10月現在，政令で規定する物資は，びん・かんづめ食品，果実飲料，ハム・ソーセージをはじめ，坑木・枕木(まくらぎ)・電柱など52品目，310規格にわたっている。

〔高山隆三〕

ジャズ ⇨次ページ

シャスタ(山) ［Shasta］ アメリカ合衆国西部，カリフォルニア州のシエラネバダ山脈北端にある火山。標高4,317m。山頂には五つの氷河があり，最大のホイットニー氷河は約4,800mで，山麓(さんろく)や斜面には高さ100mに及ぶ巨木がおい茂る。

シャスターデージー ［shasta daisy］ 双子葉植物・キク科。アメリカの育種家バーバンク*が，フランスギクやコハマギクなどをかけ合わせてつくりだした園芸雑種。多年草で，わが国でも普通に栽培される。高さ60cmくらい。葉は互生で細く，縁に鋸歯(きょし)がある。6〜7月，茎の先に径5〜6cmの頭花をつける。花はまわりの舌状花が白色，中央の管状花が黄色。切り花・花壇に適する。

ジャスパー-ジョーンズ ［Jasper Johns］ (1930〜) アメリカの画家。サウスカロライナ大学を卒業して，1952年にニューヨークに移住。1964年からベニス-ビエンナーレなど各種の国際展に参加し，ポップ-アート*を代表する画家として知られている。

ジャスミン ［jasmine］ 双子葉植物・モクセイ科・オウバイ属。世界に約200種あり，主として北半球に分布する落葉または常緑の低木。花は直径2〜2.5mmの白色高盆形で強い芳香がある。おもなものはオウバイ・ソケイ・マツリカである。オウバイは中国原産の落葉低木で，高さ1.5〜2m，葉は対生し，3小葉からなる複葉で，早春に葉よりも早く花をつける。ソケイはインド原産の常緑低木で高さ1.5〜2m，5〜9枚の小葉からなる羽状複葉。マツリカは中国南部原産の常緑低木で高さ1.5〜2m，広卵形の単葉である。花は紅変する。なお，ジャスミンの花にはリナロール・ベンジルアルコール・ベンジルアセテートなどを含み，マツリカ・ソケイの花からは香料原料のジャスミン油がとられる。なお，中国ではマツリカの花を茶にまぜて愛飲される。

〔加藤僖重〕

しゃせい 【射精】 精液を放出すること。骨盤神経を刺激されると陰茎の勃起(ぼっき)が起こる。そこに刺激が加重されると反射が最高に達し，精液が反射的に排出される。すなわち，まず精管および前立腺(せん)の平滑筋の収縮によって精液は尿道内に押し込まれ，次いで尿道回りの球海綿体筋(横紋筋)の律動的な収縮により，精液は尿道から外へ出されるわけである。このとき膀胱(ぼうこう)の括約筋も収縮して，膀胱への逆流を防いでいる。1回の射精によって放出される精液は2〜5mlで，その1mm³中に60,000の精子を含むという。

〔平野修助〕

しゃせいが 【写生画】 実物をありのままに写した絵をいうが，写生の意には東洋画と西洋画で違いがある。東洋画では形似を重んずる様式と技法の絵画であり，画家の主観を表出する写意画に対する。西洋画では客観的写実をさし，視覚するものを描くために一歩進んで明暗法や遠近法などの技法が確立されるにいたった。しかし，現代においては単に視覚化・構成化した表現にとどまってはいない。

しゃせいぶん 【写生文】 対象を細かく観察し，ありのままを写す文章をいい，巨視的にみれば随筆*の一体といえる。〈写生〉はもともと絵画用語であるが，文章による写生が唱えられ，大いに行なわれたのは明治20年代から30年代のはじめにかけてである。正岡子規*は，俳句・和歌・文章上の写生を唱え，自然の客観描写を試み，〈写生の説〉をなした。子規はありのままに写すこと

→538ページ

ジャズ
［jazz］

ジャズということばは，これまできわめて多義に用いられてきた。ことにわが国においては，一時期，ジャズとは欧米のポピュラー音楽一般をさす総称であった。これは，ジャズということばへの誤解というよりも，日本の大衆の日常生活レベルにおける新しい用語と考えられるべきである。その後，レコードの普及や電波メディアが提供する情報量の増大などに伴って，主として若い世代の多くがジャズ-ファンとして組織されるようになるにつれ，日本語としてのジャズは，この語本来の意味にいっそう近づくこととなった。

ジャズを定義すれば，19世紀末ごろアメリカ合衆国の黒人たちによって生み出され，今日まで生成・発展されてきた器楽の一種である。だが，今日，ジャズを単に黒人の音楽とよぶことはできない。それは，ジャズが全世界へと波及し，非黒人のジャズマンが多く現われたばかりでなく，そのことによって新しい聴衆を生み，聴衆の内部に新しい意味が獲得されるにいたったからである。たとえば，1950年代末から1960年代初めにかけてのファンキー-ブームは，わが国における特殊な風俗的現象であった。また，1950年代のアメリカのビート-ジェネレーションとよばれた白人たちは，ジャズを愛し，その周辺に詩や文学を生んだ。非黒人にとってのジャズの異質さは，社会的な事象を生む要因ともなりえたのである。

今日，ジャズについては，多くのことが語られている。ヨーロッパの主要な国々においても，ジャズを対象にした専門誌が発行されている。それにもかかわらず，学問的なジャズの研究はあまり進んでいるとはいえない。このことは，同時に，音楽としてのジャズの独自性を逆説的に証明している。すなわち，ジャズの世界への波及をみた今日にあってもなお，その非ヨーロッパ的な特質は失われていない。そして，ヨーロッパの古典音楽がほとんど全世界にわたってアカデミズムを形成したことに対応して，いわばヨーロッパ音楽の内部の学である音楽学が，ヨーロッパ性それ自体を絶対的な前提としつづけるかぎり，ジャズの特質の前にあっては，いたずらに空転するほかなかったのである。社会学者T.W.アドルノらヨーロッパ音楽の側からの批判者たちも現われたが，それらの多くは，本来異質なものとの出会いをとらえ返すべき方法が要請されねばならなかったにもかかわらず，半ば先験的な差別感の上に成り立っており，対象の選択における厳密さの欠如からしても多くを得ることはなかった。

むろん，これまでにいくつかの貴重な著作は生み出されている。一例をあげれば，黒人詩人ジョーンズ*の手になるジャズ史の思想的な検証の書ともいうべき《ブルース-ピープル》があり，ドイツのジャズ研究家J.E.ベーレントによる入門書としての性格をもった《ジャズ——その歴史と鑑賞》がある。また，わが国からも，油井正一《ジャズの歴史》，相倉久人(ひさと)《ジャズからの挨拶(あいさつ)》などの著作が生まれた。以下，ここでは，これらの著作を手がかりとしながらジャズの特質をながめていく。

〔スタイルの変遷〕ジャズの歴史は，まだ1世紀にも満たないが，ジャズをその歴史的な生成・発展の過程という側面からながめるとき，最も特徴的なことは，音楽的にきわめてマクロなレベルでの変革が短い周期で次々と繰り返されてきたことであろう。通常，それはスタイルの変遷とよばれるが，ジャズの歴史はスタイルによって時代区分することができる。

ジャズ発生の基盤を形づくったのは，アメリカ黒人の多種多様な民俗音楽，すなわちフィールド-ハラー・ニグロ-スピリチュアル・ワークソング，そしてことにブルース*であった。そして，直接的にジャズの母体となったものに，リズミックなピアノ音楽であるラグタイム*がある。ジャズの発祥地とされるニューオーリンズでは，黒人によるブラスバンドが盛んであったという。ジャズの最も古いスタイルであるニューオーリンズ-ジャズは，このブラスバンド的性格を継承している。ジャズがニューオーリンズの娼家街(しょうかがい)ストーリービルからシカゴ・ニューヨークへと移動していくにつれて，ジャズの急激な発展が始まる。

ニューオーリンズ-ジャズの白人版は，ディキシーランド-ジャズ*とよばれた。この時期からすでにジャズには白人が参与しているし，のちには黒人の卓抜なアイデアを白人がうまく整合し，商業的な成功を得るといったことがたびたび起こる。白人コルネット奏者ビックス-バイダーベックは，シカゴ-スタイルの中心人物であった。やがて，ジャズがニューヨークに移ると，スイング-ジャズ*が生まれ，2ビートから4ビートへのリズミックな発展が形成される。ローリング-トウェンティーズ(1920年代)はシカゴ-スタイルの時代であったが，1930年代にはスイングの全盛を迎える。そして，スイングのマンネリズムは，最初カンザスシティ-スタイルによって，ついにはニューヨークのハーレムの〈ミントンズ-プレイハウス〉から芽を吹いたビー-バップ*によってのり越えられる。このビー-バップからクール，ハード-バップを経て，フリー-ジャズに至る時代こそ，ジャズが高度な近代芸術へと上昇した時代である。

〔即興の原理〕ジャズのスタイルを決定する要素は種々ある。それは，たとえば，それが栄えた都市の名に基づいていたり，グループの楽器編成面での変化であったり，人種的な事がらでもあったりする。しかし，スタイルの変遷を貫通する最も大きな変革の要因は，ジャズ表現のリズミックな側面にある。ちなみに，ジャズの歴史は，2ビートから4ビート，そしてフリー-ビートへと移行しながら8ビートをもかかえ込んでいく流れであるといってよい。このことは，スタイルの変遷が単に歴史的な結果であるだけでなく，ジャズ表現の本質と不可分に結びついた必然性に基づくものであることを示唆(しさ)している。→ビート

ベーレントは《ジャズ——その歴史と鑑賞》において，ヨーロッパ音楽とみずからとをわかつジャズの特性を，次のように整理している。①スイングといわれる拍子の特殊な関係。②インプロビゼーション(→即興演奏)による自発性とバイタリティー。③演奏者の個性を反映するサウンドとフレージング。

ベーレントがあげる3項は，ジャズ-ファンにとってはしごく常識的なことであるが，それらは即興的な演奏行為を生命とするジャズの，黒人詩人L.ヒューズ*のことばを借りれば〈作曲された音楽というよりはるかに音楽を演奏するしかた〉であるジャズの本質に照応している。すなわち，ジャズとヨーロッパ音楽との差異は，何よりもまず演奏と楽譜との関係性の側面にある。このことが，ジャズとヨーロッパ音楽との著しい構造性の隔たりをもたらすのである。ヨーロッパ音楽の演奏が記譜された音楽の作品としての完結性から出発するとすれば，ジャズのそれは記譜された音楽から規制を受けながらもなおそれを否定的媒介とすることによって出発する。ヨーロッパ音楽が一般的にマクロなレベルでのドラマチックな展開をもつのに対して，ジャズの演奏がミクロなレベルでの変化を積み重ねながら演奏者自身と聴衆との興奮を高めていくような構造をもつのは，このためである。ヨーロッパ音楽の演奏をささえる原理が〈解釈〉であるとすれば，ジャズのそれは〈即興〉であり，ジャズの歴史的変遷が演奏行為に組織的な力を果たすリズムの面に起こってきたことが，それを証明している。

むろんジャズにおいても，ヨーロッパ音楽的な要素が拡大された時期がないわけではない。だが，ジャズがひたすらこのような独自性の純化の方向に進展してきたことは，すでに歴史的事実である。ジャズにおける即興の原理とは，けっして音楽の技術上の問題にとどまるものではなく，ヨーロッパ文明によって席捲(せっけん)された世界の文化の再構成に重要な示唆を与える思想的

意味を有しているといわなければならない。

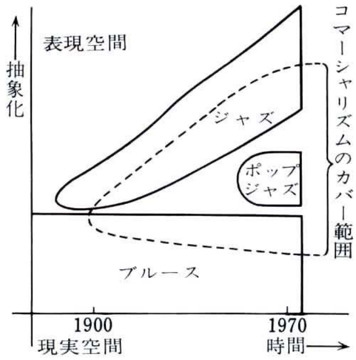
〔都市文化としてのジャズ〕 ジャズの多くのスタイルは，一般にひとりのジャズマンによって代表されるといってよい。たとえば，ニューオーリンズ-ジャズを代表したのはL.アームストロング*であったし，ビー-バップを領導したのはC.パーカー*であった。このことはジャズが演奏者の即興演奏の原理にささえられていることの反映であるが，同時にそうしたジャズマンは，いっそうカリスマ*的性格を与えられている。

他の黒人文化に比較しても，ジャズのにない手のカリスマ的性格がきわだっているのは，音楽としてのジャズのもつ現場性が強烈に刺激的かつ神秘的な効果をもたらし，そこに一種独特な祭儀的空間を形づくることによっている。それと同時に，ジャズが近代芸術的位置に上昇するにつれて非黒人の聴衆を増大させ，演奏者と聴衆との間に距離をつくり出してきたことに対応している。1967年夏，ジャズ史上最大の表現者のひとりであったJ.コルトレーンが急死するとともにジャズが衰退の途をたどり始めたのは，歴史の深刻なアイロニーである。

ジャズのスタイル名が多く都市の名に基づいていることは，象徴的である。なぜなら，ジャズに関する大きな誤解は，その土俗性や民族性の神話として現われたからである。

最初の奴隷がアフリカからアメリカに到着したのは，1619年のことであった。この瞬間に，歴史はジャズの発生とその矛盾を承諾することになったのである。ベーレントは，こう書いている。〈ジャズは，アフリカに属していない。アフリカは，ジャズの発生当時になんの関与もしていないし，今日もなおジャズを楽しむことはできても，理解することはできないままでいる。〉ジャズのもつさまざまな特質は，アフリカから民族性として継承されたのだという言いかたは，正確ではない。ことに，現代のジャズにおいては，そうである。ジャズは，むしろ，アメリカに奴隷としてやってきた黒人が英語を強制されることによって生じた矛盾をこそ継承し，独自の発展を遂げてきたものである。むろん，アフリカの文化に固有の資質がジャズの中に残存していないわけではないが，それをしも民族性とよぶならば，それは民族性から切り離されることを通じて逆に新たに形成された民族性とでもいうべきものである。そのような意味での民族性を象徴する音楽的な要素に，ブルー-ノートがある。しかし，その前にここでは，ジャズとブルースとの関連をみることにしよう。

ブルースは，アメリカ黒人文化の基底をなすものである。かつて，ジャズとブルースを癒着(ゆちゃく)させる考えかたが一般に流布していた。しかし，確かに発生期のジャズがそうであったし，ジャズのすぐれた演奏にブルース-フィーリングの横溢(おういつ)したものが多いのは事実であるとしても，ジャズとブルースは直接に手を取り合ってきたわけではなく，ジャズにとってブルースとは単なる素材であるか，黒人ジャズマンにとっての共同幻想である。上の図は，C.カイルのブルース研究書《都市の黒人ブルース》の訳書に寄せられた相倉久人による解説文中のものであるが，ジャズとブルースの関連を簡略に説明している。上図と関連した発言をまとめると，次のようになる。①時代を映す鏡，すなわち歌であるブルースとジャズの間には，歴然とした距離がある。②ジョーンズのいう〈ブルース衝動〉なる概念は，両者を媒介する。③ブルースとジャズとの距離は，〈ブルース衝動〉が黒人大衆から黒人知識人層への上昇を遂げることによって生ずる変容に対応する。④その距離は時代とともに拡大しつつある。しかし，これらのことにはいくつかの補足的事項がつけ加えられねばならないであろう。それは，①ブルースもまた，スタティックな存在様式をもつものではなく，変容しつつある。②その変容は，土俗的なフォーク-ブルースから都市文化としてのブルース，リズム-アンド-ブルースへの〈ブルース衝動〉の解体を意味している。③都市文化への変容は，近代特有の音楽の制度化の進行である。④これらのことは，アメリカ黒人文化の危機の現われである。



ジャズとブルースの関係

〔ブルー-ノート〕 ブルー-ノートについてのまとまった研究は，まったくといってよいほど存在しない。わずかに，わが国のジャズ-ピアニスト山下洋輔(ようすけ)の手になる《ブルー-ノート研究》という小さなパンフレットだけが信頼に足る萌芽(ほうが)的な研究といえる。山下洋輔の研究の功績は，これまで〈フラットした3度，フラットした7度〉といったあいまいなブルー-ノートの定義に対する疑問を，はじめてまとまった形で提出したことである。その主張から，次の2点を導き出すことができる。①ブルー-ノートとよばれるヨーロッパ音階の基準に合致しない音は，単一な音として機能するのではなく，ブルース-フレーズの中での〈核音*〉的な機能をもつ。②ブルースの旋律に内在する秩序を成り立たせているのは，アメリカで新たに獲得された黒人のアイデンティティーである。

しかし，ブルー-ノートの存在は，音楽上の実体的な機能の側面からだけでなく，ジャズが内在させている文化的意味の象徴として，すなわちジャズの中の非ヨーロッパ性の象徴として考察されることが必要である。

ジャズは，一般にそう思われているほど土俗的な音楽ではない。それは，アメリカ黒人の手によって生み出された近代的な芸術である。ジャズにとって，その近代性は，何よりもまず具体的な〈もの〉として，すなわち〈楽器〉としてやってきた。楽器とは，単なる道具である以上に触媒的なものである。それは，ある音楽の一体系と相互的に結びつく存在物であるといえる。アメリカへやってきた黒人に英語が与えられたように，彼らに入手可能なものは，ブラスバンドで使用されるヨーロッパ音楽の楽器であった。そしてジャズは，一般にいわれているようにアフリカ的なものとヨーロッパ的なものの融合によって生まれた音楽というよりは，楽器を通じて与えられたヨーロッパ的な近代性に，アフリカ的なものを継承しながらそこに新たに形成された音感といったものに具体化される黒人のアイデンティティーがくい込んでいく過程の表象であった。そこには，〈融合〉ではなく，〈矛盾〉と〈対立〉が当初から存在していた。

〔現況〕 日常生活に構造化された民俗音楽とは違って，ジャズが独自の発展を遂げたのは，その近代性のゆえである。近代芸術の特色が，表現の細分化や高度化につれて，受け手の受容を一面的に純化していったことだとすれば，ジャズもまたそうである。ジャズの歴史がレコードの歴史にほぼ重なり合っているのは，単なる偶然とは考えられない。レコードは聞くということの純化を推し進めるとともに，コスモポリタンな聴衆を生んだといえる。その中に，ほかでもない日本のわれわれが存在する。

ジャズがそうしたわれわれに与えてくれた新しい経験は，ジャズ特有の器楽でありながら肉声を思わせる表情豊かな響きに基づいていた。それは，われわれにとっての，歌なき時代の仮象としての歌であったともいえよう。

現在，黒人ジャズは，危機にひんしている。電気楽器の多用の波も押し寄せている。このように，ジャズがみずからを変え，あるいは破壊しなければならないのは，ジャズの存在それ自体がはらむ矛盾のためだといってもよいであろう。　〔浜野サトル〕

を写生と考えたが，しだいにその考えを深め，単なる表現の手段としてでなく，自然の内奥を把握(はあく)するものとするに至り，門人の高浜虚子や斎藤茂吉などはさらにこれを深化させた。写生文の実践は子規だけでなく，徳富蘆花(ろか)や島崎藤村などにもみられ，明治20年代の一つの潮流となっている。〔鈴木一雄〕

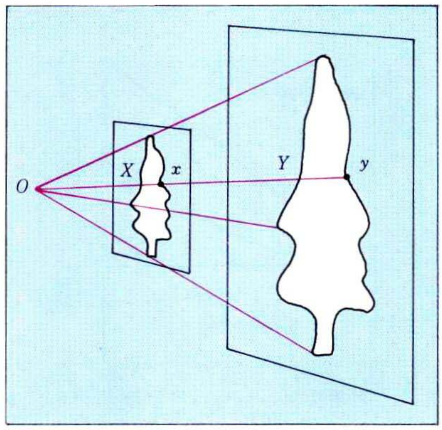
しゃせきしゅう【沙石集】 臨済宗の僧の無住一円(1226～1312)が，1279年(弘安2)から数年の間に脱稿した仏教説話集。10巻，125条からなる。無住一円は聖一国師(円爾弁円)の法嗣であるが，仏教各宗だけでなく神道や儒教にも通じ，一宗・一派に偏して他宗・他教を排斥する立場を非難する公平な立場を貫いている。雑談戯論のうちに，人々を仏道へ導き入れ，仏法を悟らせるために，さまざまな物語が平易な俗語によっておもしろく書かれている。〔田中良昭〕

しゃせつ【社説】 新聞記事の内容の一種で，そのときに問題になっていることについて論説委員が書く新聞社としての意見。社名をもって行なう論評であるから，執筆者の署名は行なわない。新聞社としての立場から，政治・経済・社会・文化の全般にわたって指導的主張を展開するので，世論形成の上で重要な働きをする。その時時になにを取り上げるかによってその社の方針や関心の方向を示すものである。

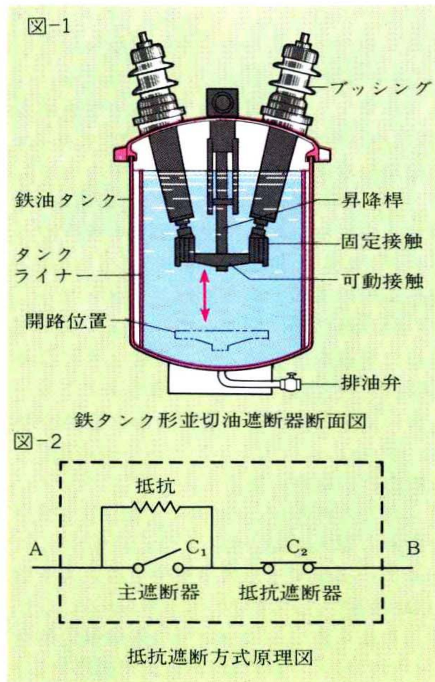
しゃぜんそうしゃ【車前草社】 1905年(明治38)，浅香社から分かれた尾上柴舟(おのえさいしゅう)を中心に結成された短歌結社。同人にはほかに，正富汪洋(おうよう)・前田夕暮・若山牧水・三木露風・有本芳水らが集まった。いわゆる牧水・夕暮時代の自然主義的傾向のはじまりである。機関誌に第1次・第2次の《車前草》があり，のち《水甕(みずがめ)》に受け継がれた。

しゃそう【社倉】 江戸時代，備荒貯蓄のために設けられた倉。義倉・常平倉とともに三倉の一。1655年(明暦1)会津(あいづ)藩主保科正之(ほしなまさゆき)がその侍儒山崎闇斎(あんさい)の〈朱子社倉法〉の学説に基づいて設立した。広く諸藩で設けるようになったのは，享保(きょうほう)の飢饉(ききん)の経験に接してからであった。多数の農民が，身分に応じてもみ・米・麦・あわなどの穀物を出し合って各居村にたくわえ，自治的に処理したのがその特色であったが，藩主の下賜米穀を基本貯穀とし，各村に村高に応じて割り付ける藩もあった。凶作用の貯穀であるとともに，平年も救済用の貸し付けが行なわれ，地方によっては廃藩置県後も残った。〔高崎徳次〕

しゃそう【射創】 銃器から発射された弾丸によって生じた創傷。銃創ともいう。貫通銃創・盲貫射創・回旋射創・擦過射創・反跳射創などがある。射入口は類円形であることが多いが，楕円(だえん)形や破裂状であることもある。射入口の周囲には輪状の表皮剝脱(はくだつ)を伴う挫傷輪(ざしょうりん)があり，近射の場合には煤煙(ばいえん)や火薬粒の付着する火傷(焼輪または焼暈(しょううん))を伴うこともある。一般に射入口よりも射出口のほうが大であるが，接射の場合には射入口のほうが大きいことが多い。射創管は遠射においては比較的規則正しい筒状であるが，近射の場合には不整である。猟銃によって生ずる霰弾(さんだん)射創では，2m以内の距離から発射した場合には(霰弾はまだ分散していないから)射入口は大きな不整形の破裂創をつくるが，射距離が増すにしたがって(各弾丸が分散するから)多数の円形の射入口を生ずる。射創による死因は，脳損傷・失血・穿孔(せんこう)性腹膜炎などである。〔青木利彦〕



写　像



遮断器 図-1 昇降桿によって可動接触子が駆動され，開閉操作を行なう。容量は100MVA(10万kVA)以下。図-2 C_1にできる遮断アークに10気圧以上の空気を吹きつけながら，抵抗の助けを借りてC_1を開く。次いで，抵抗によって小さくなった電流C_2で遮断する

しゃぞう【写像】 集合Xの要素xを定めると，それに対応して集合Yの要素yが一つ定まるという関係。たとえば，肖像画では，その絵の顔形(Y)の各点(y)が，本人の顔形(X)の各点(x)にそれぞれ対応して描かれている。スライドの映写では，原画の各点(x)が映像のそれぞれに対応するところ(y)に映し出される。また，正方形の辺の長さ(x)を定めると，それに対応して，その正方形の面積(y)が定まる。このような関係は集合Xから集合Yへの写像とみられる。これを記号fなどで表わす。xに対応するものがyであることを$y=f(x)$と書き，yをxの像ともいう。反比例とか2乗に比例するなどの関数関係も写像である。あるいは，多角形や円などに面積を対応させることや，相似拡大も写像である。〔小西勇雄〕

ジャータカ［Jātaka］ 狭義には，現在のことにちなんで過去のことを説きつつ，天・人間・動物などの生を経たという故事をつけて，ブッダが前生の求道者として修行していた時代の物語。広義には，仏・菩薩(ぼさつ)の前生物語，ならびにこれを集成した経典。これには，インドの一般説話・寓話(ぐうわ)などを借りて，善業功徳を行なったという説話を集録した，550編からなる大部のものがあり，〈本生(ほんじょう)経〉〈本生譚(たん)〉という。この書はインド文学に影響を与えたばかりではなく，《イソップ物語》や《千夜一夜物語》などにも影響を与えた。さらに中国・日本の文学にも影響し，《今昔物語》《宇治拾遺物語》などの説話文学にも取り入れられ，文学史上重要な地位を占めている。〔石上善応〕

しゃだんき【遮断器】 常規状態の電路のほか，異常状態特に過電流・過電圧・低電圧・低周波数などが発生したときに電路を遮断して，系統の災害を防止する装置。異常状態が発生すると，継電器などの検出器が認識して遮断器に信号を送り，可動接触子により電路を開放する。電路の開放すなわち遮断を行なう場合にアークを発生して遮断不能となることがあるので，油・水・空気中などで遮断を行なう消弧方式がある。遮断媒質によって油入り遮断器・水遮断器・空気遮断器などに分類され，用途によって界磁遮断器・配線用遮断器・直流高速度遮断器などがあり，ほかに構造や絶縁法による分類もある。〔田村康男〕

しゃだんほうじん【社団法人】 一定の目的のもとに結合した人の集合体であって法人格を認められたものをいう。法人の実体が人の集合体である点で，財産の集合体である財団法人と異なる。社団法人には民法に規定する公益社団法人と商法に規定する営利社団法人があるが，特別法によっても

公益も営利も目的としない中間的社団法人が認められている。このうち,民法に規定する公益社団法人を設立するには,定款(社団法人の目的・組織・業務執行などに関する根本規則)を作成し,かつ主務官庁の許可を得ることを要する(民法34・37条)。社団法人の管理は理事によって行なわれ,監事がこれを監督するが,その最高決議機関は社員総会である(民法53・59条)。定款の変更は,総社員の4分の3以上の同意をもってなすことができるが,主務官庁の許可を得なければその効力は生じない(民法38条)。社員の表決権は平等であり,総会に出席しない社員については書面による表決,または代理人による表決が認められる(民法65条)。〔黒木三郎〕

しゃち【車知】 車知栓(しゃちせん)の略称。長手方向に継がれる2材の接触面で2材を欠いて栓を打ち込み,2材に引張力が作用したときにすべりを防止するもの。カシ・ケヤキなどの硬木が用いられ,大形の継ぎ手に効果がある。

しゃちほこが【天社蛾】 こん虫類・鱗翅(りんし)目・シャチホコガ科の一種,またはシャチホコガ科の総称。シャチホコガは,翅(はね)を広げた長さ50～65mm。体は紫色をおびた暗かっ色で,腹部の末端は白みをおびる。前翅に黄白色の細い波状線が走り,後翅はほぼ一様に黒かっ色を呈する。幼虫はナシ・サクラ・ウメ・ヤナギ・カエデ・クヌギ・ハンノキなど種々の葉を食べ,胸脚が著しく長く,尾端が大きく,一見ガの幼虫とは思えないような奇形を呈し,刺激を受けると頭部と腹部を持ち上げ,前脚を振って威嚇する習性がある。シャチホコガの名は,この姿態に由来する。日本全土に分布するほか,サハリン(樺太(からふと))・朝鮮・中国・シベリアからヨーロッパまで広く別亜種が分布している。成虫は年1回,4～6月ごろに発生し,燈火にもよく飛来する。

シャチホコガ科は比較的大きい群で,全世界から約2,000種類,日本にも100種内外が分布し,温帯から熱帯にかけて種類が多い。中形ないし大形の種類が多く,灰色またはかっ色の目だたない色彩の種類が多い。いずれも夜間活動性で,燈火にもよく飛来する。幼虫は円筒状で,シャチホコガ同様奇妙な形態をしており,驚くと威嚇の姿態をとるものが多い。さなぎは裸蛹(らよう)で,土中の室内かあるいは塵芥(じんかい)中に粗末な繭をつくってその中に存在する。日本に産する代表的な種類には,ギンモンスズメモドキ・セダカシャチホコ・ナカグロモクメ・モクメシャチホコ・シロシャチホコ・オオエグリシャチホコ・キシャチホコなどがある。〔鈴木邦雄〕


シャチホコガ (左)威嚇の姿勢をとるシロシャチホコの幼虫 (中)ハカタシャチホコ (右)セダカシャチホコ

しゃちょう【謝朓】 (464～499) 中国,六朝(りくちょう)時代の南斉(なんせい)の詩人。謝霊運*(大謝)と同族で,小謝とよばれた。山水風景を詠じた作品にすぐれたものがあり,絶句形式の小詩は,唐代の王維*らの先駆といってよいものがある。険しい宮廷生活の中で人生への憂愁(ゆうしゅう)の情を詩作に託したが,政争に巻き込まれて,36歳で獄死。


ジャッカル

しゃちょうせき【斜長石】 ⇨チョウ石

シャツ [shirt] 上半身の衣類。アンダーウエアとしてのシャツははだ着をいい,胴体から腕を包むものが多く,大部分がえりなし,丸首で,一般に綿・毛・合繊などのメリヤス地でつくられる。えりあきが前についているものはティーシャツ,そでなしのものはランニングシャツとよばれる。はだ着と上着の間に着られる中間的なものにワイシャツ*があり,夏には半そでにしてアウトウエア的なものともなる。アウトウエア的なものは,形態別にオープンシャツ・カッターシャツ・アロハシャツ・ポロシャツ・ドレスシャツ・ナイトシャツなどがある。〔小池千枝〕

しゃっかほう【借家法】 建物の賃貸借関係において借家人の保護を図るために制定された特別法。1921年(大正10)借地法*とともに制定された法律で,その後借地法と同じ事情・目的をもって同時期に改正され,今日に至っている。借家法に規定するおもな内容は,次のとおりである。①借家権の対抗力:建物の賃貸借*は建物の引き渡しがあればこれを登記*しなくとも第三者に対抗しうるとしている(借家法1条)。②更新*拒絶および解約の制限:建物の賃貸人はみずから建物を使用することを必要とする場合,その他正当な事由がある場合でなければ賃貸借の更新を拒絶したり,解約の申し入れをすることはできない(借家法1条2項)。③法定更新:当事者が賃貸借の期間を定めた場合には,期間満了前6か月ないし1年内に相手方に更新拒絶の通知をしなければ,前賃貸借と同一の条件でもって更新したものとみなされる。条件変更を条件としての更新についても同様である(借家法2条)。また,拒絶通知または解約の申し入れをしていても,期間満了後借家人が建物の使用・収益を継続している場合,家主が遅滞なく異議を述べなかったときも同様に更新したものとみなされる(借家法2条2項)。④造作買取請求権:建物の賃貸借が終了すれば,借家人は家主から借り受けた造作のほか,みずから建物に付加した畳・建具・水道・電気の設備などの実用性ある造作について時価で買い取ることを家主に請求できる(借家法5条)。⑤家賃の増減請求権:公租公課の増減・土地・建物の価格の高低および近隣建物の借賃に比較して不相当に至ったときには,契約の条件にかかわらず当事者は将来に向かってのみ賃借料の増減を請求することができる。賃借料の増減について当事者の協議がととのわないときは裁判所で決めてもらうことができるが,この際,請求を受けた者は増減額を正当とする裁判の確定があるまで,自己の相当と信ずる家賃を請求し,または支払えばよく,裁判が確定すれば支払い期後の過不足分につき年1割の利息を付して返還しまたは支払えばよい(借家法7条2項・3項)。⑥借家権の承継:居住の用に供する建物の借家人が相続人なくして死亡した場合,その借家人と事実上の夫婦または養親子の関係にあった同居者がいるときには,その者に賃借人の権利義務を承継することが認められている。以上のように,借家法においても借地法と同様,建物の賃借権である債権の物権化傾向がみられ,借家人の地位は著しく保護強化されている。〔黒木三郎〕

ジャッカル [jackal] 哺乳(ほにゅう)類・食肉目・イヌ科。頭胴長56～74cm,尾長23～36cm。体はイヌあるいはキツネに似る。体は濁った淡黄かっ色,尾は赤かっ色で,尾端は黒色。中央アフリカから中東・トルキスタンまで分布。ふつう夜行性で,昼間は草やぶなどに潜む。1～2頭あるいは小群で乾燥した草原をうろつき,小動物・腐肉などなんでも食う。よくライオンやヒョ

ウなどのあとについて回り，食べ残しをあさる。イヌに近縁で，イヌとの雑種もつくられる。〔今泉吉典〕

しゃっかんほう【尺貫法】古来わが国で用いられてきた度量衡の単位系。しかし，メートル法*のように特有の原器があるわけではなく，1893年(明治26)にメートル法の単位を基準として尺*・貫*・歩・升*の大きさを定め，以来，計量法施行法により廃止し，それに移行する猶予期間として，1958年(昭和33)までは併用することが認められていた。現在では，特別な場合を除いて尺貫法を使用することはできない。

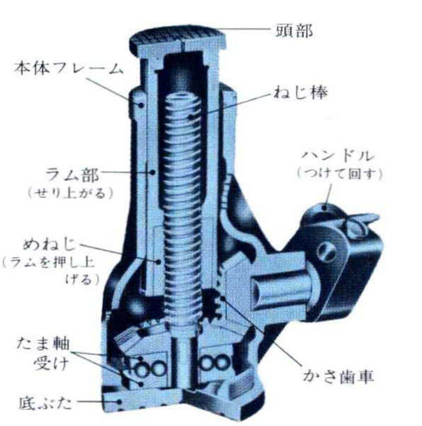
ジャッキ［jack］小さい力で重量物を押し上げる機械。①ねじジャッキ：めねじにおねじを差し込み，その首の部分を棒で回し，頭部で物を押し上げる。ひとり用は揚量10tまで。かさ歯車を介してねじ棒の下方を回すものは，ジャーナルジャッキ(通称だるまジャッキ)とよばれ，揚量10～100tで用途が広い。②ラックジャッキ：てこの先でラックを押し上げるものをトラックジャッキといい，揚量15tまで。ハンドルを回して，ラックを押し上げるものを箱ジャッキという。③油圧ジャッキ：シリンダー内に油圧を送り込んで重量物を押し上げる。揚量は10～100t，揚程200㎜が広く使われている。〔赤木　進〕

しゃっきょう【石橋】能の曲名。作者不明。五番目物。《望月*》とともに，中国の芸能の影響を受けたと思われる獅子(しし)の舞を演ずる曲である。王朝時代，詩文にすぐれた大江定基が出家して寂昭法師と名のり，中国に渡って文殊菩薩(ぼさつ)が住むという清涼山(しょうりょうせん)に来る。そこにある石橋を渡ろうとすると，ひとりの童子が現われ，きわめて危険で人間は渡ることができないとこれをとめる。しばらくは橋の向こうの仙境(せんきょう)の描写が続き，童子は消えうせる。やがて菩薩に仕える獅子が現われ，豪快な舞を舞って曲を終わる。獅子は特殊な扮装(ふんそう)をし，一畳台という台のすみに大きな紅白のボタンの立ち木をつくって，この台に上り下りしながらボタンに戯れ舞う。童子は前ジテ，獅子が後ジテ，寂昭法師がワキ。狂言方が仙人の酒盛りなどを演じる。なお，後半の獅子の部分だけを演ずることが多く，また獅子を2人あるいは数人で舞う演出もある。〔長尾一雄〕

しゃっきょうか【釈教歌】仏教に基づいて詠じられた和歌。①経典や論疏(ろんそ)の内容，または文句をもとによむ，②仏教の教理上の語句を題に，その意図をくんでよむ，③仏事供養や法会の際の結縁(けちえん)のためによむ，などがあり，《法華経*(ほけきょう)》に関する歌が最も多く，次いで浄土教に関しての歌が多い。勅撰集(ちょくせんしゅう)に正式に部立て*が加えられたのは，《後拾遺和歌集》からである。

しゃっきょうもの【石橋物】日本舞踊や音曲のうち，能の《石橋*》を元にした作品，またその系統。女方が舞踊の実権を握っていた初期作品は，前ジテ・後ジテとも女性姿の優美なもので，現存する最古の作品に1734年(享保19)発表の《相生獅子(あいおいじし)》がある。その後，立ち役が舞踊に進出してからは《二人石橋》のように後ジテだけの勇壮な作品が現われ，明治期の有名作には前ジテが優美で後ジテが勇壮な《鏡獅子*》があげられる。

ジャック-デンプシー［Jack Dempsey］(1895～　)アメリカのプロ-ボクサー。コロラド州に生まれ，1914年プロとしてデビュー。1919年オハイオ州のトレドでジェス-ウイラードを3回でノックアウトし，世界ヘビー級チャンピオンとなる。以来1926年ジーン-タニーに判定負けするまで，100万ドル試合のメーン-エベンターとして世界的な人気者だった。戦歴は52KO，10判定勝ち，4敗，5引き分け。



ジャッキ　ジャーナルジャッキの断面構造図

ジャックとまめのき【ジャックと豆の木】イギリスの童話。北欧神話*に起源があるとも考えられるが，北アメリカのインディアンや南アフリカの土民の間にも類似の民話があり，世界的童話として著名。貧しい母とふたり暮らしのジャックが，市場に売りに行くウシと豆を交換する。その豆からはえた木が翌朝天まで届いていて，ジャックはそれを登って，巨人の家から金の卵を生む鶏や宝を盗んで無事に地上に帰るという筋。〔橋本槙矩〕

しゃっくり　吃逆(きつぎゃく)ともいい，おもに横隔膜，ときにその他の呼吸作用を補助する筋肉がけいれん性の収縮を起こし，声門が突然開いて音を出す現象をいう。普通はくり返して起こるが，自然になおる場合が多い。熱いものや刺激性のものをのみこんだり，食道や胃腸の障害のほか，尿毒症・アルコール中毒・脳腫瘍(のうしゅよう)などが原因となるが，乳幼児ではわずかな刺激でもよく起こる。一般に無害であるが，長く続いて止まらないときとか，急性伝染病にかかったとき，尿毒症・腹膜炎や開腹手術をうけたあとに起こる場合は急いで医師に連絡する必要がある。一般的なものには，冷水を少量ずつ飲んだり，からだをかがめて息を止めたり，くしゃみや眼球を圧迫させたり，胃部冷却などのほか，舌を引っ張ったり，驚かせたりすることなどでやむ。〔平野修助〕

しゃっけい【借景】日本庭園において，庭園の外部の景をあたかも庭園の一部のように取り入れること。その景も，遠景・中景・近景を庭園に接続または断続して用いる。しかし，江戸期以降は，借景が主役になって庭の創作性が低下した。



借　景
円通寺庭園

しゃっこう【赤光】斎藤茂吉*の処女歌集。1913年(大正2)刊。茂吉および《アララギ*》の存在を世に示した歌集で，〈死にたまふ母〉〈おひろ〉などの連作に独自の歌境がみられる。いずれも強烈な〈いのちのあらはれ〉とその反面の孤独を鋭敏な感覚を通して官能的に歌いあげたもので，近代的精神を万葉以来の和歌の伝統に吹き込み，近代短歌史上の頂点をなすものである。

じゃっこういん【寂光院】京都市左京区大原にある天台宗の尼寺。創建は古く，開創者は聖徳太子(しょうとくたいし)・空海・良弁(ろうべん)などの諸説がある。源平の争乱以後ここに建礼門院が隠棲(いんせい)し，高倉・安徳両天皇ならびに平家一門の冥福(めいふく)を祈ったことは《平家物語》に詳しい。慶長年間

(1596～1614)豊臣秀吉(とよとみひでよし)の側室淀殿(よどどの)の命で片桐且元(かたぎりかつもと)が堂宇を再建。江戸時代には寺領三十石。本堂には六万体腹籠(ふくろう)の地蔵菩薩像(ぼさつぞう)や建礼門院像などが安置される。後山には建礼門院大原西陵がある。〔杉坂靖子〕

しゃっこつ【尺骨】橈骨(とうこつ)と並んで前腕の支柱をなす骨。上端の肘頭(ちゅうとう)と　状(こうじょう)突起が上腕骨の肘頭*窩(ちゅうとうか)および鉤状窩にはまり，上腕骨下端の滑車と蝶番(ちょうつがい)関節をつくる。下端にある尺骨頭は手根骨と関節をつくるとともに，橈骨とは上橈尺関節・下橈尺関節によって回内・回外運動を起こす。この運動は回内筋・回外筋の収縮によって起こる。➔骨格

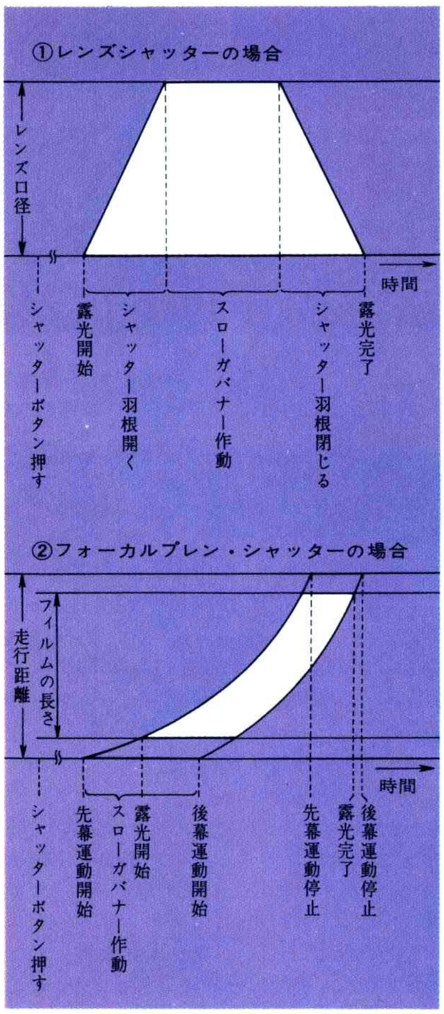
シャッター［Shutter］写真撮影の際に感光材料*に露光を与える時間を調節するための装置。写真レンズ*の口径を調節する絞り*とともに，露光量を決定する要素である。

写真のごく初期の段階ではレンズキャップがその用をしたが，その後独立した部品となってレンズの先端に取り付けて使用された。現在ではボディーまたはレンズに組み込まれ，組み込まれた個所と構造によってレンズ-シャッターとフォーカルプレン-シャッターに大別される。①レンズ-シャッター：正確にはビトイン-ザ-レンズシャッター。レンズ部の中央近くに絞りと一体となって組み込まれる。普通は5枚の金属羽根で構成され，スプリングの力で中央から開きはじめ，全開したのちはスローガバナーという時計装置で開き続け，一定の時間がたつと周辺から閉じる。普及カメラには2枚羽根シャッターも使われるが，羽根の枚数が少ないほど，シャッター効率(作動時間に対する有効露光時間の比率)が低下する。中級カメラ以下に使用されることが多いので，絞りとシャッターを一元化したプログラム-シャッターもある。②フォーカルプレン-シャッター：ボディーのフィルムの直前をすきま(スリット)をもった布または薄い金属の幕が走って露出する方式である。つまり，先幕が運動を開始すると，それよりわずかに遅れて後幕が動き出す。露光は先幕と後幕のスリットの幅と幕の走る速さによって決定される。なお，最近ではシャッターの開閉を電化した電気シャッターもしだいに増加している。

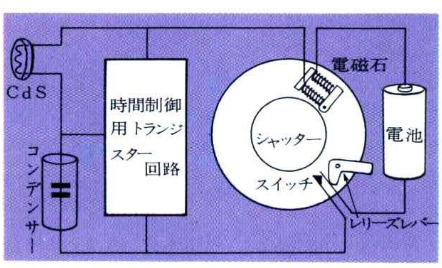
シャッターの目盛りは逆数を使用する。たとえば125は1/125秒のシャッター速度を意味する。目盛りは現在，1・2・4・8・15・30・60・125・250・500・1000・2000(レンズ-シャッターはふつう500まで，一部のフォーカルプレン-シャッターに2000がある)の系列で，1段階違うと露光量は1/2または2倍となる。特別な目盛りとしてはB(バルブ)とT(タイム)がある。どちらも1秒以上の長時間露光用で，Bはシャッターボタンを押している間じゅう，Tはシャッター目盛りをT以外の箇所まで動かすまでシャッターが開き続けることを意味する。なお，フォーカルプレン-シャッターの×目盛りは1ストロボ撮影に適したシャッター目盛り(1/30～1/60秒)を表示している。

〔新川幸信〕


寂光院　正門



シャッター作動の概念図



電子シャッター原理図
シャッター

シャドウ［Gottfried Schadow］(1764～1850) ドイツ古典主義の代表的彫刻家。ベルリンに生まれ，バロックの彫刻家タッサルトに師事し，イタリアに学んだ。帰国後はアカデミーの幹事や総長をつとめ，宮廷彫刻家として穏健な写実的作風で活躍した。代表作にシチェチンの《フリードリヒ大王記念碑》，ベルリンのブランデンブルク門上の《四頭馬車を駆る勝利神》などがある。

シャト-エル-アルブ ⇨チグリス-ユーフラテス川

シャトーブリアン［François-René de Chateaubriand］(1768～1848) フランスの小説家。没落貴族の家に生まれ，18世紀末フランスの革命時代を動揺しつつ生き，のち外交官としても活躍。主著《キリスト教精髄》は，キリスト教に帰依した作者が護教を目的として書いたもので，その詩的文章としても著名。ほかに小説《アタラ-ルネ*》や膨大な自伝《墓の彼方(かなた)よりの回想》などがある。自然や事物に対する宗教的な感動，中世ゴシック芸術への憧憬(どうけい)，異国趣味，深刻な自意識といった主題，あるいは絵画的で同時にリズミックなその詩的文体によって，ロマン主義の最も代表的な先駆者と考えられている。〔井田三夫〕

シャドーマスク ⇨テレビジョン

しゃないきょういく【社内教育】⇨企業内教育

しゃないよきん【社内預金】労働基準法18条第1項(強制貯金禁止の例外規定)に基づいて，使用者が管理する労働者の貯蓄金。労使が協定して労働基準監督署に届け出れば設けることができる。預け入れる貯蓄金は，賃金・賞与など，使用者が労働の対価として支払ったものに限られ，利率も最高年7分3厘7毛などの制限がある。貯蓄金の元本の確実性，金融機関との競合などの問題があるが，1971年(昭和46)3月末現在，社内預金制度を設けている事業所数は約43,375，貯蓄金の残高は1兆3,343億円に達している。〔池内得二〕

シャー-ナーメ［Shāh Nāme］ペルシアの叙事詩で，〈王者の書〉を意味する。メシェッド生まれの詩人フィルダウスィー*(940ごろ～1025ごろ)の作で，30年以上を費やして1010年ごろ完成。10巻。ペルシアに語り伝えられる建国神話の英雄物語からササン朝の滅亡に至るまでの諸王の伝記を内容とする。イスラム世界の中で，純ペルシア文学として，またペルシア人の民族伝統を鼓吹したものとして大きな意義をもっているが，現在でもイラン人の精神的支柱とさ

れている。

ジャーナリズム [journalism] 一般的には，定期的に発行される印刷物によって，時事的事件や問題の報道・解説・批判を行なう活動をいい，具体的には新聞・雑誌による活動をさす。しかし最近では，出版・ラジオ・テレビ・映画の領域もジャーナリズム活動の中へ含める。ジャーナリズムの歴史は，17～18世紀における市民革命*の過程に現われた近代的な新聞・雑誌の出現，すなわち近代的ジャーナリズムの成立によって始まる。近代ジャーナリズムの歴史的特質は，それが新興市民階級によってになわれ，封建的ないし絶対主義的圧制に対抗する彼らの武器となった点にある。当時のジャーナリズムは市民階級の代弁者としてよくその使命を果たした。この市民革命の過程において，市民階級の中心的なスローガンは〈言論・出版の自由の獲得〉であり，この要求がジャーナリズムの活発化を促し，世論を強め，市民革命を推し進めていった。近代ジャーナリズムの主流は，政論新聞・政党新聞ないし評論雑誌によって占められ，すぐれた思想家や政治家が主宰し，あるいは主筆・記者となってペンをとった。読者は新興のブルジョアジーを中心として，その数は限定されていたが，彼らが現実の政治を動かす市民階級であっただけに，ジャーナリズム，特に社説や論説の及ぼす社会的影響力は，きわめて大きかった。やがて資本主義の急速な発達とともに，ジャーナリズム活動の対象は，社会の底辺にまで広がり，他方，ジャーナリズム自身も，これに対応しながら急速に資本主義的に企業化していった。19世紀末期から20世紀初頭にかけて，ジャーナリズムは，近代ジャーナリズムから現代ジャーナリズムへと転換していった。現代ジャーナリズムは，大資本を必要とする大産業であり，その基本的特質は企業性にある。ここでは，ジャーナリズムの社会的機能としての情報・意見の伝達も商品化され，一定の主義・主張や党派的立場は姿を消し，客観主義報道や不偏不党*のスローガンを掲げながら現われる。権力との妥協によって存続を図るのも営利企業の不可避的な性格である。さらに大資本による独占化現象の問題，大衆が政治的無関心の温床ともなりうる一方交通性，消費者文化としての娯楽性，スピードとセンセーショナリズムと断片性，こうした現代ジャーナリズムの問題点は，そのまま活動にも反映し，つねに似非(えせ)の世論の温床となりやすい。従事するジャーナリストも，企業化の進展により，機構が拡大・分化していくとともに，言論人としての気概が希薄になり，企業機構を回転する一つの歯車にすぎなくなってくる。これらジャーナリストの今後の動きは，現代ジャーナリズムのあすの動向を決定する重要な要因である。

〔松沢　勝〕



ジャノヒゲ　はずみ玉ともいわれる弾力性のある種子





ジャノメチョウ　①ジャノメチョウ　②ヒメウラナミジャノメ　③コジャノメ　④キマダラヒカゲ　⑤クモマベニヒカゲ

しゃにくさい 【謝肉祭】 ⇨カーニバル

ジャニーニざいばつ 【ジャニーニ財閥】 カリフォルニア財閥ともいわれ，アメリカ合衆国太平洋岸の新興財閥。イタリア系移民A. P. ジャニーニ(1870～1949)が1904年にサンフランシスコで開業し，半世紀の間に世界最大の預金高をもつようになったアメリカ銀行*を中心として，アルミ・鉄鋼・造船などで有名なカイザー系の企業をその傘下(さんか)におさめた，重工業部門中心の一大財閥。一般に開発の遅れていたカリフォルニア地方のめざましい工業化を原動力として，第2次世界大戦後はその豊富な水力発電，およびカリフォルニア油田の開発に努め，農業・石油の諸会社を統合した。また，特に航空機宇宙産業への支配力はアメリカ随一といわれ，サンフランシスコを中心にマクダネル-ダグラス・ロッキードなど多くの航空機ミサイル製造会社をもち，連邦政府の軍需産業のにない手として，その経済力に相応する政治力をもち，ますます発展しつつある。

〔片岡一郎〕

ジャネ [Pierre Janet] (1859～1947) フランスの精神医学者・心理学者。1890年パリのサルペトリエール精神病院でシャルコーに学び，独自の精神病理学的心理学理論を構成し，ヒステリー*を精神的総合力の欠如，強迫観念*を心理的自動症として説明し，心理的緊張力の見地から精神衰弱の概念を明らかにした。さらに1920年代には，単純な行動から内省的で高級な行動まで，人間の行動の発達過程を分析し，精神病障害の諸症状を解明する独自の行動心理学の理論を形成した。主著に《精神自動症》《強迫観念と精神衰弱》などがある。

〔小此木啓吾〕

シャネル [Gabrielle Chanel] (1890～1971) フランスの女流服飾デザイナー。帽子のデザイナーとして出発，のちパリに出て衣装デザインの仕事を始める。ジャージーを使ったスポーティーでシンプルなデザインが成功し，1920年ごろ第一流のデザイナーになる。1939年いったん店を閉じたが，1954年ファッション界にカムバックしてアメリカのバイヤーに認められ，再びシャネル-ルックが流行した。香水〈シャネル〉も有名である。

〔小池千枝〕

じゃのひげ 【蛇の鬚】 単子葉植物・ユリ科。山林内に自生し，栽培もされる多年草で，リュウノヒゲともいう。短い地下茎から多くのひげ根を出し，ところどころが肥厚して紡錘形の塊根となる。匍匐枝を出して繁殖する。葉は多数根生し，線形で10～20cm，暗緑色でかたい。7～8月ごろに7～15cmのやや扁平(へんぺい)で狭い翼のある花茎を伸ばし，茎頂に総状花序をつける。花は淡紫色または白色で，短い花柄があり花柄の中部の節から花が落ちる。瑠璃(るり)色の果実様のものをつけるが，これは種子であり，果皮は早期に萎縮(いしゅく)して発達しない。こぶ状の根を乾燥したものを麦門冬といい，鎮咳(ちんがい)・去痰(きょたん)・強壮・利尿などに用いられる。近縁のオオバジャノヒゲは，前種に比べて葉の幅が広く，花序の軸が太いことで区別できる。〔横井朝子〕

じゃのめそう 【蛇の目草】 ⇨ハルシャギク

じゃのめちょう 【蛇目蝶】 こん虫類・鱗翅(りんし)目・ジャノメチョウ科の一種またはジャノメチョウ科の総称。ジャノメチョウは，翅(はね)を広げた長さは雄で40mm内外，雌で70mm内外。翅の色は，雄では黒かっ色，雌では暗灰かっ色で，ともに前翅に2個，後翅に1個の眼状紋がある。眼状紋は黒色で，中心部は青白色，後翅にあるものが最も小さく，個体によってはこれを欠く。翅の裏面は表面よりも淡色で，前翅にある眼状紋の周囲は暗黄色を呈するが，あまり明瞭(めいりょう)ではない。後翅には，外縁に近く太いかっ色帯があり，その内側に灰白色の波状帯がある。日本全土のほか朝鮮などに分布し，さらにシベリアからヨーロッパにかけて広く別亜種が分布する。薄暗い木の間を好むジャノメチョウ類の多くの種と異なり，本種は日あたりのよい草原や山間の路傍などに多く，飛び方は緩慢である。成

虫は6月～10月ごろに見られる。アザミ類などの花のほか，しばしば路上の獣糞(じゅうふん)や樹液に集まる。幼虫はススキ・スズメノカタビラなどのイネ科植物の葉を食べる。母チョウは食草上には産卵せず，草の間の地上に放卵する。幼虫は地中に浅く潜ってさなぎとなり，やがて羽化するが，10月ごろ産卵されたものは1齢幼虫態で越冬する。

ジャノメチョウ科は，比較的大きい群で，全世界から約1,500種が知られ，日本には22種が分布している。ほとんどの種が，翅の表面・裏面のいずれかに眼状紋をもっている。多くの種が茶かっ色ないし黒かっ色の目だたない色彩であり，林の中などの薄暗い場所を好み，樹液や獣糞などに集まる。しかし，前記のジャノメチョウをはじめ，高山地帯の花畑に群生するベニヒカゲやクモマベニヒカゲ，高山の頂上付近の岩礫(がんれき)地帯に生活するタカネヒカゲ，ジャノメチョウ同様日あたりのよい草原に群生するヒメヒカゲなどの種類もある。イネ科やカヤツリグサ科を食草とする種類が多い。ほとんどの種類は幼虫で越冬するが，コノマチョウのように成虫で越冬する種類もある。温帯から熱帯にかけての森林地帯に最も種類が多いが，ベニヒカゲ類のようにむしろ寒地で繁栄している群もある。上記のほか，ヒメウラナミジャノメ・ウラジャノメ・ヒメジャノメ・コジャノメ・ヒカゲチョウ・キマダラヒカゲ・オオヒカゲなどが日本に産する代表的な種類である。

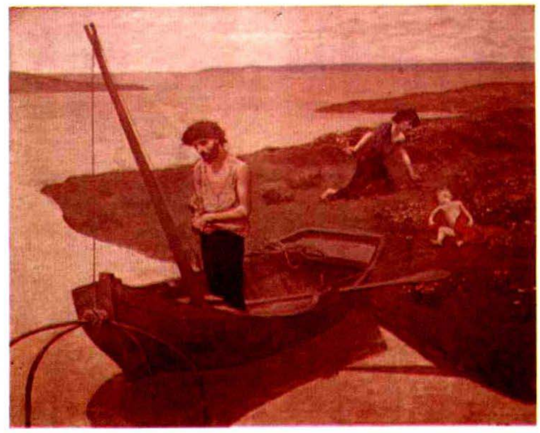
〔鈴木邦雄〕

しゃば　【娑婆】　詳しくは娑婆世界で，ブッダが教化したこの世界のこと。梵語(ぼんご)sahā(サハー)の音訳で，この世界の人人はもろもろの煩悩(ぼんのう)を忍受しなければならないので，〈堪忍(たんにん)〉と意訳される。ブッダはこの世界で悟りを得て人々を教化したので，ブッダを娑婆の本師と称する。また，この世界を創造したとされる梵天*を娑婆の主ともいう。なお，軍隊や刑務所などの閉塞(へいそく)的社会に対し，一般的な俗世間をも意味するようになった。

〔塚本啓祥〕

ジャバ　［Java］　フランスの舞曲およびその踊り。歯切れのよい3拍子で，ワルツの変形とみなされる。ふつう，アンサンブル-ミュゼット(オルケストル-ミュゼット)というアコーディオン中心の楽団を伴奏にして踊られる。パリの下町で愛好され，特に第2次世界大戦前に流行し，ジャバの形を使ったシャンソンも数多くつくられた。

ジャバルポール　［Jabalpur］　インド共和国中央部，マディア-プラデシュ州にある都市。人口42万6,000(1971)。ナルバダ川に近く，ビンジア山地・サトプラ山地の間にあり，マーブルロックの峡谷や湖水の多い風光に富む町である。地方物資の集散地で鉄道の分岐点をなし，兵器工場もある。



シャバンヌ
《貧しき漁夫》 1883
ルーブル美術館蔵

ジャハーンギール　［Jahāngîr］　インドのムガール帝国第4代皇帝(1569～1627，在位1605～1627)。父アクバルのつくりあげた強固な統治機構のおかげで，比較的怠惰(たいだ)でほしいままの生活を送ったが帝国の体制はゆるがず，最盛期にあった。皇帝みずからペルシア語で回想録を著わすなど，文学や絵画のすぐれた理解者であった。なお，彼の治世はインドにおける，ポルトガルとイギリスの勢力との交替期にあたる。

ジャパンタイムズ　［The Japan Times］

1　1865年(慶応1)イギリス人リッカービーが横浜で創刊した英語の週刊紙。国際問題に対する日本人の見解を海外に伝えること，在日外国人と日本人との相互理解を深めることを編集方針とし，特に横浜での外航船の発着状況を詳細に掲載した。1869年廃刊，1878年再刊したが，まもなく《ジャパン-メール》に吸収された。

2　1897年(明治30)伊藤博文(いとうひろぶみ)・福沢諭吉らによって創刊された英語の日刊紙。《ジャパン-メール》を吸収合併し，現在の《ジャパン-タイムズ》の基礎を築いた。政府や財界の援助を得て，日本の事情を諸外国に広報することを目的として，政府の代弁者的役割を果たした。紙名はたびたび変更され，1943年《ニッポン-タイムズ》，1956年再び現紙名に復した。第2次世界大戦後，日本人読者もふえ，その紙面はアメリカとの親善・同調を第一義としている。発行部数は公表していない。同紙のほか，週刊学生新聞《スチューデントタイムズ》，週刊の国内版と国際版，海外向け日刊空輸版を発行している。

〔飯田良明〕

シャバンヌ　［Pierre Puvis de Chavannes］　(1824～1898)　フランスの画家。はじめシェッフェル(1795～1858)とクーテュール(1815～1879)に師事し，ドラクロア*の教えも受けたといわれる。画風は古典主義に立脚し，厳格で広壮な構図のうちに優美な人物を静謐(せいひつ)な色調で描いた。フレスコによる壁画の作品が多い。

シャバンヌ　［Edouard Chavannes］　(1865～1918)　フランスの東洋学者。エコール-ノルマル-シュペリュールを卒業，1893年コレージュ-ド-フランスの教授となる。《史記*》の翻訳，中国・モンゴル語碑文の解読，イギリスの考古学者スタイン*がもたらした漢文資料の研究，中国美術，西域史などの分野に信頼される業績を残した。

じゃびせん　【蛇皮線】　⇨三線(さんしん)

しゃひょうえい　【謝冰瑩】　シエピンイン　(1908～　)　中国の女流作家。湖南省の出身。国民革命のとき，女兵士として北方軍閥打倒の戦闘に参加，その特異な体験を書いた《従軍日記》(1926年)が各国語に翻訳されて国際的に知られた。1930年代に日本に留学し，左翼の嫌疑(けんぎ)で逮捕されたことがある。日中戦争中，各地に従軍，女流ジャーナリストとして活躍した。1949年秋，台北女子師範に赴任，現在は台湾にいる。作品に《女兵士の自伝》《冰瑩抗戦文選集》などがある。

〔今村与志雄〕

しゃひょうしん　【謝冰心】　シエピンシン　(1902～　)　中国の女流作家。名は婉瑩(えんえい)，冰心は筆名。福建省の出身。恵まれた家庭環境に育ち，北京(ペキン)のミッション系学校に学んだ。在学中，五・四運動*を迎え，文学に目を開き，1920年代前半，短編小説やエッセーや，タゴール*の影響の濃い詩を盛んに発表し，文学研究会の重要メンバーのひとりであった。1923年アメリカに留学，1929年社会学者の呉文藻(ごぶんそう)と結婚した。日中戦争中は重慶におり，戦後，日本に一時いたことがある。新中国成立後，文化使節としてインドへ行き，1955年(昭和30)には再度日本を訪れた。作品に《冰心小説集》《冰心詩集》《冰心散文集》などがある。

〔今村与志雄〕

ジャービル-イブン-ハイヤン　［Abū Mūsā Jābir ibn Haiyān at-Tūsi］　8世紀アラビアの最も有名な錬金術師，ラテン名はゲーベル。クーファの薬種商を父とし，回教君主ハルン-アル-ラシード*の宮廷づきの錬金術師であったと思われる。多くの錬金術の本を書き，そのラテン語訳が13世紀のヨーロッパに伝えられて，ヨーロッパの錬金術師の尊敬を集めた。

{
  "before_pdg2pic_conversion": {
    "filename": "NDA0MzkwOTUuemlw",
    "filename_decoded": "40439095.zip",
    "filesize": 366846238,
    "md5": "35a5185adfa078a6f3166081cda2beec",
    "header_md5": "286b11b1769e10c11a58d256d97b6057",
    "sha1": "97169acfd8f5cd3ad88de39383bd88398f746e1d",
    "sha256": "fa8b05428a3c60f0df709984a7828345884c57fc15a9b14eaad2afbdbd573178",
    "crc32": 338250177,
    "zip_password": "",
    "uncompressed_size": 372985217,
    "pdg_dir_name": "",
    "pdg_main_pages_found": 543,
    "pdg_main_pages_max": 543,
    "total_pages": 547,
    "total_pixels": 2924411040
  },
  "after_pdg2pic_conversion": {
    "filename": "NDA0MzkwOTUuemlw",
    "filename_decoded": "40439095.zip",
    "filesize": 366808060,
    "md5": "eafb07ce16795c870c0553b44a637e05",
    "header_md5": "2be9d353dd9dcc1ecb8796f26714f818",
    "sha1": "e185f5b1a65583866ed02b944dc2eabd73db62c5",
    "sha256": "f0ad04ed5a053e91c946058210d6b31ce3334ee136b92793909334a0d503aa79",
    "crc32": 3695151583,
    "zip_password": "",
    "uncompressed_size": 372974513,
    "pdg_dir_name": "",
    "pdg_main_pages_found": 543,
    "pdg_main_pages_max": 543,
    "total_pages": 547,
    "total_pixels": 3677362848
  },
  "pdf_generation_missing_pages": false
}